Bricsys®

BricsCAD (V25)

製品ドキュメント

Bricsys®

目次

1. インストールとライセンス 49
1.1 BricsCADシステム要件 49
1.2 ライセンスオプションの概要 50
1.2.1 ライセンスレベル 50
1.2.2 ライセンスの種類 51
1.2.3 ライセンスオプション 52
1.3 **BricsCADのインストール®** 52
1.3.1 **BricsCADのダウンロード®** 52
1.3.2 インストールオプションの概要 52
1.3.3 KDEデスクトップ環境へのLinuxRPMパッケージのインストールプロセス 55
1.4 体験版モード 56
1.4.1 体験版モードでBricsCADを実行 56
1.4.2 ライセンスレベルの設定 56
1.4.3 オンラインアクティベート (体験版) 56
1.4.4 オフライン/手動アクティベーション(体験版) 56
1.5 シングル/ボリュームライセンスの使用 58
1.5.1 オンラインアクティベーション (シングル/ボリュームライセンス) 58
1.5.2 オフライン/手動アクティベート (シングル/ボリュームライセンス) 59
1.5.3 アクティブなメンテナンスがある場合の次のBricsCADバージョンへのアップグレード(シングル/ボリュームライセンス) 61
1.5.4 シングル/ボリュームライセンス：BricsCADのアップグレードまたはサブスクリプション延長 62
1.5.5 別のコンピュータにシングルまたはボリュームライセンスを移行 62
1.5.6 BricsCADライセンスのアクティベート解除 62
1.5.7 BricsCADライセンスの取り消し(制限付き操作) 64
1.6 ネットワークライセンスの使用 65
1.6.1 ネットワークライセンスについて 65
1.6.2 ネットワークライセンスの使用方法クイックガイド 66
1.6.3 ネットワークライセンスサーバーの設定 68
1.6.4 ネットワークライセンスのアップグレード 73
1.6.5 ネットワークライセンス管理 77
1.6.6 BricsCADでネットワークライセンスを使用する 86
1.7 複数のBricsysアカウントでBricsCADライセンスを管理する 90
2. BricsCADを開始 91
2.1 BricsCADの起動 91
2.1.1 BricsCADランチャ 91
2.1.2 インターフェースを選択 91
2.2 BricsCADとAutoCAD®の機能比較表 92
2.3 インターフェース 113
2.3.1 BricsCADアプリケーションウィンドウ 113
2.3.2 スタートページ 116
2.3.3 ドキュメントタブ 123
2.3.4 ワークスペースの選択 124
2.3.5 作図領域 124
2.3.6 Look From表示 125
2.3.7 ホットキーアシスタントウィジェット 126
2.3.8 コマンドライン 127
2.3.9 ステータスバー 128
2.3.10 メニュー 136
2.3.11 ツールバー 136

目次

2.3.12 リボン 137
2.3.13 クワッドの基本 138
2.3.14 クワッドカーソルメニュー 140
2.3.15 クワッドカーソルの詳細設定 143
2.3.16 右クリックメニュー 150
2.3.17 クリーンスクリーンモード 150
2.3.18 キーボードショートカット 151
2.3.19 プロンプトメニュー 156
2.3.20 ロールオーバーヒント 156
2.4 BricsCADの基本動作 157
2.4.1 図面の作成 157
2.4.2 テンプレート図面 157
2.4.3 BricsCADにおける図面ファイルの互換性 157
2.4.4 図形作成の設定 160
2.4.5 正確に作図する方法 160
2.4.6 コマンドの実行 161
2.4.7 テスト段階の機能の使用 162
2.4.8 表示コントロール 163
2.4.9 図形の選択 163
2.4.10 マニピュレータを使用 164
2.4.11 構造パネルの使用 165
2.4.12 BricsCADでのアクションの記録と再生 170
3. 図面管理 175
3.1 図面の作成 175
3.1.1 テンプレートフォルダーの指定 175
3.1.2 デフォルトの図面テンプレートの設定 175
3.1.3 スタートページの使用 175
3.1.4 デフォルトのテンプレート図面を使用した図面作成 175
3.1.5 NEWWIZコマンドを使用して図面を作成 176
3.1.6 印刷スタイルテーブルの設定 176
3.1.7 図面テンプレートを使用した図面作成 176
3.1.8 ウィザードを使用した図面作成 177
3.2 図面エクスプローラダイアログボックスでの作業 177
3.2.1 図面フォルダーを追加 177
3.2.2 図面を開く 178
3.2.3 Bricsys 24/7へログオン 178
3.2.4 Bricsys 24/7のプロジェクトから図面を開く 178
3.2.5 図面間で定義をコピー 178
3.2.6 カレント図面に外部参照の定義を関連付ける 179
3.3 図面のプロパティを編集 179
3.3.1 図面のプロパティダイアログの表示 179
3.3.2 デフォルトのプロパティを定義 179
3.3.3 カスタムプロパティの作成 179
3.4 図面のセキュリティオプション 180
3.4.1 パスワードの設定 180
3.4.2 パスワードの削除 180
3.5 図面を開く/保存する 180
3.5.1 ドラッグ＆ドロップで図面を開く 183
3.5.2 OLEオブジェクトとして埋め込まれた図面を他のアプリケーションで開く 184

目次

3.5.3 不明なフォントの置き換え 185
3.6 図面情報の取得 185
3.6.1 全体図情報 185
3.6.2 図形の情報について 185
3.7 図面の比較 185
3.7.1 比較のシステム変数 186
3.7.2 比較セッションの実行 186
3.7.3 構造パネルでの比較の分析 186
3.8 CAD標準仕様 187
3.8.1 概要 187
3.8.2 BricsCADでCAD標準仕様コマンドを使用する 187
3.8.3 standards_app.exeスタンドアロンアプリケーションを使用する 187
3.8.4 ファイルメニュー 188
3.8.5 図面 189
3.8.6 規格 189
3.8.7 プラグイン 189
3.8.8 オプション 189
3.8.9 出力 190
3.8.10 チェックを開始 190
3.8.11 チェックを停止 190
3.8.12 レポートを表示 190
3.8.13 レポートの書き出し 190
3.9 図面の修復 190
3.9.1 カレント図面の整合性を分析 190
3.9.2 図面の修復 190
3.10 プロジェクト 191
3.10.1 プロジェクト設定へのアクセス 191
3.10.2 プロジェクトの作成 191
3.10.3 プロジェクトに検索パスを追加する 191
3.10.4 検索パスの順番の変更 192
3.10.5 プロジェクトを現在の図面に割り当てる 192
3.11 ファイルの種類 192
4. 正確な作図 198
4.1 直交モード 198
4.1.1 直交モードの切り替え 198
4.2 入力単位設定 198
4.2.1 システム変数 199
4.2.2 角度を入力 200
4.3 座標参照システム 200
4.3.1 座標参照系(CoordinateReferenceSystems) 201
4.3.2 データム(Datums) 204
4.3.3 楕円体(Ellipsoids) 205
4.3.4 変換(トランスフォーメーション)(Transformations) 205
4.3.5 プロジェクトコードとメソッド(ProjectionCode, Methods) 207
4.4 2D拘束 207
4.4.1 コマンドとツールバー 209
4.5 寸法拘束の使用 211
4.5.1 寸法拘束の編集 211
4.5.2 寸法拘束の表示の設定 213

目次

4.5.3 式を使用して寸法拘束を定義 213
4.6 幾何拘束の使用 217
4.6.1 幾何拘束の作成 217
4.6.2 拘束バーの表示 217
4.6.3 拘束バーの位置の制御 218
4.6.4 拘束バーの操作 219
4.6.5 拘束の削除 219
4.6.6 例 219
4.7 ダイナミック寸法 221
4.7.1 ダイナミック寸法設定の定義 221
4.7.2 図形作成にダイナミック寸法を使用する 223
4.7.3 ダイナミック寸法で図形をグリップ編集する 224
4.7.4 ダイナミック寸法で図形を測定する方法 224
4.7.5 トラッキングポイントのあるダイナミック寸法を使用する 225
4.8 最短距離 225
4.8.1 最短距離の使用 225
4.9 座標入力 228
4.9.1 相対座標 228
4.9.2 絶対座標 228
4.9.3 デカルト座標の使用 229
4.9.4 円柱座標の使用 229
4.9.5 球座標の使用 230
4.10 スナップとグリッド 231
4.10.1 スナップとグリッドの設定を表示 232
4.10.2 スナップとグリッドの間隔の同期 232
4.10.3 図面範囲の使用 232
4.10.4 等角図スナップの使用 232
4.10.5 スナップ角度の設定 233
4.11 アダプティブグリッドスナップ 233
4.11.1 マニピュレータでのアダプティブグリッドスナップの使用 233
4.12 ナッジ 236
4.12.1 ナッジの使用方法 236
4.13 2D図形スナップ 236
4.13.1 2D図形スナップの定義 237
4.13.2 2D図形スナップオプション 237
4.13.3 図形スナップモード 238
4.13.4 図形スナップの設定 240
4.13.5 複数の図形スナップモードを使用 240
4.13.6 2つの図形の延長線上にスナップ 240
4.13.7 2点間スナップモードの使い方 241
4.13.8 平行図形スナップモードの使用 241
4.14 3D図形スナップ 242
4.14.1 3D図形スナップモードの設定 242
4.15 極トラック 243
4.15.1 トラッキング設定の定義 243
4.15.2 トラッキングラインのロック 244
4.15.3 一時的なトラッキングポイントの使い方 244
4.16 図形スナップ 244
4.16.1 トラッキングラインのロック 245

目次

4.16.2 図形スナップトラッキングの使用 245
4.17 ユーザー座標系 246
4.17.1 座標系アイコンの表示制御 246
4.17.2 UCSの定義 247
4.17.3 ユーザー座標系の定義と保存 248
4.17.4 保存されたUCSの復元 248
4.17.5 WCSの復元 248
4.18 ダイナミックUCS 248
4.18.1 ダイナミックUCSの切り替え 249
4.18.2 ダイナミックUCSの使用 249
4.19 計測 251
4.19.1 距離の計測 251
4.19.2 長さの計測 252
4.19.3 領域の計測 253
4.20 最適化、重複削除、簡略化のワークフロー 254
4.20.1 コンテキスト 254
4.20.2 例 254
4.20.3 ラインの最適化 254
4.20.4 重複の削除と連続した図形の結合 255
4.20.5 図面の簡略化 256
4.21 図形スナップの概要 257
4.21.1 仮想交点図形スナップ 257
4.21.2 中心図形スナップ 257
4.21.3 面の3D中心図形スナップ 258
4.21.4 端点図形スナップ 258
4.21.5 延長交点図形スナップ 259
4.21.6 図心図形スナップ 259
4.21.7 挿入図形スナップ 260
4.21.8 交点図形スナップ 260
4.21.9 3D面の交点図形スナップ 260
4.21.10 3Dノット図形スナップ 261
4.21.11 中点図形スナップ 261
4.21.12 3D中点図形スナップ 262
4.21.13 近接点図形スナップ 262
4.21.14 近接点3D図形スナップ 263
4.21.15 点図形スナップ 263
4.21.16 平行図形スナップ 264
4.21.17 垂線図形スナップ 264
4.21.18 面の3D垂直図形スナップ 264
4.21.19 四半円点図形スナップ 265
4.21.20 正接図形スナップ 265
4.21.21 3D頂点図形スナップ 266
5. 図面の表示 267
5.1 ビューコマンドの概要 267
5.2 画層管理 269
5.3 図形の選択表示/非表示 270
5.4 再描画と再作図 270
5.5 画面移動 270
5.5.1 PANコマンドの使用 270

目次

5.6 ズーム 271
5.6.1 リアルタイムで拡大縮小 271
5.6.2 ズームで拡大する 271
5.6.3 ダイナミックズーム 272
5.7 マウスやキーボードを使用したビュー操作 272
5.8 ビュー回転 274
5.8.1 ビューを自由に回転させる 275
5.8.2 プリセット視点の使用 275
5.9 Look Fromコントロール 275
5.9.1 コンテキストメニューのオプション 275
5.9.2 LookFromコントロール設定 276
5.9.3 LookFromモードの設定 276
5.9.4 アイソメモードでLook Fromコントロールを使用します。 276
5.9.5 ツイストモードでLook Fromコントロールを使用します。 277
5.9.6 移行オプションを表示 277
5.10 画層状態 277
5.10.1 現在の画層状態を保存する 278
5.10.2 画層状態を編集 278
5.10.3 画層状態を復元 278
5.10.4 開いている図面間で画層の状態をコピーする 278
5.10.5 画層の状態をエクスポートする 279
5.10.6 画層状態を読み込む 279
5.11 名前付きビュー 279
5.11.1 ビューの詳細 279
5.11.2 ビューの保存 280
5.11.3 ビューの修復 280
5.11.4 ビュー背景の編集 280
5.12 表示 280
5.12.1 現在の表示スタイルの設定 281
5.13 モデル空間とペーパー空間 282
5.13.1 モデル空間とペーパー空間の切り替え 282
5.13.2 レイアウトタブの使い方 282
5.14 モデル空間のビューポート 283
5.14.1 複数のビューポートでの作業 283
5.14.2 隣接するビューポートの結合 283
5.15 ペーパー空間のビューポート 283
5.15.1 ペーパーシートと印刷可能領域の表示 284
5.16 ペーパー空間・ビューポートの作成 285
5.16.1 レイアウトビューポートの配列作成 285
5.16.2 ビューポートのプロパティの定義 285
5.17 ペーパー空間・ビューポートの編集 287
5.17.1 ペーパー空間ビューポートに画層のプロパティを設定する 287
5.17.2 ビューポートのクリッピング 288
5.17.3 ビューポートのクリップ境界の削除 288
5.17.4 ペーパー空間のビューポートで表示を回転させる 288
5.17.5 ビューポートの整列 288
5.17.6 モデル空間とペーパー空間のポイントを整列させる 289
5.18 レイアウト 289
5.18.1 新規画層の作成 290

目次

5.18.2 レイアウトのコピー 290
5.18.3 レイアウトタブの配置 290
5.18.4 レイアウトの読み込み 290
5.18.5 レイアウトの書き出し 291
5.18.6 レイアウトの名前変更 291
5.18.7 レイアウトの削除 291
5.18.8 レイアウト管理の使用 291
5.19 生成された図面ビュー 292
5.19.1 標準図面ビュー 292
5.19.2 断面ビューの生成 294
5.19.3 特別なビュー 295
5.19.4 図面ビューの更新 296
5.19.5 ビューをモデル空間にエクスポートする 296
5.19.6 図面ビューのカスタマイズ 296
6. 2D作図 298
6.1 図形の作成 298
6.1.1 新しい図形を作るための一般的な手順 298
6.2 図形作成の設定 298
6.3 画層を利用した作業 298
6.3.1 カレント画層 299
6.3.2 画層状態 299
6.4 図形の線種 299
6.4.1 現在の線種設定 301
6.4.2 新規線種の追加 301
6.4.3 図形の線種尺度の設定 301
6.5 図形の色 302
6.5.1 色インデックス 302
6.5.2 トゥルーカラー 302
6.5.3 現在の図形の色設定 303
6.6 線の太さ 303
6.6.1 システム変数 303
6.6.2 線の太さの印刷 304
6.7 塗り潰しモード 304
6.7.1 塗り潰しモードの設定 304
6.8 透過性 304
6.8.1 印刷の透過性 305
6.9 図形プロパティの編集 305
6.9.1 プロパティパネルで編集する 305
6.9.2 ロールオーバーヒントを使った編集 305
6.10 線形図形の作図 305
6.11 線分の作図 306
6.11.1 一般的な手順 306
6.11.2 角度と長さの指定 307
6.11.3 他の直線的な図形に対する角度の指定 307
6.12 放射線の作図 307
6.12.1 一般的な手順 308
6.13 構築線の作図 308
6.13.1 一般的な手順 308

目次

6.14 ポリラインの作図 309
6.14.1 一般的な手順 310
6.14.2 ポリラインの境界を作成します。 310
6.15 マルチラインの作図 311
6.15.1 一般的な手順 311
6.16 スプラインの作図 311
6.16.1 一般的な手順 312
6.17 フリーハンドスケッチの作図 312
6.17.1 一般的な手順 312
6.18 円の作図 313
6.18.1 一般的な手順 313
6.18.2 3つの図形に接する円の作図 314
6.18.3 円の編集 314
6.19 円弧の作図 314
6.19.1 一般的な手順 314
6.19.2 円弧の編集 315
6.20 楕円の作図 315
6.20.1 楕円を作成する一般的な手順 315
6.20.2 楕円弧を作成する一般的な手順 316
6.20.3 楕円または楕円弧の編集 316
6.21 長方形の作図 316
6.21.1 一般的な手順 317
6.22 ポリゴンの作図 317
6.22.1 一般的な手順 317
6.23 太線の作図 318
6.23.1 一般的な手順 318
6.24 ドーナツを作図 319
6.24.1 一般的な手順 319
6.25 ソリッド(塗り潰し面)の作図 320
6.25.1 一般的な手順 320
6.26 雲マークの作図 321
6.26.1 一般的な手順 321
6.27 点の作図 322
6.27.1 一般的な手順 323
6.28 ワイプアウトの作図 323
6.28.1 一般的な手順 323
6.28.2 ポリラインからワイプアウトを作成 323
6.29 らせんの作図 324
6.29.1 らせん(円柱型)を作図する一般的な手順 324
6.29.2 らせん(円錐型)を作図する一般的な手順 325
6.29.3 らせんの編集 325
6.30 3Dポリラインの作図 326
6.30.1 一般的な手順 326
6.30.2 3Dポリラインの編集 327
6.31 リージョンの作成 327
6.31.1 リージョンの作成 327
6.32 ハッチングとグラデーションの作成 327
6.32.1 一般的な手順 328

目次

6.32.2 ハッチングプロパティの定義 328
6.32.3 グラデーションプロパティの定義 329
6.32.4 境界の定義 330
6.32.5 オプションを設定 331
6.33 ハッチングとグラデーションの編集 331
6.33.1 プロパティパネルでの、ハッチング(グラデーション)編集 331
6.33.2 ダイアログボックスでの、ハッチング(グラデーション)編集 331
6.33.3 クワッドからの、ハッチング(グラデーション)編集 332
6.34 ハッチングとグラデーションのシステム変数 332
7. 3Dモデリング 338
7.1 ダイレクトモデリング概要 338
7.2 3Dナビゲート 338
7.2.1 パースペクティブプロパティを制御する 339
7.2.2 マウスとキーボードのナビゲートオプション 339
7.2.3 Look Fromナビゲートツール 339
7.3 ダイレクトモデリングコマンド 340
7.3.1 作成コマンド 340
7.3.2 修正コマンド 340
7.3.3 ヘルパーコマンド: 340
7.4 ダイレクトモデリング操作 343
7.4.1 座標系の制御 343
7.4.2 幾何形状の選択 343
7.4.3 寸法値を制御するための面の移動 344
7.4.4 穴の作成 345
7.4.5 フィーチャーの削除 347
7.4.6 同一面間のエッジの削除 347
7.4.7 フィーチャーのコピー 348
7.4.8 可変形状モデリング 349
7.5 設計意図認識 349
7.6 切断処理 353
7.6.1 ライブ断面とクリップ表示の違い 353
7.6.2 切断面を面に整列させる 353
7.6.3 垂直切断面を作成 354
7.6.4 水平切断面を作成 355
7.6.5 垂直方向に凹凸切断面を作成 355
7.6.6 水平方向に凹凸切断面を作成 356
7.6.7 正投影の切断面を作成 357
7.6.8 切断面のサイズと位置を編集 357
7.6.9 切断の保存 359
7.7 EXTRUDEコマンドによるソリッドの作成 360
7.7.1 概要 360
7.7.2 押し出しをソリッドモードで使用 361
7.7.3 サーフェスモードでの押し出し 366
7.7.4 押し出しツールをサーフェスモードで使用 366
7.8 スケッチベースフィーチャー 367
7.8.1 3Dソリッドを作成 368
7.8.2 対応するスケッチ図形を編集して3Dソリッドを編集 368
7.8.3 作成したスケッチ図形をすべて削除する 371
7.8.4 すべてのフィーチャーの削除 371

目次

7.9 作業平面の操作(テスト段階) 371
7.9.1 免責事項 371
7.9.2 概要 371
7.9.3 作業平面を作成する 371
7.9.4 作業平面をアクティブにする 371
7.9.5 作業平面を非アクティブにする 372
7.9.6 作業平面の表示/非表示 372
7.9.7 スケッチを作業平面にリンクまたはリンク解除する 372
8. 土木ツール 373
8.1 土木コマンド 373
8.2 BricsCADの割り込みコマンド 376
8.2.1 方位と距離 377
8.2.2 方位角と距離 378
8.2.3 測点とオフセット 379
8.2.4 角度と距離 380
8.2.5 偏角と距離 381
8.2.6 ポイント番号 381
8.2.7 ポイントオブジェクト(図面でグラフィカルに選択) 382
8.3 TINサーフェス 382
8.3.1 TINサーフェスの作成 382
8.3.2 TIN簡略化 395
8.3.3 TIN高密度化 395
8.3.4 TINサーフェスの編集 397
8.3.5 TINサーフェスのダイレクトモデリング 401
8.3.6 TINサーフェスの解析 409
8.3.7 TIN定義 412
8.4 土木ポイント 436
8.4.1 土木ポイントの作業 436
8.4.2 土木ポイントシンボルとラベルを用いた作業 438
8.4.3 ポイントファイル形式を用いた作業 444
8.4.4 土木ポイントシンボルとラベルの理解 446
8.4.5 ドラッグ状態の土木ポイント引出線とコンポーネントを理解する 449
8.4.6 土木ポイントのユーザー定義属性の作成 451
8.5 グレーディングを使用した作業 453
8.5.1 概要 453
8.5.2 グレーディングサーフェスで池を作成 454
8.5.3 グレーディングサーフェスのプロパティを表示 455
8.5.4 グレーディングサーフェスでプラットフォームを作成 458
8.5.5 グレーディングサーフェスの編集 460
8.5.6 グレーディング量のバランスについて 461
8.5.7 切土容積と盛土容積のバランスをとるためにグレーディングの高さを調整 461
8.6 コリドー 462
8.6.1 コリドーのモデリング 462
8.6.2 コリドーテンプレート要素の作成 470
8.7 位置合わせ 478
8.7.1 線形の作成 478
8.7.2 アライメントの編集 484
9. パラメトリックモデリング 491
9.1 パラメトリックモデリングの概要 491

目次

9.1.1 グローバルパラメータとローカルパラメータ 491
9.1.2 パラメータに表記を設定する 491
9.1.3 パラメータの設定と依存 492
9.1.4 自動調整配列複写のパラメータ 492
9.1.5 メカニカルコンポーネントのパラメータ 492
9.1.6 パラメータのプロパティ 493
9.1.7 3D拘束プロパティ 493
9.1.8 コンテキストメニュー 494
9.1.9 パラメータマネージャーパネル 495
9.2 数式における演算と関数 496
9.2.1 演算子 496
9.2.2 数式 496
9.3 3D拘束 498
9.3.1 可変式ダイレクトモデリング 498
9.3.2 ジオメトリ駆動の拘束 499
9.3.3 3D拘束とダイレクトモデリング 499
9.4 抑制機能 499
9.4.1 抑制機能の作成 500
9.4.2 抑制機能の管理 500
9.4.3 抑制機能の条件を設定 500
9.5 デザインテーブルでの作業 501
9.5.1 デザインテーブルを CSV ファイルから作成する 501
9.5.2 デザインテーブルでの直接検索 501
9.5.3 デザインテーブルでの逆検索 502
9.5.4 デザインテーブルに新しい設定を追加する 502
9.5.5 空のデザインテーブルの作成 502
9.5.6 デザインテーブルのあるパラメトリック コンポーネントを使用する 502
9.5.7 デザインテーブルのその他の操作 503
10. 点群 504
10.1 点群を使用した作業 504
10.1.1 前処理 504
10.1.2 整列 505
10.1.3 バブルビューア 505
10.1.4 図形スナップ 508
10.1.5 書き出し 509
10.1.6 フロア検出 509
10.1.7 点群投影 509
10.1.8 平面フィット 510
10.1.9 バブルに円柱をフィット 512
10.1.10 POINTCLOUDDEVIATION 512
10.2 HSPC(Hexagon Smart Point Cloud) 513
10.2.1 はじめに 513
10.2.2 HSPCについて 513
10.3 点群スキャンからBIMワークフロー 514
10.3.1 フロアの検出 514
10.3.2 部屋の検出 515
10.3.3 部屋ソリッドの作成 516
10.3.4 BIMコンポーネントの作成 516

目次

11. ブロック、属性、外部参照およびコンポーネント 518
11.1 ブロックを作成 518
11.1.1 ブロックを作成するには 518
11.1.2 別のファイルへのブロック保存 519
11.2 ブロック化の使用 520
11.2.1 選択した入力からブロック化 520
11.2.2 既存ブロックの定義 521
11.2.3 重複するブロック定義を結合 521
11.3 ブロックの編集 521
11.4 ブロックの挿入 522
11.4.1 INSERTコマンドの使用 523
11.4.2 「図面エクスプローラ」ダイアログボックスを使ってブロックを挿入するには 523
11.4.3 図形に沿ってブロックを挿入する 524
11.4.4 ブロックの複数のインスタンスを矩形配列状に挿入する 525
11.5 ブロックの分解 525
11.5.1 ブロックを分解する 526
11.5.2 ブロックの分解プロパティを設定するには 526
11.6 2Dパラメトリックブロック 526
11.6.1 コンテキスト 526
11.6.2 ワークフロー 526
11.6.3 ジオメトリの作成 526
11.6.4 可視状態の追加 527
11.6.5 参照カーブを追加する 529
11.6.6 ファジーガイド挿入機能を有効にする 530
11.6.7 フリップラインの追加 531
11.6.8 ストレッチパラメータの追加 532
11.6.9 パラメトリックブロックのグリップ編集 534
11.7 ファジーガイド挿入ワークフロー 535
11.7.1 はじめに 535
11.7.2 ワークフロー 535
11.8 ダイナミックブロック 538
11.8.1 ダイナミックブロックとパラメトリックブロック 538
11.8.2 ダイナミックブロックの編集 539
11.8.3 グリップ編集ダイナミックブロック 540
11.8.4 ダイナミックブロックからパラメトリックブロックへの変換 540
11.9 属性定義 541
11.9.1 属性定義の一般的な手順 542
11.9.2 属性を定義する 542
11.9.3 タイトルブロック内でシートセットプロパティを使用 543
11.10 属性を使った作業 544
11.10.1 属性の一般的な手順 545
11.11 拡張属性定義の編集 545
11.12 属性定義の編集 545
11.13 属性を持つブロックの挿入 545
11.13.1 属性を持つブロックを配置するには 546
11.14 属性情報を書き出し 546
11.14.1 属性情報を書き出しするには 547
11.15 外部参照管理 548

目次

11.15.1 外部参照を取り外し 548
11.15.2 外部参照の解除 548
11.15.3 外部参照の再ロード 548
11.16 外部参照のアタッチ 549
11.16.1 外部参照をアタッチ 549
11.17 外部参照の操作 550
11.18 ブロックと外部参照の編集 550
11.18.1 Xrefsを編集するには 551
11.19 グループ化の操作 552
11.19.1 グループを作成する 552
11.19.2 グループを変更する 553
11.19.3 図形のグループを解除する 553
11.19.4 図形の順番を変更する 553
11.20 アンダーレイの操作 554
11.20.1 PDFアンダーレイキャッシングの制御 555
11.20.2 PDFアンダーレイのアタッチ 555
11.20.3 PDFアンダーレイを挿入 556
11.20.4 PDFアンダーレイの表示をコントロール 556
11.20.5 PDFアンダーレイの画層の表示を設定 556
11.20.6 PDFアンダーレイをクリップ 556
11.20.7 PDFアンダーレイのクリップ部分の表示を切り替える 557
11.20.8 クリッピング境界線を削除 557
11.20.9 PDFアンダーレイの表示設定を調整 557
11.21 コンポーネントとコンポーネント挿入 557
11.21.1 外部コンポーネントとローカルコンポーネント 558
11.21.2 コンポーネントの変換 558
11.21.3 パラメトリックコンポーネント 559
11.21.4 コンポーネント挿入のパラメータを編集 560
11.21.5 コンポーネントの置換 560
11.21.6 コンポーネント、ブロック、外部参照 560
11.21.7 ブロックと外部参照の変換 561
11.21.8 コンポーネントベースのフィーチャー 561
11.21.9 コンポーネントへの割り当ての物理的マテリアル 561
11.21.10 コンポーネントにカスタムプロパティを割り当て 562
12. 画像とPDFファイルの管理 564
12.1 画像の管理 564
12.1.1 イメージをアタッチする 564
12.1.2 画像のロードとロード解除 565
12.1.3 イメージを削除する 565
12.2 イメージユーティリティ 565
12.2.1 イメージのクリッピング 566
12.2.2 イメージフレーム設定の変更 566
12.2.3 イメージの透過性を設定 567
12.2.4 イメージの表示プロパティを設定 567
12.3 PDFファイルの管理 568
12.3.1 概要 568
12.3.2 PDFファイルをアタッチ 568
12.3.3 PDFのロードとロード解除 569
12.3.4 PDFのアタッチ解除 569

目次

12.3.5 PDF読み込み 569
12.3.6 PDF書き出し 569
13. 注釈 570
13.1 寸法 570
13.1.1 寸法ツールの概要 570
13.1.2 自動調整寸法 572
13.1.3 寸法スタイル設定 573
13.1.4 寸法スタイルの操作 574
13.1.5 寸法スタイルツールの使用 576
13.1.6 長さ寸法の作成 577
13.1.7 角度寸法の作成 580
13.1.8 直径寸法と半径寸法の作成 582
13.1.9 中心線と中心マーク 582
13.1.10 座標寸法の作成 585
13.1.11 寸法の編集 585
13.1.12 引出線と注釈の作成 588
13.1.13 マルチ引出線の作成 589
13.1.14 幾何公差の追加 591
13.2 文字 592
13.2.1 テキストのシステム変数 592
13.2.2 文字スタイルの操作 594
13.2.3 文字の作成 595
13.2.4 文字の編集 603
13.2.5 テキストの分解 605
13.2.6 文字検索と置換 605
13.2.7 スペルチェック 606
13.2.8 フィールドの操作 608
13.2.9 表の操作 612
13.3 異尺度対応図形 618
13.3.1 異尺度対応図形 618
13.3.2 注釈尺度 620
13.3.3 異尺度対応文字 621
13.3.4 異尺度対応ハッチングとグラデーション塗り潰し 621
13.3.5 異尺度対応ブロック 622
13.3.6 異尺度対応寸法 623
13.3.7 異尺度対応引出線 623
14. カスタマイズ 625
14.1 起動オプション 625
14.2 BricsCADユーザーファイル 627
14.2.1 BricsCADユーザーファイルマネージャー 628
14.3 CUIファイルのロードとロード解除 628
14.3.1 メインCUIファイルのロード 628
14.3.2 部分CUIファイルのロード 629
14.3.3 **CUIロードエラーの場合** 629
14.3.4 部分CUIファイルのロード解除 629
14.3.5 カスタマイズグループの管理 629
14.4 部分CUIファイルの作成 630
14.5 ツールボックスの管理 630
14.5.1 メニューグループにツールボックスを作成する 630

目次

14.5.2 ツールボックスでのツールの作成 630
14.6 ツールバーの作成 631
14.6.1 ツールバーにフライアウトを追加 632
14.7 メニュー作成 632
14.7.1 メインメニューの作成 633
14.7.2 メインメニューにサブメニューを追加 633
14.7.3 サブメニューにサブメニューを追加する 633
14.8 コンテキストメニューの作成 634
14.8.1 ショートカットメニューの作成 634
14.9 キーボードショートカットの作成 635
14.10 クワッドのカスタマイズ 636
14.10.1 クワッドタブの作成 636
14.10.2 クワッドタブのコピー 636
14.10.3 ツールの図形フィルタープロパティの設定 636
14.11 カスタムクワッドフィルターの作成 637
14.11.1 カスタムツール用のカスタムフィルターの作成 637
14.11.2 クワッドボタンに新しいフィルターを追加する 638
14.12 ユーザーインターフェースコントロールにツールを追加 638
14.13 リボンのカスタマイズ 638
14.13.1 リボンタブの作成 639
14.13.2 リボンパネルの作成 639
14.13.3 タブにリボンパネルを追加する 639
14.13.4 パネルに行を追加する 640
14.13.5 行に項目を追加する 640
14.13.6 項目のプロパティの定義 640
14.13.7 項目の再配置 640
14.13.8 項目を削除 641
14.14 ツールパレットの操作 641
14.14.1 **ツールパレット**パネルを開く 641
14.14.2 表示オプションの設定 641
14.14.3 ツールパレットのカスタマイズ 641
14.14.4 ツールパレットの名称変更 642
14.14.5 ツールパレットの削除 642
14.14.6 ツールの管理 643
14.14.7 ツールパレットの新規作成 643
14.14.8 ツールパレットへの項目追加 643
14.14.9 ハッチングパターンの追加 644
14.14.10 ブロックの追加 644
14.14.11 カレントの図面からブロックを追加する 644
14.14.12 他の図面からブロックを追加: 644
14.14.13 図面をブロックとして追加: 644
14.14.14 複数の図面からすべてのブロックを追加: 645
14.14.15 コマンドの追加 645
14.14.16 テキストを追加する 645
14.14.17 セパレータを追加する 645
14.14.18 ツールを検索 646
14.15 コマンドエイリアス 646
14.15.1 テキストエディターによるエイリアスファイルの編集 646
14.15.2 カスタマイズダイアログでエイリアスファイルを編集する 647

目次

14.16 ユーザープロファイル 647
14.16.1 ユーザープロファイルの内容 648
14.16.2 ユーザープロファイル管理 648
14.16.3 指定したユーザープロファイルでBricsCADを開始 648
14.17 ワークスペース 649
14.17.1 ワークスペースの管理 650
14.17.2 カレントのワークスペースの設定 650
14.17.3 ワークスペースの作成 651
14.17.4 ワークスペースの編集 651
14.17.5 ワークスペースの削除 652
14.17.6 ワークスペースの読み込み 652
14.18 デジタイザタブレット 653
14.18.1 入力デバイスの使用 653
14.18.2 タブレットオーバーレイとCUIファイルをダウンロードするには 653
14.18.3 オーバーレイCUIファイルのロード 654
14.18.4 タブレットのオン/オフを切り替える 654
14.18.5 タブレットの設定をする 654
14.18.6 タブレットのキャリブレーション 655
14.19 Lisp 656
14.19.1 BricsCAD Lisp 656
14.19.2 BricsCADのための図面設定Lispルーチン 657
15. 図形の修正 660
15.1 修正コマンドの概要 660
15.2 図形の変更設定 662
15.3 プロパティコピー 662
15.3.1 図形間でプロパティをコピーする 662
15.3.2 BIMデータを持つ図形間のプロパティをコピーするには 663
15.4 グリップの編集 663
15.4.1 複数のグリップの選択 664
15.4.2 グリップ編集コマンドオプション 664
15.4.3 グリップ編集コンテキストメニュー 664
15.4.4 グリップを使用した図形のストレッチ 664
15.4.5 グリップを使用した図形の移動 665
15.4.6 グリップを使用した図形のコピー 665
15.4.7 グリップを使用した図形のミラー 666
15.4.8 グリップを使用した図形の回転 666
15.4.9 グリップを使用した図形の尺度変更 667
15.5 図形の選択方法 667
15.5.1 選択セットを先に作成(プレピック) 667
15.5.2 選択セットを後から作成(ポストピック) 669
15.5.3 重複した図形を選択 669
15.5.4 見えているサブ図形を選択する 670
15.6 クイック選択 671
15.6.1 一般的な手順 671
15.6.2 QSELECTコマンドの起動 671
15.6.3 図形タイプフィルターの設定 671
15.6.4 プロパティフィルターの定義 672
15.7 表示順序 672
15.7.1 表示順序ツールの使用 673

目次

15.8 マニピュレータ 673
15.8.1 アダプティブスナップステップ 673
15.8.2 マニピュレータの設定 673
15.8.3 マニピュレータのレイアウト 674
15.8.4 マニピュレータの表示位置と方向 674
15.8.5 マニピュレータの表示 676
15.8.6 マニピュレータを移動する 676
15.8.7 マニピュレータを回転させる 676
15.8.8 方向変更マニピュレータ 676
15.8.9 マニピュレータを座標系に整列させる 677
15.8.10 マニピュレータをソリッド面と整列させる 677
15.9 図形の移動 677
15.9.1 図面内の図形の移動 677
15.9.2 図面間の図形の移動 678
15.9.3 選択図形をブロックとして移動 678
15.10 図形の回転 679
15.10.1 一般的な手順 679
15.10.2 基準角度に対して選択図形を回転 679
15.10.3 3D回転 680
15.11 図形のミラー 681
15.11.1 ラインに沿った図形のミラー 681
15.11.2 平面に沿った図形のミラー 681
15.12 図形の整列 682
15.12.1 2Dでの整列 682
15.12.2 3Dでの整列 683
15.13 図形の変更 684
15.13.1 文字列の変更 684
15.13.2 ブロックの再配置 685
15.14 図形のコピー 685
15.14.1 一般的な手順 686
15.14.2 繰り返しオプションの使用 686
15.14.3 配列複写オプションの使用 687
15.14.4 選択図形をブロックとしてコピー 687
15.14.5 図面間で図形をコピー 688
15.15 平行コピーの作成 688
15.15.1 指定された距離で平行コピーを作成 688
15.15.2 通過点で平行コピーを作成 689
15.16 図形の配列複写 689
15.16.1 矩形状配列を作成(関連付けなし) 689
15.16.2 円形状配列を作成(関連付けなし) 690
15.16.3 3D矩形状配列を作成(関連付けなし) 691
15.16.4 3D円形状配列を作成(関連付けなし) 692
15.17 図形の延長 693
15.17.1 図形の延長 694
15.18 図形のトリム 694
15.18.1 図形のトリム 695
15.19 長さ調節機能 695
15.19.1 ダイナミックに長さを変える 695
15.20 選択とグリップ設定 696

目次

15.20.1 選択設定 696
15.20.2 グリップ設定 699
15.21 図形のストレッチ 700
15.21.1 図形のストレッチ 701
15.22 図形の尺度変更 701
15.22.1 選択セットの尺度変更 701
15.22.2 参照尺度を使用した選択セットの尺度変更 702
15.23 図形の部分削除 703
15.23.1 図形を部分削除する 703
15.24 図形の結合 703
15.24.1 一般的な手順 704
15.24.2 2つの円弧の結合 704
15.25 図形の面取り 704
15.25.1 距離-距離を使用した面取り 705
15.25.2 長さ-角度を使用した面取り 705
15.25.3 ポリラインのすべての頂点を面取り 705
15.25.4 面取りの削除 706
15.26 図形のフィレット 706
15.26.1 2つの図形またはポリラインセグメントにフィレットを作成 706
15.26.2 ポリラインのすべての頂点にフィレットを作成 707
15.26.3 平行な2線にフィレットを作成 707
15.27 ポリラインの編集 707
15.27.1 クワッドのポリラインセグメント編集ツールを使用 708
15.27.2 クワッドを使用して頂点を削除する方法 708
15.27.3 グリップを使用して頂点を編集する方法 709
15.27.4 PEDITコマンドの起動 710
15.27.5 図形をポリラインに変換 710
15.27.6 ポリラインの曲線化 710
15.27.7 ポリライン全体にテーパーを作成 711
15.27.8 ポリラインの方向を逆に変更 711
15.27.9 ポリラインを開くまたは閉じるの設定 711
15.27.10 ポリラインに均一な幅を適用 712
15.27.11 ポリラインセグメントの幅を変更 712
15.27.12 線種生成の設定 712
15.28 図形の分解 712
15.28.1 図形の分解 713
15.29 図形のメジャー表示 713
15.29.1 点を使用した図形のメジャー表示 713
15.29.2 ブロックを図形に沿って指定された間隔で配置 713
15.30 図形の分割 714
15.30.1 点を使用して図形を分割 714
15.30.2 ブロックを使用して図形を分割 715
16. 印刷および出力設定 716
16.1 印刷の一般的な手順 716
16.1.1 印刷ダイアログボックスを開く 717
16.1.2 用紙サイズの選択 718
16.1.3 用紙単位の選択 718
16.1.4 用紙の向きを選択 718
16.1.5 印刷オフセットを定義 718

目次

16.1.6 印刷尺度を定義 719
16.1.7 印刷オプションの設定 719
16.1.8 シェード印刷モードの設定 720
16.1.9 印刷スタンプの定義 720
16.1.10 コピー数を指定します。 722
16.1.11 印刷出力のプレビュー 722
16.2 シェード印刷の操作 722
16.2.1 概要 722
16.2.2 表示スタイルとシェード印刷の違い 723
16.2.3 一般的な手順 723
16.3 印刷設定 723
16.3.1 内蔵PDFプリンタの設定 724
16.3.2 新規の印刷設定を作成 725
16.3.3 印刷設定の編集 725
16.3.4 印刷設定の割り当て 726
16.4 印刷スタイルテーブル 726
16.4.1 印刷スタイルテーブルエディターを開く 726
16.4.2 印刷スタイルテーブルの割り当て 729
16.5 印刷スタイル管理 730
16.5.1 印刷スタイル管理の起動 730
16.5.2 新規の印刷スタイルテーブルを作成 730
16.5.3 印刷ダイアログで新規の印刷スタイルテーブルを作成 731
16.5.4 印刷スタイルテーブルの編集 731
16.5.5 印刷ダイアログボックスでの印刷スタイルテーブルの編集 731
16.6 バッチ印刷 731
17. レンダリング 732
17.1 TwinMotionの使用 732
17.1.1 Twinmotionのインストール 732
17.1.2 モデルのエクスポート 733
17.1.3 Twinmotionでのモデルの読み込み 734
17.1.4 Twinmotionでダイレクトリンクを作成 735
17.2 レンダリングの概要 736
17.3 レンダリングの設定 736
17.3.1 レンダリングの環境設定 736
17.4 レンダリング ツール 737
17.5 レンダリングマテリアル 739
17.5.1 マテリアル用語集 739
17.5.2 レンダリングマテリアルの定義 741
17.5.3 図面にレンダリングマテリアルを追加する 741
17.5.4 独自のマテリアルを追加する 741
17.5.5 レッドウェイマテリアルライブラリの追加 742
17.5.6 レンダリングマテリアルの割り当て 742
17.5.7 図形にレンダリングマテリアルを割り当てる 742
17.5.8 マテリアルを画層に割付け 743
17.5.9 レンダリングマテリアルの削除 743
17.6 レッドウェイマテリアルライブラリの追加 743
17.7 光源 744
17.7.1 光源用語集 744
17.7.2 システム変数 744

目次

17.7.3 一般的なプロパティ 745
17.7.4 フォトメトリックプロパティ 745
17.7.5 形状プロパティ 746
17.7.6 減衰プロパティ 746
17.7.7 レンダリングされた影の詳細 746
17.7.8 スポットライト：ホットスポットとフォールオフのプロパティ 747
17.7.9 光源の管理 748
17.7.10 光源の作成 748
17.7.11 光源の編集 749
17.7.12 太陽のプロパティの定義 749
17.7.13 地理的な場所の定義 749
17.8 レンダリング画像の作成 750
17.8.1 ビューポートのレンダリング 750
17.8.2 ウィンドウでのレンダリング 750
17.8.3 レンダリングをファイルに保存する 750
18. コラボレーション 752
18.1 ハイパーリンクの使用 752
18.1.1 概要 752
18.1.2 DWGへのハイパーリンクの追加と編集 752
18.1.3 相対パスの使用 752
18.1.4 図形にアタッチしたハイパーリンクの表示/アクセス 753
19. ユーザーフィードバック 754
19.1 BricsCAD Analyticsプログラム 754
19.1.1 プロセスの停止 757
19.1.2 プロセスの再起動 757
19.1.3 データベースからお客様のデータを削除する 757
19.2 クラッシュレポートを使用したクラッシュレポートの送信 757
19.3 AI予測 758
20. Express tools 760
20.1 Express toolsコマンドの概要 760
21. はじめに 765
21.1 BIMモデルの作成 765
21.2 BIMインターフェースについて 765
21.2.1 ユーザーインターフェース 765
21.2.2 インターフェースの要素 765
21.2.3 ツールバー 766
21.2.4 BIMリボン 766
21.2.5 ドキュメントタブの操作 768
21.2.6 ツールパネル 769
21.2.7 Look Fromウィジェット 774
21.2.8 UCSアイコン 774
21.2.9 モデルタブとレイアウトタブ 775
21.2.10 コマンドライン 775
21.2.11 ステータスバー 776
21.3 クワッドカーソル 776
21.3.1 概要 776
21.3.2 クワッドレイアウト 777
21.3.3 選択図形について 779
21.3.4 手順：クワッドの使用 780

目次

21.4 図形の表示 781
21.4.1 コマンド 781
21.4.2 概要 781
21.4.3 図形の非表示 781
21.4.4 手順：図形を非表示に 782
21.4.5 図形の選択表示 782
21.4.6 手順：図形の選択表示 782
21.4.7 図形の表示 783
21.5 図形の選択 783
21.5.1 概要 783
21.5.2 選択モード 784
21.5.3 選択モードの設定変更 784
21.5.4 サブ図形ーの選択 786
21.5.5 手順：ソリッドの厚さを変える 787
21.5.6 手順：壁の高さを変える 788
21.5.7 曖昧なサブ図形ーの選択 790
21.5.8 選択ボックスによる複数の図形の選択 790
21.5.9 プロファイルのBIM側面および端の選択/ハイライト表示 795
21.6 詳細のレベル 796
21.6.1 詳細のレベル 796
21.6.2 複合材マテリアルのレンダリング 797
22. モデリング技術 798
22.1 BIM線形ソリッド 798
22.1.1 BIM線形ソリッドについて 798
22.1.2 BIMプロファイルについて 799
22.1.3 BIMプロファイルパネルを使用する方法 800
22.1.4 BIMAPPLYPROFILEについて 800
22.1.5 BIMADDECCENTRICITYについて 801
22.1.6 BIM軸の再計算 802
22.1.7 線形ソリッドのモデリングに役立つ設定 803
22.2 BIM窓の作成 804
22.2.1 コマンド 804
22.2.2 概要 804
22.2.3 境界線を利用したパラメトリック窓の作成 804
22.2.4 グリッドを利用した窓の作成 806
22.2.5 窓の開口部を作成 807
22.3 ソリッドの接続 810
22.3.1 コマンド 810
22.3.2 概要 810
22.3.3 手順：L接続の作成 810
22.3.4 手順：T接続の作成 811
22.3.5 手順：平行なソリッド間の距離を設定 813
22.3.6 手順：ソリッドのコピーを作成 814
22.3.7 手順：接続された2つのソリッドを切り離す 815
22.4 カスタム窓またはドアを作成する 816
22.4.1 概要 816
22.4.2 カスタム窓の作成 816
22.4.3 2D図形（ドアスイング）を追加する 821
22.4.4 コンポーネントをパラメータ化する 822

目次

22.5 屋根の作成 822
22.5.1 屋根の作成ワークフローは、以下のステップで構成されています： 822
22.5.2 屋根の設置面の作成 822
22.5.3 寄棟屋根の作成 823
22.5.4 切妻屋根の作成 828
22.5.5 マンサード屋根の作成 829
22.5.6 半切妻屋根の作成 831
22.5.7 ギャンブレル屋根の作成 831
22.5.8 オランダ切妻屋根の作成 831
22.5.9 明り採りの作成 833
22.6 スラブの作成 837
22.6.1 コマンド 837
22.6.2 壁と壁の間の床スラブの作成 837
22.6.3 傾斜屋根の作成 837
22.7 壁の作成 839
22.7.1 コマンド 839
22.7.2 **ポリソリッド**ツールについて 839
22.7.3 手順：シンプルな壁を作成 839
22.7.4 手順：カーブした壁の作成 840
22.7.5 手順：既存の2D平面を使用して壁を作成 841
22.7.6 L接続ツールについて 843
22.7.7 手順：二つの壁を接続 843
22.7.8 他の要素に壁を接続 845
22.7.9 手順：二つの壁の間にT接続を作成 846
22.7.10 **整列した面を選択**ツールについて 847
22.7.11 手順：屋根スラブに壁の複数の面を接続 847
22.8 カーテンウォール 848
22.8.1 コマンド 848
22.8.2 概要 848
22.8.3 手順：カーテンウォールの作成 850
22.8.4 手順：自由曲面からカーテンウォールを作成 854
22.9 プッシュ/プル 856
22.9.1 コマンド 856
22.9.2 概要 856
22.9.3 手順：**プッシュ/プル**ツールを使って、ソリッドに体積を追加または削除する 856
22.10 グリッド編集 857
22.10.1 概要 857
22.10.2 矩形グリッドを編集 857
22.10.3 グリッドラベルを再番号付け 858
22.10.4 グリッドラベルの編集 858
22.11 窓やドアの挿入および編集 858
22.11.1 概要 858
22.11.2 窓(またはドア)を挿入 858
22.11.3 挿入図形をコピーして挿入 860
22.11.4 挿入図形のパラメータを編集 860
22.11.5 挿入図形を移動する 861
22.11.6 挿入図形の置換 863
22.12 クイックビルドを使用したマスモデリング 864
22.12.1 概要 864

目次

22.12.2 手順：トップダウンワークフロー 864
22.12.3 ボトムアップワークフロー 867
22.12.4 コマンドライン出力 868
22.13 MEPモデリング 868
22.13.1 コマンド 868
22.13.2 BIMフロー接続について 868
22.13.3 手順：セグメントの位置を変更します 869
22.13.4 手順：MEPモデリングツールを使用したプロファイルの作図、接続 871
22.13.5 手順：MEPモデリングツールを使用してプロファイルを変更 876
22.13.6 手順：Bimstretchを使用したフローセグメントの変更 877
22.14 MEPフロー接続点 879
22.14.1 コマンド 879
22.14.2 概要 879
22.14.3 手順：フロー接続点を作成 879
22.14.4 手順：HVACシステムの作成 884
22.15 3Dソリッドの平行コピーの作成 885
22.15.1 コマンド 885
22.15.2 概要 885
22.15.3 手順： 3Dソリッドエッジの並列コピーを作成 886
22.15.4 手順： 3Dソリッド面の並列コピーを作成 886
22.15.5 手順：検出された境界の並列コピーを作成 887
22.16 選択寸法 888
22.16.1 選択寸法部材 888
22.16.2 図形移動時の選択寸法の使用 888
22.17 ソリッドの分割 891
22.17.1 概要 891
22.17.2 ソリッドを自動分割するには 891
22.17.3 切断面を使用してソリッドを分割するには 892
22.18 階段ツール 893
22.18.1 概要 893
22.18.2 直線状の階段を作成する 893
22.18.3 L字型階段を作成する 896
22.18.4 U字型階段を作成する 897
22.18.5 既存の開口部に階段を作成する 898
22.18.6 階段の編集 900
22.19 構造用鋼 902
22.19.1 コマンド 902
22.19.2 BIMプロファイルパネルを使用する方法 902
22.19.3 BIMSTRUCTURALCONNECTについて 902
22.19.4 DRAGについて 905
22.19.5 手順：モデリングツールを使用して、構造用鋼モデルを作成 907
22.19.6 手順：モデリングツールを使用して、より詳細な接続を作成 912
22.19.7 手順：BIMSTRETCHを使って構造用鋼材を修正する 916
22.20 BIMクイックドロー 919
22.20.1 概要 919
22.20.2 部屋と壁の設定 920
22.20.3 自動吸着するスナップ機能 920
22.20.4 手順： L 形の家の作成 923
22.20.5 手順：階層と屋根を作成 925

目次

22.20.6 2Dレイアウト図を使ったクイックドローの使い方 927
22.21 ドラッグの使用 928
22.21.1 コマンド 928
22.21.2 概要 928
22.21.3 手順：3Dソリッド上でドラッグを使用 928
22.22 パラメトリック化 932
22.22.1 コマンド 932
22.22.2 概要 932
22.22.3 手順：コンポーネントを自動的にパラメトリック化 933
22.22.4 手順：パラメータマネージャーでパラメータと拘束を変更 937
22.23 ライブラリパネルの使用 940
22.23.1 概要 940
22.23.2 ライブラリパネルの内容 940
22.23.3 ライブラリブロックの作成 940
22.23.4 ライブラリブロックの管理 940
22.23.5 ブロックライブラリの検索 941
22.23.6 3DモデルにBIM窓を挿入 941
22.24 パラメータと拘束を用いた作業 943
22.24.1 パラメトリックモデリング 943
22.24.2 拘束を使用した作業 943
22.24.3 幾何拘束： 943
22.24.4 寸法拘束 944
22.24.5 パラメータに式を設定 944
22.24.6 パラメトリックブロック 946
22.24.7 カスタムコンポーネントのパラメータ化 947
23. 建物情報 954
23.1 解析モデル 954
23.1.1 BIM解析モデルについて 954
23.1.2 厳密な偏差設定による解析モデルの作成 954
23.1.3 最小限の偏差設定による解析モデルの作成 960
23.1.4 解析モデルの書き出し 964
23.2 オートコンプリートBIMデータ 965
23.2.1 コマンド 965
23.2.2 オートコンプリートBIMデータについて 965
23.2.3 1つのファイル内でのBIMデータのオートコンプリート 965
23.2.4 外部ファイルを使用したBIMデータのオートコンプリート 967
23.2.5 手順：一つのファイルでのオートコンプリートの使用 968
23.2.6 手順：外部ファイルを用いたオートコンプリートの使用 971
23.3 複合材をアタッチ 972
23.3.1 コマンド 972
23.3.2 BIM複合材アタッチについて 972
23.3.3 複合材をアタッチ 972
23.3.4 他のソリッドから複合材をコピー 975
23.3.5 ソリッドから複合材を削除 976
23.4 BIM分類 976
23.4.1 コマンド 976
23.4.2 概要 976
23.4.3 図形の分類 976
23.4.4 分類された図形のプロパティ 978

目次

23.5 BIM複合材 979
23.5.1 コマンド 979
23.5.2 概要 979
23.5.3 **BIM複合材パネルを使う** 979
23.5.4 BIM複合材エディターの使い方 981
23.5.5 新しい複合材を作成 982
23.5.6 複合材の編集 982
23.5.7 複合材を表示 986
23.5.8 複合材のコピー 987
23.5.9 複合構造の削除 987
23.6 BIMデータ構造 988
23.6.1 プロジェクトデータベースとセントラルデータベース 988
23.6.2 マテリアルと複合材 988
23.7 BIMプライ編集 989
23.7.1 概要 989
23.7.2 複合材プライとレンダリングマテリアル 989
23.7.3 複合材プライの操作 992
23.7.4 手順：屋上の詳細を作成 993
23.8 BIMプロジェクト情報 997
23.8.1 概要 997
23.8.2 プロジェクトデータベースの設定 997
23.8.3 セントラルデータベースの設定 999
23.8.4 プロジェクトデータベース(BSYSLIB)にあるXMLまたはCSVファイルを読み込んでプロファイルを追加する 1000
23.8.5 プロジェクトフィルター 1003
23.8.6 プロジェクトフィルターの設定 1003
23.9 Pythonスクリプトの使用 1004
23.9.1 コマンド 1004
23.9.2 BIMPYTHONについて 1004
23.9.3 手順：BIMPYTHONモジュールを使ったPythonスクリプトの設定 1004
23.9.4 手順：Pythonスクリプトの実行 1005
23.9.5 参照 1006
23.10 分類コード 1008
23.10.1 概要 1008
23.10.2 BIMに分類コードを割り当てる 1008
23.11 BIM空間の作成と編集 1011
23.11.1 コマンド 1011
23.11.2 概要 1011
23.11.3 BIM空間の定義 1011
23.11.4 手順：仮想境界線からBIM空間を作成 1012
23.11.5 BIM空間の自動作成 1013
23.12 カスタムプロパティ 1013
23.12.1 概要 1013
23.12.2 BIMプロパティダイアログボックスを使用する 1013
23.13 BIM数量のカスタマイズ 1017
23.13.1 概要 1017
23.13.2 名前空間 1017
23.13.3 コア数量 1018
23.13.4 ユーザー定義の数量 1020

目次

23.13.5 手順：ユーザー定義の数量の作成 1021
23.14 スラブの耐荷重性方向 1022
23.14.1 コマンド 1022
23.14.2 BIMSETLOADBEARINGDIRECTIONについて 1022
23.14.3 耐荷重性方向の指定 1022
23.14.4 断面図での耐荷重性記号の追加 1023
23.15 物理的マテリアル 1024
23.15.1 物理的マテリアルエディターを開く 1024
23.15.2 物理的マテリアルの作成 1024
23.15.3 物理的マテリアルの編集 1025
23.15.4 プロジェクトとライブラリデータベース間でのマテリアルのコピー 1029
23.15.5 物理的マテリアルの削除 1030
23.16 BIMプロジェクトブラウザの使用 1030
23.16.1 プロジェクトブラウザパネル 1030
23.16.2 BIMプロジェクトの作成 1030
23.16.3 プロジェクトを更新 1032
23.16.4 シートを作成 1032
23.16.5 シートを編集 1033
23.16.6 自動バックグラウンド更新 1033
23.16.7 部品表(BOM)の作成 1034
23.17 空間的位置 1034
23.17.1 コマンド 1034
23.17.2 概要 1034
23.17.3 手順：建物要素に建物と階を割り当てる 1034
23.17.4 構造パネルでの空間的位置の表示 1035
23.17.5 BIMATTACHSPATIALLOCATIONについて 1036
23.17.6 手順：空間的位置をアタッチする 1036
23.18 BIMの構造パネル設定 1037
23.18.1 コマンド 1037
23.18.2 概要 1037
23.18.3 手順：構造パネルについて 1037
23.18.4 手順：構造パネルでの検索 1038
23.18.5 手順：ツリー構造の管理 1039
23.18.6 手順：ツリー構造でカスタムプロパティを使用する 1041
24. 設計補助機能 1044
24.1 BIM化の使用 1044
24.1.1 コマンド 1044
24.1.2 BIM化について 1044
24.1.3 手順：図面全体をBIM化 1044
24.1.4 手順：BIMモデルの断面をBIM化 1049
24.2 プロパゲートの使用 1050
24.2.1 コマンド 1050
24.2.2 5種類のプロパゲート 1050
24.2.3 詳細ボリュームの定義 1051
24.2.4 詳細の適用先を選択 1055
24.3 平面をプロパゲート 1058
24.3.1 コマンド 1058
24.3.2 手順：壁-スラブ接合部をプロパゲート 1058
24.4 線形をプロパゲート 1061

目次

24.4.1 コマンド 1061
24.4.2 概要 1061
24.4.3 手順：柱-梁接合部をプロパゲート 1061
24.5 パターンをプロパゲート 1063
24.5.1 コマンド 1063
24.5.2 手順：スラブの上に柱をプロパゲート 1063
24.6 エッジをプロパゲート 1065
24.6.1 コマンド 1065
24.6.2 手順：ウォールキャップのプロパゲート 1065
24.7 コーナーをプロパゲート 1068
24.7.1 コマンド 1068
24.7.2 基礎の設定 1068
24.7.3 コーナーをプロパゲート 1069
24.8 詳細のパラメトリック化 1071
24.8.1 コマンド 1071
24.8.2 詳細のパラメトリック化について 1071
24.8.3 壁とスラブの接続詳細をパラメトリックに編集 1071
24.8.4 構造用鋼接続のパラメトリック化と編集 1076
24.8.5 プロジェクトで詳細をプロパゲート 1080
24.9 詳細パネルの使用 1082
24.9.1 詳細パネルを開く 1082
24.9.2 詳細情報を詳細パネルへ保存 1083
24.9.3 詳細を見る 1084
24.9.4 詳細の編集 1086
24.9.5 詳細のプロパゲート 1086
24.9.6 詳細共有 1086
24.10 Rhino/Grasshopper 統合 1088
24.10.1 概要 1088
24.10.2 Rhino/Grasshopper Connectionのインストール 1088
24.10.3 Rhino/Grasshopper接続のカスタマイズ 1090
24.10.4 Rhino/Grasshopper Connectionをアンインストール 1090
24.10.5 Rhinoでボックスを作図し、Grasshopper経由でBricsCADにベイクする方法 1090
24.10.6 BricsCADの矩形からGrasshopperでボックスを作成する方法 1094
24.10.7 Grasshopperを使って、ボックスを階数ごとに分割する方法 1097
24.10.8 建物の上部に手すりを追加する方法 1102
24.10.9 手順：ベイクされたモデルに情報を追加 1105
24.10.10 GrasshopperのBricsCADツールセット 1106
24.11 干渉チェック 1109
24.11.1 干渉チェックについて 1109
24.11.2 手順： 干渉チェックの実行 1109
24.12 階選択バー 1111
24.12.1 階選択バーについて 1111
24.12.2 「建物なし」モード 1112
24.12.3 階をアクティブに 1112
24.12.4 階を非アクティブに 1113
25. プロジェクトコラボレーション 1114
25.1 BIMコラボレーションフォーマット(BCF)パネル 1114
25.1.1 BCFについて 1114
25.1.2 BCFファイル 1114

目次

25.1.3 クラウドの使用 1114
25.1.4 BCFパネル 1114
25.1.5 手順：BCFパネルでの作業 1115
25.2 Bricsys 24/7パネルの使用 1117
25.2.1 Bricsys 24/7について 1117
25.2.2 BricsCAD BIMでのBricsys 24/7パネルの使用 1118
25.2.3 プロジェクトへファイルを追加 1118
25.3 BricsCADでのIFCの読み込みと書き込み 1118
25.3.1 IFCについて 1118
25.3.2 IFCの読み込みと書き出しの設定 1119
25.3.3 BricsCADにIFCファイルを読み込む 1121
25.3.4 **BricsCADでのIFCファイルの書き出し** 1121
25.3.5 選択した図形のみIFCファイルを書き出す 1122
25.3.6 外部参照としてIFCプロジェクトを読み込み 1122
25.3.7 **外部参照を分解してBricsCAD BIMプロジェクトを書き出す** 1123
25.3.8 IFCプロパティの操作 1124
25.3.9 IFC読み込みのプロファイル 1126
25.3.10 サポートされているIFCクラス 1126
25.3.11 構造解析モデルの書き出し 1130
25.3.12 IFCファイルのマッピングを読み込み/書き出し 1131
25.3.13 IFCファイルのマッピングを書き出し 1132
25.3.14 IFCへの地理的位置の書き出し 1134
25.3.15 モデル原点 1134
25.3.16 色と透明度の書き出しに関するガイドライン 1135
25.4 モデルのフェデレーションとジオリファレンス 1135
25.4.1 一から参照点を追加する 1135
25.4.2 参照点の書き出し 1135
25.4.3 参照点の書き出し 1136
25.4.4 参照点を手動で移行する 1136
25.5 BricsCADでのRevit®ファイルの読み込み 1137
25.5.1 免責事項 1137
25.5.2 Revit®の読み込みについて 1137
25.5.3 手順: BricsCADで Revit® ファイルをソリッドとして読み込む 1137
25.5.4 Revit®ファミリーをBricsCADに読み込む 1144
25.5.5 読み込まれたジオメトリのテクスチャーとグラフィック 1144
25.6 BricsCADでのAutodesk Revit®ファミリーの読み込み 1145
25.6.1 コマンド 1145
25.6.2 免責事項 1145
25.6.3 始める前の重要なお知らせ 1145
25.6.4 RFAファミリファイルの読み込み 1146
25.6.5 手順：RFAファミリーファイルの挿入 1146
25.7 外部参照の使用 1149
25.7.1 コマンド 1149
25.7.2 概要 1149
25.7.3 手順： カレント図面で外部参照を管理 1149
26. ドキュメンテーション 1155
26.1 3Dの注釈 1155
26.1.1 コマンド 1155
26.1.2 注釈としてのBIM分類 1155

目次

26.1.3 仕上げ材の付加情報を表示 1157
26.1.4 抽出された面の表面積を表示 1159
26.2 BIMタグ 1162
26.2.1 ソースファイル 1162
26.2.2 BIMタグを手動で適用 1162
26.2.3 BIMタグを自動的に適用 1164
26.2.4 フィールドを使用したタグの作成 1165
26.2.5 BIM図形タイプのソースデータを作成 1166
26.2.6 タグブロックのカスタマイズ 1168
26.2.7 カレント図面のみのタグブロックのカスタマイズ 1168
26.2.8 すべての断面図のBIMタグをカスタマイズするソースデータを編集 1172
26.2.9 複合材タグを割り当て 1175
26.3 BIM断面 1176
26.3.1 ソースファイル 1176
26.3.2 断面の定義 1177
26.3.3 BIM断面のデフォルトプロパティの編集 1181
26.3.4 BIM断面図形のクリップ表示プロパティを切り替える方法 1184
26.3.5 断面図形をBIM断面へ変換 1185
26.4 詳細の断面を定義 1185
26.4.1 コマンド 1185
26.4.2 ゼロから詳細の断面を定義 1186
26.4.3 既存の断面上に詳細の断面を定義 1188
26.5 天井伏図を定義 1189
26.5.1 コマンド 1189
26.5.2 概要 1189
26.5.3 天井伏図を作成 1189
26.6 立面図のハッチング 1192
26.6.1 立面図のハッチングについて 1192
26.6.2 立面図の作成 1192
26.6.3 ハッチングを設定 1193
26.7 作図用テンプレート生成 1195
26.7.1 概要 1195
26.7.2 作成された画層を理解する 1195
26.7.3 BRX_2D画層を理解する 1198
26.7.4 ハッチングパターンの色と線の太さおよび線をカスタマイズする 1201
26.7.5 ハッチングパターンをカスタマイズする 1202
26.7.6 すべての断面図の図形タイプごとにタグをカスタマイズする 1205
26.7.7 呼び出したブロックをカスタマイズする 1205
26.7.8 シートセットテンプレートをカスタマイズする 1206
26.8 図面の生成 1206
26.8.1 BIMSECTIONUPDATEについて 1206
26.8.2 手順：BIM断面を生成 1207
26.8.3 BIM断面を開く 1208
26.8.4 BIM断面を更新 1210
26.8.5 断面インジケーター、階インジケーター、グリッドコールアウト 1213
26.9 生成図面の編集 1213
26.9.1 タイトルブロックの挿入 1213
26.9.2 シートビューのビューラベルを挿入 1214
26.9.3 シートビューのバルーン数字を挿入 1216

目次

26.9.4 シート一覧表の挿入 1217
26.10 内装の立面図 1217
26.10.1 コマンド 1217
26.10.2 概要 1217
26.10.3 BIM空間から内装の立面図を作成 1218
26.10.4 内装の立面図のサイズを編集 1222
26.11 指定点高さのレベル 1226
26.11.1 コマンド 1226
26.11.2 概要 1226
26.11.3 手順：断面図シートに指定点高さタグを配置する方法 1226
26.11.4 手順：立面図シートに指定点高さタグを配置する方法 1228
26.11.5 手順：平面図または天井伏図に指定点高さレベルタグを配置する 1232
26.11.6 手順：タグのレイアウト調整 1235
26.11.7 手順：引出線のレイアウト調整 1236
26.12 部品表のテンプレートを使って建具表を追加する 1239
26.12.1 BricsCAD BIM部品表マネージャーについて 1239
26.12.2 一からドアの部品表を作成する/フィルターを設定する 1241
26.12.3 部品表テンプレートを読み込む 1242
26.12.4 定義した部品表から作成する 1242
26.12.5 シートに建具表を配置する 1242
26.12.6 部品表の操作 1243
26.12.7 新しい列を追加する 1244
26.12.8 サムネイル列を追加する 1244
26.12.9 数値列の単位を変更する 1244
26.12.10 列を結合する 1245
26.12.11 式列を追加して重量を計算する 1245
26.13 データ抽出定義(.dxd)ファイルの編集 1245
26.13.1 パスセクション 1246
26.13.2 設定セクション 1246
26.13.3 図形タイプセクション 1246
26.13.4 プロパティセクション 1247
26.13.5 フィルターセクション 1249
26.14 BIMでの点群を使用した作業 1250
26.14.1 点群スキャンからBIMワークフローについて 1250
26.14.2 POINTCLOUDFITPLANARについて 1250
26.14.3 POINTCLOUDPROJECTSECTIONについて 1253
26.14.4 点群からラスター画像を作成 1254
26.14.5 点群から壁を検出して2Dで生成 1255
26.14.6 点群によるBIM断面の生成 1257
26.15 タイププランを用いた作業 1257
26.15.1 タイププランについて 1257
26.15.2 BIMタイププラン 1258
26.15.3 プロジェクトブラウザのレベルでのタイププラン 1258
26.15.4 タイププランの編集 1259
26.15.5 図面カスタマイズのスタイル 1261
26.15.6 シート上のビューポートにテンプレートを適用 1261
26.15.7 カスタマイズテンプレートへのアクセス 1262
27. はじめに 1263
27.1 メカニカルワークスペース 1263

目次

27.1.1 メカニカル設計プロジェクトの開始 1263
27.1.2 BricsCADのメカニカルアプリケーションウィンドウ 1263
27.2 メカニカルブラウザパネル 1263
27.2.1 図形によるグループ 1265
27.2.2 種類によるグループ 1265
27.2.3 検索表示 1265
27.2.4 設定 1265
27.2.5 アルファベット順でソート 1266
27.2.6 選択を表示 1266
27.2.7 メカニカル図形 1266
27.2.8 プロパティ 1270
27.3 3D比較 1271
27.3.1 定義 1271
27.3.2 ツールバー 1271
27.3.3 表示 1272
28. 部品設計 1274
28.1 ねじ山機能 1274
28.1.1 ねじ山構成の追加 1275
28.2 部品設計使用方法 1275
28.3 スケッチング 1276
28.4 ソリッドモデリング 1276
28.5 サーフェスモデリング 1278
28.5.1 サーフェスプロパティ 1278
28.6 自由形状のサーフェスモデリング 1280
28.6.1 概要 1280
28.6.2 変形ツール 1281
29. アセンブリ設計 1282
29.1 アセンブリ設計のボトムアップ/トップダウン 1282
29.1.1 概要 1282
29.1.2 ボトムアップ設計 1282
29.1.3 トップダウンデザイン 1282
29.1.4 既存ジオメトリにメカニカル構造を追加 1282
29.1.5 メカニカル構造の変更 1282
29.1.6 標準コンポーネントの使用 1283
29.1.7 アセンブリ拘束 1283
29.1.8 コンポーネントの可視性 1283
29.2 アセンブリ設計のコマンドとツールバー 1283
29.2.1 コマンド 1283
29.2.2 ツール 1286
29.3 コンポーネントのプロパティ 1287
29.4 メカニカルコンポーネントのカスタムプロパティ 1297
29.4.1 概要 1297
29.4.2 メカニカルプロパティダイアログボックスの使用 1297
29.5 カスタム標準部品の作成方法 1303
29.5.1 概要 1303
29.5.2 必須作成パラメータ 1303
29.5.3 オプション作成パラメータ 1303
29.5.4 構成表 1304

目次

29.5.5 標準部品を作成するためのファイルの作成方法 1304
29.5.6 既存のTXTファイルからのカスタム標準部品の作成 1304
29.5.7 カスタム標準部品を使用したモデルの転送 1305
29.5.8 部品カテゴリと幾何学的パラメータ 1305
29.6 アセンブリのマスプロパティ 1316
29.6.1 概要 1316
29.6.2 質量の単位を設定 1317
29.6.3 質量プロパティを計算する 1318
29.7 標準メカニカルコンポーネント 1318
29.7.1 概要 1318
29.7.2 標準部品 1318
29.7.3 穴 1319
29.7.4 板金フォームフィーチャー 1320
29.7.5 ツール 1320
29.7.6 カレント図面に標準部品を配置する 1321
29.7.7 独自の標準部品を作成する 1321
29.7.8 ねじ山の表示をコントロールする 1321
29.7.9 スプロケットの歯の数をコントロール 1322
29.8 アセンブリ設計での配管 1322
29.8.1 概要 1322
29.8.2 アセンブリに配管部品を挿入 1323
29.8.3 配管標準部品同士の3D拘束を手動で作成 1323
29.8.4 配管部品の自動接続 1323
29.8.5 配管アセンブリの部品表を作成 1324
29.9 コンポーネントの配列 1324
29.9.1 概要 1324
29.9.2 コンポーネントの配列を作成 1324
29.9.3 メカニカルブラウザでのコンポーネントの配列 1324
29.9.4 コンポーネントと部品表の配列 1325
29.9.5 パラメトリックコンポーネント、パラメトリックブロック、パラメトリック外部参照、標準部品、穴の配列 1325
29.10 配列プロパティ 1325
29.10.1 概要 1325
29.11 分解表示 1328
29.11.1 概要 1328
29.11.2 分解表示のレベル 1329
29.11.3 アルゴリズム 1330
29.11.4 ステップとアニメーション 1331
29.11.5 製品表現の編集 1331
29.11.6 トレース線 1332
29.11.7 分解表示の作成 1335
29.11.8 分解表示の図面ビューを生成する 1335
29.11.9 分解表示の更新 1336
29.11.10 分解表示の管理 1336
29.11.11 分解表示ステップの管理 1339
29.11.12 製品表現の編集 1342
29.11.13 トレース線の追加 1342
29.12 部品表マネージャー 1342
29.12.1 概要 1342
29.12.2 部品表マネージャーを開く 1344

目次

29.12.3 ツール 1344
29.12.4 プロパティ 1363
29.12.5 フィルター設定 1365
29.12.6 列フィルター 1366
29.12.7 選択セット 1367
29.12.8 ソート 1368
29.12.9 列の単位 1368
29.12.10 評価列 1368
29.12.11 フッター行 1371
29.12.12 集計列 1371
29.12.13 テンプレート 1372
29.12.14 検索 1372
29.12.15 関連表 1373
29.12.16 部品表を更新 1373
29.12.17 新規部品表を追加 1373
29.12.18 カレントの部品表を選択 1374
29.12.19 カレントの部品表タイプを変更 1374
29.12.20 カレントの部品表のプロパティセットを変更 1374
29.12.21 階層部品表のカウントモードを変更 1375
29.12.22 トップレベル、ボトムレベル、階層型部品表のグループ化モードの変更 1375
29.12.23 カレントの部品表にカスタムフィルターを設定 1375
29.12.24 カレントの部品表に新しい列を追加 1376
29.12.25 評価列を追加 1376
29.12.26 選択した列からテンプレート列を追加 1376
29.12.27 評価列の変更 1376
29.12.28 カレントの部品表から列を削除 1377
29.12.29 部品表名の変更 1377
29.12.30 フッター行タイトルの変更 1377
29.12.31 番号に接頭辞または接尾辞を追加 1377
29.12.32 階層部品表内の番号間の区切り文字を変更 1377
29.12.33 階層部品表の番号タイプを変更 1378
29.12.34 列のタイトルを変更 1378
29.12.35 列の書式を変更 1379
29.12.36 列の単位と単位の配置モードを変更 1379
29.12.37 列にフッターを追加 1380
29.12.38 テンプレートファイルとしてカレントの設定を保存 1381
29.12.39 カレントの表をCSVに書き出す 1381
29.13 部品表 1382
29.13.1 部品表タイプ 1383
29.13.2 カウントモードと最大レベル 1385
29.13.3 部品表列 1386
29.13.4 部品表のフィルタリング 1391
29.13.5 選択セット 1395
29.13.6 部品表の並べ替え 1396
29.13.7 サムネイル 1396
29.13.8 評価列 1398
29.13.9 列の単位 1401
29.13.10 フッター 1402
29.13.11 テンプレート 1402
29.13.12 部品表ステータス 1403

目次

29.13.13 固定コーナー 1405
29.14 マルチパラメトリック3Dアニメーション 1405
29.14.1 概要 1405
29.14.2 シーン、タイムライン、アニメーションシーケンス 1405
29.14.3 アニメーション編集パネルを開く 1406
29.14.4 アニメーション編集のインターフェース 1406
29.14.5 アニメーションの再生 1412
29.14.6 レンダリング 1413
29.14.7 新しいシーンを追加する 1414
29.14.8 シーンの削除 1414
29.14.9 パラメータのアニメーションを追加する 1414
29.14.10 カメラの動きを追加する 1415
29.14.11 アニメーションシーケンスの削除 1415
29.14.12 タイムラインの無効化または有効化 1415
29.14.13 タイムラインのロック・ロック解除 1416
29.14.14 分解ビューのアニメーション 1416
29.14.15 ビデオのレンダリング 1416
29.14.16 アニメーショングラフィックの保存 1416
29.14.17 記録されたアニメーショングラフィックをロードして再生する 1417
29.15 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッド 1418
29.15.1 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドの有効化 1420
29.15.2 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドの無効化 1420
29.15.3 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドの作成 1420
29.15.4 メカニカルブロックの挿入 1420
29.15.5 メカニカル構造の削除 1420
29.15.6 選択したインスタンスにプロパティを割り当て 1421
29.15.7 部品表とメカニカルソリッド 1421
29.15.8 メカニカルソリッドをコピー 1422
30. 板金 1423
30.1 板金の設計方法 1423
30.2 板金コマンドとツールバー 1424
30.3 板金フィーチャー 1430
30.3.1 概要 1430
30.3.2 フランジ 1431
30.3.3 ベンド 1432
30.3.4 ゼロベンド 1432
30.3.5 間違ったベンド 1432
30.3.6 ロフトベンド 1432
30.3.7 ベンドリリーフ 1433
30.3.8 コーナーリリーフ 1433
30.3.9 ジャンクションおよびTジャンクション 1433
30.3.10 マイターフィーチャー 1434
30.3.11 フォームフィーチャーとビードフィーチャー 1434
30.3.12 タブおよびTタブ 1434
30.3.13 ベベル 1435
30.4 フィーチャーに色付け 1435
30.5 板金のメカニカルブラウザ 1436
30.5.1 概要 1436
30.5.2 板金コンテキスト 1436

目次

30.5.3 フィーチャーを用いた操作 1438
30.5.4 厚みの変更 1439
30.5.5 フィーチャー操作 1440
30.5.6 無効、解体、削除の違い 1441
30.6 板金のグローバルプロパティとフィーチャープロパティ 1442
30.6.1 概要 1442
30.6.2 ソリッドのコンテキストをローカルに切り替える 1444
30.7 K係数 1462
30.7.1 概要 1462
30.7.2 板金部品のK係数を変更 1463
30.8 ベンドテーブル 1465
30.8.1 概要 1465
30.8.2 板金部品のベンドテーブル設定 1467
30.8.3 以前に設定したベンドテーブルの更新 1467
30.9 板金の設定 1469
30.9.1 概要 1469
30.9.2 コマンド 1469
30.9.3 フィーチャーの色 1469
30.9.4 初期パラメータ 1470
30.9.5 モデリング 1471
30.10 フランジの作成 1471
30.10.1 概要 1471
30.10.2 ベースフランジの作成 1472
30.10.3 エッジフランジの作成 1472
30.10.4 テーパー角度のあるエッジフランジを作成 1474
30.10.5 ポリラインを押し出して複数のフランジを作成 1475
30.10.6 フランジを作成する輪郭を押し出し 1478
30.10.7 ベンド、コーナーリリーフ、ジャンクション 1479
30.10.8 複数のフランジを作成 1479
30.11 フランジの修正 1483
30.11.1 フランジのサイズと形状を変更 1483
30.11.2 フランジを伸ばす 1484
30.11.3 厚みのある面を回転 1485
30.11.4 フランジに穴を作成 1487
30.11.5 フランジを移動 1488
30.11.6 フランジを回転 1489
30.11.7 フランジを分割 1490
30.11.8 フランジを分割するスマートツール 1491
30.11.9 フランジを折り曲げ 1493
30.11.10 フランジを接合 1494
30.12 ベンドとジャンクションの操作 1494
30.12.1 ハードエッジをベンドまたはジャンクションに変換 1494
30.12.2 曲線ジャンクションの作成 1496
30.12.3 板厚面の分割 1501
30.12.4 ベンド半径の変更 1503
30.12.5 ジャンクションギャップの変更 1503
30.12.6 ジャンクションタイプの変更 1504
30.13 ヘムの操作 1506
30.13.1 ヘムの作成 1506

目次

30.13.2 ヘムパラメータの修正 1508
30.13.3 ヘムの削除 1508
30.13.4 関連コマンド 1511
30.14 タブの操作 1511
30.14.1 単独タブの作成 1511
30.14.2 配列タブの作成 1512
30.14.3 曲線配列タブの作成 1513
30.14.4 タブの修正 1514
30.14.5 タブの削除 1514
30.14.6 タブの分解 1514
30.15 TタブとTジャンクションの操作 1515
30.15.1 概要 1515
30.15.2 Tジャンクションの作成 1515
30.15.3 単独Tタブの作成 1516
30.15.4 配列Tタブの作成 1516
30.15.5 TジャンクションパラメータとTタブパラメータの変更 1517
30.15.6 TジャンクションまたはTタブを削除 1517
30.15.7 関連コマンド 1517
30.16 ベベルの操作 1517
30.16.1 概要 1517
30.16.2 ベベルを認識 1519
30.16.3 削除と修復 1520
30.16.4 展開 1520
30.17 ロフトベンドの作成と分割 1521
30.17.1 ロフトベンドを使用して板金部品を作成する一般的な手順 1521
30.17.2 ロフトベンドを分割 1524
30.18 ベンドリリーフとコーナーリリーフフィーチャーの操作 1525
30.18.1 概要 1525
30.18.2 コーナーリリーフとジャンクション 1525
30.18.3 欠落しているリリーフの作成 1525
30.18.4 ベンドリリーフ種類の切り替え 1527
30.18.5 コーナーリリーフの種類を切り替え 1528
30.19 フォームとビードフィーチャーの操作 1529
30.19.1 概要 1529
30.19.2 フォームフィーチャーの挿入 1530
30.19.3 ライブラリフォームフィーチャーのパラメータ編集 1533
30.19.4 カスタムフォームフィーチャーの作成 1534
30.19.5 カスタムパラメトリックフォームフィーチャーの作成 1537
30.19.6 ビードフィーチャーの作成 1543
30.19.7 ビードフィーチャーの修正 1544
30.19.8 コントロールカーブ(曲線)と軌道曲線の違い 1545
30.20 穴フィーチャーを用いた操作 1548
30.20.1 概要 1548
30.20.2 穴フィーチャー配列の認識 1549
30.21 板金の変換と修復 1551
30.21.1 3D形状を有効な板金部品に変換 1552
30.21.2 板金部品の修復 1552
30.21.3 板金ボディの修復 1553
30.21.4 ロフトベンドがある板金ボディの修復 1554

目次

30.22 板金部品の展開とCAMへの書き出し 1555
30.22.1 概要 1555
30.22.2 板金ボディの展開 1555
30.22.3 板金ボディを展開 1558
30.22.4 2Dジオメトリの画層プロパティを管理 1559
30.22.5 板金ボディを書き出し 1559
30.22.6 板金部品を含むアセンブリをDXFに書き出し 1559
30.23 3Dソリッドの自動調整展開表現 1560
30.23.1 概要 1560
30.23.2 自動調整とはどういう意味ですか？ 1560
30.23.3 自動調整モードへの切り替え 1560
30.23.4 ジオメトリの編集 1562
30.23.5 フラットパターンで衝突の回避 1563
30.24 スマートフィーチャー 1568
30.24.1 概要 1568
30.24.2 コーナーリリーフをベンドリリーフへ変換 1569
30.24.3 不要なカットを削除 1570
30.24.4 エッジの自動けがき 1571
30.24.5 ジャンクションの自動作成 1573
31. 生成された図面 1574
31.1 図面ビュー 1574
31.1.1 概要 1574
31.1.2 ドラフト品質の図面ビュー 1574
31.2 注釈の作図 1575
32. Communicator for BricsCAD 1576
32.1 Communicator for BricsCAD® - はじめに 1576
32.1.1 Communicator for BricsCAD®のアクティベート 1576
32.2 Communicator for BricsCAD® の設定 1576
32.2.1 バックグラウンドで読み込みと書き込みを実行 1577
32.2.2 読み込み設定 1577
32.2.3 設定を書き出し 1580
32.3 Communicator for BricsCAD®とBricsCADの互換性 1581
32.3.1 概要 1581
32.4 Communicator for BricsCAD® - 読み込み可能なファイル形式 1581
32.4.1 対応する読み込みファイル形式 1581
32.5 Communicator for BricsCAD® - 書き出し可能なファイル形式 1584
32.5.1 対応する書き出しファイル形式 1584
33. BricsCAD Shape 1586
33.1 BricsCAD Shapeの紹介 1586
33.1.1 BricsCAD Shapeとは 1586
33.1.2 BricsCAD Shapeのアクティベート 1586
33.1.3 BricsCAD Shapeで想像を形に 1586
33.1.4 BricsCAD Shapeと他のツールの違いとは 1587
33.1.5 BricsCAD ShapeでBIMのワークフローを促進する 1587
33.1.6 手書きから造形へ 1587
33.2 BricsCAD Shapeのユーザーインターフェース 1587
33.3 BricsCAD Shapeのモデリングの基本的な考え方 1588
33.3.1 図形の選択方法 1588

目次

33.3.2 クワッド 1589
33.3.3 マニピュレータ 1590
33.4 BricsCAD Shapeのナビゲーション 1591
33.4.1 画面移動 1591
33.4.2 ビューの回転 1592
33.4.3 ズームの拡大縮小 1592
33.4.4 Look Fromコントロール 1592
33.5 BricsCAD Shapeのコンポーネント 1593
33.5.1 コンポーネントを挿入する方法 1593
33.5.2 ソリッドの面に窓を挿入する方法 1594
33.6 BricsCAD Shapeのマテリアル 1594
33.7 BricsCAD Shapeの画層 1596
33.7.1 オン/オフ 切り替え 1597
33.7.2 ロック/ロック解除 切り替え 1597
33.7.3 作成/削除 1598
33.7.4 編集 1598
33.8 構造プロファイルの活用 1598
33.8.1 構造プロファイル作成 1598
33.8.2 接続プロファイル 1601
33.8.3 別のプロファイルの割り当て 1601
33.8.4 カスタムプロファイルの割り当て 1601
33.9 BricsCAD Shapeの表示設定 1603
33.9.1 表示スタイルパネル 1603
33.9.2 図形の非表示/選択表示/全表示 1604
33.9.3 断面 1604
33.10 BricsCAD Shapeのソリッド 1605
33.10.1 直方体の作図 1605
33.10.2 ソリッドの面の操作 1606
33.10.3 ソリッドのエッジの操作 1607
33.10.4 ソリッドの押し出し 1609
33.11 BricsCAD Shapeで壁の作成 1609
33.11.1 ポリソリッドツールについて 1609
33.11.2 手順：シンプルな壁を作成 1609
33.11.3 手順：既存の2D図面を使用して壁を作成 1610
33.11.4 手順：2つの壁のL接続を作成 1611
33.11.5 手順：2つの要素のT接続を作成 1612
33.11.6 手順：カーブした壁の作成 1613
33.11.7 手順：壁の複数の面を屋根スラブに接続 1614
33.12 BricsCAD Shapeのクイックドロー 1615
33.12.1 クイックドローツールについて 1615
33.12.2 部屋と壁の設定 1615
33.12.3 自動吸着するスナップ機能 1616
33.12.4 L字形の建物モデルを作成する方法 1617
33.12.5 2Dレイアウト図を使ったクイックドローの使い方 1619
33.13 BricsCAD Shapeで窓やドアの作成 1620
33.13.1 方法 1 ：ライブラリから窓やドアを選択 1620
33.13.2 方法 2 ：簡易なカスタム窓を作成 1621
33.14 BricsCAD Shapeで屋根の作成 1621

目次

34. ダイアログボックス 1625
34.1 A 1625
34.1.1 BricsCADについて 1625
34.1.2 ブロックをライブラリに追加 1625
34.1.3 ボタン項目を追加 1628
34.1.4 図形エイリアスを追加 1629
34.1.5 アドインマネージャー 1631
34.1.6 メニュー項目を追加 1632
34.1.7 印刷スタイルテーブルを追加 1633
34.1.8 プロパティの追加 1634
34.1.9 クワッドのボタンフィルターを追加 1636
34.1.10 図形に尺度を追加 1637
34.1.11 中心軸からの許容偏差 1637
34.1.12 注釈図形尺度 1639
34.1.13 円弧にテキストを整列 1640
34.1.14 配列 1641
34.1.15 土木オブジェクト参照をアタッチ 1645
34.1.16 外部参照をアタッチ 1647
34.1.17 PDFアンダーレイをアタッチ 1649
34.1.18 点群をアタッチ 1651
34.1.19 ラスターイメージ参照 1652
34.1.20 拡張属性編集 1655
34.1.21 オートマッチ 1656
34.2 B 1659
34.2.1 背景 1659
34.2.2 BIM BCFパネル - カスタムログイン 1665
34.2.3 BIMプロジェクト情報 1665
34.2.4 BIMプロパティ 1671
34.2.5 BIMタイププラン編集 1675
34.2.6 BIMタイププラン 1680
34.2.7 BLADE - BricsCAD LISP advanced development environment 1681
34.2.8 ブロック属性管理 1682
34.2.9 外部参照にするブロック 1683
34.2.10 ブロックを置換 1685
34.2.11 外部参照にするブロック 1687
34.2.12 部品表設定 1688
34.2.13 境界 1691
34.2.14 BricsCAD Analytics 1692
34.2.15 Bricsysライセンス管理 1693
34.3 C 1698
34.3.1 電卓 1698
34.3.2 辞書を変更 1700
34.3.3 アイコンを変更 1702
34.3.4 大文字小文字切替 1703
34.3.5 図形のURLを変更 1704
34.3.6 窓スタイルを選択 1704
34.3.7 土木ポイントエディター 1705
34.3.8 BIM要素として分類 1705
34.3.9 色 1714

目次

34.3.10 色に基づく表示順序 1716
34.3.11 列フィルター 1717
34.3.12 重複するブロック定義を結合 1719
34.3.13 コミュニケーター情報 1720
34.3.14 二つのモデルを比較 1721
34.3.15 複合材 1724
34.3.16 設定ダイアログの構成 1727
34.3.17 構造ツリー設定 1729
34.3.18 画層にコピー 1734
34.3.19 クラッシュレポートダイアログボックス 1734
34.3.20 ブロック定義を作成ダイアログボックス 1735
34.3.21 新規図面を作成 1738
34.3.22 新しいGIS画層を作成 1743
34.3.23 新規シートセットを作成 1744
34.3.24 ブロック定義の作成または編集 1747
34.3.25 ルーチンを作成 1747
34.3.26 断面/立面を作成 1750
34.3.27 シートを作成 1752
34.3.28 ポイントファイルからサーフェスを作成 1754
34.3.29 カレントの印刷スタイル 1756
34.3.30 曲線計算 1757
34.3.31 カスタマイズグループ 1759
34.3.32 カスタマイズ 1760
34.3.33 カスタマイズ(ツールパレット) 1772
34.3.34 カスタム用紙サイズ 1773
34.3.35 カスタムプロパティ 1774
34.4 D 1775
34.4.1 データリンク編集 1775
34.4.2 データリンクマネージャー 1777
34.4.3 データムID 1778
34.4.4 デフォルトの尺度リスト 1781
34.4.5 属性定義 1782
34.4.6 重複図形を削除 1784
34.4.7 デジタル署名 1785
34.4.8 図面エクスプローラ 1786
34.4.9 図面エクスプローラオプション 1792
34.4.10 図面プロパティ 1793
34.4.11 図面ビュープリセット 1795
34.5 E 1797
34.5.1 属性編集 1797
34.5.2 カスタムプロパティを編集 1798
34.5.3 パワーディメンジョン 1798
34.5.4 GIS画層を編集 1804
34.5.5 ハイパーリンクの編集 1805
34.5.6 図面プロパティデータテンプレート編集 1807
34.5.7 クワッドボタンフィルター編集 1808
34.5.8 ルーチンを編集 1809
34.5.9 尺度を編集 1810
34.5.10 尺度一覧の編集 1811

目次

34.5.11 シートを編集 1813
34.5.12 サーフェスから標高を割り当て 1814
34.5.13 図形グループ 1815
34.5.14 eトランスミット 1818
34.5.15 テスト段階の機能 1821
34.5.16 土木ポイント書き出し 1822
34.5.17 寸法スタイルの書き出し 1823
34.5.18 サーフェスポイント書き出し 1824
34.5.19 LandXML書き出し 1825
34.5.20 属性書き出し 1826
34.5.21 TINサーフェスから抽出 1827
34.6 F 1829
34.6.1 幾何公差記号 1829
34.6.2 フィールド 1832
34.6.3 フィルターコンフィギュレータ 1839
34.6.4 検索と置換 1840
34.6.5 フラットショット 1843
34.6.6 フォント置換 1845
34.6.7 形式 1847
34.6.8 数式列 1847
34.7 G 1849
34.7.1 標準のファイルを開く 1849
34.7.2 標準の図面に名前を付けて保存 1851
34.7.3 地理的位置 1852
34.7.4 幾何公差 1854
34.7.5 GIS属性テーブル 1856
34.7.6 GIS読み込み 1861
34.8 H 1865
34.8.1 ハッチングとグラデーション 1865
34.8.2 ハッチング編集 1869
34.9 I 1871
34.9.1 IFC読み込み設定 1871
34.9.2 Civil 3D読み込み 1874
34.9.3 寸法スタイルの読み込み 1876
34.9.4 ページ設定を読み込み 1877
34.9.5 ポイントファイルからポイントを読み込み 1878
34.9.6 シートセットを読み込み 1880
34.9.7 ブロック挿入 1881
34.9.8 セルにブロックを挿入 1885
34.9.9 オブジェクトの挿入 1887
34.9.10 表の挿入 1888
34.9.11 インターフェース設定 1890
34.10 J 1893
34.11 K 1893
34.12 L 1893
34.12.1 ラベルスタイル編集 1893
34.12.2 画層マネージャー：画層状態を保存、編集、復元 1901
34.12.3 画層プロパティフィルター 1902
34.12.4 画層標準を適用 1904

目次

34.12.5 レイアウト管理 1905
34.12.6 画層閲覧 1906
34.12.7 リンク 1908
34.12.8 アプリケーションファイルをロード 1909
34.12.9 線種をロード 1911
34.12.10 マルチラインスタイルをロード 1912
34.13 M 1912
34.13.1 カスタマイズを管理 1912
34.13.2 ポイントファイル形式を管理 1914
34.13.3 ルーチンの管理 1916
34.13.4 ルーチンの管理 (BMASSEMBLYINSPECT) 1918
34.13.5 サーフェスファイル形式を管理 1919
34.13.6 マップ接続 1921
34.13.7 プロパティコピー 1923
34.13.8 メカニカルプロパティ 1925
34.13.9 モーションパスアニメーション 1927
34.14 N 1930
34.14.1 ナビゲート設定 1930
34.14.2 新規画層名 1931
34.14.3 新しいマルチ引出線スタイル 1931
34.14.4 新規マルチラインスタイル 1932
34.14.5 新規ページ設定 1933
34.14.6 新規シート 1933
34.15 O 1936
34.16 P 1936
34.16.1 ページ設定 1936
34.16.2 パーツ一覧 1939
34.16.3 パーツ参照 1943
34.16.4 形式を指定して貼り付け 1943
34.16.5 物理的マテリアル 1945
34.16.6 印刷スタンプ 1947
34.16.7 印刷スタイルテーブルエディター 1948
34.16.8 印刷設定編集 1949
34.16.9 点群参照マネージャー 1951
34.16.10 ポイントグループ 1953
34.16.11 点群データファイルの前処理 1954
34.16.12 印刷 1956
34.16.13 プロファイル 1962
34.16.14 プロジェクトデータベース 1964
34.16.15 プロキシ情報 1965
34.16.16 パブリッシュ 1965
34.16.17 パブリッシュ出力 1970
34.16.18 名前削除 1972
34.17 Q 1973
34.17.1 クイック引出線設定 1973
34.18 R 1976
34.18.1 拡張データの関連性を再作成 1976
34.18.2 パス再定義設定 1976
34.18.3 外部参照編集 1977

目次

34.18.4 レンダリング 1978
34.18.5 ビデオをレンダリング 1979
34.18.6 URLの文字を置換 1981
34.18.7 ルーチンエディター 1981
34.18.8 VBAマクロを実行 1984
34.19 S 1986
34.19.1 ブロック定義を保存 1986
34.19.2 ワークスペースを保存 1986
34.19.3 セキュリティ 1987
34.19.4 セキュリティオプション 1988
34.19.5 カスタム矢印ブロックを選択 1989
34.19.6 結合するレイアウトを選択 1989
34.19.7 設定 1991
34.19.8 視点をセット 1992
34.19.9 シートプロパティ 1995
34.19.10 シートビュープロパティ 1997
34.19.11 URLがアタッチされた図形を表示 1998
34.19.12 サーフェスをスムージング 1998
34.19.13 空間的位置マネージャー 2000
34.19.14 スペルチェック 2003
34.19.15 計画線編集 2005
34.19.16 サブセットプロパティ 2009
34.19.17 スーパーハッチング 2010
34.19.18 仕上げ記号ダイアログボックス 2012
34.19.19 シンボルスタイル 2015
34.19.20 システム変数 2019
34.20 T 2021
34.20.1 表セルのフォーマット 2021
34.20.2 タグ 2022
34.20.3 テンプレート列 2023
34.20.4 文字コンテンツ編集 2026
34.20.5 ツールイメージ 2027
34.20.6 ツールプロパティ 2028
34.21 U 2029
34.21.1 Bricsys 24/7 へアップロード 2029
34.21.2 ユーザー座標設定 2031
34.21.3 ユーザープロファイル管理 2032
34.22 V 2034
34.22.1 デジタル署名を検証 2034
34.22.2 VBAマネージャー 2036
34.22.3 詳細を表示 2039
34.22.4 ビューオプション 2041
34.22.5 ビジュアル設定 2042
34.23 W 2046
34.23.1 溶接記号 2046
34.23.2 ウィザードページ 2050
34.23.3 ワークセット 2058
34.23.4 ブロックをファイルへ書き出し 2059
34.24 X 2061

目次

34.24.1 拡張データ編集 2061
34.25 Y 2061
34.26 Z 2061
35. パネル 2062
35.1 アニメーション編集パネル 2062
35.1.1 シーンの追加 2062
35.1.2 タイムラインを追加 2063
35.1.3 ビデオをレンダリング 2063
35.1.4 現在のシーンのグラフィックを記録 2063
35.1.5 アニメーショングラフィックのロード 2063
35.1.6 コンフィギュレータ 2063
35.1.7 タイムラインのロック/アンロックボタン 2064
35.1.8 タイムライン効果の無効化/有効化ボタン 2064
35.1.9 スライダー 2064
35.2 アタッチメントパネル 2064
35.2.1 添付ファイルのプロパティリストのヘッダー 2065
35.2.2 プロパティ 2066
35.2.3 ドキュメント名 2066
35.2.4 添付ファイルリスト 2066
35.2.5 アタッチメントボタン 2066
35.2.6 更新 2066
35.2.7 アタッチ解除 2066
35.2.8 開く 2066
35.2.9 ツリー表示 2066
35.2.10 グリッド表示 2067
35.2.11 コンテキストメニュー 2067
35.3 BIM BCFパネル 2068
35.3.1 ログインタブ 2068
35.3.2 クラウドサービス 2069
35.3.3 課題概要タブ 2070
35.3.4 新しい課題タブ 2071
35.3.5 課題情報 2072
35.4 BIM複合材パネル 2074
35.4.1 メニュー 2074
35.4.2 複合材の種類リスト 2074
35.4.3 検索 2075
35.4.4 利用可能な複合材 2075
35.5 BIMプロファイルパネル 2075
35.5.1 メニュー 2075
35.5.2 ドメイン 2076
35.5.3 規格 2076
35.5.4 検索バー 2076
35.6 BIMプロジェクトブラウザパネル 2076
35.6.1 プロジェクトを更新 2077
35.6.2 情報タブ 2077
35.6.3 断面およびビュータブ 2078
35.6.4 シートタブ 2079
35.6.5 ファイルタブ 2082
35.7 部品表マネージャーパネル 2086

目次

35.7.1 メニュー 2088
35.7.2 表を作成 2092
35.7.3 サムネイルを新規テーブルに追加 2095
35.8 Bricsys 24/7パネル 2095
35.8.1 外部参照を使用した図面のアップロードとダウンロード 2100
35.9 電卓パネル 2100
35.9.1 座標を取得 2101
35.9.2 2点間の距離 2101
35.9.3 2点によって定義される線の角度 2102
35.9.4 4点によって定義される2本の線分の交点 2102
35.9.5 履歴をクリア 2102
35.9.6 履歴パネル 2102
35.9.7 入力エリア 2102
35.9.8 コマンドラインに値を貼り付け 2102
35.9.9 指数表記 2102
35.9.10 単位変換 2102
35.9.11 変数 2102
35.9.12 電卓の式で使用できるカスタム関数 2103
35.10 土木エクスプローラパネル 2105
35.10.1 土木タブ 2106
35.10.2 GISタブ 2117
35.10.3 設定タブ 2122
35.11 クラウドパネル(試験的) 2124
35.11.1 免責事項 2124
35.11.2 説明 2124
35.11.3 ログイン 2125
35.11.4 クラウドパネルのコンテンツ 2125
35.11.5 外部参照を使用した図面のアップロードとダウンロード 2130
35.12 コマンドラインパネル 2130
35.12.1 コマンドライン 2130
35.12.2 コマンド履歴 2131
35.12.3 入力履歴を表示する 2131
35.13 コマンドパネル 2131
35.13.1 コマンドコンテクストパネルアイコン 2133
35.14 比較パネル 2134
35.14.1 セットアップ 2134
35.14.2 結果 2135
35.14.3 比較を終了 2137
35.15 コンテンツブラウザパネル 2137
35.15.1 フォルダーを追加... 2137
35.15.2 更新 2138
35.15.3 選択された図面の定義 2138
35.15.4 ローカルフォルダーツリー 2138
35.15.5 プレビューの定義 2138
35.15.6 説明 2138
35.16 詳細パネル 2138
35.16.1 ホーム 2139
35.16.2 詳細ライブラリ 2139
35.16.3 フィルター 2139

目次

35.16.4 メニュー 2140
35.16.5 リスト表示/グリッド表示 2140
35.16.6 詳細を作成 2140
35.17 図面リカバリーマネージャーパネル 2141
35.17.1 バックアップファイル 2141
35.17.2 詳細 2142
35.18 干渉管理パネル(テスト段階) 2142
35.18.1 免責事項 2142
35.18.2 説明 2142
35.18.3 ホーム 2144
35.18.4 選択 2145
35.18.5 設定 2146
35.18.6 結果 2146
35.19 画層パネル 2147
35.19.1 画層リスト 2148
35.19.2 画層を追加 2152
35.19.3 削除 2152
35.19.4 名前削除 2152
35.19.5 検索 2153
35.19.6 画層状態コントロール 2153
35.19.7 フィルター使用 2153
35.19.8 反転フィルター 2153
35.19.9 画層エクスプローラ 2153
35.19.10 画層状態エクスプローラ 2153
35.19.11 外部参照シンボルを隠す オン/オフ 2153
35.19.12 メニュー 2153
35.20 ライブラリパネル 2154
35.20.1 ブロックライブラリ 2154
35.20.2 ホーム 2154
35.20.3 ブロックをライブラリに追加 2154
35.20.4 ビュー 2155
35.20.5 検索 2155
35.20.6 メニュー 2155
35.21 メカニカルブラウザパネル 2156
35.21.1 図形によるグループ 2157
35.21.2 種類によるグループ 2157
35.21.3 検索表示 2157
35.21.4 設定 2157
35.21.5 アルファベット順でソート 2158
35.21.6 選択を表示 2158
35.21.7 メカニカル図形 2158
35.21.8 プロパティ 2162
35.22 メカニカルブラウザパネル(レガシー) 2163
35.22.1 パラメータリスト 2164
35.22.2 プロパティ 2166
35.22.3 図形によるグループ 2166
35.22.4 種類によるグループ 2166
35.22.5 アルファベット順でソート 2166
35.22.6 設定 2166

目次

35.22.7 検索表示 2166
35.23 パラメータマネージャーパネル 2167
35.23.1 パラメータリスト 2167
35.23.2 新しいパラメータ 2171
35.23.3 アニメイト 2171
35.23.4 削除 2171
35.23.5 未使用の変数を消去する 2171
35.23.6 依存パラメータを表示 2171
35.23.7 定義パラメータを表示 2171
35.23.8 選択を表示 2171
35.23.9 検索 2171
35.24 点群マネージャーパネル 2171
35.24.1 点群マネージャータブ 2172
35.24.2 レンダリング設定タブ 2175
35.25 プロパティパネル 2177
35.25.1 プロパティモード 2179
35.25.2 クイック選択モード 2182
35.26 レンダリングマテリアルパネル 2184
35.26.1 マテリアルライブラリ 2185
35.26.2 ホーム 2185
35.26.3 検索 2186
35.26.4 メニュー 2186
35.27 レポートパネル 2186
35.27.1 表示グループ 2187
35.27.2 レポート出力 2187
35.27.3 詳細項目の出力 2187
35.28 シーケンスマネージャーパネル 2188
35.28.1 免責事項 2188
35.28.2 概要 2188
35.29 シートセットパネル 2192
35.29.1 カレントのシートセット名 2193
35.29.2 検索 2194
35.29.3 メニュー 2194
35.29.4 シートセットを作成 2194
35.29.5 シートセットを開く 2194
35.29.6 パブリッシュ 2194
35.29.7 eトランスミット 2194
35.29.8 シート選択セット 2194
35.29.9 カスタムプロパティ 2195
35.29.10 更新 2195
35.29.11 シート一覧 2195
35.29.12 カテゴリービュー 2196
35.29.13 モデルビュー 2196
35.29.14 シートセットリスト 2197
35.29.15 詳細 2199
35.30 シートセット(レガシー) 2200
35.30.1 新規シートセット... 2202
35.30.2 シートセットを開く... 2202
35.30.3 XMLから読み込み... 2202

目次

35.30.4 XMLに書き出し 2202
35.30.5 印刷 2202
35.30.6 パブリッシュ... 2202
35.30.7 eトランスミット... 2202
35.30.8 シート選択セット... 2202
35.30.9 カスタムプロパティ... 2202
35.30.10 カテゴリー表示 2202
35.30.11 シートセットオプション... 2202
35.30.12 シート 2203
35.30.13 シートのプロパティ 2203
35.30.14 シートセットプレビュー 2203
35.31 構造パネル 2203
35.31.1 構造ツリーの設定 2204
35.31.2 設定メニュー 2204
35.31.3 検索欄 2205
35.31.4 構造ツリー 2205
35.31.5 構造ツリー設定 2206
35.31.6 ファイル 2207
35.31.7 グループ/ソート 2207
35.31.8 表示/スキップ 2208
35.31.9 オプション 2209
35.32 ヒントパネル 2211
35.33 ツールパレットパネル 2212
35.33.1 パレットタブ 2213
35.33.2 ツールパレットの追加ボタン 2213
35.33.3 ツールパレットリストボタン 2214
35.33.4 ツール 2214
35.33.5 ボタン追加 2215
35.33.6 検索 2215
35.33.7 ツールパレットのコンテキストメニュー 2215
35.33.8 ビューモード 2215
35.34 可視状態パネル 2216
35.34.1 図形状態 2217
35.34.2 コンテキストメニューのオプション 2218

1. インストールとライセンス

1.1 BricsCADシステム要件

最小限のシステム要件と推奨事項

サポートしているオペレーティングシステム	• Windows 10(x86-64)、Windows 11(x86-64)。 • **注**：Windows 10 オペレーティングシステムは、2025 年10 月14日にMicrosoftによるサポートが終了します。 • Ubuntu 20.04 LTS以降でカノニカルによってまだサポートされているUbuntuバージョン(安定したエクスペリエンスが必要な場合は、LTSが適している傾向があります)。 • openSUSE builds、2022年4月以降、glibcバージョン >= 2.35。 • Fedora builds、2022年4月以降、glibcバージョン >= 2.35 。 • macOS 11.0(Big Sur)以降(**BricsCADにおける図面ファイルの互換性**に関する記事を参照)。 **注**：BricsCADのWindows版とLinux版は、x86-64(AMD64)アーキテクチャ用にビルドされ、サポートされています。

最小CPU： • Intel® Core™ i5 • AMD Ryzen™ 5	**推奨CPU：** • Intel® Core™ i7 • Intel® Core™ i9 • AMD Ryzen™ 7 • AMD Ryzen™ 9	シングルスレッド性能の高いCPUは、常に優れた性能をBricsCADで発揮します。 CPUコアの増設は、BricsCADでマルチスレッド計算を行う機能が増えているため、より高いパフォーマンスをもたらします。 **注**： • **Intel® Xeon®およびAMD Ryzen™ Threadripper™ CPU**：これらの最上位のワークステーションCPUは、大容量のオンチップメモリキャッシュ、より多くのPCIe® I/Oレーン、マルチチャネルの高速メモリアーキテクチャをサポートします。 • V21.2.06以降、BricsCAD(Mac)はRosetta 2(**アップルシリコン**チップ上のIntelエミュレーション)で動作します。ネイティブ**Appleシリコン**ビルドは、将来のバージョンで計画されています。
最小システムメモリ： 8 GB	**推奨システムメモリ：** • 16 GB	最高のパフォーマンスを得るためには、PCのメモリ構成を確認し、マザーボードのメモリチャネルに少なくとも1つのメモリモジュール(SIMM/DIMM)が搭載されていることを確認してください。

最小ディスク容量： インストール時に、BricsCAD Ultimateで3GB	**推奨ディスク容量：** (必要に応じて)	BricsCADとWindowsの両方で、SSD(Sata 3 / PCI-E NVME)をシステムドライブとして使用することを強くお勧めします。図面とサポートファイルは、必要に応じて低速の機械式ハードディスクドライブに置くことができます。 **注**：SSDは、ミッドレンジのハードディスクドライブよりもデータの読み込みで最大10倍速、書き込みで最大20倍高速になります
最小ディスプレイシステム： • フルHD(1920×1080)True Colorディスプレイと1GB VRAM搭載グラフィックカード • アップルのMacディスプレイ	**推奨ディスプレイシステム：** • 複数のUHD(3840 x 2160)または4k True Colorディスプレイ、PCIe® グラフィックスカードw/ GPU、8GB VRAM搭載 • Apple Mac Retina(4Kおよび5K)ディスプレイ	Microsoft Windowsシステムでは、NVIDIA、AMD、Intel®のほとんどのグラフィックスカードおよびGPUがサポートされています。 **注**：モデル空間で点群や大きなモデルを操作する場合は、Windowsのグラフィック設定を次のように変更することをお勧めします。 • グラフィック設定に移動 • BricsCADをアプリとして追加して、設定を行います • オプションを**高パフォーマンス**に設定します。 Linuxシステムでは、NVIDIAとAMDのほとんどのグラフィックカードとGPUがサポートされています。 Macシステムでは、ネイティブのAppleディスプレイハードウェアがサポートされています。 BricsCADのノンワイヤフレーム表示モードは、Redway3D®のRedSDKテクノロジーによって生成されます。このモードのレンダリングにはGPUが使用されます。 **注**：製造元の推奨に従い、ディスプレイハードウェアで利用可能な最新のドライバをインストールすることをお勧めします。 **Linuxユーザーの皆様へ：**Linuxシステムでは、3Dグラフィックスのハードウェアアクセラレーションはサポートされていません。 • Intel®グラフィックスチップセット/カード。 • デュアルグラフィックアダプター搭載のノートPC

1.2 ライセンスオプションの概要

1.2.1 ライセンスレベル

BricsCADには5種類のライセンスレベルがあります。

- BricsCAD Lite
- BricsCAD Pro
- BricsCAD BIM
- BricsCAD Mechanical

- BricsCAD Ultimate

1.2.1.1 BricsCAD Lite

一般的な2Dデザインのみを作成したいのであれば、BricsCAD Liteが最適でしょう。AutoCAD LT®と比較しても、3Dモデルの表示、移動、コピー、ミラー化が可能です。ただし、モデルを編集したり、新しい3D図形を作成することはできません。BricsCAD Liteは、Lispルーチンも実行します。Lispにより、BricsCADユーザーは、BricsCAD内で実行するカスタマイズされたルーチンや小規模なアプリケーションをロードすることができます。

1.2.1.2 BricsCAD Pro

BricsCAD Proには、完全な3D拘束システムが備わったダイレクト3Dモデリング、マテリアルと照明によるレンダリング、サードパーティアプリケーションへのアクセスが含まれます。

1.2.1.3 BricsCAD BIM

BricsCAD BIMには、BricsCAD Proのすべての機能が含まれています。現在のCADスキルを使用して、実際のビルディングインフォメーションモデル(BIM)の作成にきわめて短時間でスムーズに移行できます。1つの製品、1つのワークフロー、すべてに業界標準のDWGを使用できます。

1.2.1.4 BricsCAD Mechanical

BricsCAD Proのすべての機能に加え、BricsCAD Mechanicalでは、板金機能を含む機械設計ツールキット一式が業界標準のDWGで提供されています。

1.2.1.5 BricsCAD Ultimate

BricsCAD Ultimateは、BricsCAD BIMおよびBricsCAD Mechanicalの両方の機能が含まれています。

1.2.2 ライセンスの種類

BricsCADには2種類のライセンスタイプがあります。

- 永久ライセンス
- サブスクリプションライセンス。

1.2.2.1 永久ライセンス

永久ライセンスを購入されると、ソフトウェアはお客様の所有となります。BricsCADの各エディションはMicrosoft Windows、macOS、Linuxで動作します。

Maintenanceオプションには2種類あります。

- All-in Maintenanceには、自動アップグレードとサポートが含まれています。
- 通常のMaintenanceでも、お客様のご都合に合わせてアップグレードを購入することが可能です。

1.2.2.2 サブスクリプションライセンス

サブスクリプションオプションを選択すると、最新バージョンのBricsCADを1年間ご利用になれます。これには、優先サポートと、サブスクリプションの有効期間中にリリースされるすべての新しいバージョンへのアクセスが含まれます。

1.2.3 ライセンスオプション

ライセンスオプションには、アカデミックライセンス、シングルユーザーライセンス、ネットワークライセンス、ボリュームライセンスがあります。

1.2.3.1 アカデミックライセンス

学生、学部、教員、教育機関は、すべてのBricsCADソフトウェアを無料で12ヶ月間利用できます。また、現在の学生IDで毎年更新できます。アカデミック情報を入力して学生または学校/教師として登録してください。

注：アカデミックライセンスは、シングルユーザー、ネットワーク、またはボリュームライセンスに対して取得できます。

1.2.3.2 シングルユーザーライセンス

シングルユーザーライセンス契約は、単一のユーザーを対象としています。1台のコンピュータ上に1つのオペレーティングシステム用のBricsCADの1つの複製物をインストールして使用することができます。

1.2.3.3 ネットワークライセンス

ネットワークライセンス契約では、複数のユーザがLAN(ローカルエリアネットワーク)内でBricsCADにアクセスできます。使用可能なネットワークライセンスの数に応じて、ソフトウェアを同時に使用できるユーザの人数が決まります。ネットワークライセンスオプションは、永久ライセンスまたはサブスクリプションライセンスで利用でき、永久ライセンスの場合はご購入初年度に1年間のメンテナンス契約が必須となります。（サブスクリプションライセンスには期間分のメンテナンス契約が含まれています。）

1.2.3.4 ボリュームライセンス

ボリュームライセンス契約では、定義されたユーザベース内でBricsCADを使用することができます。すべてのユーザに対して有効な単一のライセンスキーを使用して、ソフトウェアをインストールできます。ボリュームライセンスオプションは、永久ライセンスまたはサブスクリプションライセンスで利用でき、永久ライセンスの場合はご購入初年度に1年間のメンテナンス契約が必須となります。（サブスクリプションライセンスには期間分のメンテナンス契約が含まれています。）

1.3 BricsCADのインストール®

1.3.1 BricsCADのダウンロード®

1 アカウント登録がまだの場合は、**Bricsysのウェブサイト**で登録およびログインをしてください。

2
- **BricsCADを使い始める**ボタンをクリックします。
- タイトルバーの**BricsCAD**にカーソルを合わせてドロップダウンメニューを開き、**ダウンロード**ボタンをクリックします。

3 **BricsCAD ® のダウンロードサイト**が開きます。

4 **BricsCADをダウンロード**ボタンの下にあるドロップダウンボタンで、プラットフォーム、言語、バージョンを選択します。

注：デフォルトでは、最新バージョンが選択されています。ドロップダウンの矢印をクリックすると、古いリリースを選択できます。

5 目的のバージョンと言語がボタンに表示されたら、**BricsCADをダウンロード**ボタンをクリックします。

1.3.2 インストールオプションの概要

- BricsCADは、すべてのライセンスレベルについて単一のダウンロードファイルとして提供されます。これには、BricsCAD Shapeも含まれます。

- 新規にBricsCADを初めてインストールすると、30日間の体験版として使用可能です。
- 新しいメジャーバージョンは、旧バージョンとは別にインストールすることができます。

1.3.2.1 対話型インストール

通常の(非サイレント)インストールの場合、ユーザーはインストールに必要な入力をダイアログボックスから行います。

Windowsインストーラーのユーザーインターフェース(UI)はターゲットシステムにクエリを実行し、セットアップウィザードを表示します。セットアップウィザードを使用すると、インストールに影響するさまざまなオプションを変更できます。

1.3.2.2 サイレントインストール

サイレント(UI非表示)インストールの場合、セットアップウィザードUIは無効になり、ユーザーによる操作は行いません。

1.3.2.3 対話型インストール

1 インストーラーファイルをダブルクリックします。

2 **次へ**をクリックします。

3 チェックボックスをオンにすると、**ライセンス契約**に同意したとみなされます。

4 **次へ**をクリックします。

5 以下のいずれかの操作を行います：

- デフォルトのインストールフォルダーをそのまま使用します。
- **変更...**ボタンをクリックして、インストールフォルダーを選択します。

6 **次へ**をクリックします。

7 **インストール**をクリックして、インストールを開始します。

8 デスクトップにショートカットを追加するかどうか、またインストール終了後にリリースノートを表示するかどうかを選択します。

9 **次へ**をクリックします。

10 **完了**をクリックして、インストールを終了します。

BricsCAD がインストールされました。

1.3.2.4 サイレントインストール(Windowsのみ)

サイレントインストールを行うには、管理者権限が必要です。

1 **PowerShell**または**コマンドプロンプト**を開き、ディレクトリ(cd)をBricsCADインストーラの.msiファイルの場所に変更します。

注：Windows 10以降では、**エクスプローラ**でShiftを押しながらフォルダーを右クリックすると、コンテキストメニューから**PowerShellウィンドウをここで開く**オプションにアクセスできます。こうすることで、ディレクトリを変更せずに、現在のウィンドウで**PowerShell**を開くことができます。

2 msiexec /iと入力し、次のいずれかの操作を行います。

- BricsCADインストーラのファイル名を入力します。(例：BricsCAD-V25.1.05-1-ja_JP(x64).msi)
- BricsCADインストーラファイルをWindowsエクスプローラダイアログからコマンドウィンドウにドラッグします。

3 コマンドプロンプトで/qnと入力します。

4 インストール完了後に再起動しないようにするには、コマンドプロンプトに/norestartと入力しします。

5 (オプション)デスクトップショートカットを作成しないようにするには、ADDDESKTOPSHORTCUT=""を追加します。

6 (オプション)インストール完了時にリリースノートが表示されないようにするには、SHOWRELEASENOTES= ""を追加します。

7 (オプション)BricsCADをカスタムフォルダーにインストールするには、APPLICATIONFOLDER="your_app_folder"を追加します。

8 (オプション)**BRXLICENSEKEY**BRXLICENSEFILE????BRXLICENSESERVER??????????????????? ??BRXLICENSEDESTFILE="path_to_lic_file"を追加してライセンスファイルのフォルダーを指定します。

デフォルトでは、C:¥ProgramData¥Bricsysです。

9 (オプション)ライセンスをアクティベートし、**BRXLICENSEDESTFILE**で指定したフォルダーに保存するには、BRXLICENSEKEY="your_license_key"を追加します。

10 (オプション)**BRXLICENSEDESTFILE**で指定したフォルダーにライセンスファイルをコピーするには、BRXLICENSEFILE="your_license_file"を追加します。

11 (オプション)**BRXLICENSEDESTFILE**で指定したフォルダーにサーバーのホスト仕様を含むライセンスファイルを作成するには、BRXLICENSESERVER="host"またはBRXLICENSESERVER="port@host"(*)を追加します。

(*)ライセンスサーバーがデフォルトのポート5053とは異なるポートを使用している場合。

12 (オプション)インストール完了後に再起動しないようにするには、REBOOT=ReallySuppressを追加します。

13 (32ビット限定のオプション)VBAをインストールしないようにするには、INSTALLVBA="0"またはINSTALLVBA=""を追加します。

注：32ビットバージョンは、BricsCAD V20以前の場合のみ使用できます。

14 **Enter**を押して、インストールを開始します。

注：

- その他のオプションについては、コマンドプロンプトでmsiexec/?と入力します。
- **msiexec**コマンドの詳細については、Microsoft社のWebサイトを参照してください。

コマンドプロンプトの例：

- デスクトップにショートカットを作成せずにサイレントインストールを実行する：
- ```
  msiexec /i "BricsCAD-Vxx.x.xx-x-ja_JP(x64).msi" /qn ADDDESKTOPSHORTCUT=""
  ```
- デスクトップのショートカットの作成とリリースノートの表示を行わずにサイレントインストールを実行する：
- ```
  msiexec /i "BricsCAD-Vxx.x.xx-x-ja_JP(x64).msi" /qn ADDDESKTOPSHORTCUT="" SHOWRELEASENOTES=""
  ```
- サイレントインストールを実行し、ライセンスキーでアクティベートする：
- ```
  msiexec /i "BricsCAD-Vxx.x.xx-x-en_US(x64).msi" /qn BRXLICENSEDESTFILE=
  "C:¥ProgramData¥Bricsys¥BricsCAD.lic" BRXLICENSEKEY="****-****-****-****-****"
  ```

  ライセンスファイル**BricsCAD.lic**は、指定した場所C:¥ProgramData¥Bricsysに生成され、すべてのバージョンのBricsCADから自動的に参照されます。
- 既存のファイル**BricsCAD.lic**を、指定したディレクトリC:¥ProgramData¥Bricsysにコピーし、すべてのバージョンのBricsCADからライセンスファイルを自動的に参照させるには：
  ```

```
msiexec /i "BricsCAD-Vxx.x.xx-x-en_US(x64).msi" /qn BRXLICENSEFILE=
"D:¥BricsCAD.lic" BRXLICENSEDESTFILE="C:¥PROGRAMDATA¥bricsys¥BricsCAD.lic"
```

- フォルダーC:¥ProgramData¥Bricsysを割り当てて、その中にサーバーホストの仕様を含むライセンスファイルを作成し、すべてのバージョンのBricsCADから自動的に参照させるには：

```
msiexec /i "BricsCAD-Vxx.x.xx-x-en_US(x64).msi" /qn BRXLICENSESERVER="port@host"
BRXLICENSEDESTFILE="C:¥PROGRAMDATA¥bricsys¥BricsCAD.lic"
```

1.3.3 KDEデスクトップ環境へのLinuxRPMパッケージのインストールプロセス

BricsCADをFedora 35、KDE Plasma 5.23.3にインストールするには：

- Dolphin(KDEのファイルマネージャー)を開きます。
- ダウンロードしたインストーラーが存在するフォルダーに移動します。
- Dolphinで右クリックして、**ターミナルを開く**を選択します。(現在表示されているフォルダーに対して開きます)
  - 下記のように入力します：

    ```
    sudo dnf install <rpm installer name>
    ```

  - **Enter**を押します
  - パスワードを入力して、**Enter**を押します
  - **y**を押します
  - **Enter**を押します

    インストールが完了します。

openSUSE Tumbleweed 20211202、KDE Plasma 5.23.4 にBricsCADをインストールするには：

- Dolphin(KDEのファイルマネージャー)を開きます。
- ダウンロードしたインストーラーが存在するフォルダーに移動します。
- Dolphinで右クリックし、**アクション**と**ターミナルを開く**を選択します。(現在表示されているフォルダーに対して開きます)
  - 下記のように入力します：

    ```
    sudo zypper install <rpm installer name>
    ```

  - **Enter**を押します
  - パスワードを入力して、**Enter**を押します
  - **y**を押します
  - **Enter**を押します
  - **i**を押します(署名の検証を無視)
  - **Enter**を押します

    インストールが完了します。

BricsCADをFedora 35、Gnome 41.1にインストールするには：

- デフォルトのファイルマネージャでrpmインストーラーをダブルクリックします。
- ソフトウェアインストールが起動します。
- **インストール**を選択します。
- パスワードを入力して、**Enter**を押します。

  インストールが完了します。

1.4 体験版モード

BricsCADは、体験版モードで30日間使用することができます。この期間の終了後は、有効な商用ライセンスでアクティベートする必要があります。

1.4.1 体験版モードでBricsCADを実行

体験版モードでBricsCADを起動する度に、**BricsCAD - 無料体験版ダイアログ**が開き、残り日数が表示されます。

以下のいずれかの操作を行います：

- ワークスペースをクリックすると、体験版モードでBricsCADを引き続き使用できます。
- **アクティベート**ボタンをクリックして**ライセンスマネージャー**ダイアログボックスを開き、シングルライセンスまたはボリュームライセンスをアクティベートするか、ネットワークライセンスを使用します。

1.4.2 ライセンスレベルの設定

体験版モードでBricsCADを実行する場合、すべての機能を利用できます。BricsCAD UltimateUltimateライセンスとして利用できます。

SETLICENSELEVELコマンドを使用すると、低いライセンスレベルを選択できます。

1.4.3 オンラインアクティベート (体験版)

BricsCAD体験版ライセンスをアクティベートするには、インターネット接続が必要です。

BricsCADのメジャーバージョンを初めて開くと、試用モードで実行されます。

注：体験版ライセンスが見つからない場合、**アクティブなライセンスがありません**とBricsCADランチャーダイアログボックスに表示されます。その場合、

1 **BricsCADランチャー**ダイアログボックスの**アクティベート**ボタンをクリックします。

2 **ライセンス管理** > **BricsCADをアクティベート**ダイアログボックスの**体験版としてアクティベート**をクリックします。

体験版ライセンスがインターネット上でアクティベートされます。

1.4.4 オフライン/手動アクティベーション(体験版)

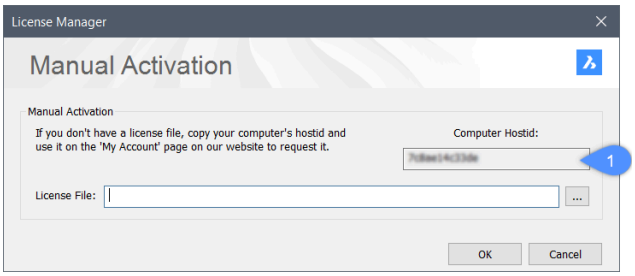
コンピュータがインターネットに接続されていない場合は、インターネットに接続している別のコンピュータからライセンスを手動でアクティベートすることができます。

1 BricsCADを起動します。

2 **BricsCADランチャー**ダイアログボックスの**アクティベート**ボタンをクリックします。

3 **ライセンス管理** > **アクティベートBricsCAD**ダイアログボックスで**手動でアクティベート**をクリックします

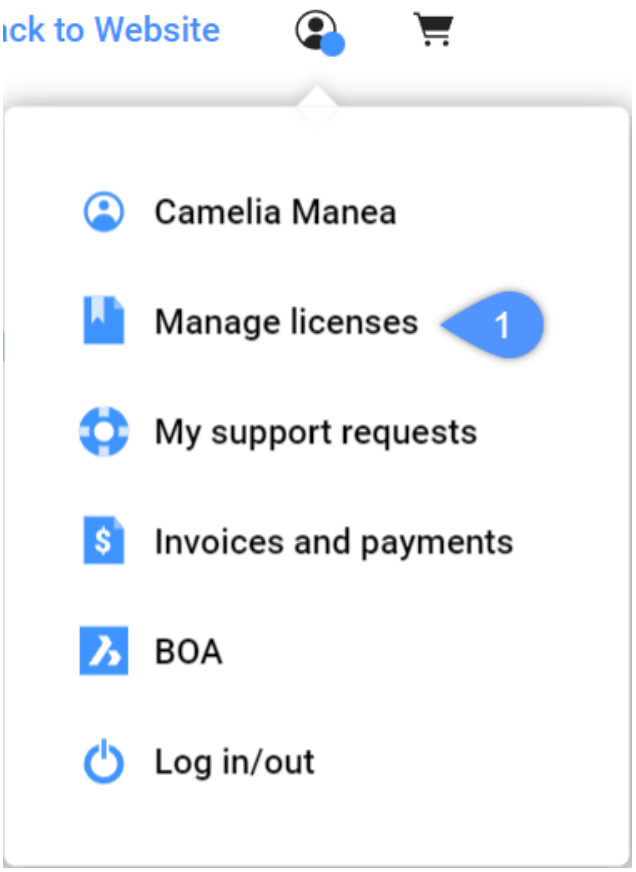
ライセンスマネージャー > **手動アクティベート**ダイアログボックスが開きます。



4 **コンピュータホストID**(1)フィールドの内容をすべてコピーします。

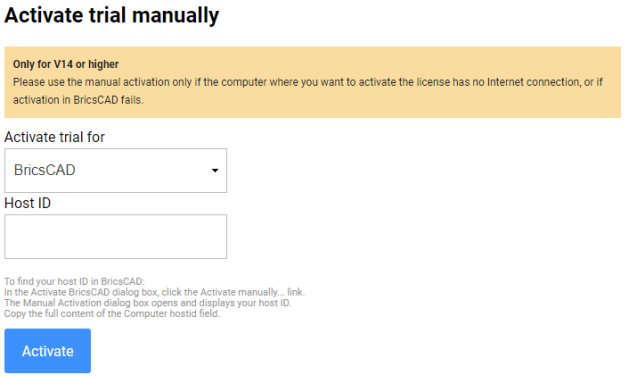
5 インターネットに接続しているコンピュータでBricsysウェブサイトにログインします。

6 ユーザー名をクリックし、ドロップダウンメニューから**ライセンスの管理**(2)を選択します。



7 **手動でBricsCADをアクティベート**を選択します。

8 **ホストID**フィールドに、BricsCADをインストールしたいコンピュータのホストIDを貼り付け、**アクティベート**ボタンをクリックします。



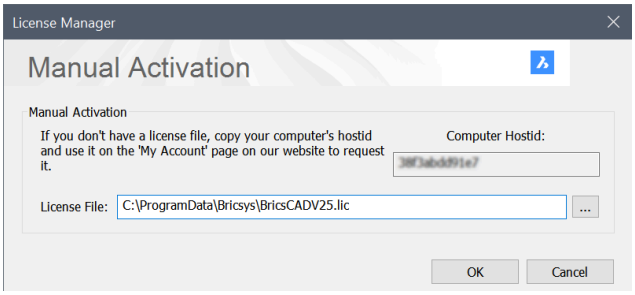
ライセンスファイルが作成され、ダウンロードすることができます。

9 **ライセンスファイルをダウンロード**ボタンをクリックします。

ライセンスファイルがデフォルトのダウンロードフォルダーにダウンロードされます。

10 **ライセンス管理** > **手動アクティベート**ダイアログボックスで、**ブラウズ**ボタン(...)をクリックします。

11 ライセンスファイルをコピーしたフォルダーを開き、ファイルを選択します。

12 

13 **OK**ボタンをクリックします。

BricsCADが起動します。

1.5 シングル/ボリュームライセンスの使用

1.5.1 オンラインアクティベーション (シングル/ボリュームライセンス)

BricsCADのライセンスをアクティベートするには、インターネット接続が必要です。

1 BricsCADを起動します。

注：体験版の試用期間が終了している場合は、**BricsCADランチャ**ダイアログボックスの **アクティベート**ボタンをクリックし、**ライセンス管理** > **BricsCADをアクティベート**ダイアログボックスで**今すぐアクティベート...**ボタンをクリックして、手順5に進みます。

2 LICENSEMANAGERコマンドを起動します。

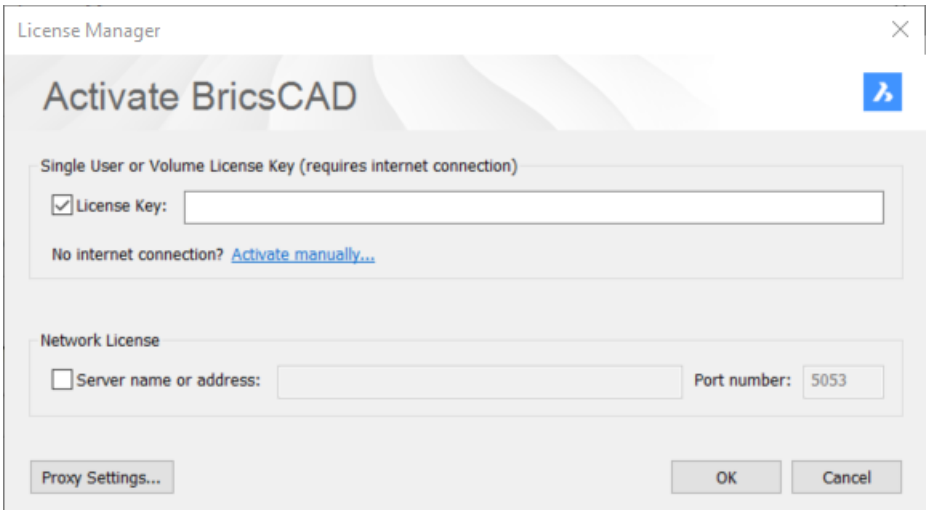
3 **BricsCADライセンス管理**ダイアログが表示されます。

4 **ライセンス管理**ボタンをクリックします。

ライセンス管理 > **ライセンス情報**ダイアログボックスが表示されます。

5 **変更**ボタンをクリックします。

ライセンス管理 > **BricsCADをアクティベート**ダイアログボックスが表示されます。



6 アカウントの**マイライセンス** セクションからキーを取得します。**どこでライセンスを見つけることができますか?**の記事も参照してください。

7 **ライセンスキー**入力欄にライセンスキーを貼り付けます。

8 **OK**ボタンをクリックします。

- ライセンスキーはインターネット上で登録されます。
- ライセンスキーが正常にアクティベートされると、ダイアログが表示されます。

9 ダイアログボックスに表示されるメッセージを読み、**了解**ボタンをクリックします。

1.5.2 オフライン/手動アクティベート (シングル/ボリュームライセンス)

コンピュータがインターネットに接続されていない場合は、インターネットに接続している別のコンピュータからライセンスを手動でアクティベートすることができます。

注：手動でアクティベートしたライセンスをアクティベート解除することはできません。

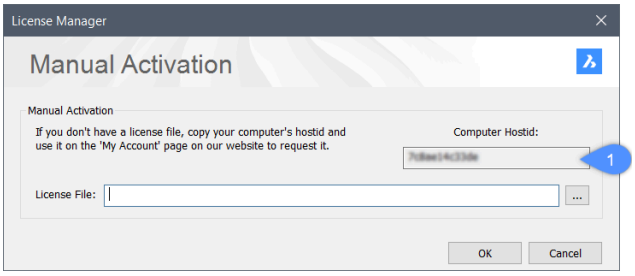
1 BricsCADを起動します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

3
- BricsCADを初めて起動する場合は、**BricsCADランチャー**ダイアログボックスで**アクティベート**をクリックします。
- 既存のライセンスを変更したりアップグレードする場合は、LICENSEMANAGERコマンドを起動し、**ライセンス管理**をクリックし、**変更...**ボタンをクリックします。

4 **ライセンス管理** > **アクティベートBricsCAD**ダイアログボックスで**手動でアクティベート**をクリックします

ライセンスマネージャー > **手動アクティベート**ダイアログボックスが開きます。

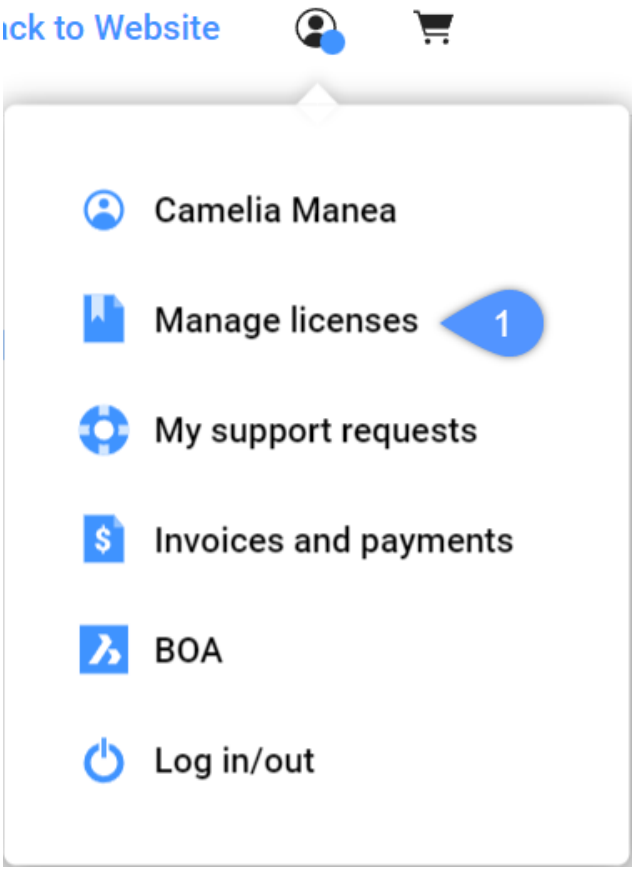


5 **コンピュータホストID**(1)フィールドの内容をすべてコピーします。

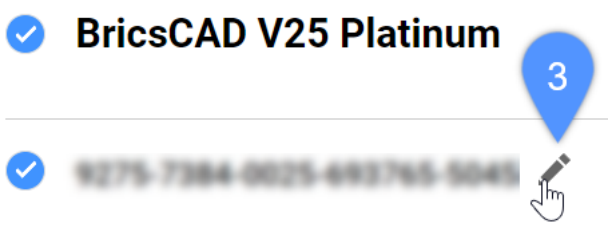
6 インターネットに接続しているコンピュータでBricsysウェブサイトにログインします。

7 自分のライセンスが含まれているBricsysアカウントでログインしてください。

8 ユーザー名をクリックし、ドロップダウンメニューから**ライセンスの管理**(2)を選択します。



9 アクティベートしたいライセンスキーにカーソルを合わせ、鉛筆アイコン(✎)をクリックします。



ライセンスの詳細ページが表示されます。

10 **手動アクティベート**をクリックします。

11 **ホスト ID**フィールドに、BricsCADをインストールしたいコンピューターのホストIDを貼り付けます。

12 **アクティベート**ボタンをクリックします。

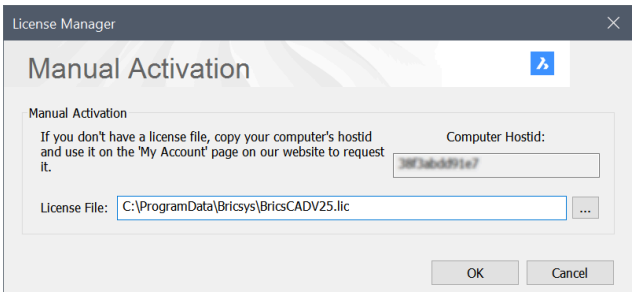
ライセンスファイルが作成され、ダウンロードすることができます。

13 **ライセンスファイルをダウンロード**ボタンをクリックします。

ライセンスファイル**BricsCADVxx.lic**が既定のフォルダーにダウンロードされます。

14 BricsCADをインストールするコンピュータにライセンスファイルをコピーします。

15 **ライセンス管理** > **手動アクティベート**ダイアログボックスで、ブラウズボタン(…)をクリックします。ライセンスファイル**BricsCadvxx.lic**をコピーしたフォルダーを開き、ファイルを選択します。



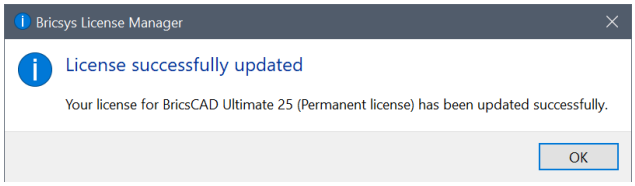
16 **OK**ボタンをクリックします。

BricsCADが起動します。

1.5.3 アクティブなメンテナンスがある場合の次のBricsCADバージョンへのアップグレード(シングル/ボリュームライセンス)

BricsCADの新しいメジャーバージョンがリリースされると、有効な保守契約の対象となるすべてのライセンスが更新され、新しくリリースされたバージョンが実行されます。

BricsCAD V25をインストールして起動すると、ライセンスがV25に更新されたことを示すポップアップが表示されます。



BricsCADを起動すると、BricsCADランチャダイアログボックスが表示される前に上図のようなメッセージが表示されます。

重要:

- 有効な保守契約の対象となっている場合、V24キーのみがV25に自動的に更新されます。V24ライセンスをアクティベートしていない場合は、アカウントの**マイライセンス**セクションからキーを取得することができます。次に、**ライセンス管理**ダイアログボックスに移動し、**今すぐアクティベート**を選択してキーを入力します。

  詳細については、**オンラインアクティベーション(シングル/ボリュームライセンス)**の記事を参照してください。
- オフラインでライセンスをアクティベートした場合、事前にライセンスを取り消す必要があります。詳細については、**ライセンスのアクティベート解除または無効化**に関する記事を参照してください。取り消せるライセンスがない場合は、サポートにお問い合わせください。

  要確認:ライセンス取り消しは 2 回のみ可能です。オンラインでアクティベートしたライセンスの場合、アクティベート解除と再アクティベートを無制限で行えます。

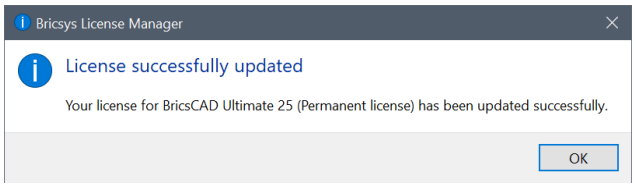
- Communicator for BricsCAD® ライセンスは自動更新されません。**ライセンス管理**ダイアログボックスにキーを入力する必要があります。**Communicator for BricsCAD - はじめに**の記事もご参照ください。

ライセンスの更新が自動的に検出されなかった場合は、アカウントの**マイライセンス**セクションからキーを取得してください。次に、**ライセンス管理**ダイアログボックスに移動し、**今すぐアクティベート**を選択してキーを入力します。

1.5.4 シングル/ボリュームライセンス：BricsCADのアップグレードまたはサブスクリプション延長

BricsCADのバージョンアップを購入し、インターネットに接続している場合

新しいバージョンをインストールして起動すると、ライセンスが新しいバージョンに更新されたことを示すポップアップが表示されます。



BricsCADを起動すると、**BricsCADランチャ**ダイアログボックスが表示される前に上図のようなメッセージが表示されます。

製品アップグレードを購入した場合、またはサブスクリプションライセンスを延長した場合

アカウントの**マイライセンス** セクションからキーを取得します。次に、**ライセンス管理** ダイアログボックスに移動し、**今すぐアクティベート...**ボタンを選択してキーを入力します。

注：最後にインストールしたBricsCAD バージョンが V24.2 以降であった場合、最初にキーを取得する必要はありません。BricsCAD によって**ライセンス管理**にあらかじめキーが入力されています。

インターネットに接続できない場合

オフラインでライセンスをアクティベートした場合、最初にライセンスを取り消す必要があります。詳細については、**ライセンスのアクティベート解除または無効化**に関する記事を参照してください。取り消せるライセンスがない場合は、サポートにお問い合わせください。

要確認：ライセンス取り消しは 2 回のみ可能です。オンラインでアクティベートしたライセンスの場合、アクティベート解除と再アクティベートを無制限で行えます。

次に、**オフライン/手動アクティベート (シングル/ボリュームライセンス)**で説明されている手順に従います。

1.5.5 別のコンピュータにシングルまたはボリュームライセンスを移行

有効なライセンスはすべてBricsysのウェブサイトで確認できます。(ログインが必要です)：

https://www.bricsys.com/protected/account/licenses

1 ライセンス移行元のコンピュータでライセンスをアクティベート解除します。

2 新しいコンピューターでBricsCADを起動します。

3 ライセンス移行先のコンピュータでライセンスをアクティベートします。

1.5.6 BricsCADライセンスのアクティベート解除

ライセンスをアクティベート解除する前に必ず以下を行ってください：

- ライセンスを別のコンピュータへ移行する。
- コンピューターからBricsCADを完全にを削除します。

- 新しいハードディスクをインストールする。
- ディスクのパーティションを再構築する。
- オペレーティングシステムをアップグレードする。

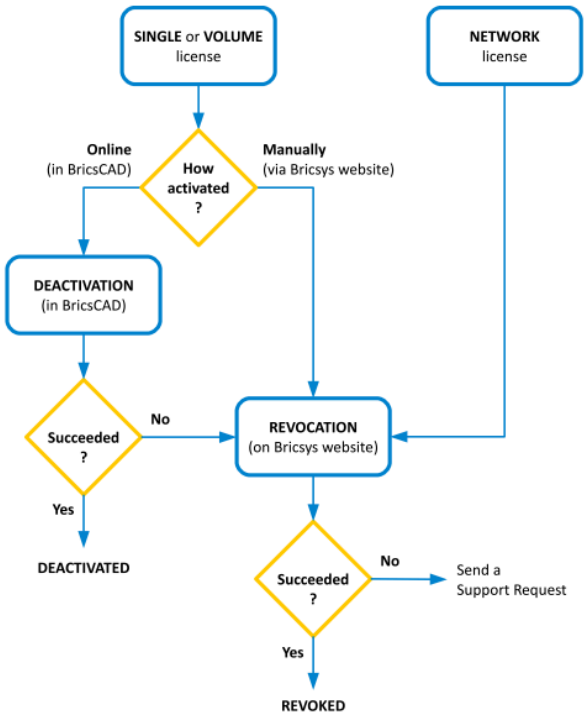
BricsCADライセンスのアクティベートを解除するには、インターネット接続が必要です。インターネットに接続されている別のコンピューターからライセンスを手動でアクティベート解除することはできません。

注：以下はアクティベート解除できません。

- 手動でアクティベートされたシングルライセンスおよびボリュームライセンス
- ネットワークライセンス
- 体験版ライセンス

下図は、BricsCADライセンスのアクティベートを解除する方法を説明しています。BricsCADライセンスのアクティベートを解除できない場合は、ライセンスを無効化することができます。

重要：1つのキーで可能な取り消し回数は2回まで、操作は元に戻せません。**BricsCADライセンスの取り消し(制限付き)**の記事も参照してください。



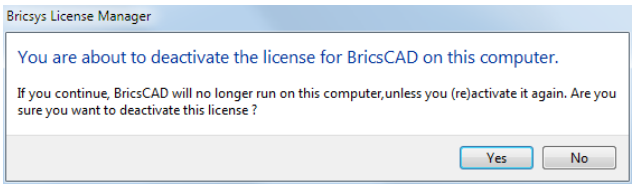
ライセンスをアクティベート解除するには

1 LICENSEMANAGERコマンドを起動します。**Bricsysライセンス管理**ダイアログボックスの**ライセンス管理**オプションをクリックします。

ライセンス管理 > **ライセンス情報**ダイアログボックスが表示されます。

2 ご使用のコンピュータがプロキシサーバー経由でライセンスサーバーに接続している場合は、**プロキシ設定...**をクリックしてプロキシ設定を構成します。

3 **アクティベート解除...**をクリックします



4 アクティベート解除確認ダイアログボックスの**はい**ボタンをクリックします。

ライセンスは直ちに解除され、別のコンピュータでアクティベート可能になります。

注：

- アクティベート解除の回数に制限はありません。ライセンスを移行する場合は、必ずアクティベート解除と再アクティベートを行ってください。
- BricsCADをアンインストールするとき、**Bricsysライセンス管理**ダイアログボックスが表示され、現在のローカルライセンスのアクティベートを解除するかどうか選択できます。

ヒント：BricsCADライセンスのアクティベート解除は、LicToolアプリケーションを使用して自動化することができます。詳細については、**LicToolを使用してBricsCADのローカルライセンスのアクティベートと解除を自動化する方法**を参照してください。

1.5.7 BricsCADライセンスの取り消し(制限付き操作)

警告：

- アクティベート解除が不可能な場合にのみライセンス無効化を実施してください。
- ライセンスを取り消す前に、まずサポートに連絡する必要があります。
- 1つのキーで可能な取り消し回数は2回までです。
- ライセンスを取り消した場合、元に戻すことはできません。

以下の手順で進めます：

- ネットワークライセンスを新しいサーバーに移行します。
- 手動でアクティブ化された単一ライセンスまたはボリュームライセンスを取り消します。
- ハードディスクのクラッシュ後に、BricsCADを再アクティベートします。

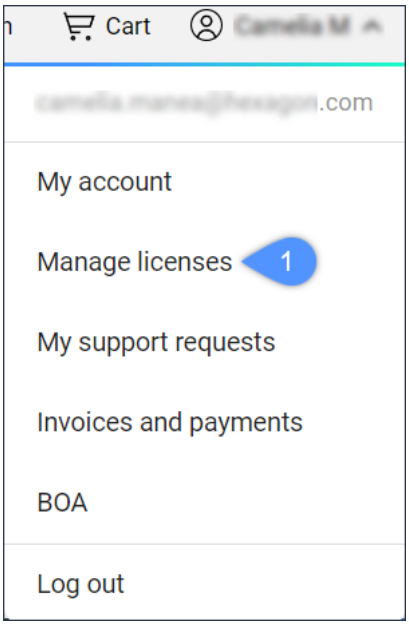
重要：詳細が不明な場合は、https://boa.bricsys.com/protected/support/NewSupportRequest.do?categoryID=198**BricsCAD > ライセンス体系 > ライセンス取り消し**のカテゴリを指定してください。**サポートリクエストの提出方法**の記事も参照してください。

ライセンスを無効化するには

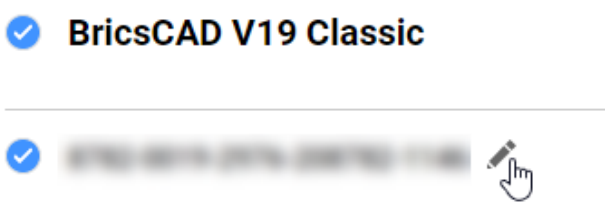
1 Bricsysのウェブサイトにログインします。

1 あなたのライセンスが含まれているBricsysアカウントでログインしてください。

2 **マイアカウント**アイコン()をクリックし、メニューから**ライセンス管理**(1)を選択します。



3 無効化にするライセンスのライセンスキーにカーソルを合わせて、鉛筆アイコン(✎)をクリックします。



4 下にスクロールし、**X**アイコンをクリックしてライセンスを無効化します。

注 : Maintenanceをご契約の場合は、サポートへ連絡していただき、追加の取り消し要求を確認してください。

1.6 ネットワークライセンスの使用

1.6.1 ネットワークライセンスについて

ネットワークライセンスを使用することで、同じTCP/IPネットワーク上の複数のユーザが製品ライセンスへのアクセスを共有できます。Bricsysネットワークライセンスサーバーは、ユーザへのライセンス配布方法を管理します。

BricsCADを起動すると、ネットワーク経由でライセンスサーバーにライセンスがリクエストされます。ライセンスが使用可能な場合、 Bricsysネットワークライセンスサーバー はコンピュータにライセンスを割り当て、ライセンスサーバー上の使用可能なライセンスの数が 1 つ減ります。

BricsCADを閉じると、ライセンスはプールに戻ります。

クライアントコンピューター上のBricsCADでネットワークライセンスを使用できるようにするには、ネットワーク管理者は、最新バージョンのRLM framework (V15.2) を搭載した Bricsysネットワークライセンスサーバー を含む Bricsysネットワークライセンスマネージャーをインストールする必要があります。

ライセンス使用の概要と制御はウェブインターフェースを介して行えますが、ライセンスのアクティベートおよびライセンスの更新は**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスから行うことができます。

Bricsysネットワークライセンスサーバーには、オンラインまたは手動でアクティベート可能なライセンスファイルが必要です。ネットワークライセンスは一度だけアクティベートすることができ、マシンにロックされます。

Bricsysネットワークライセンスサーバーを設定してライセンスをアクティベートすると、BricsCADがインストールされているクライアントコンピュータへのライセンス配布が可能となります。ライセンスを同時に使用できるコンピュータの数は、ネットワークライセンスで利用可能なシート数に限定されます。

1.6.1.1 システム要件

Bricsysネットワークライセンスサーバー は、WindowsおよびLinuxで使用できます。macOSではご利用いただけません。Bricsysネットワークライセンスサーバーを WindowsまたはLinuxで実行している場合、Windows/Linux/macOSを実行しているクライアントコンピュータにライセンスを配布することができます。

サポートされているプラットフォーム

プラットホーム	バージョン
Windows	10*
Windows	11
Windows Server	2019
Windows Server	2022
Ubuntu Linux	22.04 LTS以上**
openSUSE Linux	2022年4月以降
Fedora Linux	2022年4月以降

* Windows 10オペレーティングシステムは、2025年10月14日にサポートが終了します。

** Ubuntu 20.04 LTS以降でカノニカルによって引き続きサポートされているUbuntuバージョン(安定性を重視される場合は、LTSをお勧めします)。

1.6.2 ネットワークライセンスの使用方法クイックガイド

一般的に、Bricsysネットワークライセンスサーバーのダウンロード、展開、および設定は、ネットワーク管理者またはシステム管理者の作業です。

1.6.2.1 サーバーマシンの動作

1 ??からBricsysネットワークライセンスサーバーをダウンロードし、既定の設定でインストールします。

サーバーのセキュリティポリシーに関連する情報：

インストール後、RLM.exeに3つのポートの使用を許可する必要があります。これらは、ライセンス用の**5053**、ウェブUI用の**5054**、ISVサーバー用にWindowsが**動的に割り当てるポート**(アクティベート後に固定することができます。**高度な設定**の記事を参照)です。

2 **Activate New Network License**ダイアログボックスでアクティベーションダイアログが表示されたら、Bricsysアカウントのライセンスキーを使用します。**どこでライセンスを見つけることができますか?**の記事も参照してください。

サーバーのセキュリティポリシーに関連する情報：

ネットワークライセンスマネージャツールは、C:¥Program Files¥Bricsys¥Bricsys Network License Server ¥NetworkLicenseManager.exeフォルダーにあり、**license.bricsys.com/actpro**ポート**80**および**https://api.bricsys.com/**ポート**443**にアクセスできる必要があります。

3 **Repriseライセンスサーバー管理**ページは**localhost:5054**にあります。

注：RLMログインのデフォルトの認証情報 (ユーザ名: admin、パスワード: admin) を必ず変更してください。**RLMログイン設定**に関する記事も参照してください。

1.6.2.2 クライアントマシンの動作

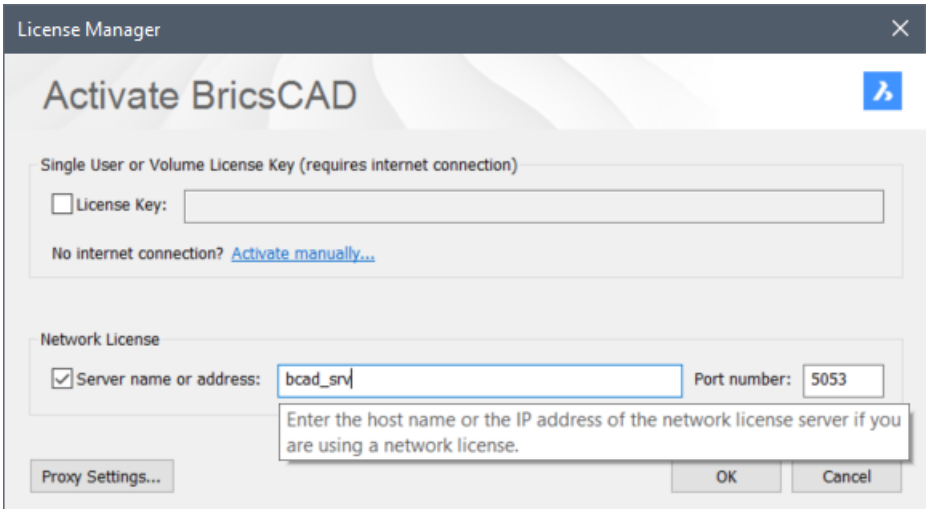
クライアントマシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- Bricsysネットワークライセンスサーバーと同じ**LAN**で物理的接続またはVPN接続されていること。
- ポート**5053**で**TCP/UDP**プロトコルに従いBricsysネットワークライセンスサーバー と通信できること。

1 既定の設定でBricsCADをインストールします。

2 BricsCADを起動し、ネットワークライセンスをアクティベートします：<サーバー名>/<ip番号>、<ポート> 。

BricsCAD は起動時にライセンスサーバーのネットワークをチェックするため、この作業は必要ない場合もあります。



1.6.3 ネットワークライセンスサーバーの設定

1.6.3.1 Windowsネットワークライセンスサーバーのセットアップ

一般的に、Bricsysネットワークライセンスサーバーのダウンロード、展開、および設定は、ネットワーク管理者またはシステム管理者の作業です。

1 Bricsysネットワークライセンスサーバーのダウンロード

Bricsysネットワークライセンスサーバー(Windows)は、???からダウンロードしてください。

重要：

- RLM V15.1以降、rlm.pwが存在しない場合、デフォルトのユーザーとして、ユーザー名adminとパスワードadminのアカウントが作成されます。
- 管理者パスワードがデフォルトのままである場合、または、10分以上パスワードの入力がない場合は、サーバーは自動的にシャットダウンします。

  RLMログイン設定に関する記事も参照してください。

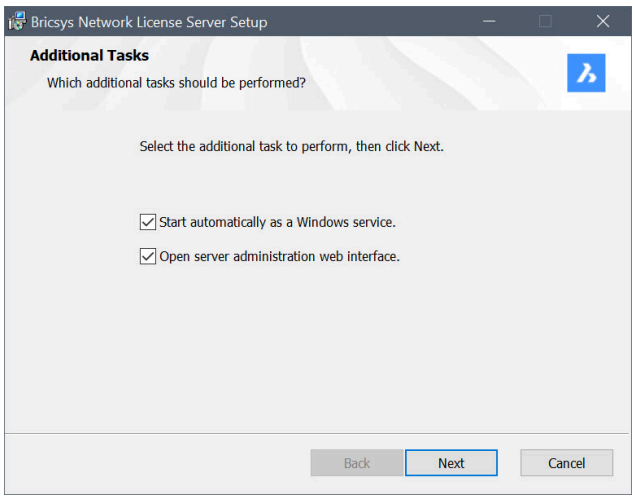
注：

- Bricsysネットワークライセンスサーバーには、RLMサーバーとBricsysネットワークライセンスマネージャーが含まれています。
- このBricsysネットワークライセンスサーバーは、最新バージョンのRLMフレームワーク(V15.2)を利用しています。詳細については、Bricsys??????????????-???????を参照してください。

要確認：Bricsysネットワークライセンスマネージャー では、手動で1つのファイルに複雑にマージされたライセンスの更新はサポートされていません。デフォルトのセットアップ(ファイルごとに1つのBricsysソフトウェアライセンス)がサポートされています。

2 Bricsysネットワークライセンスサーバーの新規インストール

Bricsysネットワークライセンスサーバーのセットアップダイアログボックスで、必ずすべてのチェックボックスにチェックを入れてください。



Windowsのサービスとして自動的に開始

インストール後、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスが開きます。**ライセンスの追加**ボタンをクリックして**新しいネットワークライセンスのアクティベート**ダイアログボックスが表示されたら、ネットワークライセンスを入力してアクティベートします。詳細については、**オンラインアクティベーション(ネットワークライセンス)**の記事を参照してください。

後から、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**のデスクトップショートカットを使用して、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスを開くことができます。

注：ご使用のシステムで有効なライセンスが検出されない場合、**ネットワークライセンスのアクティベート**ダイアログボックスが最初に表示されます。

Windowsを起動するたびに、ライセンスサーバーはサービスとして自動的に起動します。後でこれを行うには、管理者特権のコマンドプロンプトで次のコマンドを実行します：rlm.exe -dlog rlm.log -install_service

サーバー管理ウェブインターフェースを開く
インストール後、Repriseのライセンスサーバー管理のウェブが立ち上がります。このウェブインターフェースで、ネットワークライセンスを管理できます。後から、[スタート] メニューの [ライセンスサーバー管理] ショートカットをクリックして**Reprise ライセンスサーバー管理**を開くこともできます。

3 Bricsysネットワークライセンスサーバーのアップグレード

ネットワークライセンスサーバーとして使用されるコンピューターに、Bricsysネットワークライセンスサーバーをダウンロードしてインストールします。

注：インストールされると、ライセンスサーバーが再起動します。

4 コマンドラインからのインストール

コマンドウィンドウからをBricsysネットワークライセンスサーバーを開始することもできます。

ターミナル(コマンドプロンプトやPowerShellなど)を使用してBricsysネットワークライセンスサーバーをインストールします。

- タイプ：msiexec /i "<FullPath>\Bricsys-NetworkLicenseServer-V1.0.1-1.msi"

  注：**<FullPath>**を、Bricsys-NetworkLicenseServer-V1.0.1-1.msiをダウンロードしておいたパスに置き換えます。

既定では、コマンドラインからインストールする場合、**Windowsサービスとして自動的に開始する**オプションと**サーバー管理ウェブインターフェースを開く**オプションは無効になります。これらのオプションを有効にするには、INSTALLSERVICEとOPENWEBINTERFACEの各パラメータを使用します。

例えば、msiexec /qb /i "<FullPath>\Bricsys-NetworkLicenseServer-V1.0.1-1.msi" INSTALLSERVICE=1と設定すると、ウェブインターフェースを表示せずにサービスとしてインストールします。

注：

- その他のオプションについては、コマンドプロンプトで**msiexec/?**と入力します。
- Microsoftのウェブサイトには、**msiexec**コマンドに関する詳細情報が記載されています。

1.6.3.2 Linuxライセンスサーバーのセットアップ

一般的に、Bricsysネットワークライセンスサーバーのダウンロード、展開、および設定は、ネットワーク管理者またはシステム管理者の作業です。

ネットワークライセンスサーバーとして使用するコンピューターに、Bricsysネットワークライセンスサーバーをダウンロードしてインストールします。

1 ??からBricsysネットワークライセンスサーバー(Linux)をダウンロードしてください。

注：

- Bricsysネットワークライセンスサーバーには、RLMサーバーとBricsysネットワークライセンスマネージャーが含まれています。

- このBricsysネットワークライセンスサーバーは、最新バージョンのRLMフレームワーク(V15.2)を利用しています。詳細については、Bricsys??????????????-???????を参照してください。

要確認：Bricsysネットワークライセンスマネージャー では、手動で1つのファイルに複雑にマージされたライセンスの更新はサポートされていません。デフォルトのセットアップ(ファイルごとに1つのBricsysソフトウェアライセンス)がサポートされています。

2 **Bricsys-NetworkLicenseServer-V1.0.0-1.tgz**を任意のフォルダーに展開します。(コマンドライン: tar xvzf Bricsys-NetworkLicenseServer-V1.0.0-1.tgz)

3 該当するフォルダーに移動し、Reprise License Manager(RLM)アプリケーションを起動します。(コマンドライン：./rlm)

注：権限が原因で./rlmの実行が失敗した場合は、sudo chmod u+x rlmを実行してRLMファイルに対する実行権限を付与してみてください。

4 ランチャを実行します。(コマンドライン：./NetworkLicenseManager.sh)続けて、**新規のネットワークライセンスをアクティベート**ダイアログボックスが開いたら、キーをアクティベートします。サーバー上ですでにアクティベートされている既存のライセンスがある場合は、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスの左上にある**ライセンスの追加**ボタンを使用して、新しいキーをアクティベートします。

トラブルシューティング
Bricsysネットワークライセンスマネージャーの起動時にUbuntu22.04でエラーが発生した場合は、追加のパッケージ**libxcb-cursor0**をインストールしてください。(コマンドライン：sudo apt install libxcb-cursor0)
ライブラリのインストール後にBricsysネットワークライセンスマネージャーランチャが起動しない場合は、以下の手順に従ってください。

a httpブラウザを開きます：http://localhost:5054認証が必要です。インストールフォルダーのrlm.pwファイルにユーザー名adminとパスワードadminでデフォルトユーザが作成されます。それらを使用してログインします。その後、左側のメニューの**パスワードを変更**を使用してパスワードを変更できます。**RLMログイン設定**に関する記事も参照してください。

b Repriseライセンスサーバー管理ウェブページで、左側にある**システム情報**をクリックします。イーサネットホストID(複数ある場合は最初のID)をコピーし、これを使用してBricsysウェブサイトの**登録情報** > **ライセンス管理**ページでライセンスをアクティベートします。

c Bricsysウェブサイトからライセンスファイルをダウンロードする場合、Bricsysネットワークライセンスマネージャーアーカイブを展開したフォルダーにファイルを保存します。

d Repriseライセンスサーバー管理ウェブページで、**サーバーの再読み込み/再起動**をクリックします。

e **ステータス**をクリックしてサーバーのステータスを確認し、次のページで下にある表内の**Bricsys**をクリックしてBricsysライセンスを表示します。

RLMマニュアルをクリックすると、ライセンスサーバーの設定方法について詳細が表示されます。RLMは、システム起動時に自動的に開始されません。そのためReprise License Manager(RLM)アプリケーションを手動で起動する必要があります。そのページでは、サーバー起動時にrlmを自動的に起動させる方法が説明されています。

5 ネットワークライセンスがアクティベートされ、サーバーが起動すると、サーバーはライセンスを提供することができます。クライアントコンピューターで、BricsCADのネットワークライセンスが使用可能になります。

Linuxサーバーのポートを開く：

1 システムで現在アクティブなゾーンを確認します。

```
1 sudo firewall-cmd --get-active-zones
```

システムのネットワーク構成に応じて、出力は「public」や「work」などとなります。

2 目的のゾーンにポートを追加します。(**<PORT>**を実際のポート番号に置き換え、**<ZONE>**をアクティブなゾーンに置き換えます)

```
sudo firewall-cmd --zone=<ZONE> --add-port=<PORT>/tcp --permanent
```

注：UDPポートを開く場合は、「tcp」を「udp」に置き換えてください。

3 ファイアウォールを再ロードして、変更を適用します。

4
```
sudo firewall-cmd --reload
```

5 ポートが開いたことを確認します。

6
```
sudo firewall-cmd --zone=<ZONE> --list-ports
```

これで、指定したゾーンでポートが開き、CentOS 9システムでこのポートを利用するサービスを使用できるようになります。必ず**<PORT>**と**<ZONE>**を、実際に使用するポート番号とゾーン名に置き換えてください。

ヒント：サーバー上で既にホストされているフローティングライセンスを更新する必要がある場合は、インストールフォルダー(NetworkLicenseManager.sh)からランチャを呼び出してBricsysネットワークライセンスマネージャーを実行してください。

1.6.3.3 ネットワークライセンス：オンラインアクティベート

BricsCADのライセンスをアクティベートするには、アクティベートする時点でインターネット接続が必要です。

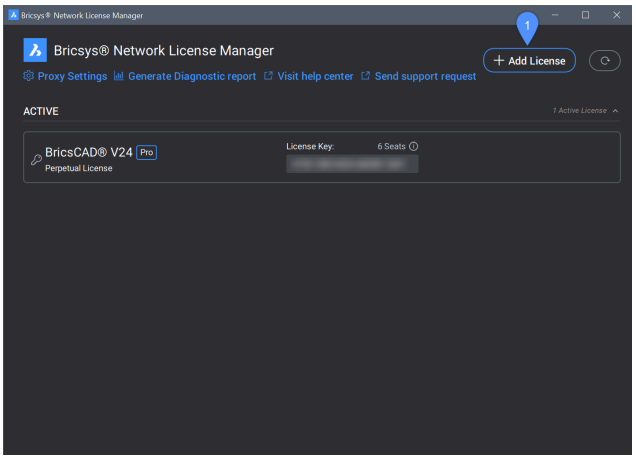
1 できること：

- **Bricsysネットワークライセンスサーバー**のデスクトップショートカットをクリックします。
- オペレーティングシステムのスタートメニューにある**Bricsysネットワークライセンスサーバー**のショートカットをクリックします。

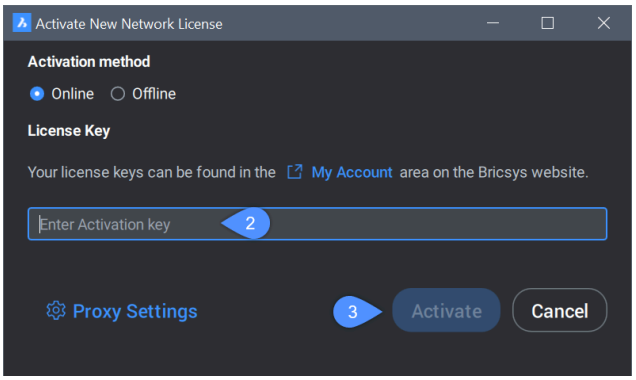
  C:¥Program Files¥Bricsys¥Bricsys Network License Server¥NetworkLicenseManager.exe

Bricsysネットワークライセンスマネージャーダイアログボックスが開きます。

2 **ライセンスの追加**ボタン(1)をクリックして、**新しいネットワークライセンスのアクティベート**ダイアログボックスを開きます。



アクティベーションキーの入力フィールド(2)に新しいネットワークライセンスを入力し、**アクティベート**(3)をクリックします。Bricsysアカウントのライセンスキーを使用します。**どこでライセンスは見つけることができますか？**の記事も参照してください。



注：ご使用のシステムで有効なライセンスが検出されない場合、**ネットワークライセンスのアクティベート**ダイアログボックスが最初に表示されます。

1.6.3.4 ネットワークライセンス：オフライン(手動)でのアクティベート

コンピュータがインターネットに接続されていない場合は、インターネットに接続している別のコンピュータからライセンスを手動でアクティベートすることができます。アクティベーション中だけでもインターネット接続を利用できる場合は、オンラインアクティベーションプロセスを使用することをお勧めします。

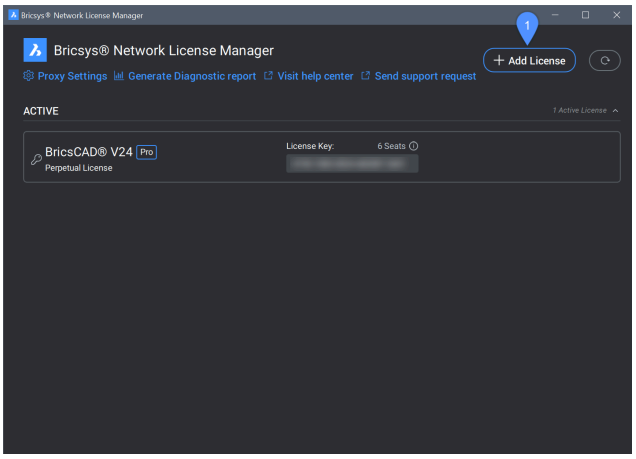
1 できること：

- **Bricsysネットワークライセンスサーバー**のデスクトップショートカットをクリックします。
- オペレーティングシステムのスタートメニューにある**Bricsysネットワークライセンスサーバー**のショートカットをクリックします。

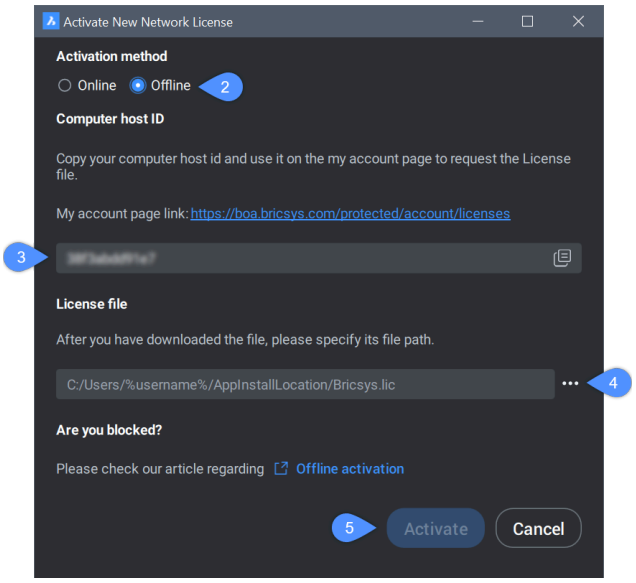
  C:¥Program Files¥Bricsys¥Bricsys Network License Server¥NetworkLicenseManager.exe

Bricsysネットワークライセンスマネージャーダイアログボックスが開きます。

2 **ライセンスの追加**ボタン(1)をクリックして、**新しいネットワークライセンスのアクティベート**ダイアログボックスを開きます。



新しいネットワークライセンスのアクティベートダイアログボックスで**オフライン**オプション(2)を選択し、**コンピューターのホスト**フィールド(3)の内容をすべてコピーします。



注：ご使用のシステムで有効なライセンスが検出されない場合、**Activate New Network License**ダイアログボックスが最初に表示されます。

3 インターネットに接続しているコンピュータでBricsys??????にログインします。

4 右上隅にある自分の名前をクリックし、メニューから**ライセンス管理**を選択します。

ネットワークライセンスが含まれている会社のBricsysアカウントでログインしてください。必要に応じて、Bricsysアカウントマネージャーにお問い合わせください。

5 アクティベートしたいライセンスキーにカーソルを合わせ、鉛筆アイコン(✎)をクリックします。

ライセンスの詳細ページが表示されます。

6 **手動アクティベート**をクリックします。

7 **ホストID**フィールドに、BricsysネットワークライセンスサーバーをインストールしたいコンピューターのホストIDを貼り付けます。

8 **アクティベート**ボタンをクリックします。

ライセンスファイルが作成され、ダウンロードすることができます。

9 **ライセンスファイルをダウンロード**ボタンをクリックします。

ライセンスファイル**BricsCad.lic**がデフォルトのダウンロードフォルダーにダウンロードされます。

10 **Activate New Network License**ダイアログボックスに戻り、参照ボタン(4)をクリックして**Select BricsCAD license**ダイアログボックスを開きます。ダウンロードしておいたLICファイルを選択し、**開く**をクリックします。

11 **Activate**ボタン(5)をクリックすると、ライセンスがオフラインでアクティブになります。

1.6.4 ネットワークライセンスのアップグレード

1.6.4.1 ネットワークライセンス：保守契約が有効な場合の次期BricsCADバージョンへのアップグレード

Bricsysネットワークライセンスマネージャーを含むBricsysネットワークライセンスサーバーを新規にインストールします。一般的に、Bricsysネットワークライセンスサーバーのダウンロード、展開、および設定は、ネットワーク管理者またはシステム管理者の作業です。詳細については、**Windowsネットワークライセンスサーバーのセットアップ**の記事を参照してください。

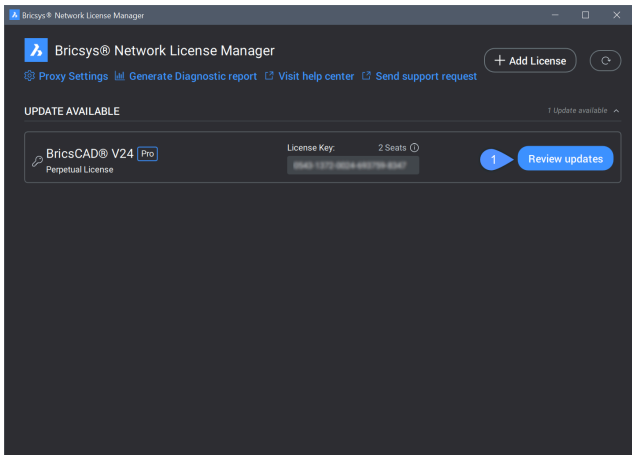
注：

- 新しい Bricsysネットワークライセンスマネージャー は古いバージョンを自動的にアンインストールし、古い **Bricsys Network License Manager** フォルダのすべてのファイルを **Bricsys Network License Server** フォルダに移動します。

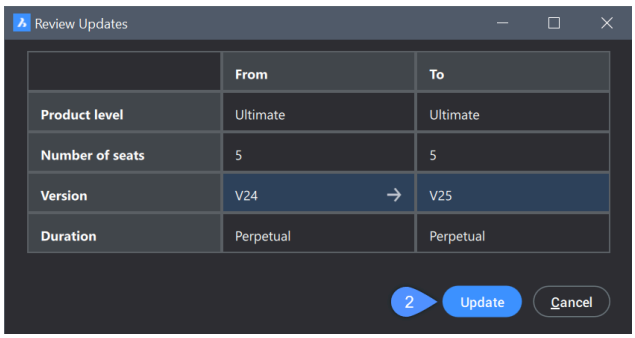
  重要：

  - RLM V15.1以降、rlm.pwが存在しない場合、デフォルトのユーザーとして、ユーザー名adminとパスワードadminのアカウントが作成されます。
  - 10分以上、管理者パスワードがデフォルトのまま変更がない場合、サービスは自動的に停止します。
  - RLM V14.2以前でrlm.pwファイルを作成した場合、そのPWファイルは無効になります。これを修正するには、古いPWファイルを削除して新しいファイルを作成する必要があります。
  - 詳細については、**RLMログインのセットアップ**に関する記事を参照してください。
- 有効なライセンスはそのまま保持され、新しい**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスに表示されます。

保守契約中のすべてのライセンスは、バージョンアップグレードの対象であれば、**アップデートが利用可能**カテゴリの下に表示されます。



更新プログラムのレビューボタン(1)をクリックして**更新プログラムのレビュー**ダイアログボックスを開き、そのライセンスで使用可能な更新プログラムの概要を確認します。



更新ボタン(2)をクリックして、ネットワークライセンスサーバーのライセンスを更新します。

注：Bricsysネットワークライセンスマネージャーダイアログボックスがすでに開いている場合は、更新ボタン(🔄)をクリックして、**更新の確認**ボタンを有効にしてください。

ライセンスの更新が自動的に検出されない場合は、アカウントの**マイライセンス**セクションでライセンスキーを取得してください。詳細は、**どこでライセンスは見つけることができますか?**の記事を参照してください。次に、**ライセンスの追加**ボタンを使用して、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスに手動でキーを入力します。

ライセンスをオフラインでアクティベートした場合：

- ライセンスをオフラインでアクティベートしたが、現在ネットワークライセンスサーバーがインターネットに接続されている場合、ライセンスの更新は自動的に検出されます。更新手順は上記のとおりです。
- ネットワークライセンスサーバーが現在もインターネットに接続されていない場合：
  a 最初にライセンスを取り消す必要があります。詳細については、**BricsCADライセンスのアクティベート解除**に関する記事を参照してください。取り消せるライセンスがない場合、サポートに連絡してください。

  要確認：ライセンスごとに取り消しは2回まで可能です。

  b アカウントの**マイライセンス**セクションでライセンスキーを取得します。詳細については、**どこでライセンスを見つけることができますか？**の記事を参照してください。

  c オフラインの手順でライセンスをアクティベートします。**ネットワークライセンス：オフライン(手動)でのアクティベート**の記事も参照してください。

重要：会社のサーバー(従業員、外注業者が使っているサーバーを含む)に現在保存されている、割り当てられた使用数を超えて存在するBricsCADネットワークライセンスファイルのすべてのコピー(古いライセンスファイルのコピーを含む)を、必ず完全に削除してください。新しいバージョンにアップグレードした古いネットワークライセンスのコピーも削除する必要があります。

注：Communicator for BricsCAD®のライセンスは、BricsCADのライセンスと同様です。

1 新しいBricsysネットワークライセンスサーバーの利点

新しいBricsysネットワークライセンスサーバーには、以下の利点があります：

- 保守契約が有効なライセンスを検出し、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスに、アップグレードに関するオプションが表示されます。
- ユーザーインターフェースが改善され、すべてのライセンスの使用状況をサーバー上で確認できます。
- 問題があった場合に、Bricsysヘルプセンター、Bricsysサポート、RLM診断ツールなどの便利なリソースへ誘導します。

1.6.4.2 ネットワークライセンス：BricsCADのアップグレードまたはサブスクリプション延長

Bricsysネットワークライセンスマネージャーを含むBricsysネットワークライセンスサーバーを新規にインストールします。一般的に、Bricsysネットワークライセンスサーバーのダウンロード、展開、および設定は、ネットワーク管理者またはシステム管理者の作業です。詳細については、**Windowsネットワークライセンスサーバーのセットアップ**の記事を参照してください。

注：

- 新しい Bricsysネットワークライセンスマネージャー は古いバージョンを自動的にアンインストールし、古い **Bricsys Network License Manager** フォルダのすべてのファイルを **Bricsys Network License Server** フォルダに移動します。

  重要：

  - RLM V15.1以降、rlm.pwが存在しない場合、デフォルトのユーザーとして、ユーザー名adminとパスワー

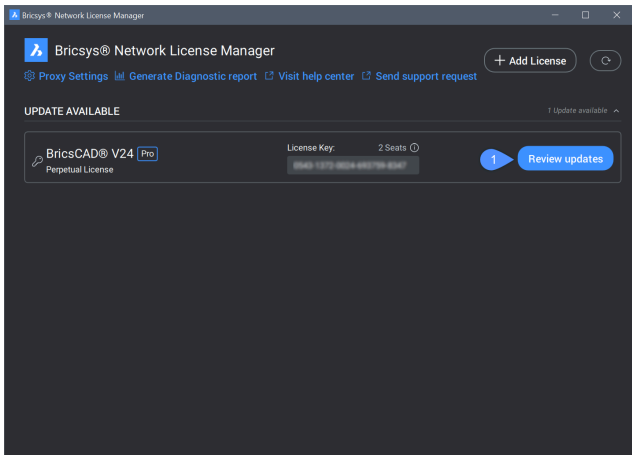
ドadminのアカウントが作成されます。

- 10分以上、管理者パスワードがデフォルトのまま変更がない場合、サービスは自動的に停止します。
- RLM V14.2以前でrlm.pwファイルを作成した場合、そのPWファイルは無効になります。これを修正するには、古いPWファイルを削除して新しいファイルを作成する必要があります。
- 詳細については、**RLMログインのセットアップ**に関する記事を参照してください。

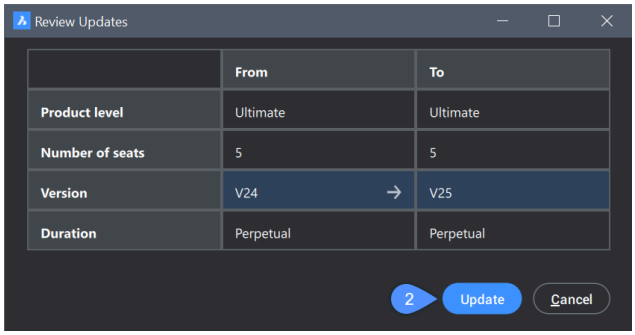
- 有効なライセンスはそのまま保持され、新しい**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスに表示されます。

バージョンアップ、製品アップグレード、シートアップグレードを購入した場合、またはネットワークライセンスのサブスクリプションライセンスを延長し、インターネットに接続している場合

ネットワークライセンスの場合、すべての更新プログラムは自動的に検出され、**アップデートが利用可能**カテゴリの下に表示されます。



更新プログラムのレビューボタン(1)をクリックして**更新プログラムのレビュー**ダイアログボックスを開き、そのライセンスで使用可能な更新プログラムの概要を確認します。



更新ボタン(2)をクリックして、ネットワークライセンスサーバーのライセンスを更新します。

注：Bricsysネットワークライセンスマネージャーダイアログボックスがすでに開いている場合は、更新ボタン(⟳)をクリックして、**更新の確認**ボタンを有効にしてください。

ライセンスの更新が自動的に検出されない場合は、アカウントの**マイライセンス**セクションでライセンスキーを取得してください。詳細は、**どこでライセンスは見つけることができますか?**の記事を参照してください。次に、**ライセンスの追加**ボタンを使用して、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスに手動でキーを入力します。

ライセンスをオフラインでアクティベートした場合：

- ライセンスをオフラインでアクティベートしたが、現在ネットワークライセンスサーバーがインターネットに接続されている場合、ライセンスの更新は自動的に検出されます。更新手順は上記のとおりです。
- ネットワークライセンスサーバーが現在もインターネットに接続されていない場合：
  a 最初にライセンスを取り消す必要があります。詳細については、**ライセンスのアクティベート解除または無効化**に関する記事を参照してください。取り消せるライセンスがない場合、サポートに連絡してください。

  要確認：ライセンスごとに取り消しは2回まで可能です。

  b アカウントの**マイライセンス**セクションでライセンスキーを取得します。詳細については、**どこでライセンスを見つけることができますか？**の記事を参照してください。

  c オフラインの手順でライセンスをアクティベートします。**ネットワークライセンス：オフライン(手動)でのアクティベート**の記事も参照してください。

重要：会社のサーバー(従業員、外注業者が使っているサーバーを含む)に現在保存されている、割り当てられた使用数を超えて存在するBricsCADネットワークライセンスファイルのすべてのコピー(古いライセンスファイルのコピーを含む)を、必ず完全に削除してください。新しいバージョンにアップグレードした古いネットワークライセンスのコピーも削除する必要があります。

1 新しいBricsysネットワークライセンスサーバーの利点

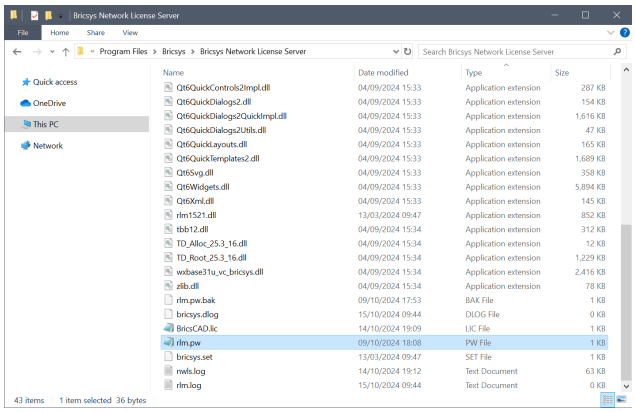
新しいBricsysネットワークライセンスサーバーには、以下の利点があります：

- 保守契約が有効なライセンスを検出し、**Bricsysネットワークライセンスマネージャー**ダイアログボックスに、アップグレードに関するオプションが表示されます。
- ユーザーインターフェースが改善され、すべてのライセンスの使用状況をサーバー上で確認できます。
- 問題があった場合に、Bricsysヘルプセンター、Bricsysサポート、RLM診断ツールなどの便利なリソースへ誘導します。

1.6.5 ネットワークライセンス管理

1.6.5.1 RLMログイン設定

RLM V15.1以降、Bricsysネットワークライセンスサーバーフォルダー(デフォルトでは、C:¥Program Files¥Bricsys¥Bricsys Network License Server)にrlm.pwが存在しない場合、ユーザー名adminとパスワードadminでデフォルトユーザが作成されます。



重要：10分以上、管理者パスワードがデフォルトのまま変更がない場合、サービスは自動的に停止します。

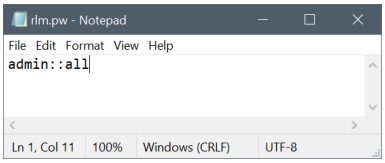
注：

- 古いバージョンのRLM framework(14.2以前)からアップグレードすると、古いPWファイルは無効になります。これを修正するには、古いPWファイルを削除して新しいファイルを作成する必要があります。
- 一般ユーザが編集できないように、このファイルへのアクセスを保護することをお勧めします。RLMパスワードファイルとそれを含むディレクトリの両方が、RLMプロセスに対して読み取り/書き込み可能である必要があります。

1 RLMパスワードファイル(rlm.pw)では、ユーザごとに1行が使用され、次のようにフォーマットされます。

1
```
username::all
```

ユーザー名に「:」の文字を含めることはできません。パスワード入力欄の初期値は空欄です。権限は通常、**all**に設定されています。



権限リストフィールドは、ユーザーに割り当てることができるさまざまな権限のカンマ区切りリストです。

- **all**：特別な権限名です。すべての権限が有効になります。
- **edit_meter**：メーターカウンターのカウントを変更します。
- **edit_options**：ISVサーバーのオプションファイルを編集します。
- **edit_rlm_options**：rlmサーバーのライセンスファイルとオプションファイルを編集します。
- **edit_xfer**：ISV サーバーのサーバー間ライセンス転送設定を編集します。
- **extend_roam**：すでにローミングしているライセンスのローミング期間を延長できます。
- **logfiles**：ログファイルを変更する機能(switch、switchr、newlog)を有効にします。
- **remove**：実行中のプロセスからライセンスを削除できます。
- **reread**：ライセンスサーバーで再読み込みコマンドを実行する機能にアクセスできます。
- **shutdown**：ライセンスサーバーをシャットダウンする機能にアクセスできます。
- **status**：ライセンスサーバーからのステータスとデバッグログ情報を表示できます。

  注：edit_meter、edit_options、edit_rlm_options、edit_xfer、remove、およびshutdownオプションは、存在しない場合でも「status」権限を有効にします。

  注：このページの一番下にある権限リストを確認してください。権限が割り当てられていないユーザーは、ライセンスをアクティベート、診断、RLMマニュアル、システム情報、Bricscadバージョン情報、パスワードの変更、およびログアウトの各コマンドにアクセスできます。

  例:

  ```
  user1:$5ukMApW1jixwcrGqRALO91:all
  ```

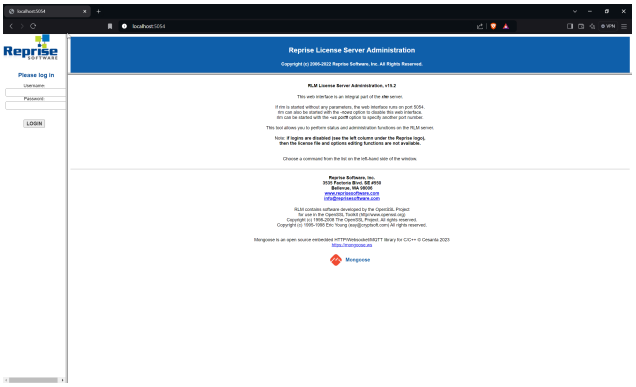
  ```
  user2::edit_options,edit_rlm_options,reread
  ```

2 ライセンスサーバーは localhost:5054 を使用するか、他端末では :5054 を使用して、ブラウザからライセンス サーバーのウェブ ポータルにアクセスします。

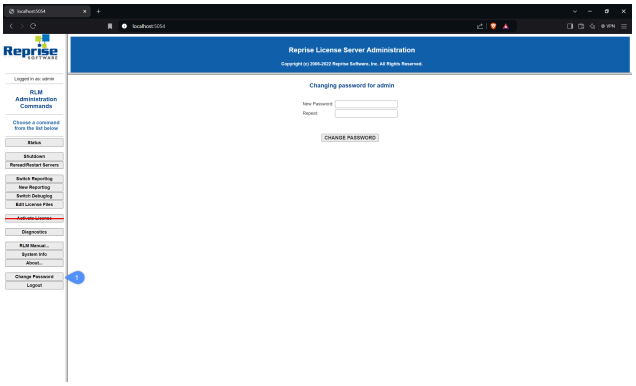
3 ユーザー名とパスワードの入力を求められます。パスワード入力欄は空のままなので、ユーザー名を入力してパスワードを入

力せずにログインできます。

4 **注**：新しく作成したログインにパスワードを追加しないと、RLM は 10 分以内に自動的にシャットダウンし、ログファイルが正しく出力されなくなるなどの望ましくない影響が発生します。



5 パスワードを設定したり、後で変更したりするには、そのユーザーとしてログインした後、**パスワードを変更**ボタン(1)を選択します。新しいパスワードを入力し、**パスワードを変更**ボタンをクリックすると、パスワードが更新されます。新しいパスワードは、rlm.pwファイルに自動的に書き込まれます。rlm.pwファイルでは、パスワード入力欄は実際のパスワードの暗号化されたハッシュです(Unixのパスワードファイルと同様)。



その後、サーバーを再起動するか、rlm.exeプロセスを強制終了して、Windowsサービスから再度開始します。次に、ウェブUIに戻り、新しい認証情報でログインします。

6 新しいユーザーがWebポータルにアクセスしようとするたび、認証(ユーザー名とパスワード)が要求されます。

1.6.5.2 ネットワークライセンスサーバーの管理

ネットワークライセンスサーバー(RLMライセンスサーバーとも呼ばれます)が実行されている場合、Repriseライセンスサーバー管理ウェブインターフェースでサーバーの設定を行えます。**RLMログイン設定**に関する記事も参照してください。

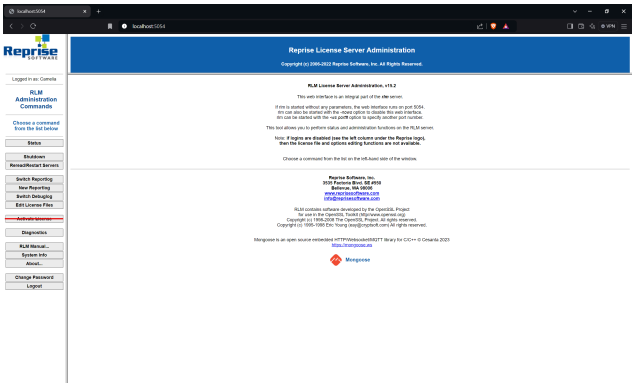
1 ウェブインターフェースを開く

1 ネットワークライセンスサーバーが実行されていない場合は、**Bricsysネットワークライセンスサーバー**のデスクトップショートカットをクリックします。(Windows 10以降の場合、右クリックして[管理者として実行]を選択)

Bricsysネットワークライセンスマネージャーダイアログボックスが開きます。

2 **http://localhost:5054**にアクセスします。

Repriseライセンスサーバー管理ウェブインターフェースが開きます。



注：

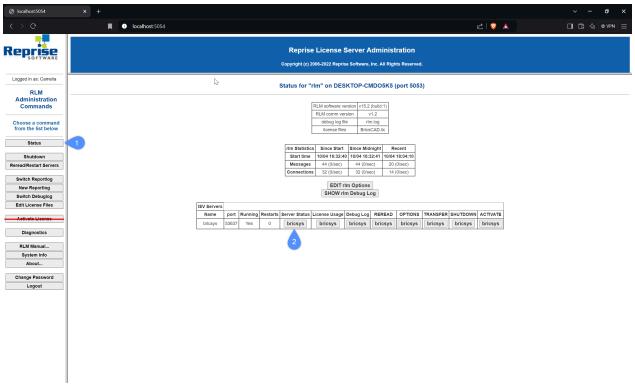
- **ライセンスをアクティベート**ボタンは使用しないでください。このボタンはBricsysライセンスとは関係がありません。
- すべてのオプションの概要を表示するには、左側の**RLMマニュアル...**ボタンをクリックするか、RLM??????????を開きます。

2 ライセンスとサーバーのステータスを確認する

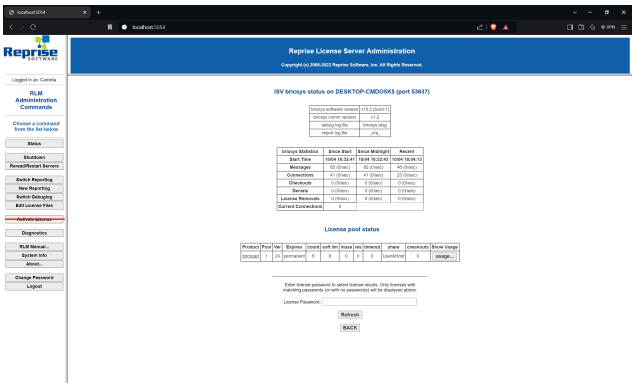
サーバー上のすべてのネットワークライセンスのステータスを確認することができます。

1 左側の**ステータス**ボタン(1)をクリックします。

LicenseServer(ポート 5053)の "rlm" のステータスページが開きます。



2 ISVサーバーテーブルの**サーバーステータス**列にある**Bricsys**ボタン(2)をクリックして、Bricsysネットワークライセンスのステータスを表示します。

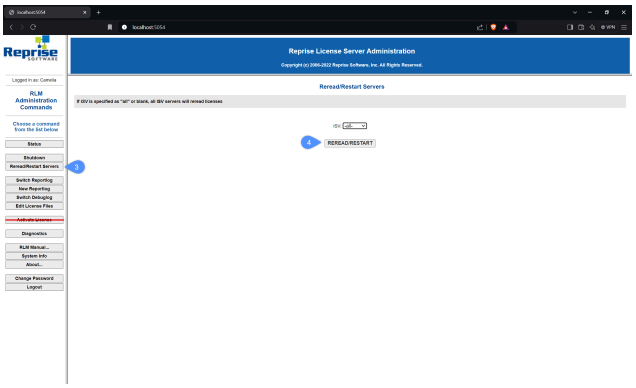


3 ライセンスの再読み込み/サーバーの再起動

たとえば、bricsys.optファイルを変更した後でサーバーを再起動する場合は、以下の手順で行います。

1 左側の**サーバーの再読込み/再起動**ボタン(3)をクリックします。

再読み込み/再起動ページが開きます。



2 **再読み込み/再起動**ボタン(4)をクリックします。

サーバーが再起動し、ネットワークライセンスが再度読み込みされます。

1.6.5.3 高度な設定

ネットワークライセンスサーバーの設定後に、BricsCADがサーバーへの接続を試みるときにエラー-17を報告することがあります。ファイアウォール、プロキシサーバー、ウイルス対策ソフトウェア、その他のセキュリティ対策の存在が原因である可能性があります。

1 ウィルス対策

サーバー上でウイルス対策ソフトウェアが実行され、ライセンスサーバープログラム(Windowsの場合は**rlm.exe**、Linuxの場合は**rlm**)をブロックしている場合は、ウイルス対策設定でRLMサービスのブロックを解除する必要があります。

サービスのブロックを解除する方法については、ウイルス対策ソフトウェアの設定を確認してください。

2 ファイアウォール

サーバーとBricsCADの間にファイアウォールがインストールされている場合、ファイアウォールで2つのポート番号を開く必要があります(ポート番号5053とBricsysライセンスサーバーに割り当てられたポート番号)。

このポート番号は、ライセンスサーバーの起動時に動的に割り当てられます。このポートをファイアウォールで開くには、まずサーバー上のBricsCAD.licファイルで設定する必要があります。

1 Repriseライセンスサーバー管理のウェブインターフェースを開きます(**http://localhost:5054**)。

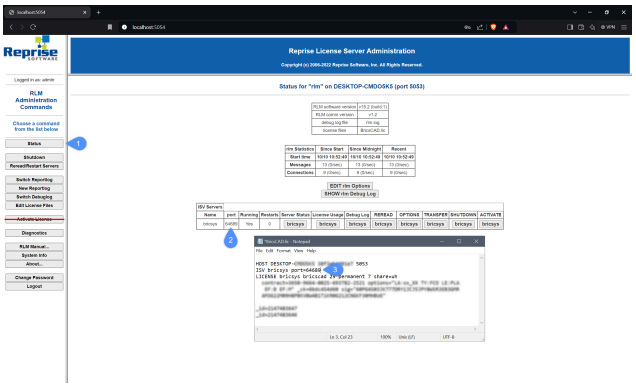
2 左側の**ステータス**ボタン(1)をクリックします。**[LicenseServer](ポート 5053)の "rlm" のステータス**ページが開きます。

3 ISVサーバーテーブルでポート番号を調べます。ポート番号は2番目の列のbricsysの行に表示されています(2)。

4 このポート番号をコピーします。

5 テキストエディタ(メモ帳、Geditなど)でBricsCAD.licファイルを開きます。ファイルのデフォルトの場所は、C:¥Program Files¥Bricsys¥Bricsys Network License Serverです。

ISV bricsysの行を次のように変更することで、ポート番号を修正できます。ISV bricsys port= [port number](3)ただし、[port number]はISV Serverテーブルからコピーしたポート番号に置き換えてください。



6 ファイアウォールで、ポート番号5053とBricsCAD.licファイルに追加したポート番号の両方を開きます。

7 ライセンスサーバープログラムをシャットダウンし、再起動します。

注：それでも問題が解決しない場合は、ライセンスサーバープログラム(Windowsの場合はrlm.exe、Linux/macOSの場合はrlm)をファイアウォールの例外設定に追加し、ライセンスサーバーを再起動します。

要確認：ネットワークライセンスマネージャツールはC:¥Program Files¥Bricsys¥Bricsys Network License Server¥NetworkLicenseManager.exeフォルダーにあり、**license.bricsys.com/actpro**ポート**80**および**https://api.bricsys.com/**ポート**443**にアクセスできる必要があります。

3 プロキシサーバー

BricsCAD とネットワークライセンスサーバー間にプロキシサーバーが存在する場合は、プロキシ設定を BricsCAD で構成する必要があります。

詳細については、「**クライアントコンピューターのプロキシ設定**」の「**ネットワークライセンス用にプロキシ設定を永続的に設定する**」の項を参照してください。

1.6.5.4 ライセンスプーリング

1 概要

複数のライセンスレベルが存在する場合、Bricsysネットワークライセンスサーバー はLICファイル名の順にBricsCADマシンにシートを割り当てます。この動作の詳細を制御したい場合は、オプションファイル**bricsys.opt**を編集します。

2 オプションの編集

オプションの編集方法は2通りあります：

- Bricsysネットワークライセンスサーバーインストールフォルダー内の**bricsys.opt**ファイルを編集する。
- ウェブインターフェース(**Repriseライセンスサーバー管理**)で編集。
  - ネットワークライセンスサーバー上のhttp://localhost:5054にアクセスします。
  - 左側のメニューで**Status**をクリックします。
  - **bricsys** ISV行のOPTIONS列にある**bricsys**をクリックします。

編集後、ライセンスサーバを**再読み込み/再起動**します。

3 一般的に使用されるオプション

グループは、ユーザー名、ホスト名、またはIPアドレスのリストを定義するために使用することができます。

名前は、後でそのグループのルールを適用するために使用することができます。

		構文	例
GROUP	ユーザー名のグループを定義します。	GROUP name list-of-usernames	GROUP engineers userA userB userC
HOST_GROUP	ホスト名のグループを定義します。	HOST_GROUP name list-of-hostnames	HOST_GROUP firstFloor machineA machineB machineC
INTERNET_GROUP	IPアドレスのグループを定義します。	INTERNET_GROUP name list-of-ip-addresses	INTERNET_GROUP networkGhent 192.168.1.*192.168.2.* **注**：ワイルドカード文字(*)は、IPアドレスで使用することができます。
RESERVE	特定のユーザ(グループ)に複数のシートを予約します。	RESERVE num product user|host|group| host_group|internet| internet_group|project who [id=nnn]	RESERVE 20 bricscad GROUP engineers id=nnn
MAX	特定のユーザ(グループ)が利用できるライセンス数を制限します。	MAX num product user|host|group| host_group|internet| internet_group|project who [id=nnn]	MAX 5 bricscad HOST_GROUP firstFloor id=nnn

		構文	例
INCLUDE	製品のライセンスを特定の(グループの)ユーザーにのみ許可します。INCLUDE行で指定されていない人は、その製品を使用することができません。	INCLUDE product userhost|group|host_group|internet|internet_group|project who [id=nnn]	INCLUDE bricscad GROUP bricscadusers id=nnn
EXCLUDE	特定の(グループの)ユーザーに製品のライセンスを許可しません。	EXCLUDE product user|host|group|host_group|internet|internet_group|project who [id=nnn]	EXCLUDE bricscad INTERNET_GROUP networkGhent 192.168.1.*id=nnn **注**：ワイルドカード文字(*)は、IPアドレスで使用することができます。

重要：複数のGROUPのRESERVEDシートの数がライセンスのシート総数と等しい場合、最初のGROUPのみがライセンスにアクセスでき、残りのGROUPには**エラー-22: すべてのライセンスが使用中です**が表示されます。

その他のオプションについては、RLMエンドユーザマニュアルの**ISVオプションファイル**の章を参照してください。

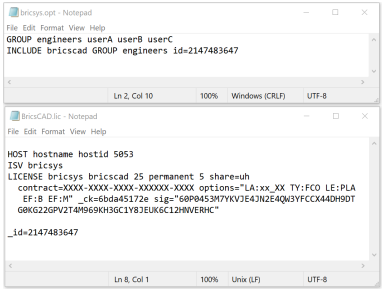
4 ライセンスファイル識別ID

注：

- 新しいネットワークライセンスをアクティベートすると、'_id=nnn(*)' フィールドが自動生成され、ライセンスファイルの末尾に追加されます。
- **注**：(*)nnnは、生成されたIDの番号です。
- 既存のネットワークライセンスをアップグレードした後も、元のID番号は変わりません。

この「**_id**」で各ライセンスファイルが識別され、ライセンスプーリングのオプションに使用されます。

追加したオプションに[id=nnn]パラメータを指定した場合、そのオプションは対応するライセンスからのシートプーリングに対してのみ有効となります。



5 RLM_PROJECTによるライセンスプーリング

以下は、同一RLMサーバー上で複数レベルのネットワークライセンスをアクティベートしている場合に適用されます。その結果として、ユーザーはBricsCADのアクティベート時にどのライセンスレベルを取得するかを決めることができます。

ユーザーは、ISVサーバーのオプションと一致すべきRLM_PROJECT環境変数に基づき、特定のBricsCADライセンスレベルを取得することができます。ライセンスシートは、特定のPROJECTユーザーのために、IDによってISVサーバー上に予約されます。

注：以下のアクションは、IT部門の担当者が実行してください。

1. RLMサーバーの動作

異なるIDを持つ2つのライセンスファイル(Lite _id=xxxxxxxxとPro _id=yyyyyyyy)がある場合、すべてのライセンスシートにRESERVEオプション(**bricsys.opt**ファイル内)を追加します。

```
RESERVE 5 bricscad PROJECT bc_lite id=xxxxxxxx
RESERVE 5 bricscad PROJECT bc_pro id=yyyyyyyy
```

2. BricsCADユーザアクション

1 ユーザーマシン上に一時的な環境変数RLM_PROJECTをセットするスクリプトを作成し、BricsCADがPROJECTライセンスプールをRLMサーバーとネゴシエートできるようにします。

2 特定のスクリプトを実行すると、希望するライセンスレベルをBricsCADが引き出すことができます。

これは、***.CMD**(コマンドプロンプト)ファイルでも構いません。

-
```
@echo off
set RLM_PROJECT=bc_lite
call "C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥bricscad.exe"
```

-
```
@echo off
set RLM_PROJECT=bc_pro
call "C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥bricscad.exe"
```

または、***.PS1**(パワーシェル)ファイルでも構いません。

-
```
$env:RLM_PROJECT = "bc_lite"
Start-Process -FilePath "C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥bricscad.exe"
```

-
```
$env:RLM_PROJECT = "bc_pro"
Start-Process -FilePath "C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥bricscad.exe"
```

RLMオプションですべてのライセンスシートがRESERVEDになっているので、RLM_PROJECT変数が存在しない場合、またはISVサーバーオプションと一致しない値を持つ場合、BricsCADはライセンスを取得することができません。

利用可能なシート数を5以上にしたり、RESERVE数を5以下にすることで、一部のライセンスを自由に利用できるようになります。

また、RLM_PROJECTは他のオプション(EXCLUDE/INCLUDE/...)とも連動しているため、様々な設定が可能です。

1.6.5.5 ネットワークライセンス使用レポート

ネットワークライセンスの使用状況は幾つかの方法で確認することができます。

- RLMのウェブUIから:
- http://localhost:5054/にアクセスし、**ステータス** > **ライセンス使用状況** > **bricsys**に移動します。
- **bricsys.dlog**ファイル(IN/OUT情報を格納)から。このファイルはRLMフォルダー内にあります。(C:¥Program Files¥Bricsys¥Bricsys Network License Server)
- REPORTLOGオプション。このオプションは、RLM???????マニュアルの79ページと106 ページに記載されています。

  bricsys.opt ファイルに以下のように追加する必要があります。

```
REPORTLOG +D:¥your_path¥report_name.log
```

次に、サーバーの再読み込み/再起動を実行します。

「+」記号は、新しいデータがファイルに追加されることを意味し、そうでない場合はファイルが上書きされます。

- RLMライセンス管理バンドル:
  https://reprisesoftware.com/admin/software-licensing-downloads.php
- JTB FlexReport:
  https://jtbworld.com/jtb-flexreport

1.6.5.6 ネットワークライセンスを他のサーバーへ移行する

以下を実行します：

1 ライセンスのアクティベートを解除します。詳細については、**BricsCADライセンスのアクティベート解除または無効化**に関する記事を参照してください。

2 新しいサーバーでライセンスをアクティベートします。詳細については、**オンラインアクティベート (ネットワークライセンス)**に関する記事を参照してください。

3 旧サーバーでライセンスマネージャーをシャットダウンし、ライセンスファイルを削除します。

注：1つのキーで可能な取り消し回数は2回までです。ライセンスを取り消すことができない場合は、サポートまでお問い合わせください。

1.6.6 BricsCADでネットワークライセンスを使用する

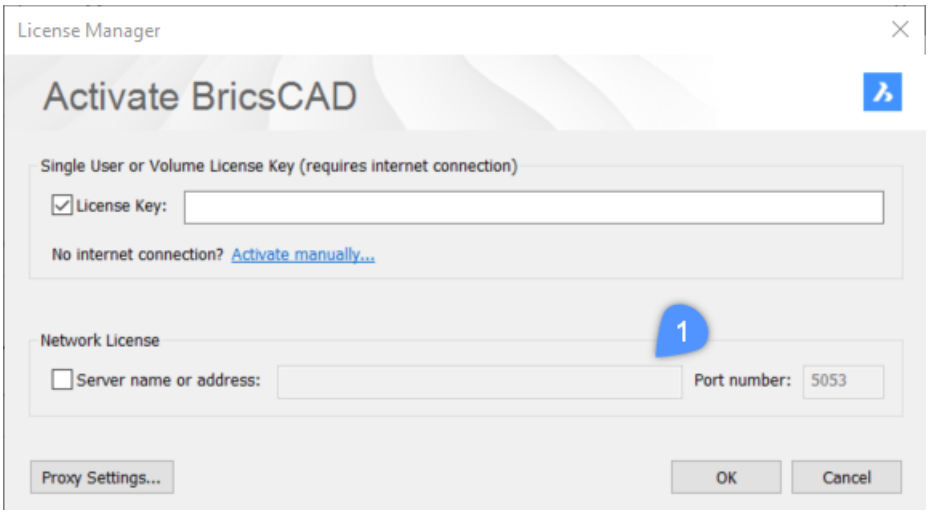
1.6.6.1 クライアントコンピュータでネットワークライセンスを使用する

ネットワークライセンスをライセンスサーバー上でアクティベートすると、クライアントコンピュータ上で使用することができます。

1 以下のいずれかの操作を行います：
   - BricsCADを初めて起動する場合は、**BricsCADランチャ**ダイアログボックスで**アクティベート**ボタンをクリックします。
   - 既存のライセンスを変更したりアップグレードする場合は、LICENSEMANAGERコマンドを起動し、**ライセンス管理**をクリックし、**変更**ボタンをクリックします。

2 **ライセンス管理** > **BricsCADをアクティベート**ダイアログボックスで、**ネットワークライセンス**オプションにチェックを入れます。

3 **サーバー名またはアドレス**フィールドに、ライセンスサーバーのホスト名または IPアドレスを入力します(1)。



4 (オプション) **ポート番号**フィールドにポート番号を入力します。

5 コンピュータがプロキシサーバー経由でライセンスサーバーに接続されている場合は、**プロキシ設定**ボタンをクリックして、ネットワークライセンスのプロキシ設定を設定します。

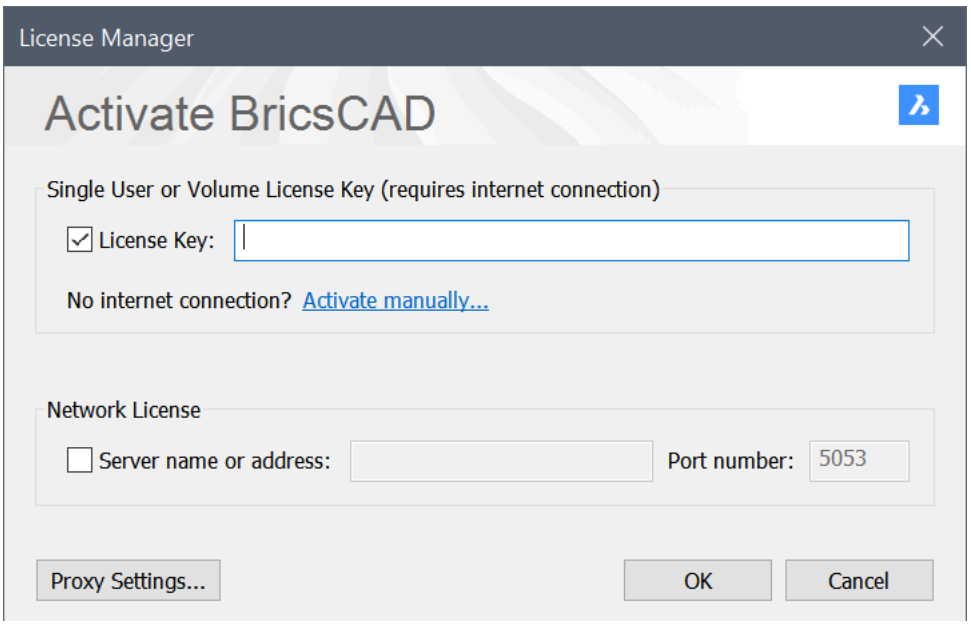
注 : プロキシ設定は**設定**ダイアログボックスからも構成できます。

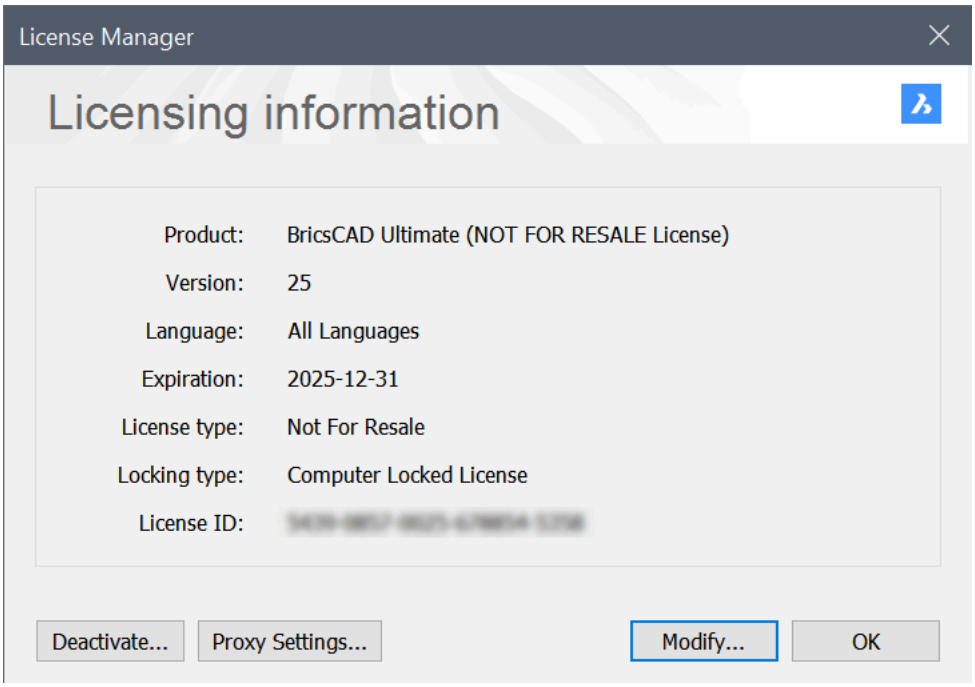
6 **OK**ボタンをクリックします。

1.6.6.2 クライアントコンピュータのプロキシ設定

1 プロキシ設定の構成

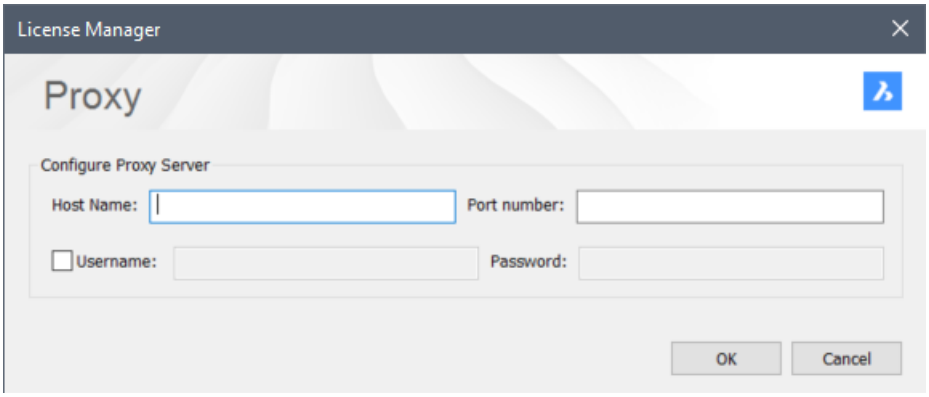
1 **ライセンスマネージャー** > **BricsCADのアクティベート**または**ライセンス情報**ダイアログボックスで**プロキシ設定...**ボタンをクリックします。





ライセンスマネージャー > **プロキシ**ダイアログボックスが開きます。

2 **ライセンスマネージャー** > **プロキシ**ダイアログボックスで各入力欄に必要な情報を入力します。



3 **OK**ボタンをクリックして続行します。

注：

- プロキシ設定は現在のBricsCADセッションでのみ有効です。以後にライセンスを再アクティベートまたはアクティベート解除する場合、プロキシを再設定する必要があります。
- プロキシサーバーは、**設定**ダイアログボックスの**プロキシ設定** セクションからも設定できます。

2 ネットワークライセンス用にプロキシ設定を永続的に設定する

ネットワークライセンスを使用する場合、BricsCADは、セッションを開くたびにライセンスサーバーに接続する必要があります。したがって、プロキシ設定は永続的に設定する必要があります。

BricsCADを実行しているコンピュータで、以下のように設定します：

1 **HTTP_PROXY**変数を作成します。：HTTP_PROXY=[?????????]:[?????]

2 （オプション）プロキシサーバーが基本認証をサポートする場合は、以下のように**HTTP_PROXY_CREDENTIALS**変数を作成します。:HTTP_PROXY_CREDENTIALS = [?????]:[?????]

1.6.6.3 ライセンスの借用(チェックアウト)

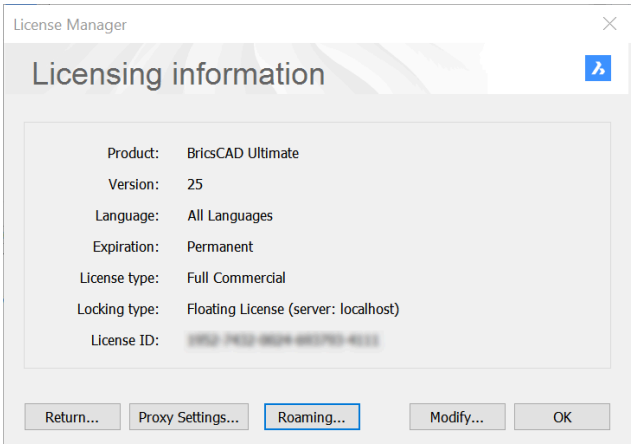
ネットワークライセンスでは、フローティングライセンスをシステムから借用して、その後ネットワークから切断することができます。作成されたライセンスは、ライセンスの借用時に指定した日数の間使用できます。この期間が終わると、ライセンスは自動的に返却されます。必要に応じて、借用したライセンスをライセンスプールに早期に戻すこともできます。

ネットワークライセンスサーバー上のライセンスファイルには、パラメータ max_roam_countが含まれています。デフォルトでは、この値はネットワークライセンスの総シート数に設定されています。

1 クライアントコンピュータでネットワークライセンスをローミングする

ライセンスサーバーに接続せずにBricsCADを使用する場合(オフィス外、自宅などで作業する場合)、ネットワークライセンスをローミング(借用)することができます。

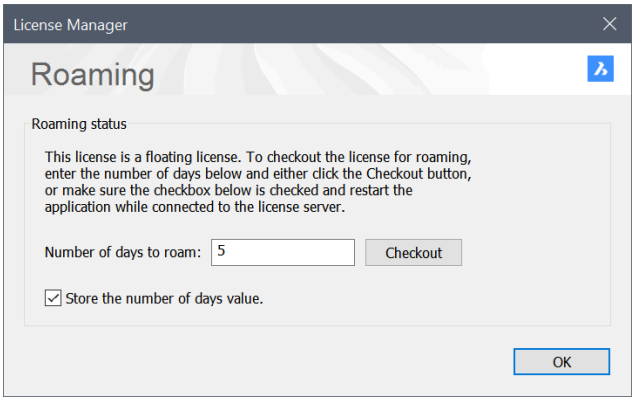
クライアントコンピュータでネットワークライセンスを使用する場合、**ライセンス管理** > **ライセンス情報**ダイアログボックスに**借用...**ボタンが表示されます。



1 コンピュータがプロキシサーバー経由でライセンスサーバーに接続されている場合は、**プロキシ設定**ボタンをクリックして、ネットワークライセンスのプロキシ設定を設定します。

2 **借用...** ボタンをクリックします。

ライセンス管理 > **借用**ダイアログボックスが開きます。



3 ライセンスを借用する日数を入力し、**チェックアウト**ボタンをクリックします。

4 (オプション)コンピュータがサーバーに接続するときにローミング期間を自動的に更新する場合は、チェックボックスをオンにします。

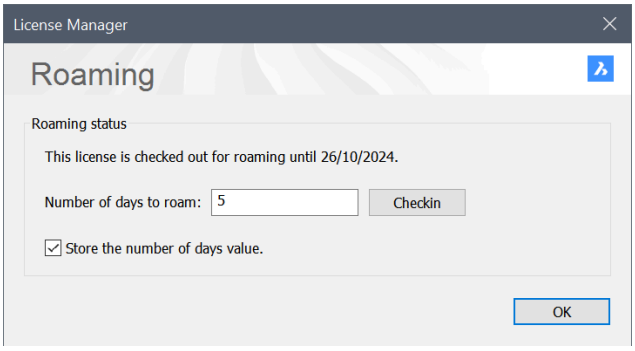
5 BricsCADを再起動して変更を適用します。

2 借用したネットワークライセンスをサーバーに返却する

ライセンスサーバーに接続している場合、ローミング(借用)したライセンスをサーバーに戻すことができます。

1 **ライセンス管理** > **ライセンス情報**ダイアログボックスで **借用...**ボタンをクリックします。

ライセンス管理 > **借用**ダイアログボックスが開きます。



2 **チェックイン**ボタンをクリックします。

3 BricsCADを再起動して変更を適用します。

1.7 複数のBricsysアカウントでBricsCADライセンスを管理する

1つまたは複数のBricsysアカウントでライセンスを共有して、すべてのユーザーがライセンス表示、アクティベート、およびアクティベート解除が可能です。

以下を実行します：

1 Bricsysのウェブサイトにログインします。

2 ユーザー名をクリックし、ドロップダウンメニューから**ライセンス管理**を選択します。

3 共有したいライセンスキーの上にカーソルを移動し、鉛筆アイコン(✎)をクリックします。

ライセンスの詳細ページが表示されます。

4 **管理者**で、**管理者を追加**をクリックします。

5 新しい管理者のログインメールアドレス*を入力し、＋アイコンをクリックします。

6 新しい管理者が追加されます。

新しい管理者に通知メールが送信されます。

名前の後の**X**アイコンを使用すると、管理者を削除できます。

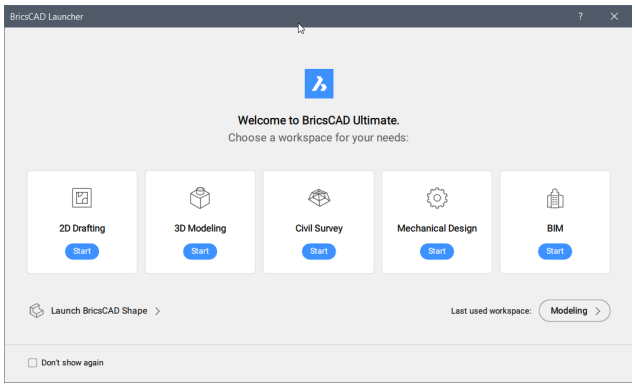
*管理者はBricsysアカウントを持っている必要があります。

2. BricsCADを開始

2.1 BricsCADの起動

2.1.1 BricsCADランチャ

システム変数GETTARTEDがオンの場合、BricsCADを起動すると**BricsCADランチャ** ダイアログボックスが表示されます。ここでは、現在のセッションのワークスペースを選択できます。使用可能なワークスペースは、ライセンスレベルによって異なります。



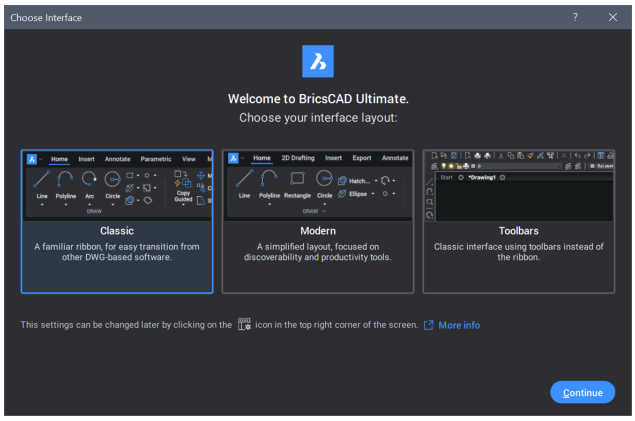
- **2D作図**：2D作図ークスペースを起動します。BricsCAD Lite以上のライセンスが必要です。
- **モデリング**：モデリングワークスペースを起動します。BricsCAD Pro以上のライセンスが必要です。
- **土木測量**：土木ワークスペースを起動します。BricsCAD Pro以上のライセンスが必要です。
- **メカニカル**：メカニカルワークスペースを起動します。BricsCAD Mechanicalまたは BricsCAD Ultimate のライセンスが必要です。
- **BIM**：BIMワークスペースを起動します。BricsCAD BIMまたはBricsCAD Ultimateのライセンスが必要です。
- **BricsCAD Shapeを起動**: BricsCAD Shapeを起動します。ライセンスは必要ありません。
- **最後に使用したワークスペース**：前回使用したワークスペースで起動します。
- **再度の表示はしない**：GETSTRTARTEDシステム変数を0に設定します。**BricsCADランチャ**ダイアログボックスの表示をリセットするには、コマンドラインに**getstarted**と入力し、**1でオン**を選択します。

  注：体験版では、BricsCADランチャを無効にすることはできません。

注：無償のソリッドモデリングツールBricsCAD Shapeは、共通のBricsCADインストーラに組み込まれています。BricsCAD Ultimate の30日間の無料体験期間が終了すると、永久的な BricsCAD Shape ライセンスに移行します。ライセンスキーを購入することで、完全な商用ライセンスに変更することができます。BricsCAD を最初にアンインストールする必要はありません。

2.1.2 インターフェースを選択

BricsCAD のクリーンインストールでは、ワークスペースを選択すると、**インターフェースを選択**ダイアログボックスが表示され、インターフェースのレイアウトを選択できます。



以下の中から選択できます。

- **クラシック**: 他のDWGベースのソフトウェアから移行しやすい、使い慣れたリボン。

  注：デフォルトのレイアウトは**クラシック**インターフェースです。

- **モダン**: 見つけやすさと生産性を高めるツールにフォーカスしたシンプルなレイアウト。
- **ツールバー**: リボンの代わりにツールバーを使用した従来型のインターフェース。

要確認：**インターフェースを選択**ダイアログボックスは、BricsCAD のクリーンインストール時にのみ表示されます。インターフェースに変更を加える場合は、後で**インターフェース設定**ダイアログボックスから行えます。

2.2 BricsCADとAutoCAD®の機能比較表

以下の表では、BricsCADの機能をAutoCAD®の機能と比較しています。

図面							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
ネイティブDWGファイル形式 (AutoCAD® 2025から)	√	√	√	√	√	√	√
DWGパスワード保護	√	√	√	√	√	-	-
eトランスミット	√	√	√	√	√	√	√
シートセット管理	√	√	√	√	√	√	√
地理的位置の設定	√	√	√	√	√	√	√

図面							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
BingマップとEsriマップ **注**：BricsCADでは、GEOMAPコマンドを実行してBingマップとEsriマップを使用できます。	√	√	√	√	√	-	-
図面比較	√	√	√	√	√	√	√
クラウドコラボレーション	√	√	√	√	√	√	√

インターフェース							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
ダークテーマとライトテーマ	√	√	√	√	√	√	√
業界標準のコマンド、エイリアス、変数	√	√	√	√	√	√	√
クリック可能なコマンドライン(オートコンプリート付き)	√	√	√	√	√	√	√
スタートページ	√	√	√	√	√	√	√
ファイル(図面)タブ	√	√	√	√	√	√	√
モデルタブとレイアウトタブ	√	√	√	√	√	√	√
レイアウト管理	√	√	√	√	√	-	-
メニューバー	√	√	√	√	√	√	√
ツールバー	√	√	√	√	√	√	√

インターフェース							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
リボン	√	√	√	√	√	√	√
ツールパレット	√	√	√	√	√	√	√
コンテキスト右クリックメニュー	√	√	√	√	√	√	√
コンテキストクワッドメニュー	√	√	√	√	√	-	-
ステータスバー	√	√	√	√	√	√	√
ワークスペース	√	√	√	√	√	√	√
検索可能な設定(システム変数)ダイアログボックス	√	√	√	√	√	-	-
ロック可能なインターフェース	√	√	√	√	√	√	√
クリーンスクリーンモード	√	√	√	√	√	√	√
図面エクスプローラ	√	√	√	√	√	-	-
カスタマイズ可能なユーザーインターフェース(CUI)	√	√	√	√	√	√	√
構造パネル	√	√	√	√	√	-	-

選択、スナップ、トラッキング							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
クイック選択(QSELECT)	√	√	√	√	√	√	√

選択、スナップ、トラッキング							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
選択内容を追加	√	√	√	√	√	√	√
類似を選択	√	√	√	√	√	√	√
選択の循環	√	√	√	√	√	√	√
図形スナップ(オブジェクトスナップ)	√	√	√	√	√	√	√
極トラッキング	√	√	√	√	√	√	√
Z交点3Dスナップ	√	√	√	√	√	-	-
最短距離	√	√	√	√	√	-	-
アダプティブグリッドスナップ	√	√	√	√	√	-	-
リアルタイム境界検出	√	√	√	√	√	-	-
2Dダイナミック UCS	√	√	√	√	√	-	-
3Dダイナミック UCS	√	√	√	√	√	-	√

作図ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
線分、ポリライン、3Dポリライン、スプライン、放射線、構築線	√	√	√	√	√	√	√
マルチラインとマルチラインスタイル	√	√	√	√	√	-	√

作図ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
円、円弧、楕円、楕円弧	√	√	√	√	√	√	√
ポリゴン、長方形、リージョン、ドーナツ、点	√	√	√	√	√	√	√
らせん	√	√	√	√	√	-	√
2Dパラメータ、拘束	√	√	√	√	√	-	√
2D自動制約	√	√	√	√	√	1	1
電卓	√	√	√	√	√	√	√

注釈ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
寸法、寸法スタイル	√	√	√	√	√	√	√
クイック寸法	√	√	√	√	√	√	√
マルチ引出線、マルチ引出線スタイル	√	√	√	√	√	√	√
一行文字およびマルチライン文字、文字スタイル、文字編集	√	√	√	√	√	√	√
ハッチング、グラデーション、ハッチング/グラデーション編集	√	√	√	√	√	√	√
ワイプアウト	√	√	√	√	√	√	√
雲マーク	√	√	√	√	√	√	√

注釈ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
属性、属性編集	√	√	√	√	√	√	√
表、表スタイル	√	√	√	√	√	√	√
フィールド	√	√	√	√	√	√	√
データ抽出	√	√	√	√	√	-	√
データリンク	√	√	√	√	√	√	√
注釈尺度	√	√	√	√	√	√	√
スペルチェック	√	√	√	√	√	√	√
AutoCAD® Mechanicalとの互換性：読み込み、表示、編集、作成	-	-	-	2	2	-	-

編集ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
移動、複写、回転、尺度変更、延長、ミラー、位置合わせ	√	√	√	√	√	√	√
トリム、延長、伸張、分割、結合	√	√	√	√	√	√	√
フィレット、面取り	√	√	√	√	√	√	√
ガイドコピー	√	√	√	√	√	-	-
ガイド移動	√	√	√	√	√	-	-

編集ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
グリップ編集	√	√	√	√	√	√	√
プロパティパネル	√	√	√	√	√	√	√
マニピュレータ(3Dギズモ)	√	√	√	√	√	-	√
表示順序	√	√	√	√	√	√	√
図形ごとに元に戻す(プロパティ履歴)	√	√	√	√	√	-	-
最適化	√	√	√	√	√	-	-
簡略化	√	√	√	√	√	-	-
図面診断	√	√	√	√	√	-	-

参照ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
ブロック、ブロック編集	√	√	√	√	√	√	√
ダイナミックブロック	3	3	3	3	3	√	√
カメラ方向のブロック	√	√	√	√	√	-	-
ブロック化	√	√	√	√	√	4	4
自動調整配列複写	√	√	√	√	√	√	√

参照ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
DWG(外部参照)アタッチ、クリップ、バインド、編集	√	√	√	√	√	√	√
PDFアタッチ、クリップ	√	√	√	√	√	√	√
イメージアタッチ、クリップ、調整、透過性	√	√	√	√	√	√	√
点群のカラーマップ	-	√	√	√	√	-	√

可視化ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
画僧および画層状態	√	√	√	√	√	√	√
図形の透過性	√	√	√	√	√	√	√
表示スタイル設定	√	√	√	√	√	-	√
Look From(ViewCube™)	√	√	√	√	√	-	√
パースをマッチング	√	√	√	√	√	-	-
光源	-	√	√	√	√	-	√
太陽プロパティ	-	√	√	√	√	-	√
マテリアル	-	√	√	√	√	-	√
レンダリング	-	√	√	√	√	-	√

可視化ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
アニメーション編集	-	√	√	√	√	-	-
ウォークスルー3Dナビゲーション	-	√	√	√	√	-	√
ANIPATHコマンド	-	√	√	√	√	-	√
ビルトインのDatasmith書き出し	-	√	√	√	√	-	-
Twinmotion/Unrealとのビルトインダイレクトリング	-	√	√	√	√	-	-

モデリングツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
ACISベースのソリッドモデリング	-	√	√	√	√	-	√
ソリッドおよびサーフェスモデリング	-	√	√	√	√	-	√
ソリッドプリミティブ	-	√	√	√	√	-	√
メッシュプリミティブ	-	√	√	√	√	-	√
ポリソリッド	-	√	√	√	√	-	√
和、差、交差、干渉	-	√	√	√	√	-	√
押し出し、回転、ロフト、スイープ、厚み付け	-	√	√	√	√	-	√
ツイスト	-	√	√	√	√	-	-

モデリングツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
フィレット、面取り	-	√	√	√	√	-	√
スライス	-	√	√	√	√	-	√
マルチスライス	-	√	√	√	√	-	-
T接続ツール、L接続ツール、至近に接続ツール	-	√	√	√	√	-	-
エッジを抽出	-	√	√	√	√	-	√
ダイレクト(履歴なし)モデリング	-	√	√	√	√	-	√
変形可能(自由形状)モデリング	-	√	√	√	√	-	√
監査、簡略化	√	√	√	√	√	-	√
ソリッド化	√	√	√	√	√	-	-
ステッチ	-	√	√	√	√	-	√
2Dパラメータ、拘束	-	√	√	√	√	-	√
3D自動パラメータ化	-	√	√	√	√	-	-
3Dブロック化とパラメトリックブロック化	-	√	√	√	√	-	-
3Dパラメトリック設計テーブル	-	√	√	√	√	-	-
断面設定	-	√	√	√	√	-	√
図面ビュー：ベースビュー、投影ビュー、断面ビュー、詳細ビュー、破断ビュー	-	√	√	√	√	-	√
3Dスレッド	-	√	√	√	√	-	-

モデリングツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
点群整列	-	√	√	√	√	-	-
点群バブルビューア(静的スキャンおよびキネマティックスキャン)	√	√	√	√	√	-	-

土木測量ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
TINサーフェスモデリング	-	√	√	√	√	-	-
土木ポイント	-	√	√	√	√	-	-
TINボリュームサーフェス	-	√	√	√	√	-	-
グレーディング	-	√	√	√	√	-	-
線形	-	√	√	√	√	-	-
計画線	-	√	√	√	√	-	-
プロファイル(垂直アライメント)	-	√	√	√	√	-	-
コリドー	-	√	√	√	√	-	-
オートデスク® Civil 3Dオブジェクトイネーブラ	√	√	√	√	√	-	√
境界トリム	-	√	√	√	√	-	-
GISデータ	-	√	√	√	√	-	-

土木測量ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
ラベル	-	√	√	√	√	-	-

建物ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
CADベースのBIM機能	-	-	√	-	√	-	-
IFC読み込み/書き出し	-	-	√	-	√	-	-
IDS読み込み	-	-	√	-	√	-	-
RVT/RFA読み込み	-	-	√	-	√	-	-
RVT書き出し	-	-	√	-	√	-	-
構造モデリングツールセット	-	-	√	-	√	-	-
プロジェクトデータベース	-	-	√	-	√	-	-
モデルフェデレーション基準点(測量位置、プロジェクト位置、敷地位置)	-	-	√	-	√	-	-
プロジェクトブラウザ	-	-	√	-	√	-	-
ライブラリデータベース	-	-	√	-	√	-	-
敷地、建物、階	-	-	√	-	√	-	-
窓とドア	-	-	√	-	√	-	-

建物ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
完全なパラメトリックBIMコンポーネント作成	-	-	√	-	√	-	-
部品表マネージャー	-	-	√	√	√	-	-
3D空間	-	-	√	-	√	-	-
壁	-	-	√	-	√	-	-
屋根	-	-	√	-	√	-	-
クイックドロー	-	-	√	-	√	-	-
クイックビルド	-	-	√	-	√	-	-
点群分類機能	-	√	√	√	√	-	-
点群による床面検出	-	-	√	-	√	-	-
点群投影	-	-	√	-	√	-	-
点群幾何検出	-	-	√	-	√	-	-
点群フィットプラナー(幾何検出)	-	-	√	-	√	-	-
点群による床面検出	-	-	√	-	√	-	-
点群フィット部屋	-	-	√	-	√	-	-
点群ドールハウス	√	√	√	√	√	-	-
POINTCLOUDGAPFILLING	√	√	√	√	√	-	-
POINTCLOUDSHOWBUBBLES	√	√	√	√	√	-	-

建物ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
POINTCLOUDEYEDOMELIGHTING	√	√	√	√	√	-	-
施工詳細管理	-	-	√	-	√	-	-
プロパゲート	-	-	√	-	√	-	-
カスタムBIMプロパティ	-	-	√	-	√	-	-
グラフィカルオーバーライド	-	-	√	-	√	-	-
図面のカスタマイズ	-	-	√	-	√	-	-
BIM寸法	-	-	√	-	√	-	-
選択寸法	-	-	√	-	√	-	-
解析モデル	-	-	√	-	√	-	-
Pythonスクリプト(ベータ)	-	-	√	-	√	-	-
BCF問題管理	-	-	√	-	√	-	-

製造ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
AutoCAD® Mechanical 2021 DWGファイル形式	-	-	-	√	√	-	√
2Dメカニカル図面規格(ISO、DIN、JIS、ANSI)対応	-	-	-	√	√	-	√

製造ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
パーツ参照とパーツ一覧	-	-	-	√	√	-	√
パーツ参照に関連付けられたバルーン	-	-	-	√	√	-	√
パワーディメンジョン	-	-	-	√	√	-	√
溶接記号	-	-	-	√	√	-	√
仕上げ記号	-	-	-	√	√	-	√
幾何公差記号	-	-	-	√	√	-	√
データムID	-	-	-	√	√	-	√
エッジ記号	-	-	-	√	√	-	√
テーパー記号と勾配記号	-	-	-	√	√	-	√
引出線注記	-	-	-	√	√	-	√
注釈の再スケール	-	-	-	√	√	-	√
メカニカルブラウザ	-	√	√	√	√	-	-
パーツライブラリ	√	√	√	√	√	-	-
パイプ	-	√	√	√	√	-	-
アセンブリモデリング	-	-	-	√	√	-	-
アセンブリ検査	-	-	-	√	√	-	-
分解ビュー	-	-	-	√	√	-	-
キネマティック解析	-	-	-	√	√	-	-

製造ツール							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
部品表(BOM)	-	-	-	√	√	-	-
部品表および図面ビューに関連するバルーン	-	-	-	√	√	-	-
板金設計	-	-	-	√	√	-	-
3Dソリッドから板金部品への認識および変換	-	-	-	√	√	-	-
隣接エッジフランジのコーナーリリーフ	-	-	-	√	√	-	-
ロフトベンド	-	-	-	√	√	-	-
その他の機能：ジャンクション、マイター、タブ、フォームフィーチャー	-	-	-	√	√	-	-
フィーチャーに色付け	-	-	-	√	√	-	-
板金フィーチャーの診断および修復	-	-	-	√	√	-	-
板金フィーチャーの一括処理	-	-	-	√	√	-	-

読み込み、書き出し、出力							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
印刷/プロット	√	√	√	√	√	√	√
JPG出力	√	√	√	√	√	√	√
TIFF出力	√	√	√	√	√	√	√

読み込み、書き出し、出力							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
PNG出力	√	√	√	√	√	√	√
BMP出力	√	√	√	√	√	√	√
パブリッシュ/バッチプロット	√	√	√	√	√	√	√
PDFブックマークを作成	√	√	√	√	√	√	√
CTBとSTBファイル	√	√	√	√	√	√	√
PC3印刷設定ファイル	√	√	√	√	√	√	√
名前の付いたページ設定	√	√	√	√	√	√	√
PDF読み込み、書き出し	√	√	√	√	√	√	√
DAE読み込み、書き出し	√	√	√	√	√	-	-
IFC読み込み、書き出し	-	-	√	-	√	-	√
3DM読み込み、書き出し	-	√	√	√	√	-	-
LandXML読み込み、書き出し	-	√	√	√	√	-	-
オートデスク® Civil 3Dデータ読み込み	-	√	√	√	√	-	-
RFA読み込み	-	-	√	-	√	-	-
SKP読み込み	-	√	√	√	√	-	-
DGN読み込み	√	√	√	√	√	√	√
RVTの読み込み、書き出し	-	-	√	-	√	-	-
DWF書き出し	√	√	√	√	√	√	√

読み込み、書き出し、出力							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
SVG書き出し	√	√	√	√	√	-	-
FBX書き出し	√	√	√	√	√	-	-
STL書き出し	√	√	√	√	√	-	√
点群書き出し(利用可能な形式は下記参照)	-	√	√	√	√	-	5
LAZ	-	√	√	√	√	-	5
HSPC	-	√	√	√	√	-	5
PTS	-	√	√	√	√	-	5
点群読み込み(以下の形式が利用可能)	-	√	√	√	√	-	5
e57	-	√	√	√	√	-	5
HSPC	-	√	√	√	√	-	-
LAS	-	√	√	√	√	-	5
LAZ	-	√	√	√	√	-	5
LGSX	-	√	√	√	√	-	-
HSPC.PACK	-	√	√	√	√	-	-
PTS	-	√	√	√	√	-	5
PTX	-	√	√	√	√	-	5
RCP	-	√	√	√	√	-	√

読み込み、書き出し、出力							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
RCS	-	√	√	√	√	-	√
RSP	-	√	√	√	√	-	5
RDBX	-	√	√	√	√	-	5
ZFS	-	√	√	√	√	-	5
Datasmith書き出し	-	√	√	√	√	-	-
Communicator for BricsCAD®で利用可能なその他のファイル形式(利用可能な形式は下記参照)	-	√	√	√	√	-	+ / -
CATIA V4 4.1.9 – 4.2.4	-	√	√	√	√	-	√
CATIA V5 V5R8 – V5－6 R2021	-	√	√	√	√	-	√
IGES up to 5.3	-	√	√	√	√	-	√
Inventor V11 – V2022	-	√	√	√	√	-	√
JT 8.x、9.x、10、10.2、10.3、および10.5	-	√	√	√	√	-	√
NX 1 – NX 195311 – NX 1953	-	√	√	√	√	-	√
Parasolid 9.0.x – 33.0.x	-	√	√	√	√	-	√
Pro/E / Creo 16 – Creo 8.0	-	√	√	√	√	-	√
Solid Edge V18 – SE 2021	-	√	√	√	√	-	-
SolidWorks 2003 – 2021	-	√	√	√	√	-	√

読み込み、書き出し、出力							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
STEP AP203、AP214、AP242	-	√	√	√	√	-	√
STL All(Graphical data only)	-	√	√	√	√	-	-
VDA － FS 1.0 － 2.0	-	√	√	√	√	-	-
XCGM R2012 － 2021 1.0	-	√	√	√	√	-	-

プログラミング							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
ActiveX	√	√	√	√	√	√	√
Extended Entity Data Editor	√	√	√	√	√	-	√
スクリプト記録	√	√	√	√	√	-	√
LISP対応(vl、vlr、vla、vlax)	√	√	√	√	√	√	√
Solutions Development System(SDS/ADS)	√	√	√	√	√	-	√
ダイアログ制御言語(DCL)	√	√	√	√	√	√	√
COM API	-	√	√	√	√	√	√
VBA DVBプロジェクト対応	-	√	√	√	√	-	√
.NET Framework API	-	√	√	√	√	-	-

プログラミング							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
.NET Core API	-	-	-	-	-	-	√
BRX(ARX互換API)	-	√	√	√	√	-	√
TX(Teigha eXtensions)	√	√	√	√	√	-	-
CUIメニューファイル対応(ディーゼル式)	√	√	√	√	√	√	√

ライセンス							
	BricsCAD					AutoCAD®	
	Lite	Pro	BIM	メカニカル	Ultimate	LT	フル
クロスプラットフォームライセンス(ウィンドウズ、リナックス、マックOS)	√	√	√	√	√	-	-
永久ライセンス	√	√	√	√	√	-	-
永久 + (オプション)メンテナンス(6)	√	√	√	√	√	-	-
サブスクリプション(7)	√	√	√	√	√	√	√
ネットワークマルチユーザー	√	√	√	√	√	-	-
ボリュームライセンス(永久)	√	√	√	√	√	-	-
アカデミック	√	√	√	√	√	√	√

(1)幾何拘束を自動的に適用することはできますが、幾何拘束と寸法拘束を組み合わせて自動的に適用することはできません。

(2)ACMシンボル
は、AMSURFSYM、AMEDGESYM、AMWELDSYM、AMSIMPLEWELD、AMNOTE、AMFCFRAME、AMDATUMID、AMPARTLIST、AMPARTREF、AMRESCALEの各コマンドを使用して作成できます。

(3)ダイナミックブロックの挿入操作は行えますが、ダイナミックブロック定義を作成することはできません。一部のダイナミックブロックは、さらに編集可能なパラメトリックブロックに変換できます。新しいパラメトリックブロック定義を作成することもできます。

(4) AutoCAD®にはスマートブロック機能があります。

(5) オートデスク®製品群では、非ネイティブ点群フォーマットの読み込みやAutoCAD®のネイティブRCS/RCPへの変換にRecapが必要です。LAS/LAZ/PTS/PTXについては、Map 3Dおよび/またはCivil 3Dで十分な場合があります。

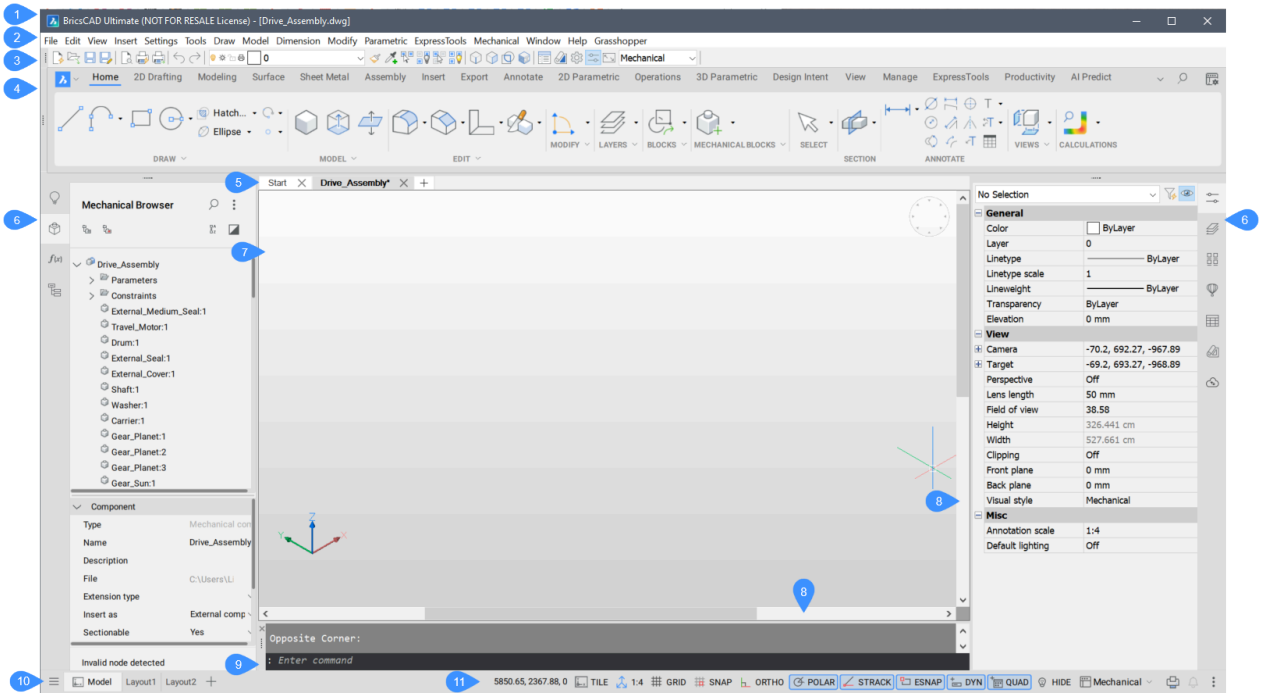
(6) **永久**ライセンスには、新規ライセンスごとに最初の1年間はBricsCADメンテナンスが含まれています。2年目以降の更新は自由です。

(7)**サブスクリプション**の場合、サブスクリプション期間中は常にメンテナンスが含まれます。

2.3 インターフェース

2.3.1 BricsCADアプリケーションウィンドウ

BricsCADアプリケーションウィンドウの構成要素は以下のとおりです。



1 ライセンスレベル

2 メニューバー

3 ツールバー

4 リボン

5 ドキュメントタブ

6 パネル(左右)

7 作図領域

8 スクロールバー

9 コマンドライン

10 モデルタブとレイアウトタブ

11 ステータスバー

BricsCADアプリケーションウィンドウのレイアウトは、現在のワークスペースによって制御されます。

ライセンスレベル
BricsCADのライセンスレベルが表示されます。

メニューバー
メニューバーは、BricsCADアプリケーションウィンドウの上部にあります。
ツールバーやリボンやパネルの空きスペースを右クリックして、コンテキストメニューからメニューバーを選択すると、**メニューバー**の表示/非表示を切り替えることができます。
メニューバーの状態は、MENUBARシステム変数に保存されます。

ツールバー
ツールバーの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います：

- TOOLBARコマンドを起動します。
- ツールバーやリボンやパネルの空きスペースを右クリックして、コンテキストメニューから **ツールバー**を選択して、目的のツールバーを選択します。

リボン
リボンの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います：

- RIBBONコマンドまたはRIBBONCLOSEコマンドを実行します。
- ツールバーやリボンやパネルの空きスペースを右クリックし、コンテキストメニューから**パネル**または**リボン**を選択します。

ドキュメントタブ
ドキュメントタブは、デフォルトでは作図画面の上部に配置されています。これにより、開いている図面を簡単に切り替えたり、スタートタブにアクセスすることができます。
ドキュメントタブの表示は、SHOWDOCTABSシステム変数で制御されます。

パネル(左右)
アクティブなパネルを表示します。アイコンをクリックすると、関連するパネルが開きます。
パネルの表示方法：

- 特定のコマンドを起動するとパネルが開きます。
- ツールバーやリボンやパネルの空きスペースを右クリックし、コンテキストメニューから**パネル**を選択して目的のパネルを選択します。

作図領域
作図領域が表示されます。

スクロールバー
スクロールバーはデフォルトでは非表示です。
スクロールバーの表示と非表示を切り替えるには：

- Shiftキーを押しながら、**F4**ファンクションキーを押します。
- SCROLLBARコマンドを起動します。

コマンドライン
COMMANDLINEコマンドを実行すると、コマンドラインが表示されます。
ステータスバーの左端をダブルクリックすると、コマンドラインの表示が切り替わります。

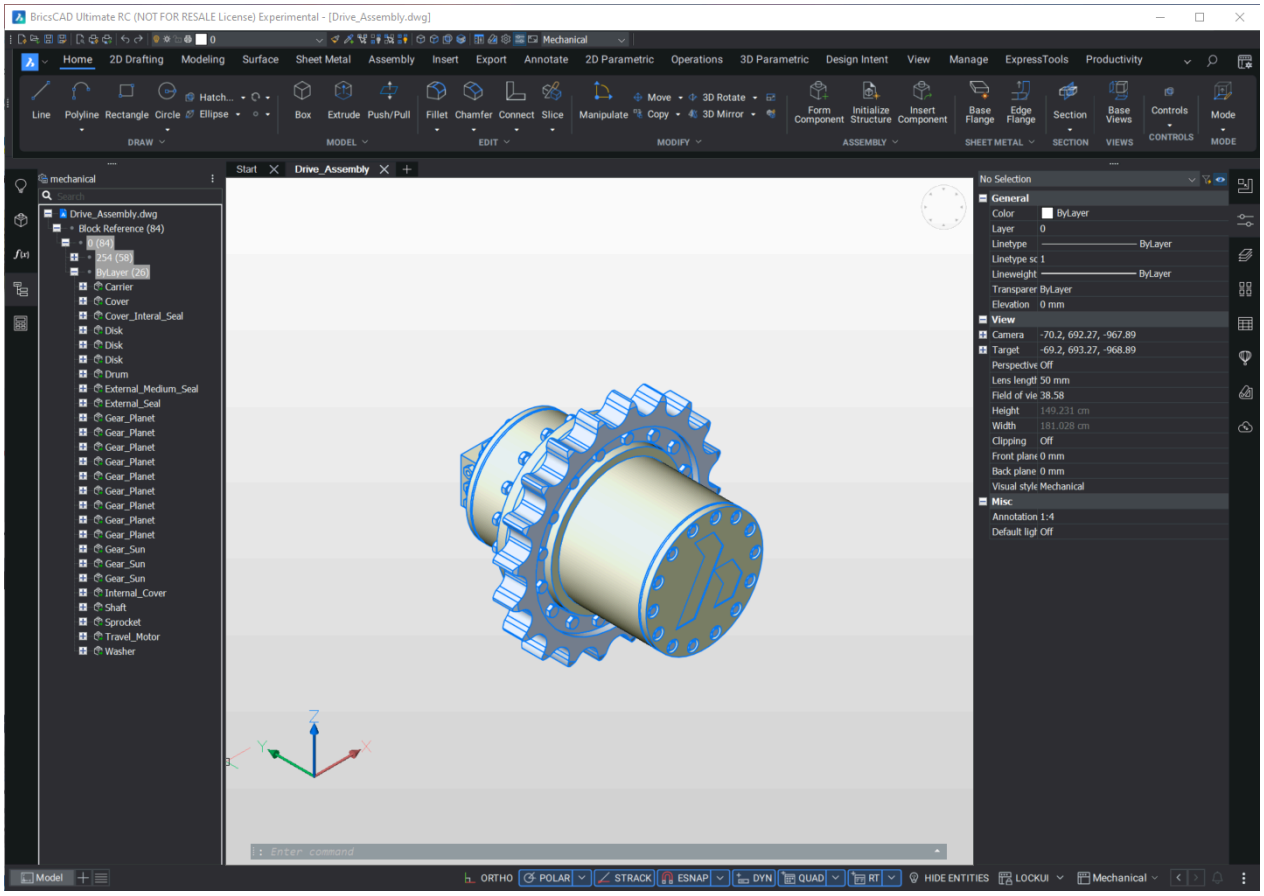
モデルタブとレイアウトタブ
BricsCADアプリケーションウィンドウ下部には、モデルタブと1つまたは複数のレイアウトタブがあり、モデル空間とペーパー空間を簡単に切り替えることができます。

ステータスバー
ステータスバーは、BricsCADアプリケーションウィンドウの下部のモデルタブとレイアウトタブと同じ行にあります。
ツールバーやリボンやパネルの空きスペースを右クリックし、コンテキストメニューから**ステータスバー**を選択すると、**ステータスバー**の表示/非表示を切り替えることができます。

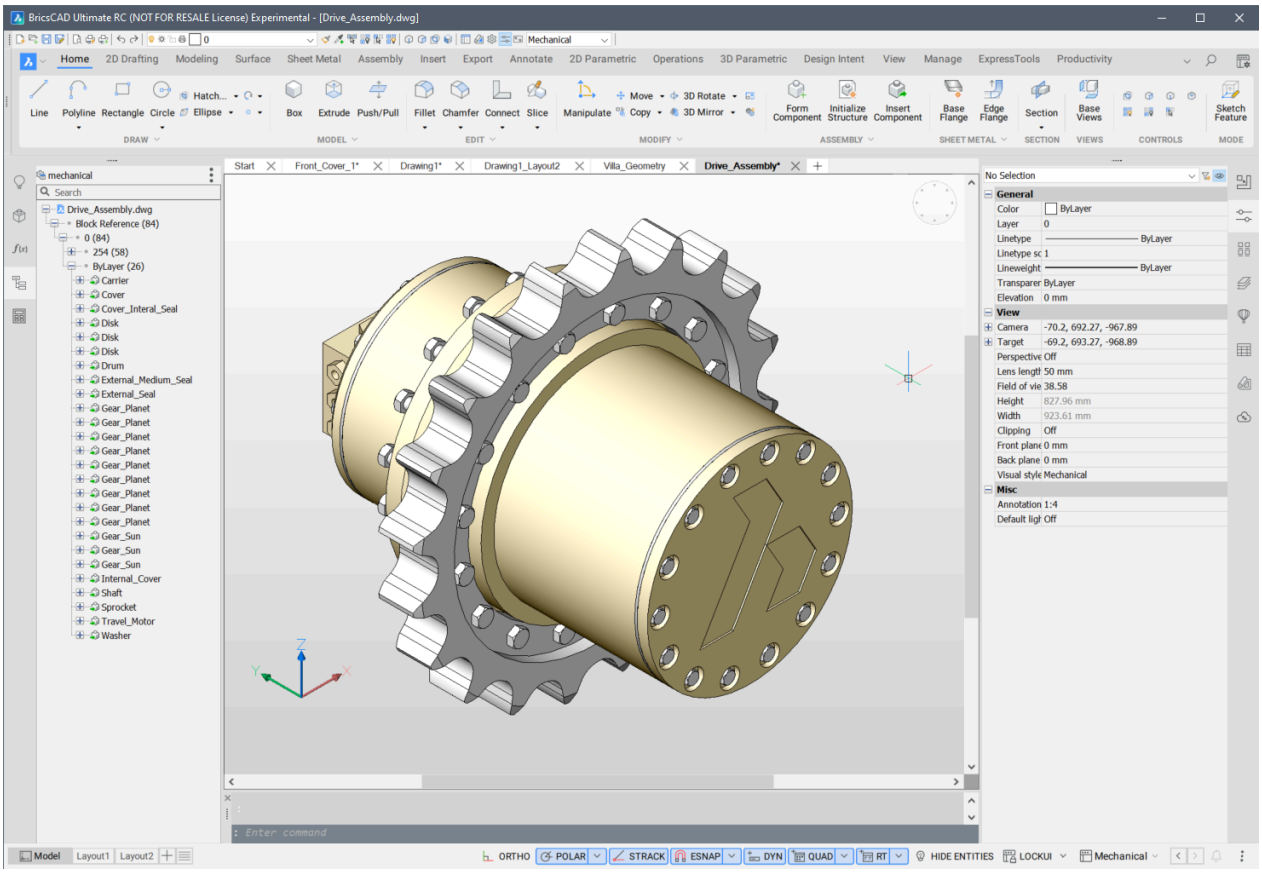
2.3.1.1 カラーテーマ

COLORTHEMEシステム変数は、リボン、パネル、ダイアログボックスなどのカラーテーマを設定します。ダーク(暗い色)またはライト(明るい色)のテーマを選ぶことができます。

ダークカラーテーマ(COLORTHEME = 0)：



ライトカラーテーマ(COLORTHEME = 1)。



カラーテーマを設定するには、以下のいずれかの操作を行います：

- コマンドラインでCOLORTHEMEと入力し、ライトなら1、ダークなら0を選択します。
- ツールバーやリボンパネル上で右クリックし、コンテキストメニューで**ダークインターフェース**を選択します。
- **インターフェース設定**ダイアログボックスが開き、**テーマ**を選ぶことができます。

2.3.1.2 ユーザーインターフェースの表示を隠す

CLEANSCREENONコマンドでは、ユーザーインターフェースの一部を同時に隠すことができます。

CLEANSCREENOPTIONSシステム変数は、どのユーザーインターフェース要素を隠すかを定義します。

Ctrl+0 キーボードショートカットで、クリーンスクリーンの状態が切り替わります。

AZERTYキーボードの場合：

- テンキーは使用しないでください。
- 数字キーを押すときは、Shiftを押さないでください。

2.3.2 スタートページ

スタートページは、GETSTARTEDシステム変数がオンの場合に、**BricsCADランチャ**ダイアログボックスが開くと表示されます。または、BricsCADセッション開始時に開きます。

また、作図領域の上部にある**ドキュメントタブ**の**スタート**タブをクリックして、**スタート**ページにアクセスすることもできます。

スタートページには、**ホーム**、**クラウド**、**学習**、**アプリケーション**、**インサイト**の各セクションがあります。

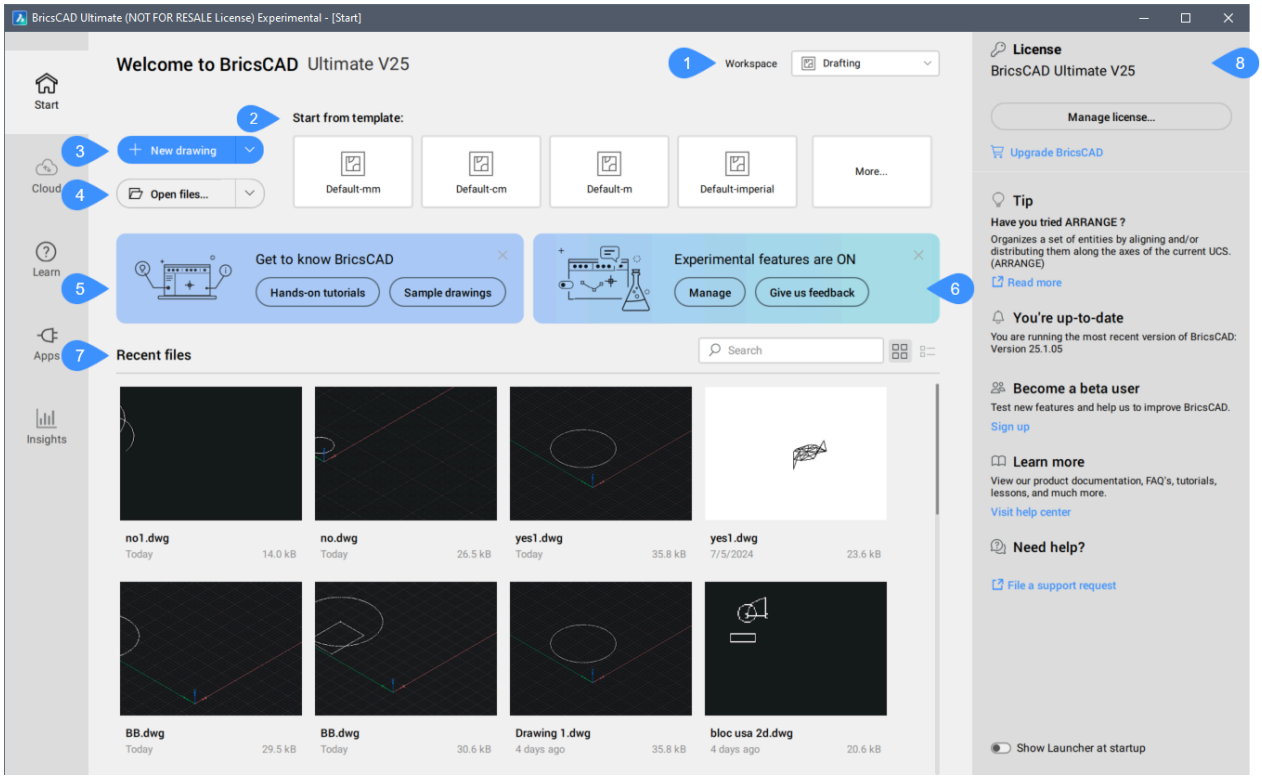
注 : クラウドタブは、**試験モード**を有効にした場合にのみアクティブになります。

デフォルトでは、**スタート** ページはアクティブになっています (STARTUP == 3)。誤って**ドキュメントタブ**から**スタート**タブを閉じてしまった場合は、キーボードショートカット**Ctrl+Home**またはGOTOSTARTコマンドで**スタート**ページを再表示できます。

注 :

- **ドキュメントタブ**を表示するには、SHOWDOCTABSシステム変数を**オン**にする必要があります (デフォルトでは、オン)。
- STARTUPシステム変数が2または3に設定されている場合、OSのファイルブラウザからDWGファイルをダブルクリックして開くと、**スタート**タブが**ドキュメントタブ**にロードされます。

2.3.2.1 スタートタブ



1 ワークスペース

2 テンプレートから開始

3 新しい図面

4 ファイルを開く

5 BricsCADについて

6 新規の試験機能です。

7 最近使用したファイル

8 右側のタブ

ワークスペース
ドロップダウンメニューからワークスペースを選択できます。

テンプレートから開始
前回使用したテンプレートを表示します。**詳細...**ボタンをクリックして、**テンプレートから新しい図面を作成**ダイアログボックスを開きます。リストからテンプレートを選択することも、カスタムテンプレートを参照して新しい図面を作成することもできます。各ワークスペースには、新しい図面用に事前定義されたテンプレートが用意されています。

新しい図面
現在の図面テンプレートを使用して新しい図面を作成します。

注：BIMワークスペースを使用して、新しいプロジェクトを作成するか、新しい図面を作成するかを選択できます。

右矢印をクリックして、追加オプションを表示します。

新規シートセットを作成
新規シートセットを作成ダイアログボックスが開きます。

新規ウィザードを開始
新規図面を作成ダイアログボックスを開きます。

ファイルを開く
ファイルを開くダイアログボックスが開き、既存の図面を参照できます。
右矢印をクリックして、追加オプションを表示します。

ファイルを開く(読み取り専用)
ファイルを開く(読み取り専用)ダイアログボックスで選択したファイルを読み取り専用に開きます。

シートセットを開く
シートセットファイルを選択ダイアログボックスが開き、シートセットファイルを参照できます。

修復
図面を開くダイアログボックスが開き、修復するファイルを選択できます。

BricsCADについて
選択したワークスペースでBricsCADを使用するための手順を追ったガイダンスが表示されます。TUTORIALSOPENコマンドが起動します。

注：TUTORIALSONSTARTPAGEシステム変数は、オプションの表示をコントロールします。

新規の試験機能です。
もっと知るまたは**管理**ボタンを押すことで、**テスト段階の機能**ダイアログボックスにアクセスできます。

注：

- EXPERIMENTALONSTARTPAGEシステム変数は、**スタート**タブのこのオプションの表示をコントロールします。新しい値は、プログラムを再起動すると考慮されます。
- テスト段階の機能を有効にすると、**管理**ボタンと**フィードバックをお寄せください**ボタンを使用することができます。
- **フィードバックをお寄せください**を選択すると、ウェブページが開き、テスト段階の機能についてフィードバックを送信できます。

最近使用したファイル
最近開かれたファイルのリストを表示します。ファイルのサムネイルイメージをクリックすると、簡単に開くことができます。

注：

- 使用可能な最近使用したファイルの数は、RECENTFILESシステム変数の値を設定してコントロールできます。
- ファイルを**グリッドビュー**または**表ビュー**モードで配置したり、特定のファイルを検索したりできます。

右側のタブ
BricsCADに関する情報をグループ化します。

ライセンス
BricsCADの現在のセッションで実行されているライセンスレベルを表示します。

注：

- **ライセンスの管理...**ボタンをクリックして、**Bricsysライセンス管理**ダイアログボックスを開きます。
- **BricsCADをアップグレード**ボタンをクリックして、Bricsysストアページを開きます。
- 体験版BricsCADを実行する場合は、**ライセンスを入力**(シリアル番号)または**BricsCADの購入**オプションを選択することもできます。

ヒント
コマンドのヒントを表示します。

注：続きを読むボタンを押すと、関連するヘルプセンター記事が開きます。

最新の状態に保たれています
最新バージョンのBricsCADを実行していることを通知します。

利用可能な更新
新しいバージョンのBricsCADが利用可能になったことを通知します。

注：最新バージョンをダウンロードボタンをクリックして、**BricsCADをダウンロード**ページを開きます。

現在オフラインです
インターネットに接続されていないため、BricsCADは更新を確認できません。

ベータ版ユーザーになる
ベータ版テスターになることができます。**サインアップ**ボタンをクリックして、**Bricsysベータテスタープログラム**ページを開き、プログラムにご参加頂けます。

詳細はこちら
ヘルプセンターにアクセスボタンをクリックして、**Bricsysヘルプセンター**ウェブサイトを開きます。

サポートが必要ですか？
サポートリクエストを入力ボタンを押すと、サポートリクエストを入力できるウェブサイトページが開きます。

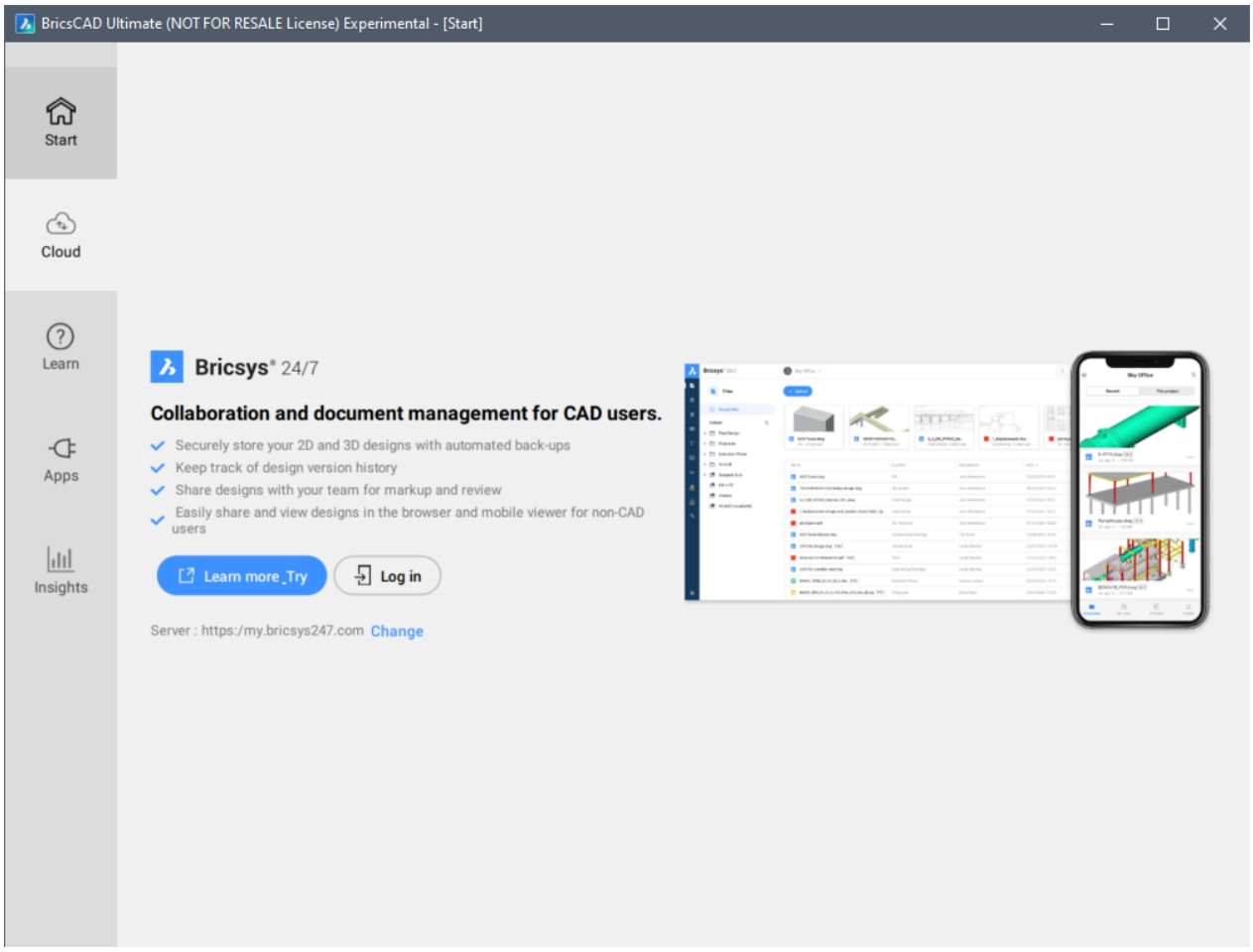
起動時にランチャを表示
チェックを入れると、起動時に**BricsCADランチャ**ダイアログボックスが開きます。

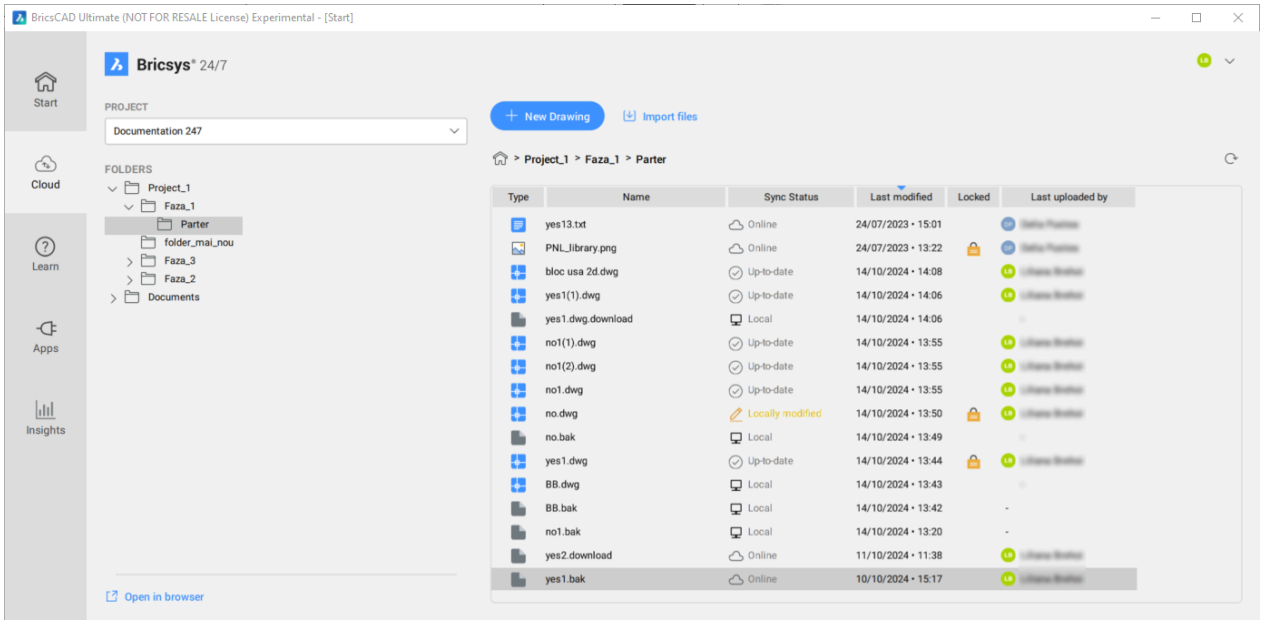
2.3.2.2 クラウドタブ(テスト段階)

EXP.

クラウドタブを使い、CADユーザのコラボレーションとドキュメント管理を行えます。

重要：クラウドはテスト段階の機能です。デフォルトでは、**クラウド**タブは無効になっています。**テスト段階の機能**ダイアログボックスで**試験モード**を有効にしてください。

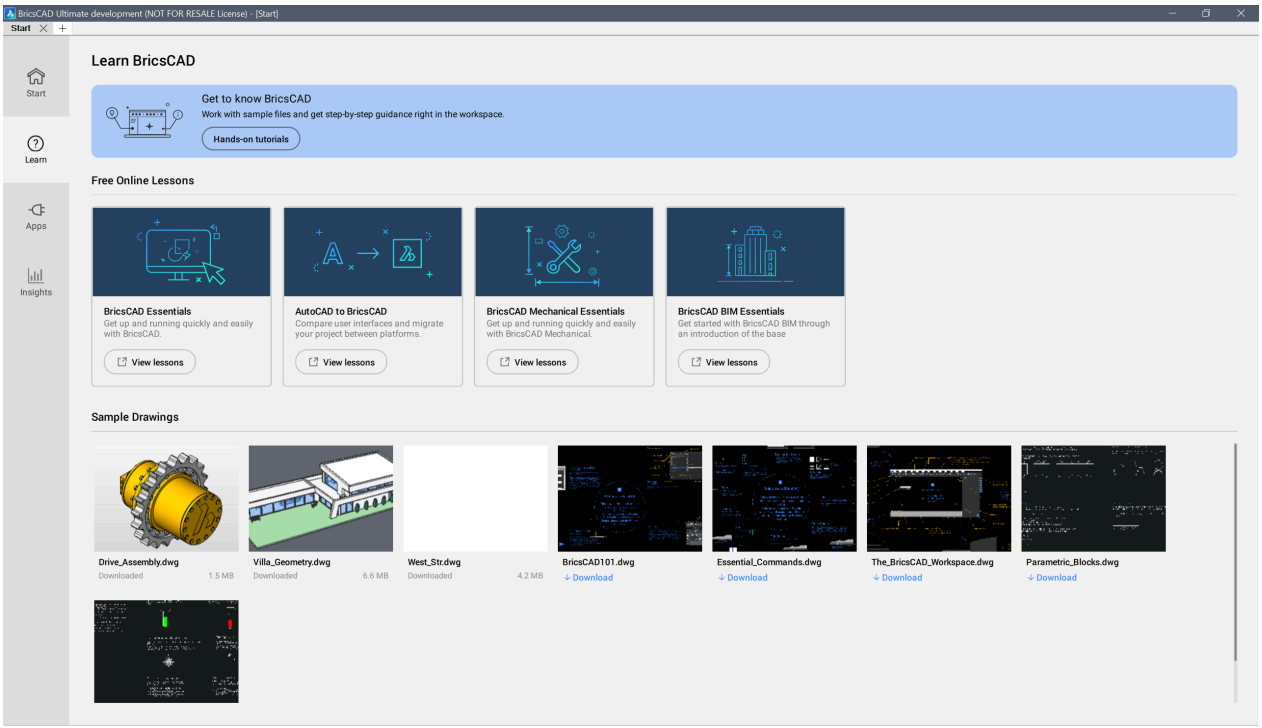




クラウド機能の詳細については、**クラウド**パネルに関する記事を参照してください。

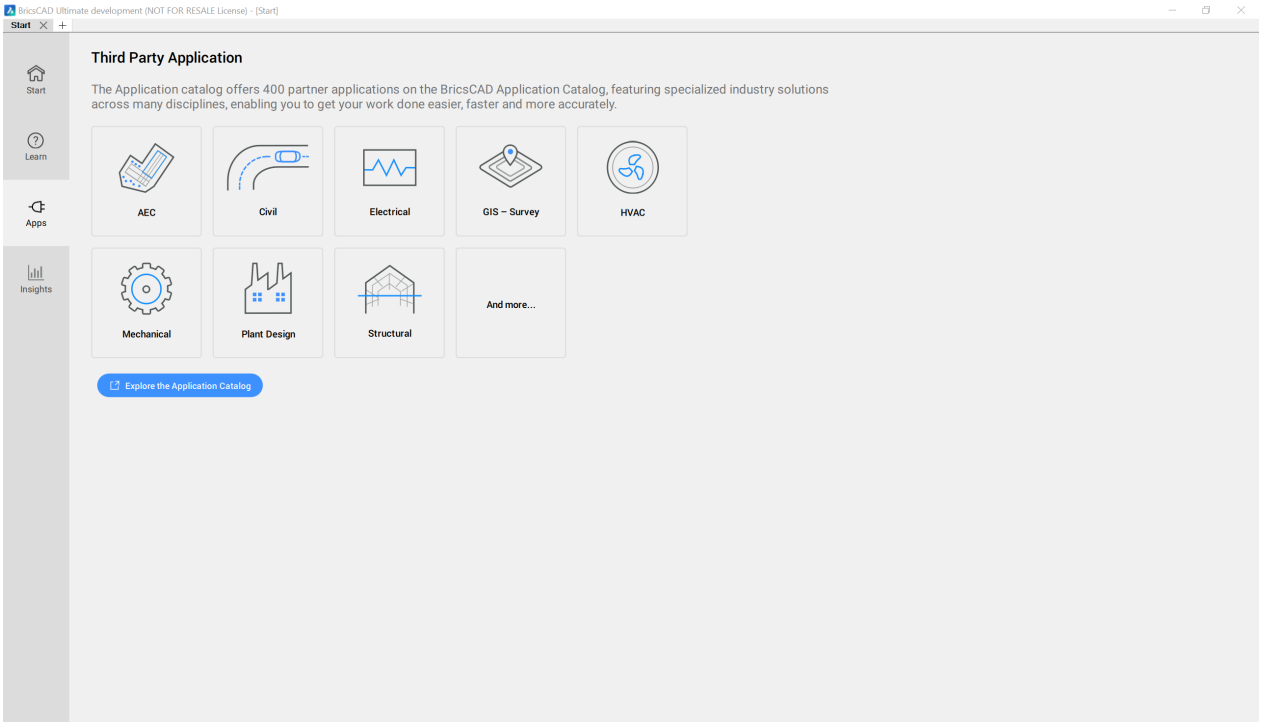
2.3.2.3 学習タブ

BricsCADを学習するための無料のビデオレッスンや、練習用のサンプル図面をご利用になれます。



2.3.2.4 アプリタブ

BricsCAD App Storeでは、400を超えるパートナーアプリケーションを提供しています。これらのアプリケーションは、多くの分野に特化した業界ソリューションを備えており、お客様がより簡単に、より速く、より正確に作業を行うことを可能にします。



ヒント：

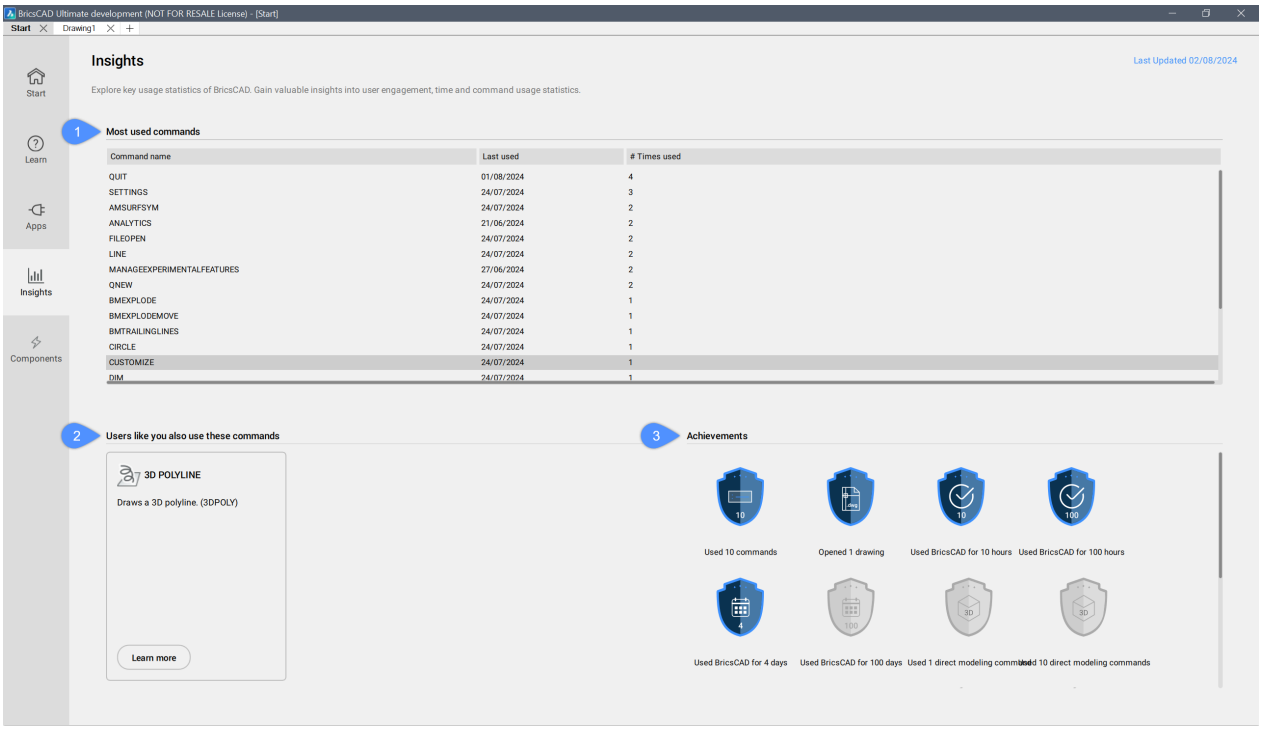
- カテゴリーをクリックすると、BricsCADアプリケーションカタログが開き、選択したカテゴリーに基づきアプリケーションが絞り込まれます。
- **BricsCADアプリケーションストア**をクリックして、完全なBricsCADアプリケーションカタログを開きます。

2.3.2.5 インサイトタブ

Bricsysサーバーと共有したデータの要約統計を表示できます。

インサイトタブには、ユーザにとって使用頻度の高いコマンド、興味深いと思われるコマンド、実績の概要が表示されます。

注：インサイトを得るには、BricsCAD Analyticsプログラムにご参加いただく必要があります。詳細については、**BricsCAD Analyticsプログラム**に関する記事を参照してください。



最もよく使用するコマンド
使用頻度の高いコマンドの名前、最後に使用した日時、使用回数が一覧表示されます。

同じ傾向のユーザが使用するコマンド
お客さまと類似するユーザのアプリケーション使用状況に基づきコマンドを一覧表示します。
詳細はこちらボタンをクリックすると、関連するヘルプセンター記事が開きます。

実績
実績には、青色と灰色の2つの状態があります。
青色：実績が完了したことを意味します。
灰色：実績がまだ完了していないことを意味します。

注：**インサイト**タブはライブ更新されません。クラウド側で1日に数回更新されます。

2.3.3 ドキュメントタブ

現在開いている図面ごとに、作図領域の上部に図面タブが表示されます。

ドキュメントタブで可能なこと：

- 開いている図面の切り替えが簡単にできます。
- 新しい図面を作成する：タブの右側にある+ボタンをクリックします。
- 図面を閉じる：ドキュメントタブの**X**をクリックします。

注：

- **ドキュメントタブ**を表示するには、SHOWDOCTABSシステム変数を**オン**にする必要があります (デフォルトでは、オン)。
- STARTUPシステム変数が2または3に設定されている場合、OSのファイルブラウザからDWGファイルをダブルクリックして開くと、**スタート**タブが**ドキュメントタブ**にロードされます。

2.3.4 ワークスペースの選択

デフォルトのワークスペースは次のとおりです：

- **作図**: BricsCAD Lite 以上のライセンスレベルが必要です
- **モデリング**: BricsCAD Pro 以上のライセンスレベルが必要です
- **土木測量**: BricsCAD Pro 以上のライセンスレベルが必要です
- **Mechanical**: BricsCAD Mechanical または BricsCAD Ultimate のライセンスレベルが必要です
- **BIM**: BricsCAD BIM または BricsCAD Ultimate のライセンスレベルが必要です
- **コンプリート**: BricsCAD Ultimate のライセンスレベルが必要です

カレントのワークスペースは、BricsCAD アプリケーションウィンドウの全体的なレイアウトを設定します。

ワークスペースは以下の表示内容を定義します：

- メニュー
- ツールバー
- パネル
- リボン
- クワッドの基本

カレントのワークスペースは以下から設定できます：

- BricsCADランチャ
- スタートページ。
- ステータスバーのカレントのワークスペース欄
- ワークスペースツールバー
- WORKSPACEコマンド

2.3.5 作図領域

作図を始めるときの最初の作業領域を**モデル空間**と言います。モデル空間は、ワールド座標系(WCS)やユーザ座標系(UCS)で二次元モデルや三次元モデルを作成するための作業領域です。BricsCADには、**ペーパー空間**と呼ばれる追加の作業領域が用意されています。各レイアウトは1枚の用紙を表します。BricsCADでは、1図面から作成できるレイアウトの数に制限はありません。

モデル空間で表示および作業するには、**モデル**タブを使用します。作図領域の下部にある**レイアウト**タブの 1 つをクリックして、ペーパー空間に切り替えます。

2.3.5.1 モデル空間

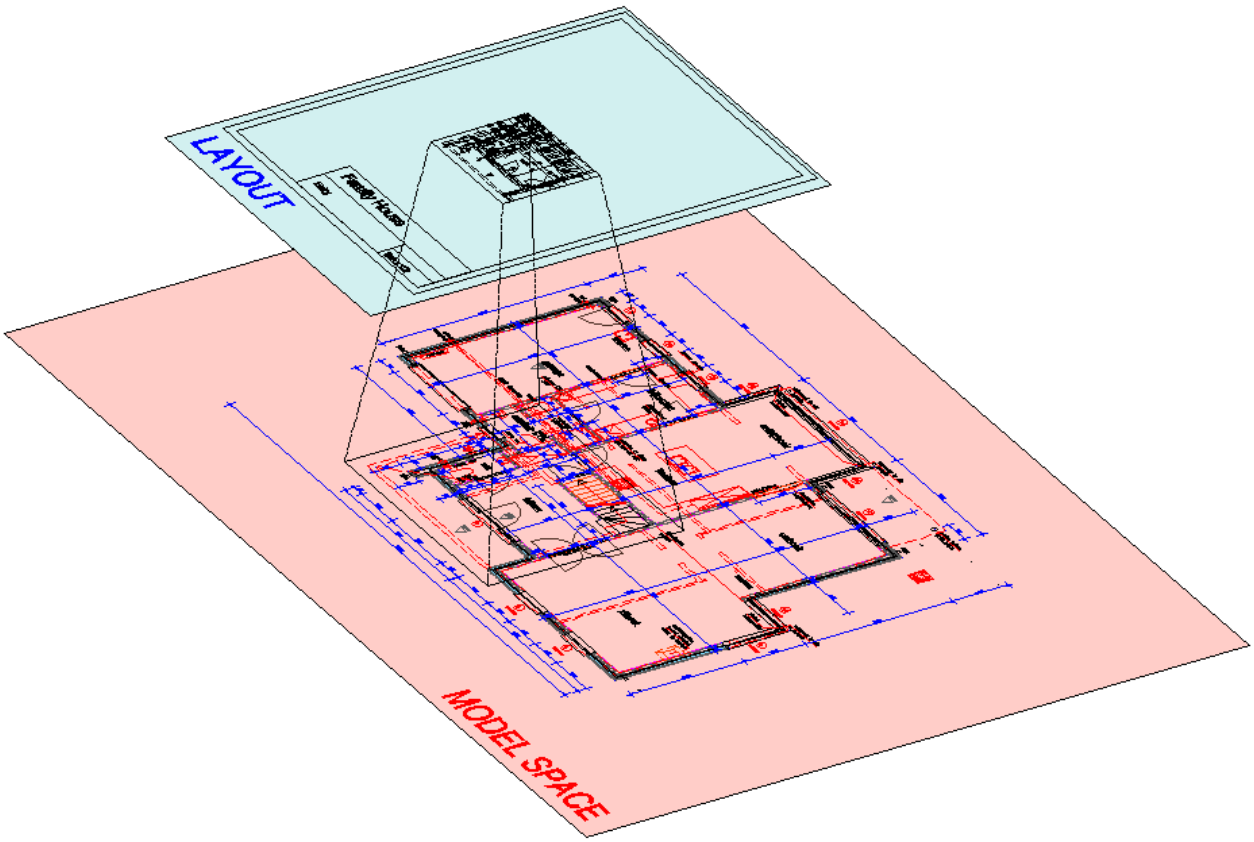
モデル空間は、画面全体に表示される1つのビューで構成されます。必要に応じて、ビューポートと呼ばれる追加のビューを作成して、図面や3Dモデルのさまざまなビューを表示できます。VPORTSコマンドを使用して、図面ビューポートを管理できます。

ビューポートはタイルとして表示されます。これらのビューポートのうち、一度に作業を行えるのは1つだけですが、すべてのビューポートが同時に更新されます。ビューポート内をクリックすると、カレントのビューポートになります。

2.3.5.2 ペーパー空間

ペーパー空間は、図面のペーパーレイアウトを表します。この作業領域では、用紙に図面を配置する場合と同様の方法で、図面のさまざまなビューを作成して配置できます。ペーパー空間では、モデル空間で表示しないキーノート、注釈、境界、タイトルブロックなど、印刷関連の図形を追加することもできます。

各図面には少なくとも1つの**レイアウト**があり、1つまたは複数のレイアウトビューポートを作成することができます。レイアウトビューポートは、モデル空間の図面上のビューウィンドウと考えることができます。



レイアウトビューポートは、ペーパー空間レイアウトの任意の場所に配置できます。レイアウトビューポートごとに、尺度と画層の表示/非表示を設定できます。同じレイアウト内のすべてのビューポートを同時に印刷できます。

MVIEWコマンドを使用して、レイアウトビューポートを管理できます。

ペーパー空間には、図面の印刷時に以下の利点があります。

- 複数のビューポートを作成して、複数のビューを印刷することができます。これらのビューごとに、図面の一部を同じ尺度で表示することも、異なる尺度で表示することもできます。
- 複数のレイアウトを作成して、同じ図面を異なる印刷設定(ペン幅、プリンタ設定ファイル、線の太さ設定、図面の尺度など)で印刷できます。
- キーノート、注釈、タイトルブロックなど、モデル自体に必須ではない印刷関連の図形を追加できます。

2.3.6 Look From表示

Look Fromウィジェットを使い、図面の表示をコントロールすることができます。正射投影ビューやアイソメトリックビューなど、数種類のプリセットビューを選択できます。

デフォルトでは、**Look From**ウィジェットはグラフィック画面の右上に表示されます。

Look Fromウィジェットの動作は、システム変数やユーザー設定によってコントロールできます。

2.3.7 ホットキーアシスタントウィジェット

2.3.7.1 説明

ホットキーアシスタントウィジェットは、HOTKEYASSISTANTシステム変数を使用してオン/オフを切り替えることができます。ウィジェット内のオプションは、ウィジェットを使用可能なコマンドによって異なります。

例えば、SELECTコマンドの場合、ホットキーアシスタントでは以下のオプションを使用できます。

1 図形を選択

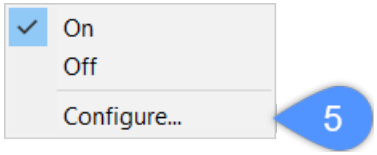
2 面を選択

3 エッジを選択

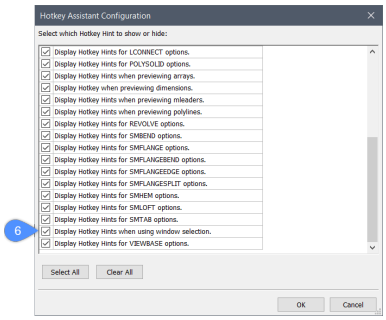
注：また、ステータスバーの**HKA**ボタン(4)を右クリックして、ホットキーアシスタントウィジェットのオン/オフを切り替えることもできます。

2.3.7.2 特定のコマンド/アクションに対するウィジェットの非アクティブ化/再アクティブ化

ウィジェットが特定のコマンドまたはアクション(選択、ドラッグ、編集)に対して非アクティブ化されている場合は、**ホットキーアシスタントの設定**ダイアログボックスを使用してウィジェットを再アクティブ化できます。同じダイアログボックスを使用して、これらのコマンド/アクションに対するウィジェットを非アクティブ化できます。**ホットキーアシスタントの設定**ダイアログボックスを開くには、ステータスバーの**HKA**ボタンを右クリックし、**設定...**オプション(5)をクリックします。



ホットキーヒントオプションが目的のコマンド(6)に対して有効になっていることを確認してください。



2.3.8 コマンドライン

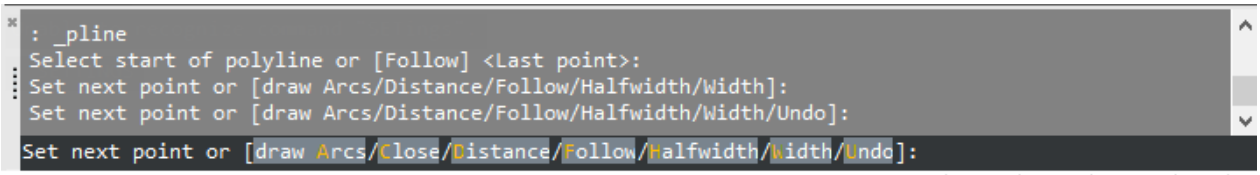
コマンドラインを表示するには、以下のいずれかの操作を行います：

- COMMANDLINEコマンドを起動します。
- Shift+F2ボードショートカットを使用します。
- ドッキングされたツールバー、リボン、またはパネルアイコンにカーソルを移動し、右クリックしてコンテキストメニューから**パネル** > **コマンドライン**を選択します。
- **ステータスバー**の左側をダブルクリックします。

2.3.8.1 コマンドライン状態の設定

コマンドラインは、ドッキングすることも、フローティングにすることもできます。

デフォルトでは、コマンドラインはBricsCADアプリケーションウィンドウの下部にドッキングされています：



コマンドラインの高さを変更するには、次のようにします。

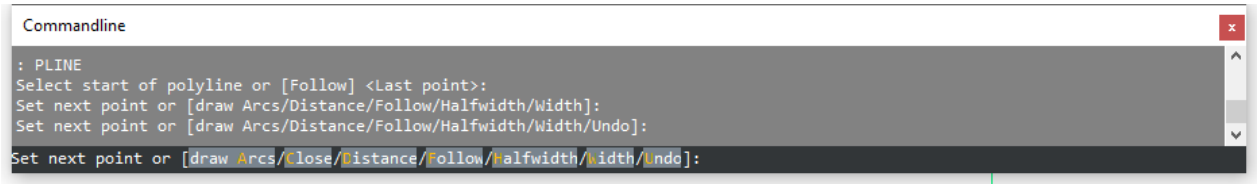
1 カーソルをコマンドラインの上端に合わせます。

2 二重矢印が表示されたら、マウスの左ボタンを長押しします。

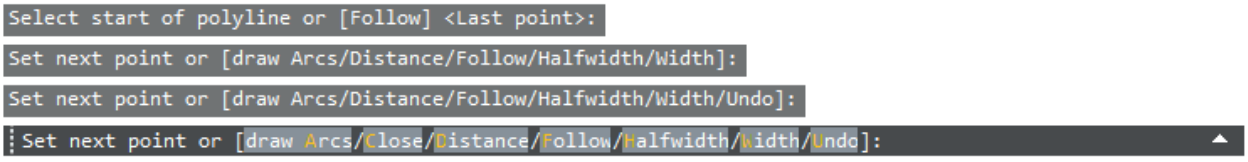
3 マウスを動かします。

閉じる(X)ボタンをクリックしてコマンドラインを閉じます。

カーソルを点線の左側に移動し、左マウスボタンを押したままにして、コマンドラインをフローティングにします。



コマンドラインがフローティングの場合、CMDLINEUSEMINIFRAMEシステム変数の値を1にすると、コマンドラインが1行になります。コマンドを実行すると、グラフィック画面にいくつかのプロンプトが一時的で透過的に表示されます。



プロンプト行数は、CLIPROMPTLINESシステム変数で設定されます。

右側の上矢印をクリックすると、**プロンプト履歴**ウィンドウが表示されます。

コマンドラインのウィンドウをグラフィック画面の下部近くに移動すると、そこに固定されます。

注：

- キーボードの上矢印キーと下矢印キーを使用して、コマンド履歴を参照できます。Enterを押すとコマンドを再開します。
- コマンドラインを閉じると、コマンドオプションとキーボード入力が **Status** バーに表示されます。
- F2を押すと、**プロンプト履歴**ウィンドウが切り替わります。

2.3.8.2 コマンドラインでコマンドを起動

システム変数AUTOCOMPLETEMODEの**Enable**フラグが設定されている場合、コマンドエントリは入力時に自動的に入力されます。

現在の文字列を含むすべてのコマンドやシステム変数、ユーザー設定が、**候補**リストに表示されます。

以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押して、ハイライト表示されたコマンドを選択します。
- 下矢印キーまたは上矢印キーを使用してコマンドを選択し、Enterを押します。
- リスト内のコマンドをクリックします。
- コマンド名を入力し、Enterを押します。

2.3.8.3 入力履歴を表示する

コマンドプロンプトまたは入力プロンプトで上矢印キーと下矢印キーを使い、最近のコマンド入力の履歴を表示してコマンドを再実行できます。

注：直近の入力ポイントの位置がマーカーで作図領域に表示されます。マーカーの表示は、システム変数のSNAPMARKERSIZE、SNAPMARKERCOLOR、およびSNAPMARKERTHICKNESSで制御できます。

要確認：入力履歴には、現在のコマンドから遡って12項目(現在と前回の実行から)と、他に前回のコマンド実行から遡って12項目を含みます。

2.3.8.4 コマンドラインプロパティの設定

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **プログラムオプション** > **ユーザ設定** > **コマンドライン**に移動します。

2.3.9 ステータスバー

ステータスバーを表示するには、以下のいずれかの操作を行います。

- ドッキングされたツールバー、リボン、またはパネルのアイコンにカーソルを移動し、右クリックしてコンテキストメニューから**ステータスバー**を選択します。

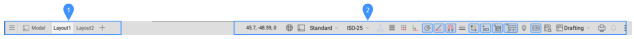
- キーボードショートカットの**Shift+F3**を押します。

上記の操作で**ステータスバー**の表示/非表示が都度切り替わります。

注：デフォルトでは、新しい**ステータスバー**が表示されます。

2.3.9.1 新しいステータスバー

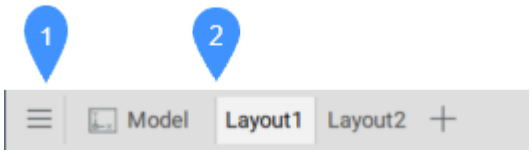
デフォルトでは、新しい**ステータスバー**が表示されます(USENEWSTATUSBARシステム変数がオンの状態)。モデルタブとレイアウトタブ(1)と**[ステータスバー**セクション(2)が1行で表示されます。



1 モデルタブとレイアウトタブ

2 ステータスバーセクション

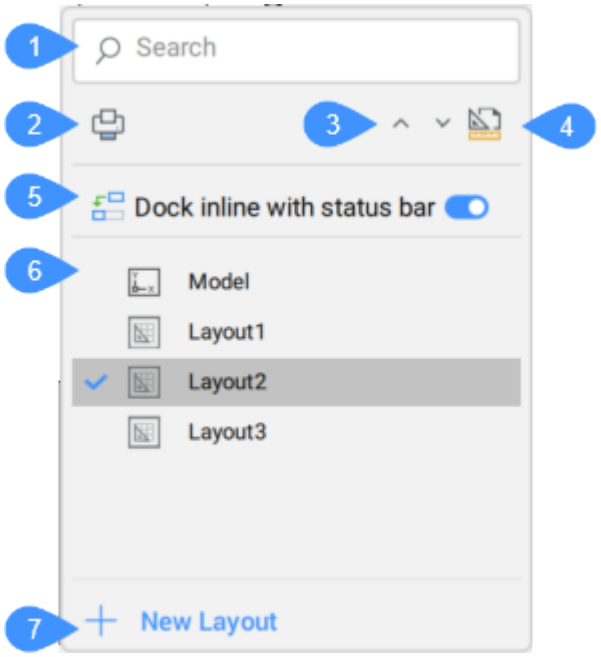
モデルタブとレイアウトタブ
モデルタブとレイアウトタブを表示します。



1 モデルとレイアウトの管理メニュー

2 モデルタブとレイアウトタブ

モデルとレイアウトの管理メニュー
モデルとレイアウトの管理メニューが開き、レイアウトを作成、コピー、削除できます。



1 検索

2 パブリッシュ

3 上へ移動、下へ移動ボタン

4 ページ設定

5 ステータスバーとインラインでドッキングボタン

6 モデルとレイアウトリスト

7 新規レイアウトボタン

検索
レイアウト名を検索し、検索されたレイアウトのみを表示します。これは、図面に多くのレイアウトが含まれている場合に便利です。

パブリッシュ
パブリッシュダイアログボックスが開きます。

上へ移動、下へ移動ボタン
選択したレイアウトをリスト内で上下に移動します。

ページ設定
ページ設定ダイアログボックスを開きます。

ステータスバーとインラインでドッキングボタン
オンにするとモデルタブとレイアウトタブが**ステータスバー**と1行で表示されるので、広い作図領域を確保できます。オフにすると、モデルタブとレイアウトタブは**ステータスバー**の上に配置されます。

モデルとレイアウトリスト
モデルと使用可能なレイアウトを一覧表示します。
レイアウト名をダブルクリックすると、コンテキストメニューが開き、**レイアウトの名前を変更**、**レイアウトをコピー**、**パブリッシュ**、**削除**オプションを選択できます。

新規レイアウトボタン
新しいレイアウトを追加し、リストの末尾に追加します。

注：LAYOUTMANAGERコマンドを実行すると、**レイアウト管理**ダイアログボックスが開き、レイアウトの作成、コピー、削除が行えます。

モデルタブとレイアウトタブ
モデルタブとレイアウトタブを表示します。レイアウトを右クリックするとコンテキストメニューが開き、以下のオプションが表示されます：

新規レイアウト
新しいレイアウトを作成し、タブリストの末尾に追加します。

テンプレートより
ファイルからテンプレートを選択ダイアログボックスで選択したテンプレートファイルから新しいレイアウトを作成します。

削除
レイアウトを削除します。

名前変更
レイアウトの名前を変更します。

複写
レイアウトのコピーを作成し、タブリストでレイアウトの後に追加します。

左に移動
レイアウトをタブリスト内で左に移動します。

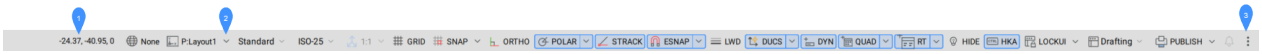
右に移動
レイアウトをタブリスト内で右に移動します。

ページ設定
ページ設定ダイアログボックスを開きます。

印刷
印刷ダイアログボックスを開きます。

書き出し
指定した図面に**レイアウトを図面に書き出し**ダイアログボックスで選択したレイアウトを書き出します。

ステータスバーセクション



1　表示フィールド

2　ドロップダウンボタン

3　ステータスバーメニュー

ステータスバー(1)の各フィールドをクリックすると、オン/オフが切り替わります。各フィールドを右クリックするかドロップダウンボタン(2)をクリックすると、フィールドのコンテキストメニューまたは設定が表示されます。各フィールドにカーソルをあてると、名称と説明が表示されます。BricsCADの画面が狭いときは、各フィールドはアイコンで表示されます。

表示フィールド
ステータスバーの表示フィールドを表示します。フィールドをクリックすると、表示と非表示が切り替わります。フィールドを右クリックするとコンテキストメニューが開き、**設定**または**カスタマイズ**オプションが表示されます。

ドロップダウンボタン
フィールドに選択できるオプションがポップアップリストに表示されます。

ステータスバーメニュー
ステータスバーで使用可能なフィールドの**ステータスバー設定**リストが表示されます。リスト内の項目をクリックすると、**ステータスバー**の対応するフィールドの表示が切り替わります。ステータスバー設定リスト内のフィールドの位置は、**ステータスバー**のフィールドの位置に対応しています。**ステータスバー**の各フィールドにカスタマイズと設定のオプションを選択できます。ドロップダウンボタンをクリックするか、右クリックしてオプションを選択します。

2.3.9.2　ステータスバーで使用可能なフィールド

カーソル座標値
現在のカーソル位置の座標を表示します。(COORDSシステム変数の値による)
ステータスバーのフィールドをクリックして、コンテキストメニューを開きます。長さ単位と座標設定を変更することができます。

GIS座標系
カレントのGIS座標系の名称を表示します。

ペーパー空間/モデル空間
モデル空間とペーパー空間を切り替えたり、ビューポートやレイアウトを切り替えることができます。

- **モデル空間**で作業しているときは、フィールドが読み込まれます。

  タイル(＝タイル状のビューポートを持つモデル空間)。

クリックすると、最後に開いたペーパー空間レイアウトに切り替わります。

- レイアウト空間が表示されている場合、下記の二通りで切り替えることができます。
- **M:Layout**：フローティングビューポートを持つモデル空間

  または

  P:Layout：ペーパー空間

  クリックすると、フローティングビューポートでペーパー空間とモデル空間が切り替わります。

カレント画層
カレントの画層の名前を表示します。
- クリックすると、ポップアップリストが開き、使用可能な画層が表示されます。
- ポップアップリストでカレントの画層をクリックして選択します。
- ボタンをクリックして、画層のプロパティを切り替えます。

カレントの色
カレントの色を表示します。
- クリックすると、ポップアップリストが開き、色オプションが表示されます。
- ポップアップリストでカレントの色をクリックして選択します。
- **色を選択**オプションをクリックして、**色**ダイアログボックスを開きます。

カレントの線種
カレントの線種の名前が表示されます。
- クリックすると、ポップアップリストが開き、線種オプションが表示されます。
- ポップアップリストでカレントの線種をクリックして選択します。
- **ロード**オプションをクリックして、**線種をロード**ダイアログボックスを開きます。
- **プロパティ**オプションをクリックして、**図面エクスプローラ** > **線種**ダイアログボックスを開きます。

カレントの文字スタイル
カレントの文字スタイルの名前を表示します。
- クリックすると、ポップアップリストが開き、文字スタイルのオプションが表示されます。
- ポップアップリストでカレントの文字スタイルをクリックして選択します。
- **プロパティ**オプションをクリックして、**図面エクスプローラ** > **文字スタイル**ダイアログボックスを開きます。

カレントの寸法スタイル
現在の寸法スタイルの名称を表示します。
- クリックすると、ポップアップリストが開き、寸法スタイルのオプションが表示されます。
- 次に、ポップアップリストでカレントの寸法スタイルをクリックして選択します。
- また、**プロパティ**オプションをクリックして、**図面エクスプローラ** > **寸法スタイル**ダイアログボックスを開きます。

グリッド
GRIDMODEシステム変数の状態をコントロールします。
- クリックすると、現在のビューポートでのグリッドの表示が切り替わります。
- 右クリックして、コンテキストメニューの**設定**を選択すると、**スナップとグリッド**の設定を編集することができます。

スナップ
SNAPMODEシステム変数の状態をコントロールします。
- フィールドをクリックすると、SNAPMODE **On/Off** が切り替わります。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストでカレントのSNAPTYPEシステム変数オプションをクリックして選択します。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストで**設定**を選択して、**スナップとグリッド**の設定を編集します。

ダイナミック入力(DYN)
DYNMODEシステム変数の状態をコントロールします。
- クリックすると、ダイナミック寸法の**オン/オフ**表示が切り替わります。

直交
ORTHOMODEシステム変数の状態をコントロールします。**Ortho** をオンにすると、**Polar** が自動的に無効になります。
- クリックすると、直交の**オン/オフ**表示が切り替わります。
- 右クリックして、コンテキストメニューから**設定**を選び、ORTHOMODEシステム変数を編集します。

極
AUTOSNAPシステム変数の**極トラック**オプションを切り替えます。
- Click to toggle Polar Tracking **On/Off**.**Polar** をオンにすると、**Ortho** が自動的に無効になります。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストでカレントのPOLARANGシステム変数オプションをクリックして選択します。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストで **設定**を選択して、**極トラック**の設定を編集します。

スナップトラック
AUTOSNAPシステム変数の**図形スナップトラック**オプションの状態を表示します。
- クリックすると、スナップトラックの**オン/オフ**表示が切り替わります。
- 右クリックして、コンテキストメニューの**設定**を選び、**スナップトラック**の設定を編集します。

図形スナップ
OSMODEシステム変数の**図形スナップ**オプションの状態を示します。
- クリックすると、図形スナップの**オン/オフ**表示が切り替わります。
- ドロップダウンボタンをクリックして、**図形スナップ設定**ポップアップリストを開き、オプションをクリックして有効にします。
- ポップアップリストで**設定**を選択して、**2Dおよび3D図形スナップ**設定を編集します。

線の太さ
LWDISPLAYシステム変数の状態をコントロールします。
- クリックすると、線の太さの**オン/オフ**表示が切り替わります。

選択の循環
SELECTIONCYCLINGシステム変数のステータスを示します。
- クリックして、選択の循環の**表示/非表示**を切り替えます。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストでカレントのSELECTIONCYCLINGシステム変数オプションをクリックして選択します。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストで **設定**を選択して、**選択の循環**の設定を編集します。

ダイナミックUCS(DUCS)
UCSDETECTシステム変数の状態をコントロールします。
- クリックすると、UCSDETECT システム変数 **On/Off** が切り替わります。

- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストで、サポートされている図形タイプをクリックして選択します。
- - **3Dソリッドの面上のDUCS**：3Dソリッドの面とリージョン。
  - **他の図形上のDUCS**：2D線形図形。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストで**設定**を選択して、**UCS検出**設定を編集します。

自動尺度変更
ANNOAUTOSCALEシステム変数の状態を示します。**On** の場合、アノテーションエンティティは現在のアノテーションスケールと同期します。フィールドをクリックすると、ANNOAUTOSCALE **On/Off** が切り替わります。

注釈尺度
システム変数CANNOSCALE(＝現在の注釈尺度)の値を表示します。ドロップダウンボタンをクリックすると、ポップアップリストが開きます。
- リスト内の注釈尺度を選択します。
- **カスタム：尺度一覧の編集**ダイアログボックスを開きます。
- **外部参照尺度を非表示**：現在の図面の注釈尺度のみを一覧表示します。

注釈モニター
ANNOMONITORシステム変数の状態を示します。
- クリックすると、ANNOMONITORの**オン/オフ**表示が切り替わります。
- 右クリックしてコンテキストメニューから**設定**を選択し、**注釈モニター**の設定を編集します。

ビューポートロック(VPLOCK)
現在のビューポートまたは選択したビューポート（複数可）の **Display Locked** プロパティの状態を表示します。VPLOCK」フィールドをクリックすると、プロパティ **On/Off** が切り替わります。
VPLOCKフィールドは、1つ以上のペーパー空間ビューポートが選択されている場合、またはビューポートがアクティブな場合(フローティングビューポートを持つモデル空間)にのみ表示されます。

ビューポート標準尺度
選択したレイアウトビューポートのペーパー空間に対するスケールを簡単に設定できます。

タブレット
作図タブレットの使用を初期化します。
右クリックしてコンテキストメニューから**設定**を選択し、**タブレットモード**の設定を編集します。

クワッド
QUADDISPLAYシステム変数の状態をコントロールします。
- クリックすると、クワッドの**オン/オフ**表示が切り替わります。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストでオプションをクリックして選択します。
- - **カーソルを置いたときクワッドを表示**
  - **選択時にクワッドを表示**
  - **右クリック時にクワッドを表示**
  - **図形選択時はポインタ上のクワッドは非表示**
  - **オン/オフ**
  - **クワッドアイテムをカスタマイズ...**：**カスタマイズ** > **クワッド**ダイアログボックスを表示します。
  - **設定...**：**設定** - **クワッド表示**ダイアログボックスを表示します。

ロールオーバーヒント(RT)
ROLLOVERTIPSシステム変数の値をコントロールします。
- クリックしてロールオーバーヒントの表示/非表示を切り替えます。
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストで、使用可能なロールオーバーヒント表示オプションをクリックして選択します。
- - **ポインタ図形上でロールオーバーを表示**
  - **ロールオーバーヒントなし**
  - **ブロックパラメータを表示**
- ドロップダウンボタンをクリックし、ポップアップリストで**カスタマイズ...**を選択して、**カスタマイズ** > **プロパティ**ダイアログボックスを開きます。ここでは、各図形の**ロールオーバーの情報**に表示するプロパティを定義できます。

図形の非表示/選択表示
図面内に非表示のオブジェクトがある場合にのみハイライト表示されます。
- フィールドをクリックしてオプションを開きます。
  - **選択表示**：ISOLATEOBJECTSコマンドを起動します。
  - **非表示**：HIDEOBJECTSコマンドを起動します。
  - **すべて表示**：UNISOLATEOBJECTSコマンドを起動します。

ホットキーアシスタント(HKA)
HOTKEYASSISTANTシステム変数の値を示します。スイッチを入れると **On** 、画面下のアシスタントウィジェットには、Ctrlキーを押すことで利用できるオプションが表示されます。
- クリックすると、HKAウィジェットの**オン/オフ**表示が切り替わります。
- 右クリックしてコンテキストメニューで**設定**オプションを選択し、**ホットキーアシスタントの設定**ダイアログボックスを表示します。HOTKEYASSISTANT = ONのときに、HKAウィジェットを表示させたいコマンドを選択します。

カレントのワークスペース
カレントのワークスペースの名前を表示します。
- クリックすると、コマンドラインでWSCURRENTシステム変数の値の設定が行えます。
- ポップアップリストでカレントのワークスペースをクリックして選択します。
- ポップアップリストで**カスタマイズ**を選択して、**カスタマイズ** > **ワークスペース**ダイアログボックスを開きます。

ロックユーザーインターフェース(LOCKUI)
ツールバーやドッキング可能なパネルの位置やサイズを固定することができます。
- クリックすると、ロックの**オン/オフ**表示が切り替わります。
- ドロップダウンボタンをクリックしてポップアップリストを表示します。
- - ロックするUIアイテムをツールバー、パネル、またはその両方から選択します。
  - **設定...**を選択して、**設定**のダイアログボックスでLOCKUIシステム変数の値を設定します。

パブリッシュモニター
パブリッシュ処理を管理します。このボタンは、パブリッシュが進行中はハイライトされます。
ドロップダウンボタンをクリックしてポップアップリストを表示します：
- **ジョブをキャンセル**：進行中のパブリッシュジョブをキャンセルします。
- **パブリッシュ**：**パブリッシュ**ダイアログボックスを開きます。
- **パブリッシュログを表示**：**パブリッシュ出力**ダイアログボックスを開きます。

通知を表示
通知の表示を切り替えます。

2.3.9.3 古いステータスバー

USENEWSTATUSBARシステム変数をオフにすると、古い**ステータスバー**に戻ります。

1 ステータスフィールド

2 フィールドリストボタン

ステータスフィールド

- ソフトウェアの状態を表示します。
- カーソルをステータスバーの各項目上に置くと、その項目の説明を表示します。
- コマンドラインが非表示の時、コマンドプロンプト、ツールオプション、キーボードからの入力がステータスバーに表示されます。
- ダブルクリックでコマンドラインの表示/非表示を切り替えることができます。

フィールドリストボタン

利用できる**ステータスバー**フィールドのリストを表示するには、矢印ボタン(▾)をクリックします。リスト内の項目をクリックすると、**ステータスバー**の対応するフィールドの表示が切り替わります。

ヒント：フィールドを右クリックすると、コンテキストメニューが開き、その他のオプションが表示されます。

2.3.10 メニュー

デフォルトでは、メニューバーは、すべてのワークスペースで非表示になっています。

メニューの内容はカレントのワークスペースで定義できます。

2.3.10.1 メニューバーの表示をコントロールする

1 ツールバーまたはリボンパネルの上にカーソルを移動します。

2 右クリックをして、コンテキストメニューから**メニューバー**を選択します。

2.3.11 ツールバー

コマンドが使用できるかどうかは、ライセンスレベル(**Shape** - **Lite** - **Pro** - **Mechanical** - **BIM** - **Ultimate**)によって異なり、「コマンドリファレンス」のコマンド項目に記載されています。

2.3.11.1 アイコンの大きさを設定する

アイコンは、小サイズ(16×16)、大サイズ(32×32)、特大サイズ(64×64)のいずれかを選択できます。

アイコンのサイズは、カレントのワークスペースのTOOLBUTTONSIZEシステム変数に保存されます。

- カーソルをツールバー上に移動させ、右クリックします。
- **ツールバーサイズ** を選択し、**小さなアイコン**、**大きなアイコン**、または **非常に大きなアイコン**のいずれかを選択してください。

2.3.11.2 ツールバー フライアウト

ツールボタンアイコンの右下に小さな矢印がある場合は、フライアウトが利用可能であることを示します。フライアウトを展開すると、関連するツール群が表示されます。マウスの左ボタンを長押しするとフライアウトが展開し、ツールを選択できます。ツールバーには、最後に選択したツールが表示されます。

それぞれのフライアウトは、独立したツールバーとして開くことができます。

フライアウト ツールバーの個別表示

1 マウスの左ボタンを押したまま、フライアウト ツールバーの表示アイコンを作図領域にドラッグします。

2 マウスの左ボタンを放すと、ツールバーが配置されます。

2.3.11.3 ツールバーを開く

1 **Windows**：ツールバーまたはツールバー領域の空白部分にカーソルを置き、右クリックします。

Linux/Mac：メニューバー、ステータスバー、ツールバー領域の空白部分にカーソルを合わせて、右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューで、**ツールバー** を選択します。Main CUI ファイル(例：BRICSCAD)、またはパーシャルCUIファイル(ある場合)のいずれかを使用しています。

選択したCUIファイルで利用可能なツールバーのリストが表示されます。

既に開いているツールバーにはチェックが入ります。

リストが画面に収まらずに表示されていない場合は、コンテキストメニューの下部にある **更に表示**にカーソルを当てると表示されます。

いくつかの関連ツールバーは、フライアウトメニューにまとめられています。(例：「作成」ツールバー)

3 コンテキストメニューの任意のツールバーをクリックします。

4 (オプション)ツールバーをドッキングするには、ツールバーをBricsCADアプリケーションウィンドウの上端、下端、左端、右端にドラッグします。

注：

- 現在開いているツールバーの[×]ボタンをクリックすると、ツールバーが閉じます。
- ツールバーをドッキングしたくない場合は、Ctrlを押したままツールバーをドラッグします。
- ドッキングを解除するには、ツールバーの左端(水平方向にドッキングしている場合)または上端(垂直方向にドッキングしている場合)の点線のグリップをドラッグします。
- **Linux** でツールバーを縦にドッキングするには、ツールバーの**位置**プロパティを**左**または**右**に設定する必要があります。
- LOCKUIシステム変数を使うと、ツールバーやドッキング可能なパネルの位置やサイズを固定することができます。
- ステータスバーの**LOCKUI** 欄をクリックすると、ユーザーインターフェースのロックを切り替えることができます。

2.3.12 リボン

リボンは、ツールボタンやその他の図面コントロール要素を機能ごとにタブにまとめたツールバーのセットです。

リボンの内容は、カレントのワークスペースに応じて変わります。

デフォルトでは2D作図、モデリング、メカニカル、およびBIMワークスペースでリボンを使用します。

リボンを開くにはRIBBONコマンド、リボンを閉じるにはRIBBONCLOSEコマンドを使用します。

新しいリボンで使用できる機能:

- マウスの左ボタンを押したままにして、フライアウトボタンのドロップダウンメニューを開きます。
- リボンのアクティブなタブは、マウスホイールを使用して変更できます。

リボンの右上にある**インターフェース設定**ボタンをクリックすると、**インターフェース設定**ダイアログボックスからインターフェースを簡単に変更できます(**インターフェース設定ダイアログボックス**の関連記事を参照してください)。

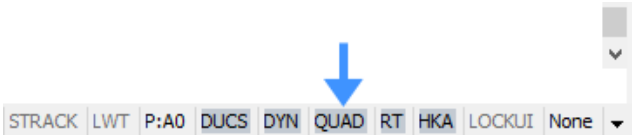
注:デフォルトのレイアウトは**クラシック**です。

2.3.13 クワッドの基本

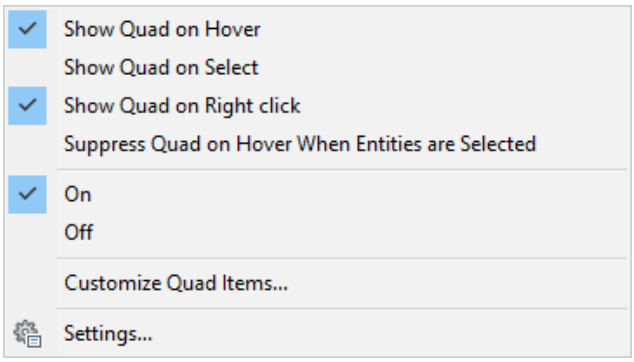
クワッドは、マウスカーソルの位置に直接配置される総合コマンドシステムです。

画面上でカーソルを動かすか、選択セットが存在する場合、クワッドは図形タイプを検出し、この図形または選択した図形に使用できるコマンドを表示します。図形が検出されないか選択されていない場合は、クワッドを使い図形の作成、ブロックの挿入、アンダーレイのアタッチを行え、また**設定**や**図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開くことができます。

- **クワッド**の表示を切り替えるには、BricsCADアプリケーションウィンドウ下部にある**ステータスバー**のクワッドフィールドをクリックします。

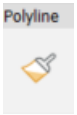


- **クワッド**フィールドを右クリックし、コンテキストメニューでクワッドの設定を定義します。



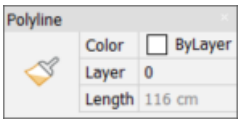
2.3.13.1 クワッドを使用して図形を編集する基本手順

1 カーソルを図形に重ねます。図形がハイライト表示され、この図形種類で最後に使用したコマンドがクワッドに表示されます。



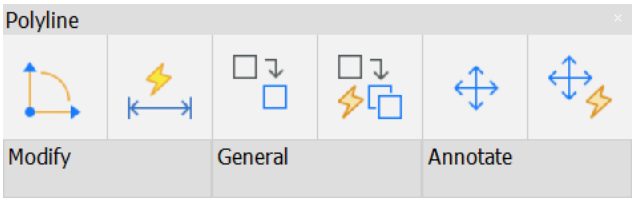
ROLLOVERTIPSシステム変数がオンに設定されている場合、カーソルを合わせた図形のプロパティがクワッドに表示されます。

注:SELECTIONPREVIEWシステム変数がオフの場合、QUADDISPLAYシステム変数の**図形の上にカーソルを置いたときにクワッドを表示する**オプションは無視され、クワッドは表示されません。

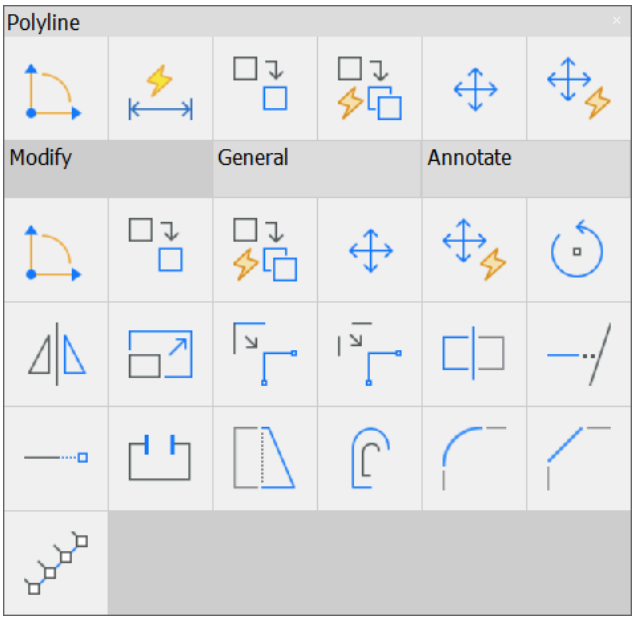


2 カーソルをクワッドに合わせると、この図形種類で最後に使用したコマンドが表示されます。

下部には、コマンドカテゴリのタブがいくつか表示されます。



3 カーソルをタブに合わせると、コマンドグループが展開します。



4 アイコンをクリックして、コマンドを起動します。

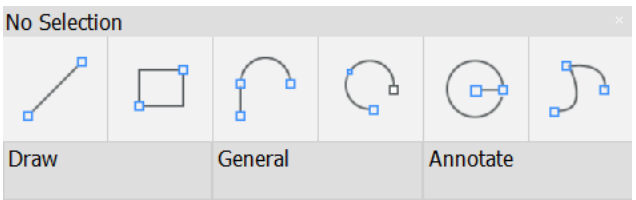
2.3.13.2 クワッド(図形未選択)を使用するには

右クリック時にクワッドを表示オプションが選択されていることを確認します。

1 以下のいずれかの操作を行います：

- 作図ウィンドウの空白部分にカーソルを移動し、右クリックします。
- カーソルが図形上にあるときに、マウスの右ボタンを長押しします。

選択無しクワッドが表示され、最後に使用したコマンドのアイコンが表示されます。



2 以下のいずれかの操作を行います：

- 直近で使用したコマンドの1つをクリックします。
- コマンドタブにカーソルを合わせ、展開したらコマンドを選択します。

3 コマンドを実行します。

2.3.14 クワッドカーソルメニュー

カーソルメニュー(クワッド)は、コンテキストセンシティブなグラフィックメニューで、図形の編集、選択、表示・非表示、作成を簡単に行うことができます。クワッドのコンテンツはワークスペースで定義され、完全にカスタマイズ可能です。

2.3.14.1 クワッドをアクティブにする

クワッドの起動は、QUADDISPLAYシステム変数でコントロールします。

クワッドのオン/オフを切り替えるには、以下のいずれかの手順を行います。

- **ステータスバー**のクワッドフィールドをクリックします。
- **F12**ファンクションキーを押します。

2.3.14.2 クワッドディスプレイオプションの設定

ステータスバーの**クワッド**フィールドを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択します。

- **カーソルを置いたときクワッドを表示**。
- **選択時にクワッドを表示**
- **右クリック時にクワッドを表示**：**選択無し**クワッドが表示され、図形を作成することができます。
- **図形選択時はポインタ上のクワッドは非表示**

注：SELECTIONPREVIEWシステム変数がオフの場合、QUADDISPLAYシステム変数の**図形の上にカーソルを置いたときにクワッドを表示する**オプションは無視され、クワッドは表示されません。

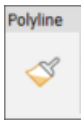
2.3.14.3 クワッド設定の編集

ステータスバーで**クワッド**フィールドを右クリックし、コンテキストメニューで**設定**を選択します。

設定ダイアログボックスが開き、**クワッド設定**画面が表示されます。

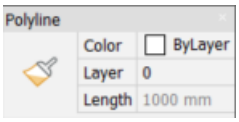
2.3.14.4 クワッドの使用

カーソルを図形に合わせると、その図形がハイライト表示され、クワッドにはこの図形タイプで最近使用されたコマンドが表示されます。

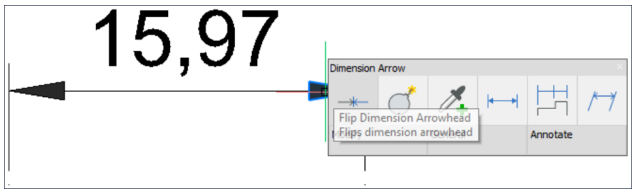


カーソルの下に複数の図形がある場合は、Tabを繰り返し押して、すべての図形を1つずつハイライト表示します。

ロールオーバーヒント(RT) = オンの場合、カーソル下の図形のプロパティが、クワッドのデフォルトコマンドアイコンの横に表示されます。



カーソルを寸法図形の上に移動してCtrlを押すと、サブ図面の矢印またはテキストがハイライトされ、選択されます。選択したサブ図形のタイプに最も適したコマンドがクワッドに表示されます。例えば、寸法矢印がハイライト表示される場合、クワッドは**寸法矢印を反転**ツールを提案します。



ロールオーバーヒント(RT)がオンの場合、「寸法矢印」プロパティと「寸法テキスト」プロパティがクワッドのデフォルトのコマンドアイコンの横に表示されます。

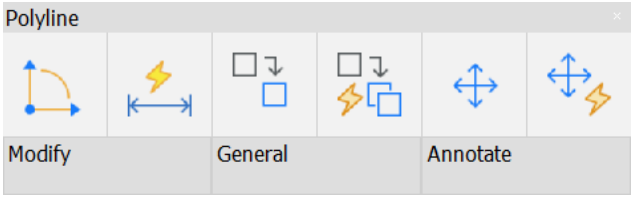
注：ホットキーアシスタントウィジェットに現在の選択モード(**寸法図形を選択**、または**寸法サブ図形を選択**)が示されます。

デフォルトコマンドの起動

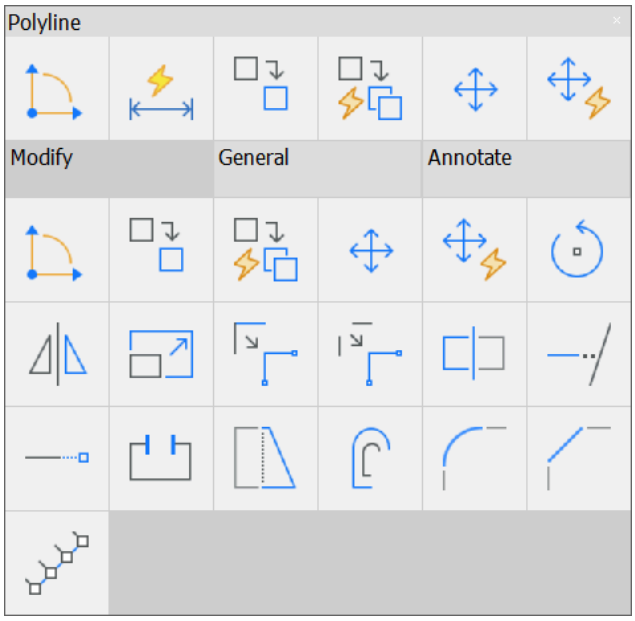
- QUADCOMMANDLAUNCH = 1の場合、クワッドを入力せずに右クリックすると、コマンドが起動します。
- QUADCOMMANDLAUNCH = 0の場合は、コマンドボタンをクリックします。

別のコマンドを起動する

クワッドを展開しデフォルトコマンドにカーソルを移動：選択図形に適用される直近で使用した6つのコマンドが表示されます。表示されるアイコンの数は、QUADWIDTHシステム変数で設定されます(デフォルト＝6)。



選択図形に適用されるその他のコマンドは、いくつかのタブに配置されています。タブにカーソルを合わせると、その内容が展開されます。



アイコンをクリックして、コマンドを起動します。

注 : クワッドのタイトルバーをクリックすると、クワッドのコマンドとロールオーバーヒントの間を行き来することができます。

2.3.14.5 複数の図形を選択

1 最初の図形にカーソルを移動し、図形がハイライトされたらクリックします。

1 図形が選択され、ハイライトされたままになります。

2 カーソルを他の図形に移動し、図形がハイライトされたらクリックします。

3 図形が選択セットに追加され、ハイライトされたままになります。

4 (オプション)ステップ2を繰り返し、さらに図形を選択します。

5 (オプション)選択した図形にカーソルを移動し、Shiftを押しながらクリックします。

6 図形は選択セットから削除されます。

注 :

- ソリッドを扱う場合、SELECTIONMODESシステム変数は、どのサブ図形が検出されるか(エッジ、面、境界)を制御します。
- Ctrlを押しながら操作すると、現在の選択モードが反転します。
- 3Dソリッドエッジの検出を有効にする
- 3Dソリッドフェースの検出を有効にする
- 境界検出を有効にする
- Tabを繰り返し押すと、カーソルを合わせているすべての(サブ)図形がハイライト表示されます。

2.3.14.6 クワッドを使い図形を作成する

QUADDISPLAYシステム変数の値4(＝**右クリック時にクワッドを表示**)が設定されている場合、クワッド(図形未選択のクワッド)で図形作成コマンドが使用可能になります。**ステータスバー**の**クワッド**フィールドを右クリックして、コンテキストメニューからオプションを選択します。

カーソルが図形の上にあるときに、マウスの右ボタンを長押しすると、**選択無し**クワッドが表示されます。

クワッドで利用可能な作図コマンド：

- 最も最近使用された図形作成コマンド
- 使用できるコマンドの数は、QUADWIDTHシステム変数に依存します。
- カレントのワークスペースによって異なる、幾つかのコマンドグループタブ

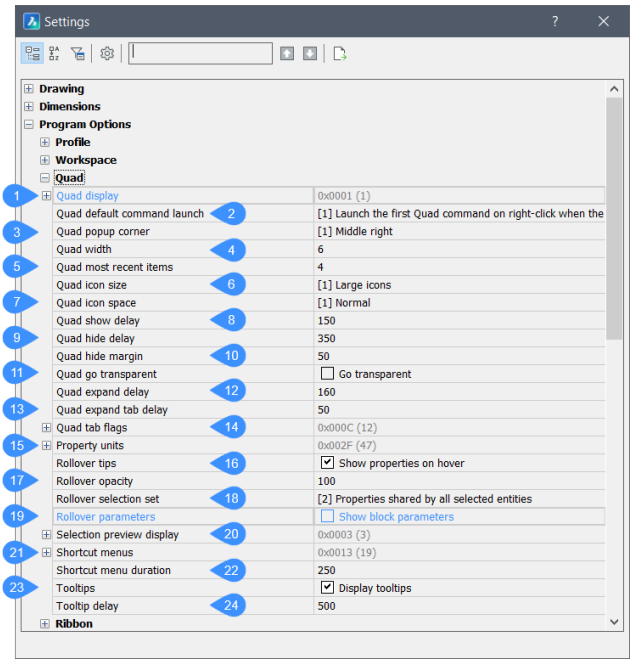
2.3.15 クワッドカーソルの詳細設定

このページでは、クワッドカーソルの詳細な設定について説明します。

クワッドカーソルを使い始める方法については、**クワッドカーソルメニュー**ページを参照してください。

2.3.15.1 クワッド設定の編集

ステータスバーでクワッドフィールドを右クリックし、コンテキストメニューで**設定**を選択します。**設定**ダイアログボックスが開き、**クワッド**設定が表示されます。



1 クワッド表示

2 クワッド デフォルトコマンドの起動

3 クワッド ポップアップコーナー

4 クワッド幅

5 クワッドの直近のアイテム

6 クワッドアイコンサイズ

7 クワッドアイコンスペース

8 クワッド 表示ディレイ

9 クワッド 非表示ディレイ

10 クワッド 非表示マージン

11 クワッド 透明化

12 クワッド 展開ディレイ

13 クワッドの拡張タブのディレイ

14 クワッド タブ フラグ

15 プロパティ単位

16 ロールオーバーヒント

17 ロールオーバーの不透明度

18 ロールオーバー選択セット

19 ロールオーバーパラメータ

20 選択プレビュー表示

21 ショートカットメニュー

22 ショートカットメニューの持続時間

23 ツールチップ

24 ヒント遅延

2.3.15.2 クワッド表示

クワッドを表示するタイミングを決定します。

- オフ：クワッドをオフに切り替えます。
- 1：図形にカーソルを合わせたときにクワッドを表示します。カーソルを合わせた図形はハイライト表示されます。
- 2：図形を選択したときにクワッドを表示します。
- 4：図形を選択していない場合や、図形にカーソルを合わせていない場合、右クリックでクワッドを表示します。
- 8：カレントの選択セットに含まれていない図形にカーソルを重ねた場合、クワッドを非表示にします。

2.3.15.3 クワッド デフォルトコマンドの起動

ボタンをクリックせずに、デフォルトのクワッドコマンドを起動させることを可能にします。

- 0：ユーザーがボタンをクリックする必要があります。
- 1：デフォルトのコマンドは、図形上で右クリックすると起動します。

2.3.15.4 クワッド ポップアップコーナー

カーソル位置に対するクワッドのポップアップ位置をコントロールします。**右上**、**右中央**、**右下**から選択できます。

2.3.15.5 クワッド幅

1列に並べるコマンドの数を定義します。デフォルトでは、この数字は6です。

2.3.15.6 クワッドの直近のアイテム

メニューに表示される最新の項目(図形または操作)の数を定義します。

2.3.15.7 クワッドアイコンサイズ

メニューのボタンの大きさを設定します：

- [0]= 小さなボタン(16×16ピクセル)
- [1]= 大きいボタン(32×32ピクセル)
- [2]= 特大サイズのボタン(64×64ピクセル)

2.3.15.8 クワッドアイコンスペース

クワッドボタンの周囲のスペースを定義します(**狭い**、**標準**、**広い**)。

2.3.15.9 クワッド 表示ディレイ

図形がハイライトされてからクワッドが表示されるまでの時間をミリ秒単位で設定します。

2.3.15.10 クワッド 非表示ディレイ

カーソルがクワッドの非表示マージンの限界を超えた後、クワッドの表示を維持する時間間隔をミリ秒単位で設定します。

2.3.15.11 クワッド 非表示マージン

カーソルがクワッドから離れても表示され続ける距離をピクセル単位で設定します。カーソルがこの制限の外側に移動した場合、クワッドは非表示になります。

2.3.15.12 クワッド 透明化

マウスがクワッドの外側に移動したときに、クワッドの非表示マージンの範囲内でクワッドを透明にするかどうかを定義します。

2.3.15.13 クワッド 展開ディレイ

マウス入力後にクワッドを拡大する時間をミリ秒単位で設定します。

2.3.15.14 クワッドの拡張タブのディレイ

マウス入力後にグループタブを展開するまでの時間をミリ秒単位で設定します。

2.3.15.15 クワッド タブ フラグ

クワッドタブの表示プロパティを設定します。

- 1 - 固定幅のタブ：タブがその上のボタンと同じ幅で表示されるようになりました。
- 2 - 中央のタブラベル：タブのラベルが中央に配置されて表示されます。
- 4 - タブの周り：タブの間に境界線が表示されます。
- 8 - 二重タブの高さ：タブが2列になり、より長いラベルの表示が可能になります。
- 16 - 3Dソリッドのマスプロパティを表示：**3Dソリッド**図形のマスプロパティを表示します。

2.3.15.16 プロパティ単位

以下のような図形プロパティの単位を表示します：

- 1：長さのプロパティ
- 2：面積のプロパティ
- 4：体積のプロパティ
- 16：ダイナミック寸法
- 32：マスプロパティ

表示される単位は、図面のプロパティで設定されたものです。UNITSコマンドを参照してください。

2.3.15.17 ロールオーバーヒント

ホバリング中に図形プロパティをクワッドに表示するかどうかを指定します。ROLLOVERTIPSを参照してください。

2.3.15.18 ロールオーバーの不透明度

クワッドがロールオーバー状態にあるときの不透明度を指定します。10(非常に透明)から100(完全に不透明)までの値が設定可能です。

2.3.15.19 ロールオーバー選択セット

複数の図形が選択されているときに、ロールオーバーヒントの内容を制御します。

2.3.15.20 ロールオーバーパラメータ

ロールオーバーヒントにブロックパラメータを表示します。

2.3.15.21 選択プレビュー表示

ピックボックスのカーソルがオブジェクトに重ねられたとき、どのようなケースでオブジェクトがハイライトされるかをコントロールします。

- 1：どのコマンドも起動していないとき
- 2：図形選択のコマンドプロンプト表示時

注：SELECTIONPREVIEWシステム変数がオフの場合：

- カーソルがQUADDISPLAYシステム変数の**カーソルが図形上にあるときクワッドを表示**は無視され、クワッドは表示されません。
- ROLLOVERTIPSシステム変数は無視され、図形プロパティは表示されません(クワッドは表示されません)。
- SELECTIONCYCLINGシステム変数は無視され、バッジや選択ダイアログボックスは表示されません(クワッドは表示されません)。

2.3.15.22 ショートカットメニュー

DEFAULT、EDIT、COMMANDショートカットメニューの状態をコントロールします。値は、すべての選択されたオプション値の合計を使用したビットコードとして格納されます。

- 1：ショートカットメニューのデフォルトモードを有効
- 2：ショートカットメニューの編集モードを有効
- 4：ショートカットメニューを表示(コマンド実行時には常に表示)
- 8：コマンドオプションが利用可能なときだけ、ショートカットメニューを表示
- 16：ポインティングデバイスの右ボタンを長く押しているときショートカットメニューの表示を可とする
- 32：図形が選択され、クワッドが表示されていない場合は、短く右クリックしてコマンドを繰り返します

2.3.15.23 ショートカットメニューの持続時間

ポインティングデバイスの右ボタンを押してショートカットメニューを表示するための時間を指定します。

2.3.15.24 ツールチップ

ボタン、タブ、メニューのツールチップの表示を切り替えます。

2.3.15.25 ヒント遅延

ツールチップを表示する際の遅延時間をミリ秒単位で設定します。負の値の場合、ツールチップは表示されません。

2.3.15.26 クワッドのレイアウト

クワッド カーソルメニューは、以下に応じて異なるレイアウトで表示されます。

- カーソルの下の図形タイプまたはカレントの選択セット
- カレントのワークスペース
- 交差や正接などのジオメトリックな形状

カーソルを図形に合わせると、その図形がハイライト表示され、クワッドにはこの図形タイプで直近で使用されたコマンドが表示されます。

複数の図形がカーソルの下にある場合、Tabを押すと、すべての図形が1つずつハイライトされます。

注：ロールオーバーのヒントは、SELECTIONPREVIEWシステム変数が1または3に設定され、ROLLOVERTIPSシステム変数が1(オン)に設定されている場合に表示されます。

各図形タイプに表示されるプロパティは、カスタマイズダイアログボックスのプロパティタブで指定します。左ペインで図形タイプを選択し、ロールオーバーペインでプロパティを確認します。

最初のボタンクワッドにカーソルを合わせると、メニューが展開されます。アイコンをクリックすると、関連するコマンドが起動します。クワッドタイトルバーをクリックすると、クワッドが最小化され、ロールオーバーヒントが表示されます。

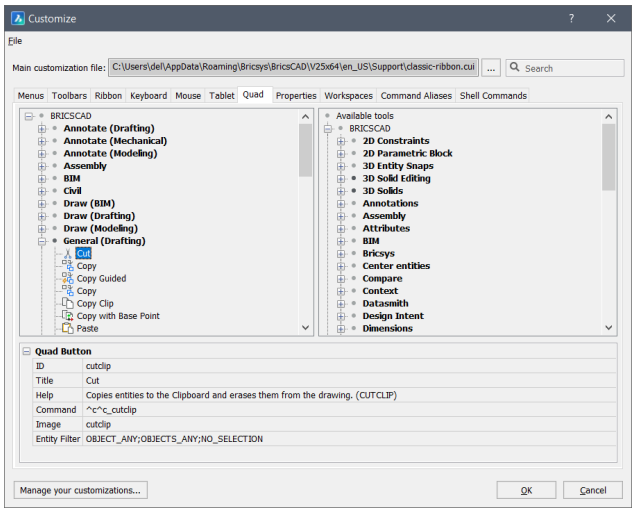
2.3.15.27 クワッド項目のカスタマイズ

カスタマイズ/クワッドダイアログボックスを開くには、以下のいずれかの手順で行います。

- **ステータスバー**でクワッドフィールドを右クリックして、コンテキストメニューから**クワッドアイテムをカスタマイズ...**を選択します。
- CUSTOMIZEコマンドを実行して、クワッドタブを選択します。

カスタマイズ/クワッドダイアログボックスのセクションタブのうち、以下の2つのタブでクワッドをカスタマイズできます。

2.3.15.28 クワッドセクション



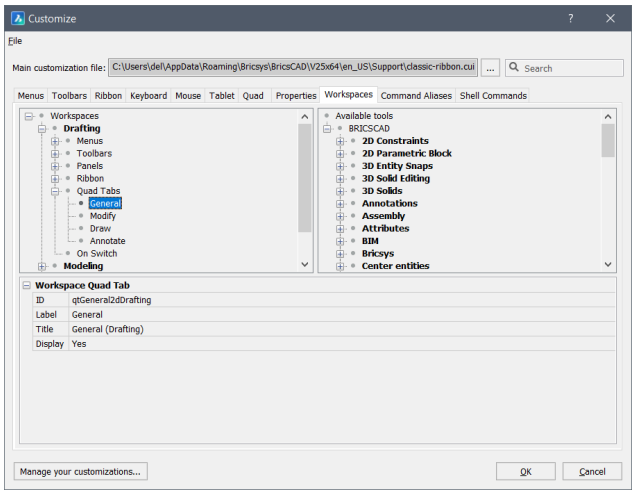
このセクションでは、リボンタブがカスタマイズされるのと同様に、すべてのクワッドタブの名前と内容を指定できます。クワッドタブは、作成、コピー、名前の変更、削除が可能です。

クワッドタブのコンテンツを管理するには、ダイアログの右側からボタンをドラッグするか、右クリックのコンテキストメニューを使って、クワッドボタンの追加、名前の変更、移動、削除を行います。

ダイアログの右側には、クワッドに表示可能なすべてのボタンのリストがあります。これらには、CUIファイルで定義されたツールと、内部で定義されたすべてのクワッドボタンが含まれ、下部の新しい**ビルトイン**ブランチの下にリストされています。これらの内蔵ボタンはツールと似ていますが、名前、アイコン、コマンド文字列などを編集することはできず、読み取り専用です。

クワッドツールのフィルターをカスタマイズするには、**カスタムクワッドフィルターの作成**のページを参照してください。

2.3.15.29 ワークスペースセクション



このセクションでは、クワッド内でどのクワッドタブを、どの順番で、どのワークスペースにおいて使用するかを定義します。このインターフェースでは、クワッドタブ全体の追加/移動/削除が可能です。クワッドタブの内容は、ダイアログのクワッドセクションで行うため、このセクションでは表示も編集もできません。クワッドセクションで新しいクワッドタブを作成すると、すべてのワークスペースのクワッドにこのクワッドタブが自動的に追加されます。

ワークスペースのクワッドタブ編集

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスを開きます。

2 **ワークスペース**タブをクリックします。

3 編集したいワークスペースを展開します。

4 **クワッドタブ**リストを展開します。

注：現在オフになっているタブはグレーで表示されます。

5 タブの表示、非表示を切り替えることができます：

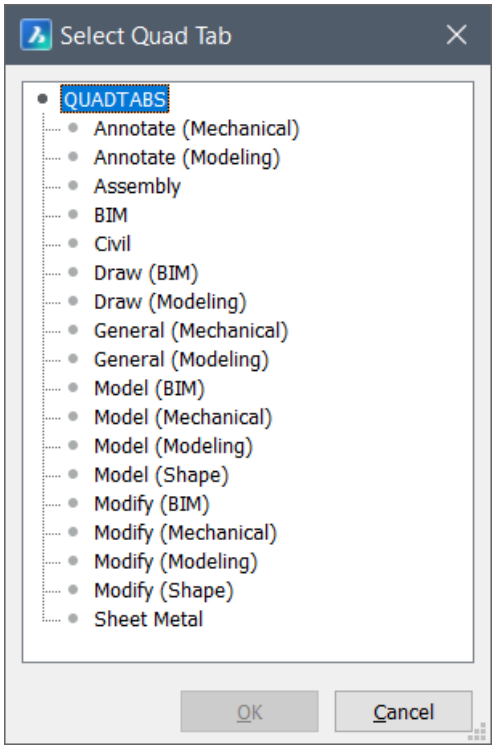
- タブを選択します。
- ダイアログボックスの下部にあるタブプロパティの **表示**欄をクリックします。
- **はい**または**いいえ**を選択します。

6 タブを追加するには：

- **クワッドタブ**ノードを右クリックし、コンテキストメニューから**クワッドタブを追加**を選択してタブを追加します。新しいタブは一覧の最後尾に追加されます。
- タブノードを選択した後、右クリックしてコンテキストメニューから**挿入**を選択すると、選択したタブの上にタブが追加されます。

クワッドタブを選択ダイアログボックスが表示されます。

1



クワッドタブを選択ダイアログボックスで、挿入するタブを選択し、**OK**ボタンをクリックします。

2 タブを削除するには、タブを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**削除**を選択します。

3 タブの表示順を変更するには、一覧内でタブをドラッグ＆ドロップして移動します。

2.3.16 右クリックメニュー

右クリックするとカーソルの横にコンテキストメニューまたは右クリックメニューが開き、コマンドが一覧表示されます。

クワッドモードがアクティブな場合、マウスの右ボタンを長押しします。(長めに右クリック)

右クリックメニューに表示される内容は、現在の図形や選択セットによって異なります。

クワッドモードがオフで、何も選択されていない場合は、右クリックすると最後に実行したコマンドが繰り返されます。マウスの右ボタンを長押しすると、コンテキストメニューが表示されます。

2.3.17 クリーンスクリーンモード

クリーンスクリーンモードでは、メニューバー、リボン、ツールバー、パネル、コマンドライン、ステータスバー、ドキュメントタブなどのユーザーインタフェース要素を非表示にして、作図領域を最大化できます。

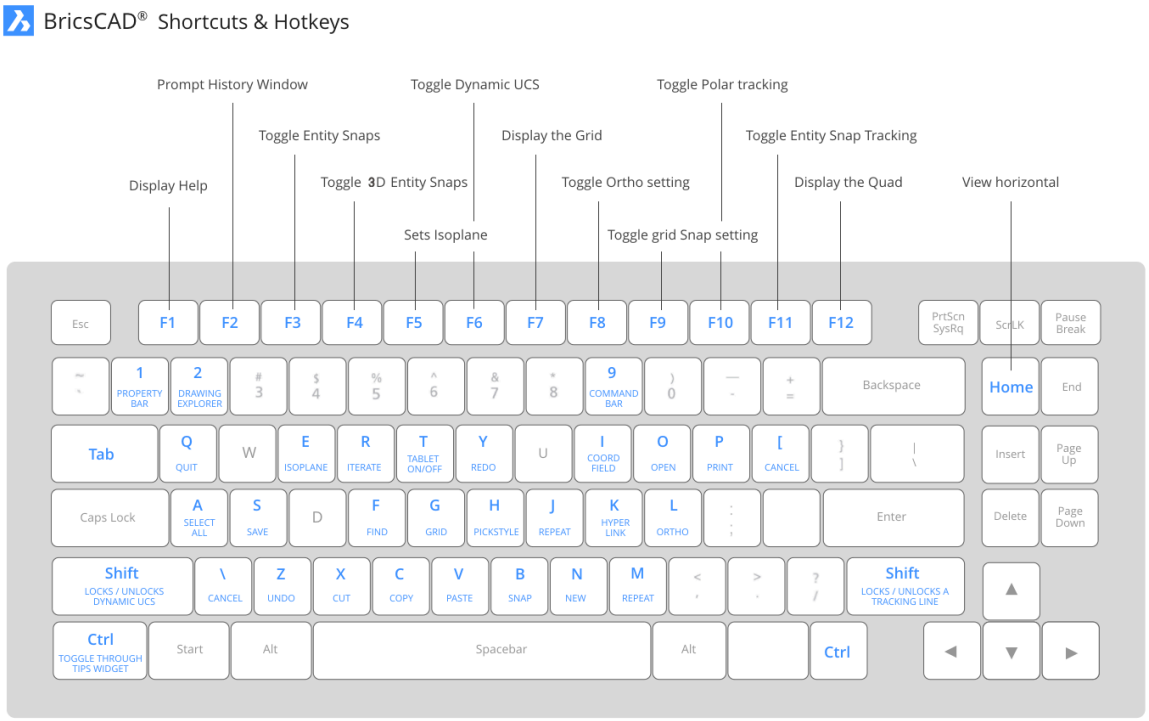
このモードでも、クワッドを使いコマンドを起動できます。

Ctrlを押しながら0(ゼロ)を押して、クリーンスクリーンモードのオン/オフを切り替えます。

注：テンキーは使用しないでください。

注：AZERTYキーボードの場合： 0キーとShiftを同時に押さないでください。

2.3.18 キーボードショートカット



これらのキーボードショートカットを使うと、特に設定を切り替える場合にパフォーマンスを大きく向上させることができます。

以下のキーボードショートカットが利用可能です。

キーボード	説明
F1	BricsCADヘルプを開きます。 HELPコマンドを実行します。
F2	**プロンプト履歴** ウィンドウの表示を切り替えます。 GRAPHSCRコマンドを参照してください。
F3	図形スナップのオン/オフを切り替えます。 OSMODEの設定を参照してください。
F4	3D図形スナップのオン/オフを切り替えます。 3DOSMODEの設定を参照してください。
F5	アイソメ平面を設定します。SNAPISOPAIRの設定値を切り替えます。 SNAPSTYLの設定が1の場合のみ適用されます。

キーボード	説明
F6	ダイナミックUCSのオン/オフを切り替えます。
F7	グリッドの表示を切り替えます(GRIDMODEの設定を参照してください)。
F8	直交モードの設定のオン/オフを切り替えます。 AUTOSNAP設定のビットコード8が設定されている場合、それを無効にします。
F9	スナップのオン/オフを切り替えます(SNAPコマンドを参照してください)。
F10	極トラッキングの設定を切り替えます。ORTHOMODEの設定をオンにするとオフになります。 AUTOSNAP設定のビットコード8のオン/オフを切り替えます。
F11	図形スナップトラッキングの設定を切り替えます。 AUTOSNAP設定のビットコード16のオン/オフを切り替えます。
F12	クワッドカーソルメニューの表示を切り替えます。 QUADDISPLAYの設定を参照してください。
Alt + F8	VBARUNコマンドを起動します。
Alt + F11	VBAIDEコマンドを起動します。
Ctrl + 1	**注** : テンキーは使用しないでください。AZERTYキーボードの場合： 0キーとShiftを同時に押さないでください。 プロパティパネルを切り替えます。
Ctrl + 2	**注** : テンキーは使用しないでください。AZERTYキーボードの場合： 0キーとShiftを同時に押さないでください。 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスが開きます。
Ctrl + 9	**注** : テンキーは使用しないでください。AZERTYキーボードの場合： 0キーとShiftを同時に押さないでください。 コマンドラインの表示/非表示を切り替えます。 COMMANDLINEコマンドまたはCOMMANDLINEHIDEコマンドを実行します。

キーボード	説明
Ctrl + 0	**注**：テンキーは使用しないでください。AZERTYキーボードの場合： 0キーとShiftを同時に押さないでください。 CLEANSCREENOPTIONS設定で指定されたユーザーインターフェース図形の表示を切り替えます。CLEANSCREENONコマンドまたはCLEANSCREENOFFコマンドを実行します。
Ctrl + A	すべての図形を選択します。
Ctrl + B	スナップのオン/オフを切り替えます(SNAPコマンドを参照してください)。
Ctrl + C	選択内容をクリップボードへコピーします。(COPYCLIPコマンド)
Ctrl + Shift + C	基点と一緒に選択内容をコピーします。(COPYBASEコマンド)
Ctrl + E	アイソメトリック平面を設定し、SNAPISOPAIRの設定値を反復します。 SNAPSTYLの設定が1の場合のみ適用されます。
Ctrl + F	FINDコマンドを起動します。
Ctrl + G	グリッドの表示を切り替えます(GRIDMODE設定)。
Ctrl + H	グループや関連付け連想ハッチングの選択をコントロールするPICKSTYLE設定の値を切り替えます。
Ctrl + I	ステータスバーの座標表示を設定します。(COORDS設定)
Ctrl + J	直前に使用したコマンドを繰り返します。
Ctrl + K	ハイパーリンクをオブジェクトに貼り付けます。または、既存のハイパーリンクを編集します。(HYPERLINKコマンド)
Ctrl + L	ORTHOの設定を切り替えます。
Ctrl + M	直前に使用したコマンドを繰り返します。
Ctrl + N	新しい図面を作成します。(NEWコマンド)
Ctrl + O	既存の図面を開きます。(OPENコマンド)
Ctrl + P	現在の図面を印刷します。(PRINTコマンド)

キーボード	説明
Ctrl + Shift + P	プロパティパネル(PROPERTIESコマンド、PROPERTIESCLOSEコマンド)の表示を切り替えます。
Ctrl + Q	アプリケーションを終了します。変更内容の保存を求めるプロンプトが表示されます。(QUITコマンド)
Ctrl + R	ビューポートを切り替えます。
Ctrl + S	現在の図面を保存します。(QSAVEコマンド)
Ctrl + T	タブレット電源のオン/オフを切り替えます。(TABLETコマンド)
Ctrl + V	クリップボードの内容を貼り付けます。(PASTECLIPコマンド)
Ctrl + Alt + V	指定した形式でクリップボードの内容を貼り付けます。(PASTESPECコマンド)
Ctrl + Shift + V	クリップボードの内容をブロックとして貼り付けます。(PASTEBLOCKコマンド)
Ctrl + X	選択内容を切り取り、クリップボードに貼り付けます。(CUTCLIPコマンド)
Ctrl + Y	元に戻した最後の操作をやり直します。(REDOコマンド)
Ctrl + Z	最後の操作を元に戻します。(UNDOコマンド)
Ctrl + [	実行中のコマンドを中止します。
Ctrl + ¥	実行中のコマンドを中止します。
Ctrl + Home	スタートページを作成したり、開いたりします(GOTOSTARTコマンド)。
Shift + F2	コマンドライン(COMMANDLINEコマンド、COMMANDLINEHIDEコマンド)の表示を切り替えます。
Shift + F3	ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。(STATBARコマンド)
Shift + F4	スクロールバーの表示/非表示を切り替えます。(SCROLLBARコマンド)
Shift + F8	Visual Basicプロジェクトマネージャーを起動します。(VBAMANコマンド)

キーボード	説明
Shift + F11	VBA COMアドインマネージャーを起動します。(ADDINMANコマンド)
ページアップ	ビューを上方向に移動します
ページダウン	ビューを下方向に移動します。
Shift + 左矢印	ビューを左方向に移動します。
Shift + 右矢印	ビューを右方向に移動します。
Shift + 上矢印	ビューを上方向に移動します(サブ)図形が選択されている場合、図形が上(z軸方向)にナッジされます。
Shift + 下矢印	ビューを下方向に移動します。(サブ)図形が選択されている場合、図形が下(z軸方向)にナッジされます。
Ctrl + 左矢印	選択した(サブ)図形を左(x軸方向)にナッジします。
Ctrl + 右矢印	選択した(サブ)図形を右(x軸方向)にナッジします。
Ctrl+ 上矢印	選択した(サブ)図形を上(y軸方向)にナッジします。
Ctrl+ 下矢印	選択した(サブ)図形を下(y軸方向)にナッジします。
タブ	オートコンプリートコマンドリストを下に移動します。 **注** : これはクロスプラットフォームのショートカットです。
Tab+Shift	オートコンプリートコマンドリストを上に移動します。 **注** : これはクロスプラットフォームのショートカットです。
Ctrl + N	オートコンプリートコマンドリストを下に移動します。 **注** : これはmacOSのみのショートカットです。

キーボード	説明
Ctrl + P	オートコンプリートコマンドリストを上に移動します。 **注**：これはmacOSのみのショートカットです。

2.3.19 プロンプトメニュー

コマンドを実行すると、BricsCAD はコマンドラインまたはステータスバーにプロンプトを表示します。オプションで、コマンドオプションはプロンプトメニューでも利用できます。

2.3.19.1 プロンプトメニューの表示をコントロールするには

プロンプトメニューを表示するかどうか、どこに表示するかは、ROMPTMENUシステム変数でコントロールします。

PROMPTMENUFLAGSシステム変数は、プロンプトメニューの内容と動作を制御します。

注：これらのシステム変数はレジストリに保存されるため、すべての図面に適用されます。

2.3.20 ロールオーバーヒント

ロールオーバーヒント機能は、図形の上にカーソルを置いたときや、図形が選択されたときに、カーソルの近くのポップアップボックスに図形のプロパティを表示します。複数の図形が選択されている場合、その図形の共有プロパティのみが表示されます。

どのプロパティを使用できるかは、**カスタマイズ/プロパティ**ダイアログボックスで図形タイプごとに定義できます。

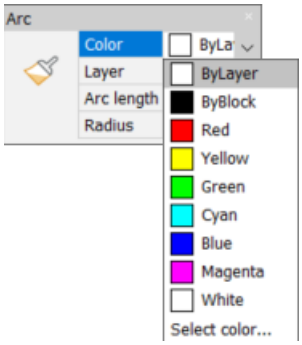
ロールオーバーヒントの有無は、ROLLOVERTIPSシステム変数とSELECTIONPREVIEWシステム変数でコントロールします。

ロールオーバーヒントは、SELECTIONPREVIEW == 1 または 3、ROLLOVERTIPS == 1 に設定している場合に、カーソルを合わせると表示されます。

注：SELECTIONPREVIEWシステム変数がオフの場合、ROLLOVERTIPSシステム変数は無視され、カーソルを図形の上に置いたときに図形のプロパティは表示されません。

ステータスバーのRTフィールドをクリックして、ロールオーバーヒントのオン/オフを切り替えます。

プロパティを選択すると、**プロパティ**パネルで行うのと同じように編集できます。



クワッドがOnの時、クワッド/ロールオーバーヒント機能のタイトルバーをクリックすると、クワッドコマンドとロールオーバーヒントの間を行き来することができます。

2.4 BricsCADの基本動作

2.4.1 図面の作成

BricsCAD で新しい図面を作成するにはいくつかの方法があります。

- **開始**タブから作成します。
- QNEWコマンドを使用します。
- NEWコマンドを使用します。
- NEWWIZコマンドを使用します。
- Windowsのエクスプローラで* .dwtファイルをダブルクリックします。

注：新しい図面は、常にテンプレート図面のコピーとして作成されます。デフォルトのテンプレートは、BASEFILEシステム変数によって保存されます。

2.4.2 テンプレート図面

テンプレート図面は、ファイル拡張子がDWTの図面ファイルです。

テンプレート図面をコピーして新しい図面を作成する場合に使用します。拡張子がDWTの図面は、テンプレート図面と見なされます。BricsCADテンプレート図面はテンプレートフォルダーにあります。フォルダを開くには TEMPLATEFOLDER コマンドを使用します。カスタマイズしたテンプレート図面をテンプレートフォルダーに保存しておくと、新しい図面を作成するときにスタートページから利用できます。BricsCADを使い生産性を向上させるには、適切に準備されたテンプレートの使用が不可欠です。

テンプレート図面にはモデル空間の図形は含まれていませんが、特定の図面とプロジェクト要件に応じた設定が含まれています。

- 単位：インチ法またはメートル法と単位が表示
- 画層
- 寸法スタイルと引出線スタイル
- 文字スタイル
- 表スタイル
- 複数のレイアウト、それぞれのタイトルブロック、用紙サイズ、プリンタ、および印刷スタイル
- 注記、表、記号、その他の図形の標準ブロック

2.4.3 BricsCADにおける図面ファイルの互換性

以下の表は、BricsCAD で直接開いたり保存したりできるAutoCAD®図面ファイル (.dwg) および図面交換ファイル(.dxf)のバージョンの一覧です。

バージョン列には、さまざまなAutoCAD®リリースで使用されている図面ファイルスキーマが一覧表示されています。例えば、DWG 2013はAutoCAD 2013 (R27) からAutoCAD 2017 (R31) で使用されています。

内部バージョン列は、.dwgファイルヘッダーの最初の 6 つの位置で報告される情報です。詳細については、後述の**注意書き**に記載されている**専門家のヒント**を参照してください。

BricsCAD V25に対応したDWG&DXFファイルのバージョンです：

バージョン	内部バージョン
DWG 2021 (R32)	AC1032
DWG 2018 (R32)	AC1032
DWG 2013 (R27)	AC1027
DWG 2010 (R24)	AC1024
DWG 2007 (R21)	AC1021
DWG 2004 (R18)	AC1018
DWG 2000 (R15)	AC1015
DWG R14 (R14)	AC1014
DWG R13 (R13)	AC1012
DWG R11/R12 (R12)	AC1009

バージョン	内部バージョン
Binary DXF 2018 (R32)	AC1032
Binary DXF 2013 (R27)	AC1027
Binary DXF 2010 (R24)	AC1024

バージョン	内部バージョン
Binary DXF 2007 (R21)	AC1021
Binary DXF 2004 (R18)	AC1018
Binary DXF 2000 (R15)	AC1015
Binary DXF Release 14 (R14)	AC1014
Binary DXF Release 13 (R13)	AC1012
Binary DXF Release 11/12 (R12)	AC1009
Binary DXF Release 10 (R10)	AC1006

バージョン	内部バージョン
ASCII DXF 2018 (R32)	AC1032
ASCII DXF 2013 (R27)	AC1027
ASCII DXF 2010 (R24)	AC1024
ASCII DXF 2007 (R21)	AC1021
ASCII DXF 2004 (R18)	AC1018
ASCII DXF 2000 (R15)	AC1015

バージョン	内部バージョン
ASCII DXF Release 14 (R14)	AC1014
ASCII DXF Release 13 (R13)	AC1012
ASCII DXF Release 11/12 (R12)	AC1009
ASCII DXF Release 10 (R10)	AC1006
ASCII DXF Release 9 (R9)	AC1004

注：

- OPENコマンドは、DWGまたはDXFファイルをBricsCADの新規ドキュメントタブに直接開きます。
- IMPORTコマンドは、(外部)DWGまたはDXFファイルから BricsCAD 編集セッションの現在の図面にジオメトリを読み込みます。これは事実上、外部の「INSERT」操作であり、ジオメトリのみが現在の図面に読み込まれます。
- **専門家のヒント**：DWGファイルはバイナリ(2進数)であり、一般的に人間には読めませんが、図面ファイルをASCIIテキストエディター(MSメモ帳など)で開くと、ファイルの最初の6文字として**内部バージョン**番号(例:AC1024)が表示されます。これは、ファイルの互換性を判断する際や、外部ソースのファイルを扱う際に役立ちます。

2.4.4 図形作成の設定

現在の図形作成設定を使用して、現在の画層に新しい図形が作成されます。

プロパティパネルの**標準**セクションで図形作成設定を定義できます。

デフォルトでは、すべての図形作成設定は**ByLayer**に設定されています。これはカレントの画層の対応する設定が使用されることを意味します。

画層のプロパティは、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスの 画層セクションで定義できます。

2.4.5 正確に作図する方法

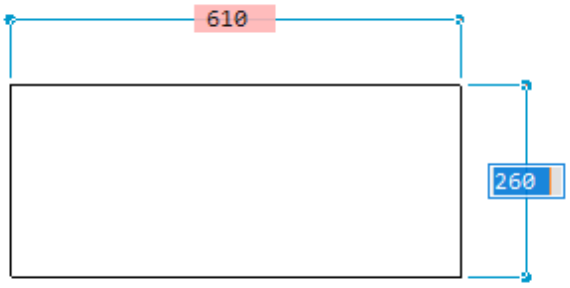
新しい図形は、カレントの座標系のXY平面に作成されます。デフォルトの座標系はワールド座標系(WCS)です。DWGファイルのすべての寸法は、図面単位(DU)で表されます。INSUNITSシステム変数(挿入単位)は、1DUの値を設定します。

新しい図面の場合、INSUNITSシステム変数は、図面を作成するために選択したテンプレート図面で定義されます。BricsCADでは、10進表記とインチ系単位のテンプレート図面が用意されています。

正確に作図するため、BricsCADは、いくつかの作図補助機能を提供しています。

- 2D図形スナップ：端点、中点、中心、交点など、既存の2D図形のキーポイントを使用できます。図形に対して垂直、平行、または接線方向に作図することもできます。

- 3D図形スナップ：ソリッドなどの3D図形でキーポイントを使用できます。
- ダイナミック寸法：ダイナミック寸法を**オン**にすると、ダイナミック入力フィールドに距離や角度を入力できます。長方形を作図する場合など、複数のダイナミック入力フィールドが表示された場合は、Tabを押すと次のフィールドに切り替わります。値を入力してTabを押すと、フィールドが赤色に変わり、値が固定されたことを示します。



- 極トラッキング：現在の座標系の軸(X、Y、Z)に対して、指定された角度に作図方向を強制します。
- 図形スナップトラッキング：図形スナップと極トラッキングを組み合わせたものです。
- 座標入力：XYZ座標を入力して点を指定できます。
- スナップとグリッド：グリッドは等間隔の線や点で構成され、距離を視覚的に把握しやすくなります。カーソルがグリッドポイントにスナップし、固定間隔ですばやく作図できます。
- 図面範囲設定：作図範囲を制限できます。これにより作図範囲外での図形の作成が防止されます。
- 直交モード：カーソルが現在の座標系のX軸またはY軸のいずれかに平行に移動します。
- ユーザー座標系：3次元空間の任意の場所に名前の付いたユーザ座標系(UCS)を定義できます。名前付きUCSはいつでも復元できます。
- 直接距離入力：長さ、半径、直径、移動ベクトルを入力できます。
- 最短距離：選択した2つの図形またはサブ図形間の距離をダイナミックに表示して修正することができます。
- マニピュレータ：選択した図形をすばやく移動、回転、尺度変更、ミラーできる汎用グリップツールです。

2.4.6 コマンドの実行

BricsCADでは、以下の方法でコマンドを起動できます。

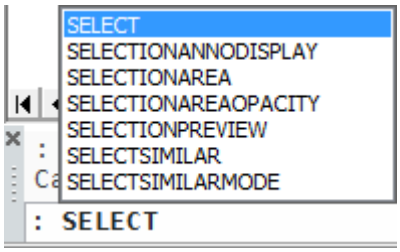
- コマンドラインにコマンドを入力します。
- メニューでコマンドを選択します。
- ツールバーのコマンドツールボタンをクリックします。
- リボンのコマンドアイコンをクリックします。
- クワッドでコマンドを選択します。

2.4.6.1 コマンドラインにコマンドを入力

コマンド名がわかっている場合、コマンドラインに入力できます。コマンドラインを閉じている場合、キーボードからの入力やコマンドプロンプトはステータスバーに表示されます。

AUTOCOMPLETEMODEシステム変数の**有効**フラグが設定されている場合、最初の数文字を入力するとコマンド名が自動入力されます。

現在の文字列を含むすべてのコマンドやシステム変数、ユーザー設定が、候補リストに表示されます。



以下のいずれかの操作を行います：

- 現在ハイライト表示されているコマンドが表示されたら、Enterを押します。
- 候補リストのコマンドをクリックします。

コマンドエイリアスで起動できるコマンドもあります。例えば、コマンドプロンプトに「L」を入力すると、LINEコマンドを起動できます。

2.4.6.2 コマンドオプションの選択

BricsCADコマンドは複数のオプションを提供しています。これらのオプションは、コマンドラインまたはステータスバー(コマンドラインが閉じている場合)に表示され、オプションでプロンプトメニューにも表示されます。

以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押して、既定のオプションを選択します。既定のオプションは、コマンドプロンプトの最後にある山括弧(< >) で囲まれています。
- コマンドラインでオプションをクリックします。
- プロンプトメニューのオプションをクリックします。
- オプションの大文字を入力してEnterを押すか、右クリックします。

2.4.7 テスト段階の機能の使用

テスト段階の機能(EXP.)は、BricsCADで試験的に導入された新機能(コマンド、パネル、またはダイアログボックス)を一元化して、試験モードで簡単に使用できるようにしたモジュールです。

試験モードはデフォルトで無効になっていますが、以下の方法で有効にすることができます。

- スタートページの**テスト段階の新機能**モジュールで有効にします。
- EXPERIMENTALMODEシステム変数をオンに設定します。
- MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを実行し、**テスト段階の機能**ダイアログボックスで**有効**ボタンを押します。

試験モードを有効にすると、テスト段階の機能を使用してみることができ、BricsCADチームがこれらの機能の方向性を見きわめる際に貴重な参考となるフィードバックをご提供いただけます。

重要：試験モードを有効にすると、BricsCADで不具合やパフォーマンスの低下が発生する恐れがあります。問題があれば報告していただければ幸いです。テスト段階の機能は、将来的に変更または削除される可能性があります。

試験モードを有効または無効にするには、BricsCADを再起動する必要があります。

試験モードを無効にしている場合、テスト段階の機能はBricsCADで利用可能になっていますが、動作しません。使用を試みると、メッセージが表示されます。たとえば、WORKPLANEACTIVATEコマンドを実行すると、コマンドラインに「WORKPLANEは現在有効になっていないテスト段階の機能です。MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを使用して、テスト段階の機能を有効にしてください。」というメッセージが表示されます。

2.4.8 表示コントロール

BricsCADでは、以下の方法で図面の表示をコントロールできます。

- マウスとキーボードを使用
- 表示コマンドを使用
- Look From表示を使用

最も使用頻度の高い表示操作は次のとおりです。

操作	マウス	コマンド	Look From
表示範囲	スクロールホイールをダブルクリック	**ズーム** > **範囲**	トリガーゾーンをクリックすると、ビューが回転し、図面の図形範囲にズームします。
ズーム	スクロールホイール	**ズーム** > **インズーム** > **アウト**	
画面移動	スクロールホイールを長押し **注**：MBUTTONPANシステム変数 = オンの場合	画面移動	
平面ビュー(上から見た表示)の復元		**平面** > **カレントUCS**	中央のトリガーゾーンをクリックします

2.4.9 図形の選択

MOVE、COPY、MIRROR などの操作コマンドでは、1 つまたは複数の図形を選択するようプロンプト表示されます。PICKFIRST変数がONの場合、コマンドを起動する前に選択セットを作成することもできます。

BricsCADでは、いくつかの選択方法を提供しています。選択方法を組み合わせて、選択セットを構成することもできます。

2.4.9.1 図形を1つずつ選択

1 カーソルを図形に重ねます。

1 図形がハイライト表示されます。

クワッドが表示され、この図形種類で最後に使用したコマンドと選択した図形プロパティが表示されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：
- クリックして図形を選択します。
- Tabを繰り返し押して隠れている図形をハイライト表示していき、目的の図形がハイライト表示されたらクリックします。

3 上記の手順を繰り返して図形をさらに選択するか、コマンドを起動します。

2.4.9.2 複数の図形を選択

BricsCADでは、窓選択方法を使用して複数の図形を選択します。

1 選択矩形のコーナーをクリックして定義します。

2 以下のいずれかの操作を行います：
- カーソルを右方向に動かします。青色の矩形が表示されます。**矩形の中に円がある** アイコンは、選択矩形の内側に含まれているすべての図形が選択されることを示します。
- カーソルを左方向に動かします。緑色の矩形が表示されます。**円が矩形と重なっている** アイコンは、選択矩形の内側にある図形または選択矩形と重なっている図形がすべて選択されることを示します。

3 選択矩形の反対側のコーナーをクリックして定義します。

2.4.9.3 選択セットから図形を削除

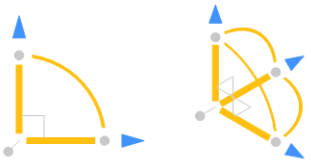
選択方法の実行時、Shiftを押したままにすると、現在の選択セットから図形が削除されます。

現在の選択セットを解除するには、ESCキーを押します。

2.4.10 マニピュレータを使用

マニピュレータ：選択した図形をすばやく移動、回転、尺度変更、ミラーできる汎用グリップツールです。

これらの操作をCtrlを押したまま行うと、選択した図形がコピーされます。

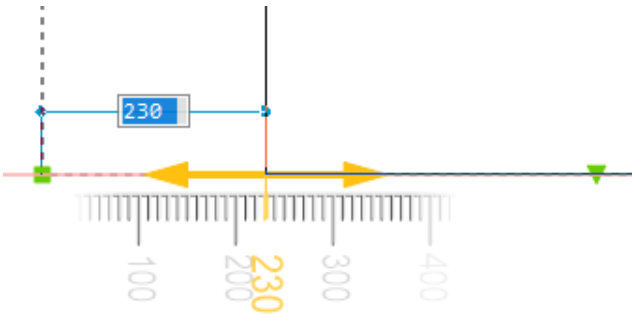


デフォルトでは、長押しで(マウスの左ボタンを長めに押して)図形を選択するとマニピュレータが表示されます。

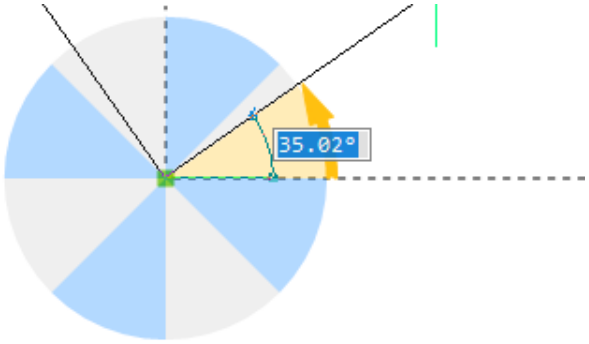
マニピュレータのアンカーポイントは、選択点に対して最も近いグリップポイントに配置されます。

トリガーゾーンのいずれかにカーソルを置き、操作を開始します。

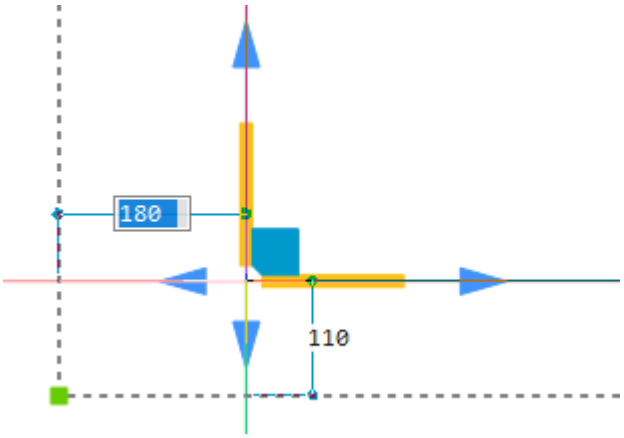
- 軸：軸に沿って移動



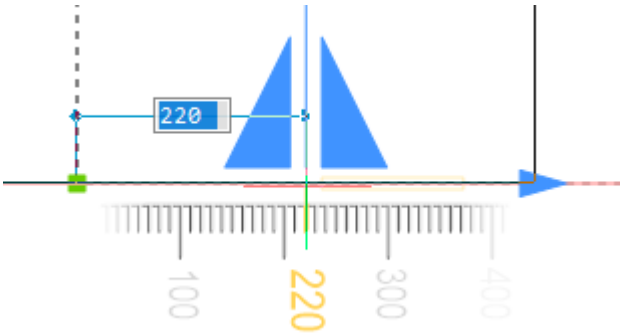
- 回転円弧：軸周りに回転



- 平面スウォッチ(アンカーポイントの正方形)：選択した図形を、選択した平面(XY、XZ、YZ)内を自由に移動



- 矢印の先端：ミラーまたは尺度変更



注：ルーラーのステップサイズは、ズームの倍率によって異なります。拡大するとステップサイズが小さくなり、縮小するとステップサイズが大きくなります。

2.4.11 構造パネルの使用

構造パネルでは、図面全体の内容が構造ツリーに表示され、簡単な手順でフィルター、グループ、ソートを設定することができます。

BricsCADでは、6個の**構造ツリー設定**(**CST**ファイル)が提供されています。

- **Default**は、画層ベースの構造を表示します。

- **Mechanical**は、図形ベースの構造を表示します。
- **BIM**は、BIM図形ベースの構造を表示します。
- **BIM - Compositions**は、BIM複合材を基本とした構造を表示します。
- **BIM - Profiles**は、BIMプロファイルを基本とした構造を表示します。
- **BIM - Types**は、BIMタイプを基本とした構造を表示します。

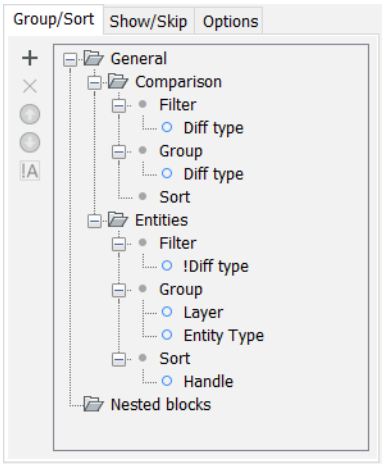
2.4.11.1 一般的な使用例

特定の画層のすべての図形を削除します(defaultCSTファイル)

1 **構造**パネルを開きます。( )

2 ドロップダウンメニューのボタン( )をクリックし、**デフォルト**設定を選択します。

注：選択した設定を確認するには、ドロップダウンメニューから**構造ツリーを設定**オプションをクリックします。



3 構造ツリーの**図形**ノードを開きます。図面内のすべての図形は、**画層**プロパティでグループ化されて一覧表示されます。

4 構造ツリーで、表示させたい画層のノードを選択します。選択した画層に含まれるすべての図形が、自動的にモデル空間で選択されます。

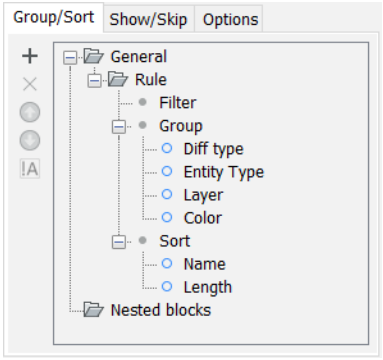
5 **Delete**を押します。画層内のすべての図形が削除されます。

図面内のすべての線分を削除します(MechanicalCSTファイル)

1 **構造**パネルを開きます。( )

2 ドロップダウンメニューのボタン( )をクリックし、**メカニカル**設定を選択します。

注：選択した設定を確認するには、ドロップダウンメニューから**構造ツリーを設定**オプションをクリックします。



3 構造ツリーの**図形**ノードを開きます。図面内のすべての図形は、**図形**プロパティでグループ化されて一覧表示されます。

4 構造ツリーの**線分**ノードを開きます。図面内のすべての線分が、自動的にモデル空間で選択されます。

5 **Delete**を押します。図面内のすべての線分が削除されます。

2.4.11.2 ルールの操作方法

構造パネルでは、原則として図形プロパティの値が比較されます。比較プロセスのルールは、**構造ツリー設定**ファイル(CST)に保存されます。図形は、比較結果により構造ツリー上でグループ化されます。図形がグループ化されていると、同じプロパティ値を持つ図形を選択したり、図面が意図したとおりになっているか確認したり、プロパティを変更したりすることが簡単にできます。

構造ツリーの図形の表示方法を決定するには、**構造ツリー設定**を選択するか、**構造ツリーを設定**ダイアログボックスで新たに設定を行います。ダイアログボックスでは、ルールにフィルターを追加し、その結果をグループ化したりソートしたりして整理することができます。BricsCADが認識する図形タイプのプロパティ(CAD、BIM、Mechanicalなど)やカスタムプロパティに対して、フィルター、グループ、ソートを選択することができます。

注：構造は階層になっているので、**構造ツリー設定**におけるルール、フィルター、グループ、ソート基準の位置は重要です。**プロパティを上に移動**()と**プロパティを下に移動**()の各ボタンで、**構造ツリー設定**ダイアログボックスで選択しているルールやプロパティの順番を変更します。

ルール

構造ツリー設定ダイアログボックスではフォルダーマークで表示されます。

図面の中のすべての図形に対して、それぞれのルールのフィルターをチェックして、上から下へ順番に適用されます。あるルールのフィルターにかからなかった図形は、次のルールのフィルターへ順送りされます。

図形が1つでもルールに該当する場合、**構造**パネルのツリーには対応するノードが表示され、ノードにはそのルールのフィルターにより選別された図形が含まれています。ノードの中の図形は、そのルールに指定されているグループとソートの条件にしたがって順番に表示されます。

フィルター

ルールごとに設定したフィルターにより、図形一覧の表示を制御することができます。設定したフィルターに該当する図形がない場合、構造ツリー上の次のルールが適用されます。

注：フィルターは、プロパティの値で選別するのではなく、特定のプロパティがあるかどうかを確認することで図形を選別します。たとえば、フィルターに寸法スタイルを設定した場合(フィルターで**寸法スタイル**プロパティを選択)、寸法スタイルが設定されたすべての図形、つまりすべての寸法図形が対象となります。**寸法スタイル**がISO-25と等しいというようなフィルターを設定することはできません。

フィルターを追加することができます。同じルールを別の図形に適用するには、そのルールの **フィルター**ノードを選択して、**ルールまたはプロパティを追加ボタン**(+)をクリックし、別の図形のプロパティを選択します。たとえば、**寸法スタイル**プロパティフィルターがある場合、**半径**プロパティフィルターを追加すると、ルールの下に寸法・円・円弧がすべて一覧表示されます。

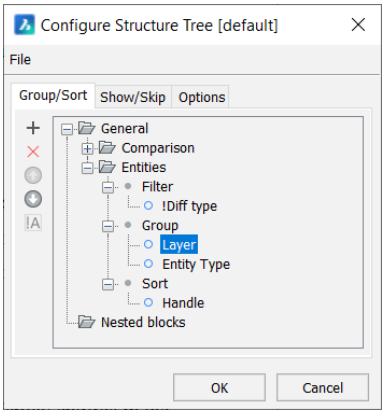
注：この場合、**構造ツリー設定**ダイアログボックスで新しい条件を追加する順序は関係ありません。

選択したフィルターについて、**否定切り替え**ボタンをクリックすると、図形をルールの下に表示しないようにすることができます。フィルター名の前に「!」記号が表示されます。
あるルールにフィルターを設定しない場合、その上位のルールのフィルターが適用される前のすべての図形に対して当該ルールが適用されます。これは、上位ルールのフィルターにかからない図形もグループやソートの対象に含めるためです。フィルターを設定しないルールの直下のルールには、フィルターの対象となる図形が残っていないので図形はありません。

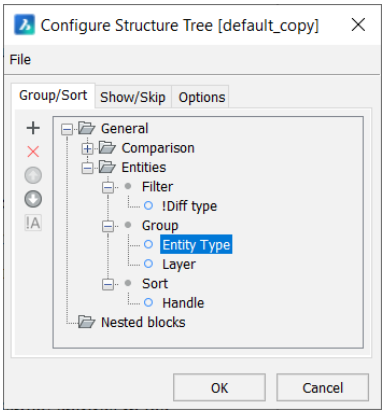
グループ
グループは、フィルターで選別された図形が構造ツリー上にどのように表示されるかを定義します。グループ内の項目の順序により、構造ツリーの分岐が入れ子になります。

グループノードにプロパティを追加するには、ノードを選択して**ルールまたはプロパティを追加ボタン**をクリックします(+)。
一般的にグループで使用される2つのプロパティは、**画層**と**図形の種類**です。

- 画層でグループ化したあとに、さらに図形の種類でグループ化して表示するには、**画層**プロパティを**図形の種類**プロパティの上に移動します。



- 図形の種類でグループ化し、さらに画層でグループ化して表示するには、**図形の種類**プロパティを**画層**プロパティの上に移動します。



グループ化の条件に図形プロパティが追加されていない場合、フィルターが適用された図形はツリー上でフラットに表示されます。

グループ化プロパティを削除するには、選択して**ルールまたはプロパティを削除**ボタン(×)をクリックします。

ソート
ソートは、最下層での図形の表示方法を定義します。
ソートを設定すると、グループ内の図形は、ソートプロパティの値のラベルが付けられ、ツリー上でフラットに表示されます(下位ノードなし)。
ソート条件としてさらにプロパティを追加すると、ノードの図形に適用されるプロパティリストの最初のプロパティがラベルに使用されます。

定義済みのルール
構造パネルの**デフォルト**のCST設定には、定義済みのルールとして、**比較**と**図形**の2つがあります。

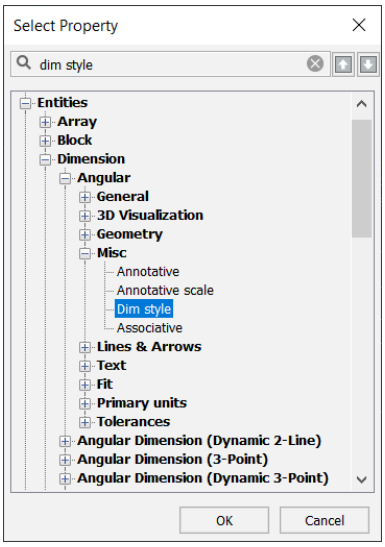
比較ルール
DWG比較が有効な場合のみ、このルールに該当する図形が表示されます。
相違タイプに該当する図形がない場合、このフォルダーに図形は表示されません。その場合、このルールで表示される図形がないため、**比較**ノードは**構造**パネルに表示されません。
詳細については、**DWGCOMPARE**コマンドの記事を参照してください。

図形ルール
このルールには、デフォルトでフィルターが設定されていません。上位ルールのフィルターが適用される前の図形がすべて表示されます。
グループ化の条件に使用される図形プロパティは、**画層**と**図形の種類**です。まず画層プロパティによってグループ化されたあとで、図形の種類によってグループ化されます。

2.4.11.3 手順：すべての寸法図形を選別する

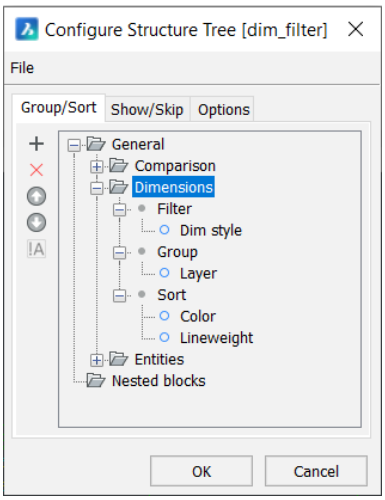
構造ツリーにおいて、図面の中のすべての寸法図形を1つのノードに表示するには、次のようにします：

1. **構造**で図面の名前を右クリックし、コンテキストメニューから**設定**を選択すると、**構造ツリーを設定**ダイアログボックスが表示されます。
2. **ファイル**から**名前を付けて保存...**を選択します。新規に作成した設定ファイルに、名前を付けて保存します(例. **dim_filter**)。CSTファイルは、デフォルトで**Support**フォルダーC:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Supportに格納されます。
3. **グループ/ソート**タブの**ルールまたはプロパティを追加**ボタンをクリックします。ツリー構造の最下部に新しい**ルール**が追加されます。
4. 作成したルールの名前をクリックし、名前を「**寸法**」に変更します。
   注：新しいルールに適切な名前を付けることは、構造ツリーでフィルターの実際の効果を知る上で重要です。
5. **寸法**ルールの**フィルター**ノードをクリックし、**ルールまたはプロパティを追加**ボタンをクリックすると、**プロパティを選択**ダイアログボックスが表示されます。
6. **プロパティの選択**ダイアログボックスの検索欄に、「dym style」と入力します。**次を検索**ボタン( )を選択するか、あるいは**Enter**を押して**角度**寸法の**寸法スタイル**プロパティへ移動します。



7 **OK**をクリックして、ルールに**寸法スタイル**プロパティを追加します。

8 **構造ツリー設定**ダイアログボックスで、**寸法**ルールを選択します。**プロパティを上に移動**ボタンをクリックして、**寸法**ルールが **図形**ルールの上になるように配置します。



構造パネルのツリーで、**寸法**ノードに図面内のすべての寸法図形が表示されるようになります。

2.4.12 BricsCADでのアクションの記録と再生

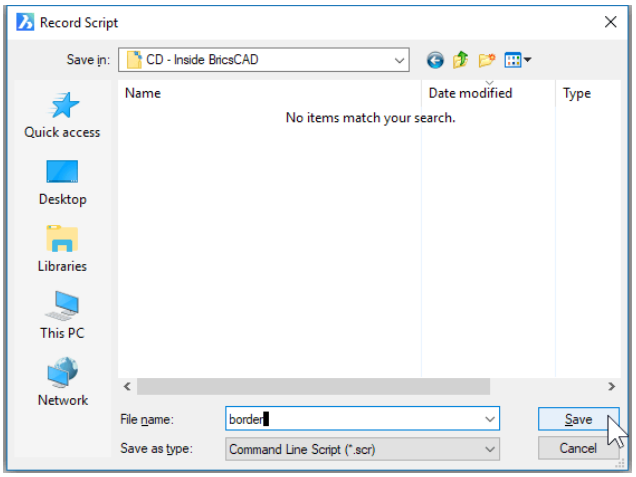
2.4.12.1 コマンド

RECSCRIPT、STOPSCRIPT、SCRIPT

2.4.12.2 BricsCADで操作を記録

1 新しい図面で、RECSCRIPTコマンドを起動するか、**ツール**メニューから**スクリプト記録開始**を選択します。

スクリプトを記録ダイアログボックスが開きます。



2 スクリプトのファイル名を入力します。このチュートリアルでは、**border**と入力し、**保存**をクリックします。border.scr スクリプトファイルが作成されます。

3 **スクリプトを記録**ダイアログボックスが閉じ、コマンドラインプロンプトが使用可能になり、コマンドを入力することができます。

例えば、

a RECTANGコマンドを起動します。

a
```
: RECTANG
矩形の最初のコーナーを選択するか、または指定します。[面取り(C)/フィレット(F)/回転(R)/正方形(S)/高度(E)/厚さ(T)/線幅(W)/面積(A)/寸法(D)]: 0,0
矩形のもう一方のコーナー: 36,24
```

b ZOOMコマンドを起動します。

c
```
: ZOOM
ズーム [拡大(I)/縮小(O)/すべて(A)/中心(C)/ダイナミック(D)/図形範囲(E)/左(L)/前(P)/右(R)/尺度係数(nx/nxp)(S)/窓(W)/オブジェクト(OB)] <尺度係数(nX/nXP)>: E
```

注：記録中は、コマンドを実行中にマウスで図面内の点を指示することができます。BricsCADは、指示した点をXY座標で記録します。

4 記録を停止するには、STOPSCRIPTコマンドを起動します。

2.4.12.3 スクリプトファイルの再生

以下の手順でSCRIPTコマンドを使い、スクリプトを実行できます。

1 NEWコマンドで新しい図面を作成して、スクリプトの効果を確認します。

2 SCRIPTコマンドを入力します。

3 **スクリプト実行**ダイアログボックスが開きます。**border.scr**を選択し、**開く**をクリックします。

スクリプトによって矩形が瞬時に作図され、新しく作図された境界範囲が拡大表示されます。

2.4.12.4 手動によるスクリプト記述

BricsCADには、スクリプトを作成して実行するコマンドはありますが、編集するコマンドはありません。RECTANGコマンドで使用される座標を変更したい場合は、テキストエディタ(Windowsのメモ帳、Linuxのテキストエディット、macOSのテキストエディット)でスクリプトファイルを編集してください。

1 テキストエディタでborder.scrファイルを開きます。

1 スクリプト記録時に入力したコマンドとオプションを確認します。

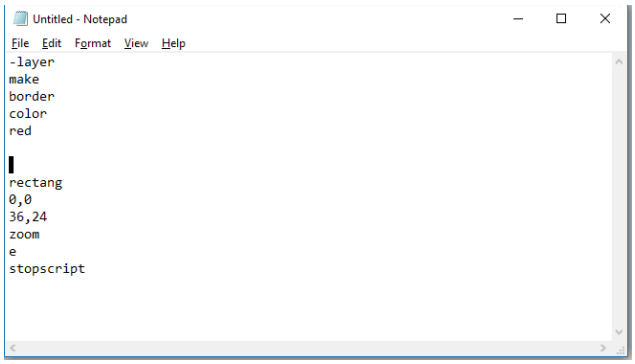
以下の通りにコマンドを変更します。

a 境界のサイズを18×24に変更します。文字列 "36,24" を編集して "18,24"に置き換えます。

b 「境界」という名前の画層に矩形を配置して赤色を指定するコマンドを追加します。

c
i カーソルを「rectang」の前に置き、**Enter**を押して空の行を作成します。
ii 以下の文字列を入力します。
iii -layer
make
border
color
red
▬ <-- 空白行
▬ <-- 空白行2行目

a 必ず空白行を2行挿入してください。これらは、コマンド実行中に**Enter**を押す動作をします。ファイルは以下のようになります：



4 ファイルを保存します。

5 BricsCADに戻り、新しい図面を開始します。

6 SCRIPTコマンドを使用して、border.scrファイルが正しく動作しているかテストします。赤色の矩形が表示されます。

2.4.12.5 スクリプトコマンドと修飾子

スクリプト固有のコマンドは4つあります。これらのコマンドを他の目的に使用することはありません。また、本章で前述したように、BricsCADにはスクリプトを記録するRECSCRIPTというコマンドがあります。

4 つの基本コマンドは以下の通りです。

SCRIPT
SCRIPTコマンドは、(1)スクリプトファイルをロードし、(2)すぐに実行を開始するという2つの役割を果たします。

注 : FILEDIAシステム変数をオフ(0)にして、ダイアログボックスではなくコマンドラインにプロンプトが表示されるようにしてください。

RSCRIPT
Repeat Scriptの略で、BricsCADにロードされているスクリプトを再実行します。無限ループを作成するのに最適です。

RESUME
一時停止したスクリプトファイルを再開します。スクリプトファイルを一時停止するには、**Back Space**キーを押します。

DELAY
人間の介入なしにスクリプトファイルに一時停止を作成するには、DELAYコマンドを使い、数値を入力します。数値は一時停止をミリ秒単位で指定します(1,000ミリ秒 =1秒)。

注 : 最小遅延時間は1ミリ秒です。最大値は 32767 ミリ秒（33 秒弱）です。

スクリプトファイルで DELAYコマンドを使用することで、スライドファイルが表示されるまで待機させたり、人間がプロセスを視認できる程度にスクリプトファイルの速度を落とすことができます。

2.4.12.6 特殊文字

スクリプト固有のコマンドに加えて、特殊文字とキーも幾つかあります。

Enter -- (空白文字)
重要な特殊文字としては空白文字と改行(行末)文字があります。それぞれスペースキーを押す場合やEnterを押す場合と同じ意味ですが、表示されません。実際に、どちらも同じ結果になります。ただし、表示されないので注意が必要です。例えば、Enterを続けて何回か押すようなコマンドで、スクリプトを記述するときに1行に空白文字をいくつか挿入する必要があります。ATTEDITコマンドは、その良い例です。

```
; Edit the attributes one at a time:
attedit    1,2
```

attedit**と座標 1,2**の間に空白文字がいくつありますか?
このため、以下のように、1 行に1つのスクリプト項目を配置することをお勧めします。

```
; Edit the attributes one at a time:
attedit




1,2
```

これで、空白行ごとに空白文字が1つあるとみなし、空白文字の数が4つであることが判別しやすくなります。

コメント -- ;
セミコロン(;)を使い、スクリプトファイルにコメントを挿入できます。

注 : BricsCADは、セミコロンの後をすべて無視します。

割り込み -- '
コマンド実行中に、スクリプトを割り込ませて実行することができます。以下のように、SCRIPTコマンドの前にアポストロフィ「'」を付けることで、別のコマンドの実行中にスクリプトを実行できます。

```
: LINE
Start of line: 'script
Script to run: filename
```

BricsCADのスクリプト固有の4つのコマンドは、すべて割り込みコマンドです。コマンド操作中に遅延時間を作成できるDELAYも同様です。

一時停止 -- バックスペース
前述したように、スクリプトファイルを一時停止するキーです。

停止 -- esc
スクリプトファイルを直ちに停止します。最初から再起動するには、RSCRIPTコマンドを使用します。

3. 図面管理

3.1 図面の作成

新しい図面は、常にテンプレート図面のコピーとして作成されます。デフォルトのテンプレートは、システム変数BASEFILEによって保存されます。

BricsCADでは、以下の方法で新しい図面を作成できます。

- **スタート**ページから作成。
- QNEWコマンドを使用します。
- NEWコマンドを使用します。
- NEWWIZコマンドを使用します。
- Windowsのエクスプローラで* .dwtファイルをダブルクリックします。

3.1.1 テンプレートフォルダーの指定

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **プログラムオプション** > **ファイル** > **テンプレート**で、**テンプレートパス**(TEMPLATEPATHシステム変数)を選択します。

3 **参照**ボタンをクリックします。

4 **ディレクトリを選択:**ダイアログボックスで、フォルダーを選択して**OK**ボタンをクリックします。

3.1.2 デフォルトの図面テンプレートの設定

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **プログラムオプション** > **ファイル** > **テンプレート**で、**テンプレート**(BASEFILEシステム変数)を選択します。

3 **参照**ボタンをクリックします。

4 **ファイルを選択**ダイアログボックスで、図面ファイル(*.dwg)または図面テンプレート(*.dwt)を選択し、**開く**ボタンをクリックします。

3.1.3 スタートページの使用

1 **スタート**ページをクリックします。

必要に応じて、GOTOSTARTコマンドを起動して、**スタート**ページを開きます。

新しい図面ボタンの下に、現在の図面テンプレートの名前が表示されます。

2 以下を実行します：

3
- (オプション)開始時に新しいテンプレートを選択します。
- **注**：* 現在のワークスペース(2D作図、モデリング、メカニカル、土木測量、BIM)と一致する**テンプレート**フォルダー内のすべてのテンプレート図面がここに表示されます。**更に表示...**を選択すると、**テンプレート**フォルダーの全内容が表示されます。
- **新しい図面**ボタンをクリックします。

3.1.4 デフォルトのテンプレート図面を使用した図面作成

1つ目の方法：

図面タブの右端にある「＋」ボタンをクリックします。

2つ目の方法：

QNEWコマンドを起動します。

3つ目の方法:

1 NEWWIZコマンドを起動します。

2 **新規図面を作成**ダイアログボックスで、**デフォルトテンプレートから開始**を選択し、**終了**ボタンをクリックします。

注：デフォルトのテンプレート図面を指定していない場合、STARTUPシステム変数の現在の値に応じて**新規図面を作成**ウィザードが起動します。そうでない場合は、**テンプレートを選択**ダイアログボックスが表示されます。

3.1.5 NEWWIZコマンドを使用して図面を作成

1 NEWWIZコマンドを起動します。

2 **新規図面を作成**ダイアログボックスで、**一から開始**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

3 既定の設定として、**インチ系**または**ミリ系**を選択します。

終了ボタンをクリックすると、図面が作成されます。

注：上記の手順を行い新しく作成した図面の印刷設定に**CTB**(色従属印刷スタイルテーブル)を使用するか、**STB**(名前の付いた印刷スタイルテーブル)を使用するか、BASEFILE変数とPSTYLEPOLICY変数の設定によって決まります。

ベースファイル	印刷スタイルポリシー	CTBまたはSTB
未指定	オフ	STB
未指定	グリッドオン	CTB
指定	オンまたはオフ	テンプレート図面の定義に従う

3.1.6 印刷スタイルテーブルの設定

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **プログラムオプション** > **印刷とパブリッシュ**で、**印刷スタイルポリシー**(PSTYLEPOLICYシステム変数)を選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

4
- 色従属印刷スタイルテーブル(CTB)のプロットスタイルの場合は、**図形の印刷スタイルを色に関連付けする**を選択します。
- 名前付き印刷スタイルテーブル(STB)のプロットスタイルの場合は、**色と印刷スタイルの関連付けは無し**を選択します。

3.1.7 図面テンプレートを使用した図面作成

1 NEWWIZコマンドを起動します。

2 **新規図面を作成**ダイアログボックスで、**テンプレートから開始**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

3 以下のいずれかの操作を行います：

4
- **テンプレートを選択**リストからテンプレート図面を選択します。
  デフォルトでは、**テンプレート**フォルダーの内容となります。
- **ブラウズ...**ボタンをクリックして、テンプレート図面を選択します。
  ファイルの種類を***.dwg**および***.dwt**から選択できます。

3.1.8 ウィザードを使用した図面作成

1 NEWWIZコマンドを起動します。

2 **新規図面を作成**ダイアログで、**ウィザードを使用**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

3 既定の設定として、**インチ系**または**ミリ系**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

4 **計測単位**と表示**精度**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

5 **計測角度**と表示**精度**を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

6 **色従属**印刷スタイル(CTB)または**名前付け**印刷スタイル(STB)を選択し、**次へ**ボタンをクリックします。

7 デフォルトの**色**と**線種**を選択します。

8 **グリッド**、**スナップ**、**UCSアイコン**、**マーカーブリップ**の設定を定義します。

9 **終了**ボタンをクリックすると、図面が作成されます。
(オプション)**ファイル**メニューの**名前を付けて保存...**を選択して、図面を新しいテンプレートとして**Templates**フォルダーに保存します。

3.2 図面エクスプローラダイアログボックスでの作業

3.2.1 図面フォルダーを追加

1 **図面エクスプローラ**のメインウィンドウの**図面** > **フォルダー**サブウィンドウで、**ローカルフォルダーを追加**ボタンをクリックします。
フォルダーを選択ダイアログボックスが表示されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：
- 既存のフォルダーを追加：追加したいフォルダーを選択します。
- 新規フォルダーを作成：**新規フォルダー**ボタンをクリックします。

3 **フォルダーを選択**ボタンをクリックします。
フォルダーが追加されます。

注：

- 選択されたフォルダーのサブフォルダーにある図面も開く場合があります。
- 選択したフォルダーの親フォルダーは、図面フォルダーツリーでグレー表示されます。このフォルダー内の図面は開くことができません。

3.2.2 図面を開く

フォルダーにある図面を開くには：

1 **図面** > **フォルダー**サブウィンドウで、図面のフォルダーを開きます。

2 図面を選択します。

3 **プレビュー**サブウィンドウにプレビューが表示されます。

4 以下のいずれかの操作を行います：

- 図面をダブルクリックします。
- 右クリックして、コンテキストメニューで**開く**を選択します。

3.2.3 Bricsys 24/7へログオン

1 **図面**パネルで、**フォルダー**を選択します。

2 **Bricsys 24/7へログオン...**をクリックします。

3 ユーザー名とパスワードを入力してください。

4 ログオンすると、Bricsys 24/7のすべてのプロジェクトが一覧表示されます。

3.2.4 Bricsys 24/7のプロジェクトから図面を開く

1 プロジェクトを展開し、図面フォルダーを選択します。

2 図面を選択します。

3 **プレビュー**サブウィンドウにプレビューが表示されます。

4 図面を右クリックし、コンテキストメニューで**ダウンロード**を選択します。

図面に名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

5 フォルダーを選択し、必要に応じて図面の名前を変更して、**保存**ボタンをクリックします。

図面がダウンロードされ、現在のBricsCADのセッションで開きます。

3.2.5 図面間で定義をコピー

1 コピー元図面とコピー先図面を開きます。

2 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを起動します。

3 コピー元の図面で、コピーしたいカテゴリ(たとえば、**ブロック**)を選択します。

4 (オプション)**詳細**パネルの表示オプション(たとえば、**アイコンビュー**ボタン( )など)を調整します。

5 一連のブロックなど、コピーする定義を選択します。

6 **Ctrl**を押したままにすると、複数の項目を選択できます。

7 以下のいずれかの操作を行います：

- マウスの左ボタンを押したまま選択したものを図面エクスプローラの**図面を開く**にドラッグします。

  コピー先の図面名の上で、マウスの左ボタンを離します。

  選択した項目が対象の図面にコピーされます。
- 右クリックし、コンテキストメニューから**コピー**を選択します。

コピー先の図面で同じ定義カテゴリを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**ペースト**を選択します。

注：

- 同じ名前のアイテムが存在している場合、上書きするかどうかの確認画面が表示されます。
- ドラッグ＆ドロップは、一部の定義カテゴリではサポートされていません。(例：マルチ引出線スタイル、表示スタイル、レンダリング初期設定、ページ設定)

3.2.6 カレント図面に外部参照の定義を関連付ける

図面エクスプローラでは、外部参照の個々のテーブルレコード(画層、線種、文字スタイル、寸法スタイル、ブロック)をカレント図面に関連付けることができます。

1 外部参照を含む図面を開きます。

2 目的のカテゴリを選択し、関連付けたい外部参照の定義を選択します。

3 定義を右クリックし、コンテキストメニューから**バインド**を選択します。

3.3 図面のプロパティを編集

DWGPROPSコマンドで**図面プロパティ**ダイアログボックスを開きます。一般的な情報とユーザーが図面に加えた定義を確認することができます。

図面プロパティダイアログボックスには、次の項目があります。

- 標準：図面データ
- 要約：編集可能なデフォルトのプロパティ
- 統計：履歴データ
- シートセット：関連するシートセットの情報
- カスタム：ユーザー定義のカスタムプロパティ

図面プロパティは、フィールドで参照できます。

3.3.1 図面のプロパティダイアログの表示

以下のいずれかの操作を行います：

- **ファイル**メニューから **図面のプロパティ**を選択します。
- DWGPROPSコマンドを実行します。

3.3.2 デフォルトのプロパティを定義

1 **図面プロパティ**ダイアログボックスで、**要約**タブページをクリックします。

2 フィールドに情報を記入します。

3 **OK**ボタンをクリックします。

3.3.3 カスタムプロパティの作成

1 **図面プロパティ**ダイアログボックスで、**カスタム**タブをクリックします。

2 **追加**ボタンをクリックします。

カスタムプロパティダイアログボックスが表示されます。

3 **名前**フィールドに名前を入力します。

カスタムプロパティ名は、**フィールド**ダイアログボックスの**ドキュメント**に一覧表示されます。

4 **値**欄に値を入力します。

値はカスタムプロパティがフィールドとして挿入されている場所に表示されます。

3.4 図面のセキュリティオプション

SECURITYOPTIONSコマンドを使用すると、パスワードを使用して図面を保護できます。パスワードで保護された図面は、最初にパスワードを入力しなければ開くことができません。

3.4.1 パスワードの設定

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ファイル/図面ユーティリティ**メニューから**セキュリティーオプション...**を選択します。
- SECURITYOPTIONSコマンドを実行します。

セキュリティオプションダイアログが開きます。

2 **パスワードを入力**欄にパスワードを入力します。

3 **暗号化プロバイダー**リストから暗号化プロバイダーを選択します。

4 **キー長さ**を、選択した暗号化プロバイダに応じて、リストのいずれかの値に設定します。

5 **OK**ボタンをクリックするか、Enterを押します。

セキュリティオプションダイアログボックスが閉じます。

パスワードダイアログが開きます。

6 **パスワードを確認**欄にパスワードを入力します。

7 **OK**ボタンをクリックするか、Enterを押します。

パスワードが定義されます。

3.4.2 パスワードの削除

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ファイル/図面ユーティリティ**メニューから**セキュリティーオプション...**を選択します。
- SECURITYOPTIONSコマンドを実行します。

2 **セキュリティオプション**ダイアログが開きます。

3 **パスワードを入力**欄を空欄にします。

4 **OK**ボタンをクリックするか、Enterを押します。

パスワードが解除されたことを確認するメッセージボックスが表示されます。

5 **OK**ボタンをクリック、または、Enterを押してメッセージボックスを閉じます。

3.5 図面を開く/保存する

BricsCADで図面を開く/保存する方法は、一連のシステム変数によってコントロールされています。

名前	タイトル	説明
	タイトルにフルパスで表示	タイトルバーに、図面のフルパスを表示するか、ファイル名だけを表示するかを指定します。
	図面パス	OPENコマンドとSAVEASコマンドのファイルダイアログで、追加フォルダーを指定します。 Windowsプラットフォームの場合：**ファイルを開く**ダイアログの**場所**バーに5つのフォルダーがあります。
-	1番目、2番目、3番目、4番目のフォルダー	非標準の**ファイルを開く**ダイアログ(Windowsプラットフォームのみ)の**場所**バーで1番目から4番目のフォルダーを設定します。
	サムネイルプレビューサイズ	サムネイルプレビューサイズの最大値をピクセル値で指定します。
	インデックスコントロール	画層インデックスまたは空間インデックスの作成および保存を指定します。 • 画層インデックスには、図面内のすべての図形と、それらがどの画層にあるかが一覧表示されます。 • 空間インデックスは、3D空間内のすべての図形の場所を格納します。 ディマンドロードが有効になっている場合、インデックスは外部参照をロードするために使用されます。画層インデックスが存在する場合、オフまたはフリーズされている画層上の図形はロードされません。空間インデックスが存在する場合、クリップ境界の外側にあるクリップされた外部参照内の図形はロードされません。 外部参照のデマンドロードは、XLOADCTLシステム変数によってコントロールされます。 インデックスを作成すると、図面の保存は遅くなりますが、外部参照の処理速度は向上します。したがって、外部参照として使用される図面に対してのみインデックスを作成します。 0 = インデックスなし

名前	タイトル	説明
	外部参照のロードコントロール	外部参照図形のデマンドロードをコントロールします。 デマンドロードをONにすると、パフォーマンスが向上します。 • 空間インデックスで保存されている外部参照をクリップする場合、クリップされた領域内の外部参照の図形のみが読み込まれます。クリップ領域が変更された場合、図形が参照図面からロードされます。 • 画層インデックスとともに保存されている外部参照の画層をフリーズすると、フリーズ解除された画層の外部参照の図形のみが読み込まれます。外部参照に従属する画層がフリーズ解除されると、より多くの図形がロードされます。
	マルチスレッドフラグ	ビットコード 1024：外部参照を遅延ロード 外部参照のロードをアイドル時間まで遅らせます。
	追加分のバックアップ保存	バックアップファイル(BAK)の作成をコントロールします。オフにすると、特に容量の大きい図面の保存時間に効果があります。
	保存する比率	このシステム変数はBricsCADが完全保存を実行する頻度をコントロールします。完全保存では図面データベース内のすべてのデータが再編成され、コンパクトファイルが作成されます。部分保存ではすべての変更が図面データベースの最後に保存されます。完全保存は、部分保存よりも実行に時間がかかります。
	最近のファイルリストの最大数	**ファイル**メニューの**最近使用したファイル**フライアウトと**開始**タブに表示されるファイルの数を指定します。
	プロキシグラフィック	プロキシ図形(1)のイメージを図面に保存するかどうかを指定します。オフにすると、代わりに境界ボックスが表示されます。
	プロキシ通知	他のアプリケーションによって作成されたプロキシ図形(1)を含む図面を開くと、通知が表示されます。
	プロキシ表示	図面でのプロキシ図形(1)の表示方法を指定します。
	プロキシWeb検索	BricsCADがオブジェクトイネーブラーをチェックするかどうかを設定します。
	保存形式	図面を保存するときのデフォルトバージョンを設定します。

名前	タイトル	説明
	保存ファイルのパス	自動保存と一時ファイルが保存されるパスとフォルダーを指定します。 SAVEFILEFOLDERコマンドは、システムファイルブラウザでSAVEFILEPATHの場所を開きます。
	自動保存の時間間隔	自動保存の間隔を分単位で指定します。ゼロに設定すると、自動保存はオフになります。自動保存は、SAVEFILEPATHシステム変数で定義されているフォルダーに、.SV$ 拡張子を付けて作成されます。
	マクロを有効化	VBAプロジェクトのロード時、マクロを可能にするかどうか指定します。
	VBアプリケーションを有効にします。	BricsCADで既存のVBアプリケーションを動作させるため、レジストリの設定を使用します。
	自動保存時の、DBMOD(2)の最初のビット以外を無視	このユーザー設定をオンにすると、閲覧のみのファイルには自動保存ファイルは作成されません。
	閉じる時の、DBMOD(2)の最初のビット以外を無視	このユーザー設定をオンにすると、ファイルを表示した後、ファイルの保存要求を受けずにファイルを閉じることができます。

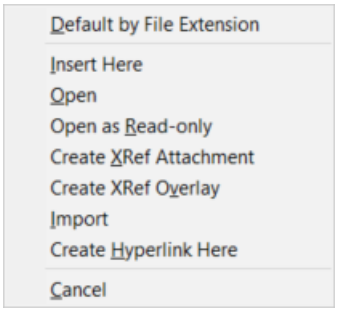
(1)プロキシ図形は、アドオンアプリケーションによって作成されるカスタム図形です。アドオンが現在ロードされていない、またはインストールされていない場合、図形は正しく表示できません。

(2)DBMODは、変更された図面のビットコードを示します：1 =変更されたオブジェクトデータベース、4 =変更されたデータベース変数、8 =変更されたウィンドウ、16 =ビュー変更、32 =変更されたフィールド

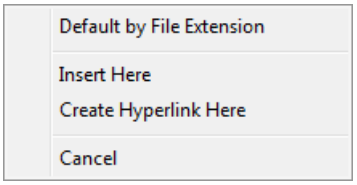
3.5.1 ドラッグ＆ドロップで図面を開く

BricsCADアプリケーションウィンドウ上の**ファイル**ダイアボックスから図面をドラッグすると、図面を開くことができます。ファイルを選択し、マウスの左ボタンを押しながらBricsCADアプリケーションウィンドウにカーソルを移動させ、マウスの左ボタンを離すと図面が読み込まれます。マウスの右ボタンを押しながらファイルをドラッグすると、コンテキストメニューが表示されます。

図面ファイルを選択した場合：



別のファイルタイプを選択した場合：



ファイル拡張子によるデフォルトを選択します。

- 図面ファイルを開く
- PDFをアタッチ
- ラスターイメージファイルをアタッチ
- ファイルをOLEオブジェクト(Excelスプレッドシートなど)として挿入

ここへ挿入を選択します。

- 図面ファイルをカレント図面のブロックとして挿入
- PDFをアタッチ
- ラスターイメージファイルをアタッチ
- OLEオブジェクトとしてファイルを挿入

開くを選択して、図面ファイルを開きます。

図面ファイルを開き、元の図面が上書きされないようにするには、**読み取り専用として開く**を選択します。読み取り専用図面は別の名前でのみ保存できます。

図面ファイルを外部参照として現在の図面にアタッチするには、**外部参照アタッチを作成**または**外部参照オーバーレイを作成**を選択します。

- **アタッチメント**：現在の図面が外部参照として別の図面にアタッチされている場合、アタッチメントはネストされた外部参照になります。
- **オーバーレイ**：オーバーレイがアタッチされている図面が外部参照として別の図面にアタッチされる場合、オーバーレイは無視されます。

読み込みを選択して、現在の図面にジオメトリを読み込みます。

ここへハイパーリンクを作成を選択すると、選択したファイルにハイパーリンクを作成することができます。

注：

- 図面ファイルの拡張子は、.DWG、.DXF、または .DWTです。
- 複数のファイルを選択した場合、ファイルは1つずつ処理されます。

3.5.2 OLEオブジェクトとして埋め込まれた図面を他のアプリケーションで開く

OLEオブジェクトとして埋め込まれた図面ファイルを他のアプリケーションで開くには、アプリケーション内からそのオブジェクトをダブルクリックします。BricsCADは、元のファイルの名前のタブに図面を開きます。図面を修正して保存できます。

他のアプリケーションにOLEオブジェクトとして埋め込まれている古いバージョンのBricsCADからの図面は、インストールされている最新バージョンのBricsCADで自動的に開くようになりました。

COMACADCOMPATIBILITYシステム変数を**オン**に設定すると、他のアプリケーションにOLEオブジェクトとして埋め込まれているAutoCAD®図面ファイルが、BricsCADで開きます。

3.5.3 不明なフォントの置き換え

不明なフォントを含む図面を開くと、右下に通知バルーン**欠落したフォント**がが表示されます。**フォント置換を指定**の指定をクリックして、**フォント置換**ダイアログボックスを開くと、欠落したフォントが表示されます。このダイアログボックスは、default.fmpファイルにないフォントを選択するのに役立ちます。

注：これは通常、複数の言語の文字が含まれているため、ビッグフォントが使用されている場合に発生します。

3.6 図面情報の取得

図面から2種類の情報を検索することができます：

- 図面の一般的な情報
- 図面の図形に関する情報

3.6.1 全体図情報

DWGPROPSコマンドで、**図面プロパティ**ダイアログボックスを開きます。一般的な情報とユーザーが図面に加えた定義を確認することができます。

SETVARコマンドは、システム変数の値を表示または変更します。("set variables"の略)

STATUSコマンドは、図面の状態(図面名、最も重要なシステム変数の状態、図面内の図形数)を表示します。

TIMEコマンドは、図面に関する各時間(カレントの時刻、作成日、最終更新、総編集時間、ユーザーの経過時間)を表示します。

3.6.2 図形の情報について

STATUSコマンドは、図面内の図形の総数を表示します。

カテゴリごとの図形の数を確認するには、**クイック選択**を使用します。

AREAコマンドは、2D図形の面積と周長(または長さ)を計測します。

MASSPROPコマンドは、3Dソリッドの体積、2D領域(mass propertiesの略)の面積、周長、その他の数学的プロパティを表示します。

IDコマンドは、指定した位置のX,Y,Z 座標を表示します。

LISTコマンドは、選択した図形のプロパティを一覧表示します。

3.7 図面の比較

DWGCOMPAREコマンドは、比較セッションで選択した図面と現在の図面を比較します。

ENDCOMPAREコマンドは、比較セッションを終了します。

KEEPMEコマンドを実行すると、比較した図面を視覚的にマージすることができます。

3.7.1 比較のシステム変数

名前	タイトル	説明
CMPCLRMISS	欠落している図形の色	欠落している図形の色を制御します。 デフォルトの表示色は赤色です。
CMPCLRMOD1	変更図形の色	変更されている図形の色を制御します。 デフォルトの表示色はインデックスカラー番号253です。
CMPCLRMOD2	2番目の図面で変更されている図形の色	2番目の図面で変更されている図形の色を制御します。 デフォルトの表示色は黄色です。
CMPCLRNEW	新しい図形の色	新しい図形の色を制御します。 デフォルトの表示色は緑色です。
CMPDIFFLIMIT	図形の最大数	比較する図形の数の制限を設定します。相違する図形の制限値に達すると、比較が中止されます。 1から10,000,000までの値が指定可能です。
CMPFADECTL	フェード	変更されていない図形のフェードレベルを設定します。 デフォルト値は80です。
CMPLOG	ログ制御	ログレポート(cmplog)の作成を切り替えます。デフォルトでは、オフに設定されています。

3.7.2 比較セッションの実行

1 DWGCOMPAREコマンドを起動します。

1 プロンプト表示：

CMPDIFFLIMIT = 10000000.

?????????????????????? [??/??] <??>:

2 (オプション)比較できる図形の上限個数を設定するには、**制限**オプションを選択します。

3 **選択**を選択すると、**比較するファイルを選択**ダイアログボックスが表示されます。

4 カレント図面と比較する図面を選択し、**開く**ボタンをクリックするか、図面名をダブルクリックします。

図面を比較する**比較**パネルが表示されます。**比較パネル**の記事も参照してください。

比較ツールバーも表示されます。

5 **比較**パネルの**比較の終了**ボタンをクリックすると、比較セッションを終了します。

3.7.3 構造パネルでの比較の分析

1 DWGCOMPAREコマンドの実行中に、**Default.cst**設定が**構造**パネルにロードされます。

2 **比較**ノードを展開します。

失われた、変更済(比較元)、新規、変更済(比較先)の4つのサブノードが表示されます。

各サブノードに含まれる図形の数は、括弧内に示されています。

3 以下を実行します：

- サブノードをクリックすると、図面内の適用する図形が選択されます。
- サブノードを展開し、図形をクリックして図面内の適用する図形をハイライト表示にします。
- Ctrlを押したままにすると、複数の図形を選択できます。
- 選択した図形をズームするには、右クリックしてコンテキストメニューから**ズーム**を選択します。

注：構造パネルで図形を選択すると、図面内で図形が選択またはハイライトされるか、ツリーでの選択が無視されます(**構造パネル**の記事を参照)。

3.8 CAD標準仕様

3.8.1 概要

1 つ以上の標準仕様(DWS)ファイルを図面DWGファイルに関連付けます。

図面DWGファイルと標準仕様DWSファイルの互換性を確認し、図形プロパティのマッピングを検証または無視する方法は 2 つあります。

1 BricsCADでCAD標準仕様コマンドを使用する。

2 **standards_app.exe**スタンドアロンアプリケーションを使用する。

3.8.2 BricsCADでCAD標準仕様コマンドを使用する

CAD標準仕様コマンドは、**CAD標準仕様**リボンパネルに表示されます。

チェックと検証の手順は以下のとおりです。

1 STANDARDSコマンドを起動して、標準仕様DWSファイルを作業中のDWG図面ファイルに関連付け、チェックするプラグインを選択します。

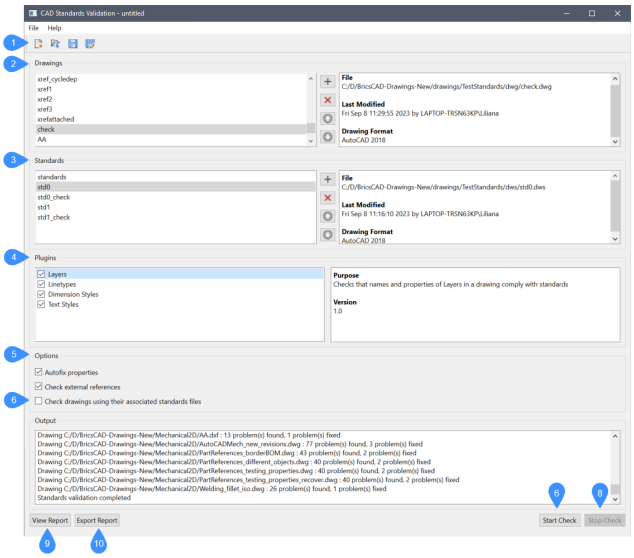
2 CHECKSTANDARDSコマンドを起動して、現在の図面の目的のプラグインと標準図面の互換性を確認し、推奨される一致を検証または無視します。

3 現在の図面の画層と他の図面または標準図面の画層とを関連付けるには、LAYTRANSコマンドを使用します。

3.8.3 standards_app.exeスタンドアロンアプリケーションを使用する

standards_app.exeは、BricsCADインストールフォルダー(デフォルトでは、C:¥ Program Files ¥ Bricsys ¥ BricsCADV25x64)に格納されているスタンドアロンアプリケーションです。

standards_app.exeアプリケーションを実行して、**CAD標準仕様の検証**ダイアログボックスを開きます。アプリケーションは、選択したプラグインに従って、図面(DWG)ファイルと標準(DWS)ファイルの互換性を確認します。



1 ファイルメニュー

2 図面

3 規格

4 プラグイン

5 オプション

6 出力

7 チェックを開始

8 チェックを停止

9 レポートを表示

10 レポートの書き出し

3.8.4 ファイルメニュー

CHXファイルの管理オプションを表示します。CHXファイルには、図面(DWG)ファイルおよび標準仕様(DWS)ファイルと、これらのファイルのチェックに選択できるオプションがリスト化されます。ACADから使用することも、最初から作成することもできます。

ファイルを追加
CHXファイルを最初から作成します。

開く
CAD標準仕様の検証ダイアログボックスが開き、既存のCHXファイルを選択できます。

保存
CAD標準仕様検証の設定をCHXファイルに保存します。

名前を付けて保存
CAD標準仕様検証の設定を別のCHXファイルに保存します。

3.8.5 図面

チェック対象に追加した図面ファイル(DWG)が一覧表示されます。

右側のボタンを使用すると、以下の操作を行えます。

- ＋：新しい図面をリストに追加します。
- ✕：選択したファイルを削除します。
- ：リスト内で選択したファイルを上に移動します。
- ：リスト内で選択したファイルを下に移動します。

3.8.6 規格

規格のチェックに使用される図面標準(DWS)ファイルが一覧表示されます。

注：

- 図面標準ファイルを作成するには、画層、寸法スタイル、線種、文字スタイルを定義するDWGファイルを DWSファイルとして保存します。
- 右側のボタンは、図面(DWG)ファイルの場合と同様に機能します。

3.8.7 プラグイン

チェック操作に使用されるプラグインが一覧表示されます。

プラグインとは、標準仕様ファイル内の図形のプロパティまたはその集合を指します。チェックを入れたプラグインのみがチェック操作の対象として考慮されます。

使用可能なプラグインは以下の通りです。

画層
図面の画層の名前とプロパティが規格に準拠していることを確認します。

線種
図面内の線種の名前とプロパティが規格に準拠していることを確認します。

寸法スタイル設定
図面内の寸法スタイルの名前とプロパティが規格に準拠していることを確認します。

文字スタイル設定
図面内の文字スタイルの名前とプロパティが規格に準拠していることを確認します。

3.8.8 オプション

チェックに選択できるオプションを一覧表示します。

- **Autofixプロパティ**：標準プロパティをターゲットの名前付きオブジェクトに自動的に適用します。
- **外部参照をチェック**：チェックに外部参照を含めます。
- **関連する標準仕様ファイルを使用する図面をチェック**：関連付けられた標準仕様ファイルを含む図面ファイルをチェックします。

3.8.9 出力

規格チェックに関するレポートを表示します。

3.8.10 チェックを開始

チェックを実行します。

3.8.11 チェックを停止

チェックを停止します。

3.8.12 レポートを表示

レポートをStandardsAppの可読ウィンドウで開きます。

3.8.13 レポートの書き出し

チェック結果をレポート(LOG)ファイルに書き出します。

3.9 図面の修復

AUDITコマンドは現在の図面の状態を分析し、任意にエラーを修正しようとします。

RECOVERコマンドは破損した図面を修理して、図面を開きます。

3.9.1 カレント図面の整合性を分析

1 AUDITコマンドを起動します。

プロンプト表示：検出したエラーを修復しますか?[はい (Y)/いいえ (N)]<いいえ>

2 以下のいずれかの操作を行います：

- コンテキストメニューで**はい**を選択するか、**Y**と入力してEnterを押すと、現在の図面の整合性が分析され、検出されたエラーが修正されます。
- コンテキストメニューで**いいえ**を選択するか、**N**と入力してEnterを押すと、現在の図面の整合性が分析されます。

図面は分析されます。

3 監査レポートを読むには、(オプション) F2を押し、**プロンプト履歴**ウィンドウを開きます：

- # 個のオブジェクトが修復されました
- 見つかったエラーの合計 監査#、修復#

注：

- AUDITCTLシステム変数を1に設定すると、AUDITは検出された問題と対処方法を記述したASCIIファイルを作成します。このレポートは、ファイル拡張子が.adtで、現在の図面と同じディレクトリに置かれます。
- AUDITコマンドが修正できないエラーは、RECOVERコマンドを使用して修復します。

3.9.2 図面の修復

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ファイル** > **図面ユーティリティ** の**修復**を選択します。
- リボンタブの前にあるBricsCADロゴをクリックし、**図面ユーティリティ** > **修復**の順に選択します。

- RECOVERコマンドを起動します。

図面を開くダイアログボックスが開きます。

2 図面を選択して、**図面を開く**ダイアログの**開く**ボタンを押します。図面は処理され、修理が成功した場合は開きます。

図面が処理され、修復が成功した場合は開かれます。

3 修復レポートを読むには、(オプション) F2で、**プロンプト履歴**ウィンドウ開きます。

3.10 プロジェクト

図面を変換する際、プロジェクトは特に外部参照や画像の管理に役立ちます。外部参照(xrefs)やイメージが保存されているパスで見つからない場合、プロジェクト検索パスを使用して外部参照やイメージを検索します。

プロジェクトはレジストリに保存され、1つまたは複数の検索パスを含みます。

3.10.1 プロジェクト設定へのアクセス

1 SETTINGSコマンドを実行します。

1 **設定**ダイアログボックスが開きます。

2 **プログラムオプション** > **ファイル** > **プロジェクト**に移動します。

3.10.2 プロジェクトの作成

1 PROJECTSEARCHPATHSシステム変数を編集します。

2 **プロジェクト検索パス** 右側にある**参照**ボタンをクリックします。

プロジェクト設定ダイアログボックスが表示されます。

3 最初のプロジェクトを作成

- **プロジェクト設定**ダイアログボックスの**プロジェクトかパスを追加**ボタンをクリックします。

  新しいプロジェクトが追加されます。

- **NewProject1** が追加されます。名前を変更します。

4 更にプロジェクトを追加します：

- **プロジェクト**(プロジェクトツリーの上部)をクリックするか、既存のプロジェクトを選択します。
- **プロジェクトかパスを追加**ボタンをクリックします。

  新しいプロジェクトが追加されます。

- **NewProject1** が追加されます。名前を変更します。

3.10.3 プロジェクトに検索パスを追加する

1 PROJECTSEARCHPATHSシステム変数を編集します。

2 **プロジェクト** ツリーのプロジェクトを選択します。

3 **プロジェクトかパスを追加**ボタンをクリックします。

プロジェクトにパスが追加されます。

4 新しいパスの名前を入力します。

5 **ブラウズ**ボタンをクリックします。

パスを選択ダイアログボックスが表示されます。

6 フォルダーを参照して、**フォルダーの選択**ボタンをクリックします。

7 前述の手順を繰り返して、プロジェクトに検索パスを追加します。

3.10.4 検索パスの順番の変更

1 PROJECTSEARCHPATHSシステム変数を編集します。

2 **プロジェクト** ツリーのプロジェクトを選択します。

3 検索パスを選択し、上矢印または下矢印ボタンをクリックしてその順序を変更します。

3.10.5 プロジェクトを現在の図面に割り当てる

1 PROJECTNAMEシステム変数を編集します。

2 [プロジェクト名]欄にプロジェクト名を入力します。

3.11 ファイルの種類

BricsCADでは、以下のファイル種類がサポートされています。

CAD形式	拡張子	説明
FBXバイナリファイル	FBX	アニメーションおよびレンダリングソフトウェアに3D モデルを送信するために使用されるMudboxフォーマットです。バイナリフォーマットでは、オートデスク®が管理するコンパクトファイルが作成されます。詳しくは、FBXEXPORTコマンドを参照してください。
FBX ASCIIファイル	FBX	アニメーションやレンダリングソフトウェアに3Dモデルを送信するために使用されるMudboxフォーマット、人間が読めるファイルを作成するASCIIフォーマットです。
AutoCAD®図面	DWG	オートデスク®で作成されたCAD図面形式です。旧バージョンのDWGの図面を書き出す場合は、SAVEASコマンドを使用します。
AutoCAD® ASCII DXF	DXF	オートデスク®で作成された図面交換形式です。バイナリDXFファイルを作成する場合は、DXFOUTコマンドを使用します。
図面テンプレート	DWT	新しい図面はテンプレートに基づいています。
3D DWF	DWF または DWFx	オートデスク®で作成された3Dモデルの CAD表示フォーマットです。

CAD形式	拡張子	説明
バイナリ DWF	DWF	DWFを圧縮したもので、よりコンパクトなファイルを作成することができます。
ASCIIエンコードでZIP化した2Dストリーム DWF v6.0	DWF	ASCII版DWFをZIPファイルに圧縮したものです。
圧縮されたDWF v5.5	DWF	旧バージョンのDWFをASCII圧縮したもので、よりコンパクトなファイルを作成することができます。
バイナリ DWF v5.5	DWF	旧バージョンのDWFをASCII圧縮したもので、よりコンパクトなファイルを作成することができます。
ASCII DWF v5.5	DWF	旧バージョンのDWFのASCII版です。
IFCファイル	IFC	BIMモデルをIFCファイルとして保存し、IFC認可のアプリケーションデータで使用することができます。**BIMプロパティ**は、IFC書き出しに含まれます。 IFC(Industry Foundation Classes)データモデルは、建築・建設産業のデータを記述するためのものです。 **IFC4参照ビューファイル**は、すべてのIFC4機能に対応していないツールとIFCモデルを交換できる簡素化されたバージョンです。
Revit® プロジェクト	RVT	RVTファイル拡張子は、オートデスク®によって開発されたBuilding Information Modeling (BIM)ソフトウェアであるRevit®に関連付けられています。
Unreal Engine	UDATASMITH	BIMデータをUnreal Engineファイルタイプに書き出し、**Twinmotion 3D建築ビジュアライゼーション**プログラムで読み込むことができます。
MicroStation DGNファイル	DGN	Microstationのデザインファイル
SketchUpファイル	SKP	SketchUpのモデルファイルは、メッシュとして読み込まれます。必要であれば、CONVTOSOLIDおよびCONVTOMESHコマンドにより、メッシュとソリッド間の変換を簡単に行うことができます。
標準仕様ファイル	DWS	STANDARDSコマンドとCHECKSTANDARDSコマンドで使用される図面標準仕様ファイルです。
ESRIシェープファイル	SHP	GISデータタイプをサポートするESRIシェイプファイル。

CAD形式	拡張子	説明
KMLファイル	KML、KMZ	Google EarthやGoogle Mapsなどのマッピングアプリケーションの地理データを定義するために使用されるXMLベースの形式ファイルです。

ベクトル形式	拡張子	説明
Windowsメタファイル*	WMF	Microsoftが作成したベクトル形式です。クリップボードで使用されます。WMFOUTコマンドを参照してください。
拡張Windowsメタファイル*	EMF	WMFの改良バージョンです。
Scalable Vector Graphics	SVG	Webページでベクターグラフィックを表示するために使用されます。 Scalable Vector Graphics(SVG)は、静的と動的の両方の2次元のベクターグラフィックス(例えば、インタラクティブまたはアニメーション)を記述するためのXMLベースのファイル形式の仕様ファイルです。SVGは1999年以来、World Wide Web Consortium(W3C)によって開発されている標準仕様です。
リソグラフィ	STL	3Dプリンタで使用される3Dフォーマットです。 STL(STereoLithography)は、3D Systems社が作成した立体造形CADソフトウェアにネイティブなファイルフォーマットです。STLはラピッドプロトタイピングやコンピュータ支援製造に広く利用されています。STLファイルは、3次元オブジェクトの表面形状のみを記述し、色、テクスチャ、その他の一般的なCADモデルの属性は一切表現していません。STL形式ではASCIIとバイナリ表現の両方が指定されます。バイナリファイルの方がコンパクトなのでより一般的です。 STLOUTコマンドも参照してください。
Colladaファイル	DAE	レンダリングソフトやアニメーションソフトで使用される3Dフォーマットです。 COLLADA(コラボレーティブ・デザイン・アクティビティ)は、インタラクティブな3Dアプリケーションのための交換ファイルフォーマットです。非営利の技術コンソーシアムであるクロノスグループによって運営され、ISOでは一般公開された仕様であるISO/PAS 17506として採用されています。
スライドファイル	SLD	ビューポートのスクリーングラブを保存するためにオートデスク®社が作成した独自のグラフィック形式です。

ベクトル形式	拡張子	説明
3D PDF**	PDF	Portable Document Format(PDF)は、アプリケーションソフトウェア、ハードウェア、オペレーティングシステムから独立して文書を表現するために使用されるファイル形式です。

HTMLフォーマット	拡張子	説明
HTML	HTM	Hyper Text Markup Language形式のファイルは、Webブラウザで開きます。VMLOUTコマンドは、HTMLファイルに埋め込まれたVML(**vector markup language**の略)へ図面を書き出すコマンドです。
Wavefront Object ファイル	OBJ	頂点、法線、ポリゴン面、3次元座標などの3Dグラフィック情報を含むテキストファイル形式です。オプションとして、OBJファイルはマテリアル(MTL)ファイル(これもテキストファイル)を参照することができ、後者はイメージやテクスチャ(JPG/PNG/BMP)ファイルを参照することができます。

ラスター形式	拡張子	説明
ビットマップ*	BMP	Microsoftによって作成されたラスター形式で、クリップボードで使用されます。

(*)PICTUREEXPORTSCALEシステム変数は、画像形式(WMF, EMF, BMP)に書き出すする際のビューサイズを設定します。

(**)EXPORT3DPDFWRITERシステム変数が1 - Internal 3D PDF writerに設定されている場合、機械構造または分解図アニメーションを書き出しすることが可能です。

Communicator for BricsCAD®では、以下のファイル種類がサポートされています。

形式	拡張子	説明
製品データ交換のための国際標準規格	STE、STP、STEP、STPZ	STEP(Standard for the Exchange of Product Data)は3次元データに使用されるISO規格の変換フォーマットです。
IGESファイル	IGES、IGES	ファイル形式は、多くのCADシステム間でもデータ交換ができる中立的な形式です。

形式	拡張子	説明
CATIA V4	model	CATIA(Computer Aided Three-dimensional Interactive Application)は、フランスのDassault Systèmes社が開発したマルチプラットフォームのCAD/CAM/CAE商用ソフトウェアスイートです。
CATIA V5/V6	CATパーツ、CATプロダクト、CGR	Dassault社のCADプログラム「Catia」のV5/V6です。
Parasolid	XMT_TXT、XMT_BIN X_T、X_B	Parasolidはジオメトリックモデリングカーネルで、元々はシェープデータ社で開発されたものです。現在はシーメンスPLMソフトウエア社(旧UGS)の製品で他社の3次元CAD/CAM/CAEシステムにライセンス使用されています。
VDA-FS	VDA	VDA-FSは、あるCADシステムから別のCADシステムにサーフェスモデルを転送するためのCADデータ交換フォーマットです。この名称は**Verband der Automobilindustrie - Flächenschnittstelle**の略で、**自動車工業会 - サーフェスデータインターフェース**と訳されています。ドイツの団体VDAが定めた規格です。
Autodesk Inventor®	IAM、IPT	Autodesk Inventor®はアメリカのオートデスク®社によって開発された、製品の設計、視覚化、シュミレーションに使用する3Dデジタルプロトタイプを作成するための3Dメカニカル CAD設計ソフトです。 Inventor では、パーツ(IPT)とアセンブリ(IAM)に特定のファイル形式を使用しています。
シーメンス	JT	JTは、シーメンスPLMソフトウェア社(旧UGS社)が開発した3Dデータフォーマットで、製品の可視化、コラボレーション、CADデータの交換などに使用されています。ここには、近似(ファセット)データ、境界表現面(NURBS)、製品・製造情報(PMI)、メタデータ(テキスト属性)を、ネイティブのCADシステムから書き出すか、製品データ管理(PDM)システムから挿入するかのいずれかの組み合わせで含めることができます。
Solid Edge	PAR、PSM	Solid Edgeは、3D CADのパラメトリック機能付きソリッドモデリングソフトウェアです。ソリッドモデリング、アセンブリモデリング、2D作図機能を提供しています。
NX	PRT	PRTファイルは部品、モデルフォーマットでPTC社のPro/Engineerで使用されています。Pro/Engineerは設計部品、アセンブリ設計で使用されています。

形式	拡張子	説明
Creo Elements プロエンジニア	ASM、PRT	パラメトリックテクノロジーコーポレーション(PTC)が開発した、3D CAD/CAM/CAEの統合ソリューションです。
Solidworks	SLDASM、SLDPRT	SolidWorksはマイクロソフトWindows上で稼動するダッソーシステムズ社で開発されている3D機械系のCADプログラムです。 SLDPRT：部品ファイル、SLDASM：アセンブリファイル IMPORTSOLIDWORKSROTATEYZシステム変数は、SolidWorksファイルから読み込んだジオメトリを自動的に回転してY軸をZ軸にマッピングするかどうかをコントロールします。
3D PDF*	PDF	Portable Document Format(PDF)は、アプリケーションソフトウェア、ハードウェア、オペレーティングシステムから独立して文書を表現するために使用されるファイル形式です。
ACIS**	ASAB、ASAT、SAB、SAT	3D ACIS Modeler(ACIS)は、株式会社スペイシャルが開発した幾何学的モデリングカーネルです。
XCGM	XCGM	CGM(Computer Graphics Metafile)ファイル形式ファミリーです。

注：(*)EXPORT3DPDFWRITERシステム変数が 0 - Communicator for BricsCAD® 3D PDFライターに設定されている場合、メカニカル構造または分解ビューはサポートされません。

注：(**)EXPORTはmmを基準にしてSATファイルとSABファイルに尺度係数を格納し、IMPORTはそれを使用して尺度調整します。

4. 正確な作図

4.1 直交モード

直交モードでは、図形を作成または操作する際に、カーソルの動きが現在の座標系のX軸またはY軸と平行になるように制限されます。

線分は0度、90度、180度、270度のいずれかに制限されます。作図時にはカーソルに近い方の軸に合わせて、ゴム紐のように線分が水平軸または垂直軸に沿って表示されます。

注：

- アイソメスナップを有効にするとカーソルの移動は、現在の等角面の直角方向に拘束されます。
- SNAPANGシステム変数を使って、直交モードの軸を回転させることができます。
- Shiftを押しながら操作した場合は、直交モードの設定がキャンセルになります。
- 直交モードは、図形スナップがオンの場合、図形スナップが優先されます。
- 直交モードをオンにすると自動的に極トラッキングがオフになり、また直交モードをオフにすると極トラッキングはオンになります。

4.1.1 直交モードの切り替え

以下のいずれかの操作を行います：

- ステータスバーの直交をクリックします。
- F8ファンクションキーを押します。
- Shiftを押したままにします。
- ORTHOコマンドを起動します。

4.2 入力単位設定

UNITSコマンドは、**設定**ダイアログボックスで直線および角度測定の単位を設定します。-UNITSコマンドは、コマンドラインでの直線および角度測定の単位を設定します。

INSUNITS(入力単位)システム変数は、ブロックを挿入したり外部参照を貼り付ける際の自動尺度調整用に図面の単位を定義します。

ユーザーが選んだ単位を使用し、任意の長さ、面積、体積のプロパティの表示が行えます。

INSUNITSで定義された単位は、要求された単位変換の基本単位として使用されます。INSUNITS = 0(未定義)の場合、ベースとなる作図単位が未定義であるため、PROPUNITS(プロパティ単位)は無効となります。

注：

- LUNITSが[3](工業図面表記)または[4](建築図面表記)の場合、プロパティ値はインチ表記でフォーマットされます。
- PROPUNITS(長さプロパティのフォーマット)のビットコード1が設定されている場合、長さ入力時の自動単位変換が使用できます。例えば、INSUNITSが「mm」に設定されている場合、長さプロパティフィールドに「2m」と入力すると、[2000.0000 mm]と入力されます。「1ft」と入力すると、[304.8000 mm]となります。

4.2.1 システム変数

名前	タイトル	説明
INSUNITS	入力単位	1図面単位(DU)を定義します。これは挿入、またはブロックや画像や外部参照を入力する際、自動尺度調整のために使用されます。 INSUNITSとPROPUNITSの両方がONの場合、**長さ**、**面積**、**体積**、**質量**の各プロパティは、専用の単位でフォーマットされます。
MEASUREMENT	計測値	図面単位を**インチ**または**メーター**に設定します。MEASUREMENTシステム変数は、ANSIまたはISOのハッチングパターンおよび線種ファイルを使用するかどうかをコントロールします。
PROPUNITS	プロパティ単位	INSUNITSが0ではない場合に、どのプロパティ値を自動的に専用の単位でフォーマットするかを定義します。設定値は、選択したすべてのオプションの値を合計したビットコードとして保存されます。
LUNITS	長さ単位の形式	線形単位の種類を設定します。**指数表記**、**十進表記**、**工業図面表記**、**建築図面表記**、**分数表記**のいずれかです。
LUPREC	長さ単位の精度	長さ単位で表示される十進桁数を設定します。
AREAPREC	面積精度	PROPUNITSの**面積**ビットがONのとき、エリアの小数点以下の表示桁数を設定します。 負の場合は、LUPRECが使用されます。
VOLUMEPREC	体積の精度	PROPUNITSの**体積**ビットがONのとき、ボリュームの小数点以下の表示桁数を設定します。 負の場合は、LUPRECが使用されます。
LENGTHUNITS	長さ単位	PROPUNITSの**長さ**ビットがONのとき、長さの表示に使用する単位のリストを定義します。 空の場合、すべての長さはINSUNITSで定義されている現在の図面の単位で表示されます。 複数の単位を選択している場合、最も適切な単位が使用されます。
AREAUNITS	面積単位	PROPUNITSの**面積**ビットがONのとき、エリア表示に使用する単位のリストを定義します。 空の場合、すべての長さはINSUNITSで定義されている現在の図面の単位で表示されます。 複数の単位を選択している場合、最も適切な単位が使用されます。

名前	タイトル	説明
VOLUMEUNITS	体積の単位	PROPUNITSの**体積**ビットがONのとき、ボリューム表示に使用する単位のリストを定義します。 空の場合、すべての長さはINSUNITSで定義されている現在の図面の単位で表示されます。 複数の単位を選択している場合、最も適切な単位が使用されます。
UNITMODE	単位モード	インチ単位の表示方法を指定します。

4.2.2 角度を入力

AUNITSシステム変数で、角度単位の種類を定義します。

ANGDIRは、正の角度の方向を反時計回り(デフォルト)または時計回りに設定します。角度は、現在の座標系の正のX軸の方向を基準にして測定されます。

以下の5つの形式のいずれかで角度を入力します：

- 度(十進表記)：37.456(AUNITS = 0)
- 度/分/秒：37°27'22"または37d27'22" (AUNITS = 1)
- グラディアン：41.6178g(AUNITS = 2)
- ラジアン：0.6537r(AUNITS = 3)
- 測量単位：N52°32'38"EまたはN52d32'38"E(AUNITS = 4)
- 測量単位は、北(N)/南(S)から東(E)/西(W)に向かって測定されます。

4.3 座標参照システム

座標系とは、点にどのように座標を割り当てるかを指定するための数学的な規則のセットです。

座標系は、地球とは無関係です。座標系参照(CRS)は"データム"を通して地球と関連付けされる座標系です。測地系は、基準面(楕円体またはスフェロイド)を指定する地球のモデルです。

投影座標参照系は、地理的座標参照系に地図投影を適用した結果です。地図投影は、座標変換の一種です。これは、特定の式で識別方法とその座標変換法に固有のパラメータセットを使用しています。

座標は、座標操作により別のCRSから変更することができます。座標操作の 2 つのタイプは区別されることがあります。

- **座標変換(コンバージョン)**では、データムの変更がなく、パラメータは選択されるので、エラーはありません。
- **座標変換(トランスフォーメーション)**では、変換後のCRSと変換前のCRSは異なるデータムに基づいています。変換パラメータは経験的に導かれているため、測定誤差が生じます(測地、7パラメータ変換、モロデンスキー変換など)。

地理データセットは、Wiondowsの**<User folder>¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥<RELEASE>¥ja_JP¥Support**のgeodatabase.xmlに定義されています。ファイルは5つのセクションから構成されます：

1 座標参照系(CoordinateReferenceSystems)

2 データム(Datums)

3 楕円体(Ellipsoids)

4 変換(トランスフォーメーション)(Transformations)

5　プロジェクトコードとメソッド(ProjectionCode, Methods)

4.3.1　座標参照系(CoordinateReferenceSystems)

すべての座標参照系が定義されています。多くの**CRS**サブノードから成り、各ノードには、ユニークとなる投影座標参照系と、必要な投影パラメータが定義されています。

サポートされているCRSの投影タイプは、**ProjectionCode**と**Method**の各セクションに記述されています。

CRSのノード属性：

OGP空間情報科学のガイダンスノートNo 7、パート2の表1に従ってください

属性名	説明	単位
EPSG	ユニークEPSGデータベースID	整数
名前	CRSの人間にとって読みやすい名前、例：「WGS 84 -- WGS84 - World Geodetic System 1984, used in GPS".	計画線
コードスペース	CRSオーナー。これはオプションです。	計画線
X,Y	投影方向の向き。可能な値： • 西方向距離 • 東方向距離 • 南方向距離 • 北方向距離 方向を定義する必要があります。	計画線
X軸、Y軸	地理的方向の向き。可能な値： • 緯度 • 経度	計画線
グリニッジ	グリニッジ子午線からの相対値です。	度

属性名	説明	単位
投影法	CRSの投影法。可能な値： • LL、LatLon、LonLat：地理経緯度 • MercA、Mercator_1SP：メルカトル図法(バリアントA) • MercB、Mercator_2SP：メルカトル図法(バリアントB) • MercC：メルカトル図法(バリアントC) • MercSp：メルカトル図法(球面) • MercPv：ポピュラーな表示の疑似メルカトル図法 • TMerc：横メルカトル図法 • TMercSO：横メルカトル図法南方向距離 • LCC_1SP：ランベルト正角円錐図法1SP • LCC_2SP：ランベルト正角円錐図法2SP • LCC_2SP_BE：ランベルト正角円錐図法2SPベルギー	計画線
SG角度	斜めのグリッドからの矯正角度。	度
方位	初期ラインからの方位角。	計画線
FE	仮の原点の東距、仮の東距。	CRS単位の浮動小数点値。
EC	投影中心の東距。	CRS単位の浮動小数点値。
FN	仮の原点の北距、仮の北距。	CRS単位の浮動小数点値。
FC	投影中心の北距。	CRS単位の浮動小数点値。
LonI	横メルカトル図法ゾーニンググリッドシステムの第一のゾーンの西端の経度。	度
Lat	自然原点の緯度、標準パラレルの緯度。これは投影法によって異なります。	度
Lat1	最初の標準パラレルの緯度。	度
Lat2	2番目の標準パラレルの緯度。	度
LatF	仮の原点の緯度。	度

属性名	説明	単位
LatC	投影中心の緯度。	度
Lon	自然原点の経度、原点の経度。	度
LonF	仮の原点の経度。	度
LonC	投影中心の経度。	度
SF	自然原点での尺度係数。	浮動小数点、1
SFIL	初期ラインの尺度係数。	浮動小数点、1
SFPSP	擬似標準平行の尺度係数。	浮動小数点、1
W	経度のゾーン幅。	度
zone	ゾーングリッド系。	度
単位	変換の単位は、地理座標から投影になります。例：「メートル」、単位「度」は無変換、地理座標系を意味します。	計画線

例：EPSG:31468.に基づいた、すべての地図投影の共通属性です。

```
<CRS epsg="31468" codeSpace="OGP" name="DHDN / 3-degree Gauss-Kruger zone 4" y="Easting"
x="Northing"

Greenwich="0" proj="TMerc" Lon="12" Lat="0" SF="1" FE="4500000" FN="0" zone="4" units="Meter">
```

1つの**CRS**ノードには最低1つの**Datum**サブノードがあり、**epsg**経由または**alias**属性により、**Datums**セクションの**Datum**サブノードを参照しています。**Datum**サブノードは、それぞれのCRS名の**id**属性を含んでいる必要があります。少なくとも1つのepsgコードまたはデータムのエイリアスが有効でなくてはなりません。

属性名	説明	単位
EPSG	ユニークEPSGデータベースID例："4326"	整数
エイリアス	固有のデータム名。例："WGS 84"	計画線
id	固有の CRS 名：投影メソッドとデータムのコンビネーションです。例："WORLD-MERCATOR"。AutoCAD®名CS-MAPに関係しています。	計画線

属性名	説明	単位
pjcode	座標参照系投影メソッドのタイプのコードを示します。AutoCAD®投影コードに対応しています。 例えば、3-横断メルカトル、44-UTM、45-スナイダーフォーミュレーションの横断メルカトルなどです。	整数

例：CRSノード内のデータムに従った固有のCRS定義があります:

```
<Datum epsg="6314" alias="DHDN/3" id="DHDN/3.Gauss3d-4" pjcode="3" />
<Datum epsg="6314" alias="DHDN/2" id="DHDN/2.Gauss3d-4" pjcode="3" />
<Datum epsg="6314" alias="DHDN" id="DHDN.Gauss3d-4" pjcode="3" />
```

4.3.2 データム(Datums)

すべてのデータムが保管されています。データムは、地球モデル(楕円体または球体)とWGS84モデルへの変換メソッドの組み合わせです。各**Datum**ノードには共通のパラメータが指定されており、その中に最低1つの**Datum**サブノード、正確には1つの**Ellipsoid**サブノードが含まれます。各**Datum**サブノードには**id**属性の中にユニークとなる名前と、変換パラメータとしてWGS84モデルが指定されており、**Transformation**サブノードにより、**epsg**経由または**alias**属性により**Transformations**セクションの**Transformation**サブノードを参照しています。

属性名	説明	単位
エイリアス	固有のID。例："DHDN/3"。AutoCAD®名CS-MAPに関係しています。	計画線
EPSG	ユニークEPSGデータベースID例："6314"	整数
名前	人間が読めるデータム名。例："Deutsches Hauptdreiecksnetz"	計画線
コードスペース	CRSオーナー。これはオプションです。	計画線

例：

```
<Datums>
<Datum epsg="6314" codeSpace="OGP" name="Deutsches Hauptdreiecksnetz ">
<Datum id="DHDN/3">
<Transformation epsg="1777" alias="DHDN/3_to_WGS84" />
</Datum>
<Datum id="DHDN/2" name="Deprecated - Replaced by DHDN/3">
<Transformation epsg="1777" alias="DHDN/2_to_WGS84" />
</Datum>
<Datum id="DHDN" name="Deprecated - Replaced by DHDN/2">
<Transformation epsg="1673" alias="DHDN_to_WGS84" />
</Datum>
<Ellipsoid epsg="7004" alias="BESSEL" />
</Datum>
â€¦
```

```
</Datums>
```

4.3.3 楕円体(Ellipsoids)

Ellipsoidセクションには地球モデルが定義されています。各**Ellipsoid**ノードは、ユニークな名前(**エイリアス**)と半長軸(**a**)、および扁平率(**f**)、半短軸(**b**)、離心率(**e**)のいずれかにより定義されています。

属性名	説明	単位
エイリアス	固有のID。例："WGS84"。AutoCAD®名CS-MAPに関係しています。	計画線
EPSG	ユニークEPSGデータベースID例："7030"	整数
名前	データムの読みやすい名前。例："WGS 84"	計画線
コードスペース	CRSオーナー。これはオプションです。	計画線
a	楕円体の半メジャー軸の長さ、赤道半径。	浮動小数点、単位：メートル
b	楕円体の半短軸の長さ、赤道と極点間の楕円体軸に沿った距離。	浮動小数点、単位：メートル
f	フラッタリング	浮動小数点、1
e	偏心	浮動小数点、1

例：

```
<Ellipsoid epsg="7008" alias="CLRK66" name="Clarke 1866, Benoit Ratio" a="6378206.4000000004"
b="6356583.7999999998" f="294.9786982139" e="0.0822718542" />
```

4.3.4 変換(トランスフォーメーション)(Transformations)

すべての変換メソッドが定義されています。サポートされている変換メソッドは、**ProjectionCodes**と**Methods**に記述されています。

属性名	説明	単位
エイリアス	固有のID。例："DHDN_to_WGS84"。AutoCAD®名CS-MAPに関係しています。	計画線
EPSG	ユニークEPSGデータベースID例："1673"	整数

属性名	説明	単位
コードスペース	変換のオーナー。これはオプションです。	計画線
元	元のデータム。	計画線
対象	対象のデータム。	計画線
使用	変換方法。地心方式を利用した変換に対応： • 地心の変換 • 4/6/7パラメータ変換 • 類似性の変換 • 位置ベクトル変換 • 座標系フレームの回転	計画線
メソッド	回転行列の構築方法(該当する場合)。"PVT"は位置ベクトル変換、"CFR"は座標フレーム回転を表します。	計画線
tX	X-軸移動。	メートル
tY	Y-軸移動。	メートル
tZ	Z-軸移動。	メートル
rX	X-軸回転。	度
rY	Y-軸回転。	度
rZ	Z-軸回転。	度
dS	尺度の相違。	単一化
xp	評価ポイントの座標1。	メートル
yp	評価ポイントの座標2。	メートル
zp	評価ポイントの座標3。	メートル
dtX	X軸移動の変化率。	単一化
dtY	Y軸移動の変化率。	単一化
dtZ	Z軸移動の変化率。	単一化

属性名	説明	単位
drX	X軸回転移動の変化率。	単一化
drY	Y軸回転移動の変化率。	単一化
drZ	Z軸回転移動の変化率。	単一化
ddS	尺度の相違の変化率。	単一化
t0	時間依存のパラメータの参照エポックでです。	浮動小数点
後退	対象データムからWGS84データムへの変換のエイリアスです。	計画線

例：

```
<Transformation epsg="1679" alias="Pulkovo42/2_to_WGS84" src="Pulkovo42/2" trd="WGS84" use="Param7"
method="CFR" tx="-40.595"ty="-18.55"tz="-69.339"ds="-4.299"rx="-2.508"ry="-1.832"rz="2.611"
accuracy="9" />
```

4.3.5 プロジェクトコードとメソッド(ProjectionCode, Methods)

投影法と変換タイプについてAutoCAD®の定義に関連付けられた**ProjectionCodes**と**Method**が記述されています。通常は、地理的位置を示す**AcDbGeoData**オブジェクト内の座標参照系定義のXMLファイルに保存されています。

4.4 2D拘束

パラメトリック拘束は、2D幾何形状の関係を維持し寸法を制御する目的で使用します。

拘束には2種類あります。

- **幾何**拘束：図形間の関係をコントロールします。
- **寸法**拘束：長さ・角度・半径・直径等の図形の大きさをコントロールするために使用します。

注：

- 初めに幾何拘束、次に寸法拘束を適用することをお勧めします。
- PARAMETERCOPYMODEは、拘束された図形がコピーされるときに、拘束と関連するパラメータがどのように処理されるかを制御します。
- PARAMETRIZE2Dは、幾何パラメータと寸法パラメータを自動的に作成します。

寸法拘束は、他の寸法拘束やパラメータとともに、値や計算式を使用することができます。寸法拘束は、**プロパティ**パネル、**パラメータマネージャ**パネル、**メカニカルブラウザ**パネルで編集できます。

参照パラメータとして、**寸法拘束**(動的または異尺度対応)を以下から設定できます。

- **プロパティ**パネルで、選択した寸法拘束の**参照**プロパティの値を**いいえ**から**はい**に変更します。
- **メカニカルブラウザ**パネルで、**ジオメトリ駆動**フィールドの値を**オフ**から**オン**に変更します。

注：参照パラメータは、ジオメトリを拘束しなくなります。計測値が表示され、ジオメトリに加えた変更に応じて更新されます。このため、**表記**フィールドの値を手動で編集できなくなります。これを行うには、参照パラメータを寸法拘束として設定します。

参照パラメータは、モデル空間、ペーパー空間、**メカニカルブラウザ**パネルで括弧内に表示されます。図面内のすべての参照パラメータは、**パラメータマネージャ**の**参照パラメータ**カテゴリに一覧表示されます。

拘束を使用する場合、図面は次の3つの状態のいずれかになります。

- **拘束不足**: 幾つかの図形が拘束されています。変更コマンドや操作を使用しても変更できないものがあります。

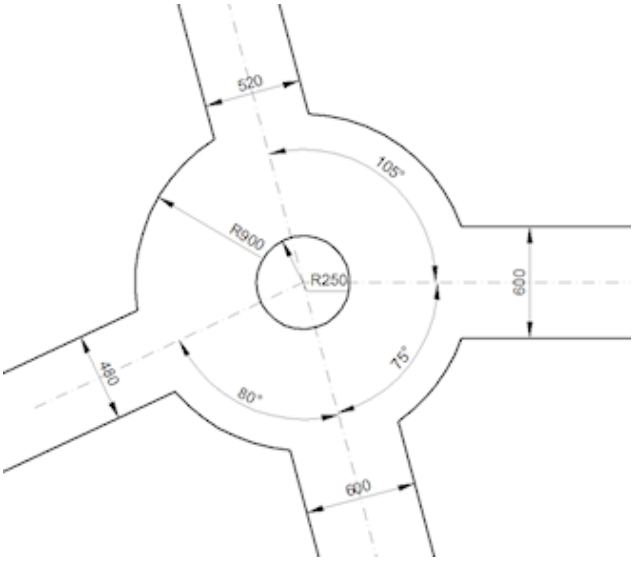
  注：BricsCADV23で作成された、拘束が不足している図形の場合、2DCONSTRAINTFLAGSシステム変数の値を1に設定する必要があります。

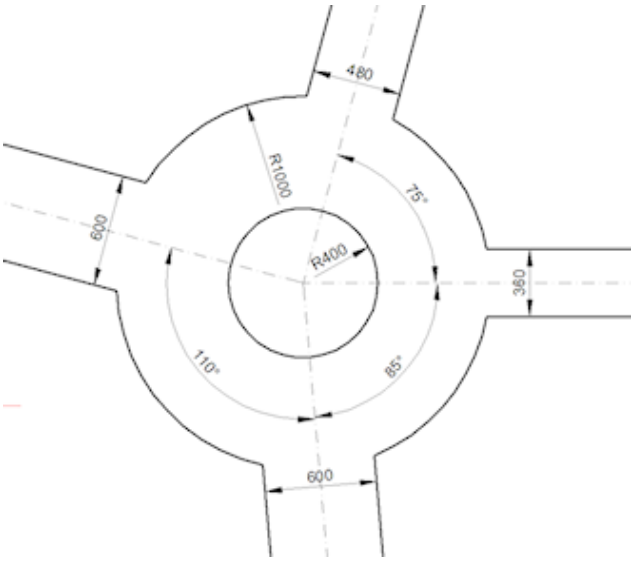
- **完全拘束**：すべての関連する幾何拘束と寸法拘束が設計のジオメトリに適用されます。作画は、寸法拘束の値を変更することで変更できます。
- **過剰拘束**：1つ以上の拘束が他の拘束に違反または矛盾しています。

パラメトリック拘束で以下を行えます。

- 幾何学的な設計意図の維持
- 寸法拘束に異なる値を適用することで、設計の複数拘束を作成

同じ拘束のロータリーを表す図面の2つのパターン





4.4.1 コマンドとツールバー

2D パラメトリック拘束ツールは、**2D拘束**ツールバーと**パラメトリック**リボンタブにあります。

寸法拘束や幾何拘束の表示をコントロールするツールは、2 つのフライアウトツールバー**寸法拘束**と**幾何拘束**にあります。

コマンド	説明
	寸法拘束を表示または非表示に設定します。
	図形/図形上の有効な拘束間の幾何関係を適用します。
	点や図形を固定位置に拘束します。
	一致した幾何拘束を2点に適用、もしくは点を図形に拘束します。
	円、円弧、楕円、楕円弧の中心点が一致するように拘束します。
	線またはポリラインセグメントを強制的に同一線上にします。
	強制的に2つの線または直線のポリラインセグメントが互いに平行になるようにします。
	2つの線またはポリラインセグメントを直交方向になるように拘束します。

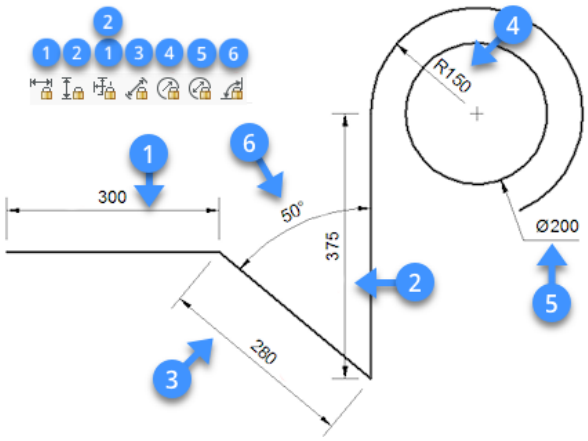
コマンド	説明
	2つの図形の接点が互いに保たれ、延長線上も保たれるよう拘束します。 使用可能な図形：線、ポリラインセグメント、円、円弧、楕円、楕円弧。
	現在の座標のX-軸に平行になるように、線、直線のポリラインセグメントまたは点のペアを拘束します。
	現在の座標のY-軸に平行になるように、線、直線のポリラインセグメントまたは点のペアを拘束します。
	スプラインが別のスプライン、線、円弧、ポリラインと流体幾何学的な連続性を維持するよう拘束します。
	選択した線分に対して、2つの図形や点が対称になるように拘束します。
	同じ半径、円、円弧または同じ長さの線とポリラインセグメントを拘束します。
	図形の拘束バーの表示を管理します。 図面を開いた時、拘束バーは常に非表示になります。
	図形や図形上の拘束点間に寸法拘束を適用します。 関連付け寸法をダイナミック寸法に変換します。
	現在座標系について、2点の水平距離(X距離)を拘束します。
	現在座標系についての2点の垂直距離(Y距離)を拘束します。
	現在座標系についての2点の水平距離(X距離)、もしくは垂直距離(Y距離)が拘束されます。
	2つの点または線やポリラインセグメントの長さの距離を拘束します。
	円の半径、円弧またはポリラインセグメントの円弧を拘束します。
	円の直径、円弧またはポリラインセグメントの円弧を拘束します。

コマンド	説明
	2本線間の角度または、ポリラインセグメントの線、円弧または円弧ポリラインの合計角度、または図形の3点間の角度を拘束します。
	自動調整寸法を拘束寸法に変換します。
	図形からすべての寸法拘束と幾何拘束を削除します。

4.5 寸法拘束の使用

寸法拘束は、2D図形の寸法を制御します。

- 水平方向の距離(1)(DCLINEARコマンド、DCHORIZONTALコマンド)
- 垂直方向の距離(2)(DCLINEARコマンド、DCVERTICALコマンド)
- ポイント間の距離、または線とポリラインセグメントの長さ(3)(DCALIGNEDコマンド)
- 円弧、円、円弧ポリラインセグメントの半径(4)(DCRADIUSコマンド)
- 円弧、円、円弧ポリラインセグメントの直径(5)(DCDIAMETERコマンド)
- 図形間、または点と図形間の角度(6)(DCANGULARコマンド)



注：寸法拘束は、現在の寸法スタイルを使用して作成されます。

4.5.1 寸法拘束の編集

寸法拘束は以下の方法で編集できます：

- **プロパティ**パネルから。
- **メカニカルブラウザ**パネルから。
- **パラメータマネージャ**パネルから。
- DDEDITコマンドを使用

参照パラメータとして、**寸法拘束**(動的または異尺度対応)を以下から設定できます。

- **プロパティ**パネルで、選択した寸法拘束の**参照**プロパティの値を**いいえ**から**はい**に変更します。
- **メカニカルブラウザ**パネルで、**ジオメトリ駆動**フィールドの値を**オフ**から**オン**に変更します。

注：**参照パラメータ**は、ジオメトリを拘束しなくなります。計測値が表示され、ジオメトリに加えた変更に応じて更新されます。このため、**表記**フィールドの値を手動で編集できなくなります。これを行うには、参照パラメータを寸法拘束として設定します。

参照パラメータは、モデル空間、ペーパー空間、**メカニカルブラウザ**パネルで括弧内に表示されます。図面内のすべての参照パラメータは、**パラメータマネージャ**の**参照パラメータ**カテゴリに一覧表示されます。

プロパティパネルでの寸法拘束の編集

1 寸法拘束を選択します。

1 寸法のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **表記**フィールドに新しい値または式を入力し、**Enter**を押します。

それに応じて、**値**フィールドの読み取り値が変わります。

3 (オプション)**名前**フィールドを編集します。

4 (オプション)**説明**フィールドを編集します。

5 (オプション)**参照**フィールドを選択し、下向き矢印ボタンをクリックしてオプションを選択します。デフォルトでは、新しいパラメータには**オフ**オプションが選択されています。

6 (オプション)**文字の回転**フィールドを編集します。

7 中止するには、**Esc**を押します。

注：複数の寸法拘束を同時に選択して、それらの値を等しく設定できます。

メカニカルブラウザパネルでの寸法拘束の編集

1 まだ開いていない場合は、**メカニカルブラウザ**パネルを開きます。

2 パラメータリストで寸法拘束の名前を選択します。

3 選択したパラメータのプロパティが**メカニカルブラウザ**パネル下部に表示されます。

4 (オプション)**名前**フィールドを選択して新しい名前を入力します。

5 (オプション)**表記**フィールドを選択して新たに値または式を入力します。

6 (オプション)**ジオメトリ駆動**フィールドを選択し、下向き矢印ボタンをクリックしてオプションを選択します。デフォルトでは、新しいパラメータには**オフ**オプションが選択されています。**オン**に設定すると、**表記**フィールドが無効になります。パラメータの値はモデルから取得し、直接モデリング操作で変更することができます。

7 (オプション)**説明**フィールドを選択して新たに説明を入力します。

8 (オプション)**公開**フィールドを設定し、BMINSERTコマンドで図面を別の図面に挿入したときのパラメータの公開を指定します。

オプションは以下の通りです：

- **自動**：他のパラメータに依存しない場合のみパラメータを公開します。
- **オン**：パラメータを常に公開します。

- **オフ**：パラメータを公開しません。

9 (オプション)**単位**プロパティを長さ、面積、または体積に設定します。

フィールドを選択し、下向き矢印ボタンをクリックして、オプションを選択します。

DDEDITコマンドを使用

1 以下のいずれかの操作を行います：
   - 寸法拘束をダブルクリックします。
   - DDEDITコマンドを起動します。

   プロンプト表示：_DDEDIT

   文字編集ダイアログボックスが表示されます。

2 **文字**フィールドに新しい値を入力し、Enterを押すか、**OK**ボタンをクリックします。

3 (オプション)別の寸法拘束をクリックして、前の手順を繰り返します。

4 以下のいずれかの操作を行います：
   - 続けて寸法拘束を編集します。
   - Enterを押すか、右クリックして停止します。

     編集されたすべての寸法拘束は同時に更新されます。

4.5.2 寸法拘束の表示の設定

図面を閉じて再度開くと、寸法拘束が非表示になります。

寸法拘束の表示を制御するツールは次の場所にあります：

- **寸法拘束**ツールバー。
- **2Dパラメトリック**リボンタブ。
- **パラメトリック**メニューの**2D拘束を表示/非表示**フライアウトメニュー。

これらのツールは、特定のオプションを使用してDCDISPLAYコマンドを実行します。

オプションは以下の通りです：

- **表示/非表示**：図形を選択するように求められます。
- **すべてを表示**：図面内のすべての寸法拘束を表示します。
- **すべてを非表示**：図面内のすべての寸法拘束を非表示にします。

注：

- DYNCONSTRAINTMODEシステム変数は、図形を選択するときに非表示の寸法拘束の表示を制御します。
  - オン：拘束図形を選択したときに非表示の寸法拘束を表示します。
  - オフ：拘束図形を選択したときに非表示の寸法拘束を表示しません。
- 寸法拘束のある図形にカーソルを合わせると、SELECTIONPREVIEWシステム変数が1または3に設定されている場合に、青い拘束グリフ( )が表示されます。

4.5.3 式を使用して寸法拘束を定義

寸法拘束は、作成時に自動的に名前が付けられます。

命名のルールは以下の通りです：

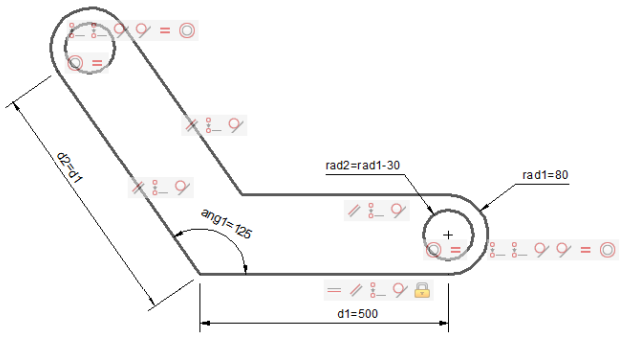
- 距離：d1, d2, d3, ...
- 半径：rad1, rad2, rad3, ...
- 直径：dia1, dia2, dia3, ...
- 角度：ang1, ang2, ang3, ...

数式で拘束の名前をパラメータとして使い、別の寸法拘束を定義することができます。

下記に示す括弧内の寸法は、半径**rad1**、距離**d1**、角度**ang1**の寸法拘束でコントロールされています。

穴の半径(**rad2**)と2番目の長さ(**d2**)は式で定義されます。

幾何拘束によって、2番目の長さとその中の穴の幅が1番目の長さと等しくなります。



式で使用する演算子

以下の演算子を式で使用することができます。

演算子	説明
+	加法
-	減法、マイナス
*	乗法
/	除法
^	累乗法
%	モジュロまたは剰除演算子 式"5 % 2"の結果は1となりますが、これは5を2で除算すると商が2、余りが1となるためです。

優先順位に関する一般的な数学規則に従い式の値が求められます。

1　括弧内の式は最も内側のセットが最初になります。

2 標準的な演算順序：
   a 指数
   b 乗法と除法
   c 加法と減法

3 優先順位が同じ演算子は左から右へ処理されます。

式での関数の使用

以下の関数を式で使用することができます。

関数	構文
サイン(正弦)	sin(式)
コサイン(余弦)	cos(式)
タンジェント(正接)	tan(式)
逆正弦	asin(式)
逆余弦	acos(式)
逆正接	atan(式)
双曲線正弦	sinh(式)
双曲線余弦	cosh(式)
双曲線正接	tanh(式)
逆双曲線正弦	asinh(式)
逆双曲線余弦	acosh(式)
逆双曲線正接	atanh(式)
平方根	sqrt(式)
符号関数(-1,0,1)	sign(式)
整数に四捨五入	round(式)
小数点以下を切り捨て	trunc(式)

関数	構文
切り捨て	floor(式)
切り上げ	ceil(式)
絶対値	abs(式)
最大値を持つ配列要素	MAX(式1、式2)*
最小値を持つ配列要素	MIN(式1、式2)*
度数をラジアンに変換	d2r(式)
ラジアンを度数に変換	r2d(式)
対数、ベースe	ln(式)
10を底とする対数	log(数式)
指数、ベースe	exp(式)
指数、底10	exp10(式)
べき関数	pow(数式1;数式2)*
0と1の間のランダム小数	ランダム

*区切り文字には、ご使用のシステムで規定されているカンマ(,)やセミコロン(;)を使用してください。

パラメータの新規作成

1 **メカニカルブラウザ**パネルで**パラメータ**を右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューで**新しいパラメータを追加**を選択します。

新しいパラメータが作成されます。

3 新しいパラメータのプロパティを編集します。

4 上記の**メカニカルブラウザパネルでの寸法拘束の編集**の手順を参照してください。

注：

- 定数**Pi=3.14...**と**e=2.72...**は数式の中で使うことができます。定数名は、パラメータ名や拘束名として使用することはできません。

- CLEANUNUSEDVARIABLESコマンドを使い、拘束式で使用されていないパラメータや寸法にリンクされていないパラメータを名前削除(パージ)することができます。

4.6 幾何拘束の使用

幾何拘束:

- 2つの図形間の幾何的関係を指定します。(一致、同心円、同一直線上、平行、直交、正接、スムーズ、対称、同じ値)
- 固定角度を指定します。(水平、垂直)
- 固定位置を指定します。(固定)

幾何拘束が図形に適用される場合：

- 図形の位置は適用された拘束に応じて調整されます。
- 図形の横には、適用された拘束を示すアイコンが表示されます。複数の幾何拘束が適用されている場合、アイコンは拘束バーに結合されます。

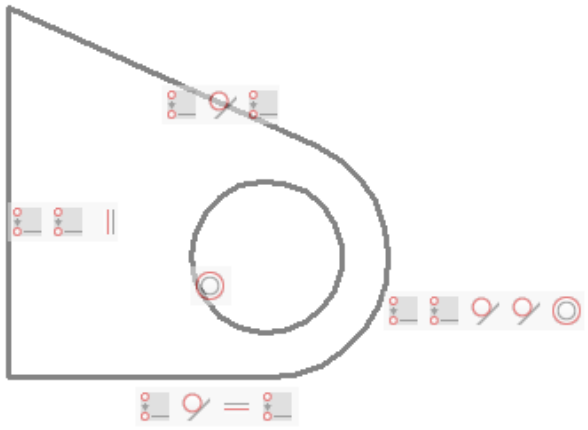
4.6.1 幾何拘束の作成

幾何拘束を作成するツールは次の場所にあります：

- **2D拘束**ツールバー。
- **パラメトリックリボン**タブ。
- **パラメトリック**メニューの**2D拘束**フライアウトメニュー。

下の画像：

- 3本の線と円弧の端点は、一致拘束によって結合されています。
- 円と円弧の中点は同心円になります。
- 2本の線が円弧に接するように拘束されています。
- 1本は垂直方向の拘束(＝現在の座標系のY軸に平行)で、また1本は水平方向の拘束(＝現在の座標系のX軸に平行)です。



4.6.2 拘束バーの表示

図面を閉じて再度開くと、拘束バーは非表示になります。

拘束バーの表示を制御するツールは次の場所にあります：

- **幾何拘束**ツールバー。
- **パラメトリック**リボンタブ。
- **パラメトリック**メニューの**2D拘束を表示/非表示**フライアウトメニュー。

これらのツールは、特定のオプションを使用してCONSTRAINTBARコマンドを実行します。

オプションは以下の通りです：

- **表示/非表示**：図形を選択するように求められます。
- **すべてを表示**：図面内のすべての寸法拘束を表示します。
- **すべてを非表示**：図面内のすべての寸法拘束を非表示にします。

注：

- CONSTRAINTBARDISPLAYシステム変数の値で、幾何拘束の表示をコントロールします。
  - 1：幾何拘束の追加時に拘束バーを表示します。
  - 2：拘束を適用した図形を選択した時に、非表示になっている寸法拘束を表示します。
- 幾何拘束のある図形にカーソルを合わせると、SELECTIONPREVIEWシステム変数が1または3に設定されている場合、またはクワッドがアクティブな場合に、青い拘束グリフ( )が表示されます。

4.6.3 拘束バーの位置の制御

デフォルトでは、拘束バーは図形の中点の近くに作成され、図形の位置が変更されてもその相対位置に保持されます。拘束バーをドラッグして別の位置に配置することもできます。この新しい相対位置は、CONSTRAINTBARコマンドの**リセット**オプションで拘束バーをデフォルト位置に戻すまで維持されます。

拘束バーの再配置

1 拘束バー上にカーソルを置きます。

2 左マウスボタンを押し続け、拘束バーを移動させます。

3 任意の位置でマウスの左ボタンを放します。

拘束バーをデフォルト位置に戻す

1 以下のいずれかの操作を行います：
   - **幾何拘束を表示/非表示**ツールをクリックします。
   - CONSTRAINTBARコマンドを起動します。

   プロンプト表示：図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

   BricsCADは、選択した図形の数を表示します。

   プロンプト表示：拘束オプションを選択 [表示 (S)/非表示 (H)/リセット (R)]<表示 (S)>:

3 以下のいずれかの操作を行います：
   - コンテキストメニューで**リセット**を選択します。
   - コマンドラインに**R**と入力し、Enterキーを押します。

4.6.4 拘束バーの操作

拘束の制御

1 カーソルを拘束アイコンに重ねます。

2 拘束の種類を示すツールチップが表示されます。

3 関連する1つまたは複数の図形がハイライト表示されます。

4 関連する図形の拘束バーにある対応するアイコンがハイライト表示されます。

拘束の削除

1 拘束バーの拘束アイコンにカーソルを合わせます。

2 右クリックして、**削除**をクリックします。

3 拘束が削除され、アイコンが拘束バーおよび関連する図形の拘束バーから削除されます。

図形の拘束バーの非表示

カーソルを拘束バーに重ね、**閉じる**(x)ボタンをクリックします。

4.6.5 拘束の削除

選択した図形からすべての拘束を削除するには：

1 以下のいずれかの操作を行います：

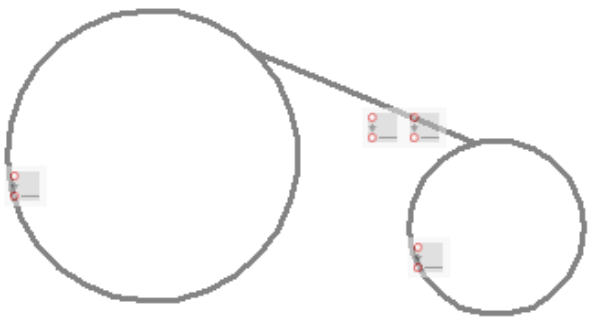
- **2D拘束を削除**ツールをクリックします。
- DELCONSTRAINTコマンドを起動します。

プロンプト表示：すべての拘束を削除する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 拘束を削除したい図形を選択します。

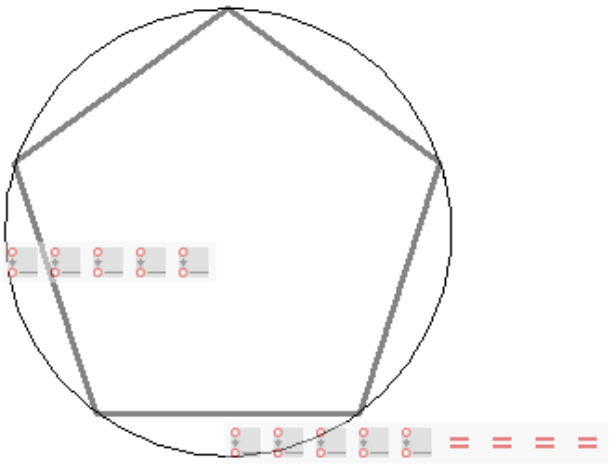
3 右クリックで図形の選択を中止して、選択から拘束をすべて削除します。

4.6.6 例

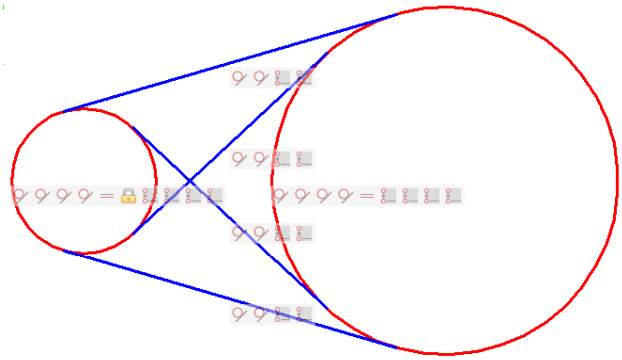


線分や2つの円の端点の間の一致拘束

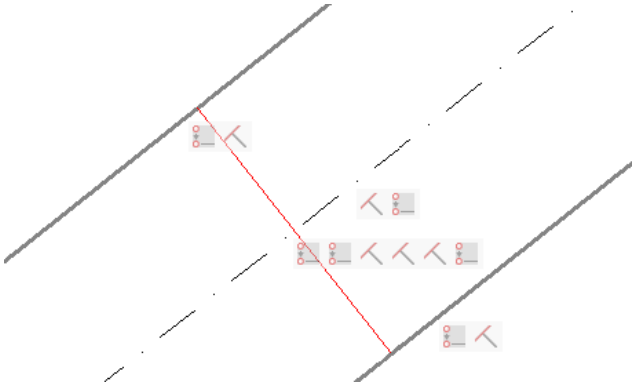
図形の端点または中心点がすでに一致している場合、GCCOINCIDENTコマンドの**自動拘束**オプションは、その点に一致する拘束を自動的に適用します。



五角形の頂点と円の間に一致する拘束を適用し、一方の辺と他の4つの辺の間に等しい拘束を適用することにより、円の半径は五角形の大きさに定義されます。



接線の端点と円の一致拘束により、接線が接点を超えて延長されることを防ぎます。



一致拘束は以下で使用されます：

- 赤い線の端点を太い線の上に配置します。
- 赤い線の中点を一点鎖線上に配置します。

太線と一点鎖線は、赤い線と直交に拘束されています。結果として、一点鎖線は常に2本の太線の中央に配置されます。

4.7 ダイナミック寸法

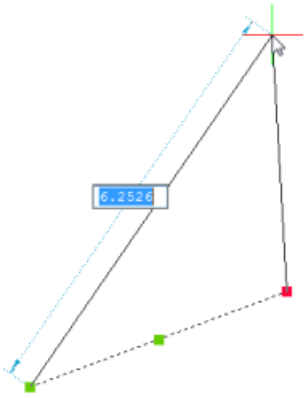
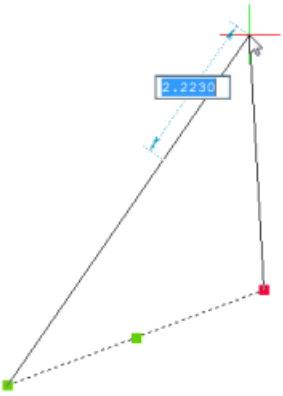
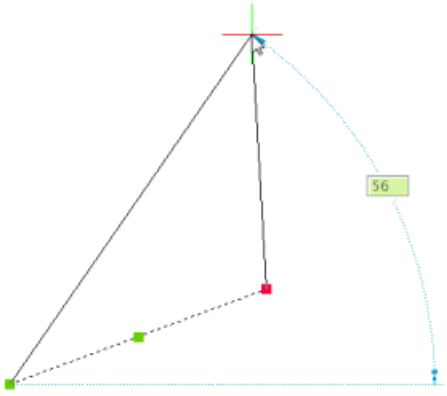
ダイナミック寸法は、作成またはグリップ編集される線形図形の長さと角度を指定するためのカーソル位置のインターフェースを提供します。そのため、ダイナミック寸法によって図面範囲にフォーカスすることができます。

ダイナミック寸法の動作や作動状況は、一連のシステム変数とユーザー設定を通してコントロールされます。

4.7.1 ダイナミック寸法設定の定義

ステータスバーの**ダイナミック**フィールドで右クリックし、コンテキストメニューの**設定**を選択します。**設定**ダイアログボックスの**ダイナミック入力**設定が表示されます。

名前	タイトル	説明
DYNMODE	ダイナミック入力モード	ダイナミック入力機能のオン、オフの切り替え、およびいつ表示するかを制御します： • 編集可能なダイナミック寸法：図形を作成または操作する際 • トラッキングダイナミック寸法：図形スナップトラッキングを使用する場合

名前	タイトル	説明
DYNDIGRIP	ダイナミック寸法を表示	DYNDIVISシステム変数の値に応じて、図形の作成時またはグリップ編集時に表示するダイナミック寸法を定義します。 結果長さ：線またはポリラインセグメントの全長  延長長さ：延長した線の長さ  絶対角度：現在のUCSのX軸に対する相対角度  相対角度：線形図形の元の角度に対する相対角度

名前	タイトル	説明
DYNDIVIS	ダイナミック寸法 表示	グリップ移動時に表示するダイナミック寸法の数を指定します。
DYNPICOORDS	ダイナミック座標入力のデフォルトモード	ダイナミック入力中に座標が入力されるデフォルトモードを指定します：相対または絶対

注：

- ダイナミック寸法の外観(色、線種、位置、透過性)は、一連のユーザー設定(DynDimColorHover、DynDimColorHot、DynDimDistance、DynDimLinetype、DynInputTransparency)によって制御されます。
- PROPUNITSシステム変数のビットコード16(ダイナミック寸法をフォーマット)が設定されている場合、ダイナミック寸法は、専用の単位を使用してフォーマットされます。
- PROPUNITS(長さプロパティのフォーマット)のビットコード1が設定されている場合、長さ入力時の自動単位変換が使用できます。例えば、INSUNITSが**mm**に設定されている場合、長さプロパティフィールドに**2m**と入力すると[2000.0000 mm]と入力されます。**1ft**と入力すると[304.8000 mm]になります。入力フィールドに単位が指定されていない場合には、INSUNITS で指定された単位が使用されます。

4.7.2 図形作成にダイナミック寸法を使用する

1 コマンドを実行して、2D図形を作成します。(例：線分とDYNDIVIS＝1または2)

2 最初の点を指定して、カーソルを移動するとダイナミック寸法が表示されます。

長さダイナミック寸法がハイライト表示されます。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- 必要な線の長さを入力し、Tabを押して**角度**のダイナミック寸法に切り替えます。

  長さのダイナミック寸法は赤色で表示され、ロックされた状態になり、**角度**ダイナミック寸法が選択されます。
- 必要な線の長さを入力し、クリックしてカーソル位置で定義された角度で線を作成します。
- Tabを押すと、**角度**のダイナミック寸法に切り替わります。

4 以下のいずれかの操作を行います：

- 必要な角度を入力してEnterを押すと線が作成されます。
- 必要な角度を入力し、続いてTabを押すと**長さ**のダイナミック入力に戻ります。
- Enterを押してカーソルの位置で角度を規定した線を作成します。
- Tabを押して**長さ**のダイナミック寸法に戻ります。

注：

- DYNDIVIS = 0の場合、1つのダイナミック寸法しか表示されません。Tabを押すと、次のフィールドが表示されます。
- **長さ**フィールドに値を入力し、カンマ(,)を追加すると、**長さ**フィールドの内容がコマンドラインにコピーされ、@マークが自動的に前に配置され、相対座標を使用し直前の点を基とした次の点を指定できます。

4.7.3 ダイナミック寸法で図形をグリップ編集する

1 1 つまたは複数の図形を選択します。

選択した図形のすべてのグリップが表示されます。

2 編集したいグリップをクリックし、カーソルを移動させます。

DYNDIVISシステム変数の値に応じて、1つ、2つ、またはすべてのダイナミック寸法が同時に表示されます。

最初のダイナミック寸法がハイライト表示されます。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- 現在ハイライトされているダイナミック寸法に必要な値を入力し、Tabを押して次のダイナミック寸法に切り替えます。

  ダイナミック寸法がロックされ、赤で表示されます。
- 現在ハイライトになっているダイナミック入力に希望する値を入力し、Enterを押します。
- Tabを押して次のダイナミック寸法に切り替えます。

4 ステップ3を繰り返すか、終了する場合はEnterを押します。

4.7.4 ダイナミック寸法で図形を測定する方法

以下の手順は、2Dワイヤフレームの表示スタイルにのみ適用されます。

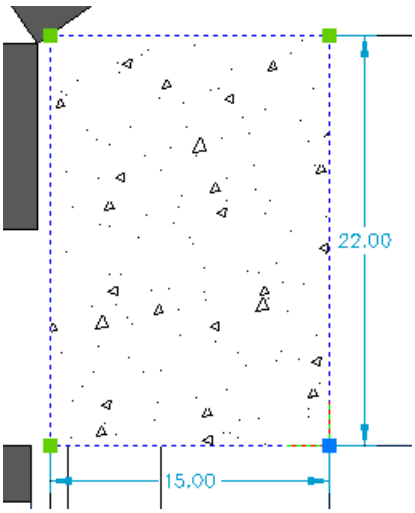
1 1 つまたは複数の図形を選択します。

選択した図形のすべてのグリップが表示されます。

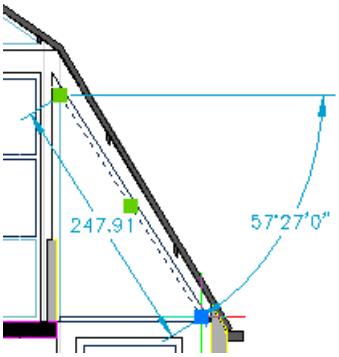
2 グリップにカーソルを合わせます。

グリップのハイライトと、選択したグリップに関連するすべての寸法が表示されます。

矩形の測定に使用されるダイナミック寸法



線の測定に使用されるダイナミック寸法



3 (オプション) クリックして選択したグリップの編集を開始します。

4.7.5 トラッキングポイントのあるダイナミック寸法を使用する

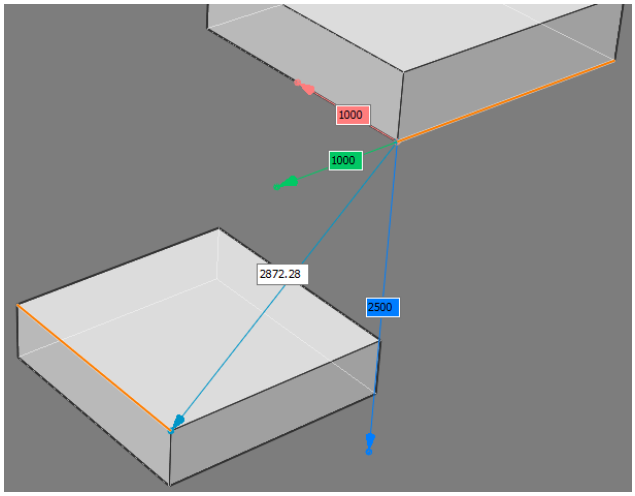
DYNMODEシステム変数の**トラッキングダイナミック寸法**オプションを設定した場合、図形スナップトラッキングポイントまたは一時トラッキングポイントを取得するとダイナミック寸法が表示されます。

4.8 最短距離

最短距離機能を使用すると、選択した2つの図形またはサブ図形間の距離をダイナミックに表示および変更できます。また、WCSのX軸、Y軸、Z軸に沿った最短距離が表示されます。

最短距離フィールドをダブルクリックします：

- X軸、Y軸、Z軸の最短距離フィールドの表示を切り替えます。
- 必要に応じて、選択した図形全体をを表示するためにズームアウトします。



NEARESTDISTANCEシステム変数は、最短距離の機能の表示をコントロールします。

4.8.1 最短距離の使用

1 *最初の図形またはサブ図形を選択します。

2 *2つ目の図形またはサブ図形を選択してください。

最短距離が表示されます。

矢印の先が2つ目の図形を指しています。

3 (オプション) 距離フィールドをダブルクリックすると、選択した(サブ)図形を全体表示するためにズームアウトしたり、もしくはX軸、Y軸、Z軸に沿って最短距離の表示を切り替えたりすることができます。

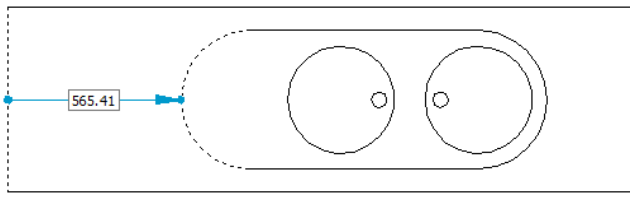
4 (オプション) 距離フィールドをクリックし、値を入力します。

2つ目の図形が移動します。

*Ctrlを押したままにして、サブ図形を選択します。

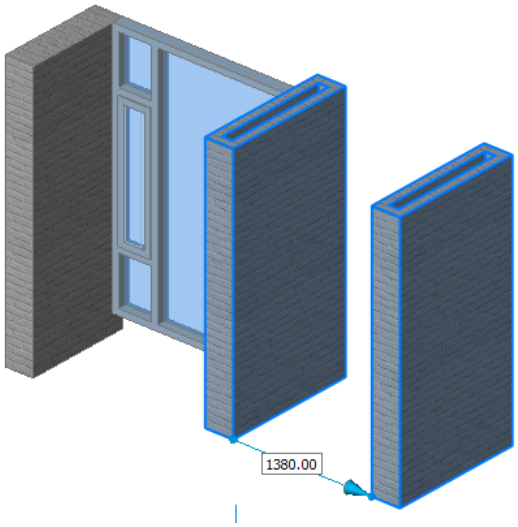
最短距離機能を使って、以下のことができます：

- 2つの図形またはサブ図形間の距離を測定します。
- (サブ)図形とブロックとの間の距離を調整します。

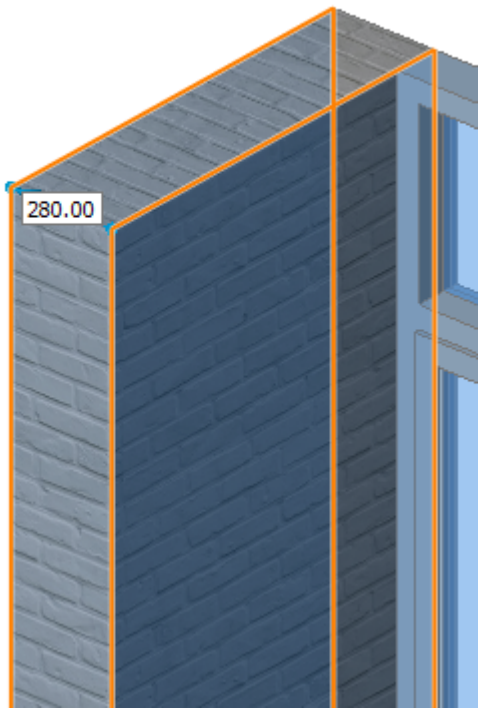


- 矩形の寸法を変更します。

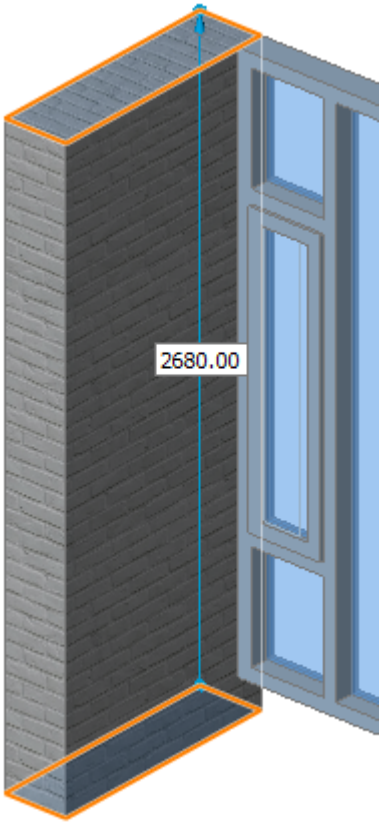
- 3Dソリッド間の距離を調整します。



- 3Dソリッドの幅を編集します。



- 3Dソリッドの高さを測定および編集します。



4.9 座標入力

図面上に図形を作成すると、その図形は図面の基礎となるデカルト座標系に関連して配置されます。図面には、**ワールド座標系**(WCS)と呼ばれる固定座標系があります。

また、**ユーザー座標系**(UCS)と呼ばれる任意の座標系を定義することができます。WCSのどこにでも設置でき、どの方向にも向けることができます。

以下のフォーマットでキーボードによる点と距離を指定します：

- デカルト座標：x、y、z
- 円柱座標：R < alpha,z
- 球座標：R<alpha<beta

4.9.1 相対座標

入力の前に@文字を入力すると、直前のポイントを基準に座標を計算します。この手法を**相対座標**と呼びます。

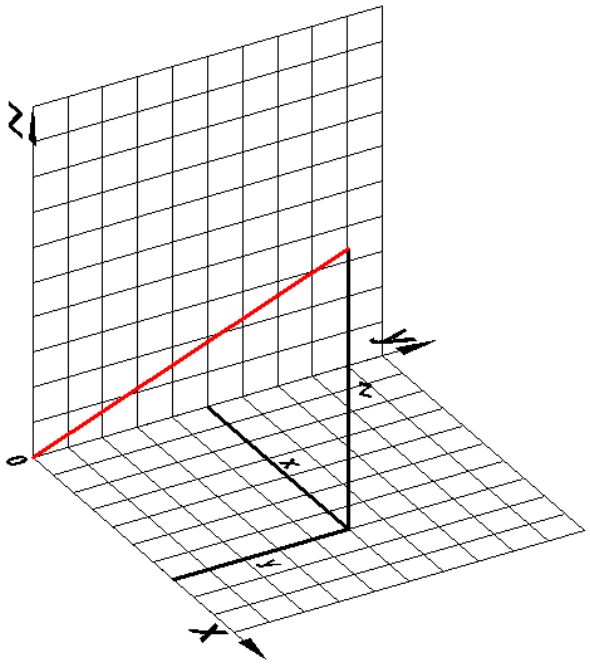
ダイナミック寸法がアクティブな場合、**長さ**欄に値を入力しカンマ(,)を追加すると、**長さ**欄の内容はコマンドラインにコピーされ、@マークは自動的に前に配置され、相対座標を使用し直前の点を基とした次の点を指定できます。

4.9.2 絶対座標

ユーザー定義の座標系を有効にしている場合、先頭にアスタリスク(*)を付けることで、絶対座標(ワールド座標)を入力することができます。例えば、*0,0 は、WCS(ワールド座標系)の原点を指します。

4.9.3 デカルト座標の使用

直交座標系ではX軸、Y軸、Z軸の3つの直交する軸を使用します。3軸とも座標系の原点を基準点としています。x軸とy軸は水平面を定め、x軸とz軸もしくはy軸とz軸は垂直面を定めます。点はYZ面、XZ面、XY面との距離で定義されます。これらの距離を点のXYZ座標と呼びます。



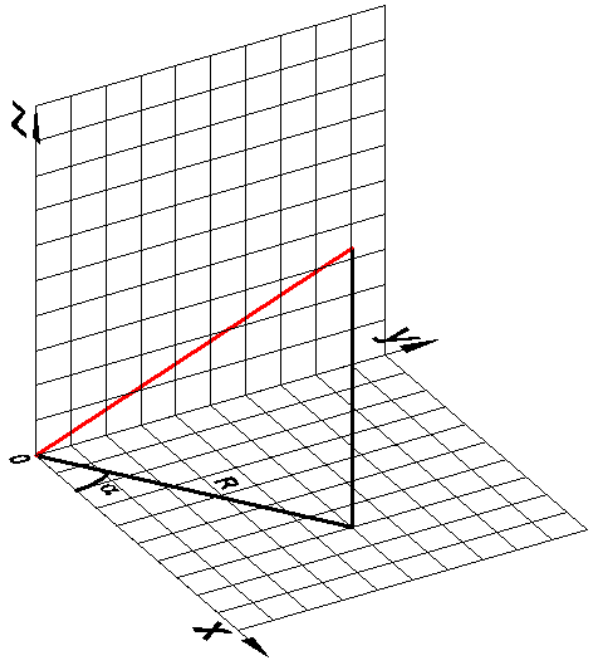
- 点の絶対的な直交座標を入力するには、x-、y-、z-座標をカンマで区切って入力します。
- z座標が省略された場合、その点はxy平面上に配置されます。(Z = 0)
- エントリー(@X,Y)の前に@文字を入力して、前の点を基準とした座標を指定します。この手法を**相対直交座標**と呼びます。

4.9.4 円柱座標の使用

円柱座標系では、X軸、Y軸、Z軸の3つの直交する軸を使用します。3軸とも座標系の原点を基準点としています。x軸とy軸は水平面を定め、x軸とz軸もしくはy軸とz軸は垂直面を定めます。

点は、次のフォーマットで定義されます：R<alpha, z

- R = XY面での原点からの距離
- <alpha = RとX軸のなす角度 (反時計回りを正の角度とします)
- z = xy面上での高さ
- z座標を省略すると、円柱座標は極座標として参照されます。
- 前の点を基準にして座標を計算するには、入力事項の前に@文字を入力します。

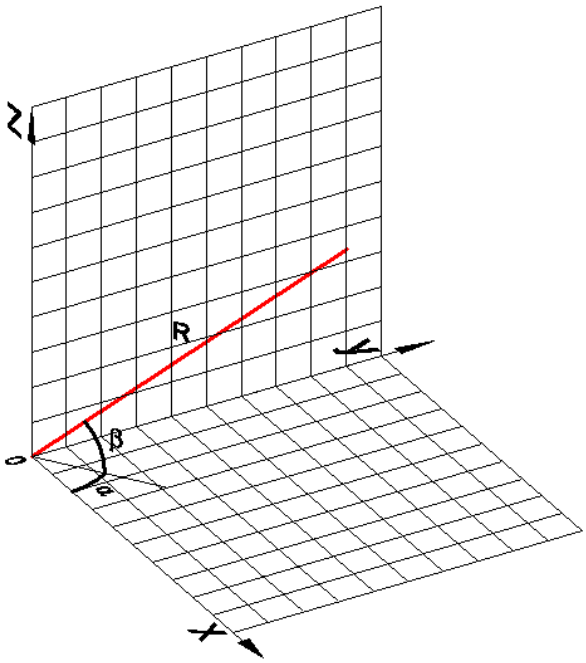


4.9.5 球座標の使用

円柱座標系では、X軸、Y軸、Z軸の3つの直交する軸を使用します。3軸とも座標系の原点を基準点としています。x軸とy軸は水平面を定め、x軸とz軸もしくはy軸とz軸は垂直面を定めます。

点は、次のフォーマットで定義されます：R<alpha<beta

- R = 原点からの距離
- <alpha = xy面における角度 (反時計回りを正の角度とします)
- <beta = xy平面から測定された角度 (正の角は、xy-面上で、反時計回りに測られます)

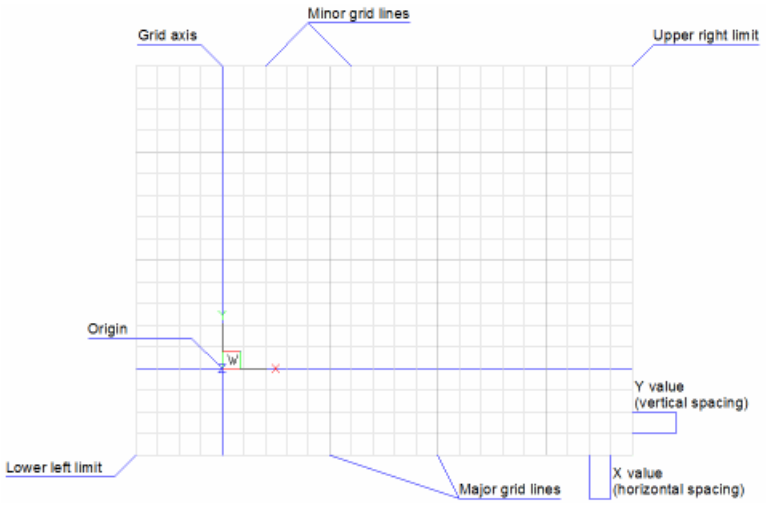


4.10 スナップとグリッド

スナップとグリッドを使用すると、素早く正確に作図できます。

グリッドは等間隔の線や点で構成され、距離を視覚的に把握しやすくなります。

GRIDSTYLEシステム変数で、グリッドの表示を線にするか点にするかコントロールできます。GRIDDISPLAYシステム変数は、グリッドの表示を制御します。また、グリッドは作図制限がどこまで拡張されているかも示すことができます。



スナップ機能は、等間隔の見えない吸着点を作成し、これらの点にクロスヘアを等間隔で動かします。グリッドもスナップも、方眼紙上の線の交点のようなものです。グリッド点はあくまでも視覚的参照用に利用され、印刷はされません。スナップはマウス操作で選択できるポイントを制限します。

- 設定ツールバーのグリッドツール( )またはステータスバーのグリッドフィールドをクリックします。またはCtrl+Gを押してグリッド表示のオン/オフを切り替えます。

- 設定ツールバーのスナップツール( )またはステータスバーのスナップフィールドをクリックします。またはCtrl+Bを押してスナップ表示のオン/オフを切り替えます。設定はSNAPMODEシステム変数を使用して保存されます。
- スナップとグリッドは、ビューポートごとに異なる設定が可能です。
- グリッドコマンドのスナップオプションは、グリッド間隔を現在のスナップ間隔と同じにします。
- グリッド線、または点は印刷されません。

4.10.1 スナップとグリッドの設定を表示

以下のいずれかの操作を行います：

- ステータスバーのスナップまたはグリッドフィールドを右クリックして、コンテキストメニューから設定を選択します。
- **設定**ダイアログボックスで、**図面** > **2D作図** > **座標入力** > **スナップ/グリッド**を開きます。

4.10.2 スナップとグリッドの間隔の同期

1 GRIDコマンドを起動します。

プロンプト表示：

グリッドはオンです。グリッド間隔を入力、または [グリッドオフ (OF)/スナップ (S)/縦横比 (A)]<10>:

2 **S**と入力し、Enterを押します。

グリッド間隔はスナップ間隔と一致します。

3 (オプション)SNAPコマンドの**縦横比**オプションを使用して、間隔を調整します。

注：グリッド間隔は、GRIDコマンドまたは**設定**ダイアログボックスで違う値を定義するまでは、スナップ間隔と同期したままです。

4.10.3 図面範囲の使用

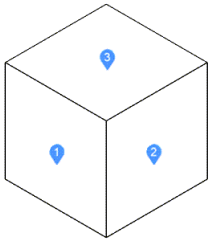
- LIMITSコマンドを実行して、図面範囲を設定します。
- メニューバーより設定の**図面範囲設定**( )をクリックして、コマンドラインでLIMCHECKシステム変数のオン/オフを切り替えます。

  LIMCHECKがオンの場合、図面範囲を超えて作図することはできません。
- GRIDDISPLAYシステム変数の**図面範囲を超えて表示**オプションは、グリッドが図面範囲を超えて表示されるかどうかを定義します。

4.10.4 等角図スナップの使用

等角図(アイソメ)スナップは、2次元の平面上に3次元の視点をシミュレートした2次元の等角図を作成することができます。等角図と3次元図を混同しないようにしてください。

等角図オプションは、常に設定された3つの平面([1]**左**、[2] **右**、[3]**上**)のいずれかを使用します。これらの平面の配置を変更することはできません。3つの等角図軸は30度、90度、150度です。



以下を実行します：

- SNAPSTYL：1 (等角図スナップ)に設定します。
- GRIDSTYLE：1 (2Dモデル空間の点グリッド)に設定します。
- SNAPISOPAIR：0＝左、1＝上、2＝右に設定します。
  F5を押すと、等角図モードの設定が切り替わります。
- ORTHOMODEをオンに設定して、クロスヘアの動きを現在の等角平面に制限します。
- SNAPANG = 0 であることを確認してください。

4.10.5 スナップ角度の設定

SNAPANGシステム変数を使用して、点グリッドを回転させることができます(SNAPANGが0以外の場合、グリッド線は表示されません)。

1 設定ダイアログの **[スナップ/グリッド]** 設定を表示させます。

2 SNAPANGシステム変数を選択します。

3 設定欄に新しい値を入力します。

4 設定ダイアログを閉じます。

注：コマンドラインに**snapang**と入力することで、スナップ角度を設定することもできます。コマンド実行時に、**['snapang]** (アポストロフィ(')を前に付ける)を入力して、実行中のコマンドを中断させずスナップ角度変数を変更することができます。

4.11 アダプティブグリッドスナップ

アダプティブグリッドスナップ機能を使用すると、キーボード入力なしで簡潔な値を使用して、図形の作成、編集、ナッジ、マニピュレートができます。

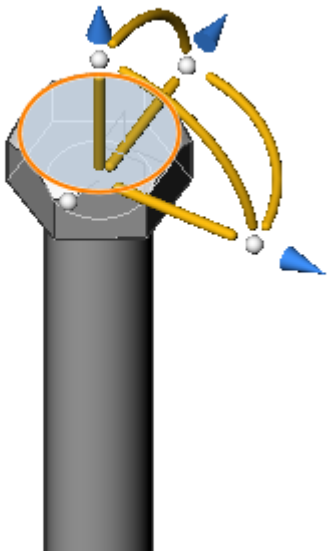
スナップステップサイズは、現在の画面のズーム率に応じて調整されます。SNAPTYPE = 2の場合、アダプティブグリッドスナップが有効になります。

ADAPTIVEGRIDSTEPSIZEシステム変数は、使用可能な最小のステップ サイズをコントロールします。デフォルト値は4ピクセルです。

4.11.1 マニピュレータでのアダプティブグリッドスナップの使用

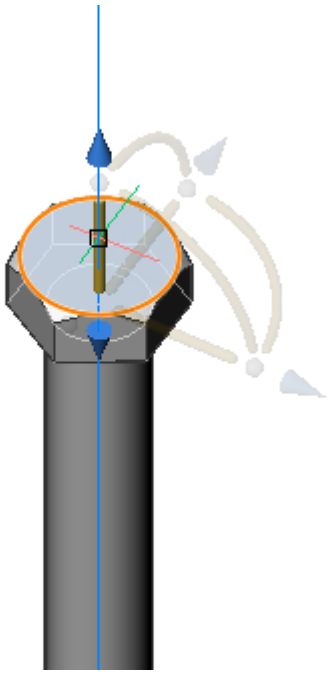
1 図形またはサブ図形の上にカーソルを移動し、マウスの左ボタンを少し長めに押して(左クリック長押し)図形を選択します。

1 マニピュレータウィジェットが表示されます：



2 図形を移動したい方向の軸の上にカーソルを移動させます。選択した軸がハイライト表示されます：マニピュレータの他の部分が薄くなります。

3



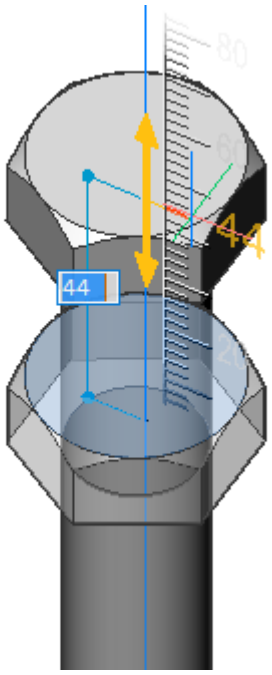
4 クリックして軸を選択し、カーソルを移動させます。

5 ルーラーが表示されます。

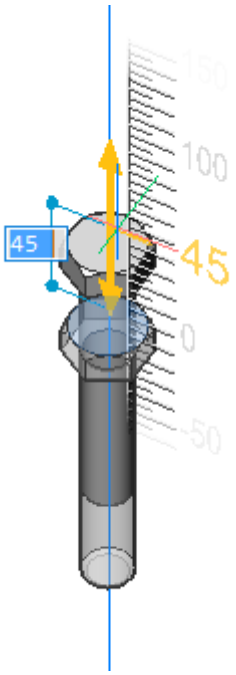
現在の移動距離がダイナミック入力フィールドに表示されます。

グリッドスナップの解像度は、ズーム率に応じて自動的に調整されます。

2ミリ間隔のルーラー表示：



5ミリ間隔のルーラー表示：



6 (オプション)ズームインまたはズームアウトしてダイナミックグリッドを調整します。

7 以下のいずれかの操作を行います：

- ルーラーのカレントの値をそのまま使用するにはクリックします。
- ダイナミック入力フィールドに値を入力してEnterを押します。

4.12 ナッジ

ナッジ作図補助機能を使用すると、キーボードを使用して、選択した図形またはサブ図形をX、Y、Z軸に沿って少しずつ移動できます。

注：ロックされた画層の図形は、ナッジできません。

4.12.1 ナッジの使用方法

1 1つまたは複数の図形またはサブ図形(ポリラインセグメントや3Dソリッド面など)を選択します。

2 選択範囲を移動するには、以下を実行します。

- 現在の座標系のX軸に沿って：

  Ctrlを押しながら、左/右矢印キーを使用します。

  プロンプト表示：NUDGE: X軸に沿ったオフセット UCS:xx*
- 現在の座標系のY軸に沿って：

  Ctrlを押しながら、上/下矢印キーを使用します。

  プロンプト表示：NUDGE: Y軸に沿ったオフセット UCS:xx*
- 現在の座標系のZ軸に沿って：

  Shiftを押しながら、上/下矢印キーを使用します。

  プロンプト表示：NUDGE: Z軸に沿ったオフセット UCS:xx*

* ナッジ機能で使用されるステップサイズは、アダプティブグリッドスナップ解像度に基づいています。ズームイン/ズームアウトして、ステップサイズを拡大/縮小します。

4.13 2D図形スナップ

図形スナップでは、その点の正確な座標を知らなくても、既存の図形上の正確な幾何点をすばやく選択することができます。

図形スナップでは、線や円弧の端点、円の中心点、2つの図形の交点、またはその他の幾何学的に重要な位置を選択することができます。また図形スナップを使って、既存の図形の接線や垂直に交わる図形を作図することもできます。図形スナップは、点を指定したいときにいつでも使用できます。

次の2つの方法のうちの1つで図形スナップを用いて作図することができます。

- 他のいずれのコマンドもオフのときにユーザーが図形スナップを選択することでオフにするまでは、実行中の図形スナップを引き続き有効状態にします。
- 他のコマンドがアクティブなときに図形スナップを選択することで、1つの選択対象に対して一時図形スナップを有効にします。また、一時図形スナップを使用して、実行中の図形スナップを上書きすることもできます。

図形スナップを使用する場合、プログラムは可視の図形または図形の可視部分のみを認識します。オフになっている画層の図形や、断続線の空白部分はスナップできません。

APBOXシステム変数がオンの場合、図形スナップをアクティブにすると、検出範囲ボックスがクロスヘアに追加されます。

十字マークを移動させると、プログラムは検出範囲ボックスの中心に最も近いポイントに吸着します。**スナップマーカー**は現在の吸着点を表示します。

DRAGSNAPシステム変数は、ドラッグ中のスナップ動作を制御し、WYSIWIGエクスペリエンスを向上させます。DRAGSNAPは、ゴム紐状のダイナミック表示を現在のカーソル位置

に表示するか、現在の図形スナップ位置に表示するかをコントロールします。DRAGSNAP
は、COPY、PASTECLIP、PASTEBLOCK、MOVE、ROTATE、MIRROR、SCALE、STRETCHなどの移動を伴う全ての変更コマンドに適用されます。

- DRAGSNAP = 0 (デフォルト)：ドラッグした図形をカーソル位置に表示します。
- DRAGSNAP = 1：ドラッグした図形を現在の図形スナップ位置に表示します。

OSOPTIONSシステム変数は、特定の図形タイプの図形スナップを抑制します。設定値は、選択したすべてのオプションの値を合計したビットコードとして保存されます。

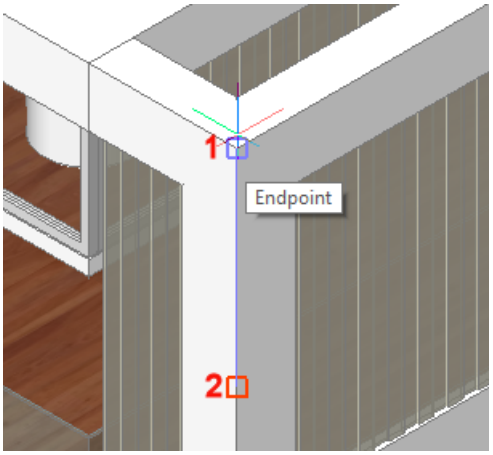
- 1：ハッチング図形に対して図形スナップを無効にします。
- 2：ダイナミックUCSを使用する場合、負のZ値を持つ形状に対して図形スナップを無効にします。
- 4：寸法補助線の端点に対して図形スナップを無効にします。

注： マウスを動かさずにTabを押すと、現在のカーソル位置で利用可能なすべての図形スナップが切り替わります。

4.13.1 2D図形スナップの定義

ステータスバーの図形スナップフィールドを右クリックし、コンテキストメニューで設定を選択します。2Dおよび3D図形スナップの設定が展開された状態で、**設定**ダイアログボックスが表示されます。

4.13.2 2D図形スナップオプション

アイコン	説明
	OSNAPZを「図形スナップ高度は無視」に設定し、スナップした点の Z 座標をELEVATIONシステム変数の現在の値に置換します。  3Dスナップマーカー(1)は3D点が識別された表示です。スナップマーカー(2)はカレントの高さを表示します。
	OSOPTIONSシステム変数の「ハッチングを無視」オプションを無効にし、ハッチングのスナップを可能にします。

アイコン	説明
	OSOPTIONSシステム変数の「負のZ方向に図形スナップ」オプションを無効にして、ダイナミックUCSがアクティブなときに負のZ値での図形スナップを可能にします。
	OSOPTIONSシステム変数の「寸法補助線の端点を無視」オプションを無効にして、寸法補助線の図形スナップを可能にします。

4.13.3 図形スナップモード

名前	アイコン	マーカー	コンテキストメニューショートカット*	トランスペアレントショートカット**	説明
複数の一時的なトラッキングポイント				tk	一時的なトラッキングポイントを使用します。一時的なポイントを指定するよう促されます。Enterを押して、最後の一時的なポイントを確定します。
2点間の中点にスナップ			2	mtp	2つの点の間にある点にスナップします。2つのポイントを確認するプロンプトが表示されます。
端点			E	end	図形またはポリラインセグメントの最も近い端点にスナップします。
中点			M	mid	図形またはポリラインセグメントの中点にスナップします。
近接スナップ			N	nea	図形上の最も近い点にスナップします。
中心			C	cen	円弧、円、多角形、楕円または楕円弧の中心点にスナップします。
図心			G	gce	閉じたポリラインとスプライン、平面3Dポリライン、リージョン、3Dソリッドの平面の重心にスナップします。

名前	アイコン	マーカー	コンテキストメニューショートカット*	トランスペアレントショートカット**	説明
垂線			P	per	他の図形の垂直点にスナップします。円弧、円、楕円、線、ポリライン、無限直線、レイ、スプライン、平面のエッジにスナップすることで、その図形やその延長線上に垂直に整列させることができます。
平行			L	par	選択図形へ平行なトラッキング線を表示します。
正接			T	tan	円弧、楕円、スプライン、円周上の点で、前の点と接続すると、その図形に接する線を形成する点にスナップします。
四半円点			Q	qua	円弧、円、楕円、楕円弧の最も近い四半円点にスナップします。
挿入			I	ins	属性、ブロックまたはテキストの挿入点にスナップします。
点			O	poi nod	点図形にスナップします。
交点			R	int	任意の組合せ図形の交点にスナップします。
仮想交点			A	app	3次元空間内で交差しない2つの図形の現在のビューで仮想交点にスナップします。 図形の任意の組み合わせの交差点にもスナップします。
延長交点			X	ext	図形の延長、または2つの図形の延長の交点にスナップします。
解除			Y	non	図形スナップモードをオフにします。

*ショートカット文字を入力すると、右クリックによるコンテキストメニューの図形スナップモードを直接選択できます。

**コマンドプロンプトがポイントを要求する時、透過的なショートカットをコマンドラインに入力します。

他の実行中の図形スナップは一時的に無効になります。

4.13.4 図形スナップの設定

以下のいずれかの操作を行います：

- Shiftを押しながら右クリックし、コンテキストメニューから図形スナップモードを選択します。
  現在アクティブな図形スナップモードのアイコンがアウトライン化またはチェックされます。
- 図形スナップツールバーのボタンをクリックします。
  現在アクティブな図形スナップモードのボタンが押されます。

コマンドが実行中でないとき、上記の手順で図形スナップモードのオンとオフが切り替わります。

コマンドを実行中に上記の手順を行った場合、現在の図形スナップモードは一回限りの無効状態になります。

または、表に示すアルファベット一文字のショートカットを入力することもできます。

図形スナップのオン/オフを切り替えるには：

- ステータスバーの図形スナップフィールドをクリックします。
- **F4**を押します。

4.13.5 複数の図形スナップモードを使用

1 スナップしたい図形にカーソルを合わせます。
  アクティブな図形スナップモードの1つがマーカー表示されます。

2 マウスを動かさずにTabを押します。
  スナップ点がある図形が、ハイライト表示されます。

3 以下のいずれかの操作を行います：
  - クリックしてスナップ点を決定します。
  - Tabを押します。
    「図形スナップ」モードマーカーが次の候補を表示します。
    スナップ点がある図形が、ハイライト表示されます。

4 (オプション)適切なスナップ点が見つかるまで、ステップ3を繰り返します。

4.13.6 2つの図形の延長線上にスナップ

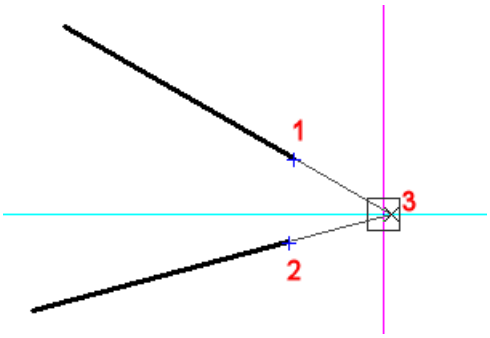
1 **延長交点**スナップモードをオンにします。

2 図形作成コマンド(例：線分)を起動します。

3 カーソルを最初の図形の端点(1)に合わせます。
  小さな赤い十字は、延長交点のためにマークされた図形を示します。

4 カーソルを2つ目の図形の端点(2)に合わせます。
  小さな赤い十字は、延長交点のためにマークされた図形を示します。

5 カーソルを2つの図形の延長線上の交点付近に合わせます。
  Xは交点(3)を示します。



6 クリックしてスナップ点を決定します。

注：線分、ポリライン、円弧、楕円弧の延長にスナップさせることも可能です。

4.13.7 2点間スナップモードの使い方

1 点を指示する場合は、以下のいずれかを実行します：

- **2点間の中点にスナップ**スナップモード( )をアクティブにします。
- コマンドラインに**mtp**または**m2p**と入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：中点の1点目:

2 最初の点を指定します。

プロンプト表示：2つ目の中点：

3 2つ目の点を指定します。

2つの点の中点がスナップされます。

4.13.8 平行図形スナップモードの使用

1 図形スナップトラッキング が有効になっていることを確認します。

2 線形図形(線など)を作成する図形作成コマンドを起動します。

3 図形の最初の点を指定します。

線がダイナミックに表示されます。

4 Shiftを押しながら右クリックし、コンテキストメニューの**平行スナップ**( )を選択します。

5 平行して作図したい図形にカーソルを合わせます。

選択した図形に**平行図形スナップ**マーカー( )が表示されます。

図形が認識されたことを示す小さな十字(+)が表示されるまで待ちます。

6 カーソルを移動して、選択された図形に対する線の平行さの加減を調整します。

線の開始点からトラッキング線が表示されます。

7 以下のいずれかの方法を用いて、トラッキング線を表示させた状態で 2 番目の点を指定します。

- ポイントを指定します。
- 希望する長さを入力しEnterを押します。
- 2 つ目の図形スナップトラッキング点を使用します。カーソルを平行なトラッキング線と第 2 図形スナップトラッキ

ング線の交差点に移動させます。

4.14 3D図形スナップ

2D図形スナップに加え、一連の3D図形スナップモードは、ソリッド、サーフェス、スプライン、メッシュなどの3D図形上の点に適用されます。

カレントの3D図形スナップモードは、選択されたスナップモードのビットコードの和として3DOSMODEシステム変数を介して保存されています。

名前	アイコン	マーカー	説明
面の3D中心			3D面の中心にスナップします。
3D面の交点			線形図形やエッジの交点、極スナップまたは図形スナップトラッキング線と面との交点にスナップします。
3Dノット			スプライン上の点(フィット点)にスナップします。
3D中点			面のエッジの中点にスナップします。
3D近接点			カーソルに最も近い3D図形の面上の点にスナップします。
無し			3Dスナップモードを無効にします。
直交			3D図形の面に垂直な点にスナップします。
3D頂点			3D図形の最も近い頂点とスプラインの制御頂点の最も近い頂点にスナップします。
点群の近接点			点群の点にスナップします。

4.14.1 3D図形スナップモードの設定

- **3D図形スナップ**ツールバーのボタンをクリックします。

  現在アクティブな図形スナップモードのボタンが押されます。
- コマンドが実行されていない場合、ツールボタンをクリックすると、スナップモードのオン/オフが切り替わります。
- ツールボタンをクリックしてコマンドを実行すると、次のポイントのスナップモードが設定され、選択した他のすべてのスナップモードが一時的に無効になります。
- 3DSONAPコマンドまたは-3DOSNAPコマンドを実行します。
- Shift + 右クリックし、コンテキストメニューの**3D図形スナップ**にカーソルを合わせ、フライアウトメニューの3D図形スナップオプションをクリックします。

4.15 極トラック

極トラック(POLAR)を使用すると、正確な角度で作図することができます。

- 一定の間隔で3時(東)の方向からはじまります。
- 特定の角度の追加もできます。

カーソルを極トラック角度のいずれかに近づけると、原点から極トラッキングパス線が表示されます。スナップ吸着ボックスが極トラック線上に重なっている間は、トラッキングパス線が表示されます。

3Dビューでは、現在のUCSのZ軸に平行なトラック線も表示されます。

スナップトラックロック：スナップトラックのパスをロックするには、Shiftを押します。トラックパスのロックを解除するには、もう一度Shiftを押します：切り替えとして機能します。ロックされたトラッキングパスは、SnapMarkerColorユーザー設定で定義された色で表示されます。

- トラッキングパス線の表示は、TRACKPATHシステム変数でコントロールします。
- トラッキングの色はAutoTrackingVecColor ユーザー設定でコントロールされます。
- 現在の座標系(WCSまたはUCS)のX軸、Y軸、またはZ軸と平行なトラッキングパスは、軸と同じ色(COLORX 、COLORY 、COLORZ変数で定義)で表示されます。
- 極トラックをオンにすると直交直交モードが自動的にオフになり、その逆も同様です。
- ANGBASEシステム変数は、現在の座標系に対するトラッキングラインのベース角度を定義します。

4.15.1 トラッキング設定の定義

1 以下のいずれかの操作を行います：
   - ステータスバーの「極トラック」または「スナップトラック」フィールド上で右クリックし、コンテキストメニューから**設定**を選択します。
   - **設定**ダイアログが開き、**2D作図**の**座標入力**サブカテゴリが展開されます。**図面**単位で選択されます。**スナップトラック**設定グループを展開します。

2 設定を調整：
   - AUTOSNAPシステム変数：極トラックの動作と、極トラックと図形スナップトラックのいずれか、または両方をアクティブにするかどうかを制御します。
   - POLARANGシステム変数：極角の増分を度数で設定します。デフォルトは90です。
   - POLARADDANGシステム変数：追加の角度を設定します。セミコロンで角度を区切ります。
   - POLARMODEシステム変数：極トラックと図形スナップトラックの動作を制御します。
   - 相対：スナップされた図形の方向を基準にして角度が測定され、そうでない場合は現在の座標系(WCSまたはUCS)にしたがって角度が測定されます。
   - 図形スナップトラックにも極角設定を使用します。
   - 追加の角度(POLARADDANG)を使用するかどうか。
   - Shiftを使って図形のスナップポイントを取得します。
   - TRACKPATHシステム変数：トラックパスをどのように表示するかをコントロールします：フルスクリーンかまたは部分的か。

4.15.2 トラッキングラインのロック

スナップトラックのマーカーラインが表示されているときにShiftを押すと、トラッキングパスがロックされ、選択された任意の(スナップ)ポイントがトラッキングパスに垂直に投影されます。再度Shiftを押すとロックが解除されます。

ロックされたトラッキングパスの色が、SnapMarkerColorユーザー設定で定義されている表示色に変わります。

4.15.3 一時的なトラッキングポイントの使い方

極トラックがオンの時、直接スナップできる既存の幾何形状がない箇所で一時的なトラッキングポイントを使い、近くにある既存の幾何形状のスナップ点からのオフセット距離を把握しながら、スナップ点を指定することができます。ダイナミック寸法(DYN)もアクティブにしておくことをお勧めします。

1 コマンドが点を要求したら、以下のいずれかを実行してください：

- マウスの中ボタン(マウスホイール)をクリックします。
- **複数の一時的なトラッキングポイント**図形スナップモード( )をアクティブにします。
- コマンドラインに**TK**と入力し、Enterを押します。

  コマンドが一時的に停止します。

  プロンプト表示：最初の一時トラッキングポイントを指定:

2 例えば、図形スナップを使ってポイントを指定するなどして、ポイントを入力します。

  プロンプト表示：次の一時的なトラッキングポイントを指定(ENTERで終了)

3 以下のいずれかの操作を行います：

- ポイントを入力します。
- Enterを押して最後の一時的なトラッキングを承諾します。

  コマンドが再開されます。

4.16 図形スナップ

図形スナップトラッキング(STRACK)は、他の図形に対する図形の作図が容易になります。

図形スナップトラッキングをオンにすると、BricsCADでは図形のスナップポイントからの一時的なトラッキングラインが表示されます。図形スナップトラッキングを使用するには、図形スナップモードが少なくとも1つオンになっている必要があります。

ステータスバーのスナップトラックフィールドをクリックすると、図形スナップトラッキングのオン/オフを切り替えることができます。

図形スナップトラッキングラインは、現在のUCSのX軸とY軸に平行です。

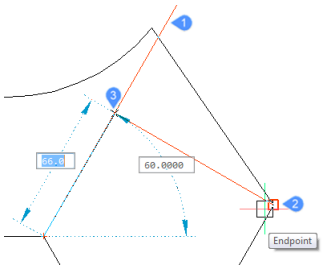
POLARMODEシステム変数のビットコード2がチェックされている場合、極トラッキング設定で使用されている極角度(間隔と追加角度)は図形スナップトラッキングでも使用されます。

図形スナップを使いポイントにカーソルを重ねると、位置合わせポイントが取得されます。取得したポイントには小さなプラス記号(+)が表示されます。取得したポイントを削除するには、ポイントにもう一度カーソルを合わせます。次に、小さなプラス記号(+)が削除されます。POLARMODEシステム変数のビットコード8がチェックされている場合は、Shiftを押したままにして、図形トラッキングポイントを取得します。カーソルをトラッキングパス上に移動すると、取得したポイントを基準にしたトラッキングラインが表示されます。次に、トラッキングライン上または2つのトラッキングラインの交点にポイントを定義することができます。

注：ANGBASEシステム変数は、現在の座標系に対するトラッキングラインのベース角度を定義します。

4.16.1 トラッキングラインのロック

トラッキングラインが表示されたらShiftを押して、トラッキングラインをロックします。ロックされたトラッキングラインは、スナップマーカー色のユーザー設定(1)で定義された色で表示されます。図形スナップ(2)または指定されたポイントは、ロックされたトラッキングライン(3)に垂直に投影されます。Shiftをもう一度押すと、トラッキングラインのロックが解除されます。



ロックされたトラッキングラインには他にも以下のオプションがあります。

- 交点図形スナップをオンにすると、ロックされたトラッキングラインと図面内の図形の交差にスナップすることができます。
- 追加のトラッキングラインを取得し、これらがロックされたトラッキングラインと交差する場所にスナップします。

4.16.2 図形スナップトラッキングの使用

1 LINEなどの作図コマンドを起動します。

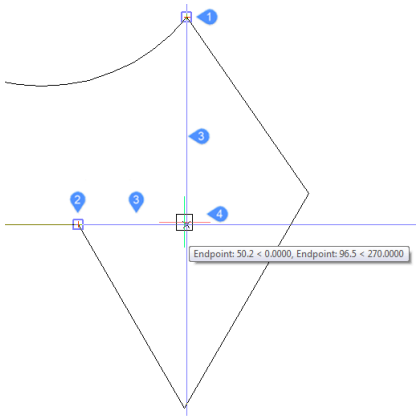
プロンプト表示：ラインの始点、または [フォロー (F)]<終点>:

2 カーソルを最初のトラッキングポイント(1)に合わせます。

トラッキングポイントがアクティブであることを示す、小さなプラス記号(+)が表示されます。

3 カーソルを2つ目のトラッキングポイント(2)に合わせます。

トラッキングポイントがアクティブであることを示す、小さなプラス記号(+)が表示されます。



4 カーソルを位置(4)の近くに移動させます。

- トラッキングライン(3)が両方のトラキングポイントから表示されます。
- クロスマーカー(X)はトラッキングラインの交点を示しています。
- スナップマーカーがトラッキングポイントに表示されます。
- トラッキングラインの交点にある図形スナップトラッキングツールチップは、トラッキングポイントからの角度と距離を示します。

5　クリックして図形スナップトラッキングポイントを確定します。

4.17　ユーザー座標系

図面に図形を作成すると、それらは図面の基礎となる直交座標系に関連して配置されます。ELEVATIONシステム変数は、現在の座標系のXY平面からの距離を指定します。ELEVATION = 0(デフォルト)の場合、図形は現在の座標系のXY平面上に作成されます。

いずれの図面も、ワールド座標系(WCS)と呼ばれる固定座標系があります。

3次元空間のどこにでも配置された任意の座標系を定義することができます。これをユーザー座標系(UCS)と呼びます。必要な数のUCSを作成し、それらを保存または再定義して、3次元空間で図形を構築するのに役立てることができます。

新規に図面を作成すると、デフォルトではWCSが現在の座標系となり、UCSアイコンにはWの文字が表示されています。平面図で図面を表示すると、Z軸が真っ直ぐ上を向いた状態で、上から見た座標系アイコンが表示されます。平面図以外の表示で3次元図面を表示すると、座標系アイコンが新しい視点を反映して変化します。

注：

- WCSの削除、修正はできません。
- UCSORTHOシステム変数がオンの場合、関連する正投影ビューが-VIEWコマンドによって復元されるか、Look Fromコントロールで選択されると、正投影UCSが自動的に復元されます。

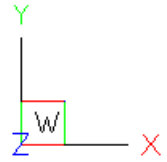
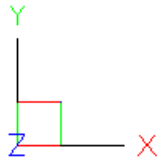
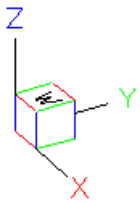
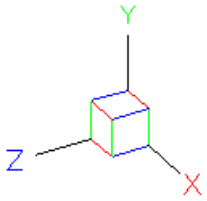
  正投影UCSは、WCS原点、またはUCSBASEシステム変数で参照されるUCSを原点とします。

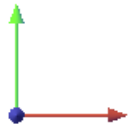
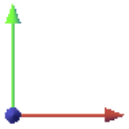
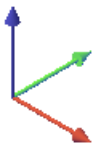
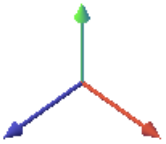
  正投影ビューは、上、下、左、右、正面、背面のことです。
- 複数のビューポートが存在する場合、UCSVP(UCSビューポート)システム変数は、ビューポートのUCSを固定するか(UCSVP =オン)、現在のビューポートのUCSを反映するか(UCSVP =オフ)を制御します。
- UCSFOLLOWシステム変数がオンの場合、座標系が変更されるたびに、図形範囲でズームされた平面図が自動的に生成されます。
- PLANコマンドは、現在の座標系(UCSまたはWCS)の平面図(上面図)を復元します。

4.17.1　座標系アイコンの表示制御

UCSICONおよびUCSICONPOSシステム変数は、UCSアイコンの表示と位置を制御します。

- UCSICON：
  - **アイコンを表示**：アイコンの表示、非表示を制御します。
  - **原点に表示**：UCSアイコンの位置を制御します。オンの場合、アイコンは現在の座標系(UCSまたはWCS)の原点を示します。ただし、原点がビューポートの境界内にない場合、UCSICONPOSシステム変数で定義されているように、UCSアイコンはビューポートの隅に移動します。**原点に表示**オプションがオフの場合、アイコンは常にUCSICONPOSシステム変数で定義されたビューポートの隅に表示されます。
- UCSICONPOS：UCSアイコンの原点以外の位置を指定します。

2Dワイヤーフレーム・表示スタイル			
			
WCSを上からみた表示	UCSを上からみた表示	WCSの等角表示	UCSの等角表示

作成された表示スタイル			
			

カレント座標系での位置の理解のために、BricsCADでは座標系アイコン(UCSアイコン)を表示します。各軸の伸びていく方向が正の方向です。

3つの軸の色は、3次元空間の方向を示します。

- X軸：赤
- Y軸：緑
- Z軸：青

座標の色はCOLORX、COLORY、COLORZシステム変数でコントロールされます。

4.17.2 UCSの定義

1 コマンドバーにプロンプトが表示されたら**UCS**と入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：

UCS原点を指示、または [面 (F)/名前を付けた (NA)/図形 (E)/前 (P)/ビュー (V)/X/Y/Z/z軸 (ZA)/移動 (M)/ワールド座標 (W)]<ワールド座標 (W)>:

2 UCSの原点を指定します。

プロンプト表示：X軸上を指示 または<承諾(A>:

3 正のX軸を定義する点を指定します。

プロンプト表示：XY-平面上のYの正方向を指示 または<承諾(A>:

4 正のY軸を定義する点を指定します。

UCSが定義されました。

4.17.3 ユーザー座標系の定義と保存

1 EXPUCSコマンドを起動します。

図面エクスプローラの座標設定ダイアログボックスが表示されます。

2 図面エクスプローラダイアログの新規ボタンをクリックします。

図面エクスプローラダイアログが閉じます。

プロンプト表示：z軸(ZA)/3点/図形(E)/原点(O)/ビュー(V)/X/Y/Z/カレント(C) <カレント(C)>

3 3点オプションを押します(3つの点を使ってUCSを定義します)。

4 UCSの原点を指定します。

プロンプト表示：新しい原点 <0,0,0>:

5 正のX軸を定義する点を指定します。

プロンプト表示：正のX軸上の点 <1,0,0>:

6 正のY軸を定義する点を指定します。

プロンプト表示：正のY値のあるXY-平面上を指定 <0,1,0>:

UCSが定義されました。

図面エクスプローラダイアログが再度開きます。

7 新しく定義された座標のUCS名フィールドをクリックして、新規UCSのデフォルト名を書き換えます。

8 図面エクスプローラダイアログを閉じます。

4.17.4 保存されたUCSの復元

1 EXPUCSコマンドを起動します。

図面エクスプローラの座標設定ダイアログボックスが表示されます。

2 UCS名フィールドの前にある空欄をクリックして、現在の座標系にします。

3 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを閉じます。

4.17.5 WCSの復元

コマンドラインに**UCS**と入力し、Enterを2回押します。(＝UCSコマンドのデフォルトオプションを選択)

4.18 ダイナミックUCS

ダイナミックUCS機能を有効にすると、座標系はカーソルの下の図形に自動的に位置合わせされます。

UCSDETECTシステム変数は、サポートされる図形タイプを制御します。

1 3Dソリッド、サーフェス、サブディビジョンメッシュ、およびリージョンの面 (デフォルト)

2 他の図形：点、線、ポリライン、2Dポリライン、3Dポリライン、放射線、構築線、円弧、円、楕円、スプライン、テキスト、マルチテキスト、ソリッド、3D面、太線、ブロック挿入、ビューポート、マルチライン、引出線、マルチ引出線、ハッチング、らせん、カメラ、光源、断面、形状、PDFアンダーレイ、画像

ステータスバーの[DUCS]フィールドを右クリックして、サポートする図形タイプを選択します。

図形はブロック内で選択できますが、不均一にスケーリングされたブロック内の ACIS図形の湾曲面は除きます。

この機能は、ユーザー設定によって制御されます。

- REDHILITE_DUCSLOCKED_FACE_COLORシステム変数は、Shiftを押してダイナミックUCSをロックした面のハイライト色を指定します。
- REDHILITE_DUCSLOCKED_FACE_ALPHAシステム変数は、Shiftを押してダイナミックUCSをロックしたハイライト面の透明度を指定します。

注 : ダイナミックUCS機能を使用する場合は、UCSFOLLOW = オフに設定することをお勧めします。

4.18.1 ダイナミックUCSの切り替え

以下のいずれかの操作を行います：

- F6ファンクションキーを押します。
- ステータスバーの **[DUCS]** フィールドをクリックします。

4.18.2 ダイナミックUCSの使用

1 ダイナミックUCS機能をアクティブにして、LINE(線分)などの図形作成コマンドを起動します。

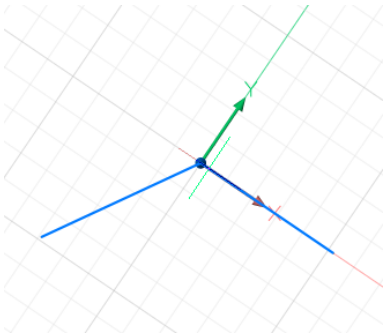
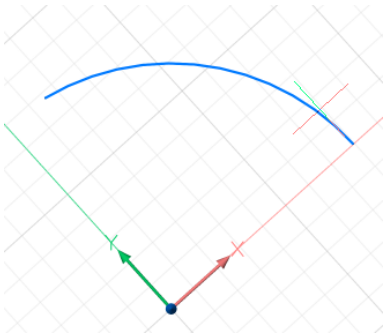
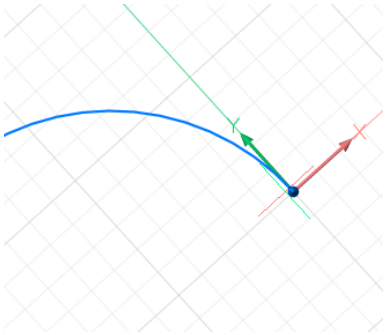
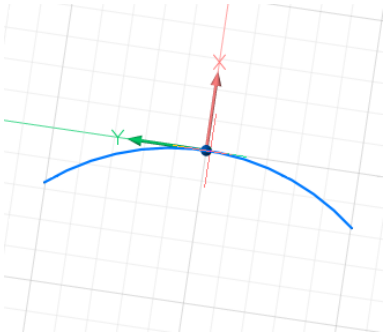
2 カーソルを図形または3Dソリッド面の上に移動します。

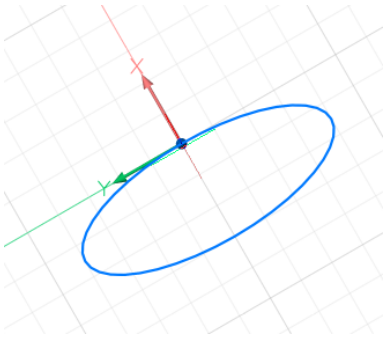
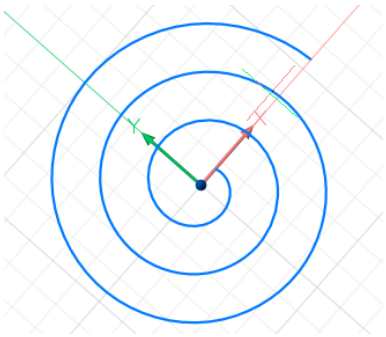
図形や面がハイライト表示します。

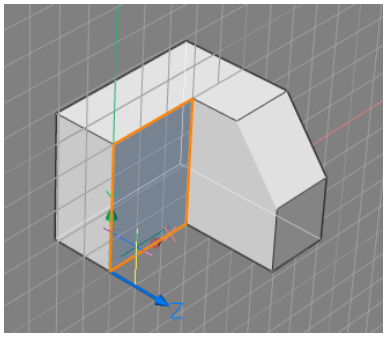
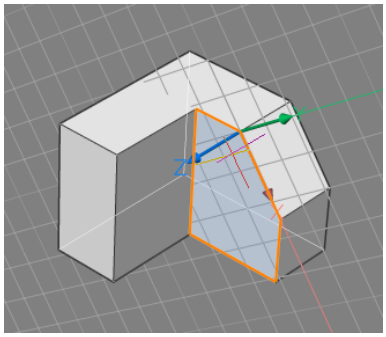
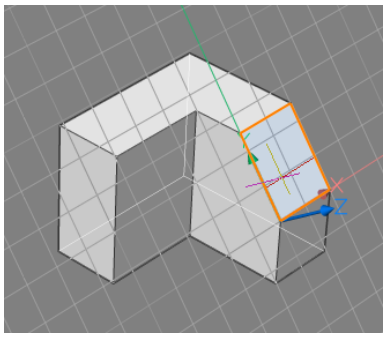
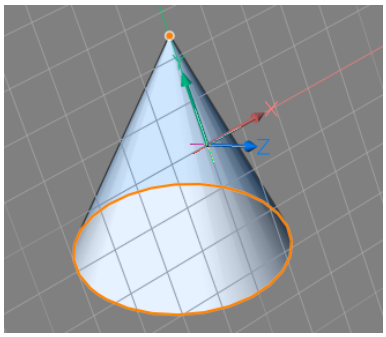
GRIDMODEがオンの場合、選択した図形や面にグリッドが整合されます。

3 UCSICON = 3(原点に表示)の場合、UCSアイコンが表示されます。

4

他の図形のダイナミックUCS	
	
	

他の図形のダイナミックUCS	
	

3Dソリッドの面上のダイナミックUCS	
	
	

ダイナミックUCS の方向は、カーソルが重ねられた図形または面にどのように触れるかによって異なります。これにより、ユーザーは DUCSの向きを操作できます。3Dソリッド面では、DUCSの原点はソリッドエッジの始点に設定され、X軸はエッジの始点の接線と同じ方向に選択されます。曲面では、X軸は面に接しており、Y軸は面にあり、Z軸は面に垂直です。

5 (オプション) Shiftを押すとDUCSがロックされ、選択された図形または面の外側で作図を開始できます。Shiftをもう一度押すと、DUCSのロックが解除されます。

6 図形作成コマンドを実行します。

注：OSOPTIONSシステム変数のビットコード2が選択されている場合、図形スナップはカレントのUCSの負の Z値を無視します。

7 コマンドが終了すると、カレントの座標系(WCSまたはUCS)に戻ります。

4.19 計測

DISTコマンドは、2点間の距離と角度を表示します。

AREAコマンドは、2D図形の面積と周長(または長さ)を計測します。

MASSPROPコマンドは、3Dソリッドや2Dリージョンの体積、面積、周長、その他の数学的プロパティを表示します(**mass properties**の略)。

IDコマンドは、指定した位置のXYZ座標を表示します。

LISTコマンドは、選択した図形のプロパティを一覧表示します。

注：BricsCADでは、コマンドラインに(コマンドラインが閉じられている場合はプロンプト履歴ウィンドウに)結果を報告します。コマンドラインのプロンプト履歴行の数によっては、F2ファンクションキーを押してプロンプト履歴ウィンドウを開く必要がある場合があります。F2をもう一度押して、プロンプト履歴ウィンドウを閉じます。

4.19.1 距離の計測

2点間の距離を計測します：

1 DISTコマンドを起動します。

プロンプト表示：距離を計測する始点:

2 最初の点を特定します。

プロンプト表示：2点目を入力、または [連続ポイント (M)]:

3 適切な図形スナップを使用して、2点目の点にカーソルを合わせます。

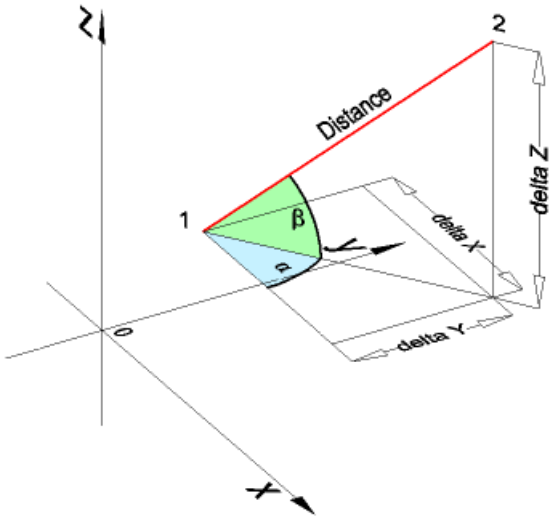
ダイナミック入力(DYN)がオンの場合、距離がダイナミック入力フィールドに表示されます。

4 クリックして2点目を確定します。

BricsCADでは、結果をコマンドラインに表示します。

距離、XY平面の角度(α)、XY平面からの角度(β)

Delta X、Delta Y、Delta Z



値は図面単位であり、現在の座標系を基準にしています。

複数の点の間の距離を測定します：

1 DISTコマンドを起動します。

プロンプト表示：距離を計測する始点:

2 最初の点を特定します。

プロンプト表示：2点目を入力、または [連続ポイント (M)]:

3 連続ポイントオプションを選択します。

プロンプト表示：次の点を入力、または [円弧 (A)/長さ (L)/元に戻す (U)/合計 (T)]<合計 (T)>:

4 2つ目の点を特定します。

BricsCADでは、2点間の距離を表示します。

プロンプト表示：次の点を入力、または [円弧 (A)/長さ (L)/元に戻す (U)/合計 (T)]<合計 (T)>:

5 次の点を特定します。

BricsCADでは、点の間の合計距離が表示されます。

プロンプト表示：次の点を入力、または [円弧 (A)/長さ (L)/元に戻す (U)/合計 (T)]<合計 (T)>:

6 点を追加し続け、終了するには Enterを押すか、右クリックします。

4.19.2 長さの計測

単一の線形図形の長さを計測する場合、図形をクリックすると、**プロパティ**パネルの**長さ**フィールドに計測値が表示されます。

一連の線形図形の長さを組み合わせます：

1 AREAコマンドを起動します。

プロンプト表示：

最初の点を選択 [図形 (E)/追加 (A)/差 (S)]:

2 **追加**オプションを選択します。

プロンプト表示：カレントの領域に追加する最初のポイントを作画、または [図形 (E)/差 (S)]:

3 **図形**オプションを選択します。

プロンプト表示：領域に追加する図形を選択:

4 最初の線形図形を選択します。

BricsCADのコマンドラインに結果が表示されます。

面積＝xx、長さ＝xx

全体の長さ＝xx

総面積＝xx

プロンプト表示：領域に追加する図形を選択:

5 2つ目の線形図形を選択します。

BricsCADのコマンドラインに結果が表示されます。

面積＝xx、長さ＝xx

全体の長さ＝xx

総面積＝xx

プロンプト表示：領域に追加する図形を選択:

6 線形図形を選択し続け、停止するには Enterを押すか、右クリックします。

注：線、ポリライン、円弧、楕円、楕円弧、スプラインの長さを組み合わせることができます。

4.19.3 領域の計測

単一の閉じた図形の面積と長さを計測する場合、図形をクリックすると、**プロパティ**パネルの**面積**フィールドと**長さ**フィールドに計測値が表示されます。

図面内の点を指定して面積と周囲長を計測します：

1 AREAコマンドを起動します。

プロンプト表示：

最初の点を選択 [図形 (E)/追加 (A)/差 (S)]:

2 1点目をクリックします。

プロンプト表示：<次の点>:

3 2点目をクリックします。

プロンプト表示：<次の点>:

アウトラインはダイナミックに表示されます。

4 そのまま点を追加し、終了するには Enterを押すか、右クリックします。

BricsCADのコマンドラインに結果が表示されます。

面積＝xx、周長＝xx

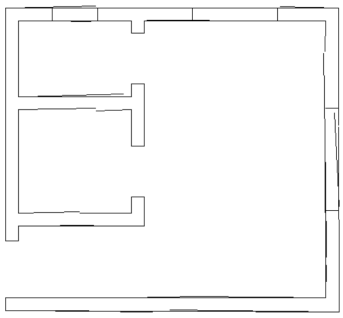
4.20 最適化、重複削除、簡略化のワークフロー

4.20.1 コンテキスト

ある3Dソフトからデータを書き出して、何度も2Dに読み込むという操作を行うと、図形に角度がついたり、重なったり、隙間ができたりすることがあります。

4.20.2 例

ここでは3Dから書き出され、2D図面で読み込まれたシンプルなルームプランをご紹介します。書き出し/読み込みに関連するソフトウェアプログラムの互換性がないため、線が斜めになったり、切れたり、重なったりすることがあります。



OPTIMIZE、OVERKILL、SIMPLIFYといったコマンドを含むワークフローを使って、計画を改善することができます。

4.20.3 ラインの最適化

OPTIMIZEを使って、線を真っ直ぐにします。

入力された図面の複雑さや読み込み作業の質によっては、このコマンドを何度も使用する必要があるかもしれません。

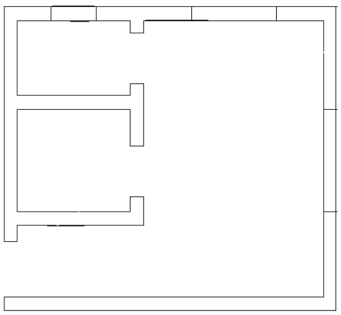
この場合、角張った線や重なった線が多く、その間にはいくらかの隙間があります。

OPTIMIZEの初回実行時のパラメータは以下の通りです：

- 選択肢：画像に表示されているすべてのライン
- 隙間を埋める：チェックなし
- 基準となる角度：水平、垂直
- 角度公差：6度
- 距離公差：50 mm

詳しくは、OPTIMIZEをご参照ください。

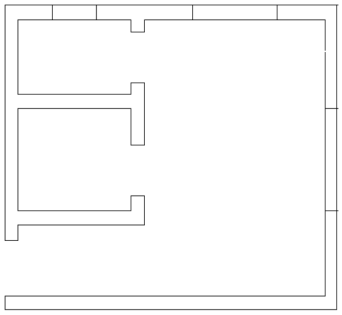
下の画像のように、元の図面よりも良い結果が得られました。



ジオメトリの品質をさらに向上させるために、このコマンドを再度実行することができます。

OPTIMIZEコマンドの2回目の実行で表示されるパラメータは以下の通りです：

- 選択肢：画像に表示されているすべてのライン
- 隙間を埋める：チェック済み
- 基準となる角度：水平、垂直
- 角度公差：1度
- 距離公差：50 mm



図面がかなり改善され、隙間も解消されました。

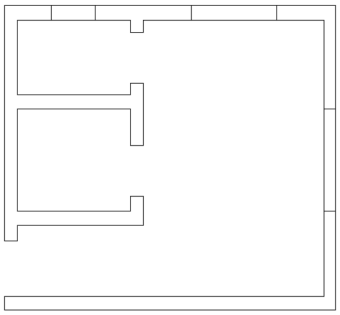
次のステップは、図面をさらにきれいにすることです。

4.20.4 重複の削除と連続した図形の結合

OVERKILLコマンドでは、以下のことが可能です：

- 重複している図形を削除します。
- 斜めになっている図形を真っ直ぐにします
- 部分的に重なっている、または連続している図形を結合します。

OVERKILLコマンドを公差1mmで実行すれば、上記のすべてのタスクを達成できます。

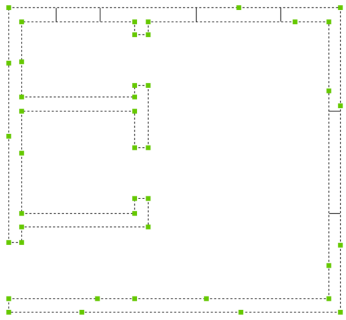


この段階で、図面がきれいになっています。角張った線や重複した線、重なった線はもうありません。また、隙間も少なくなりました。

4.20.5 図面の簡略化

壁を表す線を1本のポリラインに結合した後、このポリラインは頂点数が多くなりすぎてしまいます。下の画像をご参照ください。

不要な頂点を削除するには、SIMPLIFYコマンドを使用します。



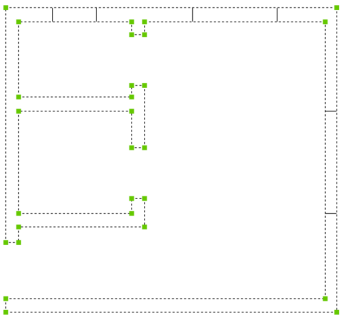
このコマンドを適用するための手順は以下の通りです：

- コマンドを開始します。
- **簡略化** の方法を選択します。
- **最大角度と距離**オプションを選択します。

コマンドのパラメータは以下の通りです：

- 直線化する同一線上にない頂点間の最大距離：**1**
- 直線化したい2つの連続するセグメント間の方向の最大変化(角度)：**1**
- ポリラインの円弧セグメントを直線化しますか？：**いいえ**

示されているように、不要な頂点はすべて削除されています。

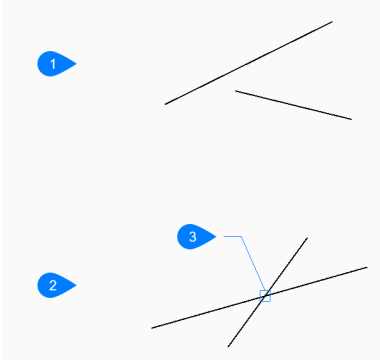


注 : この記事で指定されているパラメータは、この例に厳密に関連しています。このワークフローの結果を大きく左右する要素があります。主に、図面の複雑さと凹凸の数と大きさです。満足のいく結果を得るためには、各ステップのパラメータに様々な値を設定して、さらに実験する必要があるかもしれません。

4.21 図形スナップの概要

4.21.1 仮想交点図形スナップ

仮想交点図形スナップでは、3D空間でのみ交差しているように見える図形でも、カーソルを交点にスナップすることができます。



1 ある1つの3D視点では、線は交差しません。

2 別の3D視点では、線が交差して見えます。

3 仮想交点。

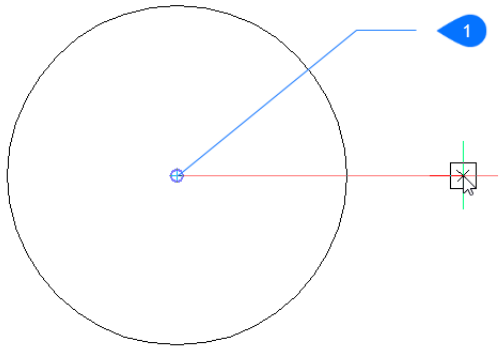
4.21.2 中心図形スナップ

中心図形スナップでは、円形や楕円形の図形中心点にカーソルをスナップすることができます。

対象：

- 円
- 円弧
- ポリラインの円弧
- 楕円
- 楕円形の円弧
- 円形の3D面

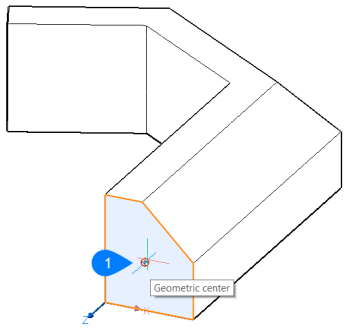
- 楕円形の3D面



1　円の中心。

4.21.3　面の3D中心図形スナップ

面の3D中心図形スナップでは、カーソルを3D面の幾何的中心にスナップすることができます。



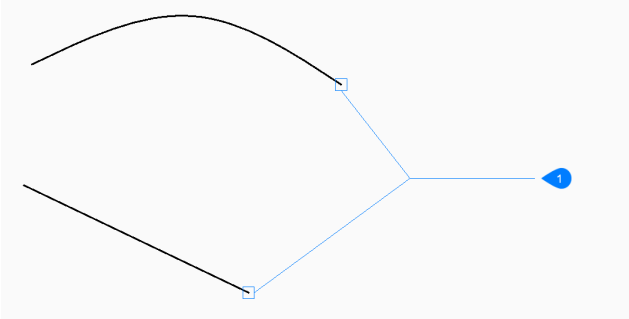
1　面の3D中心図形スナップ

4.21.4　端点図形スナップ

端点図形スナップでは、カーソルを図形の端点にスナップすることができます。

対象：

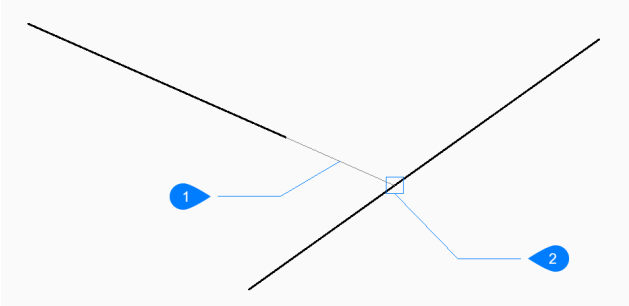
- 線分
- 円弧
- ポリラインセグメント
- スプラインを開く
- 3Dエッジ



1　端点図形スナップ。

4.21.5　延長交点図形スナップ

延長交点図形スナップでは、1つまたは2つの延長交点図形の交点にカーソルをスナップすることができます。



1　拡張子

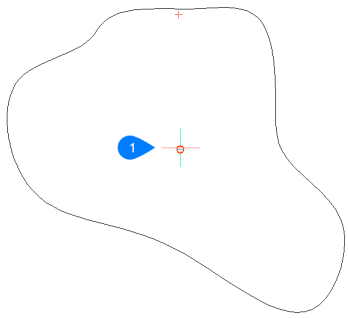
2　延長交点図形スナップ。

4.21.6　図心図形スナップ

図心図形スナップでは、閉鎖した図形の図心にカーソルをスナップすることができます。

対象：

- ポリライン
- スプライン
- リージョン
- 平面的な3D面



1　図心図形スナップ。

4.21.7 挿入図形スナップ

挿入図形スナップでは、カーソルを図形の挿入点にスナップすることができます。

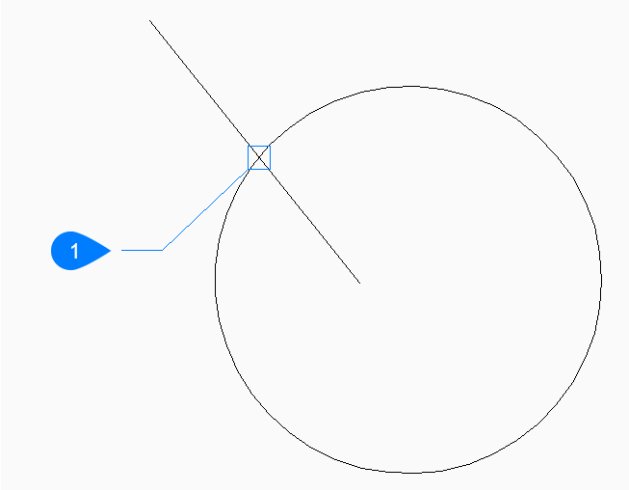
対象：

- 文字
- マルチテキスト
- 表(テーブル)
- 属性テキスト
- ブロック参照
- 外部参照設定
- PDF参照
- ラスターイメージ

1 挿入図形スナップ。

4.21.8 交点図形スナップ

交点図形スナップでは、物理的に交差している図形の交点にカーソルをスナップすることができます。



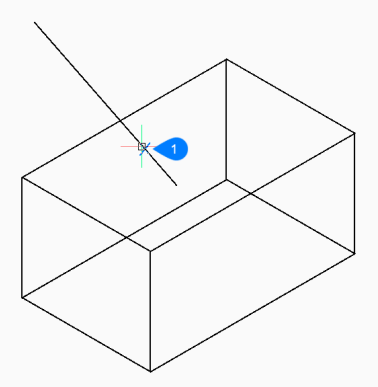
1 交点図形スナップ。

4.21.9 3D面の交点図形スナップ

3D面の交点図形スナップでは、線形図形の面の交点にカーソルをスナップすることができます。

対象：

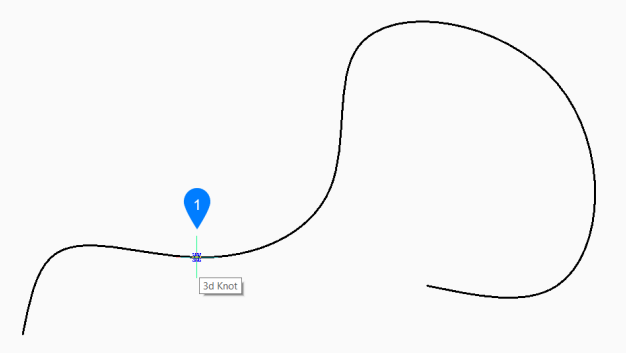
- 線分
- ポリラインセグメント
- 3Dエッジ
- 極トラッキング線
- 図形スナップトラッキング線



1　3D面の交点図形スナップ。

4.21.10　3Dノット図形スナップ

3Dノット図形スナップでは、スプライン上のノットにカーソルをスナップすることができます。



1　3Dノット図形スナップ。

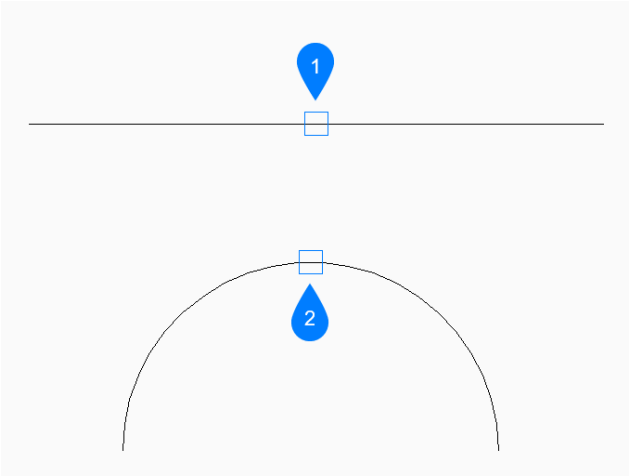
4.21.11　中点図形スナップ

中点図形スナップでは、カーソルを図形の中点にスナップすることができます。

対象：

- 線分
- ポリラインセグメント
- 円弧
- 楕円弧
- スプライン

- 3Dエッジ

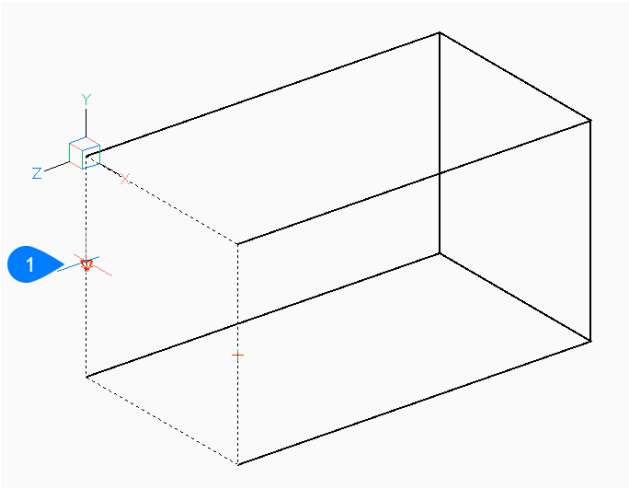


1　(線分の)中点。

2　(円弧の)中点。

4.21.12　3D中点図形スナップ

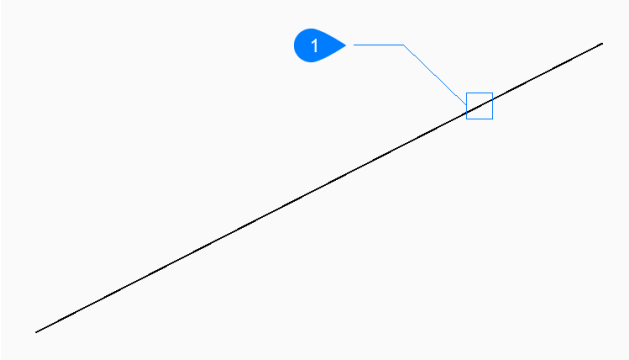
3D中点図形スナップでは、3Dエッジの中点にカーソルをスナップすることができます。



1　3D中点図形スナップ。

4.21.13　近接点図形スナップ

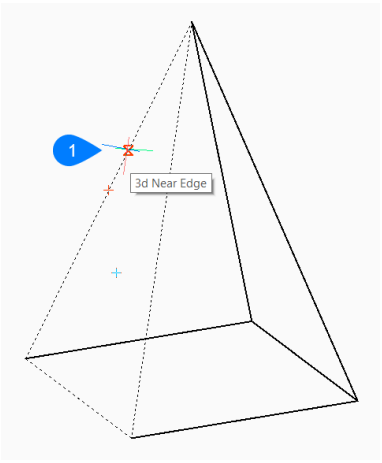
近接点図形スナップでは、カーソルに最も近い2Dまたは3Dジオメトリにカーソルをスナップすることができます。



1　近接点図形スナップ。

4.21.14　近接点3D図形スナップ

近接点3D図形スナップでは、カーソルに最も近い3D図形上のポイントにカーソルをスナップすることができます。



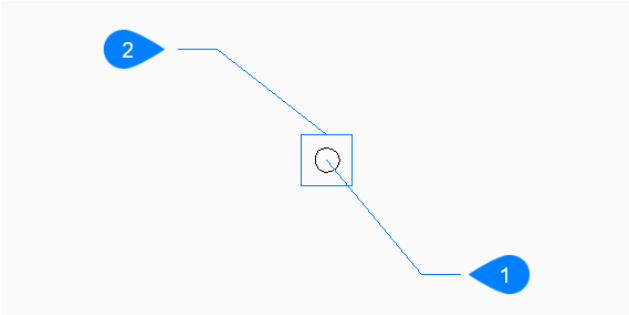
1　近接点3D図形スナップ。

4.21.15　点図形スナップ

点図形スナップでは、カーソルを図形の中点にスナップすることができます。

対象：

- マルチテキスト

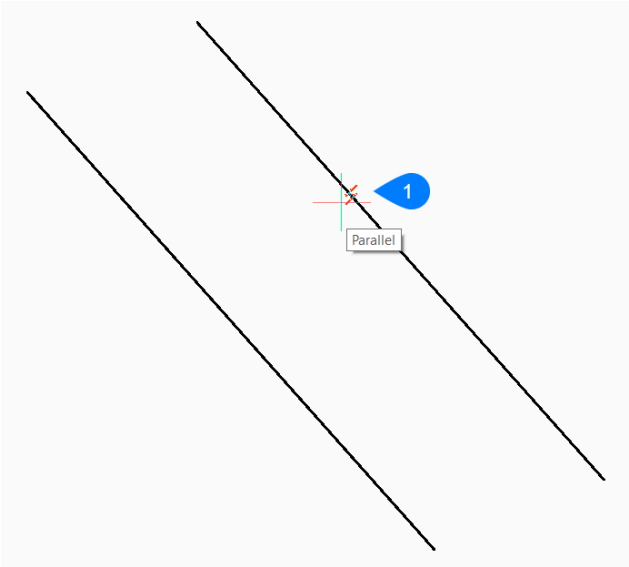


1　点。

2　点図形スナップ。

4.21.16　平行図形スナップ

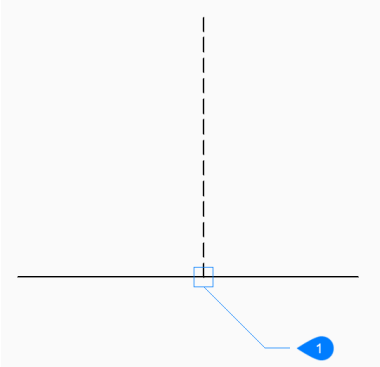
平行図形スナップでは、カーソルを既存の図形に平行な点にスナップすることができます。



1　平行図形スナップ。

4.21.17　垂線図形スナップ

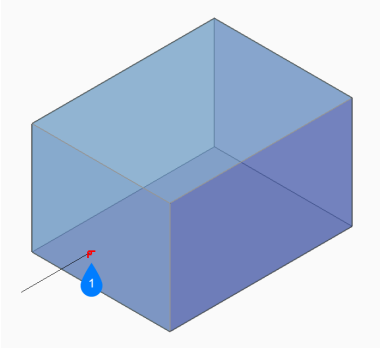
垂線図形スナップでは、カーソルを既存の図形に垂直な点にスナップすることができます。



1　(図形に対して)垂直。

4.21.18　面の3D垂直図形スナップ

面の3D垂直図形スナップでは、カーソルを3D面に垂直な点にスナップすることができます。



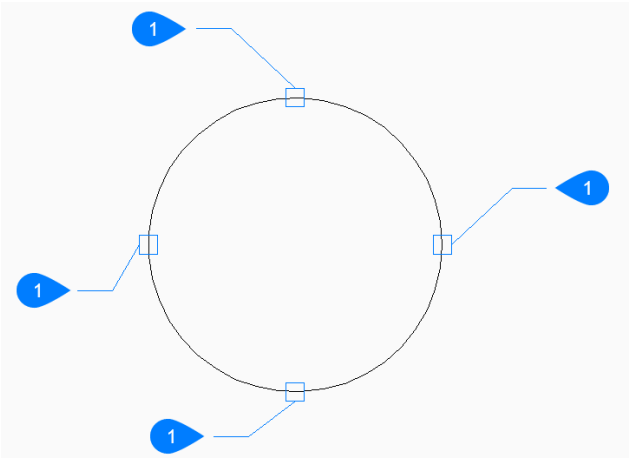
1　面の3D垂直図形スナップ。

4.21.19　四半円点図形スナップ

四半円点図形スナップでは、円形や楕円形の図形の四半円点にカーソルをスナップすることができます。

対象：

- 円
- 円弧
- ポリラインの円弧
- 楕円
- 楕円形の円弧
- 円形の3D面
- 楕円形の3D面



1　四半円点。

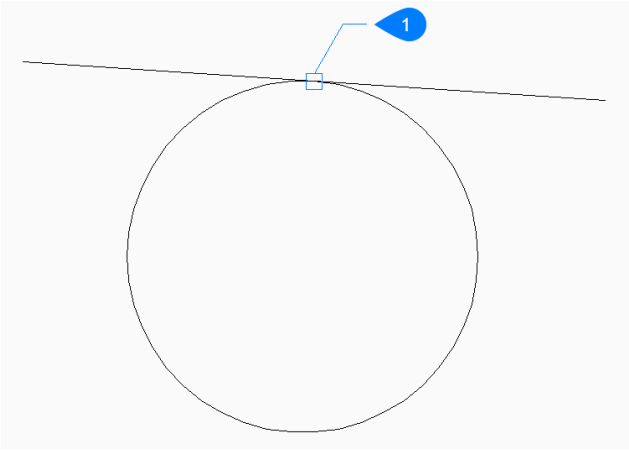
4.21.20　正接図形スナップ

正接図形スナップでは、カーソルを曲線状図形の正接点にスナップすることができます。

対象：

- 円
- 円弧

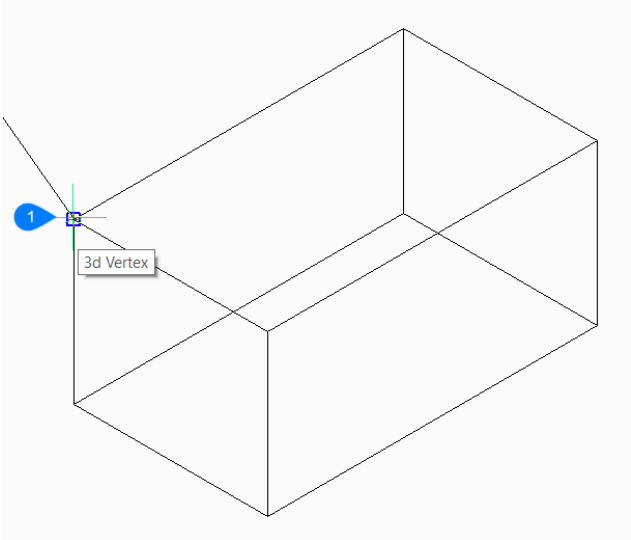
- ポリラインの円弧
- 楕円
- 楕円形の円弧
- スプライン
- 円形の3D面
- 楕円形の3D面



1　正接点。

4.21.21　3D頂点図形スナップ

3D頂点図形スナップでは、3D図形の最も近い頂点にカーソルをスナップすることができます。



1　3D頂点図形スナップ。

5. 図面の表示

5.1 ビューコマンドの概要

BricsCADには、図面の表示や表示方向をコントロールするための様々なツールやコマンドが用意されています。

これらのツールは、**表示**メニュー、ツールバー、またはリボンタブにあります。

アイコン	ツールの名前	コマンド	説明
	再描画	REDRAW	カレントのビューポートにの画面表示を更新します。
	すべて再描画	REDRAWALL	開いているすべてのビューポートの画面表示を更新します。
	再作図	REGEN	カレントのビューポートの画面表示を再計算します。
	すべて再作図	REGENALL	開いているすべてのビューポートの画面表示を再計算します。
	フィールドを更新	UPDATEFIELD	選択したフィールドを更新します。
	リアルタイム画面移動	RTPAN	ビューをダイナミックに移動します。
	画面移動	PAN	ビューを移動します。
	リアルタイムズーム	RTZOOM	ダイナミックに拡大/縮小します。
	拡大	ZOOM + I(*)	表示されている図面の中心から、2倍に拡大します。
	縮小	ZOOM + O(*)	表示されている図面の中心から、半分に縮小します。
	図形範囲	ZOOM + E(*)	(図形範囲と呼ばれる)図面内のすべての図形を表示します。
	窓	ZOOM + W(*)	2点クリックで窓指定した領域を、画面いっぱいに表示します。
	前画面	ZOOM + P(*)	カレントビューポート内の表示を直前の状態にもどします。
	図面全体	ZOOM + A(*)	図面の表示制限または表示設定(のどちらか大きい方)に基づいて画面いっぱいに表示します。

アイコン	ツールの名前	コマンド	説明
	左基準	ZOOM + L(*)	表示させたい場所の左下角をクリックし、拡大倍率、または表示高さを指定します。
	中心点	ZOOM + C(*)	表示させたい場所の中央をクリックし、拡大倍率または表示高さを指定します。
	右基準	ZOOM + R(*)	表示させたい場所の右上角をクリックし、拡大倍率、または表示高さを指定します。
	ルックアラウンド	RTLOOK	3Dモデル内で周りを見回します。
	ルックアップ/ダウン	RTUPDOWN	3Dモデル内で上下左右に移動します。
	移動	RTWALK	3D画面で前後左右に移動します。
	リアルタイム球形回転	RTROT	ビューが3D画面でダイナミックに回転します。 マウスを水平(X軸に平行)に動かすと、ビューがワールドZ軸の周りを回転します。 マウスを垂直(画面Y軸)に平行に動かすと、画面がX軸の周りを回転します。
	リアムタイム球回転	RTROTCTR	ビューが3D画面内でユーザー定義の中心点の周りをダイナミックに回転します。RTROTのように動作します。
	リアムタイムフリー回転	RTROTF	ビューが3D画面でダイナミックに回転します。 マウスを水平(画面X軸に平行)に動かすと、ビューが画面Y軸の周りを回転します。 マウスを垂直(画面Y軸に平行)に動かすと、ビューが画面X軸の周りを回転します。
	X軸回転	RTROTX	ビューが画面のX軸を中心にダイナミックに回転します。
	Y軸回転	RTROTY	ビューが画面のY軸を中心にダイナミックに回転します。
	Z軸回転	RTROTZ	ビューが画面のZ軸を中心にダイナミックに回転します。
	ビューポイント設定	DDVPOINT	**カレントのビューポイント**ダイアログを表示します。
	プランビュー	PLAN	WCS、現在のUCS、または保存されたUCSに関するプランビューを復元します。

アイコン	ツールの名前	コマンド	説明
	ビュー定義	DVIEW	平行で視覚的な斜視図を定義します。
	ビューの保存/呼出	VIEW	命名されたビューを保存および復元します。
	ビューポート	VPORTS	モデル空間でのビューポートを管理します。
	ペーパー空間のビュー	MVIEW	ペーパー空間にビューポートを作成します。

(*) <コマンド> <オプション>: **zoom**と入力してEnterを押し、続けてコマンドオプションの英文字を入力してEnterを押します。

5.2 画層管理

画層管理コマンドは、図形を選択することで画層プロパティを簡単に、表示の**オン/オフ**、**フリーズ/フリーズ解除**、**ロック/ロック解除**を操作できます。

画層ユーティリティーのコマンドは **画層** ツールバーと**ホーム / 画層**リボンパネルにあり、**2D作図**と**モデリング**ワークスペースにあります。

コマンド	アイコン	説明
LAYON		すべての画層をオンにします。
LAYOFF		選択した図形に関連付けられた画層をオフにします。
LAYFRZ		選択した図形に関連付けられた画層をフリーズします。
LAYTHW		すべてのフリーズ画層を解除します。
LAYLCK		選択した図形に関連付けられた画層をロックします。
LAYULK		選択した図形に関連付けられた画層をロック解除します。
LAYISO		選択した図形に関連付けられた画層を選択表示します。現在の画層にて図形が選択されていない場合、LAYUNISOコマンドが実行されるまでの間、最初に選択された図形の画層が現在画層となります。
LAYUNISO		LAYISOコマンドで選択表示した画層を元に戻します。

5.3 図形の選択表示/非表示

コマンド	アイコン	説明
HIDEOBJECTS		選択した図形を非表示にします。
ISOLATEOBJECTS		選択した図形のみを表示します。
UNISOLATEOBJECTS		非表示状態の図形すべてを表示に戻します。

これらのコマンドを起動するためのツールは、次のとおりです。

- ツールバーの**選択表示**と**3Dアクセス**に表示されます。
- クワッドの**選択** タブ。
- **2D作図**と**モデリング**ワークスペースの**ホーム - 画層管理**のリボンパネル。

また、**構造**パネルの右クリックコンテキストメニューでも、図形の表示、非表示、選択表示が可能です。

注 : OBJECTISOLATIONMODEシステム変数は、図形を選択表示/非表示の状態のまま保存するかどうかを制御します。

5.4 再描画と再作図

パフォーマンスを最適にするために、図面のデータベースを簡易型にして表示しています。画面表示と図面のデータベースは、時々同期が必要です。

以下のコマンドがあります。

- REGENコマンド("regenerate"の略)は、カレントビューポートを再生成します。
- REGENALLコマンド("regenerate all"の略)は、すべてのビューポートを再生成します。
- REGENAUTOコマンドは、BricsCADが図面を自動的に再描画する時にコントロールします。
- REDRAWコマンドは、カレントのビューポートを再描画します。
- REDRAWALLコマンドは、すべてのビューポートを再描画します。
- REGENMODEシステム変数は、BricsCADが自動的に図面を再描画するかどうかをコントロールします。REGENAUTOコマンドでREGENMODEのステータスを変更できます。REGENMODEがオンの場合、BricsCADは自動的に表示を再描画しますが、一部のケースでは強制しなければならない場合があります。

  REGENコマンドとREDRAWコマンドは違うコマンドです。Redraw(再描画)コマンドは、画面表示を画面のデータベースと同期させずに図面を描き直します。

5.5 画面移動

PANコマンドとRTPANコマンドは、図面を水平、垂直、斜めのどの方向にも移動させます。画面移動を行っても、空間内の図面倍率や配置はそのままです。画面の表示部分が移動するだけです。

5.5.1 PANコマンドの使用

1 PANまたはRTPANコマンドを実行します。

1 カーソルの形が手の形に変わります。

2 マウスの左ボタンを押しながら、マウスを動かします。

3 (オプション) 右クリックでコンテンツメニューを表示します。

4 オプションは以下の通りです：

- **終了**：コマンドを終了します。
- **画面移動**：RTPANコマンドに切り替わります。
- **ズーム**：RTZOOMコマンドに切り替わります。
- **球形回転**：RTROTコマンドに切り替わります。
- **球**：RTROTFコマンドに切り替わります。

5 Escを押してコマンドを終了します。

5.6 ズーム

ZOOMコマンド：カレントビューポートの図面サイズを視覚的に変更します。

RT**ZOOM**コマンドは、図面をリアルタイムにズームします。

描いた絵の倍率は、ズームすることでいつでも変更することができます。aN RTZOOMツールがアクティブなときは、カーソルが虫眼鏡に変わります。縮小すると図面の全体を見ることができ、拡大すると図面の一部を詳細に見ることができます。図面の倍率を変更しても、図面の表示方法にのみ影響し、図面内の実体の寸法には影響しません。

5.6.1 リアルタイムで拡大縮小

1 RTZOOMコマンドを起動します。

1 カーソルの形が虫眼鏡に変わります。

2 マウスの左ボタンを押しながら、マウスを動かします。

3 (オプション) 右クリックでコンテンツメニューを表示します。

4 オプションは以下の通りです：

- **終了**：コマンドを終了します。
- **画面移動**：RTPANコマンドに切り替わります。
- **ズーム**：RTZOOMコマンドに切り替わります。
- **球形回転**：RTROTコマンドに切り替わります。
- **球**：RTROTFコマンドに切り替わります。

5 Escキーを押してコマンドを終了します。

5.6.2 ズームで拡大する

以下のいずれかの操作を行います：

- マウスの中ボタン(スクロールホイール)をダブルクリックします。
- ZOOMコマンドを起動し、「E」と入力してEnterを押します。

5.6.3 ダイナミックズーム

現在のビューポートを表す長方形のビューボックスを使って画面移動やズームを行います。このコマンドは、まず図面全体を表示するためにズームアウトします。そして、ビューボックスのサイズを動的に制御し、現在のビューポートで表示したい図面の部分にビューボックスを配置することができます。

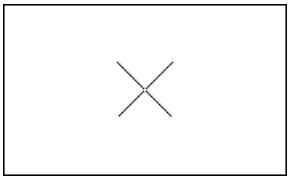
1 ZOOMコマンドを起動します。

2 **ダイナミック**オプションを選択します。

図面はどこまでも拡大していく。

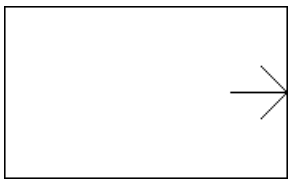
鎖線の長方形は、前の表示領域を示します。

破線の長方形と同じ大きさのビューボックスがカーソルに取り付けられます。



3 (オプション) 表示ボックスのサイズ変更:

- クリックした後、カーソルを動かしてサイズを変更します。



- 再度クリックすると、サイズ変更が停止します。

4 ビューボックスを拡大したい描画領域の上に置いて、右クリックします。

5 選択された領域に図面がズームインされます。

5.7 マウスやキーボードを使用したビュー操作

BricsCADでは、マウスやキーボードショートカットを使用して3Dモデルを操作できます。

パースモードで3Dモデル内に入れます。アイソメモードでは非常に近くまでズームできますが、内部には入れません。

マウスまたはキーボード	操作	結果
マウスホイール	スクロール	拡大/縮小 マウスの動きによる拡大/縮小量は**ズームファクター**変数(ZOOMFACTOR)でコントロールされます。初期設定値= 60、対応可能値：3～100 拡大時は段階的に倍率変化が小さくなり、細部が見やすくなります。 3Dモデルの場合、カーソルを合わせた図形にはズームフォーカスがあります。 ZOOMWHEELシステム変数でズームの方向をコントロールします。 0またはオフ：前方スクロールで拡大、後方スクロールで縮小 1またはオン：前方スクロールで縮小、後方スクロールで拡大
中央ボタンまたはホイール *	押しながらカーソルを動かします。	リアルタイム画面移動(RTPANコマンド)
中央ボタンまたはホイール *	ダブルクリック	図形範囲ズーム
Ctrl + Shift + マウスの左ボタン	押しながらカーソルを動かします。	リアルタイムズームイン/アウト(RTZOOMコマンド)
Ctrl + Shift + 右マウスボタン	押しながらカーソルを動かします。	リアルタイム画面移動(RTPANコマンド)自由に画面移動するには、Shiftを放します。
Ctrl + Shift + 中央ボタンまたはホイール	押しながらカーソルを動かします。	リアルタイム球回転(RTROTFコマンド)
Shift + 中央ボタンまたはホイール	押しながらカーソルを動かします。	リアルタイム拘束回転(RTROTコマンド)
Ctrl + 右ボタン	押しながらカーソルを動かします。	リアルタイムにスクリーンZ軸に対して回転(RTROTZコマンド)
ウォークスルーナビゲーション		
Alt + 左ボタン	押しながらカーソルを動かします。	前後左右に移動(RTWALKコマンド)
Alt + 中央ボタン	押しながらカーソルを動かします。	上下左右に移動(RTUPDOWNコマンド)

マウスまたはキーボード	操作	結果
Ctrl + 中央ボタン	押しながらカーソルを動かします。	見回す(RTLOOKコマンド)
Ctrl + 矢印キー	Ctrlを押しながら矢印キーを押します。	前後左右に移動(RTWALKコマンド)
Ctrl + Shift + 矢印キー	Alt + Ctrlを押しながら矢印キーを押します。	上下左右に移動(RTUPDOWNコマンド)
ホーム		表示方向を水平に設定します。（VIEWHORIZONTALコマンド）
Alt + Home		画面の中心にターゲットポイントを移動します。
Alt + プラス/マイナス		移動速度の増加/減少
Ctrl + プラス/マイナス		回転速度の増加/減少

* MBUTTONPANシステム変数が**オン**に設定されていることを条件とします。

5.8 ビュー回転

ビューの回転操作には以下のコマンドがあります。

- **RTROT** (リアルタイムモーション- 球形回転)コマンドはリアルタイムに3D図面を回転させます。
- **RTROTCTR**(リアルタイムモーション - 中心点回転)コマンドはユーザー定義された中心点の周りで3D図面を自由に回転させます。
- **RTROTF**(リアルタイムモーション - 3D回転)コマンドはリアルタイムに3D図面を自由に回転させます。
- **RTROTX**、**RTROTY**、**RTROTZ**コマンドは x, y または z スクリーンの軸の周りをリアルタイムに3D回転させます。
- **DDVPOINT**コマンドはダイアログボックス(dynamic dialog view pointの略)で3Dビューポートまたは平面図を設定します。
- **PLAN** コマンドを実行すると、平面図 (上面) ビューが復元されます。
- **VPOINT**コマンドは3Dビューポートに変更します。

注 :

- **CONTINUOUSMOTION**システム変数が設定されている場合、Escを押してコマンドを終了するまで、ビューの回転は継続されます。
- ビューの回転コマンドは、2Dでの作業時には使用しないでください。PLANコマンドまたはLookFromコントロールでトップビューに戻します。

5.8.1 ビューを自由に回転させる

1 RTROT、RTROTF、RTROTX、RTROTY、RTROTZのいずれかのコマンドを起動します。

1 選択したコマンドに応じて、カーソルの形状が変わります。

2 マウスの左ボタンを押しながら、マウスを動かします。

3 (オプション) 右クリックでコンテンツメニューを表示します。

4 オプションは以下の通りです：

- **終了**：コマンドを終了します。
- **画面移動**：RTPANコマンドに切り替わります。
- **ズーム**：RTZOOMコマンドに切り替わります。
- **球形回転**：RTROTコマンドに切り替わります。
- **球**：RTROTFコマンドに切り替わります。

5 Escを押してコマンドを終了します。

5.8.2 プリセット視点の使用

注：コマンドを実行する前に、パースモードをオフにします。

1 DDVPOINTコマンドを起動します。

1 **視点をセット**ダイアログボックスが表示されます。

2 **角度の精度**を選択ボタンをクリックし、**ビューポイントをセット**ダイアログから表示モードを選択します。

といった選択肢があります。**45°**、**15°**、**5°**のいずれかになります。

水平選択ペインと**垂直**選択ペインは、それに応じて分割されます。

3 **水平**および**垂直**選択ペインで角度をクリックします。

ビューの向きが更新されます。

4 (オプション)**プラン**ボタンをクリックすると、プラン(トップ)ビューに戻ります。

5 (オプション） **前**ボタンを繰り返しクリックすることで、以前の視点に戻すことができます。

6 コマンドの締めくくりに

- **OK** ボタンをクリックして、現在のビューを保持します。
- **キャンセル**ボタンをクリックして、元のビューを復元します。

5.9 Look Fromコントロール

Look Fromコントロールで、正射投影ビューやアイソメトリックビューなど、幾つかのプリセットビューを選択できます。デフォルトでは、**Look From** コントロールは画面の右上に表示されます。

NAVVCUBEDISPLAYシステム変数は、LookFrom コントロールの表示を設定します。

5.9.1 コンテキストメニューのオプション

LookFromコントロールを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。オプションは以下の通りです：

- **UCS**：現在の座標系を設定します。
  - **ワールド座標**：WCS(世界座標系)に復元します。

  - **新規**：UCSコマンドを実行します。
  - **UCSマネージャー...**：EXPUCSコマンドを実行し、**図面エクスプローラ/座標設定**のダイアログボックスを表示します。
- **表示**：
  - **新規**：-VIEWコマンドを実行します。
  - **ビューマネージャー...**：VIEWコマンドを実行し、**図面エクスプローラ/ビュー設定**のダイアログボックスを表示します。
- **表示スタイル**：表示スタイルを設定できます。
- **アイソメモード**：アイソメモードを設定します。
- **回転モード**:ツイストモードを設定します。
- **WCS**：LookFromは、WCSを参照座標系として使用します。
- **UCS**：LookFromでは、現在の座標系(WCSまたはUCS)を参照座標系として使用します。
- **パース**：パースビューモードを設定します。
- **位置**：LookFromコントロールの位置を設定します。
- **解除**：LookFromコントロールを閉じます。

  NAVVCUBEDISPLAYシステム変数を編集してLookFromコントロールを復元します。

5.9.2 LookFromコントロール設定

LookFromコントロールの動作は、システム変数やユーザ設定によって変わります。

LookFromの設定にアクセスするには

1 LookFromコントロールを右クリックして、コンテキストメニューから**LookFromの設定...**を選択します。

2 LOOKFROMコマンドを実行し、**設定**オプションを選択します。

5.9.3 LookFromモードの設定

LookFromコントロールは、2つのモードのいずれかで動作します。

- 3Dモデルでの作業に適したアイソメモード
- ツイストモードで2D作図。

LookFromモードの設定：

1 LookFromコントロールを右クリックします。

2 コンテキストメニューから**アイソメモード**または**回転モード**を選択します。

5.9.4 アイソメモードでLook Fromコントロールを使用します。

1 カーソルを**LookFrom**コントロールに移動します。

  LookFromコントロールがアクティブになります。

2 ビューの向きにカーソルを合わせてみてください。

3 LookFromコントロールの中央にある椅子は、ビューの方向に応じて回転します。

4 (オプション)Ctrlを押しながらボトムアップで見る。

5 左クリックで決定します。

6 ビューが回転します。

5.9.5 ツイストモードでLook Fromコントロールを使用します。

回転モードでは、**LookFrom** コントロールを使い画面上のZ軸周りにビューを回転させることができます。

1 カーソルを**LookFrom**コントロールに移動します。

LookFromコントロールがアクティブになります。

2 カーソルを**LookFrom**コントロールの端に移動し、左半分が反時計回り、右半分が時計回りの回転になります。15°、30°、45°、60°、90°、120°、135°、180°の角度があります。

3 クリックすると画面が回転します。

4 (オプション)マウスを動かさずにもう一度クリックすると、同じ角度で再度回転します。

5 (オプション)**LookFrom**コントロールの中央にカーソルを移動し、クリックすると回転していない表示に戻ります。

5.9.6 移行オプションを表示

以下のシステム変数は、ビュートランジションの動作を制御します。

- VTENABLE：ズーム/画面移動や表示回転の操作のときに、アニメーション表示の切り替えを有効にするかどうか指定します。
- VTDURATION：アニメーション表示の遷移時間をミリ秒単位で指定します。
- VTFPS：アニメーション表示に必要とされる最小フレームレートを指定します。デフォルト値は7です。これは、再描画時間が143(=1000/7)ミリ秒未満であることを意味します。コンピュータが所定の処理速度でビューを再描画できない場合、アニメーションは表示されません。

5.10 画層状態

「画層状態」では、画層のプロパティの設定を保存・復元することができます。図面の特定の部分を編集するときに、画層を青で表示したり、緑で表示したり、画層を非表示にしたり、フリーズしたり、ロックしたりする必要がある場合があります。すべての画層設定の調整に多くの時間を費やした後、画層状態を使用して設定を保存できます。1つの図面に複数の画層状態を保存することができます。画層状態は図面間でコピーでき、画層状態を外部ファイルに保存して、別の図面に読み込むことができます。

画層状態コマンドを使用すると、画層状態を簡単に作成できます。

LAYERSTATEコマンドを実行すると、**図面エクスプローラ - 画層状態**ダイアログボックスが開きます。

5.10.1 現在の画層状態を保存する

1 **図面エクスプローラ - 画層状態**ダイアログボックスの**新規**ボタンをクリックします。

新しい画層状態が作成されます。

2 デフォルト名の**新規画層状態1**に画層状態名を入力して新しい名前に置き換えます。

3 (オプション)**詳細表示**で、**説明**欄に説明文を入力します。

4 **画層状態の呼出**を展開します。

画層のプロパティを選択するにはチェックボックスをクリックし、プロパティを削除するには再度クリックします。

5 **復元オプション**を選択します。

6 ペーパー空間では、**ビューポートのオーバーライドとしてプロパティを適用します**オプションにチェックを入れます。

注：新しい画層の状態では、すべての画層のプロパティがデフォルトで復元されるように選択されています。

5.10.2 画層状態を編集

1 (オプション)**上書き**ボタンをクリックして、現在の画層設定で画層状態を上書きします。

2 (オプション)画層状態の名前を変更します。

3 (オプション)画層状態の説明を編集します。

4 (オプション)**画層状態の呼出**を編集します。

画層のプロパティを選択するにはチェックボックスをクリックし、プロパティを削除するには再度クリックします。

5.10.3 画層状態を復元

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **図面エクスプローラ - 画層状態**ダイアログボックスの**復元**ボタンをクリックします。
- 右クリックして、コンテキストメニューから**復元**を選択します。

2 **変更毎の再作図**ボタンを押していない場合、**再作図**ボタンをクリックします。

注：

- 画層状態の復元オプションは、選択した画層状態が作成された後に追加された画層に適用されます。オプションは以下の通りです：
  - 非表示にする
  - フリーズ
  - そのまま残す
- 画層状態は、リボンパネルやツールバーに追加できる**画層状態**コントロールを使って復元できます。

5.10.4 開いている図面間で画層の状態をコピーする

1 コピー元の図面とコピー先の図面を開きます。

2 **図面エクスプローラ - 画層状態**ダイアログボックスの**開いている図面**リストで、コピー元の図面を選択します。

3 コピーしたい画層状態を選択します。

4 複数の画層状態を選択する場合、Ctrlを押したまま必要な画層状態を選択していきます。

5 マウスの左ボタンを押したまま、**図面エクスプローラ - 画層状態**ダイアログボックスの**開いている図面**リストにある対象の図面に、選択範囲をドラッグ＆ドロップします。

選択した画層状態がコピー先図面にコピーされます。

5.10.5 画層の状態をエクスポートする

1 **図面エクスプローラ - 画層状態**ダイアログボックスで画層状態を選択します。

2 **書き出し**ボタンをクリックします。

画層状態を書き出しダイアログボックスが表示されます。

3 **ファイル名**フィールドに画層状態の名前を入力します。

4 出力先フォルダーを選択します。

5 **保存**ボタンをクリックします。

5.10.6 画層状態を読み込む

1 **図面エクスプローラ - 画層状態**ダイアログボックスの**読み込み**ボタンをクリックします。

画層状態を読み込みダイアログボックスが表示されます。

2 画層状態が読み込まれます。

3 **開く**ボタンをクリックします。

画層状態が読み込まれます。

5.11 名前付きビュー

現在のウィンドウ表示を名前付きビューとして保存することができます。登録したビューは、いつでも呼び出すことができます。

背景はビューの名前を割り当てることができます。ビューがレンダリングされる時に使用されます。

5.11.1 ビューの詳細

1 VIEWコマンドを起動します。

1 **図面エクスプローラ** - ビュー設定ダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション) **ビュー名**の前にある空白のタイルをクリックすると、ビューが復元されます。

現在のビューが表示されています。

3 (オプション) **図面エクスプローラ**ツールバーの**新規**ボタンをクリックすると、現在のビューが保存されます。(-VIEWコマンドを起動)

4 (オプション)選択したビューを削除する場合は、**図面エクスプローラ** ツールバーの **削除**ボタンをクリックします。

5 (オプション) **ビュー名**をクリックします。をクリックし、右クリックしてコンテキストメニューから**名前を変更**を選択します。

保存したビューの新しい名前を入力します。

6 (オプション) **パース**プロパティをチェックして、ビューをビジュアルパースペクティブビューにします。

チェックされていない場合は、平行法による透視図となります。

7 (オプション) **背景**カラムをクリックして背景を選択します。ビューの背景定義は、レンダリングの間、適用されます。

5.11.2 ビューの保存

1 以下のいずれかの操作を行います：

- -VIEWコマンドを起動します。
- ツールバーの**図面エクスプローラ / ビュー**の**新規**ボタンをクリックします。

2 **保存**オプションを選択します。

-VIEWコマンドのワークフロー

- **プロンプト表示**：保存ビュー名:
- コマンドラインにビューの名前を入力して、Enterを押します。

図面エクスプローラのワークフロー。

- **図面エクスプローラ** - ビュー設定ダイアログボックスが表示されます。
- 新規ビュー1のデフォルト名を置き換える名前を入力します。

注：コマンドラインに既に使用されている名前を入力した場合、現在のビューが保存され、以前に保存されたビューが置き換えられます。保存されたビューを上書きする際に警告は表示されません。

5.11.3 ビューの修復

図面エクスプローラ/ビュー設定ダイアログボックスで、ビューの**現在**項目をクリックします。

5.11.4 ビュー背景の編集

1 **図面エクスプローラ - ビュー**ダイアログボックスでビューを選択します。

2 **背景**プロパティを選択します。

3 設定欄の右端にある**ブラウズ**ボタンをクリックします。

背景ダイアログボックスが表示されます。

4 **タイプ**リストボタンをクリックし、背景の種類を選択します。

オプションは**無し**、**ソリッド(2D塗り潰し)**、**グラデーション**、**イメージ**です。

5 背景の種類を選択します。

6 選択したタイプの設定が**背景**ダイアログボックスに表示されます。

7 背景の設定

8 **背景**ダイアログボックスの**OK**ボタンをクリックします。

9 (オプション) **現在**項目をクリックします。

注：GRADIENTMODEシステム変数は、グラデーション背景のデフォルト：2色または3色を設定します。

5.12 表示

表示スタイルとは、3Dソリッドやサーフェスの表示を制御する設定の集まりです。

VISUALSTYLESコマンドは、**図面エクスプローラ** > **表示スタイル**を開きます。

できること：

- 既存の表示スタイルの編集
- 新しい表示スタイルを作成します。

- 表示スタイル削除
- 開いている図面の間で表示スタイルをコピー＆ペーストできます。

5.12.1 現在の表示スタイルの設定

カレントの表示スタイルは、**プロパティ**パネルの**ビュー** > **表示スタイル**で設定することができます。また、**Look From**ウィジェットを右クリックしてコンテキストメニューから設定することもできます。

リストの中から希望する表示スタイルをクリックします。

デフォルトのオプション：

- **2Dワイヤフレーム**：直線や曲線を用いて図形を表示します。2D図面に使用します。
- **コンセプト**：滑らかなシェーディングとグーチ面スタイル（グラデーションを使用した視覚化手法）で図形を表示します。
- **非表示**：図形をワイヤーフレーム表現で表示し、裏面を表す線は非表示にします。
- **モデリング**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアルとテクスチャ、可視エッジを使用して図形を表示します。
- **リアリスティック**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアルとテクスチャを使用して図形を表示します。エッジは表示されません。
- **シェード**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアルを使用して図形を表示します。
- **エッジ付きシェード**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアル、可視エッジを使用して図形を表示します。
- **グレーシェード**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、単色のシェーディングを使用して図形を表示します。
- **スケッチ**：2Dおよび3D図形は、固定色の面スタイル、寸法補助線、テクスチャ線(bpen)を使用してハンドスケッチ効果を施して表示されます。
- **ワイヤフレーム**：直線と曲線のみを使用して3D図形を表示します。
- **X線**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、部分的に透過性を持たせたマテリアルとテクスチャを使用して図形を表示します。
- **BIM(BIMテンプレートのみ)**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアルやテクスチャ、ファセットエッジ(可視エッジ)を使用して図形を表示します。
- **模型(BIMテンプレートのみ)**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアル、ファセットエッジ(可視エッジ)を使用して図形を表示します。
- **レンダリング(BIMテンプレートのみ)**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアルとテクスチャを使用して図形を背景色で表示します。エッジは表示されません。
- **シースルー(BIMテンプレートのみ)**：滑らかなシェーディング、部分的に透過性を持たせた固定色の面スタイルを使用して図形を表示します。
- **メカニカル(メカニカルテンプレートのみ)**：滑らかなシェーディング、リアルな面スタイル、マテリアルとテクスチャ、ファセットエッジを使用して図形を表示します。

シェード表示スタイルでは、1つの遠方光源が視点に合わせて移動し、面を照らします。このデフォルトの光源は、ユーザーが識別できるように、モデル内のすべての面を照らします。他の光源をすべて消したときのみ、デフォルトの光源が利用できます。

5.13 モデル空間とペーパー空間

作図を始めるときの最初の作業領域を**モデル空間**と言います。モデル空間は、ワールド座標系(WCS)やユーザ座標系(UCS)で二次元モデルや三次元モデルを作成するための作業領域です。**モデル**タブを使用している間はモデル空間で表示と作業を行います

基本的には、モデル空間は画面全体に表示される単一のビューで構成されます。必要に応じて、ビューポートと呼ばれる追加のビューを作成できます。これにより、図面または3Dモデルのさまざまなビューを表示できます。すべてのビューポートはタイルを並べるように表示されます。一度に作業できるのはビューポートの1つだけですが、すべてのビューポートは同時に更新されます。ビューポートをクリックすると、現在のビューポートになります。また現在のビューポートのみを印刷できます。VPORTSコマンドを使用すると、モデル空間でビューポートを管理できます。

BricsCADには、**ペーパー空間**と呼ばれる追加の作業領域が用意されています。ペーパー空間は図面のペーパーレイアウトを表します。この作業領域では、用紙に図面を配置する場合と同様の方法で、図面のさまざまなビューを作成して配置できます。ペーパー空間では、モデル空間で表示しない要旨、注釈、境界、タイトルブロックなど、印刷関連の図形を追加することもできます。

各図面には少なくとも1つの**レイアウト**があり、1つまたは複数の**レイアウトビューポート**を作成することができます。このようなレイアウトビューポートは、モデル空間の図形のビューウィンドウと見なされます。レイアウトビューポートは、ペーパー空間レイアウトの任意の場所に配置できます。ビューポートごとに、尺度と画層の表示/非表示を設定できます。同じレイアウト内のすべてのビューポートを同時に印刷できます。

MVIEWコマンドを使用すると、ペーパー空間でビューポートを管理できます。

図面を印刷するためには必要でなくとも、ペーパー空間は多くの利点があります。

- 複数のレイアウトを作成して、ペン幅、プリンタ設定ファイル、線の太さ設定、図面の尺度など、さまざまな印刷設定で同じ図面を印刷します。
- キーノート、注釈、タイトルブロックなどモデルそのものには必要でない印刷関連の図形を追加します。
- 単一のレイアウトの場合、複数のレイアウトビューポートを作成して、図面の複数のビューをさまざまな縮尺で印刷します。

5.13.1 モデル空間とペーパー空間の切り替え

- モデル空間とペーパー空間のレイアウトを切り替えるには、グラフィックスウィンドウの下部にある**モデル**タブと**レイアウト**タブを使用します。
- レイアウトで作業しているとき、ペーパー空間のビューポートからモデル空間にアクセスすることができます。
  - ビューポート内をダブルクリックすると、モデル空間にアクセスできます。ビューポートの外側でダブルクリックすると、ペーパー空間に戻ります。
  - **ステータス**バーの**ペーパー空間/モデル空間**フィールドをクリックして、ワークスペースを切り替えます。この方法は、ビューポートの外側をクリックできない場合に使用する必要があります。
  - **MSPACE**コマンドと**PSPACE**コマンドを使用します。これらのコマンドは、**ステータス**バーの**ペーパー空間/モデル空間**フィールドを右クリックしてコンテキストメニューから使用できます。

5.13.2 レイアウトタブの使い方

- アクティブなタブの名前が太字で表示されます。
- 左側のナビゲーションボタンをクリックして切り替えます。
- レイアウトタブをドラッグして順番を変えることができます。

- 最後の**レイアウト**タブの後ろにあるボタンをクリックすると、**レイアウト管理メニュー**が開きます。
- レイアウトタブを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。
  - **新規レイアウト**：新しいレイアウトを作成します。
  - **テンプレートより**：別の図面からレイアウトを読み込みます。
  - **削除**：レイアウトを削除します。
  - **名前変更**：レイアウトの名前を変更します。
  - **コピー**：レイアウトのコピーを挿入します。
  - **右へ移動/左へ移動**：レイアウトを移動します。
  - **書き出し**：レイアウトを新しい図面に書き出します。

5.14 モデル空間のビューポート

モデル空間(タイル表示のビューポートを持つモデル空間)の表示は、複数のビューポートに分割することができ、各ビューポートには、現在の図面の異なるビューを表示させることができます。すべてのビューポートが同時に更新されます。一度に作業できるのは一つのビューポートだけですが、すべてのビューポートが同時に更新されます。アクティブのコマンドがない状態でビューポートをクリックすると、そのビューポートが現在のビューポートになります。印刷は現在のビューポートだけが対象になります。

ビューポートごとに、座標系(WCSまたはUCS)、グリッド表示、スナップを設定することができます。

VPORTSコマンドは、モデルスペースのビューポートを作成・管理します。

5.14.1 複数のビューポートでの作業

- ビューポート内をクリックすると、そのビューポートがカレントになります。
- 現在のビューポートの境界線がハイライト表示されます。ビューポートのサイズを変更するには、境界をドラッグします。
- カーソルは現在のビューポートにのみ表示されます。
- あるビューポートでコマンドを開始し、別のビューポートで操作を終了することができます。

5.14.2 隣接するビューポートの結合

同じ長さの一辺を共有するビューポートを結合することができます。

1 **VPORTS**コマンドを起動します。

2 **結合**コマンドオプションを選択します。

プロンプト表示：優先するビューポートを選択 <カレント>:

3 優先するビューポート内をクリックするか、Enterを押してカレントビューポートを選択します。

4 選択したビューポートの境界線が強調表示されます。

プロンプト表示：結合するビューポートを選択:

5 確認のため、もう一度結合するビューポートをクリックします。

6 選択した2つのビューポートが結合されます。

5.15 ペーパー空間のビューポート

ALIGNSPACEコマンドは、モデル空間とペーパー空間で指定された位置合わせの点に基づいてビューポートの角度やズーム倍率、画面移動を調整します。

レイアウトでは、複数のビューポートを作成することができます。それぞれモデル空間で作成した図形に対して独自のビューで表示します。レイアウトビューポートとは、モデル空間の図形を見るための領域です。各レイアウトビューポートでモデル空間にある同じ図形または違う図形を表示させることができます。表示、尺度などの内容は、レイアウトビューポート毎に自由に調整できます。

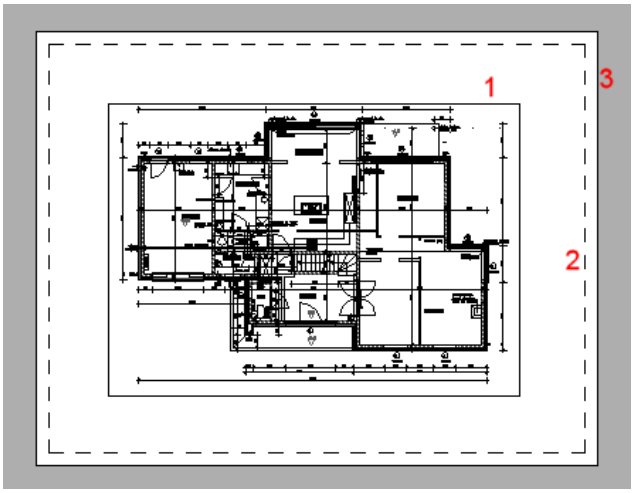
レイアウトビューポートは独立した図形として作成され、他の作図図形と同じように、コピー、削除、移動、拡大縮小、ストレッチが可能です。図形スナップを使って、ビューポートの境界線にスナップすることができます。レイアウト上のモデル空間で作業をしているときに、任意のレイアウトビューポートをクリックして現在のビューポートにし、そのビューポートでモデル空間図形の追加や修正を行います。あるレイアウトビューポートで行った変更は、他のビューポートでもすぐに表示されます。(他のレイアウトビューポートで図面のその部分が表示されている場合)現在のビューポートでのズームや画面移動は、そのビューポートのみに影響します。

各ビューポートには、画層ごとに表示・非表示の設定が可能です。また、ビューポートのコンテンツの表示をオフにすることができます。

ビューポートの尺度を維持するために、画面をロックすることができます。ビューポートをロックするとでズームや移動ができなくなります。

レイアウトのペーパー空間には、ビューポートとは別に、図枠として必要な、キーノート、注釈、タイトルブロック等の印刷関連の図形を加えることができます。1つのレイアウトのペーパー空間に加えた作図は他のレイアウトやモデル空間には表示されません。

5.15.1 ペーパーシートと印刷可能領域の表示



1 ビューポート

2 印刷可能領域

3 印刷可能領域の表示は、DISPAPERMARGINSシステム変数でコントロールされます。

4 ペーパーシートです。

5 ペーパーシートの表示は、DISPPAPERBKGシステム変数でコントロールされます。

5.16 ペーパー空間・ビューポートの作成

MVIEWおよびVPORTコマンドは、レイアウトタブに1つまたは複数のビューポートを作成します。

- 新たに作成した各ビューポートは、モデル空間における可視画層上の全ての図形を表示します。
- ビューポート図形には、専用の画層を使用することをお勧めします。ビューポートの輪郭を印刷したくない場合は、ビューポート画層のプロパティを**印刷しない**に設定します。

5.16.1 レイアウトビューポートの配列作成

MVSETUPコマンド("multiple viewports setup"の略)は、複数のペーパー空間ビューポートを作成し、それらを整列、回転、拡大縮小させます。

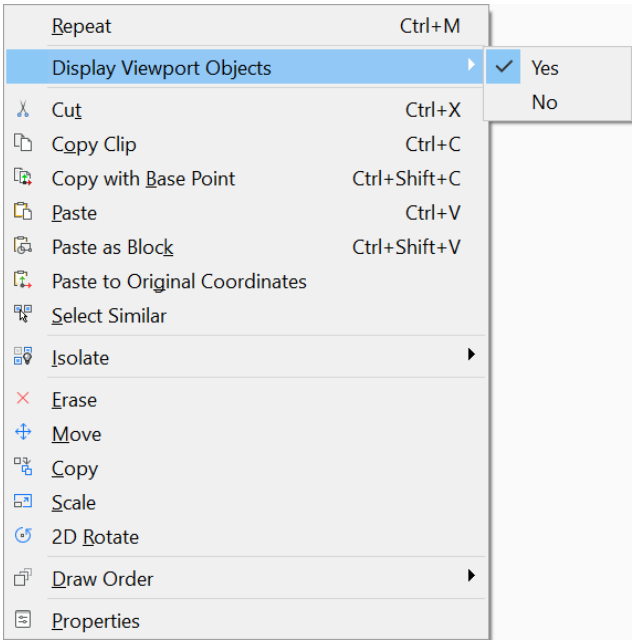
5.16.2 ビューポートのプロパティの定義

1 ビューポートを選択

1 ビューポートのプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 プロパティの設定欄をクリックして内容を変更します。

名前	説明
中心	レイアウトの印刷可能領域の左下隅を基準とした、ビューポートの中心点のXYZ座標
高さ(*)	**図面単位**でのビューポートの高さです。
幅(*)	**図面単位**でのビューポートの幅です。

名前	説明
オン	ビューポートの表示内容を設定します。 **注**：選択したビューポートの表示をコンテキストメニューから制御することもできます。 1　ビューポートを選択します。 2　右クリックしてコンテキストメニューを開きます。 3　**ビューポートオブジェクトを表示**オプションを展開します。 4　**はい**または**いいえ**を選択します。 
クリップ	ビューポートがクリッピングされているかどうかを示します。
表示ロック	ビューポート内の尺度倍率を維持するようにをロックします。 **ステータスバー**のVPLOCKフィールドには、選択したビューポートのロック状態が表示されます。フィールドをクリックして、選択範囲の **表示ロック**プロパティを切り替えます。
尺度	SCALELISTEDITコマンドは可変縮尺をカレントの図面で編集することが可能です。. **注釈尺度**は、ビューポートの注釈尺度を設定します注釈尺度を編集すると、自動的に標準尺度が設定されます。 ANNOALLVISIBLEシステム変数がオフの場合、異尺度対応していない異尺度図形は非表示となります。 **標準尺度**：デフォルトでは、標準尺度は注釈尺度と一致しますが、手動で調整することもできます。図面の尺度リストに**カスタム尺度**の値がない場合、**標準尺度**フィールドに「**カスタム**」と表示されます。 **カスタム尺度**：ビューポートの尺度係数を表示します。図面の尺度リストにて使用できない尺度に、ビューポート尺度を設定できるようにします。
ビューポート毎のUCS	**はい**の場合、このビューポートのUCSを定義してください。

名前	説明
表示スタイル	ビューポートの表示スタイルを設定します。このオプションは、3Dモデルにのみ適用されます。
シェード印刷	表示スタイルから印刷されたシェーディングを調整することができます。デフォルトは**表示**です。
デフォルトの照明	モデル内の照明をオフにして、デフォルトの照明を使用できるようにします。

5.17 ペーパー空間・ビューポートの編集

5.17.1 ペーパー空間ビューポートに画層のプロパティを設定する

画層の表示/非表示は、ペーパー空間のビューポートごとにコントロールできます。ペーパー空間レイアウトで作業する場合、多くのVP*(ビューポート)プロパティが利用できます。これらのプロパティは、現在のビューポートにのみ影響し、対応するデフォルトプロパティから調整することができます。

- VPのフリーズ
- VPの色
- VPの線種
- VPの線の太さ
- VP透過性
- VPの印刷スタイル

1 ペーパー空間のビューポート内をダブルクリックします。

2 EXPLAYERSコマンドを起動します。

3 **図面エクスプローラ / 画層管理**ダイアログボックスが表示されます。

4 (オプション) **VPのフリーズ**列のアイコンをクリックすると、画層の表示が切り替わります。

5 (オプション)**VP色**列のアイコンをクリックし、**色**ダイアログボックスで色を選択します。

6 (オプション) **VPの線種**列をクリックして、ドロップダウンリストから線種を選択します。

7 (オプション) **VPの線の太さ**列をクリックし、ドロップダウンリストから線の太さを選択します。

8 (オプション) **VPの透過性**列をクリックし、ドロップダウンリストから透過性の値を選択します。

9 (オプション)**VPの印刷スタイル**列をクリックし、**印刷スタイルを選択**ダイアログボックスで印刷スタイルを選択します。このオプションは、STB (スタイルテーブル) 図面にのみ適用されます。

注：

- **図面エクスプローラ**ダイアログの **表示**メニューの**使用中の画層**オプションが設定されている場合、**カレント**列のアイコンは、カレントのレイアウトのビューポート設定と、ペーパー空間のビューポートがモデル空間の設定と異なるかどうかを示します。

- LAYOFFとLAYFRZコマンドの**設定** > **ビューポート** > **ビューポートをフリーズ**オプションを使用すると、図形をクリックしてビューポートの画層をフリーズできます。

5.17.2 ビューポートのクリッピング

VPCLIPコマンド("viewport clipping"の略)は、閉じた2D図形からビューポートを作成します。

ビューポートのクリッピングに使用できるのは、円と閉じたポリラインのみです。したがって、楕円形のビューポートを作成する場合は、PELLIPSEシステム変数の**楕円をポリラインで作成**オプションを使用してください。

5.17.3 ビューポートのクリップ境界の削除

VPCLIPコマンドの**削除**オプションは、クリッピング境界を削除します。

5.17.4 ペーパー空間のビューポートで表示を回転させる

ペーパー空間ビューポートの表示がロックされていない場合に限り、ビューポートの表示を回転させることができます。

MVSETUPコマンドの**両端揃え** > **回転ビュー**オプションは、ワールド座標系 (WCS)の X 軸を基準としたビューポート内の角度を定義します。

VPROTATEASSOCシステム変数がオンの場合、ROTATEコマンドとMANIPULATEコマンドは、ビューポート内を指定した角度で回転させることができます。ビューポートは、元のビューポートの寸法の長方形でクリッピングされます。VPCLIPコマンドの**削除**オプションを使用して、クリッピングを削除します。

回転を元に戻すには以下のいずれかを行います：

- **両端揃え** > **回転ビューオプションで回転角度を0(ゼロ)に設定します。**MVSETUPコマンドのオプションを指定します。
- ビューポート内をダブルクリックし、PLANコマンドを起動してEnterを1回押します。(＝WCSのプランビューを設定)

5.17.5 ビューポートの整列

1 MVSETUPコマンドを起動します。

2 コマンドラインで **両端揃え**を選択します。

プロンプト表示：オプションを入力 [角度 (A)/水平に整列 (H)/垂直に整列 (V)/回転ビュー (R)/元に戻す (U)]:

3 (オプション) **水平に整列**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示：

- 1.参照ビューポートで基点を選びます。
- 2.**プロンプト表示**：移動させるビューポート内のポイントを指示：
- 3.ビューポート内で整列させたい点を選びます。
- 4.ビューポート内のディスプレイを垂直方向に移動させ、2つのポイントを水平方向に整列させます。

4 (オプション) **垂直に整列**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示：

- 1.参照ビューポートで基点を選びます。
- 2.**プロンプト表示**：移動させるビューポート内のポイントを指示：
- 3.ビューポート内で整列させたい点を選びます。
- 4.ビューポート内のディスプレイを水平方向に移動させ、2つのポイントを垂直方向に揃えます。

5.17.6 モデル空間とペーパー空間のポイントを整列させる

ALIGNSPACEコマンドは、モデル空間とペーパー空間で指定された位置合わせの点に基づいてビューポートの角度やズーム倍率、移動を調整します。

1点整列

1 ALIGNSPACEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：モデル空間の最初の整列ポイント：

2 レイアウトビューポート内をクリックし、ポイントを選びます。

3 **プロンプト表示**：モデル空間の2番目の整列ポイント または <無し>:

4 2番目のポイントを選択せずに、右クリックまたはEnterを押してください。

5 **プロンプト表示**：ペーパー空間の整列ポイント:

6 ペーパー空間の一点を選びます。

7 **プロンプト表示**：整列させるビューポートをアクティブにします。

8 整列させるビューポート内をクリックします。

9 右クリックまたはEnterで確定します。

10 選択したビューポートの表示が移動し、2つのポイントが一致するようになります。

2点整列

1 ALIGNSPACEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：モデル空間の最初の整列ポイント：

2 レイアウトビューポート内をクリックし、ポイントを選びます。

3 **プロンプト表示**：モデル空間の2番目の整列ポイント または <無し>:

4 レイアウトビューポートで2つ目のポイントを選びます。

5 **プロンプト表示**：ペーパー空間の最初の整列ポイント

6 ペーパー空間の一点を選びます。

7 **プロンプト表示**：ペーパー空間の2番目の整列ポイント

8 レイアウトの2番目のポイントを選びます。

9 **プロンプト表示**：整列させるビューポートをアクティブにします。

10 整列させるビューポート内をクリックします。

11 右クリックまたはEnterで確定します。

12 選択されたビューポートの表示は、2対2の点が一致するように移動、回転、拡大縮小されます。

5.18 レイアウト

BricsCADでは、1図面で作成できるレイアウトの数に制限はありません。各レイアウトは1枚の用紙を表します。各レイアウトでは、用紙サイズ、印刷領域、印刷尺度、線幅尺度、ペンマッピングを指定し、ビューポート、寸法、タイトルブロック、その他レイアウトに固有のジオメトリを追加することができます。ペーパー空間でレイアウトに追加した図形は、モデル空間では表示されません。

レイアウトには、少なくとも1つのレイアウトビューポートを必要とします。CREATEVIEWPORTSシステム変数がオンの場合、新しいレイアウトに自動的にレイアウトビューポートが追加されます。この変数がオフのとき、新しく作成されたレイアウトにビューポートはありません。レイアウトを新規追加するには、ユーザー自身が新規レイアウトを定義するか、またはテンプレートファイル(DWT)、図面ファイル(DWG)、図面交換ファイル(DXF)から読み込むこともできます。

ビューポートは図面のモデル空間図形の全部または一部を表示することができます。

CACHELAYOUTシステム変数は、レイアウトのコンテンツをキャッシュするかどうかを制御します。キャッシュに必要なメモリは、図形の表示に必要なメモリを改善することで補い、結果的に図面の表示に必要なメモリを減らすことができました。

5.18.1 新規画層の作成

1 LAYOUTコマンドを起動し、**新規**を選択します。

2 **プロンプト表示：** ????????? : <Layout1>?

3 レイアウトの名前を入力し、Enterを押します。

4 名前の長さは255文字までで、文字、数字、ドル記号($)、ハイフン(-)、アンダースコア(_)を含むことができ、任意の組み合わせが可能です。

5 デフォルト名を使用するときは、そのまま右クリックあるいは、Enterを押してください(例. Layout1)。

6 新しいレイアウトタブが追加されます。

注： レイアウトタブを右クリックして、コンテキストメニューから**新規レイアウト**を選択するか、または最後のレイアウトタブの後にあるプラス(+)ボタンをクリックし、デフォルトの名前で新しいレイアウトを追加します。

5.18.2 レイアウトのコピー

1 コピーしたいレイアウトタブを右クリックします。

1 コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューから**コピー**を選択します。

プロンプト表示： ??????????????????

3 コマンドラインに新しい固有の名前を入力し、Enterを押してください。

4 選択したレイアウトのコピーが追加されます。

5.18.3 レイアウトタブの配置

以下のいずれかの操作を行います：

- レイアウトタブを目的の位置までドラッグします。
- レイアウトタブを右クリックして、コンテキストメニューから**左へ移動**または**右へ移動**オプションを選択します。

5.18.4 レイアウトの読み込み

1 **モデル**タブまたはレイアウトタブの1つを右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューから**テンプレートより...**を選択します。

ファイルからテンプレートを選択ダイアログボックスが開きます。

3 レイアウトを読み込みたい図面を選択します。

4 **ファイルからテンプレートを選択**ウィンドウの**開く**ボタンをクリックします。

レイアウトを挿入ウィンドウが開きます。

5 読み込みたいレイアウトを選択します。

6 Ctrlを押しながら選択すると、複数のレイアウトを選択できます。

7 **OK**ボタンをクリックします。

選択したレイアウトが読み込まれます。

5.18.5 レイアウトの書き出し

1 **レイアウト**タブの 1 つを右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューから**書き出し**を選択します。

レイアウトを図面に書き出し ダイアログボックスが開きます。

3 レイアウトを書き出す場所を選択します。

4 **保存**ボタンをクリックします。

5 作成したファイルを開くかどうかを選択します。

6 選択したレイアウトが書き出されます。

5.18.6 レイアウトの名前変更

1 名前を変更したいレイアウトタブをダブルクリックします。

1 **レイアウトの名前を変更**ダイアログボックスが開きます。

2 **名前**フィールドに、新しい名前を入力します。

3 **保存**ボタンをクリックします。

5.18.7 レイアウトの削除

1 削除したいレイアウトタブを右クリックします。

1 コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューから**削除**を選択します。

3 **注意**ボックスが表示されます。

4 **OK**ボタンをクリックして確定します。

5.18.8 レイアウト管理の使用

1 LAYOUTMANAGERコマンドを起動します。

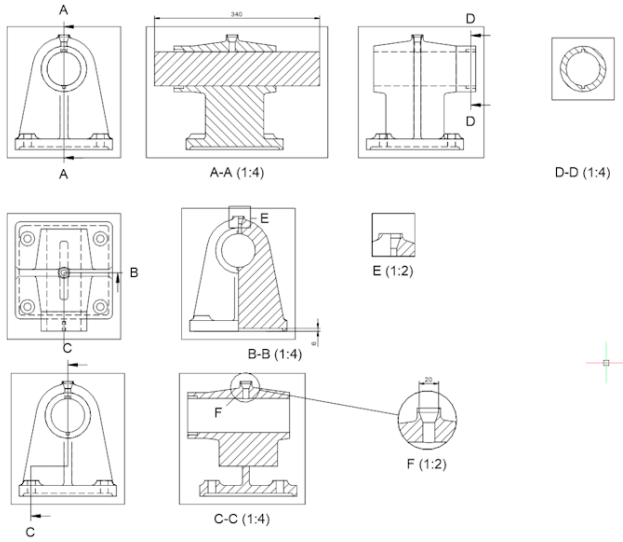
2 **レイアウト管理**ダイアログボックスでは、次の操作を行うことができます。

- レイアウトの作成
- レイアウトのコピー
- レイアウトの削除
- レイアウトタブの順序を変更する
- レイアウトの公開

5.19 生成された図面ビュー

図面ビューの生成機能によって、3Dソリッドモデルの正射投影ビューと標準のアイソメトリックビュー(等角投影図)が自動的に生成されます。図面ビューはすべてペーパー空間レイアウトに配置され、モデル空間で見ることはできません。

解析陰線消去(HLR)処理は、線分や弧など標準2D図形で図面ビューを作成するときに使用します。FLATSHOTコマンドの場合と同様、V14.1で作成された図面ビューはVIEWUPDATEコマンドによって自動的にHLRジオメトリに変換されます。



VIEWBASEコマンドは、3Dソリッドモデルの正射投影および標準のアイソメトリックビューをペーパー空間レイアウトに生成します。

VIEWSECTIONコマンドは、VIEWBASEコマンドでペーパー空間レイアウトに生成した標準図面ビューから断面ビューを作成します。

VIEWSECTIONSTYLEコマンドを使い、VIEWSECTIONコマンドで作成した断面ビューの外観を変更することができます。

VIEWPROJコマンドは、生成された既存の図面ビューから追加の投影ビューを生成します。

VIEWDETAILコマンドは、生成された標準図面の一部を拡大した詳細ビューを作成します。

VIEWDETAILSTYLEコマンドを使い、VIEWDETAILコマンドで作成した詳細ビューの外観を変更することができます。

VIEWUPDATEコマンドは、VIEWUPDATEAUTO=0の時、VIEWBASEとVIEWSECTIONで取得した図面ビューの選択を更新します。

VIEWEXPORTコマンドは、VIEWBASEとVIEWSECTIONで作成した図面ビューの内容を図面のモデル空間へ書き出します。このコマンドはペーパー空間でのみ使用できます。

VIEWEDITコマンドを使い、図面ビューの尺度を変更したり、隠線の表示/非表示を切り替えることができます。

3Dソリッドモデルから図面ビューを生成するツールは、以下から使用できます。

- モデル - 図面ビューメニュー。
- 断面種類ツールバーと詳細タイプツールバー。
- 注釈リボンタブ(メカニカルワークスペース)の**ビュー**パネル。

5.19.1 標準図面ビュー

標準ビューには、マルチビューの正射投影およびアイソメトリック投影があります。

マルチビューの正射投影図法は、技術図面上に一つのオブジェクトに対して最大6つの画像を生成する技法で、それぞれの投影面はオブジェクトの座標軸の一つに平行になります。

アイソメトリック投影図法(等角投影法)は、技術エンジニアリング図面上に3次元のオブジェクトを2次元で表す技法で、アクソノメトリック投影図法(軸測投影法))の一種です。3つの座標軸が等しく縮小され、軸同士の間の角度はいずれも120度になります。

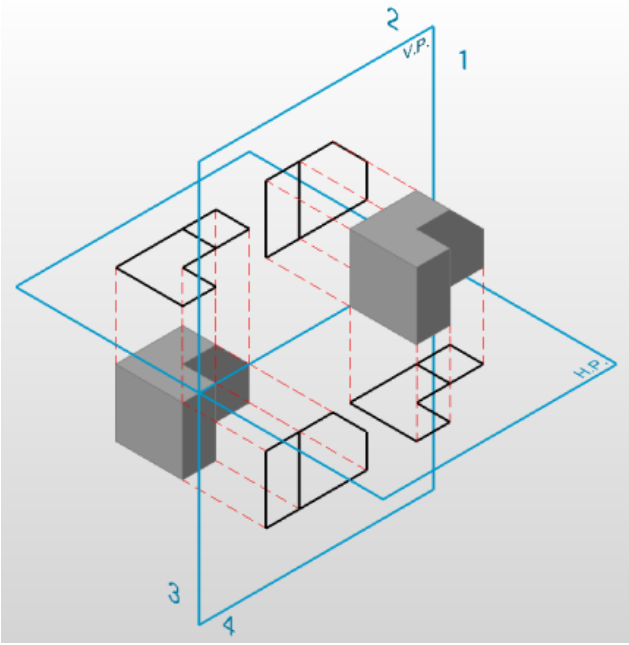
3Dソリッドモデルの標準ビューを生成したい時は、モデル空間でVIEWBASEコマンドを実行します。

第一角法投影(ヨーロッパ)または第三角法投影(米国)のいずれかを選択します。

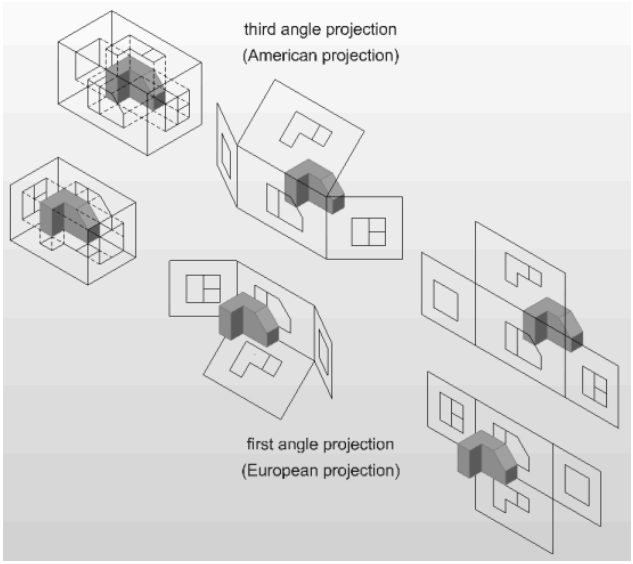
正射投影(直交投影)は3次元のオブジェクトを2次元で表す手法で、平行投影の一種です。すべての投射線分が投射面に対して直交するため、画面上のあらゆる面がアフィン変換されて表示されます。さらにマルチビューの正射投影やアクソノメトリック投影に分割されます。

水平(H.P.)と垂直(V.P.)の2つの投影面が、3D空間を4分割しています。

- 第一角法投影では、モデルは4分割の1つ目(第一角）に置かれます
- 第三角法投影では、モデルは4分割の3つ目(第三角）に置かれます



マルチビュー正射影では、3Dモデルの座標軸に平行な投影面を最大6面まで作成することができます。これらのビューは、第1の角度または第3の角度で投影されるという2つの方式に従って、互いに相対的に配置されます。それぞれのビューの見え方は、モデルを囲むボックスの6つの面に投影されていると考えることができます。ボックスを展開すると、すべてのビューが2Dの図面として整理されます。



投影タイプは、VIEWBASEコマンドで投影タイプを選択するか、PROJECTIONTYPEシステム変数を編集することで設定します。

- 0 = 第一角法投影
- 1 = 第三角法投影

PROJECTIONTYPEシステム変数の値は図面に保存されます。

生成された図面ビューの線分はデフォルトの画層に作成されます。

- BM_Isometric_Hidden
- BM_Isometric_Visible
- BM_Ortho_Hidden
- BM_Ortho_Visible

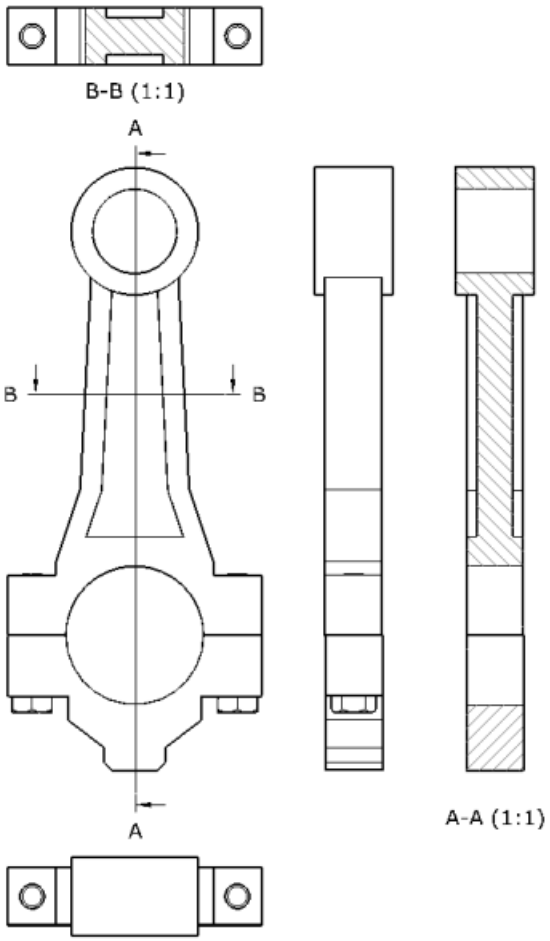
デフォルトでは、BM_Isometric_Hidden画層は非表示にされています。

投影ビューをVIEWPROJコマンドで追加することができます。投影ビューには、親ビューから尺度、表示設定、アライメントが継承されます。

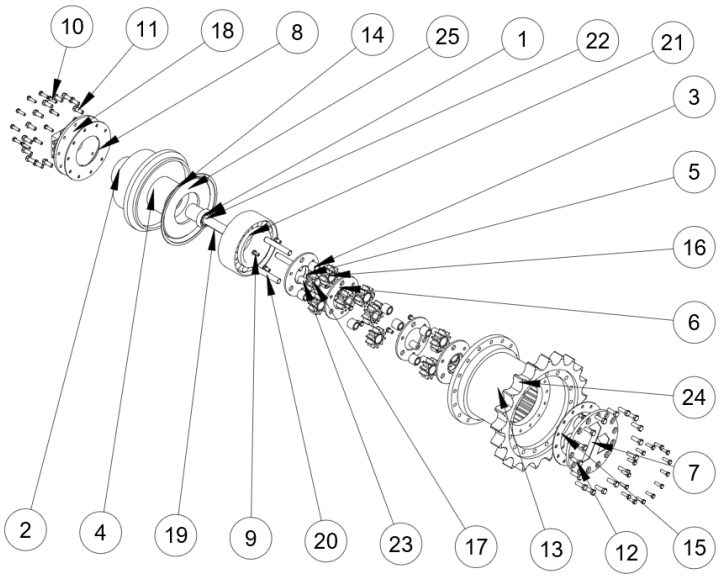
5.19.2 断面ビューの生成

断面とは、3Dソリッドモデルと断面平面の交点のことです。技術図面では、3Dモデルの内部を断面でハッチングしています。

3Dソリッドモデルの断面図を作成するには、標準的な図面ビューが配置されているペーパー空間のレイアウトからVIEWSECTIONコマンドを実行します。



5.19.3 特別なビュー



Bill of Materials Drive_Assembly		
No.	Component	Quantity
1	BBRG-03	2
2	BBRG-03	1
3	BBRG-60	9
4	Body	1
5	Carrier_1	2
6	Carrier_2	2
7	Cover	1
8	Cover_Interal_Seal	1
9	DIN 933	12
10	DIN 933	24
11	DIN 933	16
12	DIN 933	16
13	Drum	1
14	External_Medium_Seal	1
15	External_Seal	1
16	Gear_Planet	9
17	Gear_Sun	3
18	Internal_Cover	1
19	Key	1
20	Pin	3
21	RLR BRG-32	1
22	Shaft	1
23	Sleeve	6
24	Sprocket	1
25	Washer	1

選択した分解表現を展開するために図面ビューを生成することが可能です。通常、正射影は、そのために使用されます。しかし、BricsCADは分解表現するための任意の標準的な投影を作成することが可能です。断面と詳細ビューにも対応しています。

展開表現のためのビューを作成するには、**特定**のビューオプションを指定してVIEWBASEコマンドを実行して**分解図**オプションを選択し、ダイアログボックスから必要な爆発表現を選択します。

分解された表示用に生成されたビューは、元のモデルと関連する場合があるので、注釈とビューを置くことができます。これを行うには、ビューが GENERATEASSOCVIEWS = ONで作成または更新する必要があります。

5.19.4 図面ビューの更新

デフォルトでは、以下の場合にBricsCADは元の3Dソリッドモデルが変更されたか確認し、自動的に図面を再計算します。

- VIEWUPDATEAUTOシステム変数がオンの時、無効のビューが含まれたペーパー空間レイアウトを開く
- VIEWUPDATEコマンドを実行する
- BMUPDATEコマンドを実行する

注：

- 複雑な3Dモデルの場合、隠線消去の計算には少し時間がかかるかもしれません。そのような時はVIEWUPDATEAUTOをオフに設定してください。無効な図面ビューのビューポートの境界線が赤色で表示され更新が必要なことを示します。VIEWUPDATEコマンドを実行すると、BricsCADはその図面ビューのみを更新するか、あるいはすべての図面ビューを更新するか選択を指示します。
- GENERATEASSOCVIEWS = オンの場合、変更後の3D形状に従い自動調整寸法が更新されます。

5.19.5 ビューをモデル空間にエクスポートする

ペーパー空間のレイアウトにおける図面ビューの関連付けメカニズムは、ユーザが一部コントロール可能です。図面ビューの移動と尺度変更は行えますが、形状を編集することはできません。図面ビューの形状をフルコントロールするには、VIEWEXPORTコマンドで図面ビューをモデル空間か他の図面へ移動/コピーします。書き出しされた図面ビューは、3Dモデルとの関連付け情報が失われて標準ブロックとなり、分解、編集、削除等が可能になります。

5.19.6 図面ビューのカスタマイズ

VIEWBASEコマンドの最初の起動では、新たに4つの画層が作成されます。

- BM_Ortho_Hidden：図面ビューで非表示にされる線分：
- BM_Ortho_Visible：図面ビューで表示される線分：
- BM_Tangent_Hidden：図面ビューで非表示にされる接線：
- BM_Tangent_Visible：図面ビューで表示される接線：

すべてのビューまたは選択したビューの画層の表示を変更するには、VIEWEDITコマンドを使用します。

- 図面ビューの表示を修正するには、線種、線の太さ等、画層のプロパティを編集します。

VIEWSECTIONSTYLEコマンドを使用して、次のような断面図のさまざまなプロパティを調整します。

- 識別子テキストのスタイル、色、および高さ。
- 始点と終点のシンボル、色、サイズ、矢印の方向、パターン、ハッチングの角度。
- 切断面を表す線の色、種類、太さ。

以下のような詳細ビューのさまざまなプロパティを調整するには、VIEWDETAILSTYLEコマンドを使用します。

- スタイル、色、識別子の文字高さ、識別子の種類。
- シンボル、シンボルの色とサイズ。
- 境界線の色、タイプ、線の太さ。

6. 2D作図

6.1 図形の作成

図面では、さまざまな異なる図形タイプを作成できます。図面の図形には、直線、円、円弧、点、放射線などのごく単純なものから、ポリライン、スプライン、平面などの複雑なものまであります。BricsCADでは、2D図形以外にも、3Dサーフェス図形や3Dソリッドを作成することができます。

さらにBricsCADは、テキスト、ハッチング、寸法を追加するためのツール一式を提供しています。

6.1.1 新しい図形を作るための一般的な手順

新しい図形は、カレントの座標系のXY平面上で、カレント画層の図形作成設定を使用して作成されます。デフォルトではワールド座標系(WCS)です。

1 (オプション)カレント画層を設定します。

2 (オプション)**プロパティ**パネルの **標準**セクションにある図形作成プロパティを調整します。

3 コマンドを起動します。

4 コマンドプロンプトにしたがって、コマンドを実行します。

6.2 図形作成の設定

図形を作成するためのデフォルト設定や設定は、システム変数によって指定されます。

これらの変数を表示、変更することができます：

- 設定ダイアログボックス内で。**2D作図** > **図形の作成**を展開します。リストの上部には、色、線種、画層などの一般的なプロパティが表示されます。その下には、図形固有のプロパティの設定が表示されます。
- 何も選択されていない時の、**プロパティ**パネルの**標準**ノード内の表示内容です。

標準設定は次のとおりです：

- **色**：図形の色を設定します。デフォルトはByLayerです。
- **画層**：現在の画層を設定します。
- **線種** ：現在の線種を設定します。デフォルトはByLayerです。
- **線種尺度** ：現在の線種尺度を設定します。デフォルトは1です。
- **線の太さ**：現在の線の太さを設定します。デフォルトはByLayerです。
- **透過性**：現在の透過性を設定します。デフォルトはByLayerです。
- **高度**：現在の座標系(WCSまたはUCS)のXY平面からの高さ(Z値)を指定します。デフォルトは0です。

注：ほとんどの図形作成設定は図面に保存されるため、現在の図面にのみ適用されます。これらの設定を今後のすべての図面に適用したい場合は、デフォルトのテンプレート図面を編集し、そこで設定を調整してください。テンプレート図面は、TEMPLATEPATH設定で保存したフォルダーに保存するのが最適です。BASEFILEは、デフォルトのテンプレートファイルのパスと名前を指定します。

6.3 画層を利用した作業

画層の作成や管理は、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスの**画層**セクション(EXPLAYERSコマンド)または**画層**パネル(LAYERSPANELOPENコマンド)で行うことができます。

他のコマンドを使用している間は、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開くことはできませんが、画層パネルは開くことができます。自由に移動やサイズ変更ができ、セカンドモニターに移動させることもできます。

6.3.1 カレント画層

新しい図形は、カレント画層に作図されます。別の画層に新しい図形を作図するには、まずその画層をカレント画層にする必要があります。

- カレント画層はCLAYERで保存されます。
- CENTERLAYER*は、DIMCENTERコマンドで作成されたセンターラインやセンターマークが配置されている画層をコントロールします。
- DIMLAYER*は、寸法コマンドで作成された寸法図形の画層を制御します。
- INTERFEREコマンドで作成された図形は、INTERFERELAYERシステム変数で指定された画層に作成されます。

* 初期値は<カレントを使用>です。

カレント画層を設定するには、以下のいずれかの操作を行います：

- 図形が選択されていない状態で、プロパティパネルの**画層**を選択し、ドロップダウンリストから新しいカレント画層を選択します。
- **図形プロパティ**ツールバーの、**画層**欄の隣にある下矢印をクリックし、ドロップダウンリストの画層を選択します。
- リボン上の**画層**パネルで、下矢印をクリックし、ドロップダウンリストから画層を選択します。
- ステータスバーの**画層**欄を右クリックし、コンテキストメニューの画層を選択します。

注：

- カレント画層の表示をオフ(💡)にすることも可能です。その結果、カレント画層の表示を再びオン(💡)にするまで、作図したものはすべて見えなくなります。カレント画層を消そうとすると、警告が表示されます。
- カレント画層はフリーズ(❄)できません。

6.3.2 画層状態

LAYERSTATEコマンド。

画層状態とは、各画層の設定を図面に保存するものです。

画層状態を使用すると、画層プロパティと状態の設定を保存および復元できます。図面の特定の部分を編集するときに、画層を青で表示したり、緑で表示したり、画層を非表示にしたり、フリーズしたり、ロックしたりする必要がある場合があります。すべての画層設定の調整に多くの時間を費やした後、画層状態を使用して設定を保存できます。各図面に複数の画層状態を保存できます。画層の状態を図面間でコピーしたり、画層の状態を外部ファイルに保存して別の図面で読み込んだりすることができます。

6.4 図形の線種

線種を使い分けることで、ある線の目的を他の線と区別することができます。線種は、ドット、ダッシュ、または空白の繰り返しパターンで構成されています。線種は、画面上や印刷時における図形の外観を決定します。

デフォルトでは、すべての図面には少なくとも3つの線種があります：連続、Bylayer、ByBlockです。また、図面には名前付きの線種を無制限に入れることができます。

線種の設定は図面に保存されます。新しい線種は、他の図面から読み込まれるか、線種ファイル(*.lin)から読み込まれます。どの線種のソースファイルをデフォルトで使用するかは、MEASUREMENTシステム変数でコントロールされます：

- MEASUREMENT = オンでは**Iso.lin**を使用：線種の定義はミリ単位で表されます。
- MEASUREMENT = オフ：**Default.lin**：線種の定義はインチ単位で表現されます。

新しい図形は、CELTYPEシステム変数で設定された現在の線種設定を使って作図されます。

線種を設定するためのオプションは以下の通りです：

- ByLayer：図形は、その画層の線種を採用します。これにより、画層の線種を調整することで、こういった全図形の線種を変更することができます。
- ByBlock：ブロックに入れるまでは、連続した線として作図される図形です。この図形は、ブロックを図面に挿入する際に、ブロック図形の線種設定を継承します。
- 名前付きの線種：連続しているもの、または図面に保存されている線種の一つです。

線種尺度

非連続線種は、様々なパターンで組み合わされた線や隙間、ドットで構成されています。複雑な線種には、テキストや図形を含めることもできます。

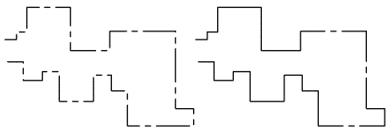
線種の定義では、線と隙間の長さの定義にインチ(default.lin)またはミリ(Iso.lin)を使用します。図面の単位がインチやミリと異なる場合は、線種の拡大縮小が必要です。線種尺度は、LTSCALEシステム変数でコントロールされます。LTSCALEシステム変数は、作図単位(DU)を基準に設定する必要があります。

作図単位	線種尺度
インペリアル(MEASUREMENT = オフ)	
インチ	1
フィート	1/12
メートル(MEASUREMENT = ON)	
mm	1
cm	0.1
m	0.001

BricsCADは、直線、ポリライン、円弧、スプラインの始点と終点に必ずダッシュを入れます。線種パターンもきれいに中央に配置されているので、図形の両端が同じように見えます。

ポリライン生成

線は通常、頂点から頂点へ作成されます。実線以外の線種のポリラインで、頂点と頂点が接近している場合、実線として描かれることがあります。PLINEGENシステム変数は、この問題を解決します：1またはオンに設定すると、線種は頂点から頂点へではなく、ポリラインの一方の端からもう一方の端へと作図されます。



PLINEGENがオン(左)とオフ(右)で描かれた同じポリラインです。

ペーパー空間の線種尺度

PSLTSCALEシステム変数は、ペーパースペースのレイアウトにおける線種の拡大縮小をコントロールします。

オンに設定すると、線種尺度はビューポートの尺度から独立します。

一般的に、PSLTSCALEはオンに設定されていることが望ましいです。この変数はレイアウトごとに設定することができることを、覚えておいてください。

モデル空間の線種尺度

MSLTSCALEシステム変数は、モデル空間における線種の拡大縮小をコントロールします。

オンの場合、現在の注釈尺度(CANNOSCALE)がモデル空間の線種に適用されます。

MSLTSCALEはオフに設定するのが望ましいです。モデルスペースからの印刷時にオンにしておくと便利かもしれません。

6.4.1 現在の線種設定

以下のいずれかの操作を行います：

- **プロパティ**パネルで、**線種**を選択します。

  図形が選択されていないことを確認してください。

  ドロップダウンリストの線種を選択します。
- **図形プロパティ**ツールバーで**線種**欄の横の下矢印をクリックし、ドロップダウンリストの線種を選択します。
- ステータスバーの **線種**フィールドを右クリックし、コンテキストメニューから線種を選択します。

6.4.2 新規線種の追加

1 以下のいずれかの操作を行います：

   - LINETYPEコマンドを起動し、**新しい**オプションを選択します。
   - **プロパティ**パネルで**線種**を選択し、下向き矢印をクリックして**ロード...**を選択します。

   線種をロードダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション)**ファイル...**ボタンをクリックして、別の線種のソースファイルを読み込みます。

3 **線種をロード**ダイアログボックスで、1つまたは複数の線種を選択します。

   Ctrlをホールドして、線種を追加または削除します。

4 **OK**ボタンをクリックします。

6.4.3 図形の線種尺度の設定

1 **プロパティ**パネルで、**線種尺度**を選択します。

図形が選択されていないことを確認してください。

2　線種尺度欄に新たな値を入力します。

線種尺度の値は、CELTSCALEシステム変数を通じて保存されます。この変数は、BATTINGやGAS_LINEのような特殊な線種を除いて、1に設定するが望ましいです。

注：図形の線種尺度は、新しい図形にのみ適用されます。

6.5　図形の色

色を、どのように画面上で表示させるか、印刷させるかを決定します。図形は、CECOLORシステム変数で定義されたカラーで作成されます。

255の**色インデックス**の中から選択するか、**トゥルーカラー**で定義するかを、選ぶことができます。

6.5.1　色インデックス

色インデックスは8ビットカラー値を使用し、画面上でのピクセルの色を256色まで指定できます。

各色インデックスには、1～255の固有の番号が付けられています。また、色インデックスのうち7色は、名前も指定できます：赤(1)、黄(2)、緑(3)、シアン(4)、青(5)、マゼンタ(6)、白／黒(7)です。色インデックス 7は、黒い画面の背景には白、白い画面の背景には黒を表示します。色インデックス 7は常に黒で印刷されます。

2つの追加のカラープロパティは、ByLayerとByBlockです。これらのカラープロパティにより、図形は属している画層またはブロックの色を採用することになります。ByLayerは色番号256、ByBlockは色番号0です。色を使用するすべてのコマンドで、それぞれByLayerとByBlock、または256と0の番号で指定することができます。

カラーを設定するためのオプションは以下の通りです：

- ByLayer：図形は、その画層の色を採用します。これにより、画層の色を調整することで、その画層のすべての図形の色を変更することができます。
- ByBlock：図形は色インデックス 7(画面の背景色に応じて黒または白)で作図されます。これらの図形がブロック定義に含まれている場合、ブロックを図面に挿入したときに、そのブロックの色が採用されます。
- 色インデックス
- トゥルーカラー

注：色インデックスを使用している図形がこの色で印刷されるかどうかは、印刷に使用されている**色従属印刷スタイルテーブル**(CTB)または**名前の付いた印刷スタイルテーブル**(STB)によります。CTBまたはSTB定義ファイルの**カラー**設定が**オブジェクトカラー使用**に設定されている場合のみ、印刷色が図形カラーと一致します。

6.5.2　トゥルーカラー

トゥルーカラーは24ビット値を使用する画面上ピクセルの仕様色です。16,777,216色まで表現可能です。

1ピクセルの色合いを定義するためのビット数がビット深度です。トゥルーカラーは24ビットカラーとも呼ばれています。新しいカラーディスプレイシステムの中には、32ビットのカラーモードを備えたものもあります。アルファチャンネルと呼ばれる追加領域は、制御や特殊効果の情報に使用されます。

トゥルーカラーは、**RGB**(**R**ed、**G**reen、**B**lue)の色定義を使用しています。これらの各パラメータの範囲は0～255です。黒のRGB定義は(0,0,0)、白のRGB定義は(255,255,255)です。

6.5.3 現在の図形の色設定

1 以下のいずれかの操作を行います：

- COLORコマンドを起動します。
- 設定ツールバーの **色設定**()をクリックします。
- **プロパティ**パネルで、**色**を選択し、ドロップダウンリストで**色を選択**を選択します。
- ステータスバーの**色**をダブルクリックします。

色ダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション)**色インデックス** タブをクリックし、以下のいずれかを実行します：

- 色タイルをクリックします。
- 色番号フィールドの**色番号**を入力します。

3 (オプション) **True Color** タブをクリックし、以下のいずれかを実行します：

- **色選択**パネル内をクリックします。
- **カラーパラメータ**で数値を入力して色を設定します。

4 **OK**ボタンをクリックして確定します。

6.6 線の太さ

線の太さは、画面表示・印刷時の、オブジェクトの線の太さの表現を設定します。

線の太さは、ByLayer、ByBlock、デフォルト、または特定の値に設定できます。

線の太さは、LWUNITSシステム変数に応じて、ミリメートルまたはインチで定義されます。

線の太さは、面、点、TrueType フォント、ラスター画像には設定できません。

線の太さを設定するためのオプションは以下の通りです：

- ByLayer：線の太さは、カレント画層の線の太さプロパティによって決定されます。画層の線の太さプロパティを変更すると、その画層で線の太さがByLayerに設定されているすべての図形に影響します。
- ByBlock：ByBlockの線の太さを使用して作成された図形は、ブロック設定に含まれるまで、デフォルトの線の太さが適用されます。この図形はブロックを図面に挿入する際に、ブロックの線の太さを継承します。
- デフォルト：デフォルトの線の太さは、LWDEFAULTで保存されます。デフォルトの線の太さを変更すると、線の太さがデフォルトに設定されている図面全体のすべての図形に影響します。

6.6.1 システム変数

CELWEIGHTシステム変数は、新しい図形の線の太さを設定します。

LWDEFAULTシステム変数は、デフォルトの線の太さの値を設定します。

LWDISPLAYシステム変数は、線の太さの表示を制御します。ステータスバーの線の太さフィールドをクリックすると、線の太さ表示のオン/オフを切り替えることができます。

LWDISPSCALEシステム変数は、モデルタブの線の太さの表示尺度をコントロールします。0と1の間の値が指定可能です。

6.6.2 線の太さの印刷

色インデックスを使用する図形は、**カラーテーブル**(CTB)または**印刷スタイル**(STB)がオブジェクトの線の太さを使用して定義されている場合に限り、印刷時に**線の太さを使用**します。それ以外の場合は、線の太さは図形カラーやプロットスタイルで定義されます。

トゥルーカラーを使用している図形は、印刷時に常にオブジェクトの線の太さを使用します。

6.7 塗り潰しモード

FILLコマンドは、塗り潰しとハッチングの表示を切り替え、ワイドポリライン、トレース、ソリッド、ハッチング(ソリッド塗り潰しを含む)、ワイドポリラインの塗り潰しの有無を指定します。FILLMODEシステム変数の値で切り替わります。

FILLMODEがオフの場合、塗り潰した図形はすべてアウトラインとして表示、印刷され、かつ図面の表示、印刷にかかる時間を短縮することができます。

	ポリライン	ドーナツ	太線	面(ソリッド)
塗り潰しオン				
塗り潰しオフ				

6.7.1 塗り潰しモードの設定

以下のいずれかの操作を行います：

- FILLコマンドを実行します。
- FILLMODEシステム変数の値を設定します。

REGENコマンドまたはREGENALLコマンドを実行して、ビューポートを再生成します。

6.8 透過性

透過性プロパティは、図形を作図したときの透明度をコントロールすることができます。透過性の設定は、選択した図形、または同じ画層のすべての図形に対して行うことができます。新しい図形のデフォルトの透過性は、CETRANSPARENCYシステム変数によってコントロールされます。ハッチングとグラデーション塗り潰しのデフォルトの透過性は、HPTRANSPARENCYシステム変数でコントロールされます。

例えばあまり重要でない細部や参考のためだけに使用する図形は強調を抑えるなど、透過性を使って図面を効果的に表示させることができます。

透過性に関する設定オプションは以下の通りです：

- ByLayer：画層の透過性プロパティ値を適用します。
- ByBlock：透過性のByBlockを使用して作成された図形は、ブロックを図面に挿入する際に、ブロックの透過性を継承します。

- 値：0(完全に不透明)から90までの値を設定できます。
  フリーズやオフにした画層と混同しないよう、透明度は90%までになっています。

6.8.1 印刷の透過性

透過性の印刷表示については、印刷または**ページ設定**ダイアログボックスで印刷透過性オプションにチェックマークが入っている場合にのみ可能です。

6.9 図形プロパティの編集

図形のプロパティは、**プロパティ**パネルで編集するか、**ロールオーバーヒント**機能を使って編集することができます。

6.9.1 プロパティパネルで編集する

BricsCADでは、AutoCAD®の**プロパティ**パレットと同様の**プロパティ**パネルを用意しています。このパネルを表示するには、PROPERTIESコマンド(エイリアス：PR)の他、図形をダブルクリックする等の方法でもアクセスすることができます。

パネルに表示されるプロパティは、選択した図形タイプによって異なります。共有プロパティ表示で複数の図形が選択されている場合、選択セット間で変化する共有プロパティの値は、***varies***と表示されます。

AutoCAD®とは異なり、BricsCADの**プロパティ**パネルには、選択した図形の**ハンドル** (読み取り専用) が表示され、プログラミングのために保存や呼び出しに利用することができます。

6.9.2 ロールオーバーヒントを使った編集

ロールオーバーヒント = オン（**ステータス**バーのRTフィールド）の場合、図形プロパティの選択肢がカーソルに表示されます。プロパティをクリックして編集します。

クワッドがオンになっているときに、**クワッド**タイトルバーをクリックして、ロールオーバーの情報とクアッドカーソルメニューを切り替えます。

ステータスバーのRTフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから**カスタマイズ...**を選択して、**カスタマイズ / プロパティ**ダイアログボックスを開きます。ここでは、各図形の**ロールオーバーヒント**に表示するプロパティを定義できます。

6.10 線形図形の作図

線形図形を作図するためのコマンドは以下の通りです：

	x,y,z座標のポリラインを作図します。
	円弧を作図します。
	閉じた領域の境界を形成するポリラインを作図します。
	円を作図します。
	ポリラインから幅の広い円を作図します。
	楕円および楕円弧を作図します。

	2Dのらせんや3Dのらせんを作図します。
	線分セグメントを作図します。
	マルチラインを作図します。
	接続された直線や円弧を作図します。
	ポリラインから正多角形を作図します。
	半無限の線を作図します。
	長方形や正方形を作図します。
	雲マークを作図します。
	スケッチされた(フリーハンドの)線分を作図します。
	2Dおよび3Dの開いた/閉じたスプラインを作図します。
	幅の広いラインセグメントを作図します。
	構築線を作図します。

6.11 線分の作図

線分は、始点と終点の2点で構成されています。LINEコマンドを使用すると、1本の線や一連の接続された線を作図することができますが、各線は独立した線分図形とみなされます。

線分は以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー
- **作成**リボンパネル
- クワッド(図形未選択)の**作成**タブ

6.11.1 一般的な手順

1 LINEコマンドを起動します。

プロンプト表示：ラインの始点、または [フォロー (F)]<終点>:

2 始点を指定します。

線がダイナミックに表示されます。

プロンプト表示：終点をセット、または [角度 (A)/長さ (L)/元に戻す (U)]:

3 終点を指定します。

線分が作成されます。新しい線がダイナミックに表示されます。

プロンプト表示：終点をセット、または [角度 (A)/長さ (L)/元に戻す (U)]:

4 終点を指定します。

線分が作成されます。新しい線がダイナミックに表示されます。

プロンプト表示：終点をセット、または [角度 (A)/長さ (L)/フォロー (F)/閉じる (C)/元に戻す (U)]:

5 以下のいずれかの操作を行います：

- 引き続き新しいラインセグメントごとに終点を指定します。
- **閉じる**オプションを選択して、1本目の線分の始点に接続します。
- Enterを押すか、右クリックして停止します。

6.11.2 角度と長さの指定

オプションは以下の通りです：

- 角度と長さのオプションを使用します。
- ダイナミック寸法を使用します。(DYNDIVIS = 1または2)

Tabを押すと、角度と長さのフィールドが切り替わります。

6.11.3 他の直線的な図形に対する角度の指定

ステータスバーのDUCSフィールドを右クリックし、他の図形のDUCSを選択することで、UCSDETECTシステム変数の**2D図形を有効にする**オプションをオンにします。

1 LINEコマンドを起動します。

2 基準線または直線のポリラインセグメントにカーソルを合わせます。

一時的なUCSは、線分またはポリラインセグメントに整列します。

UCSアイコンは、カーソル下の図形の最も近い中間点または終点に表示されます。

3 Shiftを押して、一時的なUCSをロックします。

4 線分の始点を指定します。

角度は、選択した線分または線形ポリラインセグメントに対して相対的なものになります。

注：LINEコマンドを終了すると、WCSが復元されます。

6.12 放射線の作図

放射線とは、ある点を起点として無限に伸びる線のことです。放射線は無限に伸びるので、図面範囲の一部としては計算されません。

放射線を作図するためのデフォルトの方法は、放射線の始点を選択し、その方向を指定することです。

他の図形を作るための参考にされることが多いため、放射線と構築線(XLINE)は作図線と呼ばれることもあります。

放射線は、以下のツールから実行できます：

- 作成メニュー
- 作成ツールバー
- **作成**リボンパネル

6.12.1 一般的な手順

1 RAYコマンドを起動します。

プロンプト表示：放射線の開始、または [水平 (H)/垂直 (V)/角度 (A)/2分割 (B)/平行 (P)]:

2 放射線の始点を指定します。

放射線がダイナミックに表示されます。

3 放射線の方向を指定します。

次の放射線がダイナミックに表示されます。

4 (オプション)続けて方向を指定し、同じ点を始点とする放射線を作図します。

5 右クリックまたはEnterで放射線の作図を終了します。

6.13 構築線の作図

構築線(XLINE)とは、ある点を通って指定された角度に向き、両方向に無限に伸びる線のことです。構築線は無限に伸びるため、図面範囲の一部として計算されません。

無限の線を作図するためのデフォルトの方法は、点を選択し、その方向を指定することです。

他の図形を作るための参考にされることが多いため、放射線と構築線は作図線と呼ばれることもあります。

構築線は、以下のツールから実行できます：

- 作成メニュー
- 作成ツールバー
- 作成リボンパネル

6.13.1 一般的な手順

1 XLINEコマンドを起動します。

プロンプト表示：楕円軸の1番目の端、または [中心 (C)]:

ラインに沿ったポイントをセット、または [水平 (H)/垂直 (V)/角度 (A)/2分割 (B)/平行 (P)]:

2 構築線の始点を指定します。

構築線がダイナミックに表示されます。

3 構築線の方向を指定します。

次の構築線がダイナミックに表示されます。

4 (オプション)引き続き、同じ点を起点とした一連の構築線を作図するために方向を指定します。

5 右クリックで終了します。

6.14 ポリラインの作図

ポリラインとは、線分や円弧を連結した開いた(閉じた)シーケンスで、これらは1つの図形として扱われます。ポリラインの各セグメントの幅は、一定であるか、セグメントの長さに応じて細くなるかのいずれかです。

PLINEコマンドはインタラクティブに、ポイントを入力する開いた(閉じた)多角形を作成します。

BOUNDARYおよび-BOUNDARYコマンドは、他の図形によって定義された、囲まれた領域から閉じたポリラインを作成します。

JOINコマンドは、一連の接続した線、ポリライン、円弧からポリラインを作成します。

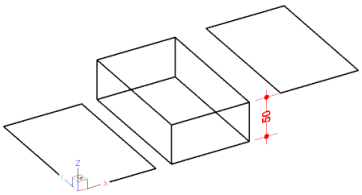
ポリラインは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー。
- **作成**リボンパネル
- クワッド(図形未選択状態)の**作成**タブ

厚さプロパティは、ポリラインの高さを指定します。厚さ= 0(ゼロ)の場合、ポリラインと、一連の直線や円弧との間に視覚的な違いはありません。

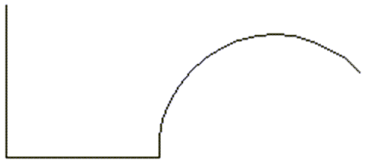
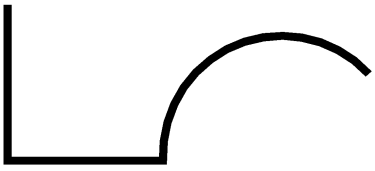
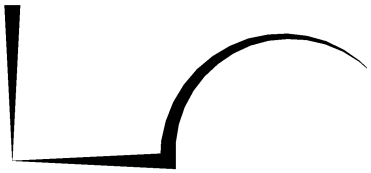
デフォルトの厚さはTHICKNESSシステム変数によって保存されます。

高さプロパティは、ポリラインの平面とWCS(ワールド座標系)のXY平面との距離を指定します。



厚さ= 0(左)、**厚さ**= 50(中)、**高さ**= 50(右)

ポリラインは全体に対する編集、個々のセグメント毎に対する編集が可能です。また頂点の追加や削除もできます。

		
ゼロ幅のポリライン	一定の幅のポリライン	テーパー幅のポリライン

注：

- FILLMODE = 0の場合、幅の広いポリラインや平面など、全体が塗りつぶされた図形のアウトラインのみが表示されます。
- GRIPSシステム変数の値に応じて、ポリラインの端点と頂点(GRIPS=1)、または端点、頂点、頂点の中点(GRIPS=2)にグリップが付いています。

- ポリラインには方向があり、その方向はPEDITコマンドの**逆方向**オプションで変更できます。

6.14.1 一般的な手順

1 PLINEコマンドを起動します。

プロンプト表示：ポリラインの視点、または[フォロー]<最後の点>:

2 点を指定します。

プロンプト表示：次の点をセット、または [円弧 (A)/距離 (D)/半幅 (H)/幅 (W)]:

3 点を指定します。

プロンプト表示：次の点をセット、または [円弧 (A)/距離 (D)/フォロー (F)/半幅 (H)/幅 (W)/元に戻す (U)]:

4 点を指定します。

プロンプト表示：

次の点をセット、または [円弧 (A)/閉じる (C)/距離 (D)/フォロー (F)/半幅 (H)/幅 (W)/元に戻す (U)]:

5 引き続きポイントを指定します。

6 以下のいずれかの操作を行います：

- **閉じる**オプションを選択すると、開始点に接続され、閉じたポリラインが作成されます。
- **元に戻す**オプションを選択して、前の頂点を削除します。
- 終了するには右クリックまたはEnterを押します。

6.14.2 ポリラインの境界を作成します。

1 BOUNDARYコマンドを起動します。

境界ダイアログボックスが表示されます。

2 **境界内の点をピック**ボタンをクリックします。

ダイアログボックスが閉じます。

3 境界ポリラインを作成したい部分をクリックします。

境界ポリラインが強調されます。

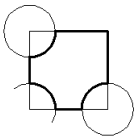
4 (オプション)他にも境界ポリラインを作成する場合は、続けて点を選択します。

5 右クリックしてポリラインを承諾します。

境界ダイアログボックスが開きます。

6 **OK**ボタンをクリックします。

ポリラインが作成されます。



6.15 マルチラインの作図

マルチラインは、MLSTYLEコマンドで作成されたスタイルに従って、2本以上の平行線で構成されています。

マルチラインは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー
- **作成**リボンパネル

6.15.1 一般的な手順

1 MLINEコマンドを起動します。

1 現在の設定：行端揃え＝トップ、尺度＝20.00,スタイル = Standard

プロンプト表示： ラインの始点、または [位置合わせ (J)/尺度 (S)/スタイル (ST)]:

2 点を指定します。

3 **プロンプト表示**：終点をセット、または [角度(A)/長さ(L)/元に戻す(U)]:

4 点を指定します。

5 **プロンプト表示**：終点をセット、または [角度(A)/長さ(L)/フォロー(F)/元に戻す(U)]:

6 点を指定します。

7 **プロンプト表示**：終点をセット、または [角度(A)/長さ(L)/フォロー(F)/閉じる(C)/元に戻す(U)]:

8 以下のいずれかの操作を行います：

- より多くのポイントを指定します。
- **閉じる**オプションを選択して、閉じたループを作成します。
- 終了するには右クリックします。

注：

マルチラインは、CMLSTYLEシステム変数で定義されたカレントのマルチラインスタイルを使用して作成されます。

CMLJUSTシステム変数は、指定されたポイントに対するマルチラインの行端揃えを設定します。オプションは以下の通りです：

- **上**：マルチラインスタイルの最上行にあります。
- **ゼロ**：マルチラインスタイル定義のゼロオフセットにあります。
- **下**：マルチラインスタイルの最下行にあります。

CMLSCALEシステム変数は、マルチラインの尺度を設定します。

マルチラインのプロパティは、プロパティパネルで編集できます。

6.16 スプラインの作図

スプラインとは、点の集合で定義される滑らかな開いた(閉じた)曲線のことです。ポリラインでは作図できない曲線を、スプラインを使って作図することができます。

スプラインは、以下のツールから実行できます：

- 作成メニュー
- 作成ツールバー
- 作成リボンパネル
- クワッド(図形未選択)の作成タブ

6.16.1 一般的な手順

1 SPLINEコマンドを起動します。

プロンプト表示：スプラインの最初の点：

2 点を指定します。

プロンプト表示： 2 点目：

3 点を指定します。

プロンプト表示：次の点をセット、または [閉じる (C)/フィット誤差 (F)/元に戻す (U)]:

4 (オプション)さらにポイントを定義するにはステップ3を繰り返します。

5 右クリックすると点の追加が終了します。

プロンプト表示：接線方向の始点を指示:

スプラインに接する線は、スプラインの始点からダイナミックに表示されます。

6 クリックして、スプラインの開始曲線を定義します。

プロンプト表示：接線方向の終了点を指示:

スプラインに接する線は、スプラインの端点から動的に表示されます。

7 クリックしてスプラインを作成します。

6.17 フリーハンドスケッチの作図

フリーハンドスケッチは、一連の直線セグメントで構成されており、個々の全文図形、またはポリラインとして作成されます。

フリーハンドスケッチの線は図面に書き込む(保存)までは、図面に追加されません。

SKPOLYシステム変数は、接続された線分のチェーンを作成するか、ポリラインを作成するかを定義します。

SKETCHINCシステム変数は、各線分またはポリラインセグメントの長さまたは増分を設定します。増分が小さいほど、スケッチの精度は高くなりますが、値が小さいとファイルサイズが大きくなります。

スケッチは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー
- **作成**リボンパネル

6.17.1 一般的な手順

1 SKETCHコマンドを起動します。

1 プロンプト表示: ???????????? <1>:

2 以下のいずれかの操作を行います：
- カレントの長さを受け入れるにはEnterを押します。
- コマンドラインに新しい値を入力します。
- 2点をクリックすることで図式的に長さを定義します。

クロスヘアが鉛筆ツール( )に置換されます。

プロンプト表示: ENTER???????????????? [??(E)/??(C)/??????(X)/????(Q)/??(??)(R)]:

3 クリックしてスケッチを開始します：カーソルを動かすと、スケッチされた線が薄緑色で表示されます。

4 (オプション)スケッチを終了するには、クリックします。再開する場合は、再びクリックします。

5 (オプション)**削除**オプションを選択します。

カーソルが**削除**ツール( )に変わります。

削除を開始するには、スケッチラインの末尾にカーソルを移動します。

削除を終了し、スケッチを再開する場合にはクリックします。

6 (オプション)**記録(保存)**オプションを選択すると、スケッチ線を保存してスケッチを続けることができます。

7 **保存して終了**オプションを選択すると、スケッチラインが保存され、スケッチコマンドが終了します。

6.18 円の作図

円を作図する基本的な方法は、中心点と半径を指定する方法です。

円を作図する他の方法は、作成メニューの円サブメニューおよび円ツールバーにあります。

AI_CIRCTANコマンドは、3つの直線状の図形に接する円を作図します。

円は、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー。
- **作成**リボンパネル
- クワッド(図形未選択状態)の**作成**タブ

6.18.1 一般的な手順

1 CIRCLEコマンドを起動します。

プロンプト表示：

円の中心を選択、または [2点 (2P)/3点 (3P)/接-接-半径 (TTR)/円弧を円に (A)/連続 (M)]:

2 点を指定します。

プロンプト表示：半径をセット、または [直径 (D)]:

3 以下のいずれかの操作を行います：
- 直前に入力した半径を適用する場合は、Enterを押します。
- コマンドラインに半径を入力し、Enterを押します。
- 図面上で半径をクリックで指定します。

6.18.2 3つの図形に接する円の作図

1 AI_CIRCTANコマンドを起動します。

プロンプト表示：接点となる線を入力：

2 線形図形をクリックします。

直線、円弧、円、ポリラインセグメント、X線、光線が使用できます。

プロンプト表示：2つ目の接点となる線を入力：

3 2つ目の線形図形をクリックします。

プロンプト表示：3つ目の接点となる線を入力：

4 3つ目の線形図形をクリックします。

選択された3つの図形に接する円が作成されます。

6.18.3 円の編集

1 円を選択します。

円のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **中心**、**半径**、**直径**、**円周**、**面積**フィールドに数値を新たに入力し、Enterを押します。

3 Escを押して円の編集を終了します。

6.19 円弧の作図

円弧を作図する基本的な方法は、始点、2点目、端点の3点を指定する方法です。

円弧を作図する他の方法は、作成メニューの円弧サブメニューの、円弧ツールバーにあります。

円弧は、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー。
- **作成**リボンパネル
- クワッド(図形未選択状態)の**作成**タブ

6.19.1 一般的な手順

1 ARCコマンドを起動します。

プロンプト表示：円弧の始点を入力、または[中心/最後の点をフォロー]<最後の点をフォロー>:

2 点を指定します。

プロンプト表示：2番目のポイントを入力 [角度 (A)/中心 (C)/向き (D)/終点 (E)/半径 (R)]:

3 点を指定します。

プロンプト表示：終点：

4 点を指定します。

6.19.2 円弧の編集

1 円弧を選択します。

円弧のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 新しい値を**中心**、**半径**、**開始角度**または**終了角度**に入力し、Enterを押します。

3 Escを押して円弧の編集を終了します。

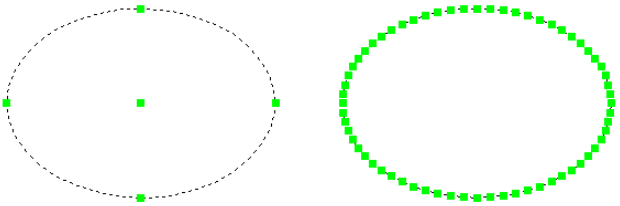
6.20 楕円の作図

楕円を作図する基本的な方法は、楕円の1つの軸の端点を指定し、2つ目の軸の長さの半分を表す長さを指定するというものです。1つ目の軸の端点は、楕円の向きを決定します。楕円の長い方の軸を長軸、短い方の軸を短軸と呼びます。軸を定義する順序は重要ではありません。このプログラムは、長軸と短軸の相対的な長さに基づいて、長軸と短軸を決定します。長軸の半分を長半径、短軸の半分を短半径と呼びます。この比率(小半径を大半径で割った値)が楕円の離心率となります。円は、偏心率が1の楕円です。

また、**作成**メニューの楕円サブメニューを使用するか、楕円ツールバーを使い、楕円を作図することもできます。

PELLIPSEシステム変数は、実際の楕円を作成するか、ポリライン表現として作成するかをコントロールします。

実際の楕円と楕円のポリライン表現の違いは、楕円を選択するとわかります。実際の楕円には5つのハンドルがあります：中心点と軸の端点です。楕円のポリライン表現は、円弧セグメントで構成された閉じたポリラインです。



通常の楕円(左)とポリラインの楕円(右)

楕円は、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー。
- **作成**リボンパネル
- クワッド(図形未選択状態)の**作成**タブ

6.20.1 楕円を作成する一般的な手順

1 ELLIPSEコマンドを起動します。

プロンプト表示：楕円軸の1番目の端、または [円弧 (A)/中心 (C)]:

2 1点を指定します:

プロンプト表示：軸の2点目:

3 1点を指定します:

プロンプト表示：他の軸をセット、または [回転 (R)]:

4 点を指定します。

6.20.2 楕円弧を作成する一般的な手順

楕円弧は、楕円の一部分です。

1 ELLIPSEコマンドを起動します。

プロンプト表示：楕円軸の1番目の端、または [円弧 (A)/中心 (C)]:

2 円弧オプションを選択します。

プロンプト表示：楕円軸の1番目の端、または [中心 (C)]:

3 1点を指定します:

プロンプト表示：軸の2点目:

4 1点を指定します:

プロンプト表示：他の軸をセット、または [回転 (R)]:

5 点を指定します。

プロンプト表示：円弧の開始角度をセット、または [パラメータ (P)]:

6 以下のいずれかの操作を行います：

- ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- クリックすると、円弧をグラフィカルに指定できます。

プロンプト表示：[パラメータ (P)/内角 (I)]<終了角度 (E)>:

7 ポイントを指定します。

6.20.3 楕円または楕円弧の編集

1 楕円または楕円弧を選択...

楕円のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 新しい値を **中心** 、**主軸半径** 、**副軸半径**、**半径比** 、**開始角度**、**終点角度**欄に入力し、Enterを押します。

3 Escを押して、編集を停止します。

注：楕円の「開始角度」または「終点角度」欄を編集すると、楕円が楕円の円弧に変わります。両方のプロパティを0(ゼロ)に設定すると、楕円形の円弧が楕円になります。

6.21 長方形の作図

長方形は、4 つの辺を持つ閉じたポリラインとして作成されます。

長方形は、対向する2つの角を指定することで作図されます。ダイナミック寸法では、長方形の幅と高さを指定することができます。

回転オプションが選択されていなければ、長方形の辺は、常にカレントの座標系(WCSまたはUCS)のX軸とY軸に平行になります。

長方形は、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー

- **作成**リボンパネル
- **クワッド(図形未選択)**の**作成**タブ

6.21.1 一般的な手順

1 RECTANGコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示：**

矩形の最初のコーナーを選択、または [面取り (C)/フィレット (F)/回転 (R)/正方形 (S)/高度 (E)/厚さ (T)/線幅 (W)/面積 (A)/寸法 (D)]:

2 点を指定します。

3 矩形がダイナミックに表示されます。

プロンプト表示：矩形のもう一方のコーナー：

4 以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- Tabキーを押して切り替えます。Enterキーを押して確定します。

注：

長方形は閉じたポリラインとして作成されるため、長方形には方向があります。閉じたポリラインの方向は、反時計回りに作図された場合は正、時計回りに作図された場合は負となります。長方形は、2つ目の点のX座標とY座標の両方が1つ目の点の座標よりも高い、または低い場合(＝カーソルの移動がX軸とY軸の両方で正または負の場合)、反時計回りの方向になります。長方形は、X座標またはY座標が最初の点のX座標またはY座標よりも高い、または低い場合(＝カーソルの移動がX軸に沿って正、Y軸に沿って負、もしくはその逆の場合)、時計回りの方向になります。

PEDIT(ポリライン編集)コマンドの反転オプションは、ポリラインの方向を変更します。

6.22 ポリゴンの作図

多角形は閉じたポリラインで、最小3から最大1024の等しい長さの辺で構成されています。

多角形を作図するには以下の方法があります：

- **中心 - 頂点**：最初に中心点を定義し、次に頂点を定義します。(= 外接円メソッドの半径)
- **中心 - 辺**：最初に中心点を定義し、次に辺の中点を定義します。(= 内接円メソッドの半径)
- **エッジ**：多角形の辺の長さを定義します。

ポリゴンは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー。
- **作成**リボンパネル
- **クワッド(図形未選択)**の**作成**タブ

6.22.1 一般的な手順

1 POLYGONコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示：**ポリゴン: 辺の数をセット、または [線幅 (W)/連続 (M)]<4>:

2 以下のいずれかの操作を行います：
- Enterを押すか右クリックすると、カレントの辺数を承諾します。
- 値を入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：指定：ポリゴンの中心を設定するか、[エッジで指定]してください：

3 点を指定します。

4 **プロンプト表示**：指定: ポリゴンの中心をセット、または [エッジ (E)]:

5 点を指定します。

注：

- 手順3で選択したオプション(辺の中点または頂点で指定)は、次回にも記憶されます。
- 辺の数はPOLYSIDESシステム変数で設定されますが、その値はセッション間で保存されません。BricsCADのセッションで初めてPOLYGOコマンドを起動したときは、POLYSIDES = 4となります。

6.23 太線の作図

太線は、2つの平行な面で作られた4辺の塗り潰された図形です。一連の太線を作成すると、それらは互いにL字型に接続されます。

太線は、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**リボンパネル

デフォルトの太線幅はTRACEWIDシステム変数によって保存されます。

6.23.1 一般的な手順

1 TRACEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：幅<現在の幅>：

2 以下のいずれかの操作を行います：
- 右クリックして、カレントの幅を受け入れます。
- 値を入力し、Enterを押します。
- 2点をクリックし、新しいカレント幅を図面内で指定します。

プロンプト表示：：始点：

3 太線の開始点を指定します。

4 **プロンプト表示**： 次の点：

5 最初の太線の終点を指定します。

6 線は最初の太線の方向を示しています。

2つ目の太線の方向がダイナミックに表示されます。

7 以下のいずれかの操作を行います：
- 右クリックで、作成を終了します。
- 次の太線の終点を指定します。

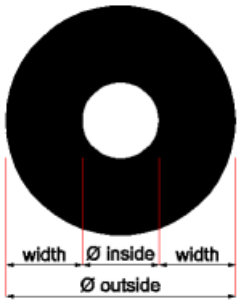
8 以下のいずれかの操作を行います：

- 手順5を繰り返して、引き続き太線を追加します。
- 右クリックで終了します。

注：FILLMODEシステム変数をオフにすると、ドーナツなどの塗り潰した図形はすべてアウトラインとして表示、印刷されます。

6.24 ドーナツを作図

ドーナツは、閉じた2つのセグメントの幅広ポリラインとして作成された、中身のある、塗り潰された円またはリングです。



ドーナツを作図する基本的な方法は、内径と外径を指定した後、中心を指定することです。内径が0の場合には、塗り潰した円が作成されます。

ドーナツは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**リボンパネル

6.24.1 一般的な手順

1 DONUTコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：ドーナツの内径 [2点 (2P)/3点 (3P)/接-接-半径 (TTR)]<現在の内径>:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックでカレントの内径を適用します。
- 新しい値を入力して、Enterを押します。
- 図面上で2点をクリックして、新しい内径を指定します。

プロンプト表示：ドーナツの外側の直径<現在の外径>：

3 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックで、カレントの外側の直径を適用します。
- 新しい値を入力して、Enterを押します。
- 図面上で2点をクリックして、新しい外径を指示します。

プロンプト表示： ドーナツの中心：

点を指定します。

プロンプト表示： ドーナツの中心：

4 以下のいずれかの操作を行います：

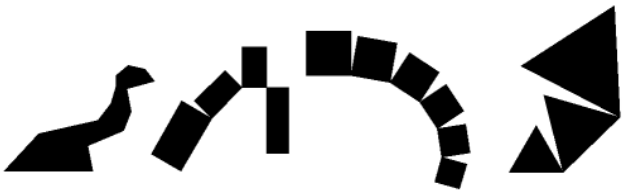
- 引き続きドーナツを作成します。
- 右クリックで終了します。

注：

- FILLMODEシステム変数をオフにすると、ドーナツなどの塗り潰した図形はすべてアウトラインとして表示、印刷されます。
- カレントの内径および外径の値は、DONUTIDおよびDONUTODシステム変数を通じて保存されます。これらの値はセッション間では保存されません。BricsCADのセッションで初めてDONUTコマンドを起動したときには、DONUTID=0.5、DONUTOD=1となります。

6.25 ソリッド(塗り潰し面)の作図

2D塗り潰しとは、1色で塗り潰された矩形、正方形、三角形、四辺形のエリアを指します。



左から：四辺形、矩形、正方形、三角形のソリッド

ソリッドは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー
- **作成**リボンパネル

6.25.1 一般的な手順

1 SOLIDコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示：** 平面の最初の点をセット、または [矩形 (R)/正方形 (S)/三角形 (T)]:

2 点を指定します。

3 **プロンプト表示：** 2 点目：

4 点を指定します。

5 **プロンプト表示：** 3点目：

6 点を指定します。

7 **プロンプト表示：** 4点目：

8 点を指定します。

9 塗りつぶしが作成されます。

プロンプト表示： 3点目：

10 以下のいずれかの操作を行います：

- 引き続き点を指定することで、さらに多くの塗りつぶしを作成します。
- 右クリックで終了します。

注：FILLMODEシステム変数をオフにすると、ソリッドなどの塗り潰した図形はすべてアウトラインとして表示、印刷されます。

6.26 雲マークの作図

雲マークは、円弧で構成されている、開いた(閉じた)ポリラインです。雲マークは、レビューや修正の目的で図面の調整や注釈が必要な部分を示すために使用されます。

雲マーク：1.ノーマル　2.カリグラフィー　3.反転したカリグラフィー。(長方形をベースにしたもの)

注：**反転**オプションは、**図形**モード、または **フリーハンド**モードを使用してオープンリビジョンクラウドを作成するときにのみ使用できます。

REVCLOUDCREATEMODE：デフォルトモードを設定します。

REVCLOUDMINARCLENGTH：最小弧長を設定します。

REVCLOUDMAXARCLENGTH：最大弧長を設定します。

REVCLOUDARCSTYLE：デフォルトのスタイル(ノーマルまたはカリグラフィー)を設定します。

REVCLOUDGRIPS：オンにすると、雲マークのグリップ編集が隣接するセグメントにも影響します。

雲マークは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー
- **作成**リボンパネル
- **クワッド(図形未選択)**の**作成**タブ

6.26.1 一般的な手順

1 REVCLOUDコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：

最初のコーナーポイントを指定するか、[円弧長 (A)/図形 (E)/矩形状 (R)/ポリゴン (P)/フリーハンド (F)/スタイル (S)]<図形 (E)>:

2 フリーハンドモードの雲マーク作成を開始するポイントを指定します。

3 カーソルを移動させると、雲マークが作成されます。

4　カーソルを開始点に合わせて終了します。

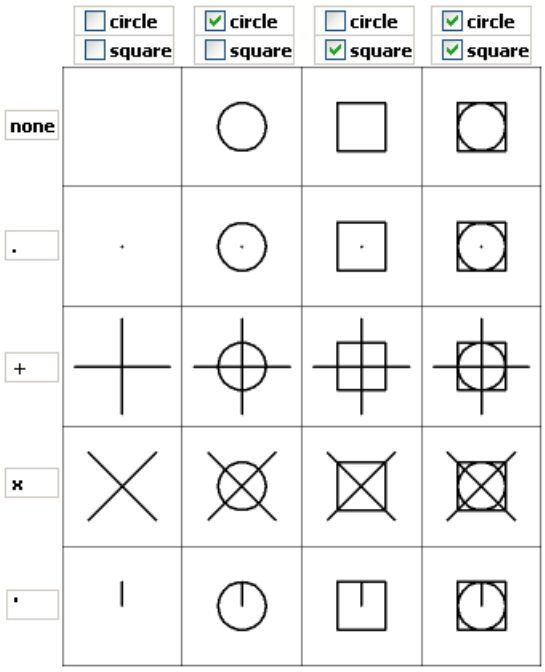
5　BricsCADはコマンドラインにレポートを表示します：雲マークを完了しました。

注：

- 最初のプロンプトで右クリックすると、デフォルトモード(＝REVCLOUDCREATEMODEシステム変数のカレントの値)で雲マークの作成が開始できます。
- カーソルが開始点に来る前に右クリックすると、開かれた雲マークが作成されます。

6.27　点の作図

点は寸法を持たないため、画面上では1つのピクセルが(ほぼ)正しく表現されるはずです。しかしこれは、(特に複雑な図面上では)ほとんど見えません。そのため、PDMODE(点表示モード)システム変数で設定された数多くの表示スタイルの中から表示スタイルを選択することができます。



点表示スタイルのサイズは、PDSIZE(点表示サイズ)システム変数でコントロールされます。PDSIZE=0の場合、点表示サイズは画面サイズの5%になります。

注：PDSIZE=0(ゼロ)の場合、REGENコマンドを使用すると、ズームした後で、点表示サイズが画面サイズの5％に変更されます。

点は、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー
- **作成**リボンパネル

6.27.1 一般的な手順

1 POINTコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：点の位置、または [点の設定... (S)/連続点 (M)]:

2 点を指定します。

6.28 ワイプアウトの作図

ワイプアウトとは、現在の背景色を使用して、下にある図面を隠す多角形の領域です。最も一般的なワイプアウトは、分かりやすくするために図面の一部を覆うのに使われます。例えば、図面の複雑な部分にテキストを追加したい場合などです。ワイプアウトは、テキストの後ろの領域を覆うことで、テキストの読みやすさを向上させるために使用できます。

WIPEOUTコマンドの**フレーム**オプションは、ワイプアウトのアウトラインを表示するかしないか、印刷するかしないかをコントロールするWIPEOUTFRAMEシステム変数の値を設定します。

注：ワイプアウトは既存の図形のみを隠します。すべての図形を隠すには、DRAWORDERコマンドの**前面に移動**オプションを使用します。

ワイプアウトは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー。
- **作成**リボンパネル
- **クワッド(図形未選択)**の**作成**タブ

6.28.1 一般的な手順

1 WIPEOUTコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：：始点を指示、または [ポリライン (P)/フレーム (F)]:

2 点を指定します。

3 **プロンプト表示**：次の点を指示:

4 点を指定します。

5 **プロンプト表示**：次の点を指示、または [元に戻す (U)]:

6 点を指定します。

7 **プロンプト表示**：次の点を指示、または [元に戻す (U)/閉じる (C)]:

8 以下のいずれかの操作を行います：
   - 引き続きポイントを指定します。
   - 右クリックするか、**閉じる**を選択して終了します。

6.28.2 ポリラインからワイプアウトを作成

1 WIPEOUTコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：：始点を指示、または [ポリライン (P)/フレーム (F)]:

2 **ポリライン**オプションを選択します。

プロンプト表示： 閉じたポリラインを選択します [選択オプション (?)]：

3 ラインセグメントのみで構成された閉じたポリラインを選択します。

4 **プロンプト表示：**選択しポリラインを削除しますか？ [はい (Y)/いいえ (N)]<いいえ (N)>:

5 以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押してポリラインを保持します。
- **はい**を選択すると、ポリラインが削除されます。

6.29 らせんの作図

らせんとは、円柱(円筒らせん)や円錐(円錐らせん)の表面で、底面から一定の上向きの角度で上昇しながら、軸を中心に回転する曲線のことです。

らせんとは、固定の中心点に、その点からの距離が連続的に長くなるように巻かれた平面曲線のことです。

HELIXコマンドでは、3Dのらせんと2Dのらせんの両方を作成することができます。

らせんは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **ポリライン**ツールバー
- **作成**リボンパネル

6.29.1 らせん(円柱型)を作図する一般的な手順

1 HELIXコマンドを起動します。

1 ターン数 = 3ターン= CCW

プロンプト表示：ベースの中心点を指定してください：

2 点を指定します。

3 基準半径を指定、または [直径 (D)]<1>:

4 以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：上部半径を指定、または [直径 (D)]<基準半径>:

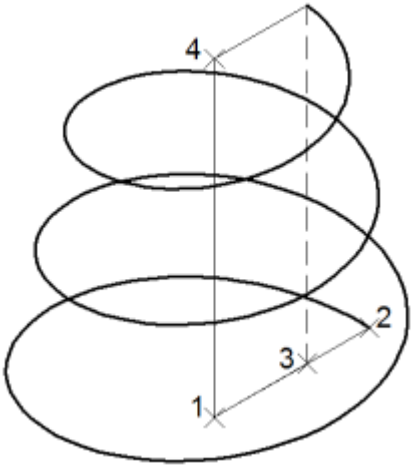
5 以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：らせん高さを指定、または [軸の端点 (A)/旋回数 (T)/高さ (H)/ツイスト (W)]<1>:

6 0(ゼロ)と入力し、Enterを押します。

6.29.2 らせん(円錐型)を作図する一般的な手順



1 HELIXコマンドを起動します。

1 ターン数 = 3ターン= CCW

プロンプト表示：ベースの中心点を指定してください：

2 ポイントを指定します。(1)

3 **プロンプト表示**：基準半径を指定 または [直径 (D)]<1>:

4 以下のいずれかの操作を行います(2)：
- 点を指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。

5 以下のいずれかの操作を行います(3)：
- Enterを押して、トップの半径とベースの半径を同じに設定すると、円筒形のらせんができあがります。
- 点を指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：らせん高さを指定、または [軸の端点 (A)/旋回数 (T)/高さ (H)/ツイスト (W)]<1>:

6 以下のいずれかの操作を行います(4)：
- 点を指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。

6.29.3 らせんの編集

1 らせんを選択します。

1 らせんのプロパティは、**プロパティ**パネルの**幾何**カテゴリに表示されます。

2 プロパティを編集します：
- **拘束**：高さ、ターンの高さ、ターン数のいずれかを拘束します。拘束されていないプロパティは自動的に調整されます。
- **高さ**：らせんの全体的な高さ。高さ = ターンの高さ × ターン数。
- **ターン数** ：ターンの回数。

- **ターンの高さ** ：1ターンの高さ。
- **ベース半径**：開始点の半径。
- **トップ半径** ：終了点の半径。
- **ツイスト**：回転方向 CW(時計回り)またはCCW(反時計回り)

注 :

- **トップ半径を設定** = **ベース半径**を円筒形のらせんに設定します。
- **高さ**または**ターンの高さ**をゼロに設定します。
- EXPLODEコマンドは、らせんをスプラインに変更します。

6.30 3Dポリラインの作図

3Dポリラインは、3D空間の直線的なセグメントで構成されています。

3Dポリラインは、以下のツールから実行できます：

- **作成**メニュー
- **ポリライン**ツールバー
- **作成**リボンパネル

6.30.1 一般的な手順

1 3DPOLYコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：ポリラインの始点、または [フォロー(F)]<最後のポイント>:

2 点を指定します。

3 **プロンプト表示**：次の点:

4 点を指定します。

5 **プロンプト表示**：次の点、または [閉じる(C)/元に戻す(U)]:

6 以下のいずれかの操作を行います：
   - **閉じる**オプションを選択すると、開始点に接続され、平面三角形の3Dポリラインが作成されます。
   - 点を指定します。

   プロンプト表示：次の点をセット、または [閉じる(C)/元に戻す(U)]:

7 以下のいずれかの操作を行います：
   - **閉じる**オプションを選択すると、開始点に接続します。
   - 点を指定します。

   プロンプト表示：次の点をセット、または [閉じる(C)/元に戻す(U)]:

8 続けてポイントを指定するか、**Enter**を押して終了します。

注 :

- 線種を割り当てた3Dポリラインは、途切れることのないパターンで作図されます。3Dポリラインの線種を表示するには、LINETYPE3DPLINEシステム変数を1に設定します。

- PLINEGENシステム変数は3Dポリラインに影響を与えません。また、他のどの設定も、3Dポリラインの線種パターンの作図方法を変更することはできません。

6.30.2 3Dポリラインの編集

1 3Dポリラインを選択します。

1 プロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **Misc**：

- **フィット/スムーズ**：**無し**、**立方体**、または**二次曲線**を選択します。
  立方体と**二次曲線**オプションは、3Dポリラインのスプライン表現を作成します。
- **閉**：**いいえ**に設定すると、閉じたセグメントを削除します。

6.31 リージョンの作成

REGIONコマンドは、閉じた図形をソリッド図形に変換します。

ポリライン、正多角形、円、楕円、閉じたスプライン、ドーナツといった、閉じた図形からリージョンを作成できます。

リージョンを作成しても、ワイヤフレームの表示スタイルを使用した図面では、通常、リージョン図形は表示されません。しかし、変換元の図形が線の幅や線の太さを指定していた場合に、リージョンを作成するとそれらの情報が失われます。

レンダリングされた表示スタイルでは、リージョン図形は可視化されたソリッド図形で表示されます。

6.31.1 リージョンの作成

1 REGIONコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：図形か境界を選択 [選択オプション (?)]:

2 1つまたは複数の図形を選択します。

3 セット内の図形：x

プロンプト表示：図形か境界を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 BricsCADのレポート：X個のリージョンが作成されました。

6.32 ハッチングとグラデーションの作成

HATCHコマンドは、図面上の囲まれた領域全体をパターンで塗り潰します。

GRADIENTコマンドは、9つのパターンと1色または2色でソリッドの塗り潰しを作成します。

円や閉じたポリラインなど1つの図形に使用でき、また複数の図形を選択して囲んだ領域にも使用できます。

ハッチングを作成するには、境界を形成する閉じた領域の内側をクリックするか、複数の図形を選択します。

注：

- パターンによっては、ハッチングはメモリを消費するため、作図と表示にかなりの時間を要する場合があります。パフォーマンスを向上させるには、図面を作成する際に最後のステップのひとつとしてハッチングを追加するか、ハッチングを別の画層に挿入して、図面の作業を続けながらフリーズしておけるようにします。また、FILLMODEシステム変数を使って、ハッチ、グラデーションフィル、塗り潰した図形の表示をオフにすることもできます。

- ダッシュの最大数は、MAXHATCH設定変数でコントロールされます。ダッシュの数が現在のMAXHATCHの値よりも多い場合、ハッチの作成はできません。警告ボックスには、その後のアクションの選択肢が表示されます。ダッシュの最大数の初期値は100000です。
- ハッチング図形に含めることができ、レンダリングできる等高線(アウトライン)上の点の最大数は、HPMAXOUTPOINTS設定変数によってコントロールされます。ポイント数が指定された値を超えると、ハッチングはレンダリングされません。0～10000000までの値が指定可能です。この変数のデフォルト値は100000です。0に設定すると、チェックが無効になります。つまり、変数は使用されません。

ハッチングツールとグラデーションツールには、以下のようなものがあります：

- **作成**メニュー
- **作成**ツールバー。
- **作成**リボンパネル
- **クワッド(図形未選択)** の**作成**タブ(ハッチングのみ)

6.32.1 一般的な手順

1 HATCHコマンドまたはGRADIENTコマンドを起動します。

1 **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスが表示されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

3 (オプション)**ハッチング**タブをクリックしてハッチングを作成し、ハッチングのプロパティを設定します。

4 (オプション)**グラデーション**タブをクリックしてグラデーションを作成し、グラデーションのプロパティを設定します。

5 ハッチングやグラデーションのプロパティを設定します。

6 ハッチングまたはグラデーションの境界を選択します。

7 オプションを設定します。

8 **OK**ボタンをクリックして、ハッチングまたはグラデーションを作成します。

ハッチやグラデーションは、HPLAYERシステム変数で定義された画層に作成されます。デフォルト=カレント画層。

6.32.2 ハッチングプロパティの定義

1 **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスで**ハッチング**タブを選択します。

2 (オプション)**プロパティを継承**をクリックします。

ハッチングとグラデーションダイアログボックスが一時的に閉じます。

プロンプト表示：プロパティのコピー元のハッチング図形を選択:

ハッチング図形を選択します。

ハッチングとグラデーションダイアログが再び開き、選択したハッチング図形のプロパティが表示されます。

3 (オプション)**パターンの種類**を選択します。

- **ユーザー定義** - このダイアログボックスで定義されたパターンを**角度**、**間隔**、**クロスハッチング**のオプションで使用します。

- **定義済み** - 以下で定義されたパターンを使用します：
- iso.pat(メートル法 - MEASUREMENT=ON)
- default.pat(インチ法 - MEASUREMENT = オフ)
- **カスタム** - *.pat ファイル(ファイル毎にパターン定義)で定義されているパターンを使用します。

  BricsCADはSRCHPATHシステム変数で定義されたファイルサーチパスのフォルダー中の*.patファイルを検索します。

4 **パターンの種類**が**定義済み**または**カスタム**の場合。
- **見本**フィールドをダブルクリックします、
- **パターン名**を**ハッチングパターンパレット**で選択し、パターンをダブルクリックするか、**OK**ボタンをクリックします。
- **尺度**設定フィールドに尺度を入力するか、ドロップダウンリストから尺度ルを選択します。
- **角度**設定フィールドに角度を入力するか、ドロップダウンリストから角度を選択します。

5 **パターンの種類**が**ユーザー定義**の場合：
- **パターン配置**を図面単位で指定します。
- **クロスハッチング**オプションを設定します。

6 **ハッチング原点**を設定します。

オプションは以下の通りです：
- **カレントの原点を使用**：HPORIGINシステム変数で定義された原点が再利用されます。
- **原点を指定**：**新規原点をピック**ボタンをクリックして、図面上の点を選びます。新しい原点はHPORIGINシステム変数に格納されます。

7 ハッチングパターンに **色**を設定します。

8 **背景色**を設定します。

6.32.3 グラデーションプロパティの定義

1 **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスで**グラデーション**タブを選択します。

2 (オプション)**1色**ラジオボタンを選択し、白色もしくは黒色のグラデーションを作成します。
- 別の色を選ぶには、色つきのタイルをクリックして**色**ダイアログボックスを開きます。
- カラースライダーは、カラーからホワイトまたはブラックへの移行を設定します。
- カラースライダーを動かすには、マウスの左ボタンを長押しします。

  「白」でグラデーションを作成するには、スライダーを右端に動かします。

  「黒」でグラデーションを作成するにはスライダーを左端に動かします。

3 (オプション)「2色」のグラデーションを作成するには、**2色**ラジオボタンをクリックします。
- 色を選ぶには、色つきのタイルをクリックして **色**ダイアログボックスを開きます。
- 9つのグラデーションパターンの中から1つを選択します。
- 選択肢は以下の通りです：直線形、円柱形、反転シリンダ、球形、半球、曲線、反転球、反転半球、反転曲線。

4 (オプション)**中心**：中心におく場合、グラデーションは対称形に作成されます。中心でない場合、グラデーションは境界線の左側から確立されます。

5 **角度**：カレントのUCSに関係するグラデーションの角度を指定します。

6.32.4 境界の定義

1 **境界保持**オプションを選択します。

2 **島**の検出オプションを選択します。

これは、ハッチングの境界線の内側にある密閉された領域にも適用されます。

3 **境界許容差**を設定します。この値は、境界の最大ギャップサイズを定義します。0(ゼロ)に設定すると、BricsCADは現在のビューサイズを基準にして許容範囲を設定します。ズームアウトすると許容範囲が広がります。

この値はHPGAPTOLシステム変数によって保存されます。

4 (オプション)**選択**ボタンをクリックして、**境界設定**を選択します。

ハッチングとグラデーションダイアログボックスが一時的に閉じ、図形を選択することができます。

HATCHコマンドまたはGRADIENTコマンドの起動時に選択セットがアクティブであった場合、この選択セットが**境界セット**として使用されます。この場合、**ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスが閉じ、**選択**ボタンをクリックするとすぐに再表示されます。

5 以下のいずれかの操作を行います：

- **境界内の点をピック**ボタンをクリックします。

  ハッチングとグラデーションダイアログボックスが閉じます。

  プロンプト表示：境界、または、ハッチング領域を指定するため点をピック、または [図形を選択 (S)/元に戻す (U)]:

  - ハッチングしたい各エリアのポイントを指定します。
  - **プロンプト表示**：境界、または、ハッチング領域を指定するため点をピック、または [図形を選択 (S)/元に戻す (U)]:
  - 右クリックまたはEnterを押すと、エリアの追加を終了します。
  - **ハッチングとグラデーション**ダイアログが再び表示されます。

- **境界図形を選択**ボタンをクリックします。

  ハッチングとグラデーションダイアログボックスが閉じます。

  プロンプト表示：図形を選択:

  - ハッチングしたい図形を選択します。
  - 右クリックまたはEnterを押すと、図形の選択を終了します。
  - **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスが再び表示されます。

- **境界図形を削除**ボタンをクリックします。

  ハッチングとグラデーションダイアログボックスが閉じます。

  プロンプト表示：図形を選択:

  - 選択から削除したいカレントの境界図形を選択します。
  - 右クリックまたはEnterを押すと、図形の選択を終了します。
  - **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスが再び表示されます。

6.32.5 オプションを設定

- **異尺度対応**オプションは、異尺度対応ハッチングを作成します。
- ハッチングをその境界に関連付けるには、**関連付け**オプションを選択します。
- **分離ハッチングを作成**オプションを選択します。複数の境界が検出されたり、複数の図形が選択された場合、単一のハッチングの代わりに別々のハッチングが作成されます。
- **表示順序**オプションを選択します。

  このオプションは、図面を閉じて、再度開いた時に**境界の背面へ**にリセットされます。
- **画層**：既存の画層を選択、または **カレント使用**。(デフォルト)
- **透明度**：透明度を設定します。0～90の値が使用できます。

6.33 ハッチングとグラデーションの編集

ハッチングやグラデーションを編集できます：

- **プロパティ**パネル
- ダイアログボックスでHATCHEDITコマンドを使用して。
- ハッチングまたはグラデーション図形が選択されているときに、クワッドの編集コマンドグループのツールを使用して。

6.33.1 プロパティパネルでの、ハッチング(グラデーション)編集

1 図面のハッチングまたはグラデーションを選択します。

1 選択した図形のプロパティが **プロパティ**パネルに表示されます。

2 **プロパティ**バーで編集したいプロパティを選択します。

選択したプロパティフィールドが有効になります。

3 選択したプロパティを編集します。

4 ハッチングの編集を終了するには、Enterを押します。

注：

- 複数のハッチングやグラデーションが選択されている場合、異なるプロパティは***varies***と表示されます。このようなプロパティを編集すると、その変更は選択範囲全体に適用されます。
- 線種、線種尺度、および線の太さプロパティは、**ユーザー定義**のパターンタイプにのみ適用されます。

6.33.2 ダイアログボックスでの、ハッチング(グラデーション)編集

ハッチングの編集は、以下のツールから実行できます：

- **修正**メニュー
- **修正**ツールバー
- **修正**リボンパネル

1 以下のいずれかの操作を行います：

- HATCHEDITコマンドを起動します。
- ハッチングまたはグラデーションの図形を選択します。
- ハッチングまたはグラデーション図形をダブルクリックします。

ハッチング編集ダイアログボックスが表示されます。

2 プロパティと設定を編集します。

3 変更はリアルタイムで適用されます。

4 **OK**ボタンをクリックして、変更を承諾します。

6.33.3 クワッドからの、ハッチング(グラデーション)編集

1 ハッチングまたはグラデーションにカーソルを合わせます。

1 クワッドが表示されます。

2 カーソルをクワッドに移動します。

3 (オプション)**編集**タブで、**ループを追加**ボタンをクリックします。

プロンプト表示：内側の点を指示、または [図形を選択 (S)/元に戻す (U)]:

- 閉じたエリア内をクリックします。
- または

  Sと入力し、Enterを押して図形を選択します。
- 右クリックかEnterを押して終了します。

4 (オプション)**編集**タブで、**ループを削除**ボタンをクリックします。

選択したハッチングの境界がハイライトされます。

プロンプト表示：図形を選択:

- 削除したい境界をクリックします。
- 右クリックかEnterを押して終了します。

5 (オプション)**編集**タブで、**全てのハッチングを背面へ変更**ボタンをクリックします。

図面上のすべてのハッチングは、他の図形の背後に移動します。

6 (オプション)**編集**タブで、**マッチ**ボタンをクリックします。

プロンプト表示：プロパティーのコピー先の図形を選択、または [設定 (S)/選択オプション (?)]:

- プロパティをコピーするハッチング図形を選択します。
- 右クリックかEnterを押して終了します。

7 (オプション)**作成**タブで、**境界を生成**ボタンをクリックします。

ハッチングの境界が生成されます。

6.34 ハッチングとグラデーションのシステム変数

システム変数は、**設定**ダイアログボックスを使用して設定できます。

変数	タイトル	説明
MEASUREINIT	計測初期値	新規図面の作図単位をインチまたはミリで設定します(さらに、どちらのハッチングパターン、線種ファイルを使用するかをコントロールします。インチ系のときはANSI、メートル系のときはISO)。
MEASUREMENT	計測値	カレント図面の作図単位をインチ系またはミリ系で指定します。MEASUREMENTは、ANSIまたはISOハッチングパターンと使用されている線種ファイルをコントロールします。
OSOPTIONS	図形スナップ オプション	特定の図形種類の図形スナップを抑制します。 設定値は、選択したすべてのオプションの値を合計したビットコードとして保存されます。
PICKSTYLE	指示スタイル	グループ選択と関連付けハッチング選択を指定します。 PICKSTYLEの値は、選択したすべてのオプションの値を合計したビットコードとして保存されます。 **注**：Ctrl+Hを押すと、PICKSTYLEが0または1の場合は0と1が切り替わり、PICKSTYLEが2または3の場合は2と3が切り替わります。
PREVIEWFILTER	選択プレビューフィルター	どの図形タイプを選択プレビューから除外するかを制御します。 設定値は、選択したすべてのオプションの値を合計したビットコードとして保存されます。
FILLMODE	塗り潰しモード	マルチライン、塗り潰し線、ソリッド、ハッチング(塗り潰しを含む)、および、幅付きポリラインを塗り潰し表示するかどうかを決定します。
GFANG	グラデーション塗りつぶし角度	グラデーション塗りつぶし角度を決定します。
GFCLR1	グラデーション塗りつぶし規定色	グラデーション塗りつぶしの最初の色
GFCLR2	グラデーション塗りつぶしの二番目の色	グラデーション塗りつぶしの二番目の色
GFCLRLUM	グラデーション塗りつぶしの濃淡レベル	一色で塗りつぶす際の色の濃淡をコントロールします。

変数	タイトル	説明
GFCLRSTATE	グラデーション塗りつぶしの色数	グラデーション塗りつぶしの色数(一色または二色)を定義します。
GFNAME	グラデーション塗りつぶしの名前	グラデーション塗りつぶしのパターンを決定します。
GFSHIFT	グラデーション塗りつぶしシフト	グラデーション塗りつぶしのパターンを中央に配置するか、上に移動して左に移動するかを指定します。
HPANG	パターン角度	ハッチングパターンの角度を保存します。
HPANNOTATIVE	異尺度対応ハッチングパターン	新しいハッチングパターンが異尺度対応かどうかをコントロールします。
HPASSOC	ハッチングパターンの連携	新しいハッチングパターンとグラデーション塗り潰しを連携させるかどうかを指定します。 連携させた場合、ハッチングパターンとグラデーション塗り潰しの境界が変化すると、境界に合わせて自動的に更新されます。
HPBACKGROUNDCOLOR	ハッチング背景のデフォルト色	ハッチングの背景色です。 そのままの場合は'.'を入力
HPBOUNDRETAIN	ハッチングパターンの境界を保持	HATCH/BHATCHコマンドが境界図形を作成するかどうかを決定します。
HPBOUND	パターン領域	BATCHとBOUNDARYで作成された図形タイプ(リージョンまたはポリライン)を決定します
HPCOLOR	ハッチングのデフォルト色	ハッチングの前景色です。 CECOLOR で定義されている現在の色を使用するには、'.' と入力します。
HPDOUBLE	クロスハッチングパターン	ユーザ定義パターンで、単一のハッチングを作成するのか、クロスハッチングを作成するのかをコントロールします。
HPDRAWORDER	ハッチングパターンの表示順序	ハッチングとグラデーションの表示順序を指定します。ハッチングとグラデーションダイアログで設定した表示順序は、ここに保存されます。

変数	タイトル	説明
HPGAPTOL	ハッチングパターンのギャップ許容差	BHATCHまたはBOUNDARYの境界を生成するとき、図形が完全に閉じられていない場合に使用される許容値を定義します。ハッチングとグラデーションダイアログの許容値設定は、ここに保存されます。 デフォルト値は0です。現在のビューサイズに基づいて、アプリケーションによって許容値が設定されます。拡大すると、境界検出に失敗します。ズームアウトして輪郭が「閉じた」ように見えると、境界が検出されます。0より大きい値は、作図単位の最大ギャップを定義します。 0～5000までの値が指定可能です。
HPISLANDDETECTION	ハッチングパターンのアイランド検出	ハッチング境界内のアイランドの処理を指定します。
HPLAYER	新しいハッチングのデフォルト画層	新しいハッチングのデフォルト画層を指定します。
HPLINETYPE	ハッチングパターンの線種	ハッチングオブジェクト内の連続していない線種の表示をコントロールします。オフ(0、既定値)の場合、線種は連続して表示され、割り当てられた線種は無視されます。オン(1)の場合、連続していない線種が適用されます。(推奨しません。パフォーマンスが低下します。代わりに、連続していない線種を持つ定義済みのハッチングパターンを選択できます)。
HPMAXAREAS	低密度ハッチングの塗り潰しモード	低密度ハッチングの塗り潰し方法をコントロールします。
HPMAXCONTOURPOINTS	ハッチング輪郭線上の点の最大数	ハッチング図形に含まれる、レンダリングできる輪郭(アウトライン)上の点の最大数を指定します。ポイント数が指定された値を超えると、ハッチングはレンダリングされません。 0~10000000の範囲で指定できます。この変数のデフォルト値は100000です。0に設定すると、チェックが無効になります。つまり、変数は使用されません。
HPNAME	パターン名	デフォルトのハッチングパターン名を保存します。
HPOBJWARNING	ハッチングパターン図形の警告	多数を選択すると処理時間がかかるハッチング境界の数について、警告を表示する選択数を指定します。 0~10000000までの値が指定可能です。この変数のデフォルト値は10000です。

変数	タイトル	説明
HPORIGIN	パターン原点	カレントUCSに連携した新しいハッチングの基点を保存します。
HPSCALE	パターン尺度	ハッチングパターンの尺度係数を保存します。
HPSEPARATE	パターン分割	複数の境界が選択されたとき、ハッチングコマンドが、単一ハッチングパターンを作成するか、分割ハッチングパターンを作成するかを決定します。
HPSPACE	パターン作画間隔	ユーザ定義ハッチングパターンのハッチングライン間隔を設定します。
HPTRANSPARENCY	新しいハッチングのデフォルト透過性	新しいハッチングのデフォルトの透過性を指定します。 新しいハッチングのデフォルト透明度レベルを指定します。以下の値が受け入れられます： '.'(デフォルト「カレントを使用」)、ByLayer、ByBlock、0(完全に不透明)、1～90(透明度のパーセンテージ)
MAXHATCH	最大のハッチング破線	ハッチングパターン内の破線の最大数を指定します。破線の最大数を超過するハッチングは作成できません。 100～10000000までの値が指定可能です。この変数のデフォルト値は100000です。
MIRRHATCH	ハッチングパターンをミラーリング	MIRRORコマンドがハッチングパターンをミラーリングするかどうかを決定します。
SRCHPATH	ファイル サーチパス	カレントフォルダーに存在しない文字フォント、カスタムファイル、プラグイン、入力図面、線種、ハッチングパターンを検索するフォルダーを指定します。検索パスは、セミコロン(;)で区切られます。
PdfImportVectorGeometry	ベクタージオメトリ	ベクタージオメトリを無視または読み込みます。PDFジオメトリデータタイプには、線形パス、ベジェ曲線、ポリラインとして読み込まれる塗りつぶされたエリア、2Dソリッドまたは塗りつぶしソリッドハッチングがあります。公差内では、円弧、円、楕円に似た曲線はそのまま補間されます。パターン付きハッチングは、分割された別個の図形として読み込まれます。

変数	タイトル	説明
PdfImportSolidFills	塗りつぶしのソリッド	塗り潰し領域を無視するか、または読み込みます。これらの塗りつぶし領域が最初にAutoCAD®からPDF形式に書き出された場合、ソリッド領域にはソリッド塗りつぶしハッチング、2Dソリッド、ワイプアウトオブジェクト、幅の広いポリライン、三角形の矢印が含まれます。 **注**：上や下にある図形が見やすいように、塗り潰されたハッチングに50％の透明度が割り当てられています。
PdfImportConvertSolidsToHatches	ソリッドの塗りつぶしをハッチングに変換	2Dソリッドオブジェクトをソリッド塗りつぶしハッチングに変換します。

7. 3Dモデリング

7.1 ダイレクトモデリング概要

ダイレクトモデリングは、画面上での彫刻に似ています。彫刻家が粘土や石、木の塊から始めるように、基本となるボリュームから始めて、幾何形状を追加、削除、変形させることで、さらに詳細なボリュームを作ります。すべての操作は動的に実行され、寸法を直感的に定義するか、値を指定して定義するかを決めます。ヒストリーベースのモデリングとは異なり、フィーチャーを作成する順番は重要ではありません。すべての操作は対話型モードで行われ、マウスの動きで定義されるユーザーの入力に応じて、操作の途中結果が動的に表示されます。

BricsCADが提供するダイレクト編集機能の大きな特徴は、設計意図を保持できることです。面とエッジに付与した3D寸法拘束(**距離**、**半径**、**角度**)により、ソリッドモデルを完全にパラメトリックに制御することができます。パラメータを変更するだけで、構成や尺度が異なるモデルを作成することができます。幾何拘束(**一致**、**接線**、**平行**など)を使うと、パラメータを変更したときにモデル形状にどのように影響するかを定義することができます。ただし、**設計意図**のオプション設定により、ほとんどの幾何拘束は自動的に認識されるので、すべてを手動で指定する必要はありません。

ダイレクト編集機能のもう一つの特徴は、クワッドカーソルメニューから簡単に操作できることです。このツールは、現在選択されている、またはプレビューされている図形または選択セットに関連する操作を表示します。同時に、クワッドカーソルメニューからは、コピー、和や差のブーリアン演算など、基本的なソリッド編集が行えます。

ダイレクトモデリング操作は、BricsCADで作成されたモデル、読み込まれたモデル、すべてのACISソリッド図形に適用されます。別途ライセンスのCommunicator for BricsCAD®がインストールされている場合、IMPORTコマンドは、業界標準のフォーマットと独自のフォーマットの両方を含む主要な3Dモデルのフォーマットに対応しています。

DELOBJ(図形の消去)システム変数の数値に従って、定義図形は保持されるか消去される、あるいはユーザーに対して元の図形を保持するか消去するよう指示されます。(下表を参照)

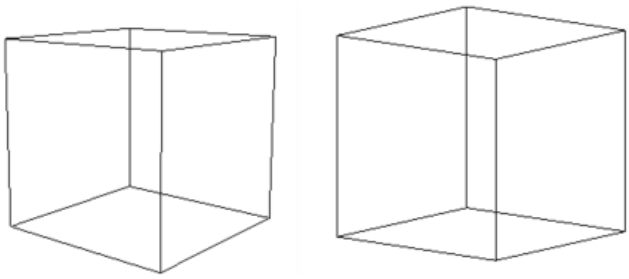
値	結果
0	定義図形を保持
1	プロファイル図形を削除し、パスとガイドカーブを保持する
2	すべての定義図形を削除
-1	プロファイル図形の削除するプロンプトを表示させ、パスとガイドカーブを保持する
-2	すべての定義図形の削除するプロンプトを表示させる

7.2 3Dナビゲート

3Dモデル内を移動するとき、空間内のモデルの位置は一定のままです。変化しているのは、モデルの現在のビュー(視点)です。何も選択されていない状態では、**プロパティ**パネルに現在のビューのプロパティが表示されます。**カメラ**(X,Y,Z)は、モデルを見ているユーザーの位置を表しています。カメラのレンズを通してモデルを見ているようにしてください。**ターゲット**(X,Y,Z)は、カメラレンズが向けられている場所です。モデル内を移動すると、それに応じて**カメラ**と**ターゲット**の座標が適宜更新されます。こ

れらの座標は**プロパティ**パネルで読み取り専用になっています。他にも編集可能な**ビュー**プロパティがあります。**パース**は、ナビゲーションで知っておくべき最も重要なコントロールです。

現在のビューの**パースペクティブ**を**オン**または**オフ**に設定できます。**オン** に設定すると、ビューにはビジュアルパースモード(左)が表示されます。**オフ** に設定すると、平行透視モード(右)が表示されます。



7.2.1 パースペクティブプロパティを制御する

以下のいずれかの操作を行います：

- **プロパティ**パネルで**ビュー/パース**プロパティを選択します。
- **Look From**ウィジェットを右クリックし、コンテキストメニューから **パース**を選択します。

7.2.2 マウスとキーボードのナビゲートオプション

3Dモデルをナビゲートする最も簡単で一般的な方法の1つは、マウスとキーボードを使用することです。Shiftとマウスの中ボタンを押しながらマウスを動かすだけで、モデルを回転させることができます。カーソルがオービットアイコンに変わり、オービットモードであることを示します。

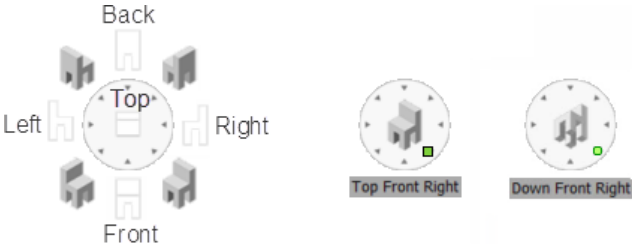
2D CADの経験からお馴染みのマウスとキーボードのナビゲーション方法は他にもたくさんあります。これらの方法のほとんどは、3Dモデリングにも役立ちます。

- ズームイン/ズームアウト – マウスホイールを回します。パースモードでは、モデルの中に完全にズームインし、その中を歩き回ることができます。アイソメモードでは、非常に近くまでズームインすることはできますが、内部に入ることはできません。
- 範囲ズーム – マウスホイールをダブルクリックします。
- 画面移動 – マウスのホイールもしくは中ボタンを押します。

「マウスとキーボードを使ったビュー操作」の記事では、その一覧を紹介しています。

7.2.3 Look Fromナビゲートツール

Look From ツールは、**作図領域**の右上隅に表示されます。**Look From** ツールのさまざまな場所をクリックすると、標準的な視点からのビューが表示されます。デフォルトでは、**上**、**左**、**右**、**正面**、**背面**、**左上背面**、**右上背面**、**左上正面**、**右上正面**が表示可能です。視点にカーソルを合わせると、中央に該当するアイコンが表示され、その下にツールチップが表示されます。Ctrlを押すと、**下面**ビューポイントにも同様のオプションが表示されます。



右クリックメニューでは、追加のコントロールや設定にアクセスできます。

コンテキストメニューの**Look From設定...**を選択すると、**設定**ダイアログボックスが開き、**Look From**関連のシステム変数を編集することができます。

7.3 ダイレクトモデリングコマンド

BricsCADのダイレクトモデリングコマンドは、ソリッドとサーフェスの両方のジオメトリを作成できます。ダイレクトモデリングコマンドと他のコマンドを区別するために、すべてのダイレクトモデリングコマンドには接頭辞**DM**が付きます。

ダイレクトモデリングコマンドは、Pro、BIM、Mechanical、Ultimateの各ライセンスレベルで利用可能です。ジオメトリを作成するコマンドは、DMPUSHPULL、DMCHAMFER、DMFILLETなどの基本的な修正コマンドとともに、BricsCAD Shapeにも用意されています。

7.3.1 作成コマンド

EXTRUDE：閉じた2D図形、2Dソリッドの面、リージョンまたは閉じた境界を押し出して 3Dソリッドまたは3Dサーフェスを作成します。オプションで、ソリッドにボリュームを追加したり、ソリッドからボリュームを削除したりすることができます。

REVOLVE：開いた/閉じた2D図形やリージョンを軸に沿って回転させることで、3Dソリッドやサーフェスを作成します。

DMTHICKEN：サーフェス、サーフェスの面、3Dソリッドの面、3Dソリッドの面、リージョン、ワイヤー図形を厚み付け(厚みを追加)して3Dソリッドを作成します。

DMCOPYFACES：フィーチャー(穴、リブ、突起部)を形成する3Dソリッド面を同一または別の3Dソリッドの新しい位置へコピーします。

DMSTITCH：水密領域の境界を形成するリージョンとサーフェス図形のセットを3Dソリッドに変換します。

7.3.2 修正コマンド

DMCHAMFER：シャープエッジを共有する隣接面との間で等距離の面取りを作成します。

DMDEFORMCURVE：3Dソリッド/サーフェスの1つまたは繋がっている複数の面のエッジを所定の曲線に置換することで、変形させます。

DMDEFORMMOVE：3Dソリッド/サーフェスのエッジを移動・回転させて1つまたは複数の繋がっている面を変形させます。

DMDEFORMPOINT：リージョン、3Dソリッドまたはサーフェスの1つまたは繋がっている複数の面にある1点を任意の3D方向に動かし、変形させます。選択した面は、可能な限り滑らかに変形されます。

DMFILLET：シャープエッジを共有する隣接する面の間に滑らかなフィレットを作成します。

DMPUSHPULL：面を移動/オフセットすることで、ソリッドにボリュームを追加/削除します。

DMROTATE：ソリッド、面、エッジ、またはソリッドの頂点を軸周りに回転させます。

DMTWIST：軸周りの2点によって定義される部分をツイストさせ、3Dソリッド、サーフェス、リージョンを編集します。

7.3.3 ヘルパーコマンド:

DMAUDIT：ACISカーネルでサポートされている3D幾何形状の不整合を修復します(3Dソリッド、サーフェス)。

DMAUDITALL：外部参照として挿入された図面のACISカーネル(3Dソリッド、サーフェス)でサポートされている3Dジオメトリの不整合を修復します。

DMGROUP：グループフィーチャーを作成します。作成されたフィーチャーには、3Dソリッドやサーフェスの面やエッジの集まりであることを示す名前が付きます。

DMSELECT：幾何形状のプロパティに基き、3Dソリッドまたはサーフェスのエッジや面を選択します。

DMSELECTEDGES：面やソリッドのエッジを選択します。

DMSIMPLIFY：3Dソリッド図形の形状と位相を簡略化します。不要なエッジや頂点を削除したり、継ぎ目のエッジをマージし、可能な場合はユーザーが指定した許容範囲内で、面やエッジの形状を解析サーフェスや曲線に置換します。

ダイレクトモデリングのコマンドは

- カーソルが図形やサブ図形の上にあるとき、または選択セットが存在するときに、クワッドカーソルメニューの**モデル**タブで使用可能。
- **ダイレクトモデリング**メニューで使用可能。
- **ダイレクトモデリング**、**フィレット**、**面取り**、**変形**ツールバーで使用可能。
- **ホーム/ダイレクトモデリング**リボンパネルで使用可能(**モデリング**ワークスペース)。

アイコン	コマンド	適用先
		3Dソリッドのすべての面。
		ソリッドまたはサーフェスの円柱面、球面、円錐面、ドーナツ面。 ソリッドまたはサーフェスの線形/円形のエッジ。 すべての3Dソリッド、サーフェス、他の図形。
		ソリッドまたはサーフェスの平面、円柱面、球面、円錐面、ドーナツ面。 すべての3Dソリッド、サーフェス、他の図形。
		3Dソリッド、サーフェスとそれらの面。
		サーフェス。
		3Dソリッドとサーフェス。
		3Dソリッドとサーフェスの平面。 このツールは、面オプションを選択した状態でUCSコマンドを起動します。初期設定では、面オプションが選択されています。 **注**：ダイナミックUCS機能がONの場合、UCSがカーソル下のソリッド面に自動的に整列し、それに合わせてUCSアイコンが変化します。
	ソリッドモード	閉じた2D図形と検出された閉じた境界線。 SELECTIONMODESシステム変数の**検出された境界を選択**オプションがオンの場合、現在のUCSのXY平面内の2D線形図形で囲まれた境界が自動的に検出されます。 3Dソリッドとサーフェスの平面。 閉じた2D図形とソリッドの平面上で検出された閉じた境界線。

アイコン	コマンド	適用先
	ソリッドモード	閉じた2D図形と検出された閉じた境界線。 ソリッドとサーフェスの平面。 閉じた2D図形とソリッドの平面上で検出された閉じた境界線。
	面を抽出	3Dソリッドの面とサーフェス。
		3Dソリッド面のセット。
		3Dソリッドとサーフェスの面。 サーフェス。 線形要素：線分、ポリライン、円、楕円、円弧、らせん、スプライン。
	一定半径モード	3Dソリッドまたはサーフェスの鋭いエッジ。
	可変半径モード	3Dソリッドまたはサーフェスの鋭いエッジ。
		3Dソリッドまたはサーフェスの鋭いエッジ。
	アドバンスドモード	3Dソリッドまたはサーフェスの鋭いエッジ。
		ソリッドまたはサーフェスの面。 3Dソリッドとサーフェス全体。 サーフェスのフリーエッジ（隣接面が1つだけのサーフェスエッジを**フリー**エッジと呼びます） 同一平面上の面に挟まれたエッジ。
	サーフェスモード	2D線形図形、3Dソリッドやサーフェスのエッジ。
	サーフェスモード	2D線形図形、3Dソリッドやサーフェスのエッジ。
		3Dソリッドまたはサーフェスの面。
		3Dソリッドまたはサーフェスのエッジ。
		3Dソリッドまたはサーフェスのエッジ。
		3Dソリッド、サーフェス、リージョン。

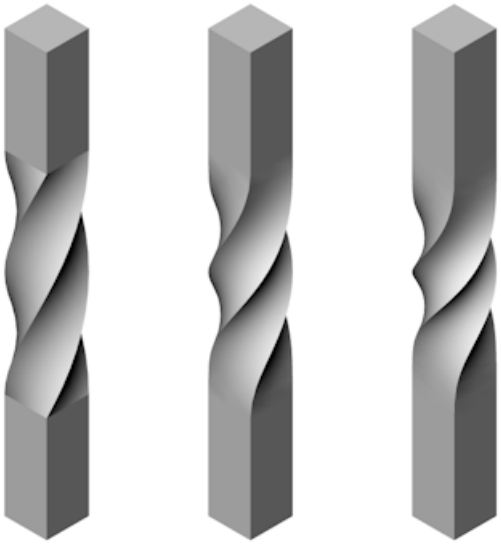
7.4 ダイレクトモデリング操作

7.4.1 座標系の制御

図形は現在の座標系(UCS)のXY平面上に作成されるので、UCSと3Dソリッドの面を合わせる必要があります。ここでは2つの選択肢があります。

- **UCSをセット**ツール( )を選択すると、UCS コマンドが起動します。初期設定では、**面**オプションが選択されています。
- **ステータスバー**の**DUCS**欄をクリックして、ダイナミックUCS機能のオンとオフを切り替えます。オンの場合、コマンドの実行時にUCSがカーソルの下のソリッド面に自動的に位置合わせされ、それに応じてUCSアイコンが変化します。隠れている面を選択するには、Tabキーを押します。Shiftキーを押して、UCSを一時的にロックします。これにより、選択された図形または面の外側で作業できます。再度、Shiftキーを押すとロックが解除されます。

7.4.2 幾何形状の選択

- 隠れているジオメトリを選択するには、Tabを押します。
- SELECTIONMODESシステム変数は、どのサブ図形を強調表示するか(エッジ、面、および/または 閉じた境界)を制御します。Ctrlを押しながらSELECTIONMODESを無効にし、カーソルの下のサブ図形を選択します。
- 窓選択：3Dソリッドおよびサーフェスの面またはエッジを選択するには、Ctrl キーを押してオプションを切り替えます。カーソルの横のアイコンは、何が選択されるかを示します。
- DMSELECTコマンドを使用すると、幾何学的および位相的プロパティに基づいてエッジと面を選択できます。
  - 特定の長さのエッジ
  - 凹凸を形成するエッジ
  - つながっている面セットの境界を表すエッジループ
  - 特定領域の複数の面
  - スムーズにつながっている面(G1 - 正接面、またはG2 - 曲率連続)
  - 

    G0：連続性なし(左)、G1：正接面(中央)、G2：曲率連続(右)
  - 特定の半径のフィレット

- 特定の半径の円柱凸形状
- 突出部や窪みの特徴：ポケットや押し出し、リブなど

特定の長さ、面積、または半径の値は、選択したエッジ/面から取得できます。

7.4.3 寸法値を制御するための面の移動

DMPUSHPULLコマンドを使用すると、ダイナミック入力が表示されます。

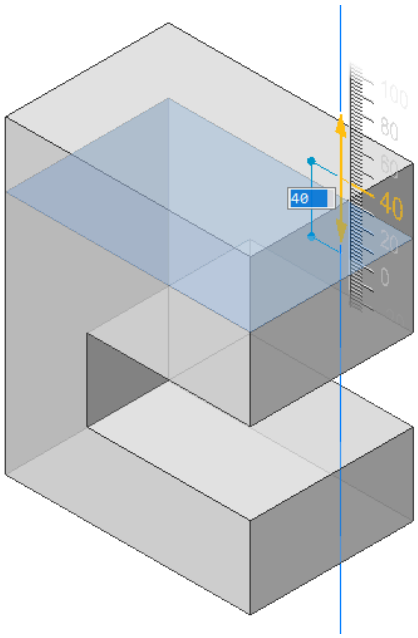
クワッドと**ダイナミック入力**がオンになっていることを確認します。

1 移動する面にカーソルを合わせます。

1 面がハイライト表示されます。

2 クワッドの**モデル**タブで**プッシュ/プル**( )を選択します。

選択された面はカーソルに合わせて移動し、ダイナミック入力フィールドに、ルーラーとともに相対距離が表示されます。

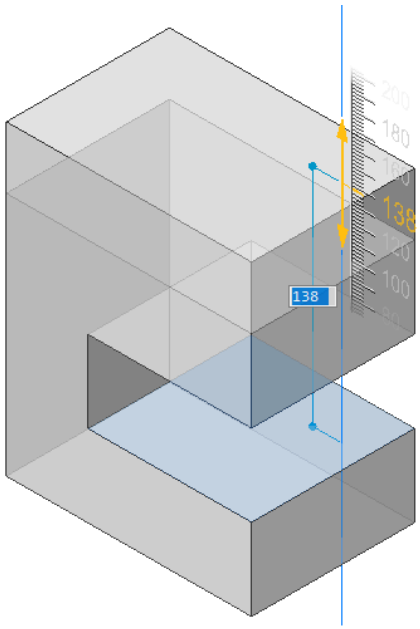


ルーラーにカーソルを置くと、一定の間隔で面が動きます。ズームイン/ズームアウトで間隔を増減します。

カーソルがルーラーの外側にあるとき、面は自由に動きます。

3 (オプション)Tabを繰り返し押して、選択した面(左)または底面(右)に平行な内面からの距離を確認します。

4



Shiftを押したままTabを押すと、参照面の表示順序が逆になります。

5 以下のいずれかを実行します。

- ダイナミック入力フィールドに値を入力し、Enterを押します。
- ルーラーを使用します。目的の値が表示されたらクリックします。

7.4.4 穴の作成

方法1：

1 減算ソリッドを作成します。

2 SUBTRACTコマンドを使用します。

3 DELETETOOLシステム変数の値によって、減算ソリッドは削除されるか保持されるかが決まります。

方法2：

1 3Dソリッド面に開口部の輪郭を作成します。

2 輪郭の上にカーソルを置き、クワッドの**モデル**タブで**ソリッド押し出し**()(DMEXTRUDEコマンド)を選択します。

3 カーソルをソリッド内側に移動させ、開口部を作成します。

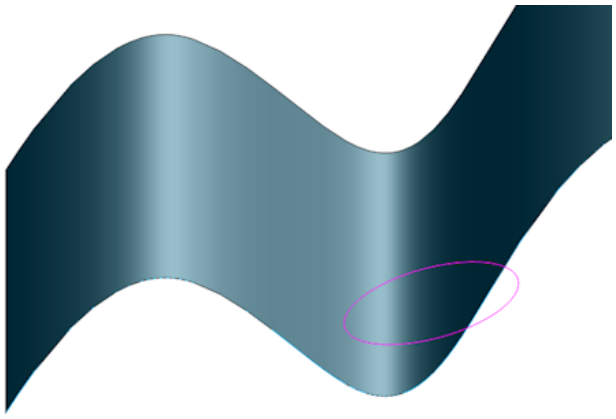
4 以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- 数値を入力します。

サーフェスに穴を作成

1 2Dの閉じた図形を作成します。例：楕円

1

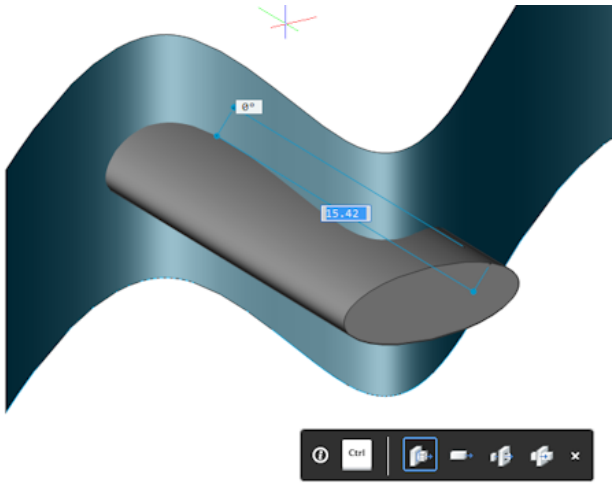


2 閉じた2D図形にカーソルを置き、クワッドの**モデル**タブで**ソリッド押し出し**()(DMEXTRUDEコマンド)を選択します。

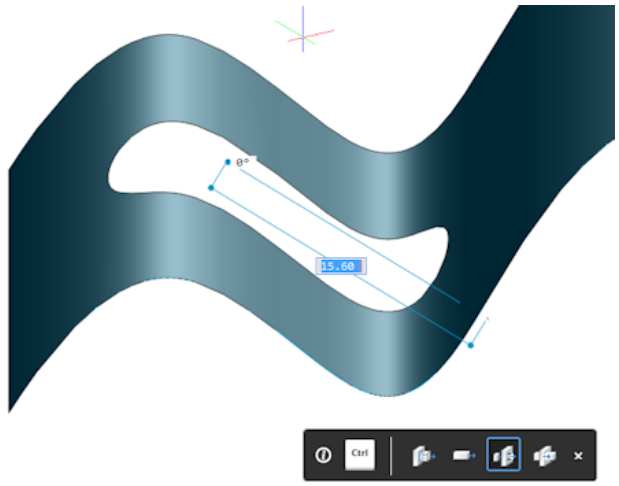
3 サーフェス方向に2D図形を押し出します。

4 デフォルトの押し出し方向は、2D図形の平面に垂直です。

ホットキーアシスタント(HKA)が画面の下部に表示されます。



5 CTRLキーを2回押して、DMEXTRUDEコマンドの **減算**オプションを選択します。



6 クリックして開口部を作成します。

7.4.5 フィーチャーの削除

DMSELECTコマンドの**フィーチャー**オプションを使うと、穴、くぼみ、突起のすべての面を簡単に選択できます。

メカニカルワークスペースでは、**モデリング**リボンタブの**選択**パネルとクワッドの**選択**タブで、**凸**ツールと**凹**ツールを使用できます。

これらのツールは**板金**ツールボックスにあります。**カスタマイズ**ダイアログボックスの**利用可能なツール**を参照してください。

凹くぼみ(穴やポケット)または凸突起(押し出しやリブ)の削除

1 **モデリング**リボンタブの**選択**パネル、またはクワッドの**選択**コマンドグループから、**凸**()ツールまたは**凹**()ツールをクリックします。

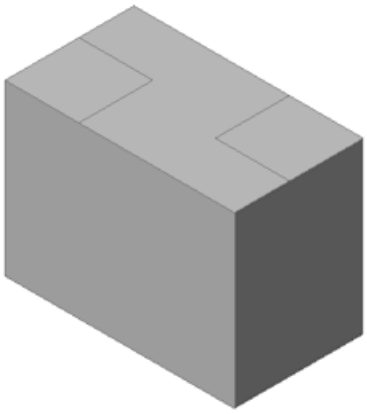
2 フィーチャーの1つまたは複数の面を選択します。

3 フィーチャの隣接するすべての面が検出されます。

4 **削除**()ツールボタンをクリックします。

7.4.6 同一面間のエッジの削除

DMPUSHPULLコマンドなどで2つ以上の面を同一面にした場合、DMSIMPLIFYコマンドを使用して共有エッジを削除する必要がある場合があります。

	
凹んだ2つの面	凹んだ2つの面を上の面に移動させて、3つの同一平面上の面を作成

1 DMSIMPLIFYコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：簡略化する図形を選択、または [モデル全体 (E)/設定 (SE)/選択オプション (?)]<モデル全体(E)>

2 ソリッドを選択し、Enterを押します。

3 エッジが削除されます。

7.4.7 フィーチャーのコピー

DMCOPYFACESコマンドを使用すると、凹形状(穴、溝、ポケット)、または凸形状(押し出し、リブ)など、3Dソリッドの1つまたは複数のフィーチャーを3Dソリッド内の新しい場所または別の3Dソリッドにコピーすることができます。

ダイナミックUCSが有効になっていることを確認してください。

1 フィーチャー全体のすべての面を選択します。

2 **面をコピー**()ツールをクリックします。
- リボン：**モデリング | 編集 | 面をコピー**。
- **ダイレクトモデリング**ツールバー。
- メニューバー：**モデル | ダイレクトモデリング | 面をコピー**
- クワッド：**モデル**タブ

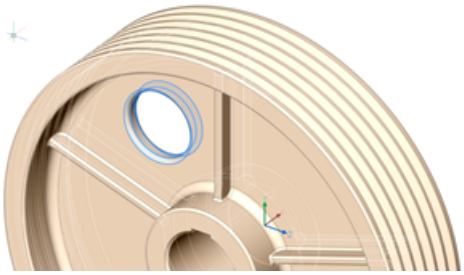
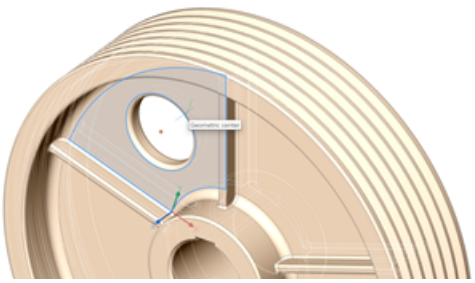
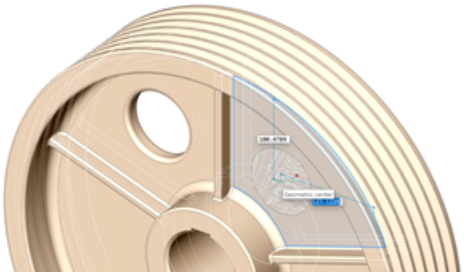
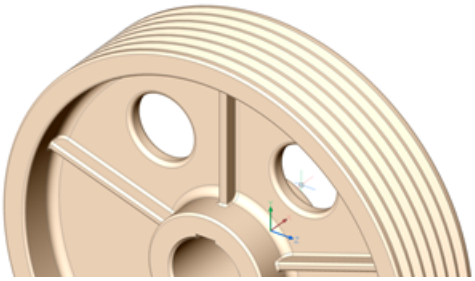
3 基点を指示します。

4 **プロンプト表示**: 挿入基点を選択、または [回転(R)/連続(U)/モード(MO)]:

5 (オプション)：
- **回転**オプションを選択し、UCSのZ軸を中心に面を回転させます。
- **連続**オプションを選択し、選択したフィーチャーを複数コピーします。

6 挿入基点を指定します。

7 フィーチャーは、ダイナミックUCSを使用して基点から挿入点にコピーされます。

	
フィーチャー全体の面を選択	基点を指定
	
挿入基点を指定	フィーチャーのコピーを作成

7.4.8 可変形状モデリング

変形ツールバーのツールを使用して、3Dソリッドまたはサーフェス上の隣接する面のセットを変形し、複雑な可変形状を作成します。

可変形状については以下となります。

- 外側の境界(選択した面の1つだけに隣接するエッジ)は変形されません。
- 内側の境界(選択した面の2つに隣接するエッジ)は面と一緒に変形されます。
- 変形を行った面間の当初の連続性(G1 – 正接面、または G2 – 曲率連続性)は、変形しても維持されます。

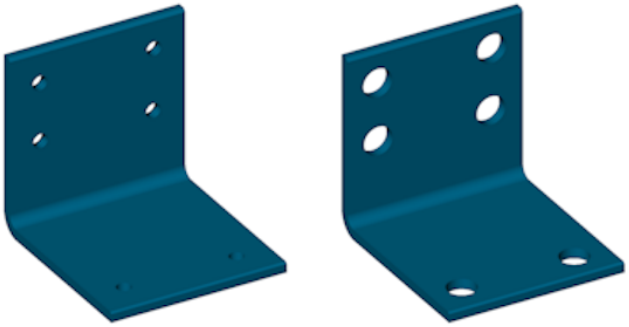
ツイスト変形の場合、図形の変形部分と固定部分の間の連続性を指定できます。

変形はいくつかの方法で定義できます。

- DMTWISTコマンド：図形全体または一部をツイストします。
- DMDEFORMPOINTコマンド：面上の点を3D空間の任意の方向に移動します。
- DMDEFORMMOVEコマンド：1つまたは複数のエッジを移動または回転します。
- DMDEFORMCURVEコマンド：エッジを特定の3D曲線に置き換えます。

7.5 設計意図認識

ダイレクトモデリング操作により、3Dソリッドモデルを簡単に変更できます。ソリッドの一つのフェースが特定の操作で変更された時、他のフェースもモデルの設計意図と幾何的有効性を保持するため、これに従い変更されます。例えば、同じ半径の多数の穴を持つモデルと想定します。円筒状のフェースの半径をプッシュ/プル操作で、もしくは半径拘束の値を変更することで変更した場合、同じ直径を持つ他のフェースも認識され、半径を同期させるため自動的に変更されます。



等しい半径の認識の他に、BricsCADはソリッドのサーフェス間の関係を自動で認識し、ダイレクトモデリング操作の際にこれらを保持します。

設計意図の認識を定義付けるため、**設計意図**ツールバー上にあるボタンをクリックします。押されたボタンは機能が選択されていることを示し、押されていないボタンは機能がアクティブでないことを示しています。

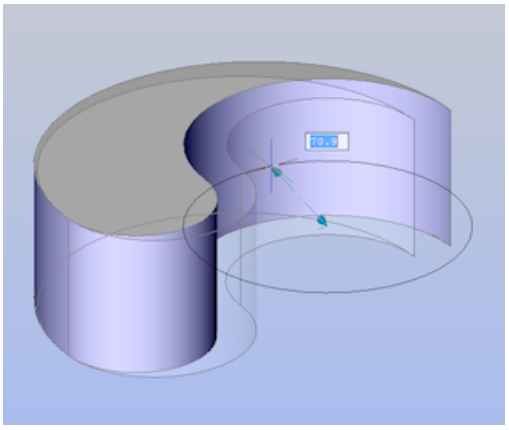
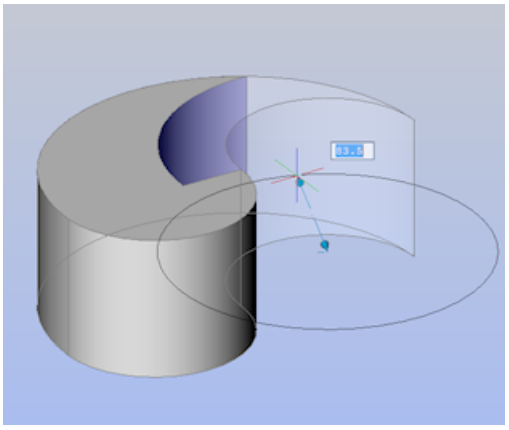
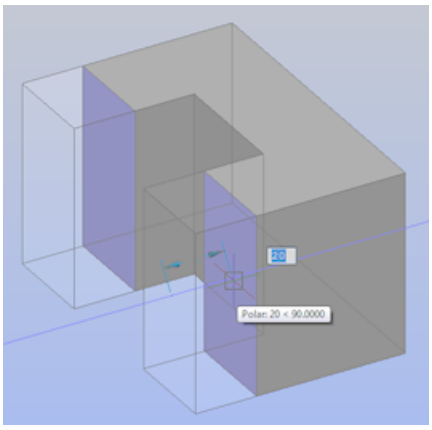
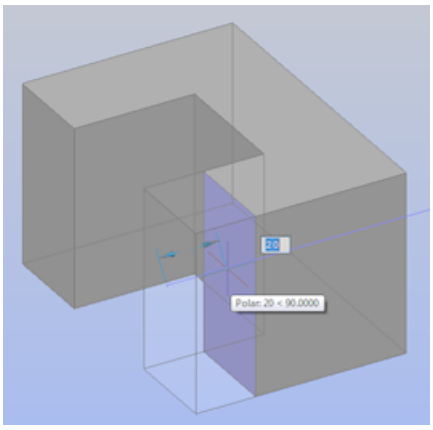
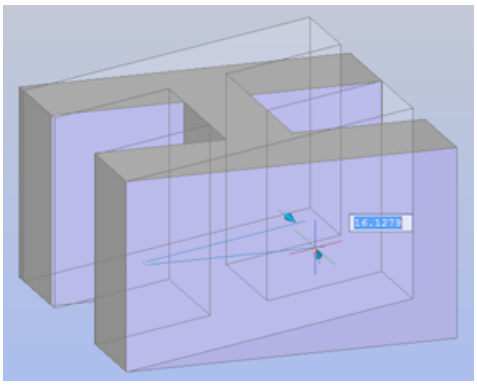
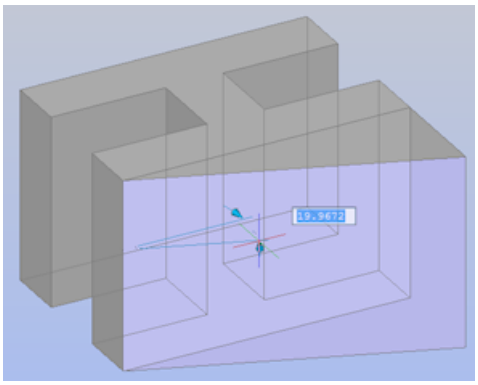
- サーフェスを接合(面、円柱、円錐)()
- 面同士を一致()
- 面同士を平行()
- 面同士を直交()
- 平面に円柱を直交()
- サーフェス同士を同軸(円柱、円錐)()
- 同一半径値のサーフェス(円柱、球)()
- 4つ以上の面間の頂点()
- 一致する面間のエッジ()
- オフ/オン切替()

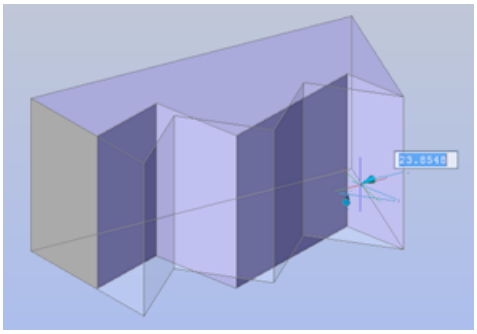
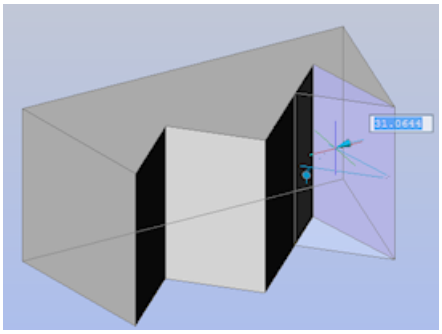
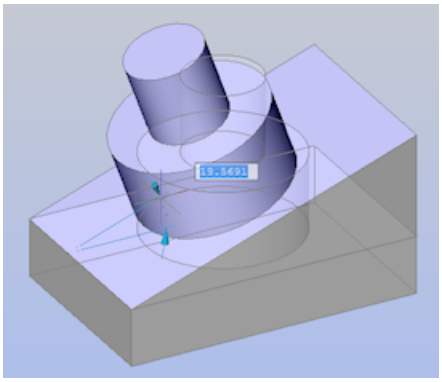
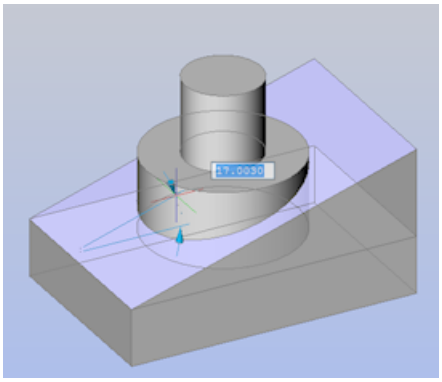
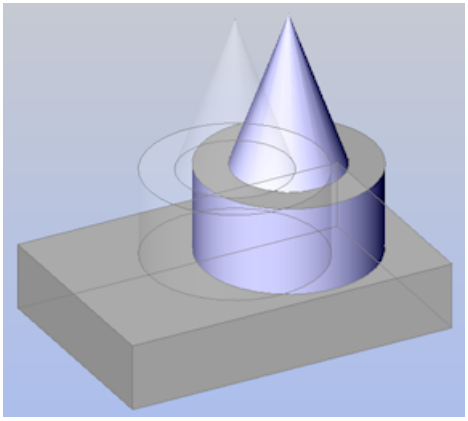
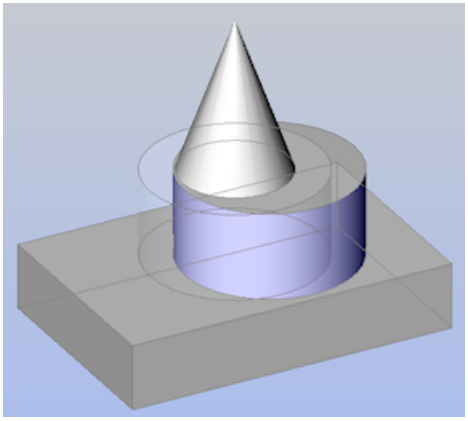
設計意図オプションは、**設定**ダイアログボックスでDMRECOGNIZEシステム変数を編集して設定することもできます。

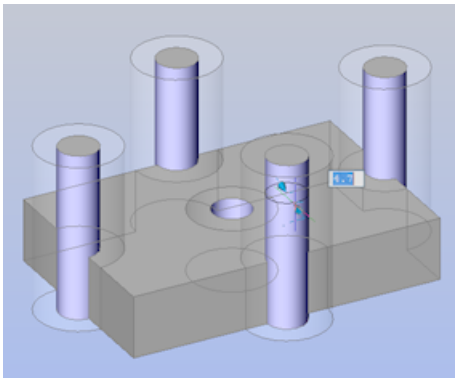
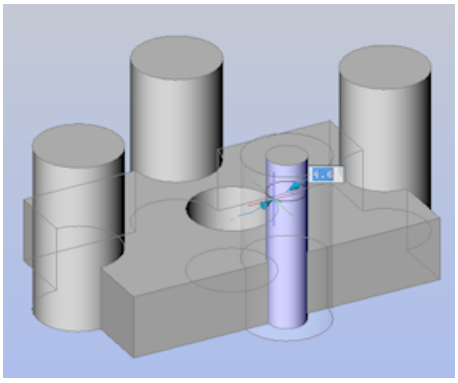
3D拘束ツールバーの**オプション**ツールボタン()をクリックし、**3D幾何拘束の自動認識**を設定します。それに伴い、**設計意図**ツールバーのツールボタンの状態(押された状態、押されていない状態)が調整されます。

注：ダイレクトモデリングコマンドでソリッドモデルを変更する場合、ユーザーにより明示的に定義された3D拘束の制約を受けます。これらの拘束は自動的に認識されたものよりも高い優先度を持ち、ソリッドモデルの変更管理が容易になります。

以下の例では、3D幾何形状が自動で拘束認識されるかどうかの動作の違いを表示しています。

	
「サーフェス接合」が認識される例()	「サーフェス接合」が認識されない例()
	
「面同士を一致」が認識される例()	「面同士を一致」が認識されない例()
	
「面同士を平行」が認識される例()	「面同士を平行」が認識されない例()

	
「面同士を直交」が認識される例()	「面同士を直交」が認識されない例()
	
「円柱を直交」が認識される例()	「円柱を直交」が認識されない例()
	
「サーフェス同士を同軸」が認識される例()	「サーフェス同士を同軸」が認識されない例()

	
「同一半径値」が認識される例( )	「同一半径値」が認識されない例( )

7.6 切断処理

3Dソリッドの切断面をSECTIONコマンドで作成します。リージョンの図形として作成されます。

SECTIONPLANEコマンドは3Dソリッド、サーフェス、メッシュの断面図形を作成します。

LIVESECTIONコマンドは切断面の**ライブ切断**プロパティの表示のオン/オフを切り替えます

SECTIONPLANESETTINGSコマンドは、**図面エクスプローラ - 断面**ダイアログボックスで断面図形のプロパティを定義します。

SECTIONPLANETOBLOCKコマンドは、選択した断面を2D断面/立面ブロックまたは3D切取り断面ブロックに保存します。

注：BIMのライセンスレベルを使用する場合

- BIMSECTIONコマンドは、**BIM断面**図形を作成します。これはタイプ(平面、断面、立面)や2D断面結果の初期尺度などの拡張プロパティを持つ断面図形です。
- BIMIFYコマンドでは、断面図形にBIMプロパティを割り当てることができます。

7.6.1 ライブ断面とクリップ表示の違い

どちらの状態でも、すべての図面コンテンツが断面化され、切り取られたパーツは表示されなくなります。

ライブ断面：図面内の図形は一時的に変更されます。たとえば、クリップされたソリッドが形状の異なる一時的なソリッドに置き換わります。

クリップ表示：図形の表示をクリップします。図形は一時的なバージョンに置き換えられません。**クリップ表示**を使用すると、すべての図面コンテンツですべてのモデリング、および編集操作を引き続き使用できます。**ライブ断面**とは対照的に、**クリップ表示**は複数の断面図形に同時に設定できます。

7.6.2 切断面を面に整列させる

1 SECTIONPLANEコマンドを起動します。

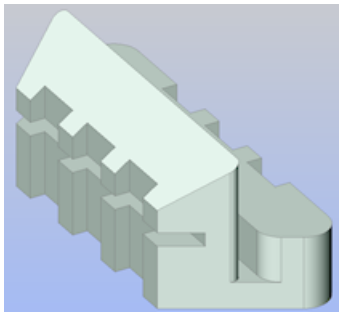
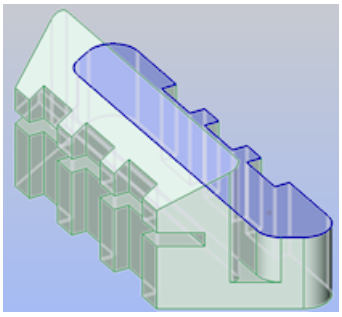
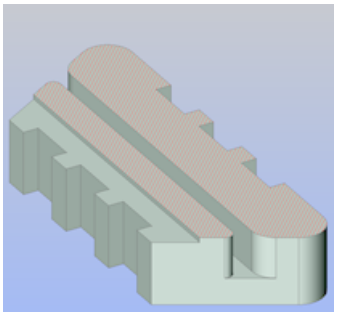
1 **プロンプト表示**：最初の点 または [面 (F)/作画 (D)/正投影 (O)]:を指示：

2 **面**オプションを選択します。

プロンプト表示図形を選択:

3 切断面を整列させるソリッドの面を選択します。

4

		
ソリッド(2D塗り潰し)	面を選択	面に整列された切断面

5 切断面は選択した面に整列されます。

6 断面図形のプロパティの**クリップ表示**は、**はい**に自動的に切り替わります。

7 (オプション)**プロパティ**パネルで切断面のプロパティを編集します。

7.6.3 垂直切断面を作成

注：現在の座標系が**WCS**である必要があります。

1 SECTIONPLANEコマンドを起動します。

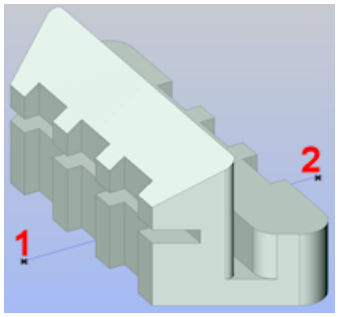
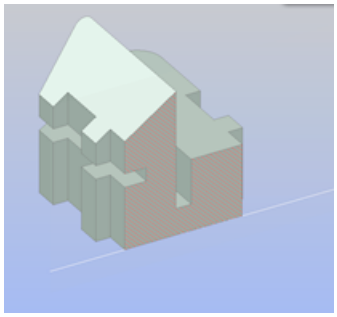
1 **プロンプト表示**：最初の点 または [面 (F)/作画 (D)/正投影 (O)]:を指示：

2 2点を指定します。

3 切断面はこれらの点を通して作成された垂直面です。

切断面の右側(点の作図順による)のソリッドの部分が切り取られます。

断面図形のプロパティの**クリップ表示**は、**はい**に自動的に切り替わります。

	
2点を指定	垂直な切断面

4 (オプション)**プロパティ**パネルで切断面のプロパティを編集します。

7.6.4 水平切断面を作成

1 **Look From**ウィジェットから、**正面**を選択します。

2 **UCS**を正面図に合わせます。

UCSコマンドの**ビュー**オプションを使用します。

注：UCSORTHO = オンとNAVVCUBEORIENT = 0 の場合、**UCS**は自動的にビューに合わせます。

3 SECTIONPLANEコマンドを起動します。

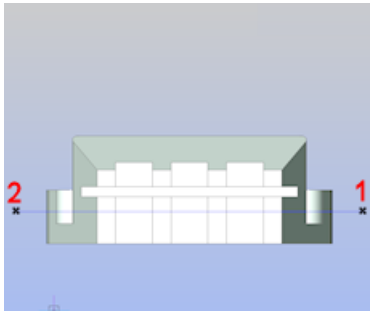
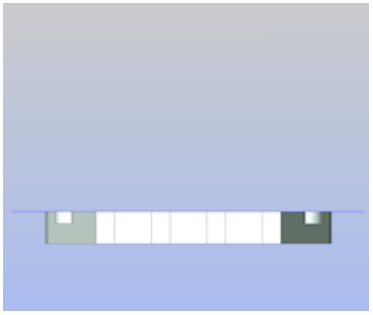
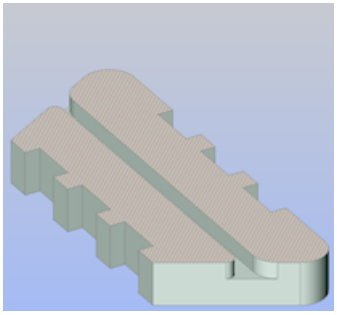
4 **プロンプト表示**：最初の点 または [面 (F)/作画 (D)/正投影 (O)]:を指示：

5 2点を指定します。

6 切断面はこれらの点を通り、現在の座標系のXY平面に垂直に作成されます。

7 切断面の右側(点の作図順による)のソリッドの部分が切り取られます。

8 断面図形のプロパティの**クリップ表示**は、**はい**に自動的に切り替わります。

		
2点を指定	切り取られた断面図形の右側のソリッドの部分	水平切断面

9 (オプション)切断面のプロパティを編集します。

7.6.5 垂直方向に凹凸切断面を作成

注：現在の座標系がWCSである必要があります。

1 SECTIONPLANEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：最初の点 または [面 (F)/作画 (D)/正投影 (O)]:を指示：

2 **作成**オプションを選択します。

プロンプト表示: 最初の点を指示:

3 最初の点(1)を指定します。

4 **プロンプト表示**: 次の点を指示:

5 2点目(2)を指定します。

6 **プロンプト表示**： 次のポイントを指示するか、ENTERで終了:

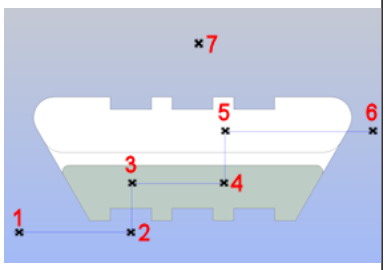
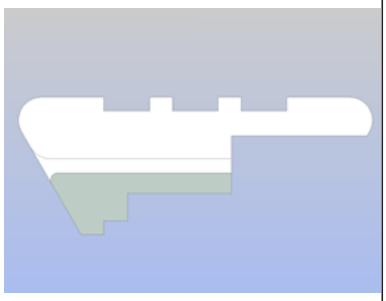
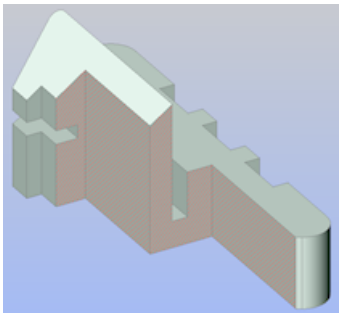
7 他の点(3)から(6)を指定し、右クリックまたは**Enter**を押して終了します。

プロンプト表示：断面図形の方向を指示:

8 点(7)をクリックして、断面の図形の方向を指定します。

9 断面図形の反対側のソリッド部分が切り取られます。

断面図形のプロパティの**クリップ表示**は、**はい**に自動的に切り替わります。

		
点を指定	切り取られた断面図形の反対側のソリッド部分	垂直方向の凹凸切断面

10 (オプション)**プロパティ**パネルで切断面のプロパティを編集します。

7.6.6 水平方向に凹凸切断面を作成

1 **Look From**ウィジェットから、**正面**を選択します。

2 **UCS**を正面図に合わせます。

UCSコマンドの**ビュー**オプションを使用します。

注：UCSORTHO = オンとNAVVCUBEORIENT = 0 の場合、**UCS**は自動的にビューに合わせます。

3 SECTIONPLANEコマンドを起動します。

4 **プロンプト表示**：最初の点 または [面 (F)/作画 (D)/正投影 (O)]:を指示：

5 **作成**オプションを選択します。

プロンプト表示: 最初の点を指示:

6 最初の点(1)を指定します。

7 **プロンプト表示**: 次の点を指示:

8 2点目(2)を指定します。

9 **プロンプト表示**： 次のポイントを指示するか、ENTERで終了:

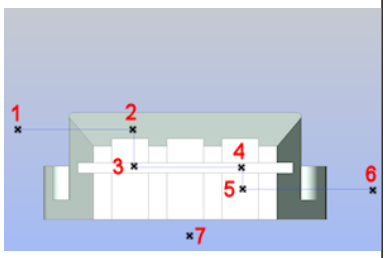
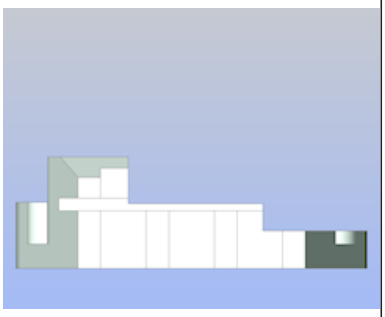
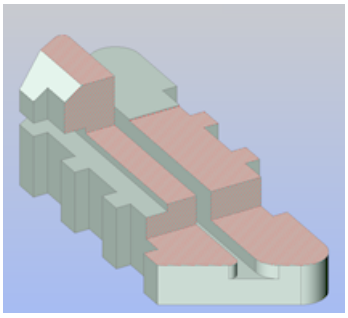
10 他の点(3)から(6)を指定し、右クリックまたは**Enter**を押して終了します。

プロンプト表示：断面図形の方向を指示:

11 点(7)をクリックして、断面の図形の方向を指定します。

12 断面図形の反対側のソリッド部分が切り取られます。

断面図形のプロパティの**クリップ表示**は、**はい**に自動的に切り替わります。

		
点を指定	切り取られた断面図形の反対側のソリッド部分	水平な凹凸切断面

13 (オプション)**プロパティ**パネルで切断面のプロパティを編集します。

7.6.7 正投影の切断面を作成

注：現在の座標系が**WCS**である必要があります。

1 SECTIONPLANEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：最初の点 または [面 (F)/作画 (D)/正投影 (O)]:を指示：

2 **正投影**オプションを選択します。

プロンプト表示： 断面を合わせる [正面 (F)/背面 (A)/上 (T)/底 (B)/左 (L)/右 (R)]:

3 プロンプトメニューで選択した正投影断面の方向を選択するか、コマンドラインで対応するオプションを入力します。

4 正投影断面は、現在の座標系のXY平面(**上**と**下**)、YZ平面(**左**と**右**)、またはXZ平面(**前**と**後**)に平行な、ソリッドの中心を通して作成されます。

断面図形のプロパティの**クリップ表示**は、**はい**に自動的に切り替わります。

5 (オプション)**プロパティ**パネルで切断面のプロパティを編集します。

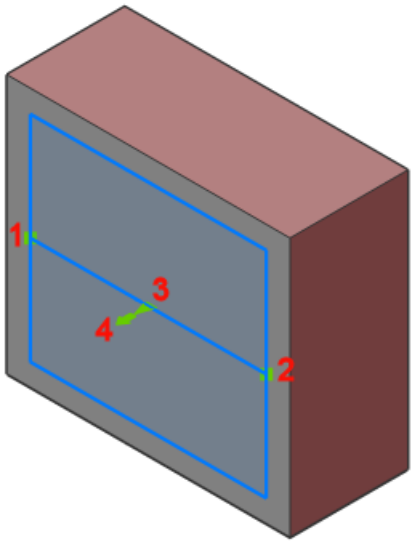
7.6.8 切断面のサイズと位置を編集

1 図面の断面図形を選択します。

1 断面図形の現在の状態に応じて、いくつかのグリップが表示されます。

2 (オプション)**プロパティ**パネルの断面図形の**クリップ表示**をオンにすると、断面結果が表示されます。

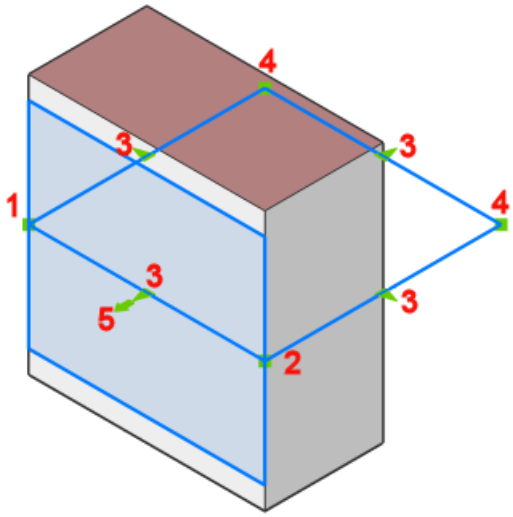
3 (オプション)**状態**プロパティを**平面**に設定します。



4つのグリップが表示されます。

- 1( )= 原点：XY平面で切断面の位置を移動します。
- 2( )= 通過点：切断面の通過点を再定義します。
  断面は原点(1)を中心に回転します。
- 3( )= 中点：断面に垂直な方向に切断面を平行に移動します。
- 4( )= クリックすると、切断面のビュー方向が反転します。

4 (オプション)**状態**プロパティを**境界**に設定します。



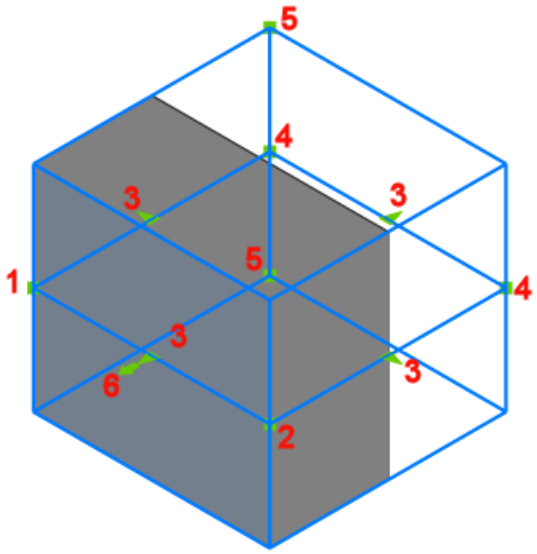
10のグリップが表示されます。

- 1( )= 原点：XY平面で切断面の位置を移動します。
- 2( )= 通過点：切断面の通過点を再定義します。

切断面の境界が原点(1)を中心に引き伸ばされて回転します。

- 3( )= 切断面の境界を平行に延長します。
- 4( )= 切断面の境界の形状を変更します。
- 5( )

5 (オプション)**状態**プロパティを**体積**に設定します。



12のグリップが表示されます。

- 1( )= 原点：XY平面で切断面の位置を移動します。
- 2( )= 通過点：切断面の通過点を再定義します。
  切断面の体積が原点(1)を中心に引き伸ばされて回転します。
- 3( )= 切断面体積を平行に延長します。
- 4( )= 切断面体積の形状を変更します。
- 5( )= 切断面体積の高さを変更します。
  グリップ5を移動する場合、**極トラック**をオンにする必要があります。
- 6( )= クリックすると、切断面のビュー方向が反転します。

7.6.9 切断の保存

SECTIONPLANETOBLOCKコマンド:

- 2D断面/立面ブロックまたは3D切取り断面ブロックとして、図面に切断面を挿入します。
- 断面ブロックの置き換えをします。例：断面図形が変更されている場合等
- 新規図面に切断面を保存します。

7.7 EXTRUDEコマンドによるソリッドの作成

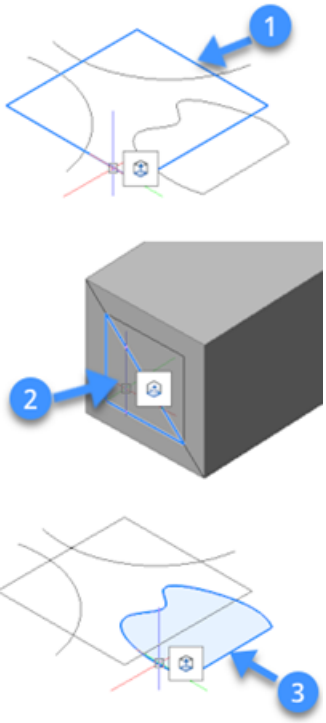
7.7.1 概要

EXTRUDEコマンドは、閉じた2D図形、3Dソリッドの面、領域、または閉じた境界を押し出して3Dソリッドを作成することができます。EXTRUDEコマンドは、メインのソリッドからボリュームを取り除いてソリッドモデルを部分的にカットしたり、メインのソリッドモデルにボリュームを追加して新しいソリッドを作成したりすることができます。

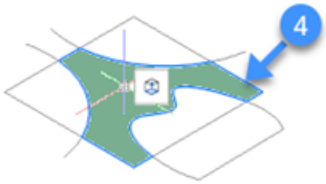
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『EXTRUDE』をご覧ください。

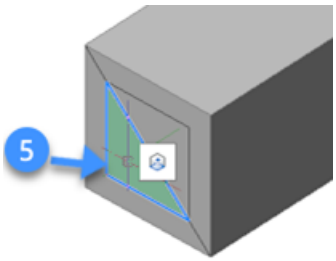
以下の図形/サブ図形を押し出すことができます：

閉じた2D図形(1)(2)とリージョン(3)：



現在の座標系のXY平面上(4)、または固体の面上(5)の閉じた境界





選択モードツールバーの**境界検出を有効にする**オプションがアクティブな場合、閉じた境界は自動的に認識されます。

注：閉じた図形として認められるのは、閉じたポリライン、円、楕円、スプラインのみです。

7.7.2 押し出しをソリッドモードで使用

以下は**押し出し**ツールを使用して、ソリッドにボリュームを追加または削除する一般的な手順です。

1 図形またはサブ図形を作図領域内に重ねます。

2 クワッドの**モデル**タブから**ソリッド押し出し**を選択します。

3 プロンプト表示：

押し出しの高さを指定、または [向き/パス/テーパー角度/自動/差/作成/和/両側/整列/範囲をセット]<123.45>:

4 画面下部には**押し出しホットキーアシスタント**が表示され、押し出しのオプションが表示されます。

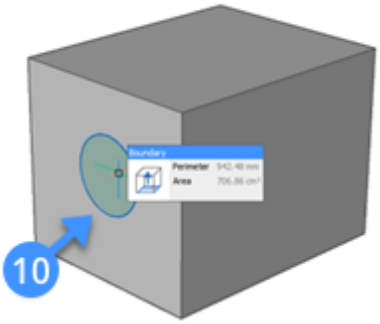
注：は、デフォルトモードは、青枠で示しています。

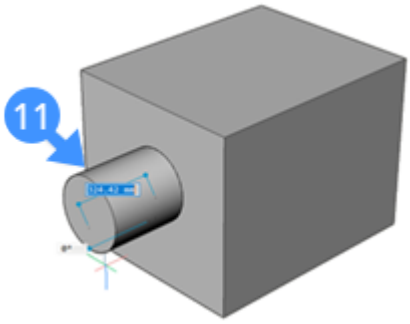
- **自動**(6)：自動オプションの結果は、3Dソリッドの押し出し方向と**押し出しモード**グループにあるEXTRUDEOUTSIDE、EXTRUDEINSIDE、INTERSECTEDENTITIESシステム変数の値に依存します。

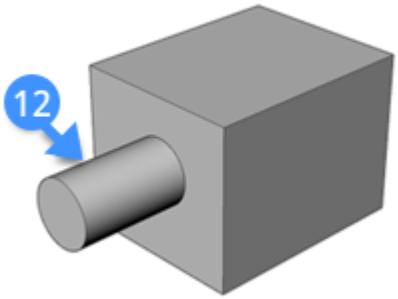
  注：これらの変数の値は、0(＝修正しない)、1(差)、2(和)とすることができます。

  注：これらの変数のデフォルト値は、ワークスペースに依存します：

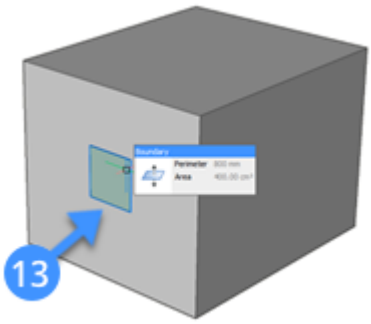
- **0** - 2D作図およびモデリングワークスペース向け
- **1** - メカニカルとBIMワークスペース向け
-

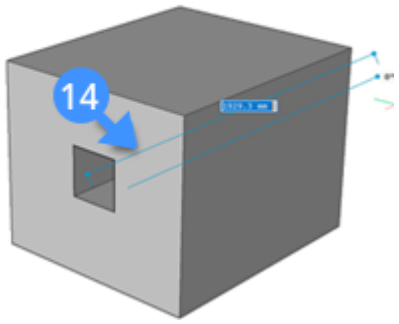


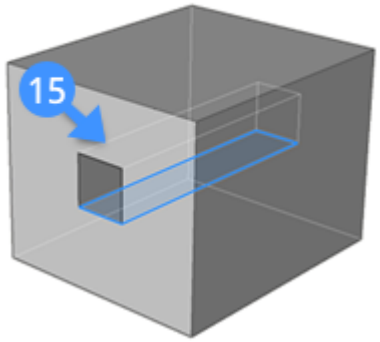




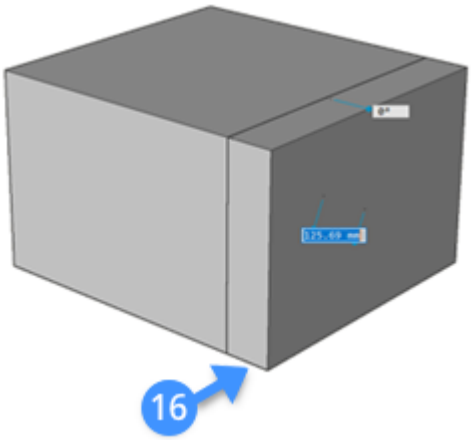
下の図は、メカニカルおよびBIMワークスペースのメインソリッドから減算された図形を示します。(4つの押し出しモードシステム変数すべてのデフォルト値 = 1)図形をハイライト表示して(13)内側に押し出すと(14)、メインソリッドからボリュームが減算されます。(15)



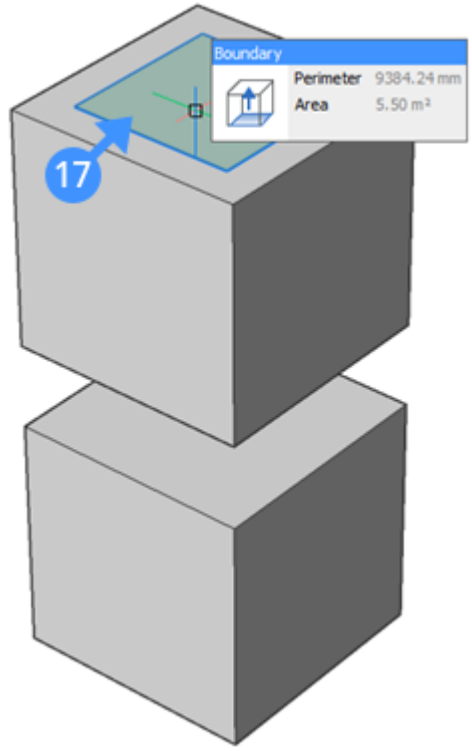


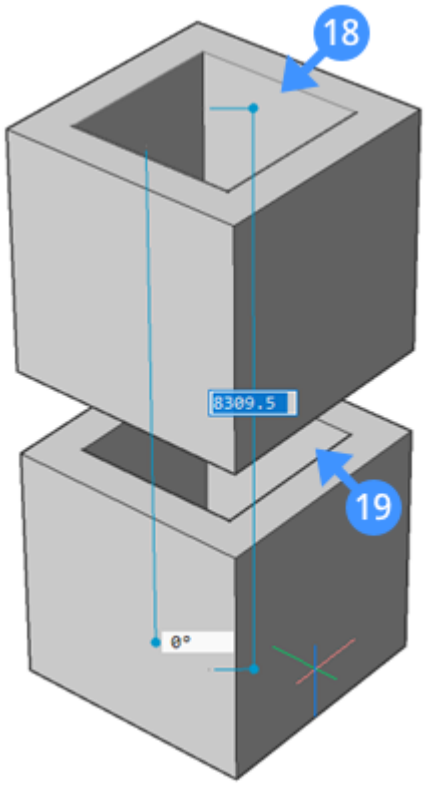


- **作成**(7)：押出方向に関係なく、既存のソリッドから新しいボリュームが作成されます(16)。



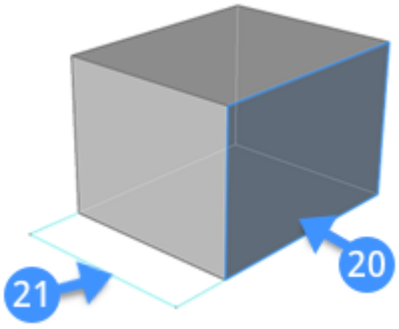
- **差**(8)：干渉する既存の各ソリッドから、3Dソリッドが減算されます。
  次の図は、ハイライトされた境界(17)を使用して、減算されたソリッド(18,19)を示しています。

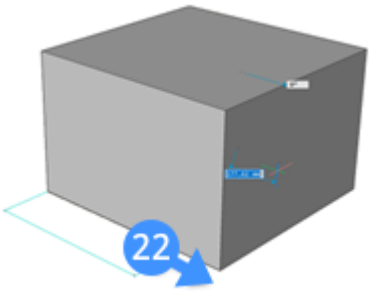




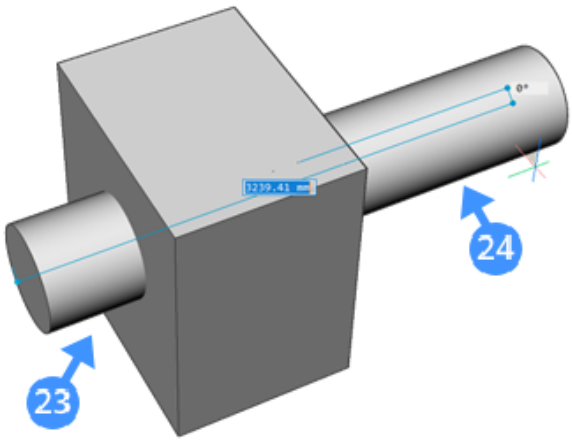
- **和**(9)：新しいボリュームは、干渉する既存の各ソリッドと一体化します。

次の図は、押し出しツールの統合オプションを使用する前と後の状況を示しています。ソリッドの表面が強調され(20)、左右の面の間の距離は位置合わせライン(21)で示されています。新しいボリュームは最初のソリッドと統合(22)されます：





- **両側**：メインソリッドから両方向に新たな対称ボリューム(23)、(24)を作成します。



既存のソリッドから対称的なボリュームを作成するには、コマンドラインに**B**と入力します。これはEXTRUDEコマンドの**両側**オプションに対応します。

- ソリッドの押し出し機能を操作するために利用可能なオプションを1つ選択します。
- 次に、カーソルを任意の方向に移動して押し出し方向を指定します。選択した図形またはサブ図形がダイナミッ

クに押し出されます。

- 図面上の一点を指定し、ダイナミック入力フィールドに値を入力するか、または制限オプションを選択して、押し出しの高さを定義します。
- Enterを押すか、右クリックして既存のソリッドからの押し出しを受け入れます。

7.7.3 サーフェスモードでの押し出し

EXTRUDEコマンドを使い、線分やポリラインなどの2D図形を押し出して3Dサーフェスを作成することができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『EXTRUDE』をご覧ください。

7.7.4 押し出しツールをサーフェスモードで使用

サーフェスモードでEXTRUDEコマンドを使用して、3Dサーフェスを作成する一般的な手順は以下の通りです：

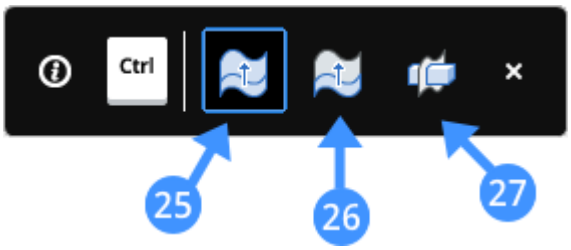
1 作図領域内の図形またはサブ図形上にカーソルを移動させます。

2 クワッドの**モデル**タブから**サーフェス押し出し**を選択します。

3 プロンプト表示：

押し出しの高さを指定、または [向き/パス/テーパー角度/自動/作成/スライス/両側/整列]<123.45>:

4 画面下部に**サーフェス押し出しホットキーアシスタント**が表示され、サーフェスの押し出しオプションのセットが表示されます。



注：は、デフォルトモードは、青枠で示しています。

- **自動**(25)：複数の接触している図形またはサブ図形を選択した場合、結果は**押し出しモード**グループにあるUNITESURFACESシステム変数の値に依存します。UNITESURFACESをオンにすると、接触しているサーフェスが一体化します。UNITESURFACESがオフの場合、各図形/サブ図形は個別のサーフェスを作成します。

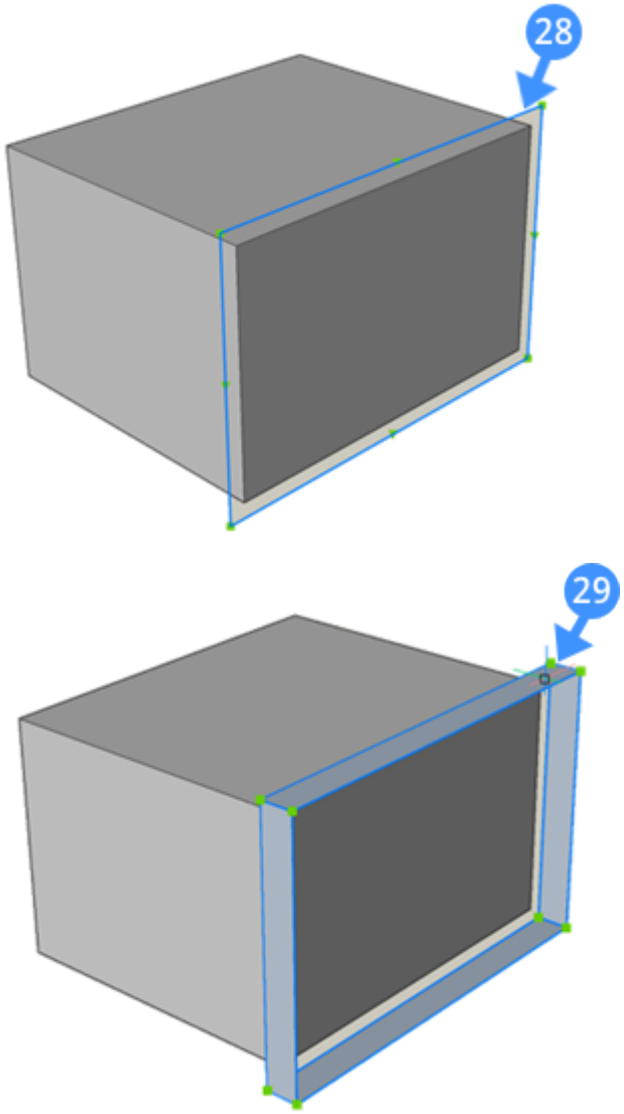
  注：これらの変数のデフォルト値は、ワークスペースに依存します：

  - **0** - 2D作図およびモデリングワークスペース向け
  - **1** - メカニカルおよびBIMワークスペース向け
- **作成**(26)：新しいサーフェスを作成します。
- **スライス**(27)：押し出されたサーフェスでソリッドを切り取ります。このオプションは、SLICEコマンドと類似しています。

5 オプションの1つを選択し、マウスを動かして押し出し方向を指定し、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。

6 Enterを押すか、右クリックしてサーフェスの押し出しを受け入れます。

7 下の図は、図面中の選択された2D図形(28)を押し出して作成されたサーフェス(29)を示しています。



7.8 スケッチベースフィーチャー

スケッチベースフィーチャーは、3Dソリッドの作成に使用した2D図形を編集し、3Dソリッドを自動的に更新できるBricsCADフィーチャーです。

CREATESKETCHFEATUREシステム変数がオンの場合、EXTRUDE、LOFT、SWEEP、REVOLVEコマンドとこれらのオプション**減算**と**結合**を実行すると、スケッチフィーチャーが作成されます。スケッチフィーチャーは、**メカニカルブラウザ**パネルで使用できます。

注：古いスケッチフィーチャーを含む図面を開く場合、自動変換アルゴリズムが実行されます。

問題が発生した場合は、変換を続行するかどうかを決める必要があります。

- 続行する場合、アルゴリズムは任意のフィーチャーのジオメトリを推測して最善の方法でフィーチャーを変換します。ただし、変換されたブーリアン型フィーチャー(UNITEまたはSUBTRACT)は、アルゴリズムがブーリアン型として扱った場合でも、名前は正しく変更されません。
- 続行しない場合、古いスケッチフィーチャーが分解され、3Dフィーチャーのみが保持されます。

重要：CREATESKETCHFEATUREシステム変数をオンにして作成したスケッチフィーチャーは、他のCADプログラムと互換性がありません。これらの図面を手動で保存すると、「この図面には、他のCADプログラムと互換性のないスケッチフィーチャーが含まれています。これらは別のCADプログラムを使用して図面を開くと壊れる可能性があります。」という警告メッセージがコマンドラインと図面右下の警告バルーンに表示されます。

7.8.1 3Dソリッドを作成

1 CREATESKETCHFEATUREシステム変数をオンにします。

2 閉じたポリラインなどの2D図形を作図します。

3 (オプション)パラメトリックをスケッチ図形に追加します。

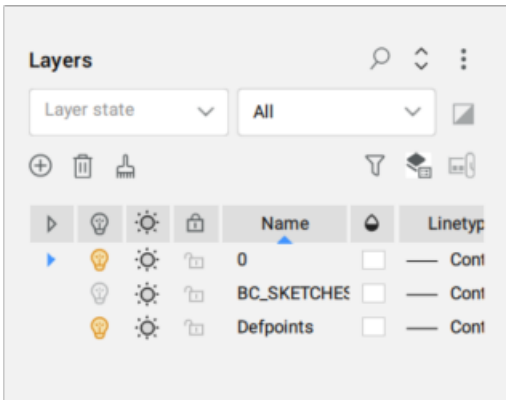
4 EXTRUDE、LOFT、SWEEP、またはREVOLVEコマンドを起動して、3Dソリッドフィーチャーを作成します。作成したフィーチャーが**メカニカルブラウザ**パネルに表示されます。

スケッチフィーチャーをコピーして、同じ図面内または別の図面に貼り付けることができます。SKETCHFEATURECOPYMODEシステム変数によって、コピーしたスケッチフィーチャーの動作が決まります。

SKETCHFEATURECOPYMODEシステム変数がオンの場合、スケッチフィーチャーのコピーは元図形から独立します(スケッチ/パス/ガイドカーブなどの新しいブロックが作成されます)。オフの場合、スケッチフィーチャーのコピーは、スケッチ(パス、ガイドカーブなど)を元図形と共有します。

7.8.2 対応するスケッチ図形を編集して3Dソリッドを編集

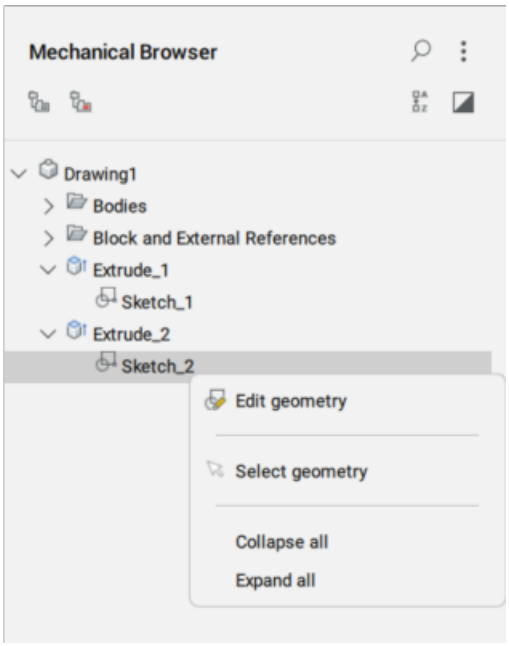
スケッチフィーチャーは、2D図形からブロックとして作成され、新しい画層**BC_SKETCHES**に移動されます。この画層はデフォルトでオフになっています。



すべてのスケッチフィーチャーは、**メカニカルブラウザ**パネルに表示されます。

方法1

スケッチフィーチャーを編集するには、**メカニカルブラウザ**パネルで図形を右クリックして、**ジオメトリを編集**を選択します。



スケッチフィーチャの変更を保存すると(BCLOSEコマンド)、3Dソリッドが自動的に更新されます。

方法2

スケッチフィーチャーを編集するには、BEDITコマンドを使用して**ブロック定義の作成または編集**ダイアログボックスを開き、そこからスケッチフィーチャーを選択してブロック編集で開くこともできます。

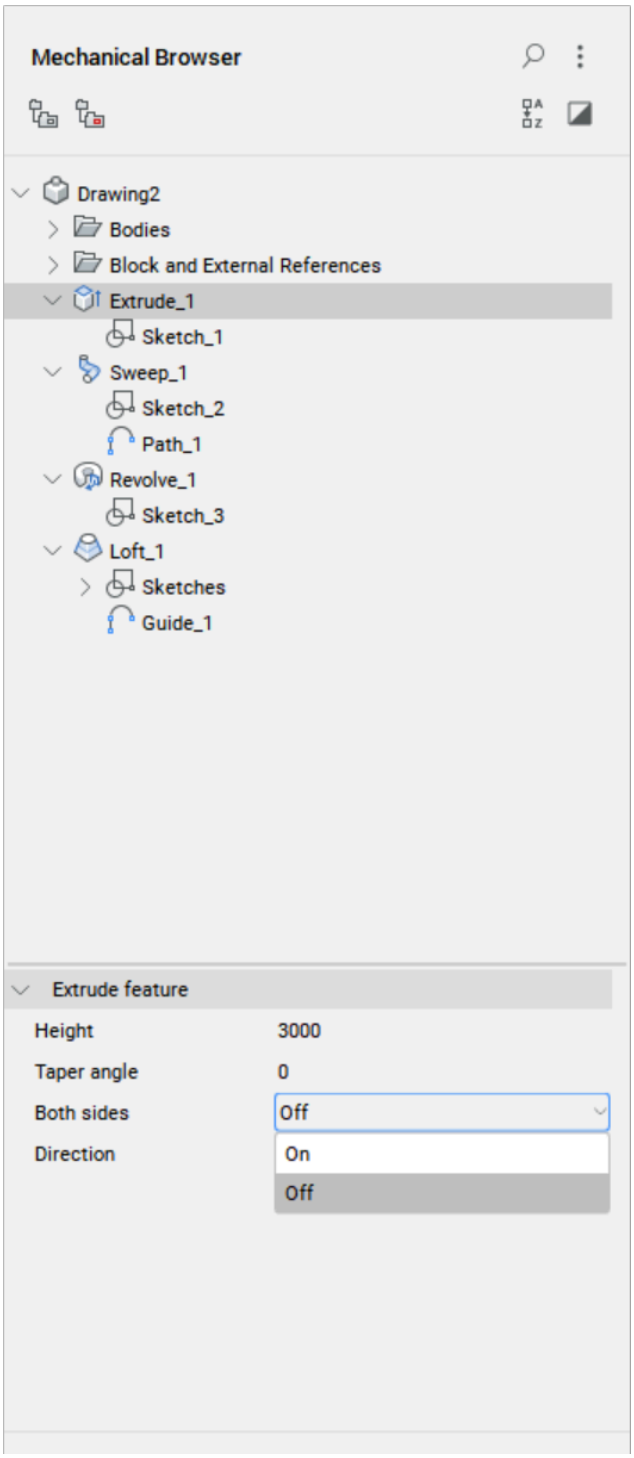
方法3

SKETCHEDITコマンドを起動して、スケッチフィーチャーを編集することもできます。スケッチベースフィーチャー(3Dソリッド)とスケッチの名前を指定し、すべての変更を行ってEnterを押すと、3Dソリッドが更新されます。

スケッチベースフィーチャー(3Dソリッド)を修正するには、以下の2つの方法があります。

方法1

メカニカルブラウザでソリッドをクリックし、**メカニカルブラウザ**パネル下部にあるプロパティを調整します。



方法2

UPDATESKETCHコマンドを起動し、コマンドラインでフィーチャーの名前、パラメータの名前、および新しい値を指定します。

7.8.3 作成したスケッチ図形をすべて削除する

REMOVESKETCHFEATUREコマンドまたはDISSOLVESKETCHFEATUREコマンドを起動して、スケッチフィーチャーのみを削除します。REMOVESKETCHFEATUREコマンドは、DISSOLVESKETCHFEATUREコマンド実行後に追加の削除を行います。

どちらのコマンドも、シーンの内容はそのまま保たれます。

注：また、**メカニカルブラウザ**パネルでコンテキストメニューから**分解**オプションを選択して、3Dソリッドのスケッチフィーチャーを分解することもできます。

7.8.4 すべてのフィーチャーの削除

DELETESKETCHFEATUREコマンドを起動して、スケッチフィーチャーおよび対応する3Dソリッドを削除します。

注：また、**メカニカルブラウザ**パネルでコンテキストメニューから**削除**オプションを選択して、スケッチベースフィーチャー(3Dソリッド)を削除することもできます。

7.9 作業平面の操作(テスト段階)

7.9.1 免責事項

EXP.

「作業平面」は試験的な機能です。まだ安定していないため、将来削除される可能性があります。MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを使用して、試験的な機能を有効または無効にしてください。

試験モードはデフォルトで無効になっています。**試験モード**を有効または無効にするには、BricsCADを再起動する必要があります。

7.9.2 概要

作業平面は新たに追加されたテスト段階の機能です。この初期バージョンでは、XY、YZ、XZ 作業平面に加えて、ある面に一致する作業平面、面または別の作業平面からオフセットした作業平面をWORKPLANECREATEコマンドで作成できます。WORKPLANELINKコマンドとWORKPLANEUNLINKコマンドを使用して、作業平面にスケッチ(2D図形)をリンクさせたり、リンクを解除できます。WORKPLANESHOWコマンドとWORKPLANEHIDEコマンドを使い、モデル空間で作業平面の表示をコントロールします。作業平面は、**メカニカルブラウザ**パネルに表示されます。CREATESKETCHFEATUREシステム変数がオンの場合、パラメータの変更に従い、リンクされたソリッドと作業平面が更新されます。

7.9.3 作業平面を作成する

1 WORKPLANECREATEコマンドを起動します。

2 「すべて/XY/YZ/XZ/面/オフセット」からオプションを1つ選択します。

3 作業平面はモデル空間に表示され、**メカニカルブラウザ**パネルに一覧表示されます。

7.9.4 作業平面をアクティブにする

スケッチを作図する作業平面をアクティブにするには、以下の 2 つの方法があります。

1 WORKPLANEACTIVATEコマンドを起動します。

2 **メカニカルブラウザ**パネルで作業平面のコンテキストメニューを開き、**スケッチを作成**オプションを選択します。

注：別の作業平面をアクティブにするには、以前にアクティブにした作業平面を非アクティブにする必要があります。

7.9.5 作業平面を非アクティブにする

作業平面を非アクティブにするには、以下の 2 つの方法があります。

1 WORKPLANEACTIVATEコマンドを起動し、**非アクティブ化**オプションを選択します。

2 **メカニカルブラウザ**パネルで作業平面のコンテキストメニューを開き、**スケッチを終了**オプションを選択します。

7.9.6 作業平面の表示/非表示

モデル空間で作業平面を表示するには、以下の 2 つの方法があります。

1 WORKPLANESHOWコマンドを起動します。

2 **メカニカルブラウザ**パネルで作業平面のコンテキストメニューを開き、**表示**オプションを選択します。

モデル空間で作業平面を非表示にするには、以下の 2 つの方法があります。

1 WORKPLANEHIDEコマンドを起動します。

2 **メカニカルブラウザ**パネルで作業平面のコンテキストメニューを開き、**非表示**オプションを選択します。

7.9.7 スケッチを作業平面にリンクまたはリンク解除する

WORKPLANELINKコマンドを起動して作業平面にスケッチやソリッドをリンクし、WORKPLANEUNLINKコマンドを起動してリンクを解除します。

8. 土木ツール

8.1 土木コマンド

土木コマンドを以下のテーブルに一覧表示します。

名前	タイトル	説明
	サーフェスラベルを追加	サーフェスに、端点標高、勾配、等高線などのラベルを追加します。
	IP点で線形	平面線形、縦断線形、3D線形を作成します。
	3D線形	平面線形と縦断線形から3D線形を作成します。
	IP点で線形 - 曲線	拘束のない水平方向の曲線の線形を作成します。
	線形を編集	平面線形または縦断線形を編集します
	IP点で線形 - 要素間に作成	別の要素によって両側が拘束される平面線形を作成します。
	IP点で線形 - 要素に作成	別の要素によって片側が拘束される平面線形を作成します。
	IP点で線形 - 直線	拘束されない水平方向の直線の線形を作成します。
	縦断線形	垂直方向の線形を作成します。
	縦断線形ビュー	平面線形または3D線形の縦断線形ビューを作成します。
	Civil 3D読み込み	Civil 3D図面からオブジェクトを読み込みます。
	DWGを書き出し	土木オブジェクトをネイティブDWG図形として書き出します。
	土木エクスプローラパネルを閉じます。	**土木エクスプローラ**パネルを閉じて、カレントのワークスペースから非表示にします。
	土木エクスプローラパネルを開きます。	**土木エクスプローラ**パネルを開き、カレントのワークスペースに表示します。

名前	タイトル	説明
	土木ポイント	記号とラベルによって表現される土木ポイント(土木図形)を作成します。
	土木ポイント属性	ユーザー定義の属性を土木ポイントに追加または削除します。
	土木ポイント編集	土木ポイントを編集します。
	土木ポイント書き出し	土木ポイントを外部ファイルに書き出します。
	土木ポイントグループ	土木ポイントグループを作成します
	コリドー	コリドーテンプレートからコリドーを作成します。
	コリドーを編集	コリドーリージョンを追加または削除します。
	コリドーから抽出	コリドーから3Dソリッド、メッシュ、TINサーフェス、3Dポリラインまたは外側の境界を抽出します。
	コリドーテンプレート	コリドーテンプレートを作成します。
	コリドーテンプレート要素	閉じたポリラインからコリドーテンプレート要素を作成します。
	コリドーテンプレート要素を編集	コリドーテンプレート要素にコンポーネントを追加または削除します。
	GIS書き出し	空間および属性データをESRI SHPファイルに書き出します。
	GIS読み込み	ESRI SHPファイルから空間および属性データを読み込みます。
	グレーディング	TINサーフェス上にグレーディングサーフェスを作成します。
	グレーディング量のバランス	グレーディングのカット量とフィル量のバランスを取ります。
	グレーディングの編集	グレーディングを分割または結合します。
	IFC書き出し	モデルをIFCファイルに書き出します。

名前	タイトル	説明
	LandXMLを書き出し	土木図形をLandXMLファイルに書き出します。
	LandXMLを読み込み	LandXMLファイルからTINサーフェスまたはアライメントを作成します。
	境界トリム	オブジェクトを境界(閉じたポリライン、円、閉じたスプライン、楕円)にトリムします。
	計画線	計画線を作成します。
	計画線に曲線を追加します。	計画線に曲線を追加します。
	計画線に標高ポイントを追加します。	計画線に標高ポイントを追加します。
	計画線にIP点(交点)を追加します。	計画線にIP点を追加します。
	計画線から標高ポイントを削除します。	計画線から標高ポイントを削除します。
	計画線からIP点を削除します。	計画線からIP点を削除します。
	オブジェクトから計画線	既存のオブジェクトから計画線を作成します。
	TINサーフェス	地形(TIN)サーフェスを作成します。
	TINサーフェスへイメージを割り当て	ラスターイメージをマテリアルとしてTINサーフェスに割り当てます。
	TINサーフェス編集	TINサーフェス上のポイント、ブレークライン、境界線を追加または削除します。
	TINサーフェスから抽出	TINサーフェスからメッシュ、ソリッド、ポイント、面、等高線、境界線などを抽出します。
	TINサーフェスを結合	2つ以上のTINサーフェスを新しい1つのTINサーフェスに結合します。
	TINサーフェスを修正	TINサーフェスを変形またはスムージングします。

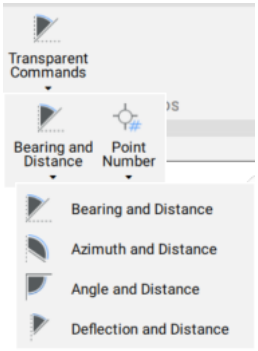
名前	タイトル	説明
	TINサーフェスに投影	TINサーフェスに、点(ポイント、ブロック、文字)や線形図形(線分、ポリライン、円)を投影します。
	TINボリュームサーフェス	ベースとするTINサーフェスと、比較するTINサーフェスまたは標高間にTINボリュームサーフェスを作成します。
	ウォータードロップ	TINサーフェス上に水路を作成します。

8.2 BricsCADの割り込みコマンド

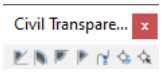
土木割り込みコマンドを使用して、既知の情報(点、距離、半径)に基づいて値を入力します。

割り込みコマンドは、次の方法を使用して、別のコマンド(PLINE、3DPOLY、ALIGNMENTなど)内で実行できます。

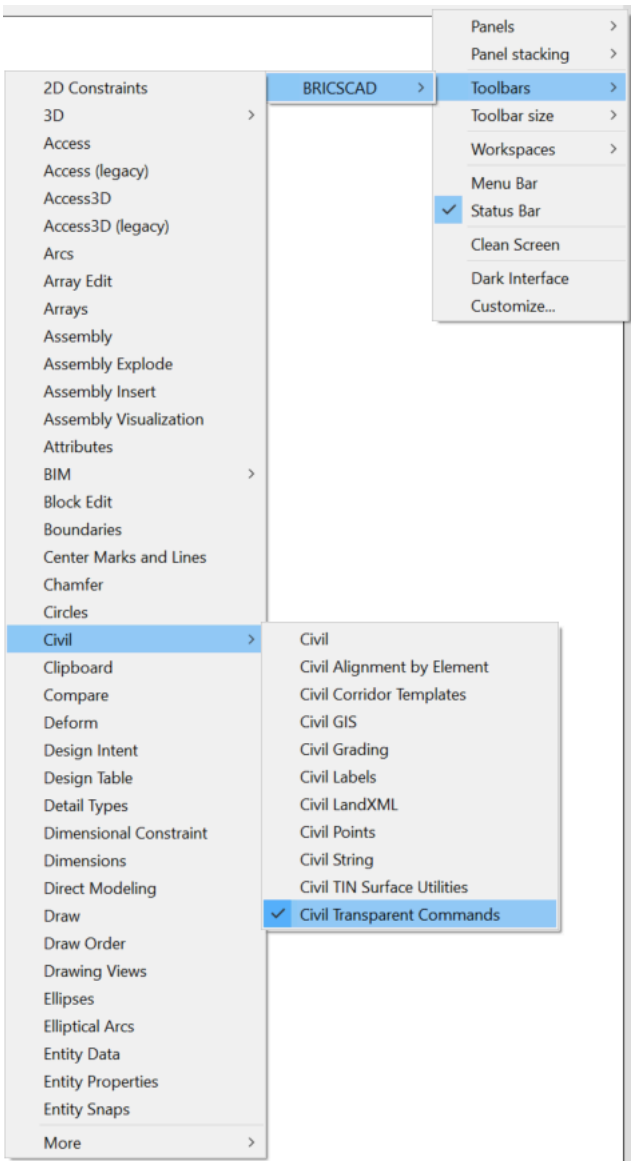
- リボンの**ホーム**タブにある**割り込みコマンド**リボンパネルでコマンドをクリックします。



- コマンドラインでコマンドを入力します。
- **土木割り込みコマンド**ツールバーをアクティブにして、コマンドを選択します。



土木割り込みコマンドツールバーアクティブにするには、リボンを右クリックして、**ツールバー**に移動し、**BRICSCAD**を選択し、**土木**下で**土木割り込みコマンド**を選択します。



8.2.1 方位と距離

エイリアス：'BD

方位における点の位置と既知の点からの距離を指定します。出力は新しい点の座標です。

コマンドオプション(パラメータオプション)

四半円点を指定
必要な象限を選択できます。
象限：NE = 1、SE = 2、SW = 3、NW = 4

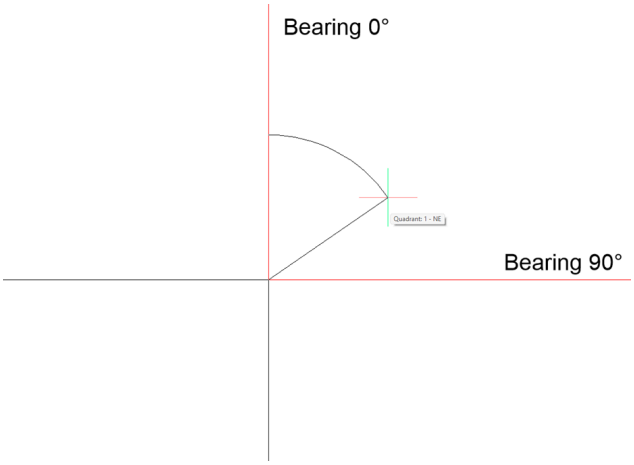
方位を指定
選択した象限内で測定される角度を指定できます。測定は非常に正確です(度、分、秒)。
角度は動的に指定することも、コマンドラインに入力して指定することもできます。(NE:0,90:SE:90,0:SW:0,90:NW:90,0-一例として、NEの場合、0はN軸及び測定の開始軸を表します。終了軸は90度で表され、この例ではE軸になります。

または、角度を10進数で入力すると、度、分、秒に変換されます(最初の2桁の小数点以下桁は分を表し、次の2桁は秒を表します)。

注：有効な値は次のとおりです。

- 度：0-90
- 分：0-59
- 秒：0-59

距離を指定
象限の原点からの距離を、以前に指定した角度で指定できます。角度は動的に指定することも、コマンドラインに入力して指定することもできます。



例：PLINEコマンドを実行します。

```
:PLINE
ポリラインの始点を選択、または<Last point> [フォロー(C)] :
次の点を設定、または [円弧を描く(A)/距離(D)/追従(C)/半角(F)/幅(W)]:
次の点を設定、または [円弧を描画(A)/距離(D)/フォロー(C)/半角(F)/幅(W)/元に戻す(U)]: 'BD

>>象限を指定 [北東に 1、南東に 2、南西に 3、北西に 4]: 1
>>方位指定:40d30'20"
>>距離指定:123
PLINEコマンドの再開
```

注：縮尺が大きい場合は、誤差を減らすために新しい座標系が作成されます。

8.2.2 方位角と距離

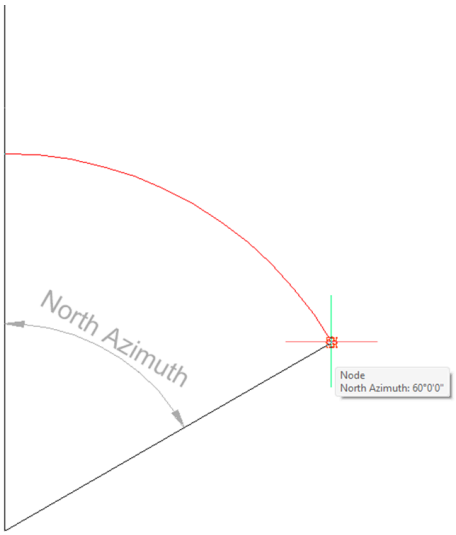
エイリアス：'ZD

既知の地点からの方位角と距離を指定します。

コマンドオプション(パラメータオプション)

方位を指定
コマンドで以前に作成した線分を基準にした角度を選択できます。これは、図面上で動的に行うか、コマンドラインに正確な角度(度、分、秒、または10進数)を入力することで実行できます。

距離を指定
始点からのオフセットを指定できます。角度は動的に指定することも、コマンドラインに入力して指定することもできます。



例：PLINEコマンドを実行します。

```
：pl
ポリラインの始点を選択 または [フォロー(P)]<Last point> : 0,0
次の点を設定、または [円弧(A)/距離(D)/フォロー(C)/半幅(F)/幅(W)を描画(R)]: '_ZD
方位角を指定: 60
距離を指定: 50
次の点を設定、または [円弧(A)/距離(D)/追従(C)/半角(F)/幅(W)]:
```

8.2.3 測点とオフセット

エイリアス：'_SO

測点の位置と線形からのオフセットを指定します。

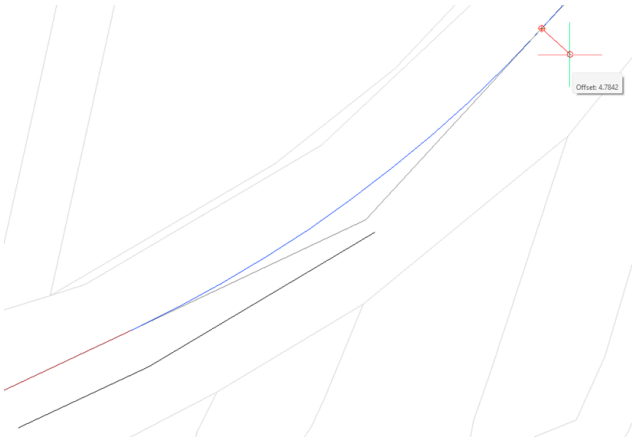
注：このオプションは、水平位置合わせ要素で作業する場合に使用します。

コマンドオプション(パラメータオプション)

整列を選択
使用する必要のある水平方向の配置を選択できます。

測点を指定
線形上の任意の点を開始点として選択できます。

オフセットを指定
測点に垂直な支持線を作成します。これにより、支持線上のオフセットを指定できます。角度は動的に指定することも、コマンドラインに入力して指定することもできます。



例：PLINEコマンドを実行します。

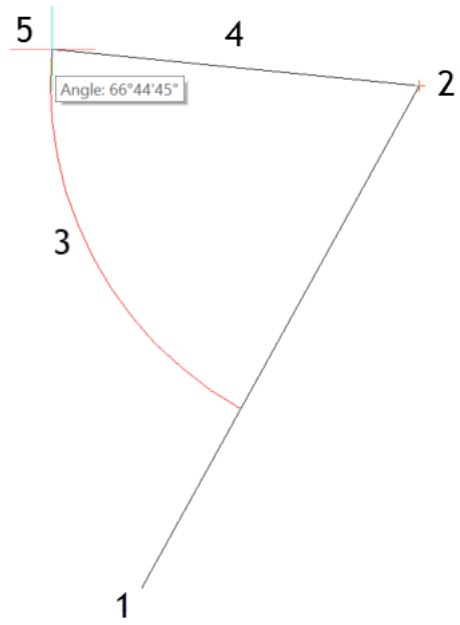
```
: PLINE
ポリラインの始点または[追従]<Last point> を選択します。
次の点を設定するか、[円弧/距離/追従/半値幅/幅を描画]:
次の点を設定するか、[円弧を描く/距離/フォロー/半値幅/幅/元に戻す]:'_SO

>>配置を選択:
>>ステーションの指定:
>>オフセットを指定:
PLINEコマンドの再開
```

8.2.4 角度と距離

エイリアス：'ANGD

既知の点(2)と方向(1-2)からの角度(3)と距離(4)における点の位置を指定します。



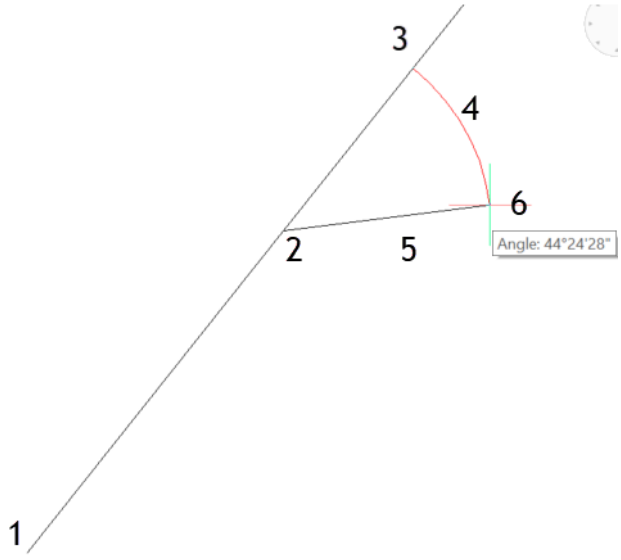
例：PLINEコマンドを実行します。

```
: PLINE
ポリラインの始点または[追従]<Last point> を選択します。
次の点を設定するか、[円弧/距離/追従/半値幅/幅を描画]:
次の点を設定するか、[円弧/距離/フォロー/半値幅/幅/元に戻す]を描画します:'ANGD
>>角度または[反時計回り]を指定:
>>距離を指定:
PLINEコマンドの再開
```

8.2.5 偏角と距離

エイリアス: 'DD

既知の点(2)と前の方向(1-3)からの角度(4)と距離(5)における点の位置(6)を指定します。




```
: PLINE
ポリラインの始点または[追従]<Last point> を選択します。
次の点を設定するか、[円弧/距離/追従/半値幅/幅を描画]:
次の点を設定するか、[円弧/距離/フォロー/半値幅/幅/元に戻す]を描画します:'DD
>>角度または[反時計回り]を指定:
>>距離を指定:
PLINEコマンドの再開
```

8.2.6 ポイント番号

エイリアス：'_PN

ポイント番号を使用してポイントの位置を指定します。複数のポイント番号を入力するか、またはコンマで区切られた数値範囲を入力します。

注：このコマンドは、土木ポイントを操作しているときに使用します。

例：3DPOLYコマンドを実行します。

```
: 3DPOLY
ポリラインの開始: '_PN
>>ポイント番号を入力:1-4
```

```
[3DPOLY]コマンドを再開する
```

8.2.7 ポイントオブジェクト(図面でグラフィカルに選択)

エイリアス：'_PO

既存の土木ポイントを選択して、ポイントの位置を指定します。

例：3DPOLYコマンドを実行します。

```
：3DPOLY
ポリラインの開始: '_PO
>>ポイントオブジェクトを選択:
[3DPOLY]コマンドを再開する
>>ポイントオブジェクトを選択:
[3DPOLY]コマンドを再開する
>>ポイントオブジェクトを選択:
[3DPOLY]コマンドを再開する
```

8.3 TINサーフェス

8.3.1 TINサーフェスの作成

8.3.1.1 コマンド

TIN、TINASSIGNIMAGE、TINPROJECT

8.3.1.2 概要

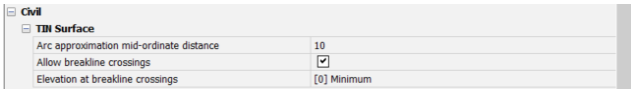
BricsCADでは、TINコマンドを使用してTINサーフェス(不規則三角形網)を作成することができます。

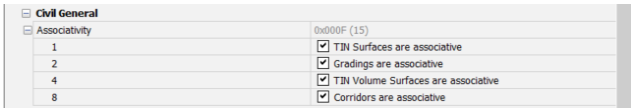
TINサーフェスでは、ポイントと破断線(ポリライン)の2種類の入力データを使用します。

- ポイントには、X、Y座標、およびZ値が含まれます。すべてのポイントを使用し、2つの最近接ポイント同士を接続して三角形を作成します。サーフェスの三角形分割は、ドロネーアルゴリズムに基づいています。これにより、三角形の外接円の内側に点がないことが保証されます。
- 破断線は、縁石、擁壁などの線形インフラストラクチャフィーチャーを表します。これらの線は、三角形のエッジも定義します。破断線は、線分、ポリライン、円弧、円などの直線図形から作成できます。
- 境界は、境界のある3Dサーフェスを定義するためのフィーチャーです。サーフェスの境界は、閉じたポリラインで作成することができます。大きな3Dサーフェス上に外側の境界を定義すると、TINサーフェス平面図のパフォーマンスが向上します。

TINサーフェスの作成は、特定のエリアを詳細にマッピングするために必要なプロセスです。BIMモデルでは、これらのサーフェスはサイトを表すために使用されます。TINサーフェスは、点群などの大規模なデータセット、図面図形、3D面、カスタムASCIIポイントファイル、土木3Dサーフェスから生成できます。

8.3.1.3 TINサーフェスの環境設定





円弧近似中座標距離

注：中座標距離は、円弧と弦(直線)セグメント間の最大距離で、円弧の近似に使用されます。

カーブに沿って追加するポイントの数を定義します。曲線のあるポリラインがある場合、このパラメータを使用すると、ポリラインの円弧を面分割できます。BricsCAD の事前定義テンプレートで、このパラメータのデフォルト値を可変させることができます。たとえば、距離の値は、BIM-mで0.01、BIM-cmで1、BIM-mmで10、IM imperialでは0.4に設定されます。

破断線の交差を許可

破断線の公差を許可するかどうかを定義します。デフォルトでは、**On**に設定されています。破断線の交差が許可されている場合、破断線セグメント間の交点を計算し、TINサーフェスに点として追加されます。

交差する破断線の高さ

破断線交差での高さの決定方法を定義します。破断線交差での高さを定義するには、3つのオプション(最小、最大、平均)があります。

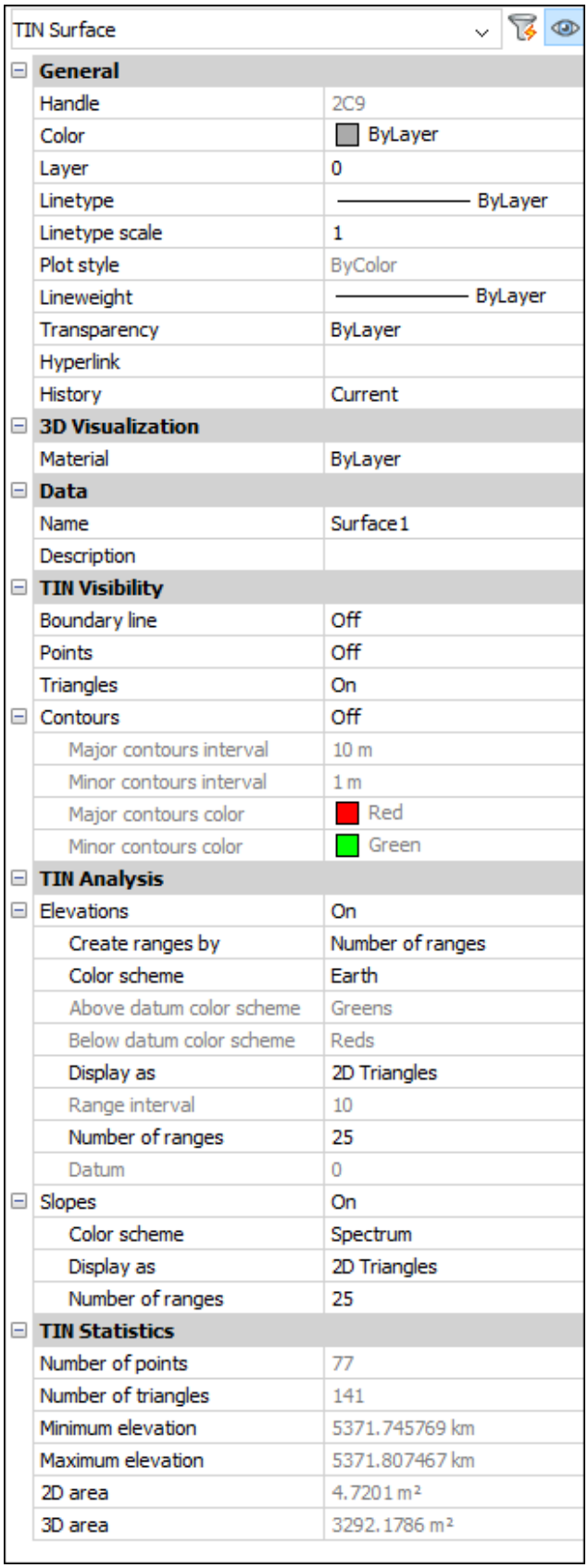
自動調整

グレーディング、サーフェス、コリドーの自動調整を有効/無効にします。

デフォルトでは、システム変数は15に設定されています。

0：TINサーフェス、グレーディング、コリドーの自動調整は、いずれも有効ではありません。
1：TINサーフェスの自動調整を有効にします。
2：グレーディングの自動調整を有効にします。
3：TINサーフェスとグレーディング両方の自動調整を有効にします。
4：TINボリュームサーフェスの自動調整を有効にします。
5：TINサーフェスとTINボリュームサーフェス両方の自動調整を有効にします。
6：グレーディングとTINボリュームサーフェス両方の自動調整を有効にします。
7：TINサーフェス、グレーディング、およびTINボリュームサーフェスの自動調整を有効にします。
8：コリドーの自動調整を有効にします。
9：TINサーフェスとコリドー両方の自動調整を有効にします。
10：グレーディングとコリドー両方の自動調整を有効にします。
11：TINサーフェス、グレーディング、コリドーの自動調整を有効にします。
12：TINボリュームサーフェスとコリドー方の自動調整を有効にします。
13：TINサーフェス、TINボリュームサーフェス、コリドーの自動調整を有効にします。
14：グレーディング、TINボリュームサーフェス、コリドーの自動調整を有効にします。
15：TINサーフェス、グレーディング、TINボリュームサーフェス、コリドーの自動調整すべてを有効にします。

8.3.1.4 TINサーフェスのプロパティ



TIN Surface	
General	
Handle	2C9
Color	ByLayer
Layer	0
Linetype	ByLayer
Linetype scale	1
Plot style	ByColor
Lineweight	ByLayer
Transparency	ByLayer
Hyperlink	
History	Current
3D Visualization	
Material	ByLayer
Data	
Name	Surface1
Description	
TIN Visibility	
Boundary line	Off
Points	Off
Triangles	On
Contours	Off
Major contours interval	10 m
Minor contours interval	1 m
Major contours color	Red
Minor contours color	Green
TIN Analysis	
Elevations	On
Create ranges by	Number of ranges
Color scheme	Earth
Above datum color scheme	Greens
Below datum color scheme	Reds
Display as	2D Triangles
Range interval	10
Number of ranges	25
Datum	0
Slopes	On
Color scheme	Spectrum
Display as	2D Triangles
Number of ranges	25
TIN Statistics	
Number of points	77
Number of triangles	141
Minimum elevation	5371.745769 km
Maximum elevation	5371.807467 km
2D area	4.7201 m²
3D area	3292.1786 m²

TIN可視性
TINサーフェス要素の表示/非表示を定義します。

境界線
TINサーフェス上の外側境界の表示/非表示を変更します。

点
TINサーフェス上のポイントの表示/非表示を変更します。

三角形
TINサーフェス上の三角形の表示/非表示を変更します。

等高線
TINサーフェス上の輪郭の表示/非表示を定義します。

計曲線の間隔
主な輪郭の間隔を設定します。

主曲線の間隔
等高線の間隔を設定します。

計曲線の色
主輪郭線の色を定義します。

主曲線の色
輪郭線の色を定義します。

TIN分析
高度と勾配の分析を表示するためのパラメータを定義します。

標高
このオプションは、ONの場合、高度の分析を表示するためのパラメータを定義します。

範囲の作成方法
範囲の種類(範囲数、範囲間隔、データによる範囲間隔)を設定します。

カラースキーム
高度分析のカラースキームを設定します。

データカラースキーム上側
上側のデータカラースキームを設定します。

データカラースキーム下側
下側のデータカラースキームを設定します。

表示形態
高度分析の表示に使用する図形の種類を設定します(三角形、輪郭、ポイント、2D三角形、2D輪郭)

範囲間隔
範囲間隔を設定します。

範囲数
範囲数を設定します。

データム
データムを設定します。

勾配
このオプションは、ONの場合、勾配の分析を表示するためのパラメータを定義します。

カラースキーム
斜面のカラースキームを設定します。

表示形態
傾斜分析の表示に使用する図形の種類を設定します
(三角形、2D三角形)。

範囲数
範囲数を設定します。

TIN統計
TIN統計を表示します。

点の数
TINサーフェスポイントの数を表示します。

三角の数
TINサーフェス三角形の数を表示します。

最小高さ
TINサーフェスに見られる最小高さの値を示します。

最高高さ
TINサーフェスに見られる最大高さの値を示します。

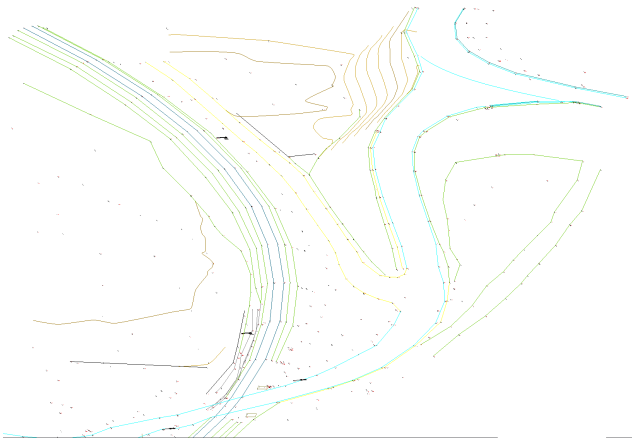
2Dエリア
TINサーフェスの2Dエリアを表示します。

3Dエリア
TINサーフェスの3Dエリアを表示します。

8.3.1.5 手順：図面図形からTINサーフェスを作成する

1 CADポイント、ブロック、ポリラインなどの図面図形が含まれる図面を開きます。

1

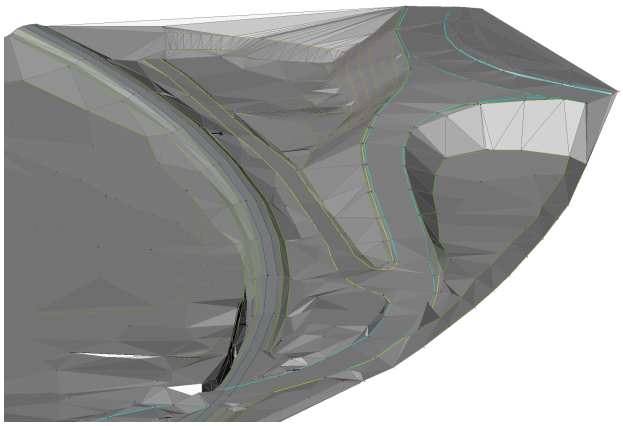


2 TINコマンドを起動します。

3 カレント図面の全ての図形を選択します。

4 Enterを押します。

5 コマンドラインでオプションを選択して、選択した線形図形を破断線として適用します。



注：TINサーフェスは、線形図面図形が破断線として追加されるときに、線形図面図形へのライブ接続を維持します。このような図面図形を編集すると、TINサーフェスが自動的に再構築されます。線形図面図形がTINサーフェスにエッジまたはポイントとして追加される場合、この接続は維持されません。同じことがCADブロックおよびポイントにも当てはまります。

8.3.1.6 手順：ポイントファイルからTINサーフェスを作成する

1 TINコマンドを起動します。

2 コマンドラインで**ファイルから読み込み**を選択します。

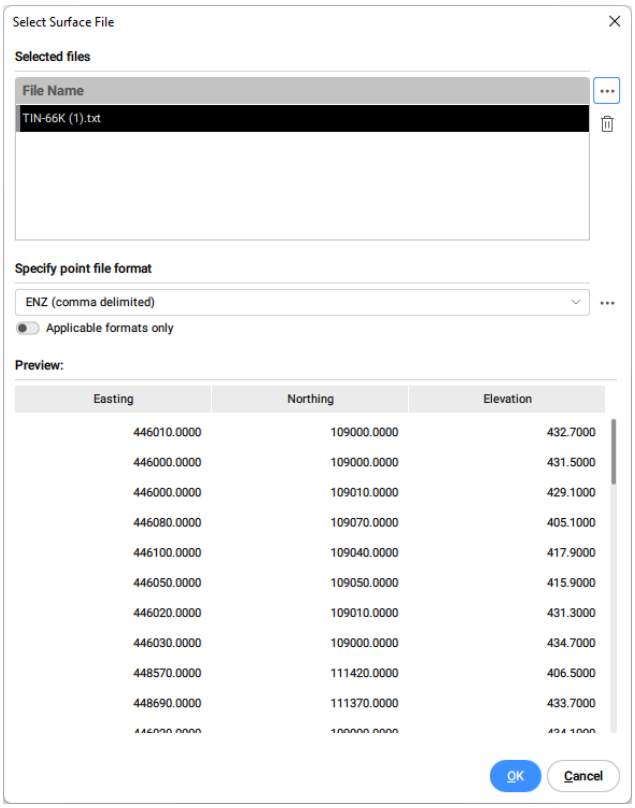
3 **ポイントファイルからTINサーフェスを読み込み**ダイアログボックスで、開きたいポイントデータファイルを選択します。もしくは、複数のファイルを選択して一度に読み込むこともできます。

4 ドロップダウンリストからポイントファイル形式を指定します。

5 **注**：サーフェスファイルの形式を管理するには、**ポイントファイル形式を指定**セクションの参照ボタンをクリックします。

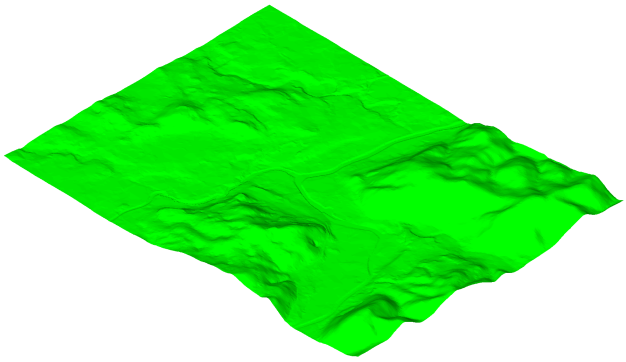
6 **適用可能な形式のみ**をオンにすると、選択した入力ポイントファイルに該当するポイントファイル形式のみを自動で絞り込むことができます。

7 **OK**をクリックすると、ポイントファイルからTINサーフェスが作成されます。



8 コマンドラインで**いいえ**を選択すると、ポイントを簡略化せずにTINサーフェスを作成できます。

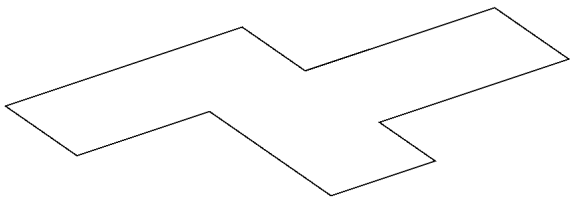
注：パラメータの詳細については、TIN簡略化アルゴリズムの説明を確認してください。



8.3.1.7 手順：クリップポリゴンを使用してポイントファイルからTINサーフェスを作成する

1 既存の閉じたポリラインを使用するか、新しい閉じたポリラインを作成して、その領域内にTINサーフェスを作成します。

1



2 TINコマンドを起動します。

3 コマンドラインで**ポリゴンをクリップ**オプションを選択します。

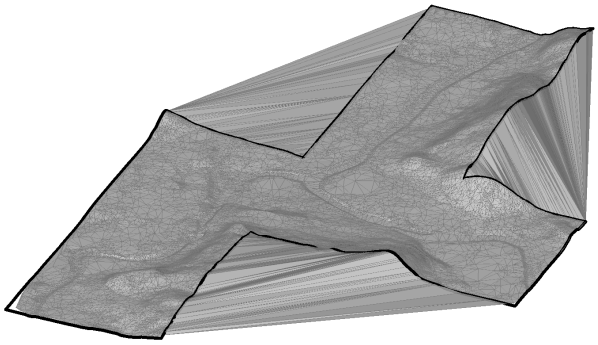
4 クリップポリゴンとして使用する図面内の閉じたポリラインを選択します。

5 コマンドラインで**ファイルから読み込み**オプションを選択し、選択したポリゴンの中に、読み込んだポイントファイルからTINサーフェスを作成します。

注：他のオプションとして、**(図面)図形を選択**、**面から作成**、**点群から作成**、**ポイントグループから作成**などがあります。

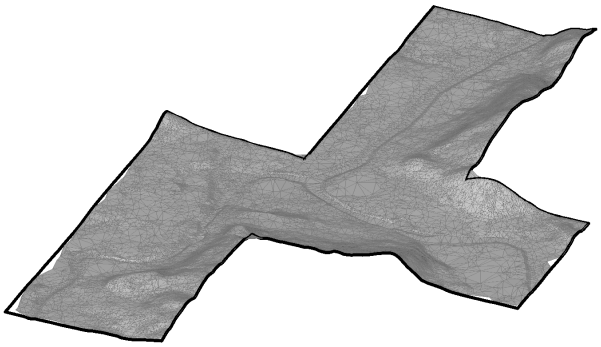
6 前述のポイントファイルからTINサーフェスを作成する手順に従ってください。

7



注：TINサーフェスアルゴリズムは、凹形クリップポリゴンの境界外側の三角形を接続します。このような領域では、細長い三角形が作成されます。これは、TINEDITコマンドで削除できます。

8 TINEDITコマンドを起動し、**外側エッジを削除**オプションを選択します。次に、三角形の最大長を指定します。指定した値より長い三角形は削除されます。



8.3.1.8 手順：点を配置して、地形面を作成

1 図面を開く。

2 TINコマンドを起動します。

3 コマンドラインで**点を置く**オプションを選択します。

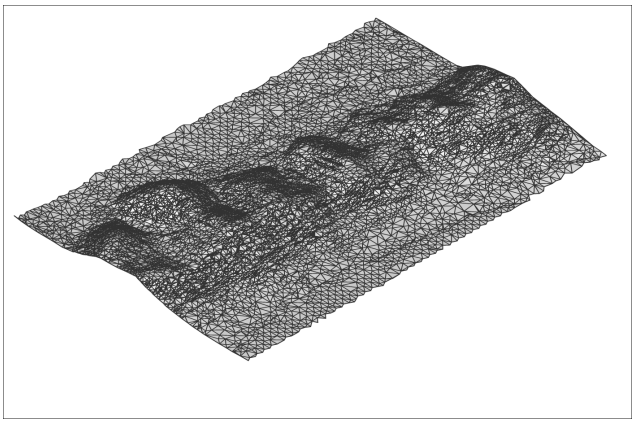
4 TINサーフェスの作成を開始するポイントを選択します。

5 それらの各ポイントの高さを指定し、Enterを押して確定します。

注：TINサーフェスを作成するためには、少なくとも三つの点が必要です。

8.3.1.9 手順：面からTINサーフェスを作成

1 3D面を含む図面ファイルを開きます。

1 

2 TINコマンドを起動します。

3 コマンドラインで**面から作成**オプションを選択します。

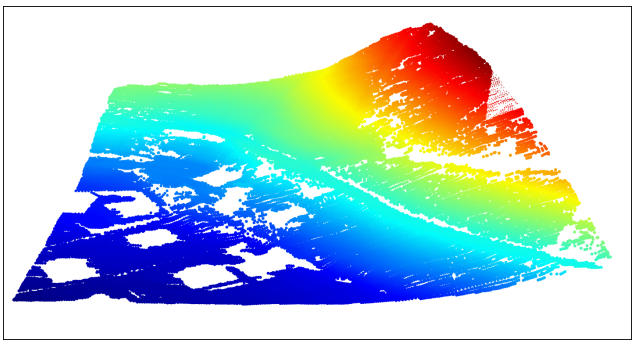
4 目的の3D面を選択します。

5 3D面をエッジとして適用するかどうか(および表示/非表示)を選択します。

6 **注**：このオプションを選択すると、TINサーフェスの作成に3D面のエッジおよび頂点が使用されます。このオプションを選択していない場合は、TINサーフェスの作成に3D面の頂点のみが使用されます。その結果、TINサーフェスは3D面のエッジに追従しません。

8.3.1.10 手順：点群からTINサーフェスを作成

1 点群が含まれた図面ファイルを開きます。

1 

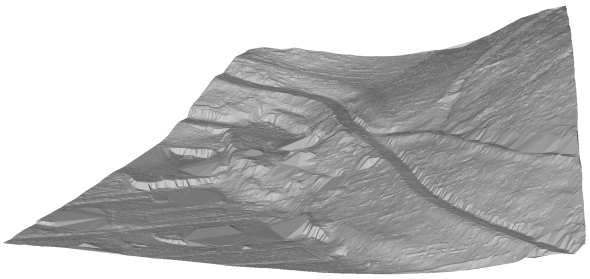
2 TINコマンドを起動します。

3 コマンドラインで**点群から作成**オプションを選択します。

4 図面内の点群を選択します。

5 ENTERを押します。

6 **いいえ**を選択すると、簡略化せずにTINサーフェスが作成されます。



画像は、87350ポイントの点群から作成された元のTINサーフェスを示しています。

8.3.1.11 手順：点群からTINサーフェスを作成するときに、TIN簡略化オプションとTIN高密度化オプションを使用する

このセクションでは、点群からTINサーフェスを作成する手順について説明します。その際にTIN簡略化オプションとTIN高密度化オプションも使用します。

上記の手順1～5に従って、点群からTINサーフェスを作成します。次に、以下の手順に従って、TIN簡略化オプションとTIN高密度化オプションを使用します。

1 コマンドラインにTINサーフェスの簡略化オプションが表示されたら、**はい**を選択します。

2 簡略化ステップの半径を入力

3 標高差を入力

4 **注**：パラメータの詳細については、TIN簡略化アルゴリズムの説明を確認してください。

5 コマンドラインで**TINサーフェスを作成**オプションを選択します。

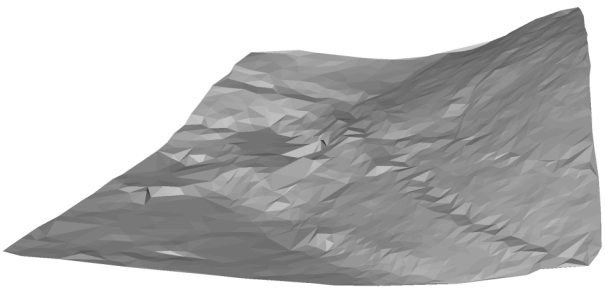
あるいは、**もう一度簡略化**オプションを選択して、簡略化パラメータを編集します。

注：コマンドラインに簡略化する前と後の点の数が表示されるため、ユーザーは次のステップのためのより適切な判断ができます。

```
Number of points before simplification: 78350
Number of removed points: 76788
Number of points after simplification: 1562
```

6 TINサーフェスを高密度化する場合は、**はい**を選択します。

いいえを選択すると、簡略化されたTINサーフェスを作成します。

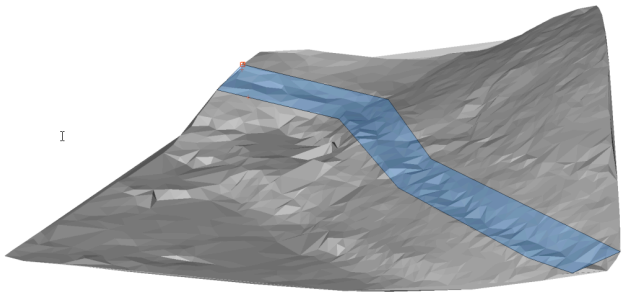


画像は、1562ポイントの簡略化されたTINサーフェスを示しています。

7 標高差を入力

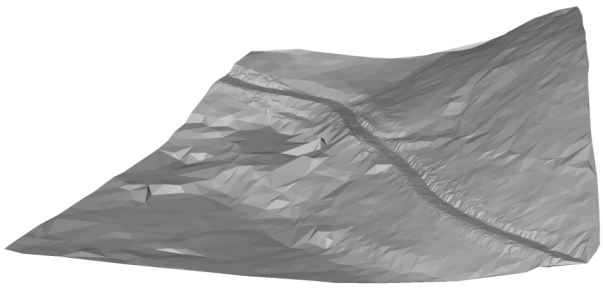
8 TIN高密度化プロセスの領域を指定するオプション(図面内の既存のポリゴンを選択する、または新しいポリゴンを作図する、またはEnterを押してTINサーフェス全体を使用する)のいずれかを選択します。

9 **注**：パラメータの詳細については、TIN高密度化アルゴリズムの説明を確認してください。



画像は、TIN高密度化の領域を定義するポリゴンを示しています。

注：最終的な結果は、簡略化されたTINサーフェスを表しており、指定したポリゴン内の個々のポイントが返されます。TINサーフェス全体の特定の領域でTIN高密度化オプションを使用することにより、この領域で元のTINサーフェスと最終的なTINサーフェスの高度差がステップ6で指定した「高度差」の値を超えないという目標が達成されます。



画像は、6536ポイントの最終的なTINサーフェスを示しています。元のTINサーフェスは87350ポイントで構成されます。

注：TINサーフェスの簡略化と高密度化のパラメータは、土木エクスプローラからいつでも編集できます。適切なTINサーフェスを選択し、**ポイントを追加**定義を右クリックして、コンテキストメニューから**編集**オプションを選択します。**サーフェスの定義**ダイアログボックスが開きます。ここで必要なすべてのパラメータを編集できます。

8.3.1.12 手順：Civil 3Dサーフェスから TINサーフェスを作成

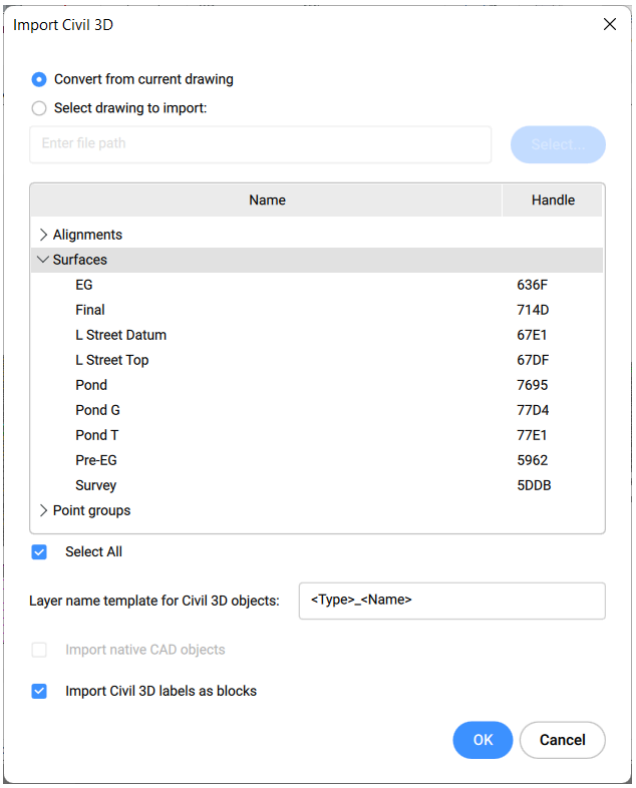
1 Civil 3Dサーフェスが含まれた図面を開きます。

2 CIVIL3DIMPORTコマンドを起動します。

3 **Civil 3D読み込み**ダイアログボックスで、**カレント図面から変換**を選択します。

4 **注**：BricsCAD土木TINサーフェスに変換するAutoCAD® Civil 3Dサーフェスを選択します。

注：**Civil 3D読み込み**ダイアログボックスで、BricsCADの土木要素に変換する、点群や線形やプロファイルなどの他のCivil 3Dオブジェクトも選択できます。



5 土木3Dオブジェクトの名前テンプレートを指定します。

6 **ブロックとしてCivil 3Dのラベルを読み込み**オプションにチェックマークを付けます。

7 OKボタンをクリックします。

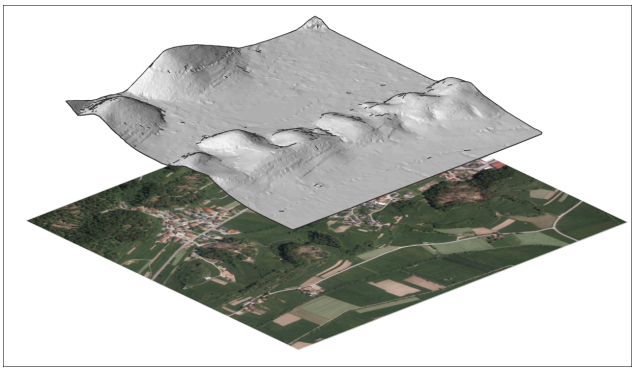
8 **Civil 3Dサーフェスから作成**の定義が作成されます。

8.3.1.13 TIN割り当てイメージについて

1 TINサーフェスとイメージが含まれた図面ファイルを開きます。

2 TINASSIGNIMAGEコマンドを起動します。

3 TINサーフェスを選択します。

4 

5 ラスターイメージを選択。

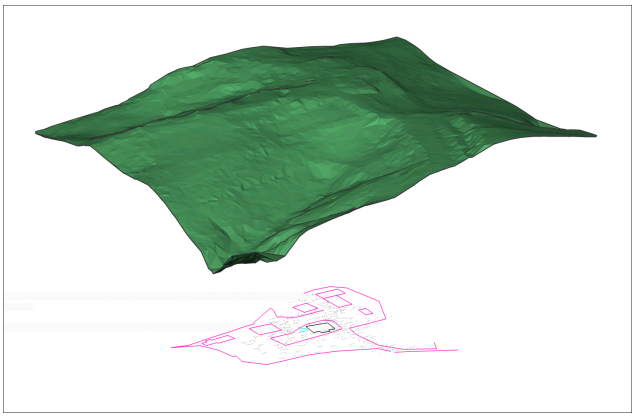
6

注 : TINサーフェスに画像が表示されない場合は、表示スタイルをモデリングまたはリアリスティックに変更し、TINサーフェスの三角形をONにします。

8.3.1.14 TIN投影について

1 TINサーフェスと図形(点、ブロック、文字、線分、ポリライン、円...)が含まれた図面ファイルを開きます。

1

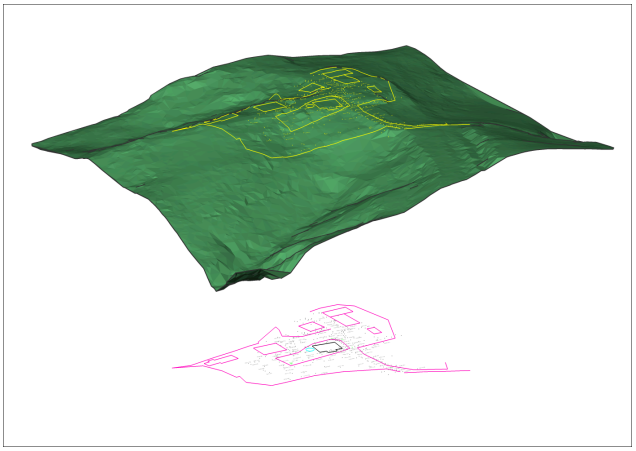


2 TINPROJECTコマンドを起動します。

3 投影する図形を選択。

4 オリジナルの図形を消去するかどうかを選択します。

5

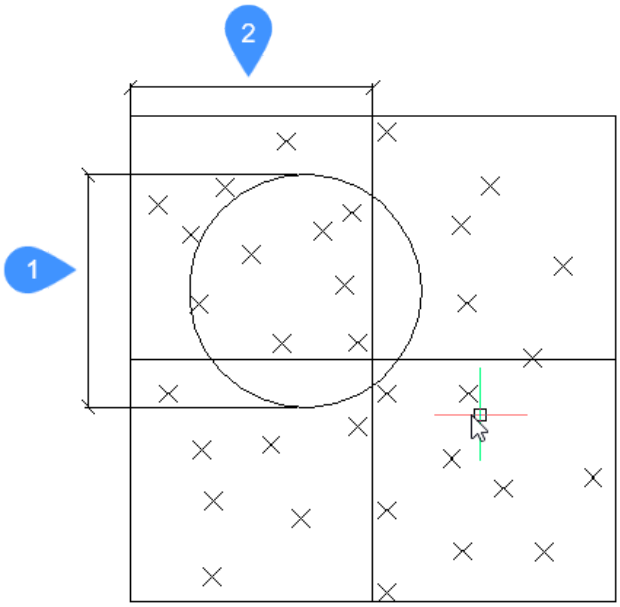


8.3.2 TIN簡略化

アルゴリズムは、各ポイントが個々のセルに含まれるように、ポイントを正方形のセルに分割します。最初のステップでは、入力ポイントファイルまたは点群内のポイントの順序に従って、最初のセルから最初のポイントが取得されます。

最初のポイントの周辺で、Δh(**標高差**)の条件充足が、隣接するすべてのポイントについてチェックされます。隣接するセル内のポイントを含め、特定の半径内のすべてのポイントは、隣接するポイントと見なされます。(下記の図を参照)

ユーザー定義のポイントよりもΔhの値が高いすべてのポイントが除外されると、最初のセルの次のポイントに対して説明されている手順が続行されます。その後、隣接するセル内のすべてのポイントに対してX座標方向に処理が続行され、最後のセルまで続行されます。



1　簡略化ステップの半径を入力

2　簡略化ステップの半径を入力

アルゴリズムは、**簡略化ステップの半径を入力**パラメータの値を自動的に提案します。これは、指定された入力ポイントに基づいて**境界ボックス**を計算することによって行われます。次に、寸法ΔxとΔy(長さと幅)のうち大きい方を取ります。得られた値の0.5%が計算され、四捨五入されて、ユーザーの提案値としてコマンドラインに表示されます。

セルサイズが大きいほど(例：**簡略化ステップの半径を入力**パラメータ)、最終的なTINサーフェスの精度が低下します。単純化されたTINネットワークの精度を高めるには、小さいセルサイズを入力する方が理にかなっています。

8.3.3 TIN高密度化

TINサーフェスが既に簡略化された後、ユーザーは簡略化されたTINサーフェスとTINサーフェス内の指定された領域上にある除外された入力ポイントとの間の高さの最大差を指定します。指定した値よりも高さの差が大きいすべての入力ポイントは、簡略化されたTINサーフェスに戻して追加されます。

8.3.3.1 手順：TINサーフェスを高密度化

1 ポイントファイルまたは点群から作成されたTINサーフェスを簡略化

1

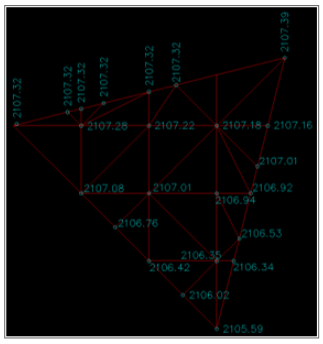


Figure 1: Original TIN Surface

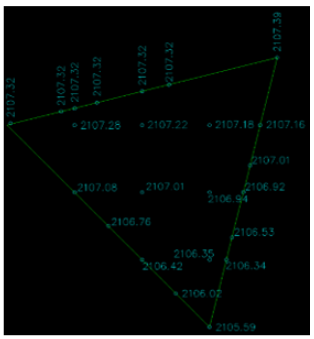


*Figure 2: Simplified TIN Surface**

*簡略化ステップの半径 = 3, 高さの差 = 0.5

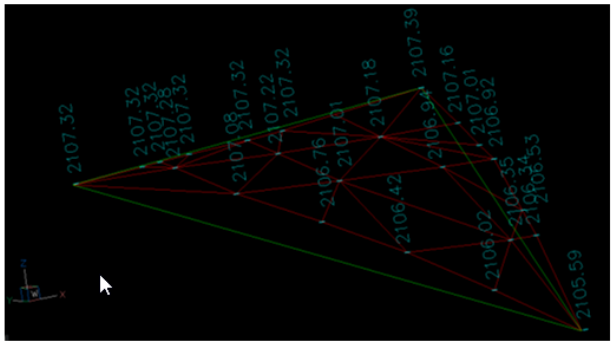


Figure 3: Original TIN presented in red, and Simplified TIN presented in green, shown in perspective 3D view

2 **TINサーフェスを高密度化**

ユーザーは、TINサーフェスがすでに簡略化された後、「TIN高密度化」オプションを選択するオプションがあります。

ユーザーは簡略化されたTINサーフェスとTINサーフェス内の指定された領域上にある除外された入力ポイントとの間の高さの最大差を指定します。指定した値よりも高さの差が大きいすべての入力ポイントは、簡略化されたTINサーフェスに戻して追加されます。

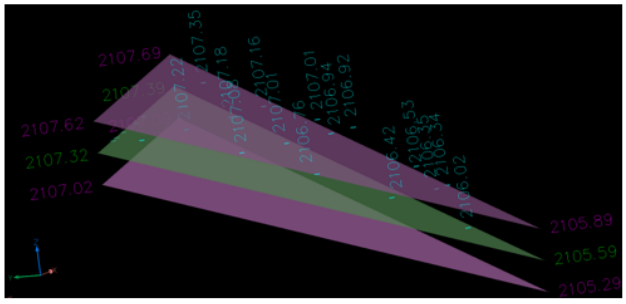


Figure 4: Simplified TIN, presented in green and "Elevation difference = 0.3", presented in magenta

最初のステップでは、アルゴリズムはTIN簡略化プロセスで除外されたすべてのポイントからランダムなポイントを取得します。次に、選択したポイントで「最大の高さの差」条件が満たされているかどうかがチェックされます。条件が満たされると、ポイントが簡略化されたTINサーフェスに追加され、その結果、更新されます。次に除外されたポイントについては、更新されたTINサーフェスで高さの差がチェックされます。上記の条件がすべての除外ポイントでチェックされるまで、この手順が繰り返されます。
したがって、TIN高密度アルゴリズムは、ポイントの密度を高め、その結果、選択した領域またはTINサーフェス全体におけるTIN −フェスの精度を高めます。

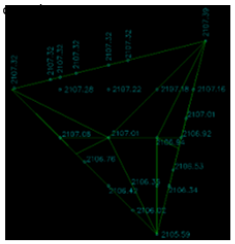


Figure 5: Densified TIN in a 2D plan view

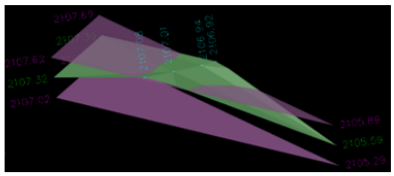


Figure 6: Densified TIN Surface in a perspective 3D view – showing points, excluded in a step 1, that are added back to the simplified TIN Surface in a step 2, according to a specified "Elevation difference" parameter.

8.3.4 TINサーフェスの編集

8.3.4.1 コマンド

TINEDIT [TINサーフェス編集]

8.3.4.2 概要

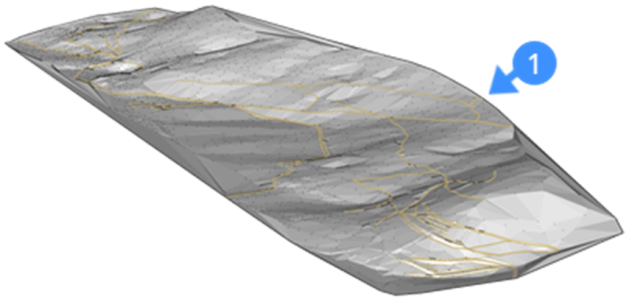
BricsCADでは、TINEDITコマンドを使用して、不整三角形網(TIN)サーフェス上の点、破断線、および境界を追加または削除できます。

以下の図形は、TINサーフェス上のフィーチャーを表します：

- ポイントには、X、Y座標、およびZ値が含まれます。すべてのポイントを使用し、2つの最近接ポイント同士を接続して三角形を作成します。サーフェスの三角形分割は、ドロネーアルゴリズムに基づいています。これにより、三角形の外接円の内側に点がないことが保証されます。
- 破断線は、縁石、擁壁などの線形インフラストラクチャフィーチャーを表します。これらの線は、三角形のエッジも定義します。破断線は、線分、ポリライン、円弧、円などの直線図形から作成できます。
- 境界は、境界のある3Dサーフェスを定義するためのフィーチャーです。サーフェスの境界は、閉じたポリラインで作成することができます。大きな3Dサーフェス上に外側の境界を定義すると、TINサーフェス平面図のパフォーマンスが向上します。

8.3.4.3 地形面にポイントを追加

1 サーフェスポイントでTINサーフェスを開きます (1)

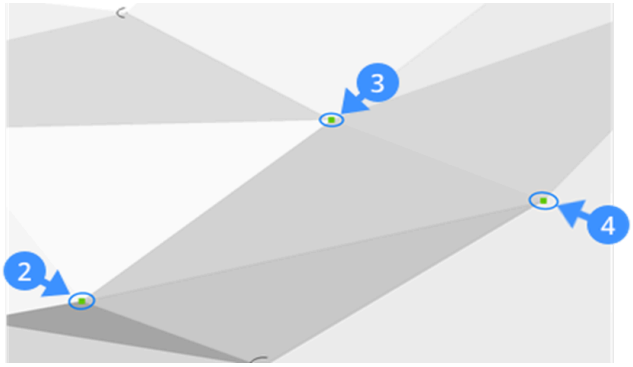


2 TINサーフェスを選択し、TINEDITコマンドを起動します。

3 サーフェスにポイントを追加する範囲をクリックします。

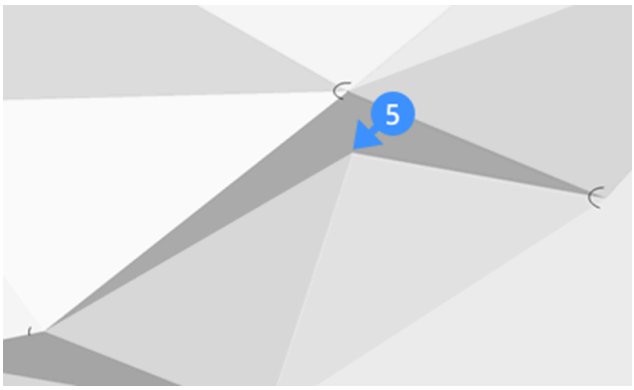
注：

- 値は、三角形(2、3、4)内の選択されたポイントの補間された高さとして計算されます。
- ESNAPがオンの場合、カーソル座標内のポイントの高さを確認できます。



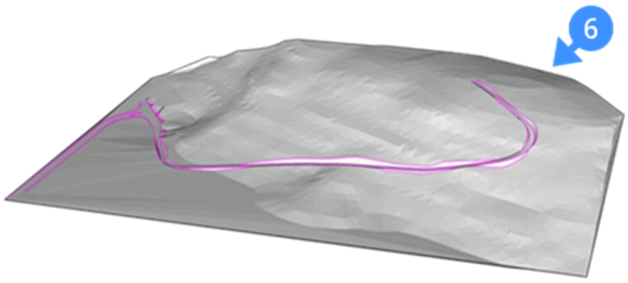
4 新たに追加された点の高さを指定し、コマンドラインに高さの値を入力し、Enterを押します。

5 サーフェス上に点を追加し続けるか、Enterキーを押してコマンドを終了します。新しいサーフェスポイント (5) は、ポリラインの頂点などの図形から追加されます。



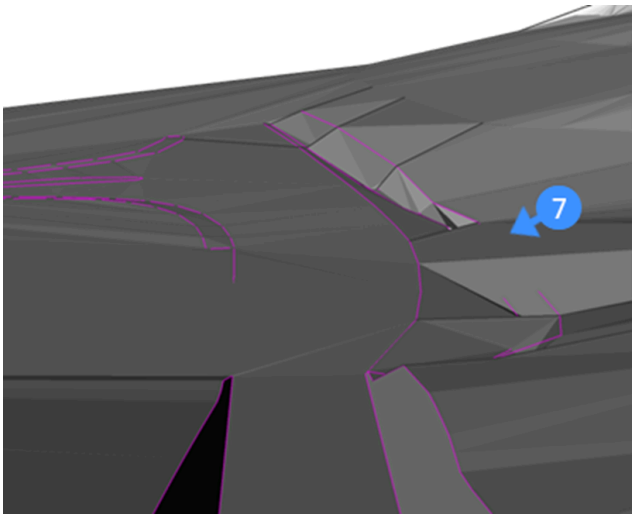
8.3.4.4 地形面に破断線を追加

1 TINサーフェス (6) を開きます。



2 TINサーフェスを選択し、TINEDITコマンドを起動します。

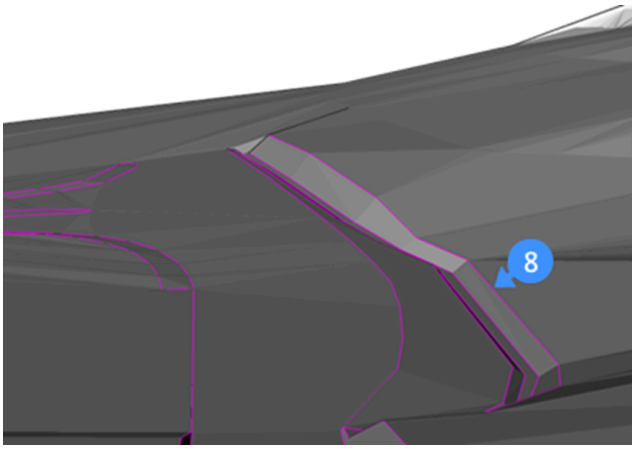
3 **破断線を追加**を選択するか、コマンドラインに**AB**と入力します。



注 : サーフェスに破断線を追加する前に、擁壁が破断線を引きます。(7)

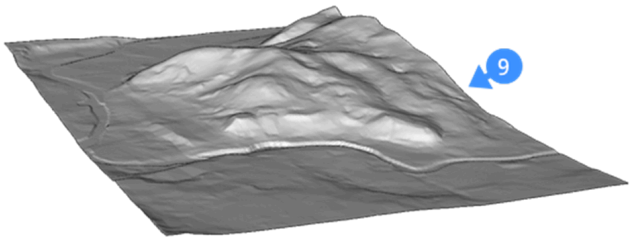
4 追加したい破断線を選択します。これにより、選択した破断線(8)に応じてサーフェスが変更されます。

注 : 破断線を移動すると、サーフェスが自動的に更新されます。



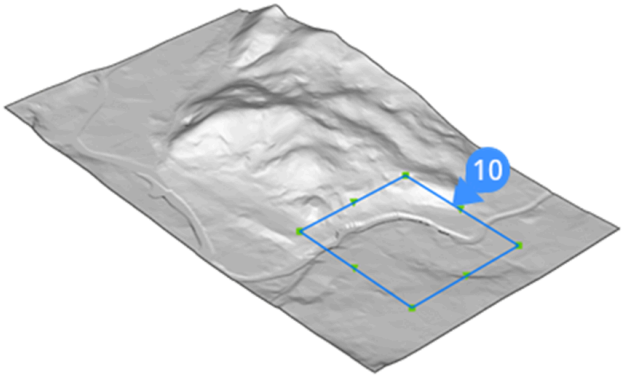
8.3.4.5 地形面に境界線を追加

1 境界線を作成したいTINサーフェスを開きます。(9)



2 サーフェスをクリップしたい場所に閉じた境界線を作成します。(10)

注 : 図形スナップトラッキング(ESNAP)が有効になっていることを確認してください。



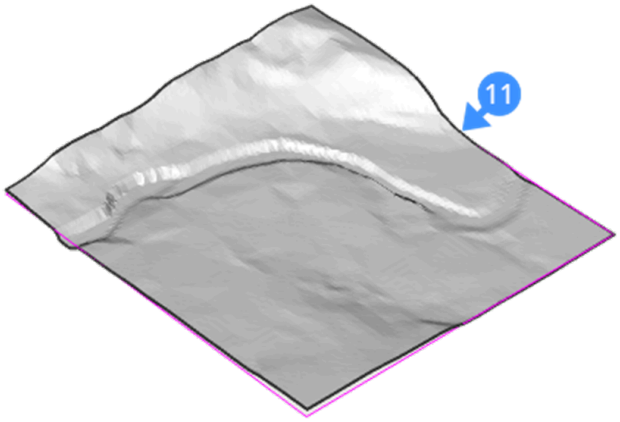
3 TINサーフェスを選択し、TINEDITコマンドを起動します。

4 コマンドラインで**境界線を追加**を選択します。

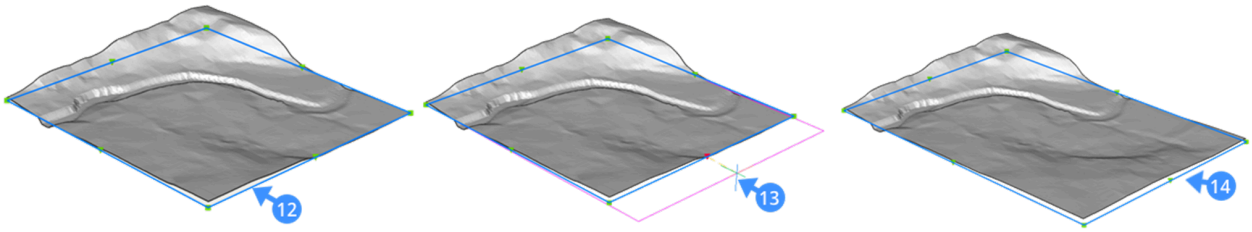
5 サーフェス境界定義で使用する閉じた境界をクリックし、Enterを押します。

注：

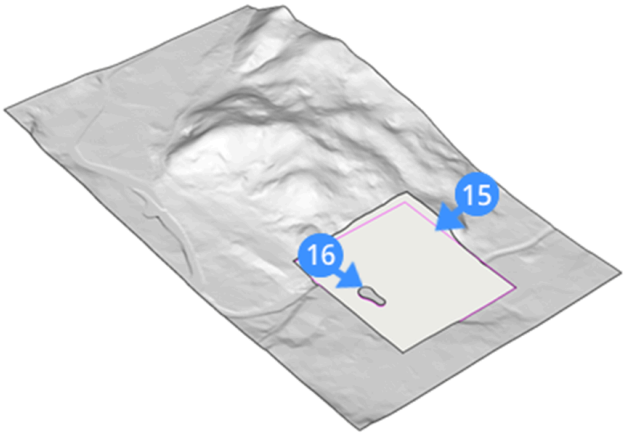
- デフォルトでは、外側オプションが選択されており、外側サーフェス境界を作成できます。(11)



- 境界図形(ポリラインなど)を選択して(12)、サーフェスの境界のサイズを変更することができます。図形のグリップを動かすと(13)、サーフェスが動的に変化します。(14)



- 非表示オプションを選択すると、総面積を計算する際にTINからサーフェスの一部を除外することができます。
- 表示オプションを選択すると、TIN内の隠れたサーフェスが表示されます。



- 閉じた境界(15)に応じた非表示部分が表示され、表示オプションを使用して非表示部分の表面が表示されます(16)。

8.3.5 TINサーフェスのダイレクトモデリング

8.3.5.1 コマンド

TINEXTRACT、TINMODIFY、TINMERGE

8.3.5.2 概要

BricsCADでは、TINサーフェスとして作成された地形サーフェスを、さまざまなツールを使用して調整できます。

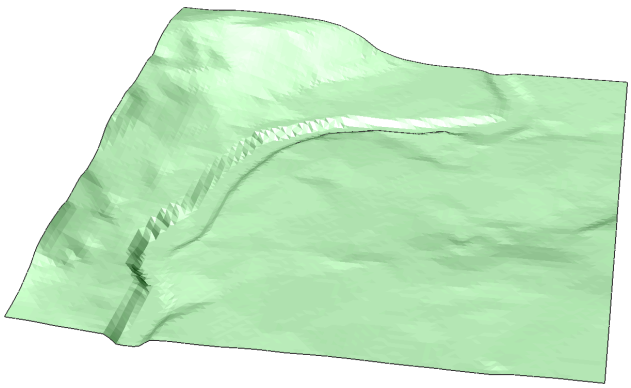
8.3.5.3 TINEXTRACTについて

TINEXTRACTコマンドを使い、TINサーフェスからソリッド、メッシュ、境界、交差線、面、点を生成します。これらの図形を他のアプリケーションで交換して、サーフェスをさらに解析できます。ソリッドまたはメッシュは、TINサーフェスの垂直オフセットとして、2つのTINサーフェス間のモデルとして、または固定高さ面とTINサーフェス間のモデルとして、さまざまな方法で作成することができます。

8.3.5.4 手順：高さオプションを使用してTINサーフェスからソリッドを作成

1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINEXTRACTと入力します。

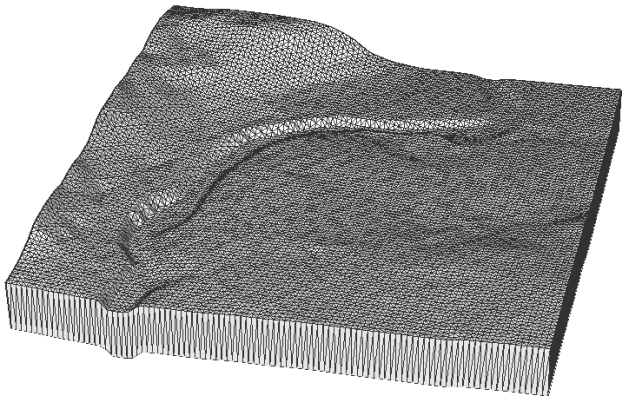
1



2 **TINサーフェスから抽出**ダイアログボックスが開きます。**ソリッド/メッシュ**オプションをオンに設定します。

3 **高さ**ボタンにチェックマークを入れ、高さの値を設定します。

4 **抽出**ボタンを押します。



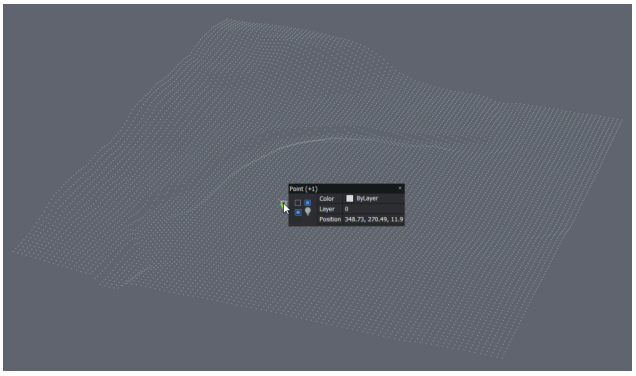
8.3.5.5 手順：TINサーフェスから点を作成

1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINEXTRACTと入力します。

2 **TINサーフェスから抽出**ダイアログボックスが開きます。

3 **ポイント**オプションにチェックを入れ、必要に応じて目的の画層を選択します。

4 **抽出**ボタンを押します。



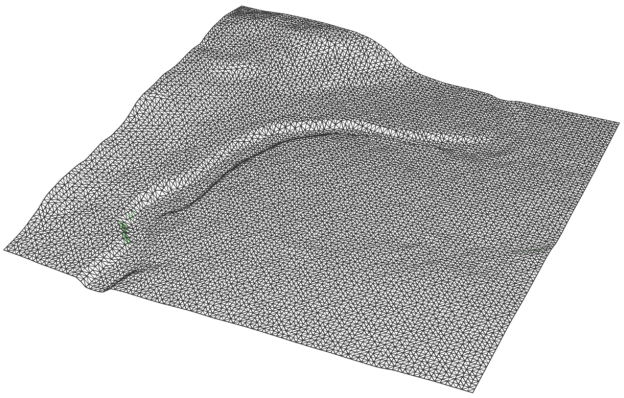
8.3.5.6 手順：TINサーフェスから面を作成

1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINEXTRACTと入力します。

2 **TINサーフェスから抽出**ダイアログボックスが開きます。

3 **三角形**オプションにチェックを入れ、必要に応じて目的の画層を選択します。

4 **抽出**ボタンを押します。



8.3.5.7　手順：TINサーフェスから等高線を作成

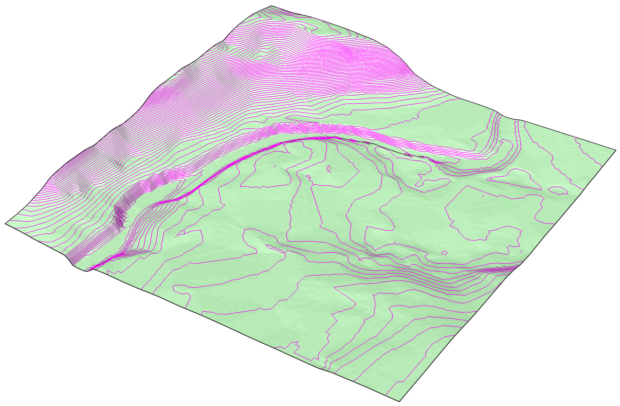
1　TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINEXTRACTと入力します。

2　**TINサーフェスから抽出**ダイアログボックスが開きます。

3　**計曲線**オプションと**主曲線**オプションにチェックを入れ、必要に応じて目的の画層を選択します。

4　計曲線と主曲線の両方に**間隔**値を設定します。

5　**抽出**ボタンを押します。



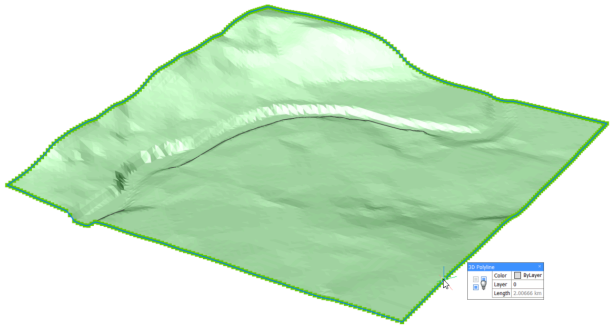
8.3.5.8　手順：TINサーフェスから境界を作成

1　TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINEXTRACTと入力します。

2　**TINサーフェスから抽出**ダイアログボックスが開きます。

3　**境界線**オプションにチェックを入れ、必要に応じて目的の画層を選択します。

4　**抽出**ボタンを押します。



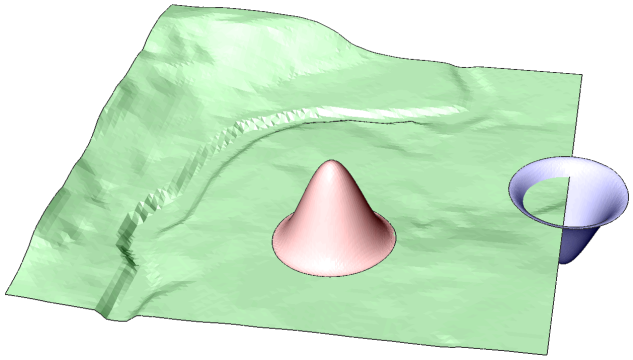
8.3.5.9 TINマージについて

TINMERGEコマンドを使用して、さまざまなTINサーフェスを1つにマージできます。マージは、ベースサーフェスとマージする1つまたは複数のサーフェスとの間で実行されます。

8.3.5.10 TINサーフェスのマージ

1 コマンドラインにTINMERGEと入力します。

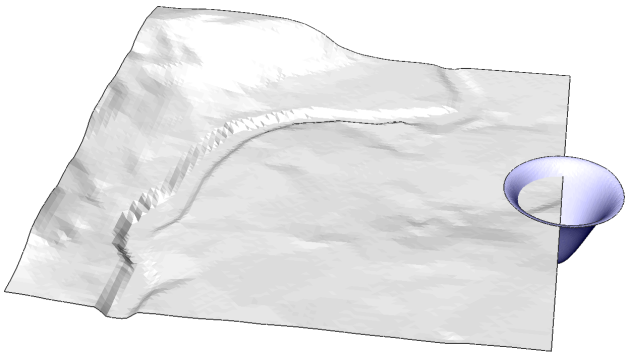
1



2 ベースサーフェスを選択します。この例では、ベースサーフェスとして緑色のサーフェスを選択しています。

3 元のサーフェスを保持するか削除するかを選択します。

4 **注**：異なるベースラインを選択すると、マージも異なる結果になります。マージするサーフェスは、ベースサーフェスのカバー部分を置き換えることに注意してください。



最初の例は、ベースサーフェスとしての緑色のサーフェスと、青色と赤色のサーフェスの結合を示しています。

2番目のサーフェスは、青色のサーフェスをベースサーフェスとして、緑色のサーフェスを結合したものです。

3番目のサーフェスは、赤色のサーフェスをベースサーフェスとして、緑色のサーフェスを結合したものです。

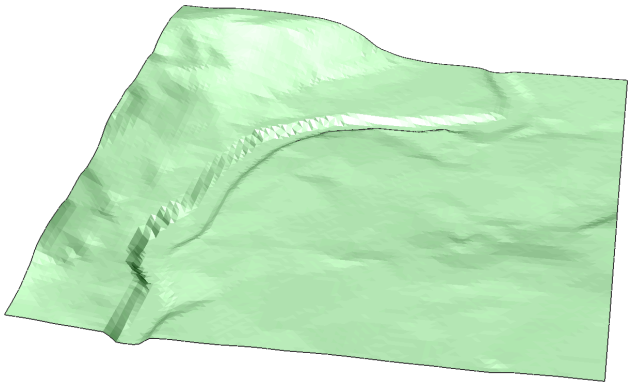
8.3.5.11 TINの変更について

TINサーフェスは、サーフェスを変形または平滑化することによって修正することができます。サーフェスを変形することにより、TINサーフェスはユーザーが定義した領域の輪郭に従って調整されます。表面を滑らかにすることにより、この事前定義された領域の補間によって選択された領域が平坦化されます。

8.3.5.12 手順：半径を使用してTINサーフェスに変形を追加

1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINMODIFYと入力します。

1



2 **Deform**のオプションを選択します。

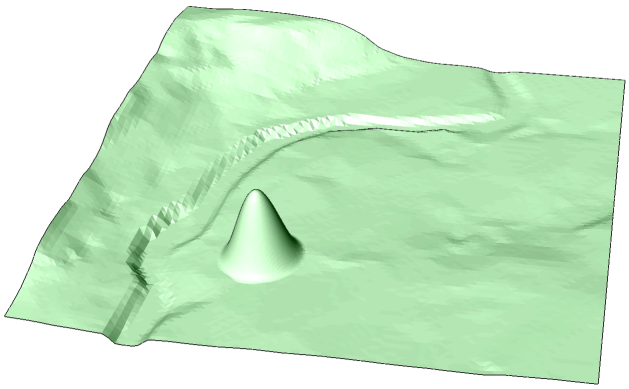
3 変形する半径を選択します。

4 変形を適用する領域をクリックします。

5 高さを選択します。

6 調整を新しい要素として追加するか、既存のTINサーフェスの変更として追加するかを選択します。

7



注：変更を新しい要素として追加することにより、元のTINサーフェスの構造は変更されず、新しいTINサーフェスとして追加されます。

8 他の領域をクリックして新しい変形を追加するか、Enterキーを押してコマンドを終了します。

8.3.5.13 手順：輪郭を指定してTINサーフェス上に変形を追加

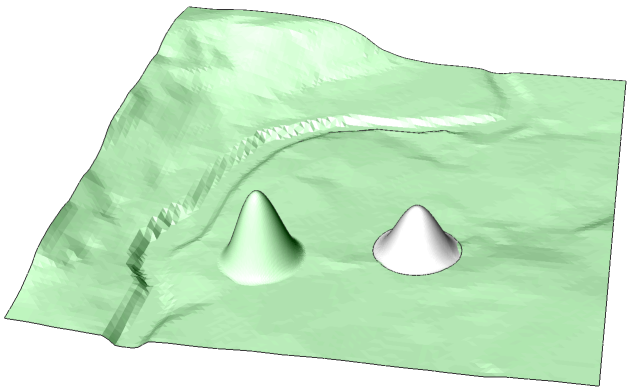
1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINMODIFYと入力します。

2 **Deform**のオプションを選択します。

3 **Specify Contour** オプションを選択します。

4 TINサーフェスの輪郭を選択します。

5

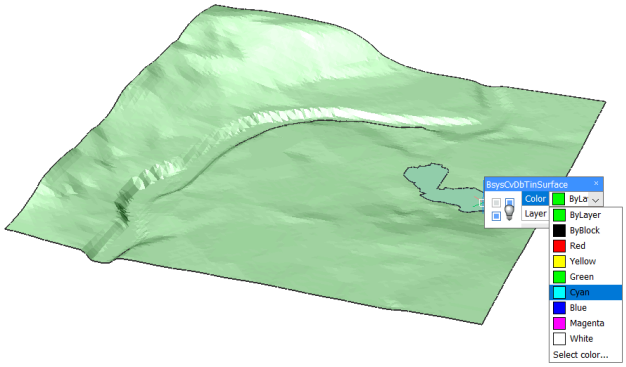


6 調整を新しい要素として追加するか、既存のTINサーフェスの変更として追加するかを選択します。「**N**」と入力して、調整用の新しい要素を作成します。

7 他の輪郭をクリックして新しい変形を追加するか、Enterキーを押してコマンドを終了します。

8 これで、TINサーフェス上に新しい要素が作成されました。プロパティはお好みに合わせて変更できます。たとえば、要素の色を変更します。

9



8.3.5.14　手順：選択図形を指定してTINサーフェス上に変形を追加

1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINMODIFYと入力します。

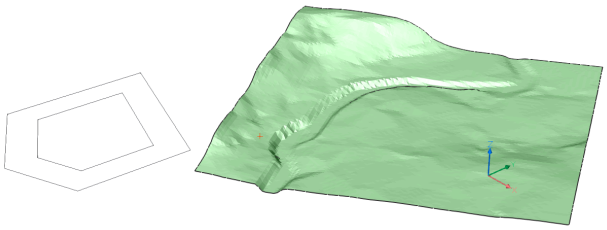
2 **Deform**のオプションを選択します。

3 **選択図形**を選択するには、「E」と入力し、Enterを押します。

4 閉じた図形を選択します。(例：ポリライン)

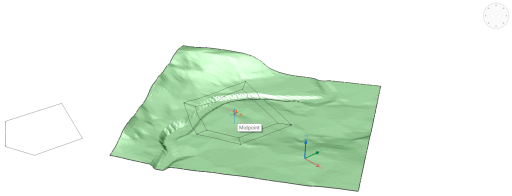
5 オフセット距離を選択します。

6



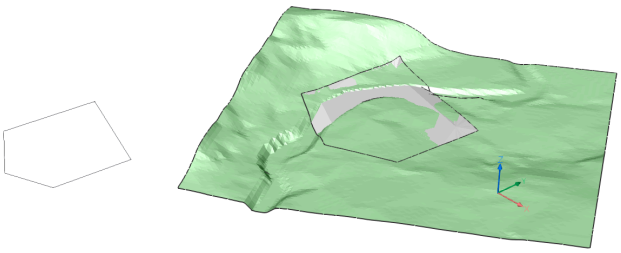
7 変形を適用する領域をクリックします。

8



9 高さを選択します。

10



11 調整を新しい要素として追加するか、既存のTINサーフェスの変更として追加するかを選択します。「**N**」と入力して、調整用の新規エレメントを作成します。

12 他の領域をクリックして新しい変形を追加するか、Enterキーを押してコマンドを終了します。これで、**選択図形**を使用して変形を追加できました。

8.3.5.15 手順：ポリゴンを使用してTINサーフェスに変形を追加

1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINMODIFYと入力します。

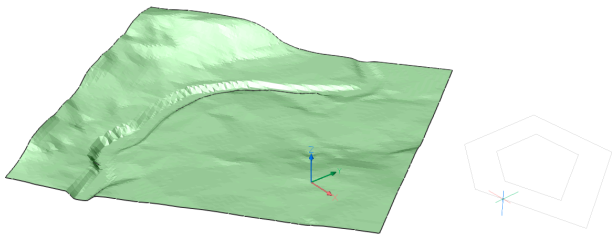
2 **Deform**のオプションを選択します。

3 **draw Polygon**を選択します。

4 ポリゴンを作図し、Enterキーを押してポリゴンを閉じます。

5 オフセット距離を選択します。

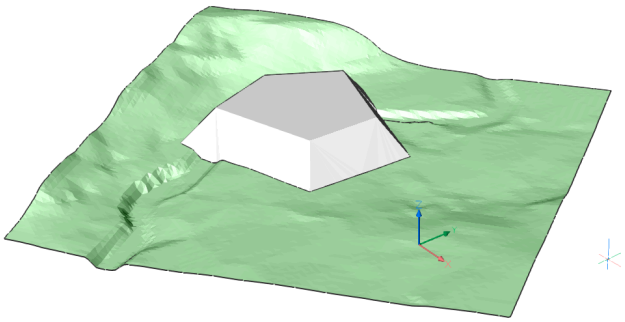
6



7 変形を適用するエリアをクリックします。

8 高さを選択します。

9



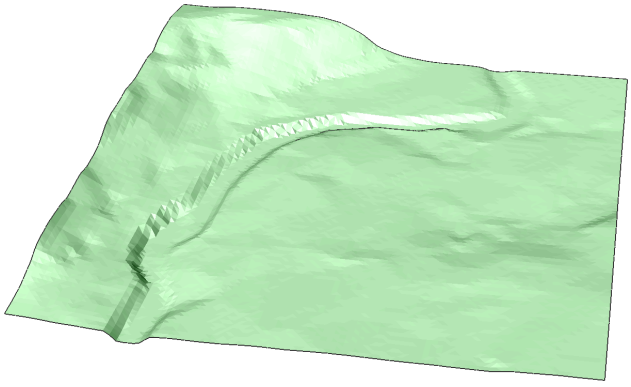
10 調整を新しい要素として追加するか、既存のTINサーフェスの変更として追加するかを選択します。「**N**」と入力して、調整用の新規エレメントを作成します。

11 他の領域をクリックして新しい変形を追加するか、Enterキーを押してコマンドを終了します。これで、[ポリゴンを作図] を使用して変形を追加できました。

8.3.5.16 手順：TINサーフェスをスムーズ化

1 TINサーフェスを選択し、コマンドラインにTINMODIFYと入力します。

1



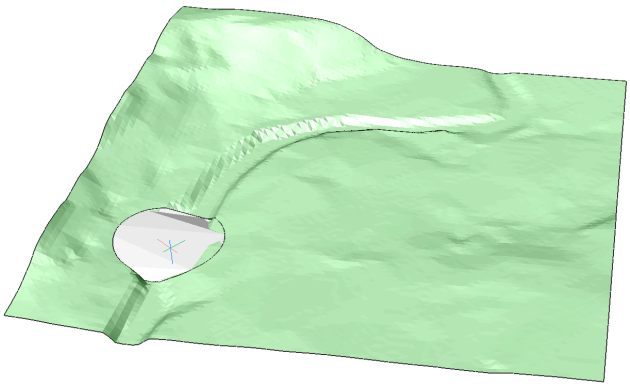
2 **Smoothen**のオプションを選択します。

3 半径を選択します。

4 **注：図形を選択**または**ポリゴンを作図**の手順は、**図形を選択を使用して変形を追加する**、および**ポリゴンを作図を使用して変形を追加する手順**と類似しており、ステップ3から開始します。

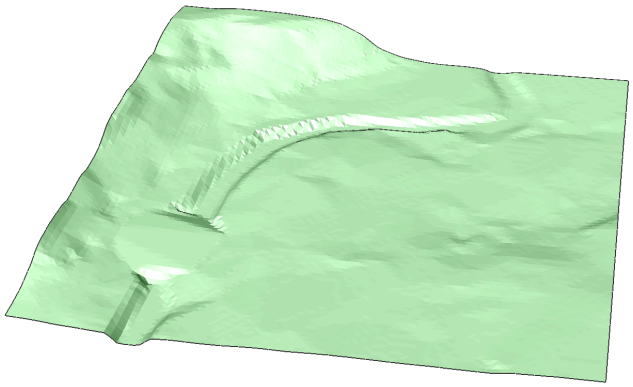
5 スムーズ化のプレビューが表示されます。

6



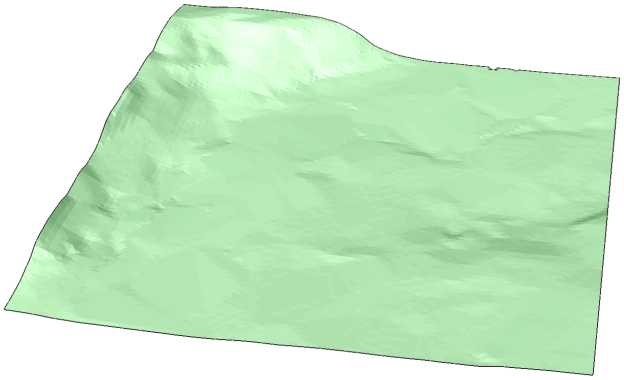
7 コマンドを実行するにはクリックします。

8



9 他の領域をクリックしてスムーズ化するか、Enterキーを押してコマンドを終了します。

10



8.3.6 TINサーフェスの解析

8.3.6.1 コマンド

TINVOLUME、TINWATERDROP

8.3.6.2 概要

BricsCADでは、TINサーフェスとして作成された地形サーフェスを、さまざまなツールを使用して解析することができます。

8.3.6.3 TINボリュームについて

TINボリュームサーフェスは、ベースサーフェスと比較サーフェスの間の正確な違いを提供します。したがって、ボリュームサーフェス内の任意のポイントのZ値は、そのポイントでの比較サーフェスのZとそのポイントでのベースサーフェスの正確な差となります。TINボリュームサーフェスは、追加の充填容積/切土容積プロパティを持つカスタム図形として作図されます。

TINボリュームを使用して、土類を計算または分析できます：

- 境界エリア内の充填容積/切土容積を計算。
- 充填エリアと切土エリアを分割するゼロの輪郭を作図。
- 質量分布を視覚化。

8.3.6.4 TINボリュームを作成

以下の手順に従い、TINボリュームを作成します。ボリュームに関連性があるかどうかを選択します。関連性がONの場合、ベースサーフェスまたは比較サーフェスを変更すると、TINボリュームサーフェスが自動的に更新されます。関連性の無効/有効を切り替えるには、次の手順を実行します。

1 コマンドラインにSETTINGSと入力し、Enterを押します。**設定**ダイアログボックスが開きます。

2 **土木** > **土木一般** > **自動調整**に移動します。

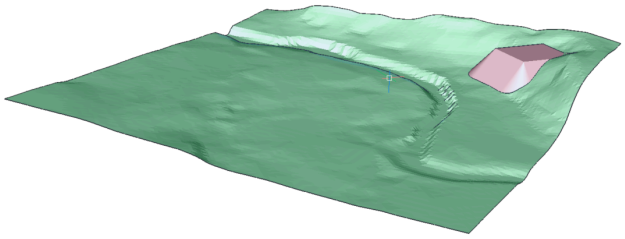
3 **TINボリュームサーフェスは自動調整されています**のチェックマークをオンまたはオフにします。

8.3.6.5 TINサーフェス比較を使用してTINボリュームを作成

1 TINVOLUMEコマンドを起動します。

2 ベースサーフェスを選択します。この例では、ベースサーフェスとして緑色のサーフェスを選択しています。

3



4 比較サーフェスを選択します。この例では、比較サーフェスとして赤のグレーディングを選択しています。

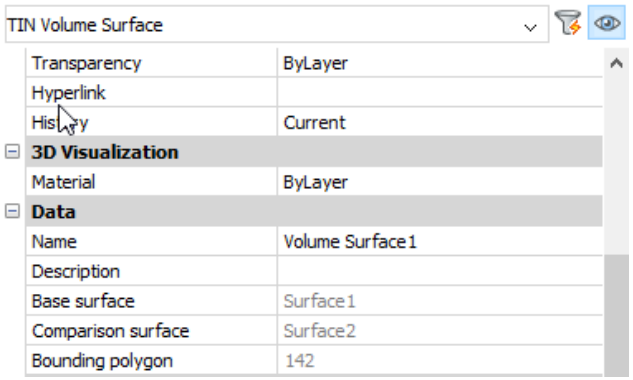
5 操作を適用する領域として境界領域を選択するか、またはEnterを押します。サーフェスの外側の境界が境界として使用されます。

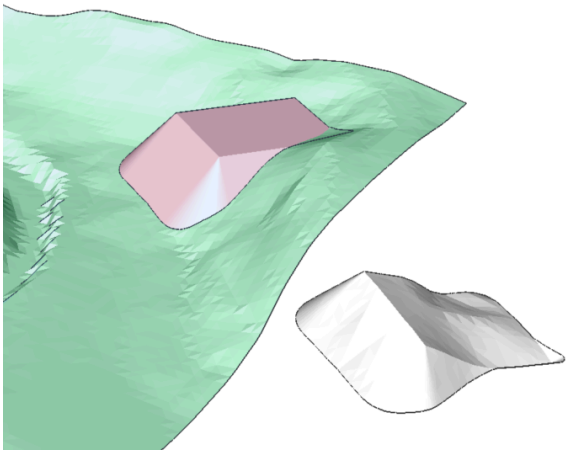
6 **TIN統計**カテゴリは、**TINサーフェスプロパティ**パネルの下に表示され、境界領域内の**切土容積**と**盛土容積**が示されます。

TIN Volume Statistics	
Cut volume	442.08 m³
Fill volume	34732.76 m³

データカテゴリの**TINボリュームサーフェスプロパティ**パネルには、以下の情報が表示されます：

- 名前
- 説明
- ベースサーフェス(読み取り専用)
- 比較サーフェス(読み取り専用)
- 境界ポリゴン(読み取り専用)





8.3.6.6 高さを使用してTINボリュームを作成

1 TINVOLUMEコマンドを起動します。

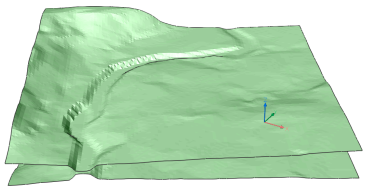
2 ベースサーフェスを選択します。

3 コマンドラインで**高さ**を選択します。

4 高さを選択します。

5 操作を適用する領域として境界領域を選択するか、またはEnterを押します。サーフェスの外側の境界が境界として使用されます。

6



8.3.6.7 TINウォータードロップについて

TINWATERDROPコマンドは、TINサーフェス上にカーソルを移動して、水路パスをリアルタイムに作成します。水路パスは、マウスボタンをクリックすると、カレントの位置に3Dポリラインとして作成されます。

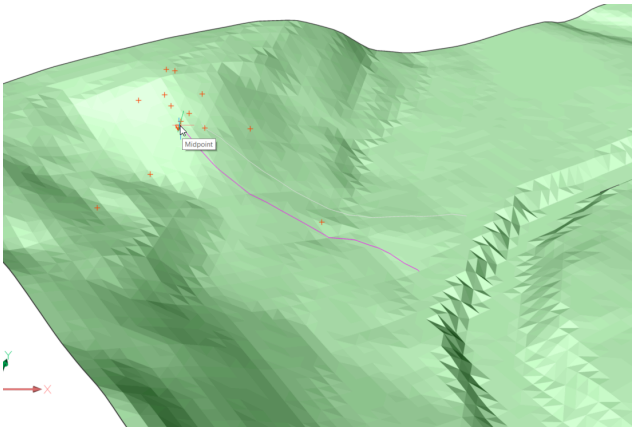
8.3.6.8 手順：ウォータードロップパスの作成

1 TINWATERDROPを起動します。

2 TINサーフェスを選択します。

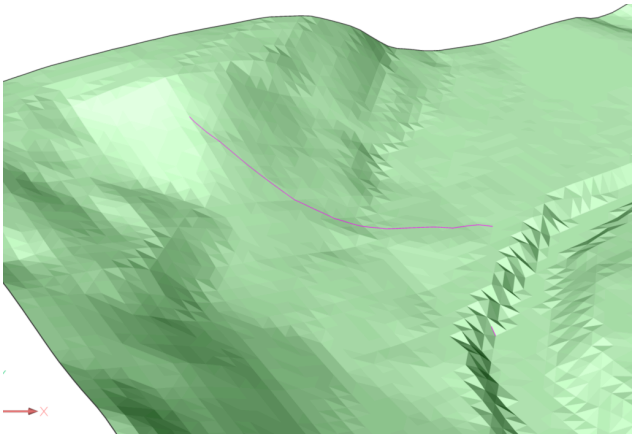
3 サーフェス上にカーソルを移動すると、ドロップパスを表す線がリアルタイムに表示されます。

注：色付きの水路パスがより鮮明に見えます。水の経路に色を付けるには、カレント画層を別の色に変更します。(例：赤)



4 マウスを左クリックして、水路パスの3Dポリラインを作成します。

5

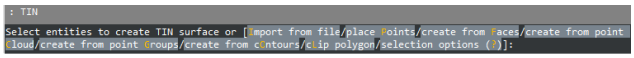


8.3.7 TIN定義

8.3.7.1 TINコマンドでのTIN定義

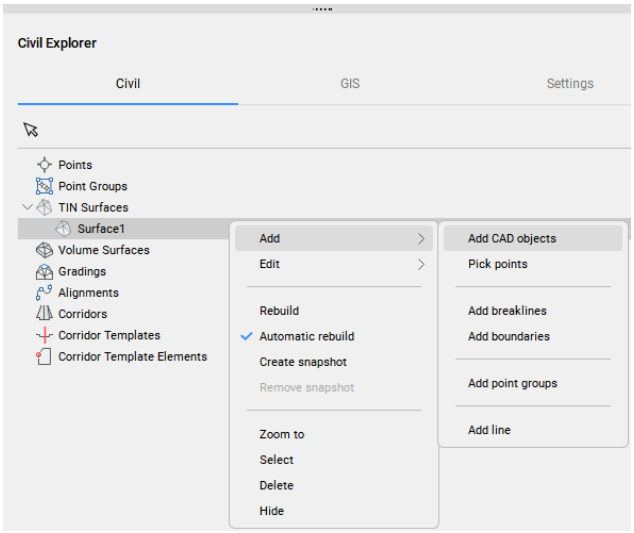
1 概要

この記事では、TINコマンドで使用できるTINサーフェス作成方法で作成されるTIN定義/操作について説明します。また、パラメータを変更できる各定義のダイアログについても説明します。



面から作成、**点群から作成**、**等高線から作成**などの操作は、TINサーフェスを新たに作成する場合にのみ使用します。

図面(CAD)オブジェクトを追加、**ポイントを追加**、**ポイントグループを追加**などの操作で、既存のTINサーフェスにデータを追加することもできます。**土木エクスプローラ**パネルからも操作を行うことができます(下図参照)。



注：土木エクスプローラの追加メニューのTINサーフェスの操作は、「TINEDIT」コマンドから実行できます。

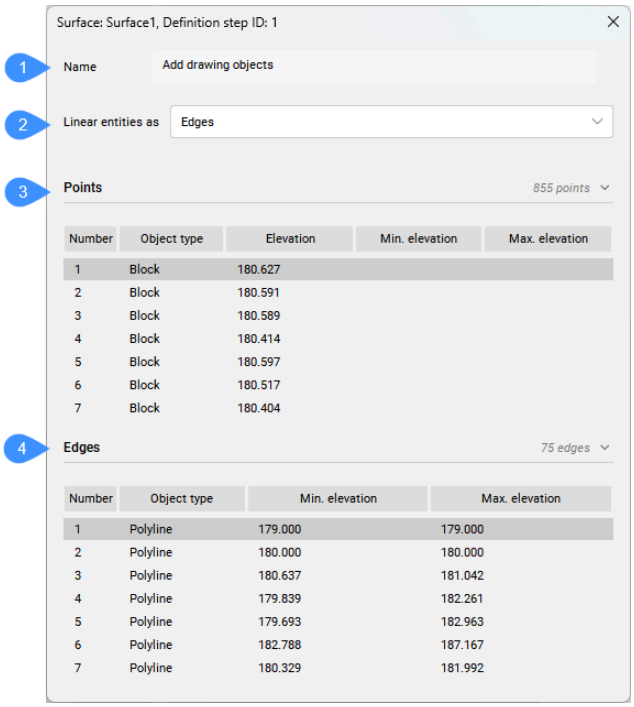
2 図面オブジェクトを追加

図面オブジェクトを追加定義は、新たにTINサーフェスを作成したり、選択した図面やCADオブジェクトにより既存のTINサーフェスを変更したりします。

図面オブジェクトを追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TINコマンドを実行し、**TINサーフェスを作成する図形を選択**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**CADオブジェクトを追加**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、**図面オブジェクトを追加**をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 線形図形を適用

3 点

4 エッジ

名前
TINサーフェスの定義名が**図面オブジェクトを追加**と表示されます。

線形図形を適用
線形図形をTINサーフェスに適用する方法をコントロールできます。ポイントおよびエッジから選択できます。

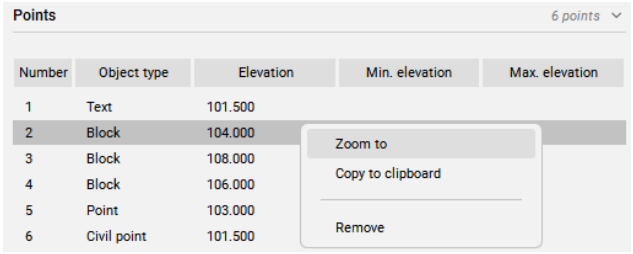
点
TINサーフェスに追加されたポイントが図面オブジェクトとして一覧表示されます。CADポイントに加えて、ブロック、テキスト、土木ポイントもポイントとしてTINサーフェスに追加されます。図面オブジェクトとしてTINサーフェスに追加されたポリラインに**点**オプションが選択されている場合、ポリラインの頂点も点としてTINサーフェスに追加されます。

注：ポイントを追加オプションで追加できる図形は、点、土木ポイント、線分、またはポリラインです。

エッジ
TINサーフェスに適用される線形図形を三角形のエッジとしてリストします。

注：ダイアログボックスでオブジェクトを右クリックして、コンテキストメニューを開きます：

- **ズーム**：図面内のオブジェクトにズームします。
- **クリップボードにコピー**：ジオメトリ情報をコピーします。
- **削除**：TINサーフェス定義からオブジェクトを削除します。



最小標高と最大標高：3Dポリラインの最小標高と最大標高です。最小標高と最大標高が一致する場合、オブジェクトは2Dポリラインまたはポリラインです。

3 点ファイルを追加

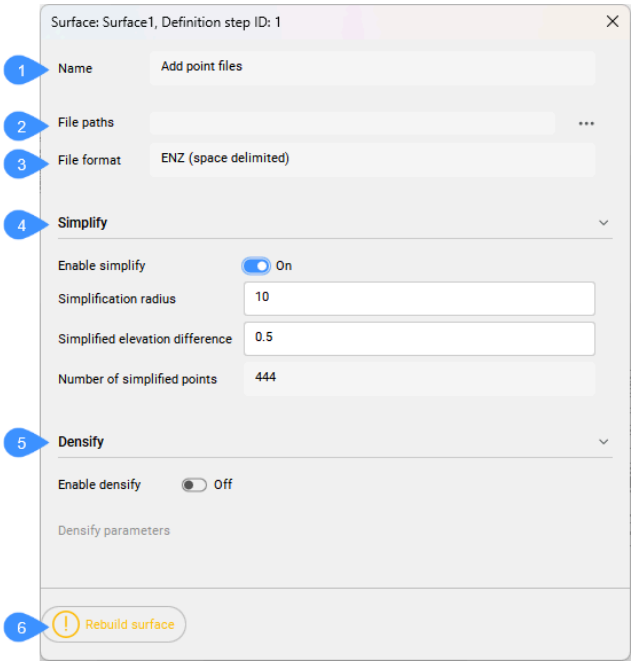
ポイントファイルを追加定義は、選択したポイントファイルからTINサーフェスを作成します。

これにより、より正確な地形データが必要なTINサーフェスのユーザー定義領域で高い精度を維持しながら、元の点ファイルから点を簡略化できます。

ポイントファイルを追加定義を作成するには以下の方法があります：

- 「TIN」コマンドを実行して、**ファイルから読み込み**を選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 ファイルパス

3 ファイル形式

4 簡略化

5 高密度化

6 サーフェスを再構築

名前
TINサーフェスの定義名が**ポイントファイルを追加**と表示されます。

ファイルパス
ファイルパスを表示します。参照ボタンを押して、**ポイントファイルからTINサーフェスを作成**ダイアログボックスを開きます。

ファイル形式
点ファイルの読み込みに使用するファイル形式を表示します。

簡略化
TINサーフェスを簡略化します。

簡略化を有効化
有効にすると、簡略化パラメータを変更できます。

簡略化半径
高さの差が指定した最大値よりも大きいすべてのポイントが削除/簡略化されるセルサイズを指定します。

注：セルサイズが大きいほど(**簡略化ステップの半径**パラメータ)、最終的なTINサーフェスの精度が低下します。簡略化されたTINサーフェスの精度を高めるには、小さいセルサイズを入力する方が理にかなっています。

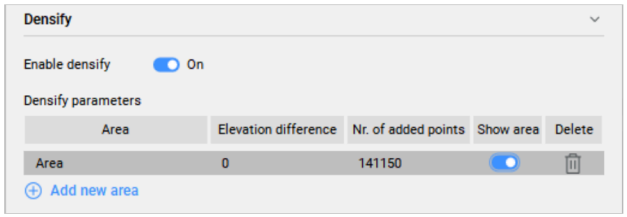
簡略化された高さの差
TINサーフェス上の隣接ポイント間の最大高さの値を指定します。標高差が大きいすべてのポイントは、TINサーフェスから除外されます。

簡略化された点の数
除外/簡略化された点の数を表示します。

高密度化
TINサーフェスを高密度化します。

高密度化を有効化
有効にすると、点ファイルの読み込みに使用するファイル形式を表示します。

パラメータを高密度化



高さの差
簡略化されたTINサーフェスとTINサーフェス内の指定された領域上にある除外された入力ポイントとの間の指定した最大の高さの差。

追加されたポイント数
高さの差が指定した最大値よりも大きく、その結果、簡略化されたTINサーフェスに再び追加されるポイントの数を表示します。

領域を表示
有効にすると、図面内の指定した高密度化領域がハイライト表示されます。

削除
高密度化領域を削除できます。

サーフェスを再構築
サーフェスを再構築します。

注：このボタンは、簡略化および高密度化パラメータを編集する場合に表示されます。

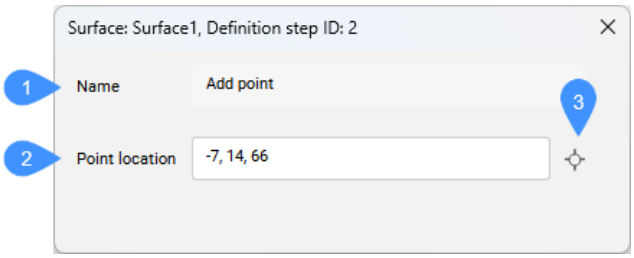
4 ポイントを追加

ポイントを追加定義は、TINポイントの位置と標高を指定して、新規のTINサーフェスを作成したり、既存のTINサーフェスを修正したりすることができます。

ポイントを追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TIN」コマンドを実行して**ポイントを配置**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**点を指示**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、**点を追加**をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1　名前

2　ポイント位置

3　基点を選択

名前
TINサーフェスの定義名が**点を追加**と表示されます。

ポイント位置
点の座標を表示します。

基点を選択
新しい位置を選択し、新しいポイント高さを設定できます。

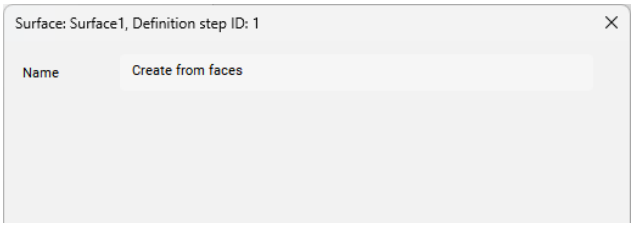
5 面から作成

面から作成定義は、選択した3D面要素から新たにTINサーフェスを作成します。

面から作成定義を作成する方法には以下があります：

- 「TIN」コマンドを実行して**面から作成**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



名前
TINサーフェスの定義名が**面から作成**と表示されます。

6 点群を追加

点群から作成定義は、選択した点群からTINサーフェスを作成します。

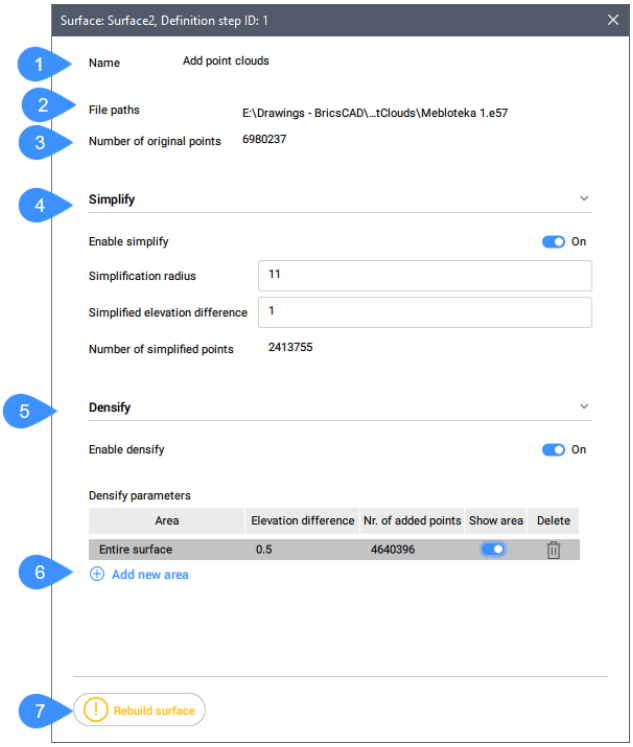
これにより、より正確な地形データが必要なTINサーフェスのユーザー定義領域で高い精度を維持しながら、元の点群から点を簡略化できます。

外側エッジ削除と**スナップショットを作成**定義は、この操作の後、自動的にTINサーフェスに追加されます。

点群を追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TIN」コマンドを実行して**点群から作成**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 ファイルパス

3 基点の数

4 簡略化

5 高密度化

6 新しい領域を追加

7 サーフェスを再構築

名前
TINサーフェスの定義名が**点群をを追加**と表示されます。

ファイルパス
入力ファイルのパスを表示します。

基点の数
点群内の元の点の数を表示します。

簡略化
TINサーフェスを簡略化します。

簡略化を有効化
有効にすると、簡略化パラメータを変更できます。

簡略化半径
高さの差が指定した最大値よりも大きいすべてのポイントが削除/簡略化されるセルサイズを指定します。

注：セルサイズが大きいほど(**簡略化ステップの半径**パラメータ)、最終的なTINサーフェスの精度が低下します。簡略化されたTINサーフェスの精度を高めるには、小さいセルサイズを入力する方が理にかなっています。

簡略化された高さの差
TINサーフェス上の隣接ポイント間の最大高さの値を指定します。標高差が大きいすべてのポイントは、TINサーフェスから除外されます。

簡略化された点の数
除外/簡略化された点の数を表示します。

高密度化
サーフェスを高密度化します。

高密度化を有効化
有効にすると、点群の読み込みに使用するファイル形式を表示します。

パラメータを高密度化

高さの差
簡略化されたTINサーフェスとTINサーフェス内の指定された領域上にある除外された入力ポイントとの間の指定された最大の高さの差。

追加されたポイント数
高さの差が指定した最大値よりも大きく、その結果、簡略化されたTINサーフェスに再び追加されるポイントの数を表示します。

領域を表示
有効にすると、図面内の指定した高密度化領域がハイライト表示されます。

削除
高密度化領域を削除できます。

新しい領域を追加
新しい高密度化領域を追加します。コマンドラインに高さの差を入力してから、図面内で既存のポリゴンを選択するか、新しいポリゴンを作図する必要があります。

サーフェスを再構築
TINサーフェスを再構築します。

注：このボタンは、簡略化および高密度化パラメータを編集する場合に表示されます。

7 ポイントグループを追加

ポイントグループを追加定義は、指定した**ポイントグループ**から既存のTINサーフェスに**土木ポイント**を追加したり、指定した**ポイントグループ**から新規のTINサーフェスを作成したりすることができます。

ポイントグループを追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TIN」コマンドを実行して**ポイントグループから作成**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**パネルで既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**ポイントグループを追加**オプションを選択します。

外側エッジを削除定義は、この操作の後、自動的にTINサーフェスに追加されます。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。

名前
TINサーフェスの定義名が**ポイントグループを追加**と表示されます。

ポイントグループ
TINサーフェスの作成に使用されるポイントグループのリストが表示されます。

8 等高線から作成

等高線から作成定義は、選択した線分図形からTINサーフェスを作成します。三角測量で取得された等高線上のポイントの密度は、**間引き**係数と**補足**係数を指定して管理します。入力データに円弧が含まれている場合、円弧に沿ったTINポイントの精度は**中央縦距**パラメータによって変わります。

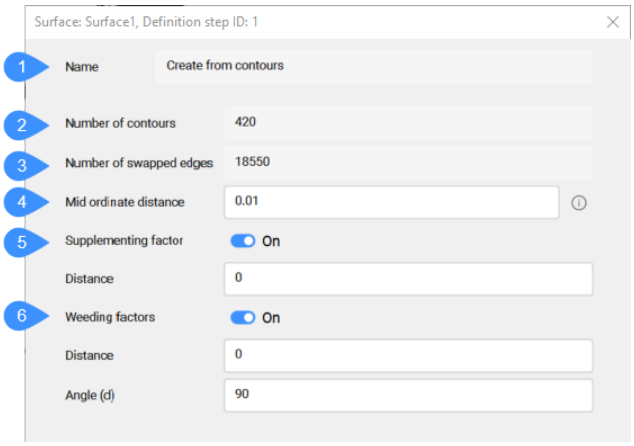
この方法では、TINエッジをスワップすることによって平坦な三角形が自動的に最小化されます。

等高線から作成定義を作成する方法には以下があります：

- 「TIN」コマンドを実行して**等高線から作成**オプションを選択します。

外側エッジを削除定義は、この操作の後、自動的にTINサーフェスに追加されます。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 輪郭数

3 スワップしたエッジの数

4 中間縦距離

5 補足係数

6 間引き係数

名前
TINサーフェスの定義名が**等高線から作成**と表示されます。

輪郭数
輪郭の数を表示します。

スワップしたエッジの数
スワップしたエッジの数を表示します。

中間縦距離
円弧近似に使用される中央縦座標距離に従って、円弧に沿って補助TINポイントを追加します。

補足係数
補足係数の使用を切り替えます。

距離
補足距離を設定します。

間引き係数
「間引き係数を使用する」を選択します。

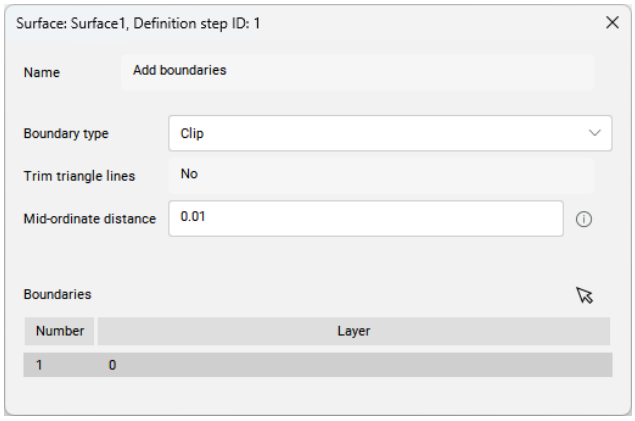
距離
間引き距離

角度
間引き角度

9 ポリゴンをクリップ

「TIN」コマンドを実行して**ポリゴンをクリップ**オプションを選択すると、新たな**クリップ境界**が**境界を追加**定義としてTINサーフェスに追加されます。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



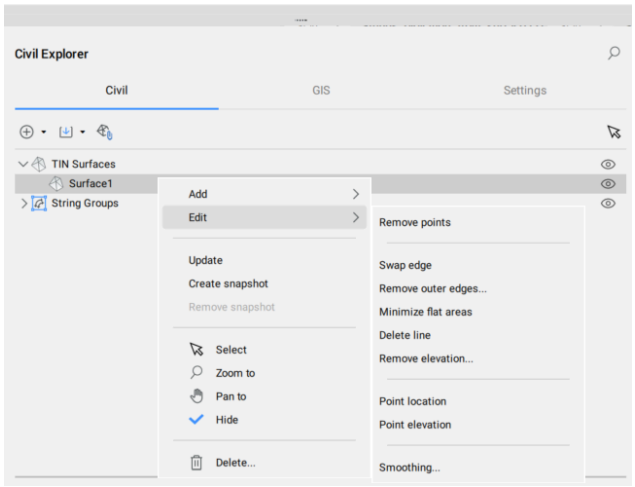
注：このダイアログボックスのパラメータの詳細については、**境界線を追加**定義を参照してください。

8.3.7.2 編集に使用できるTIN定義

1 概要

ここでは、TINEDITコマンドで行えるTIN定義または土木3Dサーフェスから作成したTIN定義と、その操作について説明します。また、パラメータを変更できる各定義のダイアログボックスについても説明します。

これらの操作は、**土木エクスプローラ**パネルでも行えます(下図参照)。



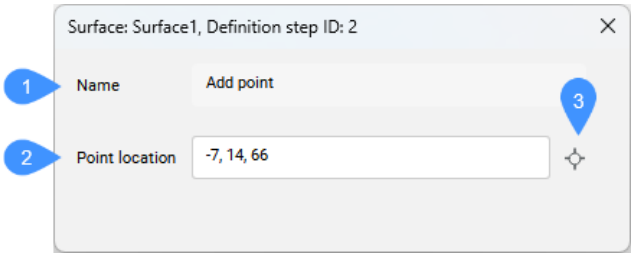
2 ポイントを追加

ポイントを追加定義は、TINポイントの位置と標高を指定して、新規のTINサーフェスを作成したり、既存のTINサーフェスを修正したりすることができます。

ポイントを追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**ポイントを追加**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**点を指示**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、**点を追加**をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 ポイント位置

3 基点を選択

名前
TINサーフェスの定義名が**点を追加**と表示されます。

ポイント位置
点の座標を表示します。

基点を選択
新しい位置を選択し、新しいポイント高さを設定できます。

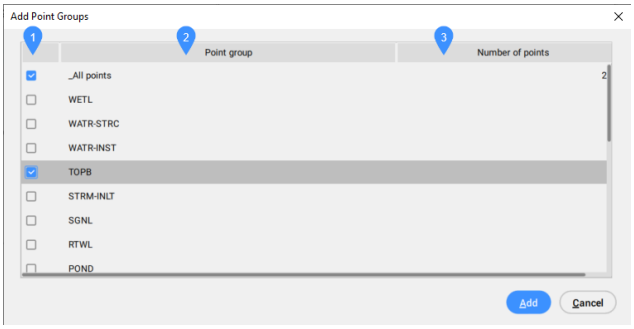
3 ポイントグループを追加

ポイントグループを追加定義は、指定した**ポイントグループ**から既存のTINサーフェスに**土木ポイント**を追加したり、指定した**ポイントグループ**から新規のTINサーフェスを作成したりすることができます。

ポイントグループを追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**ポイントグループを追加**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**ポイントグループを追加**オプションを選択します。

以下のダイアログボックスが開きます。



1 選択ボックス

2 ポイントグループ

3 点の数

選択ボックス
含めるポイントグループを選択または選択解除できます。

ポイントグループ
使用可能なすべてのポイントグループを一覧表示します。

点の数
ポイントグループの点の数を表示します。

外側エッジを削除定義は、この操作の後、自動的にTINサーフェスに追加されます。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。

名前
TINサーフェスの定義名が**ポイントグループを追加**と表示されます。

ポイントグループ
TINサーフェスの作成に使用されるポイントグループのリストが表示されます。

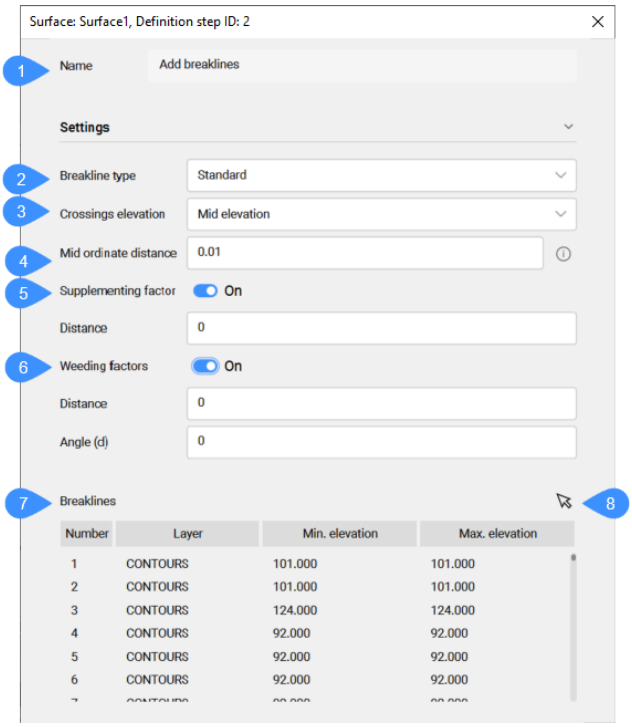
4 破断線を追加

ブレークラインを追加定義は、選択した線形CADオブジェクトをブレークラインとしてTINサーフェスに追加します。

ブレークラインを追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TINEDIT」コマンドを実行し、**ブレークラインを追加**オプションを選択します。
- **線形CAD図形/オブジェクト**からTINサーフェスを作成し、**ブレークライン**として適用するオプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**ブレークラインを追加**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 破断線の種類

3 交差の高さ

4 中間縦距離

5 補足係数

6 間引き係数

7 破断線

8 図形の基点ボタン

名前
TINサーフェスの定義名が**ブレークラインを追加**と表示されます。

破断線の種類
選択した破断線タイプが表示されます。ドロップダウンリストから適切な破断線タイプを選択します。

標準破断線
TINサーフェスに破断線を追加し、三角形が破断線のエッジと高さに従うようにTINサーフェスを再構築します。

投影破断線
破断線をTINサーフェスに投影し、新しい三角形を作成します。

交差の高さ
同じ**ブレークラインを追加**定義に追加される2つの破断線の交点における三角形分割に使用する高さを決定します。

許可されていません
交差は1つの破断線として扱われます。

最小高さ
下側の破断線の高さが取得されます。

最大高さ
下側の破断線の高さが取得されます。

中間高さ
交差破断線間の中間高さが取得されます。

中間縦距離
円弧近似に使用される中央縦座標距離に従って、円弧に沿って補助TINポイントを追加します。

補足係数
補足係数の使用を切り替えます。

距離
補足距離を設定します。

注：破断線上の頂点間の距離が、指定した補足距離よりも大きい場合、追加の頂点が破断線に追加されます。

間引き係数
「間引き係数を使用する」を選択します。

距離
間引き距離

角度
間引き角度

注：既存の破断線頂点間の距離と角度が、指定した間引きパラメータよりも小さい場合、TINサーフェスの作成には使用されません。

注：**補足係数**と**間引き係数**は、**投影ブレークライン**では無効になっています。

破断線
選択した**ブレークラインを追加**定義に含まれるブレークラインを一覧表示します。
この表には、**ブレークライン**のシーケンス**番号**、**画層**、**最小標高と最大標高**が含まれます。
テーブルの個々のブレークラインを右クリックすると、**ズーム**、**選択**、**削除**、**ジオメトリをクリップボードにコピー**を選択できます。

図形の基点ボタン
図面内の破断線を選択して、テーブル内で選択します。

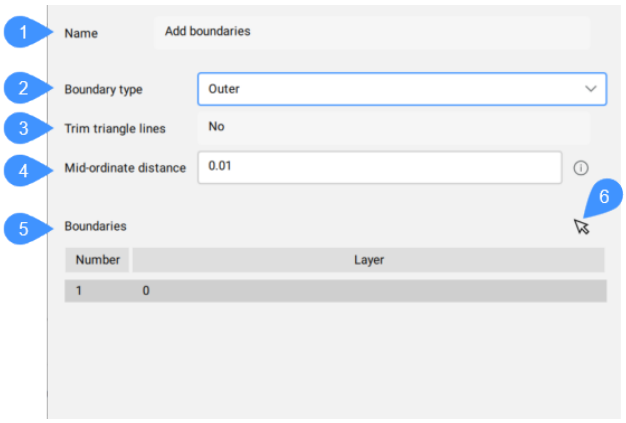
5 境界の追加

境界線を追加定義は、選択した線形CADオブジェクトを境界線としてTINサーフェスに追加します。

境界線を追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**境界線を追加**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**境界線を追加**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 境界の種類

3 三角形の線をトリム

4 中間縦距離

5 境界

6 図形の基点ボタン

名前
TINサーフェスの定義名が**境界線を追加**と表示されます。

境界の種類
選択した境界タイプが表示されます。ドロップダウンリストから適切な境界タイプを選択します。

全表示
境界ポリゴンの内側に三角形を表示します。

非表示
境界ポリゴン内の三角形を非表示にします。

外側のみ
TINサーフェスの外側の境界を定義します。外側の境界の外側にある三角形はすべて非表示になります。

クリップ
TINサーフェス境界は変更されませんが、クリップ境界の後にTINサーフェスに追加されるすべての要素(定義)に影響します。クリップ境界の内側にある要素のみが三角パッチに影響します。

注：クリップ境界内の三角形分割に影響する要素の例としては、点群、CAD点、Civil点、3D面、破断線、等高線などがあります。

三角形の線をトリム
TINサーフェスに境界を追加するときにこのパラメータを使用するかどうかが表示されます。

中間縦距離
円弧近似に使用される中央縦座標距離に従って、円弧に沿って補助TINポイントを追加します。

境界
1つの定義に追加された境界線と画層が一覧表示されます。コンテキストメニューから、**ズーム**、**選択**、**削除**を行うことができます。

注：同じタイプの複数の境界を1つの手順で追加できます。

図形の基点ボタン
図面内の境界をピックして、テーブル内で選択します。

6 ポイントの削除

ポイントを削除定義は、TINサーフェスから三角形のポイントまたは頂点を削除します。個々のポイントを削除するか、コマンドラインで**連続**オプションを選択して、複数のポイントを一度に削除できます。

ポイントを削除定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**ポイントを削除**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**編集**グループから**ポイントを削除**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。

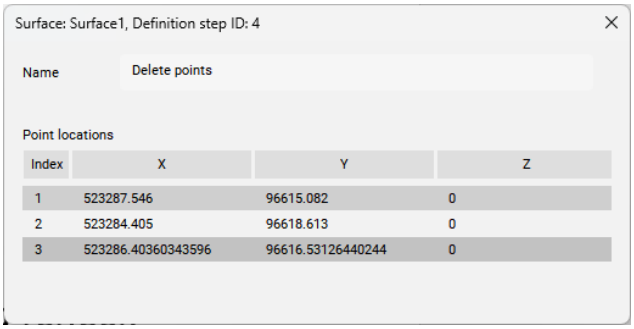
1 名前

2 ポイント位置

名前
TINサーフェスの定義名が**ポイントを削除**と表示されます。

ポイント位置
削除されたTINポイントの座標が表示されます。

注：「TINEDIT」コマンドで**連続**オプションを選択すると(上図のコマンドラインを参照)、ダイアログボックスには削除したTINポイントの座標が表示されます。



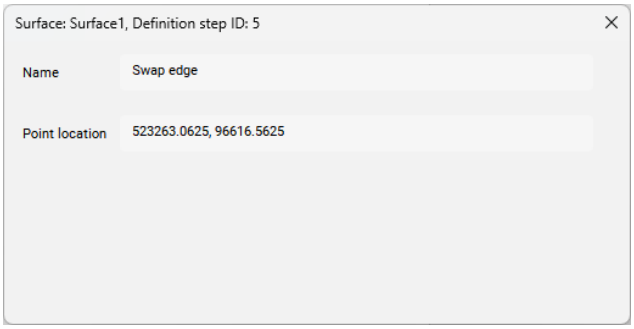
7 エッジをスワップ

エッジをスワップ定義は、選択した三角形のエッジを入れ替えます。

エッジをスワップ定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**エッジをスワップ**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**編集**グループから**エッジをスワップ**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 ポイント位置

名前
TINサーフェスの定義名が**エッジをスワップ**と表示されます。

ポイント位置
スワップされたエッジのXY座標を表示します。

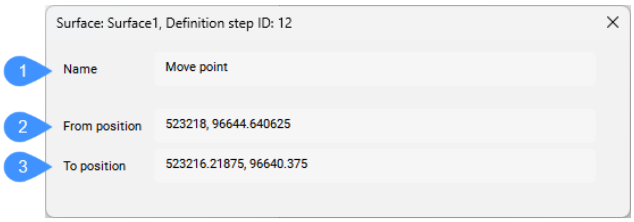
8 移動ポイント

この定義により、1つまたは複数のTINポイントの位置が1つのステップで変更されます。

ポイントを移動定義を作成する方法には以下があります：

- 「TINEDIT」コマンドを実行して**ポイント位置**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**編集**グループから**ポイント位置**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 開始位置

3 配置する

名前
TINサーフェスの定義名が**ポイントを移動**と表示されます。

開始位置
移動前のTINポイントの元の座標を表示します。

配置する
TINポイントを新しい位置に移動した後の新しい座標を表示します。

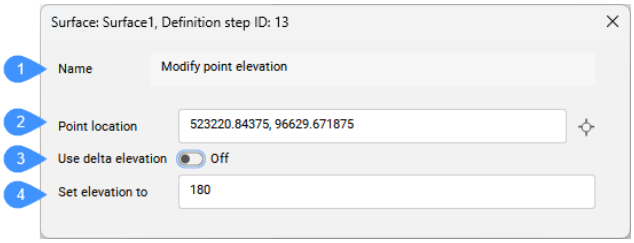
9 ポイント標高の変更

この定義は、1つまたは複数のTINポイントの標高を1つのステップで変更します。

ポイントの標高を修正定義を作成する方法には以下があります：

- 「TINEDIT」コマンドを実行して**ポイントの標高**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**編集**グループから**ポイントの標高**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 ポイント位置

3 デルタ標高の使用

4 標高をに設定

名前
TINサーフェス定義名が**ポイントの標高を修正**と表示されます。

ポイント位置
標高が修正されたポイントのポイント位置を表示します。

デルタ標高の使用
デルタ標高(標高差)を指定できます。

標高をに設定
デルタ標高を使用オプションが有効になっている場合は、TINポイントまたはデルタ標高(標高差)の新しい標高を設定します。

10線分を追加

線分を追加定義は、2つの既存のTINポイント間に新しいTINエッジを追加します。

線分を追加定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**線分を追加**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**線分を追加**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。

名前
TINサーフェスの定義名が**線分を追加**と表示されます。

11 エッジを削除

線分を削除定義は、指定した選択領域内のTINエッジを削除します。

線分を削除定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**線分を削除**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**線分を削除**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。

名前
TINサーフェスの定義名が**線分を削除**と表示されます。

12 外側エッジを削除

ポイントを削除定義では、TINサーフェスの外側境界線にある次のような三角形が削除されます。

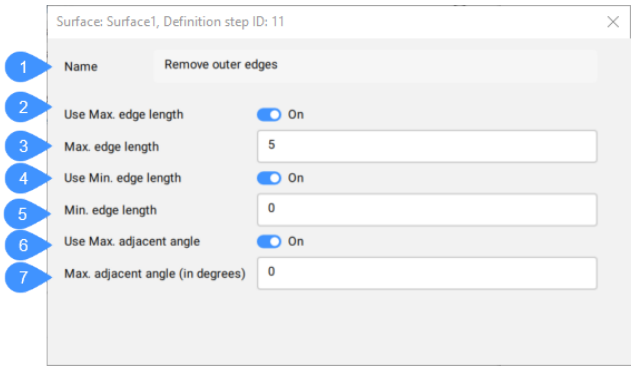
- エッジの長さが長くなります。
- より短いエッジの長さ。
- 指定よりも大きい角度。

外側エッジを削除定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**外側のエッジを削除**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**編集**グループから**外側のエッジを削除**オプションを選択します。

外側エッジを削除定義は、この操作の後、自動的にTINサーフェスに追加されます。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前

2 最大を使用エッジの長さ

3 最大エッジ長さ

4 最小を使用エッジの長さ

5 最小エッジ長さ

6 最大を使用隣接角度

7 最大隣接角度(単位：度)

名前
TINサーフェスの定義名が**外側のエッジを削除**と表示されます。

最大を使用エッジの長さ
最大エッジ長の使用を切り替えます。

最大エッジ長さ
最大エッジ長の値を設定します。

注：指定した最大エッジ長を超えるエッジを持つ三角形は、TINサーフェスから削除されます。

最小を使用エッジの長さ
最大エッジ長の使用を切り替えます。

最小エッジ長さ
最大エッジ長の値を設定します。

注：指定した最大エッジ長を超えるエッジを持つ三角形は、TINサーフェスから削除されます。

最大を使用隣接角度
最大隣接角度の使用を切り替えます。

最大隣接角度(単位：度)
最大隣接角度の値を設定します。

注：内角が指定された最大値を超える三角形。角度がTINサーフェスから削除されます。

13 平坦な領域を最小化

平坦な領域を最小化定義は、平坦な三角形を検出し、それらの三角形の隣接するエッジを入れ替えて、勾配が0にならないようにします。

平坦な領域を最小化定義を作成する方法には以下があります：

- 「TINEDIT」コマンドを実行して**平坦な領域を最小化**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**編集**グループから**平坦な領域を最小化**オプションを選択します。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。

名前
TINサーフェスの定義名が**平坦な領域を最小化**と表示されます。

スワップしたエッジの数
TINサーフェス上のスワップされたエッジの数が表示されます。

14標高を削除

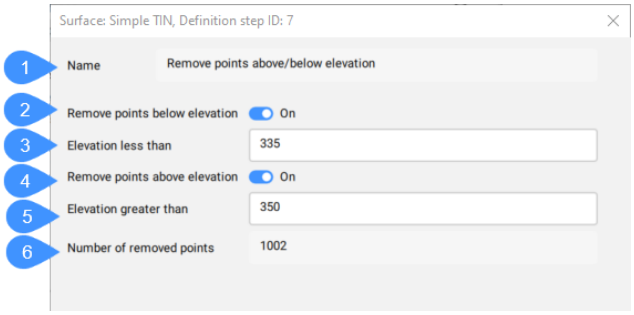
指定した標高の下/上のTINポイントを削除し、削除されたポイントの数を表示します。

標高より上/下のポイントを削除定義を作成する方法には以下があります；

- 「TINEDIT」コマンドを実行して**標高を削除**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**編集**グループから**標高を削除**オプションを選択します。

外側エッジを削除定義は、この操作の後、自動的にTINサーフェスに追加されます。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 名前
2 標高より下のポイントの削除
3 標高が次の値未満
4 標高より上のポイントを削除
5 標高が次の値より大きい
6 削除されたポイントの数

名前
TINサーフェスの定義名が**標高より上/下のポイントを削除**と表示されます。

標高より下のポイントの削除
指定した標高より下のポイントを削除するオプションを切り替えます。

標高が次の値未満
ポイントを削除する標高を設定します。

標高より上のポイントを削除
指定した標高より下のポイントを削除するオプションを切り替えます。

標高が次の値より大きい
ポイントを削除する標高を設定します。

削除されたポイントの数
削除されたポイントの数が表示されます。

15 スムージング

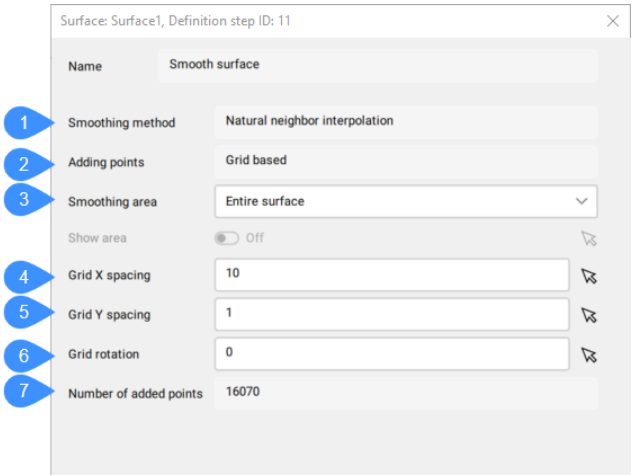
この定義により、TINサーフェスをスムージングするためのポイントがTINサーフェスに追加されます。

スムージング定義を作成する方法には以下があります：

- 「TEINEDIT」コマンドを実行して、**スムーズ**オプションを選択します。
- **土木エクスプローラ**で既存のTINサーフェスを右クリックし、**追加**グループから**スムージング**オプションを選択します。

スムージング定義は、この操作の後、自動的にTINサーフェスに追加されます。

土木エクスプローラパネルの**定義**タブで、この定義をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが開きます。



1 スムージング方法

2 ポイントの追加

3 スムージング領域

4 グリッドのX間隔

5 グリッドのY間隔

6 グリッドの回転角度

7　追加されたポイント数

スムージング方法
TINサーフェスのスムージング方法を表示します。
自然近隣補間のアルゴリズムにより、クエリーポイントに最も近い入力サンプルのサブセットを検出し、比例領域に基づいて重みを適用して値を内挿します。

ポイントの追加
TINサーフェスにポイントを追加する方法を表示します。

スムージング領域
スムージングする領域を定義します。スムージングの対象を**サーフェス全体**とするか、**選択した領域**とするかを選択できます。領域を選択するには、右側にある矢印をクリックして、モデル空間の領域を定義します。

グリッドのX間隔
グリッドのX間隔の値を設定します。モデル空間で距離をクリックして定義することもできます。

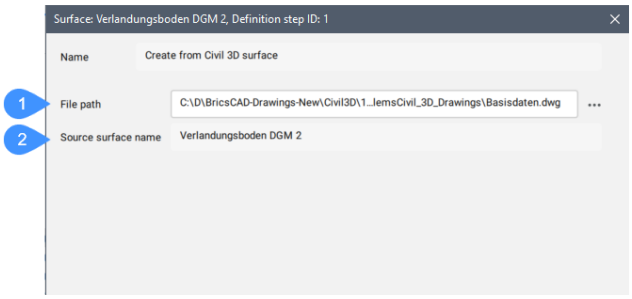
グリッドのY間隔
グリッドのY間隔の値を設定します。モデル空間で距離をクリックして定義することもできます。

グリッドの回転角度
回転角度の値を設定します。モデル空間で目的の角度をクリックして定義することもできます。

追加されたポイント数
TINサーフェスに追加されるポイントの数を表示します。

16土木3Dサーフェスから作成

土木3Dサーフェスから作成の定義では、CIVIL3DIMPORTコマンドを使い土木3Dサーフェスから作成したTIN サーフェスを編集します。



1　ファイルパス

2　元のサーフェスの名前

ファイルパス
読み込まれた3D土木図形ファイルのパスが表示されます。

注：ファイルパスを変更することができます。

元のサーフェスの名前
元のサーフェスの名前が表示されます。

8.4 土木ポイント

8.4.1 土木ポイントの作業

8.4.1.1 概要

ここでは、ASCIIファイルからポイントを読み込み、個々の土木ポイントを図面に挿入する手順を説明します。

また、土木ポイントの編集に使用するいくつかの基本的なBricsCADコマンドについても解説しています。

8.4.1.2 ASCIIファイルからの土木ポイントの取り込み

1 CIVILPOINTコマンドを起動します。

2 コマンドラインから**ファイルからポイントを読み込み**を選択します。

3 **ポイントファイルから読み込み**ダイアログボックスで、開きたいポイントデータファイルを選択します。もしくは、複数のファイルを選択して一度に読み込むこともできます。

4 ポイントファイル形式を指定します。**ポイントファイル形式を管理**ダイアログボックスで、新しいポイントファイル形式を編集または作成することができます。

5 **ポイントをグループに追加**ボタンを「オン」に設定し、**ポイントグループ**名を選択します。

6 シンボルとデフォルトのスタイル以外のラベルスタイルを設定します。

7 **読み込み**ボタンをクリックして、土木ポイントを読み込みます。

注：フィルターを指定しない場合、デフォルトで**_All points**グループに配置されます。

8.4.1.3 図面上の土木ポイントの位置を指定

1 CIVILPOINTコマンドを起動します。

2 図面上のポイントの位置を指定します。

3 ポイントの説明を入力します。

4 ポイントの高さを入力します。

5 別のポイントの位置を指定するか、Enterを押してコマンドを終了します。

注：フィルターが指定されていない場合は、デフォルトで**_All points**グループとして配置されます。

8.4.1.4 Civil 3DからCogoポイントを読み込む

1 新しい空白の図面、またはCogoポイントを含むCivil 3D図面(AECC_COGO_POINTS)を開きます。

2 CIVIL3DIMPORTコマンドを起動します。

3 **Civil 3D読み込み**ダイアログボックスが開きます。現在の図面からCogoポイントを変換するか、外部Civil 3D図面からCogoポイントを変換するオプションを選択します。

4 Civil 3Dオブジェクトの画層名テンプレートを定義します。

5 外部Civil 3D図面からネイティブのCADオブジェクトも読み込むかどうかを選択します。

6 **注**：現在の図面からCivil 3Dオブジェクトを変換するオプションを選択した場合、このオプションはフリーズされます。

7 **OK**ボタンをクリックして土木ポイントを読み込みます。

注：ブロックとしてCivil 3Dラベルを読み込みオプションを選択した場合、Cogoポイントはラベルと共に土木ポイントに変換されるため、Civil 3D CogoポイントからBricsCAD 土木ポイントへの変換は影響がありません。

8.4.1.5 LandXMLファイルから土木ポイントを読み込む

1 LANDXMLIMPORTコマンドを起動します。

2 読み込みたい土木ポイントを含むXMLファイルを選択します。

3 **OK**ボタンをクリックして土木ポイントを読み込みます。

8.4.1.6 BricsCADの基本コマンドを使用して土木ポイントを編集する

1 **MOVEコマンド：**

土木ポイントを選択し、その挿入ポイントをクリックしてマウスを動かすと、図面内のポイントの位置が変わります。また、MOVEコマンドで複数のポイントを同時に移動させることも可能です。

また、**プロパティ**パネルでポイントの位置を編集することもできます。

2 **COPYとPASTEコマンド：**

選択したポイントをコピーするには、COPYコマンドとCOPYCLIPコマンドを使います。貼り付けた点の東方向、北方向の座標は、図面上のポイントの位置から決定されます。新しいポイントの高さは0になります。また、**プロパティ**パネルでポイントの位置や高さを編集することもできます。

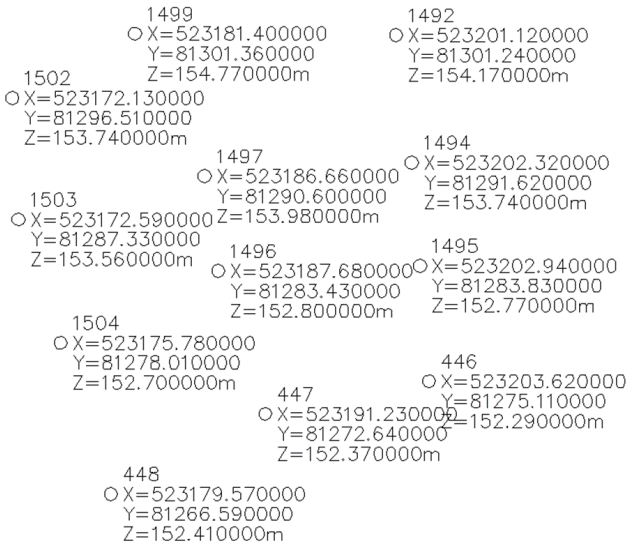
COPYCLIPコマンドは、選択されたすべての土木ポイントをクリップボードにコピーします。COPYCLIPコマンドやPASTECLIPコマンドを使って、ある図面から別の図面に土木ポイントを移すことができます。PASTEORIGコマンドを使って、新しい図面の同じ座標にポイントを配置します。

注： COPYCLIPコマンドとPASTECLIPコマンドを使い、ある図面から別の図面に土木ポイントをコピーすると、割り当てられている**シンボルとラベルスタイル**と共に、選択した土木ポイントのコピーが作成されます。シンボルスタイルとラベルスタイルの詳細については、**土木ポイントのユーザ定義属性の作成**および**シンボルとラベルを用いた作業**の記事を参照してください。

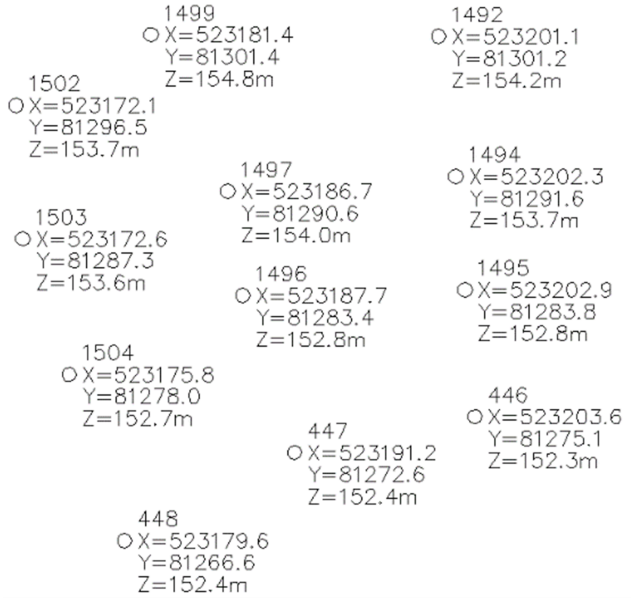
3 **LUPRECシステム変数：**

LUPRECシステム変数を使用して、図面内の土木ポイントの表示座標の精度を設定します。コマンドラインに**0**と入力すると小数なしの座標が表示され、**8**と入力すると小数の最大数(8)が表示されます。それ以外の0から8までの整数を使って、適切な精度を設定してください。

LUPREC = 6



LUPREC = 1



注：LUPREC変数を変更するたびにREGENコマンドを起動して、土木ポイント座標の表示精度を更新します。

8.4.2 土木ポイントシンボルとラベルを用いた作業

8.4.2.1 ユーザー定義ラベルスタイルの作成

注：既存のすべての土木ポイント属性を図面に表示できます。新しい属性は、CIVILPOINTATTRIBUTESコマンドで追加します。新しい属性を追加する手順は、**土木ポイントのユーザー定義属性の作成**の記事を参照してください。

1 土木ポイントを使用して新しい図面を開くか、CIVILPOINTコマンドを使用して新しい土木ポイントを作成、または読み込みます。

2 新しいラベルスタイルを作成するには、**土木エクスプローラ**パネルを開いて**設定**タブを選択し、「土木ポイント」の下の「ラベルスタイル」を右クリックして**作成**オプション選択します。また、既存のラベルスタイルを編集、コピー、削除することもで

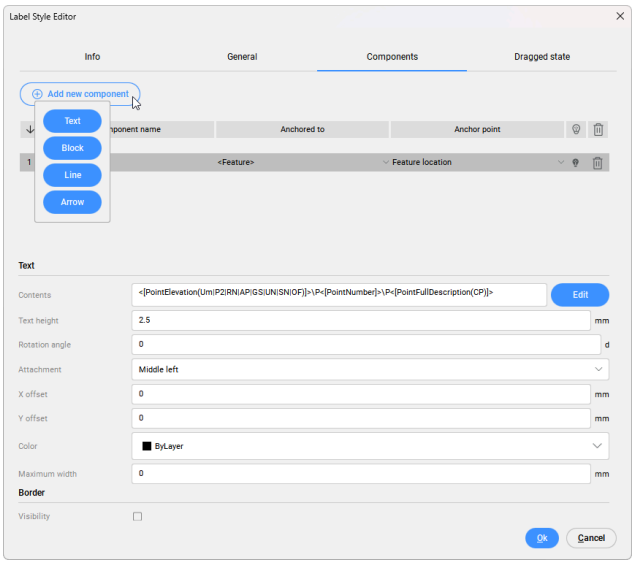
きます。

3 新しいラベルスタイルを作成する場合や、既存のラベルスタイルを編集する場合は、**ラベルスタイル編集**ダイアログボックスを開きます。

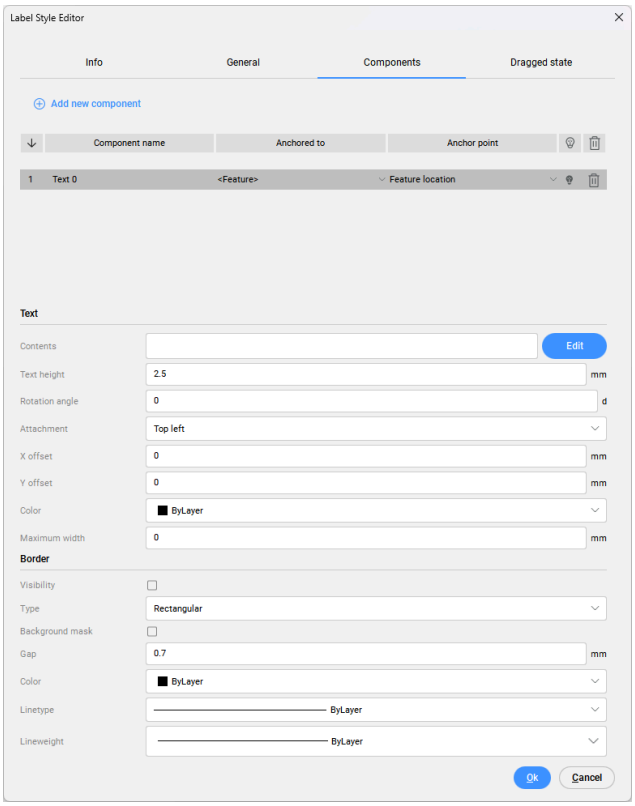
4 **情報**タブでは、新規作成または編集するラベルスタイルの名前と説明を入力します。

5 **一般**タブでは、文字スタイル、ラベルの可視性、画層、方向参照、強制挿入、読み取り可能なプラン、可読性偏向などの一般的なラベルプロパティを定義し、アンカーとテキストを反転するかどうかを決定します。

6 **コンポーネント**タブでは、作成したラベルスタイルに、新たに文字、ブロック、線分、矢印などのコンポーネントを追加します。



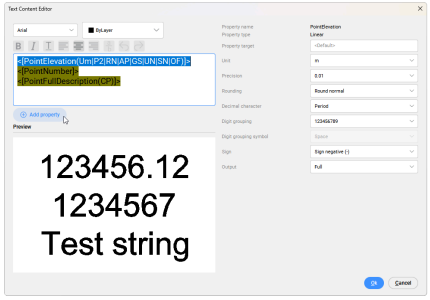
7 **新しいコンポーネントを追加**ボタンをクリックして「文字」を選択すると、ラベルスタイルのプロパティが表示されます。文字や境界線のスタイルを定義します。

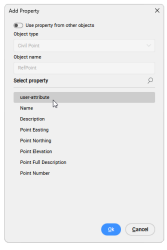


編集ボタンをクリックすると **文字コンテンツ編集**ダイアログボックスを開き、ラベルの文字コンテンツを編集することができます。

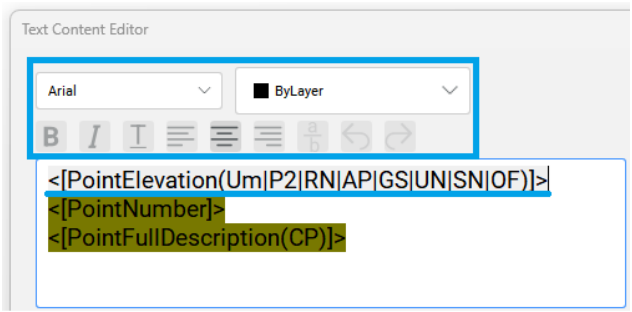
- この例では、ポイントの詳細な説明、ポイントの東経、ポイントの北緯、ポイントの標高の各属性が使用されています。
- **文字コンテンツ編集**ダイアログボックスで、新たにプロパティを追加するには、**プロパティを追加**ボタンをクリックします。
- **プロパティを追加**ダイアログボックスでは、ラベルスタイルに土木ポイントの属性を表示したり、他の土木オブジェクト(サーフェス、平面線形、縦断線形)のプロパティを表示したりすることを選択できます。

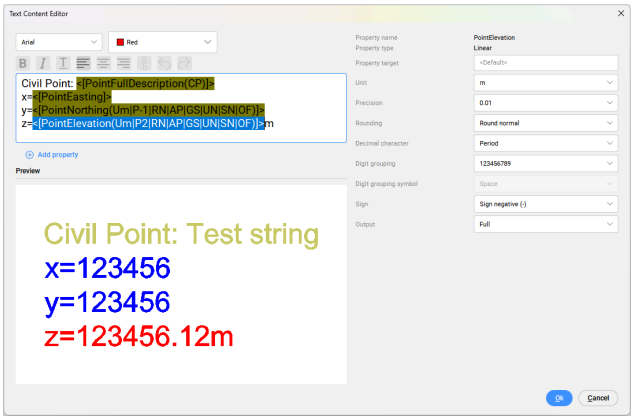
  注：他のオブジェクトのプロパティを使用をオンにし、土木ポイントのラベルスタイルに表示したいプロパティを選択します。



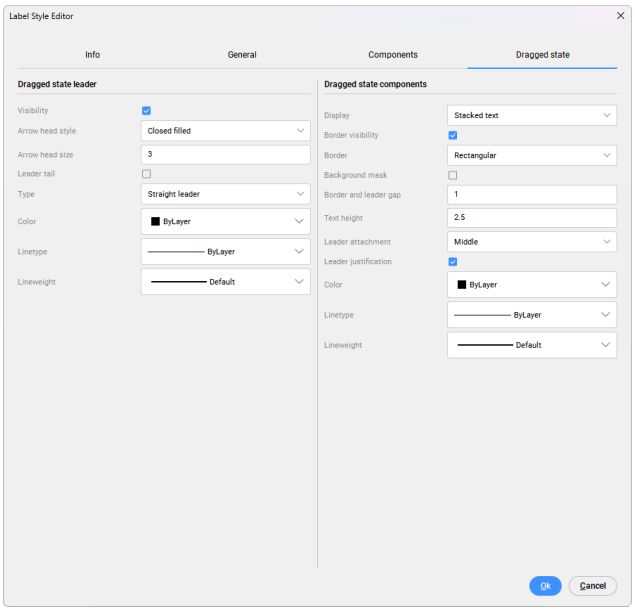


- テキスト編集フィールドで目的の属性をクリックし、テキストのフォント、色、スタイル、位置を設定します。

- 

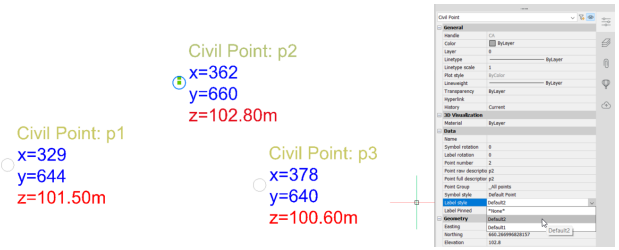
  - テキストエディターフィールドで個々のプロパティをクリックすると、ダイアログボックスの右側でそのプロパティの追加設定を指定できます。
  - プロパティの順序は、各プロパティラインを目的の場所にコピーして貼り付けることで並べ替えることができます。
  - 新しいテキストを接頭辞または接尾辞として挿入します。接頭を追加する場合は、z=の前に<文字を入力します。接尾を追加する場合は、>文字の後にmと入力します。たとえば、z=<[PointElevation(Um|P2|RN|AP|GS|UN|SN|OF)]>mと記入すると、ポイントの標高を表示します。
- 

8 **ラベルスタイル編集**ダイアログボックスで**ドラッグ状態**タブを選択すると、ドラッグ状態の引出線とコンポーネントを定義することができます。



9 **ラベルスタイル編集**ダイアログボックスでOKを選択して変更を確定します。

10 選択した土木ポイントにラベルスタイルを割り当てます。図面内でスタイルを変更したい土木ポイントを選択し、**プロパティ**パネルのドロップダウンリストから適切なラベルスタイルを選択します。



8.4.2.2 ユーザー定義ラベルスタイルの作成

1 新しいシンボルスタイルを作成するには、**土木エクスプローラ**パネルを開き、**設定**タブを選択し、**一般**の「シンボルスタイル」を右クリックして**作成**オプションを選択します。既存のシンボルスタイルを編集、コピー、削除することもできます。

2 新しいラベルスタイルを作成する場合や、既存のラベルスタイルを編集する場合は、**シンボルスタイル編集**ダイアログボックスを開きます。

3 **情報**タブでは、新規作成または編集するシンボルスタイルの名前と説明を入力します。

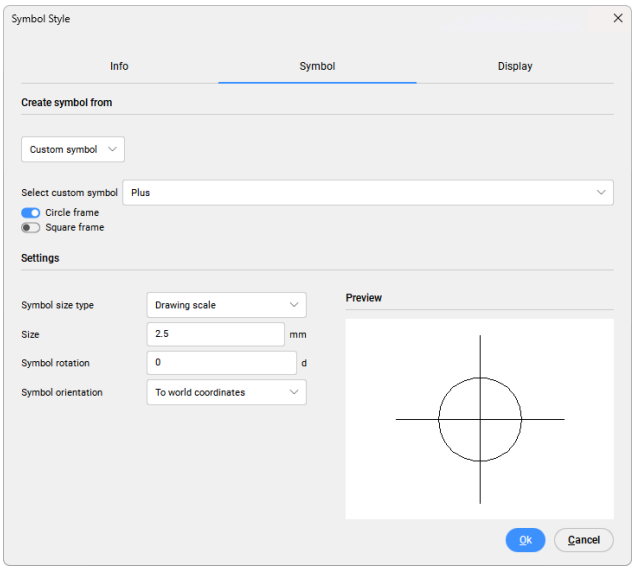
4 **シンボル**タブでは、ポイントオブジェクト、カスタムシンボル、ブロックを選択し、シンボルの設定を定義します。

- **ポイントオブジェクト**：シンボルスタイルのベースに、ポイントオブジェクト(CADのポイント図形)を使用します。シンボルの回転角度や向き(図形、表示、ワールド座標に基づく)を定義します。
- **カスタムシンボル**：カスタムシンボル(無し、黒丸、プラス記号、Xマーク、線分)のいずれかを使ってシンボルスタイルを作成します。カスタムシンボルは、円や正方形のフレーム内に配置できます。シンボルサイズの種別、サイズ、シンボルの回転角度、向きなどを追加設定します。
- **ブロック**：図面内に存在するすべてのブロック定義されたポイントシンボル(マーカー)のリストから選択します。シンボルサイズの種別(絶対尺度、図面尺度、固定尺度、絶対単位、画面に相対的)を追加設定します。ブロックを作成して保存するプロセスについては、**ブロックの作成**に関する記事を参照してください。ブロックの編

集の詳細については、**ブロックの編集**に関する記事を参照してください。

5 **シンボルスタイル設定の定義**

シンボルの種類が異なれば、使用できる設定も異なります。



- **シンボルの回転角度**パラメータは、ポイントシンボルの回転角度を指定します。
- **シンボルの向き**パラメータは、ユーザー定義の座標系(図形、表示、ワールド座標)におけるシンボルの向き制御します。
- **シンボルのサイズ種別**パラメータは、ポイントシンボルの縮尺方法を決定します。以下のオプションが使用できます：

- **図面単位**：ポイントシンボルのサイズは、「サイズ」パラメータによって決まります。
- **固定尺度**：**シンボルブロック**の実際の寸法にシンボルのサイズを掛けた値になります。
- **絶対単位**：シンボルのサイズは、**ビューポート**において、**シンボルのサイズ**パラメータと**カスタム尺度**パラメータの積で指定されます。
- **画面に対して相対的**：シンボルのサイズは、作図画面のサイズと最大値に対してユーザーが指定するパーセンテージにより決まります。

注：**シンボルサイズ**種別と**サイズ**のオプションは、ポイントオブジェクトから開始する場合は使用できません。PDMODE変数でポイントのスタイルを設定してください。

6 **表示**タブでは、シンボルコンポーネントの表示を指定します。プランビューとモデルビューの画層を指定します。

7 **シンボルスタイル**ダイアログボックスで「OK」をクリックして、変更を確定します。

8 選択した土木ポイントに**シンボルスタイルを割り当て**ます。図面内でスタイルを割り当てたい土木ポイントを選択し、プロパティパネルのドロップダウンリストから適切なシンボルスタイルを選択します。

8.4.3 ポイントファイル形式を用いた作業

8.4.3.1 概要

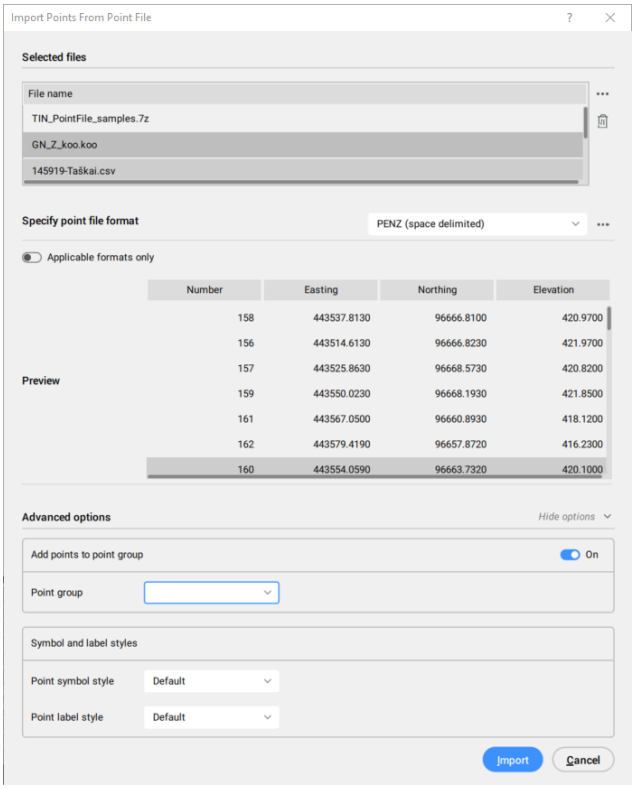
この記事では、ASCIIファイルから土木ポイントを読み込む手順と、ポイントファイル形式を管理する方法について説明します。

8.4.3.2 LandXMLファイルから土木ポイントを読み込む

1 CIVILPOINTコマンドを起動します。

2 コマンドラインでIと入力するか、**ファイルからポイントを読み込み**オプションを選択します。

3 **ポイントファイルを選択**ダイアログボックスで、開きたいポイントデータファイルを選択します。もしくは、複数のファイルを選択して一度に読み込むこともできます。



4 **ポイントファイル形式を指定**で、ASCIIファイルの適切なポイントファイル形式を選択するか、右側の3つのドットをクリックして**ポイントファイル形式を管理**ダイアログボックスを開きます。

5 プレビューウィンドウは、適切なポイントファイル形式が選択されると自動的に更新されます。

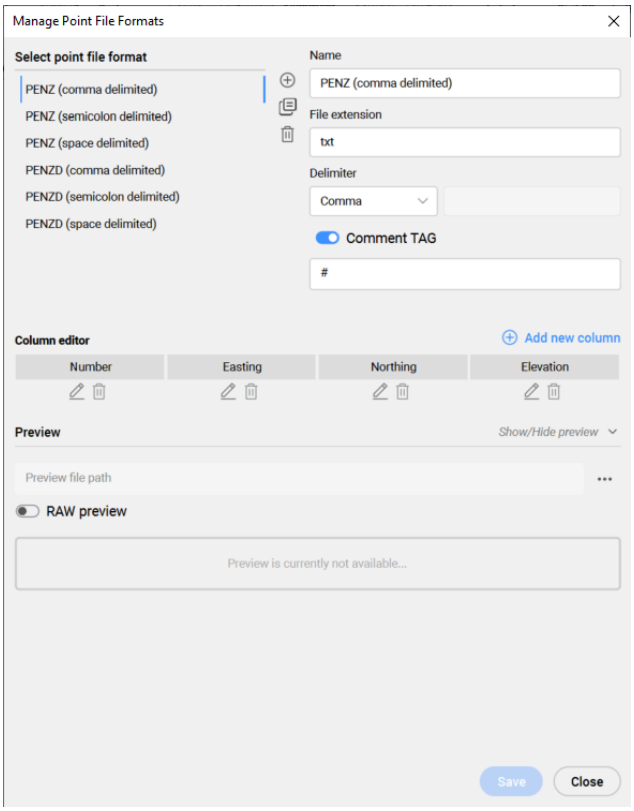
6 **ポイントをグループに追加**ボタンを「オン」に設定し、**ポイントグループ**名を選択します。

7 シンボルとデフォルトのスタイル以外のラベルスタイルを設定します。

8 **読み込み**ボタンをクリックして、土木ポイントを読み込みます。

注：フィルターを指定しない場合、デフォルトで**_All points**グループに配置されます。

8.4.3.3 ポイントファイル形式を管理



ポイントファイル形式を管理ダイアログボックスでは、ポイントファイル形式の作成、編集、削除ができます。

ポイントファイル形式を管理ダイアログボックスにアクセスするには次の2つの方法があります。

- 上述した、ASCIIファイルから土木ポイントを読込むときに表示させることができます。**ポイントファイルから読み込み**ダイアログボックスの**ポイントファイル形式を指定**セクションの右側にある3点アイコンをクリックすると、**ポイントファイル形式を管理**ダイアログボックスが開きます。
- **土木エクスプローラ**パネルの**設定**タブに移動し、**ポイントファイル形式**セクションをダブルクリック(または右クリックで**編集**を選択)します。

8.4.3.4 ポイントファイル形式を削除

ポイントファイル形式を管理ダイアログボックスで、削除するファイル形式を選択し、削除アイコンをクリックして、選択したポイントファイル形式を削除します。

土木エクスプローラパネルから直接ポイントファイル形式を**削除**することもできます。**土木エクスプローラ**パネルの**設定**タブで、削除するポイントファイル形式を右クリックし、**削除**を選択します。

8.4.3.5 ユーザ定義のポイントファイル形式を作成

ユーザ定義のポイントファイル形式を作成するには、次の操作を行います。

- ポイントファイル形式を追加します。
- ポイントファイル形式を複製します。
- 既存のポイントファイル形式を編集します。

新しいポイントファイル形式では、次の項目を指定する必要があります。

1 ポイントファイル形式の**名前**を指定します。

注：新しいポイントファイル形式の名前が入力されていない場合や、既存の名前がある場合は、警告メッセージが表示されます。

2 ASCIIファイルの**ファイル拡張子**を指定します。

3 ASCIIファイルで使用する**区切り文字**を選択します。スペース、タビュレータ、コンマ、ドット、セミコロンから選択するか、カスタム区切り文字を定義できます。

4 **コメントタグ**を切り替えて、有効にします。コメントタグは、以下のボックスに設定できます。

5 **列エディター**で列を定義します。

- 編集アイコンを選択して、列の**名前を変更**します。**列エディター**ダイアログボックスでは、**定義済みの列名**(<skip>、東経、北緯、標高、名前、番号、詳細説明、詳細説明、完全な説明)を選択するか、**ユーザー定義の列名**を使用できます。
- ごみ箱アイコンを選択して列を**削除**します。
- **新しい列を追加**ボタンをクリックして**列エディター**ダイアログボックスを開き、**定義済み列名**または**ユーザー定義の列名**を選択します。

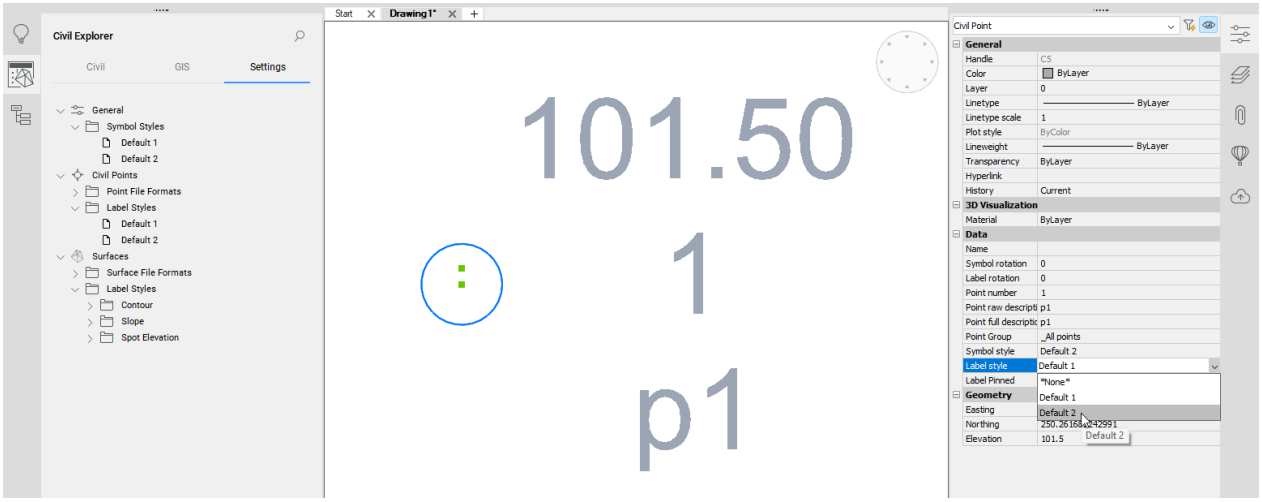
6 **プレビュー**オプションを使用できます。プレビューファイルパスで、ASCIIファイルを開きます。データは、RAW/元の状態で表示することも、列エディターの設定に基づいて列に並べて表示することもできます。

7 **保存**して**閉じる**を選択します。

8.4.4 土木ポイントシンボルとラベルの理解

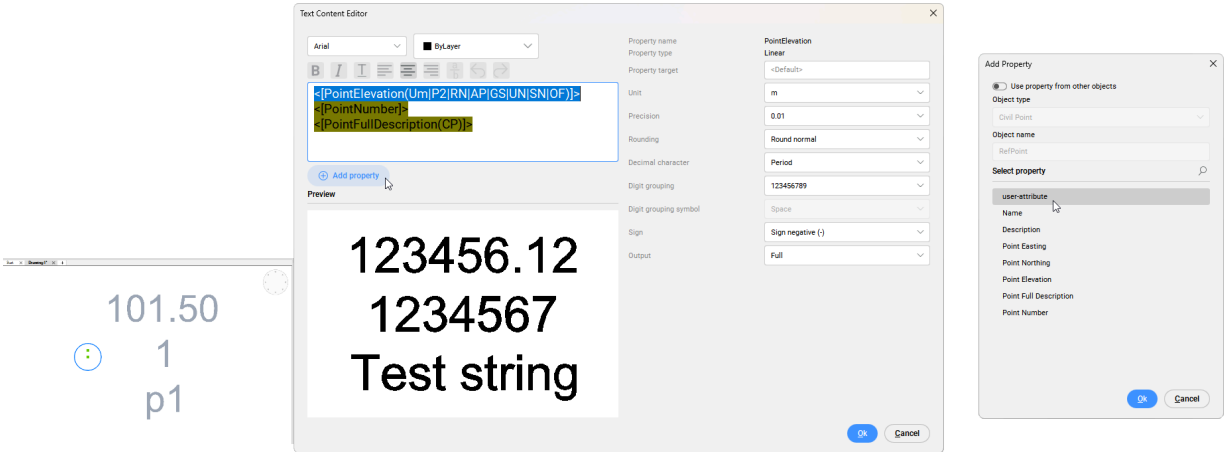
8.4.4.1 土木ポイントシンボルとラベルについて

図面内の各土木ポイントに固有のラベルとシンボルスタイルを割り当てることができます。土木ポイントの**ラベルスタイル**と**シンボルスタイル**は、プロパティで指定します。ラベルスタイルとシンボルスタイルは、**土木エクスプローラ**パネルの**設定**タブで定義することができます。



下図の**ラベルスタイル**ダイアログボックスで指定されている定義済みのラベルスタイルは以下の属性があります：

- **ポイントの高さ**、文字で定義します： <[PointElevation(Um|P2|RN|AP|GS|UN|SN|OF)]>
- **ポイントの番号**、文字で定義します：<[PointNumber]>
- **ポイントの完全な注釈**、文字で定義します：<[PointFullDescription(CP)]>



属性のプロパティを編集するには、**文字コンテンツ編集**ダイアログボックスの右側で編集するか、括弧内の略語を編集します。例えば、ポイントの高さの場合、略語は以下の通りです。

Um – 単位(**U**)：メートル(**m**)

P2 – 精度(**P**)：小数2桁(**2**)

RN – 丸め(**R**)：標準(**N**)

AP – 小数点記号(**A**)：ピリオド(**P**)

GS – 桁区切り記号(**G**)：スペース(**S**)

UN – 桁区切り/区切り解除(**U**)：123456789

SN – 符号(**S**)：負符号(-)(**N**)

OF – 出力(**O**)：フル(**F**)

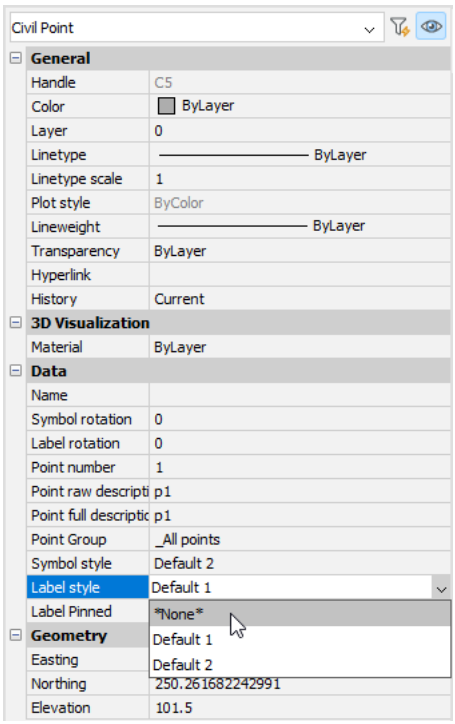
属性設定で行った変更は、テキストエディターで自動的に更新され、その逆も同様です。

ラベルスタイルとシンボルスタイルの新規作成と編集については、**土木ポイントシンボルとラベルを用いた作業**の記事を参照してください。

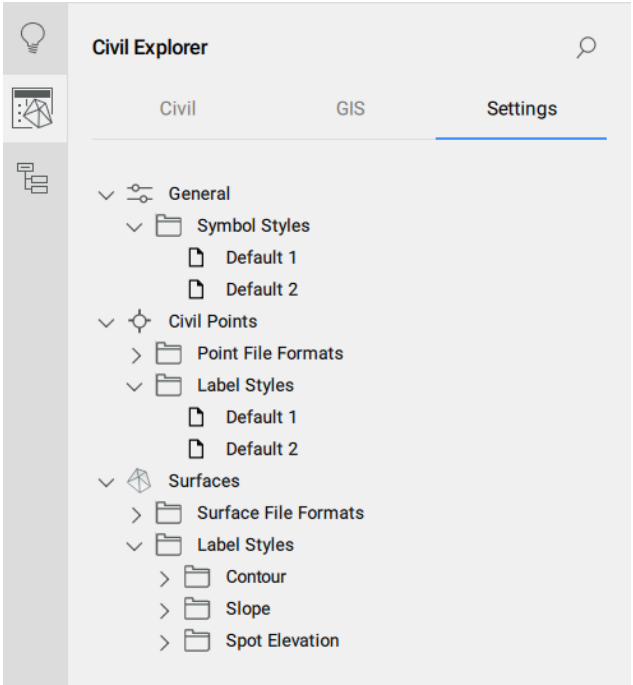
土木ポイントに新たにユーザー定義属性を作成する方法については、**土木ポイントのユーザ定義属性の作成**の記事を参照してください。**文字コンテンツ編集**ダイアログボックスと**プロパティを追加**ダイアログボックスについては、**文字コンテンツ編集ダイアログボックス**および**プロパティを追加ダイアログボックス**の記事を参照してください。

注：プロパティを追加ダイアログボックスでは、土木ポイントのプロパティを選択したり、別のオブジェクト(サーフェス、平面線形、縦断線形)のプロパティを使用したりすることができます。

個々のポイントまたはポイントグループに対して、シンボルスタイルおよびラベルスタイルのドロップダウンリストから、適切なラベルスタイルまたはシンボルスタイルを選択します。土木ポイントを設定して、ラベルやシンボルを含まないようにすることができます。そうするには、シンボルスタイルやラベルスタイルのプロパティのドロップダウンリストから**なし**を選択します。



土木エクスプローラパネルで、選択したシンボルスタイルやラベルスタイルに対してさまざまな設定を行うことができます。



8.4.4.2 シンボルスタイル

使用可能なシンボルスタイルのリストは、土木ポイントのプロパティパネルに表示される他、**土木エクスプローラ**の**設定**セクションにも表示されます。**土木エクスプローラ**の**設定**セクションで、シンボルスタイルを右クリックするとコンテキストメニューが表

示され、シンボルスタイルの**作成**、**編集**、**コピー**、**削除**が行えます。**作成**、**編集**、**コピー**を選択すると、**シンボルスタイル**ダイアログボックスが開き、新しいシンボルスタイルを定義できます。

8.4.4.3 ラベルスタイル

使用可能なラベルスタイルのリストは、土木ポイントのプロパティパネルに表示される他、**土木エクスプローラ**パネルの**設定**タブにも表示されます。**土木エクスプローラ**パネルの**設定**タブで、**ラベルスタイル**を右クリックするとコンテキストメニューが表示され、ラベルスタイルの**作成**、**編集**、**コピー**、**削除**が行えます。**作成**、**編集**、**コピー**を選択すると、**ラベルスタイル編集**ダイアログボックスが開き、一般やドラッグ状態などを設定して新しいラベルスタイルを定義できます。ラベルに表示される属性を定義するには、**文字コンテンツ編集**ダイアログボックスを開き、**プロパティを追加**ボタンを選択します。**プロパティを追加**ダイアログボックスでは、土木ポイントのプロパティを選択したり、別のオブジェクト(サーフェス、平面線形、縦断線形)のプロパティを使用したりすることができます。

8.4.5 ドラッグ状態の土木ポイント引出線とコンポーネントを理解する

8.4.5.1 概要

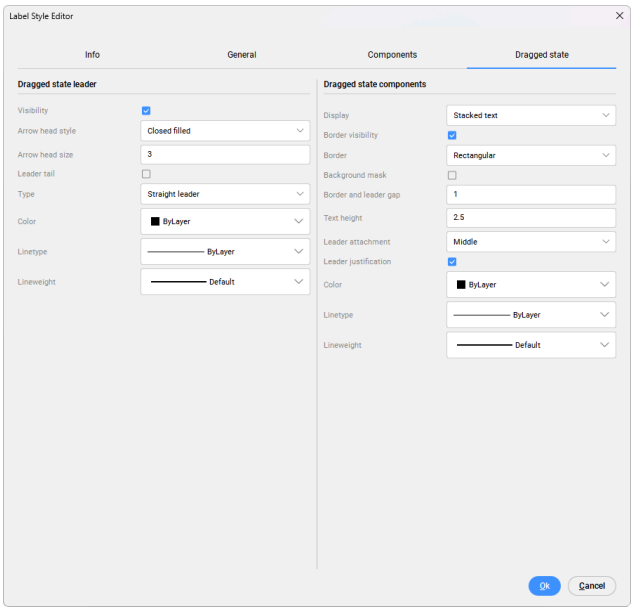
土木ポイントには2つのグリップが含まれています。プライマリーグリップは挿入部に、オルタナティブグリップは挿入部の垂直上方に配置され、常にラベルブロックの上に置かれています。オルタナティブグリップを使用して、ポイントラベルを挿入ポイントから離してドラッグし、**引出線**を作成することができます。

土木ポイント引出線スタイルは、**ラベルスタイル**内で定義され、**ラベルスタイルエディター**ダイアログボックスの**ドラッグ状態**タブで編集できます。**ラベルスタイルエディター**ダイアログボックスは、**土木エクスプローラ**パネルの**設定**タブから開くことができます。

注：新しいラベルスタイルとシンボルスタイルを作成および編集するプロセスについては、**土木ポイントシンボルとラベルを用いた作業**の記事を参照してください。

8.4.5.2 ドラッグ状態設定

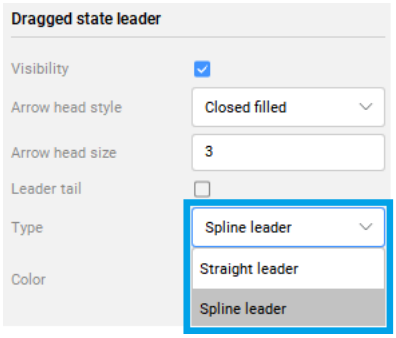
ラベルスタイルエディターダイアログボックスで、**ドラッグ状態**タブに移動して、引出線コンポーネントとラベルコンポーネントがドラッグ状態にあるときのスタイルを定義できます。



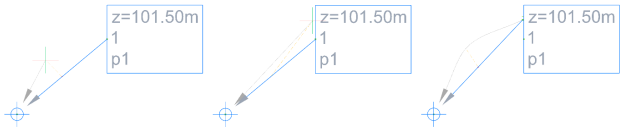
ドラッグ状態の引出線

引出線の表示は、オン/オフを切り替えることができます。さまざまなタイプの矢印を、**矢印のスタイル**ドロップダウンリストから選択できます。矢印のサイズは、**矢印のサイズ**フィールドで定義できます。**引出線尾部**は、ON/OFFを切り替えることもできます。引出線の尾部をオンにすると、矢印の先端と同じサイズの尾部が表示されます。

引出線タイプは、**直線**または**スプライン**として定義できます。スプライン曲線を作成するには、**ラベルスタイルエディター**ダイアログボックスのドラッグ状態タブで引出線タイプ**スプライン引出線**に変更します。



次に、引出線の中央にある+記号をクリックし、その端を目的の端点にドラッグします。引出線の+セクションを選択してドラッグすると曲線が作成され、-を選択するとスプライン曲線のセクションが削除されます。



引出線の色は、**色**ドロップダウンリストから選択できます。引出線の**線種**は、画層、ブロック、または線種スタイルのリストから定義できます。線の太さは、**線の太さ**ドロップダウンリストから定義できます。

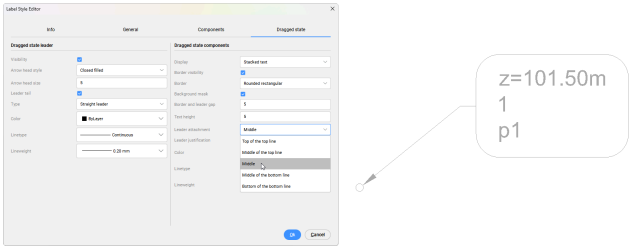
注：行ったすべての変更は図面に動的に表示されます。

ドラッグ状態のコンポーネント

ドラッグ状態のコンポーネントは、**文字装飾**または**構成通り**として表示できます。

コンポーネントが**文字装飾**として表示される場合、スタイルが **ドラッグ状態**タブで定義されることを意味します。**構成通り**として表示されている場合、スタイルが**コンポーネント**タブで定義されているものと同じであることを意味します。ドラッグ状態のラベルスタイルを異なるスタイルにする場合は、**表示**オプションの**文字装飾**を選択して、残りのプロパティを定義します。

境界線の表示は、オン/オフを切り替えることができます。**矩形**、**角丸長方形**、または**円**の3つの異なる**境界**形状から選択できます。ラベルの視認性を向上させるには、**背景マスク**をオンにします。ラベルの境界線と引出線のギャップは、**境界線と引出線のギャップ**フィールドで定義できます。文字の高さは**文字の高さ**フィールドで定義します。



ラベルコンポーネントの位置は、引出線アタッチパラメータに基づいています。アタッチ位置を変更するには、**引出線取り付け位置**のドロップダウンリストからオプションの1つを選択します。引出線の動きに合わせてコンポーネントの位置合わせを変更するには、**引出線の位置合わせ**を切り替えます。コンポーネントや境界の色は、**色**ドロップダウンリストから選択できます。境界の**線種**は、画層、ブロック、または線種スタイルのリストから定義できます。境界の線の太さは、**線の太さ**ドロップダウンリストから定義できます。

注：行ったすべての変更は図面に動的に表示されます。

8.4.6 土木ポイントのユーザー定義属性の作成

8.4.6.1 ユーザー定義属性の作成

1 CIVILPOINTATTRIBUTESを起動します。

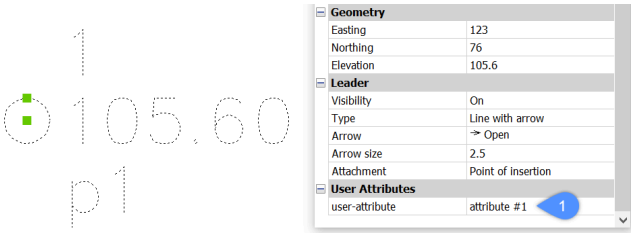
2 ユーザ属性を追加したい図面上の土木ポイントを選択します。

3 コマンドラインで **属性を追加**オプションを選択します。

4 属性キー(属性名)を入力します。

5 属性値を入力します。

注：新しいユーザ属性は土木ポイントの**プロパティ**パネル(1)に一覧表示されます。ここで属性値を編集することも可能です。



8.4.6.2 図面上で選択された土木ポイントにユーザー定義属性を表示

既存の土木ポイントラベルスタイルに新しいユーザ属性(属性名：ユーザ属性)を追加する手順について説明します。新しいユーザラベルスタイルにも同様にユーザ属性を追加することができます。

注：ユーザ定義のラベルスタイルを作成する手順、または既存のラベルスタイルを編集する手順については、**シンボルとラベルを用いた作業**を参照してください。ラベルスタイル編集の詳細については、**ラベルスタイル編集**ダイアログボックスに関する記事を参照してください。

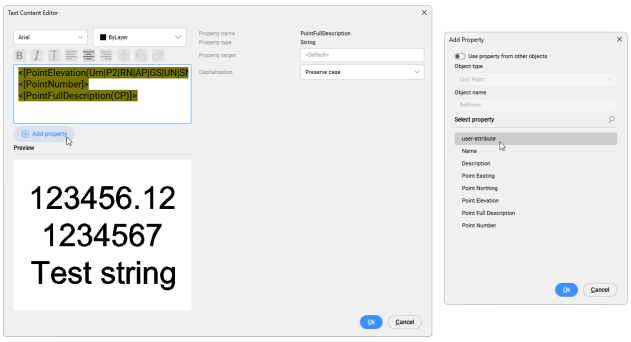
選択した土木ポイントにユーザ定義による属性を追加するには：

1 **土木エクスプローラ**パネルで、**設定**タブを選択します。

2 土木ポイントで、**ラベルスタイル**を展開し、編集するラベルスタイルを選択します。スタイルを右クリックして、**編集**オプションを選択します。

3 **ラベルスタイル編集**ダイアログボックスで、**コンポーネント**タブを開き、**編集**ボタンを選択して**文字コンテンツ編集**ダイアログボックスを開きます。

4 **文字コンテンツ編集**ダイアログボックスで、**プロパティを追加**ボタンを選択します。追加するプロパティを選択して、**OK**を選択します。



注：**プロパティを追加**ダイアログボックスでは、土木ポイントのプロパティを選択でき、また別のオブジェクト(サーフェス、平面線形、縦断線形)のプロパティを使用することもできます。詳細については、**文字コンテンツ編集**ダイアログボックスの記事を参照してください。

8.4.6.3 土木ポイントに他の土木オブジェクトのプロパティを表示する

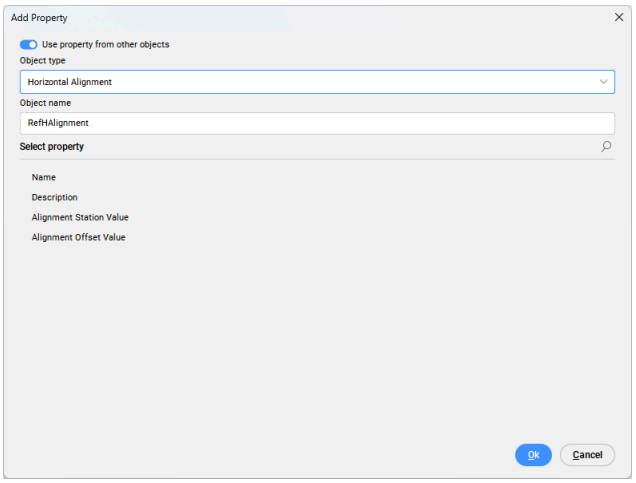
1 **プロパティを追加**ダイアログボックスで、**他のオブジェクトのプロパティを使用**オプションをオンに切り替えます。

2 土木オブジェクトの種類を選択します。

3 オブジェクト名を入力します。

4 土木ポイントラベルに表示する、選択した土木オブジェクトのプロパティを選択します。

5 **プロパティを追加**ダイアログボックスでOKボタンをクリックします。



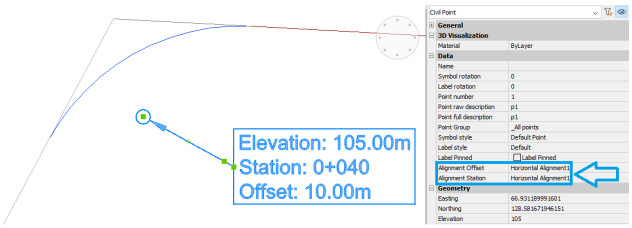
6 **文字コンテンツ編集**ダイアログボックスで**OK**ボタンをクリックします。

7 **ラベルスタイル編集**ダイアログボックスで**OK**ボタンをクリックします。

8 図面内の土木ポイントを選択して、**プロパティ**パネルを開きます。

9 **プロパティ**パネルで、適切な土木オブジェクトを選択してプロパティ値を確認し、土木ポイントラベルスタイルに表示します。

下図の例は、「平面線形1」という名前のアライメントからの土木ポイントの**測点**と**オフセット**の表示です。



8.5 グレーディングを使用した作業

8.5.1 概要

BricsCADでは、GRADINGコマンドを使用してグレーディングサーフェスを作成します。

グレーディングは、勾配を定義するか、グレーディングのオフセットを調整することによって、建設工事やTINサーフェス設計の基本レベルを維持するための一連のプロセスです。たとえば、駐車場、レクリエーション用エリア、道路や鉄道デザインの作成などです。

2つの投影法、つまり「**サーフェスへの勾配**」と「**勾配へのオフセット**」がサポートされています:

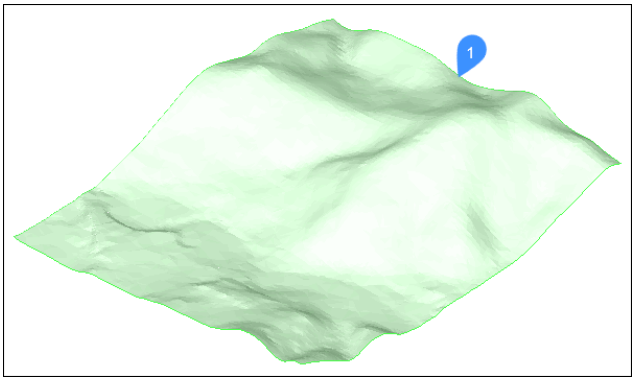
- **サーフェスまでの勾配**には、入力図形 (ポリライン、線分、円弧、円など)、サーフェス、およびサーフェスをグレーディングするための勾配が必要です。
- **勾配へのオフセットには**、入力図形、オフセット、勾配が必要です。

グラデーションサーフェスは、GRADINGEDITコマンドを使用して編集できます。

8.5.2 グレーディングサーフェスで池を作成

1 地形サーフェス(1)を持つ図面を開きます。

1



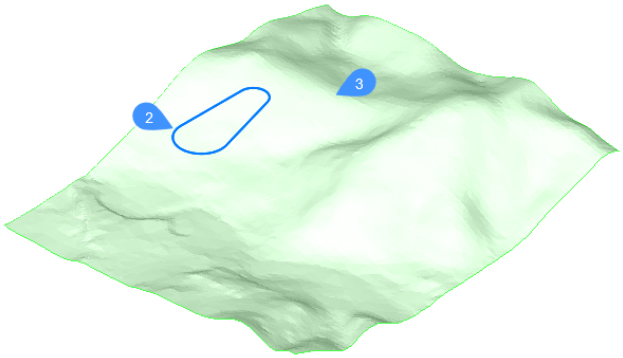
2 GRADINGコマンドを起動します。

3 池の占有面積を定義する図形(2)を選択します。線分、ポリライン、2D/3Dポリライン、円弧、3Dアライメント、グレーディングなど、さまざまなタイプの開いた/閉じた図形が入力図形として受け入れられます。

4 **注**：ターゲットサーフェスを選択する前に、入力図形、オフセット、勾配を必要とする**勾配/オフセット**投影方法に変更することができます。

5 ターゲットサーフェス(3)を選択します。

6

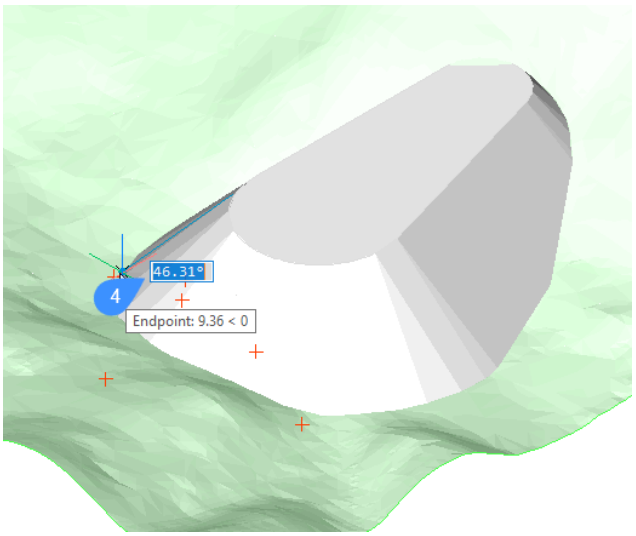


7 図形の始点と終点、または図形の**全長**を選択して、図形の一部を選択します。

8 グレーディングの勾配を定義します。

9 **注**：グレーディングは入力図形にアタッチされ、ターゲットサーフェス(TINサーフェス)と接続されます。マウスの操作で、グレーディングの勾配がダイナミックに増減します。

注：DYNMODEシステム変数が3に設定されている場合は、直接キーボードから勾配の角度を入力(4)することもできます。



10 Enterを押して、グレーディングの勾配を決定します。

8.5.3 グレーディングサーフェスのプロパティを表示

グレーディングを選択すると、**プロパティ**パネルにプロパティが表示されます。

Grading	
General	
3D Visualization	
Data	
Name	Grading
Description	
Grading type	Slope to surface
Input Entity	14C
Target surface	Surface2
Grading transition	Off
Regions	1
Cut slope	47.76
Fill slope	47.76
Region start	0
Region end	To the end
TIN Visibility	
Boundary line	Off
Points	Off
Triangles	On
Contours	Off
Major contours interval	10 m
Minor contours interval	1 m
Major contours color	Red
Minor contours color	Green
TIN Analysis	
Elevations	Off
Create ranges by	Number of ranges
Color scheme	Spectrum
Above datum color scheme	Greens
Below datum color scheme	Reds
Display as	2D Triangles
Range interval	10
Number of ranges	25
Datum	0
Slopes	Off
Color scheme	Spectrum
Display as	2D Triangles
Number of ranges	25
TIN Statistics	
Number of points	1195
Number of triangles	1368
Minimum elevation	-21.53 m
Maximum elevation	88.94 m
2D area	89368.21 m²
3D area	0.12 km²
Grading settings	
Side	Right
Infill	On
Boundary	Off
Grading statistics	
Fill volume	4729059.50 m³
Cut volume	1402.53 m³
Net volume	4727656.96 m³

グレーディングタイプ
サーフェスのグレーディングに使用される投影方法が表示されます(**サーフェスまでの勾配**または**勾配とオフセット**)。

入力図形
入力図形のハンドル番号を表示します。

入力図形を変更するには、**入力図形**オプションの右側にある参照(3つのドット)ボタン()を押して、画面上の別の入力図形を選択します。

対象サーフェス
ターゲットサーフェスのハンドル番号を表示します。

グレーディングのターゲットサーフェスを変更するには、**ターゲットサーフェス**オプションの右側にある参照(3つのドット)(ボタン()を押して、画面上の別のターゲットサーフェスを選択します。

グレーディングの移行
グレーディングの移行の状態を表示します。

勾配をカット
切土勾配(始点と終点)を表示します。

盛土勾配(始点と終点)
勾配を表示します。

リージョン開始
リージョンの開始を表示します。

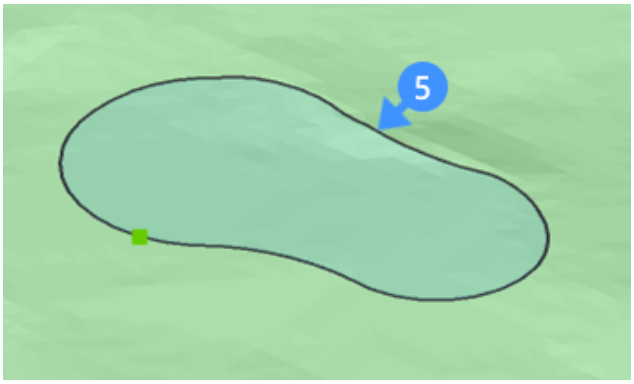
リージョン終了
リージョンの終了を表示します。

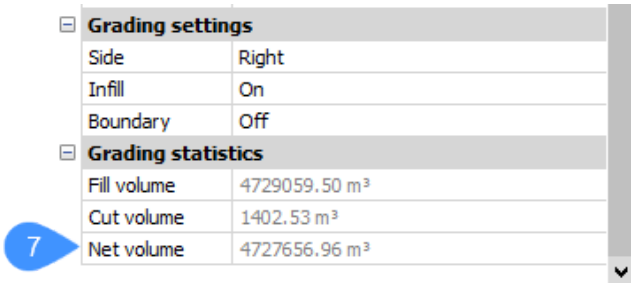
グレーディングはTINサーフェスから取得されるため、TIN可視性、TIN分析、およびTIN統計プロパティにアクセスできます。TINボリュームサーフェスを計算し、TINサーフェスを抽出することもできます。

サイド
入力図形の左右どちら側にグレーディングを作成するかをコントロールします。

インフィル
このオプションをオンにすると、図形の内部領域が塗りつぶされます。閉じた図形(円、閉じたポリライン)にのみ有効です。

境界
グレーディングの境界をコントロールします。グレーディング境界がオンになっている場合、その境界は「**非表示**」境界として対象サーフェスに追加されます。
次のイメージは、池のグレーディング境界がオフ(5)とオン(6)のときを示しています。グレーディング境界に基づいて、池の本体の正味容積が計算され、プロパティパネル(7)で確認できます。





充填容積
対象サーフェスとグレーディングサーフェスで制限されたボディ/シェイプの充填容積を表示します。

切土容積
対象サーフェスとグレーディングサーフェスで制限されたボディ/シェイプの切土容積を表示します。

正味容積
ボディ/シェイプの正味容積を表示します。

8.5.4 グレーディングサーフェスでプラットフォームを作成

1 地形サーフェス(8)を持つ図面を開きます。

1

2 GRADINGコマンドを起動します。

3 プラットフォームのフットプリント領域を定義する図形(9)を選択します。

注：ターゲットサーフェスを選択する前に、入力図形、オフセット、勾配を必要とする**勾配/オフセット**投影方法に変更することができます。

4 グレーディング領域を作成するには、対象サーフェス(10)を選択します。

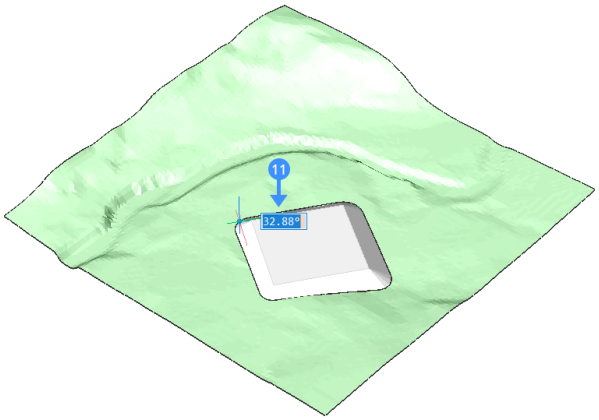
5

6 入力図形の**全長**を選択します。

7 グレーディングの勾配を定義します。

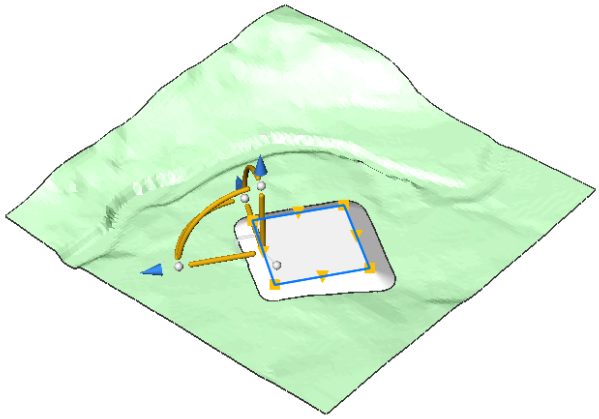
8 **注：**

- グレーディングは入力図形にアタッチされ、ターゲットサーフェスと接続されます。マウスの操作で、グレーディングの勾配がダイナミックに増減します。
- DYNMODEシステム変数が3に設定されている場合は、直接キーボードから勾配の角度を入力(11)することもできます。
-

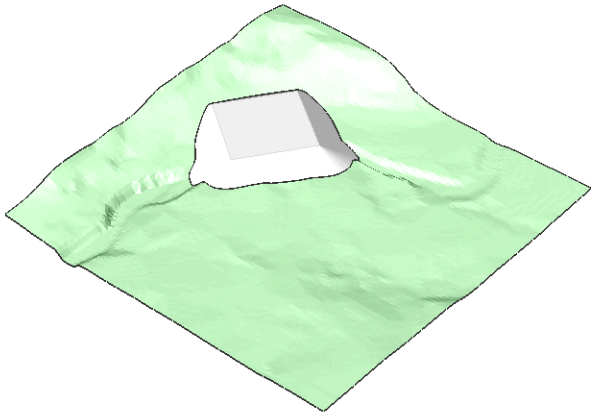


9 Enterを押して、グレーディングの勾配を決定します。

注：作成したプラットフォームは簡単に移動できます。これは、プラットフォームを作成した図形のマニピュレータを使用して行います。水平方向と垂直方向の両方に移動できます。



グレーディングは、自動的に周囲に適応されます。



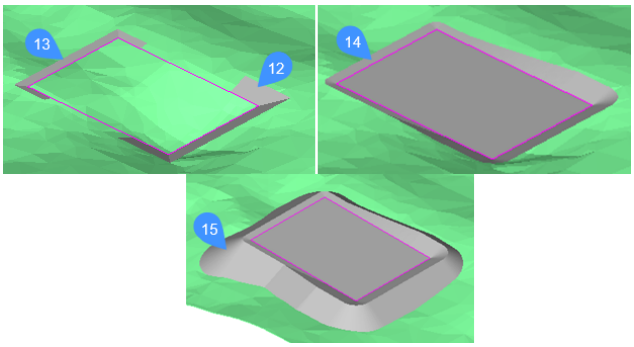
8.5.5 グレーディングサーフェスの編集

GRADINGEDITコマンドで、次のことができます。

- 2つのグレーディングを複数のリージョンを持つ1つのグレーディングにマージします。
- グレーディング間の遷移を(自動)計算します。
- グレーディングを複数のリージョンに分割して、各リージョンの勾配を個別に編集できるようにします。

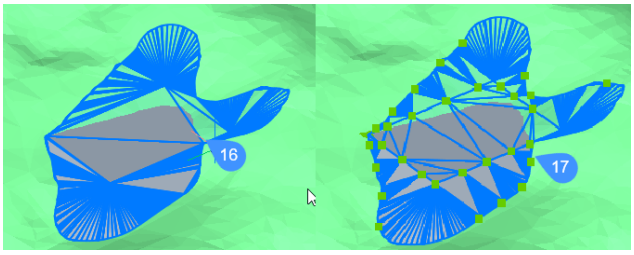
マージする手順：

- グレーディング1(12)とグレーディング2(13)をマージします。
- グリップを接続してグレーディングを閉じます。結果のグレーディングは(14)です。
- 結果のグレーディング(14)に基づいて、TINサーフェスに勾配している別のグレーディングを作成し、そのインフィルパラメータをオフにします。結果のグレーディングは(15)です。



12：グレーディング1
13：グレーディング2
14：接続グリップを使用してマージされたグレーディング
15：インフィルパラメータを「オフ」に設定した結果のグレーディング

分割



16：分割前のグレーディング
17：分割後のグレーディング：各リージョンは、グリップ編集で移動できます。

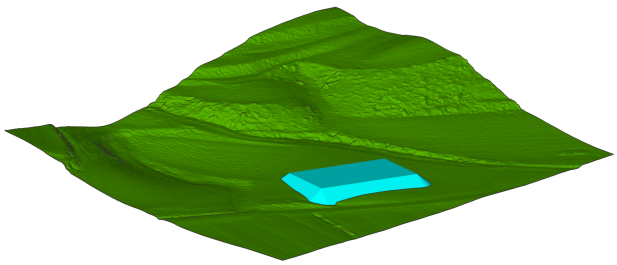
8.5.6 グレーディング量のバランスについて

GRADINGBALANCEコマンドを使用すると、指定した許容差内で切土容積と充填容積のバランスを取ることができます。これは、グレーディング入力図形の高さを上げる/下げることによって達成され、その結果として、設定された許容値に応じて正味容積がゼロとなるグレーディングが得られます。

8.5.7 切土容積と盛土容積のバランスをとるためにグレーディングの高さを調整

1 TINサーフェスとビルディングパッドを表すグレーディングを含む図面を開きます。

1



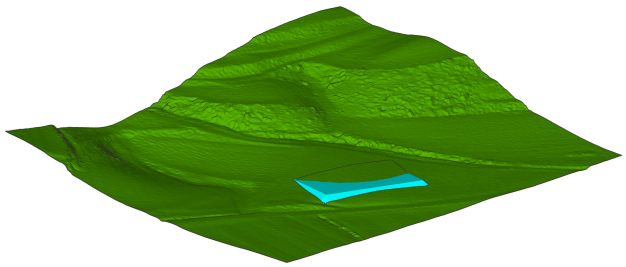
2 GRADINGBALANCEコマンドを起動します。

3 グレーディングを選択します。

4 許容誤差をパーセント(1-100)で入力します。1は、切土容積と盛土容積の差が1パーセント未満になることを意味しま

す。100は、切土容積と盛土容積の差が100%未満になることを意味します。

5



プロパティパネルで、切土容積と盛土容積のバランスが取れたことが確認できます。

Grading statistics	
Fill volume	670.77
Cut volume	673.19
Net volume	-2.42

8.6 コリドー

8.6.1 コリドーのモデリング

8.6.1.1 コマンド

CORRIDOR、CORRIDOREDIT、CORRIDOREXTRACT

8.6.1.2 概要

BricsCADでは、コリドーツールを使い、特定の3Dアライメントに沿ったコリドーを作成します。

8.6.1.3 コリドーについて

コリドーは、道路、鉄道、擁壁、橋などの3次元線形オブジェクトのモデリングに使用されるBricsCAD Civil図面オブジェクトです。BricsCADではCorridor Templateと呼ばれるもので、主に線状のオブジェクトとその典型的な断面の3Dアライメントで構成されています。

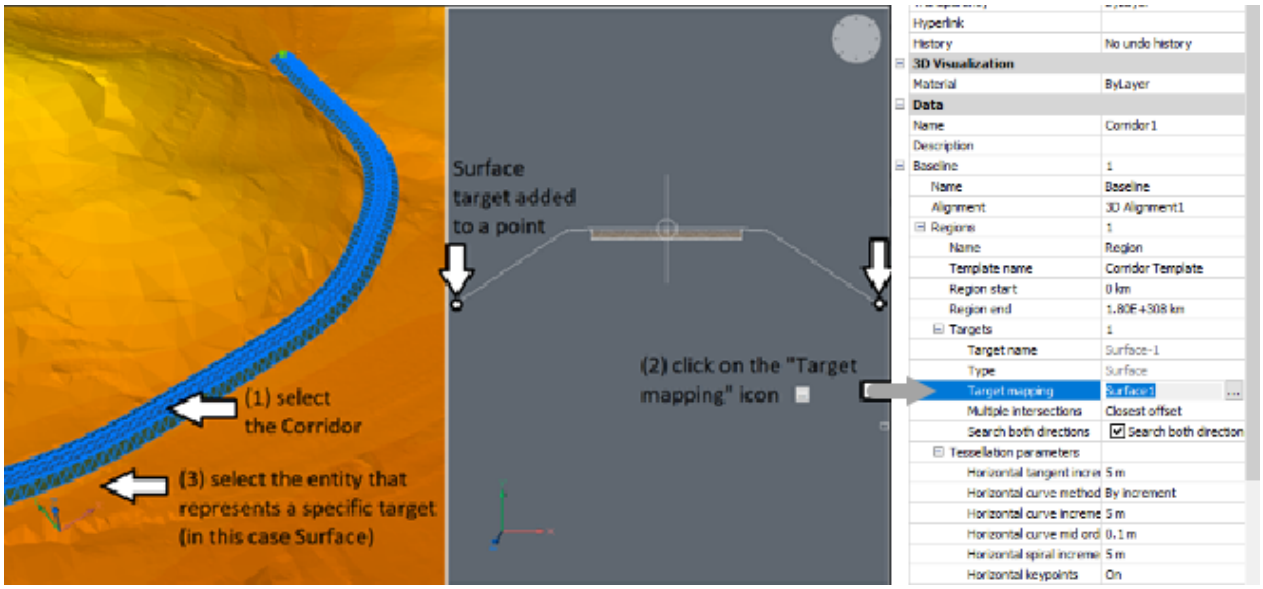
CORRIDORコマンドでは、コリドーテンプレートに基づいて、特定の地形面上の3Dアライメントに沿ったコリドーを作成することができます。

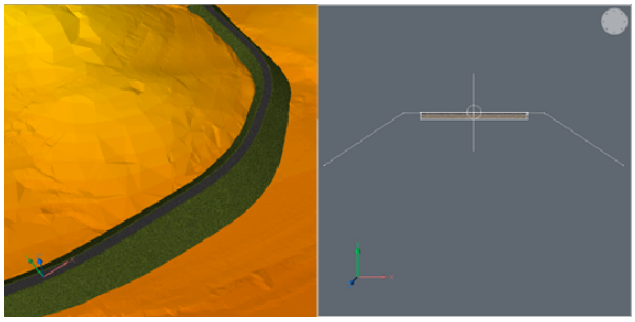
8.6.1.4 コリドーターゲットについて

個々のコリドーテンプレート要素のジオメトリが、特定のサーフェス、水平または垂直のオブジェクトに準拠しなければならない場合、ターゲットが作成され、コリドーテンプレート要素の対応する点に追加されます。以下のターゲットタイプを定義することができます。サーフェス、水平、垂直の各ターゲット。

8.6.1.5 ターゲットマッピングについて

作成後、ターゲットはコリドーテンプレート要素ポイントから図面上のコリドーモデルにマッピングする必要があります。そのためには、図面の中で、コリドーの個々のターゲットを表す図形を選択します。この作業をターゲットマッピングと呼びます。





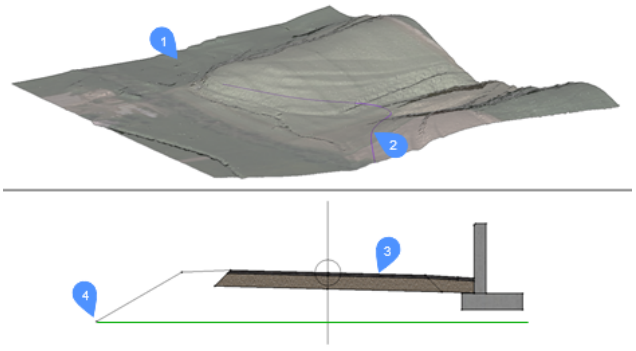
8.6.1.6 コリドー抽出について

CORRIDOREXTRACTコマンドは、既存のコリドーからメッシュ、ソリッド、ポリライン、外周境界を生成するために使用します。

8.6.1.7 道路のコリドーを作成

1 TINサーフェス(1)、3Dアライメント(2)、コリドーテンプレート(3)、テンプレート要素点に追加したサーフェスターゲット(4)を含む図面ファイルを開きます。

1 **注** :図の例では、盛土の終点を表すテンプレート要素点にサーフェスターゲット(4)を追加しています。



2 コマンドラインでCORRIDORコマンドを起動します。

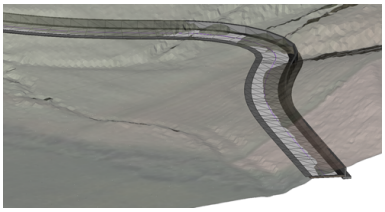
3 **注 :** Civilコマンドは、Civilツールバー、メニュー、リボンにもあります。

4 コリドーのベースラインとして使用する3Dアライメント(2)を選択します。

5 コリドーテンプレートを選択します。(3)

6 リージョン開始測点を入力します。ENTERを押して最初から開始するか、コリドーをスタートさせたい任意の測点を入力します。

7 リージョン終了測点を入力します。ENTERを押して、選択したアライメントの端点までコリドーが作成するか、コリドーの終了となる測点を入力します。

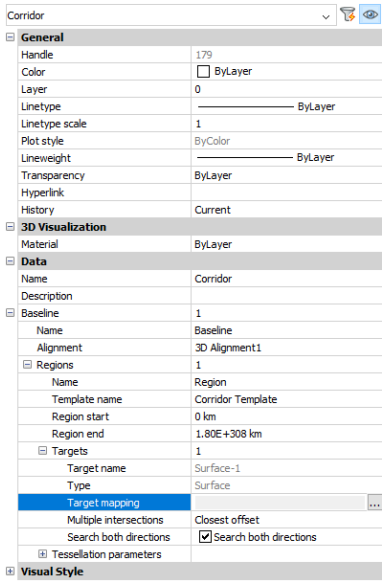


8.6.1.8 コリドーテンプレートからコリドーモデルにターゲットをマッピング(ターゲットマッピング)

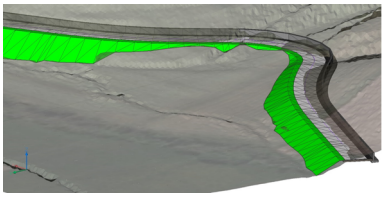
この手順は、前回の新規コリドー作成手順の後に続きます。

1 図面内のコリドーを選択します。

2 **ターゲットマッピング**フィールドのアイコン[...]をクリックします。



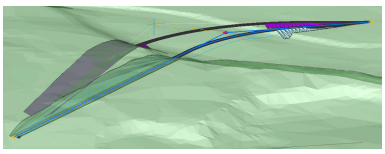
3 特定のターゲットを表す図面内の図形、ここではTINサーフェス、を選択します。

4 

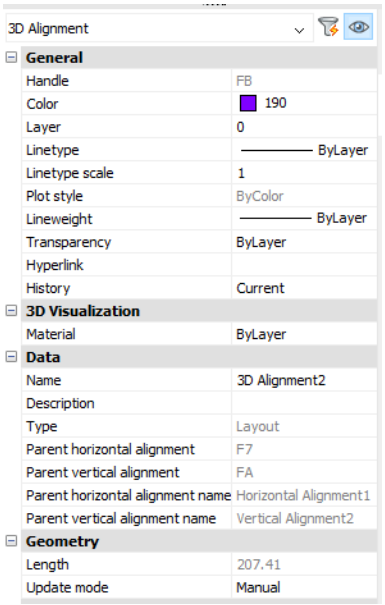
8.6.1.9 コリドーの水平/垂直位置の編集

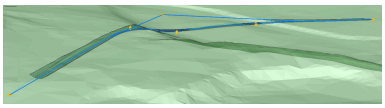
1 編集したいコリドーを含む図面ファイルを開きます。

2 コリドーが基準とする3Dアライメントを選択し、グリップポイントを移動させてコリドーを水平方向に編集します。

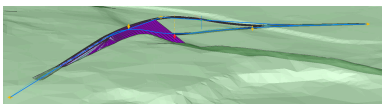


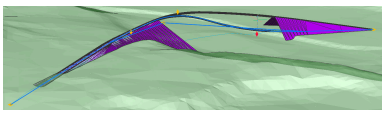
3 コリドーを垂直方向に編集するには、コリドーが参照している3Dアライメントを選択して、**プロパティ**パネルを開きます。**更新モード**を**手動**に設定します。追加のグリップポイントが表示されます。



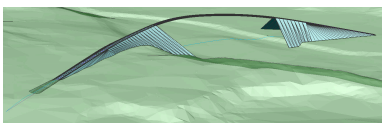


4 これらのグリップポイントを動かして、コリドーを垂直方向に編集します。





5 Enterを押して、編集したコリドーを完成させます。



8.6.1.10 コリドーリージョンの分割

1 編集したいコリドーを含む図面ファイルを開きます。

2 CORRIDOREDITコマンドを起動します。

3 図面内のコリドーを選択します。

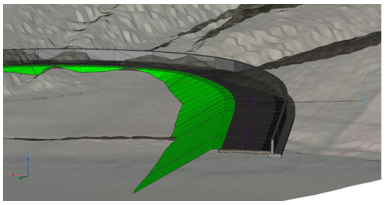
4 コマンドラインで**リージョンを分割**オプションを選択します。

5 分割したいコリドーリージョンを選択します。

注：コリドーリージョンは、インデックス、名前、または図面上の選択によって選択することができます。

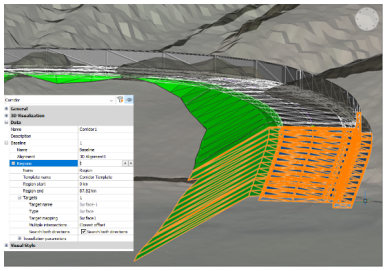
6 リージョンが分割される測点を選択または入力します。

7 **注**：リージョンを分割したい測点をすべて指定します。



8 リージョンが分割される測点を選択または入力します。

注：元のリージョンが指定した測点で2つのリージョンに分割されるました。

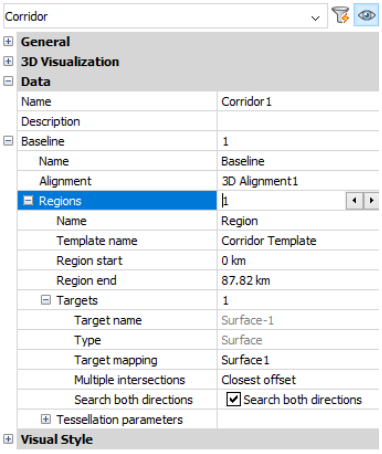


8.6.1.11 選択したコリドーリージョンをテンプレート要素に置換

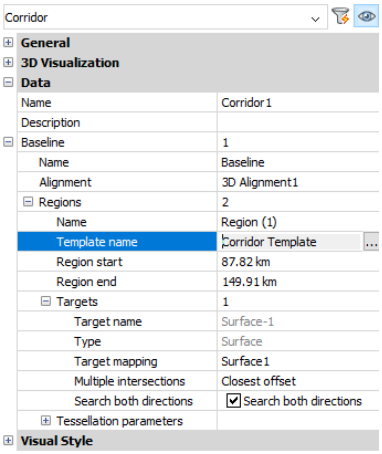
1 編集したいテンプレート要素およびコリドーを含む図面ファイルを開きます。

2 **プロパティ**パネルを開き、図面内のコリドーモデルをクリックします。

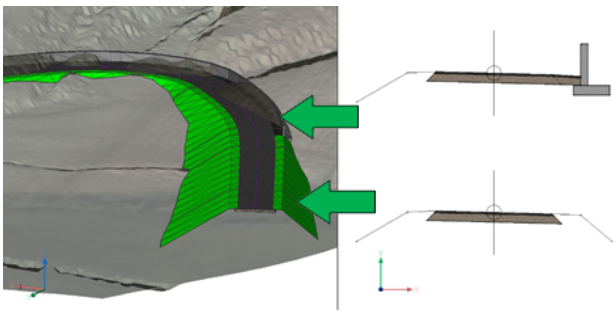
3 **プロパティ**パネルで、テンプレート要素を置換する適切なリージョンを選択します。



4 **テンプレート名**フィールドの…ボタンをクリックします。



5 図面内の新規コリドーテンプレートを選択します。

6 

8.6.1.12 コリドーからTINサーフェスを抽出

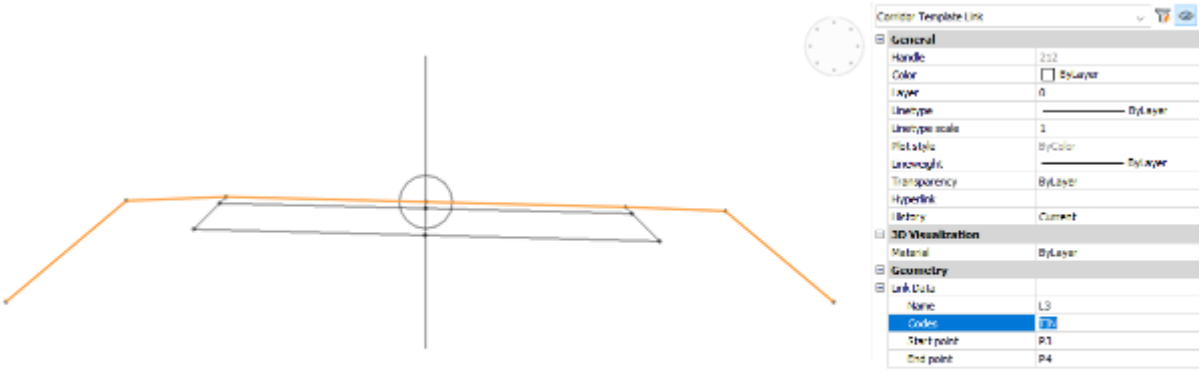
1 TINサーフェス、3Dアライメント、テンプレート要素およびコリドーを含む図面ファイルを開きます。

2 コリドーテンプレート要素を選択します。

3 TINサーフェスの抽出に使用するテンプレート要素リンクを選択します。

4 **注**：Ctrlボタンを押しながら、必要なテンプレート要素リンクをすべて選択します。

5 **リンクデータ**の下にある**コード**フィールドにコード名(TINなど)を入力します。



6 CORRIDOREXTRACTコマンドを起動します。

7 コマンドラインからTINオプションを選択します。

8 抽出するリンクを入力: **TIN**

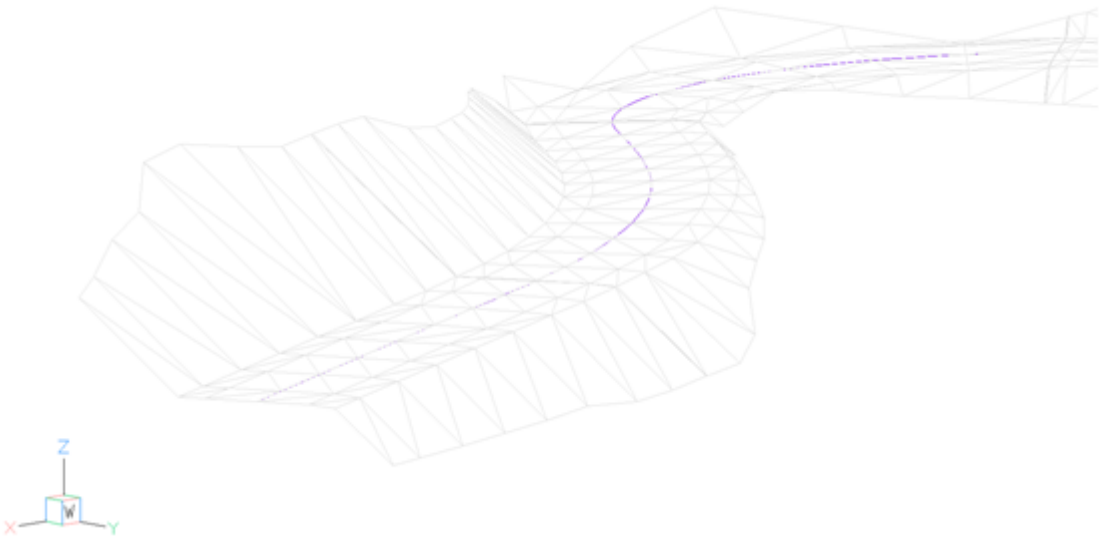
注 : 「**?**」と入力すると、使用可能なすべてのリンクコードが表示されます。

9 破断線として追加: **はい**

10 抽出する他のリンクを入力するか、Enterを押します。

11 外側エッジをサーフェス境界として使用: **はい**

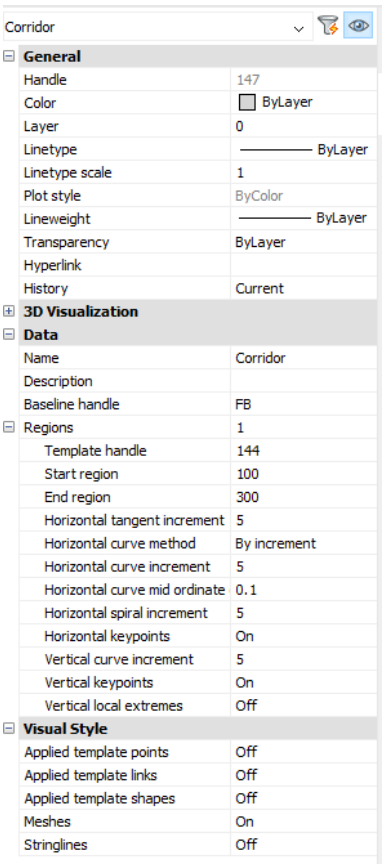
12 ダイナミックリンクを作成：**はい**



8.6.1.13 コリドーのプロパティ表示

1 コリドーを選択します。

2 コリドーのプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

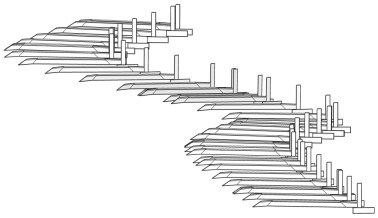


テンプレートポイントを適用しました

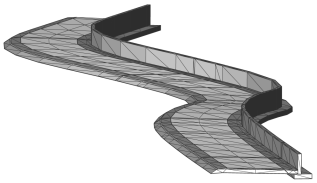
テンプレート要素のポイントでコリドーを表現します。

テンプレートリンクを適用しました
テンプレート要素のリンクでコリドーを表現します。

テンプレートシェイプを適用しました
テンプレート要素の形状でコリドーを表現します。



メッシュ
コリドーをメッシュで表現します。



文字列
コリドーに沿ってテンプレート要素のポイントを結ぶ線でコリドーを表現します。

8.6.2 コリドーテンプレート要素の作成

8.6.2.1 コマンド

CORRIDORTEMPLATE、CORRIDORTEMPLATEELEMENT、CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDIT

8.6.2.2 概要

BricsCADでは、特定の3Dアライメントに沿ったコリドーをコリドーツールで作成します。

8.6.2.3 コリドーテンプレートの概要

BricsCADでは、コリドーテンプレート図形は、テンプレート要素オブジェクトのコレクションを追加するフレームワークを表します。CORRIDORTEMPLATEコマンドでは、コリドーのテンプレート図形を作成し、そこに1つ以上のテンプレート要素を追加することができます。

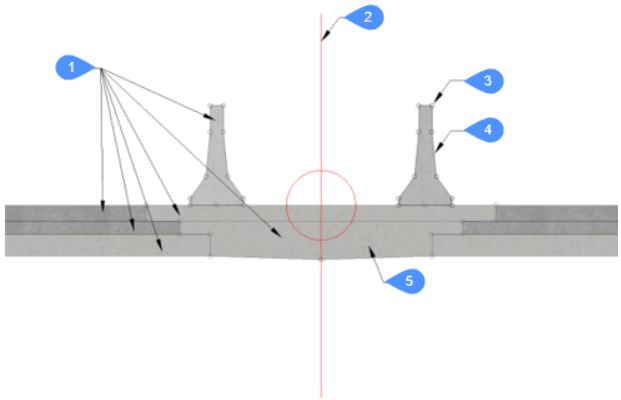
8.6.2.4 コリドーテンプレート要素について

BricsCADでは、コリドーテンプレート要素図形は、コリドー断面で使用されるコンポーネントのジオメトリを定義します。CORRIDORTEMPLATEELEMENTコマンドは、閉じたポリラインからコリドーのテンプレート要素を作成することができます。

8.6.2.5 点、リンク、形状について

コリドーテンプレート要素は、点、点間のリンク、ポリゴンを形成する単一または複数のリンクから作成される形状のコンポーネントで構成されています。

形状は、断面要素のジオメトリを決定します。これらは、単一のテンプレート要素リンクから作成することも、閉じたポリゴンを形成する複数のリンクから作成することもできます。形状にマテリアルを割り当てることで、コリドーモデルのリアルな表現を実現しています。



1 コリドーテンプレート要素

2 コリドーテンプレート

3 点

4 リンク

5 マテリアルが割り当てられた形状

8.6.2.6 コリドーターゲットについて

個々のコリドーテンプレート要素のジオメトリが、特定のサーフェス、水平または垂直のオブジェクトに準拠しなければならない場合、ターゲットが作成され、コリドーテンプレート要素の対応する点に追加されます。以下のターゲットタイプを定義することができます：サーフェス、水平、垂直の各ターゲット

8.6.2.7 手順：ステップ1 - ポリラインをコリドーテンプレート要素に変換

2頂点の単純なポリラインと、複数の頂点を持つ(閉じた)ポリラインを、テンプレート要素に変換する入力として使用することができます。いずれの場合も、以下の手順で行ってください。

1 道路アスファルト層(横断面図)を表すポリラインを作図します。

2 CORRIDORTEMPLATEELEMENTコマンドを起動します。

3 ポリラインを選択します。

4 コリドーテンプレート要素の基点をピックします。

5 テンプレート要素の向き(左、右、なし)を選択します。

注：

2つの点をリンクでつないだ新しいテンプレート要素が作成されます。2番目の点の位置は、選択された点タイプに依存します。デフォルトでは、デルタXおよびデルタYタイプが使用されます。つまり、2番目の点の位置は、原点からのデルタXとデルタYのオフセットで決まるということです。

グリップは、テンプレート要素の指定された基点に配置されます。

作成されたテンプレート要素は、既存のポリラインと重なっていますが、これは消去することができます。

1.P1 - 原点(始点)
2.P2 - 終点

8.6.2.8 ステップ2 - コリドーテンプレート要素に点を追加

ステップ1から続きます。

1 CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドを起動します。

2 テンプレート要素を選択します。

3 コマンドラインで**点を追加**オプションを選択します。

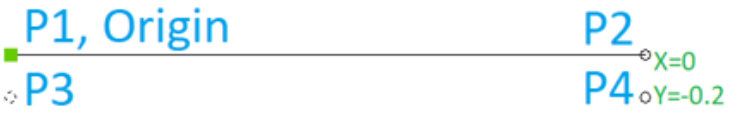
4 下図のように、新しい2点の位置を指定します。

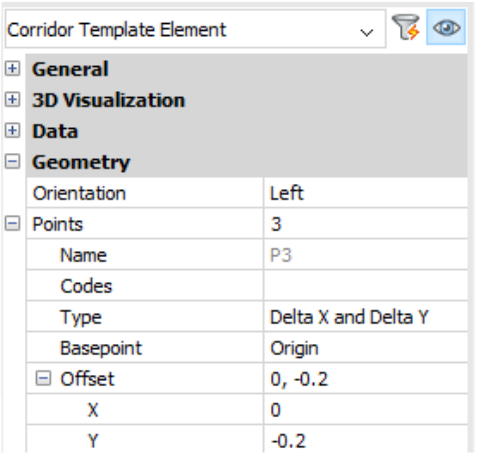
5

6 図面上のコリドーテンプレート要素を選択し、**プロパティ**パネルを開きます。**形状 - 点**欄をクリックし、矢印ボタンをクリックして点P3に移動させます。

7 点P3の基点は原点(テンプレート要素の基点)に設定されたままにしておき、この例では点P1と重なっています。

8





9 点P3の原点からのオフセットを定義します。例えば、X=0、Y=-0.2です。

10 **コリドーテンプレート要素プロパティ**パネルで、点P4にナビゲートします。

11 基点を点P2に設定します。

12 基点であるP2から点P4のオフセットを定義します。例えば、X=0、Y=-0.2です。

8.6.2.9 ステップ3 - テンプレート要素点タイプの編集

パラメータ**種類**の値は、選択された基点からの距離を決定する異なる方法を選択することで変更することができます。以下にその手順を説明します。

ステップ2から続きます。

1 テンプレート要素の点P2をCtrlボタンを押しながら選択するか、図面でコリドーテンプレート要素を選択し、**プロパティ**パネルで点P2に移動することで、目的の点を選択します。

2 **形状 - 点 - 種類**欄のドロップダウンリストから**勾配とデルタ X**オプションを選択します。

3 **X**欄にオフセット距離を入力し、**勾配(%)**欄に勾配を入力します。

注：

- 点P2の位置は、指定したX方向のオフセットと傾き(%)で決まります。
- 点P4の**基点**はP2に設定されているため、点P2の位置が変わるとそれに合わせて点P4も移動します。

Geometry	
Point Data	
Name	P2
Codes	
Type	Slope and Delta X
Basepoint	Origin
Offset	-1, 0
X	-1
Y	0
Slope (%)	-2
Reference Point	P1
Horizontal Target	No target
Vertical Target	No target

Geometry	
Point Data	
Name	P4
Codes	
Type	Delta X and Delta Y
Basepoint	P2
Offset	0, -0.2
X	0
Y	-0.2
Horizontal Target	No target
Vertical Target	No target

8.6.2.10 ステップ4 - コリドーテンプレート要素にリンクを追加

ステップ3から続きます。

1 CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドを起動します。

2 図面内のテンプレート要素を選択します。

3 コマンドラインで**リンクを追加**オプションを選択します。

4 テンプレート要素点P1とP3を選択し、両者の間にリンクを作成します。

5 テンプレート要素点P3とP4を選択し、両者の間にリンクを作成します。

6 テンプレート要素点P4とP2を選択し、両者の間にリンクを作成します。

7 Enterを押して、コマンドを終了します。

8

Corridor Template Element	
General	
3D Visualization	
Geometry	
Orientation	Left
Points	1
Links	3
Name	L3
Codes	
Start point	P3
End point	P4
Shapes	1

8.6.2.11 ステップ5 - テンプレート要素の基点を変更

1 図面内のテンプレート要素を選択します。

2 基点をクリックします。

3 Ctrlボタンを押しながら、新しいテンプレート要素の基点位置を図面上で指定します。

4 図面内のテンプレート要素を選択すると、新しいテンプレート要素の基点位置が表示されます。

8.6.2.12 ステップ6 - コリドーテンプレート要素に形状を追加

ステップ5から続きます。

1 CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドを起動します。

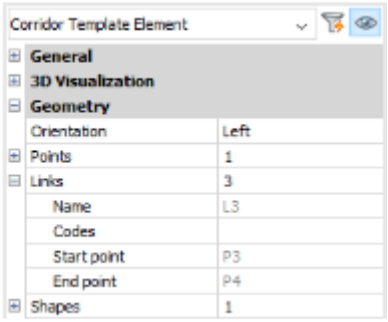
2 図面内のテンプレート要素を選択します。

3 コマンドラインで**形状を追加**オプションを選択します。

4 リンク先のL1、L2、L3、L4を書き順でクリックします。

5 Enterを押して、コマンドを終了します。

6



8.6.2.13 ステップ7 - 既存のテンプレート要素に盛土線を追加

ステップ6から続きます。

1 CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドを起動します。

2 図面内のテンプレート要素を選択します。

3 コマンドラインで**点を追加**オプションを選択します。

4 図面上の新しい点の位置を指定します。

5

6 CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドを起動します。

7 図面内のテンプレート要素を選択します。

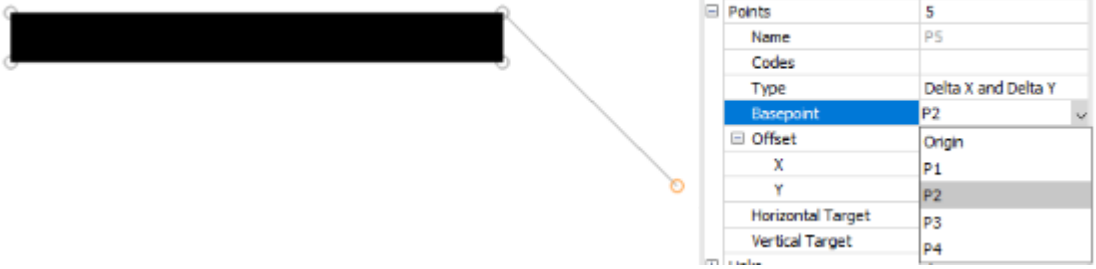
8 コマンドラインで**リンクを追加**オプションを選択します。

9 点P2、P5を選択し、新しいリンクを作成します。

10

11 テンプレート要素の点P5を選択し、その基点を点P2に変更します。

12



13 テンプレート要素点P5を選択し、種類パラメータを**サーフェスへの角度**に変更します。

8.6.2.14 ステップ8 - 盛土線に形状を追加

ステップ7から続きます。

1 CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドを起動します。

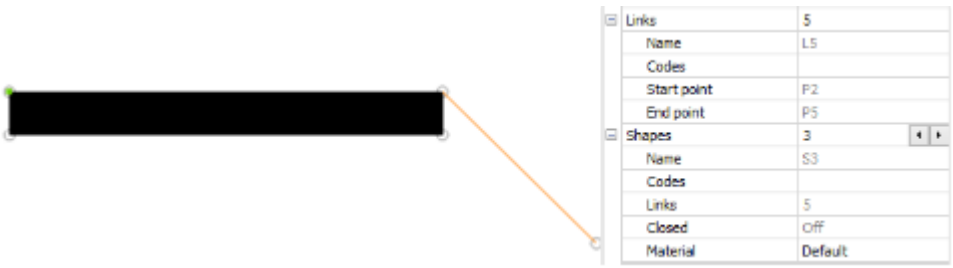
2 図面内のテンプレート要素を選択します。

3 コマンドラインで**形状を追加**オプションを選択します。

4 テンプレート要素L5を選択します。

5 Enterを押して、コマンドを終了します。

6



8.6.2.15 ステップ9 - 盛土にサーフェスターゲットを追加

ステップ8から続きます。

1 CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドを起動します。

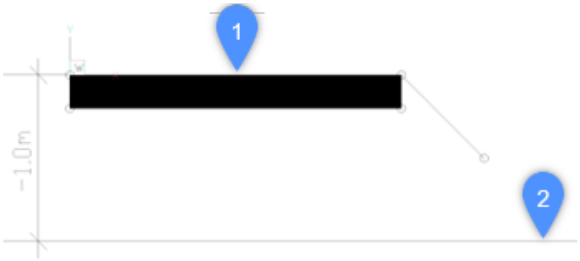
2 図面内のテンプレート要素を選択します。

3 コマンドラインで**ターゲットを追加**オプションを選択します。

4 ターゲット名を入力します：**Surface-1**

5 ターゲットタイプを選択します：表面

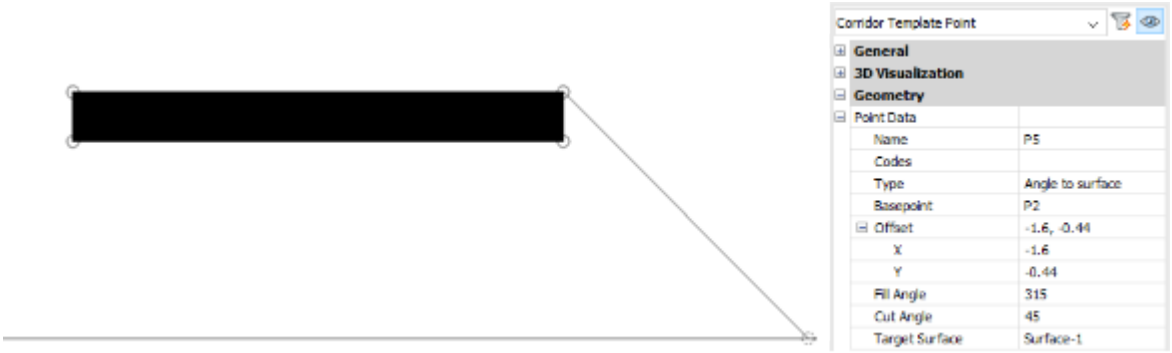
6 ターゲットのデフォルト値を入力します：**-1**



1 - テンプレート要素

2 - サーフェスターゲット

7 テンプレート要素点P5を選択し、**対象サーフェス**欄で**Surface-1**を選択します。



8.6.2.16 ステップ10 - コリドーテンプレート要素をコリドーテンプレートに追加

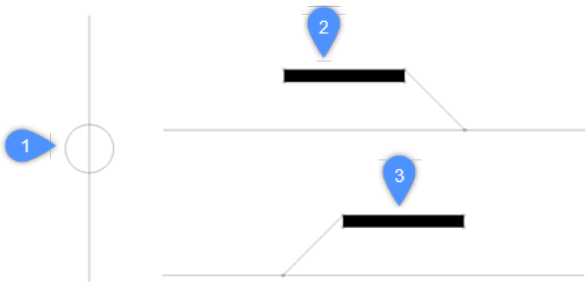
ステップ9から続きます。

1 CORRIDORTEMPLATEコマンドを起動します。

2 図面内の1点を選択して、コリドーテンプレートを作成します。

3 同じ図面に既存のテンプレート要素をコピー＆ペーストします。

4 コピーしたコリドーテンプレート要素を選択し、**プロパティ**パネルで**向き**パラメータを**左**に変更します。



1 - コリドーテンプレート

2 - テンプレート要素 右向き

3 - テンプレート要素 左向き

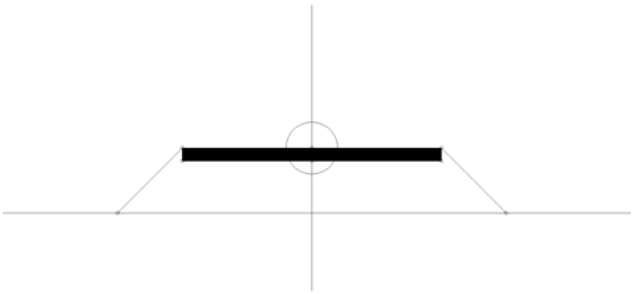
5 CORRIDORTEMPLATEコマンドを起動します。

6 コマンドラインで**テンプレート要素を追加**オプションを選択します。

7 正しい向きのコリドーテンプレート要素を選択します。

8 コリドーテンプレートを選択すると、選択したテンプレート要素が追加されます。

9 左向きのテンプレート要素についても、手順5～8を繰り返します。



8.7 位置合わせ

8.7.1 線形の作成

8.7.1.1 概要

BricsCADでは、線形ツールを使用して線形を作成します。

新しいアライメントを作成するには、いくつかの方法があります。

- **IP点で線形**では、接線ポリゴンで線形を作成します。
- **要素で線形**では、いくつかの方法があります。
  - **直線線形**
  - **曲線線形**
  - **要素に作成**
  - **要素間に作成**
- LandXMLファイルから線形を読み込みます。
- AutoCAD® Civil 3Dから線形を読み込みます。

線形は線形オブジェクトによるルートで、1つの図形として表示される線と曲線の組み合わせとして定義されます。

8.7.1.2 線形について

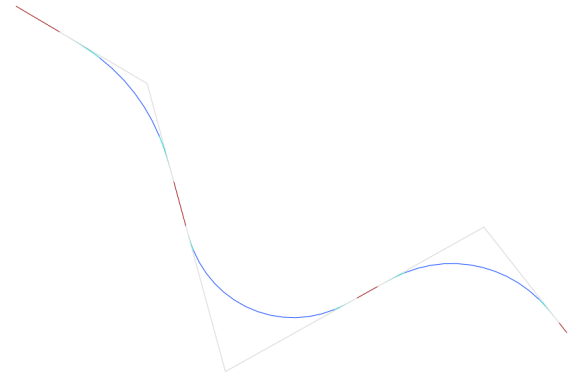
線形は、道路・鉄道・パイプネットワーク・街路・擁壁・橋などの線形オブジェクトを空間に配置するために使用する参照系です。線形は、水平方向と垂直方向の2D曲線で表現され、結果として3D線形を作成します。

平面線形

平面線形は、線形図形を水平方向に正確に配置するために必要な2D曲線です。IP点や線形要素から作成したり、LandXMLやAutoCAD® Civil 3Dから読み込むことで作成することができます。平面線形は、TINサーフェスを水平方向にトレースして作成します。平面線形を元に縦方向のプロファイルと縦断線形が生成されます。

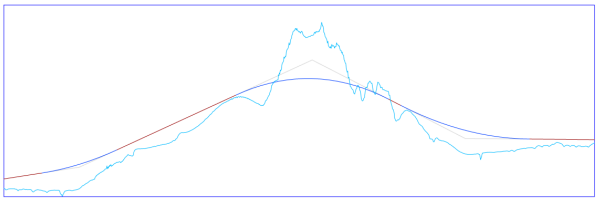
注：平面線形は必ずしもTINサーフェスに投影(ドレープ)されるとは限りません。縦断線形とコリドーを作成するには投影が必要です。

1つの平面線形は1つの縦断線形を持つことができます。サーフェスの下方に平面線形が表示されます。



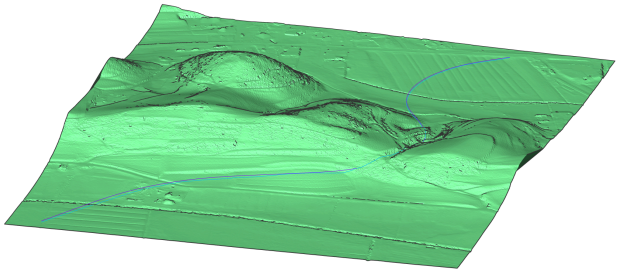
縦断線形

線形オブジェクトを垂直方向に正確に定義するには、縦断線形が必要です。平面線形によって定義される水平方向のパスは、TINサーフェスの垂直方向のプロファイルに対応します。ターゲットサーフェスのこれらの垂直プロファイルで垂直交差点（PVI）を定義することにより、新しい2D曲線は垂直方向の配置を定義します。



3D線形

3Dアライメントは、平面線形と縦断線形によって定義される3Dポリゴン曲線です。



8.7.1.3 手順：IP点による線形の作成

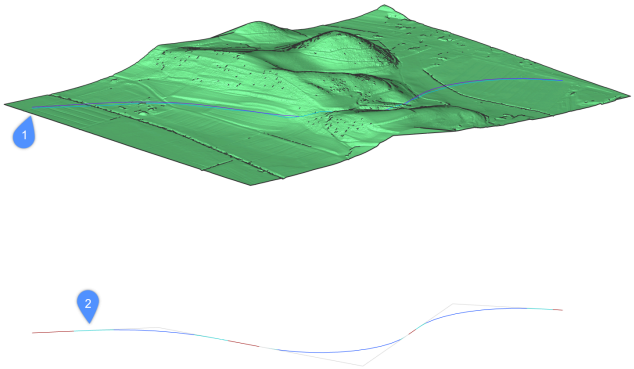
1 TINサーフェスを含む図面ファイルを開きます。

2 コマンドラインでALIGNMENTコマンドを起動します。

3 TINサーフェスを選択します。

4 オプションとして、コマンドラインで**開始測点を指定**オプションを選択して、線形の開始測点を定義します。

5 サーフェス上の平面線形IP点を選択します。選択が完了したら、Enterを押します。3D線形(1)と平面線形(2)が生成されました。



注：3つの線形として、0,0平面上の平面線形と平面線形をTIN面に投影した水色の3D線形、設計上の線形を示す紫色の3D線形が自動生成されます。

8.7.1.4 手順：3D線形なしで平面線形を作成

1 図面を開き、コマンドラインでALIGNMENTコマンドを起動します。

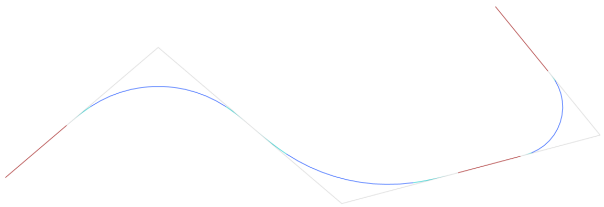
2 コマンドラインで**IP点を選択**オプションを選択します。

注：コマンドラインでこのオプションを選択した場合、線形はTINサーフェスに投影されません。

3 オプションとして、コマンドラインで**開始測点を指定**オプションを選択して、線形の開始測点を定義します。

4 平面線形のIP点を指示します。指示が完了したらEnterキーを押します。

平面線形が生成されます。

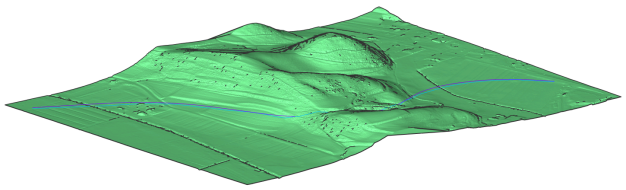


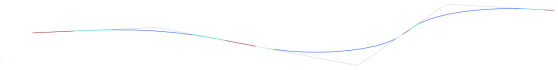
8.7.1.5 縦断線形ビューについて

平面線形を元にTINサーフェスの垂直断面が作成されます。この2D曲線は、ALIGNMENTVIEWコマンドを使用して、モデル空間内の別のビューポートに表示されます。

8.7.1.6 縦断線形ビューの作成

1 TIN サーフェス、平面線形、3D線形を含む図面ファイルを開きます。





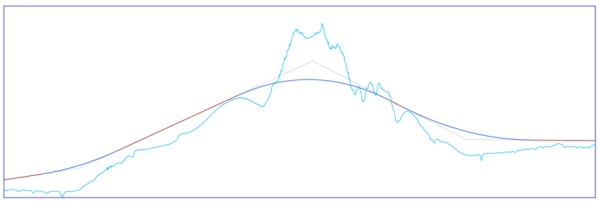
2 コマンドラインでALIGNMENTVIEWコマンドを起動します。

3 図面の平面線形または3D線形を選択します。

注：TINサーフェスにまだ投影されていない図面で平面線形を選択した場合は、次の手順でTINサーフェスを選択する必要があります。

4 縦断線形ビューの原点を選択します。

5 縦断線形ビューが生成されます。

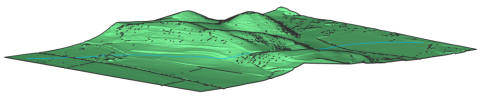


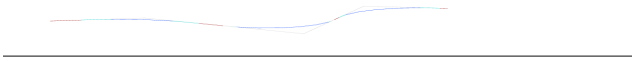
注：2種類の縦断線形が表示されます。水色の線形はTINサーフェスからの地形を表し、もう1つは縦断線形を表しています。縦断線形には直線と垂直方向の曲線があり、垂直公差パラメータの精度係数に基づいて自動的に作成されます。精度係数は**プロパティ**パネルで変更できます。

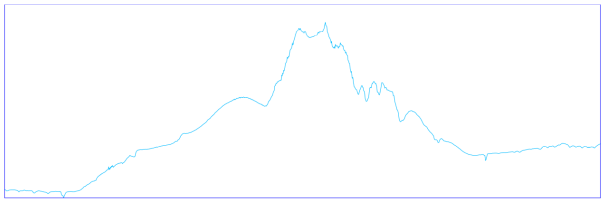
8.7.1.7 縦断線形を作成

1 TINサーフェス、平面線形、縦断線形ビューを含む図面ファイルを開きます。

1

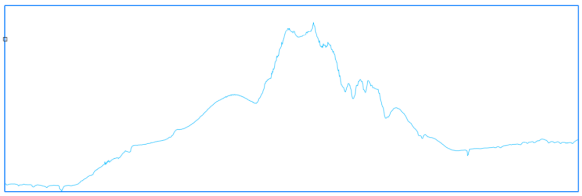




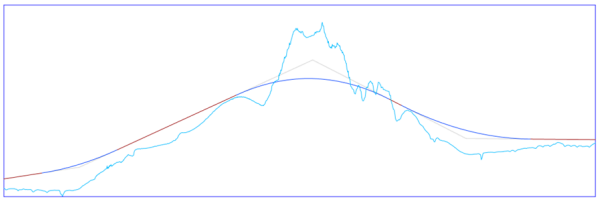


2 コマンドラインでALIGNMENTVERTICALコマンドを起動します。

3 図面上で縦断線形ビューを選択します。



4 縦断線形PVIポイントを選択します。選択が完了したら、Enterキーを押します。一つ前に戻りたい場合は、[元に戻す]を使用します。自動生成の3D線形オプションにより、縦断線形を自動的に生成します。縦断線形が生成されます。



8.7.1.8 既存の線形要素の前後に新たに線形要素を付加する

1 ALIGNMENTLINEまたはALIGNMENTCURVEコマンドを使用して、新しい平面線形を作図します。

2 ALIGNMENTELEMENTFROMコマンドを起動します。

3 プロンプト表示：

アライメント要素 [線分 (L)/曲線 (C)/緩和曲線(S)/直線-緩和曲線(LS)/曲線-緩和曲線(CS)/曲線-緩和曲線-緩和曲線(CSS)]:

4 コマンドラインで、付加する要素のタイプを選択します。この例では、**曲線-緩和曲線**オプションを使用します。

5 プロンプト表示：

6 アタッチ : [要素 (E)/要素端 (END)]

- **要素**：アタッチメント要素の指定したポイントに新しい要素を付加するには、このオプションを選択します。
- **要素の端**：アタッチメント要素の始点/終点に新しい要素を付加するには、このオプションを選択します。

注 : 曲線を既存の要素の前に付けるには、その要素の始点に近いところで選択します。また、アタッチメント要素の終点に近い方をクリックすると、要素の後(starting from)に曲線を取り付けることができます。

7 既存の直線要素(3)を選択します。

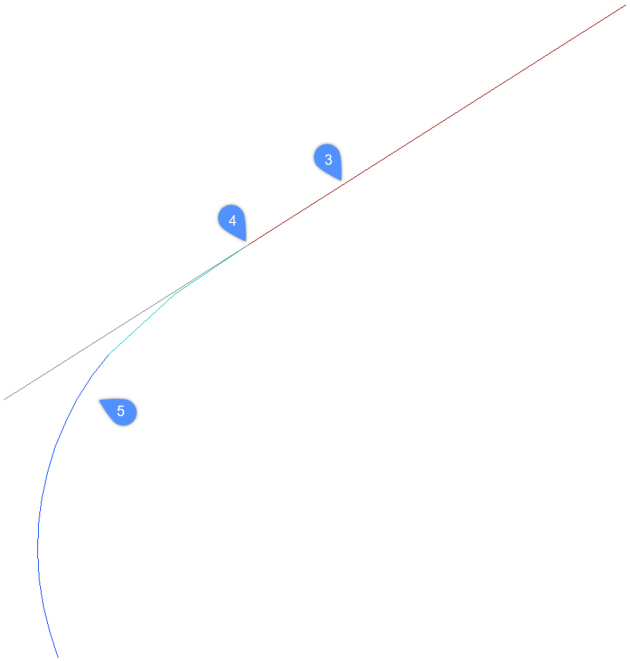
8 緩和曲線の半径を指定します。

9 緩和曲線の長さを指定します。

10 曲線解の角度(180°より大きいか小さいか)を指定します。

11 曲線通過点(4)を指定して、曲線と緩和曲線の組み合わせ(5)を作図します。

注 : 新しい要素は、選択したアタッチメント要素の指定された点に対して常に接線方向に作図されます。



8.7.1.9 選択された2つの線形要素の間に新たに線形要素を付加する

1 ALIGNMENTLINEまたはALIGNMENTCURVEコマンドを使用して、2つの要素で平面線形を作図します。

2 ALIGNMENTELEMENTBETWEENコマンドを起動します。

3 プロンプト表示：

アライメント要素 [線分 (L)/曲線 (C)/緩和曲線(S)/緩和曲線-曲線-緩和曲線らせん(SCS)/緩和曲線-緩和曲線(SS)/緩和曲線-直線-緩和曲線(SLS)]:

4 コマンドラインで、付加する要素のタイプを選択します。この例では、**緩和曲線-曲線-緩和曲線**オプションを使用します。

5 最初のアタッチメント要素(6)を選択します。

6 2番目のアタッチメント要素(7)を選択します。

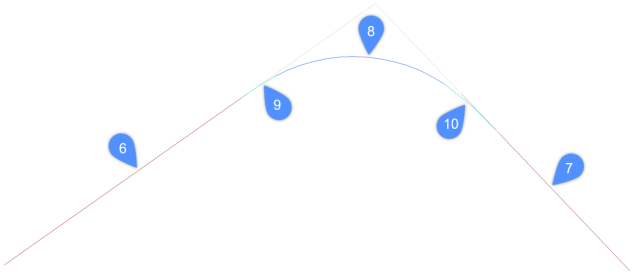
7 曲線の半径(8)を指定します。

8 緩和曲線の入り長さ(9)を指定します。

9 緩和曲線の出の長さ(10)を指定します。

10 選択した線形要素間の新しい緩和曲線-曲線-緩和曲線の組み合わせが追加されます。

注：新しい要素は、両方のアタッチメント要素に対して接線方向に作図されます。



8.7.2 アライメントの編集

8.7.2.1 概要

BricsCAD Civilでは、ALIGNMENTEDITコマンドを使用して、いくつかのアライメント編集オプションが利用できます：

- 水平または垂直アライメントを継続
- Pi/Pvi点の追加または削除
- 要素の削除
- 測点定義の追加または削除
- TINサーフェスの変更

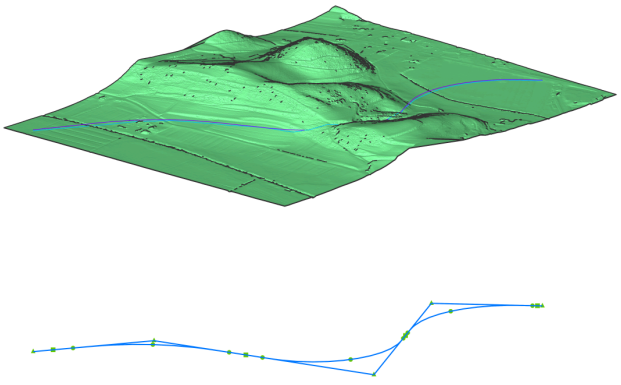
注：3Dアライメントは自動的に更新されます。

8.7.2.2 ALIGNMENTEDITで水平アライメントを継続

1 **アライメントの作成**の記事、**PIによるアライメントの作成**の手順に従って、水平アライメントを作図します。

2 コマンドラインに「ALIGNMENTEDIT」と入力します。

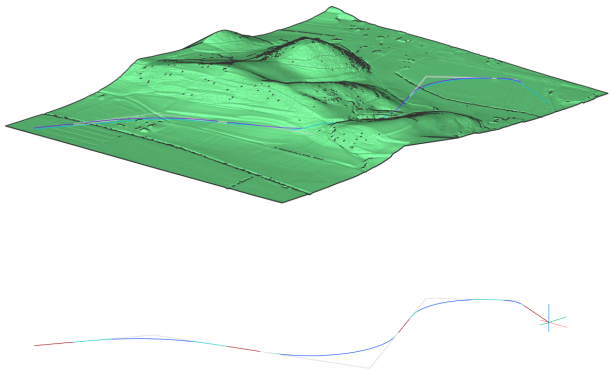
3 編集する水平アライメントを選択します。



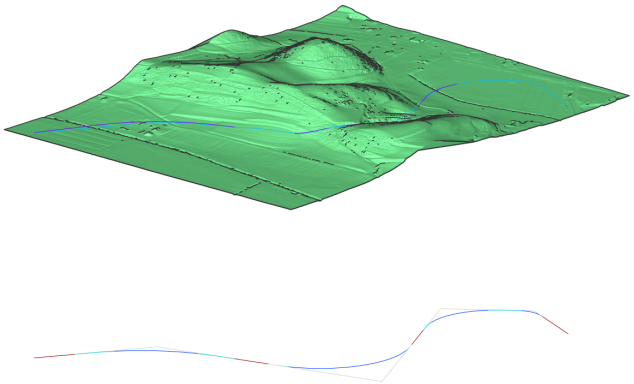
4 コマンドラインで**piで継続**オプションを選択します。

5 新しい水平アライメントのPIポイントを選択して、既存のアライメントを継続します。

6 コマンドラインで**元に戻す**オプションを使用すると、前のステップに戻ることができます。



7 終了したらEnterを押します。その際、水平アライメントが適宜拡張され、3Dアライメントが自動的に更新されます。



8.7.2.3 既存の水平アライメントにPIを追加

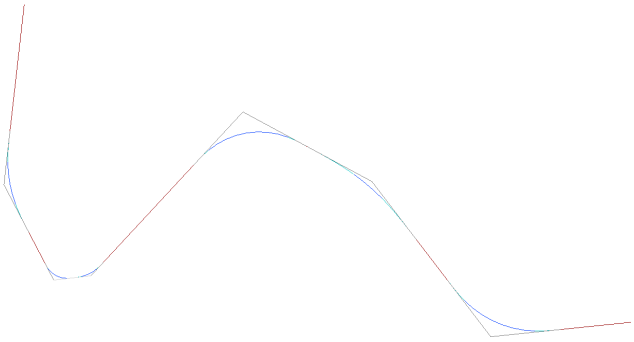
1 コマンドラインに「ALIGNMENTEDIT」と入力します。

2 編集する水平アライメントを選択します。

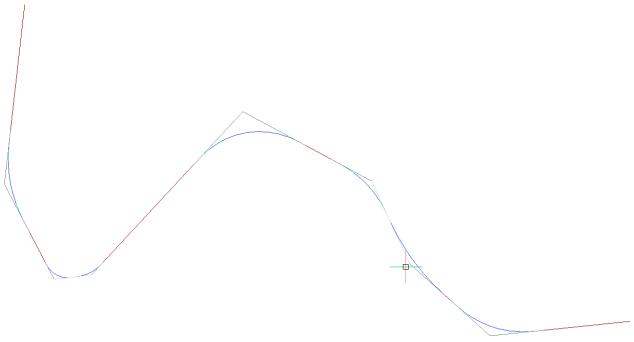
3 コマンドラインで**piを追加**オプションを選択します。

4 新しいPIを追加するポイントを選択します。

PIポイント追加前

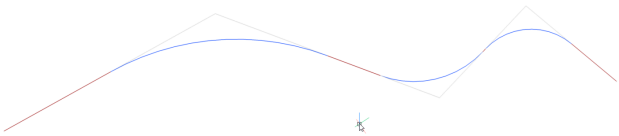


PIポイント追加後



8.7.2.4 既存の水平アライメントからPIを削除

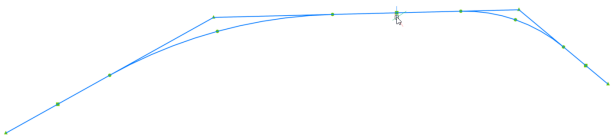
1 コマンドラインに「ALIGNMENTEDIT」と入力します。



2 編集する水平アライメントを選択します。

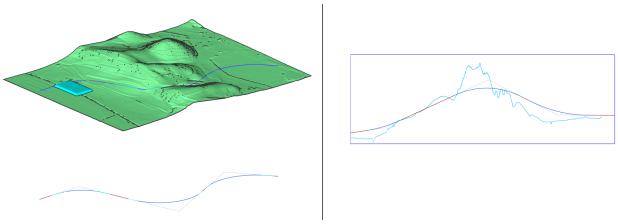
3 コマンドラインで**piを削除**オプションを選択します。

4 削除するPIの近くのポイントを選択します。



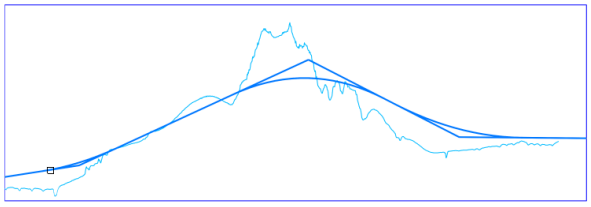
8.7.2.5 垂直アライメントビューにTINサーフェスを追加

1 TINサーフェス、アライメント、垂直アライメントビュー、グレーディングを含む図面ファイルを開きます。

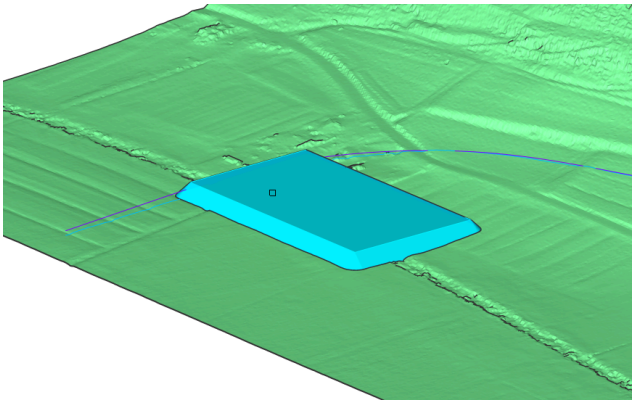


2 コマンドラインでALIGNMENTEDITコマンドを起動します。

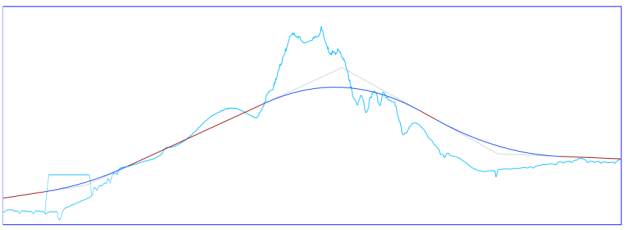
3 コマンドラインで**Tinサーフェスを変更**オプションを選択します。



4 追加するTINサーフェスを選択します。



垂直アライメントビューでは、グレーディング図形を表す追加の水色の線が表示されます。



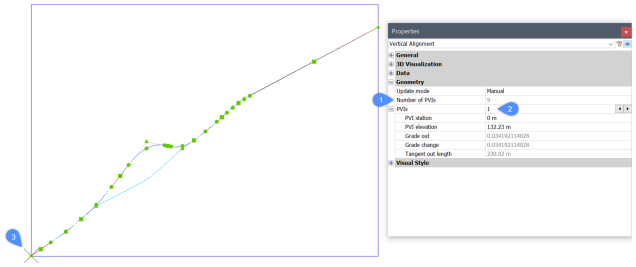
8.7.2.6 プロパティパネルからアライメントを編集

アライメントパラメータは、**プロパティ**パネルで編集できます。

垂直アライメントを編集

- **垂直アライメント**を選択します。
- **プロパティ**パネルで、**垂直アライメント**がいくつかの PVI (1)で構成されていることがわかります。

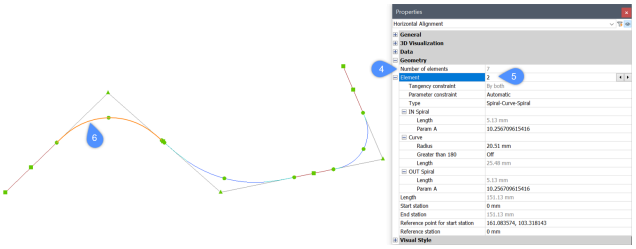
- **PVI**フィールド(2)をクリックすると、現在選択されている PVI が図面(3)でハイライト表示されます。



- PVIの切り替えや、アライメントPVIパラメータの編集ができます。**垂直アライメント**は、図面内で自動的に更新されます。

水平アライメントを編集

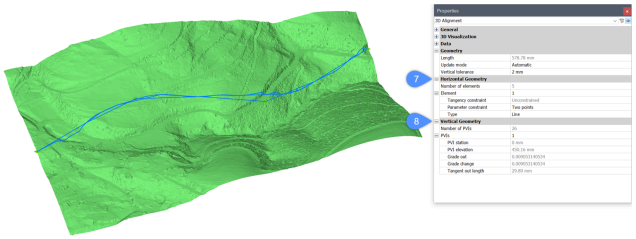
- **水平アライメント**を選択します。
- **プロパティ**パネルで、**水平アライメント**がいくつかの要素(4)で構成されていることがわかります。
- **要素**フィールド(5)をクリックすると、現在選択されている要素が図面(6)でハイライト表示されます。



- 要素の切り替えや、アライメント要素パラメータの編集ができます。**水平アライメント**は、図面内で自動的に更新されます。

3Dアライメントを編集

- **3Dアライメント**を選択します。
- **プロパティ**パネルでは、水平(7)と垂直(8)のアライメントパラメータを編集できます。



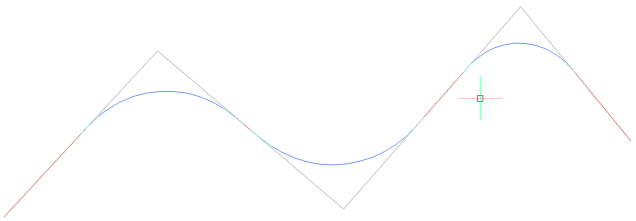
- 以上のように、要素とPVIを切り替えて、それらのパラメータを変更できます。**3Dアライメント**は、図面内で自動的に更新されます。

8.7.2.7 アライメント測点定義を使った作業

アライメント測点定義は必要に応じて設定および変更できます。

既存の水平アライメントに測点定義を追加

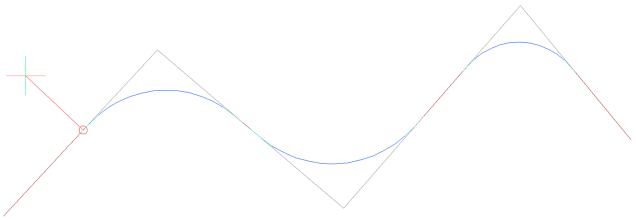
1 コマンドラインに「ALIGNMENTEDIT」と入力します。



2 編集したい水平アライメントを選択します。

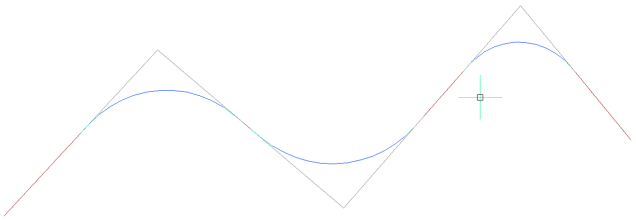
3 コマンドラインで**測点定義を追加**オプションを選択します。

4 点を選択して、新しい**測点定義**を追加します。



既存の水平アライメントから測点定義を削除

1 コマンドラインに「ALIGNMENTEDIT」と入力します。



2 編集したい水平アライメントを選択します。

3 削除する測点定義のインデックス番号を指定します。

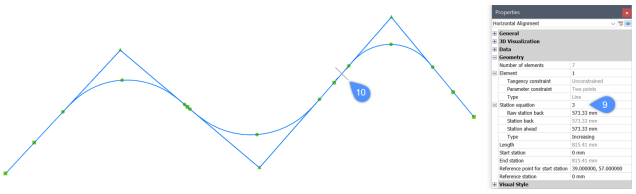
プロパティパネルによる測点定義パラメータの編集

作成した**測点定義**間で切り替えをして、**プロパティ**パネルでパラメータを編集することができます。

1 **水平アライメント**を選択します。

2 **プロパティ**パネルで、**水平アライメント**に測点定義が追加されているかどうかがわかります。

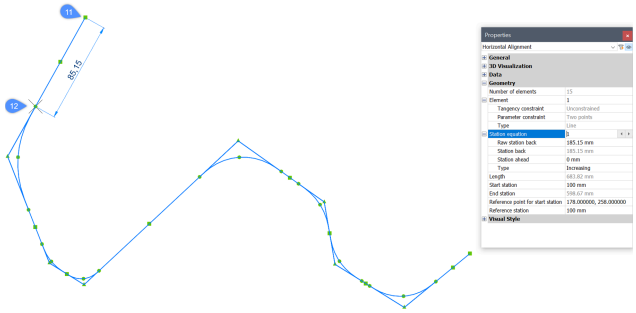
3 **測点定義**フィールド(9)をクリックすると、現在選択されている測点定義が図面(10)でハイライト表示されます。



- **未処理の測点後方**値は、アライメントの始点(11) および**測点定義**に指定された点(12) を基準にしています。

  注：アライメント**開始測点**は、0(ユーザーが指定)とは異なる場合があります。アライメントに**測点定義**が1つだけ定義されている場合、**未処理の測点後方**値は**測点後方**値と一致します。

水平アライメントプロパティの**未処理の測点後方**パラメータを編集して、アライメント上の**測点定義**の点を移動します。



- 最初の値を除くすべての測点定義の**測点後方**値は、その直前に配置された**測点定義**値と**測点前方**値に相対的です。アライメントに測点定義が1つだけ定義されている場合、**測点後方**は **未処理の測点後方**と一致します。
- **測点前方**では、アライメント上の**測点定義**の新しい点から始まる新しい測点値を指定します。
- **種類**パラメータは、アライメント上の測点定義の位置(点)の後に測点が増加させるか減少させるかを指定します。

9. パラメトリックモデリング

9.1 パラメトリックモデリングの概要

BricsCADには、各種パラメータで2Dおよび3D幾何モデルをコントロールするための豊富なツールセットが用意されています。下記のパラメータです：

- **グローバルパラメータ**：例えば、2D/3D寸法拘束のパラメータ、ユーザ定義のパラメータ、デザインテーブルの設定パラメータなどがあります。
- **ローカルパラメータ**：例えば、配列のパラメータや配列内の拘束図形のパラメータ、パラメトリックコンポーネントの挿入図形のパラメータなどがあります。

すべてのパラメータとそのカレントの値は、**パラメータマネージャ**パネル、または**メカニカルブラウザ**パネルのさまざまなセクションにあります。パラメータの値は、式によってリンクさせることができます。パラメータの値を変更すると、モデルが自動的に更新されます。この一連の流れでは、あらゆるジオメトリにパラメトリックな動作を追加し、設計のバリエーションを簡単に検討することができます。

注：BricsCADでは、ジオメトリ要素間に親子の依存関係はありません。たとえば、押し出し3Dソリッドの作成に使用されたスケッチを変更しても、ソリッドはそれに応じて変更されません。ただし、パラメータや表記を使い、任意の依存性をいつでも作成することができます。

9.1.1 グローバルパラメータとローカルパラメータ

コマンド：

- -PARAMETERSコマンドは、コマンドラインで寸法拘束のパラメータを管理します。
- PARAMETERSPANELOPENコマンドで、**パラメータマネージャ**パネルを開きます。
- MECHANICALBROWSEROPENコマンドで、**メカニカルブラウザ**パネルを開きます。
- CLEANUNUSEDVARIABLESコマンドは、拘束式で使用されず、寸法にリンクされていないパラメトリック変数を消去します。

BricsCADのパラメータはグローバルでもローカルでもかまいません。

ローカルパラメータは特定の図形、自動調整配列複写またはメカニカルコンポーネントに関連付けられます。

グローバルパラメータは特定の図形に関連付けられておらず、4つのグループに分類されます。

- 2D寸法拘束のパラメータ
- 3D寸法拘束のパラメータ
- ユーザー定義のパラメータ
- デザインテーブルの設定パラメータ

9.1.2 パラメータに表記を設定する

グローバル、ローカルを問わず、任意のパラメータに表記を設定することができます。最も簡単な式は、グローバルパラメータの名前の番号です。(ローカルパラメータの場合、式の名前によって参照することはできません)これよりも複雑な表記には、標準演算子や関数も含めることができます。

パラメータに式を設定するには、**メカニカルブラウザ**パネルを開き、パラメータ名をクリックして、**表記(式)**欄に入力します。

注：-PARAMETERSコマンドを使い、コマンドラインでパラメータに式を設定することもできます。

9.1.3 パラメータの設定と依存

式では、グローバルパラメータの名前と数値の両方を使用できます。これは「非定数式」として知られています。非定数式がパラメータに設定されている場合、**メカニカルブラウザ**パネルでそのアイコンが開いた錠( )から閉じた錠( )に変わります。

これは、パラメータが他の定義中のパラメータに依存することを意味します。(定義されているパラメータの値が変更されると、その値は自動的に再計算されます)

すべての要素が前の要素に依存する一連のパラメータを作成できます。一連のパラメータの長さに制限はありません。ただし、一連のパラメータ内の次の要素が前の要素の1つを駆動するループを作成することはできません。これは、式が無限にループする可能性があるためです。BricsCADはそのような問題を自動的に検出し、パラメトリックループを引き起こす設定を受け入れません。

9.1.4 自動調整配列複写のパラメータ

自動調整配列複写は、ARRAY、ARRAYRECT、ARRAYPOLAR、ARRAYPATHの各コマンドで作成されます。式によってコントロールできる自動調整配列複写のプロパティは下記です：

- **矩形整列**：列数、列間隔、行数、行間隔、行高の増分、レベル数、レベル間隔、軸角度。
- **円形配列**：半径、アイテム数、アイテム間の角度、塗り潰し角度、行数、行間隔、行高の増分、レベル数、レベル間隔。
- **パス配列**：アイテムの間隔、開始オフセット、行、行間隔、行高の増分、レベル、レベル間隔。

配列内のブロックのパラメータを利用できるようにするには、配列を作成する前に(コンテキストメニューの**パラメータにリンク**コマンドを使用して)パラメータをリンクさせておく必要があります。配列の作成後、**メカニカルブラウザ**パネルまたは**パラメータマネージャ**パネルでパラメータを編集できるようになります。

パラメータへのリンクは削除されますが、同じ**パラメータにリンク**コンテキストメニュー項目を使用して、配列のブロックパラメータに対して復元できます。

技術的には、パラメータは配列のソース要素に関連付けられています。このソース要素をパラメトリックに編集すると、配列の他のすべての項目がその後変更されます。

以前のパラメトリックコンポーネントの実装(MECHANICALBLOCKSシステム変数がオフでBMINSERTが使用されている場合)では、配列内にネストされたコンポーネントのパラメータは、配列の作成直後に使用できます。

これらのプロパティに式を定義するには、対応する配列図形を作図領域または**メカニカルブラウザ**パネルで選択し、**メカニカルブラウザ**パネルまたは**プロパティ**パネルで対応するプロパティ欄に式を入力します。

自動調整配列複写に2Dまたは3Dの寸法拘束で拘束された図形が含まれている場合、これらの拘束のパラメータも式で判断できます。これらの入れ子状のパラメータは、**メカニカルブラウザ**パネルでリスト化されます。いずれかを選択すると、式を設定できます。

9.1.5 メカニカルコンポーネントのパラメータ

BMUPDATEMODEシステム変数で、外部アセンブリコンポーネントを常にリロードするかどうか、または変更を加えた場合のみリロードするかどうか指定することができます。

BMINSERTコマンドを実行してメカニカルコンポーネントや単なる.dwgファイルを図面に挿入する場合、挿入図形にグローバルな公開パラメータが含まれていると、これらのパラメータはローカルなパラメータに変換されます。これらは対応するコンポーネン

トの挿入図形に関連付けられており、**メカニカルブラウザ**パネルにもこの挿入図形の名前で表示されます。編集するパラメータをクリックします。

9.1.6 パラメータのプロパティ

ユーザ定義のパラメータ、3D拘束、デザインテーブル、パラメトリックコンポーネントや配列のパラメータ等、すべてのパラメータを**メカニカルブラウザ**で管理できます。

- **名前**：パラメータを識別します。パラメータ名は、同じ**コンポーネント**の他のパラメータの式で使用できます。名前を数字で始めることはできず、スペースを含まない英数字にする必要があります。
- **式**：値または式を入力します。
- **値**：パラメータの現在の値を表示します。
- **ジオメトリ駆動**：**オン**に設定すると、**表記**欄が無効になります。パラメータの値はモデルから取得し、直接モデリング操作で変更することができます。
- **説明**：パラメータの説明(オプション)。
- **公開**：コンポーネントがアセンブリに挿入されたときにパラメータを表示して変更を許可するかどうかを定義します。フィールドを選択し、下向き矢印ボタンをクリックして、オプションを選択します。デフォルトでは、新しいパラメータには**オフ**オプションが選択されています。
  - **オン**：パラメータを常に公開します。
  - **オフ**：パラメータを公開しません。
  - **リセット**：オプションをデフォルト値に設定します。
- **単位**：パラメータの寸法を設定します。**mm(長さ)**、**mm2(面積)**、**mm3(体積)**から選択できます。フィールドを選択し、下向き矢印ボタンをクリックして、オプションを選択します。

9.1.7 3D拘束プロパティ

BricsCADは、3D拘束の再設定の際に、拘束付き幾何図形(または拘束引数)の相互配置を制御できる3D拘束用のプロパティを提供します。

プロパティは、拘束自体(**方向**プロパティ)および/または拘束引数(各引数ごとに個別に**配置**プロパティと**適用拘束**プロパティ)の両方に割り当てることができます。

- **種類**：拘束の種類を示します。パス、距離、半径寸法、角度寸法、円錐角度寸法のいずれかです。
- **有効**：拘束のオン/オフを制御します。
- **方向**：拘束引数の方向を**同じ**とするか、**反対**とするかを指定します。1つずつ別のものに変更すると、拘束図形同士が互いに対して反転します。

  方向プロパティは、線、面、円、円柱、円錐、トーラスに使用されます。これは、点と球には使用されません。

  平面の方向はその法線ベクトルです。円の方向は、円の平面の法線ベクトルです。円柱、円錐、またはトーラスの方向は、その軸の方向です。また、3Dソリッドの平面の方向は、3Dソリッドに対して外側になるように調整されています。

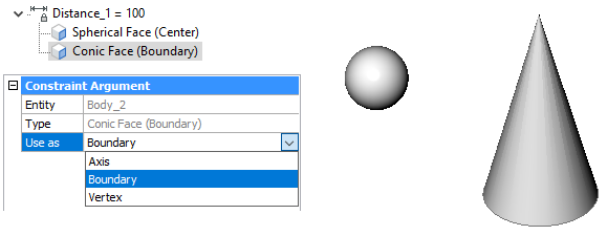
  どれでもオプションは、ダイレクトモデリング操作時または3D拘束パラメータの変更時に方向が変わる可能性があることを意味します。

  保持オプションを使用すると、BricsCADはカレントの方向を保持します。このオプションは、3D拘束の解決前に強制的に引数の相互位置をBricsCADに解析させ、**同じ**または**反対**のいずれかを適用します。

- **配置**：同じ拘束の他の引数に対して引数を配置する方法を指定します。例えば、ある1点から球までの距離の場合、球の**外側**または**内側**に1点を配置することができます。拘束引数のこのプロパティを変更すると、別の引数の反対側に引数を移動します。このプロパティは平面、球、円柱、円錐、及びトーラスに使用されます。点、線、円に対して定義されていません。

  どれでもは、**外側**の配置と**内側**の配置は両方ともユーザの意図に適していることを意味します。

  保持オプションは、BricsCADに引数の現在の配置を強制的に保持させます。言い換えれば、このオプションは、3D拘束の解決前に強制的にBricsCADに引数の相互位置を解析させ、**外側**または**内側**のいずれかを適用します。デフォルトでは、**保持**オプションが使用されます。
- **として使用**：このプロパティは、距離拘束と**同心円拘束**の引数に割り当てられ、円、球、円柱、円錐、トーラスに適用されます。また、距離を測定したり他の図形と一致させるために3D拘束で使用するジオメトリを定義します。



  として使用プロパティには、4つのオプションがあります。

  - **境界**：拘束は引数の境界に適用されます。
  - **軸**：軸を持つ引数、すなわち円、円柱、円錐、円環(トーラス)に適用されます。
  - **中心**：中心点を持つ引数、すなわち円、球、円環(トーラス)に適用されます。
  - **頂点**：円錐の頂点にのみ適用されます。

9.1.8 コンテキストメニュー

メカニカルブラウザパネルでは、以下のコンテキストメニューを使用できます。

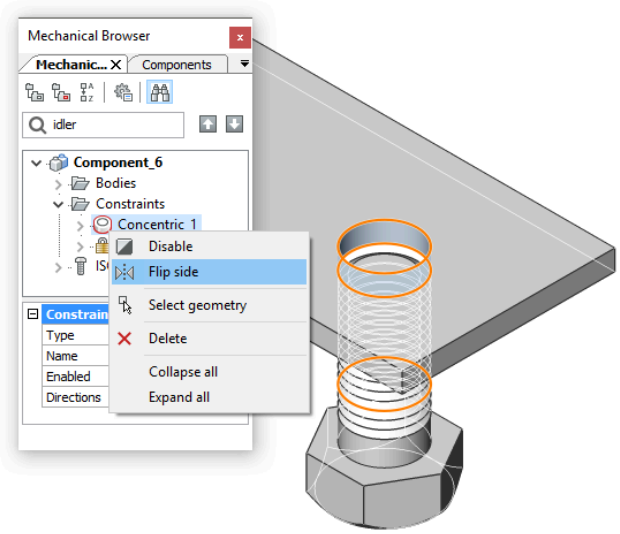
メインノード

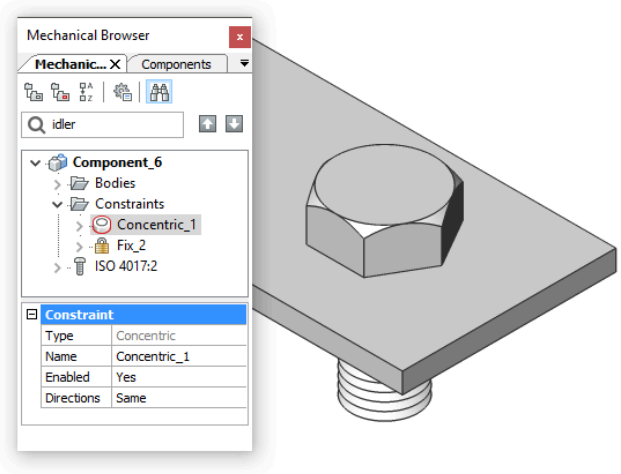
- **新しいパラメータを追加**：新しいパラメータを作成します。
- **すべて折りたたむ**：すべてのノードを折りたたみます。
- **すべて展開**：すべてのノードを展開します。

サブノード

- **削除**：選択したパラメータをファイルから削除します。
- **デザインテーブルを作成**： パラメトリックブロックのパラメータを挿入するためのデザインテーブルを作成します。
- **アニメイト**：図面内の特定の範囲内のパラメータ値をアニメーション化します。
- **パラメータにリンク**：サブコンポーネントのパラメータをメインレベルのパラメータにリンクします。
- **有効**：拘束またはパラメータを有効にするかどうかを制御します。
- **ジオメトリ駆動**：オンの場合、**表記**プロパティを無効にします。パラメータの値はモデルから取得し、直接モデリング操作で変更することができます。

- **反転側**：図形の相対位置(選択した面の法線ベクトルが同一方向または反対方向を指す)を変更することができます。このオプションは、平行、一致、同心円拘束にのみ適用することができ、拘束が面に適用されている必要があります。





- **形状を選択**：図面で拘束の影響を受けているジオメトリを選択します。

9.1.9 パラメータマネージャーパネル

パラメータマネージャパネルを使用すると、表形式でモデルのグローバルパラメータを参照および管理することができます。この表の各行は1つのグローバルパラメータに対応し、すべての列はパラメータの特定のプロパティ(名前、式、値)を表します。

パラメータマネージャパネルでは、以下の操作を行えます。

- 新しいパラメータを作成します。
- 既存のパラメータを削除します。
- パラメータ名のフィールドをクリックして、変更します。
- パラメータ式フィールドをクリックして、変更します。
- 名前でパラメータを検索します。

- 名前、式、および値ですべてのパラメータをソートします。
- 選択したパラメータに関連するものを除くすべてのパラメータを非表示にします。
- 選択したパラメータに依存したものを除くすべてのパラメータを隠します。
- パラメータをアニメイト。
- 未使用の変数を消去。

9.2 数式における演算と関数

9.2.1 演算子

操作	文字	説明
加法	+	数値の合計を生成します。
減法	-	2つの数値を減算します。
乗法	*	数値を乗算します。
除法	/	2つの数値を除算します。
累乗法	^	与えられた数値の指数値を計算します。
剰余演算子	%	別の数値の除算後に余りを与えます 例えば、5/2は1の余りを残すので、5%2=1となります。

9.2.2 数式

優先順位に関する一般的な数学規則に従い式の値が求められます。

1 括弧内の式は最も内側のセットが最初になります。

2 標準的な演算順序：
   - 1. 指数
   - 2. 乗法と除法
   - 3. 加法と減法

3 優先順位が同じ演算子は左から右へ処理されます。

以下の関数を式で使用することができます。

関数	構文
サイン(正弦)	sin (式)
コサイン(余弦)	cos (式)

関数	構文
タンジェント(正接)	tan (式)
逆正弦	asin (式)
逆余弦	acos (式)
逆正接	atan (式)
双曲線正弦	sinh (式)
双曲線余弦	cosh (式)
双曲線正接	tanh (式)
逆双曲線正弦	asinh (式)
逆双曲線余弦	acosh (式)
逆双曲線正接	atanh (式)
平方根	sqrt (式)
符号関数(-1,0,1)	sign (式)
整数に四捨五入	round (式)
小数点以下を切り捨て	trunc (式)
切り捨て	floor (式)
切り上げ	ceil (式)
絶対値	abs (式)
最大値を持つ配列要素	MAX(式1、式2)*
最小値を持つ配列要素	MIN(式1、式2)*
度数をラジアンに変換	d2r (式)

関数	構文
ラジアンを度数に変換	r2d (式)
対数、ベースe	ln (式)
10を底とする対数	log(数式)
指数、ベースe	exp (式)
指数、底10	exp10(式)
べき関数	pow(数式1;数式2)*
0と1の間のランダム小数	ランダム

*区切り文字には、ご使用のシステムで規定されているカンマ(,)やセミコロン(;)を使用してください。

注 :

- 定数**Pi=3.14...**と**e=2.72...**は数式の中で使うことができます。定数名は、パラメータ名や拘束名として使用することはできません。
- CLEANUNUSEDVARIABLESコマンドを使い、拘束式で使用されていないパラメータや寸法にリンクされていないパラメータを名前削除(パージ)することができます。

9.3 3D拘束

9.3.1 可変式ダイレクトモデリング

ジオメトリック拘束(可変式ダイレクトモデリング)を使用して、パラメトリックソリッドとサーフェスをモデリングします。要素(エッジと面)間の拘束を設定して、ソリッドモデルとサーフェスモデルを修正します。

拘束が追加されるとすぐにBricsCADは自動的にモデルを修正し、これらの拘束はその後のモデルの修正に合わせて更新されます。可変式ダイレクトモデリングの主な利点は、すべての拘束が同時に考慮され、モデルの動作が拘束の作成順序に依存しないことです。モデル作成の履歴を気にすることなく、3Dモデルのあらゆる機能をパラメータ化することができます。

寸法拘束は、モデルの寸法を拘束するものです。このような拘束が設定され、そのパラメータの値が変更されると、BricsCADは自動的にソリッドとサーフェスのジオメトリを更新します。例えば、直方体の寸法は、対向側の面に適用されている三つの距離拘束のパラメータによりコントロールできます。

BricsCAD には、以下の3D拘束があります。

- 幾何拘束：**固定**( )、**一致**( )、**同心円**( )、**平行**( )、**垂直**( )、**接線**( )、**剛体セット**( )。
- 寸法3D拘束：**距離**( )、**半径**( )、**角度**( )、**円錐角度**( )、**パス拘束**( )。

3D拘束は、**3D拘束**ツールバー、**パラメトリック/3D拘束**メニュー、**3Dパラメトリック**リボンパネル、クワッドの**拘束**タブで使用できます。

すべての3D拘束が**メカニカルブラウザ**パネルに一覧表示されます。拘束を選択すると、そのプロパティを確認・編集することができます。

拘束の作成では、次の(サブ)図形とアイテムがサポートされています。

- 頂点、3Dソリッドのエッジと面、サーフェス、平面のメッシュ・リージョン・表面、円柱形、球形、ドーナツ形、円錐形
- 線分、放射線、構築線、円、円弧
- 3Dポリラインのセグメントと頂点
- 別の引数として点を使用した一致拘束およびパス拘束の任意曲線
- 平面、軸およびワールド座標系もしくはブロック座標系の原点

3D拘束には、さまざまな状況でBricsCADがそれらをどのように扱うかをコントロールできる多くのプロパティがあります。

9.3.2 ジオメトリ駆動の拘束

3D寸法拘束は、**ジオメトリ駆動**でも可能です。モデルを更新してカレントの状態を正確に反映します。式を指定することはできませんが、代わりに、それらの値はモデルから取得され、ダイレクトモデリング操作や他の拘束の変更によって変更することができます。

拘束を含むその他のパラメータは、ジオメトリ駆動拘束の値に依存します。状況によっては、ジオメトリ駆動拘束に依存する拘束によって、モデルが作成不能になる場合があります。これは避けるべきです。

通常の拘束をジオメトリ駆動の拘束に(または、その逆に)変換するには、**メカニカルブラウザ**パネルか**パラメータマネージャ**パネルで行うか、またはDMCONSTRAINT3Dコマンドを使用します。通常の拘束がジオメトリ駆動拘束に変更された後、その式は、この拘束に影響するモデルの最初の変更で上書きされます。

9.3.3 3D拘束とダイレクトモデリング

3D拘束は、ダイレクトモデリング操作が適用されるときに考慮されます。面またはエッジの配置を固定する3D拘束がある場合、この拘束は、プッシュ/プル、移動、および回転操作中に保持されます。3D拘束は、**メカニカルブラウザ**パネルで一時的に無効にしたり、完全に消去することができます。

ジオメトリ駆動拘束は、ダイレクトモデリング操作が完了すると、その値が更新されます。これにより、モデルに追加の変更が発生する可能性があります。

ダイレクトモデリングやブーリアン演算ソリッド編集で面やエッジが消えた場合、そのような図形に適用されていた3D拘束が解除されます。しかし、最初の面と得られた面の間に正確な対応関係がある場合、新しい図形に3D拘束が自動的に適用されます。

DMRECOGNIZEシステム変数の値に応じて、BricsCADはソリッドのサーフェス間の幾何学的関係を自動的に認識し、ダイレクトモデリング操作中にそれらを保持します。この機能は、**設計意図認識**と呼ばれています。

9.4 抑制機能

抑制機能は、図面内の図形セットを一時的に抑制します。

抑制された図形は、特別なフリーズ画層に内部的に配置されます。これにより、軌道、ズーム、パン操作を高速化し、オブジェクト選択のパフォーマンスを向上させ、複雑な図面の再生成時間を短縮できます。抑制された図形は、マスプロパティの計算(生成された図面ビューと部品表)からも除外されます。抑制機能の条件パラメータにパラメータ駆動式を使用して、パラメータコンポーネントのさまざまな設計バリエーションを作成します。

9.4.1 抑制機能の作成

SUPPRESSコマンドを実行します。

9.4.2 抑制機能の管理

メカニカルブラウザパネルで抑制機能を選択し、右クリックでコンテキストメニューを表示します。

選択可能なオプション：

- **抑制**：図形セットを抑制します。
  - **抑制**アイコン( )は、抑制された状態を示します。
  - オプションの表示が**抑制解除**に変わります。
- **抑制解除**：図形セットの抑制を解除します。
  - **抑制解除**アイコン( )は、抑制が解除された状態を示します。
  - オプションの表示が**抑制**に変わります。
- **解体**：抑制機能を削除します。
- **選択を編集**：選択範囲の図形の追加/削除が行えます。

  選択したすべてがハイライトされます。
  - 追加する図形を選択します。
  - Shift+選択(Shiftを押したまま選択)で削除する図形を選択できます。
  - 編集を終了するには右クリックをします。
- **ズーム**：選択されている図形へズームインします。

  選択セットを作成するには：
  - 抑制機能をクリックして、すべての図形を選択します。
  - 抑制機能を展開し、図形を選択してクリックします。
  - **Ctrlを押しながらクリック**すると、選択範囲の図形の追加/削除が行えます。
- **選択**：抑制機能のすべてのメンバーを選択します。

9.4.3 抑制機能の条件を設定

抑制機能の条件式を設定します。現在の式の値に応じて、図形が自動的に抑制・抑制解除されます。

メカニカルブラウザパネルでの操作：

1 抑制機能を選択します(名前で検索するには、[検索]フィールドを使用します)。

2 プロパティ表の**条件**欄に式を入力します。

注：**条件**欄が「0」の場合、すべての図形が表示され、それ以外の場合は抑制されます。

パラメータマネージャーパネルの操作：

1 抑制機能と同じ名前のパラメータを検索します(名前で検索するには[検索]フィールドを使用します)。

2 **式**フィールドに式を入力します。

注：**式**欄が「0」の場合、すべての図形が表示され、それ以外の場合は抑制されます。

9.5 デザインテーブルでの作業

デザインテーブルでは、1つの設定パラメータの値で、複数のグローバルパラメータを一度に評価することができます。デザインテーブルは、BricsCADでゼロから作成することも、.csvファイル(カンマで値を区切ったテキストファイル)から読み込んで作成することも可能です。このようなファイルは、表計算ソフトやテキストエディターで作成することができます。

9.5.1 デザインテーブルを CSV ファイルから作成する

DESIGNTABLEコマンドの**ファイルから**オプションを選択すると、CSVファイルを読み込むことができます。パラメータの値を記述しておいたファイルを読み込むか、ファイルがなければゼロからファイルを作成します。読み込んだパラメータは、**メカニカルブラウザ**パネルとパラメトリックコンポーネントプロパティに追加されます。

.csvファイルの予想される形式は次のとおりです：

設定名,パラメータ1,パラメータ2,...,パラメータN

設定_1,値1パラメータ1,値1パラメータ2,...,値1パラメータN

設定_2,値2パラメータ1,値2パラメータ2,...,値2パラメータN

設定_3,値3パラメータ1,値3パラメータ2,...,値3パラメータN

...

1行目はパラメータ名をカンマで区切ります。最初のパラメータ名は、図面のグローバルパラメータ名とは別の名前を使用してください。このパラメータ名を設定名といいます。設定名にはスペースを入れないでください。最初の行の他の名前は、グローバルパラメータの名前と同じでも構いません。次の行には、これらのパラメータに設定する値を文字列または数値で記述します。

例：

Size,Length,Width,Height

Small,300,200,100

Medium, 450,300,150

Large,600,400,200

DESIGNTABLEコマンドで.csvファイルをBricsCADに読み込むと、.csvファイルの1行目のパラメータ名でグローバルパラメータが作成されます(上記の例では「Size」)。これを「設定パラメータ」と言い、設定パラメータを変更すると、デザインテーブルの残りのパラメータの値が変化します。残りのパラメータを「設定依存パラメータ」と言います。

注：BricsCADでは、デザインテーブルと、デザインテーブルを作成するのに使用した .csvファイルとの関連付けは維持されません。ファイルの内容を変更しても、デザインテーブルは自動的に更新されません。.csvファイルを新規に作成または修正してデザインテーブルを置換する場合は、-DESIGNTABLEEDITコマンドを使用します。

9.5.2 デザインテーブルでの直接検索

設定パラメータを評価する：

- **メカニカルブラウザ**で設定パラメータを選択し、**表記**欄に値を入力します。
- **値**欄のドロップダウンリストから値を選択します。

設定名の値を変更すると、設定に依存するすべてのパラメータ値が、対応するデザインテーブルで自動的に変更されます。これらのパラメータの値は、デザインテーブルの行から取得されます。最初の要素は、構成名の現在の値と一致します。

9.5.3 デザインテーブルでの逆検索

設定パラメータで定義されたパラメータを、デザインテーブルで独立して評価することができます。

依存するパラメータを選択し、そのパラメータに式を適用します。

- この式の値が、対応するデザインテーブルのいずれかの値と一致した場合、デザインテーブルの設定パラメータおよびすべての従属パラメータは、テーブルの対応する行で指定された値に自動的に変更されます。
- 依存パラメータの特定の値に対して複数の設定が可能な場合、BricsCADは残りのパラメータで現在の値に最も近いものを選択します。
- 入力した表記の結果がデザインテーブルで利用できない場合、または2つ以上のデザインテーブルパラメータに表記を入力し、1つの設定で値が見つからない(デザインテーブルの同じ行で値が見つからない)場合は、設定パラメータの値が「Custom」に変わり、他の被駆動パラメータの値は変わりません。この場合、デザインテーブルに存在しない設定に対応しています。このケースは、デザインテーブルに存在しない設定に対応します。

9.5.4 デザインテーブルに新しい設定を追加する

任意の「カスタム」設定をデザインテーブルに追加して、名前を割り当てることができます。**メカニカルブラウザ**で設定パラメータを右クリックし、コンテキストメニューから**現在の設定を保存**を選択してください。この設定は、設定_N: としてデザインテーブルに追加されます。

- **設定**：設定パラメータの名前。
- **N**：インデックス番号 - デザインテーブルの現在の設定数よりも1つ多い数。

別名でデザインテーブルの設定を保存したいときは、-DESIGNTABLEEDITコマンドを起動します。

9.5.5 空のデザインテーブルの作成

上記の手順を使用すると、空のデザインテーブルで設計を開始し、必要な値を入力することができます。

DESIGNTABLEコマンドの**空**オプションを使用します。

指定するプロンプトが表示されます。

- 新しいデザインテーブルの名前
- 対応する設定パラメータの名前
- このデザインテーブルによって駆動されるグローバルパラメータの名前

9.5.6 デザインテーブルのあるパラメトリック コンポーネントを使用する

アセンブリでは、設定名と設定依存パラメータの両方を使用できます。このようなコンポーネントを図面に挿入すると、そのパラメータにはデザインテーブルの公開パラメータが含まれます。使用可能な値のドロップダウンリストが表示されます。このようなパラメータでは、直接参照アクションと逆引き参照アクションの両方がサポートされています。

次に、パラメトリックブロック図面でデザインテーブルを関連付ける必要があります。

1 図面を開きます。

2 **メカニカルブラウザ**パネルに、パラメータとその値のリストが表示されます。

3 DESIGNTABLEコマンドを起動し、Enterを押して**ファイルから**オプションを選択します。

デザインテーブルファイルを選択ダイアログボックスが表示されます。

4 CSVファイルを選択し、ダブルクリックするか、**開く**ボタンをクリックします。

5 各主要なパラメータの**値**プロパティを確認します。コンポーネントを挿入する際に使用するデフォルト値を選択できます。

6 主要なパラメータの**公開**プロパティを確認します。これらはすべて**オン**に設定する必要があります。

7 コンポーネントの図面を保存します。

9.5.7 デザインテーブルのその他の操作

-DESIGNTABLEEDITコマンド：

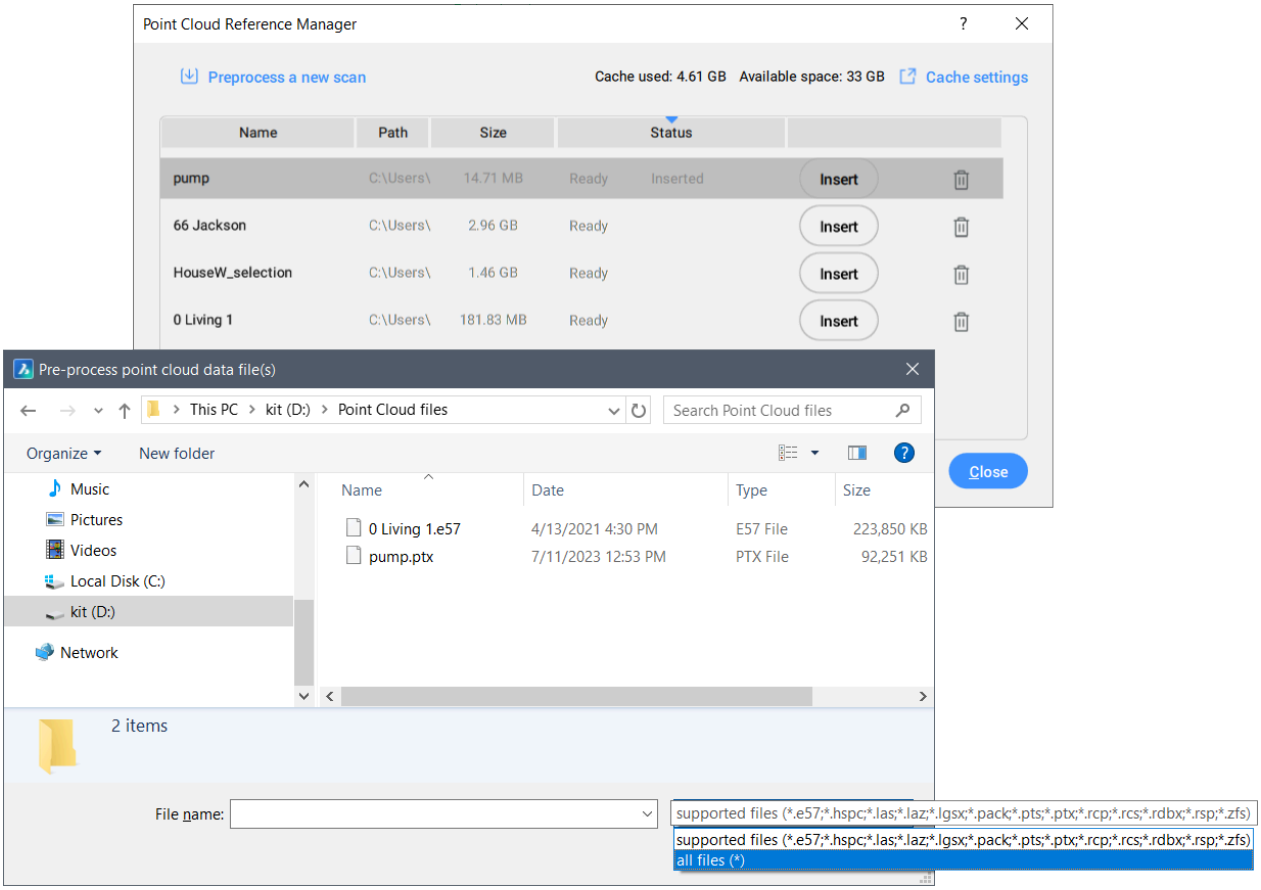
- デザインテーブルを削除します。
- デザインテーブルを置換します。
- パラメータにリンクします。
- 既存パラメータのリンクを解除します。
- 新しい設定の追加、既存の設定の削除をします。
- デザインテーブルをCSVファイルで書き出しします。

10. 点群

10.1 点群を使用した作業

10.1.1 前処理

点群の前処理を行うには、POINTCLOUDREFERENCEコマンドで**点群参照マネージャ**ダイアログボックスを開き、**新規スキャンの前処理**を選択します。また、POINTCLOUDATTACHコマンドを使用することもできます。



前処理の進行状況は、点群に関連するサブフォルダー内のログファイルに記録されます。このサブフォルダーは、カレントの点群キャッシュパス内にあります。カレントの点群キャッシュのデフォルトパスはC:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥PointCloudCache¥Folder_for_processed_pointcloudです。POINTCLOUDCACHEFOLDERシステム変数で設定できます。

注：ログファイルは主にトラブルシューティングに使用されます。前処理の進行状況は、**点群参照マネージャ**ダイアログボックスで確認できます。

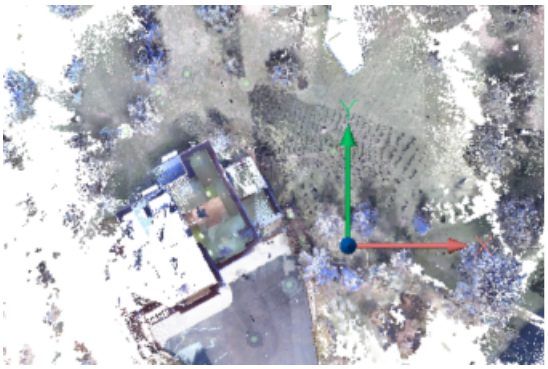
注：非標準のカラムレイアウトや非標準のジオタグを持つLASファイルなど、一部の特殊な点群入力ファイルは、自動的な前処理が正しく行われないことがあります。ただし、BricsCADインストールフォルダーにシェル実行型のプリプロセッサ(**preprocessor.exe**)があり、標準以外のカラムレイアウトやジオタグ(-w skip)を指定することが可能です。シェルプリプロセッサは、内部で同じライブラリを使用しますが、BricsCADで自動的に使用されないいくつかの手動オプションを公開します。オプションについて知るには、OSのシェルで引数なしでプリプロセッサ実行ファイルを実行します。使用状況のサマ

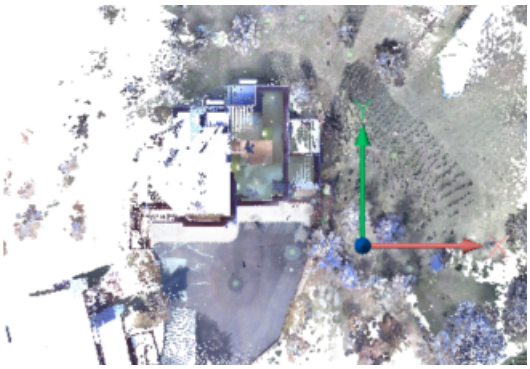
リーが印刷されます。詳細については、**非標準の.LAS, .LAZ点群データの前処理中にGeoTIFFタグを無視するために preprocessor.exeを使用する方法**を参照してください。

注：以前に前処理された点群キャッシュデータを含むサブフォルダー(別のBricsCAD点群キャッシュフォルダー、またはシェル実行可能ファイルpreprocessor.exeで前処理)は、POINTCLOUDCACHEFOLDERシステム変数で指定されているフォルダーにコピーすることができ(デフォルト値: C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD ¥V25x64¥en_US¥PointCloudCache)、次回**点群参照マネージャ**を開くと使用できます。点群キャッシュフォルダー内の各サブフォルダーに対して、参照ダイアログボックスの項目があります。

10.1.2 整列

POINTCLOUDALIGNコマンドは、点群を自動的に回転させ、X軸とY軸に最適に配置します。(点は壁など垂直な平面にある必要があります)最適なアライメントを決定するに、壁を含む点群の最も関連性の高い領域を指定するように求められます。





10.1.3 バブルビューア

点群の元のファイル形式とスキャン中に使用されたスキャナのタイプ(静止画スキャナまたはキネマティックスキャナ)によっては、すべてのスキャン場所にバブル(緑色の球体)または中間点(青色の球体)が表示される場合があります。これらの場所で**バブルビューア**を開き、最もリアルな視覚表現を得られます。

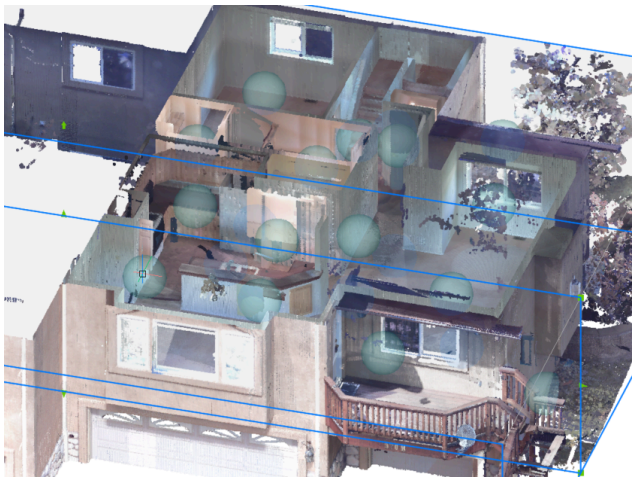
注：LASファイルやPTSファイルにはスキャナ情報が含まれていないため、点群バブルを生成することはできません。

構造化データは、静止画スキャナを使用してキャプチャされます。この場合、すべてのポイントについてスキャナの位置がわかっています。スキャンされたポイントからの静止画スキャナの位置に緑色のバブルが作成されます。

注：バブルは深さ情報を持ち、「平面をフィット」や「円柱をフィット」などのアルゴリズムに使用できます。

非構造化データは、キネマティックスキャナを使用してキャプチャされます。この場合、ポイントの正確なスキャン位置はありません。一部のキネマティックスキャナは、時間間隔でパノラマ画像を作成します。このような画像では位置がわかっているため、中間点(青色の球体)が作成されます。

注：中間点は、深さ情報を持たないキャプチャされた画像から作成されます。これらは純粋な視覚化機能を備えており、他のアルゴリズムには使用できません。

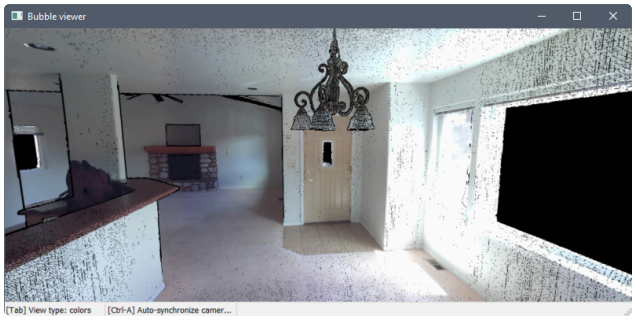


注：表示されるバブルのサイズを変更するには、**点群マネージャ**の**レンダリング設定**タブから行います。ここから、モデル空間および**バブルビューア**で点群バブルを非表示にすることもできます。クロップされた点群の場合、クロップされていないバブルのみを表示するように選択できます(**点群マネージャパネル**に関する記事を参照)。

POINTCLOUDBUBBLEVIEWERコマンドでバブルインデックスを指定するか、モデル空間内のバブルの1つをダブルクリックして**バブルビューア**を開きます。

マウスの中央ボタンを押したままカーソルを動かし、スキャン位置から任意の方向の点群を表示します。

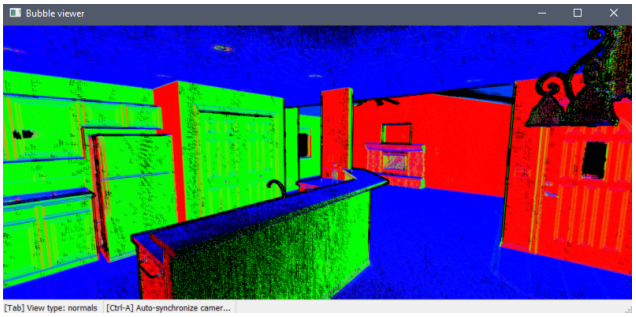
マウスホイールを使用して、ズームイン、ズームアウトします。



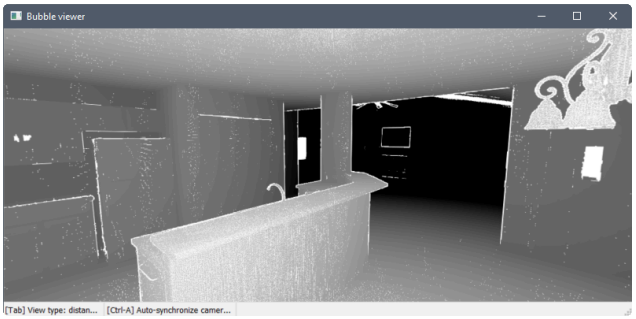
近くのスキャンは、赤色のバブルで**バブルビューア**に示されます。バブルにカーソルを合わせると、スキャン名が表示されます。バブルをダブルクリックすると、スキャンがビューアで開きます。

Tabキーを押して、3種類の表示モード(ビュータイプ)を切り替えます。

- **色**モードと**色(深さ)**モードでは、データのスキャン方法に応じて、ポイントが実際の色またはグレースケールで表示されます。
- **法線**モードでは、法線ベクトルに従ってポイントが赤、緑、または青で表示されます。色はUCS軸に対応しています。



- **距離**モードでは、スキャン位置からの距離が長くなるにつれて、明から暗へポイントが表示されます。



Ctrl+Aを押して、**バブルビューア**に合わせて図面ビューを同期させます。

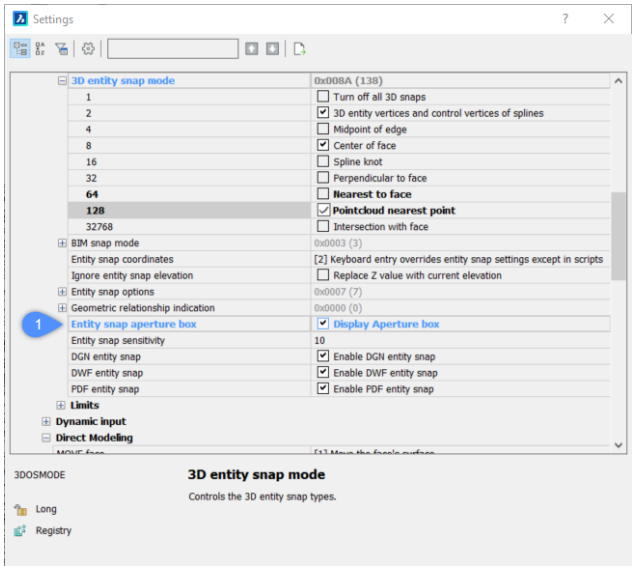
注：ポリラインや線分など、ポイントの選択を求めるコマンドでは、**バブルビューア**を使用して点群ポイントにスナップできます。

10.1.4 図形スナップ

点群の近接点図形スナップ(PCNEARESTコマンド/3DOSMODEシステム変数)を使用すると、関連する点群ポイントを選択する操作が大幅に向上します。現在の視点からカーソルに向かって仮想円柱を使用します。

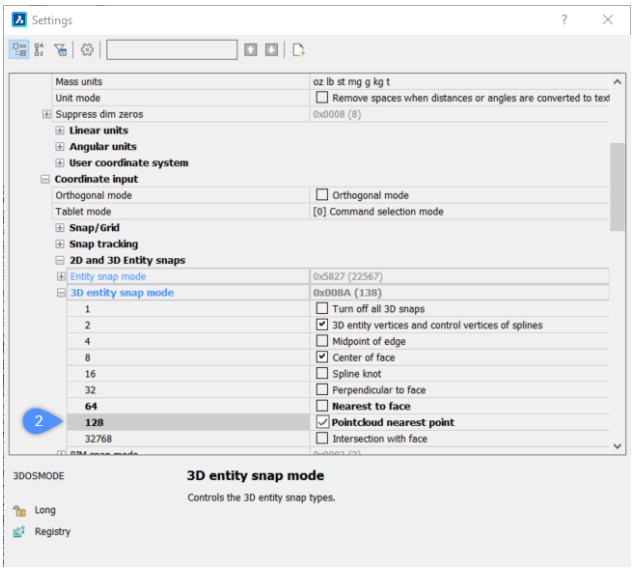
仮想円柱の半径は、**図形スナップの吸着ボックス**設定(1)によって定義されます。

注：その結果、仮想円柱の中で最もカメラに近い点が選ばれます。



図形スナップメニュー、ツールバー、設定で、他の3D図形スナップとともに**点群の近接点**(2)図形スナップを有効にします。

注：3DOSMODEシステム変数の128ビットコードのみが設定されていることを確認してください。(**すべての3Dスナップをオフにする**のチェックを外します)。

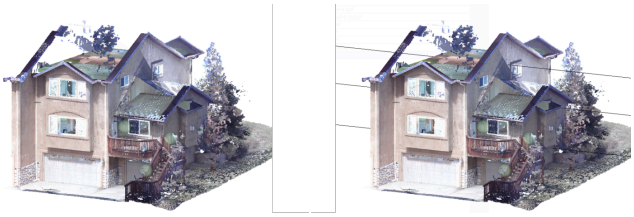


10.1.5 書き出し

POINTCLOUDEXPORTコマンドを使用すると、点群の表示部分をPTS、HSPC、またはLAZファイルに書き出せます。

10.1.6 フロア検出

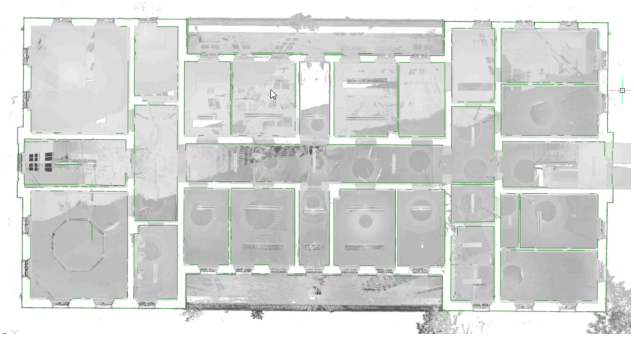
POINTCLOUDDETECTFLOORSコマンドは、建物の点群から床を検出します。類似のZ座標値を持つ点の領域を基に検出します。検出した床は、建物の点群を把握するのに役立ちます 。



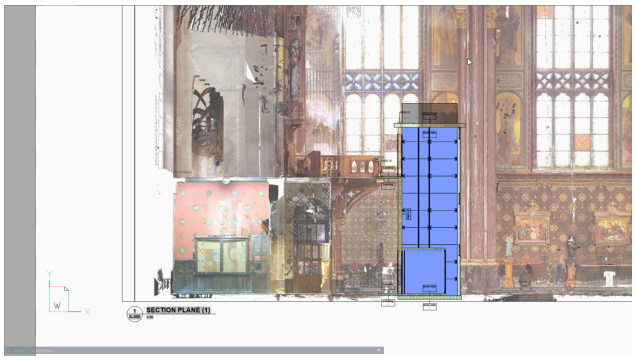
注：POINTCLOUDFITROOMSコマンドは、点群スキャンからBIMワークフローのステップとして使用されます。詳細については、**点群スキャンからBIMワークフロー**の記事を参照してください。

10.1.7 点群投影

POINTCLOUDPROJECTSECTIONコマンドを使用して、さまざまな壁検出オプションを選択して点群のボリューム断面から壁を検出します。BIMSECTIONコマンドを使うと、断面ボリュームを作成することができます。これらの断面から2D線分を生成して、2Dの平面図や立面断面図を作成できます。このプロセスはバックグラウンドで実行され、複数の断面をキューに入れて処理できます。これにより、このコマンドをすべての断面に対して完全な解像度で実行できます。



同時に、ラスターイメージも生成し、背景イメージを作成します。場合によっては、既存の建物を再作成する必要はありません。背景イメージがあると、設計ドキュメントについての理解が深まります。これらのイメージは、作成した2D形状を検証するために使用できますが、高品質スキャンされたイメージはグラフィック素材として使用することもできます。例えば、歴史的建造物に現代技術による修理等を施す改修プロジェクトで、BIMモデルの背景イメージとして使用します。



10.1.8 平面フィット

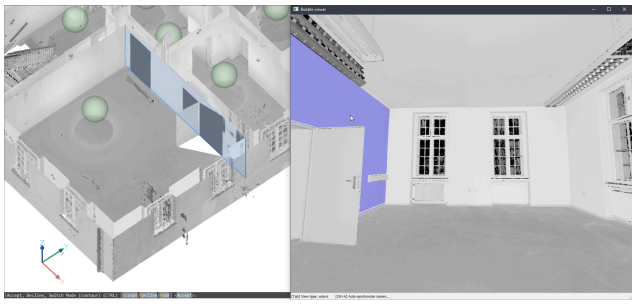
POINTCLOUDFITPLANARコマンドを使用して、点群に基づき3Dジオメトリを作成できます。点群内の1点を選択すると、平面サーフェスまたはソリッドが作成されます。シード点と同じ平面上にある点を検出するには、点群図形のプロパティとして設定できるしきい値を使用します。**シフト**ボタンを押したまま部屋の隣接する壁を選択すると、フィットした平面が延長/トリムされ、閉じたサーフェスが形成されます。

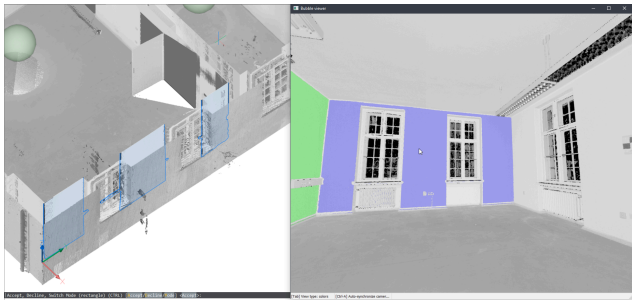
注：

- **開口部を選択**すると、ドアや窓の開口部を考慮することができます(**バブルビューア**のみ)。
- **境界を調整**することで、平面的な境界の輪郭を調整することができます。
- **ステッチサーフェス**では、複数のフィットした平面の結果をステッチして、例えば、後でBIMINVERTSPACEコマンドで使用できるソリッドにすることができます。

バブルビューで
コマンドを起動する前に**バブルビューア**を開いていた場合、BricsCADでは**バブルビューア**で平面シード点を選択することを想定しています。カーソル位置に平面の方向がプレビュー表示されます。クリックすると、**バブルビュー**でもモデルビューでもプレビューが表示されます。**Ctrl**キーを押すと、2つの形状表現を切り替えることができます。

注：セレクトモードのままでは、バブルの対応点が紫色で表示されます。これらの点は、ユーザーが生成された結果を受け入れると、緑色で表示されます。

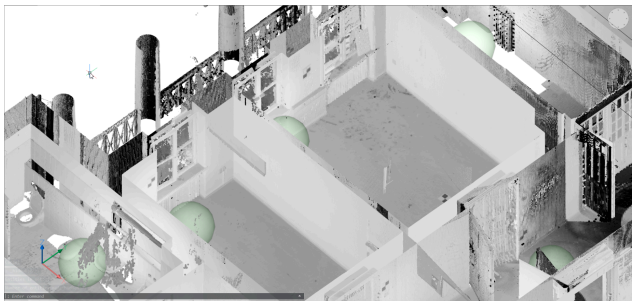


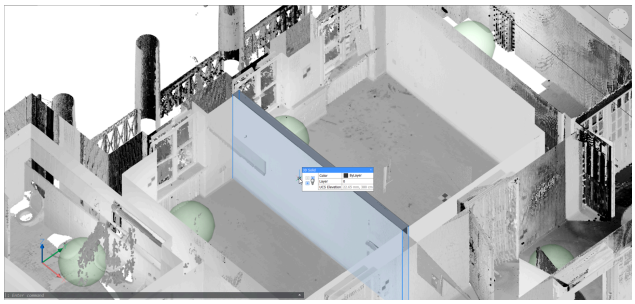


モデル空間

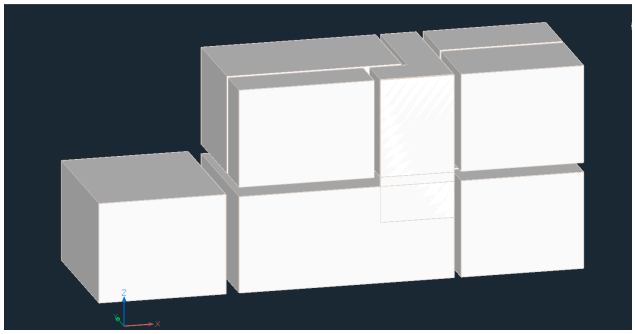
バブルビューアが開いていないときに、モデル空間でこのコマンドを使用することができます。BricsCADでは、モデル空間内の点群のポイントを選択するよう求められます。点群の表示部分のサイズによっては、**バブルビューア**内でコマンドを実行する場合に比べて時間がかかる場合があります。ただし、これには複数のスキャン位置を検索することで2つの利点があります。

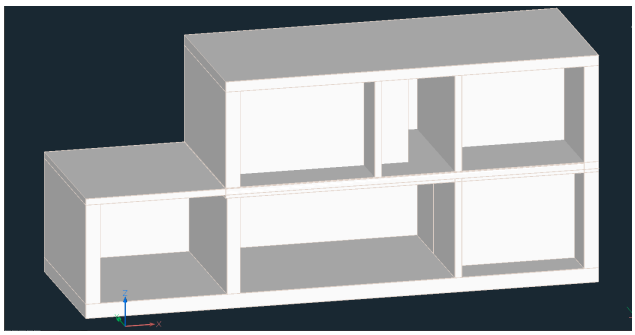
- 異なるスキャンの部品を組み合わせることで、より大きな表面を作成できます。
- 壁やスラブの厚さを検出できます。





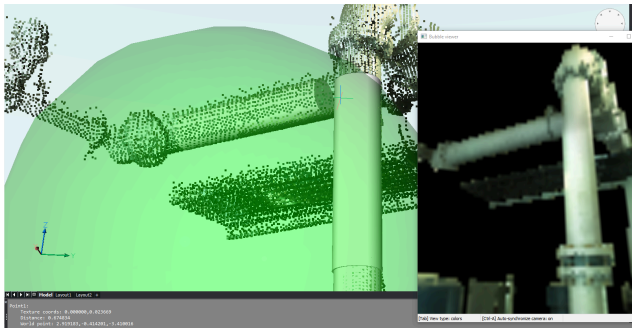
注：ここでは、スキャンを建物モデルに変換するワークフローを提供します。点群(上図)を平面フィットでスティッチした結果(中図)を用いて、部屋ごとに1つのソリッドに変換するワークフローです。BIMINVERTSPACESコマンドは、この仮の部屋ソリッドを反転して壁やスラブを持つ建物モデルに変換します。





10.1.9 バブルに円柱をフィット

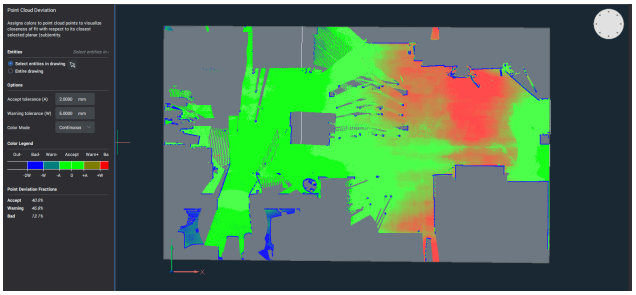
バブルビューア内でPOINTCLOUDFITCYLINDERコマンドを使用すると、点群の円筒部分(パイプなど)に円柱を合わせることができます。円柱を抽出するには、**バブルビューア**で円柱軸に沿って2回クリックする必要があります(ソリッドはモデルビューで作成されます)。



10.1.10 POINTCLOUDDEVIATION

- POINTCLOUDDEVIATIONでは、平面構造と点群の点とのフィット感を視覚的に評価することができます。

- 家の床とフィット平面の点群断面：

- 

  床からフィット平面までの点の距離は、カラーマップを使用して視覚化されます。左のパネルでは、色の説明をしています。(緑は平面、ここで緑から青へのグラデーションはさらに平面より上、緑から赤へのグラデーションはさらに平面より下)また、どのカテゴリのポイントのパーセンテージが表示されるかをまとめています。(OK、警告レベル、など)

10.2 HSPC(Hexagon Smart Point Cloud)

10.2.1 はじめに

HSPCは新しい点群形式です。

HSPCは、点群データを扱うための強力かつ堅牢な形式です。BricsCADでは、点群を次の2通りの方法で処理できます。

- 従来の点群キャッシュ形式に、強力な圧縮、点群データの最適なグラフィカル表現など、あらゆる利点を備えたものです。
- HSPC形式は、Hexagon研究グループによって作成された形式であり、前処理中または前処理後に、ポイントごとに、メタデータを保存できます。

10.2.2 HSPCについて

HSPC形式は、結果的にグラフィカル表現の訴求力がわずかに低くなる可能性があります(一部の領域でサーフェスの密度が低く表示されることがあります)。一方、この形式の利点は、使用可能なメタデータに基づいて表示されるポイントを制限できることです。このキャッシュ形式を選択し、構造化された分類済みの点群を読み込む場合、次のことが可能になります。

- 点群の**リージョン**を表示、作成、編集することができます。これにより、点群に対して実施したトリミングを保存できます。リージョンはキャッシュの横に保存されるため、点群をアタッチするすべての図面でそれらが使用可能になります。
- スキャン位置の表示/非表示を設定します。登録された点群全体(つまり、すべての固定スキャン位置の合計)を表示するだけの表示方法に縛られることがなくなります。1つまたは複数のスキャン位置のデータのみを対象にするように選択できます。そのため、表示されるポイント数が少なくなり、パフォーマンスが大幅に向上します。また、効率的に実行可能なデータセットを得るために点群を手動でトリミングする必要がなくなります。

- 読み込んだ点群が分類されていれば使用することができます。これにより、わずかなデータセットで処理できます。また、LAS/LAZ形式で定義されたクラスがサポートされているため、POINTCLOUDCLASSIFYコマンドで分類を追加することもできます。
- 点群の地理情報(元データに含まれる場合)を表示させるには、**プロパティ**パネルの**その他**の **ジオロケート**をオンに設定してDWG地理情報を上書きします (ただし、点群のCRSがDWGのCRSと同じ場合のみ) 。

設定ダイアログボックスでPOINTCLOUDHSPCシステム変数の値を設定して、点群の処理形式を選択します。デフォルトのキャッシュ形式はHSPCに設定されています。

10.3 点群スキャンからBIMワークフロー

「点群スキャンからBIM」半自動ワークフローは、次の4つのステップで構成されています。

1. フロアの検出
POINTCLOUDDETECTFLOORSコマンドでフロアを検出します。点群で選択した各点にフロア番号が割り当てられます。

2. 部屋の検出
POINTCLOUDDETECTROOMSコマンドで部屋を検出します。点群で選択した各点に部屋番号が割り当てられます。

3. 部屋ソリッドの作成
POINTCLOUDFITROOMSコマンドを使い、検出された部屋に基づいて部屋ソリッドを作成します。

4. BIMコンポーネントの作成
BIMINVERTSPACESコマンドを使い、選択したソリッド、壁開口部、外壁、スラブの間に壁を作成します。

注：このワークフローは、法線ベクトル情報が利用可能な点群に適用できます。

構造化点群データの場合、法線ベクトルは点群の前処理中に計算されます。法線がまだ計算されていない古いバージョンのBricsCADで点群が前処理されている場合は、最初にPOINTCLOUDNORMALSコマンドを使用します。

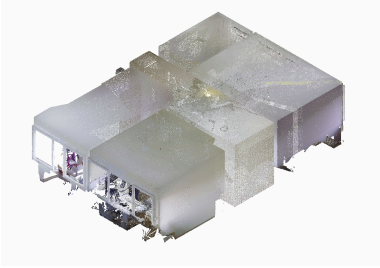
非構造化点群データの場合、法線ベクトル情報が存在すれば読み込まれ、ワークフローで使用されます。それ以外の場合、計算は実行されず、ワークフローは適用されません。

注：法線ベクトルの計算には、HSPC形式で処理された点群が必要です。POINTCLOUDHSPCシステム変数とPOINTCLOUDNORMALSシステム変数の両方をオン(既定ではオン)に設定する必要があります。

10.3.1 フロアの検出

スキャンからBIMワークフローの最初のステップでは、図面にアタッチした点群の床と天井が検出されます。

注：点群のアタッチの詳細については、**POINTCLOUDATTACHコマンド**および**POINTCLOUDREFERENCEコマンド**記事を参照してください。



1 POINTCLOUDDETECTFLOORSコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：点群図形を選択:

2 図面にアタッチされている点群を選択します。

3 **プロンプト表示**：点群全体、または選択した点群に対して操作しますか？

4 以下のいずれかの操作を行います：
- **全体**をクリックして、点群全体に対して操作します。
- **選択**をクリックして、選択範囲を表す四角形の最初の点を指定し、次に反対側の点を指定します。

プロンプト表示：空間要素を作成しますか？

5 **はい**を選択すると、検出されたフロアの高さに基づいて空間エレメントが作成されます。

6 フロア検出プロセスの準備ができたときに通知するメッセージがコマンドラインに表示されます。

7 このコマンドは、選択したポイントのフロアを検出します。**点群マネージャ**パネルの**建物**にフロアが一覧表示されます。

8 (オプション) フロアに割り当てられたポイントの選択を編集するには、**点群マネージャ**パネルにリストされたフロアを右クリックし、コンテキストメニューから**修正**オプションを選択します。

10.3.2 部屋の検出

「スキャンからBIM」ワークフローの2番目のステップでは、フロアの部屋を検出します。

1 POINTCLOUDDETECTROOMSコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：床面IDを指定するか、またはすべて選択

2 以下のいずれかの操作を行います：
- **すべて**をクリックして、**点群マネージャ**パネルにリストされているすべてのフロアの部屋を検出します。
- **Id**をクリックして、指定したIDを持つフロアの部屋を検出します。

3 コマンドは、バックグラウンド処理を開始します。点群のサイズによっては、この処理に数分かかることがあります。

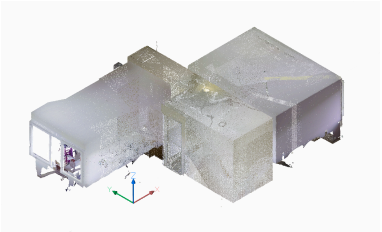
4 **注**：バックグラウンド処理中も作業を続行することができます。

バックグラウンド処理が終了すると、ポップアップメッセージが表示されます。指定したフロアで検出されたポイントは、異なる部屋に分類されます。検出された部屋は、**点群マネージャ**パネルの**建物**に一覧表示され、それぞれにIDが割り当てられます。

部屋が正しく検出されたことを確認するには、部屋名の横にある部屋の表示アイコンのオン/オフを切り替えます。

部屋を1つ選択し、右クリックでコンテキストメニューを表示します。**編集**を選択して、ポリラインの点をドラッグしながら部屋の輪郭を調整し、コンテキストメニューから**承諾**または**辞退**を選択します。必要に応じて、**名前の変更**または**削除**オプションを使用します。複数の部屋を結合するには、一覧から部屋を選択して、コンテキストメニューの**結合**オプションを選択します。

新たに部屋をフロアへ追加するには、**点群マネージャー**パネルでフロア名を右クリックし、**部屋を追加**を選択してポリラインを作図し、部屋の境界を定義します。



選択したポイントが異なる部屋に分類されたら、この分類に基づいてソリッドを作成できます。

10.3.3 部屋ソリッドの作成

スキャンからBIMワークフローの3番目のステップとして、検出された部屋に基づいて部屋ソリッドを作成します。

1 POINTCLOUDFITROOMSコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：建物IDを指定するか、またはすべて選択

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **すべて**をクリックして、検出されたすべての部屋のソリッドを作成します。
- **Id**をクリックして、指定したIDにより、検出された部屋のソリッドを作成します。

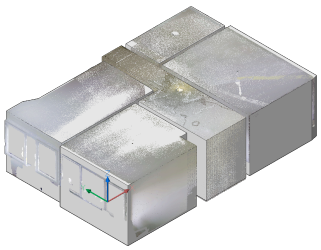
プロンプト表示：検出を垂直(90°)の壁に制限しますか？

3 部屋に垂直な壁の方向が2つある場合は、**はい**を選択します。

コマンドは、バックグラウンド処理を開始します。点群のサイズや壁の方向によっては、この処理に数分かかることがあります。

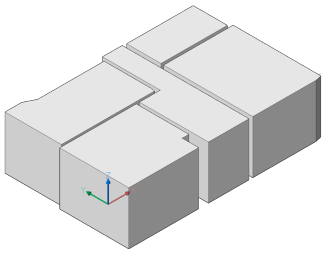
注：バックグラウンド処理中も作業を続行することができます。

バックグラウンド処理が終了すると、ポップアップメッセージが表示されます。作成されたソリッドは、自動生成された**Rooms**画層に割り当てられます。



4 アタッチされた点群の表示をオフにします。こうすると、部屋ソリッドが表示されます。

5



または、DMPUSHPULLコマンドを使い部屋を編集して、作成したソリッドの面を調整することもできます。

10.3.4 BIMコンポーネントの作成

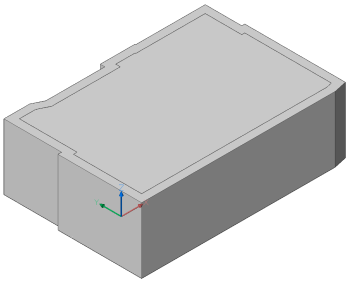
「スキャンからBIM」ワークフローの最後のステップでは、以前に作成したソリッド間や外壁シェルとの間に壁を生成します。

1 BIMコンポーネントを作成する画層を選択します。

2 BIMINVERTSPACESコマンドを起動します。**空間を反転**コマンドのコンテキストパネルが開き、設定を定義します。各オプションの詳細については、**BIMINVERTSPACESコマンド**の記事を参照してください。

3 **適用**をクリックします。

これで、「スキャンからBIM」ワークフローが完了し、点群に基づき3Dモデルが生成されました。



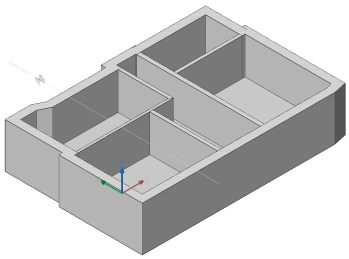
次に、結果の確認と編集を行えます。

1 部屋ソリッドを作成した画層をオフにします。

2 BIMSECTIONコマンドを使用して、内壁を表示する水平断面を作成します。

3 必要に応じて、LCONNECTコマンドやBIMEXTENDコマンドなどの壁編集ツールを使い結果を調整します。

4



11. ブロック、属性、外部参照およびコンポーネント

11.1 ブロックを作成

BLOCKコマンドは、ダイアログボックスを使って既存の図形をブロックにまとめます。

-BLOCKコマンドは、既存の図形からブロックを作成し、コマンドラインにプロンプトを表示します。

BEDITコマンドおよびBCLOSEコマンドは、一時的な図面セッションでブロックを作成または編集します。

WBLOCKコマンドは、ブロックと他の図面の部品を別の図面ファイルに書き出します。("write block"の略)

PASTEBLOCKコマンドは、**クリップボード**から図形をブロックとして現在の図面に貼り付けます。

SECTIONPLANETOBLOCKコマンドは、選択した断面図の結果を2Dの断面図/立面図ブロック、または3Dの切り取り断面ブロックに保存します。

11.1.1 ブロックを作成するには

1 必要に応じて、ブロックの図形を選択します。

2 BLOCKコマンドを起動します。

3 **ブロック定義を作成**ダイアログボックスが表示されます。

4 **名前**フィールドに新規ブロックの名前を入力します。

5 以下の操作のいずれかを行い**基点**を指定します。

- **画面上を指示**オプションにチェックを入れます。

  OKボタンをクリックすると、基点を指定するよう求められます。

- **基点を選択**ボタン ( ) をクリックします。

  ブロック定義を作成ダイアログが一時的に閉じ、図面で基点を選択できるようになります。

- X、Y、Zフィールドに基点の座標を入力します。

6 ステップ1で事前に選択された図形の数が表示されます。

7 新しいブロックに、より多くの図形を選択するには、以下のいずれかを実行します：

- BLOCKを起動する前に、図形を選択します。
- **画面上を指示**オプションにチェックを入れます。

  OKボタンを押すと、図形を選択するよう求められます。

- **図形を選択**ボタン ( ) をクリックします。

  ブロック定義を作成ダイアログが一時的に閉じ、図面で図形を選択できるようになります。

8 ブロックプロパティの設定：

- **異尺度対応**: 異尺度対応のブロックを作成します。
- **レイアウトへのブロック適応**: チェックを入れると、回転したビューポートで異尺度対応のブロックの向きが保持されます。
- **均一尺度**: チェックを入れると、X、Y、Z軸方向のスケーリングが別々に設定できなくなります。
- **分解可能**: チェックを入れない場合、ブロックは分解されません。
- **ブロック単位**: ブロックの挿入単位を設定します(「ブロックの挿入」をご参照ください)。

9 ブロック作成後の図形の状態の設定を行います。：
- **ブロックへ変換**: 選択した図形を含めて新しいブロックを作成します。
- **ブロックに変換しない**: 選択した図形をそのまま図面に残します。
- **削除**: 選択した図形を削除します。

10 **OK**ボタンをクリックしてブロックを作成します。

注：

- ステップ7で**削除**を設定した場合、OOPSコマンドを使い、削除されたブロック図形を復元することができます。
- ステップ3で既存のブロック名を入力した場合、既存のブロック定義を上書きするかどうかを確認するダイアログが表示されます。既存のブロックインスタンスは、新しいブロック定義で置き換えられます。

11.1.2 別のファイルへのブロック保存

1 必要に応じて、ブロックの図形を選択します。

2 WBLOCKコマンドを起動します。

3 **ブロックをファイルへ書き出し** ダイアログボックスが開きます。

4 **パス名**フィールドの横にある参照ボタンをクリックします。

ブロックを保存ダイアログボックスが表示されます。

5 フォルダーを選択し、**ファイル名**フィールドに名前を入力して、**保存**ボタンをクリックします。

ブロックを保存ダイアログが閉じます。

6 **挿入単位**: ブロックファイルのINSUNITSシステム変数の値を設定します。

デフォルトでは、ソース図面のINSUNITS値です。

7 ステップ1で事前に選択された図形の数が表示されます。

8 新しいブロックに、より多くの図形を選択するには、以下のいずれかを実行します：
- **ブロック**ラジオボタンをクリックして、ドロップダウンリストからブロックを選択します。
- **図面全体**ラジオボタンをクリックして、カレント図面のモデル空間にあるすべての図形を選択します。
- **図形**ラジオボタンをクリックして、**図形を選択**ボタンをクリックします。

  ブロックをファイルへ書き出しダイアログが一時的に閉じ、図面で図形を選択できるようになります。

  右クリックして図形の選択を停止します。

9 **基点を選択**ボタン ( )をクリックして、新しい図面の**基点**を定義します。

または

基点の座標を X、Y、Z フィールドに入力します。

10 ブロック作成後の図形の状態の設定を行います。：
- **保持**: 選択した図形をそのまま図面に残します。
- **ブロックへ変換**: 選択した図形を含めて新しいブロックを作成します。
- **削除**: 選択した図形を削除します。

11 **OK**ボタンをクリックして図面ファイルを作成します。

注：ステップ8で**削除**を設定した場合、OOPSコマンドを使い、削除されたブロック図形を復元することができます。

11.2 ブロック化の使用

ブロック化ツールは、図形の繰り返しセットを自動的にブロック定義に変換することができます。2D図形または3Dソリッドのセットを選択すると、BricsCAD は同一の図形のセットを図面上で検索し、自動的にブロック参照に置き換えます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BLOCKIFY』のページをご参照ください。

11.2.1 選択した入力からブロック化

1 BLOCKIFYコマンドを起動します。

1 プロンプト表示：ソース図形を選択、または [等しいソリッドと一致/コレクションを検索/既存のブロックと一致/選択オプション (?)]<等しいソリッドと一致>:

2 ブロックに変換したい図形を選択します。

3 選択された図形：xx

プロンプト表示：ソース図形を選択 [設定/選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押すか右クリックで選択を終了します。

5 プロンプト表示：ブロックの挿入ポイントを選択、または[デフォルトのポイントを使用 (D)]<デフォルトのポイントを使用>:

6 ブロックの挿入箇所を指示します。

7 プロンプト表示：空間の検索を選択、または[図面全体/選択オプション (?)]<図面全体>:

8 図面全体を検索するには、Enterまたは右クリックを押してください。

9 プロンプト表示：ブロック名を指定、または<ENTERを押してデフォルトの名前を使用>:

10 ブロックの名前を入力して、Enterを押します。

11 プロンプト表示：ブロック参照で置換する一致を選択 [置換(R)/キャンセル(A)] <置換>:

12 モデル空間内の個々の緑色のチェックマークまたは赤色の十字記号をクリックして、ブロック参照で置き換える図形を順次選択または選択解除し、Enterを押します。(または、Esc/A を押してコマンドをキャンセルします)

13 BricsCAD レポート:

新しいブロック定義「block_name」を作成しました

「x」個のブロック参照を挿入しました

注：BLOCKIFYMODEシステム変数の値によっては一部のプロンプトが抑制され、挿入ポイント、検索スペース、ブロック名、置換する一致のすべて、またはいずれかにデフォルトが使用されます。

11.2.2 既存ブロックの定義

BLOCKIFYの目的の一つは、モデルの構造を自動的に追加、改良することです。モデルにすでにブロック定義が含まれている場合は、既存のブロック定義がチェックされます。

- **選択した図形の入力セットを使用**：既存のブロック定義の1つがBLOCKIFY入力セットと一致する場合、新しい定義は作成されず、コマンドラインに「既存のブロック定義 'block_name' を使用」というメッセージが表示されます。最初に検索空間を選択してから、置換したい一致を検索結果から選択するように求められます。これを行うには、モデル空間で個々の緑色のチェックマークまたは赤色の十字記号をクリックするか、Enter/Rを押して現在の選択を確定します。選択した要素が既存のブロック定義のブロック参照に置き換えられます。
- **既存のブロックと一致**：図面全体または選択セットで、既存のブロック定義と一致するジオメトリを検索します。コマンドコンテキストパネルの**設定**領域にある**プレビューを表示**オプションにチェックマークを入れます。次に、コマンドコンテキストパネルで、既存のブロック定義と一致することが検出されたグループの中からブロック参照で置き換えるものを選択します。選択したグループごとに、緑色のチェックマークまたは赤色の十字記号をクリックすることで、図面内の図形を個別に選択または選択解除できます。

  注：このオプションを使用して、誤って分解させてしまったブロックインスタンスを再作成できます。

11.2.3 重複するブロック定義を結合

同一のブロック定義を1つにまとめ、オプションでOVERKILLコマンドを使用して重複部分を削除することができます。

1 OVERKILLコマンドを起動します。

1 プロンプト表示：図形を選択、または[重複するブロック定義を結合/選択オプション (?)]:

2 **重複するブロック定義を結合**オプションを選択します。

重複図形を削除ダイアログボックスが表示されます。

3 (オプション) 無視するプロパティを選択します。

4 (オプション)比較誤差を定義します(比較誤差はデフォルトで1e-06に設定されています)。

5 (オプション)**重複するブロックを名前削除**オプションにチェックを入れます。

6 **適用**ボタンをクリックします。

重複削除コマンドコンテキストパネルが開き、以下のレポートが表示されます。

- 重複するブロック定義のグループがすべて見つかりました。
- 各グループの重複するブロック定義の名前。

結合するブロックのグループを選択し、保持するブロック定義名を選択します。**グループを結合**をクリックしてコマンドを終了します。

11.3 ブロックの編集

ブロックエディターにアクセスするには、[BEDIT]コマンドを使用するか、編集するブロックをダブルクリックします。**ブロックエディター**を使用する場合、BricsCADは一時的な作図セッションでブロック図形を表示します。ブロック定義を作成および編集するために必要なすべてのツールが用意されています。

ブロック編集セッションを終了するには、BCLOSE[ブロック書き出し]コマンドを使用して、変更を保存するか破棄するかを選択します。

ブロック編集セッション中に BSAVEAS[ブロック削除]コマンドを使用して、現在のブロック定義を新しい名前にコピーできます。コマンド ラインでコマンドを呼び出すか、リボンのアイコンをクリックします。

ブロック編集セッション中にSAVE[保存]コマンドを使用すると、BricsCADはブロック定義への変更を保存し、**ブロックエディタ**終了します。

また、ブロックはREFEDITコマンドを使って編集することもできます。

11.4 ブロックの挿入

INSERTコマンドでは、ダイアログボックスからブロックを挿入することができます。

-INSERTコマンドは、コマンドラインにプロンプトを表示してブロックを挿入します。BricsCAD は、現在の図面のブロック定義の中からブロック名を検索します。現在の図面でブロックが見つからない場合は、SRCHPATHで定義されたパスが検索されます。そこでもブロックが見つからない場合、BricsCAD は「ファイルが見つかりませんでした<ブロック名> 」と応答します。

INSERTALIGNEDコマンドは、既存の図形に簡易的に整列して、ブロック図形を挿入します。INSERTALIGNEDコマンドは、INSERTコマンドと似ていますが、配置中にブロックが既存のライン、ポリライン、円弧、円に動的に整列します。ブロックは、カーソルがスナップしている図形に合わせて配置されます。図形がスナップされていない場合、ブロックはWCSのX軸に合わせて配置されます。

MINSERTコマンドは、矩形の配列としてブロックを挿入するもので、-INSERTコマンドとARRAYコマンドを組み合わせたものです(multiple insertionの略)。

上記のコマンド（INSERT、INSERTALIGNED、MINSERT）では、既存のブロック定義を選択するか、別図面全体をブロックとして挿入するかを選択できます。図面を挿入すると、カレント図面に新しいブロック定義が作成されます。元の図面ファイルを変更しても、変更した図面を再挿入してブロックを再定義しない限り、その変更は現在の図面には影響しません。ブロックが図面に挿入されると、それは1つの図形として扱われます。

注：

- 図面をブロックとして挿入する場合、基点は挿入する図面のINSBASEシステム変数で定義されます。BASEコマンドで設定される変数です。
- ブロックに属性が含まれる場合、コマンドラインに属性値の入力を促すプロンプトが表示されます。
- DRAGOPEN 設定変数がゼロ(オフ)設定の場合、図面は**Windowsのエクスプローラ**から現在の図面に図面をブロックとして挿入することができます。DRAGOPEN がオンの場合、図面が開かれます。
- INSUNITS および INSUNITSSCALING は、ブロックの挿入や外部参照の添付の際に、ブロックや外部参照と対象の図面で INSUNITS の値が異なる場合の自動スケーリングを制御します。
- 元図面のINSUNITSの値が0(不特定)の場合は、代わりにINSUNITSDEFSOURCEの値が使用されます。
- 対象となる図面のINSUNITSの値が0(不特定)の場合は、代わりにINSUNITSDEFTARGETの値が使用されます。
- INSUNITSDEFSOURCEとINSUNITSDEFTARGETの値は、レジストリに保存され、それによりINSUNITSが不特定(単位なし)であるすべての図面に適用されます。
- 「挿入するブロック：」というプロンプトにブロックの名前を入力すると、BricsCADは現在の図面のブロック定義の中からそのブロックを探します。そこでブロックが見つからない場合は、SRCHPATHで定義されたパスが検索されます。そこでもブロックが見つからない場合、BricsCAD は「ファイルが見つかりませんでした<ブロック名> 」と応答します。

ブロック挿入ダイアログボックス：

- **ブロック単位** の下の**単位** 欄は、元図面の INSUNITS (挿入ユニット)システム変数、またはブロック定義の **ブロック単位** プロパティで設定します。(図面内のブロック挿入 をご参照ください)
- **係数**フィールドは、ソース図面のINSUNITS変数の値とターゲット図面の関係を表します。例えば、INSUNITSがsourceで**Millimeters**、targetで**Centimeters**の場合、**係数**フィールドの値は**0.1**になります。また、INSUNITSがsourceおよびtargetで**Millimeters**の場合、**係数**フィールドの値は**1**になります。

11.4.1 INSERTコマンドの使用

1 INSERTコマンドを起動します。

1 **ブロック挿入**ダイアログボックスが表示されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **名前**リストから、既存ブロックのファイル名を選択します。
  選択したブロックの名前が**名前**フィールドに表示されます。
- **ブラウズ**ボタンをクリックし、図面ファイルを選択します。
  パス欄には、選択した図面の位置が表示されます。

3 (オプション)高度な設定から、**挿入に参照カーブを使用**を指定できます。

4 **挿入位置**、**尺度**、**回転**モードを設定します。

オプションは以下の通りです：

- **ブロック挿入**ダイアログで設定を指定します。
- **画面上を指示**：挿入プロセス中にプロンプトが表示されます。

5 (オプション)高度な設定から、ブロック挿入後に分解する場合は、**分解**にチェックを入れます。

6 **OK**ボタンをクリックします。

選択されたオプションに応じてプロンプトが表示されます。

11.4.2 「図面エクスプローラ」ダイアログボックスを使ってブロックを挿入するには

現在の図面からブロックを挿入する場合

1 EXPBLOCKSコマンドを起動します。

1 **図面エクスプローラ/ブロック設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション)表示モードを設定します：**詳細**または**アイコン**です。

3 (オプション)ブロックを選択してから右クリックし、コンテキストメニューから**オプション...**を選択します。

図面エクスプローラオプションダイアログボックスが表示されます。

挿入オプションを設定して、**OK**ボタンをクリックします。

4 **詳細**モードのときはブロックの数字、アイコンモードのときはブロックアイコンをダブルクリックします。

図面エクスプローラダイアログボックスが、図面にブロックを挿入できるように一時的に閉じます。

5 挿入基点を指定します。

- 現在の挿入オプションに応じて、尺度と回転の両方またはいずれかを指定するよう促されます。
- **整列**オプションを選択した場合、選択した線形図形を基準にしてブロックの位置を指定する必要があります。

プロンプト表示：ブロックをミラーするコントロール点を指示:

「**図面エクスプローラ**」ダイアログが再度開きます。

他図面からブロックを挿入する場合

1 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開きます。

2 **図面**ペイン内の**フォルダー**タブをクリックします。

3 (オプション)**ローカルフォルダ**のツリーにまだフォルダがない場合、またはフォルダを追加したい場合は、**ローカルフォルダーを追加...**ボタンをクリックします。

フォルダーを選択ダイアログボックスが表示されます。

追加したいフォルダーを参照し、**フォルダーの選択**ボタンをクリックします。

フォルダとそのサブフォルダが**ローカルフォルダー**ツリーに追加されます。

4 **ローカルフォルダー**ツリーで図面を選択します。

5 図面を展開し、**ブロック設定**を選択します。

選択された図面のすべてのブロックが**ブロック設定**ペインに表示されます。

6 前の手順のステップ2から進みます。

11.4.3 図形に沿ってブロックを挿入する

1 使用する図形スナップが有効であることを確認してください。

2 INSERTALIGNEDコマンドを起動します。

3 **プロンプト表示**：挿入する(ファイルダイアログを開く)ブロック、または [? 図面内のブロックを一覧表示]:

4 以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押して、現在選択されているブロックを承諾します。
- 挿入するブロックの名前を入力します。
- ？キーを押すと、利用可能なブロックのリストが表示されます。

プロンプト表示：ブロックの挿入基点、または [尺度 (S)/X尺度/Y尺度/Z尺度/連続 (M)]:

5 (オプション)**連続**オプションを選択するか、固定尺度を指定します。

6 点を指定します。

7 ブロックは、選択された図形のスナップポイントを、線形図形に合わせて表示します。

プロンプト表示：ブロックをミラーするコントロール点を指示:

8 カーソルを動かして任意の位置を選択し、クリックしてブロックを挿入します。

注：ブロックは次のように配置されています：

ブロックは、そのローカルZ軸がアクティブなUCSのZ軸と平行になるように回転し、そのローカルX軸がスナップポイントの位置にある図形の接線と平行になるようにします。図形上で点をクリックすると、ブロックが図形に合わせて配置されます。そして、挿入点のまわりでマウスポインターを動かすことで、ブロックがどのようにミラーリングされるかを選択することができます。ブロック基点は、図形上にあります。

11.4.4 ブロックの複数のインスタンスを矩形配列状に挿入する

1 MINSERTコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：挿入する(ファイルダイアログを開く)ブロック、または [? 図面内のブロックを一覧表示]:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押して、現在選択されているブロックを承諾します。
- 挿入するブロックの名前を入力します。
- ？キーを押すと、利用可能なブロックのリストが表示されます。

プロンプト表示：ブロックの挿入基点、または [尺度 (S)/X尺度/Y尺度/Z尺度/連続 (M)]:

3 (オプション)**連続**オプションを選択するか、固定尺度を指定します。

4 点を指定します。

5 **プロンプト表示**：ブロックの回転角度<0°0'0">:

6 Enterを押すと、デフォルトの回転角度を承諾するか、角度を指定することができます。

7 **プロンプト表示**：行数 <1>:

8 数字を指定します。

9 **プロンプト表示**：列数 <1>:

10 数字を指定します。

11 **プロンプト表示**：Y方向の行間隔、または、矩形で指示:

12 以下のいずれかの操作を行います：

- 値を指示します。
- **プロンプト表示**：列間の水平距離:

  値を指示します。
- 2点をクリックして矩形を指定すると、水平方向と垂直方向の距離が設定されます。

ブロックは**連続挿入ブロック**図形として挿入されます。

注：

- ステップ 3 で **複数のブロック** を選択した場合、ブロックの配列のステップのメッセージが表示されます。
- **連続挿入ブロック**図形を分解することはできません。
- **連続挿入ブロック**図形のプロパティは、**プロパティ**パネルで編集できます。

11.5 ブロックの分解

ブロックの **分解**プロパティを設定すると、挿入したブロックを元の構成図形に分解することができます。分解の対象となるのはそのブロックの単一インスタンスだけなので、ブロックのオリジナルの定義は図面上に継続し、元のブロックのコピーを追加で挿入することも可能です。属性を含むブロックを分解すると、その情報は失われてしまいますが、オリジナルの属性定義は維持されます。

EXPLMODEは、非一様な尺度のブロック分解させることができるかどうかをコントロールします。

11.5.1 ブロックを分解する

1 EXPLODEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：分解する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 1つまたは複数のブロックを選択します。

3 セット内の図形：x

プロンプト表示：分解する図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 選択されたブロックは分解されます。

注：分解は、構成している図形の複雑さの度合いを 1 段階前に分離します。ブロックの中のブロックやポリラインは、1 つの図形として扱えるポリラインや線分になります。

11.5.2 ブロックの分解プロパティを設定するには

ブロックの**分解可能**プロパティは、BLOCKコマンドでブロックを作成する際に設定されます。

プロパティを編集するには、次の操作を行います。

1 EXPBLOCKSコマンドを起動します。

1 **図面エクスプローラ/ブロック設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 **詳細ビュー**モードを選択します。

3 **分解**チェックボックスをクリックして、**分解可能**プロパティを切り替えます。

11.6 2Dパラメトリックブロック

11.6.1 コンテキスト

パラメトリックブロックは、純粋なジオメトリだけでなく、ジオメトリに影響を与えるいくつかのメタデータ(サイズ、可視性など)を含むブロックです。メタデータは、ブロック参照の動作をコントロールします。したがって、パラメトリックブロックのサイズと外観は、ブロックの定義を編集せずに変更できます。

11.6.2 ワークフロー

このワークフローでは、これらのブロックを作成するためにBricsCADが提供するいくつかの高度な機能を利用して、2Dパラメトリックブロックを操作する方法について説明します。

2Dパラメトリックブロックの使用例の1つは、建築シンボルです。ここの例で使用されている記号は、単純にパラメータ化されたドアです。

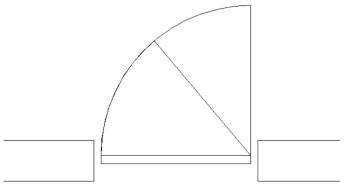
注：この場合、ブロックは別の図面に作成されます。次に、INSERTコマンドを使用し、ブラウザからファイルを選択して対象図面に挿入されます。

11.6.3 ジオメトリの作成

必要なすべてのツールに簡単にアクセスできるようにするには、ワークスペースを**2D作図**に設定すると便利です。

ジオメトリには、ドアの3つの異なる構成を表す図形が含まれています。これらの構成は、**可視状態**と呼ばれます。ジオメトリを作成するとすべての状態の図形が作図されます。

この例では、ブロックジオメトリは次のようになります。



11.6.4 可視状態の追加

可視状態の作成を開始するには、**可視状態**パネルを開きます。これを行うには、リボンの**2Dパラメトリック**タブに移動します。**操作**パネルで、**可視性**ボタンをクリックします(または、リボンを右クリックして、**パネル** > **可視状態**を選択します)。コマンドラインでVISIBILITYSTATESPANELOPENコマンドを起動することもできます。

可視状態の詳細については、**可視状態パネル**の説明を参照してください。

次に、ドアシンボルの3つの状態を定義します。これらの状態は可視パラメータの値として作成されます。この操作は、上記の**可視状態パネル**を使用して実行できます。

このタスクのワークフローは以下のとおりです。

- 可視パラメータを作成します。
- それに3つの状態を追加します。
- パラメータに図形を追加します。
- アクティブな状態に応じて、追加された図形を表示または非表示にします。

ブロックに可視状態を追加するには、以下の手順を行います。

1 ブロック図面を開きます。

2 可視性パラメータを追加するには、**可視性状態**パネルの上部にある**パラメータを追加**ボタン(⊕)をクリックします。新しいパラメータが作成され、その名前を編集できます。この例では、可視性パラメータは**角度**と呼ばれます。

3 状態を追加するには、パラメータ名ラベルの下にある**+ 状態の追加**ボタンをクリックします。新しい可視状態が作成され、その名前を編集できるようになります。ここでの例では、3つの可視状態の名前は**Open**、**Half Open**、**Closed**です。

4 図形を状態に追加するには、状態名ラベルの上にカーソルを置き、右端に表示されるメニューボタン(⋮)をクリックします。コンテキストメニューから、**図形を表示**を選択します。このオプションを使用すると、この状態でのみ表示される図形を選択できます。図形を3つの各状態にアタッチするには、次の手順に従います。

   - **Open**状態をアクティブにして、垂直線と大きな円弧を追加します。
   - **Half Open**状態をアクティブにします。**Open**で追加された図形は非表示になります。斜めの線と小さい方の円弧を追加します。
   - **Closed**状態をアクティブにします。**Open**と**Half Open**の図形は非表示になります他の状態の図形は、アタッチされたときに自動的に非表示になっているため、変更はありません。これはパラメータの最後の状態で発生します。

注:

a 特定の表示状態がアクティブな場合、その状態で非表示になっている図形を表示するには、パネルの右上隅にあるメニューボタン(⋮)をクリックし、**非表示を表示**をクリックします。非表示の図形は水色で表示されま

す。それらを再び非表示にするには、**非表示を表示**オプションのチェックを外します。

b 可視パラメータに図形を追加する2つ目の方法がこちらです。いずれかの状態名の右側にある矢印ボタン(>)をクリックします。新しい状態の詳細パネルが開きます。次に、追加を選択をクリックし、(+)パネル上部のボタンと目的の図形を選択します。

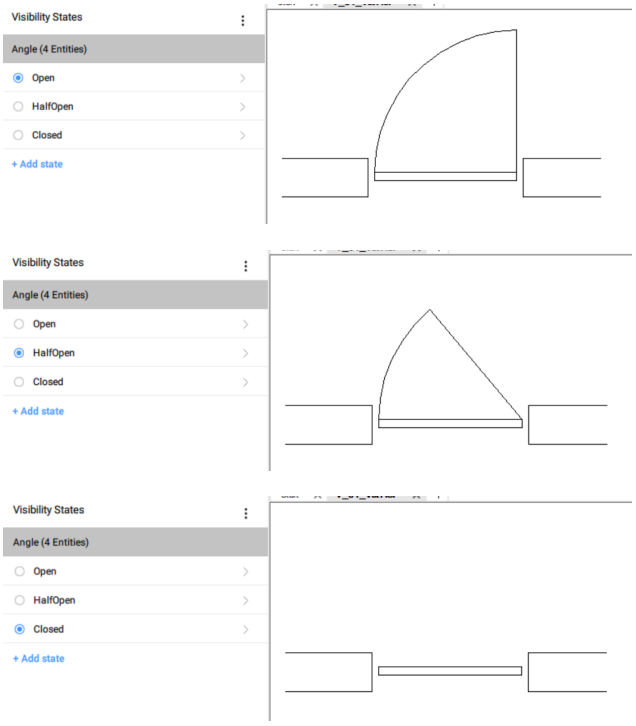
c 可視性パラメータから図形を削除するには、矢印ボタン(>)をクリックし、削除(−)ボタンを選択し、パラメータから削除する図形を選択します。

d 誤って、一部の図形がパラメータのすべての状態で表示されるように指定されている場合、それらは状態のパネルに**このパラメータのすべての状態について表示**というラベルで表示されます。これらの図形は余分であるため、パラメータから削除する必要があります。

e 一度に多くの図形を削除するには、**Shift**を使用して図形を選択します。次に、右クリックして**パラメータから削除**を選択します。

f 特定の状態の図形の可視性を編集するには、状態をアクティブにして、矢印ボタン(>)をクリックします。その状態に固有のパネルが開き、パラメータにアタッチされた図形を含むリストが表示されます。各図形ラベルの左側には、目のアイコンがあります。目のアイコンの上に斜めの線(👁)がある場合、図形はその状態で非表示になります。そのアイコンをクリックすると、その図形の表示が切り替わります。

これはブロックが定義された各可視状態を検索する方法です。



5 ブロック図面を保存します。

6 ブロックをターゲット図面に挿入します。

7 可視状態を変更するには、以下の手順を行います。

8
- ブロックを選択します。
- **プロパティ**パネルを開き、**パラメータ**セクションへ移動します。
- **Angle**パラメータのドロップダウンリストから可視状態を選択します。

11.6.5 参照カーブを追加する

参照カーブは、**REFERENCE_CURVES**画層に配置される図形です。ブロックのこれらの特定の図形は、対象図面の図形と位置合わせするために使用されます。位置合わせは、挿入操作中に行われます。

ブロックは移動や回転などの編集操作を必要とせずに、目的の位置に配置されます。

参照カーブの詳細については、**REFERENCECURVESコマンド**を参照してください。

参照線を追加するには、以下の手順を行います。

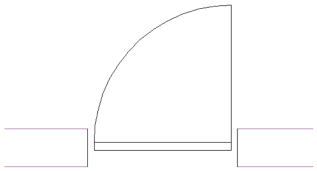
1 ブロック図面を開きます。

2 コマンドラインでREFERENCECURVESコマンドを起動します。リボンの**2Dパラメトリック**タブに移動することもできます。**操作**パネルで、**参照カーブ**ボタンをクリックします。

3 壁を表す4本の水平線を選択します。これらの線は**REFERENCE_CURVES**画層に配置されています。

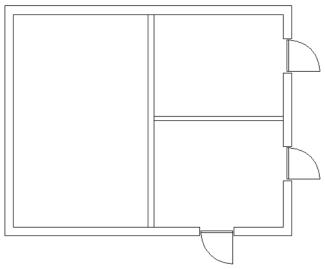
4 ブロック図面を保存します。ブロックは次のようになります。

5



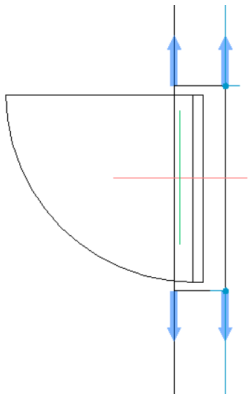
注：この段階で、ブロックは参照カーブを対象図面の同様のカーブにスナップします。この場合、ブロックには2 x 2本の平行線が含まれ、オフセット距離は300mmです。したがって、このブロックはオフセット距離300mmで平行な対象図面内の線にダイナミックにスナップされます。

6 ブロックをターゲット図面に挿入します。数回挿入すると、結果は次のようになります。



挿入の手順は次のようになります。

INSERTコマンドを起動すると、**ブロック挿入**ダイアログが開きます。**高度な設定**セクションで、**挿入に参照カーブを使用**のチェックボックスがオンになっていることを確認し、**OK**を押します。ブロックがロードされ、マウスカーソルに付けられます。ブロック内の参照カーブに一致する2本の線の近くを移動すると、ブロックはそれらの線にスナップします。このスナップ動作のキャプチャを次に示します。



4つの青い矢印は、ブロック内の参照カーブを表しています。ブロックは一致する線に揃えられます。線に沿ってマウスを動かすと、ブロックを配置できます。マウスを左クリックすると、一致する線に合わせてブロックが図面に挿入されます。この使用例では対象図面の線は、接続ポイント(参照カーブの矢印が接続されているポイント)の間でトリミングされます。

マウスカーソルの下の線が参照カーブと一致しない場合、ブロックは通常の方法で挿入できますが、対象図面のどのカーブとも整列しません。この場合、図面内の平行線間の距離が(ブロック内のように)300 mmと異なる場合、参照カーブはそれらの線にスナップしません。

注：参照カーブは、幾何拘束および寸法拘束ではうまく機能しない場合があります。拘束とともに参照カーブを適用する場合のブロックの動作は、ブロックジオメトリの複雑さと、拘束の数とタイプに大きく依存します。

注：**ファジーガイド挿入**機能は、参照カーブをパラメータ化して、壁の厚さ(線間の距離)が異なる壁(平行線のペア)にドアブロックを挿入できるようにします。

11.6.6 ファジーガイド挿入機能を有効にする

ドアブロックをより柔軟にするために、参照カーブはパラメータ化され、周囲のジオメトリはそれらに拘束されます。その結果、パラメトリックブロックは対象図面の壁の厚さが異なる壁にスナップします。

この機能の詳細については、**ファジーガイド挿入ワークフロー**の記事を参照してください。

ファジーガイド挿入機能をブロックに対して有効にするには、以下の手順を行います。

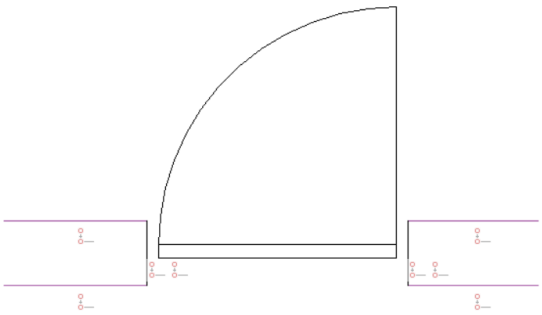
1 ブロック図面を開きます。

2 リボンまたはコマンドラインからREFERENCECURVESコマンドを起動します。この場合、参照線はすでに定義されています。

3 **パラメトリック化**オプションを選択します。これにより参照カーブ間にパラメータが自動的に作成されます(**パラメータマネージャ**パネルまたは**メカニカルブラウザ**パネルを参照)。

4 パラメータ化された参照カーブにいくつかの図形を取り付けるための拘束を追加します。下の画像を参照してください。

5

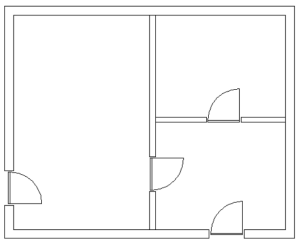


この場合、参照カーブの端と壁の切れ目を表す2本の垂直線の端との間に、4つの一致する拘束を追加します。

6 ブロック図面を保存します。

7 ブロックをターゲット図面に挿入します。今回は、それらに関連付けられたパラメータにより、参照カーブも異なる厚さの内壁にスナップします。下の画像を参照してください。

8



11.6.7 フリップラインの追加

パラメトリックブロックに追加できるもう1つの便利な機能は、特定の線に沿ってブロックジオメトリを反転することです。この機能はフリップパラメータを使用して実行できます。フリップパラメータは1つの軸を中心にブロックをミラーリングします。ここでの例では、2つのフリップが追加され、水平方向と垂直方向にミラーリングされます。

反転機能にアクセスするには、リボンの**2Dパラメトリック**タブに移動します。**操作**パネルで、**フリップライン**ボタンをクリックします。フリップ操作を実行する別の方法は、コマンドラインにFLIPLINEと入力します。

フリップラインの詳細については、**FLIPLINEコマンド**の記事を参照してください。

フリップラインを1つ追加するには、以下の手順を行います。

1 ブロック図面を開きます。

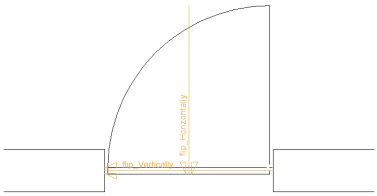
2 コマンドラインでFLIPLINEコマンドを起動し、ブロックの中央に垂直線を作図します。このコマンドによりオレンジ色の線が作成されます。

3 反転する図形を個別に選択するか、**すべてを反転**オプションを使用します。

4 フリップパラメータに名前を付けます。ここでのパラメータの名前は**flip_Horizontally**になります。

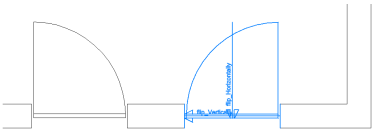
5 同じプロセスを使用して、新しいフリップラインを壁の中央に定義します。このパラメータ名は**flip_Vertically**とします。

フリップラインを定義すると、ブロック図面は以下のようになります。



6 ブロック図面を保存します。

7 ブロックをターゲット図面に挿入します。その後、ブロックを選択し**プロパティ**パネルの**パラメータ**セクションでフリップパラメータを使用して、ブロックをフリップできます。



8 (オプション)必要に応じてPOPERATIONSCOLORシステム変数を設定して、パラメトリックブロック操作ジオメトリの色を変更します。

注 :

- パラメトリックブロック操作ジオメトリは、デフォルトでは作成後に表示されますが、パラメトリックブロックを含む図面を開くと非表示になります。PBLOCKOPERATIONSDISPLAYコマンドを使用して、パラメトリックブロック操作ジオメトリの表示/非表示を切り替えます。
- モデル空間のパラメトリックブロック参照にカーソルを合わせたときのパラメトリック操作ジオメトリの表示は、PBLOCKREFERENCEACTIONSVISUALIZATIONシステム変数によってコントロールされます(デフォルトは**オン**)。

11.6.8 ストレッチパラメータの追加

ストレッチパラメータは、STRETCHコマンドと同様に機能します。ブロックを編集せずに、同じ距離で同じ方向に引き伸ばされたり移動されたりする図形が多数ある場合に便利です。この場合、ストレッチパラメータはいくつかの拘束を置き換えることができるため、作図とジオメトリのパラメータ化のプロセスが簡素化されます。

注 : ストレッチパラメータは、幾何拘束および寸法拘束と組み合わせてうまく機能しない場合があります。拘束とともにストレッチパラメータを適用する場合のブロックの動作は、ジオメトリの複雑さと、拘束の数とタイプに大きく依存します。

ストレッチパラメータの詳細については、**PARAMETRICSTRETCHコマンド**の記事を参照してください。

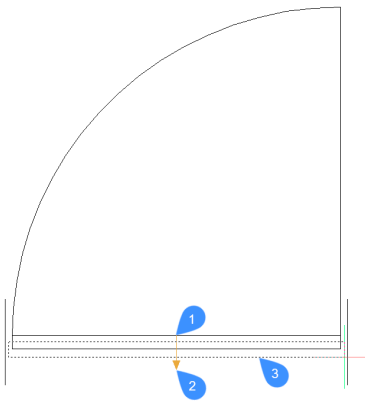
次の手順では、ブロックにパラメトリックストレッチを追加する方法について説明します。

1 ブロック図面を開きます。

2 コマンドラインでPARAMETRICSTRETCHコマンドを起動します。リボンの**2Dパラメトリック**タブに移動することもできます。**操作**パネルで、**ストレッチ**ボタンをクリックします。

3 2点を選択してストレッチベクトルを作成します。ここでの例では、ストレッチベクトルの基点は下記の図(1)のマークがあるポイントとなり、2番目の目的点は(2)のマークがあるポイントになります。次の図を参照してください。

4



注：

a このベクトルの方向はストレッチの方向を定義し、ベクトルの長さはストレッチパラメータの初期値になります。

b 可能であれば、ベクトルを図面内の重要なフィーチャー/寸法に合わせます。これにより、ストレッチパラメータ値は明確になります。

c ストレッチベクトルはやわらかい赤色で表示されているので、見やすくなっています。

5 ストレッチフレームを作図します。

ストレッチフレームはポリゴンまたは長方形にすることができます。ストレッチフレームは、ストレッチが適用されたときに移動するストレッチポイントを指定するために使用されます。ストレッチフレーム内にある選択した図形(次の手順を参照)のポイントのみが移動されます。

この例では、ストレッチフレームは、上の図の3のマークがある長方形になります。

6 必要に応じて、ストレッチが適用されたときに影響を受ける図形の選択を編集します。デフォルトでは、ストレッチフレーム内にストレッチポイントを持つ図形がすでに選択されています。

ここでの例では、デフォルトの選択には長方形の下側の線と2本の側線が含まれています。下の図で(1)、(2)、および(3)でマークされ、ハイライト表示された線を参照してください。

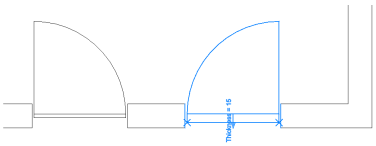
7 (オプション)他の操作で調整されたときに図形が操作定義点に従うように、ストレッチ操作のリンク動作を変更します。新しく作成したパラメトリック操作には**オフ**オプションがデフォルトで設定され、**リンクされていない**動作に設定されています。

8 ストレッチパラメータに名前を付けます。ここでの例では、パラメータの名前は**Thickness**にします。

9 ブロック図面を保存します。

10 ターゲット図面にブロックを挿入し、ストレッチパラメータを変更します。

11



左側のブロックのThicknessパラメータはデフォルトの60mmに設定されています。右側のブロックでは、Thicknessパラメータが150mmに変更されています。この例では断熱や防音の目的で厚みを変更しています。

12 パラメトリックブロックアクションジオメトリは、これらを作成した後、デフォルトで可視になります。PBLOCKOPERATIONDISPLAYコマンドを使用して、これらを非表示にすることができます。表示状態に戻す場合にも、同じコマンドを使用します。

13 **注：**パラメトリックストレッチ操作の影響を受けるパラメトリック操作のポイントには、「X」が付いています。

11.6.9 パラメトリックブロックのグリップ編集

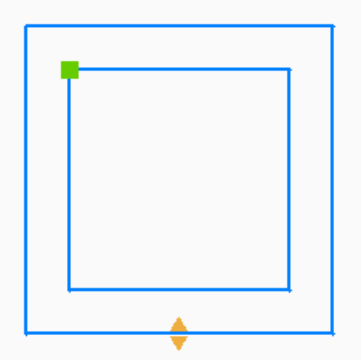
以下のパラメトリック操作に関連する公開パラメータの場合、グリップポイントがパラメトリックブロック参照に表示されます。

- 反転
- ストレッチ
- 移動
- 尺度
- 回転
- オフセット

注：現時点では、可視パラメータ、デザインテーブル、非公開パラメータにはグリップポイントは表示されません。

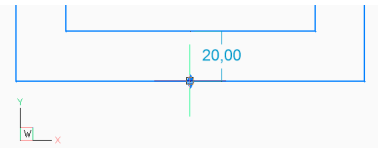
1 図面でパラメトリックブロックを選択します。

1 ブロック参照のパラメトリック操作に対応するグリップポイントが表示されます。



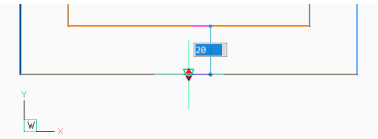
2 パラメトリック操作のグリップポイントにカーソルを合わせます。

3 パラメトリック操作の現在値が表示されます。



4 操作グリップポイントをクリックします。

5 ダイナミック入力フィールドがアクティブになります。



注：パラメトリック反転操作の場合、グリップポイントをクリックしてブロックをミラーリングします。

6 選択した操作グリップポイントをドラッグします。

7 パラメトリック操作の値は動的に更新されます。

8 もう一度クリックしてパラメータの新しい値を設定するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。

9 新しいパラメトリック操作の値に従い、ブロック参照の外観が更新されます。

11.7 ファジーガイド挿入ワークフロー

11.7.1 はじめに

参照カーブは、2Dパラメトリックブロックの特定の図形です。これらはブロックを対象図面の図形に整列させるために使用されます。

参照カーブはパラメータ化できます。これはブロックを対象図面の図形に位置合わせできるだけでなく、ブロックのサイズと外観を対象図面の図形構成に一致するように調整できます。

パラメータの付いた参照カーブを含むブロックを図面に挿入するプロセスを**ガイド付きファジー挿入**と言います。

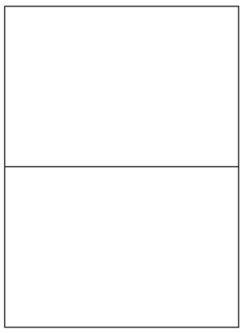
11.7.2 ワークフロー

ガイド付きファジー挿入のワークフローは以下のとおりです：

1 ブロック定義の新しい図面を作成します。

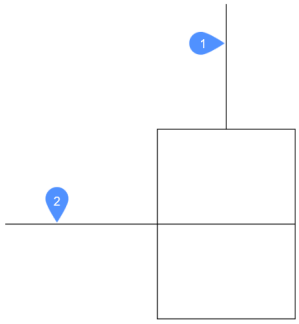
2 ブロックの図形を作成します。ここでは単純な長方形の図形を使用します。下の画像を参照してください。

3



4 次の図のように、参照カーブとして使用する図形を作成します。ここでは、1と2のマークが付いた線を追加し、次の手順で使用します。

5



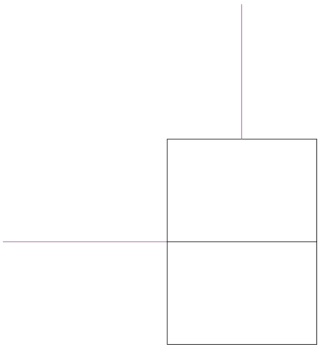
6 参照カーブを定義します。これらのカーブは詳細カーブの一部ではありませんが、挿入の参照として使用されます(つまり、参照カーブ)。

REFERENCECURVESコマンドを使用して、前の手順の1と2の線分を参照カーブに変換します。このコマンドを起動するには、コマンドラインにREFERENCECURVESと入力するか、リボンの**操作**タブの**参照カーブ**ボタンを選択します。

参照カーブを定義するには、REFERENCECURVESコマンドを起動し、ライン1と2を選択します。

コマンドを実行すると、図面は次のようになります。

1

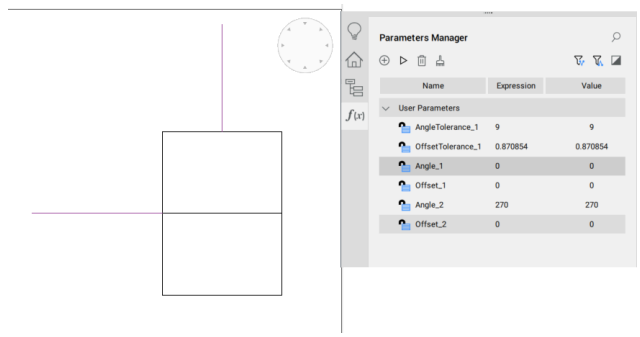


2本の線は参照カーブに変換されています。変換されると紫色で表示され、**REFERENCE_CURVES**という特別な画層に移動されます。この画層は、コマンドにより自動的に作成されます。

2 参照カーブにパラメータを付与するには、REFERENCECURVESコマンドを実行してパラメトリック化オプションを選択します。このオプションを選択するとパラメータが作成され、参照カーブの形状を制御できるようになります。作成されたパラメータは、(オプションで)手動で追加した拘束式で使用することができます(例. 参照カーブを詳細図形に固定)。

パラメータは、下図のように**パラメータマネージャー**パネルに表示されます。

1



2 ブロックを保存します。

3 ターゲット図面を開き、ブロックを挿入します。

ファジー挿入を行うには、INSERTコマンド(**ブロック挿入**ダイアログボックスで**挿入時に参照カーブを使用**オプションをオン)を実行するか、パラメータを付与した参照カーブを含むブロックをライブラリから現在のモデル空間にドラッグアンドドロップします。

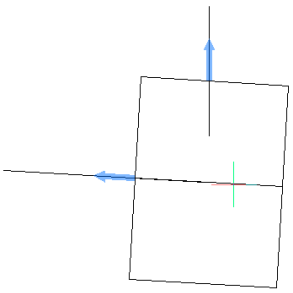
ブロックの参照カーブを正しく調整し、挿入先の状況にマッピングする必要があります。スナップする位置にマウスを移動し、クリックしてブロックを配置します。

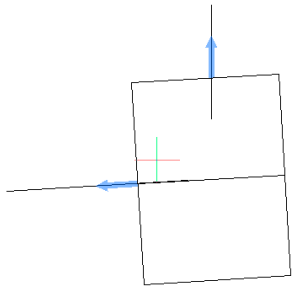
以下の図面は、ファジーガイド挿入の動作内容を簡単に示したものです。

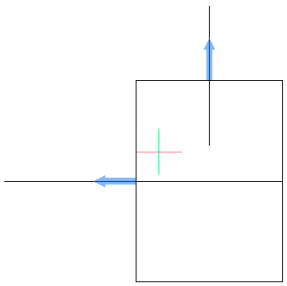
1

INSERTコマンド(**ブロック挿入**ダイアログボックスで**挿入時に参照カーブを使用**オプションをオン)を実行すると、ブロックがマウスカーソルにロードされます。

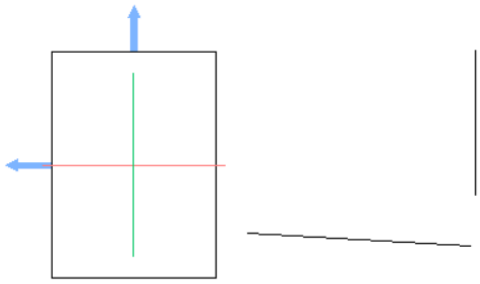
参照カーブと一致させる図面内の図形の近くにマウスカーソルを置くと、次の図のようにブロックがそれらの図形にスナップします。







マウスカーソル(ブロックを取り付けた状態)が図形の周囲にない場合、または図形が参照カーブと一致しない場合、次の図のようにスナップ動作は発生しません。



この場合、ブロックは通常の方法で図面に挿入できます。

11.8 ダイナミックブロック

AutoCAD®の設計環境を使用されていた方は、ダイナミックブロックについてよくご存じかもしれません。また、2Dパラメトリック拘束についての知識もお持ちだと思います。この2つの機能は、やや重なる部分もありますが異なる機能です。

11.8.1 ダイナミックブロックとパラメトリックブロック

AutoCAD®のダイナミックブロックとBricsCADのパラメトリックブロックは、どちらも似たようなブロック定義を個々にたくさん作成する代わりに、ブロックを1つ作成することで反復的なタスクを自動化することができます。これらのブロックには、ジオメトリのほかに、ジオメトリに影響を与えるメタデータ(サイズや可視性など)が含まれています。このメタデータにより、ブロックのコン

ポーネントの動作を制御することができます。つまり、ブロック定義を編集しなくてもブロックの寸法や表示を変更することができます。パラメトリックブロックは、ジオメトリに拘束を与えることでダイナミックブロックと同等の機能が得られます。

AutoCAD®のダイナミックブロックをBricsCADの図面に挿入すると、たいていの場合はブロックの**インスタンス**を編集することができます。ただし、BricsCADではダイナミックブロックを**定義**したり編集したりすることはできません。ダイナミックブロック機能を提供する代わりに、BricsCADは全面的にパラメトリックブロックにフォーカスしています。BricsCADでは、従来のツールとワークフローのセットにより、2Dと3Dの両方のパラメトリックブロックの**定義**を作成することができます。また、ダイナミックブロックの**定義**によっては、パラメトリックブロックの**定義**へ変換することもできます。

注：パラメトリックブロックおよび拘束の詳細については、**2Dパラメトリックブロック**および**2D拘束**の記事を参照してください。

注：BricsCADでは、ジオメトリ要素間に親子の依存関係はありません。パラメータと式を使用すれば、どのような依存関係も作成することができます。

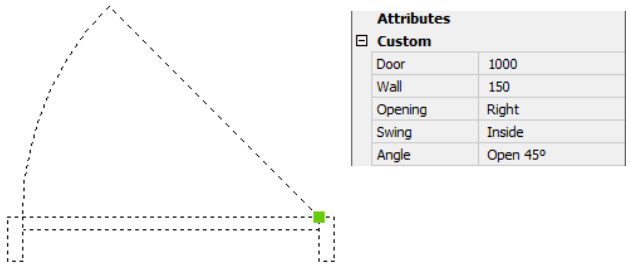
BricsCADでは部分的に操作が可能です。できること：

- 既存のダイナミックブロックライブラリからダイナミックブロックを挿入します。
- **プロパティ**パネルでカスタムプロパティを編集します。
- すべてのパラメータタイプのカスタムプロパティとフィールドの可視状態を使用します。
- ダイナミックブロックをグリップ編集します。

11.8.2 ダイナミックブロックの編集

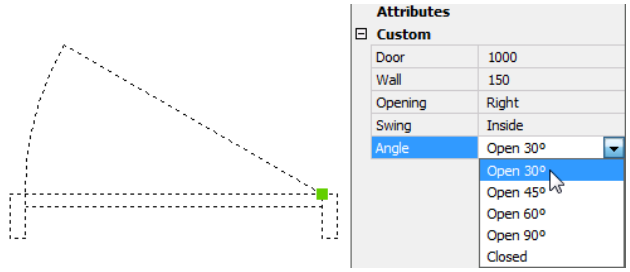
1 図面上でダイナミックブロックを選択します。

1 選択した図形のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。



2 **パラメータ**で、必要なプロパティを編集します。

ダイナミックブロックは自動的に更新されます。



11.8.3 グリップ編集ダイナミックブロック

1 図面上でダイナミックブロックを選択します。

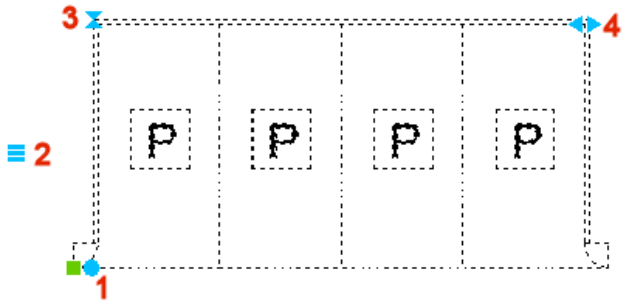
1 次のグリップタイプが表示されます：

- 点
- X、Y
- 直線形
- 極
- 回転
- 反転
- 可視性
- 整列

2 グリップをドラッグして、ブロックを編集します。

3 以下の例では：

- ブロックの回転(1)：グリップをドラッグしてブロックをダイナミックに回転させるか、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- 図形の表示/非表示(2)：クリックしてオプションを選択します。
- 反転(3)：クリックしてブロックをミラー表示します。
- 長さの編集(4)：グリップを選択して長さをダイナミックに編集するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。



11.8.4 ダイナミックブロックからパラメトリックブロックへの変換

一部のAutoCAD®のダイナミックブロックは、BLOCKCONVERTコマンドを使用してBricsCADのパラメトリックブロックに変換できます。詳細については、**BLOCKCONVERTコマンド**の記事を参照してください。

注：ダイナミックブロックの履歴は、パラメトリックブロックへの変換中に失われます。変換されたブロック参照の外観が異なる可能性に関する警告メッセージが表示されます。

変換がサポートされるダイナミックブロックフィーチャー

- 可視性アクション
- ワングリップのストレッチアクション
- ワングリップの移動アクション

- 連鎖アクション
- 回転アクション
- 反転アクション
- 配列アクション
- 整列アクションパラメータ
- 線形パラメータに関連付けられたスケールアクション
- XYパラメータに関連付けられたスケールアクション
- ルックアップアクション
- 履歴依存アクション
- ブロックテーブルフィーチャー
- 2つのグリップポイントを持つ直線形パラメータ、そのうち1つは使用されていません
- 基点パラメータ
- 円形状パラメータに関連付けられた移動アクションとストレッチアクション
- 極パラメータに関連付けられた極ストレッチアクション
- 極ストレッチアクションと移動または反転アクションの相互作用
- 2つのグリップ点を持つ極パラメータに関連付けられたアクション
- リスト型のアクションパラメータと寸法拘束パラメータ
- 増分タイプの寸法拘束パラメータ
- 1つのパラメータに関連付けられた複数のアクションを持つダイナミックブロック
- X軸またはY軸上に始点を持つアクション

ダイナミックブロックフィーチャーを再構築するために使用されるパラメトリックブロックフィーチャー

- 可視状態
- パラメトリック移動操作
- パラメトリックストレッチ操作
- パラメトリック回転操作
- パラメトリックスケール操作
- パラメトリック操作のリンクされた動作
- パラメトリック反転操作
- 参照カーブ
- デザインテーブル
- パラメータ式
- 自動調整配列複写

11.9 属性定義

ATTDEFコマンドは、ダイアログボックスで属性を定義します。

-ATTDEFコマンドは、コマンドプロンプトで属性を定義します。

11.9.1 属性定義の一般的な手順

- 名前、プロンプト、デフォルト値など、属性の特性を指定します。
- 挿入座標を指定します。
- テキストのプロパティを定義します。
- (オプション) 属性フラグを設定します。

11.9.2 属性を定義する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **属性** > **属性を定義...**ツールボタン( )をクリックします(**ツール**ツールバー)。
- **ツール**メニューの**属性**>**属性を定義...**を選択します。
- ATTDEFコマンドを起動します。

「**属性定義**」ダイアログボックスが表示されます。

2 属性を定義:

- **タグ**欄に名前を入力します。

  タグは、図面内の属性の各表示箇所を識別します。**タグ**欄に入力する名前には、スペース以外の任意の文字の組み合わせを使用できます。小文字は自動的に大文字に変換されます。

- **プロンプト**欄にプロンプトを入力します。

  属性のプロンプトは、その属性を含むブロックを挿入する際にコマンドラインに表示されます。プロンプトが省略された場合、代わりにタグがプロンプトとして使用されます。

- 以下のいずれかの操作を行います：

• **デフォルト**テキスト欄にデフォルト値を入力します。

  可変属性の場合は、その属性を含むブロックを挿入すると、デフォルト値が実際の値に置き換えられます。

• **フィールドを挿入**ボタン( )をクリックして、属性にフィールド値を適用します(「タイトルブロックでシートセットとシートプロパティを使用する」を参照)。

• **マルチテキスト**フラグがオンの場合、**デフォルト**テキストフィールドはグレー表示になります。

• **デフォルトテキスト**欄の横にあるボタンをクリックします。

  「**属性定義**」ダイアログが一時的に閉じ、マルチテキスト図形を作成できます。

- 以下のいずれかの操作を行います：

• 属性の挿入点の、X, Y, Z 座標を指定します。

• 基点を選択ボタン( )をクリックして、図面内の挿入ポイントを指定します。

  プロンプト表示：挿入点を選択。

  「**属性定義**」ダイアログが一時的に閉じます。

- (オプション) **非表示**属性のフラグを設定します。

  非表示フラグが設定されている属性は、表示も印刷もされません。

  ATTMODE(属性表示モード)変数が**2**に設定されている場合、**非表示**属性を含むすべての属性が表示されます。

- (オプション) **定数**属性のフラグを設定します。

定数 フラグが設定されている属性は編集できません。

- (オプション) **確認**属性フラグを設定します。

  確認 フラグが設定された属性は、そのような属性を含むブロックを挿入するときに、明示的に検証される必要があります。

- (オプション) **プリセット**属性フラグを設定します。

  ブロックを挿入する際に、**プリセット**フラグが設定されている属性を定義するよう促されることはありません。後からでも属性の編集は可能です。

- (オプション) **位置を固定**属性フラグを設定して、ブロック参照内の属性の位置をロックします。

  ロックされていない属性は、サイズを変更することができ、グリップ編集と複数の属性を使用して、ブロックの残りの部分に対して相対的に移動することができます。

- **文字**プロパティを定義します：**文字スタイル**、**位置合わせ**、**異尺度対応**、**文字の高さ**と**回転**

3 **OK**ボタンをクリックして、図面に属性を作成します。

「**属性定義**」ダイアログが閉じます。

11.9.3 タイトルブロック内でシートセットプロパティを使用

1 シートセットを作成します。

2 カスタムシートセットとシートのプロパティを定義します。

3 シートセットからシート(レイアウト)を開きます。

4 ペーパー空間レイアウトへタイトルブロックのソース図形の作成：

- ボーダー、線画と固定文字を作成します。
- シートセット、サブセット、シートのプロパティを参照するフィールドを持つ属性を作成します。

デフォルトおよびカスタムのシートセット、サブセット、シートプロパティの詳細は、SHEETSET コマンドを参照してください。

カスタム シートセットプロパティ：

Sheet Set Custom Properties	
Architect	Bricsys & Partners
ArchitectAddress	Bellevue 5/201
ArchitectCity	9050 Gent
ArchitectPhone	09 244 01 91
Contractor	Robert Stone ltd.
ContractorAddress	123 Main Street
ContractorCity	New Town
Owner	Carpenter
OwnerAddress	1 Church Road
OwnerCity	New Town
OwnerTitle	Mr. & Mrs.
SiteAddress	48 Brick Lane
SiteCity	New Town
SiteReference	Section A no. 123

シートプロパティとシートカスタムプロパティ：

Sheet	
Number	08
Title	Elevation South
Description	South elevation drawing
Publish	☑ Include for Plot/Publish
Layout	LAYOUT1 (C:\BricsCAD Trainir
Revision Number	1
Revision Date	15/08/2013
Issue Purpose	Final Design
Category	Elevation
Sheet Custom Properties	
Date	12/08/2013
PaperSize	A2
Printer	pdf
Remark	none
Scale	1/50

5 タイトルブロックソース図形からブロックを作成します。

6 ブロックを、ブロックフォルダー一つの中にある図面にコピーします。

7 タイトルブロックの元図形を削除します。

タイトルブロックは、シートセットの他のシートや、同じカスタムシートセットとシートプロパティが存在する他のシートセットにも挿入することができます。デフォルトまたはカスタムのシートセット、サブセット、シートのプロパティを参照するすべてのフィールドが自動的に入力されます。いずれの値も利用できない場合は、ハイフン(----)が表示されます。

11.10 属性を使った作業

属性は、ブロック定義の一部として保存できる特定の図形です。属性は文字ベースのデータで構成されています。属性を使用して、部品番号や価格などを追跡することができます。属性は、固定値または変数値のいずれかを持ちます。属性を含むブロックを挿入すると、ブロックと共に固定値が図面に追加され、任意の変数値を入力するよう求められます。

属性を含むブロックを挿入した後に属性情報を別ファイルに抽出し、その情報をスプレッドシートやデータベースで使用して部品表を作成することができます。また、属性情報を使い、特定のブロックが図面に挿入された回数を追跡することもできます。

属性は、表示または非表示することができます。非表示にした属性は印刷されませんが、情報は図面の中に保存されており、ファイルに抽出することができます。

ATTDEF [属性定義]-ダイアログボックスで属性を定義します。

-ATTDEF - コマンドラインで属性を定義します。

ATTDISP [属性表示]- 属性文字の表示を切り換えます。

ATTEDIT - 属性値とプロパティを編集します。

-ATTEXT [属性書き出し]- コマンドラインを介して図面から属性をデータファイルに抽出します。

ATTREDEF - ブロックを再定義し、関連属性を更新します。

ATTSYNC [属性同期]- 指定されたブロック定義のすべてのブロック参照における属性定義を同期させます。

BATTMANコマンドは、ブロック属性管理を意味し、ブロック定義の属性のすべての側面を編集し、オプションで図面内の同名のすべてのブロックに変更を適用します。

ATTEDIT [属性編集]- 属性値と、ほとんどのプロパティを編集します。

11.10.1 属性の一般的な手順

1 属性を定義します

2 ブロックを作成します

ブロックに属性を付加することができます。ブロック定義に含める図形を選択するよう求めるメッセージが表示されたら、属性を含めます。ブロックに属性が含まれている場合、ブロックを挿入するたびに図形選択のメッセージが表示されるので、新しい図面にブロックを挿入するたびに属性に異なる値を指定することができます。

1 図面にブロックを挿入します。

2 (オプション)ブロック内の属性を編集します。

3 属性情報を抽出します。

11.11 拡張属性定義の編集

属性のプロパティは**プロパティ**パネルで編集できます。

ATTEDITコマンドは、属性の値とプロパティを編集します。

BATTMANコマンドは、ブロック属性管理を意味し、ブロック定義の属性のすべての側面を編集し、オプションで図面内の同名のすべてのブロックに変更を適用します。

注：ブロック定義の属性は、BEDIT コマンドでブロックを編集する際に**プロパティ**パネルで編集することができます。

11.12 属性定義の編集

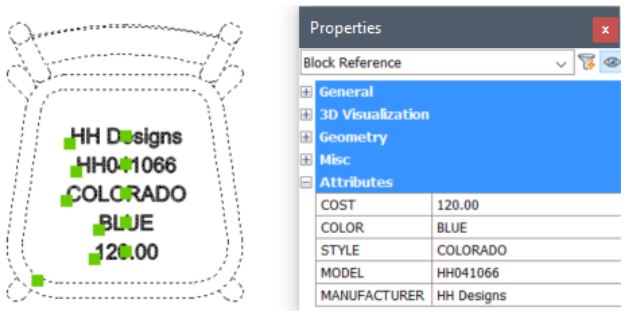
ブロック属性は**プロパティ**パネルで編集できます。

1 属性を含むブロックを選択します。

1 属性のカレントの値が**プロパティ**パネルに表示されます。

2 編集したい属性を選択します。

3 選択した属性の設定フィールドがアクティブになります。



4 新しい値を入力してEnter キーを押します、またはその他の属性の値を選択します。

11.13 属性を持つブロックの挿入

属性を含むブロックを配置すると、ATTDIAの値に応じて、コマンドラインまたはダイアログボックスで属性を定義するよう指示されます。

- オン：属性がダイアログボックスに表示されます。
- オフ：コマンドラインで属性を定義するよう指示されます。

11.13.1 属性を持つブロックを配置するには

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **挿入**ツールバーまたは**挿入/ブロック**リボンパネルの**ブロック挿入**ツール（ ）をクリックします。
- **挿入**メニューで**ブロック挿入**を選択します。
- INSERTコマンドを起動します。

ブロック挿入ダイアログボックスが表示されます。

2 ブロックを選択し、**OK**ボタンをクリックします。

プロンプト表示：挿入基点を選択、または [挿入図形を編集 (E)/コンポーネントを回転 (R)/基点をセット (B)/反転 (F)/連続 (M)/尺度 (S)/X尺度/Y尺度/Z尺度]:

3 点を指定します。

4 属性を除くすべてのブロック図形が図面に配置されます。

5 ATTDIAの値に依存します：

- **プロンプト表示**<属性プロンプト1> <デフォルト文字1>
- **属性編集**ダイアログボックスが表示されます。

6 以下のいずれかの操作を行います：

- コマンドラインにて、各属性ごとの操作：
  - Enterか右クリックを押して、デフォルトのテキストを受け入れます。
  - コマンドラインで新規テキストを入力し、Enterを押して次の属性を定義します。
- **属性編集**ダイアログボックス:
  - リストから属性を選択します。
  - **値**フィールドにカレントの値が表示されます。
  - **値**フィールドに新規の値を入力します。
  - 全ての属性を定義したら、**OK**ボタンを押します。

11.14 属性情報を書き出し

ATTEXTコマンドは、ダイアログボックスで属性からテキストファイルへデータをコピーします。

-ATTEXTコマンドは、コマンドラインで属性からテキストファイルへデータをコピーします。

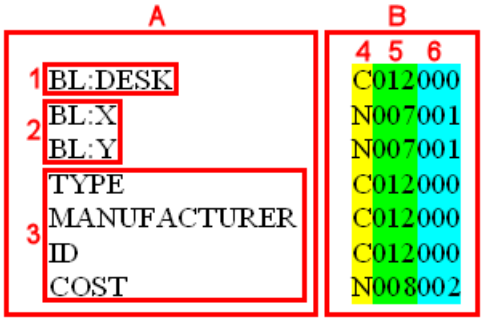
テキストファイルは、データベースまたはスプレッドシートに読み込み可能です。

次のフォーマットでファイルを保存できます。

- **カンマ区切り形式**(CDF)：ブロックの各インスタンスごとに1行で構成され、各属性フィールドはカンマで区切られています。文字列フィールドは、シングルクォーテーションマークで囲まれています。CDFファイルに抽出する際には、テンプレートファイルを指定する必要があります。
- **スペース区切り形式**(SDF)：ブロックの各インスタンスごとに1行で構成されます。各属性フィールドは固定長で、セパレーターや文字列の区切りはありません。SDFファイルに抽出する際には、テンプレートファイルを指定する必要があります。
- **図面交換形式**(DXF)：標準的なDXFファイル(*.dxxファイル)のサブセットを作成し、挿入ポイント、回転角度、属性値など、各ブロックに関するすべての情報を含みます。テンプレートファイルは必要ありません。

CDFまたはSDFファイルに属性を抽出する前に、テンプレートファイルを作成する必要があります。テンプレートファイルは、抽出ファイルに書き込まれる属性データフィールドを指定するASCIIテキストファイルです。テンプレートファイルの各行には、1つの属性フィールドが指定されています。BricsCAD は 15 の異なるフィールドを認識し、これらはブロック名、挿入ポイントの X、Y、Z 座標、挿入された画層などの要素を含んでいます。これらのフィールドのいずれかを含めることができます。テンプレートファイルには、少なくとも1つの属性名を含める必要があります。

テンプレートファイルの各行は、フィールド名で始まる必要があります。ブロック名と挿入ポイントの値は、**BL:**で始まる必要があります。次の空白でない文字は、C(文字列フィールドを示す)またはN(数値フィールドを示す)でなければなりません。この文字の後に、フィールドの幅(文字数)を示す3桁の数字が続きます。最後の3桁は小数点以下の桁数を表します。(数値フィールドの場合)文字フィールドの場合、最後の3桁はゼロ(000)でなければなりません。典型的なテンプレートファイルは、ここに示すようなものです：



A.フィールド名

B.フィールドフォーマット

1.ブロック名（先頭文字は、**BL:**から始まります）

2.座標フィールド(先頭文字は、**BL:**から始まります)

3.属性タグ

4.フィールドのデータタイプを示します：**C** = 文字列， **N** = 数値

5.文字列フィールド、または数値フィールドの幅

6.数値フィールドの小数点以下の桁数、文字列フィールドでは **000**

11.14.1 属性情報を書き出しするには

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ツール**ツールバーの**属性書出**ボタンをクリックします。
- **ツール**メニューで**属性書出**を選択します。
- ATTEXTコマンドを起動します。

属性書出ダイアログボックスが表示されます。

2 **選択**ボタンをクリックします。

属性書出ダイアログボックスが一時的に閉じます。

3 ブロックを選択し、Enterを押すか右クリックします。

4 **属性書出**ダイアログボックスが再び開きます。

5 テキストファイルの形式を選択します。**DXF**(図面交換形式)、**CDF**(カンマ区切り形式)、**またはSDF**(スペース区切り形

式)から選択できます。

6 **テンプレートファイル**を選択します。

7 **出力ファイル**名を指定します。

8 **書き出し**ボタンをクリックします。

プロンプト表示: <数> レコードが抽出されました。

11.15 外部参照管理

EXPXREFSコマンドは、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスの**外部参照**セクションを開きます。

XREFコマンドは、**アタッチメント**パネルを開きます。

図面エクスプローラ - 外部参照ダイアログボックスでは、以下の操作を実行できます。

- 外部参照として図面をアタッチする( )。
- 外部参照のアタッチを解除する( )。
- 外部参照を再ロードする( )。
- 外部参照のロード解除( )。
- 外部参照をバインドする( )。
- 外部参照を挿入する( )。
- アタッチタイプの変更: **アタッチ**または**オーバーレイ**。
- 外部参照の**保存パス**の変更。
- オーバーレイの**パスを検索**の変更。

11.15.1 外部参照を取り外し

1 取り外したい外部参照を選択します。

1 Ctrlを押しながら操作をすると、複数の外部参照を選択したり、選択した外部参照の選択を解除したりすることができます。

2 **詳細**ツールバーの**外部参照をアタッチ解除**ツールボタン( )をクリックします。

選択した外部参照が取り外されます。取り外しを確認するプロンプトは表示されません。

11.15.2 外部参照の解除

以下のいずれかの操作を行います：

- ロードされている外部参照の**ロード**列をクリックします。
- 外部参照を選択し、**詳細**ツールバーの**外部参照の解除**ツールボタン（ をクリックするか、選択した外部参照の**ロード**列をクリックします。

11.15.3 外部参照の再ロード

以下のいずれかの操作を行います：

- 解除された外部参照の**ロード**列をクリックします。

- 外部参照を選択し、**詳細**ツールバーの**外部参照の再ロード**ツールボタン（ をクリックするか、選択した外部参照の**ロード**列をクリックします。

11.16 外部参照のアタッチ

XATTACHコマンドは、図面を外部参照(Xref)としてアタッチします。アタッチされた外部参照は、現在の図面に挿入された形で表示されます。ブロックと同様、アタッチされた外部参照は入れ子化することができます。アタッチされた図面は、直近で保存されたものです。

11.16.1 外部参照をアタッチ

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **挿入**ツールバーまたは**外部参照**リボンパネルで**外部参照をアタッチ...**ツールボタン( )をクリックします。
- **挿入** メニューの **外部参照** を選択します。
- **図面エクスプローラ - 外部参照設定**ダイアログボックスの**詳細**ツールバーの**外部参照をアタッチ...**ツールボタン( )をクリックします。
- **アタッチメント**パネルの**アタッチを追加**ツールボタン( )をクリックします。
- XATTACHコマンドを起動します。

参照ファイルを選択ダイアログボックスが表示されます。

2 アタッチしたい図面を選択して、**開く**ボタンを押します。

外部参照をアタッチダイアログボックスが表示されます。

3 **パス**フィールドに選択した図面のフルパスが表示されます

(オプション)**パスタイプ**を選択：**フルパス**、**相対パス**、**パス無し**。

4 **外部参照**からいずれかを選択します。

- **アタッチ**：カレント図面を外部参照として別の図面に添付する場合、アタッチメントは入れ子の外部参照になります。
- **オーバーレイ** ：図面が外部参照として別の図面に添付されるとき、オーバレイした外部参照は無視されます。

5 **挿入位置**を画面上で指示するか、**X**、**Y**、**Z** フィールドで指定するかを決めます。

6 **尺度**を画面上で指示するか、**X**、**Y**、**Z**フィールドで指定するかを決めます。

X フィールドで尺度を指定するには、**均一尺度**オプションを選択します。

7 画面上の**角度**フィールドで**回転**角度を指定するかどうかを決めます。

8 **OK**ボタンをクリックして外部参照をアタッチします。

ステップ5、6、7の選択肢に応じて、挿入点と、尺度、回転角度の両方またはいずれか一方を指定するプロンプトが表示されます。

注：

- パラメトリックの外部参照は、再ロードできるように**アタッチメントパネル**に保存され、この場合、パラメトリックを含むすべてのインサートがリビルドされます。
- XDWGFADECTL(Xref database fade control)は、外部参照のフェードレベルを設定します。

- 外部参照の基点は、INSBASE(挿入基点)で制御されます。BASEコマンドを使用して、外部参照図面にINSBASEを定義します。
- **ブロック単位**フィールドの **単位** は、外部参照のINSUNIT (Insertion Units) システム変数で設定します。**係数** フィールドは、外部参照の INSUNIT システム変数の値と図面の親の関係を表します。

11.17 外部参照の操作

図面全体を外部参照としてカレントの図面にリンクさせることができます。図面をブロックとして挿入する場合、図面からすべての図形がカレントの図面に追加されますが、外部参照の場合は外部ファイルへのポインタがアタッチされます。外部参照の図形は現在の図面に表示されますが、図形自体は図面に追加されません。このため、外部参照をアタッチすれば、現在の図面ファイルのサイズが大幅に増加することはありません。

外部参照では、図面をブロックとして挿入する場合には利用できない機能も使用できます。図面をブロックとして挿入する場合、図形は図面に保存されます。挿入元の図面に変更を加えた場合、挿入先の図面には反映されません。しかし、外部参照をアタッチした場合は、元の図面ファイルに加えた変更が参照元の図面に反映されます。これらの変更は、外部参照を含む図面を開くたびに自動的に表示されます。元の図面が変更されたことがわかっている場合、図面での作業中いつでも外部参照をリロードすることができます。

外部参照は、コンポーネント図面からマスター図面を組み立てる際に有用です。グループ内の他のユーザーと作業を調整する場合にも外部参照を使用できます。外部参照を使用することで、図面ファイルのサイズを小さめに保つことができ、また常に最新バージョンの図面を確実に使用することができます。

XREFコマンド("external reference"の略)は、**図面エクスプローラ**を介して、DWGファイルをカレント図面にアタッチします。

-XREFコマンドは、コマンドラインからDWGファイルをカレント図面に添付します。

XATTACHコマンド("external attach"の略)は、ダイアログボックスを通して外部参照図面を添付します。

XCLIPコマンド("Xref clip"の略)は、外部参照された図面をクリップし、フロントとリアのクリッピング平面を調整します。

XDWGFADECTLシステム変数は、外部参照のフェーディングを制御します。0(フェーディングなし)～90までの値を設定できます。フェーディングファクターの対象はスクリーン表示のみで、印刷結果は影響されません。

XNOTIFYTIMEシステム変数は、XREFNOTIFY 、 IMAGENOTIFYやPDFNOTIFYが**オン**の場合、外部参照リソース(リファレンス、添付の画像やPDF)の変更に対してチェックする頻度を定義します。

XREFNOTIFY システム変数は相互参照の紛失や変更に対して警告を出すかどうか決定します。

11.18 ブロックと外部参照の編集

REFEDIT(reference editorの略)コマンドは、ダイアログボックスを使って、ブロック参照や外部参照図面(Xrefs)を編集します。REFEDITが実行するのは、**インプレイス参照編集**と呼ばれるものです。このコマンドは、参照の一部に作用するか、図面全体またはブロック内のすべての図形に作用するかのいずれかです。

-REFEDITコマンドは、コマンドラインでブロック参照や外部参照図面を編集します。

REFSETコマンドは、編集中の参照に図形を追加および削除します。

REFCLOSEコマンドは、参照エディタを閉じます。

BEDITコマンドは、**ブロックエディタ**と呼ばれる一時的な作図セッションで、ブロックを構成する図形を編集し、ブロックのローカル座標系を使用します。

-BEDITコマンドは、コマンドラインにブロック名を入力するよう促し、**ブロックエディタ**環境を開きます。

XFADECTLは、現在の参照編集セッションで作業中ではない図形のフェーディングレベルを設定します。対応値は0(フェードなし)～90までです。

11.18.1 Xrefsを編集するには

1 以下のいずれかの操作を行います：

- 外部参照をダブルクリックします。
- **外部参照編集**ツールバーの **外部参照編集**ツールボタン( )をクリックします。
- REFEDITコマンドを起動します。

プロンプト表示: 外部参照を選択:

外部参照またはブロックをクリックします。

外部参照編集ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスでは、編集する参照を視覚的に確認することができ、どのように参照が選択されるかを制御することができます。

- **パス**：選択した参照の位置。リファレンスがブロックの場合、パスは表示されません。
- **参照名**：現在選択中の参照およびその参照と入れ子関係の参照の名前です。
- **プレビュー**：最後に図面に保存した参照を表示します。なお、変更内容が参照に保存し直されても、プレビュー画像は更新されませんのでご注意ください。

2 (オプション)**参照名**ツリーに複数のネスト化された参照が表示されている場合は、修正する参照を選択します。

展開/折りたたみボタンをクリックして、ネスト化された参照を表示または非表示にします。

一度に編集できるのは一つの参照だけです。

3 **入れ子の図形を選択...**フィールドで、以下のいずれかを選択します。

- **自動** ： 選択した参照図形のすべての図形とネスト化されたブロックは、参照図形の編集セッションに含まれます。
- **プロンプト**: **外部参照編集**ダイアログを閉じた後、編集する参照内の図形とネスト化されたブロックを選択するように求められます。これらの図形のみが一時的に抽出され、現在の図面のコンテキスト内で修正できるようになります。

この一時的な作業用の図形セットは、編集してから保存し直して、編集中の参照を更新することができます。「現在の図面」と「編集セット」を区別するために、BricsCADは現在の図面に属するすべての図形を薄く表示します。フェーディングレベルはXFADECTL設定変数で制御されており、デフォルト値は**50**です。

4 **設定**を確認します。

- **単一画層とシンボル名を有効化**：
  - 選択すると、外部参照の名前付きオブジェクトが変更され、**$#$**という接頭辞が追加されます。
  - 選択を外すと、画層名とその他の名付けられたオブジェクトは、参照図面と同様のままとなります。
- **編集する属性定義を表示** ：参照編集中に、ブロックの属性定義を抽出して表示するかどうかをコントロールします。
- **作業セットにない図形をロック**：一時的な作業セットに含まれていない編集中の参照内の図形を操作することはできず、また、ホスト図面や他の外部参照の図形も操作不可になります。この動作は、ロックされた画層上のオブジェクトに類似しています。

5 **OK**ボタンをクリックして、作業セットの編集を開始します。

外部参照編集ダイアログボックスが閉じます。

6 (オプション)**作業セットに追加**ツールボタン( )をクリックして、図形を作業セットに追加します。

選択された図形は、作業セットが保存し直されるとホスト図面から削除され、編集中の参照に追加されます。

7 (オプション)**作業セットから削除**ツールボタン( )をクリックして、作業セットから図形を削除します。

選択された図形は、作業セットが保存し直された時点で編集中の参照から削除されます。これらの図形は、ホスト図面に追加されます。

8 以下のいずれかの操作を行います：

- **保存終了**ボタン( )をクリックして、変更を外部参照の元図面または現在の図面のブロック定義に保存します。
- **放棄終了**ボタン( )をクリックして、保存せずに外部参照編集を終了します。元の図面やブロックの定義は変更されないままになります。

11.19 グループ化の操作

GROUPコマンドは、ダイアログで図形に名前を付けたグループを作成、修正します。

-GROUPコマンドラインは、ダイアログで図形に名前を付けたグループを作成、修正します。

グループ化の作業は、複数のオブジェクトの集合を、1つのオブジェクト同然に操作するテクニックです。グループは「名前付きの選択図形」と考えることもできます。1つのオブジェクトを選択すると、ブロックのようにセット全体が選択されます。または、グループの他の部分に影響を与えず、グループを分割することなく、個々のオブジェクトを編集することもできます。必要に応じてネスト化したグループを使用することができ、1つの図形が異なるグループに所属することもできます。

注：グループの選択を可能にするために、PICKSTYLEシステム変数のビットコード1が設定されている(値＝1または3)ことを確認してください。キーボードショートカットCtrl + Hは、PICKSTYLEシステム変数の値を切り替えます。0または1で設定されている場合は0と1、2または3で設定されている場合は2と3で切り替わります。

11.19.1 グループを作成する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ツール**ツールバーまたは**ホーム/グループ**リボンパネルの**グループ**ツールボタン( )をクリックします。
- **ツール**メニューで**グループ**を選択します。
- GROUPコマンドを起動します。

図形グループダイアログボックスが表示されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **名前**フィールドに名前を入力します。
- **名前無し**にチェックをつけることで、名前のないグループを作成することができます。

3 (オプション)**説明**フィールドに説明を入力します。

4 (オプション)**選択可能**オプションは、グループが選択可能かどうかを指定します。

5 **図形を選択してグループを作成**ボタンをクリックします。

図形グループダイアログボックスが一時的に閉じるので、図形を選択することができます。

6 グループに含む図形を選択します。

7 図形の選択を終了するには右クリックします。

8 **図形グループ**ダイアログボックスが再び開きます。

新しく作成されたグループが追加されます。

9 **OK**ボタンをクリックして、**図形グループ**ダイアログボックスを閉じます。

11.19.2 グループを変更する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ツール**ツールバーまたは**ホーム/グループ**リボンパネルの**グループ**ツールボタン()をクリックします。
- **ツール**メニューで**グループ**を選択します。
- GROUPコマンドを起動します。

図形グループダイアログボックスが表示されます。

2 編集するグループを選択します。

3 (オプション)**名前**フィールドをダブルクリックすると、グループ名の編集ができます。

4 (オプション)**説明**フィールドをダブルクリックすると、グループの説明を編集できます。

5 (オプション)**選択可能**オプションのチェックで**選択可能**の機能のオン／オフを切り換えます。

6 (オプション)**グループへ図形を追加**ボタンをクリックすると、グループに新しい図形が追加されます。

図形グループダイアログボックスが一時的に閉じるので、新しいグループ図形を選択することができます。

7 (オプション)**グループから図形を削除**ボタンをクリックすると、グループから図形が削除されます。

図形グループダイアログが一時的に閉じるので、図形を選択することができます。

8 **OK**ボタンをクリックして、**図形グループ**ダイアログボックスを閉じます。

11.19.3 図形のグループを解除する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ツール**ツールバーまたは**ホーム/グループ**リボンパネルの**グループ**ツールボタン()をクリックします。
- **ツール**メニューで**グループ**を選択します。
- GROUPコマンドを起動します。

図形グループダイアログボックスが表示されます。

2 解除したいグループを選択します。

3 **選択したグループをグループ解除**ボタンをクリックします。

選択したグループが削除されます。

注：図形のグループ化を解除すると、グループは削除されますが、図形は図面に残ります。

11.19.4 図形の順番を変更する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ツール**ツールバーまたは**ホーム/グループ**リボンパネルの**グループ**ツールボタン()をクリックします。
- **ツール**メニューで**グループ**を選択します。

- GROUPコマンドを起動します。

図形グループダイアログボックスが表示されます。

2 **図形の表示順を変更**ボタンをクリックします。

グループの順序ダイアログボックスが表示されます。

3 (オプション)**ハイライト**ボタンをクリックすると、各図形の現在の位置が表示されます。

オブジェクトグループダイアログボックスが開きます。

4 (オプション)**逆順序**ボタンをクリックすると、グループの図形の順序が入れ替わります。

5 (オプション)図形の順序を入れ替えるには、以下のいずれかを実行します：

- **位置から削除**フィールドで、並べ替える図形の現在の位置番号を指定します。
- **図形の新しい順序番号を入力**フィールドに、移動先の位置番号を入力します。

6 (オプション)**図形数**フィールドで、並べ替えるオブジェクトの数を指定します。

7 並べ替えボタンをクリックします。

グループが再編成されたことを確認するメッセージボックスが表示されます。

11.20 アンダーレイの操作

図面にPDFファイルをアンダーレイとして添付することができます。ラスターイメージファイルや外部参照(Xrefs)のように、PDFアンダーレイは図面の一部ではなく、図面にリンクされています。アンダーレイへのパスは、親図面に保存されます。正しいPDFが見つかるように、パスを編集することができます。デフォルトでは、親図面のフォルダーが最初に検索されます。PDFアンダーレイが見つからない場合は、保存されたパスフォルダーが検索されます。そこにもPDFアンダーレイが見当たらない場合、BricsCADは図面にて'Missing or invalid reference'(失われているか、無効な参照です)と報告します。

PDFADJUSTコマンドを実行すると、コマンドラインでPDFアンダーレイのフェード、コントラスト、モノクロの設定を調整できます。

PDFATTACHコマンドおよび-PDFATTACHコマンドは、PDFファイルをアンダーレイとしてカレントの図面に挿入します。

PDFLAYERSコマンドでは、PDFアンダーレイ内の画層の表示をコントロールすることができます。

PDFCLIPコマンドは、PDFの表示をクリップします。多角形か矩形の境界線のどちらかを選択できます。同じPDFアンダーレイファイルの各インスタンスは、異なる境界を持つことができます。

PDFOSNAPシステム変数は、**オン**になっているとPDFアンダーレイのジオメトリにスナップできます。

PDFNOTIFYシステム変数は、PDFアンダーレイの紛失や変更に対して警告を出すかどうか決定します。

XNOTIFYTIMEシステム変数は、XREFNOTIFY、IMAGENOTIFYやPDFNOTIFYが**オン**の場合、外部参照リソース(リファレンス、添付の画像やPDF)の変更に対してチェックする頻度を定義します。

FRAMEの値＝3の場合、PDFFRAMEはPDF枠の可視性を制御します。オプションは以下の通りです：

- 0：PDF枠を非表示
- 1：PDF枠を表示して印刷
- 2：PDF枠を表示するが印刷しない

注：

- アンダーレイは、**表示スタイル**を2Dワイヤフレームに設定している場合にのみ表示されます。
- PDFファイルのハイパーテキストリンクはテキストに変換されます。

11.20.1 PDFアンダーレイキャッシングの制御

アタッチしたPDFアンダーレイの表示には、多重解像度を用いた永続性イメージキャッシュを使用しており、非常にすばやくズームや画面移動操作を行えます。キャッシュされた最高解像度は5000 x 5000ピクセルです。このような解像度でも、ごく近くまでズームインすると、PDFアンダーレイの表示がピクセル化します。このような場合にハイブリッドモードを使い、非常に近くまでズームインした時にPDFアンダーレイ表示をリアルタイム生成に切り替えることができます。イメージキャッシュの最初の生成には数秒間かかりますが、以後は処理が非常に高速化され、以降のセッションでもこの状態に保たれます。

PDFCACHEシステム変数は、PDFキャッシングの適用方法を制御します。

- 0 = PDFキャッシュを使用せず、常にPDFアンダーレイ画像のリアルタイム生成を使用。(このモードは、以前のBricsCADのバージョンではデフォルトでした)
- 1 = PDFキャッシュを使用、ごく近くにズーム時のみリアルタイム生成。
- 2 = 常にPDFキャッシュを使用。(デフォルト)

11.20.2 PDFアンダーレイのアタッチ

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **挿入**ツールバーまたは**挿入/PDF**リボンパネルの**PDFをアタッチ**ツールボタン( )をクリックします。
- **図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスで**詳細**ツールバーの**新規**ツールボタン( )をクリックします。
- コマンドラインに**PDFattach**と入力し、Enterを押します。

PDFアンダーレイファイルを選択ダイアログが表示されます。

2 ファイルを選択してダブルクリックするか、**PDFアンダーレイファイルを選択**ダイアログで**開く**ボタンをクリックします。

PDFアンダーレイをアタッチダイアログボックスが表示されます。

3 複数ページのPDFの場合には、**名前**フィールドで下向き矢印をクリックし、ロードするPDFページを選択します。

4 オプションの**パス**ボタンをクリックし、いずれかを選択します。

- **フルパス**：図面がロードされるとき、フルパスが検索されます。そこでオーバーレイが見つからない場合、親図面のフォルダーを検索します。そこでもオーバーレイファイルが見つからない場合、"Missing or invalid reference"(無効または存在しない参照)というメッセージがPDFオーバーレイの挿入位置に表示されます。
- **相対パス**：図面がロードされるとき、親図面のフォルダーに対して相対的なパスが検索されます。そこでオーバレイが見つからない場合、親図面のフォルダーを検索します。そこでもオーバレイファイルが見つからない場合、"Missing or invalid reference"(無効または存在しない参照)というメッセージがPDFオーバレイの挿入位置に表示されます。
- **パス無し**： 図面がロードされるとき、親図面のフォルダーのみを検索します。オーバレイファイルが見つからない場合、"Missing or invalid reference"(無効または存在しない参照)というメッセージがPDFオーバレイの挿入位置に表示されます。

5 画面上で**挿入位置**、**尺度**、**回転角度**を指定するかどうかを選択します。

6 **OK**ボタンをクリックします。

PDFアンダーレイをアタッチダイアログボックスが閉じます。

7 前のステップで選択した挿入オプションに応じて、**挿入位置**、**尺度**、**回転角度**を指定する**プロンプトが表示**されます。

注：アンダーレイを現在の図面にドラッグ＆ドロップすることもできます。

11.20.3 PDFアンダーレイを挿入

すでにアタッチされているPDFの2つ目を挿入したい場合、あるいは、そのようなアンダーレイの別のページを挿入するには、以下の手順で行います。

1 EXPPDFSコマンドを起動します。

1 **図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスが表示されます。

2 PDFアンダーレイを選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックしてコンテキストメニューから**挿入**を選択します。
- **図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスの**編集**メニューで**挿入**を選択します。

図面エクスプローラ - PDFアンダーレイダイアログボックスが閉じます。

4 前の手順のステップ3～7を続行します。

11.20.4 PDFアンダーレイの表示をコントロール

1 PDFアンダーレイのフレームをクリックします。

1 選択されたPDFのフレームがハイライトされます。

アンダーレイのプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **その他**で、**プロパティ**バーの**アンダーレイを表示**をクリックし、**はい**または**いいえ**を選択します。

11.20.5 PDFアンダーレイの画層の表示を設定

1 PDFLAYERSコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**: PDFアンダーレイを選択:

2 PDFアンダーレイのフレームをクリックします。

3 選択されたPDFのフレームがハイライトされます。

アンダーレイ画層ダイアログボックスが表示されます。

4 **オン**列のアイコンによって、画層の現在の状態が**オン**(💡)または**オフ**(💡であることが示されます。

5 **オン**列のアイコンをクリックして画層の表示を切り替えます。

6 (オプション)**画層を検索**フィールドをクリックし、画層名を入力して画層を検索します。

リストに含まれる画層数を制限するには、ワイルドカード文字(? or *)を使用します。

7 (オプション)**参照名**ボタンをクリックして、別のPDFアンダーレイを選択します。

8 **OK**ボタンをクリックして確定します。

11.20.6 PDFアンダーレイをクリップ

1 PDFCLIPコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**: PDFアンダーレイを選択:

2 PDFアンダーレイのフレームをクリックします。

3 選択されたPDFのフレームがハイライトされます。

プロンプト表示: PDFクリッピングオプションを入力 [オン(ON)/オフ(OFF)/削除(D)/新規(N)]:<新規(N)>

4 Enterを押して**新規**デフォルトオプションを受け入れます。

プロンプト表示：PDFクリッピング種類を入力 [ポリゴン(P)/矩形状(R)] <矩形状(R)>：

5 以下のいずれかの操作を行います：

- 矩形のクリッピング境界を定めるために、Enterを押してコマンドオプションのデフォルトの**矩形**を受け入れてください。
- Pと入力してEnterを押して多角形のクリッピング境界を定めてください。

6 クリッピングの境界線を定義します。

7 定義点は、PDFアンダーレイのフレーム内になければなりません。PDFアンダーレイの外側をクリックすると、点はPDFアンダーレイのフレーム上に配置されます。

11.20.7 PDFアンダーレイのクリップ部分の表示を切り替える

1 PDFアンダーレイのフレームをクリックします。

1 選択されたPDFのフレームがハイライトされます。

アンダーレイのプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **その他**で、**プロパティ**バーの**クリップ表示**をクリックし、**はい**または**いいえ**を選択します。

11.20.8 クリッピング境界線を削除

1 PDFCLIPコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**: PDFアンダーレイを選択:

2 PDFアンダーレイのフレームをクリックします。

3 選択されたPDFのフレームがハイライトされます。

プロンプト表示: PDFクリッピングオプションを入力 [オン(ON)/オフ(OFF)/削除(D)/新規(N)]:<新規(N)>

4 コマンドラインに「D」と入力し、Enterを押します。

5 クリッピング境界線が削除され、完全なPDFアンダーレイが表示されます。

11.20.9 PDFアンダーレイの表示設定を調整

PDFADJUSTコマンドを実行すると、コマンドラインでPDFアンダーレイの**フェード**、**コントラスト**、**モノクロ**の設定を調整できます。

PDFアンダーレイを選択し、**プロパティ**パネルの**アンダーレイ調整**で表示設定を調整します。

11.21 コンポーネントとコンポーネント挿入

コンポーネントは名前付きグループ図形であり、BMINSERTコマンドを使用して図面に挿入できます。コンポーネントはパラメトリックにすることができます。例えば、BricsCAD BIMの窓やドア、BricsCAD メカニカルの標準メカニカルコンポーネントです。

任意の.dwgファイルをコンポーネントとして使用することができます。同じコンポーネントを1つまたは複数の他のコンポーネントに1回または数回挿入できます。コンポーネントが変更されると、コンポーネントのすべての挿入はこれらの変更を自動的に反映します。コンポーネントは自己参照することができません。

コンポーネント挿入は名前が付いた図形です。コンポーネント挿入のデフォルト名は、コンポーネントの名前と挿入の連番で構成されています。コンポーネント挿入は内部的には無名ブロックへの参照、または外部参照として表されます。

パラメータを含む、挿入されたコンポーネントのプロパティは、**メカニカルブラウザ**と**プロパティ**パネルで編集できます。

11.21.1 外部コンポーネントとローカルコンポーネント

コンポーネントはローカルまたは外部のいずれかになります。ローカルコンポーネントはアセンブリと共に、無名ブロックとして.dwgファイルに保存されます。外部コンポーネントは、別の.dwgファイルで定義され、外部参照によって表されるか、または無名ブロックとして保存されたローカルコピーとして表されます。対応する.dwgファイルが変更された場合、BMUPDATEコマンドまたは**メカニカルブラウザ**のコンテキストメニューを使用して、外部コンポーネントのすべての挿入図形を更新することができます。アセンブリで外部コンポーネントを使用する場合は、モデルを共有するときに、必ずすべての関連ファイルを転送してください。

ETRANSMITコマンドを使用して、図面ファイルとそのすべての依存関係(外部参照、イメージ、フォントファイル、印刷構成ファイル、印刷スタイルテーブル、フォントマップファイルなど)のパッケージを作成します。

ローカルコンポーネントを外部コンポーネントに、またはその逆にいつでも変換できます。

ローカルコンポーネントを編集するには、最初にBMEXTERNALIZEコマンドを使用して外部コンポーネントに変換する必要があります。または、BMOPENCOPYコマンドを使用してコンポーネントのコピーを開き、編集して保存することもできます。次に、BMREPLACEコマンドで元のコンポーネントをコピーに置換します。

コンポーネントのデフォルトの挿入種類(**ローカル**または**外部**)を選択することができます。挿入種類を変更するには、**メカニカルブラウザ**でルートノードを選択し、**プロパティとして挿入**から**ローカル**または**外部**を選択します。

BMAUTOUPDATEの値に応じて、外部コンポーネントの挿入は、アセンブリドキュメントを開くときに自動的に更新されるか、BMUPDATEコマンドを使用して手動で更新されます。この値は、**設定**ダイアログボックスで変更することができます。オプションは以下の通りです：

- BMUPDATEコマンドが使用されている場合にのみ更新します。
- ファイルを開くと自動的に更新されます。

11.21.2 コンポーネントの変換

BMEXTERNALIZEコマンドは、ローカルコンポーネントを外部コンポーネントに変換します。

BMLOCALIZEコマンドは、外部コンポーネントをローカルコンポーネントに変換します。

以下のいずれかの操作を行います：

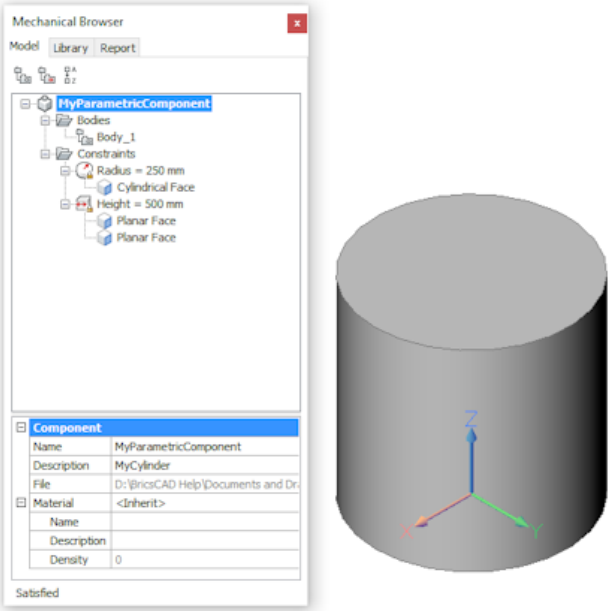
- **アセンブリ**リボンタブの**コンポーネントを外部に切替**( )または**コンポーネントをローカルに切替**をクリックします。これらのツールは、ツールバーの**アセンブリ**とメニューの**アセンブリ**からも利用できます。
- **メカニカルブラウザ**でコンポーネント挿入図形を右クリックし、コンテキストメニューから**外部に切替**または**ローカルに切替**を選択します。
- 図面ウィンドウでコンポーネント挿入図形にカーソルを合わせ、クワッドの**アセンブリモデリング**コマンドグループから**外部へ切替**( )または**ローカルに切替**を選択します。

外部コンポーネントをローカルコンポーネントに変換する場合、コンポーネント定義を含む.dwgファイルは削除されませんが、以降の変更はアセンブリに影響しません。

ローカルコンポーネントの挿入図形( )と外部コンポーネントの挿入図形( )は、**メカニカルブラウザ**に示されるアイコンで区別することができます。

11.21.3 パラメトリックコンポーネント

挿入されたコンポーネントのパラメータ変更をアセンブリレベルで行うことができます。コンポーネントは、少なくとも一つの2Dまたは3Dの寸法拘束、または式を含む自動調整配列複写を含む場合、パラメトリックとみなされます。



注：

- BricsCADは、パラメトリックコンポーネントの定義とその挿入の間の関連性を自動的に維持します。そのため、パラメトリックコンポーネントを開いて編集し、そのジオメトリを変更して保存することができます。結果を確認するには、BMUPDATEコマンドを実行して、アセンブリのメカニカル構造を更新します。
- コンポーネントをデフォルト値に戻す必要がある場合は、**表記**フィールドを編集して内容を削除してください。

特定のコンポーネントパラメータを、これらのコンポーネントの挿入を含む図面で編集できるかどうかをアセンブリレベルで制御できます。これを行うには、**メカニカルブラウザ**でパラメータを選択し、パラメータのプロパティグリッドで**公開**フィールドの値を変更します。

オプションは以下の通りです：

- **オフ**：アセンブリでパラメータを非表示にします。
- **オン**：アセンブリレベルでパラメータを表示します。
- **リセット**：値が式によってコントロールされるパラメータをすべて非表示にし、その他のパラメータは表示します。

パラメータに単位を関連付けることができます。アセンブリレベルでコンポーネントパラメータに直接または式を介して値を割り当てると、アセンブリ図面の図面単位からパラメータの単位に自動的に変換されます。単位のないパラメータに割り当てられた値は変換されません。

デフォルトでは、寸法拘束のパラメータと寸法拘束の式として使用されるパラメータを除いて、すべてのパラメータは単位がありません。BricsCADでは、そのようなパラメータに図面単位を自動的に割り当てます。

11.21.4 コンポーネント挿入のパラメータを編集

パラメトリックコンポーネントをモデルに挿入する場合、**メカニカルブラウザ**または**プロパティ**パネルで、パラメータを編集することができます。

コンポーネント挿入は、パラメータの新しい値に応じてただちに更新されます。ただし、これは別の図面ファイルであるパラメトリックコンポーネントの定義を変更するものではありません。その結果、一つのモデルの中に、同じパラメトリックコンポーネントの複数の挿入図形が、それぞれ違うパラメータ値で存在することもありえます。

メカニカルブラウザでパラメータを編集する

1 コンポーネントの**パラメータ**ノードを展開します。

2 パラメータを選択します。

3 **パラメータ**の**表記**欄に新しい値を入力します。

プロパティバーでパラメータを編集する

1 図面のコンポーネントを選択します。

2 設定グループの**パラメータ**を展開します。

3 使用可能なパラメータの1つに新しい値を入力します。

注：

- **プロパティ**パネルにカレントの値が表示されます。この値が式でコントロールされている場合、その式は新たに入力された値で上書きされます。
- 複数のパラメトリックコンポーネントが選択されている場合、共有されているパラメータを同時に編集することができます。現在異なる値を持つパラメータの設定フィールドは、*Varies* と表示されます。

11.21.5 コンポーネントの置換

BMREPLACEコマンドは、コンポーネントの挿入を置き換えます。トップレベルの挿入のみ置き換えすることができます。

注：置換されるコンポーネントと、置換されたコンポーネントの間で共有されるパラメータ値は自動的にコピーされます。

11.21.6 コンポーネント、ブロック、外部参照

コンポーネントはブロックと外部参照(Xrefs)に基づいていますが、コンポーネントの動作は異なります。外部コンポーネントは、外部参照のようにファイルにリンクされますが、外部コンポーネントは、外部参照(BMINSERTはXATTACHのように機能)またはローカル無名ブロック(BMINSERTはINSERTのように機能)のいずれかで表すことができます。

コンポーネントは部品やアセンブリのいずれかになります。

- 部品：図形のみで構成されます。サブコンポーネントの挿入がありません。
- アセンブリ：図形とサブコンポーネントの挿入で構成されます。サブコンポーネントが削除されても、アセンブリ状態は保持されます。

外部コンポーネントが部品であり、そのパラメータが変更されていない場合、コンポーネントは外部参照として挿入されます。これは、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスの**外部参照**セクションに一覧表示されます。外部参照画層には 'file_name' という接頭辞が付きます。

外部コンポーネントがアセンブリの場合は、ローカルの無名ブロックとして挿入されます。その画層はすべてメインドキュメントの画層に統合され、画層名には接頭辞が追加されません。

11.21.7 ブロックと外部参照の変換

BMMECHコマンドは、現在の図面をメカニカルコンポーネントに変換します。図面がすでにメカニカルコンポーネントの場合、BMMECHは実行されません。

ブロック参照はローカルコンポーネントの挿入に変換され、外部参照は外部コンポーネントの挿入に変換されます。

BMUNMECHは、現在のメカニカルコンポーネントを平面図面に変換します。メカニカルコンポーネントはブロックと外部参照に変換されます。このコマンドはメカニカルコンポーネントのみの図面に適用できます。

11.21.8 コンポーネントベースのフィーチャー

フィーチャーとはエンジニアリング的に重要性を持つ、部品の物理的構成要素です。機能の例としては、穴、リブ、スロット、ポケット、形状があります。3Dソリッドに適用される場合、フィーチャーはジオメトリを削除または追加します。BricsCAD コンポーネント拡張技術を使い、独自のフィーチャーを作成することができます。

拡張されたコンポーネントは、BC_SUBTRACTとBC_UNITEの両方またはいずれかの画層を持っています。BMINSERTコマンドを使用してそのようなコンポーネントを3Dソリッドの面に挿入すると、ターゲットソリッドは次のように変更されます。

- コンポーネントのBC_SUBTRACT画層上のすべての3Dソリッドが、対象の3Dソリッドから差し引かれます。
- コンポーネントのBC_UNITE画層上のすべての3Dソリッドは、対象の3Dソリッドと結合されます。

ブーリアン演算の後に作成されたすべての面は、コンポーネントベースのフィーチャーを形成します。コンポーネント挿入を移動したり、パラメータを変更したりすると更新されます。挿入が削除されると、対象となるソリッドが修復されます。BMLINKコマンドを使用して対象の3Dソリッドを調整します。

BricsCADには、パラメトリックコンポーネントに基づくフィーチャーの例が幾つか含まれています。それらをサンプルとして、独自のフィーチャーを作ることができます。

11.21.9 コンポーネントへの割り当ての物理的マテリアル

メカニカルコンポーネントに物理的マテリアルを割り当てることができます。メカニカルコンポーネントにマテリアルが割り当てられていない場合、そのコンポーネントは親コンポーネントのマテリアルを継承します。親コンポーネントにマテリアルが割り当てられていない場合は、最も近いコンポーネントのマテリアルが使用されます。その結果、共通の親を持つすべてのコンポーネントに、同じマテリアルを割り当てることができます。

1 **メカニカルブラウザでルートコンポーネントを選択します。**

2 **マテリアル**プロパティを選択し、**参照**ボタン( )を押します。

3 **物理的マテリアル**ダイアログボックスで、**プロジェクト内**リストまたは**ライブラリ内**リストからマテリアルを選択します。

ライブラリ内から選択したマテリアルは、**プロジェクト内**データベースに自動的にコピーされます。

4 **OK**ボタンをクリックして、選択したマテリアルをコンポーネントに割り当てます。

コンポーネントからマテリアルを削除するには:

1 **メカニカルブラウザでルートコンポーネントを選択します。**

2 プロパティで**マテリアル**を選択し**クリア**ボタン(X)を押します。

物理的マテリアルを持つコンポーネントの挿入:

メカニカルコンポーネントをモデルに挿入すると、そのすべてのマテリアルがモデルのマテリアルライブラリにコピーされます。対象モデルに同名のマテリアルが既に存在する場合は、このマテリアルが代わりに使用されます。その結果、対象モデルのマテリアルのプロパティが使用されます。これにより、挿入されたコンポーネントのマテリアルのプロパティが置き換えられます。

注：ドキュメントのマテリアルライブラリにコピーされたマテリアルは、**元に戻す**操作を行っても消去されません。

11.21.10　コンポーネントにカスタムプロパティを割り当て

コンポーネントとコンポーネント挿入にカスタムプロパティを割り当てることができます。BIMカスタムプロパティと同様に、コンポーネントのカスタムプロパティは、メカニカルブラウザまたはプロパティパネルのグループに対応するプロパティセットにグループ化されます。プロパティセットには、このカスタムプロパティの名前とタイプを定義するプロパティ定義が含まれています。特定のカスタムプロパティに事前に定義された値を追加することもできます。

デフォルトではプロパティセットは、ドキュメント内のすべてのメカニカルコンポーネントに適用できます。たとえば、「パーツ番号」カスタムプロパティを使用してプロパティセットを定義すると、このプロパティはモデル内のすべてのパーツに表示されます。このプロパティを持つコンポーネントが別のドキュメントに挿入されると、そのドキュメント内のすべてのコンポーネントにもプロパティが表示されます。これを回避するには、インスタンスごとのプロパティセットを使用します。これらのプロパティセットは、指定されたコンポーネントにのみ適用されます。選択したコンポーネントのインスタンスごとのプロパティセットを有効または無効にするには、メカニカルブラウザのコンテキストメニューを使用します。

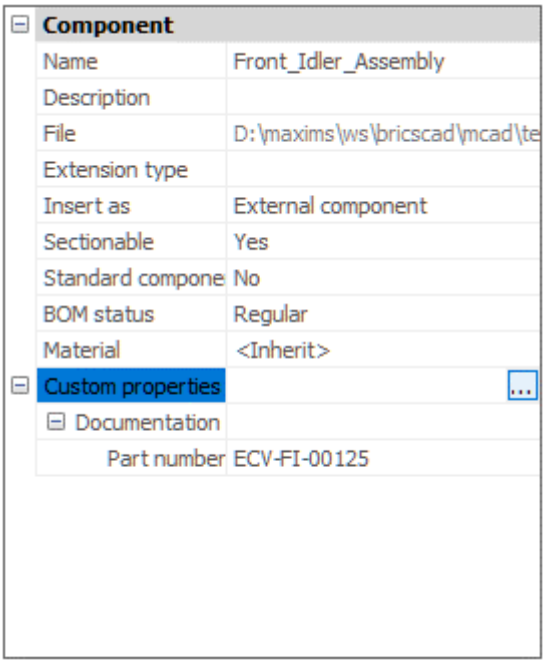
コンポーネントの挿入は、対応するコンポーネントのカスタムプロパティを継承します。ただし、インスタンスのカスタムプロパティは自由に変更できます。これらの変更は、選択したコンポーネントインスタンスにのみ適用され、他のインスタンスやコンポーネント自体には影響しません。コンポーネントのプロパティを変更するには、対応するコンポーネントを開き、メカニカルブラウザでルートノードを選択してそのプロパティを変更する必要があります。

コンポーネントのプロパティを変更

1　メカニカルブラウザでルートとなるコンポーネントを選択します。

2　(オプション)必要に応じて、使用可能なカスタムプロパティを構成します。

- リボンまたはコマンドラインからBMPROPERTIESコマンドを呼び出します。
- または、プロパティで**カスタムプロパティ**を選択して、参照ボタン( )を押します。

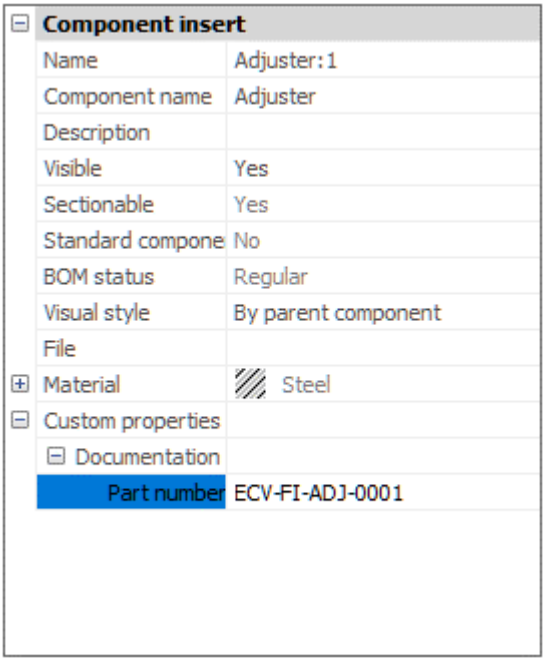


3 (オプション)必要に応じて、このコンポーネントのインスタンスごとのプロパティセットを有効にします。
- ブラウザでルートノードを右クリックし、カスタムプロパティサブメニューで必要なプロパティセットを選択します。

4 必要なプロパティを選択し、新しい値を入力または選択します。

トップレベルのインスタンスプロパティを変更

1 メカニカルブラウザでコンポーネントインスタンスを選択します。



2 (オプション)必要に応じて、使用可能なカスタムプロパティを構成します。
- リボンまたはコマンドラインからBMPROPERTIESコマンドを呼び出します。
- または、プロパティで**カスタムプロパティ**を選択して、参照ボタン( )を押します。

3 (オプション)必要に応じて、このコンポーネントのインスタンスごとのプロパティセットを有効にします。
- ブラウザでルートノードを右クリックし、カスタムプロパティサブメニューで必要なプロパティセットを選択します。

4 必要なプロパティを選択し、新しい値を入力または選択します。

12. 画像とPDFファイルの管理

12.1 画像の管理

EXPIMAGESコマンドは、**図面エクスプローラ – イメージ**ダイアログボックスを表示します。

IMAGEコマンドは、**アタッチメント]**パネルを開きます。

IMAGEADJUSTコマンドは、**[プロパティ]**パネルからイメージのプロパティを調整します。

IMAGEATTACHコマンドは、図面にラスターイメージを添付します。

IMAGECLIPコマンドは、画像を切り取ります。

IMAGEFRAMEコマンドは、イメージの周囲のフレームの表示を切り替えます。IMAGEFRAMEシステム変数の値を設定します。

IMAGEQUALITYコマンドは、画像の表示品質を切り替えます。

IMAGENOTIFYシステム変数は、画像ファイルの紛失や変更に対して警告を出すかどうかを定義します。

XREFNOTIFYTIMEシステム変数は、XREFNOTIFY 、IMAGENOTIFYや PDFNOTIFYがオンの場合、外部参照リソース(アタッチされた外部参照、画像やPDF)の変更に対してチェックする頻度を定義します。

画像の管理は、**図面エクスプローラ - イメージ**ダイアログボックスと**アタッチメント**パネルで行うことができます。

ここでは以下のことができます：

- 画像をアタッチします( )または( )。
- 画像のロード/ロード解除
- 画像のアタッチを解除します( )。
- 画像のパスの編集
- 添付された画像のプレビューを見ることができます(**図面エクスプローラ**ダイアログボックスのみ)

図面エクスプローラダイアログボックス - イメージを開くには、次のいずれかの操作を行います。

- **ツール**メニューから**図面エクスプローラ** > **イメージ**を選択します。
- **図面エクスプローラ**ダイアログボックスの **開いている図面**サブウィンドウで **イメージ**を選択します。
- EXPIMAGESコマンドを起動します。

アタッチメントパネルを開くには、次のいずれかの操作を行います。

- **イメージ**ツールバーまたは**挿入/イメージ**リボンパネルから、**イメージ管理**ツールボタン( )をクリックします。
- IMAGEコマンドを起動します。

12.1.1 イメージをアタッチする

1 以下のいずれかの操作を行います：

- 図面エクスプローラの**イメージ**ダイアログボックスにて、**新規**ツールボタン( )をクリックします。
- **挿入**ツールバーまたは**挿入/イメージ**リボンパネルの**ラスターイメージ参照**ツールボタン( )をクリックします。
- IMAGEATTACHコマンドを起動します。

イメージファイルを選択ダイアログボックスが表示されます。

2 ファイルを選択し、ダブルクリックするか **開く**ボタンをクリックします。

ラスターイメージをアタッチダイアログボックスが表示されます。

3 (オプション) **地形コード情報を使用**にチェックを入れ、**ブラウズ**ボタンをクリックすると、選択したラスターイメージで使用する適切なワールドファイルが開きます。

地形コード情報を使用オプションがオンになっている場合、**挿入位置**、**尺度**および**回転**設定フィールドは使用できません。

4 **挿入点** を指定するか、**画面上を指示**にチェックを入れて選択します。

5 **尺度**を指定するか、**画面上を指示**にチェックを入れて選択します。

6 **回転角度**を指定するか、**画面上を指示**にチェックを入れて選択します。

7 **OK**ボタンをクリックします。

8 **画面上で指定**オプションが選択されていない場合、イメージは目的の挿入点、尺度、回転角度で挿入されます。

そうでない場合は、画面上で挿入ポイント、尺度、回転角度を指定する必要があります。

12.1.2 画像のロードとロード解除

画像を添付してから図面に挿入した場合、画像をロード解除して一時的に非表示にすることができます。ロード解除された画像は、図面には挿入されますが、表示はされなくなります。**イメージフレーム**プロパティがオンの場合、イメージの周囲のフレームは引き続き表示されます。

単一イメージのロード/ロード解除

アタッチメントパネルまたは**図面エクスプローラ - イメージ**ダイアログボックスで、イメージの **ロード**列をクリックします。

複数イメージのロード/ロード解除

1 Ctrlを押しながら、**アタッチメント**パネルまたは**図面エクスプローラ - イメージ**ダイアログボックスで画像を選択します。選択した画像をクリックすると、選択が解除されます。

2 選択した画像の**ロード**列をクリックします。

12.1.3 イメージを削除する

画像はいったん添付されてから図面に挿入されるので、挿入された画像を切り離すことなく図面上で削除することができます。

以下の手順でイメージを削除します：

1 **アタッチメント**パネルまたは **図面エクスプローラ - イメージ**ダイアログボックスでイメージを選択します。

Ctrlを押しながら操作すると複数の画像を選択でき、選択した画像をクリックすると選択解除されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 削除もしくはアタッチ解除(✕)ツールボタンをクリックします。
- 右クリックして、コンテキストメニューから**削除**を選択します。

12.2 イメージユーティリティ

MAGEADJUSTコマンドは、プロパティパネルからイメージのプロパティを調整します。

IMAGECLIPコマンドは、画像を切り取ります。

IMAGEFRAMEコマンドは、イメージの周囲のフレームの表示を切り替えます。IMAGEFRAMEシステム変数の値を設定します。

TRANSPARENCYコマンドは、透明なアルファチャンネルを持つイメージの透過性を切り換えます。アルファチャンネルは、透明度を処理する特別なチャンネルです。イメージにアルファチャネルがある場合、イメージの不透明度レベルを調整して、ビットを半透明または完全に透けて見えるようにすることができます。

注：イメージフレームが表示されない場合(IMAGEFRAME = 0)、窓選択方法を使用してイメージを選択する必要があります。

12.2.1 イメージのクリッピング

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **イメージ**ツールバーの**イメージクリッピング**ツールボタン( )、またはリボンパネルの**挿入** - **イメージ**をクリックします。
- IMAGECLIPコマンドを起動します。

以下が表示されます:画像を選択

2 イメージを選択します。

3 **プロンプト表示**：イメージクリッピングオプションを入力 [オン (ON)/オフ (OFF)/新規境界 (N)]<新規境界 (N)>:

4 Enterを押して、**新規境界**のデフォルトオプションを受け入れます。

5 **プロンプト表示**：[ポリラインを選択 (S)/ポリゴン (P)/矩形状 (R)]<矩形状 (R)>:

Enterを押して、**矩形状**のデフォルトオプションを受け入れます。

6 **プロンプト表示**：最初のコーナーを指定:

7 クリッピングする矩形状の角を定義する最初の点をクリックします。

8 クリッピング矩形状が表示されます。

プロンプト表示：もう一方のコーナーを指示:

9 点をクリックして、クリッピング矩形状を定義します。

10 イメージが切り取られます。

12.2.2 イメージフレーム設定の変更

イメージフレームツール(IMAGEFRAMEコマンド)の使用

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **イメージ**ツールバーまたは**挿入/イメージ**リボンパネルの**イメージフレーム**ツール( )をクリックします。
- IMAGEFRAMEコマンドを起動します。

プロンプト表示：イメージ枠設定を入力:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 0を入力すると、イメージフレームが非表示になります。
- 1を入力すると、イメージフレームを表示および印刷します。
- 2を入力すると、イメージフレームを表示しますが、印刷しません。

IMAGEFRAMEシステム変数の編集

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **図面 - アンダーレイ**を展開します。

3 フレーム(FRAMEシステム変数)を選択し、次を設定します：[3]アンダーレイ、外部参照、イメージ毎に個別の設定を使用

4 イメージフレーム(IMAGEFRAMEシステム変数)を選択します。

5 オプションは以下の通りです：

- 0：イメージフレームを非表示
- 1：イメージフレームを表示、印刷
- 2：イメージフレームを表示するが印刷しない

12.2.3 イメージの透過性を設定

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **イメージ**ツールバーの**画像の透過性**ツールボタン( )、またはリボンパネルの**挿入 - イメージ**をクリックします。
- TRANSPARENCYコマンドを起動します。

以下が表示されます:画像を選択

2 **透過性**プロパティを設定するイメージを選択します。

プロンプト表示：透明モードを入力 [オン (ON)/オフ (OF)]<現在のモード>:

3 以下のいずれかの操作を行います：

- 現在のモードでよければ、Enterを押します。
- **オン**を選択すると、選択したイメージの**透過性**プロパティがオンになります。
- **オフ**を選択すると、選択したイメージの**透過性**プロパティがオフになります。

カメラ画像の透明度：オフ(左)と オン(右)

12.2.4 イメージの表示プロパティを設定

1 イメージを選択します。

2 イメージのプロパティは**プロパティ**パネルに表示されます。

3 **その他**のプロパティカテゴリに移動します。

4 以下のプロパティは、**はい**、または**いいえ**を設定できます。

- **イメージ表示**：イメージの表示/非表示を切り替えます。

- **クリップ表示**：クリップの境界のオン/オフを設定します
- **クリップの反転**：クリップの境界を反転させます。
- **背景の透過性**：透過性のオン/オフを設定します。

12.3 PDFファイルの管理

12.3.1 概要

PDFは、**図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスと**アタッチメント**パネルで管理できます。

ここでは以下のことができます：

- PDFファイルをアタッチ( )。
- PDFをアタッチ解除()。
- PDFのロード/ロード解除
- PDFのパスの編集
- アタッチしたPDFをプレビュー表示プレビューは**図面エクスプローラ**ダイアログボックスでのみ利用可能です。

注：

- **図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスを開くには、次のいずれかの操作を行います。
  - EXPPDFSコマンドを起動します。
  - **リボン**パネルの**挿入/PDF**タブにある**PDFアンダーレイ**ツールボタン( )をクリックします。
- **アタッチメント**パネルを開くには、PDFコマンドを実行します。

12.3.2 PDFファイルをアタッチ

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスで、**新規**ツールボタン( )をクリックします。
- **挿入**ツールバー、**アタッチメント**パネル、または**リボン**パネルの**挿入/PDF**タブで、**PDFをアタッチ**ツールボタン( )をクリックします。
- PDFATTACHコマンドを実行します。

PDFアンダーレイファイルを選択ダイアログが表示されます。

2 CSVファイルを選択し、ダブルクリックするか、**開く**ボタンをクリックします。

PDFアンダーレイをアタッチダイアログボックスが表示されます。

3 **挿入点**を指定するか、**画面上を指示**にチェックを入れて選択します。

4 **尺度**を指定するか、**画面上を指示**にチェックを入れて選択します。

5 **回転**角度を指定するか、**画面上を指示**にチェックを入れて選択します。

6 **OK**ボタンをクリックします。

7 **画面上を指示**オプションのいずれも選択されていない場合、PDFは目的の挿入点、尺度、回転角度で挿入されます。選択されていない場合は、挿入点、尺度、回転角度を指定するよう画面上で求められます。

注：

- PDFADJUSTコマンドを使用して、現在の図面に添付されている1つまたは複数のPDFアンダーレイの面、コントラスト、モノクロレベルを調整することができます。
- PDFCLIPコマンドを使用すると、PDFのアンダーレイを境界線でクリップすることができます。
- PDFFRAMEシステム変数を使用して、PDFアンダーレイフレームの可視性を指定することができます。

12.3.3 PDFのロードとロード解除

PDFをアタッチしてから図面に挿入した場合、PDFをロード解除して一時的に非表示にすることができます。ロード解除されたPDFは、図面には挿入されますが、表示はされなくなります。

単一PDFのロード/ロード解除
アタッチメントパネルまたは**図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスで、目的のPDFの**ロード**列をクリックします。

複数PDFのロード/ロード解除

1 Ctrlを押しながら、**アタッチメント**パネルまたは**図面エクスプローラ - PDF アンダーレイ**ダイアログボックスで、目的のPDFを選択します。Ctrlを押しながら、選択したPDFをクリックすると、選択解除されます。

2 選択したPDFの**ロード**列のチェックボックスをクリックすると、選択した全てのPDFをロード/アンロードします。

注：PDFが読み込まれると、緑色のチェックマークが表示されます。

12.3.4 PDFのアタッチ解除

PDFをアタッチ解除するには：

1 **アタッチメント**パネルまたは **図面エクスプローラ - PDFアンダーレイ**ダイアログボックスでPDFを選択します。

Ctrlを長押しして、複数のブロックを選択できます。選択したPDFをクリックすると、選択解除されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 削除もしくはアタッチ解除( )ツールボタンをクリックします。
- 右クリックして、コンテキストメニューから**削除**または**アタッチ解除**を選択します。

12.3.5 PDF読み込み

PDFIMPORTコマンドを使用して、PDFファイルを取り込み、その内容を単純なCAD図形に変換することができます。このコマンドを使い、図面にすでにアタッチされているPDFアンダーレイをCAD図形に変換することもできます。

注：出来上がったBricsCADコンテンツの精度は、元のPDFファイルの品質に依存します。

12.3.6 PDF書き出し

EXPORTPDFコマンドを使用して、PDFファイルを生成することができます。

レイアウトタブをPDFファイルに書き出すには、まず目的のレイアウトを選択し、EXPORTPDFコマンドを実行します。

注：EXPORTコマンドを使用して、図面を3D PDFに書き出すことができます。

- Communicator for BricsCAD®。
- ライセンスレベルがBricsCAD Pro以上であること。

13. 注釈

13.1 寸法

13.1.1 寸法ツールの概要

寸法ツールは、以下から実行できます：

- **寸法記入**ツールバー
- **寸法記入**メニュー
- **注釈/寸法記入**リボンパネル
- クワッド**(図形未選択)**の**作成**タブ。

アイコン	ツール名	コマンド	説明
	長さ寸法	DIMLINEAR	水平、垂直寸法線を作成します。
	平行寸法	DIMALIGNED	寸法点に角度を合わせて寸法線を作成します。
	寸法線折り曲げ	DIMJOGLINE	長さ寸法または平行寸法に寸法線折り曲げを追加または削除します。
	円弧	DIMARC	円弧寸法を作成します。
	半径寸法	DIMRADIUS	円と円弧に半径寸法を作成します。
	直径寸法	DIMDIAMETER	円と円弧に直径寸法を作成します。
	折り曲げ半径寸法記入	DIMJOGGED	円弧または円の折り曲げ半径寸法を作成します。
	寸法自動調整解除	DIMDISASSOCIATE	選択した寸法図形から連携を削除します。
	寸法再自動調整	DIMREASSOCIATE	図形や図形上の点に寸法を連携させます。
	角度公差	DIMANGULAR	角度寸法を作成します。

アイコン	ツール名	コマンド	説明
	並列寸法	DIMBASELINE	長さ寸法を積み重ねるように作成します。
	直列寸法	DIMCONTINUE	既存の長さ寸法から延長した状態で長さ寸法を作成します。
	座標寸法	DIMORDINATE	座標寸法を作成します。
	回転寸法	DIMLINEAR	回転寸法線を作成します。
	スライド寸法	DIMEDIT + O	選択した寸法の延長線を斜めにします。
	マルチ引出線	MLEADER	マルチ引出線スタイルでMleaders(マルチ引出線)を作成します。
	マルチ引出線編集	MLEADEREDIT	マルチ引出線オブジェクトに引出線を追加、またはマルチ引出線オブジェクトから引出線を削除します。
	引出線追加	AIMLEADEREDITADD	マルチ引出線に引出線を追加します。
	引出線削除	AIMLEADEREDITREMOVE	マルチ引出線から引出線を削除します。
	幾何公差	TOLERANCE	幾何学的公差のレイアウトを定義します。
	中心記入	DIMCENTER	円と円弧に中心線を作成します。
	寸法値編集	DIMEDIT + E	選択した寸法のテキストを定義します。
	寸法値回転	DIMEDIT + R	選択した寸法のテキストを回転させます。

アイコン	ツール名	コマンド	説明
	寸法値移動	DIMTEDIT	寸法の文字を移動させます。
	元の寸法値位置	DIMEDIT	選択した寸法のテキストの回転や移動を取り消します。
	寸法スタイル適用	DIMSTYLE + A	カレントの寸法スタイルを選択した寸法に適用します。
	寸法スタイル保存	DIMSTYLE + S	カレントの寸法設定を新しいスタイルに保存します。
	寸法スタイル呼出	DIMSTYLE	カレントの寸法スタイルを設定します。
	寸法変数表示	DIMSTYLE + ST	コマンドラインとプロンプト履歴ウィンドウにに寸法変数の状態を表示します。
	引出線	DIMLEADER	文字付、または文字なしの引出線を作成します。
	クイック引出線	QLEADER	引出し線を作画します。ダイアログボックスで引出線のプロパティを指定して、一連の引出線に再利用することができます。

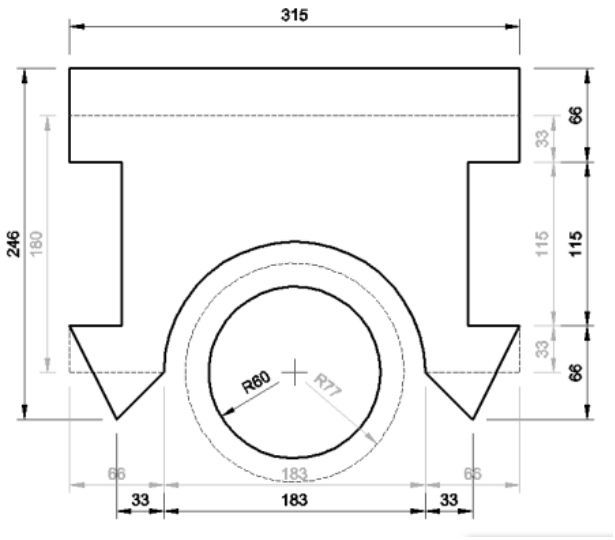
13.1.2 自動調整寸法

自動調整は、寸法で形作られた図形が移動または変更されると自動的に更新されます。

BricsCADは、DIMASSOC の値が 2(デフォルト)の場合、自動調整寸法を作成します。

自動調整のプロパティは、寸法がペーパー空間に配置され、モデル空間の図形に自動調整されている場合にも適用されます。

必要であれば、DIMREGENコマンドを使ってすべての自動調整寸法を更新することができます。



以下の図形スナップを使用して、自動寸法調整を作成することができます：**端点、中点、中心、垂線、四半円点、挿入、点、交差、仮想交点。**

DIMDISASSOCIATEコマンドは選択した寸法図形から自動調整機能を削除します。

DIMREASSOCIATEコマンドは、寸法を図形や図形上のポイントに再調整または自動調整します。

GENERATEASSOCVIEWSシステム変数は、VIEWBASEコマンドやVIEWSECTIONコマンドで生成されたビュー、BIMSECTIONUPDATEコマンドで生成された図面に対して、自動調整寸法の作成を可能にします。

ANNOMONITORシステム変数は、関連付けを解除した寸法に警告サインを付けるかどうかをコントロールします。

13.1.3 寸法スタイル設定

寸法設定は、寸法スタイルに保存されます。寸法図形は、現在の寸法スタイルの設定を使用して作成されます。

図面エクスプローラのDIMSTYLEコマンドを使用して寸法スタイルを作成・変更します。

-DIMSTYLEコマンドは、コマンドラインで寸法スタイルを作成、変更します。

寸法スタイルは6つの設定グループで構成されています。

- **線と矢印**
- **文字**
- **フィット**
- **基本の単位**
- **併記単位**
- **公差**

13.1.3.1 寸法変数の現在の状態の一覧表示

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法変数表示**ツールボタン()をクリックします(**寸法記入**ツールバー)。
- **寸法記入**メニューの**寸法変数表示**を選択します。

コマンドラインに寸法変数の一覧が表示されます。

2 **F2**を押して、**BricsCADプロンプト履歴**ウィンドウを開きます。

3 Enterを押して、一覧を継続表示します。

4 **F2**を押して、**BricsCADプロンプト履歴**ウィンドウを閉じます。

13.1.4 寸法スタイルの操作

DIMSTYLEコマンドを実行すると、**図面エクスプローラ – 寸法スタイル**ダイアログボックスが開きます。

ここでは以下のことができます：

- 新しい寸法スタイルの作成
- 寸法の子スタイルの作成
- 寸法スタイルの編集
- 寸法スタイルの上書き定義
- 寸法スタイルの名前変更
- カレントの寸法スタイル設定
- 図面間で寸法スタイルをコピー
- 寸法スタイルの比較
- 寸法スタイルの削除

13.1.4.1 寸法スタイルをカレントに設定する

1つ目の方法：

1 **ステータスバー**の寸法スタイル欄を右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューで寸法スタイルを選択します。

2つ目の方法：

1 DIMSTYLEコマンドを起動します。

1 カレントの寸法スタイルは、**現在**の列にマークが付きます。

2 寸法スタイルの現在の列をクリックします。

13.1.4.2 寸法スタイルの新規作成

1 DIMSTYLEコマンドを起動します。

2 新しいスタイルのテンプレートとして使用される既存の寸法スタイルを選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- **新規**ボタンをクリックします。
- 既存の寸法スタイル名のいずれかにカーソルを合わせ、右クリックしてコンテキストメニューから**新規**を選択します。

4 **寸法スタイル名**欄を選択し、新規寸法スタイルの名前を入力します。

5 新規寸法スタイルの設定を定義します。

注：選択した寸法スタイルのコピーとして新規寸法スタイルを作成するには、コンテキストメニューの**新規スタイルへ保存**オプションを使用します。

13.1.4.3 寸法の子スタイルの作成

各寸法スタイルで、寸法タイプごとに子スタイル（**直線形**、**角度寸法**、**半径**、**直径**、**座標**、**引出線**）を作成することができます。

カレントの寸法スタイルで寸法タイプに子スタイルがある場合、寸法タイプを作成すると自動的にそのような子スタイルが使用されます。

寸法の子スタイルを作成するには、以下を実行します：

1 親寸法スタイルを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**新しい子スタイル**を選択します。

コンテキストメニューが表示されます。

2 コンテキストメニューで寸法図形タイプを選択します。

3 子スタイルの名前：<親スタイル>：<寸法図形タイプ>

4 子スタイルを選択して、選択した寸法図形タイプのプロパティを定義します。これは親スタイルとは異なっている必要があります。

13.1.4.4 寸法スタイルの編集

1 DIMSTYLEコマンドを起動します。

2 寸法スタイルを選択します。

3 寸法スタイルの設定を調整します。

4 **図面エクスプローラ**のダイアログボックスを閉じます。

13.1.4.5 寸法スタイル上書きの定義

1 DIMSTYLEコマンドを起動します。

2 寸法スタイルを選択します。

3 寸法図形リストの1行目は次のようになっています：<overrides on [寸法スタイル名]>

4 上書きを設定します。

5 **図面エクスプローラ**のダイアログボックスを閉じます。

注：

- 上書して寸法を作成することはお奨めできません。
- 変更を確認するためには、カレントの寸法スタイル定義を修正せずに、寸法上書き設定を使用してください。それから**カレントのスタイルに上書き保存**、または**新規スタイルへ保存**オプションを使用してください。
- 別のスタイルを現在のスタイルに設定すると、既存の寸法スタイルの上書きを破棄します。

13.1.4.6 寸法スタイルの名前変更

1 DIMSTYLEコマンドを起動します。

2 寸法スタイルを選択します。

3 右クリックして、コンテキストメニューから**名前を変更**を選択します。

4 新しい名前を**寸法スタイル名**欄に入力し、Enterを押します。

13.1.4.7 別の図面への寸法スタイルのコピー

1 コピー元図面とコピー先図面を開きます。

2 DIMSTYLEコマンドを起動します。

3 開いている図面は、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスの**開いている図面**リストに表示されます。

4 **開いている図面**リストでコピー元図面の**寸法スタイル**を選択します。

5 コピーする寸法スタイルを選択します。

6 複数の寸法スタイルを選択するには、Ctrlを押したまま選択します。

7 選択した寸法スタイルの一つにカーソルを合わせ、マウスの左ボタンを押したまま、選択したものを対象の図面にドラッグし、マウスの左ボタンを離します。

13.1.4.8 寸法スタイルを比較

1 DIMSTYLEコマンドを起動します。

2 寸法スタイルを選択します。

3 最初の寸法スタイルをクリックし、Ctrlを押しながら次の寸法スタイルを選択します。

選択したスタイルのプロパティが表示されます。異なる設定はハイライトされます。

4 (オプション) Ctrlを押したまま寸法スタイルをクリックすると、比較表に寸法スタイルを追加または削除できます。

13.1.5 寸法スタイルツールの使用

寸法記入ツールバーおよび**寸法記入**リボンパネルの寸法スタイルツールでは、次の操作が可能です：

- 選択した寸法図形に現在の寸法スタイルを適用します。
- 新しい寸法スタイルを作成します。
- 寸法スタイルを復元します。
- 現在の寸法スタイル設定を一覧表示します。

13.1.5.1 現在の寸法スタイルを適用する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法スタイル適用**ツール( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューで**寸法スタイルを適用**を選択します。
- -DIMSTYLEを起動し、「**a**」または「**apply**」と入力して Enterを押します。

2 **プロンプト表示**：カレントのスタイルを適用する寸法を選択 [選択オプション (?)]:

3 寸法を選択し、Enterを押します。

注：寸法スタイル設定は寸法図形のみに適用されるので、図面の全ての寸法に現在の寸法スタイルを適用させたい場合は、ステップ2で全ての図形を選択することができます。

13.1.5.2 寸法スタイルを保存する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーの**寸法スタイル保存**ツールボタン( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューで**寸法スタイル保存**を選択します。
- -DIMSTYLEを起動し、「**S**」または「**save**」と入力して Enterを押します。

プロンプト表示：保存するスタイル名を入力、または [? で一覧表示]:

2 新しい寸法スタイルの名前を入力し、Enterを押します。

3 名前がすでに存在する場合は、コマンドラインに再設定するか否かが表示されます。

13.1.5.3 寸法スタイルを復元します。

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーの**寸法スタイル呼出**ツールボタン( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューで**寸法スタイル呼出**を選択します。
- -DIMSTYLEを起動し、「**r**」または「**restore**」と入力して Enterを押します。

プロンプト表示：呼び出す寸法スタイル、または [? で一覧表示]<選択寸法>:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 寸法スタイル名を入力し、Enterを押します。
- Enterを押して、図面上の寸法図形をクリックします。
- 選択された図形の寸法スタイルが現在の寸法スタイルになります。
- コマンドラインに？と入力すると、現在の図面に設定された寸法スタイルの一覧が表示されます。

13.1.5.4 現在の寸法スタイルの設定を一覧表示する

以下のいずれかの操作を行います：

- 寸法記入ツールバーの**寸法変数表示**ツールボタン( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューの**寸法変数表示**を選択します。
- -DIMSTYLEコマンドを起動し、「**st**」または「**status**」と入力してEnterを押します。

現在の寸法スタイルのステータスが **プロンプト履歴**ウィンドウに一覧表示されます。**プロンプト履歴**ウィンドウを閉じるには、F2を押します。

13.1.6 長さ寸法の作成

長さ寸法は直線距離または長さを示します。水平、垂直、既存の図形または選択した寸法補助線の基点に平行に配置することができます。

以下のコマンドは、長さ寸法図形を作成します：

- DIMLINEAR：カレントの座標系(WorldまたはUCS)を基準にして、水平および垂直方向の長さ寸法を作成します。
- DIMALIGNED：線やポリラインセグメントに対して平行な(整列した)寸法を作成します。このコマンドは、ポリラインの円弧セグメント、円弧、円にも対応していますが、その直径の寸法には対応しません。(DIMDIAMETERコマンドを参照)

- DIMBASELINE：複数の長さ寸法と角度寸法を、既存の寸法の同じ基点を起点として配置します。このコマンドは、他に少なくとも1つの寸法がすでに図面に存在する場合にのみ動作します。
- DIMCONTINUE：前の寸法の端点または既存の別の寸法から長さまたは角度寸法を続けて、一連の寸法を配置します。
- DIMARC：円弧やポリラインの円弧セグメントの長さを測る寸法を配置します。

13.1.6.1 水平または垂直方向の長さ寸法を作成

1 DIMLINEARコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**:1番目の寸法補助線の原点 <図形を選択>:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 1番目の補助線の基準点を指定します。続けて2番目の補助線の基準点を指定します。
- Enter キーを押し、寸法を記入する線分またはポリラインの線形セグメントを選択します。

寸法線が動的に表示されます。

カーソルを内側に移動させて水平方向の寸法、または水平に移動させて垂直方向の寸法を作成します。

3 寸法線を配置する点を指定します。

13.1.6.2 平行寸法を作成

1 DIMALIGNEDコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**:1番目の寸法補助線の原点 <図形を選択>:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 1番目の補助線の基準点を指定します。続けて2番目の補助線の基準点を指定します。
- Enter キーを押し、寸法を記入する線分またはポリラインの線形セグメントを選択します。

寸法線が動的に表示されます。

3 寸法線を配置する点を指定します。

13.1.6.3 回転寸法を作成

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーまたはリボンパネルの**回転寸法**ツールボタンをクリックします。
- **寸法記入**メニューの**回転寸法**を選択します。

プロンプト表示: 1番目の寸法補助線の原点 <図形を選択>: 以下のいずれかを実行します:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 1番目の補助線の基準点を指定します。続けて2番目の補助線の基準点を指定します。
- Enter キーを押し、寸法を記入する線分またはポリラインの線形セグメントを選択します。

プロンプト表示:寸法線の角度 <0>:

3 以下のいずれかの操作を行います：

- コマンドラインに回転角度を入力して、Enterを押します。
- 2つのポイントを指定して回転角度を入力します。

寸法線が動的に表示されます。

4 寸法線を配置する点を指定します。

13.1.6.4 並列寸法、直列寸法を作成

注 :

- 寸法の始点を選択する際、寸法線自体をクリックすると、選択された延長線または最も近い延長線から並列寸法または直列寸法が開始されます。
- 角度寸法を選択する場合、並列または直列の角度寸法が作成されます。
- 並列寸法間の距離は、DIMDLI(寸法スタイルの並列寸法間隔プロパティ)によって制御されます。

並列寸法を作成

1 DIMBASELINEコマンドを起動します。

2 **現在のセッションで長さ寸法または角度寸法をまだ作成していない場合、プロンプト表示**: ベースラインの寸法を選択してください:

長さ寸法または角度寸法を選択します。

並列寸法が動的に表示されます。

それ以外の場合、プロンプト表示:

ベースライン: 次の延長線の起点または [寸法の始点を選択(S)/元に戻す(U)] <寸法の始点を選択(S)>:

並列寸法は、最後に作成された長さ寸法または角度寸法から動的に表示されます。

または、Enterを押して、別の長さ寸法または角度寸法を選択します。

3 最初の並列寸法を作成する点を指定します。

新しい並列寸法は、同じ開始寸法から動的に表示されます。

4 以下のいずれかの操作を行います :

- 最初の並列寸法を作成する点を指定します。
- Enterを押して、次の並列寸法の別の寸法の始点を選択します。
- Escを押して終了します。

5 手順4を繰り返します。

直列寸法を作成

1 DIMCONTINUEコマンドを起動します。

2 **現在のセッションで長さ寸法または角度寸法をまだ作成していない場合、プロンプト表示**: 続行するには寸法を選択してください:

長さ寸法または角度寸法を選択します。

並列寸法が動的に表示されます。

それ以外の場合、プロンプト表示:

続行: 次の延長線の起点または [寸法の始点を選択(S)/元に戻す(U)] <寸法の始点を選択(S)>:

新しい寸法は、最後に作成された長さ寸法または角度寸法から動的に表示されます。

または、Enterを押して、別の長さ寸法または角度寸法を選択します。

3 最初の直列寸法を作成するポイントを指定します。

新しい直列寸法が動的に表示されます。

4 以下のいずれかの操作を行います：
- 最初の直列寸法を作成するポイントを指定します。
- Enterを押して、次の直列寸法の別の寸法の始点を選択します。
- Escを押して終了します。

5 手順4を繰り返します。

13.1.6.5 円弧寸法を作成

1 DIMARCコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**:円弧か、ポリラインの円弧セグメントを選択:

2 円弧またはポリラインの円弧セグメントを選択します。

3 円弧の長さ寸法が動的に表示されます。

4 寸法線を配置する点を指定します。

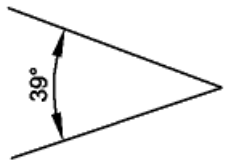
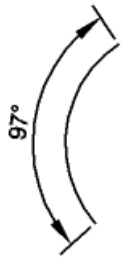
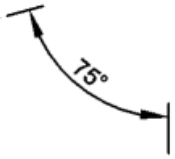
13.1.7 角度寸法の作成

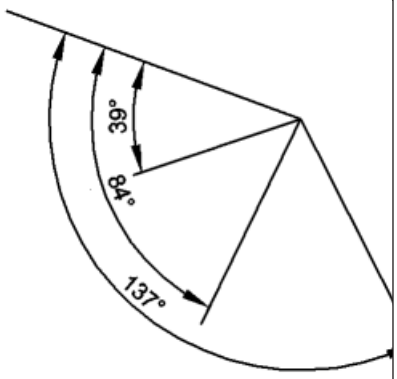
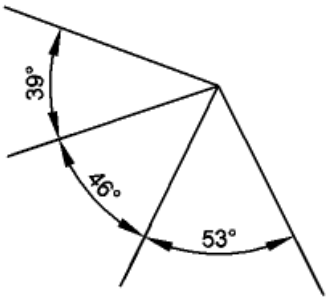
DIMANGULARコマンドは、角度寸法を作成します。

角度寸法は、2 本の線分、ポリラインの 2 つの線形セグメント、または円弧の角度間で測定された角度を注釈します。また、角度の頂点と2つの端点を選択することで、角度の寸法を作成することもできます。

既存の角度寸法から始めて、並列寸法や直列寸法を追加することができます。

- 角度並列寸法は、共通の第1延長線の原点から追加の寸法を挿入します。
- 角度直列寸法は、前の角度寸法の第2延長線からの角度寸法を継続するものです。

		
二線間で測定する角度寸法	円弧の角度寸法	頂点と2つの端点によって定義される角度寸法

		
角度並列寸法	角度直列寸法	

13.1.7.1 2線間の角度寸法

1 DIMANGULARコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：線分、円弧、円を選択 [選択オプション (?)]<角度を指定する場合は ENTERを押す>:

2 線分または線形のポリラインセグメントを選択します。

3 **プロンプト表示**：角度のもう一方の線 [選択オプション (?)]:

4 2本目の線分または線形のポリラインセグメントを選択します。

5 角度寸法が動的に表示されます。

プロンプト表示：円弧寸法の位置 [角度 (A)/文字 (T)]:

6 寸法を配置するポイントを指定します。

7 カーソルを線または補助線の間の内角寸法に合わせます。

13.1.7.2 円弧で囲まれた角度の寸法

1 DIMANGULARコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：線分、円弧、円を選択 [選択オプション (?)]<角度を指定する場合は ENTERを押す>:

2 円弧を選択します。

3 角度寸法が動的に表示されます。

プロンプト表示：円弧寸法の位置 [角度 (A)/文字 (T)]:

4 寸法を配置するポイントを指定します。

13.1.7.3 頂点と2つの端点で角度寸法を作成

1 DIMANGULARコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：線分、円弧、円を選択 [選択オプション (?)]<角度を指定する場合は ENTERを押す>:

2 Enterを押します。

3 **プロンプト表示**：角度の頂点：

4 点を指定します。

5 **プロンプト表示**：角度の1番目の辺:

6 点を指定します。

7 **プロンプト表示**：角度のもう一方の辺:

8 点を指定します。

9 角度寸法が動的に表示されます。

プロンプト表示：円弧寸法の位置 [角度 (A)/文字 (T)]:

10 寸法を配置するポイントを指定します。

11 カーソルを内角または外角いずれかの寸法に合わせます。

13.1.8 直径寸法と半径寸法の作成

DIMDIAMETERコマンドとDIMRADIUSコマンドは、円や円弧の直径寸法と半径寸法を作成します。

13.1.8.1 直径寸法の作成

1 DIMDIAMETERコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：寸法入力する円弧、または、円を選択 [選択オプション (?)]:

2 円弧または円を選択します。

3 直径寸法が動的に表示されます。

4 寸法図形を配置する点を指定します。

13.1.8.2 半径寸法の作成

1 DIMRADIUSコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：寸法入力する円弧、または、円を選択 [選択オプション (?)]:

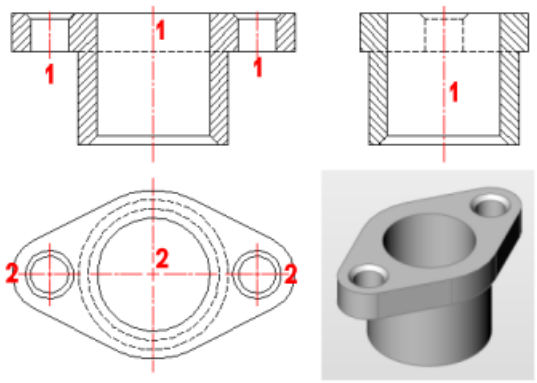
2 円弧または円を選択します。

3 半径寸法が動的に表示されます。

4 寸法図形を配置する点を指定します。

13.1.9 中心線と中心マーク

中心線と中心マークは、対称軸と円形開口部の中心を示す図面の参照図形です。中心線と中心マークは自動調整図形です：参照される線、円、円弧が変更されると自動的に調整されます。



1　中心線

2　中心のマーク

CENTERLINEコマンドは、選択された2本の線に自動調整された中心線図形を作成します。

CENTERMARKコマンドは、選択した円や円弧に自動調整された中心マーク図形を作成します。

CENTERREASSOCIATEコマンドは、中心線図形と選択された2本の線、または中心マークと選択された円や円弧の間の自動調整を再作成します。

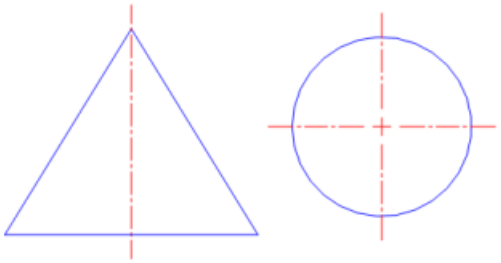
CENTERDISASSOCIATEコマンドは、中心線と中心マーク図形の自動調整を解除します。

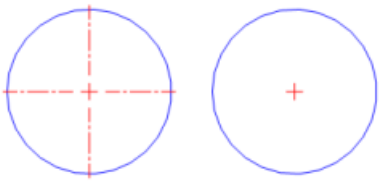
CENTERRESETコマンドは、中心線と中心マークの図形をリセットします。

13.1.9.1　中心図形のシステム変数

中心線図形と中心マーク図形のプロパティと幾何図形は、システム変数によってコントロールされます。

名前	Title	説明
CENTERCROSSGAP	中心マークのギャップ	中心マークと中心線の間の隙間を定義します。 値を入力して、隙間の絶対サイズを作図単位で指定します。 円または円弧の直径に対する隙間の大きさを設定するには、値の後にxを入力します。 初期値の0.05xでは、直径の5/100の隙間ができます。 .(ドット)と入力すると、隙間は作成されません。

名前	Title	説明
CENTERCROSSSIZE	中心マークのサイズ	自動調整の中心マークのサイズを定義します。 値を入力して、中心マーク線の絶対サイズを作図単位で指定します。 円または円弧の直径に対する中心マークの大きさを設定するには、値の後にxを入力します。 デフォルト値の0.1xでは、直径の1/10の中心マークが作成されます。 .(ドット)と入力すると、長さゼロの線で中心マークを作ります。
CENTEREXE	中心線の延長線の長さ	中心線の延長線の長さを定義します。値は作図単位で表されます。 
CENTERLAYER	中心マークまたは中心線のデフォルト画層	新しい中心線や中心マークのデフォルト画層を指定します。 画層名を入力します。そのような画層が存在しない場合は、中心線や中心マークの作成時に画層が作成されます。 .(ドット）と入力すると、現在の画層に中心線や中心マークを作成します。
CENTERLTYPEFILE	中心マークまたは中心線の線種ファイル	中心線や中心マークの作成に使用する線種ファイルを指定します。 インチ単位の作図のデフォルト： **default.lin** メートル単位の作図のデフォルト：**iso.lin**
CENTERLTYPE	中心マークまたは中心線の線種	新しく作成した中心線や中心マークの線種を指定します。 新しい線種名を入力するか、Enterを押して現在の名前をそのまま使用します。 .(ドット)を入力すると、連続した線になります。
CENTERLTSCALE	中心マークまたは中心線の線種尺度	新しく作成した中心線や中心マークの線種尺度を指定します。

名前	Title	説明
CENTERMARKEXE	中心マークまたは中心線の自動延長	新しい中心マークから中心線を延長する(左側)か延長しない(右側)かを決めます。 

13.1.9.2 中心図形の編集

中心図形のプロパティは、**プロパティ**パネルで編集できます。

13.1.10 座標寸法の作成

座標寸法は、原点または基点(現在の座標系(WCSまたはUCS)の原点)からの垂直方向の距離を示します。座標寸法は、X座標またはY座標と引出線で構成されています。X座標寸法はX軸に沿った距離を測定し、Y座標寸法はY軸に沿った距離を測定します。

座標点を選択すると、2つ目の点をドラッグした方向に応じて、その点がX座標なのかY座標なのかが自動的に検出されます。また、その座標ががX座標かY座標かを指定することもできます。座標寸法文字は、現在の寸法スタイルで指定されている文字の向きに関係なく、常に座標引出線に合わせて配置されます。

13.1.10.1 座標寸法を作成する

1 座標系の原点を、座標寸法の基準点に設定します。

2 DIMORDINATEコマンドを起動します。

3 **プロンプト表示**：座標寸法の点を指定:

4 点を指定します。

5 座標寸法が動的に表示されます。

プロンプト表示：引出線の終点 [Xデータム/Yデータム/文字 (T)/角度 (A)]:

6 クリックして座標寸法を配置します。

13.1.11 寸法の編集

寸法図形を編集することができます：

- グリップを使用します。
- 寸法値を編集します。
- 寸法値を回転させます。
- 寸法文字の位置を変更します。
- 文字位置を復元します。
- 補助線の傾斜を作成します。

13.1.11.1 グリッドを使用して長さ寸法を編集

1 寸法図形を選択します。

1 5つのグリップが表示されます：

2つの基点グリップ(1)

2つの寸法線グリップ(2)

1つの寸法文字グリップ(3)

2 (オプション)基点グリップをドラッグして、寸法基点を調整します。

3 寸法文字は自動的に調整されます。

4 (オプション)寸法線を移動するために寸法線グリップをドラッグします。

5 (オプション)寸法文字を移動するために、文字グリップをドラッグします。

注：

- **文字の移動**設定(DIMTMOVEシステム変数)により、寸法線が文字に沿って移動するか、文字が単独で移動するかが決まります。**文字の移動**設定が**引出線付きで寸法値を移動**に設定されている場合は、引出線が作図されます。
- 隣接した2つの寸法(連続寸法)が2つとも選択されている場合、その一致するグリップは同時に移動できます。

13.1.11.2 寸法文字を編集する

寸法文字の編集方法は以下の3通りです：

- MTextエディタ：
  - DDEDIT コマンドを使用します
  - 寸法図形をダブルクリックして編集します
- **プロパティ**パネルの**寸法値の優先**欄。
- DIMEDITコマンドの**文字編集**オプション。

注：

次のタグで寸法文字の書式設定：

- **¥L**（バックスラッシュ大文字L）で下線を開始し、 **¥l**（バックスラッシュ小文字L）で下線を終了します。
- < > でデフォルトの寸法テキスト（＝測定距離）を追加します。
- 寸法図形で代替単位がオフになっている場合に、[] で代替単位を追加します。
- **%%d** で度数記号（°）を追加します
- **%%c** で、直径記号(Ø)を追加
- **%%p** で、プラス/マイナス記号(±)を追加

例：**寸法値の優先**フィールドに**%%c¥L<> cm**と入力すると、寸法値は次のように表示されます。

Ø24,43cm

13.1.11.3 寸法文字を回転する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーまたはリボンパネルの**寸法値回転**ツール( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューの**寸法値回転**を選択します。
- DIMEDITコマンドを起動し、**テキスト回転**オプションを選択します。

プロンプト表示：寸法値の角度:

2 値を入力し、Enterを押します。

3 **プロンプト表示**：値を回転する図形を選択 [選択オプション (?)] ：

4 寸法を選択し、Enterを押します。

13.1.11.4 寸法値の位置を変更

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーまたはリボンパネルの**寸法値移動**ツール( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューの**寸法値移動**を選択します。
- DIMTEDITコマンドを起動します。

プロンプト表示：寸法値の位置を変更する寸法を選択:

2 寸法を選択します。

3 寸法値が動的に移動します。

4 クリックすると寸法値が移動します。

13.1.11.5 文字の位置を元に戻す

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **元の寸法値位置**ツール( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューの元の**元の寸法値位置**を選択します。
- DIMEDITコマンドを起動し、**寸法値位置を元に戻す**オプションを選択します。

プロンプト表示：寸法値をデフォルト位置に戻す寸法を選択 [選択オプション (?)] ：

2 寸法を選択し、Enterを押します。

13.1.11.6 斜めの寸法補助線を作成する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーまたはリボンパネルの**スライド寸法**ツール( )をクリックします。
- **寸法記入**メニューで、**スライド寸法**を選択します。
- DIMEDITコマンドを起動し、**斜線**オプションを選択します。

プロンプト表示：傾斜にする長さ寸法を選択 [選択オプション (?)]：

2 寸法図形を選択し、Enterを押します。

3 **プロンプト表示**：傾斜角度を入力:

4 値を入力し、Enterを押します。

注：回転していない補助線を復元するには、上記の手順を実行し、「傾斜角度を入力：」プロンプトに0(ゼロ)を入力します。

13.1.12 引出線と注釈の作成

引出線は、矢印、線分、ポリラインまたはスプラインと注釈で構成されます。

引出線と注釈の配置：

- 矢印の位置を指定します。
- 引出線セグメントを作成します。
- 注釈文字を入力します。

13.1.12.1 引出線と注釈を作成

1 LEADERコマンドまたはDIMLEADERコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：引出線の開始：

2 矢印の位置を指定します。

3 **プロンプト表示**：次の点

4 最初の引出線セグメントの端点を指定します。

5 **プロンプト表示**：次の点 [形式 (F)/元に戻す (U)/注釈記入 (A)]<注釈記入 (A)>:

6 引出線にさらにセグメントを追加し、Enterを押すか右クリックしてセグメントの追加を中止します。

7 **プロンプト表示**：注釈文字の先頭行 <オプション>:

8 注釈文字の最初の行を入力し、Enterを押します。

9 **プロンプト表示**：注釈の次の行：

10 以下のいずれかの操作を行います：
   - 引出線と注釈文字を作成するためにEnterを押すか、右クリックします。
   - 続けて注釈文字に引出線を加えてください。それから引出線と注釈文字を作成するために、Enterを押すか右クリックします。

13.1.12.2 引き出し線だけを作成

1 LEADERコマンドまたはDIMLEADERコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：引出線の開始：

2 矢印の位置を指定します。

3 **プロンプト表示**：次の点

4 最初の引出線セグメントの端点を指定します。

5 **プロンプト表示**：次の点 [形式 (F)/元に戻す (U)/注釈記入 (A)]<注釈記入 (A)>:

6 引出線にさらにセグメントを追加し、Enterを押すか右クリックしてセグメントの追加を中止します。

7 **プロンプト表示**：注釈文字の先頭行 <オプション>:

8 Enterを押します。

9 **プロンプト表示**：寸法値のオプション [ブロック (B)/コピー (C)/無し (N)/公差 (T)/マルチテキスト (M)]<マルチテキスト

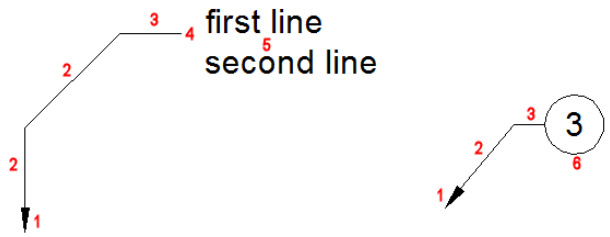
(M)>:

10 **無し** オプションを選択します。

13.1.13 マルチ引出線の作成

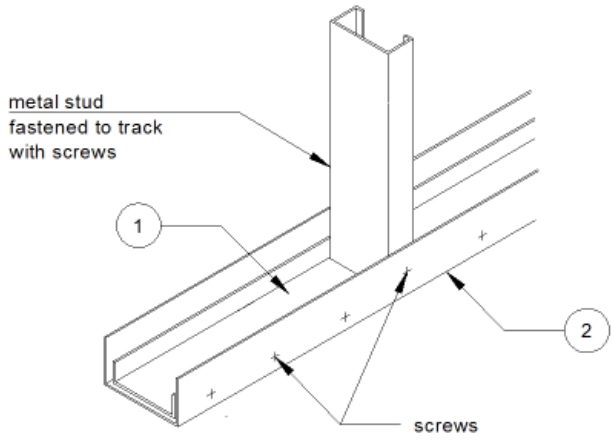
マルチ引出線の構成：

- 矢印(1)
- 直線または曲線の、1つ以上の引出線(2)
- オプションとして、水平参照線(3)と参照線との差(4)
- コンテンツ：複数行の文字図形(5)またはブロック(6)のどちらか



マルチ引出線は、カレントのマルチ引出線スタイルを使用して作成されます。どの図面も**デフォルト**引出線スタイルを有していて、それらは名前を変更したり削除することはできません。しかし**デフォルト**引出線スタイルをカスタマイズすることはできます。MLEADERコマンドでは、カレントのマルチ引出線スタイルのオーバーライドを定義することができます。

マルチ引出線は、矢印1、参照線1、コンテンツ1で作成されます。



13.1.13.1 マルチ引出線を作成する

1 (オプション)MLEADERSTYLEコマンドを起動して、カレントのマルチ引出線スタイルを設定します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーまたはリボンパネルの**マルチ引出線**ツールボタン()をクリックします。
- **寸法記入**メニューの**マルチ引出線**を選択します。
- MLEADER コマンドを起動します。

プロンプト表示：引出線の矢印位置を指定、または [引出参照線 (L)/最初のコンテンツ(C)/オプション (O)] : <オプ

ション>

3 (オプション)配置オプションを入力:
   - 矢印1を指示
   - 引出参照線1を指定
   - 内容1を指定

   直近に使用した配置オプションを繰り返します。

4 デフォルトは矢印位置を指定 - 引出参照線を指定 - 内容を指定 です。

5 (オプション)カレントのマルチ引出線スタイルにオーバーライドを定義したい場合は、**オプション**を選択します。

   プロンプト表示：オプションを入力 [引出線 (L)/引出参照線(A)/コンテンツ(C)/最大点数(M)/最初の角度 (F)/2番目の角度(S)/終了オプション(X)]<終了オプション>:

   オプションを指定し、**終了オプション**を選択して次に進みます。

6 引出線の矢印の位置を定義するための点を指定します。

7 **プロンプト表示**：引出参照線の位置を指示:

8 引出参照線の位置を指示します。

9 コンテンツの種類によって変わります：
   - **MText**：MTextコマンドが起動します。
   - **Block**：ブロックが挿入されます。
   - **終了**：コマンドが終了します。

13.1.13.2 引出線への頂点の追加

1 必要に応じて**F12**キーを押し、**クワッド**カーソルメニューを起動します。

2 頂点を追加したい引出線の上でカーソルを一時停止し、Ctrlを押したままにします。

3 **クワッド**カーソルメニューが表示されます。

4 カーソルを**クワッド**カーソルメニューに移動し、**編集**タブを展開します。

5 **頂点を追加**ツール()をクリックします。

   新しい頂点は動的に追加されます。

6 頂点の位置を指定します。

13.1.13.3 引出線からの頂点の削除

1 必要に応じて**F12**キーを押し、**クワッド**カーソルメニューを起動します。

2 頂点を追加したい引出線の上でカーソルを一時停止し、Ctrlを押したままにします。

3 **クワッド**カーソルメニューが表示されます。

4 カーソルを**クワッド**カーソルメニューに移動し、**編集**タブを展開します。

5 **頂点を削除**ツール()をクリックします。

   頂点が削除されます。

13.1.13.4　マルチ引出線に引出線を追加する

1　必要に応じて**F12**キーを押し、**クワッド**カーソルメニューを起動します。

2　マルチ引出線図形にカーソルを合わせます。

3　**クワッド**カーソルメニューが表示されます。

4　カーソルを**クワッド**カーソルメニューに移動し、**編集**タブを展開します。

5　**引出線を追加**ツール( )をクリックします。

　新しい引出線がダイナミックに表示されます。

6　新しい引出線の起点を指定します。

7　別の新しい引出線がダイナミックに表示されます。

8　以下のいずれかの操作を行います：

- 新しい引出線の起点を指定します。
- 引出線の追加を止めるには、右クリックかEnterを押します。

(*)マルチ引出線スタイルの引出線の折り曲げ数の上限プロパティが2より大きい場合、右クリックで新しい引出線の頂点追加を終了します。

13.1.13.5　マルチ引出線から引出線を削除

1　必要に応じて**F12**キーを押し、**クワッド**カーソルメニューを起動します。

2　削除したい引出線の上でカーソルを一時停止し、Ctrlを押したままにします。

3　**クワッド**カーソルメニューが表示されます。

4　カーソルを**クワッド**カーソルメニューに移動し、**編集**タブを展開します。

5　**引出線を削除**ツール( )をクリックします。

　引出線が削除されます。

13.1.14　幾何公差の追加

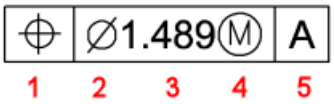
幾何公差とは、真のジオメトリから、形状や位置において許容される最大の差異を示します。つまり、穴やシリンダーの表面や軸がどの範囲に収まっていれば、結果的に機能や互換性に問題がないかを示す公差範囲のことです。

BricsCADは区画に分けられた矩形の公差記入枠を使用し、幾何公差を作図します。

各機能のコントロールフレームは、少なくとも2つの区画で構成されています。1つ目の区画には、位置、方向、形状などの公差が適用される幾何学的特性を示す、幾何公差記号が含まれています。例えば、形状公差は、表面の平坦度や丸みを示すものです。

２つ目の区画には、公差値が入っています。必要に応じて、公差値の前に直径の記号を付け、後に素材条件の記号を付けます。素材条件は、サイズが変化する可能性のある機能に適用されます。

公差値の後には、一次、二次、三次のデータム参照文字と、各データムの素材条件を記載することができます。データム参照文字は一般的に、測定が行われる最大3つの垂直面のうちの1つに対する参照公差として使用されますが、データム参照文字は正確な点または軸を示すこともできます。



1 幾何特性記号

2 直径記号

3 公差値

4 実体公差方式記号

5 データ文字記号

2つの公差が同じジオメトリに適用される場合、一次公差値とそれに続く二次公差値を組み合わせた複合公差を追加することもできます。公差をより具体的にするために、高さの値とそれに続く投影公差記号を組み合わせた、投影公差を含めることもできます。例えば、埋め込み部品の垂直性を示すために投影公差を使用することができます。

13.1.14.1 幾何公差フレームの作成

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **寸法記入**ツールバーまたはリボンパネルの**幾何公差**ツールボタン(⌖)をクリックします。
- **寸法記入** メニューの **幾何交差** を選択します。
- コマンドラインに**TOLERANCE** と入力して、Enterを押します。

幾何公差ダイアログがが開きます。

2 **幾何公差ダイアログ**に幾何公差枠を作成します。

3 **OK**ボタンをクリックします。

幾何公差ダイアログボックスが閉じます。

4 幾何公差フレームを図面に挿入するポイントを指定します。

13.1.14.2 幾何公差フレームの編集

1 幾何公差フレームをダブルクリックします。

1 **幾何公差**ダイアログボックスが開きます。

2 設定を編集します。

3 **OK**ボタンをクリックします。

幾何公差ダイアログボックスが閉じます。

幾何公差フレームの内容が更新されます。

13.2 文字

13.2.1 テキストのシステム変数

システム変数は **設定ダイアログ**を使用して設定できます。

変数	タイトル	説明
FONTALT	代替フォント	文字フォントが見つからないとき使用するフォントを定義します。
HIDETEXT	文字の非表示	隠線コマンドがテキストを処理するかどうかを指定します。
MIRRTEXT	文字のミラー	ミラーコマンド実行時、文字がミラーされるかどうかを決定します。
MTEXTED	マルチテキスト編集	マルチテキストに使用する1番目と2番目のテキストエディタを設定します。
MTEXTFIXED	マルチテキスト固定	編集中のマルチラインテキストにフィットするようBricsCADがビューのズームや回転、画面移動をコントロールします。
QTEXTMODE	文字省略表示モード	文字の表示方法をコントロールします。オンの場合、文字をボックスとして表示します。
TEXTANGLE	文字角度	最後に追加された文字の角度を保存します。
TEXTFILL	文字塗り潰し	True Typeフォントを塗り潰して表示するか、アウトライン化して表示するかを決定します。 Filled Text Outlined Text
TEXTQLTY	文字品質	プロッティングやレンダリング時のTrue Typeフォントの滑らかさを規定します。
TEXTSIZE	文字サイズ	新しい文字図形の高さの初期値を設定します。 TEXTSIZEを設定しても、現在の文字スタイルの高さが固定されている場合は無効です。
TEXTSTYLE	文字スタイル	カレントの文字スタイル名を保存します。
TSPACEFAC	文字間隔要素	マルチラインテキストの行間を文字の高さのファクターとして指定します。 0.25 ～ 4の範囲で指定できます。
TSPACETYPE	文字間隔の種類	マルチラインテキストに使用する行間の種類を指定します。最小：行の中で最も背の高い文字を基準にして行間を調整します。固定：個々の文字サイズに関わらず、指定された行間を使用します。
TSTACKALIGN	文字スタック	選択された文字の縦断線形を決定します：下側、中央、上側。

変数	タイトル	説明
TSTACKSIZE	文字スタック サイズ	選択した文字の現在の文字高さに対する、スタックされた文字高さの割合を指定します。 25 ～ 125の範囲で値を指定できます。

13.2.2 文字スタイルの操作

図面内に文字を入力する場合、現在の文字スタイルを適用します。文字スタイルでは、新しい文字のフォント、サイズ、角度、位置、その他のプロパティを決定します。

すべての図面には、**Standard** という名前のデフォルトの文字スタイルがあり、最初は **Arial** フォントを使用します。**Standard** スタイルの削除や名前の変更はできませんが、変更は可能です。

既存のスタイルの **フォント** または **向き** を変更すると、そのスタイルを使用して作成された既存のすべての文字図形が自動的に更新され、変更が反映されます。他のプロパティを変更しても、既存のテキストには影響しません。

文字スタイルは、無制限に作成し、使用することができます。

注釈文字スタイルは、注釈文字図形を作成します。注釈文字スタイルでは、**高さ**はペーパー空間の文字高さで定義されます。モデル空間の文字高さは、CANNOSCALEとCANNOSCALEVALUEシステム変数で定義される現在の注釈尺度に依存します。

13.2.2.1 「文字スタイル設定」ダイアログボックスを開く

以下のいずれかの操作を行います：

- **ツール** > **図面エクスプローラ**メニューで、**文字スタイル設定...**を選択します。
- **ステータスバー**の**カレントの文字スタイル**欄をクリックします。
- STYLEコマンドを起動します。

13.2.2.2 文字スタイルを作成

1 **文字スタイル設定**ダイアログボックスを開きます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **図面エクスプローラ**ダイアログの**詳細**セクションで、**新規**ツールボタン( )をクリックします。
- 既存の文字スタイルの上で右クリックして、コンテキストメニューから **新規**を選びます。

現在選択しているスタイルのプロパティを継承した、**新規文字スタイル**が作成されます。

3 標準でつけられた**新規文字スタイル**の名前を、**文字スタイル名**欄で任意の名前に置き換えます。

4 文字スタイルプロパティを設定します。

5 **文字スタイル設定**ダイアログを閉じます。

13.2.2.3 文字スタイルの編集

1 **文字スタイル設定**ダイアログボックスを開きます。

2 文字スタイルを選択します。

3 文字スタイルプロパティを設定します。

4 **文字スタイル設定**ダイアログを閉じます。

13.2.2.4 カレントの文字スタイルを設定する

以下のいずれかの操作を行います：

- **ステータスバー**の**カレントの文字スタイル**欄を右クリックし、カレントに設定したい文字スタイルをクリックします。
- **文字スタイル設定**ダイアログボックスを開きます。

  現在の文字スタイルは、**カレント**の列に表示されます。

  以下のいずれかの操作を行います：

  - 文字スタイルの **カレント** 欄をクリックします。
  - 文字スタイルを右クリックし、コンテキストメニューから **カレントに設定**を選択します。

13.2.2.5 文字スタイルを削除する

1 **文字スタイル設定**ダイアログボックスを開きます。

2 文字スタイルを選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

  - **削除**ツールボタン(✕)をクリックします。
  - 文字スタイルを選択し、コンテキストメニューで **削除**を選択します。

  文字スタイルが図面や寸法スタイルで使用されなければ、文字スタイルは削除されるか、または警告ダイアログが表示されます。

4 以下のいずれかの操作を行います：

  - 文字スタイルとそのスタイルを使用しているすべての図形を削除するために、**削除**ボタンをクリックします。
  - 図形から文字スタイルを削除し、別のスタイルを割り当てるためには、**変更...**ボタンをクリックします。
  - 削除の操作を中止するには、**キャンセル**ボタンをクリックします。

注：カレントの文字スタイルは、削除できません。

13.2.3 文字の作成

TEXTコマンドは、図面上に一行の文字を配置し、オプションでLISPの式を評価します。

MTEXTコマンドは、フォーマット化された段落テキストを、テキストの範囲を制限する境界ボックスに配置します。

13.2.3.1 1行の文字列の作成

1 以下のいずれかの操作を行います：

  - **作成**ツールバーまたは**注釈/文字**リボンパネルの**文字**ツールボタン(T)をクリックします。
  - **作成**メニューで**文字**を選択します。
  - TEXTコマンドを起動します。

2 **プロンプト表示**：

  テキスト開始点または [定義済みスタイルを使用 (S)/両端揃え (A)/フィット (F)/中心 (C)/中央(水平/垂直)(M)/右揃え (R)/位置合わせ... (J)]:

3 点を指定します。

4 **プロンプト表示：**

文字高 <カレントの高さ>:

5 以下のいずれかの操作を行います：

- カレントの文字高さを適用するには、Enterを押すか、右クリックします。
- 値を入力します。
- 点をクリックして高さを図面上で設定します。

プロンプト表示：

回転角度 <カレントの角度>:

6 以下のいずれかの操作を行います：

- カレントの回転角度を適用するには、Enterを押すか、右クリックします。
- 数値を入力します。
- 点をクリックして回転角度を図面上で設定します。

7 テキストを入力し、Enterを押します。

8 新しい空のテキストが作成されます。

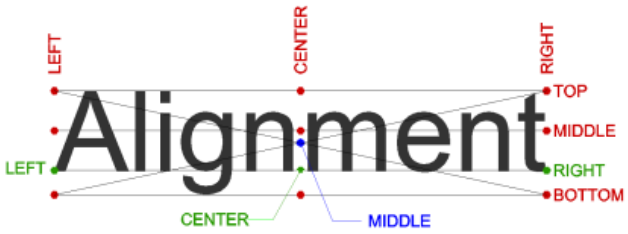
9 以下のいずれかの操作を行います：

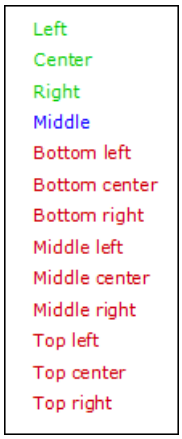
- テキストを入力します。
- Enterを押して終了します。

10 (オプション)引き続きテキストを追加し、Enterを2回押すとコマンドが終了します。

注：現在のBricsCADセッションですでにテキストを作成している場合、TEXTコマンドを繰り返すと、最新の文字図形がハイライト表示されます。Enterを押すか右クリックすると、一番最近作成したテキストの下に、同じ文字高さと回転角度で新しいテキストが作成されます。

一行テキストの位置合わせ：





13.2.3.2 複数行の文字を作成する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **作成**ツールバーまたは**注釈/文字**リボンパネルの**マルチテキスト**ツールボタン( )をクリックします。
- **作成**メニューで**マルチテキスト**を選択します。
- MTEXTコマンドを起動します。

プロンプト表示：

テキストブロックの最初のコーナー:

2 マルチテキスト図形の挿入ポイントを指定します。

3 **プロンプト表示：**

文字ブロックのもう一方のコーナーを選択、または [位置合わせ(J)/回転角度(R)/文字スタイル(S)/文字高さ(H)/向き(D)/幅(W)/行間隔(L)/段組み(C)]:

4 以下のいずれかの操作を行います：

- マルチテキストのテキストブロックの最大幅を、矩形の対角コーナーを指定することによって決定します。
- **ダイナミック入力**がオンになっていると、文字入力欄の高さと幅が自動表示されます。高さと幅の数値を入力しTabキーを押して切り替えます。Enterキーを押し確認決定します。
- コマンドラインに@と入力し、Enterを押すと、折り返しなし(ゼロ幅)の文字(＝行幅無制限)が表示されます。

文字ブロックのすぐ上に**文字フォーマッティング**ダイアログが開きます。

5 テキストを入力します。

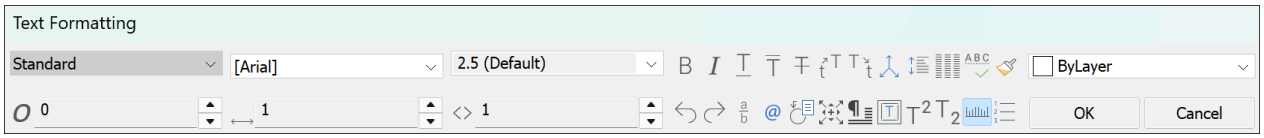
6 最大行幅は、ステップ3で定義したテキストブロックの幅で定義されます。

Enterを押して、新しい段落を始めます。

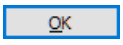
7 コマンドを確定して**文字フォーマッティング**ダイアログを終了するには、以下のいずれかを実行します。

- **OK**ボタンをクリックします。
- Ctrl+Enterを押します。
- マルチテキスト図形の外をクリックします。

文字フォーマッティングダイアログのツールと設定



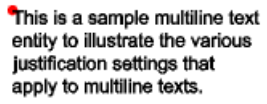
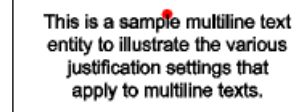
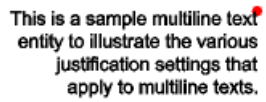
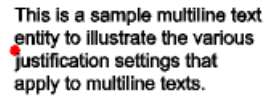
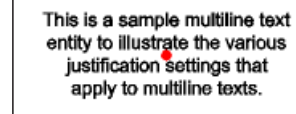
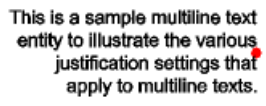
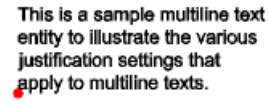
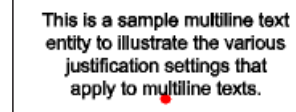
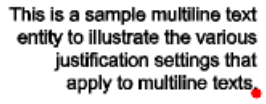
ボタンまたは設定	名前	説明
Standard	文字スタイル	文字スタイルを設定します。
[Arial]	フォント	文字フォントを設定します。
2.5 (Default)	文字高さ	文字高さを設定します。
B	太字	太字を作成します。
I	斜体	斜体文字を作成します。
T	下線	下線を引いた文字を作成します。
T	上線	上線を引いた文字を作成します。
T	取消線	取り消し線付きの文字を作成します。
tT	大文字化	選択したテキストを大文字に変更します。
Tt	小文字化	選択したテキストを小文字に変更します。
	異尺度対応	異尺度対応プロパティを切り替えます。
	行間隔	行の間隔を設定します。
	列設定	文字の列数等を調整します。
ABC	スペルチェッカーの切り替え	MTEXTエディタのスペルチェックを切り替えます。
	プロパティコピー	マルチテキストのフラグメントの書式設定に一致。
ByLayer	色	色を設定します。
0	傾斜角度	傾斜角度を設定します。

ボタンまたは設定	名前	説明
	文字幅	文字幅を設定します。
	文字トラッキング	文字間隔を設定します。
	元に戻す	最後に行った操作を元に戻します。
	やり直し	最後に元に戻した操作をやり直します。
	文字装飾	文字装飾(分数表記、下付き文字、上付き文字)を作成します。 **注**：詳しくは、下記の**文字装飾の書式設定**をご覧ください。 下付き文字または上付き文字を作成するには、下付き文字の場合は対象のテキストの前、上付き文字の場合は対象のテキストの後に ^ 文字を挿入します。次に、テキストと ^ 文字を選択し、**文字修飾**オプションを使用します。
	シンボル	特殊文字を挿入します。
	フィールド	変数フィールドを挿入します。
	文字位置合わせ	文字の位置合わせを設定します。
	段落整列	段落の整列を設定します。
	背景マスク	色付きの背景を追加します。
	上付き文字を切り替え	上付き文字を作成します。
	下付き文字を切り替え	下付き文字を作成します。
	ルーラー	ルーラーの表示を切り替えます。
	番号付きリストと丸点付きリスト	番号付きリストまたは丸点付きリストを作成します。
	OK	**文字フォーマッティング**ツールバーを閉じ、変更を適用します。

ボタンまたは設定	名前	説明
Cancel	キャンセル	マルチテキスト図形を変更せずに、**文字フォーマッティング**ツールバーを閉じます。

マルチテキスト位置合わせ

赤い点は、マルチテキストの挿入位置を示します。

		
左上	中上	右上
		
左中	中中	右中
		
左下	中下	右下

13.2.3.3 特殊文字や記号を追加

特殊文字を文字列に含めるために、書式コードとユニコードを使用することができます。

制御コードを含めるには、2つの%記号(%%)に続けて特殊な制御コードまたは制御文字を入力します。1つのパーセント記号は、通常のテキスト文字として扱われます。

特殊文字

コントロールコード	ユニコード文字列	結果
%%d	¥U+00B0	度数記号(°)
%%p	¥U+00B1	公差記号(±)
%%c	¥U+2205	直径記号(Ø)

コントロールコード	ユニコード文字列	結果
%%k	¥U+0336	文字に取り消し線が入るようになりました。コードを繰り返して停止します。
%%u	¥U+005F	文字に下線を引くのを開始します。コードを繰り返して停止します。
%%o	¥U+203E	文字に上線を引くのを開始します。コードを繰り返して停止します。

シンボルとユニコード文字列

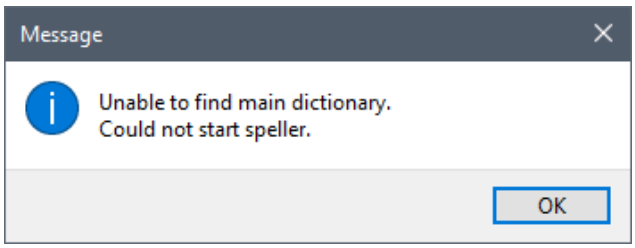
名前	シンボル(*)	ユニコード文字列
近似的に等しい	≈	¥U+2248
角度	∠	¥U+2220
センターライン	℄	¥U+2104
デルタ	Δ	¥U+0394
電気相	ϕ	¥U+0278
識別	≡	¥U+2261
等号否定	≠	¥U+2260
オメガ	Ω	¥U+03A9
2乗	²	¥U+00B2
3乗	³	¥U+00B3

(*)テキストフォントによってはサポートされていない場合

13.2.3.4 スペルチェッカー

スペルチェッカーボタン( )をアクティブにすると、スペルチェックがMtextエディタで使用できるようになります。スペルミスのある単語には、リアルタイムで赤で下線が引かれます。文字列を右クリックすると、スペル候補が表示されます。

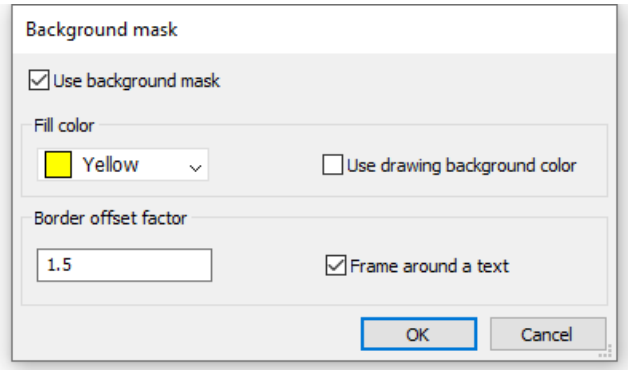
有効な辞書が見つからない場合は警告メッセージが表示されます。SPELLコマンドを参照してください。



13.2.3.5 背景マスクの追加

1 マルチテキスト図形を作成または編集するときに、**文字フォーマッティング**ツールバーの**背景マスク**ツールボタン( )をクリックします。

背景マスクダイアログボックスが表示されます。



2 **背景マスクを使用**オプションにチェックマークを入れます。

3 以下のいずれかの操作を行います：
- **塗り潰し色**ドロップダウンリストから色を選択します。
- **塗り潰し色**ドロップダウンリストで**色を選択...**を選び、**色**ダイアログボックスで色を選択します。
- **図面の背景色を使用**オプションにチェックを入力します。

4 **境界オフセット率**を指定し、背景のテキスト周りのマージンを定義します。この値は文字の高さに基づいており、1～5の範囲内でなければなりません。1.0のファクターは、マルチラインテキスト図形に適合します。

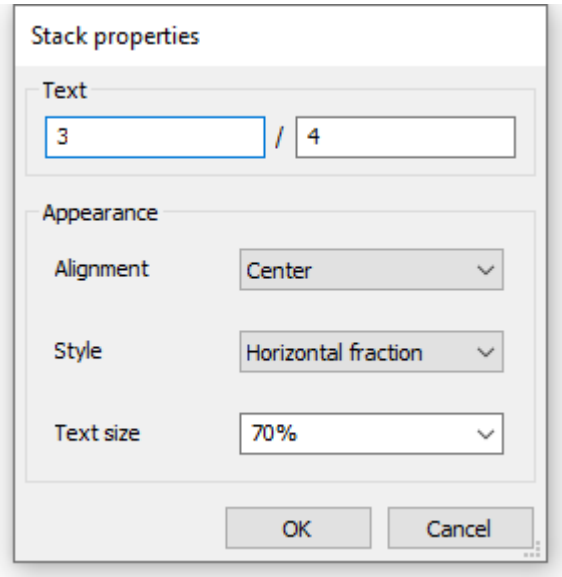
5 (オプション)**テキストを囲むフレーム**オプションにチェックを入れて、テキストフレームを作成します。

6 **OK**をクリックして背景マスクを作成します。

13.2.3.6 文字装飾の書式設定

分数表記のテキストは、**プロパティをドッキング**ダイアログボックスで書式設定できます。

分数表記のテキストを右クリックし、コンテキストメニューから**プロパティをドッキング**を選択します。**プロパティをドッキング**ダイアログボックスが表示されます。



プロパティをドッキングダイアログボックスでは、分数の値と**外観**を編集できます。

- **整列**：**下**、**中心**、**上**の切り替えが可能です。
- **スタイル**：**対角線上の端点**、**水平**、**幾何公差**を切り替えることができます。
- **文字サイズ**：設定された文字高さに対する割合で文字サイズを調整します。値を入力するか、ドロップダウンリストから値を選択します。

13.2.4 文字の編集

文字図形は、他の作図図形と同じように編集、修正することができます。つまり、テキストの削除、移動、回転、拡大縮小が可能です。

文字プロパティは**プロパティパネル**で編集することができます。

TEXTED システム変数は、文字図形の編集時の動作を制御します：

- 0 = インプレイス エディタ
- 1 = ポップアップダイアログ
- 2 = 繰返し入力によるインプレイス エディタ

MTEXTEDにより、マルチテキスト図形の編集に外部テキストエディタを使用することができます。

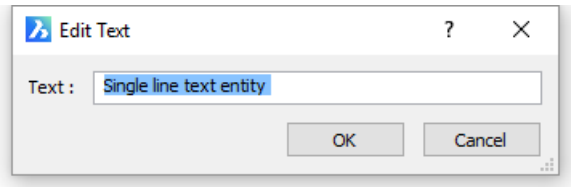
MTEXTFIXED システム変数は、図が拡大、回転/または移動して、編集されたマルチテキストにフィットするかをコントロールします。

13.2.4.1 文字図形を編集する

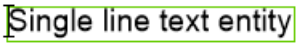
1 文字図形をダブルクリックします。

2 TEXTEDの値に依存します：

3 **文字編集**ダイアログボックスが表示されます。



または、文字が図面上で編集されます。



4 テキストを編集して、Enterを押します。

5 以下のいずれかの操作を行います：
- 編集する別の文字図形をクリックします。
- Enterを押すと、文字図形の編集を停止します。

13.2.4.2 マルチテキスト図形を編集するには

1 マルチテキスト図形をダブルクリックします。

2 **文字フォーマッティング**ダイアログが表示されます。

3 テキストを編集し、**OK**ボタンをクリックするか、テキストブロックの外側をクリックします。

4 以下のいずれかの操作を行います：
- 編集する別のマルチテキスト図形をクリックします
- Enterを押して、マルチテキスト図形の編集を中止します。

13.2.4.3 マルチテキスト図形を選択して編集する

1 マルチテキスト図形を選択します。

2 **プロパティ**パネルで**内容**を選択します。

3 **コンテンツ**欄右側の**ブラウズ**ボタン( )を押します。

4 選択した最初のマルチテキスト図形を編集するための**文字フォーマッティング**ダイアログが開きます。

5 マルチテキストを編集します。

6 **OK**ボタンを押すか、テキストブロックの外側をクリックします。

選択肢の中の次のマルチテキスト図形を編集できるようになりました。

7 すべてのマルチテキストが編集されるまでステップ5と6を繰り返します。

13.2.4.4 マルチテキスト図形に外部テキストエディタを選択するには

1 SETTINGSコマンドを起動すると、**設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 **図面** > **2D作図** > **図形の作成** > **文字** > **マルチテキスト**で、MTEXTEDシステム変数を選択します。

3 コマンドラインに外部テキストエディターのファイル名とフルパスを入力して、Enterを押します。

4 例：C:¥Program Files¥Windows NT¥Accessories¥Wordpad.EXE

注：内蔵のテキストエディターを復元するには、MTEXTEDの内容を削除します。

13.2.5 テキストの分解

TXTEXPコマンドは、テキストとマルチテキスト図形を2D ポリラインに分解します。

13.2.5.1 文字を分解

1 テキストを選択します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **クワッド**の**編集**タブで**テキスト分解**を選択します。
- TXTEXPコマンドを起動します。

注：

- TTFフォントのような塗り潰しの文字を分解すると、テキストアウトラインのみを残して文字は削除されます。
- JOINコマンドを使って、分解されたテキストのアウトラインから閉じたポリラインを作成します。
- **クワッド**の**編集**タブにある**テキスト分解**ツールは、TXTEXPコマンドを起動します。EXPLODEコマンドは、文字図形を分解することはできません。

13.2.6 文字検索と置換

FINDコマンドでは、検索するテキストを指定できます。また、テキストの検索/置換ができます。必要に応じて、検索テキストを含むテキスト図形のさまざまなインスタンスを拡大できます。

13.2.6.1 検索と置換オプションを設定する

1 FINDコマンドを起動します。

1 **検索と置換**ダイアログボックスが表示されます。

2 **オプション**ボタンをクリックします。

3 **検索と置換オプション**ダイアログボックスのオプションにチェックマークを付けます。

4 **OK**ボタンをクリックします。

13.2.6.2 文字を検索する

1 FINDコマンドを起動します。

1 **検索と置換**ダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション)**検索と置換オプション**を設定します。

3 (オプション)**図形を選択**ボタン( )をクリックして図形を選択します。

図形が選択されていない場合は、図面全体が検索されます。

- 図形を選択するために**検索と置換**ダイアログが一時的に閉じます。
- 図形の選択を終了するには右クリックします。

検索欄には、**図面全体**ではなく**カレントの選択**と表示されます。

4 **文字列検索**欄に文字を入力します。

5 **検索**ボタンをクリックします。

6 検索文字列を含む最初のテキスト図形の内容が**検索結果**パネルに表示されます。

7 (オプション)**ズーム**ボタンをクリックします。

図面がテキスト図形にズームします。

8 以下のいずれかの操作を行います：

9 別の同じ検索文字列を見つけるには、ステップ5と6を繰り返します。

10 別の文字列を見つけるには、ステップ2から6を繰り返します。

11 終了する場合は、Escを押すか **閉じる**ボタンを押します。

13.2.6.3 文字を置換

1 FINDコマンドを起動します。

1 **検索と置換**ダイアログボックスが表示されます。

2 (オプション)**検索と置換オプション**を設定します。

3 (オプション)**図形を選択**ボタン( )をクリックして図形を選択します。

図形が選択されていない場合は、図面全体が検索されます。

- 図形を選択するために**検索と置換**ダイアログが一時的に閉じます。
- 図形の選択を終了するには右クリックします。

検索欄には、**図面全体**ではなく**カレントの選択**と表示されます。

4 **文字列検索**欄に文字を入力します。

5 置換後の文字列を**置換文字列**欄に入力し、Enterを押します。

検索文字列を含むすべての文字図形が一覧表示されます。

6 以下のいずれかの操作を行います：

- リスト内の項目をクリックして、図面内のテキスト図形をハイライト表示し、**置換**ボタンをクリックします。
- **すべて置換**タンをクリックします。

13.2.7 スペルチェック

スペルチェッカーは、現在の図面内のテキストのスペルをチェックします。選択した1つまたは複数の文字図形のスペルをチェックしたり、図面全体をチェックすることができます。

スペルチェックの際、SPELLコマンドは、図面または現在の選択セットに含まれる単語を、現在のメイン辞書および現在のカスタム辞書に含まれる単語に対して照合します。どちらの辞書にもない単語は、候補欄で正しいスペルを選択するか、現在のカスタム辞書にその単語を追加することができます。専門分野に特化した単語には、カスタム辞書を使用することができます。

13.2.7.1 辞書の設定

これは、DCTMAINシステム変数(メイン辞書)およびDCTCUSTシステム変数(カスタム辞書)によって定義されます。辞書はSPELLコマンドで使用されます。

注：辞書ファイルのライセンス形態の都合により、英語版の辞書のみを配信しています。これは英語版は自由に配布でき、他の言語は自由に配布できないためです。ただし、他の言語をダウンロードして、無料で使用することができます(下記の**メイン辞書を追加する**を参照)。

13.2.7.2 スペルチェックダイアログボックスを開く

以下のいずれかの操作を行います：

- **ツール**メニューの**スペルチェック**を選択します。
- **注釈/文字**リボンパネルの**スペルチェック**ツールをクリックします。
- SPELLコマンドを起動します。

13.2.7.3 スペルをチェックする

1 **スペルチェック**ダイアログボックスを開きます。

2 (オプション)**選択**ボタン( )をクリックして選択セットを構成します。

図形が選択されていない場合は、図面全体が検索されます。

- **スペルチェック**ダイアログボックスが一時的に閉じるので、図形を選択することができます。
- 図形の選択を終了するには右クリックします。

チェックする場所フィールドには、**図面全体**ではなく**カレントの選択**と表示されます。

3 (オプション)現在の辞書を変更します。(下記参照)

4 **開始**ボタンをクリックします。

スペルミスの可能性がある最初の単語が**カレントの単語**セクションに表示されます。

5 **カレントの単語**が見つかったテキスト図形の内容が、**コンテキスト**フィールドに表示されます。

6 以下のいずれかの操作を行います：

- **カレントの単語**のインスタンスを変えたくない場合は、**無視**ボタンをクリックします。
- **カレントの単語**のすべてのインスタンスを変えたくない場合は、**すべてを無視**ボタンをクリックします。
- **提案**フィールドの単語を承認するか、**提案**リストから単語を選択して**変更**ボタンをクリックし、**カレントの単語**のインスタンスを**提案**フィールドの単語に置き換えます。
- **提案**フィールドの単語を承認するか、**提案**リストから単語を選択して**すべて変更**ボタンをクリックし、**カレントの単語**のすべてのインスタンスを**提案**フィールドの単語に置き換えます。
- **カレントの単語**を現在のカスタム辞書に追加する場合は、**追加**ボタンをクリックします。
- **提案**フィールドの単語と類似する単語を一覧表示するには、**参照**ボタンをクリックします。

7 **スペルチェックが完了しました**というメッセージが表示されるまで、前の手順を繰り返します。

13.2.7.4 辞書を変更する

1 **スペルチェック**ダイアログボックスを開きます。

2 **辞書を変更...**ボタンをクリックします。

辞書を変更ダイアログボックスが表示されます。

3 **主辞書**リストボタンをクリックして主辞書を変更します。

4 新しい主辞書を選択します。

5 (オプション)**参照...**ボタンをクリックして、新しい**カスタム辞書**を選択します。

6 (オプション)**カスタム辞書の単語**欄に単語を入力し、**追加**ボタンをクリックして現在のカスタム辞書に単語を追加します。

7 **適用して閉じる**ボタンをクリックします。

注：

- カスタム辞書は**ローミング**ルートフォルダーの**Support**フォルダーに保存されます。
- カスタム辞書をMS Wordと共有したい場合は、上記手順のステップ5でMS Wordのカスタム辞書を指定します。初期設定では、CUSTOM.DICがMS Wordのカスタム辞書で、C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Microsoft¥Proof¥CUSTOMにあります。

13.2.7.5 新しいメイン辞書を追加する

1 **スペルチェック**ダイアログボックスを開きます。

2 **辞書を変更...**ボタンをクリックします。

3 **ダウンロード...**ボタンをクリックします。

ブラウザにhttps://extensions.openoffice.org/dictionariesのホームページが表示されます。

4 スクロールして言語を選択し、リンクをクリックして選択言語のページを開きます。

5 **Download extension**ボタンをクリックして、* **.oxt**ファイルをダウンロードします。

6 **oxt**拡張子を**zip**に変更します。

7 ***.aff** と ***.dic**ファイルをZIPファイルからC:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD Vx¥Supportフォルダーへ解凍します。

辞書を変更ダイアログボックスの**主辞書**一覧にダウンロードした辞書が表示され、使用可能になります。

13.2.7.6 新しいカスタム辞書を追加する

1 **メモ帳**などのテキストエディタを開きます。

2 (オプション)カスタム辞書で使用したい単語を入力します。

3 各単語はそれぞれ別の行に入力される必要があります。

4 **.cus**拡張子を使用して、**ローミング**ルートフォルダーの**Support**フォルダーにファイルを保存します。

13.2.8 フィールドの操作

フィールドとは、図面内の他の図形や設定、またはプロパティの状態を表示するための命令を含む文字図形です。フィールドが更新されると、参照しているデータソースの最新の値が表示されます。フィールドは、図面プロパティ、カスタムプロパティ、オブジェクトプロパティをマルチテキストやテーブルに挿入したり、ブロックの属性として使用することができます。属性のフィールドは、タイトルブロックで特に役立ちます：図面、シートセット、サブセット、シートのプロパティを使用して、タイトルブロックを自動的に記入することができます。

デフォルトとカスタマイズの図面プロパティの詳細については、DWGPROPSコマンドを参照してください

デフォルトおよびカスタムのシートセット、サブセット、シートプロパティの詳細は、SHEETSETコマンドを参照してください。

いずれの値も利用できない場合は、ハイフン(----)が表示されます。

FIELDDISPLAYがオンになっていると、フィールドは印刷はされないライトグレーの背景に表示されます。

FIELDEVALシステム変数はフィールドの更新をコントロールします。

注：日付フィールドは、UPDATEFIELDコマンドによってのみ更新されます。FIELDEVALシステム変数に基づいて自動的に更新されることはありません。

13.2.8.1 フィールドを作成するための一般的な手順

1 以下のいずれかの操作を行います：

1
- **挿入**ツールバーと**注釈 / 文字**リボンパネルの**フィールド挿入**ツールボタン( )をクリックします。
- **挿入**メニューの**フィールド**を選択します。
- FIELDコマンドを起動します。
- マルチテキストまたは表セルの内容を作成または編集するときは、**文字の書式設定**ツールバーの**フィールド**ツールボタン( )をクリックします。

フィールドダイアログボックスが表示されます。

2 **フィールド名**でグループを展開して、フィールド名を選択します。

選択したフィールド名の設定が表示されます。

3 設定を調整し、**OK**ボタンをクリックします。

フィールドダイアログボックスが閉じます。

マルチテキストまたは、編集中のテーブルセルにフィールドが作成されます。

または

プロンプト表示：始点または [高さ/位置合わせ] を選択してください：

以下を実行します：

- (オプション)文字高を指定する場合は、**H**と入力するか、コンテキストメニューで**高さ**を選択します。
- (オプション)文字揃えを設定する場合は、**J**と入力するか、コンテキストメニューで**位置合わせ**を選択します。
- 図面上のフィールドの挿入位置を指定します。

そのフィールドを含むマルチテキスト図形が作成されます。

13.2.8.2 フィールド式の操作

フィールド式は、**フィールド**ダイアログボックスで使用できる関数と演算子を参照します。

1 FIELDコマンドを起動して、**フィールド**ダイアログボックスを開きます。

2 **フィールド名**リストで**オブジェクト**を展開して、**式**を選択します。

3 **式**フィールドには、さまざまな種類の演算子と式を挿入できます。結果は、**フィールド値**欄に表示されます。

次の表は、フィールド式で使用できる演算子を示しています。

操作	文字	説明
加法	+	数値の合計を生成します。
減法	-	2つの数値を減算します。
乗法	*	数値を乗算します。

操作	文字	説明
除法	/	2つの数値を除算します。
累乗法	^	与えられた数値の指数値を計算します。

次の表は、フィールド式で使用できる関数を示しています。

関数	構文
コサイン(余弦)	cos(式)
サイン(正弦)	sin(式)
タンジェント(正接)	tang(数式)
逆余弦	acos(式)
逆正弦	asin(式)
逆正接	atan(式)
正方形	sqr(数式)
平方根	sqrt(式)
整数に四捨五入	round(式)
小数点以下を切り捨て	trunc(式)
絶対値	abs(式)
度数をラジアンに変換	d2r(式)
ラジアンを度数に変換	r2d(式)
対数、ベースe	ln(式)
10を底とする対数	log(数式)
指数、ベースe	exp(式)

関数	構文
指数、底10	exp10(式)
Pi = 3.14...	pi

注：フィールド式の**接線**関数の構文は、パラメータの構文と少し異なります。

- フィールド：tang(数式)
- パラメータ：tan(数式)

注：数値の2乗、sqr(数式)は、フィールド式でのみ使用できます。

13.2.8.3 フィールドの図形プロパティを表示する

1 FIELDコマンドを起動します。

1 **フィールド**ダイアログボックスが表示されます。

2 **フィールド名**リストで**オブジェクト**を展開して、**オブジェクト**を選択します。

3 **フィールド**ダイアログボックスの**図形選択**ボタン( )をクリックします。

フィールドダイアログボックスが一時的に閉じます。

プロンプト表示図形を選択:

4 プロパティを表示させたい図形をクリックします。

5 再び**フィールド**ダイアログボックスが表示されます。

6 **プロパティ**リストから図形のプロパティを選択します。

7 表示レイアウトを設定します：

- **形式**：数値の単位の形式を選択します。
- **精度**：リストボタンで精度を選択します。
- **変換**：フィールドの値を再計算します。
  - リストの中から数式を選択します。例：「f*#」は、「f」は**変換**フィールドに入力した係数で、「#」はフィールド値です。
  - **変換**フィールドに係数を入力します。例：0.0001は、センチメートルの図面でポリラインの面積を平方メートルで表します。

8 **OK**ボタンをクリックします。

9 図面上のフィールド配置位置を指定します。

13.2.8.4 フィールドを編集する

1 フィールドを含むテーブルセルまたはマルチテキスト図形を編集します。

2 フィールドをダブルクリックします。

3 **フィールド**ダイアログボックスが表示されます。

注：存在しなくなったパラメータに関連付けられたフィールドを編集すると、エラーメッセージがダイアログボックスに表示されます。

4 フィールドのプロパティを調整します。

5 **OK**ボタンをクリックして変更内容を保存します。

13.2.8.5 フィールドを更新する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **再描画 / 再作図**ツールバーの**フィールドを更新**ツールボタン( )をクリックします。
- **ツール**メニューの**フィールドを更新...**を選択します。
- UPDATEFIELDコマンドを起動します。

プロンプト表示：更新するフィールドを選択:

2 更新したいフィールドを選択し、右クリックまたは Enterを押します。

3 選択したフィールドが更新されます。

注：FIELDEVALのビットコード 16 が設定されている場合、REGENコマンドを実行すると図面の全フィールドが更新されます。

注：日付フィールドは、UPDATEFIELDコマンドによってのみ更新されます。FIELDEVALシステム変数に基づいて自動的に更新されることはありません。

13.2.8.6 フィールドを文字に変換するには

1 フィールドを含むテーブルセルまたはマルチテキスト図形を編集します。

2 フィールドを選択します。

3 右クリック、コンテキストメニューから**フィールドをテキストに変換**を選択します。

13.2.9 表の操作

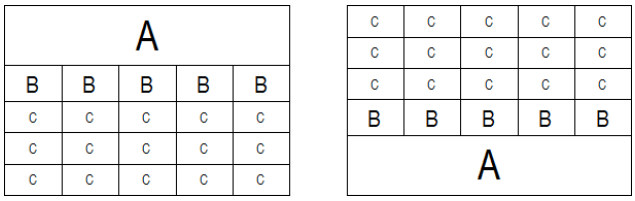
表とは、Microsoft Excel スプレッドシートのように、行と列で構成される図形です。表図形は、空の表として新規作成することも、CSV(カンマ区切り値)ファイルからデータを読み込むこともできます。表のテキストとグリッド線の外観は、表スタイルによって制御されます。表スタイルはDWGファイルに保存されます。

デフォルトの表は以下で構成されています：

- **タイトル**セル(A)
- **ヘッダー**セルの行(B)
- 1行以上の**データ**セル(C)

表には2つの表方向があります：

- **下**(一番上のタイトル行)
- **上**(一番下のタイトル行)。



13.2.9.1 新しい表の作成

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **作成**ツールバーまたは**ホーム/注釈**リボンパネルの**表**ツールボタン( )をクリックします。
- **作成**メニューで**表...**を選択します。
- TABLEコマンドを起動します。

表の挿入ダイアログボックスが表示されます。

2 **表スタイル**一覧から表スタイルを選択します。

3 (オプション)表スタイル一覧から表スタイルを選択します。

4 デフォルトでは、最初の行のセルスタイルは**タイトル**、2番目の行のセルスタイルは**ヘッダー**、他の行のセルスタイルは**データ**です。

5 **表オプション**では、**新しく表を作成する**を選択します。

6 **挿入動作**で、以下のいずれかを実行します。

- **挿入点を指示**を選択します。それから列の数と列の幅、データ行の数と行の高さを指定します。
- **ウィンドウを指定**し、以下のいずれかを実行します。
  - 列とデータ行の数を指定します。
  - 列の幅と行の高さを指定します。
  - 列の幅とデータ行の数を指定します。
  - 列の数と行の高さを指定します。

7 **OK**ボタンをクリックします。

手順5での選択に応じて、挿入点またはウィンドウを指定するよう、**プロンプト表示**されます。

表が作成され、**文字フォーマッティング**ダイアログが表示されます。(「文字の作成」を参照)

8 以下のいずれかの操作を行います：

- 表の中に文字を追加していきます。
- **文字フォーマッティング**ツールバーを閉じるには、表の外をクリックします。

13.2.9.2 データから表を作成

CSV(カンマ区切り値)ファイルからデータを読み込むときは、システムの区切り記号がCSVファイルで使用されている文字と同じであることを確認してください。(区切り記号の設定を参照)

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **作成**ツールバーまたは**ホーム/注釈**リボンパネルの**表**ツールボタン( )をクリックします。
- **作成**メニューの**表の挿入...**を選択します。
- TABLEコマンドを起動します。

表の挿入ダイアログボックスが表示されます。

2 **表オプション**で、**データを参照する**を選択します。

3 **ブラウズ**ボタン( )をクリックします。

4 **開く**ダイアログボックスが表示されます。

CSVファイルを選択し、**開く** ボタンをクリックします。

5 **表の挿入**ダイアログの**OK**ボタンをクリックします。

6 挿入点を指示して配置します。

7 表が作成され、**文字フォーマッティング**ダイアログが表示されます。(「文字の作成」を参照)

8 以下のいずれかの操作を行います：

- 表内の文字の編集を開始します。
- **文字フォーマッティング**ツールバーを閉じるには、表の外をクリックします。

9 (オプション)表を選択し、グリップをドラッグして表の長さを調整します。

13.2.9.3 Excelスプレッドシートから表を作成

1 **Microsoft Office Excel**からスプレッドシートを開きます。

2 表を作成したいセルを選択します。

3 選択範囲をクリップボードにコピーするには、以下のいずれかを実行します：

- **Ctrl + C**を押します。
- 右クリックし、コンテキストメニューから**コピー**を選択します。

4 BricsCADで、**編集**メニューの**形式を選択して貼り付け...**を選択するか、PASTESPECコマンドを起動します。

5 **形式を選択して貼り付け**ダイアログボックスが表示されます。

6 **貼り付ける形式**オプションリストから**XMLスプレッドシート**を選択します。

7 図面をクリックして表を挿入します。

13.2.9.4 グリップを使用して表を編集

表を選択すると、複数のグリップが表示されます：

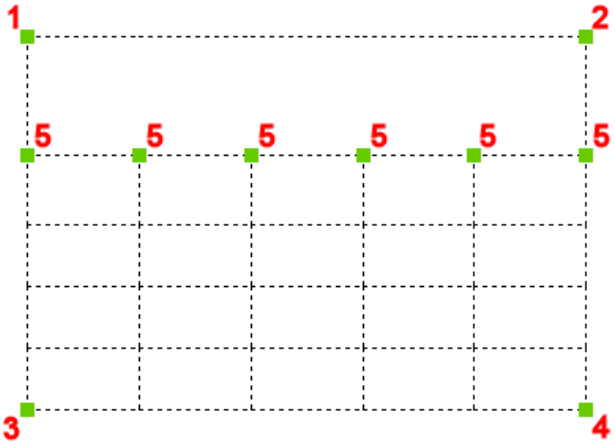
1 表を移動

2 幅を均一に変更

3 高さを均一に変更

4 幅と高さを均一に変更

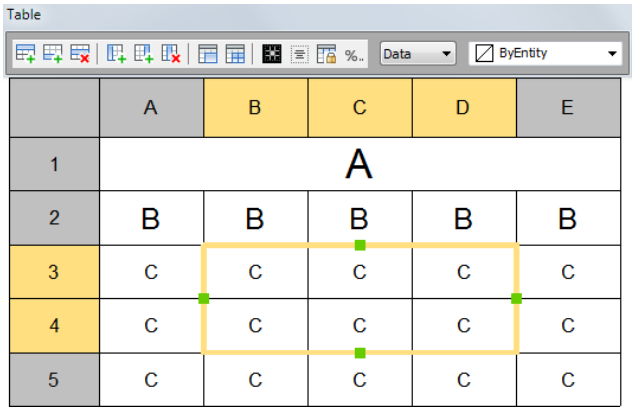
5 列の幅を変更



13.2.9.5 表ツールバーを使用して表を編集

1 **表**ツールバーを開くには、以下のいずれかを実行します：
   - 編集したいセルをクリックします。
   - 複数のセルを選択するには、マウスの左ボタンを押したままにして、矩形を定義します。
2 列文字と行番号が表示されます。
3 選択範囲の列と行がハイライトされます。

   選択範囲に4つのハンドルを持つ長方形が表示されます。



4 (オプション)選択範囲のグリップをドラッグして、表の長さを変更します。
5 (オプション)**表**ツールバーのツールをクリックします。
6 (オプション)右クリックでコンテキストメニューが表示されます：
   - **セル内容を削除**：選択したセルの文字を削除します。
   - **セルの上書きをクリア**：選択したセルのすべてのプロパティを、**表スタイル**で定義された**セルスタイル**設定にリセットします。
   - **表の上書きをクリア**：すべてのセルのすべてのセルプロパティを、**表スタイル**で定義された**セルスタイル**設定にリセットします。
7 (オプション)表の編集を続けるには、手順3と4を繰り返します。
8 (オプション)セルの文字を編集するにはセルをダブルクリックします。

9 (オプション)次のいずれかの実行します：

- 他のセルをクリックします。
- マウスの左ボタンを押し続け、カーソルをドラッグし複数のセルを選択します。

10 表の外側をクリックし、**表**ツールバーを閉じます。

表ツール

アイコン	ツール名	説明
	行を上に挿入	選択範囲の上に空の行を挿入します。
	行を下に追加	選択範囲の下に空の行を挿入します。
	行を削除	選択範囲の行を削除します。
	列を左に挿入	選択範囲の左側に空の列を挿入します。
	列を右に挿入	選択範囲の右側に空の列を挿入します。
	列を削除	選択範囲の列を削除します。
	セルを結合	選択したセルを結合します。
	結合セルの解除	セルの結合を解除します。
	境界スタイルの設定	選択範囲の境界スタイルを設定します。(まだ実装されていません)
	セルの並び設定	選択範囲の文字整列を設定します。
	セルのロック/ロック解除を切替	選択をロック/ロック解除します。
	セル形式の設定	選択範囲のセル形式を設定します。(まだ実装されていません)
	セルのスタイル設定	選択したセルのスタイルを設定：**タイトル**、**ヘッダー**、**データ**
	セル背景の設定	選択範囲の背景色を設定します。

13.2.9.6 プロパティパネルでの表の編集

1 グリッド線の1つをクリックします。

1 表のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 (オプション)異なる**表スタイル**を適用します。

3 (オプション)表の方向を変更します。

4 (オプション)表の幅や高さを変更します。

5 (オプション)セルの横/縦の間隔を変更します。

6 Escを押して、編集を停止します。

13.2.9.7 プロパティパネルでのセルの編集

1 セルをクリックします。

1 選択したセルのプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 (オプション)セルの幅や高さを変更します。

3 セルの列や行の幅や高さが変更されます。

4 (オプション)文字の回転を変更します。

5 オプション：0°、90°、180°、270°

6 (オプション)セルの内容を編集します。

7 (オプション)別の文字位置合わせオプションを選択します。

8 Escを押して、編集を停止します。

13.2.9.8 数式の評価

現在、数式は部分的にサポートされています。まだサポートされていない複雑な数式がありますが、ほとんどの場合、Excelシートの数式は、Excelシートが表として読み込まれても機能し続けます。フィールドダイアログを介した数式の編集と作成はまだサポートされていませんが、インプレース編集/作成は可能です。例：セルに= SUM(A2：A4)と入力すると、数式として解釈され、セルA2からA4の値の合計が計算されます。

13.2.9.9 表コンテンツを編集する

1 以下のいずれかの操作を行います：

- 編集したいセルをダブルクリックします。
- TABLEDITコマンドを起動します。
- **プロンプト表示**: 編集するテーブルセルを指定:

  編集したいセルをクリックします。

選択したセルの上に**文字フォーマッティング**ツールバーが表示されます。(「文字の作成」を参照)

2 セルを編集します。

3 (オプション)Alt + Enterを押すと、同じセルに2行目が作成されます。

4 他のセルの編集：

- Tabを押して、同じ行の次のセルに移動します。
- Shift + Tabを押して、同じ行の前のセルに移動します。
- Enterを押して、同じ列の次のセルに移動します。
- Shift + Enterを押して、同じ列の前のセルに移動します。
- 矢印キーの1つを押します。

5 表の外側をクリックして編集を停止します。

13.2.9.10 表の書き出し

データをCSV(カンマ区切り値)ファイルに書き出しする場合、システムの区切り記号がCSVファイルで使用されます。(区切り記号の設定を参照)

1 TABLEEXPORTコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**: 書き出す表を選択:

2 データを書き出しする表をクリックします。

3 **書き出しデータ**ダイアログが開きます。

4 データを保存するフォルダーを選択します。

5 **ファイル名**欄に名前を入力します。

6 **保存**ボタンをクリックします。

選択した表のデータはCSVファイルとして保存されます。

13.2.9.11 区切り記号の設定

1 Windowsの**設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **地域**設定カテゴリを開きます。

3 **日付、時刻、地域の追加設定**をクリックします。

4 **日付、時刻、数値形式の変更**をクリックします。

5 **追加の設定**をクリックします。

6 **区切り記号**を設定します。

7 **OK**をクリックして確定します。

13.3 異尺度対応図形

13.3.1 異尺度対応図形

注釈とは、寸法、テキスト、シンボルなど、モデルやジオメトリではない図面上のすべての図形を指します。注釈の一般的な問題点は、尺度に依存することが多いことです。注釈の中には、プロットの縮尺に合わせて調整しなければならないものや、特定の尺度でしか表示できないものがあります。

異尺度対応スタイルや図形により、現在の尺度係数やビューポートの設定に応じた表示(サイズ、位置、方向)を行うことができます。

次の図形は、異尺度対応プロパティを持つことができます:

- 文字とマルチテキスト
- ハッチング
- ブロックと属性
- 寸法と公差
- 引出線とマルチ引出線

次のスタイルは、異尺度対応プロパティを持つことができます:

- 文字スタイル (STYLE コマンドを参照)
- 寸法スタイル (DIMSTYLE コマンドを参照)
- マルチ引出線スタイル (MLEADERSTYLE コマンドを参照)

注 :

- 異尺度対応のスタイルを使用して作成された図形は、カレントの異尺度対応尺度を自動的に割り当てられます。
- 異尺度対応スタイルが異尺度非対応図形に割り当てられている場合、異尺度プロパティは自動的には割り当てられません。

13.3.1.1 コマンド

ANNORESET：選択した異尺度対応図形のすべての尺度表示をカレントの尺度表示の場所にリセットし、すべての尺度表示を同期させます。

ANNOUPDATE：選択した異尺度対応図形を更新し、カレントのスタイル定義と一致させます。

OBJECTSCALE：ダイアログボックスを使い、異尺度対応図形に使用できる尺度を追加または削除します。

-OBJECTSCALE：コマンドラインで、異尺度対応図形に使用できる尺度を追加または削除します。

SCALELISTEDIT：**印刷**ダイアログと **ページ設定**ダイアログの**印刷尺度**およびペーパー空間ビューポートの**標準尺度**プロパティに使用される尺度リストを編集します。異尺度対応図形で使用可能な異尺度を定義します。

-SCALELISTEDIT：コマンドラインで、図面の尺度リストを編集します。

13.3.1.2 システム変数

ANNOALLVISIBLE：現在の異尺度をサポートしていない異尺度対応図形の表示を切り替えます。

ANNOTATIVEDWG：別の図面に挿入したとき、図面を異尺度対応ブロックとして挙動させるかどうか指定します。

CANNOSCALE：カレントの空間におけるカレントの注釈尺度の名前を設定します。現在の尺度リストに存在する尺度のみが受け付けられます。CANNOSCALEの設定は、モデル空間と、各種レイアウトのビューポートごとに保存されます。注釈図形を作成すると、現在の注釈尺度が自動的に適用されます。

CANNOSCALEVALUE：現在の注釈尺度の値を表示します。例：1:2スケールの値は0.5です。

HPANNOTATIVE：新しいハッチング図形を異尺度対応にするかどうかをコントロールします。

MSLTSCALE：オンにすると、モデル空間の線種が現在の注釈尺度に合わせて尺度設定されます。MSLTSCALEの値を切り替える際には、再作図が必要です。この変数は、ペーパー空間のPSLTSCALE(ペーパー空間線種尺度)と同等のものです。

MSOLESCALE：テキストを含むOLEオブジェクトをモデル空間に貼り付けたときのサイズを制御します。MSOLESCALEは、直近のスケーリングにのみ影響します。変数が変更されても、既存のOLEオブジェクトは影響を受けません。

SAVEFIDELITY：異尺度対応図形をサポートしていないプログラムで開いたときに、図面の現在の表示を維持するかどうかをコントロールします。

SELECTIONANNODISPLAY：異尺度対応図形を選択したときに、すべての尺度表示を表示するかどうかをコントロールします。

13.3.1.3 カレントの注釈尺度を設定

カレントの注釈尺度を設定するには、次のいずれかの操作を行います。

- **プロパティ**パネルで **その他** の **注釈尺度**をクリックし、下向き矢印ボタンをクリックして尺度リストから尺度を選択します。
- **ステータス**バーの**注釈尺度**フィールドを右クリックし、リストの中からスケールを選択します。**注釈尺度**フィールドがない場合は、**ステータス**バーの右端にある下矢印をクリックし、リストの中から**注釈尺度**を選択します。

注 : 尺度リスト に存在している尺度のみ使用可能です。SCALELISTEDIT コマンドで **尺度リスト**の編集が行えます。

13.3.1.4 図形の異尺度対応

非異尺度対応のスタイルを使い作成した異尺度対応図形は、以下の手順を行い異尺度対応にすることができます。

1 異尺度対応にしたい図形を選択します。

2 **プロパティ**パネルで、**異尺度対応**フィールドを選択します。

3 **はい**を選択します。

選択した図形に現在の異尺度が適用されます。

13.3.2 注釈尺度

注釈尺度は、異尺度対応図形の尺度係数の計算に使用されます。これは、異尺度対応テキスト図形の高さや、注釈ブロック全体の拡大縮小を定義します。一般的に、注釈尺度を使用すると、モデル空間の異尺度対応図形を自動的に正しいペーパー空間サイズで作成することができます。

- 文字、マルチテキスト、寸法、マルチ引出線：カレントのスタイルが異尺度対応している場合、作成時に現在の異尺度が適用されます。
- ハッチングとグラデーション塗り潰し： HPANNOTATIVE システム変数がオンの場合、カレントの異尺度が適用されます。
- ブロック：挿入時にカレントの異尺度が、ブロックの異尺度の値を定義します。

異尺度対応図形は、複数の注釈尺度をサポートすることができます。SELECTIONPREVIEW システム変数がアクティブまたは **クワッド**カーソルメニューを使用している場合、アイコンがハイライトされた図形の横に表示され、一つの異尺度( )が単独のみ対応かまたは複数対応か( )を示します。

13.3.2.1 注釈尺度を追加または削除するには

以下の手順で次のことが可能です：

- どの異尺度が現在適用されているかを確認する
- 異尺度の追加
- 異尺度の削除

1 1つまたは複数の異尺度図形を選択します。

2 **プロパティ**パネルで、**異尺度対応の尺度**フィールドを選択します。

3 **異尺度対応の尺度**フィールドの**参照**ボタン( )をクリックします。

注釈図形尺度ダイアログボックスが表示されます。

4 (オプション)複数の図形を選択した場合、すべてのスケールを一覧表示するか、それとも共通のスケールのみにするか選択します。

5 (オプション)次のいずれかの実行します：

- 1つ以上の尺度をリストから選択し、**削除**ボタンを押します。選択された尺度がリストから削除されます。
- **追加...**ボタンをクリックします。リストから1つまたは複数の尺度を選択し、**OK**ボタンをクリックします。
  選択した尺度がリストに追加されます。

6 **OK**ボタンをクリックして**注釈図形尺度**ダイアログを閉じます。
  変更内容は選択セットに適用されます。

注：尺度リスト に存在している尺度のみ使用可能です。SCALELISTEDIT コマンドで **尺度リスト**の編集が行えます。

13.3.3 異尺度対応文字

文字は現在の文字スタイルを使用して作成されます。

- 文字スタイルが異尺度対応の場合、文字は自動的に異尺度対応プロパティを取得し、現在の異尺度が割り当てられます。
- 文字スタイルが異尺度対応でない場合は、文字を手動で異尺度対応にする必要があります。

異尺度対応の文字は、2つの高さプロパティがあります。

- **モデル文字高さ**：カレントの異尺度を基準にした、モデル空間での画面上の表示高さ。
- **ペーパー文字高さ**：異尺度を適用して印刷した場合のペーパー空間の文字高さ。

13.3.3.1 文字の異尺度対応

1 文字図形を選択します。

1 選択された文字のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **プロパティ**パネルで、**異尺度対応**プロパティを選択します。

3 オプションリストから**はい**を選択します。
  現在の異尺度が割り当てられます。
  文字に尺度設定がない場合：カレントの文字高さは**モデル文字高さ**になります。

13.3.3.2 異尺度対応プロパティの削除

1 文字図形を選択します。

1 選択された文字のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **プロパティ**パネルで、**異尺度対応**プロパティを選択します。

3 オプションリストから**いいえ**を選択します。
  文字に複数の異尺度が設定されていた場合、元の尺度に戻ります。

13.3.4 異尺度対応ハッチングとグラデーション塗り潰し

HPANNOTATIVE システム変数は新しいハッチングまたはグラデーションを異尺度対応にするかどうかを設定します。

HPANNOTATIVEはデフォルトではオフです。システム変数は保存されず、BricsCAD を閉じるとデフォルト値にリセットされます。

13.3.4.1 HPANNOTATIVE システム変数の設定

以下のいずれかの操作を行います：

- **設定**ダイアログで、**2 D作図** > **図形の作成** > **ハッチング**を展開し、「異尺度対応ハッチングパターン」の「ハッチングパターンは異尺度対応」にチェックを入れます。
- **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスで **異尺度対応**オプションをチェックします。
- -HATCH コマンドのコマンドプロンプトで**異尺度対応**オプションを選択します。

13.3.4.2 ハッチングとグラデーションの異尺度対応

1 ハッチングまたはグラデーション塗り潰し図形を選択します。

1 選択した図形のプロパティが **プロパティ**パネルに表示されます。

2 **異尺度対応**プロパティを選択します。

3 オプションリストから**はい**を選択します。

現在の注釈尺度が、選択されたハッチングまたはグラデーションの図形に適用され、それに応じてハッチングがスケーリングされます。

13.3.4.3 異尺度対応プロパティの削除

1 ハッチングやグラデーション塗り潰しを選択します。

1 選択した図形のプロパティが **プロパティ**パネルに表示されます。

2 **異尺度対応**プロパティを選択します。

3 オプションリストから**いいえ**を選択します。

13.3.5 異尺度対応ブロック

ブロックの異尺度対応プロパティは、ブロック定義を作成する時に設定するか、後から**図面エクスプローラ - ブロック設定**ダイアログで設定します。

異尺度対応ブロックには、ペーパー空間のビューポートコンテンツの回転とは関係なく、レイアウトの方向に常に一致するオプションのプロパティを含めることができます。

13.3.5.1 異尺度対応のブロック定義の作成

1 EXPBLOCKSコマンドを起動します。

1 **図面エクスプローラ - ブロック設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 必要に応じて**詳細表示**を選択します。

異尺度ブロック定義には、**異尺度対応**列に**異尺度対応**のアイコン( )が表示されます。

3 ブロック設定の**異尺度対応**フィールドをクリックして、異尺度プロパティのオン/オフを切り替えます。

13.3.5.2 レイアウトに合致した回転プロパティの設定

1 EXPBLOCKSコマンドを起動します。

1 **図面エクスプローラ - ブロック設定**ダイアログボックスが表示されます。

2 必要に応じて**詳細表示**を選択します。

3 ブロック設定の**レイアウトに合致した回転** のチェックボックスにチェックを入れて、プロパティを設定します。

13.3.6 異尺度対応寸法

寸法図形は、現在の寸法スタイルを使用して作成されます。

- 寸法スタイルが異尺度対応の場合、寸法は自動的に異尺度対応プロパティを取得し、現在の異尺度が割り当てられます。
- 寸法スタイルが異尺度対応でない場合は、寸法を手動で異尺度対応にする必要があります。

注 :

- **全体尺度**設定 (DIMSCALEシステム変数)では、異尺度寸法スタイルを編集できず、異尺度対応の寸法では無視されます。
- 異尺度対応の寸法スタイルには、**全体尺度** = 1に設定することをお勧めします。

13.3.6.1 異尺度対応プロパティの削除

1 寸法図形を選択します。

1 選択した寸法図形のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **異尺度対応**プロパティを選択します。

3 オプションリストで**いいえ**を選択します。

寸法図形は、DIMSCALEの現在の値を基準にしてスケーリングされます。

13.3.7 異尺度対応引出線

マルチ引出線は、現在のマルチ引出線スタイルを使用して作成されます。

- マルチ引出線のスタイルが異尺度対応の場合、マルチ引出線図形は自動的に異尺度対応プロパティを取得し、現在の異尺度が割り当てられます。
- マルチ引出線のスタイルが異尺度対応でない場合は、マルチ引出線図形を手動で異尺度対応にする必要があります。

13.3.7.1 マルチ引出線図形の異尺度対応

1 **マルチ引出線**図形を選択します。

選択された**マルチ引出線**図形のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **異尺度対応**プロパティを選択します。

3 オプションリストで**はい**を選択します。

現在の異尺度が割り当てられます。

マルチ引出線図形は、現在の異尺度に対してスケーリングされます。

13.3.7.2 異尺度対応プロパティの削除

1 **マルチ引出線**図形を選択します。

選択された**マルチ引出線**図形のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 **異尺度対応**プロパティを選択します。

3　オプションリストから**いいえ**を選択します。

14. カスタマイズ

14.1 起動オプション

BricsCADを起動するときに、引数またはスイッチを追加できます。例えば、

- コマンドライン"BricsCAD.exe drawing1.dwg drawing2.dwg drawing3.dwg"は、BricsCADを起動し、指定した図面を読み込みます。
- コマンドライン"bricscad.exe /P MyProfile"は、MyProfileユーザプロファイルを使用してBricsCADを起動します。
- コマンドライン"bricscad.exe /pr LicenseLevelName"は、指定されたライセンスレベルを使用してBricsCADを起動します。

"/P MyProfile"は、コマンドラインスイッチと呼ばれます。スイッチの前には、スラッシュとハイフンのどちらを置いても構いません。例えば、"-P MyProfile"で動作します。スペースは任意で、例えば"/PMyProfile"でも動作します。また、スイッチ文字は大文字と小文字を区別しません。例えば、"-p MyProfile"でも動作します。

スイッチ	説明
/P [ユーザープロファイル名]	/Pオプションなしで起動すると、BricsCADはカレントのプロファイル(＝直近に使用されたプロファイル)を使用しますが、これは必ずしもデフォルトのプロファイルではありません。 /Pオプションで指定されているユーザープロファイルが起動時に存在しない場合、新規の空のユーザープロファイルがその名前で作成されます。 /P引数が.argファイルの場合、初回実行時に.argファイルを使いプロファイル設定を初期化します(**ユーザプロファイル**ページの**指定したユーザプロファイルでBricsCADを開始**を参照してください)。
/pr [ライセンスレベル名]	/prオプションなしで起動すると、BricsCADではカレントのライセンスレベルが使用されます。 有効な文字列は、「lite」、「pro」、「bim」、「mechanical」および「ultimate」です。大文字/小文字の区別はありません。 有効な/pr引数は、現在のセッションのRUNASLEVELシステム変数を設定します。 例えば、"C:\Program Files\Bricsys\BricsCAD *V25* ja_JP\bricscad.exe" /pr liteは、Liteライセンスレベルで BricsCADを起動します。 **注：** /pr shapeを使用して、BricsCAD Shapeを起動することができます。
/B [scriptFileName.scr](*)	起動時にスクリプト(* .scr)またはlisp(* .lsp)を実行します。 ドラッグし、アプリケーションのメインフレームウィンドウにドロップすることができ、すべての種類のファイルを開きます。 ファイル名に引数「/B」が入っていなくても、「/B」が入っているのと同様に開きます。したがって、bricscad.exe mylisp.lsp は bricscad.exe /B mylisp.lspと同じです。同様に、bricscad.exe my.dwg は bricscad.exe /B my.dwgと同じです。
/L	スタートのスプラッシュスクリーンを非表示にします。

スイッチ	説明
/LD [application.arx/brx/drx/lsp/dll](*)	起動時にアプリケーションをロードしたり、ファイルの拡張子に応じて、新規または開いた図面ごとにアプリケーションをロードします。ファイルの拡張子が.lsp/.des/.mnlの場合は、lispファイルとして扱われ、ずべての図面で読み込まれます。その他のファイルタイプは、起動時に一度だけ読み込まれます。
/Safemode	サードパーティのプラグインコード、イネーブラー、およびユーザのLispファイルのすべてを、現在のセッションにロードされないようにします。クリーンな環境で起動すると、潜在的なクラッシュの原因を防ぐことができます。 トラブルシューティングのページの**アプリケーションなしでBricsCADをセーフモードで起動する方法**を参照してください。
/ S [path]	SRCHPATHを再定義します。例：BricsCAD.exe /S C:¥BricsCAD¥
/ T [テンプレートファイル名]	指定されたテンプレート図面に基づき新規図面を作成します。
/regserver /unregserver (Windowsのみ)	BricsCADのCOMインターフェースを登録/解除します。
/Automation (Windowsのみ)	メインフレームウィンドウを表示せずに(UIを非表示にして)BricsCAD Shapeを起動します。 このスイッチは、COM オートメーションで使用するためのものですが、COM を使用しないバッチ処理タスクにも役立ちます。 オートメーションスイッチは、他のスイッチと一緒に使用できます。 スクリプトファイルの読み込みの例： <BricsCAD .exepath> /automation /B <path>/scriptFileName.scr 読み込まれたスクリプトは、完了時に最終的にアプリケーションを閉じる必要があります。

注：

- スペースを含むスイッチ引数は、ダブルクォートで囲む必要があります。例：/P "My user profile"
- スイッチは組み合わせることができます。例えば、/P MyProfile /L /S C:\BricsCAD\ は、スプラッシュ画面なしで**MyProfile**ユーザプロファイルを使用してBricsCADを開始し、SRCHPATHシステム変数をC:¥BricsCAD¥に設定します。
- 引数を必要とするスイッチパラメータの後に有効な引数を指定する必要があります。
- (*)スイッチ /B および /LD を使用すると、あらゆる種類のファイルをロードできますが、予期しないものもあります。例えば、.cui、.dsd、.txt、.pdfタイプも処理されます。
- BricsCADの起動時にGETSTARTED = オンの場合、**BricsCADランチャ**ダイアログボックスが表示され、ワークスペースを選択することができます。

これらのスイッチの他に、BricsCADはコマンドライン引数としてファイル名をサポートしています。

サポートファイル種別は以下です:

- DWG - 図面読み込み
- DXF - 図面読み込み
- SCR - スクリプト読み込み
- LSP - LISPプログラム読み込み
- DLL - ADS/SDS あるいは DRX/ARXプログラム読み込み
- SLD - スライドファイル読み込み
- MNU - メニューファイル読み込み
- CUI - メニューファイル読み込み

14.2 BricsCADユーザーファイル

BricsCADでは、ユーザーのファイルは特定のフォルダーに保存されます：

- **印刷設定**：プロッタ設定ファイル(*.pc3)
- **印刷スタイル**：名前の付いた印刷スタイルテーブル(*.stb)と色従属印刷スタイルテーブル(*.ctb)
- **サポート**:
  - ハッチングパターンファイル(*.pat)
  - 線種ファイル(*.lin)
  - エイリアスファイル(*.pgp)
  - ユニットファイル(*.unt)
  - カスタムユーザーインターフェースファイル(*.cui)
  - BIMライブラリファイル(*.bsyslib)はBIMPROJECTINFOコマンドを参照してください。
  - 構造ツリー設定ファイル(*.cst)については、STRUCTUREPANELコマンドを参照してください。
  - **ライブラリ**パネル設定ファイル(*.ccf)はLIBRARYPANELOPENコマンドを参照してください。
- **テンプレート**：テンプレート図面(*.dwt)

プラットホーム	フォルダー	サブフォルダー
Windows	C:¥Users¥%username%¥AppData¥Local ¥Bricsys ¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP	¥Templates
Windows	C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming ¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP	¥PlotConfig ¥PlotStyles ¥Support
Mac	/Users/<UserName>/Library/Application Support/Bricsys/BricsCAD/<Version>/ja_JP	/PlotConfig /PlotStyles /Support /Templates

プラットホーム	フォルダー	サブフォルダー
Linux	/home/<UserName>/Bricsys/BricsCAD/<Version>/ja_JP	/PlotConfig /PlotStyles /Support /Templates

14.2.1 BricsCADユーザーファイルマネージャー

アップデートを行うと、アップデート後に初めてBricsCADを起動したときに、BricsCADのインストールフォルダーの**UserDataCache**サブフォルダーの内容が**ユーザーファイルフォルダー**の内容と比較されます。これらのフォルダーにカスタマイズされたファイルがあり、**UserDataCache**フォルダー内の対応する1つ以上のファイルがより新しいものである場合、**BricsCADユーザーファイルマネージャー**ダイアログボックスが表示され、ファイルを保持するか、新しいバージョンで上書きするかを尋ねます。

以下を実行します：

1 リスト内の各ファイルに対して設定をどうするかを選択します。
   - **コピーを停止**：元のファイルを保持します。
   - **すべてはい**：ファイルを更新します。

2 **はい**ボタンをクリックします。

14.3 CUIファイルのロードとロード解除

Shape Lite Pro Mechanical BIM

BricsCADをインストールすると、デフォルトのCUIファイルが**Support**フォルダーにコピーされます(**BricsCADユーザファイル**を参照してください)。

注：次の3つの標準CUIファイルがデフォルトでインストールされています。

- モダン
- クラシック(classic-ribbon.cui)
- ツールバー(classic-toolbars.cui)

初めてBricsCADを起動すると、**classic-ribbon.cui**ファイルが自動的にロードされます。

CUIファイルのロードには、以下の2種類があります。

- メインCUIファイルのロード：現在ロードされているメインCUIファイルを置き換えます。
- 部分CUIファイルをロード：インターフェースにカスタマイズを追加します。

メジャーアップデートのインストール後にBricsCADを起動すると、以前のBricsCADインストールのファイルや設定をコピーして、CUIのユーザ変更を保持しながら、新しいCUIコンポーネントを追加することができます。

14.3.1 メインCUIファイルのロード

1 CUSTOMIZEコマンドを起動します。

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスが表示されます。

2 メニューの**ファイル**で、**メインCUIファイルをロード...**を選択します。

メインCUIファイルを選択ダイアログボックスに**Support**フォルダーの内容が表示されます。

3 CUIファイルを選択し、ダブルクリックするか、**開く**ボタンをクリックします。

選択されたCUIファイルがロードされます。

4 **カスタマイズ**ダイアログボックスを閉じます。

14.3.2 部分CUIファイルのロード

1 CUSTOMIZEコマンドを起動します。

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスが表示されます。

2 メニューの**ファイル**で、**部分的なCUIファイルをロード...**を選択します。

カスタマイズファイルを選択 ダイアログボックスに、**Support**フォルダーの内容が表示されます。

3 CUIファイルを選択し、ダブルクリックするか、**開く**ボタンをクリックします。

選択されたCUIファイルの内容が追加されます：メインCUIのものとは異なる定義が使用されます。

4 **カスタマイズ**ダイアログボックスを閉じます。

注： 手順2でCUIXファイルを選択すると、オンザフライでCUIファイルに変換されます。CUIXファイルにビットマップが含まれている場合は、.RESZリソースファイルにコピーされ、リソースDLL(ツールのビットマップを含むzipファイルで、全プラットフォームで動作)の代わりとしてサポートされます。対応可能な画像フォーマットは以下の通りです：BMP、JPG、PNG、ICO、GIF、TIFF、XBM、XPM。

14.3.3 CUIロードエラーの場合

CUIファイルの破損によるロードエラーの場合、エラーメッセージが表示されます。最新のバックアップから復元を試みるか、UserDataCache(存在する場合)から同じ名前のCUIファイルを使用することを試みることができます。

14.3.4 部分CUIファイルのロード解除

1 CUSTOMIZEコマンドを起動します。

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスが表示されます。

2 **メニュー**タブをクリックします。

3 部分CUI名を右クリックして、コンテキストメニューから**ロード解除<部分Cui名>**を選択します。

4 **カスタマイズ**ダイアログボックスを閉じます。

14.3.5 カスタマイズグループの管理

1 MENULOADを起動します。

1 **カスタマイズグループ**ダイアログボックスが開きます。

2 (オプション)部分CUIファイルをロードする場合、ブラウザボタン(…)をクリックして部分CUIファイルを選択し、**ロード**ボタンをクリックします。

3 (オプション)部分CUIファイルを解除するには、**ロードされたカスタムグループ**一覧から部分CUIファイルを選択して**ロード解除**ボタンをクリックします。

4 **閉じる**ボタンをクリックして終了します。

14.4 部分CUIファイルの作成

1 CUSTOMIZEコマンドを起動します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **ファイル**メニューから**新規に部分CUIファイル作成**を選択します...
- メニューグループ名にカーソルを合わせて右クリックし、コンテキストメニューから**新規に部分CUIファイルを作成...**を選択します。

カスタマイズファイルを作成ダイアログが開きます。

デフォルトでは、新規の部分的なCUIファイルは**Support**フォルダーに作成されます。

3 (オプション)別のフォルダーを選択することもできます。

4 **ファイル名** 欄に新しい CUI ファイルの名前を入力します。

5 **保存**ボタンをクリックします。

新規作成された**部分CUIファイル**が読み込まれ、**メニュー**、**ツールバー**、**リボン**、**キーボード**、**マウス**、**タブレット**、**クワッド**の各タブと、各タブの**使用可能なツール**ペインに、同じ名前の**メニューグループ**が作成されます。

14.5 ツールボックスの管理

ツールボックスには、メニュー、ツールバー、リボンパネル、クワッドタブ、キーボードやマウスのショートカットに追加できるツールのセットが含まれています。ツールボックスは、メインCUIでも部分的なCUIでも作成できます。

14.5.1 メニューグループにツールボックスを作成する

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、右ペインの**利用可能なツール**でメニューグループを選択します。

- BRICSCAD (=デフォルトのメインCUI)
- <部分CUIの名前>(=部分CUI)

2 右クリックしコンテキストメニューから **ツールボックスを追加** を選択します。

ツールボックスを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **名前**フィールドに新しいツールボックスの名前を入力し、**OK**ボタンをクリックします。

利用可能なツールツリーにツールボックスが追加されます。

14.5.2 ツールボックスでのツールの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスの右ペインにある**利用可能なツール**から作成したツールボックスを選択します。

2 右クリックしコンテキストメニューから**ツールを追加**を選択します。

ツールを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **タイトル**：新しいツールの名前を入力します。

4 **ヘルプ**：ヘルプ文字列を入力します。

5 **コマンド**：コマンドまたはコマンドマクロ*を入力します。

6 **イメージ**：**参照**ボタン(…)をクリックします。

ツールイメージダイアログボックスが表示されます。

7 以下のいずれかの操作を行います：
- **ビルトイン**を選択し、組み込みアイコンを選択します。
- **ビットマップファイル**を選択し、まず画像ファイルを1つ選択するか、大小のイメージファイルを選択してから、**参照**ボタン(…)をクリックして、画像ファイルを選択します。

8 **OK**ボタンをクリックしてツールを作成します。

*コマンドマクロを作成するための構文：

- **^c^c**はEscを2回押すことを意味します。前に実行したコマンドを中止するために設けています。
- 英語版以外のBRICSCADでマクロを使用する場合は、コマンド名の前にアンダースコア(_)を入力してください。
- コマンド名の前にピリオド(.)を付けると、そのコマンドが一時的に未定義であっても、マクロが動作するようになります。
- コマンド名の前のハイフォン(-)はコマンドダイアログを非表示で実行するためのものです。
- セミコロン(;)は、デフォルトのプロンプトオプションを承諾するなど、Enterを押すのと同じ意味を持ちます。
- バックスラッシュ(¥)はユーザーの入力を可能にするために、一時的にマクロを停止させます。例えば、点を指定するなどです。

以下のマクロでは：^c^c_-layer;m;InteriorWalls;;_mline

- **^c^c**：実行中のコマンドがあれば、それを終了します。
- **-layer;**：-LAYERコマンドを起動します。
- **m;**：カレント画層を新規作成オプションを選択します。
- **InteriorWalls**：InteriorWalls画層をカレントにし、必要に応じて最初に作成します。
- **;;_mline**：-LAYERコマンドを終了し、MLINEコマンドを起動します。

14.6 ツールバーの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**ツールバー** タブをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を行います：
- 左ペインからメニューグループを選択し、右クリックをしてコンテキストメニューの**ツールバーを挿入**を選択します。
  新しいツールバーは、既存の最後のツールバーの下に追加されます。
- メニューグループ内の既存のツールバーを選択し、右クリックしてコンテキストメニューの**ツールバーを挿入**を選択します。
  新しいツールバーは、選択したツールバーの上に追加されます。

ツールバーを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **タイトル**フィールドに名前を入力します。

4 **OK**ボタンをクリックします。
ツールバーが作成されます。

5 ツールバーのプロパティを設定します：
- **タイトル**：ツールバー名は、ダッシュ(–、半角ダッシュを含む)または下線(_)以外の句読点を含まない英数字で構成します。**タイトル**は**エイリアス**と同様に、ツールバーをプログラムで照会することができます。
- **位置**：CUIファイルがロードされたときのツールバーの表示位置を定義します。
  オプションは以下の通りです：**フローティング**、**上**、**左**、**下**、**右**後者の4つは、ツールバーがドッキングされるウィン

ドウの端を指します。

- **デフォルト表示**：CUIファイルがロードされる時にツールバーを表示するかどうか定義します。
- **行**：位置をフローティングにしたの場合の行数を指定します。コントロール付きのツールバーは、複数の行を持つことができません。
- **X値**：フローティングを選択している場合、画面左端からツールバーの左端までを測定してピクセルのX座標を指定します。
- **Y値**：フローティングを選択している場合、画面上部の端からツールバーの上部までを測定してピクセルのY座標を指定します。

6 ツールバーに項目を追加します。

14.6.1 ツールバーにフライアウトを追加

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**ツールバー** タブをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- ツールバーの最後にフライアウトを追加するために、ツールバーを選択して右クリックし、**フライアウトを追加**を選択します。
- 選択したツールの上にフライアウトを追加するために、ツールバーを展開し、ツールを右クリックし**フライアウトを挿入** を選択します。

3 **フライアウトを追加**ダイアログボックスが表示されます。

4 **フライアウトを追加**ダイアログの**タイトル**フィールドに名前を入力します。

5 **OK**ボタンをクリックします。

フライアウトと、手順4で入力したタイトルと同名の新しい空のツールバーが作成され、互いにツールを挿入するとそれぞれに追加されます。

6 ツールバーのフライアウトのプロパティを設定します。

- **タイトル**：ツールバー名は、ダッシュ(–、半角ダッシュを含む)または下線(_)以外の句読点を含まない英数字で構成します。**タイトル**は**エイリアス**と同様に、ツールバーをプログラムで照会することができます。
- **目標エイリアス**：参照されるツールバーを識別します。
- **自身のアイコン**：
  - **いいえ**：最初に使ったツールのアイコンか、一番最近使ったツールのアイコンが親ツールバーに表示されます。
  - **はい**：選択したアイコンが親ツールバーに表示されます。

7 フライアウトが切り離されて、フローティングツールバーとして挿入されたときのツールバーのプロパティを定義します。

8 ツールバーに項目を追加します。

9 フライアウトに追加された項目は自動的にツールバーに追加され、その逆も同様です。

14.7 メニュー作成

メインメニューは、BricsCAD アプリケーションウィンドウの一番上のメニューバーにあります。サブメニューは、メインメニューのフライアウトとして表示されます。

MENUBARシステム変数は、メニューの表示を制御します。

14.7.1 メインメニューの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログで **メニュー** タブをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 左ペインにあるメニューグループのサブグループから**メインメニュー**を選択して右クリックし、コンテキストメニューから**メインメニューを追加**を選択します。

  新しいメニューは、既存の最後のメニューの下に追加されます。

- サブグループ**メインメニュー**にある既存のメニューを1つ選択し右クリックします。コンテキストメニューから**メインメニューを挿入**を選択します。

  選択したメニューの上に新しいメニューが追加されます。

メインメニューを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **タイトル** フィールドに名前を入力します。

4 **OK**ボタンをクリックします。

メインメニューが作成されます。

5 メニューに項目を追加します。

注：新しいメインメニューは、少なくとも1つのメニュー項目が追加されるまでは、メニューバーに表示されません。

14.7.2 メインメニューにサブメニューを追加

1 **カスタマイズ**ダイアログで **メニュー** タブをクリックします。

メニューグループが折りたたまれている場合は展開します。

メインメニューが折りたたまれている場合は展開します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- メインメニュー以下からメニューを選択し右クリックします。コンテキストメニューから **サブメニューを追加** を選択します。

  新しいサブメニューは、既存の最後の項目またはサブメニューの下に追加されます。

- 既存の項目を1つ選択して右クリックし、コンテキストメニューから**サブメニュー**を挿入を選択します。

  新しいサブメニューは、選択した項目の上に追加されます。

サブメニューを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **タイトル**フィールドに名前を入力します。

4 **OK**ボタンをクリックします。

サブメニューが作成されます。

5 サブメニューに項目を追加します。

14.7.3 サブメニューにサブメニューを追加する

1 **カスタマイズ**ダイアログで **メニュー** タブをクリックします。

2 サブメニューを展開します。

3 サブメニュー内の既存の項目を1つ選択して右クリックし、コンテキストメニューから**サブメニューを挿入**を選択します。

サブメニューを追加ダイアログボックスが表示されます。

4 **タイトル**フィールドに名前を入力します。

5 **OK**ボタンをクリックします。

サブメニューが作成されます。

6 サブメニューに項目を追加します。

14.8 コンテキストメニューの作成

コンテキスト(別名：ショートカット)メニューの有無は、SHORTCUTMENU で制御されます。コンテキストメニューには3つのモードがあります：

- **デフォルトモード**：アクティブなコマンドがなく、何も選択されていない場合に、**デフォルト**のコンテキストメニューを表示します。
- **編集モード**：図形などを選択した際に、**編集**コンテキストメニューを表示します。このモードはコンテキストに依存します。選択された図形または図形に固有のショートカットメニューが存在する場合、その内容が**編集**コンテキストメニューに追加されます。例えば、**マルチテキスト図形**のコンテキストメニューの内容は、マルチテキスト図形が選択されているときに**編集**のコンテキストメニューで利用できます。
- **コマンドモード**：コマンドの実行中に、**コマンド**のコンテキストメニューを表示します。

右クリックするとショートカットメニューが表示されます。しかし、

- SHORTCUTMENUのビットコード16が設定されている場合、右クリックは前のコマンドを繰り返すので、ショートカットメニューを表示するにはマウスの右ボタンを長く押し続ける(＝ロングライトクリック)必要があります。
- QUADDISPLAYのビットコード4が設定されている場合(＝右クリックでクワッド表示)、SHORTCUTMENUのビットコード16が設定されている場合のみ、ショートカットメニューが表示されます。

特別なショートカットメニューは以下の通りです：

- **グリップ**：グリップを使って図形を編集する際に右クリックで表示されます。
- **図形スナップ**：
  - MBUTTONPAN = オフ：マウスホイール(マウスの中ボタン)をクリックしたときに表示されます。
  - MBUTTONPAN = オン：Shift + 右クリックで表示されます。

14.8.1 ショートカットメニューの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログで **メニュー** タブをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を行います：
   - メニューグループのサブグループから**コンテキストメニュー**を選択します。右クリックして表示されるコンテキストメニューから**コンテキストメニューを追加**を選択します。

     新しいコンテキストメニューは、既存のコンテキストメニューの下に追加されます。
   - **コンテキストメニュー**サブグループで既存のコンテキストメニューを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**コンテキストメニューを挿入**を選択します。

     新しいコンテキストメニューは、選択されているコンテキストメニューの上に追加されます。

   コンテキストメニューを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **メニュータイトル**欄に名前を入力します。

4 (オプション) 通常のコンテキストメニューを作成します：
- **通常のコンテキストメニュー** を選択します。
- **コンテキストを追加...**ボタンをクリックします。

  コンテキストエイリアスを追加ダイアログボックスが表示されます。
- コンテキストエイリアスを選択します。オプションは以下の通りです：
  CMCOMMAND、CMDEFAULT、CMEDIT、GRIPS、SNAP
- コンテキストメニューが利用可能になるタイミングをここで設定します。各内容については上記の説明を参照してください。
- (オプション) 別のコンテキストエイリアスを追加します。
- **OK**ボタンをクリックしてコンテキストメニューを保存します。

5 (オプション) 特定の図形を選択時にのみ表示されるコンテキストメニューを作成します：
- **指定図形のコンテキストメニュー**を選択します。
- **図形種類を追加...**ボタンをクリックします。

  図形エイリアスを追加ダイアログボックスが表示されます。
- **単一図形**または**複数図形**ボックスのいずれかにチェックを入れます。
- リストで1つまたは複数の図形を選択し、**OK**ボタンをクリックします。
- (オプション)**カスタムを追加...**ボタンをクリックして、カスタムエイリアスを追加します。
- **OK**ボタンをクリックしてコンテキストメニューを保存します。

6 コンテキストメニューにツールを追加します。

14.9 キーボードショートカットの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**キーボード** タブを選択します。

2 以下のいずれかの操作を行います：
- メニューグループを選択し、右クリックをしてコンテキストメニューの**ショートカットを追加**を選択します。

  新しいショートカットは、最後のショートカットの下に追加されます。
- メニューグループで既存のショートカットを選択し、右クリックをしてコンテキストメニューの**ショートカットを挿入**を選択します。

  新しいショートカットは、選択したショートカットの上に追加されます。

キーボードショートカットを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 以下のいずれかの操作を行います：
- **利用可能なツールを選択**を選択してから、既存のツールを選択します。
- **新規ツールを作成**を選択してから、新しいツールを作成します。

  ツールボックスの管理ページ(右側にリンクあり)の**ツールボックスでのツールの作成**の手順を参照してください。

4 追加したショートカットにキーを割り当てます。新規に追加したツールを選択して、**プロパティ**で**キー**欄を選択し、ショートカットに割り当てたい組合せを押します。

14.10 クワッドのカスタマイズ

カスタマイズダイアログボックスの**クワッド**タブを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- **ステータス**バーで**クワッド** 欄を右クリックして、コンテキストメニューから**クワッドアイテムをカスタマイズ...** を選択します。
- CUSTOMIZEコマンドを実行して、**クワッド**タブを選択します。

14.10.1 クワッドタブの作成

1 以下のいずれかの操作を行います：

- メニューグループを右クリックし、コンテキストメニューから**クワッドタブを追加**を選択します。
  クワッドタブは、メニューグループ最後の既存クワッドタブの下に追加されます。
- 既存のクワッドタブを右クリックし、コンテキストメニューから**クワッドタブを挿入**を選択します。
  選択されたクワッドタブの上にクワッドタブが追加されます。

クワッドタブを追加ダイアログボックスが表示されます。

2 **ラベル**フィールドに名前を入力します。
クワッドカーソルメニューにラベルが表示されます。

3 **タイトル**フィールドに名前を入力します。
タブのタイトルは、メニューグループ内で固有のものでなければなりません。

4 **OK**ボタンをクリックします。

5 作成したクワッドタブにツールを追加します。

14.10.2 クワッドタブのコピー

クワッドタブのコピーを、同じメニューグループ内や別のメニューグループに挿入することができます。

- クワッドタブのコピーを挿入するには、そのタブを選択して右クリックし、コンテキストメニューから**コピーを挿入**を選択します。
  クワッドタブを追加ダイアログボックスが表示されます。
  ラベルとタイトル(上記参照)を指定し、**OK**ボタンをクリックします。
- 別のメニューグループにクワッドタブのコピーを挿入するには：クワッドタブを対象のメニューグループにドラッグ&ドロップします。

14.10.3 ツールの図形フィルタープロパティの設定

クワッドカーソルのメニューはコンテキスト依存です。使用できるツールは、カーソルを当てている図形やカレントで選択している図形によって異なります。選択肢が存在しない場合、QUADDISPLAYシステム変数のビットコード4が選択されていると、右クリックで**クワッド(選択なし)**が表示されます。

1 カスタマイズダイアログにて追加したクワッドのツールを選択します。

1 **クワッドボタン**のプロパティは、**カスタマイズ**ダイアログボックスの下部に表示されます。

2 **図形フィルター**プロパティを選択します。
初期設定は「NO_SELECTION」です。

3 フィールドの右側にある**参照**ボタン(…)をクリックします。

クワッドボタンフィルターを編集ダイアログボックスが表示されます。

4 (オプション)**フィルターを追加...**ボタンをクリックします。

クワッドボタンフィルターを追加ダイアログボックスが表示されます。

フィールドの右側にある下矢印をクリックし、フィルターを選択します：

- NO_SELECTION：図形が何も選択されていないときにツールが利用できます。
- OBJECT_ANY：図形が1つだけ選択されているときにツールが利用できます。
- OBJECTS_ANY：複数の図形が選択されているときにツールが利用できます。

OKボタンをクリックします。

5 (オプション)手順4を繰り返して、フィルターを追加または削除します。

6 (オプション)**図形種類を追加...**ボタンをクリックします。

図形エイリアスを追加ダイアログボックスが表示されます。

- **単一図形**または**複数図形**ボックスのいずれかにチェックを入れます。
- ツールが適用される図形タイプをチェックしてください。

OKボタンをクリックします。

注：内蔵されているクワッドボタンの図形フィルターを変更することはできません。

14.11 カスタムクワッドフィルターの作成

クワッドカーソルフィルターでは、特定のタイプの図形に対してクワッドが表示するボタンのセットをカスタマイズすることができます。

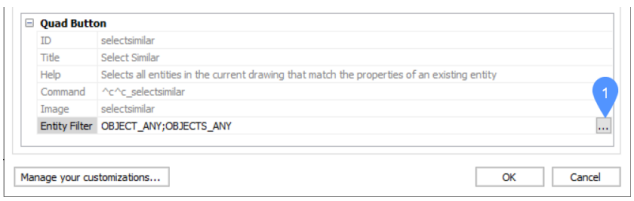
14.11.1 カスタムツール用のカスタムフィルターの作成

クワッドでは、マウスカーソルが置かれている図形の種類に応じて、特定のボタンが表示されます。

特定のクワッドボタンが表示されるかどうかの条件は、クワッドボタンごとに **図形フィルター**プロパティで個別に指定します。

図形フィルタープロパティにアクセスするには、以下の手順を実行してください：

- **カスタマイズ**ダイアログボックスの **クワッド**タブを開きます。
- ダイアログボックスの左側にある各項目のツールノードをクリックします。
- **クワッドボタン**ペインで、**図形フィルター**項目をクリックします。
- 同じ行の右端にある、下図で(1)とマークされている3つの点がついたボタンをクリックします。**クワッドボタンフィルターを編集**ダイアログボックスが開きます。詳細は以下をご参照ください。



注：内蔵されているクワッドボタンの**図形フィルター**を変更することはできません。内蔵ボタンの場合、**図形フィルター**欄は無効です。

14.11.2 クワッドボタンに新しいフィルターを追加する

クワッドボタンに新しいフィルターを追加するには、以下の手順を実行してください：

- **カスタマイズ**ダイアログボックスの **クワッド**タブを開きます。
- ダイアログボックスの左側にある各項目のツールノードをクリックします。
- **クワッドボタンフィルターを編集**ダイアログボックスを開きます。
- **図形種類を追加...**ボタンをクリックします。
- フィルターが影響するのが単一の図形なのか、複数の図形なのかを選択します。
- フィルターに関連付ける図形タイプまたはサブ図形タイプを選択します。複数の項目を選択することができます。
- **OK**をクリックします。
- または **フィルターを追加...**ボタンをクリックしてカスタムフィルターを入力するか、利用可能な一般フィルター (NO_SELECTION、OBJECT_ANY、OBJECTS_ANY) からフィルターを選択します。

  注：カスタムフィルターでは、フィルタリングしたい図形のDXF名と、サブ図形の指定 (面／辺／頂点) を手動で入力することができます。完全なフィルター名は、一般的なフィルター名、「OBJECT_」または「OBJECTS_」の後に、図形のDXF名(LINE、CIRCLE など)が続きます。例：OBJECT_CIRCLE、OBJECTS_SURFACE_EDGE

- **OK**をクリックします。

選択した項目が**クワッドボタンフィルターを編集**ダイアログボックスのリストに表示されます。

その他、ここでできる操作は以下の通りです：

1 項目を削除するには、その項目を選択して**削除**をクリックします。

2 1つまたは複数の項目を追加するには、**図形種類を追加...**をクリックして、図形タイプのリストからさらにいくつかの項目を選択します。

3 **クワッドボタンフィルターを編集**ダイアログボックスの図形リストの準備ができたら、**OK**を押します。このフィルターは、**カスタマイズ**ダイアログボックスの**クワッド**タブの**図形フィルター**欄に表示されます。

4 フィルターを編集するには、**図形フィルター**の行の右端にある3つの点が付いたボタンを押して、上記の手順を繰り返します。

14.12 ユーザーインターフェースコントロールにツールを追加

ツールは、**カスタマイズ**ダイアログボックスの右ペインの**利用可能なツール**セクションにあるツールボックスから、メニュー、コンテキストメニュー、ツールバー、リボンパネルの行、キーボードショートカット、クワッドタブにドラッグ＆ドロップすることができます。

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで対象のタブを選択します。

2 **利用可能なツール**セクションで、ソースツールボックスを展開します。

3 ツールを選択し、対象となる項目にドラッグ&ドロップします。

4 (オプション)**利用可能なツール**の**コントロール**を展開し、対象のアイテムにコントロールをドラッグ＆ドロップします。

5 (オプション) ツールをドラッグ&ドロップして位置を変えたり、別の対象項目に移動させたりすることができます。

14.13 リボンのカスタマイズ

リボンは一連のタブで構成されており、同様にそのタブはパネルで構成されています。リボンパネルは、ツール、コントロール、サブパネルの行で構成されています。

リボンタブは、どのリボンパネルをリボン上に表示するかを制御します。

リボンにリボンタブを表示するには、タブをワークスペースに追加する必要があります。

14.13.1 リボンタブの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**リボン**タブをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- メニューグループを展開し、**リボンタブ**を右クリックしてコンテキストメニューから**リボンタブを追加**を選択します。

  新しいリボンタブは、既存の最後のリボンタブの下に追加されます。

- メニューグループで既存のリボンタブを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**リボンタブを挿入**を選択します。

  新しいリボンタブは、選択されているリボンタブの上に追加されます。

リボンタブを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 リボンタブを定義します：

- **ラベル**: リボンに表示されるタブの名前。
- **タイトル**: タブの長い名前。
- **ID**: リボンタブを識別するための一意の名前。このIDは、プログラムでリボンタブを参照する際に使用されます。

4 **OK**ボタンをクリックして、リボンタブを作成します。

14.13.2 リボンパネルの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**リボン**タブをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- メニューグループを展開し、**リボンパネル**を右クリックしてコンテキストメニューから**リボンパネルを追加**を選択します。

  新しいリボンパネルは、既存の最後のリボンパネルの下に追加されます。

- メニューグループで既存のリボンパネルを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**リボンパネルを挿入**を選択します。

  新しいリボンパネルは、選択されたリボンパネルの上に追加されます。

リボンパネルを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 リボンパネルを定義します：

- **ラベル**: リボンに表示されるパネルの名前。
- **タイトル**: パネルの長い名前。
- **ID**: リボンパネルを識別するための一意の名前。このIDは、プログラムでリボンパネルを参照する際に使用されます。

4 **OK**ボタンをクリックして、リボンパネルを作成します。

14.13.3 タブにリボンパネルを追加する

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**リボン**タブをクリックします。

2 メニューグループの**リボンタブ** を展開します。

3 以下のいずれかの操作を行います：
- リボンタブを右クリックし、コンテキストメニューから**パネルを追加**を選択します。
  リボンパネルは、既存の最後のリボンパネルの下に追加されます。
- リボンタブを展開し、右クリックしてコンテキストメニューから**パネルを挿入**を選択します。
  リボンパネルは、選択したリボンパネルの上に追加されます。

リボンパネルを選択ダイアログボックスが表示されます。

メニューグループ内の既存のリボンパネルすべてが一覧表示されます。

4 リストでパネルを選択し、ダブルクリックするか、**OK**ボタンをクリックします。

パネルがタブに追加されます。

14.13.4 パネルに行を追加する

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**リボン**タブをクリックします。

2 メニューグループの**リボンパネル**を展開します。

3 作成したリボンパネルを選択し、以下のいずれかの操作を行います：
- 右クリックして、コンテキストメニューから**行を追加**を選択します。
  選択したパネルの既存の最後の行の下に行が追加されます。
- 既存の行を選択して右クリックし、コンテキストメニューから**リボンの行を挿入**を選択します。
  選択された行の上に行が追加されます。

14.13.5 行に項目を追加する

行を右クリックすると、コンテキストメニュー内の以下のオプションが使用できます：

- **行パネルを追加**: デフォルトで 3つのサブパネル行を含むサブパネルを追加します。これらの行に1つまたは複数のアイテムを追加したり、行を追加/削除したりすることができます。
- **コマンドボタンを追加**: **ユーザインターフェースコントロールにツールを追加**を参照してください。(本ページ右側にリンクがあります)
- **分割ボタンを追加**: 複数のアイテムを追加できるボタンを追加します。最初の項目または最近使用した項目のみが表示されます。
- **切替ボタンを追加**: 設定やオプションを切り替えるボタンを追加します。例えば、図形スナップや選択の優先順位などです。切替ボタンは、設定やオプションの状態を示します。
- **セパレータを追加**: 行間にスペースを追加します。

14.13.6 項目のプロパティの定義

アイテムを選択してから、**カスタマイズ**ダイアログボックス下部にあるプロパティグリッドでプロパティを定義します。

14.13.7 項目の再配置

パネルや行の任意の項目を再配置するには、項目を選択し、マウスの左ボタンを押したまま、項目を目的の位置に移動させます。マウスボタンを離すと、項目が配置されます。

14.13.8 項目を削除

アイテムを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**削除**を選択します。

14.14 ツールパレットの操作

ツールパレットでは、タブ付きのウィンドウにブロック、ハッチング、およびコマンドを追加できます。

パレットからツールをグラフィック画面にドラッグするか、ツールをクリックして関連ツールを起動します。

14.14.1 ツールパレットパネルを開く

以下のいずれかの操作を行います：

- ツールバーまたはリボンパネルにカーソルを合わせ、右クリックしてコンテキストメニューから**パネル** > **ツールパレット**を選択します。
- TOOLPALETTESコマンドを起動して **ツールパレット**パネルを表示します。

14.14.2 表示オプションの設定

1 **ツールパレット**パネルの右上にある3つのドットのボタンをクリックするか、**ツールパレット**パネルのアイコン領域の空白部分を右クリックすることにより、コンテキストメニューを開きます。

2 コンテキストメニューで**表示オプション...**を選択します。

ビューオプションダイアログボックスが表示されます。

3 イメージサイズを調整するには**イメージサイズ**スライダーをドラッグします。

4 ビュースタイルを設定します：**文字アイコン**、**アイコンのみ**、**ビュー一覧**のいずれかです。

5 **適用**の一覧ボタンから **カレントのパレット**または**すべてのパレット** 選択します。

6 **OK**ボタンをクリックして確定します。

注：また、パネルの右上にある3つのボタンをクリックすることにより、カレントパレットの表示モードを切り替えることもできます。

- **文字付きアイコン**
- **アイコンのみ**
- **リストビュー**

14.14.3 ツールパレットのカスタマイズ

注：ツールパレットのデフォルトフォルダーは、TOOLPALETTEPATHで定義されます。

カスタマイズダイアログボックスを開く

1 **ツールパレット**パネルの右上にある3つのドットのボタンをクリックするか、**ツールパレット**パネルのアイコン領域の空白部分を右クリックすることにより、コンテキストメニューを開きます。

2 コンテキストメニューで**パレットをカスタマイズ...**を選択します。

カスタマイズダイアログボックスが表示されます。

ツールパレットの読み込み(カスタマイズダイアログ)

1 カスタマイズダイアログの**パレット**パネルで右クリックし、コンテキストメニューから**読み込み**を選択します。

パレットを読み込みダイアログボックスが表示されます。

2 フォルダーを選択し、パレットファイル(*.atc、*.btc、*.xtp)を選択します。

3 **開く**ボタンをクリックするか、ダブルクリックしてパレットを読み込みます。

パレットは**パレット**リストに追加されます。

4 **閉じる**ボタンをクリックして**カスタマイズ**ダイアログを閉じます。

パレットグループの作成(カスタマイズダイアログ)

1 カスタマイズダイアログのパレットグループペイン内にある**パレットグループ**ルートフォルダー名の上にカーソルを移動します。

2 右クリックし、コンテキストメニューから**新規グループ**を選択します。

新しいグループフォルダーが作成されます。

3 新しいグループ名を入力します。

パレットのサブグループの作成(カスタマイズダイアログ)

1 既存のグループ名の上にカーソルを移動します。

2 右クリックし、コンテキストメニューから**新規グループ**を選択します。

選択したグループのサブグループとして、新しいグループフォルダーが追加されます。

3 新しいグループ名を入力します。

グループへのパレットの追加(カスタマイズダイアログ)

1 パレットにカーソルを移動します。

2 パレットを選択し、パレットグループ名の上にパレットをドラッグします。

グループからのパレットの削除(カスタマイズダイアログ)

1 グループからパレットを選択します。

2 右クリックし、コンテキストメニューから**削除**を選択します。

パレットグループのカレント設定(カスタマイズダイアログ)

1 パレットグループツリーからパレットグループを選択します。

2 右クリックし、**カレントにセット**を選択します。

パレットグループの削除(カスタマイズダイアログ)

1 パレットグループツリーからパレットグループを選択します。

2 右クリックをして、コンテキストメニューから**削除**を選択します。

14.14.4 ツールパレットの名称変更

方法1：

1 ツールパレットタブを右クリックし、コンテキストメニューから**パレットの名前を変更**を選択します。

2 **名前**フィールドに新しいパレットの名前を入力します。

3 保存を押して確定します。

方法2：

ツールパレットのタブをダブルクリックし、パレットに新しい名前を入力します。

14.14.5 ツールパレットの削除

1 コンテキストメニューを開き、コンテキストメニューの**パレットを削除**を選択して、カレントパレットを削除します。

2 **パレットの削除を確認**ボックスの**はい**ボタンをクリックします。

14.14.6 ツールの管理

1 ツールパレットのツール上で右クリックをします。

1 コンテキストメニューが表示されます。

注：複数のツールを選択する場合は矩形選択を使用できます。

2 オプションを選択します：

- **切り取り**：パレットからアイテムを削除します。別のパレットを開き、右クリックしてコンテキストメニューから**貼り付け**を選択します。
- **コピー**：ツールをコピーします。別のパレットを開き、右クリックしてコンテキストメニューから**貼り付け**を選択します。
- **削除**：ツールを削除します。削除の確認を求めるダイアログボックスが表示されます。
- **名前変更**：ツールの新しい名前を入力します。
- **イメージを指定...**：デフォルトの画像を置き換えることができます。

  イメージファイルを選択ダイアログボックスで新しいイメージを選択し、ダブルクリックするか **開く**ボタンをクリックします。
- **イメージを削除...**：画像をデフォルトに戻します。
- **フライアウトオプションの管理...**：**フライアウトオプション**ダイアログボックスが開き、ツールのフライアウトを管理できます。.xtp読み込みによるツールフライアウトもサポートしています。
- **プロパティ**：ツールパレットのアイテムをクリックすると、コマンドが起動します。ツールパレットのアイテムのプロパティは、コマンドの実行をコントロールします。

  ツールプロパティダイアログボックスで使用できるプロパティは、ツールタイプ(コマンド、ハッチング、ブロック、コンポーネント)によって異なります。

  ツールのプロパティを編集し、OK ボタンをクリックします。

14.14.7 ツールパレットの新規作成

1 コンテキストメニューを開きます。

2 コンテキストメニューで**新規パレット**を選択します。

新しいタブが追加されます。

3 **名前**フィールドに新しいパレットの名前を入力します。

14.14.8 ツールパレットへの項目追加

ツールパレットに追加できるアイテムは以下の通りです：

- パターン
- ブロック設定
- ライブラリ
- コマンド

14.14.9 ハッチングパターンの追加

1 **ツールパレット**パネルで、ハッチングパターンを追加したいパレットを選択します。

2 **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスを開きます。

3 **種類**のプルダウンから**定義済み**または**カスタム** を選択します。

4 **ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスで **見本**欄をダブルクリックします。

ハッチングパターンパレットが表示されます。

5 追加したいハッチングパターンを選択し、右クリックして**カレントのツールパレットへ追加**を選択します。

選択したツールパレット上にハッチングパターンが追加されます。

6 (オプション)続けてハッチングパターンを登録する場合、5,6の手順を繰り返してください。

7 (オプション)パレット上で並び順を変更する場合は、パターンをドラッグアンドドロップします。

14.14.10 ブロックの追加

以下からブロックを追加することができます：

- カレントの図面
- 任意の図面
- 選択したフォルダー内のすべての図面

14.14.11 カレントの図面からブロックを追加する

1 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開きます。

2 **ブロック**を選択します。

3 追加したいブロックを選択します。Ctrlを長押しして、複数のブロックを選択できます。

4 右クリックしてコンテキストメニューから**カレントのツールパレットへ追加**を選択します。

14.14.12 他の図面からブロックを追加:

1 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開きます。

2 左側のペインで**フォルダー**を選択します。

3 まだ利用できない場合は、**ローカルフォルダーを追加...**ボタンをクリックして、**フォルダー**リストに含まれるフォルダーを追加します。

4 **ローカルフォルダー**リストで図面を選択します。

5 対象となる図面の**展開**アイコン(+)をクリックし、**ブロック**アイコンをクリックします。

選択された図面のすべてのブロックが**詳細**ペインに表示されます。

6 追加したいブロックを選択します。Ctrlを長押しして、複数のブロックを選択できます。

7 右クリックしてコンテキストメニューから**カレントのツールパレットへ追加**を選択します。

14.14.13 図面をブロックとして追加:

1 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開きます。

2 左側のペインで**フォルダー**を選択します。

3 まだ利用できない場合は、**ローカルフォルダーを追加...**ボタンをクリックして、**フォルダー**リストに含まれるフォルダーを追加

します。

4 **ローカルフォルダー**ツリーで図面を選択します。

5 右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかを選択します。

- **カレントのツールパレットにブロックとして追加**

  ブロックはINSERT[挿入]で挿入されます。

- **コンポーネントとしてカレントのツールパレットに追加**

  コンポーネントはBMINSERTで挿入されます。

14.14.14 複数の図面からすべてのブロックを追加:

この手順では、選択したフォルダーの各図面にあるすべてのブロックを集めて、図面名のパレットに追加します。必要に応じて新しいパレットを作成します。

1 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開きます。

2 左側のペインで**フォルダー**を選択します。

3 まだ利用できない場合は、**ローカルフォルダーを追加...**ボタンをクリックして、**フォルダー**リストに含まれるフォルダーを追加します。

4 フォルダーを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから **ツールパレットへブロックを追加**を選択します。

14.14.15 コマンドの追加

1 **ツールパレット**パネルで ボタンをクリックし、**ツールを追加**を選択します。

2 **使用可能なツール**パネルの**カスタマイズ**ダイアログで、メニューグループを展開します(例：BricsCAD)。

選択したメニューグループのすべてのツールボックスが一覧表示されます。

3 ツールボックスを拡張します。

選択したツールボックスのすべてのコマンドが一覧表示されます。

4 右クリックしてコンテキストメニューから**カレントのツールパレットへ追加**を選択します。

14.14.16 テキストを追加する

1 **ツールパレット**パネルで ボタンをクリックし、**ツールを追加**を選択します。

2 開いたボックスにテキストを入力します。

3 **注**：テキストはドラッグアンドドロップで移動できます。また、コンテキストメニューから切り取り、コピー、貼り付けを実行できます。変更する場合は、テキストボックスをクリックして別の文字列を入力してください。

14.14.17 セパレータを追加する

1 **ツールパレット**パネルで ボタンをクリックし、**セパレータを追加**を選択します。

注：セパレータはドラッグアンドドロップで移動できます。また、コンテキストメニューから切り取り、コピー、貼り付けを実行できます。

14.14.18 ツールを検索

ツールパレットパネルでは、カレントパレット内の特定のツールを検索できます。

1 検索ボタンをクリックします。

2 名前を入力します。

3 リストは、入力された一連の文字を含むツールのみを表示するように短縮され、ツール名のどこに位置するかに関わらず表示されます。

14.15 コマンドエイリアス

コマンドエイリアスとは、BricsCAD のコマンドの別名です。コマンドラインで「L」を入力すると、LINEコマンドが起動します。完全な名前を入力する必要はありません。コマンドエイリアスを入力すると、コマンドが実行されます。コマンドによっては、複数のエイリアスを持つものもあります。例えば、REC、RECT、RECTANGLEはすべてRECTANGコマンドのエイリアスですが、最後のエイリアスはコマンド名よりもさらに長いです。一般的に、コマンドエイリアスは、キーボードを使ってコマンドを入力する際の速度を向上させます。

コマンドエイリアスは.pgpファイル(ProGram Parameters)ファイル)に保存されます。デフォルトではRoamable Root folder内の**Support**フォルダーの**default.pgp**ファイルが使用されます。

あるコマンドが透過的に(＝他のコマンドの実行中に)実行できる場合、エイリアスも透過的に使用することができます。コマンドやエイリアスを透過的に実行するには、コマンド名やエイリアスの前にアポストロフィ(')を付けてください。

注：

- コマンドとは異なり、エイリアスはローカルのみであり、アンダースコア(_)に続くグローバルコマンドとして使用することはできません。
- コマンドエイリアスは、スクリプト内で使用することはできません。(.scr)

14.15.1 テキストエディターによるエイリアスファイルの編集

既存のエイリアスを編集または新しく作成するには **default.pgp** ファイルをASCII テキストエディタ(例. メモ帳)で編集します。

default.pgpファイルのファーストセクションは**Shell**コマンドを定義します。**default.pgp**ファイルの2つ目のセクションはコマンドエイリアスを定義します。

以下の構文はコマンドエイリアスの定義に使用します：

エイリアス、*コマンド

alias = 文字はコマンドプロンプトに入力します。コマンドエイリアスはカンマ(,)で継続します。

command = BricsCADのコマンドです。コマンド名にはアスタリスク (*) をつける必要があります。

コメント行の前には必ずセミコロン(;)を付けてください。コメント行は、ファイルが最後に編集されたのはいつか、編集したのは誰か、などの情報を追加するために使用できます。

HATCHやBOUNDARYなどの一部のコマンドは、ハイフン(-)を前に付けることで、ダイアログボックス版ではなくコマンドライン版のコマンドにアクセスすることができます。またこれらのコマンドには、コマンドエイリアスを作成することもできます。

例：vi, *-view

外部で編集されたエイリアスファイルをリロードするために REINITコマンドを実行します。

14.15.2 カスタマイズダイアログでエイリアスファイルを編集する

1 **カスタマイズ**ダイアログの**コマンドエイリアス**タブをクリックします。

2 (オプション)新規エイリアスの作成:

- 以下のいずれかの操作を行います：
  - **追加**ボタンをクリックします。
  - エイリアスを右クリックして、コンテキストメニューから**エイリアスを追加**を選択します。
  - コマンドを右クリックし、コンテキストメニューから**エイリアスを追加**を選択すると、選択したコマンドのエイリアスが作成されます。

  エイリアスを追加ダイアログボックスが表示されます。
- **エイリアス**フィールドにコマンドエイリアスを入力します。
- **コマンド**フィールドの右側にある下矢印をクリックし、コマンドを選択します。**コマンド**フィールドにコマンド名を入力すると、一覧からコマンドを容易に見つけることができます。
- **OK**ボタンをクリックします。

3 (オプション)既存のエイリアスを編集します。

- 一覧からエイリアスを選択します。
- **編集**ボタンをクリックするか、エイリアスを右クリックして、コンテキストメニューから**エイリアス編集**を選択します。

  エイリアス編集ダイアログボックスが表示されます。
- **エイリアス**フィールドに新しいエイリアスを入力します。

  既にエイリアスが存在する場合は、既存のエイリアスを上書きするかどうかの確認ダイアログが表示されます。
- **OK**ボタンをクリックします。

4 (オプション)エイリアスを削除します。

- 一覧からエイリアスを選択します。
- **削除**ボタンをクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**削除**を選択します。

  確認ダイアログボックスが表示されます。
- **確認**ダイアログの **OK**ボタンをクリックするとエイリアスが削除されます。

注：これらの手順で.pgpファイルの編集を行う場合、REINITコマンドを実行する必要はありません。

14.16 ユーザープロファイル

BricsCADでは、ユーザーごとにそれぞれの図面環境に適した設定をカスタマイズし、それを**ユーザープロファイル**に保存することが可能です。ユーザープロファイルは複数作成することができます。例えば、図面の種類やワークフローごとにプロファイルを作成することができます。さらに複数のユーザーが一台のPCを共有している場合も、各ユーザーは自分用の作画環境を作成し保存することができます。

ユーザープロファイルはファイルとして書き出したり、別のPCに読み込ませることもできます。そのためユーザーは自分用の設定をコピーして、それを別の、あるいは複数のPCに同時にインストールすることも可能です。

もしサードパーティのアプリケーションをBricsCADと一緒に使用すると、個々のアプリケーション用のユーザープロファイルが必要と思うかもしれません。

ユーザプロファイル管理は、既存のプロファイルを一覧表示し、ユーザープロファイルの**ロード**、**作成**、**カレントにセット**、**コピー**、**名前変更**、**削除**、**書き出し**、**読み込み**に必要なすべてのツールを提供するスタンドアロンツールです。

14.16.1 ユーザープロファイルの内容

ユーザープロファイルには、作図環境をコントロールする多くの設定が保存されます。ユーザープロファイルを使用してBricsCADを起動すると、以下のような図面環境に加えた変更を自動的に追跡して保存します。

- メインCUIファイル
- カレントのワークスペース。BricsCADには、2D作図、2D作図(ツールバー)、モデリング、モデリング(ツールバー)、メカニカル、BIMという6つの標準ワークスペースがあります。
- 構成設定：レジストリとユーザー設定に保存されるすべてのシステム変数
- デフォルトの印刷設定
- ダイアログウィンドウの設定 (例：**設定**ダイアログボックスの検索オプション)
- プロジェクト設定
- 最新のパス
- ステータスバー設定
- プロパティパネルの設定
- ツールバーとメニュー構成
- ワークセット

14.16.2 ユーザープロファイル管理

ユーザープロファイル管理ダイアログボックスを開く方法：

- BricsCAD実行中の場合：PROFILEMANAGERコマンドを起動します。
- BricsCADプログラムフォルダー(例：C:¥Program Files¥Bricsys¥Bricscad Vx)にある**profilemanager_app.exe**をダブルクリックします。

プロファイル管理ダイアログボックスでは、次の操作を行えます。

- **カレントのプロファイル**にチェックが入っています。
- **作成**：初期設定(インストール先に保存)を使用して新規プロファイルを作成します。
- **カレントにセット：**選択したプロファイルをロードします。
- **コピー...**：**プロファイルをコピー**ダイアログボックスが表示され、選択したプロファイルのコピーを作成します。
- **削除：**選択したプロファイルを削除します。
- **書き出し...**：選択したプロファイルを.argファイルとして書き出します。
- **読み込み...**： **.arg**ファイルを新しいプロファイルとして読み込みます。
- **開始**：選択したユーザープロファイルでBricsCADを起動します。このオプションは、コマンドをBricsCADのインストールフォルダー**profilemanager_app.exe**から起動した時のみ有効です。
- **OK**：ダイアログボックスを閉じます。

14.16.3 指定したユーザープロファイルでBricsCADを開始

BricsCADを再起動すると、直近で終了したときカレントだったユーザープロファイルが使用されます。

特定のユーザープロファイルを使用してBricsCADを起動するためのデスクトップショートカットを作成するには、次のいずれかを実行します：

- BricsCADショートカットの**ターゲット**設定に**/P UserProfileName**を追加します。ショートカット設定ダイアログを開くには：デスクトップのショートカットアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから**プロパティ**を選択します。

  典型的なBricsCADショートカット：**"C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD Vx¥bricscad.exe"/P UserProfileName**
- **profilemanager_app.exe**を起動し、ユーザープロファイルをダブルクリックするか、ユーザープロファイルを選択して **開始**ボタンをクリックします。

注：

- **/P**オプションは、大文字/小文字を区別しません。
- ファイルの場所と /P optionの間にはスペースが必要です。
- BricsCADがすでに起動している状態でユーザープロファイルをロードする場合、SINGLETON変数がオフという条件で、二番目のインスタンスが起動します。この変数は複数のBricsCADセッションが同時に起動するかどうかをコントロールします。変数や設定についての詳細は、「設定」ダイアログをご参照下さい。
- ショートカットのリンク先で**/P**オプションに、実在しないユーザープロファイルが設定された場合、Bricscad起動時に、プログラムの初期設定からプロファイルが新規作成されます。
- ユーザープロファイル名にスペースが含まれる場合、ダブルクォートでプロファイル名を囲んでください。(例：/P "background white")

14.17 ワークスペース

WORKSPACEコマンドは、カレントのワークスペースを設定し、ワークスペースを作成、変更、および保存できます。

WSSAVEコマンドは、カレントのワークスペースを別の名前で保存し、新しいワークスペースを作成します。

WSSETTINGSコマンドは、**カスタマイズ**ダイアログボックスのワークスペースタブを開きます。

ワークスペースは特定の作業環境の設定やユーザー設定が定義されます。

以下のワークスペースを使用することができます。

- 2D作図
- モデリング
- メカニカル
- BIM
- 土木
- コンプリート

ワークスペースの名前は、現在のユーザープロファイルのWSCURRENTシステム変数に保存されます。

GETSTARTEDシステム変数がオンの場合、起動時に**BricsCADランチャ**ダイアログボックスでワークスペースを選択できます。

起動オプションが利用可能かどうかは、ライセンスレベルによって異なります。

起動オプション	ワークスペース	ライセンスレベル
2D作図	2D作図	Liteまたはそれ以上
3Dモデリング	モデリング	Proまたはそれ以上
土木測量	土木	Proまたはそれ以上
メカニカル	メカニカル	MechanicalまたはUltimate
BIM	BIM	BIMまたはUltimate

14.17.1 ワークスペースの管理

ワークスペースは、**カスタマイズ**ダイアログボックスの**ワークスペース**タブページで定義します。

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**ワークスペース**タブをクリックします。

2 ワークスペース画面を拡張させます。

3 ワークスペースの定義は以下から構成されます。

- **メニュー**: 利用可能なメニューを定義します。
- **ツールバー**: デフォルトで表示されるツールバーを定義します。
- **パネル**：ドッキング可能なパネルの表示をコントロールします。

  パネルを右クリックし、コンテキストメニューでオプションを選択します。

  • **表示**：パネルが表示されています。
  • **非表示**：パネルを表示しません。
  • **変更不可**：現在の状態を維持します。
- **リボン**: 利用可能なリボンタブを定義します。
- **クワッドタブ**：クワッドタブの順序と可用性を定義します。
- **切替時**: ワークスペースに切り替えた時に設定するシステム変数とユーザプリファレンス、および実行するコマンドを規定します。

14.17.2 カレントのワークスペースの設定

以下のいずれかの操作を行います：

- **ステータスバー**で**カレントのワークスペース**欄を右クリックし、コンテキストメニューからワークスペースを選択します。
- **ワークスペース**ツールバーでワークスペースを選択します。
- コマンドラインに**WSCURRENT**と入力します。

  プロンプト表示：WSCURRENTの新しい値 <"2D作図">:

  新しいカレントのワークスペースの名前を入力し、Enterを押します。

注：

- WSAUTOSAVEシステム変数がオンの場合、別のワークスペースに切り替えると、カレントのワークスペースのツールバー位置がCUIファイルに保存されます。WSAUTOSAVEのデフォルト値はオンです。
- ユーザープロファイルの名前がワークスペースを参照している場合は、ワークスペースを切り替えることはお勧めしません。

14.17.3 ワークスペースの作成

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**ワークスペース**タブをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- ワークスペースを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**ワークスペースを付加**を選択します。

  新しいワークスペースは、最後の既存ワークスペースの下に追加されます。
- 既存のワークスペースを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**ワークスペース入力**を選択します。

  選択したワークスペースの上に新しいワークスペースが追加されます。

ワークスペースを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **名前**欄に新しい名前を入力し、Enterを押すか、**OK**ボタンをクリックします。

新しく作成されたワークスペースには、次のアイテムが含まれています。

- 標準メニューセット
- 標準ツールバーセット
- すべて**変更不可**に設定されたパネル
- 未設定のリボン
- デフォルトのクワッドタブのセット
- 未設定の**切替時**シーケンス

新しく作成されたワークスペースには、デフォルのプロパティがあります。デフォルトのプロパティは、**設定**ダイアログボックスの**プログラムオプション/ワークスペース**でも使用できます。

14.17.4 ワークスペースの編集

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**ワークスペース**タブをクリックします。

2 ワークスペース画面を拡張させます。

3 (オプション)メニューセットの編集：

- 順番を変更：メニューをドラッグします。
- メニューの削除: メニューを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**削除**を選択します。
- メニューの挿入：
- リスト内のメニューを右クリックし、コンテキストメニューから**メニューを追加**を選択します。

  ファイルメニューはデフォルトで挿入されます。
- **ワークスペースメニュー**グリッドで、**ID**欄を選択し、一覧から目的のメニューを選択します。

4 (オプション)ツールバーセットの編集：

- 順番を変更：ツールバーをドラッグします。
- ツールバーの削除: ツールバーを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**削除**を選択します。

- ツールバーの挿入：
- リスト内のメニューを右クリックし、コンテキストメニューから**ツールバーを挿入**を選択します。

  標準ツールバーはデフォルトで挿入されます。
- **ワークスペースツールバー**グリッドで、**ID**欄を選択し、一覧から目的のツールバーを選択します。

5 パネルのプロパティを編集：
- 切替時の動作を設定します。**表示**、**非表示**、または**変更不可**に設定できます。
- パネルを選択し、ワークスペースパネルでそのプロパティを編集します。

6 リボンの構成を編集：
- タブを追加する: 既存のタブを右クリックし、コンテキストメニューから**タブを挿入**を選択して、**リボンタブを選択**ダイアログボックスでタブを選択します。
- タブを削除する: タブを右クリックしてコンテキストメニューから**削除**を選択します。
- タブの位置を変更：タブをドラッグします。

7 クワッド設定の編集：
- クワッドコマンドグループの順序を変更：マウスの左ボタンを押したまま、コマンドグループを新しい位置までドラッグします。
- クワッドコマンドグループを右クリックし、コンテキストメニューで**削除**を選択して、クワッドカーソルメニューからコマンドグループを削除します。
- クワッドコマンドグループを右クリックし、**挿入**を選択し、リストからクワッドカーソルメニューに追加したいタブを1つ選択します。

8 **切替時**の手順を編集：

切替時シーケンスにコマンドを追加：利用可能なコマンドペインでコマンドを選択して、**切替時**ノードまでドラッグします。

14.17.5 ワークスペースの削除

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**ワークスペース**タブをクリックします。

2 ワークスペースを右クリックし、コンテキストメニューから**削除**を選択します。

確認ダイアログボックスが表示されます。

3 **はい**ボタンをクリックすると、選択したワークスペースが削除されます。

注：デフォルトのワークスペースは**BricsCADランチャ**ダイアログボックスで使用されるので、削除しないでください。デフォルトのワークスペースのいずれかが削除された場合、以下の**ワークスペースの読み込み**の手順を行い、失われたワークスペースをBricsCAD インストールフォルダーのサブフォルダー(.../UserDataCache¥Support¥ja_JP)内のDefault.cuiから復元します。

14.17.6 ワークスペースの読み込み

カスタマイズダイアログボックスの**ファイル**メニューにあるオプションを使い、別のCUIファイルからカレントのメインCUIにワークスペースを読み込むことができます。

1 **カスタマイズ**ダイアログボックスで、**ファイル**メニューの**ワークスペースを読み込み...**を選択します。

カスタマイズファイルを選択ダイアログが開きます。

2 ワークスペースを読み込む元のCUIファイルが保存されているフォルダーを参照します。

3 デフォルトでは、CUIファイルはBricsCADのRoamable Rootフォルダーにある**Support**フォルダーに保存されていま

す。BricsCADユーザーファイルを参照してください。

4 CUIファイルを選択します。

5 選択したCUIファイル内のすべてのワークスペースを一覧表示するダイアログボックスが表示されます。

6 リストから読み込むワークスペースを選択し、**OK**ボタンをクリックします。

Ctrlキーを押した状態で選択すると、複数のワークスペースを選択できます。

14.18 デジタイザタブレット

デジタイザタブレット(または、グラフィックスタブレット、グラフィックスパッドまたは図面タブレットと呼ばれています)は、イメージとグラフィックスを手動で書くことができるコンピュータ入力デバイスです。それは、人が紙に鉛筆で画像を描く方法と類似しています。CADプログラムではデジタイザタブレットで図面ファイルにトレースペーパーに書くように、またはタブレットオーバーレイからコマンドで図面に描くように使用できます。

TABLETコマンドは、デジタイザタブレットを設定およびキャリブレートし、タブレットモードのオン/オフを切り替えます。

このコマンドを動作させるには、Wacom Technology, Corp.から提供されるWintab32.dllをインストールする必要があります。インターネットからWintab32.dllをダウンロードし、システムディレクトリの場所C:¥Windows¥System32に入れてください。

14.18.1 入力デバイスの使用

BricsCADでデジタイザタブレットを使用する準備として、以下を実行します。

- タブレットの適切なドライバをインストールします。
- C:¥Windows¥System32にWintab32.dllが存在することを確認します。
- タブレットオーバーレイとCUIファイルをダウンロードします。
- BricsCADタブレットオーバーレイを印刷します。
- オーバーレイCUIファイルをロードします。
- BricsCADを起動し、タブレットを初期化します。
- タブレットの設定：タブレットの表面の一部をメニューエリアとして使用し、別の部分を画面のポインティングエリアとして使用します。
- タブレットの較正：較正されたタブレットを使って、紙の図面や画像のジオメトリをBricscadの図面にトレースすることができます。

14.18.2 タブレットオーバーレイとCUIファイルをダウンロードするには

下記をクリックして、ファイルTablet.zipをダウンロードします。

https://www.bricsys.com/bricscad/tools/Tablet.zip

ZIPファイルには、以下のファイルが含まれています。

- **overlay.png**：タブレットオーバーレイのイメージ。
- **overlay(A3).pdf**：A3用紙サイズ印刷用のタブレットオーバーレイ。
- **overlay(cm).dwg**：**overlay.png**が画像として添付されているDWGです。
  この図面には、オーバーレイを10進法で印刷するための2つのレイアウトがあります。
- **overlay(cm).dwg**：**overlay.png**が画像として添付されているDWGです。

この図面には、オーバーレイをインペリアル単位で印刷するための2つのレイアウトがあります。

- **tablet.cui**:タブレットで使用される部分cuiファイル。
- **tablet(acadLike).cui**: タブレットで使用する AutoCAD®と同様の部分CUIファイル。

14.18.3 オーバーレイCUIファイルのロード

1 オーバーレイCUIファイルを**Support**フォルダーの**roamable root**フォルダーに展開します(「BricsCADユーザーファイル」を参照)。

2 **Tablet.cui**をパーシャルCUIとして読み込みます。次回BricsCADを起動すると、**Tablet.cui**が自動的に読み込まれます。

注 :

- **overlay.png**イメージファイルは、必ずDWGと同じフォルダーに展開してください。
- BricsCADをアップグレードした際に、場合によっては上記の手順を再度行う必要があります。

14.18.4 タブレットのオン/オフを切り替える

以下のいずれかの操作を行います :

- ステータスバーの**TABLET**欄をクリックします。
- **F4**のファンクションキーを押します。
- TABLETコマンドを起動します。

14.18.5 タブレットの設定をする

1 TABLETコマンドを起動します。

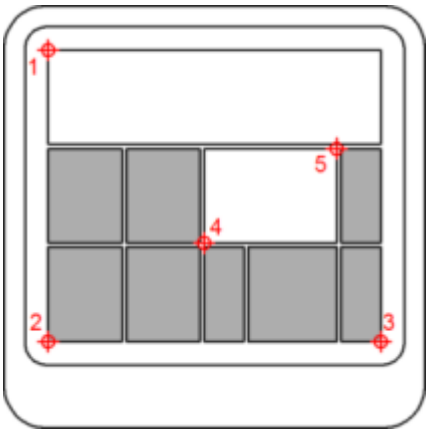
2 **Configure**オプションを選択します。

3 **以下が表示されます**:タブレットオーバーレイを揃えますか？ はい/いいえ/<いいえ>:

コマンドラインに**Y**と入力してEnterを押すか、プロンプトメニューで**Yes**を選択します。

プロンプト表示: オーバーレイの左上隅をデジタル化します。

4 デジタイジングタブレットオーバーレイの左上のコーナーのマーク(1)をクリックします。



以下が表示されます:オーバーレイの左下隅をデジタイジングします。

5 デジタイジングタブレットオーバーレイの左下のコーナー(2)のマークをクリックします。

6 **プロンプト表示**: オーバーレイの右下隅をデジタル化します。

7 デジタイジングタブレットオーバーレイの右下のコーナー(3)のマークをクリックします。

8 **プロンプト表示**: 画面のポインティングエリアの左下隅をデジタル化します。

9 デジタイジングタブレットオーバーレイの(4)の位置にあるマークをクリックします。

10 **プロンプト表示**: 画面のポインティングエリアの右上をデジタイズします。

11 デジタイジングタブレットオーバーレイの(5)の位置にあるマークをクリックします。

12 **プロンプト表示**: タブレットは設定されました。

14.18.6 タブレットのキャリブレーション

デジタイザタブレットをキャリブレートするには、少なくとも2点を指定する必要があります。より多くのポイントを指定するほど、デジタイズ処理精度が増します。航空写真のように、非直交画像をデジタイズする場合、ポイントを追加指定することをお勧めします。

1 TABLETコマンドを起動します。

2 **キャリブレート**を選択します。

3 **以下が表示されます**:ポイント#1をデジタイズ:

デジタイズタブレット上でポイントをクリックします。

プロンプト表示: #1 の座標を指示::

4 以下のいずれかの操作を行います：

- BricsCAD図面ウィンドウで1点をクリックします。
- コマンドラインに座標(X,Y)を入力します。

5 手順3を繰り返して、次のキャリブレーションポイントを指定します。

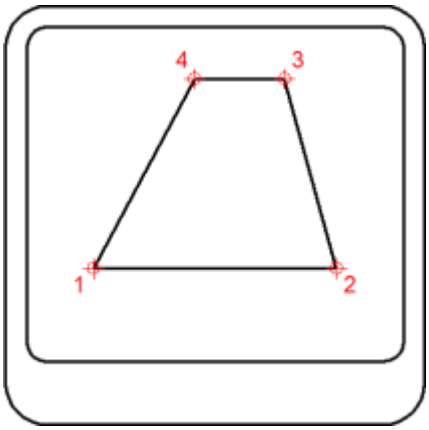
6 **プロンプト表示**: #3 の点をデジタイズ(またはENTER で終了):

7 以下のいずれかの操作を行います：

- ステップ4を繰り返し、さらにキャリブレーションポイントを指定します。(最大10点までキャリブレーションポイントを指定できます。)
- Enterを押して、キャリブレーションのプロセスを終了します。

8 BricsCADに操作が反映されます。

- 2つの校正点を指定した場合タブレットが校正されています。
- 3点または4点以上のキャリブレーションポイントを指定した場合、変換タイプは直行/アフィンを選択。
- 3点または4点以上のキャリブレーションポイントを指定した場合、変換タイプは直行/アフィンを選択。



9 変形種類を選択

10 変換とは、タブレット上でデジタイズしたポイントに対応する画面上のポイントを計算することです。

- **Orthogonal**(左)：正確な紙図面で使われます。直交変換はすべての角度を維持して、相対的な距離を保存します。2つのキャリブレーションが指定されれば、直交変換は自動的に生成されます。
- **Affine**(中央)：平行線を維持しますが、交差線間の角度である必要はありません。
- **Projective**(右)：平行線も角度も維持しません。

14.19 Lisp

作図設定用のLISPルーチンの作成方法

14.19.1 BricsCAD Lisp

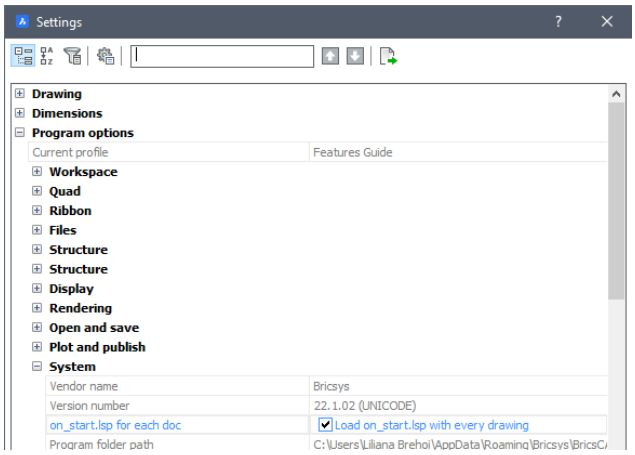
AutoCAD®からの移行

移行を開始する準備が整ったら、BricsCADのLISPと他のLISPの違いはほとんどありません。コードをロードおよび実行でき、機能も同じです。アプリを「ポーティング」(移植)する際のおもな違いとしては、セットアップ手順がやや異なる他、コマンドライン構造とおそらくファイルの場所が異なるでしょう。開始するには、BricsCADの既存のプログラムの設定と起動を確認しましょう。

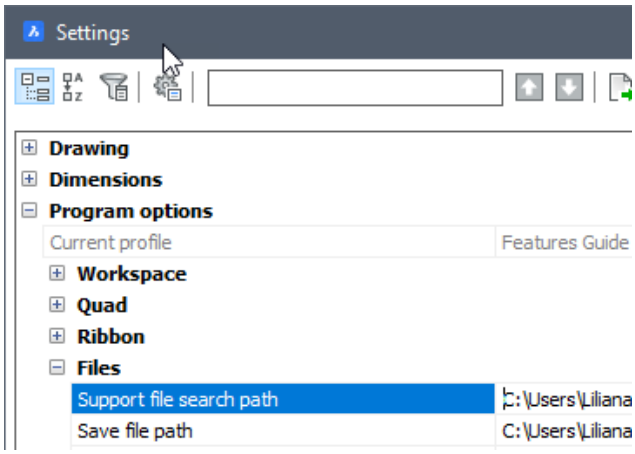
Acad.lspまたは**Acaddoc.lsp**を使用してプログラムを自動起動する場合は、それぞれ**on_start.lsp**または**on_doc_load.lsp**に名前を変更してください。最適な解決策は、on_doc_load.lspを使用することです。

BricsCADの設定パネル

プログラムの自動起動を有効にするには、ACADLSPASDOCシステム変数を1に設定するか、設定 / プログラムオプション / システムでオプションを切り替えます。



また、BricsCADのオプション／設定メニューには、BricsCAD環境に特有の設定やオプションがありますので、少し時間をかけてよく理解しておくことをお勧めします。
設定ダイアログの次のステップとして、設定 - プログラムオプション - ファイルで、ファイルサーチパスにフォルダーサポートを追加します。



上記の方法で追加されたサポートパスは、現在のプロジェクトフォルダーの1つ下の階層にあるものを使用することをお勧めします。以下の方法のように、コマンドを実行する前に**findfile**関数を使用すると、ファイルの存在を確認できます。

```
(if (findfile "custom-code.lsp")(load "custom-code"))
```

これは、**on_doc_load.lsp**ファイル内で関数をデマンドロードするために使用できる方法の1つです。
これは、**on_start.lsp**ファイル内で関数をデマンドロードするために使用できる方法の1つです。
DEFUNコマンド(DEfine FUNction)は、**on_doc_load.lsp**ファイルにある、起動時に呼び出し元の関数を再定義する関数と同じ名前です。

14.19.2 BricsCADのための図面設定Lispルーチン

コードサンプル
以下のシンプルな図面設定ルーチンは、最小限の変更でお客様のニーズに合わせることができます。

```
(defun C:MYSETUP ( / )                  ;define the command line function "mysetup"
 (setvar "cmdecho" 0)
 (command "_audit" "_y")                ;audit current drawing
 (command "_-purge" "_all" "*" "_n")    ;purge all unused styles, etc
 (command "_-layer" "_m" "1" "_c" "1" "" "")  ; create layer "1" color "1"
 (command "_-layer" "_m" "2" "_c" "2" "" "")
```

```
(command "_-layer" "_m" "3" "_c" "3" "" "")
(command "_-layer" "_m" "4" "_c" "4" "" "")
(command "_viewres" "_y" "20000")       ;set view resolution to maximum
(setvar "filedia" 1)                    ;turn file dialogs on
(setvar "attdia" 1)                     ;turn attribute dialogs on
(setvar "attreq" 1)                     ;enable attribute editing on placement
(setvar "cecolor" "bylayer")            ;set current color bylayer
(setvar "clayer" "0")                   ;set current layer to "0"
(setvar "maxsort" 5000)                 ;set maximum layer sort to 5,000
(command "_zoom" "_e" "_zoom" "0.95x");zoom extents, then out a little
(setvar "cmdecho" 1)
(princ)
)
```

この図面設定ルーチンの各行は、BricsCADのコマンドラインで入力しておくことができます。これらをLispルーチンに入れることで、**defun**(関数を定義する)を使い図面設定ルーチンをメニューから「呼び出し可能」にしたり、BricsCADのコマンドラインにルーチン名を入力して呼び出せるようになります。

defunを含めない場合、プログラムをファイル名でロードすると 1 回実行されます。**defun**を使い、このルーチンを**lsp**でロードすると、関数名**mysetup**を入力することで、いつでも機能を利用できるようになります。

ダッシュで始まるコマンド (例: **-layer**、**-purge**) は、コマンドのダイアログボックスが起動しないようにするため使用されます。

注：ローカライズされた(英語以外の)BricsCADバージョンでの失敗を避けるために、コマンドやオプションの名前は常に英語で表記してください。

他の人のファイルを開く場合、**監査**を実行してから**PURGE**コマンドを実行すると、未使用のアイテムを削除できます。

PURGEコマンドを複数回実行して、入れ子になっているアイテムを削除することもできます。以下の例をご参照ください：

```
(repeat 3 (command "-purge" "all" "*" "n"))
```

注：**PURGE**コマンドは、新しい空の画層を追加する前に実行してください。追加後にパージを実行すると、追加した画層が削除されてしまいます。

画層を設定する**コマンド**の呼び出しは、1つのコマンド文にまとめることもできますが、各行が独立している方が読みやすくなります。

SETVARは、システム変数を指定値 (寸法や文字のスタイル設定、単位設定など) に設定するよう要求します。

MAXSORT設定が導入された理由は2つあります。

1 **MAXSORT**によって、ダイアログボックスでソートされるエントリの最大数を制御します。

2 **MAXSORT**のデフォルト値は1,000です。今日のコンピュータや、しばしば見受けられるようなプロジェクトファイルの大容量化を考えれば、この設定値では小さすぎる可能性があります。

図面を開いたときに画層名がアルファベット順にソートされない場合、その理由はデフォルトの**MAXSORT**値のせいかもしれません。

図面設定ルーチンのためのより汎用性の高い画層メーカー

次の例は、mysetup.lspのバージョンに追加することができます。シンプルなテキストファイル「Layers.txt」をメモ帳のようなエディターで作成すると、ルーチンの実行時に作成される画層名のリストを追加できます。これは、上記のハードコーディングされたプロセスに代わるものです。ファイル検索機能を使用することで、BricsCADはLayers.txtファイルを見つけるため、まず現在のディレクトリを検索してから、定義されたサポートフォルダーを順次検索します。デフォルトの画層設定テキストファイルをサポートパスに置き、その代替バージョンを個々のプロジェクトフォルダーに置くことができます。

```
(if (not (findfile "Layers.txt"));"not" = looking for no result from findfile
(alert "Can't find Layers.txt!")                ;No file?Yell at the user and exit!
(progn                                          ;Otherwise, do the stuff in the progn group
(setq layerfile (open (findfile "Layers.txt")"r")) ;open layers.txt to "read"
(while (setq layername (read-line layerfile))       ;while reading each line, store the text to layername
(command "-layer" "m" layername "")             ;make layer with the layername
```

```
)                                   ;end the while loop
(close layerfile)                       ;close the Layers.txt file
)                                   ;end the progn
)                                   ;end the if
```

15. 図形の修正

15.1 修正コマンドの概要

アイコン	コマンド	説明
	3DARRAY	3Dで図形の複数のコピーを作成します。3D空間に、3Dの矩形状(列数、行数、層数)パターンまたは2Dの円形状パターンで図形が配列複写されます。
	ALIGN	3D空間で、選択した図形と他の図形の位置合わせします。
	ARRAY	2Dおよび3D配列の図形を、矩形状や円形状パターン、またはパスに沿って作成します。
	ARRAYCLASSIC	矩形状(行数と列数)と円形状の2種類の対称的パターンのどちらかで図形の複数のコピーを作成します。
	ARRAYPATH	図形のコピーをパスに沿って複数の行や層に均等に自動調整配列します。
	ARRAYPOLAR	行数やレベル数を指定し、図形のコピーを中心点または回転軸を中心に円形状に均等に自動調整配列します。
	ARRAYRECT	図形のコピーを任意の行数、列数、層数に均等に自動調整配列します。
	BREAK	図形を2分割します。
	CHAMFER	2つの長さ、または長さと角度で定義される線形図形の交点に面取りを作成します。
	CHANGE	コマンドラインから、図形のプロパティを変更します。このコマンドの大部分は、**プロパティ**パネルで指定することができます。
	COPY	選択された図形をコピーします。
	COPYGUIDED	図形を選択した後、周りの図形との関係を維持したまま、同様の場所に自動的にコピーを挿入することができます。
	DIVIDE	選択した図形に沿ってマーカー(点またはブロック)を配置し、指定した数に図形を等分割します。
	EXPLODE	ブロックを構成要素に分解したり、ポリラインを線分や円弧に分解するように、複雑な図形をより単純な図形に変換します。

アイコン	コマンド	説明
	EXTEND	線分、円弧、ポリライン、放射線を、指定した図形まで延長します。
	FILLET	交点をフィレット化し、交差する線を任意の半径の円弧で結合します。
	FLATTEN	2D図形や3D図形を現在のビューのXY平面に投影します。
	HATCHEDIT	ハッチングとグラデーションの塗り潰しを、ダイアログで編集します。
	JOIN	線分、軽量で旧形式の2Dポリライン、3Dポリライン、円弧、楕円弧、ポリライン円弧、スプライン、らせんを共通の端点で結合します。
	LENGTHEN	線分、ポリライン、フリーハンド図形、円弧の長さを変更します。
	MANIPULATE	マニピュレータウィジェット を起動し、図形を回転、移動およびミラーします。Ctrlを押しながら操作を行うと、選択した図形をコピーすることができます。
	MEASURE	図形の長さや円周に沿って指定した間隔でマーカー(点またはブロック)を配置し、選択した図形をセグメントに分割します。
	MIRROR	線分に対して反転させた図形のイメージを移動またはコピーします。
	MIRROR3D	平面に対して反転させた図形のイメージを移動またはコピーします。
	MOVE	同一図面内の別の位置に図形を移動させます。
	MOVEGUIDED	図形を選択した後、周りの図形との関係を維持したまま、同様の場所に自動的に図形を移動することができます。
	OFFSET	線形図形の平行またはオフセットコピーを作成します。
	OVERKILL	重複する図形や線、円弧、およびポリラインを削除し、部分的に重複または隣接する図形を統合します。オプションで、コピーを専用画層に移動させることもできます。 重複するブロックを結合します。オプションで、重複するブロック定義を削除することもできます。
	PEDIT	2Dまたは3Dポリライン、ポリゴンメッシュを編集します。
	PROPERTIES	**プロパティ**パネルを開きます。

アイコン	コマンド	説明
	ROTATE	指定した点を中心に図形を回転させます。
	ROTATE3D	ある軸を中心に図形を回転させます。
	SCALE	既存の図形の尺度をX、Y、Z軸方向に比例させて拡大/縮小します。
	SIMPLIFY [簡略化]	一般的な形状を変更することなく、ポリラインやハッチング境界の頂点の数を減らします。図形を簡略化すると操作が容易になり、ファイルサイズを大幅に削減できます。
	SPLINEDIT	2次元または3次元スプラインを編集します。
	STRETCH	図面の他の部分との接続を維持したまま、図面の一部を移動します。
	TRIM	選択された図形の内、指定された境界を超える部分を消去します。

15.2 図形の変更設定

図形の変更設定は、**設定**ダイアログボックスの**図面** > **2D作図** > **図形の変更**で行います。

15.3 プロパティコピー

MATCHPROPコマンド(match properties の略)は、ある図形が持つプロパティを、別の図形のプロパティに割り当てます。

15.3.1 図形間でプロパティをコピーする

1 MATCHPROPコマンドを起動します。

2 **プロンプト表示**：プロパティのコピー元図形を選択:

3 元図形を選択します。

4 **プロンプト表示**：アクティブな設定: '色' '画層' '線種' '線種尺度' '線の太さ' '透過性' '厚さ' '印刷スタイル' '寸法' 'ポリライン' 'マテリアル' '文字' '影の表示' 'ハッチング' 'マルチ引出線'

5 (オプション)**設定**を選択して、Enterを押します。

設定を調整し、**OK**ボタンをクリックします。

6 変更先の図形を選択します。

7 **プロンプト表示**：プロパティーのコピー先の図形を選択、または [設定 (S)/選択オプション (?)]:

8 図形を選択し続けるか、右クリックで停止します。

15.3.2 BIMデータを持つ図形間のプロパティをコピーするには

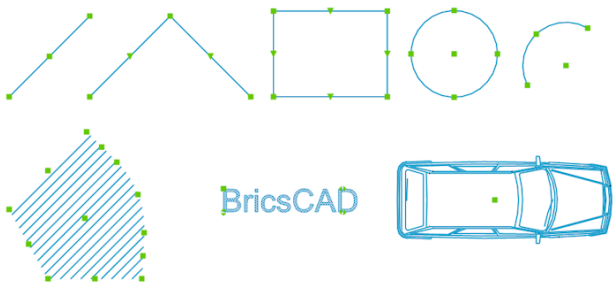
MATCHPROPコマンドがBIMデータをコピーするかどうかは、BIMMATCHPROPシステム変数の値に依存します。

- **BimMatchProp = 0：**標準プロパティに一致させます
  現在選択されているオプション(上記を参照)に従って、標準プロパティのみがコピーされます。
- **BimMatchProp = 1：**標準プロパティとBIMプロパティを一致させます
  IFCプロパティとユーザー定義プロパティを含むBIMデータ(下記以外)が、コピーされます。
  - BIMタイプ*
  - 構成/プロファイル
  - GUID
  - 数量

*BIMに分類された図形とBIMデータのない図形の間でMATCHPROPを使用すると、構成/プロファイル、GUID、および数量を除き、BIMタイプと対応するBIMプロパティが分類されていない図形にコピーされます。

15.4 グリップの編集

グリップは、選択した図形のキーポイントに表示される色分けされた小さな四角です。



グリップの表示や、グリップの外観は、**設定**ダイアログボックスの**図面** > **2D図面** > **表示/ビュー** > **グリップ**の一連のグリップ設定によって制御されます。

複雑な図面の場合、グリップの数が多すぎると表示が乱れる可能性があります。GRIPOBJECTLIMITシステム変数を使用すると、選択した図形の数が特定の制限を超えた場合に、グリップの表示を抑制することができます。ゼロに設定すると、すべてのグリップが表示されます。

マウスでグリップをドラッグして、図形のストレッチ、移動、回転、尺度変更、ミラーができます。

GEOMRELATIONSシステム変数が設定されている場合、編集中の図形と他の線、ポリライン、円弧、または円との間のジオメトリック関係(垂直または接線)が表示されます。(ジオメトリック関係を参照)

グリップを選択するには、グリップにカーソルを合わせクリックします。選択したグリップの色が変わり、HOTGRIPシステム変数で定義されている色で表示されます。選択されたグリップをホットグリップと呼びます。デフォルトでは、ホットグリップは赤色で表示されます。

線や構築線の**中点**グリップ、放射線の**始点**グリップ、円、円弧、楕円、楕円弧の**中心**グリップ、点のグリップ、テキスト、テキスト、ブロック、外部参照の**挿入点**グリップを使用すると、このような図形を移動するとき素早く操作できます。

注：DRAGSNAP変数がオンの場合、ドラッグされた図形は現在の図形スナップ位置に表示されます。

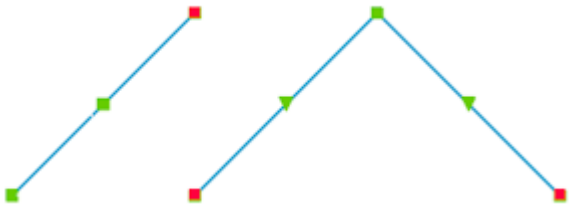
15.4.1 複数のグリップの選択

1 編集する全ての図形を選択します。

2 Shiftを押して、最初のグリップをクリックします。選択したグリップが赤色で表示されます。

3 Shiftを押したまま次のグリップを選択していきます。選択したグリップは全て赤色で表示されます

4



5 Shiftを放し、基点として使用するホットグリップをクリックします。ホットグリップは同時に移動します。

15.4.2 グリップ編集コマンドオプション

選択したグリップのドラッグを開始するBricsCAD、コマンドラインにプロンプトが表示されます。

新しい点を入力 [基点 (B)/コピー (C)/元に戻す (U)/終了 (X)]:

オプションの選択は、キーボードを使うか、**プロンプト**メニューで行います。

キーボード	プロンプトメニュー	説明
B	基点	選択したグリップ以外の新しい基点を指定します。
C	複写	選択した図形をコピーし、元の図形を保持します。デフォルトでは複数のコピーを作成できます。Enterを押して、コピーの作成を終了します。
U	元に戻す	**コピー**オプションが選択されている場合は、最新のコピーを削除します。
R	参照	(グリップ回転にのみ適用) 参照角度を指定します。コマンドラインに角度を入力するか、2点を指定します。
X	終了	グリップ編集コマンドを終了します。

15.4.3 グリップ編集コンテキストメニュー

グリップの編集コマンドは、スペースキーまたはEnterを繰り返し押すか、右クリックのコンテキストメニューで選択できます。

コマンドのオプションは、ストレッチ、移動、ミラー、回転、尺度です。

デフォルトではストレッチコマンドオプションが選択されています。

15.4.4 グリップを使用した図形のストレッチ

1 1 つまたは複数の図形を選択します。

2 操作するグリップを選択します。

3 基点として使用するグリップをクリックします。

4 選択したすべてのグリップが同時に移動します。

5 **プロンプト表示**：新しい点を入力 [基点 (B)/コピー (C)/元に戻す (U)/終了 (X)]:

6 (オプション)オリジナルを残す場合は、**コピー** を選択します。

7 (オプション)**基点**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示:

点を指定します。

8 移動先を定義するには、以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- ダイナミック入力フィールドに角度と距離を入力します。

15.4.5 グリップを使用した図形の移動

1 1 つまたは複数の図形を選択します。

2 操作するグリップを選択します。

3 移動の基点として使用するグリップをクリックします。

4 グリップ編集の**ストレッチ**コマンドが起動します。

5 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックして、コンテキストメニューから**移動**を選択します。
- **スペースキー**または**Enter**を押し、**グリップ編集**コマンドを循環させて**移動**にします。

プロンプト表示：移動点を入力 [基点 (B)/コピー (C)/元に戻す (U)/終了 (X)]:

6 (オプション)**基点**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示:

点を指定します。

7 移動先を定義するには、以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- ダイナミック入力フィールドに角度と距離を入力します。

15.4.6 グリップを使用した図形のコピー

1 1 つまたは複数の図形を選択します。

2 操作するグリップを選択します。

3 移動の基点として使用するグリップをクリックします。

4 グリップ編集の**ストレッチ**コマンドが起動します。

5 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックして、コンテキストメニューから**移動**を選択します。
- **スペースキー**または**Enter**を押し、**グリップ編集**コマンドを循環させて**移動**にします。

プロンプト表示：移動点を入力 [基点 (B)/コピー (C)/元に戻す (U)/終了 (X)]:

6 (オプション)**基点**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示:

点を指定します。

7 以下のいずれかの操作を行います：
- コンテキストメニューの、**コピー**を選択します。
- **C**と入力し、**Enter**を押します。

8 移動先を定義するには、以下のいずれかの操作を行います：
- 点を指定します。
- ダイナミック入力フィールドに角度と距離を入力します。

9 これまでの操作を繰り返してさらにコピーを作成するか、スペースキーもしくはEnterを押して終了します。

15.4.7 グリップを使用した図形のミラー

1 1 つまたは複数の図形を選択します。

2 操作するグリップを選択します。

3 ミラーの基点となるグリップをクリックします。

4 グリップ編集の**ストレッチ**コマンドが起動します。

5 以下のいずれかの操作を行います：
- 右クリックして、コンテキストメニューから**ミラー**を選択します。
- **スペースキー**または**Enter**を押し、**グリップ編集**コマンドを循環させて**ミラー**にします。

プロンプト表示：2点目を入力 [基点 (B)/コピー (C)/元に戻す (U)/終了 (X)]:

6 (オプション)オリジナルを残す場合は、**コピー** を選択します。

7 (オプション)**基点**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示:

点を指定します。

8 ミラー軸を定義する2番目の点を指定します。

9 選択図形はミラーされます。

15.4.8 グリップを使用した図形の回転

1 1 つまたは複数の図形を選択します。

2 操作するグリップを選択します。

3 回転の基点となるグリップをクリックします。

4 グリップ編集の**ストレッチ**コマンドが起動します。

5 以下のいずれかの操作を行います：
- 右クリックして、コンテキストメニューから**回転**を選択します。
- **スペースキー**または**Enter**を押し、**グリップ編集**コマンドを循環させて**回転**にします。

プロンプト表示：回転角度を入力 [基点 (B)/コピー (C)/元に戻す (U)/参照 (R)/終了 (X)]:

6 (オプション)オリジナルを残す場合は、**コピー** を選択します。

7 (オプション)**基点**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示:

点を指定します。

8 選択図形を回転するには、以下のいずれかの操作を行います：

- 回転角度を規定するための基点を指定してください。
- コマンドラインに回転角度を入力して、Enterを押します。

15.4.9 グリップを使用した図形の尺度変更

1 1 つまたは複数の図形を選択します。

2 操作するグリップを選択します。

3 尺度変更の基点となるグリップをクリックします。

4 グリップ編集の**ストレッチ**コマンドが起動します。

5 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックして、コンテキストメニューから**尺度変更**を選択します。
- **スペースキー**または**Enter**を押し、**グリップ編集**コマンドを循環させて**尺度**にします。

プロンプト表示：尺度係数を入力 [基点 (B)/コピー (C)/元に戻す (U)/参照 (R)/終了 (X)]:

6 (オプション)オリジナルを残す場合は、**コピー** を選択します。

7 (オプション)**基点**を選択します。

プロンプト表示：基点を指示:

8 点を指定します。

9 コマンドラインに尺度を入力して、Enterを押します。

15.5 図形の選択方法

修正コマンドの使用を開始する前に、選択セットを作成する方法を知っておく必要があります。

PICKFIRST変数をオンに設定している場合、修正コマンドを起動する前に図形を選択できます。選択していない場合、修正コマンドの起動後に図形を選択するように指示がプロンプト表示されます。

クイック選択(QSELECTコマンド)を使用すると、図形タイプ、色、線種など図形プロパティを指定してフィルターを設定し、選択セットを作成することができます。

システム変数SELECTIONCYCLING、SELECTIONPREVIEW、PREVIEWEFFECTを使用すると、選択手順が容易になります。

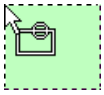
SELECTIONPREVIEWFILTERシステム変数では、ロックされた画層上の図形、外部参照の図形、表(テーブル)、マルチテキスト、ハッチング、グループ内の図形を選択から除外することができます。

15.5.1 選択セットを先に作成(プレピック)

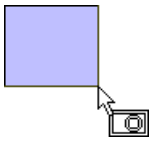
修正コマンドを起動する前に図形を選択するには、以下の手順を行います：

- 図形をクリックします。
- 選択図形がハイライトされ、グリップが表示されます。

- 領域の選択：
  - クリックして、選択領域の最初のコーナーを定義します。
  - マウスを左に動かして、**クロス領域**を定義します。



  - 重なり合う、または完全に矩形の内側にあるすべての図形が選択セットに追加されます。
  - デフォルトでは、選択領域は緑色で破線の輪郭で表示されます。
  - クリックして、選択領域の最初のコーナーを定義します。
  - マウスを右に動かして、**窓領域**を定義します。



  - 完全に内側にあるすべての図形が選択セットに追加されます。
  - デフォルトでは、選択領域は青色で連続線の輪郭で表示されます。
- 3Dソリッドやサーフェスを操作する場合、窓選択時に**Ctrl**キーを押すと、ソリッドやサーフェス全体ではなく、面やエッジを選択することができます。カーソルの横のアイコンは、選択モードを示します。
  - ソリッド(デフォルト)
  - 面
  - エッジ
  - エッジ板金側

    注：エッジ板金側オプションは、ドキュメントに板金コンテキストがある場合にのみ、**ホットキーアシスタントウィジェット**で使用できます。モデルの特定の面に属する複数のフランジのエッジを選択することができます。

  HOTKEYASSISTANTがオンの場合、**ホットキーアシスタント**ウィジェットに現在の選択モードが示されます。

- **Shift**を押したまま、上記のいずれかの方法を使用して、選択セットから図形を削除できます。

注：

- **選択領域**のシステム変数は、領域選択効果の表示を制御します。
- PICKADDシステム変数がオフの場合、選択セットに図形を追加することはできません。
- カーソルの下の図形がハイライト表示されたら、マウスの左ボタンを押したままにして窓選択を開始します。この方法は、レンダリングされた3Dモデルの窓選択に特に有効です。
- SELECTIONMODESシステム変数のビットコード 8が選択されている場合にのみ、3Dソリッドの頂点を選択できます。
- ビットコードが4以上のPICKAUTOシステム変数が選択されている場合、投げ縄選択を実行できます。

15.5.2 選択セットを後から作成(ポストピック)

選択セットがアクティブになっていないときに修正コマンドを起動すると、最初に図形を選択するようにプロンプト表示されます。BricsCADは、さまざまな図形選択方法を提供しています。

- **セットに追加**：選択した図形を選択セットに追加します。
- **セットから削減**：選択した図形を選択セットから削除します。
- **選択**：ピックボックスを図形の上へ持って行きクリックします。
- **すべての図形を選択**：非表示画層にある図形も含めて、図面全体のすべての図形を選択します。フリーズ画層の図形は選択されません。
- **前**：直前の選択セットを再度選択します。
- **最後の図形**：一番最後に入力した図形を選択します。
- **ウィンドウ**：ウィンドウの内側にある図形、重なっている図形、または完全に外側にある図形がすべて選択されます。**四角形**、**ポリゴン**、**円**の中から選ぶことができます。
- **フェンス**：フェンスの選択線と交差するすべての図形を選択します。
- **点**：1点をクリックすると、その点を囲むすべての閉じた図形が選択されます。
- **プロパティで選択**：**プロパティで選択**コンテキストメニューが表示され、**色**、**画層**、**線種**、**名前**、**厚み**、**タイプ**、**値**、**幅**、**ハンドル**によって図形を選択します。
- **元に戻す**：最後の選択アクションを取り消します。
- **場所**：**場所を選択**コンテキストメニューを表示します。

15.5.3 重複した図形を選択

図形が重なり合っていたり、他の図形によって隠されている場合、そのような図形を目視しながら選択することは困難または不可能な場合があります。

重なっている図形を順番に1つずつハイライト表示していくことで、このような図形を選択しやすくなります。

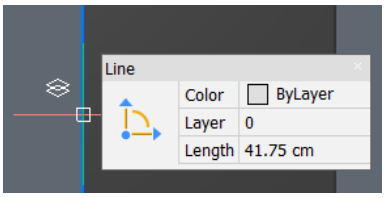
注：3Dソリッドの頂点は、SELECTIONMODESシステム変数のビットコード8が選択されている場合にのみ、サイクリングプロセスに含まれます。

選択ダイアログボックスによる方法(SELECTIONCYCLINGが「2」)

SELECTIONCYCLINGが「2」(選択ダイアログボックスを表示)に設定されていて、クワッドカーソルメニューがアクティブであること(QUADDISPLAYシステム変数で制御)を確認してください。

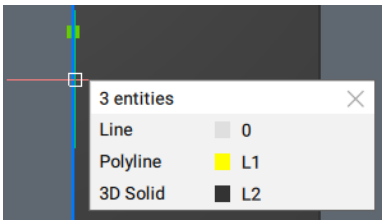
1 重複する図形の上にカーソルを置きます。

1 重なり合っている図形を示すバッジが表示されます。一番上の図形がハイライト表示されます。



2 重なり合っている図形をクリックします。

3 選択ダイアログボックスが表示され、前面から背面の図形が一覧表示されます。



注：何も選択せずにクリックすると、一番上の図形が自動的に選択されます。

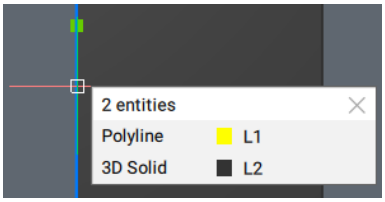
4 (オプション) **Ctrl**を押したままにします。

選択ダイアログボックスにサブ図形が一覧表示されます。

5 リストから図形またはサブ図形をクリックし、**閉じる**ボタンをクリックするか、カーソルをダイアログボックスから離します。

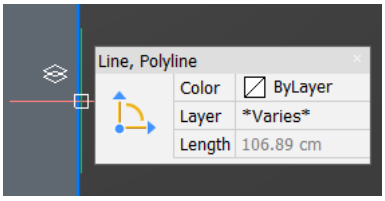
注：複数選択する場合、**Ctrlを押しながらクリック**や**Shiftを押しながらクリック**で選択して承諾します。

図形またはサブ図形が選択され、選択ダイアログボックスから削除されます。



6 複数の図形またはサブ図形を選択する場合は、前の手順を繰り返します。

7



SELECTIONPREVIEWによる方法

SELECTIONPREVIEWが「1」または「3」、ROLLOVERETIPSが「1」に設定されていることを確認してください。

1 重複する図形の上にカーソルを置きます。

1 図形の1つがハイライト表示されます。

2 **Tab**を繰り返し押します。

重複する図形が順番にハイライトされていきます。

3 目的の図形がハイライトされたらクリックします。

4 複数の図形を選択する場合は、前の手順を繰り返します。

注：

- ハイライトの順序が再開されてしまいますので、**Tab**を押している間はマウスを動かさないでください。
- **Shift**を押したままにすると、重複する図形が逆の順序で循環します。

15.5.4 見えているサブ図形を選択する

デフォルトでは、カーソルを図形に合わせると図形全体がハイライトされます。

この方法では、ポリライン、3Dポリライン、リージョン、3Dソリッドなどの複合図形のサブ図形を選択します。

注：SELECTIONCYCLINGシステム変数が「2」でない場合に有効です。キーボードショートカットの**Ctrl** + **W**でSELECTIONCYCLINGシステム変数の設定を切り替えることができます。

1 見えているサブ図形にカーソルを合わせます。

1 図形全体がハイライトされます。

2 **Ctrl**を押したままにします。

カーソルがあたっているサブ図形がハイライトされます。

3 ハイライトされたサブ図形をクリックします。

4 選択した図形のプロパティが **プロパティ**パネルに表示されます。

5 (オプション)複数の図形を選択する場合は、前の手順を繰り返します。

ポリラインのセグメント、3Dポリラインの頂点とセグメント、リージョン・サーフェス・メッシュ・3Dソリッドの頂点・エッジ・面などのサブ図形が選択できます。

15.6 クイック選択

クイック選択を使用すると、図形タイプ、色、線の種類などの図形プロパティのフィルターを指定して選択セットを構成できます。**クイック選択**は図面全体または以前作成した選択セットに適用されます。

15.6.1 一般的な手順

- QSELECTコマンドを起動します。
- (オプション)**カレントの選択セットに適用**オプションにチェックを入れます。
- (オプション)図形タイプフィルターを設定します。
- (オプション)プロパティフィルターを定義します。
- どちらかに設定したフィルターを適用します：
  - 新しい選択セット( )を作成します。
  - 既存の選択セット( )に選択を追加します。
  - 既存の選択セット( )から選択を削除します。

15.6.2 QSELECTコマンドの起動

以下のいずれかの操作を行います：

- **プロパティ**パネルを表示し、パネルにあるクイック選択ツールボタン( )をクリックします。
- コマンドラインに**qselect**と入力します。

クイック選択モードで**プロパティ**パネルが開きます。

15.6.3 図形タイプフィルターの設定

このステップはオプションです。設定しない場合、クイック選択はすべての図形タイプに適用されます。

1 **選択リスト**ボタンをクリックします。

2 図面内のすべての図形(**カレントの選択セットに適用**オプションを設定している場合は、カレントの選択セット内の図形)

と、それぞれの種別の図形数のリストが表示されます。

3 リストの中から図形タイプを選択します。

選択した図形のプロパティを表示します

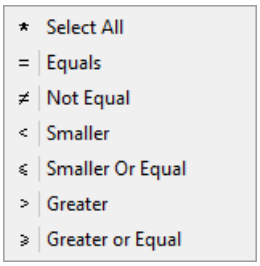
15.6.4 プロパティフィルターの定義

デフォルトでは、すべてのプロパティフィールドにアスタリスク(*)が表示されます。

利用可能なプロパティは、選択した図形タイプによって異なります。図形タイプが指定されていない場合は、一般的なプロパティのみがリストアップされます。

1 フィルター設定したいプロパティのアスタリスクをクリックします。

2 コンテキストメニューが表示されます。



3 操作を選択します。

4 プロパティ欄をクリックします。

5 プロパティによって、以下のいずれかを行ってください：

- 数値を入力します。
- オプションをドロップダウンリストから選択します。

6 (オプション)複数の図形を選択する場合は、前の手順を繰り返します。

15.7 表示順序

新しい図形が現在の図形と重なっているとき、それらは直前の図形の前に表示、印刷されますDRAWORDERコマンドは、重なっている図形の表示や印刷の順番を変更することができます。図形を別の図形の前面、背面、最前面、最背面に表示することができます。

1 DRAWORDERコマンドを起動します。

2 **プロンプト表示**：表示順序を変更する図形を選択 [選択オプション (?)]:

3 図形を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

4 **プロンプト表示**：表示順序を変更 [上側 (A)/下側 (U)/クリア (C)/正面 (F)/背面 (B)]<背面 (B)>:

5 プロンプトオプションを選択します。

6 選択に依存：

- **上指定図形の前面**または**下指定図形の背面**を選択すると、コマンドラインには次のように表示されます。図形を選択：

  参照する図形を選択してください。選択セットの表示は、選択した参照図形を基準にして変更されます。
- **最前面へ移動**または **最背面へ移動**を選択した場合、選択セットの表示はそれに準じて変更されます。

15.7.1 表示順序ツールの使用

表示順序ツールは、**ツール**メニューと**表示順序**ツールバーにあります。

アイコン	ツールの名前	説明
	最前面へ移動	選択セットを最前面に表示します。
	指定図形の前面	参照図形の前面に選択セットを表示します。(*)
	指定図形の背面	参照図形の背面に選択セットを表示します。(*)
	最背面へ移動	選択セットを最背面に表示します。
	ハッチングを背面へ移動	すべてのハッチング図形を背面に表示します。(HATCHTOBACKコマンド)
	テキストや寸法を前面へ	すべての文字/寸法図形/引出線を前面に表示します。 オプション：**文字/寸法/引出線/すべて**は、コマンドラインまたはプロンプトメニューのいずれかで選択できます。デフォルトのオプションは**すべて**です。(TEXTTOFRONTコマンド)

15.8 マニピュレータ

マニピュレータは、選択した図形をすばやく移動、回転、尺度変更、ミラー化できる汎用グリップツールです。動作開始時にCtrlを押しながら操作すると、元の図形が保持され、コピーが作成されます。図形を選択すると、マニピュレータはユーザーがコントロールした位置と方向に表示されます。位置と向きは、ダイナミック UCS と同様の方法でコントロールされます。複数の図形が同時に選択された場合、マニピュレータは最初はそれぞれの図形の幾何学的な中心に配置されます。選択範囲を段階的に拡大していくと、マニピュレータの初期位置は維持されます。マニピュレータは、ハンドルを使って任意の位置や方向に簡単に直接移動できます。

操作方法によりますが、ダイナミック寸法がアクティブな場合は、距離、角度、または尺度係数を設定するためのダイナミック入力フィールドが利用可能です。

15.8.1 アダプティブスナップステップ

SNAPTYPE = 2の場合のスナップステップサイズが自動的にカレントの画面のズーム倍率に適合します。AdaptiveGridStepSize 設定は、最小の利用可能なステップサイズをコントロールします。アダプティブステップサイズは、マニピュレータルーラーのステップサイズを動的に調整するためのもので、数値を入力することなく、正確な値で素早く図形を修正することができます。

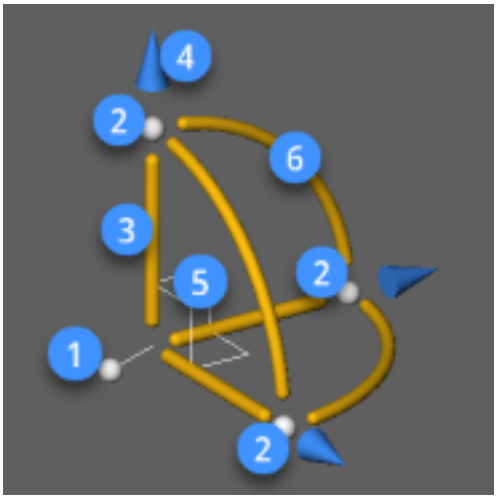
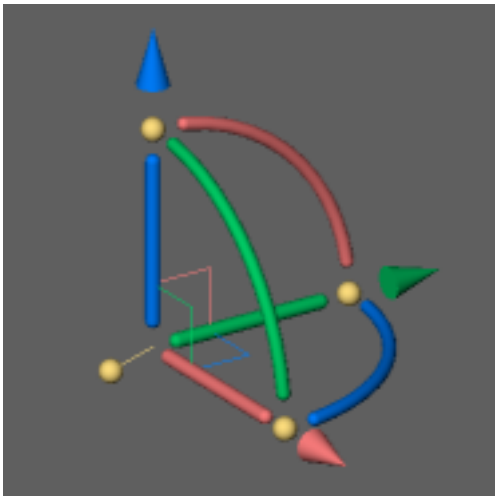
15.8.2 マニピュレータの設定

マニピュレータの設定は、**設定**ダイアログボックスの**プログラムオプション** > **マニピュレータ**にあります。

マニピュレータが表示されている状態で右クリックをして、コンテキストメニューから**マニピュレータ設定**を選択します。

15.8.3 マニピュレータのレイアウト

マニピュレータのコンテキストメニューにある**クラシックカラー**にチェックを入れると、クラシックレイアウトが表示されます。デフォルトのレイアウトにしたい場合は、このオプションのチェックを外します。

	
デフォルト	クラシック

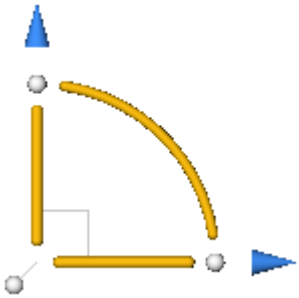
4つのハンドル

- 1： マニピュレータハンドル
- 2：軸ハンドル

12のコマンドを動作させるゾーン

- 3：軸
- 4：矢頭
- 5：平面スウォッチ
- 6：アーク回転

現在の表示が平面図のように座標系の主軸の1つに平行である場合、マニピュレータは2Dバージョンに簡略化されます。



15.8.4 マニピュレータの表示位置と方向

3Dマニピュレータの初期位置と向きは、次の項目によって決まります。

- 図形の種類

- 図形をクリックしたポイント

図形タイプ	選択	マニピュレータ - アンカーポイント	マニピュレータ - 向き
線分	端点の近く	端点	他方の端点を通るX軸
線分	中点の近く	中点	最も近い端点を通るX軸
ポリライン線分セグメント	頂点の近く	頂点	選択した線分セグメントの反対側の頂点を通るX軸
ポリライン線分セグメント	セグメント中点の近く	セグメント中点	最も近い頂点を通るX軸
ポリライン円弧セグメント	円弧セグメント上	円弧の中心	最も近い頂点を通るX軸
円弧	ランダム	円弧の中心	最も近い端点を通るX軸
円	ランダム	円の中心	現在の座標系のX軸と平行なX軸
スプライン	ランダム	最も近い端点	反対側の端点を通過する方向
リージョン	線分セグメント上	線分セグメントの最も近い端点	他方の端点を通るX軸
リージョン	円弧セグメント上	円弧セグメントの中心	円弧セグメントの最も近い端点を通るX軸
文字、マルチテキストブロック、外部参照	ランダム	図形の原点	図形の回転角度におけるX軸
3Dソリッド 3Dソリッド 3Dソリッド面	ソリッド面上	最も近い頂点	最も近いエッジに沿ったX軸 選択した面のXY平面
複数の図形	ランダム	選択セットの幾何的中心	現在の座標系の軸と平行

* 3Dソリッド面またはソリッド全体を選択する方法については、選択モードをご参照ください。

** 選択セットに図形を追加しても、マニピュレータの位置は変わりません。

15.8.5 マニピュレータの表示

MANIPULATORシステム変数の値は、以下の選択に基づいて、マニピュレータが自動的に表示されるタイミングをコントロールします。

- 0：マニピュレータを表示しない
- 1：図形が選択されたときにマニピュレータを表示
- 2：マウスの左ボタンをMANIPULATORDURATIONシステム変数で指定された値より長く押したときにマニピュレータを表示

複数の図形を選択してマニピュレータを表示するには：

- 図形を1つずつ選択するか、窓選択を使い一括選択して、クリックして最後の図形を選択します。
- MANIPULATORの値を設定します。
- 選択セットを作成して、MANIPULATEコマンドを起動します。

15.8.6 マニピュレータを移動する

以下のいずれかの操作を行います：

- マニピュレータ上の任意の場所で長押しして、新しい場所に移動します。
- MANIPULATORHANDLE = 0：マニピュレータハンドル(1)をクリックし、新しい場所に移動します*。
- アンカーハンドルが目立つので、図形グリップと重ならないようになっています。
- MANIPULATORHANDLE = 1：*マニピュレータハンドル(1)を長押しして新しい場所に移動します。
- マニピュレータの上にカーソルを置き、右クリックをして、コンテキストメニューで**移動**を選択して、*新しい場所に移動します。

*図形スナップを使用して新しい場所を指定します。

15.8.7 マニピュレータを回転させる

軸ハンドルの1つ(2)をドラッグしてマニピュレータを回転させます。ポイントを選択するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力して回転角度を指定します。

Shiftを押して、マニピュレータを法線軸を中心に90度回転させます。(Z軸）

15.8.8 方向変更マニピュレータ

1 マニピュレータの上にカーソルを置き、右クリックをして、コンテキストメニューで **方向変更マニピュレータ**を選択します。

プロンプト表示：マニピュレータの原点を指定:

2 1点を指定します。

3 マニピュレータのアンカーポイントを指定した位置に配置します。

プロンプト表示：X軸上を指示 または <Accept>:

4 1点を指定します。

5 マニピュレータはX軸を中心に回転します。

プロンプト表示：XY-平面上のYの正方向を指示 または <Accept>:

6 ポイントを選択して、マニピュレータの新しい位置を定義します。

15.8.9 マニピュレータを座標系に整列させる

マニピュレータの上にカーソルを移動し、右クリックして、コンテキストメニューでオプションを選択します。

- **WCSで整列** ：マニピュレータの軸が強制的にワールド座標系の対応する軸と平行になります。
- **UCSで整列**：現在オンにしている座標系がUCSである場合、マニピュレータの軸が強制的にUCSの対応する軸と平行になります。

15.8.10 マニピュレータをソリッド面と整列させる

この操作をするにはダイナミックUCS(DUCS)がONでなければなりません。

1 マニピュレータの上にカーソルを置き、右クリックし、コンテキストメニューで **移動**を選択します。

2 ソリッドの面にカーソルを合わせます。

3 マニピュレータのXY面がカーソルの下のソリッド面に揃えられます。

4 以下のいずれかの操作を行います：
   - 選択した面上またはその端の1つに点にスナップします。
   - Shiftを押してXY面を選択した面に固定し、面の外の点にスナップします。

15.9 図形の移動

MOVEコマンドは、図面内の図形を移動します。

CUTCLIPコマンドは、図形をクリップボードにコピーしてから、図面から削除します。

PASTECLIPコマンド(貼り付け)は、図形をクリップボードから現在の図面に貼り付けます。

PASTEORIGコマンドは、元の図面の座標を使用して、図形をクリップボードから現在の図面に貼り付けます。

PASTEBLOCKコマンドは、クリップボードの図形をブロックとして現在の図面に貼り付けます。

CUTCLIPを使用してから、PASTECLIP、PASTEORIG、またはPASTEBLOCKのいずれかを使用して、図形を別の図面に移動させます。

グリップ編集コマンドの**コピー**オプションを使用すると、ストレッチ、移動、回転、ミラー、または尺度変更されている図形の複数のコピーを作成できます。

注：DRAGSNAP変数がオンの場合、ドラッグされた図形は現在の図形スナップ位置に表示されます。

15.9.1 図面内の図形の移動

既定の方法は、図形を選択してから始点(基点)と終点(配置点)を指定する方法です。方向ベクトルを使用して図形を移動することもできます。

1 MOVEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：移動する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

3 選択した図形がカーソルにアタッチされます。

   プロンプト表示：基点を指示 [移動距離 (D)]<移動距離 (D)>:

4 点を指定します。

5 **プロンプト表示**：2点目を入力、または <移動距離として基点を使用>:

6 点を指定します。

7 選択した図形が移動します。

15.9.2 図面間の図形の移動

1 元の図面で移動する図形を選択します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックして、コンテキストメニューから**切り取り**を選択します。
  クワッドが作動しているときは、右マウスボタンを長く押してください。
- メニューバーの**編集**で**切り取り**を選択します。
- **Ctrl + X**を押します。

元図面の図形が削除され、クリップボードにコピーされます。

3 コピー先図面に切り替えます。

4 以下のいずれかの操作を行います：

- メニューバーの**編集**で**貼り付け**を選択します。
- **Ctrl + V**を押します。

選択図形の外接矩形の左下隅がカーソルにアタッチされます。

5 以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- 元の図面の座標を使用して、選択した図形を貼り付けるには、Enterを押します。

注：元の図面でUNDOコマンドを起動すると、移動した図形が元に戻ります。

15.9.3 選択図形をブロックとして移動

1 移動する図形を選択します。

2 元の図面で移動する図形を選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- 右クリックして、コンテキストメニューから**切り取り**を選択します。
  クワッドが作動しているときは、右マウスボタンを長く押してください。
- メニューバーの**編集**で**切り取り**を選択します。
- **Ctrl + X**を押します。

元図面の図形が削除され、クリップボードにコピーされます。

4 図形は元図面から削除され、クリップボードにコピーされている状態です。

5 コピー先図面に切り替えます。

6 メニューバーの**編集**で**ブロックとして貼り付け**を選択するか、キーボードの**Ctrl+Shift+V**を押します。
選択図形の外接矩形の左下隅が、コピー先図面のクロスヘアにアタッチされます。

7 挿入基点を指定します。

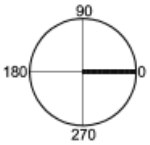
8 選択図形は、デフォルトの名前を使用してブロックとして貼り付けられます。

9 (オプション)EXPBLOCKSコマンドを起動し、**図面エクスプローラ - ブロック設定**ダイアログボックスでブロックの名前を変更します。

15.10 図形の回転

ROTATEコマンドは、指定された回転角度に沿って、または基準角度に対して、指定された点で図形を回転します。標準の方法では、現在の方向からの相対的な回転角度を使用して図形を回転します。

デフォルトでは、角度は3時(東)から始まり、反時計回りに増加します。時計回りに回転させたい場合は、マイナスの値を入力します。



注:

- **基準角度**は、現在のUCSを参照するANGBASE値によってコントロールされます。
- **角度方向**は、現在のUCSに対して、0角度から正の方向に設定されたANGDIR値によってコントロールされます。

15.10.1 一般的な手順

1 ROTATEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：回転する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形：1

プロンプト表示：回転する図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：回転ポイント:

6 点を指定します。

7 **プロンプト表示**：回転角度、または [基準角度 (B)/コピー (C)] <0>:

8 以下のいずれかの操作を行います：

- 点を指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。

選択した図形が回転します。

15.10.2 基準角度に対して選択図形を回転

1 ROTATEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：回転する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形：1

プロンプト表示：回転する図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：回転ポイント:

6 点を指定します。

7 **プロンプト表示**：回転角度、または [基準角度 (B)/コピー (C)] <0>:

8 **基準角度**オプションを選択します。

プロンプト表示：基準角度 <0>:

9 以下のいずれかの操作を行います：
- 値を入力し、Enterを押します。
- 2点をクリックして基準角度を指定します。

10 **プロンプト表示**：新しい角度 <30.84>:

11 以下のいずれかの操作を行います：
- 値を入力し、Enterを押します。
- ポイントを指定します。

選択図形が回転します。

15.10.3 3D回転

1 ROTATE3Dコマンドまたは3DROTATEを起動します。

1 **プロンプト表示**：回転する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形：1

プロンプト表示：回転する図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択またはEnterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：軸の最初のポイントを指定するか、または軸を定義 [X軸/Y軸/Z軸/2点 (2P)/オブジェクト (O)/最後 (L)/ビュー (V)] <2点(2P)>:

6 図形オプションを選択後、2点オプションを選択します。

7 **プロンプト表示**：軸の始点を指示:

8 点を指定します。

9 **プロンプト表示**：軸の端点を指示、または <ビュー方向と平行な軸を使用>:

10 点を指定します。

11 **プロンプト表示**：回転角度を指示、または [基準角度 (B)/コピー (C)]: 45

12 値を入力し、Enterを押します。

13 選択図形が回転します。

15.11 図形のミラー

MIRRORコマンドは、選択セットのミラーコピーを作成します。選択図形は、2点を指定して定義した対称軸に沿ってミラーされます。元の図形を削除するか保持するかを選択できます。

MIRROR3Dコマンドは、選択した図形のミラーコピーを3D空間に作成します。この場合、3点を指定してミラー平面を作成するか、既存の2D平面図形を選択するか、現在のUCSのXY、YZ、XZ平面に平行にするか、または現在のビューを使って位置合わせするか、いずれかを選択してミラーします。元の図形を削除するか保持するかを選択できます。

注：テキストがMIRRORコマンドによってミラーされるかどうかは、MIRRTEXTシステム変数によって制御されます。

15.11.1 ラインに沿った図形のミラー

1 MIRRORコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：ミラーする図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形: 1

プロンプト表示：ミラーする図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：ミラー軸の1点目:

6 点を指定します。

7 選択図形は動いて回転します。

プロンプト表示：ミラー軸の終点:

8 点を指定します。

9 選択図形はミラーされます。

プロンプト表示：元の図形を削除しますか?[はい-図形を削除します (Y)/いいえ-図形を保持します (N)]<いいえ-図形を保持します (N)>:

10 元の図形を削除するか保持するかを選択します。

15.11.2 平面に沿った図形のミラー

1 MIRROR3Dコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：ミラーする図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形: 1

プロンプト表示：ミラーする図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：ミラーする平面を定義 [図形 (E)/最後 (L)/ビュー (V)/Z軸/X-Y平面/Y-Z平面/Z-X平面/3点]<3点>:

6 Enterを押して、ミラー平面を定義する[3点]を受け入れます。

7 **プロンプト表示**：面の1点目:

8 点を指定します。

9 **プロンプト表示**：面の2点目:

10 点を指定します。

11 **プロンプト表示**：面の3点目:

12 点を指定します。

13 **プロンプト表示**：元の図形を削除しますか?[はい-図形を削除します (Y)/いいえ-図形を保持します (N)]<いいえ-図形を保持します (N)>:

14 元の図形を削除するか保持するかを選択します。

15.12 図形の整列

ALIGNコマンドを使用すると、図面内の既存の図形に対して選択セットを再配置できます。選択セットは1回の動作で移動、回転されます。必要に応じて、新しい位置でフィットするように元図形の尺度変更もできます。

コマンドは2Dと3Dの両方で使用できます。

15.12.1 2Dでの整列

1 ALIGNを起動します。

2 **プロンプト表示**：図形を選択:

3 図形を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

4 **プロンプト表示**：1点目(基点):

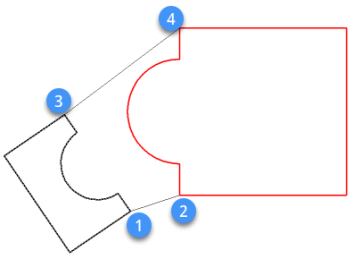
5 選択した図形の1点目の基点(1)にスナップします。

6 **プロンプト表示**：1点目(目的点):

7 参照する図形の1点目の目的点(2)にスナップします。

8 基点と目的点の間にはウィットネスラインが引かれます。

プロンプト表示：2点目(基点):



9 選択した図形の2点目の基点(3)にスナップします。

10 **プロンプト表示**：2点目(目的点):

11 参照する図形の2点目の目的点(4)にスナップします。

12 基点と目的点の間にはウィットネスラインが引かれます。

プロンプト表示：3点目(基点):

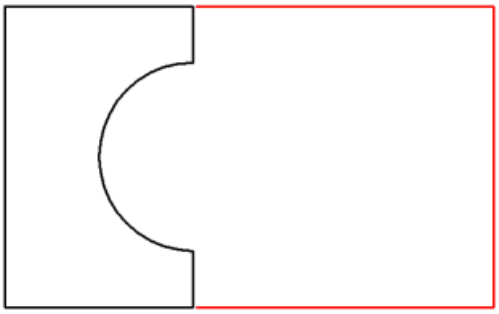
13 2Dの場合は3点目の入力は不要なので、右クリックを押します。

14 **プロンプト表示：**整列ポイントに基づいて図形を尺度変更 [はい (Y)/いいえ (N)]<いいえ (N)>:

15 以下のいずれかの操作を行います：

- 選択した図形の尺度を変更したくない場合、Enterを押します。
- 選択した図形の尺度を変更するには[Y]と入力しEnterを押します。
- 尺度変更は、基点間の距離を目的点間の距離に調整します。

16



尺度変更された図形の整列結果

15.12.2 3Dでの整列

1 ALIGNを起動します。

1 **プロンプト表示：**図形を選択:

2 図形を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

3 **プロンプト表示：**1点目(基点):

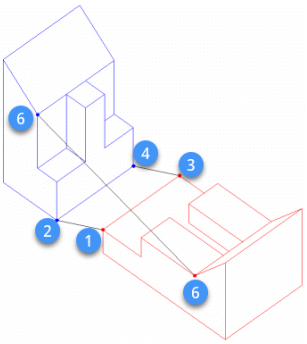
4 選択した図形の1点目の基点(1)にスナップします。

5 **プロンプト表示：**1点目(目的点):

6 参照する図形の1点目の目的点(2)にスナップします。

7 基点と目的点の間にはウィットネスラインが引かれます。

プロンプト表示：2点目(基点):



8 選択した図形の2点目の基点(3)にスナップします。

9 **プロンプト表示**：2点目(目的点):

10 参照する図形の2点目の目的点(4)にスナップします。

11 基点と目的点の間にはウィットネスラインが引かれます。

プロンプト表示：3点目(基点):

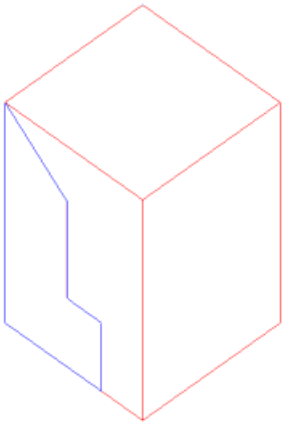
12 選択した図形の3点目の基点(5)にスナップします。

13 **プロンプト表示**：3点目(目的点):

14 参照する図形の3点目の目的点(6)にスナップします。

15 基点と目的点の間にはウィットネスラインが引かれます。

図形が整列されます。



15.13 図形の変更

CHANGEコマンドは、ブロックの挿入基点や文字の方向を変更します。

コマンドの**プロパティ**オプションでも、画層、線種、線種尺度、線の太さなどを変更できますが、BricsCADの**プロパティ**パネルの方がはるかに多機能です。

15.13.1 文字列の変更

1 CHANGEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：変更する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 文字列を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

3 **プロンプト表示**：点を変更 [図形 (E)/プロパティ... (P)]:

4 新しい挿入ポイントを指定するか、Enterを押して元の挿入ポイントを維持します。

5 **プロンプト表示**：New text style Standard:

6 新しいテキストスタイルの名前を入力するか、Enterを押すと現在のスタイルが維持されます。

7 テキスト図形は、動的に拡大縮小します。

プロンプト表示：新規の高さ<現在の高さ>：

8 以下のいずれかの操作を行います：
- 動的に変化する新しい文字の高さをクリックして定義します。
- 新しい文字の高さを指定する値を入力します。
- Enterを押すと、現在の文字の高さが維持されます。

文字列が動的に回転します。

プロンプト表示：新しい回転角度<0>:

9 以下のいずれかの操作を行います：
- ポイントを指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。
- Enterを押すと、現在の回転角度が維持されます。

プロンプト表示：新しい文字<現在の文字>：

10 新しいテキストを入力するか、Enterを押して現在のテキストを維持します。

11 複数の文字列を選択した場合は、文字列ごとに手順が再開されます。

15.13.2 ブロックの再配置

1 CHANGEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：変更する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 ブロックを選択し、右クリックまたはEnterを押します。

3 **プロンプト表示**：点を変更 [図形 (E)/プロパティ... (P)]:

4 点を指定します。

5 ブロックは動的に回転します。

プロンプト表示：新しい回転角度<現在の角度>:

6 以下のいずれかの操作を行います：
- 点を指定します。
- 値を入力し、Enterを押します。
- Enterを押すと、現在の回転角度が維持されます。

7 複数の文字列を選択した場合は、文字列ごとに処理が再開されます。

15.14 図形のコピー

COPYコマンドは、カレントの図面内の図形をコピーします。標準の方法は、図形を選択し、コピーの開始点(基点)と終了点(2点目)を指定します。また、コピー距離は方向ベクトル(X、Y、Z)として指定することもできます。

COPYMODEシステム変数で、単一または複数のコピーの作成を指定します。

COPYCLIPコマンドは、図形をクリップボードにコピーします。クリップボードは、PASTECLIPコマンドやPASTEBLOCKコマンドを使用して、現在の図面または別の図面に貼り付けることができます。

注：DRAGSNAP変数がオンの場合、ドラッグされた図形は現在の図形スナップ位置に表示されます。

15.14.1 一般的な手順

1 COPYコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：コピーする図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形: 1

4 **プロンプト表示**：コピーする図形を選択 [選択オプション (?)]:

カレントのコピーモード: 連続(M)

プロンプト表示：基点を指示 [移動距離 (D)/モード (O)]<移動距離 (D)>:

5 点を指定します。

6 コピーされた選択図形はダイナミックに移動します。

プロンプト表示：2点目を入力、または [配列複写 (A)]<移動距離として基点を使用>:

7 点を指定します。

8 選択図形の最初のコピーが作成されます。

2番目のコピーはダイナミックに動きます。

プロンプト表示：2点目を入力 [元に戻す (U)/配列複写 (A)/繰り返し (R)/終了 (E)]:

9 以下のいずれかの操作を行います：

- 複数のコピーを作成するには、点を指定し続けます。
- Enterを押して終了します。

15.14.2 繰り返しオプションの使用

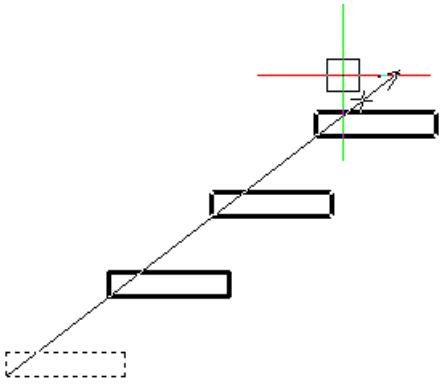
1 一般的な手順(上記参照)のステップ1～5を実行します。

1 **プロンプト表示**：2点目を入力 [元に戻す (U)/配列複写 (A)/繰り返し (R)/終了 (E)]:

2 **繰り返し**オプションを選択します。

カーソルを移動すると、一定の間隔で複数のコピーが作成されます。

プロンプト表示：終点を選択 (<ENTER> で繰り返し数をキー入力)



3 以下のいずれかの操作を行います：

- 希望するコピー数が表示されたときにクリックします。

- Enterを押します。
- **プロンプト表示**：繰り返し数を入力 <1>:

  希望するコピー数を入力し、Enterを押します。

15.14.3 配列複写オプションの使用

1 一般的な手順(上記参照)のステップ1～4を実行します。

1 **プロンプト表示**：2点目を入力、または [配列複写 (A)]<移動距離として基点を使用>:

2 **配列複写**オプションを選択します。

プロンプト表示：配列複写のアイテム数を入力:

3 アイテムの数を指定します。

4 配列はダイナミックに表示されます。

プロンプト表示：2点目を入力、または [フィット (F)]:

5 以下のいずれかの操作を行います：
- 配列内の各アイテム間の距離を定義する点を指定します。
- **フィット**オプションを選択します。

  プロンプト表示：2点目を入力、または [配列複写 (A)]:

  配列の最初の項目と最後の項目の間の距離を定義する点を指定します。

6 以下のいずれかの操作を行います：
- コピーを作成し続けます。
- Enterを押して終了します。

15.14.4 選択図形をブロックとしてコピー

1 ブロックとしてコピーしたい図形を選択します。

2 COPYBASEコマンドを起動します。

3 **プロンプト表示**：基点を指示:

4 点を指定します。

5 選択数 xx 個

6 (オプション) 別の図面に切り替えます。

7 PASTEBLOCKコマンドを起動します。

8 **プロンプト表示**：挿入点を指示:

9 点を指定します。

10 選択した図形がブロックとして貼り付けられます。

11 (オプション)EXPBLOCKSコマンドを起動し、**図面エクスプローラ - ブロック設定**ダイアログボックスでブロックの名前を変更します。

15.14.5 図面間で図形をコピー

図形は次の方法を使用して図面間でコピーします。

- COPYCLIPとPASTECLIP*：デフォルトの基点を使用して選択図形をコピーします。
- COPYCLIPとPASTEORIG：元図面の座標を使用して選択図形をコピーします。
- COPYBASEとPASTECLIP*：ユーザー定義の基点を使用して選択図形をコピーします。
- COPYBASEとPASTEBLOCK：選択図形をコピー先図面のブロックとしてコピーします。

*プロンプト表示：[挿入基点を選択]でEnterを押すと、コピー元図面の座標を使用して選択図形を貼り付けます。(=PASTEORIGコマンドと同等)

15.15 平行コピーの作成

OFFSETコマンドは線分図形のコピーを作成し、それを指定された距離で、元の図形に平行に配置します。円弧、円、楕円、楕円弧、線分、2Dポリライン、放射線、構築線を使用してオフセット図形を作成することができます。

SELECTIONMODESシステム変数で設定された選択されたオプションに応じて、OFFSETコマンドは以下を受け付けます。

- **エッジ選択**オプションが設定されている場合の3Dソリッドのエッジ。
- **面選択**オプションが設定されている場合の3Dソリッド面のエッジ。
- **検出された境界を選択**オプションが設定されている場合は、囲まれた境界。

注： OFFSETGAPTYPE設定の値で閉じたポリラインをオフセットするとき、セグメント間のギャップをコントロールします。

15.15.1 指定された距離で平行コピーを作成

1 OFFSETコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示：**オフセット距離を入力、または [通過点 (T)/削除 (E)/画層 (L)]<通過点>:

2 以下のいずれかの操作を行います：
   - Enterを押して現在の距離を承諾します。
   - コマンドラインに新しい距離を入力します。
   - 2点を指定して新しい距離を定義します。

   プロンプト表示：図形/サブ図形を選択、または [元に戻す (U)/終了 (E)/選択オプション (?)]<終了 (E)>:

3 線形図形を選択します。次に、以下を行います。

4 平行コピーのプレビューは、選択された図形に対する現在のカーソルの位置に応じて表示されます。

   プロンプト表示：平行コピーの側を選択、または [両側 (B)/連続 (M)]:

5 ポイントを指定します。

6 平行コピーが作成されます。

   OFFSETERASE = オンの場合、元の図形が削除されます。

7 **プロンプト表示：**図形/サブ図形を選択、または [元に戻す (U)/終了 (E)/選択オプション (?)]<終了 (E)>:

8 以下のいずれかの操作を行います：
   - 他の図形を選択します。
   - Enterを押して終了します。

15.15.2 通過点で平行コピーを作成

1 OFFSETコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：オフセット距離を入力、または [通過点 (T)/削除 (E)/画層 (L)]<通過点>:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押して、デフォルトの**通過点**オプション(=最後に使用したとき)を承諾します。
- **通過点**オプションを選択します。

プロンプト表示：図形/サブ図形を選択、または [元に戻す (U)/終了 (E)/選択オプション (?)]<終了 (E)>:

3 線形図形を選択します。次に、以下を行います。

4 平行コピーは動的に表示されます。

5 平行コピーを作成するポイントをクリックします。

6 OFFSETERASE = オンの場合、元の図形が削除されます。

プロンプト表示：図形/サブ図形を選択、または [元に戻す (U)/終了 (E)/選択オプション (?)]<終了 (E)>:

7 以下のいずれかの操作を行います：

- 他の図形を選択します。
- Enterを押して終了します。

15.16 図形の配列複写

ARRAYコマンドは、選択した図形を矩形状や円形状、または直線図形に沿ってコピーします。矩形状配列の場合、行と列の数、および後続の行と列の間隔も指定する必要があります。また円形状配列の場合、配列の中心点、回転ステップ、配列内のアイテムの数、全体の角度を指定するよう求められます。図形を中心点周りに回転させるか、元の方向を維持するか選択することができます。

ARRAYCLASSICコマンドは、ダイアログボックスを使用し、矩形状または円形状の関連付けしない配列を作成します。

-ARRAYコマンドは、コマンドラインで、矩形状または円形状の関連付けしない配列を作成します。

3DARRAYコマンドは、矩形状または円形状の関連付けしない3D配列を作成します。

ARRAYコマンドは、図形のコピーを等間隔の矩形配列(ARRAYRECTコマンド)、円形配列(ARRAYPOLARコマンド)、またはパス配列(ARRAYPATHコマンド)に分けられます。

ARRAYEDITコマンドを使用し、配列や元図形を編集することができます。

15.16.1 矩形状配列を作成(関連付けなし)

1 ARRAYCLASSICを起動します。

1 **配列**ダイアログボックスが表示されます。

2 **配列の種類**は、**矩形**を選択します。

3 **図形を選択**ボタンをクリックします。

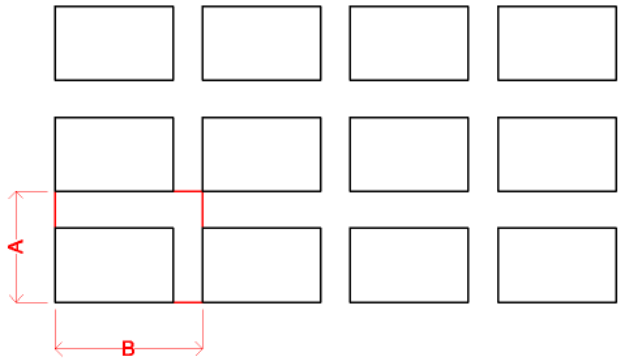
配列ダイアログボックスが一時的に閉じ、図形を選択できるようになります。

4 図形を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

5 **配列**ダイアログボックスが再び開きます。

6 **設定**フィールドに入力するか、**ピックポイント**ボタンを押して、設定を図を用いて定義します。

配列ダイアログボックスが一時的に閉じ、図面内の点を指定できるようになります。



行オフセット(A)と列オフセット(B)は、矩形の間隔(赤色部)で定義

7 **OK**ボタンをクリックし配列を作成します。

注：ステップ5の正の値は、現在のUCSの正のX軸とY軸に沿って測定されます。負値は反対方向で測定されます。

15.16.2 円形状配列を作成(関連付けなし)

1 ARRAYCLASSICを起動します。

1 **配列**ダイアログボックスが表示されます。

2 **配列の種類**は、**円形**を選択します。

3 **図形を選択**ボタンをクリックします。

配列ダイアログボックスが一時的に閉じ、図形を選択できるようになります。

4 図形を選択し、右クリックまたはEnterを押します。

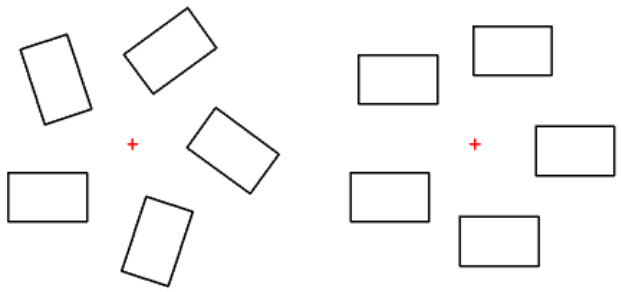
5 **配列**ダイアログボックスが再び開きます。

6 **設定**フィールドの**アイテム間の角度**、**全体の角度**、**アイテム数**を定義します。

7 **設定**フィールドに入力するか、**ピックポイント**ボタンを押して、設定を図を用いて定義します。

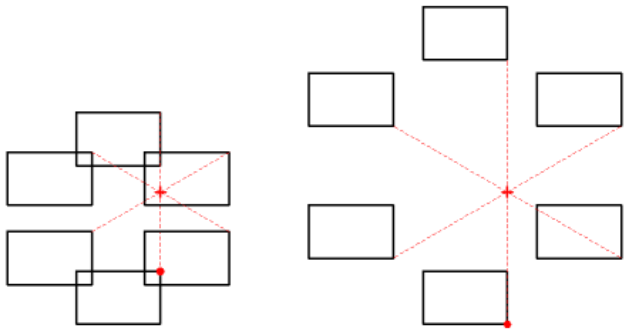
配列ダイアログボックスが一時的に閉じ、図面内の点を指定できるようになります。

8 (オプション)**複写回転する要素**オプションにチェックを入れます。



図形が配列の中心点を中心に回転複写(左)、回転せず複写(右)

9 (オプション)**図形の基点**を定義します。



基点(点)と中心点(交差)の円形状配列

10 **OK**ボタンをクリックし配列を作成します。

15.16.3 3D矩形状配列を作成(関連付けなし)

1 3DARRAYを起動します。

1 **プロンプト表示**：配列複写する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形: 1

プロンプト表示：配列複写する図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：配列種類 [円形状 (P)/矩形状 (R)]<矩形状 (R)>:

6 **矩形状**オプションを選択します。

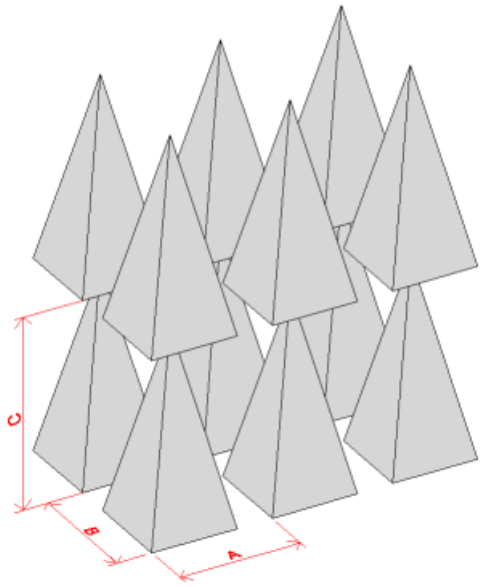
プロンプト表示：行数 <1>:

7 行数を指定します。

8 **プロンプト表示**：列数 <1>:

9 列数を指定します。

10 **プロンプト表示**：Z方向の層数 <1>:



矩形状の3D配列：

列間隔A、行間隔B、レベル(Z方向)間隔C

11 レベル(Z方向)の層数を指定します。

12 **プロンプト表示**：行間の垂直距離:

13 値を入力するか、2点をクリックします。

14 **プロンプト表示**：列間の水平距離:

15 値を入力するか、2点をクリックします。

16 **プロンプト表示**：深さ:

値を入力するか、2点をクリックします。

配列が作成されます。

注：ステップ7、8、9の正の値は、現在のUCSの正のX軸、Y軸、Z軸に沿って測定されます。負の値は反対方向に測定されます。

15.16.4 3D円形状配列を作成(関連付けなし)

1 3DARRAYを起動します。

1 **プロンプト表示**：配列複写する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形: 1

プロンプト表示：配列複写する図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：配列種類 [円形状 (P)/矩形状 (R)]<矩形状 (R)>:

6 **円形状**オプションを選択します。

プロンプト表示：整列させるアイテム数、または [アイテム間の角度を指定するには、Enterを押します (A)]<アイテム間

の角度を指定するには、Enterを押します (A)>:

7 アイテムの数を指定します。

8 **プロンプト表示**：全体の角度 (+ で反時計回り、- で時計回り <360>):

9 値を入力するか、Enterを押してデフォルト値を適用します。

10 **プロンプト表示**：配列の周りに図形を回転しますか?[はい (Y)/いいえ (N)]<はい (Y)>:

11 **はい**または**いいえ**を選択するか、Enterを押してデフォルトを受け入れます。

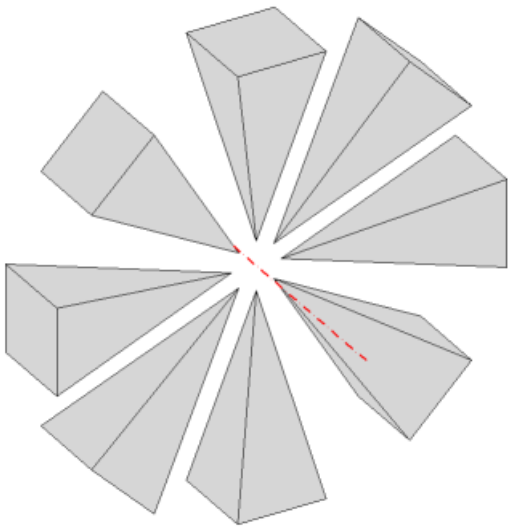
プロンプト表示：配列の中心点:

12 点を指定します。

13 **プロンプト表示**：配列複写の中心軸に沿って2点目を指定:

14 点を指定します。

15 配列が作成されます。



水平軸(赤色部)を中心とした3D円形状配列

15.17 図形の延長

EXTENDコマンドは、図形を1つ以上の他の図形によって定義された境界線まで延長します。

EDGEMODEシステム変数が**オン**の場合、図形は境界図形の仮想エッジまで拡張します。

境界図形が拡張する図形と同じ平面上にない場合、PROJMODEシステム変数で、交点の計算方法を選択することができます。オプションは以下の通りです：

- カレントUCSのXY平面に投影する
- カレントのビュー平面に投影する
- 真の3Dモード(投影なし)

図形を延長するには、まず境界エッジを選択し、続いて延長する図形を個々に一つずつ選択するか、フェンスを使って複数を一括して選択することもできます。

延長できる図形は、円弧、線分、2Dポリライン、放射線です。

境界線となる図形は、円弧、円、楕円、線分、スプライン、ポリライン、放射線、構築線、レイアウトビューポートです。

15.17.1 図形の延長

1 EXTENDコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：延長の境界図形を選択 [選択オプション(?)]<ENTERですべての図形を選択>:

2 境界図形を選択します。

3 セット内の図形：1

プロンプト表示：延長の境界図形を選択 [選択オプション(?)]<ENTERですべての図形を選択>:

4 境界線をさらに選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：図形を選択して延長または Shiftを押しながら選択してトリムまたは [フェンス (F)/交差 (C)/エッジ (E)/投影 (P)/削除 (R)]:

6 図形を選択します。

7 図形は、境界の図形まで延長されます。

プロンプト表示：図形を選択して延長または Shiftを押しながら選択してトリムまたは [フェンス (F)/交差 (C)/エッジ (E)/投影 (P)/削除 (R)/元に戻す (U)]:

8 さらに図形を選択またはEnterを押して選択を終了します。

注：

- EXTENDコマンドの起動時にすでに選択されていた図形は境界図形として使われます。
- Shiftを押しながら図形を選択すると、境界線となる図形で線分をトリミングすることができます。
- 複数の図形を同時に選択するには、「フェンス」または「クロス」の選択方法を使用します。
- 境界図形のいずれかに対し、延長できない端点の近くの図形を選択した場合、EXTENDコマンドは中断されます。
- **クイック**モードを使用すると、すべてのオブジェクトが自動的に境界エッジとして動作します。

15.18 図形のトリム

トリムコマンドで図形を切り取ることによって、図形をクリップまたはトリムできます。

EDGEMODEシステム変数が**オン**の場合、図形は境界図形の仮想エッジまで拡張します。

境界図形が拡張する図形と同じ平面上にない場合、PROJMODEシステム変数で、交点の計算方法を選択することができます。オプションは以下の通りです：

- カレントUCSのXY平面に投影する
- カレントのビュー平面に投影する
- 真の3Dモード(投影なし)

図形をトリムするには、最初に切り取りエッジを選び、それから切り取られる側の図形を選びます。図形は個々に一つずつ選ぶか、フェンスオプションを使って複数を一括して選ぶこともできます。

トリムできる図形：線分、開いた2次元または3次元のポリライン、円弧、円、楕円、楕円弧、スプライン、放射線、構築線。

境界に使用できる図形：線分、スプライン、円弧、円、楕円弧、楕円、放射線、構築線、レイアウトビューポート。

ブロックの図形は図形を切り取ることによって選択できます。

15.18.1 図形のトリム

1 TRIMコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：トリムのカット図形を選択 [選択オプション (?)]〈ENTERですべての図形を選択〉:

2 カットする境界の図形を選択します。

3 セット内の図形：1

プロンプト表示：トリムのカット図形を選択 [選択オプション (?)]〈ENTERですべての図形を選択〉:

4 更にカットする境界の図形を選択するか、Enterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：図形を選択してトリムまたは Shiftを押しながら選択して延長または [フェンス (F)/交差 (C)/エッジ (E)/投影 (P)/削除 (R)]:

6 図形を選択します。

7 図形は、カットする境界の図形によってトリミングされます。

プロンプト表示：図形を選択してトリムまたは Shiftを押しながら選択して延長または [フェンス (F)/交差 (C)/エッジ (E)/投影 (P)/削除 (R)/元に戻す (U)]:

8 さらに図形を選択またはEnterを押して選択を終了します。

注：

- トリムコマンドの起動時に選択した図形は境界図形として使われます。
- Shiftを押しながら図形を選択すると、カットした図形まで線を延長することができます。
- 複数の図形を同時に選択するには、「フェンス」または「クロス」の選択方法を使用します。
- **クイック**モードを使用すると、すべての図形が自動的にトリムエッジとして動作します。

15.19 長さ調節機能

LENGTHENコマンドは、直線や開いたポリライン、円弧の長さを動的、増分的、または相対的に変更します。また、円弧の夾角を変更することもできます。

15.19.1 ダイナミックに長さを変える

1 LENGTHENコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：長さの編集：長さをリストする図形を選択するか、[ダイナミック (DY)/増分 (I)/パーセント (P)/合計 (T)]:

2 **ダイナミック**オプションを選択します。

プロンプト表示：変更する図形を選択、または [モード (M)]:

3 長くしたい端点付近の図形をクリックします。

4 図形は動的に長く(短く)なります。

プロンプト表示：新規の線分終点

5 新しい長さを定義する点を指定します。

6 **プロンプト表示**：変更する図形を選択、または [モード (M)/元に戻す (U)]:

7 以下のいずれかの操作を行います：

- 別の図形を編集します。
- Enterを押して終了します。

注：**プロパティ**パネルの **形状**プロパティを使用すると、線分と円弧の全長、および円弧の開始角度と終了角度を編集できます。

15.20 選択とグリップ設定

図面内の図形を選択する場合、選択方法と選択した図形の表示(例：グリップの表示/非表示)はいくつかの設定によって制御されます。

15.20.1 選択設定

ほとんどの選択設定は、**設定**ダイアログボックスの**プログラムオプション**設定カテゴリの**選択設定**グループにあります。

名前	システム変数	説明
ハイライト	HIGHLIGHT	選択したときに図形が画面上でハイライト表示されるかどうかを指定します。
イメージ ハイライト	IMAGEHLT	ラスターイメージ選択時、全体をハイライトさせるか、輪郭だけをハイライトさせるかを指定します。
追加で指示	PICKADD	後続の選択が現在の選択セットを置き換えるか、追加するかを制御します。 **オン**：追加の図形を選択すると、選択セットが拡張されます。Shiftを押しながら、選択セットから図形を削除します。 **オフ**：選択セットに図形を追加することはできません。新しく選択された1つまたは複数の図形が、既存の選択セットを置き換えます。しかし、Shiftを押したままの場合は、図形を追加することができます。Shiftを押しながらすでに選択されている図形を選択すると、この図形は選択セットから削除されます。
自動で指示	PICKAUTO	図形の選択時に、自動窓選択(内側または交差)を指定します。 選択されたオプションの合計がビットコードとして保存されます。 負の値：窓選択を無効にし、現在の値を保存します。 1 = クリックしたときにマウスが図形上に無ければ、窓選択を作図します。 2 =ドラッグしたときにマウスが図形の上にある場合、窓選択を作図します。 4 = クリックしたときにマウスが図形上に無ければ、投げ縄選択を作図します。
ピックボックス	PICKBOX	選択カーソル( )の端にある小さい四角形のサイズを定義します。クリックして図形を選択する場合、ピックボックスがその図形に触れるか、重なっている必要があります。 ピックボックスの規定値は3です。

名前	システム変数	説明
ドラッグしながら指示	PICKDRAG	窓選択の作図方法を指定します。 **オン**：ドラッグして選択窓を定義：四角形の 1 番目の角を定義するため、マウスの左ボタンを押したままにします。それから選択窓のサイズを定義するために、マウスを動かし、反対側の角を指定するためにマウスを放します。 **オフ**： 2つの対角になる角をクリックすることによって、選択窓が定義されます。
最初に指示	PICKFIRST	図形をコマンドの起動前に選択するか、起動後に選択するかを制御します。 **オン**：最初に選択セットを作成してから、修正コマンドを起動できます。 **オフ**：最初にコマンドを起動してから、選択図形を作成します。
線種のギャップの選択	LTGAPSELECTION	非連続的な線種上のギャップへのスナップを可能にします。 **オン**：ギャップ内で選択またはスナップできません(従来の動作)。 **オフ**：ギャップ内で選択またはスナップできます。
指示スタイル	PICKSTYLE	グループ選択と関連付けハッチング選択を指定します。 0 = グループ選択または関連付けハッチング選択のいずれか。 1 = グループ選択：選択可能なグループのメンバーが選択された場合、そのグループのすべてのメンバーが選択されます。 2 = 関連付けハッチング選択：どちらかを選択すると、ハッチングとその境界線が選択されます。ハッチングまたは境界線(未サポート)
SELECTSIMILARの合致オプション	SELECTSIMILARMODE	SELECTSIMILARコマンドで選択するときに同じ種類の図形として一致させる必要のあるプロパティを指定します。
フレーム選択	FRAMESELECTION	イメージの非表示フレーム、アンダーレイ、クリップされた外部参照、またはワイプアウトを選択できるかどうかをコントロールします。
最短距離	NEARESTDISTANCE	選択した図形間の最短距離寸法をコントロールします。 0 = 距離寸法を表示しない 1 = 最短距離を表示 2 = OXに位置合わせした最短距離寸法を表示 4 = OYに位置合わせした最短距離寸法を表示 8 = OZに位置合わせした最短距離寸法を表示
選択領域	SELECTIONAREA	選択領域の表示効果を指定します。
選択領域の不透明度	SELECTIONAREAOPACITY	選択領域の透明度を指定します。値を高く設定するほど、選択領域はより不透明になります。

名前	システム変数	説明
交差領域の色	CROSSINGAREACOLOR	交差選択領域の色を指定します。
ウィンドウ領域の色	WINDOWAREACOLOR	ウィンドウ選択領域の色を指定します。
選択プレビュー表示	SELECTIONPREVIEW	カーソルを図形の上に合わせた時の図形のハイライトを制御します。 0 = なし。 1 = アクティブなコマンドがない場合。 2 =コマンドが図形選択のプロンプトを表示した場合。 3 = 有効になっているコマンドがなく、またコマンドが図形の選択を指示する時。 **注**：SELECTIONPREVIEWシステム変数がオフの場合： • カーソルがQUADDISPLAYシステム変数の**カーソルが図形上にあるときクワッドを表示**は無視され、クワッドは表示されません。 • ROLLOVERTIPSシステム変数は無視され、図形プロパティは表示されません(クワッドは表示されません)。 • SELECTIONCYCLINGシステム変数は無視され、バッジや選択ダイアログボックスは表示されません(クワッドは表示されません)。
選択プレビュー効果	PREVIEWEFFECT	ハイライトされた図形の外観を制御します。0 = 破線、1 = 太線、2 = 太い破線(未サポート)
選択プレビューフィルター	PREVIEWFILTER	どの図形タイプを選択プレビューから除外するかを制御します。 オプションは以下の通りです： • ロックされた画層上の図形 • 外部参照の図形 • 表(テーブル) • マルチテキスト • ハッチング • グループ
選択のハイライトスタイル	HIGHLIGHTEFFECT	ハイライト方法を指定します： 0 = 破線。 1 = 異なる色を使用。 2 = 太い線を使用。 3 = 異色と太線。
選択のハイライト色	HIGHLIGHTCOLOR	HIGHLIGHTEFFECTが1または3の場合に使用するハイライト色を指定します。

名前	システム変数	説明
選択の循環	SELECTION CYCLING	重なっているオブジェクトと選択の切り替えに関する表示オプションを制御します。 オフ = 選択の循環を無効にし、以前の値を保存する 0 = 選択の循環を無効にする 1 = 重なっているオブジェクトにカーソルを合わせたときにバッジを表示 2 = バッジと選択ダイアログボックスの両方を表示
選択モード	SELECTION MODES	選択プレビューでハイライト表示するサブ図形を指定します。 設定値は、選択したすべてのオプションの値を合計したビットコードとして保存されます。 **選択モード**ツールバーのボタンをクリックして、SELECTIONMODESの値を編集します。押されたボタンは、オプションが選択されていることを示します。 1 = 3Dソリッドエッジの検出を有効( ) 2 = 3Dソリッド面の検出を有効( )* 4 = 境界検出を有効( ) コマンドがアクティブでない場合、現在の座標系のXY平面または3Dソリッドの面の閉じた境界をハイライト表示するかどうかを制御します。 BOUNDARYCOLORシステム変数は、検出された境界をハイライト表示するための色を指定します。 * Ctrlキーを押したままにすると、**面を選択**オプションの状態が切り替わります。オンの場合は3Dソリッドを選択でき、オフの場合はソリッド面を選択できます。 カーソルを同じ位置に置いたままTabを繰り返し押すと、下にあるサブ図形がすべて順番にハイライトされます。 窓選択も参照してください。
選択プレビューを表示する遅延時間	PREVIEWDELAY	カーソルの下の(サブ)図形をハイライト表示させる猶予時間をミリ秒で指定します。
拘束バー表示	CONSTRAINTBARDISPLAY	作成時または選択時の、幾何拘束の表示を制御します。
ダイナミック拘束モード	DYNCONSTRAINTMODE	拘束された図形が選択されたときに、非表示にされていた寸法拘束の表示を制御します。寸法拘束された図形の上にカーソルを重ねると、青い拘束グリフが表示されます。

15.20.2 グリップ設定

グリップシステム変数がゼロ以外の場合、選択した図形にグリップが表示されます。

グリップ設定は、**設定**ダイアログボックスの**図面**設定カテゴリの**2D作図**設定グループにある**表示/ビュー**にあります。

グリップを使い、図形を操作することができます(**グリップ編集**に関する記事を参照)。

名前	システム変数	説明
グリップ	GRIPS	GRIPSの値は、0、1、または2にすることができます。 0 = グリップをオフ。 1 = 端点グリップをオン。 2 = 端点グリップと中点グリップをオン。
ブロック内のグリップ	GRIPBLOCK	ブロック内の図形のグリップ表示をオン/オフで切り替えます。
グリップの色	GRIPCOLOR	選択されていないグリップの色を設定します。デフォルトの色は緑です。(色インデックス No.72)
選択されたグリップ色	GRIPHOT	選択されたグリップ(ホットグリップ)の色を設定します。 デフォルトの色は赤です。(色インデックス No.240)
グリップ色	GRIPHOVER	カーソルがグリップの上に停止しているだけで、選択されていない時のグリップ色を設定します。 デフォルトの色は青です。(色インデックス No.150)
グリップサイズ	GRIPSIZE	グリップボックスのサイズをピクセル単位で設定します。 デフォルト値 = 4
グリップ図形範囲	GRIPOBJLIMIT	選択したオブジェクトの数がGRIPOBJLIMITの値を超えた場合に、グリップの表示を抑制します。 ゼロに設定すると、すべてのグリップが表示されます。
グリップヒント	GRIPTIPS	(未サポート)グリップのヒントがサポートされているカスタム図形やダイナミックブロック上のグリップにカーソルを合わせた時に、グリップのヒントを表示するかどうかを決めます。
グリップへの吸着	ENABLEATTRACTION	グリップの吸着オン/オフを切り替えます。
グリップへの吸着範囲	ATTRACTIONDISTANCE	グリップ吸着距離を設定します。この距離範囲内にカーソルがある場合、カーソルはグリップに吸着します。

15.21 図形のストレッチ

図形をストレッチして、そのサイズと形状を変更できます。矩形の窓またはポリゴン(多角形)を使って図面の領域を選択してから、基点と配置点を指定します。選択した領域内にあるすべての点や交点が、指定した距離で移動します。その結果、窓やポリゴンの境界と交差する図形がストレッチされます。窓やポリゴン内に完全に含まれる図形は、単に移動されます。

15.21.1 図形のストレッチ

1 STRETCHコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：ストレッチする図形を選択 [クロス窓 (C)/クロス多角形窓 (CP)/削除 (R)/追加 (A)/選択オプション (?)]:

2 クロス窓(またはクロス多角形窓)を使用して、移動する必要のある点を指定します。

3 クロス窓の右下を指定します。

緑色の矩形がダイナミックに表示されます。

プロンプト表示：もう一方のコーナー:

4 クロス窓の左上を指定します。

5 セット内の図形: xx

プロンプト表示：ストレッチする図形を選択 [クロス窓 (C)/クロス多角形窓 (CP)/削除 (R)/追加 (A)/選択オプション (?)]:

6 以下のいずれかの操作を行います：

- クロス窓(またはクロス多角形窓)を使用して、選択範囲に追加または削除する必要のある点を指定します。
- 右クリックまたはEnterを押して、現在の選択を確定します。

プロンプト表示：基点:

7 点を指定します。

8 選択された点は、カーソルとともに移動します。

プロンプト表示：目的点:

9 ストレッチ距離を確認する点を指定します。

15.22 図形の尺度変更

SCALEコマンドは、基点を基準にして選択した図形のサイズを変更します。尺度係数は、基点と長さの選択またはコマンドラインに入力した尺度係数によって指定できます。尺度係数は基準尺度係数に関連して定義されます。例えば、基準尺度係数が2で、新しい尺度が3の場合、新しいサイズは元の3/2になります。基準尺度と新しい尺度は図面上で定義することもできます。

15.22.1 選択セットの尺度変更

1 SCALEを起動します。

1 **プロンプト表示**：尺度変更する図形を選択 [選択オプション (?)]:

2 図形を選択します。

3 セット内の図形: xx

プロンプト表示：尺度変更する図形を選択 [選択オプション (?)]:

4 さらに図形を選択またはEnterを押して選択を終了します。

5 **プロンプト表示**：基準点:

6 点を指定します。

7 尺度変更では基準点は移動されません。

プロンプト表示：尺度係数 または [参照 (R)/コピー (C)]<カレントの尺度*>:

8 尺度係数を入力するか、Enterを押して前回使用した値を受け入れます。

*図面で前回に使用された値が記憶されます。

15.22.2 参照尺度を使用した選択セットの尺度変更

1 上記手順の1～4を繰り返します。

1 **プロンプト表示**：尺度係数 または [参照 (R)/コピー (C)]<カレントの尺度*>:

2 **参照**オプションを選択します。

プロンプト表示：基準縮尺 <1>:

3 再度、基準点を指定します。(前の手順3を参照) (1)

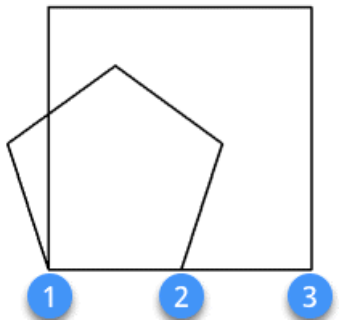
4 **プロンプト表示**：2点目

5 点を指定します。(2)

6 基準点と2点目の間の距離が参照尺度として使用されます。

選択図形はダイナミックに尺度変更されます。

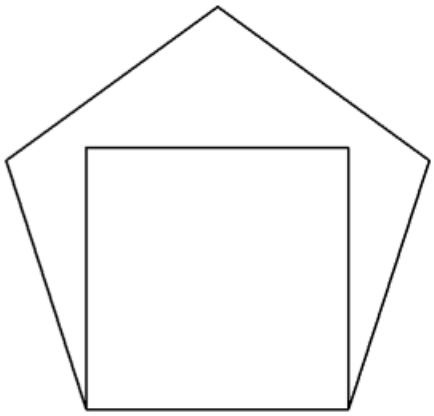
プロンプト表示：新規尺度係数 [点 (P)]<2>:



7 以下のいずれかの操作を行います：

- 数値を入力します。
- 基準点間の距離は指定された値に設定されます。

  選択セットのサイズもそれに応じて尺度変更されます。
- 2点目の基準点を配置する点を指定します。(手順4を参照) (3)



15.23　図形の部分削除

BREAKコマンドは、図形の一部を削除して、2つに分けます。

円弧、円、楕円、線分、ポリライン、放射線、構築線を分割することができます。円を分割すると、円弧に変換されます。放射線は放射線と線分に分割されます。構築線は2つの放射線に分けられます。

図形を分割する際には、分割点を2つ指定する必要があります。デフォルトでは、図形の選択時にクリックした点が最初の分割点になります。ただし、**最初の点**オプションを使って、図形を選択する際の点とは異なる分割点を選択することができます。

15.23.1　図形を部分削除する

1　BREAKコマンドを起動します。

1　**プロンプト表示**：分割する図形を指示[選択オプション(?)]:

2　図形を選択します。

3　**プロンプト表示**：2番目の分割点を選択、または [最初の点 (F)/最初の点と同じ (@)]:

4　**最初の点**オプションを選択します。

プロンプト表示：最初の分割ポイント：

5　点を指定します。

6　**プロンプト表示**：2番目の分割ポイント

7　点を指定します。

8　2つの分割点の間にある図形部分が削除されます。

15.24　図形の結合

JOINコマンドは線分、LWポリライン、2Dポリライン、3Dポリライン、円弧、楕円弧、スプライン、らせんをそれぞれの共通終点で結合させます。

同一線上の線分を結合させる場合、一番離れた終点が既存の位置に留まり、これらの点の間に新しい線分を作成します。

結果として得られる図形タイプは、入力図形のタイプと、それらの図形が同一平面上にあるかどうかによって異なります。

15.24.1　一般的な手順

1　JOINコマンドを起動します。

1　**プロンプト表示**：一括結合する元図形、または、複数の図形を選択 [選択オプション (?)]:

2　結合する元図形を選択した後、右クリックして選択を終了します。

3　BricsCADが結果を表示します：

4　例：37結合図形 10 ポリライン,4図形操作がキャンセルされました

15.24.2　2つの円弧の結合

中心と半径を共有する(=同じ円上にある)同一平面上の円弧は、反時計回りに結合されるため、結果の図形は選択する順番によって異なります。

1　JOINコマンドを起動します。

1　**プロンプト表示**：一括結合する元図形、または、複数の図形を選択 [選択オプション (?)]:

2　最初の円弧を選択します。

3　**プロンプト表示**: 結合する図形を選択 [選択オプション (?)]:

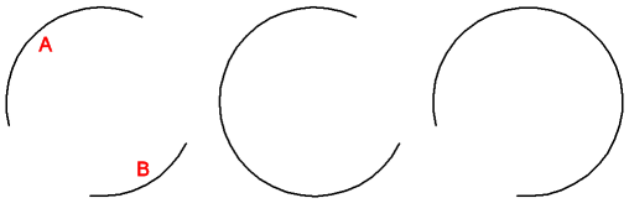
4　2番目の円弧を選択します。

5　セット内の図形：1

6　**プロンプト表示**: 結合する図形を選択 [選択オプション (?)]:

7　右クリックします。

8　BricsCADのレポートです。2つの円弧が1つの円弧になりました。



結合前の状態(左)結合後の状態：最初にAを選択(中)、最初にBを選択(右)

15.25　図形の面取り

CHAMFERコマンドは、平行でない2つの図形を延長またはトリムし、それらを線分で結合することによって接続し、斜角エッジを作成します。

BricsCADでは、2つの面取り方法から選択できます：

- **距離-距離**：図形の交差からトリムする距離を指定します。
- **長さ-角度**：面取りの長さと、最初の図形に沿って面取りが形成する角度を指定します。

現在の面取り方法、距離、および角度は、一連のシステム変数によって保存されます。

- CHAMMODE：面取り方法の設定
- CHAMFERA：最初の距離を定義

- CHAMFERB：2番目の距離を定義
- CHAMFERC：面取りの長さを定義
- CHAMFERD：面取り角度を定義
- TRIMMODE：面取りされた図形の元の長さを維持、または面取り線の端点までトリム、延長するかを定義

値は、**設定**ダイアログボックスの **図面** > **2D図面** > **図形の変更** > **面取り/フィレット**で設定できます。CHAMFERコマンドの**面取りの設定...**オプションを使用すると、CHAMFERコマンドの変数を編集できます。

線分、ポリライン、放射線、構築線を面取りできます。ポリラインを面取りする場合、2つのポリラインセグメント間に面取りを作成するか、ポリラインのすべての頂点を面取りすることができます。ポリラインを面取りする場合、TRIMMODE = ONの場合、面取り線はポリラインセグメントと結合されます。

15.25.1 距離-距離を使用した面取り

1 CHAMFERを起動します。

1 **プロンプト表示**：面取り (距離1=15, 距離2=15) 最初の図形を選択 [面取りの設定... (S)/ポリライン (P)/角度 (A)/距離 (D)/メソッド (E)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

2 (オプション) **面取りの設定...**オプションを選択し、**設定**ダイアログボックスで面取りの変数を編集します。

3 最初の図形を選択します。

4 **プロンプト表示**：方向/2番目の図形を選択 (Shiftを押しながら選択し、コーナーを作成) [指向 (D)]:

5 2番目の図形を選択します。

6 面取りが作成されます。

15.25.2 長さ-角度を使用した面取り

1 CHAMFERを起動します。

1 面取り (長さ=20, 角度=45) 最初の図形を選択 [面取りの設定... (S)/ポリライン (P)/角度 (A)/距離 (D)/メソッド (E)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

2 (オプション) **面取りの設定...**オプションを選択し、**設定**ダイアログボックスで面取りの変数を編集します。

3 最初の図形を選択します。

4 **プロンプト表示**：2番目の図形を選択 (Shiftを押しながら選択し、コーナーを作成):

5 2番目の図形を選択します。

6 面取りが作成されます。

15.25.3 ポリラインのすべての頂点を面取り

1 CHAMFERを起動します。

1 **プロンプト表示**：面取り (距離1=15, 距離2=15) 最初の図形を選択 [面取りの設定... (S)/ポリライン (P)/角度 (A)/距離 (D)/メソッド (E)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

2 (オプション) **面取りの設定...**オプションを選択し、**設定**ダイアログボックスで面取りの変数を編集します。

3 **ポリライン**オプションを選択します。

プロンプト表示：面取りする2Dポリラインを選択:

4 ポリラインを選択します。

5 ポリラインが面取りされます。

注：**長さ-角度**の方法の場合、ポリラインの方向によって、頂点の最初の図形が定義されます。必要に応じてPEDITコマンドの**逆方向**オプションを使用して、ポリラインの方向を変更できます。

15.25.4 面取りの削除

1 CHAMFERを起動します。

1 **プロンプト表示**：面取り (距離1=15, 距離2=15) 最初の図形を選択 [面取りの設定... (S)/ポリライン (P)/角度 (A)/距離 (D)/メソッド (E)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

2 最初の図形を選択します。

3 **プロンプト表示**：2番目の図形を選択 (Shiftを押しながら選択し、コーナーを作成):

4 Shiftを押しながら、2つ目の図形を選択します。

5 面取りが削除されます。

注：この方法は、2本の線またはポリラインの端のセグメントの間にコーナーを作成できます。2つの図形が交差すると、クリックした部分が保持されます。

15.26 図形のフィレット

FILLETコマンドは、2つの図形を指定した半径の円弧でつなぎ、丸みを帯びたエッジを作成します。

線分、直線ポリラインセグメント、円弧、円、放射線、構築線のペアをフィレットすることができます。また、平行な線分、平行な放射線、平行な構築線もフィレットできます。

ポリラインをフィレットするときは、選択した2つのセグメントの間の複数のセグメントをフィレットすることも、ポリライン全体をフィレットすることもできます。

TRIMMODEシステム変数は、フィレットされた図形の元の長さを維持するか、フィレット円弧の端点までトリムまたは延長するかどうかを定義します。

15.26.1 2つの図形またはポリラインセグメントにフィレットを作成

1 FILLETコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：フィレット(半径=10)：最初の図形を選択、または [フィレット設定... (S)/ポリライン (P)/半径 (R)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

2 **半径**オプションを選択します。

プロンプト表示：フィレット半径<現在の半径>:

3 数値を入力します。

4 **プロンプト表示**：フィレット (半径=新しい半径)：最初の図形を選択、または [フィレット設定... (S)/ポリライン (P)/半径 (R)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

5 最初の図形またはポリラインセグメントを選択します。

6 **プロンプト表示**：2番目の図形を選択 (Shiftを押しながら選択し、コーナーを作成):

7 2つ目の図形またはポリラインセグメントを選択します。

8 フィレットが作成されます。

15.26.2 ポリラインのすべての頂点にフィレットを作成

1 FILLETコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：フィレット(半径=10)：最初の図形を選択、または [フィレット設定... (S)/ポリライン (P)/半径 (R)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

2 **半径**オプションを選択します。

プロンプト表示：フィレット半径<現在の半径>:

3 数値を入力します。

4 **プロンプト表示**：フィレット (半径=新しい半径)：最初の図形を選択、または [フィレット設定... (S)/ポリライン (P)/半径 (R)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

5 **ポリライン**オプションを選択します。

プロンプト表示：フィレットする2Dポリラインを選択 [選択オプション (?)]:

6 ポリラインを選択します。

7 ポリラインがフィレットされます。

15.26.3 平行な2線にフィレットを作成

1 FILLETコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：フィレット(半径=10)：最初の図形を選択、または [フィレット設定... (S)/ポリライン (P)/半径 (R)/トリム (T)/元に戻す (U)/連続 (M)/選択オプション (?)]:

2 最初の線分を選択します。

3 **プロンプト表示**：2番目の図形を選択 (Shiftを押しながら選択し、コーナーを作成):

4 2番目の線分を選択します。

5 フィレットが作成されます。

15.27 ポリラインの編集

クワッドのポリラインセグメントの編集ツールを使用するか、PEDITEXTコマンドを使用して、以下の操作を行います。

- 頂点を追加します。
- 複数の頂点を追加します。
- 始点または終点に頂点を追加します。
- セグメントの膨らみを調節します。
- 膨らみを追加または削除します。
- セグメントや頂点をストレッチします。
- 複数の頂点またはセグメントを削除します。
- セグメントまたは頂点を削除します。

PEDITコマンドを使用して、以下のことができます：

- 図形をポリラインに変換します。
- 曲線をポリラインにフィットさせます。
- ポリライン全体にテーパーを付けます。
- ポリラインの方向を逆にします。

プロパティパネルでのポリライン編集は、以下のことができます：

- ポリラインを開く、または閉じます。
- ポリラインに均一な幅を適用します。
- ポリラインセグメントの幅を変更します。
- 線種生成を設定します。(PLINEGENシステム変数)

グリップ編集を使用して、以下のことができます：

- 頂点を移動します。
- セグメントを移動します。
- 頂点を削除します。

15.27.1 クワッドのポリラインセグメント編集ツールを使用

1 ポリラインを選択せずに、編集するセグメントの上にカーソルを置きます。

1 ポリライン全体がハイライト表示されます。

2 **クワッドの修正**セクションからオプションを1つ選択します。

注：Ctrlを押すと、カーソルの下のセグメントのみがハイライト表示され、その頂点の1つが点でマークされます。

編集ツールは、PEDITEXTコマンドのオプションと同様に、クワッドで使用できます：

- **頂点を追加**：カーソル下のセグメントに頂点を追加します。
- **最後尾へ頂点を追加**：ポリラインの最後尾に新しい頂点を追加します。

  このオプションはカーソルが終点にある場合のみ使用可能になります。
- **複数の頂点を追加**：複数の頂点を追加します
- **ふくらみを追加**：カーソルの下にセグメントのふくらみバルジを追加します。
- **ふくらみを削除**：カーソルの下のセグメントのふくらみを削除します。
- **セグメントを削除**：カーソルまたはハイライトされた頂点の下のセグメントを削除します。
- **複数のセグメントを削除**：カーソルまたはハイライトされた頂点の下にあるセグメントを削除します。
- **セグメントをストレッチ**：カーソル下のセグメントを移動します。
- **頂点をストレッチ**：カーソルに最も近い頂点を移動します。

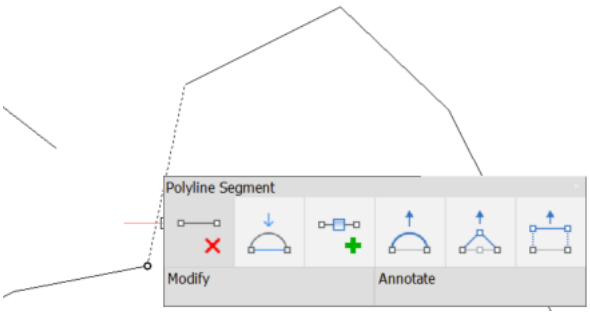
3 ツールを選択して、コマンドラインの指示に従います。

15.27.2 クワッドを使用して頂点を削除する方法

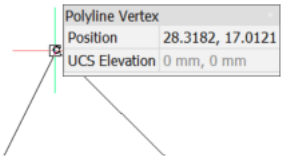
1 セグメントの上にカーソルを置き、**Ctrl**を押したままにしてハイライト表示します。

2 セグメントの目的の端にカーソルを近づけて頂点をアクティブにします。アクティブな頂点が点でマークされます。

3 **クワッドのセグメントを削除**ボタンをクリックします。



注：頂点の上にカーソルを置き、**Ctrl**を押したままにすると、選択したポリラインの頂点に関する情報が表示されます。



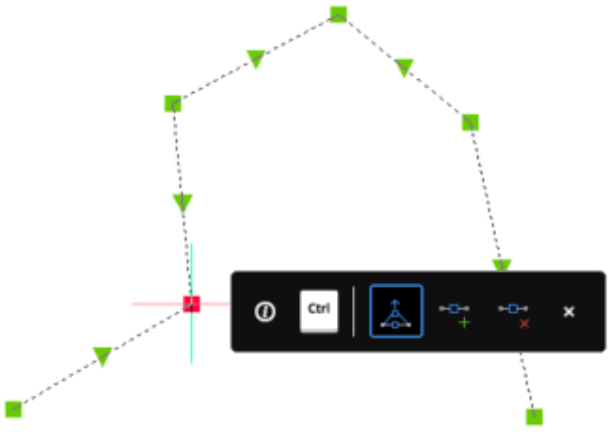
15.27.3　グリップを使用して頂点を編集する方法

開始頂点または終了頂点

1　始点または終点の頂点グリップを選択します。赤色でマークされます。

2　ホットキーアシスタントが有効になっている場合、Ctrlキーを押して頂点のストレッチ、追加、削除を切り替えることができます。

3

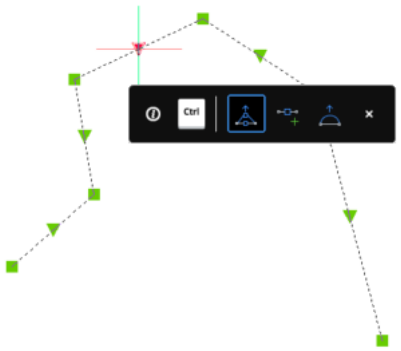


中央の頂点

1　中央の頂点グリップを選択します。赤色でマークされます。

2　ホットキーアシスタントが有効になっている場合、Ctrlキーを押すとその都度、ストレッチ、頂点の追加、膨らみの追加/削除が順番に切り替わります。

3



15.27.4 PEDITコマンドの起動

以下のいずれかの操作を行います：

- ポリラインをダブルクリックします。
- **修正**メニューの**ポリライン編集**をクリックします。
- **修正**ツールバーの**ポリライン編集**ツールをクリックします。

15.27.5 図形をポリラインに変換

1 PEDITコマンドを起動します。

2 図形を選択します。

3 **プロンプト表示**：選択した図形はポリラインではありません。1つにしますか?[はい-ポリラインに変換します (Y)/いいえ-元の図形を保持します (N)] <はい-ポリラインに変換します (Y)>:

4 右クリックするか、Enterを押します。

5 **プロンプト表示**：ポリライン編集 [頂点編集 (E)/閉じる (C)/解除 (D)/フィット (F)/結合 (J)/線種 (L)/逆方向 (R)/スプライン (S)/テーパ (T)/幅 (W)/元に戻す (U)]<終了 (X)>:

6 オプションを選択するか、右クリックして終了します。

15.27.6 ポリラインの曲線化

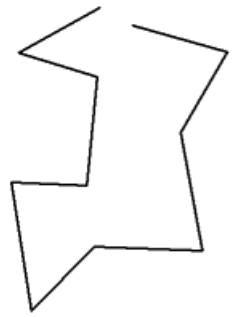
1 PEDITコマンドを起動します。

2 ポリラインを選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：
   - **フィット**オプションを選択します。
   - **スプライン**オプションを選択します。

4 Enterを押すか、右クリックしてPEDITコマンドを終了します。

5

		
元のポリライン	フィット適用後	スプライン適用後

注：

- 元のポリラインを復元するには、**解除**オプションを使用します。
- SPLINESEGS(スプラインセグメント)システム変数は、各スプライン式ポリライン(PEDITコマンドのスプラインオプション)に対して生成されるセグメント(線分または円弧)の数を制御します。

15.27.7 ポリライン全体にテーパーを作成

1 PEDITコマンドを起動します。

2 ポリラインを選択します。

3 **テーパー**オプションを選択します。

プロンプト表示: ポリラインの新しい開始幅を入力 <現在の幅>:

4 数値を入力します。

5 **プロンプト表示**: ポリラインの新しい終了幅を入力 <現在の幅>:

6 数値を入力します。

7 ポリラインにテーパーが付いて先細になります。

8 Enterを押すか、右クリックしてPEDITコマンドを終了します。

15.27.8 ポリラインの方向を逆に変更

1 PEDITコマンドを起動します。

2 ポリラインを選択します。

3 **逆方向**オプションを選択します。

方向が逆になります。

4 Enterを押すか、右クリックしてPEDITコマンドを終了します。

15.27.9 ポリラインを開くまたは閉じるの設定

1 ポリラインを選択します。

2 **プロパティ**パネルの**その他**の下にある**閉じる**プロパティを選択します。

3 **はい**または**いいえ**を選択します。

または、

1 ポリラインをダブルクリックします。

2 閉じる場合は**C**、開く場合は**O**と入力します。

15.27.10 ポリラインに均一な幅を適用

1 ポリラインを選択します。

2 **プロパティ**パネルの**形状**で**グローバルな幅**プロパティを選択します。

3 任意の幅を入力します。

15.27.11 ポリラインセグメントの幅を変更

1 ポリラインを選択します。

2 **プロパティ**パネルの**ジオメトリ**の下にある**頂点**プロパティを選択します。

ポリラインの始点の頂点にXマークが表示されます。

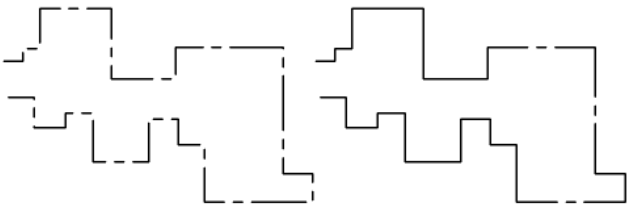
3 頂点のプロパティフィールドの右側にある矢印キーをクリックして、幅を変更したいセグメントの始点となる頂点にXマークを合わせて設定します。

4 **開始幅**プロパティを選択し、設定する開始幅の値を入力します。

5 **終点の幅**プロパティを選択し、設定する終点の幅の値を入力します。

15.27.12 線種生成の設定

線種生成モード(PLINEGENシステム変数)は、ポリラインセグメントに破線の線種を適用する方法を制御します。無効にすると、セグメントごとに破線の線種が適用され、線種の表示は頂点間で調整されます。



PLINEGENシステム変数のオン(左)とオフ(右)

1 ポリラインを選択します。

2 **プロパティ**パネルの**その他**で**線種生成**フィールドを選択します。

3 **無効**または**有効**を選択します。

15.28 図形の分解

EXPLODEツールで、ブロック、ポリライン、ソリッド、寸法のような複雑な図形をその構成要素に分解することができます。

ポリライン、寸法線を分解すると、個別の線分と円弧の集まりにすることができます。

ブロックは個々の図形に変換され、元の図形を構成していた別の入れ子のブロックが含まれることもあります。

MTextの図形が1行のテキストに展開されます。

通常、図形の分解では、次の場合を除いて図面の見た目に変化はありません。

- 元のポリラインが幅をもっていた場合、分解したときに幅の情報は失われます。結果として、元のポリラインの中心線に沿った線分および円弧が作成されます。
- 属性を含むブロックを分解すると、その属性は失われますが、元の属性定義は変わらずに残っています。
- 色や線種、線の太さ、印刷スタイルが BYBLOCKに割り当てられていた場合、図形を分解すると、以前と違う表示になることがあります。

TXTEXPコマンドは、文字列をポリラインに分解します。その後、JOINコマンドを使って、それぞれの文字に対応した1本のポリラインを作成することができます。(a、e、pなどの一部の文字では、「穴」の部分のために2本目のポリラインが必要です)

15.28.1 図形の分解

以下のいずれかの操作を行います：

- EXPLODEコマンドを起動します。
- 図形を選択して、Enterを押します。
- 図形を選択して、クワッドの **修正**タブで **分解**を選択します。

15.29 図形のメジャー表示

MEASUREコマンドは、図形の長さまたは円周に沿って指定された間隔でマーカー(点またはブロック)を配置します。マーカーは、図形を選択した場所に最も近い端点から配置されます。

線、ポリライン、円弧、円、楕円、楕円弧、スプラインを指定した長さで区切っていくことができます。放射線、構築線を区切ることはできません。

15.29.1 点を使用した図形のメジャー表示

1 MEASUREコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：計測表示する図形を選択:

2 図形を選択します。

3 **プロンプト表示**：セグメント長さ [ブロック (B)]:

4 以下のいずれかの操作を行います：

- 数値を入力します。
- 2点を指定します。

指定した間隔で、選択図形に沿って点を配置します。

注：点の表示スタイルは、PDMODEシステム変数の現在の値によって異なります。

15.29.2 ブロックを図形に沿って指定された間隔で配置

1 MEASUREコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：計測表示する図形を選択:

2 図形を選択します。

3 **プロンプト表示**：セグメント長さ [ブロック (B)]:

4 **ブロック**オプションを選択します。

プロンプト表示：挿入するブロック名 [? で一覧表示]:

5 (オプション) ? を押すと、図面で使用可能なブロックのリストが表示されます。

6 ブロック名を入力します。

7 **プロンプト表示**：ブロックを図形に整列しますか? [はい (Y)/いいえ (N)] <はい (Y)>:

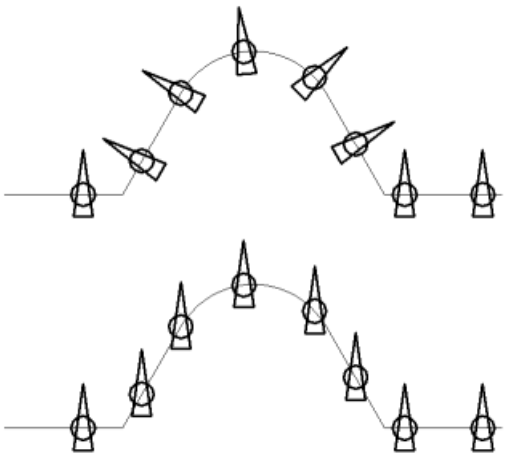
8 ブロックを整列させるかどうかを選択します。

9 **プロンプト表示**：セグメント長さ:

10 以下のいずれかの操作を行います：

- 数値を入力します。
- 2点を指定します。

指定した間隔でブロックが配置されます。



ブロックを整列させる(上)、整列させない(下)

15.30 図形の分割

DIVIDEコマンドは、選択された図形に沿ってマーカー(ポイントやブロック)を配置します。マーカーは、指定された数で図形を等しく分割します。

線分、ポリライン、円弧、円、楕円、楕円弧、スプラインを等分することができます。

15.30.1 点を使用して図形を分割

1 DIVIDEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：分割する図形を選択:

2 図形を選択します。

3 **プロンプト表示**：分割数 [ブロック (B)]:

4 値を入力し、Enterを押します。

5 図形が点で分割されます。

注：点の表示スタイルは、PDMODEシステム変数の現在の値によって異なります。

15.30.2 ブロックを使用して図形を分割

1 DIVIDEコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：分割する図形を選択:

2 図形を選択します。

3 **プロンプト表示**：分割数 [ブロック (B)]:

4 **ブロック**オプションを選択します。

プロンプト表示：挿入するブロック名 [? で一覧表示]:

5 (オプション) ? を押すと、図面で使用可能なブロックのリストが表示されます。

6 ブロック名を入力します。

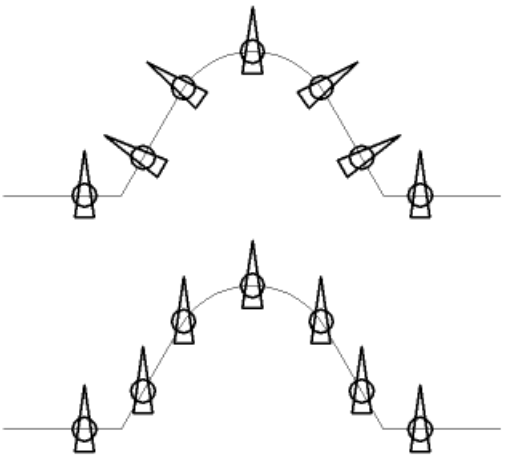
7 **プロンプト表示**：ブロックを図形に整列しますか? [はい (Y)/いいえ (N)] <はい (Y)>:

8 ブロックを整列させるかどうかを選択します。

9 **プロンプト表示**：分割数：

10 値を入力し、Enterを押します。

11 図形がブロックで分割されます。



ブロックを整列させる(上)、整列させない(下)

16. 印刷および出力設定

16.1 印刷の一般的な手順

PLOTおよびPRINTコマンドは、**印刷**ダイアログボックスを使って、図面をプリンタやファイルに出力(プロット)します。

-PLOTコマンドは、コマンドラインのプロンプトを介して、プリンタやファイルに図面を印刷するためのものです。このコマンドは、スクリプトとルーチンのためのものです。

QPRINTコマンドは、**印刷**ダイアログボックスを表示せずに、既定の印刷設定で図面を印刷します。

PAGESETUPコマンドは、**図面エクスプローラ**の図面印刷のページ設定を作成、編集します。

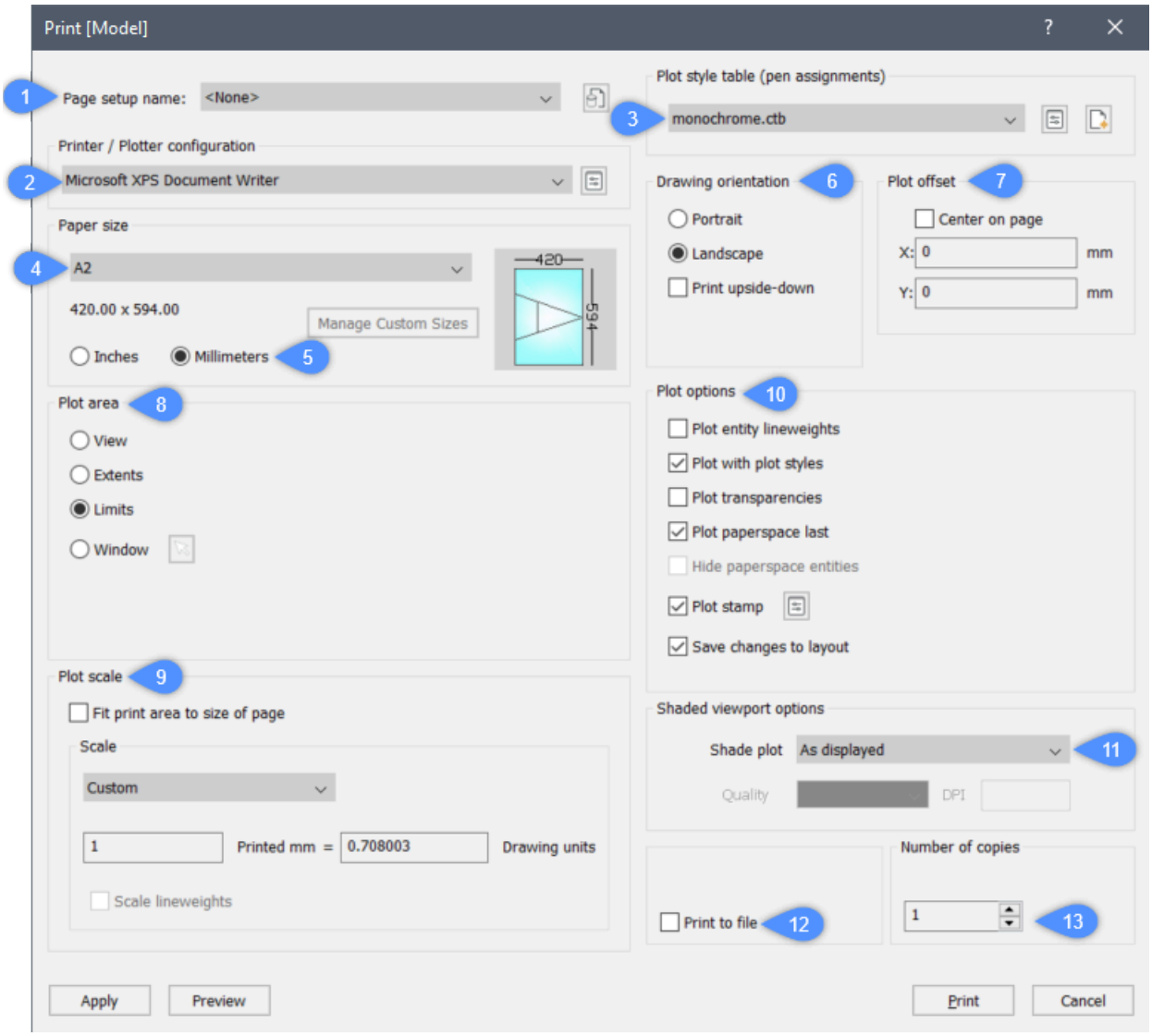
印刷の基本手順は、以下のステップから構成されます：

- **レイアウト**タブあるいは**モデル**タブを選択します。
- **印刷**ダイアログボックスを開きます。
- **ページ設定名**を選択します。(1)

以下の手順はオプションです。選択したページ設定の定義を上書きする場合のみ行う必要があります。

- **プリンター / プロッタの設定**を選択します。(2)
- **印刷スタイルテーブル**を選択します。(3)
- **用紙サイズ**を選択します。(4)
  ダイアログ上のイメージは選択されたペーパーサイズ上の図面位置と回転を反映しています。
- 用紙サイズ単位を選択します。(5)
- **用紙の向き**を選択します。(6)
- **印刷オフセット**を定義します。(7)
- **印刷領域**(印刷する領域)を指定します。(8)
- **印刷尺度**を定義(9)
- **印刷オプション**をチェックします。(10)
- モデル空間を印刷する場合は、**シェード印刷モード**を選択します。(11)
  ペーパー空間レイアウトを印刷する場合、このオプションはオフになります。
- **ファイルへ出力**オプションを選択/未選択にします。(12)(12)
- **コピー数**を指定します。(13)
- 印刷出力のプレビューを見るには、**プレビュー**ボタンをクリックします。
- **適用**ボタンをクリックすると、設定した内容が更新されます。
- **印刷ボ**タンをクリックすると、印刷を開始します。

注：全ての印刷設定は、**モデル空間**と**レイアウト空間**でそれぞれ保存されます。



要確認：

- macOSおよびLinuxでは、システムプリンターに印刷することはできません。**Print As PDF.pc3**プリンターにのみ印刷できます。したがって、PDFドキュメントが生成され、その後で、物理的な印刷のためにプリンタに送信する必要があります。
- macOSおよびLinuxでは、関連するPAGESETUPコマンドがあります。

16.1.1 印刷ダイアログボックスを開く

以下のいずれかの操作を行います：

- PRINTもしくはPLOTコマンドを起動します。
- **Ctrl** + **P**を押します。
- **ファイル**メニューで**印刷...**を選択します。
- **出力** > **印刷**リボンパネル(2D作図ワークスペース)で**印刷...**ツールをクリックします。
- **モデル**タブまたは**レイアウト**タブを選択し、右クリックし、コンテキストメニューで**印刷**を選択します。

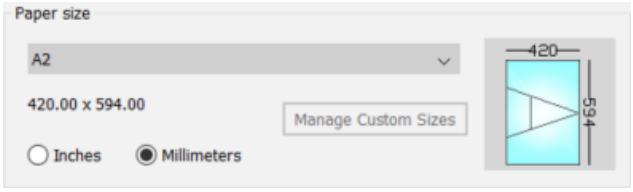
16.1.2 用紙サイズの選択

下向き矢印をクリックして、**用紙サイズ**一覧から用紙サイズを選択します。

使用可能な用紙サイズはプリンタによって異なります。

16.1.3 用紙単位の選択

インチまたは**ミリメートル**のどちらかを選択します。



選択したサイズの用紙の印刷領域のサイズ、位置、向きが用紙サイズのイメージに表示されます。

注：印刷尺度と**オフセット**は、選択した用紙と**単位**によって変わります。

16.1.4 用紙の向きを選択

縦または**横**のどちらかを選択します。

- **縦**：図面やレイアウトのX軸が選択用紙サイズの短いほうの端に合わせられます。
- **横**：図面やレイアウトのX軸が選択用紙サイズの長いほうの端に合わせられます。

選択した向きに応じて用紙サイズのイメージ表示が変わります。

適用ボタンをクリックすると、設定した内容に更新されます。

16.1.5 印刷オフセットを定義

ページの中心を選択するか、**X:**および**Y:**入力欄に印刷オフセットを入力します。

用紙の左下コーナーからのオフセットが計算されます。

適用ボタンをクリックすると、設定した内容に更新されます。

印刷領域を指定するには：

オプション	結果
ビュー	カレントのビューポートの表示されている部分、または以前に登録された部分を印刷します。
図形範囲	すべての図形を含む作図範囲を印刷します。
図面範囲	図面の中で定義された用紙範囲を印刷します。 このオプションは、モデル空間での印刷にのみ有効です。
図面範囲	カレントのレイアウトを印刷します。 このオプションは、ペーパー空間での印刷にのみ有効です。

オプション	結果
窓	ユーザーがウィンドウで指定した範囲の縦横比を自動で調整し印刷します。 **印刷範囲を選択**ボタン()をクリックし、図面の印刷範囲を指定するために、2つのコーナーを指示します。 または 印刷範囲の対角となる角の**X:**および**Y:**座標値を、それぞれの欄に入力します。

16.1.6 印刷尺度を定義

注：SCALELISTEDITコマンドでは、**印刷**ダイアログボックスとペーパー空間のビューポートの**標準的な尺度**のプロパティで利用可能な尺度のリストを編集することができます。

ペーパー空間レイアウトを印刷する場合：

ペーパー空間で印刷する場合、最終的な印刷出力の尺度はビューポート尺度と印刷尺度の積です。

印刷出力の尺度を維持するには：

- 図面単位で、ビューポートの幅と高さを指定します。
- 印刷尺度をビューポート毎に設定します。
- **印刷尺度**は、紙の単位と図面単位との関係を反映しています。(下記の表をご参照ください)

用紙単位	作図単位	印刷尺度	印刷(mmまたはinch) =	作図単位
mm	mm	1:1	1	1
mm	cm	10:1	10	1
mm	m	1000:1	1000	1
インチ	インチ	1:1	1	1
インチ	フィート	12:1	12	1

モデル空間で印刷する場合：

モデル空間で印刷する場合、図面単位が用紙サイズの単位と同じであれば、印刷出力の尺度が印刷尺度と同じになります。図面と用紙サイズの単位が同じでない場合は、用紙サイズ単位と図面単位との関係に対して印刷尺度を積算する必要があります。例えば、1 DU=1cmの図面を尺度1/50で印刷したい場合、**印刷尺度**=1/5となり、1 DU=1mの場合は**印刷尺度**=20/1または1/0.05となります。

16.1.7 印刷オプションの設定

印刷オプションをクリックしてオン/オフを切り替えます。

オプション	結果
図形の線の太さを印刷	**印刷スタイルで印刷**がオフの場合に設定が可能です。図形に設定された線の太さを反映します。
印刷スタイルで印刷	割り当てられたSTBファイル、または、CTBファイルの設定を使用します。 **注**：これは、2Dワイヤフレームまたはワイヤフレーム表示スタイルを持つビューポートにのみ適用されます。
印刷の透過性	プロット図形は**透過性**プロパティの値を使用します。
ペーパー空間を最後に印刷	モデル空間の図形を最初に印刷し、ペーパー空間の図形を後で印刷します。
ペーパー空間図形を非表示	ペーパー空間の3D図形から隠線を消します。 モデル空間を印刷する場合、このオプションはオフになります。
印刷スタンプ	ヘッダー/フッターを付加します。 印刷スタンプを定義するために**印刷スタンプの編集**ボタン( )をクリックします。
レイアウトへ変更を保存	変更した**印刷**ダイアログボックスの設定を現在のレイアウトに保存します。 このオプションは**レイアウトへ変更を保存**の設定を切り替えます。

16.1.8 シェード印刷モードの設定

デフォルトでは、シェード印刷モードは**表示**に設定されています。

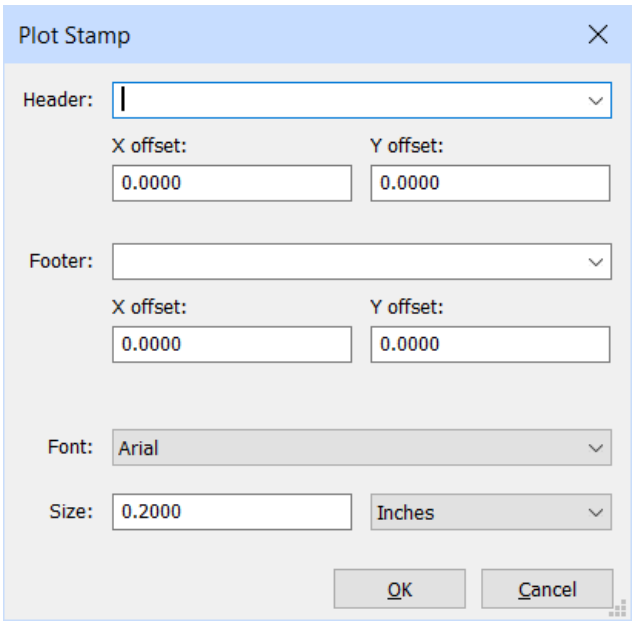
リストボタンをクリックして、異なる表示スタイルで印刷するオプションを選択します。

注：このオプションはモデル空間でのみ使用できます。ペーパー空間ビューポートのシェード印刷モードは、ビューポートのシェード印刷プロパティで定義されます。

16.1.9 印刷スタンプの定義

1 **印刷スタンプの編集**ボタンをクリックします。

印刷スタンプダイアログボックスが表示されます。



2 **ヘッダー**欄で、下記のいずれかを行ないます：
   - ヘッダー用のテキストを入力します。
   - 下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストの変数を選択します。
   - 1つまたは複数の変数名を入力します。(下表参照)
   - 空欄のままにします。
3 ヘッダーのX、Yのオフセットを定義します。
4 **フッター**欄で、下記のいずれかを行ないます：
   - フッター用のテキストを入力します。
   - 下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストの変数を選択します。
   - 1つまたは複数の変数名を入力します。(下表参照)
   - 空欄のままにします。
5 フッターのX、Yのオフセットを定義します。
6 **フォント**リストボタンでフォントを選択します。
7 **サイズ**欄に数値を入力します。
8 単位のタイプで**ミリ**か**インチ**を指定します。
9 **OK**ボタンをクリックして変更内容を保存します。

変数	説明
$Name	WindowsレジストリからRegisteredOwnerに割り当てられた値を追加します。 **注**：Windowsレジストリに文字列値として新しいキーを追加する必要があります。Computer¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Bricsys¥RegisteredOwner

変数	説明
$Company	WindowsレジストリからRegisteredOrganizationの値を追加します。 **注：**WindowsレジストリにString Valuesとして新しいキーを追加する必要があります。ComputerHKEY_LOCAL_MACHINE ⇄SOFTWARE ⇄Bricsys ⇄RegisteredOwner
$Date	本日の日付を記入します。
$DateTime	現在の日付、時刻を記入します。
$DwgName	図面のファイル名と保存先のパスを記入します。

注：

- ヘッダーとフッターの文字はカンマで区切られた3つのパーツ(左、中央、右)で構成されます。
- デフォルトでは、ヘッダーとフッターは中央に配置されます。
- ヘッダーとフッターのテキストは、カンマで区切ることで、左中央や右にアウトライン化することができます。
- 例えば$Name,$Company,$Dateは名前を左側に、会社名を中央に、現在の日付を右側に配置します。
- カンマの前にスペースを入れると、その部分が空白になり、ヘッダー/フッターが左右に配置されます。
- 例えば、$Company, , ($Company,<space>,<space>)とすると、社名は左に表示されます。, , $Campany(<space>,<space>,$Company)とすると、社名は右に表示されます。
- 印刷スタンプの設定はカレントのユーザープロファイルの中のユーザー設定に保存され、**設定**ダイアログの**プログラムオプション** > **印刷とパブリッシュ** > **印刷スタンプ**で編集できます。

16.1.10 コピー数を指定します。

以下のいずれかの操作を行います：

- **コピー数**欄に、必要な枚数を入力します。
- 上向き/下向きの矢印ボタンをクリックして数字を指定します。

16.1.11 印刷出力のプレビュー

印刷または**ページ設定**ダイアログの**プレビュー**ボタンをクリックします。

ファイルメニューから**印刷プレビュー...**を選択します。

コマンドバーに**preview**と入力し、Enterを押します。

16.2 シェード印刷の操作

16.2.1 概要

シェード印刷では、プロットの印刷スタイルを選択できます。

陰影を付けた3D図形を含む図面は、隠線を除去した状態で、ワイヤフレームで表示されたとおりに、またはレンダリングされたとおりに印刷できます。

16.2.2 表示スタイルとシェード印刷の違い

表示スタイルは図形の表示をコントロールするのに役立ち、シェード印刷はプロット出力をコントロールします。

16.2.3 一般的な手順

ビューポートのシェード印刷設定を設定します：

1 変更したいレイアウトを選択します。

2 ビューポートを選択し、**プロパティ**パネルを開きます。

3 **その他**領域で、必要な**シェード印刷**を設定します。

モデル空間でシェード印刷設定を設定します：

1 モデル空間に移動し、図形が選択されていないことを確認します。

2 **印刷**ダイアログボックスを開き、変更したいページ設定を選択します。

3 **シェードビューポートオプション**セクションで、目的の**シェード印刷**を選択します。

4 **適用**をクリックします。

PDFファイルは、次の場合にベクターグラフィックとして表示されます。

- シェード印刷は、**旧ワイヤーフレーム**または**旧隠線**に設定されます。
- 表示スタイルは**2Dワイヤフレーム**に設定され、シェード印刷は**表示のまま**に設定されます。

ベクターファイル形式は、表示品質を犠牲にすることなく無制限のスケーラビリティを可能にします。

PDFファイルは、次の場合にビットマップとして表示されます。

シェード印刷が**コンセプト**、**非表示**、**モデリング**、**リアリスティック**、**シェード**、**エッジつきシェード**、**グレーシェード**、**スケッチ**、**ワイヤフレーム**、**X線**、**BIM**、**模型**、**レンダリング**、**透明**または**メカニカル**に設定されている場合。

注：使用可能なシェード印刷は、図面テンプレートによって異なります。

ビットマップ形式の解像度は、**イメージDPI**設定を変更することで変更できます：**印刷設定編集**ダイアログボックスを開き、**設定**タブに移動し、**カスタムプロパティ...**ボタンをクリックします。そして、**出力品質**セクション下で、**イメージDPI**設定を変更できます。

注：新しい表示スタイルが作成されるたびに、新しいシェード印刷が自動的に生成されます。

16.3 印刷設定

Windowsのシステムプリンタ設定は、プロッタ設定ファイル(.PC3ファイル)に格納されています。AutoCAD®とは異なり、BricsCADのPC3プロッタ設定ファイルはWindowsシステムプリンタにのみ適用されます。

プロッタ設定ファイルでは、コンピュータにインストールされているシステムプリンタの1つまたは複数の設定をオーバーライドすることができます。BricsCADに多数のプロッティング/印刷デバイスを設定でき、デバイスごとに複数の環境設定を保持できます。

各印刷設定ファイルには以下の情報が含まれています。

- デバイスドライバとモデル
- デバイスが接続されている出力ポート

- 様々なデバイス特有の設定(Linuxではサポートされていません)

PC3ファイルは、ローミングルートフォルダー内の**Plotconfig**サブフォルダに保存されます。

作成したPC3ファイルは、**印刷**または**ページ設定**ダイアログボックスにある**プリンタ / プロッタの設定**プルダウンリストで選択できるようになります。

16.3.1 内蔵PDFプリンタの設定

1 **印刷**ダイアログボックスを開きます。

2 **プリンタ / プロッタの設定**リストボタンをクリックし、一覧から**Print As PDF.pc3**を選択します。

3 **印刷設定の編集**ボタンをクリックします。

印刷設定編集ダイアログボックスが表示され、**Print As PDF.pc3**設定ファイルがロードされます。

4 **印刷設定編集**ダイアログの**設定**タブをクリックします。

5 （オプション）**グラフィック**設定を編集します。

6 （オプション）**尺度校正**を実行します。

7 **カスタムプロパティ**ボタンをクリックします。

PDFとして印刷 - カスタムプロパティダイアログボックスが表示されます。

8 （オプション）**出力品質**と**画層サポート**の設定を調整します。

9 **カスタムサイズ管理...**ボタンをクリックします。

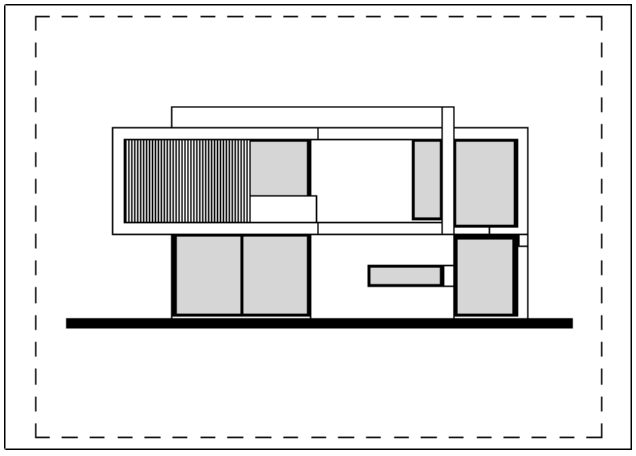
10 カスタム用紙サイズを作成するには、以下の手順で行います。

- **追加**ボタンをクリックします。

  新しい用紙サイズが追加されました。
- 新しく作成された用紙サイズをダブルクリックします。
- 新しい用紙サイズの名前を入力し、**OK**ボタンをクリックします。
- 新しい用紙サイズの**幅**と**高さ**を定義します。
- **用紙マージン**を定義します。

  紙の余白は、紙のシートの印刷可能領域を設定します。

  DISPPAPERMARGINSシステム変数がオンの場合、破線はレイアウトの用紙上の余白を示します。



DISPPAPERBKGシステム変数をオンにしている場合、用紙の背景が表示されます。

- **OK**ボタンをクリックすると、カスタム用紙サイズが作成されます。

11 開いている各ダイアログで**OK**ボタンをクリックします。

用紙サイズリストボタンの一覧で、今作成したカスタム用紙サイズを選択できるようになります。

16.3.2 新規の印刷設定を作成

1 PLOTTERMANAGERコマンドを起動します。

1 **ファイル**ダイアログボックスが表示され、PLOTCFGPATHシステム変数で定義されているフォルダーも表示されます。

2 **印刷設定を作成**ショートカットをダブルクリックします。

印刷設定編集ダイアログボックスが表示されます。

3 **プリンタ名**リストボタンの一覧から、印刷設定 (PC3) を作成したいプリンタを選択します。

4 **印刷設定編集**ダイアログの**設定**タブをクリックします。

5 **カスタムプロパティ...**ボタンをクリックします。

<選択したプリンタ>のカスタムプロパティダイアログボックスが開きます。

このダイアログボックスのレイアウトは、プリンタごとに異なります。

注：PDFとして印刷 - カスタムプロパティの場合、**ブックマークの作成**オプションを使用して、PDFファイルに名前付きビューのブックマークを自動的に生成することができます。

カスタムプロパティはLinuxではサポートされていません。

6 選択したプリンタの**プロパティ**ダイアログボックスで、プリンタの設定を調整し、**OK**ボタンをクリックして確定します。

<選択したプリンタ>のカスタムプロパティダイアログボックスが閉じます。

7 **印刷設定編集**ダイアログの**OK**ボタンをクリックします。

プリンタ構成に名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

8 (オプション)PC3ファイル名の編集

9 デフォルトの名前は、**<選択したプリンタ>.pc3**です。

10 **印刷設定ファイル変更**ダイアログの**OK**ボタンをクリックします。

PC3ファイルが作成されます。

注：同一のプリンタに対して、異なる名前で保存すれば、複数のプロッタ設定を作ることができます。

16.3.3 印刷設定の編集

1 PRINTコマンドを起動します。

1 **印刷**ダイアログボックスが表示されます。

2 **プリンタ / プロッタの設定**リストから印刷設定 (PC3) を選択します。

3 **印刷設定の編集**ボタンをクリックします。

印刷設定編集ダイアログボックスが開きます。

4 上記の**新規の印刷設定を作成**の手順を、手順4から進めてください。

16.3.4 印刷設定の割り当て

1 印刷設定ファイルを割り当てる**モデル**または**レイアウト**を選択します。

2 以下のいずれかの操作を行います：
- **ファイル**メニューから**ページ設定**を選択します。
- コマンドラインに**pagesetup**と入力し、Enter キーを押します。

3 **プリンタ / プロッタの設定**リストから以下のいずれかを選択します：
- システムプリンタ
- 設定ファイル(PC3ファイル)
- 無し(通常使うプリンタ)

4 **OK**ボタンをクリックします。

注：

- 図面に割り当てられた印刷設定ファイルを見つけられないときは、BricsCADはその図面の設定ファイルを**無し**に変更します。
- **無し**とされたプリンタは、実在のプリンタと同じように、独自の用紙サイズセットを用意して図面に保存します。レイアウトが開かれた状態で保存したプリンタが存在しない場合は、そのプリンタは用紙サイズを維持したまま**無し**に切り替わります。不明なプリンタと前の用紙サイズは、**印刷**ダイアログが開くと同時に表示されます。前の用紙サイズは図面に保存できます。
- 前の用紙サイズ：他者が作成した図面の印刷設定が、使用設定されていないオフィスのプリンタであるというのはよくあることです。そのような場合、BricsCADはプリンタデバイスを**無し**にリセットして初期設定のプリンタを使用します。また、用紙サイズをデフォルトにリセットする代わりに、前の用紙サイズを表示することで、対象のサイズを通知し、利用可能なプリンタで同じサイズを選択するよう指示します。

16.4 印刷スタイルテーブル

印刷スタイルテーブルエディターが開き、指定した印刷スタイルテーブルの印刷スタイルが表示されます。

16.4.1 印刷スタイルテーブルエディターを開く

以下のいずれかの操作を行います：

- **印刷**または**ページ設定**ダイアログボックスの**印刷スタイルの編集**ボタンをクリックします。
- **ファイル** > **印刷**メニューの**印刷スタイル管理...**を選択し、**CTB**ファイルまたは**STB**ファイルをダブルクリックします。
- **Windowsエクスプローラ**ウィンドウで、**CTB**ファイルまたは**STB**ファイルをダブルクリックします。

印刷スタイルテーブルエディターダイアログボックスには、以下のタブがあります。

- **標準**タブ
- **ビュー形式**タブ
- **線の太さ**タブ

標準タブには、印刷スタイルテーブルに関する基本情報が表示されます。

名前	説明
印刷スタイルテーブルファイル名	印刷スタイルテーブルのファイル名を表示します。
説明	印刷スタイルテーブルについて含めたい説明を表示します。
ファイル情報	印刷スタイルテーブルの保存先ディレクトリ、印刷スタイル数とレガシー情報を表示しています。 **注**：色に依存する印刷スタイルテーブルには、常に255の印刷スタイルが含まれています。
ISOでない線種にグローバル尺度を適用	印刷スタイルテーブルで制御される図形の印刷スタイルで、ISO以外の線種をすべて拡大するかどうかを指定します。
尺度係数	非ISO線種と塗り潰しパターンに適用する尺度の値を指定します。

ビュー形式タブには、印刷スタイルテーブルに含まれる印刷スタイルと、その設定値が表示されます。印刷スタイルは印刷中に発生する図面のスタイル優先設定です。

名前付き印刷スタイルテーブルの最初の印刷スタイルは**NORMAL(標準)**です。これは、図形の既定のプロパティであることを意味します(印刷スタイルは適用されていません)。**NORMAL(標準)**スタイルを編集したり、削除することはできません。

プロパティ	説明
印刷スタイル	選択した印刷スタイルテーブルに設定された印刷スタイルの名前を表示します。 • 255個印刷スタイルを定義します。(各1色) • 図形色に関連づけます。 • 印刷スタイルは、追加 または、削除することができません。 • 印刷スタイルの名前を変更することはできません。 名前を付けた印刷スタイルテーブル(STB)： • 必要な数だけ印刷スタイルを含めることができます。あ r • **通常**スタイルを除いて印刷スタイルを追加したり、削除することができます。 • **通常**スタイルを除いて印刷スタイルの名前を変更することができます。
説明	選択された印刷スタイルの説明

プロパティ	説明
色	図形に指定された色で印刷します。 印刷スタイルの色のデフォルト設定は、**カレントを使用**です。 印刷スタイルの色を割り当てると、印刷時に選択した色が有効になります。
ディザ	お使いのプロッタの機能に応じて、ディザリングはドットパターンで色を近似させます。このオプションがアクティブでない場合、色は最も近い色にマップされ、プロッティング時の色の範囲が狭くなります。 ディザリングは、オブジェクトの色を選択しているか、もしくは印刷スタイルの色を指定している場合に有効になります。 デフォルトでは、このオプションはアクティブです。オフに設定しても、BricsCADには影響しません。
グレースケールへ変換	プリンタの機能によっては、印刷物の色をグレースケールに変換することができます。
物理的なペン #	印刷スタイルを使用している図形の印刷時に使用するペンを指定します。 指定可能なペン番号は1から 32 までの値です。
仮想ペン	仮想ペン番号を、1から255までの数値で指定します。 **自動**を選択すると、BricsCAD で仮想ペンがBricsCAD色インデックスから割り当てられます。 印刷スタイルの仮想ペン設定は、非ペンプロッタだけで、仮想ペン（**印刷設定編集**の**設定**タブで**ベクタグラフィックス**内の**カラー階調**で**255本の仮想ペン**を選択）のために管理されてあるものだけが使用されます。
スクリーニング	紙に印刷するときの、色の彩度を指定します。 設定可能な値は、0 から 100 までの数値です。 100を選択すると、図面はフルカラー強度で印刷されます。濃淡度の設定を有効にするためには、**ディザ**の設定をオンにしておく必要があります。
線種	線種のサンプルと説明付で、リスト表示します。 印刷スタイルの線種は、**オブジェクトの線種を使用**がデフォルト設定になっています。 線種を指定した場合、選ばれた線種が印刷時に有効になります。

プロパティ	説明
アダプティブ調整	線種パターンが、完全に描かれるように線種尺度を調節します。 正しい線種尺度よりも線種パターンが完全に作画されるようにしたい場合に、このプロパティを有効にします。
線の太さ	線の太さのサンプルと、その値が表示されます。 リストの中に必要な線の太さが無い場合、線の太さタブで、線の太さを編集することができます。 印刷スタイルの線の太さは、**オブジェクトの線の太さを使用**がデフォルト設定になっています。 線の太さを指定した場合、選択した線の太さが印刷時に有効になります。
線端スタイル	図形の端部のスタイル(形状)をリスト表示します。 デフォルトでは、**図形の終端スタイルを使用**オプションが選択されています。 線端スタイルを指定した場合、選択した端の形状が印刷時に有効になります。
線結合スタイル	図形の結合時のスタイル(形状)をリスト表示します。 デフォルトでは、**図形の結合スタイルを使用**オプションが選択されています。 線結合スタイルを指定した場合、選択した結合形状が印刷時に有効になります。
塗り潰しスタイル	塗潰しのパターンをリスト表示します。 デフォルトでは、**図形の塗り潰しスタイルを使用**オプションが選択されています。 塗潰しを指定した場合、選択された塗潰しが印刷時に有効になります。

注：トゥルーカラーで作成された図形は、常に独自のオブジェクトプロパティ(色、線の太さなど)を使用して印刷されます。

線の太さタブは、利用可能な線の太さを一覧表示します。

注：チェックマークが付いている線の太さは、**ビュー形式**タブの**線の太さ**欄で使用されていることを示します。

線の太さを編集するには、リストから線の太さを選択し、**編集**ボタンをクリックします。

16.4.2 印刷スタイルテーブルの割り当て

BricsCADでは、印刷スタイルテーブルをモデル空間や図面内の各レイアウトに割り当てることができます。図面内の各レイアウトに異なる印刷スタイルテーブルを割り当てることで、レイアウト内の図形の印刷方法をコントロールすることができます。印刷スタイルテーブルは、モデル空間とペーパー空間の両方の図形に影響を与えます。印刷スタイルプロパティを適用せずに図面を印刷するには、印刷スタイルテーブルのリストから**無し(通常使うプリンタ)**を選択します。

STB タイプの印刷スタイルテーブルを使用すると、図面内の各オブジェクトに印刷スタイルが直接割り当てられるか、または画層での設定が有効になります。（**By Layer**）

印刷スタイルテーブルは、**印刷**ダイアログボックスの**印刷スタイルで印刷**オプションにチェックが入っている場合にのみ使用されます。印刷スタイルテーブルをオフにすると、図形はそれぞれのプロパティに従って印刷されます。

印刷スタイルテーブルの割り当て

1 **印刷**または**ページ設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **印刷スタイルテーブル**(ペンの割当て)リストボックスから、**印刷スタイルテーブル**を選択します。

3 **OK**ボタンをクリックします。

16.5 印刷スタイル管理

印刷スタイル管理は、印刷スタイルテーブルファイル(CTBファイルとSTBファイル)を閲覧するウインドウです。

印刷スタイル管理は、次のことが行えます：

- **印刷スタイル設定を作成**ウィザードを使用して、色従属印刷スタイルテーブル(CTB)や名前付き印刷スタイルテーブル(STB)を作成します。
- 既存の印刷スタイルテーブルファイルを編集します。

16.5.1 印刷スタイル管理の起動

以下のいずれかの操作を行います：

- **ファイル** > **印刷**メニューで**印刷スタイル管理...**を選択します。
- STYLESMANAGERコマンドを起動します。

ファイルダイアログボックスが表示され、PLOTSTYLEFOLDERシステム変数で定義されているPlotStylesフォルダーの内容が表示されます。

16.5.2 新規の印刷スタイルテーブルを作成

1 印刷スタイル管理を起動します。

2 PlotStylesフォルダー内の**印刷スタイルテーブルを作成**のショートカットをダブルクリックします。**印刷スタイルテーブルエディター**ダイアログが開きます。

3 **最初から新規作成**を選択します。

4 以下のいずれかの操作を行います：
   - **表タイプ**選択ボタンから**CTB**か**STB**を選択します。
   - **CTB**(色従属印刷スタイルテーブル) - 図形の色に基づき印刷します。ペンの太さや線種などの印刷パラメータを図形の色と一致させます。このシステムはSTBより古く柔軟性が劣りますが、図面を新規作成するとデフォルトで設定される印刷スタイルです。CTBファイルが作成されます。
   - **STB**(名前付き印刷スタイルテーブル) - 印刷スタイルに基づき印刷します。印刷パラメータは全て図形と全ての画層に適用されます。このシステムは新しくより柔軟ですが、他のdwgを読み込むCADソフトウェアと互換性がない場合があります。STBファイルが作成されます。
   - **既存テーブルから新規作成**を選択し、ドロップダウンリストからファイルを選択するか、表タイプ選択ボタンをクリックして既存のCTBまたはSTBファイルを選択します。

5 **表名**欄に名前を入力し、**OK**ボタンを押します。

印刷スタイルテーブルエディターダイアログが表示されます。

16.5.3 印刷ダイアログで新規の印刷スタイルテーブルを作成

1 PRINTコマンドを起動します。

1 **印刷**ダイアログボックスが表示されます。

2 **印刷スタイルテーブル**で、**新規印刷スタイルを作成**をクリックします。

印刷スタイルテーブルを追加ダイアログボックスが表示されます。

3 **表名**欄に名前を入力し、**OK**ボタンを押します。

エディタを起動オプションを選択すると、**印刷スタイルテーブルエディター**ダイアログボックスが表示されます。

カレント図面へこの印刷スタイルを使用オプションを選択すると、新しい印刷スタイルテーブルが現在のレイアウトで使用されます。

注：上記の手順で、CTBタイプ図面にCTBファイルを作成し、STBタイプ図面にSTBファイルを作成します。

16.5.4 印刷スタイルテーブルの編集

1 印刷スタイル管理を起動します。

2 PlotStylesフォルダー内で、編集したいプロットスタイルテーブルをダブルクリックします。

3 **印刷スタイルテーブルエディター**ダイアログボックスが表示されます。

16.5.5 印刷ダイアログボックスでの印刷スタイルテーブルの編集

1 **印刷**ダイアログボックスを開きます。

2 印刷スタイルテーブルリストから**印刷スタイルテーブル**を選択します。

3 **印刷スタイルの編集**ボタンをクリックします。

16.6 バッチ印刷

PRINTコマンドは、一度に1つのレイアウトを印刷します。PUBLISHコマンドは、シートリスト(= モデルスペースまたはペーパースペースのレイアウトリスト)をプリンタに出力することができます。シートリストはDSD(Drawing Set Description)ファイルに保存できます。

SHEETSETコマンドはシートセットを管理し、シートの全部または一部を印刷したり、公開、転送します。シートセットはDSTファイル(シートセットデータ)に保存されます。

17. レンダリング

17.1 TwinMotionの使用

注：この機能は、Windows上のBricsCADでのみ利用可能です。

Twinmotionは、Epic GamesのUnreal Engineの強力な機能を使用して、リアルタイムで疑似体験型の3D建築の視覚化を提供します。すべてのBricsCADモデルデータは、EXPORTコマンドでUnreal Engineのファイル形式(*.udatasmith)で書き出されるか、DATASMITHSYNCコマンドで同期されます。

BricsCADでTwinmotionを使用するには以下のものが必要です：

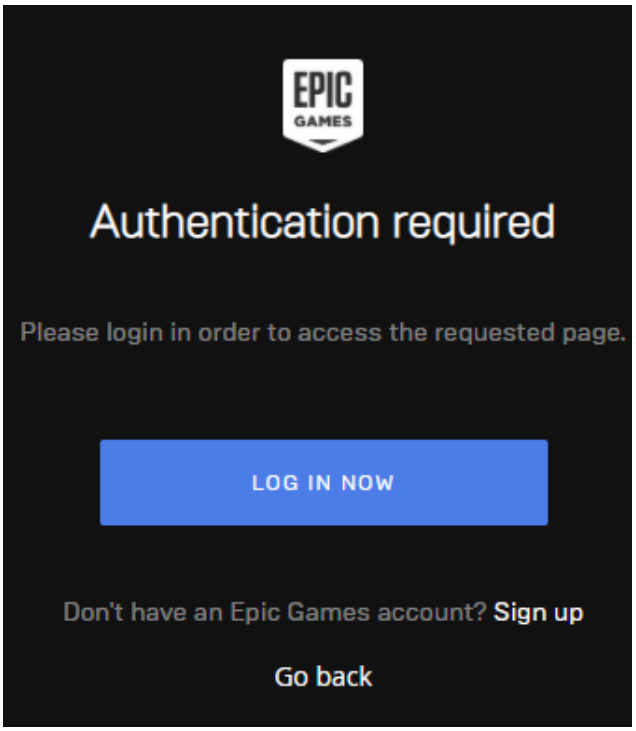
- **Epics Games Launcher**をインストールします。
- **Twinmotion** をダウンロードしてインストールします。
- モデルを*.udatasmithファイルに書き出し、このファイルをTwinmotionに読み込むか、BricsCADとTwinmotionの間に直接リンクを作成します。

17.1.1 Twinmotionのインストール

Twinmotionのヘルプページより

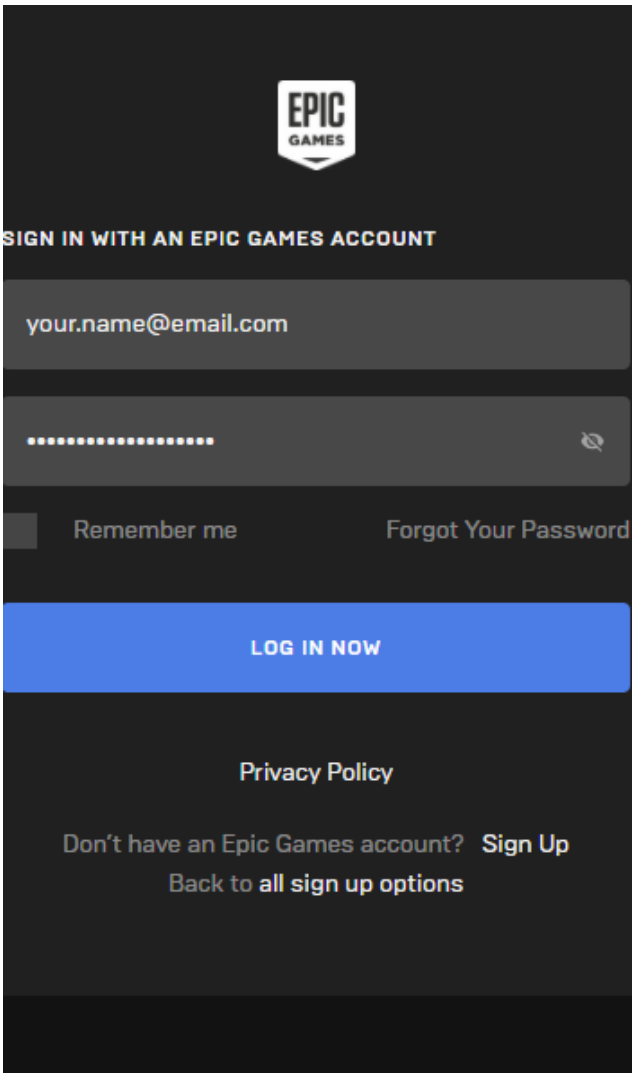
1 https://www.unrealengine.com/en-US/twinmotionに移動します。

2 **今すぐ始める**をクリックします。



まだEpic Gamesのアカウントをお持ちでない方は、**サインアップ**をクリックし、必要な情報をすべて入力して**Create Account**をクリックしてください。

3 **今すぐログイン**をクリックします。



4 ログインした後、画面左上の**Download the Epic Games Launcher**をクリックします。

5 Epic Games Launcherのダウンロードが完了したら、ランチャ画面左側の**Unreal Engine**タブを必ずクリックしてください。

右上に**Twinmotion**のタブが表示されるので選択します。

6 **インストール**をクリックしてTwinmotionをインストールします。

7 ファイルの保存場所は慎重に選んでください。デフォルトの場所を使用することを強くお勧めします。

17.1.2 モデルのエクスポート

1 BricsCAD BIMでモデルを開きます。

2 DATASMITHEXPORTコマンドを起動します。

3 **図面の書き出し先**ダイアログボックスが表示されます。

保存形式はUnreal Engine(*.udatasmith)です。

4 名前を入力するか、デフォルトの名前のまま、**保存**ボタンをクリックします。

書き出されたモデルがTwinmotionで読み込めるようになります。

注 : サイト位置、プロジェクト位置、測量位置、および地理座標は、EXPORT または DATASMITHEXPORT コマンドを介して Datasmith (*.udatasmith) にエクスポートできます。関連記事 **TwinMotion の使用**をご覧ください。

17.1.3 Twinmotionでのモデルの読み込み

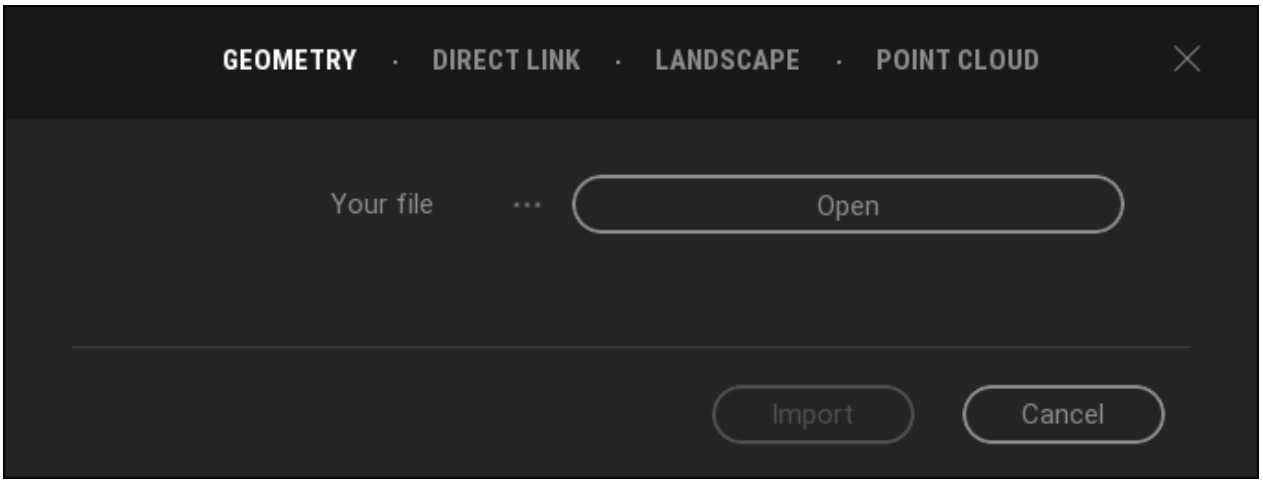
注 : この手順では以下が必要です：

- BricsCAD V21以上、Pro、BIM、Mechanical、Ultimateのいずれかのライセンス
- Twinmotion 2020以上
- オプションでUnreal Engine 4.24以上

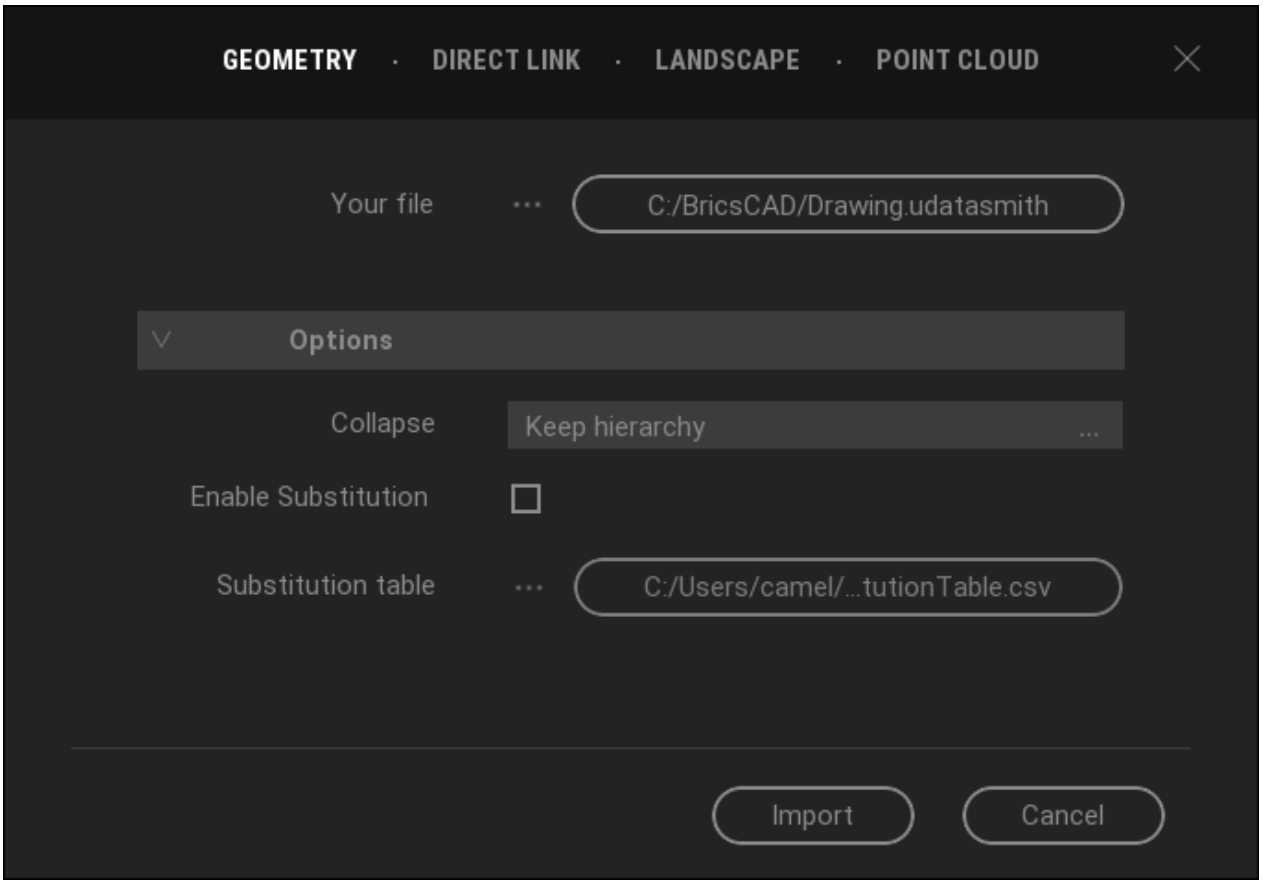
1 Twinmotionを立ち上げます。

2 以下のいずれかの操作を行います：
   - **+ Import**ボタンをクリックします。
   - **Ctrl + I**を押します。

3 **GEOMETRY**タブを選択していることを確認し、**開く**ボタンをクリックします。



読み込みダイアログで、Unreal Engine(*.udatasmith)モデルファイルを選択します。



4 **オプション**をクリックし、**折りたたみ**オプションを**階層を保持**に設定します。

これにより、BricsCADで使用されている画層と同じ方法でモデルが構築されます。または、Twinmotionで同じマテリアルを持つすべての要素を1つのオブジェクトとしてマージするには、**マテリアルごとに再構成する**を選択します。

5 **読み込み**ボタンをクリックしてモデルを読み込みます。

17.1.4 Twinmotionでダイレクトリンクを作成

注：この手順では以下が必要です：

- BricsCAD V22以上、Pro、BIM、Mechanical、Ultimateのいずれかのライセンス
- Twinmotion 2021以上
- オプションでUnreal Engine 4.26以上

1 Twinmotion 2021以上をインストールします。

1 **注**：Twinmotion 2020では、ダイレクトリンクは使えません。

2 BricsCADでDATASMITHCONNECTを実行するか、**表示リボン**のアイコンをクリックしてTwinmotionに接続します。

注：Direct LinkでTwinmotionとの接続を確立すると、初回は自動的にモデルが同期されます。

3 Twinmotionの**Import**パネルで、**+ Import**ボタンをクリックします。

4 ダイアログで**DIRECT LINK**タブを開きます。

5 ソースリストには、BricsCADモデルが表示されるはずです。

6 **折りたたみ** > **階層を保持**を選択するとBricsCADの階層が維持されます。または、**マテリアルごとに再構成する**を選択すると、Twinmotion内で同じマテリアルを持つすべての要素が1つのオブジェクトとしてマージされます。

7 **読み込み**ボタンをクリックしてモデルを読み込みます。

8 TwinmotionでモデルをBricsCADでDATASMITHSYNCを実行します。

17.2 レンダリングの概要

レンダリングとは、3Dモデルから画像を生成するプロセスのことです。モデルには、ジオメトリ、視点、テクスチャ、ライティング、シェーディング情報が含まれています。その結果、ラスターイメージファイル（BMP、JPEG、PNG）として保存できるデジタル画像が生成されます。

BricsCADでのレンダリングは、Redway3d レンダリングエンジンに基づいています。デフォルトでは、レンダリングエンジンはグラフィックスカードのハードウェアを活用しようと試みます。問題が発生した場合は、RenderUsingHardwareユーザー設定をオフにしてください。グラフィックカードの最新のドライバをインストールすることをお勧めします。

RENDERPRESETSコマンドはダイアログボックスを介してレンダリングのプリセットの作成、編集、設定を行います。

17.3 レンダリングの設定

RENDERPRESETSコマンドはダイアログボックスでレンダリングのプリセットの作成、編集、設定を行います。

17.3.1 レンダリングの環境設定

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **プログラムオプション**の下の **レンダリング**設定カテゴリを開きます。

カレントのマテリアル

新しい図形のマテリアルを指定します。デフォルト(**ByLayer**)では**Global**の素材が使用されます。

照明単位

- 0：照明単位は使用しません。汎用照明を有効にします。
- 1：米国照明単位(フットキャンドル)を有効にします。
- 2：国際照明単位(ルクス)を有効にします。

ウェブライトは、LIGHTINGUNITSシステム変数を1または 2に設定している場合のみ作成することができます。

デフォルトの照明

ビュー方向の遠距離光源です。この設定は、ビューポートごとに異なる場合があります。

- 0：他のライトがオンになっていない場合にデフォルトの照明を使用します。
- 1：図面内で定義された光源の代わりにデフォルトの照明を使用します。

コントラスト

アンビエント光源強度の尺度係数を指定します。-10から10までの値が指定可能です。-10を指定すると最大のアンビエント光源強度となります。10を指定するとアンビエント光源無しとなります。

輝度

光源強度の尺度係数を指定します。-10から10までの値が指定可能です。初期値は0(スケーリングなし)です。負の値は光源強度を減少させ、正の値は光源強度を増加させます。この設定は、ビューポートごとに異なる場合があります。

ハードウエアを使用したレンダリング

ハードウェアレンダリングが失敗した場合は、**ソフトウエアのみ使用(遅い)**を選択します。設定変更後にBricsCADの再起動が必要になる場合があります。

実物の尺度

マテリアルのレンダリングにおける実体尺度単位をコントロールします。

空の状態

レンダリング時に、空のイルミネーションを計算するかどうかを指定します。まだ実装されていません

テクスチャーマップパス

テクスチャーマップイメージの検索パスを定義します。BricsCADのプログラムフォルダー内には、**Textures**の下に3つのサブフォルダーがあり、それぞれに同名のテクスチャファイルがいくつか入っています。フォルダーイメージは1. 256 x 256ピクセルのフォルダー、2. 512 x 512ピクセルのフォルダー、3. 1024 x 1024ピクセルののフォルダーです。マテリアルの**Diffuse map**設定が画像名のみ(パスではない)を使用している場合、ユーザー設定のTextureMapPathをフォルダー1、2、3に設定することで、レンダリング画像の品質をコントロールすることができます。

タイルモードの光源同期

すべてのモデル空間ビューポート内の照明の同期をコントロールします。(内部使用専用)

17.4 レンダリング ツール

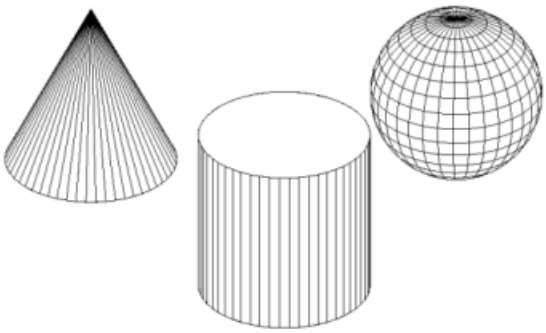
レンダリングツールは

- **レンダリング**ツールバー。
- **表示** > **レンダリング**メニュー内。
- **表示**および**視覚化**リボンタブ。
- **選択なし**クワッドの**一般**タブ。

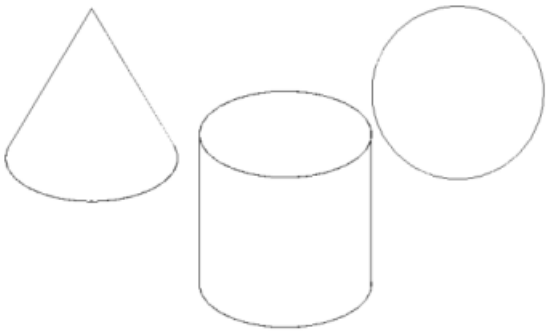
アイコン	ツールの名前	コマンド	説明
	レンダリング	RENDER	マテリアルと光源を使って写真のようにリアルなレンダリングを行います。
	非表示	HIDE	隠線処理表示にします。(*) 以前のシェードモードオプションが**2Dワイヤフレーム**であった場合、ズームや画面移動をするとワイヤーフレーム表現が復元されます。 前のシェードモードオプションが**2Dワイヤフレーム**以外であった場合、別のシェーディングモードが選択されるまで、隠線表現が維持されます。
	シェーディング	SHADE	ポリゴン面の間の図形のシェーディング。曲面はセグメント化されます。
	2Dワイヤフレーム	SHADEMODE + 2	ワイヤフレーム作図

アイコン	ツールの名前	コマンド	説明
	3Dワイヤフレーム	SHADEMODE + 3	ワイヤフレーム作図
	非表示	SHADEMODE + H	隠線処理表示 (*)
	フラット	SHADEMODE + F	ポリゴン面の間の図形をシェーディングします。曲面はセグメント化されます。
	グーロー	SHADEMODE + G	多角形の面の間で図形を シェーディングします。湾曲した表面はよりなめらかでリアルに表示されます。
	フラット + エッジ	SHADEMODE + L	フラットシェーディングとワイヤーフレーム線を結合して、カーブします。
	グーロー + エッジ	SHADEMODE + O	グーローシェーディングとワイヤーフレーム線を結合して、カーブします。
	マテリアル	MATERIALS	**図面エクスプローラ - マテリアル**ダイアログボックスを開きます。
	マテリアルマッピング	MATERIALMAP	3Dソリッドの面や、3D面、幅のあるポリライン、ポリゴンメッシュ等の塗り潰した図形に対するテクスチャーイメージのマッピング方法を調整することができます。
	光源	LIGHTLIST	図面エクスプローラ - 光源ダイアログボックスを開きます。
	太陽プロパティ	SUNPROPERTIES	図面エクスプローラ - 光源ダイアログボックスを開きます。
	地理的位置	GEOGRAPHICLOCATION	**地理的位置**ダイアログボックスを開きます。
	モーションパスアニメーション	ANIPATH	3Dモデルをパスまたはパンに沿ってカメラ視点が移動して、アニメーション録画を行い、ムービーファイルに保存します。
	アニメーション編集	ANIMATIONEDITOROPEN	**アニメーション編集**パネルを開きます。

(*)DISPSILHシステム変数をオンに設定し、ポリゴンメッシュの代わりにシルエットラインを湾曲サーフェスに表示します。



DISPSILHがオフの場合(上)とオンの場合(下)の円錐、円柱、球の隠線



17.5 レンダリングマテリアル

MATERIALSコマンドは、マテリアルを作成し、**図面エクスプローラ**でプロパティを編集します。

MATBROWSEROPENコマンドは、**レンダリングマテリアル**パネルを開き、利用可能な高解像度のレンダリングマテリアルの概要を表示します。

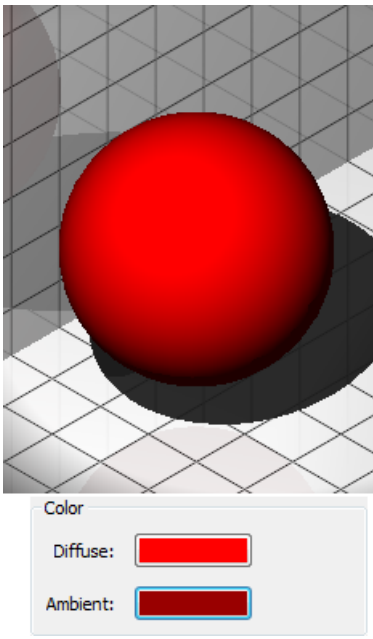
MATBROWSERCLOSEコマンドは、**レンダリングマテリアル**パネルを閉じます。

MATERIALMAPコマンドを使い、テクスチャーイメージを3Dソリッド面や、3D面、幅広のポリライン、ポリゴンメッシュ等の塗り潰された図形にどのようにマッピングするか調整できます。

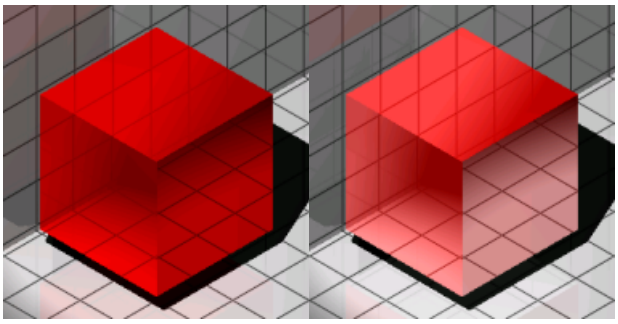
マテリアル定義は図面に保存されます。各図面には**グローバル**マテリアルが含まれています。これを削除したり名前を変更したりすることはできません。**グローバル**マテリアルのプロパティは編集できます。

17.5.1 マテリアル用語集

- **拡散色**：オブジェクトが純粋に直射的な白光の下で放つ色。物自体の色として認識。
- **間接色**：直射光ではなく間接照明の下での陰の中にあるオブジェクトの色。

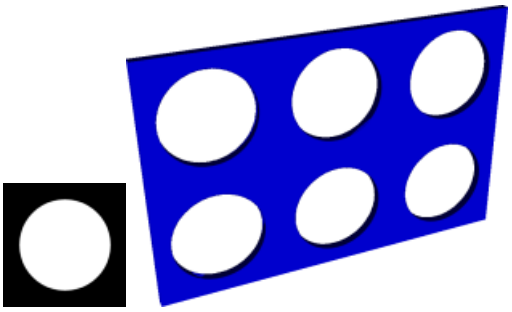


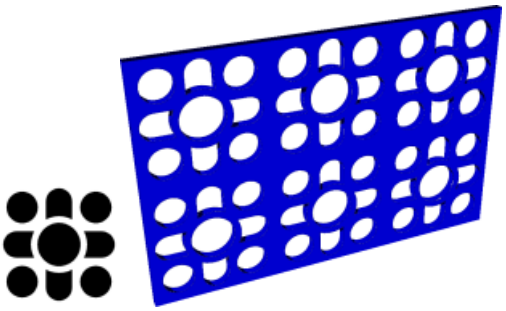
- **ハイライト**：素材の色を高度に投影するハイライト。



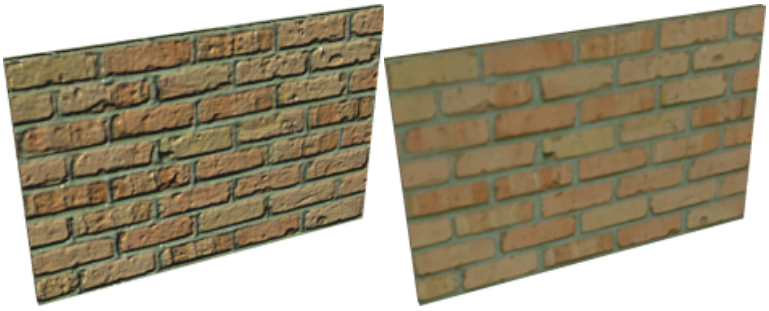
メタリック ハイライト(左)と非メタリック ハイライト(右)

- **シェーディング**：照明で表面の色と輝きがどのように変わるかを示します。
- **テクスチャーマッピング**： 3次元モデル本体には含まれない詳細を表面に加えます。
- **拡散マップ**：構造またはパターンを表面に追加して素材をシミュレーションします。
- **透明マップ**：0%（黒）から100%（白）までの間でテクスチャーの透明度を設定します（グレイスケール）。（黒=透過性マップ）





- **バンプマップ**：表面上の特定の粗さまたは凹凸をシミュレーションします。(左=バンプマップ)



- **反射**：光を反射するサーフェスのプロパティ。
- **透過性**：ソリッドオブジェクトを通過した光のシャープ透過。
- **半透明**：ソリッドオブジェクトを通過した光の散乱透過。
- **屈折**：透明な物体を通過する際の光の曲がり具合。
- **自己イルミネーション**：表面自体が光を発しているように見えます。光は、他の物に投影されません。

17.5.2 レンダリングマテリアルの定義

MATERIALSコマンドをご参照ください。

17.5.3 図面にレンダリングマテリアルを追加する

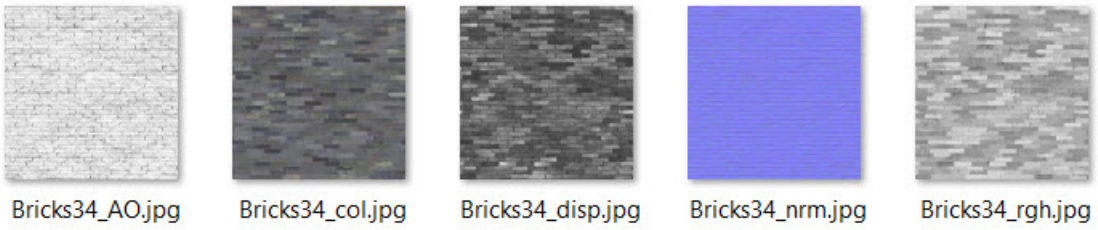
1 **レンダリングマテリアル**パネルからマテリアルを選択します。

2 右クリックして、**図面に追加**オプションを選択します。

17.5.4 独自のマテリアルを追加する

1 使用したいテクスチャーをダウンロードする

注：テクスチャーの写真をダウンロードすることもできますが、最もリアルなビューを得るためには、テクスチャーのさまざまな表現を提供するZIPファイルをダウンロードすることをお勧めします。



2 MATERIALSコマンドを起動します。

3 **図面エクスプローラ – マテリアル**ダイアログボックスが表示されます。

4 **新規**ボタンをクリックします。

5 新しいマテリアルの名前を付けます。

6 **拡散マップ**と**バンプマップ**を確認します。

7 テクスチャーの色付き画像への拡張マップ(…)のパスを編集します。

8 バンプマップのパス(…)をテクスチャーの法線画像に合わせて編集します。

これにより、レンダリング素材がより立体的でリアルなものになります。

9 プレビューでリアルな画像が表示されるまで、画像の尺度を編集します。

10 テクスチャーの尺度は、画像の全幅をカバーする描画単位の数を表しています。

11 新しいマテリアルを右クリックし、コンテキストメニューから**マテリアルをライブラリへ追加**を選択します。

12 **図面エクスプローラ**のダイアログボックスを閉じます。

13 **レンダリングマテリアル**パネルを開き、**User Defined**フォルダーをクリックします。

ライブラリのこのフォルダーに新しいマテリアルがあります。

このフォルダーは以下のパスで自動的に生成されます。C:¥ProgramData¥Bricsys¥RenderMaterials¥UserMaterials¥User defined

17.5.5 レッドウェイマテリアルライブラリの追加

レッドウェイマテリアルライブラリの追加に関する記事を参照してください。

17.5.6 レンダリングマテリアルの割り当て

マテリアルは、画層や図形、サブ図形に割り当てることができます。図形の**マテリアル**プロパティが**ByLayer**の場合、図形の画層に割り当てられているマテリアルが使用されます。

デフォルトでは、新しい図形のマテリアル設定は**ByLayer**になります。

17.5.7 図形にレンダリングマテリアルを割り当てる

現在の表示スタイルが**BIM**、**モデリング**、**リアリスティック**、**X線**の場合、図形とサブ図形はそのマテリアルを使ってレンダリングされます。

方法1：プロパティパネルを使い、以下の手順を行います。

1 図形またはサブ図形を選択します。(面、ソリッドなど)

2 **3D画像** > **マテリアル**で、下向き矢印をクリックし、**マテリアル**リストからマテリアルを選択します。

注：図面上の素材は、入手可能なもののみです。

方法2：レンダリングマテリアルパネルを使い、以下の手順を行います。

1 マテリアルを選択すると、MATERIALASSIGNコマンドが起動します。

1 カーソルが絵筆に変わります。

プロンプト表示: マテリアルを割り当てるオブジェクトを選択:

2 マテリアルを割り当てる図形またはサブ図形をクリックします。

3 (オプション)別のマテリアルを選択し、さらに図形またはサブ図形をクリックします。

4 (オプション)**Alt**キーを押しながら操作します。

カーソルがスポイトに変わります。

プロンプト表示：オブジェクトからマテリアルを選択：

マテリアルのコピー元となる図形またはサブ図形をクリックし、次にマテリアルの割り当て先となる図形またはサブ図形をクリックします。

注：**ホットキーアシスタント**が画面下部に表示され、現在の選択モードとして**3Dソリッド**または**3Dソリッドフェース**が示されます。**Ctrl**キーを押しながら操作すると、選択モードが反転します。

セレクションセットにマテリアルを割り当てるには

1 図形を選択します。

2 **レンダリングマテリアル**パネルからマテリアルを選択します。

3 マテリアルをクリックします。

4 マテリアルは、選択範囲内のすべての図形またはサブ図形に割り当てられます。

17.5.8 マテリアルを画層に割付け

1 **画層**パネルまたは**図面エクスプローラ - 画層**ダイアログボックスで、画層の**マテリアル**欄を選択します。

2 下矢印をクリックし、リストからマテリアルを選択します。

3 図面上の素材は、入手可能なもののみです。

17.5.9 レンダリングマテリアルの削除

グローバルマテリアルを割り当てると、図形やサブ図形からレンダリングマテリアルが削除されます。

1 図形やサブ図形を選択します。

2 **プロパティ**パネルで**3D画像/マテリアル**フィールドを選択し、**Global**を選択します。

注：**レンダリングマテリアル**パネルで**マテリアルを削除**タイルをクリックすると、**マテリアル**プロパティが**ByLayer**に設定されます。

17.6 レッドウェイマテリアルライブラリの追加

RENDERMATERIALSPATHでリンクされているフォルダー内のマテリアルが**レンダリング**マテリアルパネルに表示されます。**レッドウェイマテリアルライブラリ**を追加するには、以下の手順を行います。

1 ダウンロード：

1 - 完全な**レッドウェイマテリアルライブラリ**を??から入手可能です
  - **AmbientCG**を使用したマテリアルを??から入手可能です

2 ダウンロードしたファイルを解凍し、フォルダーのパスをコピーします。パスの末尾を以下の通りにします。

3 - ...¥all_redway_materials
  - ...¥AmbientCG

4 **レンダリングマテリアル**パネルで、ハンバーガーメニュー(⋮)をクリックします。

5 メニューの**ライブラリを管理**を選択します。

RENDERMATERIALSPATHシステム変数が選択された状態で、**設定**ダイアログボックスが表示されます。

6 ブラウズボタン(…)をクリックします。

パスリストダイアログボックスが表示されます。

7 **パスを追加**ボタンをクリックします。

空のパスフィールドが追加されます。

8 以下のいずれかの操作を行います：

- 空のパス欄に、コピーしたパスを貼り付けます。
- 参照ボタン(…)をクリックして、**フォルダーを選択**ダイアログボックスでフォルダーを選択します。

ダウンロードしたマテリアルが**レンダリングマテリアル**パネルに表示されます。

17.7 光源

光源は、閲覧者にリアルな場面だと感じさせる重要な要素です。

17.7.1 光源用語集

- **アンビエントライト**：不特定の光源からの光。
- **遠方光**：限りなく遠い光源からの光です。これにより、場面全体が同じ方向から照らされることになります。
- **減衰**：光源から離れるほどに明るさが減衰する、または減少すること。
- **点光源**：中央から全方向に伸びる光。
- **スポットライト**：特定のエリアに向けられる光。
- **配光光源**：光の強さを3次元的に表現することで、現実の光の分布を近似しています。LIGHTINGUNITSシステム変数が1(アメリカの照明単位)または2(国際照明単位)に設定されている場合のみ、配光光源を作成することができます。
- **減衰**：光源から離れるほど明るさが落ちます。

17.7.2 システム変数

LIGHTINGUNITS (照明単位)：

- 0：汎用照明 - このオプションは廃止され、設定できなくなりましたが、古い図面で使用されている可能性があります。
- 1：米国単位 (foot-candles) を使用したフォトメトリックライトを可能にします。
- 2：国際単位 (lux) を使用したフォトメトリックライトを使用可能にします

DEFAULTLIGHTING (デフォルトの照明)：ビュー方向の遠距離光源です。ビューポートごとに個別に設定できます。

- 0：他のライトがオンになっていない場合にデフォルトの照明を使用します。
- 1：図面内で定義された光源の代わりにデフォルトの照明を使用します。

LINEARCONTRAST(コントラスト)：アンビエント光源強度の尺度係数を指定します。設定できる値は-10 ～ 10です。設定値を -10にするとアンビエント光源強度が最大になり、10を指定するとアンビエント光源強度なしになります。

LINEARBRIGHTNESS (輝度)：光源強度の尺度係数を指定します。設定できる値は -10 ～ 10 です。デフォルト値は0 (ノンスケール) です。負値を指定すると光強度が弱くなり、正値を指定すると光強度が強くなります。ビューポートごとに個別に設定できます。

LIGHTGLYPHDISPLAY (光源グリフの表示)：光源グリフの表示をコントロールします。

FBXEXPORTLIGHTS (Fbx 書き出し光源)：モデル空間から光源を書き出すかどうかを指定します。

17.7.3 一般的なプロパティ

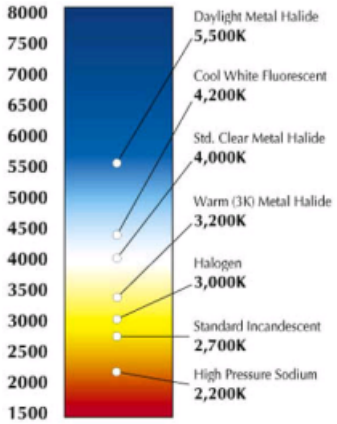
一般的なプロパティはすべての光源で共通です。

- **名前**：光源の名前を指定します。
- **種類**：光源の種類 (スポット、点、ウェブ、距離) を定義します。
- **オン/オフ**：光源をオンにするかオフにするか指定します。
- **影**：光で影ができるかどうか指定します。パフォーマンスを向上したい場合は、影をオフにしてください。
- **強度係数**：**光度**プロパティを倍数で大きくします。値を変更すると、**光度**の表示が更新されます。
- **フィルター色**：光源の色を定義します。
- **浮彫印刷**：オンにすると、光源グリフが印刷されます。
- **浮彫表示**：光源記号の表示をコントロールします。

17.7.4 フォトメトリックプロパティ

LIGHTINGUNITS = 1 (米国単位)または2(国際単位)

- **光度**：光源の輝度を定義します。光度は、国際単位系(SI)に基づく光度単位カンデラ(cd)で表されます。これは、光源の特定方向への出力を光度関数(さまざまな波長に対するヒトの目の感度の標準モデルであり、比視感度とも言います)で重み付けしています。
- **結果の光度**：光度に強度係数を掛けた結果です。
- **光の色**：光源の色、色温度 (単位 ケルビン[K])、または標準を定義します。

<table>
<tr>
<td> 
</td>
<td>D65White
Fluorescent
Cool White
White Fluorescent
Daylight Fluorescent
Incandescent
Xenon
Halogen
Quartz
Metal Halide
Mercury
Phosphor Mercury
High Pressure Sodium
Low Pressure Sodium</td>
</tr>
<tr>
<td>色温度</td>
<td>光の色一覧</td>
</tr>
</table>

- **結果の色**：光の色とフィルター色を組み合わせた、最終的な光源色です。

- **フォトメトリック配光**：光源の種類を**配光**にした場合、**フォトメトリック配光**と**配光オフセット**プロパティが表示されます。(未実装)

17.7.5 形状プロパティ

- **位置**：光源の位置をコントロールします。
- **目標**：点光源、スポットライトとウェブライトの対象位置を定義します。
- **対象**：**目標**プロパティのオン/オフを切り替えます。

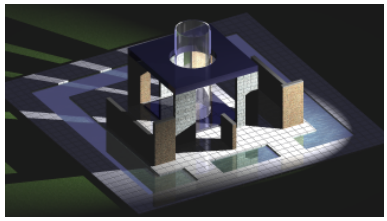
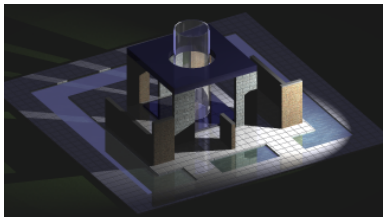
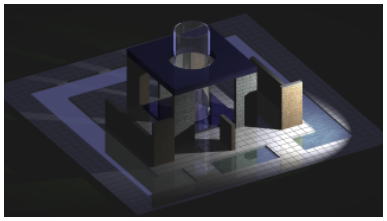
17.7.6 減衰プロパティ

現実の世界では、オブジェクトは光源から遠く離れるほどより暗く見えます。減衰プロパティは、光が距離によってどのように減少するか指定します。減衰は、フォトメトリックの光源にあてはまりません。

光源が輝く距離をコントロールする代替方式は範囲を使用します。つまり光源の始点と終点を指定します。範囲を使用すると、シーンの照明を計算するのに必要な時間を減らせます。

減衰プロパティはスポットライトとポイントライトに適用されます。

- **種類**：
  - **なし**：減衰なし。光源までの距離は影響を与えません。
  - **逆線形比例**：減衰は、光源からの線形距離の逆数です。つまり、光源から2単位離れた場所の光の強さは1/2、4単位離れた場所の光の強さは1/4になります。
  - **逆2乗比例**：減衰は、光源からの距離の2乗の逆数です。つまり2単位離れた場所の光の強さは1/4、4単位離れた場所の光の強さは1/16になります。
- **図面範囲**：このプロパティを「はい」に設定すると、**開始範囲オフセット**と**終了範囲オフセット**欄が有効になります。
  - **開始範囲オフセット**：光源の中心から見て、光の始点を定義します。
  - **終了範囲オフセット**：光源の中心から見て、光の終点を定義します。

減衰なし	逆比例減衰	逆2乗比例減衰
		

注：

- **減衰**プロパティは、汎用照明のみに適用されます。(LIGHTINGUNITS = 0)
- 逆2乗比例減衰は、フォトメトリックライトに自動的に適用されます。(LIGHTINGUNITS = 1 または 2)

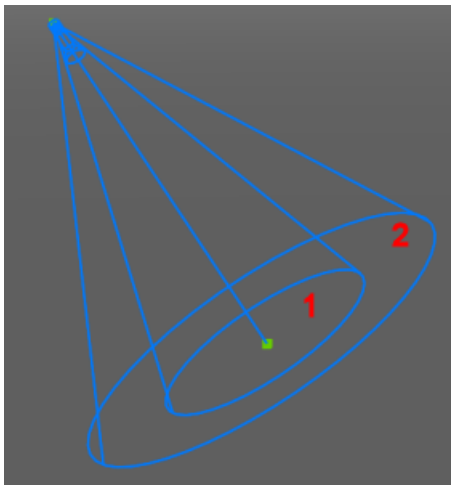
17.7.7 レンダリングされた影の詳細

- 種類：影の種類を設定します。
  - シャープ(レイトレーシング)：シャープなエッジの影になります。

- シャドウマップ(未対応、シャープ使用)：非対応
- マップサイズ：影を計算するためのメモリ容量を指定します。マップサイズ欄をクリックし、ドロップダウンリストから値を選択します。(64/128/256/512/1024/2048/4096)
- ソフトネス：影マップのソフトネス値を設定します。1 ～ 10の範囲で値を入力します。
- ソフト(サンプル)：ソフトなエッジを持つリアルな影を生成します。
- サンプル：影のサンプリングサイズを設定します。
- レンダリング内で表示：レンダリング時の可視性を切り替えます。
- 形状：影の形状を設定します(線形、矩形、ディスク、円柱、球体)の4種類です。

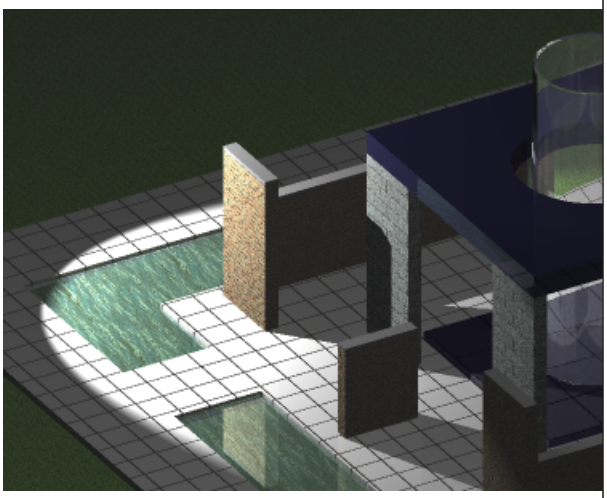
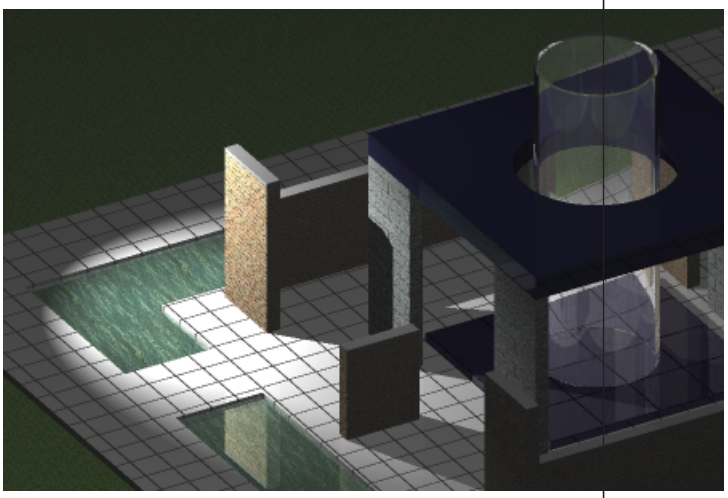
17.7.8 スポットライト：ホットスポットとフォールオフのプロパティ

スポットライトでサーフェスを照らすと、照明が最大になる部分(ホットスポット = 1)ができ、その周囲に光度が弱くなる部分ができます(フォールオフ = 2)。



ホットスポット角度：中心の光円錐の角度 (ホットスポットを定義する)

フォールオフ角度：全光円錐の角度

ホットスポット角度 = 55、フォールオフ角度 = 60	ホットスポット角度 = 30、フォールオフ角度 = 60
	

ホットスポット角度とフォールオフ角度の差は、光度を弱くする部分を定義します。

フォールオフ角度とホットスポット角度がほぼ等しい場合、光円錐のエッジは若干シャープになります(左図)。

2つの角度の差が大きくなるほど、光円錐のエッジがソフトになります(右図)。

17.7.9 光源の管理

LIGHTLISTコマンドを実行すると、**図面エクスプローラ** > **光源**ダイアログボックスが開きます。

ここでは以下のことができます：

- 新しい光源の作成
- 光源削除
- 図面の光源を選択
- 光源のオン/オフを切り替える

17.7.10 光源の作成

1 以下のいずれかの操作を行います：

1 - LIGHTコマンドを起動します。

- **図面エクスプローラ** > **光源**ダイアログボックスで新規( )ボタンをクリックします。
  プロンプト表示：光源種類を入力 [点 (P)/スポット (S)/ウェブ (W)/距離 (D)]: <スポット>:
  光源の種類を指定します。
- **光源**ツールバーのツールボタン、または**表示**もしくは**視覚化**リボンタブをクリックします。

- ：スポットライト
- ：ポイントライト
- ：ディスタントライト

- ：ウェブライト

プロンプト表示：元の位置を指定<0,0,0>:

2 図面で1点を指定します。

3 **プロンプト表示**：対象の位置を指示<0,0,-10>:

4 図面で1点を指定します。

5 **プロンプト表示**：変更するオプションを入力 [名前 (N)/光度係数 (I)/ステータス (S)/測光 (P)/温点 (H)/低下 (F)/影 (W)/減衰 (A)/フィルター色 (C)/終了 (X)] <終了 (X)>:

6 光源のプロパティを指定します。

7 **終了**を選択してコマンドを終了し、光源を作成します。

LIGHTGLYPHDISPLAY = オンの場合、モデルに光のグリフが表示されます。

注 : LIGHTINGUNITS = 0 (ライティング単位なし) の場合、ウェブライトを定義することはできません。

17.7.11 光源の編集

光源は**プロパティ**パネルで編集できます。

1 以下のいずれかの方法で、図面上の光源を選択します。

- 光源のグリフをクリックします。
- **図面エクスプローラ** > **光源**で光源を選択し、右クリックしてコンテキストメニューから図面の**光源を選択**を選択します。

選択した光源のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 プロパティを編集します。

3 Escを押して終了します。

17.7.12 太陽のプロパティの定義

1 SUNPROPERTIESコマンドを起動します。

1 **図面エクスプローラ** > **光源**ダイアログボックスが表示され、太陽プロパティが**編集**パネルに表示されます。

2 プロパティを編集します。

注 : LIGHTINGUNITSを1または2に設定している場合、**色**プロパティを編集することはできません。

17.7.13 地理的な場所の定義

1 GEOGRAPHICLOCATIONコマンドを起動します。

1 **地理的位置**ダイアログボックスが開きます。

2 (オプション)**図面内の地理的位置情報を保存**オプションを選択します。

3 (オプション)**地図グリッド座標系を使用**オプションを選択します。

4 以下のいずれかの操作を行います：

5 - **緯度** と **経度** 欄に位置の緯度と経度を入力し、それぞれの設定に適切な範囲を選択します。

- **場所を選択..**ボタンをクリックし、都市とタイムゾーンを選択して**OK**ボタンをクリックします。

6 (オプション) 前のステップでタイムゾーンを選択しなかった場合は、**タイムゾーン**一覧から選択します。

7 (オプション) **対応する座標 - 図面内の位置**を指定します。

8 北方向を定義します。

9 **OK**ボタンをクリックします。

17.8 レンダリング画像の作成

レンダリング後のイメージは現在のビューポートの別ウィンドウに表示されます。また、ファイルに書き出すこともできます。

現在の名前を付けたビューの背景プロパティで、レンダリング後のビューの背景をコントロールすることができます。

ANTIALIASRENDERレンダリングの間適用されるアンチエイリアシング処理(エッジスムージング)はシステム変数で制御します。初期設定は1で、最大値は5です。

注 :

- アンチエイリアシングを高値に設定すると、計算コストが高くなります。
- 照明システム変数の値はレンダリング結果に影響を与えます。

17.8.1 ビューポートのレンダリング

1 RENDERコマンド()を起動します。

レンダリングダイアログボックスが表示されます。

2 **ビューポート**オプションを選択します。

3 **OK**ボタンをクリックします。

ビューがレンダリングされます。

17.8.2 ウィンドウでのレンダリング

1 RENDERコマンド()を起動します。

レンダリングダイアログボックスが表示されます。

2 **窓**オプションを選択します。

3 **OK**ボタンをクリックします。

ビューは、ポップアップウィンドウにレンダリングされます。

17.8.3 レンダリングをファイルに保存する

1 RENDERコマンド()を起動します。

レンダリングダイアログボックスが表示されます。

2 **ファイル**オプションをクリックします。

3 **参照**ボタン()をクリックします (**ファイル**フィールド右側)。**レンダリング出力ファイル**ダイアログボックスが表示されます。

4 フォルダーを選択し、**ファイル名**欄に出力ファイルの名前を入力します。

5 **ファイルの種類**プルダウンをクリックして、ファイルの種類を選択します。

オプションは**bmp**、**jpg**、**png**です。

6 **OK**ボタンをクリックします。

レンダリング出力ファイルダイアログボックスが閉じます。

7 以下のいずれかの操作を行います：

- **幅**と**高さ**欄に出力サイズの解像度を入力します。
- 最大サイズを現在のビューポートのサイズと同じに設定する場合は、**ビューポートサイズと同じ**オプションを選択します。

8 **OK**ボタンをクリックしてファイルを作成します。

18. コラボレーション

18.1 ハイパーリンクの使用

18.1.1 概要

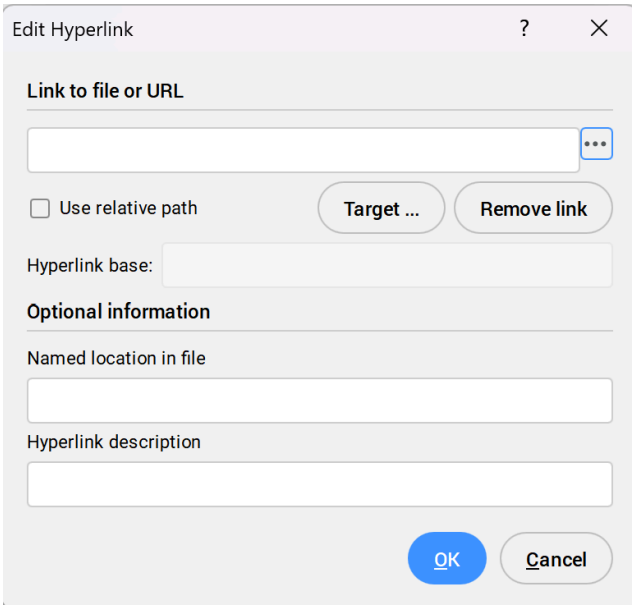
ハイパーリンクを使用すると、さまざまな種類のファイルやWebページを図面内の図形に関連付けることができます。

HYPERLINKコマンドを使い、**ハイパーリンクの編集**ダイアログボックスからハイパーリンクの追加や編集を行えます。ハイパーリンクには、フルパスまたは相対パスを設定することができます。

- **完全ハイパーリンク**: ファイルの場所へのフルパスが含まれます。
- **相対ハイパーリンク**: ファイルの場所への部分的なパスが含まれます。

18.1.2 DWGへのハイパーリンクの追加と編集

1 HYPERLINKコマンドを実行して、**ハイパーリンクの編集**ダイアログボックスを開きます。



2 ファイルへのリンクまたはWebページへのURLを追加できます。

3 **ファイルへのリンクの追加**

- **参照**ボタン(…)をクリックして、**ファイルを選択**ダイアログボックスを開きます。
- ファイルを選択し、**開く**をクリックして**ファイル、または、URLへのリンク**フィールドにリンクを追加します。

WebページへのURLの追加
ファイル、または、URLへのリンクフィールドにWebページのURLを入力します。

注：アタッチされたハイパーリンクを削除するには、**リンクを削除**ボタンをクリックします。

18.1.3 相対パスの使用

ファイル、または、URLへのリンクフィールドに入力すると、パスの一部 (ディスクを含む) を手動で削除して相対パスにすることができます。

注：

- ファイルパスを短縮すると、**ハイパーリンクの編集**ダイアログボックスの**相対パスを使用**オプションに自動的にチェックが入ります。
- 相対パスは、ファイルパスにのみ適用されます。Webページには適用されません。

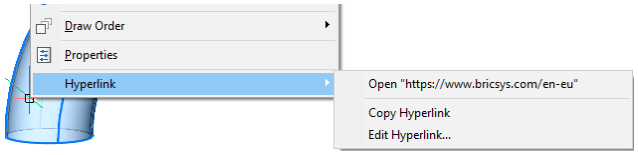
HYPERLINKBASEシステム変数を使い、図面内のすべての相対ハイパーリンクに使用するパスを指定できます。

注：相対パスでリンクされるすべてのファイルで、HYPERLINKBASEシステム変数に対してファイルまたはディレクトリの場所が同じである必要があります。

18.1.4 図形にアタッチしたハイパーリンクの表示/アクセス

ハイパーリンクを表示またはハイパーリンクにアクセスするには、以下のいずれかの方法で行います。

- **コンテキストメニューからハイパーリンクにアクセスする**
  コンテキストメニューを開き、**ハイパーリンク**オプションを展開します。



注：

- コンテキストメニューは、システム変数SHORTCUTMENUが4に設定されている場合に表示されます。
- ショートカットメニューで**ハイパーリンク**オプションを表示するには、HYPERLINKOPTIONSコマンドを有効にする必要があります。このコマンドでは、ENABLEHYPERLINKMENUシステム変数とENABLEHYPERLINKTOOLTIPシステム変数が同時にオンに設定されます。

ハイパーリンク
図形に関連付けられたファイルまたはWebページを開きます。

ハイパーリンクをコピー
ハイパーリンクをクリップボードにコピーします。

注：Ctrl + Vショートカットまたは PASTECLIPコマンドを使い、ハイパーリンクを図面や他のドキュメントに貼り付けることができます。

ハイパーリンクの編集
ハイパーリンクの編集ダイアログボックスが開きます。

- **プロパティパネルからハイパーリンクにアクセスする**
  図形を選択し、**プロパティ**パネルに移動します。**ハイパーリンク**フィールドでハイパーリンクをダブルクリックして開きます。

注：参照ボタン(…)をクリックして、**ハイパーリンクの編集**ダイアログボックスにアクセスします。

19. ユーザーフィードバック

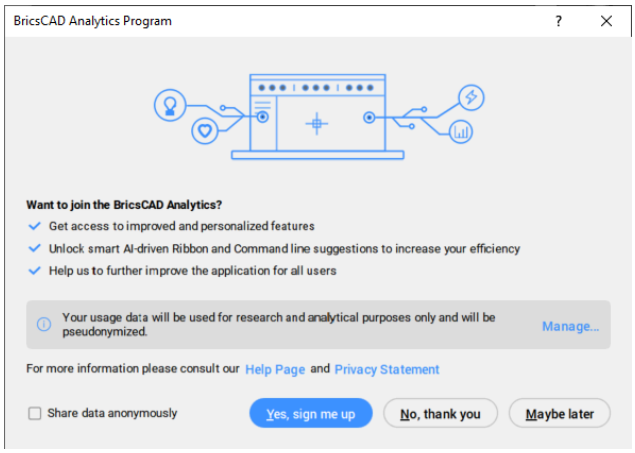
19.1 BricsCAD Analyticsプログラム

BricsCAD Analyticsプログラムのプロセスでは、匿名化された診断および使用データをユーザーがBricsysに送信することにより、BricsCADの改善に協力することができます。Bricsysエンドユーザ使用許諾契約書(EULA)により、トライアル期間中、匿名のアプリケーションデータの共有がデフォルトで**オン**であることがユーザに通知されます。トライアル期間中、BricsCAD**ランチャ**は、**BricsCAD Analytics**と匿名アプリケーションデータのBricsysとの共有に関する追加データをユーザに提示します。ユーザーは、トライアル期間中いつでも**Analytics設定**に移動して設定を変更したり、Bricsysとのデータ共有を停止することができます。無料トライアルが終了した後、有効なライセンスキーでBricsCADライセンスがアクティベートされた場合、ユーザにはプログラムが再通知され、インストールが匿名のアプリケーションデータをBricsysと共有していることが通知されます。ライセンスを取得したユーザーは、**BricsCAD Analyticsプログラム**に参加することや、使用状況データをBricsysと共有しないことを明示的に選択できます。お客様はいつでも同意を取り消し、当社のデータベースからデータを削除するよう決定することができます。可能であれば、Bricsysは更新されたAIモデルをユーザーに送信できます。

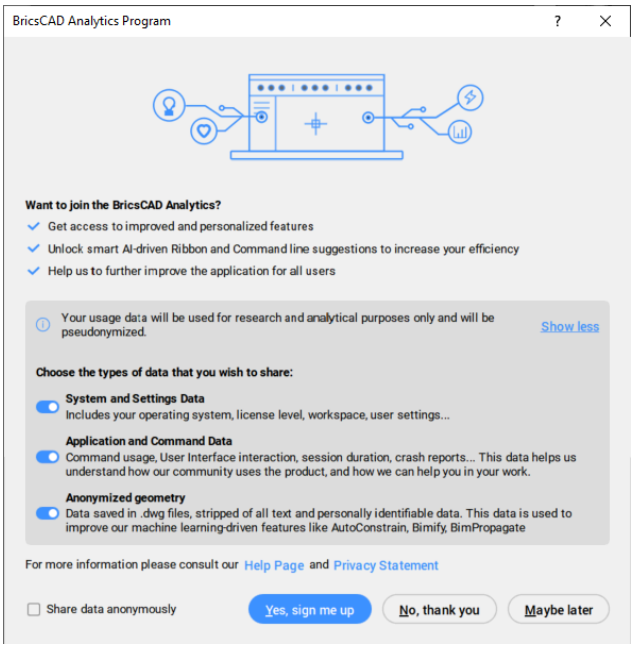
データを転送するとき

- 固有の匿名IDを使用します。
- 以下のデータや情報が削除されます。
  - すべての個人的なプロジェクト情報
  - すべてのテキストとリーダー
  - **設定**ダイアログに保存されているすべての情報

2 回目のBricsCAD の起動時、または**AI予測**リボンタブの**サインアップ**ボタンを押すと、Analyticsプログラムへの参加を尋ねるダイアログボックスが表示されます。



管理...ボタンをクリックすると共有するデータの種類を選択できます

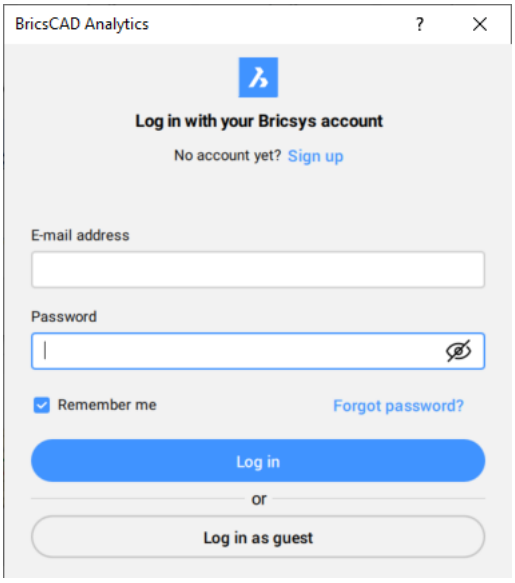


いいえ、結構ですを選択すると、**BricsCAD Analyticsプログラム**はオフになります**後で**を選択した場合や、ダイアログボックスを閉じている場合は、次回にBricsCADを開いたときにダイアログボックスが再び表示されます。

匿名でデータを共有チェックボックスをオンにして**はい、参加します**を押すと、ゲストとしてログインします。

匿名でデータを共有にチェックを入れていない場合、**はい、参加します**をクリックして同意すると、**BricsCAD Analytics**ダイアログボックスが開くので、Bricsysアカウントでサインインします。

注：すべてのデータ共有オプションが無効になっている場合、**BricsCAD Analyticsプログラム**にサインアップすることはできません。



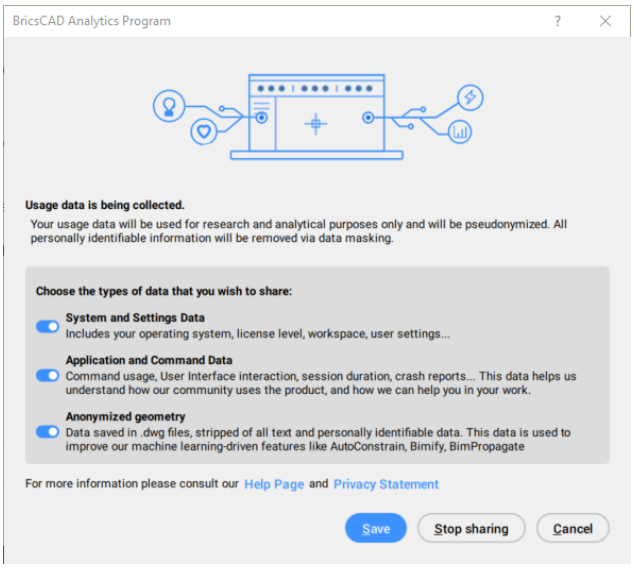
ログインするには、メールアドレスとパスワードを入力し、**ログイン**をクリックする必要があります**記憶します**チェックボックスにチェックを入れると、BricsCADを起動するたびに自動的にサインインします。間違った認証情報を入力すると通知が表示さ

れ、**ログイン**ダイアログボックスは開いたままになります。ログインに成功すると、これがダイアログボックスに表示され、自動的に閉じます。

アカウントをお持ちでなく、アカウントの作成を希望される場合は、**サインアップ**を選択してください。

ログインを希望しない場合は、**ゲストとしてログイン**をクリックすることで、ゲストとしてログインすることもできます。

ログイン状態で、**AI予測**リボンタブにある**Analytics設定**ボタンをクリックすると、**BricsCAD Analyticsプログラム**が開きます：



保存を選択することで、**BricsCAD Analyticsプログラム**は選択したデータを収集します。

共有を停止を選択すると、**BricsCAD Analyticsプログラム**はオフになります。

キャンセルを選択すると、**BricsCAD Analyticsプログラム**ダイアログボックスが閉じます。

お客様の契約状況は、下表のようにデータコレクションシステムの変数に保存されます。

値	状態	結果
-2	尋ねられない	BricsCADを終了すると、値は[-1] Not Setになります。
-1	設定しない	BricsCADを再起動すると、**BricsCAD Analyticsプログラム**ダイアログが表示され、参加を求められます。
0	オフ	診断および使用データ収集プロセスがオフになります。

値	状態	結果
1	オン	診断および使用データ収集プロセスがオンになっています。 データは、お客様がログインしているときにのみ転送されます。 データの転送を一時的に停止するには、**ファイル**メニューの**ログアウト...**を選択するか、-LOGOUTコマンドを起動します。 データの転送を再開するには、**ファイル**メニューの**ログイン...**を選択するか、-LOGINコマンドを起動してください。

19.1.1 プロセスの停止

1 **設定**ダイアログボックスの**ユーザ設定**で、DATACOLLECTIONを**[0]オフ**に設定します。

2 BricsCADを終了し、再起動します。

19.1.2 プロセスの再起動

1 **設定**ダイアログボックスの**ユーザ設定**で、DATACOLLECTIONを**[-1] 未設定**に設定します。

2 BricsCADを終了し、再起動します。

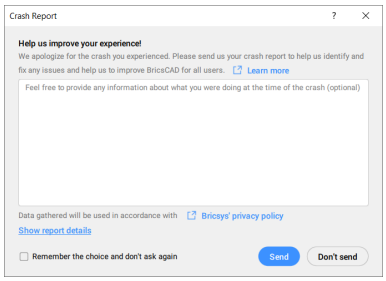
3 **管理...**をクリックし、共有するデータの種類を選択します。**はい、参加します**ボタンを押し、Bricsysアカウントでログインします。

19.1.3 データベースからお客様のデータを削除する

同意を撤回し、お客様のデータを当社のデータベースから削除するには、????????????し、BricsCADの下にある**データ収集**のカテゴリーを選択してください。

19.2 クラッシュレポートを使用したクラッシュレポートの送信

BricsCAD Analyticsの一部であるユーザのクラッシュレポートデータの自動共有に加え、BricsCADではクラッシュ情報を手動で送信することもできます。この設定は、**クラッシュレポート**ダイアログボックスで行えます。



クラッシュ後の最初のアプリケーション起動時に、**クラッシュレポート**ダイアログボックスが自動的に表示されます。ここから、**レポートの詳細を表示**をクリックして、クラッシュレポートの詳細を確認できます。**クラッシュレポートダイアログボックス**に関する記事を参照してください。

最新のクラッシュのレポートを送信するか、送信しないかのボタンが用意されています。

送信オプションでは、クラッシュレポートファイル、オペレーティングシステム、クラッシュ時のRAM使用量、クラッシュの一意の識別子、クラッシュ時のアプリケーションの稼働時間が送信されます。必要に応じて、クラッシュのコンテキストについてなどの 詳細情報を提供できます。

- 問題が発生したときの操作。
- 使用していたドキュメントの種類。
- **セーフモード**の効果について説明します(**起動オプション**に関する記事を参照)。

  注：**セーフモード**で実行しているときに問題が解決した場合、通常モードに切り替えて、プラグインとカスタマイズを無効にするかアンインストールすると、原因を絞り込みやすくなります。

- 問題を再現するための手順。
- **注**：反復可能なシナリオとは、明確に定義された開始コンテキストとともに、段階的な手順を提供することを意味します。一般的に、シナリオの再現性を高めるためには、環境をできるだけ標準的なものにするのがベストです。これは単純化と消去のプロセスです。可能であれば、シナリオは、デフォルトのBricsCADユーザプロファイル、新しい図面、サードパーティのプラグインやユーザカスタマイズ不使用、およびデフォルトのCUIファイルから開始する必要があります。

選択を記憶し、再度の表示はしないチェックボックスをオフにすると、クラッシュの発生後に**クラッシュレポート**ダイアログボックスが再び表示されます。チェックを入れると、このダイアログボックスは常に表示されなくなり、**送信**を押すと送信設定が自動送信に設定され、**送信しない**を押すと送信しない設定になります。

選択内容は、CRASHREPORTSENDINGシステム変数に保存されます。この値は、コマンドラインまたは**設定**ダイアログでいつでも変更できます。

注：クラッシュレポートの手動送信は、データ収集管理者のオーバーライドによって抑制できます。詳細については、**BricsCAD Analyticsプログラム**および**DATACOLLECTIONENABLEDシステム変数**の記事を参照してください。

注：**クラッシュレポート**ダイアログボックスは、**BricsCAD Analyticsプログラム**の参加ユーザには表示されません。この場合、**BricsCAD Analyticsプログラム**ダイアログボックスで**アプリケーションデータとコマンドデータ**共有オプションを有効にしておくと、クラッシュレポートが自動的に送信されます。

19.3 AI予測

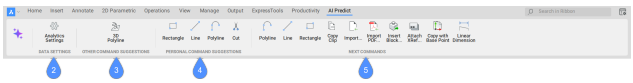
AI予測リボンには、各自の個人的なBricsCADの使用状況、および類似するユーザに基づく提案が表示されます。**AI予測**タブには、空の状態とコマンド表示状態という2つの状態があります。

AI予測リボンタブを追加または削除するには、このリボンタブをCUI ファイルに追加/削除します。

空の状態の**AI予測**タブ:

サインアップ
サインアップボタンをクリックすると、**BricsCAD Analyticsプログラム**ダイアログボックスが開きます。
入力された状態は、**BricsCAD Analyticsプログラム**にサインアップすると使用可能になります

コマンド表示状態の**AI予測** タブ:



Analytics設定
Analytics設定ボタンをクリックすると、**BricsCAD Analyticsプログラム**ダイアログボックスが開きます。

他のコマンドの提案
同様な関心を持つ他のユーザーが使用するコマンドを表示します。
ワークスペースと最初の使用日からのライセンスレベルに基づく一般的な提案が表示されます。

個人用コマンドの提案
使用された最も重要なコマンドを表示します。

注：パネルは、BricsCADの最初の使用日から、クワッド、コマンドライン、リボン、メニュー、ツールバーを使用したBricsCADとのインタラクションに基づくコマンドが表示状態になります。また、すべての人がすべてのモデルを利用できるわけではありません。カテゴリー化の方法によります。

次のコマンド
カレントコマンドの後にユーザーが使用できる予測コマンドを動的に表示します。

20. Express tools

20.1 Express toolsコマンドの概要

これは、エクスプレスツールを構成するすべてのコマンドの概要です。

21. はじめに

21.1 BIMモデルの作成

以下を実行します：

1 BricsCADを起動し、**BricsCADランチャー**でBIMワークスペースを選択します。このワークスペースでは、リボン、クワッド、ドッキング可能パネルなどで、すべてのBIM機能やBIM関連のリソースが使用できます。

2 「開始」ページで、**BIM**のテンプレートを選択します。

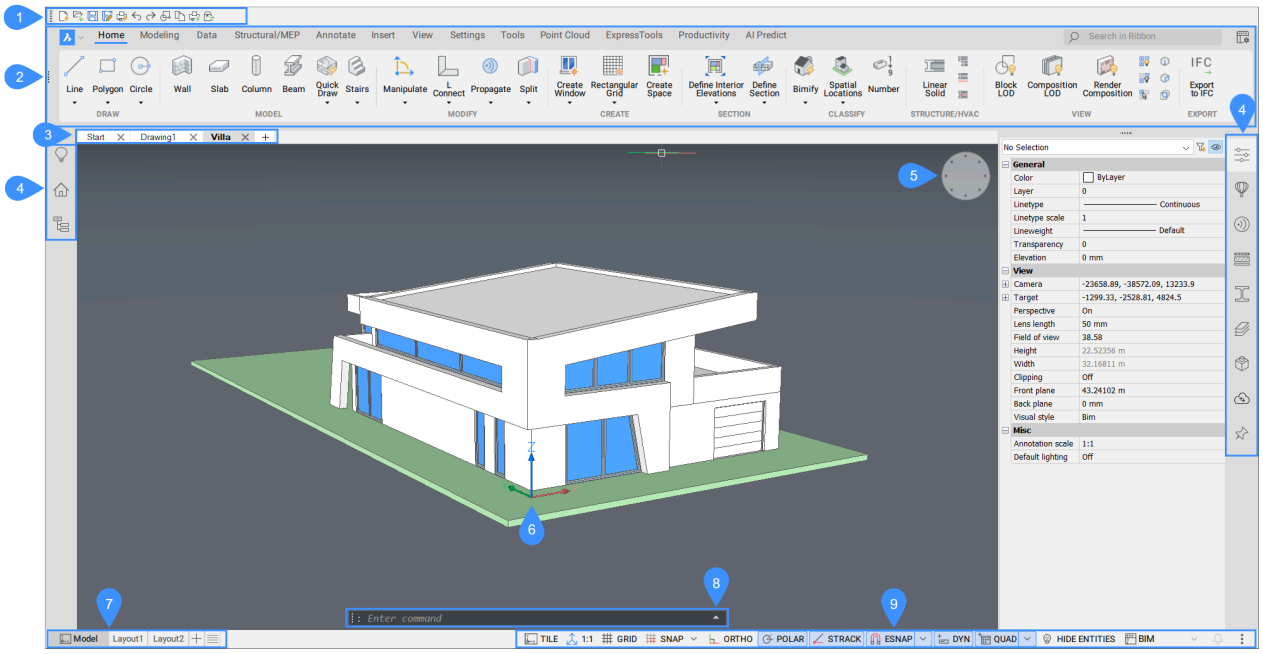
3 **新規図面**をクリックして、モデルを作成します。

21.2 BIMインターフェースについて

21.2.1 ユーザーインターフェース

BricsCAD BIMのインターフェースには、建築要素の作成と編集に必要なすべてのツール、コマンド、設定が含まれています。まずは建物要素を作成したり、図面を開いたり、建物モデルを読み込むことから始めましょう。

21.2.2 インターフェースの要素



1 ツールバー

2 BIMリボン

3 ドキュメントタブの操作

4 ツールパネル

5 Look Fromウィジェット

6 UCSアイコン

7 モデルタブとレイアウトタブ

8 コマンドライン

9 ステータスバー

21.2.3 ツールバー

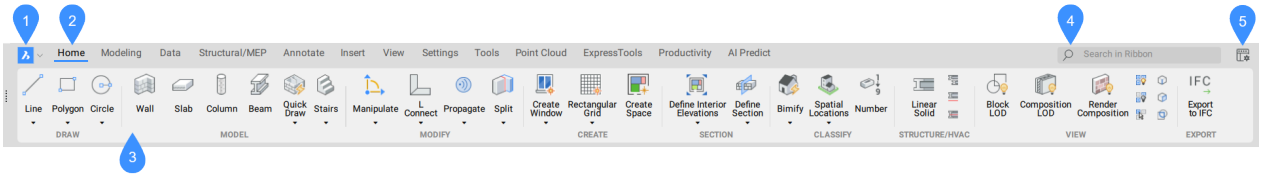
BricsCADのツールバーは、類似機能を集めたツールセットとして用意されています。各機能はアイコン付きで表示され、トピック別に分類されています。ツールバーは、すべてのコマンドカテゴリで使用できます。例えば、BIMツールバーはBricsCAD BIMで利用可能なツールセットの一つです。このツールバーには、モデリングで最もよく使用されるBIMツールが含まれています。既存のツールバーをカスタマイズすることも、独自のカスタムツールバーを作成することもできます。

デフォルトでは、画面上部に**アクセス(簡易)**ツールバーが表示されています。

注：さらにツールバーを開くには、右クリックして使用したい**ツールバー**を選択します。

21.2.4 BIMリボン

リボンは、複数のタブ(2)とその中にグループ分けされた各種タブパネル(3)から成ります。一つのタブパネルにはいくつかのコマンドボタンやフライアウトが格納されています。



注：リボンの内容は、現在のワークスペースによって異なります(**ワークスペースの編集**を参照してください)。

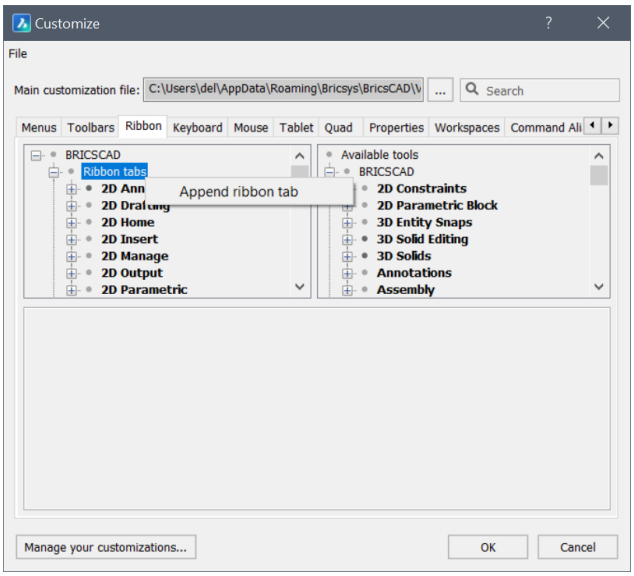
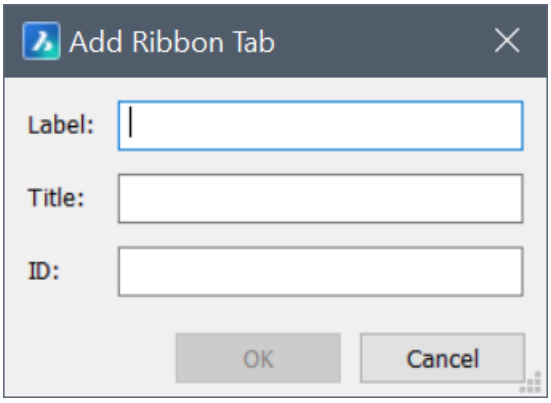
注：リボンを開くにはRIBBONコマンド、リボンを閉じるにはRIBBONCLOSEコマンドを使用します。

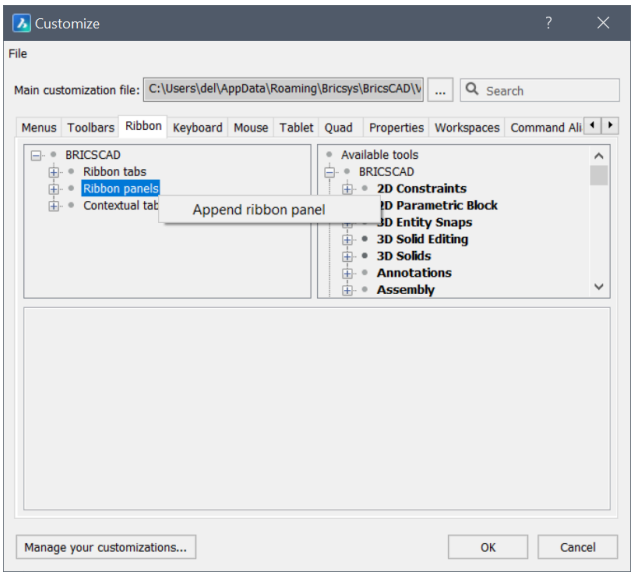
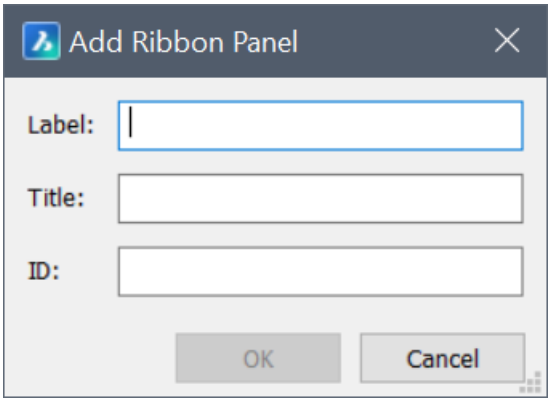
ファイルメニューボタン(1)をクリックすると、BricsCADの **ファイル**メニューオプションが表示されます。

検索バー(4)に文字列を入力すると、リボン内のツールを検索することができます。

リボンの右上にある**インターフェース設定**ボタンをクリックすると、**インターフェース設定**ダイアログボックスからインターフェースを簡単に変更できます(**インターフェース設定ダイアログボックス**の関連記事を参照してください)。

注：デフォルトのレイアウトは**クラシック**です。

リボンタブの作成	**カスタマイズ**ダイアログボックスを開いて(CUIコマンド)、**リボン**タブをクリックします。 **リボンタブ**グループを右クリックし、コンテキストメニューから**リボンタブを挿入**を選択します。  **リボンタブを追加**ダイアログの各欄に入力します：  **ラベル**：リボンタブのタイトルとして表示されます。 **タイトル**：ワークスペースにリボンタブを選択するときに、**リボンタブを選択**ダイアログで使用します。 **ID**：リボンタブを識別するための一意の名前です。
リボンタブの編集	**カスタマイズ**ダイアログボックスを開き、**リボン**タブをクリックします。 **リボンタブ**を展開して、各種タブを編集することができます。

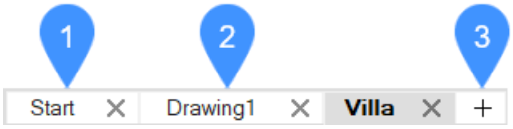
リボンパネルの作成	**カスタマイズ**ダイアログボックスを開き、**リボンパネル**をクリックします。 **リボンパネル**グループを右クリックし、コンテキストメニューから**リボンのパネルを追加**を選択します。  **リボンパネルを追加**ダイアログの欄を入力します：  **ラベル**：リボンパネルのキャプションです。 **タイトル**：リボンタブのパネルを選択するときに、**リボンパネルを選択**ダイアログで表示されます。 **ID**：リボンパネルを識別するための一意の名前です。
リボンパネルの編集	**カスタマイズ**ダイアログボックスを開き、**リボン**パネルをクリックします。 **リボンパネル**グループを展開すると、各パネルを編集できます。

21.2.5 ドキュメントタブの操作

ドキュメントタブで可能なこと：

- ドキュメントタブ(2)をクリックすると、開いている図面の切り替えが簡単にできます。
- ドラッグ＆ドロップでタブの表示順を変更できます。
- 閉じるには、タブの右側にある**X**アイコン(1)をクリックします。

- コンテキストメニューを表示するには、ドキュメントタブを右クリックします。
- 新しい図面を開くには、ドキュメントタブの最後にある+アイコン(2)をクリックします。
- **開始ページ**を表示するには、**開始**タブ(1)をクリックします。



21.2.6 ツールパネル

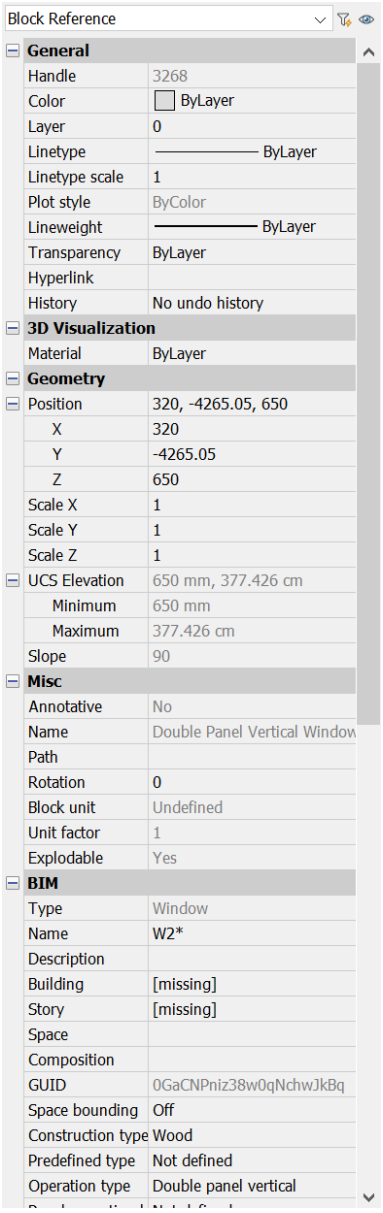
BricsCAD BIMでは、**ツール**パネルがワークスペースの両側に表示されます。**ツール**パネルは、BIMパネルで構成されています。BIMパネルはドッキング可能でかつ、移動可能です。ドラッグ＆ドロップを使用して、パネルを別のドッキングパネルに移動できます。

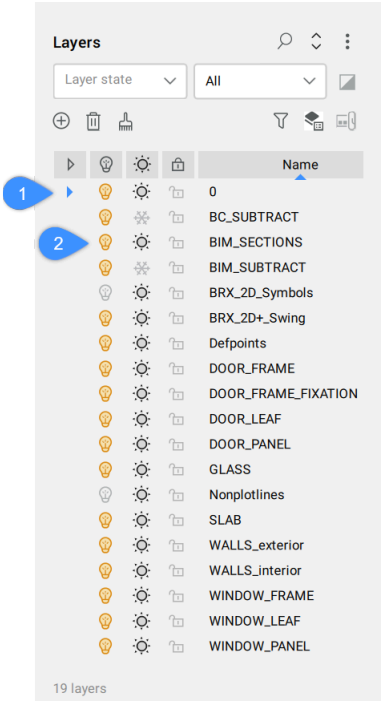
デフォルトでの**ツール**パネルの表示は、左側に**ヒント**、**BIMプロジェクトブラウザ**、**構造**、右側に**プロパティ**、**ライブラリ**、**詳細**、**BIM複合材**、**BIMプロファイル**、**画層**、**メカニカルブラウザ**、**Bricsys 24/7**、**BIMBCF**で設定されています。

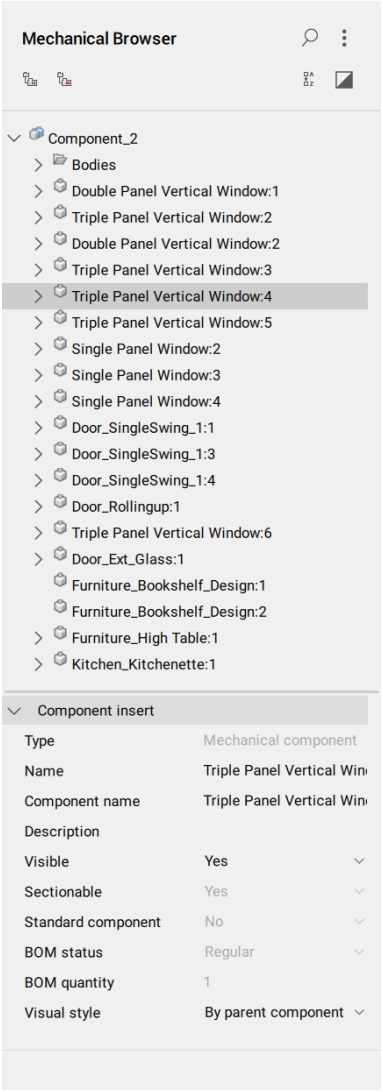
注：右クリックでいつでも、必要なものをチェックし、ツールパネルにパネルを追加することができます。

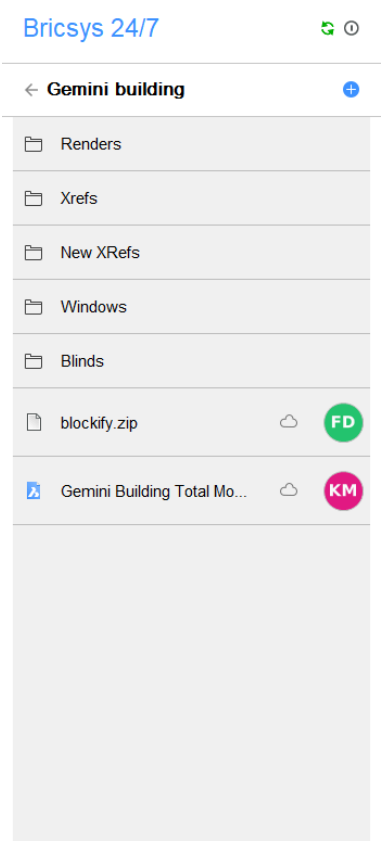
ツールパネルから切り離して使用する各パネルの機能を以下に示します：

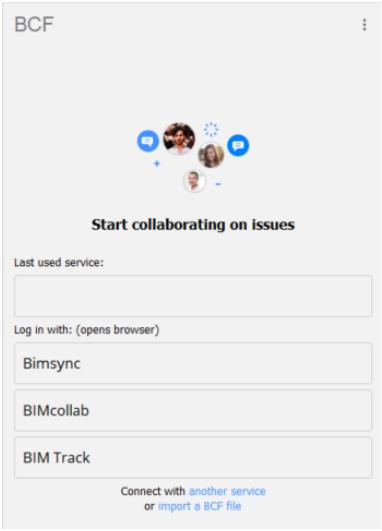
ヒント	**ヒント**パネルには、ツールとコマンドに関する一般的な情報が表示されます。ヒントの内容は、実行中のコマンドによって変わります。ヒントは、パネルが開いているときにのみ表示されます。
BIMプロジェクトブラウザ	**BIMプロジェクトブラウザ**は、プロジェクト全体のコンテンツ(モデル、断面図、図面、集計表など)を素早く表示します。 このパネルの使用方法については、**BIMプロジェクトブラウザ**の記事を参照してください。
構造	**構造**パネルは、カレントモデルの図形を表示するインタラクティブなツリーです。**構造**パネルの構造ツリーは、設定によりBIMモデルの構成要素の表示方法を変更することができます。 設定した構造ツリーはCSTファイルとして保存できます。デフォルトでは、CSTファイルは**Supportフォルダー**に保存されます。 パネルの使用方法については、**構造パネル**の記事を参照してください。

プロパティ	**プロパティ**パネルには、選択した要素のすべてのプロパティが表示されます。最初に一般的な情報がいくつかあります。このパネル内の他のタブは、選択した要素のタイプによって異なります。  この例では、選択した項目が窓で、画層によって色付けされていることがわかります。プロパティはお好みに合わせて調整可能です。 このパネルのより詳細な使用方法については、**プロパティ**の記事を参照してください。
ライブラリ	**ライブラリ**パネルには、デフォルトで使用可能なコンポーネントの一覧が表示されます。これらのコンポーネントを配置するには、クリックして図面にドラッグするだけです。 パネル上部には、**追加**ボタンを使うと、ブロックをライブラリへ追加できます。たとえば、窓の図面を作成したら、このボタンをクリックして、コンポーネントライブラリに追加することができます。これにより、自分で作成した窓を、コンポーネントとして他のすべての図面で使用できます。

詳細	**詳細**パネルで可能なこと： • 保存された詳細の表示。 • 保存した内容の整理。 • 詳細をプロパゲート。 • モデル空間で詳細を開いて調整。
BIM複合材	**BIM複合材**パネルには、多様なBIMモデルのソリッドにドラッグするだけで割り当てられる定義済み複合材のライブラリが表示されます。 モデル内の要素に複合材を割り当てることは、BIMモデルの精度を高めるための核となるステップです。複合材には、複数の材料または単一のプライを含めることができます。 このパネルのより詳細な使用方法については、**BIM複合材**を参照してください。
BIMプロファイル	**BIMプロファイル**パネルには、定義済みのプロファイルのライブラリが表示されます。線形ソリッドにドラッグするだけでプロファイルを適用することができます。 このパネルのより詳細な使用方法については、**BIMプロファイル**の記事を参照してください。
画層	**画層**パネルには、図面のすべての画層が表示されます。 カレント画層(1)が示されます。別の画層の左側をクリックすると変更できます。また、画層の電球のアイコン(2)は、画層のオン/オフを示します。色や線種など、他の画層プロパティを見て変更したい場合は、右へスクロールしてください。  この例では、カレント画層が**DOOR_FRAME**で、表示がオンになっています。

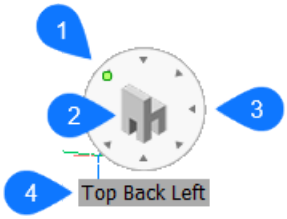
メカニカルブラウザ	**メカニカルブラウザ**パネルには、カレント図面のコンポーネント、フィーチャ、配列、パラメータ、拘束が階層で表示されます。 これらのノードはツリー状の形式で表示されます。各ノードを展開したり折りたたんだりして、子ノード(入れ子のコンポーネントなど)を表示できます。  **メカニカルブラウザ**パネルでは、パネル下部に表示される特定のノードのプロパティを編集することができます。また、ノードを右クリックしてコンテキストメニューを表示させると、ノードの種別に応じて異なるツールが使用できます。たとえば、上図では、選択した窓に説明を追加できます。

Bricsys 24/7	Bricsys 24/7アカウントにログインして、クラウドでプロジェクトをコラボしましょう。Bricsys 24/7は、プロジェクト管理、プロジェクトチーム間のコラボレーション、クラウドコンピューティングセキュリティ、タスクの自動化を可能にします。 ログインすると、下図のように**クラウド**上で、プロジェクト、フォルダー、ドキュメントの概要を見ることができます。  このパネルの使い方の詳細については、**Bricscad 24/7**パネルの記事を参照してください。

☆ **BIM BCF**	ここでは、BCF(Bimコラボレーション形式)ファイルを読み込んで、BCFサーバーに接続できます。このパネルに、BCFトピックがリスト化されます。  **BCF**パネルの上部には、**ライブラリ**パネルのようにすべてのトピックが表示されます。 **BCF**パネルの下部には、現在有効なトピック、大きなスナップショット、最も一般的なメタデータ、コメント、作者、状態などが表示されます。 イシューをダブルクリックすると、トピックがアクティブになります。

21.2.7 Look Fromウィジェット

Look Fromウィジェットは作図領域の右上隅に表示されます。ウィジェットの上にカーソルを置くと、椅子のプレビュー(2)と小さな緑色の四角形(1)が表示されます。カーソルをあてていずれかの三角形(3)をクリックすると、該当する3D表示(4)に変わります。Look Fromのデフォルトの場所は、作図領域の右上隅です。



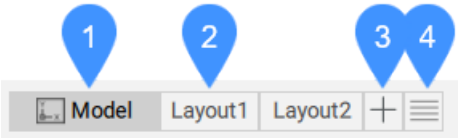
21.2.8 UCSアイコン

UCSは、ユーザー定義座標系(User-defined Coordinate System)の略です。UCSアイコンには、カレントの座標系の性質が表示されます。

アイコンの表示はUCSICONシステム変数を介してコントロールされ、UCSアイコンの位置は、UCSICONPOSITIONシステム変数によって定義されます。

21.2.9 モデルタブとレイアウトタブ

作図画面の左下部には、モデルタブと1つまたは複数のレイアウトタブがあり、モデル空間とペーパー空間を簡単に切り替えることができます。



モデルタブ

作図を始めるときの最初の作業領域を**モデル空間**と言います。**モデル空間**は、ワールド座標系(WCS)やユーザ座標系(UCS)で二次元モデルや三次元モデルを作成するための作業領域です。**モデル**タブ(1)を使用している間はモデル空間で表示と作業を行います

レイアウトタブ

各図面には少なくとも1つのレイアウト(2)があり、各レイアウトは1つまたは複数のビューポートで構成されます。各ビューポートでは、図面の異なる部分を異なる尺度で表示させることができます。**ペーパー空間**は、用紙サイズに応じて、指定した尺度でモデル空間のビューを提供する作業環境です。

各レイアウトでは、図面を印刷用として完全なものにするために必要な図形(表題欄、凡例、図枠など)を追加できます。これら追加した図形は、レイアウトにのみ表示されます。他のレイアウトやモデル空間では表示されません。

新しいレイアウトボタン(3)をクリックして、新しいレイアウトを追加します。

モデルとレイアウトの管理メニューボタン(4)をクリックすると、レイアウトのパブリッシュ、作成、コピー、削除などのオプションが表示されます。

レイアウトタブまたはモデルタブを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

レイアウトモードでのUCS

レイアウトモードのペーパー空間で表示されるW(19)文字は、WCSがアクティブであることを意味し、UCSアイコン内に表示されます。

注：WCSは、ワールド座標系(World Coordinate System)の略です。

21.2.10 コマンドライン

コマンドラインパネルは、2つの部分から構成されます。

- パネルの下部にコマンドを入力すると、BricsCADはコマンドの実行に関するプロンプト、オプション、その他の情報を表示します。コマンドラインを表示していない場合、情報はステータスバーに表示されます。
- パネルの上部にはコマンドの履歴が表示されます。

コマンドラインパネルは、デフォルトではフローティング表示(CMDLINEUSEMINIFRAMEシステム変数=1)され、1行に最小化されています。コマンドを実行すると、グラフィック画面でプロンプト行(行数はCLIPROMPTLINESシステム変数で設定)が一時的に透けて表示されます。

```
Select start of polyline or [Follow] <Last point>:
Set next point or [draw Arcs/Distance/Follow/Halfwidth/Width]:
Set next point or [draw Arcs/Distance/Follow/Halfwidth/Width/Undo]:
Set next point or [draw Arcs/Close/Distance/Follow/Halfwidth/Width/Undo]:
```

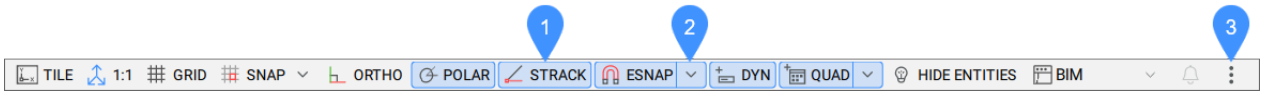
右側の上矢印をクリックすると、**プロンプト履歴**ウィンドウが表示されます。

パネルの右端でマウスの左ボタンを押したままドラッグすると、パネルの長さを変更することができます。

左端のグリップをクリックしてマウスの左ボタンを押したままドラッグすると、パネルの位置を変更することができます。

21.2.11 ステータスバー

ステータスバーは、BricsCADアプリケーションウィンドウの下端に沿って表示されます。ここには、カレント図面の設定に関する様々な情報が表示されます。**ステータスバー**のフィールドはすべてオプションです。



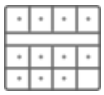
ステータスバー(1)の各フィールドをクリックするとオン/オフを切り替えられます。フィールドを右クリックするとオプションメニューが表示されます。

ステータスバーメニューボタン(3)をクリックすると、すべてのフィールドが一覧表示されます。フィールドをクリックすると、ステータスバーの表示と非表示が切り替わります。

21.3 クワッドカーソル

21.3.1 概要

クワッドカーソルメニュー(**クワッド**)は、コマンドラインやツールバーの代替手段であり、多くのグリップグリフで画面を乱雑にすることなく、クリック数を減らせる豊富なツールセットを提供します。ロールオーバーヒントは、図形を選択したりマウスオーバーしたときにプロパティを限定して表示させるセットです。



クワッドのオンとオフを切り替えるには、以下の操作のいずれかを実行します：

- **ステータスバー**の**クワッド**欄をクリックします。
- **F12**ファンクションキーを押します。
- **設定**ダイアログでQUADDISPLAYシステム変数を編集します。
- コマンドラインにQUADDISPLAYと入力して、オプションを選択します。

ロールオーバーヒントのオンとオフを切り替えるには、以下の操作のいずれかを実行します：

- **ステータスバー**のRTをクリックします。
- コマンドラインにROLLOVERTIPSと入力し、値を設定します。

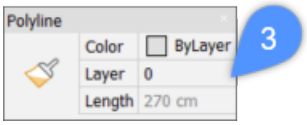
21.3.2 クワッドレイアウト

クワッドには、ハイライトしているもの、していないもの、カレントのワークスペースで選択しているものに応じて、その内容を調整するフローティング機能セットがあります。

- ハイライトされた図形タイプに基づいて、**クワッド**は、直近で使用したツール(1)と、図形名(2)を表示します。

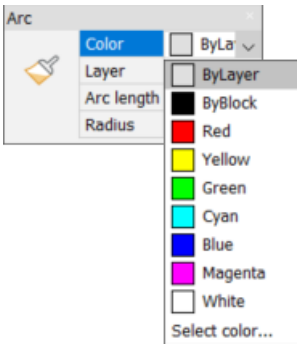
  注：複数の図形がカーソルの下に重なっている場合、**Tab**を押すと、異なる図形が循環表示されます。

- **ロールオーバーヒント**設定がオンの場合(およびSELECTIONPREVIEWが1または3)、カーソル下の図形の限定されたプロパティセット(3)が**クワッド**に表示されます。



ロールオーバーヒントでプロパティの値を編集することができます。

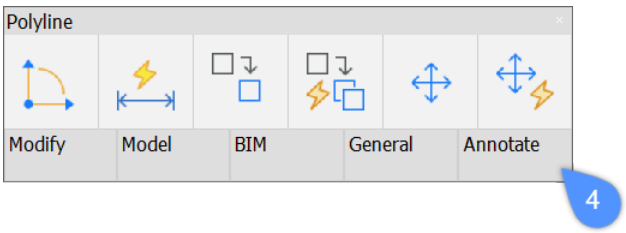
下図は、**ロールオーバーヒント**で円弧の色を変更しているところを示しています。



注：**ロールオーバーヒント**を表示するには、**クワッド**を展開した後でタイトルバーをクリックします。

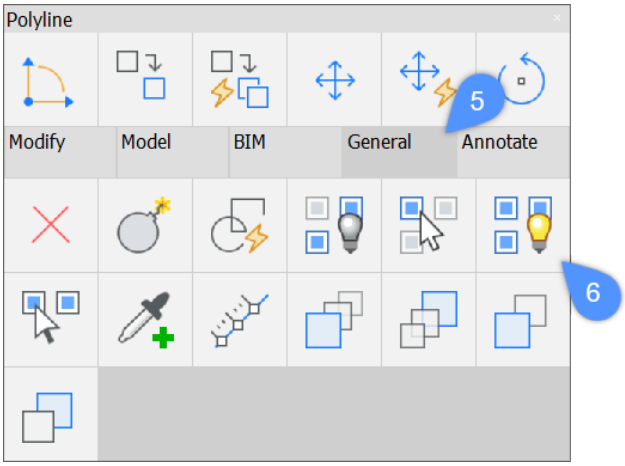
- カーソルを**クワッド**上に移動すると、ツールタブが下部(4)に表示されます。

  注：ツールタブの数は**クワッド幅**によります。ユーザー設定で制御することができます(デフォルト=6)。

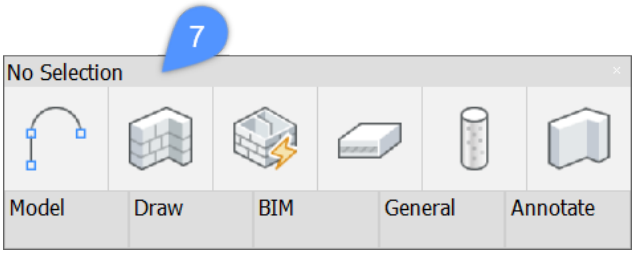


- **一般**クワッドタブ(5)の上にカーソルを移動させると、ツールグループがカーソルの下に展開され、UNISOLATEOBJECTSコマンド(6)などのツールオプションが表示されます。このほかにも、ISOLATEOBJECTSコマンドやHIDEOBJECTSコマンドなどがあります。

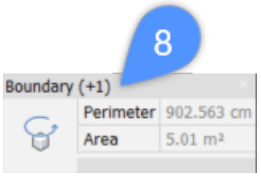
  注：使用可能なツールグループの数とツールグループ内のツールの数は、カーソル下の図形タイプに依存します。



- **クワッド**は、図形を選択していない状態から実行することもできます。カーソルを図形にあててマウスの右ボタンを長押しすると、**選択無し**のクワッド(7)が表示されます。または、図面に選択されている図形やハイライトされている図形がない場合、右クリックすると**選択無し**のクワッドが表示されます。



- 図形を選択してから別の図形をハイライト表示すると、図形タイプ(上部のタイトルバー)の横の括弧の中に＋1(8)と表示されます。タイプに関係なく、図形を選択するたびにカウントが増加します。括弧内に隠されている選択した図形タイプを表示するには、カーソルをその上に移動してクワッドを展開します。
-

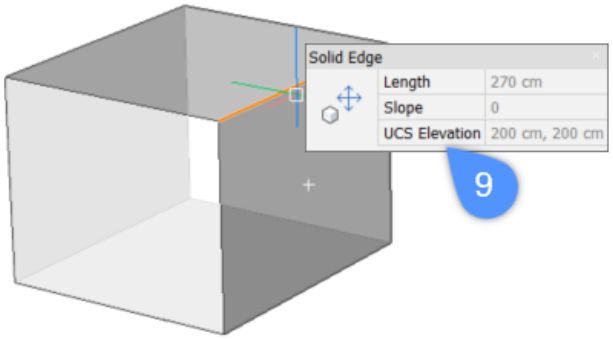


  注：また、**クワッド**は、選択されている図形の種類によって表示が変わります。2つのサーフェスを選択した場合とソリッドとサーフェスを選択した場合とでは、表示されるツールオプションが異なります。

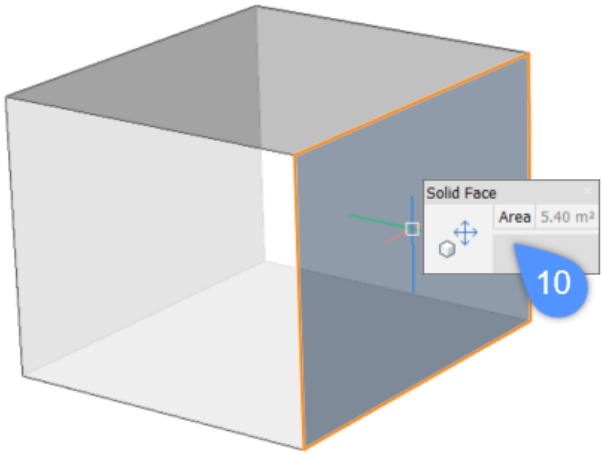
21.3.3 選択図形について

クワッドは、どのような図形を選択したかによって表示が変わります。サーフェスを選択した場合、次にソリッドやエッジを選択した場合、クワッドでは異なるツールオプションが提供されます。

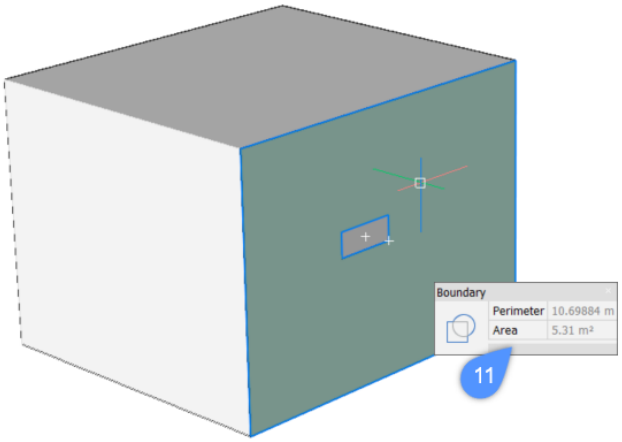
- **エッジ**を選択すると、**クワッド**にはエッジの長さと勾配と高さ(9)が表示されます。



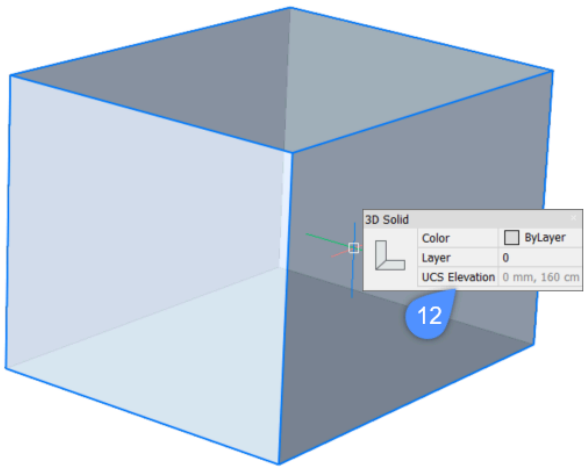
- **ソリッド面**を選択すると、**クワッド**(10)には面積が表示されます。



- **境界**をハイライト表示すると、**クワッド**には境界の周長と面積(11)が表示されます。



- **ソリッド**をハイライト表示させると、**クワッド**には色と画層と高さ(12)が表示されます。



21.3.4 手順：クワッドの使用

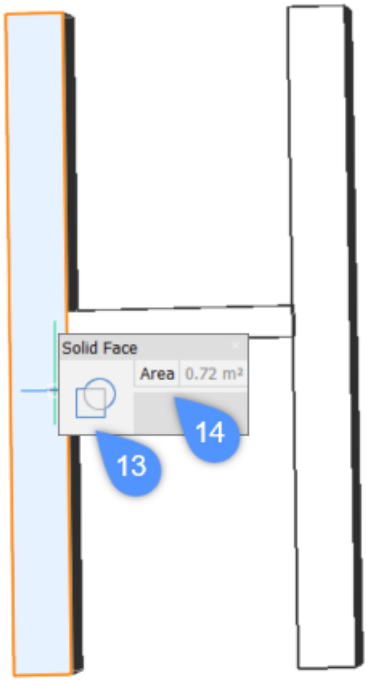
以下は、**クワッド**カーソルを使用する一般的な手順です。

注：クワッドと**ロールオーバーヒント**の両方を有効にし、SELECTIONPREVIEWが1または3であることを確認してください。

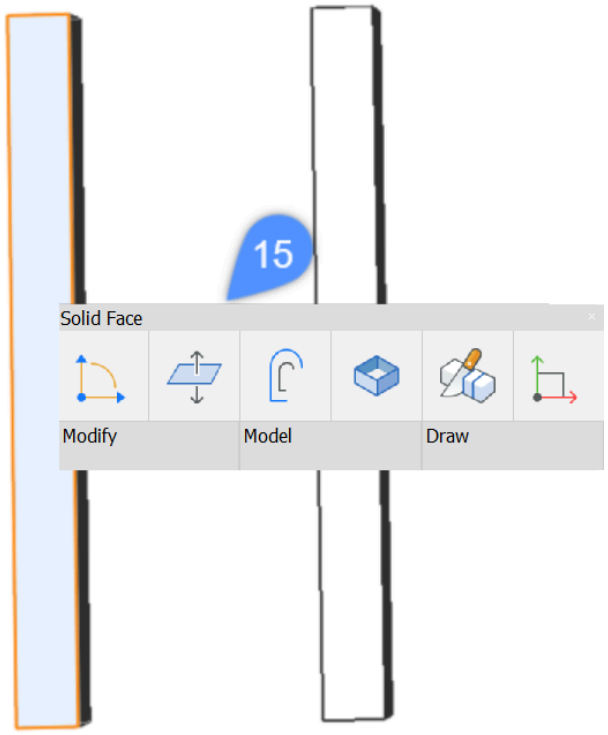
1 操作する図形上にカーソルを置きます。

1 カーソルの下の図形がハイライト表示されます。

クワッドには、選択した図形と同じタイプの図形に対して最後に使用したツールのアイコン(13)と、ハイライト表示されている図形のプロパティセット(14)がいくつか表示されます。



2 右クリックして、最近使用したツールを起動します。または、カーソルを任意のアイコン上に移動して**クワッド**(15)を展開し、使用可能なツールの1つを選択して図形を操作します。



3 **クワッド**をさらに展開するには、青いフィールドの上にカーソルを移動します。

カレントのワークスペースのすべてのクワッドツールグループが表示されます。最初のツールグループが展開されているときは、アイコンをクリックしてツールを使用したり、カーソルを別のツールグループに移動したりすることができます。

21.4 図形の表示

21.4.1 コマンド

HIDEOBJECTS、ISOLATEOBJECTS、UNISOLATEOBJECTS

21.4.2 概要

図面内で多くの図形を使って作業する場合、図面内にある図形はすべてビューに表示されます。一部の図形や特定の図形だけを一時的に表示したい場合は、**非表示**ツールまたは**選択表示**ツールを使用します。

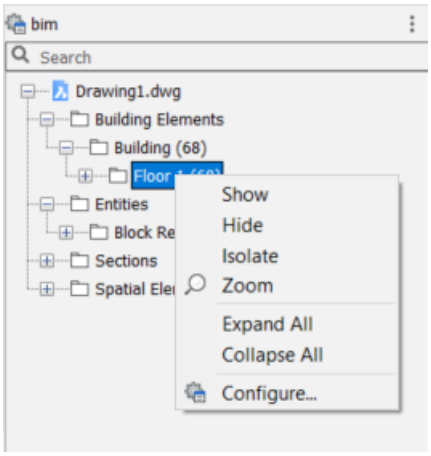
21.4.3 図形の非表示

非表示ツールは、一時的にビューで選択した図形を非表示にします。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『HIDEOBJECTS』をご参照ください。

(**オプション**)**構造**ブラウザでも、モデル空間で選択した図形を非表示にしたり表示したり、非表示にした図形をすべて表示したりすることができます。特定のカテゴリーのオブジェクトや特定のプロパティ値を持つ図形などを、素早く簡単に非表示にしたり表示したりすることができます。

構造ブラウザで図形を右クリックし、コンテキストメニューのオプションのいずれかを選択してください(下図を参照)。



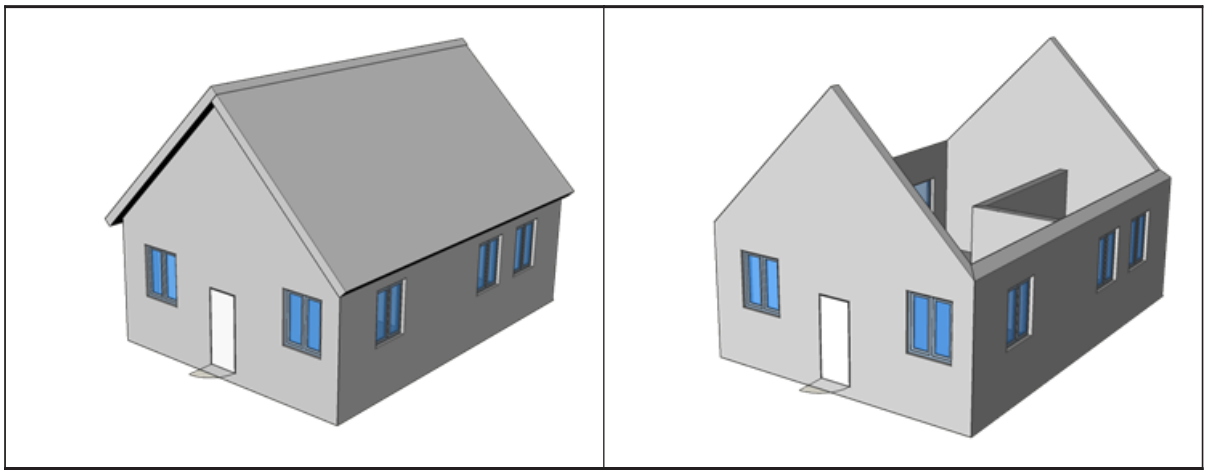
21.4.4 手順：図形を非表示に

1 作図領域内の1つ以上の図形を選択します。

2 クワッドから**図形非表示**を選択します。

選択されたすべての図形が、ビューの中で非表示になります。

下の図では、左が全体モデルを表示しています。右の画像では、屋根が一時的に非表示になっています。



21.4.5 図形の選択表示

選択表示ツールは、選択した図形を除く図形をすべて一時的に非表示にします。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『ISOLATEOBJECTS』をご参照ください。

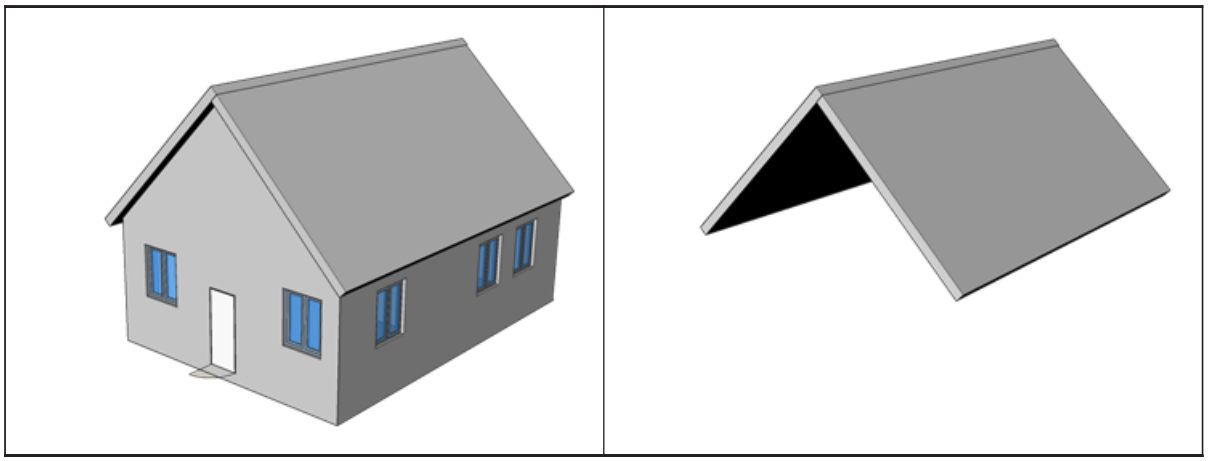
21.4.6 手順：図形の選択表示

1 作図領域内の1つ以上の図形を選択します。

2 クワッドから**図形選択表示**を選択します。

以前に選択されたすべての図形は、分離してビューに表示されています。

下の図は、同じ建物の模型を表示したものです。2枚目の画像では、屋根が一時的に分離されています。



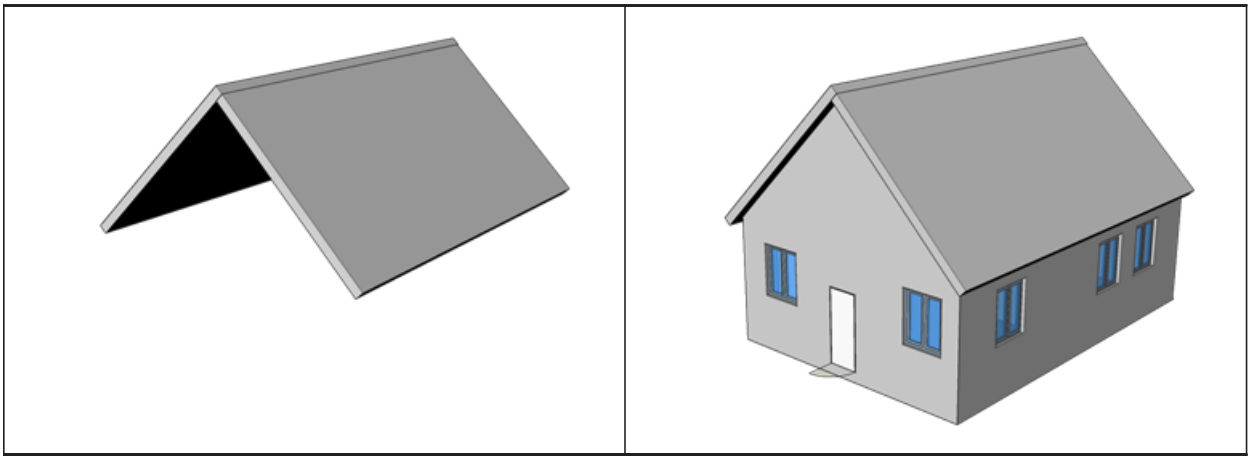
21.4.7 図形の表示

図形選択表示終了ツールは、ビュー内のすべての非表示図形を再表示します。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『UNISOLATEOBJECTS』をご参照ください。

図面内に非表示図形がある場合は、図形選択表示終了ツールを使用して表示することができます。

下図は、上記の例を選択表示した屋根要素を示しています。2枚目の図は、**図形選択表示終了**ツールを使用した後の結果を示しています。



21.5 図形の選択

21.5.1 概要

BricsCADのオブジェクトの上にカーソルを置くと、そのオブジェクトがハイライトされます。ハイライトされた図形を左クリックすると、その図形が選択されます。

ハイライト：一度に一つの図形をハイライト表示することができます。

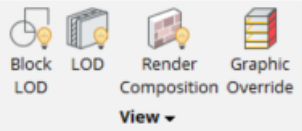
選択：複数の図形を選択することができます。

図形をハイライトさせてクワッドを使うことで、モデリングのほとんどの作業を行うことができます。例えば、サーフェスをハイライトさせると、クワッドが開きます。最初にサーフェスを選択しなくても、好きなコマンドを選ぶことができます。

21.5.2 選択モード

選択モードでは、選択プレビューでどのサブ図形(面、エッジ、境界線)をハイライト表示するかをコントロールし、選択することができます。

- リボン：**ホームタブ** > **表示パネル** > **選択モード**



注：**リボン**を表示するには、ツールバーを右クリックし、コンテキストメニューから**リボン**を選選択します。

- 設定：**プログラムオプション** > **選択** > **プレビューを選択** > **モードを選択**

- キーボード：SELECTIONMODES

すべての選択モードの一覧です：

- **3Dソリッドエッジの検出を有効にする**()：3Dソリッドエッジを選択プレビューでハイライト表示して選択できるようにするかどうかをコントロールします。このオプションを有効にしておけば、3Dソリッドのエッジを1回クリックするだけで選択できるようになります。
- **3Dソリッド面の検出を有効にする**()：3Dソリッド面が選択プレビューでハイライト表示されている場合に選択できます。このオプションを有効にしておけば、3Dソリッドの面を1回クリックするだけで選択できるようになります。
- **境界検出を有効にする**()：現在の座標系のXY平面または3Dソリッドの面上の閉じた境界を検出するかどうかをコントロールします。このオプションを有効にしておけば、3Dソリッドの面から閉じた境界を1回クリックするだけで選択できるようになります。
- **側面と端の選択を有効にする**(): すべての線形要素のbimSidesおよびBimEndsの可視性をコントロールします。
- **頂点の選択を有効にする**()：3Dソリッドの頂点が選択プレビューでハイライトされ、選択できるかどうかをコントロールします。このオプションを有効にしておけば、3Dソリッドの面を1回クリックするだけで選択できるようになります。

注：BIMサイド/エンドは、ライブラリプロファイルが添付された分類された線形要素でのみ利用可能です。

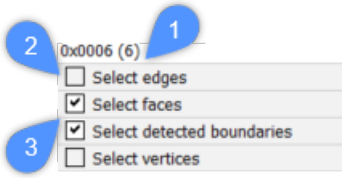
21.5.3 選択モードの設定変更

サブ図形とは、3Dソリッドの面、エッジ、境界のことです。モデルで選択するサブ図形をコントロールするには、以下のいずれかを行います。

注：SELECTIONMODESシステム変数のデフォルト値は6で、これは3Dソリッドのエッジの検出が無効で、3Dソリッドの面と境界の検出が有効であることを意味しています。

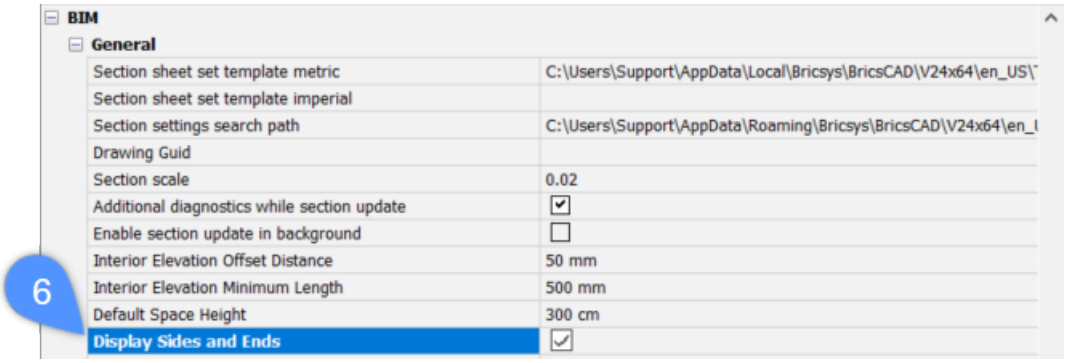
- **リボン**の**設定**パネルのボタンをクリックし、**選択モード**を選択します。

  下図は、チェックボックスを1回クリックした後、**エッジを選択**と**頂点を選択**のオプションを無効にした場合(2)と、**面を選択**と**検出された境界を選択**を有効にした場合(3)のSELECTIONMODESシステム変数の値の合計(1)を示しています。



- コマンドラインにSELECTIONMODESと入力し、カレントのパラメータを変更します。
- キーボードのCtrlを使用して、異なる選択モードに一時的に切り替えます。これらのキー機能により、任意のタイプの図形を選択することができます。
- 線形要素のBimSides/Endsを表示するには、**設定**ダイアログボックスでDISPLAYSIDESANDENDSシステム変数を使用するか、コマンドラインでDISPLAYSIDESANDENDSシステム変数を1に設定します。

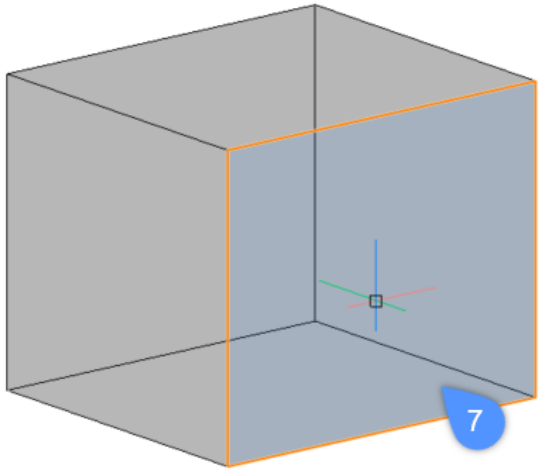
  下図は、**BIM** > **一般**システム変数の**側面と端を表示**オプションがチェックボックスを1回クリックした後にチェックされている(6)場合を示しています。



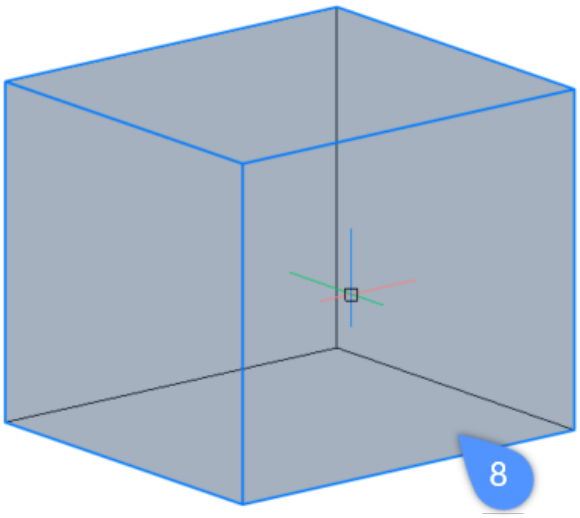
21.5.4 サブ図形ーの選択

エッジの選択がオフの場合、フェース選択がオン、**境界検出**がオン (デフォルト) の場合、次のいずれかの操作を行います。

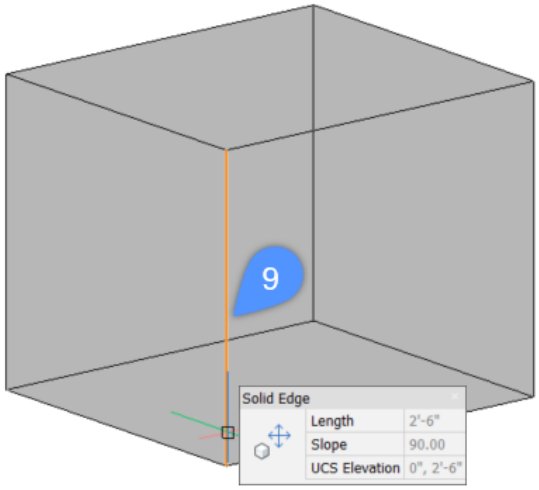
- ソリッド面をハイライト表示するには、マウスを動かし面の上にカーソルを置きます。ハイライトされた面はオレンジ色(7)で表示されます。面を選択するには、面がハイライトされている状態で左クリックします。複数の面を選択するには、1つずつ左クリックします。



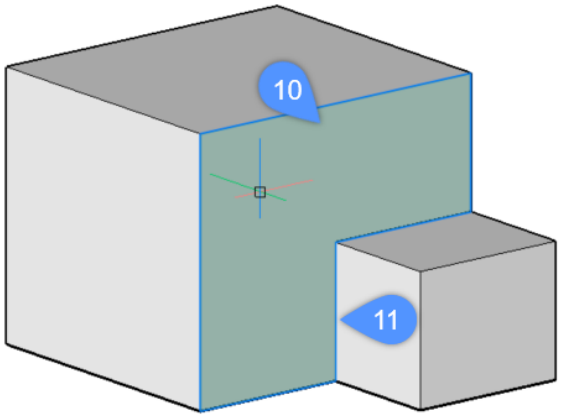
- ソリッドをハイライト表示するには、Ctrlを押しながら面の1つにカーソルを合わせます。ソリッドが青色(8)で表示されます。ソリッドを選択するには、ソリッドがハイライト表示されているときにそのソリッドを左クリックします。複数のソリッドを選択するには、1つずつ左クリックします。



- エッジをハイライト表示するには、Ctrlを押しながらエッジの上にカーソルを置きます。エッジがオレンジ色(9)で表示されます。エッジを選択するには、エッジがハイライト表示されている状態で左クリックします。複数のエッジを選択するには、1つずつ左クリックします。



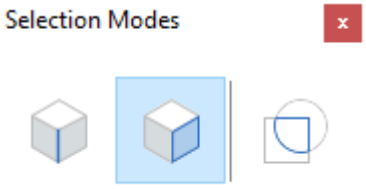
- 境界線をハイライト表示するには、3Dソリッドの面上で検出された境界の上にカーソルを置きます。
- 検出された境界がハイライト表示されると、その境界は色付きで表示されます。デフォルトでは、境界の内側は緑色(10)で表示され、境界の外縁エッジは青(11)で表示されます。



注：この設定は、コマンドラインにBOUNDARYCOLORと入力して変更できます。(デフォルト値＝95)

21.5.5 手順：ソリッドの厚さを変える

1 SELECTIONMODESシステム変数で**面を選択**オプションがオンに設定されていることを確認します。



2 ソリッドの面にカーソルを合わせます。

3 必要に応じて、Tabを押して、見えない面をハイライトします。

4 面がハイライトされたら、クワッドのモデルコマンドグループで**プッシュ/プル**を選択します。

5 ソリッドの選択された面がドラッグされます。

6 ダイナミック入力フィールドは、面の相対的な変位(＝元の位置に対する位置)を表示します。

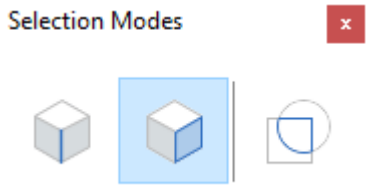
7 (**オプション**)Tabを押して、ダイナミック寸法の基準面として選択されている面を変更します。

注：ロックされた厚さ(不変の厚さ)を持つ複合材がソリッドに適用され、ソリッドの厚さが複合材の厚さの合計量と一致しない場合、ソリッドは赤いハッチングで表示されます。BIMUPDATETHICKNESSコマンドを実行して、そのようなソリッドに複合材を再適用します。

21.5.6 手順：壁の高さを変える

1枚の壁の寸法を変更

1 SELECTIONMODESシステム変数で**面を選択**オプションがオンに設定されていることを確認します。



2 カーソルを壁の上面に合わせます。

3 必要に応じて、Tabを押して、見えない面をハイライトします。

4 面がハイライトされたら、クワッドのモデルコマンドグループで**プッシュ/プル**を選択します。

選択面は、カーソルに合わせてダイナミックに動きます。

ダイナミック入力フィールドに高さが段階的に表示されます。

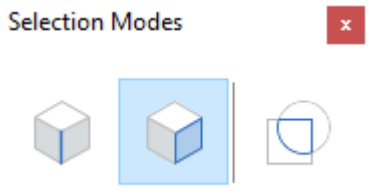
5 以下のいずれかの操作を行います：

- ダイナミック入力フィールドに値を入力し、Enterを押します。
- Tabを押して、ソリッドの底面など別の参照面を使用し、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。

複数の壁の高さを変更

SELECTALIGNEDFACESコマンド(**クワッド** > **選択**：)を使うと、同じ水平面にあるすべてのソリッドの上面を簡単に選択できます。

1 SELECTIONMODESシステム変数で**面を選択**オプションがオンに設定されていることを確認します。



2 いずれかの壁の上面にカーソルを合わせます。

3 必要に応じて、Tabを押して、見えない面をハイライトします。

4 面がハイライトされたら、クワッドの**ソリッド/面選択**コマンドグループの「SELECTALIGNEDFACES」を選択します。

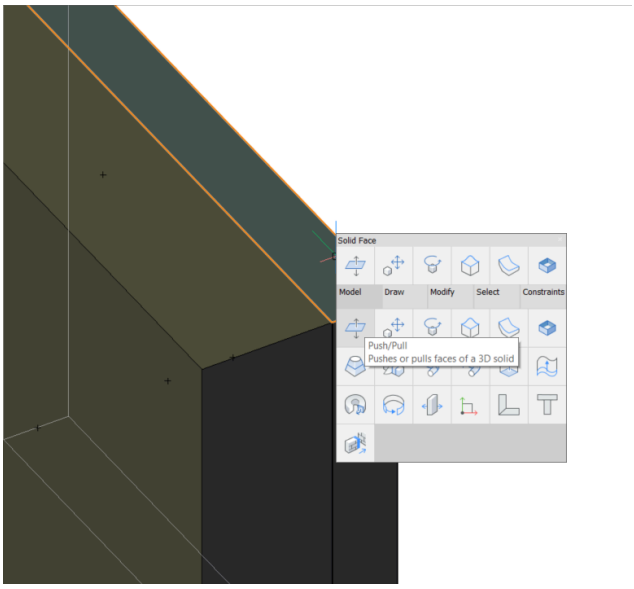
選択された面の平面上にあるすべての面が選択されます。

5　以下は、単一の壁と同じ手順に従ってください

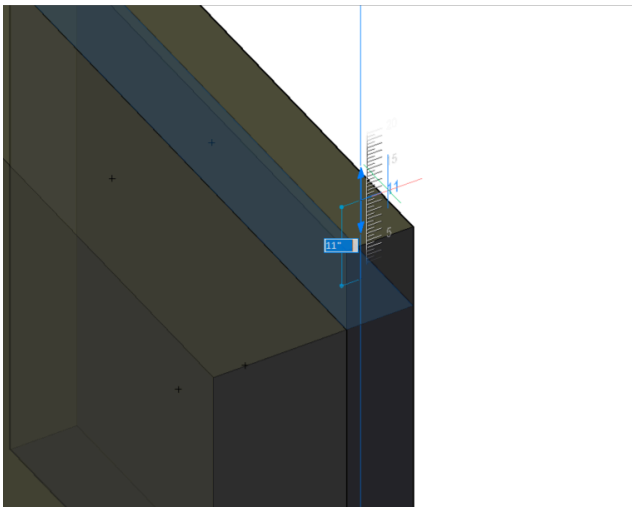
1枚1枚の高さを変える

ソリッドの**複合材を表示**プロパティが設定され(LEVELOFDETAILシステム変数=2、オプションでRENDERCOMPOSITIONMATERIALシステム変数=1)、SELECTIONMODESシステム変数の**面を選択**オプションが選択されている場合、合成プライの高さや長さを個別に変更することができます。

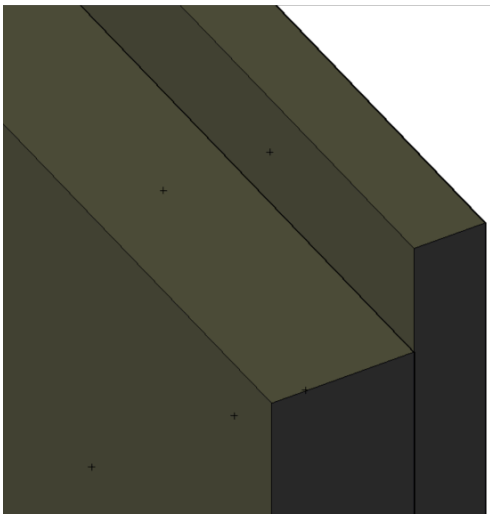
1　編集したいプライにカーソルを合わせ、プライがハイライトされた状態でクワッドの**モデル**コマンドグループの**プッシュ/プル**を選択します。



2　ダイナミック入力フィールドに数値を入力します。



3　Enterを押して距離を確定します。



21.5.7　曖昧なサブ図形ーの選択

図面内で、いくつかの図形やサブ図形(面、エッジ、境界)が他の図形の後ろに隠れている場合があります。Tabを使用すると、サブ図形を循環表示させることができます。

以下の手順では、カーソルの下にある隠れた面をハイライト表示する方法を説明します。

エッジの選択がオフの場合、**面を選択**がオン、**境界検出**がオン(デフォルト)。

1　カーソルをソリッド面の1つに置きます。

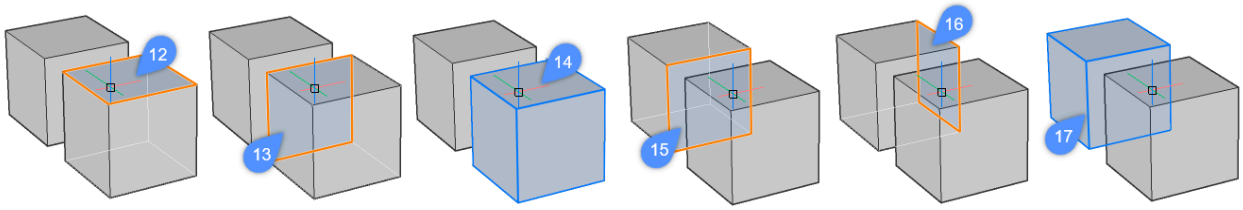
1　下の例では、正面のソリッドの上面がハイライトされています(12)。

2　隠れた図形を循環表示させるには、Tabを押します。

3　これで、前面のソリッドの裏面(13)がハイライト表示されます。

4　カーソルを同じ位置に置いたままTabを繰り返し押すことで、前方のソリッド全体(14)、後方のソリッドの正面(15)、右の面(16)と順番にハイライト表示されます。最後に、背面のソリッド全体(17)がハイライトされます。

5　選択したい図形またはサブ図形がハイライト表示されたら、左クリックして選択します。



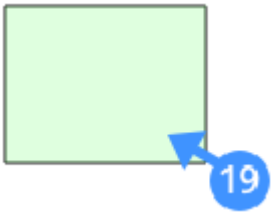
21.5.8　選択ボックスによる複数の図形の選択

選択ウィンドウを使用すると、一度に1つ以上の図形を選択することができます。選択ウィンドウを使用するには、作図領域内の任意の空のスペースを左クリックし、選択ウィンドウが選択したい図形をカバーするまでカーソルを移動します。

BricsCADには2種類の選択ボックスがあります：

青色の選択ボックス(18)は、左から右へウィンドウを作成するときに表示されます。青色の選択ウィンドウは、この選択ウィンドウで完全にカバーされている図形のみを選択します。

緑色の選択ボックス(19) は、右から左へウィンドウを作成したときに表示されます。緑色の選択ウィンドウは選択ウィンドウで完全に覆われているすべての要素とウィンドウのいずれかのエッジと交差するすべての要素を選択します。

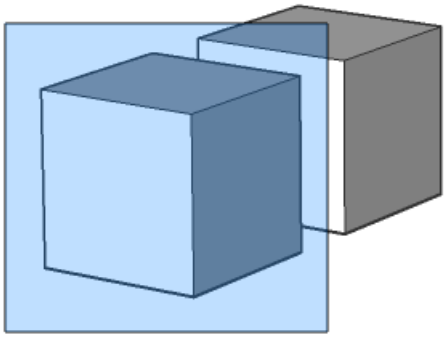


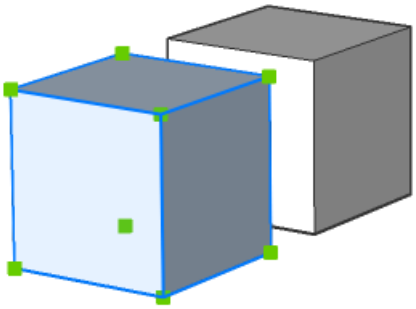
以下の手順は、青色の選択ウィンドウを使用して複数の図形を選択する方法を示しています。

注 : デフォルトでは、選択ウィンドウは図形全体(ソリッド、線、ポリライン、ブロックなど)を選択するだけで、サブ図形(ソリッド面、ソリッドエッジなど)は選択しません。

1 マウスをクリックして右に移動すると、選択したい図形の周りに青いウィンドウができます。実体が完全にウィンドウの内側に入ると、その図形が選択セットに追加されます。

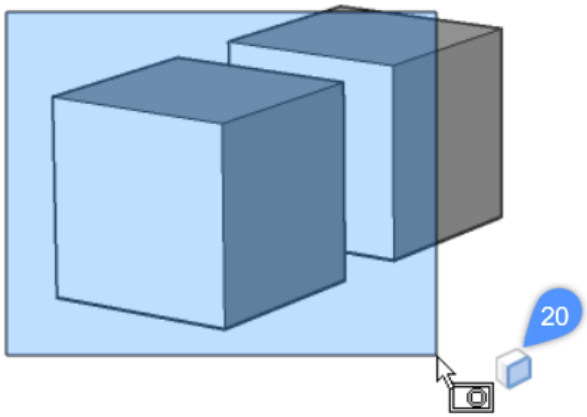
1 下の例では、選択モードが**ソリッド**(デフォルト)に設定されている場合の青い選択ボックスの使用方法を示しています。

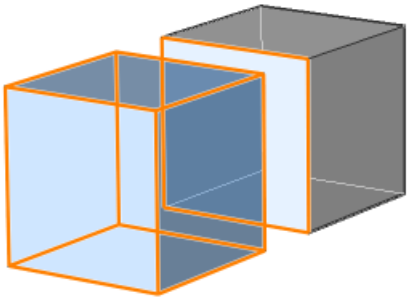




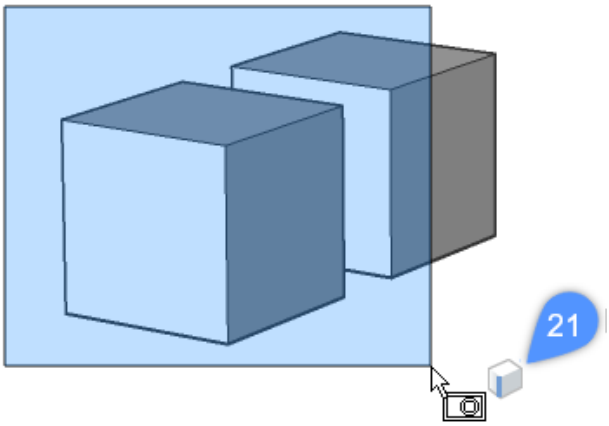
青色の選択ウィンドウは完全に左の立方体を覆っており、従ってこの立方体のみが、モデル内で選択されます。

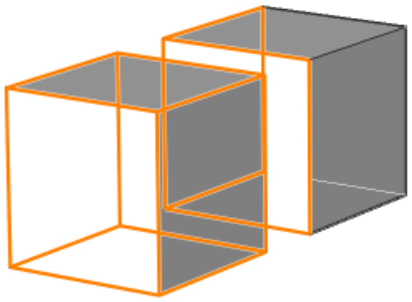
2 3Dソリッドやサーフェスの面を選択するには、ウィンドウ選択中にCtrlを1回押します。カーソルの横にあるアイコン(20)が選択モードを示します。選択モードが**面**に設定されている場合は、ウィンドウ内に完全に入っている面が選択されます。





3 3Dソリッドやサーフェスのエッジを選択するには、ウィンドウ選択中にCtrlを2回押します。カーソルの横に**エッジ**アイコン(21)が表示されます。選択モードが**エッジ**に設定されている場合は、ウィンドウ内に完全に入っているエッジが選択されます。

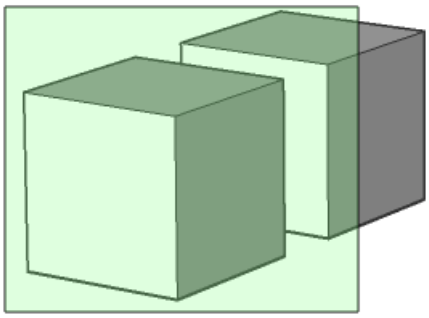


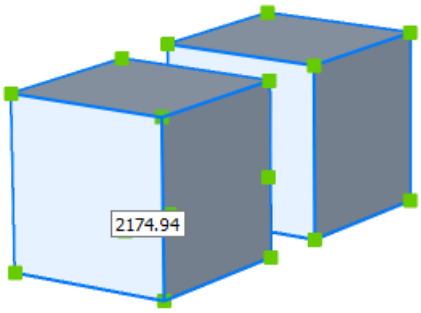


以下の手順は、緑色の選択ウィンドウを使用して複数の図形を選択する方法を示しています。

4 クリックしてマウスを左(交差ウィンドウ)に移動させると、選択したい図形の周りに緑色のウィンドウが作成されます。図形がウィンドウと重なっているか、完全にウィンドウの内側にある場合、選択セットに追加されます。

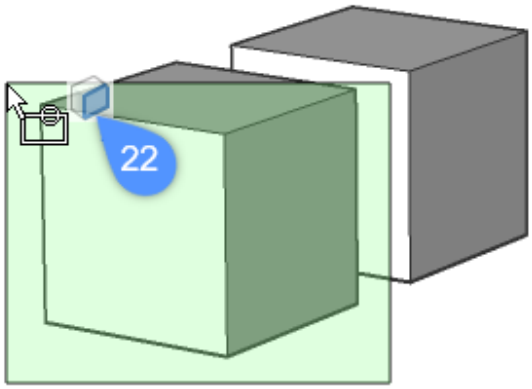
5 以下の例は、選択モードがデフォルトに設定されている場合の、緑色の選択ウィンドウの使用方法を示しています。

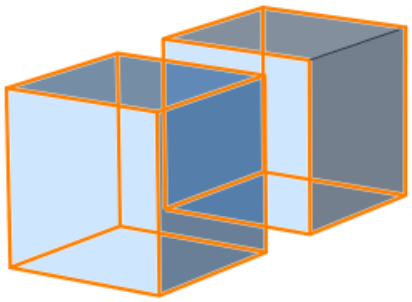




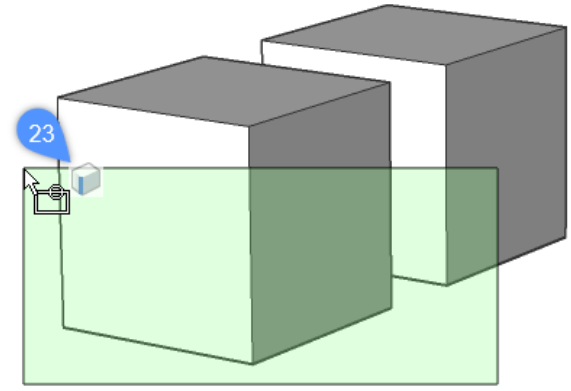
緑色の選択ウィンドウは、選択ウィンドウが2つの立方体に重なっているため、モデル内の両方の立方体を選択します。

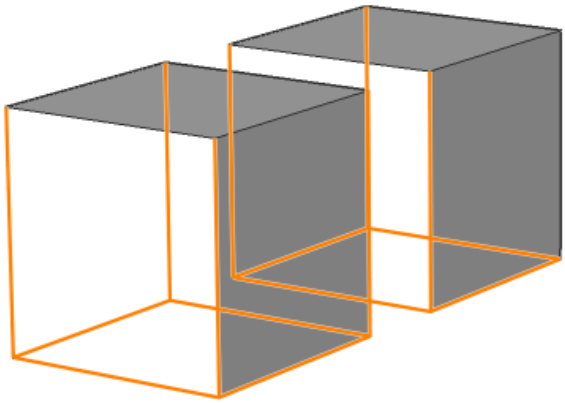
6 緑色の選択ウィンドウを使用して3Dソリッドおよびサーフェスの面を選択するには、ウィンドウ選択中にCtrlを1回押します。カーソルの横に**面**アイコンが表示されます(22)。完全にまたは部分的に交差ウィンドウの内側にある面が選択されます。





7 緑色の選択ウィンドウを使用して3Dソリッドとサーフェスのエッジを選択するには、ウィンドウ選択中にCtrlを2回押します。カーソルの横に**面**アイコンが表示されます(23)。完全にまたは部分的に交差ウィンドウの内側にあるエッジが選択されます。

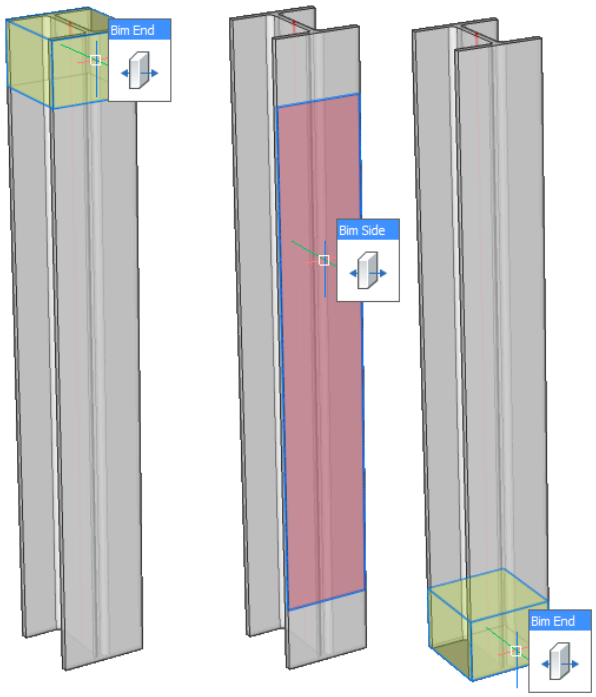




21.5.9 プロファイルのBIM側面および端の選択/ハイライト表示

1 BIMツールバーの**側面と端の選択を有効にする**アイコンをクリックします。

2 モデル空間の線形ソリッドの上面または下面にカーソルがあるときに、線形ソリッドにカーソルを合わせます。**Bim End**面は黄色で表示され、**線形ソリッドのBim Side**面は赤で表示されます。



21.6 詳細のレベル

RENDERCOMPOSITIONMATERIALシステム変数およびLEVELOFDETAILシステム変数は、マテリアルやマルチプライ複合材の表示をコントロールします。

21.6.1 詳細のレベル

クワッド：BIM

リボン：**ホーム | ビュー**

ツールバー：**BIM**

アイコンをクリックして、設定を切り替えます。

オプション	説明
[0] 低い	マルチプライ複合材は表示されません。
[2] 高い	マルチプライ複合材の個々のプライは表示および編集可能です。

21.6.2 複合材マテリアルのレンダリング

クワッド：BIM

リボン：**ホーム | ビュー**

ツールバー：**BIM**

アイコンをクリックして、設定を切り替えます。

オプション	説明
[0] オフ	マテリアルはレンダリングされません。
[1] オン	マテリアルはレンダリングされます。 詳細のレベルが[0](低い)の場合、マルチプライ複合材がアタッチされたソリッドの主面は、基礎となる層のマテリアルでレンダリングされます。従属面は、外層のマテリアルでレンダリングされます。

22. モデリング技術

22.1 BIM線形ソリッド

22.1.1 BIM線形ソリッドについて

線形ソリッドツールでは、構造部材やフローセグメントを作成することができます。このツールを使って、さまざまな構造部材のプロファイルやMEP要素を作成することができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMLINEARSOLID』をご参照ください。

MEPモデリングの詳細については、ヘルプ記事**MEPモデル**と**MEPフロー接続点**をご参照ください。

構造用鋼の詳細については、ヘルプ記事**構造用鋼**をご参照ください。

処理を開始する前に、クワッドがアクティブであることを確認してください。次に、以下の手順を行います：

1 クワッドの**モデル**タブにカーソルを合わせ、線形ソリッドツールを選択します。

注：また、コマンドラインに**BIMLINEARSOLID**コマンドを入力して起動することもできます。

プロンプト表示：開始点をセット または [フォロー (F)/矩形状 (R)/円形状 (C)/ライブラリ (L)/モデル内で選択 (M)/プロファイルを調整 (J)] <終点>:

注：**フォロー**オプションと**最後の点**オプションは、図面で線形図形を既に作成している場合にのみ表示されます。

2 始点を選択します。

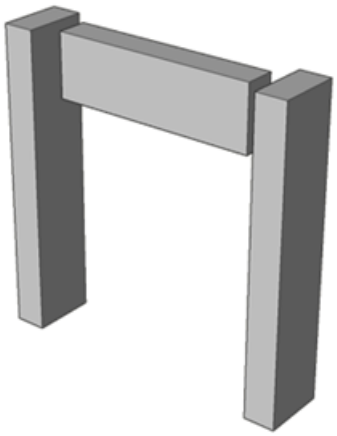
3 プロンプト表示：次の点をセット、または [角度 (A)/長さ (L)/元に戻す (U)/四半回転 (Q)/回転 (R)/別のプロファイルを選択 (P)/プロファイルを調整 (J)]:

4 梁や柱を作図するためにマウスカーソルを移動します。

5 クリックして終点を指定するか、ダイナミック寸法欄を使用して、値を入力します。

6 Enterを押すと、承諾します。

7 次の図は、デフォルトの矩形状プロファイルを持つ梁と2本の柱です。

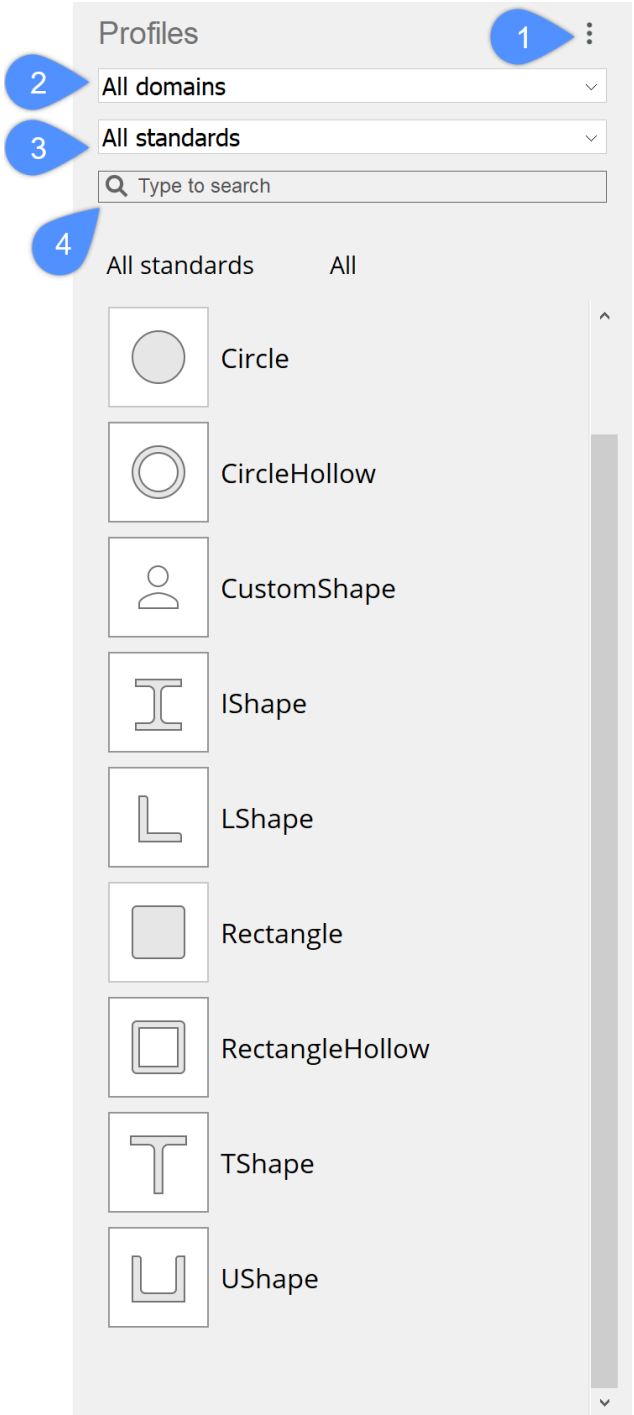


22.1.2 BIMプロファイルについて

BIMプロファイルパネルにアクセスするには、画面の右側にあるI型梁をクリックします。画面右側に**BIMプロファイル**ツールバーが表示されていない場合は、画面右側の**ツール**パネルを右クリックして、コンテキストメニューから**パネル**を選択し、**BIMプロファイル**にチェックを入れてください。

注：また、コマンドラインに「BIMPROFILES」と入力すると、**BIMプロファイル**パネルが表示されます。

BIMプロファイルパネルが表示されます。



上部のドロップダウンボックス(2)は、フィルターの役割を果たします。フィルターをかけることができるドメインには、**一般**、**構造用コンクリート**、**構造用鋼**、**HVAC**、**配管**、**電気**など、さまざまなものがあります。

注：特定のドメインにプロファイルがない場合は、そのドメインでフィルターをかけることができません。

2番目のドロップダウンボックス(3)は、国の基準でプロファイルをフィルタリングすることができます。

検索ボックス(4)は、名前でフィルタリングすることができます。

右側のメニュー(1)から、**BIMプロファイル**ダイアログボックスにアクセスできます。メニューアイコンをクリックすると、いくつかのオプションを含むコンテキストメニューが表示されます。

メニューで**プロファイルダイアログを開く**を選択すると、**プロファイル**ダイアログボックスが表示されます。

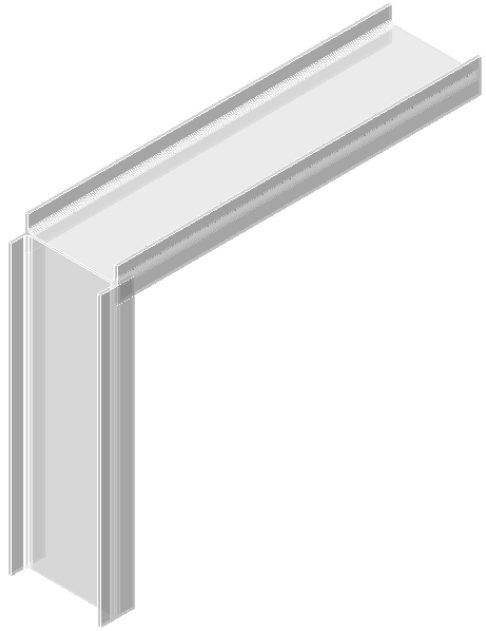
22.1.3 BIMプロファイルパネルを使用する方法

1 目的のプロファイルを**BIMプロファイル**パネルからモデル空間へドラッグ＆ドロップします。

注：このコマンドは、LINEコマンドと同じように動作します。

2 開始点と次の点(複数可)を定義するには、モデル空間内をクリックするかダイナミック入力フィールドを使用します。

3 Enterを押して、コマンドを終了します。



注：BricsCADでは、選択されたプロファイルが構造用鋼である場合、異なるセグメント間の接続は自動生成されません。

22.1.4 BIMAPPLYPROFILEについて

プロファイルを適用ツールを使用すると、線形図形や線形ソリッドのプロファイルを変更できます。線形ソリッドは、直線的な押し出しパスで一定の横断面を持ちます。切り抜きや開口部を認識するツールです。**プロファイルを適用**ツールを使用して、柱、手すり、梁、配管、ダクトなどを作成することができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMAPPLYPROFILE』をご参照ください。

既存のラインやソリッドにプロファイルを適用する方法：BIMAPPLYPROFILEを使用

1 プロファイルを適用したいラインやソリッドを選択して、BIMAPPLYPROFILEコマンドを起動します。

2 Enterキーを押すと、**プロファイル**ダイアログボックスが表示されます。

3 プロファイルを選択して、右下の**選択**ボタンを押します。

4 Enterキーを押して、コマンドを終了します。プロファイルは、モデルのラインまたはソリッドに適用されます。

既存の線分やソリッドにプロファイルを適用する方法：BIMプロファイルパネルを使用

1 **BIMプロファイル**パネルを開きます。

注：BIMプロファイルパネルにアクセスするには、画面の右側にあるI型梁アイコンをクリックします。

2 プロファイルを適用したい図形をすべて選択します。

3 **BIMプロファイル**パネルで、選択した図形に適用したいプロファイルを検索します。

4 選択されたプロファイルを、選択された図形の一つにドラッグします。

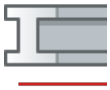
5 このプロファイルは、モデル内のラインやソリッドに適用されます。

注：プロファイルをソリッドに適用することで、ソリッドは選択されたプロファイルに置き換えられます。線分の場合、置換されませんが、選択された線分と同じ軸を持つプロファイルが追加されました。

6 その線分は不要になるので、削除することができます。

22.1.5 BIMADDECCENTRICITYについて

BIMADDECCENTRICITYコマンドを使い、線形ソリッドの軸の相対的な位置をコントロールすることができます。



このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMADDECCENTRICITY』をご参照ください。

1 図面範囲内の既存の線形ソリッドまたはプロファイルを選択します。

2 コマンドラインにBIMADDECCENTRICITYコマンドを入力して起動するか、クワッド(モデルタブ)またはリボン(**構造物/MEP**タブ)でこのコマンドを選択します。

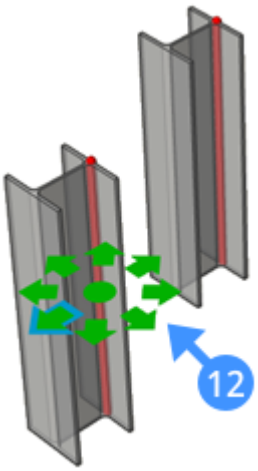
偏心ウィジェットが表示されます。

3 偏心を設定するには、ウィジェットの9つの場所からいずれかをクリックし、右クリックして確定します。

4 オプションで、コマンドラインに場所を入力します。

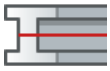
5 場所のオプションは以下の通りです。**TR**: 右上、**TM**: 中央上、**TL**: 左上、**MR**: 右中央、**C**: 中央(選択セットの軸をデフォルトの位置にリセット)、**ML**: 左中央、**BR**: 右下、**BM**: 中央下、**BL**: 左下。

6 Enterを押して、変更を決定します。次の図は、線形ソリッドプロファイル上の偏心ウィジェット(12)を示しています。



22.1.6 BIM軸の再計算

軸の再計算ツールは、線形建物要素の軸を再計算し、線形要素の中心線に再配置します。



このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMRECALCULATEAXIS』をご参照ください。

線形建物エレメント軸を再計算

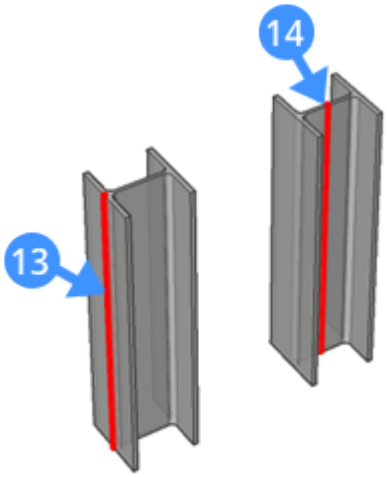
1 モデル内の任意の線形建物図形を選択します

2 BIMRECALCULATEAXISコマンドを起動します。

3 Enterを押します。

4 要素の軸は、デフォルトの位置に移動されます。

5 次の図は、線形ソリッドにBIMRECALCULATEAXISを使用した結果です。軸(13)は線形要素の中心線(14)に移動しています。



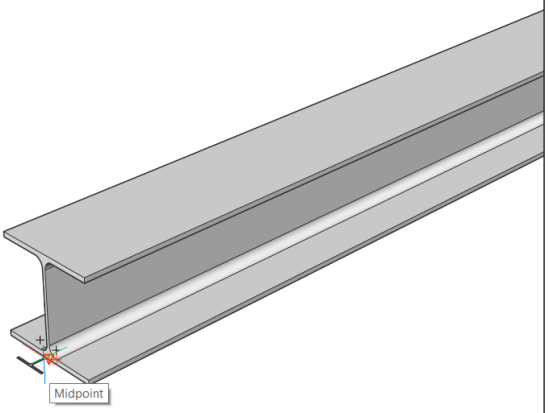
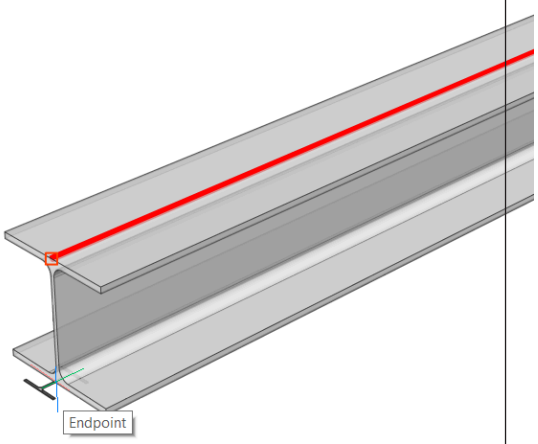
22.1.7　線形ソリッドのモデリングに役立つ設定

軸を表示

構造を編集しやすくするため、DISPLAYAXESシステム変数で線形ソリッドの軸を非表示にしたり表示したりすることができます。

DISPLAYAXESがオンになっていると、線形ソリッドの軸が赤い太い線で表示されます。この場合、既存の構造体にさらに線形のソリッドやプロファイルを追加するための出発点として、軸の終点をスナップすることしかできません。

DISPLAYAXESをオフにすると、図面範囲に軸が表示されなくなり、ESNAPのコンテキストメニューでチェックした特定のポイントをすべてスナップできるようになります。

DISPLAYAXESオフ	DISPLAYAXESオン
	

BIMOSMODE

BIMOSMODEシステム変数では、スナップする詳細レベルを選択することができます。

1　コマンドラインまたは設定で「BIMOSMODE」と入力します。

1　プロンプト表示：BIMOSMODEの新しい値(0 to 3) <2>：

2　新しい値を選びます。(0～3の数字を入力)

値	スナップの詳細
0	すべてのスナップをオンにします。
1	ソリッドの軸を除く、ソリッドへのすべてのスナップをオフにします。

値	スナップの詳細
2	軸の交点を除き、BIMグリッド軸へのすべてのスナップをオフにします。
3	軸の交点を除き、BIMグリッド軸へのすべてのスナップをオフにします。 ソリッドの軸を除く、ソリッドへのすべてのスナップをオフにします。

3 Enterを押します。

22.2 BIM窓の作成

22.2.1 コマンド

BIMWINDOWCREATE

22.2.2 概要

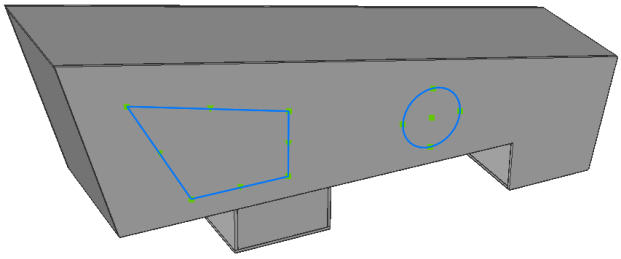
BricsCADでは、**窓を作成**ツールを使うことで、設計アイデアの様々な設定を窓に変換することができます。このツールは、あらゆる形状やサイズの窓に使用することができ、BIMプロジェクトでかなりの数の窓のスタイルを活用することができます。

ソリッド(壁)の面に閉じた2D図形や境界線がある場合、窓作成ツールを使うと、これらの閉じた図形を使って窓を作成することができます。窓作成ツールを使用すると、ダイアログボックスで任意の窓スタイルを選択し、BIMモデルで作成した窓のプロパティを変更することができます。

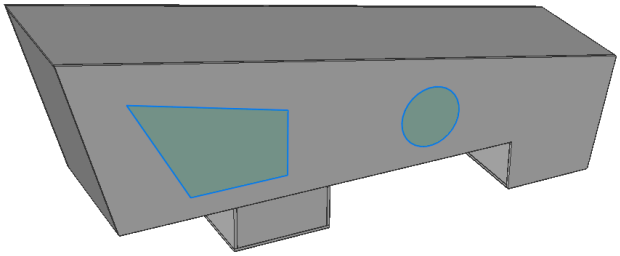
22.2.3 境界線を利用したパラメトリック窓の作成

1 ソリッド(壁)の面にポリゴンを作図します。

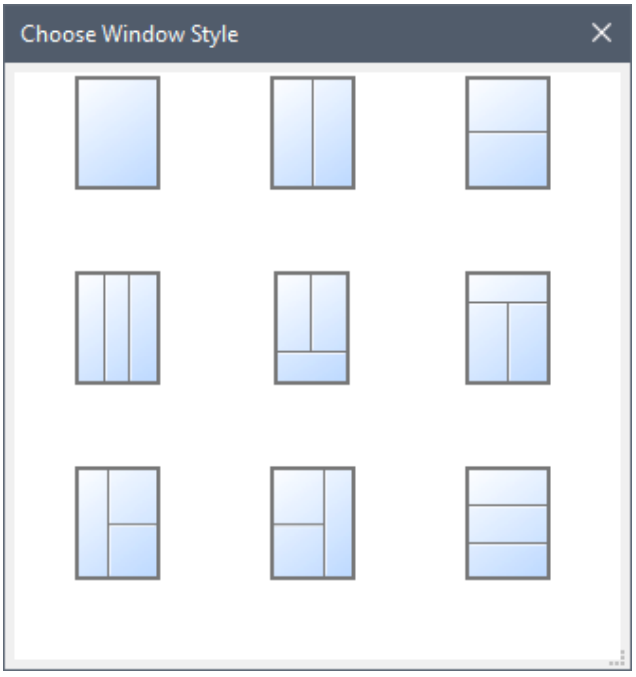
1 この基本プロファイルに基づいて、窓の開口部が作成されます。



2 SELECTIONMODEシステム変数で**境界検出**(検出された境界を選択)が有効になっていることを確認します。ポリゴンの内側にカーソルを合わせて、クワッドから**窓を作成**ツールを選択します。

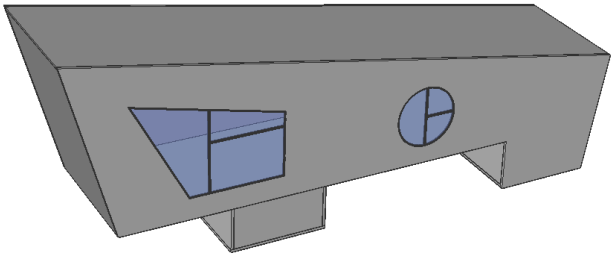


窓スタイルを選択ダイアログボックスが表示されます：

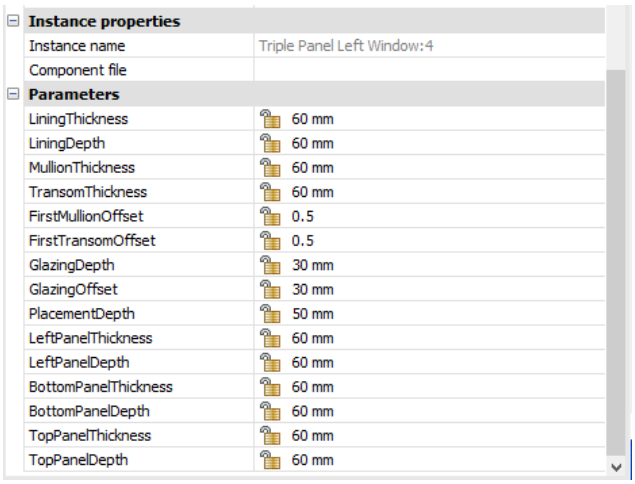


3 ダイアログボックスで窓スタイルを選択します。

4 選択したスタイルで壁に窓が作成されます。次の図は、壁面に窓を作るために選択された三分割パネルの左窓スタイルです。



5 (**オプション**)パラメータのデフォルト値を変更することで、窓のデザインを洗練させることができます。そのためには、窓を選択して**プロパティ**パネルで必要なパラメータを変更します。



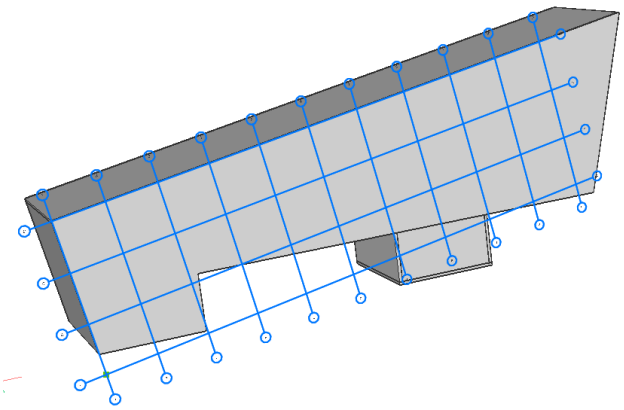
この窓のデフォルトパラメータのいずれかを変更するには、プロパティ欄に新しい値を入力します。

Enterを押して、パラメータの新しい値を承諾します。窓は自動的に更新されます。

22.2.4 グリッドを利用した窓の作成

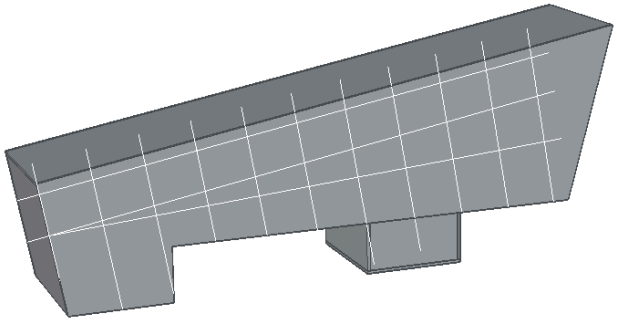
1 BIMGRIDコマンドを使用して、壁面にグリッドを作成します。コマンドラインで基本的な寸法を選択します。**Uライン**と**Vライン**パネルオプションを変更すると、サーフェス上の必要なサイズとパネル数を指定できます。

注：面に作図する場合は、最初に面をハイライトしてからクリックし、作図を開始してください。そうでない場合は、XY平面上にグリッドが作成されます。

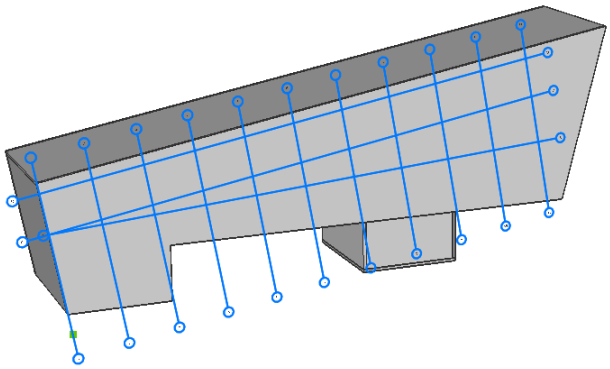


2 BEDITコマンドまたはREFEDITコマンドを使用してグリッドを編集します。

3 マニピュレータを使って、壁のグリッドラインの位置を変えます。

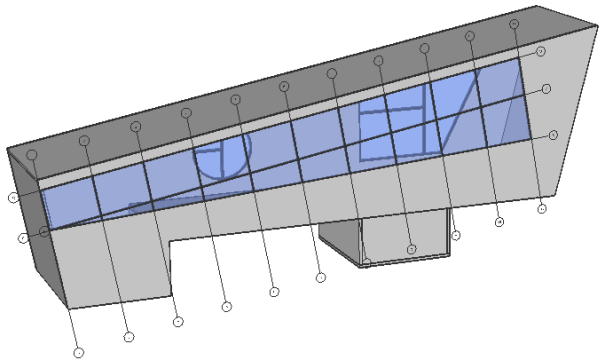


4 グリッドを選択し、クワッドで**窓を作成**を選択します。



5 グリッドラインに基づいて窓が生成されます。

6

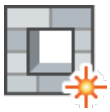


注：パラメータは**プロパティ**パネルで編集できます。プロパティ欄に新しい値を入力して、**Enter**を押します。窓が自動的に更新されます。

Parameters	
FrameDepth	60 mm
GlazingDepth	30 mm
GlazingOffset	30 mm
PlacementDepth	50 mm

22.2.5 窓の開口部を作成

BIM開口部を作成では、窓のジオメトリなしで開口部を作成します。BIMWINDOWCREATEと同じコマンドを使用します。このコマンドでは、選択したベースプロファイルの位置に開口部を作成することができます。ベースプロファイルは、境界線や閉じたポリラインにすることができます。



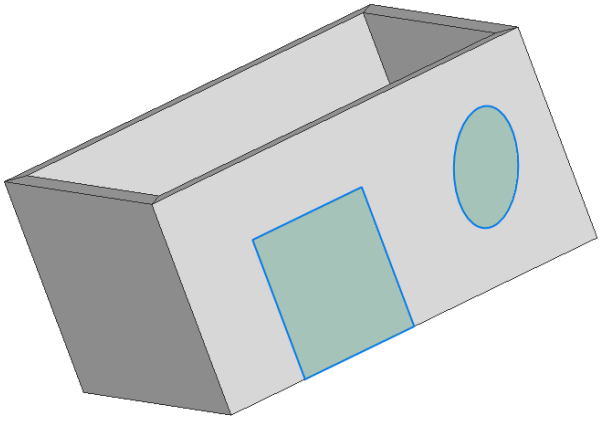
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMWINDOWCREATE』をご参照ください。

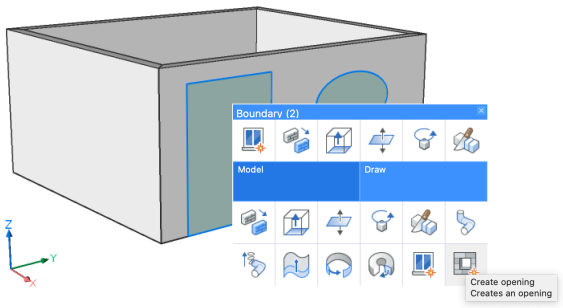
1 壁の面に1つまたは複数の閉じたポリラインを作図します。

2 境界線検出がオンになっている状態で、ポリゴンの上にカーソルを置きます。

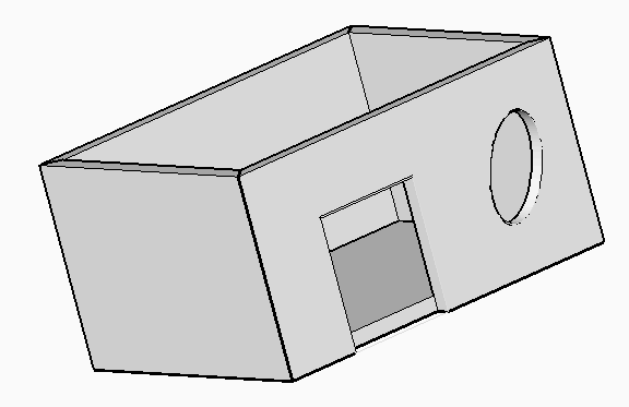
3 または、閉じたポリラインを選択します。

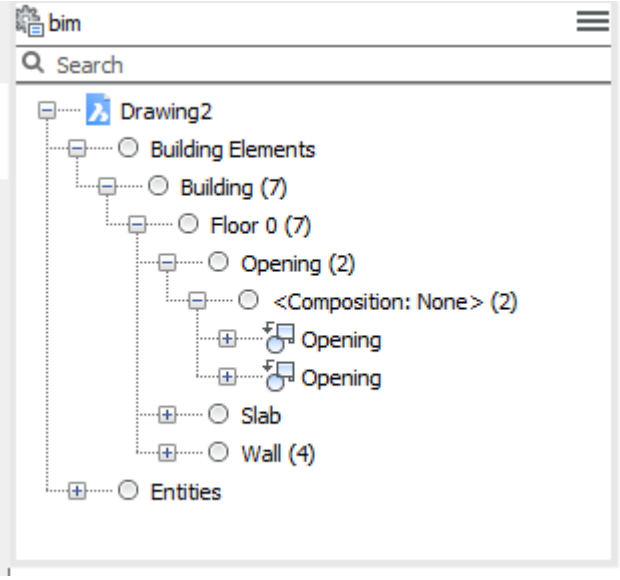
4 クワッドから**開口部を作成**を選択します。



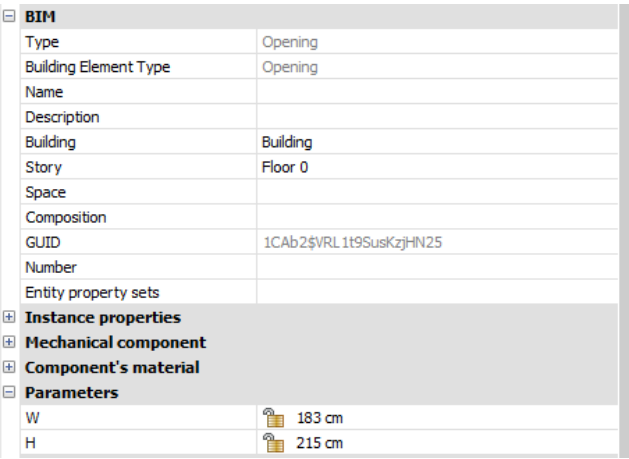


5 開口部は、閉じた輪郭に基づいて作られます。**構造**パネルに、開口部がブロック参照として追加されます。ブロックの参照は、開口部として分類されます。





構造パネルから開口部を選択すると、**プロパティ**パネルにこの開口部要素に関連するプロパティのセットが表示されます。



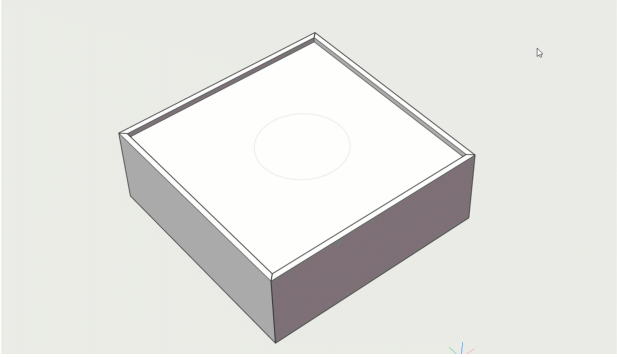
BIM	
Type	Opening
Building Element Type	Opening
Name	
Description	
Building	Building
Story	Floor 0
Space	
Composition	
GUID	1CAb2$VRL1t9SusKzjHN25
Number	
Entity property sets	
Instance properties	
Mechanical component	
Component's material	
Parameters	
W	183 cm
H	215 cm

注：閉じた輪郭が長方形の場合、開口部要素には**幅**と**高さ**のパラメータが含まれます。

注：開口部要素には、差分ソリッドが含まれています。差分ソリッドを表示するには、**画層**パネルを開き、**BC_SUBTRACT**画層を選択します。

注：連想タグは、断面図の開口部要素のBIMTAGコマンドを使って生成することができます。

下のアニメーションGIFは、閉じた輪郭に基づいて開口部を作成する方法を示しています。



22.3 ソリッドの接続

22.3.1 コマンド

LCONNECT、TCONNECT、BIMSTRUCTURALCONNECT

22.3.2 概要

壁、プロファイル、プライなど、すべてがネイティブな3Dソリッドとして作成されます。そのため、3Dソリッド編集コマンドのどれを使っても修正することができます。**BIM接続**コマンドを使い、2つのソリッドをさまざまな方法で接続できます。

LCONNECTコマンドは、2つのソリッド間にL接続(二等分線または平行線)を作成します。

TCONNECTコマンドは、2つのソリッド間にT接続を作成します。

BIMSTRUCTURALCONNECTコマンドは、梁や柱などの構造プロファイルソリッドを接続します。

BIMFLOWCONNECTコマンドは、パイプやHVACダクトなどのフローセグメント間の接続を作成します。

以下の手順はクワッドカーソルメニューを使用して作成します。

22.3.3 手順：L接続の作成

1 SELECTIONMODESシステム変数＝0であることを確認してください。

2 コマンドラインに**LConnect**と入力するか、クワッドで選択します。

3 接続する2つソリッドまたは面を選択します。

4 選択された2つのソリッドが接続されます：デフォルトの接続タイプはL字型の二等分線です。

5 HOTKEYASSISTANTシステム変数がオン(HKAがオン)の場合、ホットキーアシスタントのウィジェットが表示されます。

Ctrlを使って、接続タイプを切り替えます。

プロンプト表示：基本図形を選択 [切替] <対応>選択している接続を使用するには**A**を、接続タイプを切り替えるには**S**と入力します。

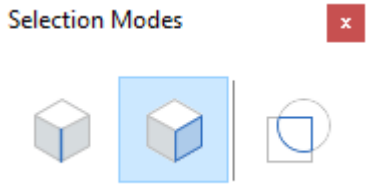
3Dモデルは、L接続タイプを循環させるとダイナミックに更新されます。

注：また、L接続は屋根スラブのような非垂直ソリッド間でも作成することができます。

22.3.4 手順：T接続の作成

以下の手順では、面の向きに関係なく、ソリッドの下位面と他のソリッドの主要な面を接続することができます。その結果、TCONNECTコマンドを使ってソリッドをT接続することができます。

1 SELECTIONMODESシステム変数で**面を選択**オプションが選択されていることを確認します。

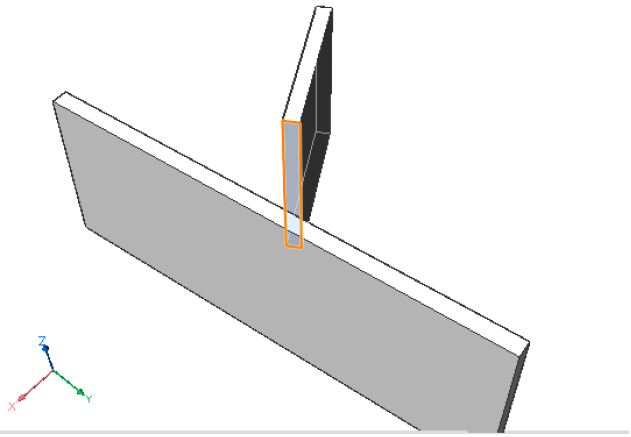


2 コマンドラインにTCONNECTと入力するか、クワッドで選択します。

3 カーソルを、接続が必要な最初のソリッドの端の下位面に合わせます。

4 Tabを押すと、隠された面がハイライト表示されます。

面がハイライトされたら、クリックします。



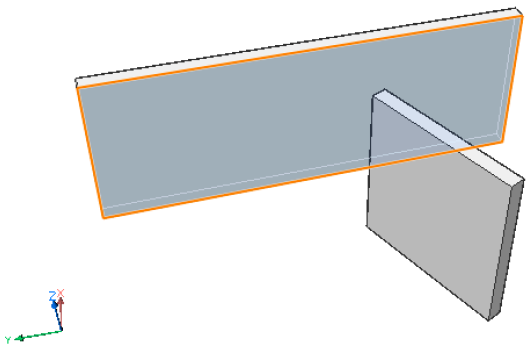
5 (**オプション**)前の手順を繰り返して、さらに面を選択し、Enterを押します。

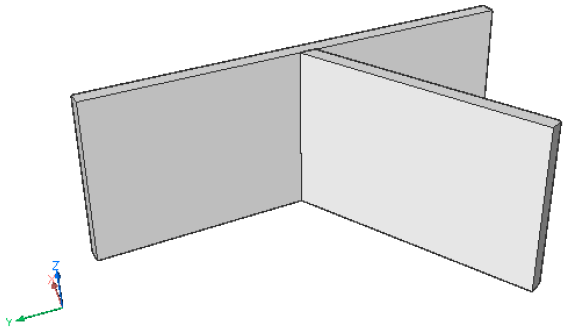
ヒント：クワッドの**選択**コマンドグループにあるSELECTALIGNEDFACESコマンドは、3Dモデルの中で、選択した面と同じ平面(同一平面上)にある面をすべて選択します。

6 プロンプト表示：接続する図形を選択、または [近接点に接続/接続しない/オプションを選択 (?)]<近接点に接続>:

7　以下のいずれかの操作を行います：

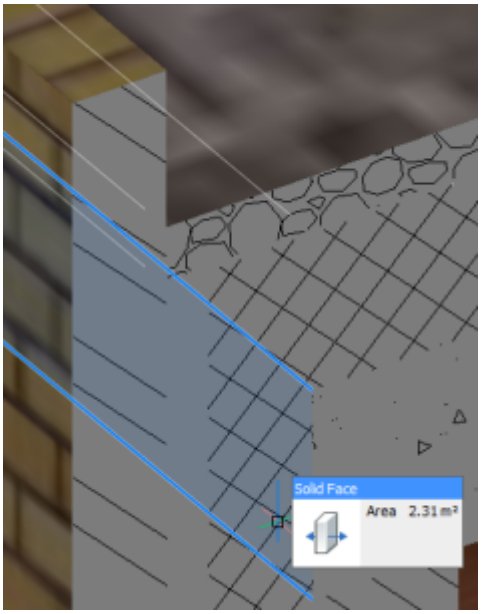
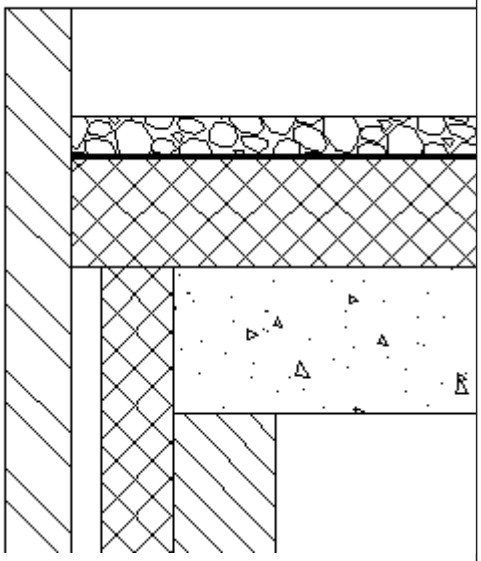
- Enterを押すと、最も近い面に接続されます。
- 1つまたは複数の面を選択します。
- 必要に応じて、Tabを押して隠された面をハイライト表示させ、面がハイライトされたらクリックします。
  右クリックで面の選択を中止します。





ヒント：ソリッドの下位面にカーソルを合わせ、クワッドのモデルコマンドグループで**近接点に接続**を選択します。

プライごとにT接続を作成

	
3Dモデル	計算された断面

2つの構築要素間の複合材プライの接続を制御するには、クリップしたBIM断面内のプライを**プッシュ/プル**します(複合材表示がオンの場合)。より詳細な情報は、「BIMプライ編集」の記事をご参照ください。

断面にプライごとのT接続を作成するには、以下のいずれかを実行します：

1 接続したいプライの面にカーソルを合わせます。必要に応じて、Tabキーを繰り返し押して、隠れている面を選択します。

2 プライ面がハイライトされたら、クワッドで**プッシュ/プル**を選択します。

3 カーソルを移動するか、距離を入力して、選択したプライが到達すべきポイントを指定します。

4 右クリックまたはEnterで確定します。

5 1つ目のソリッドののプライは、2つ目のソリッドのプライに接続されています。接続されたプライは、2つ目のソリッドから差し引かれます。

6 オプションで、BIMPROPAGATEPLANARコマンドを使用して、モデル内の類似した場所に接続を適用することができます。

22.3.5 手順：平行なソリッド間の距離を設定

1 位置を固定したいソリッドを選択します。

2 新しい距離を定義する際に移動させるソリッドを選択します。

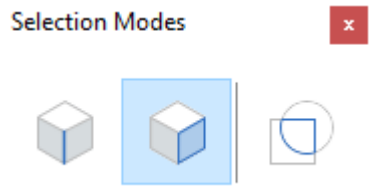
3 ソリッド間の最も近い距離が表示されます。

4 距離フィールドに値を入力し、Enterを押します。

22.3.6 手順：ソリッドのコピーを作成

ソリッドの平行コピーを作成します

1 SELECTIONMODESシステム変数で**面を選択**オプションが選択されていることを確認します。



2 コピーするソリッドの面にカーソルを合わせます。

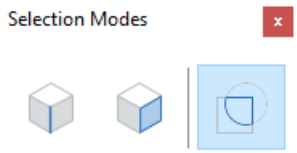
3 ハイライトされたら、クワッドの**モデル**コマンドグループで**BIMコピー**を選択します。

ソリッドのコピーがダイナミックに表示されます。ルーラーは現在の距離を示しています。

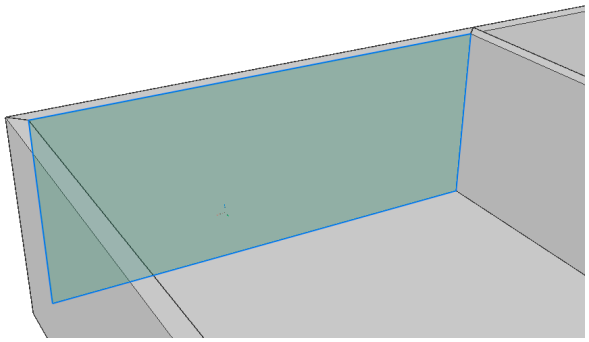
4 ダイナミック入力フィールドに値を入力してEnterを押します。

ソリッドの部分コピーを作成します

1 SELECTIONMODESシステム変数で**境界検出を有効にする**オプションが選択されていることを確認します。



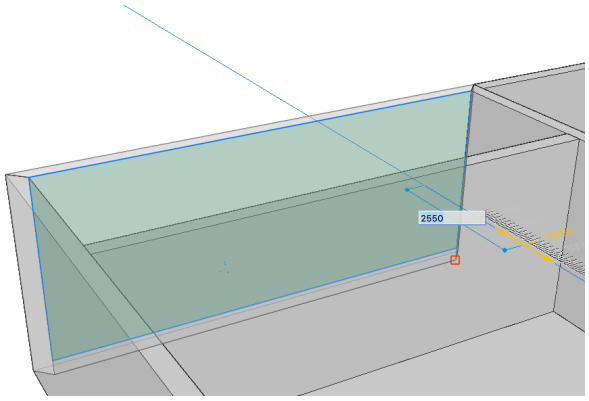
2 コピーしたいソリッド部分にあたる境界線の部分をハイライト表示します。



3 面がハイライトされたら、クワッドの**BIM**コマンドグループで**BIMコピー**を選択します。

ソリッドの部分的なコピーがダイナミックに表示されます。ルーラーは現在の距離を示しています。

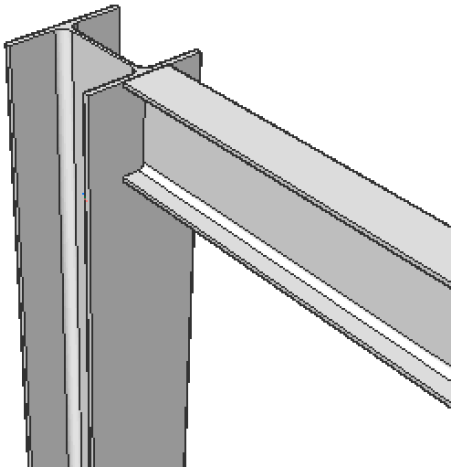
4 ダイナミック入力フィールドに値を入力してEnterを押します。



22.3.7 手順：接続された2つのソリッドを切り離す

場合によっては、1つのノードの2つのソリッドを切断して、さらにダイレクトモデリングを行う必要があります。

2つのソリッドを選択すると、2つのソリッドを物理的に分離して接続を解除し、接続側のエンドクリッピングをすべて除去します。このように、これらのソリッドは再びモデル化することができます。



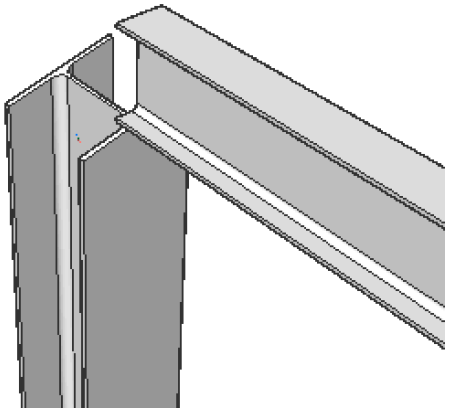
1 コマンドラインにLCONNECTと入力します。

2 2つのソリッドを選択します。

3 接続は自動的に行われますが、Ctrlを数回押して接続解除アイコンをハイライトします。

4 Enterを押します。

5



注：プロパゲートを使って類似したノードを切断することができます。

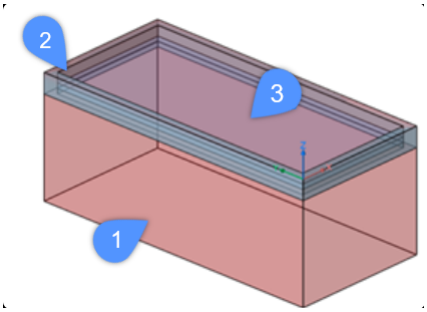
22.4 カスタム窓またはドアを作成する

22.4.1 概要

BricsCADでは、任意のジオメトリやコンポーネントを最初から作成することができます。3Dのジオメトリを取得したら、それをBIMモデルに挿入して使用できます。いつでも窓やドアに変更を加えたり、詳細を追加することができます。

このプロセスは、3D窓またはドアのジオメトリを作成する手順を簡単にするために4つの部分で説明されています。

- ファイルの作成
- 減算ソリッド(1)を作成します。
- 窓枠またはドア枠(2)を作成します。
- 窓ガラス(3)を作成します。



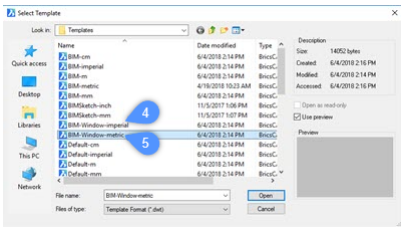
22.4.2 カスタム窓の作成

ステップ 1：ファイルを作成します。

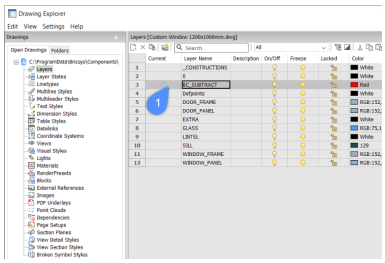
1 **ファイル**メニューで**新規**をクリックします。

2 あらかじめ用意されているテンプレートを選択すると、図面の単位系を指定するシンプルな窓を作成できます。

3 **注**：あらかじめ用意されたテンプレートには、窓やドアの形状を作成するために必要な画層が含まれています。これらのDWTファイル形式のテンプレートは**BIM-Window-imperial** (4)と**BIM-Window-metric** (5)です。テンプレートを使うことで、必要な画層とプロパティが確実に図面に表示されます。

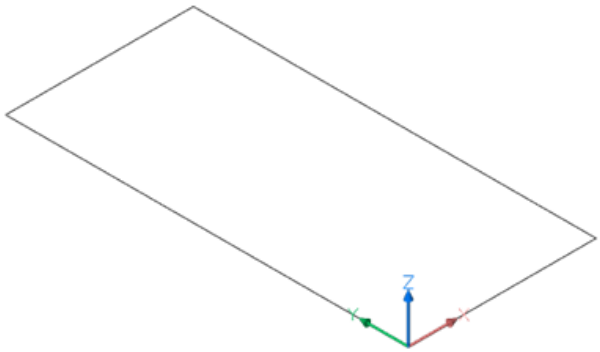


4 図面エクスプローラを使用するか、**プロパティ**パネルの画層フィールドまたは右側の**画層**パネルを使用して、**BC_SUBTRACT**画層をカレント(6)に設定します。



5 挿入アイテムの開口部の形状を表現した、閉じたポリライン(例：長方形)を作成します。

6



7 任意の場所にファイルを保存します。ユーザ定義コンポーネントのライブラリは、Componentsフォルダーにあります。フォルダーのパスは、COMPONENTSPATHシステム変数によって格納されています。

8 デフォルトでは、C:¥ProgramData¥Bricsys¥Componentsです。**設定**ダイアログボックスを使用して、さらにフォルダーを追加できます。

注：事前定義されたコンポーネントのライブラリは、C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 en_US¥UserDataCache¥Support¥en_US¥Bim¥Componentsにあります。

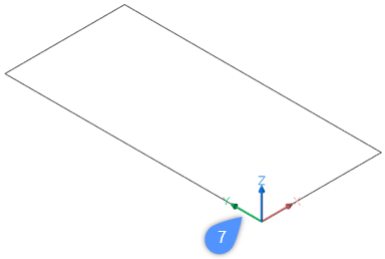
ステップ 2： 減算ソリッドを作成します。

減算ソリッドは、開口部を作成するために使用されます。

注：**BC_SUBTRACT**画層をカレント画層として設定する必要があります。

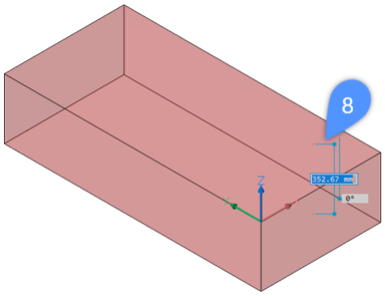
1 あらかじめ作成しておいたソリッドのアウトライン(例：長方形)を使用します。

1 世界座標系(WCS)のXY平面の第1象限に位置しています。



長方形の左下隅は、WCS(7)の原点(0,0,0)です。

2 **押し出し**ツールを選択し、カーソルを下方向 (8)に動かして、ソリッドのアウトラインを負のZ方向に押し出します。



3 減算ソリッド作成を完了するために、次のいずれかの操作を行います。
   - ポイントを指定します。
   - ダイナミック寸法フィールドに数値を入力して、**Enter**を押します。

   注：押し出しの高さが、コンポーネントを挿入する壁の幅よりも大きいことを確認してください。

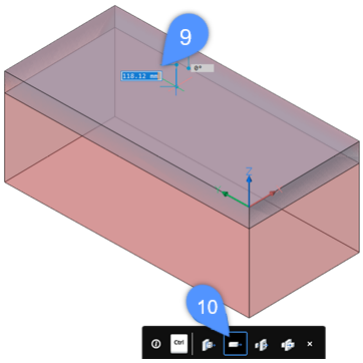
ステップ 3：固定枠を作成します。

固定枠の輪郭は、減算ソリッドの輪郭と一致するか、または平行(リベートの場合)になります。

1 **WINDOW_FRAME**画層をカレントに設定します。

2 減算ソリッドの上面をハイライト表示します。

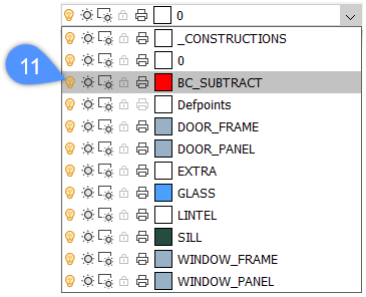
3 次に、**Ctrl**キーを1回押して、**押し出し**ツールの**作成**(10)オプションを使用して減算ソリッドの上面を負のZ方向(9)に押し出します。



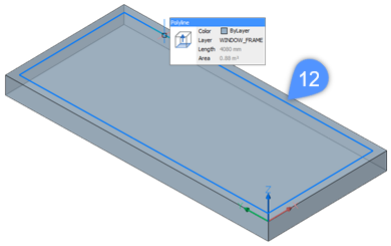
4 固定されたフレームの高さを指定するダイナミック入力フィールドに値を入力します。

5 **注**：押し出しの高さは、固定フレームの厚さになります。

6 画層名の横にある電球(11)をクリックして、**BIM_SUBTRACT**画層をオフにします。

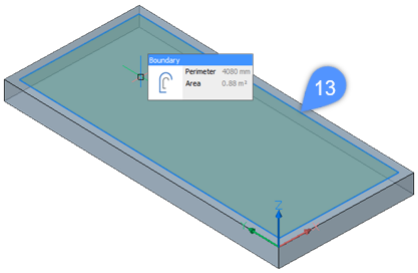


7 **オフセット**ツールを使用して、固定枠 (12)の輪郭の平行オフセットを作成します。

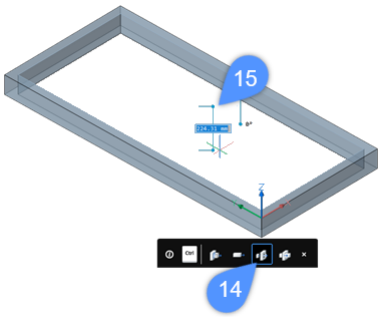


注 : オフセットの距離はフレームの幅と同じです。

8 平行オフセット(13)の内側の境界にカーソルを合わせ、クワッドで**押し出し**ツールを選択します。



9 押し出しモードに**減算**オプション(14)を選択して、カーソルを下方向(15)に動かし、固定枠に開口部を作成します。



10 固定枠の開口部の作成を完了するために、次のいずれかの操作を行います。

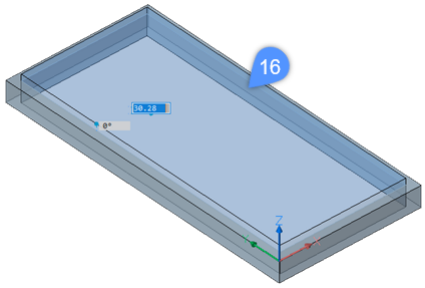
- ポイントを指定します。
- ダイナミック寸法フィールドに数値を入力して、**Enter**を押します。

ステップ 4：窓ガラスを作成します。

1 **GLASS**画層をカレントに設定します。

2 窓枠の内側の境界を押し出すようにDMEXTRUDEコマンドを使用します。

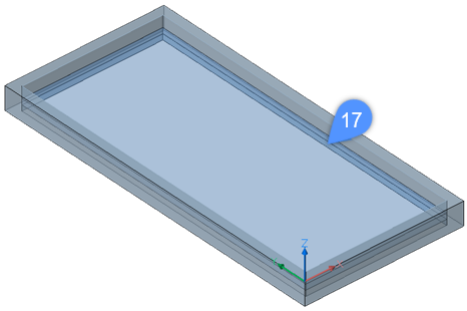
3 **注**：押出しの高さはガラス板の厚さに等しいです。以下の図は、窓ガラス枠を作成するDMEXTRUDEコマンドを使用した後の、窓枠の内側境界を示しています。



注：窓ガラスを作成するには、**DMExtrude**のツールチップから**作成**オプションを選択する必要があります。

4 固定フレームの外側の面が、インサートが配置されるソリッド(壁)の外側の面と一致しない場合は、窓ガラス枠をマイナスのZ方向に下に動かします。

5 下の図は、下に移動させた後のガラス板のソリッド(17)を示しています。



6 必要に応じて、図面を保存する前に、図面全体をBIM窓要素として分類できます。

7 これを行うには、次の手順を実行します。

- コマンドラインに、BIMCLASSIFYと入力します。
- 窓を表す**I**を押し、**Enter**キーを押して確定します。
- 次に、図面を表す**D**を押し、コマンドが実行されるまで**Enter**キーを押します。

これで、図面が窓として分類されます。したがって、これが新しい図面に挿入されると、BIM窓要素として自動的に認識されます。

8 図面を保存します。

9 必要に応じて、窓を新しい図面に挿入した後、追加の情報を窓に割り当てることができます。下図に、要素を選択した後に**プロパティ**パネルのBIMプロパティで使用可能になる**窓共通**カテゴリを示します。窓材の熱透過係数、国の防火分類に従った耐火性などに関する情報を割り当てることができます。

Window Common	
Reference	
Fire rating	
Acoustic rating	
Security rating	
Is external	Off
Infiltration	0 m³/s
Thermal transmittance	0 W/m²·K
Glazing area fraction	0
Smoke stop	Off

22.4.3 2D図形（ドアスイング）を追加する

必要に応じて、窓やドアの図面に2Dシンボルを含めることができます。これらの2Dシンボルは、画層に応じて、窓やドアの実際の**3Dソリッド**断面を置換するか、または**3Dソリッド**断面に追加されます。

- **BRX_2D_**または**BRX_2D+_**で始まる画層のシンボルは、以下の場合に断面ブロックに追加されます：
  - 断面平面が成分と交差している場合、解析的な陰線処理(HLR)で処理されることはありません。
  - 断面の平面がコンポーネントと交差していない場合、解析的な隠線処理(HLR)の手順を経た後。
- **BIM_2D_SECT_**または**BIM_2D_SECT+_**で始まる画層のシンボルは、断面がコンポーネントと交差する場合にのみ追加されます。すべてのジオメトリは、解析的な隠線処理(HLR)の手順を経ます。
- **BIM_2D_BACK_**または**BIM_2D_BACK+_**で始まる画層のシンボルは常に追加され、すべての図形は解析的な隠線処理(HLR)の手順を経ます。
- シンボル画層名
  - 「+」を付けると、コンポーネントの2Dシンボルと3Dソリッド断面の両方が断面結果に表示されます。
  - 「+」を付けない場合は、2Dコンテンツのみが表示され、コンポーネント内のすべてのソリッドは断面生成の際に無視されます。

注：BRX_2Dは、下位互換性のために引き続き利用可能となっています。

コンポーネントに2Dシンボルを追加するには、次の手順に従います。

1 新しい画層**BRX_2D+_***を追加し、アクティブ画層として設定します。この画層に追加された2Dジオメトリは、このコンポーネントを通る断面を切り取り、シート上に断面を生成すると表示されます。コンポーネント内の3Dジオメトリのカットスルー表現も表示されます。

2 コンポーネントの2Dシンボルの作画を開始する前に、Z軸がコンポーネントの底面に垂直かつ上向きであることを確認してください。これを行うには、UCSを切り替える (UCSコマンドを使ってX軸上で90度回転させる)か、**ダイナミックUCS** (DUCS)を有効にします。

3 **ルックフロム**ウィジェットを使い、ビューを**トップ**ビューに切り替えます。

4 **BRX_2D+_***画層上に2Dジオメトリを作画します。

注：ポリライン図形のみを使用します。これは、コンポーネントの断面を生成するときにポリラインが認識されるためです(**直線**図形は認識されません)。

5 モデルの3Dビューに戻り、以下が表示されていることを確認します。
  - **BC_SUBTRACT**画層のソリッド
  - コンポーネントのソリッド
  - 新しく作画した2Dジオメトリ

22.4.4 コンポーネントをパラメータ化する

これを最初に3Dジオメトリに対して実行し、次に2Dジオメトリに対して実行できます。

注：パラメトリック化の詳細については、**パラメトリック化**および**パラメータと拘束を用いた作業**の記事を参照してください。

1 コンポーネントの3Dジオメトリをすべて選択します。これには、**BC_SUBTRACT**画層のジオメトリも含みます (最初にこの画層が**オン**になっていることを確認してください)。

2 選択したジオメトリにPARAMETRIZEコマンドを実行し、**メカニカルブラウザ**パネルに表示される拘束を確認します。

3 必要に応じて、パラメータの名前を変更できます (たとえば、**Length_X**ユーザパラメータの名前を**Width**に変更するなど)。また、以前に定義した拘束とパラメトリック動作のいくつかを変更することもできます。

4 UCSコマンドを使用して、2DジオメトリがUCSの XY平面に配置されるようにUCSを変更します。

5 以前にコンポーネントに追加した2Dジオメトリを選択します。

6 選択したジオメトリにPARAMETRIZE2Dコマンドを実行し、**メカニカルブラウザ**パネルに表示される拘束を確認します。

7 手順3を繰り返します。必ず、X方向に新しく作成した2Dパラメータを**Width**3Dパラメータに接続してください。これを行うには、この3Dパラメータの名前を2Dパラメータの値として入力します。

注：2D拘束は3D拘束とは動作が異なりますが、同じパラメータ名を使用して、2Dと3Dの両方のタイプの拘束を一緒にコントロールすることができます。

8 UCSコマンドの**ワールド**オプションを選択して、UCSを戻します。これにより、コンポーネントを別の図面に挿入するときの望ましくない結果を防ぐことができます。

9 **BC_SUBTRACT**画層を**オフ**にします。

10 図面を保存します。

11 **ライブラリ**パネルから、またはBMINSERTコマンドを使用して、コンポーネントをモデルに挿入します。コンポーネントを選択した状態で、**プロパティ**パネルからパラメータを変更して、すべてが期待どおりに動作することを確認します。

22.5 屋根の作成

22.5.1 屋根の作成ワークフローは、以下のステップで構成されています：

1 屋根の設置面を作成します。

2 設置面を押し出し、寄棟屋根を作成します。(DMEXTRUDEコマンド)

3 必要に応じて、屋根面の傾きを調整します(**マニピュレータ**ウィジェット)。

4 ルーフソリッドの厚みを定義します(SOLIDEDITコマンドの**ボディ/シェル**オプション)。

5 追加の屋根コンポーネントを作成します。

22.5.2 屋根の設置面の作成

屋根の設置面を作成することができます。

- 外壁の境界から作成します。
- 点のクリックや、それ以外の2D作図の手順で、閉じたポリラインを作成します。

外壁の境界から屋根のアウトラインを作成します。

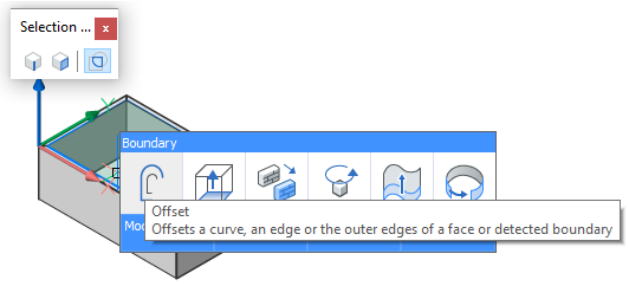
1 外壁以外を非表示にします。*図形の選択非表示は**構造**パネルを使用して簡単に行えます。ISOLATEOBJECTSコマ

ンドもご参照ください。

2 外壁の上面に座標系を設定します：
   - UCSと入力し、**Enter**を押します。

     プロンプト表示：UCS原点を指定、または [面 (F)/名前を付けた (NA)/図形 (E)/前 (P)/ビュー (V)/X/Y/Z/z軸 (ZA)/移動 (M)/ワールド座標 (W)] <ワールド座標 (W)>:
   - 外壁の上部の角にスナップし、**Enter**を押します。

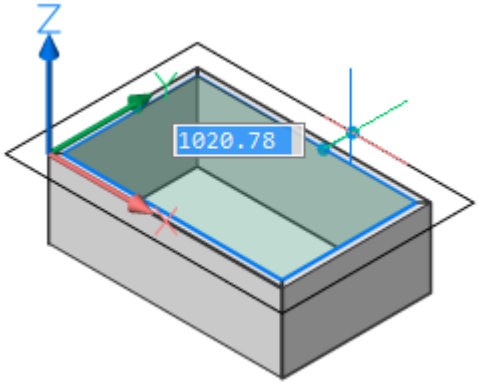
3 選**択モード**ツールバーの**境界検出を有効にする**をONにするか、**検出された境界を選択**をSELECTIONMODESシステム変数に含めてください。



4 外壁の内側を避けるようにカーソルを移動させます。

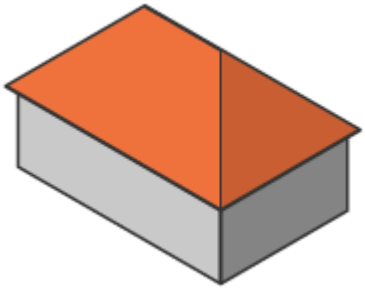
5 内側の境界がハイライトされます。

6 クワッドの**作図**タブで**オフセット**を選択してください。



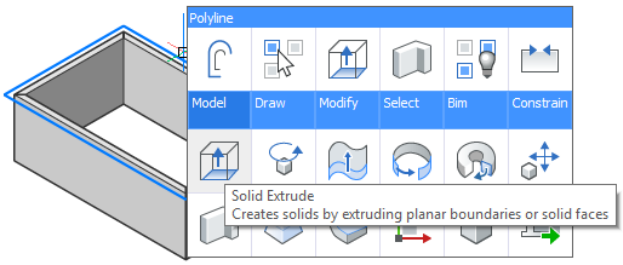
7 以下のいずれかの操作を行います：
   - ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
   - クリックして値を確定します。

22.5.3 寄棟屋根の作成

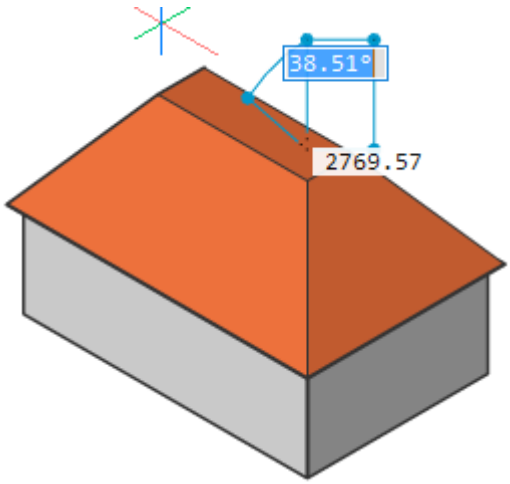


1 屋根の設置面を作成します。

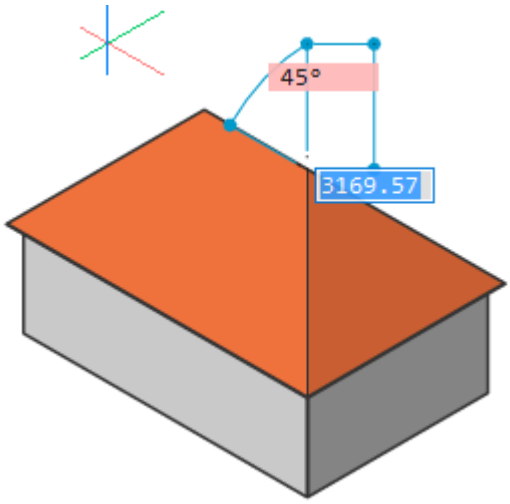
2 屋根輪郭の上にカーソルを移動し、クワッドの**モデル**タブで**押し出し**を選択してください。



3 垂直方向にカーソルを移動した後、**Tab**を押します。



4 **テーパー角度**欄に値を入力し、**Tab**を押します。



5 以下のいずれかの操作を行います：

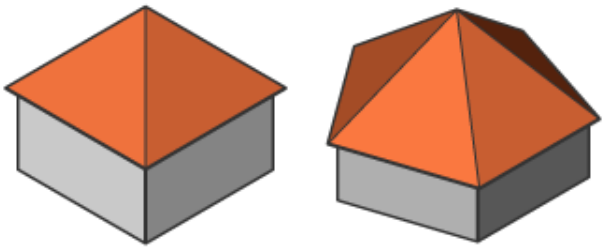
- **Tab**を押すと**テーパー角度**欄に別の値を入力できます。

  テーパー角度欄は、屋根の傾斜角を補完するものです。

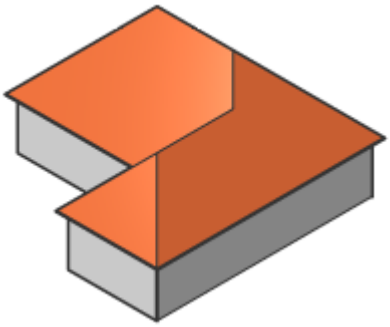
- **Enter**を押すと屋根が作図されます。

6 屋根輪郭の形状によって、結果は以下の通りになります。

- ピラミッド屋根：
-



- L字型寄棟屋根：
-

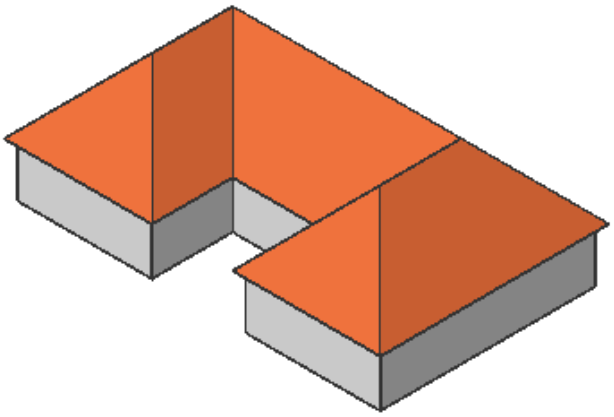


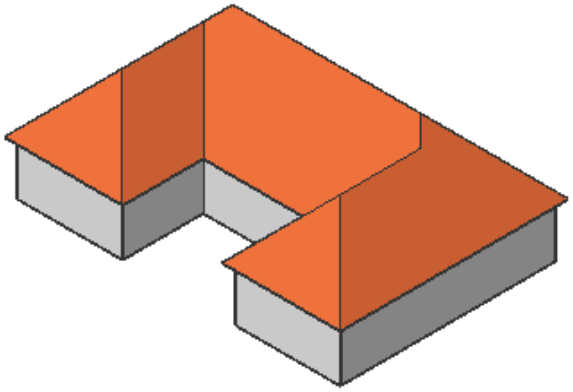
- T字型寄棟屋根：

-

- U字型寄棟屋根：

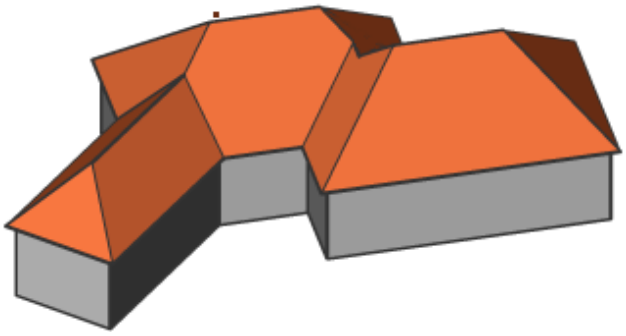
-





- 複雑な寄棟屋根：

-



7 屋根のソリッドの厚さを定義するには、SOLIDEDITコマンドの**ボディー** > **シェル**オプションを使用します。

以下を実行します：

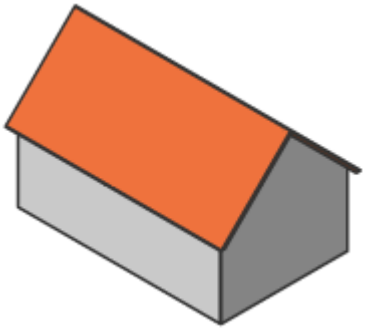
a **モデリング** > **ソリッド編集**リボンパネルで**シェル**を選択します。
3Dソリッド編集ツールバーから**シェル**を選択します。

b プロンプト表示：3D???????? - 屋根ソリッドを選択します。

c プロンプト表示：???????????? [??/????/???]? - 屋根ソリッドの底面を選択します。

d プロンプト表示：???????????????? - 屋根ソリッドの厚さを定義します。

22.5.4 切妻屋根の作成

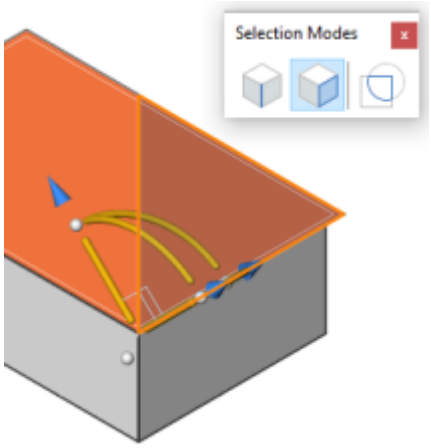


1 寄棟屋根を作成します。

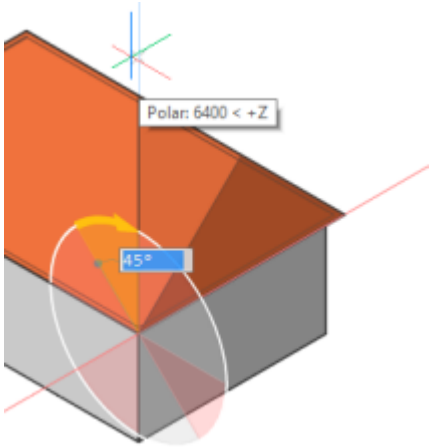
2 両端面を垂直にします：

- 端面の上に移動し、マウスの左ボタンを約半秒押したままにすると、マニピュレータウィジェットが表示されます。(MANIPULATORシステム変数の値を2に設定)

-

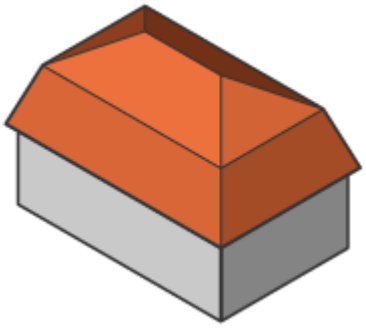


- カーソルを垂直方向の回転弧に合わせます。円弧がハイライトされたら、カーソルを動かします。
- 選択した面がダイナミックに回転します。
  面が垂直になっているときにクリックします。



3　寄棟屋根の作成手順のステップ7を実行します。ルーフソリッドの垂直面を削除します。

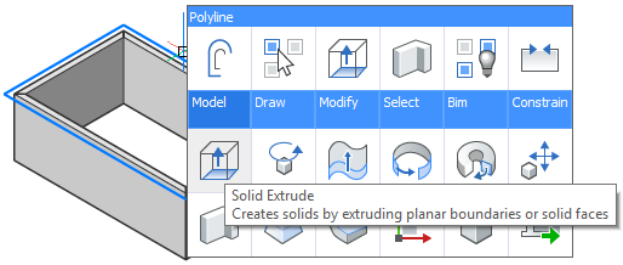
22.5.5　マンサード屋根の作成



マンサード屋根は、二つのソリッドで構成されており、別々の押し出しとして作成されます。

1　屋根の設置面を作成します。

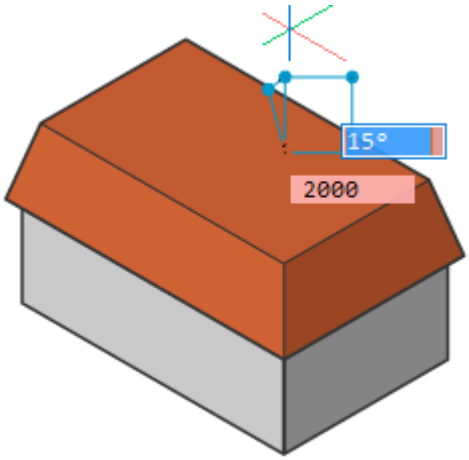
2　屋根輪郭の上にカーソルを移動し、クワッドの**モデル**タブで**押し出し**を選択してください。



3　垂直方向にカーソルを移動した後、**Tab**を押します。

4　**テーパー角度**欄に値を入力し、**Tab**を押します。

テーパー角度欄は、屋根の傾斜角を補完するものです。



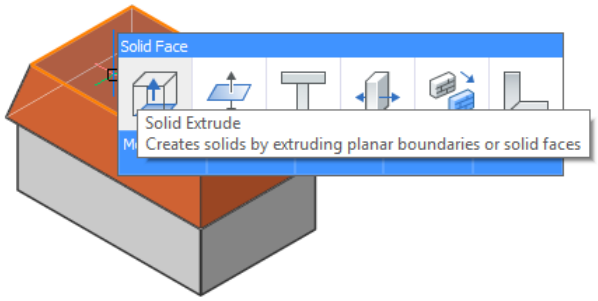
5　**押出高さ**欄に値を入力して、以下のいずれかを実行します：

- **Tab**を押すと**テーパー角度**欄に別の値を入力できます。

- **Enter**を押して、最初のソリッドを作成します。

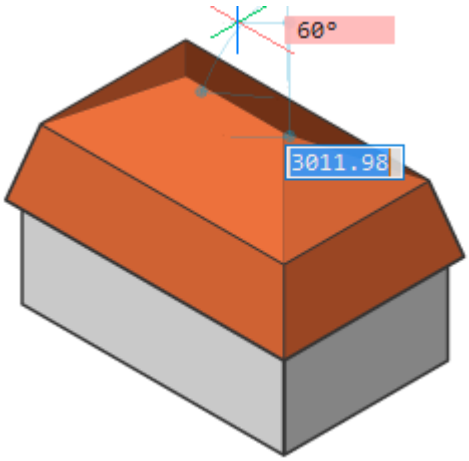
6 (オプション)**Tab**を押すと、入力欄が切り替わるので、満足のいく結果になったら**Enter**を押します。

7 最初の屋根ソリッドの上面にカーソルを移動して、クワッドで**押し出し**を選択します。



8 垂直方向にカーソルを移動した後、**Tab**を押します。

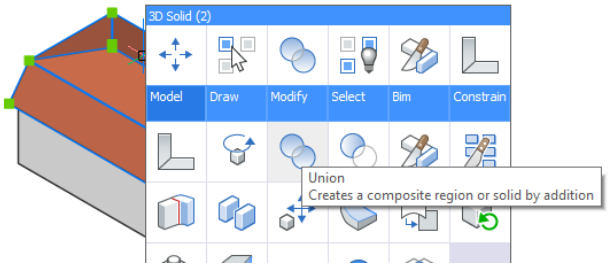
9 **テーパー角度**欄に値を入入力し、**Tab**を押します。



10 以下のいずれかの操作を行います：

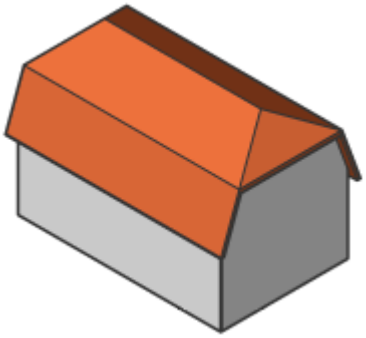
- **Tab**を押すと**テーパー角度**欄に別の値を入力できます。
- **Enter**を押して、最初のソリッドを作成します。

11 両方の固形物を選択し、クワッドで**モデル**タブで**和**を選択してください。



12 寄棟屋根の作成手順のステップ7を繰り返します。

22.5.6 半切妻屋根の作成



半切妻屋根は、二つのソリッドで構成されており、別々の押し出しとして作成されます。

1 マンサード屋根の作成手順のステップ1～6を実行して、最初のソリッドを作成します。

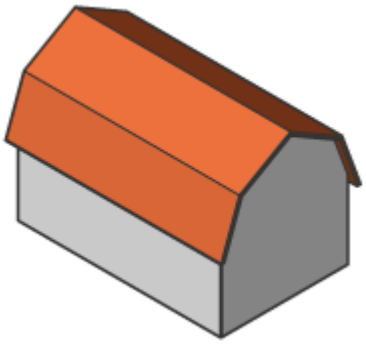
2 切妻屋根の作成手順の手順2を実行し、端面を垂直に設定します。

3 マンサード屋根の作成手順のステップ7～11のステップを実行します。

4 寄棟屋根の作成手順のステップ7を実行します。ルーフソリッドの垂直面を削除します。

22.5.7 ギャンブレル屋根の作成

ギャンブレル屋根の屋根は、二つのソリッドで構成されており、別々の押し出しとして作成されます。



1 マンサード屋根の作成手順のステップ1～6を実行して、最初のソリッドを作成します。

2 切妻屋根の作成手順の手順2を実行し、端面を垂直に設定します。

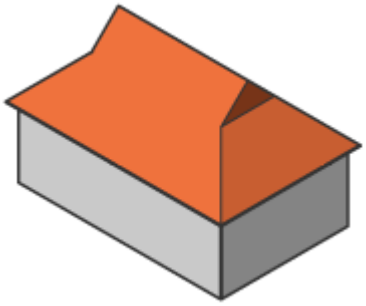
3 マンサード屋根の作成手順のステップ7～10を実行して、2つ目のソリッドを作成します。

4 切妻屋根の作成手順の手順2を実行し、端面を垂直に設定します。

5 マンサード屋根の作成手順のステップ11を実行します。

6 寄棟屋根の作成手順のステップ7を実行します。ルーフソリッドの垂直面を削除します。

22.5.8 オランダ切妻屋根の作成

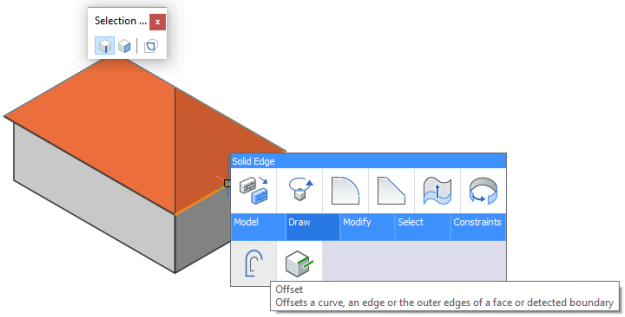


オランダ切妻屋根は寄棟屋根をベースに作成します。

1 寄棟屋根を作成します。

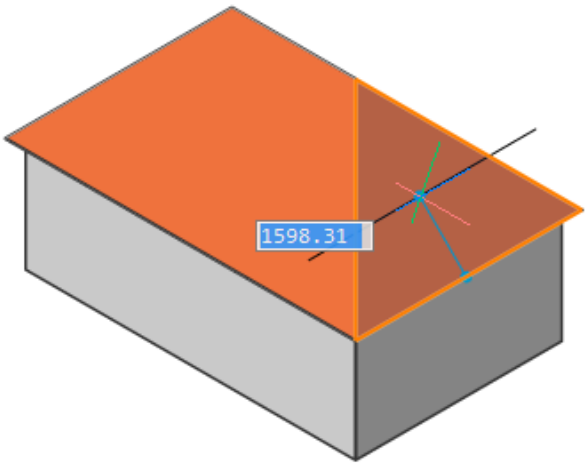
2 SELECTIONMODESシステム変数の**エッジを選択**オプションをONにします。

3 屋根面の下端にカーソルを移動し、クワッドの**作図**タブで**オフセット**を選択します。



4 カーソルを移動し、ダイナミック入力フィールドに値を入力するか、点をクリックします。

5



6 以下のいずれかの操作を行います：

- **3Dソリッド編集**ツールバーの**ケガキ**を選択します。
- IMPRINTコマンドを実行します。

7 プロンプト表示： 3Dソリッド、サーフェス、リージョンを選択 [選択オプション (?)]: 屋根ソリッドを選択。

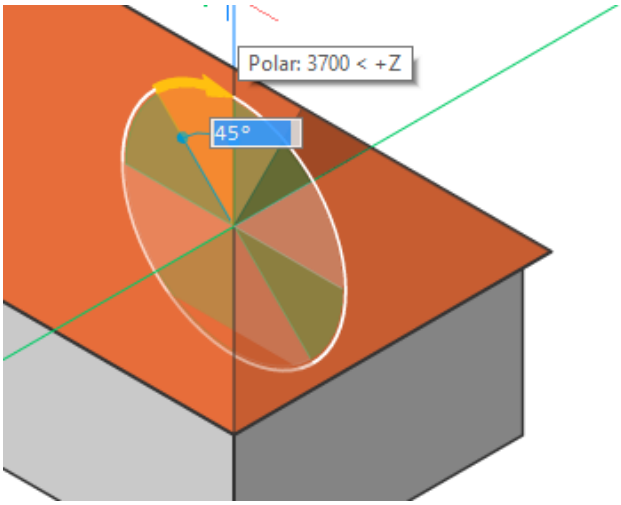
8 プロンプト表示：ケガキする図形を選択:オフセットする屋根のエッジを選択。

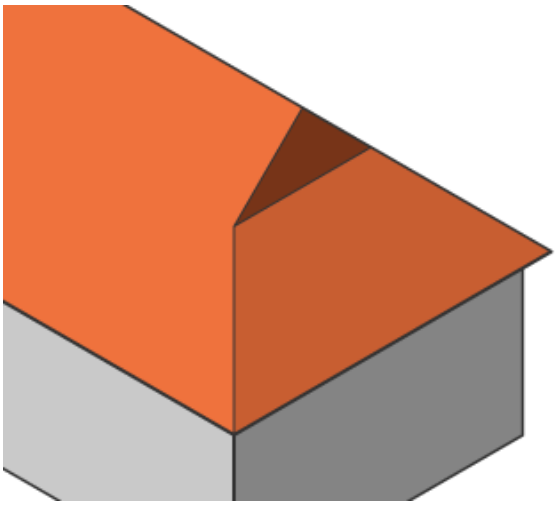
9 プロンプト表示：元図形を削除[はい/いいえ]<いいえ>: はいを選択。

10 三角形の面が作成されます。

11 ギャンブレル屋根の作成手順のステップ2を実行し、端面を垂直に設定します。

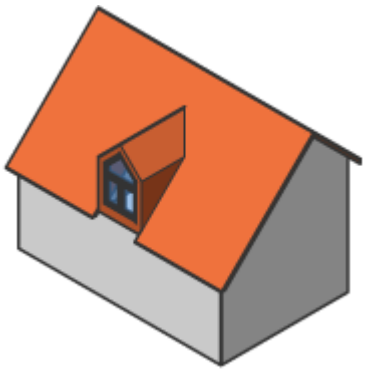
12





13 寄棟屋根の作成手順のステップ7を実行して、屋根ソリッドの厚さを設定します。

22.5.9 明り採りの作成



明り採りを作成する手順は、以下の手順で構成されています：

- 屋根面の下端に直方体ソリッドを作成し、ボックスを屋根に接続します。
- 明り採りの位置と大きさを定義します。
- 明り採り屋根を作成します。

1 右クリックして、クワッドの**モデル**タブで**ボックス**を選択します。

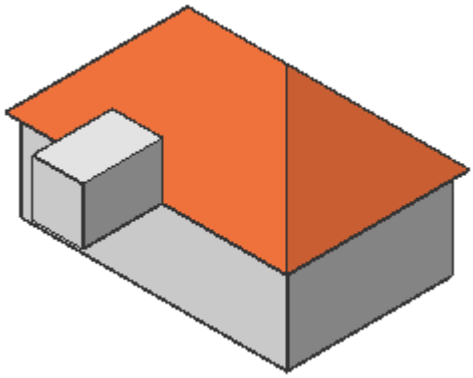
プロンプト表示：直方体のコーナーをセット、または [中心]<0.00,0.00,0.00>:

2 ルーフプランの下端にあるポイントをクリックします。

3 プロンプト表示：もう一方のコーナーをセット、または[直放題/辺の長さ]:

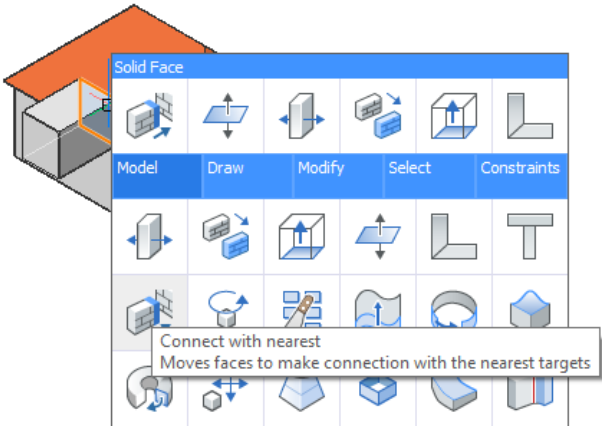
4 一点をクリックして、立方体の高さを定義します。または一点をクリックするか、値を入力します。

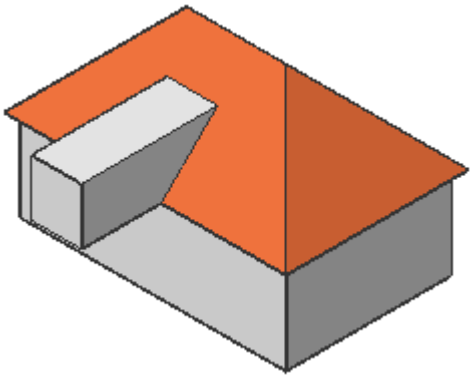
5



6 立方体の裏面を選択します：立方体の裏面の位置までカーソルを移動し、面がハイライトされるまで**Tab**を押します。(選択モード：面の選択 = ON)

7 クワッドの**モデル**タブで**最も近い接続**を選択します。

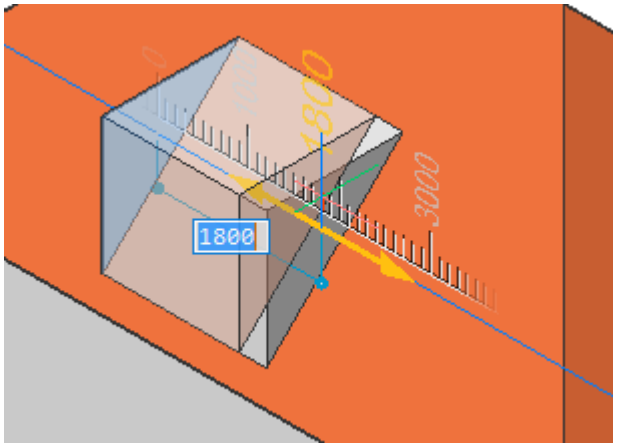




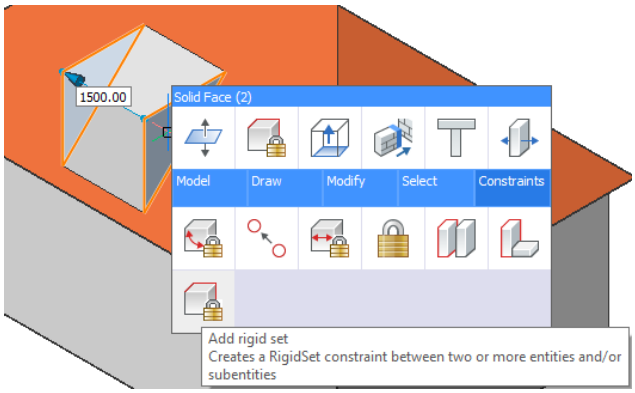
8 直方体の前面を選択し、クワッドの**モデル**タブで**プッシュ/プル**を選択し、屋根面まで直方体の面を動かします。

9 明り採りソリッドの前面、上面、側面のプッシュプルを使用して、屋根上の明り採りの寸法と位置を定義します：

- 側面を選択し、**Tab**を押して幅を定義します。



- 両側の面を選択し、クワッドの**拘束**タブで**リジッドセットを追加**を選択して幅を固定します。

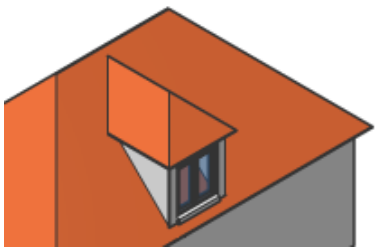
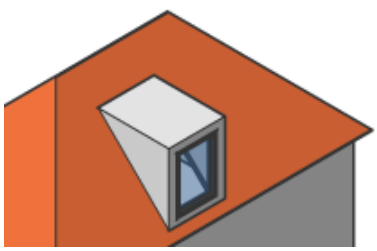
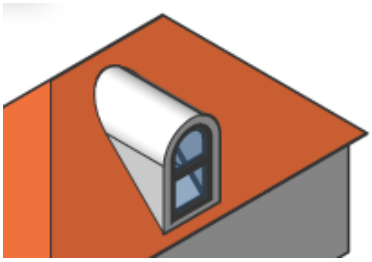


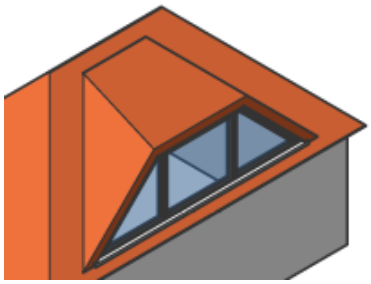
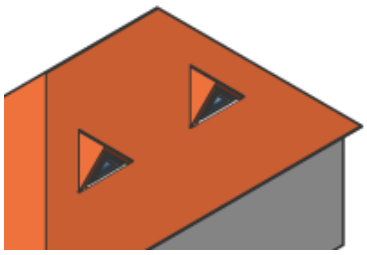
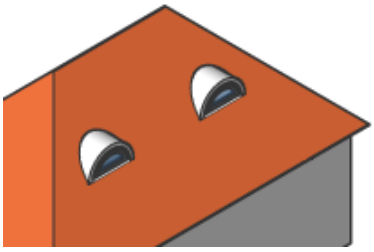
- 側面の1つをドラッグして、明り採りを配置します。以下のいずれかを実行します：
  - ダイナミック入力フィールドに距離を入力します。
  - クリックして値を確定します。
  - ドラッグしている面と平行な面の上にカーソルを移動し、**Tab**を押します。距離欄には、この面までの距離が表示されるようになります。
- 明り採りの高さを定義するには上面をドラッグします。
- 正面の面をドラッグして、屋根の軒先からの距離を設定します。

明り採りの下の壁の外壁面にカーソルを合わせて、**Tab**を押します。距離欄には、この面までの距離が表示されるようになります。

10 明り採りの形状を変更します：

- 寄棟屋根を追加します。
- 寄棟屋根を追加し、その後、前面を垂直に回転させ切妻屋根を作成します。
- 円蓋を追加します。
- 上面及び側面を回転します。
- 切妻屋根を起点に、明り採りの前面が三角形になるまで後方へ移動させます。

		
寄棟	フラット	円蓋

		
スペシャル	三角形	眉状

22.6 スラブの作成

22.6.1 コマンド

DMEXTRUDE、POLYSOLID

注：

DMEXTRUDEコマンドを使い、ポリライン、円、楕円等の閉じた2D図形を押し出すことができます。また、壁や2D図形で囲まれた、検出された境界を押し出すこともできます。

POLYSOLIDコマンドを使い、傾斜屋根を作成することができます。

22.6.2 壁と壁の間の床スラブの作成

以下を確認してください：

- SELECTIONMODESシステム変数の**検出された境界を選択**オプションがオンになっていること。
- 周りの壁の底面は、現在の座標系のXY平面上にあります。
- 必要に応じて座標系の原点を移動します。
- ダイナミック寸法をONにします。

1 境界を囲む壁の内側でカーソルを動かします。

2 境界がハイライトされたら、クワッドの**モデル**コマンドグループで**押し出し**を選択します。

スラブはダイナミックに押し出されます。

3 以下のいずれかの操作を行います：
   - ダイナミック入力フィールドにスラブの厚さを入力します。
   - 1点を指定します。

22.6.3 傾斜屋根の作成

以下を確認してください：

- **ダイナミックUCS**をONにします。
- **ダイナミック寸法**(DYN)をオンにし、かつDYNMODEシステム変数の**トラッキングダイナミック寸法**オプションをオンに設定しておくことをお勧めします。
- **図形スナップトラッキング**(STRACK)をONにします。

- **端点図形スナップ**をオンにします。

1 POLYSOLIDコマンドを起動します。

1 プロンプト表示：開始点または[高さ/幅/ジャストフィット/図形/セパレートソリッド/ダイナミック]<図形>:

2 作成したい屋根スラブに対して直角をなす壁の外側の面にカーソルを合わせます。

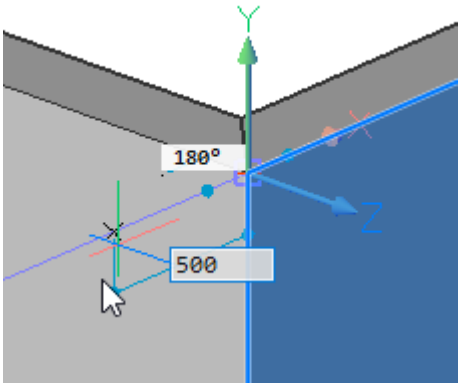
3 面がハイライトされたら、Shiftを押して**ダイナミックUCS**をロックします。

4 以下のいずれかの操作を行います：

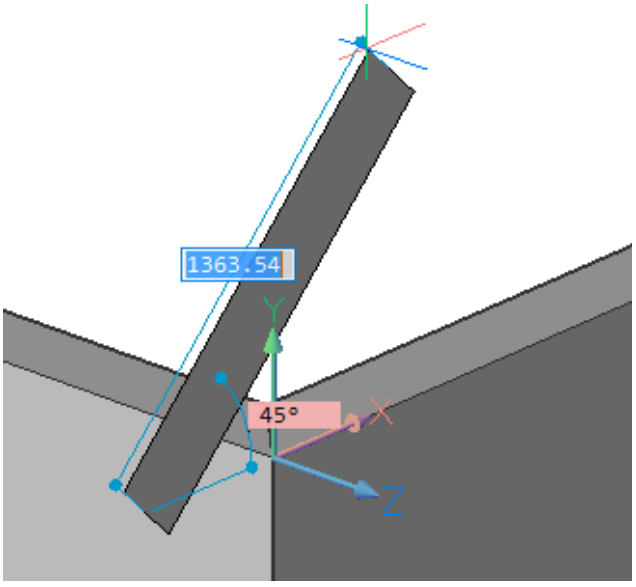
5 壁の最上部のエッジに屋根を作成するには、壁の外側最上部のコーナーにスナップします。

屋根の張出し(ひさし)を作成するには：

- 壁の外側最上部のコーナーにカーソルを合わせ、スナップトラッキングポイントを指定します。
- トラッキングポイントが必要であることを示す赤色の小十字が表示されたら、カーソルを外側へ移動し、張出しの距離をダイナミック入力フィールドに入力します。



6 Tabを押して角度入力欄を表示し、ピッチ角度を入力します。Tabを再び押して距離入力欄に移動します。

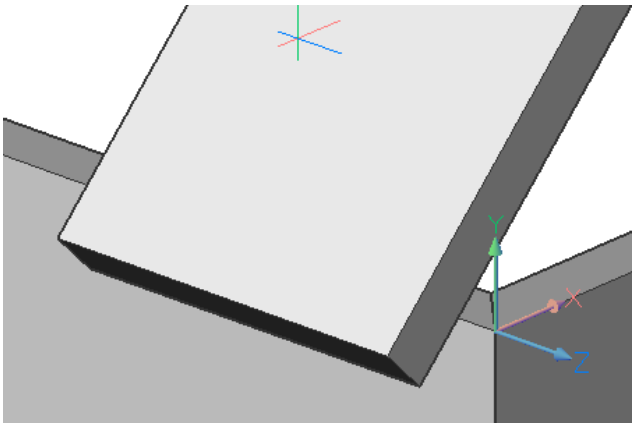


7 屋根スラブの高さを指定し、Enterを2回押します。最初のEnterで屋根スラブの設置面が作成され、2回目のEnterで2

番目のソリッドの作成が中断されます。

8 屋根のスラブはダイナミックに押し出されます。

9 押し出しの長さを定義するポイントを指定します。



10 さらに屋根スラブを作成するには、上記の手順を繰り返します。

11 CONNECTWITHNEARESTを使って、壁と屋根のスラブを接続します。

22.7 壁の作成

22.7.1 コマンド

POLYSOLID、LCONNECT、TCONNECT、BIMQUICKDRAW

22.7.2 ポリソリッドツールについて

ポリソリッドツールでは、始点、終点を選択し、高さを入力することで、壁ソリッドを作成できます。なお、BricsCAD BIMでは、常に最初にジオメトリを作成し、マテリアルや複合材の追加は後回しにします。これにより、予備デザインのモデリング時に細部を気にする必要がありません。

ダイナミック寸法と極トラックの使用を推奨します。ダイナミック寸法は、壁の長さを指定するために使用し、極トラックは方向をコントロールします。

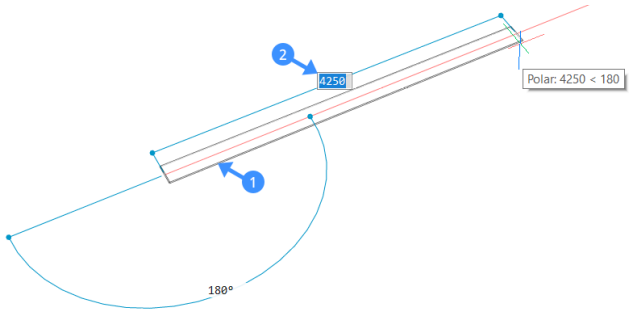
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『POLYSOLID』をご参照ください。

22.7.3 手順：シンプルな壁を作成

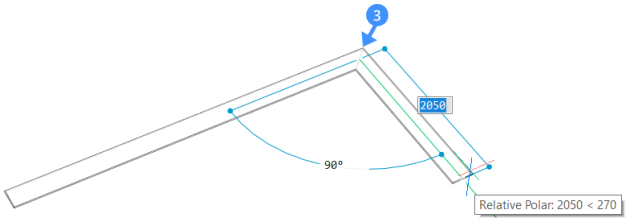
1 **ポリソリッド**ツールを起動します。

2 始点を選択すると、壁のフットプリント(1)が自動的に表示されます。

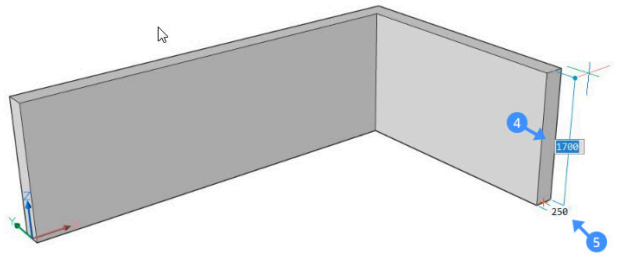
3 任意の方向にカーソルを動かすと、現在の長さの値がダイナミック入力フィールド(2)に表示されます。



4 終点を選択するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力してEnterを押します。隣接する壁のフットプリント(3)が表示されます。新しい端点を選択するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力して、隣接する壁セグメントを作成します。

5 

6 Enterをもう一度押すか、右クリックします。壁の高さは、高さ入力欄(4)にダイナミックに表示されます。ここで、壁のデフォルトの高さを変更することができます。壁の幅を変更するには、幅入力欄(5)を使用します。Tabを押すと、2つのダイナミック入力欄を切り替えることができます。

7 

8 壁の位置揃えをを変更するには、「ポリソリッド位置揃えのヒントウィジェット」が画面の下部に表示されている間に、Ctrlを押してください。

9

注：直前に使用した壁の厚みと高さが、次のポリソリッドの新しいデフォルト値になります。

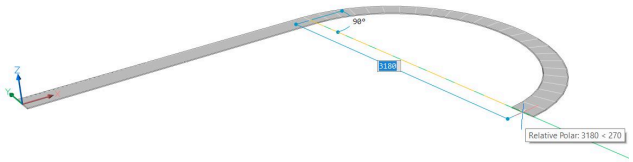
22.7.4 手順：カーブした壁の作成

1 **ポリソリッド**ツールを起動します。

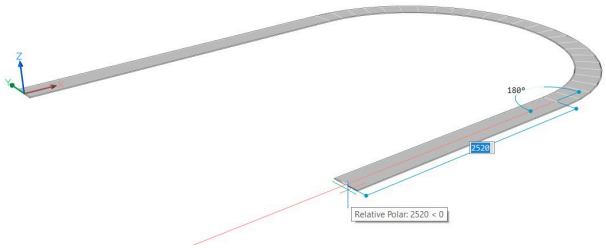
2 始点を選択し、カーソルを移動して長さを設定するか、クリックして終点を設定します。

3 カーブした壁を作成するには、コマンドラインに Aと入力し、Enterを押して**円弧**オプションを起動するか、プロンプトメニューから**円弧**オプションを選択します。

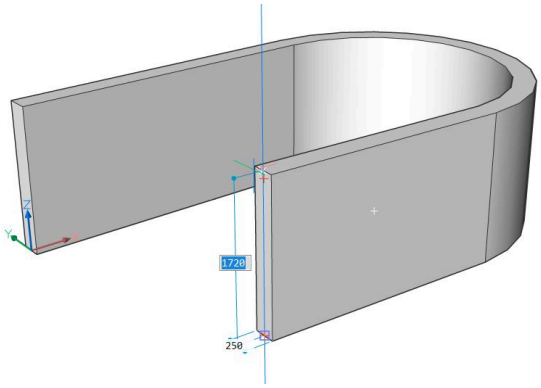
4 ここで、カーソルを好きな方向に動かして、壁をカーブさせます。ダイナミック入力欄に値を入力して、円弧の度数と長さを設定します。Enterを押します。

5 

6 任意の場所をクリックするか、ダイナミック入力フィールドに値を入力することで、隣接するカーブした壁要素が連続して作成されます。直線的な壁の作成に戻すには、Lと入力してEnterを押すか、オプションダイアログで**線分**を選択します。



7 もう一度Enterを押すか、右クリックします。壁の高さがダイナミック入力フィールド表示されます。値を入力して、壁のデフォルトの高さを変更します。壁の厚みを変更するには、厚みのダイナミック入力フィールドを使用します。Tabを押すと、2つのダイナミック入力フィールドを切り替えることができます。

8 

22.7.5 手順：既存の2D平面を使用して壁を作成

既存の2D平面図を使用して、壁要素を3Dで作成できます。

1 クワッドから**ポリソリッド**ツールをクリックし、コマンドラインに「E」と入力するか、プロンプトメニューから**図形**を選択します。**ポリソリッド**の**図形**オプションを使用すると、2Dレイアウトから3Dジオメトリを作成できます。

2 ポリソリッドベースになる2D線形図形を選択します。

3 選択対象の図形は、線分、ポリライン、円弧、円、楕円、楕円弧、スプラインです。

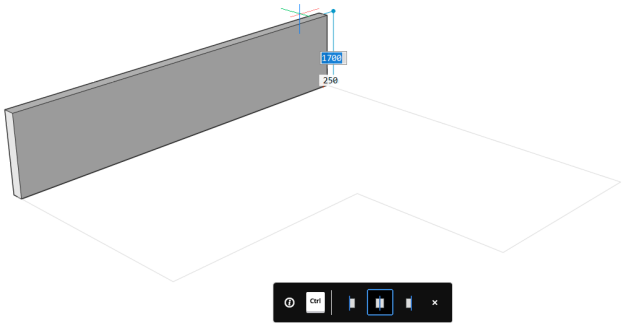
4 ソリッドを上下に移動させ、左クリックして壁の高さを設定するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力、または右クリックしてデフォルト値を受け入れます。

5 現在の壁の幅が幅フィールドに表示されます。Tabを押すと、高さと幅のフィールドが切り替わります。

6 ホットキーアシスタントが表示され、使用可能な並べ替えオプションが表示されます。Ctrlを押すと、壁の位置合わせオプ

ションを循環します。

7

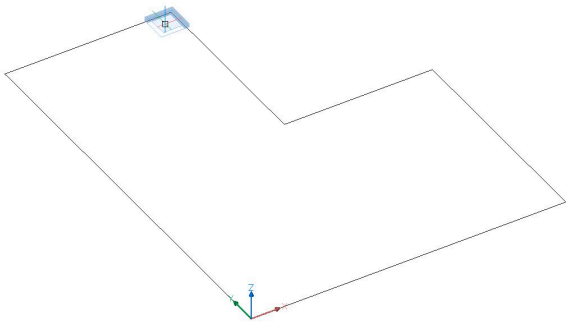


また、**クイックドロー**ツールを使って、既存の2D平面を使って壁を作ることも可能です。

1 クワッドから**クイックドロー**ツールを開くか、コマンドラインにBIMQUICKDRAWと入力します。

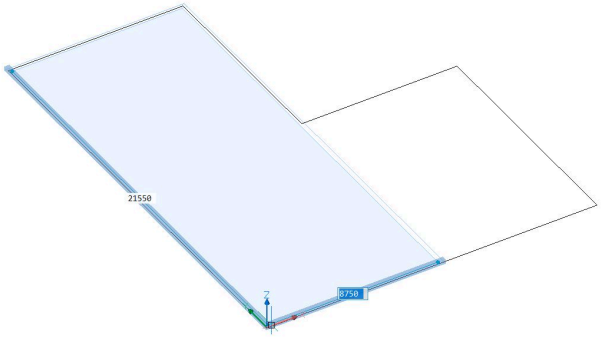
2 カーソルは自動的に2D図面のラインにスナップします。最初のコーナーを配置したい場所にカーソルを置き、左クリックします。

3



4 反対側の角にマウスを移動させて再度左クリックするか、それぞれの欄に辺の長さの値を入力してEnterを押します。

5

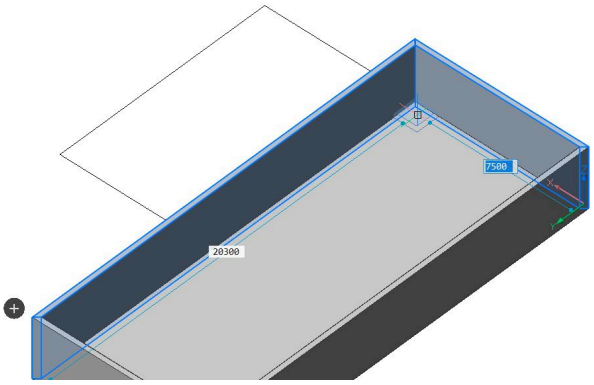


6 **クイックドロー** ツールでは、常に既定の高さと幅の設定が使用されます。

これらの値は、**クイックドロー**コマンドのコンテキストパネルで変更できます。

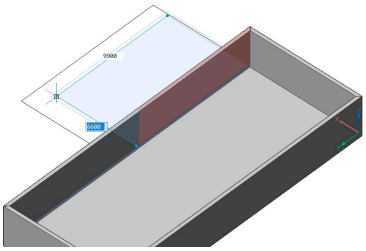
7 L字型の形を完成させるには、図の2番目の部分に新しい長方形を描きます。下図のように、1つ目の長方形の内側から2つ目の長方形を描くと、2つの長方形の共通の壁は自動的に取り除かれます。

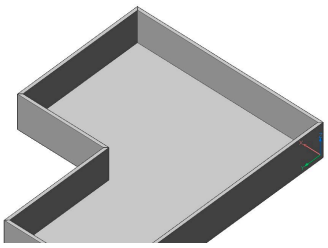
8



9　2つ目の長方形を作図しながら、削除される壁が赤で表示されているのがわかります。

10





クイックドローについての詳細は、**BIMクイックドローを使用**の記事をご参照ください。

22.7.6　L接続ツールについて

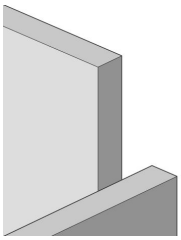
L接続ツールを使用すると、1つの壁を別の要素に接続できます。

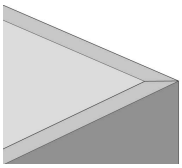
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『CONNECT』をご参照ください。

22.7.7　手順：二つの壁を接続

1　2つの壁要素を選択し、**L接続**ツールを適用します。

2つの壁が交差する場合、デフォルトで留め継ぎ接続が作成されます。





2 L接続ホットキーアシスタントを使って、壁の結合部の変更します。

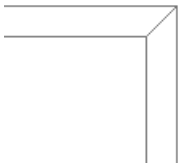
3 選択した結合部の種類は、青色枠で囲われています。

結合部の種類は左から順に、留め継ぎ、L並列タイプ1、L並列タイプ2、切断のいずれかになります。

Ctrlを押して、オプションを切り替えてください。

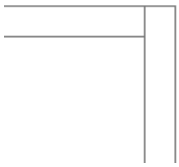
- **2分割L接続(マイター)**

  二等分線 L接続を選択すると、壁は45°の角度で接続されます。



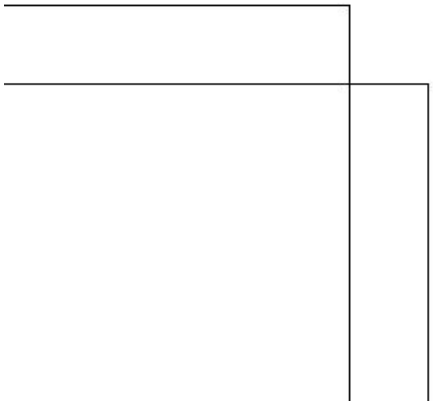
- **平行L接続 1 L接続 2**

  L平行型1又はL平行型2の接続タイプを選択した場合、壁は、90°の角度で接続されています。



- **接続解除**

  切断オプションを選択すると、壁間の既存の接続が取り除かれます。



Enterを押してカレントの接続タイプを受け入れるか、Ctrlを押して可能な接続オプションを順に選択します。

22.7.8 他の要素に壁を接続

近接点に接続ツールで接続を使用すると、面の向きに関係なく、壁の小さな面を他の要素の主な面に接続できます。このツールを使用して、壁の上面を屋根に、下面をスラブに、またはスラブの側面を壁に接続することができます。

面を最も近いオブジェクトに接続するには、最も近いオブジェクトと接続したいオブジェクトの面を選択し、クワッドの**近接点に接続**ツールを選択します。

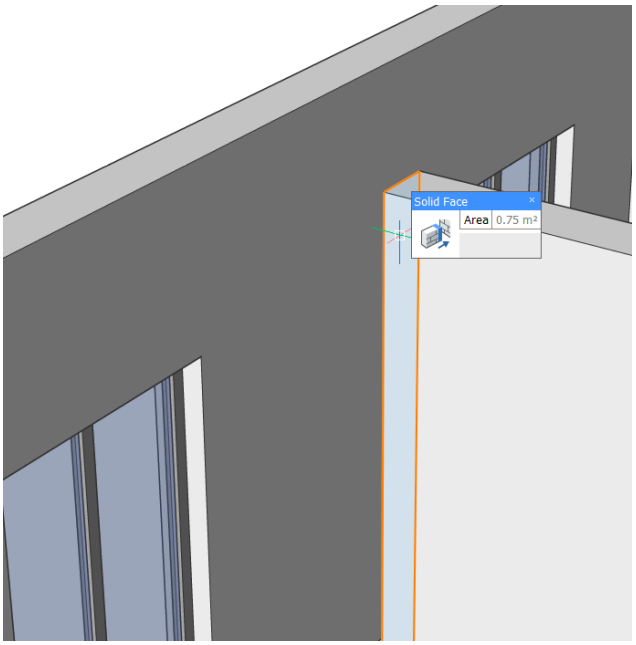
注：近接点に接続ツールを使用する前に、選択モード設定で**面を選択**オプションが有効になっていることを確認してください。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『TCONNECT』をご参照ください。

22.7.9 手順：二つの壁の間にT接続を作成

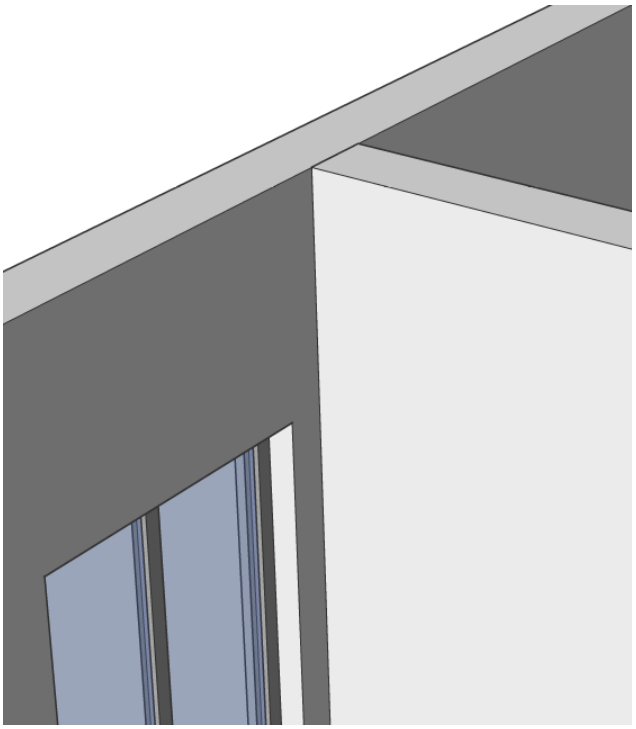
1 作図領域で接続させたい壁の面をハイライトします。

1



2 クワッドから**近接点に接続**ツールを使用します。

近接点に接続ツールは、最初の壁面をもう一方の壁面に押し出して、2 つの壁の間に T 字型接続を自動的に作成します。



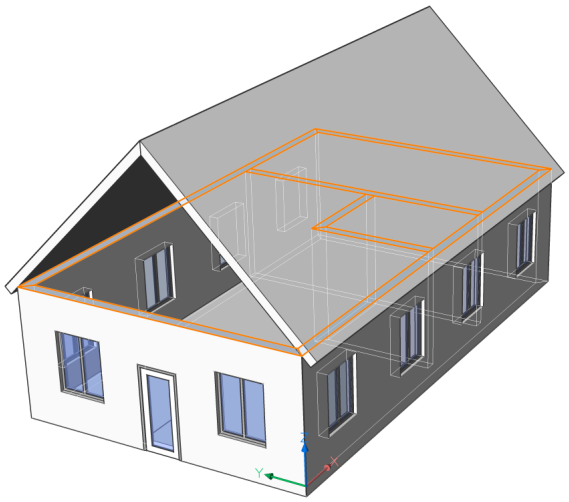
22.7.10　整列した面を選択ツールについて

近接点に接続ツールを使用して、壁の複数の面を別の要素の最も近い面に接続することもできます。そのためには、**整列した面を選択**ツールを使用します。このツールでは、現在の選択範囲と同一平面上にあるすべての面をハイライト表示することができます。

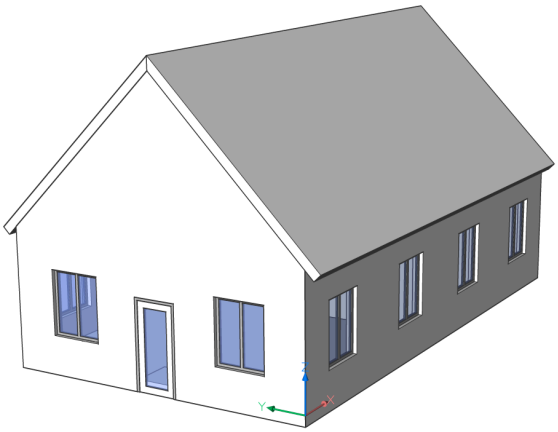
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『SELECTALIGNEDFACES』をご参照ください。

22.7.11　手順：屋根スラブに壁の複数の面を接続

1　現在の選択に合わせてすべての面を選択するには、いずれかの壁の上面をハイライトし、クワッドの**一般**タブにある**平面を選択**ツールをクリックします。



2　**近接点に接続**ツールを起動します。壁の上面は屋根に取り付けられています。



22.8 カーテンウォール

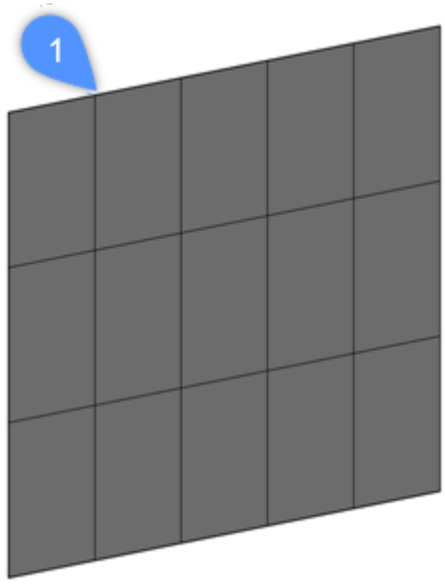
22.8.1 コマンド

BIMCURTAINWALL

22.8.2 概要

BricsCADでは、**カーテンウォール**ツールを使用して、3Dソリッドまたはサーフェスの面からブロックとしてカーテンウォールを作成します。

- カーテンウォールは、任意の平面や曲面から作成することができます。
- カーテンウォールを作成する際に、BIMグリッド上に窓枠を配置します。
- UラインおよびVラインパネルのオプションを変更することで、平面または曲面上で希望のサイズとパネル数を指定できます。



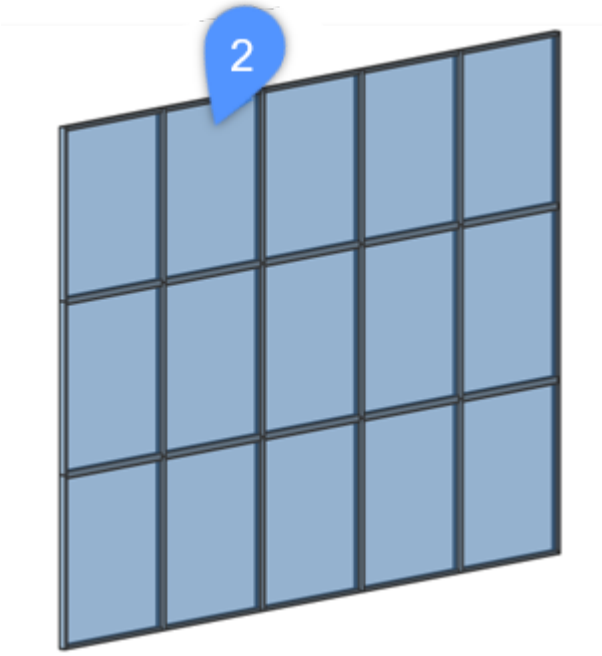


図1：カーテンウォールのグリッド(1)

図2：グレージング付きカーテンウォール(2)

カーテンウォールシステムは、ガラスのパネルで構成されています。カーテンウォール用のパネルインフィルです。

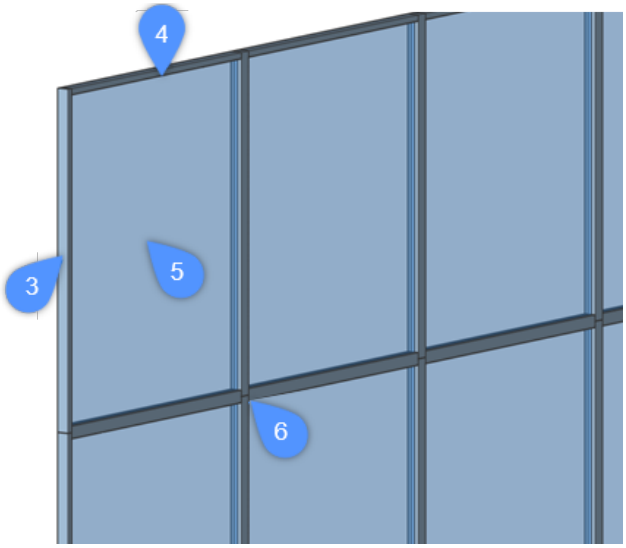
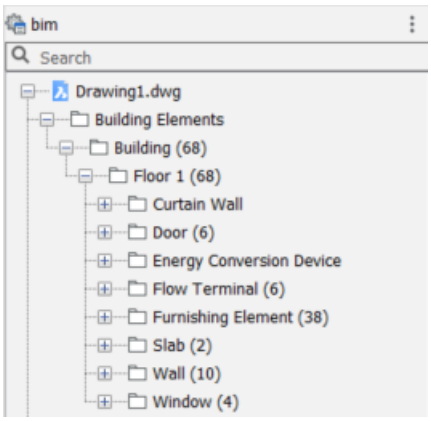


図3：カーテンウォールの一例。グリッド垂直(U)パネル(3)、グリッド水平(V)パネル(4)、ガラスインフィル(5)と一致する窓枠を示しています。デフォルトでは、梁の間は直線接続(6)です。

カーテンウォールは、**構造**パネルで**カーテンウォール**として自動的に分類されます。

カーテンウォールを分解すると、サブ図形は窓と窓枠に分類されます。窓枠は線形ソリッドです。これにより、カーテンウォールの長さを計算することができます。



22.8.3 手順：カーテンウォールの作成

1 コマンドラインでBIMCURTAINWALLコマンドを起動します。

1 プロンプト表示：面を選択:

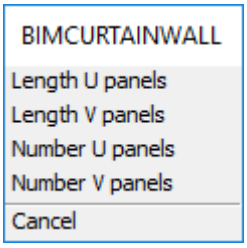
2 カーテンウォールを作成するには、作図領域内の面を選択します。

3 この面には、カーテンウォールのグリッドが自動的に生成されます。

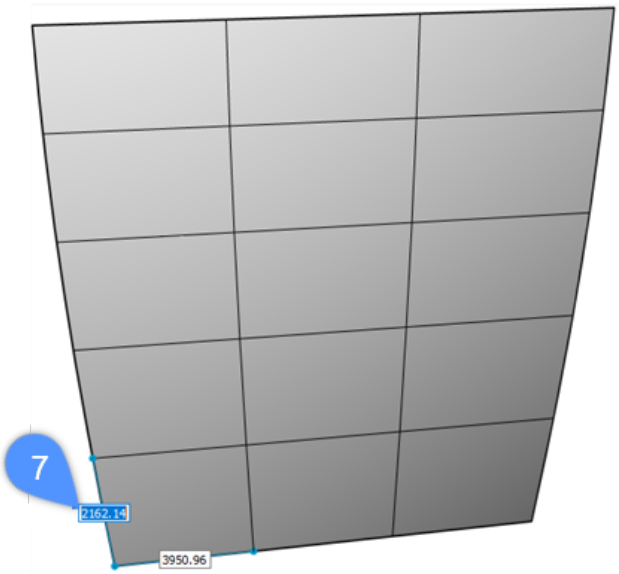
プロンプト表示：グリッドを作成するか、または[Uパネルの長さ/Vパネルの長さ/Uパネルの数/Vパネルの数]:

4 プロンプトメニューやコマンドラインを使って、UパネルやVパネルの長さ、数を変更します。

5



または、ダイナミック寸法(DYN)がオンの場合、DYN欄(7)を使ってパネルの長さを変更することができます。

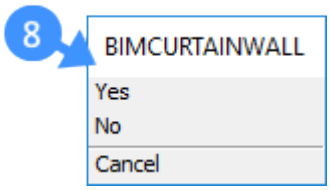


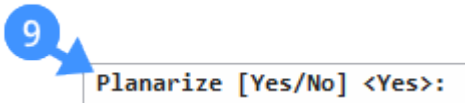
6 Tabでダイナミック寸法ボックスを切り替えることができます。

7 または、Enterを押して現在の値を受け入れます。

注：平面度からの最大偏差がコマンドラインに表示されます。

オプション：平面度からの最大偏差の値が「0」でない場合、プロンプトメニュー(8)が表示され、コマンドラインにはメッセージ(9)が表示されます。





プロンプトメニューやコマンドラインでは、グリッドセルの平面化を行うことができます。

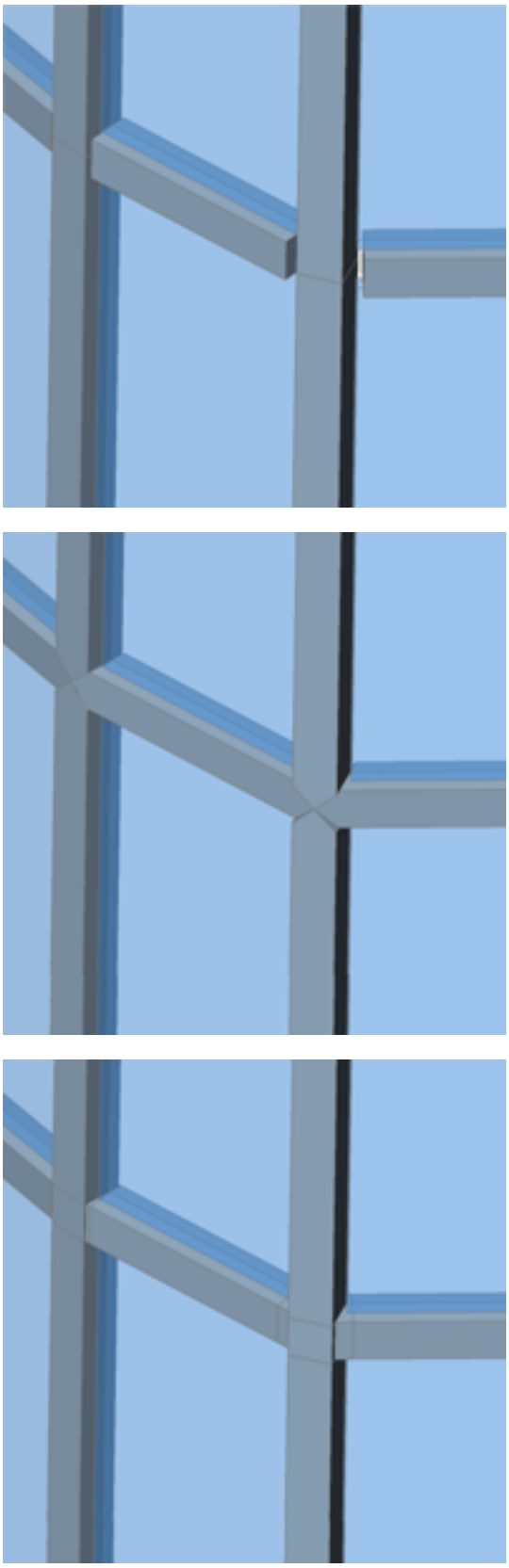
「はい」をクリックすると、グリッドセルが平面化されます。デフォルトでは、平面度からの目標偏差は「0.00001」に設定されています。

8 Enterを押してデフォルトの値を承諾します。

9 プロンプト表示：パラメータを変更または受け入れ [受け入れ/幅/深さ/ガラス厚/接続タイプ]<受け入れ>:

プロンプトメニュー：

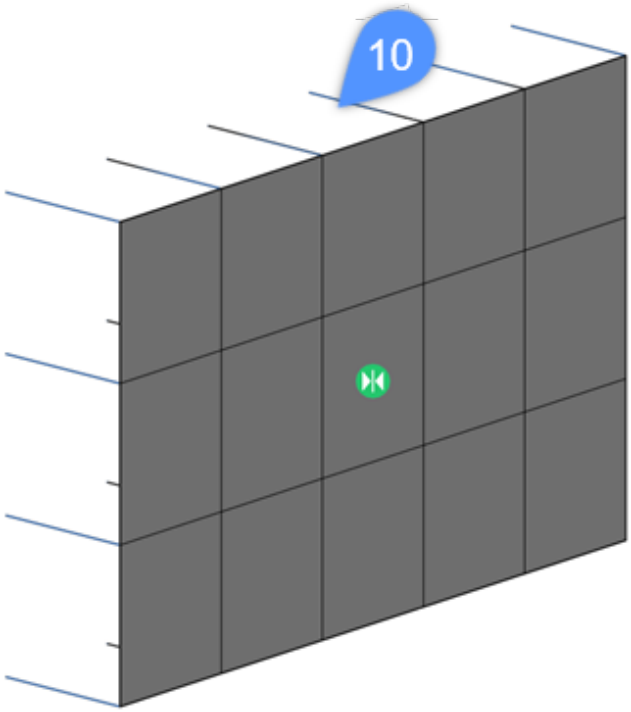
(**オプション**)フレーム幅を変更するには、プロンプトメニューで**幅**オプションを選択するか、コマンドラインで「W」と入力します。
デフォルトのフレーム幅＝60.000000
(**オプション**)フレーム深さを変更するには、プロンプトメニューで**深さ**オプションを選択するか、コマンドラインに「D」と入力します。
デフォルトのフレーム深さ=60.000000
(**オプション**)ガラスの厚さを変更するには、プロンプトメニューで**ガラス厚**オプションを選択するか、コマンドラインに「G」と入力します。
デフォルトのガラスの厚さ＝20.000000
(**オプション**)間の接続タイプを選択するには、プロンプトメニューで**接続タイプ**オプションを選択するか、コマンドラインに「C」と入力します。スムーズに接続するには、**スムーズ接続**オプションを選択するか、コマンドラインに「S」と入力します。ノードの接続には、**ノード接続**オプションを選択するか、コマンドラインに「N」と入力します。
デフォルトの接続はストレートです。



接続には3種類あります。左から順にストレート - スムーズ - ノード

10 青色の線(10)は、カーテンウォールが作成される側を示すために、面に表示されます。

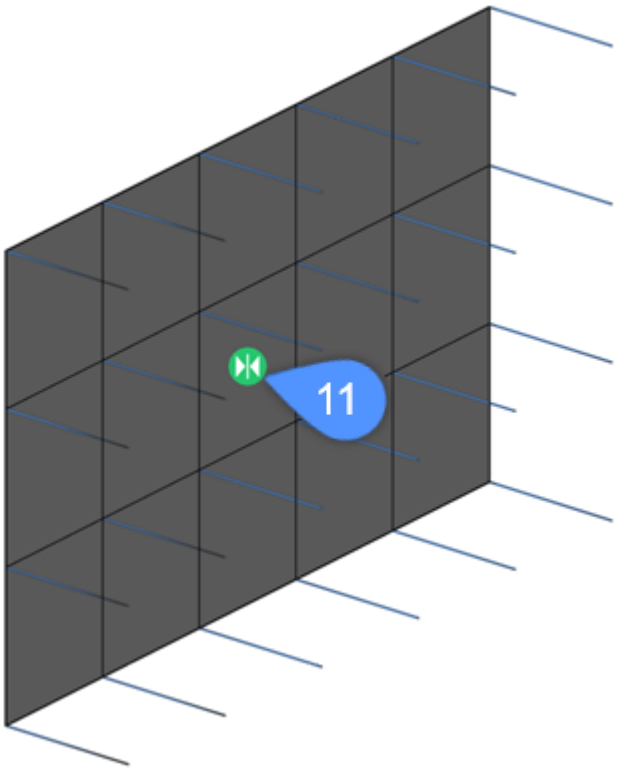
11



注：ステップ6とステップ7は、面がソリッドから選択されている場合にはスキップされます。この場合、デフォルトでは内側の法線が選択されます。

12 カーテンウォールを反転するには、ウィジェット(11)を使用します。

13



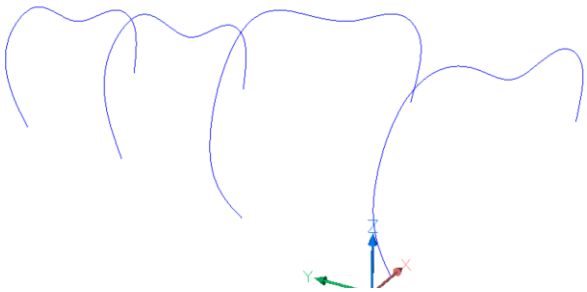
14 Enterを押して承諾します。

15 **注**：カーテンウォールの作成に使用したサーフェスまたはソリッドは、デフォルトで削除されます。削除したくない場合は、**設定**で**DELOB**の値を「0」に設定してください。

22.8.4 手順：自由曲面からカーテンウォールを作成

1 4つのスプラインから開始します。

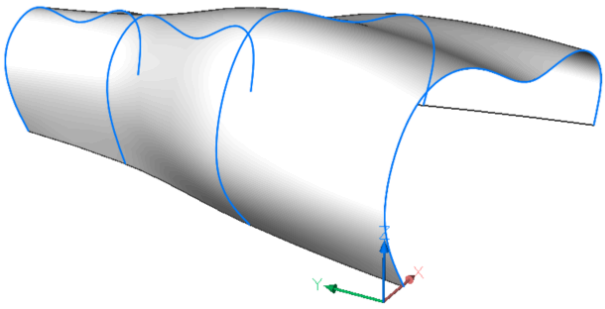
1



2 コマンドラインでLOFTコマンドを起動します。

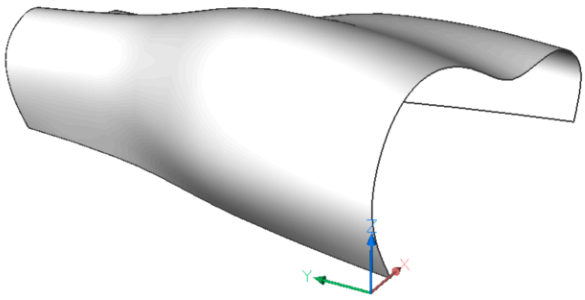
3 プロンプト表示：断面をロフト順に選択する[MOde]:

4つのスプラインをロフト順に選択します。



4 コマンドを終了するには、Enterを2回押します。

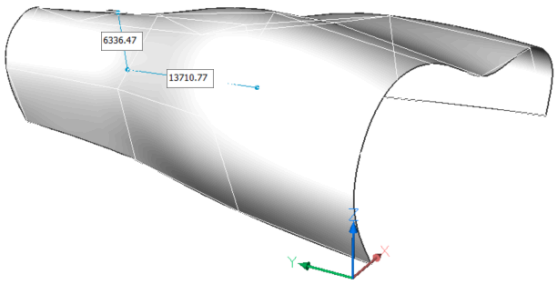
5



6 コマンドラインでBIMCURTAINWALLコマンドを起動します。

7 プロンプト表示：面を選択:

ロフト面を選択します。



8 この面からカーテンウォールグリッドが自動的に生成されます。

9 プロンプト表示：グリッドを作成するか、または[Uパネルの長さ/Vパネルの長さ/Uパネルの数/Vパネルの数]:

プロンプトメニューまたはコマンドラインで、UおよびVパネルの数を変更します。この例ではU＝20、V＝8となります。

10 プロンプト表示：平坦化 [はい/いいえ]<はい>

11 「はい」をクリックすると、グリッドセルが平坦化されます。

12 プロンプト表示：目標偏差を入力してください<0.00001>:

13 デフォルトでは、平面度からの目標偏差は「0.00001」に設定されています。

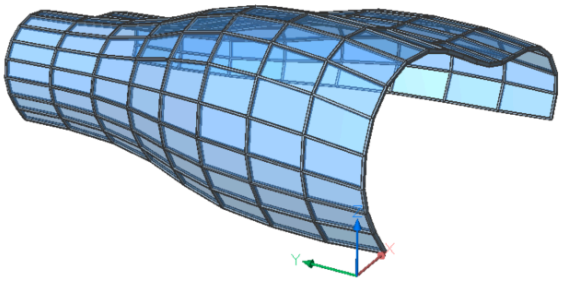
Enterを押して承諾します。

14 プロンプト表示：パラメータを変更または受け入れ [受け入れ/幅/深さ/ガラス厚/接続タイプ]<受け入れ>:

15 パラメータを変更します：
- 幅：150
- 深さ：300
- ガラスの厚さ：20
- 接続タイプ：スムーズ

16 Enterを押して承諾します。カーテンウォールが作成されます。

17



22.9 プッシュ/プル

22.9.1 コマンド

DMPUSHPULL

22.9.2 概要

プッシュ/プルツールを使用して、ハイライト表示された面を移動させて、ソリッドに体積を追加したり削除したりできます。

注：プッシュ/プルツールは、ソリッドの平面、円筒、球、円錐、ドーナツ状面に適用されます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『DMPUSHPULL』をご参照ください。

22.9.3 手順：プッシュ/プルツールを使って、ソリッドに体積を追加または削除する

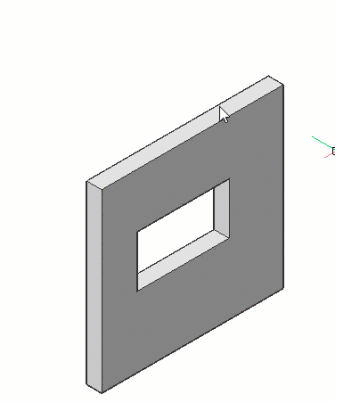
以下は、**プッシュ/プル**ツールを使用してソリッドからボリュームを追加または削除する一般的な手順です。

1 図中のソリッドのいずれかの面(複数選択可)をハイライトします。

2 クワッドから**モデル**タブの**プッシュ/プル**ツールを選択します。

3 カーソルを移動して、ハイライトされた面を引き出します。

4 下の動画は、ハイライトされた面の動作を示しています。選択された面がダイナミックに動き、体積の追加・削除ができます。



5 図面上のポイントを指定するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力し、右クリックして変更を確定します。

22.10 グリッド編集

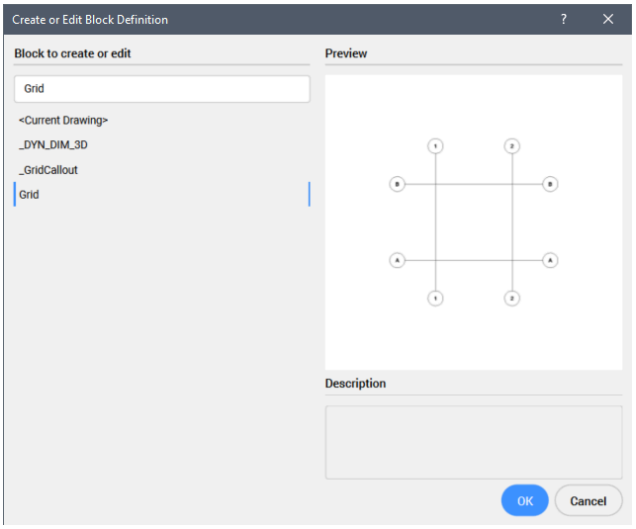
22.10.1 概要

BIMグリッドはブロックとして作成されます。BEDITコマンドで、BIMグリッドを編集することができます。

22.10.2 矩形グリッドを編集

1 グリッドをダブルクリックします。

1 **ブロック定義を作成または編集**ダイアログボックスが表示されます。



2 グリッドを選択し、ダブルクリックするか、OKボタンをクリックします。

3 **ブロック編集**セッションが開始されます。

4 グリッド軸を編集します。

5 グリップ軸を移動、回転、コピー、ストレッチ、グリップ編集または削除することができます。

6 必要に応じて、グリッドの軸番号を変更したり、軸ラベルを編集したりします。(以下の手順を参照)

7 **ブロック編集**ツールバーの、**ブロックを保存**アイコン( )をクリックします。

22.10.3 グリッドラベルを再番号付け

以下のような場合、グリッドラベルの再番号付けが必要です：

- 別の番号付けスタイルをしたい場合。
- グリッド軸が追加(コピー)、または削除された場合。

以下を実行します：

1 グリッドをダブルクリックすると、**ブロック編集**セッションが開始されます。

2 すべての縦軸を選択します。

3 NUMBERコマンドを起動し、適切な番号スタイルを選択します。

4 既存の番号を上書きすることを確認します。

5 横軸にも、同様の手順を繰り返します。

6 **ブロック編集**ツールバーの、**ブロックを保存**アイコン()をクリックします。

22.10.4 グリッドラベルの編集

1 グリッドをダブルクリックすると、**ブロック編集**セッションが開始されます。

2 軸をダブルクリックします。

3 軸図形(線または円弧)のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

4 **BIM/軸番号**プロパティを選択します。

5 値や名前を入力します。

6 **ブロック編集**ツールバーの、**ブロックを保存**アイコン()をクリックします。

22.11 窓やドアの挿入および編集

22.11.1 概要

BricsCADでは、**BIMコンポーネントを挿入**ツールを使用して、3Dソリッドの任意の面に窓やドアなど様々なコンポーネント(家具、衛生設備、植栽など)を挿入することができます。通常は定義済みの窓やドアを挿入するために使用されます。

このコマンドの詳細については、コマンドのリファレンスの記事『BMINSERT』と『-BMINSERT』をご参照ください。

-BMINSERTコマンドは、コンポーネントを**ライブラリ**パネルから3Dモデルにドラッグすると自動的に起動します。

注：ダイナミック UCS (DUCS)と**ダイナミック寸法**(DYN)がオンになっていることを確認してください。

窓やドアなどのコンポーネントを平面図に挿入することができます。また、2D正投影ビューや3Dビューから壁の追加やトリムを行うこともできます。

22.11.2 窓(またはドア)を挿入

1 **ライブラリ**パネルを開きます。

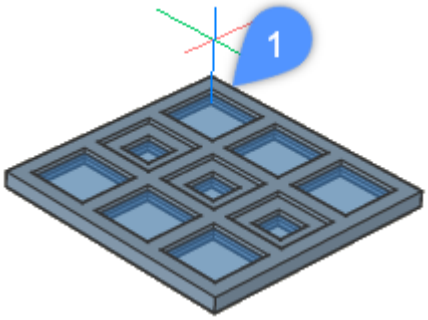
2 **ライブラリ**メニューで**Bricsys Bim**ライブラリが選択されていることを確認します。

3 **Windows**フォルダーをクリックします。

4 挿入したい窓のアイコンをクリックします。

プロパティパネルが表示されます。

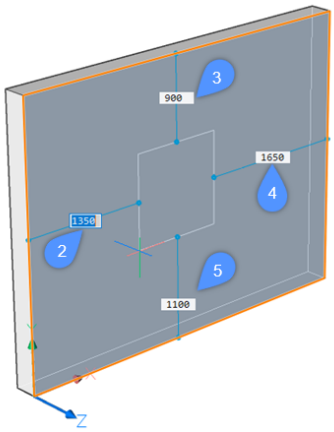
窓がカーソルにアタッチされます (1)。



5 (オプション)**挿入されたコンポーネントのプロパティ**で、**プロパティ**パネルの窓のパラメータを編集します。

6 ウィンドウを壁ソリッドの面に移動させます。

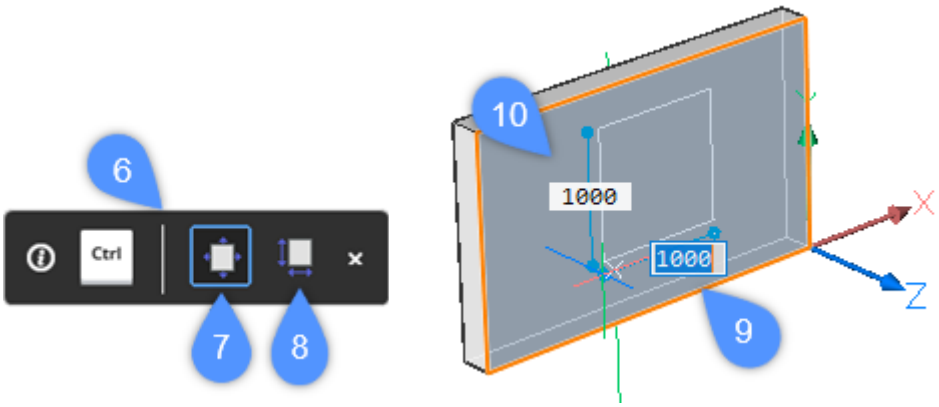
ソリッドの面がハイライトされ、挿入図形から親ソリッドの最も近い平行エッジまでの距離 (2、3、4、5) が表示されます。



7 (オプション)**Ctrl**を押して、**ホットキーアシスタント**ウィジェット(6)で **位置をピック**モード(7)から**パラメータ変更**モード(8)に切り替え、窓の幅と高さを調整します。

Tabを押すと、幅 (9) と高さ (10) のフィールドが切り替わります。

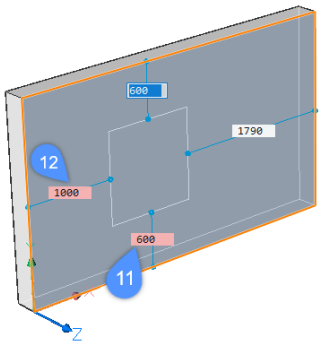
Ctrlを押して寸法を確定します。ウィジェットのモードが**位置をピック**に戻ります。



8 以下のいずれかの操作を行います：

- 窓を挿入する点を指定します。
- 目的のダイナミック寸法フィールドに値を入力し、**Tab**を押して次のフィールドに移動します。寸法フィールドが赤に変わり、ロックされていることを示します (11、12)。

  Enterを押すと、窓が挿入されます。



9 (オプション) 窓を選択して、壁内の位置を調整します。「**挿入図形の移動**」の項を参照してください。

22.11.3 挿入図形をコピーして挿入

1 挿入図形の上にカーソルを置き、クワッドの**修正**タブで**BIM挿入**を選択します。

  カーソルに挿入図形がアタッチされます。

2 前の手順のステップ6から進みます。

22.11.4 挿入図形のパラメータを編集

窓/ドアの元図面でパラメータが定義されている場合、これらのパラメータを使い窓/ドアを個別に編集することができます。

1 図面で挿入図形を選択します。**プロパティパネル**の**パラメータ**セクションに、さまざまなパラメータの現在の値が表示されます。

Parameters	
W	130 cm
H	230 cm
FrameDepth	80 mm
FrameThickness	60 mm
LeafDepth	60 mm
LeafThickness	80 mm
PaneDepth	20 mm
PlacementDepth	90 mm
Rebate	0 mm
PaneOffset	20 mm
LeafOffset	20 mm
SubtractorDepth	1000 mm

2 パラメータを選択し、設定欄に数値を入力します。

22.11.5 挿入図形を移動する

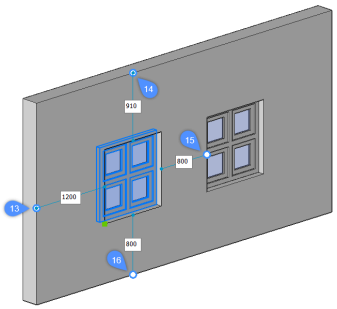
BricsCADには、ソリッドの面に挿入図形を移動させる複数の方法があります。

- 選択寸法の距離フィールドと基準点を使用
- DMPUSHPULLコマンドを使用
- マニピュレータを使用

選択寸法の距離フィールドと基準点を使用

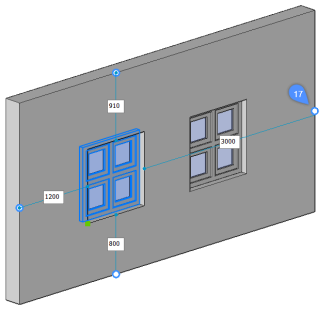
1 モデル内の挿入図形を選択します。

挿入図形から親ソリッドの最も近い平行エッジまでの距離と、それぞれの基準点 (13、14、15、16) が表示されます。



2 (オプション) 挿入図形から、自動検出されたもの以外のポイントまでの距離を表示するには、必要に応じて基準点の位置を移動します (17)。

3

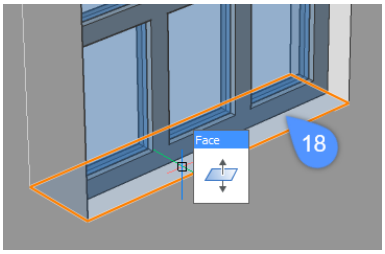


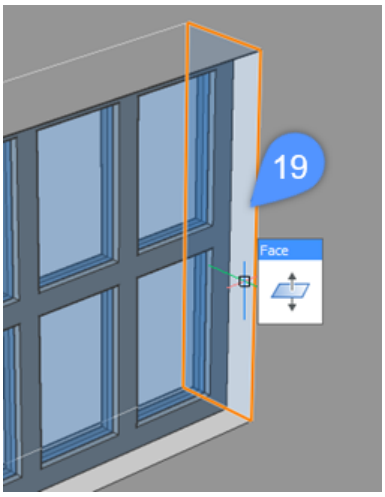
4 距離フィールドをクリックし、値を入力して**Enter**を押します。

DMPUSHPULLコマンドを使用

注：SELECTIONMODEシステム変数の**面を選択**を有効にします。

1 以下のいずれかの操作を行います：
- 挿入図形を垂直方向に移動させるには、開口部の上部または下部の内側の面(18)にカーソルを合わせます。
- 挿入図形を水平方向に移動させるには、開口部の左または右の内周面(19)にカーソルを合わせます。





2 面がハイライト表示されたら、クワッドの**修正**タブから**プッシュ/プル**を選択します。

3 上部または下部の内側がハイライト表示されている場合、挿入図形は垂直に移動します。
左または右の内側がハイライト表示されている場合、挿入図形は水平に移動します。

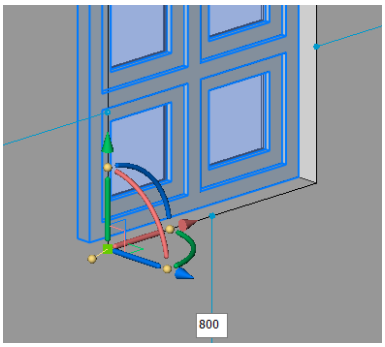
4 以下のいずれかの操作を行います：
- 点を指定します。
- ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- ルーラーの**アダプティブグリッドスナップ**を使用します。

マニピュレータを使用

注：MANIPULATORシステム変数の値を 2に設定します。

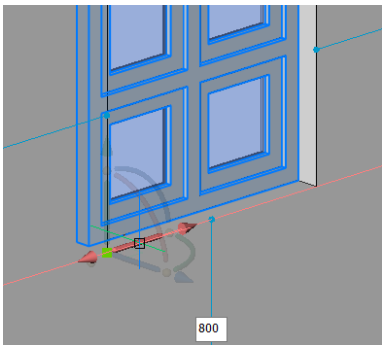
1 挿入図形上でマウスの左ボタンを長押しします。

1 マニピュレータが表示されます。



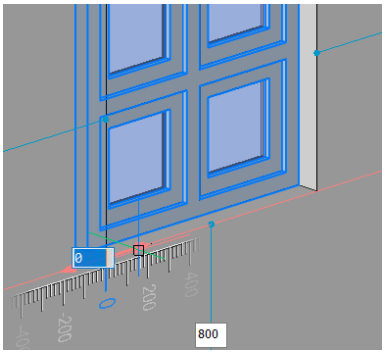
2 マニピュレータの垂直軸または水平軸のトリガーゾーンにカーソルを合わせます。

選択した軸がハイライト表示され、マニピュレータの残りの部分がグレーアウトします。



3 クリックして、移動操作を開始します。

ルーラーが表示されます。



4 以下のいずれかの操作を行います：

- ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- ルーラーの**アダプティブグリッドスナップ**を使用します。

注：操作を開始する前に**Ctrl**を押したままにすると、挿入図形のコピーができます。

22.11.6 挿入図形の置換

BMREPLACEコマンドを使用して、挿入図形を置換します。

このコマンドでは、以下を置き換えることができます。

- ファイルから挿入。
- ダイアログボックスでソースファイルを選択することができます。
- モデル内で類似の挿入図形。
- このコマンドでは、選択した挿入図形のみを交換するか、モデル全体の類似した挿入図形をすべて置換するかを尋ねてきます。**パラメータ変更**オプションを使用して、元の値を保持することも、置換挿入図形の値を適用するか、選択できます。

22.12 クイックビルドを使用したマスモデリング

22.12.1 概要

クイックビルドツールを使用すると、1つまたは複数のマスソリッドからBIM建物を生成できます。BricsCADにより個別の図面が作成され、各図面には、壁、スラブ、屋根だけでなく、床やスペースなどの空間要素が自動的に作成されます。

初期の設計段階、ボリュームスタディ、概念設計で非常に便利な機能です。

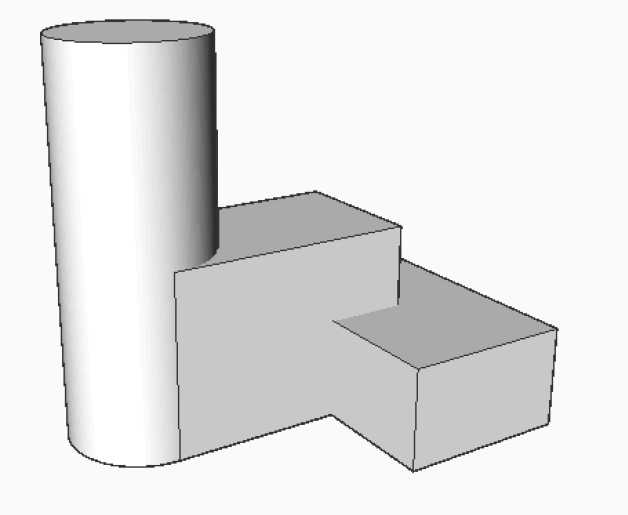
このツールは、新しい建物の各部分に BIMプロパティと空間情報を割り当てます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事**BIMQUICKBUILDINGコマンド**をご参照ください。

22.12.2 手順：トップダウンワークフロー

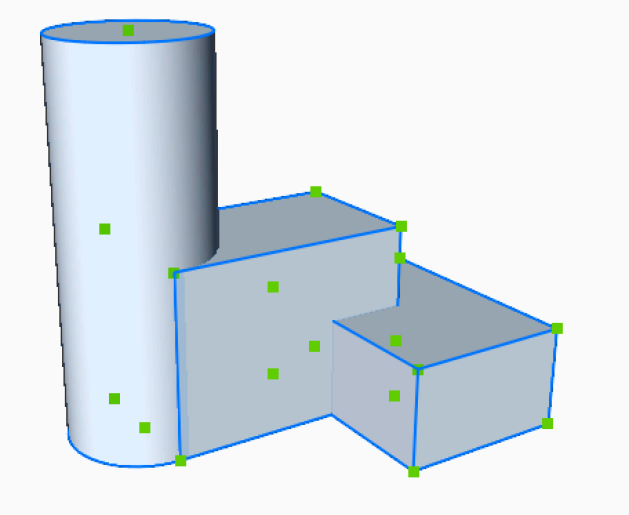
1 モデル空間に1つまたは複数のソリッドを作図します。

1 **注**：ソリッドを結合する必要はなく、コマンドによって自動的に実行されます。



2 コマンドラインにBIMQUICKBUILDINGと入力するか、またはクワッドからコマンドを選択し、ソリッドを選択してEnterを押します。

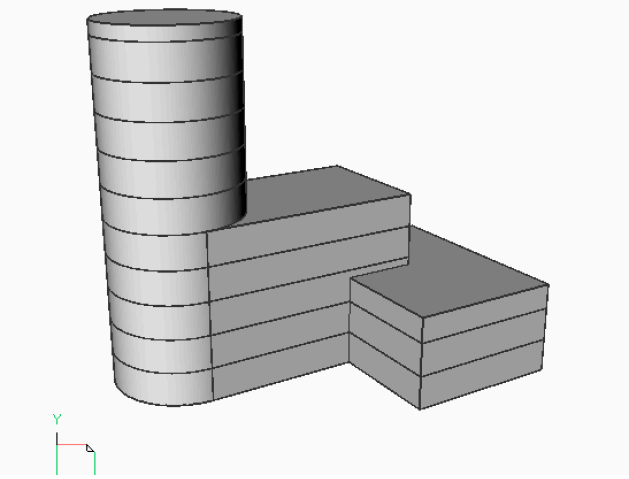
3



4 **クイックビルド**コマンドパネルが開きます。**建物**モードと**空間**モードのどちらかを選択します。トップダウンのワークフローを続けるには、**建物**モードを選択します。

5 床面はいくつでも追加でき(**床面を追加**)、それぞれに希望の階の高さを選択できます。**埋める**をオンにすると、入力した**高さ**の値に従って階数が自動的に生成されます。

6 **適用**を押して建物を生成します。



または、階の高さの値を.txtファイルから読み込みます。

コマンドラインにBIMQUICKBUILDINGと入力します。

読み込みを選択して**Enter**を押します。

次に、ファイルフォルダー内の.csvファイルを検索し、**開く**をクリックします。

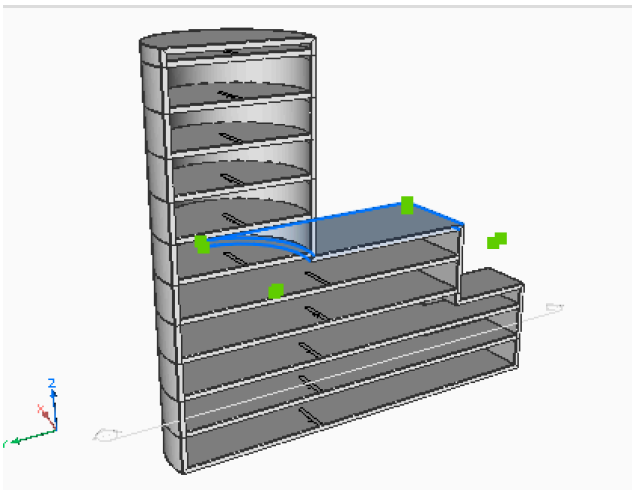
建物パラメータを含む.csvファイルの例です：

```
Floor;Height- mm;Amount;Fill 0 - 10;3250.000000;11;Yes 12 - 16;5000.000000;5;No
```

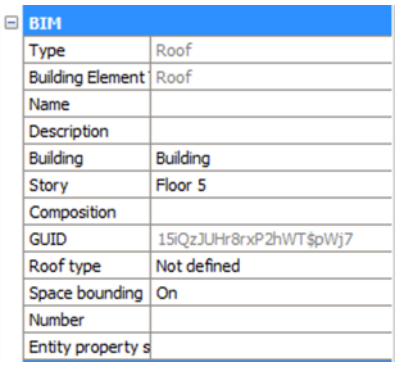
クイックビルドの結果が必要な階の高さを満たさない場合、コマンドラインに出力されます。この記事の後半の**コマンドライン出力**のセクションも参照してください。

7 断面図を作成する場合、新しく形成されたスラブと壁には、それぞれ個別のBIMプロパティがあります。

8



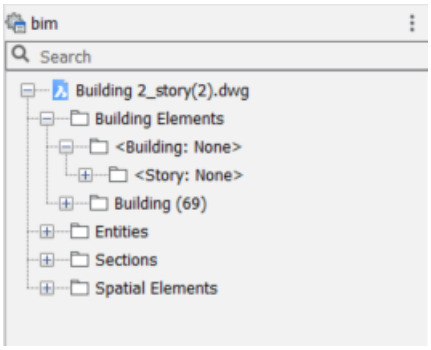
屋根を選択し、**プロパティ**パネル - **BIM**タブを参照します。この図形には**屋根タイプ**プロパティと、空間位置、数量、**GUID**などの他のプロパティがあることがわかります。



BIM	
Type	Roof
Building Element	Roof
Name	
Description	
Building	Building
Story	Floor 5
Composition	
GUID	15iQzJUHr8rxP2hWT$pWj7
Roof type	Not defined
Space bounding	On
Number	
Entity property s	

注：すべての要素が分類されており、**構造**パネルには、**階と建物**のプロパティで並べ替えられた建物要素のリストが表示されます。

異なる建物要素は、建物のタイプ(**外壁/スラブ**、**フラット/傾斜屋根**、**内壁/スラブ**)に応じて異なる画層に配置されます。

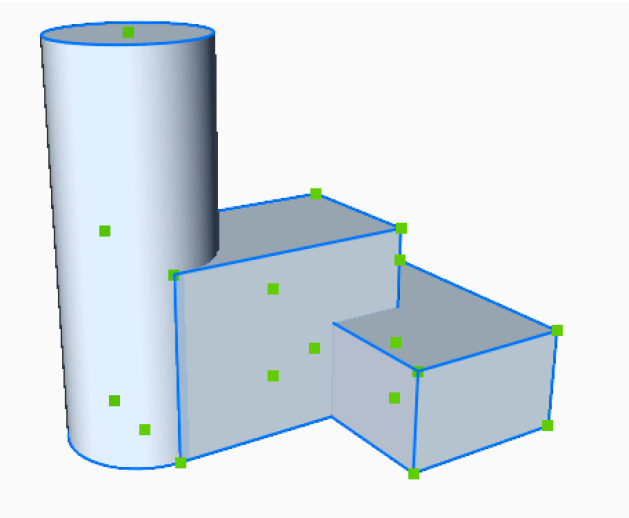


22.12.3 ボトムアップワークフロー

ボトムアップワークフローでは、空間を表すソリッドから建物を作成します。この方法では、最初に空間を形成し、次に**クイックビルド**を使用してシェルと新しい空間を作成できます。

1 コマンドラインにBIMQUICKBUILDINGと入力します。

2 ソリッドを選択します。

3 

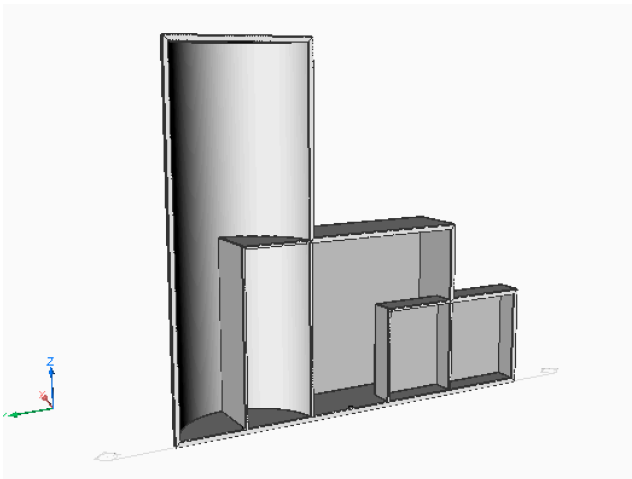
4 **クイックビルド**コマンドパネルが開きます。**建物**モードと**空間**モードのどちらかを選択します。ボトムアップのワークフローを続けるには、**空間**モードを選択します。

5 選択されたマスソリッドから建物が作成されます。

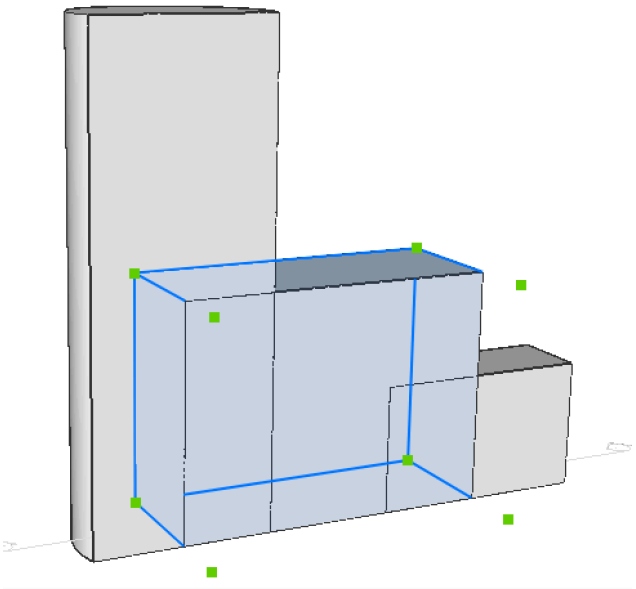
6 **注**：BricsCADは定義したソリッドを基に、壁とスラブを使ってBIM空間に変換します。

7 **適用**を押すと建物が作成されます。

8 (オプション)新しく作成した空間を表示するための断面を作成します。

9 

注：元のソリッドはそのままです。**クイックビルド**は、元のソリッドが空間を表わすという情報によって建物を作成するだけなので、この入力空間に基づいて内壁とスラブを作成する必要があります。



22.12.4 コマンドライン出力

BIMQUICKBUILDINGコマンドを実行後、BricsCADによって基本的な建物情報に関する情報を含む概要が作成されます。たとえば、建物の総床面積や各階の情報などです。

```
Floor 6 :
    Floor area:  44.179 m²
    Side area:  53.564 m² [North: 53.564 m² , East: 0.000 m² , South: 0.000 m² , West: 0.000 m² ]
Floor 7 :
    Floor area:  44.179 m²
    Side area:  53.564 m² [North: 53.564 m² , East: 0.000 m² , South: 0.000 m² , West: 0.000 m² ]
Floor 8 :
    Floor area:  44.179 m²
    Side area:  53.564 m² [North: 53.564 m² , East: 0.000 m² , South: 0.000 m² , West: 0.000 m² ]
Floor 9 :
    Floor area:  44.179 m²
    Side area:  21.266 m² [North: 21.266 m² , East: 0.000 m² , South: 0.000 m² , West: 0.000 m² ]
Total Floor area: 1091.765 m²
Total Side area: 843.057 m²
```

注：.csvファイルを使用し、いくつかの要件が通らない場合(例えば、総面積や床面積が足りないなど)、出力で問題点を確認することができます。

```
Total Floor area: 330.990 m² Requirement NOT passed, area should be >= 15000.000 m² m²
Total Side area: 1001.571 m²
Floor to Side ratio: 33.047 %
```

22.13 MEPモデリング

22.13.1 コマンド

BIMAPPLYPROFILE、BIMLINEARSOLID、BIMFLOWCONNECT、DRAG、BIMSTRETCH

22.13.2 BIMフロー接続について

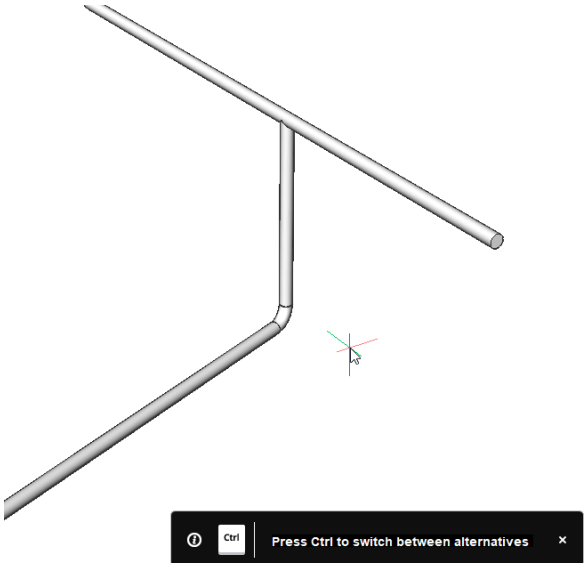
BIMFLOWCONNECTコマンドを使用して別のセグメントを接続することが可能です。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMFLOWCONNECT』をご参照ください。

異なるセグメントの接続

接続したいセグメントを選択し、「BIMFLOWCONNECT」コマンドを起動します。

ホットキーアシスタント(ステータスバーの**HKA**)がオンになっている場合、以下のウィジェットが画面に表示されます。Ctrlを押すと、オプションが切り替わります。



Enterを押してコマンドを終了すると、セグメントが接続されます。

22.13.3　手順：セグメントの位置を変更します

手順を開始する前に：側面と端の選択を有効にします。

選択モードツールバーのアイコンをクリックするか、DISPLAYSIDESANDENDSシステム変数をオンに設定します。

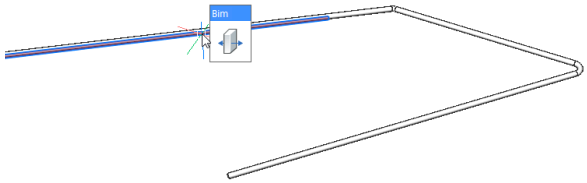
ドラッグ

DRAGコマンドを使用すると、作図されたプロファイルのセグメントを他のセグメントとの接続を失うことなく変更することができます。

このコマンドの詳細については、**DRAGコマンド**に関する記事を参照してください。

1 セグメントにカーソルを合わせて、プロファイルの断面に垂直な面を選択します。

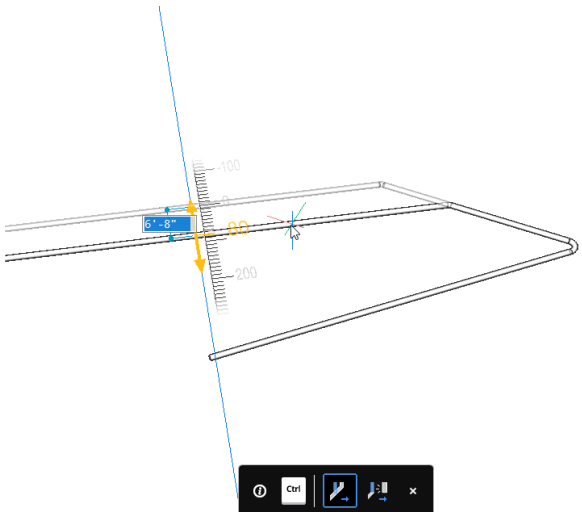
1



2 DRAGコマンドを起動します。

3 セグメントの新しい位置を選択するか、ダイナミック入力フィールドを使って変位の値を入力します。

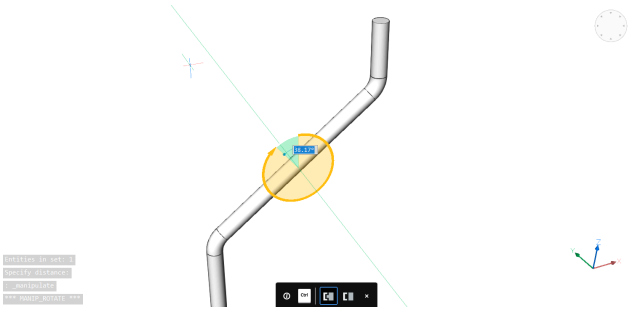
4 **注**：ソフトウェアはセグメント間の接続を自動的に再生成します。



マニピュレータ

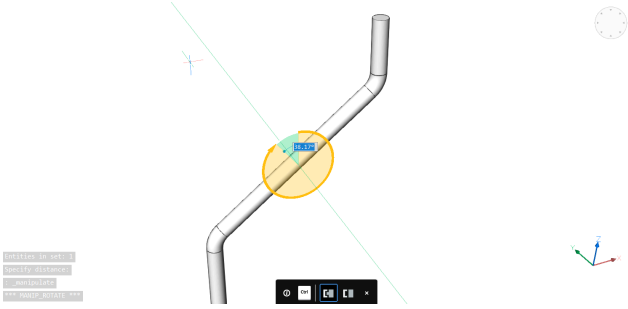
1 セグメントにカーソルを合わせて、プロファイルの断面に垂直な面を選択します。

2 **マニピュレート**を選択します。



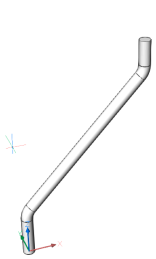
3 セグメントの新しい位置を選択するか、ダイナミック入力フィールドを使って変位の値を入力します。

4



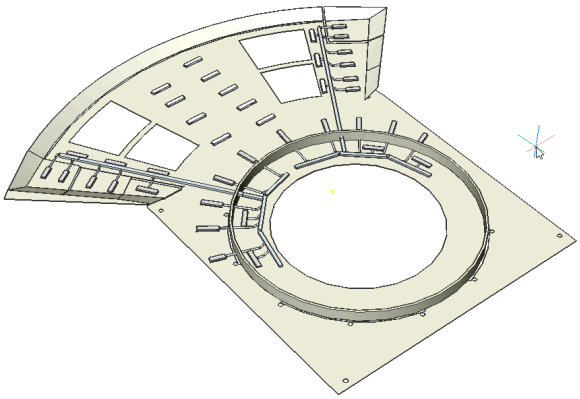
5 新しい位置をクリックするか、回転角度を入力してEnterを押します。

6



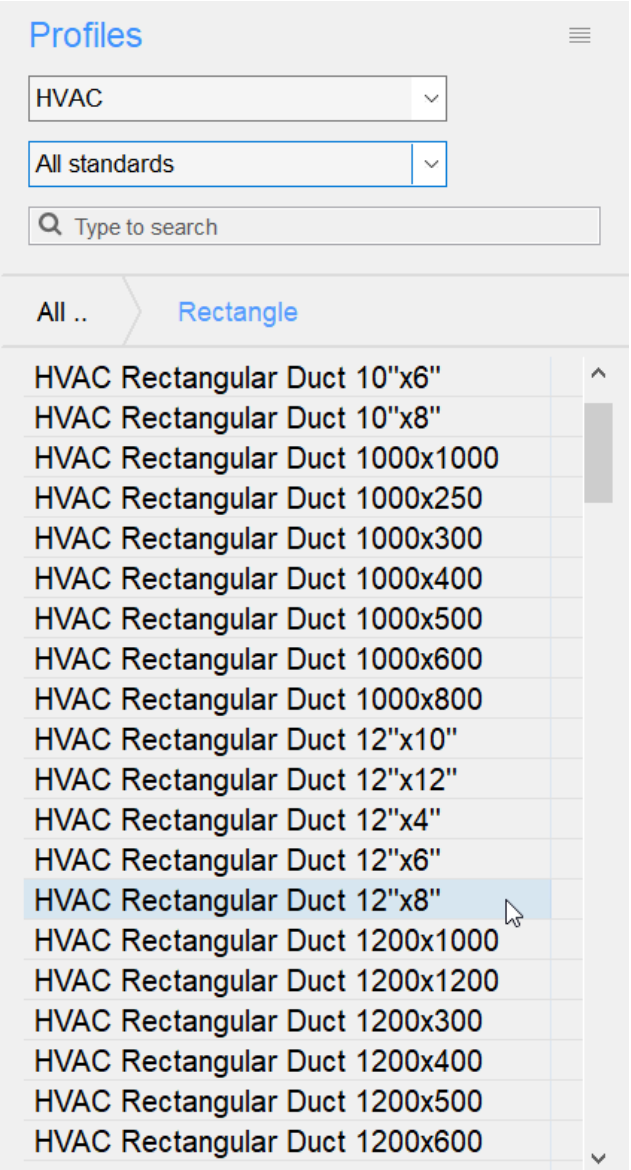
22.13.4 手順：MEPモデリングツールを使用したプロファイルの作図、接続

1 MEPモデルを含む図面を開きます。この記事の最後に、図面が含まれた**MEP.zip**ファイルがありますので、ダウンロードしてご使用ください。



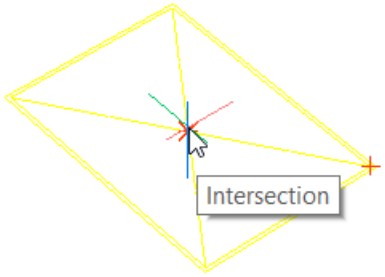
2 画面の右側にある**BIMプロファイル**パネルを開きます (「ドッキング可能パネル」を参照)。

HVACでフィルタリングして「長方形 12"x 8"」プロファイルを選択し、モデル空間にドラッグします。



3 プロファイルの出発点を決めます。

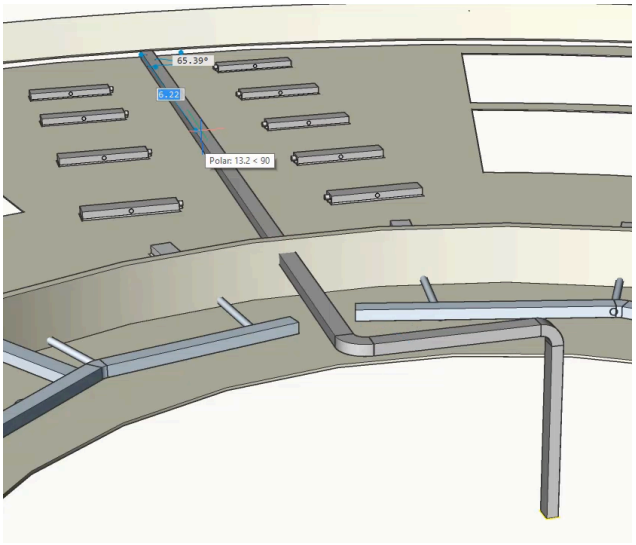
4 黄色い長方形の図心にスナップします。



5 **直交モード**をオンにし、ダイナミック寸法フィールドを使用してプロファイルの次の点を定義します。

コマンドラインに「Q」と入力すると、プロファイルが四半回転されます。

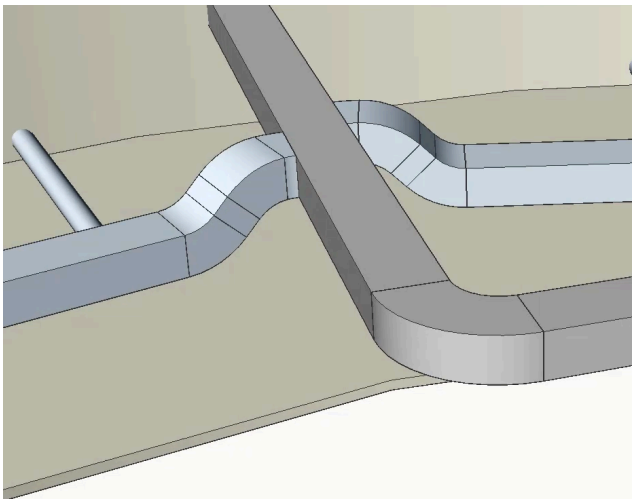
上に3.5、左に3.5、横に21と進みます。



注： HVAC以外のプロファイルで作図することを選択した場合、**フローセグメント**という自動分類はされません。BIMCLASSIFYコマンドを使い、**建物のサービス要素-フローセグメント**としてプロファイルを手動で分類できます。

6 横にある他の長方形のダクトを先ほど作ったものに接続します。

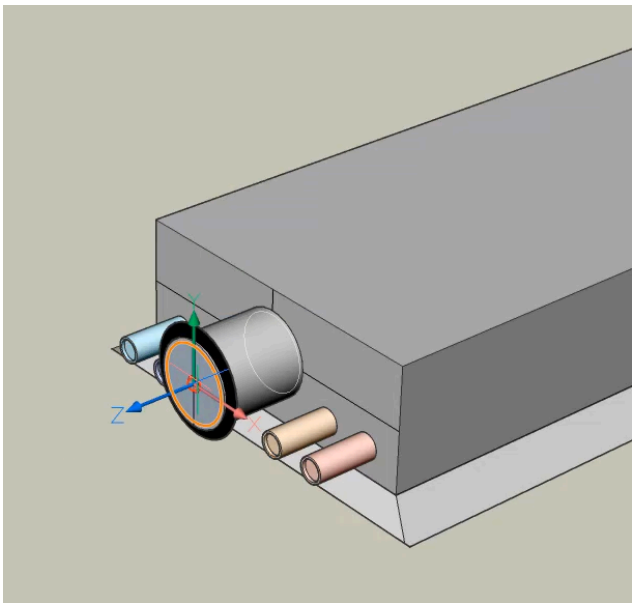
7 メインダクトと一緒にダクトを選択し、BIMFLOWCONNECTコマンドを起動します。下の画像のように接続されているはずです。



8 フロー端子からダクトを作成します。

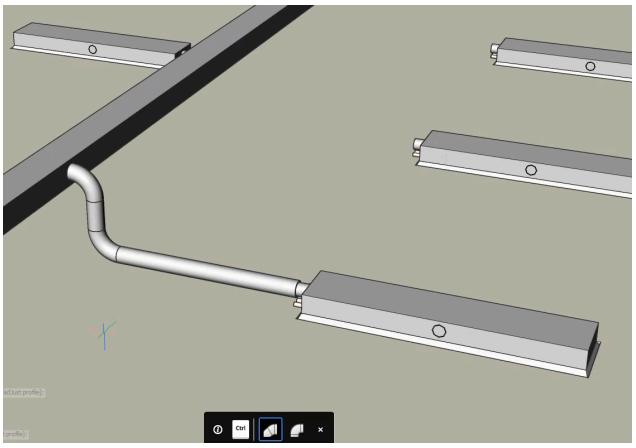
9 BIMLINEARSOLIDコマンドを起動し、フローの接続点を選択します。

この接続点にはプロファイル情報が含まれているため、ソフトウェアは定義済みの円形ダクトを自動的に作成します。ダクトの長さを1とします。



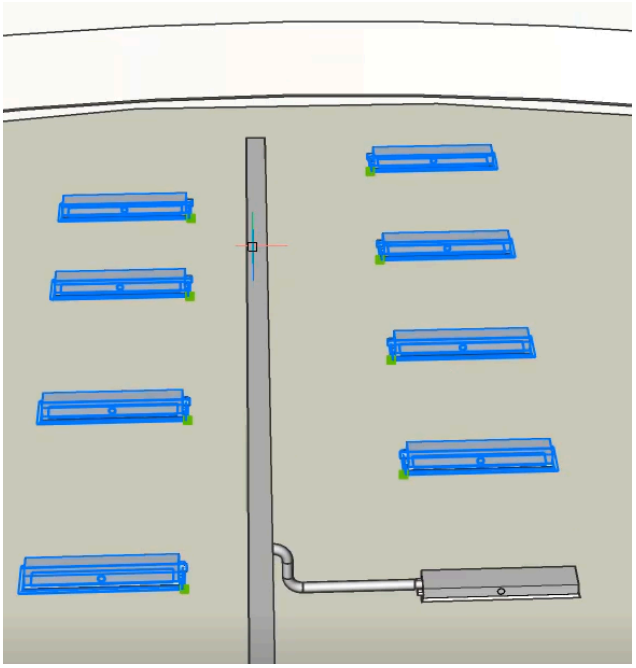
10 フロー端子から長方形のメインダクトにダクトを接続します。

11 フロー端子からメインダクトとダクトを選択し、BIMFLOWCONNECTコマンドを起動します。



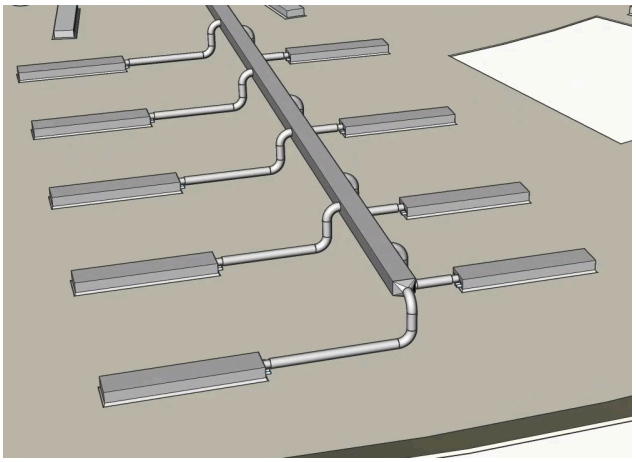
12 他のフロー端子を一度に矩形ダクトに接続します。

13 他のフロー端子と矩形ダクトを選択し、BIMFLOWCONNECTコマンドを起動します。



14 BricsCADでは、フロー接続点の情報をもとに、メインダクトとの接続に使用するダクトの種類を決定します。

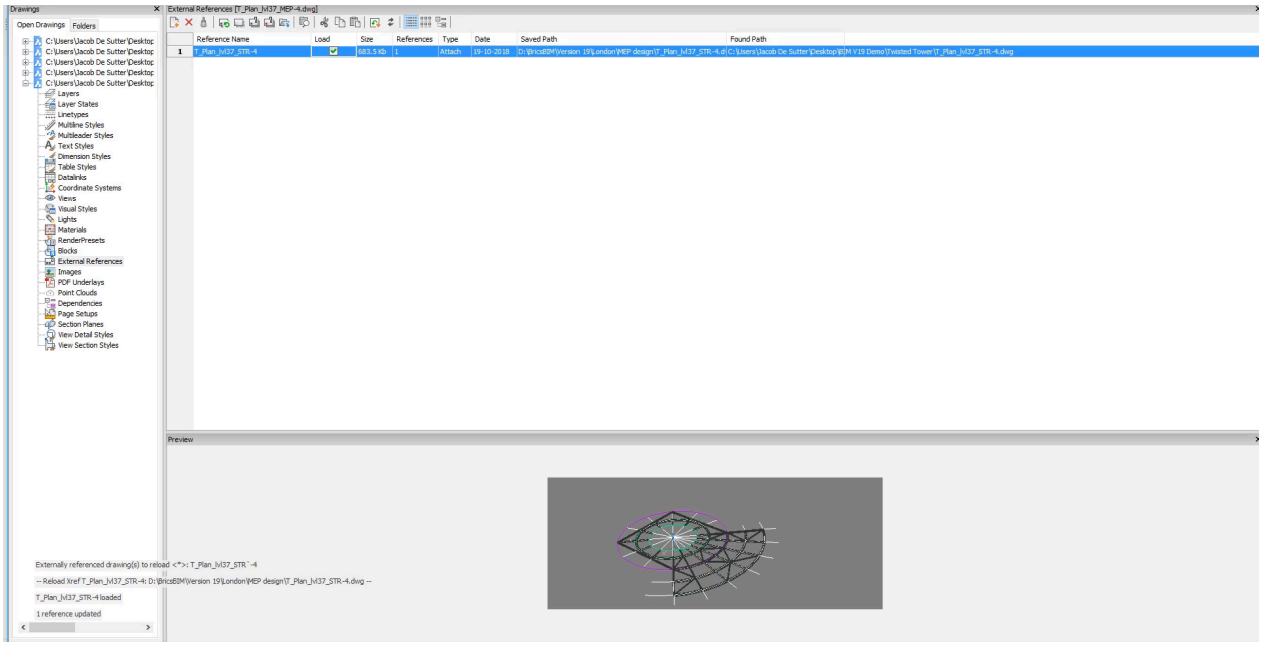
15 **注**：背面のフロー端子は、長方形のダクトの背面に接続されています。



22.13.5　手順：MEPモデリングツールを使用してプロファイルを変更

1　コマンドラインにXREFと入力し、構造モデルの横にあるロードボックスにチェックを入れて構造図面をロードします。

1



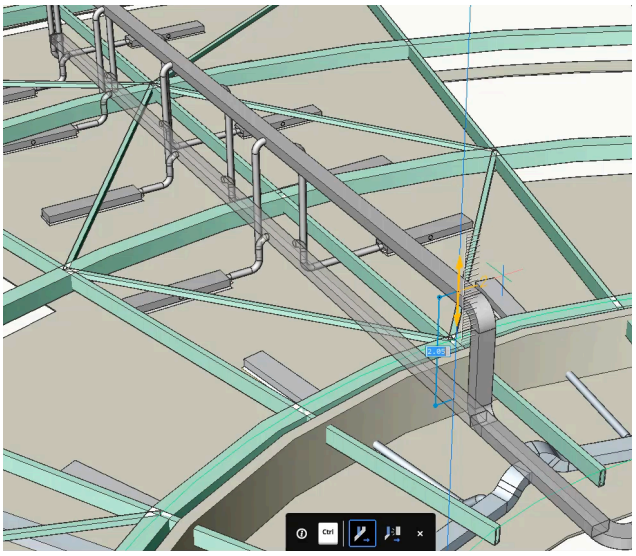
2　SLICEコマンドと**マルチスライス**オプションを使用して、長方形のダクトを分割します。

ダイナミック寸法欄に「3」と入力し、Enterを押してコマンドを終了します。

3　長方形のダクトの位置を変更し、構造モデルと干渉しないようにします。

4　ダクトの上面を選択し、DRAGコマンドを起動します。

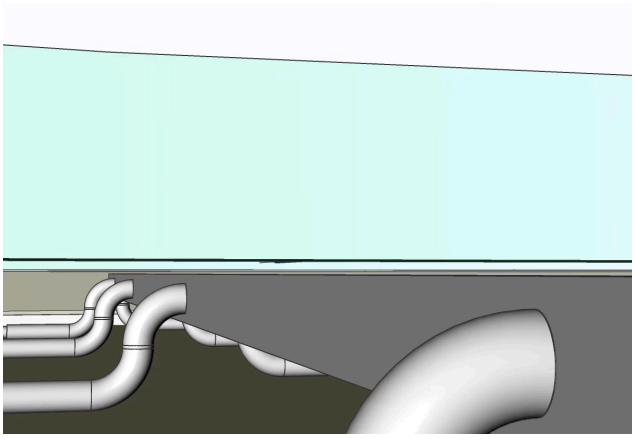
注：BricsCADでは、円形ダクトとの接続を保持しています。ダクトを切断したい場合は、CTRLキーを押して変更できます。



ダクトを下に0.23移動します。

5 構造モデルはMEPモデルと干渉しなくなり、フロー端子のダクトと主な矩形ダクトの接続は保持されました。

6 **注：マニピュレータ**を使用して**フロー端子**を移動する場合、**フローセグメント**との接続はそのまま残ります。



22.13.6 手順：Bimstretchを使用したフローセグメントの変更

1 新規図面を開きます。

2 画面の右端にある**BIMプロファイル**パネルをクリックして開きます。

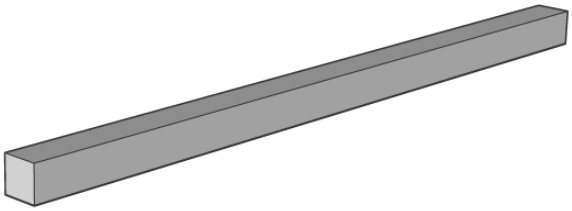
注：BIMプロファイルパネルのアイコンがまだ表示されていない場合は、リボンを右クリックして、コンテキストメニューの**BIMプロファイル**にチェックを入れます。

3 **HVAC**規格でフィルタリングします。これらのプロファイルは、モデル空間にドラッグされると、自動的にフローセグメントとして分類されます。

4 **BIMプロファイル**パネルでプロファイル**HVAC長方形ダクト10''x10''**を検索し、モデル空間にドラッグします。

5 スタート地点を選び、プロファイルを作図します。Enterを押すと、このプロファイルでの作図を停止します。モデルは以下のようになります。

6



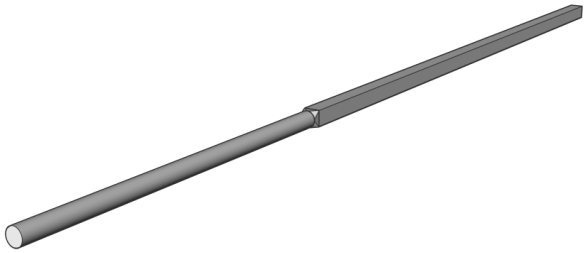
7 **BIMプロファイル**パネルでプロファイル**HVAC丸形ダクト8"**を検索し、モデル空間にプロファイルをドラッグします。

8 長方形プロファイルの面にカーソルを合わせ、プロファイルの端をクリックします。

9 **注**：長方形プロファイルの端に簡単にスナップするには、**軸を表示**設定をオンにするか、DISPLAYAXESシステム変数を1に設定します。

10 円形のプロファイルは、必ず長方形のプロファイルと同じ軸に沿って描いてください。円形のプロファイルの最後の点を受け入れた後、自動的に生成されたレデューサーを介して長方形のプロファイルに接続されます。

11

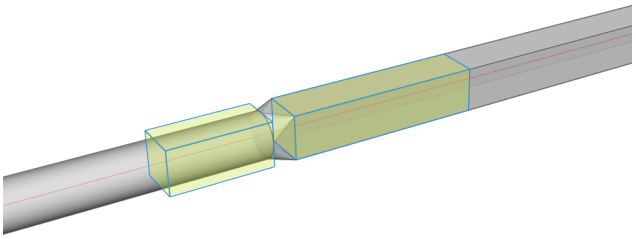


注：もし、HVAC以外のプロファイルで作図することを選択していた場合、フローセグメントとして自動的に分類されることはなく、すぐには接続されません。それでもBIMCLASSIFYコマンドでプロファイルを手動で分類し、BIMFLOWCONNECTでレデューサーを介して接続することは可能です。

注：**側面と端を表示**と**軸を表示**が有効になっていることを確認します。

12 両方のセグメントの接続端を選択します。

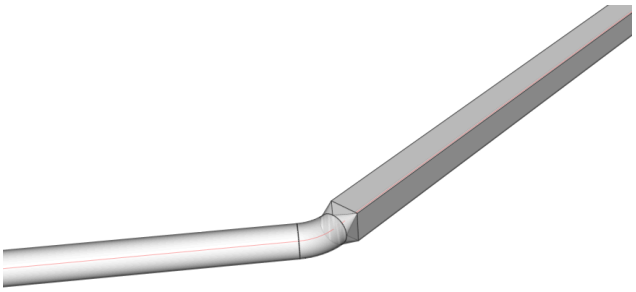
13



14 **BimStretch**ツールを起動します。

15 いずれかの側面にカーソルを合わせ、目的の箇所をクリックします。BricsCADは、2つのフローセグメントを新しい位置に自動的に伸ばし、中央にカーブしたフローフィッティングを追加します。

16



MEP example file.zip

22.14 MEPフロー接続点

22.14.1 コマンド

BIMLINEARSOLID、BIMFLOWCONNECT

22.14.2 概要

フロー端子やフローセグメントなどのフロー要素を作成する際に、2Dシンボルを追加して**フロー接続点**として分類することができます。フロー接続点には、このフローコンポーネントで使用するプロファイルを事前に定義できるBIMデータが含まれています。フロー接続点を選択して、BIMLINEARSOLIDコマンドまたはBIMFLOWCONNECTコマンドを使用すると、BricsCADは所定の情報に基づいたBIMプロファイルを自動的に使用します。

BIM線形ソリッドの詳細については、関連リンクをご参照ください。

MEPモデリングの詳細については、関連リンクをご参照ください。

22.14.3 手順：フロー接続点を作成

この手順では、フロー接続点を持つ独自のHVACコンポーネントを作成する方法を学びます。例として、エアヒートポンプユニットを作成します。

ライブラリパネルでフロー接続点を作成する

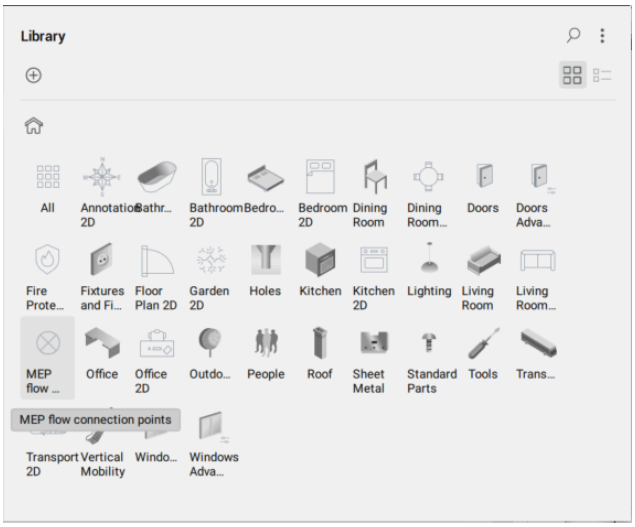
1 ヒートポンプを表す箱を希望の寸法(80×40×80cm)で作図します。

2 ボックスを選択して「その他」オプションを指定してBIMCLASSIFYを起動するか、ボックスの上にカーソルを合わせ、クワッドの**BIM**タブから**手動で分類**を選択します。

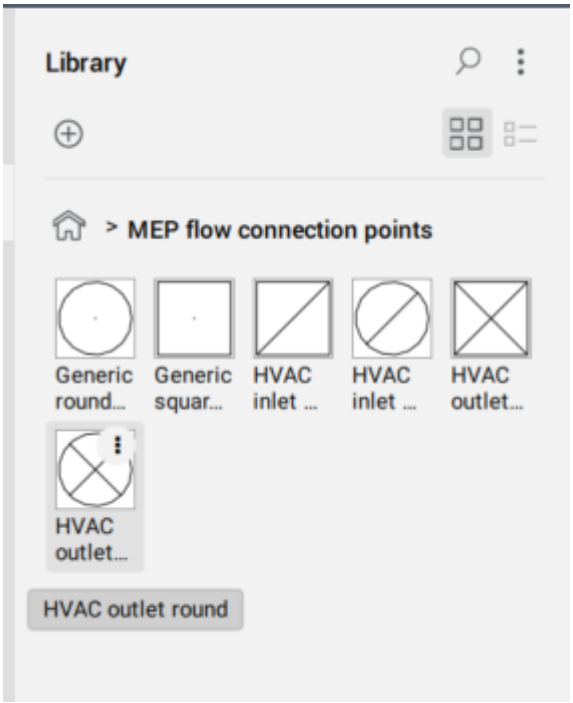
3 **建物のサービス要素** > **フローターミナル**としてボックスを分類し、**OK**をクリックします。

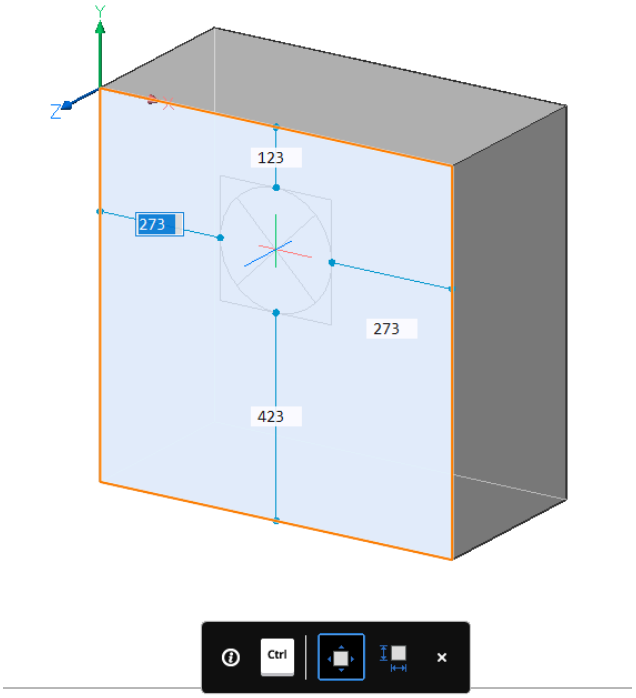
4 **ライブラリ**パネルを開きます。

5 **MEPフロー接続点**に移動します。

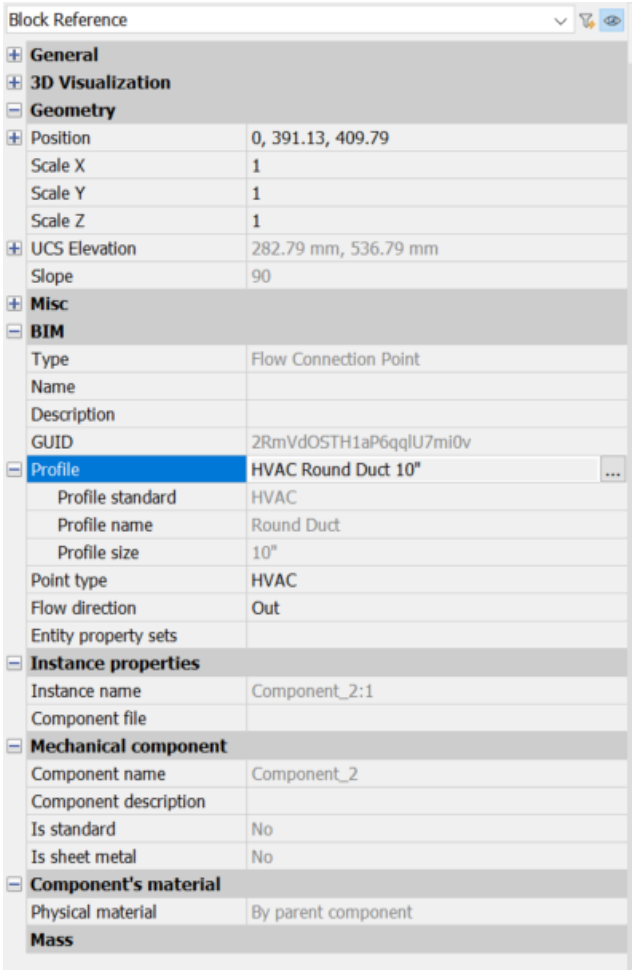


6 ヒートポンプボックス上に**HVAC outlet round**を配置します。





7 アウトレットを選択して、**プロパティ**パネルの**BIM/プロファイル**プロパティをクリックします。

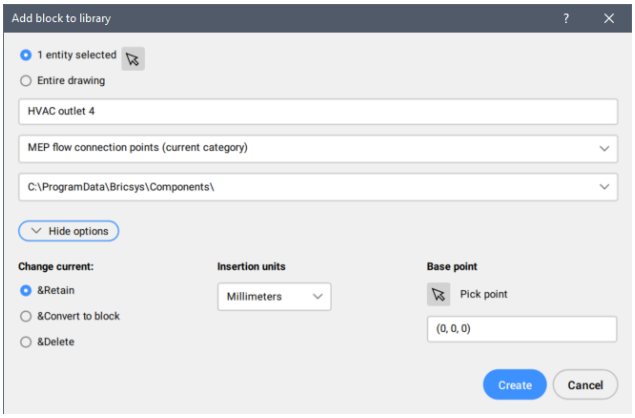


8 参照ボタン(…)をクリックします。

プロファイルダイアログボックスが表示されます。

9 目的のプロファイルを選び、**選択**ボタンをクリックします。

10 **ライブラリ**パネルに戻り、**ライブラリにブロックを追加**ボタンをクリックします。**ライブラリにブロックを追加**ダイアログボックスが開きます。



11 名前とカテゴリを選択して**作成**ボタンをクリックします。

ライブラリへのコンポーネントの追加について詳しくは、**ライブラリ**パネルの記事を参照してください。

図面はコンポーネントとして保存され、他の図面でも使用できるようになります。

一からフロー接続点を作成

1 ヒートポンプを表す箱を希望の寸法(80×40×80cm)で作図します。

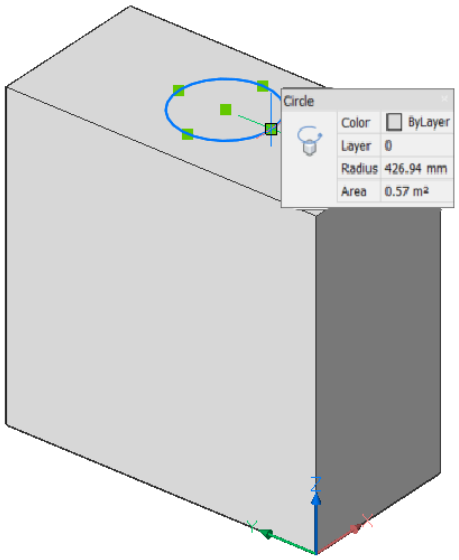
2 ボックスを選択して、以下のいずれかを実行します。

- BIMCLASSIFYを**その他**オプションで起動します。
- ボックスにカーソルを合わせて、クワッドの**BIM**タブで**手動で分類**を選択します。

3 **建物のサービス要素** > **フローターミナル**としてボックスを分類し、**OK**をクリックします。

4 ボックスの上面に円を作図します。

5

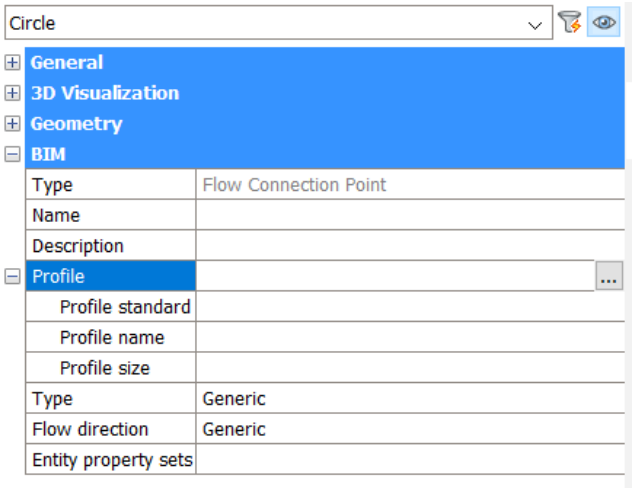


6 円を選択して、**その他**オプションでBIMCLASSIFYを起動します。

7 **建物のサービス要素** > **フロー接続点**として円を分類し、**OK**をクリックします。

8 円を選択します。

9 **プロパティ**パネルで、**BIM/プロファイル**プロパティを選択してブラウズ(…)ボタンをクリックします。



プロファイルダイアログボックスが表示されます。

10 **種類**と**標準**に**HVAC**を設定します。

11 目的のプロファイルを選択し、**選択**をクリックします。

12 **ライブラリ**パネルに移動し、**ブロックをライブラリに追加**をクリックします。**ライブラリにブロックを追加**ダイアログボックスが開きます。

13 名前とカテゴリを選択し、**作成**をクリックします。

図面はコンポーネントとして保存され、他の図面でも使用できるようになります。

22.14.4 手順：HVACシステムの作成

この手順では、フロー接続点を使って換気システムを作ります。

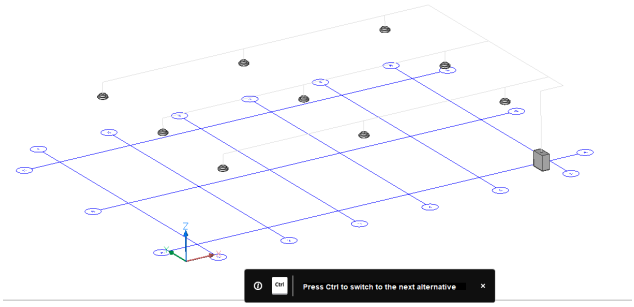
1 一連のフローターミナルと換気ユニットがあるファイル(添付のMEP.dwg)から始めます。

2 フローターミナルと換気ユニットを選択します。

3 BIMFLOWCONNECTを起動するか、**構造/MEP**リボンタブで**フローセグメントを接続**を選択します。

4 Ctrlを押して代替設定に切り替え、Enterを押します。

5

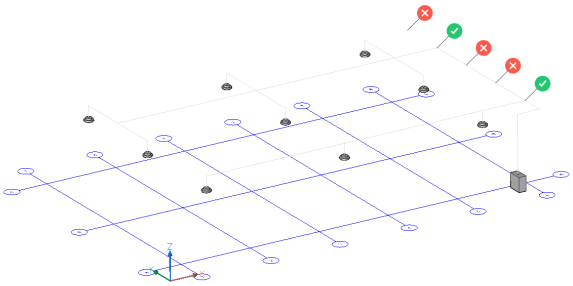


6 **チューン**オプションをクリックするか、コマンドラインにTと入力して、選択した設定を変更します。

7 **トポロジー**を選択するか、コマンドラインに「T」と入力します。

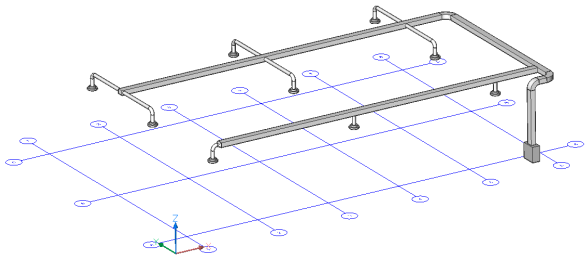
8 チェックアイコンを選択すると、システムのレイアウトを変更することができます。

9



10 Enterを3回押して、コマンドを終了します。

11 **注**：BricsCADは、換気ユニットに割り当てられたプロファイルを自動的に使用します。この情報は、**フロー接続点**に保存されます。



MEP.dwg

22.15 3Dソリッドの平行コピーの作成

22.15.1 コマンド

OFFSET

22.15.2 概要

オフセットツールは、線形図形のコピーを作成し、元の図形に平行に、距離を指定して配置します。

オフセットコマンドは、**選択モード**ツールバーで選択したオプションに応じて平行コピーを作成します：

- 3Dソリッドのエッジを優先するには、**エッジを選択**オプション( )を有効にするか、SELECTIONMODESシステム変数を1に設定します。
- 3Dソリッドの面を優先するには、**面を選択**オプション( )を有効にするか、SELECTIONMODES システム変数を2に設定します。
- 検出された境界を優先するには、**検出された境界を選択**オプション( )を有効にするか、SELECTIONMODESシステム変数を4に設定します。

22.15.3　手順： 3Dソリッドエッジの並列コピーを作成

処理を開始する前に、クワッドが有効で**選択モード**ツールバーの**エッジを選択**オプションがオンになっていることを確認し、以下の手順に従ってください：

1　ソリッドのエッジ上にカーソルを移動して、エッジをハイライト表示させます。

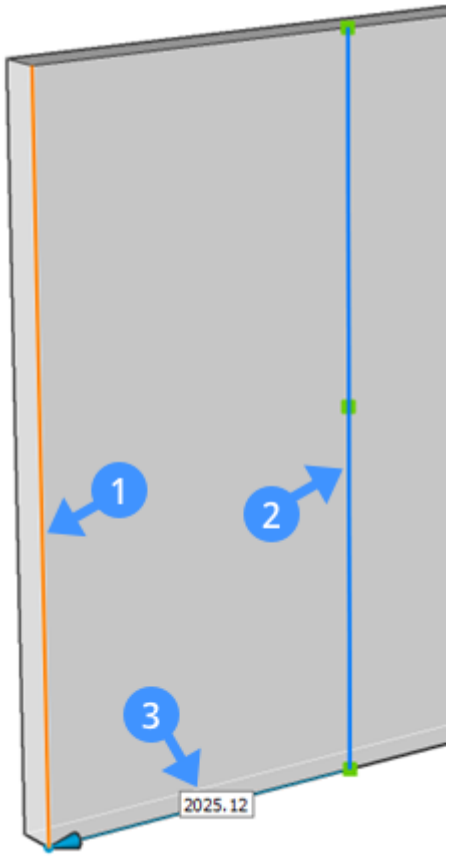
2　クワッドから**オフセット**ツールを選択します。

3　ソリッド面のエッジをドラッグしてオフセット距離を指定します。

　注：オフセット距離がダイナミック入力フィールドに表示され、エッジの並列コピーがダイナミックに作成されます。

4　エッジをドラッグして正確なオフセット距離を設定しながら、ダイナミック入力フィールドに距離を入力して Enterを押すか、左クリックしてオフセットします。

5　下の図は、3Dソリッドのオフセットエッジを示しています。オレンジ色でハイライトされたエッジは、3Dソリッドの元のエッジ(1)であり、青くハイライトされたグリップ(2)は、元のエッジのオフセットコピーです。元のエッジとコピーされたエッジの間の線(3)がオフセット距離を表しています。



22.15.4　手順： 3Dソリッド面の並列コピーを作成

処理を開始する前に、クワッドが有効で**選択モード**ツールバーの**面を選択**オプションがオンになっていることを確認し、以下の手順に従ってください：

1　ソリッドの面にカーソルを移動して、ソリッドをハイライト表示させます。

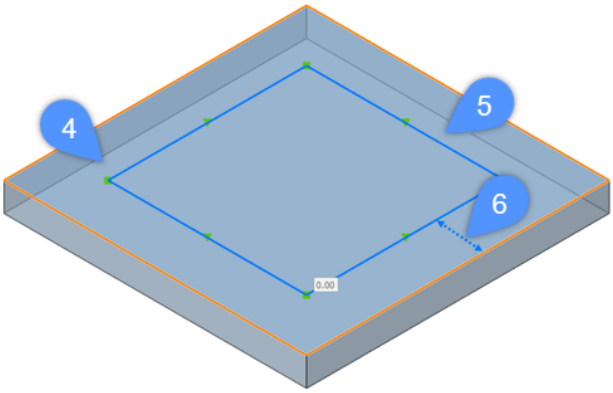
2 クワッドから**オフセット**ツールを選択します。

3 ソリッドの外側又は内側にカーソルを移動させることにより、オフセット距離を指定します。

4 面の並列コピーがダイナミックに作成されます。

5 ダイナミック入力フィールドに距離を入力して Enterを押すか、左クリックしてオフセットを終了します。

6 下の図は、3Dソリッド面のオフセットを示しています。ハイライトされた面はオリジナルの3Dソリッド面(4)であり、作成されたポリライン(5)はオリジナルの3Dソリッド面からのオフセットです。元の3Dソリッド面とコピーしたポリラインとの間の線(6)がオフセット距離を示しています。



22.15.5 手順：検出された境界の並列コピーを作成

処理を開始する前に、クワッドが有効で**選択モード**ツールバーの**境界検出を選択**オプションがオンになっていることを確認し、以下の手順に従ってください：

1 境界線の内側にカーソルを移動して、検出された境界線をハイライト表示します。

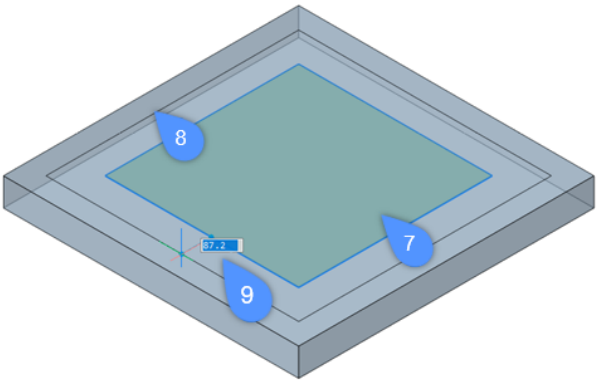
2 クワッドから**オフセット**ツールを選択します。

3 カーソルを移動してオフセット距離を定義し、左クリックします。

4 検出された境界線の並列コピーがダイナミックに作成されます。

5 ダイナミック入力フィールドに距離を入力して正確なオフセット距離を設定し、Enterを押すか、左クリックしてオフセットを受け入れます。

6 下の図は、3Dソリッドの面上のオフセット境界を示しています。ハイライトされた面が検出された境界線(7)であり、作成されたポリライン(8)は元のポリラインからのコピーです。検出された境界線とコピーされたポリラインの間の線(9)がオフセット距離を示しています。



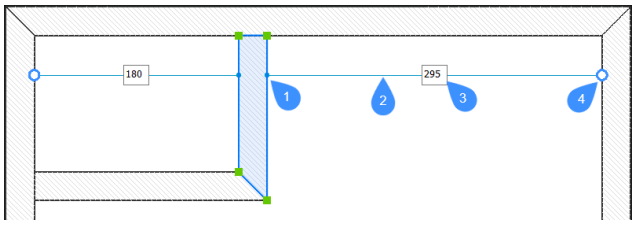
22.16 選択寸法

選択寸法は、既存のBIM要素(壁、column、window、または door) を使用して、選択した要素から 参照点。

22.16.1 選択寸法部材

選択寸法にアクセスするには、図面内の既存のBIM要素をクリックして選択します。

選択寸法を構成する4つの部分は次のとおりです。



1 基点

2 線分

3 距離フィールド

4 基準点

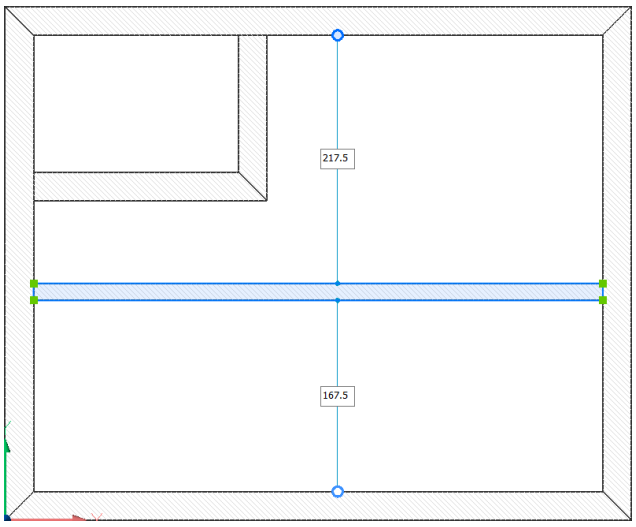
22.16.2 図形移動時の選択寸法の使用

1 (オプション)**ストーリーバー**でストーリーディスク( )をクリックして、**トップビューモード**(**TVM**)を有効にします(**ストーリーバー**の記事を参照)。

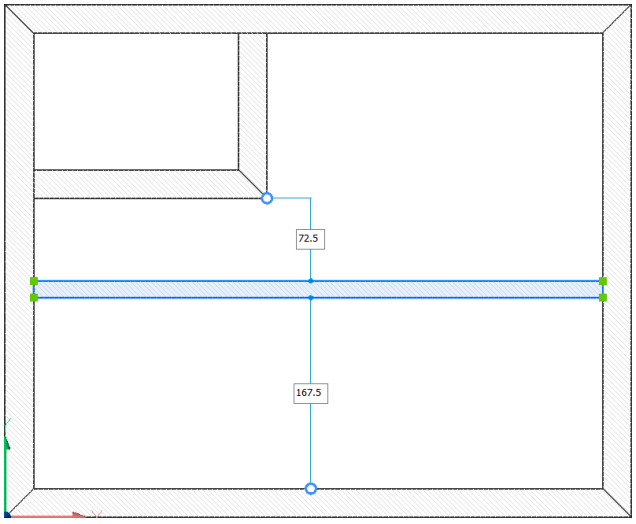
2 図面でBIM要素を選択します。対応する選択寸法が表示されます。

3 (オプション)2回のクリックでより便利な基準点を選択します。

- 参照点をクリックして選択します。基準点がグレーになります。
-

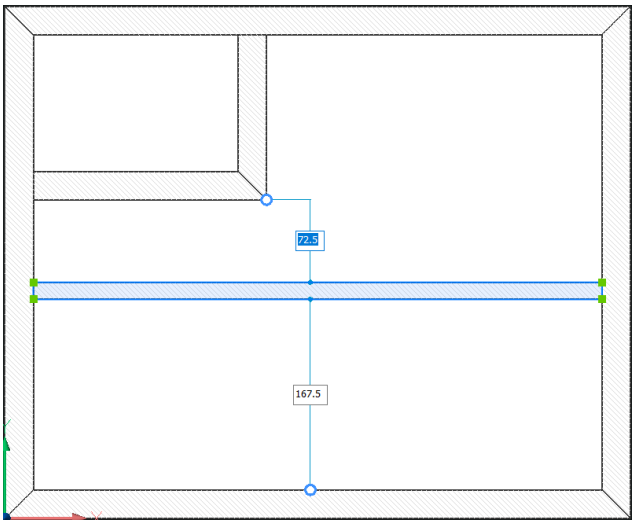


- 図面内の別の点をクリックして、参照点として設定します。距離フィールドの値を更新します。
-



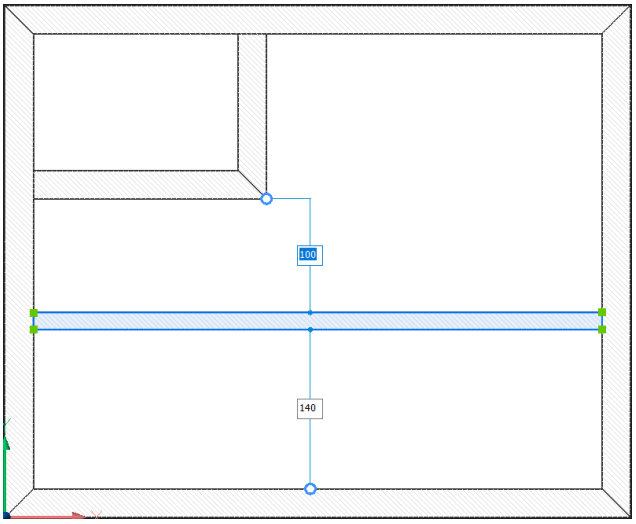
4 距離フィールドをクリックします。

5



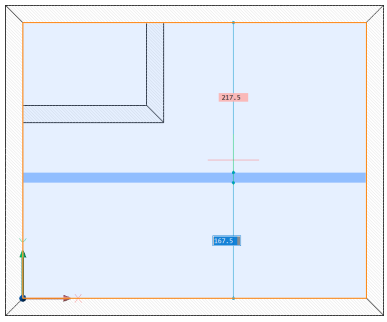
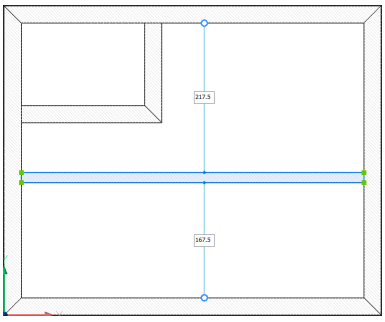
6 (オプション)**Tab**を押すと、次の距離フィールドにジャンプします。

7 値を入力し、**Enter**を押します。これで、BIM要素がそれに応じて再配置されます。



8 **Esc**を押して、BIM 要素の選択を解除します。

注：ダイナミック寸法と選択寸法の違いは、表示されるタイミングと、自動的に検出されたポイントを手動で移動できるかどうかに関係します。これらを以下の表に示します。

ダイナミック寸法	選択寸法
	
• 図面にBIM要素を配置するときに表示されます。 • 手動で移動できる可能性を与えずに、自動的にカーソルに追従する原点を持つ。	• 図面からBIM要素を選択すると表示されます。 • 自動的に検出されるポイント以外のポイントに手動で移動できる参照ポイントがあります。

記事動的寸法も参照してください。

22.17 ソリッドの分割

22.17.1 概要

BIM分割は、セグメントされたソリッドを自動分割するか、または切断面指定によりソリッドを分割する事ができます。

22.17.2 ソリッドを自動分割するには

SELECTIONPREVIEWシステム変数の値が2または3であることを確認してください。

1 a 以下のいずれかの操作を行います：

- リボンの**モデリング**タブにある分割ツールボタン( )をクリックします。
- BIMメニューから**分割**を選択します。
- コマンドラインにBIMSPLITと入力して、Enterを押します。

プロンプト表示：自動分割のソリッド、または、手動分割のカット面を選択 [選択オプション (?)]:

2 ソリッドの面にカーソルを合わせます。

3 面がハイライト表示されます。

4 マウスを動かさずにTabを押し、完全にソリッドがハイライトされたらクリックします。

5 プロンプト表示：

セット内の図形: 1

自動分割のソリッド、または、手動分割のカット面を選択:

6 右クリックします。

7 選択したソリッドが分割されます。

分割されたパーツの数がコマンドウィンドウに表示されます。

クワッドの使用

SELECTIONMODESシステム変数の**面を選択**オプション( )がオフになっていることを確認してください。

ソリッドの面にカーソルを合わせます。

ソリッドがハイライトされたら、クワッドのBIMコマンドグループで分割( )を選択します。

ソリッドが分割されます。

分割されたパーツの数がコマンドウィンドウに表示されます。

22.17.3 切断面を使用してソリッドを分割するには

SELECTIONPREVIEWシステム変数の値が2または3であることを確認してください。

1 以下のいずれかの操作を行います：
   - リボンの**モデル**タブにある**分割**ツールボタンをクリックします。
   - **BIM**メニューから**分割**を選択します。
   - コマンドラインにBIMSPLITと入力して、Enterを押します。

   プロンプト表示：自動分割のソリッド、または、手動分割のカット面を選択:
2 ソリッドの面にカーソルを合わせます。
3 Tabを押して、隠れている面をハイライトさせます。

   面がハイライトされたら、クリックして面を選択します。

   プロンプト表示：

   セット内の図形: 1

   自動分割のソリッド、または、手動分割のカット面を選択:
4 (オプション)更に面を指定するにはステップ4を繰り返します。
5 右クリックすると、面の選択を中止します。
6 選択した面を切断面として、ソリッドを分割します。

   分割されたパーツの数がコマンドウィンドウに表示されます。

クワッドの使用

SELECTIONMODESシステム変数の**面を選択**オプションが設定されていることを確認してください。

1 切断面として使用したい面にカーソルを合わせます。
1 面がハイライトされたら、次のいずれかを実行します。
2 ステップ3へ進みます。
3 更に面を選択する場合はステップ2へ移動します。
4 (オプション)切断面として使用したい面にカーソルを合わせます。
5 面がハイライトされたら、次のいずれかを実行します。
6 ステップ3へ進みます。
7 更に面を選択するには、このステップを繰り返します。
8 クワッドの**BIM**コマンドグループで**分割**を選択します。

選択した面を切断面として、ソリッドを分割します。

分割されたパーツの数がコマンドウィンドウに表示されます。

22.18 階段ツール

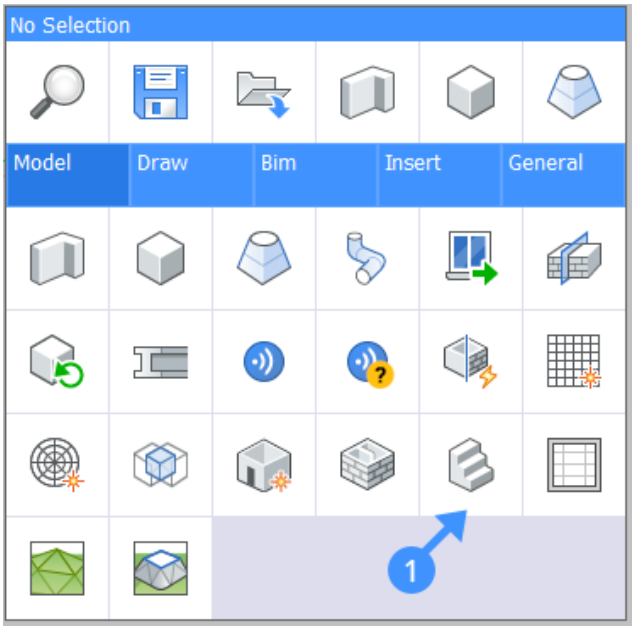
22.18.1 概要

階段ツールは、2回のクリックでプロジェクトにカスタム階段を追加できる強力なツールです。必要に応じて、デフォルトの階段の設定を変更することができます。**階段**ツールは、これらの要件に自動的に適合します。1段の直線階段、2段のL字型階段、2段または3段のU字型階段を作ることができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMSTAIR』をご参照ください。

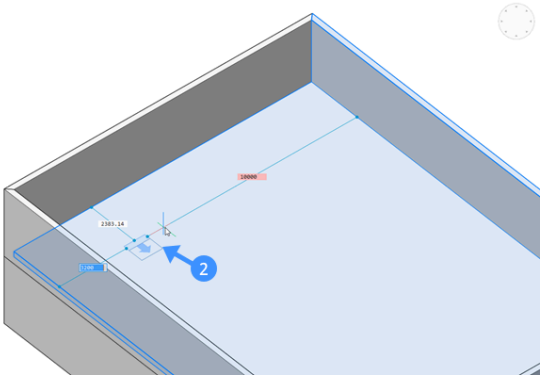
22.18.2 直線状の階段を作成する

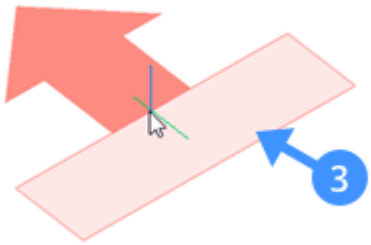
1 クワッドから**階段**ツールを選択します(1)。



2 スラブの上にカーソルを合わせてみてください。階段のカーソル(2)が表示され、階段カーソルが乗っているスラブがハイライト表示されます。これは最初のステップの位置を示しています。カーソルの位置が無効な場合は、カーソルが赤く(3)なります。

3





4 最初のステップの方向を反転するには、**反転**オプションを選択するか、コマンドラインに**F**と入力します。

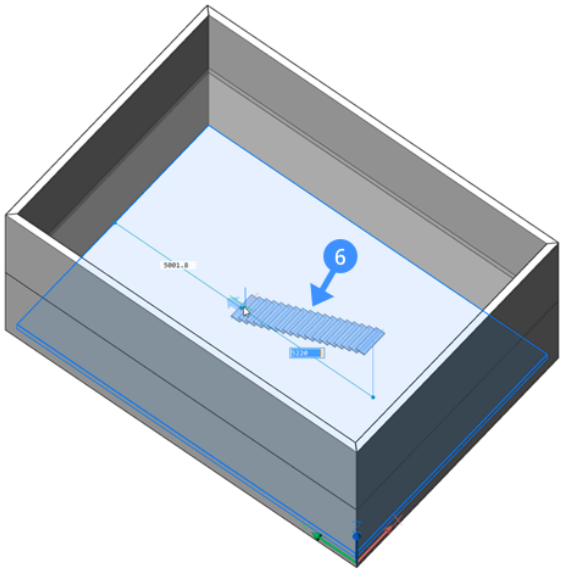
最初のステップの方向を90°変えるには、**四半回転**オプションを選択するか、**Q**と入力します。

階段の種類を切り替えるには、**ホットキーアシスタント**を有効にし、**Ctrl**を使用します。

注：カーソルを壁やスラブの端に近づけると、自動的に反転または四半回転します。この自動四半回転/反転動作は、**自動的に反転/四分の一回転**オプションががオンになっている場合のみ有効です。

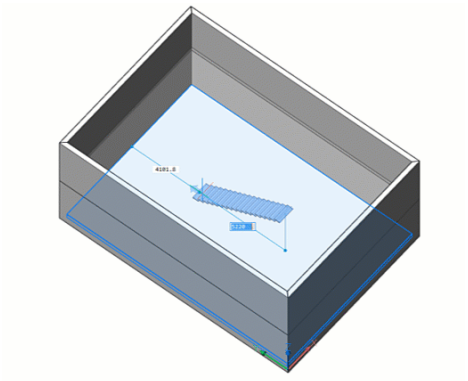
5 カーソルを所定の位置に配置したら、マウスで左クリックします。上のスラブが視界を遮っている場合、スラブが透明になります。

6

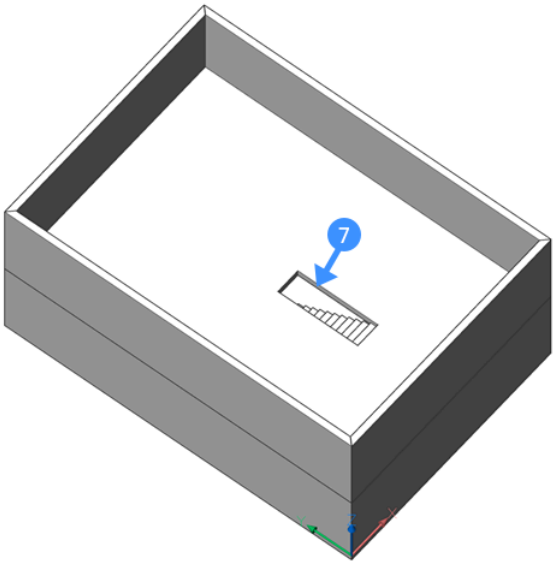


7 まっすぐな階段を作るには、マウスを最初のステップに垂直に置きます。

注：作成される階段のライブプレビュー(青)が、マウスにダイナミックに追従します(6)。**階段**ツールは、**優先ステップ長**設定に対応する構成に自動的にスナップします。最適な設定が満たされると、プレビューが濃い青色で表示されます。他の設定も考慮されますが、スナップ(濃い青色で表示)には対応しません。



8 カーソルが正しい位置に来たら、左クリックします。階段が作成されます。上部スラブには、**ヘッドルーム**設定(7)に対応した穴が自動的に生成されます。



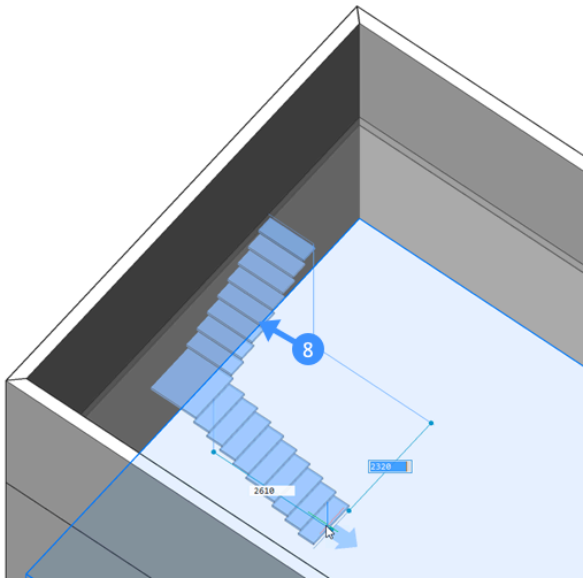
22.18.3　L字型階段を作成する

1　クワッドから**階段**ツールを選択します。

2　スラブにカーソルを合わせます。階段カーソルが表示されます。階段カーソルが正しい位置になったら左クリックします。

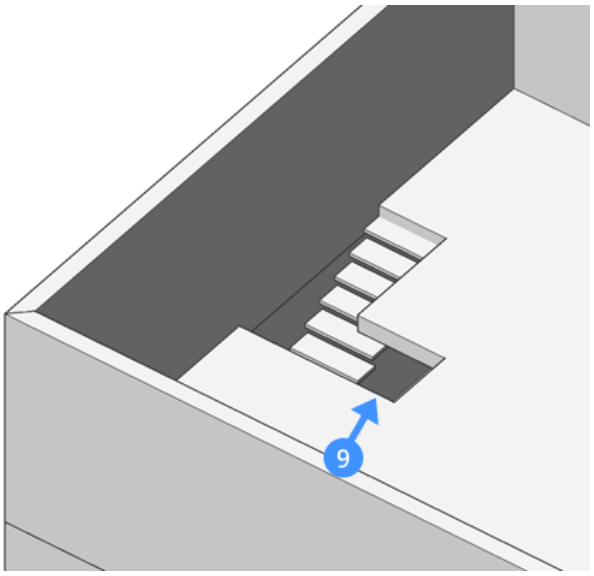
3　カーソルを垂直方向から離して、L字型の階段(8)を作ります。

4



注：作成される階段のライブプレビュー(青)が、マウスにダイナミックに追従します。(8)**階段**ツールは、**階段**ダイアログで指定された寸法に対応する階段の最適な構成を自動的に検出しようとします。最適な構成にスナップすると、このプレビューは少し暗い色で表示されます。

5　プレビューが確認できたら、左クリックします。階段が作られ、穴(9)が自動的に生成されます。今回は、上段の長さや、**ヘッドルーム**階段の設定に応じて、穴をL字型にすることもできます。ヘッドルームが大きく、最上段の階段だけではカバーしきれない場合は、2段目の階段の一部にもかかるため、L字型になります。



22.18.4　U字型階段を作成する

1　クワッドから**階段**ツールを選択します。

2　スラブにカーソルを合わせます。階段カーソルが表示されます。階段カーソルが正しい位置に来たら左クリックします。

3　カーソルを遠ざけます。**Q**と入力し**Enter**を押すと、2つ目のカーソルの方向が1つ目のカーソルに対して180°回転します。

または、ホットキーアシスタント(**ステータス**バーの**HKA**フィールド)が**ON**のときに**Ctrl**を押します。

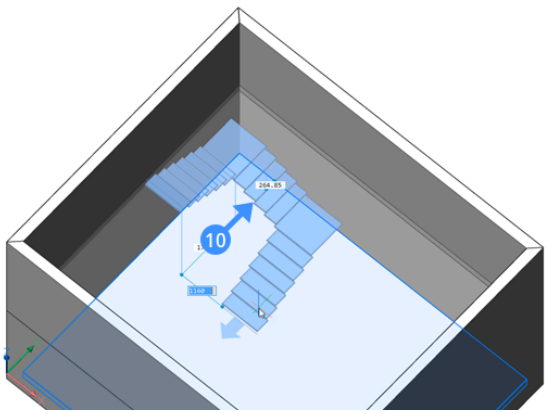
1　クワッドから**階段**ツールを選択します。

2　スラブの上にカーソルを合わせてみてください。階段カーソルが表示されます。階段カーソルが正しい位置に来たら左クリックします。

3　カーソルを垂直の部分から遠ざけると、L字型の階段になります。

4　**Ctrl**を押すと、L字型階段とU字型階段の切り替えができます。

または、最後のステップと最初の固定したステップを合わせます。最初のステップと平行なストリップに入ると、最後のステップは自動的に四半回転ンします。



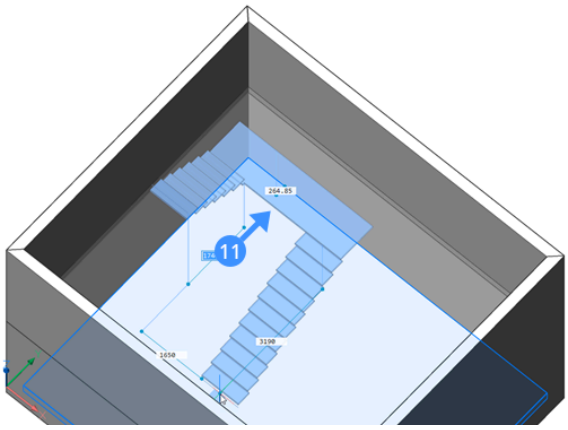
注：作成される階段のライブプレビュー(青)が、マウスにダイナミックに追従します。(10)**階段**ツールは、現在の設定に対応する構成に自動的にスナップします。最適な設定が満たされると、このプレビューは青の濃い色で表示されます。

5 U字型階段は、下記の2種類を切り替えることができます：

- 中間部にステップ(10)がある場合。
- 中間部が対向する2つの階段(11)の踊り場になる場合。

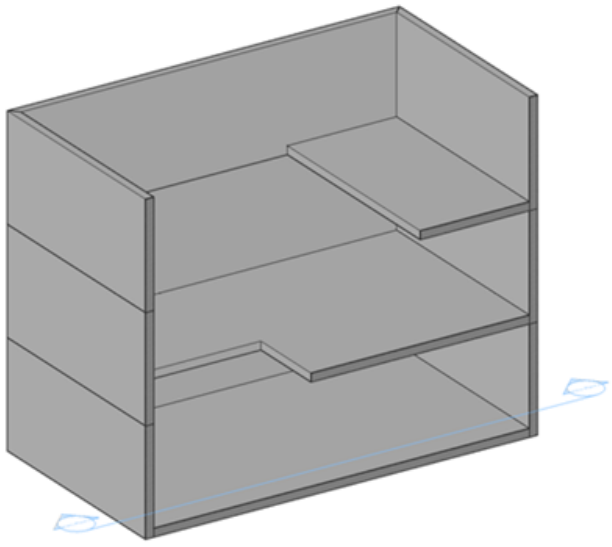
この2つのモードは、**U**と入力して**Enter**を押すと切り替えられます。

あるいは、Ctrlを押すと階段の種類が切り替わります。



22.18.5 既存の開口部に階段を作成する

時には、開口部が既存のスラブの端から始まる階段を作成する必要があります。

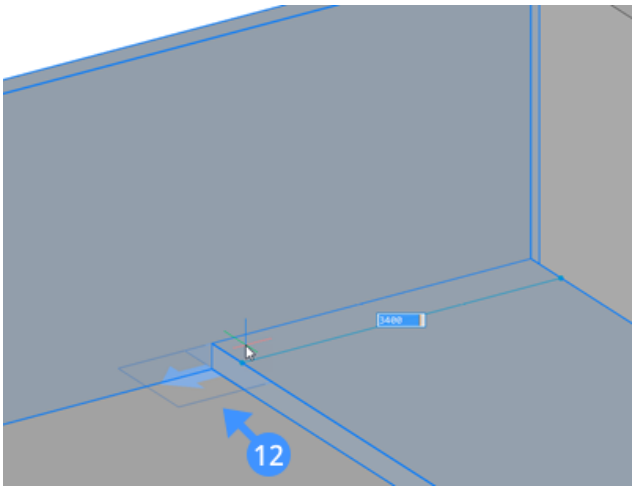


上の例では、異なる階を階段で接続する必要があります。しかし、開口部を設ける必要はありません。

1 クワッドから**階段**ツールを選択します。

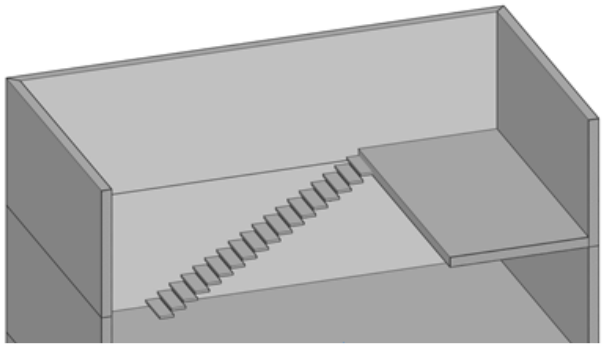
2 スラブのエッジ付近に階段カーソルを置きます(12)。カーソルが自動的にエッジの外側にスナップします。

3



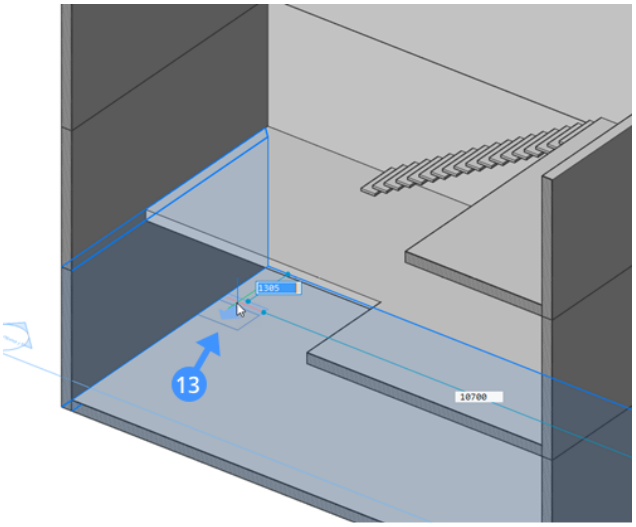
4 上記のように階段のフライトを作成します。

5



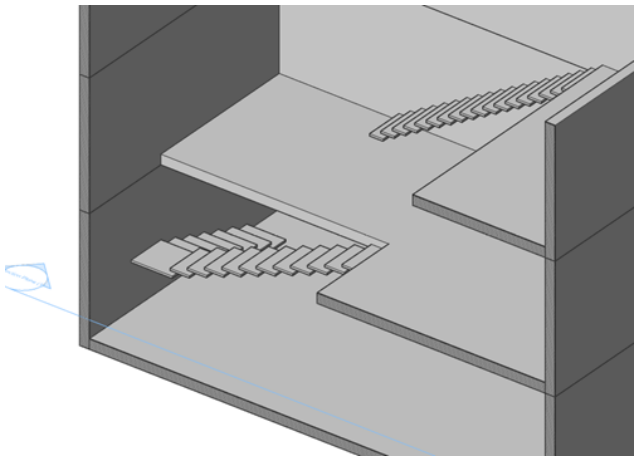
6 一番低いところからスタートして階段を作ることもできます。今回は1階のスタート地点(13)を選択します。

7



8 2階のスラブのエッジにカーソルを合わせます。階段カーソルは自動的にこのスラブのエッジにスナップします。左クリックして階段を作成します。

9



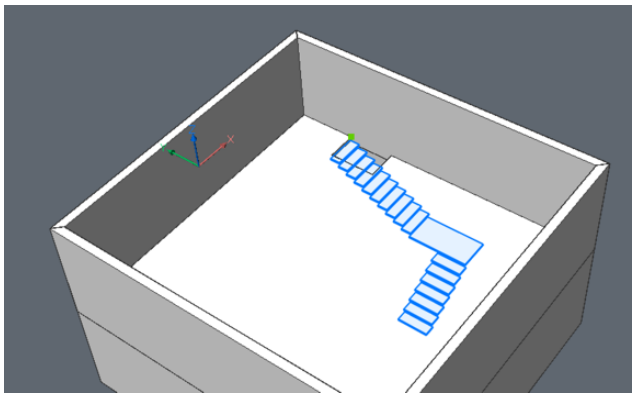
22.18.6　階段の編集

プロパティパネルの**階段**ツールで作成された階段の複数のパラメータを調整できます。これらのパラメータは以下の通りです。

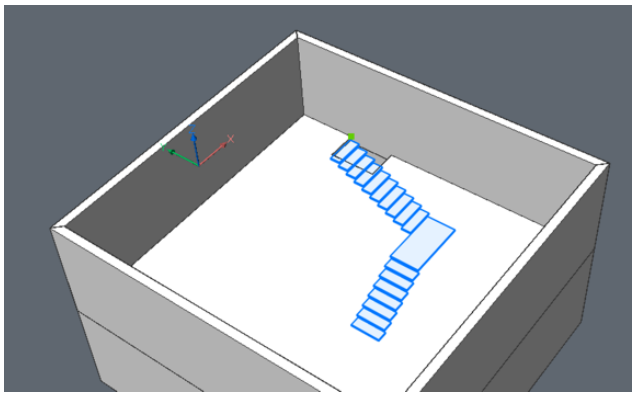
Parameters	
Height_Staircase	325 cm
Stair_Width	1000 mm
Ideal_Riser_Height	170 mm
Step_Thickness	50 mm
Nosing	50 mm
Length_StairFlight_0	145 cm
Length_StairFlight_1	174 cm
Length_StairFlight_2	145 cm

Height_Staircase	階段の飛行の全高。高さは上部で固定されており、ベースから調整します。
Stair_Width	階段の飛行の幅。階段を選択すると、上部のスラブに緑色の点が表示されます。このドットは、階段のフライトの挿入点を示します。この点が階段の飛行の途中にあるとき、階段の飛行は中心から広がります。階段が壁に取り付けられている場合など、側面にある場合、階段はドットから離れて側面を広げるだけです。
Ideal_Riser_Height	理想的な蹴上げの高さ。階段を作成するとき、実際の蹴上げは、理想的な蹴上げと階段の高さに基づいて計算されます。これにより、蹴上げは、理想的な蹴上げにできるだけ近づくように等分割されます。
Step_Thickness	段差の厚みです。ステップの上面が固定されているので、下に向かって厚みが増していきます。
Nosing	後続のトレッド間の重なりの水平距離。
Length_StairFlight_0	階段の1段目の長さ。この値を小さくすると長さが短くなります。各階段の踏面の長さと踏面の数は、すべての階段の合計長さに応じて更新されます。

Length_StairFlight_1	オプションの2段目の階段の長さです。この値を小さくすると長さが短くなります。各階段の踏面の長さと踏面の数は、すべての階段の合計長さに応じて更新されます。このオプションは、L字型階段とU字型階段でのみ利用可能です。
Length_StairFlight_2	オプションの3段目の階段の長さです。この値を小さくすると長さが短くなります。各階段の踏面の長さと踏面の数は、すべての階段の合計長さに応じて更新されます。このオプションは、U字型階段でのみ利用可能です。
Landing_Extension_Up	階段の1段目を降りるときの踊り場の長さ。第1階段は固定なので、第2階段が与えられたパラメータ値に合わせて調整します。
Landing_Extension_Down	階段の2段目を降りるときの踊り場の長さ。第1階段は固定されているので、第2階段が与えられた値に調整されます。



設定：**Landing_Extension _Up**.



設定：**Landing_Extension_Down**

MOVEコマンドを使用して、**階段**ツールで作成した階段を再配置できます。

階段ツールで作成された階段を複雑に編集する場合は、BEDITコマンドを使用してブロック定義を編集します。BEdit モードのときに、**メカニカルブラウザ**パネルを開きます。ここで階段に適用されるすべての拘束が表示され、編集することができます。

22.19 構造用鋼

22.19.1 コマンド

BIMAPPLYPROFILE、BIMLINEARSOLID、BIMSTRUCTURALCONNECT、BIMADDECCENTRICITY、BIMRECALCULATEAXIS、DRAG、BIMSTRETCH

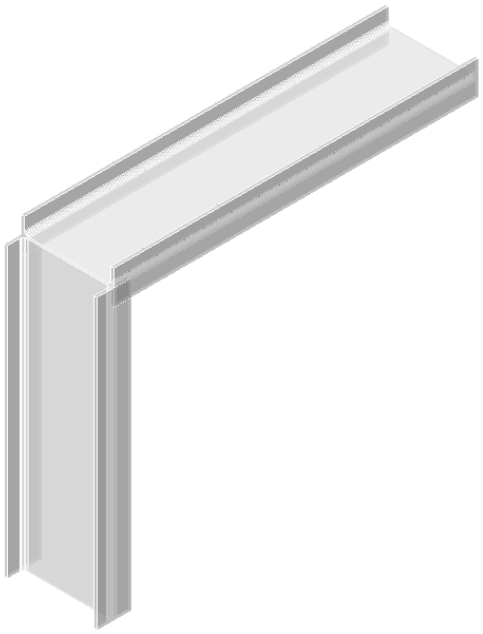
22.19.2 BIMプロファイルパネルを使用する方法

1 目的のプロファイルを**BIMプロファイル**パネルからモデル空間へドラッグ＆ドロップします。

注：このコマンドは、LINEコマンドと同じように動作します。

2 開始点と次の点(複数可)を定義するには、モデル空間内をクリックするかダイナミック入力フィールドを使用します。

3 Enterを押して、コマンドを終了します。



注：BricsCADでは、選択されたプロファイルが構造用鋼である場合、異なるセグメント間の接続は自動生成されません。

22.19.3 BIMSTRUCTURALCONNECTについて

BIMSTRUCTURALCONNECTコマンドは、プロファイルの接続を自動的に生成します。

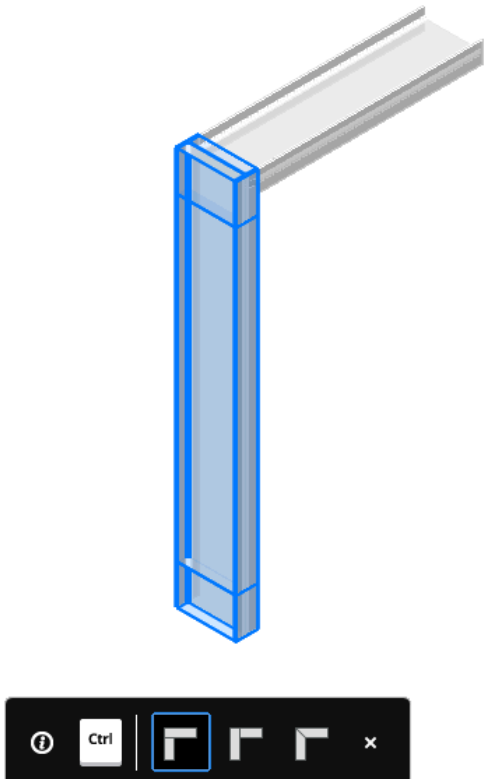
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMSTRUCTURALCONNECT』をご参照ください。

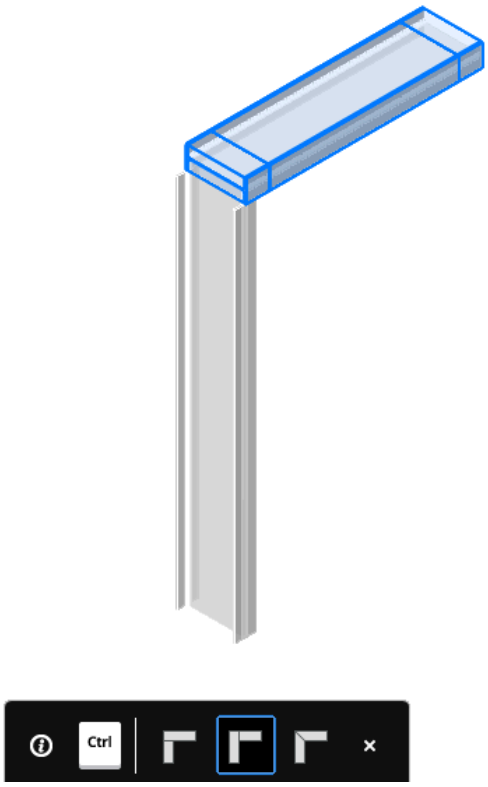
線形ソリッドへの構造接続を行います

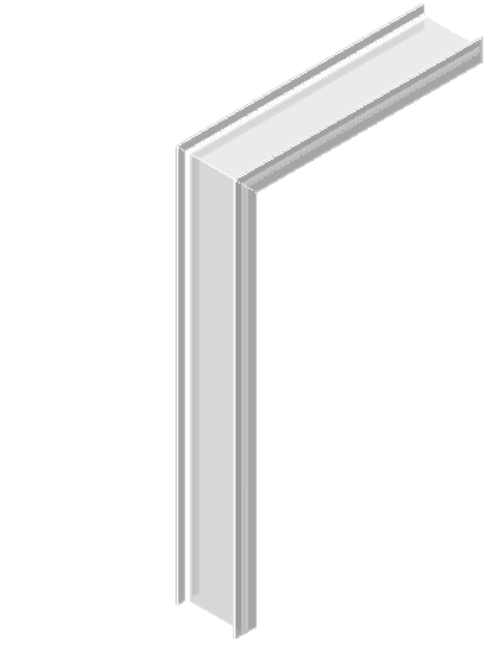
1 接続したいプロファイルを選択します。

2 コマンドラインにBIMSTRUCTURALCONNECTコマンドを入力するか、クワッドの**モデル**タブで**構造接続**を選択して、コマンドを起動します。

3 ホットキーアシスタントがオンになっている場合(**ステータス**バーの**HKA**)、以下のようなウィジェットが画面に表示されます。CTRLキーを押す度に、オプションが切り替わります。




Ctrl



4　Enterを押すと、選択したオプションを受け入れ、コマンドを終了します。

22.19.4　DRAGについて

DRAGコマンドを使用すると、作図されたプロファイルのセグメントを、他のセグメントとの接続を失うことなく変更できます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『DRAG』をご参照ください。

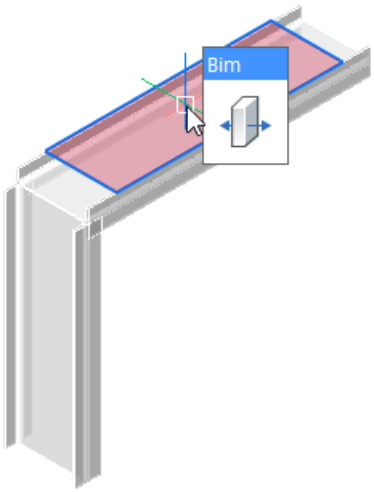
セグメントの位置づけの変更

注：これは、接続がBIMSTRUCTURALCONNECTコマンドで作成された場合にのみ機能します。

1　DISPLAYSIDESANDENDS

2　プロファイルの断面に垂直な面を選択します。

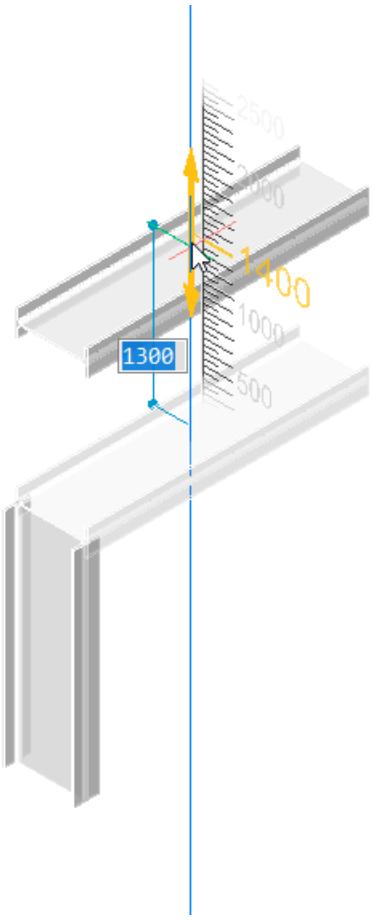
3



4 DRAGコマンドを起動します。

5 マウスをクリックして、セグメントの新しい位置を設定します。または、ダイナミック入力フィールドを使用して、変位の値を入力します。

6



22.19.5 手順：モデリングツールを使用して、構造用鋼モデルを作成

1 ベースとなるBimGridを作図します。

2 BIMGRIDコマンドを起動します。

3 開始点をクリックして、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。

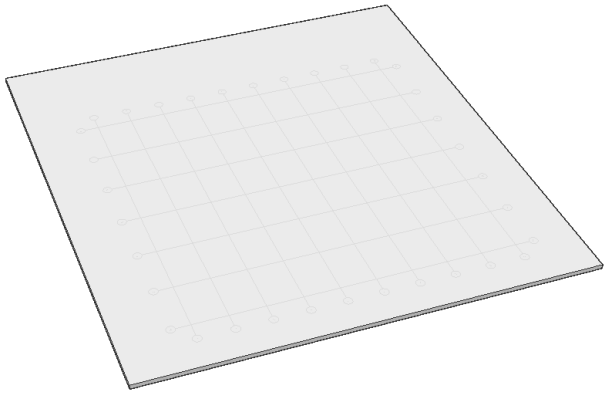
4

5 グリッドの下にベーススラブを作図します。

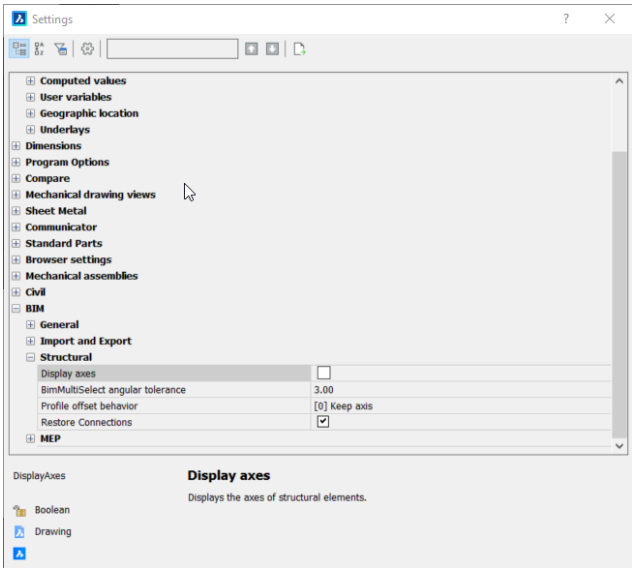
6 BOXコマンドを使用してスラブを作成します。

7 グリッドが完全にスラブの上にあり、プロファイルの軸が表示されていることを確認します。

8

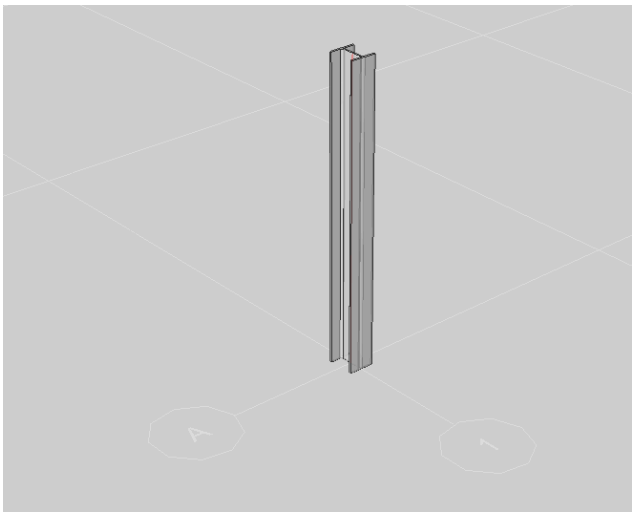


9 **設定**ダイアログで、**BIM** > **構造**セクションを表示します。**軸を表示**にチェックが入っていることを確認します。



10 **BIMプロファイル**パネルを開き、構造用鋼プロファイルをモデルにドラッグします。2つのグリッド軸の交点から作図を開始し、垂直上方に作図します。

注：特定のポイントをスナップするには、図形スナップを右クリックして表示されるコンテキストメニューで、スナップしたいポイントの種類をオンにしてください。



11 BIMPROPAGATEコマンドを起動します。

12 スラブをベースソリッドとして選択し、Enterを押します。

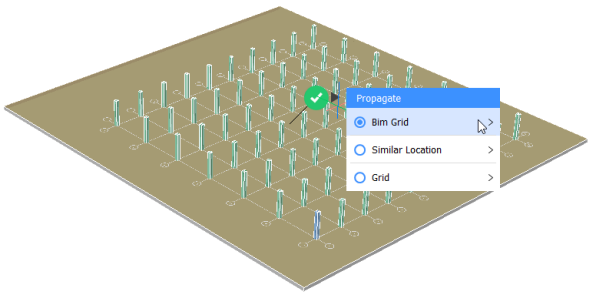
13 柱を詳細要素として選択し、Enterキーを押します。BricsCADは3Dの詳細にズームインします。**C**ボタンを押すと、柱がブロックではなくソリッドとしてコピーされます。

注：BIMPROPAGATEの初期設定では、オブジェクトをブロックとしてコピーします。

14 Enterを押します。

15 **注**：BricsCADでは、すべてのグリッドの交点に梁が自動的にコピーされます。これは、ベースソリッドとしてBIMグリッドの床スラブを選択したためです。

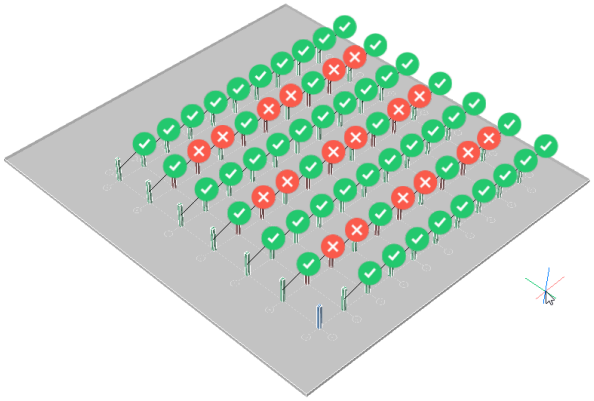
16 緑色のチェックマークにカーソルを合わせ、ダイアログボックスで**BIMグリッド**をクリックします。



17 **分解**をクリックします。個々の候補を手動で切り替えて、好みのパターンを作ることができるようになりました。

18 コマンドを終了するにはEnterを押します

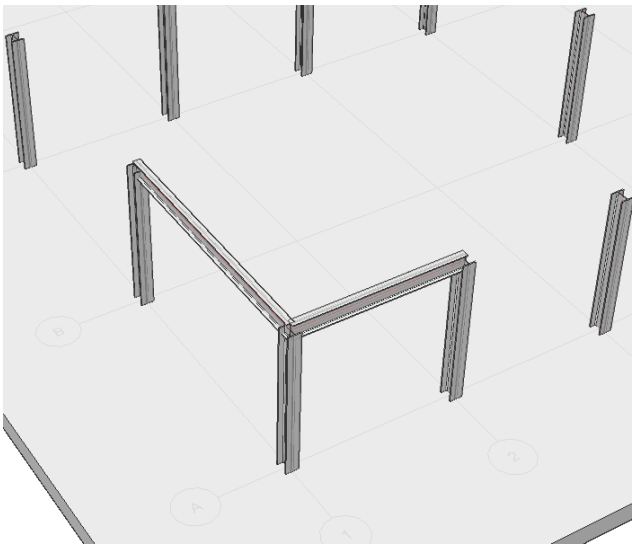
19



柱の間の梁を作成します。

1 **BIMプロファイル**パネルを開き、構造用鋼プロファイルをモデルにドラッグします。始点と終点を設定するには、柱の上部をクリックし、次の柱をクリックします。これを両方向から行います。

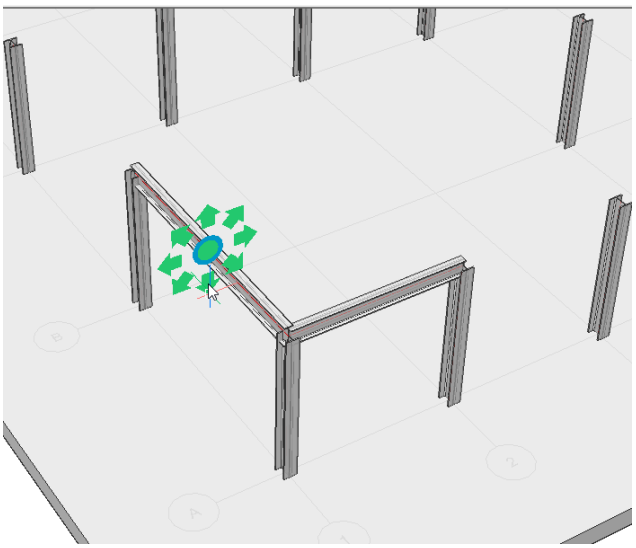
注 : プロファイルを回転させてフランジが上向きになるようにしたい場合は、Q(四半回転の略)を押します。プロファイルは、その軸を中心に90度回転します。



2 梁プロファイルを**BIMプロファイル**パネルからこの梁にドラッグ&ドロップします。2本目の梁はスパンが長いので、プロファイルを大きくします。

3 梁を選択してBIMADDECCENTRICITYコマンドを起動し、梁の軸の相対的な位置を変更します。

4



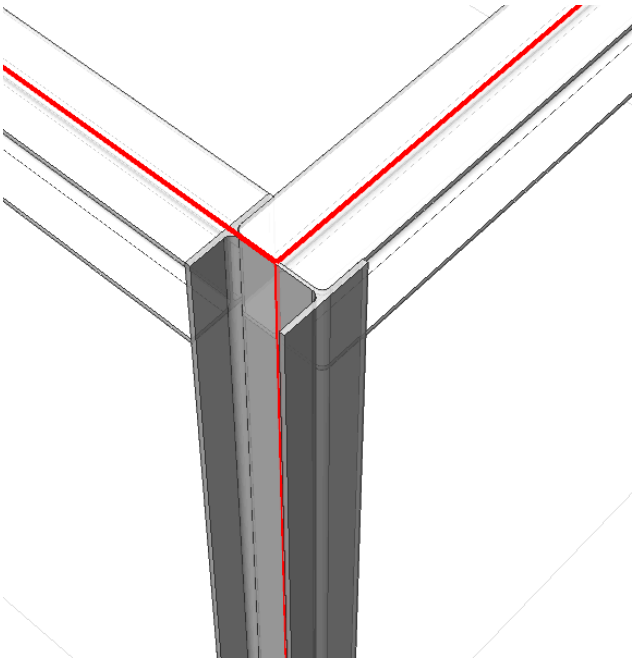
5 下矢印をクリックします。梁はその軸に対して下に移動します。

6 Enterを押して、コマンドを終了します。

7 別の梁についても、手順3-5を繰り返します。

8 柱と2本の梁を選択し、BIMSTRUCTURALCONNECTコマンドを起動して簡単な接続を行います。Enterを押して、デフォルトのオプションをそのまま使用します。

9



10 他の2つの接合のための手順7を繰り返します。

11 梁にY方向に接続された2本の柱を選択し、BIMPROPAGATEコマンドを起動します。

12 Y方向の梁を詳細ソリッドとして選択します。

13 Cを押すと、ブロックではなくソリッドとしてコピーされます。

14 Enterを押します。

15 受け入れる提案を選択します。Enterを押して承諾し、コマンドを終了します。

16 **注**：提案は状況が左右対称であるため、すべての柱の一番下に行われます。提案をオフに切り替えることができます。

17 手順9～13を繰り返し、X方向に梁を作成します。

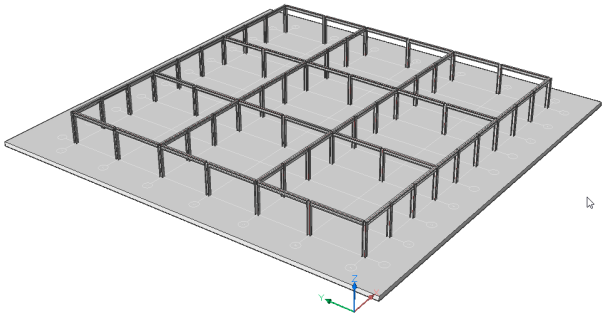
18 **注**：ボックス選択で下の梁を一括で選択することができます。

梁を移動

1 DISPLAYSIDESANDENDS

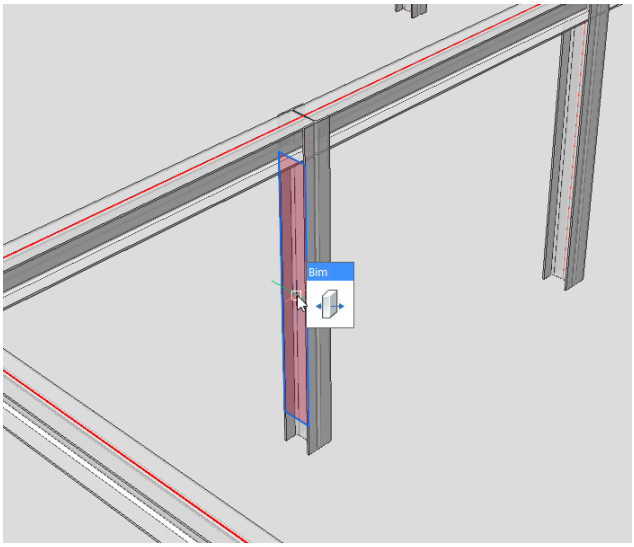
2 目的の柱の側面をハイライト表示し、DRAGコマンドを起動します。

3



4 柱を目的の位置に移動させます。

5



注：隣接する梁との接続は維持されています。

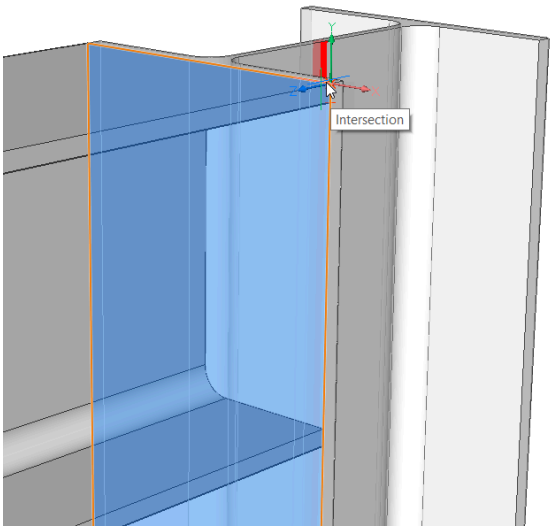
22.19.6 手順：モデリングツールを使用して、より詳細な接続を作成

1 DISPLAYSIDESANDENDSシステム変数の値を0に設定します。

2 目的の柱の側面をハイライト表示し、BOXコマンドを起動します。

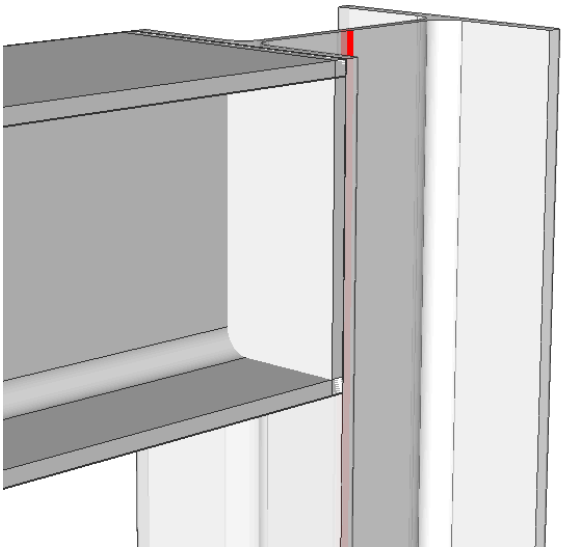
3 面が青くハイライトされるように、Shiftを1回押します。

4



5 柱のフランジにプレートを作図します。

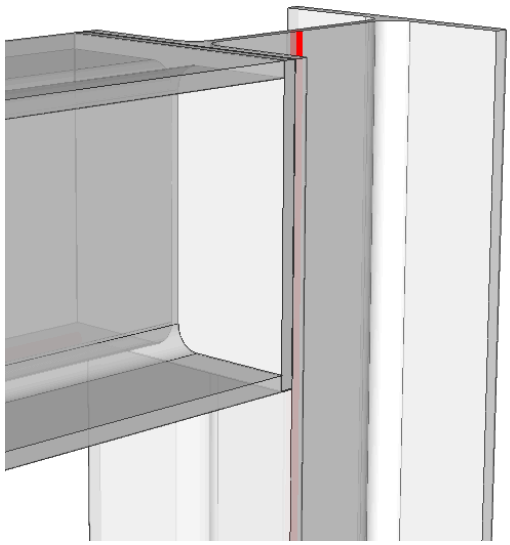
6



7 梁を選択し、SUBTRACTコマンドを起動します。

8 エンドプレートを選択し、Enterキーを押します。

9

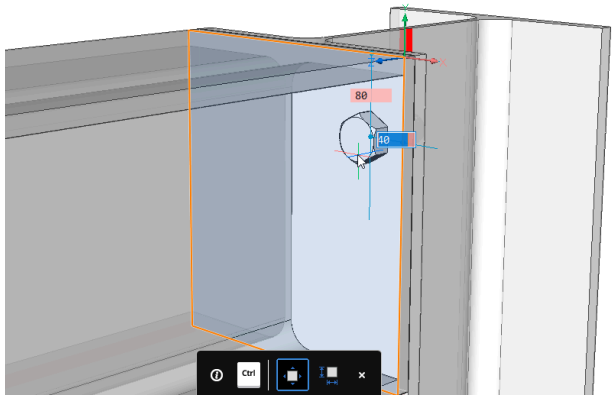


10 面を選択して、クワッドからBIM化コマンドを起動します。

注：クワッドの**BIM**タブで**手動で分類**を選択して、プレートを手動で分類することもできます。

11 **ライブラリ**パネルを開き、ボルトをプレートにドラッグします。

注：ダイナミック入力フィールドに値を入力することで、正確に配置することができます。

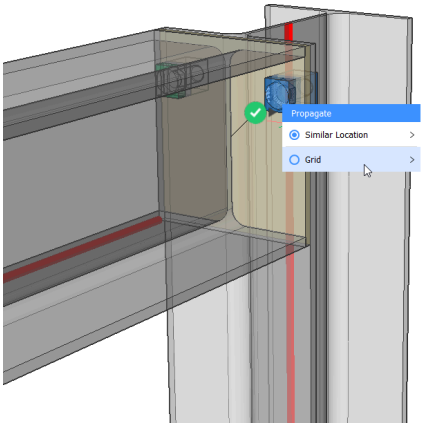


12 プレートを選択し、BIMPROPAGATEコマンドを起動します。

13 詳細としてボルトを選択し、Enterを押します。

14 もう一度Enterを押して、青い疑問符をクリックします。緑色のチェックマークに変わります。

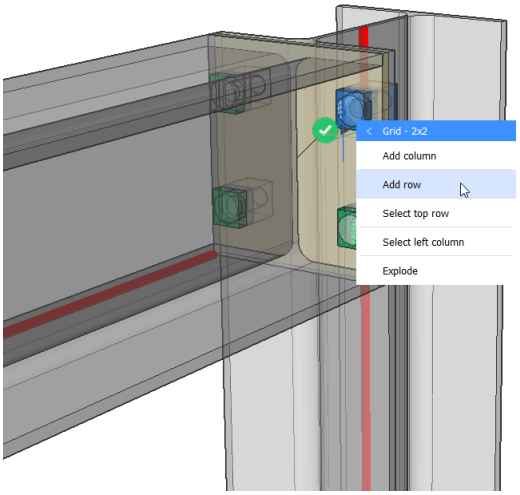
15 チェックマークにカーソルを合わせ、**グリッド**を選択します。



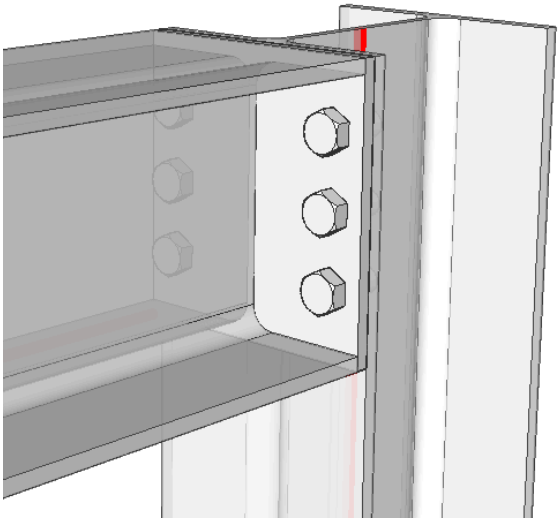
16 行を1行追加します。

17 Enterを押して、コマンドを終了します。

18



詳細な接続が作成されました。



22.19.7　手順：BIMSTRETCHを使って構造用鋼材を修正する

1　新規図面を開きます。

2　画面の右端にある**BIMプロファイル**パネルをクリックして開きます。

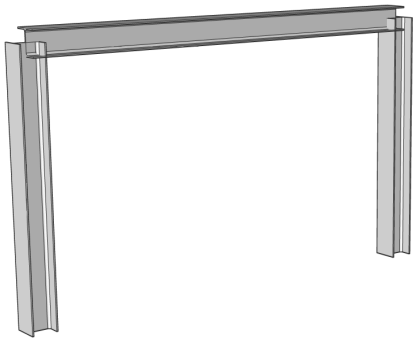
注：BIMプロファイルパネルのアイコンがまだ表示されていない場合は、リボンを右クリックし、コンテキストメニューで**パネル**を選択して**BIMプロファイル**にチェックを入れます。

3　構造を描きたいプロファイルを、モデル空間内にドラッグします。

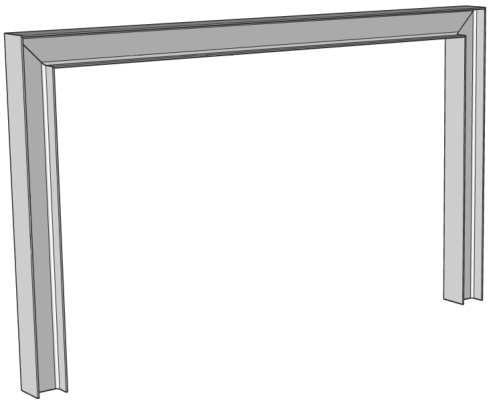
4　高さ3000mmの円柱を作図します。コマンドを終了せず、長さ5000mmの連結梁を水平に作図します。次に、梁の端

にもう1本の柱を追加します。この柱の高さも3000mmです。

5 **注**：プロファイルを正しい方法で回したかどうかを確認してください。



6 3本の梁を選択し、リボンで**構造接続**を選択するか、クワッドでこのコマンドを選択します。どちらの接続がいいかを選択できるようになります。L接続オプションを選択し、Enterキーを押します。図形が接続されました。



7 リボンで**側面と端を表示**と**面の選択に優先順位付け**が有効になっていることを確認します。これは、**構造/MEP**リボンタブで確認できます。または、DISPLAYSIDESANDENDSシステム変数の値を1に設定し、SELECTIONMODESシステム変数の値を2に設定します。

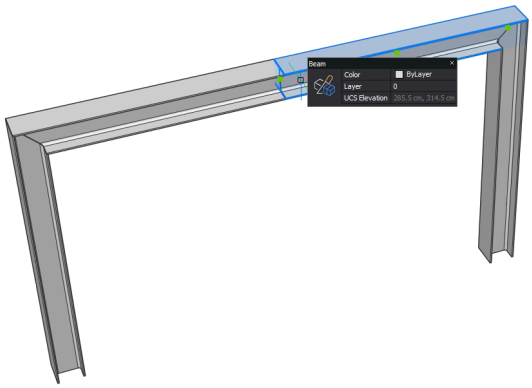
8 プロファイルが**梁**と**柱**として正しく分類されているかを確認します。

9 SLICEコマンドを起動し、真ん中の梁をスライスします。

10 プロンプト表示：軸に沿ってスライスしますか？Enterを押して、デフォルトのオプション(はい)を受け入れます。

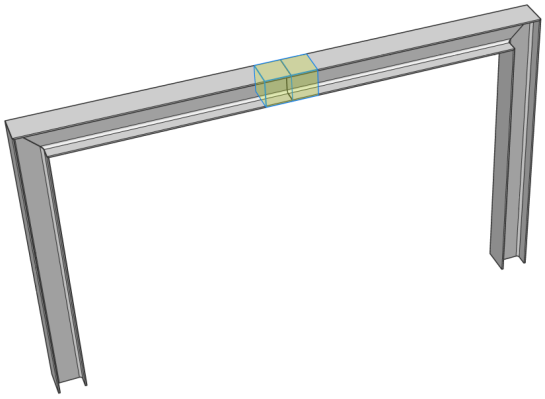
11 梁の中間点を選択し、Enterキーを押します。梁は2つに分割されました。

12

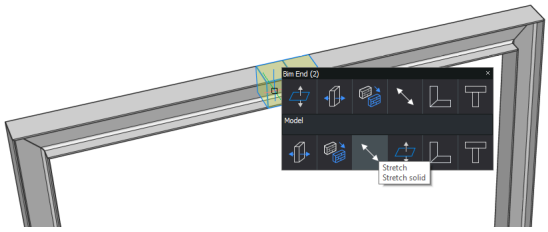


13 構造体の中央にある梁の2つの端を選択します。黄色で表示されます。

14



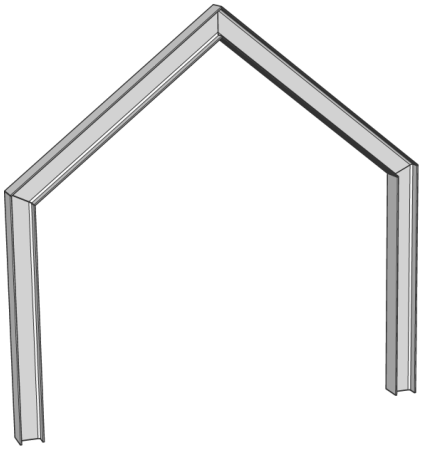
15 クワッドの**モデル**タブで**ストレッチ**ツールを選択して、BIMSTRETCHコマンドを実行します。



16 直線的に上に向かってカーソルを置き、高さを2000mmと入力し、Enterを押して承諾します。

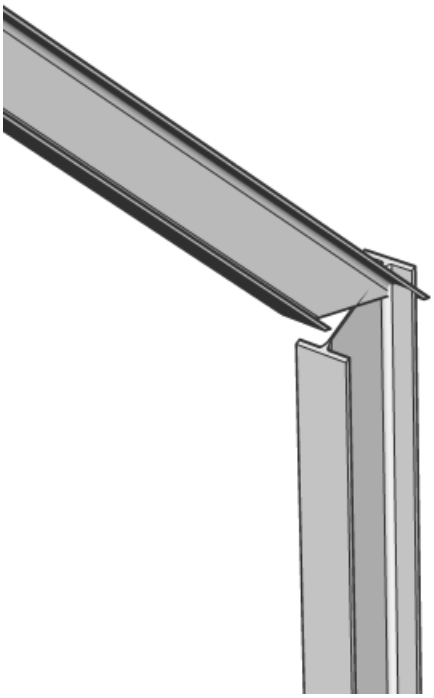
17 結果は以下のようになります。

18



ご覧のように、プロファイル間の接続は、図形間の新しい角度に自動的に適応されます。

注：もし、梁の中央にある2つのサイドエンドのうち、片方だけを選択した場合、選択されなかった側の接続はストレッチに含まれず、以下のような結果になります。



22.20 BIMクイックドロー

22.20.1 概要

クイックドローツールを使用すると、企画段階のモデリングが簡単に開始できます。また、BIMデータも自動的に追加されます。**クイックドロー**ツールを使用して、部屋または建物全体を作成できます。一度起動すると、意図的にコマンドを終了するか、他のコマンドが実行されるまで**クイックドロー**が有効になります。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMQUICKDRAW』をご参照ください。

22.20.2　部屋と壁の設定

このコマンドを実行すると、**クイックドロー**コマンドのコンテキストパネルが開きます。必要な値を直接入力するか、フィールドの矢印を使用して、部屋の寸法を設定できます。また、壁の配置構成とスナップオプションを設定したり、**自動適用サイズ**オプションをオンにすることで、近くの部屋の寸法を採用したりすることもできます。

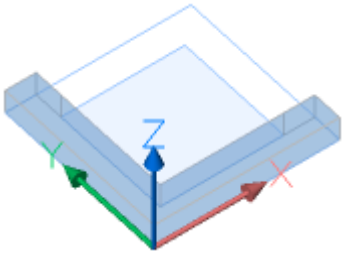
壁の位置合わせを変更するには、**Ctrl**を押しながら、**ホットキーアシスタント**ウィジェットの**クイックドロー**位置合わせを押します。

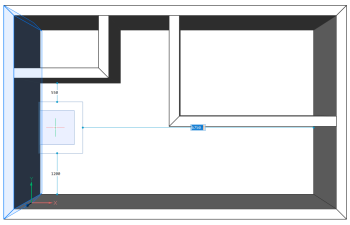
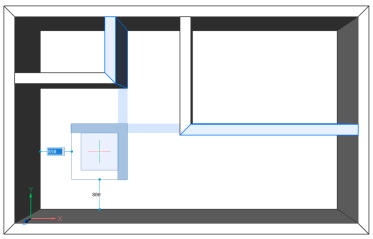
注：HOTKEYASSISTANTシステム変数が1に設定され、**ホットキーアシスタント設定**ダイアログボックスで**BIMQUICKDRAWオプションのホットキーヒント表示**チェックボックスがオンになっている場合**ホットキーアシスタント**ウィジェットが表示されます。

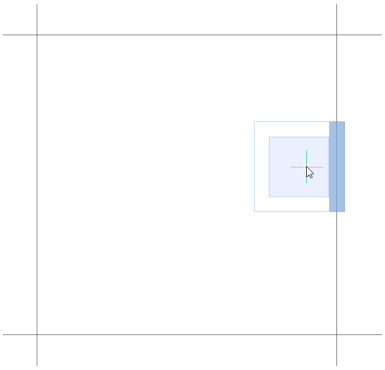
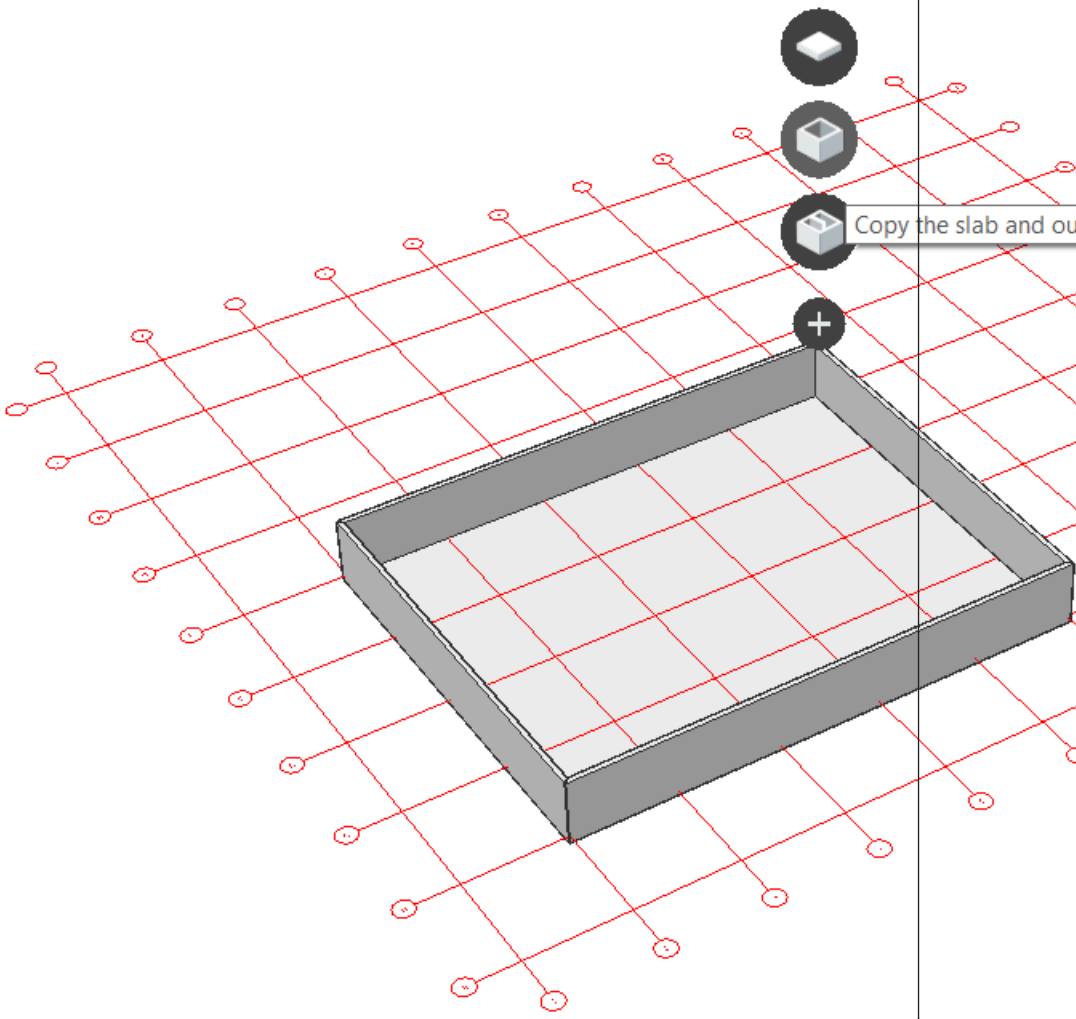
22.20.3　自動吸着するスナップ機能

自動吸着するスナップ機能を使えば、**クイックドロー**のカーソルの位置を簡単に合わせることができます。コマンドが起動中に、カーソルをスナップさせたい図形に近づけます。**クイックドロー**のカーソルが、自動的に図形にスナップします。

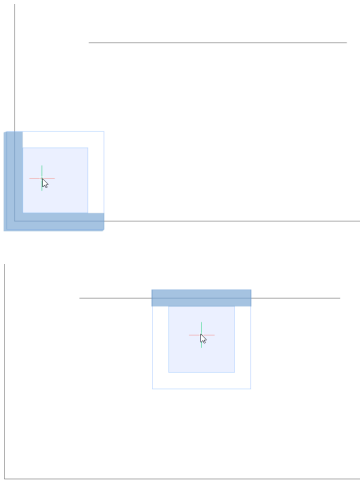
次のオプションがあります。

1.原点に合わせる	

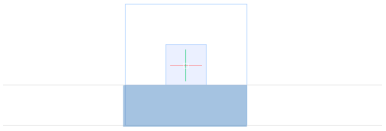
2.既存の壁に合わせる	壁 
	壁の延長線上 

3.ラインに合わせる	グリッド線  **注：クイックドロー**を使用して階をコピーする場合、通芯が1階のスラブと壁の同じ空間位置に割り当てられている場合にのみ、通芯がコピーされます。そうでない場合は、地上スラブの境界にあるグリッドラインが最上階のスラブに投影されます。これはあくまでも視覚的な助けです。最上階のスラブに描かれたグリッドラインは、QUICKDRAWのコマンドを終了すると消えます。 

X列/Y列整列ラインとラインセグメント



平行線



22.20.4 手順： L 形の家の作成

1 クワッドカーソルが**選択なし**の状態(何もハイライトされていない、選択されていない状態)の時に、**モデル**タブから**クイックドロー**を選択し、リボンの**クイックドロー**アイコンをクリックするか、コマンドラインにBIMQUICKDRAWと入力します。

プロンプト表示：**最初の点を選択:**

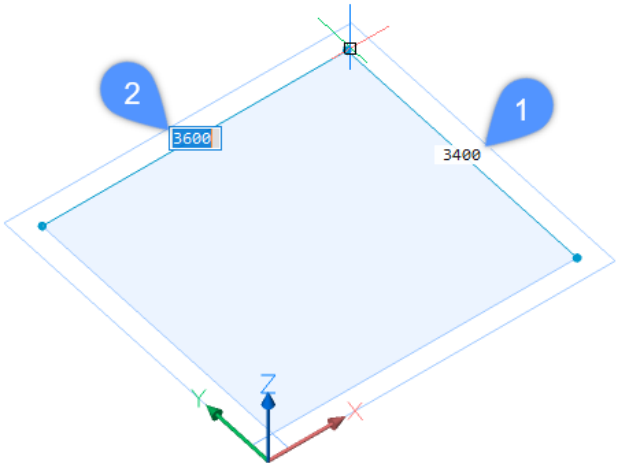
注：クイックドローコマンドのコンテキストパネルを使用して設定を変更した後、クリックして建物の最初のコーナーを指定します。

2 作図領域内の任意の点を選択して、最初のコーナーを設定します。

3 **注：**原点からスタートするには、**クイックドロー**のマグネテットスナップ機能を使います。

4 カーソルをドラッグして建物のフットプリントを定義します。

5 **注：ダイナミック寸法**(DYN)オプションがオンの場合、部屋の幅(1)と長さ(2)の現在の値がダイナミック入力フィールドに表示されます。

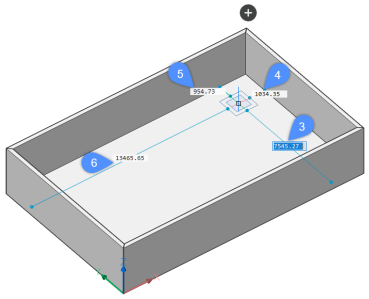


ダイナミック入力フィールドで、部屋の横幅と縦幅の値を指定します。**Tab**で幅と長さを切り替えて**Enter**を押すか、任意の場所でクリックします。**Enter**または**Esc**を押してQUICKDRAWコマンドを終了するか、続けてさらに部屋を作成することができます。

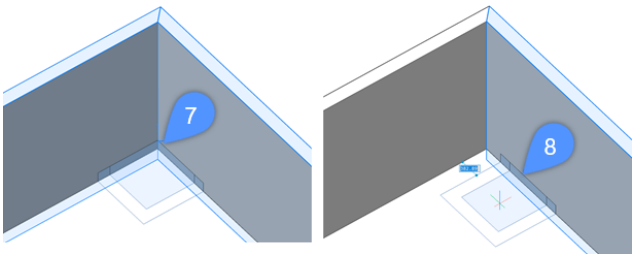
6 **クイックドロー**のカーソルを既存の建物の中に入れて、部屋を増やします。

既存の建物の中に**クイックドロー**カーソルを置くと、ダイナミック入力フィールドには**クイックドロー**のカーソルから隣の壁までの距離が表示されます。(3、4、5、6)

自動適用サイズオプションをオンにすると、新しい部屋の壁の寸法はスナップする壁と同じになります。この動作をしないようにするには、コマンドパネルでこのオプションのチェックを外してください。



カーソルが既存の壁にスナップされている場合、カーソルの見た目が調整されて表示されます。

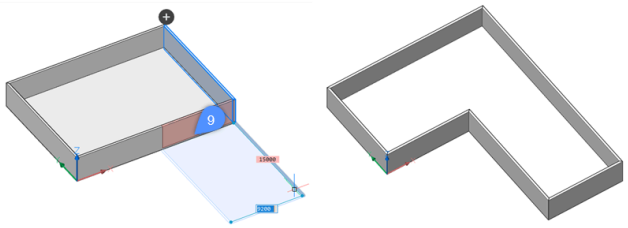


実際に新しい壁を描いて部屋を増やすには、既存の壁からの距離を指定して視点の指示をします。カーソルを移動し、ダイナミック入力フィールドに値を入力して、指示します。手順2、3と同じ方法で壁を描きます。

7 既存の部屋から壁の一部を削除するには、まず**クイックドロー**のカーソルを建物の内側にある既存の壁に合わせます。次に、既存の建物の外側でカーソルをクリックしてドラッグします。

削除される外壁部分が赤色(9)に変わります。

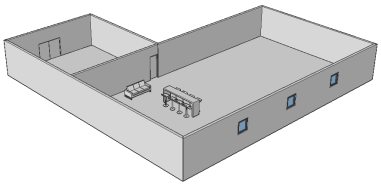
8 2番目の点を選択します。赤色にハイライトされた壁が削除され、L字型の部屋が作成されます。

9 

注：建物の外側から既存の壁にカーソルを合わせてクリックして、建物の内側にカーソルを移動することで、床スラブを削除しながらレイアウト変更することができます。

22.20.5 手順：階層と屋根を作成

同じような構成で始めてみましょう。



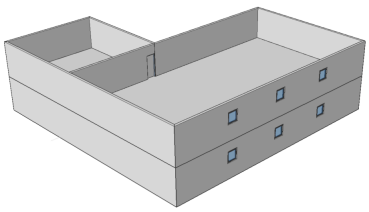
以下の手順で、階を2つ、浮いた部分、平面屋根を追加作成します。

1 **クワッド**カーソルが**選択なし**の状態(何もハイライトされていない、選択されていない状態)のときに、**モデル**タブの**クイックドロー**を選択するか、コマンドラインにBIMQUICKDRAWと入力します。

2 建物の横の作図領域にある(⊕)アイコンをクリックすると、次のオプションが表示されます。

- 最上階をすべてコピーします。すべての機能がコピーされます。(窓、ドア、内壁、家具、1階の外壁のドアを除く)
- スラブと最上階の外壁をコピーします。
- 建物を平らな屋根で仕上げます。

3 最初の階では、最初のオプション(すべてコピー)を選択します。

4 

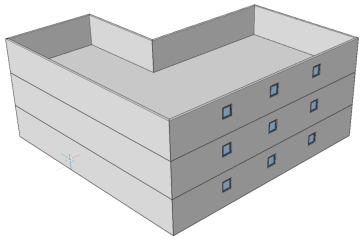
注：内装壁と内装ドア、外装壁の窓がコピーされます。1階の外壁にあるドアはコピーされていません。

注：この場合、家具は1階に割り当てられていないので、コピーされません。(**プロパティ**パネルを参照)家具をコピーしたい場合は、BIMIFYコマンドを使って家具を空間的な位置に割り当てます。新しい家具は、自動的に新しい空間の位置に割り当てられます。

注：壁は、その上に作られたスラブの空間的な位置を継承します。

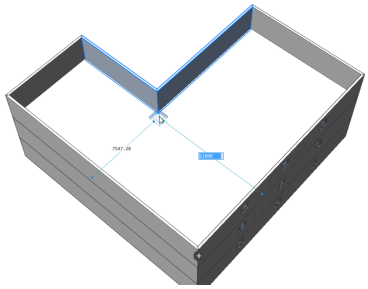
5 手順2を繰り返します。2番目のオプション(スラブと外壁をコピー)を選択して、最上階を作成します。

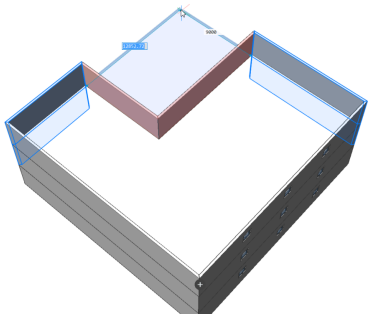
6



7 張り出しを作るためには、2階の外壁の一部を取り除く必要があります。まず、建物の内側にある2つの外壁の角に**クイックドロー**カーソルを合わせます。次に、カーソルをクリックして外側にドラッグします。

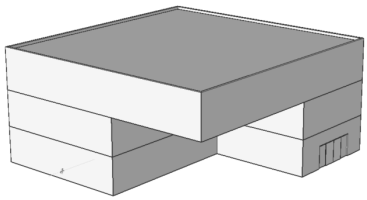
外側の壁が赤くなるのは、壁が取り除かれることを示しています。





8 手順2と同じ方法で、オプション3(平らな屋根で建物を仕上げる)を選択します。

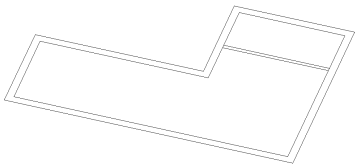
9



22.20.6　2Dレイアウト図を使ったクイックドローの使い方

1　シンプルな長方形やL字型の建物の平面図を開きます。

1



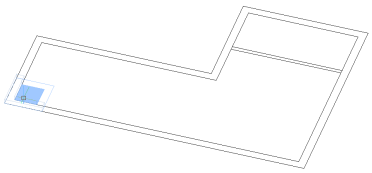
注：また、(POLY)LINEコマンドで簡単な2Dの平面図を作図してからスタートすることも可能です。この場合、BIMQUICKDRAWコマンドのデフォルトの壁厚が使用されます。

注：**クイックドロー**カーソルで、外部参照内の(二重)線へのスナップと、**図形スナップ**を使用した図形へのスナップサポートされるようになりました。

2　カーソルが**選択なし**の状態で右クリックして**クワッド**を起動し、**モデル**タブで**クイックドロー**を選択するか、リボンの**クイックドロー**アイコンをクリックするか、コマンドラインにBIMQUICKDRAWと入力してクリックドローを起動します。

3　任意の外壁の線分にカーソルを合わせます。

4

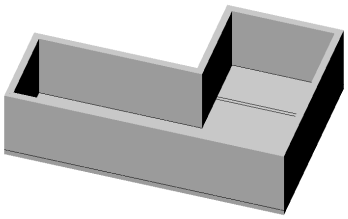


注：壁の厚みは、2D図面に描かれた平行な線分の距離に合わせて自動的に調整されます。

注：(読み込まれた)2Dフロアプランのラインが最適でない場合(例えばXYアライメントではないなど)、**クイックドロー**カーソルは(XYアライメントが完全であるため)スナップしません。その場合、OPTIMIZEコマンドを使用して、すべての2Dラインが正確にXまたはY方向に整列するようにします。

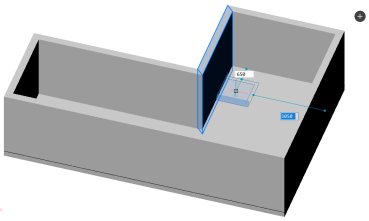
5　自動吸着するスナップ機能を使用して、2D図面の線分から外壁のモデルを作成します。

6



7　カーソルを内壁に近づけて、自動吸着するスナップ機能を使って2D図面の線分にスナップさせます。

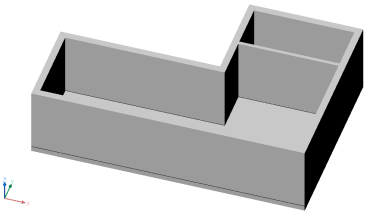
8



注：壁の厚みは、2D図面に描かれた平行な線分の距離に合わせて自動的に調整されます。

9　このように2D平面図から3Dモデルを作成することができます。

10



注：手順2、6と同じ方法で、床を追加したり、平屋根に仕上げることができます。

22.21　ドラッグの使用

22.21.1　コマンド

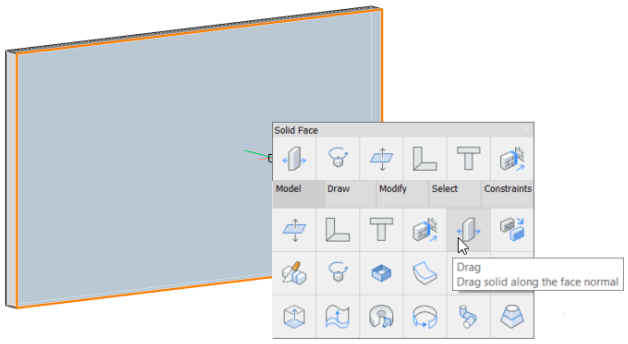
ドラッグ

22.21.2　概要

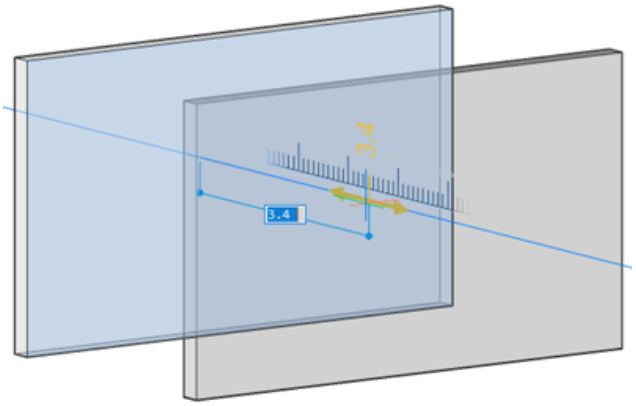
ドラッグツールを使用すると、ソリッドのハイライト表示された面上の壁、スラブ、または線形要素を移動できます。例えば、**ドラッグ**ツールは、線形ソリッドの端面や側面をハイライト/選択することで、線形ソリッドを移動させるために使用できます。モデリングの操作に応じて、ソリッド間の接続を維持したまま1つまたは複数のソリッドを同時にドラッグすることも、他のソリッドとの接続を解除してソリッドを独立して移動することもできます。

22.21.3　手順：3Dソリッド上でドラッグを使用

1　ソリッドの任意の面をハイライト/選択して、**クワッド** > **モデル**タブから**ドラッグ**を選択します。

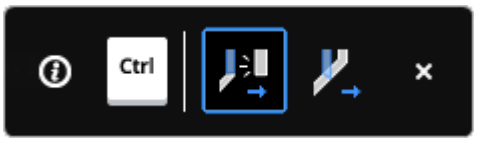


2　カーソルを移動してダイナミック寸法欄で移動するソリッドの位置を調整し、クリックするか、ダイナミック寸法欄に正確な値を入力してからEnterを押します。



注：ルーラーは、図形を移動させる距離を視覚的に表すために登場します。

3 ホットキーアシスタントは、利用可能なオプションを示す画面の下部に表示されます。

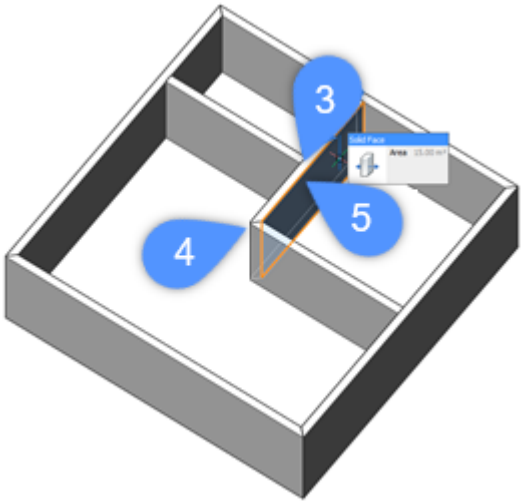


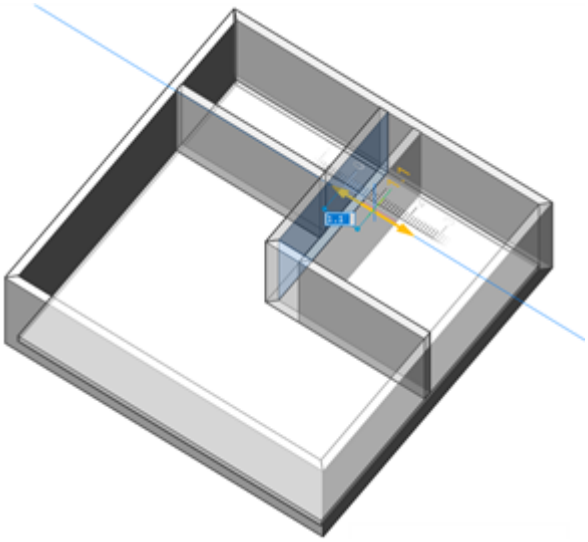
注：現在のモードは青い枠で表示されます。

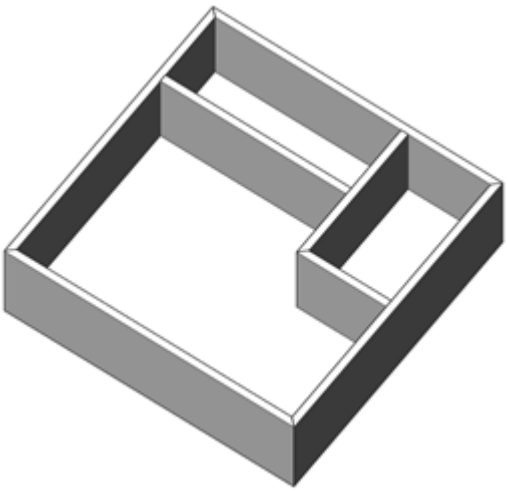
Ctrlを押すと、接続モードが切り替わります。また、接続を無効にしたい場合はD + Enter、接続を有効にしたい場合にはE + Enterを入力してください。

- ソリッド間の接続を維持したままソリッドを移動するには、**接続モードを有効にする**オプションを選択します。

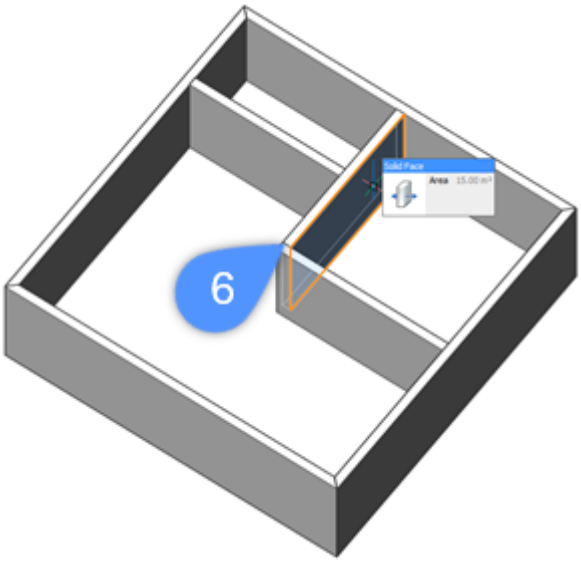
下の図では、**接続モードを有効にする**でDRAGを適用する前と適用した後のソリッドの動作を示しています。壁と壁の間の接続、つまりT(3)とマイター(4)の接続は、内壁面(5)をドラッグした後に保存されます。

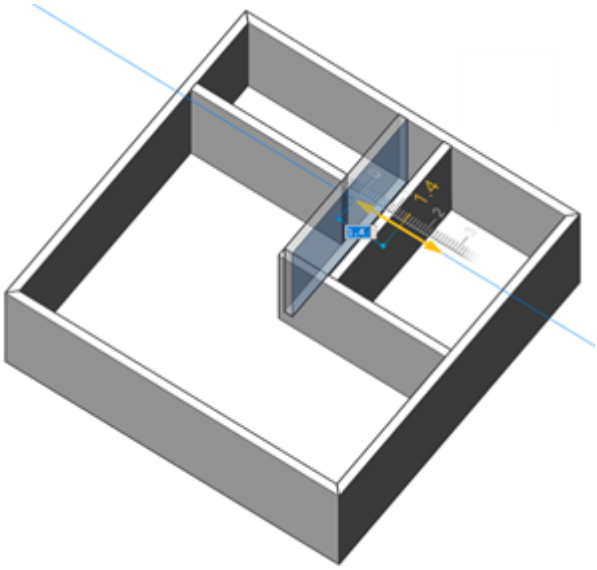


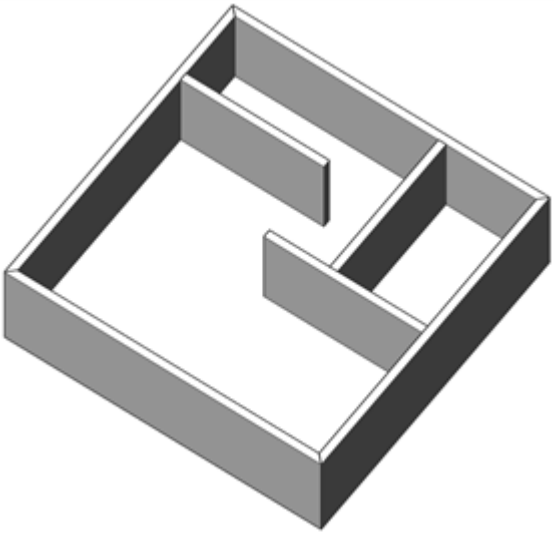




- 接続モードを無効にする(デフォルト)オプションを選択すると、ソリッド間の接続を解除しながらソリッドを移動させることができます。
- 下の図では、接続モードを無効にするのDRAGを適用する前と適用した後のソリッドの動作を示しています。壁と壁の間の接続、つまりT(3)とL(6)接続は、内壁面(5)をドラッグした後に解除されます。







22.22　パラメトリック化

22.22.1　コマンド

PARAMETRIZE、PARAMETERSPANELOPEN

22.22.2　概要

パラメトリック化とは、人手をかけずに、3Dソリッドのセットに拘束やパラメータを自動的に追加するプロセスです。それぞれのユニークな値に対して、特定のパラメータが作成されます。拘束やパラメータは、**メカニカルブラウザ**の中で、その名前と表現で表されます。各パラメータは、モデルの中でパラメータが何に対応しているかをアニメーションで表示することができます。パラメトリック化された形状は、形や大きさを制御できるようになります。いずれかのパラメータが変更されると、幾何学的モデルが自動的に更新されます。

22.22.3　手順：コンポーネントを自動的にパラメトリック化

1　コンポーネントを表すジオメトリモデルを開きます。

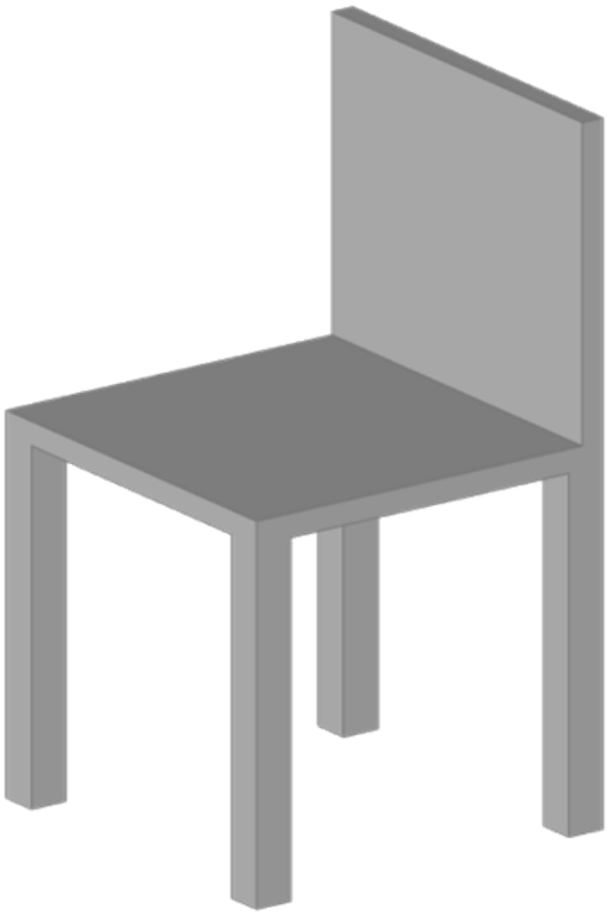
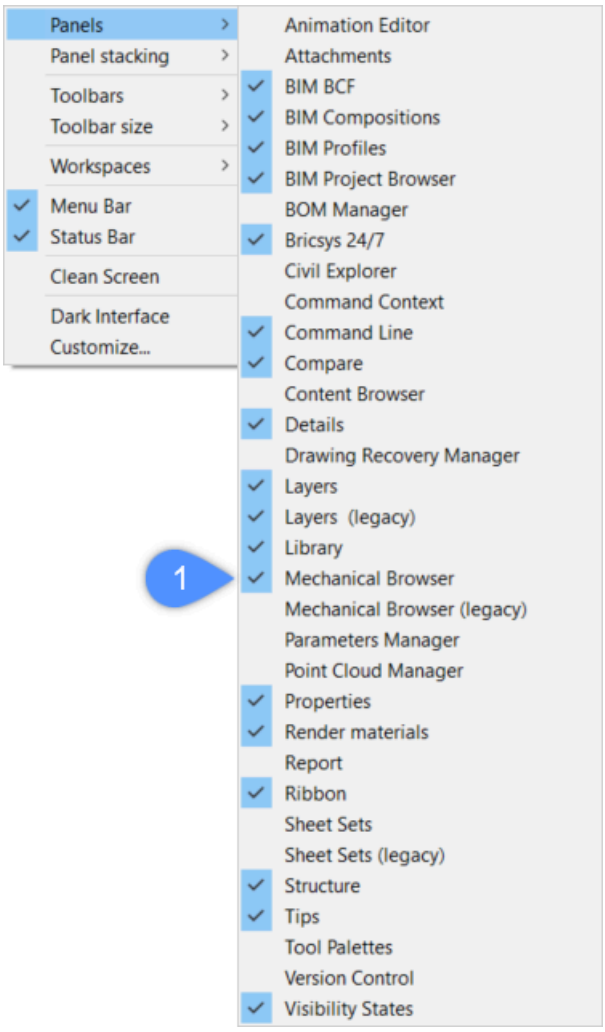


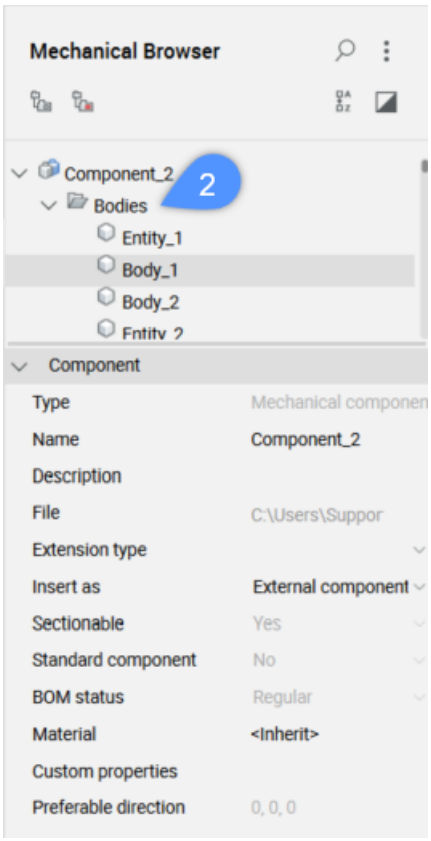
図1　サンプル椅子のジオメトリモデル

2　**ツールバー**パネルでメカニカルブラウザアイコンをクリックするか、コマンドラインにMECHANICALBROWSEROPENと入力して**メカニカルブラウザ**を開きます。

注：**ツールバー**パネルに[ブラウザ]または[パラメータ]アイコンが表示されていない場合は、ツールバーにカーソルを置き、右クリックして**パネル**を開きます。コンテキストメニューから**メカニカルブラウザ**(1)を選択します。



モデルにパラメータや拘束条件が含まれていない場合は、**ボディ**(2)セクションの下に3Dソリッドのみが表示されます。モデルに拘束やパラメータが含まれている場合、パラメトリック化ツールは既存のものを再利用するかどうかを尋ねます。



3 パラメトリック処理を行いたいコンポーネントのジオメトリを選択します。

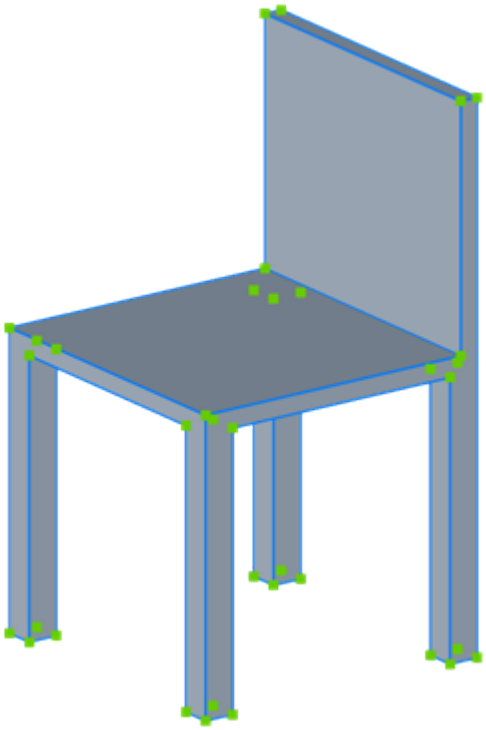


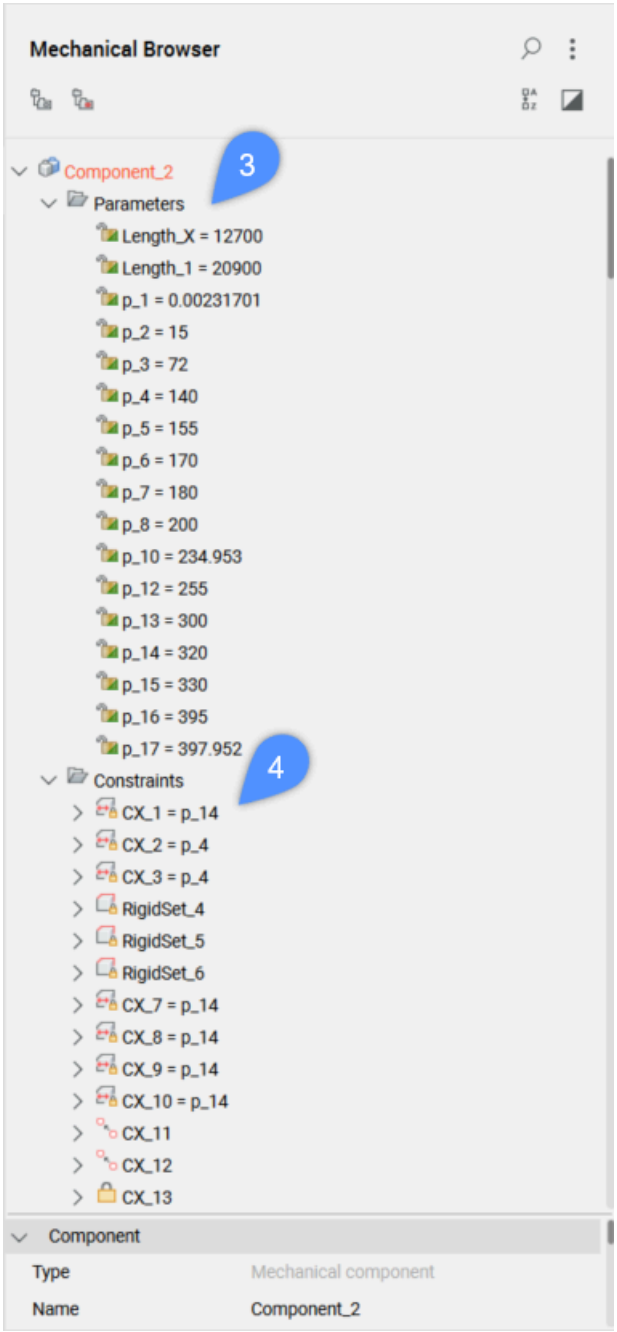
図2 選択されたオブジェクト

4 クワッドから**拘束**タブの**パラメトリック化**ツールを起動します。

または、コマンドラインに「PARAMETRIZE」と入力します。

一連のパラメータと拘束条件は自動的に定義されます。

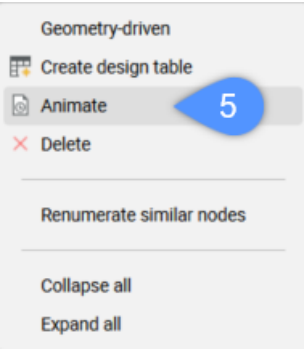
これらのパラメータと拘束条件は、**メカニカルブラウザ**に表示されます。(3と4)



注：パラメトリック化は、ジオメトリックモデルに応じて、距離、半径、剛体セット、固定、一致、同心円の拘束を作成します。

注：設定ダイアログボックスでDMRECOGNIZEシステム変数を変更することにより、直角性と接線性(該当する場合)を設定できます。

5 どのパラメータが何に対応しているかを簡単に確認するには、パラメータの1つを右クリックして、コンテキストメニューで**アニメイト**(5)を選択します。

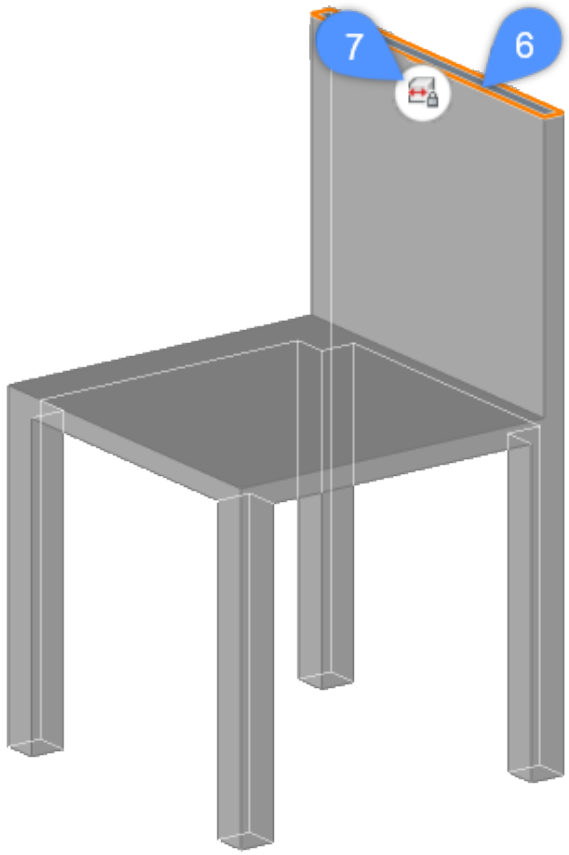


注：添付の.dwgでは、椅子の形状をパラメトリック化した後、パラメータと拘束条件が割り当てられ、**メカニカルブラウザ**に表示されます。各パラメータは、椅子のジオメトリにおける1つの測定値に対応しています。例えば、**Length_X_Y**は幅と奥行きを、**Length_Z**は全高を、**p_1**はシートの厚さを、**p_2**は脚の厚さを、**ratio_1**はシートの高さと全高の比率を、それぞれコントロールします。

22.22.4 手順：パラメータマネージャーでパラメータと拘束を変更

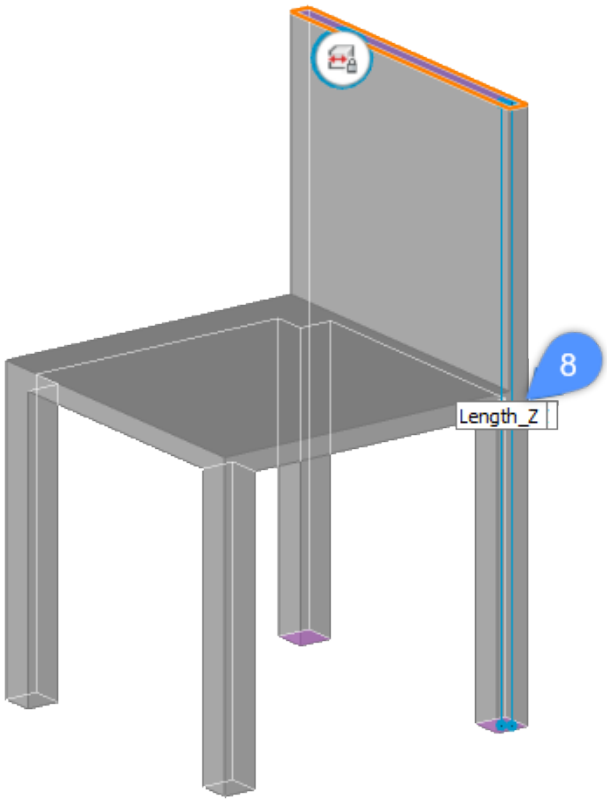
注：自動パラメトリック化した後で、パラメータマネージャーを使って、パラメータや拘束について明確でないものを変更することができます。

1 コンポーネントの面(6)のいずれかを選択します。拘束タイプ(たとえば、距離、固定)が表示されます。

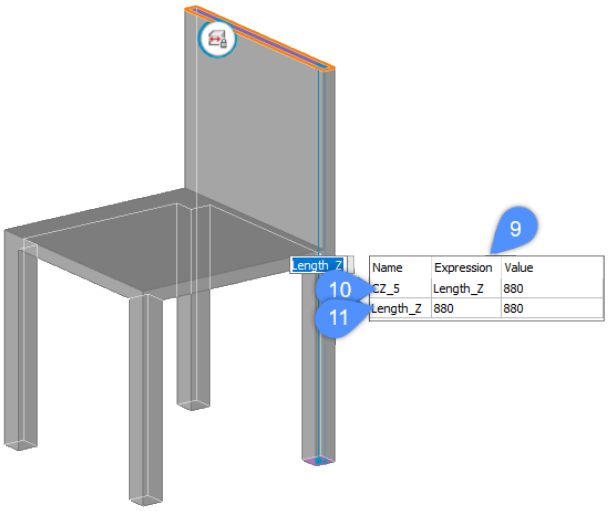


2 要素上の距離拘束(7)アイコンをクリックします。編集可能な寸法がボックス内に表示されます。

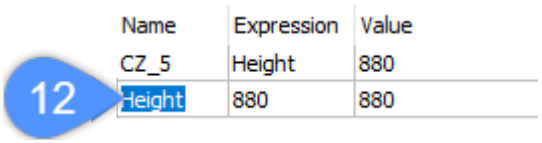
3 編集可能な寸法ボックス(8)をクリックします。



パラメータマネージャーが表示されます(9)。パラメータマネージャーには、選択された面に応じた距離拘束(10)とパラメータ(11)の式が表示されます。



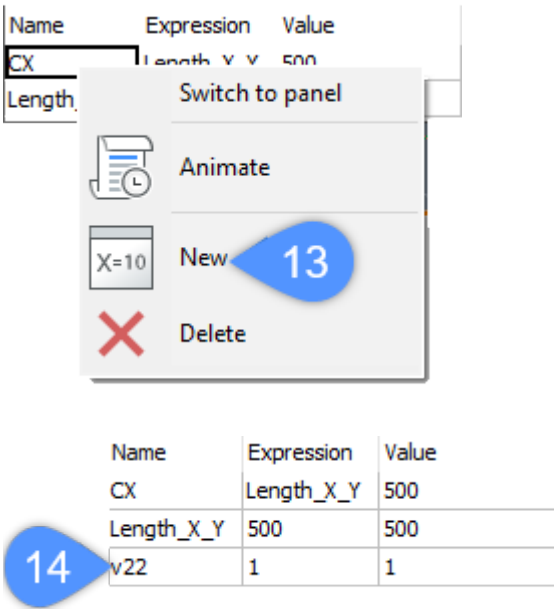
4 パラメータマネージャーの入力欄(12)をクリックしてパラメータ名を変更します。



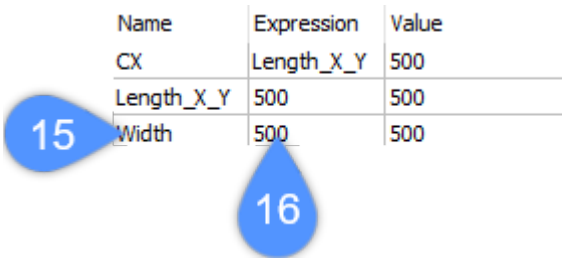
5 (**オプションI**)パラメータマネージャーのコンテキストメニューの**新規**オプションを使って、新しいパラメータを定義することができます。

6 パラメータマネージャーを右クリックし、**新規**(13)を選択します。

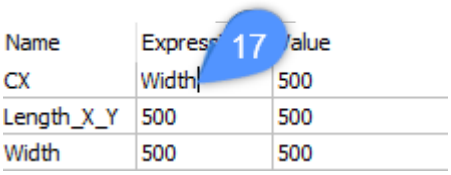
7 新しいパラメータがリスト(14)に追加されます。



8 新しく作成したパラメータに**名前**(15)を指定し、**式**フィールド (16) を使用して式を入力します。



9 新しく作成したパラメータを既存の拘束とリンクさせるには、拘束の式入力欄を新しいパラメータ名(17)に変更します。



注：上記の手順は、**メカニカルブラウザ**でも行うことができます。

22.23 ライブラリパネルの使用

22.23.1 概要

ライブラリパネルは、お使いのBIMブロックを取り出しやすいように格納したり、ライブラリブロックに素早くアクセスしたりすることができます。**ライブラリ**には任意のCADモデルを追加できます。また、名前やカテゴリーをフルカスタマイズして、検索しやすくすることもできます。ライブラリブロックは、ドラッグ＆ドロップで図面に挿入することができます。不要になったアイテムを削除して、ライブラリを整理することができます。

22.23.2 ライブラリパネルの内容

ライブラリパネルの内容は、**オプション**メニューから制御できます。

注：COMPONENTSPATHシステム変数が空(すべてのパスが削除されている)の場合、**設定**ダイアログボックスを閉じて再び開いたときに、デフォルトのC:¥ProgramData¥Bricsys¥Componentsパスが自動的に追加されます。

22.23.3 ライブラリブロックの作成

1 新しいブロックのジオメトリを含む図面を開くか作成します。

2 **ライブラリ**パネルを開きます。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- **ホーム**アイコン( )をクリックします。
  これにより、目的のカテゴリを選択したり、新しいカテゴリを作成することができます。
- **カテゴリ** サムネイルをクリックします。
  新しいアイテムは、選択したカテゴリまたは選択したカテゴリのサブカテゴリに作成されます。
- **追加**ボタン(⊕)をクリックするか、CREATELIBRARYBLOCKコマンドを実行します。
  ライブラリにブロックを追加ダイアログボックスが開きます。
- 図形を選択するか、**図面全体**オプションを選択します。
- ブロックの名前を入力します。
- (**オプション**)新しいカテゴリー名を入力するか、リストからカテゴリーを選択します。
- (**オプション**)**オプション表示**をクリックして、ブロック作成オプションを設定します。
- **作成**ボタンをクリックします。

22.23.4 ライブラリブロックの管理

1 **グリッド表示**画面で、ブロックアイコンにカーソルを合わせます。

2 **メニュー**アイコン(...)をクリックします。

3 (**オプション**)**ファイルを開く**アイコン(1)をクリックして、ブロックファイルを開きます。

ファイルを編集して、変更を保存してください。

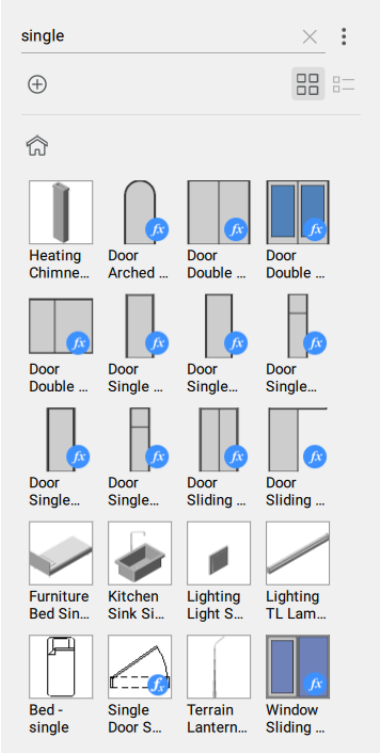
4 (**オプション**)**削除**アイコン(2)をクリックして、ブロックファイルを削除します。

はいをクリックして確定します。

22.23.5 ブロックライブラリの検索

検索フィールドに検索文字列を入力します。

現在のカテゴリーで一致するライブラリブロックのみが表示されます。

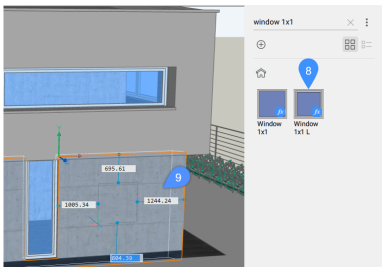


22.23.6 3Dモデルに BIM窓を挿入

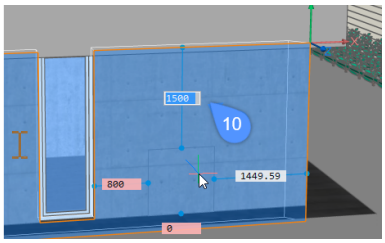
1 **ライブラリ**パネルの**窓**カテゴリータイルをクリックします。

2 窓をクリックします(8)。

3 ドラッグ＆ドロップして窓を壁に配置します(9)。

4 

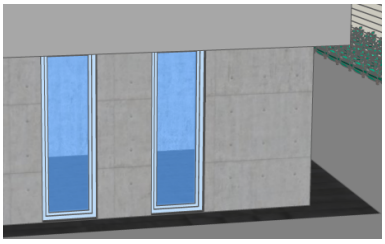
5 ダイナミック寸法(**DYN**)がオンになっている場合は、DYNフィールド(9)に寸法を入力して窓の位置を設定します。Tabキーを押して、DYNフィールドを循環させます(10)。DYNフィールドが赤になるのは、距離がロックされていることを示します。



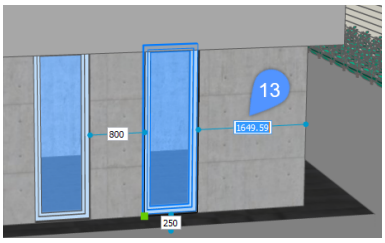
6 ウィンドウの寸法を編集するには、Ctrl(11)を一度押してから、Tabを使ってDYN フィールド(12)を循環させます。

7

8 Enterを押します。窓が作成されます。これと同じ手法は、**ライブラリ**内のほとんどのブロックに用いることができます。



9 (**オプション**)窓を作成した後で窓を選択すると、寸法線をクリックして寸法を編集して窓の位置を調整できます。



10 (**オプション**)窓を作成した後で窓の寸法を調整するには、**プロパティ**パネルに移動します。**パラメータ**セクションまでスクロールダウンして、必要に応じてパラメータを変更します。コンポーネントライブラリのすべての窓とドアはパラメトリックです。

Parameters	
Name	Window_1x1_L:9
File	
Physical material	
W	800 mm
H	250 cm
Rebate	0 mm
PlacementDepth	90 mm
FrameThickness	60 mm
FrameDepth	50 mm
LeafThickness	45 mm
LeafDepth	60 mm
PaneOffset	20 mm
LeafOffset	20 mm

注：窓などでは、減算部分を含むソリッドをコピーや移動など操作している間、赤いプレビューで表示されるので、影響するソリッドを確認しながら配置できます。

22.24 パラメータと拘束を用いた作業

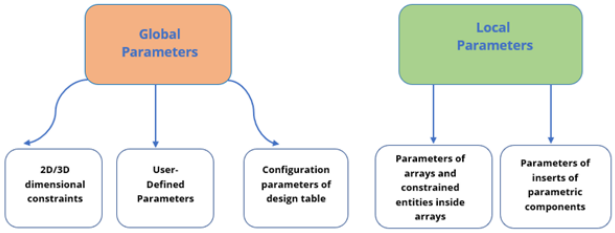
22.24.1 パラメトリックモデリング

BricsCADのパラメトリックモデリングでは、幾何拘束と寸法拘束を使用します。豊富なツールセットを使って、2Dと3Dのジオメトリックモデルをパラメータで制御します。設定したパラメータとその値は、**メカニカルブラウザ**に表示されます。異なるパラメータの値を式でリンクさせることができます。パラメータの値を変更すると、ジオメトリックモデルが自動的に更新されます。このツールセットを使えば、BricsCADユーザーは任意のジオメトリにパラメトリックな動作を追加したり、設計意図を容易に把握することができます。

注：BricsCADでは、ジオメトリの要素間に親子の依存関係はありません。たとえば、3Dソリッドを押し出すのに使ったスケッチを変更しても、ソリッドは更新されません。パラメータと式を使用すれば、どのような依存関係も作成することができます。

パラメータには2種類あります。

- ローカルパラメータは、特定の図形に割り当てられます。
- グローバルパラメータは、特定の図形に割り当てられていません。



22.24.2 拘束を使用した作業

BIMモデルでいくつかのコンポーネント(例： 窓、ドア...)を作成する場合、3D拘束を適用することで、それらをパラメータ化することができます。拘束を定義すると、要素の形状や大きさをコントロールすることができます。拘束とともに、パラメータは式を介して図形の位置を決定します。

BricsCADには2つのタイプの3D拘束があります。1つは図形のサイズを指定し、もう1つはそれらの位置を特定します。

22.24.3 幾何拘束：

幾何拘束を使用すると、互いに関係する3D図形の位置をコントロールすることができます。

ツールバー：**パラメトリック** > **3D拘束**

クワッド：**拘束**

次の表は、3D幾何拘束を示しています。

固定	図面中のソリッドインプレースの面、エッジまたは面を固定します。
一致	2つのエッジ、2つの面、または2つの異なるソリッドのエッジと面の間に一致拘束を適用します。
同心円	2つの円筒形、中心球状または円錐面を維持します。
平行	ソリッドの面または異なるソリッドの平行な二つの面を保持します。
直交	ソリッドの2つの面または異なるソリッドの面を垂直に拘束します。
タンジェント(正接)	異なるソリッド接戦の曲面と面を保持します。
剛体セット	図形またはサブ図形の剛体セットを作ります。

22.24.4　寸法拘束

寸法拘束を使用すると、3D図面内の図形、およびそれらの間の距離をコントロールすることができます。

ツールバー：**パラメトリック** > **3D拘束**

クワッド：**拘束**

リボン：**パラメトリックタブ** > **3D拘束**

次の表は、寸法拘束を示しています。

距離	二つのサブ図形間の距離拘束を作成します。
半径寸法	円柱の面または円形のエッジに半径拘束を作成します。
角度	ソリッド又は異なるソリッドの二面間の角度拘束を作成します。

22.24.5　パラメータに式を設定

BricsCADでは、式をグローバルまたはローカルの任意のパラメータに設定できます。たとえば、グローバルパラメータの番号または名前だけを含む単純な式を作成して、それを図面内の関連するジオメトリに適用することができます。標準の演算子や関数を使用するなど、より複雑な式を使用することもできます。

注：

- ローカルパラメータは式の名前で参照することができません
- 拘束 Pi-3.14... および e-2.72... を式で使用することができます。定数名は、パラメータ名および3D拘束の名前として使用することが許可されていません。

次の表は、式で使用できる演算子を示しています。

加算(+)	数値の合計を生成します。
減法、マイナス(–)	2つの数値を減算します。
乗法(*)	数値を乗算します。
除法(/)	2つの数値を除算します。
累乗法(^)	与えられた数値の指数値を計算します。
モジュロまたは剰除演算子(%)	別の数値の除算後に余りを与えます。 例：式"5 % 2"の結果は1となりますが、これは5を2で除算すると商が2、余りが1となるためです。

次の表は、式で使用できる機能や構文を示しています。

サイン(正弦)	sin(式)
コサイン(余弦)	cos(式)
タンジェント(正接)	tan(式)
逆正弦	asin(式)
逆余弦	acos(式)
逆正接	atan(式)
双曲線正弦	sinh(式)
双曲線余弦	cosh(式)
双曲線正接	tanh(式)
逆双曲線正弦	asinh(式)
逆双曲線余弦	acosh(式)
逆双曲線正接	atanh(式)

平方根	sqrt(式)
符号関数(-1,0,1)	sign(式)
整数に四捨五入	round(式)
小数点以下を切り捨て	trunc(式)
切り捨て	floor(式)
切り上げ	ceil(式)
絶対値	abs(式)
最大値を持つ配列要素	MAX(式1、式2)*
最小値を持つ配列要素	MIN(式1、式2)*
度数をラジアンに変換	d2r(式)
ラジアンを度数に変換	r2d(式)
対数、ベースe	ln(式)
10を底とする対数	log(数式)
指数、ベースe	exp(式)
指数、底10	exp10(式)
べき関数	pow(数式1;数式2)*
0と1の間のランダム小数	ランダム

*区切り文字には、ご使用のシステムで規定されているカンマ(,)やセミコロン(;)を使用してください。

22.24.6 パラメトリックブロック

パラメトリックブロックとは、3Dジオメトリのサイズと形状を決定するパラメータを持つブロックのことです。パラメトリックブロックを作成すると、それを図面のブロック参照として挿入できます。ブロックをモデルに挿入した後で、ブロックのパラメータを変更することができます。したがって、パラメトリックブロックファイルを個別に変更する必要はありません。パラメトリックブロックを使用すると、モデル内で同じサイズのブロックをさまざまな形状で使用することもできます。

22.24.7　カスタムコンポーネントのパラメータ化

前のレッスンで作成したウィンドウを使用して、パラメトリックデザインの仕組みを説明します。このウィンドウは、減算器、固定枠、ガラス板の3つのソリッドで構成されています。

ステップ1：拘束の追加を開始する前に：

1　MECHANICALBROWSEROPENコマンドで**メカニカルブラウザ**を開き、3D拘束の条件やパラメータの値を制御・管理します。

　注：メカニカルブラウザは、図面内のすべての拘束とパラメータを表示したり、寸法拘束を編集したりできます。

2　選択モードは、必ず**3Dソリッド面を有効にする**()をオンにしてください。手順を実行しやすいように境界検出はオフにしてください。

ステップ2：固定拘束を適用する

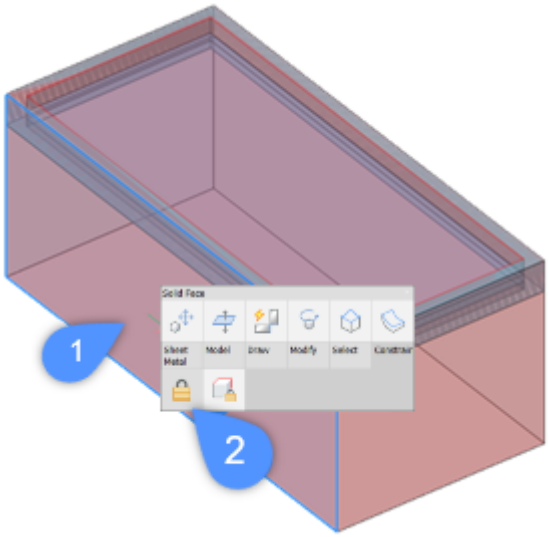
コマンド：DMFIX3D

1　**BC_SUBTRACT**画層をオンにします。

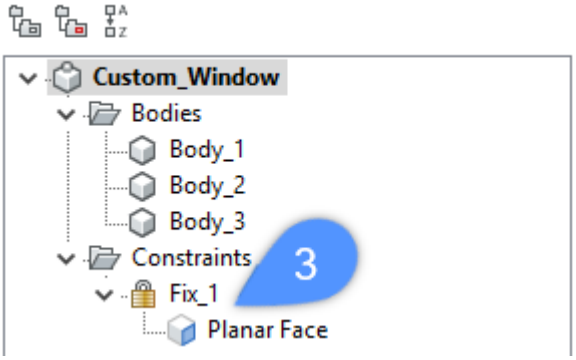
2　固定を追加したい図形(1)を選択します。

3　(**オプション**)TABを押すと後ろに隠れたジオメトリを選択できます。

4　クワッドの3D拘束コマンドグループから**固定の追加**(2)を選択します。



固定すると、**メカニカルブラウザ**に**Fix_1**などと表示されます。



ステップ3：剛体セットの拘束を適用する

コマンド：DMRIGIDSET3D

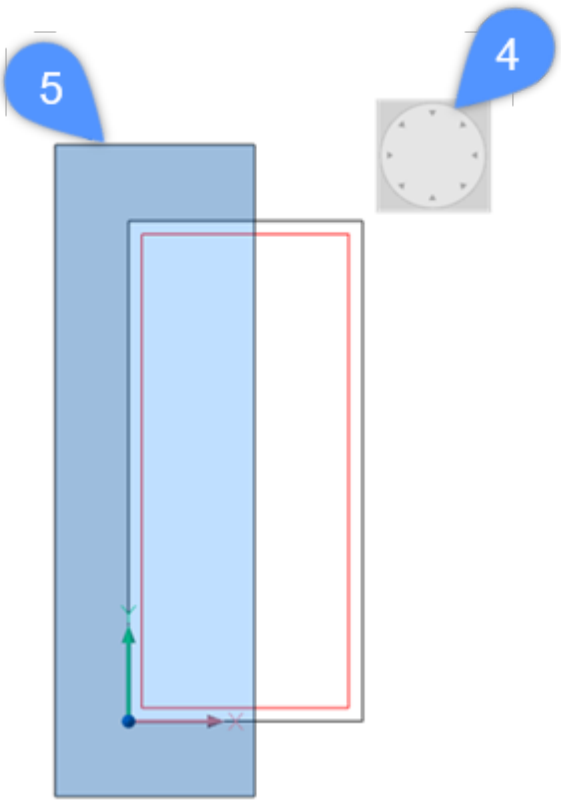
1 **剛体セット**の拘束を適用する図形を選択します。

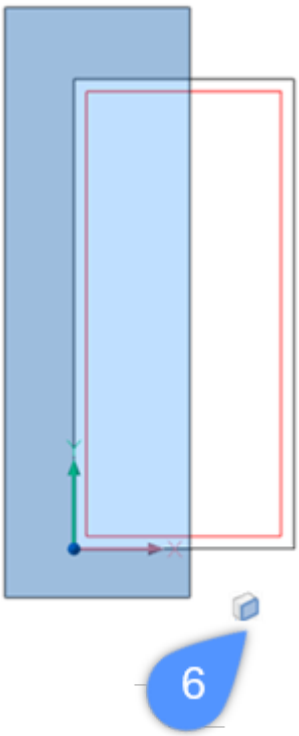
剛体セットにある場合、図形は互いに対して同じ位置に留まります。

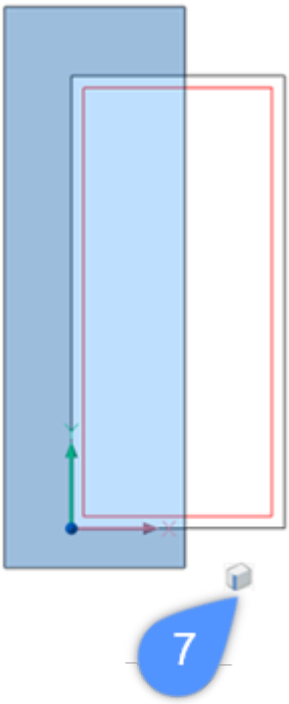
一度に同じタイプの複数のサブ図形を選択するには、次の手順を実行します。

- デフォルトで画面の右上にある**Look From**(4)を使って、ビューを3Dから上面に変更します。
- 選択ボックス(5)を使用して図形を選択します。選択ボックスが表示されている間、Ctrlを押しサブ図形の選択の種類を変更します。Ctrlを押すたびに、サブ図形の選択の種類が変わります。サブ図形の種類は、マウスカーソルの下に表示されます。たとえば、面(6)やエッジ(7)です。

注：デフォルトでは、選択ボックスはソリッドを見て選択します。







2　クワッドの3D拘束グループで**剛体セットを追加**( )を選択します。

3　他の面(上、下、右)についても同じ手順を繰り返します。

ステップ 4：距離拘束を適用する

コマンド：DMDISTANCE3D

窓と窓ガラスの厚さの距離。

1 **BIM_Subtract**画層をオンにします。

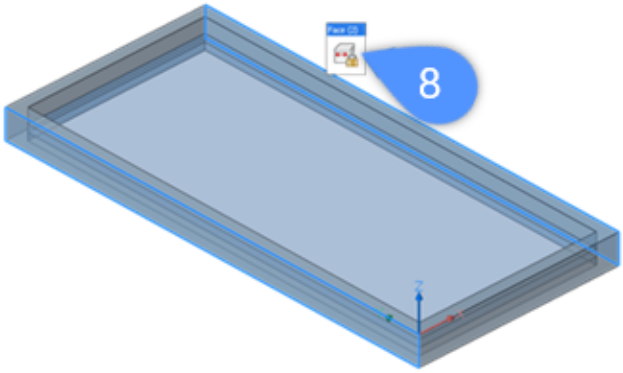
2 最初の面を選択します。

3 面がハイライト表示されます。

4 第二の面の上にマウスを移動します。

5 Tabを押して、隠れている面をハイライトさせます。

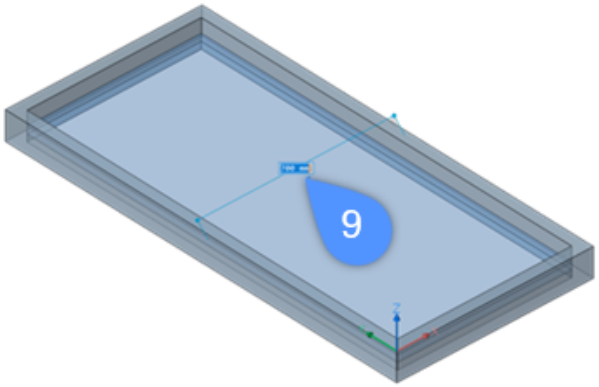
6 2つめの面が選択されたら、クワッドの3D拘束グループから**距離を追加**(8)を選択します。



プロンプト表示：距離値の指定または[ジオメトリ駆動 (G)]<xxx.xx>:

7 以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押すか、右クリックして現在の値を受け入れます。
- **ダイナミック寸法**(DYN)がアクティブなとき、現在の値は、ダイナミック寸法フィールド(9)を表示します。



- コマンドラインに値を入力します。

8 2つのサーフェスの距離値は、**メカニカルブラウザ**に表示されます。

注：モデル内の拘束を削除するには、**メカニカルブラウザ**で拘束を選択します。例えば、固定や剛体セットなどを選択してDeleteキーを押すか、右クリックして**削除**を選択します。

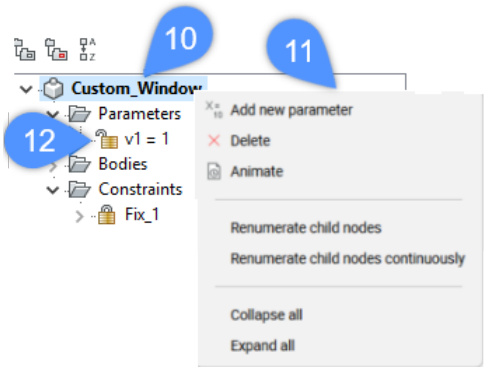
ステップ 5：パラメータを適用

窓の幅をコントロールするパラメータを作成します。

1 **メカニカルブラウザ**でファイル名(10)を右クリックします。

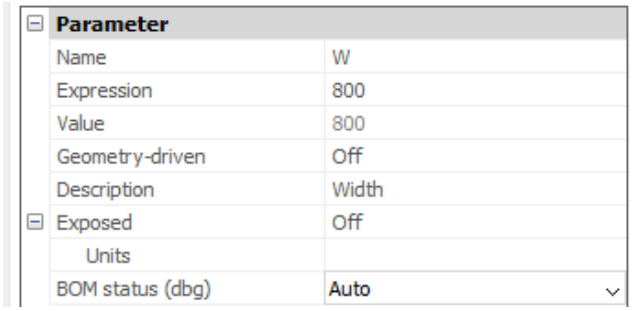
2 コンテキストメニューから**新しいパラメータを追加**(11)を選択します。

パラメータ設定欄が表示され、**メカニカルブラウザ**に**v1 = 1**(12)というパラメータが追加されます。



3 その後、グリッド設定でそのプロパティを編集し、パラメータを選択します。

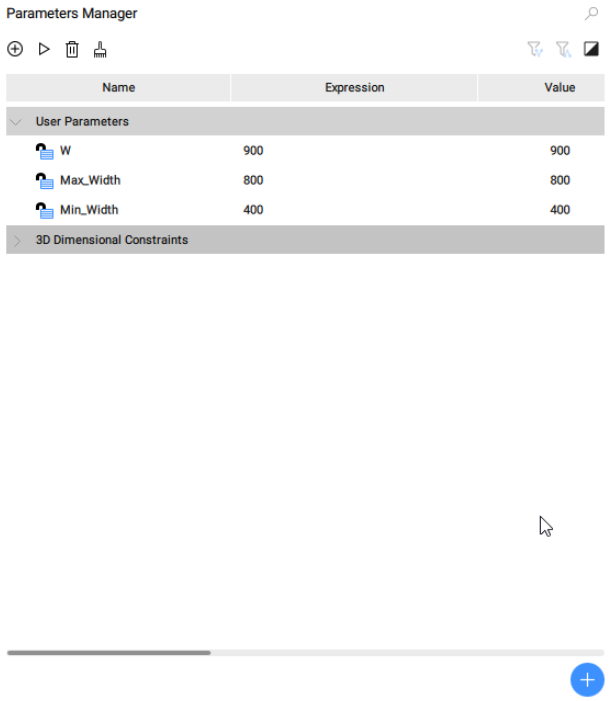
4 次の図は、カスタムウィンドウの**Width**パラメータのプロパティを示しています。以下の表は、各プロパティを示しています。



名前	パラメータの名前を入力します。
式	数値または式を入力します
値	カレントのパラメータ値を表示します。
ジオメトリ駆動	「オン」にすると、パラメータをジオメトリ駆動にします(**表記**フィールドは無効になります)。
説明	パラメータのオプションの説明を定義します。
公開	コンポーネントがモデルに挿入されたときにパラメータがプロパティパネルで使用可能かどうかをコントロールします。
単位	パラメータが、線形、面積や体積であるかどうかを指定します。

部品表ステータス(dbg)	パラメータを部品表に含めるかどうかを指定します。

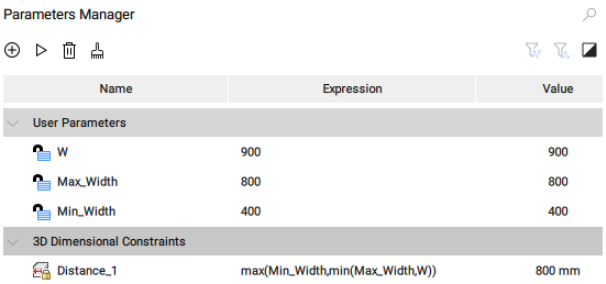
5 同様に、**パラメータマネージャー**パネルを使用することにより、最大(式)と最小(式)表記を組み合わせてウィンドウ幅の上限と下限を作成するパラメータを追加することもできます。



6 先ほど作成したパラメータを寸法拘束にリンクさせるには、**メカニカルブラウザ**で距離拘束を選択し、拘束の設定欄の**表記**フィールドでパラメータを使って式を組み立てます。

Constraint	
Type	Distance
Name	Distance_1
Expression	max(Min_Width,min(Max_Width,W))
Value	800 mm
Arguments (dbg)	0x101:f_4, 0x101:f_6
Model Value (dbg)	800
Geometry-driven	Off
Enabled	Yes
Exposed	Off
NodeId (dbg)	1
Directions	Opposite
Version (dbg)	3
BOM status (dbg)	Auto

たとえば、W=900mmの場合、Distance_1の値は800mmになります。



7 **(オプション)** パラメータの値を変更してEnterを押します。割り当てた距離拘束が値にしたがって変更されます。

図面では、できるだけ多くの拘束を設計できます。ソフトウェアでは、必要以上に多くの拘束を適用しないようにすることができます。

23. 建物情報

23.1 解析モデル

23.1.1 BIM解析モデルについて

解析モデルとは、要するに、荷重を担う建築要素のみを含む簡略化されたワイヤーフレームモデルです。柱、梁、部材などの直線的な建築要素は線で表現されます。壁やスラブなどの平面的な建築要素は、まだ解析モデルでサポートされていません。

BricsCADは、BIMANALYTICALMODELコマンドにより、構造物のフル3Dモデルから解析モデルを生成することが可能です。このコマンドを実行すると提案が自動生成されて表示され、必要に応じてモデルをさらに適合させることができます。自動提案では、軸線をシフト、延長、回転させることによって、剛体リンク(偏心)を可能な限り最小限に抑えます。このような変更の数は、偏差設定によって制御できます。

生成された案は、要素(ノードや軸)を選択する際にオプションで後から修正することができます。局所的な変更の影響をさらに広げるには、再計算を使用します。これにより、グローバルソリューションが起動し、再び剛体リンクを最小化しようとしますが、あなたが行った変更に準じます。

モデル編集後、IFCファイルやCIS/2ファイルへの書き出しが可能です。この解析モデルは、専用の解析ソフトウェアパッケージに取り込むことで、さらなる構造解析に利用することができます。

BIMANALYTICALMODELコマンドは、すべての荷重を担う要素が建物要素のプロパティに示されていると仮定しているので、入力モデルが完全に分類されている必要があると強調しておきます。これは重要です。

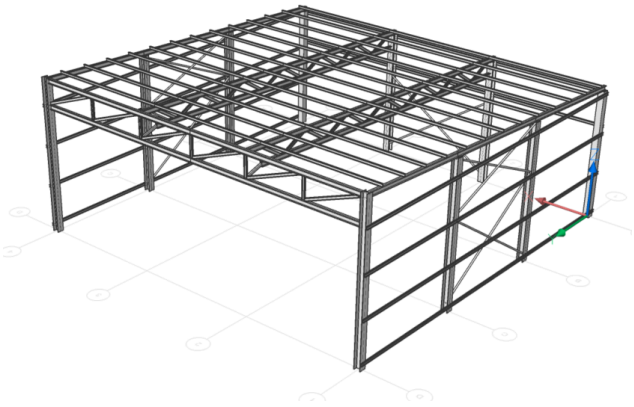
手順では、解析モデルを例題モデルで解説しています。このモデルは、付録で紹介しています。

23.1.2 厳密な偏差設定による解析モデルの作成

1 まず、BIMモデルを分類する必要があります。これはBIMANALYTICALMODELコマンドを使用する際に必要です。

1 モデル上でBIMIFYコマンドを使用するか、手動で要素を分類します。

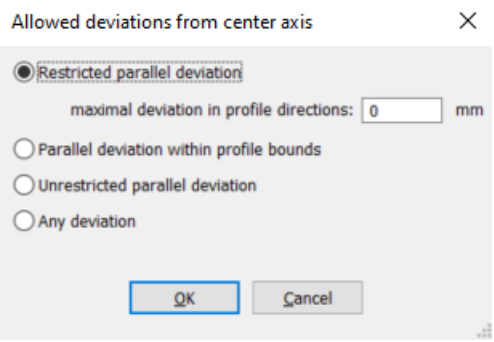
2 BIMIFYコマンドを起動します。**BIM化**コマンドパネルでは、モデルを分析し、モデル全体の自動分類や空間的な位置の割り当てを実行することができます。



3 コマンドラインからBIMANALYTICALMODELコマンドを起動します。

4 ポップアップウィンドウが表示されます。

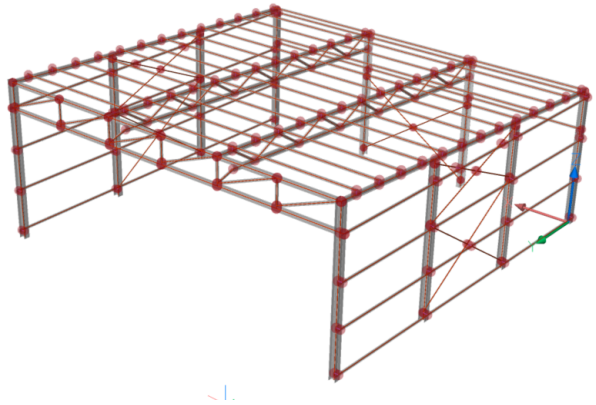
5



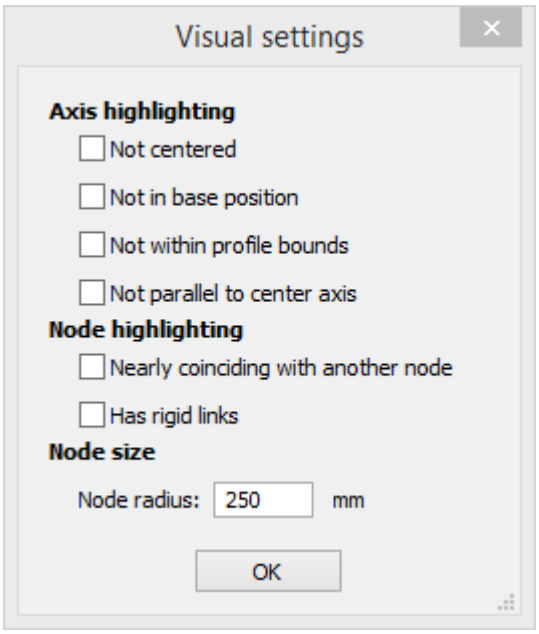
解析モデルを生成する際に使用する自由度を設定するウィンドウです。オプションにカーソルを合わせると、そのオプションにどのような制限がかかっているかがツールチップで表示されます。この場合、プロファイル方向の最大偏差を0mmとして、**制限つき平行偏差**を選択します。軸がプロファイルの中心位置から外れてはなりません。

6 選択されたグローバル偏差の設定に基づき、解析モデルのインタラクティブなプレビューが構築されます。

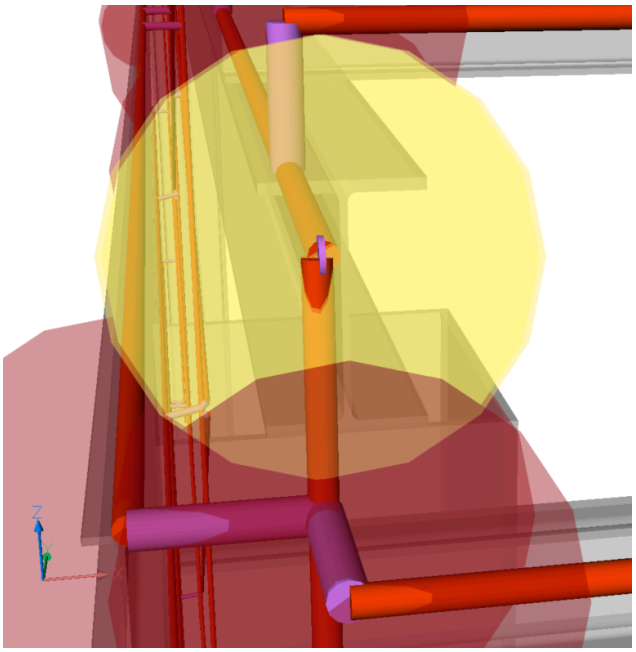
7



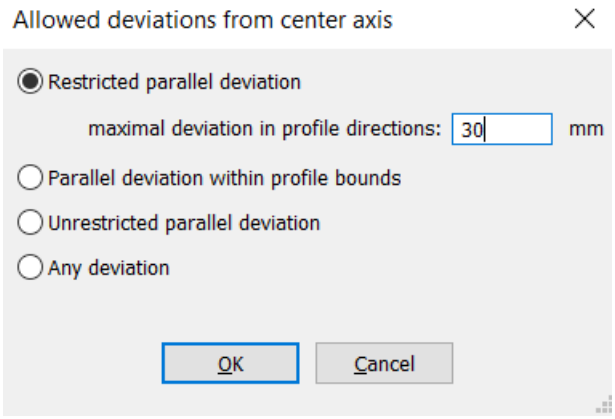
加えて、ビジュアル設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、軸やノードのさまざまなフィーチャーにチェックを入れたり外したりすることで、そのフィーチャーに対応する軸やノードをハイライト表示することができます。これにより、解析モデルの軸やノードの現在のプロパティを探索することができます。その結果に沿って、調整が必要かどうかを判断することができます。また、ノードを表すディスクのサイズも変更することができます。これは、ノードのハイライト表示と組み合わせて、ほぼ一致するノードを見つけたりするのに便利です。



8 **ビジュアル設定**ウィンドウで**別のノードとほぼ一致**チェックボックスをオンにします。これらのノードの中心軸が完全に一致していないことがわかります。そのため、小さな剛体リンク(偏心)を導入する必要がありました。これは、手順4で前回設定したためです。これらの小型剛体リンクは紫色で表示されます。

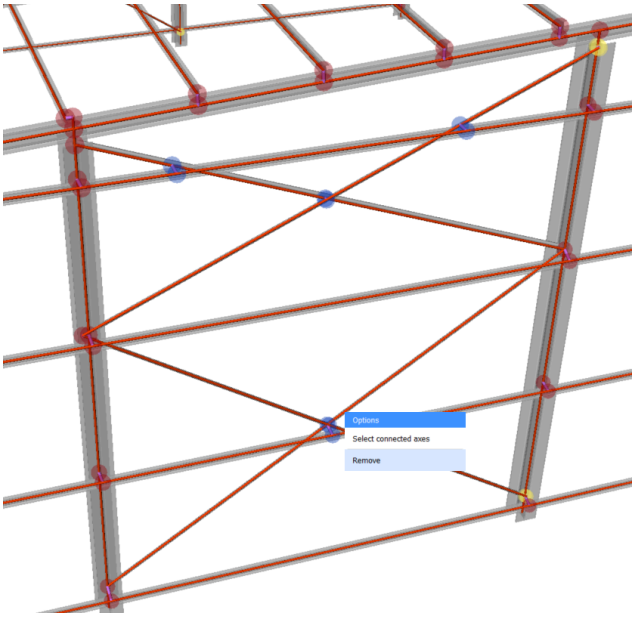


これを避けるには、もう少し柔軟な設定でコマンドを再開してください。**中心からの許容偏差**ウィンドウで、**制限つき平行偏差**をもう一度選択しますが、今回はプロファイル方向の偏差が30mmの最大偏差を使用します。

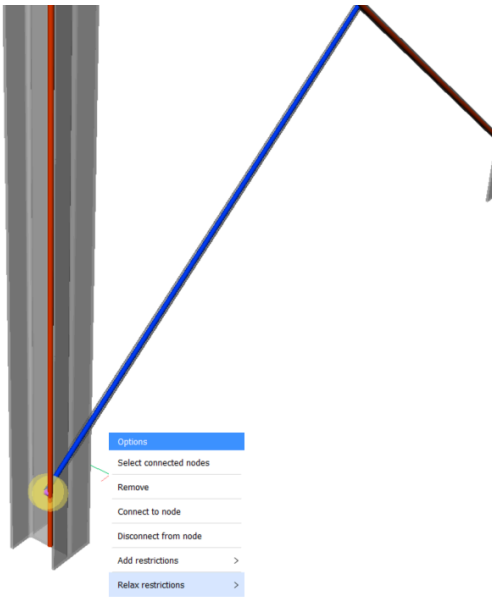


9 解析モデルのプレビューにおけるノードの検出には、構造要素の近接度を利用しています。そのため、モデル内にタイロッドが交差するノードが発生する可能性があります。これらのノードは、ノードをクリックして**削除**を選択することで簡単に削除することができます。

注：ボックス選択で複数のノードを一度に選択することができます。

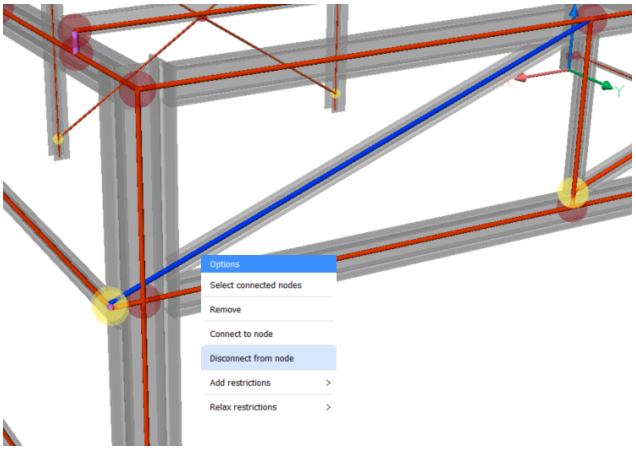


10 残りの一致するノードを見てみると、タイロッドが柱の中心線と完全に一致しておらず、小さな剛体リンクが形成されていることがわかります。タイロッドの軸の位置を平行でない位置に緩和することで、この剛体リンクを取り除くことができるのです。タイロッドをクリックし、**制限を緩和**をクリックし、**非平行**をクリックすることで行うことができます。余った自由度を利用して、タイロッドの軸を少し動かして剛体リンクを外すことになります。



11 残された一致するノードは、ハンガー構造の前面トラス部分のみです。前面トラスの側面を見てみると、柱ではなく水平梁に傾斜部材が接続されているのがわかります。

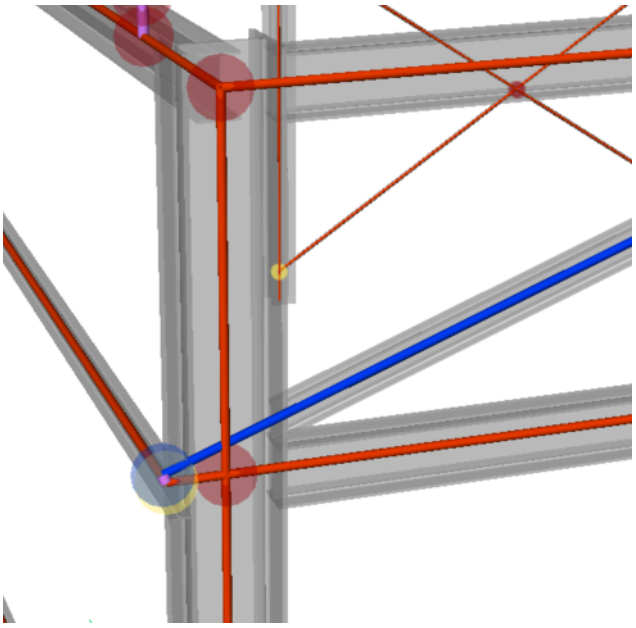
12 傾斜部材をクリックして**ノードから切断**を選択すると、切断することができます。



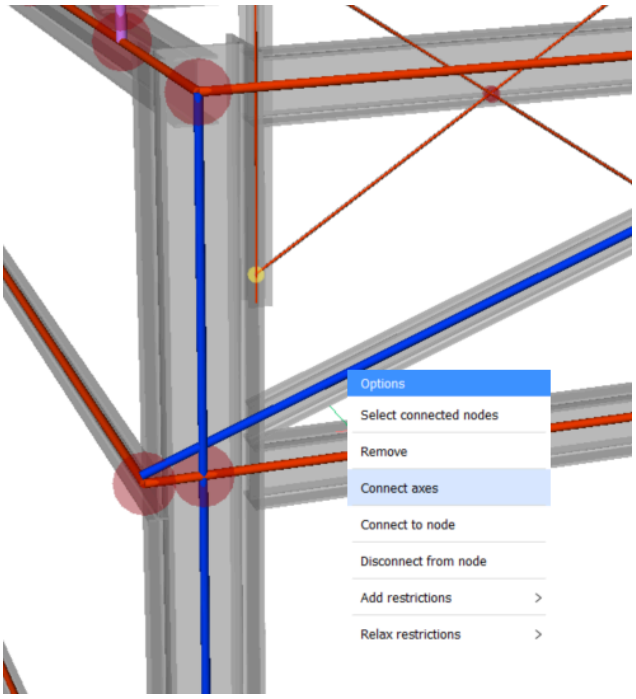
プロンプト表示：???????????[OK]

切断したいノードを選択します。

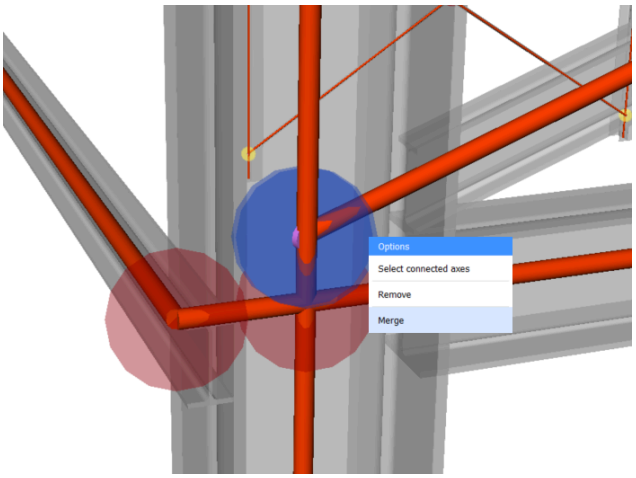
OKを選択するには、**O**と入力します。



ここで、接続したい2軸を選択し、**軸を接続**をクリックします。

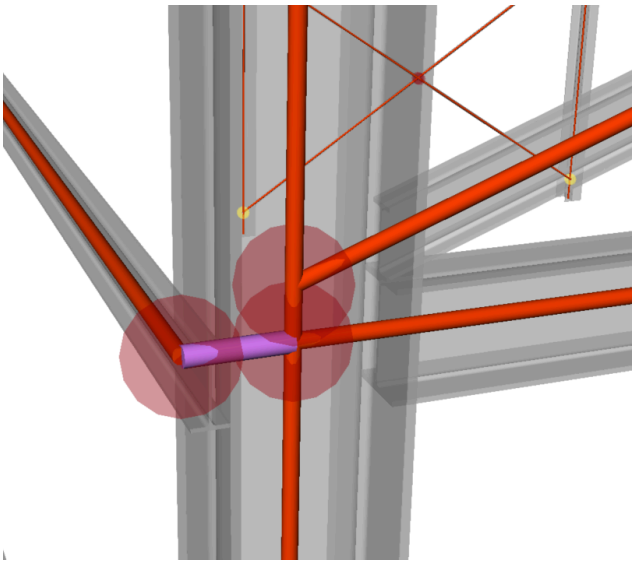


グローバル偏差の設定では、再び小さな剛体リンクを導入することでのみこれを選択することができます。2つのノードを結合することで、これを除去することができます。両方のノードを選択し、**結合**をクリックします。



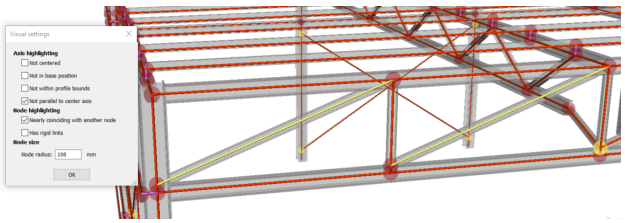
13 側方部材も柱の代わりに前方の梁に取り付けられているのがわかります。側方部材についても手順9を繰り返します。

14



15 前面トラスで最後に一致したノードは、ノードを結合することで削除できます。これにより、傾いた部材の軸が移動し、もう一方の端に剛体リンクが導入されます。

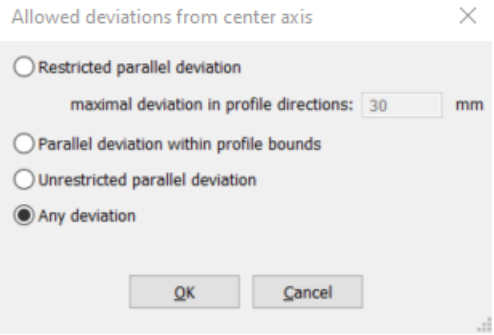
16 **注：ビジュアル設定**ウィンドウを使用して軸が**中心軸に平行ではない**ことを確認すると、正面トラスの部材は、中心軸に対して非平行なのが許されていることがわかります。そこで、タイロッドと同じように、傾斜部材を平行でない状態に弛めることで、小さな剛体リンクを取り外すこともできます。



23.1.3 最小限の偏差設定による解析モデルの作成

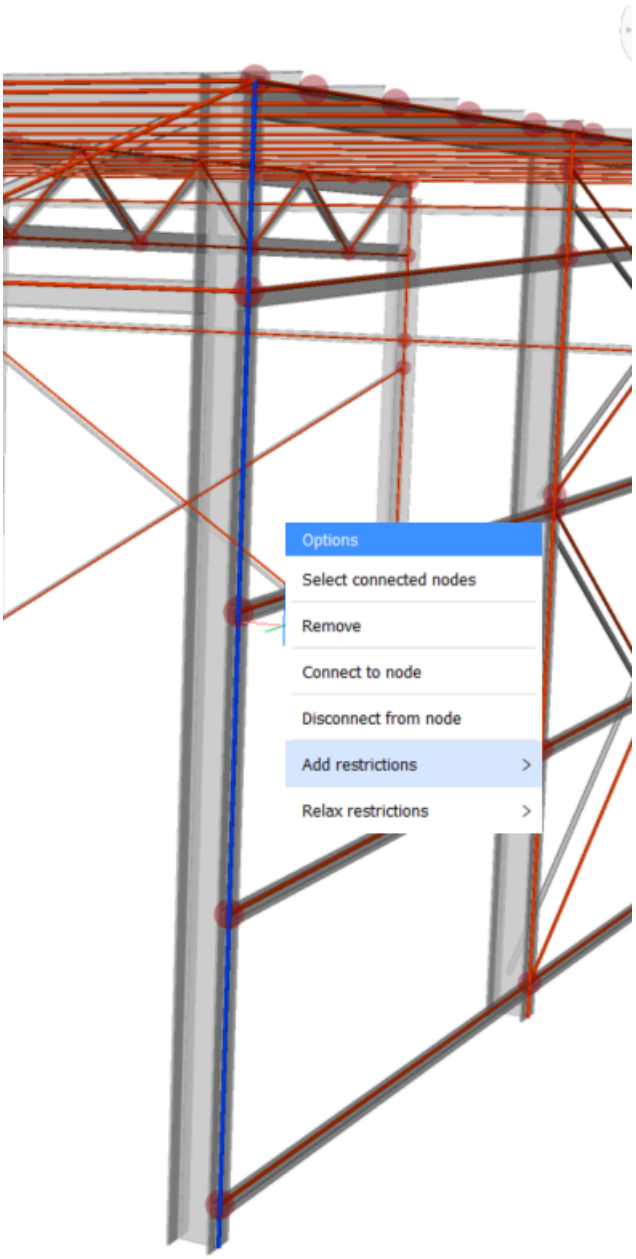
1 前の手順を手順4まで繰り返してください。

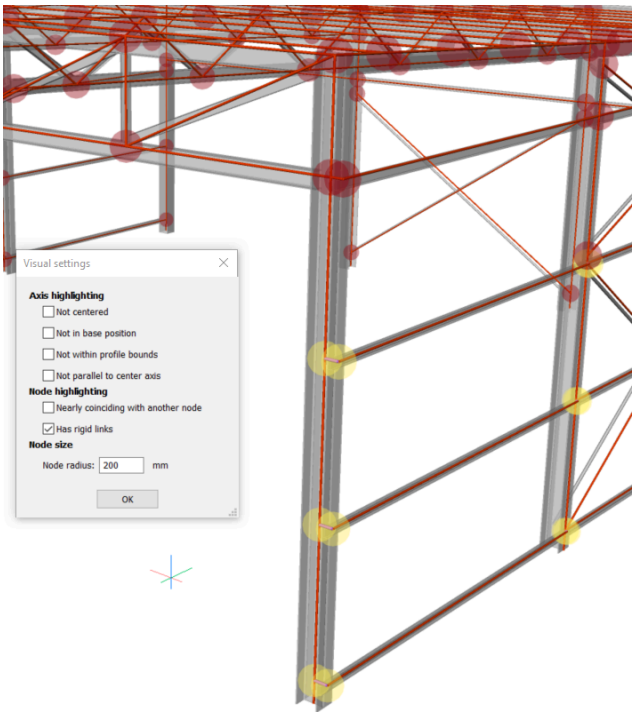
2 **許容中心軸からの偏差**で**任意の偏差**を選択します。これにより、剛体リンクを避けるためにあらゆる自由度が許されます。解析モデルのプレビューでは、一部の軸が傾いていることがわかります。例えば、トラスの小部材が中心でなく、柱軸をプロファイル境界方向に移動させることで、そこに小部材との接続を見出すなどです。



3 手順7と同様に不要なタイロッドノードを厳密な偏差設定により削除します。

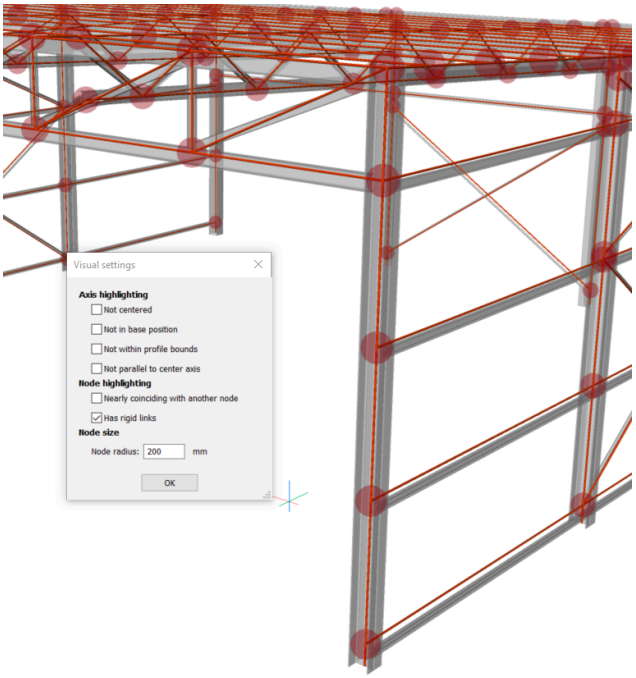
4 解析モデルのインタラクティブなプレビューで、柱軸をプロファイル境界に向かって移動させます。このステップでは、柱の軸を中央に配置します。柱の軸をクリックし、**制限を追加**をクリックし、**中央に配置**をクリックすることで実行できます。これにより、極めて局所的に剛体リンクが導入されます。


Options
Select connected nodes
Remove
Connect to node
Disconnect from node
Add restrictions
Relax restrictions



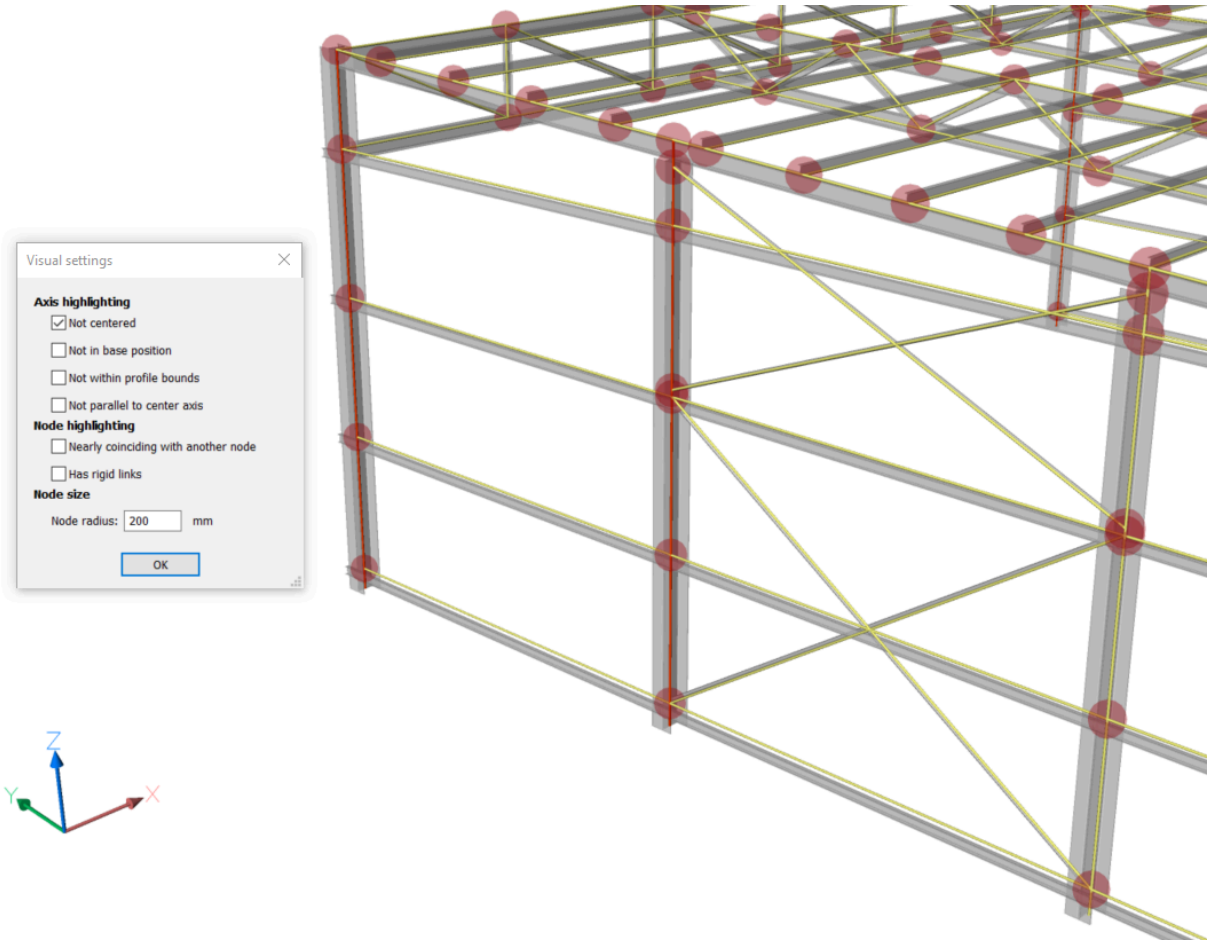
5 ビジュアル設定ウィンドウで、チェックボックス**剛体リンクあり**を選択します。

Rと入力して**再計算**を選択します。



6 ビジュアル設定ウインドウで、チェックボックスの**中心でない**を選択します。

柱の1本がまだ中心でないことがわかります。これは、柱の上部の接続部に、大きな梁だけでなく、小さな梁の1本も含まれているためです。この柱にも中心制限をかけることで、これを変更することができます。



23.1.4 解析モデルの書き出し

1 BIMANALYTICALMODELコマンドを起動します。

1 解析モデルをお好みに合わせて変更してください。

2 モデルが完成したら、**E**と入力して**書き出しを選択し、終了**します。

3 ドキュメントウィンドウが表示されるので、ファイル名を付けて任意のフォルダーに保存します。書き出すファイルの種類を選択することもできます。それらは、IFC4(*.ifc)またはCIS/2(*.stp)ファイルに書き出すことができます。

4 **注**：書き出された結果については、いくつかの注意点があります。

- BIMANALYTICALMODELで使用される**ノード概念**は**CIS/2**と**IFC**のノード概念と完全に一致するわけではありません。

  BIMANALYTICALMODELでは、線形要素間の接続のみをノードでモデル化します。例えば、柱はそこに他の要素との接続がない場合、フロアノードを持ちません。書き出し時に、CIS/2およびIFC書き出しと互換性があるように、不足しているエンドノードが追加されます。

  BIMANALYTICALMODELでは、ノードは常にすべての接続された軸上に正確に位置しています。偏心は、視覚的な剛体リンク(プレビューでは紫色のバー)でモデル化されています。書き出しの際、剛体リンクで相互接続されているBricsCADノードの各クラスタは、**CIS/2**と**IFC**の偏心を持つ単一の接続ノードに変換されます。
- BIMANALYTICALMODELで使用される**軸の概念**は、**CIS/2**や**IFC**の軸の概念と必ずしも一致しません。

BIMANALYTICALMODELでは、各物理的要素に対して1つの単軸が存在することになります。軸は、2つ以上のノードに接続することも、2つ以下のノードに接続することもできます。書き出し時に、長さ方向に複数のノードを持つ軸は、**CIS/2**と**IFC**書き出しに対して、1つのエンドノードと1つのスタートノードを持つ複数の解析メンバーに分割されます。

- BricsCADの**基準位置**の概念は**基点**に類似しています。BricsCADの基準位置は**CIS/2**規格で規定されている基点のサブセットを形成しています。現時点では、1～9の基準位置のみ対応しています。
- BricsCADで計算した解析モデルでは、軸は物理的な図形の中心から離れ、基本的には特定の範囲内のどの点にも移動することが可能です。つまり、解析軸の最終的な位置は、必ずしもプロファイルの基点や基準位置と一致しません。書き出し時には、**CIS/2**と**IFC**の基点概念を用いて、最終解析軸に最も近いプロファイルの基準位置を使用し、断面プロファイルを解析軸にリンクさせることができます。つまり、物理部材を解析軸に沿った断面の押出成形として表示する**CIS/2**や**IFC**ビューアーで構造を可視化すると、そこに表示される構造は、モデル化されたりBRICSCADに読み込まれた元の構造からわずかにずれてしまうことがあるというのがわかるでしょう。したがって、**書き出された解析モデル**で記述された構造は、**実際の構造の近似値**なのです。

?????.dwg

23.2 オートコンプリートBIMデータ

23.2.1 コマンド

BIMAUTOMATCH

23.2.2 オートコンプリートBIMデータについて

BIMAUTOMATCHコマンドは、すべての要素に手動で複合材を割り当てるのではなく、内壁と外壁の違いとそれぞれの複合材を検出し、他の壁に自動的に割り当てます。また、異なる階、建物の異なる側面、バルコニーのある壁などの区別も可能です。

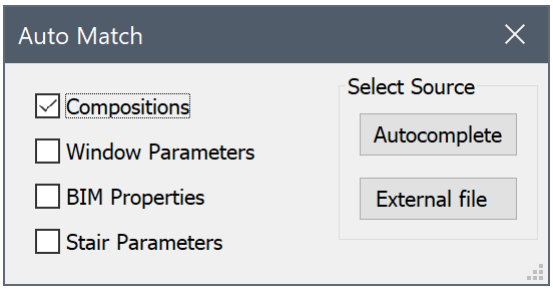
注：BIMAUTOMATCHコマンドを使用する前に、すべてをBIM化( )していることを確認してください。オートマッチは、完全にBIM化されたモデルで最も効果を発揮します。

23.2.3 1つのファイル内でのBIMデータのオートコンプリート

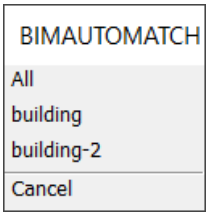
1 以下のいずれかの操作を行います：

- リボンで**分類**タブから**オートマッチ**を選択します。
- クワッドで**モデル** > **オートマッチ**を選択します。
- BIMAUTOMATCHと入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：複合材/ BIMプロパティ/窓パラメータ/階段パラメータ:

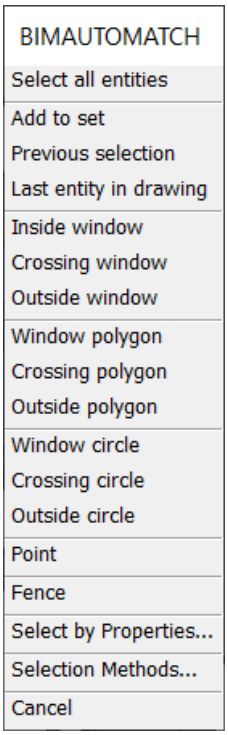


2 以下のいずれかを選択します：
   - **複合材**：複合材をコピーします。
   - **窓パラメータ**：窓パラメータをコピーします。
   - **BIMプロパティ**：BIMプロパティをコピーします。
   - **階段パラメータ**：階段パラメータをコピーします。
3 **ソース選択**で**オートコンプリート**を選択します。
4 ファイルに複数の建物が含まれている場合、BIMAUTOMATCHコマンドはソースとなる建物を定義するよう求めます。
5 **プロンプト表示：**



メニューから建物を選択します。

6 BIMAUTOMATCHは、オブジェクト間を論理的に区別する特徴を見つけた場合、自動的にそれを使用します。それができない場合、BIMAUTOMATCHコマンドはソースとなる複合材または窓を定義するよう求めます。
7 **プロンプト表示：**

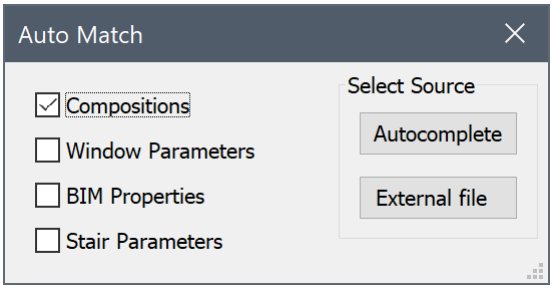


23.2.4 外部ファイルを使用したBIMデータのオートコンプリート

1 以下のいずれかの操作を行います：

- リボンで**分類**タブから**オートマッチ**を選択します。
- クワッドで**モデル** > **オートマッチ**を選択します。
- BIMAUTOMATCHと入力し、Enterを押します。

プロンプト表示：複合材/ BIMプロパティ/窓パラメータ/階段パラメータ:



2 以下のいずれかを選択します：

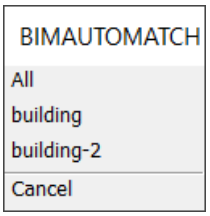
- **複合材**：複合材をコピーします。
- **BIMプロパティ**：BIMプロパティをコピーします。
- **窓パラメータ**：窓のパラメータをコピーします。
- **階段パラメータ**：階段のパラメータをコピーします。

3 **ソース選択**で**外部ファイル**を選択します。

4 ソースファイルを選択し、**開く**をクリックします。

5 ファイルに複数の建物が含まれている場合、BIMAUTOMATCHコマンドはソースとなる建物を定義するよう求めます。

6 **プロンプト表示：**

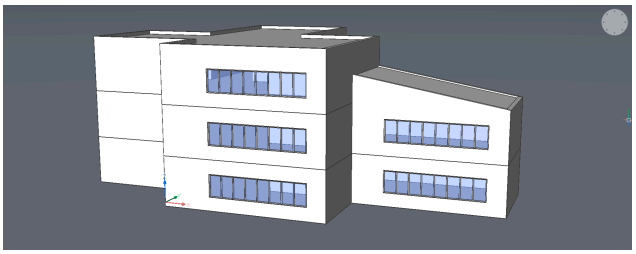


7 メニューから建物を選択します。

23.2.5 手順：一つのファイルでのオートコンプリートの使用

1 ファイルを開いてスタートします。ここでは、次のような基本的な長方形の建物を使用しています。

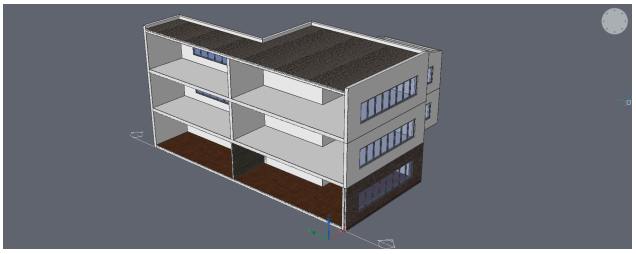
1



注：まだ追加すべきBIMデータや複合材はありません。

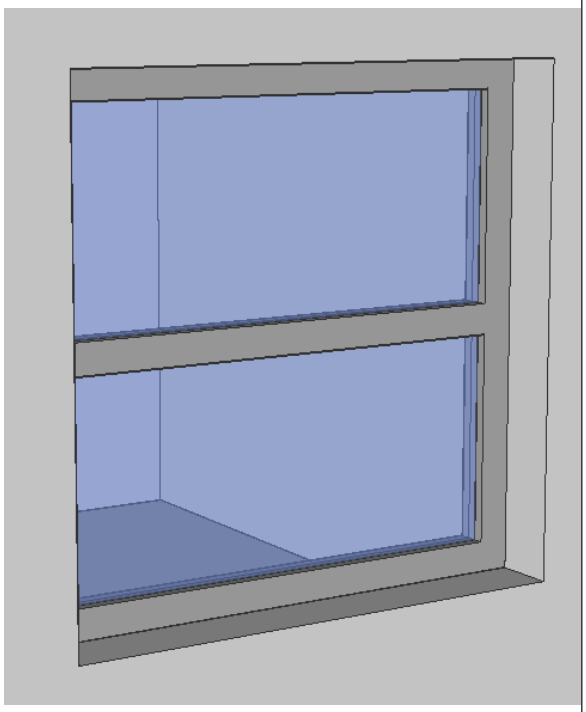
2 任意の複合材を追加します。これはすべての要素に対して行うのではなく、各タイプの1つの要素にのみ行います。この例では、1つの外壁、1つの内壁、1つの床スラブと屋根に複合材を与えています。

3



注：種類の異なる外壁の場合もあるかもしれません。例えば、北側に面した壁にはより多くの断熱材が必要です。この場合、北側の壁の1つに異なる複合材を与えます。

4 この例では、窓のパラメータも調整したいと思います。1つの窓だけを選択し、**プロパティ**パネルで必要なパラメータを変更します。

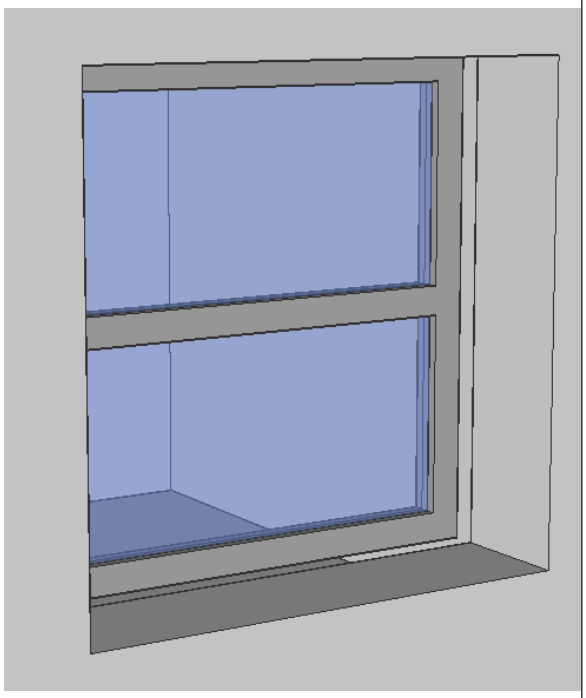


変更前の窓

Parameters	
W	1000 mm
H	1000 mm
Rebate	0 mm
PlacementDepth	300 mm
LiningThickness	60 mm
LiningDepth	60 mm
GlazingDepth	20 mm
GlazingOffset	20 mm
TransomThickness	60 mm
FirstTransomOffset	0.5

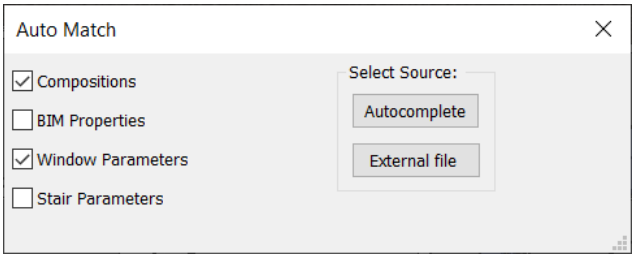
1

窓の**プロパティ**パネルで**PlacementDepth**を変更します。

	変更後の窓

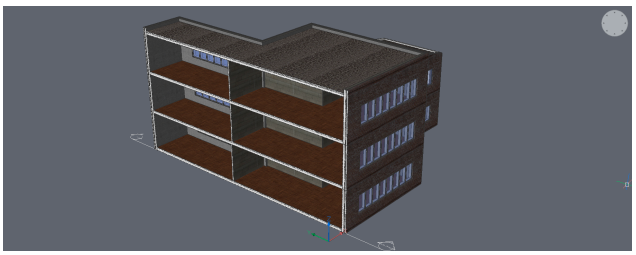
5 リボンの**分類**タブから**オートマッチ**を選択するか、クワッドから**モデル** > **オートマッチ**を選択、または BIMATOMATCHと入力してEnterを押します。

以下のボックスが表示されます：



複合材と**窓パラメータ**を選択したので、複合材と窓パラメータのボックスにチェックを入れます。

6 **オートコンプリート**を選択します。ファイル内の複合材や窓のパラメータは自動的にコピーされます。図面は以下の通りです：



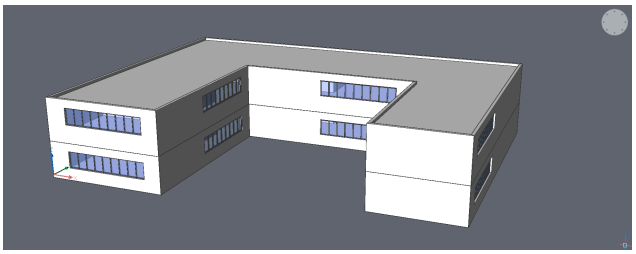
BIMAUTOMATCHコマンドを使うことで、複合材や窓のパラメータをすぐに把握でき、何かをやり逃す心配もありません。

注：外壁の種類が違っても問題ないことがわかります。北向きの壁すべてに、正確に調整された複合材が割り当てられています。

23.2.6 手順：外部ファイルを用いたオートコンプリートの使用

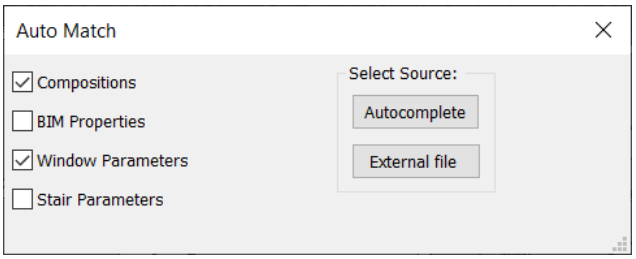
1 すでに終了した別のプロジェクトと同じようなスタイルのプロジェクトを開きます。今回は、前に見たのと同じような長方形の建物を取り上げます。

1



2 リボンの**分類**タブから**オートマッチ**を選択するか、クワッドから**モデル** > **オートマッチ**を選択、または BIMATOMATCH と入力して **Enter** を押します。

以下のウィンドウが表示されます：

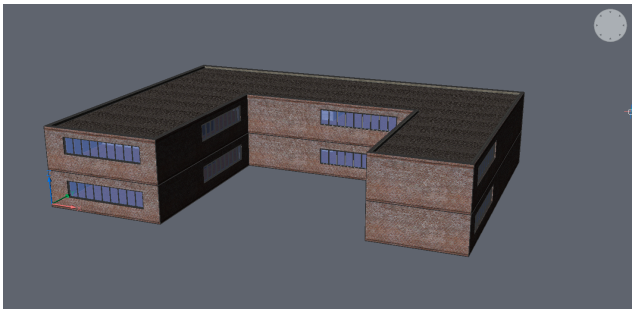


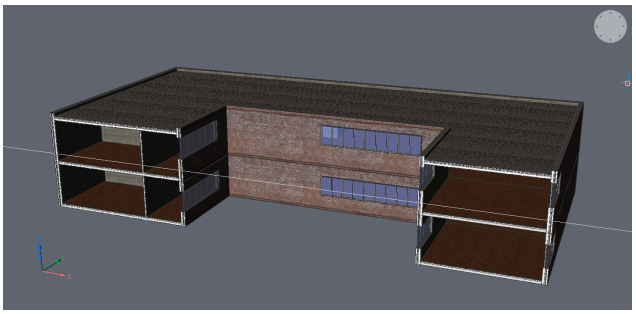
複合材と**窓パラメータ**を選択したので、複合材と窓パラメータのボックスにチェックを入れます。

3 **外部ファイル**を選択します。

4 前回の手順で作成したファイルを選択します。外部ファイルの複合材と窓のパラメータが新しいファイルにコピーされます。図面は以下の通りです：

5





注：BIMAUTOMATCHコマンドを外部ファイルで効率的に使用するために、典型的な複合材を持つ建築様式のライブラリを作成すると便利です。

23.3 複合材をアタッチ

23.3.1 コマンド

BIMATTACHCOMPOSITION、BLCOMPOSITIONS

23.3.2 BIM複合材アタッチについて

BIMATTACHCOMPOSITIONコマンドを使用すると、選択したソリッドに複合材を簡単に適用できます。割り当てられた複合材を反転させたり、別の参照面に再定義することができます。オプションとして、参照面や複合材の中心を基準にして、ソリッドを整列させることもできます。

複合材のアタッチについての詳細は、『BIMATTACHCOMPOSITION』を参照してください。
複合材の管理については、「BIM複合材」を参照してください。

23.3.3 複合材をアタッチ

複合材を添付するには、次のようにします。

- BIMATTACHCOMPOSITIONコマンドを使用します。
- **BIM複合材パネル**からソリッド上の複合材をドラッグします。

BIMATTACHCOMPOSITIONコマンドの使用

1 BIMATTACHCOMPOSITIONコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：複合構造名を入力、または [ダイアログ(D)] <ダイアログ>。

2 以下のいずれかの操作を行います：

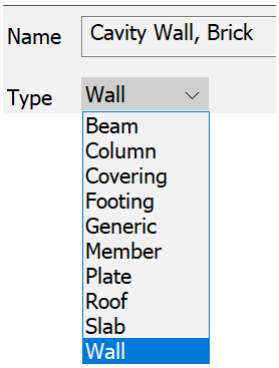
- コマンドラインに複合材名を入力し、Enterを押します。

  注：複合材名は大文字小文字を区別します。

- Enterを押して**複合材**ダイアログを表示し、**プロジェクト内**または**ライブラリ内**リストの中の複合材をクリックすると、複合材のメニューが表示されます。

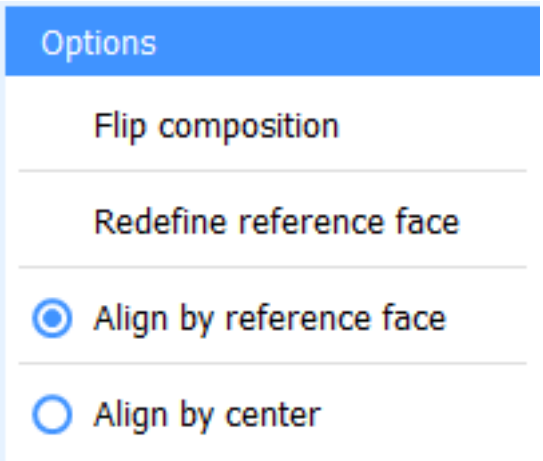
  メニューを開かずに複合材を選択したい場合は、複合材をダブルクリックします。

3 ドロップダウンメニューから複合材**タイプ**を選択し、**選択**を押して承諾します。



4 複合材を添付する図形を選択し、Enterを押します。

5 参照面を選択します。ウィジェットの上にカーソルを置くと、サブメニューが表示され、さまざまなオプションが表示されます。参照面を再定義する方法の詳細は、「BIMATTACHCOMPOSITION」を参照してください。



6 Enterを押して、参照面を受け入れます。

7 BricsCADの反応：その複合構造は <xxx> 個の要素に割付されています。

注：Bimifyを使うと、建物の要素が自動的に分類されます。これにより、適切な図形を簡単に選択することができます。

ソリッド上で複合材をドラッグ

1 BIM複合材パネル(⌨)で複合材を選択します。ドッキング可能パネルも参照してください。

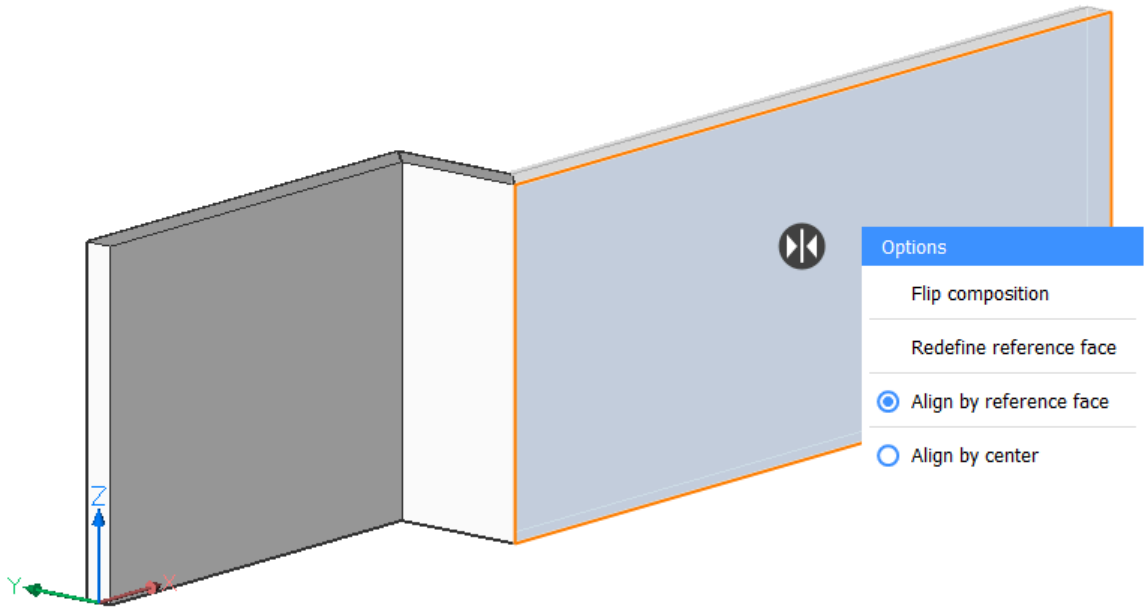
2 マウスの左ボタンを押したまま、複合材をソリッド上にドラッグします。

3 カーソルの下の実線の面がハイライトされ、この面が複合材を付けるための参照面であることを示します。

4 マウスの左ボタンを離して、複合材をアタッチします。

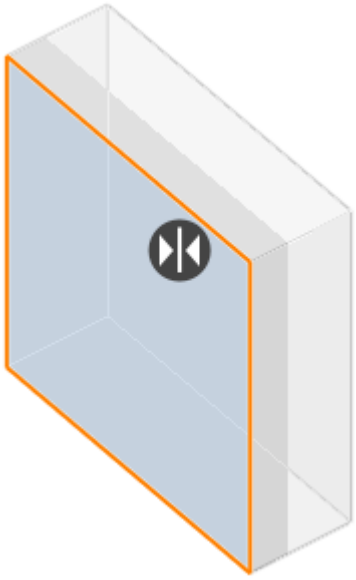
5 参照面を選択できるウィジェットが表示されます。

6 基準となる面は固定されていますが、反対側の面は、組成物の厚さが現在のソリッドの厚さに合わない場合に移動します。



参照面を再定義する方法の詳細は、「BIMATTACHCOMPOSITION」を参照してください。

7 濃い色のボリュームは、組成物を付着させた後のソリッドの体積と位置を示しています。



8 Enterを押すと、現在の基準面を受け入れ、複合材を添付します。

注：厚みが変化するシングルプライ構成を選択した場合は、基準面を選択する必要はありません。複合材は、選択されたソリッドにアタッチされています。

複数のソリッドを選択して複合構造をドラッグする

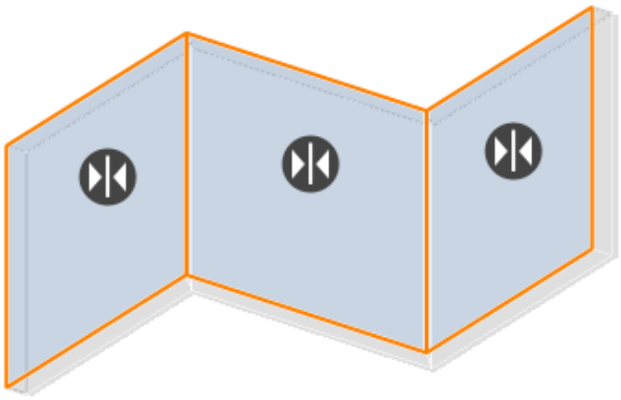
1 複合材を適用したいソリッドを選択します。

2 **BIM複合材パネル**で複合材を選択します。

3 マウスの左ボタンを押したまま、選択したソリッドのいずれかにドラッグします。

4 マウスの左ボタンを離して、複合材をアタッチします。

5 ウィジェットが表示され、各セグメントの基準面を個別に選択することができます。



参照面を再定義する方法の詳細は、「BIMATTACHCOMPOSITION」を参照してください。

6 Enterを押すと、現在の基準面を受け入れ、複合材を添付します。

注：

- BIM複合材は、アタッチ時にプロジェクトデータベースにコピーされます。
- ソリッドに**壁**の複合構造をアタッチすると、ソリッドが自動的に壁として分類されます。
- ソリッドに**スラブ**または**屋根**の複合材を取り付けると、ソリッドは自動的にスラブとして分類されます。

23.3.4 他のソリッドから複合材をコピー

1 BIMATTACHCOMPOSITIONコマンドを起動します。

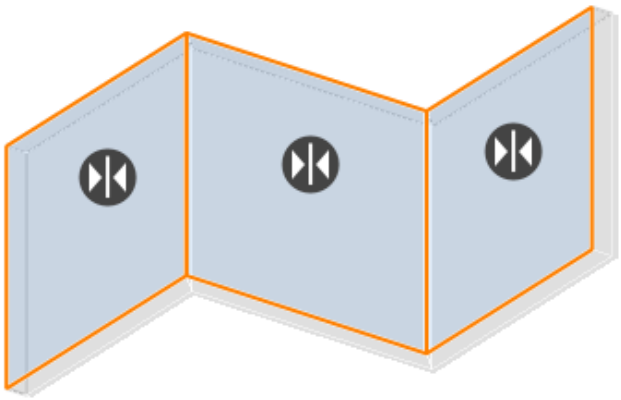
2 **図形**オプションを選択します。

プロンプト表示：複合材を取得する図形を選択

3 複合材をコピーするソリッドを選択します。

4 コピーした複合材を添付するソリッドを選択します。

5 ウィジェットが表示され、各セグメントの基準面を個別に選択することができます。



参照面を再定義する方法の詳細は、「BIMATTACHCOMPOSITION」を参照してください。

6 Enterを押すと、現在の基準面を受け入れ、複合材を添付します。

23.3.5 ソリッドから複合材を削除

BIMCLASSIFYコマンドの**分類を戻す**オプションは、ソリッドから複合材を削除します。

1 ソリッド(複数選択可)を選択します。

2 クワッドの**BIM**コマンドグループから**分類を戻す**を選択します。

23.4 BIM分類

23.4.1 コマンド

BIMCLASSIFY

23.4.2 概要

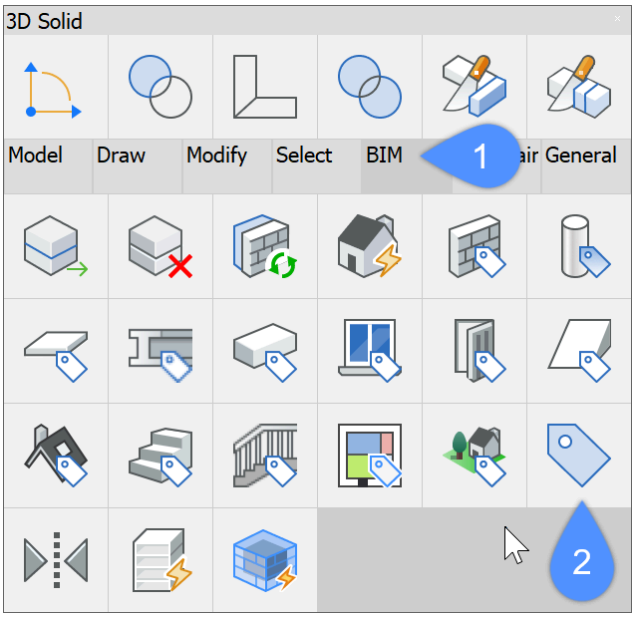
未分類の概念モデルがある場合、BIMCLASSIFYを使用すると、モデルのBIM要素を分類することができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事「BIMCLASSIFY」をご参照ください。

23.4.3 図形の分類

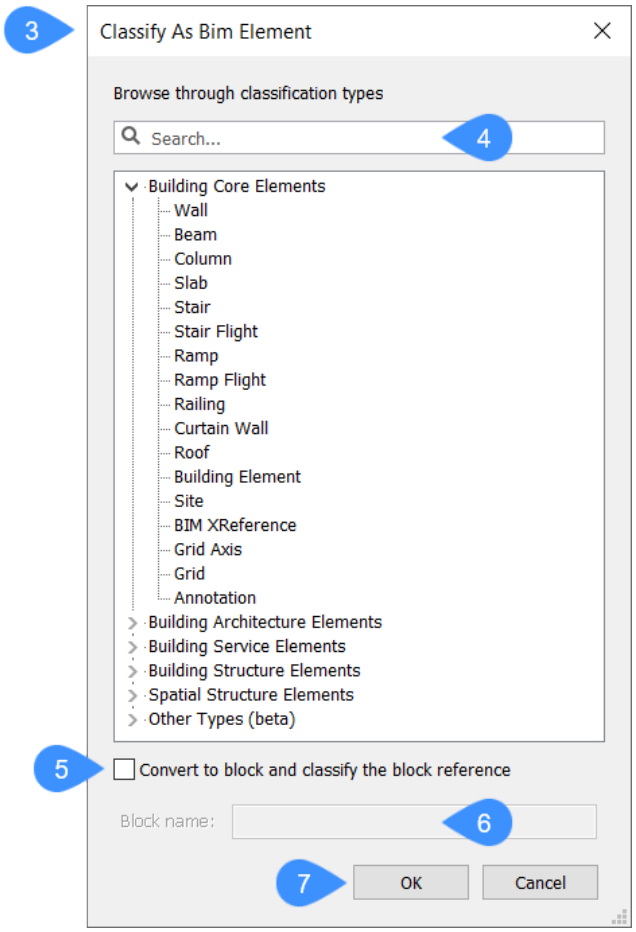
1 図面で分類する図形を選択します。

2 クワッドの**BIM**タブから分類タイプ(1)を選択してください。



BIMデータが選択図形に割り当てられます。

3 **(オプション)**BIM要素の分類タイプを選択したい場合は、クワッドから**手動で分類**(2)を選ぶと、**BIM要素として分類**ダイアログボックス(3)が表示されます。



注：分類タイプは、次のカテゴリに分類されます：

- **建物のコア要素**
- **建物の構築要素**
- **建物のサービス要素**
- **建物の構成要素**
- **空間の構成要素**
- **その他の種類(ベータ)**

以下のいずれかの操作を行います：

- **検索**フィールド(3)に特定の要素タイプ名入力すると要素タイプを絞り込むことができます。
- リストから建築要素の種類を選択します。
- (**オプション**)**ブロックに変換してブロック参照を分類**オプション(5)をチェックし、**ブロック名**フィールド(6)に名前を入力します。

  このオプションは、選択した図形をブロックに変換し、定義された建物の要素タイプへブロック参照を分類します。
- **OK**ボタン(7)をクリックして確定します。

4 (**オプション**)クワッドから**自動**( )オプションを選択すると、選択した図形を自動的に分類することができます。

この自動分類は、オブジェクトの幾何学的特徴に基づいて行われます。それが正しく分類されたかどうかを常に確認してください。

5 割り当てたBIMデータを図形から除去するには、図面内の図形を選択して、クワッドから**分類を戻す**( )を選択します。BIMデータが、選択された図形から削除されます。

23.4.4 分類された図形のプロパティ

図形を分類すると、建物の要素タイプに関する様々なプロパティが**プロパティパネル**に表示されます。

以下の図は、窓やドアのために利用可能なプロパティを示しています。

Door Window Glazing Type	
Glass layers	0
Glass thickness 1	0 mm
Glass thickness 2	0 mm
Glass thickness 3	0 mm
Fill gas	
Glass color	
Is tempered	Off
Is laminated	Off
Is coated	Off
Is wired	Off
Translucency	0
Reflectivity	0
Beam radiation transmittance	0
Solar heat gain transmittance	0
Thermal transmittance summer	0 W/m²·K
Thermal transmittance winter	0 W/m²·K

BIM	
Type	Window
Building Element Type	Window
Name	
Description	
Building	
Story	
Space	
Composition	
GUID	0shXs2TdfFB9RulemExNT4
Space bounding	Off
Construction type	Not defined
Operation type	Not defined
Window inset	
Overall height	0 mm
Overall width	0 mm
Sill height	0 mm
Head height	0 mm
Assembly code	
Assembly subtype	
Number	
Entity property sets	

Door Window Shading Type	
External shading coefficient	0
Internal shading coefficient	0
Inset shading coefficient	0

Window Common	
Reference	
Fire rating	
Acoustic rating	
Security rating	
Is external	Off
Infiltration	0 m³/s
Thermal transmittance	0 W/m²·K
Glazing area fraction	0
Smoke stop	Off

23.5 BIM複合材

23.5.1 コマンド

BLCOMPOSITIONS、BIMCLASSIFY、BLMATERIALS、BIMATTACHCOMPOSITIONeck

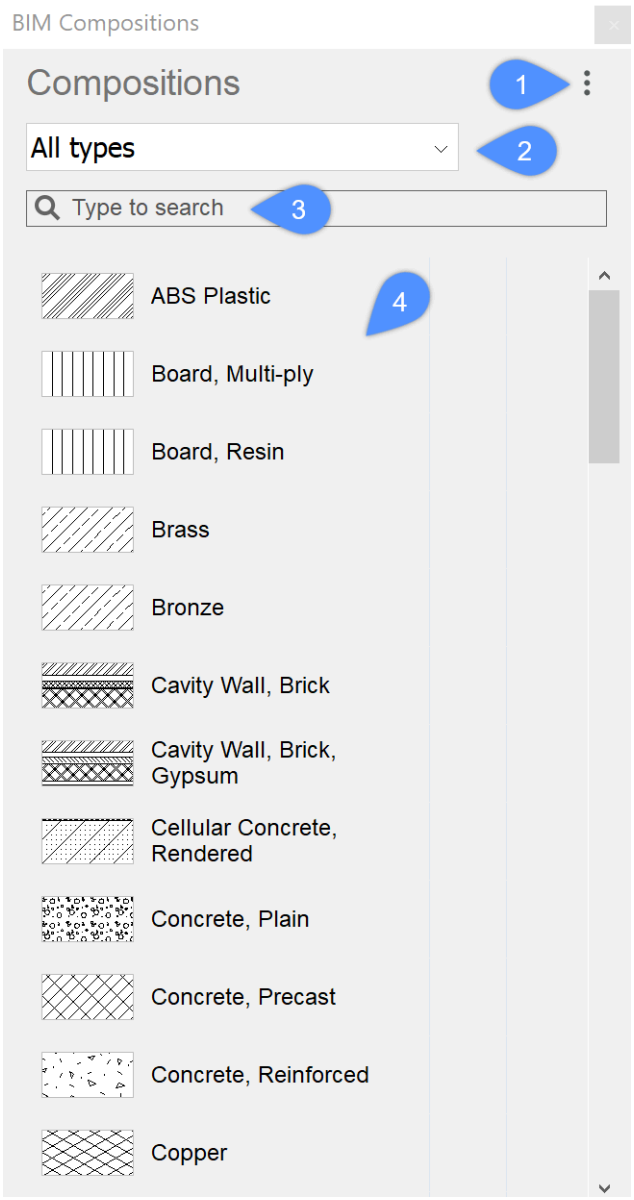
23.5.2 概要

BIM複合材：

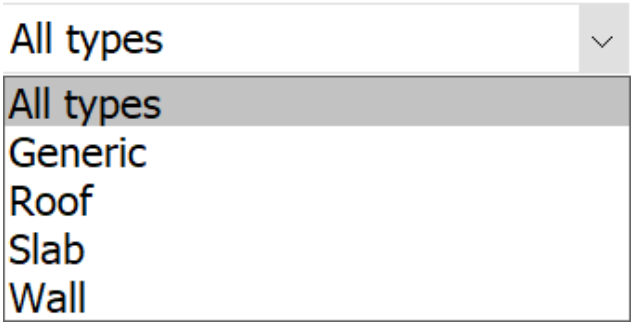
- セントラルデータベースに保存されています。
- 多層構造と単層構造があります。
- プライマテリアルは**物理的マテリアル**( )エディターで管理します。
- BIMモデルの任意のソリッドに割り当てることができます。
- **BIM複合材**パネル( )に一覧表示されます。
- **複合材**エディター( )で管理されます。

複合材のアタッチについては、手順書の「複合材のアタッチ」を参照してください。

23.5.3 BIM複合材パネルを使う



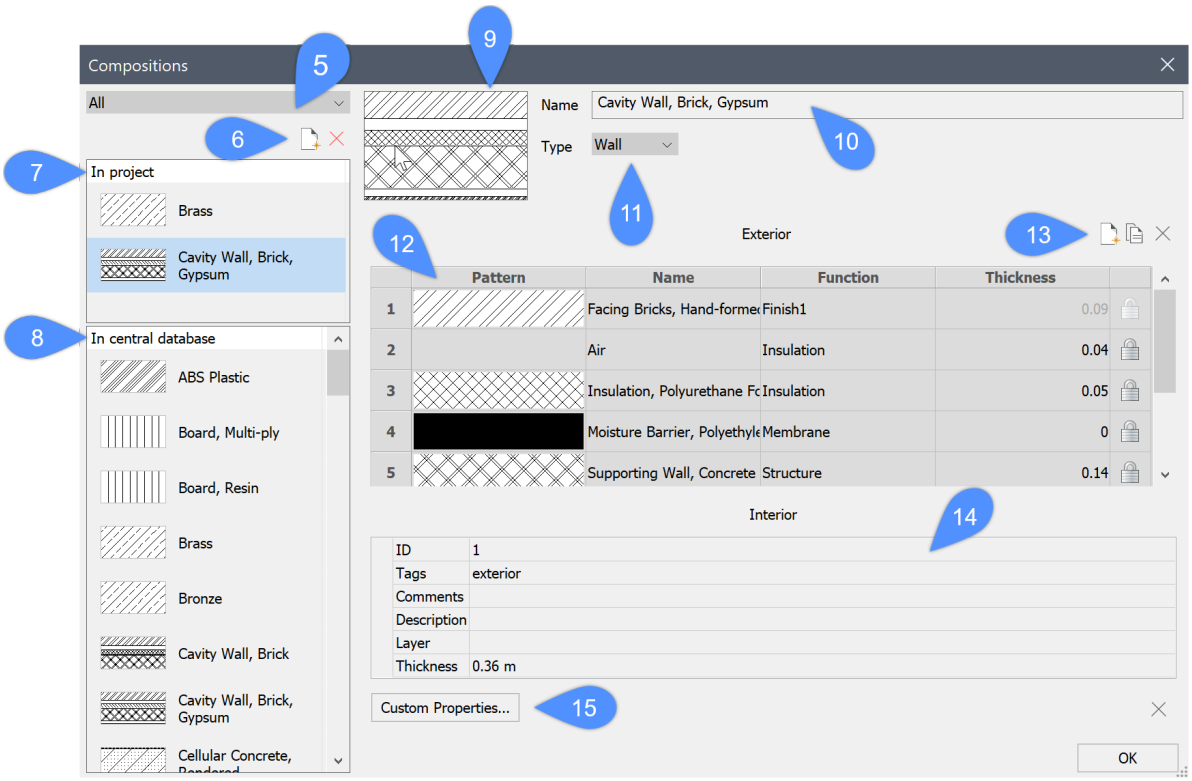
(1)メニュー	Open material dialog... Open compositions dialog... Open project dialog... Show only compositions in project...

(2)複合材の種類リスト	
(3)検索欄	入力した複合材のリストをフィルタリングします。現在の検索語を含む複合材のみが表示されます。
(4)利用可能な複合材	**プロジェクト内の複合材のみを表示**...メニューオプションが選択されていない限り、**セントラルデータベース内**と**プロジェクト**データベースの両方で選択されたタイプのすべての複合材が表示されます。

23.5.4 BIM複合材エディターの使い方

BIM複合材エディターは、**複合材**の作成、修正、削除のオプションを含むダイアログボックスです。**複合材**エディターを使用して、複合材をカテゴリ別に並べ替えたり、複合材のプロパティを表示したりすることもできます。

BLCOMPOSITIONSコマンドで、**BIM複合材**エディターが開きます：



(5)複合材カテゴリーの選択	カテゴリーでフィルタリング：**壁**、**スラブ**、**屋根**、または**ジェネリック**
(6)新しい複合材	新しい複合材を作成します。
(7)プロジェクト内	プロジェクトデータベース内で選択したカテゴリ(**壁**、**スラブ**...)の複合材を表示します。
(8)セントラルデータベース内	選択されたカテゴリ(**壁**、**スラブ**...)の複合材をセントラルデータベースに表示します。
(9)プレビューペイン	カレントで選択した複合材を表示します。
(10)名前欄	選択した複合材名を表示します。デフォルトの名前を変更することができます。
(11)カテゴリドロップダウンボックス	新しい複合材のカテゴリを表示します。
(12)構造グリッド	複合材プライの材質と厚みを表示します。上(外装)のプライはソリッドの基準に適用されます。
(13)プライを追加	物理的マテリアルの表示ボックスを開き、セントラルデータベースまたはプロジェクトデータベースからマテリアルを選択することができます。ここでは、新しいマテリアルを作成することもできます。 選択したプライのコピーを挿入します。
(14)プロファイルグリッド	選択した複合材のプロパティを表示します
(15)カスタムプロパティ...	**カスタムプロパティ**ダイアログボックスを開きます。

23.5.5 新しい複合材を作成

新しい複合材は、**プロジェクト**または**セントラル**データベースのいずれかで作成できます。

1 以下のいずれかを実行して、BIM**複合材**エディターを開きます。
- **複合材**パネルのメニューにある**複合材ダイアログを開く...**を選択します。
- BLCOMPOSITIONSとコマンドラインに入力します。

2 複合材ツールバーの左にある**新規**アイコン( )をクリックします。

選択中のデータベースに、新規という名前の複合材が追加されます。

3 プライを追加・編集するには、**複合材の編集**に進みます。

23.5.6 複合材の編集

ステップ1：名前とタイプの変更

1 新しい複合材を選択します。

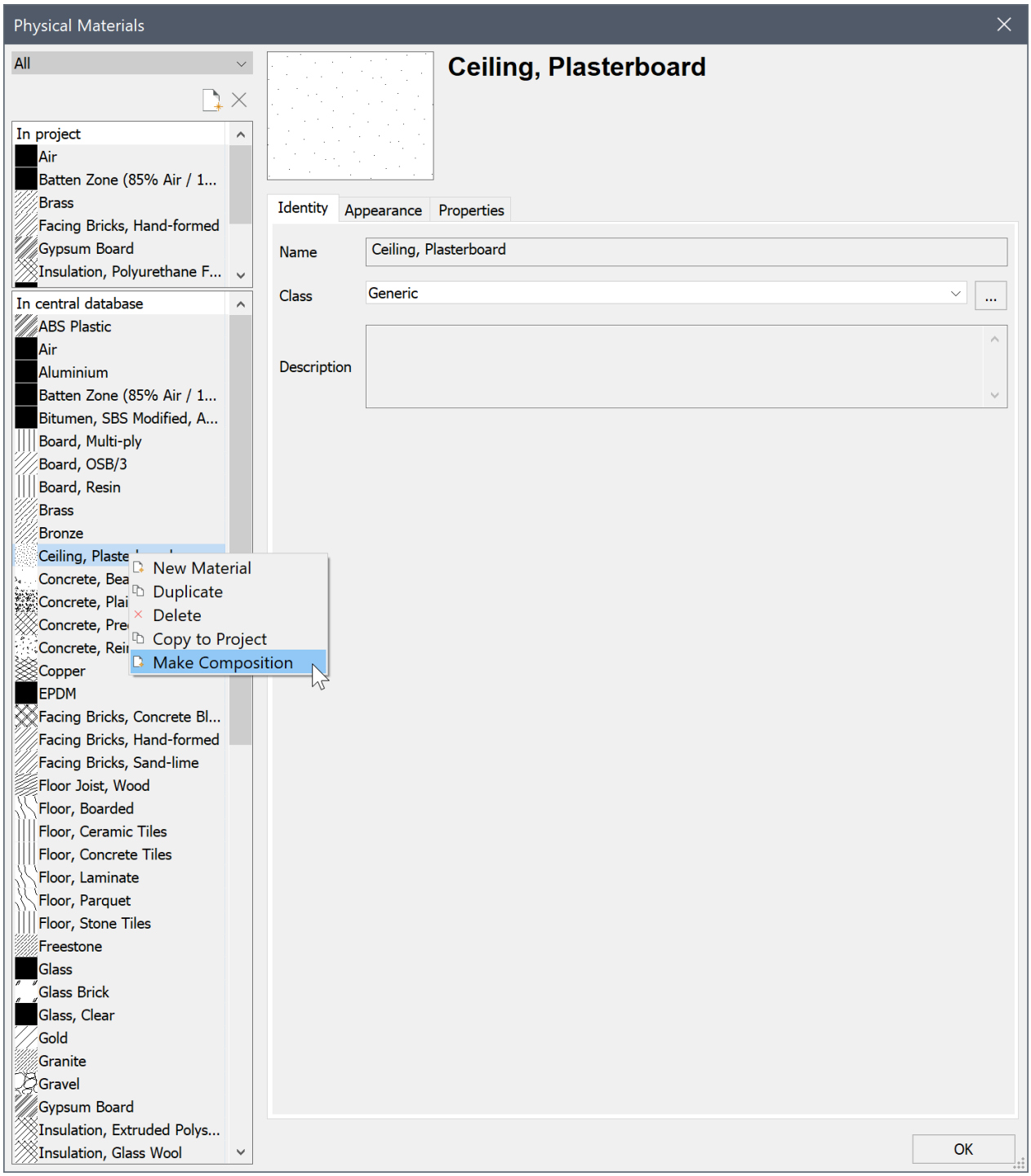
2　複合材の**名前**入力欄に新しい名前を入力します。

3　カテゴリドロップダウンボックスを使用して、複合材のタイプを指定します：**壁**、**スラブ**、**屋根**、**ジェネリック**

複合材のカテゴリーは、複合材のリストと**複合材**ダイアログのフィルタリングに使用されます。

ステップ2：プライの変更

- **プライの追加・編集・削除**
    a　複合材エディターの右にあるプライを追加ボタン( )をクリックします。
    物理的マテリアルダイアログボックスが表示されます：



b プロジェクト**または**セントラルデータベースの中から素材を選択し、ダブルクリックするか、**またはOK**ボタンを押すと、そのマテリアルが複合材のプライに割り当てられます。

c 素材を編集するには、プライの**パターン**または**名前**をダブルクリックします。詳しくは**物理的マテリアル**の記事をご参照ください。

d 別の素材を選択するには、セントラル**または**プロジェクトデータベースのリストから素材を選び、**OK**を押します。

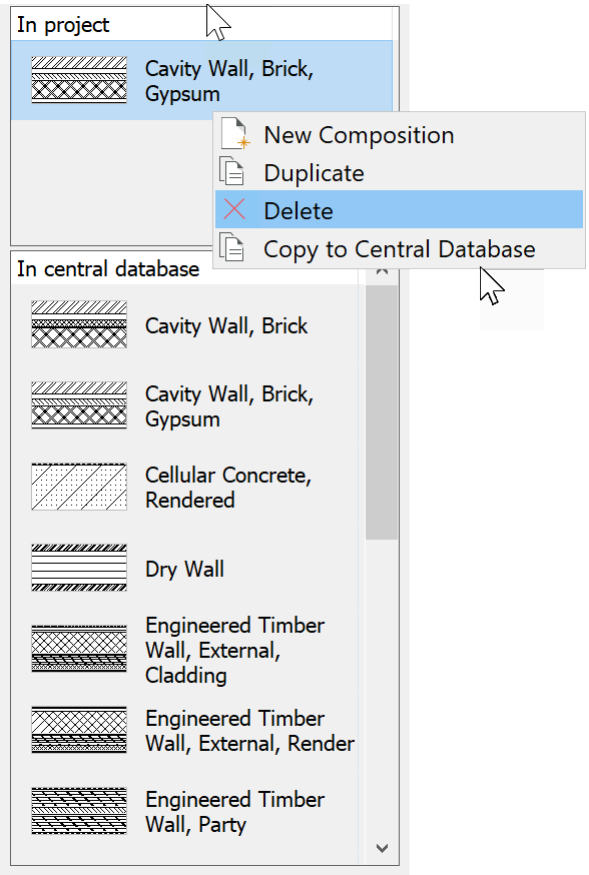
e プライを削除するには、プライを選択して**削除**ツールボタンをクリックします。

f **オプション**材料を右クリックし、コンテキストメニューから**複合材の作成**(16)を選択して、単層プライの複合材を作成します。

- **厚みの変更とプライの順番の変更**

a 構造グリッドでプライの厚さを変更するには、**厚さ**欄(17)をクリックします。

マテリアルの**可変厚さカスタムを許可**プロパティが**はい**に設定されている場合のみ、プライの厚みを変更することができます。



b 入力欄(18)に値を入力し、Enterを押して受け入れます。それに応じて、複合材の全体的な厚さが更新されます。

c 複合材のプライは、エクステリア(上)からインテリア(下)の順に並んでいます。プライ番号(21)を任意の位置にドラッグすると、プライの順番が変わります。

注：複合材が変更されると、この複合材を持つソリッドも自動的に更新されます。BIMUPDATETHICKNESSコマンドを使用して、モデルの変更を適用します。

- **複合材の厚みをロック/ロック解除**

複合材の全体的な厚さは、複合材プライの厚さの合計に等しくなります。

プライの厚さは、ロック/アンロックのどちらかになります。(上の画像参照)

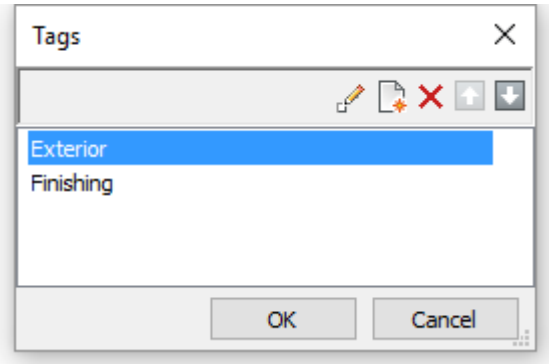
- ロック(19)：プライの厚さは固定されています。
- アンロック(20)：プライの厚さは可変です。

注：複合材の内1つのプライのみがロック解除された厚さを持つことができます。結果として、複合材の合計の厚さは次のようになります。

- **固定**：そのすべてのプライは、厚さがロックされています。
- **最小**：複合材には、少なくとも2つのプライが含まれ、1つのプライはロックされていない厚さを持ちます。最小の厚さは、ロックされた層の厚さの合計に等しくなります。
- **フリー**：ロックされていない厚さを持つシングルプライの複合材。

マテリアルの**可変厚さをカスタマイズ**プロパティが**はい** の場合にのみ、プライの厚さをロック解除することができます。

- **タグの追加**
  a **タグ**フィールドを選択します。
  b タグをカンマで区切って入力します。タグは大文字と小文字を区別します。
  c **複合材**ダイアログボックスでタグフィールドの横にある**参照**ボタン()をクリックして、**タグ**ダイアログを開きます。



  d **新規項目**ボタン()をクリックすると、新しいタグがリストの最後尾に追加されます。
  e リストでタグを選択し、ツールボタンをクリックします。
  -
  -
  -
  -
  f **OK**ボタンをクリックして変更内容を保存します。

ステップ3：新しいマテリアルの作成

新しいマテリアルをゼロから作成することも、既存のマテリアルからコピーすることもできます。詳細は**物理的マテリアル**を参照してください。

23.5.7 複合材を表示

3Dモデルに表示されている複合材の様々なプライをコントロールするかどうかを、ユーザー設定の LEVELOFDETAILで設定します。RENDERCOMPOSITIONMATERIALシステム変数では、プライ材をレンダリングするかどうかを制御します。

リボンの**ホーム/ビュー**パネルやツールバーの**BIM**のアイコンをクリックすると、複合材表示の状態が切り替わります。

- 複合材の詳細のレベル：
- 複合材マテリアルのレンダリング：

LEVELOFDETAIL=0の場合、ソリッドの上位面は外側のプライのマテリアルを使用してレンダリングされます。下位面 (例えば、壁の上面、下面、開始面、終了面) は、外壁のプライのマテリアルを使ってレンダリングされます。

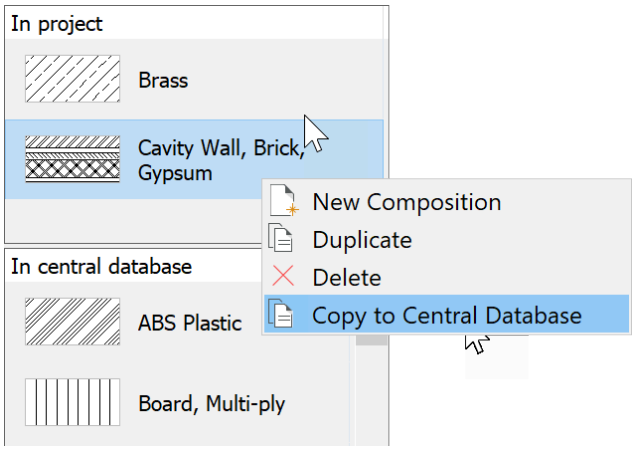
23.5.8 複合材のコピー

BIM複合材パネルと**複合材**エディターの両方で、以下の手順を使用できます：

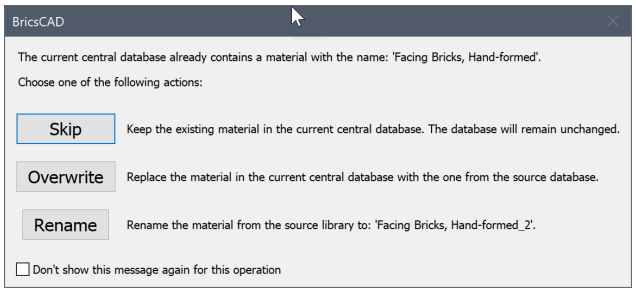
1 ソースデータベース内の複合材を選択します。Ctrlを押しながらだと複数の複合材を選択します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- 選択範囲を他のデータベースにドラッグします。
- 右クリックして、コンテキストメニューから**セントラルデータベースにコピー**または**プロジェクトにコピー**を選択します。



複合材がターゲットセントラルライブラリに既に存在するかどうかを示すダイアログボックスが表示されます。既存の複合材をスキップ、上書き、名前変更することができます。
(オプション)この操作ではこのメッセージを再表示しないオプションにチェックマークを入れます。



23.5.9 複合構造の削除

1 **BIM複合材**パネルまたは**複合材**エディターで、**プロジェクト内**または**セントラルデータベース内**リストの複合材を選択します。

2 以下のいずれかの操作を行います：

3
- 右クリックをして、コンテキストメニューから**削除**を選択します。
- **削除**ボタンをクリックします。(**複合材**エディターのみ)

注：プロジェクトで使用されている複合材は、セントラルデータベースから削除することはできません。

23.6 BIMデータ構造

23.6.1 プロジェクトデータベースとセントラルデータベース

BIMプロジェクトは、**建築要素**として分類されたdwg図形から構成され、複合材をアタッチすることができます。プロジェクトで使用されるすべての複合材は、プロジェクトデータベースに格納されます。プロジェクトデータベースは、dwgファイルの中に格納することも、拡張子.**bsyslib**の別ファイルに格納することもできます:

- プロジェクトデータベースがdwgファイルに埋め込まれている場合、そのdwgファイルには、完全な BIMプロジェクトが含まれています。
- プロジェクトデータベースが外部ファイルとして保存されている場合、BIMプロジェクトは複数のdwgファイルで構成され、すべて同じプロジェクトデータベースを使用することができます。

複数のBIMプロジェクトで複合材や建築マテリアルを再利用するために、プロジェクトデータベースに加えて、セントラルデータベースを指定することができます。セントラルデータベースは.**bsyslib**ファイルで、通常は複数のプロジェクトで共通する場所に保存されます。セントラルデータベースから複合材や建築マテリアルがBIMプロジェクトで使用されると、プロジェクトデータベースへ自動的に読み込まれます。BIMデータベースを維持/拡張するために、ユーザーは、書き込み権限があれば、あるデータベースから他のデータベースへ複合材や建築マテリアルをドラッグすることができます。

注	サンプルデータベースは、**Roamable**ルートフォルダー内の**Support**サブフォルダーにインストールされます。BricsCADをアップデートする際、**BricsCADユーザーファイルマネージャー**はサンプルデータベースを上書きするか否かを確認します。そのため、ライブラリデータベースの名前を変更、または違う場所への保存をおすすめします。ライブラリデータベースの位置は**BIMプロジェクト情報**ダイアログの**セントラルデータベース**タブで定義します。

23.6.2 マテリアルと複合材

BIMデータベースは建築マテリアルと複合材から構成されます。建築マテリアルには、外観、価格、製造元など、各建築材に関する情報が含まれています。複合材には、複合材内の構造によって定義される、建物要素の構造に関する情報が含まれています。複合材内の構造はそれぞれ建築マテリアルを指し、特定の厚さを持ちます。

柔軟性

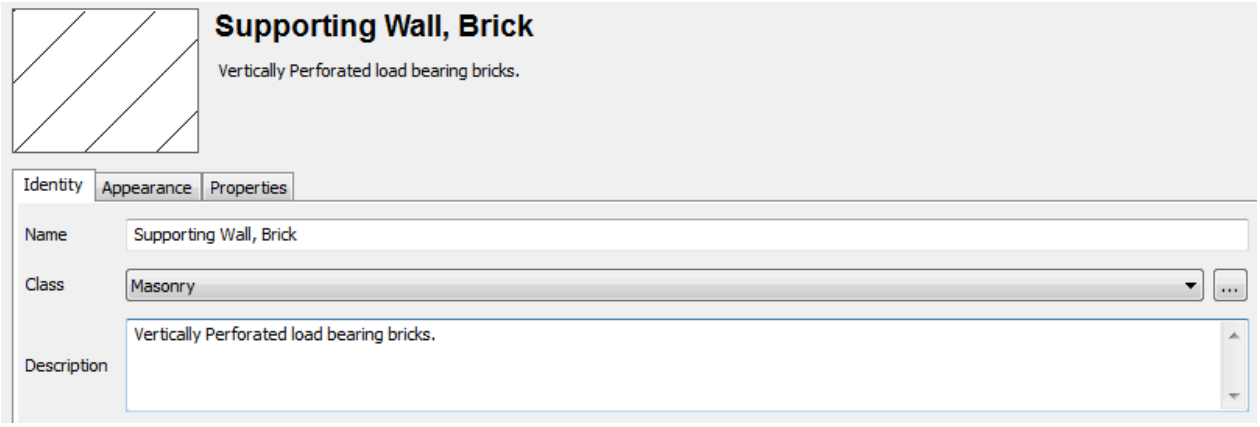
モデリングでの柔軟性は、建物情報のアタッチでも同様です。複合材は、**壁**、**スラブ**、**屋根**、および**ジェネリック**複合材にグループ化されていますが、どのようなタイプの複合材でも、任意のdwg図形にアタッチできます。特定のジオメトリ特性を持つ3Dソリッドにアタッチすると、複合材の厚さが壁やスラブの厚さを定義するために使用され、断面形状にさまざまな画層のハッチングパターンを適用することで、壁やスラブの構造が表示されます。3Dソリッドに固定の厚さまたは最小の厚さの複合材が割り当てられ、この厚さをジオメトリに適用できない場合、選択した複合材とソリッドのジオメトリとの間に非互換性があることを示すために、断面が赤色で表示されます。

BIM複合材パネル

すべてのBIMデータベース機能は、ドッキング可能な**BIMライブラリ**パネルから使用可能です。

マテリアル

マテリアルの定義は、建築マテリアルの外観と特性を説明しています。



複合材層

複合材は、順序づけられた複合材層の集合によって、建物要素の構造を記述します。各複合材層は以下のフィールドを持ちます：

- パターンとマテリアルの**名前**：この層の建築マテリアル。
- 機能：(**無し**、**構造材**、**基材**、**断熱材**、**仕上げ材1**、**仕上げ材2**、**膜**)のいずれか1つ。現在、この欄は情報提供のみを目的としています。
- 厚さ：層の厚さを定義します。

23.7 BIMプライ編集

23.7.1 概要

BIMプライ編集機能を使用すると、モデル内のすべての複合材プライを操作できます。BricsCADでは、各図面の内部に、LOD(詳細レベル)と呼ばれる複合材プライを制御する設定と、RENDERCOMPOSITIONMATERIALと呼ばれるレンダリングマテリアルをコントロールする設定が格納されています。この2つの設定は別々にオン/オフすることができます。

23.7.2 複合材プライとレンダリングマテリアル

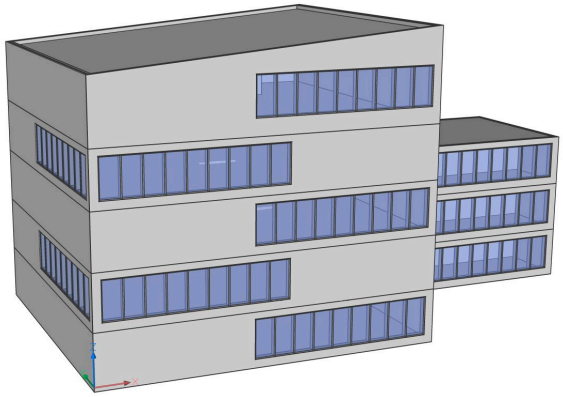
複合材プライは、LEVELOFDETAILシステム変数が2(高)の場合にのみ表示されます。

建物の要素を選択する必要はなく、自動的に調整されます。LEVELOFDETAILシステム変数が0(低)の場合は、ソリッドのマテリアル定義が使用されます。

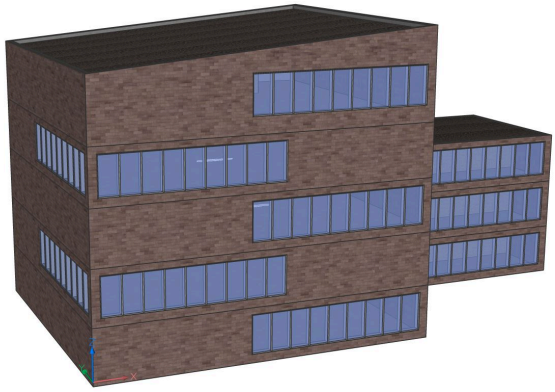
LEVELOFDETAILシステム変数の値を切り替えるには、リボンの**ホーム**タブにあるアイコン、またはクワッドの**BIM**タブにあるアイコンをクリックします。

この設定についての詳細は、『LEVELOFDETAIL』の記事をご参照ください。
レンダリングマテリアルは、RENDERCOMPOSITIONMATERIALシステム変数が1(オン)の場合にのみ表示されます。各プライのレンダリングマテリアルは、マテリアル定義の3Dレンダリングマテリアル設定で定義されます。
RENDERCOMPOSITIONMATERIALシステム変数の値を切り替えるには、リボンの**ホーム**タブにあるアイコン、またはクワッドの**BIM**タブにあるアイコンをクリックします。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『RENDERCOMPOSITIONMATERIAL』をご参照ください。



RENDERCOMPOSITIONMATERIAL = 0 (オフ)



RENDERCOMPOSITIONMATERIAL = 1 (オン)

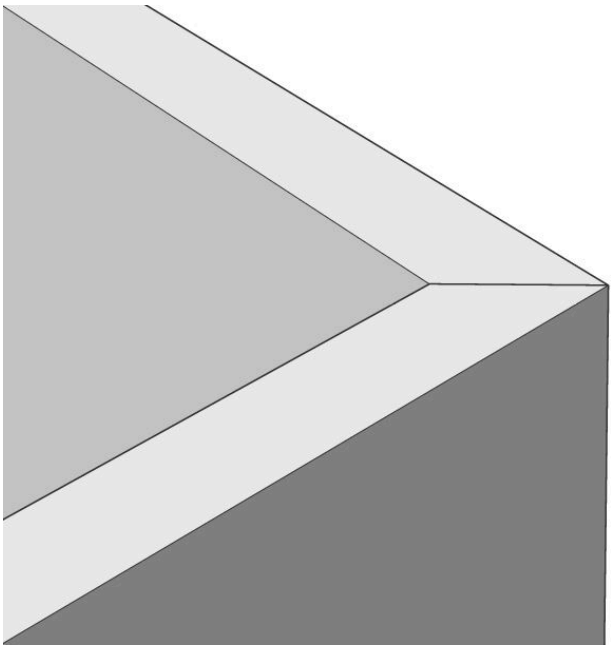
注：表示スタイルの**面の設定/マテリアル表示の設定**が**マテリアルとテクスチャー**に設定されている場合のみ(例えば、**BIM**、**モデリング**、**リアリスティック**)、マテリアルのビジュアル表現が表示されます。複合材プライは、レンダリングマテリアルと同様にモデルに表示されます。

注：選択した複合材のレンダリングマテリアルがダウンロードされていない場合や、複合材が正しくない場合は、図形が赤く表示されます。

LODおよびRENDERCOMPOSITIONMATERIALシステム変数をオン/オフすることで、さまざまな組み合わせが可能です。

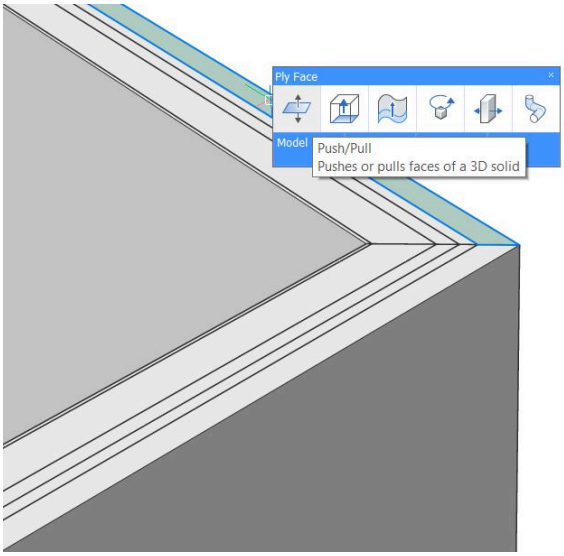
- **LOD =0、RENDERCOMPOSITIONMATERIAL = 0**

  ソリッドのマテリアル定義が使用され、マテリアルは表示されません。



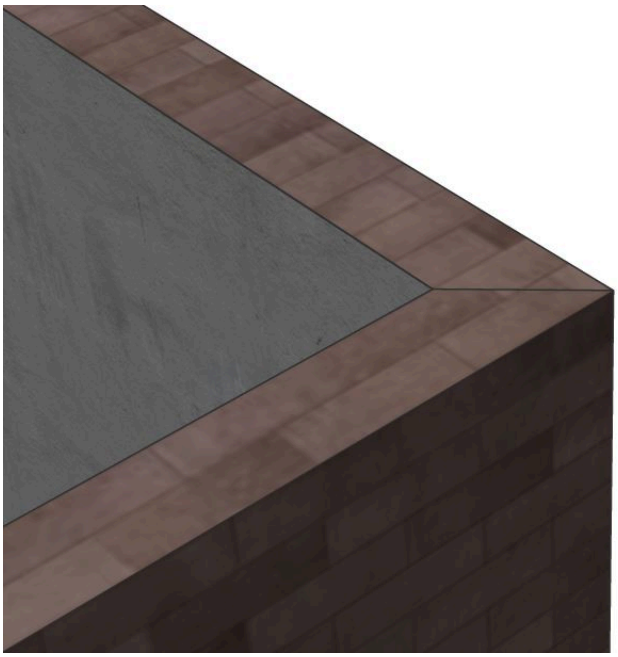
- **LOD =2、RENDERCOMPOSITIONMATERIAL = 0**

  ソリッドはプライに細分化され、マテリアルは表示されません。**面の検出**をオンにすると、例えば、異なるプライの面を選択して**プッシュ/プル**することができます。



- **LOD =0、RENDERCOMPOSITIONMATERIAL = 1**

  ソリッドのマテリアル定義を使用しています。外側と内側の面のマテリアルが表示され、外側の画層のマテリアルがオブジェクトに巻き付けられます。



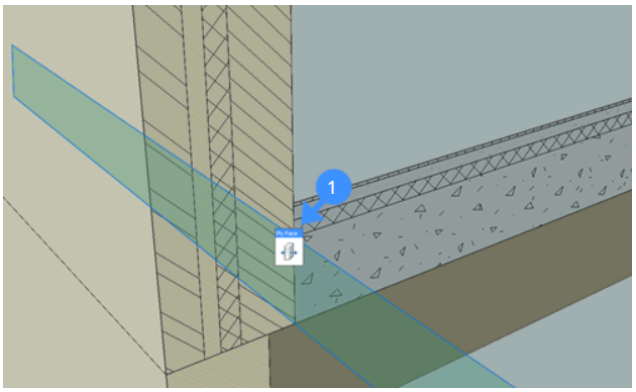
- **LOD =2、RENDERCOMPOSITIONMATERIAL = 1**

  ソリッドはプライに細分化されています。各プライはそれぞれのマテリアルで表示されます。面の検出をオンにすると、例えば、異なるプライの面を選択してプッシュ/プルすることができます。

23.7.3 複合材プライの操作

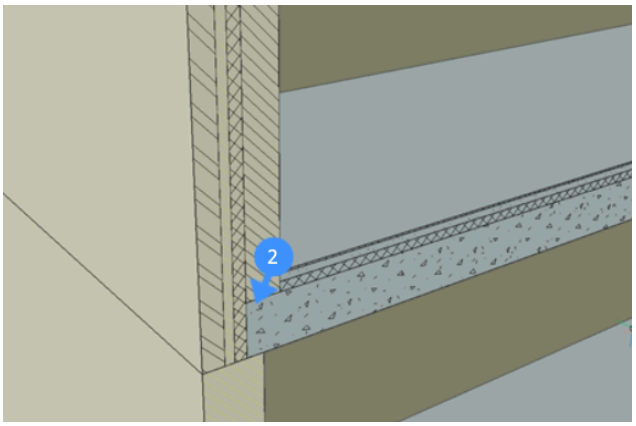
1 **LEVELOFDETAIL = 2 (高)**であることを確認します。

2 編集したい複合材プライの近くにカーソルを置き、**プライ面**(1)がハイライトされるまでTabを押します。



注：ハイライトされたプライの面は、検出された境界色で表示されます。(デフォルト＝95)これを行うには、面の検出が有効になっている必要があります。

3 クワッドから**プッシュ/プル**を選択し、プライを新しい位置(2)にドラッグします。



注 : DMPUSHPULLSUBTRACTシステム変数 = 1 であることを確認してください。これにより、プッシュ/プルされるプライが、交差する他の3Dソリッドから差し引かれることが保証されます。

注 : 図形スナップがオンになっていることを確認して、プライの端にスナップします。

23.7.4 手順：屋上の詳細を作成

既存の複合材とは別にソリッドを追加することで、より複雑な詳細を表現することも可能です。例えば、屋上の縁を起点にして屋上の詳細を作成します。

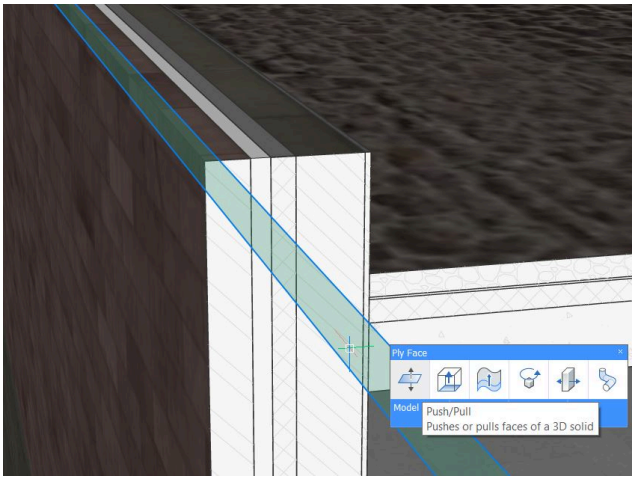
1 この屋根と壁の接続から始めます。

2 リボンの**面の検出**アイコンをクリックして、面の検出を有効にします。

3 LODをオンにすると、プライの面を選択できるようになります。リボンのアイコンをクリック、**または**コマンドラインにLEVELOFDETAILと入力し、**2**と入力してEnterを押します。

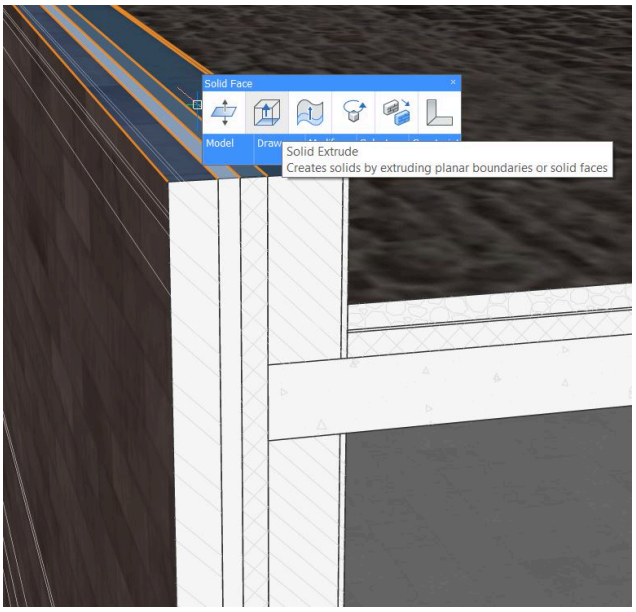
4 床スラブのコンクリートプライの端にカーソルを合わせ、Tabを押してプライの面を選択します。

5 クワッドの**モデル**タブで**プッシュ/プル**を選択します。

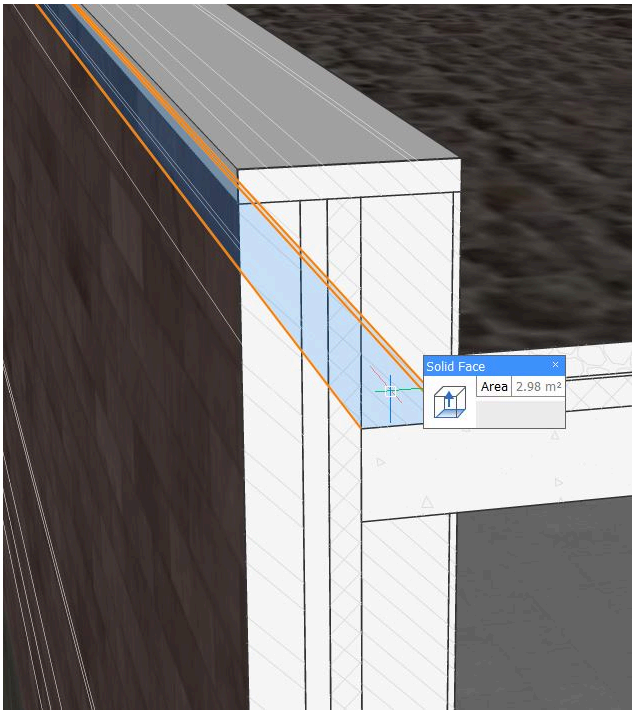


6 壁の次のプライに面をプッシュ/プルします。

7 ウォールキャップを作成するには、Tabを押して壁の上面を選択し、その面を50mm上に押し出します。作成されたキャップはまだ分類されていません。



8 絶縁ブロックが入っている部分は削除してください。支持壁と石膏ボードの表面にカーソルを合わせ、タブを押して表面を選択します。その後、ウォールキャップのプライまで押し出します。



9 同じサーフェスを再度**押し出す**と、今度は新しいソリッドが作成されます。

23.8 BIMプロジェクト情報

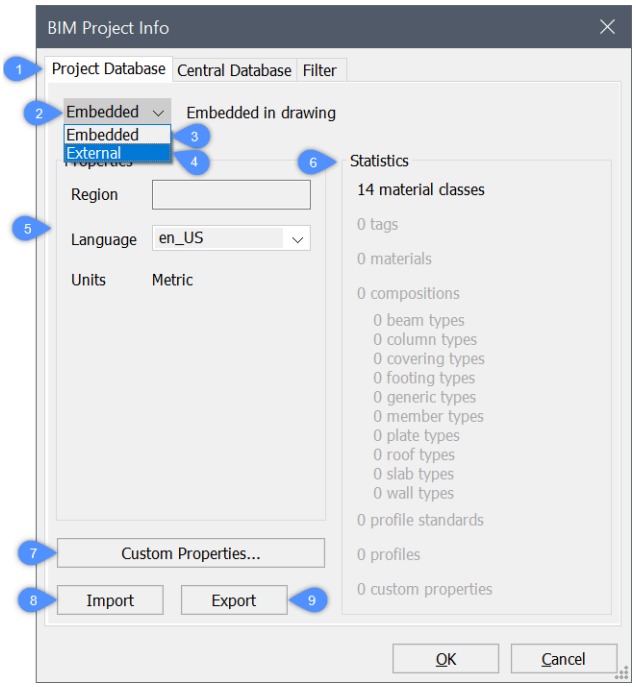
23.8.1 概要

BIMプロジェクト情報ダイアログボックスには、プロジェクトデータベースとセントラルデータベースのプロパティ、材質、構成、プロファイル、および空間構造に関する情報が表示されます。データベースの読み込み/書き出しや、プロジェクトデータベースの埋め込み/外部の設定が可能です。BricsCADでBIMPROJECTINFOコマンドを起動すると、**BIMプロジェクト情報**はコンポーネントとタブを含むダイアログボックスに表示されます。このダイアログボックスを使用して、BIMモデルのプロジェクトデータベースとセントラルデータベースを変更することができます。

プロジェクトデータベースとセントラルデータベースの詳細については、**BIM データ構造**の記事を参照してください。

23.8.2 プロジェクトデータベースの設定

1 コマンドラインにBIMPROJECTINFOと入力して**BIMプロジェクト情報**ダイアログボックスを開きます。



プロジェクトデータベース(1)	BIMプロジェクト情報を表示します。
プロジェクトデータベースのドロップダウンリスト(2)	**埋め込み**か、**外部**かを選択します。
埋め込み(3)	図面ファイル内にプロジェクトライブラリを保存します。
外部(4)	プロジェクトデータベースをBIMデータベースファイル(.BSYSLIB)に保存します。
プロパティ(5)	BIMプロジェクト(リージョン、言語、単位など)のプロパティを表示します。
統計(6)	BIMモデルのカレントプロジェクトライブラリのプロパティ、マテリアル、複合材、プロファイル、空間構造(建物数、階数など)が表示されます。
カスタムプロパティ...(7)	マテリアル及び複合材にカスタムプロパティを追加します。
読み込み(8)	選択したXMLとCSVライブラリファイルを読み込み、マテリアル、複合材、プロファイルをプロジェクトデータベースに追加することができます。
書き出し(9)	定義された場所にXMLライブラリファイルを保存します。

2 プロジェクトデータベースを**埋め込み**から**外部**に変更したり、その逆を行うには、プロジェクトデータベースのドロップダウンリストで希望のオプションを選択します。

注：外部データベースは、現在の図面からデータベースの独立を保持します。これは、例えば1つのモデルが複数の外部参照図面から構成されている場合など、複数のモデル間でデータベースを共有したい場合に特に有効です。

- **埋め込み**から**外部**に切り替える場合、**Bricsysライブラリの選択または作成**ダイアログボックスが表示されます。

  以下のいずれかの操作を行います：

  - プロジェクトデータベースの内容を新しいBSYSLIBファイルに書き出すには、**ファイル名**フィールドに名前を入力し、**開く**ボタンをクリックします。
  - 既存のBSYSLIBファイルを選択し、**開く**ボタンをクリックします。

    プロジェクトデータベースの現在の内容が、読み込んだライブラリを含め、選択したBSYSLIBファイルに結合されます。

- 外部から**埋め込み**に切り替えると、**外部**ライブラリの内容が埋め込みプロジェクトライブラリにコピーされます。

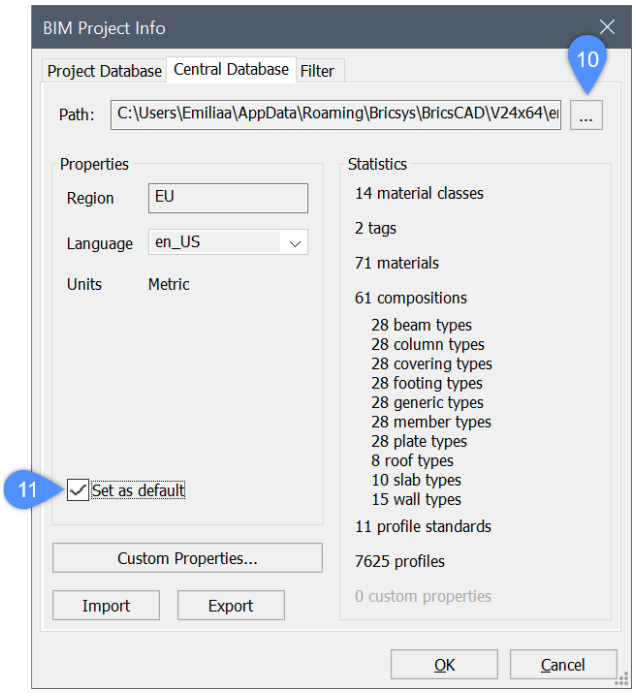
3 プロジェクトデータベースのプロパティ(リージョンや言語など)を指定するには、**リージョン**欄に入力し、ドロップダウンリストから言語オプションの1つを選択します。

4 オプションで、カスタムプロパティボタンを使用して、プロジェクトデータベースにマテリアルと複合材のカスタムプロパティを追加することができます。

5 **OK**ボタンをクリックして、設定を確定します。

23.8.3 セントラルデータベースの設定

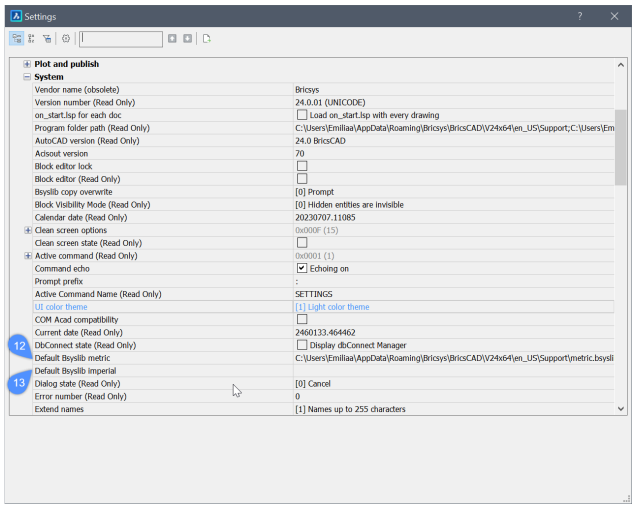
1 **BIMプロジェクト情報**ダイアログボックスの**セントラルデータベース**タブをクリックします。



2 BIMデータベースファイル(BSYSLIB)を選択するには、**パス**欄の**参照**(10)ボタンをクリックし、**Bricsysライブラリを選択または作成**ダイアログボックスでデータベースファイルを選択します。

3 オプションで、**デフォルトとしてセット**(11)オプションをオンにすると、選択したデータベースを次のプロジェクトのデフォルトライブラリデータベースとして設定することができます。

注：デフォルトのライブラリ設定(12、13)は、**プログラムオプション** > **システム**の**設定**ダイアログで編集することができます。



23.8.4 プロジェクトデータベース(BSYSLIB)にあるXMLまたはCSVファイルを読み込んでプロファイルを追加する

1 **プロジェクトデータベース**タブで**読み込み**ボタンを押すと、**読み込むxml / csvファイルを選択してください**ダイアログボックスが開きます。

2 XMLまたはCSVライブラリファイルを選択し、**開く**ボタンをクリックします。

プロファイルを追加するCSVライブラリファイルは、以下の形式を遵守する必要があります。
1行目はプロファイル形状名
(AsymmetricIShape、CShape、Circle、CircleHollow、CraneRailAShape、CraneRailFShape、Ellipse、IShape、LShape、Rectangle、RectangleHollow、RoundedRectangle、Trapezium、TShape、UShape、Zhape)を表します。
2行目には、プロファイルプロパティの名前を記述する必要があります。最初の5つの名前は一般的なプロファイルのプロパティ(規格、名前、タイプ、サイズ、マテリアル)です。次の名前はプロファイルの各形状に固有のパラメータです。
// もしくは # - CSVファイルにコメントを追加する場合、これらの文字で始まる行は無視されます。
例：C型プロファイルを読み込むためのCSVファイルには、少なくとも以下の内容が含まれている必要があります。
C型

標準	名前	種類	サイズ	マテリアル	深さ	幅	壁厚	周長

すべての形状に対応する一般的な列は以下の通りです：

標準	名前	種類	サイズ	マテリアル
		利用可能な種類： 電気、 ジェネリック、 HVAC、 構造用鋼 構造用コンクリート パイプ		使用可能なマテリアル： 既存のみ プロジェクト内またはライブラリ内 (BLMATERIALSで確認する)。 主に使用 - 鋼

注：種類名とマテリアル名は大文字と小文字が区別されます。

注：空欄のままにすることはできません。

一般的な列の右側には、プロファイルの各形状に固有のパラメータを示す列があります。

以下は、プロファイルの形状で、読み込みに必要なパラメータ(太字)を示しています。各パラメータの意味は、プロファイルのプレビュー(BIMPROFILES/New profiles)でより深く理解することができます。

プロファイルの形状	パラメータ		プロファイルの形状	パラメータ
非対称形	**全体の幅** **全体の深さ** **ウェブ厚さ** **フランジ厚さ** フィレット半径 **トップフランジ幅** トップフランジ厚さ トップフランジフィレット半径 X重心位置		L形	**深さ** **幅** **厚さ** フィレット半径 エッジ半径 レッグスロープ X重心位置
C型	**深さ** **幅** **壁厚** **周長** 内側フィレット半径 X重心位置		長方形	**X寸法** **Y寸法**
円	**半径**		矩形の穴	**X寸法** **Y寸法** **壁厚** 内側フィレット半径 外側フィレット半径

プロファイルの形状	パラメータ		プロファイルの形状	パラメータ
円形の穴	**半径** **壁厚**		長円	**X寸法** **Y寸法** **長丸半径**
クレーン用レールA形	**全体の高さ** **ベース幅2** **半径** **ヘッド幅** **ヘッド深さ2** **ヘッド深さ3** **ウェブ厚さ** **ベース幅4** **ベース深さ1** **ベース深さ2** **ベース深さ3** Y重心位置		台形	**底面X寸法** **上面X寸法** **Y寸法** **底面Xオフセット**
クレーン用レールF形	**全体の高さ** **ヘッド幅** **半径** **ヘッド深さ2** **ヘッド深さ3** **ウェブ厚さ** **ベース深さ1** **ベース深さ2** Y重心位置		T形	**深さ** **フランジ幅** **ウェブ厚さ** **フランジ厚さ** フィレット半径 フランジエッジ半径 ウェブエッジ半径 ウェブスロープ フランジスロープ Y重心位置
楕円	**半軸1** **半軸2**		U形	**深さ** **フランジ幅** **ウェブ厚さ** **フランジ厚さ** フィレット半径 エッジ半径 フランジスロープ X重心位置

プロファイルの形状	パラメータ		プロファイルの形状	パラメータ
I形	**全体の幅** **全体の深さ** **ウェブ厚さ** **フランジ厚さ** フィレット半径		Z形	**深さ** **フランジ幅** **ウェブ厚さ** **フランジ厚さ** フィレット半径 エッジ半径

このような最も使用されているプロファイルの.csvファイルのサンプル(templates_of_mostly_used_profiles.csv)は**Support**フォルダーに以下のパスで保存されています。

C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support¥Bim¥Profiles。

Appdataフォルダーはデフォルトでは隠しフォルダーです。最初にフォルダーを再表示する必要がある場合があります。このパスは、SUPPORTFOLDERコマンドでもアクセスできます。

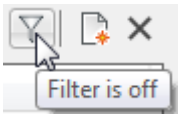
23.8.5 プロジェクトフィルター

各物理的マテリアルもしくは複合材には、任意の数のタグを付けることができます。タグには任意の文字列を入力することができます。

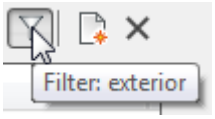
各タグをデータベースのフィルターとして使用することができます。各リストの上部にあるボタン( )でフィルターのオン/オフを切り替えます。フィルターをオンにすると、少なくとも1つのフィルタータグと一致した複合材やマテリアルだけが表示されます。

フィルターボタンには 3 種類の状態があります：

- プロジェクトフィルターは空でボタンはオフ状態(**BIM複合材**パネル)または利用できない。(**マテリアル**および**複合材**エディター)。
- プロジェクトファイルは定義済みたが、オフ状態。



- プロジェクトファイルは定義済みで、ON状態。

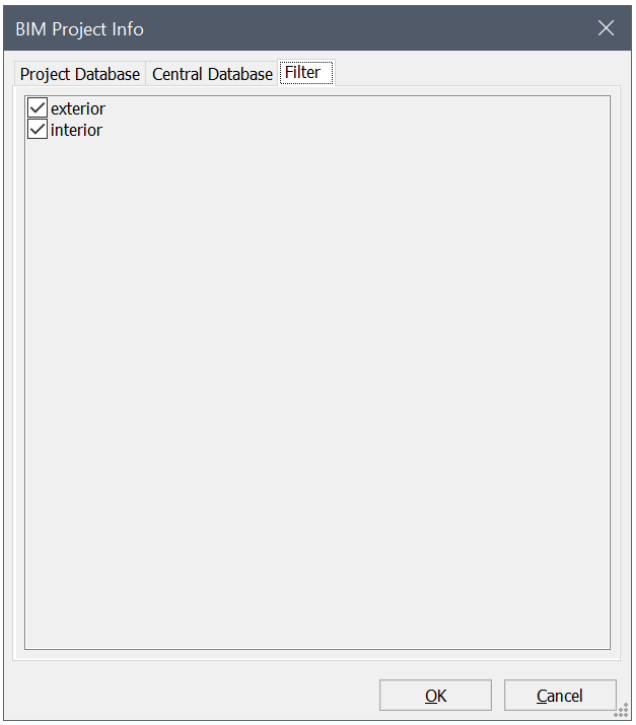


現在のプロジェクトフィルターのツールチップが表示されます。

23.8.6 プロジェクトフィルターの設定

1 **BIMプロジェクト情報**ダイアログボックスの**フィルター**タブを選択します。

2 フィルター内の任意のタグにチェックを入れます。



23.9 Pythonスクリプトの使用

23.9.1 コマンド

BIMPYTHON

23.9.2 BIMPYTHONについて

BIMPYTHONコマンドは、適切なPythonスクリプト(.py)を使用して、BricsCAD BIM内のモデルからデータを照会し、管理することができます。

Pythonスクリプトには、オブジェクトやBIM図形の数量および関連プロパティの取得などシンプルなものから、使用可能なモデルパラメータに基づいた一連の計算の実装など精巧なものまで、さまざまなスクリプトがあります。

BricsCADにはPythonシェルが付属していないので、スクリプトはテキストやコードエディターで作成する必要があります。

BricsCAD BIMにはPythonプログラミング言語と標準ライブラリが組み込まれているので、別途インストールする必要はありません。ただし、カスタムパッケージやライブラリをスクリプトで使用される場合は、別途インストールしてください。

BricsCAD BIMのインストーラーには、いくつかのPythonスクリプトのサンプルが用意されています。

23.9.3 手順：BIMPYTHONモジュールを使ったPythonスクリプトの設定

1 APIにアクセスする前に、スクリプトに入れたいモジュールを読み込みまたは「コール」します。

1 これらがPython標準ライブラリに含まれていない場合は、事前に別途インストールされていることを確認してください。

mathなどの標準モジュールを「読み込み」し、Matplotlibパッケージの関数を集めたPyplotなど、外部のモジュールとして「読み込み」することができます。

```
import math import matplotlib.pyplot as plt
```

2 必要なライブラリを「コール」します。次のステップは、BricsCADモデル内の要素を照会するためのAPIにアクセスすること

です。これは、BIMオブジェクトの範囲であり、モデルへのエントリーポイントとなります。

bricscadモジュールからcurrent_modelを読み込みます：

```
from bricscad.bim import current_model
```

3 これで、これらのサンプルステートメントを使って、モデルを照会することができます。

```
# モデル内の壁の長さに関する情報を表示する
lengths = [wall.prop('Length')current_model().filter(Type='Wall')] の壁用印刷(F'壁の長さ。max: {max(lengths)},
 avg: {sum(lengths)/len(lengths)}')
```

```
# 選択範囲を作成し、オブジェクトを印刷する
current_model().filter(Type='Wall',IsExternal=True).select()
bim_model.filter(Type='Wall',IsExternal=True, Length=max(lengths)):
    印刷(壁面)
```

bricscad.bim.Objectsのマッパーは連鎖可能です。これは、屋根のうち壁に近い部分を取得する例です：

```
# Get all parts of roof within 40cm range of all walls
roof_parts = current_model().filter(Type='Roof').parts()
roof_parts_close_to_wall = current_model().filter(Type='Wall').within_distance(40, 'cm',
 search_range=roof_parts)
```

一方、これはフィルタリングするための関数文の例です：

```
# Filter roof parts longer than 50 project units
def is_long(obj):
    return obj.prop('Length') > 50
roof_parts.filter(is_long)
```

また、データを様々な形式で書き出して表示することもできます。

```
# 辞書リストを作成する
wall_info = [
    { 'ハンドル': wall.get_property('ハンドル'),'長さ': wall.get_property('長さ'),'高さ': wall.get_property('高さ')} for wall in
 current_model().filter(Type='Wall')]
```

```
# .json への書き出しJSON を読み込み
file = open('path/to/file.json','w+')
file.write(json.dumps(wall_info,インデント= 4))
ファイル.閉じる()
```

```
# plotting a histogram
import matplotlib.pyplot as plt
import pandas as pd
df = pd.DataFrame(wall_info)
df.hist();
plt.show()
```

```
# export to .csv
df.to_csv(r'path/to/file.csv', index = False, header=True)
```

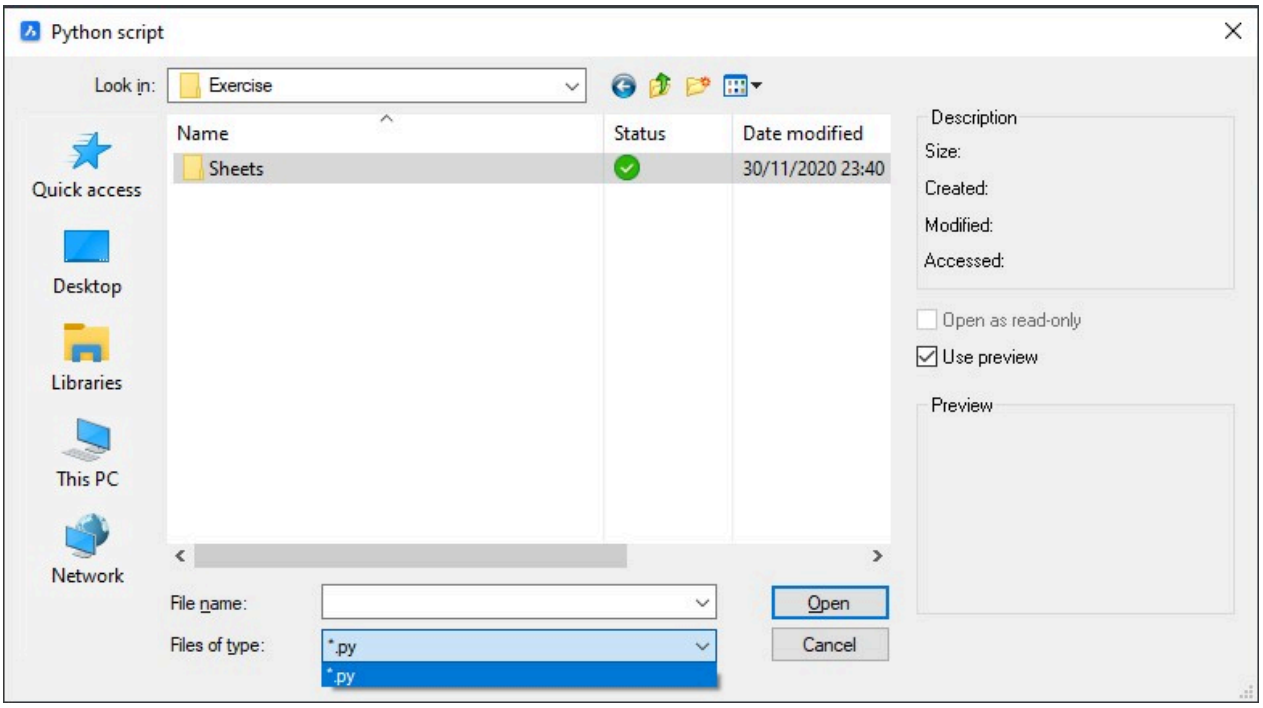
BricsCAD APIとその各種クラスの詳細については、以下のAPIの章をご参照ください。

23.9.4 手順：Pythonスクリプトの実行

1 Pythonスクリプトを実行するには、新規またはBricsCADファイルを開きます。

2 コマンドラインに「BIMPYTHON」と入力し、Enterを押します。

3 ダイアログボックスが表示され、Pythonスクリプトファイル(*.py)のみを選択できます。選択して、**開く**をクリックしてファイルを実行します。



4 BricsCAD 以外の外部プログラムで書き出しまたは表示するデータを指定していない限り、BricsCAD はその出力をコマンドラインで報告します。

23.9.5 参照

クラスと構文

get_property(prop_name)
指定された名前のオブジェクトのプロパティ値を返します。

set_property(prop_name, value)
プロパティ名(prop_name)に値を設定します。

distance_to(other_obj, units='mm', distance_mode='exact')

- 2つのオブジェクト間の距離を計算します。
- 引数のオプションunits：INSUNITS(「センチ」、「フィート」、「パーセック」など)と、これらの略語からなる任意の単位値：「mm」、「cm」、「m」、「km」、「ft」
- 引数のオプションdistance_mode：「bbox_center」、「bbox」、「exact」

parts()
このオブジェクトのサブ要素を返します。

parent()
parts()の逆で、このサブ要素の親オブジェクトを返します。

plies()
反復可能なオブジェクトに関連付けられた**Plies**を返します。

within_distance(distance, unit='mm', distance_mode='exact', search_range=bim_model)

- 引数distanceの距離内にあるオブジェクトを返します。

- 引数のオプションunits：distance_to を参照。
- 引数のオプションdistance_mode：：distance_to を参照。

openings()
このオブジェクトの関連する開口部を返します。

spaces()
このオブジェクトの関連する空間を返します。

bounding_elements()
この(空間)オブジェクトの関連する境界要素を返します。

select()
選択にオブジェクトを追加します。

deselect()
選択からオブジェクトを削除します。

__eq__()and __hash__()
オブジェクトを、例えば以下のものと相互運用可能にします。

クラス bricscad.bim.Objects
BricsCAD BIMオブジェクトのコレクションを定義します。

filter(function)
この範囲を関数パラメータでフィルタリングします。

filter(**conditions)
キーワード引数として与えられた条件で、この範囲をフィルタリングします。

parts()
この範囲内のすべての要素の部分を返します。

parents()
この範囲内の要素の親オブジェクトを返します。

within_distance(distance, unit='undefined', distance_mode='exact', search_range=bim_model)
この範囲内のオブジェクトまでの距離内にあるオブジェクトを返します。

openings()
このオブジェクトの関連する開口部を返します。

spaces()
このオブジェクトの関連する空間を返します。

bounding_elements()
この(空間)オブジェクトの関連する境界要素を返します。

select()
選択にオブジェクトを追加します。

deselect()
選択からオブジェクトを削除します。

__len__ ()
この範囲内のオブジェクトの数を返します。

bricscad.bim.list_properties(obj)
渡された図形またはプライの利用可能なプロパティのリストを返します。

bricscad.bim.current_model()
アクティブなドキュメントのモデル空間にあるオブジェクトを返します。

bricscad.bim.Plyのクラス
Plyオブジェクトのインデックス付きでスライス可能なコンテナです。
__iter__()
__getitem__(index)
__getitem__(slice)
__len__()

bricscad.bim.Plyのクラス
個々のプライオブジェクト。

get_property(prop_name)
指定された名前の**Ply**オブジェクトのプロパティ値を返します。

23.10 分類コード

23.10.1 概要

分類コードを割り当てることで、BIMを整理し、詳細のレベルを向上させることができます。例えば、ライブラリのマテリアルやプロジェクトレポートの整理、プロジェクトコストの見積もり、製品仕様の定義などが可能になります。現在、BricsCADで利用可能な分類システムは、**GUBIMClassCA**、**GUBIMClassES**、**Master Format**、**NLSfb**、**OmniClass**、**UniClass2015**、**Uniformat**、**VMSW**です。

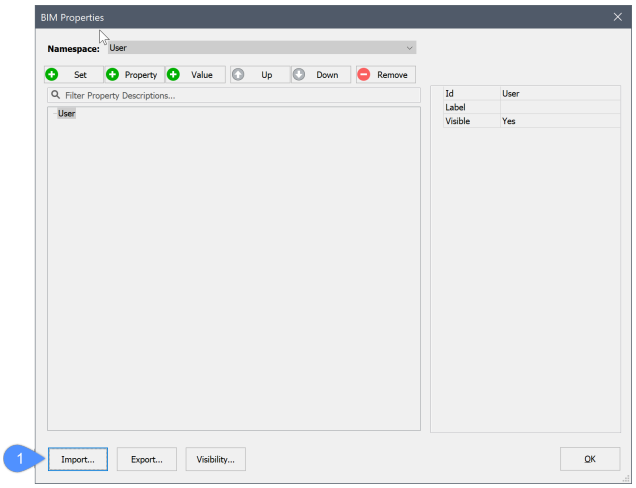
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMPROPERTIES』をご参照ください。

23.10.2 BIMに分類コードを割り当てる

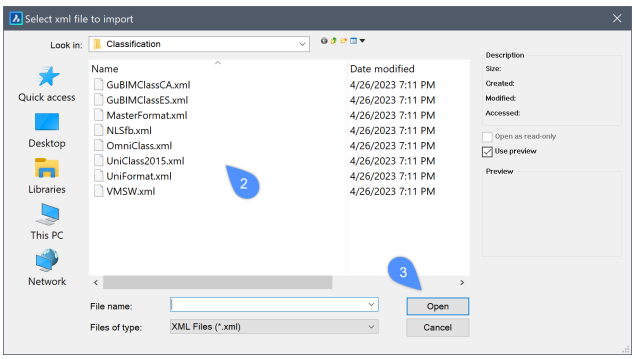
1 クワッド(**Bim**タブ)から**プロパティ管理**ボタンをクリックすると、BIMプロパティダイアログボックスが表示されます。

注：クワッドは**選択なし**の状態で行ってください。

ダイアログボックスが表示されます。



2 ダイアログボックス左下の**読み込み**(1)ボタンをクリックします。ファイル選択ダイアログが表示されます。



3 リスト(2)で分類体系を選択し、**開く**(3)をクリックしてBIMに読み込みます。

注：ファイルダイアログに**分類**フォルダーが表示されない場合は、アドレスバーに手動で次のパスを入力してください：C:¥Users¥<User>AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD V25x64¥ja_JP¥Support¥Bim¥Classification

利用可能な分類システム：

GUBIMClassCA	カタルーニャ州のBIMユーザーグループの分類システム。
GUBIMClassES	スペインのAEC産業のために設計された建築エレメントの統一された分類システム
MasterFormat	米国およびカナダの商業および施設建築プロジェクトのための基準。
NLSfb	オランダのAEC産業のための規格。
OmniClass	建設業の分類体系
UniClass2015	UK建設業界のすべてのセクターの規格

Uniformat	米国およびカナダにおける建築仕様の分類、原価計算、原価分析のための規格。
VMSW	ベルギーのAEC業界の規格。

4 分類体系が**名前空間**(4)に追加されます。選択した分類体系がプロパティセット(5)として追加され、このプロパティセットに分類コード(6)が付加されます。

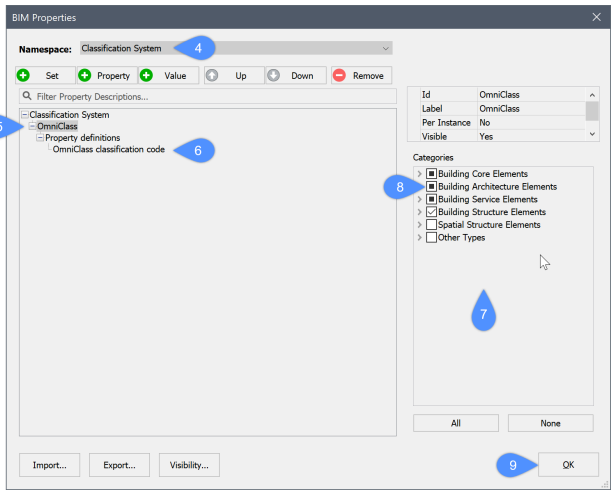
デフォルトでは、この分類システムはあらゆる種類の建築要素(7)に適用されます。

オプション：分類体系を適用する建築要素のカテゴリーを選択解除します。

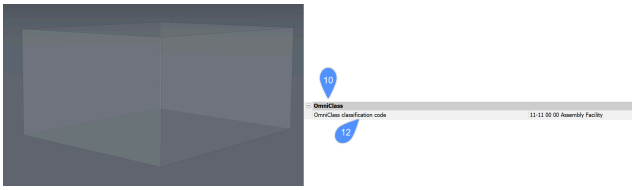
そのためには、カテゴリー名(8)の横のボックスをチェックするか(このカテゴリーに含まれるすべての要素が除外されます)、リストを展開して要素タイプの横のボックスのみをチェックします。

OKボタン(9)をクリックして、手順を完了します。

または、前の手順に従って別の分類システムを読み込みます。

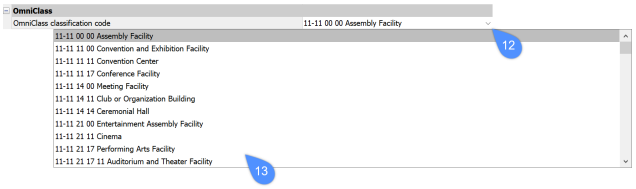


5 分類コードを割り当てたい要素を選択し、**プロパティ**パネルを開きます。**プロパティ**パネルに分の類体系(10)とコード(11)が表示されているはずです。

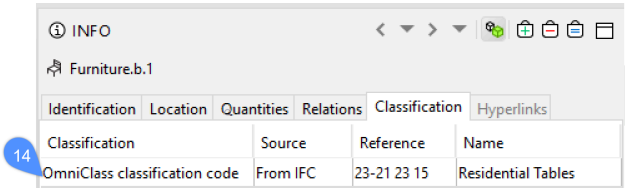


6 右側の矢印アイコン(12)をクリックし、コンテキストメニュー(13)で選択した要素の分類コードを選択します。

7



注：BIMをIFCファイルに書き出すと、割り当てた分類体系の分類コードが分類コードが各要素に付与されています。これらのプロパティには、正しいラベルと説明が付いて書き出されます。下図は、**OmniClass分類コード**を割り当てたBIMモデルをいったんBricsysからSolibriに書き出し、再びSolibriへ読み込んだときのOmniClass分類(14)を示しています。



23.11 BIM空間の作成と編集

23.11.1 コマンド

BIMSPACE、BIMUPDATESPACE、BIMIFY

23.11.2 概要

囲われた空間からBIM空間を作ることができます。壁要素がモデル内の空間を囲んでいる場合、**BIM空間**ツールを使用してBIM空間を定義することができます。これらの空間はソリッドなので、簡単に操作することができます。カレントモデルに追加された3D空間ジオメトリには、空間タグが関連付けられています。空間タグは、ポリラインと属性を含むブロックです。空間タグの既定の属性には、**空間名**と**空間番号**が含まれます。各属性の値は、**プロパティ**パネルで変更することができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事**BIMSPACE**をご参照ください。

23.11.3 BIM空間の定義

1 **ホーム** > **分類** > **空間**の**空間**ツールを選択してをするか、もしくはコマンドラインにBIMSPACEと入力します。

プロンプト表示：空間内の点を指示、または[編集]:

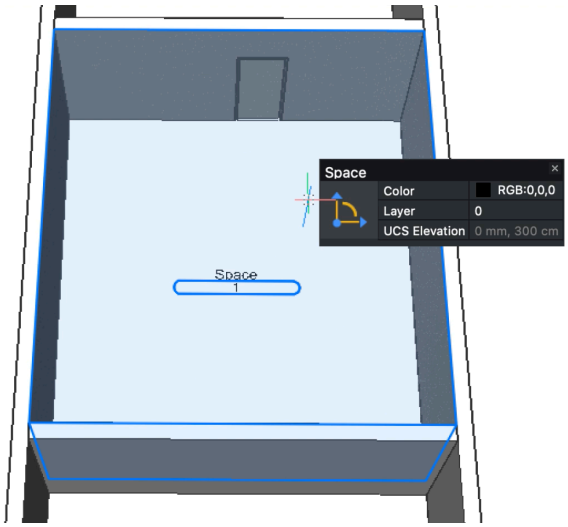
2 BIM空間を定義するには、BIMモデルの空間領域内の点を選びます。

3 空間領域の内側にカーソルを移動して点を指定すると、**ダイナミックUCS**を使用して空間の底面を定義できます。カーソルの横に緑色のチェックマークが表示され、可能な場所を示します。面が利用できない場合は赤い十字が表示されます。

4 この面では、壁要素や任意の空間境界要素で囲まれた領域を見つけ、空間の中心に空間タグを配置します。

5 **注：**空間境界図形は、BIM図形として分類され、**空間境界**プロパティが**オン**に設定されている3Dソリッドまたは線形2D図形です。空間境界ソリッドの**中心線**プロパティが**オン**に設定されている場合、ソリッドの中心が空間境界として使用されます。

空間境界要素は、壁、カーテンウォール、スラブ、柱だけでなく、ハッチングやポリラインも空間境界要素としてカウントします。



6 **プロパティ**パネルでBIM空間のプロパティを編集します。

表現を**ソリッド**から**占有面積**に変更することで、より目立たないビジュアルになります。

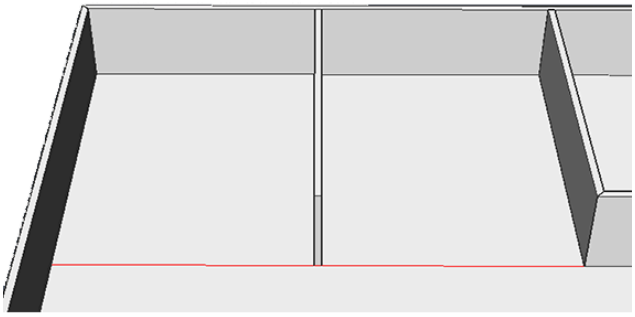
注：BIM空間の**建物**および**階**プロパティを編集すると、その空間に含まれる(つまりそのBIM空間が**空間**プロパティとして設定されている)要素の対応するプロパティが上書きされます。

23.11.4 手順：仮想境界線からBIM空間を作成

これらは仮想境界線が必要なケースです。例えば、独立した駐車空間、エネルギー分析のための大きな講堂空間などです。

1 空間を線形図形で分割します。これらはハッチングまたは線分です。

1



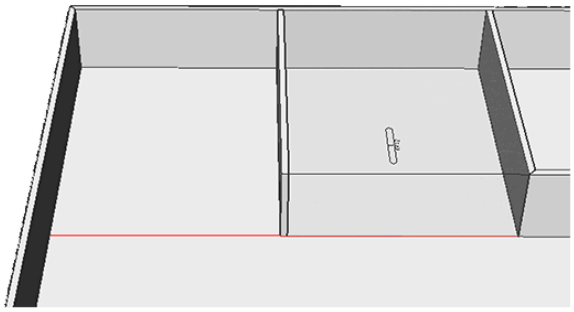
2 区切りとなる要素(赤い線)を選択します。

3 それらを空間境界要素として分類します：**ホーム** > **分類** > **壁**。

またはクワッドの**BIM**で。

4 コマンドラインにBIMSPACEと入力し、空間内の点を選びます。

5



注：線分が空間を分割していない場合は、**プロパティ**パネルの**BIM**に進みます。**空間境界**が**オン**になっているか確認します。

23.11.5 BIM空間の自動作成

BIMIFYとBIMQUICKBUILDINGは、BIM空間を作成し、そこに情報を自動的に割り当てます。例えば、空間の階層や建物(BIMSPATIALLOCATIONSを参照)などです。このコマンドは、空間を拘束する要素を探し、可能な限り空間を作成します。

これらの空間は、手動で作られた空間のように機能し、独自のニーズに合わせて編集することができます。

23.12 カスタムプロパティ

23.12.1 概要

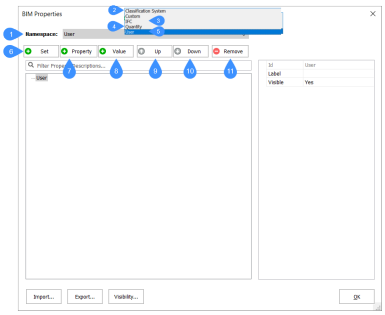
BricsCADでは、単一のコマンドで目的の建築要素に独自のプロパティを割り当てることができます。これをカスタムプロパティの割り当てと呼びます。方法としては、最初にカスタムプロパティセットを作成し、次にそれをプロパティセットが適用される建築要素に割り当てます。この方法は、BIMPROPERTIESコマンドで実行され、ダイアログボックスでカスタムプロパティセットの作成、編集、削除が可能です。このダイアログボックスでは、現在選択されているプロパティセットにプロパティを追加することもできます。重要な点は、これらのカスタムプロパティはIFC書き出しにも含まれているということです。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事**BIMPROPERTIES**をご参照ください。

ユーザー定義の数量定義の作成については、**BIM数量のカスタマイズ**の記事をご参照ください。

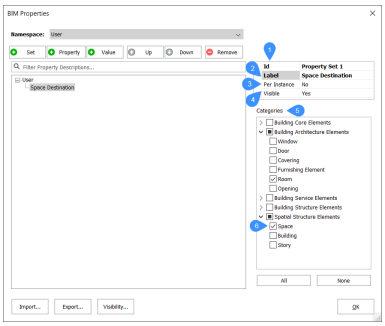
23.12.2 BIMプロパティダイアログボックスを使用する

1 コマンドラインにBIMPROPERTIESと入力して、**BIMプロパティ**ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、BIMプロジェクトのプロパティを指定したり編集を行います。



(1)名前空間	名前空間内のグループのプロパティセットです。
(2)分類システム名前空間	分類システム名前空間を表示します。
(3)IFC4名前空間	結合されたIFC2x3およびIFC4のプロパティを表示します。
(4)数量名前空間	ハードコードされた数量を表示します。
(5)ユーザー名前空間	カスタムプロパティを表示します。
(6)プロパティセットを追加ボタン	新しいプロパティセットを作成します。
(7)プロパティを追加ボタン	現在選択しているプロパティセットへプロパティを追加することができます。
(8)値を追加 ボタン	現在選択されているプロパティセットに対して、新しい値定義を作成します。
(9)上へボタン	選択したプロパティや値をリストの上に移動します。
(10)下へボタン	選択したプロパティや値をリストの下に移動します。
(11)削除ボタン	選択したプロパティセット、プロパティ定義、値定義を削除します。

2 カスタムプロパティセットを作成するには、まず名前空間のドロップダウンリストで**ユーザー**オプションを選択し、**プロパティセットを追加**ボタン(6)をクリックします。新しいプロパティセットは、**ユーザー**スペースに追加されます。プロパティセットを編集するには、次の操作を行います。



- **ID**(1)フィールドに名前を入力します。
- **ラベル**(2)フィールドに名前を入力します。

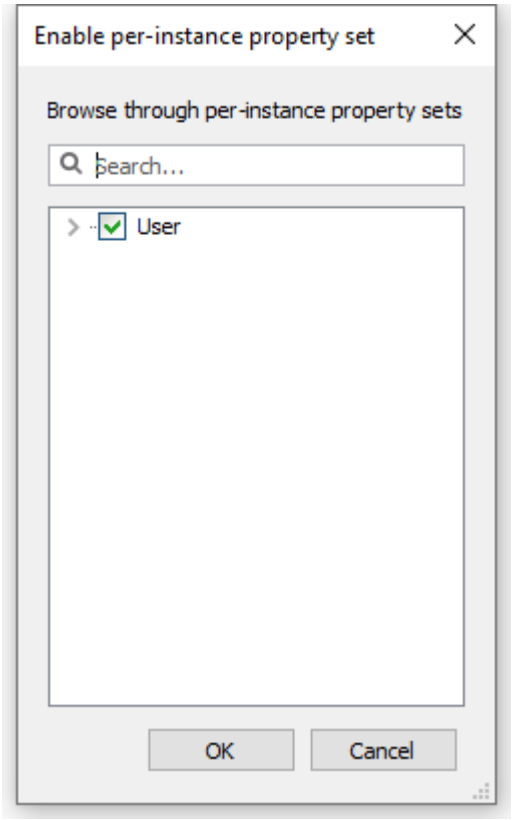
ラベル名は、プロパティツリーに表示されます。**ラベル**名が定義されていない場合は、**ID**名が表示されます。**ID**は一意である必要があります。

オプションで、カスタムプロパティを特定のインスタンス(3)にのみ適用させる、可視性を選択(4)することもできます。

注：**インスタンス毎**プロパティを有効にするには、次の手順を実行します：

- **プロパティ**パネルの**BIM-図形プロパティセット**プロパティをクリックします。
- **ブラウズ**ボタンをクリックします。

  インスタンス毎のプロパティセットを有効化ダイアログが表示されます：



- **ユーザー**名前空間にチェックを入れ、**OK**ボタンをクリックします。

プロパティセットが適用される建築要素のカテゴリー(5)を選択します。

カテゴリの1つを展開すると、建物要素のさまざまなサブカテゴリが表示されます。目的のチェックボックス(6)の横にあるチェックボックスをオンにして、プロパティセットに関連付けます。

3 カレントに選択されているプロパティセットにプロパティを追加するには、まず、プロパティセットを選択してから**プロパティセットを追加**ボタンをクリックして追加します。

プロパティを編集するには、次の操作を行います。

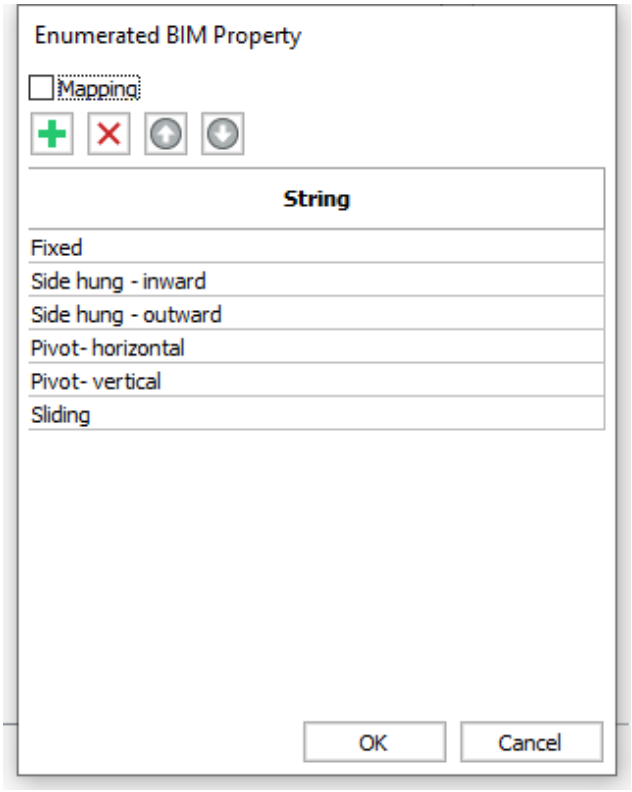
- **ID**(1)フィールドに名前を入力します。
- **ラベル**(2)フィールドに名前を入力します。
- (オプション)**説明**(3)欄に説明を入力します。
- **種類**(4)欄でプロパティの種類を選択します。オプションは以下の通りです。

  ブーリアン型：オンまたはオフの値。

  整数：-2147483648から2147483647までの整数。

  実数型：実数の近似値。

  文字列： 一連の文字で、数字と文字の両方を使用できます。
- 必要に応じて、列挙値(5)、つまりカスタムBIMプロパティに使用できる固定数の値を定義します。これらの値は、**プロパティ**パネルのドロップダウンリストで選択することができます。オプションで、**マッピング**オプションをチェックすると各値の説明が追加されます。



4 カレントに選択されているプロパティセットに値を追加するには、まず、プロパティセットを選択してから**選択プロパティセットへ値を追加**ボタンをクリックして新しい値を追加します。

式(1)プロパティを編集するには、選択した値の種類に従って値を入力します。**数量**名前空間の対応する BIM図形種類の**式**欄の構文を使用して、数式を構成することができます。

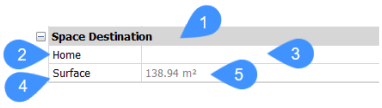
注：種類プロパティ(2)が**実数型**の場合、**メジャー**プロパティ(3)が利用可能になります。

- **メジャー**：値の次元を設定します。**長さ**、**面積**、**体積**、**質量**のいずれかです。

5 プロパティセット/プロパティを削除するには、ツリー内のプロパティセット/プロパティを選択し、**削除**ボタンをクリックしてください。

6 **OK**ボタンをクリックして、設定を確定します。

以前に設定したカテゴリ/サブカテゴリに関連付けられている建物要素を選択して**プロパティ**パネルを開くと、新しいプロパティセットが(1)新しく割り当てられたプロパティ定義(2)と値なし(3)と新しく割り当てられた値定義(4)とその値(5)が表示されます。



カスタムプロパティに値を割り当てるには、そのフィールド(3)に新しい値を入力し、**プロパティ**パネルで選択します。

23.13 BIM数量のカスタマイズ

23.13.1 概要

図形には一連のプロパティがあり、**プロパティ**パネルで確認できます。図形に特定の**BIM分類**または**種類**(例. **壁**や**スラブ**など)が割り当てられている場合、IFC共通プロパティや基本数量などのプロパティが追加で表示されます。パネルに表示されるプロパティは、BIMPROPERTIESコマンドで表示する**BIMプロパティ**ダイアログボックスで管理します。

23.13.2 名前空間

BIMプロパティダイアログボックスで管理する名前空間は、デフォルトでは**IFC**(1)、**数量**(2)、**ユーザー**(3)の3つです。**IFC**名前空間には、IFC2x3とIFC4のスキーマで定義されたプロパティが含まれており、IFCの読み込みや書き出し時にバックグラウンドで自動的に結合されます。このプロパティには、共通プロパティ(例. **耐火等級**や**遮音等級**などの壁の共通プロパティ)と数量(例. **壁数** > **公称高さ**(4))の両方が含まれます。これらの数量は、いわゆるソリッドのコア数量(5)に基づきます。詳細については、「コア数量」の記事を参照してください。

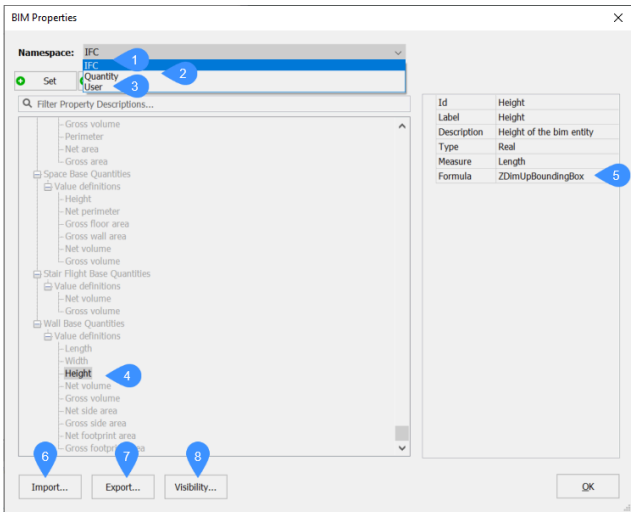
数量名前空間には、**IFC**名前空間のように、コア数量に基づいてハードコードされた数量のBIMオブジェクトが含まれています。

注：数量名前空間は廃止されており、代わりに**IFC**名前空間の数量が推奨されますが、バージョンV20以前との互換性があるため、**BIMプロパティ**ダイアログに表示しています。

ユーザー名前空間では、ユーザーが独自のプロパティ定義を作成することができます。カスタムプロパティの詳細については、「カスタムプロパティ」も参照してください。

左下の**書き出し**ボタン(7)をクリックすると、図面に定義したすべてのプロパティセット(プロパティ/数量)をXMLファイルに書き出すことが可能です。書き出したファイルは別の図面で読み込むことができます。

名前空間または属性セットの表示/非表示は、**可視性**ボタン(8)をクリックしてオンとオフを切り替えます。



注：このようにすると、名前空間は特定のプロジェクトにのみ読み込まれるようになります。名前空間をすべてのプロジェクトに読み込ませたい場合は、**設定**ダイアログを開き、**BIM** > **一般** > **デフォルトのプロパティパス**に新しいパスを追加します。デフォルトは、C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25ja_JP¥Supportです。たとえば、**IFC**の名前空間を含む**bimproj_IFC.xml**もここにあります。

23.13.3 コア数量

コア数量とは、そのソリッドの幾何的特徴に基づいて計算されるソリッドの数量です。ユーザー定義による数量で使用します。コア数量は、前項の**IFC**プロパティで定義する数量の基になります。

たとえば、**IFC**名前空間の**壁の基本数量**では、壁の**公称高さ**はソリッドの**ZDimUpBoundingBox**で定義されており、これがコア数量となります。コア数量の一覧は以下の通りです。

コア数量	説明	計測値	種類
NumberOfPlies	アタッチされた複合材のプライ数です。		**整数**
XDimUpBoundingBox	グローバルなZ軸回転の自由度を持つ境界ボックスのX寸法です。	**長さ**	**実数**
YDimUpBoundingBox	グローバルなZ軸回転の自由度を持つ境界ボックスのY寸法です。	**長さ**	**実数**
ZDimUpBoundingBox	グローバルなZ軸回転の自由度を持つ境界ボックスのZ寸法です。	**長さ**	**実数**
XDimFreeBoundingBox	3D回転の自由度を持つ境界ボックスのX寸法です。	**長さ**	**実数**

コア数量	説明	計測値	種類
YDimFreeBoundingBox	3D回転の自由度で見つけられた境界ボックスのY寸法です。	**長さ**	**実数**
ZDimFreeBoundingBox	3D回転の自由度で見つけられた境界ボックスのZ寸法です。	**長さ**	**実数**
DistanceBetweenMajorSurfaces	主要なサーフェス間の距離です。	**長さ**	**実数**
FirstMajorSurfacePerimeter	最初の(最大の)主要なサーフェスの外周です。	**長さ**	**実数**
SecondMajorSurfacePerimeter	2つ目の主要なサーフェスの外周です。	**長さ**	**実数**
LinearAxisLength	線分要素の軸の長さです。	**長さ**	**実数**
VariablePlyThickness	可変式プライの厚みです。	**長さ**	**実数**
FirstMajorSurfaceNetArea	開口部を差し引いた後の最初の(最大の)主要なサーフェスの正味表面積です。	**面積**	**実数**
FirstMajorSurfaceGrossArea	開口部を差し引く前の最初の(最大の)主要なサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**
SecondMajorSurfaceNetArea	開口部を差し引いた後の2つ目の主要なサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**
SecondMajorSurfaceGrossArea	開口部を差し引く前の2つ目の主要なサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**
IsMajorSurfacesParallel	主要な面が平行であるかどうかを示します。		**ブーリアン型**
TotalSurfaceNetArea	開口部を差し引いた後のソリッドサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**
TotalSurfaceGrossArea	開口部を差し引く前のソリッドサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**
FootprintNetArea	開口部を差し引いた後の最下段のソリッドサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**

コア数量	説明	計測値	種類
FootprintGrossArea	開口部を引く前の最下段のソリッドサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**
ProjectedNetArea	グローバルXY平面に投影されたソリッドサーフェスの面積で、開口部を差し引いたものです。	**面積**	**実数**
ProjectedGrossArea	開口部を減算する前の、グローバルXY平面に投影されたソリッドのサーフェスの面積です。	**面積**	**実数**
CrossSectionNetArea	開口部を減算した後の線形要素の断面の面積です。	**面積**	**実数**
OuterSurfaceNetArea	開口部を差し引いた後の線形要素の外面の面積です。	**面積**	**実数**
NetVolume	開口部を差し引いた後のソリッドの体積です。	**体積**	**実数**
GrossVolume	開口部を差し引く前のソリッドの体積です。	**体積**	**実数**

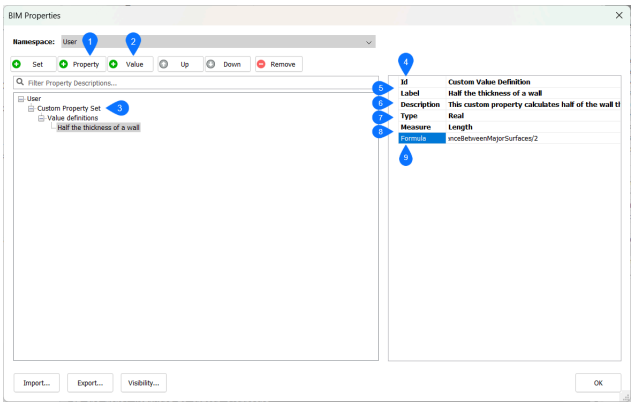
23.13.4 ユーザー定義の数量

ユーザー名前空間では、**プロパティ**(1)ボタンを使用してカスタムプロパティセット内にカスタムプロパティを作成することができます。**手順**の**カスタムプロパティ**の記事を参照してください。

また、**値**ボタン(2)を使って、ユーザー定義した数量を作成することも可能です。下図は、**カスタムプロパティセット**(3)の中にユーザー定義による数量を作成した様子を示しています。このユーザー定義の数量(または値定義)は、以下の属性を持ちます：

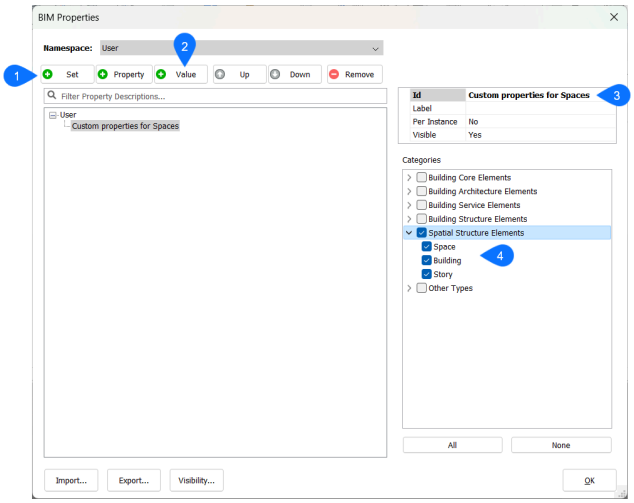
- **Id**(4)：識別子です。
- **ラベル**(5)：プロパティパネルに表示される数量の名前です。IDと同じでも問題ありませんが、**IDは一意でなければなりません。**
- **説明**(6)：数量の説明です。
- **種類**(7)：数量の種類です。通常、数量は**実数**値で定義します。
- **計測値**(8)：数量の計測値です。**長さ**、**面積**、**体積**、**質量**かどうかを定義します。
- **式**(9)：数量の実際の数式です。ここではコア数量や、手順の「パラメータと拘束を用いた作業」で定義した数式を使用します。

例では、壁の半分の厚さを表示する数量を**DistanceBetweenMajorSurfaces/2**で計算するよう定義しています。



23.13.5　手順：ユーザー定義の数量の作成

ここでは、ユーザーが設定可能な数量の作成方法について説明します。たとえば、部屋のような空間オブジェクトの数量を定義してみましょう。定義する数量を**密集性**とし、空間の体積を、その空間のすべての側面の面積の合計で割った値とします。



1　コマンドラインにBIMPROPERTIESと入力して、**BIMプロパティ**ダイアログボックスを開きます。

2　**ユーザー**名前空間を現在の名前空間に設定します。

3　**セット**ボタン(1)をクリックして新しいプロパティセットを作成し、名前(3)を付けます。

4　プロパティセットを1つまたは複数のカテゴリー(4)に割り当てます。この例では、空間要素に割り当てます。

5　**値**ボタン(2)をクリックして、新しい値を定義します。

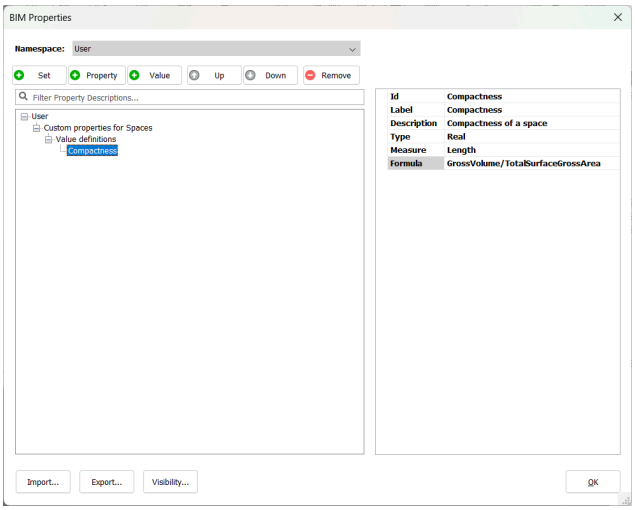
6　定義の**Id**と**ラベル**を、たとえば**密集性**とします。

7　**(オプション)**定義に説明を付けます。

8　定義に正しい**種類**を割り当てます。ここれでは、2つの**実数**から求める値なので**実数**を指定します。

9　**計測値**を割り当てます。計算結果は、体積を面積で割った値なので**長さ**を指定します。

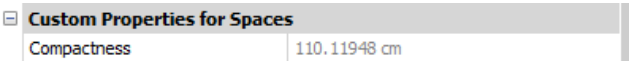
10　**式**フィールドに数式を入力します。空間の体積は、**GrossVolume**という名前のコア数量です。また、空間の四方の面積の合計もコア数量で、名前は**TotalSurfaceGrossArea**です。したがって、**密集性** = **GrossVolume/TotalSurfaceGrossArea**と定義することができます。



11 **OK**をクリックして**BIMプロパティ**ダイアログボックスを閉じます。

12 壁やスラブなどの周囲の要素を作成し、BIMSPACEまたはBIMIFYコマンドを使用して内部に空間を定義するか、またはソリッドを作成し、BIMCLASSIFYを使用して**空間**として分類することで、空間を表す体積を作成します。

13 空間を選択します。**プロパティ**パネルで、他のプロパティセットの下にユーザーが定義したプロパティが表示されます。



23.14 スラブの耐荷重性方向

23.14.1 コマンド

BIMSETLOADBEARINGDIRECTION

23.14.2 BIMSETLOADBEARINGDIRECTIONについて

BricsCAD BIMでは、BIMSETLOADBEARINGDIRECTIONコマンドにより、スラブの耐荷重性方向を0、1、または2に定義することができます。

3Dモデルで耐荷重性方向を定義した後、BIMTAGコマンドの**手動**オプションを使用して、平面図で耐荷重性方向を示すことができます。

23.14.3 耐荷重性方向の指定

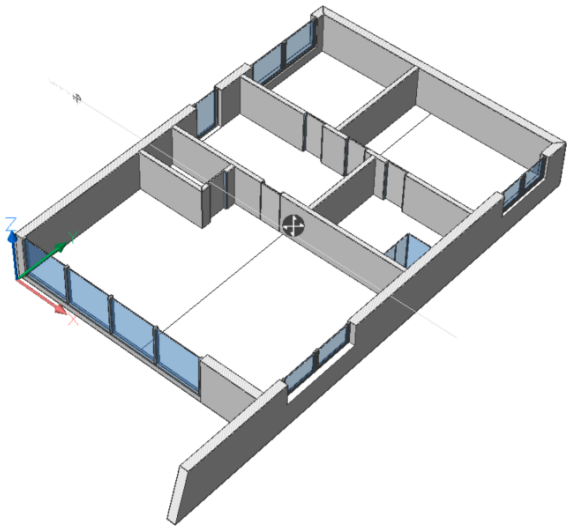
BIMSETLOADBEARINGDIRECTIONコマンドで処理できるのは、**BIMスラブ**に分類されたソリッドのみです。BIMIFYまたはBIMCLASSIFYコマンドを使用して、ソリッドを**BIMスラブ**に分類します。

1 BIMSETLOADBEARINGDIRECTIONコマンドを起動します。

1 **プロンプト表示**：スラブを選択

2 スラブをクリックします。断面図の**クリップ表示**プロパティを設定して、スラブを選択すると良いかもしれません。

スラブの中央にはウィジェットが表示されます。



3 ウィジェットを繰り返しクリックします。Enterを押すか、右クリックして耐荷重性方向を確定します。

23.14.4 断面図での耐荷重性記号の追加

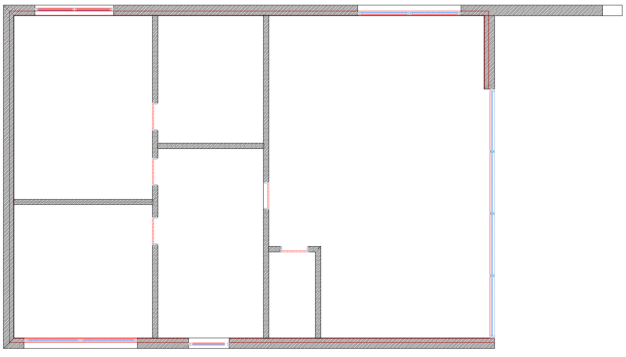
1 断面図に耐荷重性タグを挿入する際には、スラブで生成されるラインを選択する必要があります。スラブは通常、壁と重なっているので、**BIM断面**図形のプロパティで**隠線** > **表示**を**はい**に設定する必要があります。

Hidden Lines

Show	Yes
Color	Red
Layer	0
Linetype	Continuous
Linetype scale	1
Plot style	ByColor
Lineweight	ByLayer

次に、断面図のBIMSECTIONUPDATEコマンドを実行します。

2 **断面図**を開きます。



3 BIMTAGコマンドを起動します。

4 **手動**オプションを選択します。

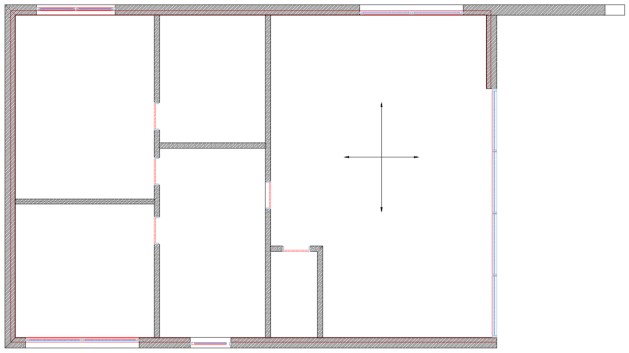
5 **タグタイプの変更**オプションを選択します。

6 **耐荷重性方向**タグタイプを選択します。

7 スラブの端にある点をクリックします。

8 タグがカーソルにくっついて表示されます。

9 クリックするとタグが配置されます。

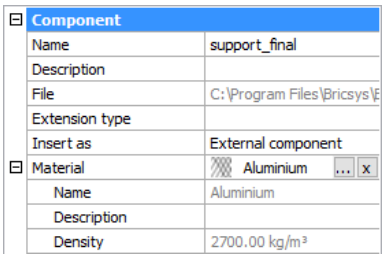


23.15 物理的マテリアル

23.15.1 物理的マテリアルエディターを開く

以下のいずれかの操作を行います：

- BLMATERIALSコマンドを起動します。
- 複合材パネルのハンバーガーメニュー(マテリアルダイアログを開く)を使用します
- **メカニカルブラウザ**で、コンポーネントの**マテリアル**プロパティの**参照**ボタン( )をクリックします。



23.15.2 物理的マテリアルの作成

物理的マテリアルは、プロジェクトまたはセントラルデータベースのいずれかで作成できます。新しいマテリアルをゼロから作成することも、既存のマテリアルからコピーすることもできます。

ゼロから物理的マテリアルを作成

プロジェクト内または**セントラルデータベース内**のマテリアルリストでマテリアルを選択します。

以下のいずれかの操作を行います：

1 **物理的マテリアル**ダイアログボックスの**新しいマテリアル**ボタン( )をクリックします。

2 右クリックして、コンテキストメニューから**新しいマテリアル**を選択します。

選択したデータベースに**新規**という名前のマテリアルが追加されます。これで、新しいマテリアルを編集することができます。

既存のマテリアルをコピーして物理的マテリアルを追加

プロジェクト内または**セントラルデータベース内**のマテリアルリストでマテリアルを選択します。以下を実行します：

1 コピーしたいマテリアルを右クリックし、コンテキストメニューから**複製**を選択します。

2 選択したデータベースに、**<既存のマテリアル>-2** と名前が付いたマテリアルが追加されます。

3 マテリアルのコピーを編集します。

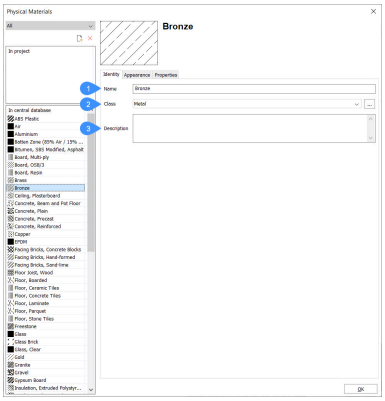
23.15.3 物理的マテリアルの編集

物理的マテリアル定義の各種設定は、**物理的マテリアル**ダイアログの3つのタブで以下の3つのグループに分かれています：

- **識別**：マテリアルの**名前**、**クラス**、**説明**。
- **外観**：複合材を構成しているBIMマテリアル画層。
- **プロパティ**：**価格**、**製造元**、**厚さ**等、建築材のプロパティ。

物理的マテリアルダイアログボックスの**プロジェクト内** または **セントラルデータベース**のリストで、編集したいマテリアルを選択します。

識別タブページ

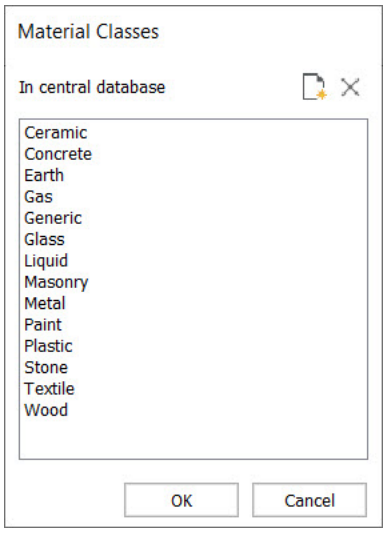


1 マテリアルの**名前**を入力します。

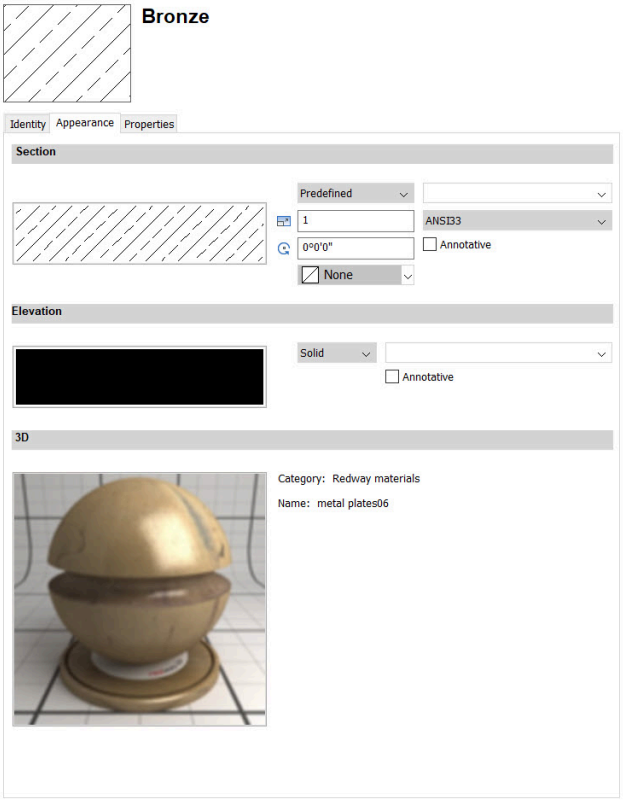
2 ドロップダウンリスト*から**クラス**を選択します。

3 **(オプション)説明**を入力します。

***参照**ボタン( )をクリックすると、**マテリアルの分類**ダイアログボックスが開き、新しいマテリアルクラスを作成することができます。



外観タブページ



- **断面図の設定**

  断面図の設定は、生成された2D断面における断面境界線の塗り潰しを定義します。

  a **ハッチングタイプ**ボタンをクリックし、ハッチングのタイプ以下から選択します：**無し**、**ソリッド**、**直線形**、**定義済み**、**カスタム**

  b 定義済みまたはカスタムのハッチングパターンを選択するには、以下のいずれかの手順で行います。

  - **ハッチング**プレビューをクリックし、**断面ハッチングパターン**ダイアログボックスでパターンを選択します。
  - **ハッチングパターン名**ボタンをクリックし、リストからパターンを選択します。

c **尺度**を定義します。
断面図の最終的なパターン尺度は、物理的マテリアルの**尺度**設定と**BIM**断面図の**尺度**プロパティの値の積となります。その結果、ハッチングパターンの印刷尺度は、断面図の尺度から独立したものになります。

d **回転**角度を設定します。

e **画層**欄に名前を入力するか、下向き矢印ボタンをクリックして一覧から画層を選択します。

f オプションで**異尺度対応**にチェックを入れます。

g 必要に応じて、選択したハッチングパターンの**ハッチング背景色**を選択します。

- **立面図設定**

  立面図設定は、生成された2D断面図における断面背景線の立面塗り潰しを定義します。立面塗り潰しを使用するには、2D断面図のビューポートで**立面塗り潰しを生成**の設定が有効になっている必要があります。

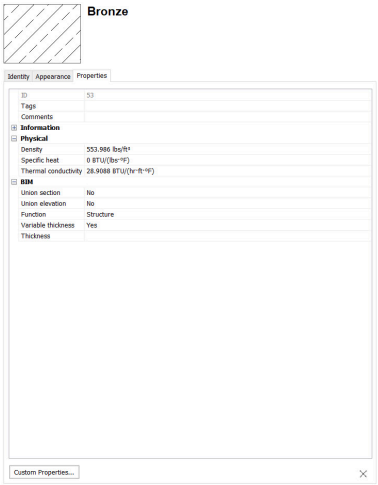
  上記の**断面図**の設定のうち、**尺度**の設定を除いた部分を参照してください。立面図ハッチングは**BIM**断面図の**尺度**プロパティとは独立しています。

- **3D設定**

  3D設定は、3Dモデルで使用されるレンダリングマテリアルを定義します。

  プレビュー画像をダブルクリックし、**レンダリングマテリアルを選択**ダイアログボックスでマテリアルを選択します。

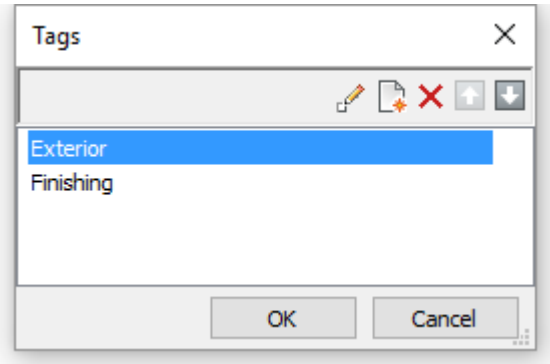
プロパティタブページ



1 **タグ** フィールドを編集します：タグはカンマで区切られます。

タグは大文字と小文字を区別します。

参照ボタン( )をクリックして**タグ**ダイアログボックスを開きます。



2 **新規項目**ボタン( )をクリックすると、新しいタグがリストの最後尾に追加されます。

3 リストでタグを選択し、ツールボタンをクリックします。

- ：選択したタグを編集します。
- ：タグを削除します。
- ：タグを上に移動します。
- ：タグを下に移動します。

4 **(オプション) 情報**プロパティを展開し、必要なフィールドに入力します。

5 **(オプション) フィジカル**プロパティを展開し、マテリアルのフィジカルプロパティを指定します。

6 **BIM**プロパティを展開します。

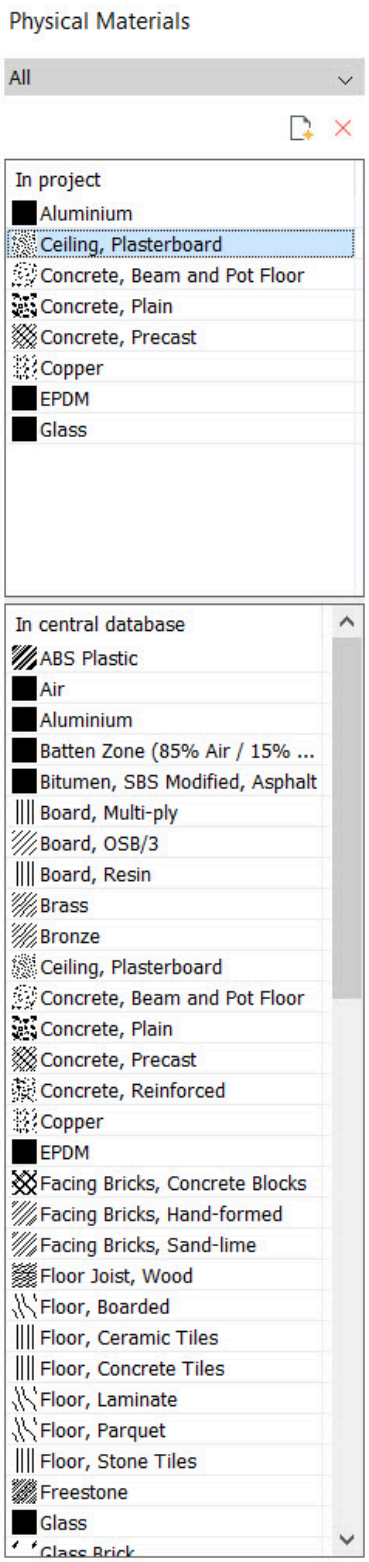
- **断面を結合**：このマテリアルの異なるソリッド間の断面図の接続線を削除するには、**はい**を選択します。**いいえ**を選択すると、接続線は保持されます。
- **立面図を結合**：このマテリアルの異なるソリッド間の立面図の接続線を削除するには、**はい**を選択します。**いいえ**を選択すると、接続線は保持されます。
- **機能**：ドロップダウンリストから選択します。
- **可変厚さ**：可変の厚みを許可する場合は**はい**を選択します。厚みが変化するマテリアルを含む複合材をソリッドに適用すると、複合材全体の厚みが元のソリッドの厚みと一致するようにプライの厚みが適応します。可変の厚みを許可しない場合は、**いいえ**を選択します。すべてのプライが一定の厚さを持つ複合材をソリッドに適用する場合、ソリッドの厚さは複合材の厚さに合わせて調整されます。
- **厚さ**欄にデフォルトの厚さを入力します。

7 **OK**をクリックします。

23.15.4　プロジェクトとライブラリデータベース間でのマテリアルのコピー

1　ソースデータベースでマテリアルを選択します。

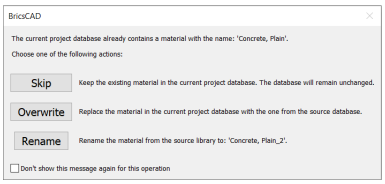
1　Ctrlを長押しすると、複数のマテリアルを選択できます。



2 マテリアルを対象のデータベースにドラッグします。

3 選択セットがコピーされます。

1つまたは複数のマテリアルがコピー先のデータベースにすでに存在する場合は、警告ボックスが表示されます。



適切なボタンをクリックすると、既存のマテリアルを上書き、複製、スキップすることができます。**この操作ですべてのマテリアルに適用**オプションが選択されている場合、このオプションは既存のすべてのマテリアルに適用されます。複製された資料には、名前にインデックス番号が付け加えられています。

23.15.5 物理的マテリアルの削除

1 **物理的マテリアル**ダイアログボックスで、プロジェクト内またはライブラリ内データベースのマテリアルを選択します。

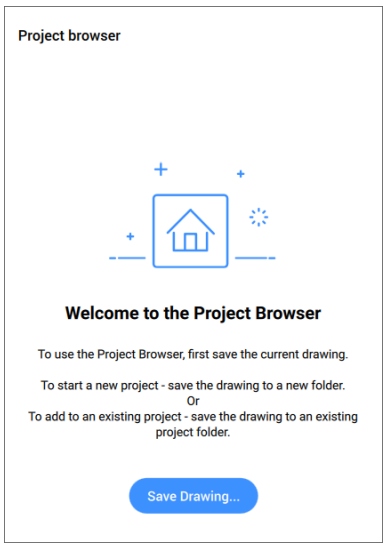
2 **削除**をクリックします。

注：複合材やメカニカルコンポーネントに使用されているマテリアルは削除できません。

23.16 BIMプロジェクトブラウザの使用

23.16.1 プロジェクトブラウザパネル

画面の左側に**BIMプロジェクトブラウザ**パネルがあります。



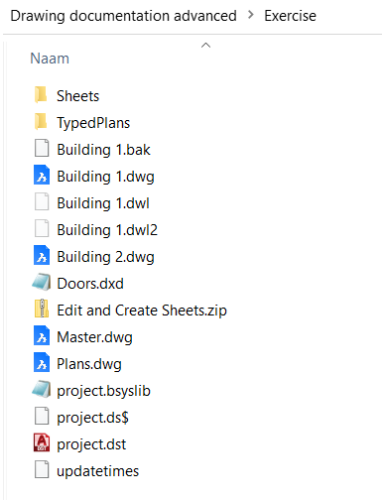
注：**BIMプロジェクトブラウザ**がパネルに表示されない場合は、パネル内で右クリックして**パネル** > **BIMプロジェクトブラウザ**を選択します。

23.16.2 BIMプロジェクトの作成

BIMプロジェクトを作成するには、モデル図面を保存していることが必要です。

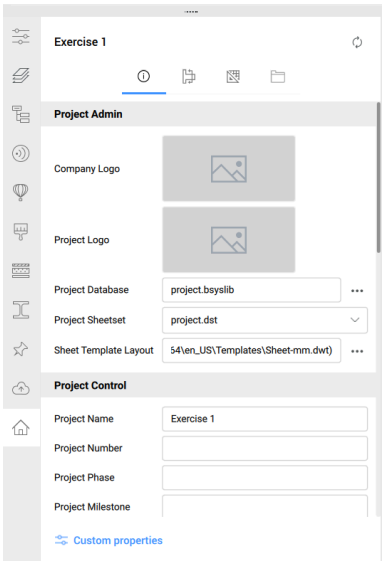
1 **BIMプロジェクトブラウザ**の**プロジェクトを作成**ボタンをクリックします。

マスターのすべての外部参照ファイルがプロジェクトに含まれます。

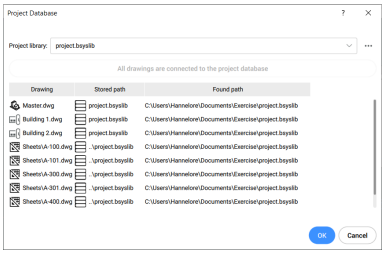


他の図面も、プロジェクトフォルダーに保存してから**プロジェクトに追加**をクリックするだけで、プロジェクトに追加できます。

2 **BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**情報**タブが開きます。



3 **プロジェクトデータベース**が作成されます。**プロジェクトデータベース**フィールドの右側にある**参照**ボタン(…)を押すと、**プロジェクトデータベース**ダイアログボックスが開きます。



すべての図面が同じプロジェクトデータベースに接続されていることを確認してください。つまり、すべてのモデルが、マテリア

ル、複合材、プロファイル、階、建物の同じ単一の定義を参照していることになります。

注：BIMPROJECTINFOコマンドを起動すると、**BIMプロジェクト情報**ダイアログボックスが開き、プロジェクトデータベースの詳細について確認できます。

4 **プロジェクトシートセット**フィールドには、使用されているシートセットが表示されます。ドロップダウンメニューを開くと、プロジェクトフォルダーにある別のシートセットを選択できます。

5 シートテンプレートレイアウトには、カレントテンプレートのパスが表示されます。**参照**ボタン(…)をクリックしてテンプレートを変更します。

6 **(オプション)プロジェクトコントロール**セクションでプロジェクト情報を設定します。

画像欄をクリックすると表示される**会社ロゴの選択**ダイアログボックスから、**会社ロゴ**ファイルを選択します。

ピクチャフィールドをクリックすると表示される**プロジェクトロゴの選択**ダイアログボックスから、**プロジェクトロゴ**ファイルを選択します。

プロジェクト名欄に名前を入力します。(デフォルトのプロジェクト名は親フォルダーの名前です)

シートセットのカスタムプロパティと**デフォルトのシートカスタムプロパティ**がシートのタイトルブロックに表示されます。

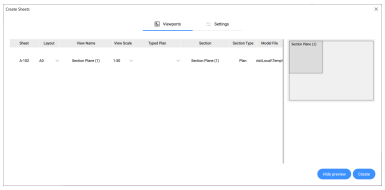
23.16.3 プロジェクトを更新

更新ボタン(↻)をクリックします。**プロジェクトブラウザ**がモデルの変更に合わせて更新されます。

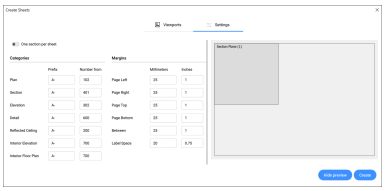
23.16.4 シートを作成

プロジェクトブラウザパネルの**断面とビュー**タブに移動し、断面を右クリックします。**シートを作成**を選択すると、**シートを作成**ダイアログボックスが開きます。

1 **ビューポート**タブには、作成されるすべてのシートが一覧表示され、それらのシート名、レイアウト、ビュー名、ビュー尺度、タイププラン、断面名、断面タイプ、モデルファイル名が表示されます。

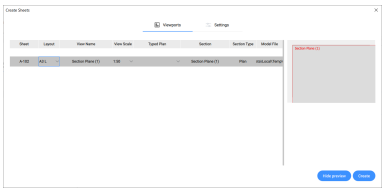


2 **設定**タブには、作成されるシートの設定が一覧表示されます。シートの名前は、**カテゴリ**タブセクションで変更できます。シートの余白は、**余白**タブセクションで設定できます。**1シートにつき1断面**のオンとオフを切り替えることにより、シートごとに複数の断面を許可することもできます。



3 作成したシートのプレビューがダイアログボックスの右側に表示されます。**プレビューを隠す**をクリックして、プレビューをオフに切り替えます。

注：ビューポートがレイアウトより大きい場合、プレビューが赤色で表示されます。



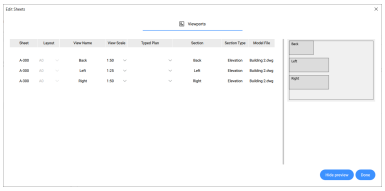
4 **作成**をクリックしてシートを作成します。すると、**プロジェクトブラウザ**パネルの**シート**タブにシートが表示されます。

23.16.5 シートを編集

プロジェクトブラウザパネルの**シート**タブに移動し、シート/シートビューを右クリックします。**シートを編集**を選択すると、**シートを編集**ダイアログボックスが開きます。

1 **ビューポート**タブには、選択したシートのすべてのシートビューが一覧表示されます。尺度を編集し、選択したシートビューのタイププランを選択できます。

注：レイアウト上のシートのビュー位置は、**シートを編集**ダイアログボックスでは変更することはできません。これを行うには、**シート**タブに移動し、シートの名前をダブルクリックしてシートの図面を開きます。



2 シートのプレビューがダイアログボックスの右側に表示されます。**プレビューを隠す**ボタンをクリックして、プレビューをオフに切り替えます。ビューポートがレイアウトより大きい場合、プレビューが赤色で表示されます。この場合、レイアウトに合わせてビュー尺度を調整できます。

注：既存のシートのレイアウトサイズは、**シートを編集**ダイアログボックスでは変更することはできません。別のレイアウトサイズにするには、目的のサイズで新しいシートを作成する必要があります。

3 **完了**をクリックして変更内容を保存します。

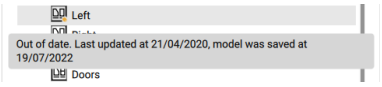
23.16.6 自動バックグラウンド更新

プロジェクトブラウザの**シート**タブに移動します。下部で**自動バックグラウンド更新中**のオン/オフを切り替えることができます。有効にすると、ユーザーのワークフローを中断することなく、断面の結果が自動的に計算されます。

注：**プロジェクトブラウザ**パネルの**シート**タブで、オレンジ色の塗りつぶし丸のアイコンがある図面は、期限切れまたは未作成の図面です。それらを右クリックし、**今すぐ更新**または**バックグラウンドで更新**を選択すると、プロジェクトに含まれるモデルの変更に合わせて更新されます。

注：赤い塗りつぶし円アイコンの付いた図面にはエラーがあります。これは、断面が削除された場合または断面が正しい場所に保存されていない場合に発生します。

注：期間外のシートにカーソルを合わせると、シートの最終更新時刻とモデルが最後に保存された時刻がツールチップに表示されます。



23.16.7 部品表(BOM)の作成

BIMプロジェクトブラウザパネルで、**ファイル**タブを選択して**追加**ボタンをクリックします。新しい部品表を作成するには**新規部品表**オプションを選択し、既存の部品表を追加するには**部品表を読み込み**オプションを選択します。部品表ファイルは、**Schedules**フォルダーに一覧表示されます。

注：BIMプロジェクトブラウザパネルは、従来の建具表ワークフローをサポートしています。DXDファイルを**Schedules**フォルダーに手動で追加することができます。DXDファイルが**Schedules**フォルダーにある場合、部品表ファイルと同様のオプションがコンテキストメニューに表示されます。すべてのコンテキストメニューオプションは、関連記事**BIMプロジェクトブラウザパネル**に記載されています。

開いているシートに部品表を配置するには、**ファイル**タブツリーに移動して、**Schedules**フォルダー内の部品表ファイルを選択し、シートのペーパー空間にドラッグ&ドロップします。こうすることで、部品表ファイルへのデータリンクを持つ表が生成されます。

部品表ファイルを編集するには、BMBOMTEMPLATEEDITコマンドを使用し、DATALINKUPDATEコマンドを使い対応する配置済み建具表を更新します。

注：部品表の作成と編集に関する詳細は、**BMBOMTEMPLATEEDITコマンド**および**部品表マネージャーパネル**の記事を参照してください。

23.17 空間的位置

23.17.1 コマンド

BIMATTACHSPATIALLOCATION、BIMSPATIALLOCATIONS

23.17.2 概要

空間的位置では、プロジェクト内の建物とその階を指定することができます。BricsCADでは、1つのBIMモデルのファイルに、1つの敷地に複数の建物を置いて、それぞれの建物を複数階にすることができます。プロジェクトの中で図形が建物要素として分類されると、分類された図形は**建物**と**階**のプロパティを持ちます。BIMモデル内のすべての建築要素は、特定の建物内の特定の階に存在します。

このコマンドの詳細については、**BIMSPATIALLOCATIONS**コマンドの記事を参照してください。

23.17.3 手順：建物要素に建物と階を割り当てる

1 BIMSPATIALLOCATIONSコマンドを起動します。

2 **新しい建物**アイコン()をクリックして、新しい建物をモデルに追加します。

3 プロパティグリッドに記入して、新しい名前または既存のプロパティの値を指定します。

4 **新しい階**アイコン()をクリックして、選択した建物に新しい階を追加します。

5 プロパティグリッドに記入して、新しい名前または既存のプロパティの値を指定します。

6 **(オプション)削除**アイコン()をクリックして、選択sひた建物または階を削除します。

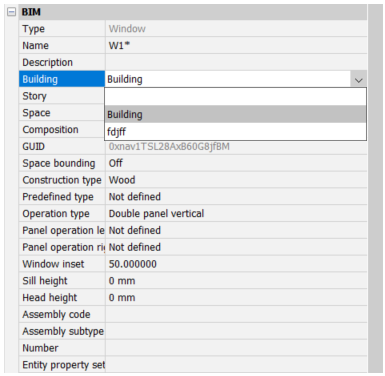
7 **(オプション)空間位置を読み込み**ボタン()をクリックして、.txtファイルから空間位置を読み込みます。

8 図面領域内の建物要素を選択して、適切な空間的位置に関連付けます。

9 選択した建築要素のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

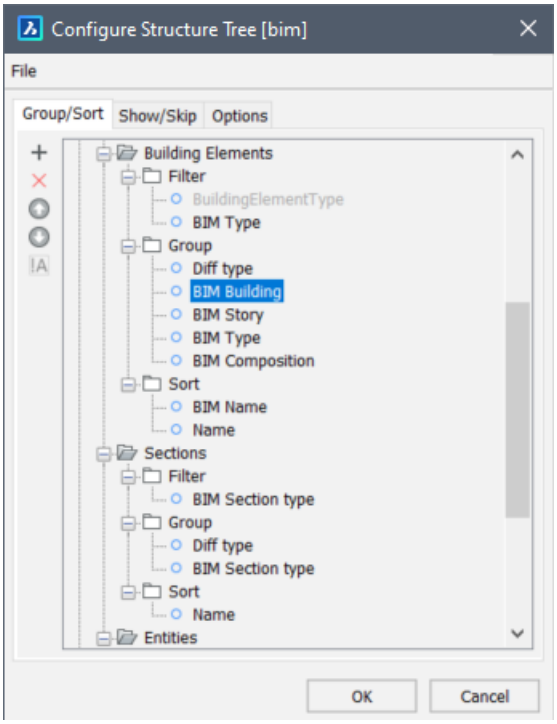
10 以下の手順で、これらの建物要素に建物と階層を割り当てます：

- **プロパティ**パネルの**BIM**断面図を展開します。
- **建物**フィールドをクリックして、矢印を使用して建物を選択します。
- **階**フィールドをクリックして、矢印を使用して階を選択します。



23.17.4 構造パネルでの空間的位置の表示

構造パネルには、図面内のすべての図形が表示されます。デフォルトでは、建物要素の構造は特定の形で整理されています。建物要素は、**建物**、**階**、**BIMタイプ**、**複合材**ごとにそれぞれグループ化されています。この構成は自由に設定できます。**構造**パネル内で右クリックして、**設定**をクリックすると、新しいウィンドウが開きます。詳細については、**構造パネルの使用**の記事を参照してください。



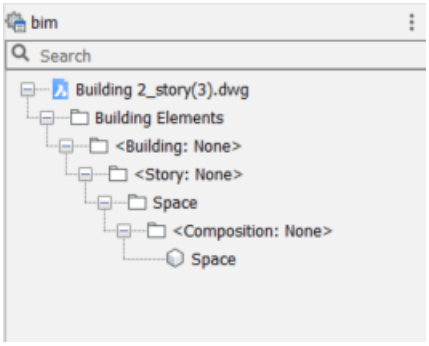
構造パネルに**BIM建物**または**BIM階**がない場合は、手動で追加できます。詳細については**構造パネルの使用**の記事を参照してください。

23.17.5 BIMATTACHSPATIALLOCATIONについて

新しい**空間**を割り当てるには、BIMSPACEコマンドを使用します。空間は、まだ空間的位置が決まっていないため、建物に応じて割り当てられるとは限りません。BIMATTACHSPATIALLOCATIONコマンドを使用して、空間的位置を空間に割り当てます。

注：新規の**空間**を建物要素に空間を割り当てると、建物要素の**階**および**建物**のプロパティが空間のプロパティで上書きされます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMATTACHSPATIALLOCATION』をご参照ください。



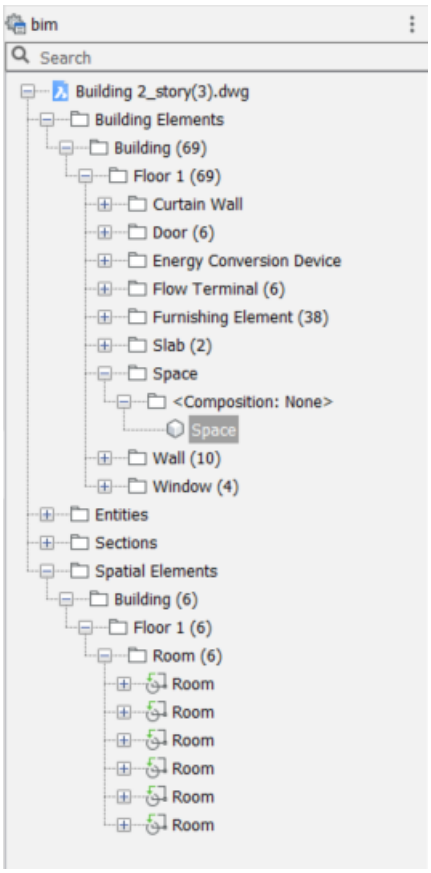
23.17.6 手順：空間的位置をアタッチする

1 BIMATTACHSPATIALLOCATIONコマンドを起動します。

2 **プロンプト表示**：ロケーション番号を入力するか、[ロケーション自動アタッチ/カレントのロケーションをアタッチ解除]：**A**を押すと、空間をそれぞれの建物とフロアレベルに自動でアタッチします。

3 更新するには空間を選択し、**Enter**を押します。

4 **(オプション)U**を押して、空間的位置のアタッチを解除します。



23.18 BIMの構造パネル設定

23.18.1 コマンド

STRUCTUREPANEL

23.18.2 概要

構造パネルは、選択中のモデルに含まれる図形を表示するインタラクティブなツリーです。図形の表示方法は、設定によって異なります。BIMの場合、あらかじめ選択されている設定は定義済みの**bim** CSTファイルです。この設定は、**構造ツリー設定**ダイアログボックスで編集することができます。設定した構造ツリーは、そのままCSTファイルとして保存しておくことができます。CSTファイルは、デフォルトで**Supportフォルダー**に保存されます。

ツールバーまたはリボンパネルの上にカーソルを置き、右クリックしてコンテキストメニューから**構造**を選択します。

または、

コマンドラインにSTRUCTUREPANELと入力し、**Enter**を押します。

23.18.3 手順：構造パネルについて

1 **構造**パネルを開きます。

デフォルトでは、**構造**パネルは画面の左側に表示されます。パネル(1)の上部に**検索**欄があります。

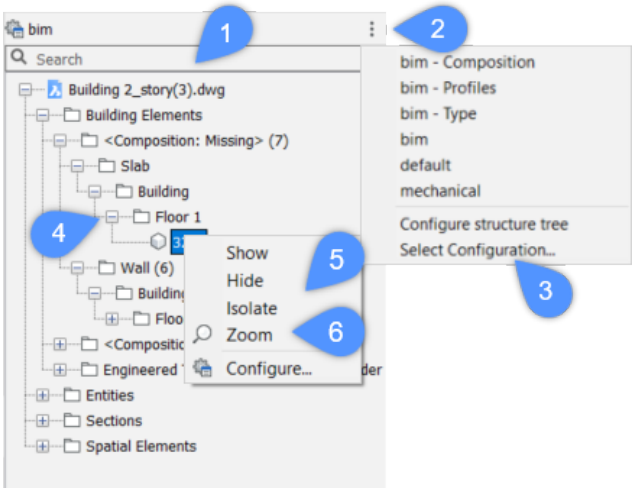
2 横縞ボタン(2)をクリックして、リストに構成ファイルをロードします。**構成を選択...**をクリックして、構成を指定するCSTファイルを選択します(3)。カレントの構成が左側に表示されます。選択したファイルに基づいて、BIMモデルがツリー構造で表示されます。

3 ノードの展開/折り畳みアイコン(4)をクリックすると、ノードを展開または折り畳みができます。グループ名を右クリックして**すべて展開**または**すべて折りたたむ**を選択すれば、すべてのサブノードを一度に展開または折りたたむことができます。

選択した名前の上で右クリックすると、モデル空間内の**構造**パネルで選択した図形を**表示**、**非表示**、**画層選択表示**(5)させることができます。

このコンテキストメニューでは、モデル内の特定の図形に**ズーム**(6)することもできます。

下図は、**構造**パネルを示しています。



23.18.4 手順：構造パネルでの検索

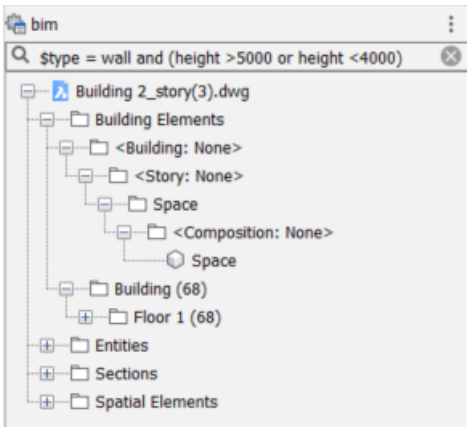
1 **構造**パネルの上部にある**検索**欄に入力すると、単純なテキスト検索が行えます：例えば、検索欄に「wall」と入力して**Enter**を押すと、**構造**パネルには、壁やカーテンウォールなど、名前に'wall'が含まれるすべてのものが表示されます。

2 テキスト検索は素早く検索するのに便利ですが、式を使用することでより強力なクエリが可能です。

3 式の頭に**$**を付けます。例えば、$type = wallと入力して**Enter**を押すと、BIM種別が「wall」の図形が検索されます。すなわち、この式を使って検索した場合、カーテンウォールはパネルに表示されません。

4 式は、複数のプロパティを使って、より複雑なフィルターを設定することができます。例えば、$type = wall and height > 5000と入力した場合、高さが5000mmを超える壁のみを表示させることができます。

5 論理式は、カッコを使って、$type = wall and (height > 5000 or height < 4000)のように入れ子にすることができます。



23.18.5　手順：ツリー構造の管理

構造パネルは、ツリー状の階層構造により、一連のルールが見やすく表示されます。各ルールには、フィルタープロパティ、グループ化プロパティ、ソートプロパティを設定できます。**構造**パネルでプロパティを整理することで、必要な図形だけを表示させることができるため、プロジェクトのパフォーマンスを向上させることができます。BIMモデルのツリーの場合、建物要素のタイプ・建物・階などに共通する階層を設定することができます。この階層を使用することで、様々なレベルでデータの表示を変えてプロパティを管理することができます。

ツリー構造を構成するには、次の操作を行います：

1　**構造**パネルの図面の名前を右クリックし、コンテキストメニューで**設定...**を選択します。

　構造ツリー設定ダイアログボックスが表示されます。

2　構造ツリーで既存のルールを選択して、**追加アイコン**(8)をクリックするか、右クリックして表示されたコンテキストメニューから**ルールを追加**を選択します。このメニューは、既存のルールの削除や名前の変更にも使用できます。

　新しいルールは、前に選択したルールの下に追加されます。新規に作成したルールの名前欄(9)をクリックして、新しい名前を入力します。

3　ルールの**グループ**(10)ノードを選択し、追加アイコンを使用するか、右クリックしてコンテキストメニューから**グループ化プロパティを追加**(11)を選択します。

　プロパティを選択ダイアログボックスが表示されます。リストから、グループにしたい**ルール**設定のプロパティを選択します。**OK**ボタンをクリックします。新しいプロパティが、**グループ**ノードに追加されます。

　フィルターノードを使用してプロパティを追加すると、選択したプロパティがこのノードに追加されます。

4　ツリー内で項目を移動するには、項目を選択し、**上に移動**(12)または**下に移動**(13)ボタンをクリックします。

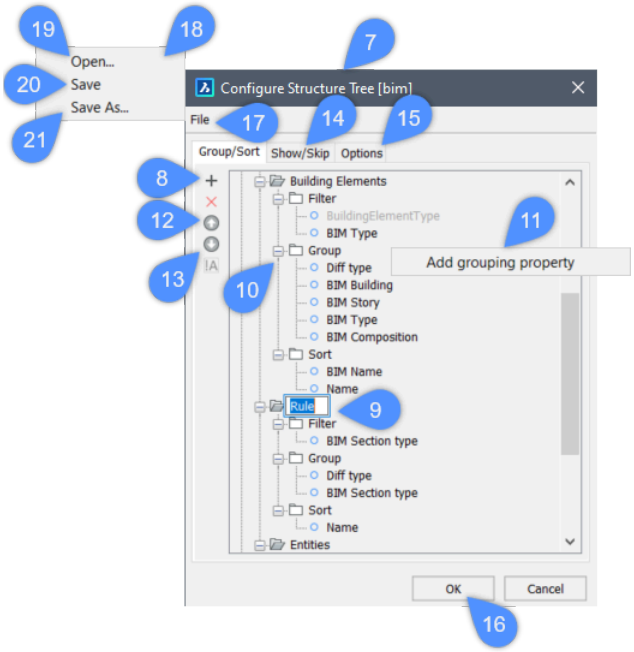
5　**表示/スキップ**(14)タブでは、図形の種類によってソートしたり除外したりして**構造**パネルに表示することができます。

6　構造ツリーを使用して、モデル内の図形のアクションを設定するには**オプション**(15)タブを選択します。**構造**パネルで図形を選択したときに、モデル空間で図形を選択状態にするかどうか指定することができます。

7　構成されたツリーを保存するには、次のいずれかを実行します：

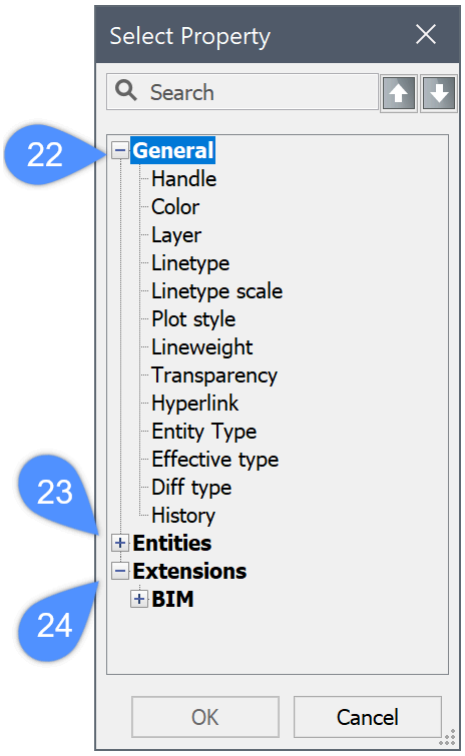
- **OK**(16)ボタンをクリックします。
- ダイアログボックスの**ファイル**(17)メニューをクリックし、一覧からオプション(18)のいずれかを選択します。

下図は、**構造ツリー設定**ダイアログボックスを示しています。



開く(19)	別の.CST設定ファイルを選択するにはファイルダイアログを開きます。
保存(20)	カレントの設定を保存し、ファイルダイアログを開いたままにします。
名前を付けて保存...(21)	カレントの設定を別の名前で保存し、ファイルダイアログを開いたままにします。

下図は、**プロパティを選択**ダイアログボックスを示します。



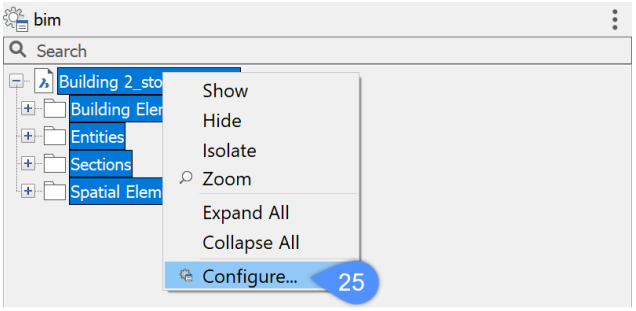
一般(22)	一般プロパティが含まれています。
図形(23)	図形プロパティの様々な種類が含まれています。
拡張(24)	**BIM**および**数量**に関して、拡張した各種プロパティを使用できます。

23.18.6　手順：ツリー構造でカスタムプロパティを使用する

BricsCADでは、GUIを使用して**プロパティを選択**ダイアログでユーザー定義/カスタムプロパティを追加することができます。**プロパティを選択**ダイアログには、現在のワークスペースに基づいて、図面のプロパティ一覧が動的に表示されます。ツリー構造をグループ化する場合、**プロパティを選択**ダイアログボックスのカスタムプロパティが使用できることに注意してください。

既存のカスタムプロパティを使用してツリー構造をグループ化するには、以下のようにします：

1　**構造**パネルの図面の名前を右クリックし、コンテキストメニューで**設定...**(25)を選択します。



構造ツリー設定ダイアログボックスが表示されます。

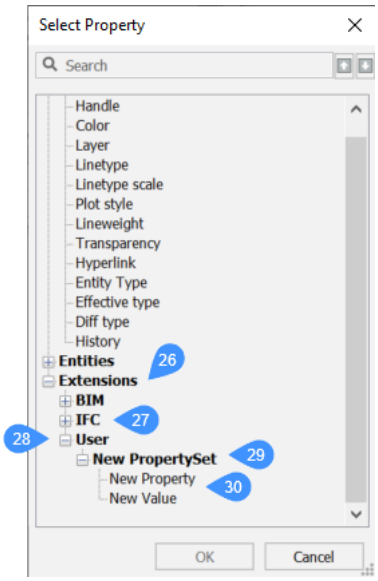
2 ルールの**グループ**ノードを選択し、**ルールまたはプロパティを追加**(+)アイコンをクリックします。

またはグループノードを右クリックして、コンテキストメニューから**グループ化プロパティを追加**を選択します。**プロパティを選択**ダイアログボックスが表示されます(以下の**プロパティを選択**ダイアログのイメージを参照)。カスタムプロパティを設定している場合は**拡張**(26)の下に表示され、名前空間でグループ化されます。

3 ノードの展開/折り畳みアイコンをクリックしてノードを展開または折り畳みます。

4 下図は、**プロパティを選択**ダイアログの**IFC**(27)と**ユーザー**(28)の名前空間を示しています。

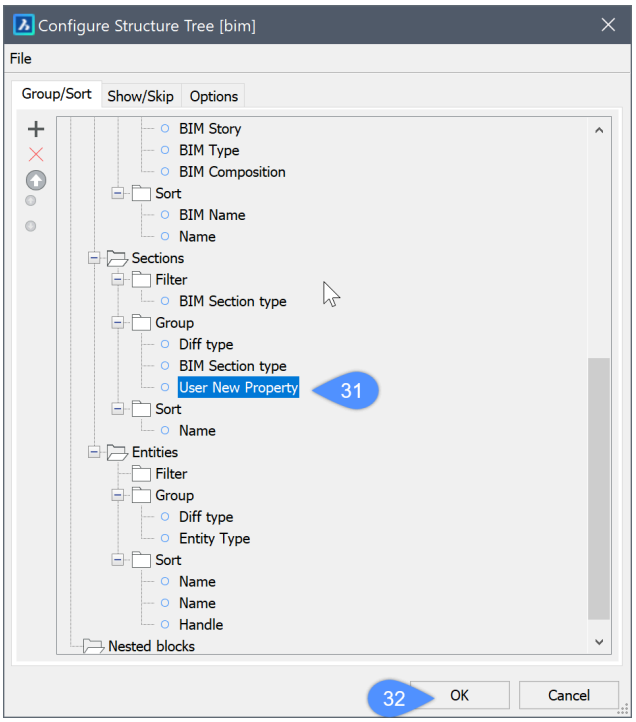
例では、**ユーザー**の名前空間が展開されて、このノードにあるプロパティセット(29)とプロパティ(30)が表示されています。



5 ツリー構造でグループ化するプロパティを選択し、**OK**をクリックします。

グループノードにプロパティ(31)が追加されます。

6 **OK**(32)をクリックすると、**構造**パネルで図形をグループ化するプロパティとして使用することができます。


Configure Structure Tree [bim]
File
Group/Sort
Show/Skip
Options
BIM Story
BIM Type
BIM Composition
Sort
BIM Name
Name
Sections
Filter
BIM Section type
Group
Diff type
BIM Section type
User New Property
31
Sort
Name
Entities
Filter
Group
Diff type
Entity Type
Sort
Name
Name
Handle
Nested blocks
32
OK
Cancel

24. 設計補助機能

24.1 BIM化の使用

24.1.1 コマンド

BIMIFY

24.1.2 BIM化について

BIMIFY(BIM化)はモデルを解析して、3Dソリッドを建築要素に自動的に分類し、空間的位置、空間、建物、階を割り当てます。また、外壁と内壁を検出して分類します。

BIMIFYを実行すると、建築、構造、MEPのどのモデルかが自動的に検出されます。BricsCADが分析した情報が自動分類のプロセスで使用されます。自動分類の精度を上げるために、**BIM化**コマンドパネルで分野を手動で定義しておくことも可能です。

ソリッドが柱、梁、部材として自動分類され、そのプロファイルがプロファイルライブラリの定義と一致する場合、プロファイル名はメタデータとして図形のプロパティに自動的に追加されます。一致するプロファイル定義が見つからない場合は、ライブラリに新しいプロファイル定義が作成されます。

BIMIFY(BIM化)は、分類された図形と分類されない図形の両方を持つモデルで使用できます。分類された図形は適切な空間的位置にもリンクされます。

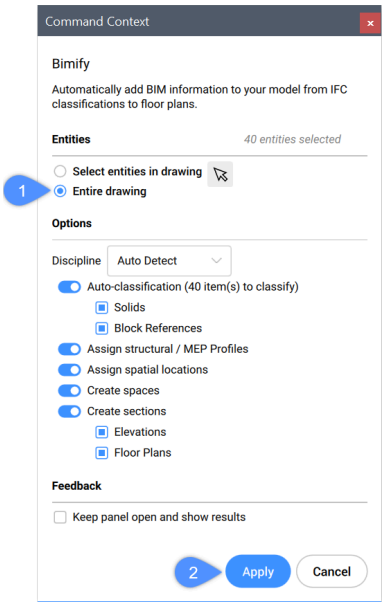
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMIFY』をご参照ください。

24.1.3 手順：図面全体をBIM化

1 **クワッド**からBIMIFYを選択するか、**BIMデータ** > **分類**リボンタブ、**BIM分類**ツールバーを選択するか、コマンドラインにBIMIFYと入力します。

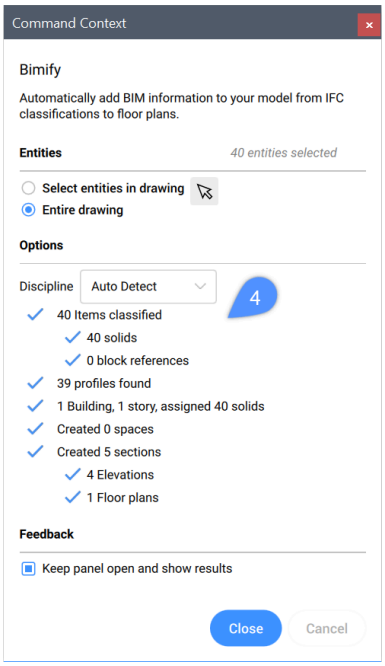
BIM化コマンドパネルが開きます。

2 **図面全体**(1)オプションをオンにして、**適用**ボタン(2)をクリックします。

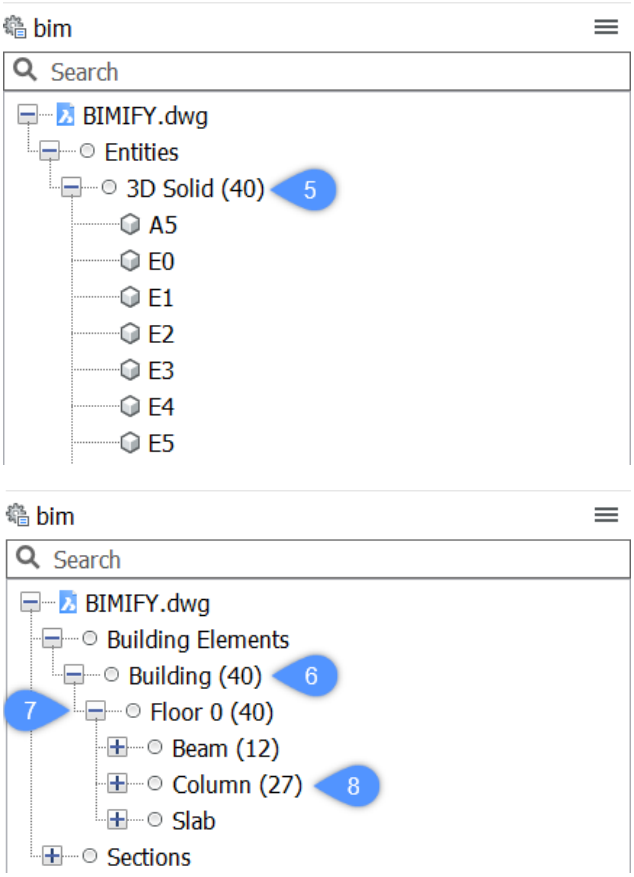


BIMIFYプロセスが完了すると、結果の概要(3)が**プロンプト履歴**パネルに表示されます。

注：パネルを開いたままで結果を表示オプションをオンにすると、**BIM化**コマンドパネルに計算中の進行状況と結果が表示されます(4)。



必要に応じてBIM化は、新しい空間的位置を作成します。

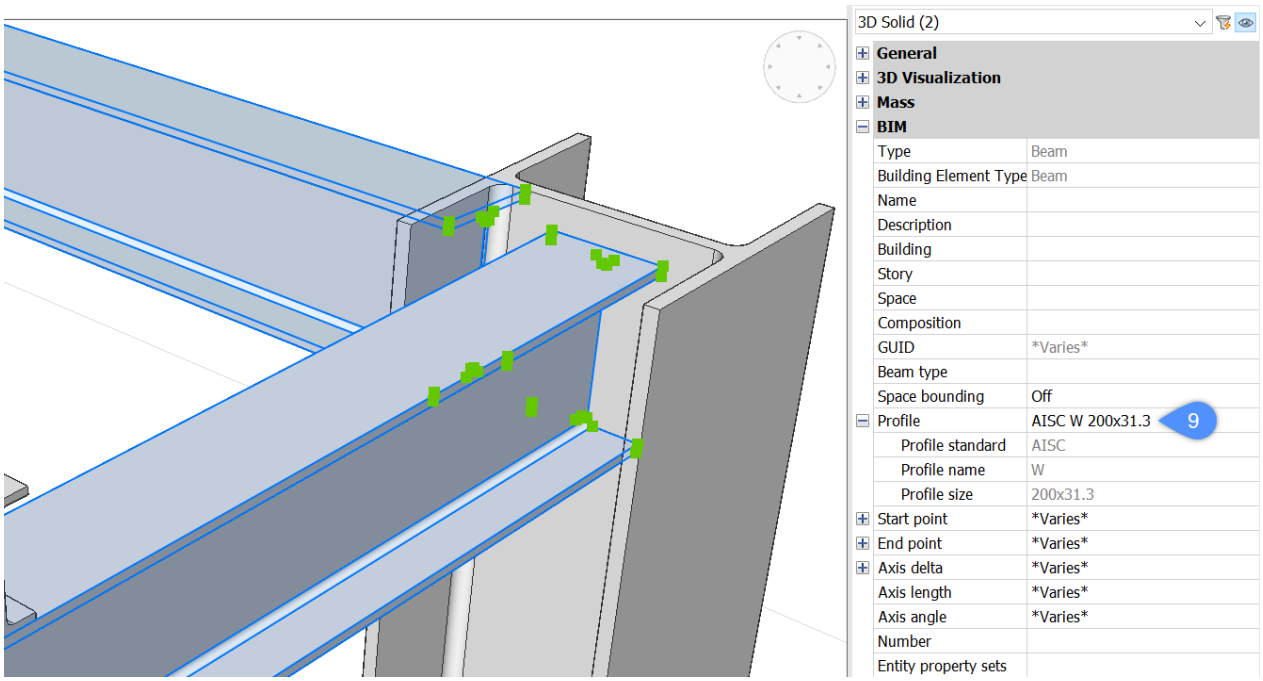


左から右

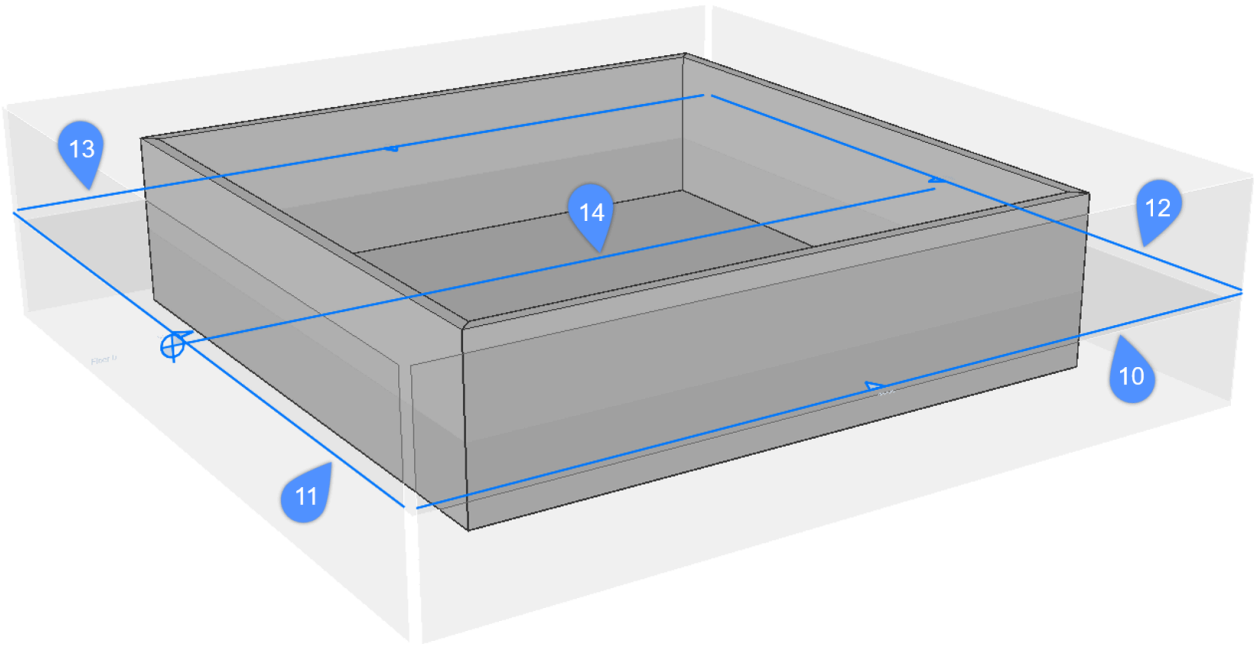
- **BIM化前：** 構造ツリーには3Dソリッドのみが表示されています。
- **BIM化後：** 各図形は、対応する建物(6)、階(7)、建物要素(8)に分類されます。

注：構造パネルのツリーのコンテンツ表示は、カスタマイズすることができます。

BIMIFY(BIM化)は建築要素のプロファイルを構造部材として認識し、プロファイルの軸位置を検出します。線形ソリッドのプロファイルデータは、**プロパティ**パネル(9)に表示されます。

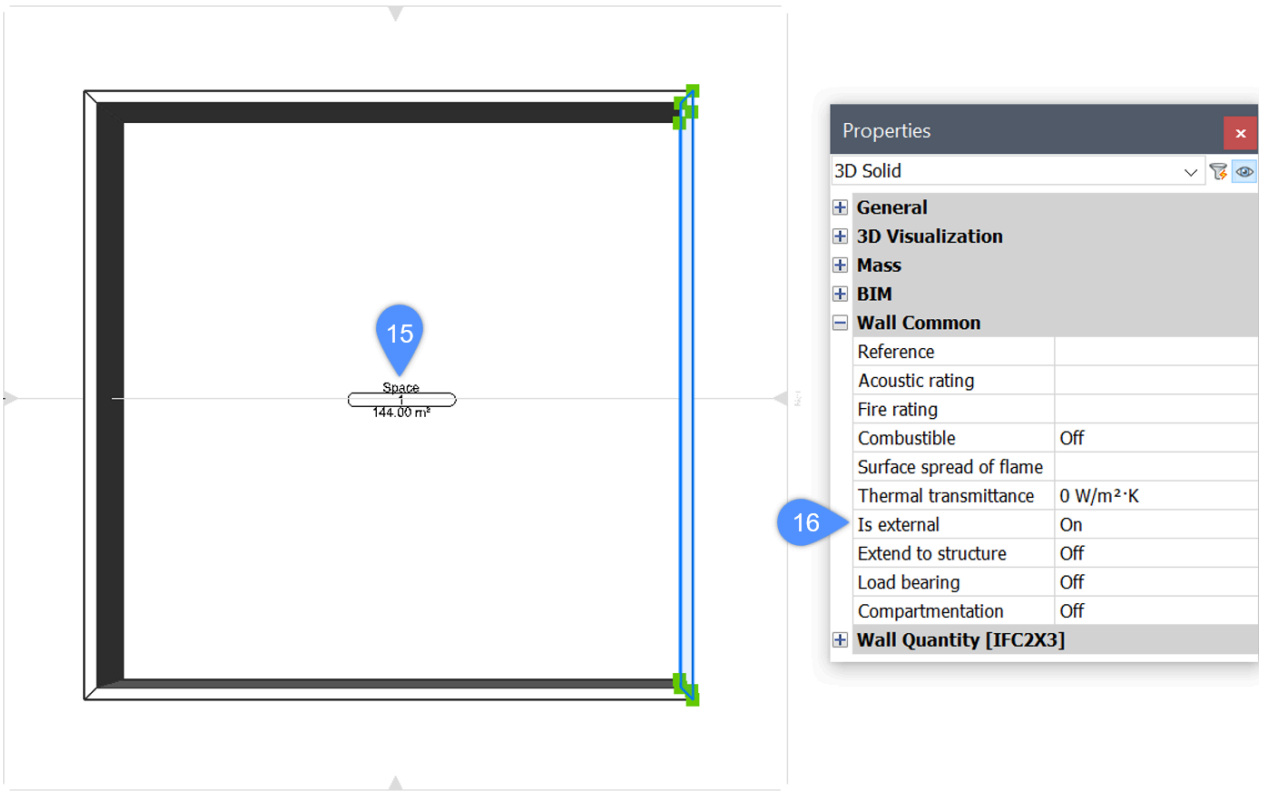


立面とフロア平面断面は最後に作成されます。



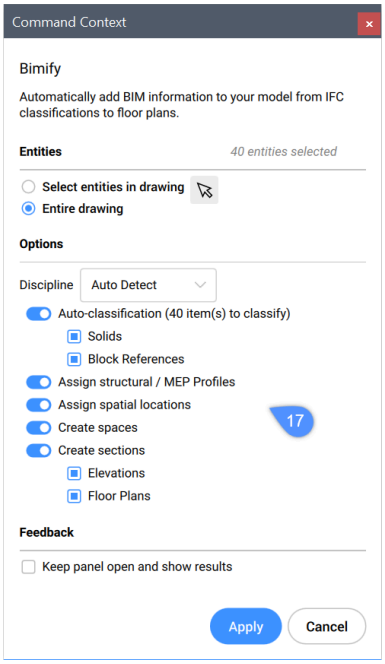
この建物には、正面(10)、左(11)、右(12)、背面(13)が断面(14)と同様に含まれています。

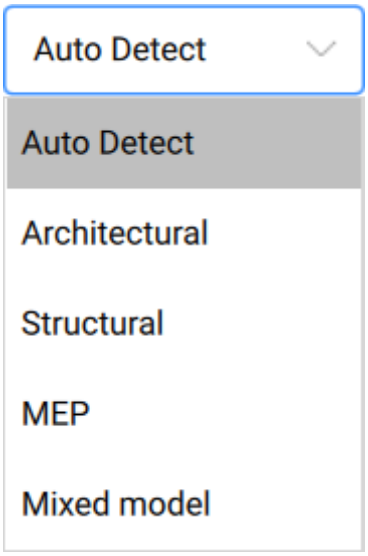
このシンプルな建物では、1つのBIM空間と4つの外壁が検出されました。



上の画像では、BIM空間(15)と、**プロパティ**パネルの**壁 共通**に**外部要素**(16)プロパティが生成されている状態を示しています。

BIM化コマンドパネルのオプション(17)を変更することで、**BIMIFY**コマンドの機能を制御できます：



分野	 手動で図面の分野を定義します。この情報はBIM化の精度を向上させることができます。
自動分類(2個のアイテムを分類)	自動的に**ソリッド**と**ブロック参照**を分類します。
構造/MEPプロファイルの割当て	**BIMプロファイル**パネルで選択できる場合、柱、梁、組立部材、フローセグメントのプロファイルを割り当てます。 このオプションは**自動分類**オプションが選択されている場合のみ利用可能です。
空間的位置の割り当て	建物やフロアなどの空間的位置を割り当て、空間を検出し、内外の壁を識別します。 このオプションは**自動分類**オプションが選択されている場合のみ利用可能です。
空間を作成	外壁を検出し、プロパティの**壁 共通 / 外部要素**を**オン**にセットし、空間を検出します。BIMSPACEコマンドを参照してください。 このオプションは**空間的位置の割り当て**オプションを選択した場合のみ利用可能です。
断面を作成	フロアごとに立面と平面断面を作成します。 このオプションは**空間的位置の割り当て**オプションを選択した場合のみ利用可能です。

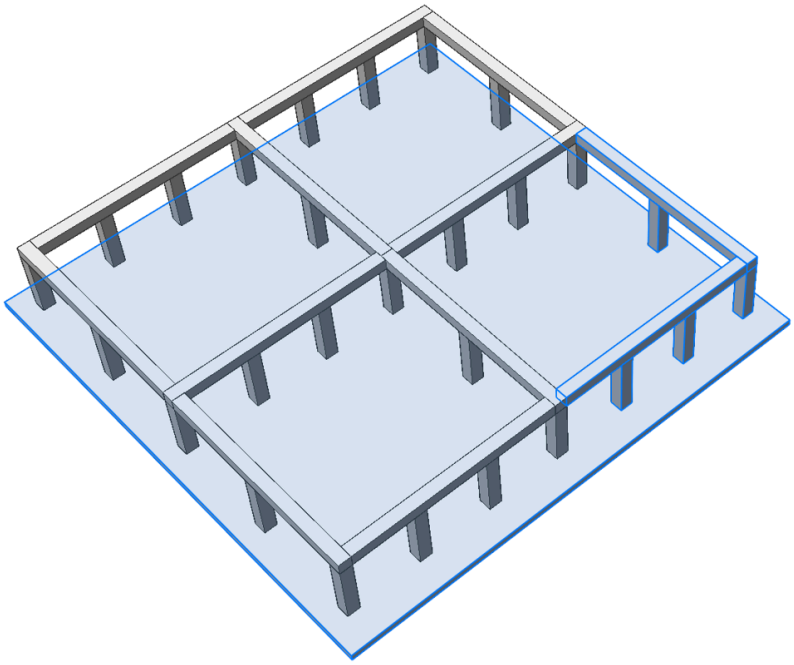
注：ソリッドやブロックの**自動分類**オプションを無効にするには、関連するチェックボックスをオフにします。デフォルトではすべてのチェックボックスにチェックが入っています。ただし、BricsCADは以前の設定を記憶しています。**空間位置の割り当て**オプションを選択するには、**自動分類**オプションを**オン**にして、**ソリッド**チェックボックスをオンにする必要があります。この情報は、他の要素を検出するために必要です。

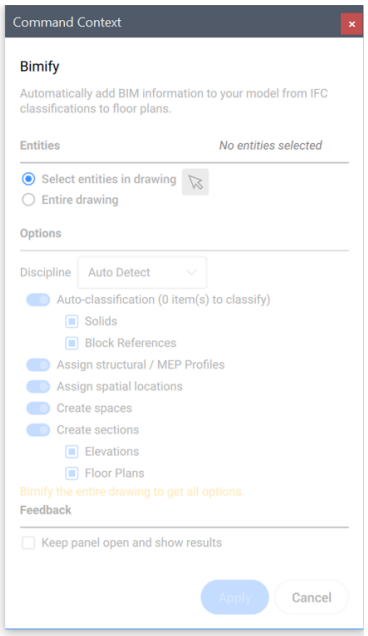
24.1.4 手順：BIMモデルの断面をBIM化

1 コマンドラインに「BIMIFY」と入力します。

2 アイコンをクリックして、BIM化する図面の一部を選択します。

3 BIM化する図面内の図形を選択します。





4 **Enter**を押して、選択を確定します。

注：選択したBIMモデルに対してBIMIFYを実行する場合、**BIM化**コマンドパネルのオプションがすべて使えるわけではありません。

5 **適用**ボタンをクリックして、BIM化プロセスを完了します。

6 BIM化プロセスが完了すると、結果の概要が**プロンプト履歴**パネルに表示されます。

24.2 プロパゲートの使用

24.2.1 コマンド

BIMPROPAGATE

24.2.2 5種類のプロパゲート

プロパゲートのワークフローに入る前に、プロパゲートには5つのバリエーションがあり、それぞれが限られた状況下で機能していることを知っておくことが重要です。これらの5つのバリエーション(フレーバー)は、新規ユーザーがプロパゲートのプロセスをガイドするために設計されました。このツールにはさまざまな用途があり、初めて使用する際に圧倒されてしまうかもしれません。それぞれが具体的な使用例を想定してデザインされており、5種類に整理することで、ツールを明確かつ簡潔に保てるように工夫されています。しかし、これらは元々のBIMPROPAGATEコマンドを蒸留した物であるので、特定のフレーバーで解決できる問題はすべて、標準のBIMPROPAGATEコマンドを使っても**同様に**解決できます。さらに上級者になれば、どのフレーバーでも解決できないような問題も解決できるようになります。

BIMPROPAGATEのバリエーション：

- BIMPROPAGATEPLANAR(平面をプロパゲート)：壁、スラブ、屋根など平面要素間の接続をプロパゲートします。

- BIMPROPAGATELINEAR(線形をプロパゲート)：梁、柱、配管、ダクト、最大1つの平面要素など、線形要素間の接続をプロパゲートします。
- BIMPROPAGATEPATTERN(パターンをプロパゲート)：単一要素または平坦なサーフェス上にある要素群を複数の場所やグリッドにプロパゲートします。グリッド上にある照明器具、照明スイッチ、窓、エアディフューザー、柱などのプロパゲートに使用できます。
- BIMPROPAGATEEDGES(エッジをプロパゲート)： 平面ソリッドのエッジに沿ってプロパゲートします。手すり、樋、ボーダー、ウォールキャップなどのプロパゲートに使用できます。
- BIMPROPAGATECORNER(コーナーをプロパゲート)：1つのノードに集まる複数の平面参照ソリッドに接続された詳細をプロパゲートします。

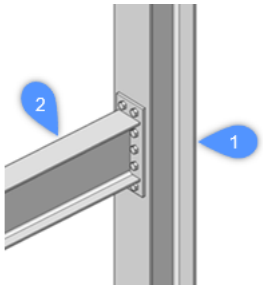
プロパゲートの一般的なワークフローは、「詳細ボリュームの定義」と「この詳細をどこに適用するかの選択」という2つの大きなステップで構成されています。

24.2.3 詳細ボリュームの定義

プロンプト表示：

参照ソリッドを選択します。これらはコピーされませんが、他の場所との照合に使用されます。[選択オプション(?)]:

すべてのプロパゲートの**最初のステップ**は**参照ソリッド**の指定です。これらのソリッドは、この特定の詳細を適用する状況を定義します。例えば、下図は、エンドプレートと複数のボルトを使用した柱梁接合部を示しています。この詳細は、接合される特定の柱と梁をモデリングしたものですが、この詳細を同じタイプの柱と梁が合わさるあらゆる状況にプロパゲートすることにします。したがって、この場合の基準となるソリッドは、柱(1)と梁(2)となります。その後、BIMPROPAGATEはモデルをスキャンして、似たようなソリッドが存在する状況を探し、その場所に詳細をマッピングしようとします。



注：これは、BIMPROPAGATELINEARで解決できる例です。

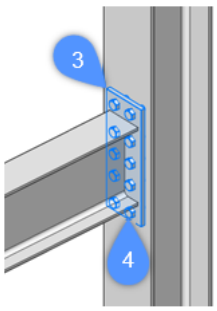
Enterを押して、参照ソリッドの選択を終了します。

第2段階では、詳細オブジェクトまたはサブ図形を指定します。モデル全体にプロパゲートまたはコピーしたいオブジェクトのことです。これらは、ソリッド、ブロック参照、あるいは面であってもOKです。(例えば、参照ソリッドの穴は、その面を選択することでプロパゲートさせることができます)

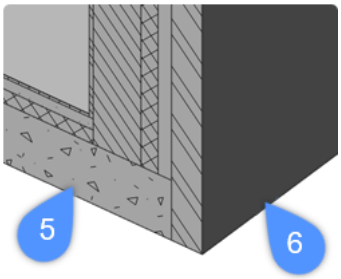
プロンプト表示：

オプション。コピーする詳細オブジェクト(ソリッド、ブロック参照、面、エッジなど)を選択します。[選択オプション(?)]:

この例では、詳細なオブジェクトはエンドプレート(3)とボルト(4)となります。



注：場合によっては、詳細オブジェクトが必要ないこともあります。例えば、下図に示すような床スラブと壁の接合部をプロパゲートしたいとします。基準となるソリッドは、床スラブ(5)と壁(6)であり、詳細オブジェクトは必要ありません。このような場合には、Enterを押すか、または右クリックして、このステップをスキップすることができます。



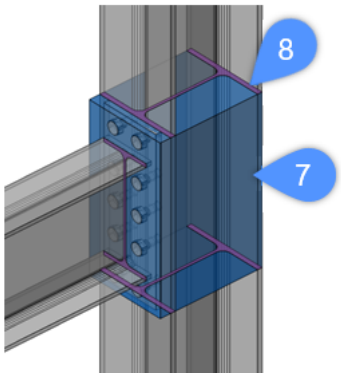
もし、この関連で追加のソリッドをモデル化するとしたら(例えば、断熱ブロックや巾木)、これらの追加のソリッドは詳細オブジェクトになります。

注：これは、BIMPROPAGATEPLANARで解決できる例です。

参照ソリッドと**詳細オブジェクト**を指定すると、詳細ボリュームが自動的に定義されます。表示スタイルは一時的にX線に設定され、ビューは自動的に詳細ボリュームにズームインされます。BIMPROPAGATEを実行すると、このボリューム内にある、詳細オブジェクトまたは参照ソリッドの一部であるすべてのものが他の場所にコピーされます。

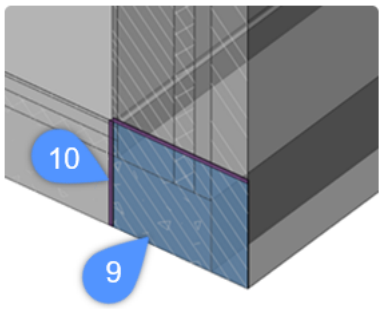
詳細ボリュームは、**3Dボリューム**または**直線的な詳細を通る2Dスライス**のいずれかになります。

柱梁接合部の例では、詳細ボリュームは下図に示すようなものなります。これは、3Dボリュームの一例です。参照ソリッドと詳細体積の接続は、紫色(8)でハイライト表示されています。



注目すべき点：この詳細では、柱に穴が開いていて、ボルトが柱に固定されています。これらの穴は必ずしも詳細オブジェクトではありませんが、参照ソリッドの一部であり、詳細ボリューム内にあるため、これらもコピーされます。このように、BIMPROPAGATEはオブジェクトの「単純な」コピーではありません。

壁・スラブ接合部の詳細ボリュームは外観が異なります。下図に示すように、詳細(9)は平面となり、断面ビューで表示されます。これは、詳細がこの2D詳細スライスの押し出しとしてプロパゲートすることができるからです。ここでも、参照ソリッドが詳細ボリュームに接続する位置が紫色(10)でハイライト表示されています。



注：BIMPROPAGATEPLANARとBIMPROPAGATEEDGESの詳細は、常に直線的な詳細を通る2Dスライスになります。

プロンプト表示：

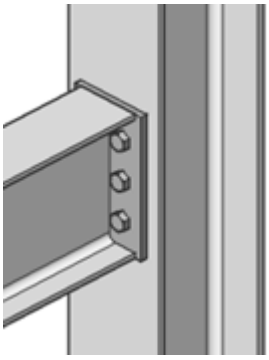
青：コピーする詳細領域。紫：参照接触領域。適用？[はい、ブロックとしてコピー/はい、そのままコピー/いいえ/最初に膨らませる/詳細を保存/ライブラリに詳細を保存]<はい、ブロックとしてコピー>:

プロンプト表示： この2D断面の押し出しとして、詳細をプロパゲートしますか？ [はい/いいえ/最初に膨らませる] <Yes>。

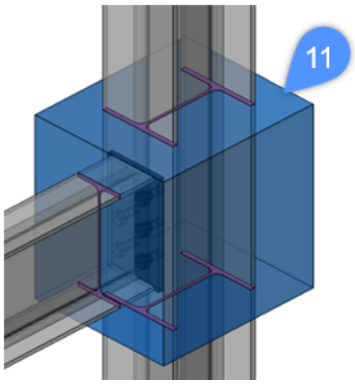
青:コピーする詳細領域。紫:参照接触領域。適用？[はい/いいえ/最初に膨らませる/詳細を保存/ライブラリに詳細を保存]<はい>:

通常、BIMPROPAGATEによって提案される詳細ボリュームのままでユーザーの目的は十分に達成されます。しかし、詳細を膨らませ、より大きなボリュームを含めることが可能です。この機能には、2つの特定の使用例があります。

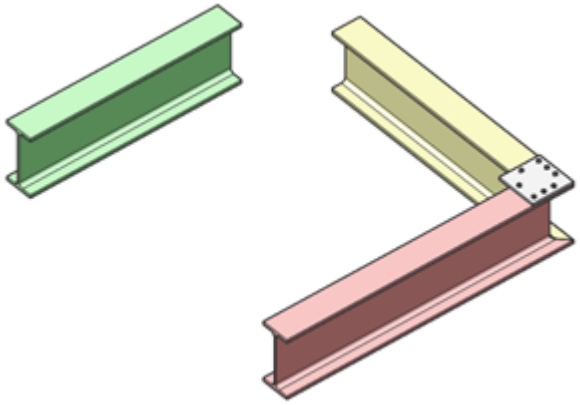
- 既存の詳細を、元のものよりも **小さくて** 新しい詳細に置換したい場合。例えば、上記で提案された柱梁接合部を下図のような詳細に置換したいとします。



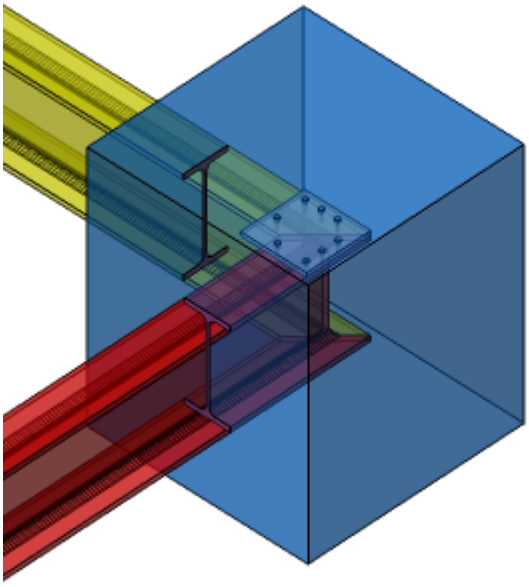
この場合、元の詳細よりも大きくなるように、詳細ボリューム(11)を膨ませる必要があります。



- 例えば、離れた場所にあるターゲットソリッドと接続するために、参照ソリッドのより大きな部分を含めることができます。下の図では、**赤**と**黄**の梁の間の接続をプロパゲートさせ、**黄**と**緑**の梁が同様の接続を持つようにしたい例です。



そのためには、赤と黄の梁の端面に重なるように、詳細ボリュームを膨らませる必要があります。



プロパゲートしたいものがすべて詳細ボリュームに含まれたら、次のステップに進み、詳細を適用する場所を選択します。3D詳細ボリュームでは、最後の選択があります。詳細を**ブロック**としてプロパゲートさせるか、**コピー**としてプロパゲートさせるかです。詳細をブロックとしてプロパゲートさせることを選択した場合は、すべての詳細オブジェクトを新しい**ブロック定義**にグループ化し、この**ブロック定義**への参照をコピーします。

24.2.4 詳細の適用先を選択

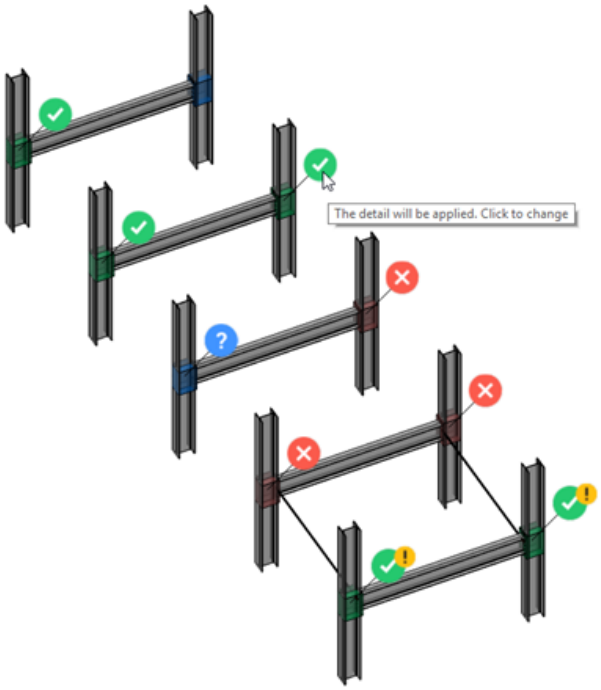
プロンプト表示：

チェックをクリックして、提案を承諾または拒否します。その後、[承諾/キャンセル]<承諾>:

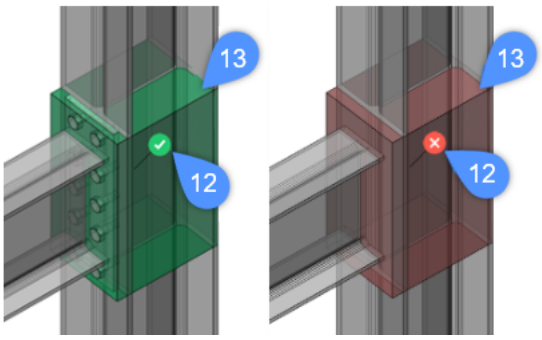
このステップでは、ビューがズームアウトして画面上のすべての可能な提案が示されます。各提案はこの詳細を適用することが可能な場所であり、以下のいずれかのアイコン(またはウィジェット)によって示されます：

	詳細が適用されます。
	詳細は適用されません；ユーザーによって手動でオフに切り替えらました。
	詳細は適用されません；原因としていくつかの理由が考えられます。アイコンの上でマウスカーソルを動かすと、詳細な情報が表示されます。
	詳細は適用されますが、干渉が検出されました。
	詳細は適用されますが、他にも幾つか選択肢があります。アイコンの上でマウスカーソルを動かすと、選択肢が切り替わります。

ウィジェットの上でマウスカーソルを動かすと、さらに情報が表示されます。ウィジェットをクリックすると、ステータスが変わります。それぞれのウィジェットをクリックすることで、個別に提案を切り替えることができます。Enterを押すと、その時点で示されているすべてのウィジェットが適用されます。緑色のチェックマークが付いた提案が適用され、その他の提販は適用されません。



提案には、詳細がどのように見えるか示すプレビューも表示されます。下図には、ウィジェット(12)とプレビュー(13)の両方が示されています。



ウィジェットは、窓選択を使用して **選択**することもできます。選択されたウィジェットは、青色の境界線でハイライト表示されます。1つまたは複数のウィジェットを選択した後にEnterを押すと、**すべて**の提案は適用されず、**現在選択されている提案のみ**が適用されます。

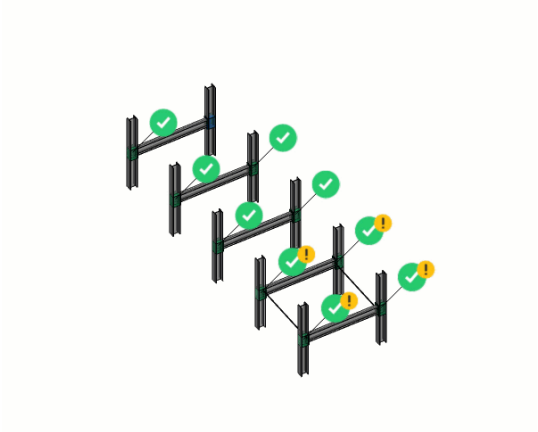
プロンプト表示：

チェックをクリックして、提案を承諾または拒否します。その後、[承諾/キャンセル]<承諾>:

この手順を使い、すべての提案を順々に解決することができます。

以下のビデオでは、次のような手順を行っています：

- 4つのウィジェットを選択し、オフに切り替えます。
- Enterを押します。選択した4つの提案はすべてオフに切り替わっているので、これら4つの提案は適用されず、ビューから削除されます。
- さらに4つの提案を選択します。
- Enterを押します。選択した4つの提案が適用され、ビューから削除されます。
- 1つの提案が残ります。Enterを押してこの提案を承諾し、BIMPROPAGATEコマンドを終了します。

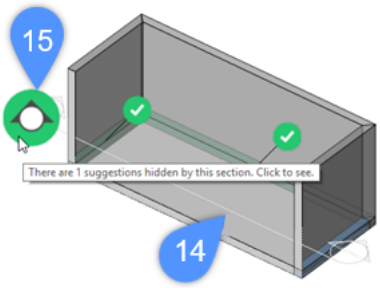


重要な点として、BIMPROPAGATEはカレントに表示されている図形だけを処理します。その結果として、詳細を適用できる場所があるかどうかBIMPROPAGATEがモデルをスキャンする際に、非表示になっている図形(または、非表示にした画層やフリーズした画層上にある図形)は処理に含まれません。これは、大規模なモデルでBIMPROPAGATEを実行する場合に役

立ちます。例えば、鋼接合部をプロパゲートするときに、鋼部材が含まれている画層だけをオンにします。こうすることで、プロパゲートのパフォーマンスが向上します。

BIMPROPAGATEの実行時に、既存の切断面をアクティブにしたり、移動させることができます。

- 切断面(14)をダブルクリックすると、アクティブになります。
- これを移動するには、1 回左クリックします。
- 場合によっては、切断面をアクティブにすると、その横にウィジェット(15)が表示され、アクティブな切断面のために現在非表示になっている提案が1つまたは複数あることが示されます。ウィジェットをクリックしてこの切断面をオフにすると、隠れていた提案が表示されます。



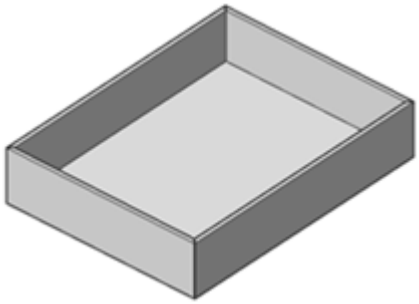
24.3 平面をプロパゲート

24.3.1 コマンド

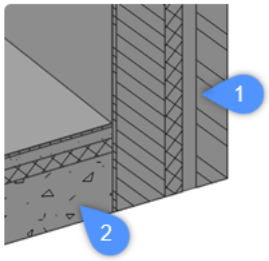
BIMPROPAGATEPLANAR

24.3.2 手順：壁-スラブ接合部をプロパゲート

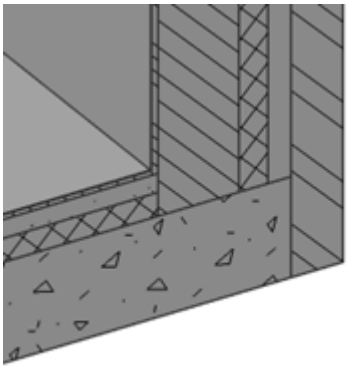
1 以下のような4つの壁と1つのスラブを**クイックドロー**で作成した場合を考えてみましょう。



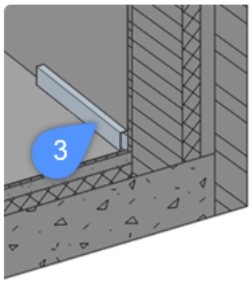
2 4つの壁には複合材がアタッチされ、床スラブも作成されています。さらに編集やモデリングを行わなくても、建物の垂直断面を作成すると、下図に示すような壁(1)の1つとスラブ(2)の接合部が表示されます。



3 この断面がアクティブになっている間に、異なるプライの面を**プッシュ/プル**すると、壁とスラブの間に望ましい接続を得ることができます。



4 例えば、局所的に幅木板(3)を追加して、この接合部をさらに詳細に作り込むことができます。これは単純に箱を描いて、このソリッドを**建物要素**に分類したものです。



5 このようにして作成した詳細な接合部を、同じタイプの壁とスラブが接合するすべての場所に適用します。切断面をオフにして、BIMPROPAGATEPLANARを起動します。

6 **プロンプト表示：**

接続を形成する平面参照ソリッドを選択します。接続の詳細が類似のソリッドにコピーされます。[選択オプション(?)]:

壁とスラブを選択し、Enterを押します。

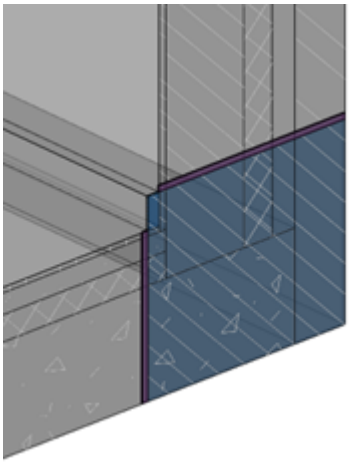
7 **プロンプト表示：**

オプション。接続の一部としてコピーする詳細オブジェクトを選択します。[選択オプション(?)]:

幅木板ソリッドを選択し、Enterを押します。

8 **プロンプト表示**：押し出し方向に沿った詳細セクションの変化が大きすぎます。

この場合、BIMPROPAGATEPLANARは解決策を見つけることができません。幅木板が壁の全長に沿ってモデリングされていないため、BIMPROPAGATEPLANARは矛盾する詳細ボリュームを検出します。この問題は、巾木がある断面をアクティブにして(例：この詳細を作成するために先に使用した断面)、再度試してみることで簡単に解決できます。以前と同じ手順を実行すると、BIMPROPAGATEは下図に示すような詳細ボリュームを検出します。



9 **プロンプト表示：**

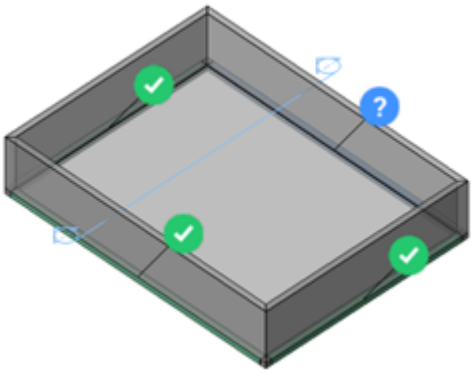
青:コピーする詳細領域。紫:参照接触領域。適用？[はい/いいえ/最初に膨らませる/詳細を保存/ライブラリに詳細を保存]<はい>:

この場合は、詳細を膨らませる必要はありません。「詳細を膨らませる」についての詳しい説明については、「プロパゲート」をご参照ください。**いいえ**を選択すると、コマンドが終了します。**Enter**を押して承諾します。

10 **BIMPROPAGATEPLANAR**は、類似する場所があるかどうか図面全体をスキャンします。これが行われると、すべての断面がオフになり、ビューがズームアウトして、すべての可能な箇所が表示されます。すべての提案がハイライト表示され、ウィジェットが表示されます。

プロンプト表示：

チェックをクリックして、提案を承諾または拒否します。その後、[承諾/キャンセル]<承諾>:



緑色のチェックマークは、Enterを押すと、この提案が適用されることを意味します。疑問符は、考えられる幾つかの理由の一つが原因で、提案が適用されないことを意味します。ウィジェットの上でマウスカーソルを動かすと、詳細な情報が表示されます。

この場合、**元の詳細の位置**と表示されます。クリックすると、元の詳細が適合する押し出しで置換されます。巾木は局所的にしかモデル化していないので、壁の全長を覆うように適合する押し出しで元の詳細を置換すべきです。ウィジェットをクリックすると、緑色のチェックマークに変わります。

11 **Enter**を押して、コマンドを受け入れます。

これで、4つの壁すべてに、上記の巾木板を含む床スラブとの接合部ができました。

24.4 線形をプロパゲート

24.4.1 コマンド

BIMPROPAGATELINEAR

24.4.2 概要

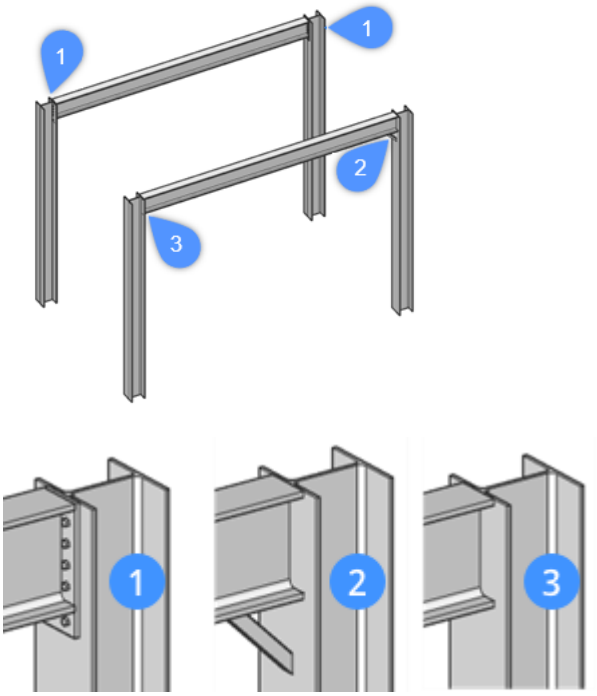
BIMPROPAGATELINEARは5種類のプロパゲートの一つです。2つ以上の線形図形間の詳細な接合部をコピーするために使用することができます。一般的な例として、柱-梁接合部や柱-スラブ接合部などがあります。

プロパゲートの一般的な原理についてのより詳細な説明は、「プロパゲートの使用」をご参照ください。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMPROPAGATELINEAR』をご参照ください。

24.4.3 手順：柱-梁接合部をプロパゲート

1 以下のような4本の柱と2本の梁の場合を考えてみましょう。そのうち2つの接続部は、プレートとボルトを柱のフランジに通して設計されています(1)。もう1つの接合部は、斜材を使い回転剛性を強化する設計になっています(2)。最後の接合部はまだ設計されていません(3)。



2 このような場合に、線形をプロパゲートを使い、いずれかの詳細を他の場所にコピーすることができます。この例では、接合部2を4つの場所すべてにコピーします。

3 BIMPROPAGATELINEARを起動します。

4 **プロンプト表示：**

接続を形成する直線または平面参照ソリッドを選択。接続の詳細が類似のソリッドにコピーされます。[選択オプション(?)]:

少なくとも1つは線形でなければなりません。

斜材によって接続されている柱と梁を選択し、**Enter**を押します。

5 **プロンプト表示：**

オプション。接続の一部としてコピーする詳細オブジェクト(ソリッド、ブロック参照、面、エッジなど)を選択します。[選択オプション(?)]:

対角の部材を選択し、**Enter**を押します。対角部材と柱と梁の部分を完全に包含する詳細ボリュームが作成されます。

6 **プロンプト表示：**

青:コピーする詳細領域。紫:参照接触領域。適用？[はい、ブロックとしてコピー/はい、そのままコピー/いいえ/最初に膨らませる/詳細を保存/ライブラリに詳細を保存]<はい、ブロックとしてコピー>:

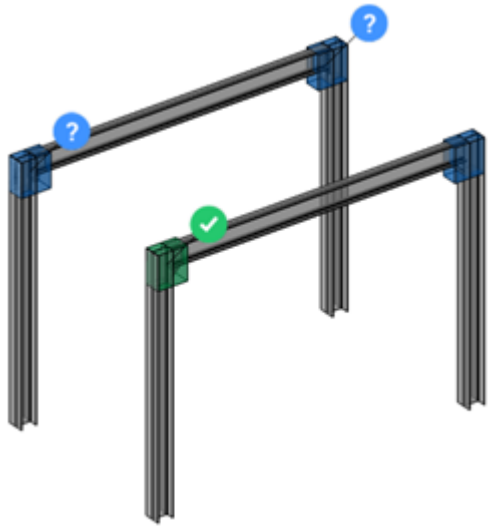
この詳細をブロックとしてプロパゲートすると、ファイルサイズが小さく保たれ、管理しやすくなります。また、詳細をコピーとしてプロパゲートすることもできます。この場合は、詳細を膨らませる必要はありません。「詳細を膨らませる」についての詳しい説明については、「プロパゲートの使用」をご参照ください。**いいえ**を選択すると、コマンドが終了します。

Enterを押して承諾します。

7 BIMPROPAGATELINEARは、類似する場所があるかどうか図面全体をスキャンします。これが行われると、ビューがズームアウトして、すべての可能な位置が表示されます。すべての提案がハイライト表示され、ウィジェットが表示されます。

8 **プロンプト表示：**

チェックをクリックして、提案を承諾または拒否します。その後、[承諾/キャンセル]<承諾>:



緑色のチェックマークは、Enterを押すと、この提案が適用されることを意味します。疑問符は、考えられる幾つかの理由の一つが原因で、提案が適用されないことを意味します。ウィジェットの上でマウスカーソルを動かすと、詳細な情報が表示されます。この場合は、**既存の詳細が検出されました。提案は適用されません。クリックすると、変更されます。**ボルト接合を対角部材に置換したいので、青色のウィジェットを両方ともクリックして緑色のチェックマークに変えます。

9 **Enter**を押すと、すべての接合部が対角部材に置換されます。

24.5 パターンをプロパゲート

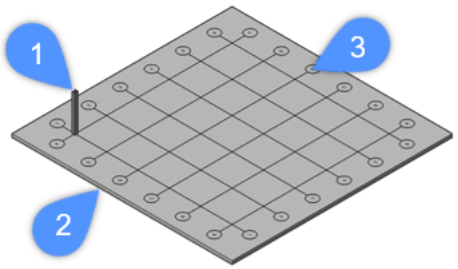
24.5.1 コマンド

BIMPROPAGATEPATTERN

24.5.2 手順：スラブの上に柱をプロパゲート

1 下の図のように、柱(1)がスラブ(2)の上に配置されている場合を考えます。また、このスラブにはグリッドが作図されています(3)。

1



2 この柱を特定の軸の交差点に配置したいと思います。手動で柱をコピーすることもできますが、プロパゲートを使えば、この操作をすばやく行えます。

3 BIMPROPAGATEPATTERNを起動します。

4 **プロンプト表示：**

エッジの詳細に関連する平面参照ソリッドを選択。詳細が類似のソリッドにコピーされます。[選択オプション(?)]:

壁とスラブを選択し、**Enter**を押します。

5 **プロンプト表示：**

コピーする詳細オブジェクト(ソリッド、ブロック参照、面、エッジなど)を選択します。[選択オプション(?)]:

柱を選択し、**Enter**を押します。

6 3D詳細ボリュームが作成されます。

7 **プロンプト表示：**

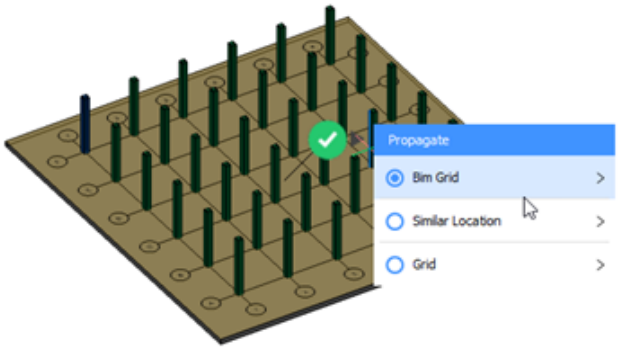
青:コピーする詳細領域。紫:参照接触領域。適用？[はい、ブロックとしてコピー/はい、そのままコピー/いいえ/最初に膨らませる/詳細を保存/ライブラリに詳細を保存]<はい、ブロックとしてコピー>:

この場合は、詳細を膨らませる必要はありません。「詳細を膨らませる」についての詳しい説明については、「プロパゲート」をご参照ください。**いいえ**を選択すると、コマンドが終了します。

Enterを押して承諾します。

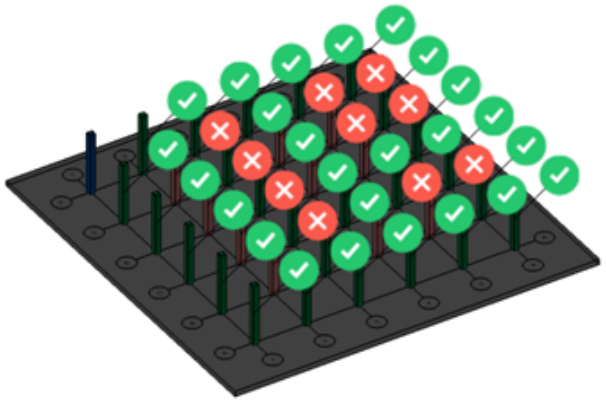
8 ウィジェットが表示されます。このウィジェットの上でマウスカーソルを動かすと、フライアウトメニューが開き、オプションが表示されます。

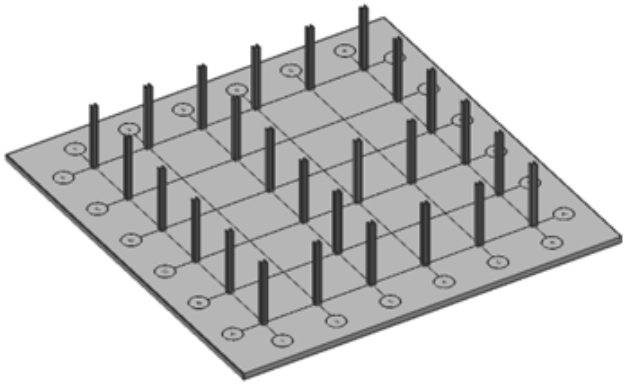
9



- **BIMグリッド**：スラブの上に作図されているグリッドです。このオプションを選択して Enterを押すと、このグリッドの交差するすべての軸にこの柱がコピーされます。
- **類似の場所**：このスラブの類似の場所(ここではスラブの四隅)に柱をコピーします。
- **グリッド**： このスラブの上に柱を配置する独自のグリッドを作成することができます。横列と縦列の追加および削除ができます。これらの横列と縦列は常に均等に配置されます。

10 この例では、**BIMグリッド**を選択します。これをクリックすると、メニューがさらに拡張され、**分解**オプションが表示されます。このオプションを選択すると、この柱のインスタンスごとに別々のウィジェットが作成され、適用したい提案のコントロールが容易になります。(この例では、柱を配置したい軸の交点)その後、手動で提案をオフにすることができます：





24.6 エッジをプロパゲート

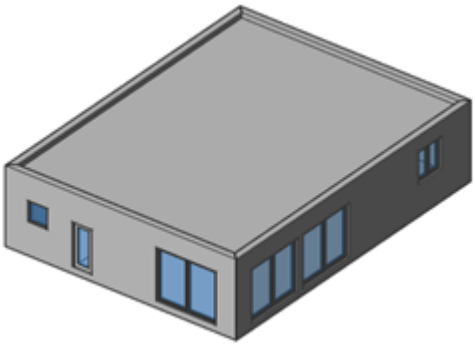
24.6.1 コマンド

BIMPROPAGATEEDGES

24.6.2 手順：ウォールキャップのプロパゲート

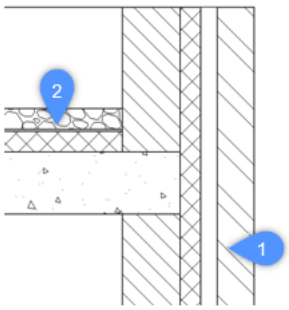
1 以下のような、陸屋根の付いた1階建ての建物の場合を考えてみましょう。

1



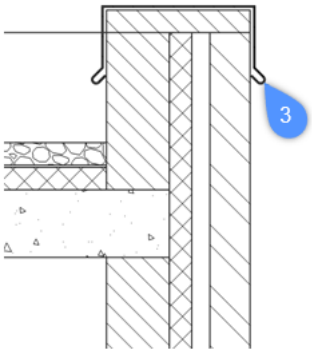
2 建物を縦方向に切断する断面を作成し、壁(1)と屋根スラブ(2)の接合部を見てみます。

3

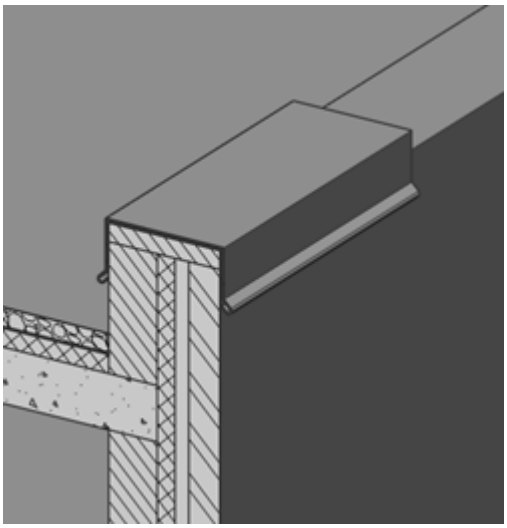


4 この壁の上にウォールキャップ(3)を作成して、下図のようにしたいと思います。

5



まず初めに、ダイレクトモデリングツールを使用するか、他の場所からブロックを挿入して展開させることで、1つの壁の上で局所的にウォールキャップを作成することができます。断面は、下図のようになります。



6 これで、BIMPROPAGATEコマンドを使い、適用可能なすべての場所にこの詳細をコピーすることができます。切断面をオフにして、BIMPROPAGATEEDGESコマンドを起動します。

7 **プロンプト表示：**

エッジの詳細に関連する平面参照ソリッドを選択。詳細が類似ソリッドのエッジにコピーされます。[選択オプション(?)]:

ウォールキャップをモデリングした壁を選択して、**Enter**を押します。

8 **プロンプト表示：**

コピーする詳細オブジェクトを選択します。これらは、参照ソリッドのエッジに平行なソリッドまたは面である必要があります。[選択オプション(?)]:

ウォールキャップを構成するオブジェクトを選択して、**Enter**を押します。

9 **プロンプト表示：**

青:コピーする詳細領域。紫:参照接触領域。適用？[はい/いいえ/最初に膨らませる/詳細を保存/ライブラリに詳細を保存]<はい>:

この場合は、詳細を膨らませる必要はありません。「詳細を膨らませる」についての詳しい説明については、「プロパゲート」をご参照ください。**いいえ**を選択すると、コマンドが終了します。**Enter**を押して承諾します。

10 **プロンプト表示：**

同方向のエッジにのみプロパゲートしますか？[はい/いいえ]<はい>

はいを選択すると、同様の配向のエッジにのみ、この詳細が適用されます。この例では、壁の上向きのエッジに適用されます。**Enter**を押して受け入れます。

11 **プロンプト表示：**

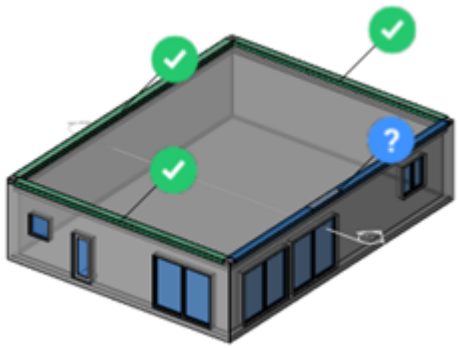
エッジに対する詳細の位置を選択します。[外側参照用ベタ/内側参照用ベタ]<外側参照用ベタ>:

このオプションは、詳細をベースとなるソリッドの内側と外側(上)のどちらに配置するかをコントロールします。内側に配置すると、詳細はベースとなるソリッドから引き算されます。

12 BIMPROPAGATEEDGESは、類似する場所があるかどうか図面全体をスキャンします。これが行われると、ビューがズームアウトして、すべての可能な位置が表示されます。すべての提案がハイライト表示され、ウィジェットが表示されます。

13 **プロンプト表示：**

チェックをクリックして、提案を承諾または拒否します。その後、[承諾/キャンセル]<承諾>:



緑色のチェックマークは、Enterを押すと、この提案が適用されることを意味します。疑問符は、考えられる幾つかの理由の一つが原因で、提案が適用されないことを意味します。ウィジェットの上でマウスカーソルを動かすと、詳細な情報が表示されます。この場合、**元の詳細の場所と書かれています。クリックすると、元の詳細が適合した押し出し**で置換されます。壁のキャップは局所的にしかモデル化していないので、元の詳細を壁の全長をカバーするように適合した押し出しで置換する必要があります。ウィジェットをクリックすると、緑色のチェックマークに変わります。

14 **Enter**を押して、コマンドを受け入れます。

これで、4つの壁すべてにこのウォールキャップが付き、コーナーの接続部分が自動的に作成されます。

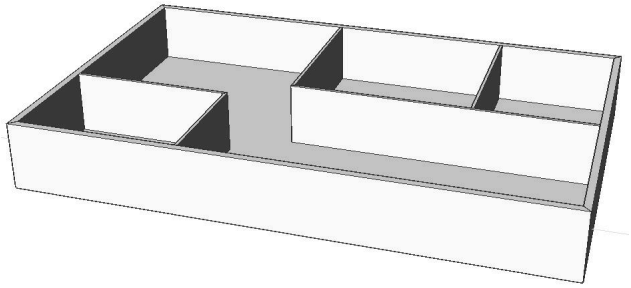
24.7 コーナーをプロパゲート

24.7.1 コマンド

BIMPROPAGATECORNER

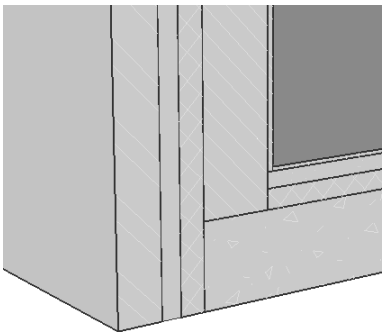
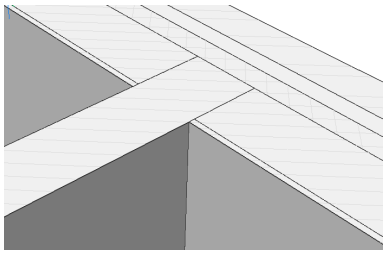
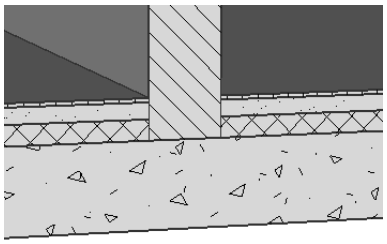
24.7.2 基礎の設定

この例では4つの外壁、5つの内壁、床スラブは、すでに複合材が割り当てられています。

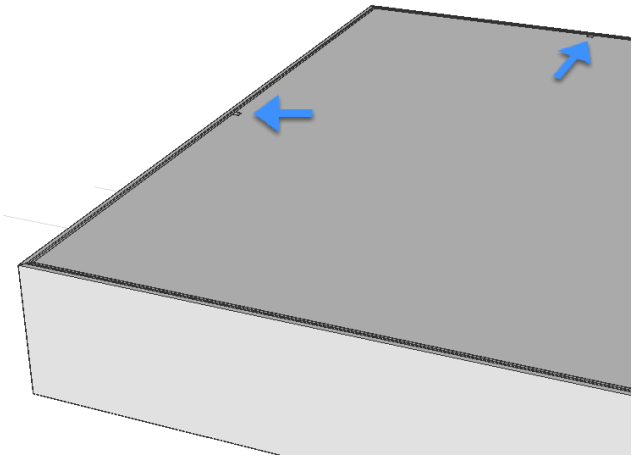


まず、3つの平面タイプの接続部を別々に接続する必要があります。この方法についての詳しい説明は、記事「平面をプロパゲート」をご参照ください。

以下の接続が考えられます：

		
外壁 - 床スラブ	外壁 - 内壁	内壁 - 床スラブ

外壁、内壁、および床スラブが結合するノードが、BIMPROPAGATEPLANARを使用した場合、正しくプロパゲートされません。代わりにBIMPROPAGATECORNERを使用します。BIMPROPAGATECORNERは、3つの平面的なベースソリッドに接続された詳細をプロパゲートすることができます。(例：コーナー)



24.7.3 コーナーをプロパゲート

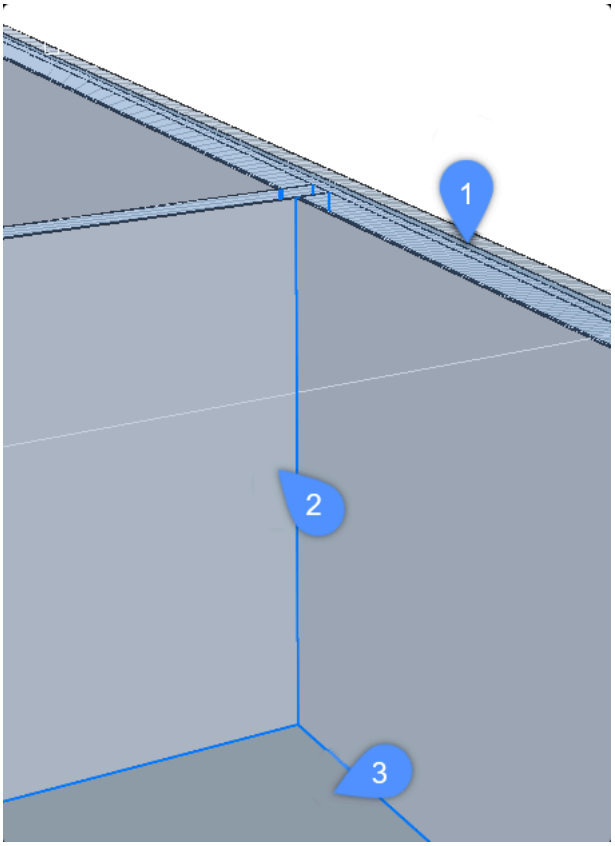
1 BIMPROPAGATECORNERを起動します。

1 **プロンプト表示：**

3Dコーナーを形成する平面参照ソリッドを3つ以上選択。詳細が類似のコーナーにコピーされます。[選択オプション(?)]:

2 外壁(1)、内壁(2)、床スラブ(3)を選択します。

3 **Enter**を押して承諾します。



プロンプト表示：

オプション。コーナーの詳細の一部としてコピーする詳細オブジェクト(ソリッド、ブロック参照、面、エッジなど)を選択します。[選択オプション(?)]:

断熱材ブロックなど、詳細に追加のソリッドがある場合、これを追加の詳細オブジェクトとして選択すると、BIMPROPAGATECORNERを使用する際に他のノードにコピーされます。

4 準備ができたら**Enter**を押します。

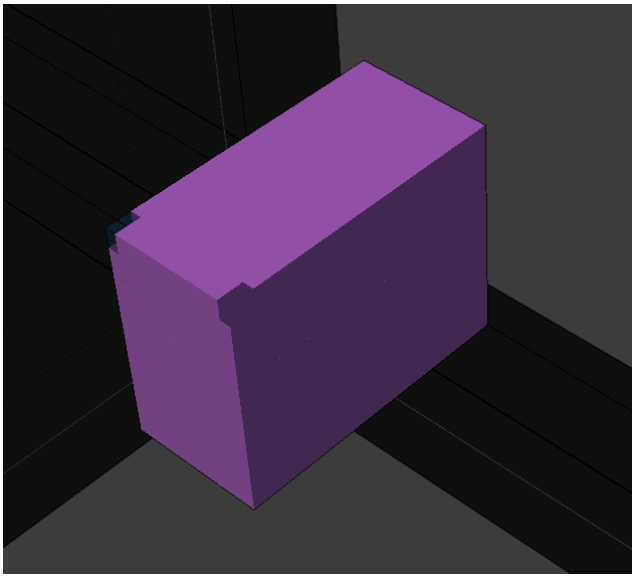
注：余分な情報がない場合は、**Enter**を押して続行してください。

5 プロパゲートされるボリュームが紫色の箱に入っています。

6 **プロンプト表示：**

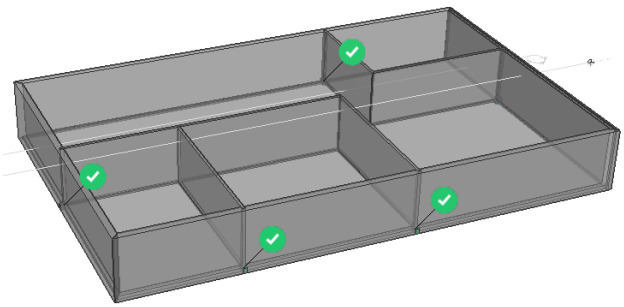
青:コピーする詳細領域。紫:参照接触領域。適用？[はい/いいえ/最初に膨らませる/詳細を保存/ライブラリに詳細を保存]<はい>:

7 詳細を適用するには**Enter**を押します。



注：BIMPROPAGATECORNERは、2Dの断面ではなく、3Dのボリュームを表示します。

8 BIMPROPAGATECORNERは、類似する場所があるかどうか図面全体をスキャンします。これが行われると、ビューがズームアウトして、すべての可能な位置が表示されます。すべての提案がハイライト表示され、ウィジェットが表示されます。緑色のチェックマークは、**Enter**を押すと、この提案が適用されることを意味します。



プロンプト表示：次のアクションを選択[すべて適用/キャンセル] <すべて適用>:

9 **Enter**を押して、コマンドを受け入れます。

外壁、内壁、床スラブが結合するノードが正しくプロパゲートされました。

24.8 詳細のパラメトリック化

24.8.1 コマンド

BIMPARAMETRIZEDETAIL

24.8.2 詳細のパラメトリック化について

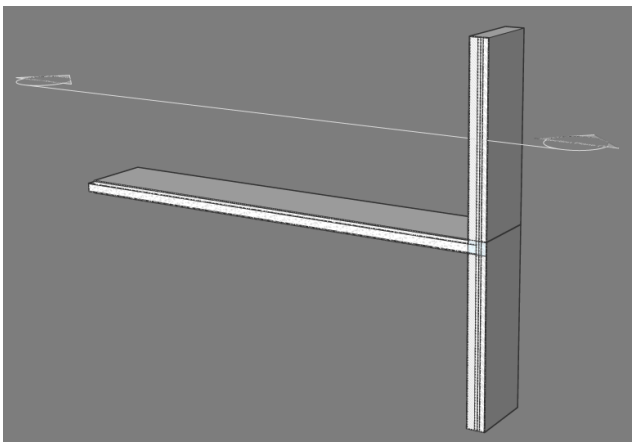
BIMPARAMETRIZEDETAILコマンドを使用して、保存された詳細のパラメータを自動的に生成します。角度、さまざまな方向のオフセット、公差パラメータなどの標準パラメータが作成されます。これらのパラメータは、次の例のような目標値に詳細を伝達できることを意味します。

自動生成されたパラメータは、基準となるソリッドの位置や形状をコントロールできるフレームワークを形成します。このフレームワークは、カスタム拘束を追加して拡張することができます。**メカニカルブラウザ**パネルからパラメータをアニメイトすると、これらの変更の影響を評価できます。カスタム拘束を追加して、詳細オブジェクトを参照ソリッドや詳細オブジェクト同志など相互にリンクさせることができます。また、それらの拘束の表現にフレームワークのパラメータを使用することもできます。

24.8.3 壁とスラブの接続詳細をパラメトリックに編集

1 パラメトリック化したい詳細の.dwgファイルを開くには、**詳細**パネルの詳細をクリックします。**詳細を表示**ダイアログボックスが表示されます。

2 **パラメータ化**をクリックするか、**開く**をクリックしてBIMPARAMETRIZEDETAILを実行します。詳細DWGファイルが開き、詳細がパラメトリック化されます。



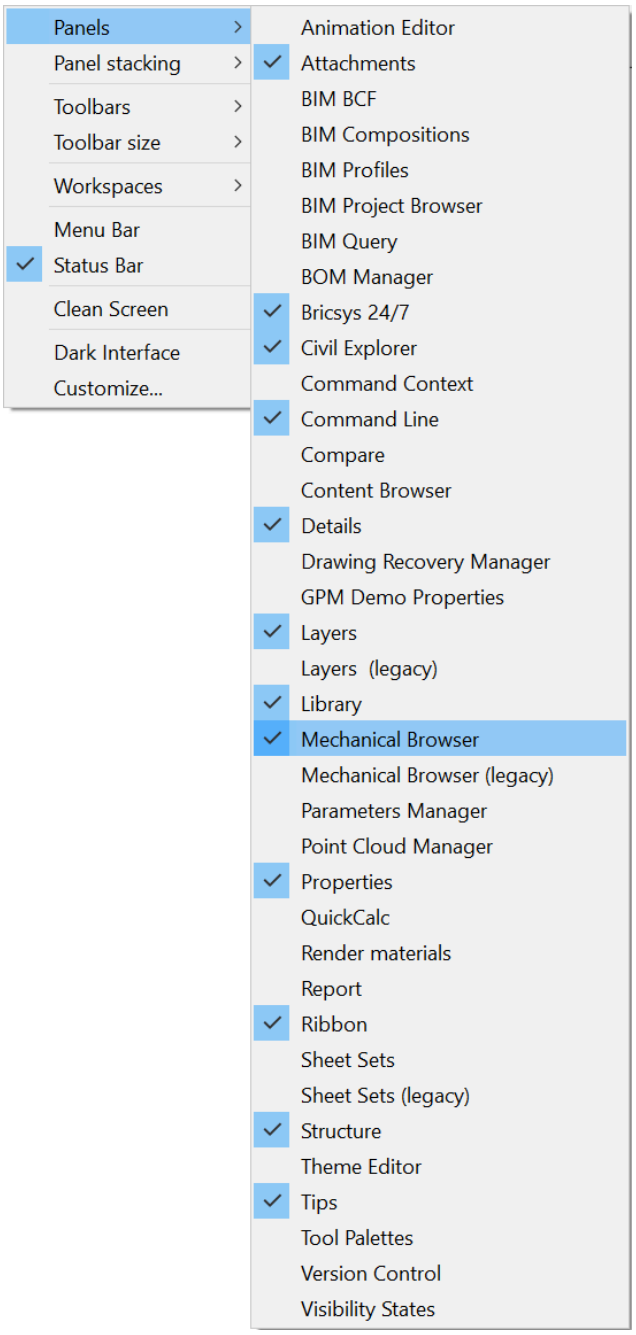
3 **メカニカルブラウザ**パネルを開きます。

4 ツールパネルセットの**メカニカルブラウザ**ボタンをクリックします。

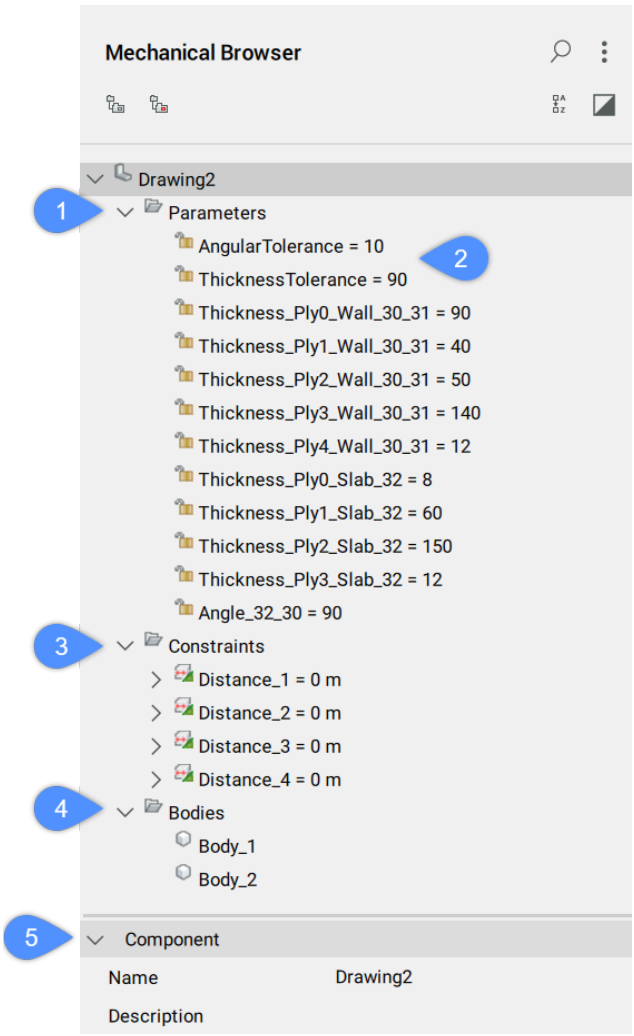
5 **メカニカルブラウザ**ボタンがまだ表示されていない場合は、カーソルをツールバーまたはリボンパネルに移動して右クリックします。コンテキストメニューが表示されます。

パネルオプションを展開します。

コンテキストメニューで**メカニカルブラウザ**を選択します。

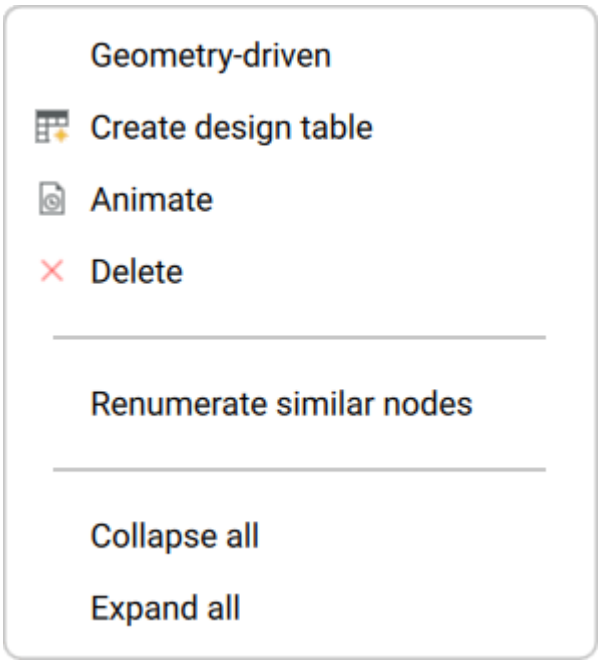


6 **メカニカルブラウザ**ボタンをクリックすると、**メカニカルブラウザ**パネルが表示されます。



注：また、MECHANICALBROWSEROPENコマンドを使用することもできます。

(7)**パラメータ**：パラメータを右クリックして、コンテキストメニューを開きます。



- **ジオメトリ駆動**：チェックすると、パラメータをジオメトリ駆動にします。
- **デザインテーブルを作成**：パラメトリックブロックパラメータを駆動するデザインテーブルを作成します。
- **アニメイト**：パラメータを使ってモデルをアニメーションさせます。
- **削除**：選択したパラメータを削除します。
- **類似ノードで再付番**：同じタイプで同じレベルのすべてのノードを再付番します。
- **すべて折りたたむ**：**メカニカルブラウザ**全体を折りたたみます。
- **すべて展開**：**メカニカルブラウザ**全体を展開します。

(8)**パラメータ公差**：角度、厚さ、寸法の元のパラメータ値からの変化の最大値と最小値。

(10)**拘束**：拘束の削除、変更または追加ができます。

注：詳細ボリュームと詳細オブジェクトを参照ソリッドにリンクするいくつかのデフォルト拘束が生成されます。削除して他の拘束に置換することができます。

(9)**ボディ**：モデル内のボディを表示します。

(11)**コンポーネント**：詳細ファイルのプロパティです。

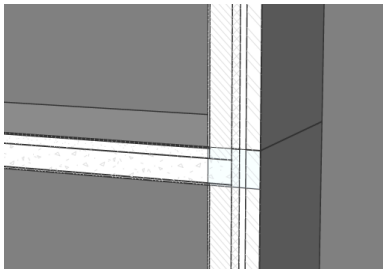
7 パラメータを編集します。

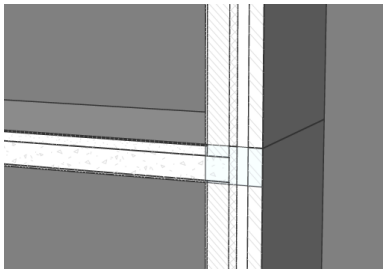
8 生成されたパラメータには、詳細が作成されたときと同じように見えるようにするための特定の値があります。これらの値を変更すると、詳細が変更されます。

例：

- **Thickness_Ply1_Wall_30_31**パラメータの40～70(**式**入力欄内)を変更します。新しい詳細が、モデル空間で表示されます。

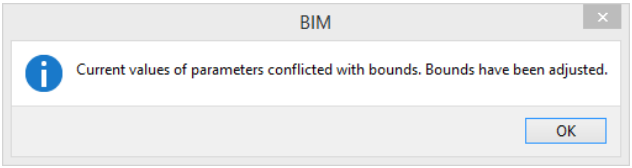
切断前	後





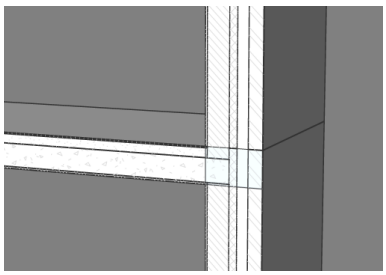
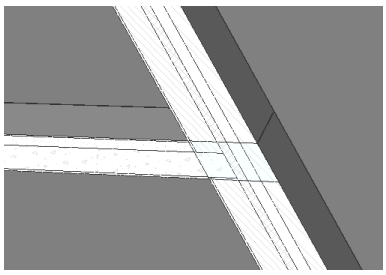
- **Angle_32_30**パラメータを90から120に変更します。壁とスラブの間の新しい角度は、モデル空間では異なります。

  警告がポップアップします。



  これは**角度公差**パラメータが10に設定されたためです。**Angle_30_31**パラメータを30度に変更したため、新しい**角度公差**パラメータは自動的に30に変更されます。

- **OK**をクリックします。

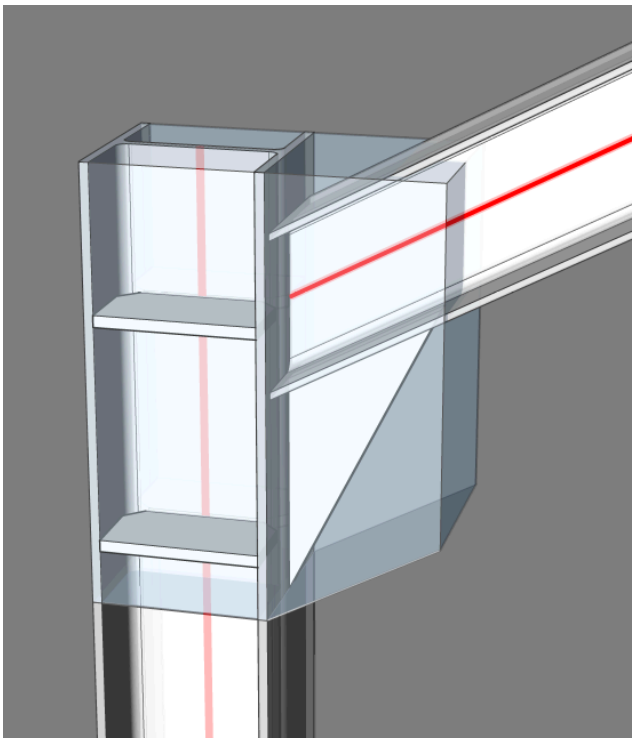
切断前	後
	

24.8.4 構造用鋼接続のパラメトリック化と編集

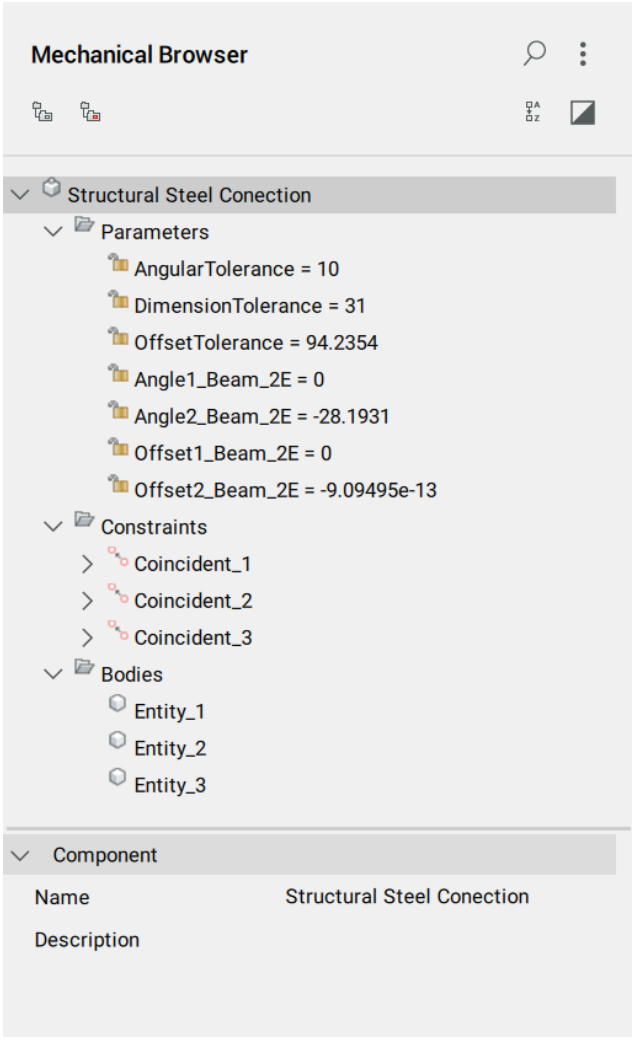
1 パラメトリック化したい詳細.dwgファイルを開くには、**詳細**パネルの詳細をクリックします。**詳細を表示**ダイアログボックスが表示されます。

2 **パラメータ化**をクリックするか、**開く**をクリックしてBIMPARAMETRIZEDETAILを実行します。

詳細DWGファイルが開き、詳細がパラメトリック化されます。



3 **メカニカルブラウザ**を開きます。



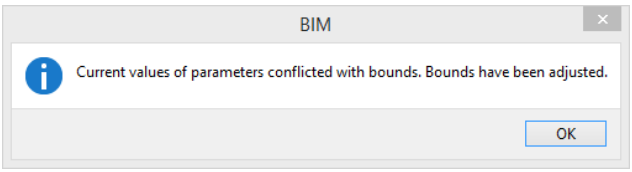
注：線形参照ソリッド間の接続では、フレームワークのパラメータのみが自動生成されます。詳細オブジェクトの基準ソリッドに対する動作を指定するには、手動で拘束を追加する必要があります。この例では、3つの一致拘束が手動で追加されています。2つは三角鋼板の接続面が鉄骨柱と桁のフランジと一致していることを確認するため、1つは桁の端部が柱のフランジと一致していることを確認するためです。パラメトリック化ツールの前または後に一致拘束を追加することができます。一致拘束を後から追加した場合、新しいパラメータで参照ソリッドがどのように変化するかを見ることができます。これにより、すべての詳細オブジェクトを正しく動かすために、どの拘束を追加しなければならないかが明確になります。

4 パラメータを編集します。

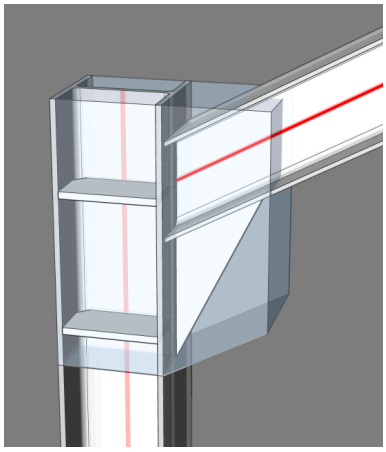
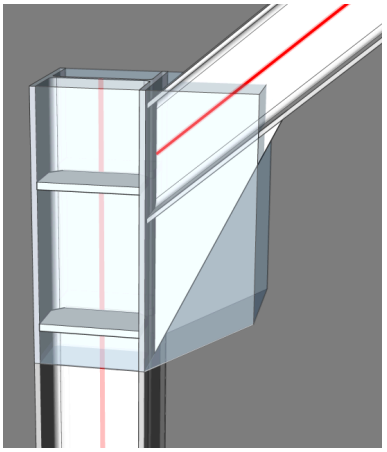
5 生成されたパラメータには特定の値が設定されており、作成された通りの詳細が確認できます。これらの値を変更すると、詳細が変わります。

例：

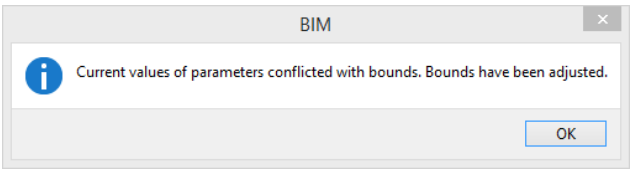
- **Angle2_Beam_2E**を-28.1931013282から-40に変更します。柱と桁がモデル空間内で変化します。警告がポップアップします。



これは**角度公差**パラメータが10に設定されていたためです。**Angle2_Beam_2E**を11 .8069に変更したため、**角度公差**パラメータは自動的に11.8069度に変更されました。**OK** をクリックします。

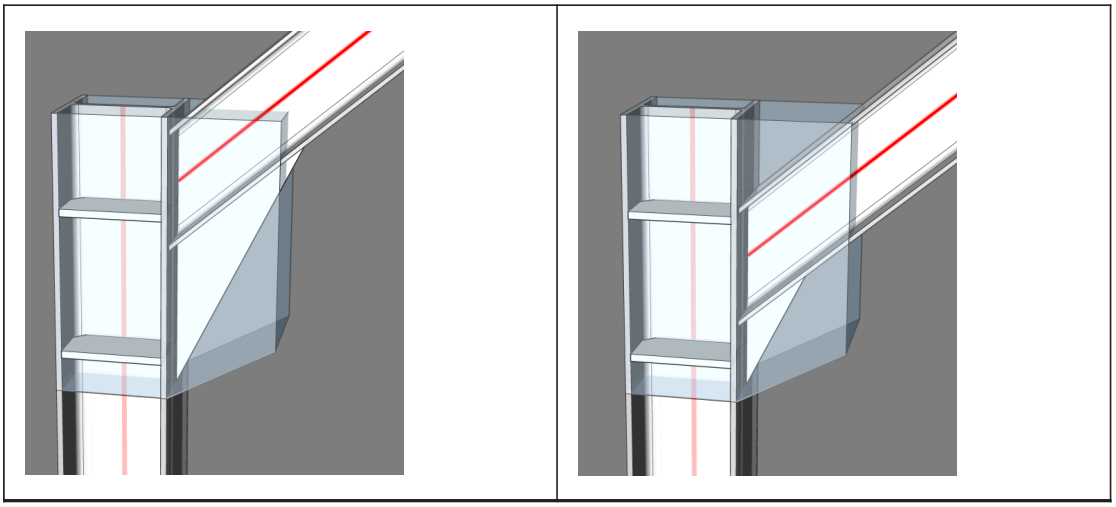
切断前	後
	

- **Offset1_Beam_2E**を0から200に変更します。桁が下に200mm移動しているのがわかります。
  警告がポップアップします。



これは**OffsetTolerance**パラメータが31に設定されていたためです。**Offset1_Beam_2E**パラメータを200mmに変更したため、**OffsetTolerance**パラメータは自動的に200に変更されました。**OK**をクリックします。

切断前	後



24.8.5 プロジェクトで詳細をプロパゲート

詳細をプロパゲートするには、さまざまな方法があります：

- **詳細**パネル：プロジェクト内の類似するすべての接続に、プロジェクトの詳細をプロパゲートします。
- BIMPROPAGATEFROMFILEコマンドで：ファイルから詳細をプロパゲートします。

BIMPROPAGATEコマンドでは、パラメータ化されていない詳細については、ほとんど提案されません。これは、パラメータ化されていない詳細は、可能な場所が少ないからです。

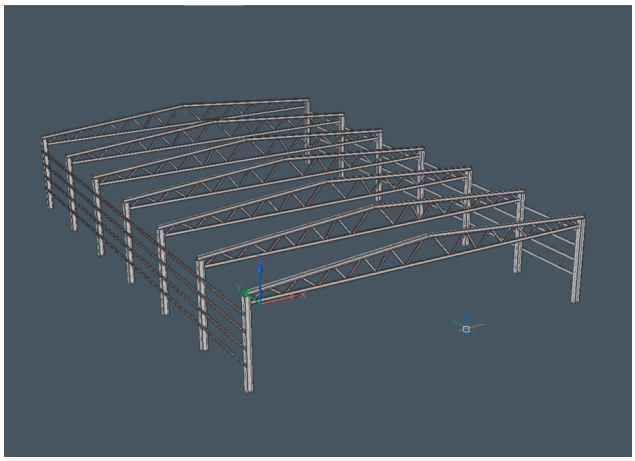
例えば、壁とスラブの接合部のノンパラメトリックな詳細がプロパゲートされた場合、BricsCAD BIMは、組成が異なる場合や、壁の特定のプライヤーが元の詳細の壁の対応するプライヤーから10mm異なる場合には、この詳細を壁とスラブの接合部にプロパゲートさせることができません。この問題を解決するためには、詳細をパラメトリックに表現する必要があります。

BIMPROPAGATEコマンドは、パラメータを持つ詳細をオリジナルとは異なる状況(例：別のコーナー、より小さなプロファイルなど)に適応させることができます。許容範囲のパラメータで、接続部分がオリジナルとどれだけ違うかを決めることができます。

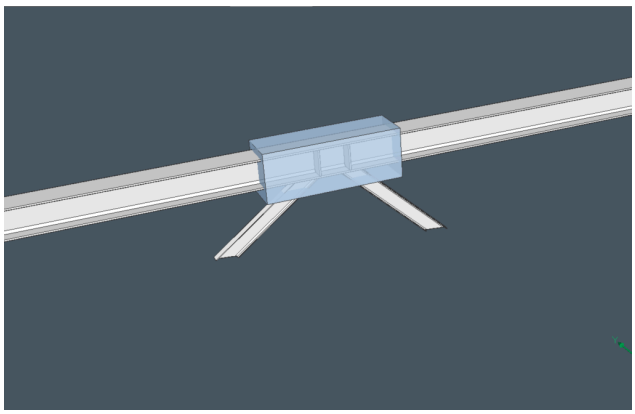
公差パラメータ

- **角度**：詳細の角度パラメータの公差を角度単位で設定します。目標とする状況での角度は、詳細の元の角度からこの公差値よりも大きく外れることはできません。
- **寸法**：詳細の線形参照ソリッドのプロファイル寸法の公差を設定します。目標とする状況でのプロファイルの幅と高さは、詳細における元の幅と高さから、この許容値以上に逸脱することはできません。
- **オフセット**：細部のオフセットパラメータの許容範囲を設定します。目標状況でのオフセットは、元のオフセットから、この許容値より逸脱することはできません。
- **厚さ**：詳細に含まれる平面参照ソリッドの合計厚さの許容値を設定します。対象となる状況での厚さは、詳細における元の厚さからこの許容値以上に逸脱することはできません。

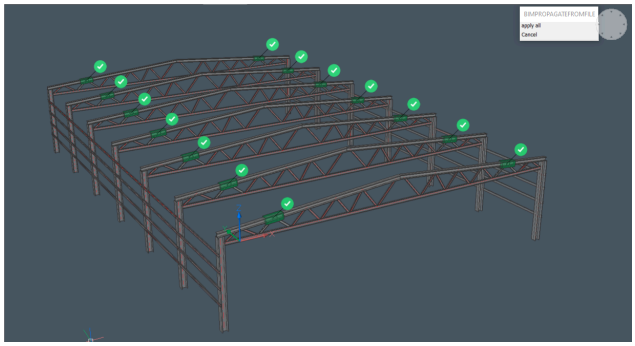
以下のプロジェクトでは、同様の接続が多数存在します。しかし、接続の角度が異なり、トラス内の下部の梁と上部の梁とは異なるプロファイルサイズを持っています。



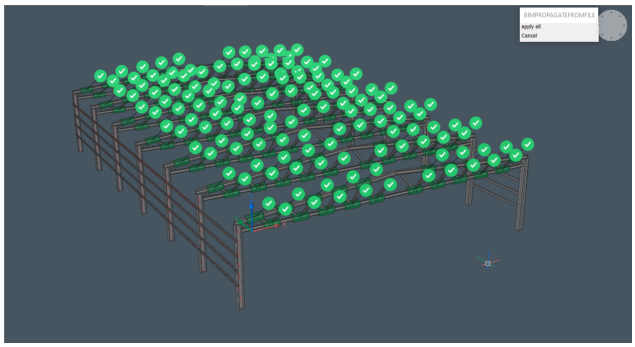
プロジェクトの詳細をプロパゲート：

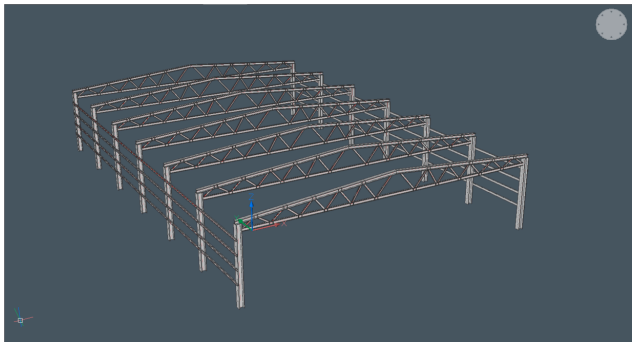


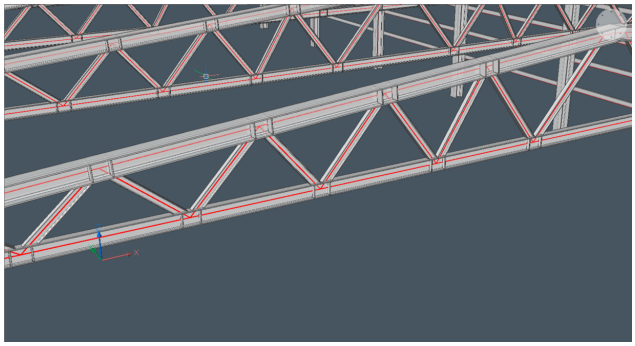
メカニカルブラウザパネルにパラメータが表示されます。**角度公差**パラメータが 0 度に設定されている場合は、全く同じ角度の接続にのみ詳細がプロパゲートされます。



角度公差パラメータを45度に変更します。この詳細はすべての類似した接続にプロパゲートします。これは、どの接続も許容値を超えていないためです。





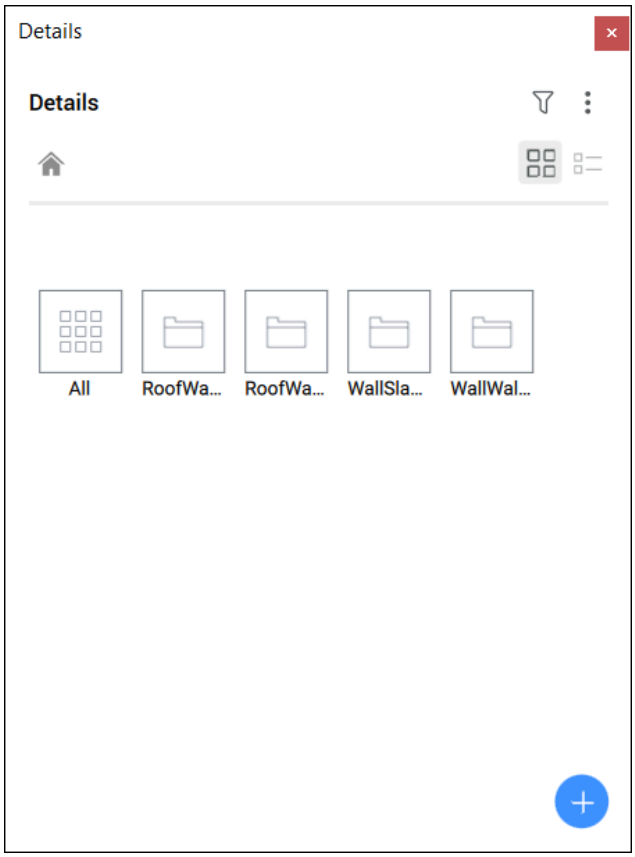


24.9 詳細パネルの使用

24.9.1 詳細パネルを開く

詳細パネルが表示されない場合は、パネルを右クリックして**パネル** > **詳細**を選択するか、DETAILSPANELOPENコマンドを実行します。

詳細パネルが表示され、BricsCADアプリケーションウィンドウの右側にある折りたたみ式パネルセットに**詳細**ボタン( )が追加されます。



詳細ボタン()をクリックすると、**詳細**パネルの展開/折り畳みができます。

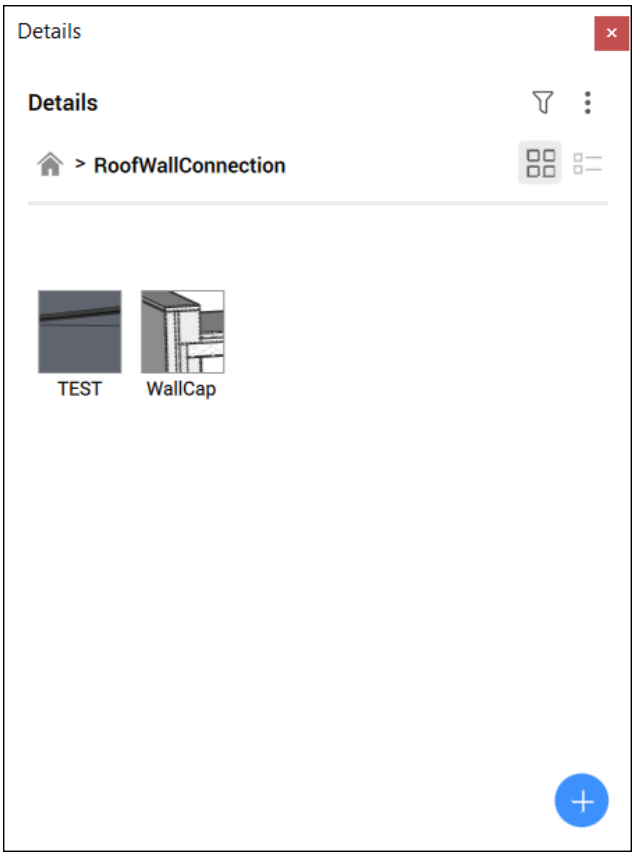
24.9.2 詳細情報を詳細パネルへ保存

新しい詳細を作成した後、**詳細**パネルに保存することが可能です。こうすることで、他のファイルでも同じ詳細情報を使うことができます。BIMCREATEDETAILコマンドを使用するか**詳細パネル**の**詳細の作成**をクリックします。

24.9.3 詳細を見る

1 閲覧したい詳細情報のカテゴリをクリックします。そのカテゴリに割り当てられた詳細情報が表示されます。

1



2 閲覧したい詳細情報をクリックします。

3 **詳細を表示**ダイアログボックスが表示されます。

タグの管理

1 **詳細**パネルで、調整する詳細をクリックします。

詳細を表示ダイアログボックスが表示されます。

2 **ソリッド参照タグ**カテゴリに移動して、ソリッド参照タグを管理します。

これらのタグは削除のみ可能で、新規にタグを追加することはできません。

3 タグを追加ボタンをクリックして新しいタグの名前を入力し、Enterを押して**一般タグ**に追加します。

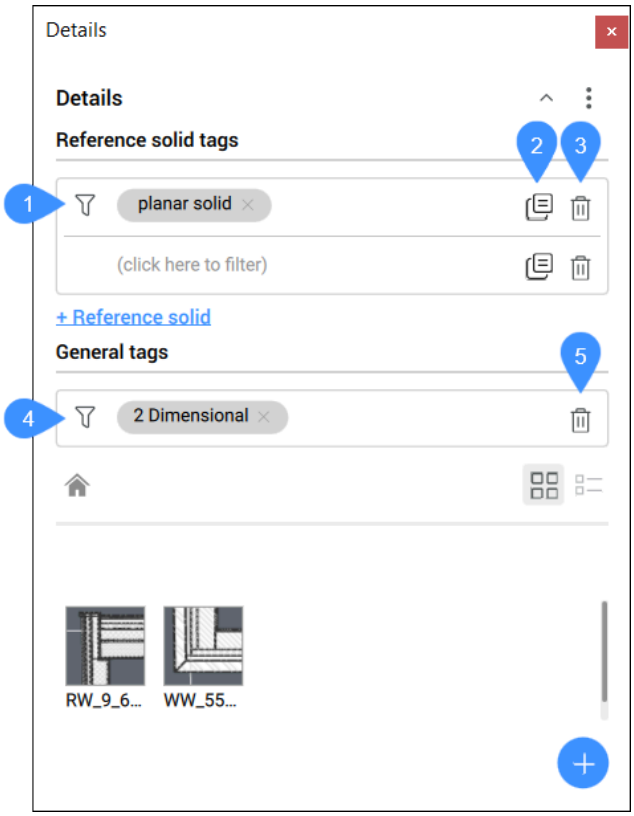
新しいタグはオレンジ色のボックスの**一般タグ**カテゴリに追加されます。

この手順を繰り返して、タグを増やしていきます。

4 **保存**ボタンをクリックして変更を保存し、**詳細を表示**ダイアログボックスを閉じます。

タグで詳細を検索

フィルターアイコン()をクリックして、フィルターオプションを開きます。ここでは、タグを使ってライブラリーの詳細を検索することができます。一度に複数のタグを検索クエリに追加して、一致するすべての詳細を選択することができます。



1 参照ソリッドタグの追加

2 参照ソリッドのコピー

3 参照ソリッドの削除

4 一般タグの追加

5 一般タグの削除

参照ソリッドタグの追加
ボックス内をクリックして「参照ソリッドタグ」のドロップダウンリストを開き、リストからタグを選択します。タグの名前を入力してタグを追加することもできます。

注：参照ソリッドごとに複数のタグを追加できます。参照ソリッドを追加するには、 + **参照ソリッド**をクリックします。

参照ソリッドのコピー
選択した参照ソリッドとそのタグをコピーします。

参照ソリッドの削除
選択した参照ソリッドを削除します。

注：タグ名の横にある十字をクリックすると、参照ソリッドからタグを1つだけ削除できます。

一般タグの追加
ボックス内をクリックして「一般タグ」のドロップダウンリストを開き、リストからタグを選択します。タグの名前を入力してタグを追加することもできます。

注：複数のタグを選択することができます。

一般タグの削除
一般タグをすべて削除します。

注 : タグ名の横の十字をクリックすると、1つのタグのみを削除します。

24.9.4 詳細の編集

1 編集したい詳細をクリックして、**詳細を表示**ダイアログボックスを開きます。

2 **開く**ボタンをクリックします。

詳細.dwgファイルは、別の図面タブで開きます。

3 詳細に必要な調整を行います。

4 詳細.dwgを保存します。

5 詳細は**詳細**パネルで更新されます。

6 既存の詳細情報は自動的に更新されません。既存の詳細情報を新しく置き換えるには、以下の手順で詳細をプロパゲートさせます。

24.9.5 詳細のプロパゲート

プロジェクト内のすべての類似した接続に詳細をプロパゲートさせることができます。

1 ライブラリで詳細を選択します。

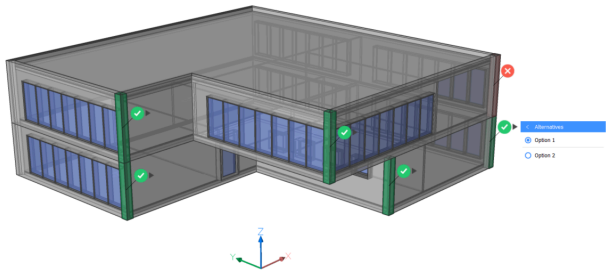
1 **詳細を表示**ダイアログボックスが表示されます。

2 **プロパゲート**をクリックします。

すべての提案を適用するには、Enterを押します。

提案を拒否するには、チェックマークをクリックします。チェックマークの代わりに赤い十字のアイコンが表示されます。提案を受け入れるには、もう一度アイコンをクリックします。選択肢が複数ある場合は、チェックマークにカーソルを合わせると選択肢が表示され、必要なオプションを選択できます。

Enterを押して、受け入れられたすべての提案を受け入れます。



また、BIMPROPAGATEFROMFILEコマンドを使って、プロジェクト内の詳細をプロパゲートさせることもできます。このコマンドでは、ライブラリにない詳細ファイルをプロパゲートさせることができます。

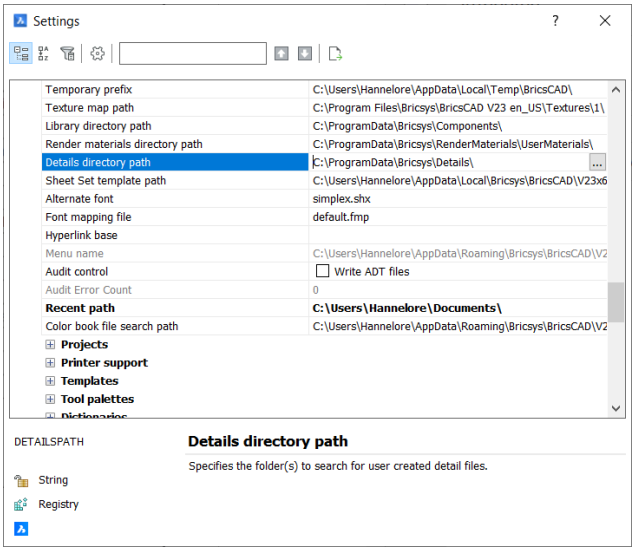
24.9.6 詳細共有

詳細を.dwgファイルとして保存し、詳細フォルダー/ライブラリを共有できます。詳細図面を正しい位置に保存すると、**詳細**パネルに表示されます。

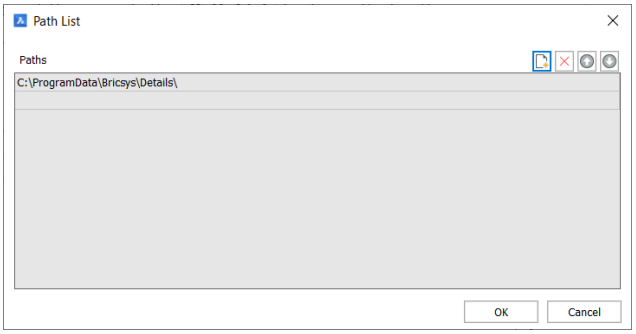
1 共有するために新しい詳細を作りたい場合は、上記で説明したように、まず新しい詳細を作ります。

1 以下の手順は、新規の詳細と既存の詳細の両方に適用されます。

2 作成したすべての詳細情報は、DETAILSPATHシステム変数で設定されたフォルダーとそのサブフォルダーに自動的に保存されます。デフォルトでは、C:¥ProgramData¥Bricsys¥Detailsとなります。



その後、**パスリスト**の既存の名前の横にある3つのドットをクリックして、**パスリスト**ダイアログボックスを開きます。ここで場所を変更できます。

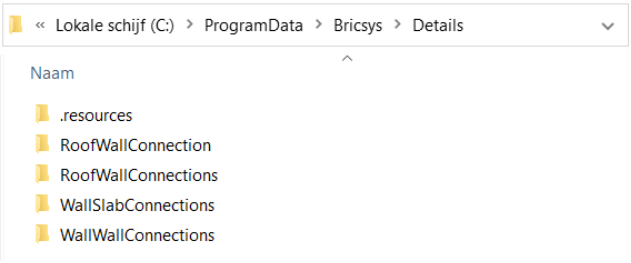


また、追加でパスを作成することもできます。

新規アイコン( )をクリックした後、新しい行にある3つの点をクリックして**詳細**ライブラリのパスを追加します。

3 フォルダーを共有したい場合は、コンピューターのファイルエクスプローラで、詳細フォルダーのパスを辿ってください。まだ詳細を作成していない場合、このフォルダーには.**resources**というフォルダーのみが含まれています。

詳細を作成している場合は、**詳細**パネルと同じフォルダーがここにあります。



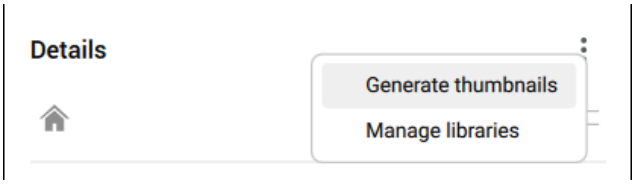
4 共有したいフォルダーをコピーして、ZIPファイルにします。このzipファイルを他の人と共有できます。

5 ZIPファイルを受け取った場合は解凍して、詳細情報を含むフォルダーをC:¥ProgramData¥Bricsys¥Detailsにコピーしてください。

注：詳細フォルダーに配置したフォルダーに、詳細が保存されていることを確認します。dwgファイルを**詳細**フォルダーに配置しただけでは、**詳細**パネルには表示されません。

6 ライブラリパネルに新しい詳細を読み込むには、**詳細**パネルに移動し、**メニュー**を開いて、**サムネイルの生成**をクリックします。

新しい詳細フォルダーは**詳細**パネルに表示されます。



24.10 Rhino/Grasshopper 統合

24.10.1 概要

Rhinoceros3Dは、米国ワシントン州シアトルのRobert McNeel & Associatesが開発した3Dモデラーです。Rhinoは、NURBS(曲線、サーフェス、ソリッド、点群、ポリゴンメッシュ)の作成、編集、分析、ドキュメント作成、レンダリング、アニメート、変換に使用されます。

Grasshopperは、3D CADアプリケーションRhinocerosの中で動作するビジュアルプログラミング言語環境です。これは、Rhinoの3Dモデリングツールと緊密に統合されています。

24.10.2 Rhino/Grasshopper Connectionのインストール

1 ??からRhinoをダウンロードしてください。

注：BricsCAD BIMとRhino 7両方の最新バージョンの体験版ライセンスキーで、BricsCAD内でRhino/Grasshopper Connectionを使用することができます。BricsCAD V21のリリース以降、旧バージョンのRhinoのキーはこの統合に使用できません。

2 Grasshopper-BricsCAD ConnectionをBricsCAD???????????からダウンロードしてください。すべての必要なファイルはProgram Files¥Bricsys¥Grasshopper-BricsCAD Connectionフォルダーにコピーされます。

注：現在アプリケーションストアで販売されているGrasshopper-BricsCAD Connectionは、現行のBricsCAD Pro、BIM、Mechanical、Ultimateのいずれかのバージョンで動作します。

注：Grasshopper-BricsCAD Connectionは、Pro、Mechanical、BIM、Ultimateと連携し、ジオメトリを作成することが可能です。ただし、BIM固有の機能(分類の追加、空間位置、プロファイル、プロパティ、IFCエクスポート)は、BricsCAD BIMまたはUltimateライセンスでのみ動作します。

3 BricsCADを再起動します。

4 GrasshopperまたはRhinoを起動するには、新しい図面を開いて保存します。そして、リボンに表示される新しいタブのボタンを使うか、クワッドで起動します。

BricsCADからGrasshopperのファイルを起動するには

1 空のBricsCADファイルを開きます。

2 保存します。

3 BricsCAD内に追加された新しい**Grasshopper**リボンタブのボタンでGrasshopperを開きます。

4 Rhinoのポップアップウィンドウを閉じることができます。Rhinoはバックグラウンドで動作し続けます。

5 Grasshopperの**File**メニューより**New document**を選択して、新規の空のGrasshopperスクリプトを開きます。

6 **Open document...**を選択して、既存のGrasshopperスクリプトを開きます。他のプログラムからの入力ジオメトリが内部化されていれば、過去にGrasshopperで作成したスクリプトをBricsCADで開くことができます。(データを内部化するには、入力ジオメトリコンポーネントを右クリックして、**データ内部化**を実行します)

7 スクリプトで作成したジオメトリは、BricsCADモデル空間にポップアップされ、赤く表示されているはずです。**Grasshopper**ウィンドウを閉じないようにしてください。Grasshopperドキュメントを閉じてしまうと、プレビュージオメトリが消えてしまいます。

8 Grasshopperスクリプトを開いてもプレビュージオメトリが表示されない場合は、Grasshopperファイルが間違ったBricsCADドキュメントにリンクされている可能性があります。正しいものにリンクさせるには、**『GrasshopperのファイルとBricsCADのファイルをリンクさせるには』をご参照ください。**

GrasshopperのファイルとBricsCADのファイルをリンクさせるには

デフォルトでは、Grasshopperドキュメントがリンクする BricsCADファイルは、BricsCADからGrasshopperを起動したときにアクティブだったものになります。別のBricsCADファイルにリンクさせたい場合は以下を実行する必要があります：

1 対象となるBricsCADの図面をカレントの図面(すなわち、現在のセッションのモデル空間ウィンドウに表示されている図面)にします。

2 この開いている図面にGrasshopperのスクリプトをリンクします。そのためには、リンクしようとしているスクリプトを含むGrasshopperキャンバスのすぐ上のバーにあるリンクアイコン( )をクリックします。

サンプルファイルを起動するには

サンプルファイルは、Grasshopper-BricsCAD Connectionに付属しています。Connectionでできることを教えてくれます。それらはProgram Files¥Bricsys¥Grasshopper-BricsCAD Connectionフォルダーに格納されています。

1 Program Files¥Bricsys¥Grasshopper-BricsCAD Connectionフォルダーから.dwgファイルを開いて、サンプルの.dwgを開きます。

2 ファイルが読み取り専用であるという警告が表示されます。これは、ドキュメントがセキュリティで保護されたフォルダーにあるために起こります。**はい**をクリックすると、読み取り専用で開きます。

オプション：この警告を表示したくない場合や、ファイルを編集したい場合は、代わりにサンプルファイルを自分のフォル

ダーにコピーペーストして、そこから開いてください。

3 Grasshopper内から、**ファイル** > **ドキュメントを開く**を選択します。再びProgram Files¥Bricsys¥Grasshopper-BricsCAD Connectionフォルダーに移動します。

4 .dwgと同じ名前の.ghx-fileを選択します。

5 サンプルファイルが開き、BricsCADのモデル空間に赤いプレビュージオメトリが表示されます。

Grasshopperウィンドウを閉じないようにしてください。Grasshopperドキュメントを閉じてしまうと、プレビュージオメトリが消えてしまいます。Grasshopperスクリプトを開いてもプレビュージオメトリが表示されない場合は、Grasshopperファイルが間違ったBricsCADドキュメントにリンクされている可能性があります。正しいものにリンクさせるには、『**GrasshopperのファイルとBricsCADのファイルをリンクさせるには**』をご参照ください。

6 Grasshopperのスクリプトでは、入力スライダーを操作することができます。

7 モデルに問題がなく、プレビューのジオメトリを実際のBricsCADのジオメトリに変換したい場合は、ジオメトリをBricsCADに「ベイク」することができます。そのためには、**建物要素ベイク**コンポーネントをすべて選択して(Shiftを押しながらクリック)、**ベイク**ボタン( )を押します。

8 ポップアップウィンドウが表示されますので、**OK**をクリックして確定してください。

9 BIMデータがアタッチされていても、実際のBricsCADのジオメトリに変換されるようになりました。

10 読み取り専用のため、変更した内容をファイルに保存することはできません。そのため、変更した内容を破棄するか、新しいファイルとして別の場所に保存してください。

24.10.3 Rhino/Grasshopper接続のカスタマイズ

Rhino/Grasshopper Connectionのコードは100%オープンソースです。??から入手できます。これにより、思う存分コーディングしてConnectorを完全にカスタマイズすることができます(もちろん、コーディングの方法を知っていることが前提です)。

24.10.4 Rhino/Grasshopper Connectionをアンインストール

1 Windowsで**プログラムの追加と削除**を起動します。

2 **Grasshopper-BricsCAD Connection**を検索します。

3 **アンインストール**をクリックします。

24.10.5 Rhinoでボックスを作図し、Grasshopper経由でBricsCADにベイクする方法

1 新しいBricsCADファイルを開きます。

2 ファイルを保存します。

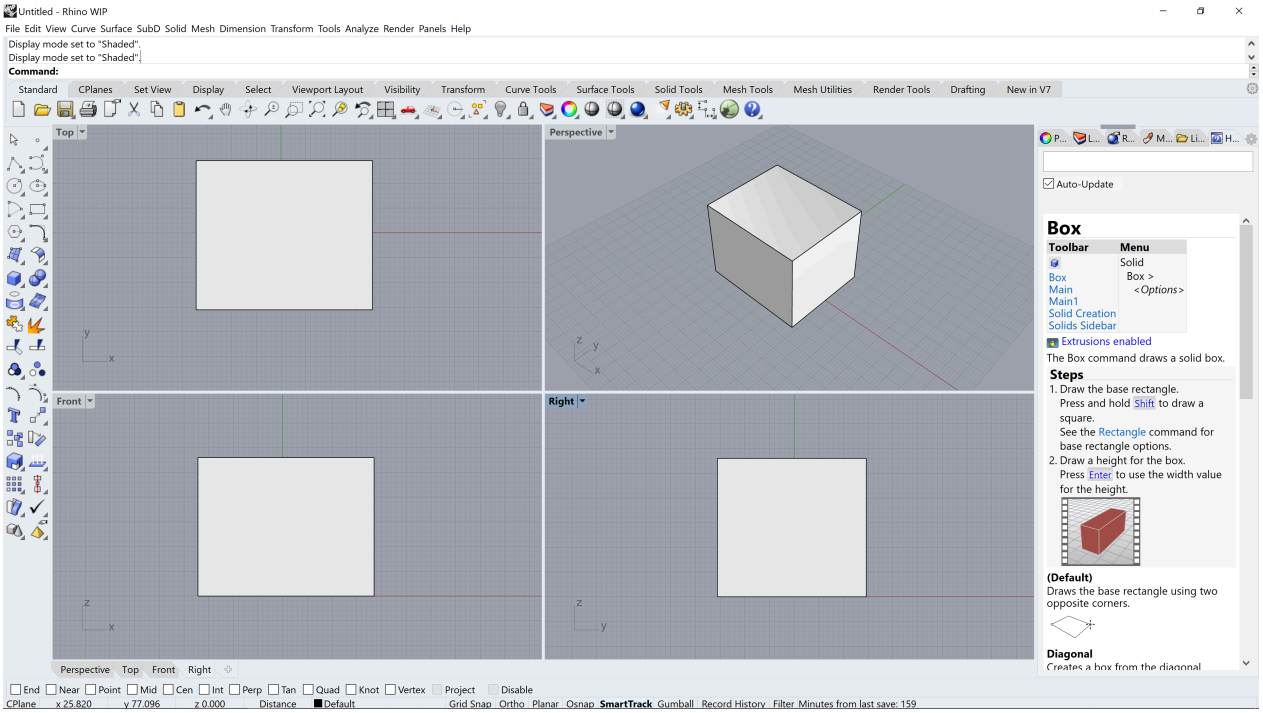
3 BricsCADで、**Grasshopper** > **Rhino**をクリックします。

4 RhinoのコマンドラインにBOXと入力してRhinoのボックスを作成します。(これはBricsCAD BOXコマンドと同じように動作します)

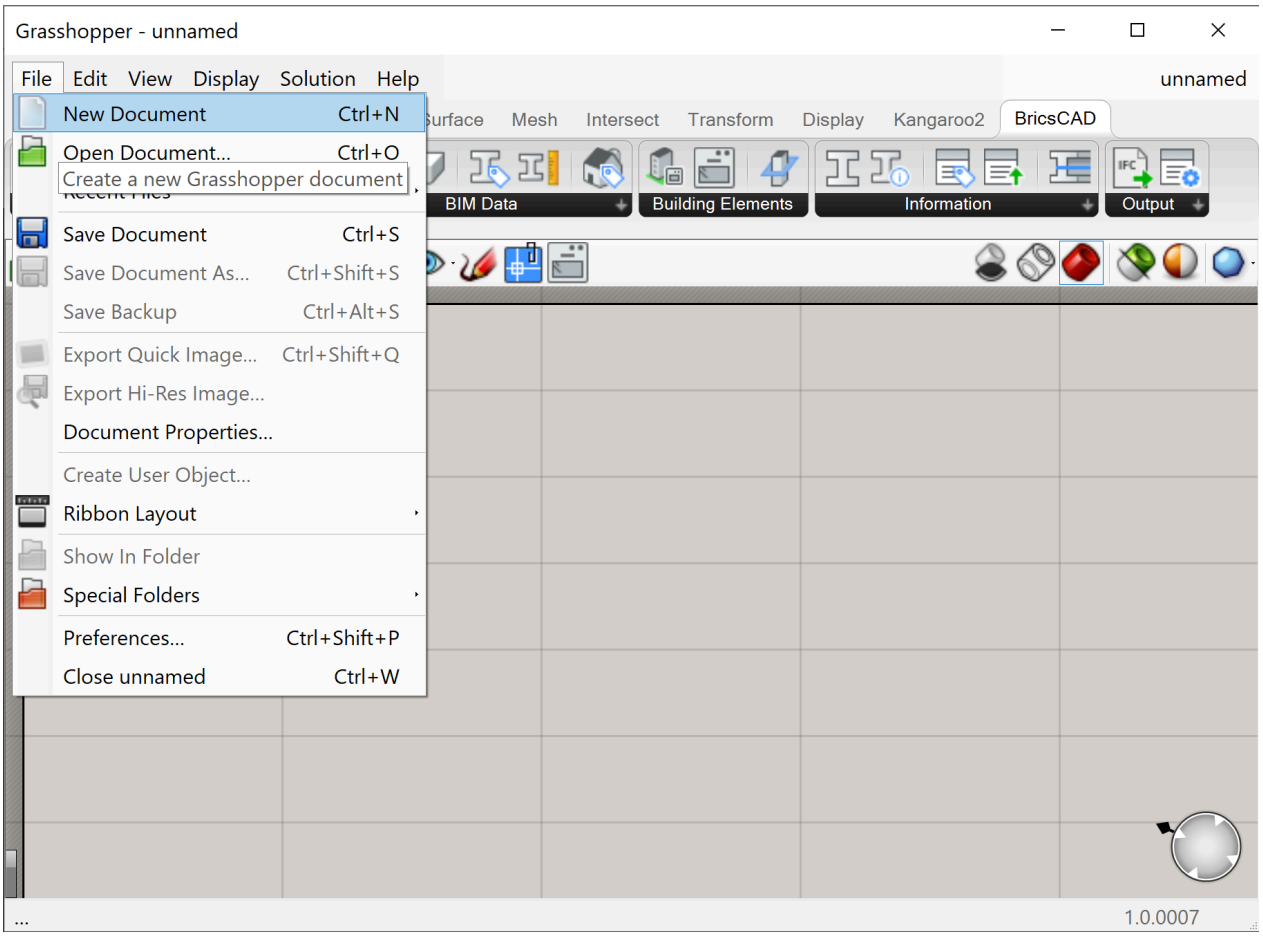
5 クリックすると、ベースの最初のコーナーが表示されます。

6 クリックすると、ベースの反対側のコーナーが表示されます。

7 クリックしてボックスの高さを定義します。



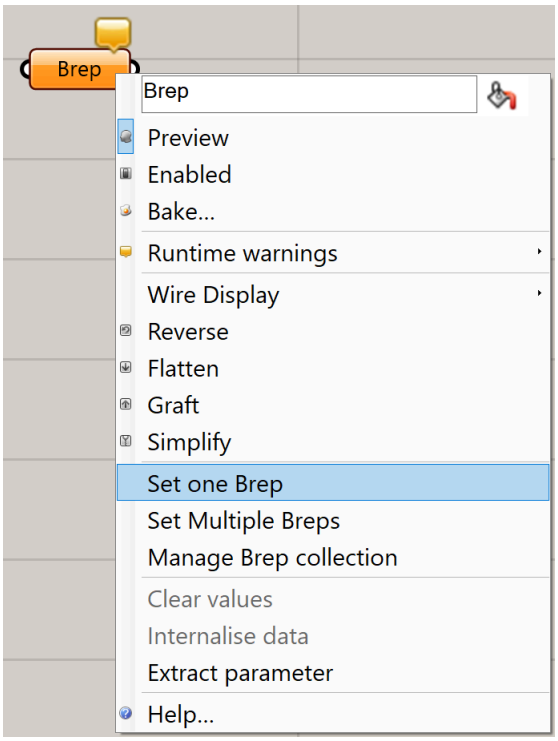
8 新しいGrasshopperスクリプトを開くには、Grasshopper環境内で**Grasshopper** > **Grasshopper** をクリックし、**File** > **New Document**をクリックします。



9 ファイルを保存します。

10 **Params** > **Geometry** > **Brep コンポーネント**をGrasshopperキャンバスにドラッグ&ドロップします。

11 コンポーネント上で右クリックし、**Set one Brep**を選択します。

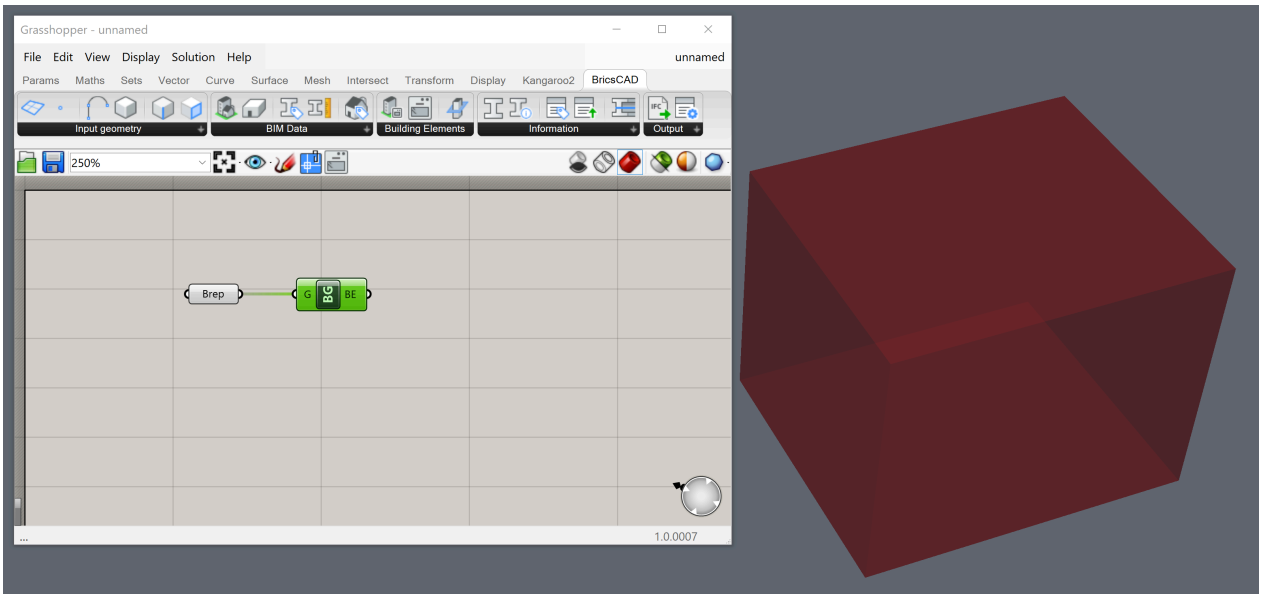


12 Rhinoのキャンバスに移動し、立方体を選択します。

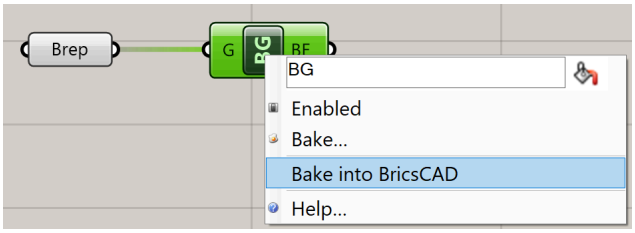
13 Brepコンポーネントの色がオレンジからグレーに変わります。Rhinoのウィンドウを閉じて**Grasshopper**のウィンドウに戻ると、BricsCADのモデル空間に立方体のプレビューが表示されます。

14 Grasshopper環境の**BricsCAD** > **Building Element** > **Bake Geometryコンポーネント**をGrasshopperキャンバスにドラッグ&ドロップします。

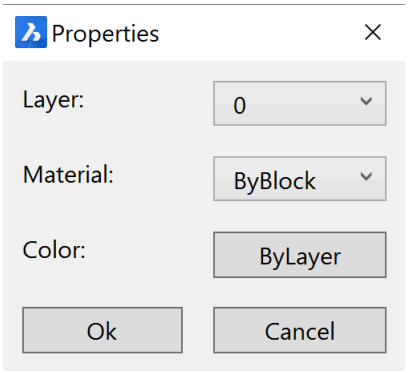
15 2 つのコンポーネントをリンクさせるには、Brepコンポーネントの右端のドットからBricsCADベイクコンポーネントの左端のドットまでクリックしてドラッグします。



16 **Bake Geometry コンポーネント**を右クリックし、**Bake into BricsCAD**を選択します。



以下のダイアログが表示されます。ここでは保存先の**画層**、**マテリアル**、**色**を選択することができます：

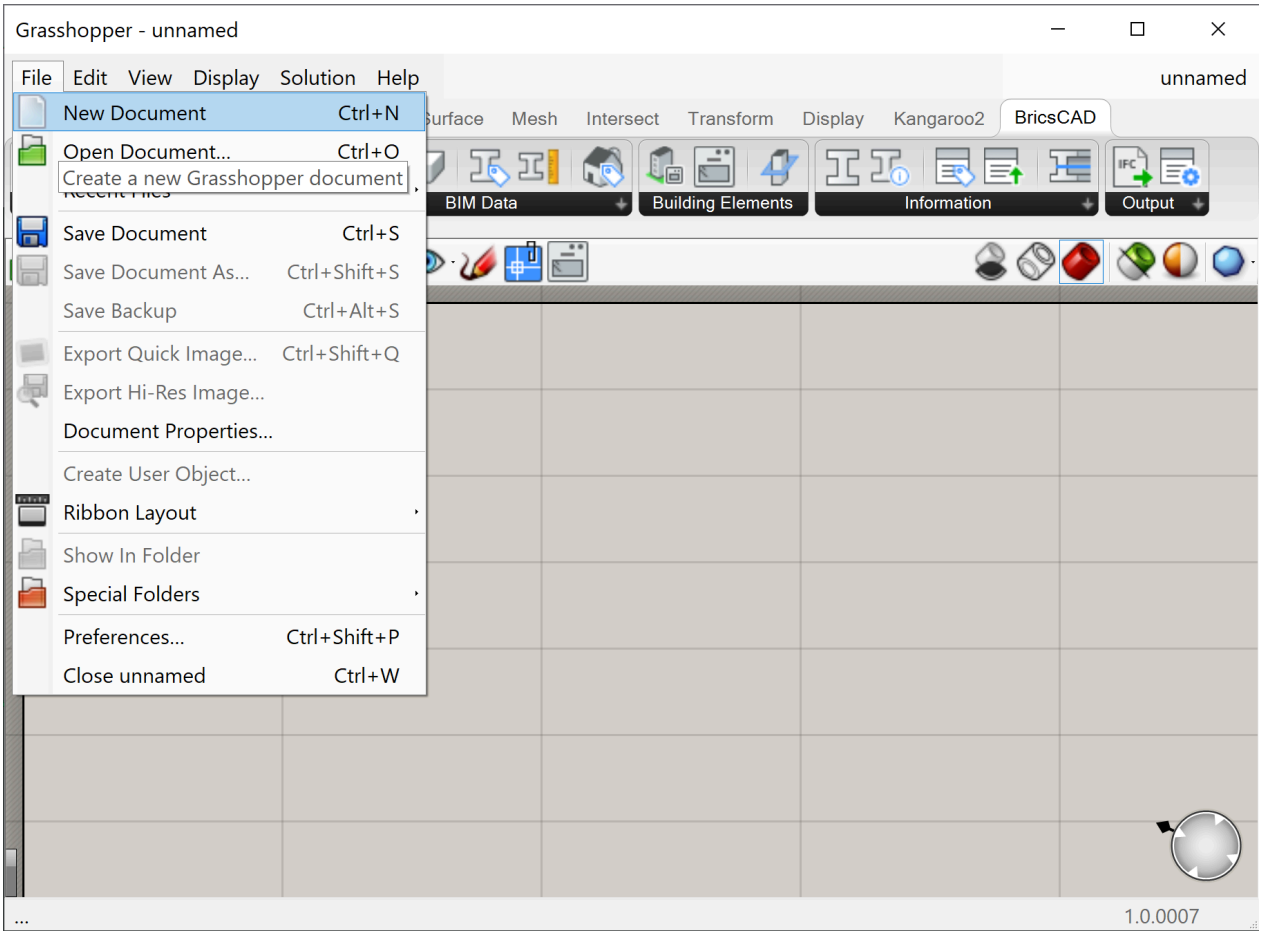


17 **OK**をクリックします。このボックスはBricsCADにソリッドとしてベイクされます。

24.10.6 BricsCADの矩形からGrasshopperでボックスを作成する方法

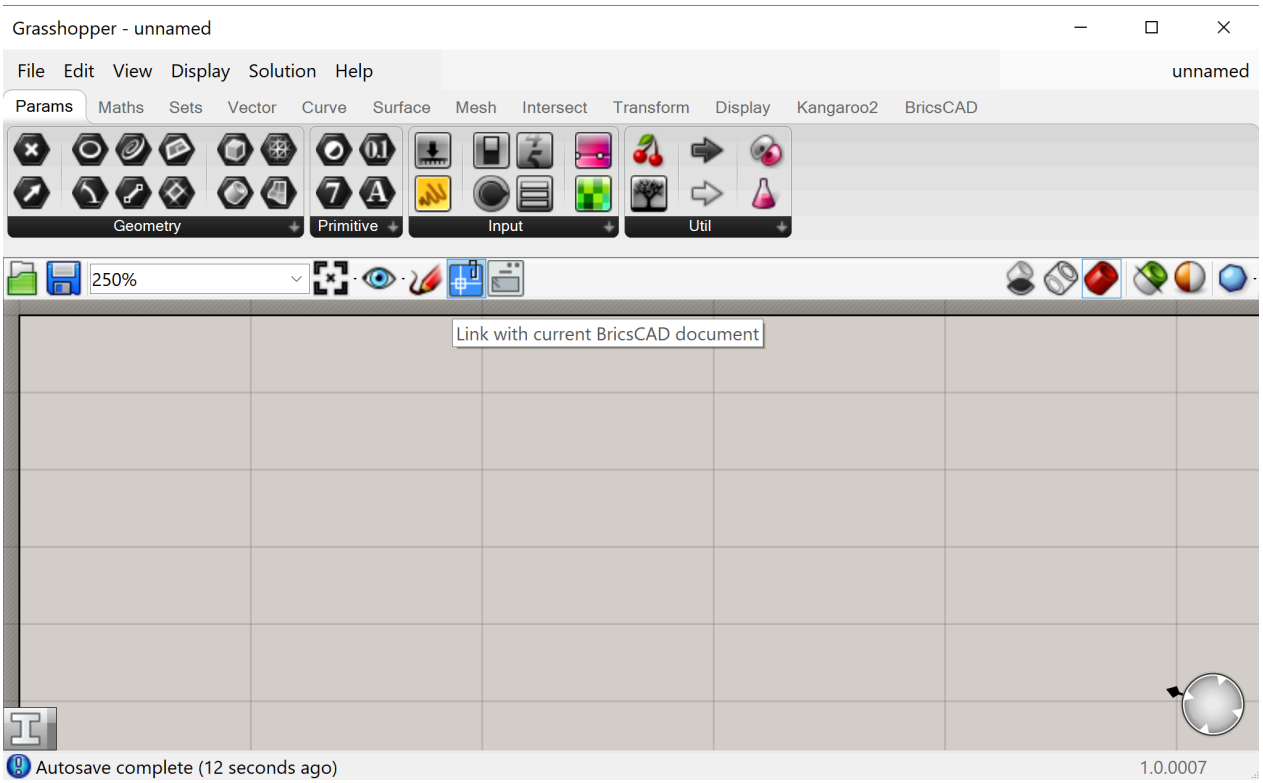
1 新しいGrasshopperスクリプトを開くには、**Grasshopper** > **Grasshopper**をクリックして、Grasshopper環境で**File**

> **New Document**をクリックします。ファイルを保存します。



2 **メートル単位のテンプレート**で新しいBricsCADファイルを開き、保存します。

3 開いている.dwgファイルに新しいスクリプトをリンクするには、**キャンバス**ツールバーの**リンク**ボタンを押します。



4 BricsCADのモデル空間に行き、矩形を作成します。

注：ポリラインを使って不規則な形状を作成することができます。

5 Grasshopper環境の**BricsCAD** > **Input Geometry** > **Curveコンポーネント**をGrasshopperキャンバスにドラッグ＆ドロップします。

6 **Curveコンポーネント**を右クリックして、**Set One BricsCAD Curve**を選択します。

7 BricsCADのモデル空間に行き、矩形を選択します。

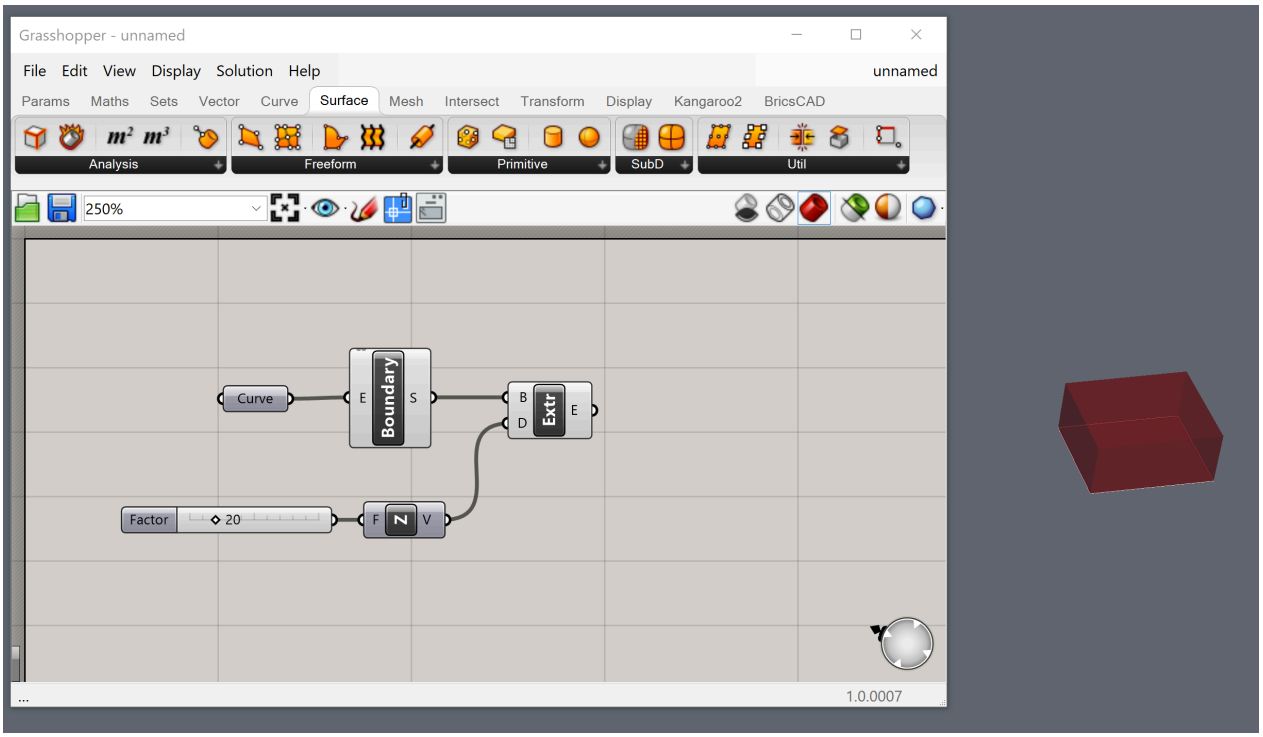
注：クワッドを使用して操作を短縮するには：BricsCADで曲線を選択し、クワッドの**Grasshopper**タブで**ToGrasshopper**を選択します。Grasshopperのキャンバスの左上にGrasshopperのコンポーネントが表示されます。

8 Curveコンポーネントを**サーフェス** > **自由形状** > **境界サーフェスコンポーネント**にリンクします。

9 これを**Surface** > **Freeform** > **Extrudeコンポーネント**にリンクします。

10 ExtrudeコンポーネントのDirection入力で、**Vector** > **Vector Unit** > **Zコンポーネント**を**Params** > **Input** > **Number Sliderコンポーネント**にリンクします。例えば17など、ボックスの高さに合わせて設定してください。

注：コンポーネントを右クリックして**Edit...**を選択すると、スライダーの範囲と精度を編集できます。ダイアログボックスが表示され、スライダーの桁数、最小値、最大値を設定できます。



11 BricsCADのジオメトリを入力データとして使用して、Grasshopperでボックスを作成することができました。

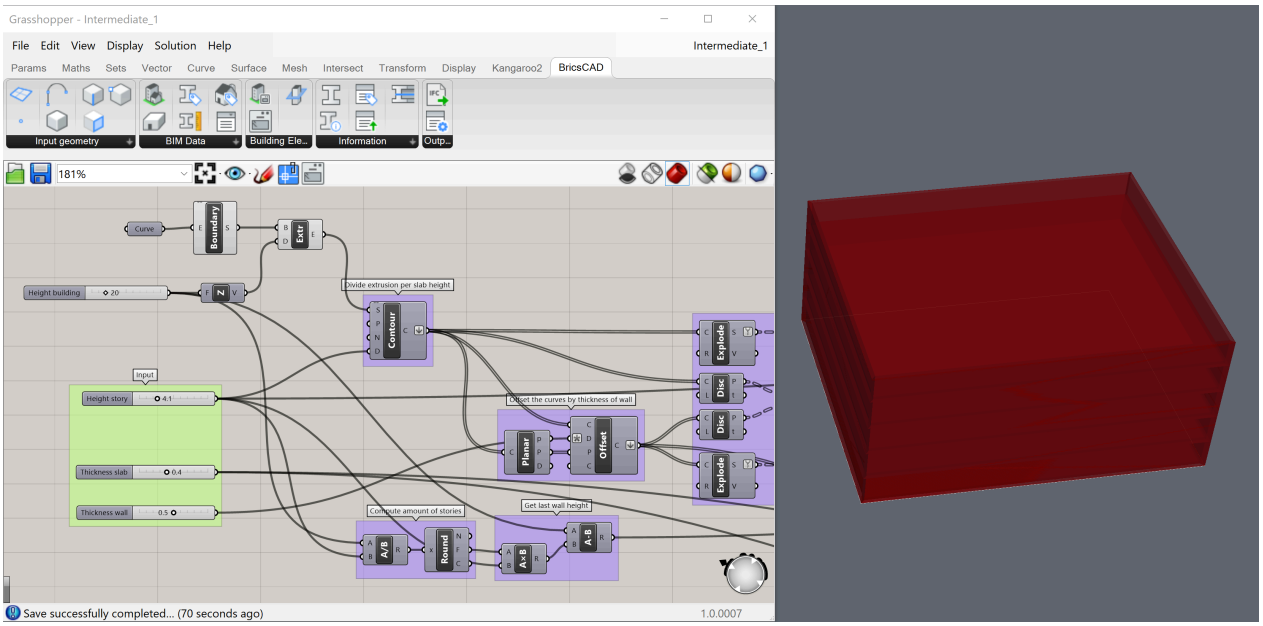
24.10.7 Grasshopperを使って、ボックスを階数ごとに分割する方法

1 **Start_1.ghx**のコードを以前のGrasshopperのスクリプトに追加します。
   - 実行するには、このページの一番下にあるZIPファイルをダウンロードして、その内容を解凍します。
   - 次に、**Grasshopper**ウィンドウの**ファイル** > **ドキュメントを開く...**に移動して、**Start_1.ghx**ファイルを開きます。
   - これで、キーボードで**Ctrl+A**を押してGrasshopperのコードをすべて選択し、**Ctrl+C**でコピーすることができます。
   - 次に、**Grasshopper**ウィンドウの右上にある、現在のドキュメントのタイトル(Start_1)をクリックして、前の手順で作業していたドキュメントに切り替えます。
   - すると、すべてのアクティブなGrasshopperスクリプトのドロップダウンが表示されるので、**BricsCADの矩形から Grasshopperでボックスを作成する方法**で保存したスクリプトを開きます。
   - キャンバスをクリックして**Ctrl+V**を押し、**Start_1.ghx**のコードを貼り付けます。

2 前の手順で作成した数値スライダーを右クリックして、名前を**Height building**に変更します。

3 この数値スライダーを、**階数計算**グループの除算コンポーネントの入力Aと、**最後の壁の高さ**取得グループの減算コンポーネントの入力Aにリンクします。

4 押出成形を輪郭コンポーネントの輪郭入力にリンクします。



5 ファイルのクリーンアップを行います：
   - 緑色の**Input**グループをキャンバスの前面にドラッグします。
   - **Height Building** スライダーをグループに追加するには、コンポーネントを選択してグループを右クリックし、**Add to group**を選択します。
   - 境界線と押し出しコンポーネントのプレビューをオフにする：コンポーネントを選択(Shiftを押しながらクリック)して、キャンバスの何もない場所で右クリックし、**Preview Off**を選択します。

6 **(オプション)**これらの変更が既に行われている中間ファイルの場合は、**Intermediate_1.ghx**と**Intermediate_1.dwg**を使用します。(このページの下にあるZIPファイルの中にあります)

7 今作ったスクリプトで以下のことが可能です：
   - 輪郭コンポーネントを使用して、スラブの高さごとに押し出しを分割します。
   - 曲線を壁の厚さ分だけ**オフセット**します。
   - 壁の底面を作ります。(底面は下階の壁と屋根の壁に分かれています)
   - 最後の壁の高さを計算します。
   - 表面を屋根、スラブ、壁に**押し出します**。
   - 緑の**Input**グループのスライダーを使って、建物の高さ、階数、スラブや壁の厚さを調整します。

8 3つの**BricsCAD > Building Element > Bake Building Elementコンポーネント**をGrasshopperのスクリプトの最後に追加します。

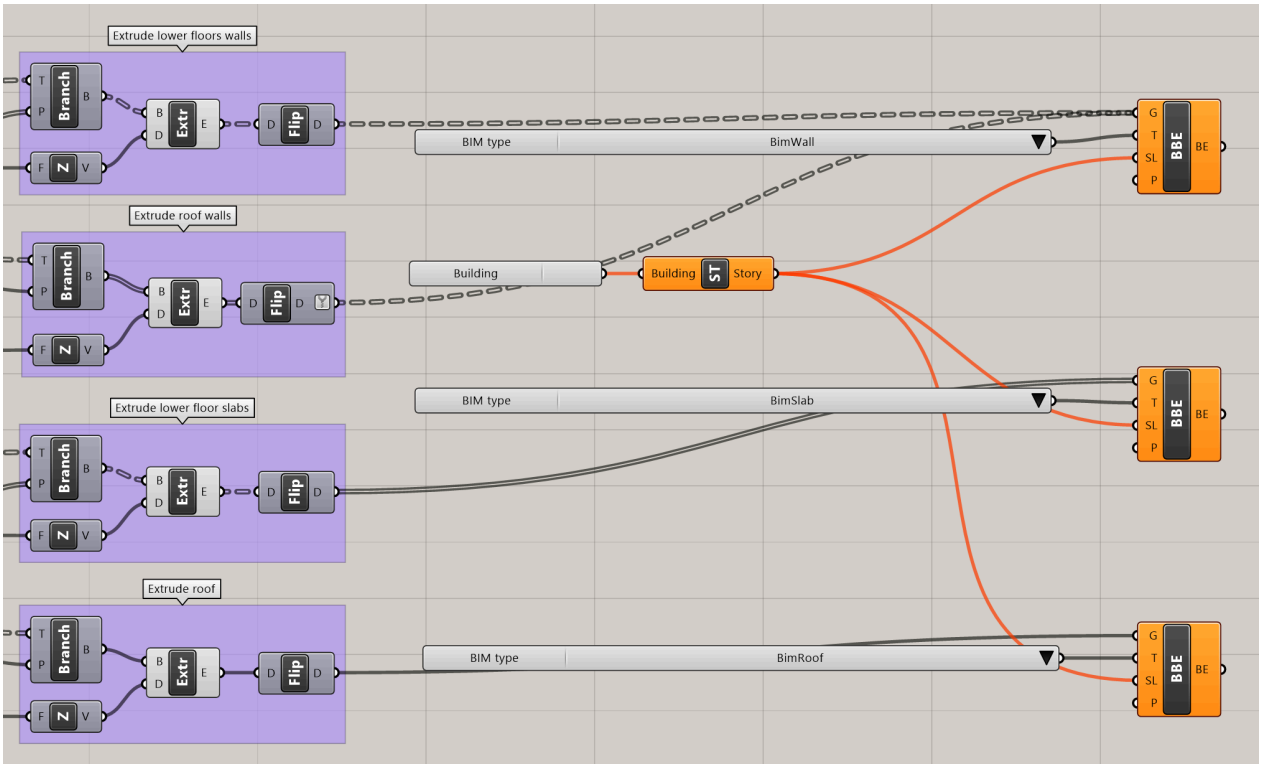
9 押し出された要素(フリップコンポーネント)を**Bake Building Element**コンポーネントのジオメトリ入力ノードに取り付けます：
   - 押し出された下階の壁と押し出された屋根の壁を1つの**Bake Building Element**コンポーネントに接続します。(複数のノードを1つの入力ノードに接続するときはShiftを押したままにします)
   - 押し出された下部床スラブを別の**Bake Building Element**コンポーネントに接続します。
   - 押し出された屋根を、残りの**Bake Building Element**コンポーネントに接続します。

10 **BricsCAD** > **BIMデータ**カテゴリからキャンバスに次のコンポーネントを追加します：1つの**建物**、1つの**階**、および3つの**BIMタイプのコンポーネント**。

11 階層コンポーネントの建物入力に建物を取り付け、これをすべての**Bake Building Element**コンポーネントの空間的位置入力に取り付けます。

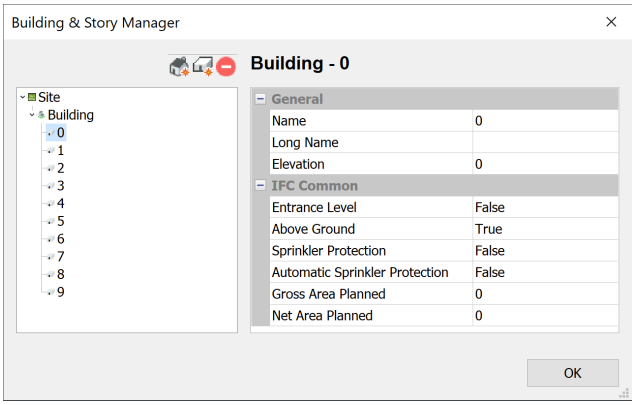
12 BIM type(選択メニューでそれぞれ**BimWall**、**BimSlab**、**BimRoof**に設定)を、押し出された壁、スラブ、屋根それぞれの**Bake Building Element**コンポーネントの要素タイプ入力に取り付けます。

13 次のような警告が表示されます：**パラメータ入力建築はデータ収集に失敗しました**。これは、BricsCADの図面に建物が定義されていない場合、Grasshopperは入力事項の収集に失敗するためです。

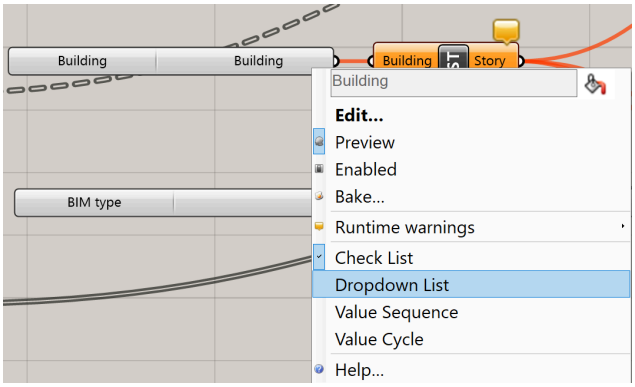


14 空間的位置を作成するには、コンポーネント検出のためにBricsCADへ移動し、リボンで**空間的位置**ツールをクリックします。

15 建物を追加して、いくつかの階(建物を分割したい数よりも多く)を追加します。



16 Grasshopperに移動して、建物コンポーネントを右クリックして、**チェックリスト**ではなく**ドロップダウンリスト**に入れます。

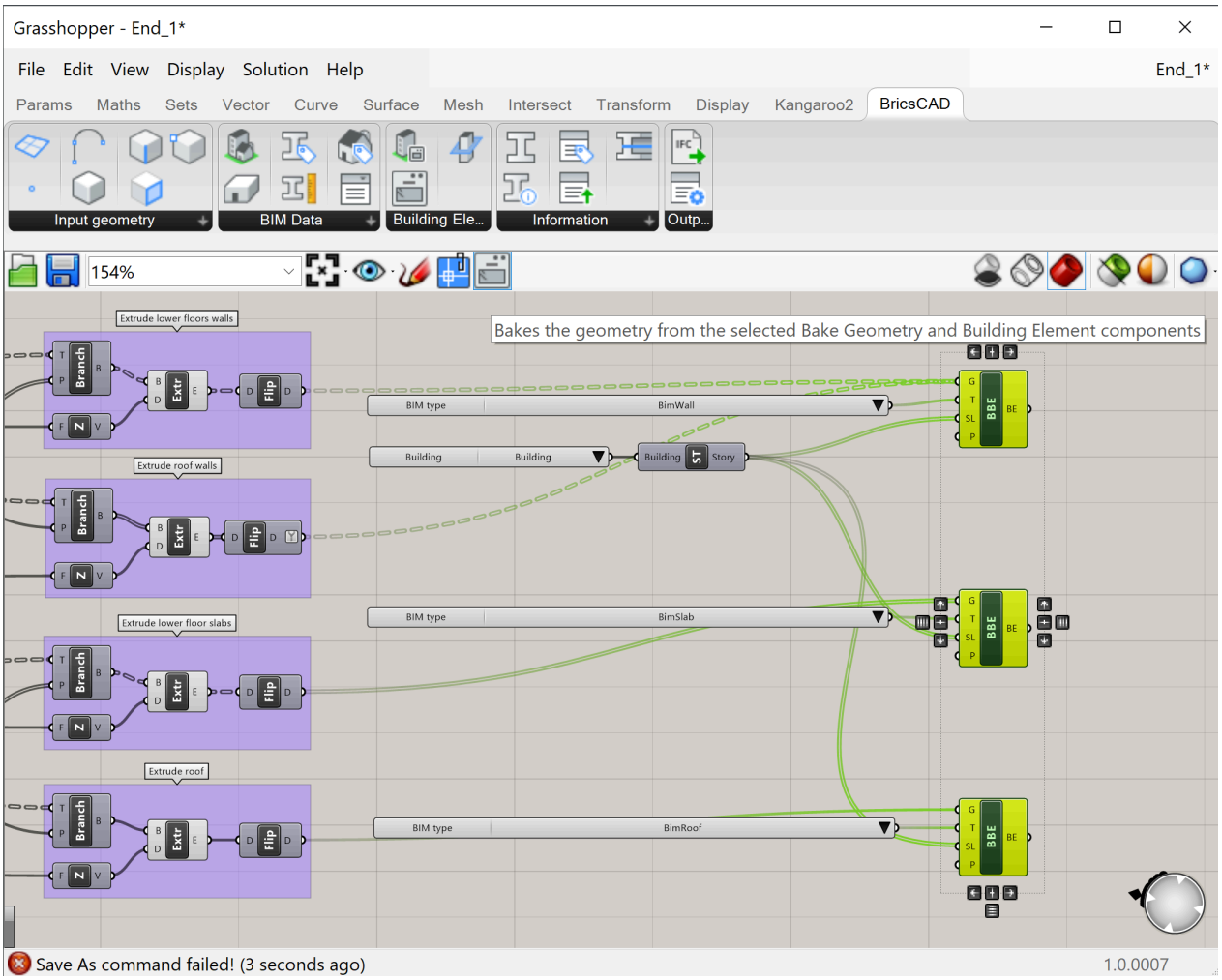


17 ドロップダウンリストから新しく作った建物を選択します。

18 Shiftを押しながら**Bake Building Element**コンポーネントをすべて選択し、**キャンバス**ツールバーから**ベイク**オプションを選択します。**OK**をクリックして、**レイヤー**、**マテリアル**、および**カラー**を確定します。

19 今度は図面に異なるフロアが表示されます。

注：プロパティを確認し、ジオメトリが**壁**、**スラブ**、**屋根**に正しく分類されていることを確認します。また、これらの要素には空間的位置が割り当てられます。

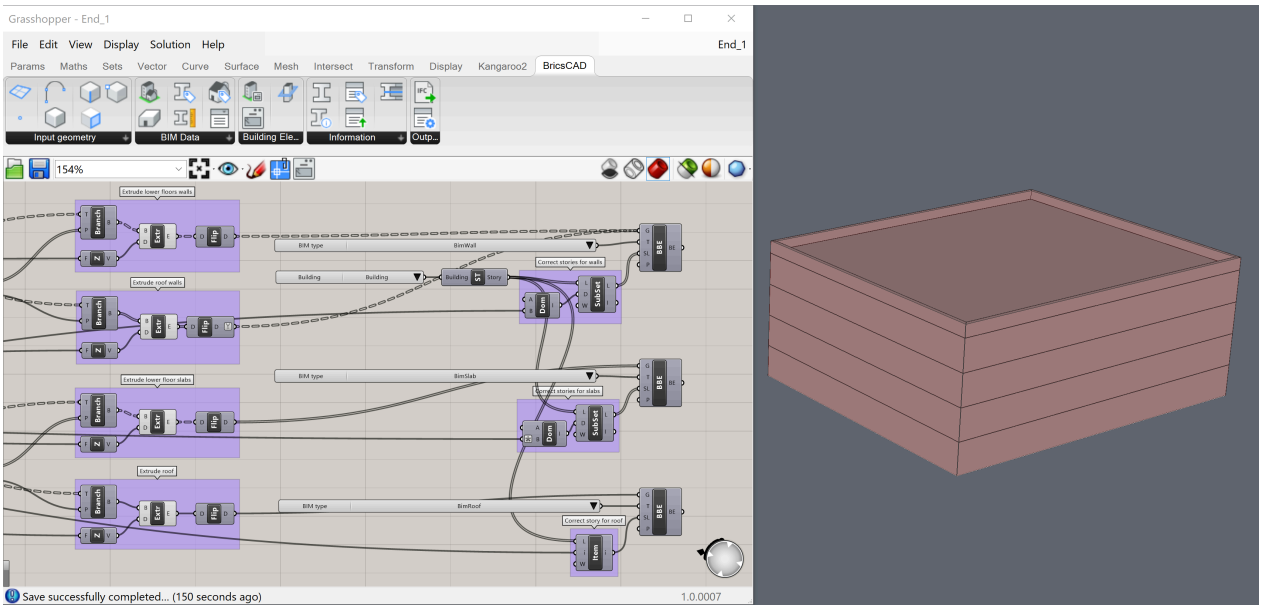


20 ジオメトリ数より階数の方が多いので、最後に入力されたジオメトリは残りのすべての階にベイクされます。これを修正するには、階の正しいサブセットを選択して割り当てます。BricsCADでジオメトリをベイクすると、階が正しい状態になります。複製したジオメトリはベイクされません。

End_1.dwgを開き、Grasshopperのファイル**End_1.ghx**を開くとこれを見ることができます。**End_1.dwg**にリンクされた

21 これで、建物の作成に成功しました。

22 ベイクされた建物の結果を見たい場合は、「**End_1_Baked.dwg**」というファイルをご確認いただくか、または自分でベイクしてください。

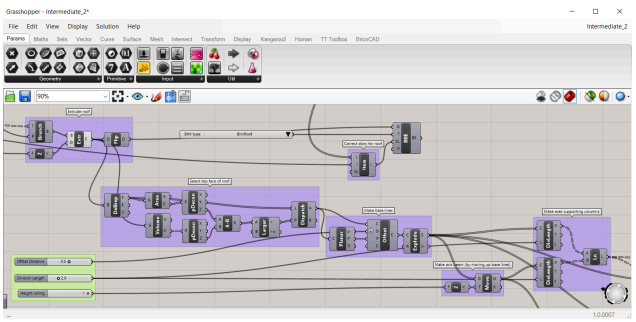


24.10.8　建物の上部に手すりを追加する方法

前回の手順で作った建物を継続して使用します。ではまず、**End_1.dwg**を開き、**End_1.dwg**にリンクされているGrasshopperファイル**End_1.ghx**を開いてみてください。

1　**Start_2.ghx**のコードをGrasshopperのキャンバスに追加します。
- 実行するには、このページの一番下にあるZIPファイルをダウンロードして、その内容を解凍します。
- 次に、**Grasshopper**ウィンドウの**ファイル** > **ドキュメントを開く...**に移動して、**Start_1.ghx**ファイルを開きます。
- これで、キーボードで**Ctrl+A**を押してGrasshopperのコードをすべて選択し、**Ctrl+C**でコピーすることができます。
- 次に、**Grasshopper**ウィンドウの右上にある、現在のドキュメントのタイトル(Start_2)をクリックして、前の手順で作業していたドキュメントに切り替えます。
- すると、アクティブなGrasshopperスクリプトのドロップダウンが表示されるので、**End_1.ghx**を開きます。
- キャンバスをクリックして**Ctrl+V**を押し、**Start_2.ghx**のコードを貼り付けます。

2　**押し出し屋根**グループのエンドコンポーネントを**屋根の上面を選択**グループの解体Brepコンポーネントの Brep入力にリンクします。



3　このスクリプトでは以下のことを実行します：
- **屋根の上面を選択**グループでは、屋根の上面が選択されます。

- 残りのスクリプトでは、その面を利用して、手すりのベースラインを作ります。
- そして、それを支える柱や梁の軸を作ります。
- また、梁プロファイルの高さの半分が計算されます。
- しかし、このステップと次のステップを完了するためには、まだプロファイルが必要です。そこで、ステップ6以降のプロファイルを作成します。
- そのプロファイルと軸を使って、梁や支柱を押し出し成形していきます。

4 中間結果は**Intermediate_2.ghx**と**Intermediate_2.dwg**ファイルにあります。(このページの下にあるZIPファイルの中にあります)

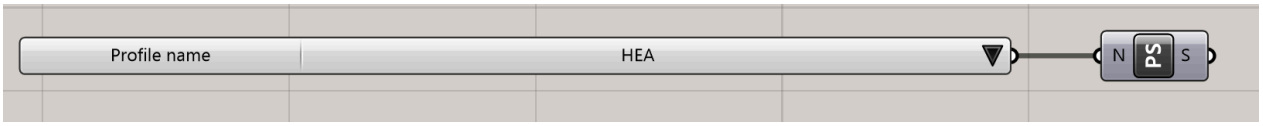
5 **(オプション)屋根の上面を選択**グループをスキップして、**BricsCAD** > **入力ジオメトリ** > **面コンポーネント**に置き換えます。BricsCADのベイクされた建物の屋根スラブの上面に設定します。(コンポーネント上で右クリックし、**BricsCAD面を1つ設定**をクリックして、BricsCAD図面の面を選択してください) この面コンポーネントを**Params** > **ジオメトリ** > **サーフェスコンポーネント**で接続して、この面を正しい入力に接続します。

6 **BricsCAD** > **BIMデータ**に移動します。

プロファイル名コンポーネントと**プロファイルサイズ**コンポーネントをキャンバスにドラッグします。

7 **プロファイル名**のドロップダウンリストから**HEA**を選択します。このドロップダウンリストには、BricsCADの**プロファイルライブラリ**に含まれるすべてのプロファイルの名前が表示されます。

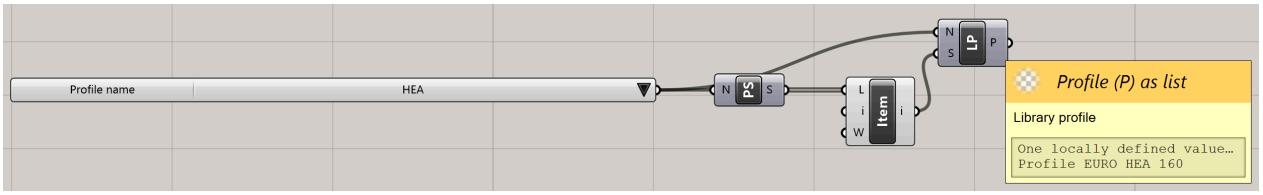
8 コンポーネントを**プロファイルサイズ**コンポーネントの入力**プロファイル名**にリンクします。



9 **プロファイルサイズ**コンポーネントを**セット** > **リスト** > **リストアイテムコンポーネント**の入入力ノード**リスト**にリンクし、iを**4** に設定します (入力**i**を右クリックして**integer**を**4**に設定)。この**リストアイテム**では、リンクされている**プロファイル名**に利用可能なすべてのプロファイルサイズのリストから1つのサイズを選ぶことができます。

注 : Params > **入力** > **パネルコンポーネント**をプロファイルサイズ出力にリンクした場合インデックス4がサイズ160を表していることがわかります。

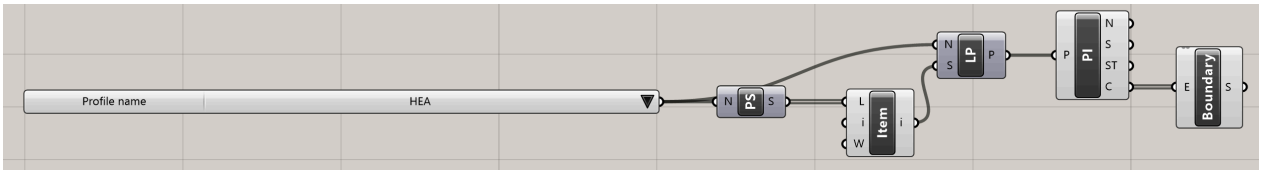
プロファイル名および**リスト項目**コンポーネントを**BricsCAD** > **情報** > **ライブラリプロファイルコンポーネント**にリンクして、HEA 160プロファイルを出力として取得します。



10 このプロファイルを構成する曲線を取得するには、**BricsCAD** > **情報** > **プロファイル情報コンポーネント**を**ライブラリプロ**

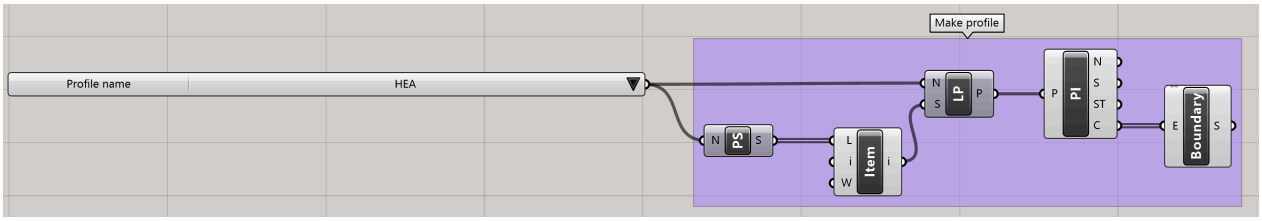
ファイルに取り付けます。作成される出力の1つは、**プロファイル曲線**をツリー化したものです。

11 **Surface** > **Freeform** > **Boundary Surfacesコンポーネント**を**Profile Curves**出力ノードにアタッチします。これは、線を面として押し出すのではなく、面をソリッドとして後から押し出すためです。

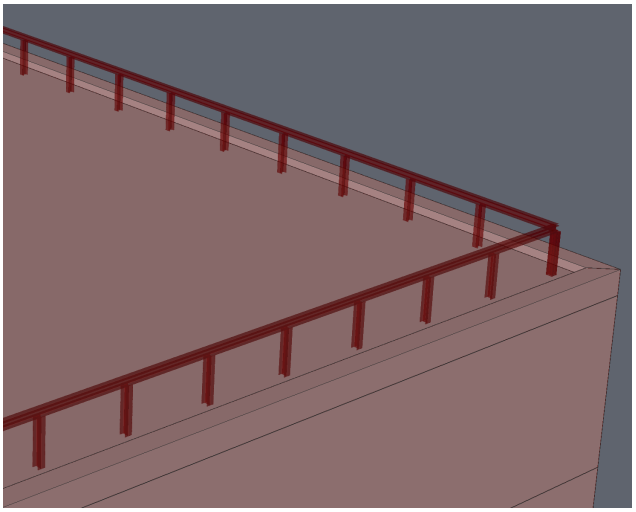


12 先ほど作成したコンポーネントをグループ化するには、それらを(選択ボックスで)選択し、**グループ**を右クリックします。

13 **(オプション)**グループの名前を変更するには、紫色の矩形を右クリックします。上のテキストボックスでグループの名前を変更します。(例えば、**Make profile**など)



14 境界面コンポーネントは、**梁の高さ半分を計算**グループの境界ボックスコンポーネントの内容入力にリンクされているはずです。また、境界面コンポーネントは、**支柱を作成**および**梁作成**グループの押し出しコンポーネントの2つのプロファイル入力にリンクする必要があります。これで押出成形には、HEA160の梁と柱を使った手すりが表示されるはずです。



15 これらの梁や柱をBricsCADにベイクするるために、2つの**BricsCAD** > **建物要素** > **建物要素ベイクコンポーネント**をGrasshopperのキャンバスに取り付けます。

16 以下を実行します：

- **ジオメトリ**入力を押出成形に設定します。
- **要素タイプ**入力を**BricsCAD** > **BIMデータ** > **BIMタイプコンポーネント**に設定し、柱の押し出しは**BimColumn**に、梁の押し出しは**BimBeam**に設定します。
- **空間的位置**の入力を屋根と同じに設定します。

- **プロファイル作成**グループから**ライブラリプロファイル**コンポーネントへの**プロファイル**入力を設定します。

17 これで、建物の上に手すりを作ることに成功しました。(これを行うための完全なスクリプトは**End_2.dwg**にリンクされている、このページの一番下の**End_2.ghx**ファイルにあります)

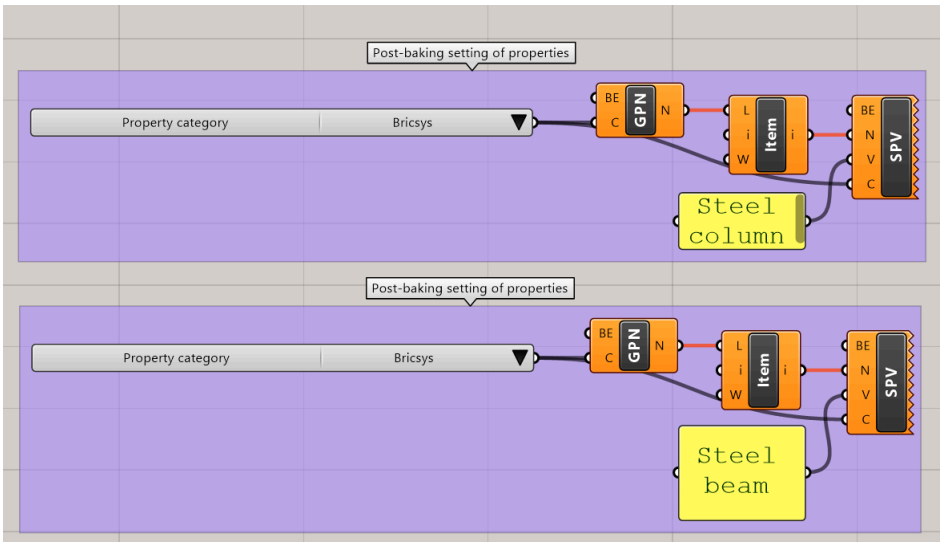
18 BricsCADにベイクします。これでプロファイルがGrasshopperのスクリプトのものに設定されました。BricsCADのL-Connectを使って、コーナーの梁の接続を修正することもできます。(手すりを上部に取り付けた、完成した建物を見るにはこのページの一番下にある**End_2_baked.dwg**ファイルをご確認ください)

24.10.9 手順：ベイクされたモデルに情報を追加

前回の手順で作った建物を継続して使用します。ではまず**End_2.dwg**を開いて、**End_2.dwg**にリンクされているGrasshopperのファイル**End_2.ghx**を開きます。

1 **Start_3.ghx**のコードをキャンバスに追加します。

- 実行するには、このページの一番下にあるZIPファイルをダウンロードして、その内容を解凍します。
- 次に、**Grasshopper**ウィンドウの**ファイル** > **ドキュメントを開く...**に移動して、**Start_1.ghx**ファイルを開きます。
- これで、キーボードで**Ctrl+A**を押してGrasshopperのコードをすべて選択し、**Ctrl+C**でコピーすることができます。
- 次に、**Grasshopper**ウィンドウの右上にある、現在のドキュメントのタイトル(Start_3)をクリックして、前の手順で作業していたドキュメントに切り替えます。
- すると、アクティブなGrasshopperスクリプトのドロップダウンが表示されるので、**End_2.ghx**を開きます。
- キャンバスをクリックして**Ctrl+V**を押し、**Start_3.ghx**のコードを貼り付けます。



2 このコードには、分類されてベイクされた梁や柱のベイク後の設定があります。

- このスクリプトでは、**プロパティ名取得コンポーネント**を使用して、プロパティカテゴリー**Bricsys**のBIMプロパティを表示しています。
- これらのプロパティでは、柱には1項目、梁には0項目、それぞれ**柱タイプ**、**梁タイプ**が選択されています。
- 最後に、**パネルコンポーネント**で指定された値に**プロパティ値設定コンポーネント**を使って、プロパティを設定します。

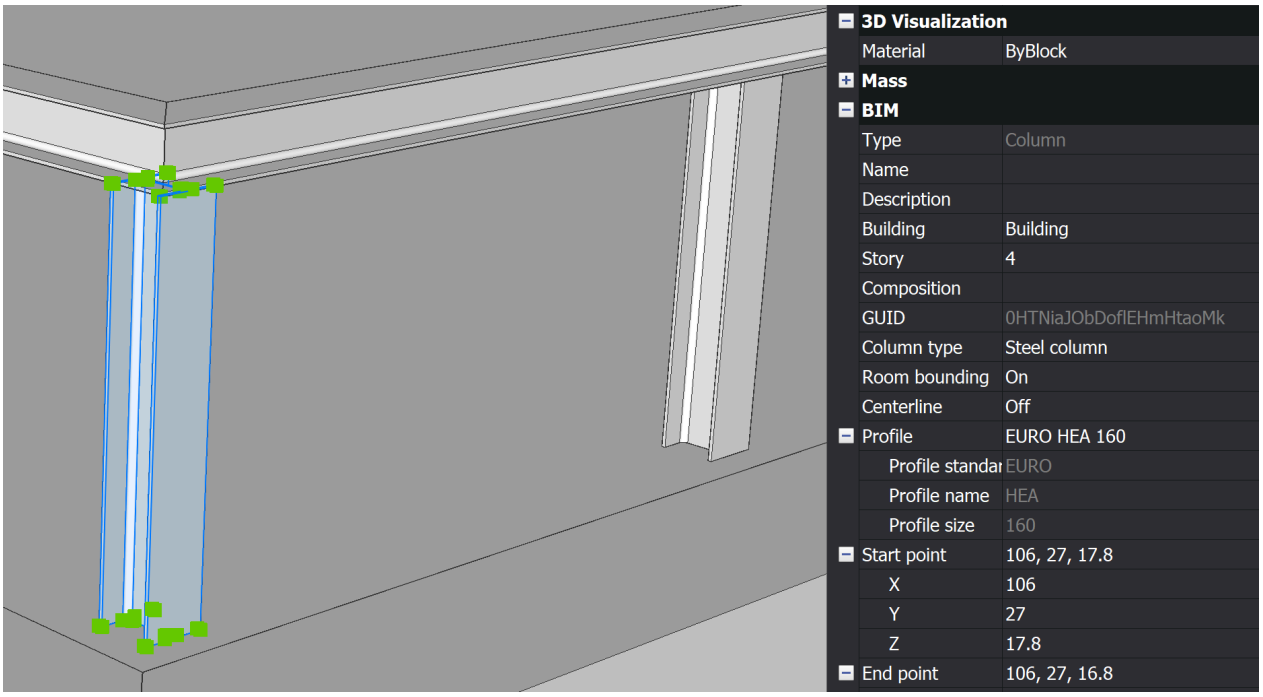
3 スクリプトを動作させるには、手すりを構成する2つの**建物要素ベイクコンポーネント**をベイクします。

4 ここで、**建物要素ベイクコンポーネント**出力を、**プロパティ名取得コンポーネント**の各建物要素入力にリンクします。

5 同様に、**建物要素ベイクコンポーネント**の建物要素出力を、**プロパティ値設定コンポーネント**の各建物要素入力にリンクします。

6 ここでBricsCADで柱を選択してプロパティを開くと、**柱タイプ**が**鋼柱**に設定されます。**パネルコンポーネントの値を変更すると**、BricsCADのプロパティがリアルタイムで変更されます。

7 結果として得られるスクリプト「End_3.ghx」は、このページの下部にあるzipファイルにあります。これは、まだ何もベイクされていない「End_3.dwg」ファイルで動作します。。すべての建物要素をベイクし、ベイク後の設定を取得します。



24.10.10 GrasshopperのBricsCADツールセット

アイコン	名前	説明
	平面	BricsCADで平面を表します。
	点	BricsCADでの点を表します。
	曲線	BricsCADの曲線を表します。
	図形	BricsCADの図形を表します。

アイコン	名前	説明
	エッジ	BricsCADのエッジを表します。
	面	BricsCADの面を表します。
	3D頂点	BricsCADの頂点を表します。
	建物	BricsCADの**空間的位置**に存在するすべての建物のネームピッカーを提供します。
	階	入力された建物に付属するすべての階を戻します。
	プロファイル名	BricsCADの**プロファイル**に存在するすべてのプロファイルのネームピッカーを提供します。
	プロファイルサイズ	入力プロファイルに添付されているすべてのサイズを戻します。
	BIMタイプ	BricsCADで利用可能なすべての**BIMタイプ**のタイプピッカーを提供します。
	プロパティカテゴリ	BricsCADで利用可能なすべてのプロパティカテゴリのカテゴリーピッカーを提供します。
	ベイクジオメトリ	Grasshopperのジオメトリを現在のBricsCAD図面にベイクしますが、その際に添付されているBIMデータは無視されます。ベイクジオメトリの出力は、BIMデータなしでベイクされた建物要素の参照です。

アイコン	名前	説明
	建物要素ベイク	Grasshopperのジオメトリを現在のBricsCADの図面にBIMデータを追加しながらベイクしていきます。建物要素ベイクの出力は、BIMデータでベイクされた建物要素の参照です。
	空間的位置に関する要素	デフォルトでは、BricsCADに存在するすべての建築要素を戻します。入力されたパラメータを使用すると、要素の種類や空間的位置でフィルタリングされた建物要素が戻されます。
	ライブラリプロファイル	与えられた名前とサイズに応じて、ライブラリからプロファイルを返します。
	プロファイル情報	指定したプロファイルの情報(名前、サイズ、規格、曲線)を戻します。
	プロパティ名	指定されたプロパティカテゴリに属する、建物要素に付属するプロパティ名を戻します。
	プロパティ値	指定されたプロパティ名とカテゴリに対応する、建物要素に付属するプロパティ値を戻します。
	線形ソリッド情報	BricsCADの図面上に存在する線形ソリッドに関する情報(軸、押し出しパス、プロファイル曲線)を戻します。
	プロパティの設定	指定された名前、カテゴリ、値に従って、建物要素のプロパティ値を設定します。
	IFCの書き出し	指定した建築要素をIFCに書き出します。
	リンク	Grasshopperのスクリプトを開いているBricsCADの.dwgファイルにリンクします。

アイコン	名前	説明
	ベイク	選択されたベイクジオメトリおよび建物要素ベイクコンポーネントからジオメトリをベイクします。

?????????.zip

24.11 干渉チェック

24.11.1 干渉チェックについて

干渉チェックは、建築要素の3Dソリッドモデルをモデリング時に比較し、モデルの矛盾を見つることができるツールです。3D空間で2つの3D図形が重複すると干渉が生じますが、BricsCAD BIMでは、干渉チェックツールを使って、選択した図形と図形が重複する箇所を見つけることができます。モデル内のすべての要素の干渉を一度にチェックすることもできます。オプションで、コマンドを実行したときに干渉部分のソリッドを生成します。生成されたソリッドは、INTERFERELAYERシステム変数の設定により、個別の画層に配置されます。既存のモデルに干渉チェックを実行することで、モデル全体の競合を防ぐことができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『INTERFERE』をご参照ください。

24.11.2 手順： 干渉チェックの実行

1 干渉をチェックしたい3Dソリッドを選択し、INTERFEREコマンドを起動します。

1 **注**：複数のソリッドを選択するのに、選択ボックスを使うか**構造**パネルで選択するかは、ツリーで選択したときに選択した図形が表示されるかどうかによります。

最初の図形セットが定義されます。

干渉チェックに設定されている図形の合計数がコマンドラインに表示されます。例：セット内の図形: 20

入れ子オプションを使用すると、ブロックや外部参照の内部にある 3D ソリッドモデルを選択することができ、ここで選択した図形を選択セット内の他の図形に対して比較することができます。

2 2つ目の図形セットに追加する3Dソリッドをモデル内で選択します。

3 最初のセットの図形が2つ目のセットの図形と比較されます。

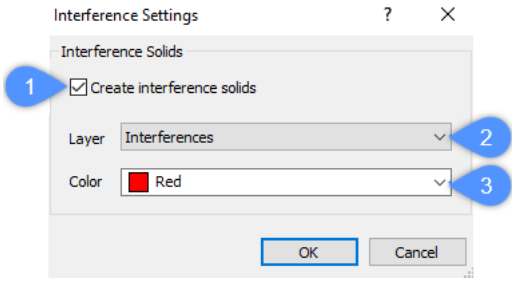
注：2つ目の図形を定義するためにソリッドを選択せずに **Enter**を押すと、1つ目の図形同士で比較します。

4 **Enter**を押して、干渉チェックを実行します。

5 干渉が見つかると、干渉ボリュームが個別に作成され、ソリッドモデルに示されます。

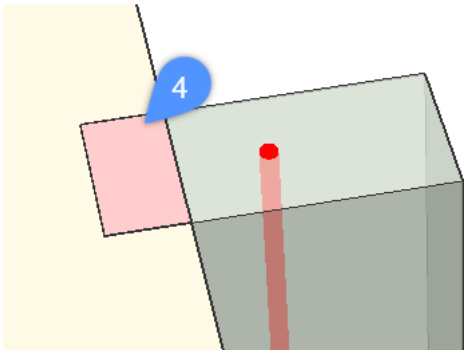
6 **注**：干渉部分のソリッドは、**Interferences**画層に置かれるため赤で表示されます。干渉チェックツールのデフォルト設定を使うと、モデル内で重複するソリッドが簡単に見つけられます。設定は、プロンプトメニューまたはコマンドラインで変更できます。プロンプトメニューの**設定**オプションをクリックするか、コマンドを有効にしてSと入力します。**干渉の設定**ダイアログボックスが表示されます。変数に保存される値を選択して設定を行います。

下図は、**干渉の設定**ダイアログボックスです。ダイアログボックスの各構成要素は以下のとおりです。



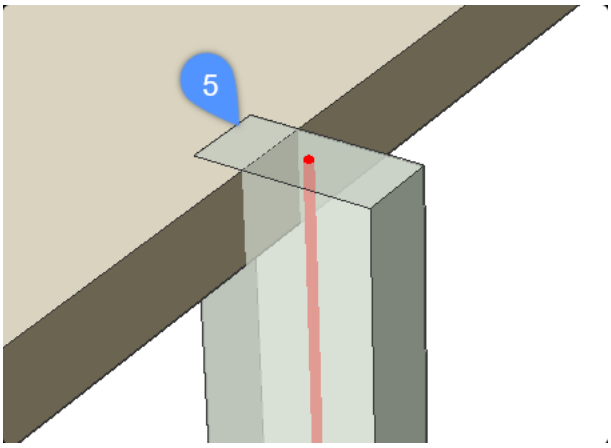
干渉ソリッドを作成チェックボックス(1)	干渉のソリッドやリージョンを作成するかどうか決めます。 干渉ボリュームのソリッドまたは干渉エリアのリージョンを作成するにはチェックを入れます。
画層(2)	干渉しているカレントの画層を表示します。
色(3)	カレントの画層の色を表示します。

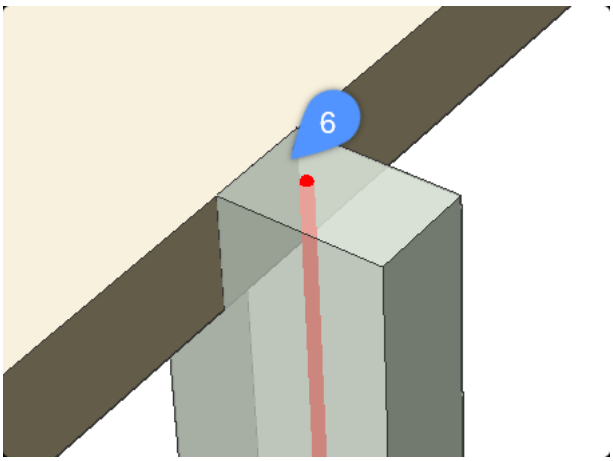
下の図は、床スラブと柱との間に検出された衝突(4)を示しています。



7 不要な干渉部分を削除するには、**Interferences**画層をオフにし、いずれかの3Dソリッド修正ツールを使用します。干渉しているソリッドに**BIMドラッグ**または**差**ツールを使用します。必要な修正をモデルに行ってください。

下図は、干渉ボリュームに作成されたソリッド(5)を示しています。右側の図では、スラブのジオメトリを柱から減算して交差部分を修正しています。





8 INTERFEREコマンドを再度実行し、すべての干渉が修正されたかどうかを確認します。

9 干渉が解消さていれば、コマンドラインに「**ソリッドは干渉していません。**」と表示されます。

24.12 階選択バー

階選択バーには、現在アクティブな建物とその階が表示されます。

24.12.1 階選択バーについて

現在アクティブな建物のすべての階の概要が表示されます。

フロアレベルをスクロールするときに、フロアレベルを簡単に識別できます。

アクティブな階が、存在する場合に表示されます。

階をアクティブ化または非アクティブ化にできます。

階がまったく異なる場合でも、1つのプロジェクトで複数の建物を処理できます。

- 建物アイコンをクリックして**空間的位置マネージャ**ダイアログボックスを開き、敷地、建物、階を作成/編集します。
- 作図領域の上部にある建物ラベル（名前）をクリックしてメニューを開きます。そこから、使用可能な建物を切り替えることができます。

コンテキストメニューを開くには、階ディスクを右クリックします：

- **階をアクティブに**：階をアクティブにします。

- **階を非アクティブに**：階を非アクティブにします。
- **階高を更新**：**階高を更新**コマンドのコンテキストパネルから階の高さを更新できます (**空間的位置**タブで階が選択されていると表示されます)。**BIMUPDATESTORYHEIGHTコマンド**の記事を参照してください。
- **選択**：階に属する図形を選択します。
- **階の平面を開く**：BIM断面図形に関連する図面ファイルを開きます。BIMSECTIONOPENコマンドも参照してください。

注：**階選択バー**は、STORYBARシステム変数が1または2に設定されている場合に表示されます。

24.12.2 「建物なし」モード

使用可能な空間的位置がない場合、階選択バーは自動的に**建物なし**モードに移行し、**階なし**という名前の階ディスクを表示します。この階ディスクを左クリックすると、**トップビューモード**(TVM)に移行します。空間的位置を作成する必要はありません。このケースで使用される階高はUCSZ==0 です。

注：少なくとも1つの建物が存在する場合は、作図領域の上部にある建物リストに**建物なし**という項目が1つ追加されます。この項目を選択すると、**建物なし**モードに移行します。

24.12.3 階をアクティブに

階ディスクをクリックして、階をアクティブにします。

注：このオプションを使用して階をアクティブにする場合：

- **トップビューモード**(TVM)が有効になります。
- パースがアクティブになっている場合は、オフになります。
- 2つの一時的な断面が、立面図の上下のビューをカットします。**階選択バー**のスライダーを使い、階スロット内の各断面の位置を変更できます。

  注：一番下のアクティブな階断面は、階高の上にドラッグできます。

  注：アクティブな階の上部と下部の断面高さは、BricsCADのセッション間で記憶されます。
- 立面図より下の要素はグレー表示され、ハイライト表示も選択もできません。これらは、立面図より上の図形を編集または作成するときにスナップして磁石のように固定することができます。
- UCSは階の高さに設定されます。
- OSNAPZシステム変数がオンに切り替わります。
- 別のディスクをクリックすると、ズームレベルを変更せずにその階へ移動できます。
- 壁、窓、またはドアを選択すると、図形を配置する編集可能寸法が表示されます。また、これらの編集可能寸法の基準点を別の場所に移動することもできます。

階ディスクのコンテキストメニューから階をアクティブにします。

注：このオプションを使用して階をアクティブにする場合：

- ビューは変更されません。
- 2つの一時的な断面が、立面図の上下のビューをカットします。**階選択バー**のスライダーを使い、階スロット内の各断面の位置を変更できます。

- 立面図より下の要素はグレー表示され、ハイライト表示も選択もできません。これらは、立面図より上の図形を編集または作成するときにスナップして磁石のように固定することができます。
- UCSは階の高さに設定されます。
- OSNAPZシステム変数がオンに切り替わります。
- 別のディスクをクリックすると、その階に移動できます。

ACTIVATESTORYコマンドを使用して階をアクティブにすることもできます。

24.12.4 階を非アクティブに

作図領域の上部にある**終了**ボタンをクリックして、ビューを変更せずにアクティブな階を非アクティブにします。UCS、OSNAPZ、パース(**トップビューモード**の場合)が元の値にリセットされます。

また、DEACTIVATESTORYコマンドを使用するか、階ディスクのコンテキストメニューから**階を非アクティブに**することもできます。

25. プロジェクトコラボレーション

25.1 BIMコラボレーションフォーマット(BCF)パネル

25.1.1 BCFについて

BIMコラボレーションフォーマット(BCF)は、IFCモデルの上でテキストコメントや画像などを交換するために使用されるオープンファイルフォーマットです。これにより、異なるBIMプロセスを使用しているグループの間でより円滑なコミュニケーションが可能になります。

BCFは、コメント、スクリーンショット、関連オブジェクトリスト、カメラ視点などの情報を課題として書き出して、リンクすることを可能にします。課題は、デザインの小さな変更からモデル内の異なる分野間の衝突に至るまで、さまざまなものがあります。これらの課題はBCFファイルとして保存するか、BCFクラウド管理システムを使用してクラウド上で管理することができます。

BCFの利点として、異なるソフトウェアパッケージ間でコミュニケーションが可能であり (たとえば、 Solibriで作成したBCF課題をBricsCAD BIMで開くことが可能)、課題に基づいてモデルを簡単にナビゲートできます。

25.1.2 BCFファイル

課題はスタンドアロンファイルに保存できます。これは通常、クラウドシステムで作業するよりも面倒なワークフローですが、オフラインで作業している場合に役立ちます。その後、BCFファイルを任意のBCFマネージャ (BricsCAD BIMなど) に読み込んで課題を読み取り、モデル内のどこに適用されるかを確認できます。

注：BCFファイルをBricsCAD BIMで作成することはできません。このためには、SolibriモデルチェッカーやBIMcollab ZOOMなど別のサービスにアクセスする必要があります。このようなソフトウェアを使用すると、1つ以上のIFCファイルに基づいてBCFファイルを作成できます。その後、以下を含む課題を作成できます：

- コメント
- スクリーンショットや他の画像
- GUID(Global Unique IDs)に基づいて、オブジェクトを明確に区別するための関係するオブジェクトのリスト
- カメラ位置

注：BCFファイルが読み込まれた場合、BricsCAD BIMで課題の作成や変更を行うことはできません。課題は、クラウドサービスを使用している場合にのみ作成できます。

25.1.3 クラウドの使用

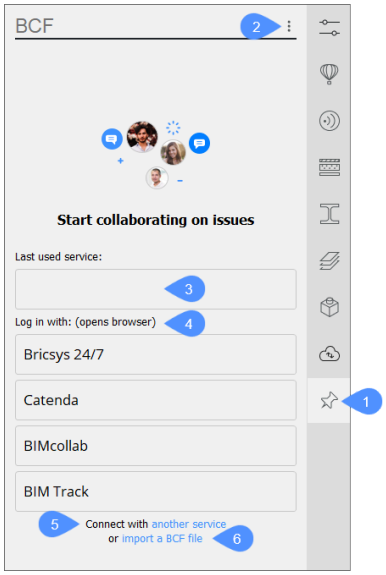
クラウドサービスを利用してBCFの課題を管理することは一般的に容易です。現在、 BricsCAD BIM は、**Bricsys 247**、**Catenda**、**BIMcollab**、**BIM Track**など、いくつかのサービスへの自動接続をサポートしています。ただし、他のサービスは手動で入力できます。BricsCAD BIMからこれらのサービスに接続する場合、まずこれらのサービスのアカウントが必要となります。これらにより、どこからでも課題を作成し、リアルタイムで管理することができます。

クラウドサービスを利用する場合、BricsCAD BIMで既存の課題のステータスを変更したり、新しい課題を作成したりすることができます。**BIM BCF**パネルを使用して、BricsCAD BIMからこれらのサービスに接続し、アカウントにログインして課題、コメント、スクリーンショット、視点を追加でき、課題の正確な場所にチームメンバーを導けます。

25.1.4 BCFパネル

BCFパネルは、画面左側のボードピンアイコン(1)をクリックすると開きます。アイコンが表示されていない場合は、リボンの空白スペースで右クリックして、**パネル**で **BIM BCF**パネルを有効にします。

パネルには、最も人気のある3つのコラボレーションクラウドサービス(4)と最後に使用した1つ(3)が表示されます。対応するボタンをクリックすれば、目的のものに直接接続できます。また、**別のサービス**に接続する(5)オプションや**BCFファイルを読み込む**(6)オプションも使用できます。



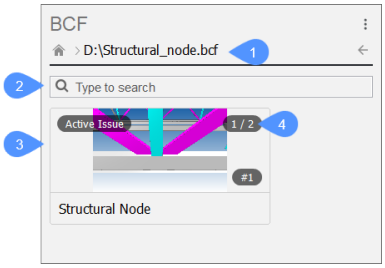
上部のメニュー(2)にも同じオプションがあり、パネルの更新やソースのクリアも可能です。パネルを更新すると、クラウドで作業している場合に備えて、最新の更新が表示されます。ソースをクリアすると、オンラインの場合はクラウドサービスとの接続が解除され、読み込んだBCFファイルで作業している場合はBCFファイルが閉じられます。

25.1.5 手順：BCFパネルでの作業

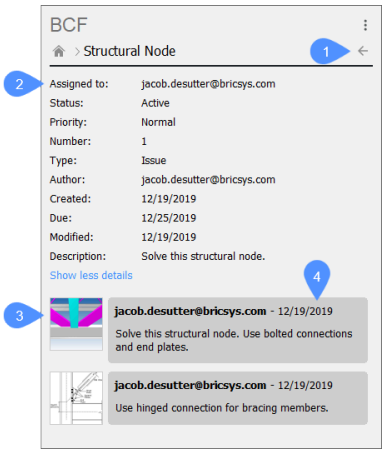
以下の例は、この記事の最後に添付されたファイルに表示されます。実際に表示したい場合は、**West_str.dwg**を開いて**Structural_node.bcf**を読み込んでください。

BCFファイルを読み込む場合：

現在開いているファイルのパス(1)、課題の絞り込みに使える検索バー(2)、課題のリスト(3)が表示されます。この例では、読み込んだBCFファイルに課題が1つだけあり、関連するビューが2つあります(4)。



課題をクリックして開きます。課題を開くと、課題の概要に戻るためのボタン(1)、ステータス、作成日などの課題に関する詳細情報(2)、およびこの問題に関するさまざまなコメント(4)が表示されます。コメントにカメラ位置が関連付けられている場合は、サムネイル画像をクリックすると、カレント図面のカメラがその位置に移動します。ビューポイントにアタッチされた図形がある場合、それらはハイライトまたは分離されます。これは、課題がどこにあるのかを正確に知りたいが、手動でモデルを検索したくない場合に便利です。



クラウドサービスを使用する場合：

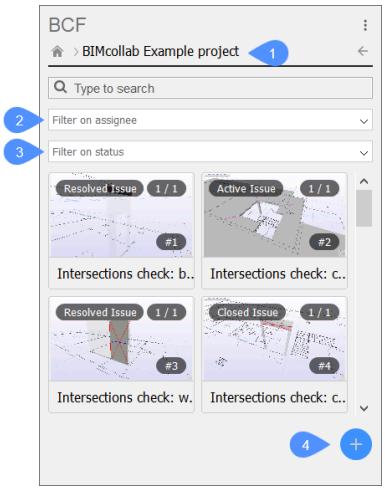
クラウドサービスを使用する際には、ステータスの設定、コメントやスクリーンショットの追加など、いくつかのオプションが表示されます。新しい課題を追加することもできます。

クラウドサービスに接続するには、最初のパネルタブにリストされているコラボレーションサービスボタンの1つをクリックするか、**カスタムログイン**ダイアログボックスから別のサービスに接続します。**BIMcollab**サービスに接続するには、対応する名前空間を入力するように求められます。**Bricsys 247**、**Catenda**、または**BIM Track**サービスに接続する場合は、ブラウザのログインページに自動的にリダイレクトされます。別のサービスに接続するには、サービスのURLを手動で入力する必要があります。

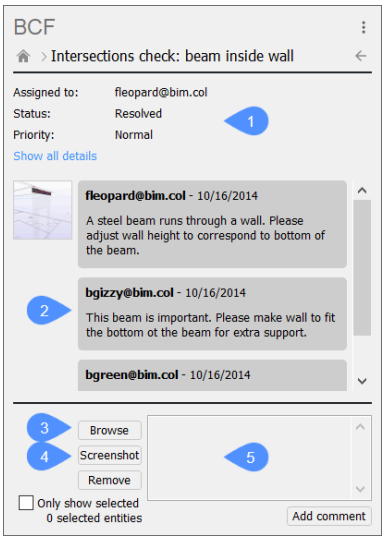
以下の例は内部クラウドスペースで示されているため、これらの手順を正確に実行することはできません。ただし、たとえば**BIMcollab**で無料のアカウントを作成することは可能です。**ログイン**をクリックすると、選択したサービスのログインページに移動します。

ログイン後、ソースURLが表示され(1)、あなたが関わっているプロジェクトのリスト(2)が表示されます。この例では、22個の課題を含む1つのプロジェクトのみが表示されています。

プロジェクトをクリックするとプロジェクトが開き、BCFファイルを読み込んだときと同様に、課題の一覧が表示されます。パネルの上部に、カレントのプロジェクトが表示されます(1)。担当者(2)とステータス(3)で課題をフィルタリングできます。これにより、関連する課題を見つけやすくなります。新しい課題(4)を追加することもできます。



課題をクリックすると課題が開き、以前と同様のオプションが表示されます。具体的には、課題に関する詳細情報(1)とこの課題に関するコメント(2)が表示されます。また、パネル下部でビットマップイメージ(3)やモデル空間からのスクリーンショット(4)を追加することもできます。テキストコメントを追加することもできます(5)。



Structural_node.bcf

West_Str.dwg

25.2 Bricsys 24/7パネルの使用

25.2.1 Bricsys 24/7について

Bricsys 24/7パネルでは、チームメンバー同士で図面を検索/共有ができます。

BricsCAD 24/7は、プロジェクト管理、プロジェクトチーム間のコラボレーション、クラウドコンピューティングセキュリティ、タスクの自動化を可能にします。このクラウド型サービスの大きなメリットは、BricsCADが**Bricsys 24/7**パネルでダイレクトに連動していることです。

25.2.2 BricsCAD BIMでのBricsys 24/7パネルの使用

1 ワークスペースの右側にある**ツール**パネルのBricsys 24/7アイコン( )をクリックして、**Bricsys 24/7**パネルを開きます。

注：ツールパネルにこのアイコンが見つからない場合は、**ツール**パネルを右クリックし、**パネル**の記事で説明されているように、ドロップダウンメニューから**Bricsys 24/7**を選択してください。

2 必要に応じて24/7アカウントにログインしてください(**Bricsys 24/7パネル**のヘルプ記事を参照してください)。

25.2.3 プロジェクトへファイルを追加

1 ファイルを追加したいフォルダーを開きます。

2 ＋アイコンをクリックすると**新しいドキュメントを追加**が開くので、追加するファイルを選択します。

3 ドロップリストからドラフトなどステータスを1つ選択します。

4 説明を入力します。

5 **アップロード**ボタンをクリックします。

フォルダー一覧ファイルに表示され、**ダウンロード可能**と表示されます。**Bricsys 24/7**パネルからダウンロードしたファイルのフォルダーパスは、CLOUDDOWNLOADPATHシステム変数で定義します。

ダブルクリックするとファイルが開きます。

編集して保存すると、ファイルのステータスが**ローカルで修正**に変更されます。

ファイルを右クリックすることで、他の人が編集できないようにロックすることができます。

変更したファイルに新しいステータスと説明を付けてアップロードすることができます。ファイルは**最新**と表示されます。

25.3 BricsCADでのIFCの読み込みと書き込み

25.3.1 IFCについて

Industry Foundation Classes(IFC)データモデルは、建築・建設業界の情報を記述するために設計されています。IFCはプラットフォームに依存しないオープンフォーマットのファイルタイプです。IFCは異なるBIMソフトウェアプラットフォーム間の相互運用性を提供します。

BricsCAD BIMは、読み込み/書き出しでIFC2x3とIFC4をサポートしています。IFC2x3およびIFC4プロパティ名前空間は、1つのIFC名前空間に統合しました。これらIFCスキーマの違いは、IFC読み込みまたは書き出し時にバックグラウンドで処理されます。IFC規格には、パラメトリック形状と非パラメトリック形状の両方、材料定義、BIMファイル内のメタデータ、プロパティセット(PSets)が含まれています。

BricsCADからIFCファイルを書き出すと、プロパティは IfcPropertySetとして書き出されます。これらのプロパティセットには、共通のIFCプロパティが含まれています。また、ユーザーが定義したプロパティセットも書き出すことができます。

注：

- BricsCAD BIMで作成したIFCファイルは、多くのツール(Solibriなど)を使用したさまざまなコーディネーションワークフローで使用できます。

- 一部のソフトウェアでは、特定のオーサリングツールで作成されたIFCファイルのみを編集し、他のツールで作成されたファイルをアクティブにブロックできます。BricsCAD BIMで作成したIFCファイルをこれらのソフトウェアで他の用途(表示など)に使用することが可能です。
- IFCEXPORTIDSPROPERTIESONLYシステム変数がオンの場合、読み込んだISDファイルで指定されたアクティブな名前空間(ドロップダウンメニューで選択)の IFCおよびカスタムプロパティのみが書き出されます。
- BricsCAD BIMは、RVT形式でのファイルの書き出しもサポートしています(表示のみ)。

IFCに準拠したさまざまなアプリケーションで書き出したメカニカルシステムレイアウト、構造モデル、建築モデルをBricsCAD BIMに読み込むことができます。

IFC2x3 vs IFC4

IFC4はIFC2x3の高度なスキーマです。IFC2x3の特定の制限を克服し、拡張されたものです。ジオメトリやデータの改善、新規および変更されたモデルビュー定義があります。ジオメトリックの改善では、パラメトリックのサポートが強化され、メッシュの処理がより効率的になり、テクスチャや照明設定などを追加する方法も改善されました。プロパティセットの数を増やすことで、IFCデータモデルの完成度を高め、より詳細な情報を得ることができます。IFC4では、コーディネーションビューの代わりに、**IFC4リファレンスビュー**と**IFC4デザイントランスファービュー**という2つの公式モデルビュー定義に置換されました。2つのスキーマの違いはIFC読み込みまたは書き出しの際にバックグラウンドで処理され、IFC2x3とIFC4のプロパティ名前空間はIFC名前空間に統合されます。

25.3.2 IFCの読み込みと書き出しの設定

設定ダイアログでのIFCの読込み/書き出し設定：

変数	説明
IfcImportSettingsConfig	IFC読み込み設定ファイルの名前を指定します。
IfcExportBaseQuantities	BIM要素の基本数量から派生した書き出しを有効/無効にします。 この設定を有効にすると、各BIM要素の計算された量(長さ、厚さ、高さなど)がIFCに書き出されます。
IfcExportElementsOnOffAndFrozenLayer	非表示およびフリーズ画層にあるBIM要素の書き出しを有効/無効にします。 デフォルトではこの設定は有効になっています。
IfcExplodeExternalReferences	IFC空間構造で分解された外部参照を有効/無効にします。 この設定を有効にすると、各外部参照はプロジェクトの空間構造に基づいて要素(IfcSiteやIfcBuildingなど)に分割されます。 **重要**：この設定を有効にして書き出しを実行する前に、BIMCLASSIFYコマンドを使用して、外部参照をBIM外部参照に分類します。それ以外の場合、結果は外部参照ごとのブロックになります。
IfcTesselateBSplineCurvesAndSurfaces	BSpline曲線やサーフェスをテッセレーションするかどうかを制御します。

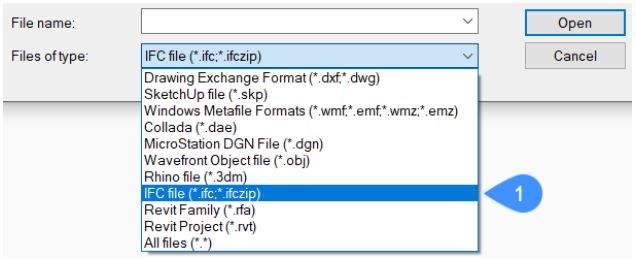
変数	説明
IfcExportSweptSolidsAsBRep	境界表現(BRep)を使用して、すべての押し出し、回転、スイープされた3Dソリッドをクリッピングおよび減算して書き出しできます。
IfcExportProfileCenterOfGravity	IFC2x3のみに対応します。 重心を書き出すと、特定のIFCビューアーで線形ソリッドの位置が正しくなくなる可能性があります。 重心がIFC4以上で書き出されることはありません。
IfcExportValidateModel	IFC書き出し中にIFCモデルがスキーマ規則に準拠していることを確認します。問題点は、IFCファイルに続く書き出しログで報告されます。 **警告**：査定には延長時間がかかり、大きなIFCファイルの書き出しは遅くなる可能性があります。 オフ(0)：IFCモデル検証を適用しない オン(1)：IFCモデル検証を適用する
IfcExportMappingPath	書き出しマッピングファイルのパスを指定できます。**IFCファイルのマッピングを読み込み/書出し**を参照してください。
IfcExportSubtractOpenings	書き出す前にホストジオメトリから開口部を差し引きます。別のソフトウェアで開くときの形状の信頼性を高めます(対象ソフトウェアのブーリアン演算に依存することを回避できます)。対象ソフトウェアでのモデル編集がより困難になります。 **注**：この動作は、**IFC4リファレンスビュー**の書き出しのデフォルトです。
IfcExportMultiPlyElementsAsAggregated	集約された図形としてのマルチプライ構成の建物要素の書き出しを有効/無効にします。 この設定を有効にすると、建築要素(壁や柱など)に属する各プライの材料は、個別に計算されて書き出しされます。 この設定はプライ要素の数量と値の定義を書き出しするために使用できます。
IfcExportTesselation	書き出しされたジオメトリのテッセレーションのレベルを制御します。 ファセットオプションで**カレント**を選択すると、FacetResやモデラーのプロパティで設定したファセットが使用できます。 ファセットの再生オプションの**低**、**中**、**高**を選択します。処理時間が長くなります。
IfcCreateUniqueGuid	入れ子になった要素のユニークなGUIDを生成するかどうかを定義します。 1：分類されたブロック内 2：分類された外部参照内 3：分類されたブロックと外部参照の両方が有効

変数	説明
IfcExportAuthor	IFCファイルヘッダーでの作成者名の書き出しを有効/無効にします。
IfcExportOrganization	IFCファイルヘッダーで組織名の書き出しの有効/無効を指定します。
IfcExportAuthorization	IFCファイルヘッダーで作成者名の書き出しの有効/無効を指定します。
IfcExportIDSPropertiesOnly	IDSXMLが読み込まれた場合に、IDSに必要なプロパティのみを IFCファイルに書き出すか、すべてのプロパティを書き出すか制御します。 オフ(0)：すべてのプロパティを書き出し オン(1)：IDSに必要なプロパティのみ書き出し

25.3.3 BricsCADにIFCファイルを読み込む

1 IFCファイルをプロジェクトに読み込むには、コマンドラインに**Import**と入力します。読み込みファイル ダイアログボックスが表示されます。

2 **ファイルの種類**ドロップダウンリストから.ifcファイル形式(1)を選択し、読み込むIFCモデルを選択します。



3 **開く**をクリックしてIFCモデルを読み込みます。

注：

- すべてのIFC2x3、IFC4、IFC4x1、IFC4x3ファイルを読み込むことができますが、すべて単一のIFC名前空間に統合されます。これらのスキーマの違いは、IFC 読み込み時にバックグラウンドで処理されます。IFCファイルが読み込まれると、読み込まれたファイルのデータはBricsCADのデータ構造と統合され、すぐに操作することができます。読み込まれたデータにカスタムプロパティが含まれている場合、これらのプロパティセットが利用可能になります。
- **IFC4x3ファイル**(IFC 4.3.2.0)形式を読み込むには、**試験モード**を有効にする必要があります。

カスタムプロパティセットとプロパティをBricsCAD BIMで直接作成し、読み込んだ図形と関連付けることができます。

4 **(オプション)設定**ダイアログの**BIM**断面を使用して、IFCの読み込み設定を変更します。**IFCの読込み/書出しの変更**を参照してください。

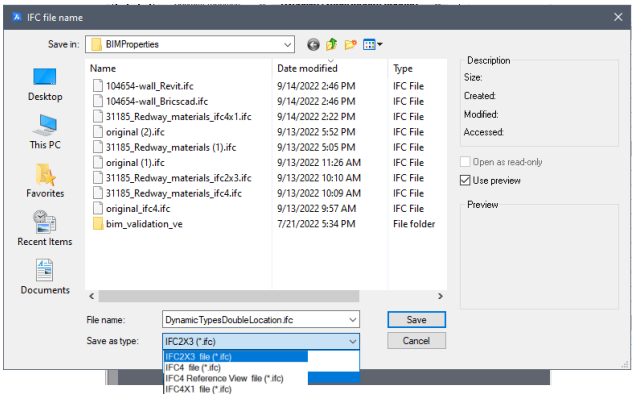
25.3.4 BricsCADでのIFCファイルの書き出し

1 プロジェクトからIFCファイルを書き出すには、コマンドラインに「 IFCEXPORT」と入力します。**モデル全体**オプションを選択します。**IFCファイル名**ダイアログボックスが表示されます。

2 **ファイルの種類**リスト内で保存したいIFCファイル形式を選択し、IFCモデルを保存します。オプション

は、IFC2x3、IFC4、IFC4x1、IFC4x3です。

注：IFC4x3ファイルの書き出し形式は、**試験モード**を有効にしている場合にのみ選択できます。



3 IFCモデルを書き出すには**保存**をクリックします。

書き出されたBIMモデルは、IFC2X3ファイル、IFC4デザイントランスファービューファイル、IFC4リファレンスビューファイル、IFC4x1、またはIFC4x3ファイルとして保存され、IFC認定アプリケーションで使用できるようになります。

4 **(オプション)設定**ダイアログボックスのBIMセクションを使用して、IFC書き出し設定を変更します。

25.3.5 選択した図形のみIFCファイルを書き出す

1 プロジェクト内のIFCモデルを部分的に書き出すには、コマンドラインでIFCEXPORTと入力するか、**ホームツールバー**の**IFCへの書き出し**アイコンを押します。

プロンプト表示: 書き出す図形を選択 [モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>：

2 IFCとして書き出す図形をモデル空間で選択し、Enterを押します。

3 **IFCファイル名**ダイアログボックスが表示されます。

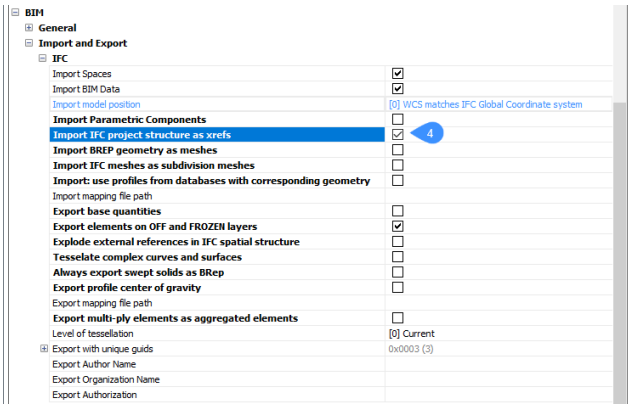
4 IFCファイルの名前を入力して、書き出すIFC形式(**IFC2X3ファイル**、**IFC4デザイントランスファービューファイル**、**IFC4リファレンスビューファイル**、**IFC4x1ファイル(非推奨)**、**IFC4x3ファイル**)を選択し、**保存**ボタンをクリックします。選択された図形がIFCに書き出されます。

25.3.6 外部参照としてIFCプロジェクトを読み込み

1 **設定**画面を開きます(コマンドラインに「SETTINGS」と入力するか、リボンで設定 > **設定**を選択します)。

2 **BIM** > **読み込みとIFC書き出し** > に移動します。

3 **IFCプロジェクト構造を外部参照として読み込み**(4)にチェックを入れます。



4 コマンドラインにIMPORTと入力します。開きたいIFCファイルを指定して、**開く**をクリックします。

図面は各建物の各階に対して作成された外部参照で開きます。これにより大きなファイルを小さなBricsCADファイルに簡単に分割できます。

25.3.7 外部参照を分解してBricsCAD BIMプロジェクトを書き出す

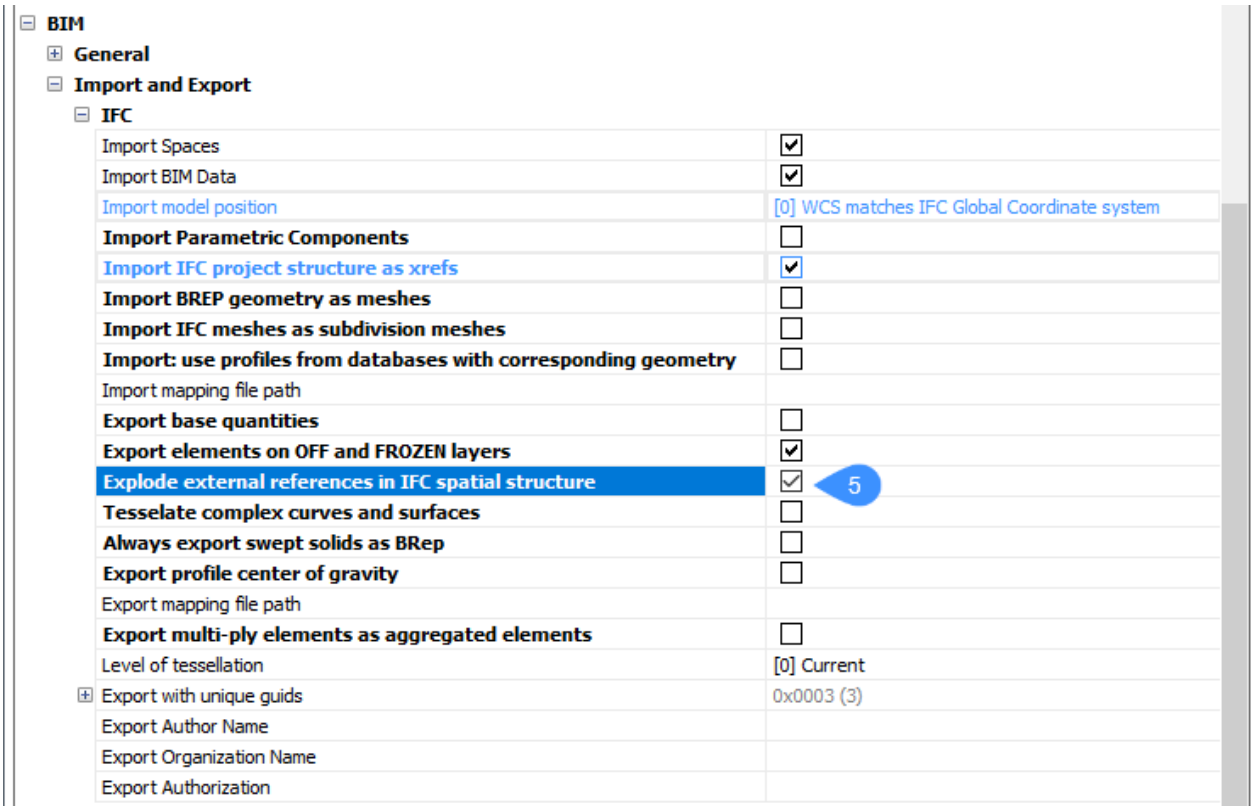
1 外部参照をBIM外部参照に分類するには、BIMCLASSIFYコマンドを使用します。

1 **重要**：この手順を実行しない場合、外部参照は外部参照の一部である個別の図形ではなく、ブロックとして書き出しされます。

2 SETTINGSコマンドを起動すると、**設定**ダイアログボックスが表示されます。

3 **BIM** > **読み込みとIFC書き出し** > に移動します。

4 **IFC空間構造内の外部参照を分解**にチェックを入れます(5)。

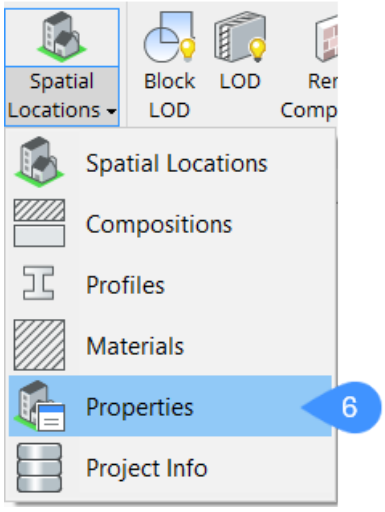


5 BricsCADアイコンをクリックして**書き出し**を選択します。IFC2x3またはIFCを選択して、書き出された図面の名前を指定し、**保存**をクリックします。書き出された図面では、すべての外部参照の要素が、1つの**敷地**と1つの**建物**にマージされています。

25.3.8 IFCプロパティの操作

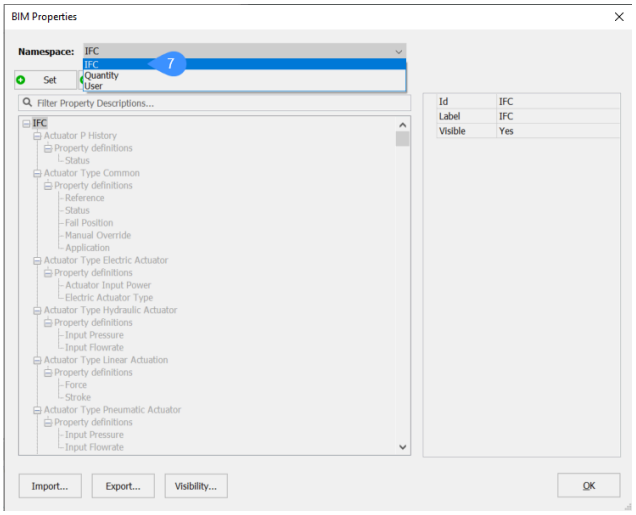
1 次のいずれかの方法を使用して、**BIMプロパティ**ダイアログボックスを開きます。

- リボンで、**ホーム** > **分類** > **空間的位置** > **プロパティ**(6)の順に移動します。**BIMプロパティ**が表示されます。



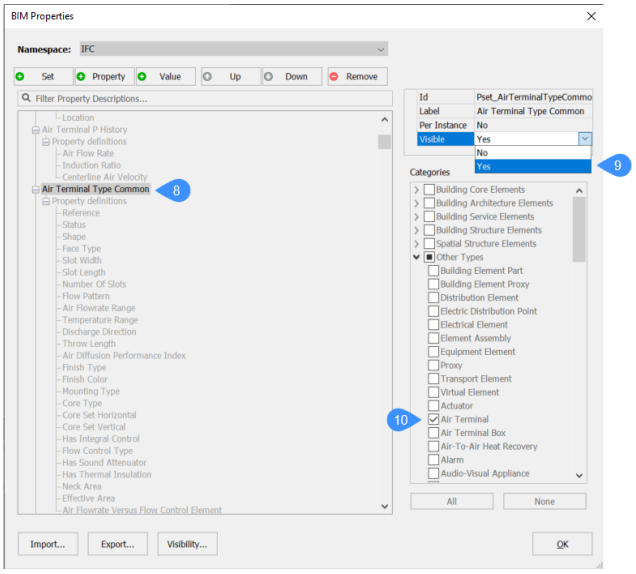
- コマンドラインにBIMPROPERTIESと入力します

2 **名前空間**ドロップダウンメニューでIFCを選択します。(7)



3 プロパティリスト(8)で参照したいプロパティを検索します。

4



5 **表示**を**はい**に設定すると(9)、見たいセクションが**プロパティ**パネルに表示されます。セクションを非表示にするには、**いいえ**に設定します。

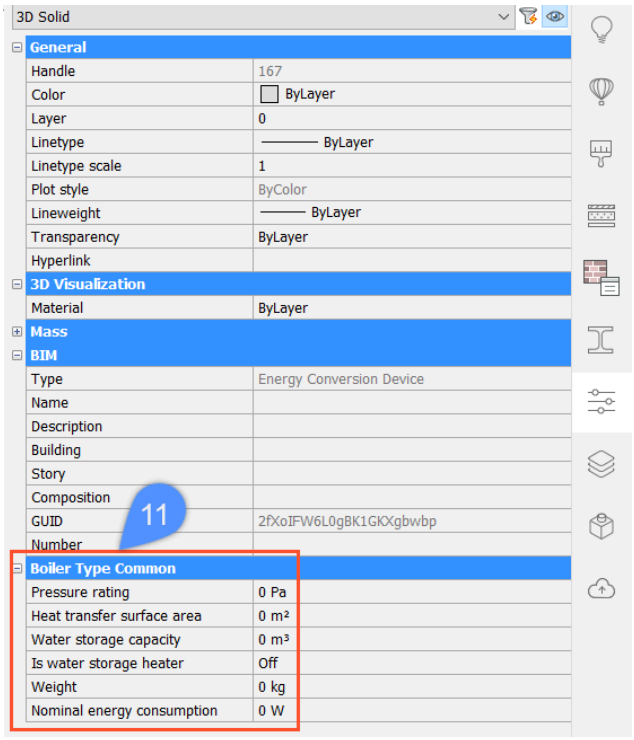
6 **カテゴリー**で、表示するIFCクラスを選択します(10)。

7 すべてのプロパティを設定したら、OKをクリックします。

8 プロパティセットを有効にしたタイプ/カテゴリのオブジェクトを選択します(例は、「エネルギー変換装置」)。**プロパティ**パネルを開きます。先ほど有効にしたプロパティの項目までスクロールします。

9 必要に応じてデータを入力します。(11)

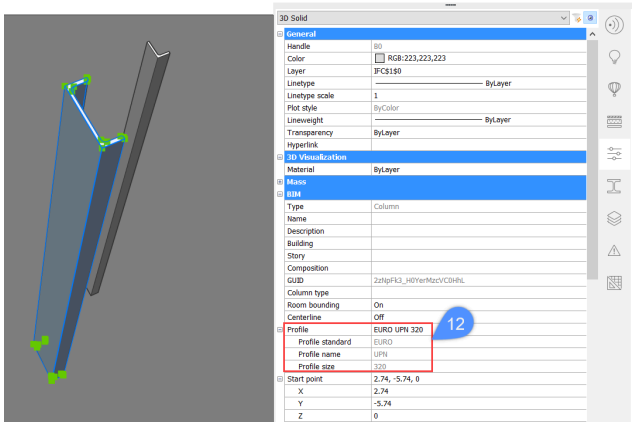
10



注：空間要素のIFCプロパティは、**プロパティ**パネルから追加することもできます。

25.3.9 IFC読み込みのプロファイル

IFCファイルからBricsCADにプロファイルを読み込む際、IFCファイルのプロファイルのプロパティを読み込むか、形状によってプロジェクトとセントラルデータベースから対応するプロファイルをBricsCADが探すようにすることができます。**プロパティ**パネル(12)で、適切な**プロファイル規格**、**プロファイル名**、**プロファイルサイズ**をプロファイルに割り当てます。



25.3.10 サポートされているIFCクラス

BricsCAD BIMは、以下のIFCクラスをサポートしています。これらのカテゴリーは、BIMCLASSIFYコマンドの分類オプションと同じです。

古いBricsCADバージョンと下位互換性のあるIFCクラス：

IfcWall

IfcBeam
IfcColumn
IfcSlab
IfcStair
IfcStairFlight
IfcRamp
IfcRampFlight
IfcRailing
IfcCurtainWall
IfcRoof
IfcBuildingElement
IfcSite
IfcBIMXreference
IfcGridAxis
IfcGrid
IfcAnnotation
IfcWindow
IfcDoor
IfcCovering
IfcFurnishingElement
IfcOpening
IfcDistributionControlElement
IfcDistributionPort
IfcDistributionFlowElement
IfcDistributionChamberElement
IfcEnergyConversionDevice
IfcFlowFitting
IfcFlowController
IfcFlowMovingDevice
IfcFlowSegment
IfcFlowStorageDevice
IfcFlowTerminal
IfcFlowTreatmentDevice
IfcFlowConnectionPoint
IfcMember
IfcFooting

IfcPile
IfcReinforcingBar
IfcReinforcingMesh
IfcTendon
IfcTendonAnchor
IfcPlate
IfcDiscreteAccessory
IfcFastener
IfcMechanicalFastener
IfcSpace
IfcBuilding
IfcBuildingStorey
IfcDate

古いBricsCADバージョンと下位互換性のないIFCクラス：

IfcBuildingElementPart
IfcBuildingElementProxy
IfcDistributionElement
IfcElectricDistributionPoint
IfcElectricalElement
IfcElementAssembly
IfcEquipmentElement
IfcProxy
IfcTransportElement
IfcVirtualElement
IfcActuator
IfcAirTerminal
IfcAir TerminalBox
IfcAir-To-AirHeatRecovery
IfcAlarm
IfcAudio-VisualAppliance
IfcBoiler
IfcBurner
IfcCableCarrierFitting
IfcCableCarrierSegment
IfcCableFitting
IfcCableSegment

IfcChiller
IfcChimney
IfcCivil Element
IfcCoil
IfcCommunicationsAppliance
IfcCompressor
IfcCondenser
IfcController
IfcCooledBeam
IfcCoolingTower
IfcDamper
IfcDuctFitting
IfcDuctSegment
IfcDuctSilencer
IfcElectricAppliance
IfcElectricDistributionBoard
IfcElectricFlowStorageDevice
IfcElectricGenerator
IfcElectricMotor
IfcElectricTimeControl
IfcEngine
IfcEvaporativeCooler
IfcEvaporator
IfcFan
IfcFilter
IfcFireSuppressionTerminal
IfcFlowInstrument
IfcFlowMeter
IfcFurniture
IfcGeographicElement
IfcHeatExchanger
IfcHumidifier
IfcInterceptor
IfcJunctionBox
IfcLamp
IfcLightFixture

IfcMedicalDevice
IfcMotorConnection
IfcOutlet
IfcPipeFitting
IfcPipeSegment
IfcProtectiveDevice
IfcProtectiveDeviceTripping Unit
IfcPump
IfcSanitaryerminal
IfcSensor
IfcShadingDevice
IfcSlabElemented Case
IfcSolarDevice
IfcSpaceHeater
IfcStackTerminal
IfcSwitchingDevice
IfcSystemFurnitureElement
IfcTank
IfcTransformer
IfcTubeBundle
IfcUnitaryControlElement
IfcUnitaryEquipment
IfcValve
IfcVibrationIsolator
IfcWallElementedCase
IfcWasteTerminal
IfcAlignment
IfcReferent

25.3.11 構造解析モデルの書き出し

BIMANALYTICALMODELコマンドを使用して、構造のラインモデルを書き出しすることができます。CIS/2またはIFCに書き出しできます。**書き出して終了**コマンドラインオプションを選択すると、**書き出すためのファイル名とフォーマットを選択**ダイアログボックスを開き、書き出すファイルの種類を選択できます。

詳細や例については、**解析モデル**の記事をご覧ください。

25.3.12 IFCファイルのマッピングを読み込み/書き出し

BricsCADで IFCファイルの読み込み/書き出しを行うと、すべての図形は規定のマッピングに従って読み込み/書き出しされます。特別なマッピングで読み込み/書き出しを行ったり、読み込み/書き出しの対象から図形を除外したりすることができます。

さまざまなtxt構成が可能です。

- **テキストマッピングなし**

  すべての図形は、デフォルトのマッピングに従って読み込み/書出しされます。

- **特別なマッピングによる図形の読み込み/書き出し**

  読み込みの場合は、まずIFCクラスを記述し、その後に図形を読み込むBricsCADクラスを記述します。例：
  IfcWall BimDbColumn

  書き出しの場合は、まずBricsCADクラスを記述し、その後に図形を書き出すIFCクラスを記述します。例：
  BimDbWall IfcColumn

  注：読み込み/書出しのマッピングファイルにIFCまたはBimDB図形がリストされていない場合、デフォルトのマッピングが使用されます。

- **読み込み/書き出しから図形を除外**

  IFCまたはBimDb図形に続いて「skip」を続けます。

  読み込み例：
  IfcWall skip

  書き出し例：
  BimDbWall skip

- **一覧表示された図形のみを読み込み/書き出しする**

  読み込み/書き出しする図形を一覧表示し、次の行に「* skip」を続けます。アスタリスクは、リストにないすべての図形を指します。
  * skip

- **同一の特別なマッピングによる図形の読み込み/書出し**

  アスタリスクの後に、図形を読み込むクラス名を記述します。

  読み込み例：
  * BimDbWall

  書き出し例：
  * IfcWall

- **アスタリスクの使用時に図形をデフォルトでマッピングして読み込み/書き出し**

  前述の2つのオプションのいずれかを使用して、一覧表示された図形を除くすべての図形をスキップするか、特殊なマッピングで読み込み/書き出しを実行した場合、デフォルトのマッピングでは図形を読み込み/書き出しできます。特別なマッピングによる図形の読み込み/書き出しに使用するのと同じテキストを使用します。図形の横に特別なマッピングを書く代わりに、デフォルトのクラスを書くか、'default'と書いてください。

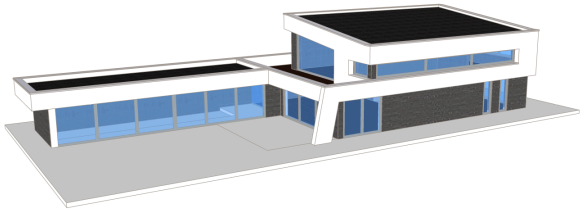
  読み込み例：
  IfcWall BimDbWall or IfcWall default

  書き出し例：
  BimDbBeam IfcBeam or BimDbBeam default

注：IFCファイルのマッピングを書き出しで説明されている規則を使用して、読み込み/書き出しマッピングファイルを作成します。

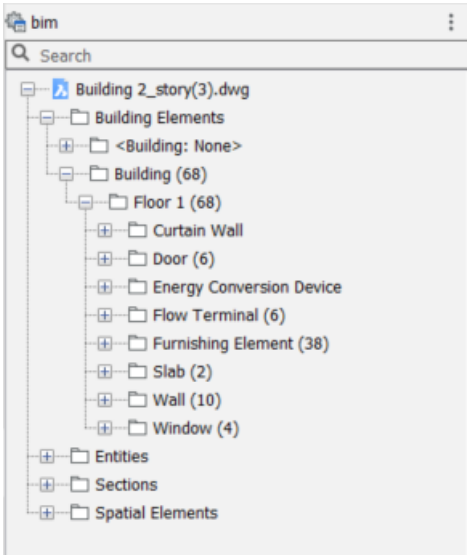
25.3.13 IFCファイルのマッピングを書出し

1 BricsCADの同様のモデルから始めて、すべての構成要素を分類します。



注：要素が分類されていない場合は、BIMIFYコマンドを実行してモデルを分類します。

2 この建物は、壁、スラブ、ドア、窓など、いくつかの建築要素で構成されています。

3 

カスタム書き出しマッピングファイルが作成され、窓、ドア、スペースのない建物のジオメトリのみが書き出されます。

注：マッピングファイルを使用せずにファイルを書き出しすると、すべての要素がデフォルトのIFCクラスで書き出されます。

4 新規にTXTファイルを開き、書き出しマッピングファイルを作成します。メモ帳などのASCIIテキストエディターを使用します。

5 これらのルールに従って、**IFCファイルのマッピングを読み込み/書出し**に従ってtxtファイルにテキストを追加します。

- 書き出しマッピングでは、BimDb図形の後にIFCの図形を書きます。2つの単語を1つのタブで区切ります。IFCのクラスを揃えるために、スペースや複数のTabを使用しないでください。スペースや複数のTabがある行は、書き出しマッピングに使用されません。
- 1行に1つのコマンドです。
- BricsCADのファイルで壁に複合材がアタッチされている場合、その壁はIfcWallではなくIfcWallStandardCaseとして書き出されます。

注：建物図形が特別なマッピングによって読み込み/書き出しされると、要素のプロパティは新しいカテゴリのデフォルトのプロパティに従って変更されます。

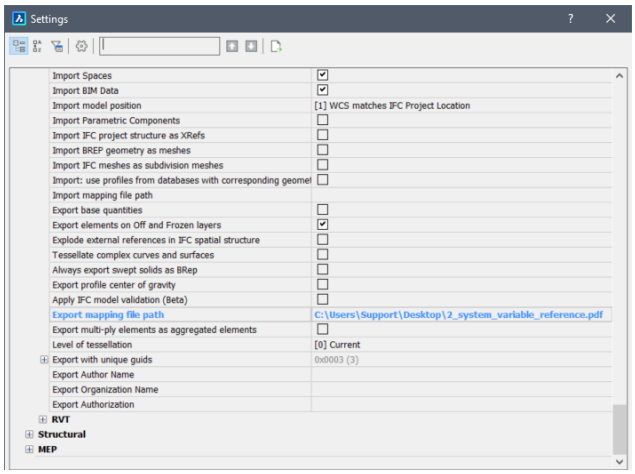
6 このモデルの書き出しマッピングファイルを作成するには、TXTファイルに2つのカテゴリーを追加する必要があります。
   - 窓、ドア、空間を除外
   - BricsCADのファイルには通常の窓とカーテンウォールが含まれているので、両方を除外してください。
     BimDbWindow skip BimDbCurtainWall skip BimDbDoor skip BimDbSpace skip
   - 特別マッピングで梁を書き出し
   - 一部の壁は、現在のBricsCADのファイルでは梁として分類されています。これらは壁として書き出す必要があります。
     BimDbBeam IfcWall
   - このリストは次のようになります：
     BimDbWindow skip BimDbCurtainWall skip BimDbDoor skip BimDbSpace skip BimDbBeam IfcWall

   注：また書き出したい図形を含め、その後に「* skip」を付けたファイルを作成することもできます。これも同じ結果になります。

7 ファイルをパソコンに保存します。

8 書き出したいBricsCADのファイルに移動します。

9 以下のいずれかを実行します。
   - コマンドラインにSETTINGSと入力し、**Enter**を押します。**BIM** > **読み込みと書き出し** > **IFC** > **マッピングファイルパスを書き出し**に移動します。ブラウザボタンをクリックして、コンピューター上のマッピングファイルを選択します。



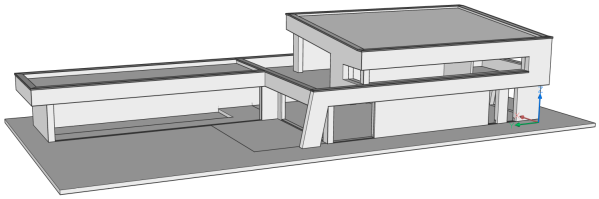
   - コマンドラインにIFCEXPORTMAPPINGPATHと入力します。
   - プロンプト表示：IFCEXPORTMAPPINGPATH の新しい値 <"">：
     コピー先のファイルのパスをコマンドラインに入力し、Enterを押します。

10 コマンドラインに**EXPORT**と入力して、Enterを押すか、またはリボンのBricsCADアイコンをクリックして書き出しを選択し、ファイルを書き出します。

11 **形式を指定して図面を書き出し**リストで目的のIFCファイル形式を選択し、IFCモデルをコンピュータに保存します。

12 IFCファイルが正しいかどうかを確認するには、IFCビューアーでファイルを開くか、読み込みマッピングファイルを使わずに

BricsCADでファイルを読み込みます。コマンドラインにIMPORTと入力して、Enterキーを押し、コンピューター上のファイルを選択して**開く**をクリックします。



注：同じワークフローでIFCファイルの読込みマッピングを使用することができます。読み込みマッピングを使用するには、モデルにBIM情報が含まれている必要があります。IFCの各要素に分割されたモデルからスタートします。

25.3.14　IFCへの地理的位置の書き出し

BIMモデルに地理的な位置情報が存在する場合、IFC工書き出しで当該データの適切な書き出しがサポートされます。

IFC2x3：

空間的位置マネージャーダイアログボックス(BIMSPATIALLOCATIONSコマンド)の**GEOダイアログから地理的位置を使用**の設定(**敷地** > **地理的基準点**)により、**地理的位置**ダイアログボックス(GEOGRAPHICLOCATIONコマンド)の地理的位置情報を使用するか、**空間位置マネージャー**ダイアログボックスの情報を使用するかを選択できます。

- この設定がFalseの場合、**空間的位置マネージャー**ダイアログボックスの緯度・経度・標高が書き出されます。CRS(座標参照系)は書き出されません。
- この設定がTrueの場合、**地理的位置**ダイアログボックスの経度・緯度・標高、およびCRS(座標参照系)が書き出されます(IfcSiteとIfcProjectedCRS)。

IFC4：

- **地理的位置**ダイアログボックスでCRSが定義されている場合、**空間的位置マネージャー**ダイアログボックスの設定は無視されます。

  経度・緯度・標高、真北方向およびCRS(座標参照系)は、**地理的位置**ダイアログボックスから書き出されます(IfcMapConversionとIfcProjectedCRS)。
- **地理的位置**ダイアログボックスでCRSが定義されていない場合、IfcMapConversionと IfcProjectedCRSの情報は書き出されません。

  経度・緯度・標高は、**空間的位置マネージャー**ダイアログボックスの**GEOダイアログの地理的位置を使用**の設定に従って書き出されます(IfcSite)。

25.3.15　モデル原点

ワールド座標系(WCS)を基準にしてモデルを配置する場所を定義します。IFCグローバル座標系をWCSの原点に配置した場合、モデルが原点から離れてしまうことがあります。

オプションは以下の通りです：

- **IFCグローバル座標系をWCS原点に配置**
- **IFCプロジェクト位置をWCS原点に配置**
- **IFCサイト位置をWCS原点に配置**

25.3.16 色と透明度の書き出しに関するガイドライン

IFC書き出しの際、BricsCAD BIMは、IFCビューアのモデルの外観がBricsCAD BIMの外観とできるだけ同じになるように色と透明度を設定しますが、IFC形式の制限により、特定のケースでの色や透明度の設定が正しく書き出されないことがあります。この問題を避けるには、1つのブロック内で複数のソリッドに**By Block**で色を設定して、特定の色を割り当てないようにしてください。IFC書き出しでは、**By Block**を指定したソリッドに対して、ブロック参照の色を割り当てることができません。

25.4 モデルのフェデレーションとジオリファレンス

現在の参照点(グローバル原点/測量位置、プロジェクト位置、サイト位置)の処理システムは、BricsCAD V25以前に使用されていたものとは異なります。

BricsCAD V25より前のバージョンでは、参照点はIFCファイルを読み込むことによってのみ設定可能で、BSYSLIBファイル(**空間的位置マネージャー**ダイアログボックスでは**敷地** > **IFCプロジェクトのポイント(WCSを基準とする)**に表示)に保存され、BIMプロジェクトのすべてのDWGファイルに使用されていました。

現在のシステムでは、SETSURVEYLOCATION、SETPROJECTLOCATION、SETSITELOCATIONの各コマンドを使用して、手動で参照点を設定することもできます(一から参照点を追加、または既存の参照点を編集)。したがって、DWGファイルに参照点のX・Y・Z座標と角度を保存することができます。これにより、ファイルごとに異なる参照点を設定できるようになりました。

25.4.1 一から参照点を追加する

新しい図面の参照点の座標と角度の既定値は0です。

SETSURVEYLOCATIONコマンドを使用して、図面に測量位置のポイントを設定します。測量位置マーカーの表示のオン/オフを切り替えるには、GEOMARKERVISIBILITY システム変数の値を変更します。

注:

- 測量位置のポイントは、地理的位置のポイントに対応します。座標は、**地理的位置**ダイアログボックスの**位置**セクションで確認できます(**GEOGRAPHICLOCATION コマンド**に関する記事を参照)。
- 測量位置のポイントに設定した角度は、NORTHDIRECTIONシステム変数の値に対応し、時計回りに計測した場合の真北とY軸の間の角度を表します。NORTHDIRECTIONシステム変数の値を変更すると、測量位置の角度の値が変更されるのは、**地理的位置**ダイアログボックスで**GIS 座標系**が設定されている場合のみです。

SETPROJECTLOCATIONコマンドを使用して、図面にプロジェクト位置のポイントを設定します。プロジェクト位置マーカーの表示のオン/オフを切り替えるには、システム変数 PROJECTLOCATIONVISIBILITYの値を変更します。

SETSITELOCATIONコマンドを使用して、図面内のサイト位置のポイントを設定します。プロジェクト位置マーカーの表示のオン/オフを切り替えるには、システム変数 SITELOCATIONVISIBILITYの値を変更します。

注:プロジェクト位置とサイト位置の両方について、図面に真北の角度が表示されます。角度の値は、SETSURVEYLOCATIONコマンドまたはGEOGRAPHICLOCATIONコマンドを使用して設定した真北の角度から取得されます。

25.4.2 参照点の書き出し

参照点の情報が保存されているIFCファイルを読み込むことにより、既存の図面に読み込むことができます。

1 図面を開きます。

2 IMPORTコマンドを実行し、IFC ファイルを選択します。

3 **IFC読み込み設定**ダイアログボックスで、オプションのいずれかを選択してモデルの原点を設定します。
   - **IFCグローバル座標系をWCS原点に配置**
   - **IFCプロジェクト位置をWCS原点に配置**
   - **IFCサイト位置をWCS原点に配置**

4 **読み込み**をクリックします。

5 図面を保存します。

既存の参照点の座標と回転角度は、読み込んだIFCファイルに保存されている情報によって上書きされます。

25.4.3 参照点の書き出し

サイト位置、プロジェクト位置、測量位置を図面に追加した場合、これらの参照点はIFCに書き出す(EXPORTまたはIFCEXPORTコマンド)ときに使用されます。

注：サイト位置、プロジェクト位置、測量位置、および地理座標は、EXPORT または DATASMITHEXPORT コマンドを介して Datasmith (*.udatasmith) にエクスポートできます。関連記事 **TwinMotion の使用**をご覧ください。

BricsCADから書き出す場合、V25より前のBricsCADバージョンで作成されたIFCベースのプロジェクトには、古いシステムで保存された参照ポイントが含まれていますが、これらは以前と同様に書き出されます。新しいコマンドで参照点を追加した場合、IFC書き出し中に古い情報は上書きされます。

注：最初にIFCファイルから読み込んだ情報(サイト位置の角度など)は、プロジェクトのBSYSLIBファイルにすべて保存されているとは限らないため、古い参照点情報に基づいてIFCに書き出すことは望ましくありません。したがって、参照点を手動で移行することをお勧めします。

25.4.4 参照点を手動で移行する

V25より古いバージョンのBricsCADで保存されたIFCファイルに基づいて、BIMプロジェクトから参照点の情報を手動で移行する方法は2つあります：

以前のIFCファイルを現行バージョンのBricsCADで新しい図面に再度読み込む

1 現行バージョンのBricsCADで新しい図面を開きます。

2 IMPORTコマンドを実行し、以前のIFCファイルを選択します。

3 図面を保存します。

グローバル原点/測量位置、プロジェクト位置、サイト位置、回転角度は、読み込み元のIFCファイルに保存されている情報から取得され、新しいDWGファイルに保存されます。

現行バージョンのBricsCADで参照点を手動で追加する

1 現行バージョンのBricsCADで図面を開きます。

2 **空間的位置マネージャー**ダイアログボックスまたは図面に読み込んだ以前のIFC ファイルの情報に基づいて、SETSURVEYLOCATION、SETPROJECTLOCATION、SETSITELOCATIONの各コマンドを使用して、測量位置、プロジェクト位置、サイト位置を追加します。

3 図面を保存します。

25.5 BricsCADでのRevit®ファイルの読み込み

25.5.1 免責事項

本記事で使用している**Revit**という言葉は、特に断りのない限り、オートデスク®社のRevit®ソフトウェアとその周辺機器を指します。

25.5.2 Revit®の読み込みについて

Revit®の読み込み機能を使い、RVTファイルを3DソリッドとしてBricsCADに読み込むことができます。ほとんどのプロジェクトデータとモデルメタデータ、すなわちBIM分類、空間情報、および壁、スラブ、屋根、梁、柱、材料などの複合材データがRevit®モデルから読み込まれます。

Revit®プロジェクトファイルの設定に応じて、3Dビューごと、ファミリーカテゴリごと、レベルごと、ビューワークセットごとにジオメトリを選択して読み込むことができます。

BricsCAD V25は現在、**Revit 2015-2024**ファイルの読み込みをサポートしています。以前のBricsCADバージョンでは、下表に示すRevit®ファイルの読み込みに対応しています。それ以降のバージョンのRevit®で作成されたモデルをBricsCADに読み込む場合は、IFCファイルでの読み込みをご検討ください。詳細については、BricsCADでのIFCの読み込みと書き出しに関する記事をご参照ください。

BricsCAD BIMバージョン	サポートしているRevit®バージョン
BricsCAD BIM V22	Revit 2015-2022
BricsCAD BIM V23	Revit 2015-2023
BricsCAD BIM V24.1	Revit 2015-2023
BricsCAD BIM V24.2	Revit 2015-2024
BricsCAD BIM V25	Revit 2015-2024

25.5.3 手順: BricsCADで Revit® ファイルをソリッドとして読み込む

1 新しいBricsCADファイルを開きます。

2 RVT読込み時に要素の詳細レベルを決定する**RVTRFALEVELOFDETAIL**システム変数値を設定します。デフォルト値は**詳細**です。

BREPジオメトリ検証の有効・無効を設定する**RVTVALIDATEBREP**システム変数値を設定します。デフォルト値は**有効**です。

重要：経験豊富なユーザのみ、デフォルト以外の設定を使用することを推奨します。詳細レベルを選択する際には、Revit®の「ファミリーエレメントの可視性設定」で、入力されるジオメトリが詳細レベルの観点からどのように設定されているかを確認してください。

3 コマンドラインに**Import**と入力してEnterを押すか、またはリボンのBricsCADアイコンをクリックして読み込みを選択し

てIMPORTコマンドを起動します。

4 **ファイルを読み込み**ダイアログボックスが表示されます。**ファイルの種類**で**Revit Project (*.rvt)**を選択し、フォルダーから読み込むファイルを選択して**開く**をクリックします。

5 **プロンプト表示：**要素を選択 [**すべて/ビューごと/カテゴリーごと/レベルごと/ワークセットごと**]:

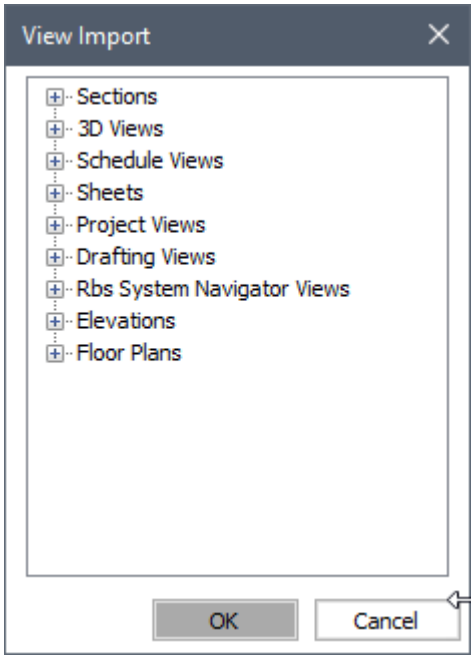
ファイルの読み込みにはさまざまなフィルターがあります。使用するフィルターを選択するには、コマンドラインで希望するオプションをクリックするか、太字で表示されているそれぞれの文字をクリックします。

- **すべて**

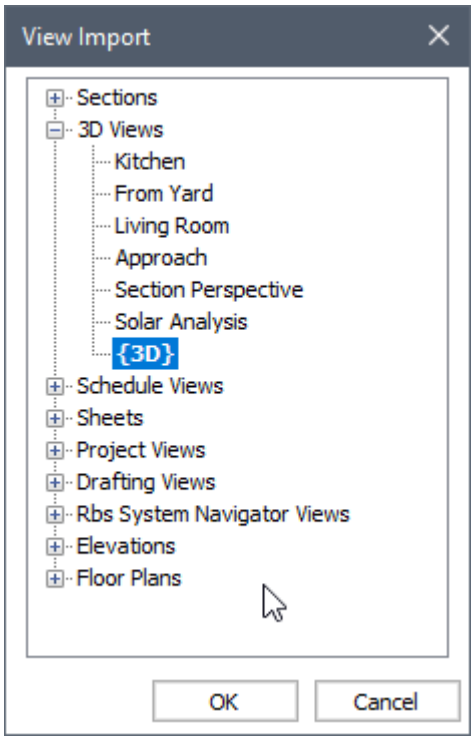
  RVTファイル内に存在するすべての要素が読み込まれます。

- **ビューごと**

  ビューを読み込みダイアログボックスからビューを選択すると、Revit®でのビューの表示/グラフィックスのオーバーライド設定に基づいて要素が読み込まれます。ビューは、そのビュータイプに基づいて構成されています。



特定のビューに関連する、または適用可能なビュータイプのカテゴリを展開することができます。**3Dビュー**カテゴリを展開すると、次のようになります：



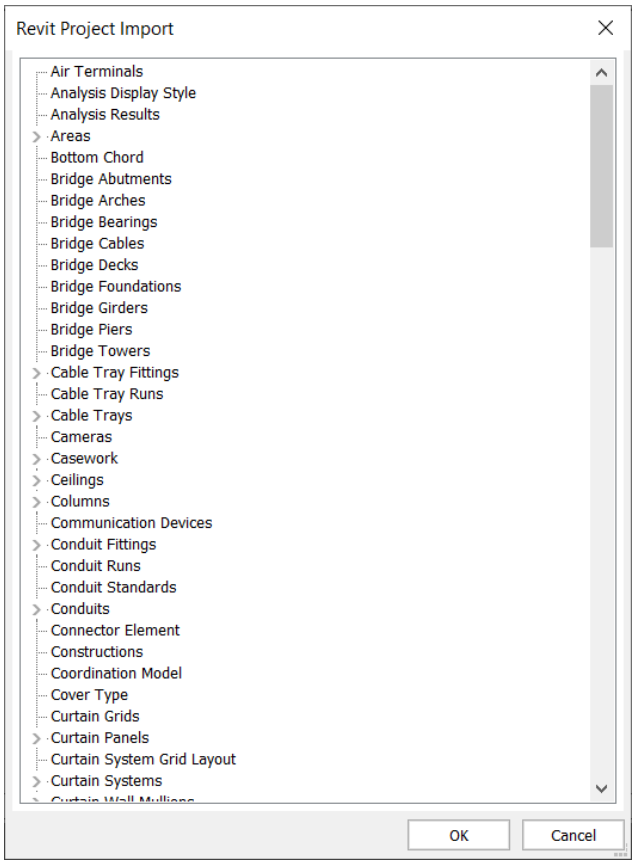
注：Revit® 3Dビューは、BricsCAD名前付きビューとして読み込まれます。Revit®プロジェクトには、カメラ位置、ビュータイプ(パース/直交)、尺度(ズームレベル)などの属性を持つ、複数の3Dビューが定義されています。

注：画層状態は、生成された断面内での要素の可視性をコントロールするために作成されます。読み込んだ断面は、平面図、立面図ともにボリュームの状態になりました。

注：平面図などの2Dビューから要素を読み込むと、その特定のビューのRevit®モデルの可視性/グラフィックのオーバーライド設定で可視化されている要素のみが表示されます。また、平面図上で非表示になっている要素があっても、必ずしも対応するレベルにホストされるとは限りません。

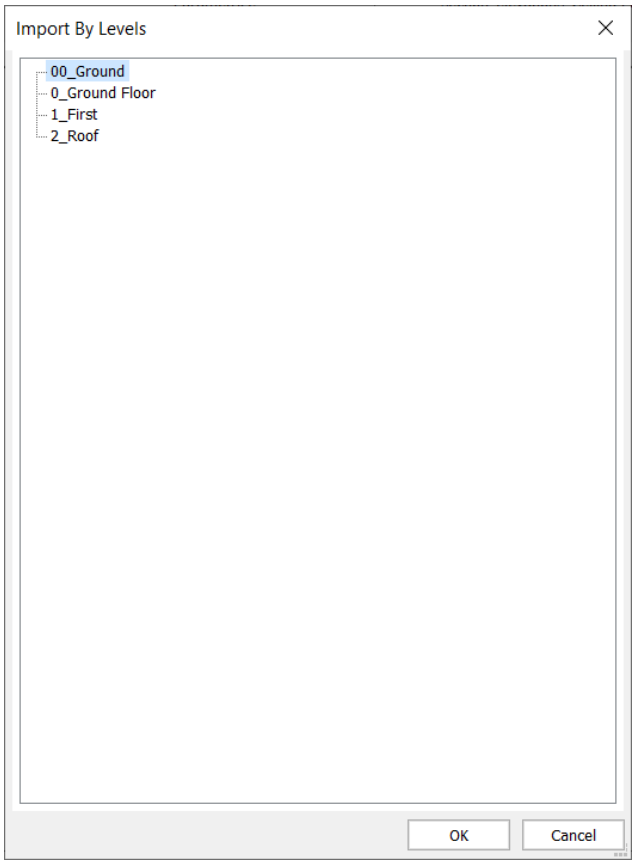
- **カテゴリごと**

Revitプロジェクト読み込みダイアログボックスから1つまたは複数の組み込みのカテゴリと要素タイプを選択できます。これらの選択されたカテゴリと要素タイプの要素が読み込まれます。



- **レベルごと**

  レベルごとに読み込みダイアログボックスでは、1つまたは複数のレベルを選択できます。選択したレベルにホストされた要素が読み込まれます。

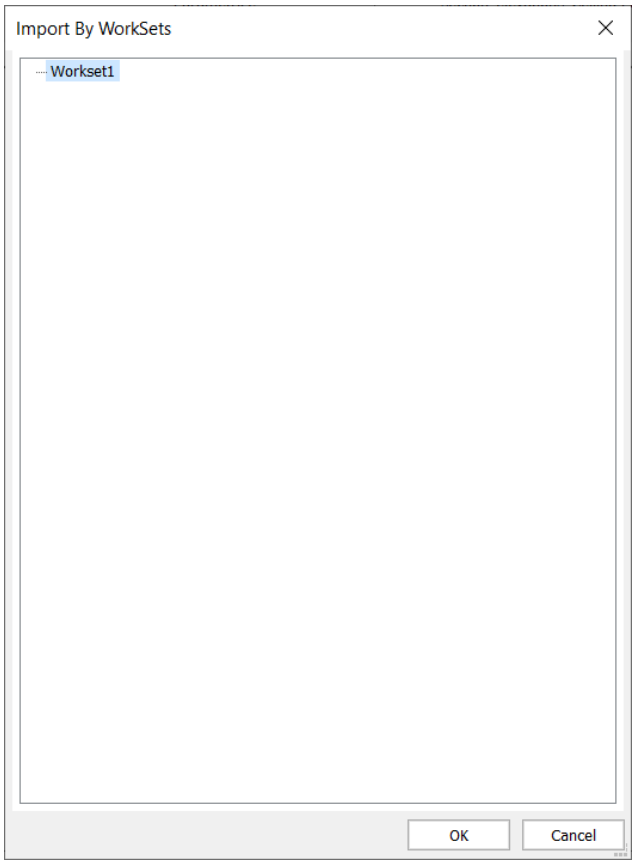


- **ワークセットごと**

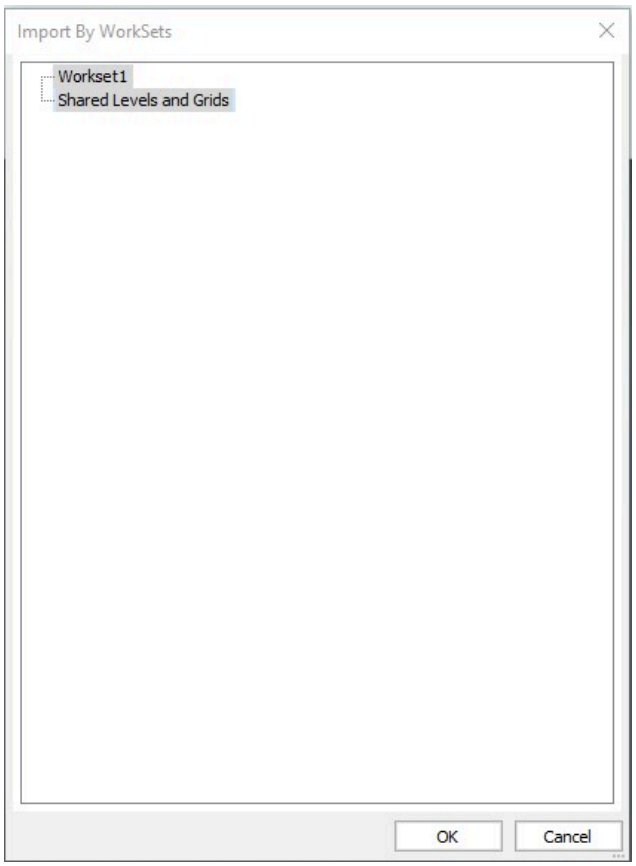
  ワークセットごとに読み込みダイアログボックスから1つまたは複数のワークセットを選択できます。

  この読み込み方法は、ワークシェアされたRevit®モデルに最適です。ワークセットの最新情報を確実に読み込むために、セントラルモデルを読み込むことをお勧めします。セントラルモデルの取り外しはオプションです。

  ワークスシェアされていないRevit®モデルを読み込んだ場合、**Workset1**のみが利用可能です。



セントラルまたはローカルのRevit®モデルを共有して読み込むと、モデル内のユーザ作成ワークセットがダイアログで使用可能になります。このワークセットに属している要素が読み込まれます。



注：ワークシェアリングがRevit®ユーザによって有効にされており管理可能な場合、デフォルトによりRevit®で**共有レベル**とグリッド、および**Workset1**のワークセットが作成されます。

6 ビュー別の読み込みを選択した場合、Revit®で選択されたビュー設定の詳細レベルが使用されます。

7 その他のオプションについては、読み込みはRVTRFALEVELOFDETAILシステム変数とRVTVALIDATEBREPシステム変数の値によってコントロールされます。

8 読み込みたい「ビュー」、「カテゴリ」、「レベル」、「ワークセット」を選択し、**OK**をクリックします。RVTファイルは、BIM分類、マテリアル、複合材などと共に3Dソリッド形状として読み込まれます。

複合材データを読み込み：

- 壁、スラブ、屋根
- 構造マテリアルパラメータを持つファミリーインスタンス。(テストされたRVTでは、これらは梁と柱である可能性があります)
- プライ - 物理的マテリアル、機能、厚みなど
- 物理的マテリアルの場合、アピアランス(カスタムハッチング)は個別の.PATファイルに抽出されます。
- .PATファイルはSupportフォルダーの"RvtPatterns"フォルダーに追加されます。
- 壁の基準面を設定(複合材が割り当てられる前)

注：壁や床などのRevit®のシステムファミリーの一部は、3DソリッドとしてBricsCADに読み込まれ、ジオメトリを直接操作することができます。これは、Model-In-Placeコンポーネントや、Fasciasなど、プロファイルでジオメトリに定義できる要素タイプにも適用されます。

ただし、階段やカーテンウォールなど、拘束条件を組み込んで設計された他のシステムファミリーは、個別のブロック参照としてBricsCADに読み込まれます。例えば、Revit®のカーテンウォールタイプを構成するCurtain PanelタイプとCurtain Wall Mullionタイプは、別々のブロック参照として存在します。これは、Revit®モデル内に配置された家具など、他のすべてのロード可能なファミリーにも適用されます。詳しくは、「ブロックを使った作業」の記事をご参照ください。

25.5.4 Revit®ファミリーをBricsCADに読み込む

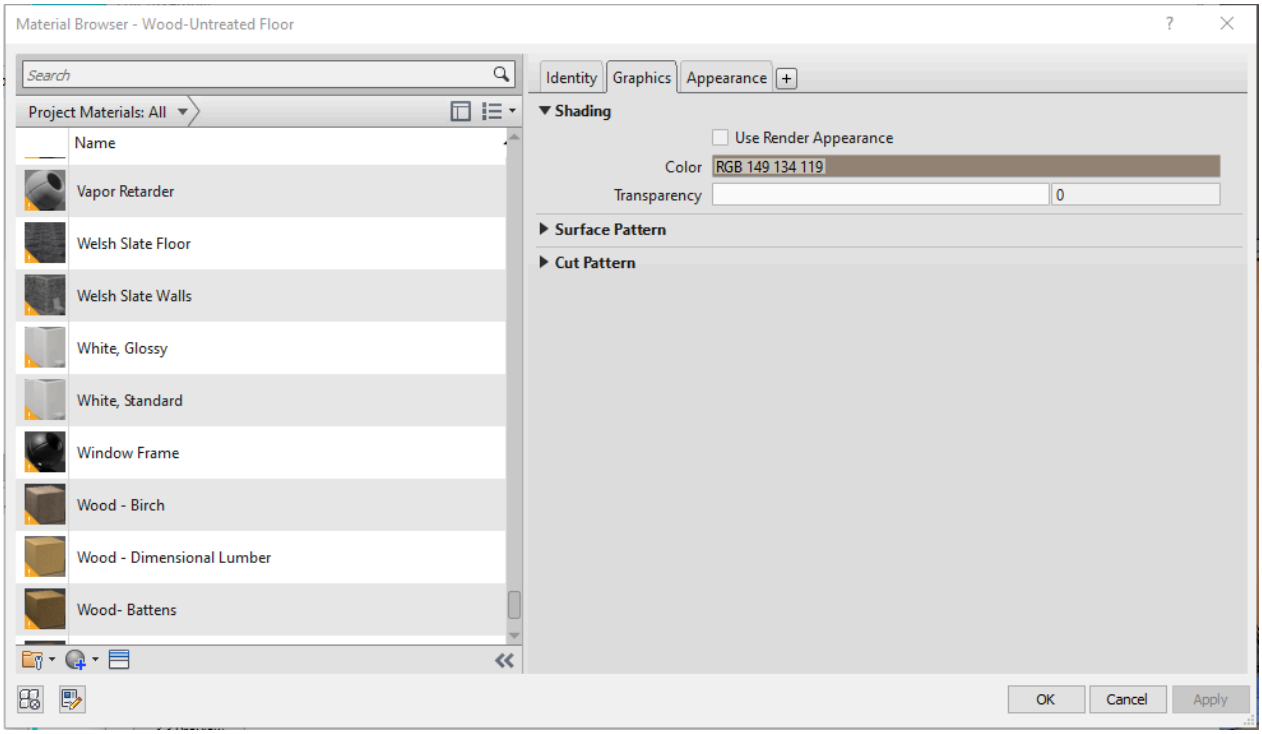
詳細については、**BricsCADでのAutodesk Revit®ファミリーの読み込み**の記事を参照してください。

25.5.5 読み込まれたジオメトリのテクスチャーとグラフィック

Revit®モデル内のプロジェクト情報や要素のメタデータはBricsCADに取り込まれますが、読み込んだ3Dソリッドの外観をRevit®で設定した元のグラフィックスに対応させる設定が必要となります。

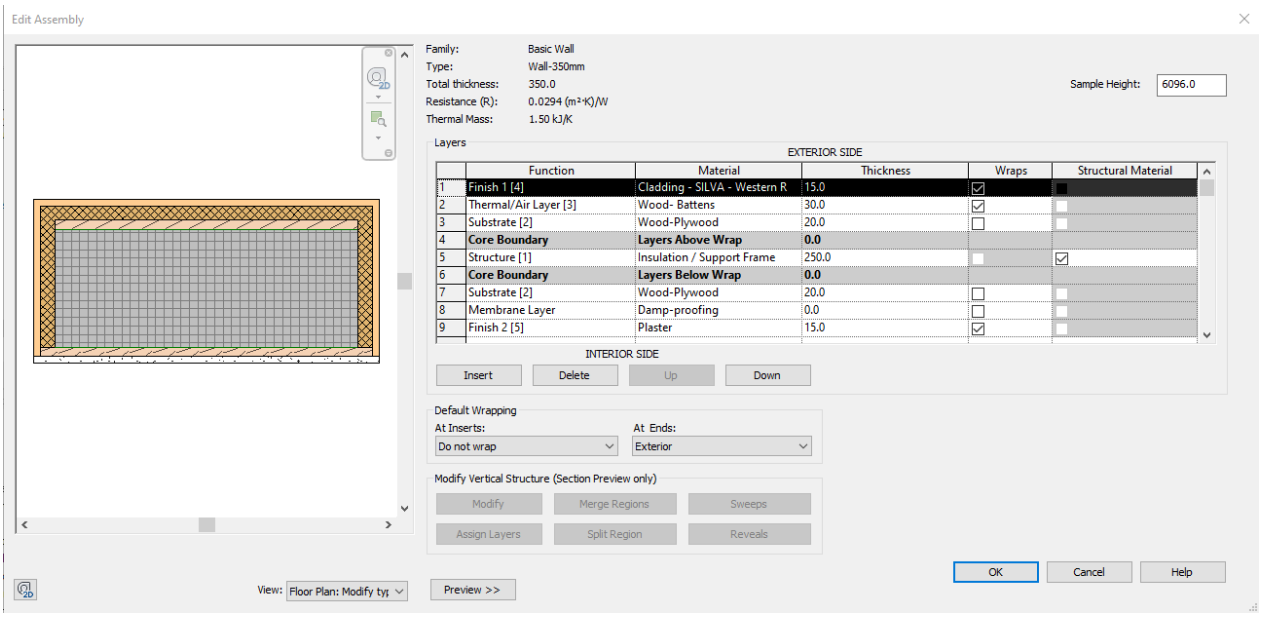
読み込みプロセスでグラフィック情報の一貫性を保つために、Revit®のマテリアルブラウザで設定されたRGBカラーと透明度の設定が希望の値になっていることを確認してください。

以下の例では、色と透明度の値をそれぞれ**RGB 149 134 119**、**0**(%)としています。



読み込んだ要素が、構造アセンブリ(壁タイプ)を定義できるRevit®システムファミリーであり、マテリアルや機能のさまざまな層で構成されている場合、BricsCADは、対応するジオメトリの面に、(外装側と内装側の両方の)一番外側のマテリアルからカラーテンプレート値を適用します。

下の図を例にとると、画層1と9に割り当てられているマテリアル、それぞれ**クラッディング**...と**プラスター**から値が得られます。



それ以外の場合、BricsCADは色の値と、必要に応じて透明度の設定を3Dソリッドに適用し、Revit®ファミリーのそれぞれの部分を置き換えます。これは、読み込まれたRevit®プロジェクトにロードされた、ロード可能なファミリーやコンポーネントにも適用されます。

25.6 BricsCADでのAutodesk Revit®ファミリーの読み込み

25.6.1 コマンド

IMPORT、BMINSERT

25.6.2 免責事項

本記事で使用しているRevitという言葉は、特に断りのない限り、Autodesk®社のRevit®ソフトウェアとその周辺機器を指します。

25.6.3 始める前の重要なお知らせ

RFA読み込みは現在進行中です。BMINSERTコマンドを参照してください。

BricsCAD V25は現在、**Revit 2015-2024**の読み込みをサポートしています。以前のBricsCADバージョンでは、下表に示すRevit®ファイルの読み込みに対応しています。それ以降のバージョンのRevit®で作成されたモデルをBricsCADに読み込む場合は、IFCファイルでの読み込みをご検討ください。詳細については、**BricsCADでのIFCの読み込みと書き出し**を参照してください。

BricsCAD BIMバージョン	サポートしているRevit®バージョン
BricsCAD BIM V22	Revit 2015-2022
BricsCAD BIM V23	Revit 2015-2023

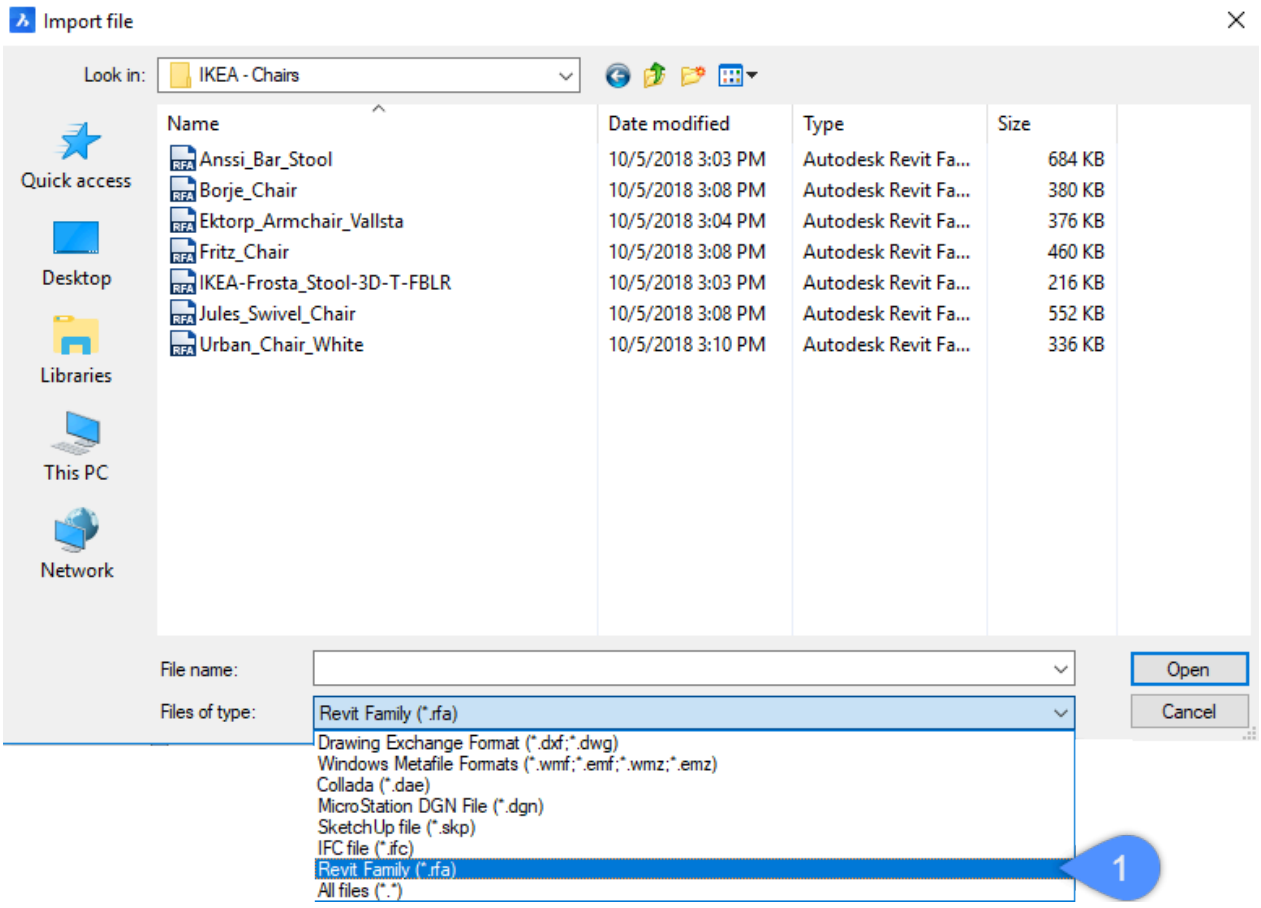
BricsCAD BIMバージョン	サポートしているRevit®バージョン
BricsCAD BIM V24.1	Revit 2015-2023
BricsCAD BIM V24.2	Revit 2015-2024
BricsCAD BIM V25	Revit 2015-2024

25.6.4 RFAファミリファイルの読み込み

1 IMPORTコマンドを起動します。

1 **読み込みファイル**ダイアログボックスが表示されます。

2 **ファイルの種類**リストから**Revit Family(*.rfa)**(1)を選択します。



3 読み込みたい.rfaファイルを選択します。

4 **開く**をクリックして、Revit® Familyのファイルを読み込みます。

RFAファミリーファイルが読み込まれると、このファイルに格納されているジオメトリが、独立した3DソリッドとしてBricsCADに含まれます。

25.6.5 手順：RFAファミリーファイルの挿入

注：

- DUCSがオン(ダイナミックUCS)の場合、RFA図形は、カーソルの下にある3Dソリッド面に整列します。
- DYNがオン(ダイナミック寸法)の場合は、3Dソリッドの面上の最も近い平行なエッジからの距離が表示されます。

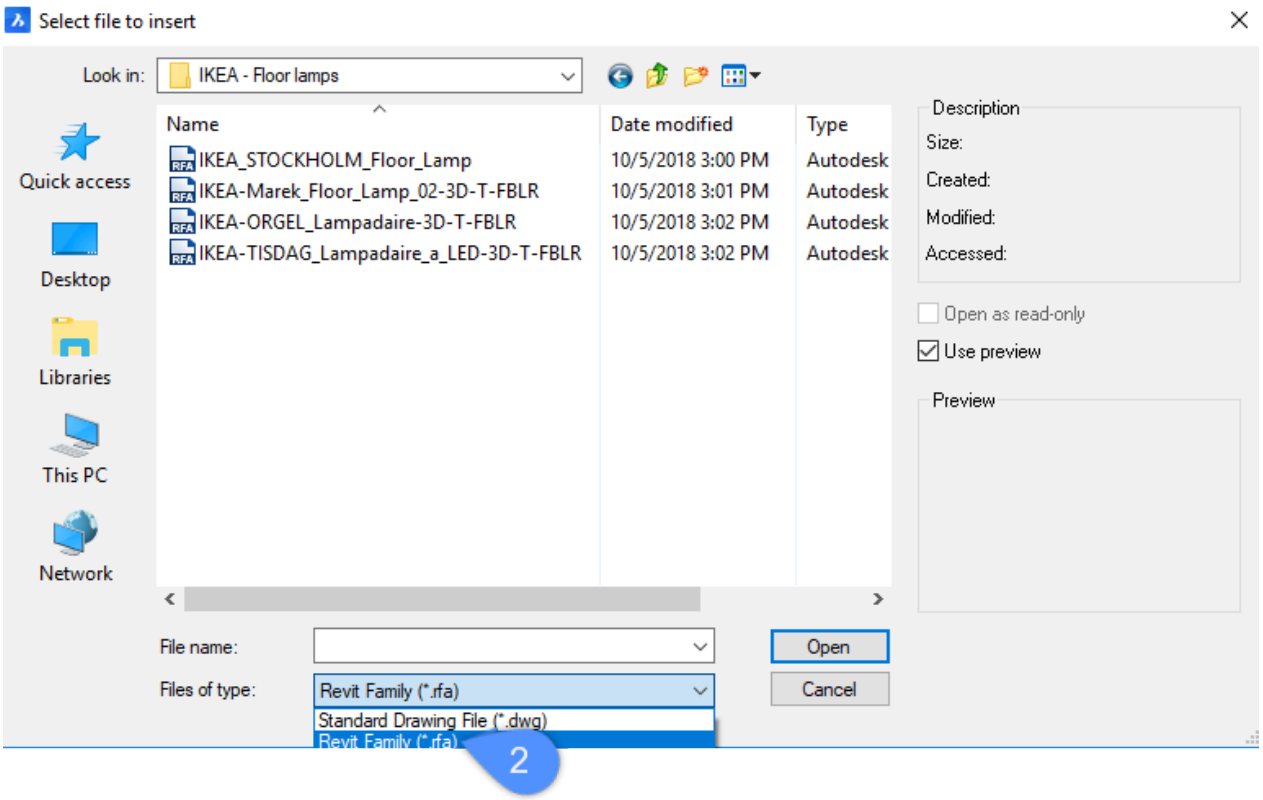
BmInsertの使用方法

1 BMINSERTコマンドを起動します。

1 **ファイル**ダイアログボックスが表示されます。

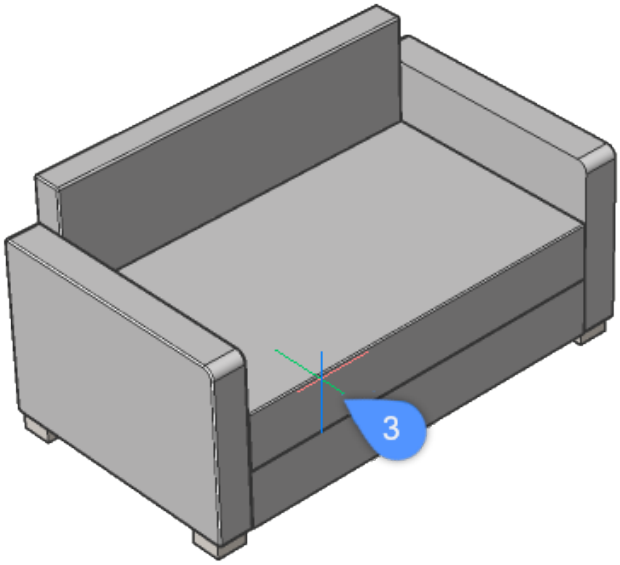
2 .rfaファミリファイルが保存されているフォルダーを参照します。

3 **ファイルの種類**リストから**Revit Family(*.rfa)**(1)を選択します。

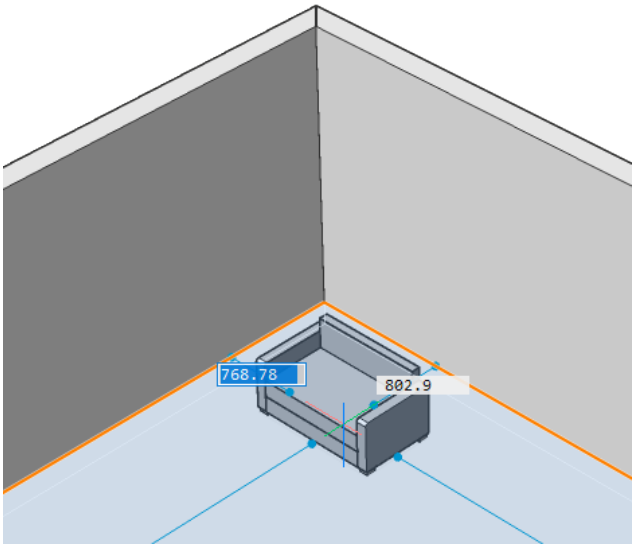


4 読み込みたい.rfaファイルを選択します。

5 選択したファイルがカーソル位置(3)にアタッチされます。



下図は、**DYN**と**DUCS**の両方をオンにした場合にRevit® Familyのソファを挿入しているところです。



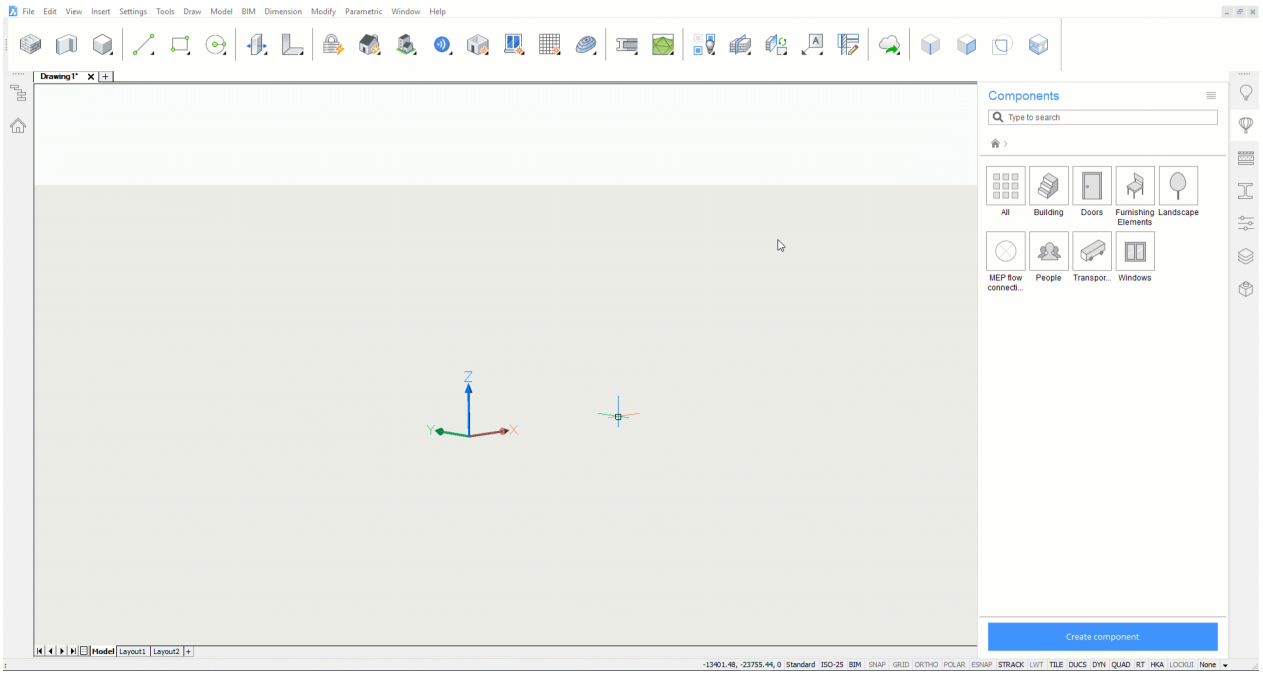
6 ダイナミック寸法フィールドを使い、選択したRFAファミリーファイルを配置するには、以下の操作を行います。

- Tabキーを押してダイナミック入力フィールドの1つを選択し、値を入力してからTabキーをもう一度押すと、寸法がロックされます。ロックされた寸法は赤くなります。
- 前の手順を繰り返して、別のダイナミック寸法フィールドをロックします。
- 必要に応じてTabを押してダイナミック寸法を調整します。
- Enterを押して、現在の位置を承諾します。

ライブラリパネルの使用

1 **ライブラリ**パネルにRFAファミリーフォルダーを挿入するには、**設定**ダイアログボックスでRFAルートフォルダーのパスをライブラリのディレクトリのパスに追加します。ルートフォルダーとすべてのサブフォルダーの内容が**ライブラリ**パネルに表示されます。

以下のアニメーションGIFは、コンポーネントディレクトリパスにRFAルートフォルダーのパスを追加する方法を示しています。



これで、モデル空間でRFAファミリ-ファイルを挿入することができます。

必要に応じて、**ライブラリ**パネルのハンバーガーメニューで**サムネイルを生成**を選択します。

2 **ライブラリ**パネルからモデル空間にRFAファイルをドラッグアンドドロップします。

25.7 外部参照の使用

25.7.1 コマンド

XREF、XATTACH、XOPEN、XCLIP

25.7.2 概要

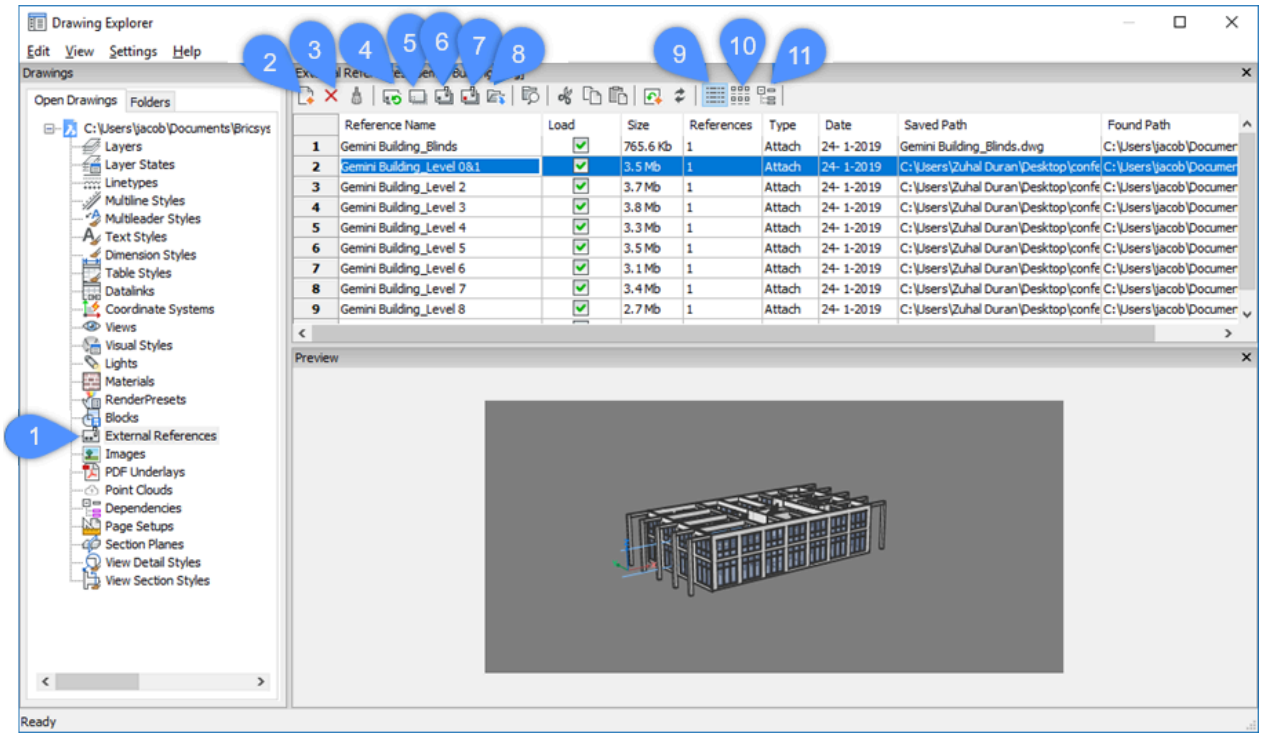
外部参照を使用することで、現在の BIM モデルに任意のモデルを挿入することができます。モデルをコピーする代わりに、ソースモデルへの参照のみがマスターモデルに保存されます。現在のモデルのファイルサイズを大幅に大きくすることなく、1 つのマスターモデルに複数のモデルをアタッチすることができます。外部参照の使用にはさらに利点があり、設計チームのさまざまなメンバーがソースモデルを同時に編集でき、またマスターモデルは常に更新されるので、各ソースモデルの最新版が示されます。

注：XDWGFADECTLシステム変数を使い、外部参照図形と現在の図面内の図形を区別することができます。このシステム変数を設定することで、外部参照をフェード表示することができます。フェード表示のデフォルト値を変更するには、0(フェードなし)～90の範囲で値を設定します。

25.7.3 手順： カレント図面で外部参照を管理

1 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを開き、**外部参照設定**セクションをクリックします。

外部参照のプレビュー画面が表示され、モデルを添付したり、リスト上の既存の外部参照を管理することができます。下図に、外部参照のプレビューペインを示します。



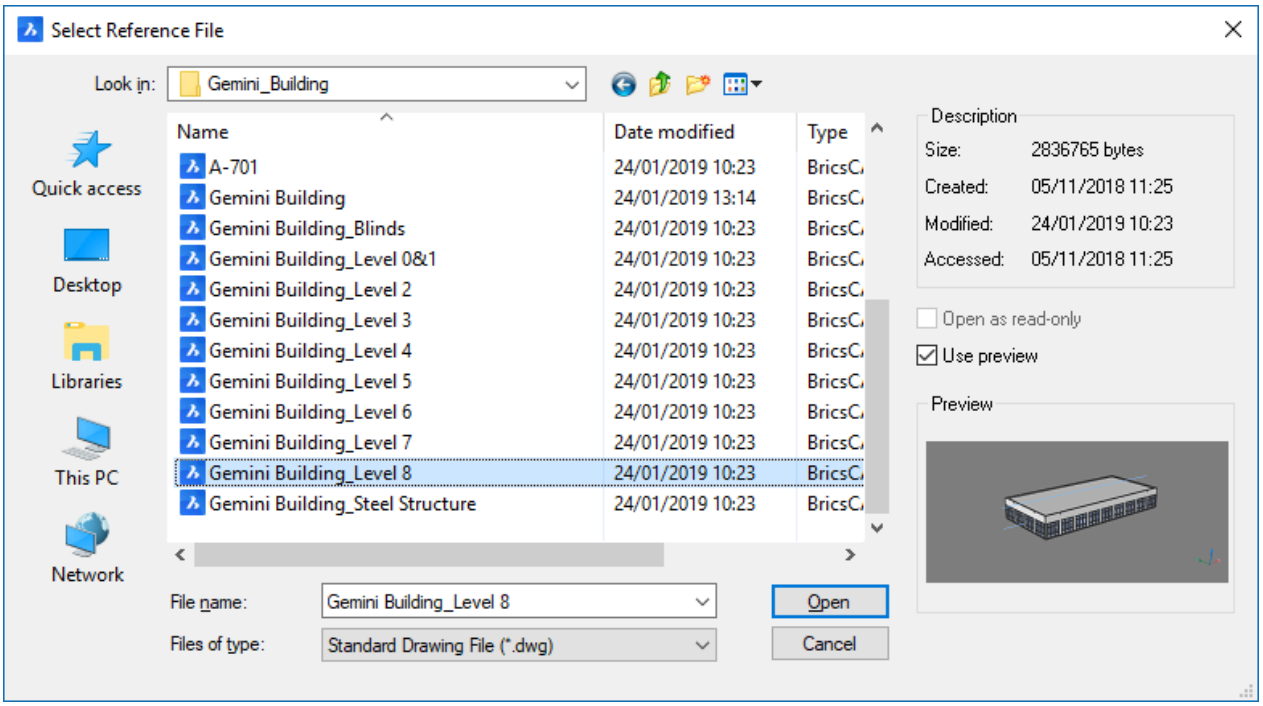
外部参照設定(1)	外部参照設定セクションを表示します。
参照をアタッチ(2)	モデルを外部参照としてアタッチします。
外部参照をアタッチ解除(3)	選択した外部参照を現在のモデルから完全に削除します。
外部参照の再ロード(4)	選択した外部参照を再ロードします。ソースモデルが変更されている場合に、更新されたバージョンをマスターモデルで見たいときに有用です。
外部参照のロード解除(5)	選択した外部参照をアンロードします。外部参照は非表示になります。
外部参照をバインド(6)	現在の図面にソースモデルを恒久的にマージします。現在の図面に外部参照をマージすると、外部参照は図面の一部になります。この外部参照への参照が図面エクスプローラから消えます。
外部参照を挿入(7)	外部参照をブロックに変換します。
外部参照を開く(8)	参照図面を開きます。
詳細表示(9)	外部参照の詳細を表示します。

アイコン表示(10)	外部参照のアイコンを表示します。
ツリー表示(11)	外部参照間の関係をツリー表示で示します。

2 外部参照モデルをアタッチするには、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスの**外部参照をアタッチ**ツールボタンをクリックします。

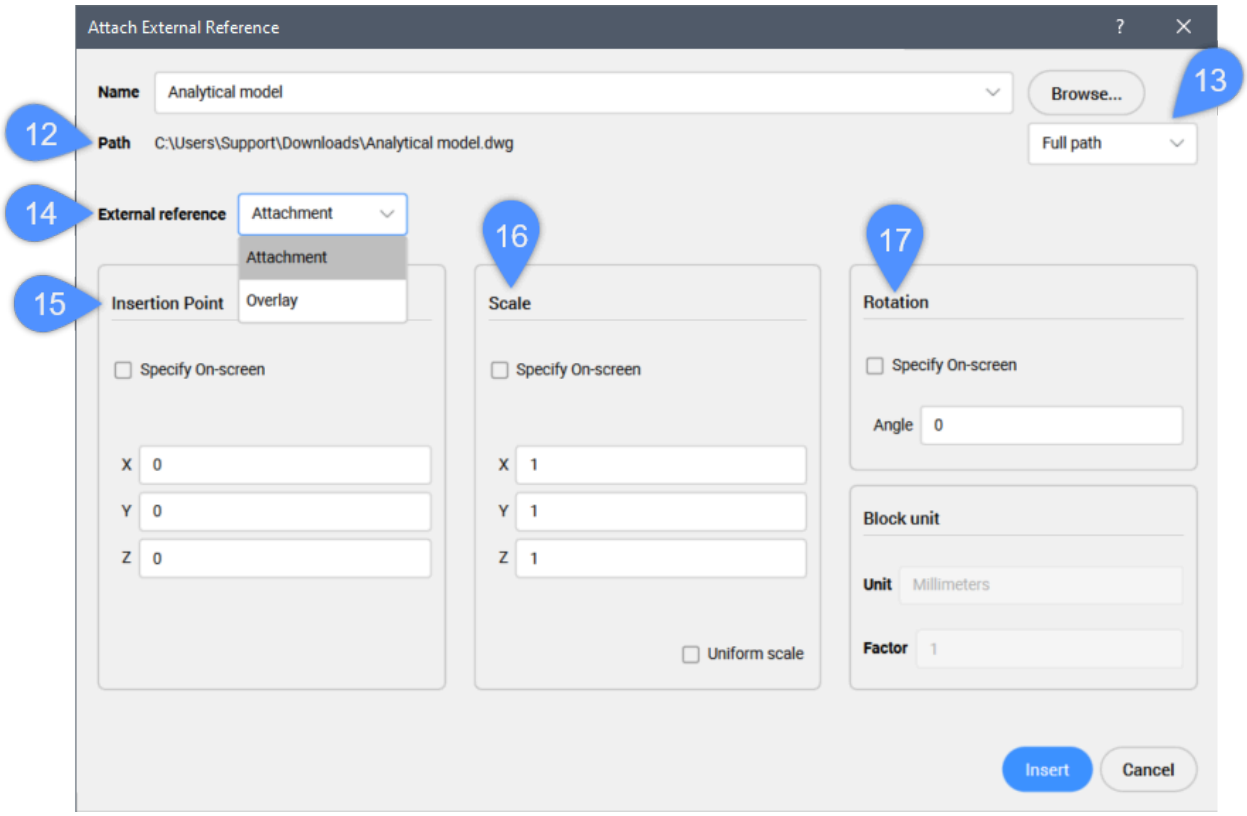
参照ファイルを選択ダイアログボックスが表示されます。

下図は**参照ファイルを選択**ダイアログボックスです。このダイアログボックスから、メインモデルにアタッチしたいDWGファイルを選択して、**開く**をクリックします。



次に、**外部参照をアタッチ**ダイアログボックスが表示されます。

下図は、**外部参照をアタッチ**ダイアログボックスです。**外部参照をアタッチ**ダイアログボックスの各オプションを下表のとおりです。ダイアログボックスから、適用するオプションを選択し、**OK**をクリックします。

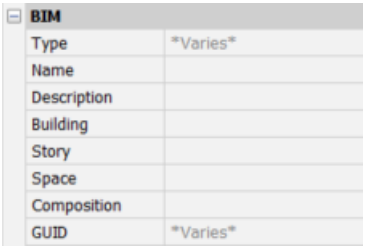


パスフィールド(12)	選択した図面のフルパスを表示します。
パスの種類(13)	**フルパス、相対パス、パスなし**のオプションがあります。 **フルパス**： 外部参照を含む図面を別の場所に移動すると、BricsCADはこの外部参照を以前の場所で検索し続けるので、見つけることができなくなります。 **相対パス**：外部参照を含む図面を別の場所に移動すると、新しい場所に新しいファイルパスが作成されます。ファイルフォルダーは、最初のものと同じフォルダー構造で正しく設定されます。
外部参照の種類(14)	参照の種類には、**アタッチメント**と**オーバーレイ**があります。 **アタッチメント**：ネストされた外部参照を含む、すべての外部参照をアタッチします。例えば、最上位の外部参照「X」の下に、ネストされた外部参照「Y」と「Z」が含まれているとします。「アタッチ」を選択すると、最上位の外部参照とネストされた外部参照「Y」と「Z」が図面に添付されます。 **オーバーレイ**：最上位の外部参照「X」だけをアタッチし、ネストされている外部参照「Y」と「Z」はロードされません。このオプションを選択すると、循環参照を防ぐことができます。

挿入位置(15)	画面上またはX、Y、Zの各フィールドで挿入位置を指定することができます。
尺度(16)	画面上またはX・Y・Zの各フィールドで尺度を指定できます。**均一尺度**にチェックを入れると、Xフィールドで均一尺度を指定できます。
回転(17)	画面上または**角度**フィールドで回転角度を指定します。

BIM分類から**BIM外部参照**オプションを使用すると、モデルを外部参照として分類することができます。情報の識別は、カレントモデルまたはプロジェクト データベースでは明示的に表されません。このような情報は、別のプロジェクトにモデルをアタッチすると表示されます。操作方法は、上記の手順に従ってください。

下図は、外部参照として分類されているモデルをアタッチすした後の**プロパティ**パネルに表示されるBIM分類を示しています。



3 既存の外部参照を解除するは、メインモデルでアタッチを解除したい外部参照を選択し、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスで**外部参照をアタッチ解除**ツールボタンをクリックします。

選択した外部参照がアタッチ解除されます。

注：Ctrlを長押しすると、複数の外部参照を選択したり、選択した外部参照の選択を解除することができます。

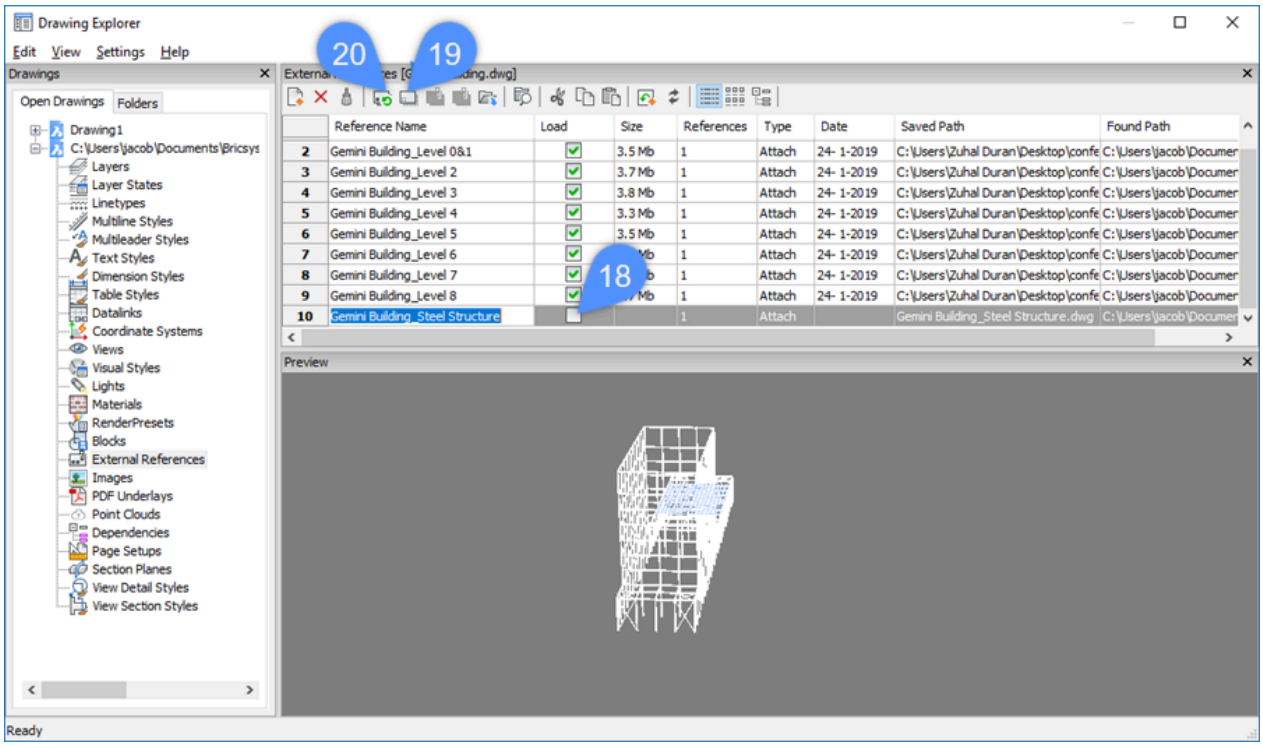
4 既存の外部参照のロードを解除して再ロードするには、次のいずれかの操作を行います。

- ロードされている外部参照の**ロード**(18)列をクリックします。

  メインモデルからこの外部参照がロード解除されます。

  外部参照を再ロードするには、この外部参照の ロードチェックボックスを選択します。
- 外部参照を選択し、詳細ツールバーの外部参照のロード解除(19)ツールボタンをクリックします。
- ロード解除した外部参照を選択し、外部参照の再ロード(20)ツールボタンをクリックします。

  下図は、**図面エクスプローラ**の**ロード**列(18)、外部参照のロード解除(19)、外部参照の再ロード(20)の各ツールボタンを示したものです。



5 アタッチの種類を変更するには、既存の外部参照の**種類**列をクリックして、**アタッチ**から**オーバーレイ**(または、その逆)に切り替えます。同様にして、外部参照の**保存パス**とオーバーレイの**検索パス**列を変更することができます。

6 **X**をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。行った変更は、**図面エクスプローラ**を閉じると反映されます。

26. ドキュメンテーション

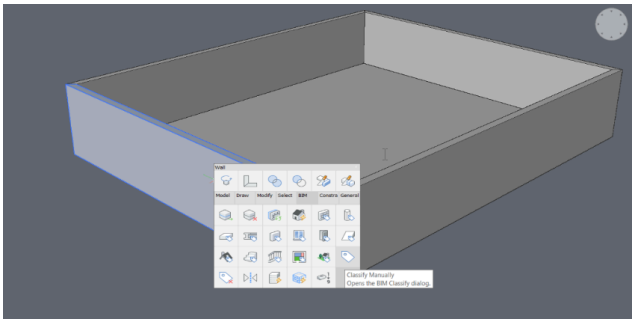
26.1 3Dの注釈

26.1.1 コマンド

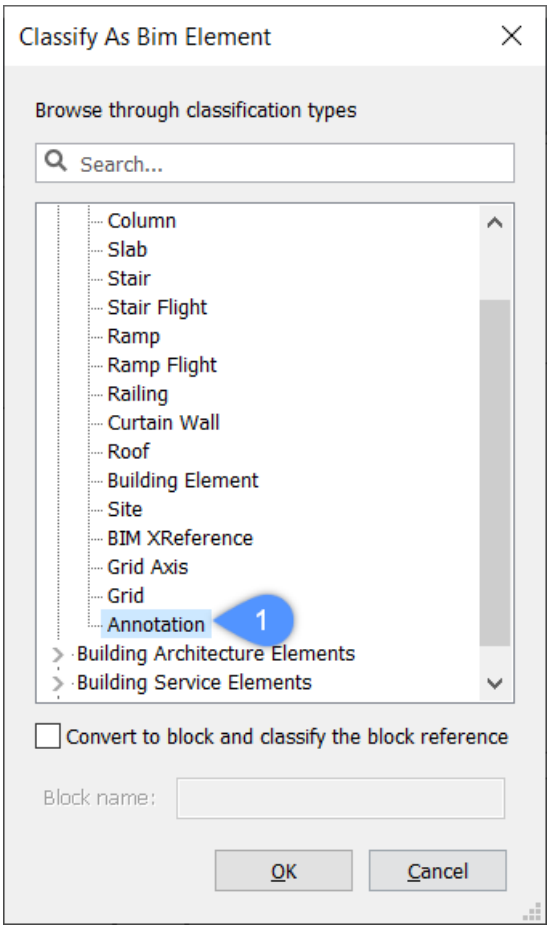
BIMTAG、BIMCLASSIFY

26.1.2 注釈としてのBIM分類

1 ソリッドを選択し、コマンドラインでBIMCLASSIFYを起動した後、クワッドで**手動で分類**を選択するか、**その他**として分類します。

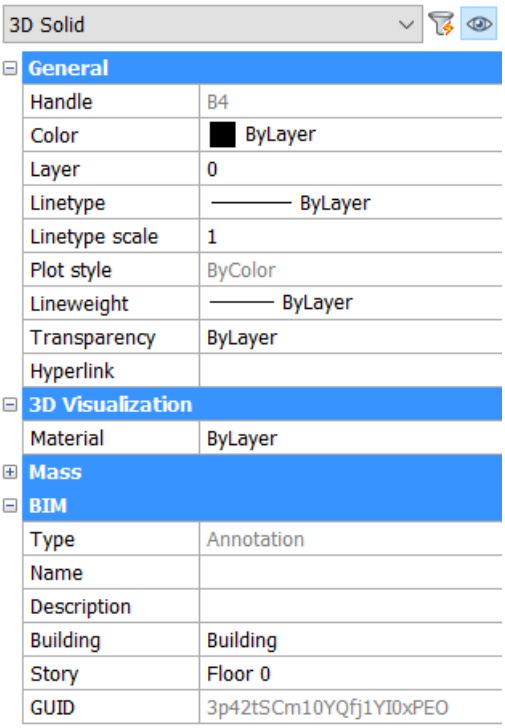


2 **建物のコア要素**フォルダーで**注釈記入**として分類するを選択し、**OK**をクリックします：



3 選択したソリッドの**プロパティ**パネルを開くと、**名前**、**説明**、**建物**、**階**を変更することができます。

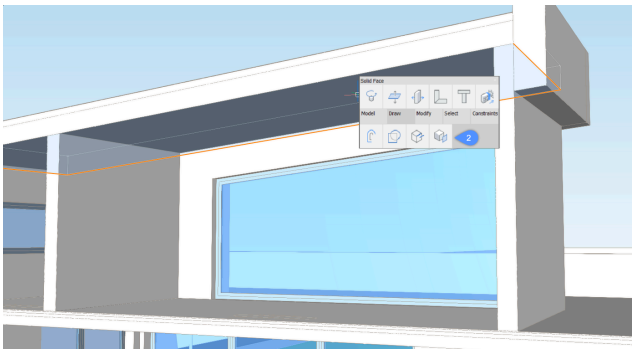
注：プロパティの**GUID**は、自動的に生成されたユニークな文字列であるため、変更することはできません。



26.1.3 仕上げ材の付加情報を表示

この手順では、具体的な屋根構造に設計情報を追加します。

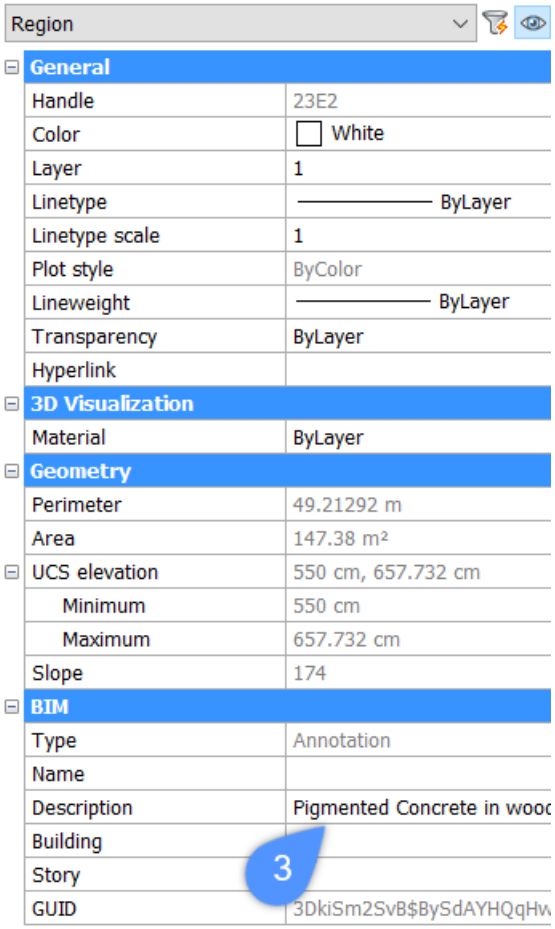
1 クワッドの**作成**の下にある面をXFACESコマンド(2)を使用して、**屋根**図形の面を抽出します。リージョンが作成されます。



2 上記のようにリージョンを**注釈記入**として分類します。

3 **説明**欄(**プロパティ**パネル)に必要なテキストを入力します：

注：デフォルトでは、BIMTagは**説明**プロパティを参照します。

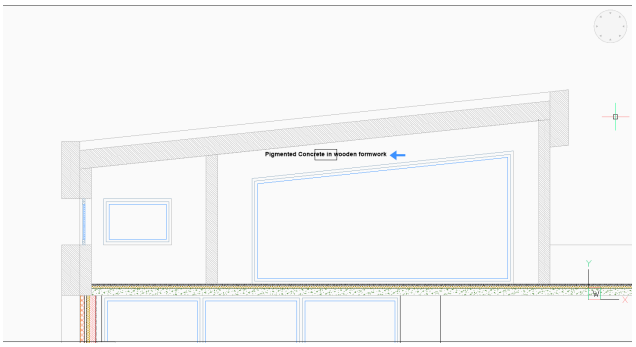


4 BIMSECTIONコマンドでリージョンの断面を作成し、クワッドから**断面を生成**()を選択します：

5 生成された断面図を開きます。

6 コマンドラインにBIMTAGと入力するか、リボンの**注釈**タブで**自動タグ**を選択します。

追加したテキストが2D図面に表示されます：



26.1.4 抽出された面の表面積を表示

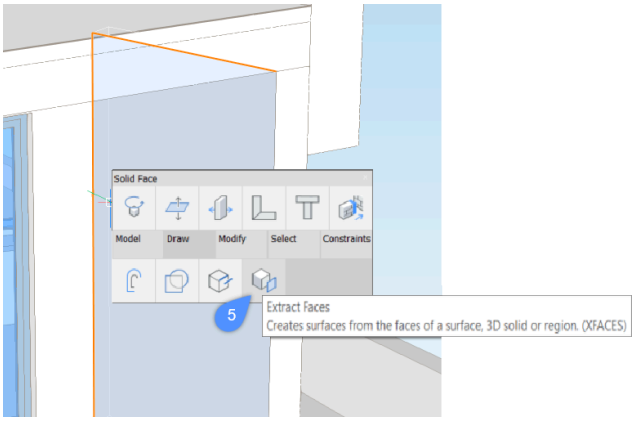
この手順では、**注釈**オブジェクトとして分類された図形の他のプロパティを表示する方法を説明します。

注：注釈タグは、デフォルトで**説明**プロパティから情報を引き出します。

タグの詳細については、記事**BIMタグ**をご覧ください。

1 情報を抽出したい面を選択します。

2 クワッドから**面を抽出**(5)を選択します。リージョンが作成されます。



3 上記のように**注釈記入**としてリージョンを分類します。

4 BIMSECTIONコマンドでソリッドの断面を作成し、クワッドから**断面を生成**( )を選択します。

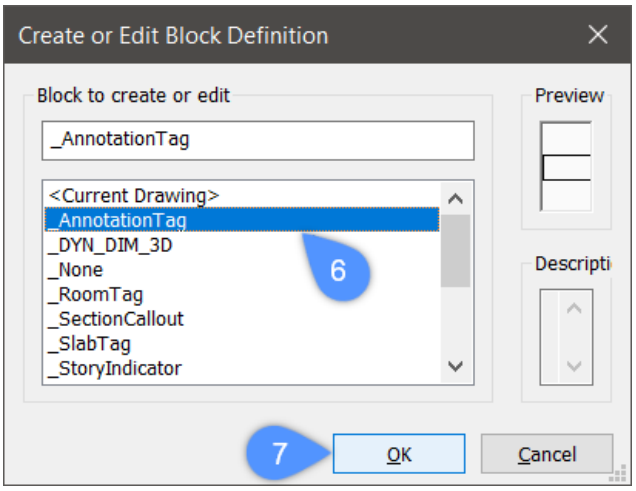
5 生成された断面図を開きます。

6 コマンドラインにBIMTAGと入力するか、リボンの**注釈**タブで**自動タグ**を選択します。

注：このタグは、デフォルトで**説明**プロパティを参照しているため、空に見えます。

7 BEDITコマンドを起動します。

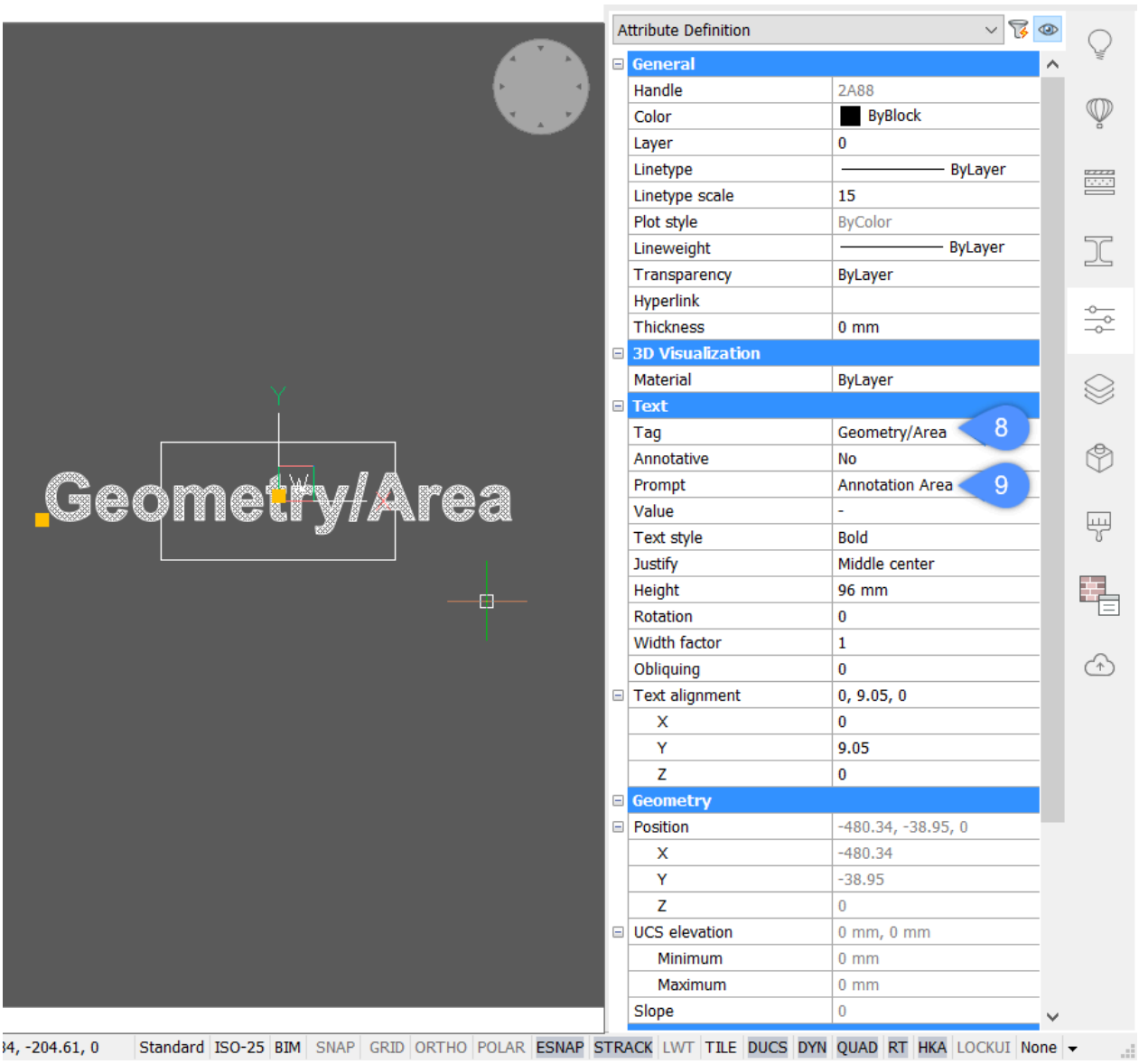
8 **_AnnotationTag**(6)を選択し、**OK**(7)をクリックします。



9 **プロパティ**パネルで、属性の定義を選択します。

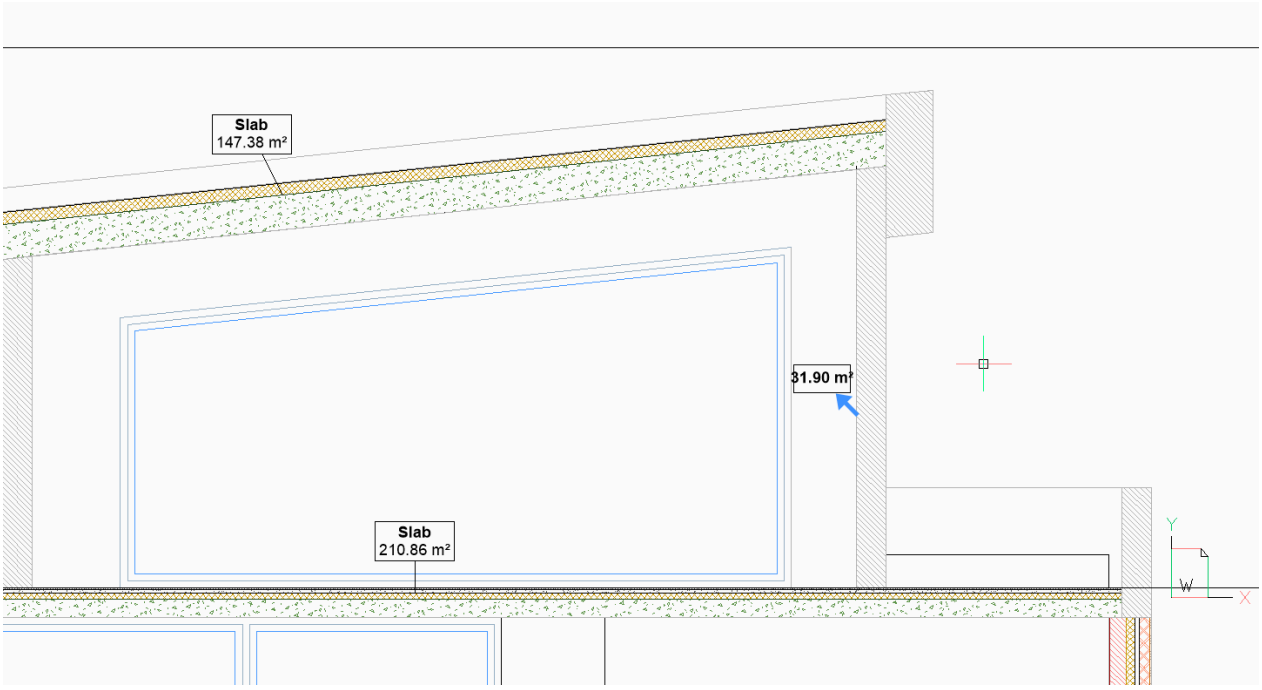
10 **タグ**プロパティを編集し、**ジオメトリ/エリア**(8)に変更します。

11 **(オプション)**また、**プロンプト**プロパティ(9)を変更することもできます。



12 コマンドラインにBCLOSEと入力し、**保存**をクリックします。

13 ビューポートを選択し、クワッドから**断面を生成**を選択します( )。領域の領域がタグに表示されるようになりました。



26.2 BIMタグ

26.2.1 ソースファイル

以下のソースファイルは、生成されたBIM断面図面にBIMタグを作成するために使用されます：

- **_SectionTag.dwg**：タグブロックとマルチ引出線スタイルを含みます。
- **_TagTypeToStyle.xml**：マルチ引出線スタイルにBIM図形タイプをリンクさせます。

両方のファイルは次のフォルダーにあります：

C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support¥Bim¥Sections

注：タグを割り当てる場合、BricsCADは3Dモデルにアクセスする必要があります。このため、特に大きなモデルの場合、3Dモデルをカレントで開いていないと、最初のタグを配置するのに数秒かかることがあります。この待ち時間を回避したい場合は、3Dモデルを開きながらタグを配置することを検討してください。

26.2.2 BIMタグを手動で適用

BIMTAGコマンドの**マニュアル**オプションを使用すると、BIMタグを作成するBIM要素を選択することができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンス、**BIMTAG**コマンドをご覧ください。

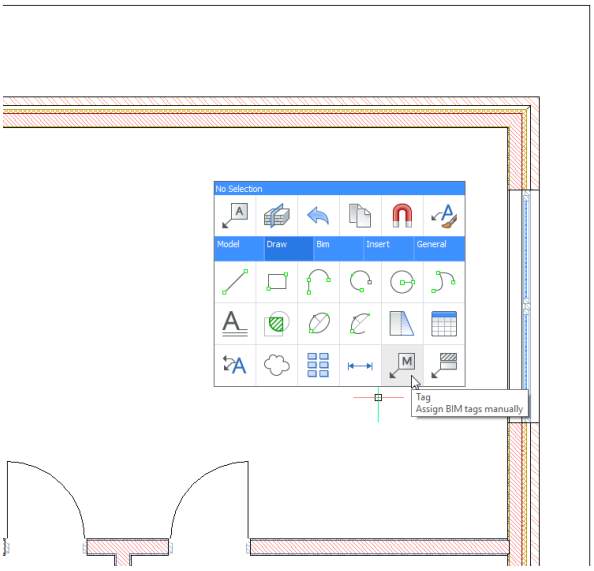
手動でBIMタグを作成

1 BIMタグを作成したい断面図形を開きます。

1 **注**：断面図の生成については、まずBIMの記事**図面の生成**をお読みください。

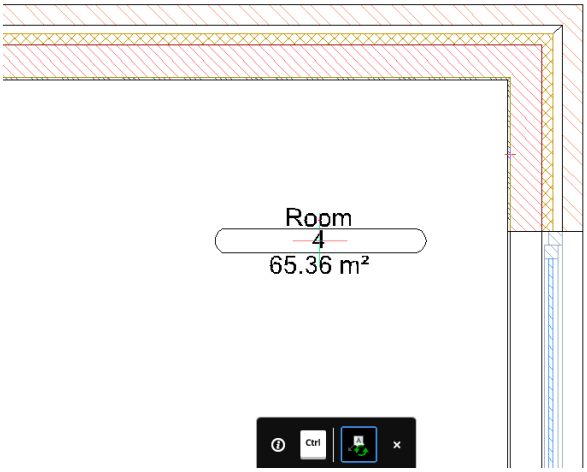
2 選択肢がない場合は、クワッドから**BIMタグを手動で適用**を選択するか、コマンドラインにBIMTAGと入力した後

に、**M**を入力して手動オプションを選択します。



プロンプト表示：分割されたBIM要素のポイントをピック[自動/カレントのマルチ引出線素スタイル/タグの種類を変更]:

3 BIM要素の線上の点を選択して、そのタグを生成します。タグが表示されます。選択した点が複数のBIM図形間で共有されている場合、**Ctrl**を使用して、考えられるさまざまなタグに切り替えることができます。



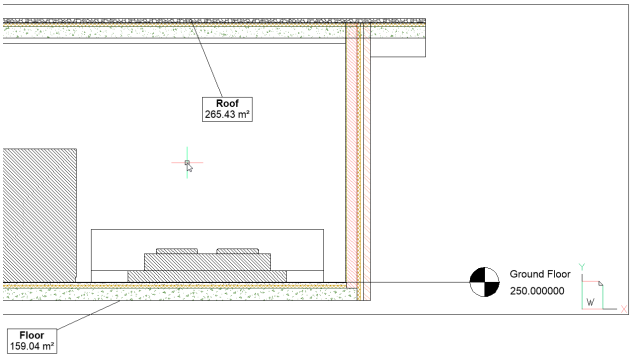
プロンプト表示： タグを配置[次の要素]:

4 タグの位置を調整するにはカーソルを移動し、左クリックして配置します。

5 プロンプト表示：分割されたBIM要素のポイントをピック[自動/カレントのマルチ引出線素スタイル/タグの種類を変更]:

6 タグ付けしたいすべての図形について、手順3と4を繰り返します。これ以上タグを必要としない場合は、**Esc**または**Enter**を押してコマンドを終了します。すべての要素にタグを付けたい場合は、BIMTAGコマンドの、すべての図形を選択を使用します。

上記と同じ手順で、床スラブや屋根にタグを付けることができます。



26.2.3 BIMタグを自動的に適用

断面図内のすべてのBIM要素にタグを付ける場合は、BIMTAGコマンドの**自動**オプションを使用します。このコマンドは、ビューポート内のすべてのBIM図形にBIMタグを自動的に割り当てます。モデルが編集された場合、または新しい要素が追加された場合は、BIM タグを更新し、新しいタグを追加できます。

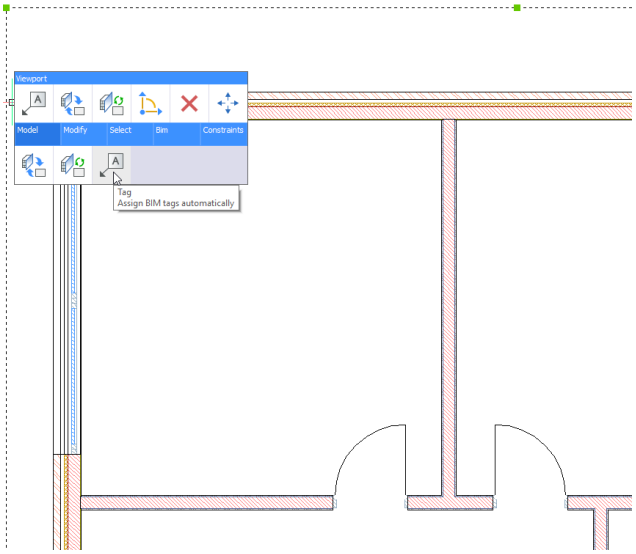
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンス、**BIMTAG**コマンドをご覧ください。

BIMタグを自動的に作成

1 BIMタグを作成したい断面図形を開きます。

2 BIMタグを追加する断面図を含むビューポートを選択します。

3

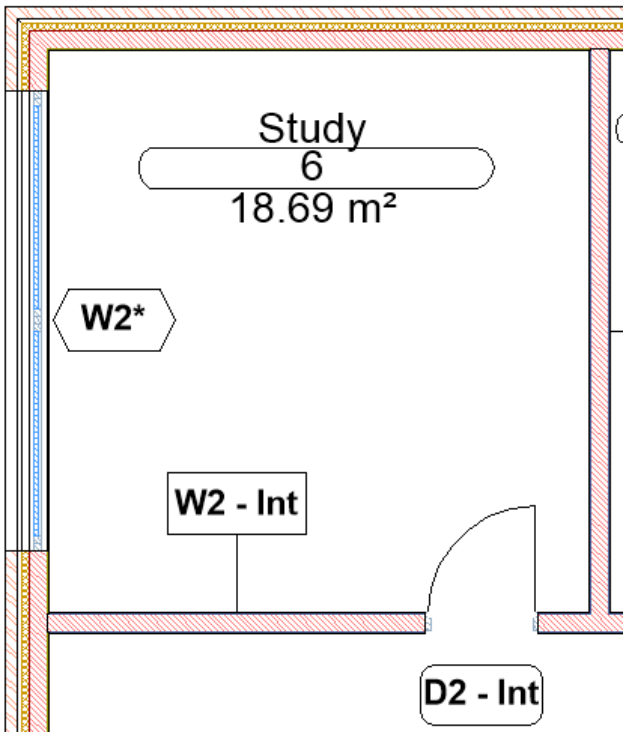


4 クワッドから**BIMタグを手動で適用**を選択するか、コマンドラインにBIMTAGを入力します。

セクション インジケーター、ストーリー インジケーター、グリッド コールアウトがセクションの更新内で自動的に生成されるため、タグがすでにセクションに割り当てられている場合は、次のプロンプトが表示されます。

タグは既に断面に割り当てられています。アップデートオプションを選択 [既存物のアップデート/既存物のアップデートと新規追加/すべてを再生成]<すべてを再生成>:

既存物を更新して新規を追加オプションを使用すると、ビューポート内の各BIM図形に対してBIMタグが自動的に生成されます。



プロンプト表示：BIM断面ビューポートを選択[手動/ボックス選択/選択オプション(?)]:

5 シート上の別のビューポートにBIMタグを自動作成したい場合は、そのビューポートを選択します。これ以上BIMタグを必要としない場合は、**Esc**を押してコマンドを終了します。

26.2.4 フィールドを使用したタグの作成

1 BIMタグを作成したい断面図形を開きます。

2 MLEADER[引出先]コマンドを使用してタグを作成します。

3 **注**：コンポーネントが互いに重なり合っている場合、いくつかのエラーが表示されることがあります。これを回避するには、タグ付けする必要があるオブジェクトのエッジを選択する必要があります。それ以外の場合、コマンドは下のコンポーネントに優先順位を付けます。

4 **テキストの書式設定**ウィンドウで**フィールド**オプションを選択します。

5 **フィールド**ダイアログボックスで、**拡張機能** > **オブジェクト2Dマルチ引出線**に移動します。

6 **プロパティカテゴリ**フィールドで、**BIM**オプションを選択します。**プロパティー**フィールドの**名前**オプションを選択します。

7 選択した要素の名前が**名前**フィールドに表示されます。

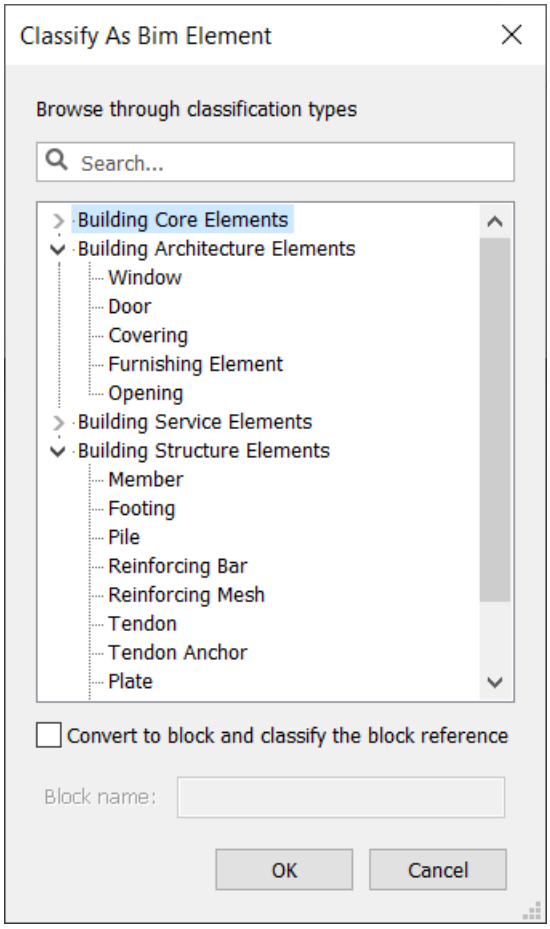
注：表示される名前を変更する場合は、コンポーネントの名前を変更する必要があります。

8 **OK**を押して、**フィールド**ダイアログボックスと**テキストの書式設定**ウィンドウを終了します。

26.2.5 BIM図形タイプのソースデータを作成

デフォルトでは、次のBIM図形タイプのソースデータがすでに存在します。**注釈**、**梁**、**柱**、**カーテンウォール**、**ドア**、**プライ**、**手すり**、**ランプ**、**屋根**、**室**、**スラブ**、**階段**、**壁**、**窓**、および**詳細参照**。

利用可能なBIM図形タイプは**BIM要素として分類**ダイアログボックスに表示されます。このダイアログボックスを開くには、BIMCLASSIFYコマンドの**その他**オプションを選択します。



タグブロックとマルチ引出線スタイルを作成

BIM部材図形タイプのソースデータを作成するには：

1 コマンドラインにSUPPORTFOLDERと入力し、**Enter**を押します。

2 フォルダーが開いたら、**BIM** > **断面**フォルダーに移動し、_sectionTag.dwgファイルを開きます。

3 EXPBLOCKSコマンドを起動します。

4 **図面エクスプローラ - ブロック設定**ダイアログボックスが表示されます。

5 **_AnnotationTag**ブロック(またはテンプレートとして使用する他の既存のブロック)を選択します。

6 右クリックして、コンテキストメニューから**コピー**を選択します。

7 右クリックして、コンテキストメニューから**貼り付け**を選択します。

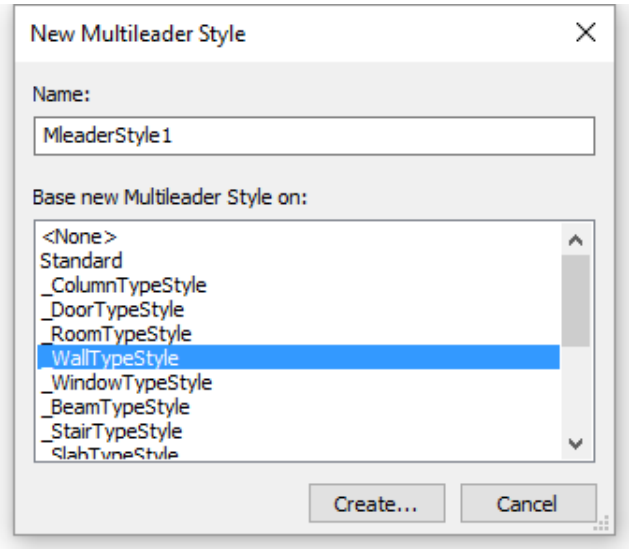
8 **コピー**をクリックします。ただし、**コピー/貼り付け**ダイアログボックスは開いたままにします。

9 コピーしたブロックの名前を**_MemberTag**に変更します。

10 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスで**マルチ引出線設定**を選択します。

11 **新規**( )ツールボタンをクリックします。

新しいマルチ引出線スタイル設定ダイアログボックスが表示されます。



12 **名前**フィールドに_**MemberTypeStyle**と入力します。

13 **新規マルチ引出線スタイル**リストから、ソーススタイルを選択します。

14 **作成...**をクリックします。

15 **(オプション)引出線プロパティ**を編集します。

16 **コンテンツ**タブをクリックします。

17 **ブロックオプション**で、**ソースブロックリスト**ボタンをクリックし、リストから **_MemberTag**を選択します。

18 **図面エクスプローラ**ダイアログボックスを閉じます。

19 _SectionTag.dwgを保存します。

マルチ引出線スタイルに図形タイプをリンク

1 コマンドラインにSUPPORTFOLDERと入力し、**BIM** > **断面フォルダーに移動し、**_TagTypeToStyle.xmlを開きます。

メモ帳などのASCIIテキストエディターを使用します。

2 </TagTypeToStyle>の直前に以下を追加します。

```
<tag type="BIM_MEMBER"> <style name="_MemberTypeStyle" autoPlacement="true"
autoRotation="true" offset="1" /> </tag>
```

3 ファイルを保存します。

4 なお、このスタイルには3つのオプションがあります。

- **autoPlacement ="true"**では、**自動**BIMTAGオプション使用時にタグが自動的に生成されるようになります。このオプションが**false**に設定されている場合、このタグタイプは自動的に生成されません。(これらのタグを手動で生成することは可能です)
- **autoRotation ="true"**は、タグ付けされた図形の主軸に沿ってタグを回転させます。**false**に設定すると、タグは水平に配置されます。

- **オフセット**は、タグ付けされた図形の主軸に垂直にタグをオフセットします。

26.2.6 タグブロックのカスタマイズ

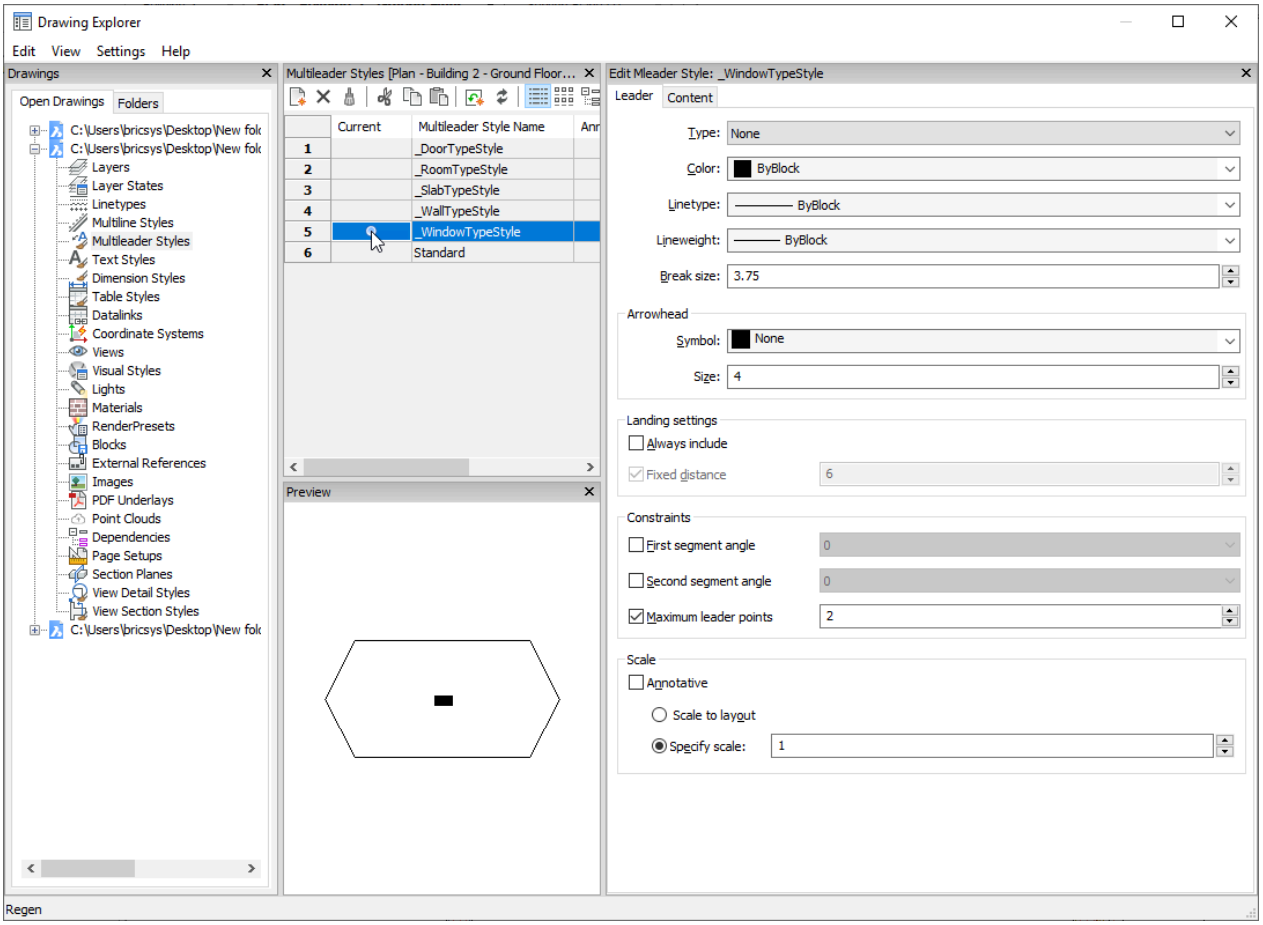
BIMタグブロックの構成：

- レイアウト図形、ラインワーク、固定テキストなど
- 属性BIM図形プロパティ

注：BIMTAGコマンドを実行すると、BricsCADはソースデータ(タグブロックとそのマルチ引出線スタイル)がすでにBIM断面図面に存在するかどうかをチェックします。存在しない場合、ソースデータは_SectionTag.dwgファイルからコピーされます。それ以外の場合は、断面図面のタグブロック定義とマルチ引出線スタイルが使用されます。そのため、_SectionTag.dwgファイル内のタグブロックを編集しても、断面図でBIMTAGを初めて実行したときの新しいBIMタグの作成にしか影響しません。断面図面のタグブロックを編集した場合、その図面のBIMタグにのみ影響します。

26.2.7 カレント図面のみのタグブロックのカスタマイズ

1 BIMタグをカスタマイズしたい断面図で、コマンドラインにMLEADERSTYLEと入力します。**図面エクスプローラ**が**マルチ引出線設定**タブで開きます。

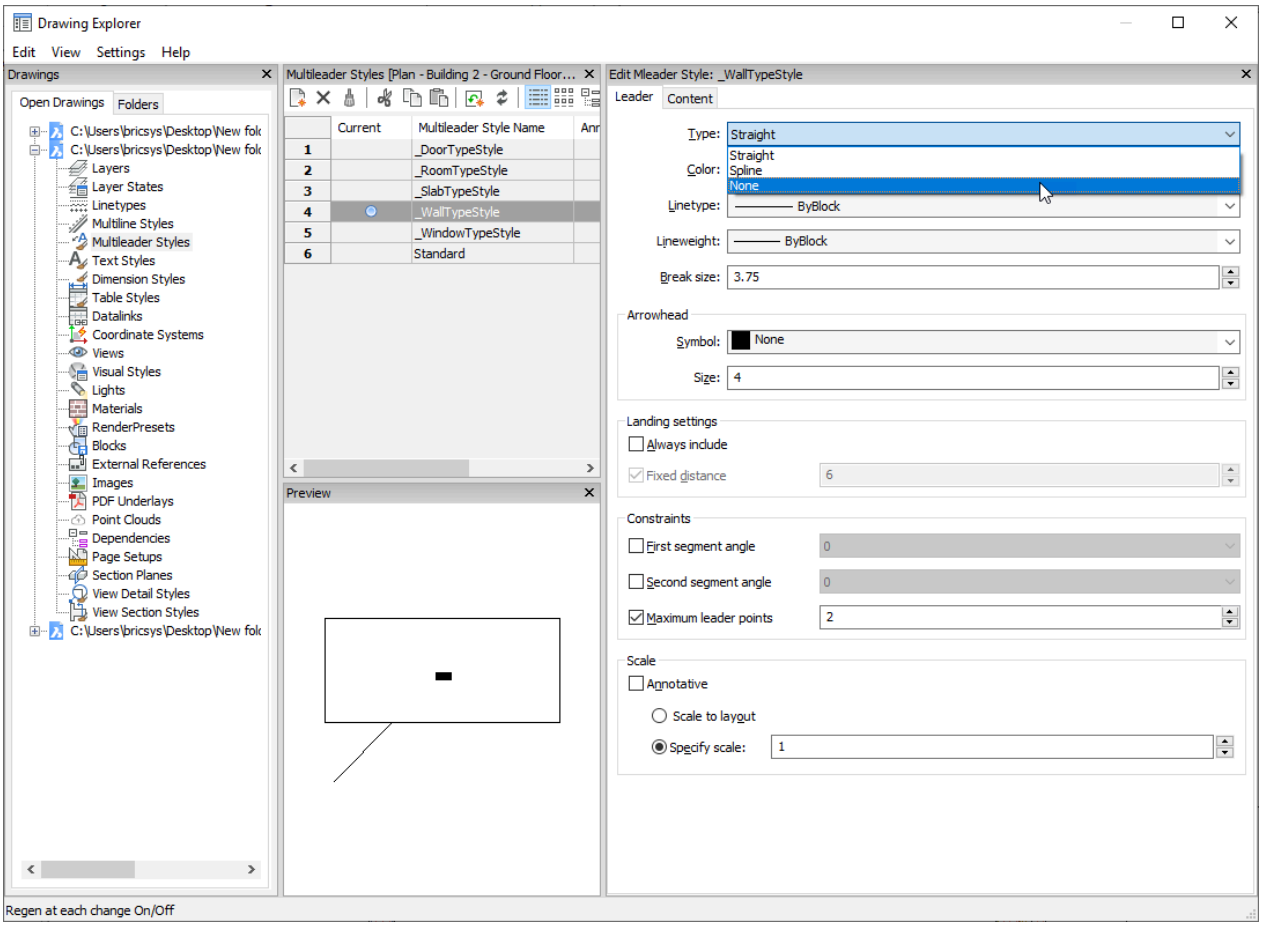


BIMタグはいずれもマルチ引出線です。マルチ引出線スタイルは、タグ付けされたBIM要素のタイプによって異なります。図面内のすべてのマルチ引出線スタイルが **図面エクスプローラ**に一覧表示されます。

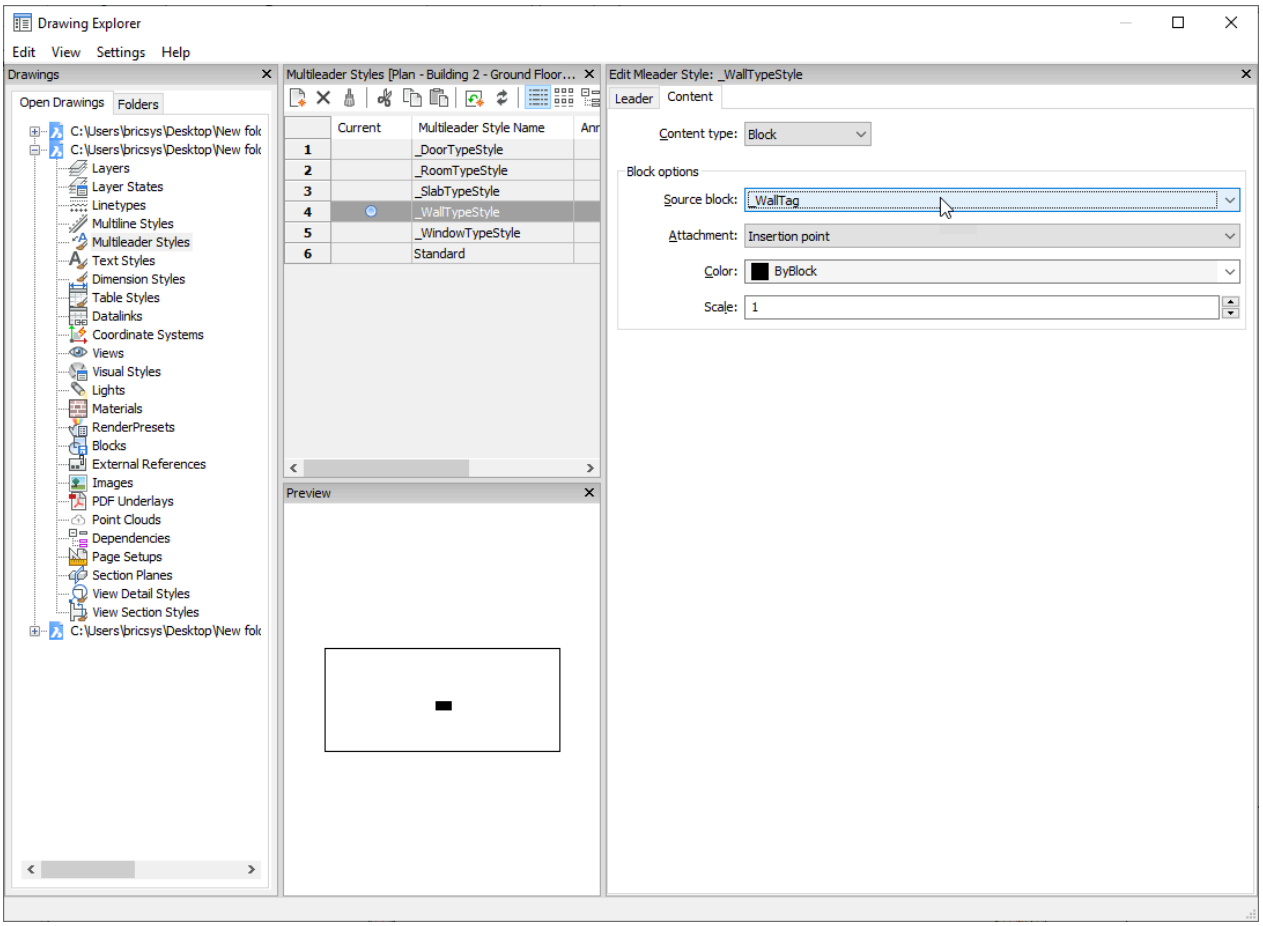
2 リストから**_WallTypeStyle**を選択すると、タグがどのように表示されるかのプレビューが表示されます。ここからタグのスタ

イルを変更することができます。

3 **引出線**の種類を**直線**から**無し**に変更します。これで、タグと壁要素を結ぶ線がなくなります。



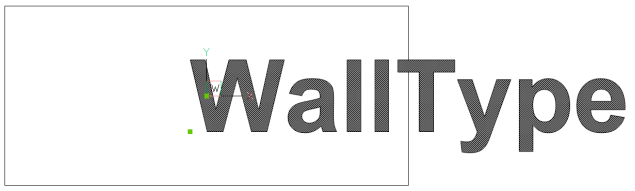
4 **コンテンツ**タブでは、**ソースブロック**は _**WallTag**と呼ばれます。これを記憶させ、ここでは**図面エクスプローラ**を閉じます。

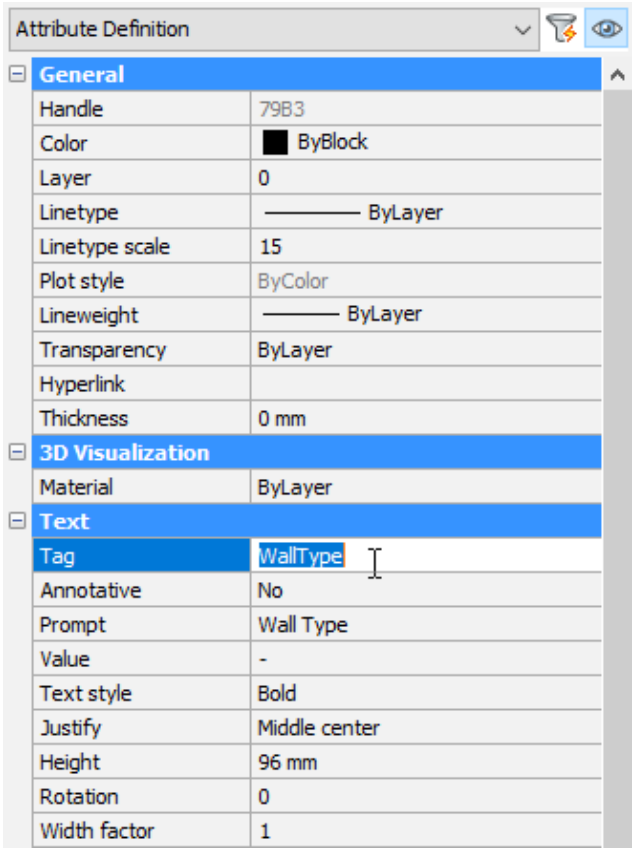


5 コマンドラインにBEDITと入力し、リストから**_WallTag**を選択します。**OK**をクリックします。

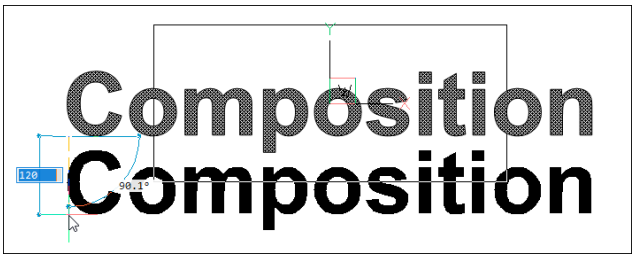
6 **プロパティ**パネルの**WallType**文字と**タグ**の値を選択します。

7 **壁の種類**を**複合材**に置換して**Enter**を押します。(他のプロパティタイプの構文については、次の手順を参照してください)これで、属性テキストは**複合材**と表示されます。





8 この属性の上にカーソルを置き、クワッドから**コピー**を選択します。コピーした属性を現在の属性の下に貼り付ける基点を選択します。



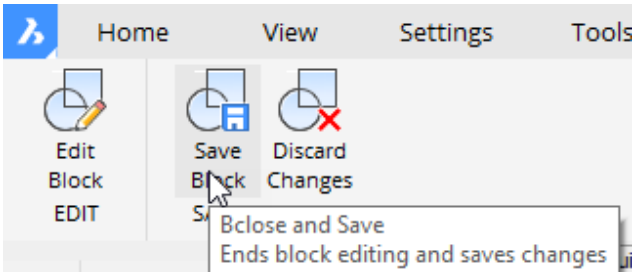
9 コピーした属性を選択し、**プロパティ**パネルから**タグ**フィールドの**複合材**を**量/厚さ**に置換します。

10 長方形を削除します。

11 下図のように、2つの属性が表示されます：

12 リボンの**ブロック編集**タブから**ブロックを保存**アイコンを選択するか、コマンドラインにBCLOSEと入力して、**保存**を選択します。

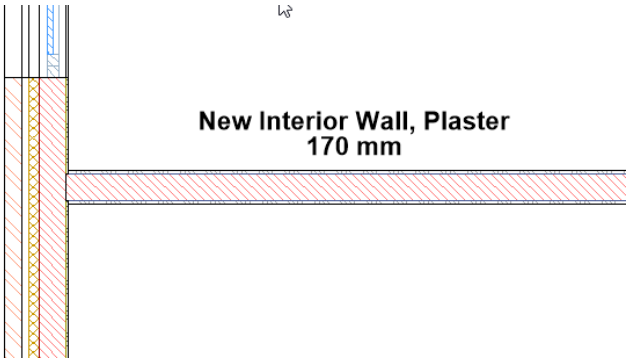
これで、断面ビューポートが表示されます。



13 ビューポートをハイライト表示し、クワッドから**BIMタグを自動的に適用**を選択します。

プロンプト表示：タグはすでに断面に割り当てられています。アップデートオプションを選択 [既存物のアップデート/既存物のアップデートと新規追加/すべてを再生成]<すべてを再生成>:

14 **Enter**を押して、デフォルトオプションの**すべて再生成**を承諾します。ウォールタグは、新しいスタイルで再生成されます。



26.2.8 すべての断面図のBIMタグをカスタマイズするソースデータを編集

1 任意の図面を開いた状態で、続いてコマンドラインにSUPPORTFOLDERと入力します。**Enter**を押します。

2 開いたら**BIM** > **断面**に移動し、_sectionTag.dwgファイルを開きます。

3 BEDITコマンドを起動します。

4 編集したいタグブロックを選択して、**OK**ボタンをクリックします。

5 **プロパティー**パネルの**タグ**フィールドで、以下の構文を使用して属性を追加します。

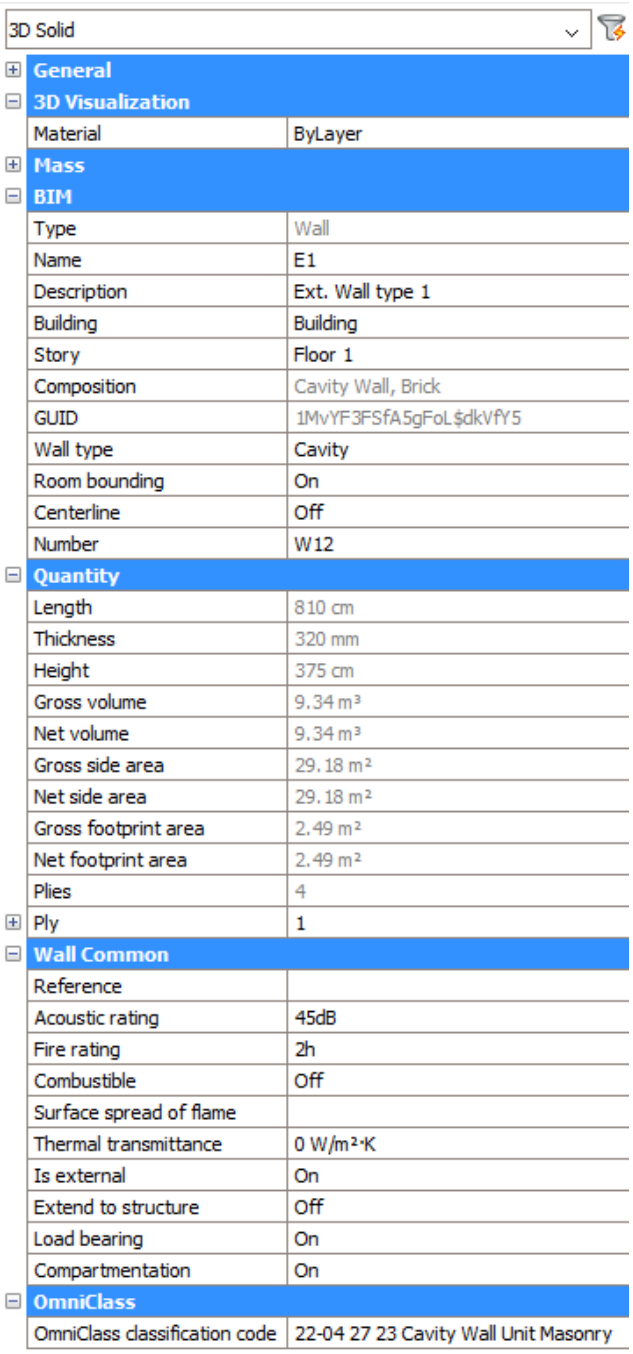
プロパティタイプ	構文	例
BIM	<property name>	名前 部屋の境界
パラメータ	パラメータ/<パラメータ名>	パラメータ/W パラメータ/フレーム厚さ
一般	一般/<プロパティ名>	一般/画層 一般/線種尺度

プロパティタイプ	構文	例
質量	質量/<プロパティ名> 質量/<プロパティ名>:<子>	質量/表面積 質量/UCS高さ：最小
形状	ジオメトリ/<プロパティ名> ジオメトリ/<プロパティ名>:<子>	ジオメトリ/ポジション ジオメトリ/UCS高さ：最大
数量	数量/<プロパティ名>	数量/長さ 数量/正味面積
IFC	<ifcプロパティセット>/<ifcプロパティ>	ウォールコモン/ロードベアリング ドアウィンドウのグレージングタイプ/ガラス層
ユーザー定義	<プロパティセットラベル>/<プロパティラベル>	外壁/価格
分類システム	<分類システムラベル>/ <分類コードラベル>	omniclass/omniclass分類コード

注：特定のBIM図形タイプで利用可能なプロパティを知るには、モデルで図形を選択してから**プロパティ**パネルを開きます。

下の画像では、BIM壁図形のプロパティがリストアップされています。

+ボタンをクリックして、プロパティタイプノードを展開します。



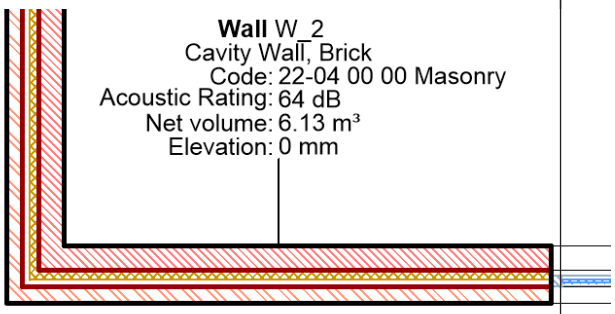
3D Solid	
General	
3D Visualization	
Material	ByLayer
Mass	
BIM	
Type	Wall
Name	E1
Description	Ext. Wall type 1
Building	Building
Story	Floor 1
Composition	Cavity Wall, Brick
GUID	1MvYF3FSfA5gFoL$dkVfY5
Wall type	Cavity
Room bounding	On
Centerline	Off
Number	W12
Quantity	
Length	810 cm
Thickness	320 mm
Height	375 cm
Gross volume	9.34 m³
Net volume	9.34 m³
Gross side area	29.18 m²
Net side area	29.18 m²
Gross footprint area	2.49 m²
Net footprint area	2.49 m²
Plies	4
Ply	1
Wall Common	
Reference	
Acoustic rating	45dB
Fire rating	2h
Combustible	Off
Surface spread of flame	
Thermal transmittance	0 W/m²·K
Is external	On
Extend to structure	Off
Load bearing	On
Compartmentation	On
OmniClass	
OmniClass classification code	22-04 27 23 Cavity Wall Unit Masonry

6 それぞれの新しい属性に次の操作を行います：

7
- 既存の属性をコピーしたり、新しい属性を作成したりすることができます。(ATTDEFコマンド)
- 新しい属性を選択します。
- **注**：属性をダブルクリックしないでください。**属性定義を編集**ダイアログボックスでは、**タグ**フィールドにスペースを使用できません。
- **プロパティ**パネルの**タグ**フィールドにプロパティ参照を入力します。(上の表の構文を参照)
- **(オプション)プロパティ**パネルで、**テキスト**のプロパティ(**文字スタイル**、**位置合わせ**、**高さ**、など...)を定義します。

- **(オプション)**線分と固定テキストを追加します。

8 **ブロック編集**ツールバーで、**保存**アイコンをクリックしてBEDITコマンドを終了します。または、コマンドラインにBCLOSEと入力し、**保存**オプションを選択します。

タグブロックでの定義	結果のタグ
type number composition Code: Omniclass/omniclass classification c Acoustic Rating: wall common/acoustic rating Net volume: Quantity/net volume Elevation: mass/ucs elevation:minimum	**Wall** W_2 Cavity Wall, Brick Code: 22-04 00 00 Masonry Acoustic Rating: 64 dB Net volume: 6.13 m³ Elevation: 0 mm 
_WallTagブロック	断面の壁タグ
number **name** Width: parameters/W Height: parameters/H Sill Height sillheight Frame Thickness: parameters/framethickness Elevation: geometry/ucs elevation:minim Accoustic Rating: window common/acoustic rati	W1 **Window_1x1** Width: 350 cm Height: 115 cm Sill Height 300 mm Frame Thickness: 60 mm Elevation: 350 cm Accoustic Rating: 28 dB
窓のタグブロック	断面の窓タグ

26.2.9 複合材タグを割り当て

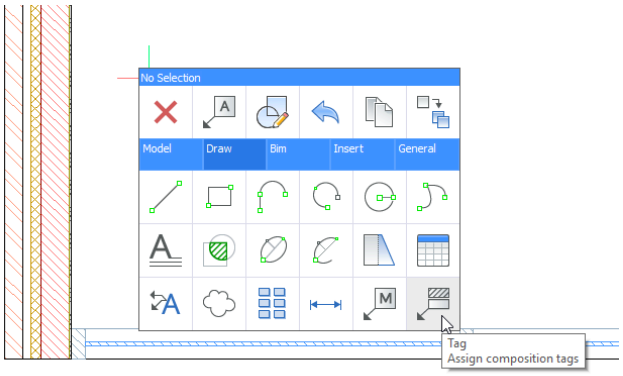
複合材タグを使用すると、壁やスラブ要素にタグを付けて、その複合材を指定することができます。これらのBIMタグは、要素を構成するプライマテリアルのリストです。

このオプションの詳細については、コマンド リファレンスの記事**BIMTAGコマンド**を参照してください。

複合材タグを作成

1 複合材タグを作成したい断面図を開きます。

2 クワッドから**複合材タグを適用**を選択します。

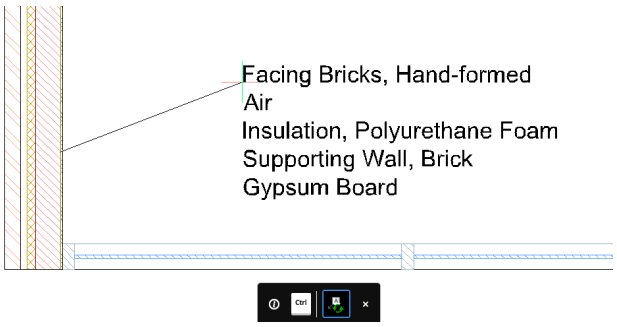


または、コマンドラインに「BIMTAG」と入力し、以下のいずれかの操作を行います：

- M+マニュアル**オプションに**を入力します。次に**T** + を入力して**変更タグタイプ O**+Enter cOmpositionオプション。
- コマンドラインでオプションをクリックします。
- **プロンプト**メニューのオプションをクリックします。

3 プロンプト表示：分割されたBIM要素のポイントをピック[自動/カレントのマルチ引出線素スタイル/タグの種類を変更]:

4 BIM要素上のポイントを選択すると、そのポイントにタグが生成されます。タグが表示されます。選択したポイントが複数のBIM図形間で共有されている場合、**Ctrl**を使用して、可能性のあるさまざまな構成タグを循環させることができます。



プロンプト表示： タグを配置[次の要素]:

5 タグの位置を調整するには、カーソルを移動させて左クリックで配置します。

6 プロンプト表示：分割されたBIM要素のポイントをピック[自動/カレントのマルチ引出線素スタイル/タグの種類を変更]:

7 タグ付けしたいすべての図形について、手順3と4を繰り返します。これ以上タグを必要としない場合は、**Esc**または**Enter**を押してコマンドを終了します。

26.3 BIM断面

26.3.1 ソースファイル

以下のソースファイルは、BIM断面の作成に使用されます。

- **_SectionSettings.dwg**：断面の吹き出しの全タイプが含まれます。

このファイルは以下のフォルダーにあります。

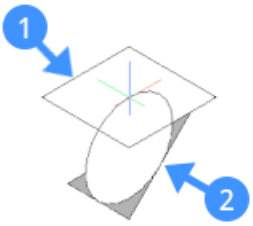
C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support¥Bim¥Sections

26.3.2 断面の定義

BricsCAD BIMでは、**断面の定義**ツールを使用して、BIM断面図形を作成できます。BIM断面を使用すると、BIMモデルを平面で切断して内部の詳細を表示できます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事**BIMSECTION**をご参照ください。

BIM断面を定義すると、断面トラッカーがカーソルにアタッチされます。



切断面は、カレントの座標系(WCSまたはUCS)のXY平面内にあります。ビュー方向(2)は、カレントの座標系の負方向です。

注：

- ダイナミックUCS(DUCS)が**オン**の場合、カーソルを合わせた3Dソリッド面に切断面が整合します。隠れている面を選択するには、**Tab**を押します。
- **Shift**を押して、ハイライト表示された平面をロックすることができます。これにより、ソリッドの面の外側にあるBIM断面図形の定義点を指定することができます。
- 切断線は、座標系(WCS、UCS又はDUCS)のX軸に平行です。

BIM切断面を作成する一般手順

1 **クワッド(図形未選択)**の**モデル**タブで**断面を定義**を選択します。

プロンプト表示：断面を配置するポイントを選択、または[詳細/内部/尺度/天井伏図]:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- モデル外の任意の場所をクリックすると、平面断面図が作成されます。
- 作成したい断面図に平行な3Dソリッドの面にカーソルを合わせます。
- 断面トラッカーは**DUCS**がアクティブな状態で、カーソルの下の面に整列します。左クリック
- **(オプション)**：**Shift**を押して、ハイライト表示された平面をロックします。選択した3Dソリッド面の外側の点から開始することができます。次に、左クリック

3 最初の切断面がダイナミックに表示され、それに応じて3Dモデルが切り取られます。

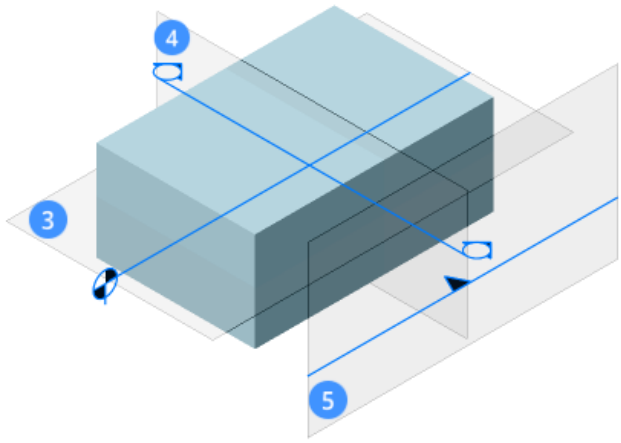
4 プロンプト表示：距離を指定、または[クリッピングをオンに設定/クリッピングをオフに設定]:

以下のいずれかの操作を行います：

- 初期位置から断面をオフセットするために、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- 切断面が目的の位置に来たら、左クリックします。

BIM断面図形が定義されます。

断面タイプは、断面の平面の方向(水平または垂直)と、モデルと交差するかどうかによって異なります。



平面(3)	水平切断面を表示します。
断面(4)	モデルをカットする垂直断面を表示します。
立面(5)	外観立面図を示しています。

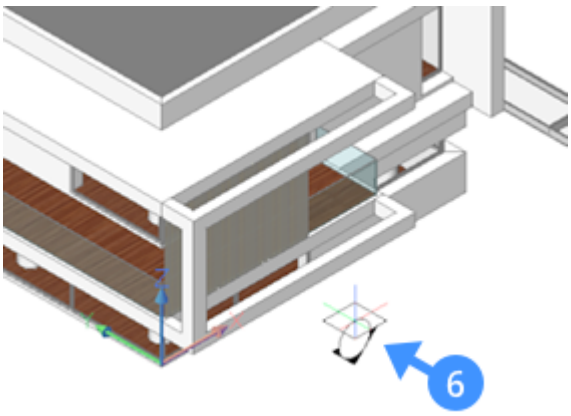
平面断面図の作成

注：平面図の切断面は、WCS(ワールド座標系)で最もよく定義できます。

1 **クワッド(図形未選択)**の**モデル**タブで**断面を定義**を選択します。

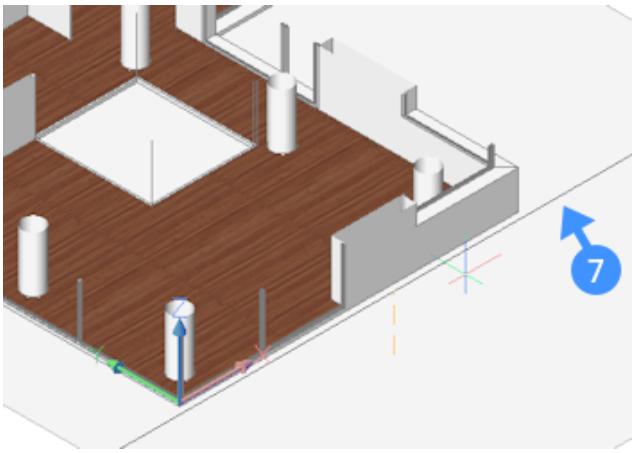
プロンプト表示：断面を配置するポイントを選択、または[詳細/内部/尺度/天井伏図]:

2 断面図トラッカーを3Dモデルの近く(6)に置いてをクリックします。

3 

初期断面の平面は、現在の座標系(WCSなど)のXY平面(Z = 0)に位置しています。

断面図がダイナミックに表示され、それに合わせて3Dモデルがクリップされます。(7)



プロンプト表示：距離を指定、または[クリッピングをオンに設定/クリッピングをオフに設定]:

4 ダイナミック寸法が**ON**であれば、ダイナミック入力フィールドのカレントの距離が表示されます。

以下のいずれかの操作を行います：

- カーソルを動かし、切断面が目的の高さになったらクリックします。
- ポイントを指定するには、図形スナップを使用してください。
- 値を入力して、切断面の最初の位置からのオフセットを定義します。

切断面が定義されます。

立面断面図の作成

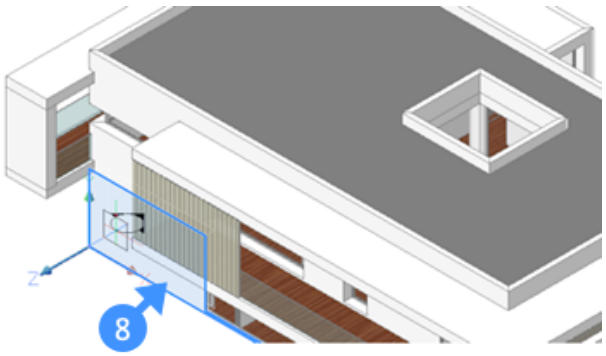
ダイナミックUCS(**DUCS**)が有効になっていることを確認してください。

1 **クワッド(図形未選択)**の**モデル**タブで**断面を定義**を選択します。

プロンプト表示：断面を配置するポイントを選択、または[詳細/内部/尺度/天井伏図]:

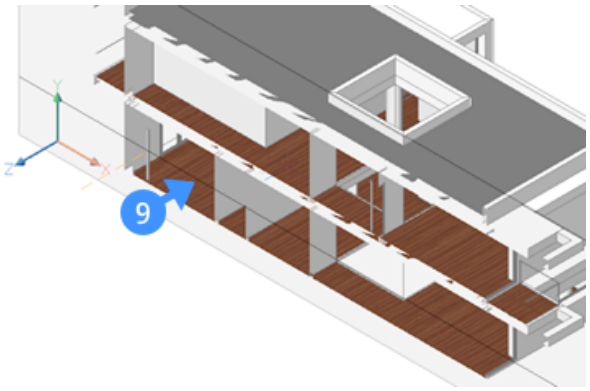
2 断面トラッカーを、定義する断面と平行な3Dソリッド面の上に(8)置きます。

3



4 面がハイライト表示されたら、クリックして断面トラッカーを3Dモデル内に移動します。

5 断面図がダイナミックに表示され、それに合わせて3Dモデルがクリッピングされます。(9)



プロンプト表示：距離を指定、または[クリッピングをオンに設定/クリッピングをオフに設定]:

ダイナミック寸法が**ON**であれば、ダイナミック入力フィールドのカレントの距離が表示されます。

6 切断面が、希望の位置にある時または指定した距離にある時、クリックします。

7 切断面が定義されます。

8 **(オプション)**断面図形をクリックして、マウスの左キーを少し長く押すと、**マニピュレータ**が表示されます。マニピュレータの軸をドラッグすると断面を移動します。

9 **(オプション)**矢印のグリップをクリックすると、表示方向が反転します。

高さの作成

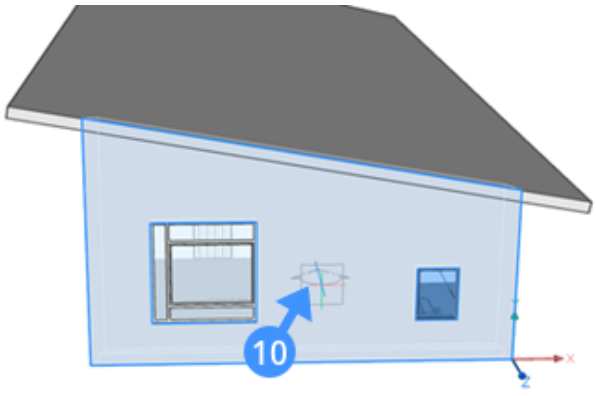
ダイナミックUCS(**DUCS**)が有効になっていることを確認してください。

1 **クワッド(図形未選択)**の**モデル**タブで**断面を定義**を選択します。

プロンプト表示：断面を配置するポイントを選択、または[詳細/内部/尺度/天井伏図]:

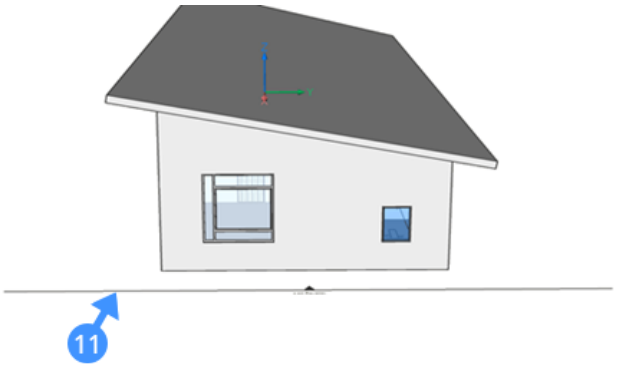
2 断面トラッカーを、定義する標高に平行な3Dソリッド面(10)の上に置き、面がハイライトされたらクリックします。

3



4 プロンプト表示：距離を指定、または[クリッピングをオンに設定/クリッピングをオフに設定]:

5 断面トラッカーを3Dモデルの外に移動し、クリックして立面図を定義します。(11)



モデル外の垂直断面(ジオメトリが断面化されていない)は、自動的に立面図タイプを取得します。

26.3.3 BIM断面のデフォルトプロパティの編集

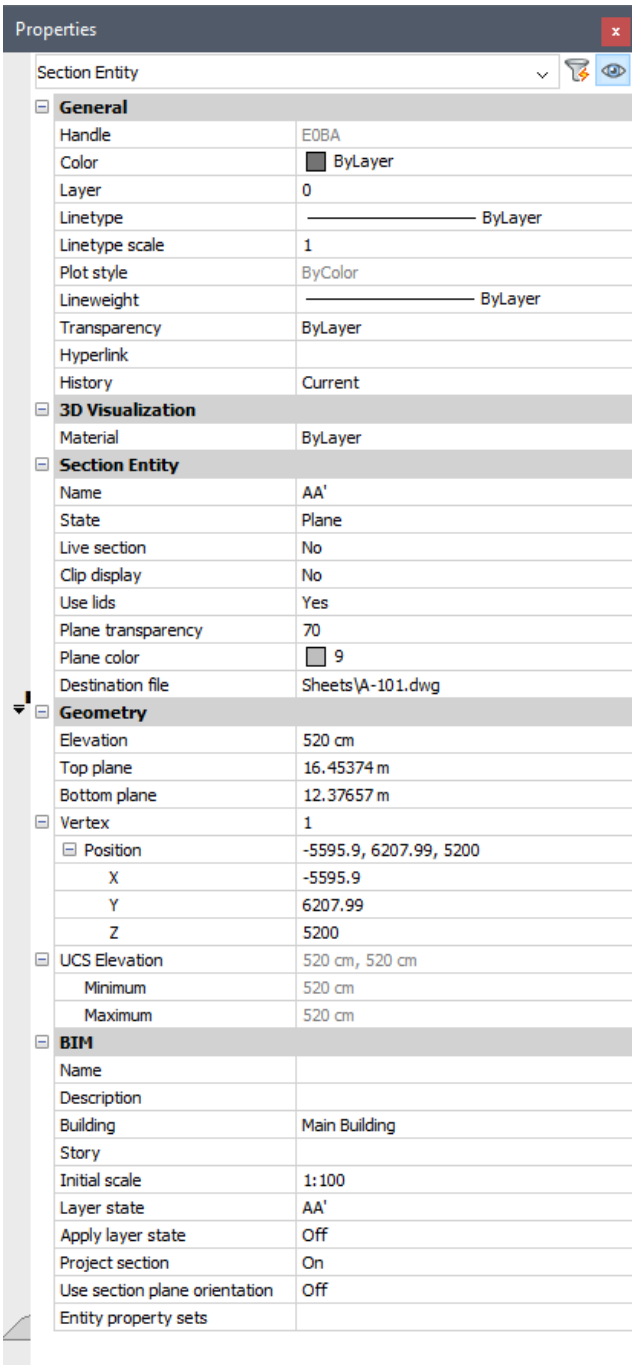
BIM断面図形のデフォルトプロパティは、**Support**フォルダーの**BIM/Sections**サブフォルダーにある_SectionSettings.dwgの断面図形からコピーされます。

1 図面または**構造**パネルでBIM断面を選択します。

断面のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

2 BIM断面図形のプロパティを定義します。

3



断面図形:

名前	名前を入力します。
状態	フィールドをクリックして、状態を選択します。選択状態は、断面結果がどのようにクリップされるかを決定します。 選択できるオプションは、**平面**(デフォルト)、**境界**、**体積**です。

ライブ断面	切断面のプロパティをライブ断面に切り替えます。**ライブ断面**プロパティを**ON**にできる断面図形は1つだけです。 代わりに**クリップ表示**プロパティを使用することをお勧めします。 このモードは、視覚的な確認のみに使用し、3Dモデリングには使用しないでください。
クリップ表示	3Dモデルをクリップします。 **クリップ表示**状態は、複数の断面図形に対して同時に設定できます。**ライブ断面**とは異なり、図形スナップを断面で使用できます。
リッドを使用	クリップされたジオメトリの上面を閉じます。
平面の透過性	レンダリングされた表示スタイルでの断面図の透明度を設定します。
平面色	レンダリングされた表示スタイルでの断面の塗りつぶしの色を設定します。
結果ファイル	BIMSECTIONUPDATEコマンドで作成した図面ファイルの名前とパスを設定します。 パスが指定されていない場合は、3Dモデルのフォルダーに断面図が作成されます。

形状：

高度	断面図の始点のZ軸値を定義します。
上面	断面ボリュームの上面を定義します。
底面	断面ボリュームの底面を定義します。
3D頂点	断面平面の制御点の座標を定義します。頂点の数は、現在の断面の状態に依存します。 平面：2つの頂点 境界線とボリューム：4つの頂点 フィールドを選択し、矢印ボタンをクリックして頂点を選択します。Xは、モデル内で選択された頂点を示します。
UCS高さ	UCS高さの最小値と最大値を定義します。

BIM:

名前	BIM名を入力します。
説明	形式の説明
建物	建物名を設定します。

階	階名を設定します。
初期尺度	生成された図面内のペーパー空間ビューポートの初期尺度を設定します。
画層状態	断面の計算に使用する画層の状態を設定します。
画層状態を適用	画層状態を断面の計算に使用するかどうかを判断します。 画層状態を適用することで、断面の結果を計算する際に、どの画層を**オン/オフ**するかをコントロールすることができます。
断面を投影	この断面に直交する断面図の断面コールアウトと断面ラインの表示をコントロールします。
断面図の方向を使用	断面図の方向を使用するかどうかをコントロールします。
図形プロパティセット	タグの生成に「インスタンスごと」の図形プロパティを使用するかどうかをコントロールします。 **参照**( )ボタンをクリックし、**インスタンスごとのプロパティセットを有効にする**ダイアログボックスでプロパティセットを選択します。

26.3.4 BIM断面図形のクリップ表示プロパティを切り替える方法

BIM断面の**クリップ表示**プロパティは、3Dモデルを一時的にクリップします。**クリップ表示**は、すべての図面コンテンツに対するすべてのモデリングおよび編集操作で使用できます。

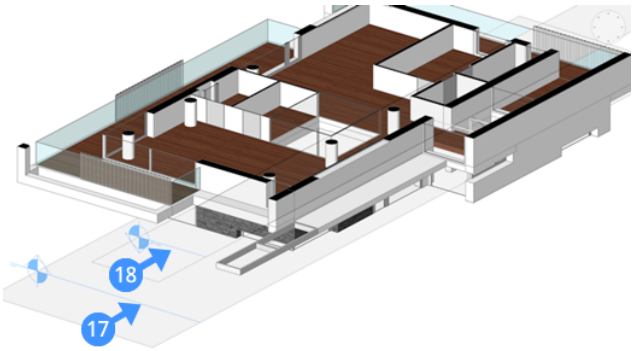
下の図は、1階の平面図の断面図(16)を持つヴィラの3Dモデルです。

3Dモデルをクリップするには、次のいずれかの操作を行います：

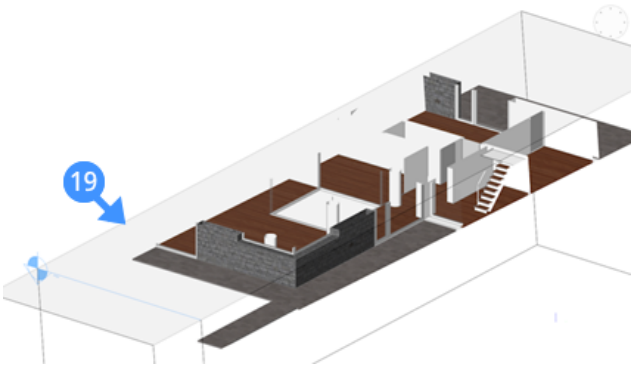
- 断面図形をダブルクリックします。
- クワッドから**クリップ表示**を選択します。
- 断面を選択し、**プロパティ**パネルで**クリップ表示**プロパティを**はい**に設定します。
- ステータスバーで**RT**(ロールオーバーヒント)が選択されているときに、カーソルを断面図形の上に置いて**クリップ表示**プロパティを設定します。

注：クリップ表示は、複数の断面図形で同時にオンにすることができます。

下図では、2つのBIM断面図形(17、18)に対して**クリップ表示**を**オン**にしています。これらの断面図形は、反対のビュー方向にあり、断面18は平面断面、断面17は天井伏図断面です。



オプション：**プロパティ**パネルで、現在の断面の**状態**プロパティを **体積**に設定します。



体積状態(19)で表示されるクリップされた断面。

26.3.5 断面図形をBIM断面へ変換

BIMIFYコマンドは、断面図形をBIM断面に変換します。

1 BIMIFYコマンドを起動します。

1 プロンプト表示：適用または[選択の変更]:

2 **BIM化**コマンドパネルが開きます。

3 **図形の選択**を選択し、**選択**ボタン()をクリックします。

4 断面図形を選択し、**Enter**を押します。

5 **Bimify**コマンドパネルの**適用**ボタンをクリックします。

26.4 詳細の断面を定義

26.4.1 コマンド

BIMSECTION

26.4.2 ゼロから詳細の断面を定義

1 リボンから**詳細断面**を選択、またはコマンドラインにBIMSECTIONと入力後、**D**と入力して詳細オプションを選択します。

プロンプト表示：切断ボックスの最初のコーナーを選択、または [既存 (B)/尺度 (S)]:

2 詳細の断面内に入れたい領域の最初の角を選択します。

3 **プロンプト表示**：切断ボックスのもう一方のコーナーを選択:

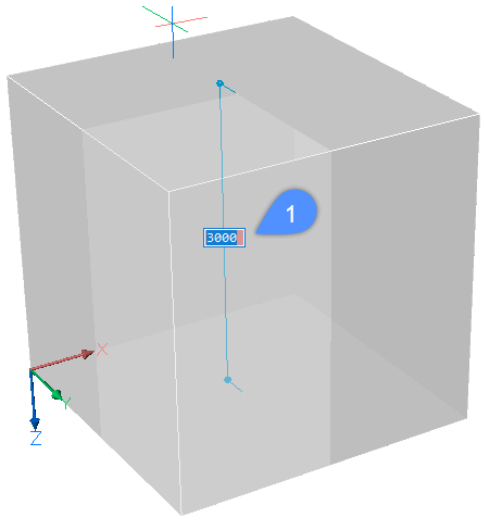
4 ポイントとして反対側のコーナースナップを選択するか、距離を入力します。ダイナミック入力フィールドを切り替えるには、Tabを使用してください。

5 **プロンプト表示**：ボックスの高さを選択<4000>：

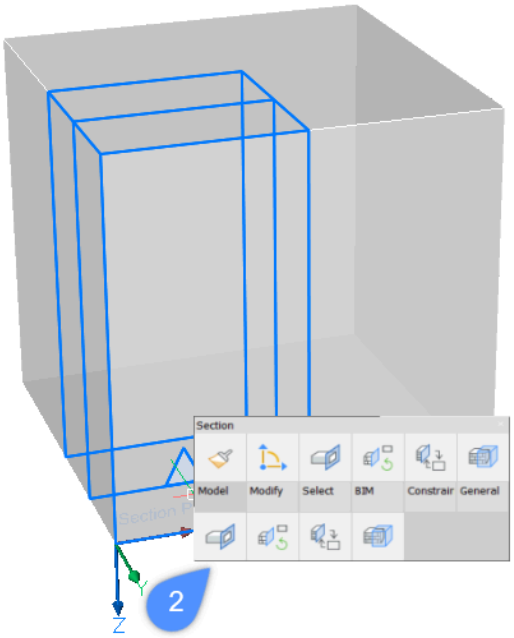
この場合、デフォルトの高さは4000ミリです。

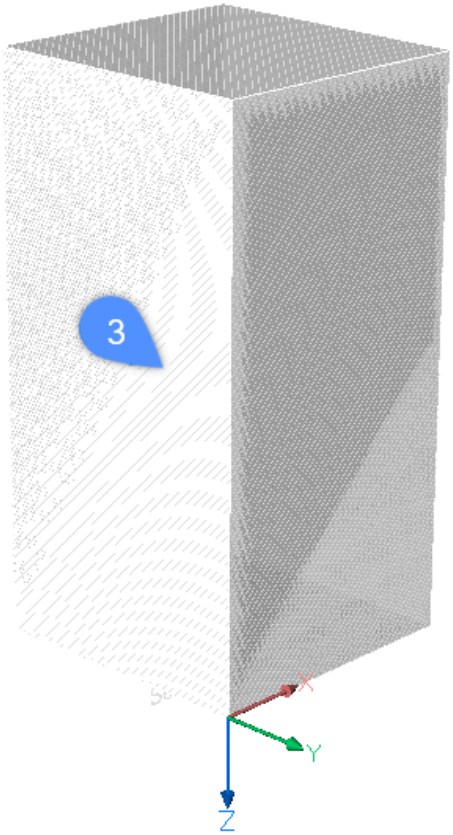
6 以下のいずれかを実行して体積を規定します：

7
- 初期設定の高さでよければ、Enterを押します。
- 点を指定します。
- ダイナミック入力フィールド(1)に値を入力します。
-



定義したばかりの詳細の断面を表示するには、その断面の上にカーソルを置き、クワッドから**クリップ表示**(2)を選択するか、または選択した断面をダブルクリックします。これで詳細断面のみが表示されます(3)。

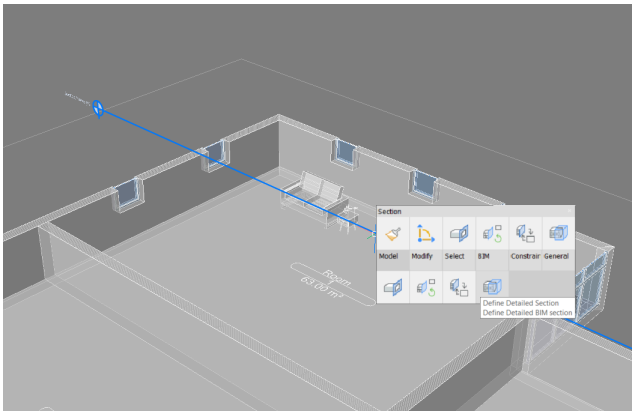

Section
Model
Modify
Select
BIM
Constrair
General
2


3

26.4.3 既存の断面上に詳細の断面を定義

ここでは、既存の断面に詳細の断面のベースを配置する方法を示します。

1 詳細断面ベースを配置したい既存の断面をハイライト表示し、クワッドから**詳細断面**を選択します。

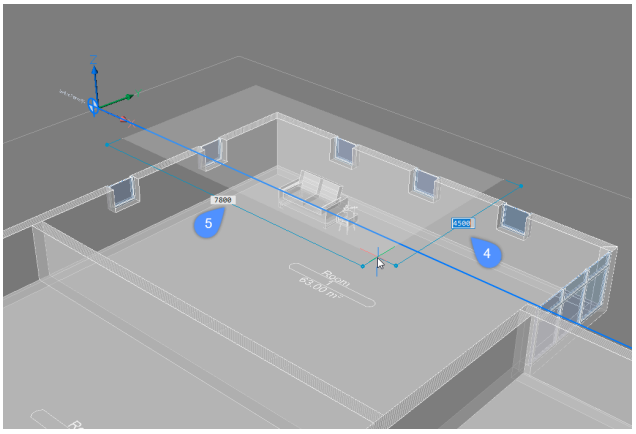


プロンプト表示：ボックスベース矩形の最初のコーナーを選択:

2 ダイナミック入力フィールドに値を入力して、目的のエリアを囲む長方形を作成します。

3 Tabを押すと、ダイナミック入力フィールド(4、5)の間を循環表示できます。選択した部分は、既存の部分の平面に合わせて表示されます。

4 Enterを押して値を確定すると、**ボリューム断面**ボックス(3)が動的に表示されます。



プロンプト表示：ボックスの高さを選択:

5 初期設定の高さでよければ、Enterを押します。

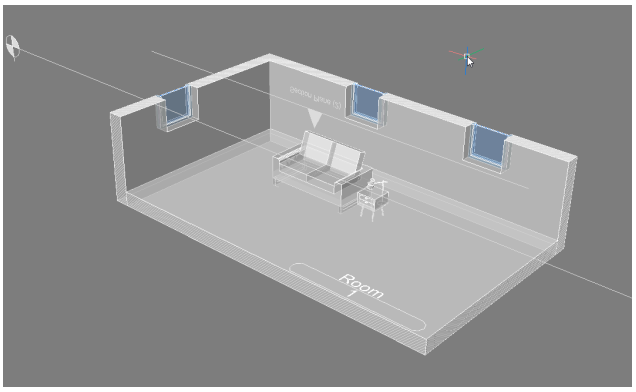
6 点を指定します。

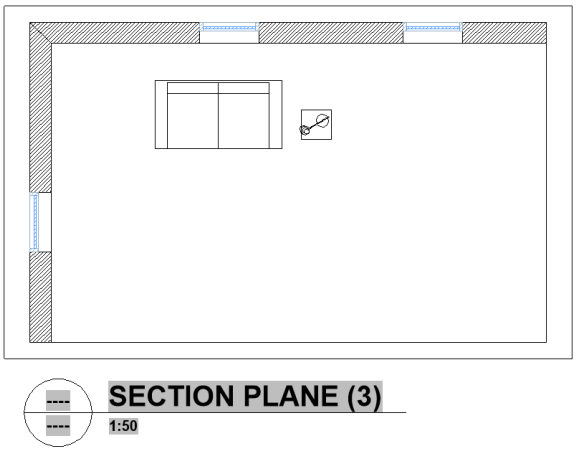
7 ダイナミック入力フィールドに値を入力します。

8 詳細断面が定義され、**構造**パネルで確認することができるようになります。断面にカーソルを合わせて、クワッドから**クリップ表示**を選択するか、または選択した断面をダブルクリックして表示します。

9 シート上に詳細断面を生成するには、詳細断面を選択し、クワッドから**断面の生成**を選択します。

10 断面を選択した状態で**モデルを開く**をクリックすると、断面の結果を開くことができます。シートは、モデル図を含む同じフォルダーに保存されます。





図面の生成方法について詳しく知りたい場合は、**図面の生成**を参照してください。

図面に注釈を付けたい場合は、タグと長さ寸法を追加する方法を参照してください。

26.5 天井伏図を定義

26.5.1 コマンド

BIMSECTION

26.5.2 概要

天井伏図の平面図は、天井のミラーイメージを現わしています。天井の照明やその他の設置物のレイアウトを示すために使用します。天井伏図の平面図を作成するために、断面が作成されます。この断面では、断面の境界線より上の建物の部分が表示されます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMSECTION』をご参照ください。

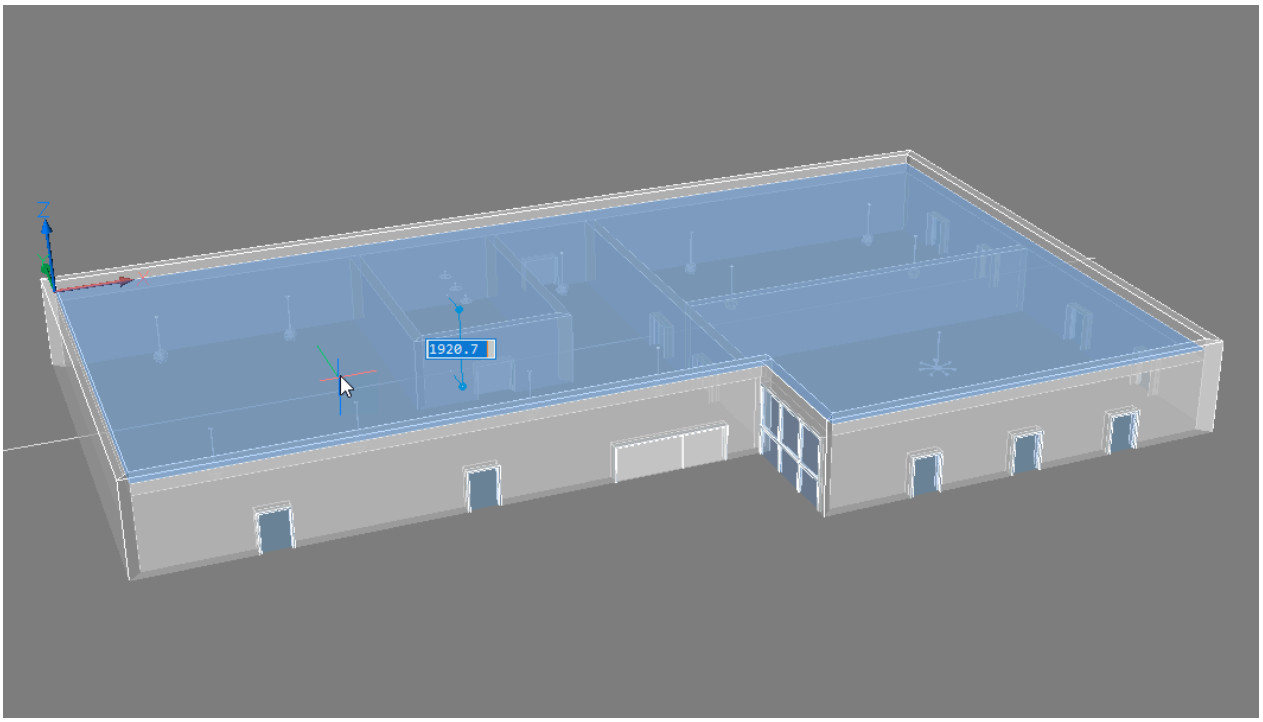
26.5.3 天井伏図を作成

1 リボンから**天井伏図**を選択するか、**または**コマンドラインにBIMSECTIONと入力し、**R**を続けて**天井伏図**オプションを選

択します。

プロンプト表示： 断面を配置するポイントを選択:

2 天井か、天井と平行な面を持つ面を選択してください。

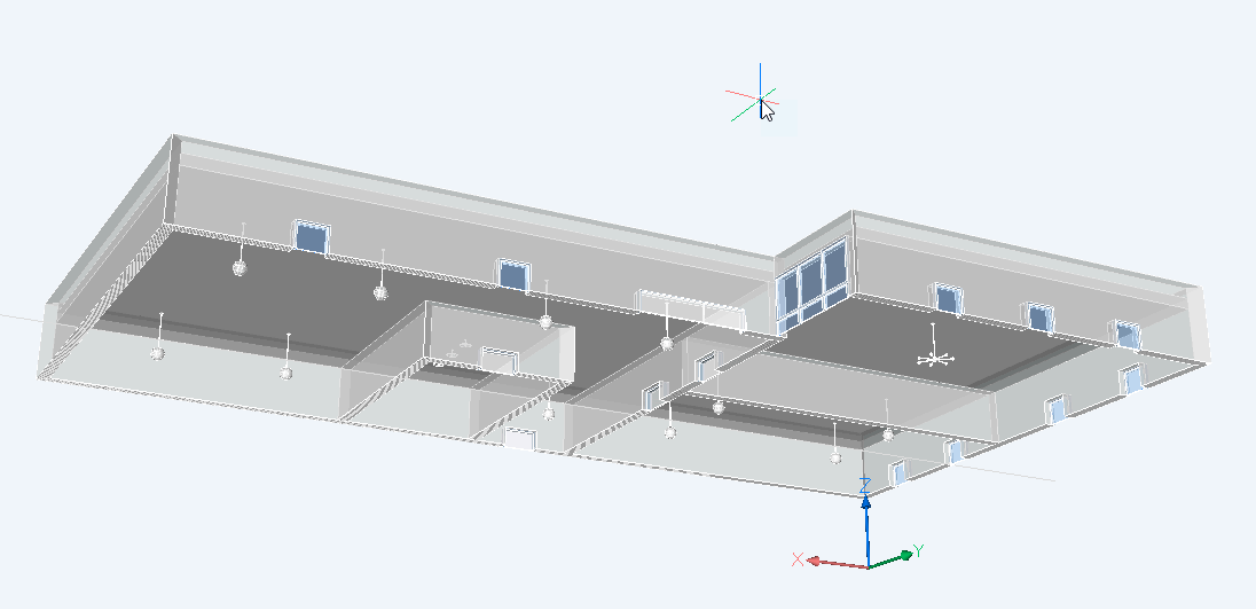


プロンプト表示：距離を指定:

3 以下のいずれかの操作を行います：

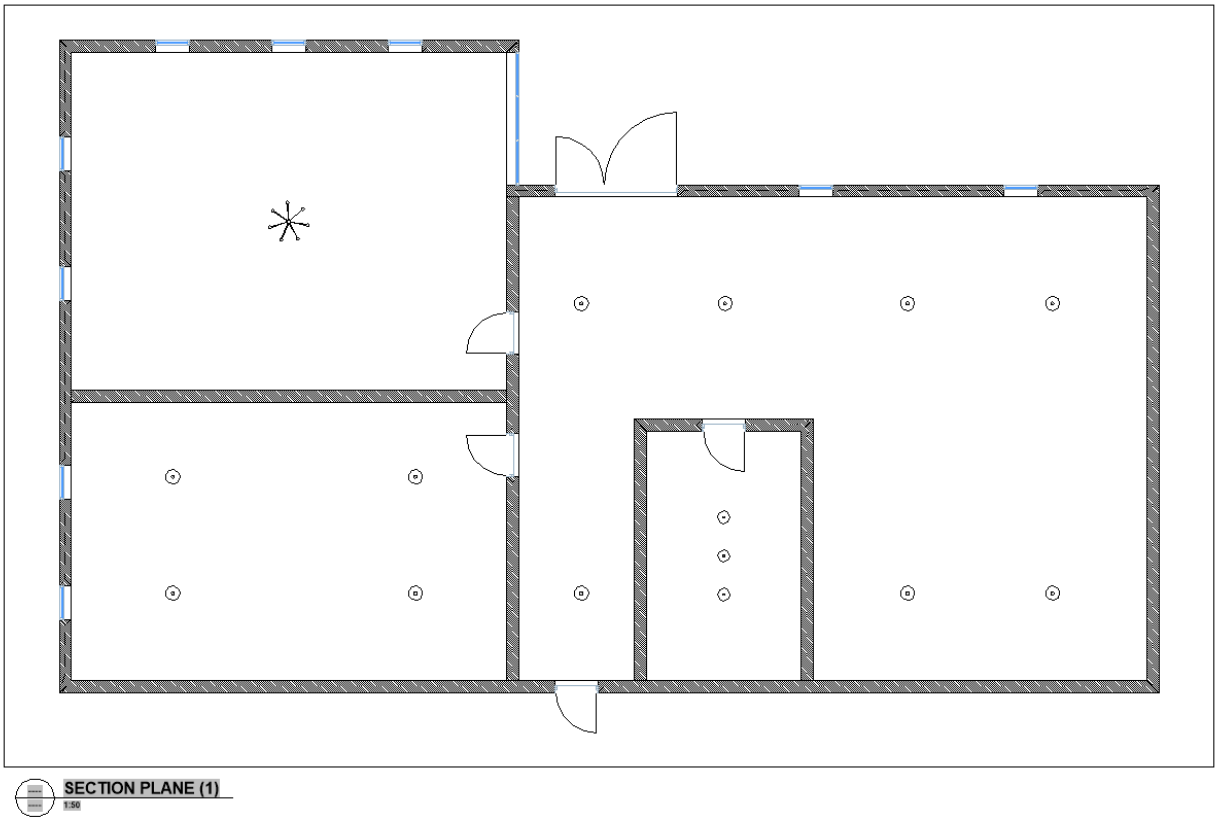
- 初期位置から断面をオフセットするために、ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- 切断面が目的の位置に来たら、左クリックします。

4 これで天井伏図が定義されました。表示するには、断面の上にカーソルを置き、クワッドから**クリップ表示**を選択します。



5 シートに天井伏図の平面図を生成するには、モデル内の断面にカーソルを合わせて、クワッドから**断面を作成**を選択します。

6 断面結果図面を開くには、**モデルを開く**をクリックします。シートは、モデル図面が入っているフォルダーと同じフォルダーに保存されます。



図面の生成方法について詳しく知りたい場合は、図面の作成ページを参照してください。
図面に注釈を付けたい場合は、タグと長さ寸法を追加する方法を参照してください。

26.6 立面図のハッチング

26.6.1 立面図のハッチングについて

立面塗り潰しを生成は、2Dの立面図が生成されたときに、複合材のテクスチャやソリッドハッチングを表示することができる断面のプロパティです。ハッチングは、プロパティパネルで有効にすると、他のタイプの断面にも生成できます。

ハッチングは、2D立面図上の目に見えるすべての境界に対して生成され、断面に対して垂直ではない境界も含まれます。ハッチングはパース補正なしで生成されます。立面図ラインの結合は、**物理的マテリアル**ダイアログの**断面を結合**の設定とは別に変更することができます。

26.6.2 立面図の作成

注：ここでの**立面図**は、3Dモデルの**種類**プロパティが**立面図**に設定されている断面図を指します。これを使用して、モデルの立面図を表す2D図面を作成することができます。

1 **BIM化**を使用してBIM高さを作成します。

2 BIM立面図を選択し、クワッドの**モデル**コマンドタブで**断面を生成**を選択します。

3 BIM立面図を選択し、クワッドの**モデル**コマンドタブで**モデルを開く**を選択します。

断面の結果は、移動先の図面のレイアウトビューポートに表示されます。

4 ペーパー空間のビューポートを選択します。

ビューポートのプロパティがプロパティパネルに表示されます。

5 BIMで**立面塗りつぶしを生成**プロパティを**オン**に設定します。

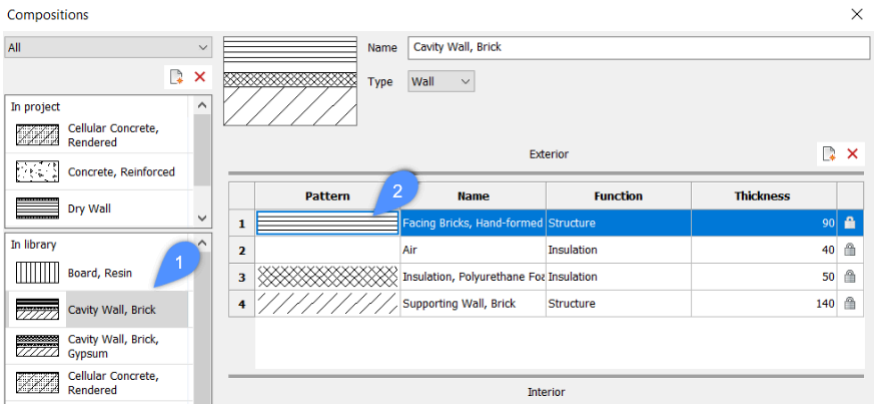
6 ビューポートを選択し、クワッドの**モデル**コマンドタブで**断面を更新**を選択します。

7 **(オプション)**ビューポートをコピーし、**立面塗りつぶしを生成**プロパティを**オフ**に設定して、断面の結果を高さハッチングのあるものとないものの2つのバージョンにします。

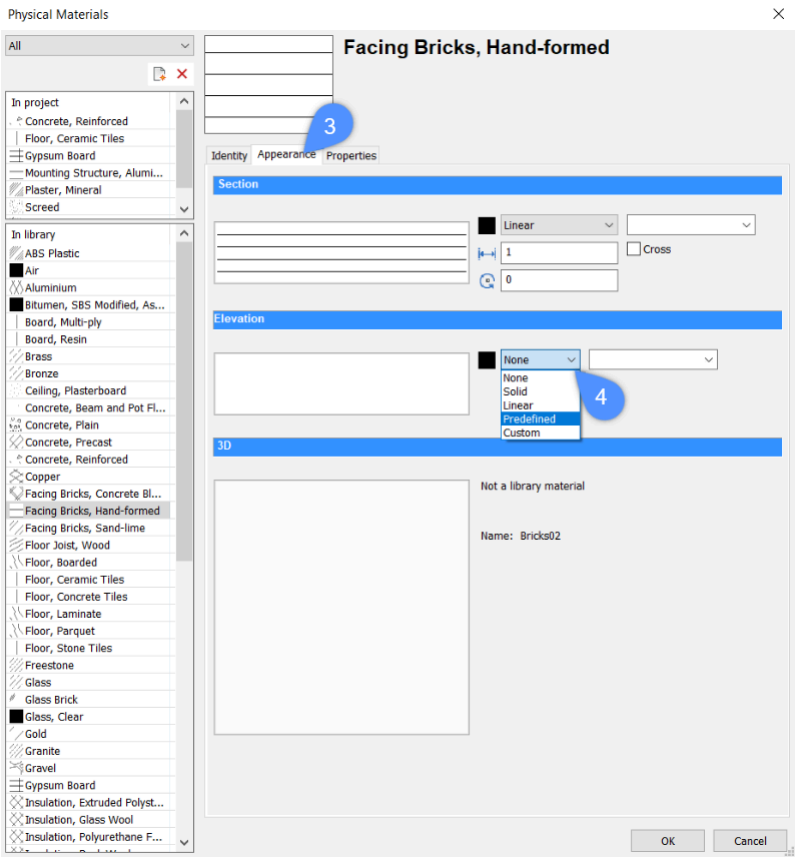
26.6.3 ハッチングを設定

1 コマンドラインにBLMATERIALSまたはBLCOMPOSITIONSと入力して**物理的マテリアル**ダイアログ(1)を表示します

2 複合材をクリックして、複合材のパターンをダブルクリックすると、**物理的マテリアル**ダイアログ(2)が開きます。

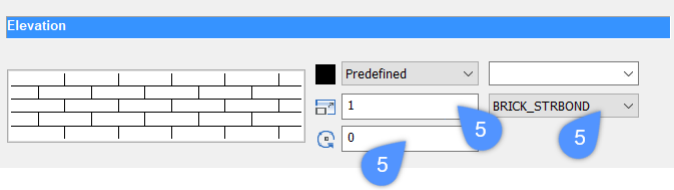


3 テクスチャやソリッド塗り潰しを設定するには、**外観**タブページ(3)にアクセスします。立面図のハッチングはデフォルトで**無し**に設定されています。立面図のハッチタイプボタンをクリックして、ハッチングのタイプを選択します：**無し**、**ソリッド**、**直線形**、**定義済み**、**カスタム**(4)



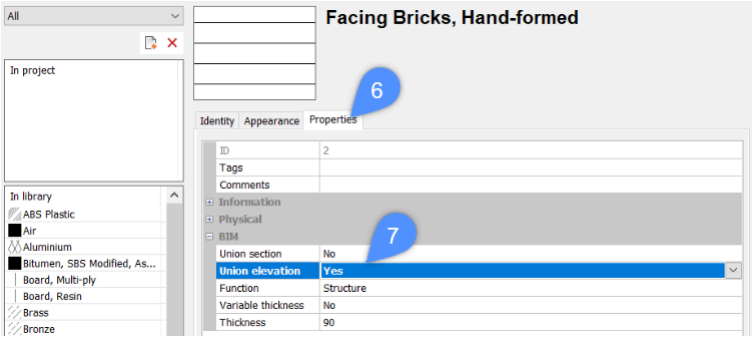
4 ハッチングを設定します。パターンの尺度、角度、色、画層(5)を定義します。

注： 画層フィールドに名前を入力するか、矢印ボタンをクリックしてリストから画層を選択します。

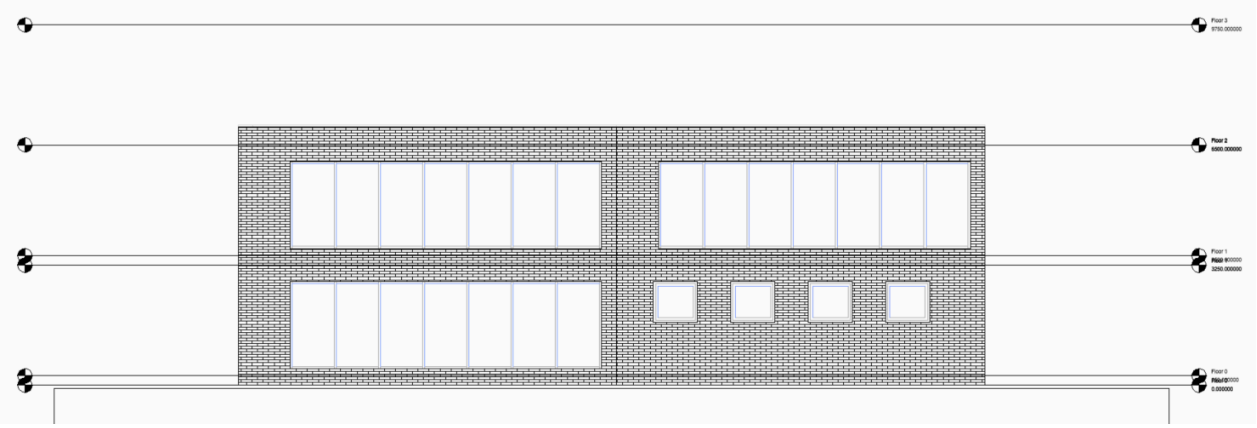


5 素材の異なるソリッド間の立面図の接続線を削除するには、**プロパティ**タブ(6)で**立面図を結合**を**はい**(7)に設定します。

注：立面図を結合は**断面を結合**の設定とは独立して動作します。



6 再作図され、立面図がハッチングされます。



26.7 作図用テンプレート生成

26.7.1 概要

BricsCAD BIMには、生成された図面をカスタマイズするためのテンプレートが用意されています。これらのテンプレートは、**Support**フォルダー内の以下のパスに格納されています。

C:¥ユーザー¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support¥Bim¥Sections

AppDataフォルダーはデフォルトでは隠しフォルダーです。最初にフォルダーを再表示する必要がある場合があります。このパスは、SUPPORTFOLDERコマンドでもアクセスできます。

その仕組みを理解するには、BricsCADがどのように画層、ハッチング、タグ、コールアウトブロックを作成するかを知る必要があります。

26.7.2 作成された画層を理解する

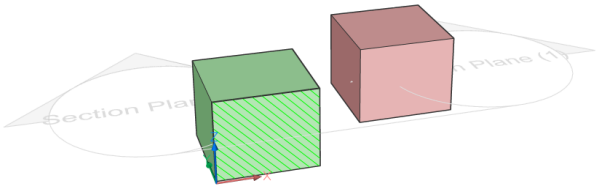
1 ミリのテンプレート**BIM-mm.dwt**を開き、図面を保存します。

2 500x500x400のボックスを2つ、少し離して作図します。

3 画層**Layer1**(画層の色が緑)に最初のボックスを、画層**Layer2**(画層の色が赤)に第二のボックスを配置します。

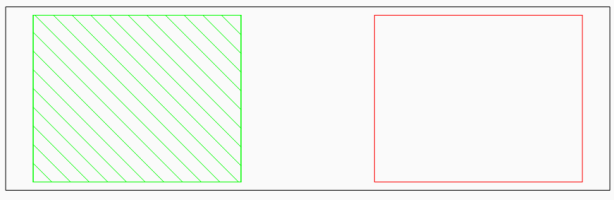
4 BIM断面を作成し、1つ目の緑のボックスの正面に合わせて、中央に切り込みを入れますが、2つ目の赤のボックスは切り込みを入れないようにします。

5



6 断面図を生成して開きます。

7



8 **画層**パネルを見ると、Background(背景)、Baoundary(境界)、Fill(塗り潰し)の3つのグループの画層が作成されています。

	Current	Name	D..	On/Off	Freeze	Locked	Color
1		0					White
2		Background_Layer1					Green
3		Background_Layer2					Red
4		BIM_SECTIONS_PREVIOUS					Magenta
5		BIM_VIEWPORTS					White
6		Boundary_Layer1					Green
7		Defpoints					White
8		Fill_Layer1					Green
9		Title Block Frame					175
10		Title Block Labels					157
11		Title Block Text					251

9 緑色のソリッドに対して作成された画層：

- **Boundary_Layer1** ：ボックスを通る断面の境界を示します。
- **Fill_Layer1**：断面のハッチングを示します。
- **Background_Layer1**：断面を切られていないサブ図形(ソリッドの頂点など)を示します。

10 画層はすべて**Layer1**画層の色を継承します。

11 赤いソリッドは断面を切っていないので、**Background_Layer2**画層のみが作成されています。この画層は、**Layer2**画層の色が継承されています。

12 **複合材**パネルの**Cavity Wall, Brick(中空壁、レンガ)**複合材を緑色のボックスにドラッグします。

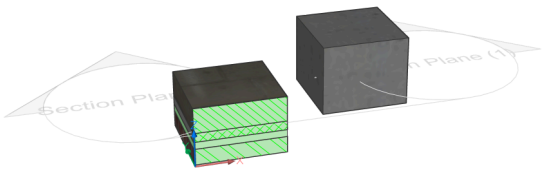
注：LEVELOFDETAILシステム変数を1または2に設定し、プライ材を表示します。

注：複合材は、色付きの画層に配置されたソリッドに割り当てられる場合、常に優先されます。つまり、その複合材の画層にデフォルトで設定されている色が優先され、ソリッドの画層に割り当てられた色は優先されません。

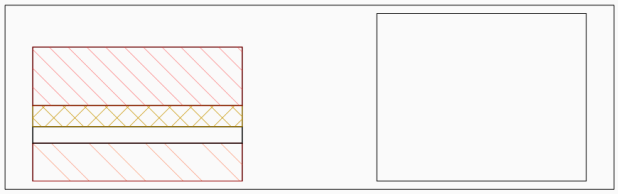
13 **複合材**パネルの**Cavity Wall, Brick(中空壁、レンガ)**複合材をダブルクリックします。

この複合材は4枚のプライで構成されており、それぞれにマテリアルが使用されています。物理的マテリアルはハッチングパターンに関連付けられており、平面図や断面に使用されます。立面図には別のパターンが指定されています。

14 赤いボックスに**Concrete, Reinforced(コンクリート、鉄筋)**複合材を割り当てます。



15 更新して断面を開きます。

16 

17 画層に移動し、PURGEコマンドを実行して未使用の画層を削除します。

18

	Current	Name	D..	On/Off	Freeze	Locked	Color
1	●	0					White
2		Background_Air					White
3		Background_Concrete_ Reinforced					White
4		Background_Facing Bricks_ Hand-form					White
5		Background_Insulation_ Polyurethane					White
6		Background_Layer1					Green
7		Background_Layer2					Red
8		Background_Supporting Wall_ Brick					White
9		BIM_SECTIONS_PREVIOUS			❄		Magenta
10		BIM_VIEWPORTS					White
11		Boundary_Air					White
12		Boundary_Cavity Wall_ Brick			❄		White
13		Boundary_Facing Bricks_ Hand-formed					14
14		Boundary_Insulation_ Polyurethane Fc					42
15		Boundary_Layer1					Green
16		Boundary_Supporting Wall_ Brick					14
17		Fill_Facing Bricks_ Hand-formed					21
18		Fill_Insulation_ Polyurethane Foam					42
19		Fill_Layer1					Green
20		Fill_Supporting Wall_ Brick					11
21		Title Block Frame					175
22		Title Block Labels					157
23		Title Block Text					251

再び、3つのカテゴリ(背景、境界、塗り潰し)が表示されています。ここで、画層名の2番目の部分は、ボックスの画層名ではなく、ソリッドで使用されている物理的マテリアルの名前になります。

- Background_Facing Bricks_Hand-formed、Background_Insulation_Polyurethane Foam、Background_Supporting Wall_Brick
- Boundary_Facing Bricks_Hand-formed、Boundary_Insulation_Polyurethane Foam、Boundary_Supporting Wall_Brick
- Fill_Facing Bricks_Hand-formed、Fill_Insulation_Polyurethane Foam、Fill_Supporting

Wall_Brick

19 立面図のハッチングを追加するには、断面の**立面塗り潰しを作成**プロパティを**オン**に設定します。

20 断面を更新します。

21 2つ目のボックスのアウトラインにハッチングが作図され、**Elevation_Concrete_Reinforced**画層が追加されます。

26.7.3 BRX_2D画層を理解する

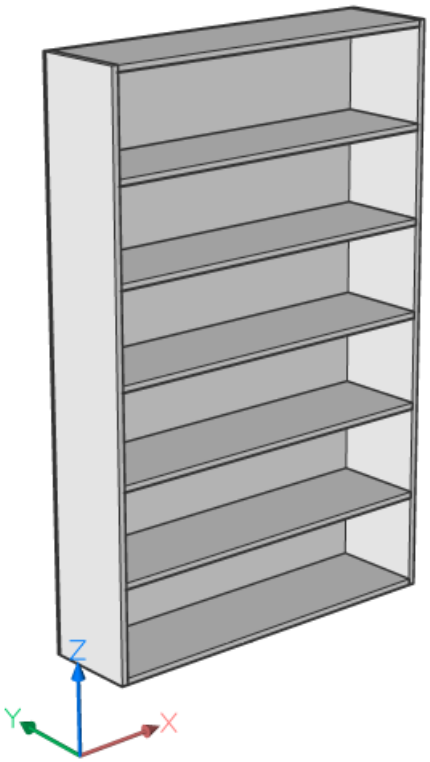
窓やドアなどのコンポーネントの3Dソリッドの断面を、画層によって2Dシンボルに置換したり2Dシンボルを挿入したりすることができます。

- **BRX_2D_**または**BRX_2D+_**で始まる画層のシンボルは、以下の場合に断面ブロックに挿入されます：
  - 断面がコンポーネントと交差している場合、解析的に陰線処理されることはありません。
  - この形状を他の形状で遮ることはできません。たとえば、テーブルと椅子があるとします。どちらにも2Dシンボルがありますが、テーブルは断面の下にあり、椅子は断面で切断されています(背もたれがテーブルより高い)。そのためテーブルの天板(テーブルの**BRX_2D_**)の下にある椅子の一部を隠すことができなくなります。
  - 断面の平面がコンポーネントと交差していない場合、隠線処理(HLR)の手順を経た後。
- **BIM_2D_SECT_**または**BIM_2D_SECT+_**で始まる画層のシンボルは、断面がコンポーネントと交差するときにのみ追加されます。形状はすべて解析的に隠線処理されます。たとえば、階段などをスライスしたときのコンポーネントの表現を変えることができます。
- **BIM_2D_BACK_**または**BIM_2D_BACK+_**という接頭辞を持つ画層上のシンボルは常に追加され、すべての図形は隠線処理(HLR)の手順を経ます。前述のテーブルと椅子の問題を解決することが可能になります。
- シンボル画層名
  - 「+」あり：コンポーネントの3Dソリッド断面に2Dシンボルが追加されます。
  - 「+」なし：コンポーネントの実3Dソリッド断面に2Dシンボルが置換されます。

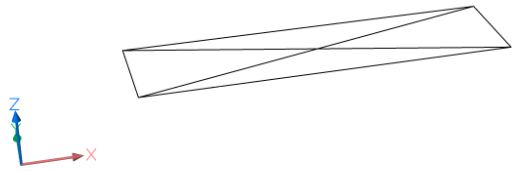
2D図形の追加

1 ミリのテンプレート**BIM-mm.dwt**を開き、図面を保存します。

2 **ライブラリ**パネル(LIBRARYPANELOPENコマンド)の**Furnishing Elements**カテゴリから**Furniture Bookshelf**コンポーネントを図面にドラッグします。

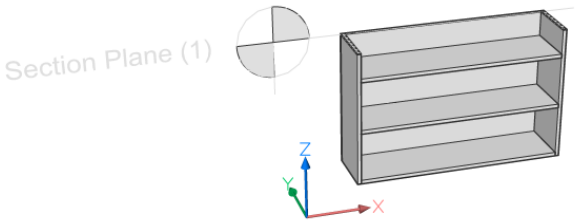


3 **BRX_2D_Symbols**画層を選択表示すると、本棚の挿入点にシンボルが描かれているのがわかります。

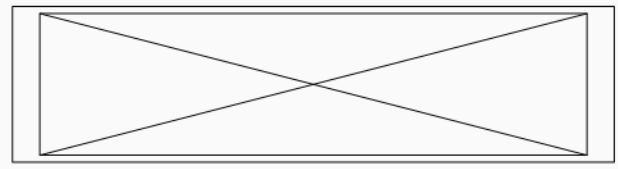


4 再びすべての画層を表示し(LAYUNISOコマンド)、本棚を通る断面を作ります。

5



6 **平面図**を作成して開きます。



7 (**Boundary_BRX_2D_Symbols**画層がオンの場合)シンボルが平面図にのみ作図され、実際の断面には作図されないことがわかります。2Dシンボルがコンポーネントの**BRX_2D**画層に作図されているためです。

8 3Dモデルに戻り、本棚のコピーを開きます。

9 本棚自体を非表示にし、**BRX_2D_Symbols**画層をオンにしてください。

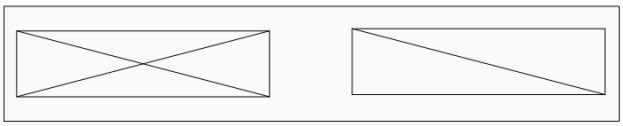
10 (交差している)線分の片方を削除します。

11 **(オプション)BRX_2D_Symbols**画層に2Dの線を作図します。

12 図面を保存します。

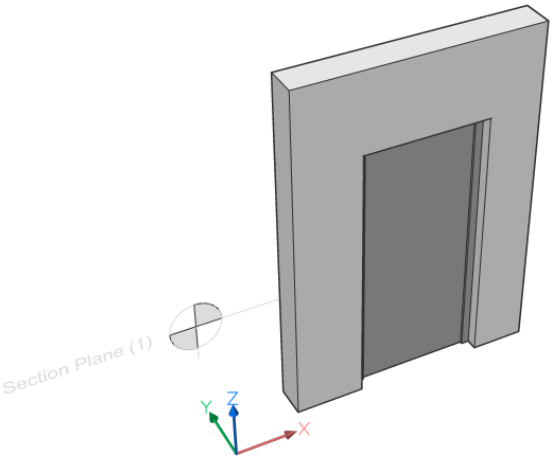
13 3Dモデルに戻り、コマンドラインにBMINSERTと入力し、先ほど新しい本棚を保存したファイルパスへ移動します。**OK**をクリックして、本棚を挿入するポイントを選択します。

14 断面を再生成して開きます。必要に応じて、既存のビューポートをドラッグしてビューポートを広げます。

15 

16 2番目の本棚には適応シンボルが表示されています。

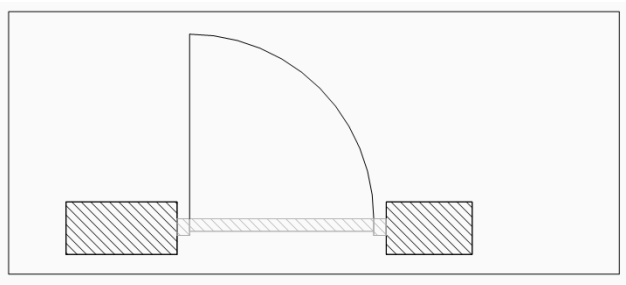
17 3Dモデルに壁を作図し、壁にドア**Door Ext Plain**を挿入します。



18 手順3から5を繰り返したら、**BRX_2D_Symbols**画層の代わりに**BRX_2D+_Swing**画層を使用します。

19 生成された平面図には、ドアの断面だけでなく開閉図のシンボルも表示されます。**BRX_2D+**画層には、実際のコンポーネントの断面とともにシンボルを表示することができます。

- **BRX_2D_**で始まる画層のシンボルにより、実際の断面形状が置換されます。
- **BRX_2D+_**で始まる画層にあるシンボルは生成された断面に追加されます。断面に平行な平面図にのみ2D図形が表示されます。



26.7.4 ハッチングパターンの色と線の太さおよび線をカスタマイズする

1 上記の**作成された画層を理解する**では、複合材のないオブジェクトの場合、**Fill_**、**Background_**、**Boundary_**の各画層の色と線の太さが3Dモデルの画層プロパティからコピーされることを確認しました。

2 ただし、複合材を持つオブジェクトの場合は、SUPPORTFOLDERコマンドを入力し、Bim/Sections/SectionSettings.dwgで検索したテンプレートでデフォルトの色が設定されます。

3 この図面を開きます。

4 **画層**パネルを見ると、マテリアルライブラリに存在するすべてのマテリアルに対して作成可能なすべての画層のリストが表示されています。どれも色と線の太さが決まっています。色や線の太さを変更してファイルを保存すると、今後生成される図面では、この画層のデフォルトの色や線の太さが変更されます。図面をどのように見せるかは、マテリアルごとに線の種類(**塗り潰し**、**背景**、**境界**、**立面図**)をカスタマイズすることができます。

195		Fill_Ceiling_ Plasterboard				253
196		Fill_Concrete_ Beam and Pot Floor				85
197		Fill_Concrete_ Plain				85
198		Fill_Concrete_ Precast				85
199		Fill_Concrete_ Reinforced				85
200		Fill_Copper				151
201		Fill_Facing Bricks_ Concrete Blocks				21
202		Fill_Facing Bricks_ Hand-formed				21
203		Fill_Facing Bricks_ Sand-lime				21
204		Fill_Floor Joist_ Wood				33
205		Fill_Floor_ Boarded				9
206		Fill_Floor_ Ceramic Tiles				251
207		Fill_Floor_ Concrete Tiles				251
208		Fill_Floor_ Laminate				251
209		Fill_Floor_ Parquet				251
210		Fill_Floor_ Stone Tiles				43
211		Fill_Freestone				43
212		Fill_Glass				141
213		Fill_Glass Brick				141
214		Fill_Gold				151
215		Fill_Granite				43
216		Fill_Gravel				251
217		Fill_Gypsum Board				251
218		Fill_Insulation_ Extruded Polystyrene				42
219		Fill_Insulation_ Glass Wool				42
220		Fill_Insulation_ Polyurethane Foam				42
221		Fill_Insulation_ Rock Wool				42
222		Fill_Iron				251
223		Fill_Lead				151
224		Fill_Marble				43

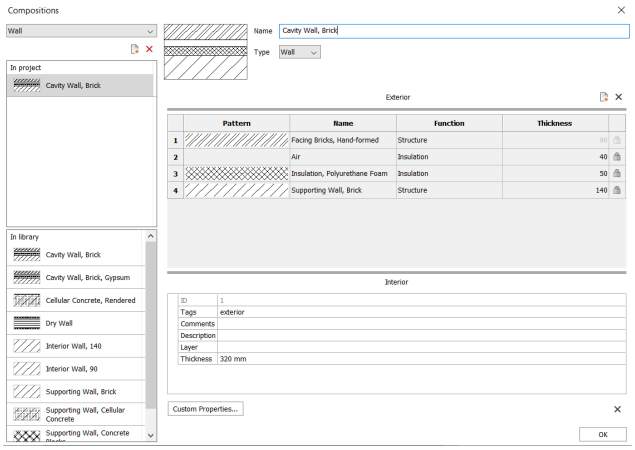
26.7.5 ハッチングパターンをカスタマイズする

1 上記の手順「作成された画層の理解」で作成した図面を開きます。

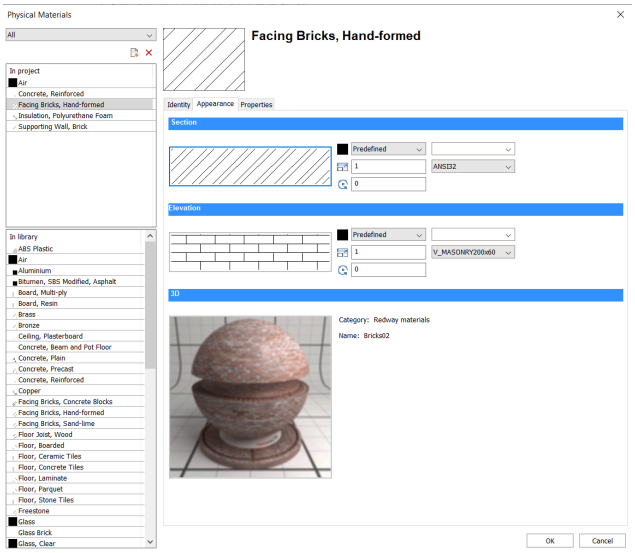
2 **複合材**パネルを開きます。

3 複合材の**Cavity Wall, Brick(中空壁、レンガ)**をダブルクリックします。

4 **作成された画層を理解する**では、マテリアルのハッチングパターンを変更できることを説明しました。以下で、その方法を説明します。



5 **Facing Bricks, Hand-formed(手積みレンガ仕上げ)**をダブルクリックします。**物理的マテリアル**ダイアログに**Facing Bricks, Hand-formed**がポップアップします。BLMaterialsとコマンド入力してこのダイアログボックスを表示し、**Facing Bricks, Hand-formed**を選択することもできます。

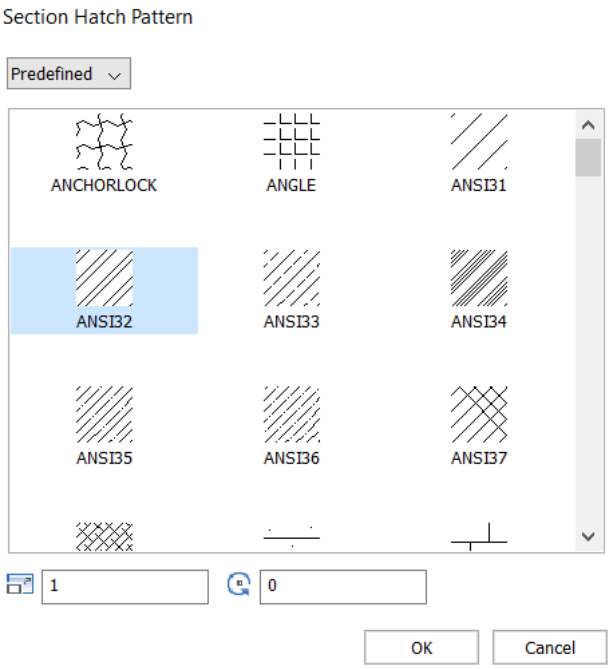


6 **外観**タブを表示します。

7 タイトル**断面図**で、ハッチパターンをダブルクリックします。

8 この特定のマテリアルの新しい標準断面のハッチング表現を選択します。このマテリアルを使用したすべての複合材で、同じハッチング表現が使用されます。

9



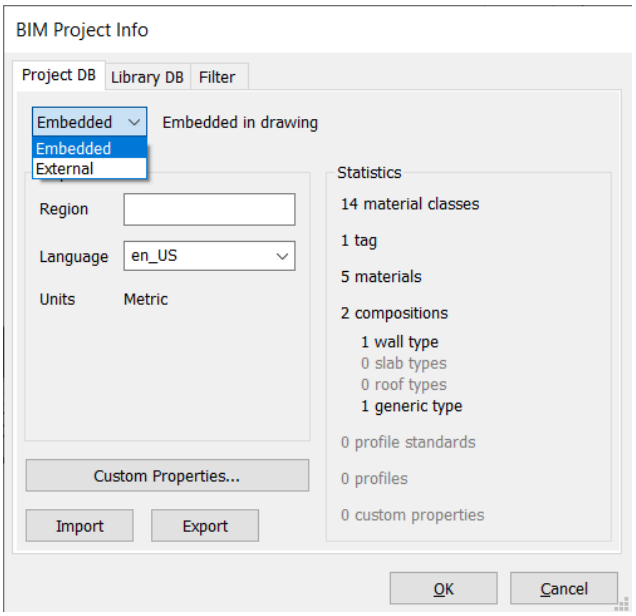
10 立面図のハッチングの表示を変更したい場合は、**立面図**のハッチングパターンをダブルクリックして変更します。複合材の最も外側のマテリアルが、立面図のハッチングに使用されます。

11 **物理マテリアル**ダイアログはテンプレートではなく、特定の図面の表現を定義する方法であるため、これらのハッチングの表示は新しい図面にコピーされません。

これらの情報を保存したい場合は、複合材のライブラリを作成することをお勧めします。そのためには、保存したい複合材を小さな立方体に貼り付けた図面を作るのが一番です。以上のようなプロセスを経て、それぞれの複合材が思い通りのハッチングになっていることを確認します。

12 この作業が終了したら、コマンドラインにBIMPROJECTINFOと入力します。**BIMプロジェクト情報**ダイアログボックスが表示されます。

13 **プロジェクトDB**タブで、データベースの値を**埋め込み**から**外部**に切り替えます。データベースに名前を付けてコンピューターに保存します(例. **CompositionsTemplate.bsyslib**)。



14 このデータベース(プロジェクトデータベース)を新規図面で使用するには、データベースの値を**埋め込み**から**外部**に切り替え、作成したBSYSLIBファイルを選択します。

26.7.6 すべての断面図の図形タイプごとにタグをカスタマイズする

この手順については、**BIMタグ**の手順を参照してください。

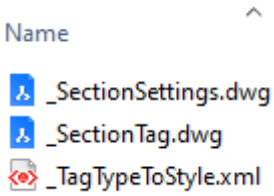
- BIM図形タイプのソースデータを作成
- タグブロックのカスタマイズ
- すべての断面図のBIMタグをカスタマイズするソースデータを編集

カレントの図面のタグを変更するには、**カレントの図面のみのタグブロックをカスタマイズする**を参照してください。

26.7.7 呼び出したブロックをカスタマイズする

1 様々なコールアウトブロックや断面トラッカーの元ファイルは、**ローミング可能ルート**フォルダー..¥Support¥Bim¥Sectionsサブフォルダーに入っています。

デフォルトでは、C:¥ユーザー¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support¥Bim¥Sectionsです。ファイルにアクセスするには、コマンドラインにSUPPORTFOLDERと入力し、**Bim** > **Sections**を参照します。



2 **_SectionSettings.dwg**ファイルを編集して、呼び出したブロックと断面トラッカーのブロックのレイアウトをカスタマイズすることができます。

3 図面が生成されると、必要な吹き出しブロックが吹き出しブロックのソースファイルから作成されます。BIM断面が更新さ

れると、対象の図面の既存の呼び出したブロックが使用されます。(編集するものを選択するにはBEDITと入力してください)。

26.7.8 シートセットテンプレートをカスタマイズする

1 シートセットのテンプレートは、C:¥ユーザー¥%username%¥AppData¥Local¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Templatesフォルダーに格納されています。

2 既存のテンプレートを編集したい場合、2つの選択肢があります。直接編集するか、コピーを作成するかです。
   - 直接編集するには、BricsCADアイコンの下にある**開く**をクリックして、**ファイルの種類**ドロップダウンで.**dwt**を選択し、編集したいファイルを選択したら、修正して保存します。
   - コピーを作成するには、コピーするDWTファイルをダブルクリックします。このテンプレートを持つ新しいDWGファイルが開きます。変更を加えて、ファイルをDWGとして保存します。テンプレートフォルダーに保存すると、コピーしたテンプレートを新しい図面で簡単に使用できます。

3 ウィザードを使って一から作成する場合は、**ウィザードを使って図面を作成する**の手順に従ってください。DWGファイルの作成と修正が終わったら、シートセットテンプレートフォルダー内にDWGファイルとして保存します。

4 テンプレート.dwtをシートセットテンプレートフォルダーに保存しておけば、**新規作成ウィザード**を使って新しい図面を開くときにそのテンプレートが表示されます。**プロジェクトブラウザ**のシートセット設定で、生成された図面を作成するためのテンプレートとして選択できます。

5 テンプレートには何が保存できるのですか？

6 **タイトルブロックでシートセットプロパティを使用する**で、シートセットプロパティを使用したテンプレートのタイトルブロックを作成することができます。この作業をテンプレート内のすべてのレイアウトに対して行います。また、以下をDWTファイルで使用することによって保存しておくことができます：
   - 画層
   - 色
   - 線種
   - パターン
   - ブロック
   - 文字スタイル
   - 寸法スタイル
   - ページのセットアップ

26.8 図面の生成

26.8.1 BIMSECTIONUPDATEについて

BIMSECTIONUPDATEコマンドは、BIM断面図形から断面図を生成します。このコマンドは、3Dモデル内のBIM断面図形を選択するか、生成された図面内の既存の断面を選択することで使用できます。結果は新しい図面に配置され、BIM断面図形のプロパティの**結果ファイル**で別のフォルダーが指定されていない限り、モデル図面と同じフォルダーに保存されます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事**BIMSECTIONUPDATE** をご参照ください。

26.8.2 手順：BIM断面を生成

BIM断面は2通りの方法で生成することができます。

- モデル空間で生成
- **BIMプロジェクトブラウザ**を使用

モデル空間

1 1つまたは複数のBIM断面図形を選択します。

2 **(オプション)**断面のプロパティを編集します。(例：**尺度**、**名前**、**結果ファイル**)

3 クワッドの**モデル**コマンドタブで**断面を生成**を選択します。

BricsCADは、生成された断面の数とその名前をコマンドラインに表示します。(例)

8個の断面が生成されました：

D:¥Bricsys Reports¥V25¥Villa¥Elevations.dwg

D:¥Bricsys Reports¥V25¥Villa¥Plans.dwg

D:¥Bricsys Reports¥V25¥Villa¥Sections.dwg

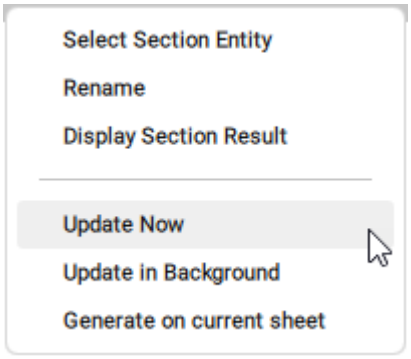
上記の例では、2つの平面、4つの立面、2つの断面が生成され、3つの図面に書き出されました。

プロジェクトブラウザ

1 **プロジェクトブラウザ**パネルの**断面とビュー**タブで、断面を右クリックします。

2 **(オプション)プロパティ**パネルで断面図形のプロパティを変更するには、**断面図形を選択**を選択します。

3 **今すぐ更新**または**バックグラウンドで更新**を選択します。



4 **プロジェクトブラウザ**パネルで**プロジェクトを更新**を選択します。

プロジェクトブラウザの**シート**セグメントに新しい断面が生成されます。

注：

- **BIM_SECTIONS_PREVIOUS**画層：前のセクションでの生成の結果は、専用の**BIM_SECTIONS_PREVIOUS**画像に保存されます。これはデフォルトでフリーズされています。デフォルトではこの画層はフリーズされています。
- **BIM_VIEWPORTS**画層：生成されたビューポートは、必要に応じて専用の**BIM_VIEWPORTS**画層に配置されます。
- **シートセットマネージャー**は、すべてのファイルに同じフォルダーが使用されている場合、プロジェクトフォルダーが再配置された後、自動的にファイルパスを調整します。

26.8.3 BIM断面を開く

BIMSECTIONOPENはBIM断面図形を含むモデル図面と、対応する生成された図面の間を移動します。このコマンドは双方向で機能します。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事**BIMSECTIONOPEN**をご参照ください。

BIM断面はさまざまな方法で開くことができます。

- 3Dモデルから開く
- **BIMプロジェクトブラウザ**を使用

3Dモデルから開く

3Dモデルから2Dドキュメントを開くには：

1 1つまたは複数のBIM断面図形を選択します。

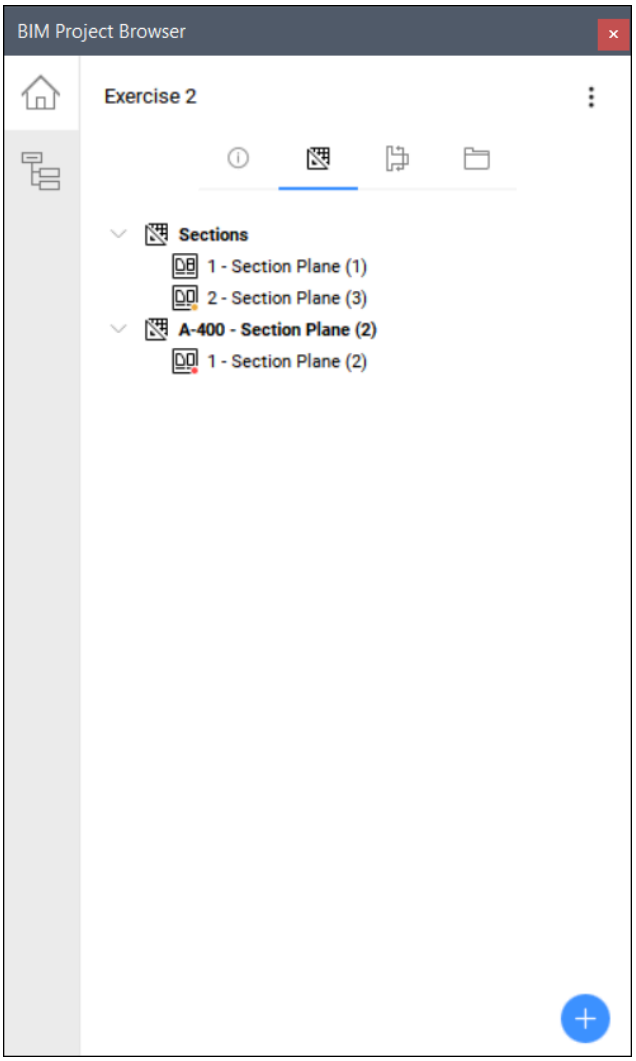
2 クワッドの**モデル**コマンドグループで**モデルを開く**を選択します。

3 2D断面図が開きます。

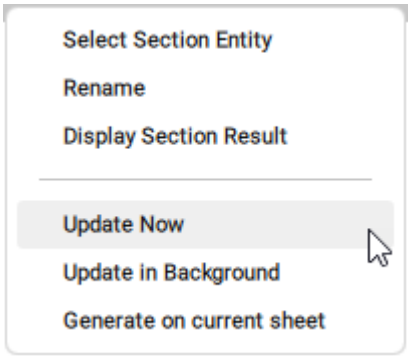
プロジェクトブラウザ

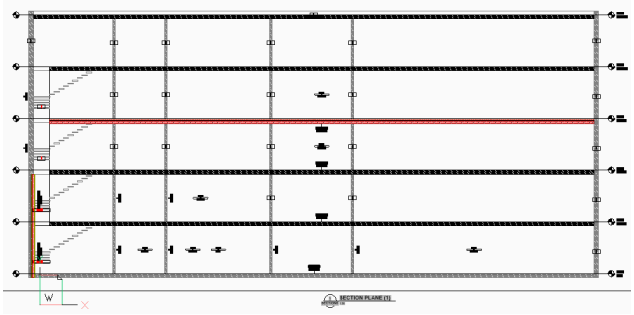
プロジェクトブラウザから2D断面図を開くには、次のいずれかの操作を行います：

- **プロジェクトブラウザ**パネルの**シート**タブで、シートビューをダブルクリックします。
  選択したシートビューで2D断面図が開きます。



- **プロジェクトブラウザ**パネルの**断面とビュー**タブで、断面を右クリックしてコンテキストメニューから**断面結果を表示**を選択します。





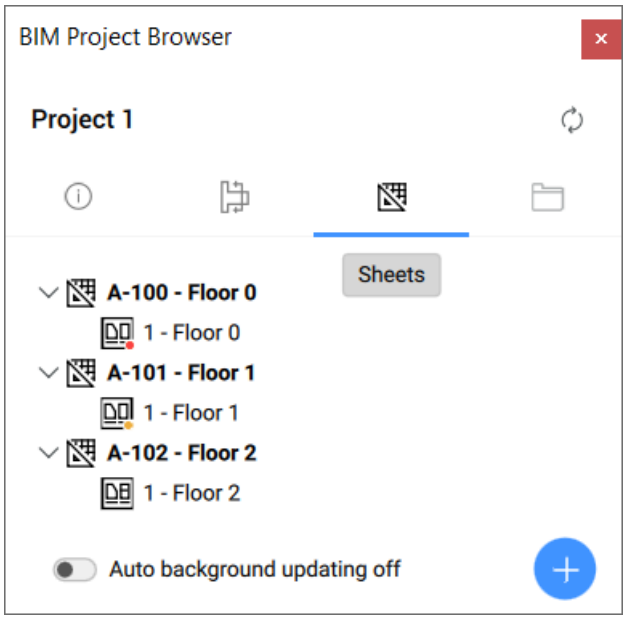
注：断面結果にリンクされているビューポートが削除されると、リンクされているビューラベル、シートビュー、結果ブロック(他のビューポートがそれを表示していない場合のみ)も消去されます。

26.8.4 BIM断面を更新

BIM断面はさまざまな方法で更新することができます。

- 3Dモデルから更新
- 生成された2Dドキュメントファイルから更新
- **BIMプロジェクトブラウザ**パネルから更新

2Dドキュメントが3Dモデルと同期しなくなると、**プロジェクトブラウザ**パネルの**シート**タブの、対応するシートビューに赤いマークが表示されます。



シートビューがまだ更新されていない場合、**プロジェクトブラウザ**パネルの**シート**タブの、シートビューにオレンジ色のマークが表示されます。

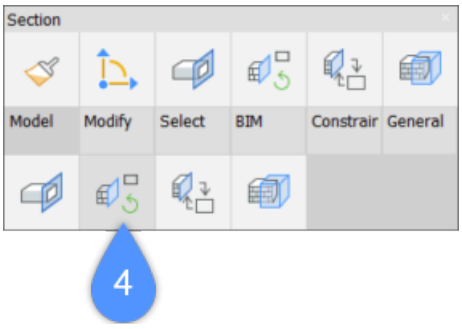
3Dモデルから BIM断面を更新
ビューを生成するために使用したのと同じプロセスを使用して、3Dモデルを介してBIM断面を更新します。

2Dドキュメントファイルから BIM断面を更新
断面結果が赤枠で囲まれているのは、BIM断面で生成されたブロックが3Dモデルと同期していないため、更新する必要があることを示しています。これは**モデル**空間でも**レイアウト**空間でもできます。

モデル空間でBIM断面を更新

1 更新する断面ブロックの上にカーソルを置きます。

2 クワッド(4)の**モデル**コマンドグループの**断面を更新**を選択します。

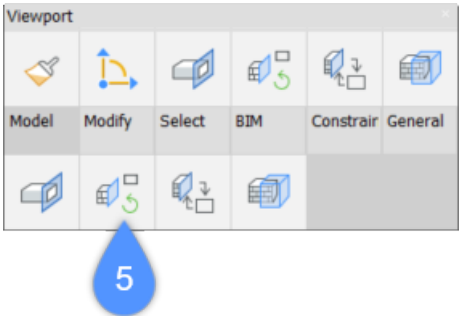


レイアウト空間でBIM断面を更新

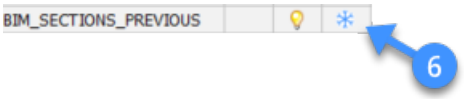
1 **レイアウト**タブをクリックします。

2 更新するBIM断面のビューポートの上にカーソルを置きます。

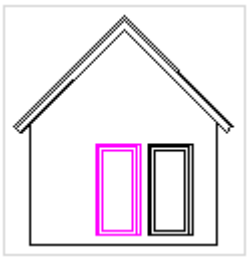
3 クワッド(5)の**モデル**コマンドグループの**断面を更新**を選択します。



前のセクションでの生成の結果は、専用の**BIM_SECTIONS_PREVIOUS**画像に保存されます。これはデフォルトでフリーズされています。画層(6)をフリーズ解除して、変更を確認します。



BIM_SECTIONS_PREVIOUS画層の内容は色がマゼンタで表示されます。



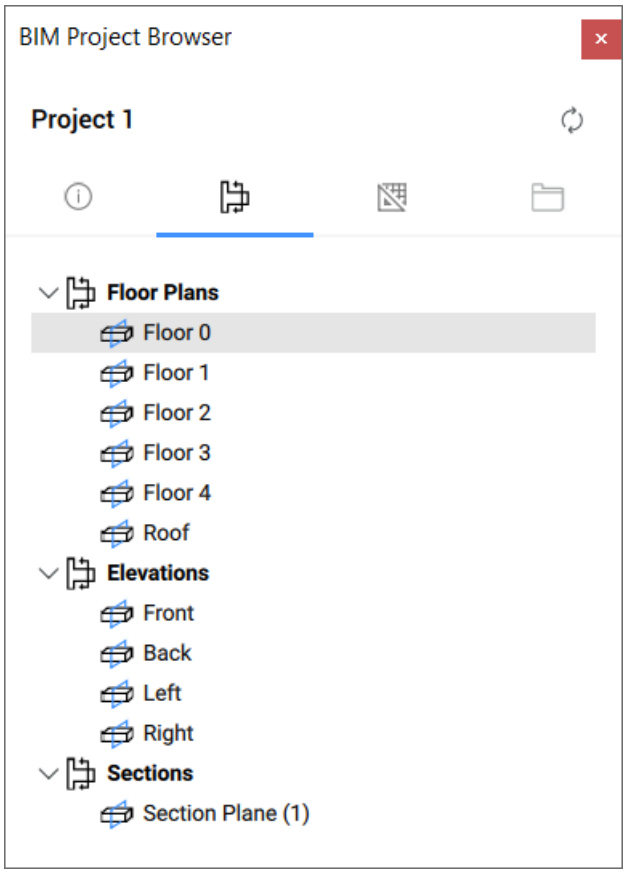
BIM断面結果をカスタマイズする

必要な設定のタイププランをBIM断面結果に割り当てることによって、BIM断面結果をカスタマイズできます。これを行うには、断面ブロックを選択し、**プロパティ**パネルの**BIM**プロパティカテゴリに移動し、**タイププラン**プロパティのドロップダウンメニューからいずれかのオプションを選択します。

タイププランを使用することにより、割り当てられた画層や画層の状態とは無関係に、モデル図形のグラフィックスをカスタマイズできます。また、背景イメージを追加して、高さに影を生成したり、断面のグラフィック品質を高めたりすることもできます。背景イメージは、モデルのアクティブな表示スタイルで作成されます。
詳細については、**BIMタイププランエディターダイアログボックス**および**タイププランを使用する**の記事を参照してください。

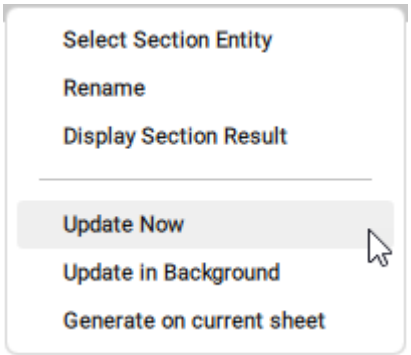
注：RENDERCOMPOSITIONMATERIALシステム変数を**オン**に設定する必要があります。

プロジェクトブラウザでBIM断面を更新



1 **BIMプロジェクトブラウザ**パネルで断面を右クリックします。

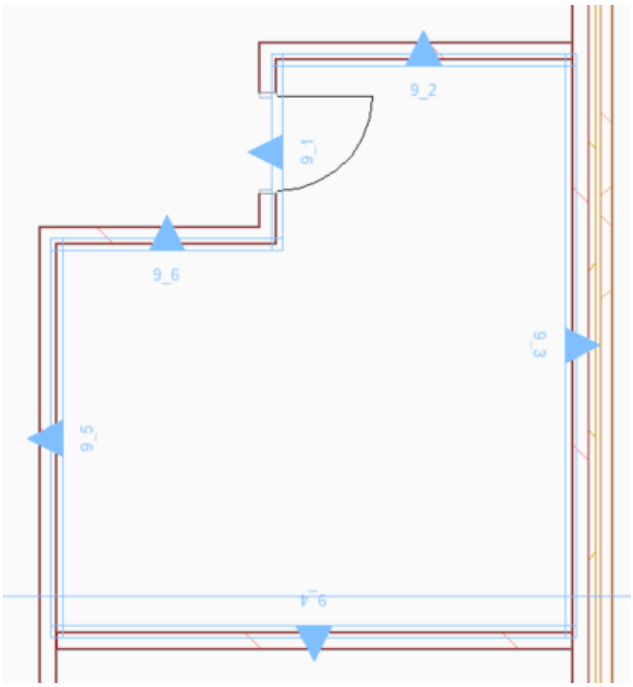
2 コンテキストメニューから**今すぐ更新**または**バックグラウンドで更新**を選択します。



26.8.5 断面インジケーター、階インジケーター、グリッドコールアウト

ソース断面が平面の場合、ソース断面と交差する断面には断面インジケーターが表示されます。これらは専用のBIM_SECTIONS画層に格納されます。画層を**オン**または**オフ**にして、インジケーターの表示を管理します。

注：断面インジケーター、階インジケーター、グリッドコールアウトは、編集やカスタマイズが可能なBIMタグ図形です。**BIMタグ**のヘルプ記事をご参照ください。



モデル図面に階がある場合、非水平断面には階インジケーターが提供されます。

モデル図面にグリッドがあり、それがソース断面平面に平行または垂直である場合、グリッドコールアウトが提供されます。

26.9 生成図面の編集

BIM断面が生成されると、対象図面のモデル空間に図面生成結果を含むブロックと、このブロックの上を見るペーパー空間ビューポートが追加されます。ブロックとビューポートは、図面内の既存ジオメトリと重ならないように最初に配置されます。このブロックまたはビューポートは移動させることが可能で、後の更新で保存されます

生成された図面の作成に使用されるデフォルトのテンプレート図面には、**ビューラベル**と**バルーン数字**のブロックが存在します。選択したシートビューに関連付けて配置することができます。この図面の**タイトル**ブロックには、関連する**シートセット**プロパティが定義されたときに自動的に入力される属性が含まれています。

シート一覧表の配置はシートセットのいずれのシートでもできます。現在の実装では、目次は連携していません。

26.9.1 タイトルブロックの挿入

1 **図面エクスプローラ - ブロック設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **タイトル**欄をダブルクリックします。

図面エクスプローラダイアログボックスが閉じ、ブロックがカーソルにアタッチされます。

メートル単位のプロジェクトでは、**タイトル**ブロックのサイズがA1用紙サイズ(594×841mm)に適合します。

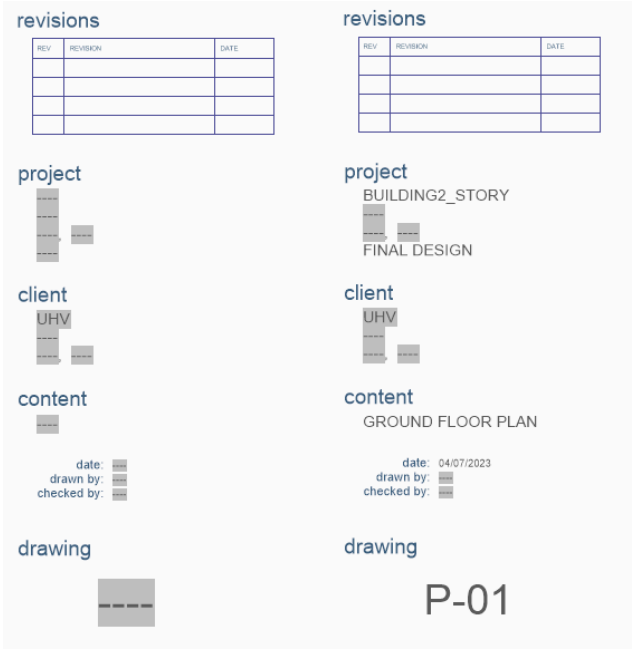
インチ単位のプロジェクトでは、**タイトル**ブロックのサイズがArch Dの用紙サイズ(24×36インチ)に適合します。

3 レイアウトの用紙シートの左下隅をクリックします。

4 **シートセット**パネル(SHEETSETコマンド)を開き、コンテキストメニューで**プロジェクト**と**カスタムプロパティ**を定義します。

5 **タイトル**ブロックを選択し、**再描画/再作図**ツールバーの**フィールドを更新**ツールボタン(

)をクリックします。

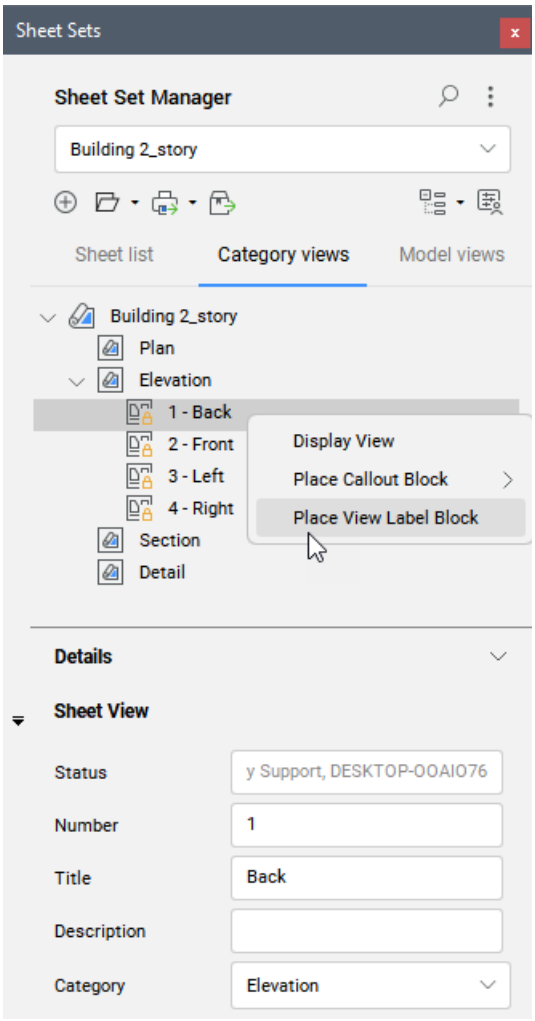


26.9.2 シートビューのビューラベルを挿入

1 **シートセット**パネルのシートビューを選択します。

2 ビューラベルブロックを挿入するシートビューを右クリックします。

3



4 コンテキストメニューで**ビューラベルブロックを配置**を選択します。

プロンプト表示：_VIEWLABEL

単位：ミリメートル換算：1

ブロックの挿入点:

5 挿入基点を指定します。

6 **プロンプト表示**：ブロック尺度<1.0>:

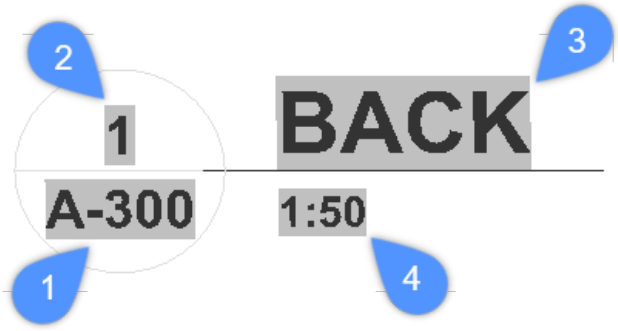
7 尺度を指定するか、右クリックして現在の尺度を受け入れます。

8 **プロンプト表示**：回転角度<0>:

9 回転角度を指定するか、右クリックして現在の角度を受け入れます。

10 ビューラベルブロックが挿入されます。

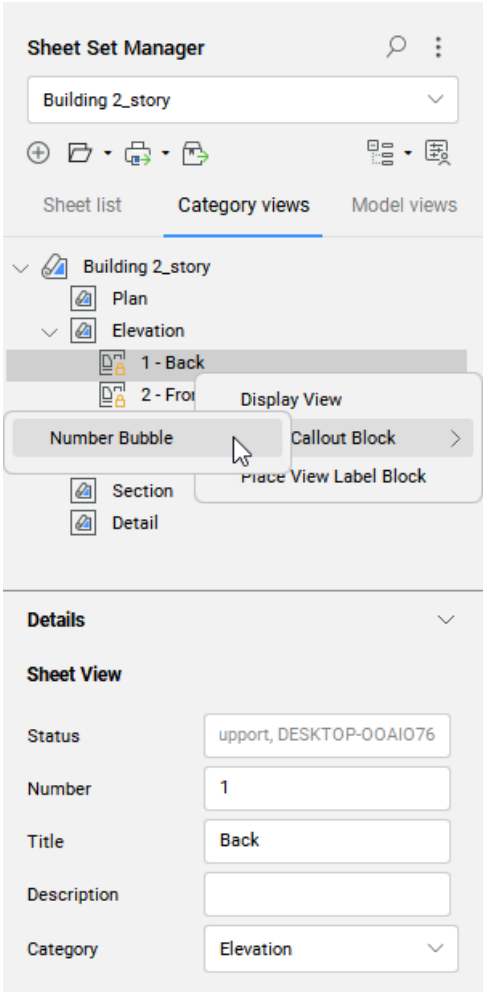
選択したシートビューのシート番号(1)、シートビュー番号(2)、シートビュータイトル(3)、ビューポート尺度(4)が自動的に入力されます。



26.9.3 シートビューのバルーン数字を挿入

1 **シートセット**パネルのシートビューを選択します。

2 **バルーン数字**ブロックを挿入するシートビューを右クリックします。



3 コンテキストメニューで**吹き出しブロックを配置** > **バルーン数字**を選択します。

プロンプト表示：_Callout

単位：ミリメートル換算：1

ブロックの挿入点:

4 ブロック尺度 <1.0>:

5 ブロックの回転角度 <0>:

6 挿入基点を指定します。

7 **プロンプト表示**：ブロック尺度<1.0>:

8 尺度を指定するか、右クリックして現在の尺度を受け入れます。

9 **プロンプト表示**：回転角度<0>:

10 回転角度を指定するか、右クリックして現在の角度を受け入れます。

11 **バルーン数字**ブロックが挿入されます。

選択したシートビューのシート番号(5)とシートビュー番号(6)が自動的に入力されます。

26.9.4 シート一覧表の挿入

シート一覧表はシートセットのいずれのシートにも挿入できます。現在の実装では目次は連携していないため、シートが追加、削除、名前変更されても自動で更新されません。

1 **シートセット**パネルでシートセット名を右クリックし、コンテキストメニューから**シート一覧表を挿入**を選択します。

プロンプト表示：挿入基点を選択

2 図面で1点を指定します。

26.10 内装の立面図

26.10.1 コマンド

BIMSECTION

26.10.2 概要

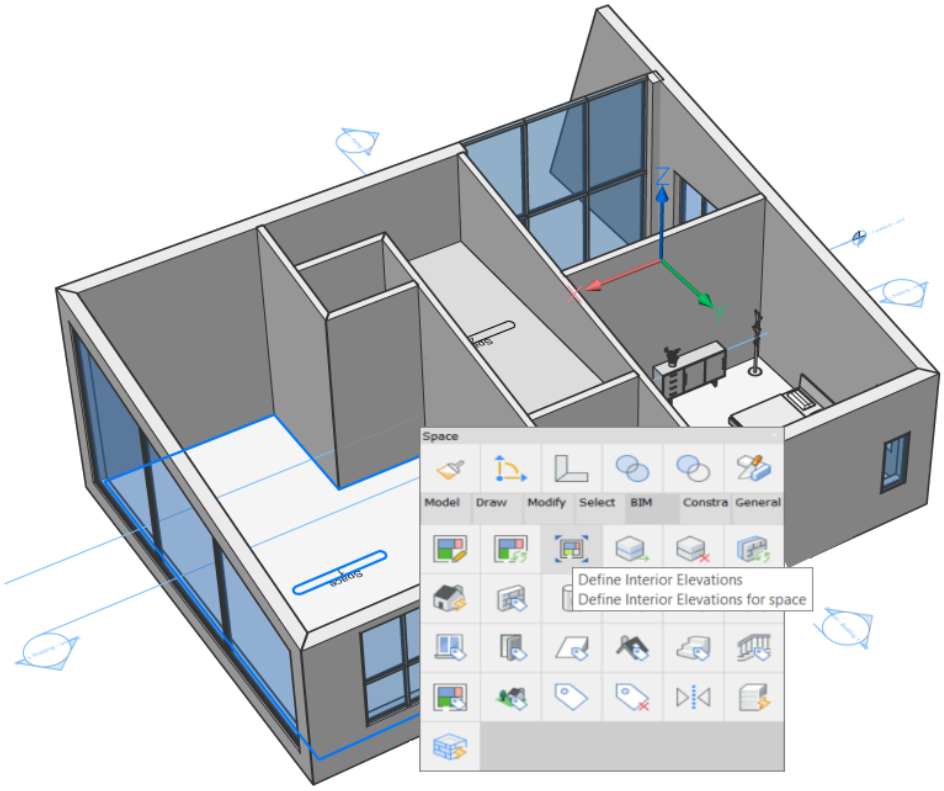
内装の立面図は、個々の空間の壁の高さと平面図を示しています。建築物の要素の細部や寸法が記載されています。これは、特にインテリアデザイナーや、電源ソケットや照明スイッチのレイアウトを作る際に役立ちます。BricsCADでは、これらはBIM空間で自動的に定義されます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『BIMSECTION』をご参照ください。

26.10.3　BIM空間から内装の立面図を作成

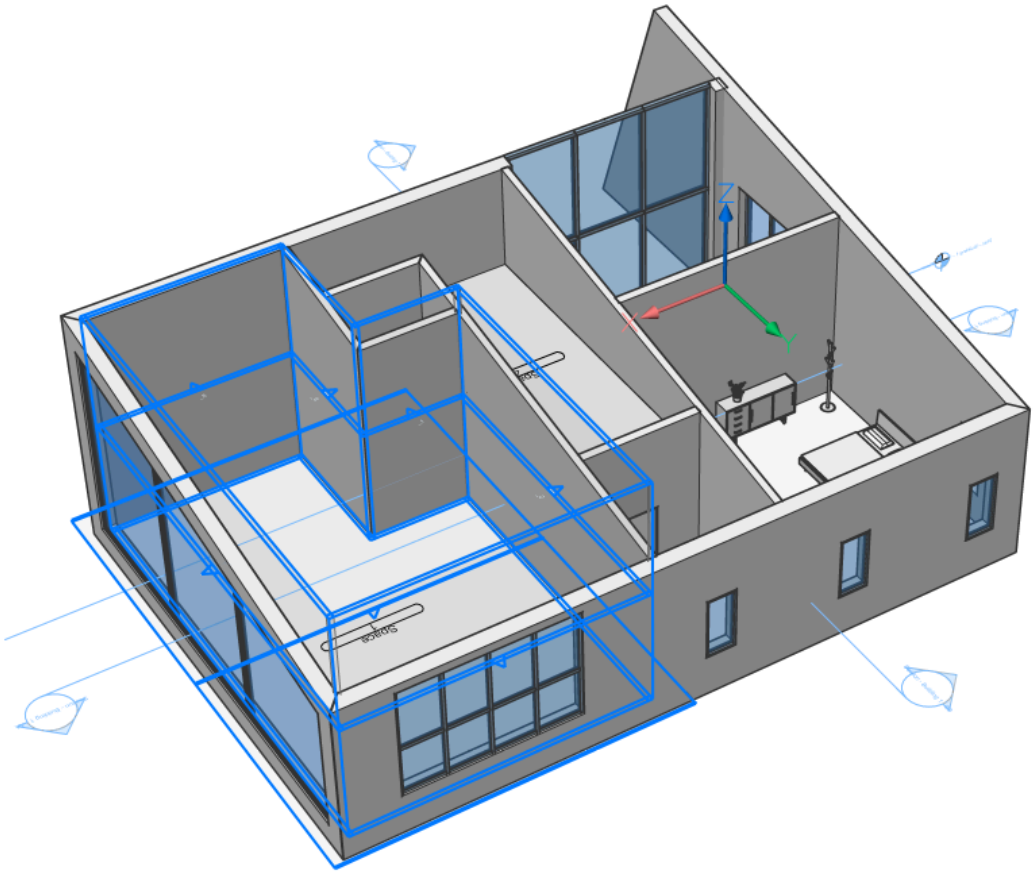
1　空間タグの上にカーソルを置き、クワッドの**BIM**タブから**内装の立面図を定義**を選択するか、**または**コマンドラインにBIMSECTIONと入力後、iとEnterを押して内部オプションを選択します。

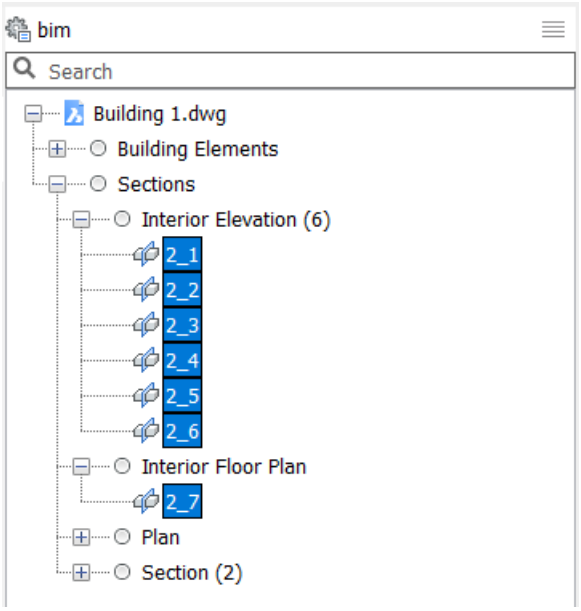
プロンプト表示：内装の立面図を生成するBIM空間を選択、または [断面をアタッチ (A)/選択オプション (?)]:



2　(クワッドを使用した場合はスキップ)内装の立面図を作成したいBIM空間を選択し、Enterを押します。

3　これで、各壁の内装の立面図と内装の平面図が定義されました。これらは**構造**パネルで確認できます。

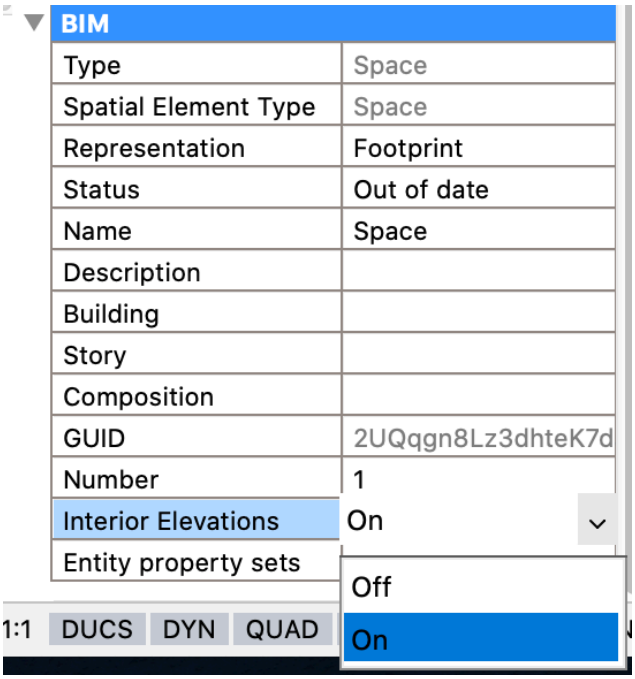




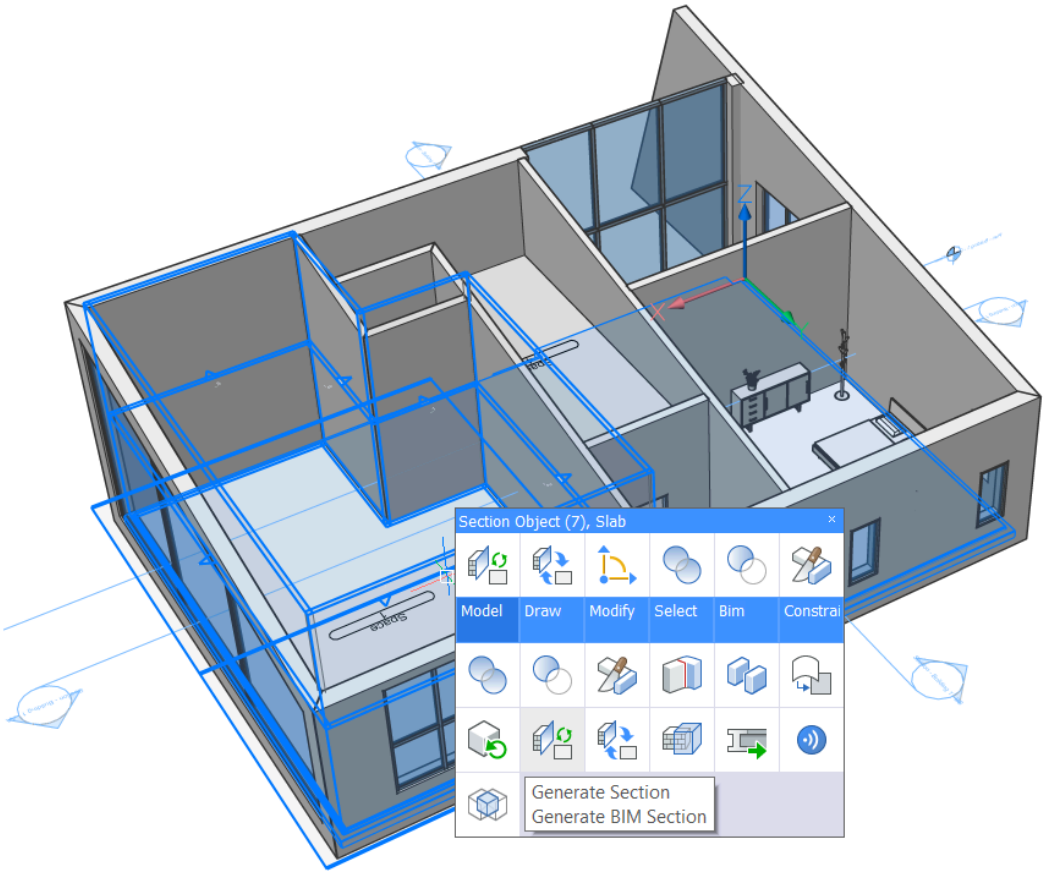
6枚の内装の立面図と1枚の内装の平面図が作成され、**構造**パネルに表示されます。

注 : ある空間にすでに内装断面図が存在する場合、その空間で再度BIMSECTIONを実行しても効果はありません。内装の立面図を再生成するには、その空間の既存の内装の立面図を削除して、再度BIMSECTIONを実行する必要があります。

4 内装の立面図の表示/非表示を切り替えるには、HIDE/ISOLATE/UNISOLATEのオブジェクトコマンドを使用するか、**または**空間のプロパティを開き、**BIM**タブで内装の立面図の表示/非表示を切り替えることもできます。

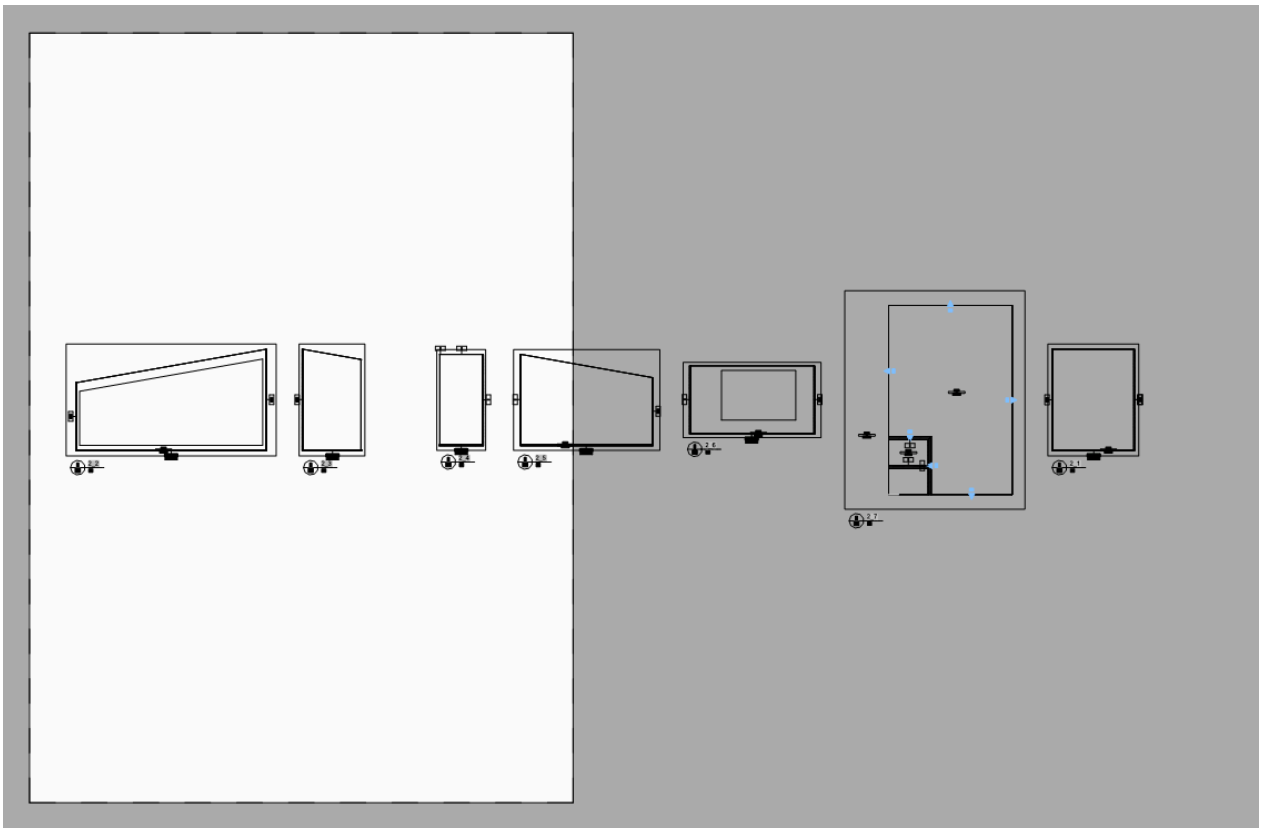


5 上図のようにすべての展開図を選択し、クワッドから**断面を生成**を選択して、シート上に展開図を生成します。



6 断面が選択されている状態で**モデルを開く**をクリックすると、断面の結果を開くことができます。

シートは、モデル図面と同じフォルダーに自動的に保存されます。次のような立面図が作成されており、上のモデルで選択した空間に対して編集することができます：



注：断面図はデフォルトで**InteriorElevations**というファイルに格納されています。2つ目の空間の断面図を生成した場合、その断面図は前と同じファイルに追加されます。

図面を生成する方法の詳細については**図面の生成**のページを参照してください。

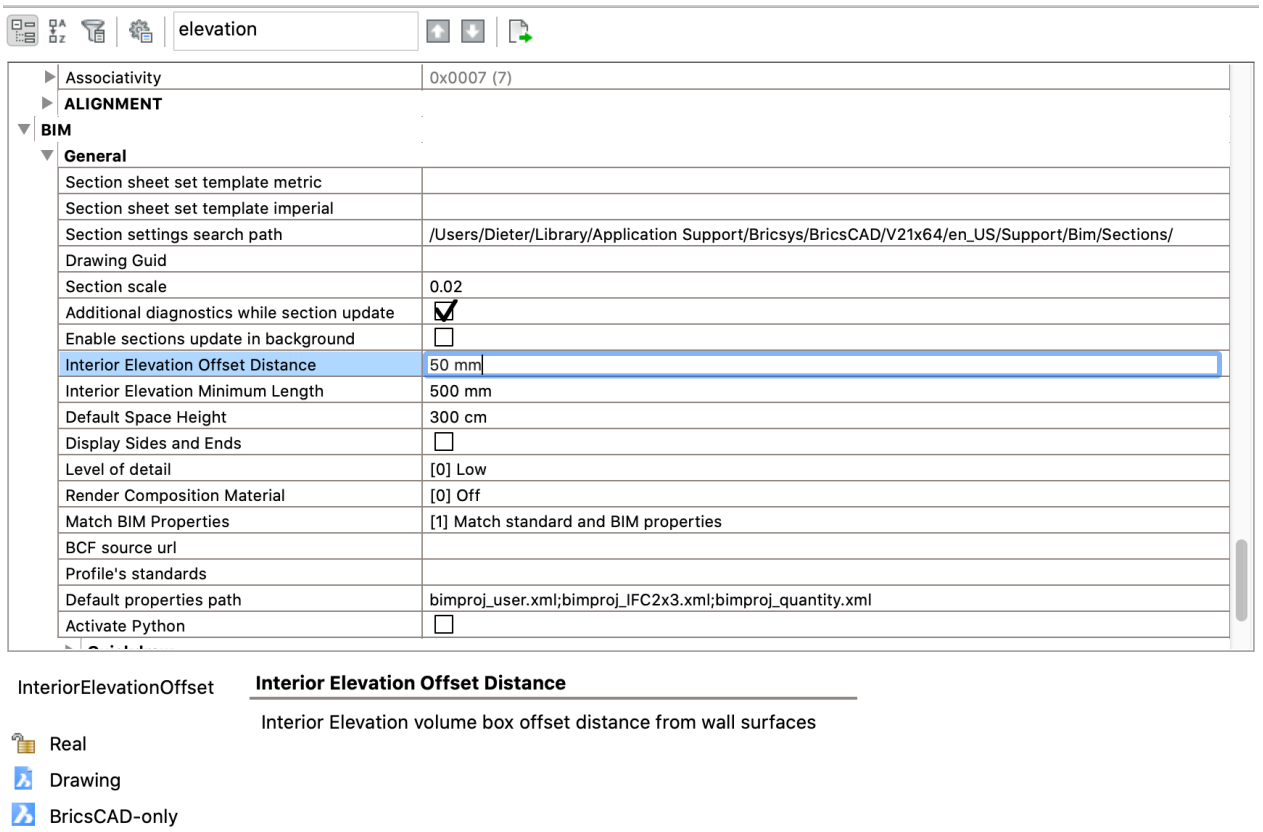
図面に注釈を付けたい場合は、**タグ** > **長さ寸法を追加する方法**を参照してください。

26.10.4　内装の立面図のサイズを編集

これらの断面図のサイズを編集して、家具などを入れることも可能です。BIM空間の内装の立面図を作成した場合、オフセット値はデフォルトで50mmです。断面図に家具を含めるには、この値を変更する必要があります。

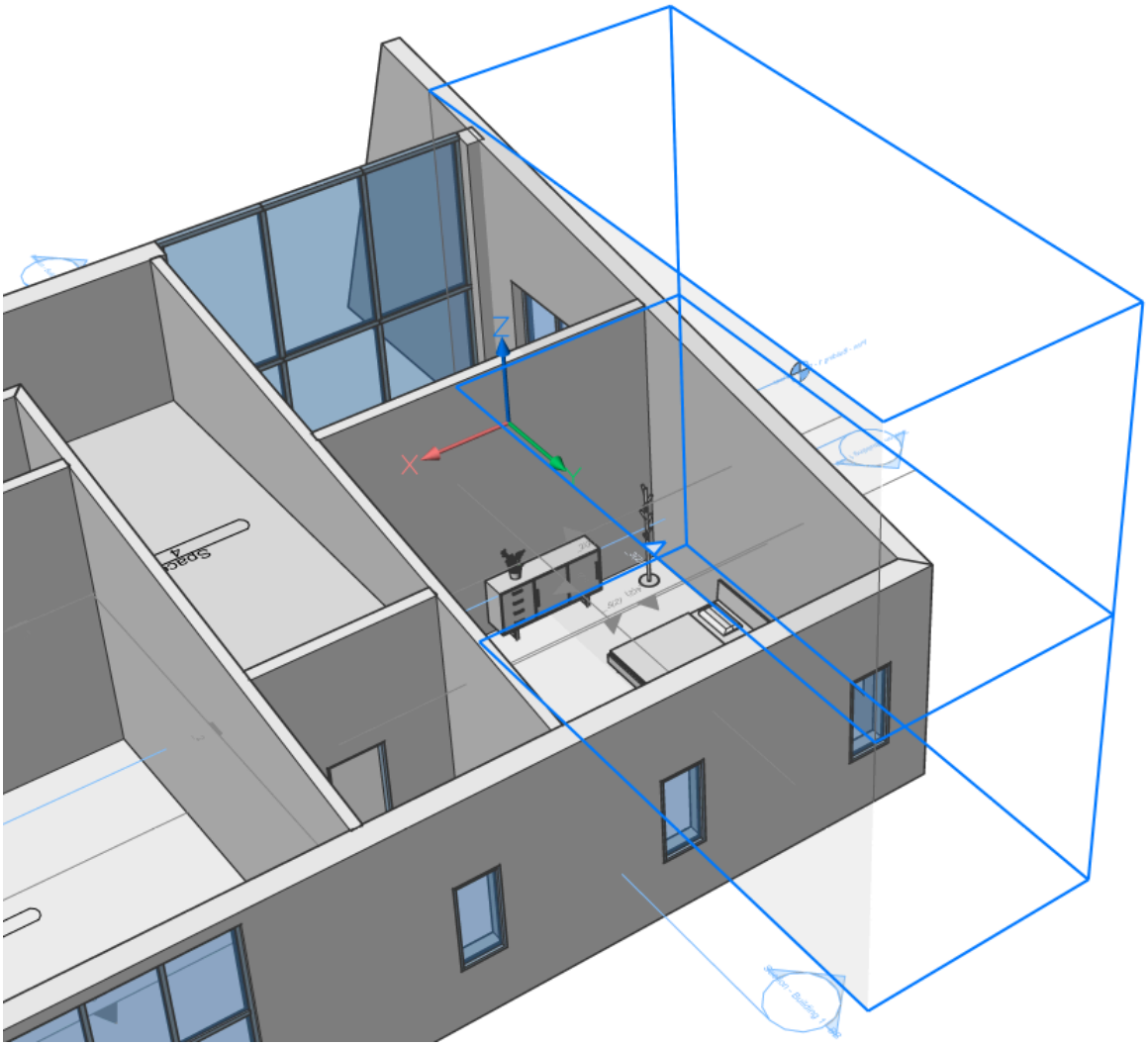
1　この設定を変更するには、コマンドラインにINTERIORELEVATIONOFFSETと入力し、Enterを押します。新しい値を入力してEnterを押すか、**または**図面上の2点をクリックすると、その間の距離が選択されます。

また、コマンドラインで設定を入力し、内装の立面図を検索して**内装の立面図オフセット距離**の値を適応することで、オフセットを変更することができます。



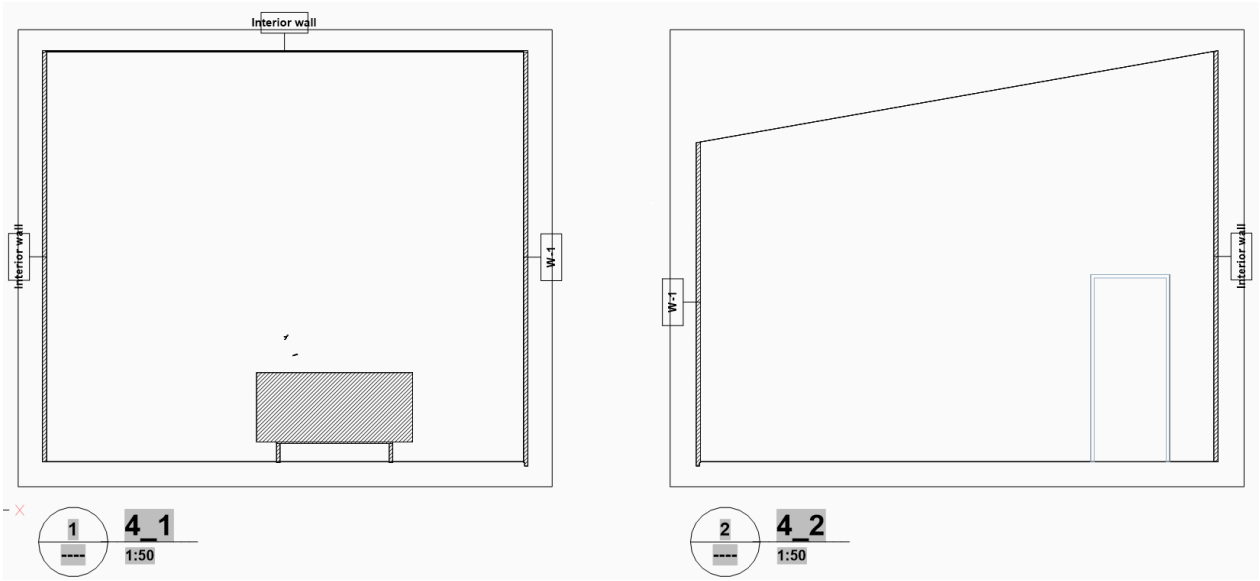
2 新規に内装の立面図を作成した場合、オフセット距離は選択した値になります。これは、図面で室内装の立面図を選択したときにも表示されます：

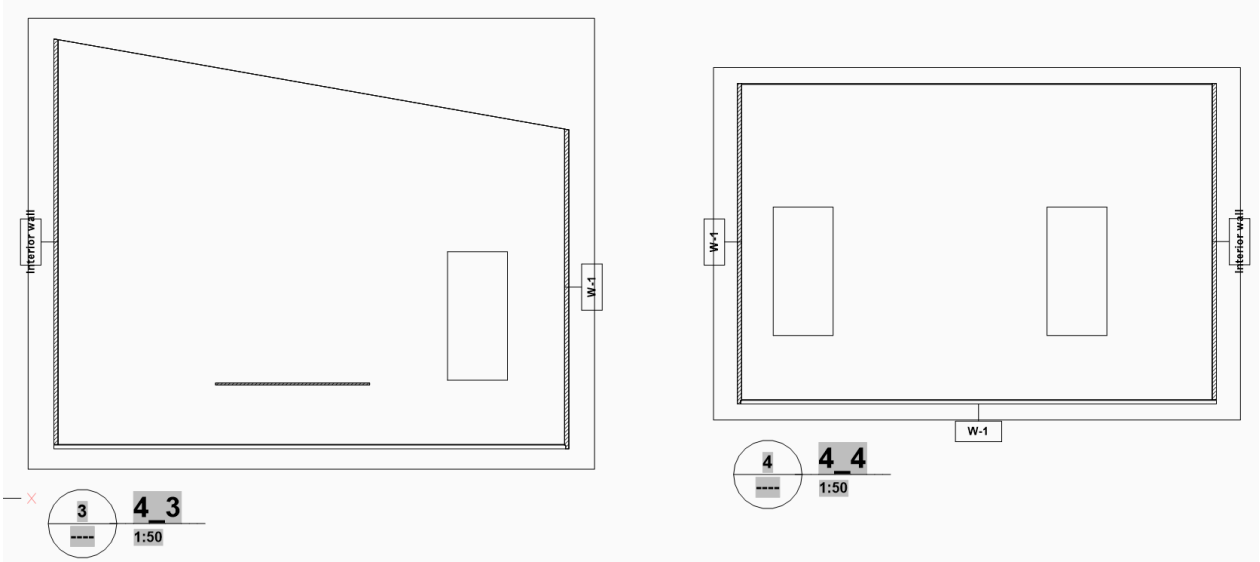
3



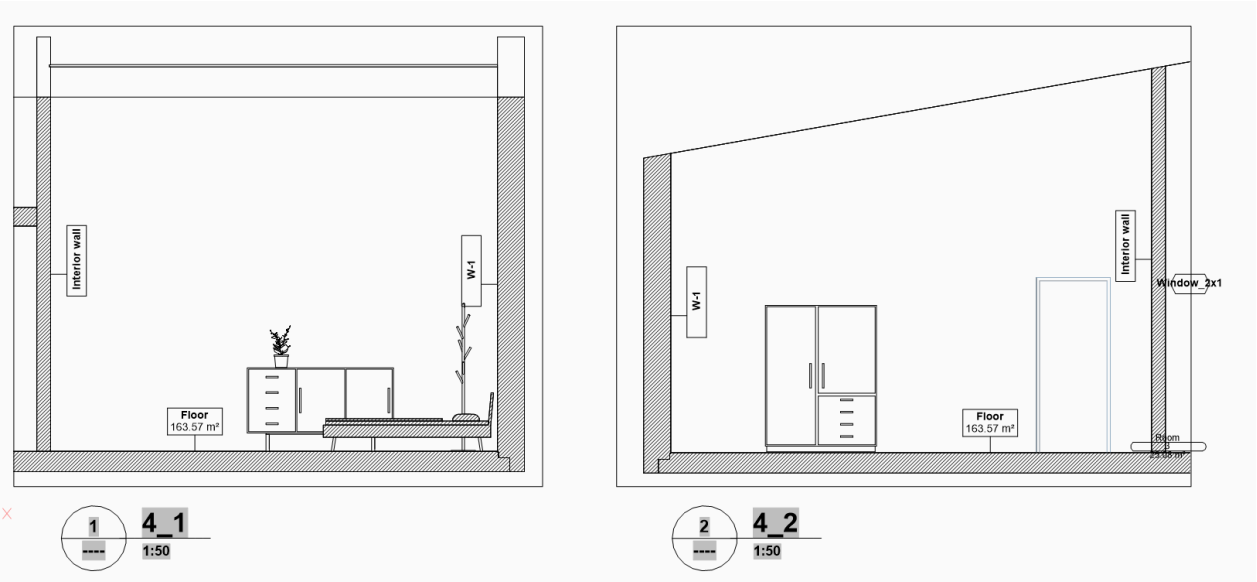
4 その結果、家具を含めたより詳細な断面図シートが出来上がります。

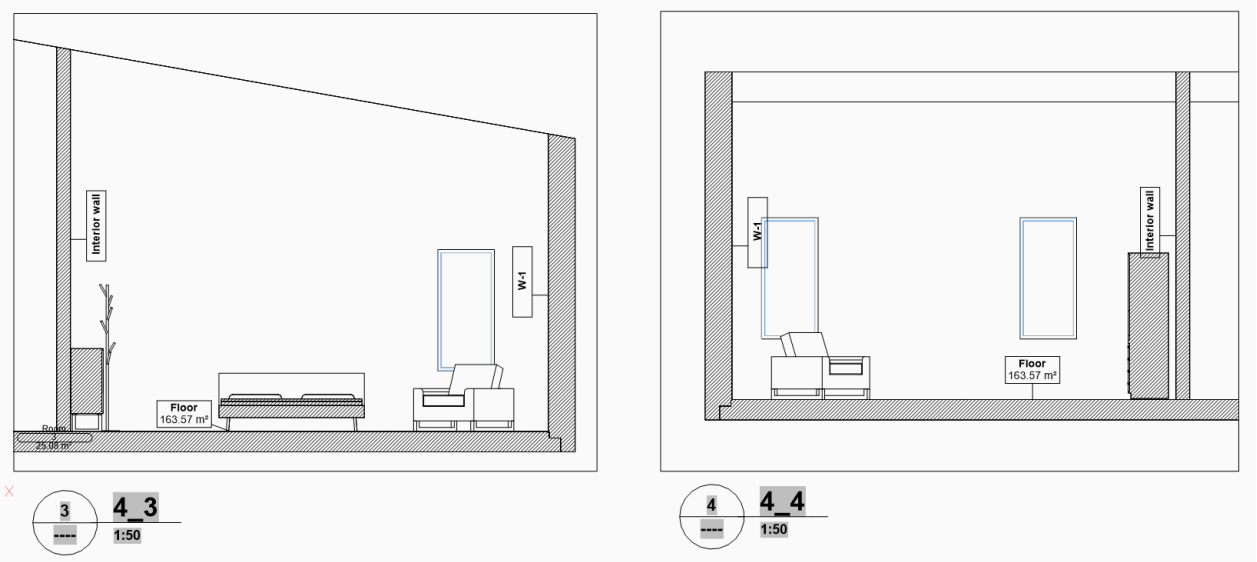
5





オフセット距離指定なし(50mm)





指定のオフセット距離(2100mm)

26.11 指定点高さのレベル

26.11.1 コマンド

BIMTAG [タグ]

26.11.2 概要

指定点高さタグは、断面図に表示されたBIMオブジェクトの選択されたポイントの絶対高さを、**世界座標系(WCS)**に基づいて表示します。

指定点高さタグは連想タグタイプなので、図面シートの**ペーパー空間**でしか使用できません。

シートの設定やプロジェクトの作成方法については、**プロジェクトブラウザ**の記事をご参照ください。

26.11.3 手順：断面図シートに指定点高さタグを配置する方法

1 モデルの断面図シートを開きます。**プロジェクトブラウザ**で断面図を右クリックし、**断面結果を表示**を選択します。

2 コマンドラインにBIMTAGと入力するか、**または**クワッドの**作成**メニューで**タグ**をクリックします。

3 **プロンプト表示**: [手動/ボックス選択/選択オプション (?)]

Mと入力して**手動**を選択し、Enterを押します。

4 **プロンプト表示**：[自動/現在のマルチ引出線のスタイル/タグタイプの変更]

Tと入力して**タグ**タイプを変更し、Enterを押します。

5 **プロンプト表示**：[タグ/複合材/耐荷重性方向/指定点高さ]

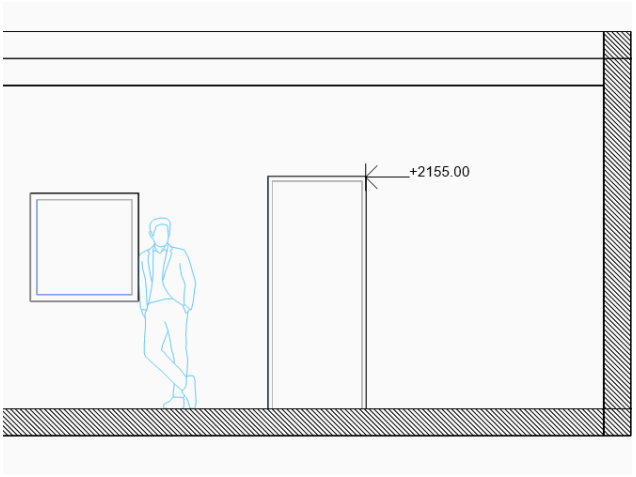
Sと入力して**指定点高さ**を選択し、Enterを押します

6 BIMオブジェクトのエッジにあるポイントをクリックすると、高さが表示されます。表示される値は、モデルのレベル0を基準にして測定された高さレベルです。

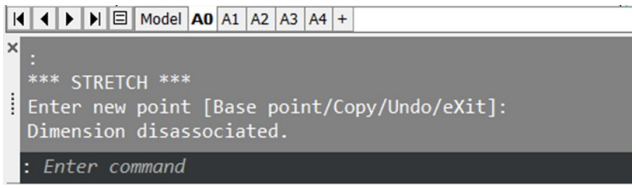
注 : BIMオブジェクトのエッジ上の任意の点を選択できます。スナップポイントの選択を行いたくない場合は、図形スナップをオフにしてください。

7 タグを置く場所に複数のタグが考えられる場合、画面下にホットキーアシスタント(HKA)が表示されている間に、CTRLを押してさまざまなオプションをスクロールします。

8 タグの位置を調整するにはカーソルを移動し、左クリックしてタグを配置します。

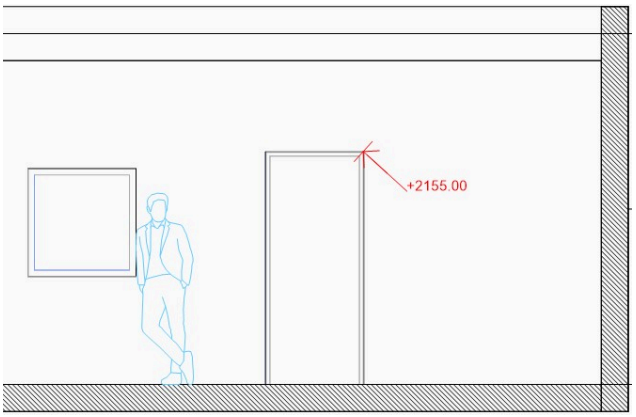


注 : 指定点高さのレベルは、非ダイナミックな値です。タグを移動させても、それに合わせて値が変わるとは限りません。更新されないタグを移動させた瞬間、コマンドラインでタグの値が分離していくのがわかります。

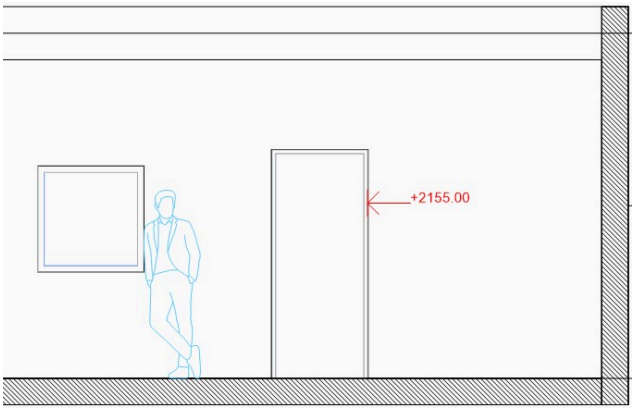


9 正しい値が表示されるように断面図を更新する必要があります。断面図を選択してクワッドを開き、**モデル**タブの**断面図を更新**をクリックします。

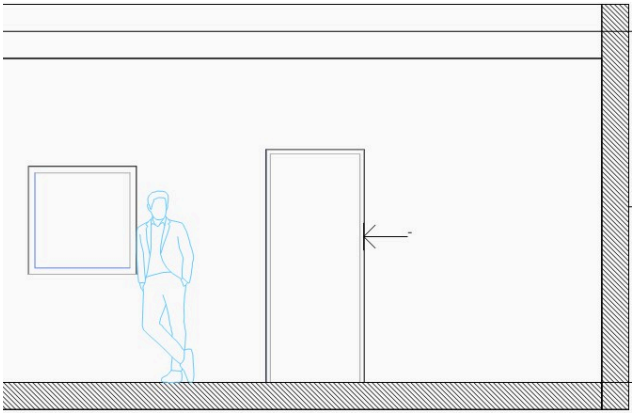
注 :タグの位置がずれてしまうと、下図のように赤くなったり、値を省略したりと、不合理で無計画な挙動になってしまうことがあります。



引出線の矢印の位置をずらして断面図を更新すると、タグが赤くなりました。



タグ全体を移動させて断面図を更新すると、タグが赤くなりました。

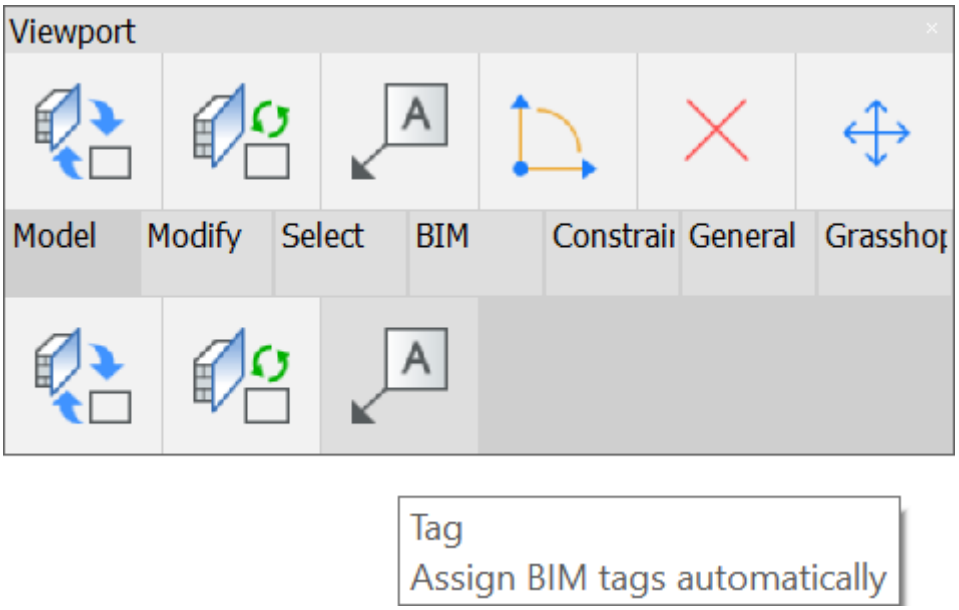


タグの位置をずらして断面図を更新すると、タグの値が消えました。

26.11.4　手順：立面図シートに指定点高さタグを配置する方法

1　モデルの立面図シートを開きます。**プロジェクトブラウザ**で立面図シートを右クリックし**ビューを表示**を選択します。

2　コマンドラインにBIMTAGと入力するか、またはクワッドの**モデル**メニューで**タグ**をクリックします。



3 **プロンプト表示**：[手動/選択オプション(?)]

Mと入力して**手動**を選択し、Enterを押します。

4 **次のプロンプト表示**：[自動/現在のマルチ引出線のスタイル/タグタイプの変更]

Tと入力して**タグ**タイプを変更し、Enterを押します。

5 **最後のプロンプト表示**：[タグ/複合材/耐荷重性方向/指定点高さ]

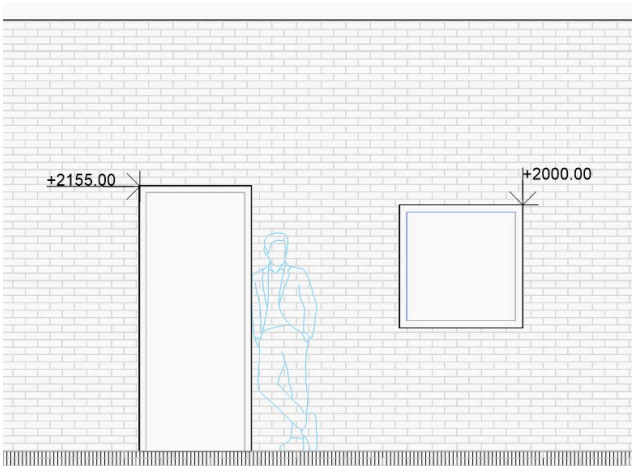
Sと入力して**指定点高さ**を選択し、Enterを押します

6 BIMオブジェクトのエッジにあるポイントをクリックすると、高さが表示されます。表示される値は、モデルの平面0を基準にして測定された絶対高さレベルです。

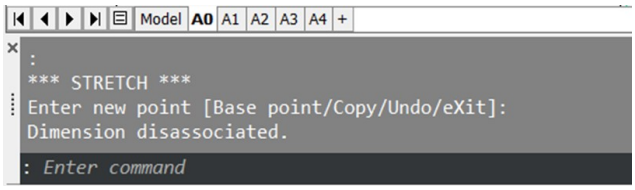
注：BIMオブジェクトのエッジ上の任意の点を選択できます。スナップポイントの選択を行いたくない場合は、図形スナップをオフにしてください。

7 タグを置く場所に複数のタグが考えられる場合、画面下にホットキーアシスタント(HKA)が表示されている間に、CTRLを押してさまざまなオプションをスクロールします。

8 タグの位置を調整するにはカーソルを移動し、左クリックしてタグを配置します。

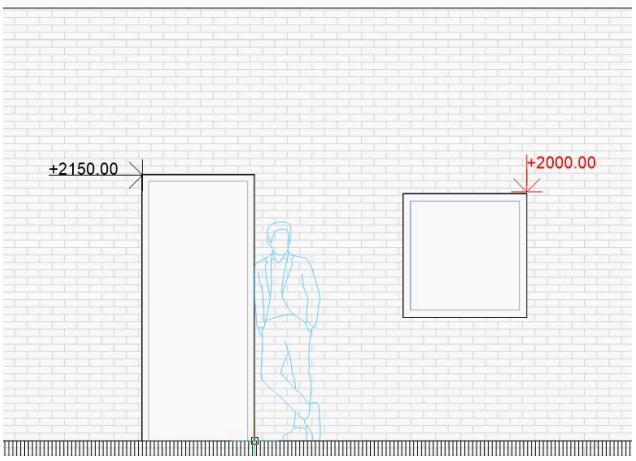


注：指定点高さのレベルは、非ダイナミックな値です。タグを移動させても、それに合わせて値が変わるとは限りません。更新されないタグを移動させた瞬間、コマンドラインでタグの値が分離していくのがわかります。

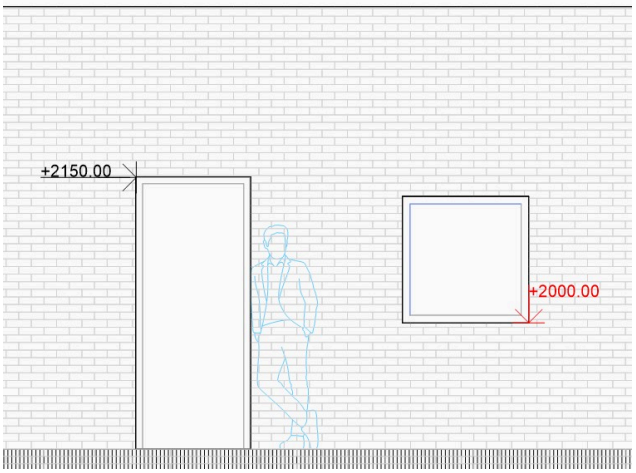


9 正しい値が表示されるように断面図を更新する必要があります。断面図を選択してクワッドを開き、**モデル**タブの**断面図を更新**をクリックします。

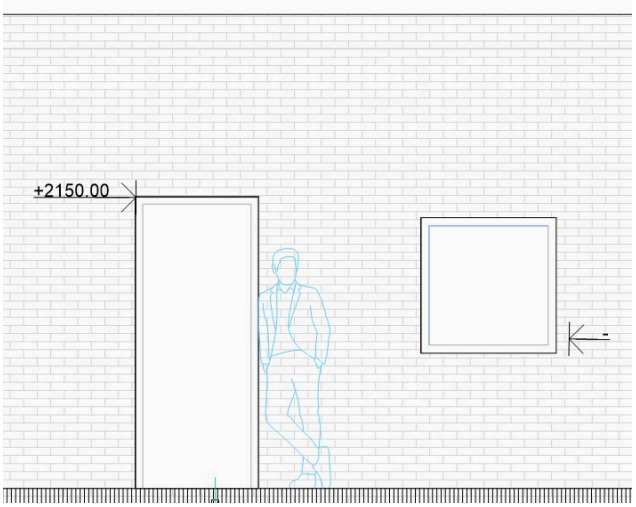
タグは、移動したときに赤くなったり、値が省略されたりするなど、非合理的で行き当たりばったりの動作をすべきではありません。



引出線の矢印の位置をずらして断面図を更新すると、タグが赤くなりました。



タグ全体を移動させて断面図を更新すると、タグが赤くなりました。



タグの位置をずらして断面図を更新すると、タグの値が消えました。

26.11.5　手順：平面図または天井伏図に指定点高さレベルタグを配置する

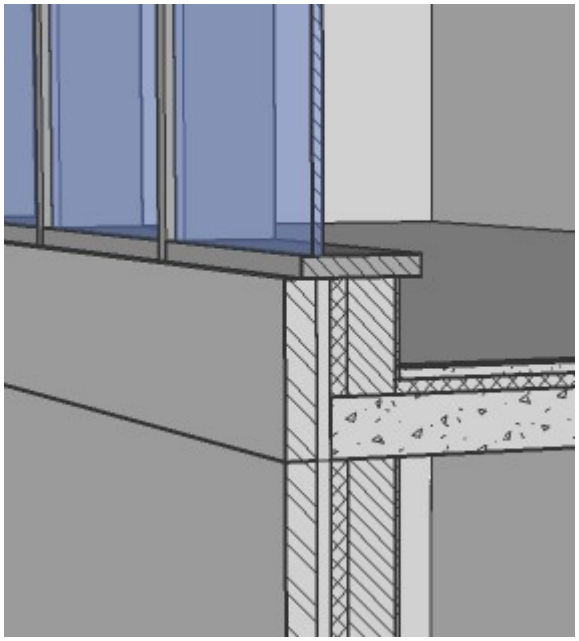
1　**プロジェクトブラウザ**から、平面図または天井伏図を開きます。

2　「断面図シートに指定点高さレベルタグを配置する方法」のステップ2-7をご覧ください。

3　平面図と天井伏図では、2種類のタグが利用可能です。

- **マルチ引出線を使用**

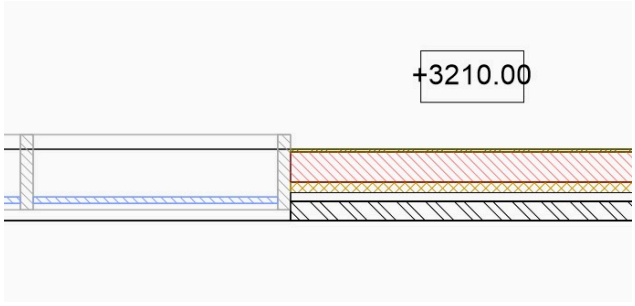
  これは断面図や立面図にも通常使用されている、引出線で図示するタイプの注釈タグです。このタグは、下の写真の窓枠のように、床や天井の高さに達していない、または並んでいない図形に使用することができます。

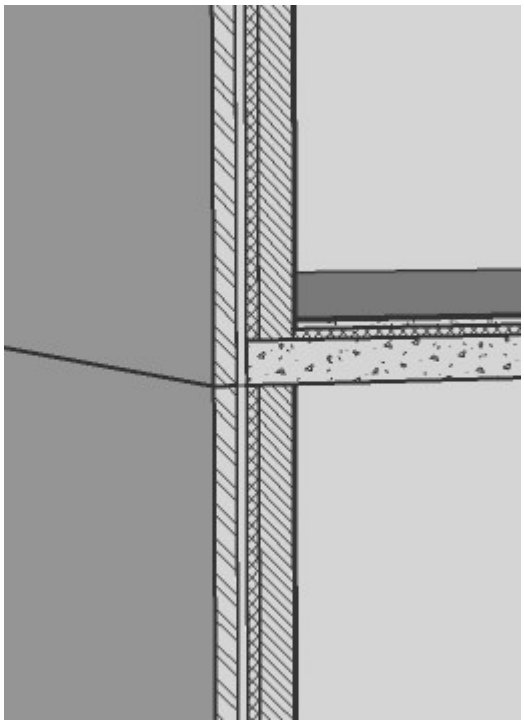


床面ではなく、窓枠レベルの指定点高さのタグ。

- **マルチ引出線を使用しない**

  このタグは、立面図や断面図シートに記載されているタグとは異なるレイアウトになっています。このタグは、床や天井面に到達した図形に指定点高さタグを配置したときに表示され、床面の標高レベルを表示します。



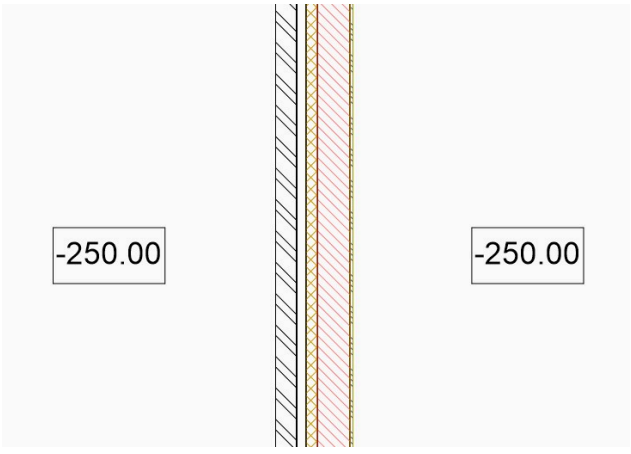


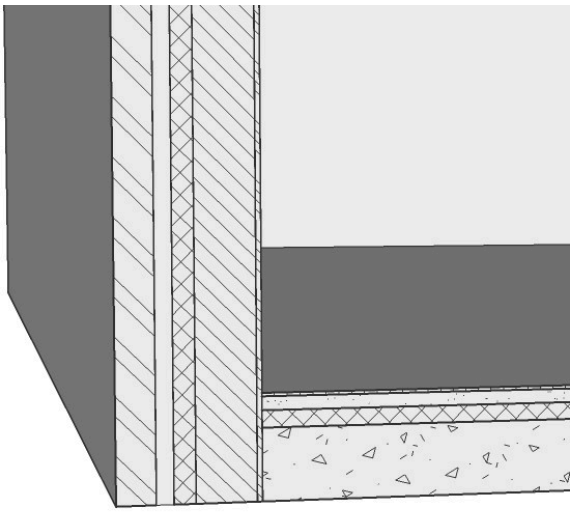
床スラブまで届く壁の指定点高さレベルタグ。

4 平面図で壁にタグを配置する際、壁のプライが異なると結果が異なる場合があります。これは、BricsCADでの高さレベルの測定方法によるものです。平面図ビューで図形に指定点高さタグを配置する際、該当する場合は図形のプライの下層の高さ値を参照します。同様に、天井伏図にタグを配置すると、プライの上層部が計測されます。壁のプライは細部の接合部の設計がどんなものかによって長さが異なるため、選択したプライによって指定点高さタグの値が異なる場合があります。

- **未編集のプライを使った構造の細部**

  内側と外側のプライの高さは同じです。そのため、平面図でこの壁に配置した指定点高さタグは、すべて同じ値を示します。

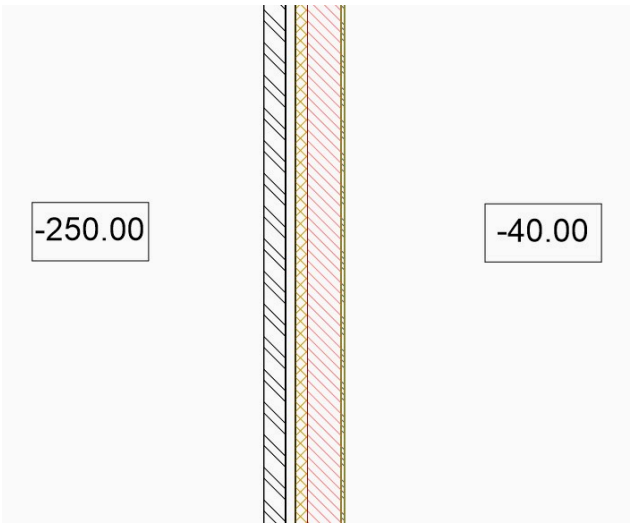


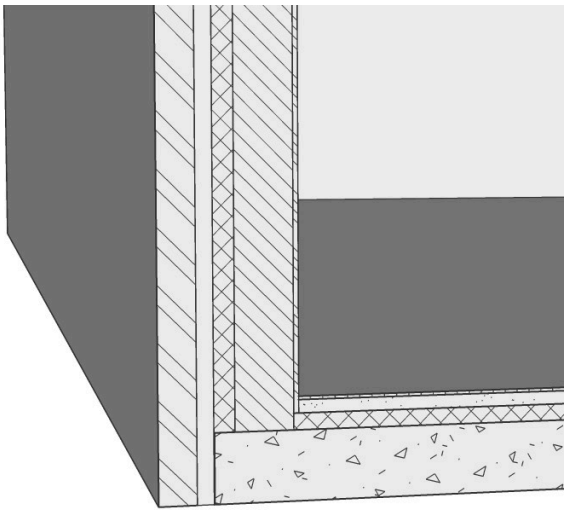


注 : このモデルでは床0が1階の上側のレベルと定義されているため、値は0ではなく-250となります。

- **編集された構造の細部**

  どのように構築されるかに基づいて壁と床スラブの接続方法を調整した場合、壁のプライは異なる長さを持つことになります。どのプライを選択して指定点高さレベルタグを配置するかによって、異なる値が表示されます。

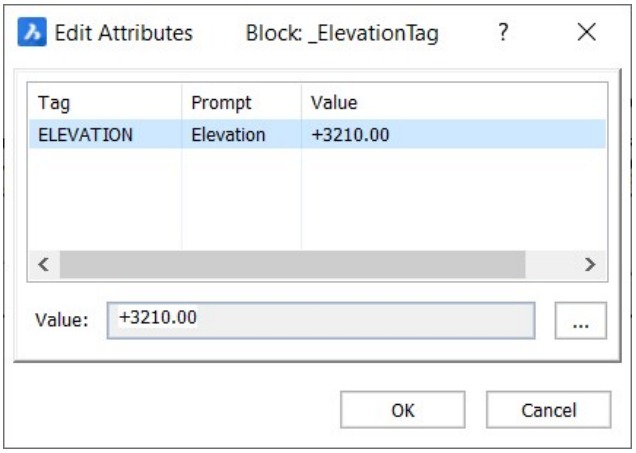




内部プライは、床面のベースレベルまで達していないため、高さレベルがより高くなります。

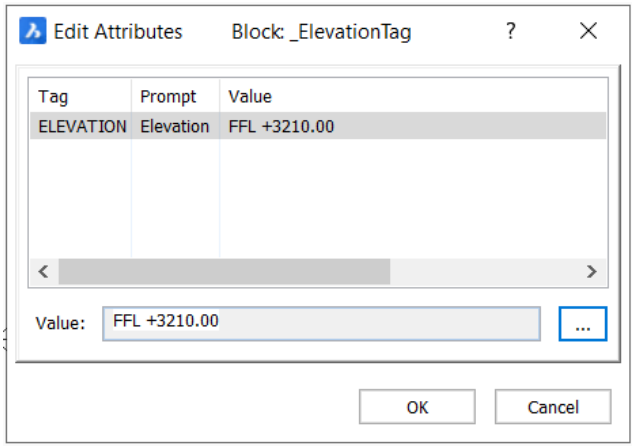
26.11.6　手順：タグのレイアウト調整

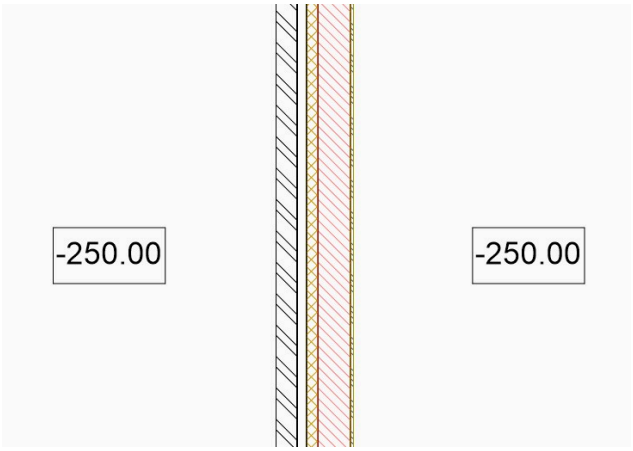
1　指定点高さタグの値をダブルクリックして、レイアウトを調整します。ダイアログボックスが表示され、属性を編集することができます。



2　参照ボタンをクリックすると、**文字フォーマッティング**ダイアログが開きます。

3　ここでは、指定点高さレベルタグの表示値の属性を編集することができます。値に接頭辞や接尾辞をつけることができます。言及しているレベルをより明確にするために、FFL、SSLを使用しています。





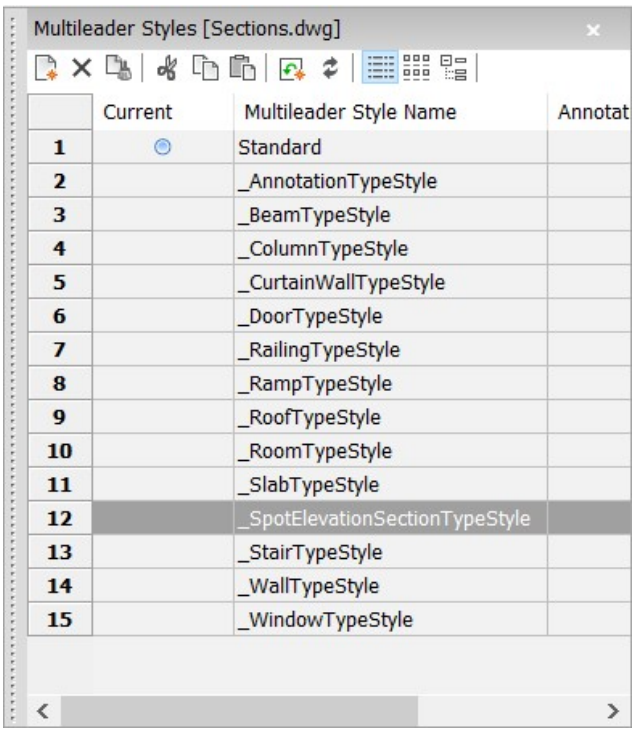
4 接頭辞や接尾辞がよく使われる場合は、タグブロックを作成または編集することで、ステップ3を繰り返さなくて済みます。詳しくは、コマンド記事『BEDIT』をご参照ください。

5 属性についての詳しい説明は、コマンド記事『MText』をご参照ください。

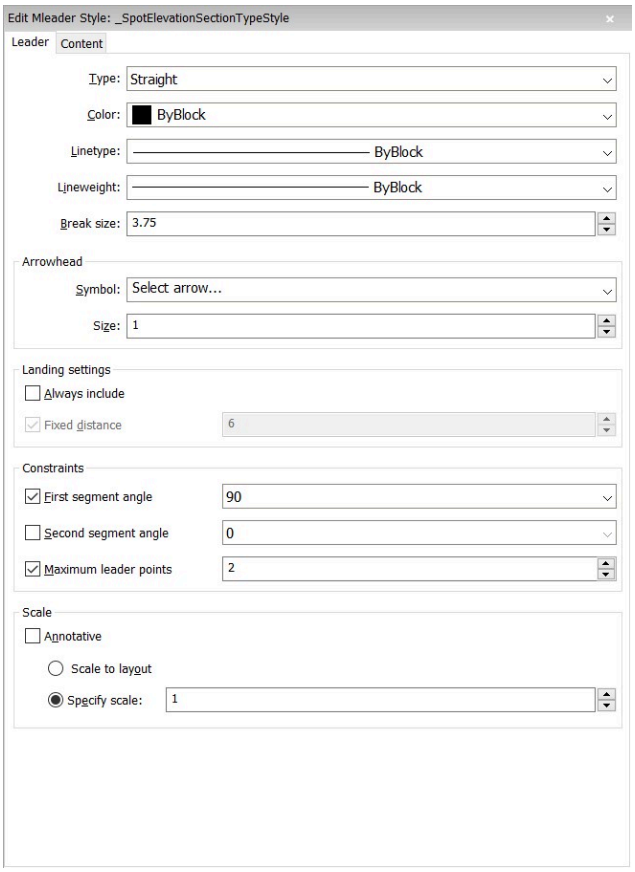
26.11.7 手順：引出線のレイアウト調整

1 コマンドラインにMLEADERSTYLEと入力し、Enterを押します。**図面エクスプローラ**ダイアログボックスが表示され、引出線のレイアウトを調整できます。

2 **マルチ引出線スタイル**ダイアログボックスの**指定点高さ断面図タイプスタイル**をクリックします。

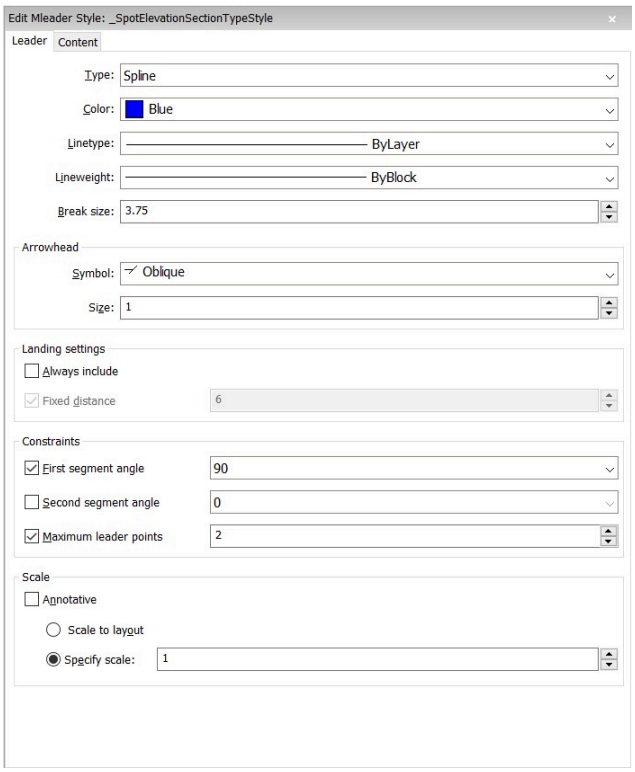


3 **マルチ引出線編集**ダイアログボックスで、引出線の設定を編集できます。マルチ引出線のスタイル設定の詳細については、『マルチ引出線スタイル』の記事をご参照ください。

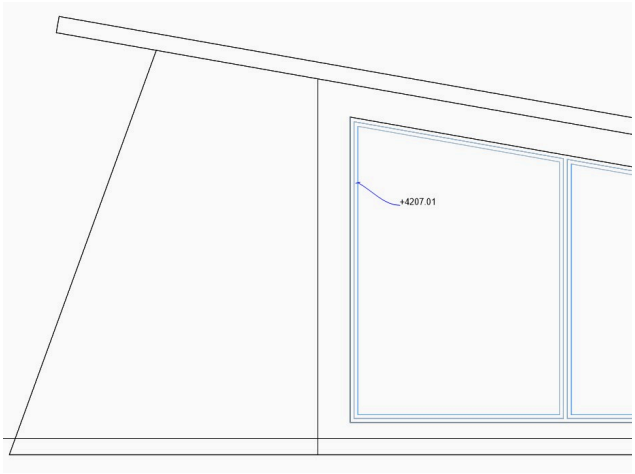


4 設定を調整した後、再作図をクリックして**図面エクスプローラ**を閉じ、断面図を更新して新しい設定を読み込みます。

注： 新しい設定が読み込まれない場合は、コマンドラインにBIMTAGと入力してビューポートを選択し、**R**をクリックして**すべてを再生成**を選択し、Enterを押すと新しい設定が読み込まれます。



新規設定



結果のBimタグ

26.12 部品表のテンプレートを使って建具表を追加する

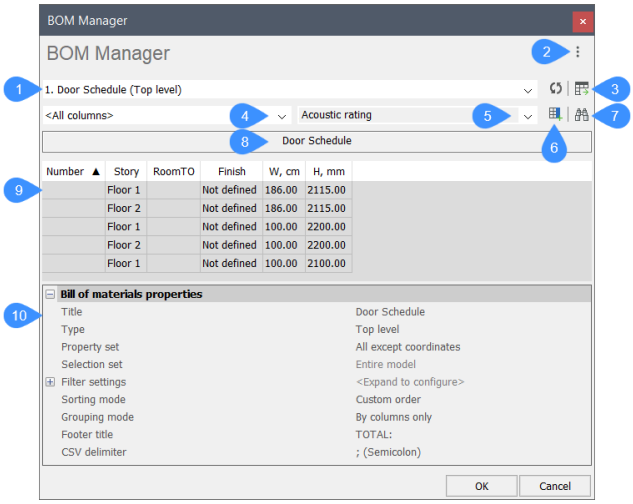
Shape Lite Pro Mechanical BIM

26.12.1 BricsCAD BIM部品表マネージャーについて

BricsCAD BIM**部品表マネージャー**パネルでは、現在のBIMプロジェクトの部品表(BOM)の表示と編集が行えます。

建築分野での部品表(BOM)とは、BIMモデル用いられる独自のBIM要素のリストのことです。BricsCADでは、リストは表図形として表示され、作図領域内のどこにでも配置することができます。部品表には、各要素の連番(1から始まる)、名前、個数が表示されます。

選択した部品表/列のプロパティは、**部品表マネージャー**パネルの下部の**部品表のプロパティ**の下のプロパティ欄に表示されます。



1 ロードした部品表ファイルとタイプ名

2 メインメニュー

3 表を配置

4 カテゴリー項目を選択

5 列項目を選択

6 列を追加(選択した列項目)

7 部品表を検索

8 部品表のタイトル

9 部品表の内容

10 プロパティ欄

BricsCAD BIM**部品表マネージャー**では、以下のことが行えます：

- 部品表を編集します：
  - 列を追加または削除します(数式の列を含みます)。
  - 新しい位置に選択した列を移動する。
  - 列の名前を変更する。
  - 部品表のソート方法を設定する。
  - 各列のフッターの値を設定する。
  - 各列の単位と表示方法を設定する。
  - 列のプロパティを持つ各列の幅を設定する。
  - 各列の表示を設定する。

  - 式を使ってコンポーネントをフィルタリングする。
  - 類似する行をグループ化する。
  - タイトル行とフッター行のタイトルを変更する。
- 部品表の中を検索する。
- 図面の中の図形を選択してハイライト表示する。
- テンプレートファイルとして部品表の設定を保存します。
- テンプレートファイルから部品表の設定をロードする。
- 図面に1つ以上の部品表インスタンスを配置する。

注：BricsCAD MechanicalおよびBricsCAD Ultimateのライセンスレベルでは、**部品表マネージャー**パネルのすべての機能が提供されます。**部品表マネージャー**および**部品表マネージャーパネル**の記事も参照してください。

26.12.2 一からドアの部品表を作成する/フィルターを設定する

注：大きいBIM図面で部品表テンプレートを作成すると、処理が大幅に遅くなる場合があります。小さいBIM図面で部品表テンプレートを作成し、それを大きいファイルで使用する方がいいでしょう。

以下の手順にしたがって、新規にドアの部品表を作成します：

1 **BIMプロジェクトブラウザパネル**を開きます。

2 **ファイル**タブをクリックします。

3 **追加**ボタン(⊕)をクリックして**新規部品表**を選択します。

一般的な**ファイルを保存**ダイアログボックスが開きます。

4 新規の部品表に名前を付けて、目的の場所に保存します。

5 **部品表マネージャー**パネルが開き、新規に部品表ファイルがロードされます。

6 **部品表マネージャーパネル**の右上にある**メインメニュー**ボタン(⋮)をクリックします。

7 **フィルターを設定**オプション(▽)を選択します。

フィルターコンフィギュレータダイアログボックスが開きます。詳細については、**フィルターコンフィギュレータダイアログボックス**の記事を参照してください。

8 **カテゴリ項目選択**ドロップダウンメニューから**BIM**を選択します。

列項目選択ドロップダウンメニューには、モデルに存在するすべてのBIMプロパティが表示されます。

9 **列項目選択**ドロップダウンメニューから、**種類**プロパティを選択します。

種類プロパティがダイアログボックスの**条件**テーブルに追加されます。

10 テーブルの**種類**行で**条件**セルをクリックし、ドロップダウンメニューから**等しい**を選択します。

種類カテゴリのプロパティの**値**が選択できるようになります。

11 **値**セルをクリックし、ドロップダウンメニューから**ドア**を選択します。

12 **OK**をクリックして、作成したフィルターを保存します。

13 (オプション)手順5から11を繰り返し、別のフィルターを追加します(たとえば、1階のドアのみを一覧表示したい場

合、**BIM**カテゴリから**階**プロパティを選択し、条件を**等しい**、値を**床 1**と選択します)。

14 (オプション)部品表のタイトルを変更します(例：**新規ドア建具表**)

15 必要な列を追加します(本記事の**新しい列を追加する**を参照)。

ドアの建具表の列によく追加されるプロパティには、**階**、**スペース**、**建設種類**(すべて**BIM**カテゴリ)があります。

16 **OK**をクリックして部品表を保存します。

部品表の操作、**新しい列を追加する**、**サムネイル列を追加する**、**数値列の単位を変更する**、**列を結合する**、**重量計算の数式列を追加する**も参照してください。

26.12.3 部品表テンプレートを読み込む

1 **BIMプロジェクトブラウザパネル**を開きます。

2 **ファイル**タブをクリックします。

3 **追加**ボタン(⊕)をクリックして**BOMを読み込み**を選択します。

読み込むBOMを選択ダイアログボックスが開きます。

4 ファイルを選択したら、**開く**をクリックします。

ファイルがBIMプロジェクトのフォルダーにコピーされ、**ファイル**タブの**建具表**フォルダーに表示されます。

26.12.4 定義した部品表から作成する

1 **BIMプロジェクトブラウザパネル**を開きます。

2 **ファイル**タブをクリックします。

3 **建具表**フォルダーを展開します。

4 定義した部品表テンプレートを右クリックし、**複製**オプションを選択します。

後ろに**-コピー**が付いた部品表ファイルが新規に作成され、BIMプロジェクトのファイルとして**建具表**フォルダーに保存されます。

5 (オプション)プロジェクトのファイル名を変更するには、新しい部品表ファイルを右クリックし、**ファイル名を変更**オプションを選択します。

6 必要に応じてテーブルを編集します(部品表での操作については後述します)。

7 **OK**をクリックして部品表を保存します。

26.12.5 シートに建具表を配置する

BIMプロジェクトの**建具表**フォルダーには、**ドア建具表**、**マテリアルリスト**、**窓建具表**の3つのテンプレートがあります。それぞれの一覧表には、最低限の関連する列が表示されており、追加する場合は**新しい列を追加する**の手順にしたがってください。

以下の手順でシートに建具表を配置します：

1 **BIMプロジェクトブラウザパネル**を開きます。

2 **シート**タブで、建具表を配置するシートを開きます。

3 **ファイル**タブで、**建具表**フォルダーを展開します。

4 (オプション)一覧から表(部品表ファイル)を選択し、目的の位置にドラッグアンドドロップします。

5 定義した部品表ファイルをダブルクリックします。

6 選択したテンプレートがロードされた状態で**部品表マネージャー**が開き、_BMBOMTEMPLATEEDITコマンドが起動します。

7 **部品表を配置**ボタン( )をクリックして、図面の目的の場所を選択します。

8 右クリックするか、**Enter**または**Esc**でコマンドを終了します。**部品表マネージャー**も閉じます。

26.12.6 部品表の操作

列の名前を変更する

1 **BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**建具表**フォルダーの部品表をダブルクリックして、**部品表マネージャー**パネルで開きます。

2 列のヘッダーをクリックして選択します。

3 **部品表マネージャー**下部のプロパティ欄に移動します。

4 **列のプロパティ**ノードの**タイトル**欄にに新しい名前を入力します。

5 **OK**をクリックして部品表を保存します。

部品表の並べ替え

1 **BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**建具表**フォルダーの部品表をダブルクリックして、**部品表マネージャー**パネルで開きます。

2 列の名前を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

3 **ソート**オプションにカーソルを合わせ、メニューから目的の並べ替え方法を選択します。

4 **OK**をクリックして部品表を保存します。

列を移動

1 **BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**建具表**フォルダーの部品表をダブルクリックして、**部品表マネージャー**パネルで開きます。

2 列のヘッダーをクリックし、部品表の中の新しい場所にドラッグアンドドロップします。

3 **OK**をクリックして部品表を保存します。

図面の中で項目をハイライト表示する

部品表の項目(任意の行セル)をクリックすると、図面の中でハイライト表示されます。

部品表の項目を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

選択

図面の中の項目を選択します。

ズーム

現在のビューで図面の項目にズームインします。

新しい列を追加する、**サムネイル列を追加する**、**数値列の単位を変更する**、**列を結合する**、**重量計算する数式列を追加する**も参照してください。

26.12.7　新しい列を追加する

部品表に項目のプロパティの列を追加します。

図形のプロパティは、すべて**プロパティ**パネルのプロパティのカテゴリーの下に表示されます。プロパティが属するカテゴリーを確認するには、図面内でそのプロパティを持つ図形を選択し、**プロパティ**パネルで選択してください。

たとえば、選択したドアの**FrameDepth**プロパティは、**プロパティ**パネルの**パラメータ**カテゴリーにあります。

部品表マネージャーパネルの**カテゴリー項目選択**ドロップダウンメニューには、モデルで使用可能なすべてのプロパティのカテゴリーが一覧表示されます。**列項目選択**ドロップダウンメニューには、**カテゴリー項目選択**で選択したカテゴリーに属するすべてのプロパティが一覧表示されます。

FrameDepth列を部品表に追加するには、次の手順で行います。

1　**カテゴリー項目選択**ドロップダウンメニューから、**パラメータ**カテゴリーを選択します。
2　**列項目選択**ドロップダウンメニューから、**FrameDepth**プロパティを選択します。
3　(オプション)新しい列を挿入する手前の列を選択します(列が選択されていない場合、新しい列は最後の列の後に追加されます)。
4　**列を後に挿入**ボタン( )をクリックします。
5　**OK**をクリックして部品表を保存します。

26.12.8　サムネイル列を追加する

1　**部品表マネージャーパネル**の右上にある**メインメニュー**ボタン(⋮)をクリックします。
2　**サムネイル列を挿入**オプションを選択します。
　サムネイル列が追加され、**ビュータイプ**プロパティが**右上背面**に設定されます。
3　(オプション)**部品表マネージャー**下部にあるプロパティ欄の**部品表のプロパティ**から**ビュータイプ**プロパティを変更します。
4　**OK**をクリックして部品表を保存します。

26.12.9　数値列の単位を変更する

列の単位を変更する：

1　列のヘッダーをクリックして選択します(たとえば、**ドア建具表**の**W**列)。
2　**部品表マネージャー**パネル下部にあるプロパティ欄の**列プロパティ**に移動します。
3　(オプション)**単位を配置**プロパティで、**追加の列**を選択します。
　選択した列の後に別の**単位**列が追加されます。
4　**単位モード**プロパティで**ユーザ定義**オプションを選択します。
　新しい**単位**プロパティが、**列プロパティ**ノードの下の列に表示されます。
5　手順1を繰り返します。
6　**単位**プロパティで、ドロップダウンメニューから目的の単位を選択します。
7　**OK**をクリックして部品表を保存します。

26.12.10 列を結合する

1 列ヘッダーをクリックして、テーブル内の列を選択します。**Ctrl**または**Shift**で複数の列を選択します。

2 列ヘッダーを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

3 **選択対象からテンプレート列を追加**オプションを選択します。

テンプレート列ダイアログボックスが開きます(詳細については、**テンプレート列ダイアログボックス**の記事を参照してください)。

4 **タイトル**フィールドに列の名前を入力します。

5 (オプション)古い列を削除します。

6 **OK**をクリックして部品表を保存します。

26.12.11 式列を追加して重量を計算する

数式列を使用して、**数式**カテゴリーの**プライの実体積**プロパティに**物理的マテリアル**カテゴリーの**Density**プロパティをかけて、使用した材料の重量を計算することができます。

1 **カテゴリー項目選択**ドロップダウンメニューから、**<評価列>**を選択します。

2 **列項目選択**ドロップダウンメニューから、**<数式列>**を選択します。

3 **列を後に挿入**ボタン( )をクリックします。

数式列ダイアログボックスが開きます(詳細については、**数式列ダイアログボックス**の記事を参照してください)。

4 **タイトル**フィールドに新しい列の名前(**例. 重量**)を入力します。

5 **単位**フィールドで**質量**を選択します。

2番目のフィールドは**kg**と自動入力されます。必要に応じて単位を変更します。

6 **数式列**ダイアログボックスの**カテゴリー項目選択**ドロップダウンメニューから、**数式**を選択します。

7 **数式列**ダイアログボックスの**カテゴリー項目選択**ドロップダウンメニューから、**プライの実体積**を選択します。

数式フィールドは、文字列<Formula:Ply Net Volume>と自動入力されます。

8 数式欄の既存の文字列の次に乗算記号('*')を入力します。

9 **数式列**ダイアログボックスの**カテゴリー項目選択**ドロップダウンメニューに戻り、**物理的マテリアル**を選択します。

10 **数式列**ダイアログボックスの**列項目選択**ドロップダウンメニューから、**Density**を選択します。

数式欄は、既存の文字列の次の文字列「<Density>」によって自動入力されます。数式は、<Formula:Ply Net Volume>*<Density>となります。

11 **OK**をクリックして**数式列**ダイアログボックスを閉じ、新しい列をテーブルに追加します。

12 **OK**をクリックして部品表を保存します。

26.13 データ抽出定義(.dxd)ファイルの編集

注：V22以降、DXDファイルの構文はバージョン2.0を使用しています。

- パスセクションが追加されました。
- 論理演算はinfix記法を使用します。(EntityType=="3D Solid")と(Type=="BIM_COLUMN")は、接頭辞の代わりに使用されます。AND(EntityType=="3D Solid") (Type=="BIM_COLUMN")となります。

DXD(Data Extraction Definition)ファイルは、プレーンテキストファイルです。DATAEXTRACTIONコマンドで作成したDXDファイルをMS Notepadなどのテキストエディターで編集し、**プロジェクトブラウザ**の建具表作成手順で使用することができます。

セミコロン(;)で始まる行はコメントであり、解析時には無視されます。空行も同様に無視されます。

ファイルには4つのセクションを含めることができ、各セクション名は角括弧で区切られています。セクション名は英語の大文字小文字を区別しない(ECI)文字列です。セクションは以下の通りです。

- **パス**
- **設定**
- **図形タイプ**
- **プロパティ**
- **フィルター**

26.13.1 パスセクション

図面ファイルを検索するパスを一覧表示します。

$CurDwg：カレント図面

$CurProj：カレントプロジェクト

26.13.2 設定セクション

このセクションには、動作をコントロールする以下のパラメータの値が含まれています：

- **ExtractFromBlocks** - すべてのネストレベルを考慮して、ブロックからの図形を考慮に入れるかどうか。
- **ExtractFromXrefs** - 外部参照からの図形を考慮に入れるかどうか。
- **CountXrefs** - 外部参照が全て考慮されているかどうか。
- **combineEqualRows** - 出力テーブルで等しい行をグループ化するかどうか。そうである場合は、**カウント**列が追加され、どのように等しいデータ行が多数含まれています。
- **IncludeNameColumn** - 出力に **Name** 列が含まれているかどうか。**名前**列には、ソース図形タイプ(3D ソリッド、3D ソリッドプライ、...)が示されます。

パラメータ名はECIの文字列です。フォーマットは以下の通りです：

パラメータ名=値。

値は1または0です。イコール(=)文字の周りにはスペースを書いてはいけません。

26.13.3 図形タイプセクション

このセクションでは、処理される図形タイプのリストが含まれています。各行のフォーマットは、以下のいずれかのタイプになります。

図形タイプ | 図形タイプ表示

- **図形タイプ**は、**円**や**属性定義**のようなECI図形タイプ名です。これはラインの必須部分です。
- **図形タイプ表示**はオプションで、スペースを含む任意の文字列を任意の言語で指定できます。この文字列がある場合、**データ抽出**ダイアログと出力テーブルに表示されます。

ブロック | ブロック名 | ブロック名表示

- **ブロック**は定義済みのECIワード、**ブロック名**は大文字小文字を区別しない処理対象ブロックの名前で、**外部参照**と**マルチ挿入**も含まれます。
- **ブロック名表示**はオプションであり、**図形タイプ図家表示**と同じ意味と形式を持ちます。

ブロック | *

これは、すべてのブロックが考慮されることを意味し、以前の形式の変形です。存在する場合は、このセクションのブロックに関する他のすべての行は無視されます。処理対象のコンテンツをフィルタリングするためにフィルターセクションを使用することができます。

*

すべての図形タイプとブロックが考慮されます、このセクションの他のすべての行は、無視されます。処理対象のコンテンツをフィルタリングするために**フィルター**セクションを使用することができます。

26.13.4 プロパティセクション

このセクションには、データ抽出出力に含まれるすべてのプロパティのリストが含まれています。各行のフォーマットは以下のタイプのいずれかになります。**図形プロパティ**、**属性**、**図面**、**式**、**ブロックビュー**のいずれかになります。

図形プロパティ名 | 図形プロパティ名表示 | 出力数式値

- **図形プロパティ名**は、図形プロパティのECI名で、例えば**Lineweight**、**Color**、**Center Y**といった具合です。なお、すべての名前には、2Dまたは3Dの点またはベクトルの座標を表すものを除き、スペースは含まれません。最後の場合、座標文字X、Y、Zは、一般的なプロパティ名から半角スペースで区切る必要があります。

  図形プロパティ名は必須部分であり、残りの部分は任意です。
- **図形プロパティ名表示**はユーザー定義で、スペースを含む任意の文字列を任意の言語で記述できます。デフォルトでは、**図形プロパティ名**と等しくなります。
- **出力数式値** は、出力をフォーマットするために使用される文字列です。文字列の構文はフィールドの書式設定と同じです。

Attribute | 属性タグ名 | 属性タグ名表示 | 出力数式値

- **Attribute**は、事前定義されたECIワードです。
- **属性タグ名**は図面に保存されているECI属性タグ名です。
- **属性タグ名表示**は**図形プロパティ名**(上記参照)と同じ意味を持ちます。
- **出力数式値** は、出力をフォーマットするために使用される文字列です。文字列の構文はフィールドの書式設定と同じです。

Drawing | 図面プロパティ名 | プロパティ名表示 | 出力数式値

- **Drawing**は、事前定義されたECIの用語です。
- **図面プロパティ名**は、次のいずれかのECI名です：
  - Comments
  - DrawingRevisionNumber
  - FileAccessed
  - FileCreated
  - FileLastSavedBy

  - FileLocation
  - FileModified
  - FileName
  - FileSize
  - HyperlinkBase
  - Keywords
  - Subject
  - タイトル
  - TotalEditingTime
- **プロパティ名表示**は**図形プロパティ名**(上記参照)と同じ意味を持ちます。
- **出力数式値** は、出力をフォーマットするために使用される文字列です。文字列の構文はフィールドの書式設定と同じです。

Formula | 図形プロパティ名 | 図形プロパティ名表示 = フォーミュラ式 | 出力数式値

- **Formula**は、事前定義されたECIの用語です。
- **図形プロパティ名**は、この数式アイテムの一意の名前です。
- **図形プロパティ名表示**はプロパティの任意の出力名であり、省略された場合は**図形プロパティ名**が表の列タイトルとして使用されます。
- = は**図形プロパティ名表示**を省略しても存在しなければならない必須の印です。
- **フォーミュラ式**は、PIなどの定数やSINなどの関数を含むことができる、¥AcExprの数式フィールドのような形式の式です。(式の使用を参照)式の中のオペランドは、矢括弧で囲まれた**プロパティ名表示**とすることができます(<>)。

  例： =2 * PI *<Radius> 円の周長を計算します。
- **出力数式値** は、出力をフォーマットするために使用される文字列です。文字列の構文はフィールドの書式設定と同じです。

BlockView | ブロックビュープロパティ名 | ブロックビュープロパティ名表示 | ブロックビューオプション

- **BlockView**は、事前定義されたECIワードです。
- **ブロックビュープロパティ名**は、このブロックビューアイテムの一意の名前です。
- **図形プロパティ名表示**は、プロパティの出力名です。省略することはできません
- **ブロックビューオプション**は、以下の形式の文字列です：

  ViewType;DwgPath;SectionName

  - **ViewType**は以下のいずれかです。**正面**、**上面**、**左**、または**右**。省略できません。
  - **DwgPath**はdwgファイルへのパスで、dxdファイルからの相対パスである可能性があり、省略ができます。
  - **セクション名**は、ブロックビュー構築のためのセクション設定を抽出するセクションの名前です。省略ができます。

DwgPathまたは**セクション名**が省略されたり、見つからない場合は、既定の設定が適用されます。

例を挙げると...

BlockView|BlockViewProperty1|Elevation symbol|Front;.../Sections/SectionSettings.dwg;_BlockViewSettingsSection

*

存在する場合は、すべての図形のプロパティが考慮され、このセクションの他のすべての行は、図面と数式以外は無視されます。

注：空欄検索は" "(要スペース)

26.13.5　フィルターセクション

構文の説明：

関連演算子：

演算子	意味
==	等しい
!=	等しくない
<	未満
>	超過
<=	以下
>=	以上

- 関係式は、'()'括弧で囲まれています。
- 論理演算子ANDとORは、大文字と小文字を区別しません。
- 論理式は接頭表記を使用します。
- トークンは、論理式の開始を除き、ゼロまたは任意の数のスペースで区切ることができます。
- 例：

  (Layer == "MyLayer")および(Thickness<=3)
- 式は、行の任意の数に分割することができます。トークンは破壊されません。
- プロパティ(**図形プロパティ名表示**ではない)を参照するには**図形プロパティ名**を使用してください。
- 行は ';' でコメントを残すことができます。
- 文字列の値は二重引用符""で囲まれています。

(Type == BIM_WINDOW) または (Type == BIM_DOOR)

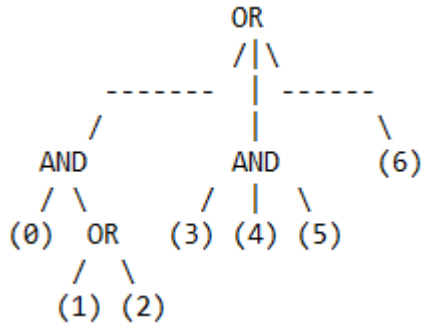
上記の例のフィルターの結果、窓またはドアに分類されたBIM図形のみがデータ抽出に含まれます。BIM図形タイプの詳細については、BIMCLASSIFYコマンドを参照してください。

フィルター式は、単一のリレーショナルなものか、論理演算によってグループ化された複数のもののいずれかです。

例：

((0)および((1)または(2)))または((3)および(4)および(5))または(6)

ここで、(0),...,(6)は、(Radius> = 3)のような関係式です。



26.14 BIMでの点群を使用した作業

26.14.1 点群スキャンからBIMワークフローについて

「点群スキャンからBIM」半自動ワークフローは、次の4つのステップで構成されています。

1. フロアの検出
POINTCLOUDDETECTFLOORSコマンドでフロアを検出します。点群で選択した各点にフロア番号が割り当てられます。

2. 部屋の検出
POINTCLOUDDETECTROOMSコマンドで部屋を検出します。点群で選択した各点に部屋番号が割り当てられます。

3. 部屋ソリッドの作成
POINTCLOUDFITROOMSコマンドを使い、検出された部屋に基づいて部屋ソリッドを作成します。

4. BIMコンポーネントの作成
BIMINVERTSPACESコマンドを使い、選択したソリッド、壁開口部、外壁、スラブの間に壁を作成します。

ワークフローの詳細については、**点群スキャンからBIMワークフロー**の記事を参照してください。

26.14.2 POINTCLOUDFITPLANARについて

POINTCLOUDFITPLANARは、点群スキャンに基づいて3Dジオメトリを半自動的に作成するために使用されます。点群内の1点を選択すると、平面サーフェスまたはソリッドが作成されます。平面にあるように見えるポイントは必ずしも1つの平面にあるとは限らないため、しきい値が点群図形のプロパティとして設定されます。これはバブルビューでも行えます。

点群の平面を選択し、与えられたジオメトリに基づいて3Dソリッドを生成します。これらの3Dソリッドは、フルBIMモデルを作成する過程でさらに使用することができます。

このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『POINTCLOUDFITPLANAR』をご参照ください。

バブルビューから3Dソリッドを作成

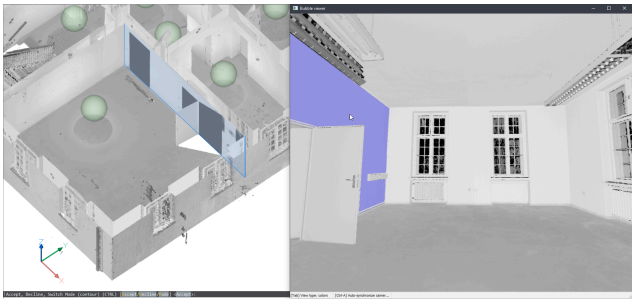
コマンドを起動する前にバブルビューアが開いている場合BricsCADはバブルビューアで選択することを想定しています。カーソル位置に平面の方向がプレビュー表示されます。クリックすると、バブルビューとモデルビューの両方でプレビューが表示されます。2つの形状表現は、Ctrlで切り替えることができます。

1 緑色の点群バブルをダブルクリックすると、バブルビューアーが表示されます。

2 コマンドラインにPOINTCLOUDFITPLANARと入力します。

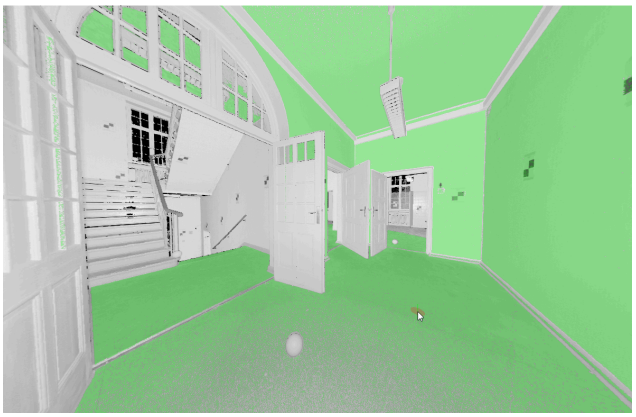
3 目的となる壁を選択します。

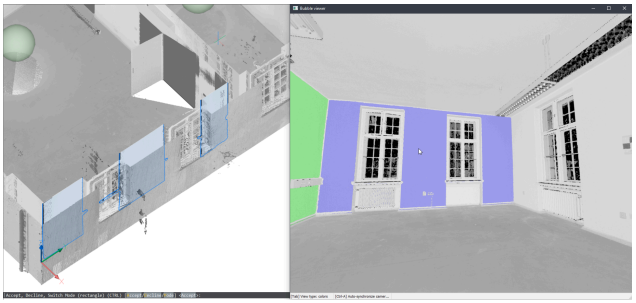
4



5 Aボタンを押して選択を確定します。

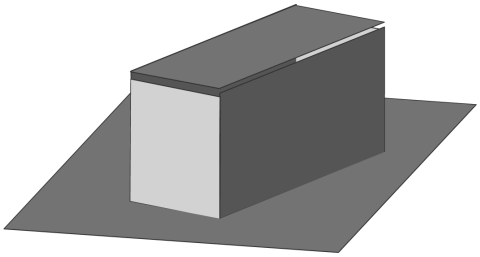
6 (オプション) さらに壁を選択します。

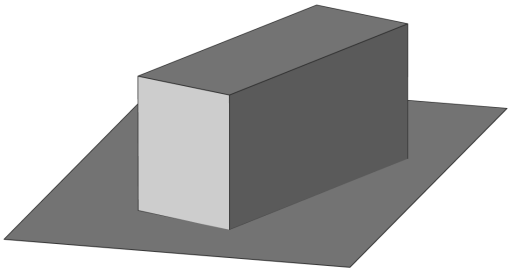




7 バブルビューアーを閉じます。

8 サーフェスが作成され、LCONNECTなどの接続ツールで閉じた空間に編集することができます。





モデル空間から3D図形を作成

バブルビューアが開いていないときに、モデル空間でこのコマンドを使用することができます。BricsCADでは、モデル空間で点群のポイントを選択するよう求められます。点群クロップのサイズによっては時間がかかりますが、複数のスキャン位置を検索することには2つの利点があります：

- 各スキャン位置で部分的にしか表示されない大きなサーフェスを作成できます。
- 反対側のサーフェスも対象範囲に含めることができるため、壁と平板の厚さを検出できます。

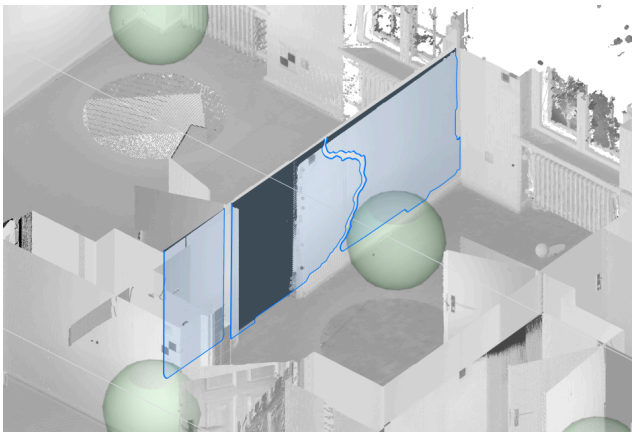
1 コマンドラインにPOINTCLOUDFITPLANARと入力します。

2 平面やソリッドを作成したい壁を選択します。

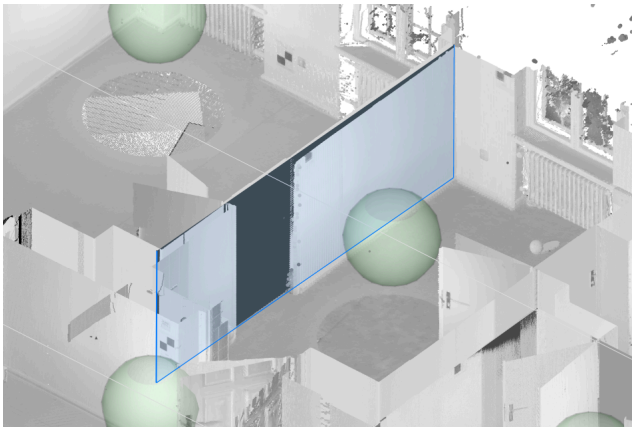
3 プロンプト表示：承諾、拒否、切り替えモード (輪郭) (Ctrl) [承諾/拒否/モード]:

- 壁を作成するには、Aを押します。
- 拒否したい場合は、Dを押します。
- MまたはCTRLを繰り返し押しすと、異なるモードに切り替わります。

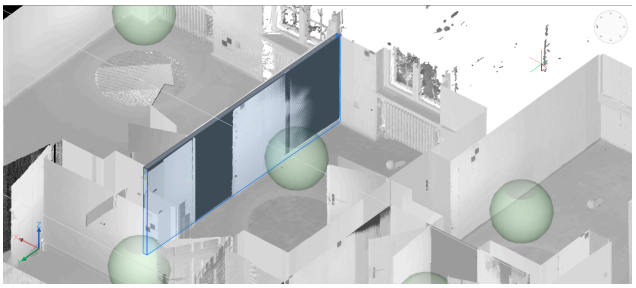
輪郭モードでは、最も適する平面を作成します。



長方形モードでは、平面点の範囲を囲むように長方形の平面を作成します：



ソリッドモードでは、2つの平行な点群平面からソリッドを作成します：



注：複数の部屋の点群が存在する場合は、ソリッドモードを使って自動的にソリッドな壁を作成することができます。

4　壁を作成するには、Aを押します。

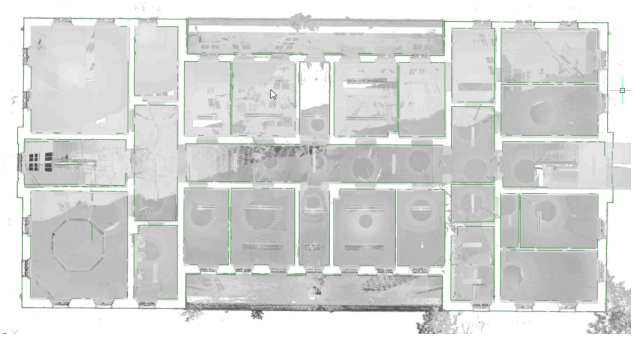
これらのソリッドは、より複雑なBIMモデルのベースとなります。モデリングコマンドを使用して建物を完成させ、**BIM化**、**オートマッチ**、**プロパゲート**でBIMデータを追加することで、点群を完全なBIM建築に素早く変換します。

点群の近接点図形スナップ (PCNEARESTコマンド、3DOSMODEシステム変数)をオンに設定しておくと便利です。このスナップ設定により、関連する点群ポイントを選択する能力が大幅に向上します。

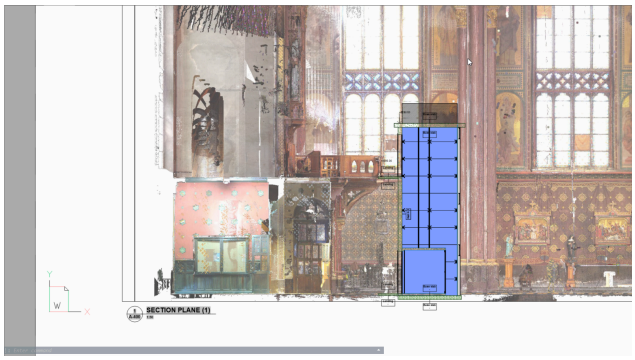
26.14.3　POINTCLOUDPROJECTSECTIONについて

POINTCLOUDPROJECTSECTIONコマンドは、定義した断面ボックスから任意の等高線を含むラスター画像を自動的に生成します。これらの線は、簡単に操作して詳細な2D図面にすることができます。

POINTCLOUDPROJECTSECTIONコマンドを使用して、さまざまな壁検出オプションを選択して点群のボリューム断面から壁を検出します。BIMSECTIONコマンドを使うと、断面ボリュームを作成することができます。これらの断面から2D線分を生成して、2Dの平面図や立面断面図を作成できます。このプロセスはバックグラウンドで実行され、複数の断面をキューに入れて処理できます。これにより、このコマンドをすべての断面に対して完全な解像度で実行できます。



同時に、ラスターイメージも生成し、背景イメージを作成します。場合によっては、既存の建物を再作成する必要はありません。背景イメージがあると、設計ドキュメントについての理解が深まります。これらのイメージは、作成した2D形状を検証するために使用できますが、高品質スキャンされたイメージはグラフィック素材として使用することもできます。例えば、歴史的建造物に現代技術による修理等を施す改修プロジェクトで、BIMモデルの背景イメージとして使用します。



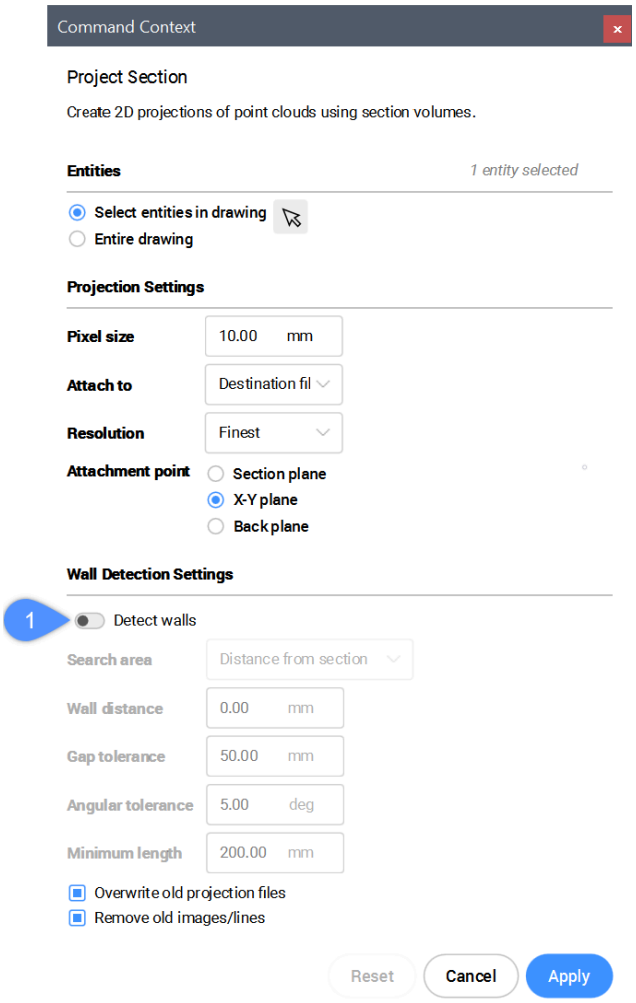
このコマンドの詳細については、コマンドリファレンスの記事『POINTCLOUDPROJECTSECTION』をご参照ください。

26.14.4　点群からラスター画像を作成

1　コマンドラインにPOINTCLOUDPROJECTSECTIONと入力します。

2　コマンドコンテキストパネルが開きます。

3　オプションを編集して、投影される断面図をカスタマイズすることができます。**壁を検出**(1)オプションをオフにします。



4 **適用**をクリックして、ラスター画像を生成します。

Realistic Visual stylesによる点群スキャン。

26.14.5 点群から壁を検出して2Dで生成

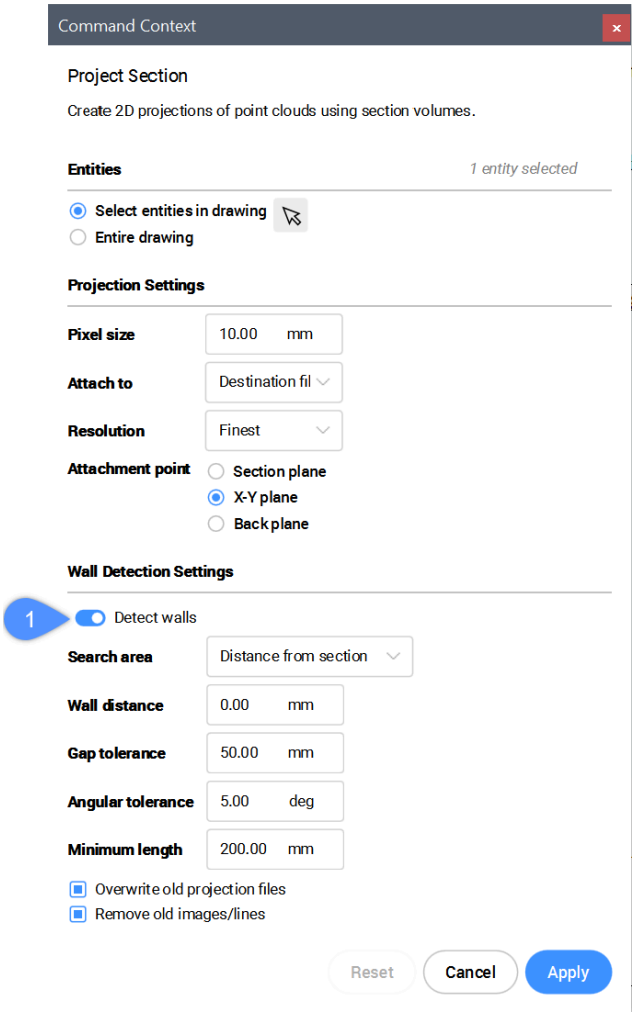
点群からの水平断面の作成

1 コマンドラインにPOINTCLOUDPROJECTSECTIONと入力します。

2 コマンドコンテキストパネルが開きます。

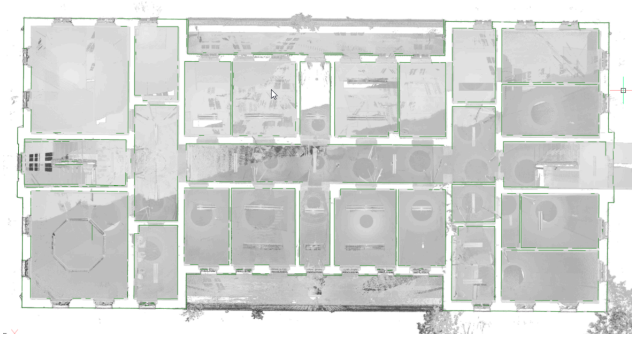
3 オプションを編集して、投影される断面図をカスタマイズすることができます。

注：壁を検出オプション(1)をオンにすると、次の図に示すような緑色のラインが生成されます。



4 **適用**をクリックして、ラスター画像を生成します。

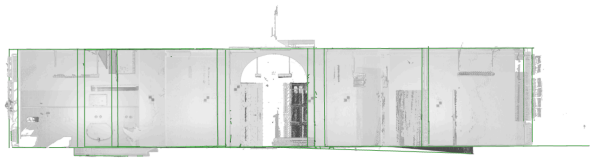
注：欠けている線があれば、背景画像をトレースして自分で作図することもできます。



点群からの垂直断面の作成

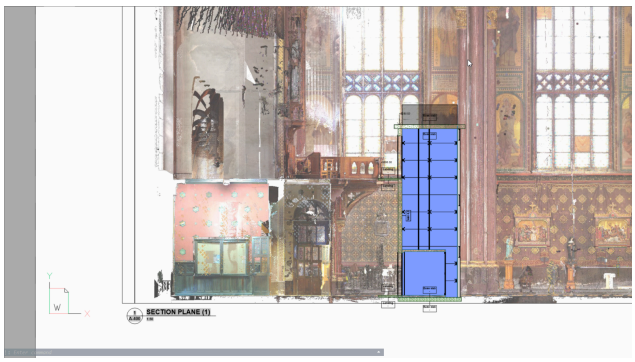
垂直投影したい場所に、垂直方向の断面ボックスを作成します。

青丸矢印が、投影したい側を向いていることを確認してください。



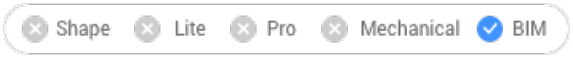
26.14.6　点群によるBIM断面の生成

場合によっては、既存の建物を再作成する必要はありません。背景画像は、デザインドキュメントの背景をより鮮明にすることができます。これらは作成した2Dジオメトリを確認するために使用したり、高品質のスキャンでは、グラフィック素材として使用することもできます。例えば、歴史的建造物に現代技術による修理等を施す改修プロジェクトで、BIMモデルの背景イメージとして使用します。



Realistic Visual stylesによる点群スキャン。

26.15　タイププランを用いた作業



26.15.1　タイププランについて

BricsCAD BIMは図面テンプレートを使用して、生成された図面をカスタマイズします。これらのテンプレートがどのように作成され、どのように機能するかについての一般的な理解については、**生成された図面のテンプレート**の記事をご参照ください。

タイププランでは、3D BIMモデル内の図形タイプの値やプロパティに対して設定されたフィルターパラメータルールに基づき、カスタマイズされたテンプレートを図面タイプに作成することができます。この機能は、モデル図形のグラフィックを、割り当てられた画層や画層状態に依存せずにカスタマイズする際に特に有効であり、同様の図形プロパティを持つ他のプロジェクトに移行して使用することができます。これにより、特に詳細設計や建築許可パッケージにおいて、オフィスの図面基準や地方自治体の要求事項への準拠、2D図面全体の一貫性を確保することが容易になります。

タイププランは、以下の2つの方法で保存できます：

- BIMプロジェクトのレベルで保存。
- サポートフォルダーに保存。

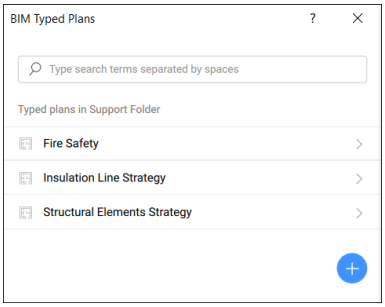
1　プロジェクト内のタイププランは、**BIMプロジェクトブラウザ**のUIで管理することができます。**BIMプロジェクトブラウザ**から新しいタイププランを作成したり、タイププランの名前を変えたり削除することができ、また既存のタイププランを編集することも可能です。

2　サポートフォルダー内のタイププランは、プロジェクトに属していないため、**BIMプロジェクトブラウザ**から管理することはでき

ません。これらを管理するには、TYPEDPLANSコマンドを使用して**BIMタイププラン**ダイアログボックスから行います。

26.15.2 BIMタイププラン

1 **BIMタイププラン**ダイアログボックスを開くには、コマンドラインにTYPEDPLANSコマンドを入力するか、リボンパネルのタイププランアイコン( )をクリックします。



2 をクリックすると、新しいテンプレートが作成されます。デフォルトでは、テンプレートに**新規タイププラン**という名前が付けられ、テキストがハイライトされます。

3 テキストがハイライト表示されている間に、テンプレートの名前を変更します。完了したら、Enterを押して名前を保存、適用します。

注：タイププランの複製、削除、名前変更が可能です。変更するには、目的のタイププランの上にカーソルを置き、コンテキストメニューボタンをクリックして、オプションを展開します。

4 ダイアログボックスに表示されているタイププランを編集するには、その名前をクリックして**BIMタイププラン編集**ダイアログボックスを開きます。

26.15.3 プロジェクトブラウザのレベルでのタイププラン

BIMプロジェクトブラウザパネルから、新しい**タイププラン**を作成するか、**タイププラン**を読み込むことができます。これを行うには、パネルの**ファイル**タブを開き、パネルの右下にある をクリックしてオプションを表示し、以下のいずれかを選択します：

新規タイププラン
BIMタイププラン編集ダイアログボックスを使用して、新しいタイププランを作成します。

タイププランの読み込み
読み込むタイププランを選択ダイアログボックスを使用して、既存のタイププランを読み込めます。タイププランは、2つのJSONスクリプト(1つはタグのカスタマイズ用、もう1つは生成された図面のカスタマイズ用)とSettings.dwgファイル(JSONスクリプトで参照されるすべてのカスタマイズ設定を格納)を含む.tpフォルダーとして格納されます。追加したい.tpフォルダーの場所を参照可能です。

タイププランを作成または読み込むと、BIMプロジェクトフォルダー内のTypedPlansという名前のサブフォルダーに保存され、**BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**ファイル**タブからアクセスできます。ここでは、リストされたタイププランを右クリックしてコンテキストメニューを開くことで、いくつかのオプションを使用できます。

フォルダーを開く
コンピューターのファイルエクスプローラーでフォルダーを開きます。

名前変更
選択したタイププランの名前を変更することができます。

複製
選択したタイププランをデフォルトの名前「元の名前 - コピー」を使用して複製します。

削除
選択したタイププランをプロジェクトから削除します。

リスト内のタイププランの1つを編集するには、編集したいタイププランをダブルクリックします。**BIMタイププラン編集**ダイアログボックスが開きます。

注：サポートフォルダー内のタイププランは、プロジェクトに属していないため、**BIMプロジェクトブラウザ**から管理することはできません。

26.15.4 タイププランの編集

BIMタイププラン編集ダイアログボックスでは、選択したタイププランのカスタマイズを編集できます。

テンプレートの最初のステップでは、オーバーライドの定義に進みます。オーバーライドを作成して図形のプロパティを変更し、タイププランをカスタマイズし、フィルターを追加します。オーバーライドをまだ作成していない場合は、**新規オーバーライド作成**をクリックして新しいオーバーライド要素をリストに追加します。作成済みの場合は、オーバーライドリストの一番上にある**新規オーバーライド追加**ボタンをクリックします。

オーバーライドリストは、トップダウンフィルターリストとして機能します。1番から2番、3番と順番にリストがチェックされ、図形が基準に適合するかどうかをBricsCAD BIMが判断します。図形が 1 つのフィルターに分類されると、他のフィルターは検証されなくなります。したがって、リストにオーバーライドを配置する順序は非常に重要です。最も具体的なフィルター行から始めて、より広範なフィルター行を追加することをお勧めします。たとえば、最後のフィルター行を、フィルター式を指定しないことで、他のすべての要素を包含するように汎用的なままにすることもできます。

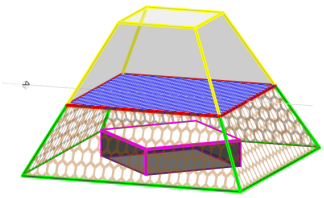
注：BIMプロジェクトで、外部ファイルBSYSLIBとして保存したプロジェクトデータベースを使用している場合のみ、タイププランでユーザー定義プロパティをフィルターとして使用することができます。プロジェクトデータベースとセントラルデータベースの詳細については、**BIMデータ構造**と**BIMプロジェクト情報**の記事を参照してください。

図面のオーバーライドとは、モデル図面の要素をどのように見せたいかという可視性の設定を参照します。

カスタマイズには4つの異なるタイプがあり、フィルタリングされた要素群に対して個別に指定することができます。要素が断面結果としてどのように表示されるかを選択でき、中心線タイプの表示方法、外部シンボル表現を元図形に置換する方法を選択できます。また、目的の図形複合材のプライ画層を変更およびカスタマイズできます。ただし、これは**壁**、**スラブ**、**屋根**図形などの適切な場合に限定されます。

断面結果のカスタマイズ
コンテキストメニューボタンをクリックして、メニューオプションを開きます。

カスタマイズを追加
カスタマイズの追加の横にある矢印をクリックして、カスタマイズの種類を含むドロップダウンリストを開きます。タイプをクリックして断面結果のカスタマイズに追加し、断面結果グラフィックスをより詳細にコントロールするためにラインをカスタマイズすることができます。
下図は、**タイププラン**で図形タイプの可視性とカスタマイズ設定をどのように制御できるかを示しています。

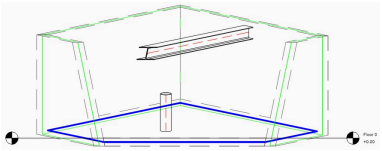


- 断面は、この図の赤い輪郭の青い正方形に位置合わせされています。
- 緑色の輪郭は**背景**を表しており、これは基本的に切断されたオブジェクトの立面の輪郭です。
- 赤色の輪郭は**交差境界**を表しており、切断された領域を覆っています。
- 青色のハッチングは**交差塗り潰し**を表しており、断面で切断される部分を示しています。
- オレンジ色の六角形のハッチングは**立面塗り潰し**を表しており、立面の輪郭で囲まれた領域を指します (**背景**を参照してください)。
- ピンク色の輪郭は、青色のハッチングの下にある**隠線**を表しています。
- 黄色の輪郭は、断面より上にある、**一部を切り取ったジオメトリ**を表しています。

中心線のカスタマイズ

中心のカスタマイズは、平面図形または線形図形の中心の外観を決定します。結果として得られる中心線(たとえば平面図で壁の中心面を切断した場合)は、カスタマイズが可能です。

中心のカスタマイズは、様々な平面や線状図形の中心要素を表示したい場合に特に有効です。例えば、壁などの平面的な図形に対して中心のカスタマイズ設定を適用した場合、その中心平面の表示動作を参照することになります。しかし、例えば梁のような直線的な図形に対して同じ設定を適用した場合、梁の中心線がシート上にどのように表示されるかを調整することになります。



上の図は、平面的な図形(壁の中心面は緑ハイライト、スラブの中心面は青ハイライト)と直線的な図形(柱と梁の中心線は共に赤の破線で表示)で、中心要素どのように異なるかの例を示しています。

これらの中心要素の可視性を調整するデフォルトの設定はなく、通常、断面結果には表示されません。

シンボルのカスタマイズ

コンテキストメニューボタンをクリックして、メニューオプションを開きます。

この場合、必要な画層名の一部を含む新しい**シンボル画層のカスタマイズ**値を追加します。それらがデフォルトの**BRX_2D**画層の一部である場合、名前の値として「BRX」を追加すれば十分です。**タイププラン**は、カスタマイズテンプレートが適用されているコンポーネント図形内を検索するようになります。しかしこの方法では、例えば、柱を(テーブル)**調度要素**に格納されているBRX画層に由来するシンボルに置換するなど、2Dシンボルを図形間で交換したり共有することはできません。

BRX画層の動作の詳細については、記事**生成された図面のテンプレート**の**手順：BRX_2D画層の理解**の章を参照してください。

プライのカスタマイズ

プランビューで特定のタイプのプライのみを表示するために使用できます。簡単な例は、構造平面図内の構造プライのみの表示させることです。コンテキストメニューボタンをクリックして、メニューオプションを開きます。

プライのカスタマイズを追加
選択した図形に、ドロップダウンリストから1つまたは複数のパラメータフィルターを追加して、フィルタリングできます。プライのカスタマイズには、「構造機能あり」と「構造機能なし」という主な分類があらかじめ定義されています。フィルター行を追加して、複数のパラメータの組み合わせでフィルター処理できます。
フィルターの組み合わせごとに、プライのカスタマイズを定義できます。

26.15.5 図面カスタマイズのスタイル

前述の手順でカスタマイズを追加すると、選択した図形タイプのスタイルをその場で作成し、カスタマイズできるようになります。いくつかの特性を指定することができます：

可視性
図形タイプの可視性をオンまたはオフに設定します。

色
図形タイプの色を指定します。

線種
図形タイプの線種を指定します。

線の太さ
図形タイプの線の太さを指定します。

線種尺度
図形タイプの線種尺度を指定します。

26.15.6 シート上のビューポートにテンプレートを適用

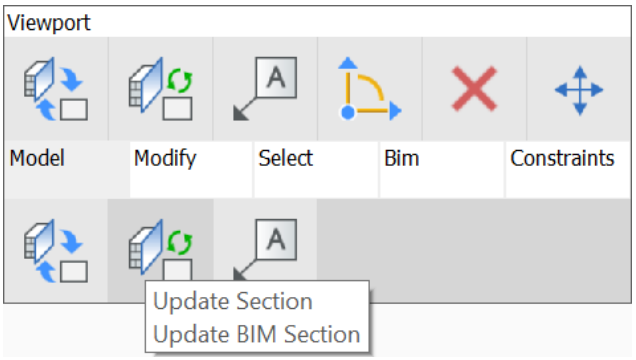
図面のオーバーライド、**タグのオーバーラード**、**フィルター**、**スタイル**がすべて設定され、**タイププラン**のテンプレートを使用する準備が整いました。

1 テンプレートを適用するには、目的のビューポートを持つシート図面に移動します。

2 プロパティパネルを開き、ビューポートを選択してそのプロパティを表示します。
注：これを行うには、PROPERTIESコマンドを使用するか、プロパティパネルアイコンをクリックします。

3 BIMプロパティセクションにある**タイププラン**プロパティに移動し、右側のドロップダウンをクリックして目的のタイププランを選択します。

4 完了したら、選択したビューポートの上にカーソルを合わせてクワッドにアクセスします。クワッドの**モデル**タブで**断面を更新**をクリックします。



5 タイププランの設定に従ってグラフィックが変更されたビューポートが表示されます。

26.15.7　カスタマイズテンプレートへのアクセス

デフォルトの設定では、これらのテンプレートは以下のパスで、**Support**フォルダーに格納されている**Bim**フォルダーの**Sections**サブフォルダー内にある**Customizations**フォルダーに保存されます。

C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support¥Bim¥Sections¥Customizations

AppDataフォルダーはデフォルトで非表示になっているため、最初に表示させる必要があります。このパスには、コマンドラインでSECTIONSETTINGSSEARCHPATHと入力してアクセスすることもできます。

カスタマイズファイルがアクセス可能なフォルダーに保存されている場合は、別のパスを指定することができます。**設定**ダイアログボックスの**断面設定の検索パス**でパスを再定義するか、コマンドラインに入力します。

BIMタイププランで作成した新しいカスタマイズは、指定したパスの**Customizations**サブフォルダーに保存されます。カスタマイズしたテンプレートは個別のフォルダーに保存され、基本形式を持つ**Settings.dwg**、**tag-customization.json**、新規の**drawing-customization.json**ファイルが作成されます。また、**新しい外部ファイルを作成...**ボタンで新たに作成した外部シンボルのソースもこのフォルダーに格納されます。

Settings.dwgには、**図面のオーバーライド**タブのカスタマイズセクションで画層の形で作成した値が含まれています。**フィルター**パラメータとして使用するカスタムプロパティを作成した場合は、**Settings.dwg**にも反映されていることを確認してください。

注：これらの**Customization**フォルダーは、作成時のローカルPCに保存されるので、他のマシンで他のユーザーと共有したい場合には、フォルダーとその中のコンテンツを他のマシンの同じ場所にコピー＆ペーストする必要があります。

27. はじめに

27.1 メカニカルワークスペース

27.1.1 メカニカル設計プロジェクトの開始

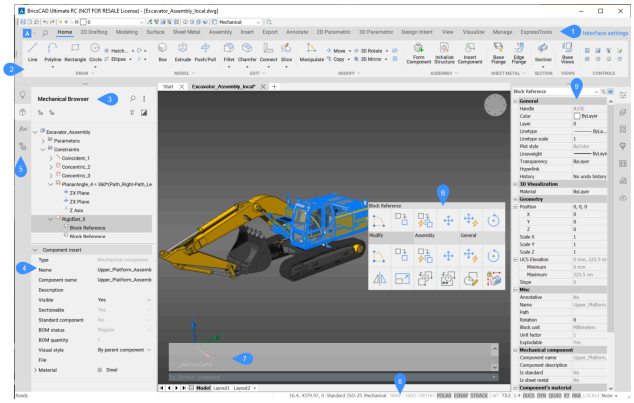
以下の手順で、メカニカル設計のプロジェクトを開始します。

1 BricsCADを起動します。

BricsCADランチャウィンドウが表示されます。

2 **メカニカル**セクションで**開始**をクリックします。

27.1.2 BricsCADのメカニカルアプリケーションウィンドウ



1 **リボンタブ**：クリックして、特定のタブに切り替えます。

2 **リボンパネル**：各タブには幾つかのパネルがあり、類似ツールがまとめられています。

3 **メカニカルブラウザ**：モデルをツリー状に表示し、モデルエリア内の特定のノードをハイライトして、そのメカニカルプロパティを編集することができます。

4 特定のノードの**メカニカルプロパティ**：一部は読み取り専用です。ツリーのルートノードのプロパティをチェックします。

5 **ドッキング可能なツールパネル**：**メカニカルブラウザ**と**ライブラリ**があります。

6 **クワッドカーソルメニュー**：対応する図形にカーソルを合わせると、特定のツールが適用されます。

7 **コマンドライン**：コマンドを入力します。

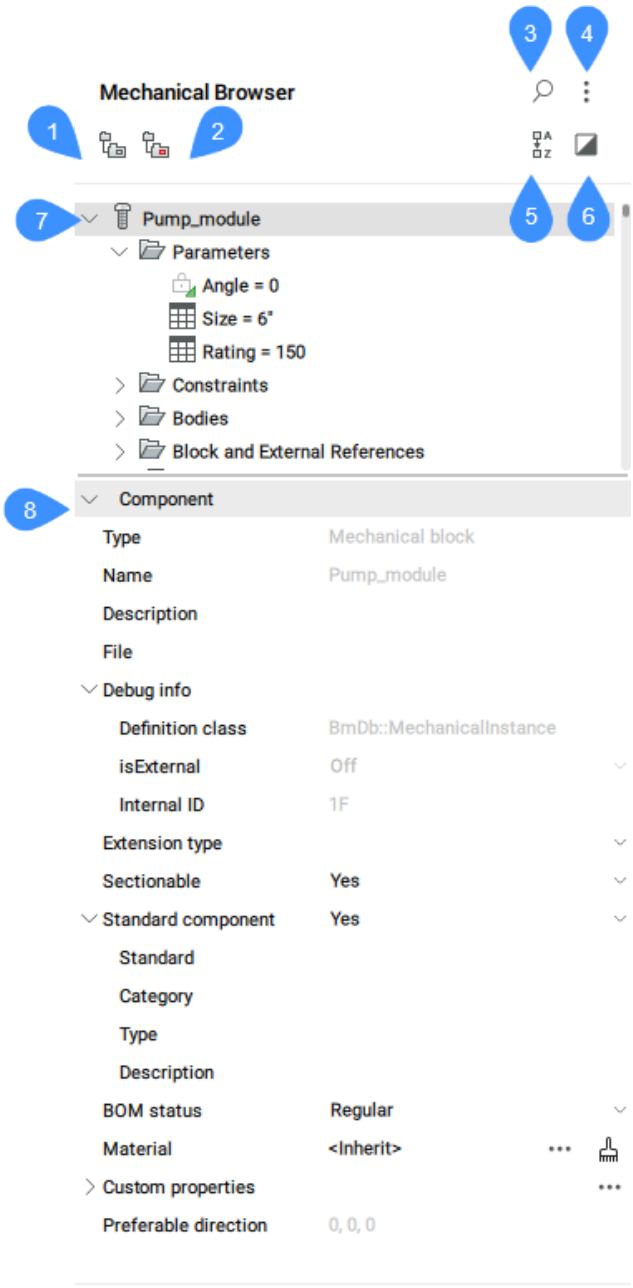
8 **ステータスバー**：ステータスとホットオプションを切り替えます。

9 **プロパティパネル**：色や画層など、選択図形の非メカニカルプロパティを調整します。

27.2 メカニカルブラウザパネル

メカニカルブラウザパネルを開くには、MECHANICALBROWSEROPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**メカニカルブラウザ**を選択します。

メカニカルブラウザパネルでは、メカニカルパーツやアセンブリのパラメトリックなプロパティを表示、変更することができます。



1 図形によるグループ

2 種類によるグループ

3 検索表示

4 設定

5 アルファベット順でソート

6 選択を表示

7 メカニカル図形

27.2.1 図形によるグループ

3D拘束が図形別に分類されています。図形を展開すると、関連する拘束条件が表示されます。

27.2.2 種類によるグループ

3D拘束が種類別に分類されています。拘束を展開して、適用される3Dフィーチャーを確認します。

27.2.3 検索表示

検索フィールドと関連ツールを開きます。

検索欄
入力された文字列でメカニカルブラウザを検索します。検索はフィルターとして機能するため、ブラウザには名前またはコンポーネント名 (または名前/コンポーネント名の一部) が文字列と一致するすべてのコンポーネントが表示されます。検索フィールドの右側にある**X**を押すと、フィールドが閉じます。

27.2.4 設定

拘束式
数値または割り当てられたパラメータ名のどちらを表示するかをコントロールします。

コンポーネントパラメータ
サブコンポーネントパラメータの表示/非表示をコントロールします。

コンポーネントパラメータ式
サブコンポーネントパラメータの可視表現(数値または割り当てられたパラメータ名)をコントロールします。

標準部品のサブコンポーネント
メカニカルアセンブリである標準部品のサブコンポーネントの表示/非表示をコントロールします。

図形の配列
ブラウザツリーにある配列ノード(コンポーネント配列を含む)の表示を切り替えます。

ブロックと外部参照
ブラウザツリーのブロックノードと外部参照ノードの表示を切り替えます。また、ブロック図形の**Bodies**フォルダー内のノード構築を切り替えます。

選択を常に同期
メカニカルブラウザの選択ノードと、モデル空間内の対応するオブジェクトの選択との同期を切り替えます。オブジェクトが選択から削除されると、選択に残っているオブジェクトに対応するノードのみが選択されたままになります。オブジェクトが選択されていない場合は、ルートノードが選択されます(ドキュメントが開いている場合と同様)。

値リストの順序を保持
ドロップダウンリスト内のパラメータの値リストのソートを切り替えます。

ハイライト選択
図面内の選択した図形のハイライト表示を切り替えます。

非同期プロパティのロード
メカニカルブラウザツリーで複数のノードが選択されている場合、**メカニカルブラウザ**がプロパティを非同期的に収集するかどうかをコントロールします。

すべてのソリッドを公開
メカニカルブロックのソリッドの表示と**Bodies**フォルダーの下の拘束に関連しないソリッド表示を切り替えます。

注：メカニカルブラウザ設定は、MECHANICALBROWSERSETTINGSシステム変数によってもコントロールされます。

27.2.5 アルファベット順でソート

メカニカルコンポーネントと3D拘束をアルファベット順にリスト化します。それ以外の場合は、アセンブリに追加された順に表示されます。

27.2.6 選択を表示

有効にすると、選択したオブジェクトまたはその親に対応するノードのみが表示されます。

有効にしてオブジェクトが選択されていない場合、または選択が解除されている場合は、完全なモデルがブラウザに表示されます。

選択を表示モードの状態は、セッション間で記憶され、開いているすべてのドキュメントで同じです。

27.2.7 メカニカル図形

ユーザーパラメータ、拘束、部品、配列、フィーチャーなどのメカニカル図形の階層ツリーリストを表示します。最上位ノードはサブノードを持つ場合があります。例えば、制約ノードには引数のサブノードがあります。配列ノードには、引数などのサブノードがあります。

ノードをダブルクリックすると展開または折りたたみができます。ノードをクリック(クリックポーズクリック)するとそのラベルの編集ができます(該当する場合)。すべてのノード名を編集できるわけではありません。

リスト内の各ノードには、コンテキストメニューが関連付けられています。ノードを右クリックするとメニューが呼び出されます。メニューの内容は、ノードの種類ごとに異なる場合があります。ノードのグループを選択して、それらのコンテキストメニューを呼び出すこともできます。メニューには、選択した各ノードに適用可能な要素のみが含まれます。

ルートコンポーネントのコンテキストメニューには、次の項目が含まれています。

更新
下位コンポーネントの参照図面ファイルを修正すると、カレント図面のメカニカルコンポーネントの階層も最新のものに更新されます。

表示スタイル > すべてビューポート
アセンブリ内のすべてのコンポーネントにカレントの表示スタイルを適用します。

すべてをローカルに切替
モデル内の外部コンポーネントをすべてローカルコンポーネントに変換します。

すべてを外部に切替
すべての内部コンポーネントを外部コンポーネントに切り替えます。

新しいパラメータを追加
アセンブリに新しいパラメータを作成します。

カスタムプロパティ
メカニカルプロパティダイアログボックスを開き、図面のカスタムプロパティを定義します。

すべて選択
同じ定義を持つすべてのコンポーネントを選択します。

同じものを選択
同じ名前および同じパラメータ値を持つすべてのコンポーネントを選択します。

すべてハイライト
同じ定義を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

同じものをハイライト
同じ名前とパラメータ値を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

シーケンスを作成
現在のアセンブリの分解表示でブロックを作成します。

子ノードを再付番
すべての子ノードをその型に従って再付番します。

子ノードを連続的に再付番
該当する場合、すべての子ノードを連続的な番号付けによって再付番します。

すべて折りたたむ
メインコンポーネントとすべてのコンポーネント、およびサブコンポーネントを折りたたみます。

すべて展開
メインコンポーネントとすべてのコンポーネント、およびサブコンポーネントを展開します。

子(非ルート)コンポーネントのコンテキストメニュー内部または外部、以下も提供します。

開く
参照図面を開きます(BMOPENコマンドを参照)。

コピーを開く
コンポーネント挿入のコピーを新規図面として開きます(BMOPENCOPYコマンドを参照)。

更新
すべての参照コンポーネントを外部ファイルからリロードして部品表を更新します(BMUPDATEコマンドを参照)。

置換
コンポーネント挿入を置き換えます(BMREPLACEコマンドを参照)。

注：ローカルの挿入部品が外部の挿入部品に置換されます。

すべての挿入を置換...
同じソースを参照するすべての挿入を置き換えます(BMREPLACEコマンドを参照)。

ローカルへ切替
外部コンポーネントを内部コンポーネントに切り替えます(BMLOCALIZEコマンドを参照)。

外部へ切替
内部コンポーネントを外部コンポーネントに切り替えます(BMEXTERNALIZEコマンドを参照)。

解体
選択されたフィーチャーは部品から削除されますが、そのジオメトリは維持されます。ただし、解体されたフィーチャーのジオメトリに関連付けられた設計意図(フィーチャーの面間の空間的およびパラメータ的な関係)は削除されます。

カスタムプロパティ
メカニカルプロパティダイアログボックスを開き、図面のカスタムプロパティを定義します。

インスタンスのカスタムプロパティをリセット
インスタンスのカスタムプロパティを対応するブロックから継承されたデフォルトにリセットします。

非表示/表示
コンポーネントを表示と非表示を切り替えます。

表示スタイル
コンポーネントの表示スタイルを設定します。

ズーム
選択セットを拡大表示します。

選択
コンポーネントを選択します。

すべて選択
同じ定義を持つすべてのコンポーネントを選択します。

同じものを選択
同じ定義と同じパラメータ値を持つコンポーネントをすべて選択します。

すべてハイライト
同じ定義を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

同じものをハイライト
同じ定義と同じパラメータ値を持つコンポーネントすべてをハイライト表示します。

削除
SMDELETEコマンドに類似。この場合、フィーチャーはブラウザから削除され、フィーチャーのタイプに応じてジオメトリが変更されます。

コンポーネントにマテリアルを設定
物理的マテリアルダイアログボックスが開き、コンポーネントに物理的マテリアルを割り当てることができます。

コンポーネントからマテリアルを削除
ローカルコンポーネントから物理マテリアル定義を削除します。

コンポーネントの標準化/コンポーネントの非標準化
コンポーネントの種類を変更します。

すべての挿入図形を断面に含む
類似するすべての挿入図形の**断面可能性**プロパティを**はい**に設定します。挿入図形がVIEWSECTIONコマンドの影響を受けるかどうかを定義します。

断面へのすべての挿入図形を除外する
類似するすべての挿入図形の**断面可能性**プロパティを**いいえ**に設定します。挿入図形がVIEWSECTIONコマンドの影響を受けるかどうかを定義します。

類似ノードで再付番
同じタイプで同じレベルのすべてのノードを再付番します。

コンポーネントの部品表ステータス
部品表でのコンポーネントの外観をコントロールします。

パラメータのコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

ジオメトリ駆動
チェックすると、パラメータをジオメトリ駆動にします。

注：パラメータがジオメトリ駆動の3D拘束に割り当てられている場合、拘束されたジオメトリを移動する際にその境界が考慮されます。

デザインテーブルを作成
パラメトリックブロックのパラメータを駆動させるデザインテーブルを作成します。

アニメイト
パラメータを使ってモデルをアニメーションにさせることができます。

コンポーネントパラメータのコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

パラメータにリンク
サブコンポーネントのパラメータからメインレベルのパラメータへリンクします。

拘束のコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

有効
拘束の有効化を切り替えます。

反転側
拘束のサイドを反転させます(固定拘束には使用できません)。

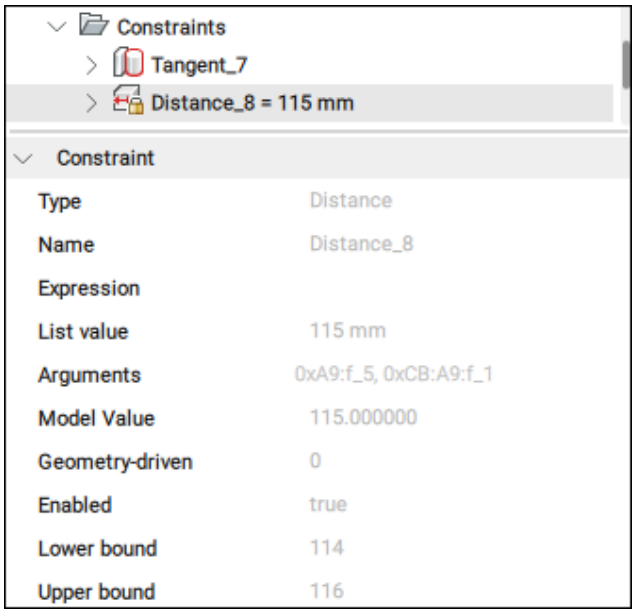
形状を選択
拘束に関係する図形を選択します。

寸法拘束のコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

ジオメトリ駆動
チェックすると、拘束がジオメトリ駆動になります。

注：パラメータがジオメトリ駆動の3D拘束に割り当てられている場合、拘束されたジオメトリを移動する際にその境界が考慮されます。

注：上限値と下限値は、**メカニカルブラウザ**パネルで設定できます。これらはDMMOVEやROTATE3Dなどの動的操作で考慮されます。



デザインテーブルを作成
パラメトリックブロックのパラメータを駆動させるデザインテーブルを作成します(**パラメータマネージャー**パネルを参照)。

拘束引数のコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

反転
方向を反転します。

置換...
現在の引数を別の引数に置換します(DMCONSTRAINT3Dコマンドを参照)。

除外
カレントの引数を除外します。

27.2.8 プロパティ

選択した項目のプロパティを表示します。ツリーで複数のノードが選択されている場合、プロパティセクションには、選択したすべてのノードのプロパティが表示されます。プロパティを変更すると、選択したすべてのノードが変更されます。

プロパティを変更するには、数値フィールドをクリックしてその値を編集するか、フィールドの右側から下矢印を押すと表示されるドロップダウンリストから別のオプションを選択します。

メカニカルブロックの最も重要な特性は以下のとおりです：

- **拡張タイプ**：メカニカルブロックの拡張タイプを定義します。
- **断面可能性**：メカニカルブロックが断面可能かどうかを定義します。
- **標準コンポーネント**：メカニカルブロックが標準コンポーネントであるかどうかを定義します。
- **部品表ステータス**：部品表ステータスを定義します。
- **マテリアル**：マテリアルを定義します。

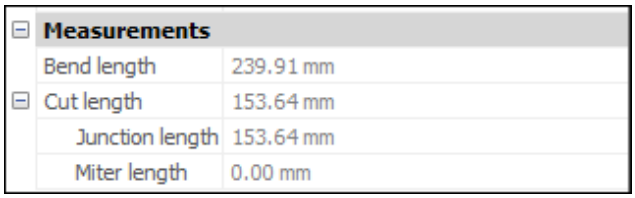
  注：参照ボタン(…)をクリックして、**物理的マテリアル**ダイアログボックスを開きます。
- **カスタムプロパティ**：挿入物のカスタムプロパティを表示します。

注：

- 参照ボタン(…)をクリックして、**メカニカルプロパティ**ダイアログボックスを開きます。
- **マテリアルをクリア**ボタンをクリックして、マテリアルを削除します。

- **適した方向**：分解ビューの方向を示します。これは、BMEXPLODECONFIGコマンドで設定します。

注：板金ボディを選択すると、**メカニカルブラウザ**に**計測値**プロパティが表示されます。



27.3 3D比較

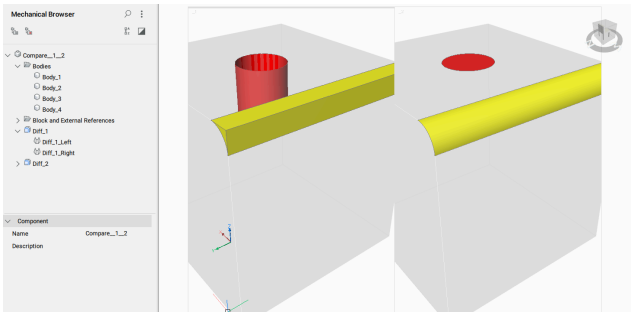
コマンド：3DCOMPARE

2つのDWGファイルに保存されている3Dソリッドやサーフェスなど(他のファイル形式からBricsCADに読み込んだモデルも含む)、2つの3Dモデルを比較することができます。このツールは大規模なモデルを処理することができ、相違が**メカニカルブラウザ**に表示されます。複数の表示モードがサポートされています。

27.3.1 定義

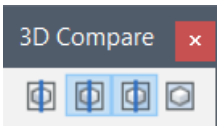
3Dモデルは、1つまたは複数の3Dソリッドやサーフェスが保存されている図面ファイル(DWG)です。2つの3Dモデルを比較する時、BricsCADは最初にこれらを3D空間で整列させ、類似点を最大限探そうとします。次に、これらの3Dソリッドやサーフェスのすべての面が所定の公差で幾何学的に比較されます。1つ目のファイルのあらゆる面と等しい面が2つ目のファイルにも存在する場合(または、その逆の場合)、このようなモデルは等しいと見なされます。片方のファイルの特定の面と等しい面がもう片方のファイルにない場合や、このような面の一部分だけがもう片方のファイルの面の一部分と等しい場合は、違いが検出されます。このように、相違とは、面全体の等しい部分がもう片方のファイルで見つからない3Dソリッドやサーフェスの面全体または面の一部分を指します。相違が2つ以上ある場合、幾何学的に互いに隣接していれば、グループ化されます。

隣接する相違グループごとにノードが**メカニカルブラウザ**パネルに作成されます。このノードを展開すると、ノードを構成する相違が表示されます。**メカニカルブラウザ**パネルで相違を選択すると、図面の対応するフィーチャーがハイライト表示されます。



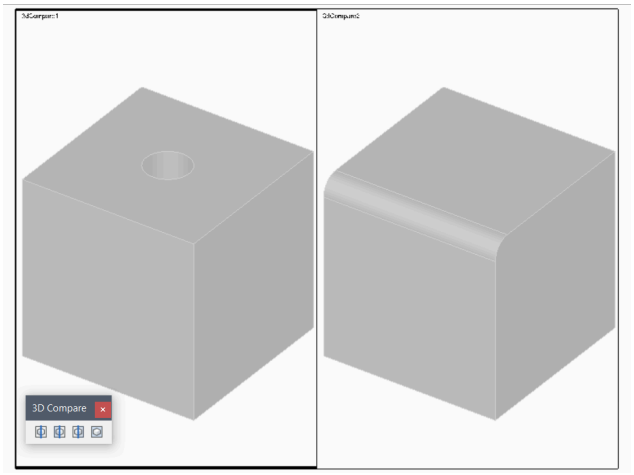
27.3.2 ツールバー

3D比較の手順にアクセスするには、**3D比較**ツールバーのツールを使用します。



27.3.3 表示

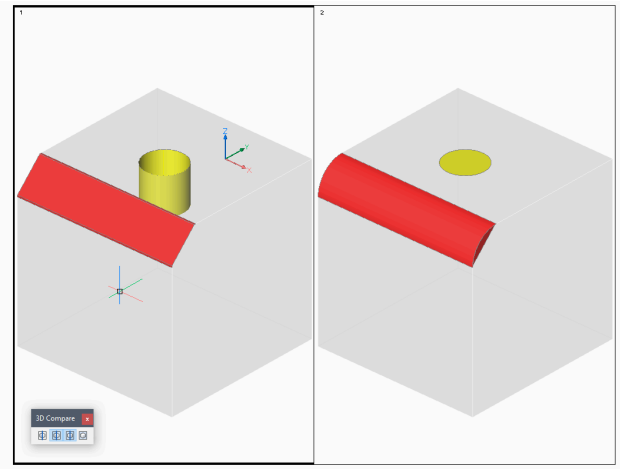
3DCOMPAREコマンドを使用して、**Compare_<File_1>_<File_2>.dwg**という名前の新しいDWGドキュメントを作成します。比較されたモデルは、この図面に外部参照として添付されます。**比較**という名前の特別なレイアウトが自動的に作成され、それぞれの図面に1つずつ、合計2つのビューポートが設けられ、図面間の違いが色で示されます。



この表示は3DCOMPAREMODEシステム変数でコントロールされます。3DCOMPAREMODEの値が0(ゼロ)と異なる場合、対応するモデルは半透明になり、相違点は異なる色で表示されます。それぞれの違いは、それぞれの色で塗られています。また、**メカニカルブラウザ**のコンテキストメニューを使い、特定の相違箇所を拡大表示できます。

相違を表示するには:

1 **左のビューポート**ツールボタン( )または**右のビューポート**ツールボタン( )をクリックします。



2 いずれかのビューポートでダブルクリックします。

3 マウスやキーボードのショートカットを使い、表示を操作します。

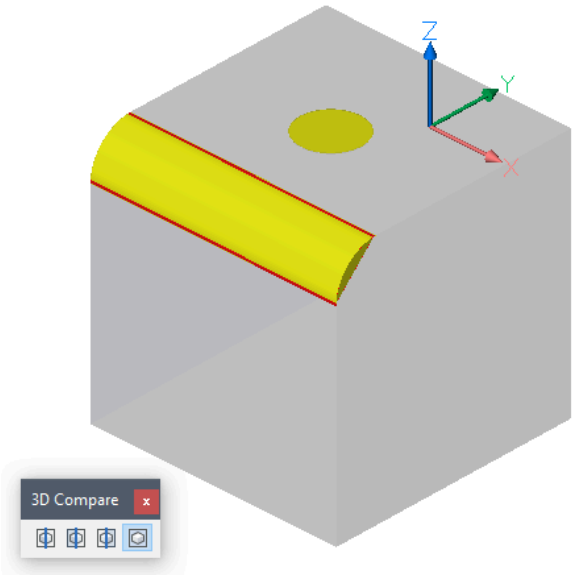
4 例：拡大・縮小、回転

もう片方のビューポートの表示が自動的に同期し、両方のモデルの同じ箇所を詳細に比較することができます。

または、以下を行うことができます。

単一ビューポートツールボタン()をクリックします。

モデル空間の相違が表示されます。

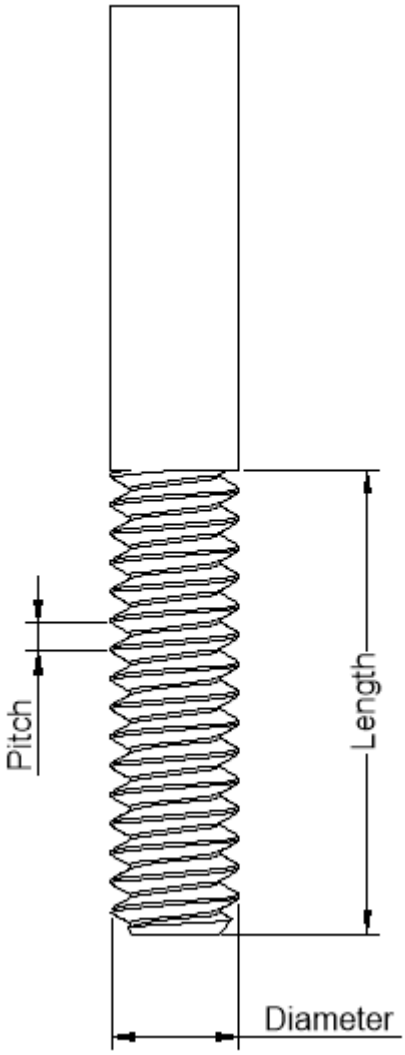


28. 部品設計

28.1 ねじ山機能

DMTHREADコマンドを使用して、ねじ山機能を作成します。

下図は、ねじ山の構造を示しています。



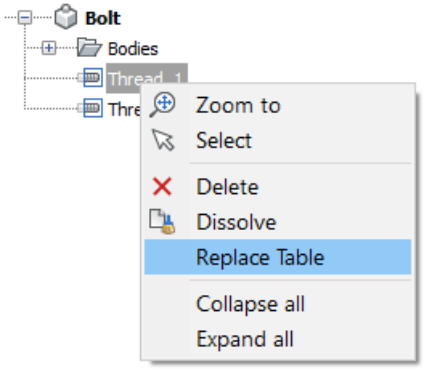
ねじ山機能には、次のパラメータがあります：

- **ねじ山規格**
  標準的なねじ山のセットです。このリストは、カスタムスレッドで拡張することができます。設定を変更すると、ジオメトリは自動的に再構築されます。
- ねじ山の**ピッチ**
- ねじ山の**長さ**
- ねじ山の**直径**

- ねじ山の**種類**：雄ねじか雌ねじか。タイプが自動の場合は、自動的に決定されます。

28.1.1 ねじ山構成の追加

1 **メカニカルブラウザ**パネルで、フィーチャーを右クリックします。



2 **表を置換**を選択します。

3 以下の構成のCSVファイルを選択します:

```
Size,Diameter,Pitch Name1, Diameter_value1, Pitch_value1 Name2, Diameter_value2, Pitch_value2 Name3, Diameter_value3, Pitch_value3
```

28.2 部品設計使用方法

BricsCAD Mechanicalを使用して、3Dモデルの作成および変更を行えます。

3Dモデルを作成する方法：

- 3Dソリッドプリミティブ(直方体、円柱など)を作成します。
- 2Dプロファイルを作図し、それを押し出したり、回転させたりして3Dソリッドを作成します。
- 3Dサーフェスをモデル化して厚みをつけて3Dソリッドを作ったり、複数のサーフェスをステッチして隙間のない3Dソリッドを作ったりします。
- 他のCADプログラムから既存の3Dソリッドとサーフェスのジオメトリを読み込みます。

3Dモデルを編集して詳細を追加する方法：

- 面をプッシュ/プル、移動および回転させます。
- モデルのエッジにフィレットまたは面取りを作成します。
- 穴を作成します。
- ブーリアン演算、直接編集、変形可能なモデリングツールを使用することで、突起や窪みを追加します。

親子間の依存関係がない＝履歴なしのアプローチ

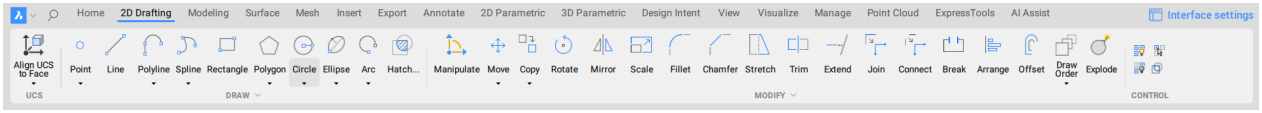
CREATESKETCHFEATUREシステム変数をオフにしている場合、BricsCAD Mechanical はジオメトリプリミティブとフィーチャー間に親子依存関係を作成しません。部品に加えられたすべての変更はローカルです。ジオメトリの再生成は強制されません。このような履歴なしのアプローチにより、将来的な変更要素を心配せずに設計に集中することが可能になります。

3D拘束＝パラメトリック

CREATESKETCHFEATUREシステム変数をオンにしている場合、BricsCAD Mechanical は、パーツの面やエッジに3D拘束を追加し、式やデザインテーブルを使いグローバルパラメータとリンクさせることで、パーツをパラメータ化する強力なツールセットを提供します。

28.3 スケッチング

スケッチツールセットを使用して、2Dプロファイルを作図することができます。これを押し出したり回転させて3Dソリッドやサーフェスを作成したり、既存の図形にボリュームを追加/削除したりすることができます。CREATESKETCHFEATUREシステム変数の値に応じて、作成された3Dソリッドがパラメータ化されます。スケッチツールは、**メカニカル**ワークスペースリボンの**2D作図**タブにあります。



スケッチは、現在のユーザ座標系(UCS)のXY平面に作成されます。ダイナミックUCSはデフォルトで有効になっているため、カーソルの下の3Dソリッド面上に2D図形を作成できます。**UCSを面に合わせる**ツールを使用して、必要に応じてUCSを配置します。

作図ツールにはおなじみの2Dプリミティブが含まれています。矩形/ポリゴン、円/円弧/楕円、ポリライン、スプラインなどです。

スケッチを操作するには、**移動**、**コピー**、**回転**、**鏡像**、**2D配列複写**の各ツールを使用します。

スケッチを編集するには、FILLET、CHAMFER、STRETCH、TRIM、JOIN、CONNECT、BREAK、OFFSET、EXTENDの各コマンドを使用します。

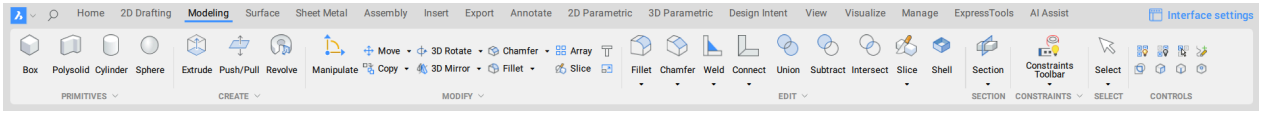
2D拘束を使用して、スケッチをパラメトリックにします。

注：DELOBJ(元図形を削除)システム変数の値は、DMEXTRUDEやDMREVOLVEコマンドで3Dソリッドやサーフェスを作成する際に、スケッチ図形を削除するかどうかをコントロールします。

28.4 ソリッドモデリング

BricsCAD Mechanicalには、**押し出し**や**差**など従来の3Dモデリングツールをはじめとするソリッドモデリングのための豊富なツールセットが用意されています。さらに、**プッシュ/プル**、**面を複写**、強力な3D拘束などの直感的なダイレクト編集ツールを使い、3Dパーツの形状や大きさを調整することができます。また、CREATESKETCHFEATUREシステム変数をオンにしておくと、作成した3Dソリッドがパラメータ化され、スケッチフィーチャーが **メカニカルブラウザ**パネルに表示されます。

3Dソリッドツールは、**メカニカル**ワークスペースリボンの**モデリング**タブにあります。



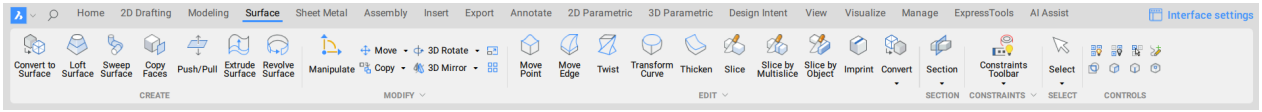
ツール/ツールセット	説明
押し出し	スケッチから3Dソリッドを作成します。
回転	
ロフト	
スイープ	
厚み付け	
プリミティブツールセット: **直方体、ポリソリッド、円柱、球、くさび、角錐、円錐、トーラス**	下地のスケッチがなくても、直接3Dソリッドを作成することができます。
プッシュ/プル	3Dソリッドを編集します。(面やエッジへの適用)
移動	
3D回転	
面をコピー	
フィレット	
面取り	
シェル	3Dソリッドの編集
スライス	
ブーリアンツール: **和、差、交差、分離**	
尺度	
3Dミラー	
整列	
削除	3Dソリッド全体、およびフィーチャー(フィレットや穴など)を形成する面のセットに適用できます。

ツール/ツールセット	説明
3D監査	読み込まれたジオメトリのエラーを見つけて修正します。
3D簡略化	3Dソリッドのスプライン面から正準面(平面、円筒、円錐、球、トーラス)を自動的に認識することができます。これは、3D拘束を適用する前に必要となることもあります。
ステッチ	ぴったりくっついた境界を形成する接触面や領域を、1つの3Dソリッドにつなぎ合わせることができます。
ツイスト、ポイントを移動、エッジを移動、曲線を変形	3Dソリッドを一様に変形させることができます。
ツールセットを**選択**	3Dソリッドの面やエッジを、長さ、面積、滑らかさなど、特定の幾何学的・位相的基準に基づいて選択することができます。
拘束	3Dソリッドの面やエッジに3D拘束を加え、位置合わせやサイズ変更を行うことができます。3Dパーツをパラメトリック化します。 平行、垂直、同軸、接線などの幾何学的な3D拘束を自動的に適用します。

28.5 サーフェスモデリング

BricsCAD Mechanicalは、サーフェスのモデリングや、3D ソリッドからサーフェスへの変換、またはその逆の変換を行うための強力なツールセットを提供します。

サーフェスモデリングツールは、**メカニカル**ワークスペースの**サーフェス**リボンタブで使用できます。



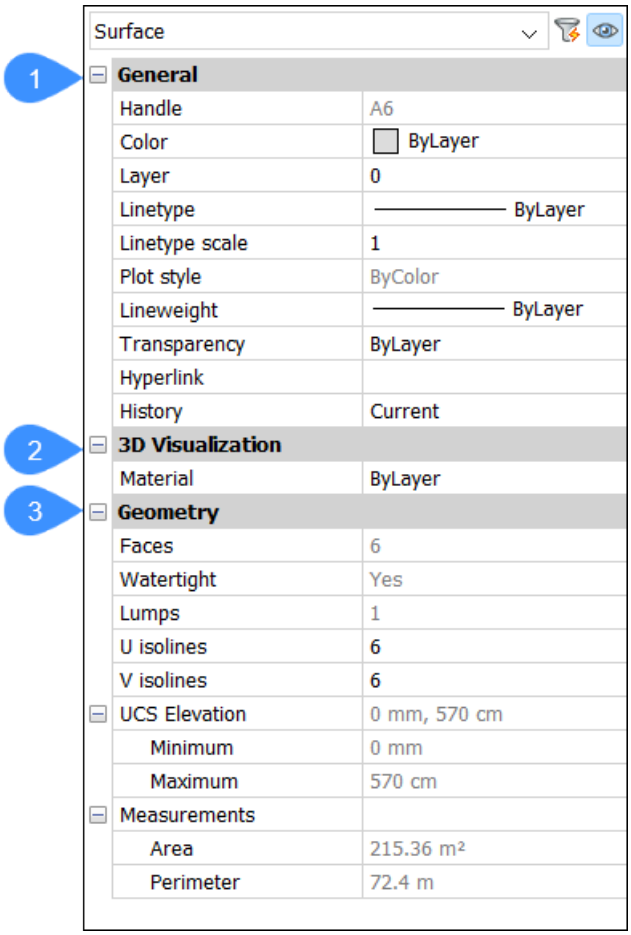
サーフェスモデリングツールは、3D拘束の編集および適用におけるソリッドモデリングツールに似ています。唯一の違いは、**サーフェス押し出し**、**回転サーフェス**、**ロフトサーフェス**、**スイープサーフェス**ツールは、閉じた2Dプロファイルからサーフェス図形を作成し、閉じていないプロファイルも受け入れることです。

リージョンツールは、閉じた2Dプロファイルからリージョン図形を作成し、リージョンをステッチしてより大きなサーフェスを作成できます。

サーフェスを作成するための他の方法としては、抽出で3Dソリッド/サーフェスの一つ以上の隣接する面を抽出するか、分解で3Dソリッドをサーフェスとリージョンのセットに分解するなどがあります。

28.5.1 サーフェスプロパティ

サーフェスプロパティは、**プロパティ**パネルからアクセスまたは変更できます。サーフェスが選択されている場合は、いくつかのメインタブを使用できます。



1 一般

2 3D画像

3 形状

一般
選択した図形に適用され、ほぼすべての種類の図形に有効なプロパティについて設定します。

注：一般的なプロパティの詳細については、**プロパティ**パネルの記事を参照してください。

3D画像
選択した図形に割り当てられたマテリアルについて設定します。

マテリアル
選択した図形のカレントのマテリアルを記述します。ドロップダウンリストから新規マテリアルを選択することができます。

形状
選択した図形の形状特性について説明します。サーフェスの場合、いくつかのオプションを使用できます。

面
選択したサーフェスに含まれる面の数を設定します。

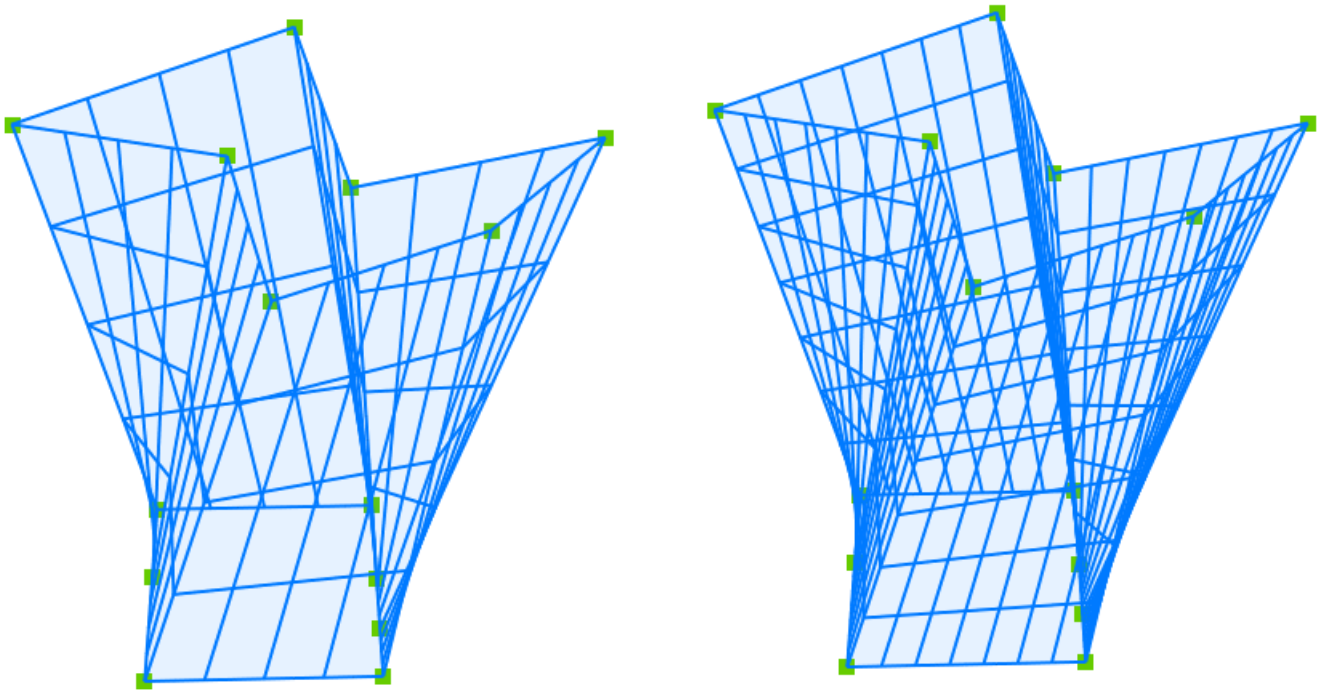
防水
サーフェスが防水であるかどうかを設定します。

塊
表示する塊の量を設定します。

U等値線
表示する水平等値線の数を設定します。

V等値線
表示する垂直等値線の数を設定します。

注：等値線プロパティは**プロパティ**パネルで編集可能で、曲面に表示される等高線の数を変更できます。例として、左図では両方の等値線プロパティを3に設定し、右図では6を設定しました。



注：等値線は、**ワイヤフレーム**、**2Dワイヤフレーム**、および**X線**表示スタイルでのみ表示されます。

UCS高さ
ユーザー座標系と比較したサーフェスの上下の延長の高さを定義します。

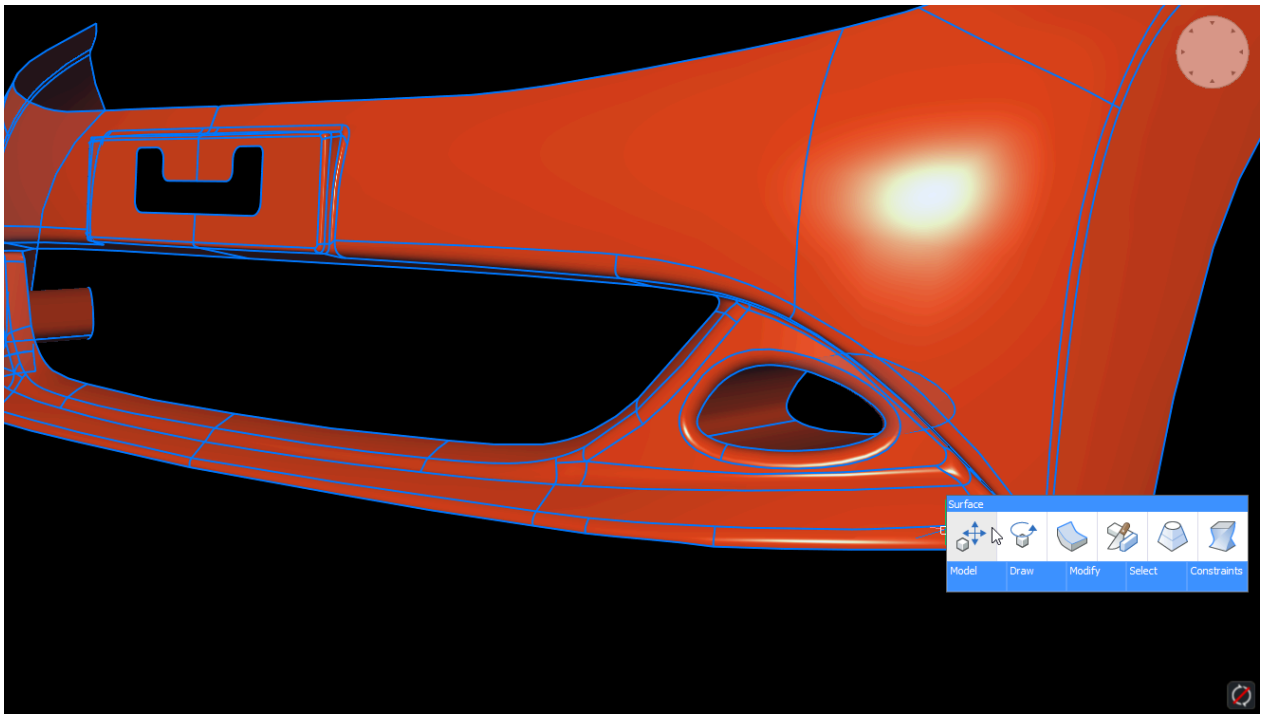
計測
面積や周長など、選択したサーフェスの寸法を設定します。

28.6 自由形状のサーフェスモデリング

28.6.1 概要

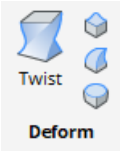
BricsCAD Mechanicalの変形ツールを使って、ソリッドモデルやサーフェスモデルに複雑な歪みを加えることができます。滑らかな形状や有機的な形状を作ることができます。ソリッドやサーフェスのエッジを移動、回転、ツイストして変形させ、設計履歴なしでジオメトリを独立して変更することができます。

履歴なしのアプローチが、将来的な変更要素を考慮せずに、設計に集中することを可能にします。



28.6.2 変形ツール

以下の変形ツールを使用することができます。



ツール	コマンド	説明
エッジを移動	DMDEFORMMOVE	面のエッジを移動または回転させることで、面を変形させます。
ポイントを移動	DMDEFORMPOINT	ポイントを移動させることにより、面の選択セットを変形させます。
曲線を変形	DMDEFORMCURVE	面のエッジの形状を変更することで、面を変形させます。
ツイスト	DMTWIST	指定された軸の周りの部分をねじることにより、3D図形を変形させます。

29. アセンブリ設計

29.1 アセンブリ設計のボトムアップ/トップダウン

29.1.1 概要

アセンブリモデリングは、設計された製品の構造を表すもので、コンポーネントを使用してジオメトリックな図形を階層的にグループ化することで構成されています。アセンブリモデリングは、メカニカル設計支援アプリケーション(MCAD)で一般的に使用されており、数千から数百万の幾何学的図形を含む複雑な製品の設計を簡略化します。

このページでは、以下の用語が使用されています：

- アセンブリとは、他の構成部品のインサートを含む構成部品のことです。
- サブアセンブリは、別のアセンブリに挿入される別個のアセンブリです。
- 部品とは、別のコンポーネントの挿入を含まないコンポーネントです。

コンポーネントが挿入されたアセンブリ(さらに他のコンポーネントが挿入された複数のアセンブリとすることも可能)はツリー構造で表され、これを3Dモデルのメカニカル構造と呼びます。このツリー構造は**メカニカルブラウザ**パネルに表示されます。

メカニカル製品の設計には、主に**トップダウン**アプローチと**ボトムアップ**アプローチの2つがあります。BricsCADで設計された、または別のソースから読み込まれた既存のジオメトリにメカニカル構造を追加することもできます。

BMNEWコマンドを使用して、新しいメカニカルコンポーネントの新しいドキュメントを作成します。

BMMECHコマンドを使用して、既存のブロックと外部参照をコンポーネントに変換します。BMUNMECHコマンドを使用して逆の操作を行います。

29.1.2 ボトムアップ設計

ボトムアップアプローチでは、ユーザーはツリー下方のコンポーネントを詳細に記述することから製品の設計を開始します。これらのコンポーネントは、ツリー上部のコンポーネントにグループ化されます。このプロセスは、一番上のコンポーネントが製品そのものに対応するまで続けられます。

ボトムアップデザインのメインコマンドはBMINSERTです。既存のコンポーネントを現在の図面に挿入するには、このコマンドを使用します。

29.1.3 トップダウンデザイン

トップダウンアプローチでは、ユーザーはツリーの一番上のコンポーネントを定義することから製品の設計を開始しますが、詳細は定義しません。各コンポーネントは、そのサブコンポーネントを定義することで、より詳細になります。このプロセスは、すべてのツリー下方のコンポーネントが定義され、詳細化されるまで続けられます。

既存のコンポーネントに新しいサブコンポーネントを作成するには、BMFORMコマンドを使用します。

29.1.4 既存ジオメトリにメカニカル構造を追加

BricsCADや他のCADで作成された既存の図面にコンポーネント構造を追加することができます。

BMFORMコマンドは、選択した図形グループをカレント図面のサブコンポーネントに変換します。

29.1.5 メカニカル構造の変更

設計の最中に、特定のコンポーネントの位置を階層内で移動させたいと感じる場合があるかも知れません。

BMFORMコマンドは、選択されたコンポーネントのセットを含む新しいサブコンポーネントをカレント図面に形成します。

BMDISSOLVEコマンドを使用して、コンポーネントを削除し、そのすべてのサブコンポーネントを分解されたコンポーネントの位置に移動します。

29.1.6 標準コンポーネントの使用

いくつかの標準的なコンポーネントがあります。

- ねじ
- ナット
- ワッシャー
- 軸受け
- 穴

BricsCADは、さまざまなサイズの30,000以上の詳細を含む標準コンポーネントの巨大なライブラリを提供しています。標準部品を使用することで、設計性能を大幅に向上させることができます。

ライブラリパネルを使用して、標準的なコンポーネントをパーツやアセンブリに挿入することができます。

29.1.7 アセンブリ拘束

アセンブリ拘束は、通常の3D拘束であり、ボディの面とエッジをリンクしてアセンブリのコンポーネントを表します。3D拘束は、トップレベルとサブコンポーネントレベルでリンクできます。

29.1.8 コンポーネントの可視性

複雑なアセンブリ内のコンポーネントは、それを取り囲む他のコンポーネントによって見えなくなることがあります。

例えば、ピストンはシリンダーブロックの内側にあるため、見えません。このようなコンポーネントを見えるようにするには、その部品を囲む他のコンポーネントを非表示にする必要があります。

カレント図面に挿入したサブコンポーネントや、階層構造のどの場所のサブコンポーネントも非表示にできます。

コンポーネントを透明にしたり、ワイヤフレームモデルとして視覚化したりすることもできます。

特定のサブコンポーネントを非表示にするには、BMHIDEコマンドを使用します。

BMSHOWコマンドを使用して、非表示のサブコンポーネントを表示します。

29.2 アセンブリ設計のコマンドとツールバー

29.2.1 コマンド

アイコン	コマンド	説明
	BMNEW	メカニカルコンポーネントを新規の図面ファイルとして新たに作成します。
	BMMECH	カレント図面をメカニカルメインコンポーネントに変換します。

アイコン	コマンド	説明
	BMINSERT	既存のメカニカルコンポーネントをカレント図面に挿入します。
	BMINSERT	既存のメカニカルコンポーネントをカレント図面に挿入した後、新しい部品のサイズを自動的に変更して親部品に接続します。
	BMHARDWARE	**ライブラリ**パネルを開きます。
	BMFORM	メカニカルコンポーネントを新規作成し、カレント図面に挿入します。
	BMCONNECT	2つの配管標準部品を、その接続図形間に3D拘束を作成することで接続します。
	BMREPLACE	挿入済のコンポーネントを別のコンポーネントに置換します。
	BMLOCALIZE	外部のコンポーネントをローカルに置き換えます。
	BMEXTERNALIZE	ローカルのコンポーネントを外部に置き換えます。
	BMOPEN	外部のメカニカルコンポーネントの元図面を開きます。
	BMOPENCOPY	挿入コンポーネントのコピーを新規図面として開きます。
	BMDISSOLVE	カレント図面に挿入されたメカニカルコンポーネントを分解します。
	BMLINK	コンポーネントベースのフィーチャーのターゲット3Dソリッドを変更します。
	BMUNLINK	挿入コンポーネント (例：窓) と開口部を保持する3Dソリッド (例：壁) の間の接続を解除します。
	BMHIDE	カレント図面内のメカニカルコンポーネントやサブコンポーネントを非表示にします。
	BMSHOW	非表示になっているカレント図面のメカニカルコンポーネントやサブコンポーネントを表示します。
	BMVSTYLE	メカニカルコンポーネントの表示スタイルを変更します。

アイコン	コマンド	説明
	BMBALLOON	モデル空間レイアウトでは、アセンブリコンポーネントの自動調整バルーン図形を作成します。ペーパー空間レイアウトでは、作成されたビューの自動調整バルーン図形を作成します。
	BMBALLOON	ペーパー空間レイアウトの特定の図面ビューにあるすべてのコンポーネントに、自動調整バルーンを自動的に配置できます。
	BMBOM	カレント図面に部品表(BOM)を挿入します。
	BMMASSPROP	コンポーネントに振られた密度を使ってカレントモデルのマスプロパティを算出します。
	BMUPDATE	外部ファイルからすべての参照コンポーネントを再ロードし部品表を更新します。
	BMUPDATE	選択したすべての参照コンポーネントを外部ファイルから再ロードし、部品表を更新します。
	BMEXPLODE	部品を移動してすべて見えるようにしてアセンブリの分解表現を作成し、それを新しいブロックに格納し、モデル空間にブロックを挿入します。
	BMEXPLODEMOVE	選択した部品を移動して、コンポーネント間の物理的な衝突の可能性を考慮して、特定の方向に分解表示を形成します(BMEXPLODEコマンドの[直線]オプションと同様)。
	BMTRAILINGLINES	選択した部品に必要なすべてのトレース線を作成します。
	MECHANICALBROWSEROPEN	**メカニカルブラウザ**パネルを表示します。
	PARAMETERSPANELOPEN	**パラメータマネージャー**パネルを表示します。
	BMDEPENDENCIES	アセンブリに挿入されたコンポーネント定義を含む、コマンドウィンドウ内のすべてのファイルをリスト化します。
	BMRECOVER	分解されたメカニカルコンポーネントを修復します。
	BMUNMECH	カレントのメカニカルコンポーネントを図面に変換します。

アイコン	コマンド	説明
	BMXCONVERT	現在の図面のX-ハードウェアソリッドをメカニカルコンポーネントに変換します。

29.2.2 ツール

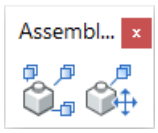
以下のツールを使ってメカニカル部品を扱うことができます。

1 **アセンブリ**ツールバー：

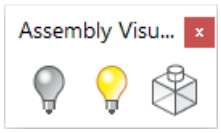
- **アセンブリ**

- **アセンブリ挿入**

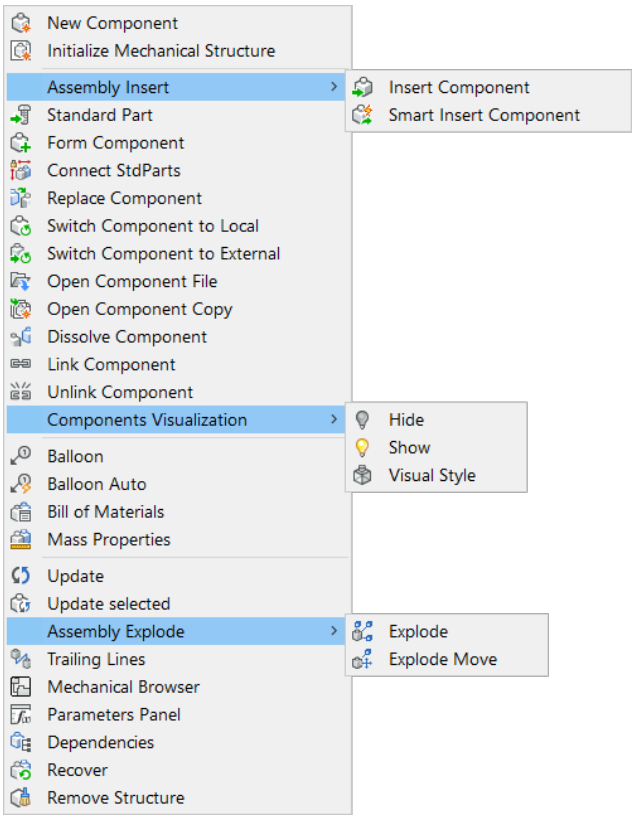
- **アセンブリ分解**



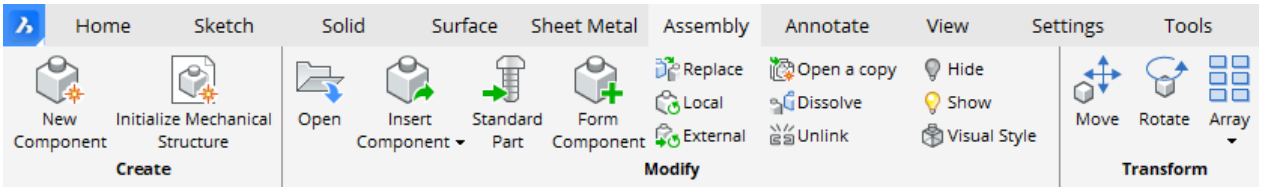
- **アセンブリ表示**



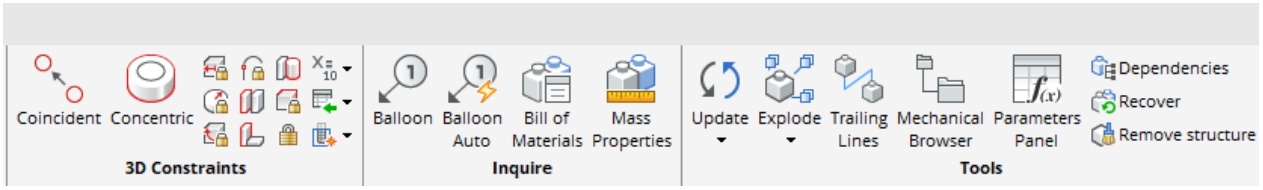
2 **アセンブリ**メニュー (メカニカルワークスペースのみ)：



3 **メカニカル**ワークスペースリボンのアセンブリタブ：



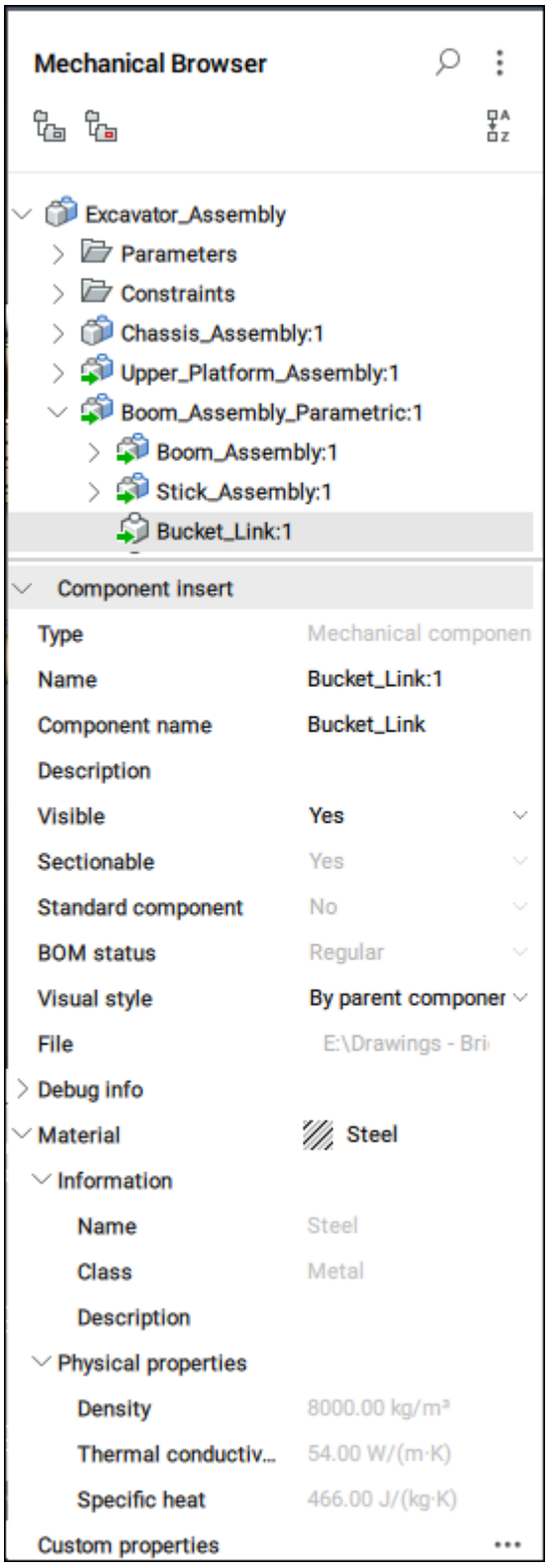
ツール



29.3 コンポーネントのプロパティ

コンポーネントのプロパティとコンテキストメニューは、**メカニカルブラウザ**パネルに表示されます。

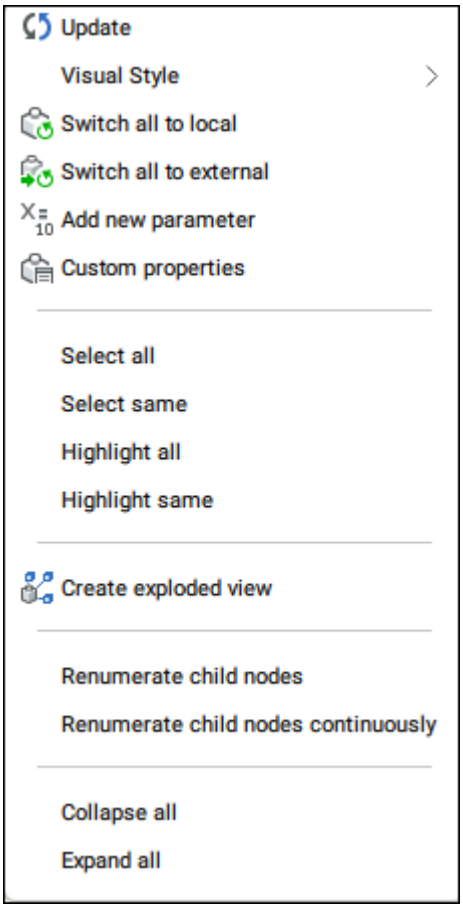
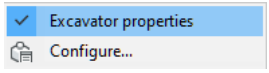
コンポーネントのコンテキストメニューは、コンポーネントを右クリックすると表示されます。コンポーネントのプロパティは、**メカニカルブラウザ**パネルで1つまたは複数のコンポーネントを選択すると自動的に表示されます。

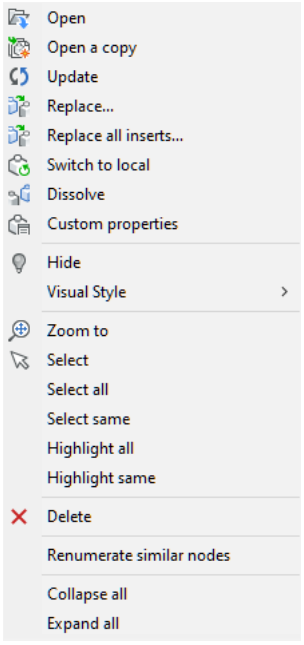
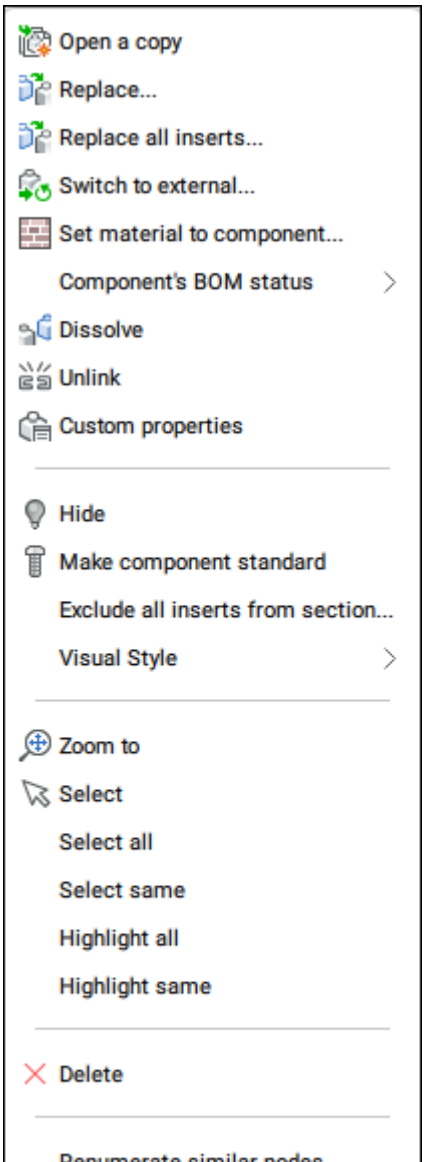


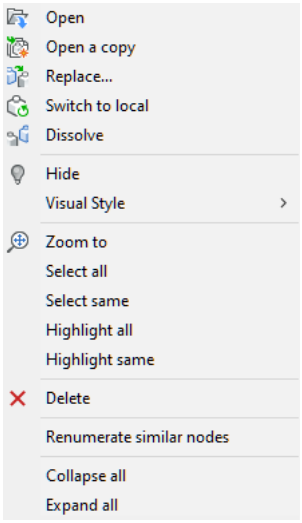
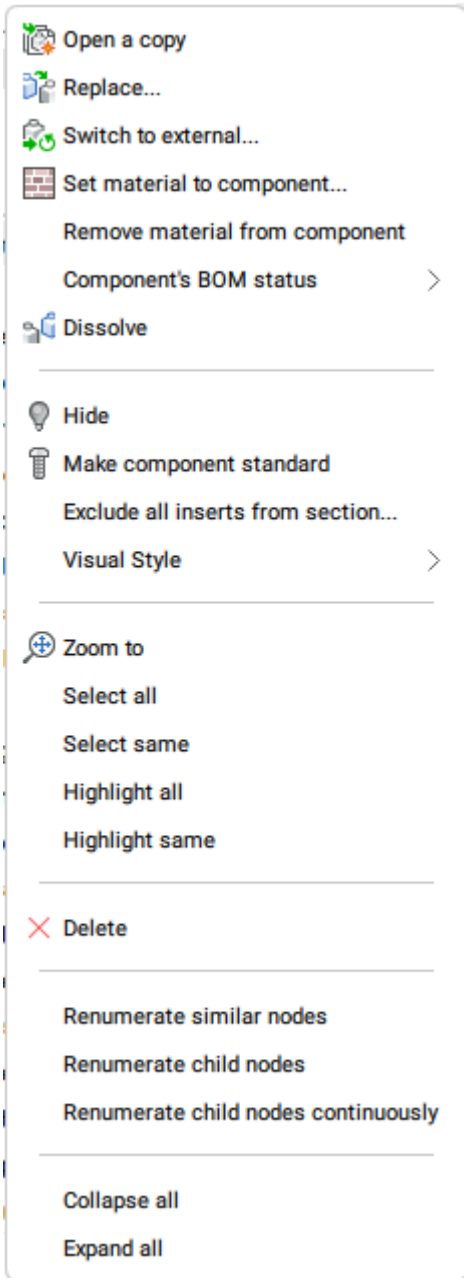
コンポーネントには以下のものがあります：**メイン**、**挿入**、**サブコンポーネント**設定の**メカニカルブロックと図形**を有効にしている場合、それらもブラウザにコンポーネントとして表示されます。

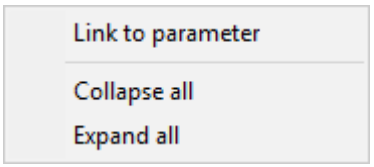
コンポーネント種類	レンダリング表示スタイル	ワイヤフレーム表示スタイル	隠線非表示
サブコンポーネントを含まないコンポーネント	*	*	*
サブコンポーネントを含むコンポーネント	*	*	*
標準部品コンポーネント			
メカニカルブロック			
メカニカル外部参照			
メカニカル図形			

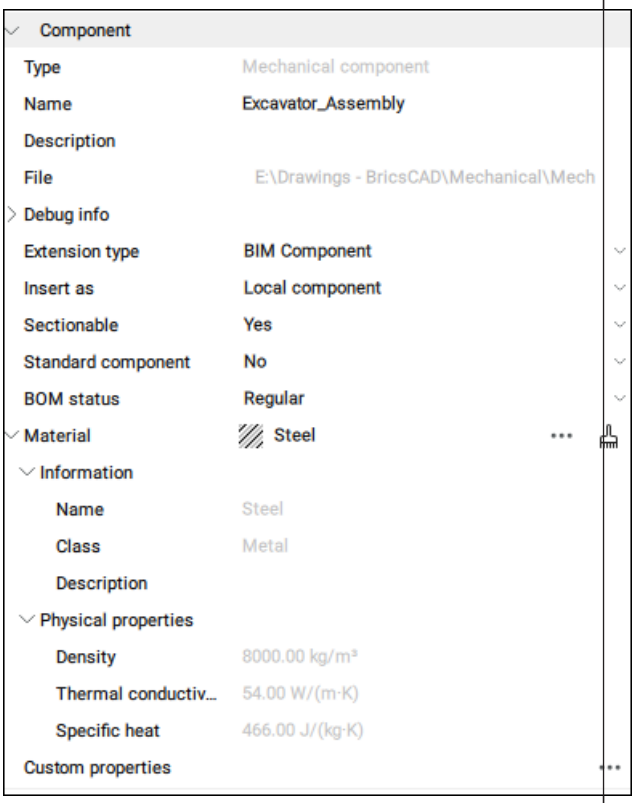
*外部コンポーネントには緑色の矢印があります：または。

コンテキストメニュー	
メインコンポーネントのコンテキストメニュー	メインコンポーネント名を右クリックします：  • **更新**：下位コンポーネントの参照図面ファイルを修正すると、カレント図面のメカニカルコンポーネントの階層も最新のものに更新されます。 • **表示スタイル**：**ビューポートごとにすべて**：現在の**表示スタイル**をアセンブリ内のすべてのコンポーネントに適用します(SHADEMODEコマンドを参照)。 • **すべてをローカルに切替**：すべてのコンポーネントをローカルコンポーネントに切り替えます(BMLOCALIZEコマンドを参照)。 • **すべてを外部に切替**：すべてのコンポーネントを外部コンポーネントに切り替えます(BMEXTERNALIZEコマンドを参照)。 • **新しいパラメータを追加**：アセンブリにパラメータを新規作成します。 • **カスタムプロパティ**：図面のカスタムプロパティを定義することができます。インスタンスごとのプロパティセットがある場合は、サブメニューが開きます。  ルートコンポーネントのみに適用されるプロパティセットを切り替えるか、「設定」を選択してダイアログを開き、カスタムプロパティを設定します。 インスタンスごとのプロパティセットが存在しない場合は、**メカニカルプロパティ**ダイアログボックスが開きます。 • **すべて選択**：同じ定義を持つすべてのコンポーネントを選択します。 • **同じものを選択**：同じ名前および同じパラメータ値を持つすべてのコンポーネントを選択します。

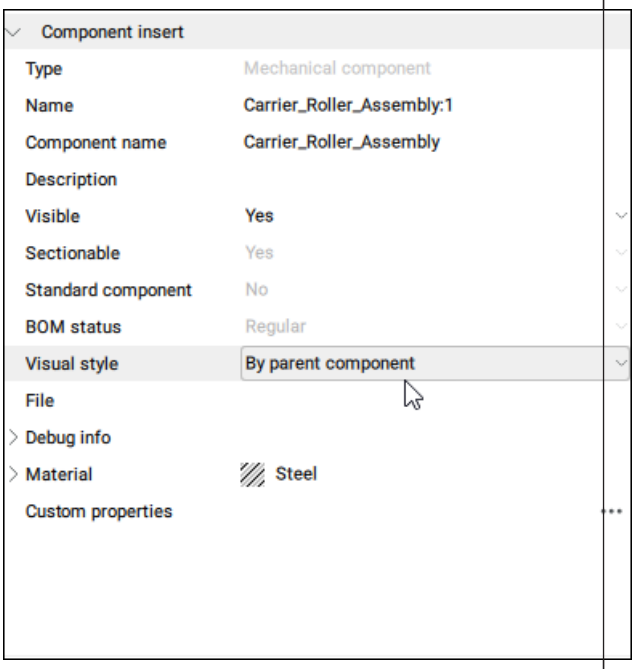
コンテキストメニュー	
コンポーネントのコンテキストメニュー	コンポーネント名を右クリックします。 外部コンポーネントのコンテキストメニュー(左)、ローカルコンポーネントのコンテキストメニュー(右)：  

コンテキストメニュー	
サブコンポーネントのコンテキストメニュー	外部サブコンポーネントのコンテキストメニュー(左)、ローカルサブコンポーネントのコンテキストメニュー(右)：   • **開く**：参照図面を開きます(BMOPENコマンドを参

コンテキストメニュー	
コンポーネントパラメータのコンテキストメニュー	パラメータを右クリックします：  • **パラメータにリンク**：1つまたは複数のコンポーネントパラメータとアセンブリパラメータ間にリンクを確立します。 • **すべて折りたたむ**：メインコンポーネントとすべてのコンポーネント、およびサブコンポーネントを折りたたみます。 • **すべて展開**：メインコンポーネントとすべてのコンポーネント、およびサブコンポーネントを展開します。
プロパティ	

コンテキストメニュー	
メインコンポーネントのプロパティ	メインコンポーネント名をクリックします：  • **名前**：メインコンポーネントの名前を入力します。デフォルトでは、メインコンポーネントの名前はファイル名と同じです。 • **説明**：メインコンポーネントの説明を任意で入力します。 • **ファイル**：図面のパスと名前を表示します。 • **拡張子種類**：コンポーネントを面フィーチャー、BIMコンポーネント、または板金フィーチャーとして識別することができます。 • **挿入**：**内部コンポーネント**または**外部コンポーネント**を選択します。 • **断面可能性**：コンポーネントがVIEWSECTIONコマンドの影響を受けるかどうかを定義します。 • **標準コンポーネント**：このコンポーネントが標準コンポーネントかどうかを定義します。 • **部品表ステータス**：部品表内のこのコンポーネントの動作を定義します。 • **マテリアル**：メインコンポーネントのマテリアルです。 **名前**、**密度**、**説明**(オプション)は、**物理的マテリアル**ダイアログボックスで定義します。 **マテリアル**ノードを選択して、以下のいずれかを実行します。 - **参照**ボタン()をクリックして**物理的マテリアル**ダイアログボックスを開き、プロジェクトデータベースまたはセントラルデータベースのリストからマテリアルを選択します。 選択されたマテリアルの密度プロパティは、BMMASSPROPコマンドで使用されます。 - **マテリアルをクリア**ボタン()をクリックします。 **マテリアル**フィールドに<継承>と表示されます。

コンテキストメニュー	
挿入コンポーネントのプロパティ	コンポーネント名をクリックします： • **種類**：コンポーネントの種類です。**メカニカルコンポーネント**、**メカニカルブロック**、**メカニカル図形**のいずれかを表示します。 • **名前**：コンポーネントの名前を入力します。デフォルトでは、コンポーネントの名前は元のファイル名と同じです。 • **コンポーネント名**：ソースファイルで定義されているコンポーネントの名前です。 • **説明**：ソースファイルで定義されているコンポーネントの説明です。 • **表示**：アセンブリ内のコンポーネントを表示または非表示にすることができます。 いずれかを選択します。 - **表示**フィールドをクリックし、下矢印ボタンをクリックして、**はい**または**いいえ**を選択します。 • **断面可能性**：コンポーネントがVIEWSECTIONコマンドの影響を受けるかどうかを定義します。 • **標準コンポーネント**：このコンポーネントが標準かどうかを定義します。 • **部品表ステータス**：部品表内のこのコンポーネントの動作を定義します。 • **表示スタイル**：コンポーネントの表示スタイルをコントロールします。デフォルトでは、表示スタイルはビューポートから継承されます。 **表示スタイル**フィールドをクリックし、下向き矢印ボタンをクリックすると、リスト内の表示スタイルを選択できます。 • **ファイル**：参照図面のパスと名前を表示します。 • **マテリアル**：コンポーネントのマテリアルを表示しま

コンテキストメニュー	
サブコンポーネントのプロパティ	サブコンポーネントの名前をクリックします。  • **名前**：親コンポーネントのソースファイルで定義されているコンポーネントの名前です。 • **コンポーネント名**：ソースファイルで定義されているコンポーネントの名前です。 • **説明**：ソースファイルで定義されているコンポーネントの説明です。 • **表示**：アセンブリ内のコンポーネントを表示または非表示にすることができます。**表示**フィールドをクリックし、下矢印ボタンをクリックして、**はい**または**いいえ**を選択します。 • **断面可能性**：コンポーネントがVIEWSECTIONコマンドの影響を受けるかどうかを定義します。 • **標準コンポーネント**：このコンポーネントが標準かどうかを定義します。 • **部品表ステータス**：部品表内のこのコンポーネントの動作を定義します。 • **表示スタイル**：コンポーネントの表示スタイルをコントロールします。デフォルトでは、表示スタイルはビューポートから継承されます。 **表示スタイル**フィールドをクリックし、下向き矢印ボタンをクリックすると、リスト内の表示スタイルを選択できます。 • **ファイル**：参照図面のパスと名前を表示します。 • **マテリアル**：コンポーネントのマテリアルを表示します。 **<継承>**に設定した場合、マテリアルはメインコンポーネントからコピーされます。 マテリアルが元のファイルで明示的に定義されている場合は、このマテリアルが使用されます。 • **カスタムプロパティ**：挿入図形のカスタムプロパティを表示します。デフォルトでは、プロパティは対応するコンポーネントから継承されます。トップレベルの挿入では、これらのプロパティのいずれかを希望の値でオーバーライドすることができます。

コンテキストメニュー	
図形の選択方法	
モデル内のコンポーネントを選択	メカニカルブラウザでコンポーネントがハイライト表示されます。
メカニカルブラウザでコンポーネントをクリック	図面でコンポーネントがハイライト表示されます。スペースキーを押すと、コンポーネントを選択できます。**メカニカルブラウザのオプション**設定で、**選択を常に同期**オプションを有効にすると、図面でコンポーネントが自動的に選択されます。

29.4 メカニカルコンポーネントのカスタムプロパティ

29.4.1 概要

コンポーネントのカスタムプロパティは、BIMカスタムプロパティをベースにしていますが、BIMプロジェクトではなく、別の場所に保存されています。

カスタムプロパティはプロパティセットにまとめられ、ドキュメント内の選択されたタイプのすべてのオブジェクトに適用することも、選択されたコンポーネントやインスタンスのみに適用することもできます。後者は、"インスタンスごとの"プロパティセットで行えます。

カスタムプロパティを設定するには、BMPROPERTIESコマンドを使用する必要があります。リボン、コマンドライン、またはメカニカルブラウザから呼び出すことができます。

ルートコンポーネントのプロパティを割り当てるには、**メカニカルブラウザ**パネルを使用します。ブラウザでルートノードを選択して、通常通りカスタムプロパティの値を設定する必要があります。

また、コンポーネントのインスタンスにプロパティを割り当てることも可能です。デフォルトでは、コンポーネントインスタンスは、対応するコンポーネントのプロパティを継承します。ただし、選択したインスタンスのプロパティに新しい値を設定することで、いくつかのプロパティを上書きすることができます。インスタンスのプロパティは、**メカニカルブラウザ**または**プロパティ**パネルのいずれかで編集できます。

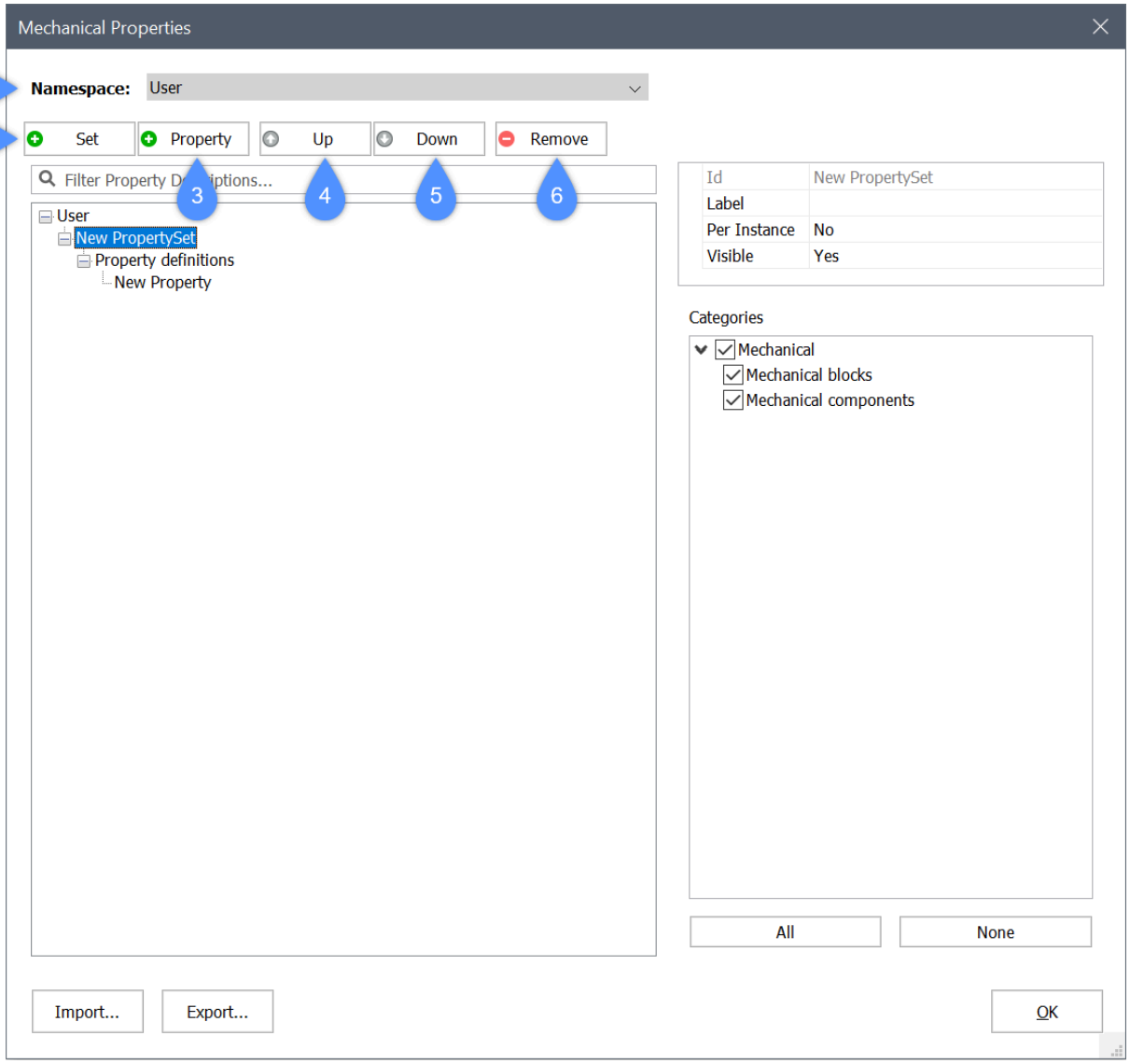
カスタムプロパティを持つコンポーネントをアセンブリに挿入すると、そのプロパティ定義がターゲットアセンブリにマージされます。通常の (インスタンスごとではない)プロパティセットの場合は、デフォルト値であっても、他のコンポーネントもそれらのカスタムプロパティを取得することになります。インスタンスごとのプロパティセットの場合、プロパティセットはアセンブリにマージされますが、それらのプロパティは、セットが有効になっているコンポーネントに対してのみ表示されます。

部品表ではカスタムプロパティがサポートされています。また、理論的にはデータエクストラクターで抽出することも可能です。

29.4.2 メカニカルプロパティダイアログボックスの使用

1 コマンドラインにBMPROPERTIESと入力して、**メカニカルプロパティ**ダイアログボックスを開きます。下図に、ダイアログボッ

クスを示します。



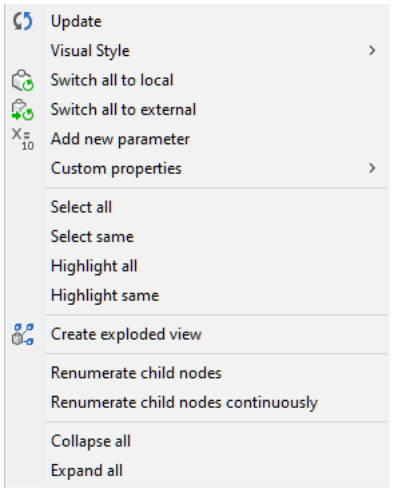
(1)名前空間	名前空間内のグループのプロパティセットです。
(2)セットボタン	新しいプロパティセットを作成します。
(3)プロパティボタン	現在選択しているプロパティセットへプロパティを追加することができます。
(4)上へボタン	選択したプロパティや値をリストの上に移動します。
(5)下へボタン	選択したプロパティや値をリストの下に移動します。
(6)削除ボタン	選択したプロパティセット、プロパティ定義、値定義を削除します。

2 カスタムプロパティセットを作成するには、**セット**ボタンをクリックします。プロパティセットを編集するには、次の操作を行います。

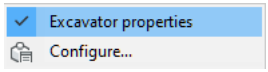
- **ID**(7)フィールドに名前を入力します。
- **ラベル**(8)フィールドに名前を入力します。

  注：ラベル名は、プロパティツリーに表示されます。**ラベル**名が定義されていない場合は、**ID**名が表示されます。**ID**は一意である必要があります。
- **インスタンスごと**(9)では、ユーザー定義のプロパティを、図形ごとに有効/無効にすることができます。

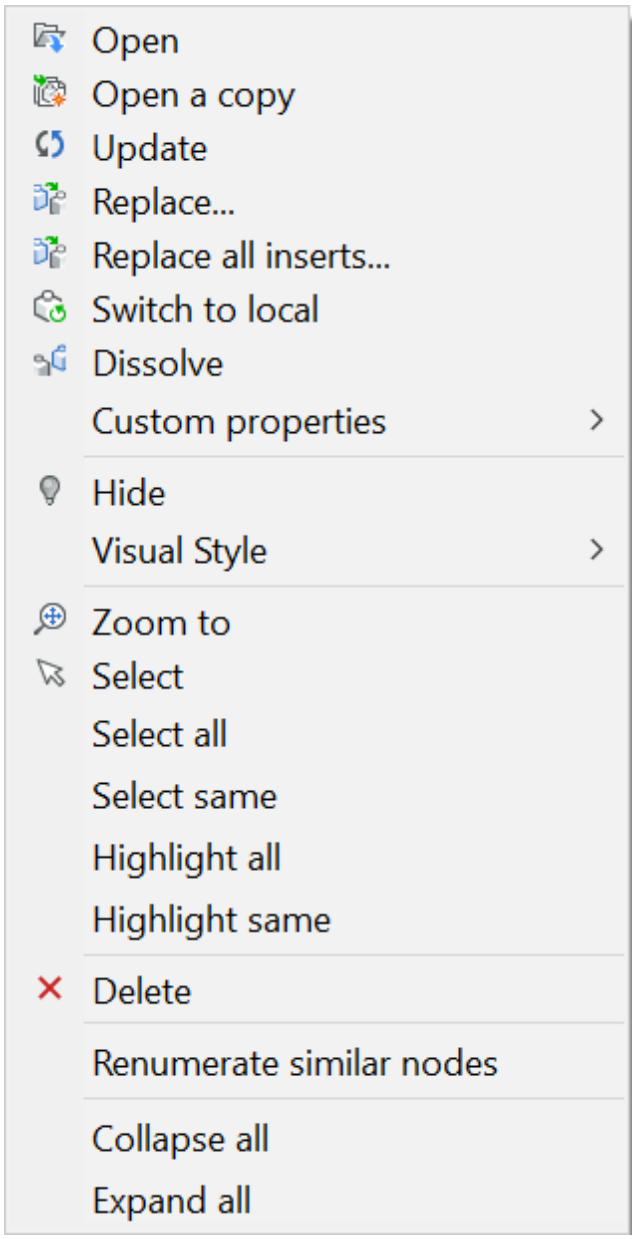
  インスタンスごとのプロパティセットをルートコンポーネントに割り当てるには、以下を実行してください：

- **メカニカルブラウザ**パネルを開きます。
- メイン(ルート)コンポーネントを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを開きます。
- 

- **カスタムプロパティ**サブメニューを選択します。ルートコンポーネントで有効にしたいプロパティセットをクリックします。

  トップレベルのコンポーネントインスタンスやメカニカルソリッドに、インスタンスごとのプロパティセットを割り当てるには：
- **メカニカルブラウザ**パネルを開きます。
- 挿入されたコンポーネントを選択して右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

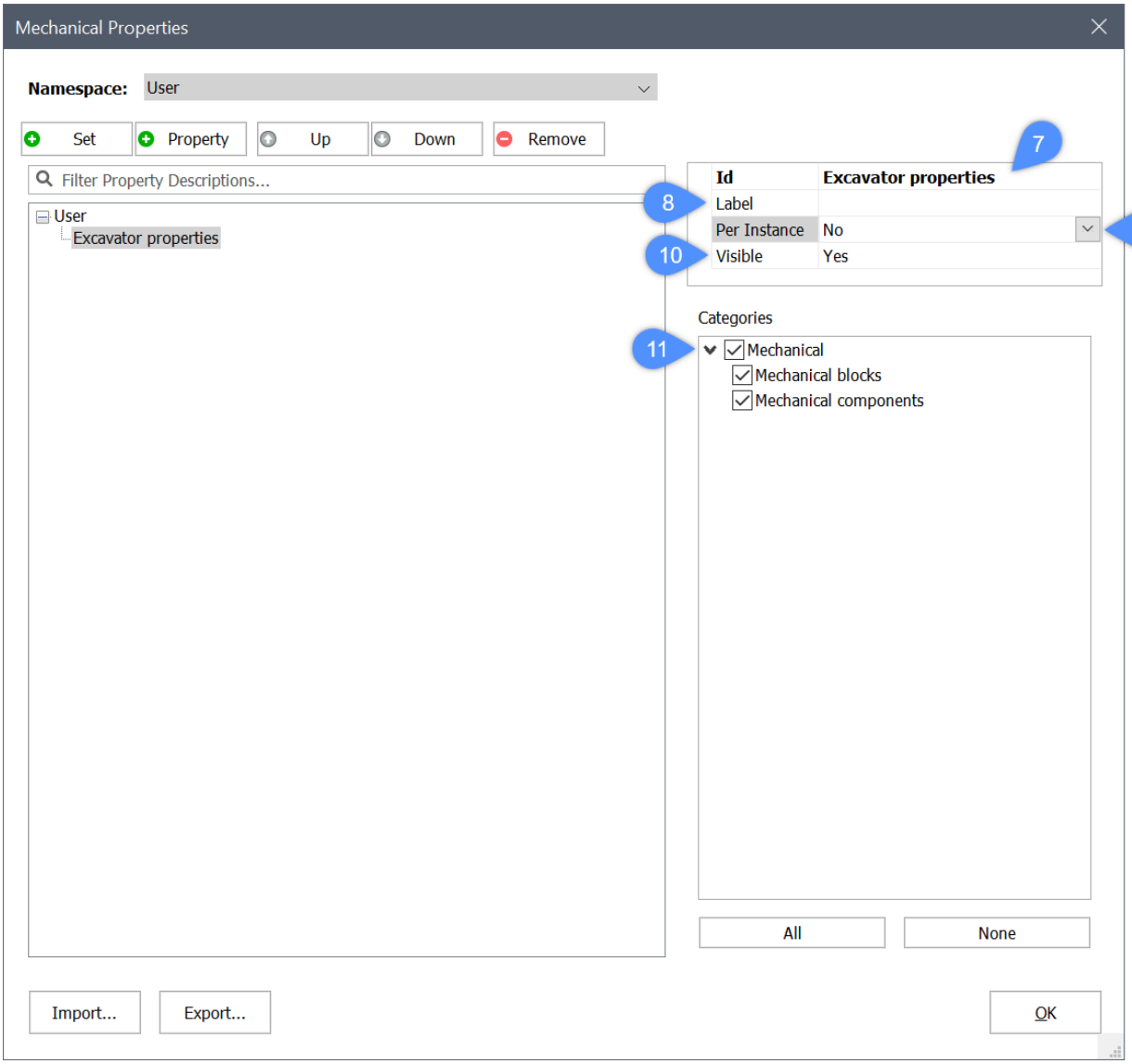
- 

- **カスタムプロパティ**サブメニューを選択します。挿入されたコンポーネントで有効にしたいプロパティセットをクリックします。
  - **表示**(10)プロパティを変更して、プロパティセット内のプロパティを**プロパティ**パネルに表示するかどうかを定義します。

プロパティセットが適用されるコンポーネントカテゴリーを選択します。現在、メカニカルコンポーネントについては、2つのカテゴリーがあります：メカニカルコンポーネントとメカニカルブロックです。(11)

- カテゴリーの一番上のチェックボックスをクリックすると、そのカテゴリに含まれるすべてのコンポーネントタイプが選択されます。
- **すべて**ボタンをクリックすると、全カテゴリーのコンポーネントタイプがすべて選択されます。

- **無し**ボタンをクリックすると、全カテゴリーのすべてのコンポーネントタイプのチェックが解除されます。



3 カレントに選択されているプロパティセットにプロパティを追加するには、まず、プロパティセットを選択してから[プロパティセットを追加]ボタンをクリックして追加します。

4 プロパティを編集するには、次の操作を行います。

- **ID**(12)欄に名前を入力します。
- **ラベル**(13)欄に名前を入力します。
- (オプション)**説明**(14)欄に説明を入力します。
- 種類欄(15)でプロパティタイプを設定します。オプションは以下の通りです。
- **ブーリアン型**：オンまたはオフの値。

  整数：-2147483648から2147483647までの整数。

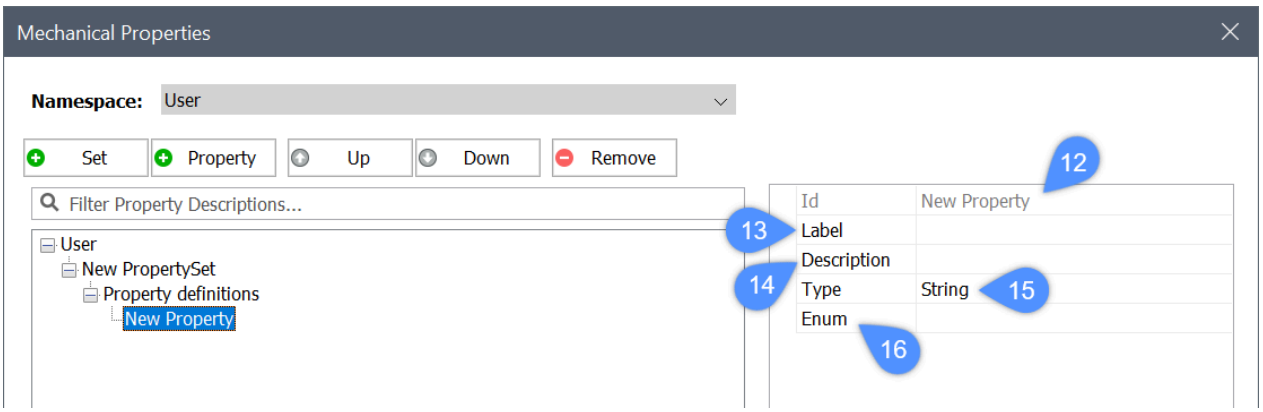
  実数型：実数の近似値。

  文字列： 一連の文字で、数字と文字の両方を使用できます。

- 列挙型欄(16)では、列挙型の値を定義することができます。カスタムプロパティに指定できる固定の値を定義することができます。これらの値は、**プロパティ**パネルまたはメカニカルブラウザのコンポーネントプロパティのドロップダウンリストで選択できます。

  オプションで、マッピングオプションをチェックすると各値の説明が追加されます。

下の図は、新しいプロパティセットを挿入した後の、**メカニカルプロパティ**ダイアログボックスを表示しています。



5 プロパティセット/プロパティを削除するには、ツリー内のプロパティセット/プロパティを選択し、**削除**ボタンをクリックしてください。

6 **OK**ボタンをクリックして、設定を確定します。

29.5 カスタム標準部品の作成方法

29.5.1 概要

-BMHARDWAREコマンドを使用して、パイプ、十字管(クロス)、T字管(ティー)など、いくつかのカテゴリのカスタム標準部品を作成できます。.TXTファイルを選択できる**カスタム作成**オプションがあります。これらのファイルには次の部分が含まれている必要があります。

1 必須作成パラメータ

2 オプション作成パラメータ

3 構成表

これらの部分を1つずつ説明します。まずは最初にいくつかの一般的なルールを説明します。

- セミコロンで始まる行は無視されます。
- 作成パラメータがあるすべての行には、次の署名が必要です。
- `PARAMETER_NAME: "parameter_value"`

29.5.2 必須作成パラメータ

必須作成パラメータは、それがないと部品が作成されないパラメータです。現在は次の必須パラメータがあります。

- **NAME**：作成された部品の名前
- **CATEGORY**：作成されたパーツのカテゴリ(サポートされているカテゴリは以下にリストされ、英語名を使用する必要あります)
- **PATH**：**ライブラリ**パネルで作成された部品へのパス

  注：フォルダーはセミコロンで区切ることができます。例えば、値「Piping; Elbows」は、パーツが「標準部品」→「配管」→「エルボ」→「標準作成パラメータの値」フォルダーに作成されることを意味します。
- **STANDARD**：作成された部品の規格、例えば、ASME、ANSI、DIN、ISOなど(規格の分類)であり、ASME B16.5、DIN EN 1092-1など(特定の規格)ではありません。
- **DESCRIPTION**：作成された部品の説明

29.5.3 オプション作成パラメータ

次の作成パラメータは省略できます。

- **EXPOSED_PARAMETERS**：指定された部品のユーザーがアクセスできる構成表のパラメータ

  注：パラメータはスペースで区切る必要があります。
- **INITIAL_VALUE**：部品がライブラリからドラッグされるときに使用される表のキー値

  注：このパラメータを省略すると、表の最初の行が初期値として使用されます。
- **MATERIAL**：作成した部品の材質

  注：マテリアルライブラリのマテリアルのみを使用できます。
- **CUSTOM_PARAMETERS**：任意の値を持つことができ、表によって決定できないパラメータ(例：パイプの長さ)
- **KEY_PARAMETER**：パラメータ表のキーとして使用されるパラメータ

注：このパラメータを省略すると、最初の列がキーパラメータとして使用されます。

- **LENGTH_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS、AREA_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS、VOLUME_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS、UNKNOWN_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS**：適切なタイプを持つパラメータ、例えば、部品が他のユニットと一緒にドキュメントに挿入されると、長さ/面積/体積が変更されます。長さタイプはデフォルトです。

29.5.4 構成表

構成表には、必須およびオプションのパラメータもあります。必須の構成パラメータは次のとおりです。

- **幾何学的パラメータ**：これらのパラメータは部品のジオメトリを決定し、部品のカテゴリごとに異なります。各カテゴリのそのようなパラメータの完全なリストを以下に説明します。
- **主要パラメータ**：このパラメータは部品構成を明確に決定する必要があります。
- **単位パラメータ**：部品が作成される単位を決定します。「IN」–インチおよび「MM」–ミリメートルの値を持つことができます。

また、他のパラメータはいくつでも存在できます。

注：いくつかの一般的なルール：

- 文字列パラメータは引用符で囲む必要があります："value"
- 引用符がパラメータ値記号の一部である場合、記号 ¥ は記号 " の前に配置する必要があります。例えば、

  ```
  "1/2¥" X 1/2¥" SCH 5"
  ```

  は、1/2" X 1/2" SCH 5として認識されます。

29.5.5 標準部品を作成するためのファイルの作成方法

標準部品を作成するためのファイルを作成する通常の方法は次のとおりです。

1. 標準の値を使用して表を作成します。この値にはキー値と幾何学的パラメータが含まれます。必要に応じて、単位とカスタムパラメータ列を含む列を追加します。
2. 表をテキスト形式(例：CSV)に変換します。スペースは区切り文字として使用する必要があり、テキスト値は二重引用符(")内に配置する必要があります。
3. このファイルの内容をコピーしてTXTファイルに貼り付けるか、このCSVファイルの拡張子をTXTに変更します。
4. このTXTファイルの先頭に、すべての必須の作成パラメータと、必要に応じてオプションのパラメータを追加します。
5. これでファイルを使用する準備が整いました。

29.5.6 既存のTXTファイルからのカスタム標準部品の作成

TXTファイルを作成後、次の手順を行う必要があります。

1. どの図面でも -BMHARDWAREコマンドを実行し、**カスタムを作成**オプションを選択します。
2. **構成表を選択してください**ダイアログボックスで、作成した.TXTファイル(またはファイル)を選択します。
3. このコマンドは新しい標準部品を作成します。例：
   - 適切な単位で新しい図面が開きます。
   - .TXTファイルに従ってプロパティを持つコンポーネントを作成します。

- 標準部品を適切な場所に保存します。
- ライブラリのサムネイルが作成されます。

サンプルのエルボーを作成可能にする、.TXTファイルの例：

```
; Mandatory creation parameters

NAME: "Sample elbow"
CATEGORY: "Elbow"
PATH: "Piping;Elbows"
STANDARD: "Sample standard"
DESCRIPTION: "Sample description"

; Optional creation parameters

EXPOSED_PARAMETERS: "PartNumber" "Size" "OuterDiameter" "Thickness" "Schedule"
INITIAL_VALUE: "1/2¥" X 0.065¥" (SCH 5S)"
LENGTH_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS: "OuterDiameter" "Thickness"
MATERIAL: "Steel"

; other possible optional parameters
; CUSTOM_PARAMETERS:
; KEY_PARAMETER:
; UNKNOWN_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS:
; AREA_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS:
; VOLUME_MEASUREMENT_TYPE_PARAMETERS:

; table

"PartNumber"                "Size"      "UNIT"     "OuterDiameter"     "Thickness"     "Schedule"     "B"      "DEG"
"1/2¥" X 0.065¥" (SCH 5)"      "1/2¥""     "IN"       0.84                0.065           "SCH 5"        0.62     45.0
"1/2¥" X 0.065¥" (SCH 5S)"     "1/2¥""     "IN"       0.84                0.065           "SCH 5S"       0.62     45.0
"1/2¥" X 0.083¥" (SCH 10)"     "1/2¥""     "IN"       0.84                0.083           "SCH 10"       0.62     45.0
```

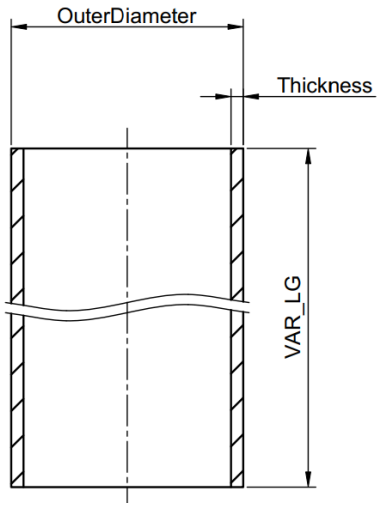
29.5.7 カスタム標準部品を使用したモデルの転送

現在、カスタム標準部品のデータは、挿入されている図面とは別に保存されています。別のユーザーがカスタム標準パーツを使用してモデルを操作できるようにするには、モデルが作成された適切な.TXTファイルも必要です。このユーザーは、**既存のTXTファイルからのカスタム標準部品の作成**のすべての手順を実行する必要があります。

29.5.8 部品カテゴリと幾何学的パラメータ

パイプ

カテゴリー："Pipe"



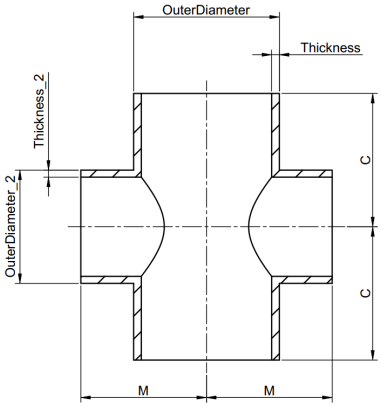
すべてのパラメータは必須です。

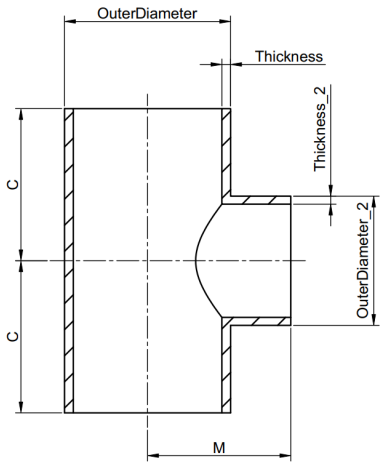
- **OuterDiameter**：外径
- **Thickness**：厚さ
- **VAR_LG**：初期の長さ

十字管(クロス)とT字管(ティー)

カテゴリー："Cross"

カテゴリー："Tee"





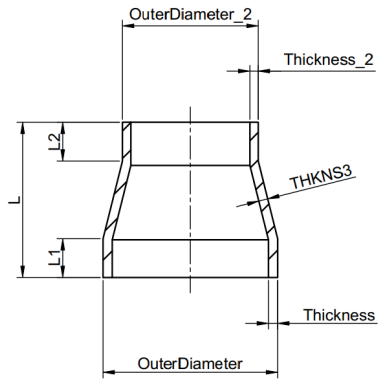
すべてのパラメータは必須です。

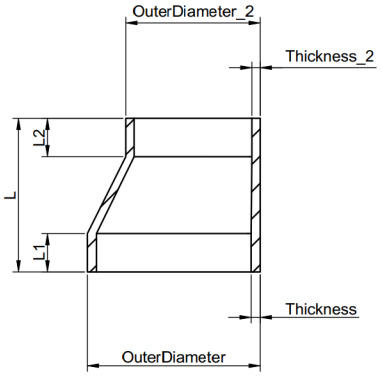
- **OuterDiameter**：主配管の外径
- **OuterDiameter_2**：流出口の外径
- **C**：主配管の中心から端までの距離
- **M**：流出口の中心から端までの距離
- **Thickness**：主配管の厚さ
- **Thickness_2**：流出口の厚さ

レデューサーと偏心レデューサー

カテゴリー："Reducer"

カテゴリー："Eccentric reducer"





必須パラメータ：

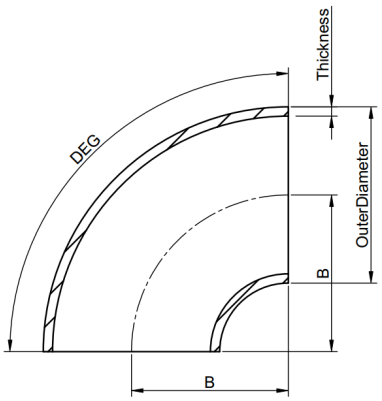
- **OuterDiameter**：第1端の外径
- **OuterDiameter_2**：第2端の外径
- **Thickness**：第1端の厚さ
- **Thickness_2**：第2端の厚さ
- **L**：レデューサーの全長

オプションパラメータ：

- **THKNS3**：円錐部分の厚さ、偏心レデューサー用ではないデフォルト値は、ThicknessとThickness_2の最大値です。
- **L1**：第1端の円筒部分の長さデフォルト値は0.25×Lです。
- **L2**：第2端の円筒部分の長さデフォルト値は0.25×Lです。

エルボ

カテゴリー："Elbow"

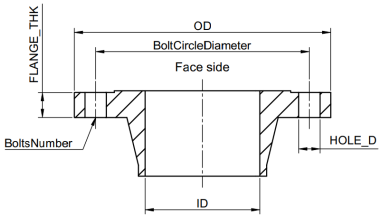


すべてのパラメータは必須です。

- **OuterDiameter**：外径
- **Thickness**：厚さ
- **B**：中心から端までの距離
- **DEG**：角度(度)

フランジ

カテゴリー："Flange"



必須パラメータ：

- **OD**：フランジ外径
- **ID**：フランジ内径(ボア)

  注：フランジタイプがBLINDの場合は、省略または値0にする必要があります。
- **FLANGE_THK**：フランジの厚さ面の高さは含まれません。
- **BoltCircleDiameter**：穴の中心円の直径
- **BoltsNumber**：穴の数
- **HOLE_D**：穴の直径
- **BoltDiameter**：ボルト径
- **OuterDiameter**：パイプ外径
- **GasketThickness**：ガスケットの厚さ

  注：面タイプがASME_RING_JOINTの場合は、省略する必要があります。
- **DistanceBetweenFlanges**：フランジ間の距離

  注：面タイプがASME_RING_JOINTの場合は、省略する必要があります。
- **FLANGE_TYPE – フランジタイプ**
  値はすべての行で同じである必要があります。以下のタイプがサポートされています。

  BLIND – ボアなし
  ハブの隆起部分はありません。パイプ接続なし。

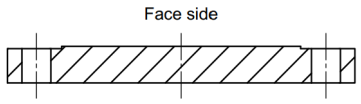
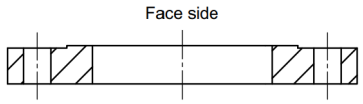
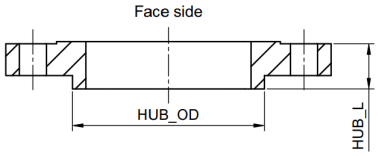


  PLATE – ハブの隆起部分なし
  パイプはボアに挿入されます。

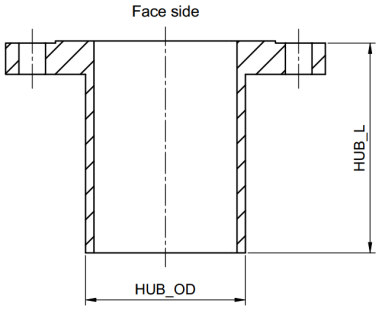


  CYL_RAISE_HUB_PIPE_INS_INTO_BORE – ハブに円筒形の隆起部分あり
  パイプはボアに挿入されます。



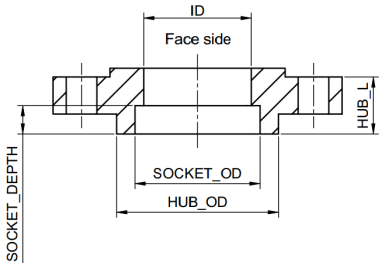
必須パラメータ：**HUB_OD**、**HUB_L**

CYL_RAISE_HUB_PIPE_CONN_TO_HUB – ハブに円筒形の隆起部分あり
パイプはハブに接続されます。



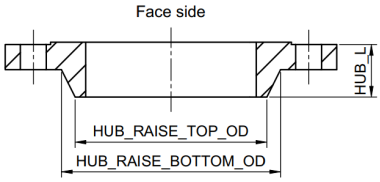
必須パラメータ：**HUB_OD**、**HUB_L**

CYL_RAISE_HUB_WITH_SOCKET – ハブにソケット付きの円筒形の隆起部分あり
パイプはソケットに挿入されます。



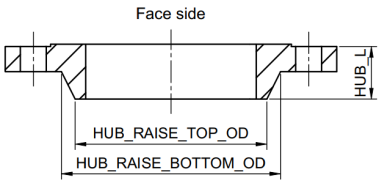
必須パラメータ：**HUB_OD**、**HUB_L**、**SOCKET_OD**、**SOCKET_DEPTH**

CON_RAISE_HUB_PIPE_INS_INTO_BORE BORE – 円錐形の隆起部分を持つハブ
パイプはボアに挿入されます。



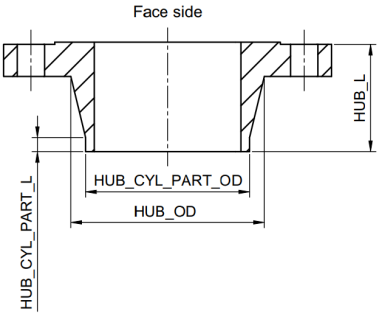
必須パラメータ：**HUB_RAISE_BOTTOM_OD**、**HUB_RAISE_TOP_OD**、**HUB_L**

CYL_RAISE_HUB_PIPE_CONN_TO_HUB – ハブに円錐形の隆起部分あり
パイプはハブに接続されます。



必須パラメータ：**HUB_RAISE_BOTTOM_OD**、**HUB_RAISE_TOP_OD**、**HUB_L**

CON_CYL_RAISE_HUB_PIPE_CONN_TO_HUB – ハブに隆起部分あり
下部の円錐部分と上部の円筒部分で構成されています。パイプはハブに接続されます。

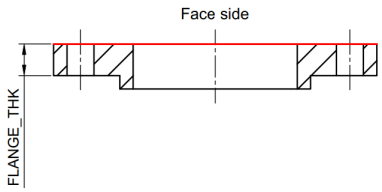


必須パラメータ：**HUB_OD**、**HUB_L**、**HUB_CYL_PART_OD**、**HUB_CYL_PART_L**

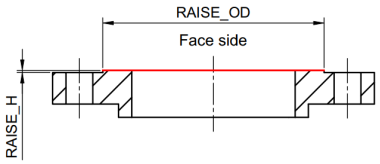
- **FACE_TYPE – 面タイプ**
  値はすべての行で同じである必要があります。以下のタイプがサポートされています。

  注：赤い線は、ガスケットの厚さ(またはASME_RING_JOINTの場合は、フランジ間の距離)がZ軸に沿って測定される面を示しています。

  FLAT – 平面

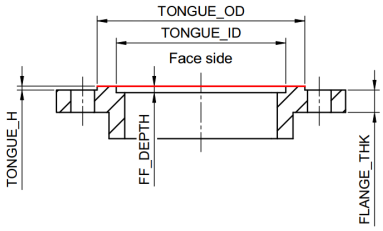


  RAISED



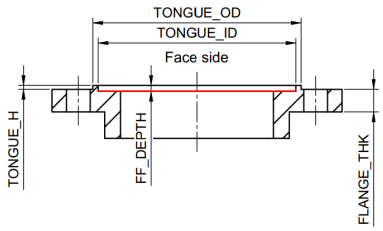
  必須パラメータ：**RAISE_OD**、**RAISE_H**

  TONGUE



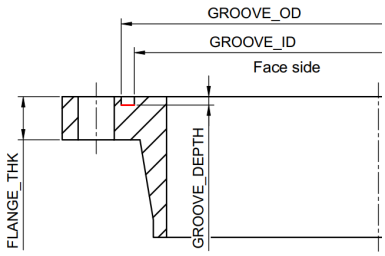
必須パラメータ：TONGUE_ID、TONGUE_OD、TONGUE_H、FF_DEPTH

FEMALE



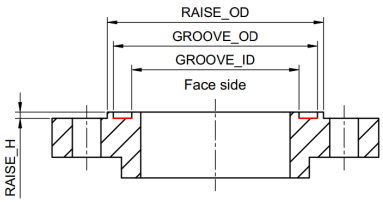
必須パラメータ：TONGUE_ID、TONGUE_OD、TONGUE_H、FF_DEPTH

FLAT_WITH_GROOVE



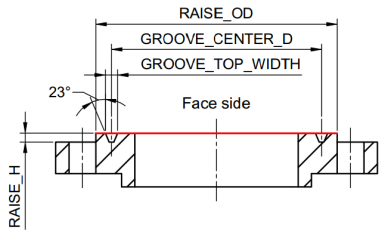
必須パラメータ：GROOVE_ID、GROOVE_OD、GROOVE_DEPTH

GROOVE



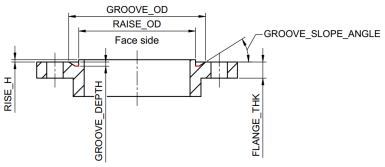
必須パラメータ：RAISE_OD、RAISE_H、GROOVE_ID、GROOVE_OD

ASME_RING_JOINT



必須パラメータ：RAISE_OD、RAISE_H、GROOVE_CENTER_D、GROOVE_TOP_WIDTH

DIN_O-RING_GROOVE



必須パラメータ：**RAISE_OD**、**RAISE_H**、**GROOVE_OD**、**GROOVE_DEPTH**、**GROOVE_SLOPE_ANGLE**
オプションパラメータ：

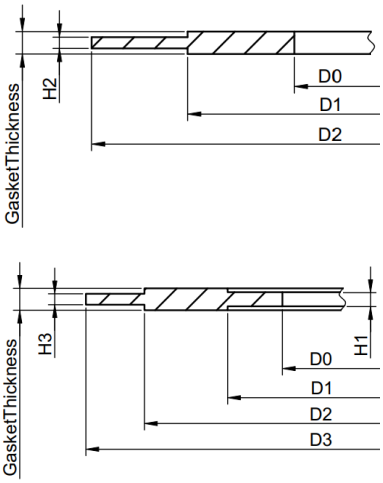
- **Thickness**：パイプの厚さ
- **Gap**：
  - パイプがボアに挿入されている場合、ボアの最も高い点からパイプ接続点までのZ軸に沿った距離です。
  - パイプがソケットに挿入されている場合、ソケットの底からパイプ接続点までのZ軸に沿った距離です。
  - **注**：デフォルト値は0です。他のパイプ接続タイプの場合は、省略する必要があります。
- **IS_CUSTOM_PIPE_THK_ALLOWED**：
  - 値が0でない場合、カスタムの**Thickness**の値がサポートされます。
  - 値が0の場合、カスタムの**Thickness**の値はサポートされません。

    注：現時点では、パラメータ**HUB_RAISE_TOP_OD**が**OuterDiameter**に対応している場合、フランジタイプ**CON_RAISE_HUB_PIPE_CONN_TO_HUB**に対してのみ機能します。デフォルト値は0です。

ガスケット

カテゴリー："Gasket"

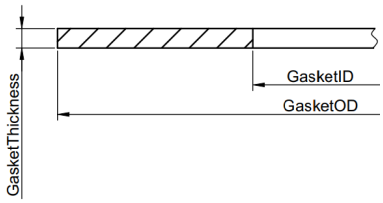
MULTIRING



1つまたは複数の後続リングで構成されるガスケットの一種です。リングは長方形のプロファイルです。リングの厚さH (i)、境界直径D (i-1)、D (i)
GasketThicknessパラメータが設定されている場合、Hパラメータが設定されていないすべてのリングに使用されます。

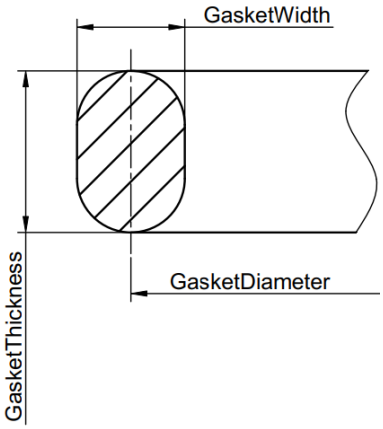
注：H は**GasketThickness**より大きくすることはできません。

FLATFACE



長方形のプロファイルのガスケットです。
GasketID：ガスケットの内径
GasketOD：ガスケットの外径
GasketThickness：ガスケットの厚さ

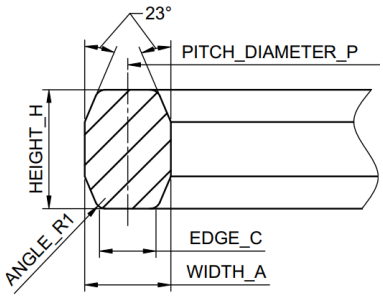
OVAL



楕円形または円形のプロファイルのガスケットです。
GasketDiameter：ガスケットピッチ径
GasketWidth：ガスケットの幅
GasketThickness：ガスケットの厚さ

注：**GasketWidth**は、ASME B16のように**GasketThickness**より大きくすることができます。20ジャケット付き、またはASME B16.20 楕円形よりも小さい、またはAS2129Oリングと同等です。

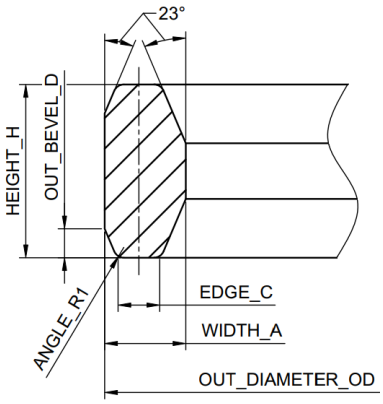
OCTAGONAL_R



ASME B16.20タイプR規格に対応した特殊形状ガスケットです。
WIDTH_A：ガスケットの幅
HEIGHT_H：ガスケットの高さ
EDGE_C：平面の幅
PITCH_DIAMETER_P：ガスケットの平均ピッチ径

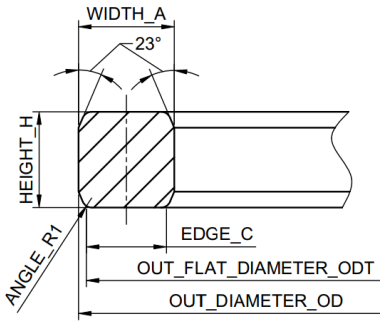
ANGLE_R1：リングの半径

OCTAGONAL_RX



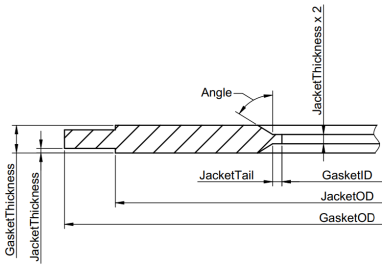
ASME B16.20タイプRX規格に対応した特殊形状ガスケットです。
WIDTH_A：ガスケットの幅
EDGE_C：平面の幅
OUT_BEVEL_D：外側の斜角の高さ
HEIGHT_H：ガスケットの高さ
OUT_DIAMETER_OD：ガスケットの外径
ANGLE_R1：リングの半径

OCTAGONAL_BX



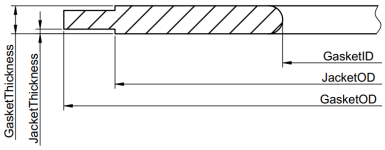
ASME B16.20タイプBX規格に対応した特殊形状ガスケットです。
WIDTH_A：ガスケットの幅
EDGE_C：平面の幅
HEIGHT_H：ガスケットの高さ
OUT_DIAMETER_OD：ガスケットの外径
OUT_FLAT_DIAMETER_ODT：平面の外径
ANGLE_R1：リングの半径

JACKET_A



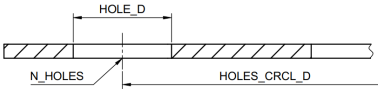
DIN EN 1514-3 タイプA規格に対応した特殊形状ガスケットです。
GasketID：ガスケットの内径
JacketOD：ジャケットの外径
GasketOD：ガスケットの外径
JacketThickness：ジャケットの厚さ
GasketThickness：ガスケット全体の厚さ(コアと2xジャケット)
JacketTail：ジャケットテールの長さ
Angle：テール部前面のジャケット傾斜角

JACKET_C



DIN EN 1514-3 タイプC規格に対応した特殊形状ガスケットです。
GasketID：ガスケットの内径
JacketOD：ジャケットの外径
GasketOD：ガスケットの外径
JacketThickness：ジャケットの厚さ
GasketThickness：ガスケット全体の厚さ(コアと2xジャケット)

注：ガスケットにはボルト穴が開いている場合があります。追加するためには、3つのパラメータを指定する必要があります。ASME B 16.21 FullFace ガスケットのサンプルをご覧いただけます。



N_HOLES：穴の数

HOLE_D：穴の直径

HOLES_CRCL_D：穴が配置されている円の直径

29.6 アセンブリのマスプロパティ

29.6.1 概要

BMMASSPROPコマンドを使用します。

アセンブリは様々なマテリアルでできた複数の部品で構成されています。そうしたアセンブリの質量や重力の中心(重心)、慣性を正確に算出するために、BricsCADは部品ごとの密度をサポートしています。

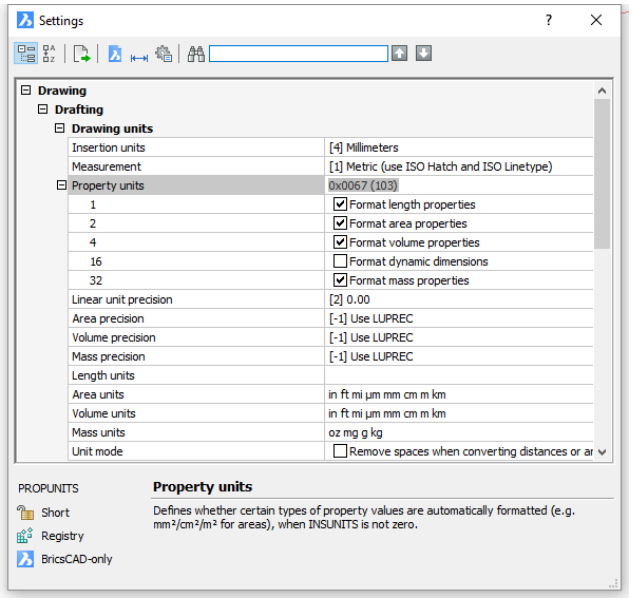
メカニカルコンポーネントの物理的マテリアルは、**メカニカルブラウザ**のマテリアルプロパティで定義されます。

デフォルトでは、コンポーネントは挿入先または作成元のアセンブリの密度を継承します。

29.6.2 質量の単位を設定

1 設定ダイアログボックスを開きます。

2 **図面/2D作図/作図単位**の**プロパティ単位**を展開します。

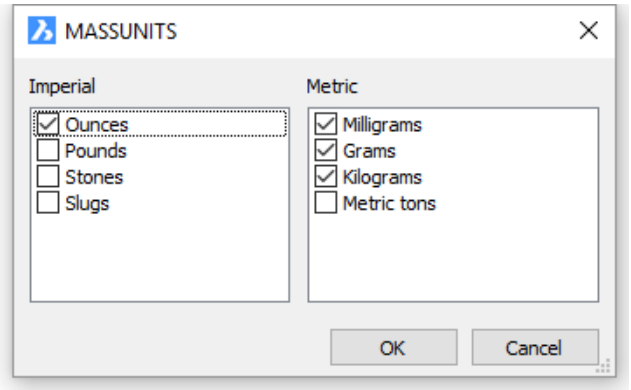


3 **質量プロパティのフォーマット**チェックボックスを選択し、適切な単位による質量値のフォーマットを有効にします。

4 **質量単位**欄を選択します。

5 **ブラウズ**ボタンをクリックします。

6 MASSUNITSダイアログボックスで目的の質量単位を指定します。



注：**質量単位**の設定は質量値のみに影響を与えます。密度や慣性モーメント等、他のマスプロパティは、**質量単位**の設定に関わりなく、ミリ系はSI単位、インチ系はオンスやポンド等の単位でフォーマットされます。

7 **質量精度**欄で精度を指定します。

8 設定ダイアログボックスを閉じます。

29.6.3 質量プロパティを計算する

BMMASSPROPコマンドを使用します。

質量プロパティの計算は、モデル全体を対象に行うことも、選択した3Dソリッドやサブコンポーネントを対象に行うこともできます。コマンドラインに、質量、体積、重心、慣性モーメント、慣性相乗モーメント、回転半径、重心についての主慣性モーメントとX-Y-Z方向の数値が表示されます。

オプションで、ユーザー座標系(UCS)を慣性軸に合わせることもできます。その結果、コンポーネントの質量重心の中心がUCSの原点になり、重力下の製品挙動を調べる際などに役立ちます。

29.7 標準メカニカルコンポーネント

29.7.1 概要

LIBRARYPANELOPENコマンドを使用します。

BricsCADには、170,000以上の異なるサイズで利用可能な1,000以上の標準メカニカル部品のライブラリが付属しています。これらの部品は、**ライブラリ**パネルで利用でき、ライブラリからアセンブリにドラッグアンドドロップできます。パラメータの調整は、挿入される部品のパラメータが一時的に一覧表示される**プロパティ**パネルで行います。挿入後のパラメータは、**メカニカルブラウザ**と**プロパティ**パネルで編集できます。

メカニカルワークスペースの**ライブラリ**パネルには、次の3つのカテゴリがあります。

- 標準部品
- 穴
- 板金
- ツール

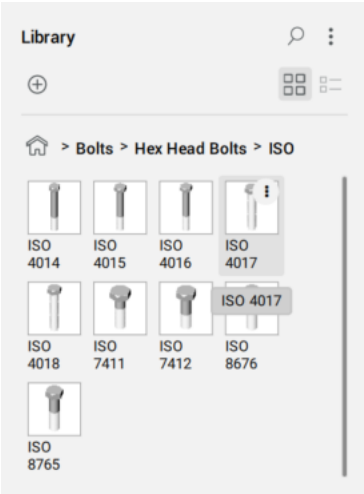
29.7.2 標準部品

標準部品カテゴリには、4つのサブカテゴリにグループ化されたメカニカルブロックが含まれています。

- ボルト、ナット、ワッシャーなどの**ファスナー類**
- ベアリング、スプロケットなどの**機械部品**
- パイプ、エルボー、フランジなどの**配管類**
- 梁、チャンネル、バーなどの**構造用形状**

各サブカテゴリのコンテンツは、タイプ、サブタイプ、規格によって構成されています。

例：標準部品 / ファスナー / ボルト / 六角ボルト / ISO / ISO4017



注：設定ダイアログの標準部品項目には標準部品を設定するための2つの特別な設定があります。

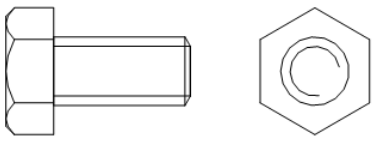
- **ねじ表示(THREADDISPLAY)**は、ボルトとナットの3Dねじを表す(または表さない)ために使用されます。この設定により、メモリの消費量を減らし、パフォーマンスを向上させることができます。
- **スプロケットの歯の最大数(GEARTEETHNUMBER)**は、スプロケットホイールの歯数を制限するために使用します。(**標準部品/スプロケットで利用可能**)この設定により、メモリの消費量を減らし、パフォーマンスを向上させることができます。

デフォルトでは、モデルのパフォーマンスを最適化するために、THREADDISPLAYはオフに設定され、GEARTEETHNUMBERは1に設定されます。変更するとすべての新しいドキュメントに設定が適用されます。

図面ビュー内のねじ山の標準的な表現

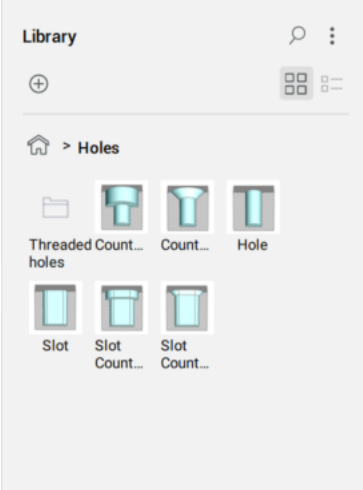
VIEWBASEコマンドで生成されたアセンブリの図面ビューには、標準部品のねじ山の表現が側面図では細い線で、上面/底面図では270度の細い円弧として含まれています。

例：



29.7.3 穴

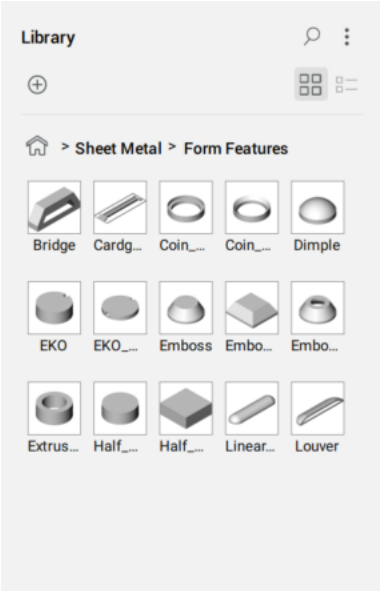
穴カテゴリには、スロット、ザグリ、皿穴等の標準的な穴のパラメトリックライブラリが含まれています。



図面ビューに表示される**ねじ穴**のサブカテゴリもあります。

29.7.4 板金フォームフィーチャー

板金カテゴリには、ブリッジ、エンボスなどの板金フォームフィーチャーのパラメトリックライブラリが含まれています。

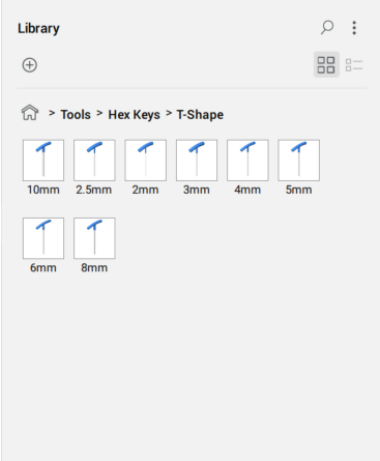


29.7.5 ツール

ツールカテゴリには、以下の4つのサブカテゴリに分類されたツールが含まれています。

- **六角レンチ**(L字型やT字型の六角レンチ)
- **トルクレンチ**
- **レンチキー**(コンビネーションレンチやラチェットレンチ)
- **スクリュードライバー**

例: ツール / 六角レンチ / T字型



29.7.6 カレント図面に標準部品を配置する

1 カテゴリを選択します。

2 標準を選択します。

3 種類を選択します。

4 配置する標準コンポーネントをクリックします。

5 **プロパティ**パネルでパラメータを編集します。

6 作図領域内をクリックして、選択したコンポーネントを挿入します。

ほとんどの標準パーツはメカニカルブロックであるため、BEDITコマンドで編集できます。また、カスタム標準部品に対して標準、カテゴリ、タイプ、説明を割り当てることができます。さらに、BricsCADに付属の部品に対してこれらのプロパティをオーバーライドすることもできます。

古い標準部品のほか、メカニカルブロック無効時(MECHANICALBLOCKS=0)にメカニカルコンポーネントとして挿入された標準部品も対応可能です。

メカニカルブロックが無効(MECHANICALBLOCKS = 0)の場合でも、メカニカルルートブロックを持つファイルがBMINSERTを使って挿入されている場合、メカニカルルートに格納されている内部名を使ってコンポーネント定義が作成され、対応するプロパティがその定義にコピーされます。同じ内部名の定義が既に存在する場合は、これが使用されます。

部品表では、同じ名前とパラメータを持つ標準部品は、一方が古いコンポーネントでもう一方がメカニカルブロックであっても、同等として扱われます。

29.7.7 独自の標準部品を作成する

CREATELIBRARYBLOCKコマンドを使用して、独自の標準パーツを作成し、**ライブラリ**パネルに追加します。

29.7.8 ねじ山の表示をコントロールする

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **ねじ山表現**を検索します(THREADDISPLAY)。

3 設定を有効にします。

4 ねじ山を既存の部品にも表示したい場合には、下記の手順でドキュメントを更新します。

5 - **アセンブリコンポーネント更新モード(BMUPDATEMODE)**を一時的に**[1] すべてのコンポーネントを更新する**に

設定します。

- BMUPDATEコマンドを使用して、ドキュメントを更新します。
- 該当する場合は、**アセンブリコンポーネント更新モード(BMUPDATEMODE)**を以前の値に戻します。

29.7.9 スプロケットの歯の数をコントロール

1 **設定**ダイアログボックスを開きます。

2 **スプロケット歯の最大数**(GEARTEETHNUMBER)を検索します。

3 作成済みスプロケットに十分な値を設定します(500が推奨値)。

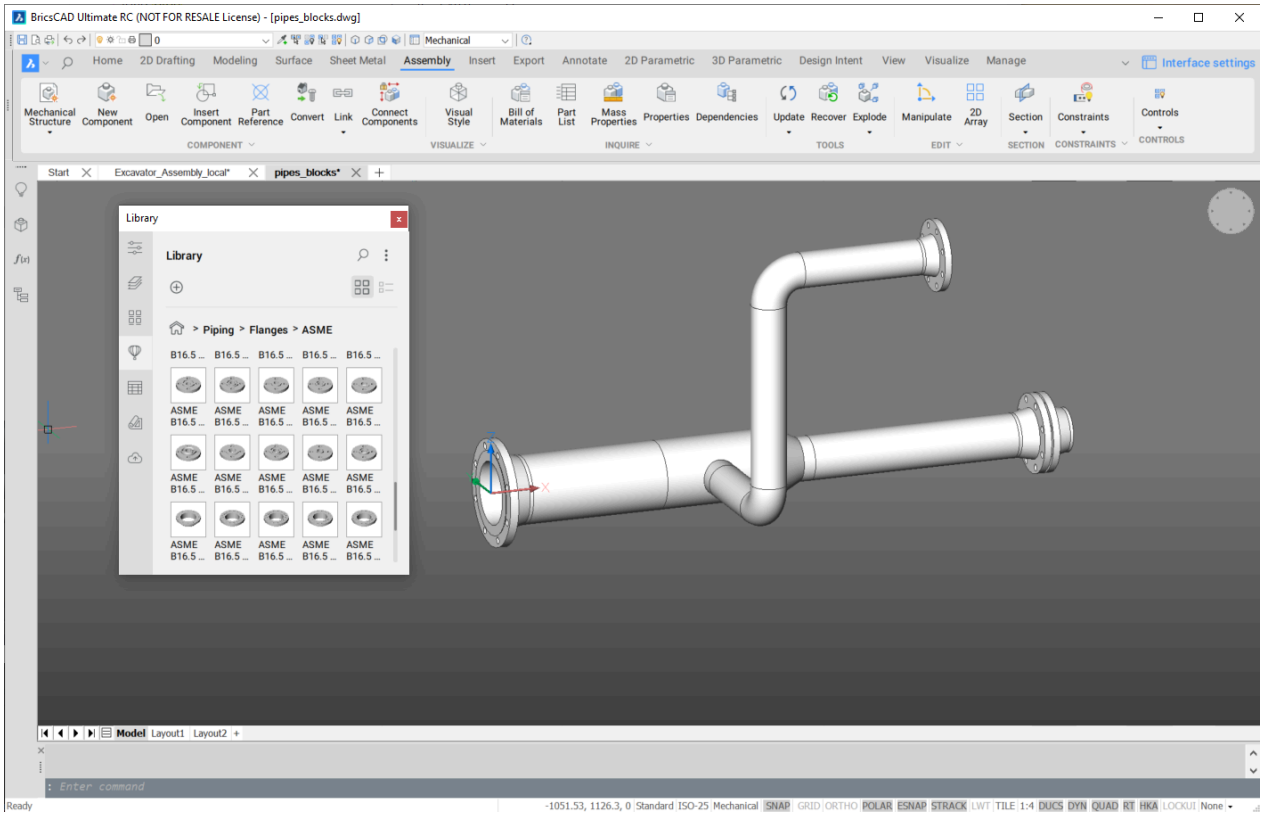
4 **注**：値が大きいほど、標準スプロケットの更新が遅くなります。値が必要な数よりも小さい場合は、その数のスプロケットの歯のみが表示されます。

5 該当する場合は、ドキュメントを更新してスプロケットの歯が既存の部品に表示されるようにします。

6
- **アセンブリコンポーネント更新モード(BMUPDATEMODE)**を一時的に**[1] すべてのコンポーネントを更新する**に設定します。
- BMUPDATEコマンドを使用して、ドキュメントを更新します。
- 該当する場合は、**アセンブリコンポーネント更新モード(BMUPDATEMODE)**を以前の値に戻します。

29.8 アセンブリ設計での配管

29.8.1 概要



シームレスおよび溶接されたパイプ、エルボー、ティー、クロス、レデューサー、フランジは、機械、自動車、航空業界で広く使用されています。また、石油・ガス、化学工業、水道にも見られます。BricsCADには、ASME、DIN、ISOなどのさまざまな規格のパラメトリック配管部品のライブラリがあります。これらの標準部品はパラメトリックです。パラメータの調整、さまざまなグローバルパラメータへのリンク、3D拘束を使用してパーツを適切に接続することができます。BricsCADでは、BMINSERTコマンドの**スマートモード**と専用のBMCONNECTコマンドを使用することで、これらのルーチン操作を合理化できます。

29.8.2 アセンブリに配管部品を挿入

ライブラリパネルからアセンブリに配管標準部品をドラッグアンドドロップします。

デフォルトでは、配管カテゴリのすべての部品がスマートモードで挿入されます。つまり、以前に挿入された配管部品にカーソルを合わせると、BricsCADは以下のように動作します：

- その部品のパラメータ式を、挿入される部品の対応するパラメータにコピーします。
- 部品を接続する一連の3D拘束を追加します。

注：Ctrlキーを押すと、スマートモードと通常モードを切り替えることができます。通常モードでは、他のパーツとの間に3D拘束は生成されません。

29.8.3 配管標準部品同士の3D拘束を手動で作成

配管標準部品は、STD_PARTS_PIPING_CONNECTION 画層上にワイヤフレーム図形(点および線分)のセットを持っており、デフォルトではオフになっています。

継手の拘束

継手(エルボー、レデューサー、フランジなど)を別の継手または配管で拘束するには、次の2つの3D拘束一致を作成します：

- 一致すべき継手の2つの点
- 同一直線上にある継手の2本の線分

配管の拘束

パイプは任意の長さを持つことができるため、パイプの拘束はより複雑です。パイプの片側がすでに2つの3次元拘束を使用して継手で拘束されている場合、反対側からの拘束は別のものにする必要があります。

以下を作成する必要があります：

- 配管の軸を表す線分と他の継手の対応する線分の間の3D拘束一致
- 反対側(既に拘束されている)側の配管の平面と、接続されている継手の対応する点との間の、ジオメトリ駆動の3D拘束距離

次に、パイプの長さパラメータの式フィールドに、距離拘束の名前を入力する必要があります。ジオメトリ駆動拘束では特定の寸法をコントロールできるため、配管は常に正しい長さになります。このようなパラメータ化によって、ジオメトリ駆動以外の寸法拘束を直接操作してアセンブリの編集が制限されることはありません。

29.8.4 配管部品の自動接続

BMINSERTコマンドのスマートモードまたは専用のBMCONNECTコマンドを実行することで、2つの標準部品を結合して自動的に拘束セットが作成されます。

29.8.5 配管アセンブリの部品表を作成

部品表では、同じタイプとサイズ(PartNumber)で長さが異なるすべての配管を、同じ部品としてリストアップしたい場合があります。

これを行うには、部品表マネージャーの集計機能を使用して、該当する部品をすべて合計の長さで1列にまとめます。

29.9 コンポーネントの配列

29.9.1 概要

ARRAY、ARRAYRECT、ARRAYPOLAR、ARRAYPATHおよびBMINSERTコマンドを使用します。

BricsCADでは、同じコンポーネントを通常の方法で複数回挿入できます。すべての挿入は、線分、円、または任意のカーブに沿って(同じ距離で)均一に分布させることができます。高次のパターン(例えば、長方形や円筒形)もサポートされています。これは、自動調整配列複写の技術を使用して達成されます。矩形、円形、およびパスがあります。

自動調整配列は永続的な図形であり、作成後いつでも(手動でも自動でも)編集して、要素数や要素間の距離を変更することができます。モデル内のすべての配列は**メカニカルブラウザ**にリスト化されており、編集可能です。

すべてのコンポーネント(部品、サブアセンブリ、標準部品、穴を含む)を配列できます。

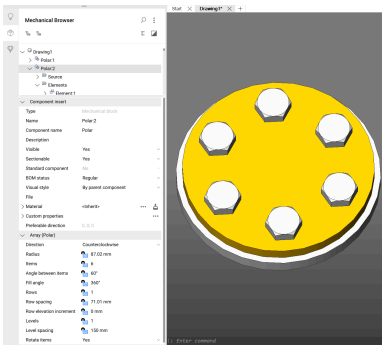
29.9.2 コンポーネントの配列を作成

リボンの**アセンブリ** > **編集**の配列ツールの1つを、**メカニカル**ワークスペースで使用します。

- **矩形配列**
- **円形配列**
- **パス配列**

コンポーネントの配列を作成する別の方法は、**コンポーネント挿入ツール**の **複数** > **配列**オプションを使用することです。

29.9.3 メカニカルブラウザでのコンポーネントの配列



コンポーネント配列は、**メカニカルブラウザ**で特別に表現されています。配列のタイプ(**矩形**、**円形**、**パス**)の後にセミコロンと配列のインデックスを付けた名前が付けられます(例：Rectangular:1、Polar:2、Path:3)。これらのノードは、通常の自動調整配列と同じプロパティを持っています。プロパティは、配列内の要素の数、それらの間の距離/角度、およびその他の配列パラメータを変更するのに使用できます。任意のプロパティに永続的な式を割り当てることもできます。これは、駆動パラメータを変更したときにプロパティの値を自動的に再計算するために使用されます。

各配列ノードには、**ソース**と**要素**という2つの子ノードがあります：

- **ソース**ノードの下には、挿入されたコンポーネントとそのパラメータが表示されます。
- **要素**ノードは、配列要素のリストに展開することができ、配列内の特定の要素の表示スタイルを隠したり変更したりすることができます。

29.9.4 コンポーネントと部品表の配列

コンポーネントの配列は、製品構造に対して透過的です。配列内のコンポーネントは、同じアセンブリに直接挿入されたものと見なされます。したがって、トップレベルの部品表には、トップレベルの配列に挿入されたコンポーネントがトップレベルのコンポーネントとして一覧表示されます。

部品表の**数量**の列には、配列内のコンポーネントを含む同じコンポーネントの挿入の総数が入力されます。

29.9.5 パラメトリックコンポーネント、パラメトリックブロック、パラメトリック外部参照、標準部品、穴の配列

配列内のブロックのパラメータを利用できるようにするには、配列を作成する前に(**パラメータにリンク**コンテキストメニューコマンドを使用して)パラメータをリンクする必要があります。配列複写の作成後、パラメータは**パラメータマネージャー**パネルで編集できるようになります。

配列の作成後、パラメータへのリンクは削除されますが、同じ**パラメータへのリンク**コンテキストメニュー項目を使用して、配列パラメータに対して再度復元できます。技術的には、パラメータは配列のソース要素に関連付けられています。このソース要素をパラメトリックに編集すると、配列の他のすべての項目がその後変更されます。

パラメトリックコンポーネントの以前の実装(MECHANICALBLOCKSシステム変数を**オフ**にし、BMINSERTを使用する)では、配列内にネストされたコンポーネントのパラメータは、配列の作成直後に使用できます。

標準部品と穴はパラメトリックコンポーネントであり、配列内のパラメータを編集できます。多数の穴があるパーツを簡単に作成でき、穴の数、位置、サイズをパラメトリックにコントロールしたり、パラメトリックボルトを挿入したりすることができます。この強力な技術により、複数の構成でパラメトリックフランジアセンブリを作成することができます。

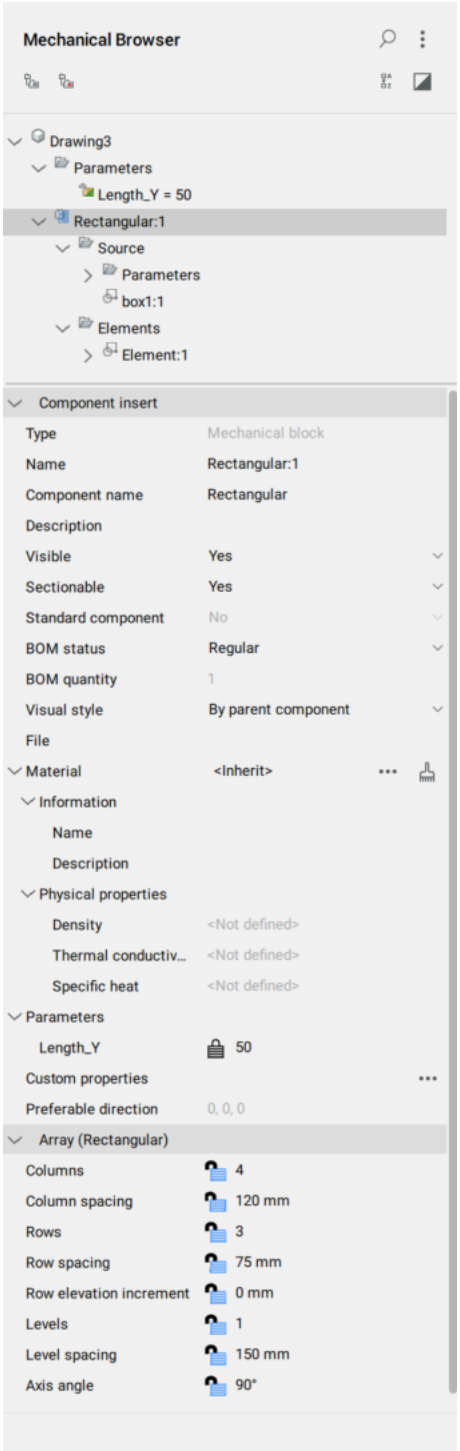
29.10 配列プロパティ

29.10.1 概要

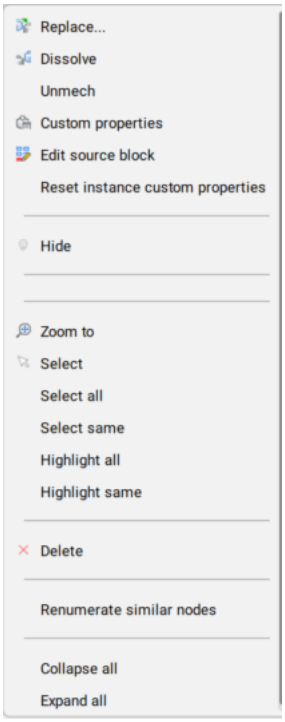
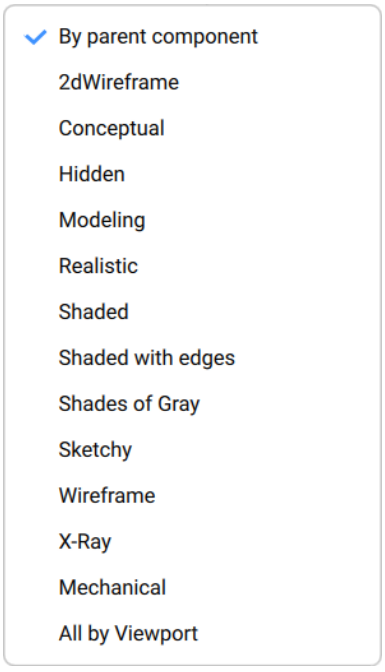
コンポーネント配列は、パラメトリックなコンポーネントで構成された自動調整配列複写です。コンポーネント配列は、**メカニカルブラウザ**で特別に表現されています。

コンポーネント配列は、主に2つのサブノードがあります：

- **ソース**：ソースオブジェクトとそのパラメータを含むノードです。ソースオブジェクトは、独自のプロパティを持つコンポーネントまたはサブアセンブリとして表示できます。
- **要素**：ソースオブジェクトのすべてのインスタンスを含むノードです。



メカニカルブラウザの配列ノード上でマウスを右クリックするとコンポーネント配列のコンテキストメニューが表示され、配列ノードを選択すると配列のプロパティが自動的に表示されます。

コンテキストメニュー	説明
コンポーネント配列のコンテキストメニュー	配列を右クリックします：  • **置換**：挿入コンポーネントを置換します(BMREPLACEコマンドを参照)。 • **解体**：カレントの図面で作成された配列を分解します (BMDISSOLVEコマンドを参照してください)。 • **非メカニカル構造化**：すべてのメカニカル構造を削除します(BMUNMECHコマンドを参照してください)。 • **カスタムプロパティ**：**メカニカルプロパティ**ダイアログボックスを開きます。 • **ソースブロックの編集**：ソース図形を編集するためのダイアログが開きます。 • **インスタンスのカスタムプロパティをリセット**：インスタンスのカスタムプロパティを、対応するブロックから継承したデフォルトにリセットします。 • **非表示** / **表示** ：選択したアレイの表示/非表示を切り替えます。 • **表示スタイル**：**表示スタイル**メニューを表示します。カレント図面に保存されている表示スタイルが使用できます。  - **親コンポーネント**：親コンポーネントのシェーディングモードに従って、選択したコンポーネン

29.11 分解表示

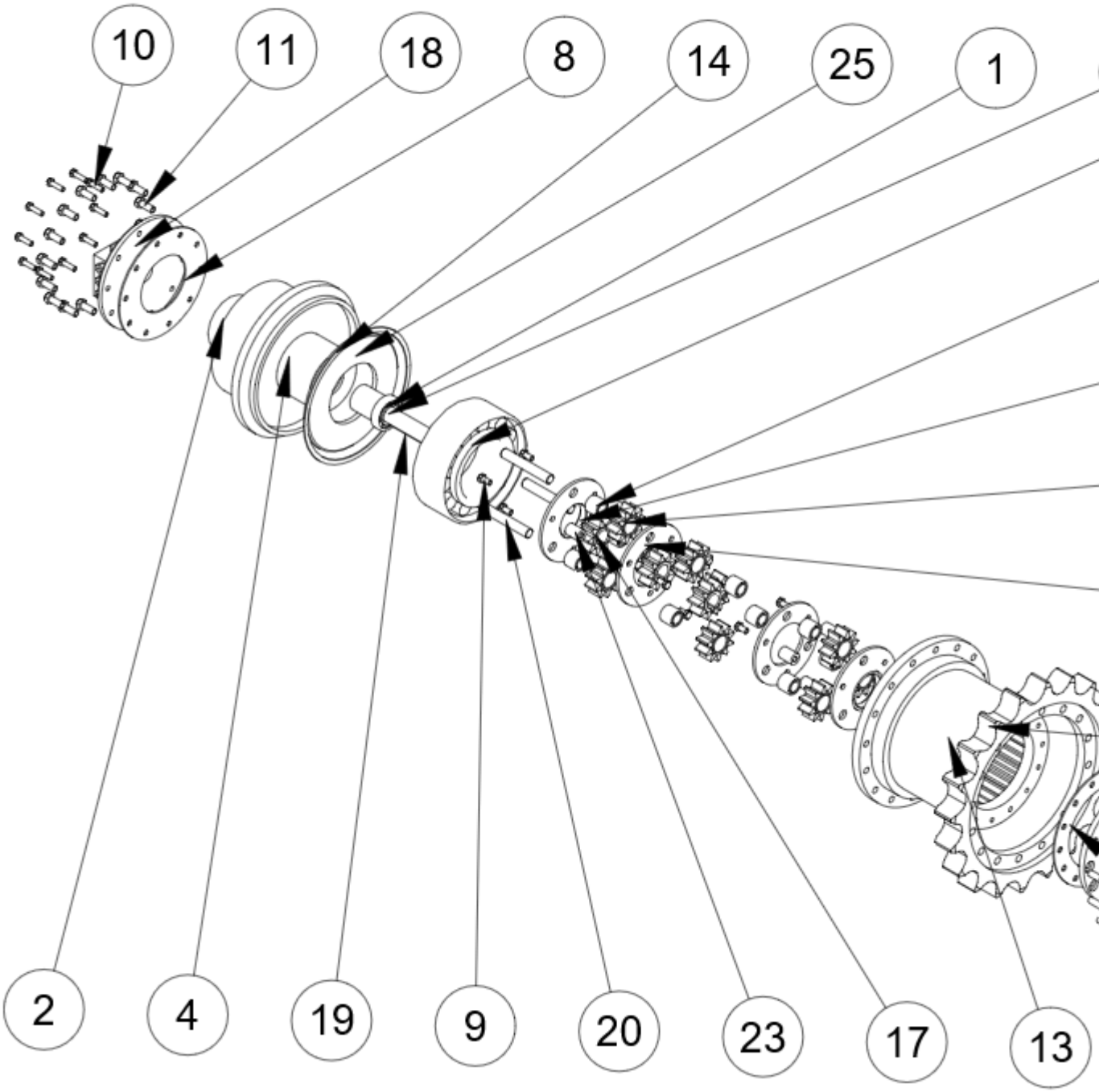
29.11.1 概要

BMEXPLODE、BMEXPLODEMOVE、BMTRAILINGLINES、VIEWBASEコマンドを使用します。

分解(BMEXPLODEコマンドで作成)およびシーケンス(BMSEQUENCEコマンドで作成)分解表示機能は、アセンブリの関連付け表示を作成し、アセンブリ自体は変更しません。分解表示は専用のブロックに保存され、必要に応じて編集および挿入できます。分解表示から図面ビューを生成することもできます。

分解表示は自動調整されます。分解表示の各部品は、アセンブリ内の対応する部品にリンクされます。BMBALLOONを使用すると、分解表示がアセンブリの現在の状態に更新され、対応する図面ビューにバルーン注釈が配置されます。

展開図の例



29.11.2 分解表示のレベル

分解表示には、コンポーネントへの参照が含まれます。

分解表示にはトップとボトムの2つのレベルがあります。

- **トップレベル**：

  分解表示には、最上位コンポーネントへの参照のみが含まれます。トップレベルのコンポーネントとは、メインアセンブリに直接挿入されたコンポーネントです。このように分解表示されたトップレベルのコンポーネントは、さらに分解されることはなく、すべての部品とサブアセンブリは組み立てられたままです。トップレベルの分解表示では、アセンブリの基本的な構成を確認することができます。

- **ボトムレベル**：

  分解表示には、最上位コンポーネントへの参照のみが含まれます。ボトムレベルのコンポーネントとは、他の部品やサブアセンブリを含まない末端の部品のことです。ボトムレベルの分解表示では、すべての部品を個別に表示できます。

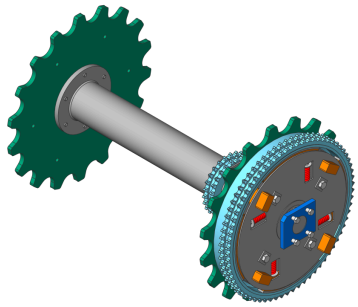
注：ボトムレベルを選択したときに、コンポーネントの挿入だけでなく、他の図形を含む中間レベルのコンポーネントがある場合、これらの図形は正しく参照できないため、分解表示で失われます。これらの図形を、まず対応するボトムレベルのコンポーネントに変換する必要があります。

29.11.3 アルゴリズム

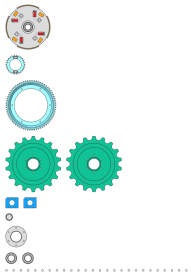
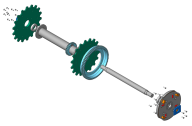
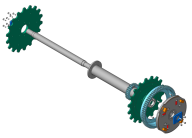
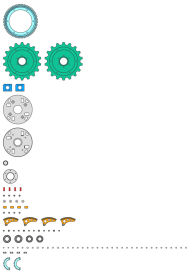
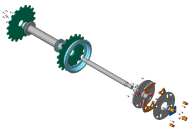
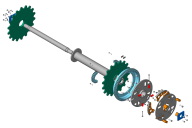
BricsCADでは、分解表示を自動的に作成する3つのアルゴリズムと、手動のアルゴリズムが用意されています。

アルゴリズム	説明
種類別の表	同じ種類のコンポーネントが行にグループ化された、表のような分解表示を作成します。
長さ寸法	与えられた方向にある部品の分解順序を見つけ、部品を順番に並べます。 **注**：コンポーネント間の物理的な衝突が考慮されます。コンポーネントがアルゴリズムによって移動できるのは、それを妨げる他のコンポーネント(まだ移動していない)がない場合のみです。
自動	アセンブリ階層に対する部品の分解順序を見つけます。 **注**：これは、すべての可能な物理的衝突を考慮したものです。部品やサブアセンブリごとに、移動方向が自動的に特定されます。
手動	カスタム編集用のアセンブリの正確なコピーを作成します。このモードでは、メインアセンブリを変更せずにカスタム製品表現を作成できます。

例：メインドライブシャフトアセンブリ



例：メインドライブシャフトアセンブリ

	種類別の表	長さ寸法	自動
トップレベル			
ボトムレベル			

29.11.4　ステップとアニメーション

製品表現には、特定のアセンブリまたは分解順序を記述する1つまたは複数のステップを含めることができます。各ステップは、メインアセンブリを組み立てまたは分解するためにこの特定の段階で移動する必要がある一連のコンポーネントに対応しています。すべての表現アルゴリズムは、必要なすべてのステップを自動的に作成します。また、ステップを削除、マージ、分割、移動、または追加することもできます。

各ステップには、そのステップを説明するために使用できる固有の名前があります。

特定のステップだけでなく、間接方向と逆方向の両方のステップのシーケンス全体をアニメーション化することができます(分解とアセンブリのアニメーションを取得するため)。アニメーションが正しく機能するためには、アセンブリの初期状態を定義する最初のステップが分解表示に存在する必要があります。分解表示の**自動非表示**プロパティを使用して、アニメーション中の特定のステップで重要でないコンポーネントを自動的に非表示にすることができます。

29.11.5　製品表現の編集

各表現はブロックとして保存されます。これにより、ブロックエディターで分解表示を編集できます。

重要：分解表示を編集するのに、REFEDITコマンドを使用しないでください。このコマンドには、分解表示ステップとの互換性がありません。このコマンドには、分解表示ステップとの互換性がありません。

分解表示を編集用に開きます：

1　**メカニカルブラウザ**で必要な分解表示を右クリックします。

2　コンテキストメニューから**編集**を選択します。

ブロック編集が自動的に開きます。

注：分解表示をダブルクリックして開くことができます。

ヒント：また、BMEXPLODEコマンドの最後に分解表示を開いて編集することもできます。

分解表示が編集用に開いている場合、ステップをダブルクリックすると、ステップの状態を現在のステップに変更できます。

注：カレントのステップを変更すると、保存されていないすべての修正と、ステップに対するすべての操作が破棄されます。カレントのステップを変更したり、他の操作を行う前に、すべての修正が保存されていることを確認してください。

DMMOVE、MOVE、DMROTATE、およびBMEXPLODEMOVEコマンドを使用して、分解表示内の構成部品を必要な位置に移動します。BMEXPLODEMOVEコマンドは、現在のステップの後に必要なすべてのステップを自動的に追加します。その他の操作については、編集の完了後に現在のステップを保存します。現在のステップと前のステップの差分のみが保存されます。

また、ステップに対して操作を行うことで表現を変更することも可能です。

例えば、ステップを削除すると、そのステップで移動したすべてのコンポーネントは、そのステップの前のそれぞれの位置に戻ります。

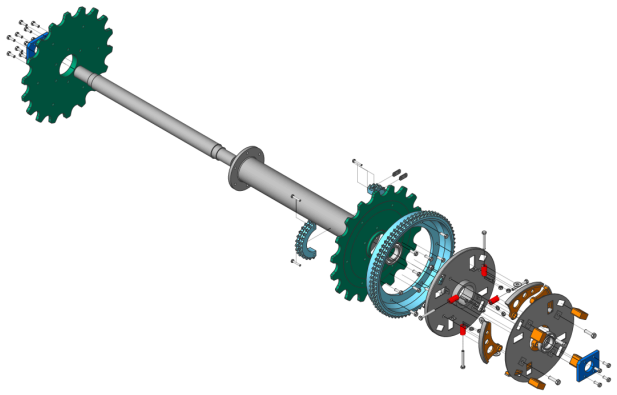
文字注釈(MTEXTコマンド)とアセンブリ部品以外の図形を選択したステップに関連付けることもできます。これらの注釈と図形は、選択したステップでのみ表示され、他のステップがアクティブな場合は非表示になります。ただし、それらの位置はステップで保存されません。

編集が完了したら、現在の在のステップを保存します(**カレントの状態を保存**オプション)。保存しない場合は、変更は破棄されます。

29.11.6　トレース線

トレース線は、部品同士の関係を説明するのに役立ちます。これは、軌道を表し、分解プロセス中の部品の移動を表示する3Dポリラインです。

トレース線の例



BMTRAILINGLINESコマンドを使用すると、編集用に開いている分解表示にトレース線を追加できます。このツールは、すべてのトレース線を作成します。これは、分解ビューステップの情報を使用します。

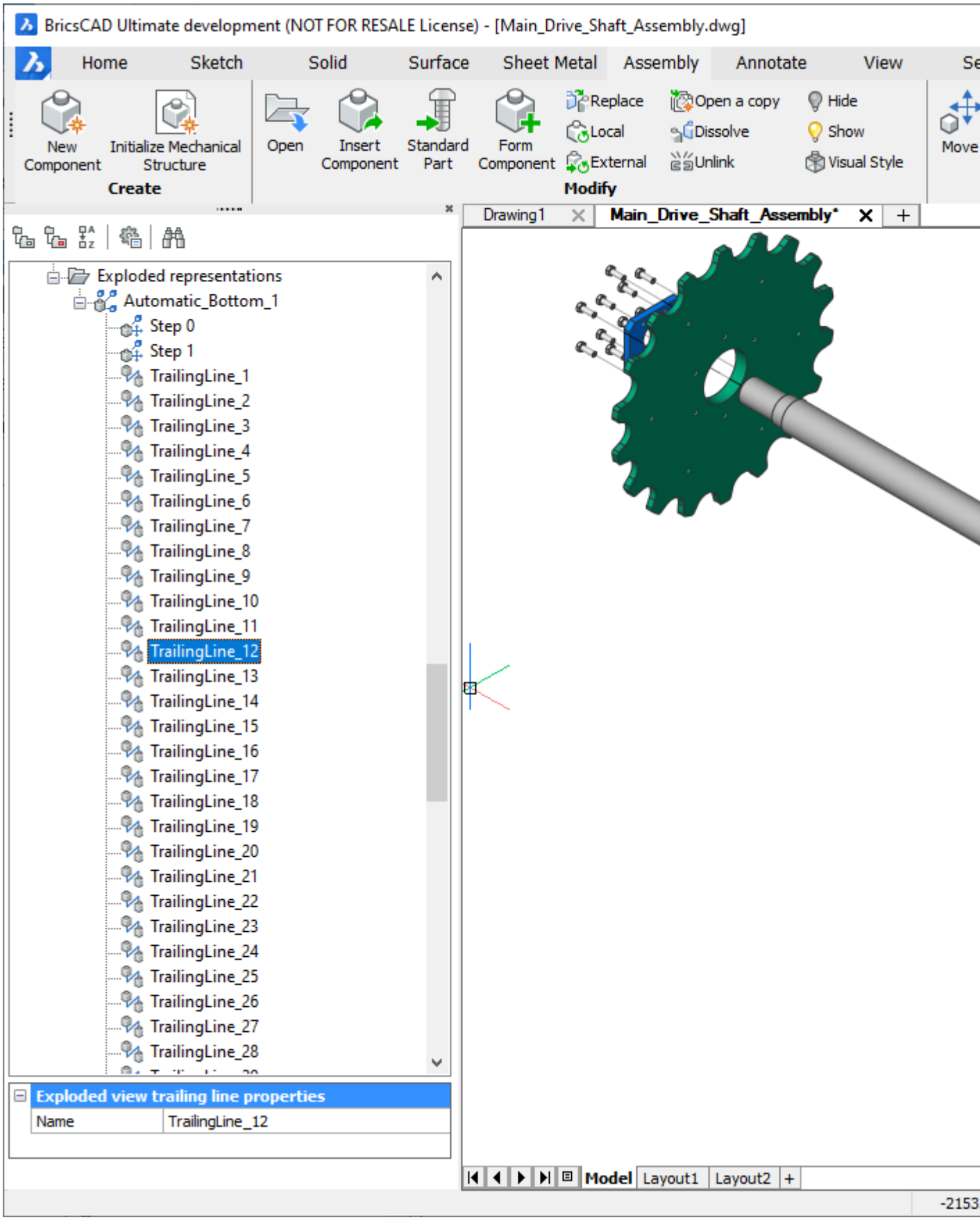
すべての部品、部品のサブセット、または各ステップのトレース線を生成できます。サブセットの場合、トレース線はそのサブセットの部品に対してのみ構築されます、ただし、必要なトレース線は追加されます。一部の部品にはトレース線がまったくない場合もあります。2つの部品を手動で選択し、その間にトレース線を追加することもできます。ステップのトレース線は、このステップにのみ表示されます。

トレース線が計算されると、アルゴリズムによって、部品の位置と部品が削除された位置が自動的に決定され、軌道が計算されます。これは両方の部品の動きを考慮に入れて実行されます。

各トレース線は**メカニカルブラウザ**パネルに表示されます。**メカニカルブラウザ**パネルを使用すると、モデル内のすべてのトレース線を表示したり、選択した線分に接続されている部品をハイライト表示したり、選択してズームしたり、トレース線の名前を変更したり、削除することができます。

トレース線は、標準の3Dポリライン編集ツールを使用して、編集できます。

分解ビューのトレース線のプロパティ


BricsCAD Ultimate development (NOT FOR RESALE License) - [Main_Drive_Shaft_Assembly.dwg]
Home
Sketch
Solid
Surface
Sheet Metal
Assembly
Annotate
View
New Component
Initialize Mechanical Structure
Create
Open
Insert Component
Standard Part
Form Component
Replace
Local
External
Open a copy
Dissolve
Unlink
Hide
Show
Visual Style
Modify
Move
Drawing1
Main_Drive_Shaft_Assembly*
Exploded representations
Automatic_Bottom_1
Step 0
Step 1
TrailingLine_1
TrailingLine_2
TrailingLine_3
TrailingLine_4
TrailingLine_5
TrailingLine_6
TrailingLine_7
TrailingLine_8
TrailingLine_9
TrailingLine_10
TrailingLine_11
TrailingLine_12
TrailingLine_13
TrailingLine_14
TrailingLine_15
TrailingLine_16
TrailingLine_17
TrailingLine_18
TrailingLine_19
TrailingLine_20
TrailingLine_21
TrailingLine_22
TrailingLine_23
TrailingLine_24
TrailingLine_25
TrailingLine_26
TrailingLine_27
TrailingLine_28
Exploded view trailing line properties
Name
TrailingLine_12
Model
Layout1
Layout2
-2153

29.11.7 分解表示の作成

BMEXPLODEコマンドを使用して、現在のアセンブリの分解表示を作成します。

注：ブロックとソリッドに基づくローカルのメカニカルコンポーネント、およびメカニカル外部参照が分解ビューで完全にサポートされるようになりました。

1 BMEXPLODEコマンドを起動するには、次のいずれかの操作を行います。

1
- **アセンブリ**タブの**ツール**パネルにある**分解**ツールボタン をクリックします。
- **アセンブリ**ツールバーで**分解**ツールボタン をクリックします。
- **アセンブリ**メニューで**分解**を選択します。
- コマンドラインにBMEXPLODEと入力します。

プロンプト表示：分解アルゴリズムを選択 [タイプ別の表 (T)/直線形 (L)/自動 (A)/手動 (M)/設定 (S)] <手動 (M)>:

2 必要に応じて、**設定**オプションを使用して、分解表示の**レベル**と**セット名**を設定します。

3 アルゴリズムを選択します。

4 プロンプト表示：分解ビューの動作を選択 [編集 (E)/図面ビューを生成 (G)/終了 (F)] <終了 (F)>:

5 次のいずれかの操作を選択します：

6
- 分解表示を編集するには、**編集**を選択します。
- 分解表示の図面ビューを生成するには、**図面ビューを生成** を選択します。
- **完了**を選択して、コマンドを終了します。

29.11.8 分解表示の図面ビューを生成する

1 VIEWBASEコマンドを起動します。

1 プロンプト表示：オブジェクトを選択、または [モデル全体 (E)/プリセット (T)/特別なビュー (S)/選択オプション (?)] <モデル全体 (E)>:

2 **特別なビュー**オプションを選択します。

プロンプト表示：ビューを選択 [分解ビュー (E)/展開ビュー (U)/戻る (B)] <戻る (B)>:

3 **分解ビュー**オプションを選択します。

分解表示とステップを選択するためのダイアログボックスが表示されます。

4 分解表示を選択します。

5 プロンプト表示：カレントにする新規、または、既存のレイアウト名を入力 <レイアウト1>:

6 該当する場合は、分解表示のレイアウトにレイアウト名を入力します。

7 作成された分解表示の図面ビューをペーパー空間レイアウトに配置します。

注：分解表示の図面ビューでバルーン(BMBALLOONコマンドを参照)を使用するには、GENERATEASSOCVIEWSシステム変数をオンにする必要があります。

29.11.9　分解表示の更新

BMUPDATEコマンドまたはBMEXPLODEコマンドの更新オプションを実行して、分解表示をアセンブリの現在の状態と同期させます。

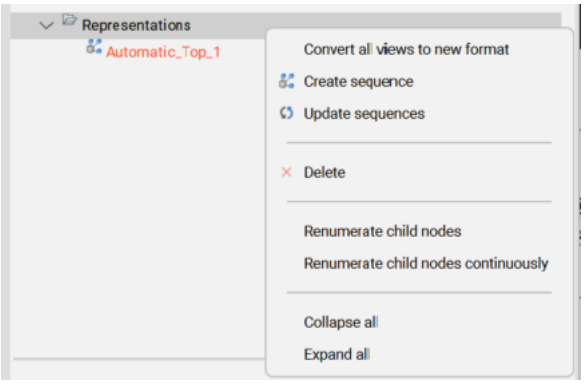
必要に応じて、分解表示を調整します。このような調整は、一部の部品の追加および/または削除のために必要になる場合があります。

注：手動モードおよび**直線形**モードで作成された**分解表示**のパーツの位置は、自動更新されません。

29.11.10　分解表示の管理

分解表示の管理

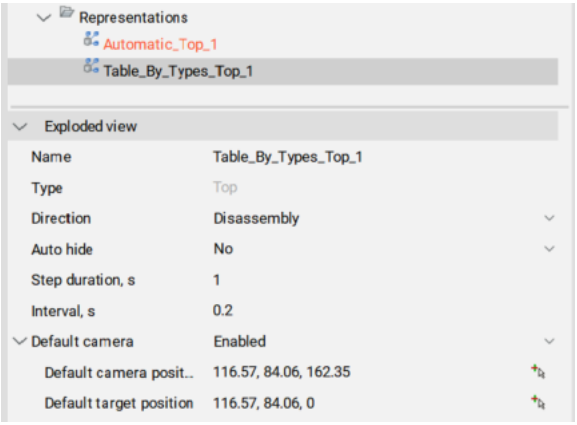
メカニカルブラウザを開き、ドキュメント内のすべての分解表示を表示します。すべての分解表示とシーケンスは、**分解表示**グループの下にリストされます。選択した分解表示のコンテキストメニューを開き、このコンテキストでサポートされているすべての操作を表示します。



注：すべてのビューを新しい形式に変換オプションは、図面に古い形式の分解表示がある場合のみ使用できます。

分解図のプロパティ

各分解図には一連のプロパティがあります。いくつかのプロパティを編集することができます。

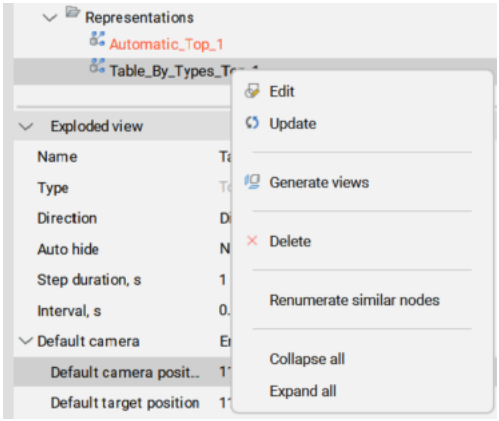


プロパティ	説明
名前	分解表示の名前。これは、モデル内のすべてのブロックだけでなく、すべての分解表示で一意である必要があります。
種類	分解表示のタイプ：トップまたはボトム。
方向	アニメーションの方向。選択項目：分解(開始から終了)またはアセンブリ(終了から開始)。
自動非表示	はいに設定した場合、特定のステップにおいて重要でない部品は、アニメーション中にはすべて非表示になります。
ステップ時間(s)	アニメーション中の各ステップのデフォルトの継続時間(ミリ秒単位)。デフォルト値は1000で、長さは1秒を意味します。
間隔(s)	デフォルトのステップの間隔(ミリ秒単位)。
デフォルトのカメラ	デフォルトのカメラアクションを設定します。 **有効**の場合、**カメラ**がデフォルトとして設定されているすべてのステップにデフォルトのカメラ位置とターゲットが使用されます。 **無効**の場合、**カメラ**がデフォルトとして設定されているステップに前のステップのカメラ位置とターゲットが使用されます。

分解表示に対する操作

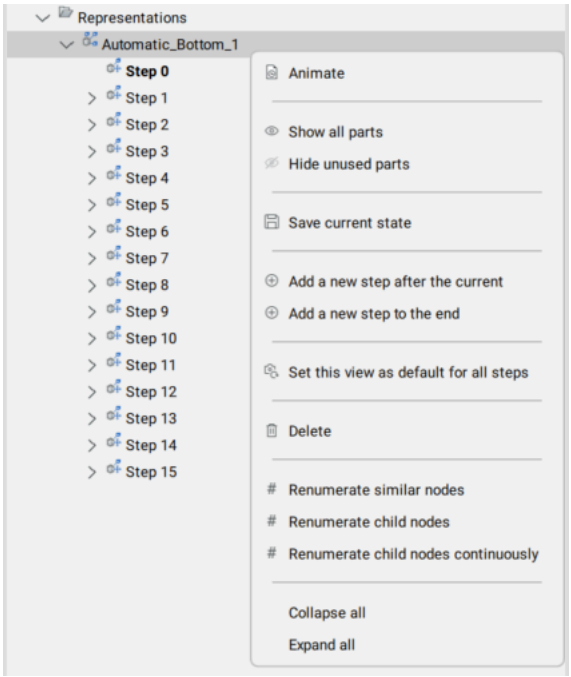
サポートされる操作は、分解表示が編集用に開いているかどうかによって異なります。

分解表示が**編集用に開かれていない**場合は、以下の操作を実行できます：



操作	説明
編集	分解表示を編集用に開きます。 **注**：構成されている場合、現在のステップのカスタムカメラが使用されます。それ以外の場合、分解ビューの既定のカメラを有効にしていればこのカメラが使用され、有効にしていなければカレントのカメラが使用されます。 **ヒント**：分解表示は、BEDI]コマンドを使用するか、ダブルクリックして編集することもできます。
更新	分解表示をアセンブリの現在の状態と同期します。
新しい形式に変換	古い形式の分解表示を新しい形式の分解表示に変換します。 **注**：このオプションは、図面に古い形式の分解表示がある場合のみ使用できます。
ビューを作成	分解表示のビューを生成します。
削除	分解表示および関連するブロックをドキュメントから除去します。
類似ノードで再付番	表現ノードを列挙します。同じ名前のノードのグループは、それぞれ独自の番号付けが行われます。

分解表示が**編集用に開かれている**場合は、以下の操作を実行できます：



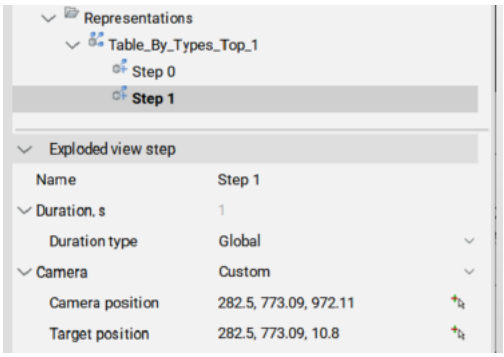
操作	説明
アニメイト	一連のステップ全体をアニメイトします。
すべての部品を表示	ステップのすべての部品を表示します。
未使用の部品を非表示	ステップの未使用の部品を非表示にします。
カレントの状態を保存	カレントのステップの部品のカレントの位置を保存します。
現在のステップの後に新しいステップを追加	カレントのステップの後に新しいステップを追加します。 **注**：新しいステップは自動的にカレントのステップに設定されます。分解表示の変更が未保存の場合、すべて失われます。
末尾に新しいステップを追加する	最後のステップの後に新しいステップを追加します。 **注**：新しいステップは自動的にカレントのステップに設定されます。分解表示の変更が未保存の場合、すべて失われます。
このビューをすべてのステップのデフォルトとして設定する	デフォルトのカメラ位置を設定します。このカメラ位置は、最初のステップではなく、現在の分解ビュー自体に関連付けられています。このカメラ位置は、デフォルトのカメラ位置を使用するすべてのステップのデフォルトの向きとして使用されます。最初のステップ用のカスタムカメラとデフォルトのカメラが異なっていることが可能です。
削除	分解表示および関連するブロックをドキュメントから除去します。
類似ノードで再付番	表現ノードを列挙します。同じ名前のノードのグループは、それぞれ独自の番号付けが行われます。
子ノードを再付番	カレントの分解表示に類似したステップノードを列挙します。
子ノードを連続的に再付番	名前に関係なく、カレントの表現のすべてのステップノードを列挙します。

また、この分解表示のすべてのステップは**メカニカルブラウザ**に表示されます。

29.11.11　分解表示ステップの管理

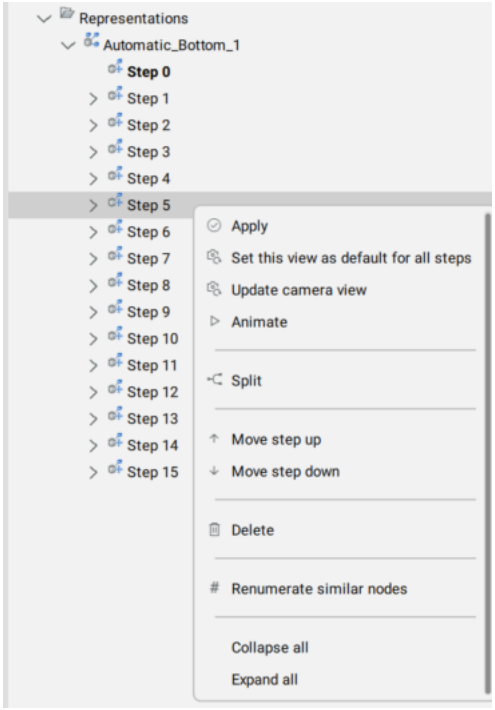
メカニカルブラウザを開き、編集に必要な製品表現を開きます。すべてのステップは、ツリーの対応するノードの下にリスト化されます。

ステップのプロパティ



プロパティ	説明
名前	ステップの名前。この表現に対して一意である必要があります。
時間(秒)	ステップの継続時間です。デフォルトでは、これは分解表示に設定された「ステップ期間」と同じです。
時間タイプ	時間を分解表示から取得するか、特定ステップ固有のものにするかを指定します。
時間値(秒)(時間タイプが絶対の場合のみ)	このステップの動作時間(秒単位)。
カメラ	カメラ位置： **デフォルト**： • 有効になっている場合、**デフォルトのカメラ**位置を使用します。 • **デフォルトのカメラ**位置が無効になっている場合、前のステップのカメラ位置を使用します。
カメラ位置(カスタムカメラのみ)	カメラ位置を表示します。右側のアイコンを押すことで、ユーザーはカメラ位置を変更できます。
対象の位置(カスタムカメラのみ)	カメラの対象の位置を表示します。右側のアイコンを押すことで、ユーザーは対象の位置を変更できます。

ステップでの操作



操作	説明
適用	ステップを現在のステップとして設定し、このステップに従って製品表現の部品を更新します。 **注**：ステップをダブルクリックしても同じ結果になります。
このビューをすべてのステップのデフォルトとして設定する	カレントのステップのカメラ位置を設定します。このカメラ位置は、デフォルトのカメラ位置を使用するすべてのステップのデフォルトの向きとして使用されます。 特定のカメラ位置がステップに関連付けられていない場合、最初のステップからカメラ位置が継承されます。新しく作成された分解ビューの場合、最初のステップでモデルと同じカメラ位置が取得されます。
カメラビューを更新	カレントのステップのカメラ位置のみを更新します。
アニメイト	ステップをアニメーション化します。
セルを結合	2 つ以上の連続するステップを結合します。
分割	ステップを一連のステップに分割します。各ステップは正確に1つの部品に対応しています。
ステップアップ	ツリー内でステップを1つ上に移動します。
ステップダウン	ツリー内でステップを1つ下に移動します。

操作	説明
削除	ステップと関連する部品の移動を完全に削除します。その後、分解表示内の部品の位置がそれに応じて更新されます。
類似ノードで再付番	ステップノードを再付番します。同じ名前のノードのグループは、それぞれ独自の番号付けが行われます。

29.11.12 製品表現の編集

1 **メカニカルブラウザ**で分解表示を選択します。

2 分解表示を右クリックし、コンテキストメニューから**編集**を選択します。

注：BEDITコマンドを実行して、分解表示されたブロックを選択することもできます。

3 必要な操作を実行して、目的の表現を取得します。

4 カレントのステップを保存します。

5 BCLOSEコマンドを実行して**保存**オプションで変更内容を保存します。

注：編集を元に戻したいとき、BCLOSEの**破棄**オプションを使用しないようにしてください。ブロックの状態と分解表示ステップの状態が一致しなくなる可能性があります。代わりに**元に戻す**を使用してください。

29.11.13 トレース線の追加

1 編集する製品表現を開きます。

2 BMTRAILINGLINESコマンドを実行します。

3 トレース線を作成する部品のサブセットを選択するか、モデル全体を選択します。

4 軌跡の作成に使用する部品の点(原点または中心)を選択します。

5 必要に応じて、作成されたトレース線を編集します。

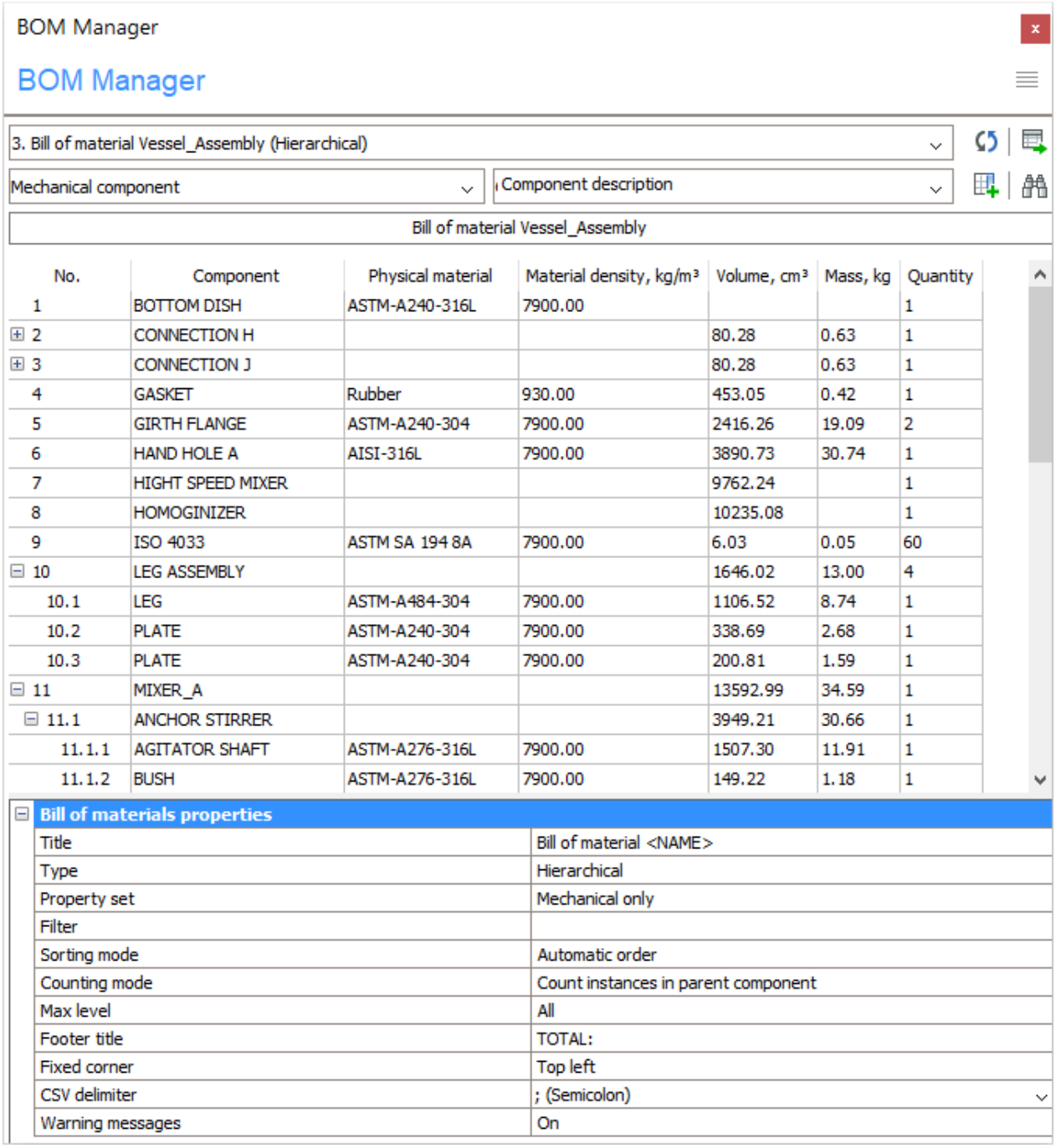
6 変更を保存します。

29.12 部品表マネージャー

29.12.1 概要

BMBOMPANELOPEN、BMBOMPANELCLOSE、BMBOM、BMBOMEDITコマンドを使用します。

部品表マネージャーパネルで、現在の図面の部品表を参照、作成、編集することができます。新規および既存の部品表をインタラクティブに構成します。部品表の設定は、テンプレートファイルとして保存でき、後から他の図面で再利用することができます。また、図面内の表にリンクされていない部品表を追加することもできます。



No.	Component	Physical material	Material density, kg/m³	Volume, cm³	Mass, kg	Quantity
1	BOTTOM DISH	ASTM-A240-316L	7900.00			1
⊞ 2	CONNECTION H			80.28	0.63	1
⊞ 3	CONNECTION J			80.28	0.63	1
4	GASKET	Rubber	930.00	453.05	0.42	1
5	GIRTH FLANGE	ASTM-A240-304	7900.00	2416.26	19.09	2
6	HAND HOLE A	AISI-316L	7900.00	3890.73	30.74	1
7	HIGHT SPEED MIXER			9762.24		1
8	HOMOGINIZER			10235.08		1
9	ISO 4033	ASTM SA 194 8A	7900.00	6.03	0.05	60
⊟ 10	LEG ASSEMBLY			1646.02	13.00	4
10.1	LEG	ASTM-A484-304	7900.00	1106.52	8.74	1
10.2	PLATE	ASTM-A240-304	7900.00	338.69	2.68	1
10.3	PLATE	ASTM-A240-304	7900.00	200.81	1.59	1
⊟ 11	MIXER_A			13592.99	34.59	1
⊟ 11.1	ANCHOR STIRRER			3949.21	30.66	1
11.1.1	AGITATOR SHAFT	ASTM-A276-316L	7900.00	1507.30	11.91	1
11.1.2	BUSH	ASTM-A276-316L	7900.00	149.22	1.18	1

Bill of materials properties	
Title	Bill of material <NAME>
Type	Hierarchical
Property set	Mechanical only
Filter	
Sorting mode	Automatic order
Counting mode	Count instances in parent component
Max level	All
Footer title	TOTAL:
Fixed corner	Top left
CSV delimiter	; (Semicolon)
Warning messages	On

部品表マネージャーパネルから、以下の操作を行えます。

- 図面内の既存の部品表を参照します。
- BOMTEMPLATEシステム変数に格納されているテンプレートファイル、標準タイプ(トップレベル、ボトムレベル、階層型など)、または既存の部品表テンプレートのいずれかを使用して新しい部品表を作成することができます。BOMTEMPLATEシステム変数に部品表テンプレートファイルへの有効なパスが含まれている場合、このファイルは新しい部品表を作成する際に優先的に使用されます。

- 部品表を編集します：
  - 列を追加または削除します(数式の列を含みます)。
  - 新しい位置に選択した列を移動する。
  - 列の名前を変更する。
  - 部品表のソート方法を設定する。
  - 各列のフッターの値を設定する。
  - 各列の単位と表示方法を設定する。
  - 列のプロパティを持つ各列の幅を設定する。
  - 各列の表示を設定する。
  - 式を使ってコンポーネントをフィルタリングする。
  - タイトル行とフッター行のタイトルを変更する。
- 表内のコンポーネントを検索します。
- コンポーネントインスタンスをハイライト表示し、選択します。
- 部品表構成をテンプレートファイルまたはデフォルトテンプレートファイルとして保存します(BOMTEMPLATEシステム変数に格納されます)。
- テンプレートファイルから部品表の設定をロードする。
- 図面に1つ以上の部品表インスタンスを配置する。
- 部品表を削除します。

注：部品表を作成したり変更したりするには、BricsCAD MechanicalまたはBricsCAD Ultimateのライセンスが必要です。ただし、マネージャーはBricsCAD Proライセンスで利用可能です。

29.12.2　部品表マネージャーを開く

以下のいずれかの操作を行います：

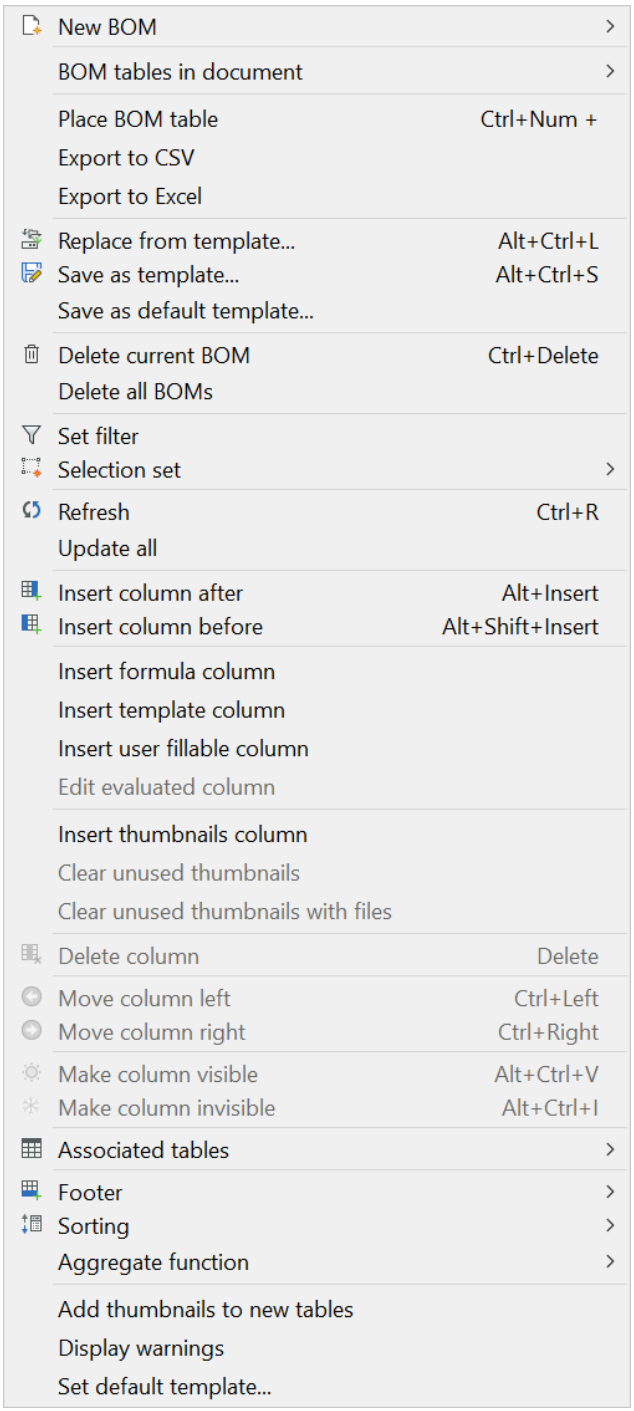
- カーソルをツールバーに置いて右クリックし、**パネル**を選択して、コンテキストメニューから**部品表マネージャ**を選択します。
- BMBOMPANELOPENコマンドを起動します。

29.12.3　ツール

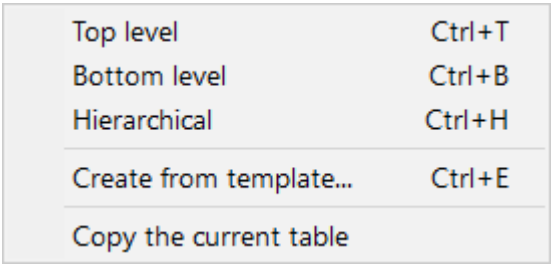
マネージャーの設定操作のほとんどは、メインメニューから利用できます。選択した列や行には、コンテキストメニューが用意されています。また、マネージャーのプロパティセクションを使用して、選択した列と部品表自体のプロパティを変更することもできます。特定の列を操作するには、BOMグリッドからその列を左クリックします。一度に複数の列を選択できます。

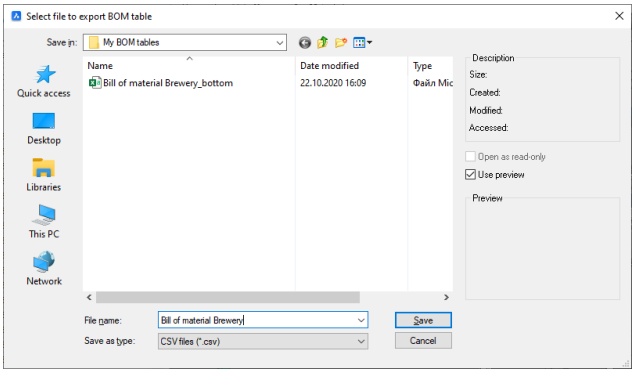
メインメニュー

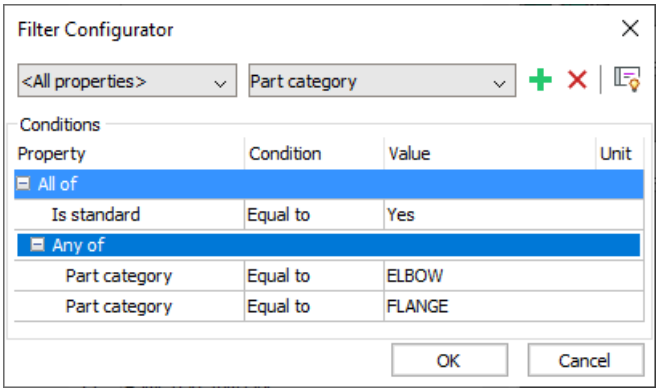
部品表マネージャーパネルの右上にある**メニュー**(☰)をクリックします。

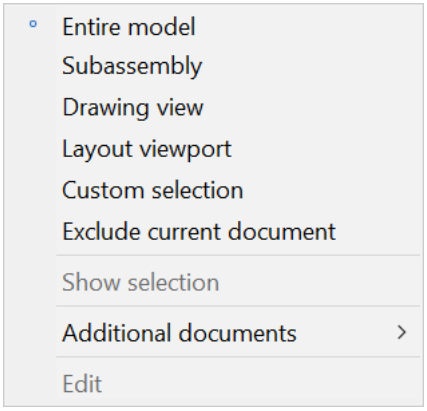

New BOM
BOM tables in document
Place BOM table Ctrl+Num +
Export to CSV
Export to Excel
Replace from template... Alt+Ctrl+L
Save as template... Alt+Ctrl+S
Save as default template...
Delete current BOM Ctrl+Delete
Delete all BOMs
Set filter
Selection set
Refresh Ctrl+R
Update all
Insert column after Alt+Insert
Insert column before Alt+Shift+Insert
Insert formula column
Insert template column
Insert user fillable column
Edit evaluated column
Insert thumbnails column
Clear unused thumbnails
Clear unused thumbnails with files
Delete column Delete
Move column left Ctrl+Left
Move column right Ctrl+Right
Make column visible Alt+Ctrl+V
Make column invisible Alt+Ctrl+I
Associated tables
Footer
Sorting
Aggregate function
Add thumbnails to new tables
Display warnings
Set default template...

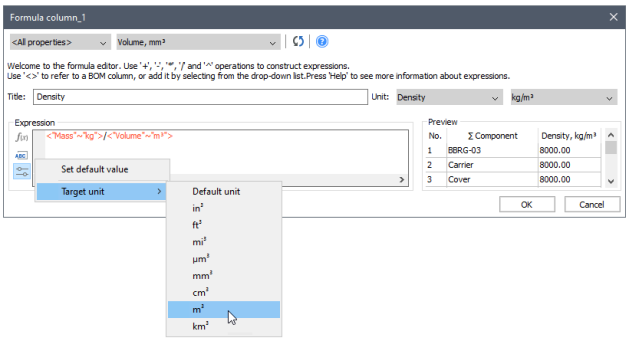
メインメニュー

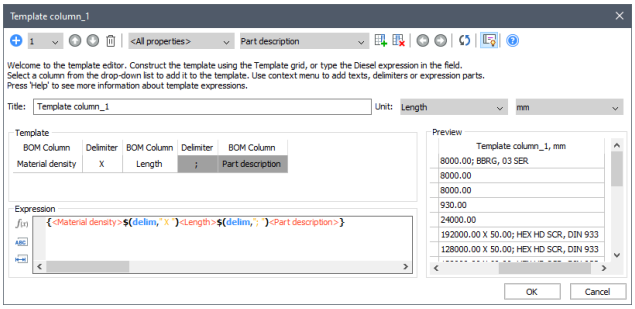
アイコン	ツール	説明
	新規部品表	サブメニューを開きます：  **注**：BOMTEMPLATEシステム変数は、新しい部品表を作成するために使用されるデフォルトの部品表テンプレートを持つファイルへのパスを定義します。 **注**：BOMTEMPLATEシステム変数が空の場合、またはパスが有効でない場合、以下のデフォルト部品表コンフィギュレーションが使用されます。 • **トップレベル**：新しいトップレベルコンポーネントのみの部品表を作成します。 • **ボトムレベル**：新しいボトムレベルコンポーネントのみの部品表(BOM)を作成します。 • **階層**：新しい階層型部品表を作成し、すべてのコンポーネントとその直下にリストされたサブコンポーネントを含む部品表を作成します。 • **テンプレートから作成**：ダイアログボックスを開き、部品表構成テンプレートファイルを選択します。 • **カレントの表をコピー**：カレントの表に基づいて新しい部品表を作成します。

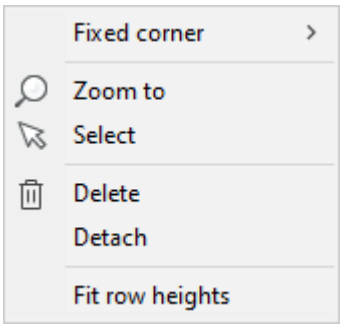
アイコン	ツール	説明
	ドキュメントの部品表	サブメニューを開きます： • **最初の表に移動**：ドキュメント内の最初の部品表に切り替えます。 • **前の表に移動**：ドキュメント内の一つ前の部品表に切り替えます。 • **次の表に移動**：ドキュメント内の次の部品表に切り替えます。 • **最後の表に移動**：ドキュメント内の最後の部品表に切り替えます。 • **<部品表名>**：ドキュメント内の対応する部品表に切り替えます。
	部品表配置	現在の部品表を図面にインタラクティブに配置する作業を開始します。 **注**：部品表は、ドキュメントに複数挿入することができます。
	CSVに書き出し および **Excelに書き出し**	カレント部品表の内容をCSVファイルまたはXLSXファイルに保存します。 ダイアログボックスを開いて、CSVファイルまたはXLSXファイルの場所を選択します。  **注**：CSV値のセパレータは、表プロパティを使用して調整できます。

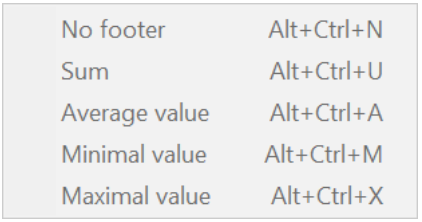
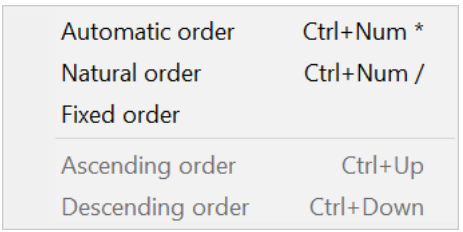
アイコン	ツール	説明
	テンプレートから置換...	カレントの部品表設定を、選択したテンプレートに置き換えます。 テンプレートファイルを選択するためのダイアログが開きます。
	テンプレートとして保存...	現在の部品表の構成をテンプレートとして保存します。 新しいテンプレートファイルの場所を選択するダイアログが開きます。
	デフォルトテンプレートとして保存...	現在の部品表の構成をデフォルトテンプレートとして保存します。 新しいテンプレートファイルの場所を選択するダイアログが開きます。 部品表ファイルのパスはBOMTEMPLATEシステム変数に格納され、新規に作成される部品表のデフォルトテンプレートとして使用されます。
	カレントの部品表を削除	ドキュメントからカレントの部品表を削除します。
	すべての部品表を削除	すべての部品表を削除します。
	フィルターを設定	**メインフィルター**を設定するダイアログを開きます： 

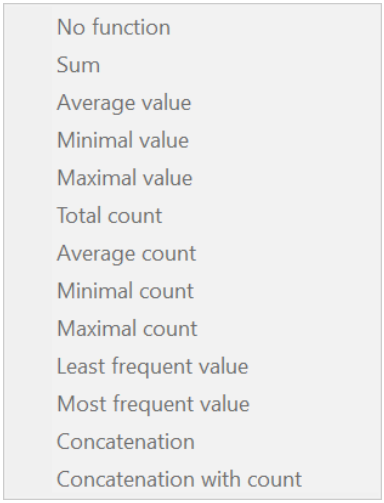
アイコン	ツール	説明
	選択セット	サブメニューを開きます：  • **モデル全体**：モデル全体を選択セットとして使用します。 • **サブアセンブリ**：部品表を生成するサブアセンブリを選択できます。 • **図面ビュー**：部品表を選択した図面ビューと同期させます。 • **レイアウトビューポート**：選択したレイアウトビューポートに表示されているパーツのみが部品表に含まれます。 • **カスタム選択**：部品表に含めるトップレベルのコンポーネントを選択できます。 • **カレントドキュメントを除外**：部品表にカレントドキュメントのオブジェクトを含めません。 • **選択を表示**：現在の選択範囲をハイライト表示します。 • **追加ドキュメント**：部品表に他のドキュメントの部品を含めます。 - **図面またはシートセットを追加**：部品表には、選択した図面またはシートセットのオブジェクトが含まれます。 - **フォルダーを追加**：フォルダー内に存在する図面またはシートセットからオブジェクトを部品表に含めます。 **注**：ユーザーは、指定したワイルドカード、BIMプロジェクト全体、またはシートセット全体に一致するドキュメントのみを含めることができます。 • **編集**：現在の選択セットに含まれるオブジェクトを変更できます。
	更新	カレントの部品表を更新し、図面内のすべての部品表をリスト化します。
	すべてを更新	図面内のすべての部品表を更新します。

アイコン	ツール	説明
	後に列を挿入	**列が選択されている場合**：表内の選択した列の後ろに**列セレクタ**から列を挿入します。 **列が選択されていない場合**：新しい列は表の最後の列の後に追加されます。
	前に列を挿入	**列が選択されている場合**：表内の選択した列の前に**列セレクタ**から列を挿入します。 **列が選択されていない場合**：表の最初の列として新しい列が追加されます。
	数式列を挿入	**数式列**ダイアログボックスが開き、数式列を設定できます。  **OK**をクリックして、選択した列の後に新しい数式列を追加します。列が選択されていない場合、新しい数式列は表の最後の列の後に追加されます。 数式やテンプレート式で、変数に目標単位を設定できるように構文が拡張されました(変数が単位変換をサポートしている場合)。変数の初期単位を気にすることなく、単位依存の数式(密度計算など)を書くことができます。 計算式の単位がBricsCADに存在する場合、計算式の値に対して単位変換がサポートされます。 数式列のデフォルトの単位モードは、ユーザー単位に設定されています。

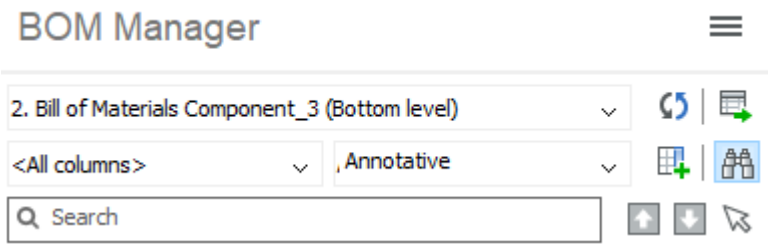
アイコン	ツール	説明
	テンプレート列を挿入	**テンプレート列**ダイアログボックスが開き、テンプレート列を設定できます。  **OK**をクリックして、選択した列の後に新しいテンプレート列を追加します。列が選択されていない場合、新しいテンプレート列は表の最後の列の後に追加されます。 **注**：テンプレート列は、通常の列と同じユニットモードに対応しており、各ユニットに最適なモードと全ユニットに最適なモードを選択することができます。
	ユーザーが入力可能な列の挿入	ユーザーが入力可能な列を挿入します。
	評価列を編集	選択した数式またはテンプレート列を編集するためのダイアログが開きます。
	サムネイル列を挿入	**列が選択されている場合**：テーブル内の選択された列の後に、デフォルトのパラメータを持つサムネイル列を挿入します。 **列が選択されていない場合**：新しいサムネイル列は表の最後の列の後に追加されます。
	未使用のサムネイルを消去	使われなくなったサムネイル画像付きのブロックや添付ファイルを削除します。
	ファイル付きの未使用のサムネイルを消去	使われなくなったブロック、添付ファイル、サムネイル画像付きファイルを削除します。
	列を削除	表から選択した列を削除します。 また**BOMグリッド**で列を選択して、**削除**を押すと、列を削除することができます。
	列を左に移動	選択した列を1列左に移動します。

アイコン	ツール	説明
	列を右に移動	選択した列を1列右に移動します。
	列を表示	図面内の関連表で選択した列を表示します。
	列を非表示	選択した列を関連表から削除します。非表示の列は、部品表マネージャーでは表示されたままですが、バックグラウンドでは斜めのハッチングパターンでマークされます。
	関連表	サブメニューを開きます：  • **コーナーを固定する**：固定コーナーテーブルを左上、右上、右下、左下のいずれかに設定します。 • **ズーム**：**表**にズームします。必要に応じて、カレントの表と同じようにレイアウトを設定します。 • **選択**：**表**を選択します。必要に応じて、カレントの表と同じようにレイアウトを設定します。 • **削除**：ドキュメントから**表**を削除します。 • **アタッチ解除**：**表**をデタッチします。部品表が変更されても、図面内の表は更新されません。 • **行の高さに合わせる**：テキストやサムネイルの高さに最も適した行の高さを設定します。

アイコン	ツール	説明
	フッター	サブメニューを開きます：  選択した列について： • **フッターなし**：フッターを削除します。 • **合計**：フッターに合計を表示します。 • **平均値**：フッターに平均値を表示します。 • **最小値**：フッターに最小値を表示します。 • **最大値**：フッターに最大値を表示します。 **注**：テンプレート列のフッターは、そのほとんどが数値である場合にサポートされます。 詳細については、**フッター**に関する記事を参照してください。
	ソート	サブメニューを開きます：  • **並び順序**：表を自動的にソートします。 • **自然順**：ドキュメント内のコンポーネントインスタンスの自然順序によって表をソートします。 • **固定オーダー**：部品表内の部品の位置は記憶され、部品の追加や削除に関係なく、更新後も番号は変わりません。 • **昇順**：選択した列を昇順でソートします。 • **降順**：選択した列を降順でソートします。 詳細については、 **部品表を並べ替える**に関する記事を参照してください。

アイコン	ツール	説明
	集計関数	サブメニューを開きます：  • **関数なし**：集計関数を削除します。 • **合計**：グループ内のすべての値の合計を表示します。 • **平均値**：グループ内のすべての値の平均を表示します。 • **最小値**：グループ内のすべての値の最小値を表示します。 • **最大値**：グループ内のすべての値の最大値を表示します。 • **連結**：グループ内のすべての値の連結を、指定された区切り文字(デフォルトでは ';')で区切って昇順で表示します。 • **カウントとの連結**：グループ内のすべての値と、対応する検出数を昇順で連結して表示します。値とカウントのペアは、指定された区切り文字で区切られます。
	サムネイルを新規テーブルに追加	新しい部品表にサムネイル列を追加する設定をコントロールします。
	警告を表示	部品表の作成または更新時の警告メッセージの表示をコントロールします。
	デフォルトテンプレートの設定	**部品表テンプレートファイル選択**ダイアログボックスを開き、部品表テンプレート(*.bom)ファイルを選択します。

ツールバー

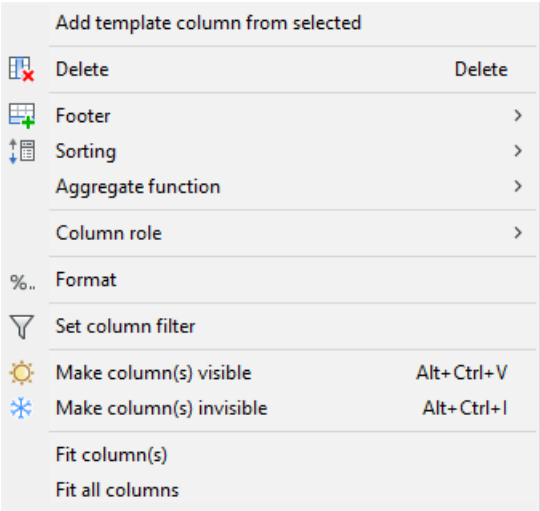


アイコン	ツール	説明
⋮	**メインメニュー**	メインメニューを開きます。
2. Bill of Materials Componer	**部品表選択**	カレントの部品表を選択します。選択は、図面に保存されています。図面を閉じて再び開くと、選択された部品表は、マネージャーで復元されます。選択すると、表は図面のカレントの状態に更新されます。
	更新	カレントの部品表と図面内のすべての部品表のリストを更新します。
	表を配置	図面上に表のインタラクティブな配置を開始します。 **注**：部品表は図面に複数挿入することが可能です。
<All properties>	**カテゴリー項目を選択**	プロパティカテゴリを選択します。
Annotative	**列項目を選択**	現在の部品表に追加する列を選択します。 これを使用して、数式フィールドの数式を入力することもできます。 数式を追加するには、"=<Mass> *<Quantity> " のように、"=" で始まる式を入力します。数式は、他の列を参照することが可能です。<>で囲まれた表示名を使用します。
	後に列を挿入	**列が選択されている場合**：表内の選択した列の後ろに**列セレクタ**から列を挿入します。 **列が選択されていない場合**：新しい列は表の最後の列の後に追加されます。
	検索	検索欄のオンとオフを切り替えます。 また**Ctrl+F**を使用することもできます。
Search	**検索欄**	検索文字列を入力します。ワイルドカード文字がサポートされています。

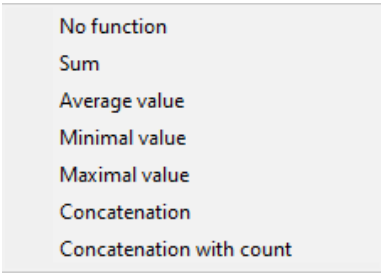
アイコン	ツール	説明
	前を検索	部品表の前の一致を検索します。 また**Ctrl+F3**を使用することもできます。
	次を検索	部品表の次の一致を検索します。 **F3**を使用することもできます。
	見つかったすべての項目を選択	部品表内の一致するすべてを選択します。

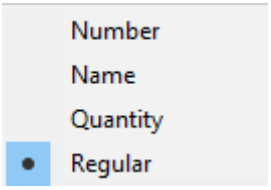
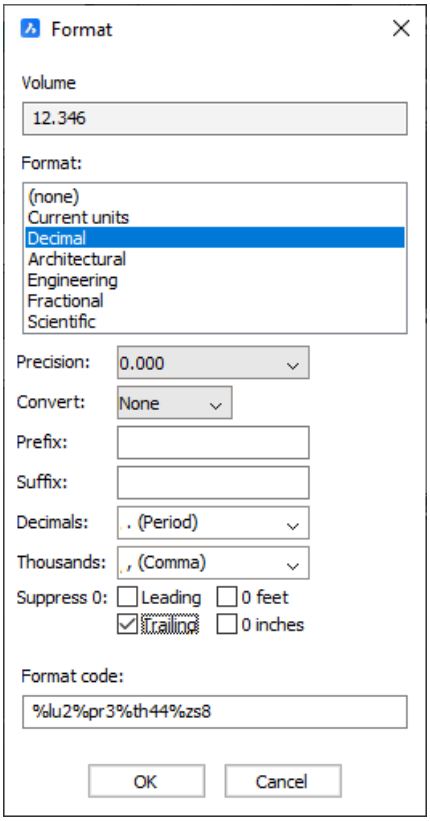
列のコンテキストメニュー

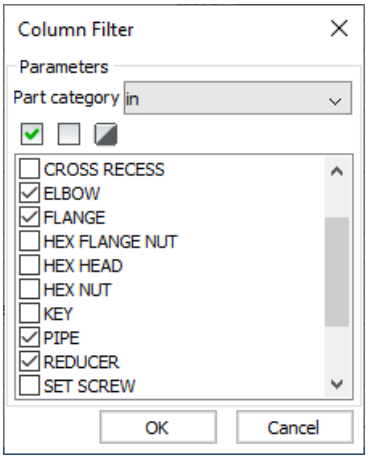
コンテキストメニューを開くには、列を右クリックします。列がカレントの選択に追加されます。



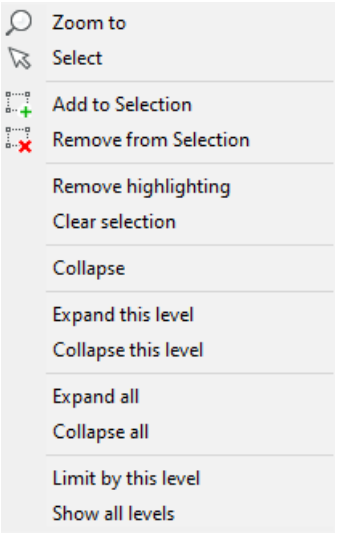
アイコン	ツール	説明
	選択対象からテンプレート列を追加	テンプレート列を構成するためのダイアログが開きます。選択した列は、テンプレート式に自動的に追加されます。
	列を削除	表から選択した列を削除します。 また**BOMグリッド**で列を選択して、**Delete**を押すと、列を削除することができます。

アイコン	ツール	説明
	フッター	選択された各列のサブメニューを開きます： • **フッターなし**：フッターを削除します。 • **合計**：フッターに合計を表示します。 • **平均値**：フッターに平均値を表示します。 • **最小値**：フッターに最小値を表示します。 • **最大値**：フッターに最大値を表示します。
	ソート	サブメニューを開きます： • **並び順序**：表を自動的にソートします。 • **自然順**：ドキュメント内のコンポーネントインスタンスの自然順序によって表をソートします。 • **昇順**：選択した列を昇順でソートします。 • **降順**：選択した列を降順でソートします。
	集計関数	選択された各列のサブメニューを開きます：  • **関数なし**：集計関数を削除します。 • **合計**：グループ内のすべての値の合計を表示します。 • **平均値**：グループ内のすべての値の平均を表示します。 • **最小値**：グループ内のすべての値の最小値を表示します。 • **最大値**：グループ内のすべての値の最大値を表示します。 • **連結**：グループ内のすべての値の連結を、指定された区切り文字(デフォルトでは ';')で区切って昇順で表示します。 • **カウントとの連結**：グループ内のすべての値と、対応する検出数を昇順で連結して表示します。値とカウントのペアは、指定された区切り文字で区切られます(デフォルトでは ';')。

アイコン	ツール	説明
	列の役割	選択された各列のサブメニューを開きます：  • **番号**：BMBALLOONコマンドで数値のソースとして使用される列です。 • **名前**：BMBALLOONコマンドで名前のソースとして使用される列です。 • **数量**：BMBALLOONコマンドで数量のソースとして使用される列です。 • **標準**：この列には特定の役割はありません。
%..	**形式**	選択した列に対して指定された形式を設定します。 ダイアログボックスを開きます： 

アイコン	ツール	説明
	列フィルターを設定	列フィルターを設定するダイアログを開きます： 
	列を表示	図面内の関連表で選択列を表示します。
	列を非表示	選択した列を関連表から削除します。非表示の列は、部品表マネージャーでは表示されたままですが、バックグラウンドでは斜めのハッチングパターンでマークされます。
	列にフィット	選択した列をコンテンツの幅に合わせます。 列の幅は手動で変更されていない限り、コンテンツに自動的にフィットするように収まります。
	すべての列をフィット	すべての列をそのコンテンツの幅に合わせます。 列の幅は手動で変更されていない限り、コンテンツに自動的にフィットするように収まります。

行のコンテキストメニュー
任意のセルを右クリックして、コンテキストメニューを開きます。



アイコン	ツール	説明
	ズーム	モデル内の選択した部品にズームします。
	選択	部品を選択します。既存の選択を置き換えます。
	選択に追加	選択に部品を追加します。
	選択から削除	選択から部品を削除します。
	ハイライトを削除	ハイライト表示を削除します。
	選択をクリア	選択をクリアします。
	折りたたむ	部品表グリッドのサブアセンブリグループを折りたたみます。
	展開	部品表グリッドのサブアセンブリグループを展開します。
	このレベルを展開	カレントのものとしてアセンブリツリーの同じレベルで全てのサブアセンブリグループを展開します。
	このレベルを折りたたむ	カレントのものとしてアセンブリツリーの同じレベルで全てのサブアセンブリのグループを折りたたみます。
	すべて展開	カレントの部品表内のすべてのサブアセンブリグループを展開します。
	すべて折りたたむ	カレントの部品表内のすべてのサブアセンブリグループを折りたたみます。

アイコン	ツール	説明
	このレベルで制限	カレントのレベルを、部品表階層の最大レベルとして設定します。
	すべてのレベルを表示	部品表階層の最大レベル制限を削除します。

部品表タイトル

図面に表示されているカレントの部品表タイトルを表示します。このコントロールをクリックして、図面を編集します。このモードでは、**部品表タイトル**コントロールは、代わりに**タイトルテンプレート**を表示します。**タイトルテンプレート**は、<NAME>プレースホルダを含む文字列で、アセンブリ名に置き換えられます。

グリッド

No.	Component ▲2	Physical material	Material density	Is standard	Quantity ▼1
1	ISO 4033			Yes	60
2	MM-THD			Yes	30
3	LEG			No	4
4	FLANGE			No	2
5	CONNECTION H	ASTM-A276-316L	7900.00	No	1
6	CONNECTION J	ASTM-A276-316L	7900.00	No	1
7	GASKET			No	1
8	HAND HOLE			No	1
9	HIGHT SPEED MIXER			No	1
10	HOMOGINIZER			No	1
11	MIXER_A			No	1
12	NOZZLE B			No	1
13	NOZZLE D			No	1
14	NOZZLE F	AISI-316L	7900.00	No	1
15	NOZZLE L			No	1

グリッドは、選択した部品表の内容を表示します。各行は、対応するインスタンスにリンクされています。行を選択すると、対応する部品が自動的にハイライトされます。コンテキストメニューを使用すると、対応する部品の選択や、カレントの選択範囲からの追加/削除、それらの部品へズームすることができます。行内の任意のセルを左ダブルクリックすると、対応する部品にズームします。

注：タイトルやヘッダー行を削除するには、BOMのタイトルまたはすべての列ヘッダーが空である必要があります。また、コマンドラインから入力されたタイトルは、先頭または末尾のスペースをすべて削除してトリミングされます。

列を移動

部品表内の列を移動するには、新しい位置にドラッグアンドドロップします。

列の表示/非表示

No.	Component	Physical material	Material density, kg/m³	Volume, cm³	Mass, kg	Quantity
1	CONNECTION H	ASTM-A276-316L	7900.00	80.28	0.63	1
1.1	ACTUATOR VALVE	ASTM-A276-316L	7900.00	32.76	0.26	1
1.2	TRANSITION PIECE	ASTM-A276-316L	7900.00	47.52	0.38	1
2	CONNECTION J	ASTM-A276-316L	7900.00	80.28	0.63	1
2.1	ACTUATOR VALVE	ASTM-A276-316L	7900.00	32.76	0.26	1
2.2	TRANSITION PIECE	ASTM-A276-316L	7900.00	47.52	0.38	1
3	FLANGE			2416.26		2
4	GASKET			453.05		1
5	HAND HOLE			4523.51		1
6	HIGHT SPEED MIXER			9762.24		1
7	HOMOGINIZER			10235.08		1
8	ISO 4033			6.03		60
9	LEG			1646.02		4
9.1	EURO-CHAN 24-62			1106.52		1
10	MIXER_A			13592.99	34.59	1
10.1	ANCHOR STIRRER			3949.21	30.66	1
10.1.1	AGITATOR SHAFT	ASTM-A276-316L	7900.00	1507.30	11.91	1
10.1.2	BUSH	ASTM-A276-316L	7900.00	149.22	1.18	1
10.1.3	BUSH	ASTM-A276-316L	7900.00	109.95	0.87	2
10.1.4	CLOSURE PLATE	ASTM-A276-316L	7900.00	8.48	0.07	2
10.1.5	FLAT BAR	ASTM-A240-316L	7900.00	45.09	0.36	2
10.1.6	FLAT BAR	ASTM-A240-316L	7900.00	139.65	1.10	2
10.1.7	FLAT BAR	ASTM-A240-316L	7900.00	34.22	0.27	4
10.1.8	PIPE	ASTM-A312-TP-316	7900.00	415.23	3.28	2

部品表内の任意の列を非表示にすることができます。つまり、表の結果に対して、非表示にすることができます。非表示の列は、ハッチングされた背景を持ったまま部品表グリッドに表示されます。メインメニュー、列のコンテキストメニュー、または**プロパティグリッド**の列の**表示**プロパティを編集して、列の表示/非表示を変更できます。

幅の調整

部品表グリッドの任意の列の幅を調整できます。これは、関連表の幅とは無関係です。列の幅が、セルのテキストを表示するのに必要な値よりも小さい場合、対応する行の高さはテキストに合わせて大きくなります。

列の幅を手動で調整した場合、表の内容に関係なく、幅は同じままになります。幅は部品表構成にも保存されます。図面を閉じて再度開いた場合でも、調整された列幅はすべて同じままです。

自動的にコンテンツに列の幅に合わせるには、次のいずれかの操作を行います：

- 列を選択して右クリックし、コンテキストメニューから**列にフィット**を選択します。
- 列ヘッダーの区切りをダブルクリックします。

部品表の並べ替え

グリッドを使用して、コンテンツの表をどのように並べ替えるかをコントロールします。列のラベルをダブルクリックすると、昇順、降順、順不同の順序を変更できます。列を使用して表の並べ替えを行う場合、ラベルには記号(昇順の場合は▲、降順の場合は▼)が表示されます。ラベルをダブルクリックしてソートします。

並べ替えに複数の列を使用することができます。これらの列のソート記号には、ソート順を示す下付き文字があります。たとえば、数量を降順で並べ替え、コンポーネント名を昇順で並べ替えたい場合、数量列には▼$_1$記号が表示され、コンポーネント列には▲$_2$記号が表示されます。

グループの展開/折りたたみ

No.	Component	Physical material	Material density, kg/m³	Volume, cm³	Mass, kg	Quantity
⊞ 9	LEG			1646.02		4
⊟ 10	MIXER_A			13592.99	34.59	1
⊞ 10.1	ANCHOR STIRRER			3949.21	30.66	1
10.2	BOLT	DIN 931 - A2	7900.00	6.15	0.05	1
10.3	BOLT	DIN 931 - A2	7900.00	1.57	0.01	4
10.4	GEARBOX & MOTOR			9130.51		1
10.5	MECHANICAL SEAL	Rubber	930.00	17.73	0.02	1
⊟ 10.6	MOUNTING MIX_A			310.97	2.46	1
10.6.1	AGITATOR MOUNTING FLANGE	ASTM-A240-304	7900.00	79.91	0.63	1
10.6.2	AGITATOR MOUNTING PAD	ASTM-A240-316L	7900.00	159.44	1.26	1
10.6.3	ROUND BAR	ASTM-A479-304	7900.00	17.91	0.14	4
10.7	STD. BOTTOM BEARING	AISI-316L	7900.00	159.87	1.26	1
10.8	WASHER	ASTM-A240-304	7900.00	12.27	0.10	1

階層部品表では、各サブアセンブリは、部品表グリッドで折りたたんだり展開したりできるグループを形成します。
グループを折りたたんだり展開するには、次のいずれかを実行します：

- 部品表グリッドの最初の列にあるノードアイコンをクリックします。
- 行を右クリックして、コンテキストメニューから**折りたたむ**または**展開**を選択します。

コンテキストメニューにて、すべてのグループを一度に折りたたんだり展開、または同じアセンブリレベルに対応したすべてのグループを折りたたんだり展開することもできます。

注：サブアセンブリグループの状態(折りたたむ/展開)は、ドキュメント内に格納されません。デフォルトでは、部品表を閉じて再び開いたとき、すべてのサブアセンブリグループは展開されます。

29.12.4 プロパティ

Bill of materials properties	
Title	Bill of Materials <NAME>
Type	Bottom level
Property set	All except coordinates
Selection set	Entire model
Target component	<Root component>
Filter settings	<Expand to configure>
Filter expression	... x
Mechanical objects	Include
Other local objects	Exclude
Other external references	Exclude
Solid plies	Exclude
Ignore BOM status	No
Sorting mode	Automatic order
Grouping mode	Auto
Footer title	TOTAL:
CSV delimiter	; (Semicolon)
Warning messages	On
Column properties	
Title	Volume
Category	Mass
Role	Regular column
Format	%lu2%pr2
Visible	Yes
Width	Auto
Filter	No filter
Aggregate function	Sum
Unit placement	In additional column
Units mode	Best for all values
Footer type	Average value
Footer format	%lu2%pr2
Footer units mode	Auto

プロパティは、部品表マネージャーパネルの下部にあります。サイズを調整するには、部品表マネージャーパネルとプロパティの間にあるスプリッタコントロールを使用します。

プロパティは、カレントの表のプロパティ(タイトル、種類、フィルター、ソートモードとフッターのタイトル)を含みます。すべての列が選択されている場合、共通のプロパティを表示します。選択したすべての列の共通プロパティを一度に変更することができます。列のプロパティは、列のタイトル、可視性、および幅を変更します。

数値の場合、フッタータイプ、フッター単位モード、単位配置、単位モード、フッター単位(列が変更可能な単位を持つ場合)を設定することができます。

単位の配置では、単位をどこに表示するかを定義します。列のタイトル内、値自体と同じセル内、または独自の列カラム内です。

単位モードは、表示単位を取得する方法を定義します。すべての値に最適な単位、セル内の特定の値を表示するのに最適な単位、または指定された単位を指定します。距離、面積、体積、または質量特性の**単位モード**を選択できます。

フッタータイプは、セルに何を表示するか、合計、平均値、最小値、最大値を定義します。

フッター単位モードは、フッターセルの単位を定義するもので、auto、best、ユーザ定義があります。

フッター単位は、フッターの値に異なる単位を設定します。

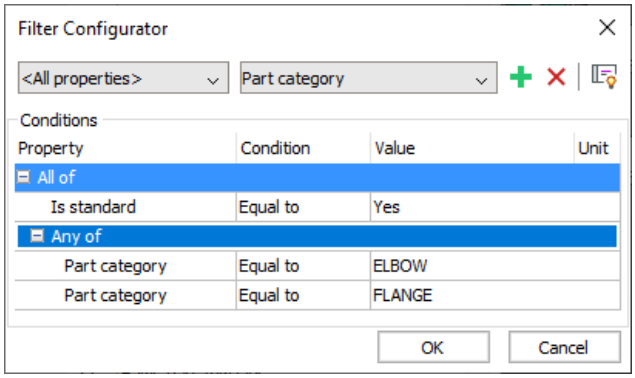
29.12.5 フィルター設定

フィルター式

カレントの部品表にカスタムフィルターを追加できます。フィルターを適用するには、次のいずれかを実行します：

- **プロパティグリッド**の**部品表のプロパティ**セクションにある**フィルター式**プロパティを使用します。
- **メインメニュー**から**フィルターを設定**コマンドを使用します。

いずれの場合も、フィルターコンフィギュレーター/フィルター式ダイアログボックスが表示されます。



このダイアログの各行は、基本条件を表しています。また、グループを追加して、複数の基本条件やグループをまとめておくことも可能です。グループでは、複雑なフィルターを作成できます。

新しい初期条件の追加

以下を実行します：

1 必要に応じて、カテゴリを選択し、プロパティのリストを特定のカテゴリに制限します。

2 プロパティのリストから必要なプロパティを選択します。選択すると、プロパティの条件が自動的に追加されます。

3 必要な条件タイプを設定します：
   - 等しくない
   - 未満
   - 超過
   - 以上
   - 以下

4 ターゲット値を設定します。テキスト値の場合、使用可能なすべての値のドロップダウンリストからターゲット値を選択できます。数値については、目標値の単位を指定できます。値は自動的にドキュメント単位に変換されます。

1つ以上の条件を削除

以下を実行します：

1 削除する条件を選択します。Ctrlを使用すると複数の条件を選択でき、Shiftを使用すると条件の範囲を選択できます。

2 **削除**ツール(✕)をクリックするか、削除する行を右クリックして、コンテキストメニューで**条件を削除**を選択します。

新しい条件グループの追加

以下を実行します：

1 **追加**ツール(+)をクリックします。

2 **"すべての"グループを追加**を選択して新しいグループをすべて追加するか、**"いずれかの"グループを追加**を選択して任意のグループを追加します。

3 必要な条件を追加します。

選択した条件のグループ化

以下を実行します：

1 削除する条件を選択します。Ctrlを使用すると複数の条件を選択でき、Shiftを使用すると条件の範囲を選択できます。

2 グループ化したい行を右クリックします。

3 **選択対象から"すべての"グループを作成**を選択して新しい「すべての」グループを作成するか、**選択対象から"いずれかの"グループを作成**を選択して任意のグループを作成します。

フィルターを適用するには、**OK**をクリックします。

メカニカルオブジェクト

メカニカルコンポーネントを含める、または除外します。

その他のローカルオブジェクト

非メカニカルなローカルブロックとソリッドを含める、または除外します。

その他の外部オブジェクト

非機械的外部参照を含める、または除外します。

ソリッドプライ

ソリッドプライを含める、または除外します。

部品表ステータスを無視

部品表ステータスを無視するかどうかを決定します。

29.12.6 列フィルター

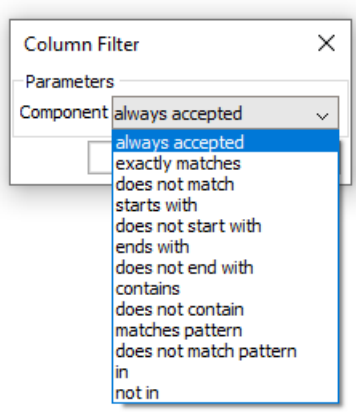
列フィルターを使用すると、表に行を含める条件を設定できます。各列フィルターは、列の値を含めるために満たす必要がある条件を設定します。たとえば、列フィルターを設定して、特定の数より大きい数量の部品のみを含めるようにしたり、名前に**ノズル**が含まれている部品のみを含めることができます。1つの列が持つことのできるフィルターは1つまでです。ただし、必要な数の列に対して同時にフィルターを設定することは可能です。アクティブなフィルターがある列は、タイトルにフィルターアイコン(▽)でマークされます。

アクティブフィルター付き列の例

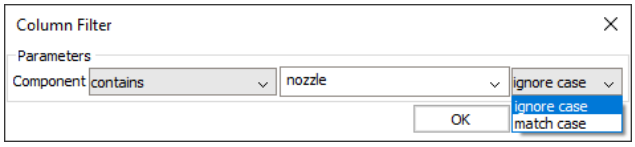
No.	Part category	Component	Quantity
1	FLANGE	ASME B16.5 Flange BL RF	9
2	FLANGE	ASME B16.5 Flange SO RF	177
3	FLANGE	ASME B16.5 Flange SO RF	4

列フィルターを追加するには、列タイトルを右クリックし、コンテキストメニューから**列フィルターの設定**を選択します。

列フィルターダイアログボックスが表示されます。

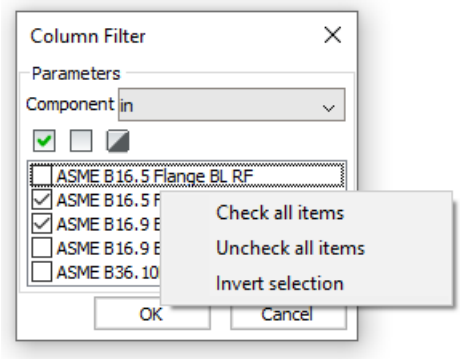


必要なフィルタータイプを選択します。次に、フィルターのタイプと列の内容に応じて、フィルターのターゲット値を設定する必要があります。



数値コンテンツを含む列の場合、目標値の単位を設定できます。ターゲット値は、内部的に自動的にドキュメントの単位に変換されます。

テキストフィルターでは、**大文字と小文字を区別しない**オプションと、**大文字と小文字を区別する**オプションを選択できます。**フィルター内**と**なし**には、この列で可能なすべての値のリストが表示されます(既に適用されているフィルターに関して)。それに応じて、含めるか除外する値を確認します。また、ツールバーの対応するボタンまたはコンテキストメニューのコマンドを使用して、すべての値をチェックしたり、すべての値のチェックを外したり、現在の選択を反転したりできます。



列フィルターを適用するには、**OK**をクリックします。

列フィルターを削除するには、列タイトルを右クリックし、コンテキストメニューから**列フィルターを削除**を選択します。

詳細については、**部品表のフィルタリング**に関する記事を参照してください。

29.12.7　選択セット

部品表を選択セットとリンクさせることが可能で、BOMコンテンツのフィルターのように機能します。以下の種類の選択セットに対応しています。

- **モデル全体**：モデル全体に対して部品表が作成されます。

- **サブアセンブリ**：部品表は、サブアセンブリの選択されたインスタンスに対して作成されます。
- **図面ビュー**：部品表は、ビューポートでの可視性にかかわらず、対応する図面ビューで選択された部品に対して作成されます。
- **レイアウトビューポート**：部品表は、選択されたレイアウトビューポートに対して作成されます。
- **カスタム選択**：選択された部品に対してのみ部品表が作成されます。
- **カレントドキュメントを除外**：部品表にカレントドキュメントのオブジェクトを含めません。
- **選択を表示**：部品表のカレントの選択内容を表示します。
- **追加ドキュメント**：部品表に他のドキュメントの部品を含めます。
  - **図面またはシートセットを追加**：部品表には、選択した図面またはシートセットのオブジェクトが含まれます。
  - **フォルダーを追加**：フォルダー内に存在する図面またはシートセットからオブジェクトを部品表に含めます。

    注：ユーザーは、指定したワイルドカード、BIMプロジェクト全体、またはシートセット全体に一致するドキュメントのみを含めることができます。
- **編集**：選択範囲の編集を許可します。

メインメニューの**選択を表示**コマンドで、現在の選択範囲を確認することができます。

メインメニューで選択セットの種類を選ぶだけで、いつでも選択セットの種類を変更することができます。また、既存の選択セットにオブジェクトを追加したり、削除したりする編集も可能です。

29.12.8 ソート

部品表は、いくつかのソートモードをサポートしています(詳細については、**部品表を並べ替え**に関する記事を参照してください)。

これらのモードを切り替えるには、**プロパティグリッド**の**部品表プロパティ**セクションにある**並べ替えモード**プロパティを使用します。**並べ替えモード**ドロップダウンメニューを使用するか、**グリッド**内の列ラベルをダブルクリックして、各列の昇順、降順、自然順を切り替えます。

29.12.9 列の単位

単位を持つほとんどの数値プロパティの**単位の配置**と**単位モード**を変更できます。**グリッド**で必要な列を選択し、**プロパティグリッド**の**列のプロパティ**セクションを使用して、**単位の配置**と**単位モード**を変更します。

詳細については、**列の単位**に関する記事を参照してください。

また、この記事の**列の単位と単位配置モードの変更**の項も併せてご参照ください。

29.12.10 評価列

部品表は評価列をサポートしています。評価列には、数式列とテンプレート列の2種類があります。サムネイル列も、式を必要としませんが、評価される列とみなされます。式の構文など、数式フィールドの詳細については、**評価列**に関する記事を参照してください。

また、この記事の**評価列を追加**の項も併せてご参照ください。

計算式列

計算式列を追加するには、以下の手順を実行します：

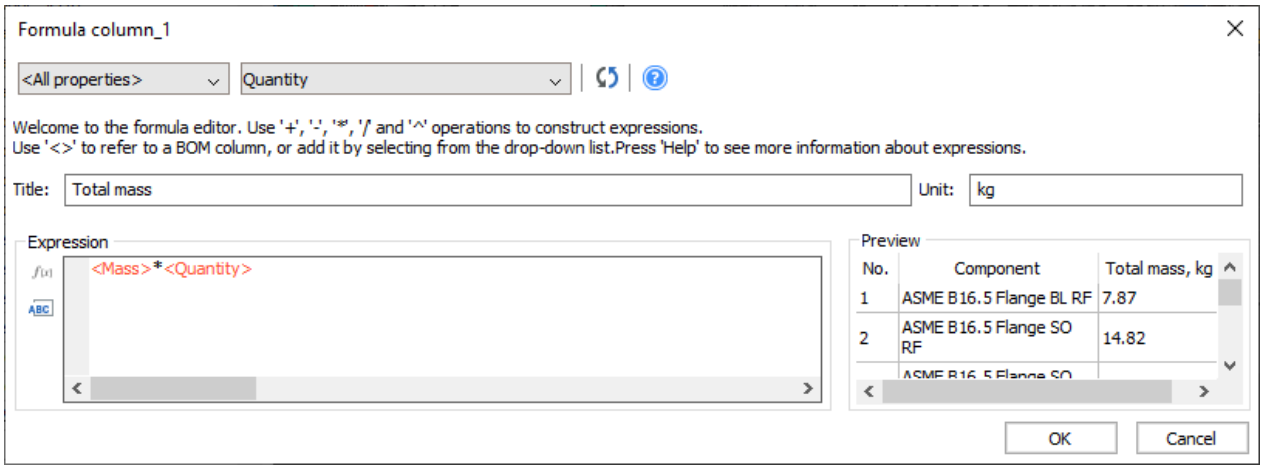
1 **カテゴリセレクタ**を使用し**評価列カテゴリ**を選択します。

2 **列セレクタ**に**数式列**を入力します。

3 **後に列を挿入**または**前に列を挿入**ツールを使用します。

別の方法として、**メインメニュー**の**数式列を挿入**オプションを使用することもできます。

どちらの場合も、式コンフィギュレータダイアログボックスが表示されます。



このダイアログでは、計算式列のタイトル、単位、および式を設定できます。また、計算式の結果のプレビューも表示されます。「表記」欄では、オートコンプリートがサポートされています。

「表記」欄に列またはプロパティへの参照を追加するには、プロパティのリストから必要なプロパティを選択します。**列参照の追加**ツール()をクリックしてメニューからプロパティを選択するか、**関数の追加**ツール()をクリックして必要な関数を選択することもできます。

OKをクリックして、部品表に数式列を追加します。

テンプレート列

テンプレート列を追加するには、次のようにします。

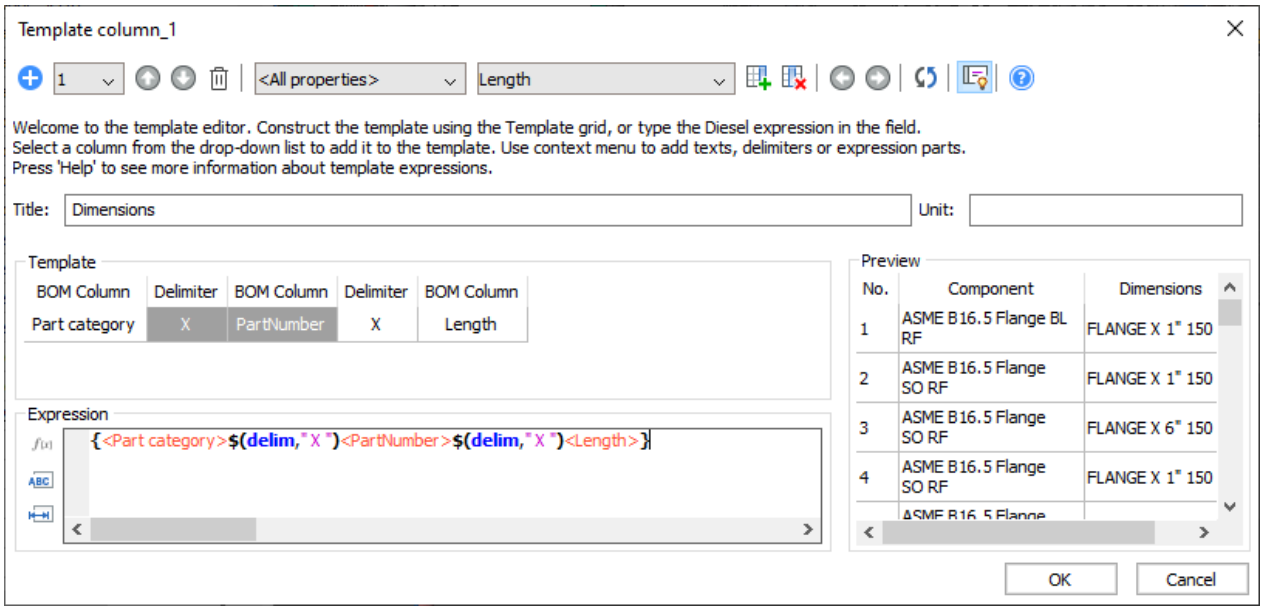
1 カテゴリー選択を使用して**<評価列>**カテゴリーを選択します。

2 列選択で**<テンプレート列>**を選択します。

3 **後に列を挿入**または**前に列を挿入**ツールを使用します。

別の方法として、**メインメニュー**の**テンプレート列を挿入**オプションを使用することもできます。

どちらの場合も、テンプレートコンフィギュレータダイアログボックスが表示されます。



このダイアログでは、テンプレート列のタイトル、式、および必要に応じて単位を設定できます。また、結果のプレビューも表示されます。「表記」欄では、オートコンプリートがサポートされています。
テンプレート列には、複数のテンプレートサブ式を含めることができます。その場合、それらは最初から最後まで評価され、空でない結果が得られる最初の部分式が使用されます。**テンプレートコンフィギュレータ**では、ツールバーを使用してテンプレート部分式を追加、削除、切り替えることができます。また、テンプレート部分式の順序を変更することもできます。

注：表記欄では、すべての部分式が一度に表示され、各部分式は {} 括弧で囲まれていることに注意してください。

部分式を追加するには、をクリックします。

カレントの部分式を削除するには、をクリックします。

注：最後の部分式が削除されると、空の部分式に置き換えられます。

カレントの部分式を変更するには、ドロップダウンリストから必要な部分式の番号を選択します。

とは部分式の順序を変更するときに使用します。
カレントに選択されている部分式は、**テンプレート**セクションを使用して設定できます。このセクションの各列は、テンプレート式の項目を表し、変更できます。
テンプレートアイテムの種類は次のとおりです：

- **列参照**：部品表列またはプロパティへの参照を表します。列参照を追加するには、プロパティのリストから必要な列を選択します。これは、最後に選択した列の後に自動的に追加されます。列が選択されていない場合は、最後の列の後に追加されます。必要に応じて、**列参照**の前に**区切り文字**が自動的に追加されます。
- **区切り文字**：2つの項目間の区切り文字を表します。区切り文字テキストは、その両側のテキストが空でない場合にのみ、最終結果に表示されます。たとえば、部品番号と長さの列参照の間に "X" 区切り記号がある場合、部品番号と長さの両方が空でない場合にのみ、最終的なテキストに "X" が追加されます。ほとんどの場合、区切り文字は自動的に追加されます。ただし、ボタンを使用してドロップダウンリストから**区切り文字を追加**を選択すると、区切り文字を追加できます。または、コンテキストメニューから区切り文字を追加することもできます。
- **テキスト**：カスタムテキストを表します。カスタムテキストを追加するには、をクリックし、ドロップダウンリストから**テキストを追加**を選択します。または、コンテキストメニューからカスタムテキストを追加することもできます。

- **評価テキスト**：最終式にそのまま追加する必要がある項目を表します。評価テキストには、結果を変更する関数やその他の特殊記号が含まれている場合があります。評価されたテキストを追加するには、ボタンを使用し、ドロップダウンリストから**式を追加**を選択します。または、コンテキストメニューから評価テキストを追加することもできます。

テンプレート内のアイテムのコンテンツはいつでも変更できます。アイテムを選択して、ボタンを使用するか、コンテキストメニューから**列を削除**を選択して、アイテムを削除することもできます。アイテムを移動するには、テンプレート内の列を選択し、目的の位置にドラッグアンドドロップします。テンプレートの変更はすべて、「表記」欄に反映されます。同様に、「表記」欄の変更はテンプレート欄に反映されます。
部品表にテンプレート列を追加するには、**OK**をクリックします。

サムネイル列
サムネイル列を追加するには、以下のいずれかの操作を行います：

- カテゴリー選択を使用して<**評価列**>カテゴリーを選択します。
- 列選択で<**サムネイル列**>を選択します。
- **後に列を挿入**ツールまたは**前に列を挿入**ツールを使用します。

または

- **メインメニュー**の**サムネイル列を挿入**オプションを使用します。

どちらの場合も、サムネイル列が表に挿入されます。
挿入後、サイズ、背景色、ビュータイプ、表示スタイルなど、列のプロパティを使用してサムネイルのパラメータを調整することが可能です。

29.12.11 フッター行

部品表には、フッター行を含めることができます。フッター行を追加するには、列のフッターの種類を1つ以上指定します。デフォルトでは、フッター行のタイトルはトータル:です。**プロパティグリッド**の**部品表プロパティ**セクションにある**フッタータイトル**プロパティを使用して、フッターのタイトルを変更します。

また、数式やテンプレートの列にもフッターを追加することが可能です。

部品表のフッター行の詳細については、**フッター**に関する記事を参照してください。

また、この記事の**列にフッターを追加**の項も併せてご参照ください。

29.12.12 集計列

トップレベル、ボトムレベル、および階層化された部品表では、ほとんどすべての列に集約関数を割り当てることができます。集計関数は、部品表内の複数の行(これらの値のみが異なる)の値を1つの値にグループ化します。たとえば、集合関数を使用して、パイプのサイズと厚さに対するパイプの全長を計算したり、アセンブリで使用されるボルトとナットのすべてのサイズを単一のセルに連結したりできます。

詳細については、**列の単位**に関する記事を参照してください。

集計関数を設定するには、次のいずれかを実行します：

- 列タイトルを右クリックし、**集計関数**サブメニューから必要な集計関数を選択します。
- 列を選択し、対応する列プロパティで集計関数を変更します。

集計された列は、タイトルにΣ記号でマークされます。

集約された列の例

No.	Part ▲	Thickness, mm	∑Length, m
1	PIPE D= 1"	1.65	107.88
2	PIPE D= 2"	1.65	60.61
3	PIPE D= 6"	2.11	1.74
4	PIPE D= 6"	2.77	7.14

29.12.13 テンプレート

部品表の設定をテンプレートとして保存できます。部品表マネージャーを使用して、テンプレートから新しい表を作成し、カレントの表設定をテンプレートの表設定に置き換えます。設定はいつでもテンプレートとして保存できます。ロードされたテンプレートの設定は、通常のツールを使用して変更し、別のテンプレートとして保存できます。

部品表テンプレートの詳細については、**テンプレート**に関する記事を参照してください。

29.12.14 検索

部品表マネージャーには、表内の特定の値を検索することができる検索欄があります。検索欄では、ワイルドカード文字を使用することもできます。デフォルトでは、BricsCADは表全体を検索します。検索領域を制限したい場合は、必要な列を選択します。値が見つかると、カーソルはそのセルに移動します。列が選択されていない場合は、その行が選択されます。**グリッド**は自動的にスクロールし、セルを表示します。別の値を求めるには、か ボタンを使用します。**F3**または**Ctrl+F3**を使用することもできます。見つかった結果をすべて選択するには、 ボタンを使用します。

デフォルトでは、検索欄内のテキストが検索されます。ただし、**ワイルドカード文字**を使用することもできます。

以下の特殊文字がサポートされています。

名前	文字	説明
バッククォート	`	次の文字をエスケープ(文字通り)します。
カンマ	,	パターンを区切ります。
アスタリスク	*	ヌル文字を含む任意の文字列に一致します。
疑問符	一覧表示	一文字が一致します。
ピリオド	.	英字以外の一文字が一致します。
アットマーク	最初の点と同じ	英文字一文字と一致します。
井桁記号	#	数字一文字が一致します。
チルダ	~	パターンの最初の文字がパターン以外のものと一致する場合です。

名前	文字	説明
括弧	[...]	囲まれた一文字に一致します。
チルダ括弧	[~...]	囲まれていない一文字に一致します。
ハイフン	-	括弧内で、指定した範囲内の一文字に一致します。

検索フィールドを開くには、ツールバーの**検索**ツールバーまたは**Ctrl+F**を使用します。

29.12.15 関連表

マネージャー内の各部品表は、ドキュメント内に関連付けられた表を持つことができます。この表は、部品表設定が変更されると更新されます。部品表は、関連付けられた表を1つだけ持つことができます。ただし、ドキュメント内に表が関連付けられていない部品表を作成することも可能です。

関連表を作成するには、**配置/テーブルの更新**を使用します。部品表をBMBOMで作成した場合は、関連表が自動的に作成されます。

関連表は、**関連表 - ズーム**、または**関連表 - 選択**を使い、ドキュメント内で検索できます。必要に応じて、アクティブなレイアウトが関連表レイアウトに切り替わります。

関連表を削除する場合は、**関連表 - 削除**で削除できます。または、**関連表 - デタッチ**を使用して、部品表から関連表をアタッチ解除することもできます。アタッチ解除後は、関連表は部品表へのリンクを失い、部品表で更新されません。

29.12.16 部品表を更新

BricsCAD V20.2から、部品表マネージャーは、アセンブリが変更または更新されたときにパネル内の表の内容を自動的に更新します。アセンブリが大きいと、更新しづらい場合があります。部品表マネージャーは表を自動的に更新します。

自動更新を回避するには、部品表マネージャーを閉じて**部品表マネージャー**パネルを非アクティブにします。

手動で**更新**をかけて部品表マネージャーのコンテンツを更新することもできます。

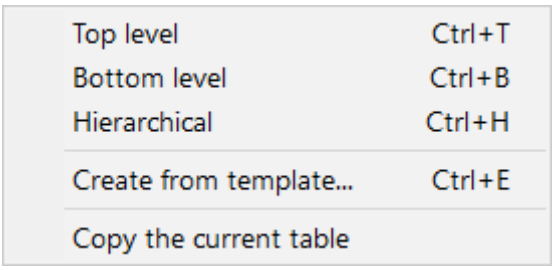
注：アセンブリを変更または修正しても、関連表は自動更新されません。**配置/テーブルの更新**を使用して、関連表を更新します。

29.12.17 新規部品表を追加

1 **メインメニュー**の**新規部品表**サブメニューを使用します。

注：BOMTEMPLATEシステム変数に.bomへの有効なパスが含まれている場合、そのパスは.bomになります。このテンプレートは、新しい部品表を作成するために使用されます。空白またはパスが有効でない場合、以下のデフォルト部品表構成が使用されます。

1



2 部品表タイプを選択するか、部品表のテンプレートファイルを選択するには、**テンプレートから作成**を選択します。

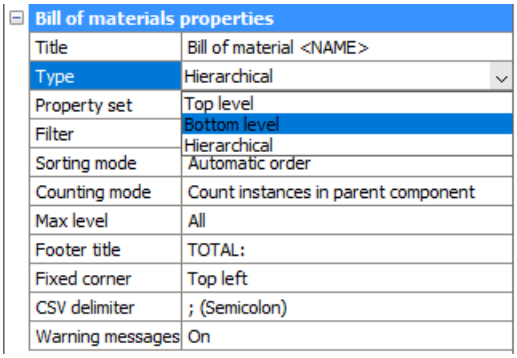
29.12.18 カレントの部品表を選択

カレントの部品表を選択するには、**部品表セレクタ**を使用します。

注：表は、アセンブリのカレントの状態と図面内の関連表(存在する場合)を自動的に更新します。

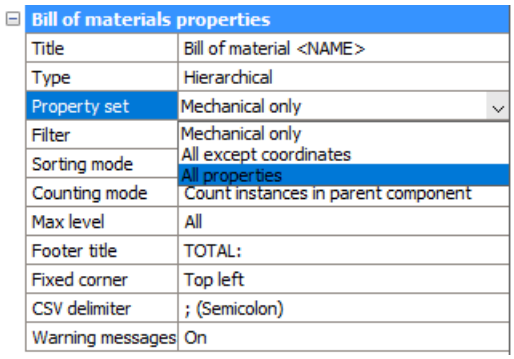
29.12.19 カレントの部品表タイプを変更

プロパティグリッドの**部品表プロパティ**セクションで、**タイプ**プロパティを変更します。



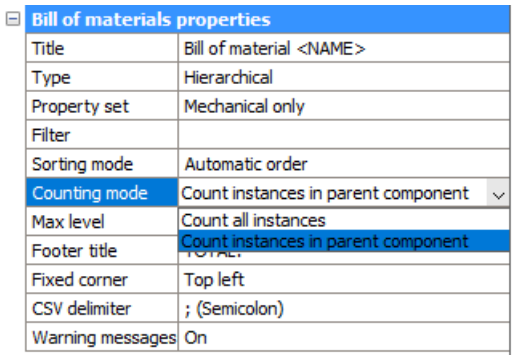
29.12.20 カレントの部品表のプロパティセットを変更

プロパティグリッドの**部品表プロパティ**セクションで、**プロパティセット**プロパティを変更します。



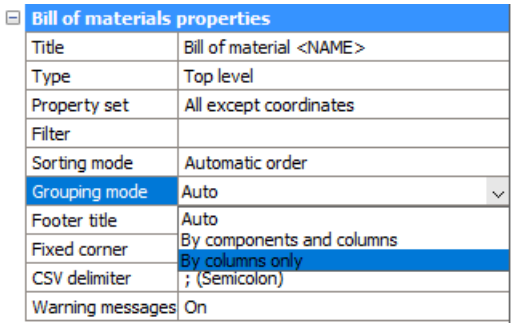
29.12.21 階層部品表のカウントモードを変更

プロパティグリッドの**部品表プロパティ**セクションで、**カウントモード**プロパティを変更します。



29.12.22 トップレベル、ボトムレベル、階層型部品表のグループ化モードの変更

プロパティグリッドの**部品表プロパティ**セクションで、**グループ化モード**プロパティを変更します。



29.12.23 カレントの部品表にカスタムフィルターを設定

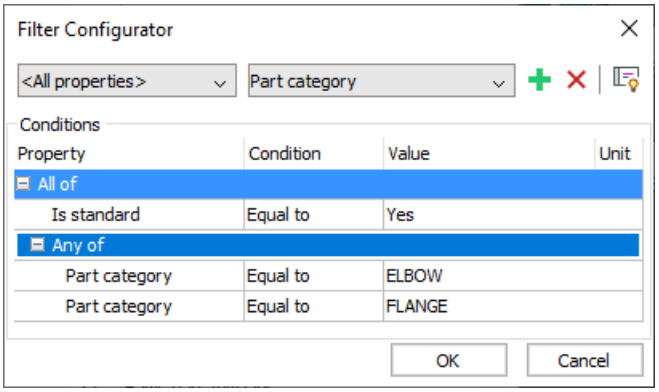
1 **メインメニュー**の**フィルターを設定**オプションを選択します。

フィルターコンフィギュレータダイアログボックスが表示されます。

2 ダイアログツールを使用してフィルターを設定します。

詳細は、**フィルター**を参照してください。

3 **OK**をクリックしてフィルターを適用します。



29.12.24 カレントの部品表に新しい列を追加

1 必要に応じて、**カテゴリ選択**を使用して、追加するプロパティのカテゴリを選択します。

2 追加可能な列のリストから、追加するプロパティを選択します。このリストには、部品表にまだ追加されていない、選択したカテゴリの列がすべて表示されます。フィールドの名前を入力し始めると、BricsCADが自動的に名前を提案します。クリックしてリストから選択します。

3 (オプション)新しい列を隣に配置したい部品表の列を選択します。

4 選択した列の後に新しい列を配置するには、**後に列を挿入**( )をクリックします。選択した列の前に新しい列を配置するには、**前に列を挿入**( )を使用します。

列が選択されていない場合、新しい列はそれぞれ最後の列または最初の列として配置されます。

29.12.25 評価列を追加

1 **カテゴリセレクタ**を使用し**評価列**カテゴリを選択します。

2 **数式列**を選択して数式列を作成するか、**テンプレート列**を選択してテンプレート列を作成します。

3 選択した列の後に新しい列を配置するには、**後に列を挿入**( )をクリックします。選択した列の前に新しい列を配置するには、**前に列を挿入**( )を使用します。

列が選択されていない場合、新しい列はそれぞれ最後の列または最初の列として配置されます。

評価列を設定するためのダイアログボックスが表示されます。

4 列の**タイトル**を変更します。

5 必要に応じて、**単位**を変更します。

6 ダイアログツールを使用して、式を設定します。

7 **OK**をクリックして、列を部品表に追加します。

29.12.26 選択した列からテンプレート列を追加

1 テンプレート列で結合する列を選択します。Ctrlを使用して複数の列を選択するか、Shiftを使用して列の範囲を選択します。

2 選択した列のタイトルを右クリックします。

3 コンテキストメニューから**選択対象からテンプレート列を追加**を選択します。

評価列を設定するためのダイアログボックスが表示されます。

4 列の**タイトル**を変更します。

5 必要に応じて、**単位**を変更します。

6 ダイアログツールを使用して、式を設定します。

7 **OK**をクリックして、列を部品表に追加します。

8 必要に応じて、不要になった列を削除したり、非表示にしたりします。

29.12.27 評価列の変更

1 **部品表グリッド**の列タイトルを右クリックします。

2 コンテキストメニューから**列の式を編集**を選択します。

評価列を設定するためのダイアログボックスが表示されます。

3 必要に応じて、列のタイトル、単位、および式を変更します。

4 **OK**をクリックして変更を適用します。

29.12.28 カレントの部品表から列を削除

1 グリッド内の列を選択します。

2 **列を削除**ツール( )をクリックするか、**削除**キーを押します。

29.12.29 部品表名の変更

部品表タイトルを使用してタイトルを編集するか、**プロパティグリッド**の**部品表プロパティ**セクションにある**タイトル**プロパティを使用します。

<NAME>プレースホルダを使用して、アセンブリ名を参照できます。

注：タイトルやヘッダー行を削除するには、BOMのタイトルまたはすべての列ヘッダーが空である必要があります。また、コマンドラインから入力されたタイトルは、先頭または末尾のスペースをすべて削除してトリミングされます。

29.12.30 フッター行タイトルの変更

プロパティグリッドの**部品表プロパティ**セクションにある**フッタータイトル**プロパティを使用します。

29.12.31 番号に接頭辞または接尾辞を追加

1 **番号**列を選択します。

2 **列のプロパティ**セクションで**番号接頭辞**プロパティを選択します。

Column properties	
Title	No.
Category	BOM Standard
Role	Number
Number prefix	A
Number suffix	
Number type	Full
Delimiter	.
Format	
Visible	Yes
Width	Auto
Filter	No filter

3 必要に応じて、新しい接頭文字列を入力します。

4 **列のプロパティ**セクションで**番号接尾辞**プロパティを選択します。

5 必要に応じて、新しい接尾文字列を入力します。

29.12.32 階層部品表内の番号間の区切り文字を変更

1 **番号**列を選択します。

2 **列のプロパティ**セクションで**区切り文字**プロパティを選択します。

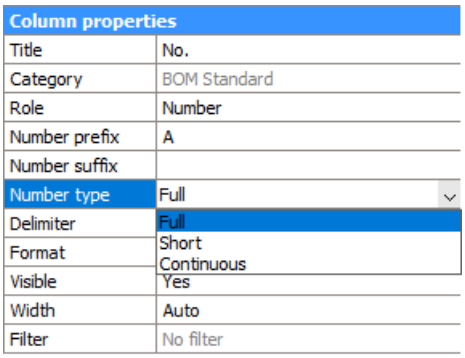
Column properties	
Title	No.
Category	BOM Standard
Role	Number
Number prefix	A
Number suffix	
Number type	Full
Delimiter	.
Format	
Visible	Yes
Width	Auto
Filter	No filter

3 新しい区切り文字文字列を入力します。

29.12.33 階層部品表の番号タイプを変更

1 **番号**列を選択します。

2 **列のプロパティ**セクションで**番号の種類**プロパティを選択します。



3 必要な番号の種類を選択します。

29.12.34 列のタイトルを変更

1 **部品表グリッド**内の列を選択します。

2 **列のプロパティ**セクションで**タイトル**プロパティを選択します。

Column properties	
Title	Component
Category	BOM Standard
Role	Name
Format	
Visible	Yes
Width	Auto
Filter	No filter
Aggregate function	No function

3 列の新しいタイトルで**タイトル**プロパティの値を変更します。

注：タイトルやヘッダー行を削除するには、BOMのタイトルまたはすべての列ヘッダーが空である必要があります。また、コマンドラインから入力されたタイトルは、先頭または末尾のスペースをすべて削除してトリミングされます。

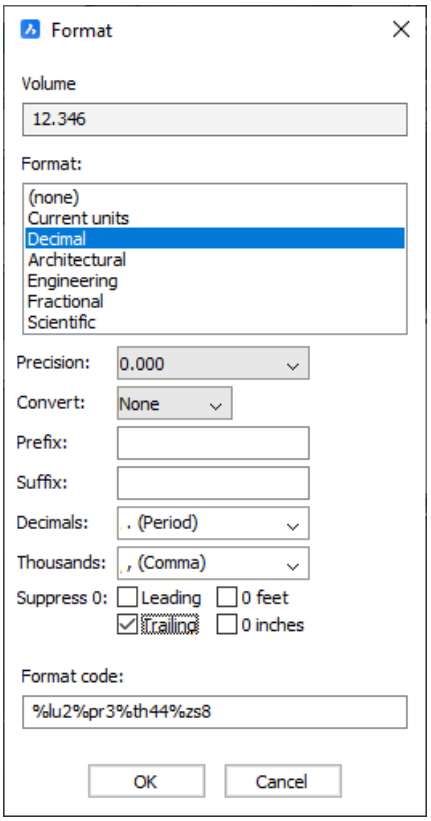
29.12.35 列の書式を変更

1 部品表内の列を選択します。

2 選択した列のタイトルを右クリックします。

3 コンテキストメニューで**形式**を選択します。

形式ダイアログボックスが表示されます。



4 形式を変更します。

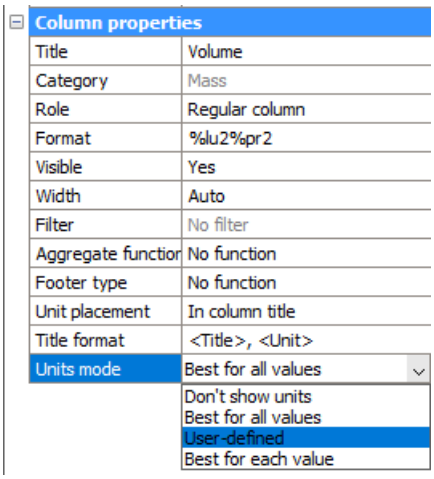
5 **OK**をクリックして変更を適用します。

29.12.36 列の単位と単位の配置モードを変更

1 部品表内の列を選択します。

2 (オプション)**列のプロパティ**セクションで**単位の配置**プロパティを選択します。

3 (オプション)**列のプロパティ**セクションで**単位モード**プロパティを変更します。



4 (オプション)**タイトル形式**を変更します。

- <タイトル>を使用して、列のタイトルを追加します。
- <単位>を使用して、列単位を追加します。
- 改行を追加するには、¥nを使用します。

29.12.37 列にフッターを追加

1 部品表内の列を選択します。

2 **メインメニュー**の**フッター**サブメニューを使用して、フッターの値の種類を選択するか、または列のラベルを右クリックして、**フッター**サブメニューを選択します。

以下の種類が使用できます：

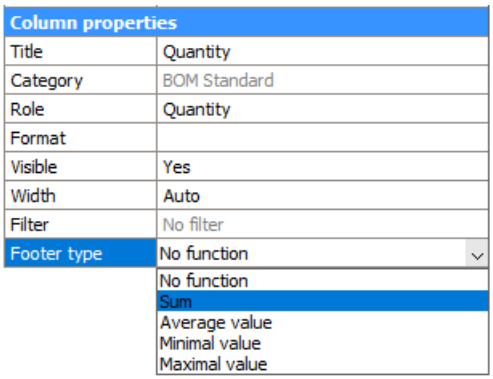
- **フッターなし**：(列はフッターから削除されます。別のフッター種類の列がない場合、フッター行は完全に削除されます。)
- **集計**
- **平均値**
- **最小値**
- **最大値**

注：テンプレートファイルのフッター列に対応しました。

または：

1 部品表内の列を選択します。

2 **プロパティグリッド**で、**フッタータイプ**プロパティを選択して、フッターの種類を選択します。



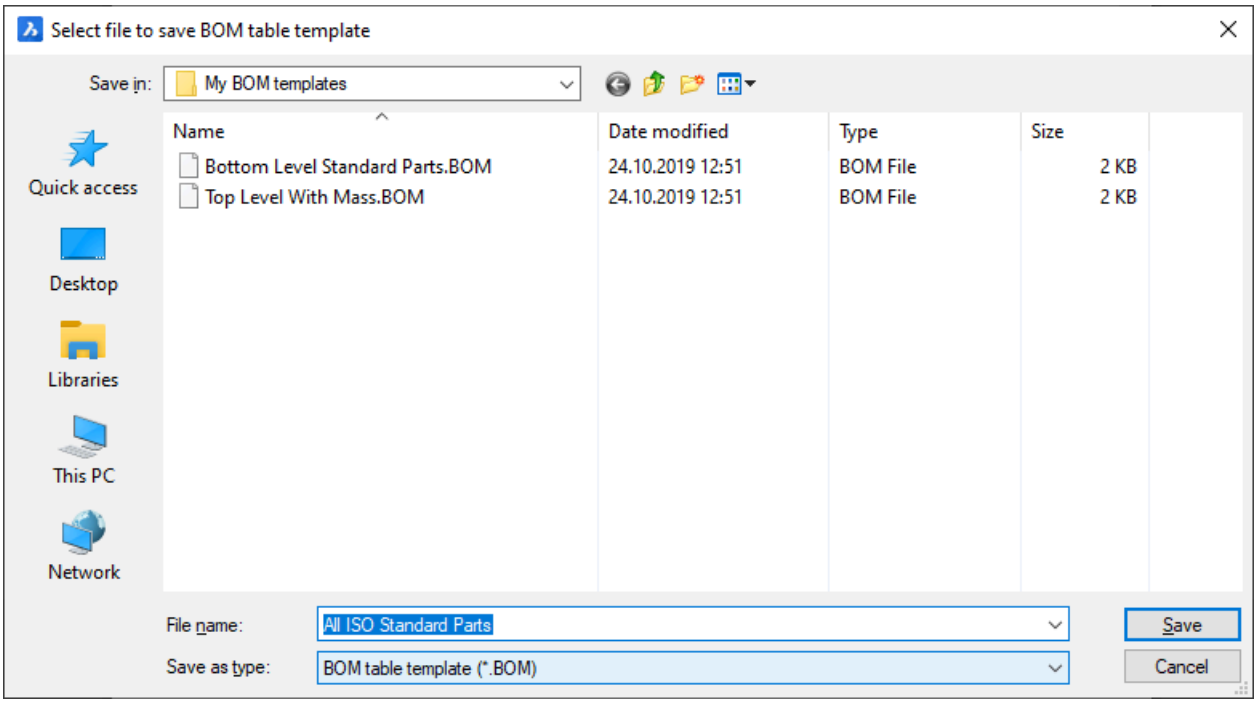
注 : **集計**と**関数なし**を切り替えるには、**フッター**ボタン( )をクリックします。

注 : また、数式やテンプレートの列にもフッターを追加することが可能です。

29.12.38 テンプレートファイルとしてカレントの設定を保存

1 メインメニュー( )で**テンプレートとして保存**( )を選択します。

テンプレートファイルの名前と保存先を選択するダイアログが表示されます。



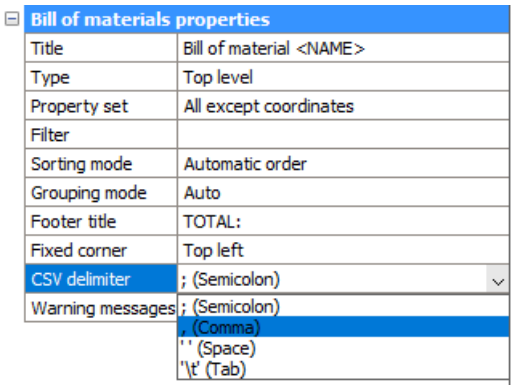
2 テンプレートファイルの名前と保存先を指定します。

3 **保存**をクリックします。

注 : また、数式やテンプレートの列にもフッターを追加することが可能です。

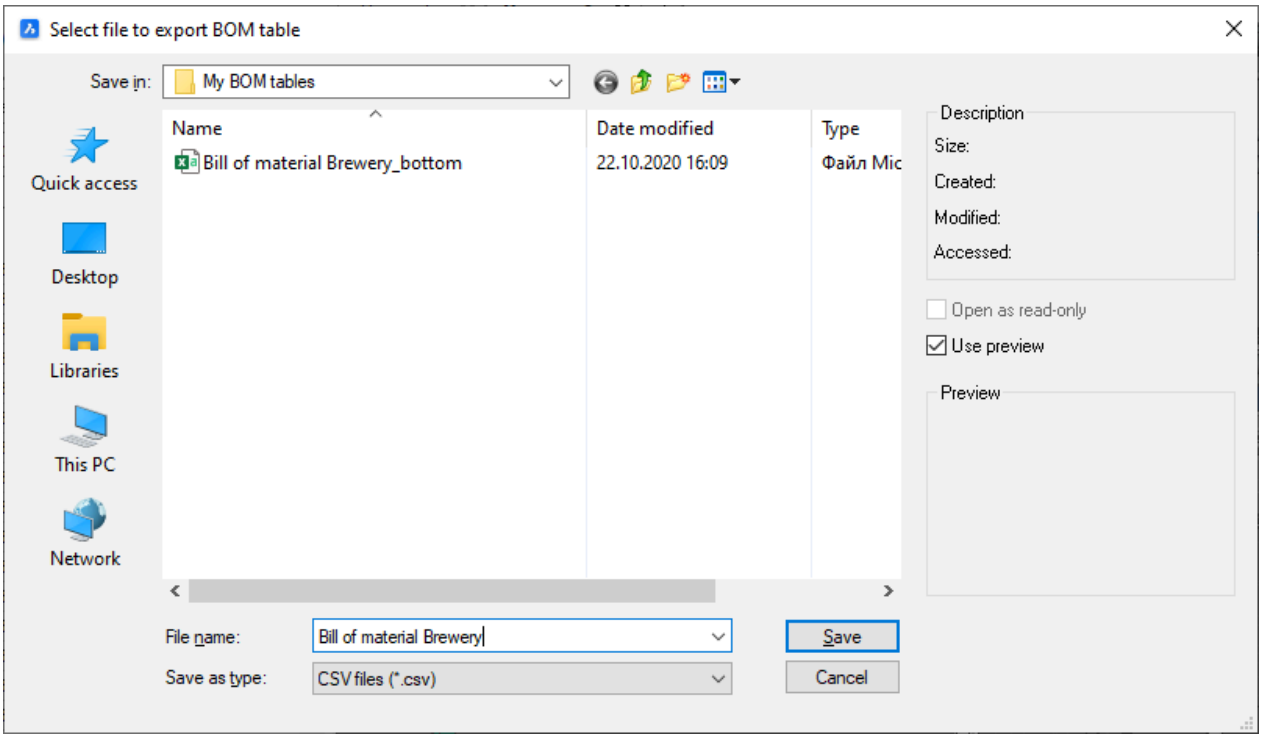
29.12.39 カレントの表をCSVに書き出す

1 (オプション)表の**CSV区切り文字**プロパティを調整します。



2 メインメニュー(☰)で**CSVに書き出し**を選択します。

CSVファイルの名前と保存先を選択するダイアログが表示されます。



3 CSVファイルの名前と保存先を指定します。

4 **保存**をクリックします。

29.13 部品表

BMBOM、BMBOMEDIT、BMBOMPANELOPEN、およびBMBOMPANELCLOSEコマンドを使用できます。

エンジニアリング部品表は、アセンブリで使用される固有のメカニカルコンポーネント、メカニカルブロック、およびメカニカル図形のリストです。BricsCADでは、リストは表図形として表示され、作図領域内のどこにでも配置することができます。各図形は(1から始まる)番号、部品名、数量があります。

部品表マネージャーで、部品表の表示および設定を行います。

29.13.1 部品表タイプ

BricsCADには3つの部品表タイプがあります。

- **トップレベル**

  最上位コンポーネントのみが含まれます。トップレベルのコンポーネントは、メインアセンブリに直接挿入されたコンポーネントです。このタイプの部品表では、サブコンポーネントの詳細は表示されず、メインコンポーネントのみが表示されます。

- **ボトムレベル**

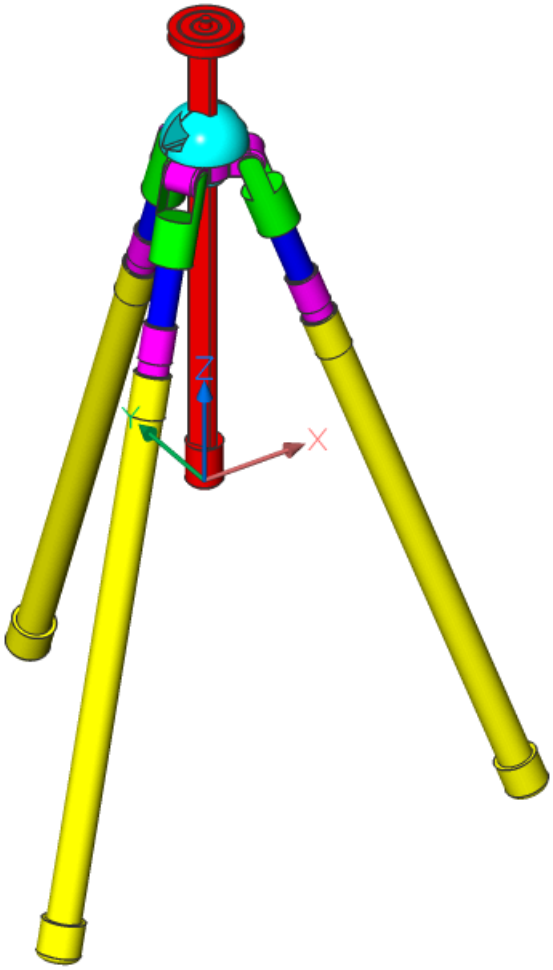
  最下位コンポーネント(部品)のみが含まれます。ボトムレベルのコンポーネントは、他の部品やサブアセンブリを含まない部品です。このタイプの部品表では、部品が属しているコンポーネントに関係なく、メインアセンブリ内のすべての部品が一覧表示されます。

- **階層的**

  すべてのコンポーネントとそのサブコンポーネントがすぐ下にリストされています。サブコンポーネントのシリアル番号は、ドットで区切られた一連の番号です。(例："1.2.3")このタイプの部品表では、アセンブリの階層構造を示します。

注：部品表ステータスプロパティは、部品表に含まれる部品を制御します。部品表内のコンポーネントのレベルは、関連するすべてのコンポーネントの**部品表ステータス**を基準にして設定されます。例えば、ターミナルの部品表ステータスを持つコンポーネントは、他の部品やサブアセンブリを含んでいても、常に最下位とみなされます。

例：三脚アセンブリ



種類	部品表
トップレベル	Bill of Materials tripod_main_assy No. / Component / Quantity 1 / tripod_axis_assy / 1 2 / tripod_foot_assy / 3

<table>
<tr><th>種類</th><th>部品表</th></tr>
<tr><td>ボトムレベル</td><td>
<table>
<tr><th colspan="3">Bill of Materials tripod_main_assy</th></tr>
<tr><th>No.</th><th>Component</th><th>Quantity</th></tr>
<tr><td>1</td><td>lower_tube_prt</td><td>3</td></tr>
<tr><td>2</td><td>middle_tube_prt</td><td>3</td></tr>
<tr><td>3</td><td>tripod_axis_prt</td><td>1</td></tr>
<tr><td>4</td><td>tripod_bond_prt</td><td>3</td></tr>
<tr><td>5</td><td>tripod_crosspiece_prt</td><td>1</td></tr>
<tr><td>6</td><td>tripod_sphere_prt</td><td>1</td></tr>
<tr><td>7</td><td>upper_tube_prt</td><td>3</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>階層的</td><td>
<table>
<tr><th colspan="3">Bill of Materials tripod_main_assy</th></tr>
<tr><th>No.</th><th>Component</th><th>Quantity</th></tr>
<tr><td>1</td><td>tripod_axis_assy</td><td>1</td></tr>
<tr><td>1.1</td><td>tripod_axis_prt</td><td>1</td></tr>
<tr><td>1.2</td><td>tripod_crosspiece_prt</td><td>1</td></tr>
<tr><td>1.3</td><td>tripod_sphere_prt</td><td>1</td></tr>
<tr><td>2</td><td>tripod_foot_assy</td><td>3</td></tr>
<tr><td>2.1</td><td>bond_assy</td><td>3</td></tr>
<tr><td>2.1.1</td><td>tripod_bond_prt</td><td>3</td></tr>
<tr><td>2.2</td><td>tubes_assy</td><td>3</td></tr>
<tr><td>2.2.1</td><td>lower_tube_prt</td><td>3</td></tr>
<tr><td>2.2.2</td><td>middle_tube_prt</td><td>3</td></tr>
<tr><td>2.2.3</td><td>upper_tube_prt</td><td>3</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

29.13.2 カウントモードと最大レベル

階層部品表では、次の2つのカウントモードがサポートされています。

- **すべてのインスタンスをカウント**
  アセンブリ全体のサブアセンブリとパーツの総数。
- **親コンポーネントのインスタンスをカウント**
  親コンポーネント内のサブアセンブリとパーツの総数。親コンポーネントはルートコンポーネントと見なされます。

たとえば、メインの三脚アセンブリには3つの三脚フットアセンブリが含まれています。三脚フットアセンブリの各インスタンスには、1つのボンドアセンブリと1つのチューブアセンブリが含まれています。

カウントモードが**すべてのインスタンスをカウント**に設定されている場合、結果は次のようになります。

#	部品	数量
1	三脚アセンブリ	1
1.1	三脚フットアセンブリ	3
1.1.1	ボンドアセンブリ	3
1.1.2	チューブアセンブリ	3

カウントモードが**親コンポーネントのインスタンスをカウント**に設定されている場合、結果は次のようになります。

#	部品	数量
1	三脚アセンブリ	1
1.1	三脚フットアセンブリ	3
1.1.1	ボンドアセンブリ	1
1.1.2	チューブアセンブリ	1

カウントモードのデフォルトは、**親コンポーネントのインスタンスをカウント**です。カウントモードは、**部品表マネージャー**、またはBMBOMコマンドを使用して変更できます。

注：BricsCAD V20.2以前のバージョンは、すべての階層部品表のデフォルトで、**すべてのインスタンスをカウント**が使用されていました。このような部品表がBricsCAD V20.2以降で更新されると、デフォルトのモードは、**親コンポーネントのインスタンスをカウント**に設定されます。これにより、一部の部品で数量が異なる場合があります。必要に応じて、**部品表マネージャー**でカウントモードを手動で設定し直して下さい。

デフォルトでは、階層部品表にはモデルのすべてのレベルが表示されます。**最大レベル**プロパティを使用して、階層部品表を特定のレベルに制限できます。最大レベルを設定すると、そのレベルまでの部品のみが含まれます。たとえば、**最大レベル** = 2の場合、トップレベルコンポーネントに直接含まれる最上位コンポーネントとサブコンポーネントのみがリストされます。

29.13.3 部品表列

デフォルトでは、部品表にはテンプレート.bomで以前に定義された、番号、部品名、数量の列、または目的の構成が含まれています。BOMTEMPLATEシステム変数に保存されているファイルです。

注：サムネイルを新規テーブルに追加オプションが選択されている場合、サムネイルは自動的に追加されます。

BMBOMコマンドの設定オプションを使用すると、説明、密度、体積、マス、マテリアル、厚さ(板金部品の場合)、パラメータ(パラメトリックコンポーネントの場合)などの列を追加できます。

コンポーネント、インスタンス、またはブロック参照の組み込みプロパティを部品表に追加できます。**DataExtraction**テクノロジーを使用した、カスタム評価列もサポートされています。

Bill of Materials tripod_main_assy					
No.	Component	Quantity	Density	Volume	Mass
1	tripod_axis_assy	1	8000.00 kg/m³	330.77 cm³	2.65 kg
1.1	tripod_axis_prt	1	8000.00 kg/m³	194.42 cm³	1.56 kg
1.2	tripod_crosspiece_prt	1	8000.00 kg/m³	60.06 cm³	0.48 kg
1.3	tripod_sphere_prt	1	8000.00 kg/m³	76.29 cm³	0.61 kg
2	tripod_foot_assy	3	8000.00 kg/m³	166.24 cm³	1.33 kg
2.1	bond_assy	3	8000.00 kg/m³	21.32 cm³	0.17 kg
2.1.1	tripod_bond_prt	3	8000.00 kg/m³	21.32 cm³	0.17 kg
2.2	tubes_assy	3	8000.00 kg/m³	144.92 cm³	1.16 kg
2.2.1	lower_tube_prt	3	8000.00 kg/m³	62.85 cm³	0.50 kg
2.2.2	middle_tube_prt	3	8000.00 kg/m³	34.83 cm³	0.28 kg
2.2.3	upper_tube_prt	3	8000.00 kg/m³	47.24 cm³	0.38 kg

グループ化モード

部品表には、一意のコンポーネントのみが一覧表示されます。同じコンポーネントを複数挿入した場合は、グループ化モードに従ってグループ化されます。

次のグループ化モードがサポートされています。

- **自動**(デフォルトモード)

  同じコンポーネントの複数挿入は、パラメータと追加されたプロパティに関してグループ化されます。これは、同じパラメトリックコンポーネントの複数の挿入は、それらのパラメータが部品表に列として追加されているかどうかにかかわらず、パラメータに関して常に別々の部品表の行にグループ化されることを意味します。

Bill of Materials Bookshelf					
No.	Component	Quantity	L	T	W
1	Frame Board	2	360.0	20.0	200.0
2	Frame Board	2	700.0	20.0	200.0
3	Shelf Board	2	266.7	2.5	200.0
4	Shelf Board	2	466.7	2.5	200.0

- **コンポーネントと列ごと**

  このモードでは、同じコンポーネントの複数挿入が、追加されたプロパティに関してのみグループ化されます。これは、同じパラメトリックコンポーネントの複数挿入が、パラメータが異なっていても、部品表にどのような列を追加するかによって、同じ行にグループ化できることを意味しています。ただし、異なるコンポーネントのインスタンスは、常に異なる行にグループ化されます。このモードは、いくつかのパラメータがコンポーネントの異なる状態に対応するが、異なる部品にならない場合に便利です。

- **列のみ**

  このモードでは、コンポーネントの挿入は、同じコンポーネントの挿入であるかどうかに関係なく、部品表に追加されたプロパティに関してグループ化されます。このモードは、すべての物理的マテリアルのリストや全サイズのパイプリストなど、要約表を得るのに便利です。

列の表示/非表示

部品表内の任意の列を非表示にすることができます。非表示の列は、ドキュメント内の表に表示されません。ただし、これらの列は数式でも使用できます。非表示の列は**部品表マネージャー**にも表示されます。

集計列

トップレベルまたはボトムレベルの部品表のほぼすべての列に集計関数を設定できます。集計関数は、部品表内の複数の行(これらの値のみが異なる)の値を1つの値にグループ化します。以下の集計関数がサポートされています。

- **集計** - グループ化された値の合計を表示します。

- **平均値** - グループ化された値の平均値を表示します。
- **最小値** - グループ化された値の最小値を表示します。
- **最大値** - グループ化された値の最大値を表示します。
- **連結** - グループ内のすべての一意の値を昇順で連結します。
- **カウントとの連結** - すべての一意の値を、グループ内のカウント数と連結します。

例として、次の部品表を使用します。

部品	幅	長さ	高さ	数量
梁	16	250	10	1
梁	16	200	10	2
梁	16	220	20	1
梁	20	215	20	3
梁	20	225	20	1

長さ 列に集計関数を適用します。結果は、次の表のようにまとめられます。

部品	幅	高さ	長さ(集計)	長さ(平均値)	長さ(最小値)	長さ(最大値)	長さ(連結)	長さ(カウントとの連結)
梁	16	10	650	216.6667	200	250	200;250	2x200;250
梁	16	20	220	220	220	220	220	220
梁	20	20	870	217.5	215	225	215;225	3x215;225

カウントとの連結 列では、次の操作を行うことができます。

- カウント数の位置(値の前または後ろ)を調整します。
- 値の間に区切り文字を追加します。
- 値とそのカウント数の間に区切り文字を追加します。
- カウント数の接尾辞/接頭辞を定義します。

評価列で集計列が使用されている場合、デフォルトでは最終値が使用されます。ただし、評価列に集計関数を適用することは可能です。この場合、そのような評価列の結果は、まず(集計前の)すべての元の値に対して計算され、その後、結果の値が集計されます。

番号列と列の役割

番号列は、行を列挙するための特別な列です。スキップすることなく、他の表とは独立して、部品表のすべての行に自動的に番号を割り当てます。行には1から始まる番号が付けられます。

番号列では、次の設定を変更できます。

- **接頭辞** - 任意の数値の前に追加される文字列です。例：すべての番号をAで始まるようにする。
- **接尾辞** - 数値の後に追加される文字列です。例：すべての番号に「-1」を追加する。

階層部品表では、次の設定が使用できます。

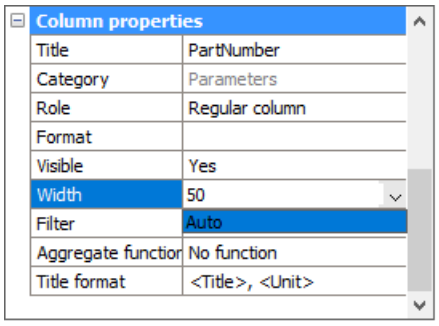
- **番号の種類** - 次の番号の形式を指定します：
  - **フル** - 番号は「1.2.3」としてフォーマットされます。
  - **ショート** - カレントのレベルの番号のみが表示されます。これは、アセンブリ内のカレントの部品のレベルを示すレベル列と一緒に使用されます。
  - **連続** - すべてのコンポーネントに対し、レベルに関係なく、1から連続して番号が付けられます。
- **区切り文字** - 番号の種類が**フル**に設定されている場合に、異なるレベルの番号を区切る文字を指定します。

一般に、番号の列は、BMBALLOONコマンドで図面に注釈を付けるためのソースとして使用されます。ただし、役割を変更することで、表内の任意の列を注釈バルーンのソースとして使用できます。以下の列の役割が使用できます。

- **番号**：列には注釈の番号が含まれます。
- **名前**：列には注釈の部品名が含まれます。
- **数量**：列には注釈の部品の数量が含まれます。
- **標準の列**：列は特定な役割はありません。

番号、**名前**、または**数量**の役割を持つことができる列は1つだけです。これらの役割のいずれかが割り当てられている列がない場合、自動注釈は使用できません。

列の幅



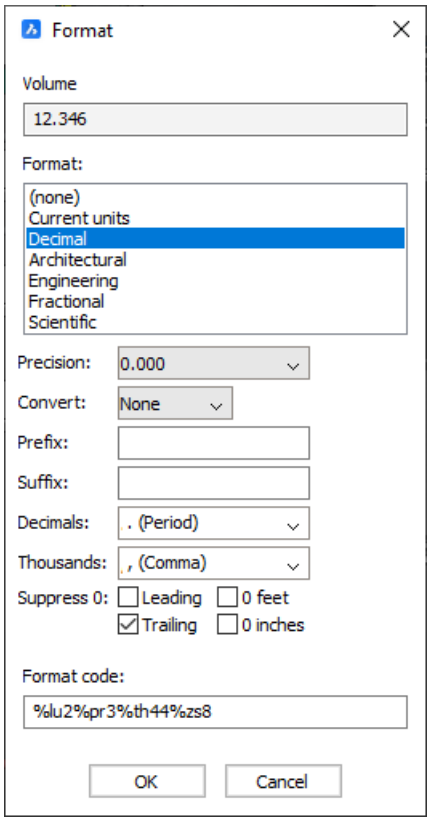
デフォルトでは、各列の幅が自動的に設定されるため、その内容は改行なしで収まります。ただし、固定の列幅を設定することも可能です。

列の幅を設定するには、以下のいずれかを実行します。

- **部品表マネージャー**パネルで必要な列を選択し、**幅**プロパティの値をレイアウト単位で入力します。
- 関連表内の必要な列の幅を変更します。部品表は手動で変更された列の幅を自動的に保持します。

自動幅モードを復元するには、**部品表マネージャー**パネルで列を選択し、**幅**プロパティのドロップダウンリストで**自動**を選択します。

列の形式



列の値をフォーマットすることができます。

1 **部品表マネージャー**パネルで必要な列を選択します。

2 コンテキストメニューの**形式**オプションを選択します。

3 **形式**ダイアログボックスで目的の形式を定義します。

注：使用可能な設定は、選択した列のタイプによって異なります。同じタイプの列を複数選択して、等しくフォーマットできます。

プロパティセット

部品表にはデータ抽出テクノロジーを使用しているため、部品表内のブロック参照など、メカニカルコンポーネントのプロパティや図形プロパティを一覧表示できます。

注：これらのプロパティは必ずしも必要ではありません。大きなアセンブリでは、これらのプロパティがパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。これは、BricsCADが部品表の作成中にプロパティをキャッシュするためです。

プロパティセットは、組み込みのプロパティセットです。ニーズに最適なプロパティセットを選択できます。以下のプロパティセットがサポートされています。

- **Mechanicalのみ**(デフォルトのプロパティセット) - メカニカルコンポーネントのプロパティのみが一覧表示されます。

- **座標以外すべて** - 座標を除くコンポーネントのすべてのプロパティを一覧表示します。座標プロパティは通常、コンポーネントインスタンスにのみ使用されます。
- **全プロパティ** - コンポーネントとコンポーネントインスタンスのすべての可能なプロパティを一覧表示します。

部品表マネージャーパネルで部品表に設定されたプロパティを変更するか、新しい表を追加するときにBMBOMを使用できます。

29.13.4 部品表のフィルタリング

部品表を形成する部品をフィルタリングできます。フィルターの種類には、**メイン**と**列**の2種類があります。

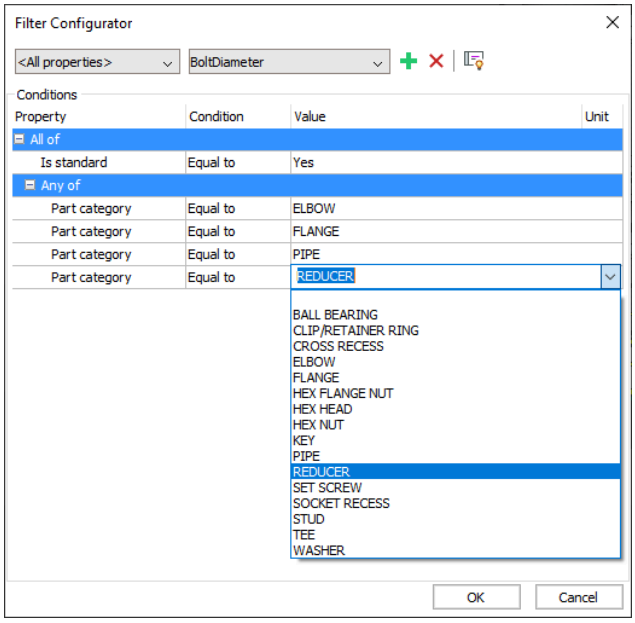
メインフィルタ

メインフィルターは、DATAEXTRACTIONコマンドと同じように機能します。まず、必要なレベル(トップ、ボトム、階層)のアセンブリ内のすべての部品が、フィルタ式と照合されます。フィルタを通過したパーツのみが部品表に含まれます。

フィルタリングは部品表が生成される前に行われるため、フィルタ式は部品表列を参照しない場合があります。例えば、**標準仕様**は部品の通常のプロパティであるため、すべての標準部品を対象としたフィルタを作成することができます。ただし、メインフィルタを設定して、1より大きい数量のすべての部品をフィルタで除外することはできません。そのためには、列フィルタを使用する必要があります。

フィルタコンフィギュレータ

メインフィルターを設定する最も簡単な方法は、**部品表マネージャー**パネルの**フィルターコンフィギュレータ**を使用することです。



フィルタコンフィグレータでは、一連の条件を定義できます。各条件は、選択したプロパティとターゲット値の間の関係を定義します。

考えられる関係は次のとおりです。

- 等しい
- 等しくない
- 未満
- 超過

- 以下
- 以上

条件をグループに追加して、それらの条件の処理方法を定義できます。グループには2種類あります。

- **すべて** - そのグループ内のすべての条件が「真」である場合に「true」になります。これは「and」演算子と同じです。
- **いずれか** - そのグループ内の少なくとも1つの条件が「真」である場合に「true」になります。これは「or」演算子と同じです。

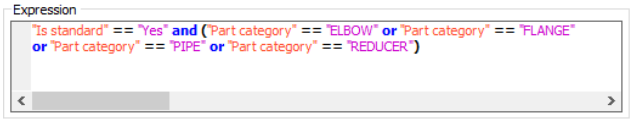
グループには任意の数の条件を含めることができます。入れ子状のグループを含めることもできるため、複雑なフィルタが可能になります。

条件を追加するには：

- プロパティのリストからプロパティを選択します。
- 必要な関係演算子を選択し、ターゲット値を指定します。
- テキスト値の場合、可能なすべての値のリストからターゲット値を選択できます。数値の場合は、ドキュメントのデフォルト単位を基準にして値を自動的に変換するために、そのターゲット単位を指定することもできます。

テキスト値の場合、「等しい」および「等しくない」関係ではワイルドカード文字がサポートされます。

フィルタコンフィグレータは、条件のセットをフィルタ式に自動的に変換します。フィルタ式は、クリックすると表示されます。



この式は完全に編集可能で、条件セットとの双方向の関連付けが可能です。

構文の説明：

演算子	意味
==	等しい
!=	等しくない
<	未満
>	超過
<=	以下
>=	以上

- プロパティ名は引用符で囲む必要があります。
- 関係演算子は、「and」および「or」演算子を使用して組み合わせることができます。演算子「and」は、演算子の両側が真であれば「true」になります。演算子「or」は、演算子の左右どちらかが真であれば「false」となります。

- 論理演算子ANDとORは、大文字と小文字を区別しません。
- "(" and ")"を使用して、2つの演算子を1つに結合します。
- 文字列の値は二重引用符""で囲みます。
- 文字列に対する関係演算子は、大文字と小文字を区別します。
- "==" および "!=" 演算子は、ワイルドカードをサポートしています。

たとえば、すべての標準部品の部品表を取得するには、次の式を使用します：

"Is standard"=="Yes"

すべてのISO標準部品の部品表を取得するには、次の式を使用します：

"Is standard"=="Yes" ??? "Part standard"=="ISO"

すべてのISOまたはDIN標準部品の部品表を取得するには、次の式を使用します：

"Is standard"=="Yes" ??? ("Part standard"=="ISO" ??? "Part standard"=="DIN")

ワイルドカード

ワイルドカード文字を使用すると、プロパティ値を特定のテンプレートと照合できます。例えば、名前に「nozzle」を含むすべてのコンポーネントを検索する場合は、次の式を使用できます：?Componentname?== "*nozzle*"

フィルタコンフィグレータのターゲット値としてもワイルドカード文字を使用できます。

ワイルドカード文字をサポートしているのは、「等しい」と「等しくない」の関係演算子のみです。

注：メインフィルタのワイルドカード文字では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。列フィルタでは、大文字と小文字を区別するか、大文字と小文字を区別しない一致が必要かを指定できます。

以下の特殊文字がサポートされています。

名前	文字	説明
バッククォート	`	次の文字をエスケープします。(文字通りそれを取ります)
カンマ	,	パターンを区切ります。
アスタリスク	*	ヌル文字を含む任意の文字列に一致します。
疑問符	一覧表示	1文字が一致します。
ピリオド	.	英字以外の1文字が一致します。
アットマーク	最初の点と同じ	英文字1文字と一致します。
ハッシュタグ	#	単一の数字が一致します。
チルダ	~	パターンの最初の文字がパターン以外のものと一致する場合です。
括弧	[...]	囲まれた1文字に一致します。

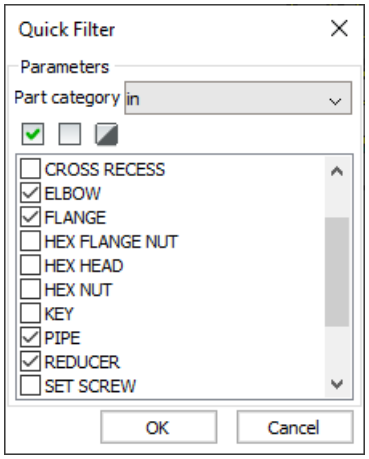
名前	文字	説明
チルダ括弧	[~...]	囲まれていない1文字に一致します。
ハイフン	-	括弧内で、指定した範囲内の1文字に一致します。

列フィルタ

列フィルタを使用すると、列の内容に応じて、行が表示する条件をすばやく設定できます。(一部のスプレッドシートプロセッサーのフィルタに多少似ています) メインフィルタとは異なり、部品表の生成後に適用されます。したがって、数量などの集計コンテンツを含む列に列フィルタを使用することができます。

各列には、1つのフィルタのみを含めることができます。ただし、必要な数の列に列フィルタを追加できます。すべての列フィルタを通過する行のみが最終的な部品表に表示されます。

部品表マネージャーの**列フィルタ**ダイアログボックスを使用して、列フィルタを設定できます。



このダイアログでは、リストからフィルタの種類を選択し、それに応じてフィルタを設定できます。使用可能なフィルタのリストは、下の表に示すように、列のコンテンツ種類によって異なります。

フィルタ種類	列の種類	説明
常に承諾	任意	すべての列の値が受け入れられる
等しい	数値	値はターゲット値と等しいこと
等しくない	数値	値はターゲット値と等しくないこと
未満	数値	値はターゲット値未満であること
超過	数値	値はターゲット値を超過していること

フィルタ種類	列の種類	説明
以下	数値	値はターゲット値以下であること
以上	数値	値はターゲット値以上であること
間	数値	値が指定された範囲内にあり、両端の値を含んでいること
範囲外	数値	値が指定された範囲内であってはならず、両端の値は除外
完全に一致する	文字	値がターゲットと完全に一致していること
一致しない	文字	値はターゲットとは異なること
で始まる	文字	値が指定されたテキストで始まっていること
で始まらない	文字	値が指定されたテキストで始まっていないこと
で終わる	文字	値が指定されたテキストで終わっていること
で終わらない	文字	値が指定されたテキストで終わっていないこと
含む	文字	値に指定されたテキストが含まれていること
含まれません	文字	値に指定されたテキストが含まれていないこと
パターンに一致する	文字	値が指定されたワイルドカードテンプレートと一致すること
パターンに一致しない	文字	値が指定されたワイルドカードテンプレートと一致しないこと
in	文字と数値	値が指定された値のセット内にあること
not in	文字と数値	値が指定された値のセット内にないこと

すべての文字フィルタについて、大文字と小文字を区別するか、区別しないかを指定することもできます。

29.13.5 選択セット

メインフィルタと列フィルタに加えて、部品表の選択セットを指定することができます。選択セットが指定されている場合、対応する部品表には、その選択セットの部品のみが表示されます。以下の種類の選択セットに対応しています。

- **モデル全体** – デフォルトの選択セット。現在のモデルのすべての部品とサブアセンブリが含まれます。

- **サブアセンブリ** – 部品表のルートコンポーネントとして機能するサブアセンブリを選択できます。
- **図面ビュー** – 部品表を特定の図面ビューにリンクできるため、そのビューに含まれる部品のみが部品表に表示されます。部品が特定の図面ビューに表示されていないが、このビューに含まれている場合でも、対応する部品表に含まれることに注意してください。
- **レイアウトビューポート** – 部品表をレイアウトビューポート(図面ビューを含む)にリンクできるため、このビューポートに表示されている部品のみが部品表に表示されます。図面ビューとの違いは、表示されている部分のみが含まれることです。ビューポートに完全に非表示または非表示になっている部品は、部品表に表示されません。
- **カスタム選択** – 部品表に表示される最上位コンポーネントのサブセットを選択できます。

表の選択セットを設定するには、**部品表マネージャー**パネルまたはBMBOMの対応するオプションを使用します。**部品表マネージャー**パネルの選択を編集コマンドまたは BMBOMEDITコマンドを使用して既存の部品表の選択セットを変更することもできます。

29.13.6 部品表の並べ替え

部品表には、以下の3つの並べ替えモードがあります。

- **並び順序**

  表の内容は、部品名、物理的マテリアル、厚さ(該当する場合)、パラメータ(アルファベット順)、および数量のように並べ替えられます。
- **自然順**

  表の内容は並べ替えられません。代わりに、すべてのコンポーネントはドキュメント内の外観の順序になります。ほとんどの場合、先に追加された部品は、後で追加される部品よりも先に表記されます。
- **カスタムオーダー**

  表の内容は、選択した列に従って並べ替えられます。列が指定されていない場合は、自然順が使用されます。

部品表はいわゆるテキストの「自然ソート」を使用しています。つまり、テキストに文字と数字が混在している場合は、それらの数字を基準に並べ替えられることを意味します。例えば、文字列「N1」、「M2」、「N11」、「N2」、「AA1」は、「M2」、「N1」、「N2」、「N11」、「AA1」としてソートされます。したがって、カスタムパラメータを使用してコンポーネントにさまざまな接頭辞を持つカスタム番号を割り当てて、それらの番号で正しい順序で部品表を並べ替えることができます。

29.13.7 サムネイル

Bill of Materials Rotary platform assembly

No.	Thumbnails	Component	Quantity
8		Motor	1
9		Gear	1
10		Reducer	1
11		Valve support plate	1
12		Pneumatic silencer N18	1
13		Push-in fitting 1/8-4	2
14		Push-in fitting 1/8-10	1

サムネイルは、対応する部品の3Dジオメトリから生成された、部品表に含まれる部品のプレビュー画像です。サムネイル付きの部品表をレイアウトまたはモデル空間に追加すると、それらの画像は添付ファイルとして保存されるため、アタッチメントパネルを使用して操作できます。ドキュメントが保存されない限り、それらの画像は一時フォルダーにあることに注意してください。これらは、ドキュメントが保存されるときにのみ、指定されたフォルダー(通常は図面のフォルダー内の **bom_thumbnails** という名前)に移動されます。

部品表にサムネイルを追加するには、サムネイル列を追加し、必要に応じてサムネイルのプロパティを調整します。次のプロパティを調整できます。

- **パス** –ドキュメントの保存後に画像が保存されるフォルダー
- **ビュータイプ** – カメラの向き。オプションは、ウィジェットオプションからの検索に対応しています。

- **表示スタイル** – 部品に適用される表示スタイル。デフォルトでは、ドキュメント内の現在の表示スタイルが使用されますが、ドキュメントで使用可能な任意の表示スタイルを選択することができます。さらに、ドラフト品質の白黒の図面ビューを模倣する特別な表示スタイル**BM_tangent**が利用可能です。
- **背景色** – 画像の背景に使用される色背景または透明な背景として任意の色を選択できます。通常、背景が透明なサムネイルの生成には時間がかかることに注意してください。
- **サイズ**(幅と高さ) – サムネイル画像のサイズ(ピクセル単位)デフォルトのサイズは、**デフォルトのサムネイルの幅**と**デフォルトのサムネイルの高さ**のグローバル設定で設定できます。

1つの部品表には、異なるパラメータを持つ複数のサムネイル列を含めることができます。

大規模なアセンブリの場合、サムネイルの生成にはかなりの時間がかかることがあります。既定では、サムネイルはモデルが変更されると自動的に更新されます。ただし、部品表で、パーツ ジオメトリと一致しなくなった場合でも、指定したパラメータを持つ既存のサムネイルを強制的に再利用することができます。これを行うには、設定の**部品表(BOM)のデフォルト**で**[サムネイルを自動的に更新]**のチェックボックスを外します。さらに、サムネイル列を一時的に無効にして、サムネイルが生成されないようにすることができます。有効にすると、欠落しているサムネイルが自動的に生成されます。サムネイル列を無効にするには、**部品表マネージャー**パネルで**有効化**プロパティを**いいえ**に変更します。

29.13.8 評価列

評価列は特殊な列であり、その結果はユーザー定義式を使用する他の列によって異なります。**数式**列と**テンプレート**列の2種類の評価列がサポートされています。

計算式列

部品表では、数式フィールドがサポートされています。DATAEXTRACTIONコマンドでも同じ構文が使用されています。**FormulaExpression**は、**¥AcExpr**数式フィールドの形式での式です。これには、PIなどの定数やSINなどの関数を含めることができます。式内のオペランドには、山括弧(<>)で囲まれた**ColumnTitle**を使用できます。

たとえば、式 =<Mass>/<Volume>は、コンポーネントの平均密度を計算します。

行に値が含まれていない場合は、代わりにデフォルト値が使用されます。オペランドのデフォルト値を構文<"ColumnTitle",DefaultValue>で指定することが可能です。ここで、**ColumnTitle**は必要な列のタイトル、**DefaultValue**はデフォルト値です。**ColumnTitle**は二重引用符(")で囲む必要があります。デフォルト値が指定されていない場合は、空の値が使用され、ほとんどの場合、空の出力になります。

数式の列には、複数の式を含めることができます。各式は、合計括弧({})で囲む必要があります。これらの式は最初から最後へと評価され、空でない出力が得られる最初の式が使用されます。

数式は、ループを形成しない条件で、他の数式の列を参照できます。階層部品表では、列名の前にParent:を追加することで、数式は親行の値を参照することもできます。また、表に明示的に追加されないプロパティを参照することもできますが、数式で参照されるその他の数式列はすべて表内に存在する必要があります。数式の部品表では、このような列を非表示として表示することもできます。

距離、面積、体積、質量特性の場合、式で使用する前に、値が**ユーザ定義**の単位に変換されます。**ユーザ定義**の単位が設定されていない場合は、ドキュメント単位が使用されます。マスプロパティについては、メートル法のドキュメントではキログラム、インチ法のドキュメントではlbs(ポンド)が使用されます。

テンプレート列

テンプレート列を使用すると、カスタムテキストだけでなく、複数のプロパティを1つの列に結合できます。Diesel式に基づく特別な構文は、テンプレート列を定義するために使用されます。テンプレート列の式は、$記号で始まる必要があります。式内のオペランドには、矢印括弧(<>)で囲まれた**columnTitle**を使用できます。

また、特殊関数を使用することもできます。

関数	説明
$(+, arg1, arg2[, ... , arg9])	最初の引数に、入力された引数を加算します。
$(-, arg1, arg2[, ... , arg9])	最初の引数から、入力された引数を減算します。
$(*, arg1 , arg2[, ... , arg9])	最初の引数に、入力された引数を乗算します。
$(/, arg1, arg2[, ..., arg9])	最初の引数を、入力された引数で除算します。
$(=, arg1, arg2)	arg1がarg2に等しい場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。arg1とarg2は両方とも数字でなければなりません。
$(<, arg1, arg2)	arg1がarg2より小さい場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。arg1とarg2は両方とも数字でなければなりません。
$(>, arg1, arg2)	arg1がarg2より大きい場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。arg1とarg2は両方とも数字でなければなりません。
$(!=, arg1, arg2)	arg1がarg2に等しくない場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。arg1とarg2は両方とも数字でなければなりません。
$(<=, arg1, arg2)	arg1がarg2以下の場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。arg1とarg2は両方とも数字でなければなりません。
$(>=, arg1, arg2)	arg1がarg2以上の場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。arg1とarg2は両方とも数字でなければなりません。
$(and, arg1, arg2[, ... , arg9])	引数にビット単位のAND演算を適用します。
$(angtos, angle[, mode, precision])	指定されたモード(0 - 度、1 - 度/分/秒、2 - グラディアン、3 - ラジアン)と精度に応じて、角度を文字列に変換します。
$(delim, delimiter_string)	スマート区切り文字を挿入します。区切り文字の文字列は、この区切り文字の前後の出力が空でない場合にのみ、出力に追加されます。
$(edtime, time, format)	指定されたフォーマット文字列に従って日付を書式設定します。

関数	説明
$(eq, arg1, arg2)	arg1がarg2に等しい場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。arg1とarg2は両方とも文字でなければなりません。
$(eval, expression)	指定された式をディーゼル式として評価します。
$(fix, value)	実数値を整数値に切り捨てます。
$(getvar, variable)	指定されたシステム変数の値を返します。
$(if, arg, then[, else])	'arg'が0でない場合は'then'を返します。それ以外の場合は'else'を返し、'else'が指定されていない場合は空の文字列を返します。
$(index, position, comma_separated_string)	指定されたカンマ区切り文字列内の指定された位置にある部分文字列を返します。
$(nth, position, arg1[, arg2, ... , arg9])	指定された位置の引数を返します。
$(or, arg1, arg2[, ..., arg9])	引数にビット単位のOR演算を引数に適用します。
$(rtos, value[, mode, precision])	入力された値を、指定されたモードと精度に応じてフォーマットします。
$(strlen, string)	入力された文字列の長さを返します。
$(substr, string, start[, length])	指定された'length'の'start'から、'string'の部分文字列を返します。数値は1から始まります。
$(upper, string)	'文字列'を大文字に変換します。
$(xor, arg1, arg2[, ... , arg9])	すべての引数にビット単位のXOR演算を適用します。

1つのテンプレート列には、複数の式を含めることができます。各式は、合計括弧({})で囲む必要があります。これらの式は最初から最後へと評価され、空でない出力が得られる最初の式が使用されます。

テンプレート列は、ループを形成しない条件で、評価された他の列を参照できます。階層部品表では、テンプレート列は、列名の前にParent:を追加することで、親行の値を参照することもできます。また、表に明示的に追加されないプロパティを参照することもできますが、式内で参照される他のすべての評価列が表内に存在する必要があります。テンプレート定義式の部品表で非表示として表示された列は引き続き使用できます。

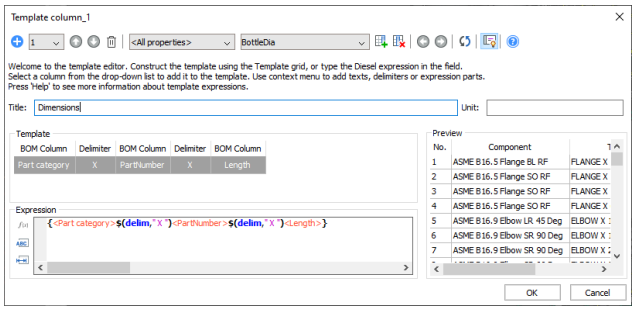
"¥n"文字列を使用して改行を追加できます。

たとえば、次の式は、部品番号、幅、高さ、および長さの各プロパティを組み合わせたものです。

${<PartNumber>$(delim," X ")<Width>$(delim," X ")<Height>$(delim," X ")<Lenght>}

計算式列ダイアログ

式コンフィギュレータダイアログを使用して、評価列を設定できます。このダイアログボックスは、**部品表マネージャ**パネルで使用できます。



このダイアログボックスでは、列のタイトルと単位の設定、構文のハイライトとオートコンプリートを含むエディタを使用した式の編集、および評価列を含む部品表のプレビュー表示を行うことができます。テンプレート列の場合、**テンプレート**セクションで、区切り文字やカスタムテキストと同様に、プロパティも簡単に挿入、移動、削除できます。

29.13.9　列の単位

単位が関連付けられている列の**単位の配置**モードを調整できます。以下のオプションを使用できます。

- **単位を表示しない**

  部品表には、この列の単位は表示されません。

- **列タイトル内**

  表内のすべての値が同じ単位を使用するか、共通の単位に変換できる場合、すべての値はその共通の単位に変換されます。単位名が列タイトルに追加されます。タイトルと単位の位置は、**タイトル形式**プロパティを使用して設定できます。タイトルには<タイトル>を、単位には<単位>を、それぞれ使用します。例えば、デフォルトのタイトル形式は"<タイトル>、<**単位**>"です。改行を追加するには、"¥n"を使用します。

  共通単位は、次の順序で選択されます。

  a　指定した単位セット
  b　プロパティが距離、面積、体積、またはマスで、単位モードが**すべての値に最適**の場合は、値の大部分に最適な表現が使用されます。
  c　すべての値の単位が同じである場合、これが使用されます。

- **セル内**

  単位名が値に追加されます。値と単位が同じセルに表示されます。

- **追加列**

  単位名は別の列に配置されます。

距離、面積、体積、マスの値の**単位モード**を設定して、特定の値を表示するために使用する単位を定義できます。たとえば、1グラムから数トンの質量がある場合、**それぞれの値に最適**を選択すると、各質量が最適な質量単位に変換されて表示されます。すべての質量をキログラム単位で表示するには、列の**ユーザ定義**単位としてキログラムを設定します。デフォルトは**すべての値に最適**です。

単位モードオプション：

- **単位を表示しない**

  単位は表示されません。
- **すべての値に最適**

  大部分の値を最もよく表す単位が表示されます。寸法、面積、体積、マスプロパティのみがサポートされます。
- **ユーザ定義**

  表示する単位を選択します。寸法、面積、体積、マスプロパティに加えて、密度、熱伝導率、比熱などの材料特性に必要な単位を選択することもできます。
- **それぞれの値に最適**

  各値に最適な単位を使用します。**単位の配置**の**列タイトル内**モードは、**追加列**モードに自動的に切り替わります。寸法、面積、体積、マスプロパティのみがサポートされます。

注：ユーザ定義単位を列に設定し、この列を数式フィールドで使用すると、その単位に変換された値が計算式に代入されます。それ以外の場合は、ドキュメント単位が使用されます。

29.13.10 フッター

部品表はフッターをサポートしています。フッターを構成する列を定義するには、必要な列の**フッタータイプ**を設定します。

- **関数なし**

  列IDはフッター行に含まれません。
- **集計**

  個々のコンポーネントインスタンスのすべての値の合計がフッターに表示されます。

  注：各コンポーネントの数が使用されるため、これは表に表示されるすべての値の合計と同じではありません。数式フィールドでは、数量 = 1 の値の合計が使用されます。
- **平均値**

  個々のコンポーネントごとのすべての値の平均値がフッターに表示されます。数式フィールドでは、数量 = 1 の値の合計が使用されます。
- **最小値**

  個々のコンポーネントの最小値がフッターに表示されます。数式フィールドでは、数量 = 1 の値の合計が使用されます。
- **最大値**

  個々のコンポーネントの最大値がフッターに表示されます。数式フィールドでは、数量 = 1 の値の合計が使用されます。

注：すべての列のフッタータイプが**関数なし**の場合、フッター行は表示されません。

注：また、数式やテンプレートの列にもフッターを追加することが可能です。

29.13.11 テンプレート

部品表設定をテンプレートとして保存し、それを使用して新しい部品表を作成できます。新しい部品表を作成するためのデフォルトのテンプレートは、BOMTEMPLATEシステム変数に格納されます。テンプレートファイルには、必要なすべてのデータが含まれています。これには、表のタイプ、タイトル、フィルタ、および関連するすべてのプロパティを含む列のセットが含まれ

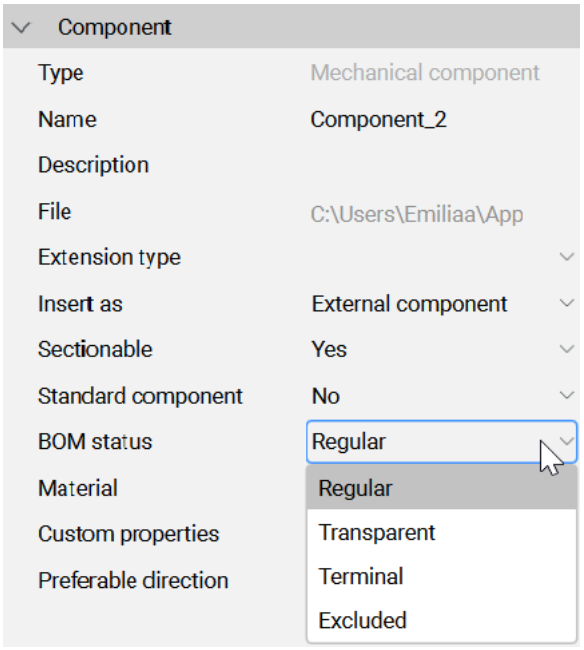
ます。タイトルの<NAME>は、アセンブリの実際の名前を表すプレースホルダーとして使用できます。例えば、アセンブリ名が「My Assembly」で、部品表名が「部品表 <NAME>」と指定されている場合、「My Assembly」が<NAME>に置き換わるため、部品表タイトルは「部品表 My Assembly」となります。

デフォルトでは、部品表テンプレートファイルの拡張子は.bomです。

部品表テンプレートファイルは、データ書き出し定義ファイル(.dxd)の拡張子です。ただし、.dxdは使用できません。ファイルを部品表テンプレートとして使用すると、部品表固有のデータが欠落してしまうためです。.bomファイルを使用してDataExtractionテンプレートを定義することはできません。

テンプレートファイルは、任意のテキストエディターで編集できます。ただし、Bricsys では、BMBOMコマンドまたは部品表マネージャーを使用してテンプレートファイルを作成および編集することをお勧めします。

29.13.12 部品表ステータス



各コンポーネントには**部品表ステータス**プロパティがあります。これを使用して、**部品表**のコンポーネントの動作をコントロールできます。このプロパティでは、以下のいずれかの値を指定できます。

- **標準**

  コンポーネントは、部品表のアセンブリ構造と同じ位置に部品表に表示され、部品表に対して選択されたモードのデフォルト値になります。
- **透明**

  コンポーネントは、そのサブコンポーネントの透過的なコンテナとして機能します。コンポーネントは部品表には表示されませんが、サブコンポーネントは、部品表ステータス、アセンブリ構造内の位置、および部品表のモードに応じて、部品表に表示される場合があります。
- **ターミナル**

  コンポーネントはリーフコンポーネントとして扱われます(サブコンポーネントはありません)。これは、複合部品や標準コンポーネントに便利です。

- **除外**

  コンポーネントとそのサブコンポーネントは部品表に表示されません。

外部コンポーネントまたはルートコンポーネントの部品表ステータスを設定

1 コンポーネントを含むファイルを開きます。

2 メカニカルブラウザでルートとなるコンポーネントを選択します。

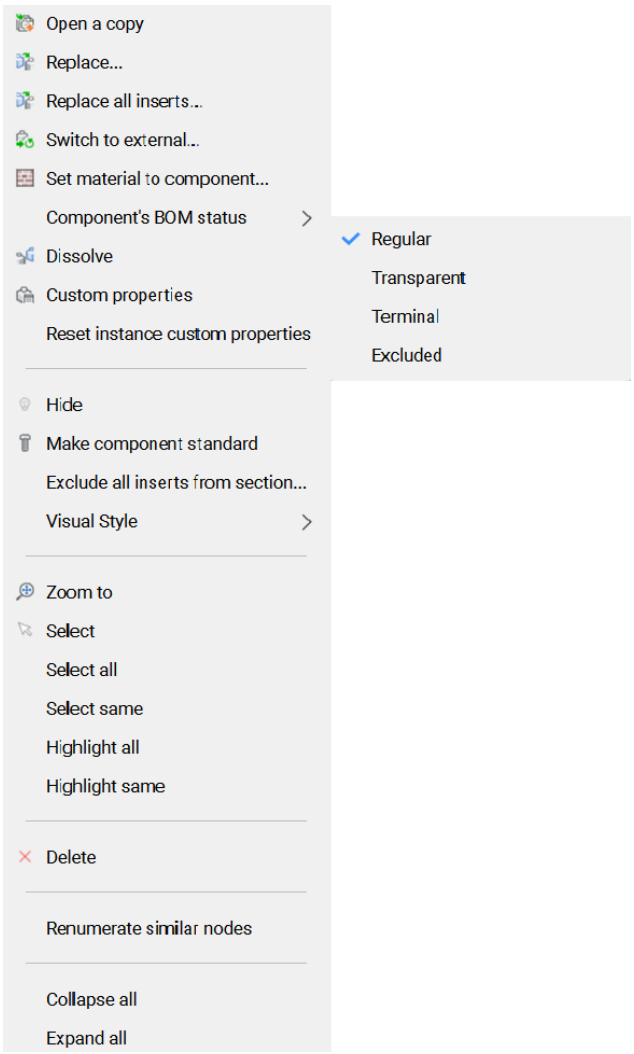
3 **部品表ステータス**プロパティを設定します。

ローカルコンポーネントの部品表ステータスを設定

1 **メカニカルブラウザ**パネルでコンポーネントを選択します。

2 選択したノードを右クリックしてコンテキストメニューを開きます。

3 部品表ステータスサブメニューから**部品表ステータス**を選択します。



注：外部コンポーネントに挿入されたローカルコンポーネントのコンテキストメニューから部品表ステータスを設定することはできません。これを行うには、ローカルコンポーネントを含むコンポーネントを開く必要があります。

29.13.13 固定コーナー

表の任意のコーナーを固定として設定することができます。固定コーナーは、部品表の更新時に常に初期位置を保持します。表を手動で移動すると、このコーナーの新しい位置が維持されます。固定コーナーにより、部品表を他のオブジェクトに合わせることができます。

表配置時に固定するコーナーは、BMBOMコマンドまたは**部品表マネージャー**パネルのいずれかで選択できます。Tabを使用してコーナーを循環させます。**部品表マネージャー**パネルで部品表の固定コーナーを変更できます。

29.14 マルチパラメトリック3Dアニメーション

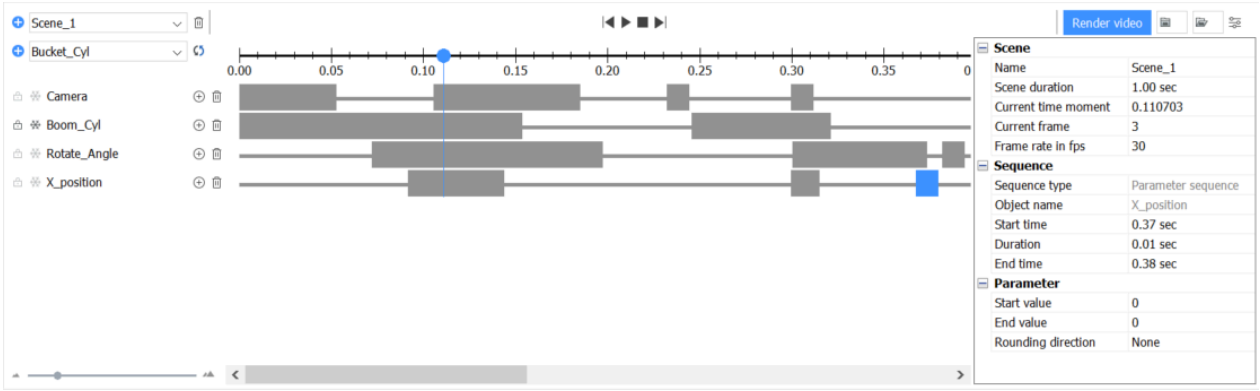
29.14.1 概要

アニメーション編集パネルを使用すると、いくつかのパラメータをアニメーション化し、カメラの動きをプログラムできます。アニメーションがプログラムされると、BricsCADで再生したり、2Dビデオとしてレンダリングしたりできます。

各パラメータアニメーションには独自のタイムラインがあります。これらのシーケンスがオーバーラップしないかぎり、パラメータにアニメーションシーケンスをいくつでも追加できます。

カメラの動きのための特別なタイムラインもあります。カメラシーケンスを必要な数だけ追加できます。ポリラインまたは点を使用して、フォーカスとカメラ位置の両方を設定できます。これはANIPATHコマンドに似ています。

タイムライン



29.14.2 シーン、タイムライン、アニメーションシーケンス

シーン

シーンは1つまたは複数の**タイムライン**で構成され、それぞれのタイムラインには1つまたは複数の**アニメーションシーケンス**があります。アニメーション編集を初めて起動すると、自動的にシーンが作成されます。シーンは、アニメーションの継続時間、現在の時刻、および編集可能なカレントフレームを設定します。合わせて、再生とレンダリングに使われる**アニメーションのスケジュール**を定義します。現在のところ、**アニメーション編集**では、カレントのシーンのレンダリングしかできません。しかし、同じドキュメント内に多くのシーンを持たせることができ、それらを切り替えることが可能です。

アニメーションシーケンス

アニメーションシーケンスは、アニメーションの基本となるものです。オブジェクトの単一の連続したアニメーションを表現します。アニメーションシーケンスには、開始時間と長さが設定されています。また、パラメータの開始値や終了値、カメラシーケンスのカメラパスや視点パスなど、アニメーションオブジェクトに固有の値を持っています。

- **パラメータ**

アニメーションシーケンスとは、あるパラメータが開始値から終了値まで連続的に変化する様子を表したものです。例：2つの面の間に距離拘束がある場合、アニメーションは1つの面を最大と最小の距離の値に移動させます。

- **カメラ**

  アニメーションシーケンスは、パス上の連続したカメラの動きに対応します。カメラのタイムラインを使用して、さまざまなカメラの動きを調整できます。

- **分解ビュー**

  分解図による組立・分解の最初の工程から最後の工程までをアニメーションで表現しています。

タイムライン

タイムラインとは、オブジェクトのアニメーションシーケンスを視覚的に表現したものです。タイムラインには、パラメータがいつ、どのようにアニメーションするかが表示されます。シーンの中では、各パラメータがそれぞれのタイムラインを持ちます。アニメーションシーケンスは重複できません。タイムラインは、一時的に無効にしてアニメーションから除外したり、ロックしてすべての変更を無効にすることができます。すべてのタイムラインは独立しています。つまり、多くのパラメータを同時にアニメーションさせて、その効果を確認することができます。

29.14.3　アニメーション編集パネルを開く

以下のいずれかの操作を行います：

- ツールバーにカーソルを置いて右クリックし、パネルのコンテキストメニューから**アニメーション編集**を選択します。
- リボンの**アニメーション編集**ツール( )をクリックします。
- コマンドラインにANIMATIONEDITOROPENと入力します。

29.14.4　アニメーション編集のインターフェース

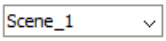
アニメーション編集はパネルです。主なエリアは 3 つあります。

- **ツールバー**：シーンの選択、アニメーションの調整、ビデオのレンダリングを行うツールが含まれています。
- **タイムラインエリア**：タイムラインとアニメーションシーケンスを追加および編集します。
- **コンフィギュレータ**：カレントのシーンと選択したアニメーションシーケンスのパラメータを設定するために使用します。

ツールバー

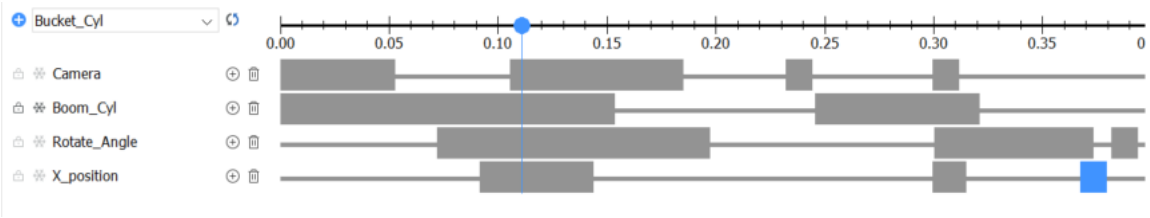
ツールバーには、以下のツールが含まれています：

- シーンを追加および削除します。
- アニメーションの再生をコントロールします。
- カレントのシーンの長さを設定します。
- カメラのタイムラインを追加します。
- レンダリングを開始します。
- アニメーショングラフィックを記録し、zipアーカイブまたはフォルダーに保存します。
- 保存したグラフィックをロードし、特別モードで再生します。

ツール	名前	説明
	シーンを追加する	デフォルトの長さで空のシーンを追加します。
	**シーンを選択**	カレントのシーンを選択します。
	シーンを削除する	ドキュメントからカレントのシーンを削除します。
	前のシーケンス	直前のアニメーションシーケンスの先頭にジャンプします。
	再生	アニメーションを開始します。押した後、一時停止ボタンに切り替えます。
	一時停止	アニメーションを一時停止します。再度押すと再生ボタンに切り替わります。
	停止	アニメーションを停止し、カーソルを開始位置に戻します。
	次のシーケンス	次のアニメーションシーケンスの先頭にジャンプします。
	ビデオをレンダリング	2Dビデオのレンダリングを開始するダイアログボックスが開きます。
	現在のシーンのグラフィックを記録	アニメーショングラフィックを記録し、zipアーカイブに保存します。
	現在のシーンのグラフィックを記録	アニメーショングラフィックを記録し、選択したフォルダーに保存します。
	アニメーショングラフィックのロード	zipアーカイブからアニメーショングラフィックスデータをロードし、このグラフィックスを再生するための特別なモードを開きます。
	アニメーショングラフィックのロード	選択したフォルダーからアニメーショングラフィックスデータをロードし、このグラフィックスを再生するための特別なモードを開きます。
	アニメーショングラフィックのアンロード	以前にロードされたアニメーショングラフィックをアンロードします。このボタンは、アニメーショングラフィックを再生するための特別なモードでのみ使用できます。
	エフェクト設定パネルを表示/非表示	エフェクト設定パネルの表示/非表示を切り替えます。

タイムラインエリア

タイムラインエリアを使用して、タイムラインとアニメーションシーケンスを追加および削除し、アニメーションスケジュールを表示します。アニメーションシーケンスをクリックして選択するか、バーの始点または終点をドラッグして長さを調整します。選択されたアニメーションシーケンスは青色で表示され、その他のシーケンスは灰色で表示されます。タイムラインエリアの各タイムラインは、一時的に無効にして、アニメーションから除外することができます。

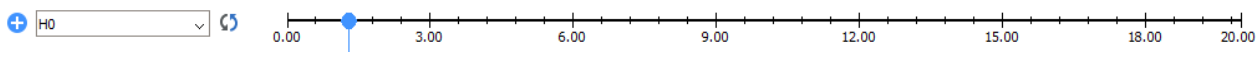


タイムラインエリアには、アニメーションのカレントの位置を示すカーソルがあります。アニメーションが再生されると、カーソルはカレントの再生位置を表します。また、いつでも手動でカーソルを新しい位置に移動することができ、**現在の時刻**または**カレントフレーム**のパラメータを編集することもできます。カーソルを移動すると、すべてのパラメータがカレントフレームに合わせて変更されます。また、カメラの位置も更新されます。

モデルの状態がカレントのアニメーションの位置に対応しているかどうかを確認したい場合には、ボタンをクリックします。

注：これはいつでも手動で調整できますが、アニメーションには影響しません。

タイムスケール



ツール	名前	説明
	タイムラインを追加	選択したパラメータをタイムラインに追加します。
P	**アニメーションオブジェクトを選択**	タイムラインに追加するオブジェクトを選択します。
	モデルを更新	カレントのカーソル位置を基準にしてモデルの状態を更新します。
	タイムスケール	タイムラインに沿ってタイムマークを表示します。
	カーソル	再生中の現在位置を表示します。

タイムライン

ツール	名前	説明
	タイムライン ロック解除	タイムラインが変更可能な状態であることを示します。クリックすると、タイムラインがロックされます。
	タイムラインのロック	タイムラインが変更可能な状態であることを示します。クリックすると、タイムラインのロックが解除されます。
	タイムラインの効果を有効にする	タイムラインが有効であることを示します。クリックすると、タイムラインが無効になります。
	タイムライン効果の無効化	タイムラインが無効であることを示します。クリックすると、タイムラインが有効になります。
Height	**タイムラインオブジェクト**	関連付けられたオブジェクトの名前が表示されます。
	シーケンスの追加	カーソル位置に新しいアニメーションシーケンスを追加します。
	タイムラインを削除	アニメーションからタイムラインを削除します。
	アニメーションシーケンス	アニメーションシーケンスの時間と位置を表します。左クリックしてシーケンスを選択します。
	選択したアニメーションシーケンス	アニメーションシーケンスの時間と位置を表します。**コンフィギュレータ**でプロパティを表示および変更できます。 カーソルが両面矢印に変わるまで、マウスをシーケンスの最後に移動します。次に、左クリックしてドラッグして、開始時間、終了時間、および継続時間を変更します。 シーケンスの中央で左クリックし、長さを変更せずに、タイムラインの新しい位置にドラッグします。 **注**：シーケンスの移動とドラッグは、3種類のスナップに対応しており、黄色の線で表示されます。 • 尺度によるスナップ • カーソルによるスナップ • 他のタイムラインのシーケンス間隔によるスナップ(分解図ステップによるスナップも可能)

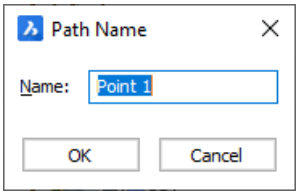
コンフィギュレータ

コンフィギュレータを使用して、アニメーションシーンと選択したシーケンスのすべてのプロパティにアクセスします。すべてのプロパティはオブジェクトごとにグループ化されています。

- **シーン**：カレントシーンのプロパティ。
  - **名前**：シーンの名前を表示します。

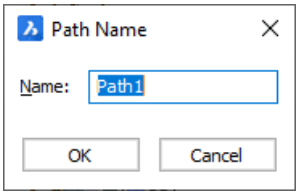
- **シーン時間**：シーンの動作時間(秒)を表示します。
- **現在の時刻**：現在のアニメーション位置を表示します。
- **カレントフレーム**：現在のアニメーションフレームを表示します。
- **フレームレート(fps)**：シーンのフレームレート(1秒あたりのフレーム数)を表示します。

- **シーケンス**：選択したシーケンスのプロパティ。
  - **シーケンスタイプ**(読み取り専用)：シーケンスのタイプを表示します。
  - **オブジェクト名**(読み取り専用)：シーケンスによってコントロールされるオブジェクトの名前を表示します。
  - **開始時間**：シーケンスの開始時間(秒)を表示します。動作時間が調整され、終了時間は変更されません。
  - **時間**：シーンの動作時間(秒)を表示します。変更した場合、開始時間と動作時間を基に終了時間が調整されます。
  - **終了時間**：シーケンスの終了時間(秒)を表示します。変更した場合、長さが調整され、開始時間は変更されません。
- **パラメータ**(パラメトリックシーケンスの場合)
  - **開始値**：パラメータの開始値を表示します。
  - **終了値**：パラメータの終了値を表示します。
  - **丸め方向**：丸め方向のタイプを定義します。
  - **精度**：丸め精度の公差を設定します。
- **カメラ**(カメラシーケンス用)
  - **カメラ位置**：カメラを固定するか移動させるかを設定します。値は以下の通りです：
    - **固定**：指定した位置にカメラを固定します。
    - **ダイナミック**：指定したパスに沿ってカメラが移動します。
  - **カメラポイント**(**カメラ位置**が**固定**に設定されている場合)。次のコントロールが表示されます。

855.49,-802.17,5386.1 (Default target -16439.12,-18096.78,22680.71 (Defau 855.49,-802.17,5386.1 (Default target	以前に使用されたポイントのリスト。ドロップダウンリストから点を選択し、使用します。
	モデル内の点をクリックして選択します。ポイントが選択されると、ダイアログボックスが表示されます：  • **名前**: ポイント名を入力できます。 • **OK**：ポイントの選択を確定します。 • **キャンセル**：ポイントの選択を取り消します。

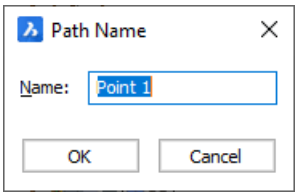
×	ポイントをリストから削除します。

- カメラパス(**カメラ位置**が**ダイナミック**に設定されている場合)。次のコントロールが表示されます。

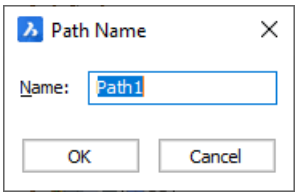
Path1 Path1 Path2	直前に使用されたパスのリスト。ドロップダウンリストから点を選択し、使用します。
	クリックしてモデル内のパスを選択します。パスを選択すると、ダイアログが表示されます：  • **名前**: パス名を入力できます。 • **OK**：ポイントの選択を確定します。 • **キャンセル**：ポイントの選択を取り消します。
×	パスをリストから削除します。

- **ターゲット**：指定された瞬間にカメラが見るポイントを定義します。
  - 値は以下の通りです：
  - **固定**：ターゲットは指定した位置に固定されています。
  - **ダイナミック**：ターゲットは指定したパスに沿って移動します。
  - **ターゲットポイント**(**ターゲット**が**固定**に設定されている場合)。次のコントロールが表示されます。

855.49,-802.17,5386.1 (Default target point 1) -16439.12,-18096.78,22680.71 (Default camera po 855.49,-802.17,5386.1 (Default target point 1)	以前に使用されたポイントのリスト。ドロップダウンリストから点を選択し、使用します。

	モデル内の点をクリックして選択します。ポイントが選択されると、ダイアログボックスが表示されます：  • **名前**: ポイント名を入力できます。 • **OK**：ポイントの選択を確定します。 • **キャンセル**：ポイントの選択を取り消します。
	ポイントをリストから削除します。

- **ターゲットパス**(**ターゲット**が**ダイナミック**に設定されている場合)。次のコントロールが表示されます。

	直前に使用されたパスのリスト。ドロップダウンリストから点を選択し、使用します。
	クリックしてモデル内のパスを選択します。パスを選択すると、ダイアログが表示されます：  • **名前**: パス名を入力できます。 • **OK**：ポイントの選択を確定します。 • **キャンセル**：ポイントの選択を取り消します。
	パスをリストから削除します。

注：ANIPATHと同様に、選択したすべてのポイントとパスが図面に保存されます。

29.14.5 アニメーションの再生

アニメーション再生コントロールを使用して、アニメーションをプレビューします。

- アニメーションを**開始**するには、**再生**ボタンをクリックします。
  再生はカーソル位置から始まります。ボタンが一時停止ボタンに切り替わります。
- アニメーションを**一時停止**するには、**一時停止**ボタンをクリックします。ボタンが再生ボタンに切り替わります。
- アニメーションを**停止**し、カーソルをアニメーションの先頭に移動するには、**停止**ボタンをクリックします。

次のシーケンスにジャンプツールと**前のシーケンスにジャンプ**ツールを使用すると、次または前のアニメーションシーケンスに(時系列順に)ジャンプできます。

注：

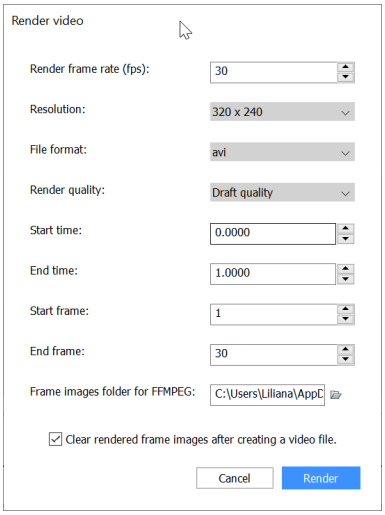
- 再生時には、シーンに関わるパラメータやカメラの位置を図面上で直接変更することができます。複雑なモデルの場合、モデルの再計算にはかなりの時間がかかることがあります。代わりにカーソルを使って、アニメーションの重要な瞬間を確認することができます。
- 再生時には、設定されているカメラシーケンスに合わせてカメラが動きます。カメラシーケンスが設定されていない場合は、カレントのビューが使用されます。出力ビデオはカレントのビューポートと同じになります。
- 再生が終了すると、モデルは自動的にアニメーションを開始する前の状態に戻ります。場合によっては、モデルがカーソル位置とは異なる状態になることがあります。カレントのカーソル位置を基準にしてモデルを更新するには、ボタンを使用します。

29.14.6 レンダリング

1 **ビデオをレンダリング**ボタンをクリックして、アニメーションを2Dビデオとしてレンダリングします。

ビデオをレンダリングダイアログボックスが表示されます。

ビデオをレンダリング



2 レンダリングパラメータの調整

- **レンダリングフレームレート(fps)**：フレームレートを設定します。
- **解像度** - ビデオの解像度を設定します。
- **ファイル形式**：ビデオの形式を設定します(AVI、MPG、WMV形式がサポートされています)。
- **レンダリング品質**：レンダリングの品質(ドラフトおよびフル品質)を設定します。
- **開始時間**：レンダリングを開始する時間位置を設定します。
- **終了時間**：レンダリングを終了する時間位置を設定します。
- **開始フレーム**：レンダリングを開始するフレーム位置を設定します。
- **終了フレーム**：レンダリングを終了するフレーム位置を設定します。
- **FFMPEGのフレームイメージフォルダー**：フレーム画像を保存するフォルダーを表示します。

- **ビデオファイルの作成後にレンダリングされたフレームイメージをクリア**：動画ファイル作成後のフレーム画像のリセットを切り替えます。

3 **レンダリング**ボタンをクリックして、レンダリングを開始します。
「ビデオを保存」ダイアログボックスが表示されます。

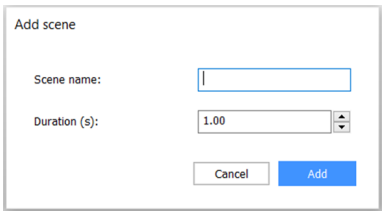
4 出力ファイルの場所と名前を指定します。

5 **保存**ボタンをクリックして、レンダリングを開始します。
プレビューで進行状況を確認できます。

29.14.7 新しいシーンを追加する

1 **シーンを追加**ボタンをクリックします。
シーンを追加ダイアログボックスが表示されます。

シーンの追加



2 シーン名を入力します。

3 シーンの長さを秒単位で入力します。

4 **追加**をクリックしてシーンを追加します。

29.14.8 シーンの削除

1 **シーンを選択**でシーンを選択します。

2 **シーンを削除**ツールを使用します。

29.14.9 パラメータのアニメーションを追加する

1 選択したパラメータをタイムラインに追加します：

1
- **パラメータセレクタ**でパラメータを選択します。
- **タイムラインを追加**ツールを使用して、新しいタイムラインを追加します。

2 **タイムスケール**上の目的の開始位置にカーソルを置きます。

3 **シーケンスを追加**ツールを使用して新しいアニメーションシーケンスを追加するかもしくは、新しいシーケンスを追加するタイムラインをダブルクリックします。

4 ドラッグして、希望するシーケンスの長さを調整します。もしくは、**コンフィギュレータ**設定を使用して、必要な開始時間、終了時間、または長さを秒単位で設定します。
ドラッグの場合は、便宜上、3つのスナップを使用します。
- 尺度によるスナップ
- カーソルによるスナップ

- 他のタイムラインとのシーケンス間隔によるスナップ機能

5 **コンフィギュレータ**を使用して、パラメータの開始値と終了値を設定します。

29.14.10 カメラの動きを追加する

1 必要に応じて、**オブジェクトセレクタ**から**カメラ**を選択して、カメラのタイムラインを追加します。

2 **タイムスケール**上の目的の開始位置にカーソルを置きます。

3 カメラタイムラインの**シーケンスを追加**ツールを使用して、新しいカメラシーケンスを追加するかもしくは、新しいカメラシーケンスを追加するタイムラインをダブルクリックします。

4 クリックアンドドラッグして、必要なシーケンスの長さを調整します。もしくは、**コンフィギュレータ**設定を使用して、必要な開始時間、終了時間、または長さを秒単位で設定します。

5 **コンフィギュレータ**を使用してカメラパスを設定します：

- **カメラ位置**を選択します。
  - **固定**：カメラの位置が固定されます。
  - **ダイナミック**：指定したパスに沿ってカメラが移動します。
- カメラポイントプロパティを使用して点を選択するか、**カメラパス**を選択します。
- 編集するプロパティを選択し、ボタンを使用してモデル上のパスまたは点を選択します。もしくは、ドロップダウンリストから前の点またはパスのいずれかを選択します。

6 **コンフィギュレータ**を使用してターゲットパスを設定します。**ターゲットは**、カメラがフォーカスする点です。

ターゲットを選択します。

1
- **固定**：ターゲットは固定されます。
- **ダイナミック**：ターゲットは指定したパスに沿って移動します。

ターゲットポイントプロパティを使用して位置を選択するか、**ターゲットパス**を選択します。

編集するプロパティを選択し、ボタンを使用してモデル上のパスまたは点を選択します。もしくは、ドロップダウンリストから前の点またはパスのいずれかを選択します。

29.14.11 アニメーションシーケンスの削除

1 シーケンスを右クリックします。

2 コンテキストメニューから**削除**を選択します。

または、以下を行うことができます。

1 シーケンスを左クリックし選択します。

2 Deleteを押します。

29.14.12 タイムラインの無効化または有効化

1 タイムラインのステータスアイコンをチェックします。アイコンがの場合、タイムラインは無効になります。アイコンがの場合、タイムラインは有効になります。

2 タイムラインのステータスアイコンをクリックして、ステータスを切り替えます。

無効なタイムラインのアニメーションシーケンスは、アニメーションに含まれません。

29.14.13 タイムラインのロック・ロック解除

1 ロックタイムラインのアイコンを確認します。アイコンが の場合、タイムラインはロックされています。アイコンが の場合は、タイムラインを開いて変更することができます。

2 ロックタイムラインのアイコンをクリックすると、ステータスが切り替わります。

タイムラインがロックされると、タイムラインエフェクトの切り替え、タイムラインへの新しいエフェクトの追加、このタイムラインの削除、エフェクトの追加/移動/削除ができなくなり、コンフィギュレーターパネルでタイムラインのアニメーションオブジェクトに関連するプロパティが無効になります。これは、すでに設定されているタイムラインを誤って変更することを避けるために有効です。

29.14.14 分解ビューのアニメーション

アニメーション編集はブロック編集または外部参照編集モードではサポートされていないため、モデル空間に挿入された分解ビューのみをアニメートできます。

1 分解ビューをモデル空間に挿入します。

2 (オプション)アニメーション中に分解ビューとモデルを非表示または表示したい場合は、分解ビューとモデルを抑制にします。

3 **オブジェクトセレクタ**で、分解ビューオブジェクトを選択します。

4 をクリックすると、タイムラインが追加されます。

5 分解ビュータイムライン上の**シーケンスを追加**ツールを使用して、新しい分解ビューシーケンスを追加するかもしくは、新しいシーケンスを追加するタイムラインをダブルクリックします。

6 クリックアンドドラッグして、必要なシーケンスの長さを調整します。もしくは、**コンフィギュレータ**設定を使用して、必要な開始時間、終了時間、または長さを秒単位で設定します。

7 必要に応じて、**コンフィギュレータ**を使用し、分解ビューの開始ステップと終了ステップを設定するか、自動非表示オプションを有効にします。

29.14.15 ビデオのレンダリング

レンダリングの項を参照してください。

29.14.16 アニメーショングラフィックの保存

パラメータ化が難しい大きなモデルのアニメーションフレームの計算には、長い時間がかかる場合があります。この場合、すべてのフレームのグラフィックをzipアーカイブまたはフォルダーに記録して、後でロードし、計算されたグラフィックを再度再生することができます。このような再生は、大きなモデルの単純な再計算よりも大幅に高速に動作するはずです。2Dビデオとは異なり、BricsCADでモデルをズームや回転させたり、視覚スタイルの変更を行えます。また、記録されたグラフィックスでビデオをレンダリングすることができます。

アニメーショングラフィックを保存するには：

1 ツールバーの をクリックします。

2 2つのオプションを含むドロップダウンメニューが表示されます。
- **グラフィックをZIPファイルに書き出し**

この場合、記録されたデータは圧縮されます。しかし、大型モデルの場合、圧縮時間が長くなることがあります。そのため、誰かに送るなど、より小さなファイルを取得したい場合に便利なオプションです。しかし、大きなモデルの場合、圧縮ファイルでも数ギガバイトになることがあります。
  - このオプションをクリックすると、ファイルブラウザが表示されます。新しいファイル名を入力し、**保存**をクリックして続行します。**キャンセル**をクリックすると、処理が中断され、グラフィックは記録されません。

- **グラフィックをフォルダーに保存**

  この場合、データの圧縮と圧縮したフォルダーの解凍に無駄な時間をかけることなく、非圧縮のデータを得ることができます。これは、同じマシンで自分でモデルを操作する場合、大きなモデルのアニメーションシーンを何度も再生する必要がある場合に有効です。このオプションは、オリジナルのアニメーション編集モードでフレームを再計算するのに比べ、ビデオの再生とレンダリングの時間を短縮することができます。
  - このオプションをクリックすると、ファイルブラウザが表示されます。

    新しいフォルダーを作成し、**フォルダーを選択**ボタンをクリックして続行します。**キャンセル**をクリックすると、処理が中断され、グラフィックは記録されません。
    空でないフォルダーを選択すると、クリーニングと上書きの確認を求めるダイアログボックスが表示されます。

グラフィックを保存する状態を選択できます。

3 記録中はプログレスバーが表示されます。

4 プロセスの終了後、アニメーショングラフィックは選択したZIPアーカイブまたはフォルダーに記録されます。

29.14.17 記録されたアニメーショングラフィックをロードして再生する

前の手順で記録したグラフィックデータを読み込んで、**アニメーション編集**の特殊モードでさらに再生することができます。

アニメーショングラフィックをロードするには：

1 ツールバーの📂をクリックします。

2 2つのオプションを含むドロップダウンメニューが表示されます。
  - **グラフィックのZIPファイルを読み込む**

    このオプションを選択すると、アニメーション・グラフィックスを含むZIPアーカイブを読み込むことができます。選択すると、ファイルブラウザが起動します。ZIPアーカイブを選択するか、名前を入力し、**開く**をクリックして続行します。**キャンセル**をクリックすると、処理が中断され、**アニメーション編集**は元のモードのままになります。
  - **グラフィックをフォルダーから読み込む**

    このオプションを選択すると、アニメーションのグラフィックが入ったフォルダーを読み込むことができます。クリックすると、ファイルブラウザが表示されます。フォルダーを選択するか、フォルダー名を入力し、**選択**をクリックして続行します。**キャンセル**をクリックすると、処理が中断され、**アニメーション編集**は元のモードのままになります。

3 ZIPアーカイブを選択した場合は、データが準備されるまで待ちます。ロード後、**アニメーション編集**の特殊モードが開きます。このモードでは、元のモードの既存のオプションと同じオプションが表示されます。

4 再生ボタンを使用して、再生をコントロールします。**再生**ボタンをクリックして、現在のカーソル位置から再生を開始します。**一時停止**ボタンをクリックして、現在の位置で一時停止します。**停止**ボタンをクリックして再生を停止し、カーソルを開始位置に移動します。

5 スケールに沿ってカーソルを移動すると、必要なフレームにジャンプできます。この場合、最も近い記録フレームが表示されます。

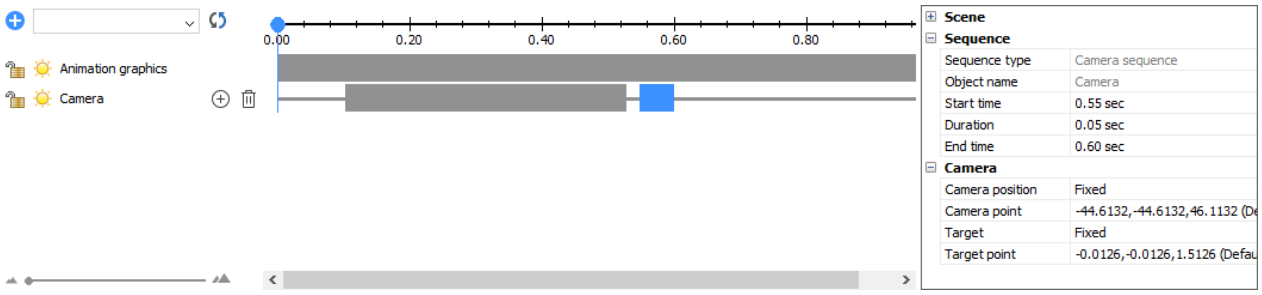
6 元のモードのように、**ビデオをレンダリング**ボタンを押して、ビデオをレンダリンできます。(**レンダリング**の項を参照してください。)

注：

- グラフィックは固定フレームレートで記録されており、変更できなかったため、レンダリングダイアログのフレームレートは無効になっています。
- 何か問題があった場合は、ボタンを使用して、現在のカーソル位置に従ってアニメーショングラフィックを再読み込みします。
- 元のドキュメント(グラフィックの記録元)がアクティブなときに、アニメーショングラフィックをロードする必要があります。そうしないと、結果が元の結果と異なる場合があります。

7 また、新しい効果を持つカメラタイムラインを追加することで、アニメーショングラフィックのカメラ効果を変更することも可能です。この場合、記録されたカメラエフェクトは新しいエフェクトに置き換えられます。

8



9 ボタンを押してこのモードを閉じ、アニメーショングラフィックのキャッシュをクリアします。

29.15 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッド

メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドは、メカニカルデータ(コンポーネント名、物理的マテリアル、BOMステータス、カスタムプロパティなど)が割り当てられた通常の図形です。このようなブロック参照、外部参照、3Dソリッドは、メカニカルコンポーネントと同様に扱われます。すなわち、これらのオブジェクトは次のことを意味します。

- メカニカルブラウザに表示されます。
- 部品表に表示できます。
- 特定の物理的マテリアルを割り当てることができます。
- 質量計算で考慮されます。

これらのオブジェクトは通常の図形であるため、ほぼすべてのBricsCADコマンドを使って操作することができます。たとえば、ブロック編集を使用してローカルブロックを編集したり、外部参照編集を使用して参照を所定の位置に変更したり、BIM線形ソリッドを使用して構造形状をモデリングしながら部品表に含めることができます。また、図面からメカニカルブロックを作成し、それをブロックとして、または外部参照として別のドキュメントに挿入しても、部品表やメカニカルブラウザですべての内部コンポーネントを確認することができます。パラメトリックブロックとパラメトリック外部参照、およびそのようなメカニカルオブジェクトの配列もサポートされています。つまり、3Dソリッド、ブロック、または外部図面からメカニカルオブジェクトを作成し、通常のツールを使用して通常の図形と同じように作業を続けることができます。

メカニカルブロック、外部参照、および3Dソリッドは既定で有効になっています。一部のコマンドは、これらのブロック、外部参照、または3Dソリッドをサポートしていないか、部分的にしかサポートしない場合があります。さらに、従来のメカニカルコンポーネントと新しいメカニカルブロック、外部参照と3Dソリッドの両方を使用したハイブリッドアセンブリを作成することができます。

メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドを完全にサポートするコマンドとツール：

- **メカニカルブラウザ**
- **部品表(BMBOMおよび部品表マネージャー)**
- **マスプロパティ(BMMASSPROP)**
- **図面ビュー**
- **BMMECH**
- **BMUNMECH**
- **BMOPEN**
- **BMOPENCOPY**
- **BMDISSOLVE**
- **BMBALLOON**
- **BMEXPLODE**
- **BMEXPLODEMOVE**
- **SMUNFOLD**(メカニカルソリッドの場合)
- **SMEXPORTOSM**(メカニカルソリッドの場合)
- **BMLISPGET**(コンポーネントパラメータのオプションを除く)
- **BRXコンポーネントAPI**
- **BMPROPERTIES**
- **BMNEW**
- **BMFORM**(代わりにBLOCKが使用可能)
- **BMINSERT**
- **BMCONNECT**
- **SMASSEMBLYEXPORT**
- **BMREPLACE**(ブロックの代わりにBLOCKREPLACEが使用可能)
- **BMLOCALIZE**(ブロックの代わりにXBINDが使用可能)
- **BMEXTERNALIZE**(ブロックの代わりにBLOCKTOXREFが使用可能)
- **BMTRAILINGLINES**

メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドをサポートしていないコマンドやツール：

- **BMCONVERT**
- **BMCREATECOMPONENT**
- **BMDEPENDENCIES**
- **BMHIDE**
- **BMSHOW**
- **BMRECOVER**
- **BMUPDATE**
- **CONVERTCOMPONENTSTOBLOCKS**

29.15.1 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドの有効化

- **設定**ダイアログボックスを開きます。**メカニカルブロック**に移動し、**メカニカルブロックを有効化**オプションにチェックを入れます。
- コマンドラインで、MECHANICALBLOCKSシステム変数を1に設定します。

29.15.2 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドの無効化

- **設定**ダイアログボックスを開きます。**メカニカルブロック**に移動し、**メカニカルブロックを有効化**オプションのチェックを外します。
- コマンドラインで、MECHANICALBLOCKSシステム変数を0に設定します。

その後、既存のメカニカルブロックは、BricsCADのすべてのコマンドとツールによって無視されます。

29.15.3 メカニカルブロック、外部参照、3Dソリッドの作成

現在の図面からメカニカルブロックを作成し、モデル空間に直接配置されたすべての名前付きブロック参照、外部参照、および3Dソリッドを変換できます。ローカルブロックがブロック編集で開かれている場合、そこからメカニカルブロックを作成することができ、オプションですべての名前付きブロック参照、外部参照、ソリッドを含めることができます。

1 メカニカルブロックが有効になっていることを確認します。

2 BMMECHコマンドを呼び出します。モデル空間で呼び出される場合は、目的のコンポーネント名を入力します。デフォルトでは、ドキュメント名と一致します。

3 変換するブロック参照、外部参照、ソリッドを選択します。さらに、**はい**を選択すると、すべてのブロック参照、外部参照、ソリッドをメカニカルオブジェクトに変換することができます。また、ブロックを選択することで、ブロック参照と外部参照のみを変換することができます。**いいえ**を選択すると、ドキュメント(または編集中のブロック)のみがメカニカルブロックに変換されます。

注：それらのメカニカルブロックや図形が挿入されているすべてのブロックもメカニカルに変換され、その逆も同様です。これは、ドキュメントが有効なメカニカル構造を持つようにするためです。

29.15.4 メカニカルブロックの挿入

メカニカルブロックを他のドキュメントに挿入するには、以下を実行します。

1 メカニカルブロックが有効になっていることを確認します。

2 BMINSERTコマンドまたはINSERTコマンドを使用して、ブロックをドキュメントに挿入します。

ルートメカニカルブロックを外部参照として使用してドキュメントを添付するには、以下を実行します。

1 メカニカルブロックが有効になっていることを確認します。

2 XATTACHコマンドを使用して、ドキュメントを外部参照として添付します。

注：現在のドキュメントにルートコンポーネントまたはルートメカニカルブロックがない場合、ルートメカニカルブロックが自動的に作成されます。

29.15.5 メカニカル構造の削除

ドキュメントからメカニカル構造を削除するには、以下を実行します。

1 BMUNMECHコマンドを実行します。

2 **はい**を選択して確定します。

ローカルの名前付きブロックからメカニカル構造を削除するには、以下を実行します。

1 ブロック編集(BEDIT)でブロックを開きます。

2 BMUNMECHコマンドを実行します。

3 **はい**を選択して確定します。

メカニカル図形からメカニカルデータを削除するには、以下を実行します。

1 メカニカルブラウザで対象となる図形を選択します。

2 右クリックでコンテキストメニューを呼び出します。

3 コンテキストメニューから**Unmech**を選択します。

29.15.6 選択したインスタンスにプロパティを割り当て

従来のコンポーネントとは異なり、メカニカルブロック、外部参照、およびソリッドを使用すると、特定のインスタンスおよびブロック自体のプロパティを設定できます。これは、例えば、同じメカニカルブロックの異なる挿入や異なる外部参照に、個々の物理的マテリアルを割り当てることができることを意味します。インスタンスが特定のプロパティを持っていない場合は、代わりにブロックの対応するプロパティが使用されます。

メカニカルブロックのトップレベルのインスタンス、またはトップレベルの外部参照にプロパティを割り当てるには、以下を実行します。

1 メカニカルブラウザで必要なインスタンスを選択します。

2 **プロパティ**セクションに移動します。

3 対応するプロパティに希望の値を設定します。

注：そうすることで、特定のブロック参照、外部参照、またはソリッドにのみプロパティが割り当てられ、(それらのブロックの挿入がすべて選択されていても)対応するブロックや外部ドキュメントには割り当てられません。ローカルブロックのプロパティを設定するには、ブロック編集でブロックを開き、ブラウザでルートコンポーネントを選択して、プロパティに必要な値を設定します。ドキュメントのすべての外部参照にプロパティを設定するには、そのドキュメントを開き、ルートコンポーネントの対応するプロパティを変更します。

29.15.7 部品表とメカニカルソリッド

BricsCADの部品表では、メカニカルブロック、外部参照、およびソリッドがサポートされています。しかし従来のコンポーネントとは異なり、メカニカルブロック、外部参照、ソリッドは、その名前とプロパティのみによってグループ化されています。つまり、1つのアセンブリに同じ名前の2つの異なるブロックがある場合、パラメータやその他のプロパティ(物理的マテリアルなど)が同じであれば、それらのブロックは部品表の同じ行にグループ化されることを意味しています。これは、主にパフォーマンス上の理由によるものですが、ユーザーに柔軟性を提供するためにも意図的に行われています。これはメカニカルソリッドを扱うときには特に重要です。デフォルトでは、各ソリッドは自動的に割り当てられた固有の名前を持つ、固有のコンポーネントとみなされます。ソリッドを同じドキュメントにコピーした場合、コピーには新しい名前が付けられ、BricsCADでは全く別のソリッドとして扱われます。そのため、それらのソリッドは部品表の異なる行に表示されます。しかし、同じコンポーネント名を割り当てれば、部品表はジオメトリに関係なくそれらのソリッドをまとめて表示します。メカニカルブロックや外部参照についても同様です。

注：BricsCAD V23以降、メカニカルブロックとソリッドは、部品表によって尊重される特定のインスタンスに部品表ステータスを割り当てることができます。メカニカルブラウザでは、最上位インスタンスの部品表ステータスの設定が有効になっています。対応するコマンドが変更され、元のブロックにステータスが割り当てられます。

29.15.8 メカニカルソリッドをコピー

メカニカルソリッドをコピーすると、デフォルトで別の名前が割り当てられます。そのため、全く別のソリッドとして扱われます。ただし、メカニカルソリッドには異なるインスタンスやコンポーネント名を設定することが可能です。コンポーネント名がユーザーによって設定された場合、それはコピーに保持され、このソリッドのコピーは部品表で同じコンポーネントのインスタンスとして扱われます。

30. 板金

30.1 板金の設計方法

板金設計により板金部品をモデル化し、製造情報を使用して展開図を生成することができます。

設計プロセスは製造プロセスとは異なるため、BricsCADを使用して複雑な板金部品を簡単かつ迅速に作成できます。カットして曲げる平面シートの観点から考えるのではなく、ダイレクトモデリングツールを使用してソリッドボディを作成するように、部品をダイレクトにモデリングします。

BricsCADでは4通りの方法で板金部品を作成することができます。(これらの方法を自由に組み合わせることも可能)

1 閉じた2D図形からベースフランジを作成し、フランジを追加していきます。
   - エッジを引き出して、ベンドのあるエッジフランジを追加作成します。
   - 対応するベンドリリーフを自動的に作成して、部分フランジを作成します。
   - いくつかの隣接するエッジを引き出して、一度に複数のフランジを作成し、それらの間にコーナーリリーフとジャンクションを自動的に作成します。
   - フランジを曲げて、その部分から曲がった新しいフランジを作成します。
2 2つの3Dプロファイルを接続するフランジとロフトベンドの組み合わせを作成します。

   板金ロフトツールを使用
3 2D図形からフランジとベンドの組み合わせを作成します。

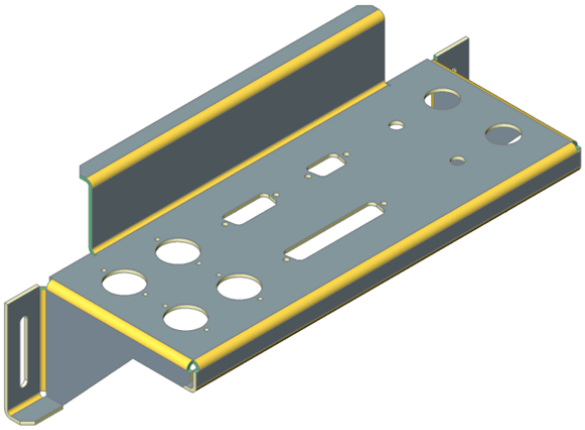
   板金押し出しツールを使用
4 3Dソリッドからシェルボディを作成します。

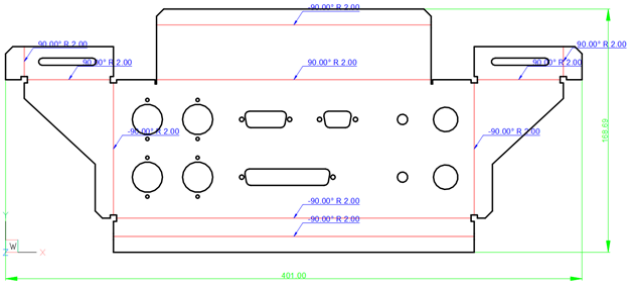
   SOLIDEDITコマンドの**シェル**オプションで板厚を指定し、SMCONVERTコマンドを実行して板金部品に変換し、ハードエッジからベンドとジャンクションを作成します。
   - フランジの面に閉じたプロファイルを作図して穴を作成し、押し出します。
   - 定義済みパラメータを使い、材料の厚さやベンド半径を調整します。
   - ダイレクトモデリング操作と3D拘束を適用して、板金の特徴に関する設計意図を常に維持しながら、設計をさらに調整します。
   - 部品の展開図を自動的に作成し、対応する2D図面をベンド注釈と共に.dwgまたは.dxfファイルに書き出して、CAMシステムに送ります。

以下の操作を行うことで、板金部品を細部まで作り込むことができます。

- フランジの面に閉じたプロファイルを作図して穴を作成し、押し出します。
- ライブラリからフォームフィーチャーを挿入します。BricsCAD板金では、パラメトリックフォームフィーチャーのライブラリもインストールされており、独自のフォームフィーチャーを作成することができます。
- SMBEADコマンドで、フランジ上にある2Dカーブからビードフィーチャーを作成します。
- 定義済みパラメータを使い、材料の厚さやベンド半径を調整します。
- ダイレクトモデリング操作と3D拘束を適用して、板金の特徴に関する設計意図を常に維持しながら、設計をさらに調整します。

板金部品の準備ができたら、自動的に展開図を作成し、対応する2D図面をエクスポートすることで、結果を製造エンジニアに送ることができます。





30.2 板金コマンドとツールバー

板金ツールバーアイコン	フライアウトツールバーアイコン	コマンド	説明
			閉じた2D図形から板金部品のベース(最初の)フランジを作成します。
			平面ポリラインを垂直に押し出して板金部品を作成します。板厚はポリラインの外形寸法を基準にして割り当てられます。
			2つの非同一平面上曲線からロフトベンドとフランジとの板金部品を作成します。
			3Dソリッドのフランジ、ベンド、ロフトベンドを自動認識します。

板金ツールバーアイコン	フライアウトツールバーアイコン	コマンド	説明
			既存のフランジの1つまたは複数のエッジを引っ張って、板金部品に1つまたは複数のフランジを作成します。
			閉じた輪郭から新しいフランジを作成し、既存の板金部品に取り付けます。
			選択したフランジの基準面を反転します。オプションでフランジ形状を板厚の分だけシフトさせることもできます。
			フランジを回転させます。
			既存のフランジの1つまたは複数のエッジを引っ張って、板金部品に1つまたは複数の閉じたヘムフィーチャーを作成します。
			既存のフランジの1つまたは複数のエッジを引っ張って、板金部品に1つまたは複数の開いたヘムフィーチャーを作成します。
			既存のフランジの1つまたは複数のエッジを引っ張って、板金部品に1つまたは複数のティアドロップヘムフィーチャーを作成します。
			既存のフランジの1つまたは複数のエッジを引っ張って、板金部品に1つまたは複数のラウンドヘムフィーチャーを作成します。
			フォームフィーチャーを挿入します。
			指定した面のセットからフォームフィーチャーを作成します。
			可能であれば、フォームフィーチャーをフランジとベンドに分解します。
			平面上の2D曲線からフランジ面に自動調整のビードフィーチャーを作成します。
			板金部品のフォームフィーチャー(認識されたものを含む)を、ビルトインまたはユーザーライブラリのフォームフィーチャーに置き換えます。

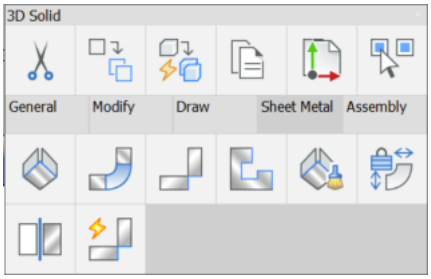
板金ツールバーアイコン	フライアウトツールバーアイコン	コマンド	説明
			ハードエッジ(フランジ面間のシャープなエッジ)とジャンクションをベンドに変換します。
			ベンドをロフトベンドに変換します。
			所定のベンド半径のK係数に従い、既存のフランジを線分に沿って折り曲げます。
			ハードエッジをジャンクションに変換します。
			対称形のジャンクションフィーチャーの面と面を重ね合わせることができます。
			任意の向きの2つのフランジ間のギャップを閉じます。
			既存のジャンクションをタブに切り替えて、板金部品に単独タブフィーチャーを作成します。
			既存のジャンクションをタブに切り替えて、板金部品に配列タブフィーチャーを作成します。
			適切なコーナーリリーフやベンドリリーフを作成します。コーナーリリーフは、3つ以上の隣接するフランジがあるコーナーに構築されます。ベンドリリーフは、フランジエッジの始点と終点に構築されます。
			コーナーリリーフを円形リリーフに変換します。
			コーナーリリーフを矩形リリーフに変換します。
			コーナーリリーフをV型リリーフに変換します。
			コーナーリリーフをスムーズリリーフに変換します。
			コーナーリリーフを丸みリリーフに変換します。
			コーナーリリーフをリップリリーフに変換します。

板金ツールバーアイコン	フライアウトツールバーアイコン	コマンド	説明
			フランジ面に描いた線分に沿ってフランジを分割します。
			フランジをコーナーの頂点によって分割します。
			フランジをコーナーの1つの頂点で分割し、同様のタイプの複数の分割を自動的に提案します。
			隣接するフランジとベンドに応じて、板金部品の板厚面をケガキされたエッジで分割します。
			選択した面または図形から板金データを削除します。
			2つのフランジ間のハードエッジを復元して、ベンドまたはジャンクションを削除します。すべてのベンドが隣接しているフランジを取り除きます。隣接するフランジが結合構成まで延長され、フランジが削除されます。フィーチャーによってカットされたジオメトリを復元して、マイター(留め継ぎ)を削除します。
			板金部品の特定の問題を修復します。グローバルワークフローとローカルワークフローの両方がサポートされています。必要に応じてロフトベンドフィーチャーを修復します。隣接するベンドをマージし、フランジとの接線接続を提供します。
			板金部品の特定の問題を修復します。選択したフランジまたは間違ったベンドのみが修復されます。
		同一フォームフィーチャー	板金部品のすべての同一フォームフィーチャーを選択します。
		ハードエッジ	板金部品のすべてのハードエッジを選択します。
		非直交エッジ	板金部品のすべての非直交のエッジを選択します。
		平らなエッジ	板金部品の平らなエッジを選択します。
		板金部品の選択面	板金部品の側面を選択します。
			選択した板金部品に対して一貫した3D拘束のセットを作成します。

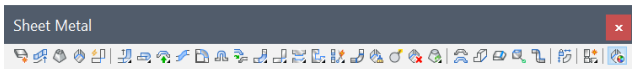
板金ツールバーアイコン	フライアウトツールバーアイコン	コマンド	説明
			板金ボディを展開します。
		自動調整展開ボディー	モデルの展開表示を別ウィンドウに表示します。
			板金ソリッドを.osm(Open Sheet Metal)ファイル形式に書き出します。
			板金ボディの展開図を.dxf/.dwgファイル形式の2Dプロファイルとして書き出します。
			アセンブリのコンポーネントを展開図に一括書き出しして、板金部品として識別される3Dソリッドごとに.dxfを作成します。
			FEATURECOLORSシステム変数を切り替えます。

以下の板金ツールが使用できます。

- **クワッド**カーソルメニュー(カーソルを合わせたフィーチャーによって異なります):



- **板金**ツールバー：
  - **板金**



  - **SMベンド**

  - **SMフランジ**

  - **SMフォーム**

- SMヘム

- SMジャンクション

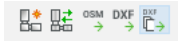
- SMリリーフ

- SM修復

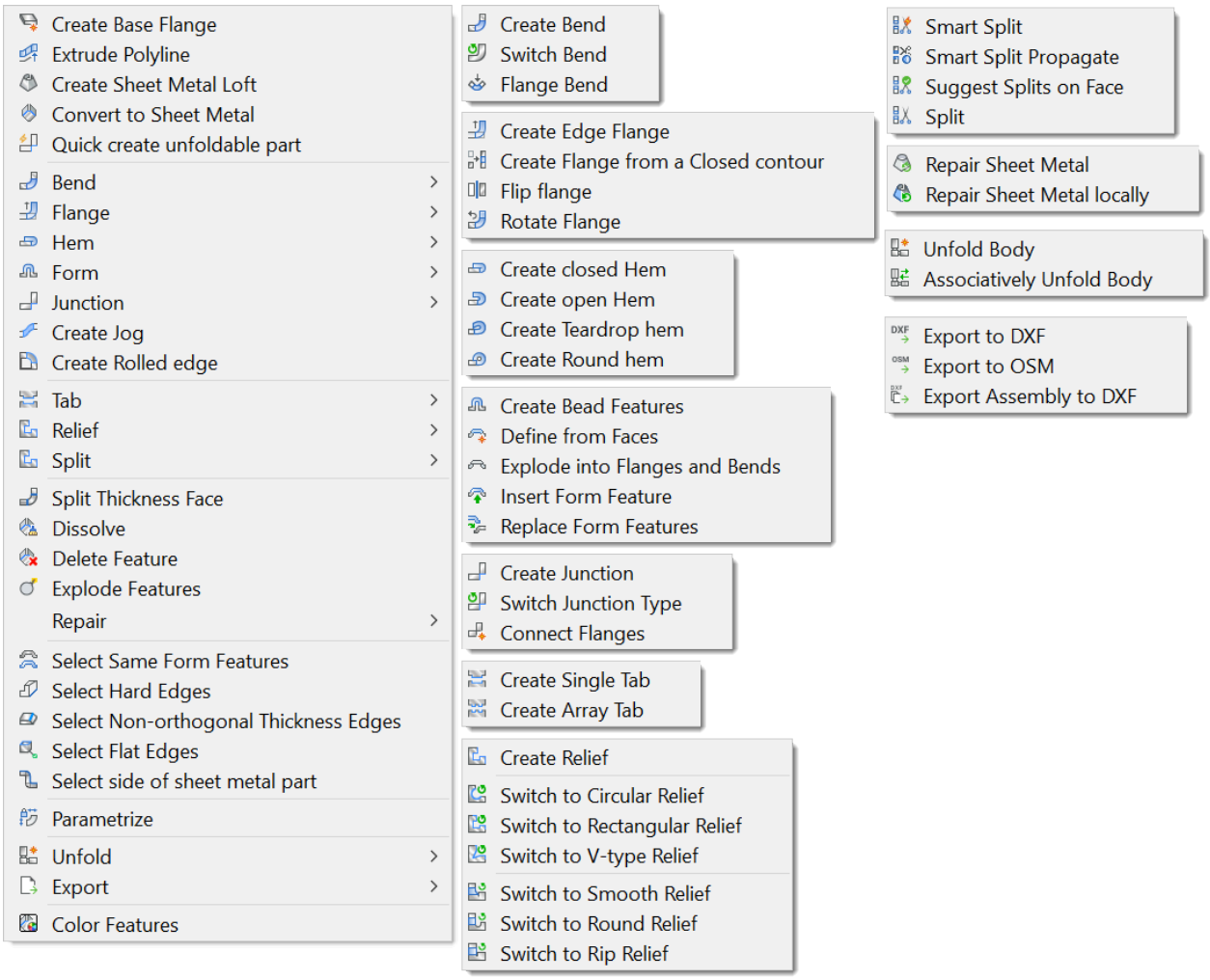
- 板金分割

- SMタブ

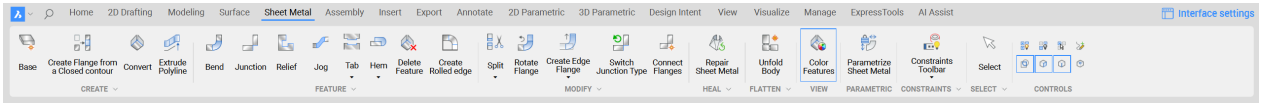
- SM展開



- 板金メニュー(メカニカルワークスペースのみ)。



- **メカニカル**ワークスペースリボンの**板金**タブ。



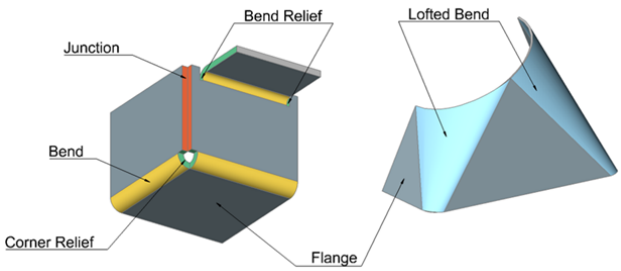
ダイレクトモデリング操作も参照してください。

30.3 板金フィーチャー

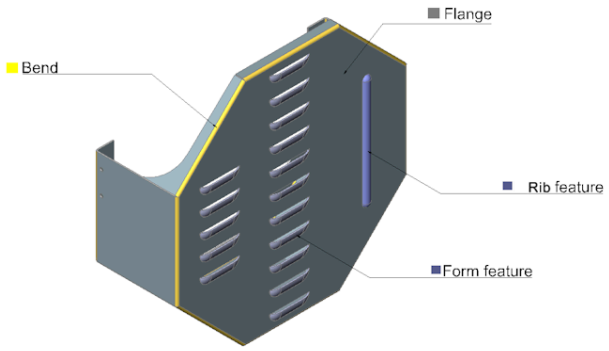
30.3.1 概要

板金フィーチャーは3D部品内のスマートリージョン(面のグループ)です。各フィーチャーは、その面といくつかの隣接する面の間の特定の空間的およびパラメトリックな関係を維持します。これらのフィーチャーを使用すると、モデルに設計意図を埋め込むことができます。このフィーチャーは、適用する特定のジオメトリ操作によって自動的に作成されます。以下の画像は、BricsCADの板金フィーチャーを示しています。

板金フィーチャーの例1



板金フィーチャーの例2



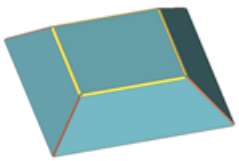
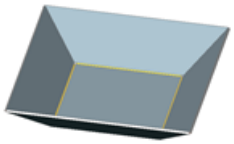
30.3.2 フランジ

板金部品の主要なフィーチャーはフランジです。フランジは、面の線分サイズよりもかなり小さい距離で、互いに正面に配置された2つの平行な平面(平面間に体積を持つ)で構成されています。この距離は材料の厚さに等しくなります。モデルを変更しても、この距離関係は常に自動的に維持されます。フランジ面に隣接している面のうち、ベンドに属していないものを板厚面と呼びます。このような面は常にフランジ面に垂直です。

フランジフィーチャーは、SMFLANGEBASE、SMEXTRUDE、SMLOFT、SMFLANGEEDGE、SMFLANGEBEND、およびSMCONVERTコマンドで作成されます。

FEATURECOLORSシステム変数をオンに設定している場合、フランジの基準面と反対側の面とが色分けされて表示されます。板厚変更などのパラメトリックな変更を板金部品に行っても、可能な限り基準面は移動しません。SMFLIPコマンドを実行すると、選択したフランジを反転させ、フランジの幾何学的に反対の側が基準面になります。または、板金部品の板厚に対してフランジをシフトさせることもできます。

以下の画像は、同じ部品のフランジ面の色分けを示しています。

	
基準面	反対側の面

30.3.3 ベンド

2つのフランジはベンドによって接合されます。ベンドはフランジの隣接する平面に常に接する2つの同軸円筒面で構成されます。

ベンドフィーチャーは、SMFLANGEBASE、SMEXTRUDE、SMFLANGEEDGE、SMFLANGEBEND、およびSMCONVERTコマンドで作成されます。

30.3.4 ゼロベンド

これはベンドの設計概念ですが、ジオメトリには半径が厚みに等しいベンドの外側の円筒面があります。内側の面の代わりにエッジがあります。そのため、ジオメトリはゼロ半径のベンドを表し、設計目的で使用されます。SMUNFOLD操作では、この種のベンドがサポートされ、これらのベンドが厚みに等しい半径の通常のベンドであるかのように寸法が生成されます。

30.3.5 間違ったベンド

ベンドフィーチャーが正しくない場合、SMCONVERTコマンドによって認識され、ユーザーの設計意図に関する仮定を反映します。間違ったベンドであっても、正しいベンドと同様にフランジは接合されますが、フランジ面が非同軸であったり、隣接するフランジ面との接合部が正接していない可能性があり、このようなジオメトリを正しいベンドフィーチャーとして使用することはできません。部品を展開する前に、SMREPAIRを実行して間違ったベンドをすべて修復するか、またはSMDELETEで削除してから、SMBENDCREATEで再作成してください。

30.3.6 ロフトベンド

ロフトベンドフィーチャーは、互いに正面に位置する(材料の厚さに等しいオフセットを設けた)2つのサーフェスから構成され、サーフェス間には体積があります。サーフェスは移動する直線によって形成される掃引点の集合として説明することができます。例としては、円柱、円錐、らせん形状などがあります。ロフトベンドはサーフェスに厚み付けをして作成することができます。ロフトベンドは1つまたは2つのフランジを結合することができ、またフランジとはまったく関係のない独立したものとすることもできます。通常のベンドとロフトベンド間の隣接を組み合わせることもできます。

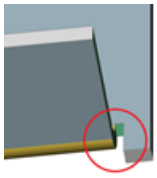
ベンドとロフトベンドの違い：

	ベンド	ロフトベンド
サーフェス	円柱	円柱、円錐形、スプライン
板金展開	固定	ロフトベンドのおおよその展開は、サブディビジョンの数と呼ばれる調整可能な数のベンド操作によって制御されます。操作を重ねることで、実物の部品はより滑らかになり、意図したデザインに近いものになります。 円柱ロフトベンドおよび円錐ロフトベンドには、正確な解析展開のオプションがあります。

ロフトベンドフィーチャーは、SMLOFTとSMCONVERTコマンドを使い作成します。

30.3.7 ベンドリリーフ

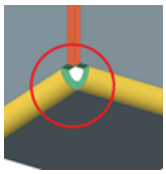
ベンドで接合された異なる幅の2つのフランジ間の技術的なカットを表す面の集まりです。ベンドリリーフフィーチャーでは、カットの2つの対向する面の間の距離を維持します。



ベンドリリーフフィーチャーは、SMFLANGEEDGE、SMBENDCREATE、SMRELIEFCREATEコマンドを使い作成します。

30.3.8 コーナーリリーフ

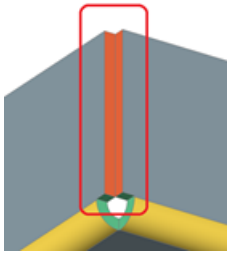
3つ以上のフランジが重なるコーナーでカットを形成する面の集まりです。このカットは板金部品のベンド加工時に材料の変形を防止するために必要です。コーナーリリーフフィーチャーでは、このカットの形状とサイズが維持されます。



コーナーリリーフフィーチャーは、SMFLANGEEDGE、SMBENDCREATE、SMRELIEFCREATEコマンドを使い作成します。

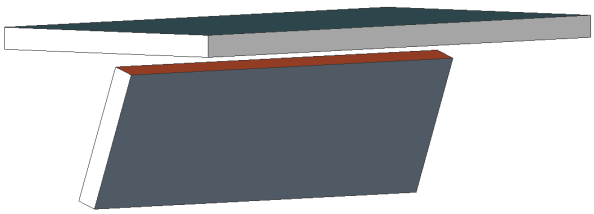
30.3.9 ジャンクションおよびTジャンクション

ジャンクションフィーチャーは隣接するフランジの2つの板厚面から構成され、ベンドによって接続されていません。ジャンクションは対称またはオーバーラップできます。ジャンクションフィーチャーは、フランジ間の最小距離、ジャンクションギャップを維持します。



Tジャンクションフィーチャーは、別のフランジの面の近くにある単独のフランジの厚み面で構成されます。通常、TジャンクションはTタブの作成に先立って行われます。

わかりやすくするために、下の画像のジャンクションギャップは意図的にかなり大きく表示しています。

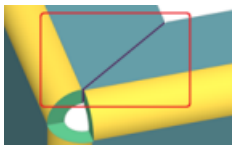


ジャンクションフィーチャーはSMFLANGEEDGE、SMJUNCTIONCREATE、SMFLANGECONNECTコマンドで作成されます。

Tジャンクションフィーチャーは SMJUNCTIONCREATE、SMFLANGECONNECTコマンドで作成されます。

30.3.10 マイターフィーチャー

マイターフィーチャーはSMFLANGEEDGEとSMSPLITコマンドで作成される、同一平面上のフランジ間の分割を表します。マイターフィーチャーではマイターギャップが維持されます。



30.3.11 フォームフィーチャーとビードフィーチャー

フォームフィーチャーとビードフィーチャーは、パンチングやホイーリングによって成形される多様な形状を表します。

フォームフィーチャーの2つの表現が重要です。1つは3Dで、もう1つは展開されたジオメトリの2Dシンボルです。ジオメトリを読み込んだ場合、シンボルはフォームフィーチャーの3D面の投影によって取得されます。フォームフィーチャーをフォームフィーチャーライブラリから挿入または置換した場合、展開記号はライブラリファイルから取得されます。

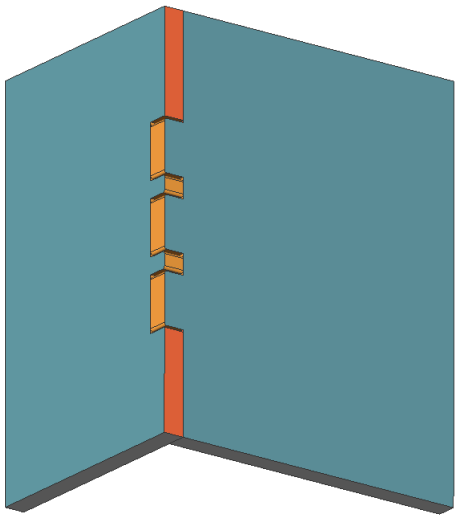
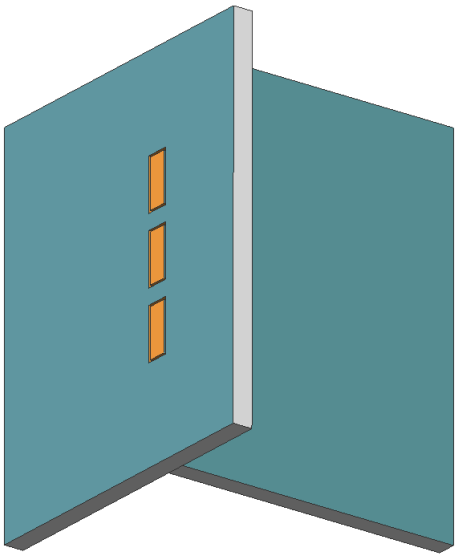
ビードフィーチャーは、任意の軌道をたどるホイールによって作成されたフランジのケガキを表しています。

フォームフィーチャーとビードフィーは、BMINSERT、SMBEAD、SMCONVERTコマンドで作成されます。

30.3.12 タブおよびTタブ

両方のフィーチャーは2つのフランジを接続するために使用され、相互変位を制限します。

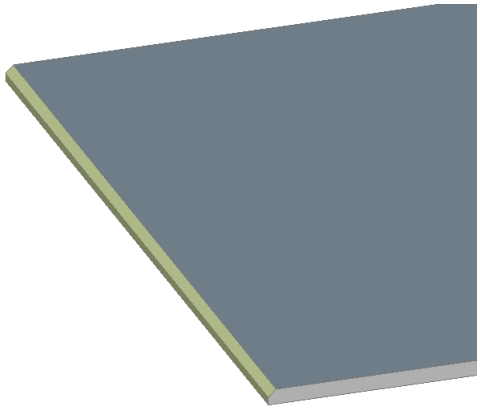
タブフィーチャーとTタブフィーチャーは、SMTABCREATEコマンドを使い作成します。

	
タブフィーチャー	Tタブフィーチャー

30.3.13 ベベル

ベベルフィーチャーは、板金部品に対して行われる面取り加工を表します。ベベル面と直交面のどちらにも、面取りフィーチャーを定義します。ベベルフィーチャーは単一のフランジで厳密に共有される必要があり、ベンドフィーチャーに隣接することはできません。

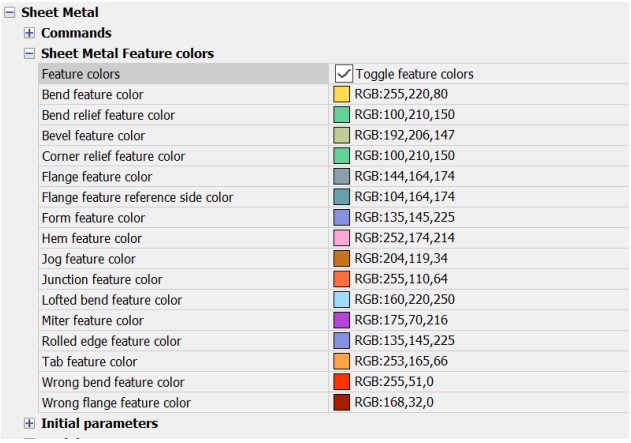
ベベルフィーチャーはSMCONVERTコマンドで認識もしくは削除され、SMUNFOLDコマンドでサポートされています。



30.4 フィーチャーに色付け

フィーチャーをより使いやすく、見分けやすくするために、ジオメトリ内の様々なタイプのフィーチャーには異なる色が適用されています。これらの色は視覚化のみを目的としており、生成されたドキュメント、ペーパー空間ビュー、ブロック挿入などに表示されることはありません。

フィーチャー色の表示は、FEATURECOLORSシステム変数とフィーチャー色ごとに用意された一連のシステム変数によって制御されます。デフォルトのフィーチャー色は、お互いの組み合わせに注意して選択されていますが、**設定**ダイアログの板金項目で別の色に設定することができます。



フィーチャーの色の表示を切り替えるには：

- **板金**ツールバーの**フィーチャーに色付け**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**リボンバーの**フィーチャーに色付け**ツールボタン( )をクリックします。

- **板金**メニューで**色フィーチャー**を選択します。

30.5 板金のメカニカルブラウザ

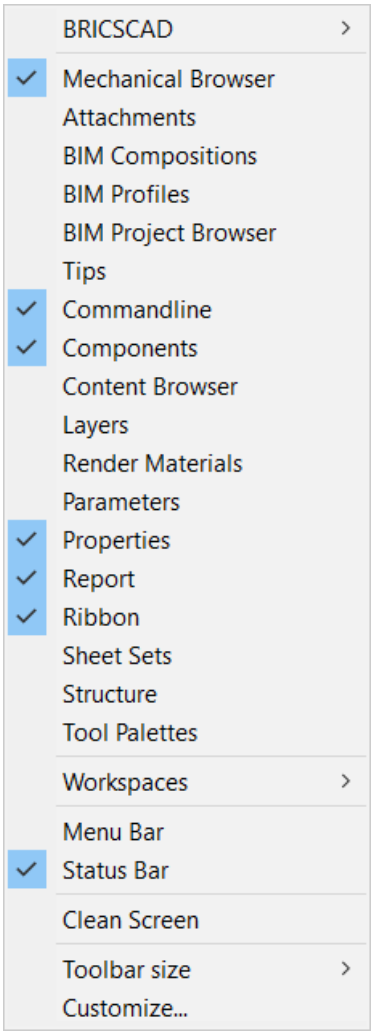
30.5.1 概要

メカニカルワークスペースに切り替えると、**メカニカルブラウザ**パネルが自動的に開きます。

メカニカルブラウザパネルを手動で開くには、以下を実行します。

1 カーソルをツールバー上に移動させ、右クリックします。

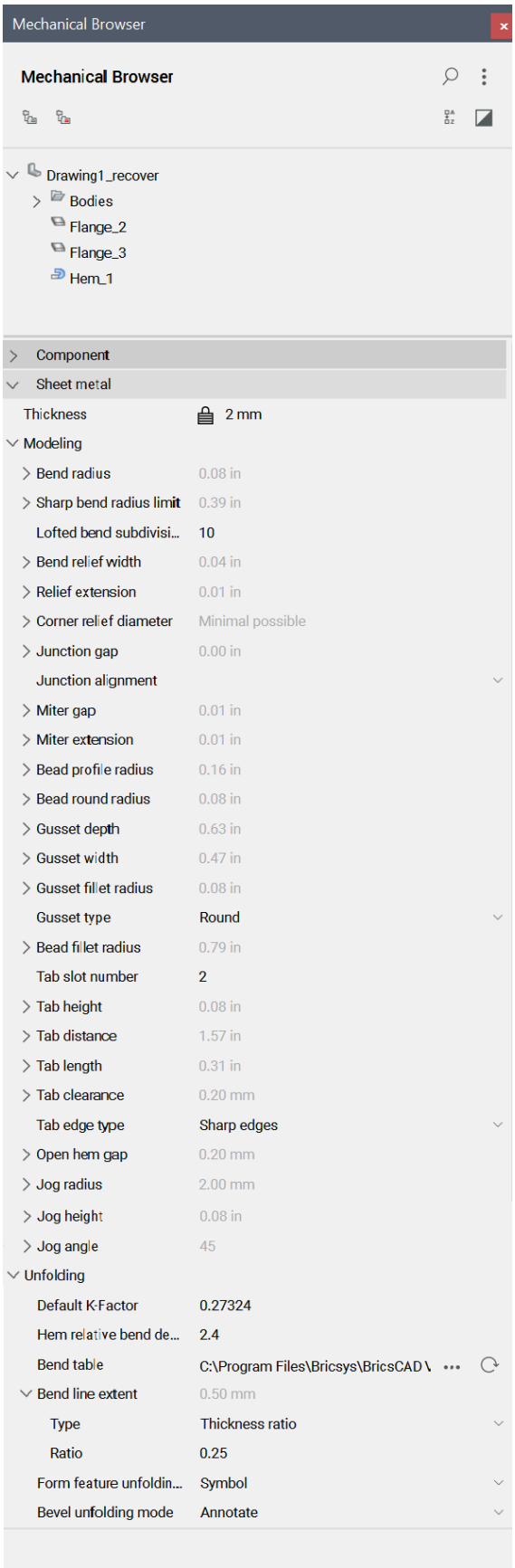
1 コンテキストメニューが表示されます：



2 **メカニカルブラウザ**を選択します。

30.5.2 板金コンテキスト

板金部品を使用する場合(板金フィーチャーを作成した場合)、**メカニカルブラウザ**のルートノードのプロパティには、**板金**セクション(図面に関連付けられた板金コンテキストとも呼ばれます)が含まれます。


Mechanical Browser
Mechanical Browser
Drawing1_recover
Bodies
Flange_2
Flange_3
Hem_1
Component
Sheet metal
Thickness
2 mm
Modeling
Bend radius
0.08 in
Sharp bend radius limit
0.39 in
Lofted bend subdivisi...
10
Bend relief width
0.04 in
Relief extension
0.01 in
Corner relief diameter
Minimal possible
Junction gap
0.00 in
Junction alignment
Miter gap
0.01 in
Miter extension
0.01 in
Bead profile radius
0.16 in
Bead round radius
0.08 in
Gusset depth
0.63 in
Gusset width
0.47 in
Gusset fillet radius
0.08 in
Gusset type
Round
Bead fillet radius
0.79 in
Tab slot number
2
Tab height
0.08 in
Tab distance
1.57 in
Tab length
0.31 in
Tab clearance
0.20 mm
Tab edge type
Sharp edges
Open hem gap
0.20 mm
Jog radius
2.00 mm
Jog height
0.08 in
Jog angle
45
Unfolding
Default K-Factor
0.27324
Hem relative bend de...
2.4
Bend table
C:\Program Files\Bricsys\BricsCAD\
Bend line extent
0.50 mm
Type
Thickness ratio
Ratio
0.25
Form feature unfoldin...
Symbol
Bevel unfolding mode
Annotate

板金のプロパティは、グループ化されたフィールドとして表示されます。

厚さフィールドは、板金ソリッドの材料の厚さを制御します。

モデリンググループには、2つの役割があります：

- 新しく作成されたモデルの SMFLANGEBASE、SMEXTRUDE、SMFLANGEEDGE、SMFLANGEBEND、SMLOFT、SMCONVERTなどの板金コマンドのデフォルト設定ができます。初期パラメータは図面に保存されるので、企業で作成する板金モデルの種類ごとに.dwtテンプレート図面のセットを作成することができます。
- コマンドによって作成された新しいフィーチャーは、通常、板金コンテキストからプロパティを取得します。たとえば、ベンドフィーチャーの**半径タイプ**プロパティのデフォルト値は「グローバル値を使用」です。したがって、板金コンテキストで**ベンド半径**を変更すると、派生プロパティを持つすべての曲げフィーチャーでその半径が変更されます。つまり、板金コンテキストプロパティの2番目の役割は、板金部品のプロパティをグローバルに変更できるようにすることです。

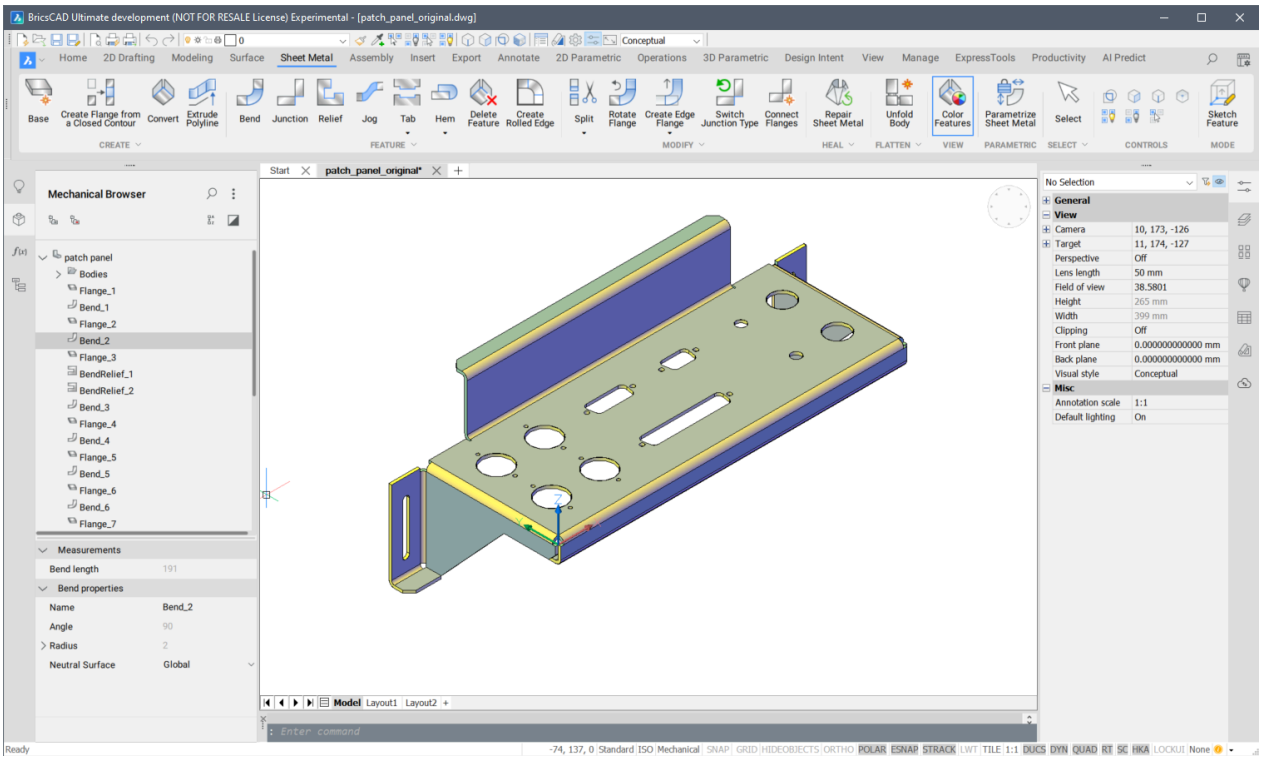
板金コンテキストのプロパティの**板金展開**グループでは、SMUNFOLD、SMEXPORT2D、SMASSEMBLYEXPORTコマンドのいくつかのプロパティが一覧表示されます。

板金コンテキストはドキュメントに最初の板金部品が表示されたときに作成され、初期パラメータに記載されている設定から初期化されます。板金部品を作成するための一般的なワークフローは、板金の設計方法のページに記載されています。板金コンテキストはドキュメント内のすべてのフィーチャーがSMDISSOLVEコマンドによって解体されると削除されます。

注：図面内のすべての板金パーツを選択して消去すると、板金ソリッドや板金フィーチャーがない場合でも、板金コンテキストが保持されます。

30.5.3 フィーチャーを用いた操作

メカニカルブラウザには、板金部品のすべてのフィーチャーが一覧表示されます。**メカニカルブラウザ**でフィーチャーを選択すると、そのフィーチャーの面がモデルでハイライト表示されます。



注：メカニカルブラウザでフィーチャーを選択すると、以下のことを行えます。

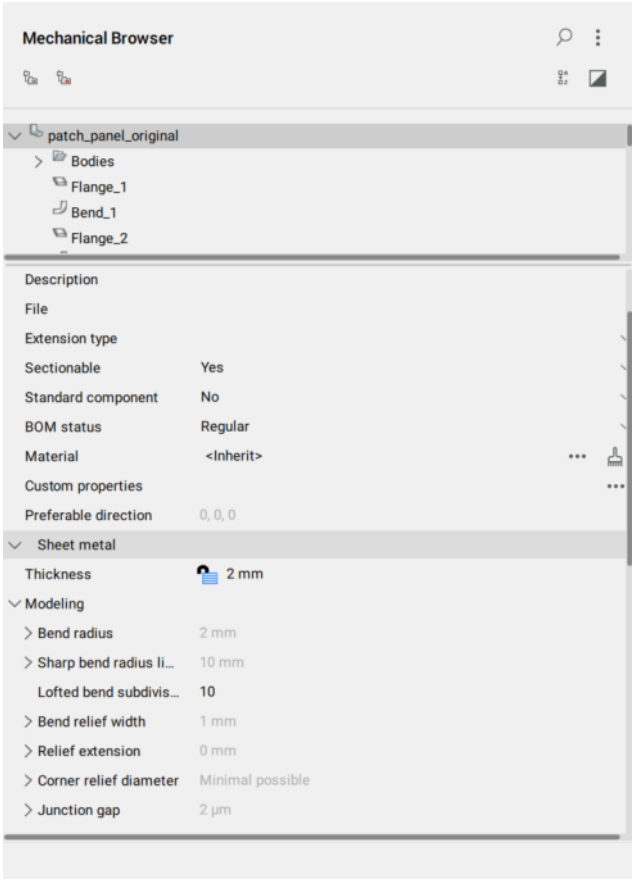
- ジオメトリをハイライト表示して、部品上のフィーチャーを見つけます。
- 特定のフィーチャーのプロパティを参照します。たとえば、ベンドフィーチャーを選択すると、**メカニカルブラウザ**に**ベンドプロパティ**が表示されます。

30.5.4 厚みの変更

板金部品の厚さを変更します：

1 **メカニカルブラウザ**でルートノードを選択します。

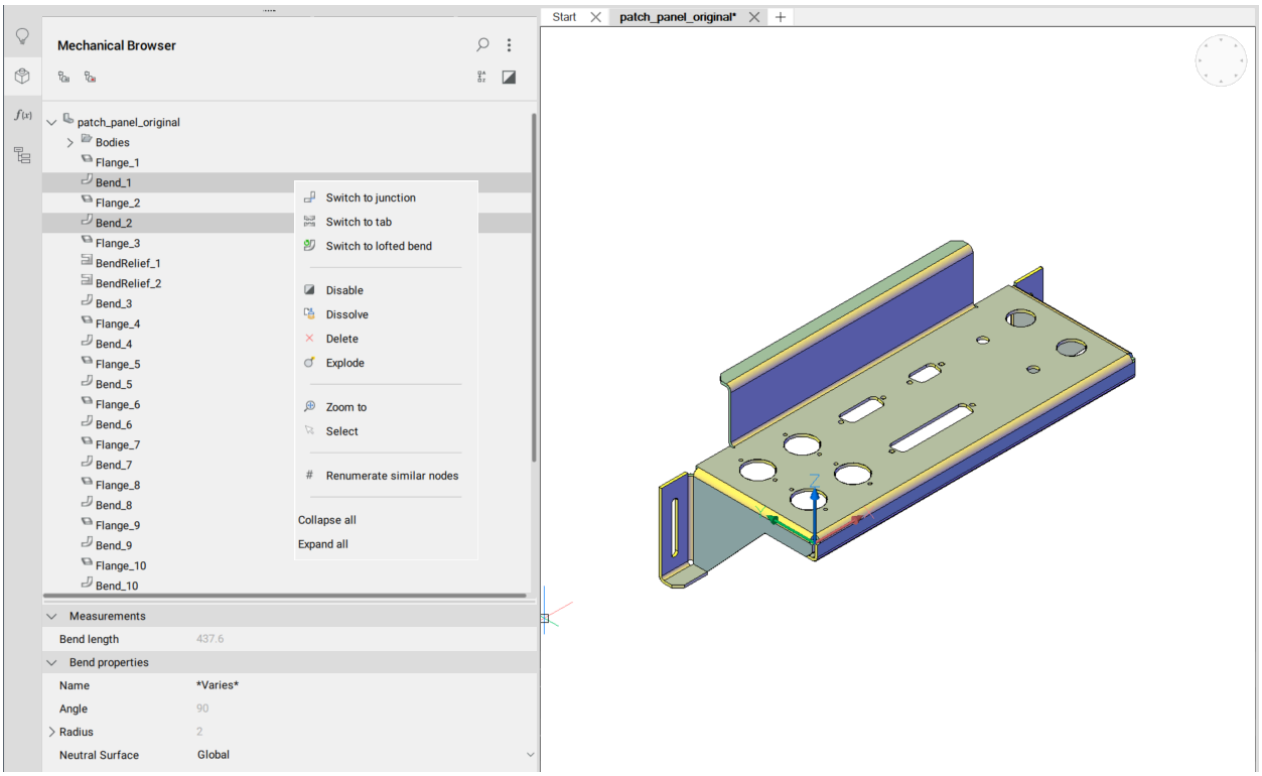
2 **厚さ**欄に数値を入力します。



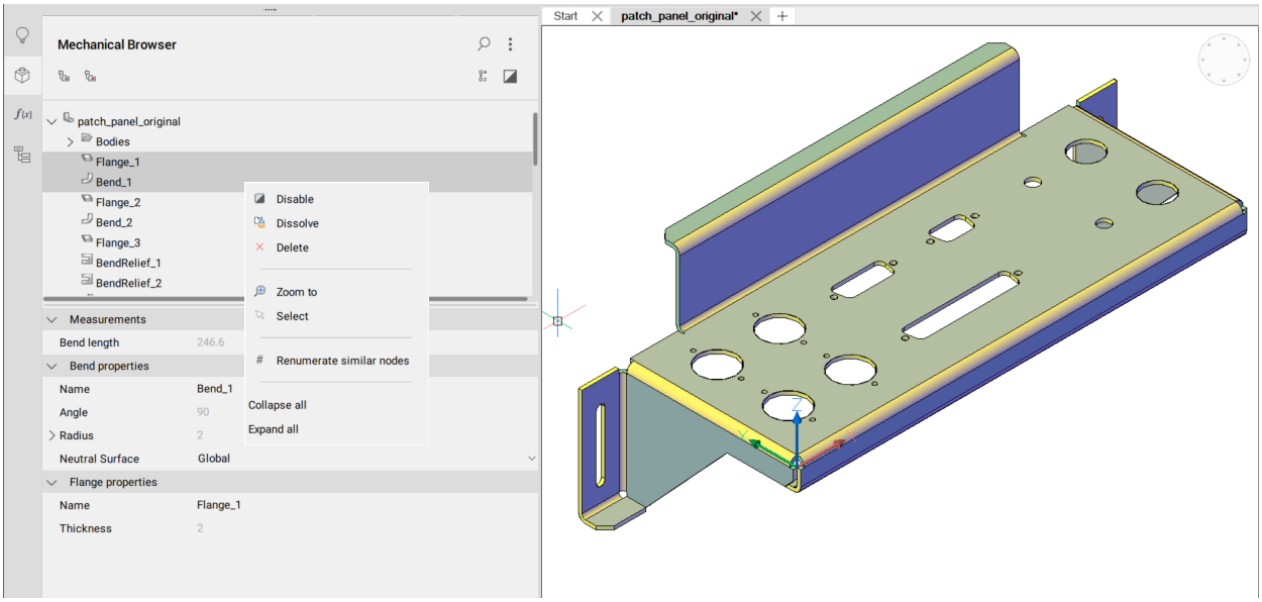
30.5.5 フィーチャー操作

メカニカルブラウザパネルでは、フィーチャーの種類に応じて、特定の板金フィーチャーに対する操作にすばやくアクセスできます。操作のリストは選択したフィーチャーによって異なり、使用可能な操作が含まれています。

2つのベンドを選択すると、ベンドフィーチャーの操作リストは次のようになります。



フランジとベントを選択すると、両方の機能で使用可能な操作に対する制限されたリストになります。



30.5.6 無効、解体、削除の違い

メカニカルブラウザでフィーチャーを右クリックし、コンテキストメニューから**分解**を選択すると、選択したフィーチャーが部品から削除されますが、そのジオメトリは維持されます。ただし、解体されたフィーチャーのジオメトリに関連付けられた設計意図(フィーチャーの面間の空間的およびパラメータ的な関係)は削除されます。

指定したフィーチャーを一時的に除去したい場合は、**無効化**オプションを選択することができます。そのフィーチャーは**メカニカルブラウザ**に残りますが、部品はそのフィーチャーが削除されたように動作します。解体とは対照的に、この機能はジオメトリの変更を更新し、必要に応じてオンにすることができ、再作成したり、SMCONVERTコマンドによる認識を回避することができます。

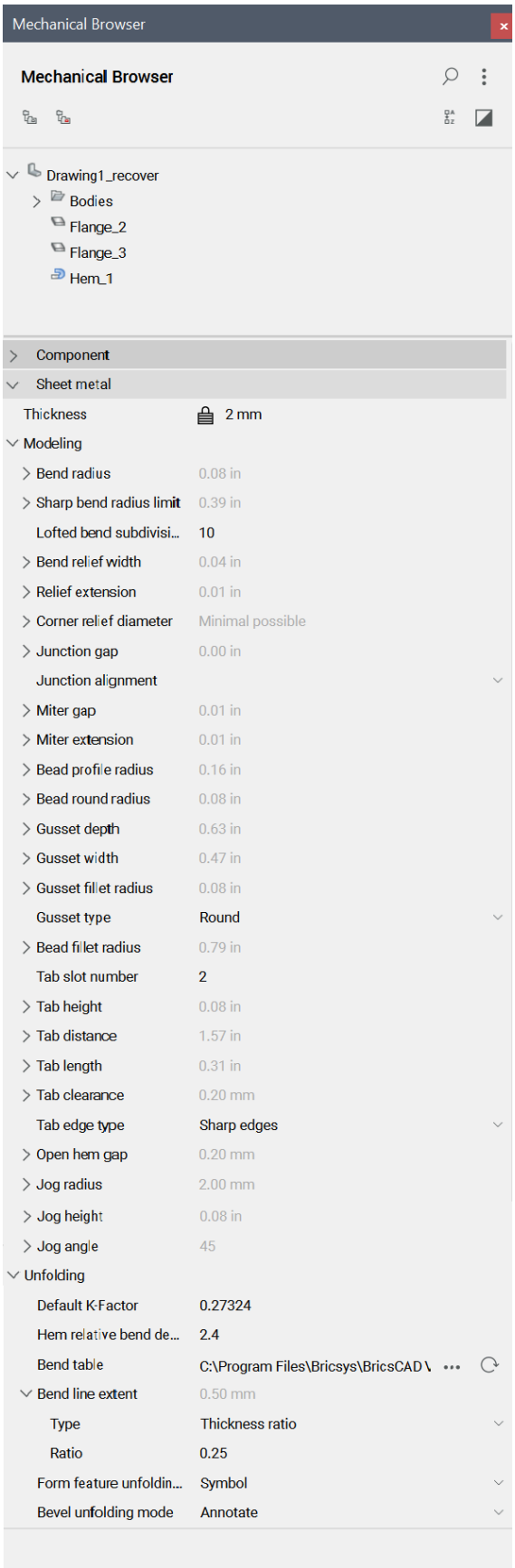
板金フィーチャーの一部は、**メカニカルブラウザ**での**削除**操作をサポートしています。これはSMDELETEコマンドの類似機能です。この場合、フィーチャーはブラウザから削除され、フィーチャーのタイプに応じてジオメトリが変更されます。

30.6 板金のグローバルプロパティとフィーチャープロパティ

30.6.1 概要

板金のフィーチャーとコンテキストメニューは、**メカニカルブラウザ**パネルにあります。一般的な原理を理解するには、**板金のメカニカルブラウザ**を参照してください。ここでは、**メカニカルブラウザ**パネルの各ノードタイプの特定のプロパティとコンテキストメニューについて説明します。

板金部品を扱う場合、**メカニカルブラウザ**パネルのルートノードをクリックすると、図面全体のプロパティが表示されます。これらのプロパティは、図面に関連付けられたグローバルな板金コンテキストと呼ばれることもありますが、各板金部品はデフォルトでこのコンテキストを共有しています。


Mechanical Browser
Mechanical Browser
Drawing1_recover
Bodies
Flange_2
Flange_3
Hem_1
Component
Sheet metal
Thickness
2 mm
Modeling
Bend radius
0.08 in
Sharp bend radius limit
0.39 in
Lofted bend subdivisi...
10
Bend relief width
0.04 in
Relief extension
0.01 in
Corner relief diameter
Minimal possible
Junction gap
0.00 in
Junction alignment
Miter gap
0.01 in
Miter extension
0.01 in
Bead profile radius
0.16 in
Bead round radius
0.08 in
Gusset depth
0.63 in
Gusset width
0.47 in
Gusset fillet radius
0.08 in
Gusset type
Round
Bead fillet radius
0.79 in
Tab slot number
2
Tab height
0.08 in
Tab distance
1.57 in
Tab length
0.31 in
Tab clearance
0.20 mm
Tab edge type
Sharp edges
Open hem gap
0.20 mm
Jog radius
2.00 mm
Jog height
0.08 in
Jog angle
45
Unfolding
Default K-Factor
0.27324
Hem relative bend de...
2.4
Bend table
C:\Program Files\Bricsys\BricsCAD \
Bend line extent
0.50 mm
Type
Thickness ratio
Ratio
0.25
Form feature unfoldin...
Symbol
Bevel unfolding mode
Annotate

特定のソリッドにローカルの板金コンテキストを割り当てることができます。これにより、さまざまな設計パラメータで板金パーツを定義したり、パーツの厚さを変更したりできます。BricsCAD V21以前では、モデル空間内のすべての部品は同じ厚さでなければならず、ユーザーは異なる厚さの部品を異なるブロックやコンポーネントに分散させなければなりませんでした。SMCONVERTおよびSMASSEMBLYEXPORTを使用して複数の読み込んだボディを持つシナリオも、この新機能のメリットがあります。もう1つの利点は、ローカルの板金コンテキストで独自の曲げテーブルを定義できることです。

30.6.2 ソリッドのコンテキストをローカルに切り替える

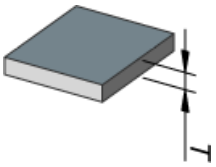
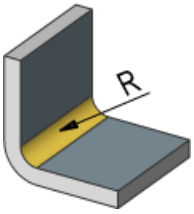
以下を実行します：

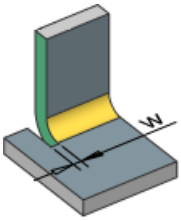
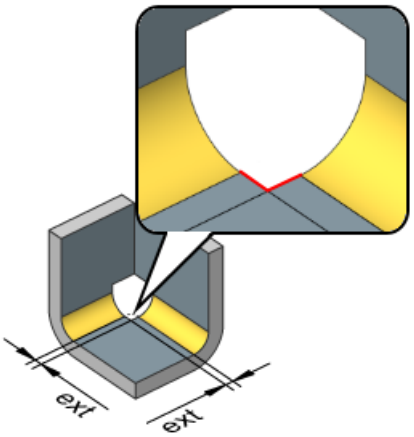
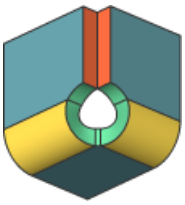
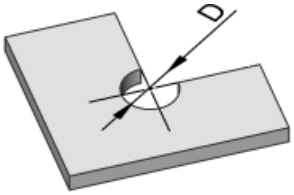
1 **メカニカルブラウザ**パネルでボディを選択します。

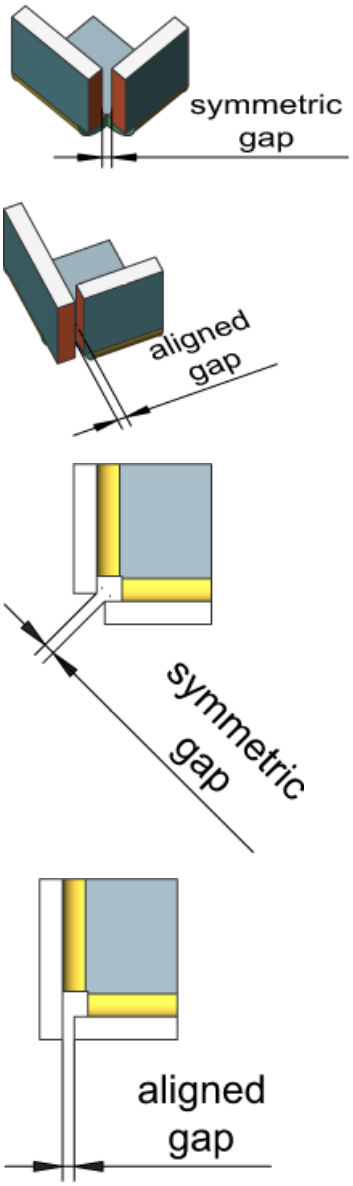
2 板金セクションで、**コンテキストタイプ**を**グローバルコンテキスト**から**ソリッドのコンテキスト**に切り替えます。

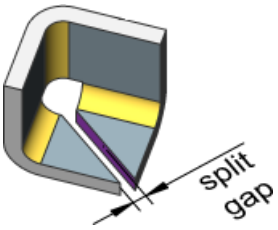
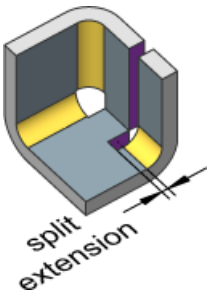
注：SMCONVERTコマンドは、厚みが異なる複数の入力の場合、一部のコンテキストを自動的にローカルに切り替えます。

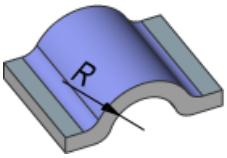
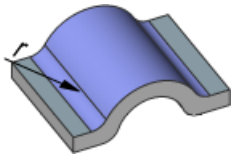
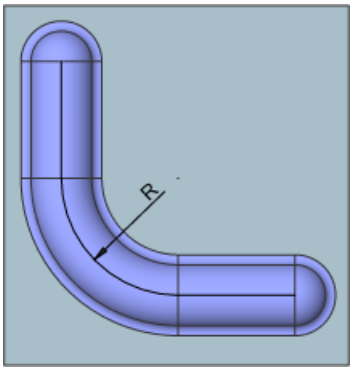
板金グローバルプロパティは、**メカニカルブラウザ**の下部にあります。

グローバルプロパティ	説明
厚さ	グローバルな板金マテリアルの厚さ 
ベンド半径	ベンドフィーチャーのデフォルトの半径：ベンドごとに変更することもできます。 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 
急なベンド半径の限界	シャープな(通常)ベンドと見なされる最大曲げ半径：SMCONVERTおよびSMRELIEFCREATEコマンドで使用され、通常のベンドとロフトベンドを区別します。 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。
ロフトベンドサブディビジョン	展開されたロフトベンドのサブディビジョンのデフォルト数を設定

グローバルプロパティ	説明
ベンドリリーフ幅	単一のベンド付近のカットの幅 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 
リリーフ延長	ベンドやコーナーリリーフの延長サイズ • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 
コーナーリリーフの直径	円形コーナーリリーフのデフォルトの直径 **種類**：最小限の可能値や絶対値。  

グローバルプロパティ	説明
ジャンクションギャップ	2つの隣接するフランジ間のギャップ • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 

グローバルプロパティ	説明
ジャンクションアライメント	ジャンクション面と対応するコーナーリリーフ面の整列の制御 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 • **ジャンクションアライメント**：有効または無効 **有効** **無効**
マイターギャップ	分割するときのフランジまたは隣接するベンドの厚さ面間のギャップ：SMSPLITを参照してください。 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 
マイター拡張	フランジを分割した場合に隣接するフランジの切り込みの制御 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 

グローバルプロパティ	説明
ビードプロファイル半径	ビードを作成するツールの半径 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 
ビード丸み半径	フランジとビードの間のフィレットの半径 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。 
ビードフィレット半径	ビードコントロールカーブのフィレットの半径。フォームおよびビードフィーチャーの操作を参照してください。 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。 
タブスロット数	タブスロット数を定義
タブ高さ	タブの高さを定義 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。
タブ距離	タブの距離を定義 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。

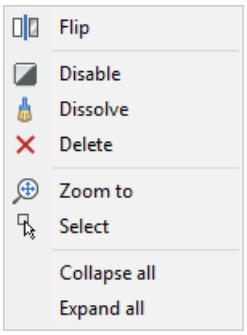
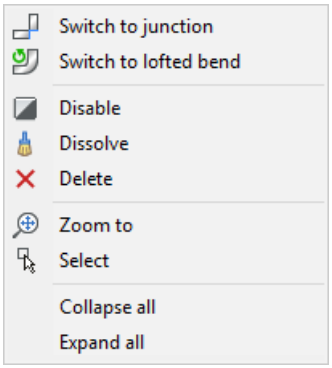
グローバルプロパティ	説明
タブ長	タブの長さを定義 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。
タブクリアランス	タブクリアランスを定義 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。
タブエッジタイプ	タブエッジタイプの制御 • **シャープなエッジ**：タブのエッジがシャープになります。 • **ラウンドエッジ**：タブのエッジに丸みを付けます。**タブの丸みの半径**のタイプと値を定義する必要があります。 • **面取りエッジ**：タブのエッジが面取りされます。**タブの面取り距離**のタイプと値を定義する必要があります。
ヘムギャップを開く	ヘムのギャップを定義 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。
ジョグ半径	ジョグの半径を定義 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。
ジョグ高さ	ジョグの高さを定義 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：数値。
ジョグ角度	ジョグの角度の値を定義
板金展開	板金展開の表現のパラメータ
デフォルトのK係数	厚さに等しいベンド半径のK係数
ヘム相対ベンド展開長補正	展開するヘムの特徴で使用される厚さに対するベンド展開長補正を定義
ベンドテーブル	CSVファイル形式のベンドテーブルを開くダイアログを表示
ベンドライン範囲	ベンドラインが展開境界を超えてどの程度伸びるかの制御：0および負の値が許容されます。 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。 • **値**：係数または値のいずれか。

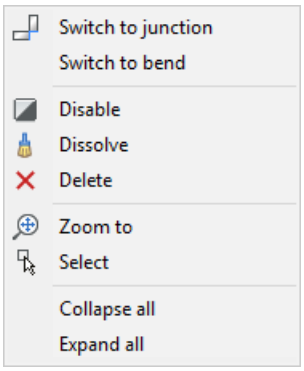
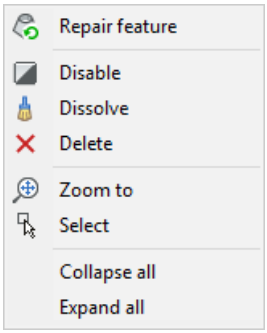
グローバルプロパティ	説明
フォームフィーチャーの展開モード	板金展開の表現でのフォームフィーチャーの外観の制御 • **保持**：フォームフィーチャーの3D表現を維持。 • **削除**：板金展開表現からフォームフィーチャーを完全に削除。 • **プロジェクト**：2D図形としてすべてのフォームフィーチャーとエッジを投影。 • **輪郭**：2D図形としてフォームフィーチャーの輪郭のみを投影。 • **シンボル**：展開された表現の挿入点に2Dシンボルを配置。 • **中心マークなしの投影**：フォームフィーチャーのすべてのエッジを、中心マークのない2D図形として投影します。 • **中心マークなしの輪郭**：フォームフィーチャーの輪郭のみを、中心マークのない2D図形として投影します。
ベベル展開モード	ベベル展開モードの制御：**ベベルの操作**に関する記事を参照してください。 • **保持**：すべてのベベルフィーチャーをそのまま保持します。 • **削除**：すべてのベベルフィーチャーを削除します。 • **注釈**：各ベベルフィーチャーが削除され、エッジに注釈が付けられます。このモードを推奨します。

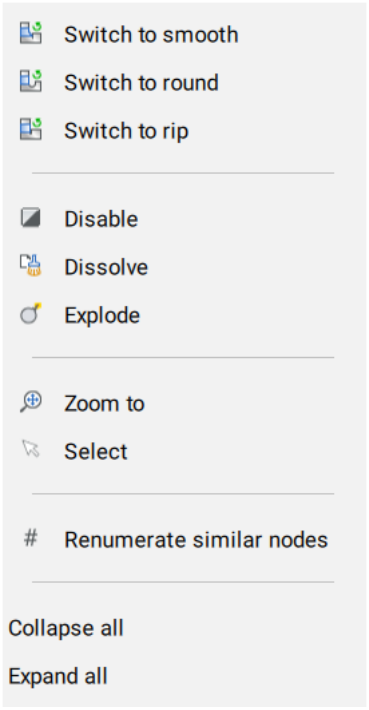
メカニカルブラウザパネルでフィーチャーを選択すると、フィーチャープロパティが自動的に表示されます。

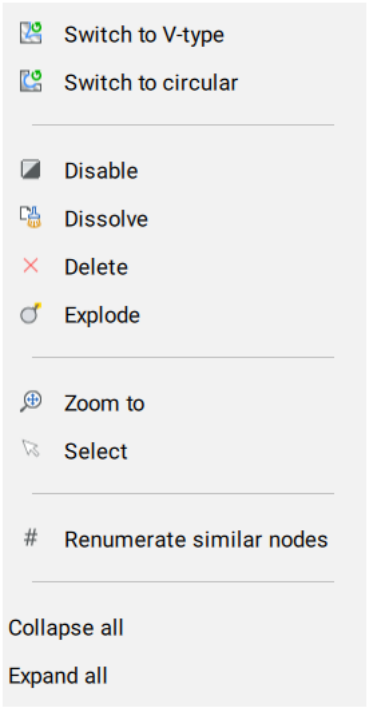
フィーチャーを右クリックすると、フィーチャーのコンテキストメニューが表示されます。

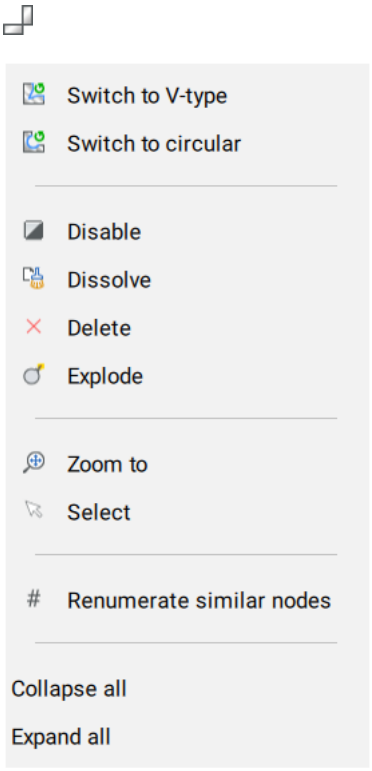
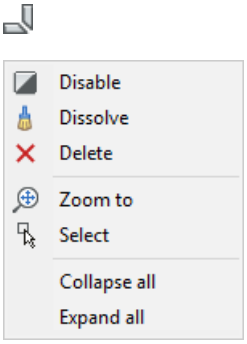
コンテキストメニュー	説明
	共通のツール： • **無効化**：一時的にフィーチャーを無効にし、その拘束をスキップします。 • **分解**：フィーチャーを削除し、ジオメトリを保持するために使用します。分解フィーチャーのジオメトリに関連した設計意図が削除されます。 • **削除**：SMDELETEコマンドを参照してください。メカニカルブラウザからフィーチャーを削除し、モデル内の対応するジオメトリを削除します。 • **ズーム**：選択したフィーチャーにズームします。 • **すべて折りたたむ**：すべてのコンポーネントとサブコンポーネントを含むメインコンポーネントを折りたたみます。 • **すべて展開**：メインコンポーネントとすべてのコンポーネント、およびサブコンポーネントを展開します。

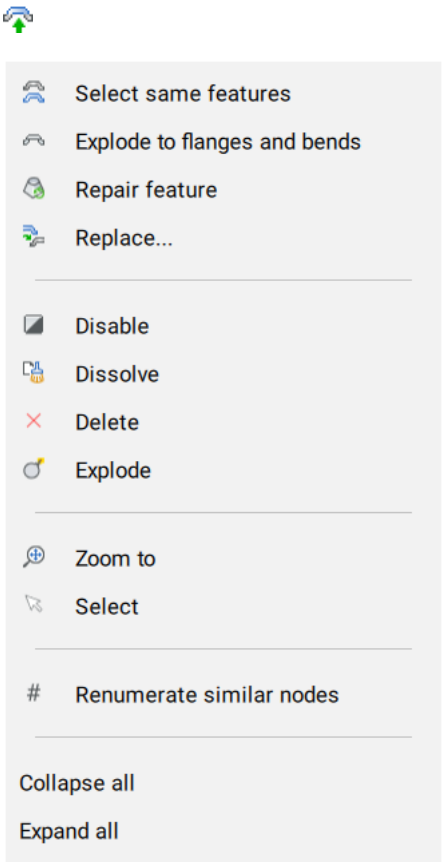
コンテキストメニュー	説明
フランジフィーチャー	フランジフィーチャーを右クリック：  **反転**：基準面がフランジの反対側のジオメトリックな側面になるように、選択したフランジの側面を入れ替えます。この操作は基準面の位置を維持するために、フランジをその厚さ分だけ移動させるものです。
ベンドフィーチャー	ベンドフィーチャーを右クリック：  • **ジャンクションに切替**：隣接フランジ間のギャップを持つジャンクションフィーチャータイプに切り替えます。 • **タブへ切替**：タブフィーチャーに切り替えます。 • **ロフトベンドに切替**：ロフトベンドフィーチャーに切り替えます。

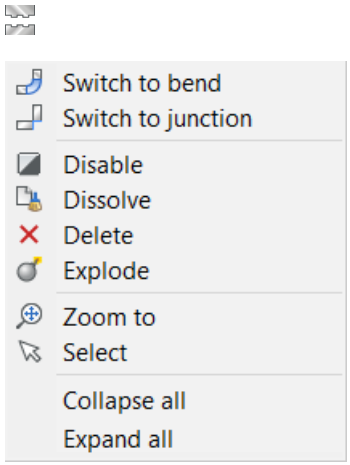
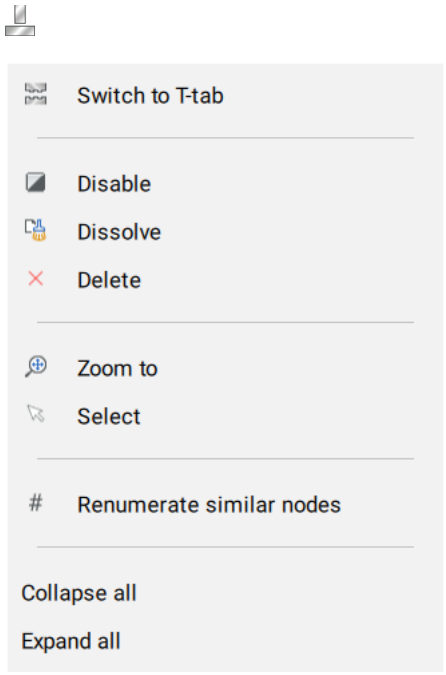
コンテキストメニュー	説明
ロフトベンドフィーチャー	ロフトベンドフィーチャーを右クリック：  • **ジャンクションに切替**：隣接フランジ間のギャップを持つジャンクションフィーチャータイプに切り替えます。 • **ベンドへ切替**：ベンドフィーチャーへ切り替えます。
間違ったベンドフィーチャー	間違ったベンドフィーチャーを右クリック：  **フィーチャーを修復**：可能であれば、適切なジオメトリを使用してベンドフィーチャーを作成し、間違ったベンドフィーチャーを修復します。

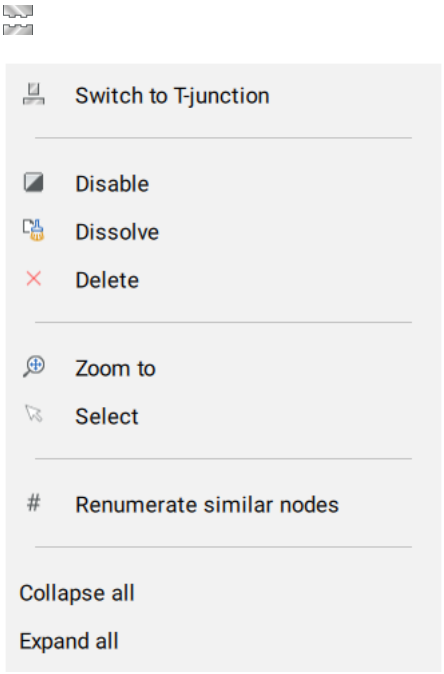
コンテキストメニュー	説明
ベンドリリーフフィーチャー	ベンドリリーフフィーチャーを右クリック：  **スムーズ、丸み、またはリップへ切替**：ベンドリリーフを、選択したフィーチャータイプに切り替えます。

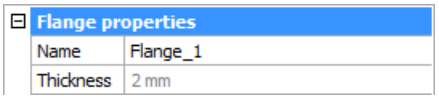
コンテキストメニュー	説明
コーナーリリーフフィーチャー	コーナーリリーフフィーチャーを右クリック：  **V型や円形へ切替**：コーナーリリーフを、選択したフィーチャータイプに切り替えます。

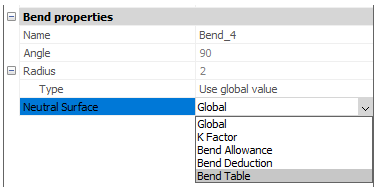
コンテキストメニュー	説明
ジャンクションフィーチャー	ジャンクションフィーチャーを右クリック：  • **ベンドへ切替**：ベンドフィーチャーへ切り替えます。 • **リブへ切替**：リブフィーチャーに切り替えます。 • **フィーチャーの種類を切替**：整列モードを左右対称にするか、片方のフランジに沿わせるかを切り替えます。
マイターフィーチャー	マイターフィーチャーを右クリック： 

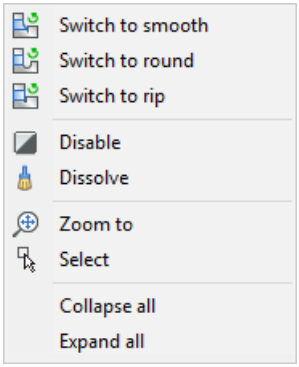
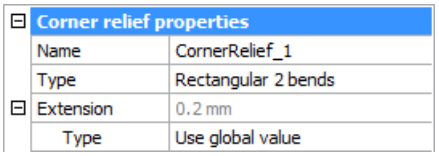
コンテキストメニュー	説明
フォームフィーチャー	フォームフィーチャーを右クリック：  • **同じフィーチャーを選択**：モデル内の同じタイプのすべてのフォームフィーチャーを選択します。 • **フランジやベンドに分解**：可能であれば、フォームフィーチャーからフランジとベンドのセットに分解します。 • **フィーチャーを修復**：フォームフィーチャーの挿入点を再計算します。 • **置換...**：置換フォームフィーチャーを選択するための開くダイアログボックスを表示します。

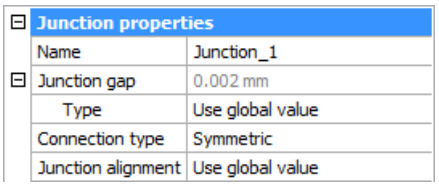
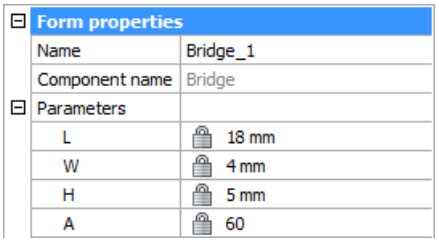
コンテキストメニュー	説明
タブフィーチャー	タブフィーチャーを右クリック：  • **ベンドへ切替**：タブフィーチャーをベンドフィーチャーへ切り替えます。 • **ジャンクションへ切替**：タブフィーチャーをジャンクションフィーチャーに変換します。
Tジャンクションフィーチャー	Tジャンクションフィーチャーを右クリック：  **Tタブへ切替**：TジャンクションフィーチャーをTタブフィーチャーに変換します。

コンテキストメニュー	説明
Tタブフィーチャー	Tタブフィーチャーを右クリック：  **Tジャンクションへ切替**：Tタブフィーチャーを Tジャンクションフィーチャーに変換します。

フィーチャーのプロパティ	説明
	共通のプロパティ： **名前**：選択した板金フィーチャーの名前。フィーチャーの名称を入力します。デフォルトのフィーチャー名は、フィーチャータイプと増分になります。例：フランジ_1、フランジ_2、...
フランジフィーチャー	フランジフィーチャーをクリック：  **厚さ**：カレントの厚さ。値は読み取り専用で、板金コンポーネントの厚さプロパティと等しくなります。

フィーチャーのプロパティ	説明
ベンドフィーチャー	ベンドフィーチャーをクリック：  • **角度**：ベンドフィーチャーのカレントの角度です。SMFLANGEROTATEコマンドで変更することができます。 • **半径**：カレントのベンド半径。 • **半径タイプ**： - 厚さ係数：厚さに係数を掛けた比率 - 絶対値：グローバル値(主要な板金コンポーネントのプロパティ) - グローバル値を使用：パラメータの有効値は板金コンテキストから取得されます。 • **ニュートラルサーフェス**：特定のベンドのニュートラルサーフェスを設定します。 - グローバル：グローバルKファクターまたはベンドテーブルを使用します。 - K係数：K係数を定義してニュートラルなサーフェスをオーバーライドします。 - ベンド許容差(BA)：ベンド許容差を定義してニュートラルなサーフェスをオーバーライドします。 - ベンド展開長補正(BD)：ベンド展開長補正を定義してニュートラルなサーフェスをオーバーライドします。 - ベンドテーブル：ベンドテーブルを定義してニュートラルなサーフェスをオーバーライドします。

フィーチャーのプロパティ	説明
ベンドリリーフ	ベンドリリーフフィーチャーをクリック：  • **リリーフ種類**：カレントのリリーフ種類。矩形、スムーズ、丸みまたはリップのいずれか。 • **幅**：ベンド付近のカットの幅。グローバル、厚さ係数または絶対値のいずれか。
コーナーリリーフ	コーナーリリーフフィーチャーをクリック：  • **リリーフ種類**：カレントのリリーフ種類。矩形の2つのベンド、矩形、V型または円形のいずれか。 • **幅**：ベンド付近のカットの幅。グローバル、厚さ係数または絶対値のいずれか。

フィーチャーのプロパティ	説明
ジャンクションフィーチャー	ジャンクションフィーチャーをクリック：  • **ジャンクションギャップ**：2つの隣接フランジの間のギャップ。 • **ジャンクションギャップ種類**：グローバル、厚さ係数、または絶対値のいずれか。 • **接続タイプ**：隣接フランジの相対位置をコントロールします。対称位置またはフランジの一方に隣接する位置のいずれかになります。 • **ジャンクションアライメント**：ジャンクションフィーチャーの面の位置を制御します。 - グローバル値を使用 - 有効(対応するコーナーレリーフフィーチャー面に合わせて) - 無効
マイターフィーチャー	マイターフィーチャーをクリック： • **マイターギャップ**：マイターの側面間のギャップ。 • **種類**：厚さ係数または絶対値のいずれか。
フォームフィーチャー	フォームフィーチャーをクリック：  • **コンポーネント名**：フォームフィーチャーコンポーネント定義の名前。 • **パラメータ**：パラメトリック板金フォームフィーチャーのパラメータが含まれています。

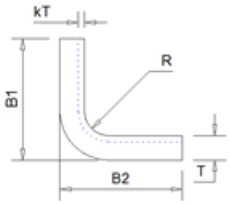
フィーチャーのプロパティ	説明
ベベルフィーチャー	ベベルフィーチャーをクリック： **Bevel properties** Name: Bevel_1 Bevel type: Land bevel Side bevel Depth: 1 Angle: 45 Orthogonal bev Depth: 1 • **ベベル種類**：ジオメトリに応じて、ベベルのタイプを定義します。可能な値：片側、ランド、XおよびKベベル。ベベルタイプによっては、パラメータが変更される場合があります。 • **辺のベベル**：このベベルの片側の面取りのパラメータ。 • **直交ベベル**：直交側のパラメータ。

30.7 K係数

30.7.1 概要

プレス機で金属シートを曲げると、その材料が変形します。これが非展開状態と展開状態でシートの全長が異なる理由です。BricsCADでは板金部品を展開すると、この変形が自動的に考慮されます。計算には2つのアプローチが使用されます。単純化された方法(K係数)と、より高度な方法です。

ベントの材料変形の特性は、板金を折り曲げた時に変形しない内側のサーフェスが板金部品に存在するという前提に基づいています。さまざまな内側サーフェスから、ベンドの片側から等距離にある1つの面が選択されます。個々のベンドではサーフェスはローカルですが、簡単な部品等の場合には、図に示すように、部品全体に影響を与えることがあります。このサーフェスはベンドの際に伸縮しないと仮定します。



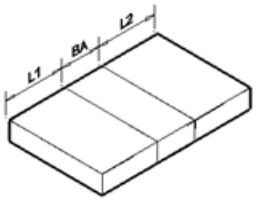
T：材料の厚み

R：内側ベンド半径

K係数(k)とは、素材の厚みに対するニュートラルなサーフェス(面)の位置の比率を言います。つまり、ニュートラルなサーフェスはベンドの内面から距離kTにあります。ニュートラルなサーフェスのベンド半径はR+kTになります。K係数は、ニュートラルなサーフェスの位置の単純な幾何学計算です。形成応力やその他の不明(エラー)要素については考慮していません。K係数は、素

材の種類やベンドの種類、ツールなど多くの要因に依存しますが、K係数は通常0.3から0.5になります。デフォルトでは、材料の厚み(T)に等しいベンド半径のK係数は0.27324です。

注：SMDEFAULTKFACTORシステム変数は、K係数のデフォルト値を設定します。



板金部品を展開させた状態では、フランジ(L1とL2)は伸縮しません。ベンド部分はBA(**ベンド許容差**)と表記されます。BAは展開したニュートラルなサーフェスの長さと同じです。

ベンド許容差：BA = BendAngle *(R + kT)

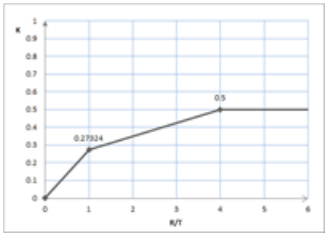
実際には、K係数やベンド許容差を測定することは困難です。以下の数式で接線の**ベンド展開長補正**(BD)を算出できます。

ベンド展開長補正：BD = B1 + B2 - Unfolded Length = B1 + B2 - (L1 + L2 + BA)

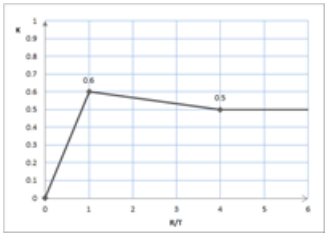
単純な場合では、K係数値をメカニカルブラウザで上書きできます。最高の精度を得るには、ベンド展開長補正を含むベンドテーブルを用意する必要があります。板金部品ごとにそれぞれK係数を指定するか、デフォルト値を使用できます。

30.7.2 板金部品のK係数を変更

板金部品のK係数を変更するには、メカニカルブラウザでルートノードを選択し、**K係数**欄に数値を入力します。板金部品の内側にはニュートラルなサーフェスがあるので、数値は[0～1]の範囲内でなければなりません。BricsCADでは、Kファクターは、材料の厚さ(R / T = 1)に等しい曲げ半径に対して定義されます。任意の曲げ半径の**Kファクター**の値を計算するために、BricsCADは、工業用板金アプリケーションに有効であることが証明されている特別な補間技術を使用します。下図は、その補間方法を示しています。ここでは、R/T<1の場合に直線補間は0～0.27324で行われ、1<R/T<4の場合にはK係数の直線補間が0.27324～0.5で行われます。また、R/T>4ならば、K係数は0.5で一定です。物理的には、ベンド半径が素材の厚みよりも相当大きい場合には(最低4倍以上)、素材の伸縮は無視しても構いません。



メカニカルブラウザで制御できる唯一のK係数パラメータは、R/T=1です。つまり、パラメータを0.6に設定した場合、補間法に従い以下の結果が導き出されます。

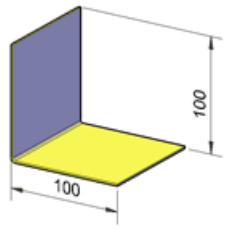


画像：ブラウザのK係数を変化させると、次の有効曲線につながります。

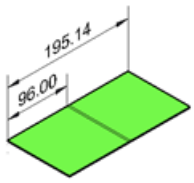
この曲線の特徴は、Rを(0, T)の範囲で変化させると、L1+L2+BAが同じ値になることです。これは、ベンド工具の半径が通常厚み以上になるため、物理的プロセスモデリングではなく、設計の利便性のためであるという事実によって説明されます。

コントロールカーブ設定によってK係数を変化させた例を確認します。(曲げ半径は一定に保たれます)

T = 2、R = 2、B1 = 100、B2 = 100



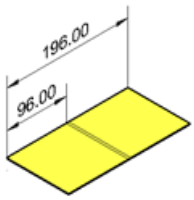
K=0に設定するとL1=L2=96で、展開長=195.14になり、BAは3.14となります。



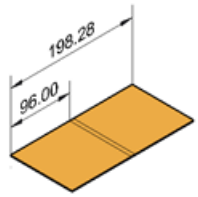
この値は式に正確に適合します。ラジアン単位の直線角度はおよそ1.57(PI / 2)に等しくなります。デフォルトのK係数0.27324では、展開長=196になります。

または、L1=L2=96(フランジは変形しません)、寸法(196-2*96)またはベンド許容差の式から計算できるため、BA=4になります。

BA = BendAngle * (R + kT) = 1.57* (2 + 2*0.27324) = 4



最後に、K係数を最大化すると、展開長=198.28になります。ニュートラルなサーフェスはベンドの外側から取り出されるため、この例では最大値になります。



kに関するベンド展開長補正(BD) = 0.27324：

BD = B1 + B2 - 展開長 = 100 + 100 - 196 = 4

30.8 ベンドテーブル

30.8.1 概要

ベンドテーブルは、K係数よりも材料の変形特性を表現するためのより信頼性の高い方法です。特定の材料の平面シートを物理的に曲げると、このプロセスの前後でその長さを測定できます。さまざまなベンド角度、ベンド半径、およびシートの厚さに対してこの手順を繰り返し、測定値をベンドテーブルに保存できます。これらの測定値は、同じ材料で作られたすべての部品の正しい展開長さを計算するために考慮することができます。

ベンドテーブルでは、必要な数の異なるベンド角度の測定値を追加できます。ただし、ほとんどの場合、90度の角度で長さを測定するだけで十分です。BricsCADの信頼性の高い補間手法を使用して、他のベンド角度の長さを自動的に計算します。

ベンドテーブルは、*.csv(カンマ区切り値)ファイル形式で保存されます。メモ帳などのASCIIテキストエディタでベンドテーブルを作成できますが、Microsoft ExcelやLibreOfficeのような表計算ソフトを使うとより確実かつ簡単にテーブルを作成できます。作成後、テーブルを.csvファイル形式に書き出します。

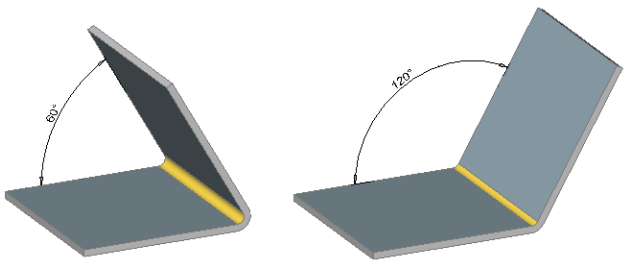
BricsCADのベンド表の構成は以下の通りです。

ベンドテーブルの例

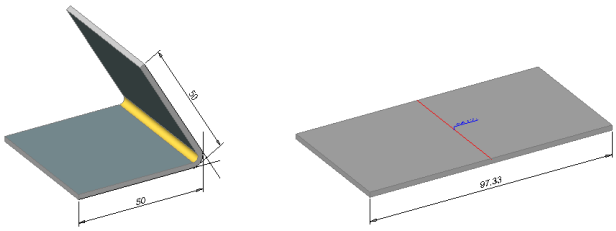
	A	B	C	D	E	F	G
1	BricsCAD						
2	Version	1					
3	AngleType	Internal					
4	LengthType	BendDeductionTangent					
5							
6	Thickness	1					
7	AngleValues		45	60	90	120	135
8	Radius	1	1	1.333	2	0.976	0.657
9	Radius	2	0.466	1.081	2.31	1.004	0.641
10	Radius	3	-0.069	0.828	2.621	1.033	0.624
11							
12	Thickness	1					
13	DieWidth	10					
14	AngleValues		45	60	90	120	135
15	Radius	1	1.225	1.533	2.15	1.076	0.732
16	Radius	2	0.616	1.214	2.41	1.071	0.691
17	Radius	3	0.006	0.895	2.671	1.066	0.649

以下のルールが適用されます。

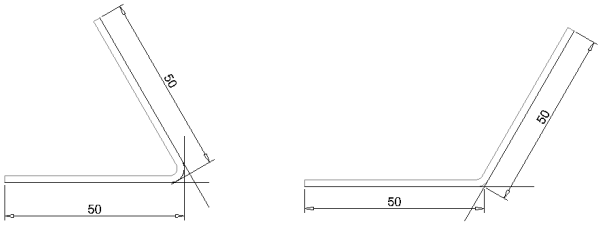
- 最初のセルの内容は**BricsCAD**です。
- **Version**：現在サポートされているバージョンは1です。
- **AngleType**：現時点では内側ベンド角度のみがサポートされています。



- **LengthType**：特定のベンド角度とベンド半径に対応するベンドテーブルのセルの値のセマンティクス。現時点では、接点からのベンド展開長補正のみ対応しています。(**ベンド展開長補正接線**)ベンド展開長補正(BD)とは、3Dモデル上の接点までの長さを2つのフランジで測定した合計と、同じ部分の展開時の長さとの差分をいいます。



詳細：鋭角と鈍角の接線方向のベンド展開長補正を計算する方法



- 定義されたヘッダー内に、複数のテーブルが存在する可能性があります。各テーブルの最初のキーは、板金部品の**Thickness**です。2番目のキーである**DieWidth**はオプションです。**Thickness/DieWidth**は必ず固有の組み合わせである必要があります。**DieWidth**が定義されていない場合、1つの固有の**Thickness**値キーのみが使用できますが、複数のThickness値を追加することもできます。ベンドテーブルを使用して展開プロセスを制御する場合、板金部品で定義された**Thickness**と**DieWidth**がベンドテーブルに存在する必要があります。テーブルが見つからない場合は、デフォルトのK係数ポリシーが使用されます。
- .CSVでベンドテーブルが見つかると、それを使用して板金パーツを展開します。上記のサンプルベンドテーブルを使用して、いくつかのケースを確認しましょう。
- T =Thickness(厚さ)、R =Internal Bend Radius(内側ベンド半径)、A =Bend Angle(ベンド角度)
    - T=1、R=2、A=45次に展開すると、BD=0.466が得られます。RとAの両方が、指定された厚さのベンドテーブルにあるためです。
    - T=1、R=2.5、A=45A=45は見つかりますが、R=2.5は欠落しています。R=2とR=3の間のBDの補間値が使用されます。
    - T=1、R=2.5、A=75テーブルにはRもAも見られません。BDの値の計算には、(R=2、A=60)、(R=3、A=60)、(R=2、A=90)、(R=3、A=90)のセルが用いられます。

  アルゴリズムは、補間を計算するために使用されます。例えば、隣接するBD値の線形補間は、実際のベンド結果と一致しない不自然な結果となることがあります。また、特定のT、R、Aについても、BD値が必ずしも合理的な数値とは限らないことも覚えておいてください。ランダムな値は、ニュートラルなサーフェスが板金部品の外側に配置されたり、(BDから推測した)K係数で表されることがあり、またK係数が[0, 1]の範囲外となることもあります。その場合、デフォルトのK係数のBDが使用されます。
- さまざまなツールを使用して板金部品を作成する場合、**DieWidth**パラメータを使い1つのベンドテーブルでこれらを記述することができます。BricsCADインストールフォルダーの¥Samples¥Mechanical¥bend_tablesにあるサンプルのベンドテーブルをご活用ください。

  注：このフォルダーへの書き込み権限が制限される場合があります。このような場合、フルアクセス権を持つ別のフォルダーにベンドテーブルをコピーする必要があります。

30.8.2 板金部品のベンドテーブル設定

1 **メカニカルブラウザ**でルートノードを選択します。

2 **ベンドテーブル**フィールドを選択します。

3 **ブラウズ**ボタンをクリックします。(…)

4 *.CSVファイルを選択します。

5 ダブルクリックするか、**開く**ボタンを選択します。

30.8.3 以前に設定したベンドテーブルの更新

1 **メカニカルブラウザ**でルートノードを選択します。

2 **ベンドテーブル**フィールドを選択します。

3 **ファイルをリロード**ボタン(↻)をクリックします。

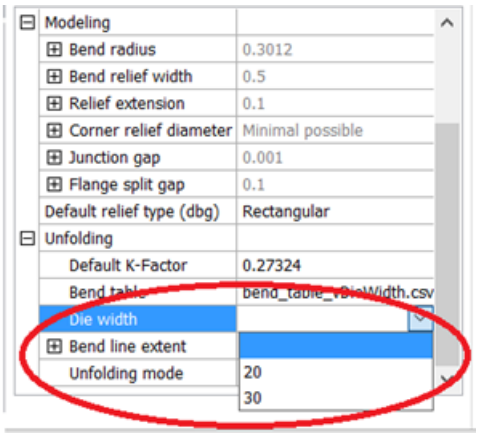
ベンドテーブルがドキュメントに割り当てられていないか、**DieWidth**セカンダリキーがない場合、**DieWidth**パラメータを単独のベンドまたはすべてのベンドに割り当てることはできません。割り当てを行うには、次の手順を実行します。

	A	B	C	D
1	BricsCAD			
2	Version	1		
3	AngleType	Internal		
4	LengthType	BendDeductionTangent		
5				
6	Thickness	1		
7	AngleValues		90	
8	Radius	1	2.1	
9				
10	Thickness	1		
11	DieWidth	20		
12	AngleValues		90	
13	Radius	1	1.7	
14				
15	Thickness	1		
16	DieWidth	30		
17	AngleValues		90	
18	Radius	1	1.8	

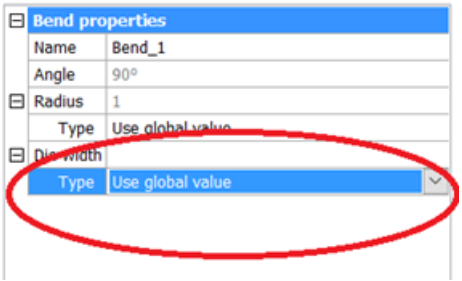
1 .CSVファイルの**DieWidth**セカンダリキーと現在の部品に一致する厚さを選択します。以下に示す例では、部品の厚さが1mmで、ベンド半径も1に等しいと仮定します。ベンド展開長補正についてはツールごとに異なります。ツールを指定しない場合は第1サブテーブル、**DieWidth**が20であれば第2サブテーブル、**DieWidth**が30であれば第3サブテーブルが使用されます。

2 ベンドテーブルを板金部品に割り当てます。

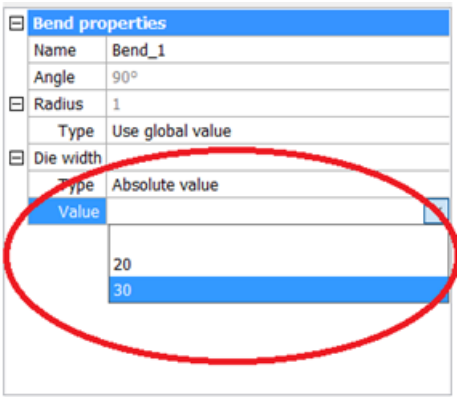
3 **メカニカルブラウザ**に新しいフィールドが表示されることを確認します。



このグローバル設定では、パーツの厚さに適したデフォルトの**ダイ幅**値を選択できます。この値はデフォルトで部品内のベンドに割り当てられます。**メカニカルブラウザ**でベンドを選択し、ベンドのプロパティを確認します。



4 ドロップダウンリストを展開することで、特定のベンドに使用されるツールを選択できます。



5 特定の選択では、ベンド_1を展開すると、ベンドテーブルから3番目のサブテーブルがベンド展開長補正に使用され、値1.8が用いられます。残りのベンドについては、**DieWidth**が設定されている場合を除き、デフォルトのダイ幅なしの値が適用され、1番目のベンドテーブルが適用されてベンド半径が1、90度の場合に値2.1が用いられます。

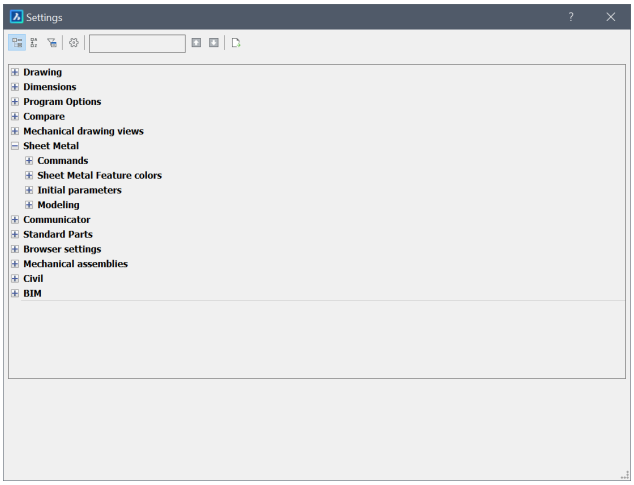
注：ベンドに**DieWidth**を割り当ててドキュメントを保存すると、値がベンドに保存されます。ただし、次に図面を開いたときに、**DieWidth**値を別のベンドに割り当てるには、**ファイルをリロード**ボタン(🔄)を押して、最初にベンドテーブルを再ロードする必要があります。**以前に設定したベンドテーブルを更新する**を参照してください。再ロードすると、ベンドテーブルの値が利用可能になります。

注：モデル空間内の異なるソリッドのベンドテーブルを変更するには、各ソリッドごとにローカル板金コンテキストを定義します。

30.9 板金の設定

30.9.1 概要

設定ダイアログボックスの[板金]セクションは、BricsCADの板金のさまざまなプロパティを制御します。プロパティは、**コマンド**、**フィーチャーの色**、**初期パラメータ**、および**モデリング**の4つのグループに分かれています。

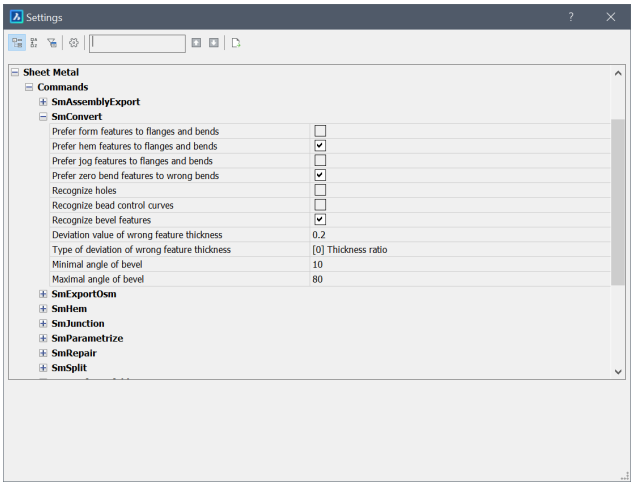


注：ほとんどの板金設定は図面に保存されます。最良の結果を得るには、常にDWTの板金テンプレートファイルの1つから開始するか、独自のファイルを作成してください。

30.9.2 コマンド

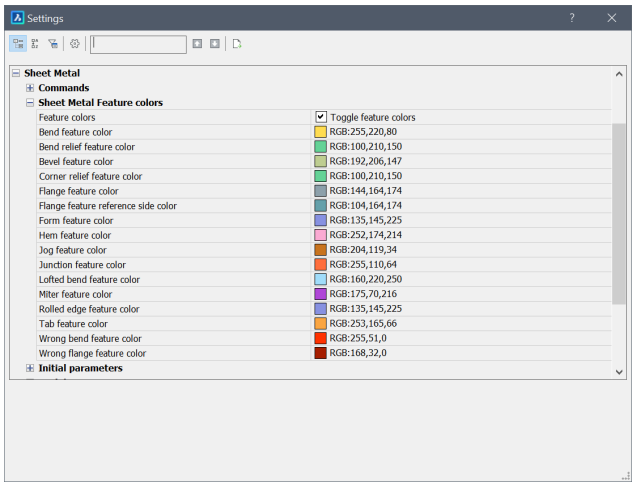
コマンドセクションには、さまざまな板金コマンドの動作を制御する設定が含まれています。

注：BricsCAD V19以前は、これらのコントロールは個々のコマンド内のオプションとして使用されていました。コマンドインターフェースを簡略化するために、これらは設定ダイアログに移動されました。



板金展開に使用される画層によって、展開された部品の外観が決まります。

30.9.3 フィーチャーの色



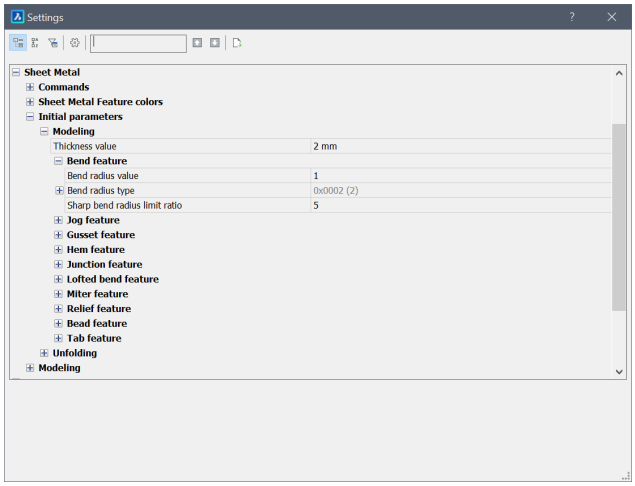
フィーチャーの色設定では、さまざまなタイプの板金フィーチャーが色で視覚的に区別されます。フィーチャータイプごとに色を調整できます。

30.9.4 初期パラメータ

これらのパラメータは、図面に関連付けられた**板金コンテキスト**を初期化するためのものです。

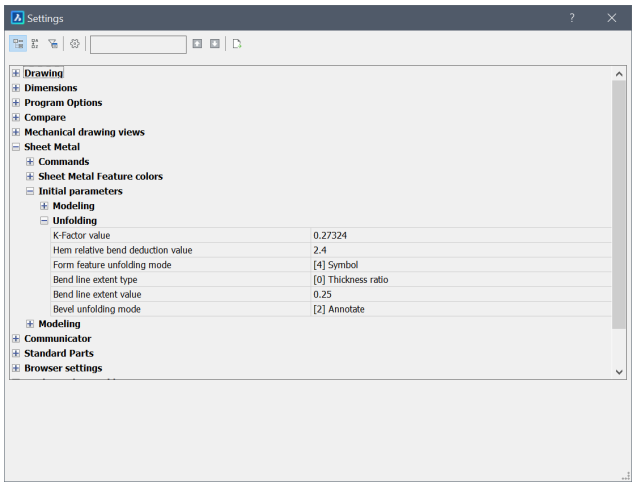
モデリング

モデリング設定は、板金フィーチャーの動作を制御します。設定はフィーチャータイプごとにグループ化されています。



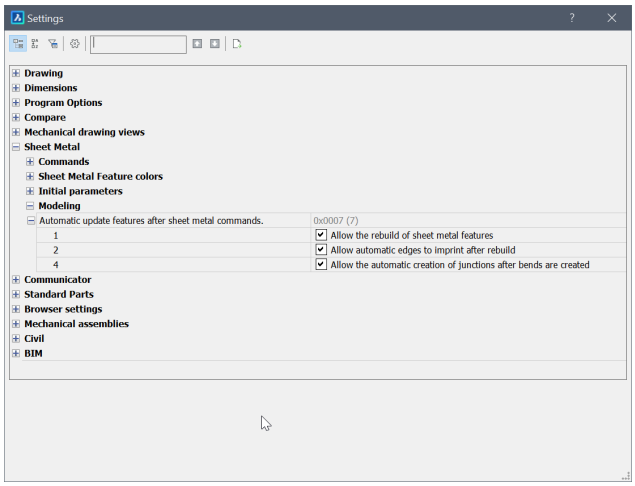
板金展開

板金展開設定は、**K係数値**、**フォームフィーチャーの展開モード**、および**ベンドライン範囲の種類/値**の動作を制御します。



30.9.5 モデリング

モデリング設定には、板金コマンドの実行後の自動更新機能を制御するSMSMARTFEATURES ユーザー設定が含まれています。



30.10 フランジの作成

30.10.1 概要

フランジは、ほとんどの板金部品のメインとなるフィーチャーです。BricsCADでは、さまざまな方法を使用してフランジを作成できます。

- 閉じた2Dプロファイルからベースフランジを作成します。これにより、その境界が定義されます。
- 既存のフランジのエッジを引っ張って、1つまたは複数のエッジフランジを作成します。
- 2Dポリラインを押し出して、一度に複数のフランジを作成します。(ポリラインのすべての線形エッジがフランジになります)

ヒント：フランジを作成する他の方法もあります。これらを説明しています。

- フランジはロフト板金部品の要素として作成することができます。**ロフトベンドの作成と分割**を参照してください。
- フランジは既存のジオメトリを認識することができます。**板金の変換と修復**を参照してください。

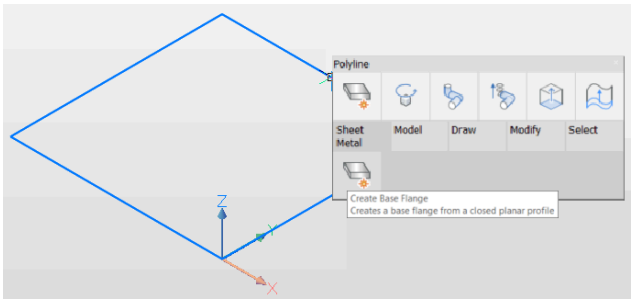
履歴(ヒストリー)ベースのMCADとは対照的に、BricsCADは同じツールセットを適用してフランジを個別に変更します。

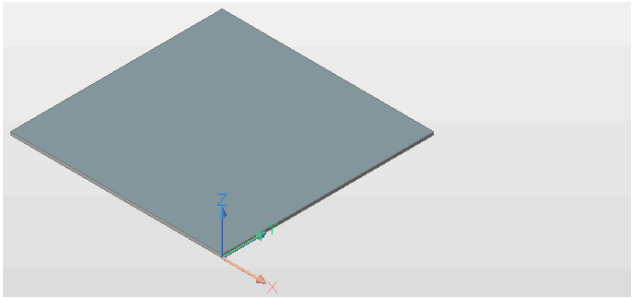
30.10.2　ベースフランジの作成

板金の設計はベースフランジを作成することから始めます。ベースフランジを作成するには、閉じた平面プロファイルを選択してSMFLANGEBASEコマンドを実行します。

以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**ツールバーの**ベースフランジを作成**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューで**ベースフランジを作成**を選択します。
- **クワッド**カーソルメニューの**板金**グループで**ベースフランジを作成**を選択します：





ベースフランジを作成するにはSMFLANGEBASEコマンドで、プロファイルを押し出します。

ベースフランジの高さは、板金部品のデフォルトの**厚さ**プロパティです。板金部分の厚みを変更するには、メカニカルブラウザの**厚さ**欄に適切な数値を入力します。

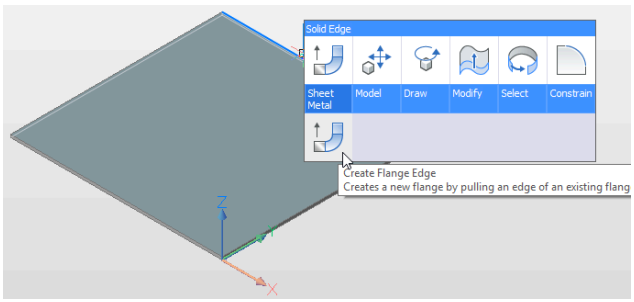
30.10.3　エッジフランジの作成

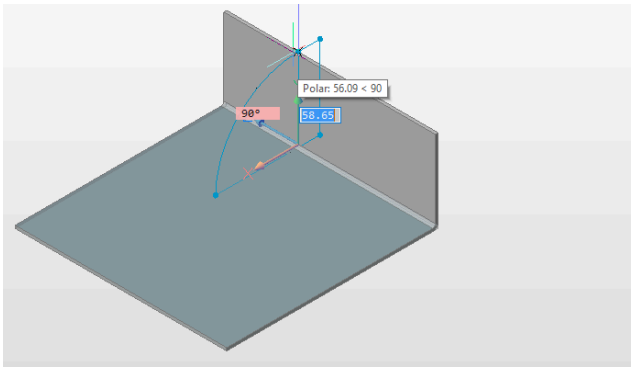
板金にフランジを追加できます。

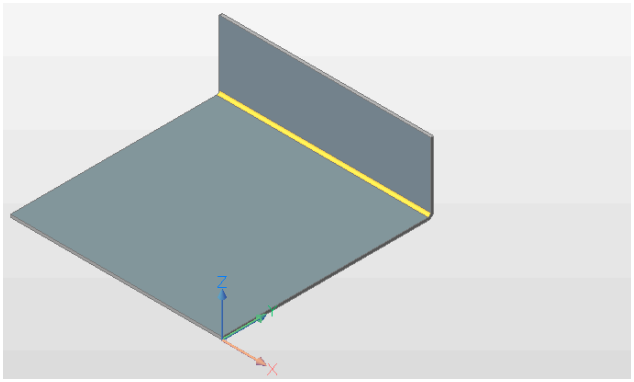
1　線形エッジを選択します。

2　**クワッド**カーソルメニューの**板金**セクションでSMFLANGEEDGEコマンドを選択します。

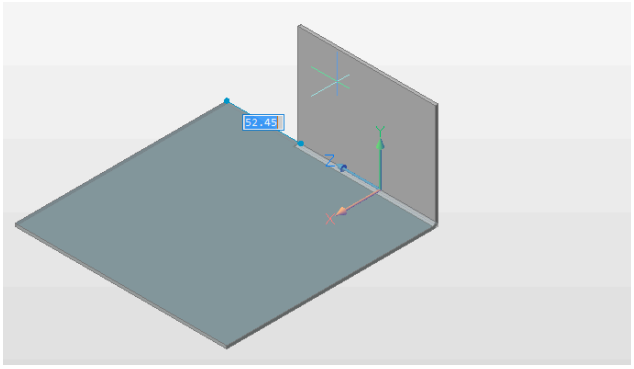
3　マウスポインタを移動して、エッジフランジの長さと2つのフランジ間の角度を定義します。ダイナミック入力フィールドを使用して、必要な値を入力することもできます。

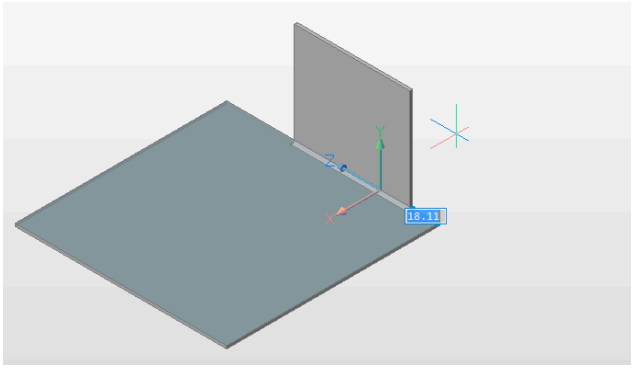


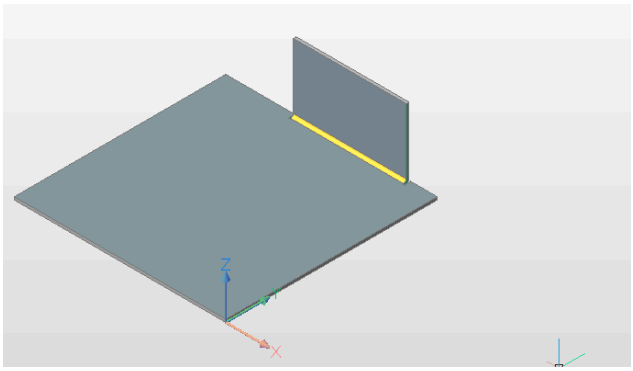




エッジとは幅が異なるエッジフランジを作成するには、SMFLANGEEDGEコマンドの**幅**オプションを選択し、エッジの片側または両側からのオフセット距離を定義します。



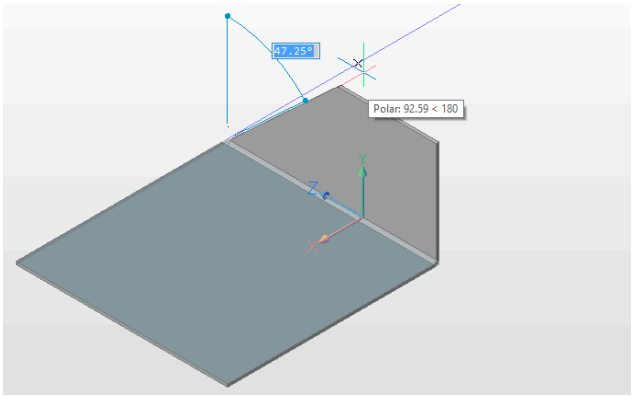


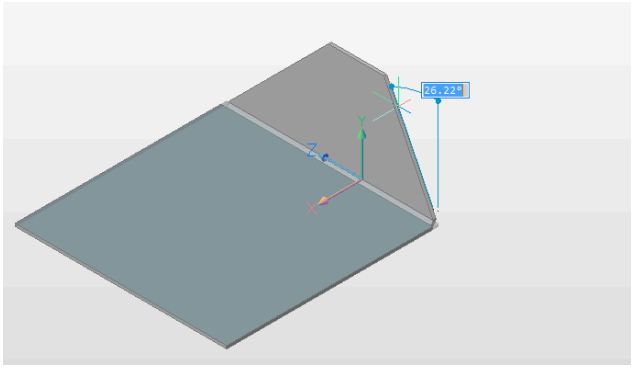


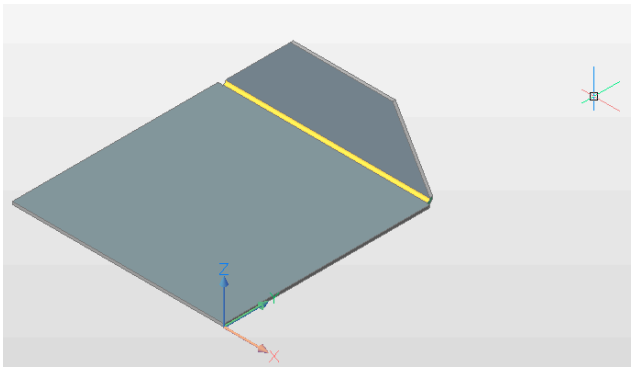
注：エッジとは異なる幅のエッジフランジを作成すると、ベンドリリーフが自動的に作成されます。

30.10.4　テーパー角度のあるエッジフランジを作成

SMFLANGEEDGEコマンドの**テーパー角度**オプションを使用して、台形のエッジフランジを作成できます。

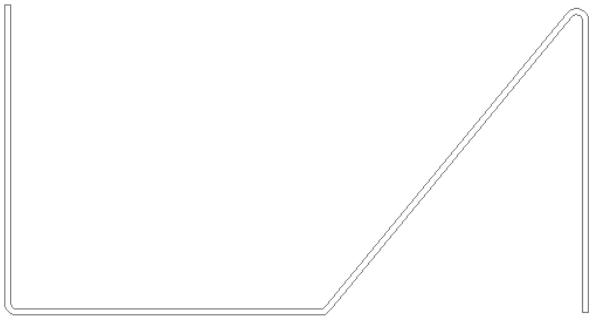






30.10.5　ポリラインを押し出して複数のフランジを作成

単純ですが重要な種類の板金部品があります。これらの部品を正面側から見ると、太いポリラインのように見えます。

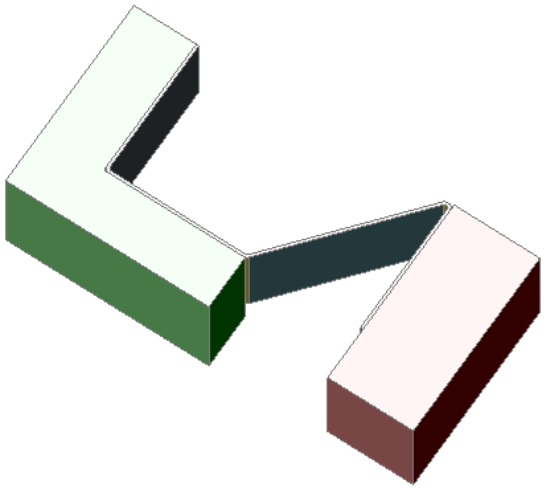


この部品を作成するには、以下の方法があります。

- SMFLANGEEDGEコマンドを連続して呼び出すか、または
- ポリラインを作図し、DMEXTRUDEコマンドを使用してから、DMTHICKEN、SMCONVERT、およびSMBENDCREATEコマンドの順に使用します。

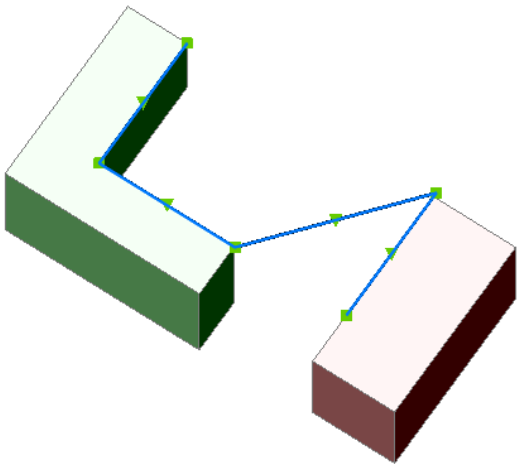
ただし、以下の手順をお勧めします。

BricsCADでは、複雑なアセンブリ内の部品を他の部品と一緒に作成して、アセンブリ内の他の図形に干渉しないようにすることができます。



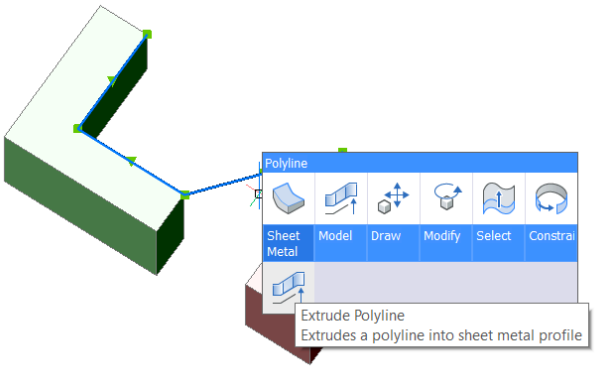
SMETRUDXEでは、各線分の太くなる方向を個別にコントロールすることができます。

1　作成したい板金部品のスケッチを表すポリラインを作図します。

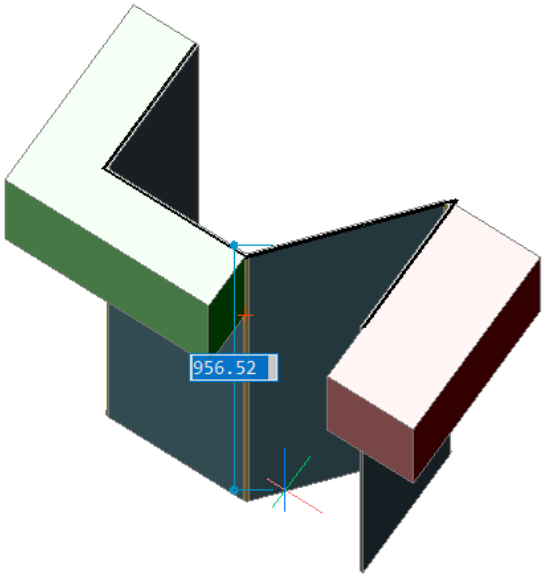


以下のいずれかの操作を行います：

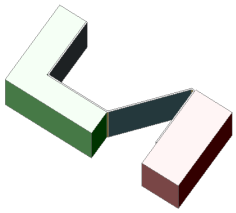
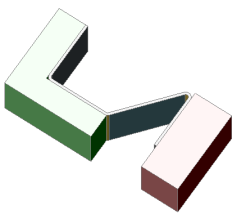
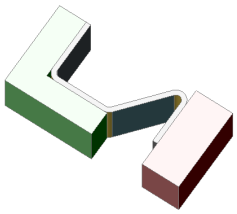
- **板金**ツールバーの**ポリラインを押し出し**ツールボタン()をクリックします。
- **板金**メニューで**ポリラインを押し出し**を選択します。
- **クワッド**カーソルメニューの**板金**グループで**ポリラインを押し出し**を選択します：



2 カーソルを合わせて**押し出しの高さ**を選択するか、値を入力して**Enter**を押して受け入れます。



ボディが作成され、拡張機能が尊重されます。板金部品は元のポリラインの寸法を超えません。厚みが違っても挙動は同じです。

厚さ1ミリ	厚さ2ミリ	厚さ4ミリ
		

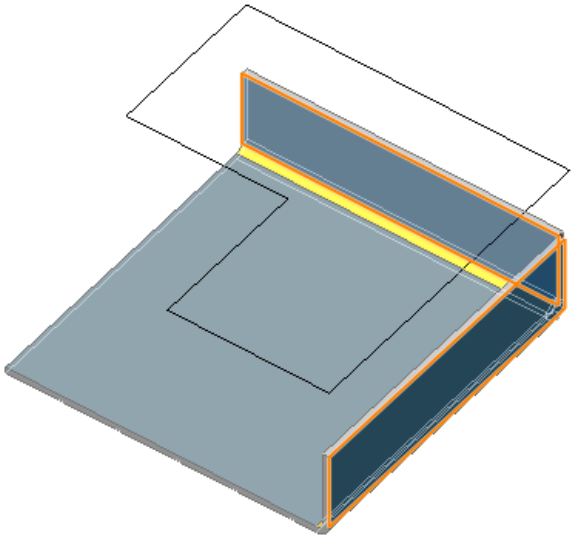
注：外形寸法を保持するポリシーは、SMFLANGEEDGEを使用したシーケンシャルフランジ構築、SMFLANGEBENDを使用した部品のベンド、SMCONVERTを使用した板金設計の認識など、他のワークフローで作成された板金部品にも機能します。フランジの押し出し方向を変更する場合は、フランジにSmFlipコマンドを適用します。

30.10.6　フランジを作成する輪郭を押し出し

SMFLANGECONTOURコマンドを使用すると、特定の輪郭を新しいフランジに押し出し、モデルに取り付けることができます。これは、SMFLANGEBASE、SMFLANGECONNECT、およびSMBENDCREATEコマンドの順序と考えることができます。実際には、選択したフランジの厚み面がインテリジェントに選択され、新しいフランジの厚み面に接続されます。

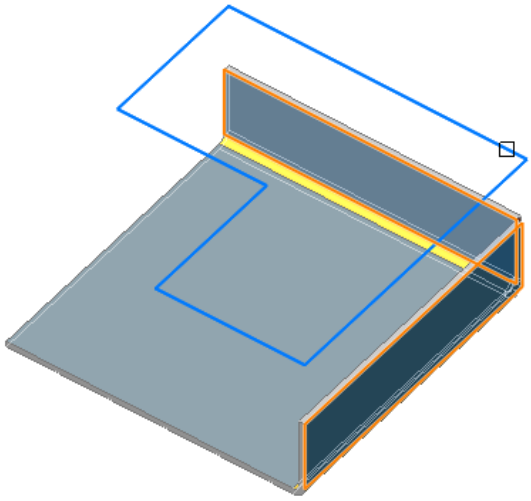
以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**ツールバーの**閉じた輪郭からフランジを作成**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューの**輪郭からフランジを作成**を選択します。
- **クワッド**カーソルメニューの**板金**グループで**輪郭からフランジを作成**を選択します：

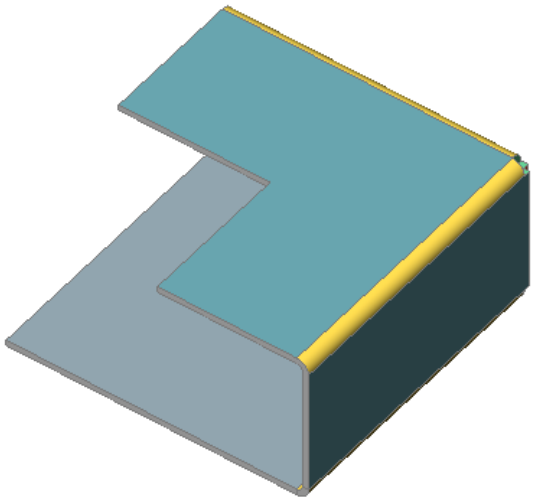


必要なフランジをすべて選択したら、輪郭をクリックします。

-

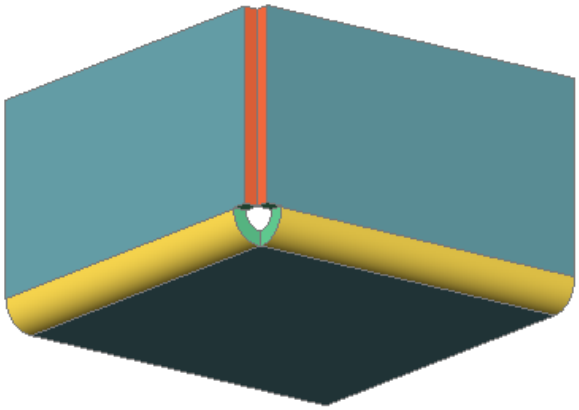


このコマンドは新しいフランジを作成し、部品上で選択したフランジとマージします。

- 

30.10.7　ベンド、コーナーリリーフ、ジャンクション

SMFLANGEEDGEコマンドを使用して、エッジフランジを引っぱると、エッジフランジとベースフランジとの間にベンドフィーチャーが自動的に作成されます。3つのフランジが集まるコーナーに、自動的にコーナーリリーフフィーチャー作成されます。この操作により、ベンドで接続されていない2つのフランジ間にジャンクションも作成されます。

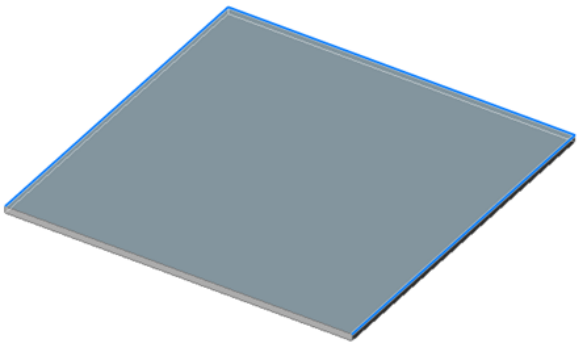
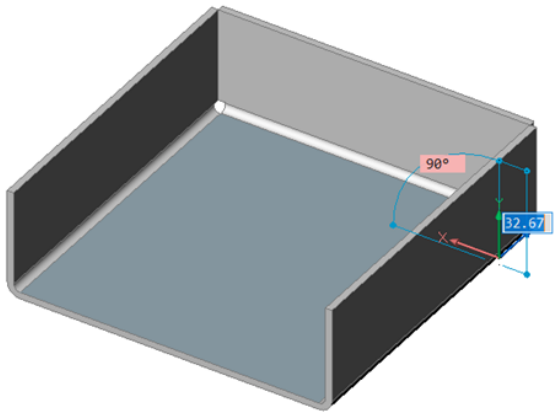


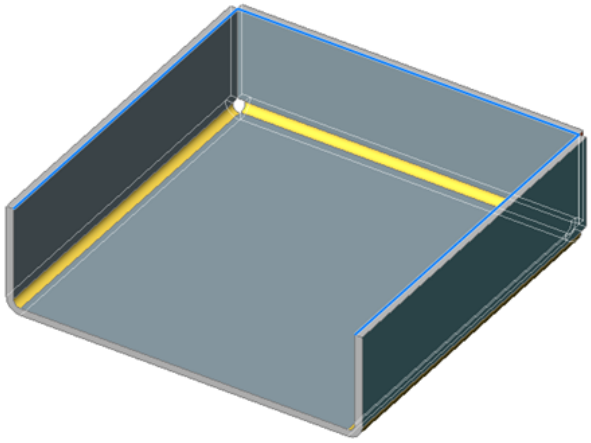
30.10.8　複数のフランジを作成

同時に複数のフランジを作成することができます。

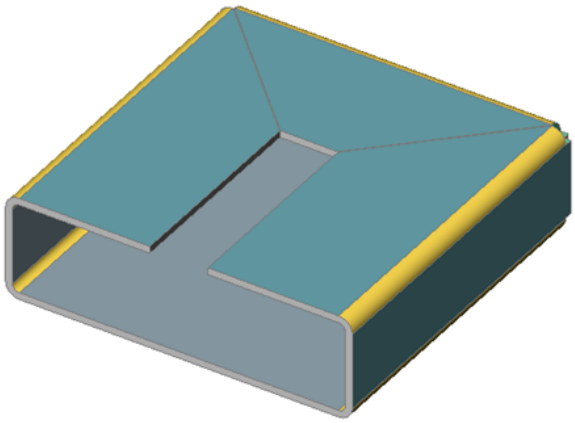
以下のいずれかの操作を行います：

- 複数のエッジを選択し、**クワッド**カーソルメニューの**板金**コマンドグループで**フランジエッジを作成**()を選択します。
- SMFLANGEEDGEコマンドを起動し、複数のエッジを選択します。

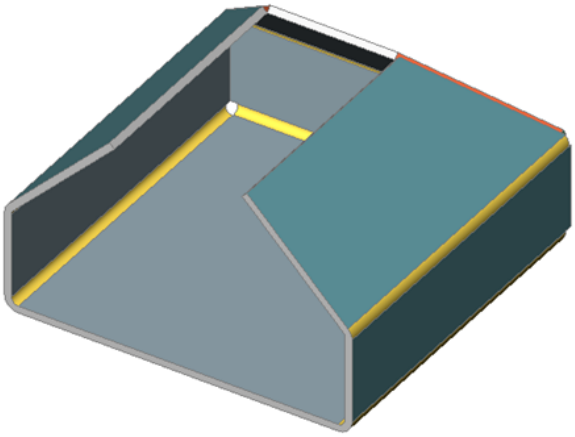
- 
- エッジをダイナミックに作成します。
  ダイナミック入力フィールドを使用して、角度とフランジの高さを定義します。**Tab**キーを押して、**角度**フィールドと**距離**フィールドを切り替えます。
  - 

- 新しく作成されたフランジの内側のエッジを選択します。
- 
- フランジを作成します。

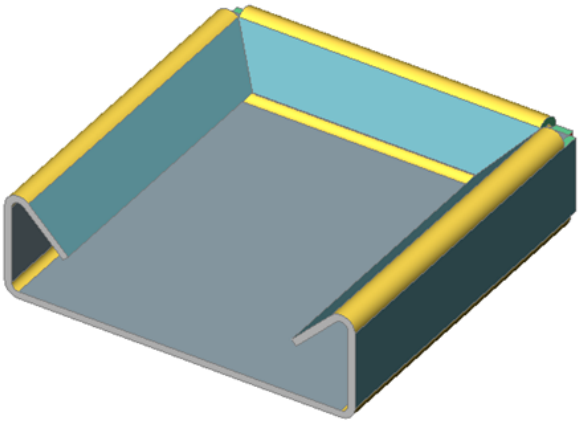
このコマンドはフランジの交点を自動的に計算し、ジャンクションまたはマイターフィーチャーを作成します。角度が90度でマイターが作成されます。

- 

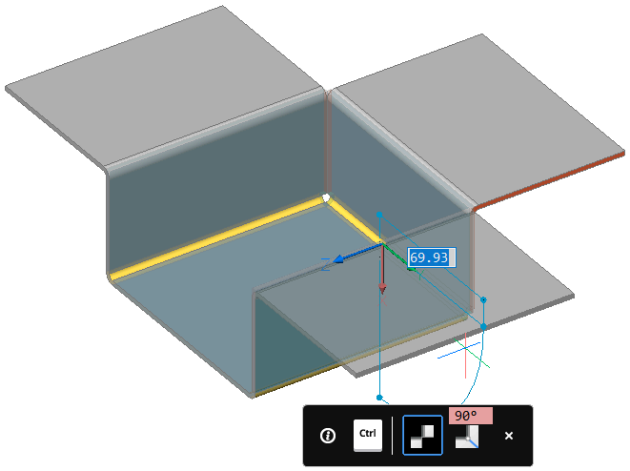
他の角度ではジャンクションが作成されます。

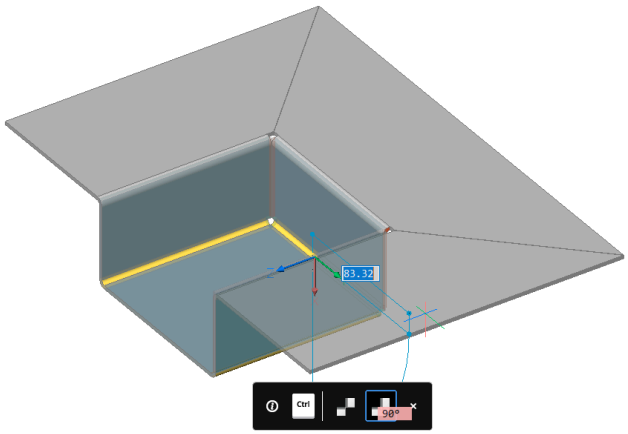
- 

いずれの場合も、重大な干渉は回避されます。

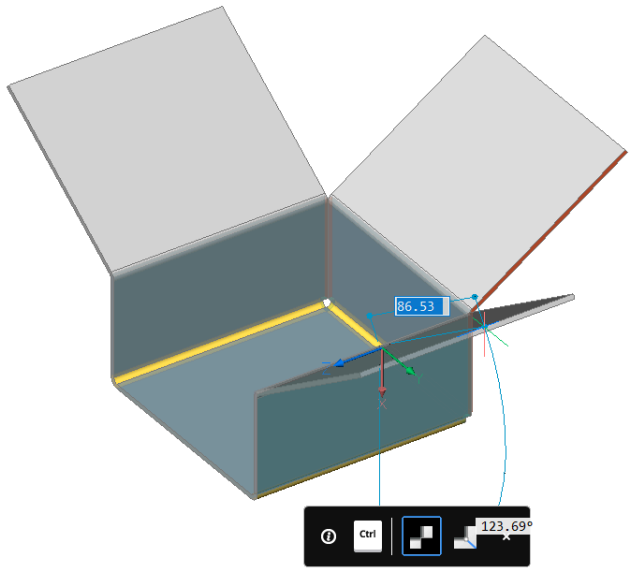
- 

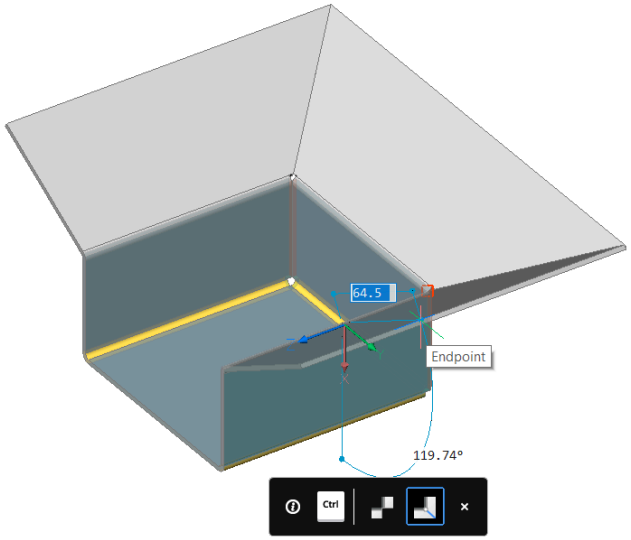
フランジが外開きで作成された場合、マイターの接続タイプをコントロールするには**トグル**オプション(**ウィジェットコントロール**でも使用可能)を使用します：

- 

- 

ジャンクション：

- 

- 

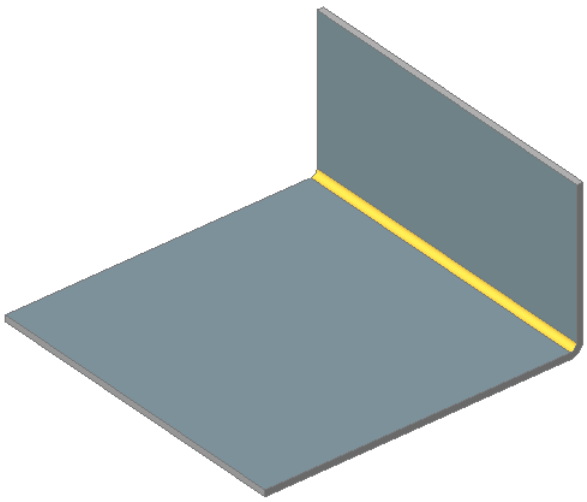
30.11 フランジの修正

BricsCADには、板金部品のフランジを変更するためのいくつかのツールが用意されています。これらのツールは、設計履歴に関係なく、あらゆる部品に一貫して適用できます。この記事では、ソリッドモデリングツールと特定の板金ツールを使用します。ほとんどのソリッドモデリングツールは、板金フィーチャーによって提供される設計インテリジェンスを維持しながら、板金部品に適用されます。

30.11.1 フランジのサイズと形状を変更

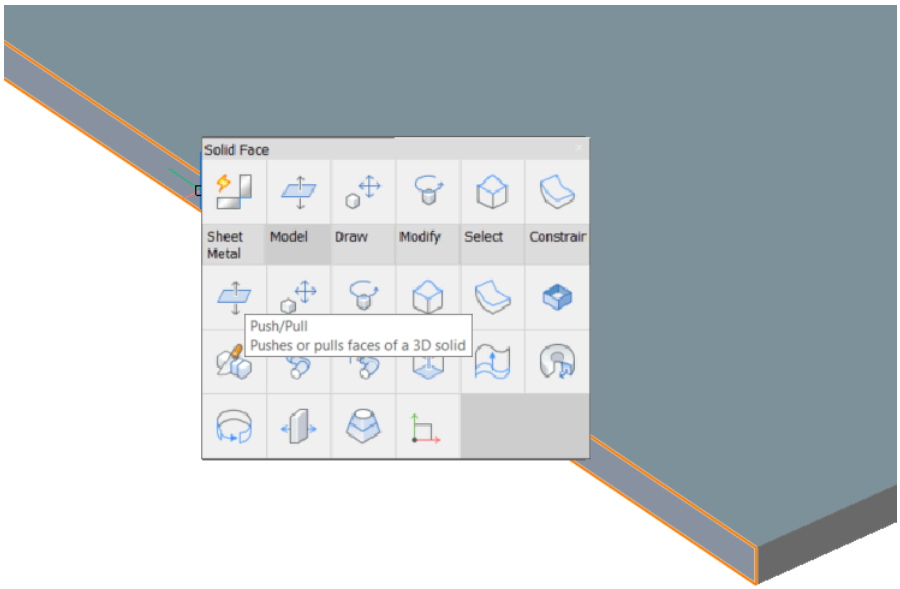
特定の単純なモデルでは、フランジの形状を変更するためにいくつかのソリッドモデリング操作ができます。

注：モデルの厚みのある面のみを処理します。

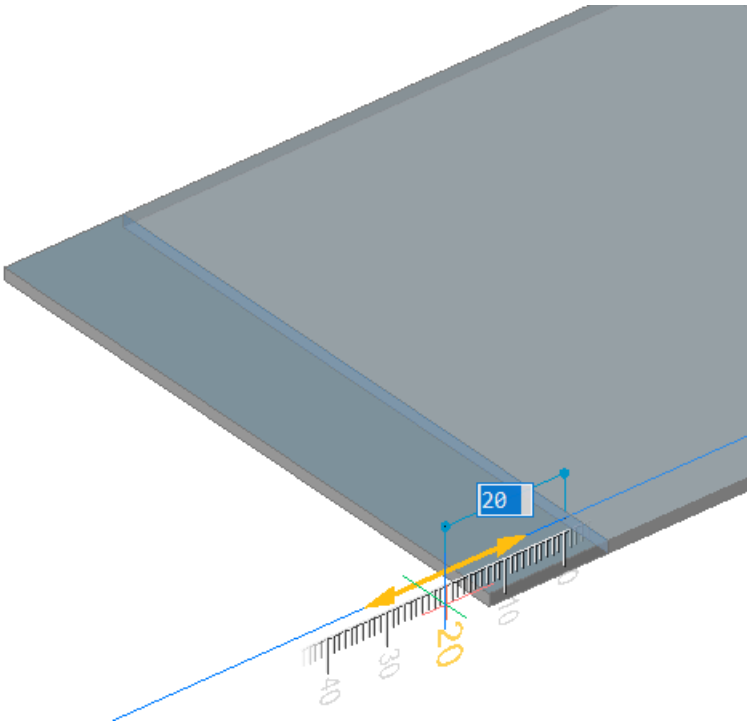


30.11.2 フランジを伸ばす

1 板厚面にカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**モデル**コマンドグループで**プッシュ/プル**を選択しま



す。

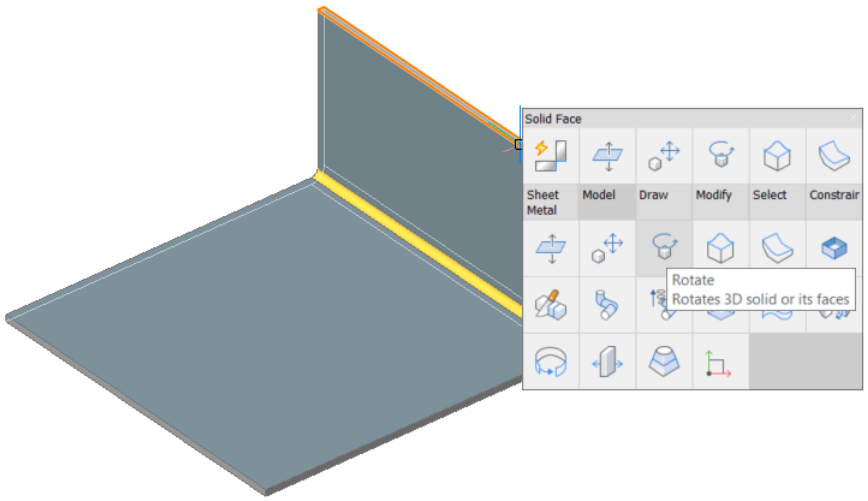


2 面をドラッグして、右クリックします。

変更が部品に適用され、フランジは、指定された距離にストレッチされます。

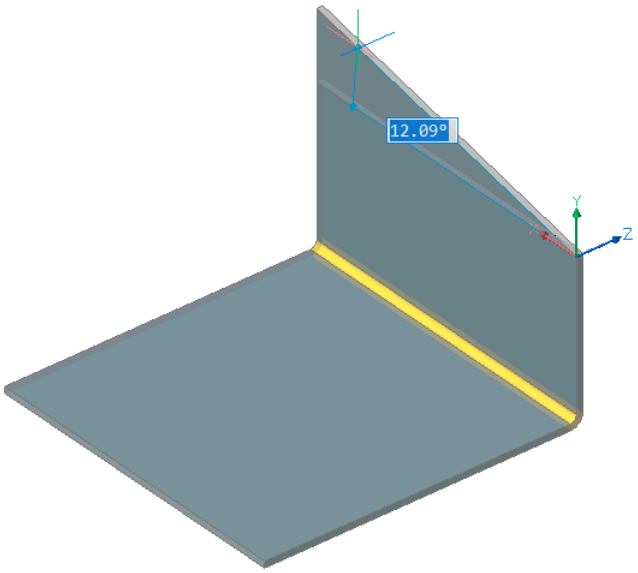
30.11.3 厚みのある面を回転

1 面にカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**モデル**コマンドグループで**回転**を選択しま



す。

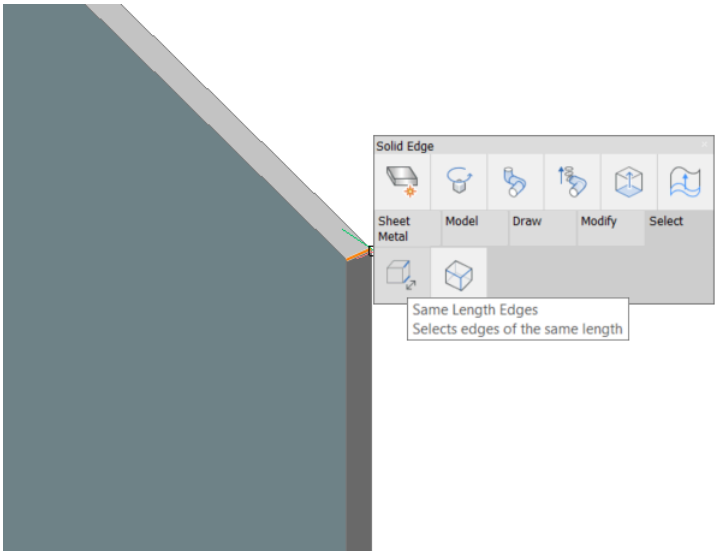
2 回転軸、始点、角度を指定します。(詳細はコマンドリファレンスのDMROTATEの記事を参照してくださ

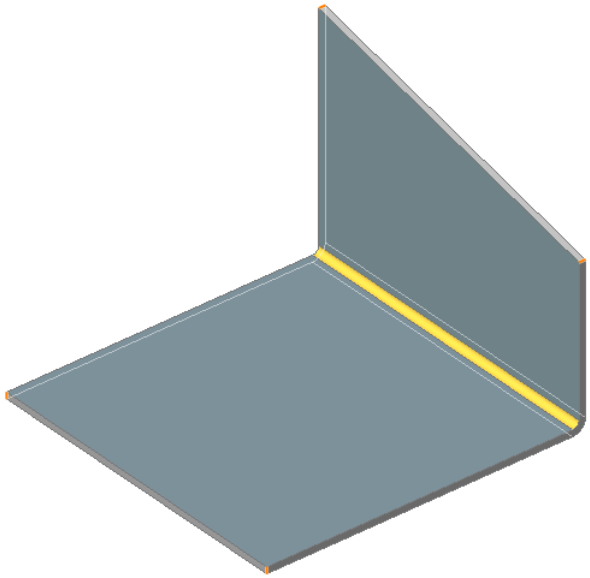


い)

3 シャープなエッジをフィレット加工します。

板厚のエッジにカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**選択**コマンドグループで**同じ長さのエッジ**( )を選択します。

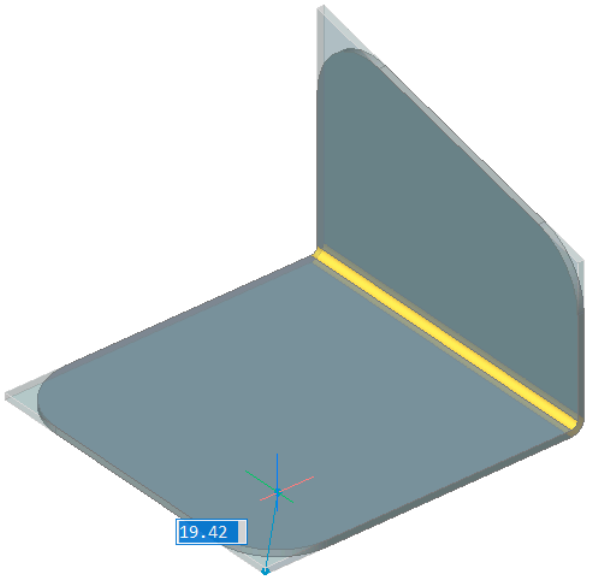


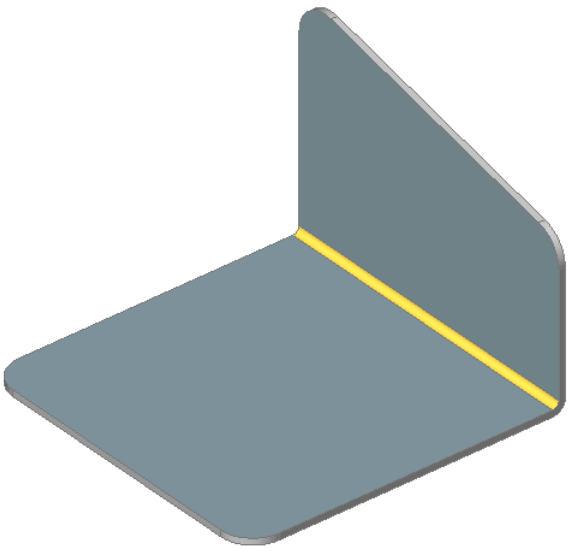


4 **Enter**を押します。同じ長さのエッジが選択されます。

5 **クワッド**メニューの**モデル**コマンドグループで**フィレット**を選択します。

6 フィレット半径を指定しま

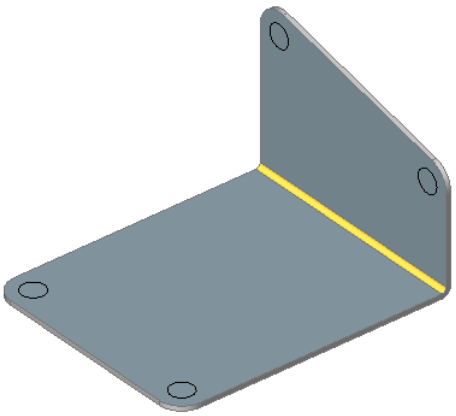




す：

30.11.4 フランジに穴を作成

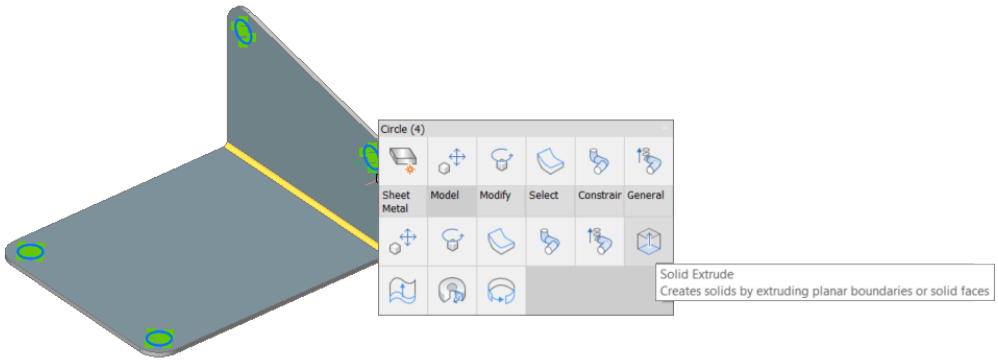
1 下の画像に示すように、4つの円を作成します。中心を定義するには、図形スナップの中点にスナップを使用しま



す。

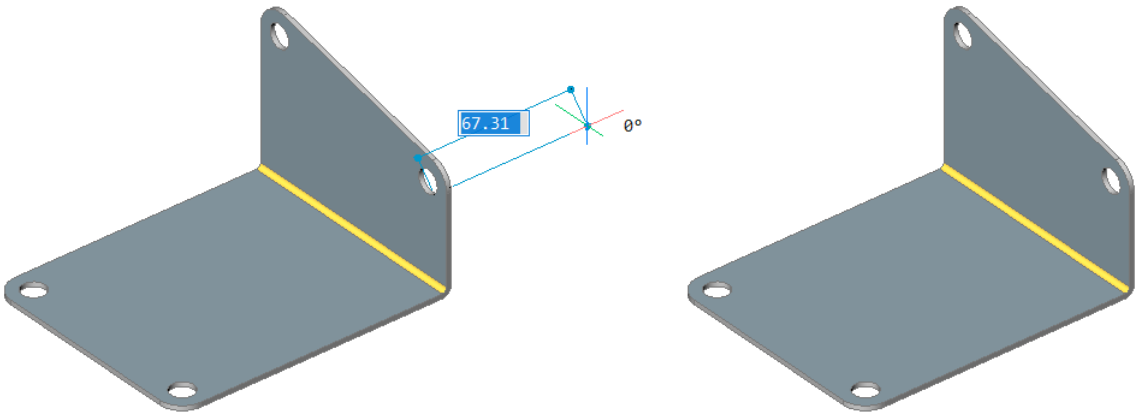
2 円を選択します。

3 **クワッド**メニューの**モデル**コマンドグループで**ソリッド押し出し**を選択しま



す。

4 カーソルを移動して穴を作成しま



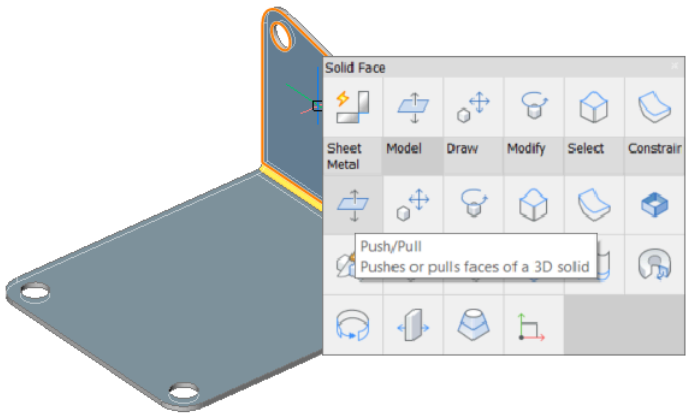
す。

30.11.5 フランジを移動

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **ダイレクトモデリング**ツールバーの**プッシュ/プル**ツールボタン( )をクリックします。
- **モデル**メニューの**ダイレクトモデリング** > **プッシュ/プル**を選択します。

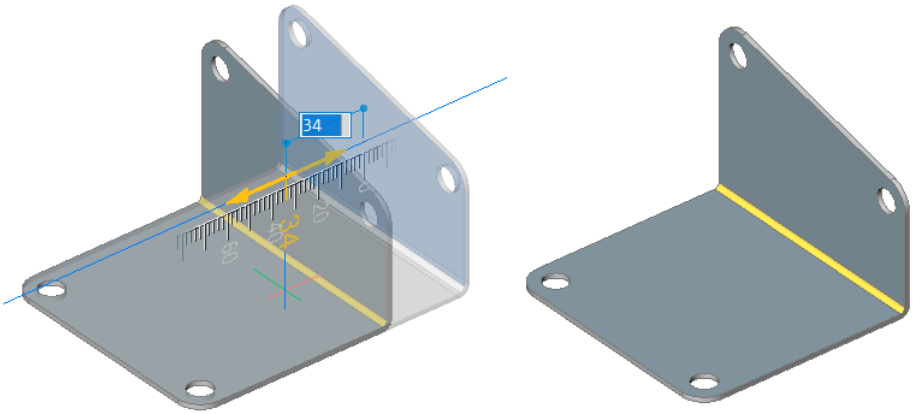
- リボンの**板金**タブの**編集**パネルで**プッシュ/プル**()を選択します。
- 対象の面に対しDMPUSHPULLコマンドを使用します。
- 移動させたい面の上にカーソルを置き、**クワッド**メニューの**モデル**コマンドグループで**プッシュ/プル**を選択しま



す。

2 フランジの新しい位置を選択します。

注 : 板金フィーチャーにより、パーツの厚さが維持されます。



30.11.6 フランジを回転

DMROTATEコマンド()を使いフランジを回転させることは可能ですが、このコマンドは、板金部品の設計意図を尊重して回転軸を自動的に選択するため、代わりにSMFLANGEROTATEコマンド()を使用することをお勧めします。

1 SMFLANGEROTATE () コマンドを起動します。

コマンドバーの表示：回転するフランジ面を選択:

カーソルの下のフランジ面がハイライト表示されます。

2 クリックしてフランジ面を選択します。

フランジがダイナミックに回転します。

ダイナミック寸法は、ベースフランジに対するカレントの角度を表示します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

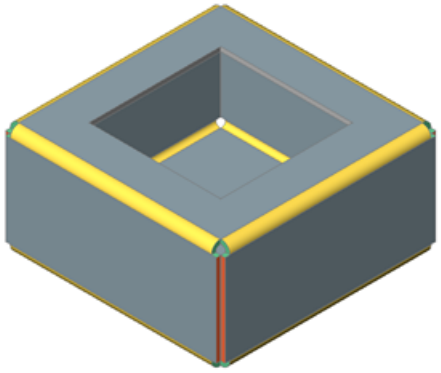
- ポイントを選択します。

- ダイナミック入力フィールドに値を入力します。
- **TAB**キーを押し、ダイナミック寸法欄で絶対回転角度を指定します。

注：フランジがジャンクションフィーチャーによって他のフランジに接続されているフランジをDMROTATEコマンドを使い回転させる場合、回転前にジャンクションフィーチャーが自動的に解体されます。

30.11.7 フランジを分割

次の画像に示すように、フランジに大きな穴がある場合など、材料の消費を最小限に抑えるために、フランジをより適切に分割する場合があります。



1 SMSPLIT () コマンドを起動します。

プロンプト表示：フランジを分割する線分またはエッジを選択または[スマート分割を使用/新しい線分を作図]<新しい線分を作図>:

2 Enterを押して、デフォルトのオプションをそのまま使用します。

プロンプト表示：線分の始点:

3 分割したい面の上にカーソルを置きます。(DUCS(ダイナミックUCS)がONになっていることを確認します)

面がハイライト表示されます。

4 線分の始点を指定します。

プロンプト表示:線分の終点:

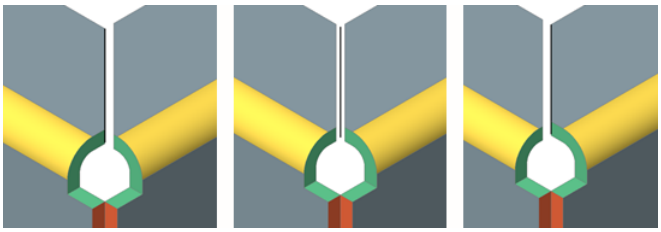
5 線分セグメントの端点を指定します。

プロンプト表示：分割する中心/左/右/<モデルを承諾>:

6 線分に対する分割位置を調整するには、以下のいずれかの操作を行います：

- **Ctrl**キーを押して、**中央/左/右**オプションを切り替えます。

  ヒントがオンになっている場合、現在選択されているオプションがヒントウィジェットに表示されます。
- プロンプトメニューで**中央**、**左**または**右**を選択します。
- コマンドラインにオプションを入力して、**Enter**キーを押しま

す。 

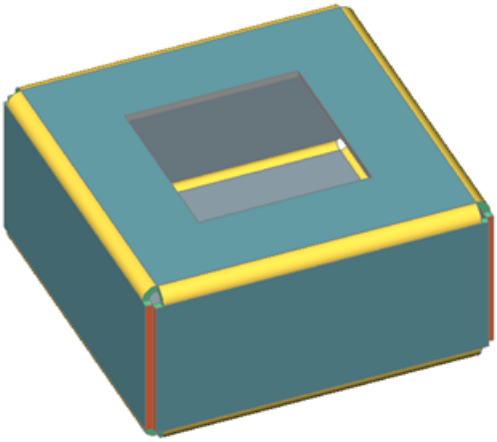
線分によって分割されたフランジ：左、中央、右

注：分割操作により、マイターフィーチャーが作成されます。**メカニカル**ブラウザのフィーチャーリストからマイターフィーチャーを削除することで、初期フランジを復元できます。

30.11.8 フランジを分割するスマートツール

SMSPLITコマンドには以下の機能もあります：

- コーナーの1つの頂点を選択してスマート分割を行います。
- ベンドを分割し、コーナーに隣接する部分をジャンクションに変換しま



す。

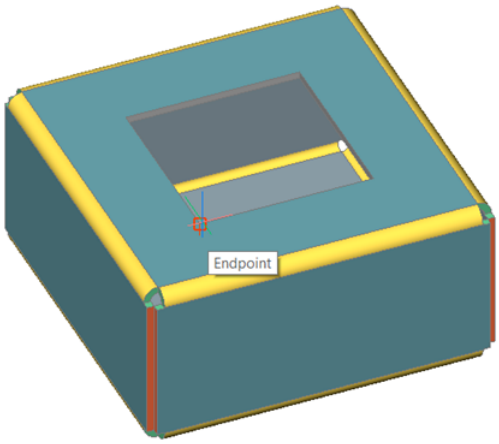
1 以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**リボンタブの**スマート分割**ツール()をクリックします。
- **メカニカル** > **板金** > **分割**メニューで**スマート分割**を選択します。
- コマンドラインにSMSPLITと入力します。
- プロンプト表示：フランジを分割する線分またはエッジを選択または[スマート分割を使用/新しい線分を作図]<新しい線分を作図>:

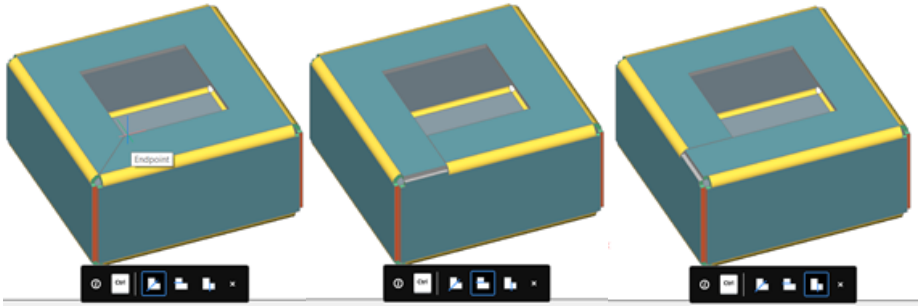
  スマート分割オプションを選択します。

2 プロンプト表示：フランジ上のポイントを選択、またはスマートスプリット用のロフトベンドボーダーを選択、または[フランジをプロパゲート/頂点をプロパゲート] <頂点をプロパゲート>:

3 コーナー頂点を選択するか、分割したいフランジの端の点にスナップします。



プロンプト表示：分割する [中心 (C)/左 (L)/右 (R)/承諾 (A)] <承諾>:

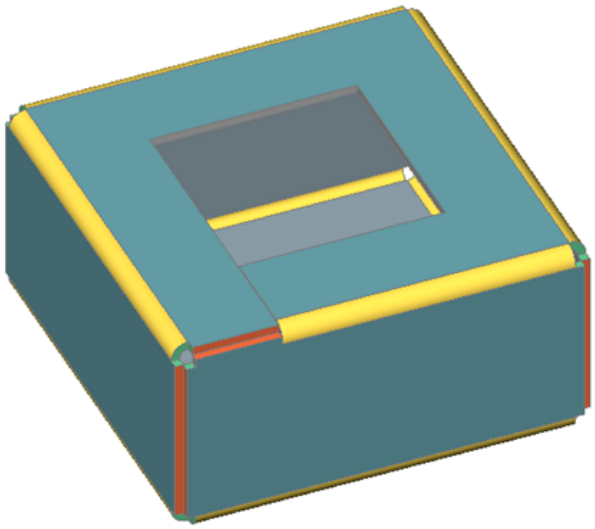


4 以下のいずれかの操作を行います：

- Enterを押して分割を受け入れます。
- **Ctrl**キーを繰り返し押します。

  ヒントがオンになっている場合、現在選択されているオプションがヒントウィジェットに表示されます。

  フランジは指定した点を通る線分によって分割されます。ベンドは部分的にジャンクションに変換されます。



中心オプションの場合、**スマートフィーチャー**がオンになっていると、分割に隣接するコーナーリリーフがベンドリリーフに変換されます。

注：ベンドの一部をジャンクションに変換することは、**スマート分割**モードとは関係ありません。

30.11.9 フランジを折り曲げ

SMFLANGEBENDコマンドは、線分を使用して1つまたは複数のフランジを折り曲げます。最初に線分を作図してからコマンドを開始するか、コマンドの**新しい線分**オプションを使用します。

複数のフランジを同時に折り曲げ

1 SMFLANGEBENDコマンドを起動します。

プロンプト表示：フランジ面を選択[選択オプション(?)]:

2 ベンドするフランジを選択します。

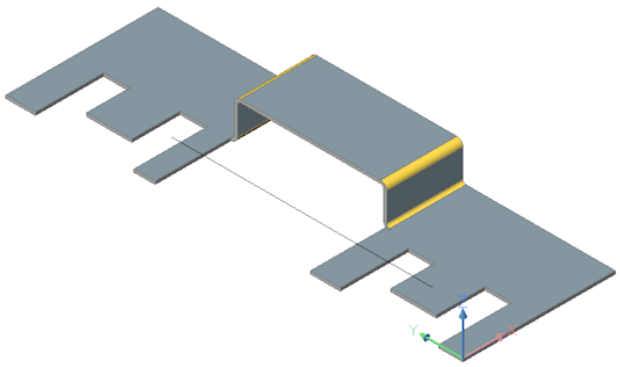
プロンプト表示：フランジを分割する線分またはエッジを選択または [スマート分割を使用/新しい線分を作図]< 新しい線分を作図>:

3 以下のいずれかの操作を行います：

- 折り曲げるフランジ(複数可)と重なる線を選択します。
- **新しい線分**オプションを選択します。

ベンドするフランジの上部に線分を作図するように求められます。

1 プロンプト表示：フランジ位置を選択 [角度 (A)/半径 (R)/切替 (S)/曲げ範囲を切替 (T)/承諾 (AC)] <承諾>:



移動したい側の点を選択します。

選択した部品がダイナミックにベンドします。

2 (オプション)デフォルトのベンド半径を使用して、ベンド角度を定義する値を入力します。

3 (オプション)**半径**オプションを選択します。

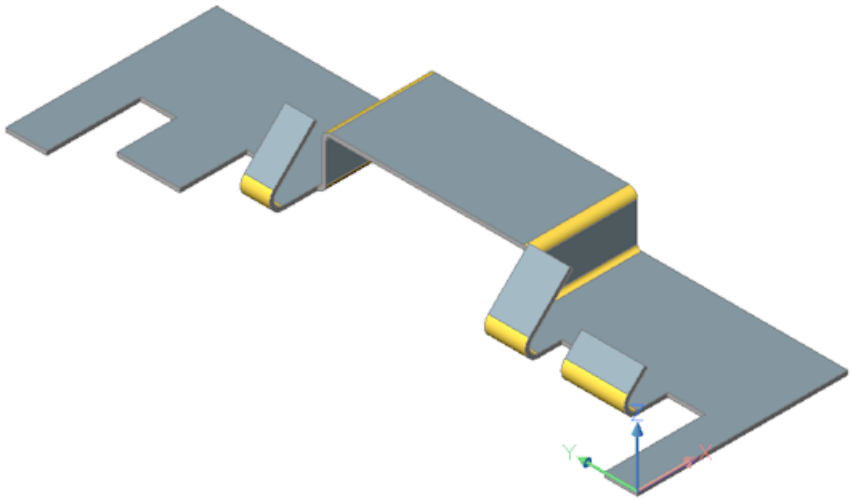
プロンプト表示：ベンド半径を入力[戻る]<戻る>:

デフォルトのベンド半径を上書きするには、値を入力して**Enter**キーを押します。

4 (オプション) **角度**オプションを選択します。

プロンプト表示：ベンド角度を入力[戻る]<戻る>:

値を入力してベンド角度を指定します。



30.11.10　フランジを接合

SMFLANGECONNECTコマンドを使い、任意配向の2つのフランジ間の隙間を埋めます。

1　SMFLANGECONNECTコマンドを起動します。
　コマンドバーの表示：2つのフランジの平面を選択:
　カーソルの下のフランジ面がハイライト表示されます。

2　1つ目のフランジの厚さ面を選択します。
　プロンプト表示：
　セット内の図形: 1
　2つのフランジの平面を選択

3　2番目のフランジの厚み面を選択します。
　選択した厚み面が接続されます。

注：2つのフランジを接続後、ジャンクションフィーチャーをベンドに変換することができます。

30.12　ベンドとジャンクションの操作

板金部品の2つの隣接するフランジは、ベンドまたはジャンクションによって接続されます。他の多くのメカニカルCADシステムとは異なり、BricsCADではベンドとジャンクションは別々のフィーチャーとなっています。ベンドをジャンクションに切り替えたり、逆にジャンクションをベンドに切り替えたりすることができるので、板金部品の展開図を簡単に修正、最適化することができます。

30.12.1　ハードエッジをベンドまたはジャンクションに変換

板金部品の隣接するフランジがベンドやジャンクションによって接続されていない場合、板金部品を展開したり、CAMシステムに読み出すことはできません。したがって、このようなハードエッジをベンドやジャンクションに変換する必要があります。

ハードエッジをベンドに変換

1 以下のいずれかの操作を行います：

- ハードエッジの上にカーソルを合わせて、**クワッド**メニューの**ベンド作成**ツール()をクリックします。
- **板金**リボンタブの**ベンドを作成**ツールボタン()をクリックします。
- **板金**メニューの**ベンド作成**を選択します。
- コマンドラインにSMBENDと入力します。

  プロンプト表示：

  ハードエッジ、ジャンクション、フランジ、3Dソリッド、または[モデル全体/選択オプション(?)] <モデル全体>を選択します。

2 フランジ面またはハードエッジを選択します。

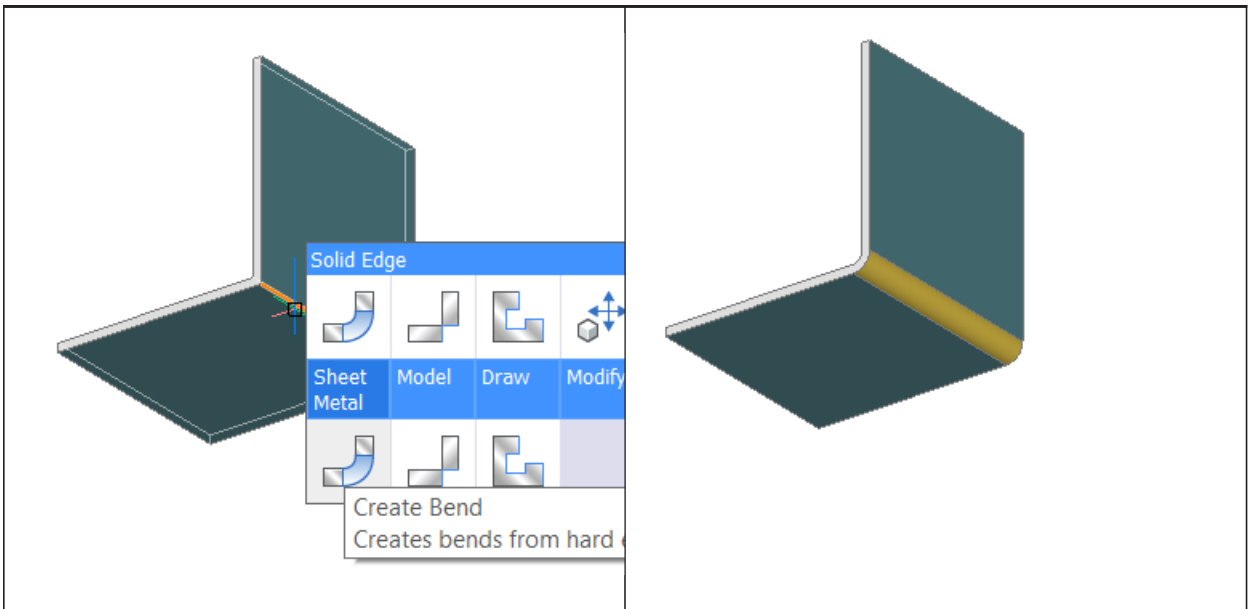
プロンプト表示：

セット内の図形：1

フランジ面またはハードエッジを選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- さらにフランジ面またはハードエッジを選択します。
- 右クリックするか、**Enter**を押して、選択した項目にベンドまたはジャンクションを作成します。

	
ハードエッジを選択します。	ベンドが作成されます。

ハードエッジをジャンクションに変換

1 以下のいずれかの操作を行います：

- ハードエッジの上にカーソルを合わせて、**クワッド**メニューの**ジャンクションを作成**ツール()をクリックします。
- **板金**リボンタブの**ジャンクションを作成**ツールボタン()をクリックします。

- **板金**メニューの**ジャンクション作成**を選択します。
- コマンドラインにSMJUNCTIONと入力します。

  プロンプト表示：ハードエッジ、ベンド、フランジ、または3Dソリッド[モデル全体/選択オプション(?)] <モデル全体>を選択してください。

2 フランジ面またはハードエッジを選択します。

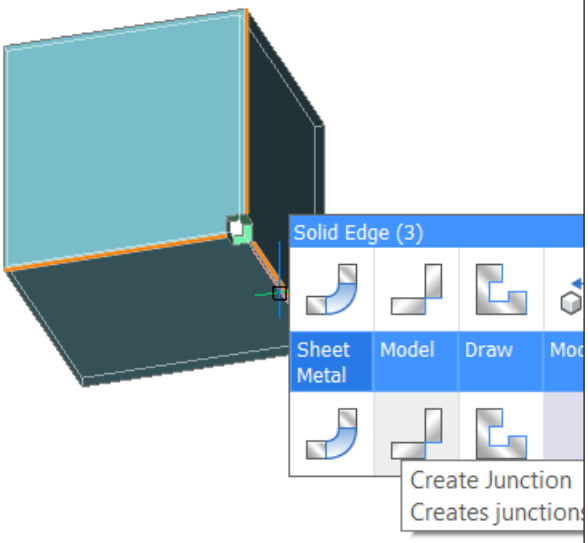
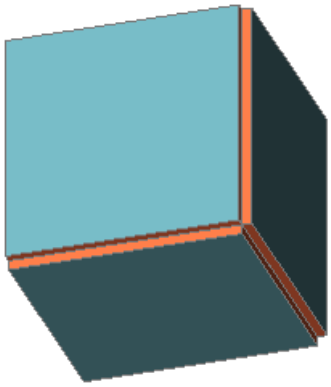
プロンプト表示：

セット内の図形：1

フランジ面またはハードエッジを選択します。

3 以下のいずれかの操作を行います：

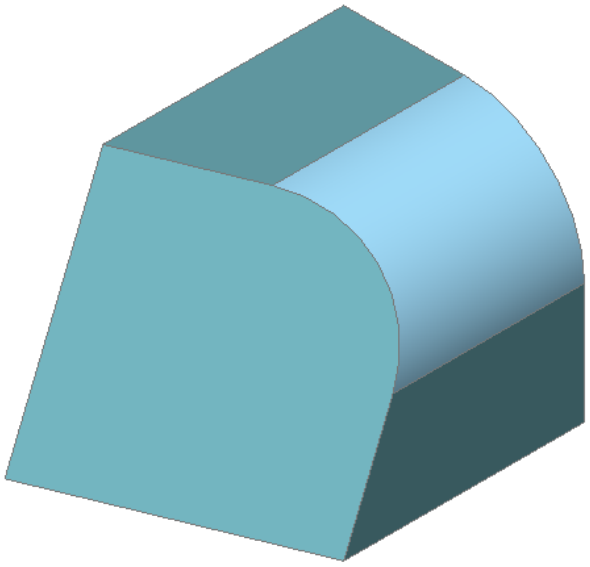
- さらにフランジ面またはハードエッジを選択します。
- 右クリックするか、**Enter**を押して、選択した項目にベンドまたはジャンクションを作成します。

	
ハードエッジを選択します。 コーナーリリーフを最初に作成する必要があることに注意してください。	ジャンクションが作成されます。 **スマートフィーチャー**により、不要なマテリアルカットが削除されていることに注意してください。

30.12.2 曲線ジャンクションの作成

ジャンクションを非直線エッジ上でカットする必要がある、より複雑な場合を見てみましょう。部品を展開可能にするには、次のことを行う必要があります。

- いずれかの線形ハードエッジのベンドリリーフをカットします。
- 残りの線形および湾曲したハードエッジのジャンクションをカットします。
- 残りのハードエッジにベンドを作成します。



1 ベンドリリーフを作成します。

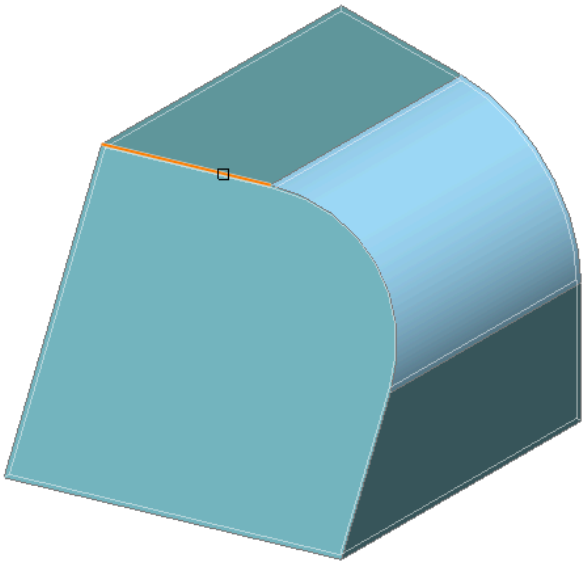
以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**リボンタブの**リリーフを作成**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューのリリーフの**リリーフ作成**を選択します。
- コマンドラインにSMRELIEFと入力します。

  プロンプト表示：

  ハードエッジまたはベンド面、フランジ面、3Dソリッド[モデル全体/選択オプション(?)] <モデル全体>を選択します。

2 ハードエッジを選択します。



プロンプト表示：

コーナーリリーフの他のハードエッジかベンド面を選択

3 **Enter**を押すか右クリックします。

プロンプト表示：

ベンド半径係数によるリリーフサイズを入力、または [ベンドリリーフを強制 (B)/自動 (A)] <自動 (A)>:

4 **Enter**を押すか右クリックします。

エッジに2つのベンドリリーフが作成されます。

2つのベンドリリーフが作成されるのは、**フリー**の頂点を持つハードエッジの側面が、直交する厚さの面を作るためにリリーフを必要とするためです。

このフィーチャーは通常のベンドとは異なるため、ロフトベンドに隣接する側のベンドリリーフが作成されます。コーナーリリーフを作成すると大きすぎます。

5 2つのジャンクションを作成します。

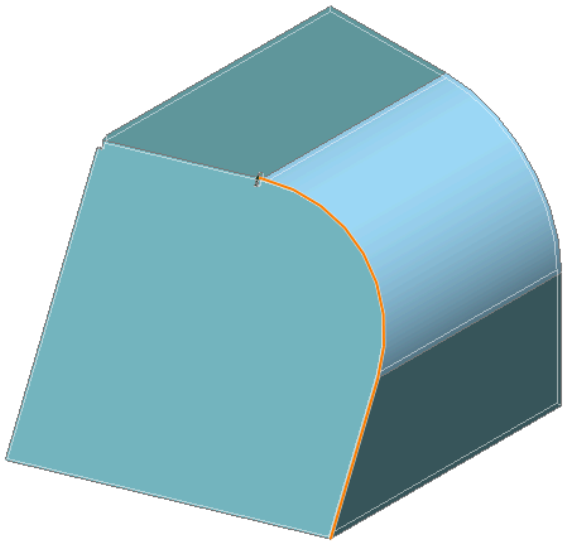
以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**リボンタブの**ジャンクションを作成**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューの**ジャンクション作成**を選択します。
- コマンドラインにSMJUNCTIONと入力します。

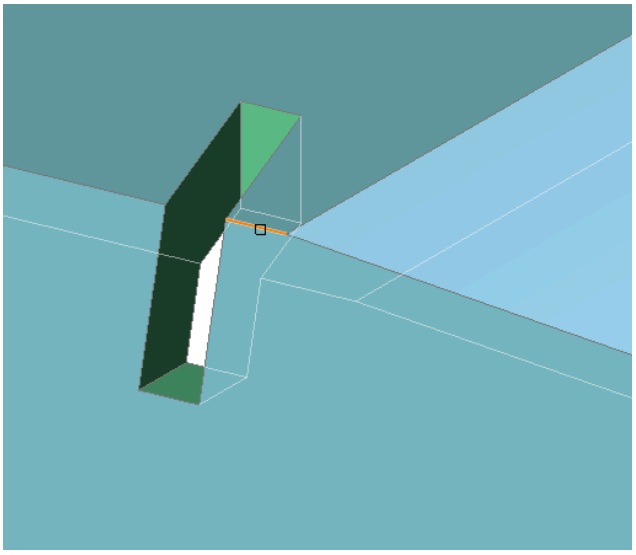
  プロンプト表示：

  ハードエッジ、ベンド、フランジ、または3Dソリッド[モデル全体] <モデル全体>を選択します。

6 次の3つのハードエッジを選択します。



次の小さなハードエッジを考慮してください:



カットが作成されます。線形エッジに対応した部分は通常のジャンクションフィーチャーになります。

7 ハードエッジにベンドを作成します。モデルに残された唯一のハードエッジであるため、このコマンドをモデル全体に適用します。

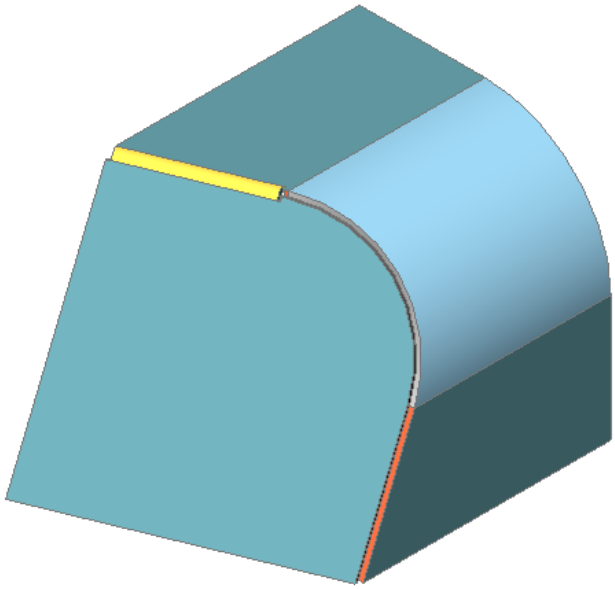
- **板金**リボンタブの**ベンドを作成**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューの**ベンド作成**を選択します。
- コマンドラインにSMBENDと入力します。

  プロンプト表示：

  ハードエッジ、ジャンクション、フランジ、3Dソリッド、または[モデル全体] <モデル全体>を選択します。

8 **Enter**を押します。

ベンドが作成されます。



9 部品を展開します。

- **板金**リボンタブの**ボディーを展開**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューの**ボディー展開**を選択します。
- コマンドラインにSMUNFOLDと入力します。

  プロンプト表示：

  フランジまたはロフトベンド面を選択して、展開を開始します[自動調整]:

10 フランジ面を選択します。

プロンプト表示：

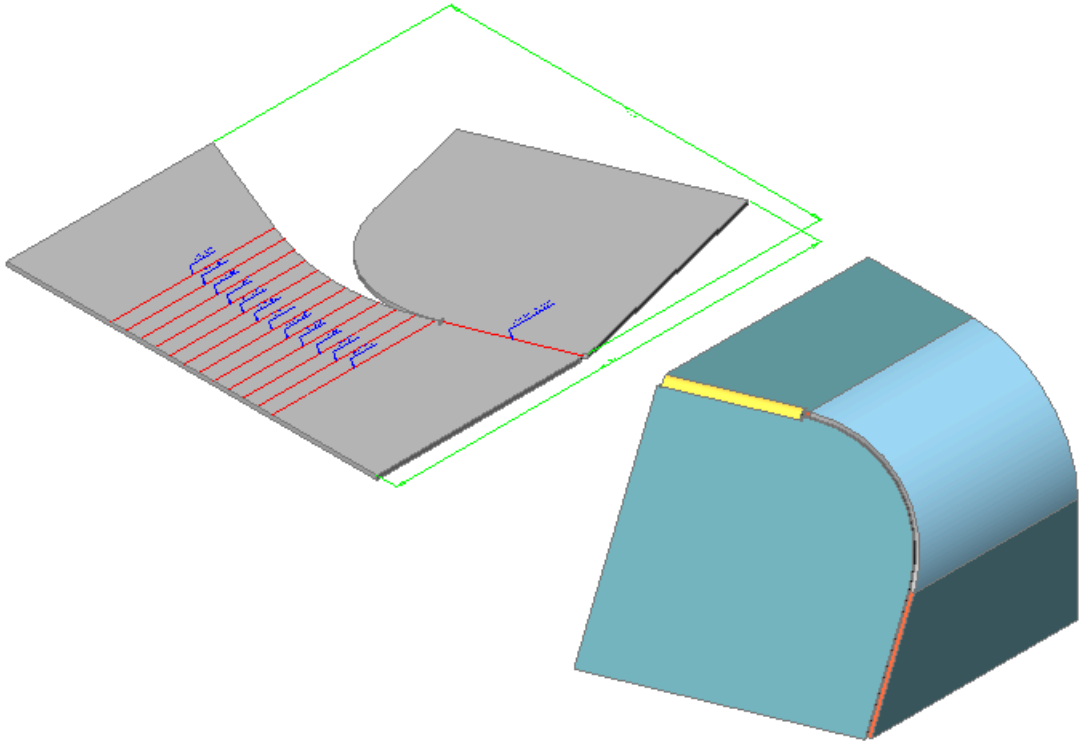
展開ボディーの位置を選択

11 展開した部品を配置します。

プロンプト表示：

展開したボディーを有効化し、オプション[2D形状を保存/3D形状を保存//ベンド注釈を最適化/保持] <保持>を選択します。

12 **Enter**を押して結果を保存します。



30.12.3　板厚面の分割

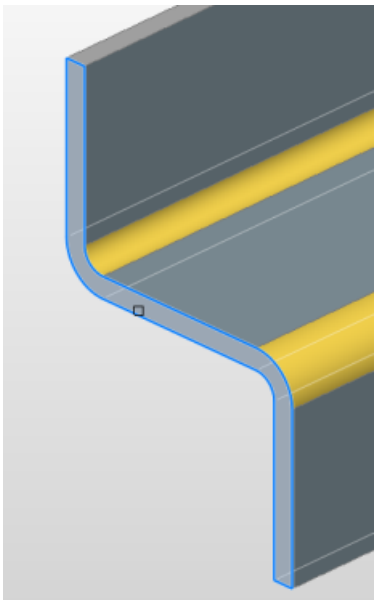
他のフランジと同じ板厚面を共有しているフランジを延長するためには、その板厚面を分割する必要があります。

1　SMIMPRINTコマンド( )を起動します。

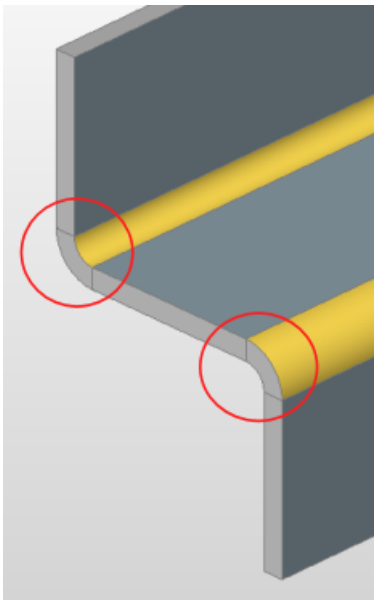
　プロンプト表示：厚さ面を選択:

2　共有している板厚面を選択します。

3

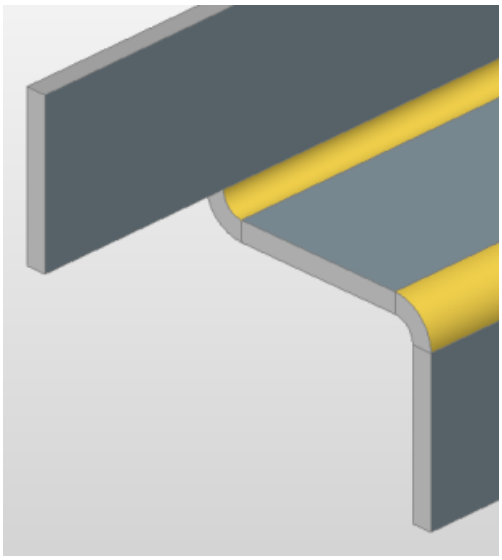


4 右クリックするか、**Enter**を押すと面が割されます。



5 フランジを別々に延長できるようになります。

6



7 DMSIMPLIFYコマンドを実行して、不要な分割を削除し、同一平面上の板厚面を統一します。

30.12.4 ベンド半径の変更

全体のベンド半径を変更：

1 **メカニカルブラウザ**でルートノードを選択します。

2 **メカニカルブラウザ**の下部にある**ベンド半径**グループを見つけます。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- **種類**を**絶対値**に設定して、**値**フィールドに半径の値を入力します。
  それに応じて**ベンド半径**フィールドの値が変わります。
- **種類**を**厚さ係数**に設定して、**比率**フィールドに値を入力します。
  ベンド半径フィールドの値が**厚さ**と**厚さ係数**の積として計算されます。

特定のベンドのベンド半径を変更：

1 **メカニカルブラウザ**でベンドノードを選択します。選択されたベンドは、モデル内でハイライト表示されます。**メカニカルブラウザ**下部に**ベンドプロパティ**が表示されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **種類**を**グローバル値**に設定します
  カレントのグローバルベンド半径が、選択したベンドに適用されます。
- **種類**を**絶対値**に設定して、**値**フィールドに半径の値を入力します。
  それに応じて**ベンド半径**フィールドの値が変わります。
- **種類**を**厚さ係数**に設定して、**比率**フィールドに値を入力します。
  ベンド半径フィールドの値が**厚さ**と**厚さ係数**の積として計算されます。

30.12.5 ジャンクションギャップの変更

全体のジャンクションギャップを変更：

1 **メカニカルブラウザ**でルートノードを選択します。

2 **メカニカルブラウザ**の下部にある**ジャンクションギャップ**グループを見つけます。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- **種類**を**絶対値**に設定して、**値**フィールドにギャップの値を入力します。

  それに応じて**ジャンクションギャップ**フィールドが変わります。

- **種類**を**厚さ係数**に設定して、**比率**フィールドに値を入力します。

  ジャンクションギャップフィールドが**厚さ**と**厚さ係数**の積として計算されます。

特定のベンドのジャンクションギャップを変更：

1 **メカニカルブラウザ**でベンドノードを選択します。選択されたベンドは、モデル内でハイライト表示されます。**メカニカルブラウザ**下部に**ベンドプロパティ**が表示されます。

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **種類**を**グローバル値**に設定します

  カレントのグローバルジャンクションギャップが、選択したベンドに適用されます。

- **種類**を**絶対値**に設定して、**値**フィールドにギャップの値を入力します。

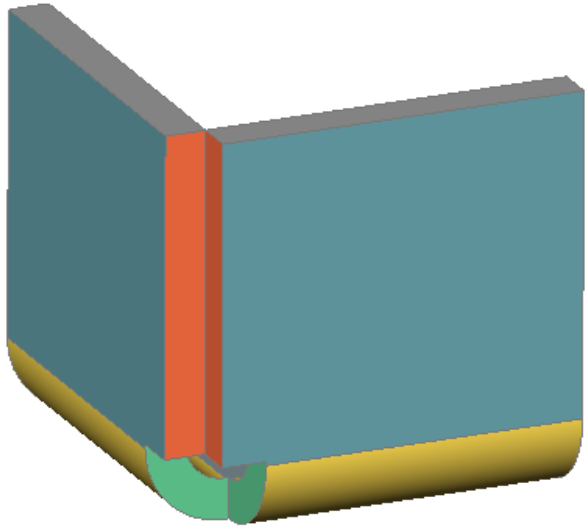
  それに応じて**ジャンクションギャップ**フィールドが変わります。

- **種類**を**厚さ係数**に設定して、**比率**フィールドに値を入力します。

  ジャンクションギャップフィールドが**厚さ**と**厚さ係数**の積として計算されます。

30.12.6 ジャンクションタイプの変更

デフォルトでは、BricsCADでは下図のように対称形なジャンクションを作成します：

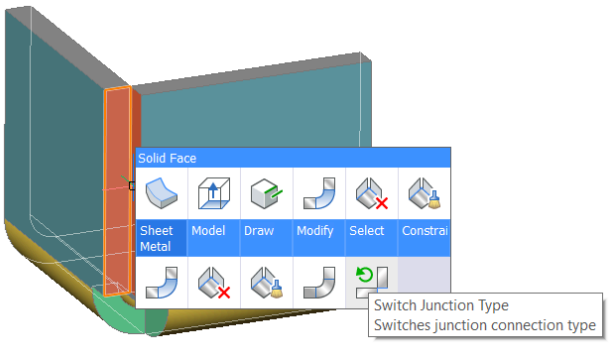


SMJUNCTIONSWITCHコマンドで、対称形のジャンクションフィーチャーを面を整列させたジャンクションに変更することができます。

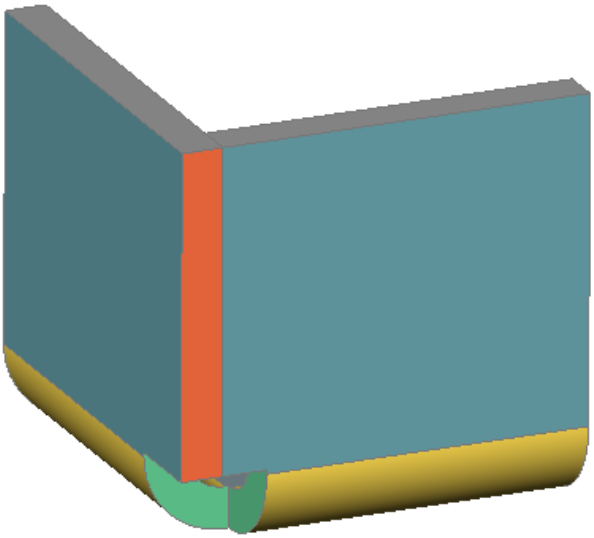
クワッドメニューでジャンクションタイプを変更

1 ジャンクションのいずれかの板厚面にカーソルを合わせます。

2 **クワッド**メニューの**板金**コマンドグループ内の**ジャンクションタイプを切替**を選択します。



選択した板厚面がフランジ面に整列します。



メカニカルブラウザでジャンクションタイプを変更

方法1：

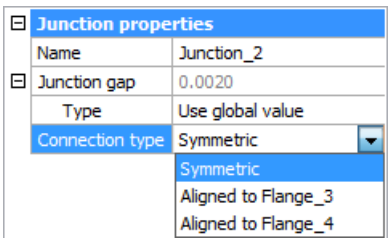
1 ツリー構造上で対応するジャンクションを選択します。

ジャンクションプロパティが**メカニカルブラウザ**の下部に表示されます。

2 **接続タイプ**プロパティを選択します。

3 目的のジャンクションタイプを選択します。

オプションは次のとおりです：**対称**、**フランジ_Xに合わせる**、**フランジ_Yに合わせる**

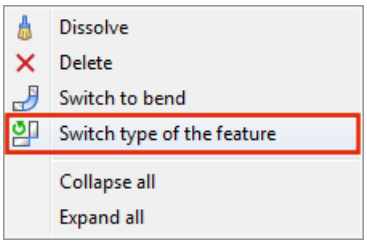


変更内容に応じて接合部が更新されます。

方法2：

1　ツリー構造上で対応するジャンクションを選択します。

コンテキストメニューが表示されます：



2　右クリックして、コンテキストメニューから**フィーチャーの切替タイプ**を選選択します。

注：対称形なジャンクションも整列させたジャンクションも、接続されたフランジ間で同じギャップ値を維持します。

30.13　ヘムの操作

ヘムフィーチャーは、板金フランジのエッジがそれ自体で折り返されるときに生成されます。SMHEMCREATEは、板金ヘムの作成を簡略化します。BricsCADのヘムには、ジオメトリのタイプ、「フランジ」と「ベンド」タイプによって、独自のプロパティが設定されています。ヘムフィーチャーは SMCONVERTコマンドで認識され、SMUNFOLDで展開すると特別な記号が表示されます。

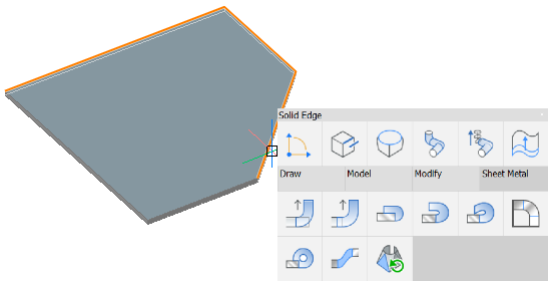
30.13.1　ヘムの作成

1　以下のいずれかの操作を行います：

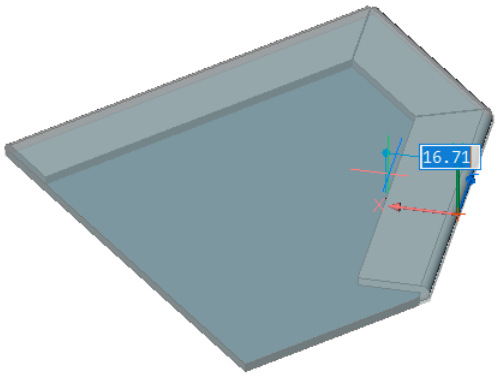
- フランジ上の複数の線形エッジを選択します。
- フランジの線形エッジにマウスを合わせます。

2　以下のいずれかの操作を行います：

- **クワッド**メニューの**閉じたヘムを作成**ツール()を選択します。
- **板金**リボンタブの**閉じたヘムを作成**ツールボタン()をクリックします。
- **板金**メニューの**閉じたヘムを作成**を選択します。

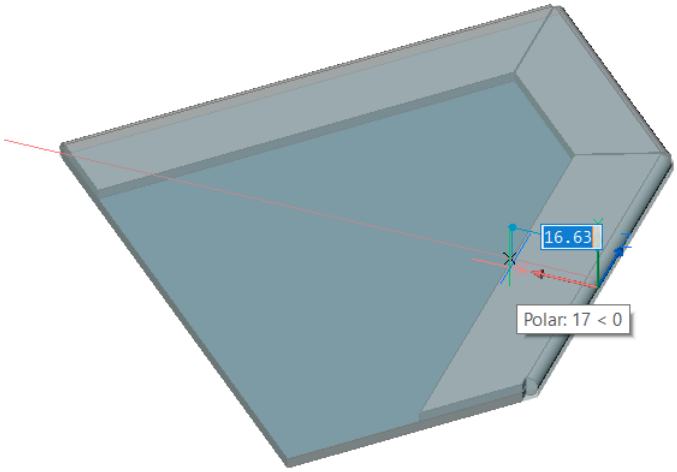


- コマンドラインにSMHEMCREATEと入力します。

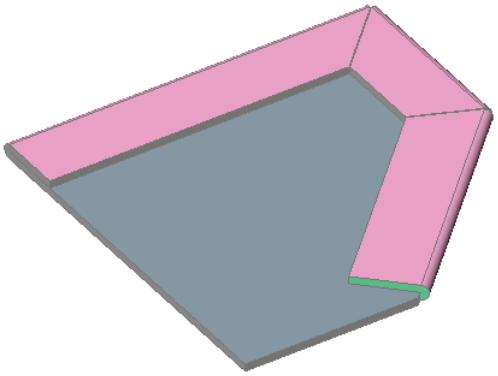


3　カーソルを合わせてヘムの長さを調整します。

4　ホットキーアシスタントの**Ctrl**や**テーパーの切り替え**オプションを使用して、ヘムの調整をエッジに切り替えま



す。



5　終了したら、**Enter**を押します。

ヘムと補助フィーチャー (レリーフとマイター) が作成されます。

30.13.2　ヘムパラメータの修正

ヘムパラメータを修正するには、フィーチャーを選択し、**メカニカルブラウザ**で修正します。ヘムのタイプに応じて、さまざまなパラメータを使用できます。

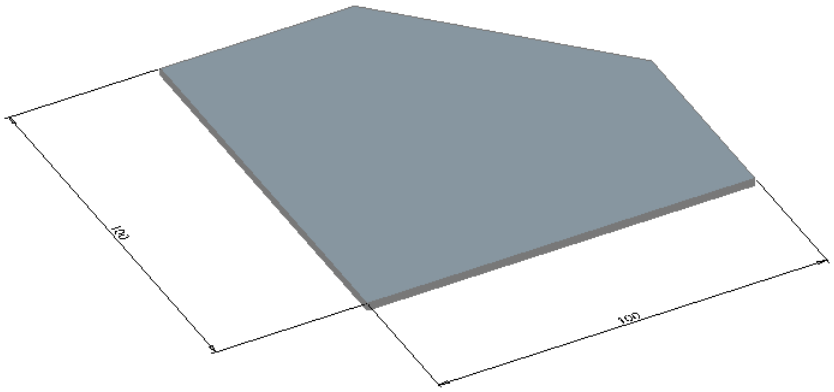
ヘムのタイプ	使用可能なパラメータ
閉じている	半径寸法 長さ
開く	半径寸法 長さ
ティアドロップ	半径 - ヘムの角度を変更 長さ - ヘムの長さを変更
ラウンド (丸み)	半径 - ヘムの「平面」部分を変更

パラメトリックに変更があった場合、ヘムのタイプは保持され、ジオメトリは内部に移動し、外部寸法が維持されます。

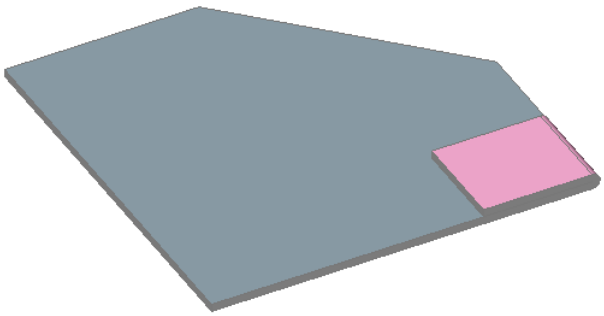
30.13.3　ヘムの削除

ヘムフィーチャーが削除されると、BricsCADはジオメトリの寸法とリリーフを復元します。

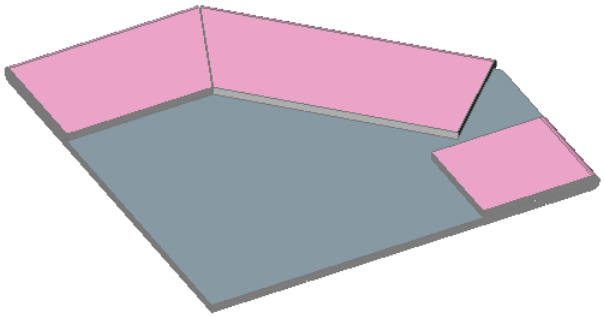
以下のフランジ部品の外形寸法は100です。



1　SMHEMCREATEコマンドの[幅]オプションを使用して、単一のエッジに部分的なヘムを作成しま

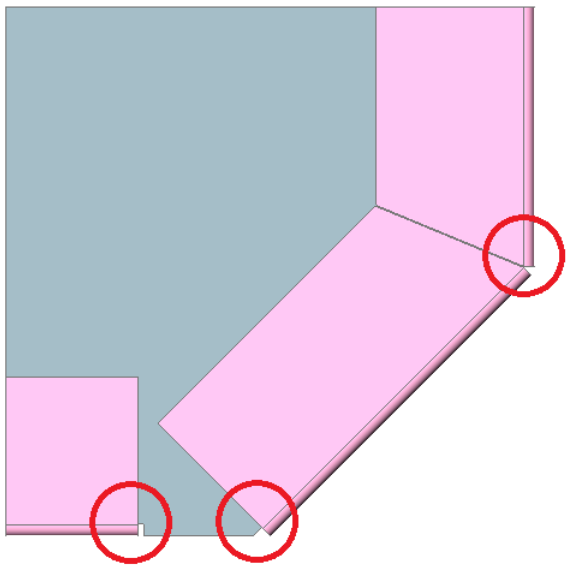


す。

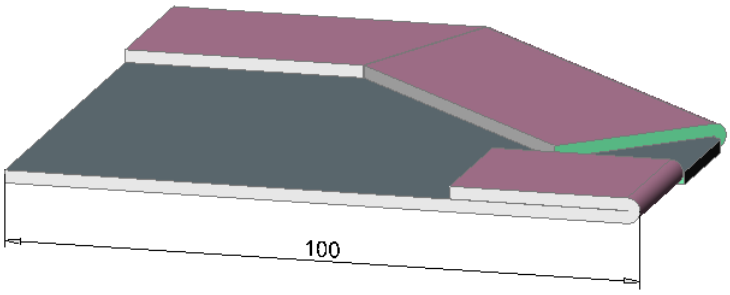


2 他の2つのエッジにヘムを作成します。

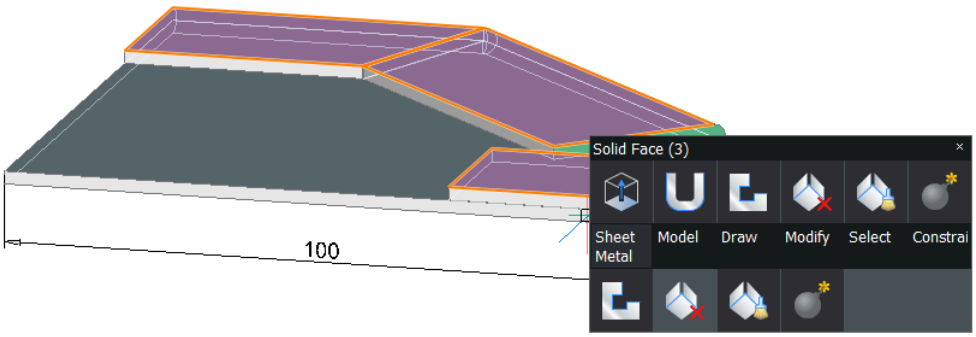
これらの操作により、複雑なレリーフ形状を表現することができます。



注：部品の外形寸法が保持されていることに注意してください。

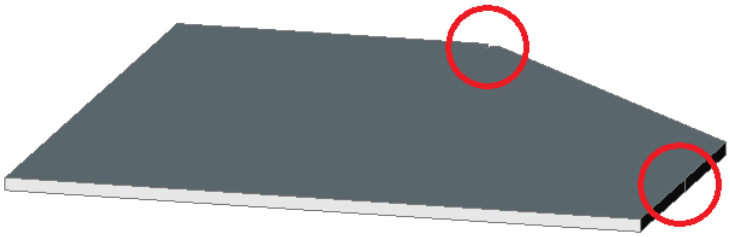


3　ヘムフィーチャーを選択し削除しま

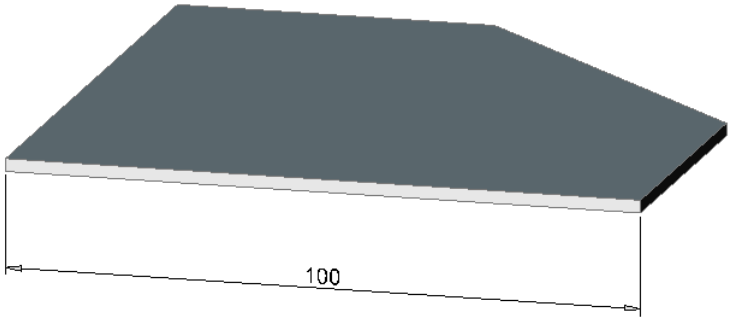


す。

コーナーリリーフフィーチャーとケガキされたエッジにいくつかの欠陥が残っています。



4　コーナーリリーフフィーチャーを削除し、DMSIMPLIFYを使用して、元の寸法の元の部品を取得しま



す。

30.13.4 関連コマンド

MECHANICALBROWSEROPENコマンドはメカニカルブラウザを表示します。

SMDELETEコマンドは、2つのフランジ間のハードエッジを復元して、ベンドまたはジャンクションを削除します。フランジと隣接するすべてのベンドを削除します。隣接するフランジがジャンクション構成まで延長され、フランジが削除されます。マイターで除去されたジオメトリを復元します。

SMHEMCREATEコマンドは、既存のフランジの1つまたは複数のエッジを引っ張ることにより、板金部品に1つまたは複数のヘムを作成します。

30.14 タブの操作

タブフィーチャーは、板金部品間に簡単で堅牢な接続を作成するために使用します。

タブフィーチャーは、ジャンクションから作成されます。

30.14.1 単独タブの作成

デフォルトでは、SMTABCREATEコマンドで単独タブが作成されます。このフィーチャーにはスロットが1つだけあります。

1 以下のいずれかの操作を行います：

- ジャンクション面にカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**単独タブを作成**( )ツールをクリックします。
- **板金**リボンタブの**単独タブを作成**( )ツールボタンをクリックします。
- **板金**メニューの**単独タブを作成**を選択します。
- コマンドラインに「SMTABCREATE」と入力します。

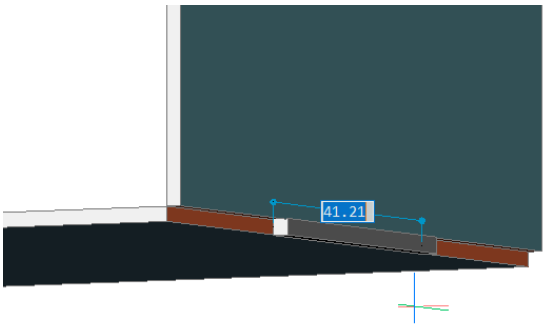
  プロンプト表示：単一タブを作成するジャンクションを選択します[配列]

2 ジャンクション面を選択します。

  プロンプト表示：タブの長さを入力または[中心点]

3 タブの長さを定義します。

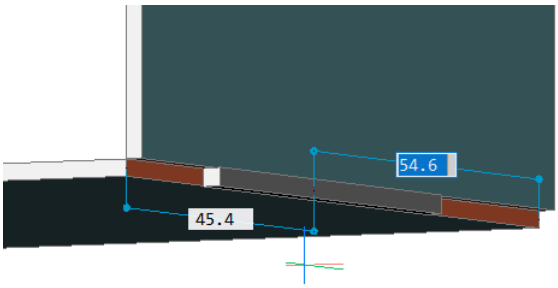
  タブは、中心点に対して対称的に配置されます。ダイナミック長さ入力フィールドに値を入力して、タブの長さを定義します。



4 **中点**オプションを選択して、タブを配置します。

  プロンプト表示：中心点を選択または[長さ]:

  2つのタブコントロールダイナミック寸法を使用して、ジャンクションを基準にしたタブを作成します。



5 **長さ**オプションを選択して長さを指定するか、**Enter**キーを押してコマンドを終了します。

30.14.2 配列タブの作成

配列タブフィーチャーには単独タブとは対照的に、複数のスロットがあります。

1 配列タブを作成するには、以下のいずれかの操作を行います：

- ジャンクション面にカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**配列タブを作成**()ツールをクリックします。
- **板金**リボンタブの**配列タブを作成**()ツールボタンをクリックします。
- **板金**メニューから**配列タブを作成**を選択します。
- コマンドラインに「SMTABCREATE」と入力します。

  プロンプト表示：単一タブを作成するジャンクションを選択します[配列]

2 **配列**オプションを選択します。

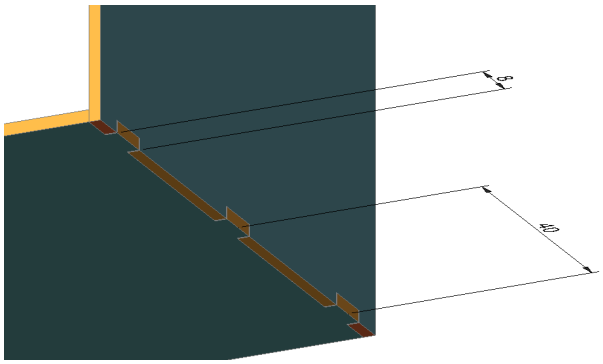
プロンプト表示：接合部または曲線ハードエッジを選択して配列タブを作成、または[反転曲線タブ (I)/一つのタブ (S)/選択オプション (?)]:

3 ジャンクション面を選択します。

プロンプト表示：タブ構成を受け入れる、または[フリップタブ (F)/スロット数 (N)/距離 (D)/長さ (L)/丸み半径 (R)/面取り距離 (CH)/承諾 (A)]:

4 オプションを使用して、配列タブの外観を変更できます。(以下の例を参照)

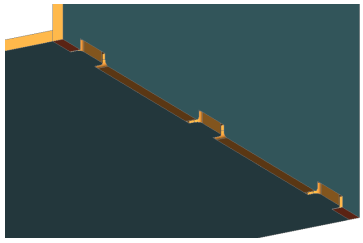
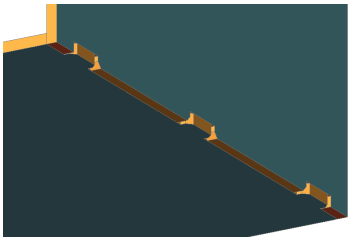
- **スロット数=3** - 画像が対称ではないことに注目してください。**反転**オプションをクリックすると、ジャンクションの反対側に 3 つのスロットが表示されます。
- **長さ=8** - スロットの長さ
- **距離=40** - スロットの中心間の寸法



5 **丸み半径**と**面取り距離**を変更して、エッジのフィレットと面取りを定義します。

ヒント：フィレットまたは面取りを誤って設定した場合は、0値を使用してそれらをオフにします。

6 すべてのオプションを設定したら、**承諾**を選択するか、**Enter**を押してタブを作成し、コマンドを終了します。

フィレット	面取り
	

30.14.3 曲線配列タブの作成

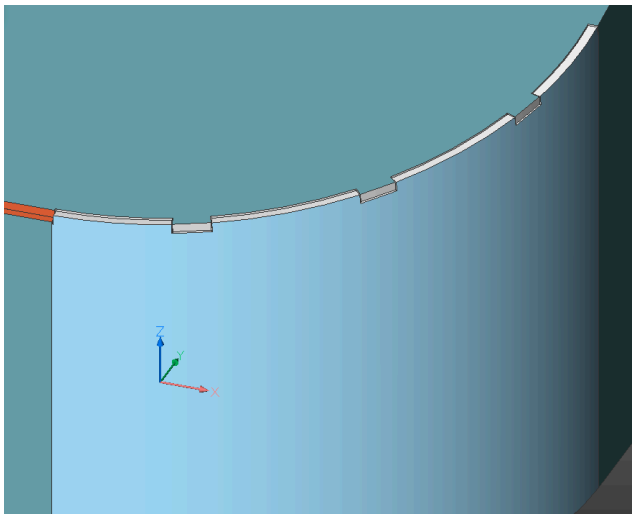
このケースは、直線配列タブの作成に似ていますが、タブは曲線パスに沿って配置されます。

1 曲線配列タブを作成するには、以下のいずれかの操作を行います：

- カーブしたハードエッジにカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**配列タブを作成**()ツールをクリックします。
- **板金**リボンタブの**配列タブを作成**()ツールボタンをクリックします。
- **板金**メニューから**配列タブを作成**を選択します。
- コマンドラインに「SMTABCREATE」と入力します。

  プロンプト表示：接合部または曲線ハードエッジを選択して配列タブを作成、または[反転曲線タブ (I)/一つのタブ (S)/選択オプション (?)]:

2 曲線ハードエッジを選択します。

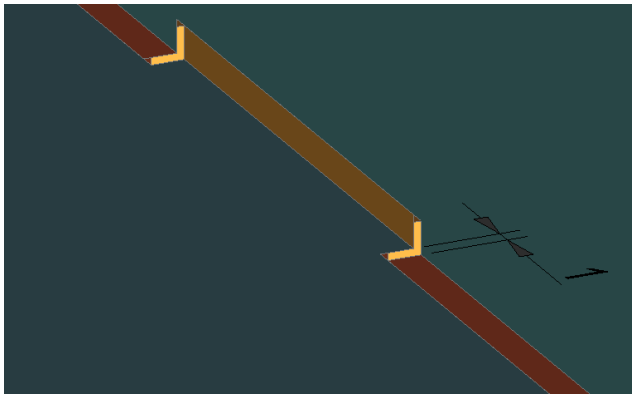


30.14.4　タブの修正

単独タブと配列タブには、**メカニカルブラウザ**で使用できるさまざまな編集可能なプロパティがあります。

編集するタブフィーチャー名をクリックします。

単独タブには、**長さ**、**クリアランス**、**フィレット半径**、**面取り距離**の各パラメータがあります。**タブクリアランス**では、タブとスロット面の間のギャップを定義します。



配列タブには、**スロット数**、**距離**、**長さ**、**クリアランス**、**フィレット半径**、**面取り距離**の各パラメータがあります。

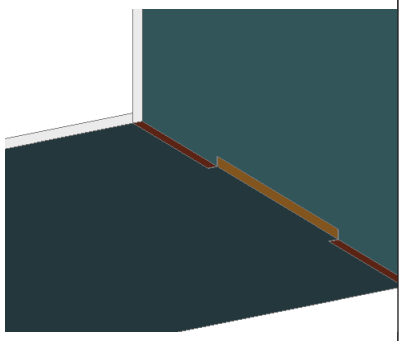
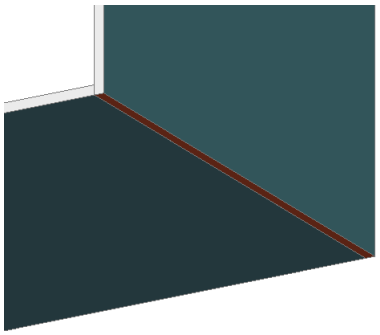
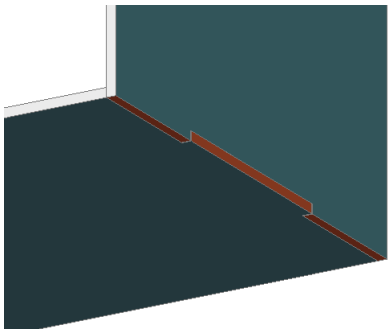
注：曲線配列タブは修正できません。

30.14.5　タブの削除

タブの削除には、SMDELETEコマンドを使用します(曲線には適用されません)。タブの代わりにジャンクションフィーチャーが作成されます。

30.14.6　タブの分解

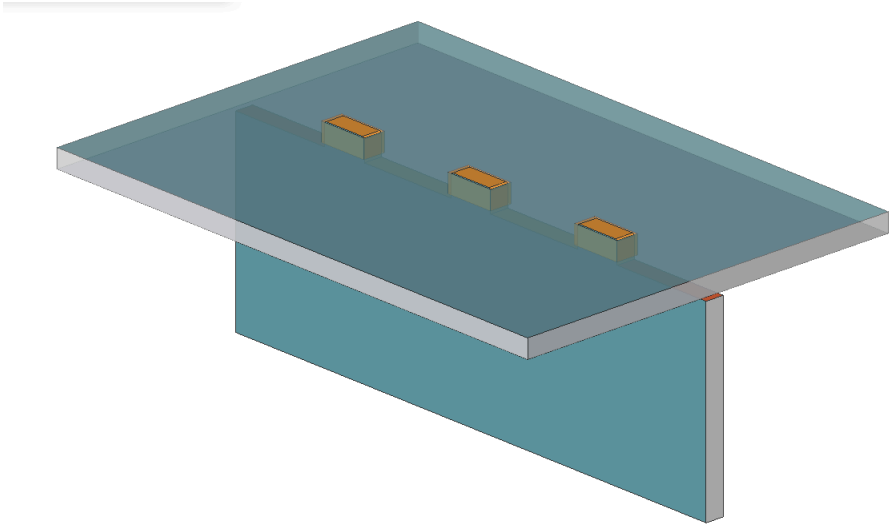
SMEXPLODEコマンドを使用して、タブ付きジャンクションを一連のタブフィーチャーに分解します。タブジオメトリは同じままであり、その面が複数のジャンクションフィーチャーに分割されます。

元のタブフィーチャー	削除の結果	分解の結果
		

30.15 TタブとTジャンクションの操作

30.15.1 概要

Tタブフィーチャーは2つの板金フランジ間に堅牢な位置決めを持つ接続を作成するときに使用されます。通常のタブとは異なり、Tタブは一方のフランジが他方のフランジに取り付けられると、T字型の構成を形成します。



SMTABCREATEコマンドを使い、TジャンクションからTタブを作成することができます。Tジャンクションフィーチャーは、Tタブを作るための中間段階としてよく使用されます。

30.15.2 Tジャンクションの作成

Tジャンクションは以下のようにして、既存の個別のフランジ上に作成できます。

1 フランジ上の厚み面を1つ選択します。

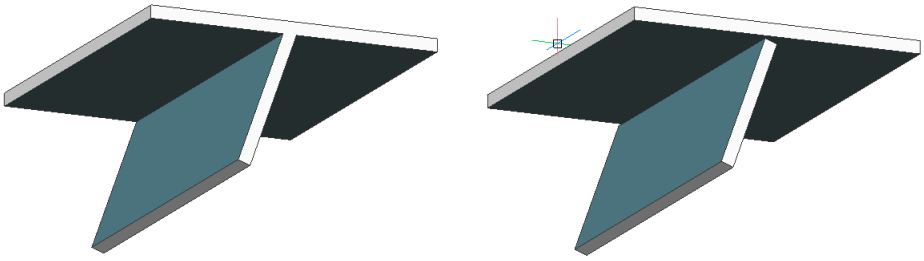
2 以下のいずれかの操作を行います：

- **板金|ジャンクション**リボンタブの**フランジを接合**()ツールボタンをクリックします。
- **板金|ジャンクション**メニューで**フランジを接合**を選択します。

- コマンドラインに「SMFLANGECONNECT」と入力します。

3 **Enter**を押します。

または、2つのフランジ間のT字型のハードエッジの代わりにTジャンクションフィーチャーを作成することもできます。(左側の画像)



1 フランジ間のハードエッジにカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**ジャンクションを作成**( )ツールをクリックするか、以下のいずれかを実行します。

- **板金**リボンタブの**ジャンクションを作成**( )ツールボタンをクリックします。
- **板金|ジャンクション**メニューから**ジャンクションを作成**を選択します。
- コマンドラインに「SMJUNCTIONCREATE」と入力します。

2 ハードエッジを選択します。

30.15.3 単独Tタブの作成

SMTABCREATEコマンドは、デフォルトでは単独のTタブを作成します。このフィーチャーにはスロットが1つしかありません。

単独Tタブの作成：

1 Tジャンクション面にカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**単独タブを作成**ツール( )をクリックするか、以下のいずれかを実行します。

- **板金**リボンタブの**単独タブを作成**( )ツールボタンをクリックします。
- **板金 | タブ**メニューから**単独タブを作成**を選択します。
- コマンドラインに「SMTABCREATE」と入力します。

2 Tジャンクション面を選択します。

30.15.4 配列Tタブの作成

単独Tタブとは異なり、配列Tタブフィーチャーには複数のスロットがあります。

配列Tタブの作成：

1 Tジャンクション面にカーソルを合わせ、**クワッド**メニューの**配列タブを作成**ツール( )をクリックするか、以下のいずれかを実行します。

- **板金**リボンタブの**配列タブを作成**( )ツールボタンをクリックします。
- **板金|タブ**メニューから**配列タブを作成**を選択します。
- コマンドラインに「SMTABCREATE」と入力します。

プロンプト表示：ジャンクションを選択して単独のタブを作成、または [配列タブ (A)/選択オプション (?)]: **配列タブ**オプションを選択します。

2　Tジャンクション面を選択します。

30.15.5　Tジャンクションパラメータと Tタブパラメータの変更

Tジャンクションには、**ジャンクションギャップ**パラメータのみがあります。

配列Tタブと単独Tタブには、**距離**、**長さ**、**クリアランス**、**フィレット半径**、**面取り距離**のプロパティがあります。配列Tタブには**スロット番号**パラメータもあります。

メカニカルブラウザパネルでは、すべてのパラメータの値を設定できます。

30.15.6　TジャンクションまたはTタブを削除

Tタブフィーチャーが削除されると、BricsCADは対応するジオメトリでTジャンクションフィーチャーを復元します。Tジャンクションを削除すると、フランジが結合され、フランジ間にT字型のハードエッジが作成されます。

30.15.7　関連コマンド

MECHANICALBROWSEROPENコマンドは、メカニカルブラウザを表示します。

SMDELETEコマンドは、フィーチャーを消去します。

30.16　ベベルの操作

30.16.1　概要

ベベルフィーチャーは、板金部品に対して行われる面取り加工を表します。BricsCAD V21のレベルでは、各ベベルは正確に単一のフランジ上にある必要があります。ベベルを作成する特別な操作はないため、DMCHAMFERコマンドをフランジのエッジで使用し、DMROTATEを使用してベベル角度を調整する必要があります。SMCONVERTコマンドはベベルを認識し、SMUNFOLDによって処理されます。ベベルフィーチャーはSMDELETEとSMREPAIRコマンドでもサポートされています。

この手順は、次の2つのシナリオに適用されます。

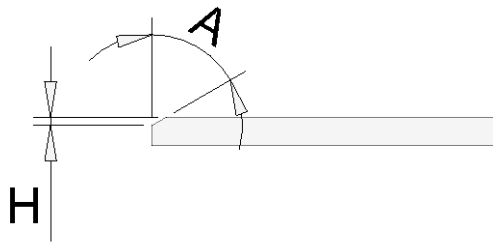
- SMASSEMBLYEXPORTによるバッチ書き出しを含む、ジオメトリの読み込み操作
- パーツの修正

以下のベベルタイプを区別します。

	片面ベベル

	ランドベベル
	K-ベベル
	X-ベベル

メカニカルブラウザでは、ベベルフィーチャーの各面取りのプロパティを個別に使用できます。これらのプロパティは次のとおりです：



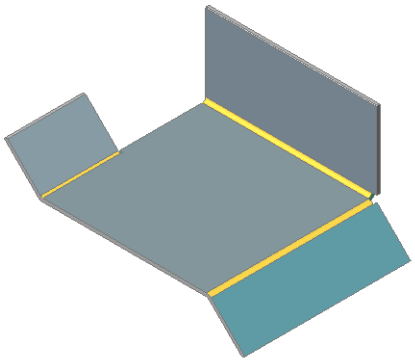
深さ(H)：面取り操作の深さ(DMCHAMFERコマンドと同様)。

角度(A):面取りされた面の傾き。

注：メカニカルブラウザプロパティでは、トップまたはボトムはベベルフィーチャーを記述するのに使用されないことに注意してください。

30.16.2　ベベルを認識

まず、ベベルジオメトリ(面取りされたフランジエッジ)を持つ板金部品から始めましょう。

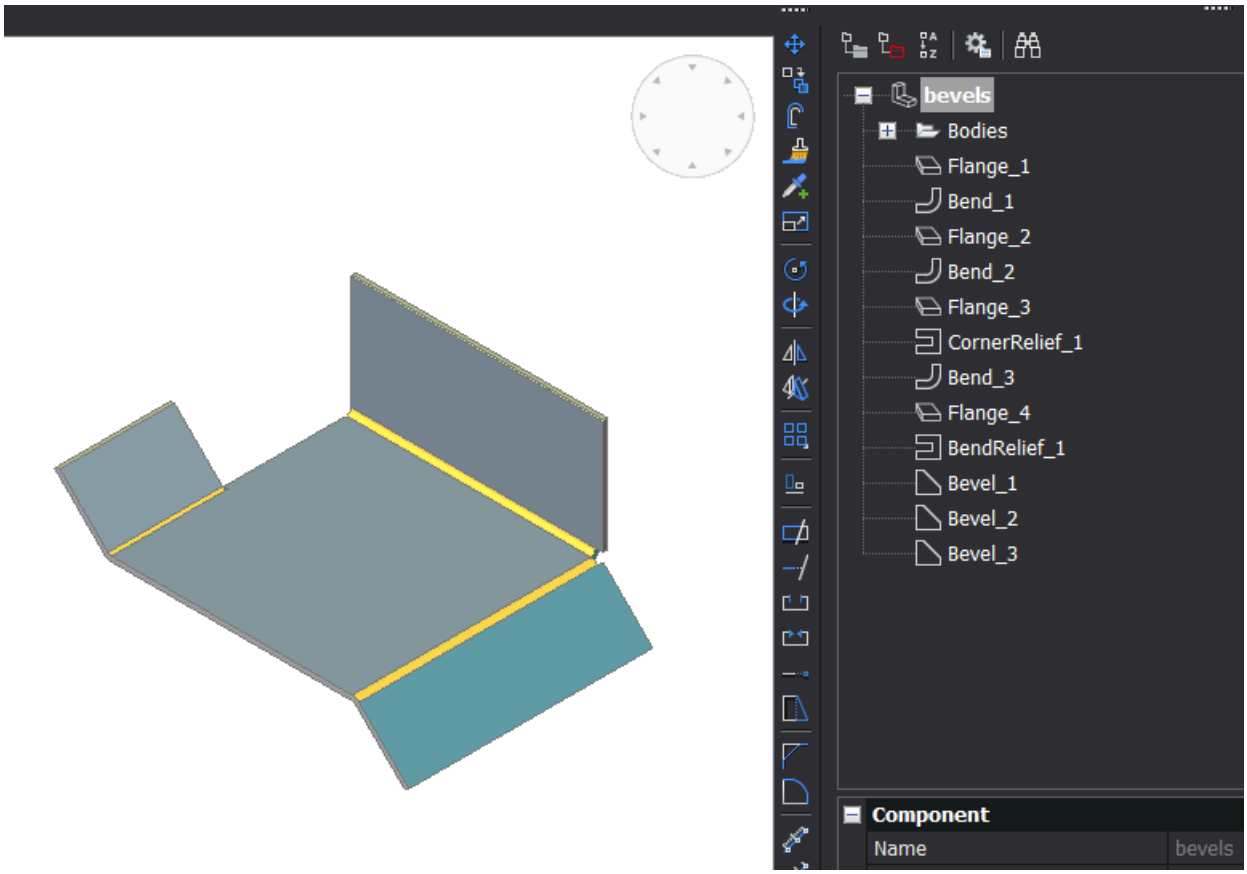


1　**板金 / 作成**リボンパネルの**板金へ変換**()ツールボタンをクリックします。

　プロンプト表示：3Dソリッドまたはシード面を選択、または [モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

2　**Enter**を押して、3Dソリッドを板金部品に変換します。

ベベルフィーチャーが認識され、**メカニカルブラウザ**に表示され、部品上に表示されます。



30.16.3 削除と修復

以下の手順では、部品の全体的な寸法は変わりません。DMCHAMFER/SMCONVERTでベベルのジオメトリとフィーチャーを作成し、SMDELETEでベベルを削除し、手順をやり直します。

SMDELETEを使用してベベルを削除する場合、部品の寸法を縮小できないため、ボリュームは部品に**常に追加**されます。

SMREPAIRコマンドは、読み込みと修復のワークフローの一部であるため、このコマンドのサポートも重要です。

注：面取りだけがありベベルフィーチャーがない部品にSMREPAIRコマンドを適用すると、部品の選択された側に応じて面取りが失われ、寸法が変更されます。

30.16.4 展開

ベベルフィーチャーは、**メカニカルブラウザ**の**展開モード**の設定に従って展開されます。

オプションは以下の通りです：

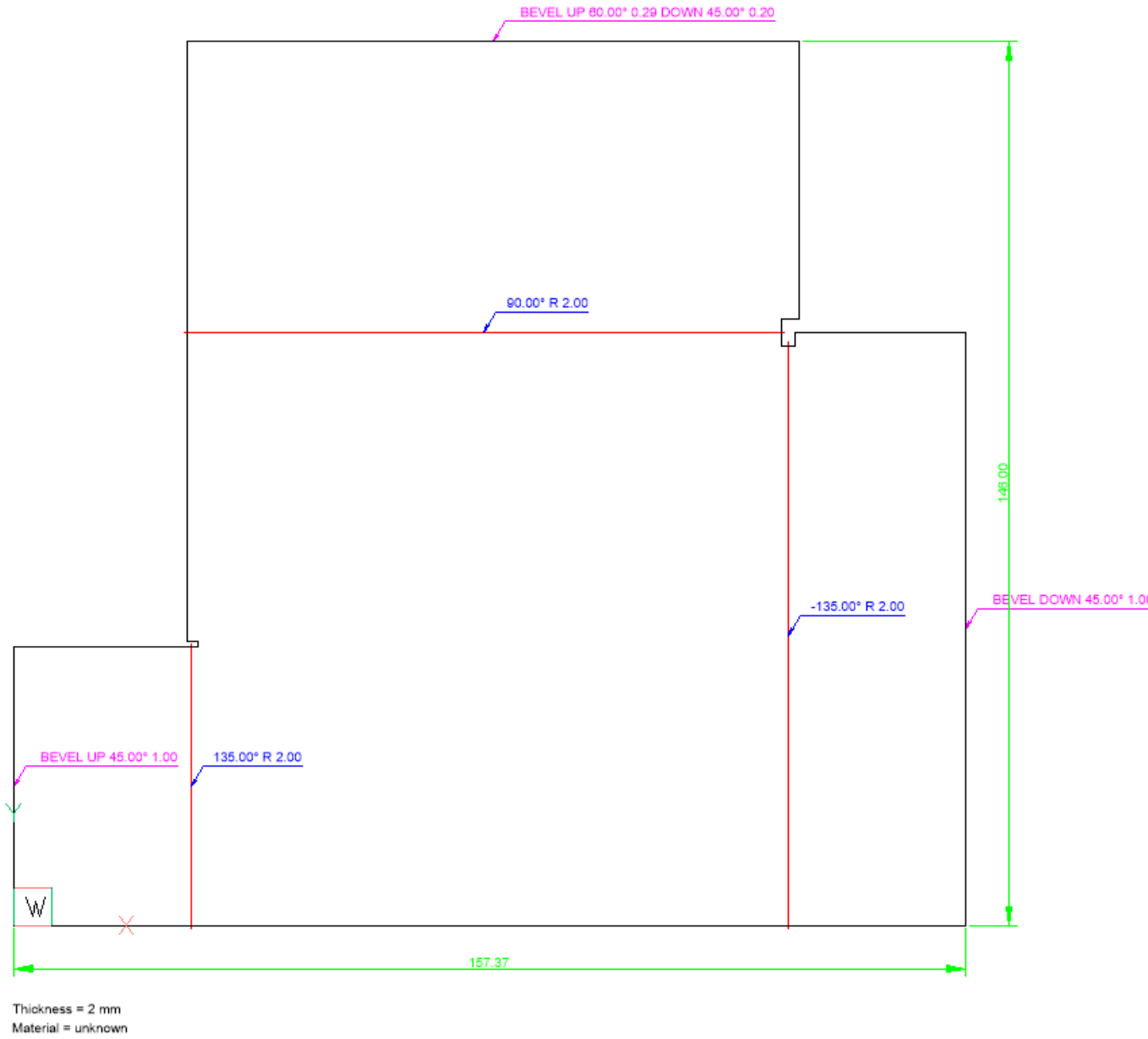
保持：ベベルジオメトリに何も行わず、面取りのある3Dソリッドが作成されます。この面取りされた面は、2DのDXFファイルではアーチファクトが発生する可能性があります。

削除：すべてのベベルフィーチャーにSMDELETEを適用した場合と同じ結果になります。すべてのチョップが塗りつぶされます。

注釈：各ベベルフィーチャーが削除され、エッジに注釈が付けられます。このモードを推奨します。

これは、サンプル部品の結果です。

- 各ベベルエッジには、**Bevel Annotations**画層にピンクの文字で注釈が付けられています。
- 上下は、展開する選択した側面を基準にします。反対側を選択すると、すべての上向き注釈が下向きになります。逆も同様です。
- **片面ベベル**と**ランドベベル**では、1回の面取り操作のみが必要です。1つの上または下注釈が作成されます。
- **Kベベル**と**Xベベル**では、2回の面取り操作が必要です。上下に注釈が作成されます。



30.17　ロフトベンドの作成と分割

BricsCADでは、曲線的なジオメトリを持つロフト付きの板金部品を作成・認識し、複数のベンド加工を用いて製造することができます。

30.17.1　ロフトベンドを使用して板金部品を作成する一般的な手順

1　SMLOFTコマンドを起動します。

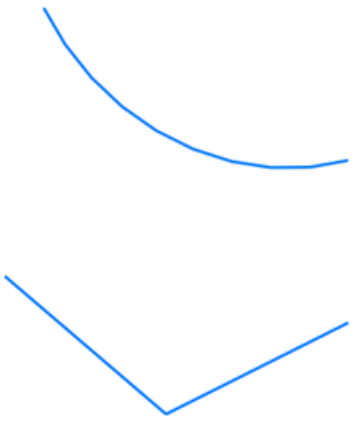
2　以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**ツールバーの**ロフトベンドを作成**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**リボンバーの**ロフトベンドを作成**ツールボタン( )をクリックします。

- **板金**メニューの**板金ロフトを作成**を選択します。

  プロンプト表示：二つの交差断面を選択 [選択オプション (?)]:

3 2つのプロファイル図形を選択します。

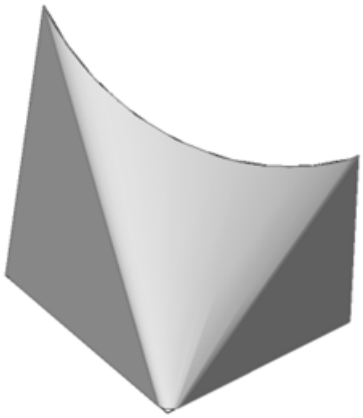


プロンプト表示：セット [フィレット半径 (R)/厚さ (T)/単一ベンド (S)/ベンド付きフランジ (F)] <ベンド付きフランジ>:

4 **Enter**キーを押して、デフォルト設定をそのまま使用します。

板金部品のプレビューが作成されます。

プロンプト表示：セット [フィレット半径 (R)/厚さ (T)/単一ベンド (S)/ベンド付きフランジ (F)/内側 (I)/両側 (B)/外側 (O)]:

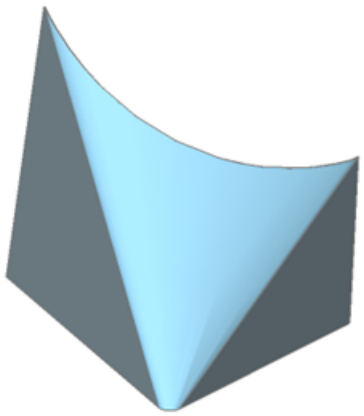


注：

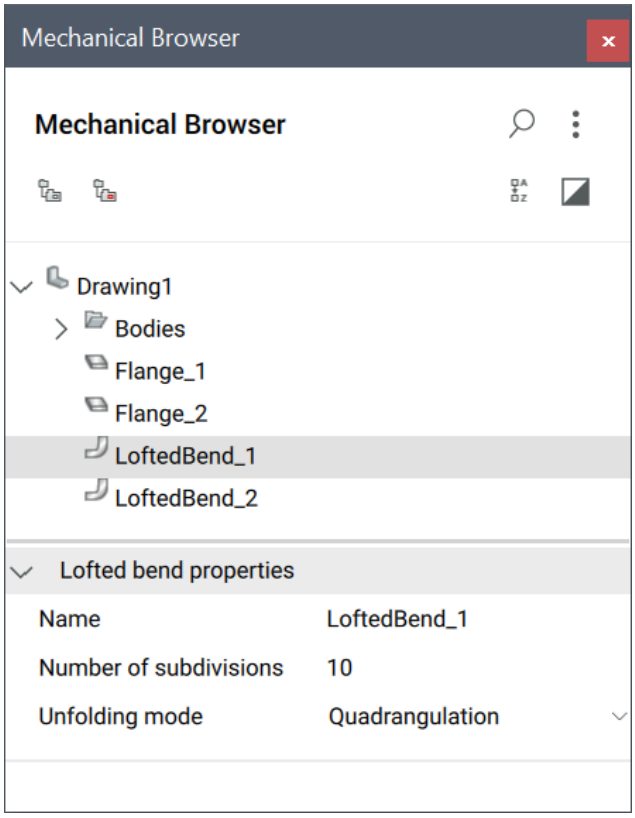
ステータスバーのHKAフィールドがオンの場合、ホットキーアシスタントウィジェットが表示されます。

CTRLキーを押して、ソースプロファイルに対する板金部品の厚みの位置を選択します。内側に厚み付け、両側に厚み付け、外側に厚み付けの3種類から選択できます。

5 **Enter**を押して板金部品を作成します。



FEATURECOLORSがオンの場合、2つのフランジ( )とロフトベンド( )を区別できます。ロフトベンドのプロパティが**メカニカルブラウザ**に表示されます。



または、ロフトベンドフィーチャーを選択してプロパティを編集することもできます。

- **細分化数**：ロフトベンドフィーチャーの展開図を作成した時の平らなリージョンの数です(この数が多いほど、ロフトベンドの展開図でベンド線が多くなります)。
- **展開モード**：ロフトベンドのほとんどは、クワッドテッセレーションのインテリジェントなアルゴリズムを使用して展開できます。ただし、最適でない結果が生成される場合があります。そのような場合には、このプロパティを**三角形分割**に設定して、三角形のような四角形を作成するより単純なアルゴリズムに切り替えます。

30.17.2　ロフトベンドを分割

ロフトベンドは、ロフトサーフェス上の線に沿って任意の箇所で分割することができます。

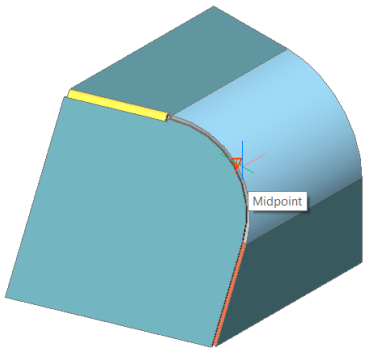
1　以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**リボンタブの**分割**ツール()をクリックします。
- **メカニカル** > **板金** > **分割**メニューで**分割**を選択します。
- コマンドラインにSMSPLITと入力します。

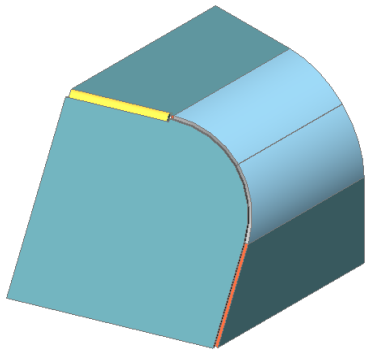
  プロンプト表示：フランジを分割する線分またはエッジを選択または[スマート分割を使用/新しい線分を作図]

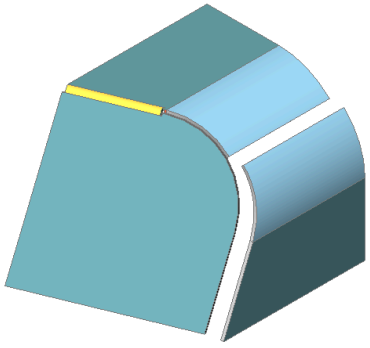
2　**新しい線分を作図**オプションを選択します。

3　選択したフランジ上の線の始点と終点を指定します。



プロンプト表示：線分の終点:　と表示されるので、分割の終点を選択します。ロフトベンドが分割されます。ジャンクションの接続が解除される場合は、分離された部分を自由に移動させることができます。





30.18 ベンドリリーフとコーナーリリーフフィーチャーの操作

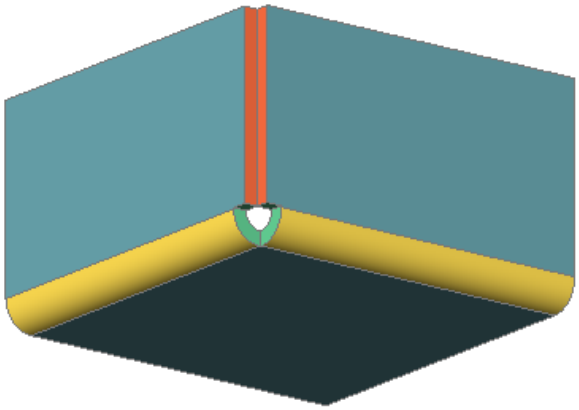
30.18.1 概要

SMFLANGEEDGE、SMRELIEFCREATE、SMJUNCTIONSWITCH、SMRELIEFSWITCHコマンドを使用します。

板金部品には、プレス機で曲げたときに材料が裂けないようにするためのリリーフが必要です。基本的にはリリーフについては気にする必要はありません。というのも、BricsCADはベンドを作成する際に必要なすべてのリリーフを(暗黙的または明示的に)自動的に作成するからです。ただし、不十分な板金部品を再加工する場合は、専用ツールを使用してコーナーリリーフとベンドリリーフを作成すると便利です。

30.18.2 コーナーリリーフとジャンクション

SMFLANGEEDGEコマンドを使用してフランジを作成すると、ベンドエッジに隣接して、3つのフランジが交わるコーナーにコーナーリリーフが自動的に作成されます。この操作で、ベンドで接合されない2つのフランジのジャンクションも作成できます。



30.18.3 欠落しているリリーフの作成

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**リボンタブの**リリーフを作成**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューの**リリーフを作成**を選択します。
- コマンドラインにSMRELIEFCREATEと入力します。

  プロンプト表示：ハードエッジ、ベンド面、フランジ面、3Dソリッドを選択 [モデル全体 (E)/選択オプション (?)]:

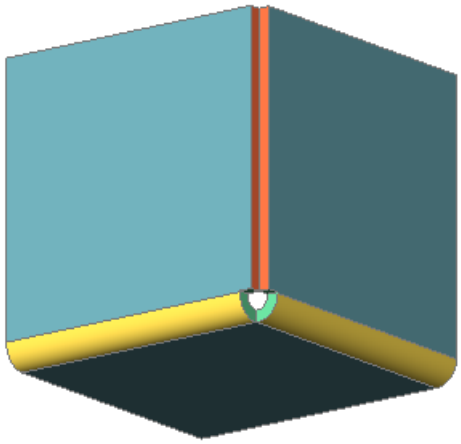
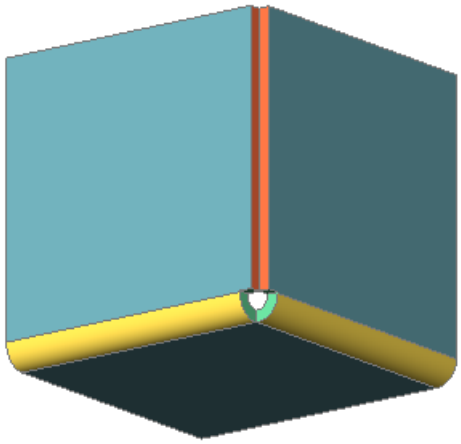
2 アイテムを選択します。

  ベンド半径係数によるリリーフサイズを入力、または [ベンドリリーフを強制 (B)/自動 (A)] <自動 (A)>:

3 以下のいずれかの操作を行います：

- **Enter**を押すか、右クリックしてデフォルトのベンド半径係数を受け入れます。
- コマンドバーにプロンプトが表示されたら数値を入力し、**Enter**を押します。

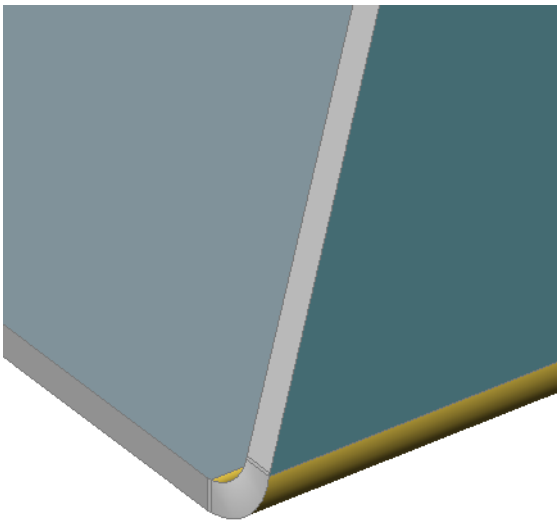
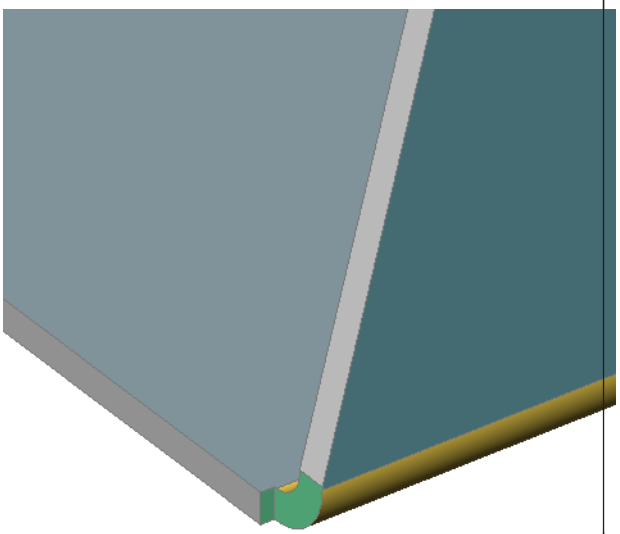
  リリーフが作成されます。

	
選択したベンド面	作成されたリリーフ

注：

- 選択した要素は、板金フィーチャーのある3Dソリッド、またはソリッドの面またはハードエッジの場合があります。
- リリーフを局部的に作成するには、1～2つのハードエッジ、1～2つのベンド、または1つのベンドとハードエッジを選択します。
- 3Dソリッドが選択されると、コマンドがコーナーやベンドリリーフを必要とする場所を認識し、それらを自動で作成します。
- 2つのハードエッジ、2つのベンド、または1つのハードエッジとベンドがコーナーで選択されると、コマンドがコーナーリリーフを作成します。

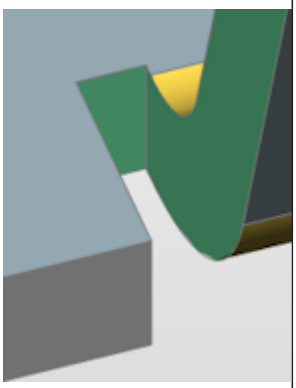
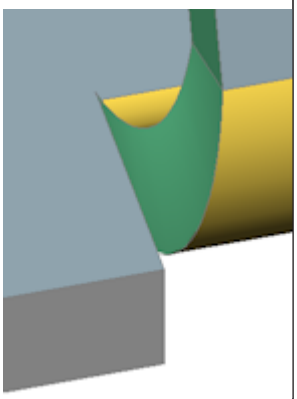
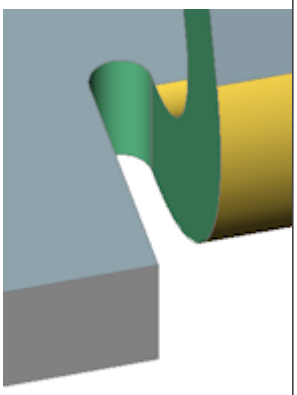
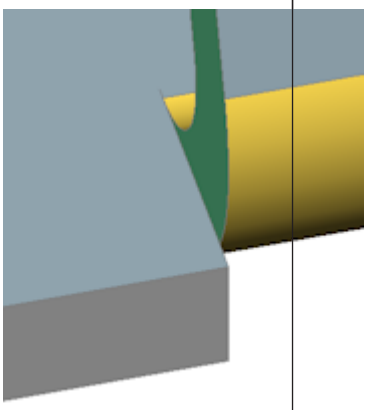
ベンドリリーフを強制オプションでは、ベンドリリーフを作成する必要がない場合でも、ベンドリリーフを強制的に作成します。下の図に示すように、ベンドリリーフを作成する必要はありませんが、ジオメトリは矩形カットとは異なります。

ジオメトリがスムーズに移行するため、ベンドリリーフは必要ありません。	矩形ベンドリリーフは、**ベンドリリーフを強制**オプションが有効になっている場合にのみ作成されます。

30.18.4 ベンドリリーフ種類の切り替え

ベンドリリーフは4種類あり、切り替えることができます。

			
矩形	スムーズ	丸み	リップ

注：

- **リップ**リリーフの幅は非常に狭く、厚さ0.001 *に設定されています。リリーフを完全に除去する必要がある場合は、この幅を0に変更します。この操作により、ベンドリリーフジオメトリとベンドリリーフフィーチャーの両方が削除されます。
- ベンドリリーフ種類のうち、**スムーズ**、**丸み**、**リップ**は、カレントのベンドリリーフ種類が**矩形**の場合のみ適用することができます。

リボン、メニュー、ツールバーの使用

1 目的のリリーフ種類を切り替えるには、以下のいずれかを実行します：

- リボンの**板金/修正**パネルの**リリーフ**ドロップダウンボタンをクリックし、**矩形へ切替**、**スムーズへ切替**、**丸みへ切替**、または**リップへ切替**を選択します。
- **SMリリーフ**ツールバーのツールボタンをクリックします。選択できるツール：**矩形リリーフへ切替**( )、**スムーズリリーフへ切替**( )、**丸みリリーフへ切替**( )、または**リップリリーフへ切替**( )。
- **板金 / リリーフ**メニューでリリーフの種類を選択します。

  プロンプト表示：リリーフをV-タイプに切り替える面、3Dソリッドを選択 [矩形状 (REC)/円形状 (CI)/V-タイプ/スムーズ (SM)/リップ (RI)/丸み (RO)/リリーフの延長 (EX)/モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

2 以下のいずれかの操作を行います：

- **Enter**を押して、選択したリリーフ種類をモデル全体に適用します。
- 隣接するフランジ、ベンド、またはベンドリリーフの面をクリックします。

  ベンドリリーフが変換されます。

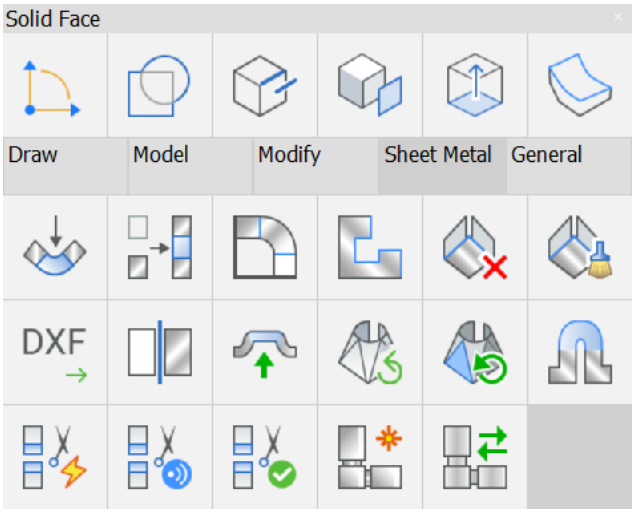
3　コマンドがリボンから呼び出されている場合、**ESC**を押してコマンドを終了するまで、メインプロンプトを繰り返します。

クワッドの使用

1　隣接するフランジ、ベンド、またはベンドリリーフの面にカーソルを合わせます。

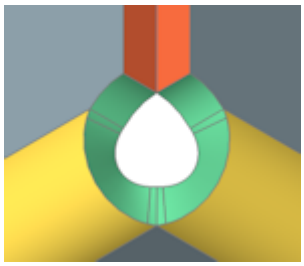
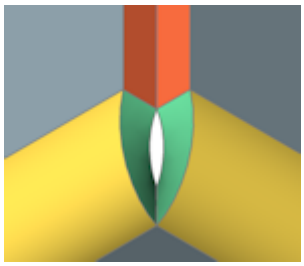
SELECTIONMODESシステム変数の**面を選択**オプションを選択すると、フランジまたは面がハイライト表示されます。それ以外の場合は、面がハイライト表示されるまで**CTRL**を押しながらマウスを移動します。

2　**クワッド**の**板金**タブで、目的のリリーフ種類を選択します。



30.18.5　コーナーリリーフの種類を切り替え

コーナーリリーフには3種類あり、切り替えることができます。

		
矩形	円形	V-タイプ

リボン、メニュー、ツールバーの使用

1　目的のリリーフ種類を切り替えるには、以下のいずれかを実行します：

- リボンの**板金/変更**パネルにある**リリーフ**ドロップダウンボタンをクリックして、リリーフタイプを選択します。
- **SMリリーフ**ツールバーのツールボタンをクリックします。
- **板金 / リリーフ**メニューでリリーフの種類を選択します。

  プロンプト表示：リリーフをV-タイプに切り替える面、3Dソリッドを選択 [矩形状 (REC)/円形状 (CI)/V-タイプ/スムーズ (SM)/リップ (RI)/丸み (RO)/リリーフの延長 (EX)/モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

2 以下のいずれかの操作を行います：
- **Enter**を押して、選択したリリーフ種類をモデル全体に適用します。
- 隣接するフランジ、ベンド、またはコーナーリリーフ面をクリックします。

  コーナーリリーフが変換されます。

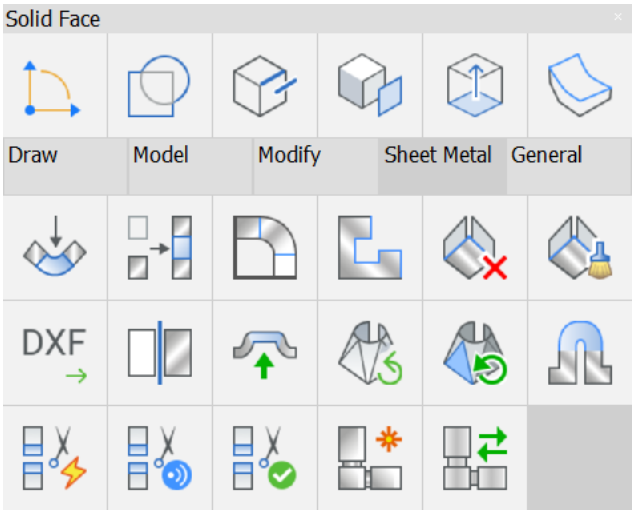
3 コマンドがリボンから呼び出されている場合、**ESC**を押してコマンドを終了するまで、メインプロンプトを繰り返します。

クワッドの使用：

1 **SELECTIONMODES**システム変数で**面を選択**オプションがオンに設定されていることを確認します。

2 隣接するフランジ、ベンド、またはコーナーリリーフ面にカーソルを合わせます。

3 **クワッド**の**板金**コマンドグループで目的のリリーフ種類を選択します。



30.19 フォームとビードフィーチャーの操作

30.19.1 概要

フォームフィーチャーとビードフィーチャーは、フォームツールによって作成されます。ビードフィーチャーは、任意の軌跡に従ってフランジ上を転がるホイールを刻印することによって生成されます。ここでは、フォームフィーチャーとビードフィーチャーの両方を参照するために**フォーム**を使用します。フォームフィーチャーは、インポートされたジオメトリで認識したり、組み込みライブラリやユーザー定義ライブラリから挿入したりできます。フォームフィーチャーは、直接またはパラメトリックに編集できます。フォームフィーチャーは、パラメータとともに**メカニカルブラウザ**にリストアップされます。フォームフィーチャーのパラメータが表示され、選択されている場合は**プロパティ**パネルで編集することができます。

以下のコマンドが、フォームフィーチャーに適用されます。

アイコン	コマンド	説明
	SMFORM	選択した面のセットをフォームフィーチャーに変換します。 ユーザー定義のフォームフィーチャーを持つ図面ファイルを保存して、BMINSERTコマンドで挿入することができます。

アイコン	コマンド	説明
	SMCONVERT	読み込んだジオメトリのフォームフィーチャーとビードフィーチャーを認識します。
	SMREPLACE	板金部品のフォームフィーチャー(認識されたものを含む)を内蔵またはユーザー定義のライブラリのフォームフィーチャーに置き換えます。
	SMBEAD	2Dプロファイルから板金部品にビードフォームフィーチャーを作成します。定義するプロファイルが修正されると、フィーチャーは自動的に更新されます。
	BMINSERT	カレントの図面に既存のメカニカルコンポーネントまたは板金フォームフィーチャーを挿入します。
	SMSELECT	比較するフォームフィーチャーを選択します。コマンドは2つのモードで動作します。 • **類似**：同じ面のセットを持っているが異なるサイズと思われるフィーチャー。 • **同じ**：同一のフィーチャー。

パラメトリック化された板金フォームフィーチャーのライブラリは、**ツールパレット**パネルのフォームフィーチャータブから使用できます。ライブラリには、最も一般的に使用されるフォームフィーチャータイプが含まれています。板金3Dソリッドにフォームフィーチャーを挿入するには、**ツールパレット**パネルまたは**ライブラリ**パネルからフォームフィーチャーアイコンをソリッドのフランジにドラッグします。

SMDEFAULTFORMFEATUREUNFOLDMODEシステム変数は、2Dおよび3Dの展開されたモデル表現でのフォームフィーチャーの外観を制御します。

30.19.2　フォームフィーチャーの挿入

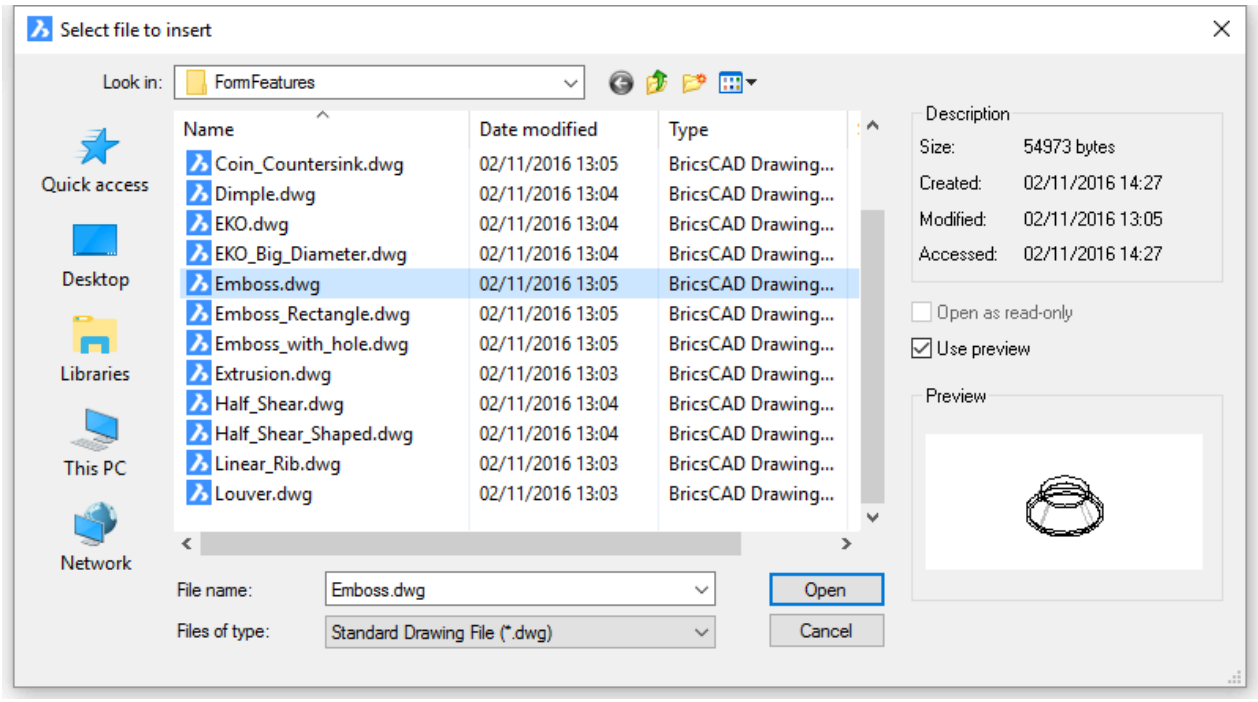
既存のフランジに挿入することにより、板金部品にフォームフィーチャーが追加されます。フォームフィーチャーは、BMINSERTコマンドを実行するか、または**ライブラリ**パネルの**フォームフィーチャー**タブからドラッグ＆ドロップして挿入できます。

1　**ダイナミック寸法**(DYN)と**ダイナミックUCS**(DUCS)がオンになっていることを確認します。

2　以下のいずれかの操作を行います：

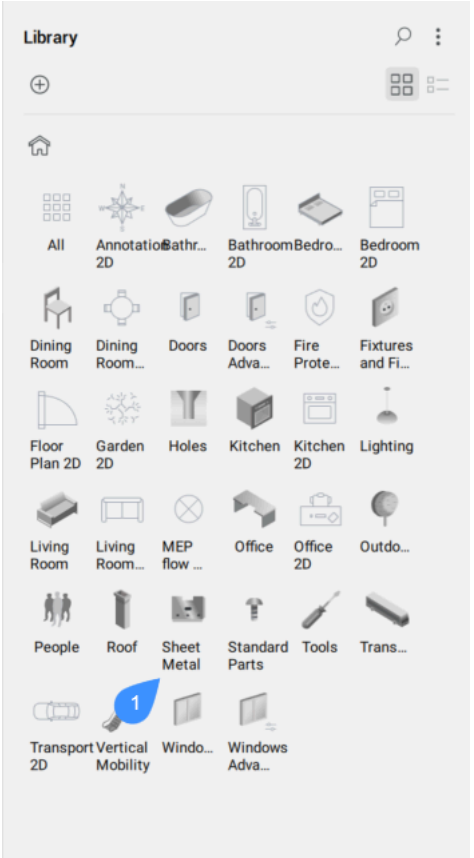
- **板金**ツールバーの**フォームフィーチャー**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**リボンバーの**フォームフィーチャー**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューで**フィーチャーから挿入**を選択します。
- コマンドラインにBMINSERTと入力して、**Enter**を押します。

  挿入するファイルを選択ダイアログボックスに、**FormFeatures**フォルダーBricsCADインストールフォルダー¥Support¥DesignLibrary¥SheetMetal¥FormFeaturesが表示されます。

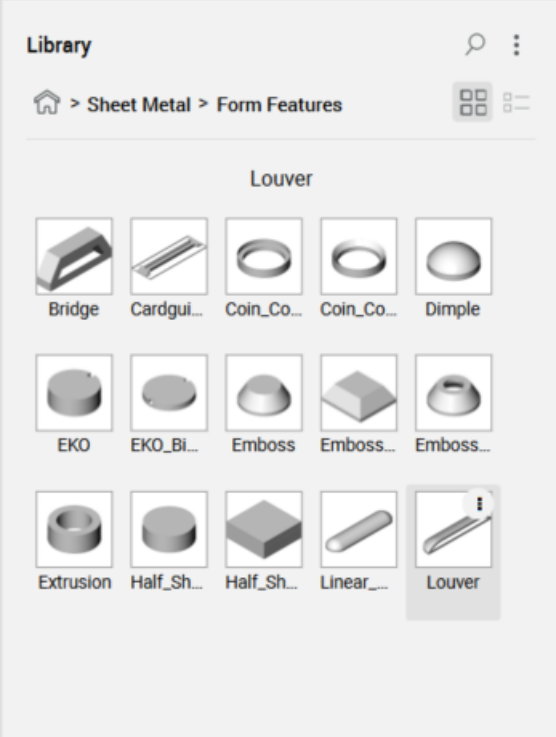


目的のフォームフィーチャーを選択し、そのフィーチャーをダブルクリックするか、**開く**をクリックします。

- **ライブラリ**パネルのフォームフィーチャータブからフォームフィーチャーを選択します：



- **ライブラリ**パネルの**フォームフィーチャー**タブでフォームフィーチャーを選択します。



3 フィーチャーを挿入したいフランジ面の上にカーソルを移動します。

選択した面にダイナミックUCSを揃えます。

UCSの方向は、カーソルを面に挿入するエッジによって異なります。

ダイナミック寸法は、UCSの原点からフォームフィーチャーの挿入ポイントまでを表示します。

プロンプト表示：

挿入点を選択または [挿入図形を編集/コンポーネントを回転/基点をセット/名前/挿入種類/フリップ/連続]< 0, 0, 0>:

4 (オプション)オプションを選択します(詳細は、BMINSERTコマンドを参照してください)。

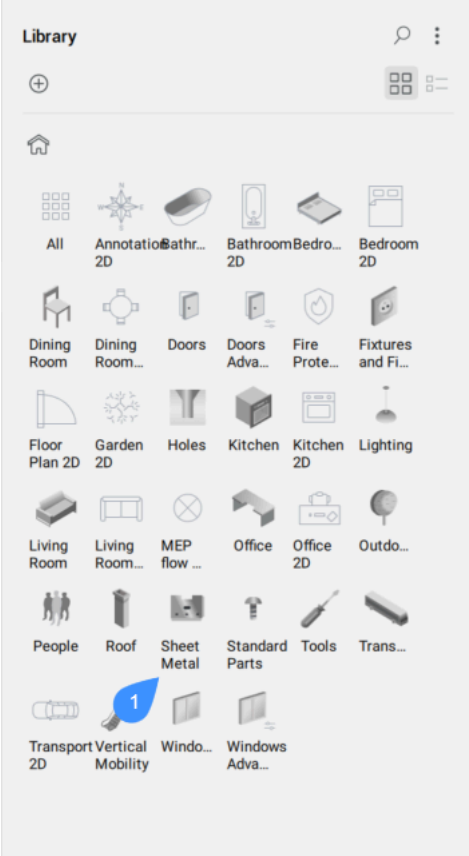
- **編集**：選択した挿入図形のパラメータを編集します。
- **回転**：コンポーネントの回転角度を指定します。
- **基点**：コンポーネントを挿入する別の基点を指定します。
- **名前**：コンポーネントの挿入図形名を指定します。
- **種類**：挿入の種類をローカルまたは外部に指定します。
- **反転**：フォームフィーチャーを反対側のフランジ面に挿入します。
- **連続**：同じコンポーネントを複数挿入したり、配列を作成します。

5 フォームフィーチャーを挿入するには、以下のいずれかの手順を行います：

- 点を指定します。
- ダイナミック寸法フィールドに値を入力します。**TAB**を押すと、入力フィールドが切り替わります。

6　別のコピーを挿入する場合は、ステップ5を繰り返します。終了するには、**Enter**を押します。

ライブラリパネルにフォームフィーチャーを表示するには、**スタートアップ**ダイアログボックスで**メカニカルプロファイル**を作成または使用します。



30.19.3　ライブラリフォームフィーチャーのパラメータ編集

ライブラリ内のフォームフィーチャーは、パラメトリックコンポーネントです。いくつかのパラメータが寸法を制御します。フォームフィーチャーの長さ、幅、高さ、半径を制御するパラメータには、それぞれL、W、H、Rという名前が付けられています。フォームフィーチャーの厚さは自動的に、板金部品の厚さと同じに設定されます。

1つのフォームフィーチャーのパラメータを編集する場合は、**プロパティパネル**または**メカニカルブラウザ**で行えます。複数のフォームフィーチャーのパラメータを編集する場合は、**プロパティパネル**でのみ行えます。

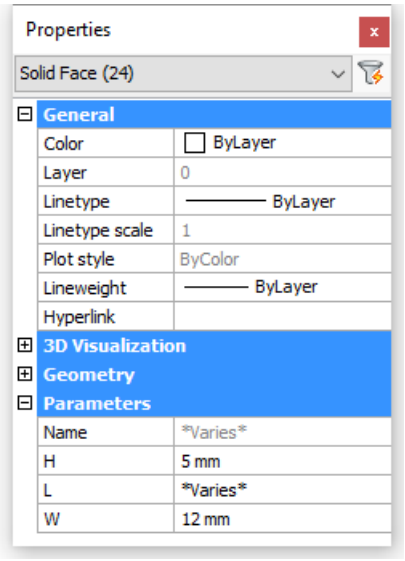
フォームフィーチャーの選択方法

- SELECTIONMODESシステム変数の**面を選択**オプションを選択しておき、モデルでフォームフィーチャーをクリックします。
- **メカニカルブラウザ**でフォームフィーチャーを選択し、スペースバーを押すか、右クリックしてコンテキストメニューから**選択**を選択します。Ctrlを押したままにすると、複数のフォームフィーチャーを選択できます。
- 板金部品にはさまざまなフォームフィーチャーが多数含まれていることもあり、特定の条件に適合するフィーチャーだけを選択して処理する必要がある場合など、削除や置換などの操作が複雑になることがあります。より簡単にフォームフィーチャーを選択するために、SMSELECTコマンドでは選択されたフィーチャーと同一または類似のフォームフィーチャーを選択することができます。

プロパティパネルでパラメータを編集する

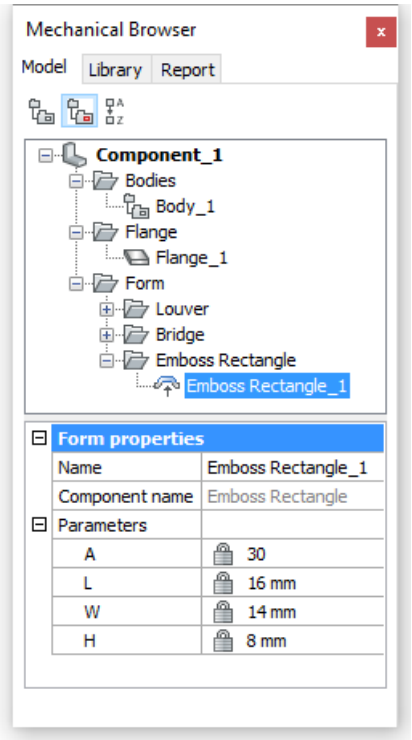
1 フォームフィーチャーを選択します。

2 **プロパティ**パネルの**パラメータ**ノードでパラメータを選択します。



メカニカルブラウザでパラメータを編集

1 コンポーネント構造ツリーで、**フォーム**ノードにあるフォームフィーチャーを選択します。

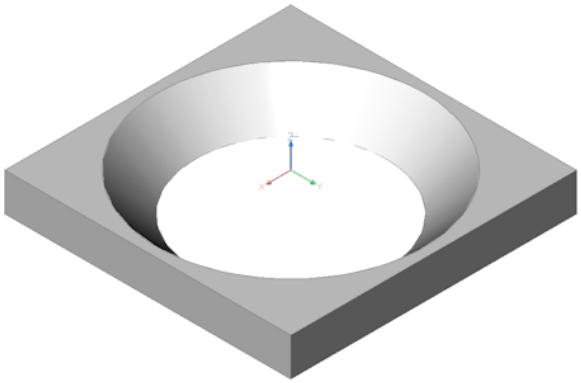


2 **メカニカルブラウザ**の下部パネルでパラメータを選択し、新しい値を入力します。

30.19.4 カスタムフォームフィーチャーの作成

1 Mechanical-mm.dwtをテンプレートとして使用し、新しい図面を開きます。

2 フォームフィーチャーの3Dジオメトリを作成します。



3 SMCONVERTPREFERFORMFEATURESシステム変数を1に設定します。

4 SMCONVERTコマンド( )を実行します。

5 BMMECH( )コマンドを実行します。

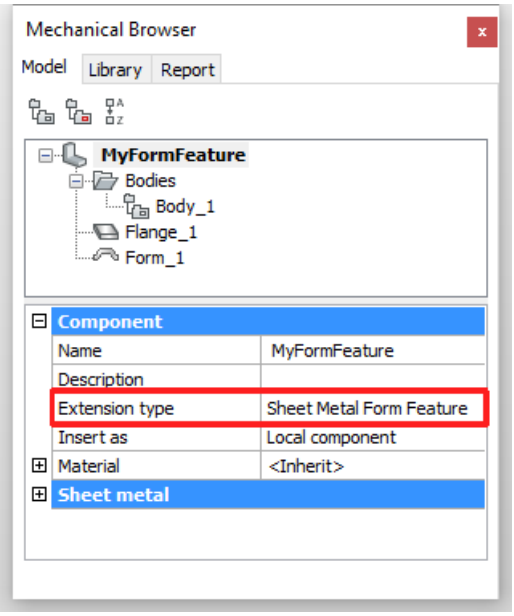
プロンプト表示：メカニカルコンポーネントの名前< Component_2>:

6 フォームフィーチャーの名前を入力します。

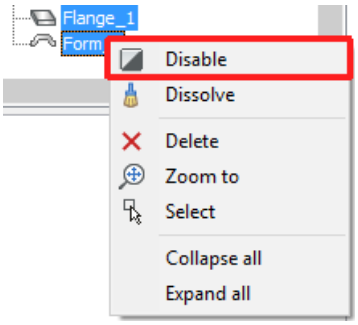
プロンプト表示：ブロックと外部参照をメカニカルコンポーネントに変換しますか[はい (Y)/いいえ (N)] <はい (Y)>:

7 **いいえ**を選択します。

8 **メカニカルブラウザ**の**拡張種類**フィールドで、**板金フォームフィーチャー**を選択します。



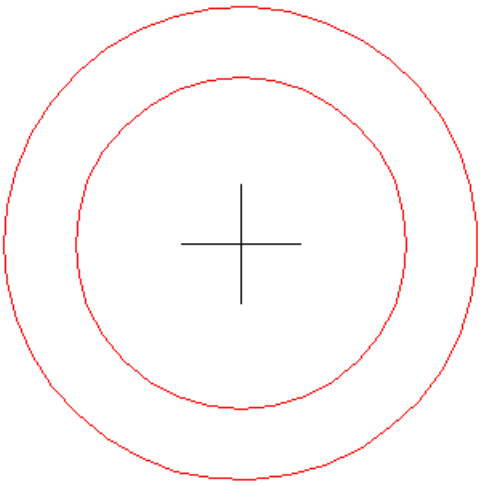
9 **ボディー**ノードでフランジ_1フィーチャーとフォーム_1フィーチャーを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**無効**を選択します。



10 新規画層を2つ作成します：UNFOLD_SYMBOL_UPおよびUNFOLD_SYMBOL_DOWN

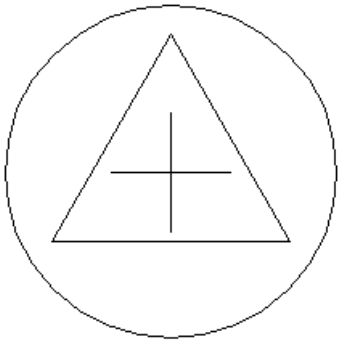
11 0画層とUNFOLD_SYMBOL_DOWN画層を**オフ**にし、UNFOLD_SYMBOL_UP画層を**カレント**にセットします。

12 展開シンボルを作成します。このシンボルは、フォームフィーチャーを挿入する面に配置されます。



13 UNFOLD_SYMBOL_UP画層を**オフ**にし、UNFOLD_SYMBOL_DOWN画層を**オン**にします。UNFOLD_SYMBOL_DOWN画層を**カレント**の画層に設定します。

14 展開シンボルを作成します。このシンボルは、フォームフィーチャーを挿入する面の反対側の面に配置されます。



15 0画層を**オン**にし、UNFOLD_SYMBOL_UPとUNFOLD_SYMBOL_DOWN画層を**オフ**にします。0画層を**カレント**に設定します。

16 図面を保存します。

30.19.5　カスタムパラメトリックフォームフィーチャーの作成

前の手順で作成したカスタムフォームフィーチャーをパラメトリック化します。

2つのパラメータが必要です：

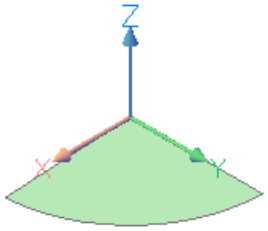
- **D**：円錐孔の大きい縁の直径。
- **A**：円錐孔の面の角度。

板金ではデフォルトのパラメータ_**SM_THICKNESS**が板金部分の厚さを制御します。

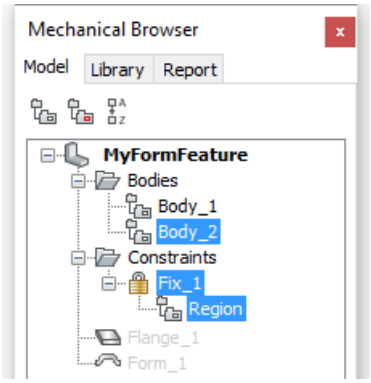
1　新しくCONSTRUCTION画層に拘束するための補助ボディを作成します。

　この画層をカレントにし、その他の画層をすべてオフにします。

2　CONSTRUCTION画層でWCSのXY平面に**リージョン**を作成します。

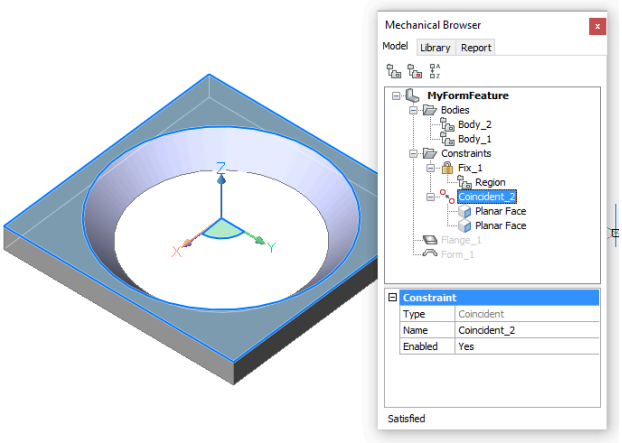


3　リージョンにDMFIX3D拘束( )を適用します。



4　0画層を**オン**に切り替えます。

5　リージョン面とフランジ上面の間にDMCOINCIDENT3D拘束( )を適用します。

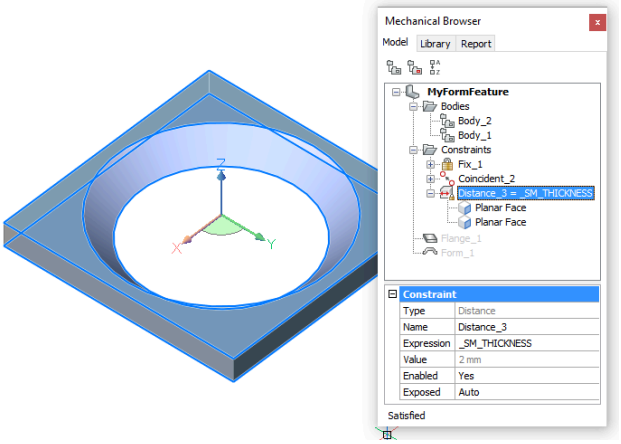


6 フランジ上面と底面の間にDMDISTANCE3D拘束()を適用します。

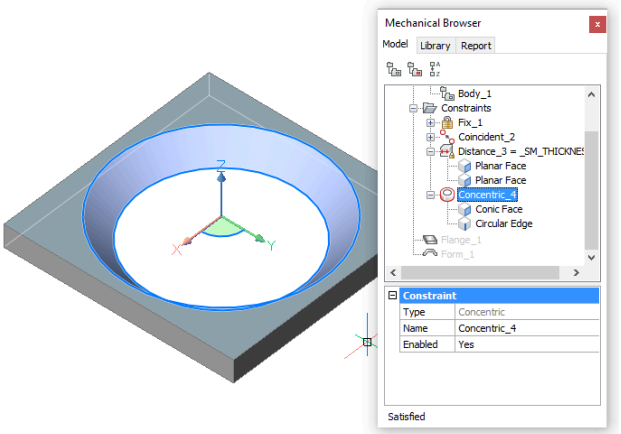
まず、上面を選択し、Tabを押して底面を選択します。

ダイナミック寸法でデフォルトの値を受け入れます。

7 距離_3拘束の**表記**欄に _SM_THICKNESS と入力します。



8 このフォームフィーチャーは円錐形なので、フランジを平行六面体から円柱に変更することができます。

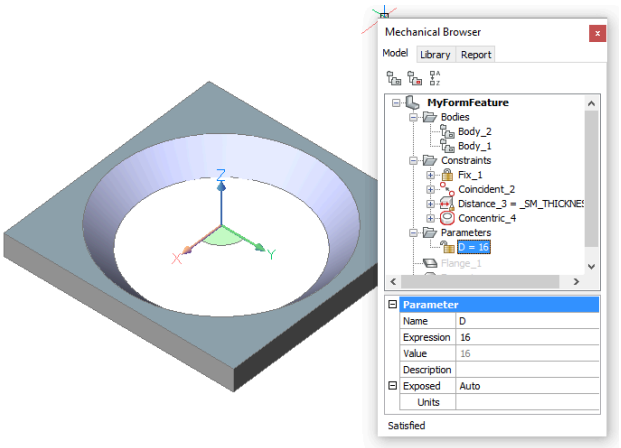


9 **メカニカルブラウザ**で、フィーチャー名を右クリックし、コンテキストメニューから**新しいパラメータを追加**を選択します。

新しいパラメータの名前を**D**に変更します。

単位フィールドでmmを選択します。

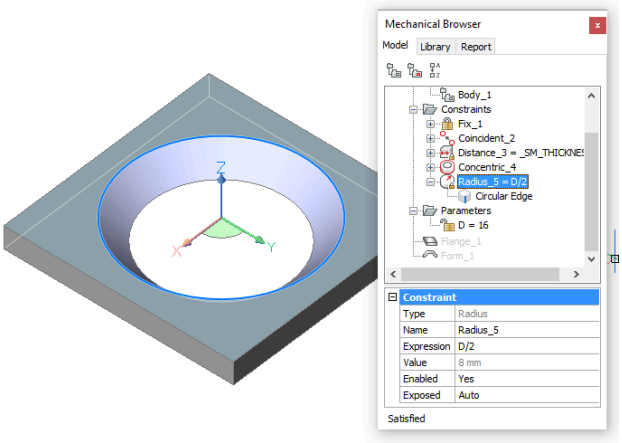
式フィールドに16と入力します。



10 円錐面の上端にDMRADIUS3D拘束()を適用します。

ダイナミック寸法でデフォルトの値を受け入れます。

11 半径_5拘束の**表記**欄にD/2と入力します。



12 **メカニカルブラウザ**で、フィーチャー名を右クリックし、コンテキストメニューから**新しいパラメータを追加**を選択します。

新しいパラメータの名前を**A**に変更します。

単位フィールドは空のままにします。

式フィールドに45と入力します。

13 以下のいずれかの手順を行い、円錐面に**円錐角度拘束**を作成します。

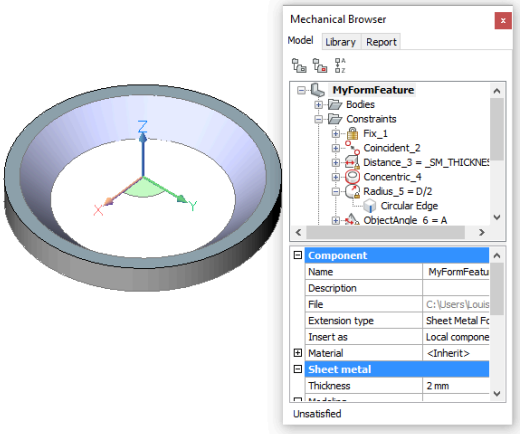
- DMANGLE3Dコマンド()を起動します。**角度**オプションを選択し、円錐面を選択します。
- 円錐面上にカーソルを移動し、**クワッド**メニューで**拘束**コマンド群から**円錐角度拘束**()を選択します。

デフォルト値を適用します。

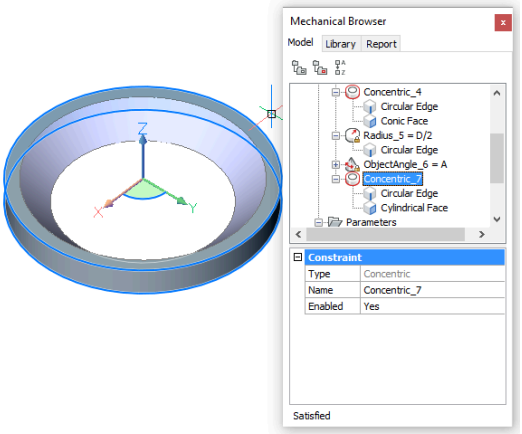
14 ObjectAngle_6 constraintの**式**入力欄にAと入力します。

15 フォームフィーチャーが円錐形であるため、フランジを平行六面体から円柱に変更します。

- フランジの上に円を描きます。円の半径は9mmです。
- リボンの**ホーム**タブの**設定**パネルで**境界検出を有効にする**を選択します。
- 円とフランジの矩形エッジの間にカーソルを合わせ、**クワッド**メニューで**押し出し**()を選択し、カーソルを下方向に動かします。

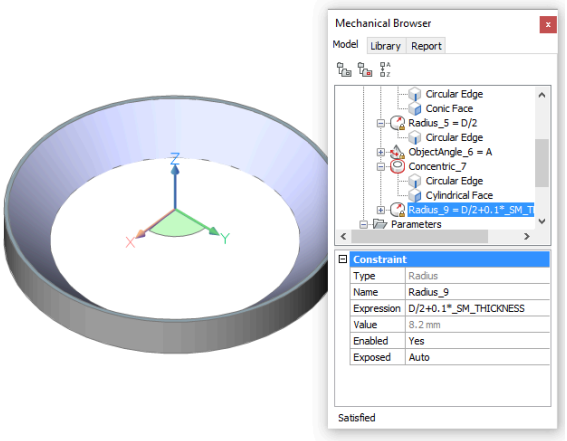


16 領域の円形エッジと円柱面の間にDMCONCENTRIC3D拘束()を適用します。

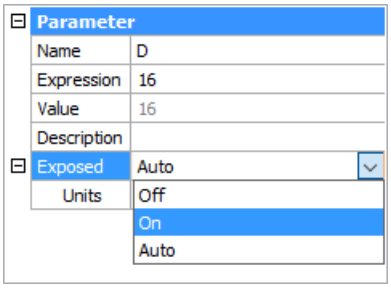


17 円柱面にDMRADIUS3D拘束()を適用します。
ダイナミック寸法でデフォルトの値を受け入れます。

18 半径_8 拘束の**表記**欄に D/2+0.1*_SM_THICKNESS と入力します。



19 パラメータAとDの**公開**欄を両方とも**オン**に設定します。



展開シンボルの2D拘束を作成します。

20 UNFOLD_SYMBOL_UP画層を**カレント**にし、他の全ての画層を**オフ**にします。

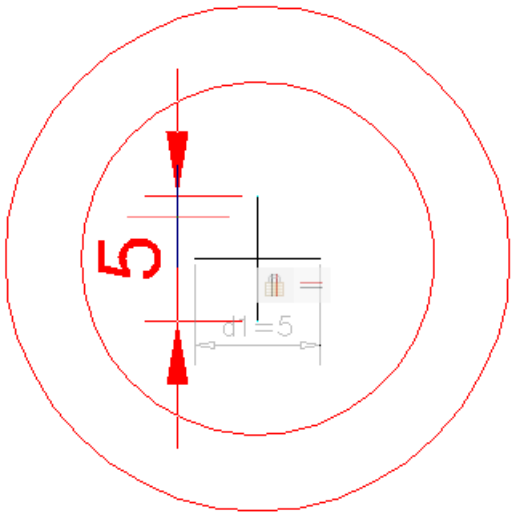
21 円の中心を示す両方の交差線にGCFIX拘束()を適用します。

22 水平中心線に GCHORIZONTAL拘束()を適用します。

23 垂直中心線に GCVERTICAL拘束()を適用します。

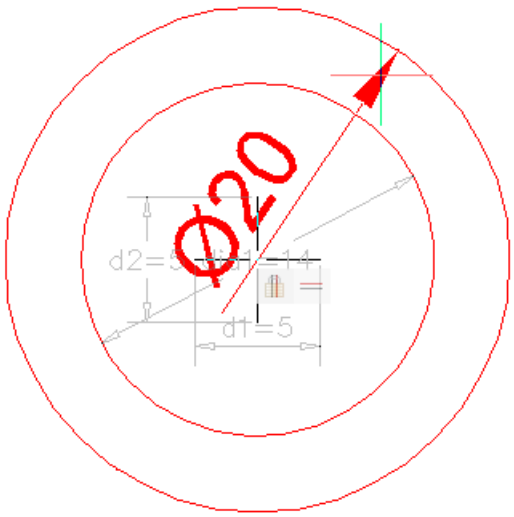
24 2つの円の間にGCCONCENTRIC拘束()を適用します。

25 中心線の端点間に DCLINEAR拘束()を適用します。デフォルト値を適用します。



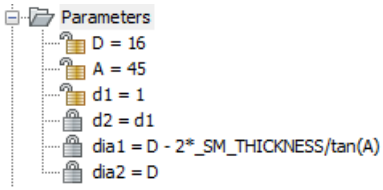
26 両方の円にDcDiametar拘束( )を適用します。

デフォルトDIA1の値(=内側の円)とDIA2(=外側の円)を受け入れます。

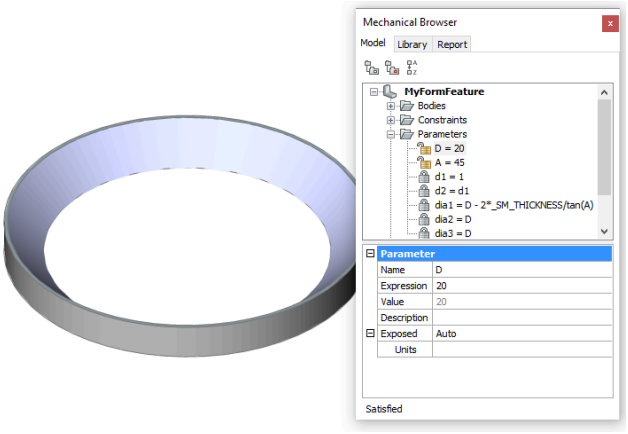


27 2D拘束の**式**欄を以下の通りに調整します。

- d1 = 1
- d2 = d1
- 直径1 = D - 2*_SM_THICKNESS/tan(A)
- 直径2 = D

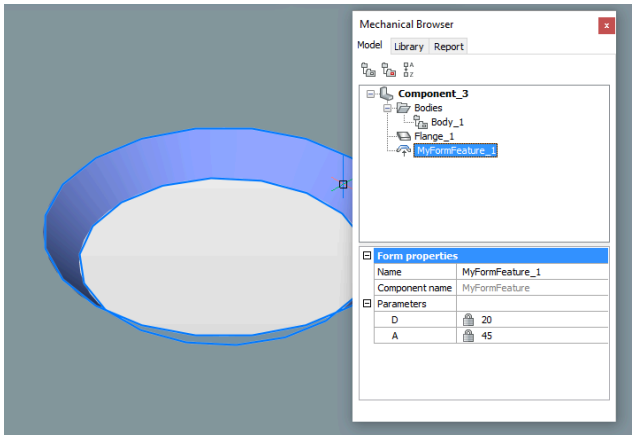


28 画層0を除くすべての画層の表示を**オフ**にして、ファイルを保存します。



以後は、このフォームフィーチャーを使い、板金フランジにパラメトリックな円錐開口部を作ることができます。

BMINSERTコマンドを起動する**フォームフィーチャーを挿入**ツール( )を使用します。



オプション：フォームフィーチャーをコンポーネントとしてツールパレットに追加します。

30.19.6 ビードフィーチャーの作成

ビードフィーチャーは、SMBEADコマンドでフランジ面上の2Dカーブから作成されます。

1 以下のいずれかの操作を行います：

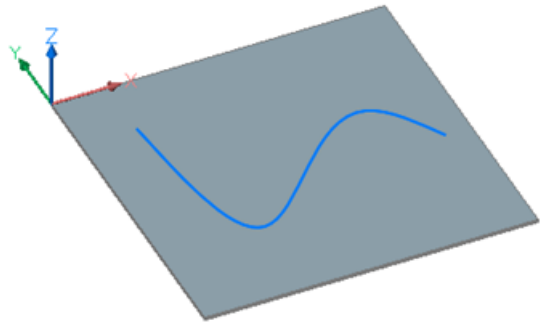
- **板金**ツールバー上の**ビードフィーチャーを作成**ツールボタン( )、またはリボンをクリックします。
- コマンドラインに SMBEAD と入力し、**Enter**を押します。
  プロンプト表: フランジ面を選択:

2 フランジ面を選択

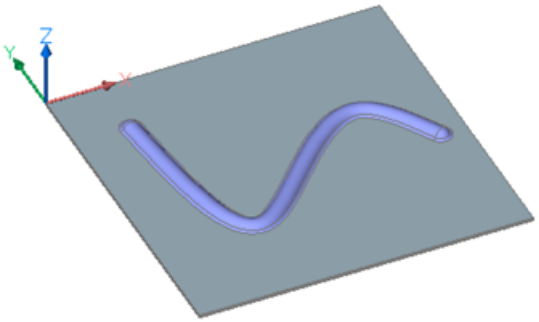
3 プロンプト表示: カーブを選択または[プロファイル半径/丸み半径]：

4 選択したフランジ面のカーブを選択します。

5 線分、ポリライン、円弧、円、楕円、楕円弧、スプラインを等分することができます。2D曲線は開いていても閉じていても作成できますが、それ自体や他のフォームフィーチャーと交差することはできません。



カーブを選択すると、ビードフィーチャーが作成されます。



30.19.7　ビードフィーチャーの修正

ビードフィーチャーを修正するには:

- グリップポイントを使い、母曲線を修正します。
- **メカニカルブラウザ**で**プロファイル**と**丸み**半径を編集します。

母曲線の修正

1　カーブを選択します。

1　カーブはビードフィーチャーで隠れているので、Tabを押して隠れている図形を選択するか、**構造**パネルで目的のカーブを選択します。

2　グリップは、曲線を編集します。

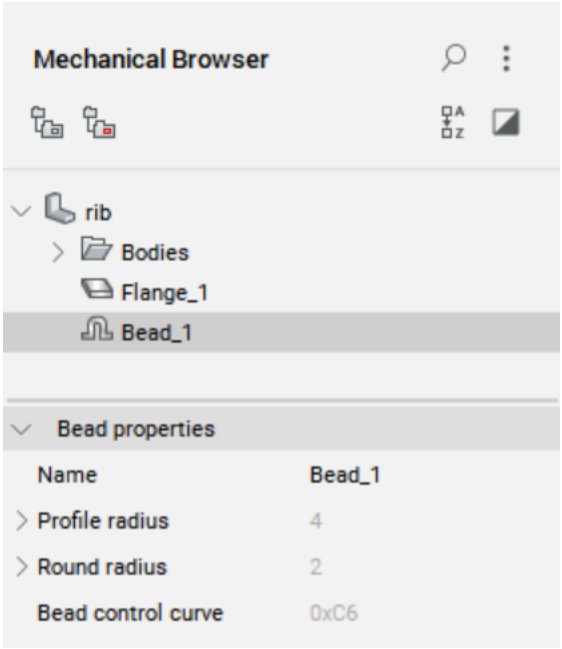
3　ビードフィーチャーは、カーブの変化に従って更新されます。

メカニカルブラウザでプロパティを編集

1　**メカニカルブラウザ**でビードフィーチャーを選択します。

モデルでビードフィーチャーがハイライト表示されます。

2　**ビードのプロパティ**グリッドでプロパティを選択します。



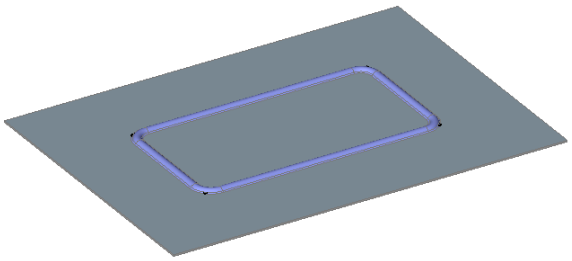
3 数値を入力します。

4 選択したビードフィーチャーが更新されます。

30.19.8 コントロールカーブ(曲線)と軌道曲線の違い

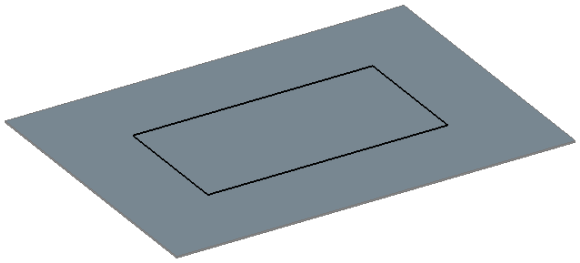
矩形ビードフィーチャーを作成するときは、まず矩形を描画し、SMBEADコマンドを実行してビードフィーチャーを作成します。このコントロールカーブをグリップ編集すると、それに応じてビードフィーチャーが更新されます。

作成段階では、ホイールツールの物理的限界に応じて、長方形のコントロールカーブをフィレット軌道曲線に置換しています：

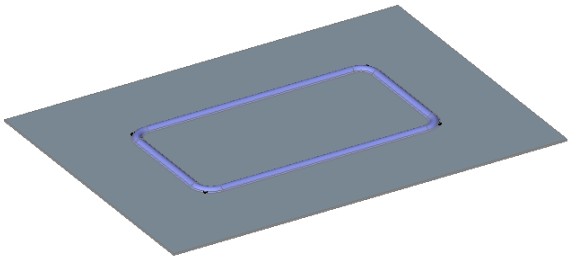


軌道曲線はどれだけ正しくても、コーナーを移動させたい場合などに操作が難しくなります。

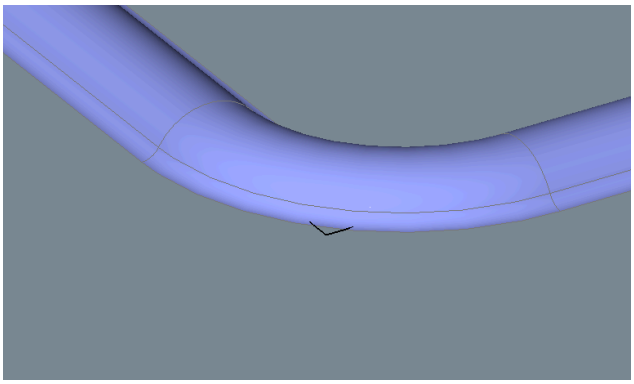
設計段階では**コントロールカーブ**を使用します。



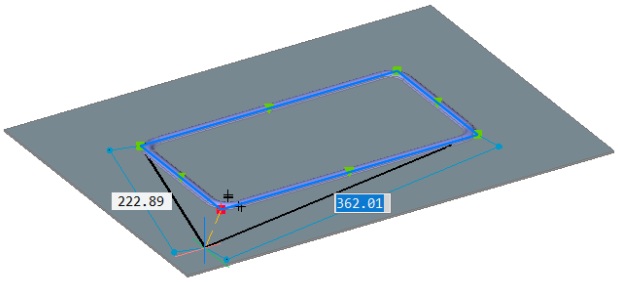
ビードフィーチャーを作成する際、SMBEADは**メカニカルブラウザ**の**ビードフィレット半径**パラメータの値に従ってフィレットを追加します。このパラメータは、物理的なホイールツールのプロパティに関連しているため、フィーチャごとに制御されません。



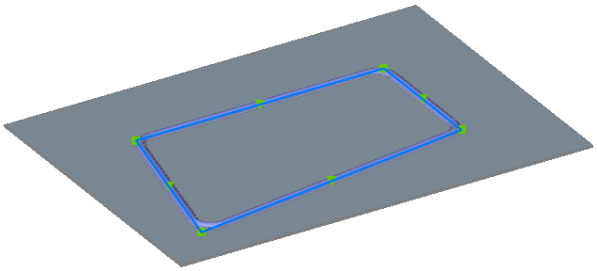
拡大してみると、ビードフィーチャーの3Dジオメトリとコントロールカーブの違いがわかります。



ポリラインをグリップ編集した時...

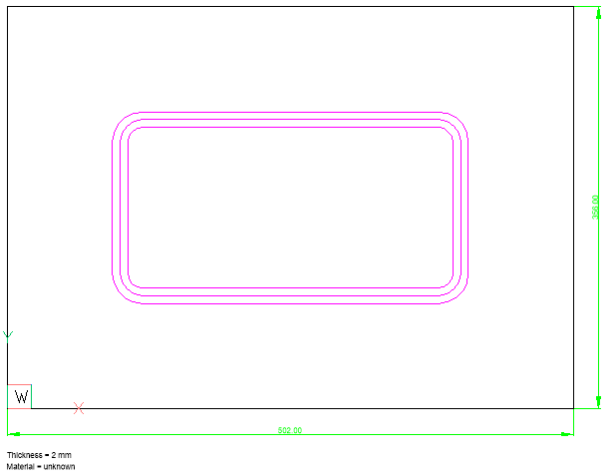


...ビードフィーチャーは、グリップに応じて調整されます。



これは、2Dカーブと3Dビードフィーチャーとの結合性を示します。SMCONVERT におけるビードフィーチャーの認識は、SMCONVERTRECOGNIZERIBCONTROLCURVES のユーザ設定によって制御されます。

SMUNFOLDコマンドで部品を展開すると、曲線は3D設計に従ってフィレットされます。中央のカーブは、**軌道曲線**と呼ばれます。

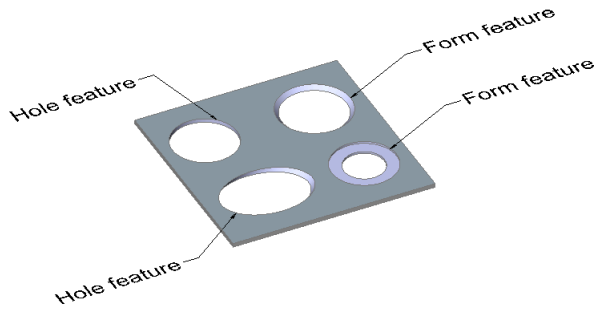


30.20 穴フィーチャーを用いた操作

30.20.1 概要

穴フィーチャーとは、簡素化されたフォームフィーチャーです。下の図には、板厚面だけを持つさまざまなフィーチャーが示されています(SMCONVERTコマンドはこれらのルールに従います)。

- 直交穴は、穴フィーチャーです。
- 単純な非直交穴は、穴フィーチャーです。
- 面取りした直交穴は、フォームフィーチャーです。
- 穴の板厚面が2つの異なるリージョンで構成されている場合は、フォームフィーチャーです。



SMCONVERTRECOGNIZEHOLESユーザー設定がオンであれば穴フィーチャーはSMCONVERTコマンドによって認識されます。

穴フィーチャーでは、以下の基本的な操作が行えます。

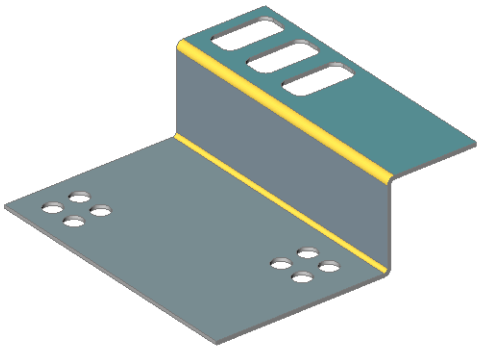
- SMDELETE(削除)、SMDISSOLVE(解体)、無効化とSMSELECT(選択)は、コマンドの実行もしくは、**板金のメカニカルブラウザ**で操作します。
- SMUNFOLDコマンド内の**フォームフィーチャー**モードには、**シンボル**モードが含まれます。
- 独自の2Dジオメトリをフラット化されたレイアウトに関連付けることができます。
- 穴フィーチャーはSMREPAIRコマンドによって保持されます。単純な穴面は直交する面になります。同じジオメトリの穴フィーチャーは、SMREPAIRコマンドの影響を受けません。

30.20.2　穴フィーチャー配列の認識

ボディに穴フィーチャーが存在する場合、SMPARAMETRIZEコマンドは以下の規則に従い、フランジ上の穴の矩形配列を検出します：

- 穴が同じフランジに属している。
- 穴が矩形グリッド上にある。
- 配列にギャップ(欠落要素)がない。
- 穴が同じ方向を向いている。
- 最小配列サイズが1×3または2×2のいずれかである。

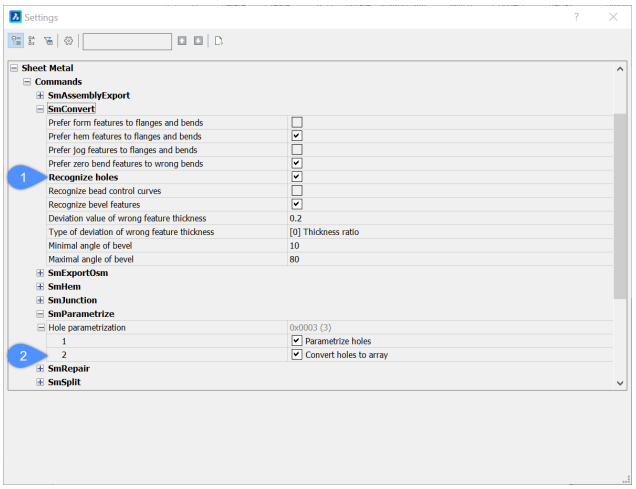
以下は、フランジとベンドがある板金部品に作業を行う場合のワークフローです。



1　設定ダイアログで、**板金/コマンド**を選択します。

2　SMCONVERTコマンドの**穴を認識**オプションを有効にします。

3　SMPARAMETRIZEコマンドの**穴を配列に変換**と**穴のパラメトリック化**オプションを有効にします。



4　SMCONVERTコマンドを実行します。

5　以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**ツールバーの**板金へ変換**ツールボタン(

)をクリックします。

- **板金**リボンタブの**板金へ変換**ツールボタン(

)をクリックします。
- **板金**メニューの**板金へ変換**を選択します。

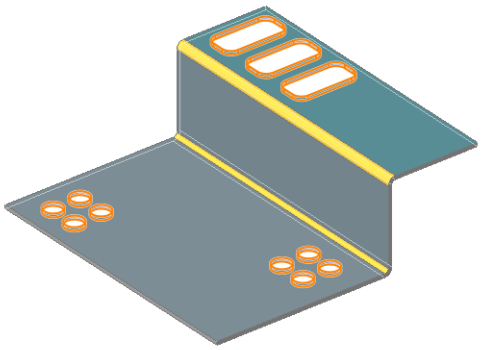
  プロンプト表示：3Dソリッドまたはシード面を選択、または [モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

6 変換する3Dソリッドを選択します。

プロンプト表示：3Dソリッドまたはシード面を選択、または [モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

7 **Enter**を押して、3Dソリッドを板金部品に変換します。

11個の穴の形状を認識することができます



8 SMPARAMETRIZEコマンドを実行します。

9 以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**ツールバーの**パラメトリック化**ツールボタン(

)をクリックします。
- **板金**リボンタブの**パラメトリック化**ツールボタン(

)をクリックします。
- **板金**メニューの**パラメトリック化**を選択します。

  プロンプト表示：パラメトリック化する3D図形を選択するか、または [モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

10 **Enter**を押すと、板金部品が加工されます。

コマンドラインに以下のような結果が表示されます：

4個の距離拘束が作成されました

3個の修正拘束が作成されました

0個の一致拘束が作成されました

0個の接線拘束が作成されました

0個の剛体セット拘束が作成されました

Hole_3フィーチャーをもとに2x2の矩形配列を作成しました

Hole_7フィーチャーをもとに2x2の矩形配列を作成しました

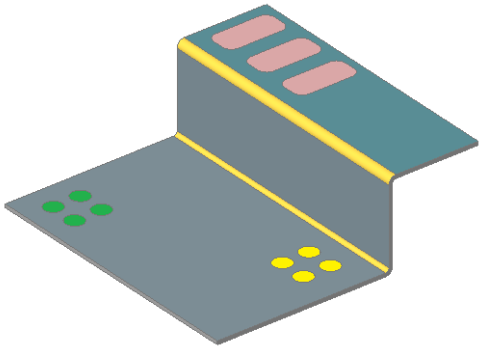
Hole_9フィーチャーをもとに3x1の矩形配列を作成しました

合計：7個の拘束と3個の配列が作成されました

注：フィーチャー名と拘束分布は、BricsCADのバージョンによって異なる場合があります。

配列を調べるには、**BC_SUBTRACT**画層を一時的にフリーズ解除することで可能です。

下図では、配列を手動で色分けしています。

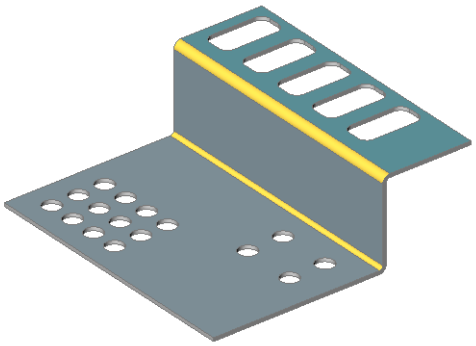


注：緑色と黄色の配列が統一されていないことに注意してください。そうでないと、配列に穴の欠落ができてしまいます。

11 **メカニカルブラウザ**で**配列プロパティ**を編集します。

下図では、以下の変更を行っています：

- 緑色の配列：行数と列数を2×2から3×4に変更。
- 黄色の配列：XY方向の間隔を変更。
- 赤色の配列：行数と列数を3x1から5x1に変更。



30.21 板金の変換と修復

MSPACEコマンドとPSPACEコマンドを使用します。

30.21.1 3D形状を有効な板金部品に変換

板金部品は、BricsCADで作成されたか、別のCADシステムから読み込みされたかに関係なく、任意の3D形状から作成できます。ただし、形状は有効な板金モデルではない可能性があります。ベンドやリリーフが欠落しているか、フランジ面に直交していない厚さの面があります。BricsCADの板金には、そのような形状を有効な板金部品に変換し、不足しているすべての板金機能を追加するための専用ツールセットが含まれています。

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**ツールバーの**板金へ変換**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**リボンバーの**板金へ変換**ツールボタン( )をクリックします。
- **板金**メニューの**板金へ変換**を選択します。

  プロンプト表示：3Dソリッドまたはシード面を選択、または [モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

2 変換する3Dソリッドを選択します。

  プロンプト表示：3Dソリッドまたはシード面を選択、または [モデル全体 (E)/選択オプション (?)] <モデル全体>:

3 **Enter**を押して、3Dソリッドを板金部品に変換します。

板金部品のプロパティが、**板金のメカニカルブラウザ**に表示されます。

注：変換されたボディは、CAMシステムで処理するために、展開したり、DXFまたはOSMファイル形式で書き出すことができます。

場合によっては、展開/書き出しする前に、変換されたボディを修正する必要があります。

- 欠如しているリリーフを作成: SMRELIEFCREATEコマンド
- ハードエッジをベンドまたはジャンクションに変換: SMBENDCREATEコマンドおよびSMJUNCTIONCREATEコマンド
- フランジとロフトベンドを分割: SMSPLITコマンド
- 板金ボディを補修: SMREPAIR コマンド

30.21.2 板金部品の修復

板金部品には、形状とトポロジー、または板金設計の問題が不正確である可能性があります。これは、ACISとは異なる幾何学的カーネルで設計された読み込みパーツの場合によくあります。

このような問題の例は次のとおりです：

- 板厚面がフランジ/ベンド面に垂直ではない。
- ロフトベンドが隣接するフランジ/ベンドに対して接線方向ではない。
- ベンドが間違っている。
- 一般的なACISの問題。

このような問題があると、編集などの操作を正常に行えないことがあります。

このような問題を修正するための推奨ワークフローは次のとおりです：

- DMAUDITコマンドを実行して、一般的なモデリングの問題を修正します。
- SMREPAIRコマンドを実行します。

30.21.3 板金ボディの修復

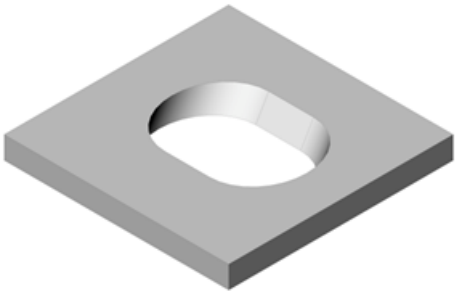
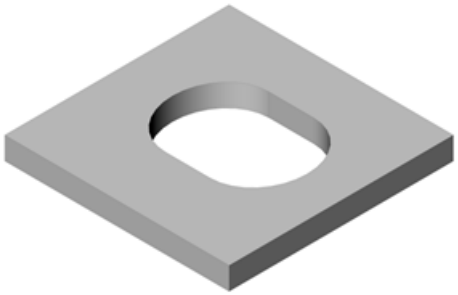
フランジ/ベンド面に垂直でない厚み面を持つ板金ボディは、従来のツールを使用して正しく製造できません。

1 以下のいずれかの操作を行います：

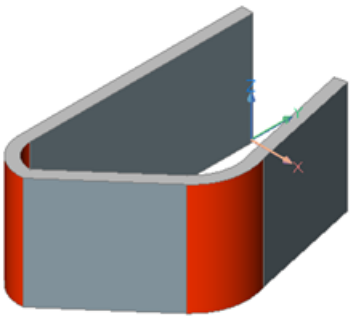
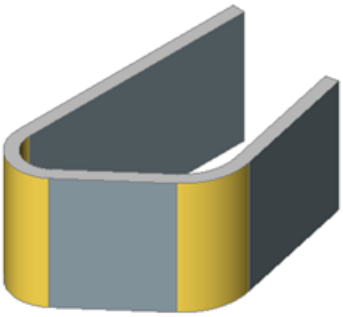
- 板金リボンタブの修復パネルにある**板金を修復**ツール()をクリックします。
- **板金**ツールバーの**板金を修復**ツール()をクリックします。
- **板金**メニューの**板金を修復**を選択します。
- コマンドラインに「SMREPAIR」と入力します。

  プロンプト表示：修復するフランジ面またはロフト曲面を選択 [ローカル修復に切替 (L)/失われた詳細をスキャン (S)/選択オプション (?)]:

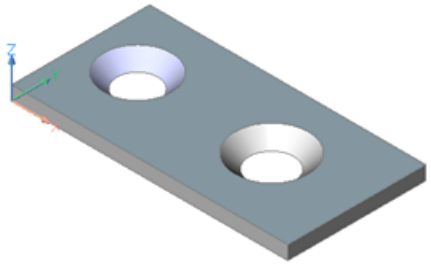
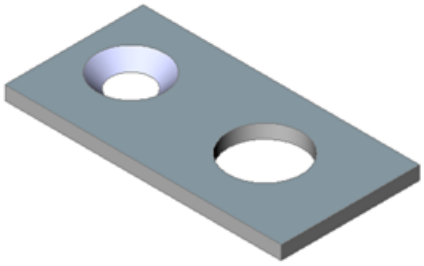
2 修復する面を選択します。

	
修復前のモデル	修復後のモデル

モデルに間違ったベンドがある場合、SMREPAIRコマンドを実行することで、正しいベンドに変換されます：

	
フランジと正接していない間違ったベンド	修復後の正しいベンド

フォームフィーチャーは、修復後の新しいモデルに変換されます：

	
修復前のモデル	フォームフィーチャーは変えずに、フォームフィーチャーではない穴を直交させています。

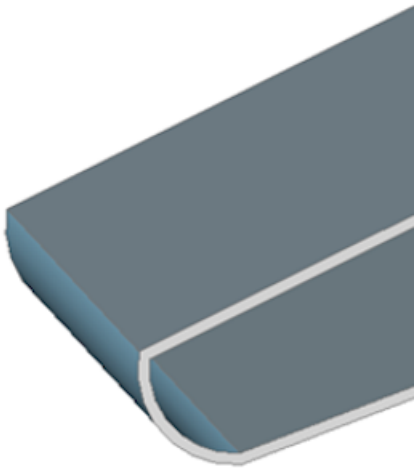
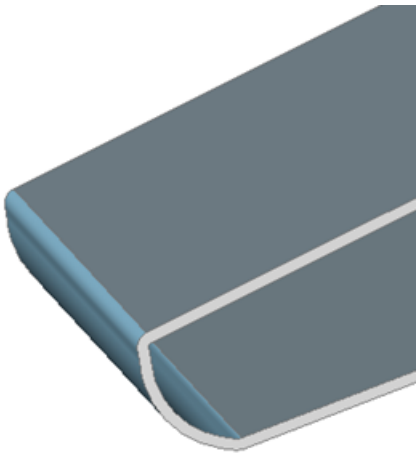
30.21.4 ロフトベンドがある板金ボディの修復

1 以下のいずれかの操作を行います：

- **板金**リボンタブの**修復**パネルにある**板金を修復**ツール()をクリックします。
- **板金**ツールバーの**板金を修復**ツール()をクリックします。
- **板金**メニューの**板金を修復**を選択します。
- コマンドラインに「SMREPAIR」と入力します。

  プロンプト表示：修復するフランジ面またはロフト曲面を選択 [ローカル修復に切替 (L)/失われた詳細をスキャン (S)/選択オプション (?)]:

2 フランジまたはロフトベンドの面を選択します。選択された面は、厚みを増すための面となります。

切断前	後
	

切断前	後
ロフトベンドがフランジに正接していないため展開できません。	青いロフトベンドと上部フランジの接続の違いに注意してください。これでスムーズになりました。展開が可能です。

オプション：**smRepairLoftedBendMerge**ユーザ設定がオンの場合、接線接続を持つ隣接するロフトベンドが単一のロフトベンドにマージされます。

30.22 板金部品の展開とCAMへの書き出し

30.22.1 概要

SMUNFOLDコマンドを使用します。

板金部品は、さまざまな方法で設計することが可能です。板金部品を製造するには、ベンド注釈が付いたフラットパターンが必要です。これは、CAMシステムで使用され、レーザーカッターやプレスブレーキなどのCNCマシンをプログラムします。この平坦化操作は、展開と呼ばれます。

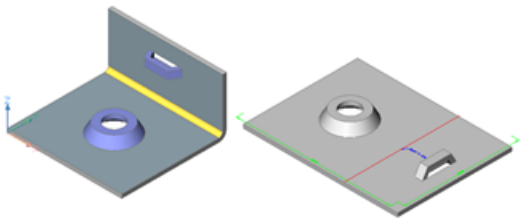
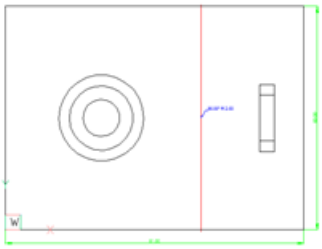
30.22.2 板金ボディの展開

SMUNFOLDコマンドを使用して、板金部品を展開します。BricsCADでは、板金部品を曲げ加工で製造するために必要な板金シートに対応するソリッドボディを自動的に作成します。このシートはXY平面に配置され、3D空間での最初のボディの方向と同じように座標軸に沿って方向付けられます。Z軸の展開方向を変更するには、SMUNFOLDコマンドを再度実行して、最初のボディの反対側の面を選択します。

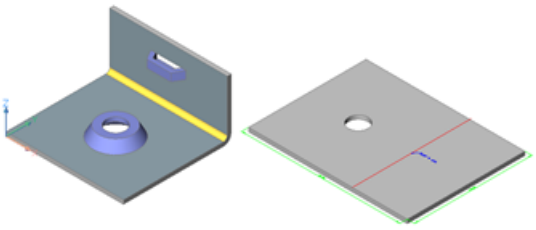
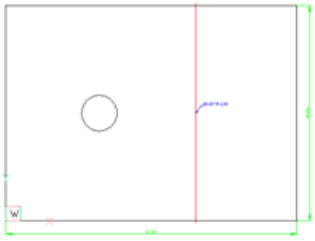
フォームフィーチャーは、**メカニカルブラウザ**の**展開モード**の設定に従って展開されます。

オプションは以下の通りです：

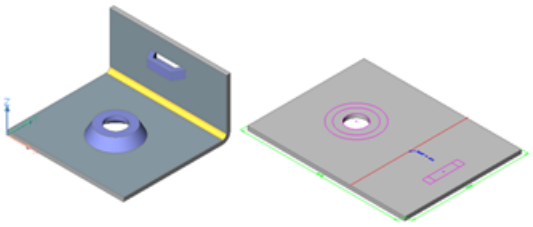
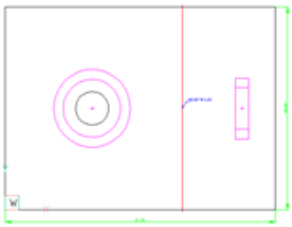
- **保持**(0)：展開図でフォームフィーチャーのジオメトリを維持します。

3Dモデルおよび展開ボディ	2D
	

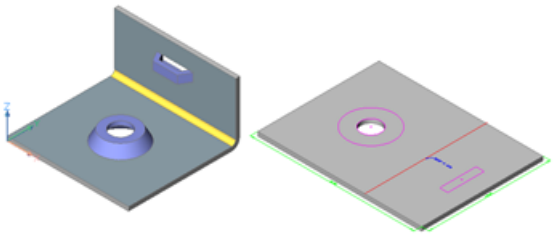
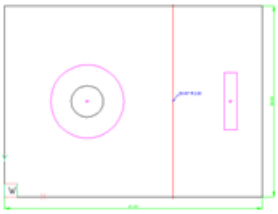
- **削除** (1)：フォームフィーチャーのジオメトリを展開図から削除します。

3Dモデルおよび展開ボディ	2D
	

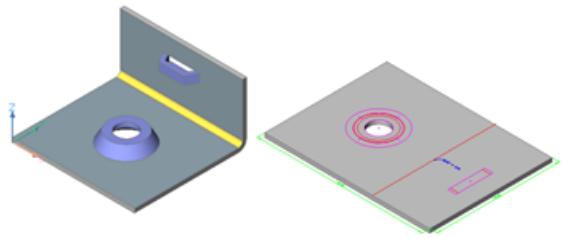
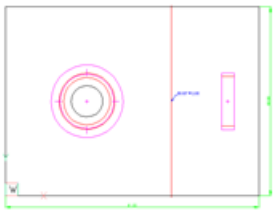
- **投影** (2)：フランジ平面にフォームフィーチャーのエッジを投影して、フォームフィーチャーシンボルを作成します。

3Dモデルおよび展開ボディ	2D
	

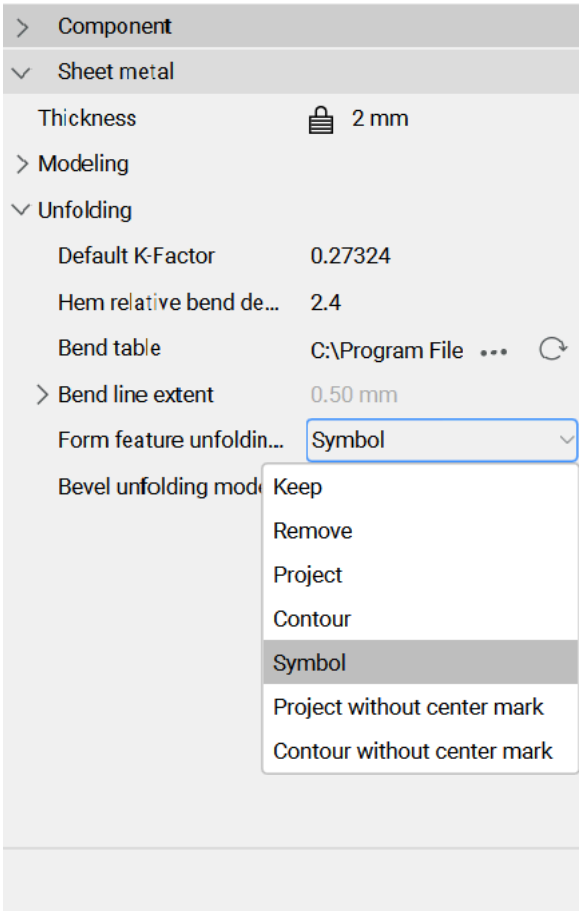
- **輪郭** (3)：フランジ平面にフォームフィーチャーの外側輪郭と穴部を投影して、フォームフィーチャーシンボルを作成します。

3Dモデルおよび展開ボディ	2D
	

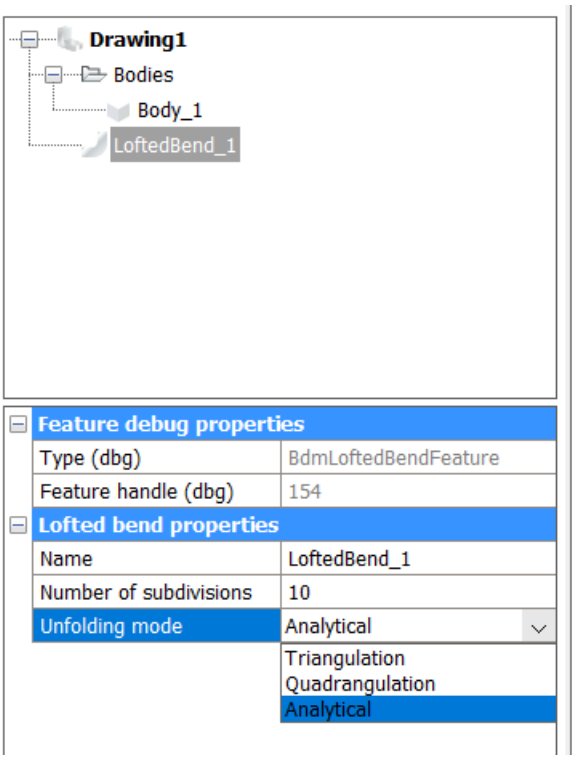
- **シンボル** (4)：フォームフィーチャの方向に応じて、**UNFOLD_SYMBOL_UP**または**UNFOLD_SYMBOL_DOWN**画層上に展開シンボルを作成します。

3Dモデルおよび展開ボディ	2D
	

カレントの板金部品の展開モードは**メカニカルブラウザ**で設定することができます。



円筒形や円錐形の表面に横たわるロフトベンドは、分析的に展開することができます。展開されたロフトベンドの寸法と形状は、その中央の表面を数学的に平面上に展開したかのようになります。この形状は、ロフトベンドのサンプル数を大幅に増やすことでも実現できます。ロフトベンドのフィーチャーごとに、**展開モード**を設定する必要があります。分析的展開が許可されている場合は、ドロップダウンリストにオプションが表示されます：



30.22.3 板金ボディを展開

1 SMUNFOLDコマンドを起動します。

プロンプト表示：展開を開始するフランジ、ロフトベンド面を選択 [関連付け (A)/選択オプション (?)]:

2 板金部品の面を選択します。

プロンプト表示：展開ボディーの位置を選択:

3 点を指定します。

プロンプト表示：展開したボディーを有効化し、オプションを選択 [2D形状を保存/3D形状を保存/ビューをレイアウトに配置 (P)/ベンド注釈を最適化 (O)/保持 (K)] <保持 (K)>:

4 以下のいずれかの操作を行います：

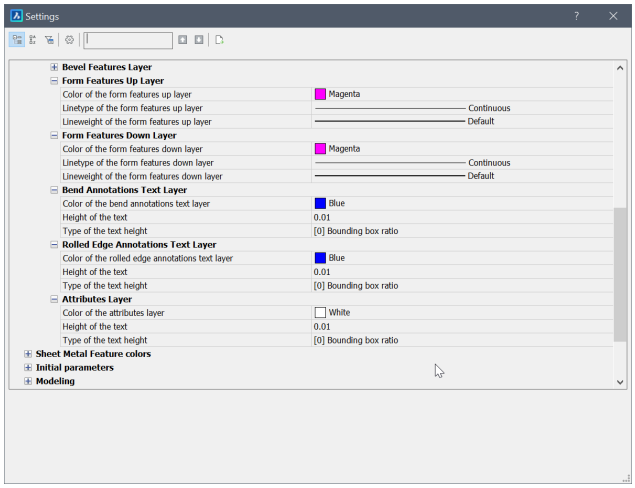
- 展開した3Dソリッドを別の図面ファイルに保存します。
- 展開した3Dソリッドを2D図面ファイルに変換します。(*.DWGまたは*.DXF)
- ベンド注釈を再配置します。
- 板金部品モデルの展開部品を含むブロックを保持します。

SMUNFOLDコマンドは、曲げ加工時の板金材料の変形を考慮します。平らな板金シートを曲げツール(プレスブレーキなど)で部品に曲げると、材料は塑性変形します。つまり、曲げの内側では圧縮され、外側では伸張されます。その結果、部品の表面に沿って測定した長さは、平らな状態と曲げた状態で異なります。BricsCADは、材料の変形特性に基づいて、部品の適切な展開長を自動的に計算することができます。これらの特性は、**K係数**パラメータの値を設定するか、ベンドテーブルを添付することで定義できます。

30.22.4　2Dジオメトリの画層プロパティを管理

SMUNFOLD、SMEXPORT2D、SMASSEMBLYEXPORTコマンドで生成された2Dジオメトリには、輪郭線、谷曲げライン、山曲げライン、全体の寸法値、フォームフィーチャーの上側、フォームフィーチャーの下側、ベンド注釈、属性がそれぞれ異なる色で表示されます。

設定ダイアログボックスの**板金/コマンド/展開する画層**設定グループで、異なる色を設定することができます。各図形のタイプは専用の画層に配置され、その色は一連のユーザ設定によって制御されます。



フォームフィーチャーの2Dジオメトリがライブラリコンポーネントから取得された場合、そのプロパティは、挿入時のこのコンポーネントのプロパティによって制御されます。この他に、**展開モード**には、フォームフィーチャーの2Dジオメトリを生成する2つのモード(**投影**、**輪郭**)があります。これらのモードでは、2Dジオメトリは3Dジオメトリから自動的に生成され、その外観は**フォームフィーチャーの上側の画層**と**フォームフィーチャーの下側の画層**の設定グループでコントロールされます。

30.22.5　板金ボディを書き出し

BricsCADで作成または編集された板金部品は、さまざまなCAMシステム(JETCAM、CADMAN-B等)で処理して、工作機械用のNCコードを生成することができます。

ユーザ設定では、SMUNFOLDコマンドの**2D形状を保存**オプションをコントロールして、一般的なCAMシステムのリストに対応するように.DXFファイルをカスタマイズします。

SMEXPORT2Dコマンドは、板金ボディの展開図を *.DXFまたは*.DWGファイル形式の2Dプロファイルとして書き出します。

SMEXPORTOSMコマンドは、板金ソリッドを*.OSM (Open Sheet Metal)ファイル形式 (CADMAN-B CAMシステムのネイティブ形式)に書き出します。

30.22.6　板金部品を含むアセンブリをDXFに書き出し

SMASSEMBLYEXPORTコマンドは、アセンブリツリーで板金設計を検索し、*.DXFファイルに書き出します。その結果、異なるサブフォルダーで厚さ別に並べ替えられた一連の*.DXFファイルが出力フォルダーに作成されます。このコマンドでは、出力をコントロールできるHTMLレポートが生成されます。ほとんどの板金部品は自動的に処理されます。不十分な板金部品は、手動で再加工するようにコマンドによって報告されます。

30.23 3Dソリッドの自動調整展開表現

30.23.1 概要

BricsCADには、3D板金部品と展開図とを双方向に自動調整する機能があります。このモードでは、両方の表現は別々のドキュメントに存在しています。元の部品はネイティブドキュメントに格納され、展開図はテンポラリドキュメントに保存されます。自動調整は一時的なものであり、両方の文書を開いている間のみ存在します。次のBricsCADセッションやドキュメントを閉じた後に自動調整モードで作業するには、再度手順を繰り返す必要があります。

30.23.2 自動調整とはどういう意味ですか？

自動調整展開を使用すると、平坦化されたジオメトリをカットし、変更を3Dモデルに戻すことができます。

これは、2つのシナリオの簡素化を手助けします：

- 複雑で非標準的なベンドおよびコーナーリリーフカットを作成します。
- 展開時に自己交差にならないようにします。

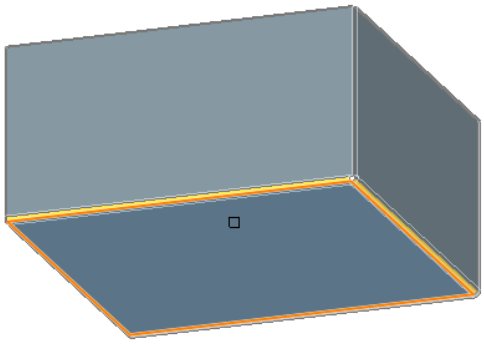
この2つのシナリオにおいては、どちらも3Dではなく2Dのほうが簡単に実行できます。フラットモードでは、板金部品は、別々のフラットソリッド(フィーチャーごと)のセットとして表されます。SMDELETEコマンドを使用して、フラットパターンのソリッドフランジとベンドを削除します。

自動調整は双方向に行われ、フラット化された部品から3Dモデルへ、またはその逆も可能です。変更が行われ、それがアクティブになると、他の図面にプロパゲートされます。

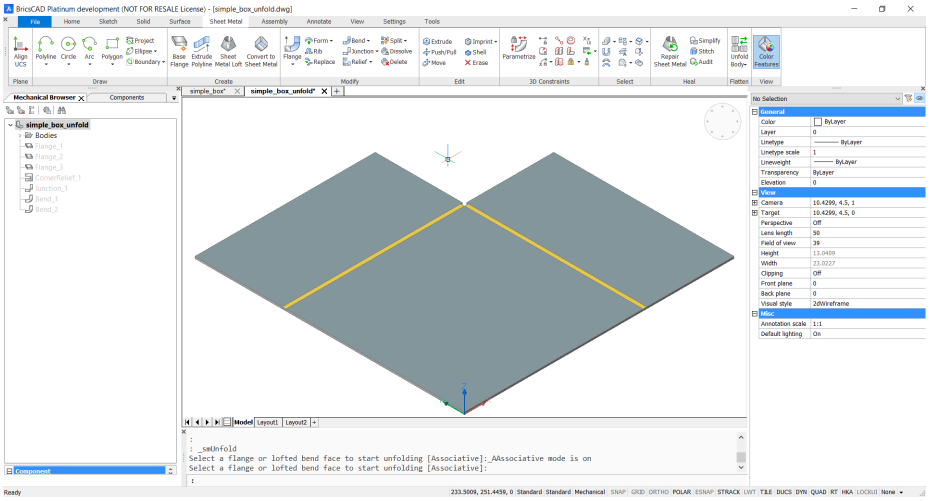
30.23.3 自動調整モードへの切り替え

自動調整モードは、SMUNFOLDコマンドを使用してオンにします。面を選択していないことを確認してください。

リボンの**板金**セクションから、**ボディー自動調整展開**アイコン( )を選択し、**フランジ**面を選択します。



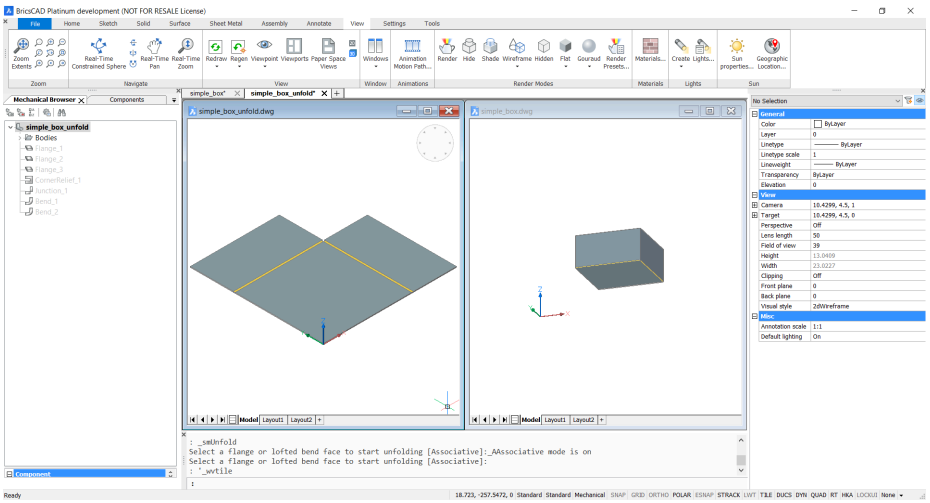
アプリケーションは、指定された部分のフラット化を計算し、自動調整モードに切り替えます。この操作が成功する条件は、通常の展開の場合と同じです。操作中にエラーや警告が表示されない場合にのみ、自動調整モードで作業を続けます。フラット化された部分を含む新しいテンポラリドキュメントが作成されます。



注：このドキュメントを保存する必要はありません。これは、編集操作をフラットなソリッドから3Dモデルにプロパゲートするために使用されます。

3Dモデルと自動調整展開の両方のドキュメントを表示する**垂直タイル**を使用します。

ツールバーまたはリボンの**垂直方向のタイル**ボタンをクリックします。

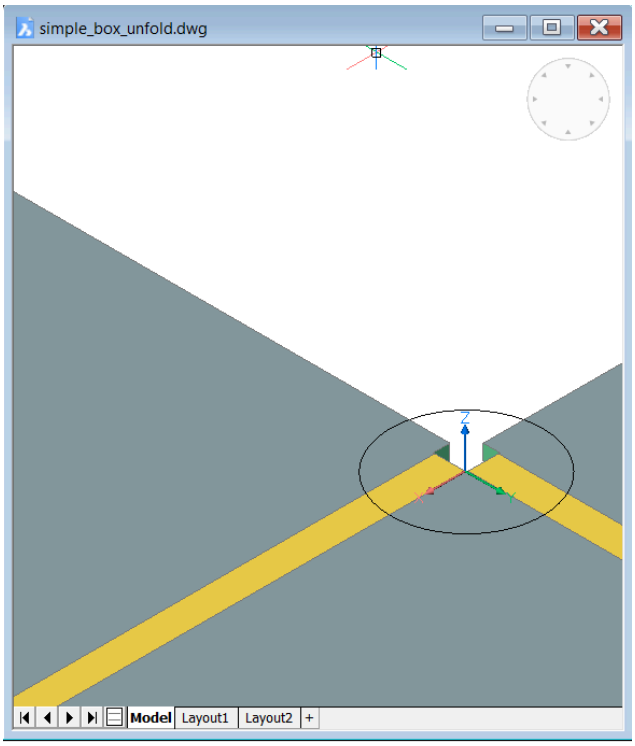


注：**メカニカルブラウザ**で、**フラット化されたジオメトリ**を選択すると、無効になっているフィーチャーが一覧表示されます。

30.23.4 ジオメトリの編集

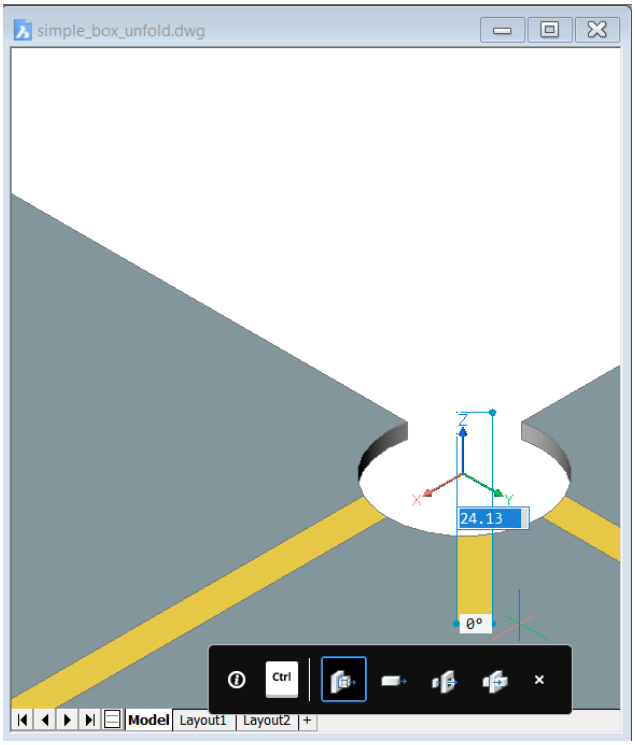
1 フラットなデザインドキュメントを使用して、コーナーに円を作図します。

1

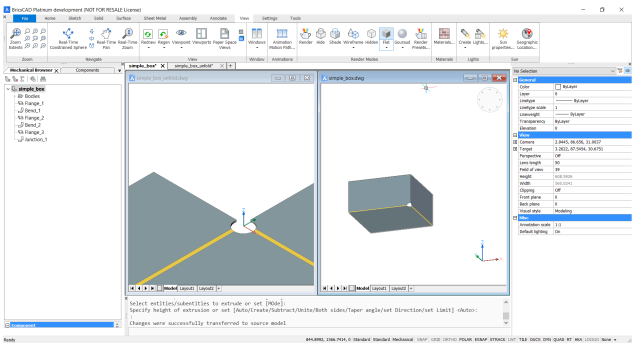


2 DMEXTRUDEコマンドを円に適用し、ボリュームをカットします。

3



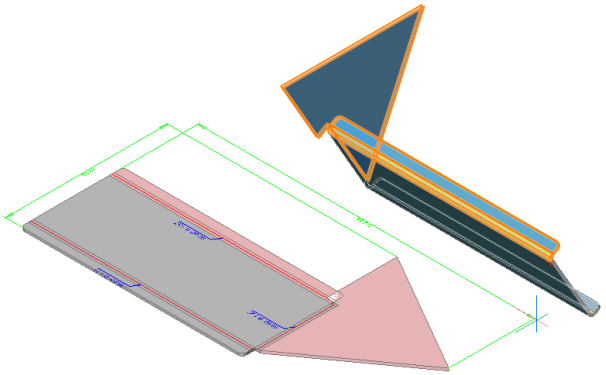
4 変更をアクティブにするには、もう一度オリジナルのドキュメントをクリックします。

5 

6 モデルが更新され、カスタムのコーナーリリーフが表示されます。BricsCAD上のコマンドライン表示：変更は元のモデルへ正しく渡されました

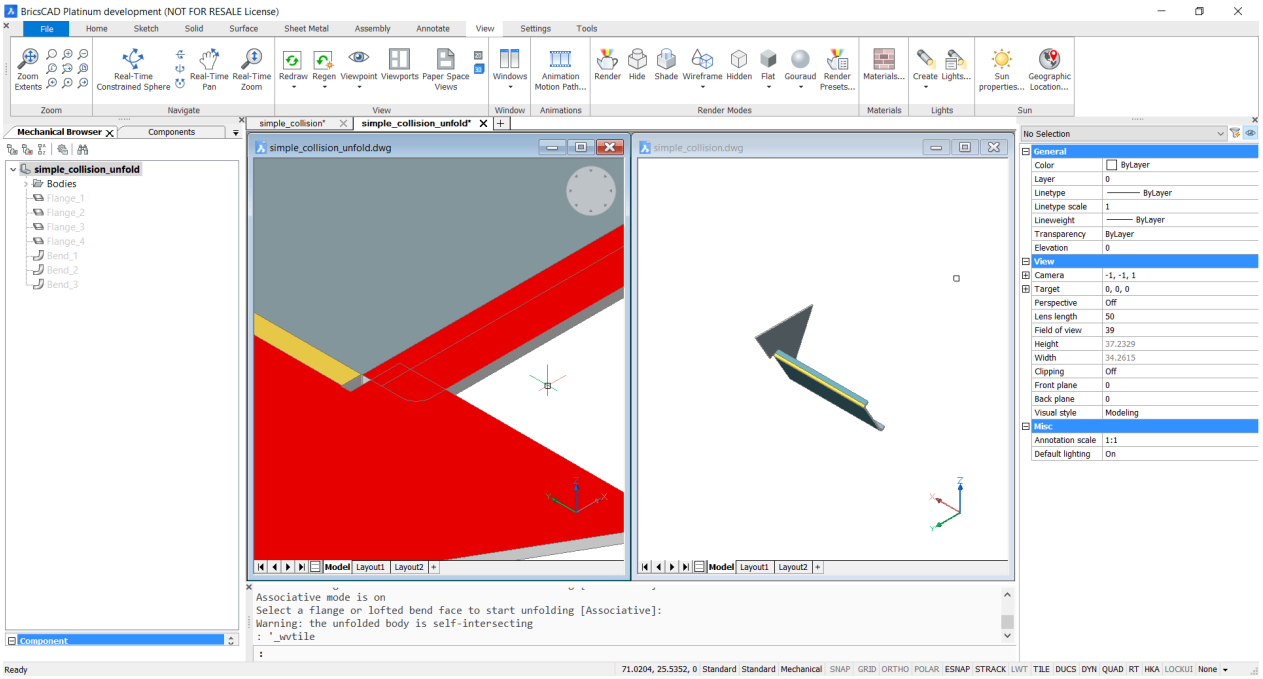
30.23.5 フラットパターンで衝突の回避

自動調整展開のもう一つの有用な応用例は、目立たない部分の素材の衝突を修正することです。



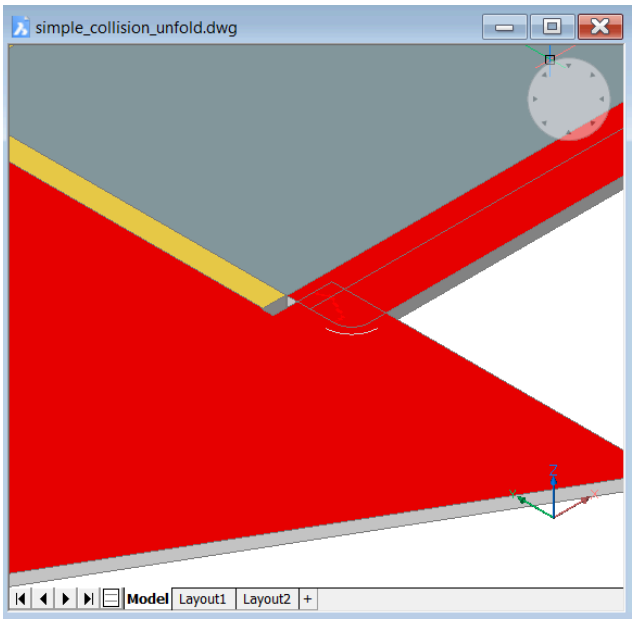
この例では、フラット化されたときの衝突を避けるために3Dモデルに適用する変更を認識していません。自動調整展開を使用してモデルを修正しましょう。

1 リボンの**板金**セクションから、**ボディー自動調整展開**アイコン()を選択し、**フランジ**面を選択して展開し、ツールバーまたはリボンの**垂直方向のタイル**ボタン()をクリックして、開いているドキュメントを垂直方向に並べ、衝突領域にズームします。



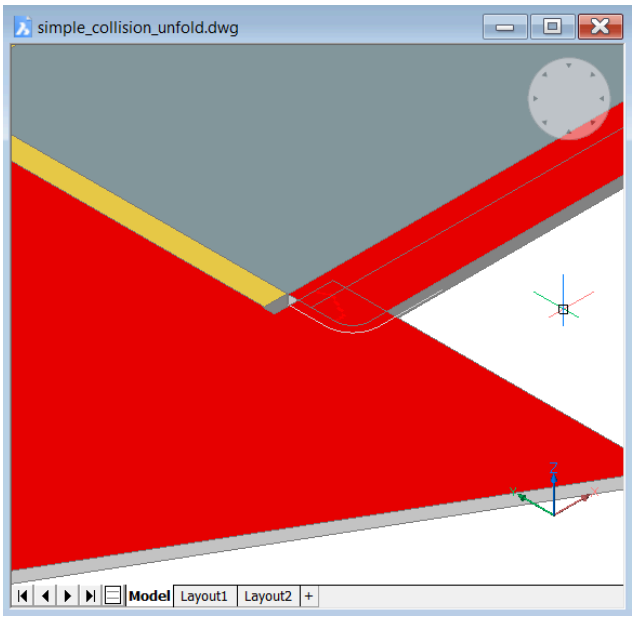
2 境界円形のエッジを選択し、1だけオフセットします。

3



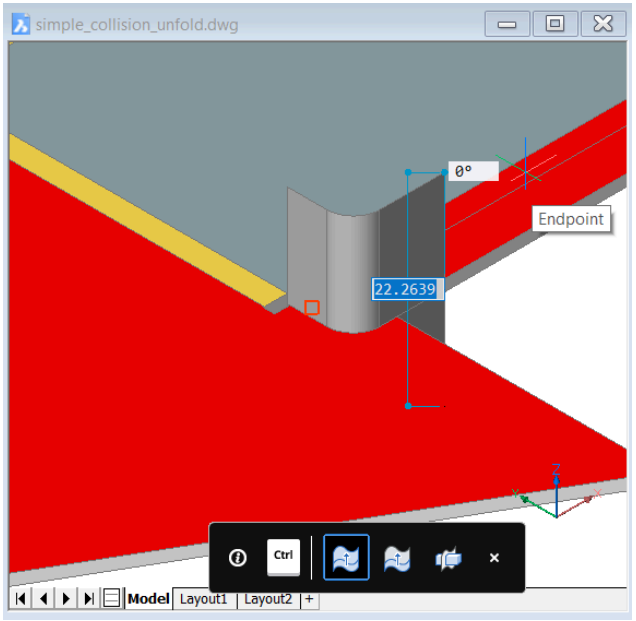
4 エッジに隣接する直線を描き、それらを結合します。

5



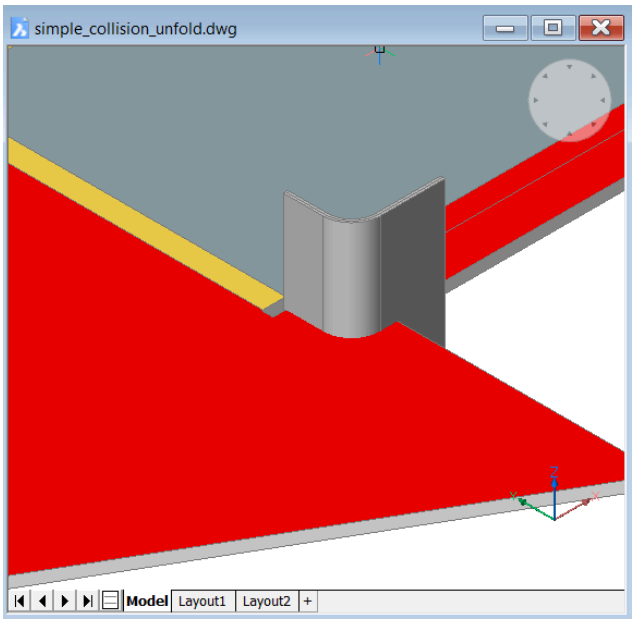
6 DMEXTRUDEコマンドで、ポリラインを両側に押し出します。

7



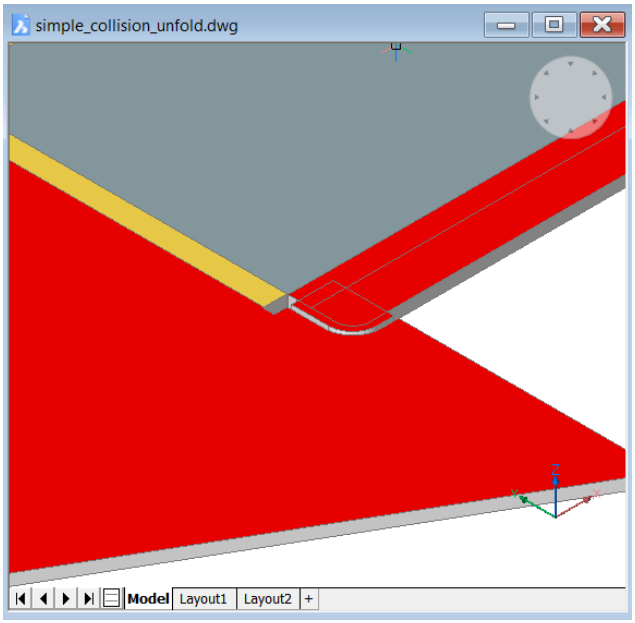
8 DMTHICKENコマンドで、サーフェスに大きな値で厚みづけします。

9



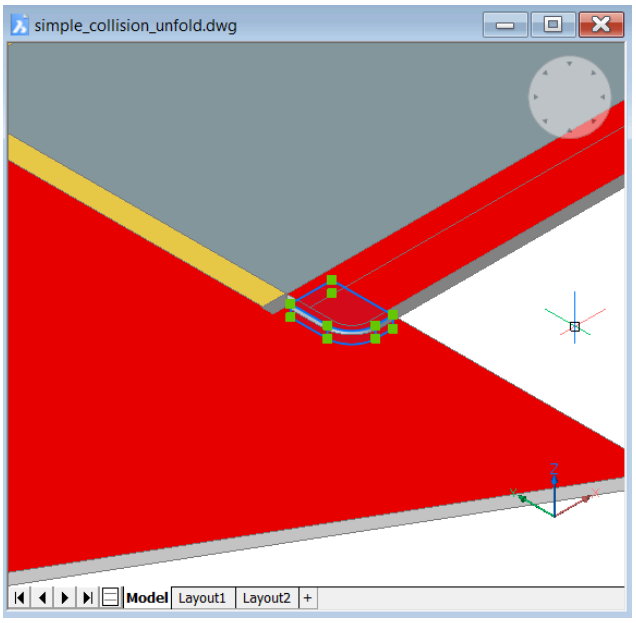
10 SUBTRACTコマンドで、展開されたパターンから厚みづけしたボディを引きます。

11



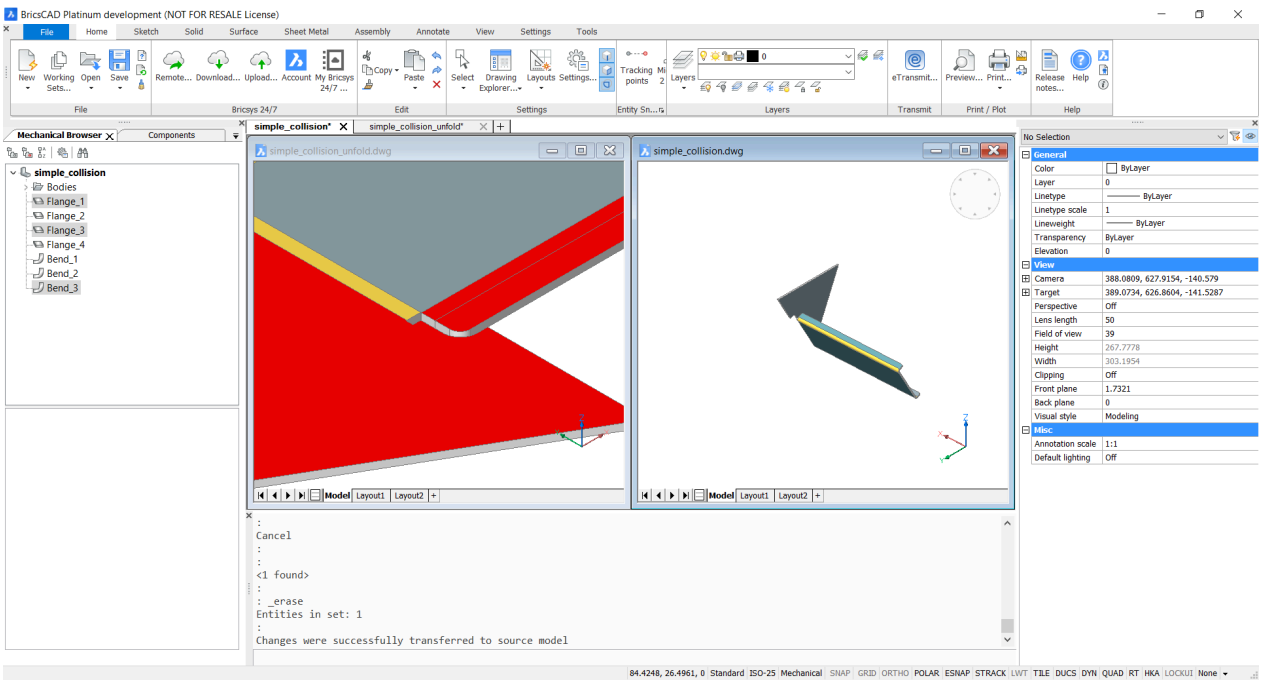
12 ERASEコマンドで、残った部分を消去します。

13



14 3Dモデルを含むドキュメントに切り替えます。

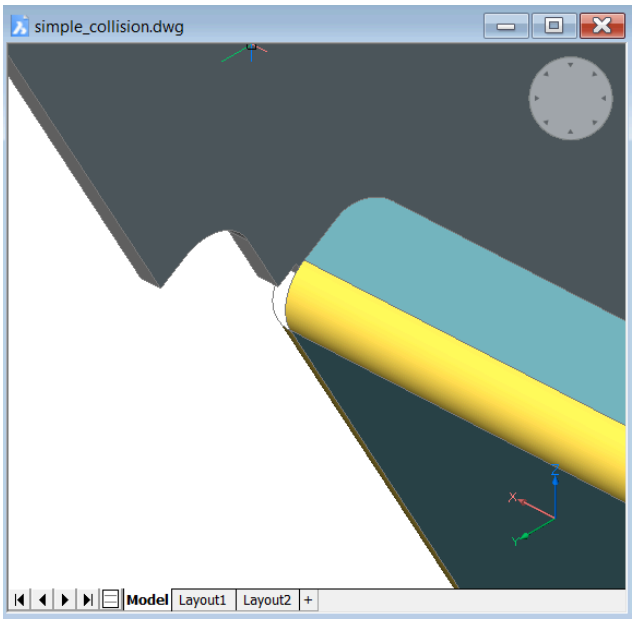
15



16 変更がプロパゲートされていることを確認します。

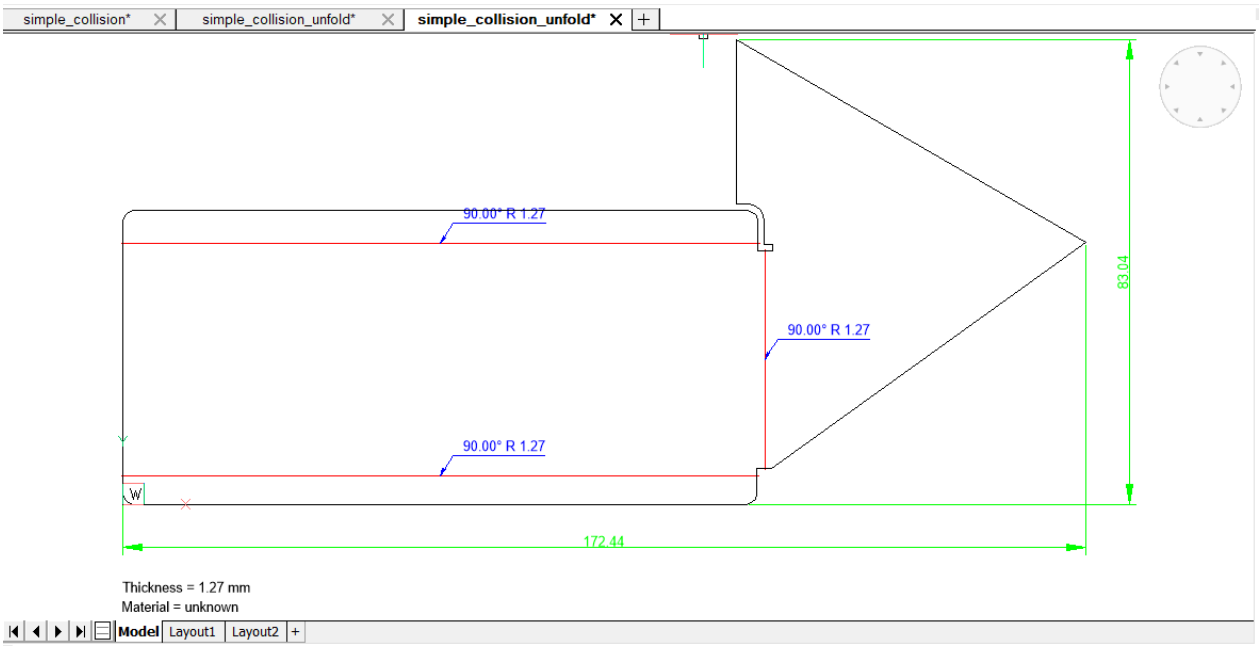
17 変更は元のモデルへ正しく渡されました。

更新されたコーナーにズームインします。



18 2D展開をテストするには、DXFファイルとしてファイルを書き出します。

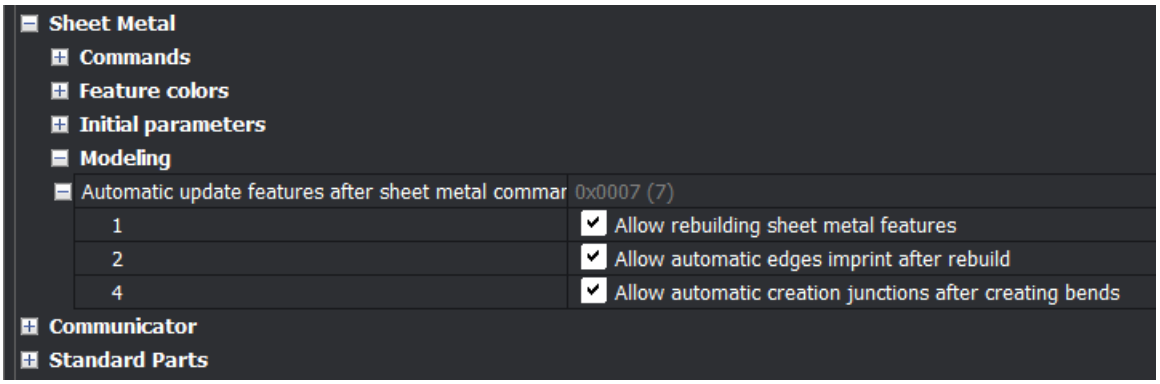
19



30.24 スマートフィーチャー

30.24.1 概要

スマートフィーチャーテクノロジーは、板金コマンドを実行した後のジオメトリのローカルでのインテリジェントな更新を管理します。この動作は、**SmSmartFeatures**のユーザー設定でコントロールされます。



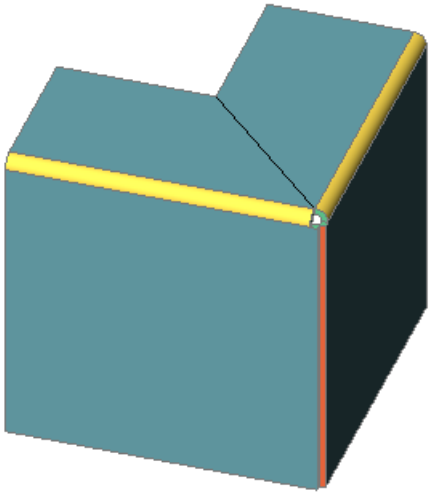
3つのオプションがあります：

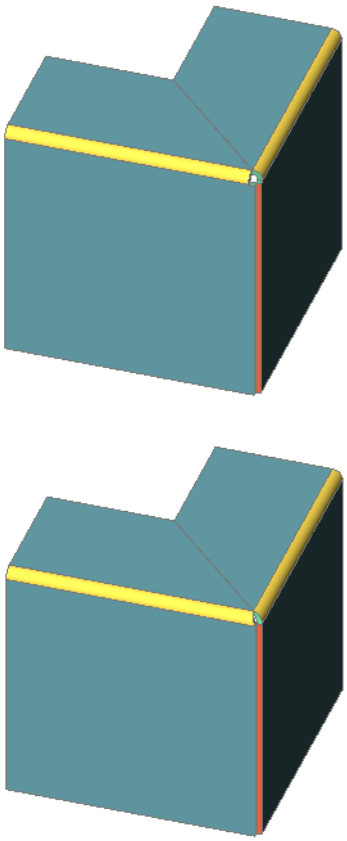
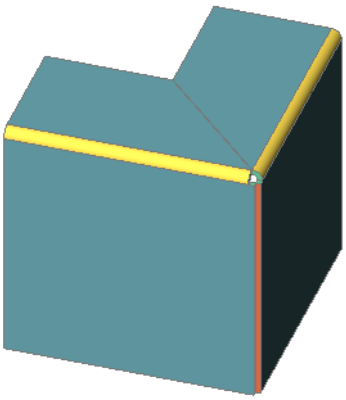
- 板金フィーチャーの再構築を許可：
  - フランジでSMSPLITを実行した後、コーナーリリーフが2つのベンドリリーフに変換されます。
  - 不要なレリーフは削除されます。
- 再構築後に自動エッジケガキを許可：自動的に、厚み面にケガキエッジを作成します。
- ベンド作成後にジャンクションの自動作成を許可。

注：一貫性のない動作が発生しない限り、スマートフィーチャーオプションは常にオンにしておきます。

30.24.2 コーナーリリーフをベンドリリーフへ変換

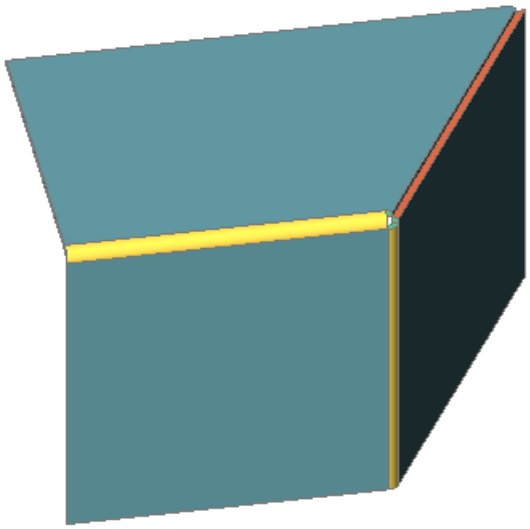
上部フランジを線分で2つの別々のパーツに分割すると、コーナーリリーフは2つのベンドリリーフに変換されます。



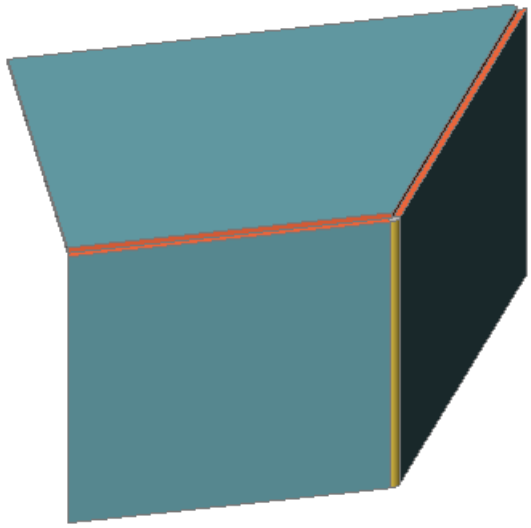
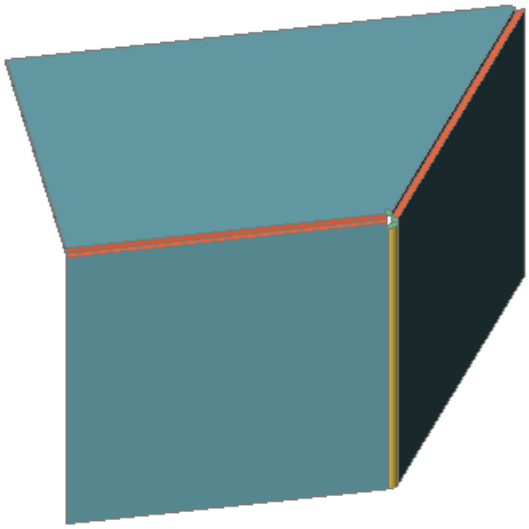
	
スマートフィーチャーはベンドリリーフを自動的に作成し、スムーズに切り替えることができます。	スマートフィーチャーがないと、コーナーリリーフが保持され、切り替えられません。

30.24.3　不要なカットを削除

下のモデルでは、材料がストレッチされるのを防ぐために必要なコーナーレリーフカットが存在しています。



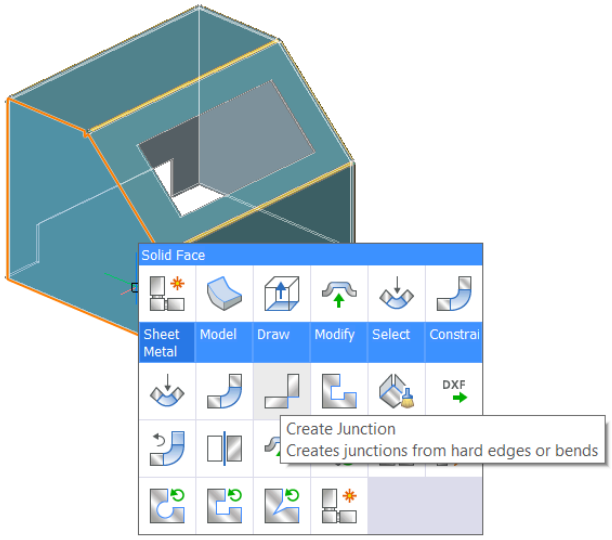
トップベンドがジャンクションに変換されると、別々の部品になります。するとスマートフィーチャーは、不要なリリーフを自動的に削除します。

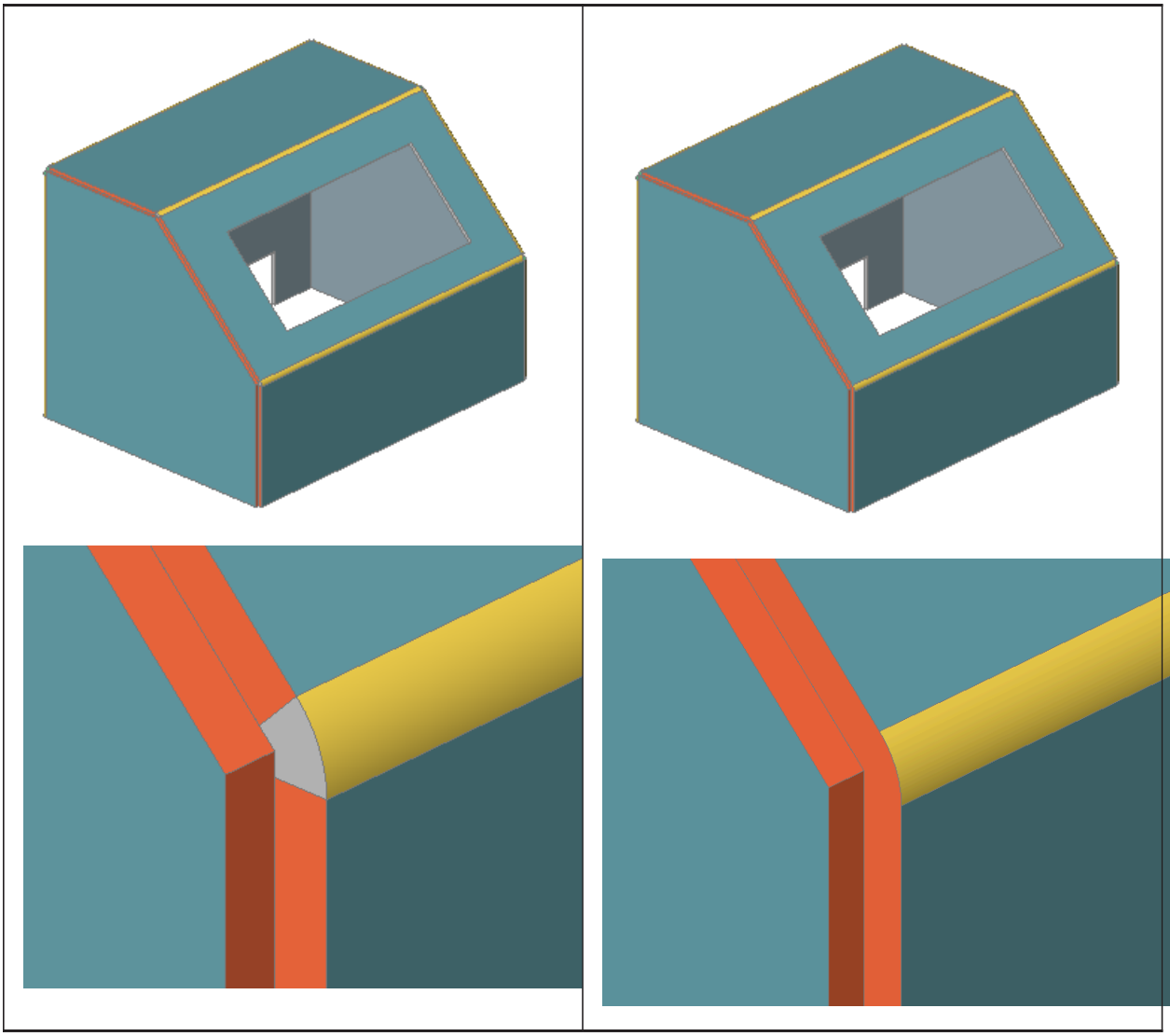
	
スマートフィーチャーが自動であれば、ジオメトリを簡素化し、不要なカットを埋めます。	スマートフィーチャーがないと、コーナーリリーフは存在したままです。

30.24.4　エッジの自動けがき

板厚面のエッジをケガいて分割し、自動的に再加工できます。つまり、局所的なジャンクションをベンドに変えることができます。エッジが自動的にケガかれない場合、ここではSMIMPRINTコマンドが必要です。

下の例では、ジャンクションを使用してフランジを分離します。**板金フィーチャーの再構築**をオンにし、**再構築後に自動エッジケガキ**を使用します。


Solid Face
Sheet Metal
Model
Draw
Modify
Select
Constrai
DXF
Create Junction
Creates junctions from hard edges or bends

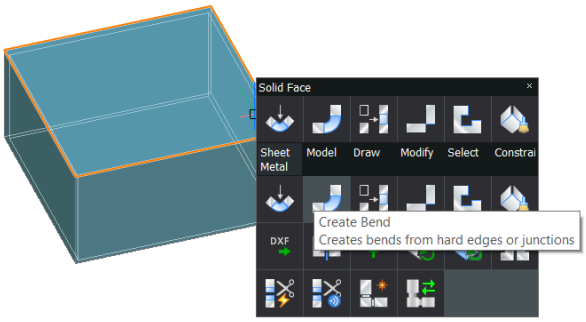


再構築後に自動エッジケガキを許可 = ON。 ジャンクション面は正しく分割されています。	再構築後に自動エッジケガキを許可 = オフ。 ジャンクションフィーチャーは互いに重なり合っています。

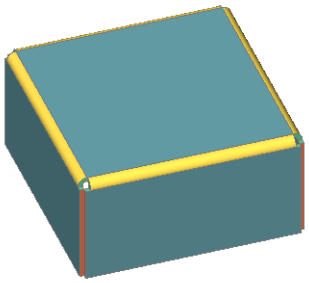
30.24.5 ジャンクションの自動作成

特定の状況では、ハードエッジがコーナーで合流し、1つを除くすべてのベンドを作成する場合、パーツを展開不能にするには、ジャンクションにする必要があります。

板金ボックスの上面にベンドを作成するとします：



次に、面に隣接する残りのハードエッジをジャンクションにする必要があります。**SmSmartFeatures**がONの場合、これは自動的に実行されます。



正確に言うと、自動ジャンクション作成のエリアは、ハードエッジ(またはベンドの作成時にコーナーリリーフ)の共通の頂点に配置されます。このオプションでは、展開された部品のレイアウトは最適化されません。

31. 生成された図面

31.1 図面ビュー

31.1.1 概要

BricsCAD Mechanicalには、部品やアセンブリの3Dモデルから図面ビューを生成するための充実したツールセットが用意されています。図面ビューは同じ図面ファイル(.dwg)のペーパー空間に作成されます。3Dモデルはモデル空間に作成されます。寸法、引出線、文字、表を使い、作図ビューに注釈を付けることができます。関連する3Dモデルに変更を加えると、連動してビューと注釈が更新されます。

図面ビューの生成、更新、注釈付けに使用するツールは、**メカニカルワークスペース**の**注釈**タブの**ビュー設定**パネルにあります。

ビュー設定	説明
ベースビュー	3Dソリッドモデルの関連正投影図および標準等角図をペーパー空間レイアウトに作成します。
投影ビュー	既存の図面ビューから投影ビューイメージを作成して追加します。
断面ビュー	VIEWBASEコマンドでペーパー空間レイアウトに生成された標準作図ビューに基づき、断面ビューを作成します。
詳細ビュー	標準で作成された図面の一部分をより大きな尺度で詳細に表示します。
ビューを編集	図面表示の尺度、隠線の可視性を変更します。
図面ビューを更新	VIEWUPDATEAUTOシステム変数 = 0の場合に、VIEWBASEコマンドとVIEWSECTIONコマンドを実行して得られた図面ビューを更新します。
断面のスタイル	定義済みおよびユーザー定義のスタイル
詳細のスタイル	
図面ビューを書き出し	VIEWBASEコマンドとVIEWSECTIONコマンドによって取得された図面ビューの内容を、図面のモデル空間または新しい図面に書き出します。

31.1.2 ドラフト品質の図面ビュー

デフォルトでは、BricsCADはあらゆる3Dモデルに対して正確な(高品質な)図面ビューを生成します。このようなビューのエッジ(シルエットエッジを含む)は、2D図形(線分、円、円弧、スプライン)で表されます。多数の 3D図形の正確なビューの生成に

は、かなりの時間がかかる場合があります。これは、すべてのシルエットエッジを解析的な2Dカーブで近似する必要があるためです。

DRAWINGVIEWQUALITY の設定を0に変更することにより、図面ビューの生成にかかる時間を大幅に短縮できます。これにより、ドラフト品質の図面ビューが有効になります。このような図面ビューは3Dソリッドとして内部的に表現されるため、シルエットエッジに注釈を追加することができます。ただし、これらは正確な(高品質の)図面ビューに非常に似ており、レイアウトをすばやく作成するために使用できます。

ドラフト品質の図面ビューは、その**ジオメトリ**プロパティを使用(ドラフトから2Dに変更)することにより、高品質の図面ビューに切り替えることができます。

31.2 注釈の作図

注釈の作成と編集については、寸法ツールの概要を参照してください。

図面ビュー内の寸法とマルチ引出線は、基礎となる3Dモデルを変更すると更新されます。

アセンブリ図面にはBOMバルーンで注釈を付けることができます。各バルーンはアセンブリから生成されるBOM(部品表)内の行を参照しています。

部品表は、アセンブリの図面ビューと共にペーパー空間(レイアウト)に配置することができます。

アセンブリの展開図を使い、図面ビューを作成し、バルーンで注釈を付けることができます。

32. Communicator for BricsCAD

32.1 Communicator for BricsCAD® - はじめに

Communicator for BricsCAD®は、主要なCADフォーマット間で3Dデータの読み込み/書出しを行う、BricsCADのPro以上のライセンスレベルのオプションプラグインです。高品質な変換により、3D CADデータの再利用を促進し、生産性の向上とプロジェクトコストの削減を実現します。

32.1.1 Communicator for BricsCAD®のアクティベート

Communicator for BricsCAD®をパソコンにインストールした後、アクティベートをする必要があります。

1 LICENSEMANAGERコマンドを起動します。

Bricsysライセンスマネージャーダイアログボックスが表示されます。

2 **Communicator for BricsCAD**の横にある**ライセンスの管理**をクリックします。

3 **ライセンスマネージャー** > **BricsCAD Communicatorをアクティベート**ダイアログボックスが表示されます。

- **体験版をアクティベート**をクリックしてCommunicator for BricsCAD®体験版ライセンスをオンラインでアクティベートします。
- **今すぐアクティベート...**をクリックします。できること：
  - シングルユーザーまたはボリュームライセンスを使用している場合、有効なCommunicator for BricsCAD®のライセンスキーを**ライセンスキー**欄に入力します。
  - ネットワークライセンスを使用している場合は、サーバー名またはライセンスサーバーのローカルIPアドレスを入力します。

4 **OK**ボタンをクリックします。

ライセンスが登録され、確認ダイアログボックスが表示されます。

5 ダイアログボックスに表示されるメッセージを読み、**了解** ボタンをクリックします。

注：

- Communicator for BricsCAD®ライセンスをオフラインでアクティベートするには、**オフライン/手動アクティベーシト(体験版)**または**オフライン/手動アクティベート(シングル/ボリュームライセンス)**を参照してください。
- ライセンスサーバーでCommunicator for BricsCAD®ネットワークライセンスをアクティベートするには、**オンラインアクティベート(ネットワークライセンス)**または**オフライン/手動アクティベート(ネットワークライセンス)**を参照してください。

32.2 Communicator for BricsCAD® の設定

設定ダイアログボックスの**Communicator**セクションで、関連するコマンドの動作をカスタマイズできます。

- 環境オプションを設定します。
- データの読み込み/書き出しをコントロールします。
- 後処理操作を切り替えます。

EXPORTコマンドとIMPORTコマンドがCommunicator for BricsCAD®ファイル形式のいずれかを使用する場合、設定が適用されます。

32.2.1 バックグラウンドで読み込みと書き込みを実行

チェックを入れると、読み込み/書き込みの実行中にユーザーインタラクションを有効にします。

COMMUNICATORBACKGROUNDMODEシステム変数がオンのときにファイルを読み込んだとき、通知バルーンからファイル名のハイパーリンクをクリックすると、ドキュメントにジオメトリック図形が挿入されるようにしました。これにより、ドキュメントが切り替わり、ビューポートが再生成され、範囲にズームされます。

通知バルーンを閉じると、読み込みセッションがキャンセルされ、バックグラウンド読み込みによって割り当てられたメモリが削除されます。

32.2.2 読み込み設定

システム変数	説明
IMPORTPRODUCTSTRUCTURE	読み込まれたモデルについて製品構造が表示される方法をコントロールします。 「メカニカルコンポーネントとして」は、読み込み後にBMMECHコマンドを自動的に実行します。
IMPORTCOLORS	読み込み中に色を変換する方法をコントロールします。
IMPORTPMI	製品および製造情報の読み込みを有効にします。
IMPORTSTITCH	読み込まれたモデルに対してDMSTITCHコマンドを自動的に実行します。IMPORTIGESSTITCHシステム変数を参照してください。
IMPORTREPAIR	読み込まれたモデルに対してDMAUDITALLコマンドを自動的に実行します。
IMPORTSIMPLIFY	読み込まれたモデルに対してDMSIMPLIFYコマンドを自動的に実行します。IMPORTIGESSIMPLIFYシステム変数も参照してください。
IMPORTHIDDENPARTS	非表示パーツを読み込む方法をコントロールします。
CATIA V5のオプション	

システム変数	説明
IMPORTCATIAV5REPRESENTATION	CATIA V5読み込み時にCommunicatorが読み込むデータをコントロールします。 プレビューグラフィックスは、COMMUNICATORBACKGROUNDMODEシステム変数がオンの場合にのみ読み込まれ、表示されます。
IMPORTCATIAV5SEARCHPATHSPREFERENCE	CATIA V5読み込み時にファイルパスの優先順位をコントロールします。
IMPORTCATIAV5EDGEATTRIBUTES	CATIA V5読み込み時、エッジ種類ごとに、エッジ属性の読み込みをコントロールします。
Creoオプション	
IMPORTCREOALTERNATESEARCHPATHS	Creo読み込み時に使用される代替ファイル。 値はセミコロン(;)で区切ります。
IGESオプション	
IMPORTIGESSTITCH	IGES読み込み中にDMSTICHコマンドを自動的に実行します。 オンの場合、IGESモデルでIMPORTSTITCHシステム変数を上書きします。
IMPORTIGESSIMPLIFY	IGES読み込み時にDMSIMPLIFYコマンドを自動的に実行します。 オンの場合、IGESモデルでIMPORTSIMPLIFYシステム変数を上書きします。
Inventorオプション	
IMPORTINVENTORALTERNATESEARCHPATHS	Inventorファイルの読み込み時に使用する代替ファイルシステムパスのリストをコントロールします。 値はセミコロン(;)で区切ります。
IMPORTINVENTORSEARCHPATHSPREFERENCE	Inventorファイルの読み込み時に検索パスの優先順位をコントロールします。
JTオプション	
IMPORTJTREPRESENTATION	JT読み込み時に読み込むデータをコントロールします。

システム変数	説明
NXオプション	
IMPORTNXALTERNATESEARCHPATHS	NX読み込み時に使用される代替ファイルパスのリストをコントロールします。 値はセミコロン(;)で区切ります。
IMPORTNXSEARCHPATHSPREFERENCE	NX読み込み時にファイルパスの優先順位をコントロールします。
IMPORTNXCONFIGURATION	読み込むことが必要な構成の名前を設定します。設定名が指定されなかった場合は、部品のデフォルト設定が読み込まれます。
SolidEdgeオプション	
IMPORTSOLIDEDGEALTERNATESEARCHPATHS	Solid Edgeファイル読み込み時に使用する代替ファイルパスのリストをコントロールします。 値はセミコロン(;)で区切ります。
IMPORTSOLIDEDGESEARCHPATHSPREFERENCE	Solid Edgeファイル読み込み時にファイルパスの優先順位をコントロールします。
SolidWorksオプション	
IMPORTSOLIDWORKSREPRESENTATION	SolidWorks読み込み時に読み込まれるデータをコントロールします。プレビューグラフィックスは、COMMUNICATORBACKGROUNDMODEシステム変数がオンの場合にのみ読み込まれ、表示されます。
IMPORTSOLIDWORKSALTERNATESEARCHPATHS	SolidWorks読み込み時に検索する代替ファイルシステムパスのリストをコントロールします。 値はセミコロン(;)で区切ります。
IMPORTSOLIDWORKSSEARCHPATHSPREFERENCE	SolidWorks読み込み時に検索パスの優先順位をコントロールします。
IMPORTSOLIDWORKSCONFIGURATION	読み込むことが必要な構成の名前を設定します。設定名が指定されなかった場合は、部品のデフォルト設定が読み込まれます。
IMPORTSOLIDWORKSROTATEYZ	SolidWorks座標系のカレントの座標系への変換を有効にします。

システム変数	説明
STEPオプション	
IMPORTSTEPROTATEYZ	STEP読み込み時に、SolidWorks座標系のカレントの座標系への変換を有効にします。

読み込み設定の詳細については、システム変数に関する説明を参照してください。

32.2.3 設定を書き出し

システム変数	説明
EXPORTPRODUCTSTRUCTURE	製品構造を書き出すかどうかをコントロールします。
EXPORTHIDDENPARTS	非表示パーツを書き出す方法をコントロールします。
EXPORTGEOMETRYFLAGS	IGESおよびSTEP形式のジオメトリ表現を書き出す方法をコントロールします。
ACISオプション	
EXPORTACISFORMATVERSION	書き出すACISファイルバージョンをコントロールします。
EXPORTACISASSEMBLYWRITER	ASAT/ASABファイルの保存に使用するライターをコントロールします。Communicatorがインストールされていない場合、内部ASAT/ASABライターが使用されます。
CATIAオプション	
EXPORTCATIAV4FORMATVERSION	書き出すCATIA V4ファイルバージョンをコントロールします。
EXPORTCATIAV5FORMATVERSION	書き出すCATIA V5ファイルバージョンをコントロールします。
Parasolidオプション	
EXPORTPARASOLIDFORMATVERSION	書き出すParasolidファイルバージョンをコントロールします。
STEPオプション	

システム変数	説明
EXPORTSTEPFORMATVERSION	書き出すSTEPファイルバージョンをコントロールします。
XCGMオプション	
EXPORTXCGMFORMATVERSION	書き出すXCGMファイルバージョンをコントロールします。
3D PDFオプション	
EXPORT3DPDFWRITER	3D PDFファイルの保存に使用するライターをコントロールします。

書き出し設定の詳細については、システム変数に関する説明を参照してください。

32.3 Communicator for BricsCAD®とBricsCADの互換性

Communicator for BricsCAD®は、BricsCAD Pro以上のライセンスで動作します。

32.3.1 概要

2つの最初の製品番号が一致する必要があります。例えば、BricsCAD 22.1.xxは、Communicator for BricsCAD® 22.1.xxとのみ互換性があります。以前のBricsCADバージョン(V21以前)とは互換性がありません。

一つだけ例外があります。Communicator for BricsCAD® V21については、メジャーバージョン番号が21であれば、すべてのBricsCADのバージョンに対応しています。

注：

- Communicator for BricsCAD® V22は、以前のバージョンとは独立してインストールおよび実行されます。
- Communicator for BricsCAD®とBricsCADの互換性については、Communicator for BricsCAD®のリリースノートの**バージョン情報**に常に記載されています。Communicator for BricsCAD®のリリースノートは、ダウンロードページからご覧いただけます。

メジャーなバージョン番号の最新の製品バージョンを使用することを強くお勧めします。

32.4 Communicator for BricsCAD® - 読み込み可能なファイル形式

32.4.1 対応する読み込みファイル形式

Windows

- **ACIS**：.asab, .asat, .sab, .sat
- **Autodesk Inventor**：.iam, .ipt
- **CATIA v4**：.model, .exp, .session
- **CATIA v5/v6**：.CATPart, .CATProduct, .CGR
- **Creo Elements / Pro Engineer**：.asm, .prt

- **IGES**：.iges, .igs
- **NX**：.prt
- **Parasolid**：.xmt_bin, .xmt_txt, .x_b, .x_t
- **Siemens**：.jt
- **SolidWorks**：.sldasm, .sldprt
- **STEP**：.step, .stp, .stpz
- **VDA-FS**：.vda
- **XCGM**：.xcgm
- **Solid Edge**：.asm, .par, .psm
- **STL** .stl

Linux

- **ACIS**：.asab, .asat, .sab, .sat
- **CATIA v4**：.model, .exp, .session
- **Creo Elements / Pro Engineer**：.asm, .prt
- **IGES**：.iges, .igs
- **Parasolid**:.xmt_bin, .xmt_txt,.x_b,.x_t
- **Siemens**：.jt
- **Solid Edge**：.asm, .par, .psm
- **SolidWorks**：.sldasm, .sldprt
- **STEP**：.step, .stp, .stpz
- **VDA-FS**：.vda
- **XCGM**：.xcgm

Mac

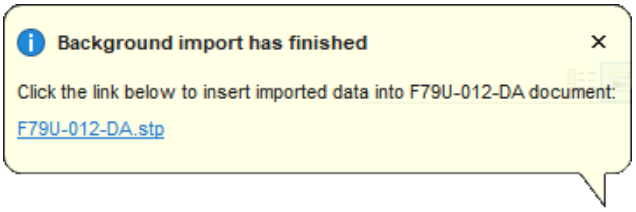
- **ACIS**：.asab, .asat, .sab, .sat
- **CATIA v4**：.model, .exp, .session
- **Creo Elements / Pro Engineer**：.asm, .prt
- **IGES**：.iges, .igs
- **Parasolid**：.xmt_bin, .xmt_txt, .x_b, .x_t
- **STEP**：.step, .stp, .stpz
- **VDA-FS**：.vda

注 : Communicatorの設定により異なります。

- IMPORTPRODUCTSTRUCTUREシステム変数の設定により、アセンブリファイルを平面ジオメトリ(非階層的な図形のセット)として読み込みしたり、製品構造をネイティブのブロックや機械部品にマップしたりすることが可能です。
- IMPORTCOLORSシステム変数を設定することにより、読み込み時の色の変換を定義できます。

- PMI(Product and Manufacturing Information)は、ACIS、CATIA V5、NX、Pro/E / Creo、SolidWorks、XCGMのファイル形式でサポートされています。IMPORTPMIシステム変数がオンの場合、PMI注釈はブロックにグループ化されたグラフィック要素として読み込みされます。
- アセンブリに隠しパーツが含まれている場合は、BricsCADでの表示方法を決めることができます。**読み込んで非表示**、**読み込んで表示**、または**読み込まない**から選択できます。この機能は現在CATIAV5でのみサポートされており、IMPORTHIDDENPARTSシステム変数によって制御されます。
- IMPORTSTITCH、IMPORTREPAIR、IMPORTSIMPLIFYシステム変数を設定することにより、読み込まれたジオメトリを自動的に修復、ステッチ、簡略化する読み込みオプションを設定できます。
- IGES形式には、ステッチして簡略化するための独自のオプションもあります。(IMPORTIGESSTITCH、IMPORTIGESSIMPLIFYシステム変数)
- SolidWorksまたはSTEPから3Dモデルを読み込みする場合、SolidWorksでは垂直軸がYであるため、Y軸をZにマッピングするオプション(IMPORTSOLIDWORKSROTATEYZ、IMPORTSTEPROTATEYZシステム変数)を設定することは理にかなっています。
- Creo、Inventor、NX、Solid Edge、SolidWorksの場合、代替検索パス(IMPORTCREOALTERNATESEARCHPATHS、IMPORTINVENTORALTERNATESEARCHPATHS、IMPORTNXALTERNATESEARCHPATHS、IMPORTSOLIDEDGEALTERNATESEARCHPATHS、IMPORTSOLIDWORKSALTERNATESEARCHPATHSシステム変数)を指定できます。これは読み込みされたアセンブリフォルダーに存在しない部品を探すために使用されます。
- Creo、NX、およびSolidWorksでは、読み込む設定名を指定することができます。(IMPORTCREOCONFIGURATIONシステム変数、IMPORTNXCONFIGURATIONシステム変数、IMPORTSOLIDWORKSCONFIGURATIONシステム変数)。
- CATIA V5-6、Inventor、NX、Solid Edge、SolidWorksの場合、検索パスの優先順位を定義できます。(IMPORTCATIAV5SEARCHPATHSPREFERENCE、IMPORTINVENTORSEARCHPATHSPREFERENCE、IMPORTNXSEARCHPATHSPREFERENCE、IMPORTSOLIDEDGESEARCHPATHSPREFERENCE、IMPORTSOLIDWORKSSEARCHPATHSPREFERENCEシステム変数)
- COMMUNICATORBACKGROUNDMODEシステム変数がオンの場合、読み込み/書き出しファイルはバックグラウンドで実行されます。Communicator for BricsCAD®がファイルの読み込み/書き出しを実行している間、CADドキュメントでの作業を続行できます。

  ファイルが読み込まれると、通知バブルのファイル名のハイパーリンクをクリックした後、ジオメトリ図形がドキュメントに挿入されます。これにより、ドキュメントが切り替わり、ビューポートが再生成され、範囲にズームされます。



  通知バブルを閉じると、読み込みセッションがキャンセルされ、バックグラウンド読み込みによって割り当てられたメモリが削除されます。

- CATIA V5-6、JT、SolidWorks形式のファイルの場合、ユーザーは IMPORTCATIAV5REPRESENTATION、IMPORTJTREPRESENTATION、IMPORTSOLIDWORKSREPRESENTATIONシステム変数を設定することにより、読み込みデータ表現を定義できます。
- CATIA V5の場合、ユーザーはIMPORTCATIAV5EDGEATTRIBUTESシステム変数のオプションを選択することにより、読み込み中に読み取るエッジ属性を定義できます。

32.5 Communicator for BricsCAD® - 書き出し可能なファイル形式

32.5.1 対応する書き出しファイル形式

Windows

- **3D PDF**：.pdf
- **ACIS**：.asab, .asat, .sab, .sat
- **CATIA v4**：.model
- **CATIA v5**：.CATPart, .CATProduct
- **IGES**：.iges, .igs
- **STEP**：.step, .stp
  指定できる書き出しプロトコルは、AP203、AP214、AP242です。
- **VDA-FS**：.vda
- **XCGM**：.xcgm
- **Parasolid**：.xmt_bin, .xmt_txt, .x_b, .x_t
  パラソリッド形式への書き出しは、次の場合に可能です：
  - pskernel.dllはInterOpで、例えばPATH環境変数からアクセスできるフォルダーで利用可能です。
  - P_SCHEMA環境変数は、元のインストールでpskernelの横にあるスキーマフォルダーを指します。フォルダー名は若干異なる場合があります(たとえば、SolidWorks 2018ではschema_18です)。
  - pskernel.dllのバージョンがInterOpでサポートされているメジャーバージョンよりも前であるため、EXPORTPARASOLIDFORMATVERSIONシステム変数をpskernelライブラリがサポートする(下位の)バージョンに設定する必要があります。

Linux

- **3D PDF**：.pdf
- **ACIS**：.asab, .asat, .sab, .sat
- **CATIA v4**：.model
- **CATIA V5**：CATProduct, .CATPart
- **IGES**：.iges, .igs
- **STEP**：.step, .stp
  指定できる書き出しプロトコルは、AP203、AP214、AP242です。
- **VDA-FS**：.vda
- **XCGM**：.xcgm

Mac

- **ACIS**：.asab, .asat, .sab, .sat
- **CATIA v4**：.model
- **IGES**：.iges, .igs
- **STEP**：.step, .stp

  指定できる書き出しプロトコルは、AP203、AP214、AP242です。
- **VDA-FS**：.vda

注：

- EXPORTPRODUCTSTRUCTUREシステム変数が設定されている場合、メカニカルコンポーネントを含むBricsCADアセンブリをプロダクト構造と共にファイルとして書き出しすることができます。
- アセンブリに非表示部品が含まれている場合は、EXPORTHIDDENPARTSシステム変数を設定することにより、非表示部品の書き出しを処理する方法を決定できます。
- 書き出しファイルの種類を制御する他のすべての関連システム変数は、**関連する変数**に一覧表示されています。

33. BricsCAD Shape

33.1 BricsCAD Shapeの紹介

33.1.1 BricsCAD Shapeとは

BricsCAD Shapeは、Bricsys が提供する最新の構想設計用モデリングツールです。建築士やエンジニアが、構想設計を3D で一貫して検討できるように作られています。BricsCAD Shapeを使い、設計者が持つアイデアやイメージを素早く顧客の前で形にすることができます。ダイレクトモデリング機能を利用しているため、作成データはCADデータとなります。

また、プレゼンテーションツールとして使用することもできます。そして、何よりも、BricsCAD Shapeは30分以内に習得できるほど、ユーザインターフェースがシンプルで分かりやすくなっています。

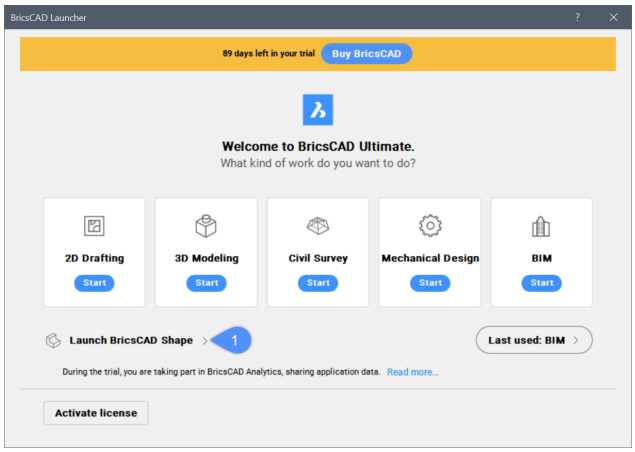
重要：BricsCAD V25は、BricsCAD Shape製品を含む最後のバージョンです。BricsCAD Shapeは、現在2025年後半に予定されているBricsCADの次のメジャーリリースであるV26で削除されます。

33.1.2 BricsCAD Shapeのアクティベート

1 BricsCADをダウンロードします。

2 BricsCAD 体験版をアクティベートして、BricsCAD Shapeを起動できるようにします。

3 **BricsCADランチャ**で、**BricsCAD Shapeを起動**ボタン(1)をクリックします。



注：BricsCAD体験版の試用期間が終了しても、BricsCAD Shapeはアクティブなままになります

33.1.3 BricsCAD Shapeで想像を形に

Shape のスマートなモデリング機能は、簡単に 3D データとして保管できます。Shape は、壁、スラブ、柱、梁などを作成するための機能を使用することができます。ダイレクトモデリング機能で、モデルを思いのままに引っ張ったり、押し出したり、結合したりできます。また、壁の接合部を自動的に補正したりもします。

BricsCAD Shapeには、顧客にプレゼンするために必要な機能が備わっています。マテリアル(素材)、テクスチャ(仕上げの材質)、3Dコンポーネントのライブラリが付属しています。また、デフォルトで実装されたドアや窓に、カスタムした独自のライブラリを追加することもできます。**ビジュアルスタイル**パネルを使ってモデルの描写方法を変えて、好みの外観に設定できます。

33.1.4 BricsCAD Shapeと他のツールの違いとは

まず、BricsCAD Shape はCADとして正確なデータになります。Shapeのシンプルなユーザーインターフェースには、BricsCAD Pro と同じ、実績のある高速なモデリングエンジンが搭載されています。Shape はソリッドモデルを作成し、業界標準の DWG で保存されます。これは BricsCAD BIM と同様です。競合製品とは異なり、Shapeのソリッドモデルは正確なCADデータであるため、近似値で作成されたモデルとは精度が異なります。Shapeで作成した要素は、いつでも、簡単にその場で修正できます。作成した構想設計モデルは、BricsCAD BIMでそのまま開くことができます。そのため、モデルの作り直しによるタイムロスがなくなります。構想設計からBIMにシームレスに繋げることが出来る BricsCAD Shape をご検討ください。

33.1.5 BricsCAD ShapeでBIMのワークフローを促進する

Bricsysが提案するBIMのワークフローは、Shapeを使って3Dに始まり、3Dで進め、最後に優れた図面化機能で2D図面化します。ワークフローを断絶することなく、全ての工程を DWG で、使い慣れたユーザーインターフェースをお使いいただけます。導入のハードルが低い BricsCAD Shape と BricsCAD BIMなら、導入から生産性向上まで時間がかかることがありません。

33.1.6 手書きから造形へ

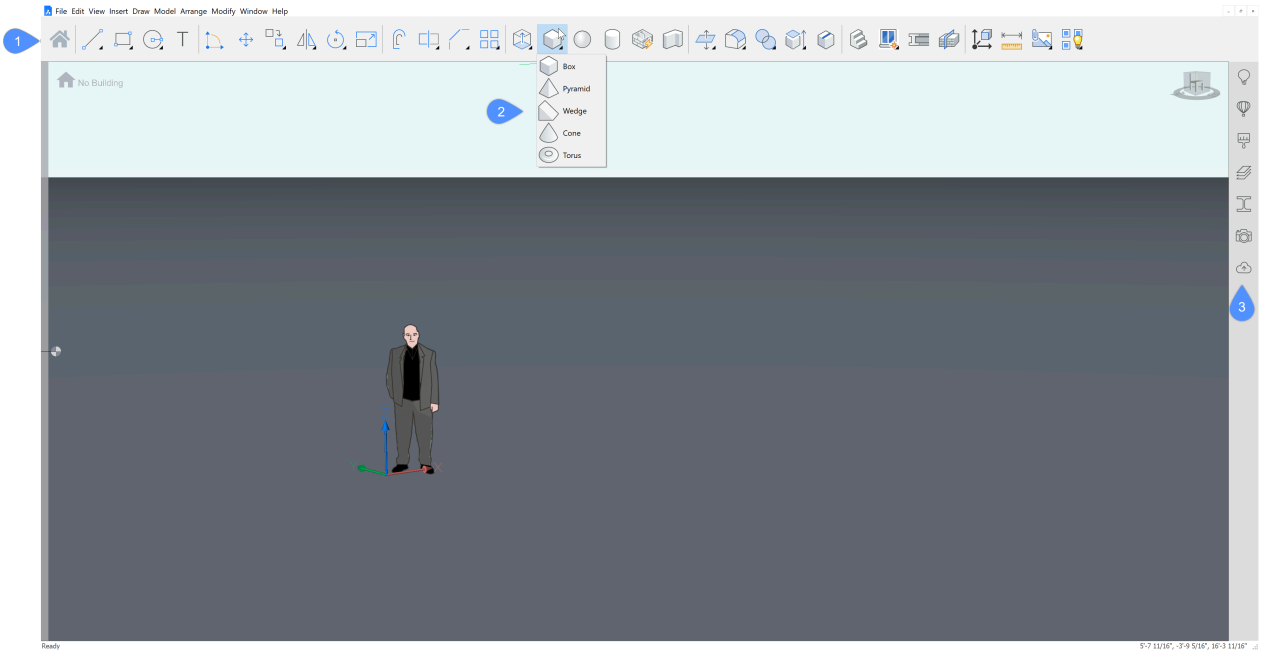
BricsCAD Shapeは無料でご利用いただけます！ 造形に必要なツールは BricsCAD Shape で提供しています。初心者にも分かりやすいシンプルな教材を YouTube の Bricsysチャンネルで公開していますので、ぜひ「10分でわかるBricsCAD Shape」をご活用ください。

33.2 BricsCAD Shapeのユーザーインターフェース

画面上部のツールバー(1) から、よく使用するツールが起動できます。ツールを使用するには、ツールバーにあるアイコンを左クリックします。

ほとんどのツールは、ドロップダウンメニュー (2) があります。アイコンにカーソルを置き、マウスの左ボタンを長押しします。ドロップダウンメニューにいくつかツールが表示されます。

画面の右側にあるアイコン (3) をクリックすると、折り畳み可能なパネルにアクセスできます。一番上のアイコンは**ヒントパネル**を開きます。ここで、Shape のツールの使い方に関する情報が表示されます。



注：BricsCADやBricsCAD BIMで使用されるモデリングツールの多くはShapeでも利用可能です。コマンドラインにCOMMANDSと入力すると、Shapeで使用可能なすべてのコマンドの一覧を確認できます。

33.3 BricsCAD Shapeのモデリングの基本的な考え方

33.3.1 図形の選択方法

オブジェクトのハイライトと選択

BricsCAD Shapeの図形は、エッジと面で構成されるソリッドです。

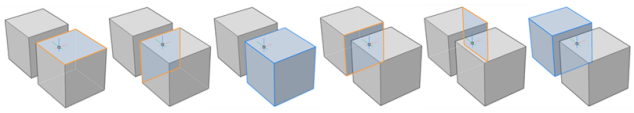
図形の上にカーソルを合わせると、図形の一部がハイライトされます。図形のハイライト部分を選択するには、エッジまたは面を左クリックします。

注：図形全体を選択またはハイライトするには、**Ctrl**を押しながら左クリックします。

操作によっては図形を選択する必要がない場合もあります。面やエッジがハイライトされると**クワッドメニュー**が開き、コマンドのアイコンが表示されます。

注：一度にハイライトできるのは 1 つの図形のみですが、左クリックで 1 つずつ選択したり、ウィンドウ選択で複数の図形をまとめて選択することが可能です。

選択したい図形が他の図形の後ろ側に隠れている場合の選択方法があります。隠されている図形の上にカーソルを置き、**TAB**を何度か押します。すると、カーソルが置かれたサブ図形(面、エッジなど)が1つずつハイライト表示されます。ハイライト表示された図形はクリックして選択できます。



選択したオブジェクトの選択を解除するには、**Esc**ボタンを押します。

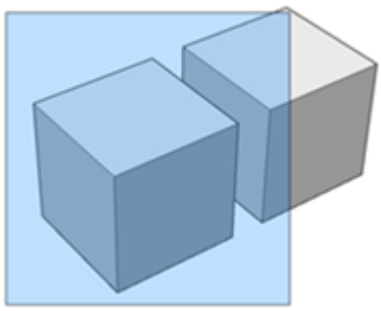
窓選択

１つ以上の要素をまとまて選択するために、窓選択を使用します。モデルエリア内の何もない場所で左クリックします。カーソルを移動させると、窓選択が表示されます。

注：窓選択では、デフォルトでソリッド全体が選択されます。**Ctrl**を押して面の選択となり、もう一度**Ctrl**を押すとエッジの選択となり、もう一度押すとソリッドの選択になります。どの選択方法になっているのかは、作図画面下部にある**ホットキーアシスタント**(HKA)で確認できます。

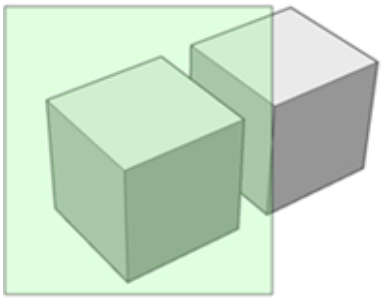
青色の窓選択

カーソルを左から右に移動させると、青色の窓選択が表示され、矩形の中に完全に入っているすべての図形が選択されます。この選択方法は「窓内選択」と呼ばれています。



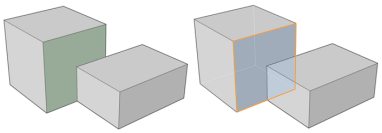
緑色の窓選択

カーソルを右から左に移動させると、緑色の窓選択が表示され、選択された矩形の中に完全に入っているか、重なっている図形がすべて選択されます。この選択方法を「窓掛け選択」と呼びます。



境界と面

境界が検出されるのは、現在の座標系のXY上にある2Dの図形セット、3Dソリッドの面、または 2 つ以上の3Dソリッドが部分的に重なった面です。別のモデル要素にカーソルを重ねると、BricsCAD形状は閉じた境界を自動的に検出してハイライト表示します。境界が検出されると、ハイライト表示されます。この境界を選択するには、ハイライトされた境界の内側で左クリックします。境界線を利用して、新しいソリッドを作成したり、穴、オフセット、凹みなどを作成できます。



注：境界の選択ではなく、ソリッドの面を選択するには、**TAB**を押して切り替えます。

33.3.2 クワッド

クワッドカーソルメニュー(略称：クワッド)は、コマンドラインやツールバー、リボンといった実行方法の一つで、画面上で煩雑なマウス操作をなくし、少ないクリック数でコマンドを実行する便利なツールセットを提供します。また、図形を選択したり、カーソルを合わると、図形のプロパティを一部表示するロールオーバーヒントもクワッドの機能です。

以下の動作で、クワッドが表示されます：

- 図形の上にカーソルを合わせる
- 図形を選択する
- 画面上の何もない場所で右クリックします。選択なしクワッドが表示されます。

図形にカーソルを合わせたときのクワッドの初期コンテンツは以下となります：

- 図形の種類
- ハイライトされた図形に対して直近に実行されたコマンドのアイコン
- 関連するプロパティ

クワッドにカーソルを合わせると、展開されます。上部には、その図形に最も関連性の高いコマンド、または、直近で使用されたコマンドが表示されます。下部には、一連のコマンドタブが表示されています：

- タブにカーソルを合わせると、タブが展開されます。
- アイテムにカーソルを合わせると、ツールチップが表示されます。
- アイコンをクリックして、コマンドを起動します。

- クワッドのタイトルバーをクリックすると折りたたまれて、もう一度クリックすると展開されます。

33.3.3 マニピュレータ

マニピュレータは、選択した図形を移動、回転、尺度変更、ミラーすることができて、オプションでコピーの作成もできます。

マニピュレータを表示させるには、以下のいずれかを実行します：

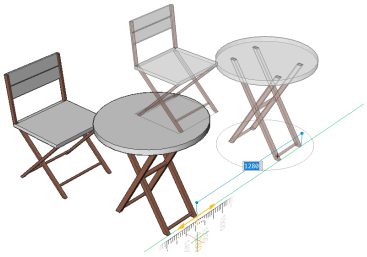
- 図形またはサブ図形(面、エッジ等)を選択して、**クワッド**の**修正**タブから**マニピュレータ**を選択します。
- 選択するときは、マウスの左ボタンを少し長めに押します。

注：マニピュレータは、図形を選択する際に図形にカーソルを入れた部分のエッジに沿って配置されます。原点は、そのエッジの最も近い端点にあります。

軸を選択

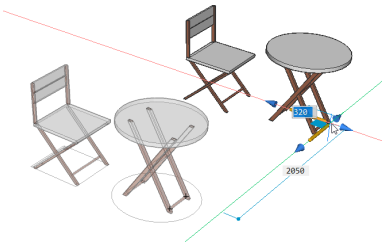
マニピュレータの軸を選択(左クリック)することで、図形を移動することができます。移動距離の値を指定するか、移動先のポイントを選びます。表示されるルーラーの目盛単位は、ズームの倍率によって調整されます。拡大すると目盛単位が小さくなり、縮小すると目盛単位が大きくなります。

注：図形をコピーするには、**Ctrl**を押したまま軸を左クリックします。



平面を選択

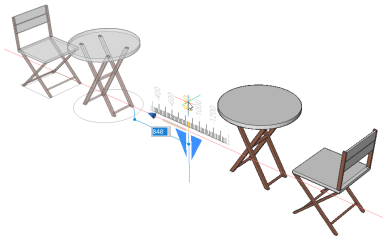
マニピュレータの平面を選択すると、選択した平面上で図形を移動させることができます。移動距離を直接入力するか、あるいは移動先のポイントを選択して移動させます。

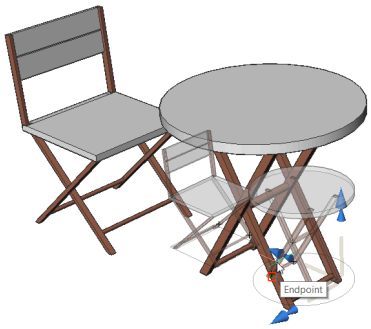


矢印を選択

マニピュレータの矢印部分を選択すると、選択された図形を拡大縮小、ミラーすることができます。図形の上にカーソルを置いて右クリックすると、コンテキストメニューに他のオプションが表示されます。そこで、矢印の機能を3Dミラーまたは3D尺度変更に切り替えることができます。

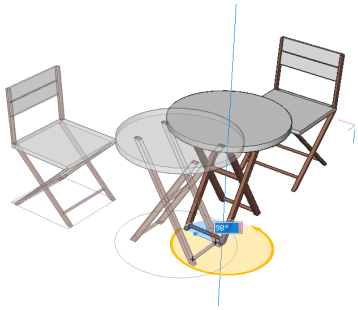
いずれかの矢印を選択して、ミラーの軸または尺度を指定してみましょう。





回転円弧を選択

マニピュレータの円弧を選択し、回転角度の値を入力するか、図面内のポイントを選択することで、図形を回転させることができます。



アンカーハンドルを選択

マニピュレータのアンカーを選択することで、マニピュレータの位置を変更することができます。

33.4 BricsCAD Shapeのナビゲーション

33.4.1 画面移動

図面を水平、垂直、斜めのどの方向にも動かすことができます。画面移動を行っても、空間内の図面倍率や配置はそのまま維持されます。

画面移動の方法：

- マウスホイールをクリック＆ホールドする。
- **CTRL+SHIFT**を押しながらマウスの右ボタンをクリック＆ホールドします。
- コマンドラインに「PAN」を入力する。
- コマンドラインに「RTPAN」を入力する。
- ツールバーの**リアルタイム画面移動**アイコン をクリックします。

「PAN」コマンド(画面移動)をキャンセルする方法：

- 右クリックして、コンテキストメニューから**終了**を選択します。
- キーボードの**Enter**、**スペースバー**、または**Esc**を押します。

33.4.2 ビューの回転

ビューを自由に回転させることができますが、拘束のある方法もあります。

リアルタイムに回転する方法：

- **SHIFT**を押しながら、マウスの中央ボタンをクリック＆ホールドします。
- コマンドラインに「RTROT」と入力する。
- ツールバーの**リアルタイム球形回転**アイコンをクリックします。

RTROT コマンドをキャンセルする方法：

- 右クリックして、コンテキストメニューから**終了**を選択します。
- キーボードの**Enter**、**スペースバー**、または**Esc**を押します。

33.4.3 ズームの拡大縮小

図面の拡大縮小の倍率は、ズームを使って変更できます。

縮小すると図面全体を見ることができ、拡大すると図面の一部を詳細に見ることができます。

図面のズーム倍率の変更は、図面の表示のみに影響します。つまり、図面上の図形の寸法には影響しません。

ズームの拡大縮小する方法：

- マウスホイールをスクロールする。
- **CTRL+SHIFT**を押しながら、マウスの左ボタンをドラッグしてズームインまたはズームアウトします。
- コマンドラインに**ZOOM**と入力します。
- ツールバーの**拡大**アイコンまたは**縮小**アイコンをクリックします。

注：図形範囲ズームは、図形の拡張範囲まで表示します

33.4.4 Look Fromコントロール

Look Fromコントロールを使い、正射投影ビューやアイソメトリックビューなどのプリセットビューを選択できます。デフォルトでは、**Look From**コントロールは画面の右上に表示されます。

1 カーソルを**Look From**コントロールに合わせます。

Look Fromコントロールがアクティブになります。

2 カーソルを**Look From**コントロールに置き、ビュー方向を選択します。

現在選択されているビュー方向がプレビュー画像とツールチップで示されます。

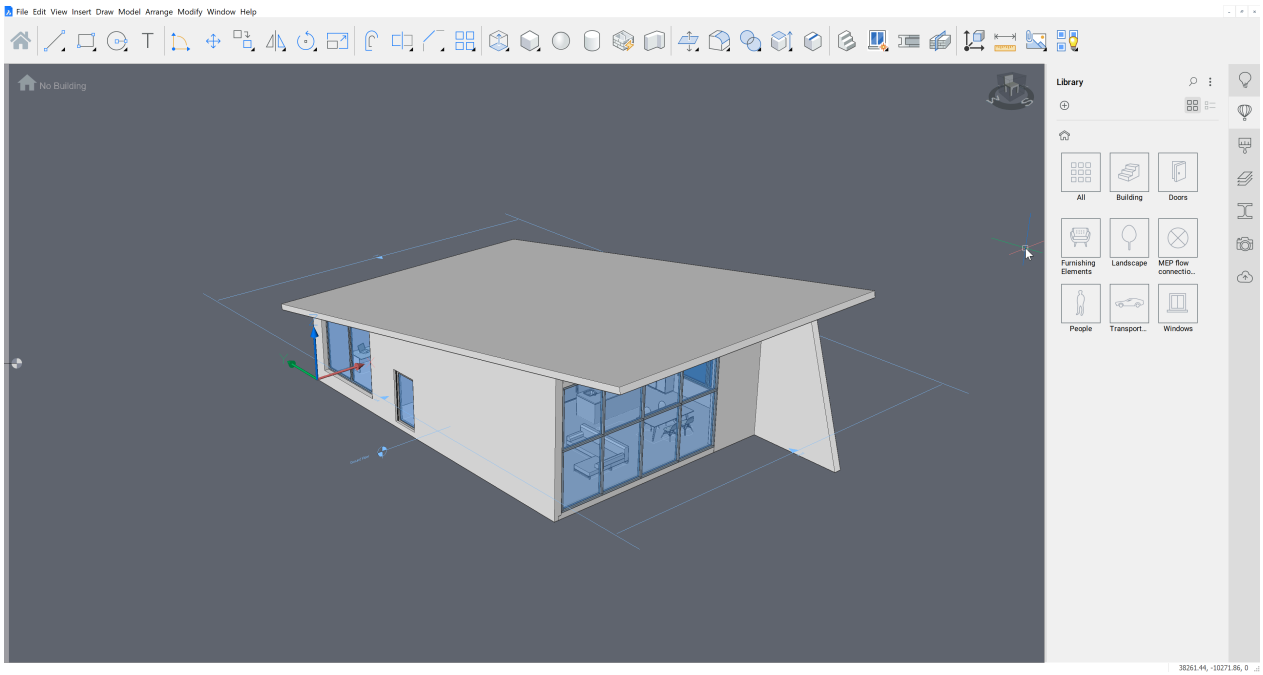
3 左クリックで決定します。

4 ビューが更新されます。

33.5 BricsCAD Shapeのコンポーネント

BricsCAD Shapeでは、**ライブラリ**パネルからコンポーネント一式を利用できます。

画面右端の気球アイコンをクリックしてライブラリを開きます。いくつかのカテゴリに分類されています。



パネルの右上にある「メニュー」ボタンをクリックすると、利用可能なライブラリの選択または非表示を切り替えることができます。

- **Bricsys BIMライブラリ**の内容：C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥UserDataCache¥Support¥ja_JP¥Bim¥Components
- **Bricsys 2D ライブラリ**の内容：C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥UserDataCache¥Support¥ja_JP¥Blocks2D
- **ユーザー定義ライブラリ**の内容：C:¥ProgramData¥Bricsys¥Components¥

注：メニューの**ライブラリを管理**を選択して、**設定**ダイアログでCOMPONENTSPATHシステム変数にフォルダーを追加します。

33.5.1 コンポーネントを挿入する方法

1 ライブラリ内のコンポーネントをクリックする。

2 カーソルをモデル空間内に移動します。

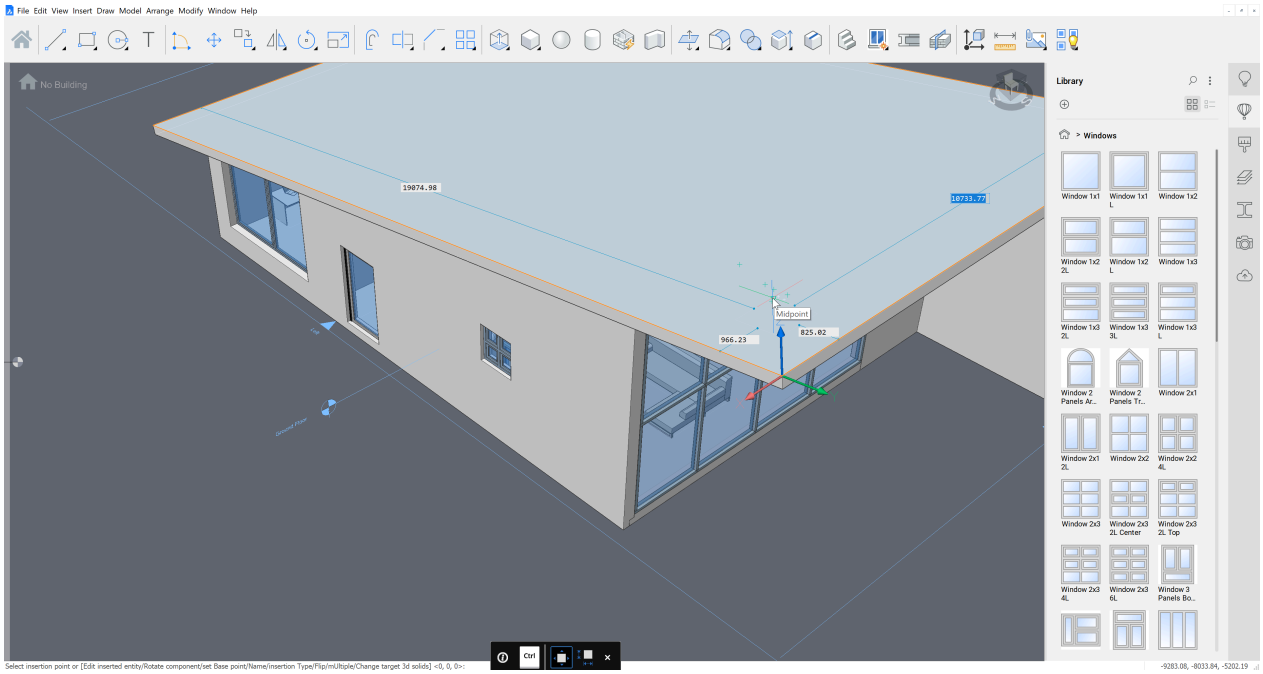
注：選択したコンポーネントがカーソルにアタッチされる。現在の座標系の原点からのX、Yの距離が動的に表示されます。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- クリックしてコンポーネントを配置する。
- X, Y の距離フィールドに値を入力する。

注：**Tab**を押すと、他のフィールドにジャンプします。Enterを押して、コンポーネントを配置します。

33.5.2 ソリッドの面に窓を挿入する方法



1 ライブラリの窓をクリックする。

2 カーソルを3Dソリッドの面上のモデルに合わせる。

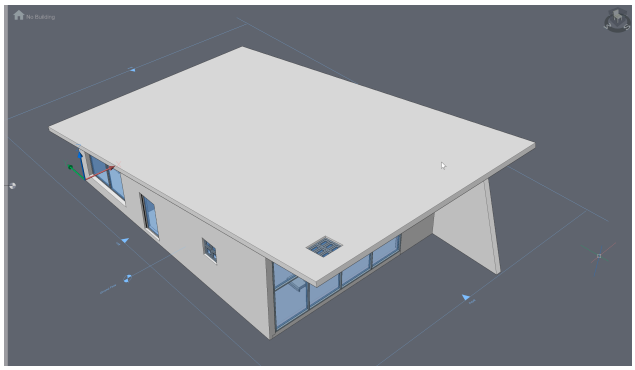
注：窓はカーソルが置かれた面に合わせて配置される。面の端からの距離フィールドが動的に表示される。

3 以下のいずれかの操作を行います：

- クリックすると、窓が挿入される。
- 距離フィールドに値を入力する。

注：**Tab**を押すと、次のフィールドにジャンプします。**Enter**を押して、コンポーネントを配置します。

窓は自動的にソリッドに開口部を作ります。



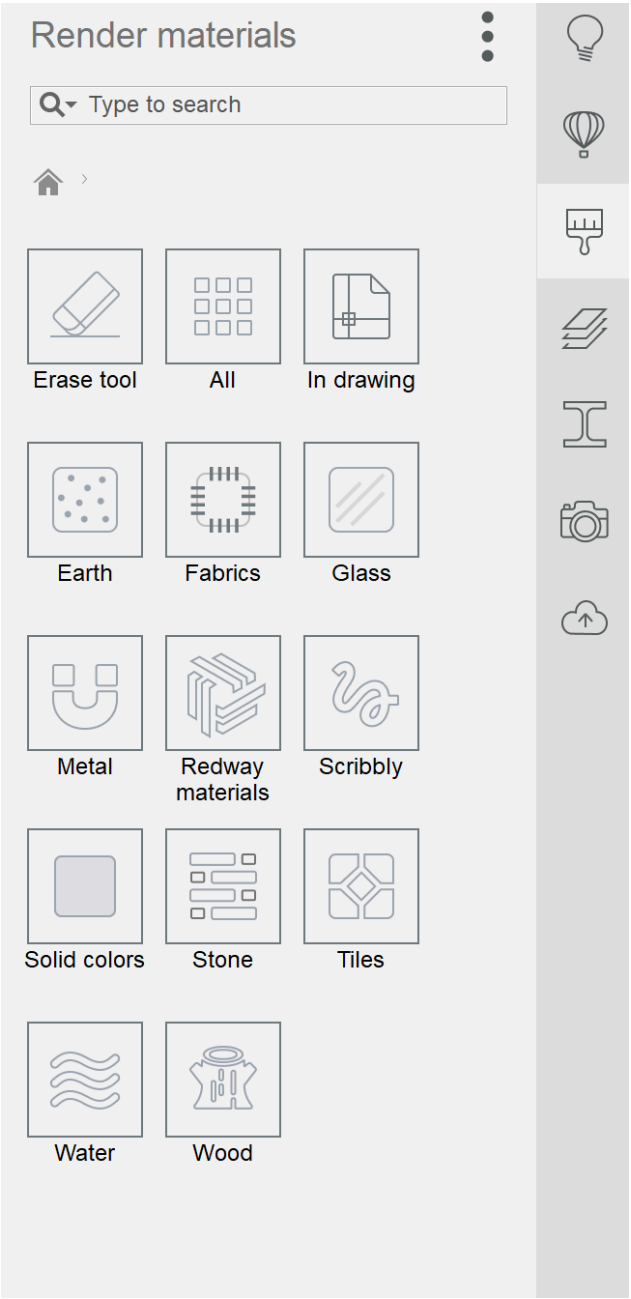
注：窓を削除すると、開口部が削除されます。

33.6 BricsCAD Shapeのマテリアル

BricsCAD Shapeには、**レンダリングマテリアル**パネルにマテリアル一式が含まれています。

レンダリングマテリアルは、C:¥ProgramData¥Bricsys¥RenderMaterials¥DefaultMaterials¥に格納されています。

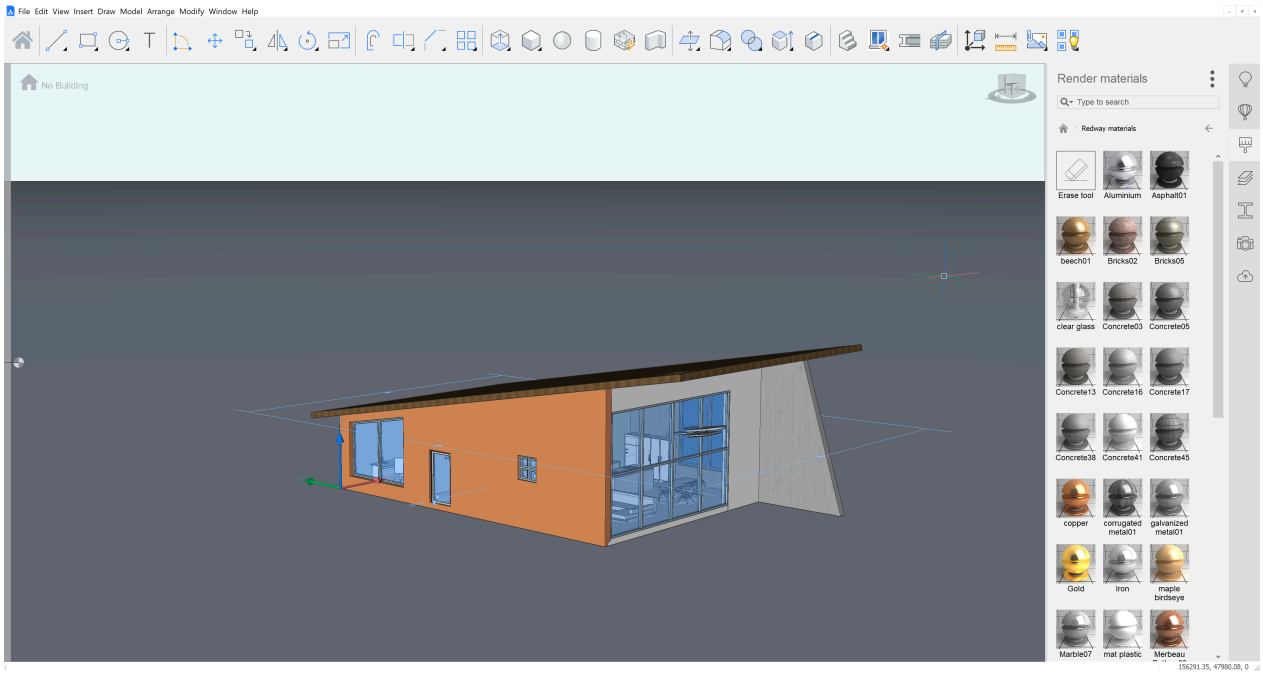
画面の右端にある**ペイントブラシ**アイコンをクリックして、**レンダリングマテリアル**パネルを開きます。いくつかのカテゴリが用意されています。図面で使用されているすべてのマテリアルを表示するには、**図面内**カテゴリを選択します。



モデル内の図形にマテリアルを割り当てる方法：

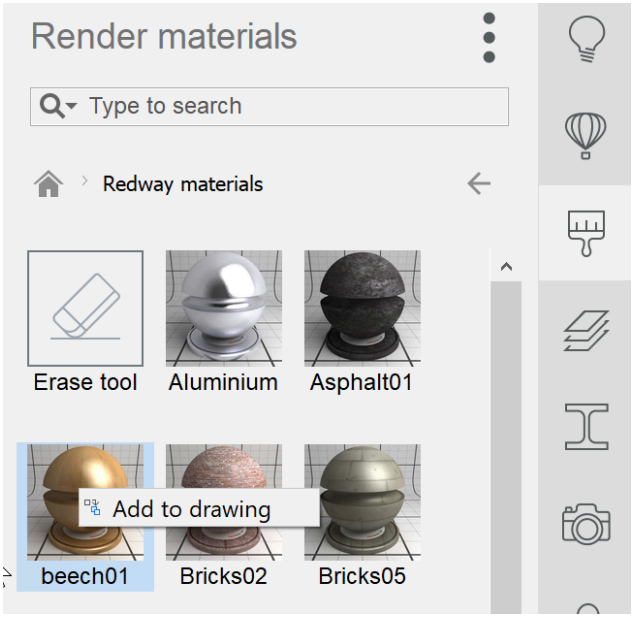
- **レンダリングマテリアル**パネルからマテリアルを選択します。
- マテリアルを割り当てたい図形を選択する。

注：複数の図形を事前に選択することで、一度に複数の図形にマテリアルを適用することができます。



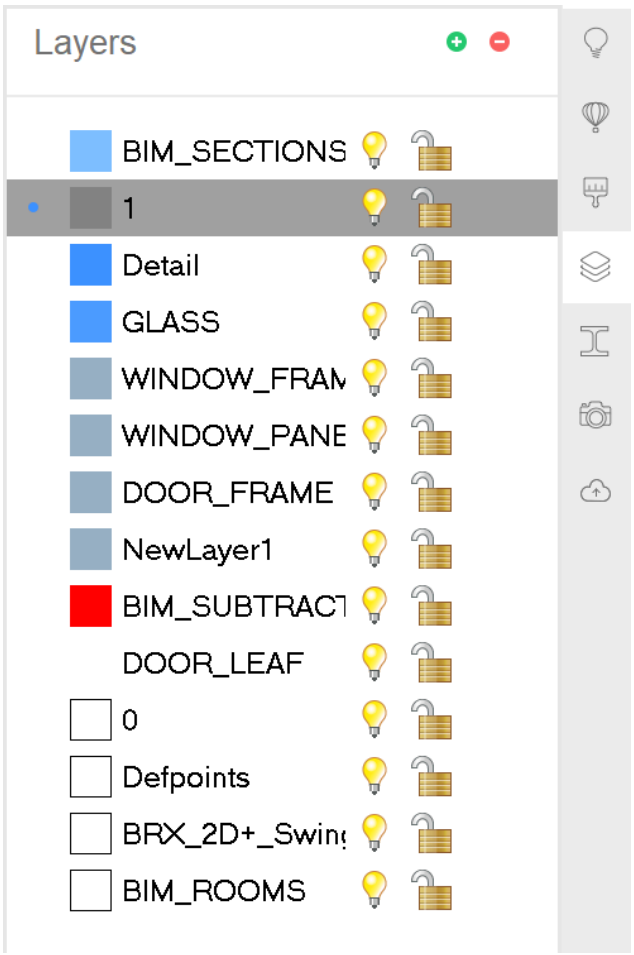
注：図形からマテリアルを削除するには、ツールを削除を使ってマテリアルを削除する図形をクリックします。

マテリアルを図面に追加して後で使用する場合は、マテリアルのアイコンを右クリックして、**図面に追加**オプションを選択します。



33.7 BricsCAD Shapeの画層

画層は複数の図形をグループ化して3Dモデルを整理するために使えます。**画層**パネルには、画面右側の画層アイコンからアクセスできます。



注：現在の画層は小さな青い点で示されています。現在の画層を変更するには、現在の画層に設定したい画層の行で青い点と同じ列をクリックします。

33.7.1 オン/オフ 切り替え

特定の画層のオンとオフを切り替えるには、画層の電球マークを切り替えます。それにより、要素を非表示にしたり選択表示したりすることができます。これは図面をビューする際に便利な機能です。

- **オン**：その画層にある図形を表示します。
- **オフ**：その画層にある図形を非表示にします。

33.7.2 ロック/ロック解除 切り替え

画層をロックまたはロック解除するには、南京錠アイコンを切り替えます。

- **ロック解除**：その画層の図形の編集を許可します。
- **ロック**：その画層の図形を編集不可にします。

33.7.3 作成/削除

新しい画層を作成するには、**緑色のプラス**記号をクリックします。既定の名前で新規画層が作成されます。画層を削除するには、削除する画層が選択されていることを確認して、**赤色のマイナス**記号をクリックします。

33.7.4 編集

画層の名前や色などのプロパティを編集することができます：

- 画層の名前を変更するには、画層名をダブルクリックするか、右クリックメニューから**名前の変更**を選択します。
- 色を変更するには、1つまたは複数の画層を選択してから、選択した画層の中から1つの画層の現在の色をクリックします。**色を選択**ダイアログボックスが表示されます。そこで選択した色は、選択したすべての画層に適用されます。

33.8 構造プロファイルの活用

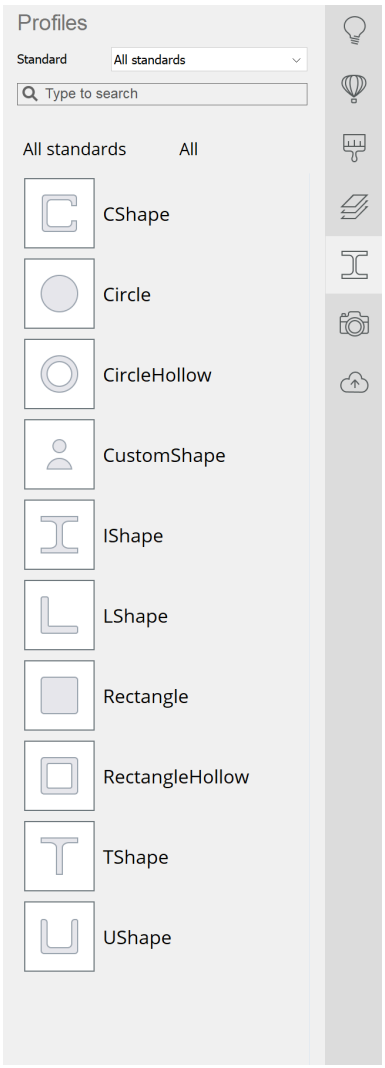
BricsCAD Shape では、簡単な構造建造物が作成できるように一般的な構造設計用の断面プロファイル要素を提供しています。アメリカ、イギリス、ヨーロッパなどの規格に対応しています。

構造プロファイルは、線形ソリッドとして作成されます。

33.8.1 構造プロファイル作成

1 画面の右端にある縦型ツールバーの**プロファイル**アイコンをクリックします。

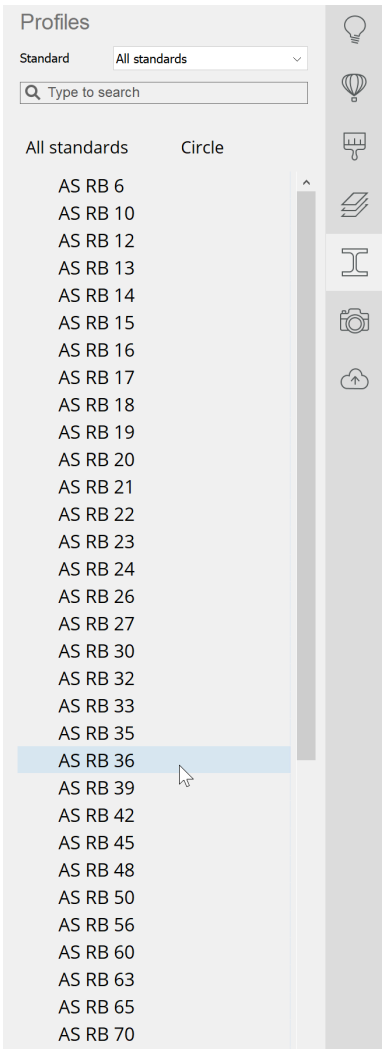
BIMプロファイルパネルが表示されます。



2 任意で規格を選択します。

3 プロファイル形状を選択します。

4 選択した形状のすべてのプロファイルが一覧表示されます。



5 リスト内のプロファイルをクリックして、モデルにカーソルを合わせます。

6 選択したプロファイルの外形がカーソルに付いています。

7 点を指定します。

8 線形ソリッドがカーソルの動きに合わせて表示されます。

長さと角度のダイナミック入力フィールドには、現在のプロファイルの長さと角度が表示されます。

現在のカーソル方向が座標系の X, Y, Z 方向に近い場合、色付きのトラッキングラインが表示されます。**Shift**キーを押すと、トラッキングラインがロックされます。もう一度押すとロックが解除されます。

9 プロファイルを作成するには、以下のいずれかを実行します：

- 点を指定します。
- 長さフィールドに値を入力し、**Enter**キーを押すか、**TAB**キーを押して角度フィールドをアクティブにします。

次のプロファイルがカーソルに付いて表示されます。

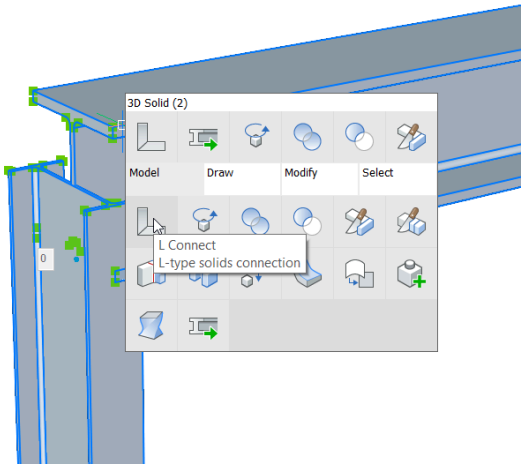
10 前述の手順を繰り返して、さらにプロファイルを作成するか、右クリックで終了します。

33.8.2 接続プロファイル

L形接続ツールは、選択された2つのプロファイル間に様々なL形の接続部分を作成します。

1 接続部を構成する2つのプロファイル(線形ソリッド)を選択します。

2 クワッドのモデルタブにあるL形接続ツールをクリックします。



- 二等分されたL接続ができます。
- **ホットキーアシスタント**(HKA)が画面下部に表示されます。

3 **Ctrl**キーを押して、結合部の種類を変更します。

現在の結合部の種類が**HKA**でハイライトされます。

4 右クリックで、接続タイプを受け入れます。

33.8.3 別のプロファイルの割り当て

1 **BIMプロファイル**パネルで、別のプロファイルにカーソルを合わせます。ここでクリックしないでください。

2 マウスの左ボタンを使って、任意で選択したプロファイルを線形ソリッドにドラッグします。

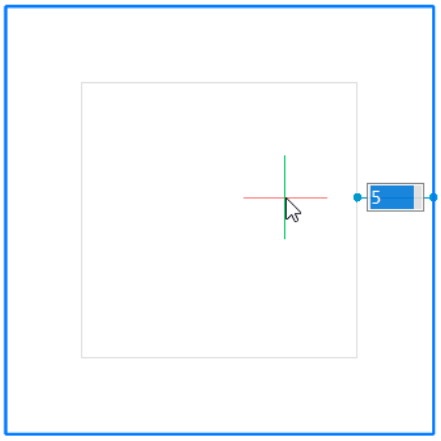
選択したプロファイルが線形ソリッドに割り当てられます。

33.8.4 カスタムプロファイルの割り当て

1 **クワッド**の**作図**タブにあるツールを使用して、カスタムプロファイル形状を作図します：

- 閉じたポリライン。
- **長方形**ツールを使用した正方形または長方形。
- 円。
- 楕円形。

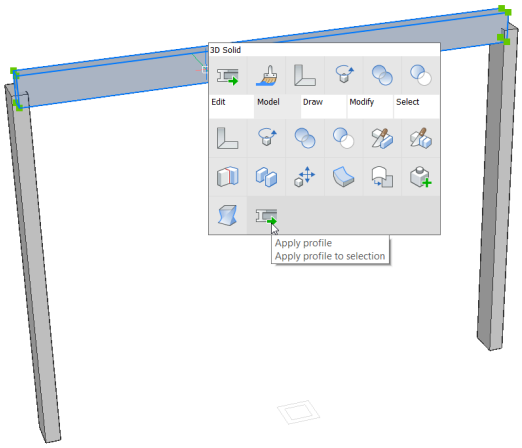
2 また、**オフセット**ツールを使い中空プロファイルを作成することも可能です。外形線を選択して、オフセットを指定します。



3 **Ctrl**キーを押したまま、1つまたは複数の線形ソリッドを選択します。線形ソリッドがハイライトされます。

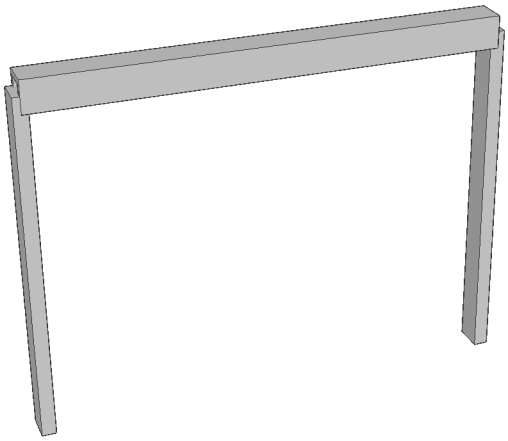
4 **クワッド**の**モデル**タブで**プロファイル適用**ツールをクリックします。

プロンプト表示：プロファイルの選択[選択オプション(?)]



5 以下を実行します：

- カスタムプロファイルを選択します。
- 中空プロファイルを適用する際、プロファイルの外形線とオフセットで作成した線を選択するには、窓掛け選択でプロファイルを選択します。
- 結果のプレビューが表示されます。
- プロンプト表示：プロファイルを適用しますか。[Ok/四半回転 (Q)/回転 (R)/クリップを削除 (D)] <Ok>:



6 以下のいずれかの操作を行います：

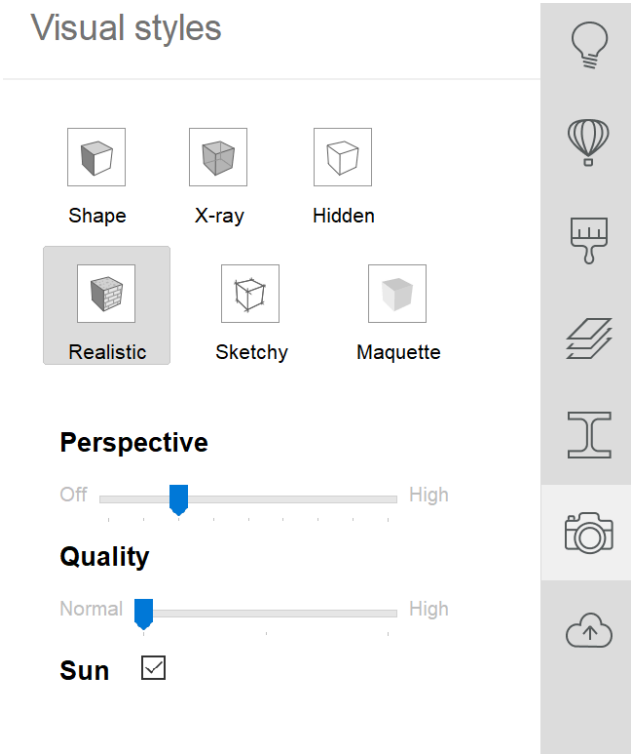
- 右クリックでプロファイルを適用します。
- プロンプトオプションを選択します。
- Escを押して終了します。

33.9 BricsCAD Shapeの表示設定

33.9.1 表示スタイルパネル

表示スタイルは、モデルの外見の表示方法を設定します。

表示スタイルパネルは、画面の右端にあるカメラアイコンをクリックします。



別のスタイルを選択すると、モデル全体の外見が変わります。

利用可能な表示スタイルは以下の通りです：

- 形状
- X線
- 隠線非表示
- リアリスティック
- スケッチ
- 模型

パース

パーススライダーを動かすと、パース表示度合(遠近感)を変更できます。

注：パーススライダーを左端まで動かすと、パースがオフになります。

解像度

モデルの表示レンダリング品質をコントロールするには、**解像度**のスライダーを動かします。

太陽

日照による影を表示させるには、**日照**のチェックボックスで切り替えます。

33.9.2 図形の非表示/選択表示/全表示

非表示

特定のモデルによって全体が見にくい場合、そのモデル要素を非表示にできます。

１つ以上の要素を非表示にするには：

- 非表示にしたい図形を選択します。
- **クワッド**またはツールバーから**図形非表示**のアイコン( )をクリックします。

選択表示

図形の非表示と逆の動作で、図形を選択表示させることで、選択した図形以外をすべて非表示します。

図形を選択表示するには：

- 選択表示したい図形を選択します。
- **クワッド**またはツールバーから**図形選択表示**のアイコン( )をクリックします。

全表示

図形非表示と図形選択表示は、特定の図形を一時的に非表示にして作業の際にモデルを簡略化するために使用できる機能です。

モデル内のすべての図形要素を表示するには：

- 何も選択していない状態のクワッドまたはツールバーから**図形全表示**アイコン( )を選択します。

33.9.3 断面

[断面]を使い、モデルを任意の場所で切断して見ることができます。

断面を作成するには：

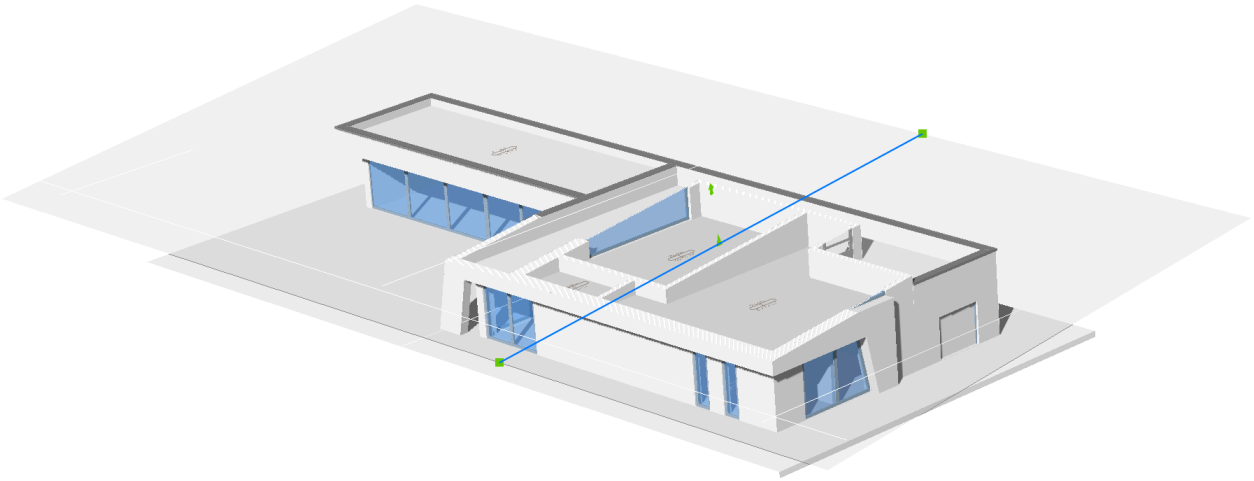
- ツールバーで**断面を定義**ツール を選択します。
- モデル内の任意のソリッド面を選択して、選択したソリッド面に平行な断面を作成します。

注：ソリッド面を選択しない場合、水平方向の断面が作成されます。

断面のオンとオフを切り替えるには、ハンドルをダブルクリックします。

断面要素には3つのグリップ編集ポイントがあります。断面を選択すると、グリップがオンになり、編集を行えます：

- 始点グリップと終点グリップを動かすことで、断面の向きと幅を変更できます。
- 中点グリップを動かすと、切断面の位置を変更できます。
- 中点グリップの近くに表示されている矢印を左クリックすると、断面の切り取り方向が反転します。



33.10 BricsCAD Shapeのソリッド

33.10.1 直方体の作図

1 コマンドラインからBOXコマンドを起動するか、クワッドまたはツールバーで**直方体**アイコン をクリックして、直方体の作成を開始します。

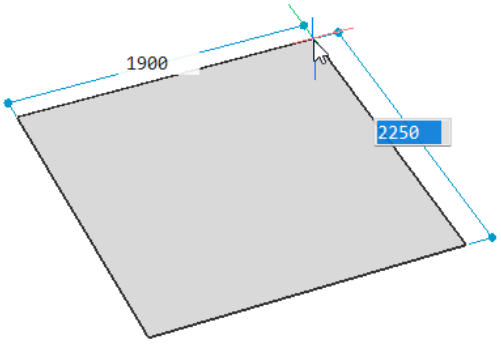
2 直方体の作図の基点を指示します。

3 直方体の底面上で基点の反対側の角を指示して、長さと幅を確定します。

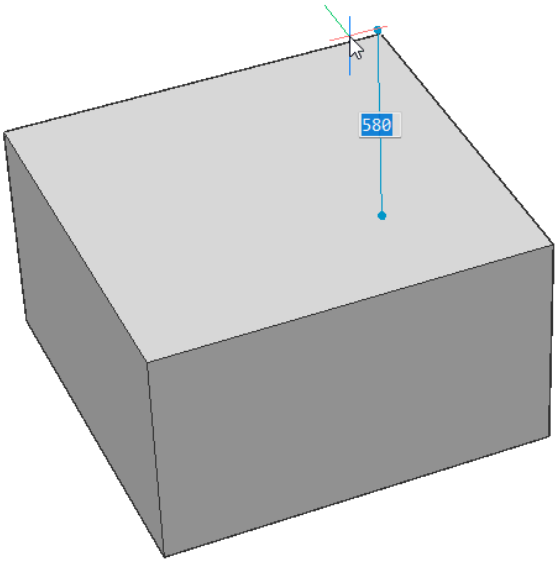
4 指示は反対側の角にカーソルを合わせてクリックするか、ダイナミック入力フィールドに値を直接入力することで行えます。

直方体はX軸とY軸に平行に作成されます。

注：青色にハイライトされたのダイナミック入力フィールドがアクティブになっています。



5　直方体の高さを指定します。



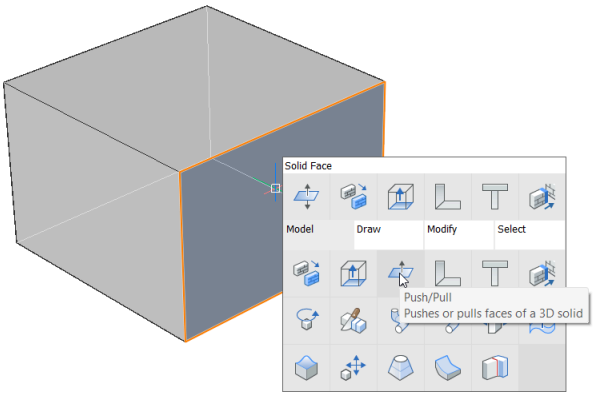
33.10.2　ソリッドの面の操作

ソリッドの面を操作するには：

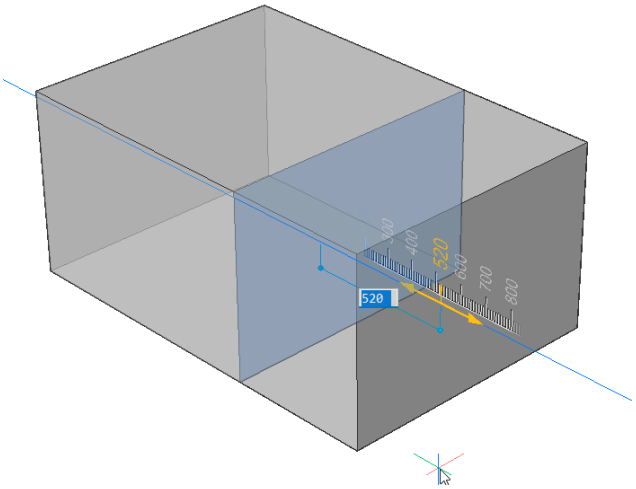
1　カーソルを面に合わせてハイライトします。

2　表示されるアイコンにカーソルを合わせると、**クワッド**が表示されます。

3　**モデル**タブでは、DMPUSHPULLコマンドを使用できます。



4　面を動かす距離の値を指定するか、カーソルを動かして面の移動位置を決めます。



注：複数の面を選択してコマンドを起動すると、選択したすべての面が同じ距離でプッシュ/プルされます。

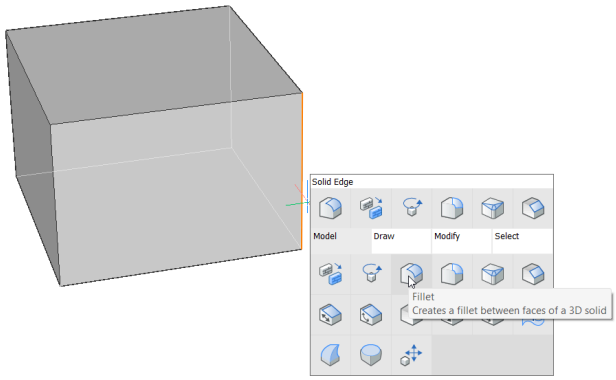
33.10.3　ソリッドのエッジの操作

ソリッドのエッジを操作するには：

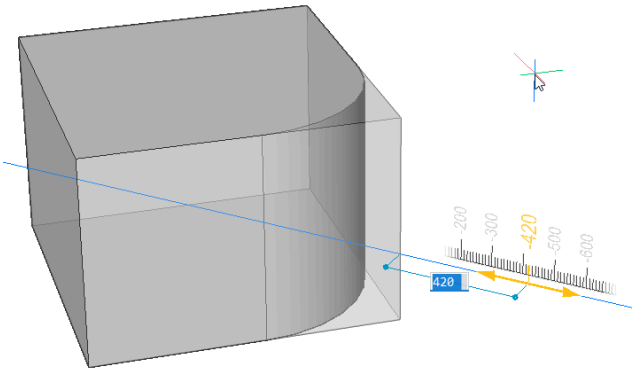
1　**CTRL**を押したまま、カーソルをエッジの上に合わせてハイライト表示します。

2　表示されるアイコンにカーソルを合わせると、**クワッド**が表示されます。

3　**モデル**タブでは、FILLETコマンドを使用できます。

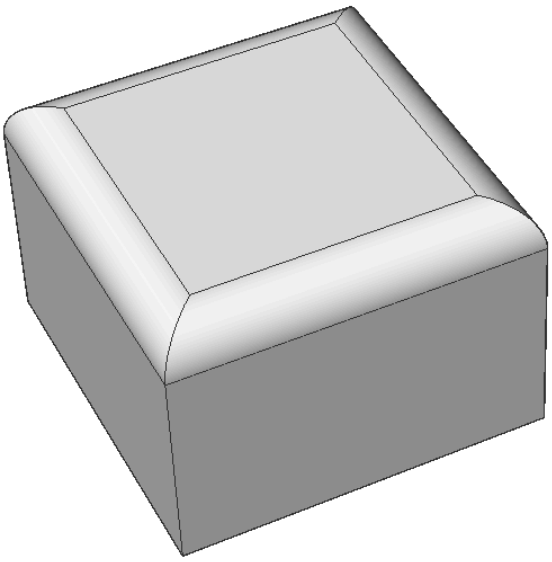


4　面を動かす距離の値を指定するか、カーソルを動かして面の移動位置を決めます。



注：複数のエッジを選択してコマンドを起動すると、選択したすべてのエッジが同じ半径でフィレットされます。

注：窓選択を使ってエッジを選択する場合は、必ず**CTRL**を2回押して、画面下部のエッジ選択アイコンが選択された状態にしてください。



33.10.4　ソリッドの押し出し

境界を押し出して、ソリッドやサーフェスを作成することができます。例えば、建物の外壁の境界から床スラブを押し出すことができます。

押し出しコマンドは、クワッドまたはツールバーからアクセスできます。

注：押し出しコマンドは、ジオメトリ(図形の形状)を差し引くこともできます。

33.11　BricsCAD Shapeで壁の作成

シンプルな壁を作成する方法は2つあります。

- POLYSOLIDコマンドを使用する。
- BIMQUICKDRAWコマンドを使用する。

注：BIMQUICKDRAWコマンドの詳細は、**BricsCAD Shapeのクイックドロー**の説明ページをご参考ください。

33.11.1　ポリソリッドツールについて

POLYSOLIDコマンドは、始点、終点を選択し、高さを入力することで、壁のソリッドを作成できます。

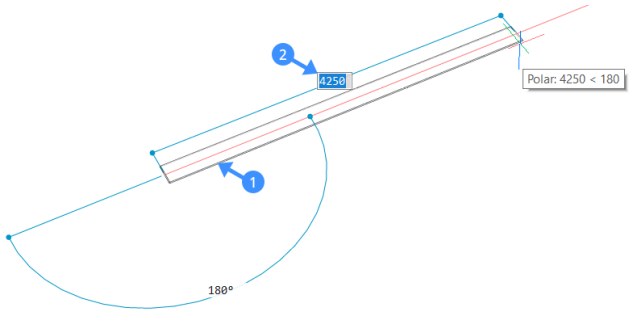
33.11.2　手順：シンプルな壁を作成

1　POLYSOLIDコマンドを起動します。
   - ツールバーの**ポリソリッド**アイコン

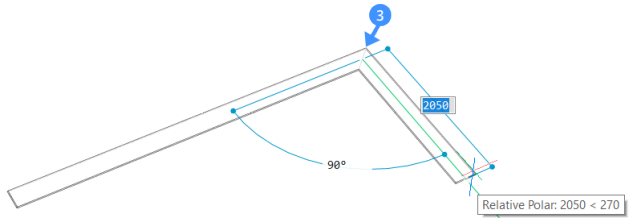
     をクリックします。
   - コマンドラインにPOLYSOLIDと入力します。

2　始点を選択すると、壁のフットプリント(1)が自動的に表示されます。

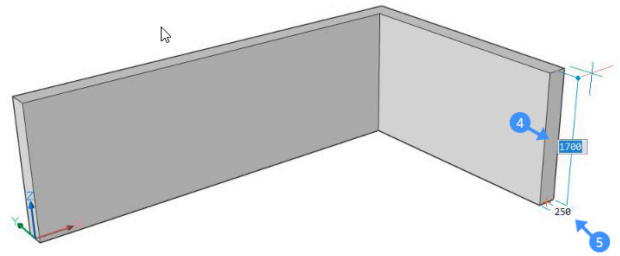
3　任意の方向にカーソルを動かすと、現在の長さの値がダイナミック入力フィールド(2)に表示されます。



4 終点を選択するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力して**Enter**を押します。隣接する壁のフットプリント(3) が表示されます。次の終点を選択するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力して、隣接する壁を作成します。



5 **Enter**をもう一度押すか、右クリックします。壁の高さがダイナミック入力フィールド(4)に表示されます。ここで壁の高さを入力します。壁の厚みを変更するには、**Tab**を押して、厚みのダイナミック入力フィールド(5)に切り替えます。



6 画面下部にポリソリッドの基準切り替えのホットキーアシスタントが表示されている時に、**Ctrl**を押して壁の基準を変更できます。

注：直前に使用した壁の厚みと高さが、次のポリソリッドの新しいデフォルト値になります。

33.11.3 手順：既存の2D図面を使用して壁を作成

1 POLYSOLIDコマンドを起動します。

2 コマンドラインで E と入力するか、プロンプトメニューで**図形**を選択します。

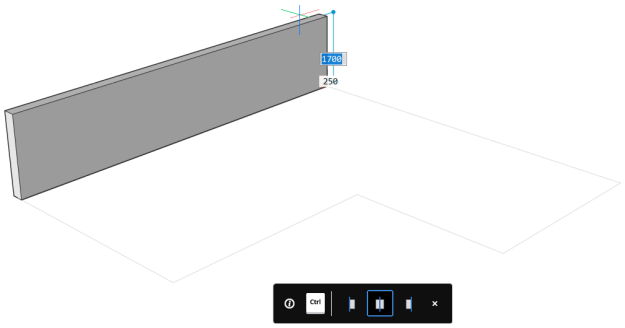
3 ポリソリッドのベースとなる線形の2D図形を選択します。選択対象の図形は、線分、ポリライン、円弧、円、楕円、楕円弧、スプラインです。

4 ソリッドを上下に移動させ、左クリックして壁の高さを設定するか、ダイナミック入力フィールドに値を入力、または右ク

リックしてデフォルト値を受け入れます。

5 壁の厚みはダイナミック入力フィールドの**厚みフィールド**に表示されます。**Tab**を押すと、高さと厚みのフィールドが切り替わります。

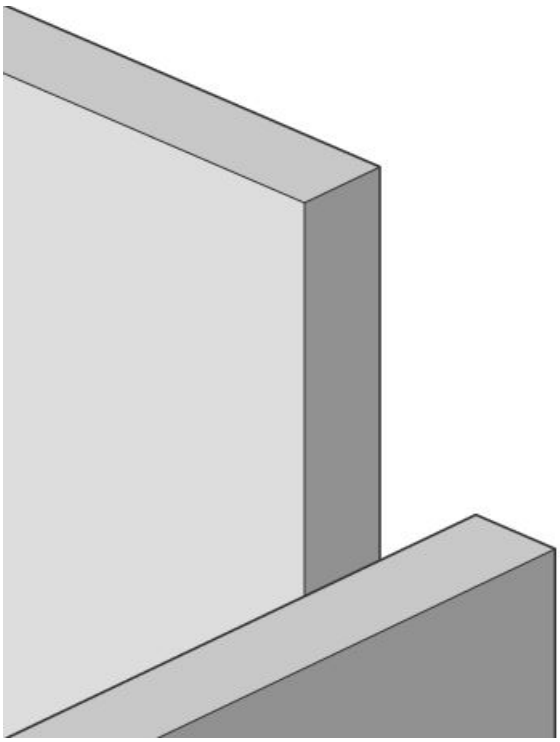
6 画面下部の**ホットキーアシスタント**には、壁の基準切り替えオプションが表示されます。**Ctrl**を押すと、オプションが循環します。

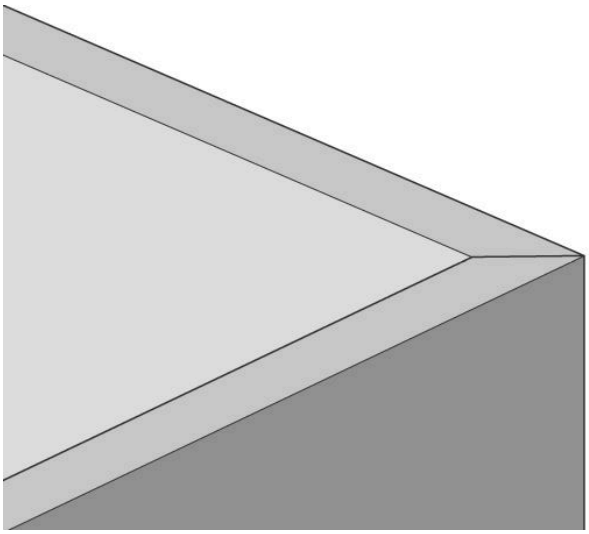


33.11.4 手順：2つの壁のL接続を作成

1 コマンドラインにLCONNECTと入力し、Enterを押して、**L接続**ツールを起動します。

接続させる2つの壁要素を選択します。





注 : 2つの壁が交差する場合、デフォルトで留め継ぎ接続が作成されます。

2 L接続ホットキーアシスタントを使って、壁の結合部の変更します。

3 選択した結合部の種類は、青色枠で囲われています。

結合部の種類は左から順に、留め継ぎ、L並列タイプ1、L並列タイプ2、切断のいずれかになります。

Enterを押して現在の接続タイプを受け入れるか、**Ctrl**を押して可能な接続オプションを切り替えます。

33.11.5 手順：2つの要素のT接続を作成

1 TCONNECTコマンドを起動します。

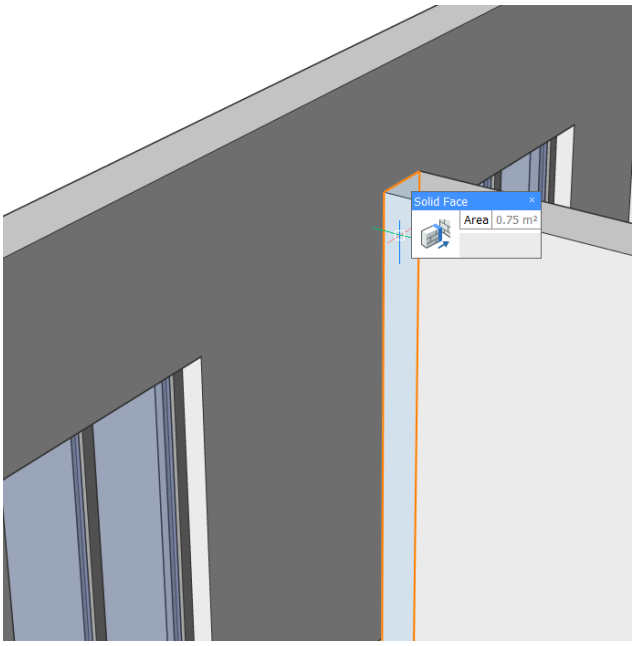
1 このツールを使用すると、壁のマイナー面を別の要素または壁のメジャー面に接続できます。このツールを使用して、壁の上面を屋根に、下面をスラブに、またはスラブの側面を壁に接続することができます。

2 接続する図形の面を選択して、**Enter**を押します。

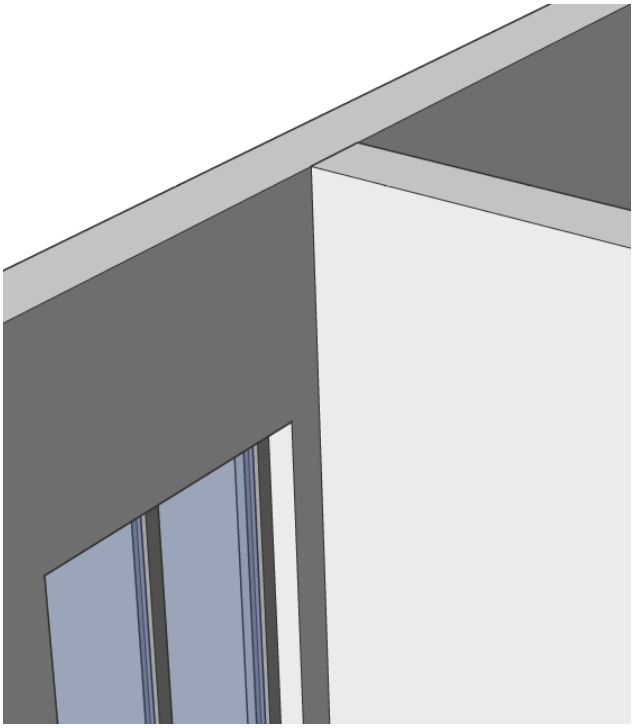
3 プロンプトメニューで**近接点に接続**を選択します。

クワッドメニューを使用して、2つの壁や他の要素の間にT接続を作成することもできます。

- 作図領域で接続させたい壁の面をハイライトします。
- **クワッド**から**接合**ツールを使用します。



至近に接続ツールは、最初の壁面をもう一方の壁面に押し出して、2 つの壁の間に T 字型接続を自動的に作成します。



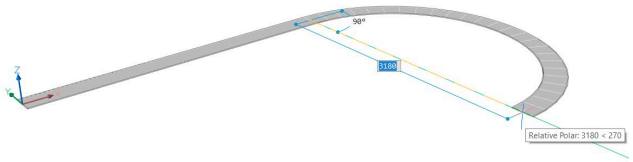
33.11.6　手順：カーブした壁の作成

1　POLYSOLIDコマンドを起動します。

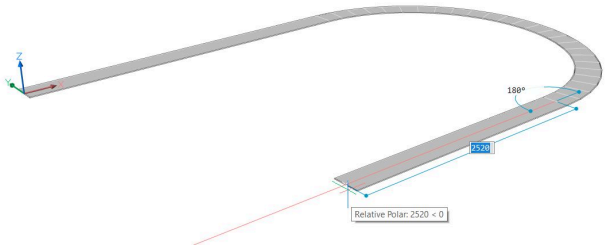
2　始点を選択し、カーソルを移動して長さを設定するか、クリックして終点を設定します。

3　カーブした壁を作成するには、コマンドラインに Aと入力し、Enterを押して**円弧**オプションを起動するか、プロンプトメニューから**円弧**オプションを選択します。

4 カーソルを任意の方向に動かすと、カーブした壁のフットプリントが表示されます。ダイナミック入力フィールドに値を入力して、円弧の角度と長さを指定します。**Enter**を押します。

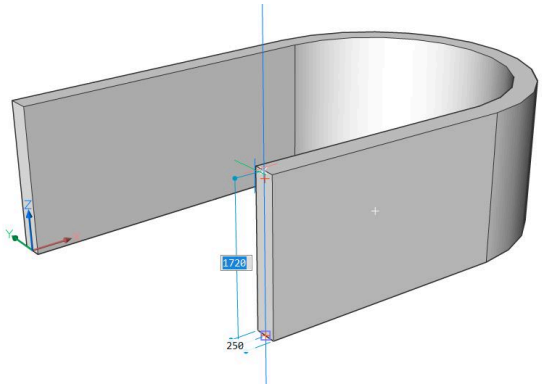


5 任意の場所をクリックするか、ダイナミック入力フィールドに値を入力することで、隣接するカーブした壁要素が連続して作成されます。直線的な壁の作成に戻すには、Lと入力してEnterを押すか、オプションダイアログで**線分**を選択します。



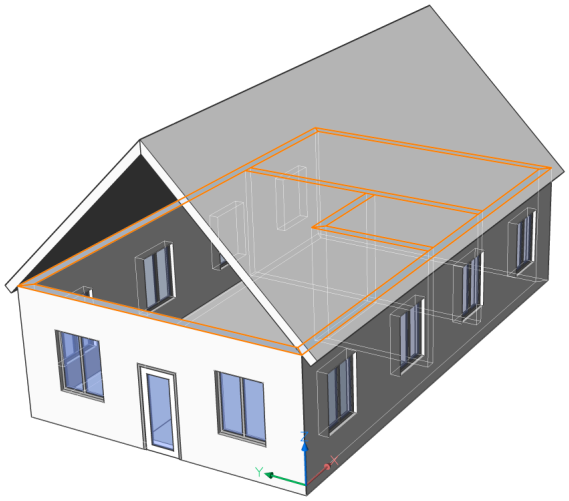
6 もう一度Enterを押すか、右クリックします。壁の高さがダイナミック入力フィールド表示されます。値を入力して、壁のデフォルトの高さを変更します。壁の厚みを変更するには、厚みのダイナミック入力フィールドを使用します。Tabを押すと、2つのダイナミック入力フィールドを切り替えることができます。

7

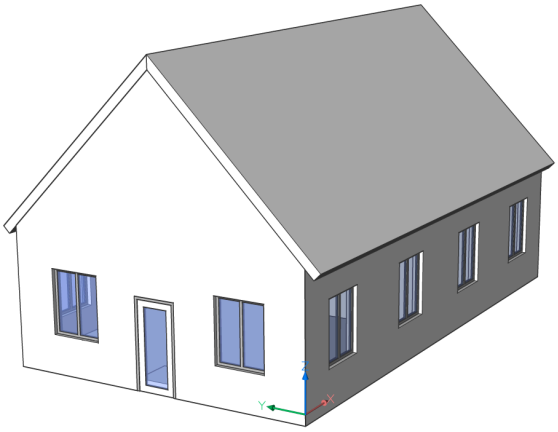


33.11.7 手順：壁の複数の面を屋根スラブに接続

1 現在の選択に合わせてすべての面を選択するには、壁の1つの上面をハイライトし、クワッドの**選択**タブにある**平面を選択**ツールをクリックします。



2 **近接点に接続**ツールを起動します。壁の上面は屋根まで延長して接続されます。



33.12 BricsCAD Shapeのクイックドロー

33.12.1 クイックドローツールについて

クイックドローツールを使用すると、企画段階のモデリングが簡単に開始できます。**クイックドロー**ツールを使用して、部屋または建物全体を作成できます。一度使用すると、明示的にコマンドを終了するか、他のコマンドが実行されるまで**クイックドロー**は有効になります。

33.12.2 部屋と壁の設定

このコマンドを実行すると、**クイックドロー**コマンドのコンテキストパネルが開きます。必要な値を直接入力するか、フィールドの矢印を使用して、部屋の寸法を設定できます。また、壁の配置構成とスナップオプションを設定したり、**サイズを自動採用**オプションをオンにすることで、近くの部屋の寸法を採用したりすることもできます。

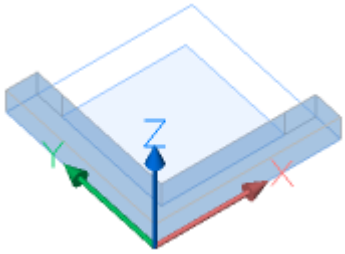
壁の位置合わせを変更するには、**Ctrl**を押しながら、**ホットキーアシスタント**ウィジェットの**クイックドロー**位置合わせを押します。

33.12.3　自動吸着するスナップ機能

自動吸着するスナップ機能を使えば、**クイックドロー**のカーソルの位置を簡単に合わせることができます。コマンドが起動中に、カーソルをスナップさせたい図形に近づけます。**クイックドロー**のカーソルが、自動的に図形にスナップします。次のオプションがあります。

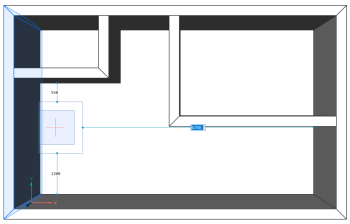
1　原点にスナップさせる

1

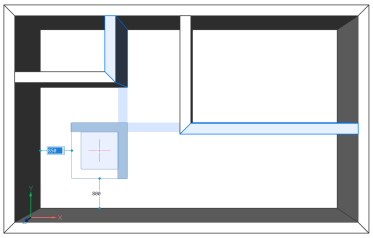


2　既存の壁にスナップさせる

3　　- 壁にスナップ：

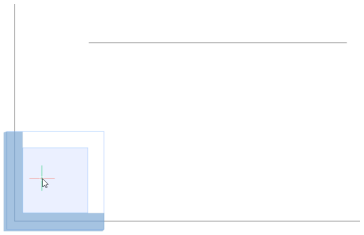
- 

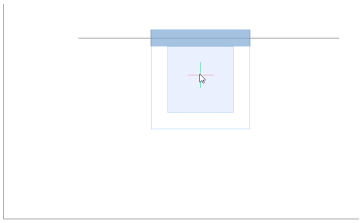
- 壁の延長線上でスナップ：

- 

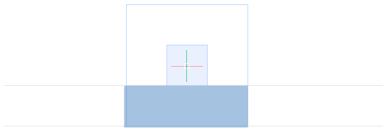
4　両端揃え

5　　- X列/Y列整列ラインとラインセグメント

- 



- 平行線
-



33.12.4 L字形の建物モデルを作成する方法

1 カーソルが**何も選択していない**状態で右クリックして**クワッド**を起動し、**モデル**タブから**クイックドロー**を選択するか、リボンの**クイックドロー**アイコンをクリックするか、コマンドラインにBIMQUICKDRAWと入力して起動します。

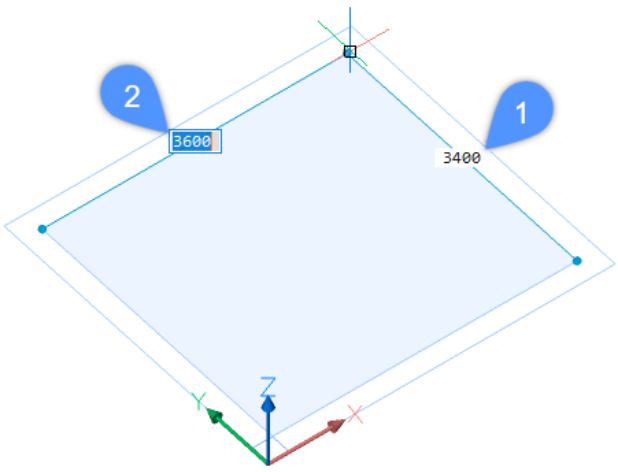
プロンプト表示：**最初の点を選択:**

注：BIMクイックドローコマンドパネルを使用して、フロア間距離、壁幅、スラブ厚さを変更した後、建物の最初のコーナーを指定します。

2 作図領域内の任意の点を選択して、最初のコーナーを設定します。

3 カーソルをドラッグして建物のフットプリントを定義します。

4

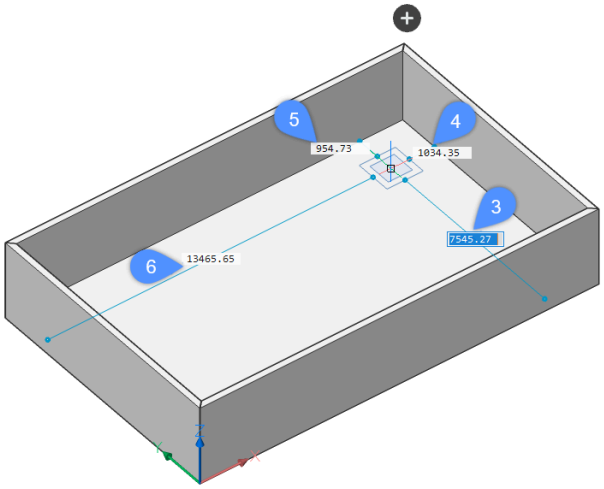


ダイナミック入力フィールドで、部屋の横幅と縦幅の値を指定します。**Tab**を押して横幅と縦幅を切り替え、**Enter**を押すか、任意の点をクリックします。**Enter**または**Esc**を押してクイックドローを終了するか、続けてさらに部屋を作成することができます。

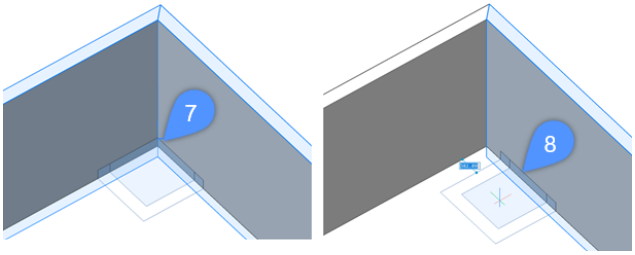
5 **クイックドロー**のカーソルを既存の建物の中に入れて、部屋を増やします。

既存の建物の中に**クイックドロー**カーソルを置くと、ダイナミック入力フィールドには**クイックドロー**のカーソルから隣の壁までの距離が表示されます。(3、4、5、6)

注：自動適用サイズオプションをオンにすると、新しい部屋の壁とスラブの寸法は、スナップする壁やスラブと同じになります。この動作をしないようにするには、コマンドパネルでこのオプションのチェックを外してください。



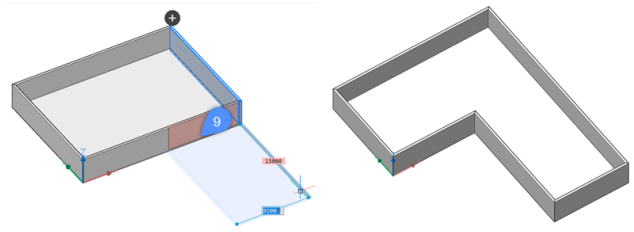
カーソルが既存の壁にスナップされている場合、カーソルの見た目が調整されて表示されます。



実際に新しい壁を描いて部屋を増やすには、既存の壁からの距離を指定して視点の指示をします。カーソルを移動し、ダイナミック入力フィールドに値を入力して、指示します。手順2、3と同じ方法で壁を描きます。

6 既存の部屋から壁の一部を削除するには、まず**クイックドロー**のカーソルを建物の内側にある既存の壁に合わせます。次に、既存の建物の外側でカーソルをクリックしてドラッグします。

削除される外壁部分が赤色(9)に変わります。



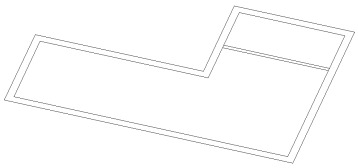
注：建物の外側から既存の壁にカーソルを合わせてクリックして、建物の内側にカーソルを移動することで、床スラブを削除しながらレイアウト変更することができます。

7 2番目の点を選択します。赤色にハイライトされた壁が削除され、L字型の部屋が作成されます。

33.12.5　2Dレイアウト図を使ったクイックドローの使い方

1　シンプルな長方形やL字型の建物の平面図を開きます。

1

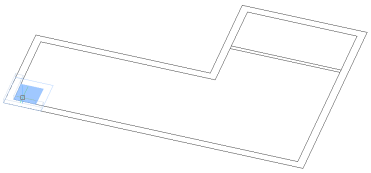


注：また、ポリラインコマンドを使った単線の2D平面図を描いてから始めることも可能です。この場合、クイックドローコマンドのデフォルトの壁厚が使用されます。

2　カーソルが**選択無し**の状態で右クリックして**クワッド**を起動し、**モデル**タブから**クイックドロー**を選択するか、リボンの**クイックドロー**アイコンをクリックするか、コマンドラインにBIMQUICKDRAWと入力して起動します。

3　任意の外壁の線分にカーソルを合わせます。

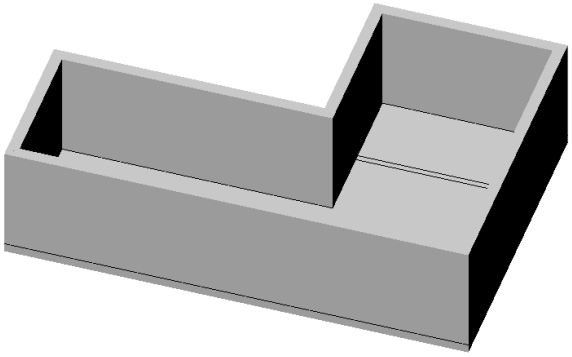
4



注：壁の厚みは、2D図面に描かれた平行な線分の距離に合わせて自動的に調整されます。

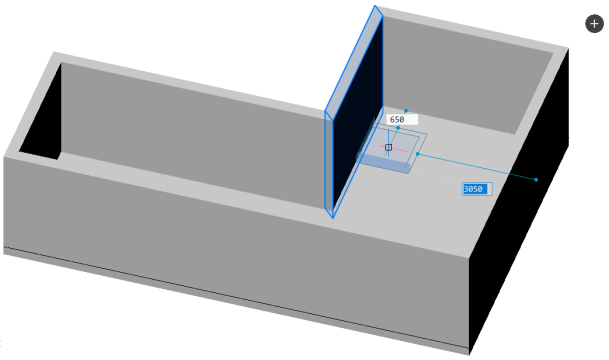
5　自動吸着するスナップ機能を使用して、2D図面の線分から外壁のモデルを作成します。

6



7　カーソルを内壁に近づけて、自動吸着するスナップ機能を使って2D図面の線分にスナップさせます。

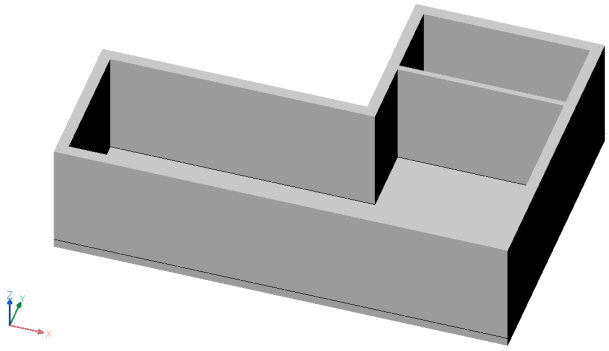
8



注 : 壁の厚みは、2D図面に描かれた平行な線分の距離に合わせて自動的に調整されます。

9 このように2D平面図から3Dモデルを作成することができます。

10



33.13 BricsCAD Shapeで窓やドアの作成

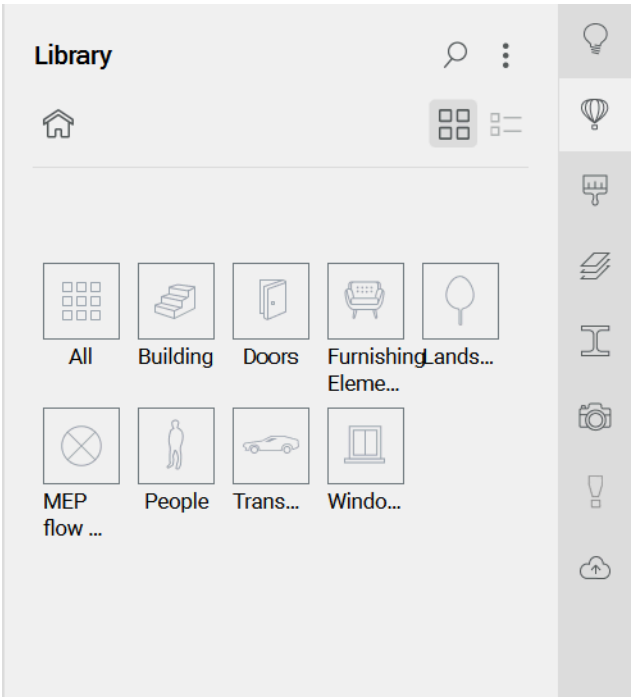
BricsCAD Shapeで窓やドアを作成する方法は 2 つあります。

- **ライブラリ**パネルからドアまたは窓を選択する方法
- カスタム窓を作成する方法

33.13.1 方法 1 ：ライブラリから窓やドアを選択

1 画面右端にある気球のアイコンをクリックして**ライブラリ**パネルを開きます。

2 **ライブラリ**パネルから**Doors**フォルダーをクリックします。



3 パネルから任意のドアを選択します。

4 カーソルをモデル空間内に移動します。

5 クリックしてコンポーネントを配置する。

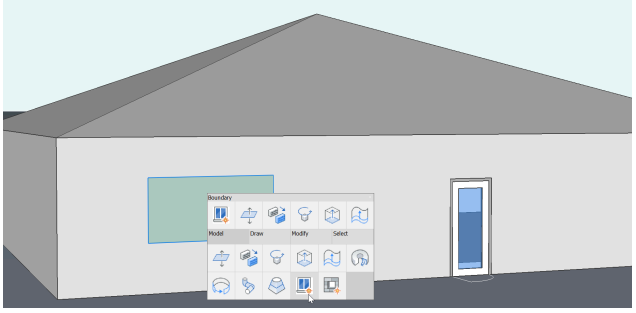
6 ドアの配置位置指定とサイズ指定を切り替えるには、**Ctrl**を押します。ドアの高さと幅の値を入力します（入力フィールドの切替は**Tab**を押す）。ドアのサイズと配置位置を指定が完了したら、**Enter**を押します。

注：窓の場合も、同様の手順で行います。DoorsフォルダーからWindowsフォルダーに変更。窓を配置したい壁までドラッグ。ドアで行った手順と同じように、窓のサイズと配置位置を指定することができます。

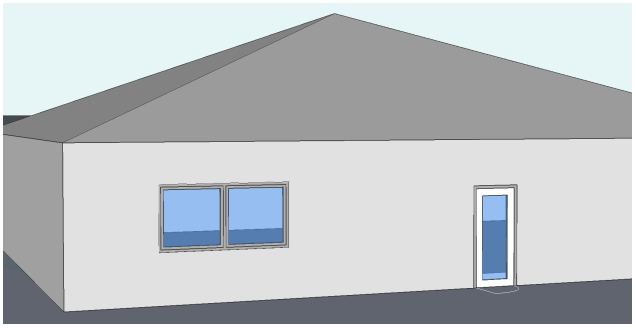
33.13.2 方法 2 ：簡易なカスタム窓を作成

1 **ポリライン**作図ツール、**ポリゴン**作図ツール、**長方形**作図ツールなどを使用して、壁面に窓の輪郭線を作図します。

2 窓の輪郭の内側にカーソルを置き、境界線がハイライト表示されたら、クワッドから**窓を作成**を選択します。



3 使用可能な窓のスタイルがダイアログボックスに表示されます。使用する窓のスタイルにカーソルを合わせて、左クリックします。窓が自動的に作成されます。



また、壁の輪郭を利用してカスタム窓を作成することも可能です。

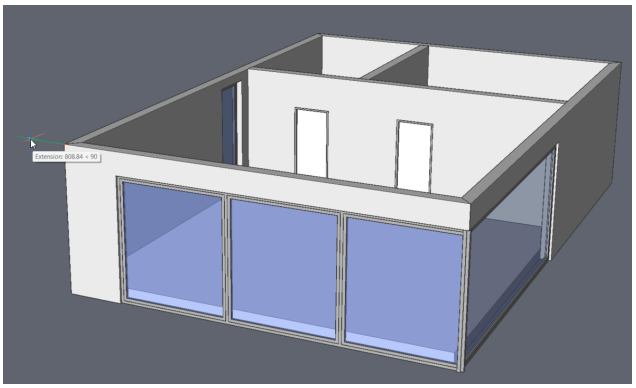
1 外壁の面を選択し、クワッドから**オフセット**ツールを使用します。

2 カーソルを移動してオフセット距離を調整するか、値を入力してEnterを押します。そして、オフセットで作成された線の内側の境界をハイライト表示し、クワッドから**窓を作成**を選択します。

33.14 BricsCAD Shapeで屋根の作成

ツールバーまたは「選択無し」のクワッドからPOLYSOLIDコマンドを起動します。

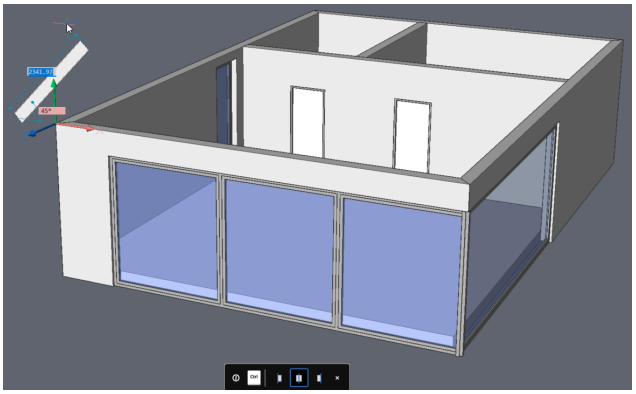
1 作図する面を外壁の面に合わせるために、外壁の面にカーソルを合わせた状態で**Shift**を押します。配置位置の調整は、始点を指示した後で**Ctrl**で変更できます。



2 作図の始点をクリックします。

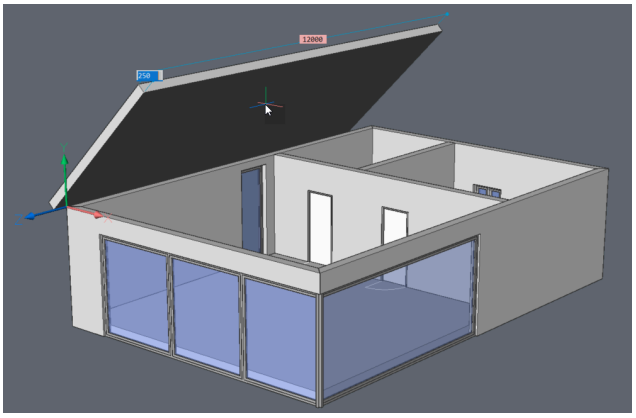
3 傾斜角度を固定するには、角度寸法フィールドが青くハイライトされるまでTabを押します。値を入力してEnterを押します。

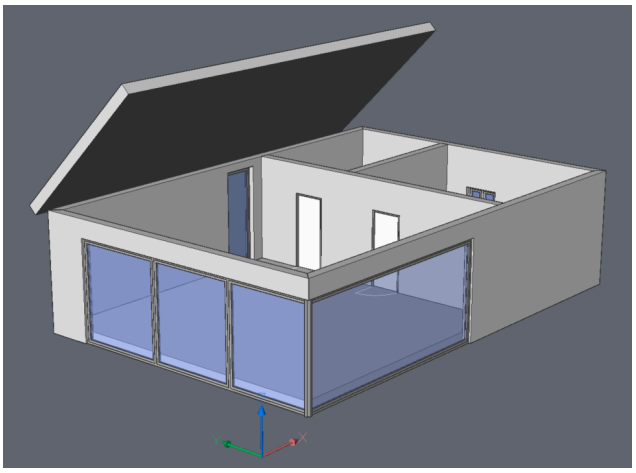
4



5 壁厚を変更するには、壁厚の寸法フィールドが青くハイライトされるまでTabを押して、任意の値を入力します。

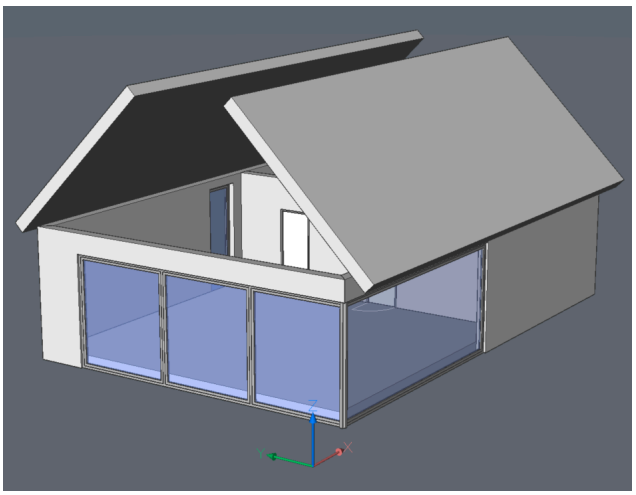
6



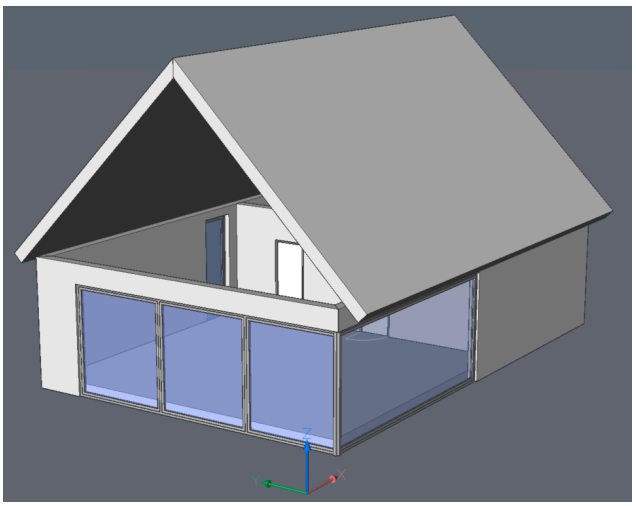


7 同じ作業を建物の反対側でも繰り返します。また、始めに作成したソリッドを3Dミラーすることで、建物の両側にアシンメトリに屋根を作成する方法もあります。

8

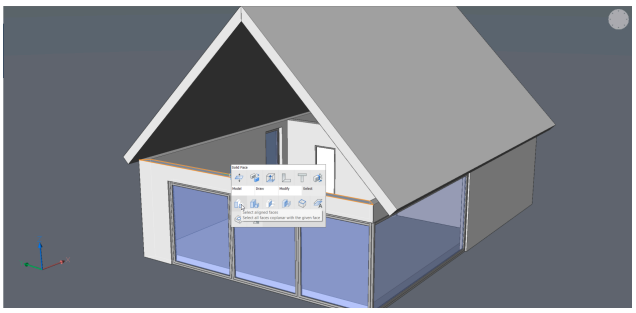


9 **L接続**ツールにアクセスして、両方のソリッドを接続します。

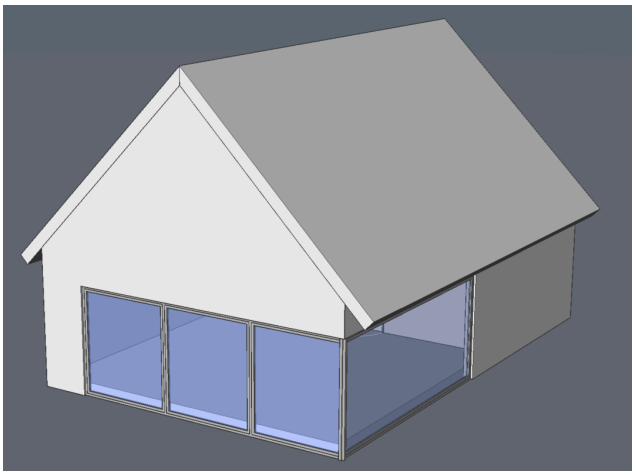


10 壁と屋根を繋ぎ合わせるには、壁の上面を1つ選択します。クワッドの**選択**タブから**平面を選択**オプションをクリックしま

す。



11 壁の上面が選択されたら、クワッドの**モデル**タブから**接合**コマンドにアクセスします。壁が屋根まで延長されます。



34. ダイアログボックス

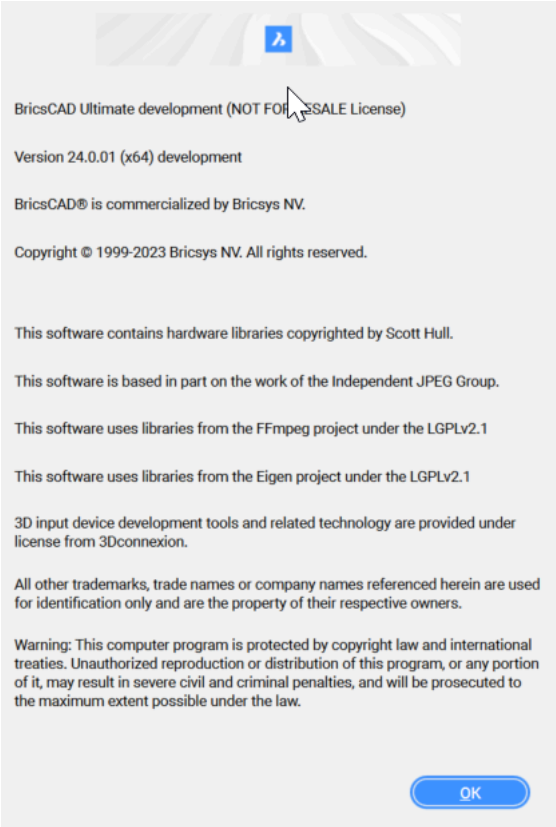
34.1 A

34.1.1 BricsCADについて

ABOUTコマンドを実行すると開きます。

BricsCADについてダイアログボックスには、BricsCADのバージョン、著作権および製品情報が表示されます。

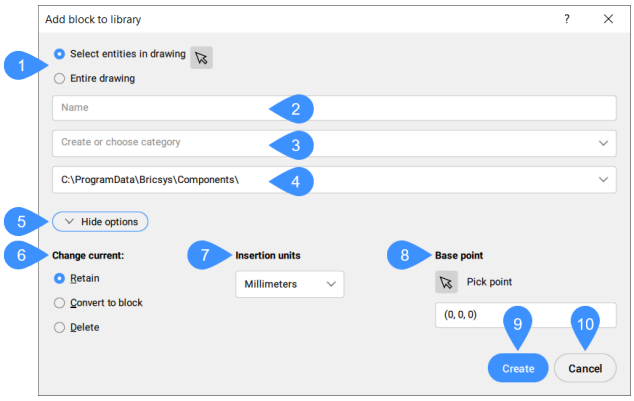
製品情報には、ライセンスタイプ、バージョン、リビジョン番号が含まれます。



34.1.2 ブロックをライブラリに追加

CREATELIBRARYBLOCKコマンドを実行すると開きます。

ブロックをライブラリに追加ダイアログボックスでは、ブロック定義を作成し、ライブラリに追加します。



1 選択セット

2 名前

3 カテゴリ

4 位置

5 オプション

6 カレントを変更

7 入力単位

8 基点

9 作成

10 キャンセル

34.1.2.1 選択セット

ブロック定義に含める図形を指定します。図面内の図形を選択することも、図面全体を使用することもできます。

34.1.2.2 名前

ブロック名を指定します。

34.1.2.3 カテゴリ

ブロックのカテゴリーを指定します。既存のカテゴリーのリストから選ぶことも、新しいカテゴリー名を入力することもできます。

34.1.2.4 位置

ブロックdwgが保存される場所を指定します。利用可能な場所は、**ライブラリのディレクトリパス**設定(COMPONENTSPATHシステム変数)によってコントロールされます。

34.1.2.5 オプションの表示/非表示

追加オプションの表示/非表示を切り替えます。使用できるオプションは、選択セットによって異なります。

34.1.2.6 カレントを変更

ライブラリブロックが作成された後の、選択した図形の処理方法を決定します。個々の図形を保持するか、新しい定義を使ってブロックへ変換し挿入するか、削除するかを選択できます。このオプションは、「図面内の図形を選択」を選択して選択セットを定義した場合にのみ使用できます。

34.1.2.7 入力単位

ブロック挿入の単位を指定します。標準ユニットは以下のリストから選択できます：

- インチ
- フィート
- マイル
- ミリ
- センチメートル
- メートル
- キロメートル
- マイクロインチ
- ミル
- ヤード
- オングストローム
- ミクロン
- デシメートル
- デカメートル
- ヘクトメートル
- ギガメートル
- 天文学単位
- 光年
- パーセク
- 米国測量フィート
- 米国測量インチ
- 米国測量ヤード
- 米国測量マイル
- 基点

ブロック定義の挿入基点を指定します。図面の中で挿入基点を指定するか、もしくはX、Y、Z座標を入力します。このオプションは、「図面内の図形を選択」を選択して選択セットを定義した場合にのみ使用できます。

34.1.2.8 作成

指定した場所にブロック定義のDWGファイルを作成し、指定したカテゴリの**ライブラリ**パネルにブロックを追加し、ダイアログボックスを閉じます。

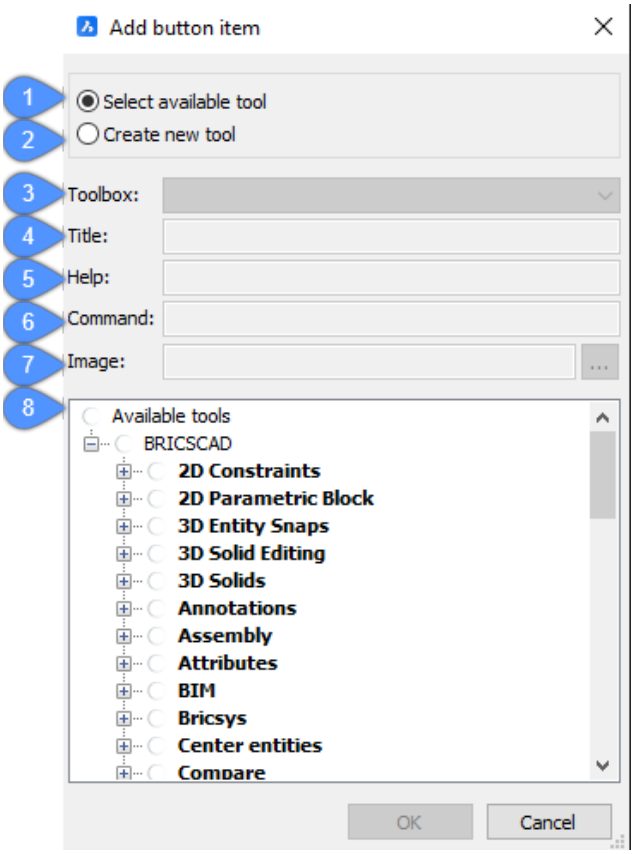
34.1.2.9 キャンセル

ブロック定義を作成せずにダイアログボックスを閉じます。

34.1.3 ボタン項目を追加

カスタマイズダイアログボックスを開きます。

ボタン項目を追加ダイアログボックスでは、利用可能なツールを選択するか、新しいツールを作成してボタン項目を追加することができます。



1 利用可能なツールを選択

2 新規ツールを作成

3 ツールボックス

4 タイトル

5 ヘルプ

6 コマンド

7 イメージ

8 利用可能なツール

34.1.3.1 利用可能なツールを選択

既存のコマンドを新規のボタンやボタングループに割り当てることができます。このオプションを選択すると、「利用可能なツール」以外のオプションがグレーアウトします。

34.1.3.2 新規ツールを作成

新しいボタンやボタングループに、新しいコマンド/マクロを割り当てます。このオプションを選択すると、利用可能なツールがグレーアウトします。

34.1.3.3 ツールボックス

新しいコマンドを追加するツールボックスを指定します。ドロップダウンリストでツールボックスを選ぶことができます。

34.1.3.4 タイトル

新しいツールの名前を指定します。

34.1.3.5 ヘルプ

ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。

34.1.3.6 コマンド

コマンドまたはマクロを指定します。

34.1.3.7 イメージ

新しいツールに表示する画像を指定します。参照アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。

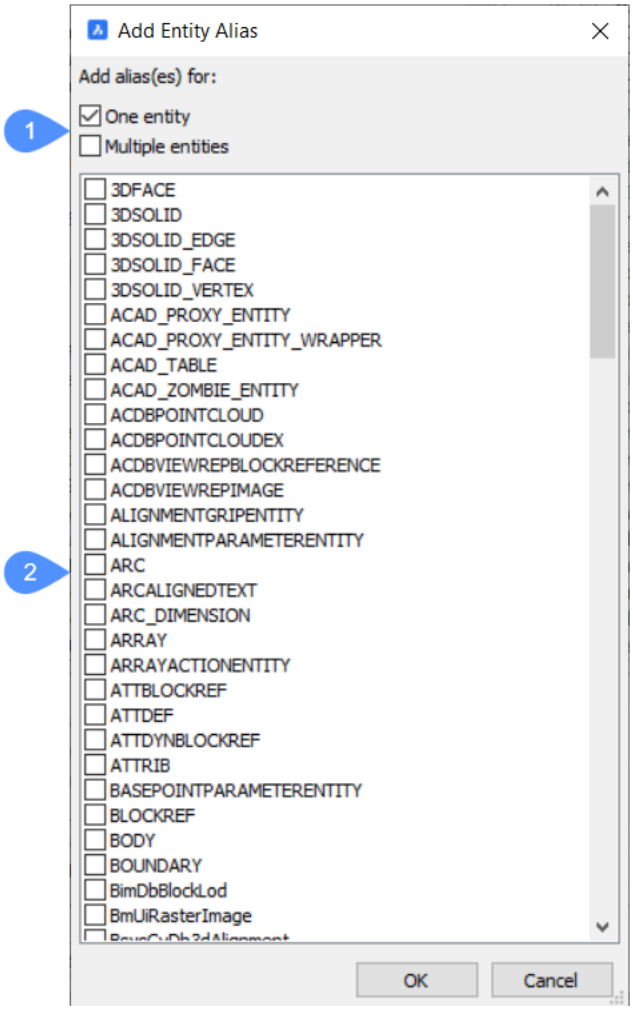
34.1.3.8 利用可能なツール

既存のツールを選択します。

34.1.4 図形エイリアスを追加

クワッドボタンフィルターを編集ダイアログボックスを開きます。

図形エイリアスを追加ダイアログボックスでは、選択した図形にエイリアスを追加できます。**クワッドのカスタマイズ**の記事を参照してください。



1　フィルターに含まれる図形の数です。

2　図形タイプのリスト

34.1.4.1　フィルターに含まれる図形の数

選択されたツールは、選択されている図形の数に応じてクワッドに表示されます。

これらのオプションの動作は次のようになります：

オプション	動作
単一図形＝はい 複数図形＝いいえ	このツールは、指定されたタイプの単一の図形を選択またはマウスを置いたときに表示されます。 指定したタイプの図形が複数選択されている場合、ツールは表示されません。
単一図形＝はい 複数図形＝はい	このツールは、選択範囲に単一の図形または指定されたタイプの複数の図形が含まれる場合に表示されます。

オプション	動作
単一図形＝いいえ 複数図形＝はい	このツールは、指定したタイプの図形が多数選択されている場合にのみ表示されます。

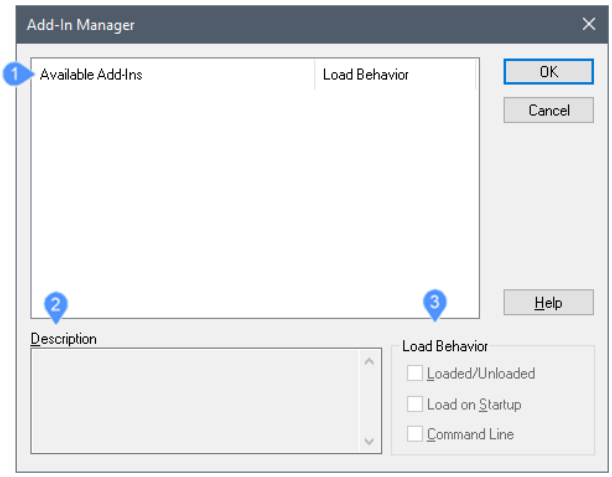
34.1.4.2 図形タイプのリスト

フィルターに追加できる図形の種類を示したリストです。

34.1.5 アドインマネージャー

ADDINMANコマンドを実行して開きます。

アドインマネージャーダイアログボックスでは、Visual Basic for ApplicationsのCOM(Common Object Model)モジュールのロード方法をコントロールします。モジュールのロード/アンロードを切り替えるか、BricsCADの起動時にモジュールを開始するかを選択できます。



1 利用可能なアドイン

2 説明

3 ロード時の動作

34.1.5.1 利用可能なアドイン

BricsCADで利用可能なVBA COMモジュールの名称と状態を一覧表示します。VBA COMはVisual Basic Applications Common Object Modelの略です。

34.1.5.2 説明

選択されたVBA COMモジュールがある場合は、その内容を表示します。

34.1.5.3 ロード時の動作

モジュールをどのようにロードするかを決定します。

ロード/アンロード
モジュールのロード/アンロードを切り替えます。

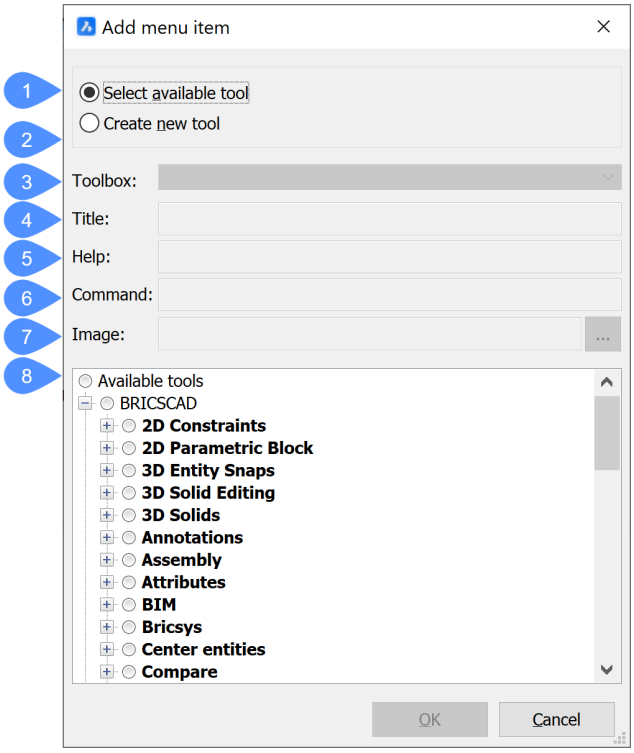
起動時にロード
BricsCADの起動時にモジュールをロードします。

コマンドライン
コマンドラインからモジュールをロードします。

34.1.6 メニュー項目を追加

カスタマイズダイアログボックスを開きます。

メニュー項目を追加ダイアログボックスでは、利用可能なツールを選択するか、新しいツールを作成してメニューアイテムを追加することができます。**カスタマイズ**ダイアログボックスから開きます。



1 利用可能なツールを選択

2 新規ツールを作成

3 ツールボックス

4 タイトル

5 ヘルプ

6 コマンド

7 イメージ

8 利用可能なツール

34.1.6.1 利用可能なツールを選択

既存のコマンドを新規のボタンやボタングループに割り当てることができます。このオプションを選択すると、「利用可能なツール」以外のオプションがグレーアウトします。

34.1.6.2 新規ツールを作成

新しいボタンやボタングループに、新しいコマンド/マクロを割り当てます。このオプションを選択すると、利用可能なツールがグレーアウトします。

34.1.6.3 ツールボックス

新しいコマンドを追加するツールボックスを指定します。ドロップダウンリストでツールボックスを選ぶことができます。

34.1.6.4 タイトル

新しいツールの名前を指定します。

34.1.6.5 ヘルプ

ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。

34.1.6.6 コマンド

コマンドまたはマクロを指定します。

34.1.6.7 イメージ

新しいツールに表示する画像を指定します。参照アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。

34.1.6.8 利用可能なツール

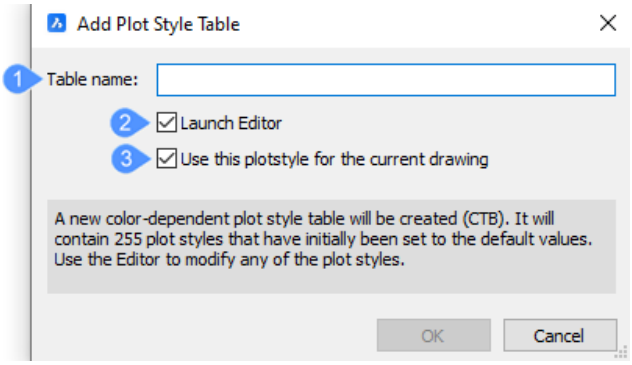
既存のツールを選択します。

34.1.7 印刷スタイルテーブルを追加

印刷ダイアログボックスから開きます。

印刷スタイルテーブルを追加ダイアログボックスでは、新しい印刷スタイルを作成することができます。

名前付き印刷スタイルを図面で使用している場合、ウイザードは新しい名前の印刷スタイルテーブル(STBファイル)を作成します。カレント図面が名前付き印刷スタイルを使用していない場合、ウィザードは新しい色依存テーブル(CTBファイル)を作成します。



1 表名

2 エディターを起動

3 カレント図面へこの印刷スタイルを使用

34.1.7.1 表名

印刷スタイルテーブルにつける名前を入力します。

34.1.7.2 エディターを起動

名前を入力してOKボタンを押すと、印刷スタイルテーブルエディターダイアログボックスが開きます。

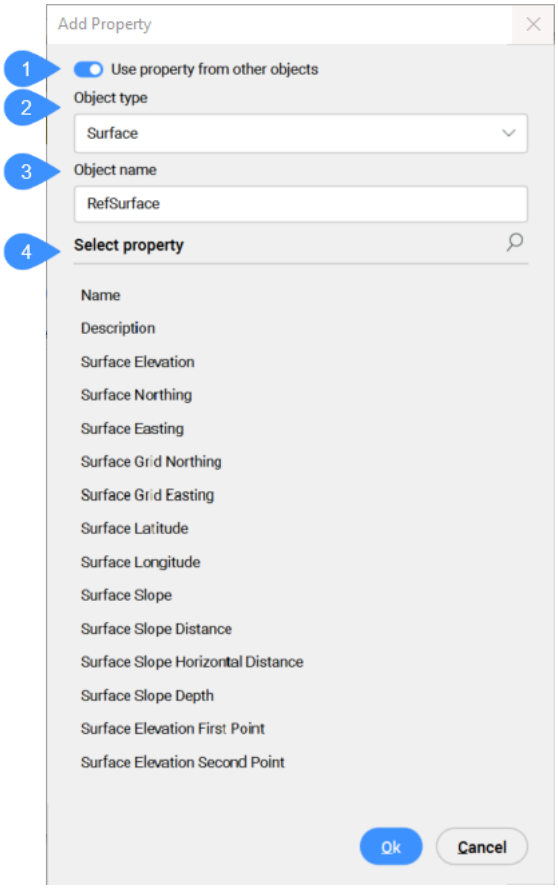
34.1.7.3 カレント図面へこの印刷スタイルを使用

[エディターを起動]オプションにチェックを入れない場合、入力したテーブル名が保存され、カレントのレイアウトのカレント印刷スタイルテーブルとして設定されます。

34.1.8 プロパティの追加

文字コンテンツ編集ダイアログボックスから開きます。

プロパティを追加ダイアログボックスでは、ラベルスタイルの文字コンテンツにプロパティを追加できます。



1 他のオブジェクトのプロパティを使用

2 オブジェクトの種類

3 オブジェクト名

4 プロパティを選択

34.1.8.1 他のオブジェクトのプロパティを使用

ラベルスタイルに他の土木オブジェクトのプロパティを追加する場合は、このオプションを切り替えます。

34.1.8.2 オブジェクトの種類

プロパティを選択したいオブジェクトの種類を選択します。プロパティは、土木ポイント、サーフェス、水平アライメント、垂直アライメントから追加できます。

34.1.8.3 オブジェクト名

オブジェクト名を表示します。

34.1.8.4 プロパティを選択

ラベルスタイルに含めるプロパティを選択します。以下の属性を含めることができます。

土木ポイントから：

- 名前
- 説明
- ポイント東方向距離
- ポイント北方向距離
- ポイント高さ
- ポイントの完全な注釈
- ポイント番号
- *土木ポイントのユーザ定義属性*

サーフェスから：

- 名前
- 説明
- サーフェス高度
- サーフェス北方向距離
- サーフェス東方向距離
- サーフェスグリッド北方向距離
- サーフェスグリッド東方向距離
- サーフェス緯度
- サーフェス経度
- サーフェス傾斜
- サーフェス傾斜距離
- サーフェス傾斜水平距離
- サーフェス傾斜深さ
- サーフェス標高の1点目
- サーフェス標高の2点目

水平アライメントから：

- 名前
- 説明
- アライメント測点値
- アライメントオフセット値

垂直アライメントから：

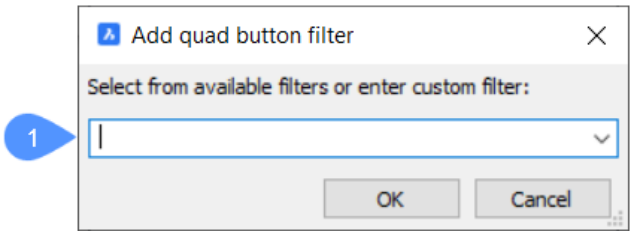
- 名前
- 説明

注：ラベルスタイルに表示するプロパティをサーフェス、垂直アライメント、水平アライメントから追加する場合は、必ず土木ポイントの[プロパティパネルで適切な参照を選択してください。

34.1.9 クワッドのボタンフィルターを追加

クワッドボタンフィルターを編集ダイアログボックスを開きます。

クワッドのボタンフィルターを追加ダイアログボックスでは、クアッドボタンのフィルターを選択できます(**クワッドのカスタマイズ**の記事を参照)。



1 フィルター付き選択ドロップダウンリスト

34.1.9.1 フィルター付き選択ドロップダウンリスト

このリストには、あらゆるオブジェクトタイプに適用される3つの一般的なフィルターが含まれています。

NO_SELECTION	何も選択されていないときに該当のツールが表示されます。
OBJECT_ANY	1つの図形(タイプ問わず)が選択されている場合に該当のツールが表示されます。
OBJECTS_ANY	複数の図形(タイプ問わず)が選択されている場合に該当のツールが表示されます。

注：カスタムフィルターを入力することも可能ですが、**図形エイリアスを追加**ダイアログボックスを使用してカスタムフィルターを作成することをお勧めします。

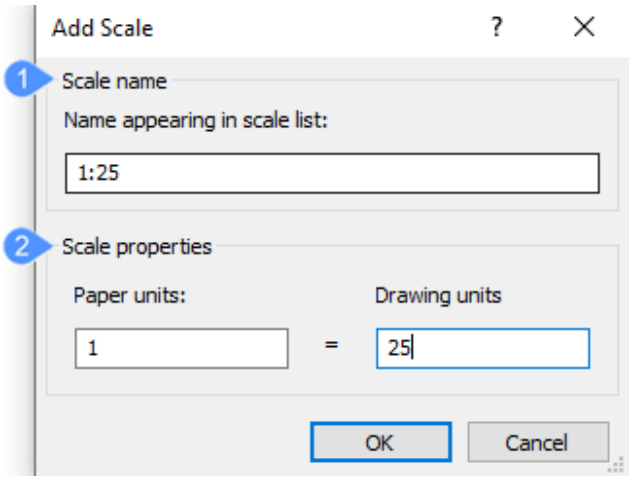
注：カスタムフィルターのフォーマットは、3つの一般的なフィルターのうちの1つに、「_LINE」、「_CIRCLE」などのオブジェクトタイプのサフィックスを付けたものです。例：OBJECT_CIRCLE、OBJECTS_SURFACE_EDGE、など。

34.1.10　図形に尺度を追加

以下より開きます：

- **デフォルトの尺度リスト**ダイアログボックス
- **尺度一覧の編集**ダイアログボックス

図形に尺度を追加ダイアログボックスでは、新しい尺度係数をリストに追加することができます。



1　尺度名

2　尺度プロパティ

34.1.10.1　尺度名

尺度リストに表示される尺度名を指定します。

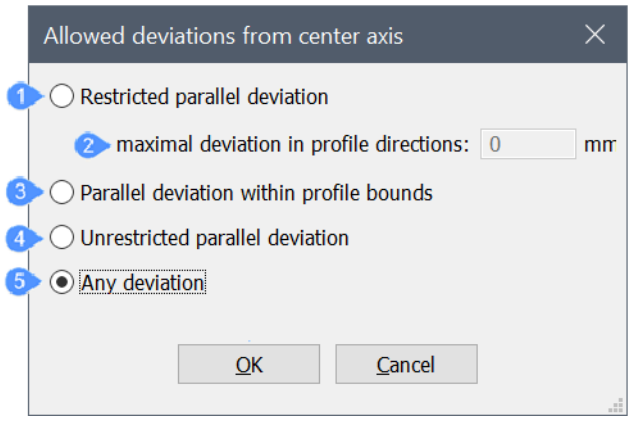
34.1.10.2　尺度プロパティ

尺度係数を用紙(プロット時のサイズ)と図面の単位で指定します。

34.1.11　中心軸からの許容偏差

BIMANALYTICALMODELコマンドを実行して開きます。

中心軸からの許容偏差ダイアログボックスでは、解析モデルの生成時に使用する自由度を設定できます。



1　制限つき平行偏差

2 プロファイル方向の最大偏差

3 プロファイル境界内の平行偏差

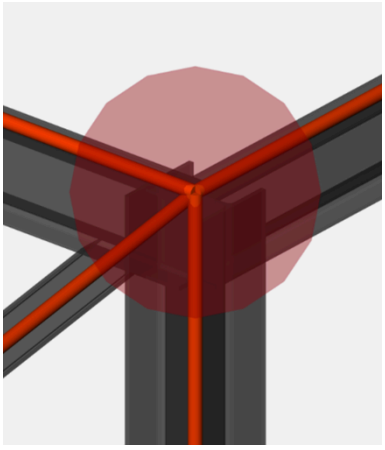
4 無制限の平行偏差

5 任意の偏差

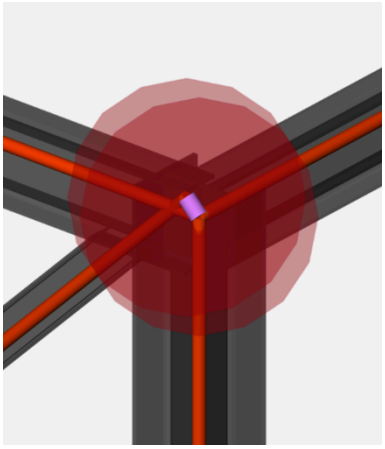
34.1.11.1 制限つき平行偏差

軸は、プロファイルの両方向で中心軸に平行で、中心軸から指定された距離内にあります。ウィンドウ内の距離を指定することができます。

プロファイル方向の最大偏差：0mm



プロファイル方向の最大偏差：20mm



34.1.11.2 プロファイル境界内の平行偏差

プロファイル境界内の平行偏差軸は中心軸に平行を保ち、プロファイル境界を超えません。

34.1.11.3 無制限の平行偏差

軸は中心軸に平行のままですが、ノードの分割や固定リンクを回避するのに役立つ場合は、プロファイルの境界の外側に配置できます。

34.1.11.4　任意の偏差

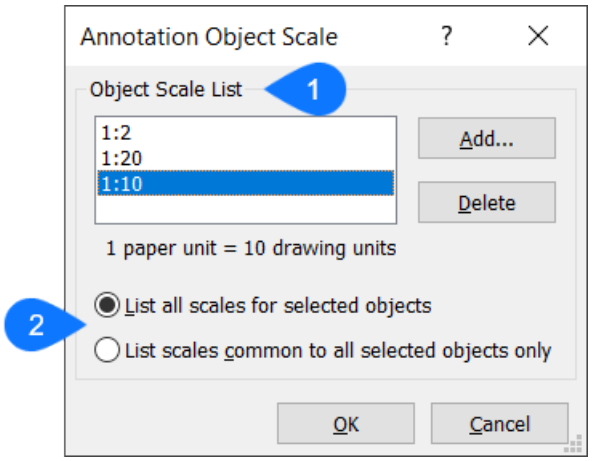
主軸は中心軸に平行なままですが、ノードの分割やリジッドリンクを避けるために有用であれば、(垂直方向と主水平方向に対する)傾斜軸を平行から逸脱させることができます。他の軸は、プロファイルの境界の外に移動することができます。

OKをクリックすると、**ビジュアル設定**ダイアログボックスが開きます。

34.1.12　注釈図形尺度

OBJECTSCALEダイアログボックスから開きます。

注釈図形尺度ダイアログボックスでは、注釈図形で使用する尺度係数を追加または削除できます。



1　図形尺度一覧

2　オプション

34.1.12.1　図形尺度一覧

選択した注釈図形がサポートするすべての尺度を表示します。

追加
選択した図形に注釈尺度係数を追加します。

削除
選択した注釈図形から、注釈尺度を削除します。プロパティバーの**異尺度対応**フィールドで、**いいえ**を選択した場合、異尺度対応プロパティは削除されます。

注：このオプションは、図形に添付されている尺度係数が1つだけの場合には機能しません。

34.1.12.2　オプション

選択図形のすべての尺度一覧
すべての尺度係数を一覧表示します。

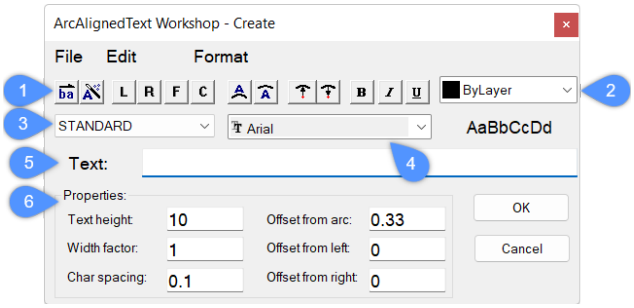
すべての選択図形の共通の尺度だけを一覧表示
選択された図形で共有されている尺度係数のみを一覧表示します。

注：少なくとも2つの図形を選択する必要があります。

34.1.13　円弧にテキストを整列

ARCTEXTコマンド (Express Tools)を実行して開きます。

円弧文字ワークショップ - 作成ダイアログボックスでは、円弧に沿ってテキストを整列させることができます。



1　文字オプション

2　文字色

3　文字スタイル

4　文字フォント

5　文字コンテンツ

6　プロパティ

34.1.13.1　文字オプション

- ：文字の読み取り順序を逆にします。
- ：円弧を移動したときの文字の挙動をコントロールします。
- ：文字を左揃えにします。
- ：文字を右揃えにします。
- ：文字を円弧に沿ってフィットさせます。
- ：文字を円弧に沿って中央に配置します。
- ：文字を凸面に配置します。
- ：文字を凹面に配置します。
- ：文字を中心から外側に配置します。
- ：文字を中心から内側に配置します。
- ：文字を太字にします。
- ：文字をを斜体にします。
- ：文字を下線を付けます。

34.1.13.2 文字色

文字の色を設定します。

34.1.13.3 文字スタイル

文字スタイルを指定します。

34.1.13.4 文字フォント

文字フォントを指定します。

34.1.13.5 文字コンテンツ

表示する文字列を入力できます。

34.1.13.6 プロパティ

文字高さ
文字の高さを指定します。

縦横比
円弧の長さに比例して文字の幅を指定します。

文字間隔
文字間隔を指定します。

円弧からのオフセット
円弧から文字までのオフセット距離を指定します。

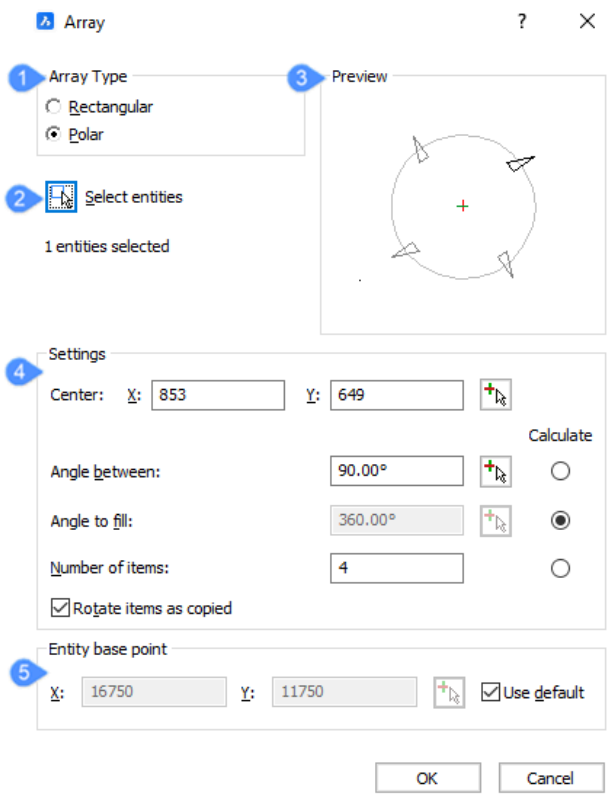
左からのオフセット
円弧の左端からのオフセット距離を指定します。

右からのオフセット
円弧の右端からのオフセット距離を指定します。

34.1.14 配列

ARRAYCLASSICコマンドを実行して開きます。

配列ダイアログボックスでは、非自動調整の2Dの矩形または円形の配列を作成することができます。



1 配列の種類

2 図形を選択

3 プレビュー

4 設定

5 図形の基点(円形配列のみ)

34.1.14.1 配列の種類

矩形配列を作成するか、円形配列を作成するかを指定します。

34.1.14.2 図形を選択

配列ダイアログボックスが一時的に閉じ、図形選択を促します。Enterを押すと選択が完了し、**配列**ダイアログボックスに戻ります。

34.1.14.3 プレビュー

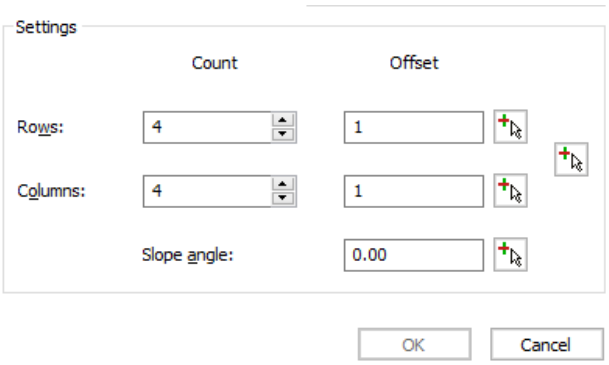
指定した設定に基づく配列のプレビューを表示します。

34.1.14.4 設定

配列内のアイテム数、配置位置を指定します。設定できる内容は、配列の種類によって異なります。

矩形

選択図形を矩形のパターンでコピーします。



カウント
配列の行と列の数を指定します。

オフセット
行と列の間の距離を指定します。オフセット入力欄に距離を入力するか、ボタンをクリックして図面内のオフセット距離を選ぶことができます。

オフセット入力欄
オフセットの距離を入力することができます。正の距離では、正のY軸に沿って行を追加し、正のX軸に沿って列を追加します。負の距離では、負のY軸に沿って行を追加し、負のX軸に沿って列を追加します。

オフセットボタン
図面上の2点を選んでオフセット距離を指定することができます。これらのボタンをクリックすると、**配列**ダイアログボックスが一時的に閉じ、ポイントの選択を促されます。

行オフセットを指示
行間の距離を指定します。選んだ2点の間に仮の線分が表示されます。線分の長さによって、オフセット距離が決まります。線分の角度によって、行が正のY軸に沿って追加されるか、負のY軸に沿って追加されるかが決まります。

列オフセットを指示
列間の距離を指定します。選んだ2点の間に仮の線分が表示されます。線分の長さによって、オフセット距離が決まります。線分の角度によって、行が正のY軸に沿って追加されるか、負のY軸に沿って追加されるかが決まります。

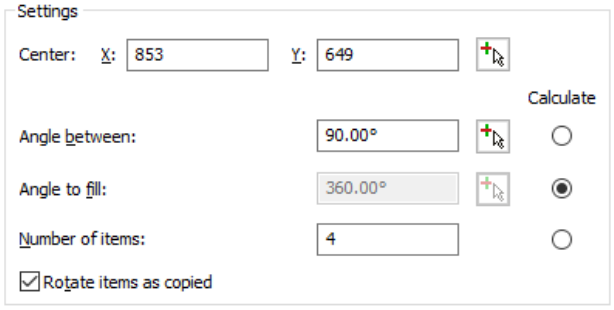
両側のオフセットを指示
行間の距離と列間の距離を指定します。選んだ2つの点の間に一時的な矩形が表示されます。矩形の長さは列間の距離を、矩形の幅は行間の距離を決定します。

傾斜角度
X軸から見た配列の角度を指定します。角度入力欄に角度を入力するか、ボタンをクリックして図面内の角度を選ぶことができます。

角度入力欄
傾斜角度の入力を有効にします。

配列の角度を指示
図面上の2点を指定して、配列の角度を指定することができます。これらのボタンをクリックすると、**配列**ダイアログボックスが一時的に閉じ、ポイントの選択を促されます。

極
選択図形を円形にコピーします。



中心
円形配列の中心点を指定します。X、Y入力欄に座標を入力するか、ボタンをクリックすると、図面内の中心を選ぶことができます。

X入力欄
X軸に沿って配列の中心を配置する座標を入力できます。

Y入力欄
Y軸に沿って配列の中心を配置する座標を入力できます。

中心を指示ボタン
図面上の1点を指定して、配列の中心を指定することができます。これらのボタンをクリックすると、［配列］ダイアログボックスが一時的に閉じ、ポイントの選択を促されます。

アイテム間の角度
円形配列の各アイテム間の角度を指定します。入力欄に角度を入力するか、ボタンをクリックして図面内の角度を選択するか、または計算オプションを選択します。

角度入力欄
配列の各項目間の角度を指定する値を入力できます。

アイテム間の角度ボタン
図面上の点を指定して、各アイテム間の角度を指定することができます。これらのボタンをクリックすると、**配列**ダイアログボックスが一時的に閉じ、ポイントの選択を促されます。配列の中心点と選択した点の間に仮の線分が表示されます。線分の角度によって、アイテム間の角度が決まります。

計算
「全体の角度」と「アイテム数」をもとに、各アイテム間の角度を指定できます。[計算]ラジオボタンを選択すると、「アイテム間の角度」のオプションが無効になり、「全体の角度」のオプションが有効になります。

全体の角度
円形配列の全体角度と方向を指定します。入力欄に角度を入力するか、ボタンをクリックして図面内の角度を選択するか、または計算オプションを選択します。

角度入力欄
配列の全体角度を指定する値を入力できます。完全な円を描くように複写を行う場合、360を入力します。円の一部を描くように複写を行う場合、360より小さい数を入力します。正の値は反時計回りに、負の値は時計回りに配列を作図します。

全体の角度ボタン
図面上の点を指定して、配列の全体角度を指定することができます。これらのボタンをクリックすると、**配列**ダイアログボックスが一時的に閉じ、ポイントの選択を促されます。配列の中心点と選択した点の間に仮の線分が表示されます。線分の角度によって、全体角度が決まります。

計算
アイテム間の角度やアイテム数に応じて、全体角度を指定することができます。[計算]ラジオボタンを選択すると、「全体の角度」のオプションが無効になり、「アイテム間の角度」のオプションが有効になります。

アイテム数
円形配列のアイテム数を指定します。入力欄に数を入力するか、計算オプションを選択します。

アイテム数入力欄
配列に含めるアイテムの数を入力できます。

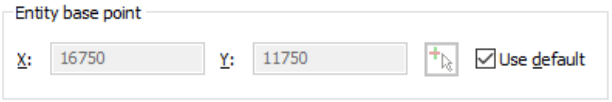
計算
アイテム間の角度と全体角度に応じて、アイテム数を指定できるようになりました。[計算]ラジオボタンを選択すると、「アイテム数」オプションが無効になり、「アイテム間の角度」と「全体の角度」オプションが有効になります。

複写回転する要素
円形配列を形成する配列アイテムをコピーする際、配列アイテムを回転させるかどうかを指定します。

- チェック無し：アイテムを回転させず、すべてのコピーは元のアイテムと同じ向きになります。
- チェックあり： 図形を回転しコピーします。

34.1.14.5 図形の基点(円形配列のみ)

円形配列のアイテムの基点を指定します。



X入力欄
X軸に沿って配列アイテムの基点を指定する座標を入力できます。

Y入力欄
Y軸に沿って配列アイテムの基点を指定する座標を入力できます。

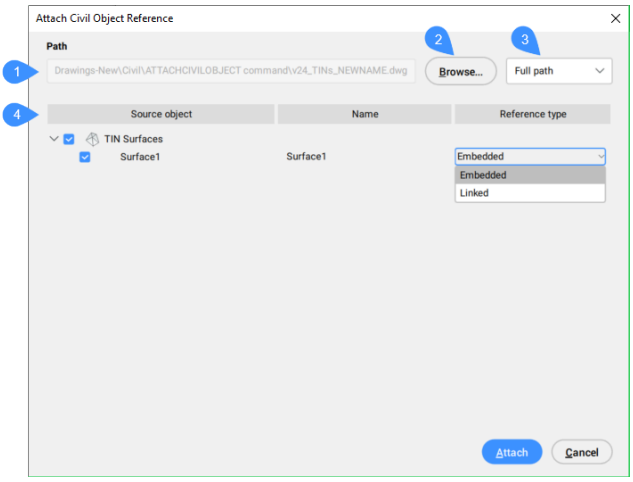
基点を指示ボタン
図面上の点を指定して、配列アイテムの基点を指定することができます。これらのボタンをクリックすると、**配列**ダイアログボックスが一時的に閉じ、ポイントの選択を促されます。

デフォルトを使用
配列図形にデフォルトの基点を使用します。[デフォルトを使用]を選択すると、他の図形の基点オプションが無効になります。

34.1.15 土木オブジェクト参照をアタッチ

ATTACHCIVILOBJECTコマンドを実行して(参照する土木オブジェクトファイル選択した後に)開きます。

土木オブジェクト参照をアタッチダイアログボックスから、カレント図面に土木オブジェクト参照をアタッチすることができます。



1 パス

2 ブラウズ

3 パスタイプ

4 アタッチする土木オブジェクト

34.1.15.1 パス

図面ファイルのパスを表示します。

34.1.15.2 ブラウズ

ファイルを開くダイアログボックスが表示され、他の土木オブジェクトのDWGファイルを選択することができます。

34.1.15.3 パスタイプ

パスの格納方法を指定します：

フルパス
DWGファイルのドライブ名とフォルダー名を絶対参照で保存します(例. C:¥cad¥dwg¥filename.dwg)。

相対パス
...¥filename.dwgのように、親図面の位置から参照される図面の位置までのパスを格納します。...は、現在のフォルダーの1つ上のフォルダーを指します。このオプションを使用するには、図面が保存されている必要があります。

34.1.15.4 アタッチする土木オブジェクト

土木オブジェクトのプロパティを一覧表示します。

注：これらのプロパティは、**土木エクスプローラ**パネルの**情報**タブで編集できます。

ソースオブジェクト
ソースにする土木オブジェクトの名前が表示されます。

注：目的の土木オブジェクトが図面内で既に参照されている場合は、警告アイコンが表示されます。

名前
アタッチする土木オブジェクトの名前が表示されます。

参照タイプ
カレント図面に土木オブジェクトをアタッチする方法を設定します。

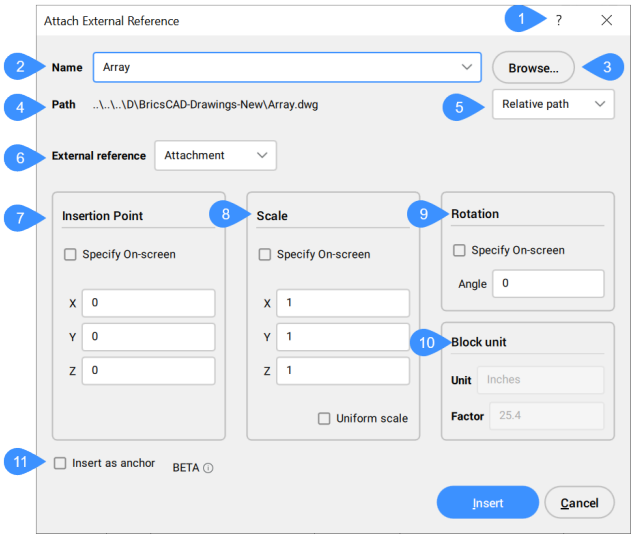
埋め込み
参照サーフェスのジオメトリが図面に保存されます。図面の容量は大きくなりますが、ソースのサーフェスが変更されていない限り、図面は速く開きます。参照サーフェスは、ソース図面が使用できない場合でも表示されます。

リンク
参照サーフェスのジオメトリは図面に保存されません。

34.1.16 外部参照をアタッチ

XATTACHコマンドを実行して(参照ファイルを選択した後に)開きます。

外部参照をアタッチダイアログボックスでは、外部参照されている図面をカレント図面にアタッチすることができます。



1 ヘルプ

2 名前

3 ブラウズ

4 パス

5 パスタイプ

6 外部参照

7 挿入位置

8 尺度変更

9 回転

10 ブロック単位

11 アンカーとして挿入

34.1.16.1 ヘルプ

XATTACHコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.1.16.2 名前

カレント図面にアタッチされているDWGファイルの名前を指定します。

34.1.16.3 ブラウズ

参照ファイルを選択ダイアログボックスが開き、別のDWGファイルを選択します。

34.1.16.4 パス

図面ファイルのパスを表示します。

34.1.16.5 パスタイプ

パスをどこまで指定して格納するかを決定します：

フルパス
DWGファイルのドライブ名、フォルダー名を絶対参照で格納します。例. c:¥cad¥dwg¥filename.dwg

相対パス
...¥filename.dwgのように、親図面の位置から参照される図面の位置までのパスを格納します。...は、現在のフォルダーの1つ上のフォルダーを指します。このオプションを使用するには、図面が保存されている必要があります。

パス無し
filename.dwgのように、ドライブ名とフォルダー名を削除し、DWGファイル名だけを残します。

34.1.16.6 外部参照

外部参照のアタッチ方法を指定します。

アタッチ
外部参照およびネストされた外部参照をアタッチします。

オーバーレイ
外部参照の第一階層のみをアタッチします。

34.1.16.7 挿入位置

外部参照の左下隅の位置を指定します：

画面上を指示
挿入位置の指定方法を決定します。

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面内で挿入基点を指定します。
- オフ：ダイアログボックスのX、Y、Z座標入力欄に値を入力して挿入基点を指定します。

X、Y、Z
外部参照の挿入点のX・Y・Z座標を指定します。「0,0,0」と指定すると外部参照を原点に挿入します。

34.1.16.8 尺度変更

外部参照のサイズを指定します。

画面上を指示
尺度係数の指定方法を決定します。

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面内で尺度係数を指定します。
- オフ：挿入位置をダイアログのX、Y、Z入力欄を使用して指定します。

X、Y、Z
外部参照の X・Y・Z方向の尺度係数を指定します。外部参照をオリジナルサイズのままにするには、「1,1,1」と指定します。

均一尺度
YとZの尺度係数をXと同じにします。

34.1.16.9 回転

外部参照の回転角度を指定します。

画面上を指示
回転角度の指定方法を決定します。

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面内で角度を指定します。
- オフ：ダイアログの角度フィールドを使用して指定します。

角度
挿入基点を中心とする回転角度を定義します。正の角度は、反時計回りに回転します。負の角度は、時計回りに回転します。そのままの角度に保つ場合は、「0」を指定します。

34.1.16.10 ブロック単位

図面を挿入する際の単位を指定するもので、通常はインチやミリなどのインチ法またはメーター法単位の形式を使用します。

単位
アタッチされた図面のINSUNITS設定を報告します。

係数
アタッチされた図面とカレント図面のINSUNITS設定を基準にして計算された尺度係数を報告します。

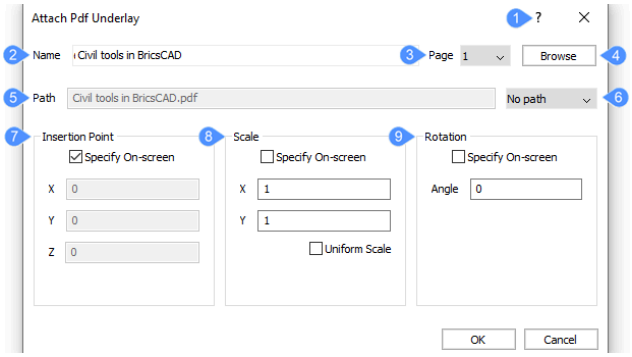
34.1.16.11 アンカーとして挿入

外部参照をソリッドの面に固定します。このアンカーは、外部参照を面にリンクします。外部参照は、ホストソリッドが移動または編集されても面上に残ります。

34.1.17 PDFアンダーレイをアタッチ

PDFATTACHコマンドを実行して開きます。

PDFアンダーレイをアタッチダイアログボックスでは、PDFファイルをアンダーレイとしてカレント図面にアタッチすることができます。



1 ヘルプ

2 名前

3 ページ

4 ブラウズ

5 パス

6 パスタイプ

7 挿入位置

8 尺度変更

9 回転

34.1.17.1 ヘルプ

-PDFATTACHコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.1.17.2 名前

アタッチするPDFファイルのファイル名を表示します。図面に複数のPDFファイルが添付されている場合は、ドロップダウンリストにファイル名が表示されます。

34.1.17.3 ページ

PDFファイル全体から目的のページを表示することができます。ドロップダウンの矢印リストからページ番号を変更することができます。

34.1.17.4 ブラウズ

PDFアンダーレイファイルを選択ダイアログボックスが開き、すでに選択されているPDFファイルとは別のPDFファイルを選択できます。

34.1.17.5 パス

選択したパスタイプに応じて、ファイルのパスを表示します。

34.1.17.6 パスタイプ

プログラムがPDFファイルへのパスを記憶する方法を選択します。[パス]のドロップダウンリストから、以下のオプションを選択できます。

フルパス
PDFファイルを作成する際に、ドライブ名やフォルダー名を絶対参照として保存します。例：C:Useers¥¥PDFATTACH¥filename.pdf

相対パス
PDFファイルのフォルダへのパスの一部を格納します。例：...¥filename.pdf。このオプションは、図面が一度でも保存されていないと機能しません。(...は1つ上の階層を意味します。)

パス無し
filename.dwgのように、ドライブ名とフォルダー名を削除し、DWGファイル名だけを残します。

34.1.17.7 挿入位置

アンダーレイの左下角の位置を指定します。

画面上を指示
挿入位置の指定方法を決定します。

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面内で挿入基点を指定します。
- オフ：ダイアログボックスのX、Y、Z座標入力欄に値を入力して挿入基点を指定します。

X、Y、Z
PDFアンダーレイの挿入点のX, Y, Z座標を指定します。図面の原点にアンダーレイを挿入する場合は、0,0,0を入力してください。

34.1.17.8 尺度変更

PDFアンダーレイのサイズを指定します。

画面上を指示
尺度係数の指定方法を決定します：

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面内で尺度係数を指定します。
- オフ：挿入位置をダイアログのX、Y、Z入力欄を使用して指定します。

X、Y
X軸、Y軸の尺度係数を指定します。

均一尺度
Y方向の尺度係数をX方向と同じにします。

34.1.17.9 回転

PDFアンダーレイの回転角度を指定します：

画面上を指示
回転角度の指定方法を決定します：

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面での回転角度を指定します。
- オフ：ダイアログの角度入力欄で回転角度を指定します。

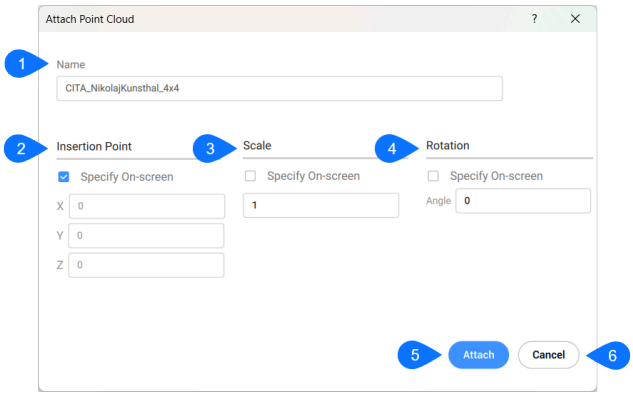
角度
挿入基点を中心とする回転角度を定義します。正の角度にすると、アンダーレイは反時計回りに回転します。負の角度にすると、イメージが時計回りに回転します。アンダーレイを回転させない場合は、「0」を使用します。

34.1.18 点群をアタッチ

以下より開きます：

- POINTCLOUDATTACH [点群ファイル添付]
- **点群参照マネージャー**ダイアログボックス

点群をアタッチダイアログボックスでは、点群ファイルをアタッチする際のオプションを設定できます。



1 名前

2 挿入位置

3 尺度

4 回転

5 アタッチ

6 キャンセル

名前
アタッチするために選択された点群ファイルの名前を表します。

挿入位置
点群ファイルの原点がアタッチされる点を定義します。
画面上を指示オプションにチェックを入れると、モデル空間で挿入点を指定できます。

尺度
元の点群ファイルを尺度変更するかどうかを定義します。
画面上を指示オプションにチェックを入れると、モデル空間で尺度を指定できます。

回転
元の点群ファイルの回転を定義します。
画面上を指示オプションにチェックを入れると、モデル空間で回転を指定できます。

アタッチ
定義されたプロパティに従って点群ファイルをアタッチします。

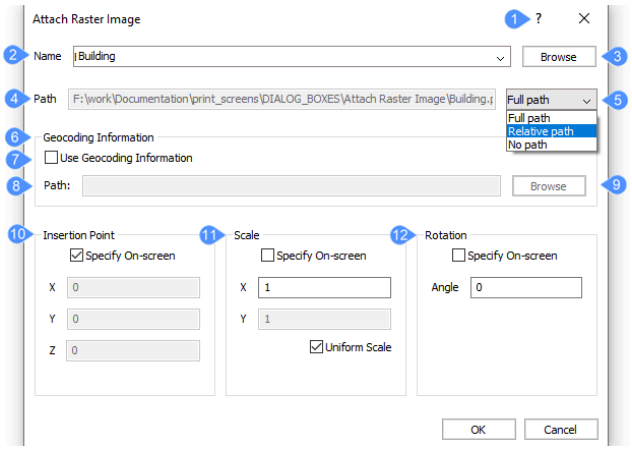
キャンセル
アタッチ操作をキャンセルします。

注：アタッチした点群の**プロパティ**パネルには、**ロック**プロパティがあります。オンにすると、点群は引き続き選択できますが、削除・移動・編集はできなくなります。

34.1.19 ラスターイメージ参照

IMAGEATTACHコマンドを実行して開きます。

ラスターイメージ参照ダイアログボックスでは、ラスターイメージを図面に添付することができます。



1 ヘルプ

2 名前

3 ブラウズ

4 パス

5 パスタイプ

6 地形コード情報

7 地形コード情報を使用

8 パス

9 ブラウズ(イメージ位置決めファイル)

10 挿入位置

11 尺度変更

12 回転

34.1.19.1 ヘルプ

IMAGEATTACHコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.1.19.2 名前

アタッチするファイルの名前を指定します。

34.1.19.3 ブラウズ

イメージファイルを選択ダイアログボックスを開き、別のラスターファイルを選択することができます。

34.1.19.4 パス

画像ファイルのパスを表示します。

34.1.19.5 パスタイプ

パスをどこまで指定して格納するかを決定します。

フルパス
C:foldername¥imagename.jpgのように、画像ファイルのフルパスを絶対参照で格納します。

相対パス
図面の保存場所から画像の保存場所までのパスを格納します。例：..¥foldername¥imagename.jpg...は、現在のフォルダーの1つ上のフォルダーを指します。このオプションを使用するには、図面が保存されている必要があります。

パス無し
imagename.jpgのように、ドライブ名とフォルダー名を削除し、画像ファイル名だけを残します。

34.1.19.6　地形コード情報

位置決めファイル、またはワールド座標ファイルは利用するイメージファイルによって、拡張子が異なります。

地形コード情報を使用
イメージファイルのサイズ、位置および回転を指定する位置ファイルの使用を切り替えます。

- はい：位置決めファイルを使用します。
- いいえ：位置決めファイルを使用しません。

パス
位置決めファイルのパスを表示します。

ブラウズ(イメージ位置決めファイル)
イメージ位置決めファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

34.1.19.7　挿入位置

イメージの左下隅の位置を指定します。

画面上を指示
挿入基点の指定方法を決定します。

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面内で挿入基点を指定します。
- オフ：ダイアログボックスのX、Y、Z座標入力欄に値を入力して挿入基点を指定します。

X、Y、Z
イメージの挿入基点のX、Y、Z座標を指定します。

34.1.19.8　尺度変更

イメージのサイズを指定します。

画面上を指示
尺度係数の指定方法を決定します。

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面内で尺度係数を指定します。
- オフ：挿入位置をダイアログのX、Y、Z入力欄を使用して指定します。

X、Y
X軸、Y軸の尺度係数を指定します。

均一尺度
Y方向の尺度係数をX方向と同じにします。

34.1.19.9 回転

イメージの回転角度を指定します。

画面上を指示
回転角度の指定方法を決定します。

- オン：ダイアログボックスが閉じられ、図面での回転角度を指定します。
- オフ：ダイアログの角度フィールドを使用して指定します。

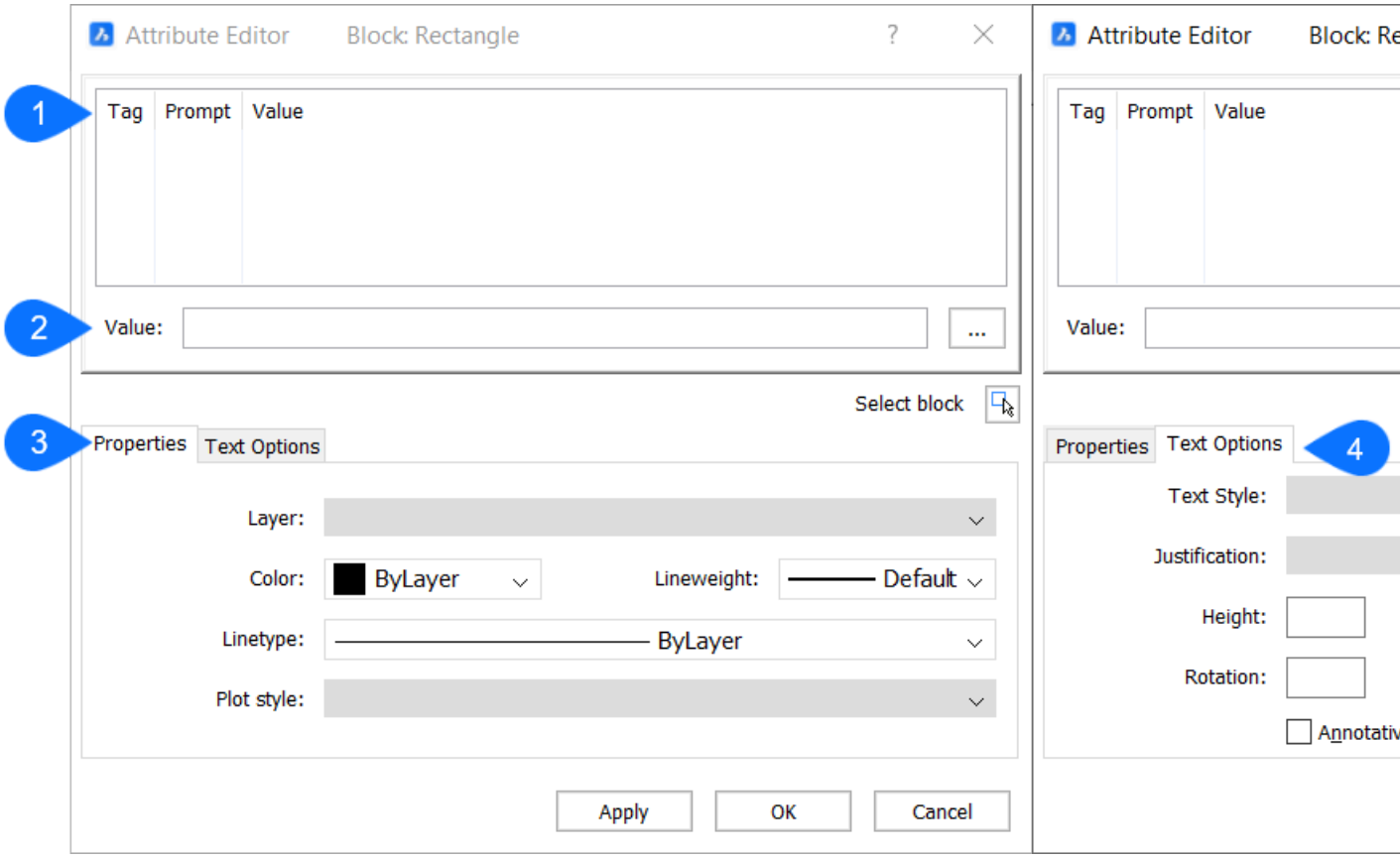
34.1.19.10 角度

挿入基点を中心としたイメージの回転角度を指定します。正の角度にすると、イメージが反時計回りに回転します。負の角度にすると、イメージが時計回りに回転します。外部参照の向きを、そのままの角度で保つためには、「0」を使用します。

34.1.20 拡張属性編集

EATTEDITコマンドを実行して開きます。

拡張属性編集ダイアログボックスでは、1つのブロックに含まれる、すべての属性値とほとんどのプロパティを編集することができます。



1 属性概要一覧

2 値

3 プロパティ

4 文字オプション

34.1.20.1 属性概要一覧

ブロックで使用されているすべての属性の概要を表示します。

34.1.20.2 値

カレントに選択されている属性をリストから表示します。新しい値を入力することができます。

34.1.20.3 プロパティ

選択した属性のプロパティを指定します。

画層
選択した属性の画層を指定します。

色
選択した属性の色を指定します。

線種
選択した属性の線種を指定します。

印刷スタイル
選択された属性の印刷スタイルを指定します。

34.1.20.4 文字オプション

文字スタイル
選択した属性の文字フォントを指定します。

位置合わせ
選択した属性の文字配置位置を指定します。

上下反転
チェックすると、文字が上下逆に表示されます。

前後反転
チェックすると、文字が前後逆に表示されます。

高さ
選択した属性の文字高さを指定します。

回転
選択した属性の文字の回転角度を指定します。

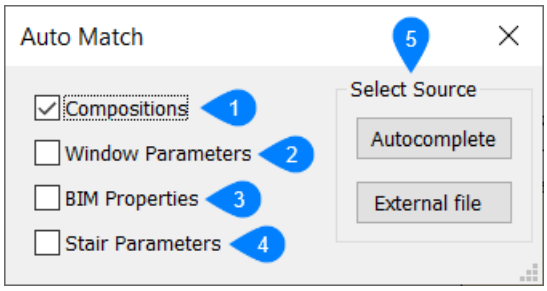
縦横比
選択した属性の文字巾を指定します。

斜角度
選択された属性の文字の斜角度を指定します。

34.1.21 オートマッチ

BIMAUTOMATCHコマンドを実行して開きます。

オートマッチダイアログボックスでは、サンプル図形のどの特性をマッチさせるかを定義し、ソースを選択することができます。



1 複合材

2 窓パラメータ

3 BIMプロパティ

4 階段パラメータ

5 ソースを選択

34.1.21.1 複合材

チェックを入れると、図形のBIMプロパティがコピーされます。

複合材を持たない図形は、図形のタイプ、空間的な位置、方向、および「外部参照」プロパティに基づいて、図面内の他の複合材と照合されます。

すべての図形に複合材がある場合、ソース図形を選択することで一部を上書きすることができます。オートマッチはこのソースの複合材を残りの有効な図形にコピーします。

34.1.21.2 窓パラメータ

チェックを入れると、窓パラメータがコピーされます。

図面内に変更されていない窓がある場合、オートマッチは、窓の幅、高さ、種類、空間的な位置と向き、および窓が入っている図形の種類と構成に基づいて、プロパティを照合します。

すべての窓でパラメータが変更されている場合は、ソースの窓を選択することで一部を上書きすることができます。オートマッチはこのソースのパラメータを残りの有効な窓にコピーします。

注：いくつかの窓パラメータの中には、決してコピーされないものもあります。

- W(＝窓の幅)
- H(＝窓の高さ)

34.1.21.3 BIMプロパティ

チェックを入れると、図形のBIMプロパティがコピーされます。

図面内にプロパティが変更されていない図形がある場合、オートマッチは、BIMタイプ、構成、図面内の他の図形の空間的な位置に基づいて、プロパティを照合します。

すべての図形に変更されたプロパティがある場合、ソース図形を選択することで上書きすることができます。オートマッチはこのソースのプロパティを残りの有効な図形にコピーします。

いくつかの一般的なBIMプロパティの中には、決してコピーされないものもあります：

- GUID
- 複合材

- プロファイル
- 空間的位置
- IsExternal

一部の梁や柱に関連するBIMプロパティの中には、決してコピーされないものもあります：

- eomHash
- athString
- X軸
- Y軸
- Z軸
- プロファイル名
- 端点
- 始点
- 有効
- InstancePropertySets

窓やドアに関連するBIMプロパティの中には、決してコピーされないものもあります：

- 名前
- SubtractAllSolids
- 半透明性
- 全体の幅
- 全体の高さ

スラブに関連するBIMプロパティの中には、決してコピーされないものもあります：

- 部屋境界

部屋に関連するBIMプロパティの中には、決してコピーされないものもあります：

- 番号
- 部屋面積
- 部屋表現

階段関連のBIMプロパティの中には、一緒にコピーされないものもあります。

- 階段タイプ
- ライザーの数
- トレッドの数

34.1.21.4 階段パラメータ

チェックを入れると、階段のパラメータがコピーされます。

図面上に変化のない階段がある場合、オートマッチは階段の踏面数、立ち上がり数、高さ、幅、長さ、タイプに基づいてプロパティを照合します。

すべての階段でパラメータが変更されている場合は、ソースの階段を選択することで一部を上書きすることができます。オートマッチはこのソースのパラメータを残りの有効な階段にコピーします。

注：階段のパラメータの中には、決してコピーされないものもあります。

- Height_Staircase
- Stair_Width
- 階段の長さ

34.1.21.5 ソースを選択

オートコンプリート
開いている図面の図形に選択されたすべてのオプションを、開いている図面の類似図形と一致させます。

外部ファイル
挿入するファイルを選択ダイアログボックスが開きます。ここで選択した図面に含まれる図形と、選択したすべてのオプションにより、開いている図面の中から類似する図形を一致させます。

34.2 B

34.2.1 背景

BACKGROUNDコマンドを実行して開きます。

背景ダイアログボックスが開き、モデル空間の現在のビューポートの背景を設定することができます。

無し、**ソリッド(2D塗り潰し)**、**グラデーション**、**イメージ**の4種類から選べます。

注：**図面エクスプローラ**の**表示スタイル設定**で背景をオンに設定すると、**背景**ダイアログボックスで行った変更が適用されます。このオプションは、2Dワイヤフレームを除くすべての表示スタイルで利用可能です。

34.2.1.1 無し

背景の種類を**無し**に設定した場合、**背景**ダイアログボックスに2つの領域が表示されます。

1 種類

2 プレビュー

種類
現在のビューポートの背景の種類を指定します。背景の種類を**無し**に設定すると、現在のビューポートにデフォルトの色が適用されます。

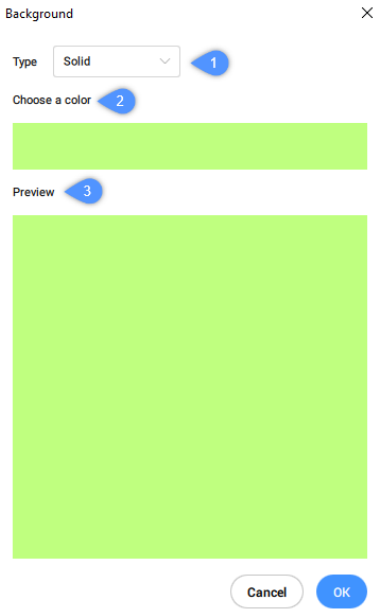
プレビュー
背景のプレビューが表示されます。**無し**に設定すると、背景はPERSPECTIVE変数の値に従って表示されます。

- **オフ**：背景は、BKGCOLOR変数で指定された色(多くは黒か白)で表示されます。
- **オン**：地面と空を模した2色のグラデーションで表示されます。色はGRADIENTCOLORTOP、GRADIENTCOLORMIDDLE、GRADIENTCOLORBOTTOMなどのGradient-で始まる変数で指定します。

注：変数の値を変更した後、GRADIENTBKGONコマンドを再実行します。

34.2.1.2 ソリッド(2D塗り潰し)

背景の種類を**ソリッド(2D塗り潰し)**に設定すると、**背景**ダイアログボックスには3つの領域が表示されます。



1 種類

2 色を選択

3 プレビュー

種類
現在のビューポートの背景の種類を指定します。背景の種類が**ソリッド(2D塗り潰し)**の場合、現在のビューポートに単一色が適用されます。

色を選択
塗り潰し背景の現在の色を指定します。色見本をクリックすると、**色の選択**ダイアログボックスが表示され、任意の色を指定することができます。

プレビュー
選択した色を使った背景のプレビューを表示します。

34.2.1.3 グラデーション

背景の種類を**グラデーション**に設定すると、**背景**ダイアログボックスには3つの領域が表示されます。

1 種類

2 色

3 プレビュー

種類
現在のビューポートの背景の種類を指定します。背景の種類を**グラデーション**にすると、現在のビューポートに2色または3色のグラデーションが適用されます。

グラデーション設定
グラデーションの背景の回転と色を指定します。

フィールドを回転
グラデーション背景の回転角度を指定します。角度を入力したり、矢印で角度を増やしたり減らしたりすることができます。

色
グラデーション背景の色を指定します。

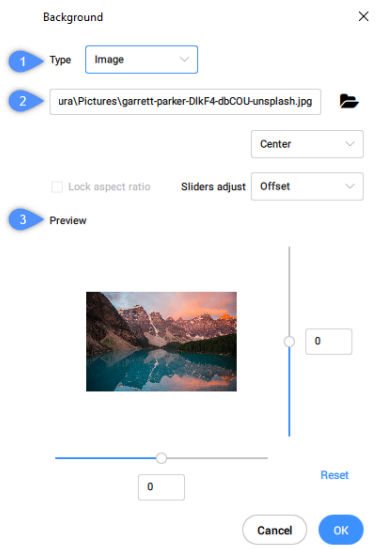
2色
背景に2色のグラデーションをかけます。このオプションを選択すると、ダイアログボックスには2つの色見本が表示されます。1つは上の色、もう1つは下の色を表しています。色見本をクリックすると、**色の選択**ダイアログボックスが表示され、任意の色を指定することができます。

3色
背景に3色のグラデーションをかけます。このオプションを選択すると、ダイアログボックスには3つの色見本が表示されます。1つは上の色、1つは中の色、1つは下の色を表しています。色見本をクリックすると、**色の選択**ダイアログボックスが表示され、任意の色を指定することができます。

プレビュー
選択した色を使った背景のプレビューを表示します。

34.2.1.4 イメージ

背景の種類を**イメージ**に設定すると、**背景**ダイアログボックスには3つの領域が表示されます。



1 種類

2 画像と設定を選択

3 プレビュー

種類
現在のビューポートの背景の種類を指定します。背景の種類が**イメージ**の場合、現在のビューポートにラスターイメージが適用されます。

イメージ設定
イメージ背景となるファイルと位置を指定します。

パスフィールド
イメージファイルの名前と場所を指定します。パスを入力するか、ブラウズボタンを選んで**イメージファイルの選択**ダイアログボックスを開きます。

位置
現在のビューポートの中のイメージの位置を指定します。オプションには、**中心**、**ストレッチ**、**タイル**があります。

中心
イメージをビューポートの中央に配置します。

ストレッチ
小さな画像をビューポートの大きさに合わせて引き伸ばすことができます。

タイル
ビューポートを埋めるために必要な画像をタイル化します。

縦横比を固定
画像を拡大したときに、画像の縦横比を維持するかどうかを指定します。このオプションは、**スライダーを調整**オプションが**尺度変更**に設定されている場合のみ有効です。

- **オン**：画像の縦横比を維持し、XとYのスライダーが一緒に動きます。
- **オフ** ：画像を歪ませることができ、XとYのスライダーはそれぞれ独立して動きます。

スライダーを調整
プレビュー画面に表示される2枚のスライドの機能を指定します。

- **オフセット**：ビューポート内で画像を移動します。
- **尺度変更**：画像のサイズを変更します。画像をビューポートと同じサイズにすることができます。

プレビュー
指定したイメージファイルとオプションを使って、背景のプレビューを表示します。

X、Yスライダー
ビューポート内のイメージのオフセットや尺度を調整します。オフセットと尺度変更のどちらを調整するかは、**スライダーを調整**の設定で決まります。

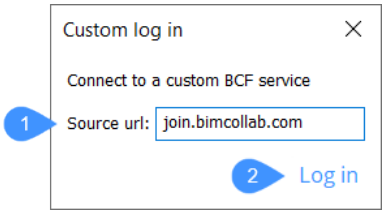
- **X**：スライダーを左右に動かします。それに伴い、Xフィールドも更新されます。Xフィールドに値を入力することもできます。
- **Y**：スライダーを上下に動かします。それに伴い、Yフィールドも更新されます。Yフィールドに値を入力することもできます。

リセット
オフセットをデフォルト値の0に、尺度をデフォルト値の1にリセットします。

34.2.2 BIM BCFパネル - カスタムログイン

BIM BCFパネルから開きます。

BIM BCF**カスタムログイン**ダイアログボックスでは、クラウドサービスに接続して、図面上の問題についての共同作業を開始することができます。



1 ソースURL

2 ログイン

34.2.2.1 ソースURL

クラウドサービスを利用してBCFの問題を管理することは一般的に容易です。BricsCAD BIMからこれらのサービスに接続したい場合は、まずこれらのサービスのアカウントが必要です。これらにより、どこからでも課題を作成し、リアルタイムで管理することができます。

クラウドサービスに接続するには、**ソース URL**フィールドにURLを挿入します。

注：表示されるURLは、BCFSOURCEURLシステム変数に格納される、最後に使用された外部BIMコラボレーションサービスのWebアドレスを表示します。

34.2.2.2 ログイン

クラウドサービスに接続します。接続するメールアドレスとパスワードの入力を求められます。

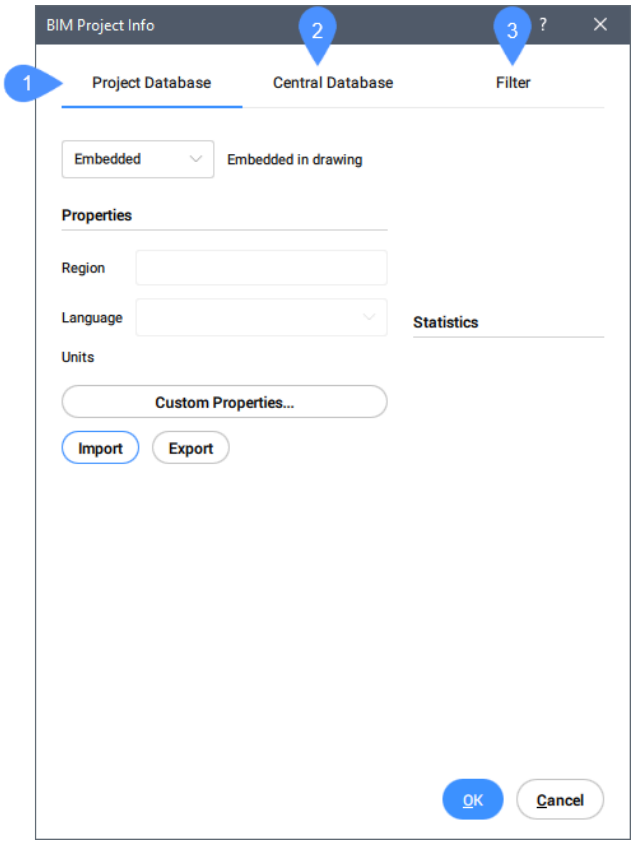
ログインに成功したら、ブラウザのウィンドウを閉じて、BricsCADで課題について共同作業を開始できます。

34.2.3 BIMプロジェクト情報

以下より開きます：

- BIMPROJECTINFOコマンド
- **BIM複合材**パネル

BIMプロジェクト情報ダイアログボックスには、プロジェクトデータベースとセントラルデータベースのプロパティ、マテリアル、複合材、プロファイル、および空間構造に関する情報が表示されます。データベースの読み込み/書き出しや、プロジェクトデータベースの埋め込み/外部の設定が可能です。BricsCADでBIMPROJECTINFOコマンドを起動すると、**BIMプロジェクト情報**ダイアログボックスが開いてタブやコンポーネントが表示されます。BIMモデルのプロジェクトデータベースとライブラリデータベースは、このダイアログボックスを使用して変更することができます。



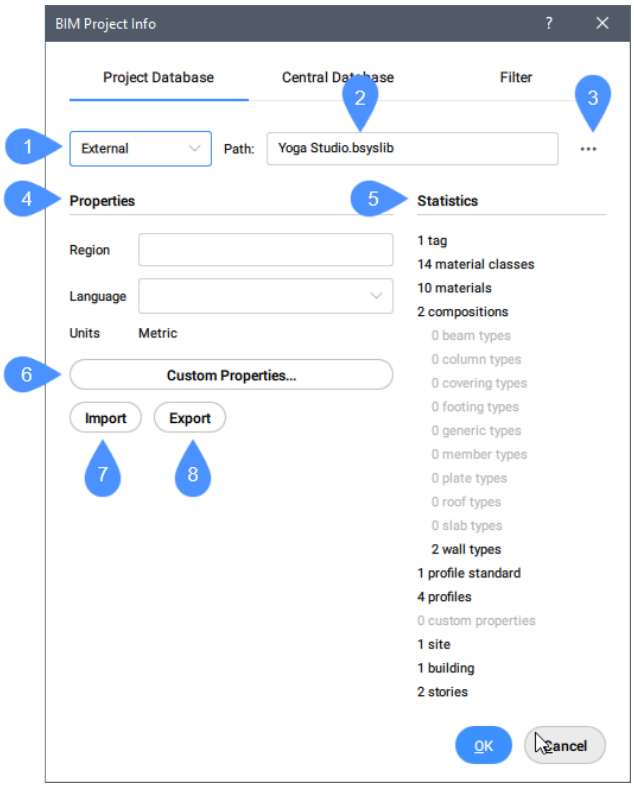
1 プロジェクトデータベース

2 セントラルデータベース

3 フィルター

34.2.3.1 プロジェクトデータベース

BIMプロジェクト情報を表示します。



1 プロジェクトデータベースのドロップダウンリスト

2 パス

3 ブラウズ

4 プロパティ

5 統計

6 カスタムプロパティ...

7 読み込み

8 書き出し

プロジェクトデータベースのドロップダウンリスト
埋め込みか、**外部**かを選択します。

埋め込み
図面ファイル内にプロジェクトデータベースを保存します。

外側
BIMデータベースファイル(.bsyslib)にプロジェクトデータベースを保存します。

注：外部データベースは、現在の図面からデータベースの独立を保持します。これは、例えば1つのモデルが複数の外部参照図面から構成されている場合など、複数のモデル間でデータベースを共有したい場合に特に有効です。

外部から**埋め込み**に切り替えると、外部ライブラリの内容が埋め込みプロジェクトライブラリにコピーされます。

パス
プロジェクトデータベースのパスを表示します。

ブラウズ
Bricsysライブラリの選択または作成ダイアログボックスが開きます。

プロパティ
地域、言語、単位は、BIMプロジェクトのプロパティです。

リージョン
リージョンフィールドに情報を記入します。

言語
ドロップダウンリストから言語を選択することができます。

単位
BIMプロジェクトで使用されている測定方法を表示します。(メートル法、インチ法)

統計
BIMモデルのカレントプロジェクトデータベースの場所、プロパティ、空間構造(建物数、階数など)、および内容を表示します。

カスタムプロパティ...
マテリアル及び複合材にカスタムプロパティを追加します。**カスタムプロパティを編集**ダイアログボックスを開きます(関連記事**カスタムプロパティを編集ダイアログボックス**を参照)。

読み込み
選択した*.xmlまたは*.csvライブラリファイルを読み込んで、プロファイルを追加するなど、プロジェクトのデータベースを拡張します。**読み込むxml/csvファイルを選択**ダイアログボックスが開きます。

書き出し
.xmlライブラリファイルを指定の場所に保存します。**保存するxmlファイルの場所を選択**ダイアログボックスが開きます。

34.2.3.2 セントラルデータベース

1 パス

2 ブラウズ

3 プロパティ

4 デフォルトとしてセット

5 統計

6 カスタムプロパティ...

7 読み込み

8 書き出し

パス
セントラルプロジェクトデータベースのパスを表示します。

ブラウズ
Bricsysライブラリの選択または作成ダイアログボックスが開きます。

プロパティ
地域、言語、単位は、BIMプロジェクトのプロパティです。

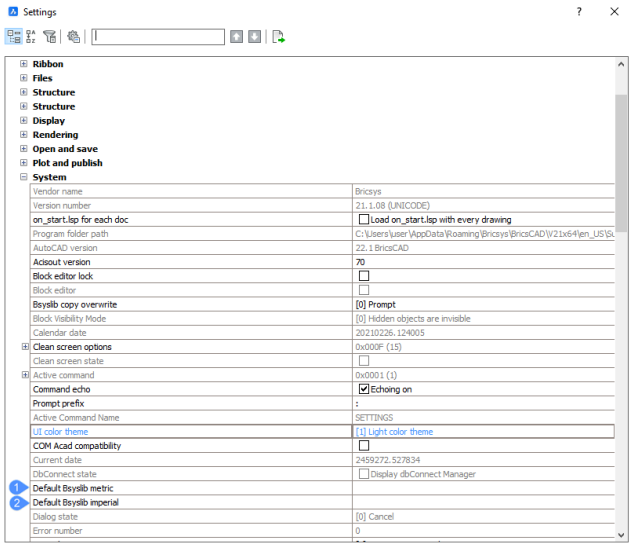
リージョン
リージョンフィールドに情報を記入します。

言語
ドロップダウンリストから言語を選択することができます。

単位
BIMプロジェクトで使用されている測定方法を表示します。(メートル法、インチ法)

デフォルトとしてセット
このオプションでは、選択したデータベースを次のプロジェクトのデフォルトライブラリデータベースとして設定することができます。

注：デフォルトのライブラリーデータベース設定は、**プログラムオプション** > **システム**の**設定**ダイアログボックスで編集できます。



統計
BIMモデルのセントラルプロジェクトデータベースの場所、プロパティ、空間構造(建物数、階数など)、および内容を表示します。

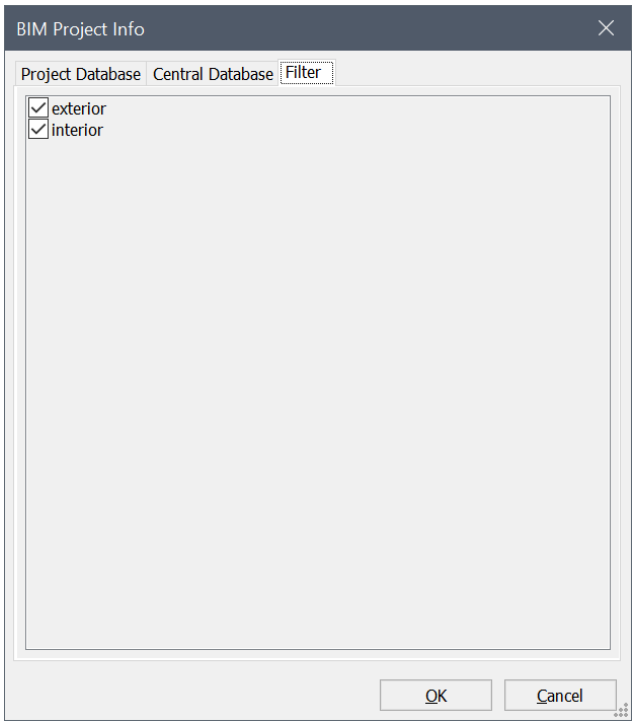
カスタムプロパティ...
マテリアルおよび複合材にカスタムプロパティを追加します。**カスタムプロパティ編集**ダイアログボックスが開きます。

読み込み
選択した*.xmlライブラリファイルを読み込みます。**読み込むxml/csvファイルを選択**ダイアログボックスが開きます。

書き出し
.xmlライブラリファイルを指定の場所に保存します。**保存するxmlファイルの場所を選択**ダイアログボックスが開きます。

34.2.3.3 フィルター

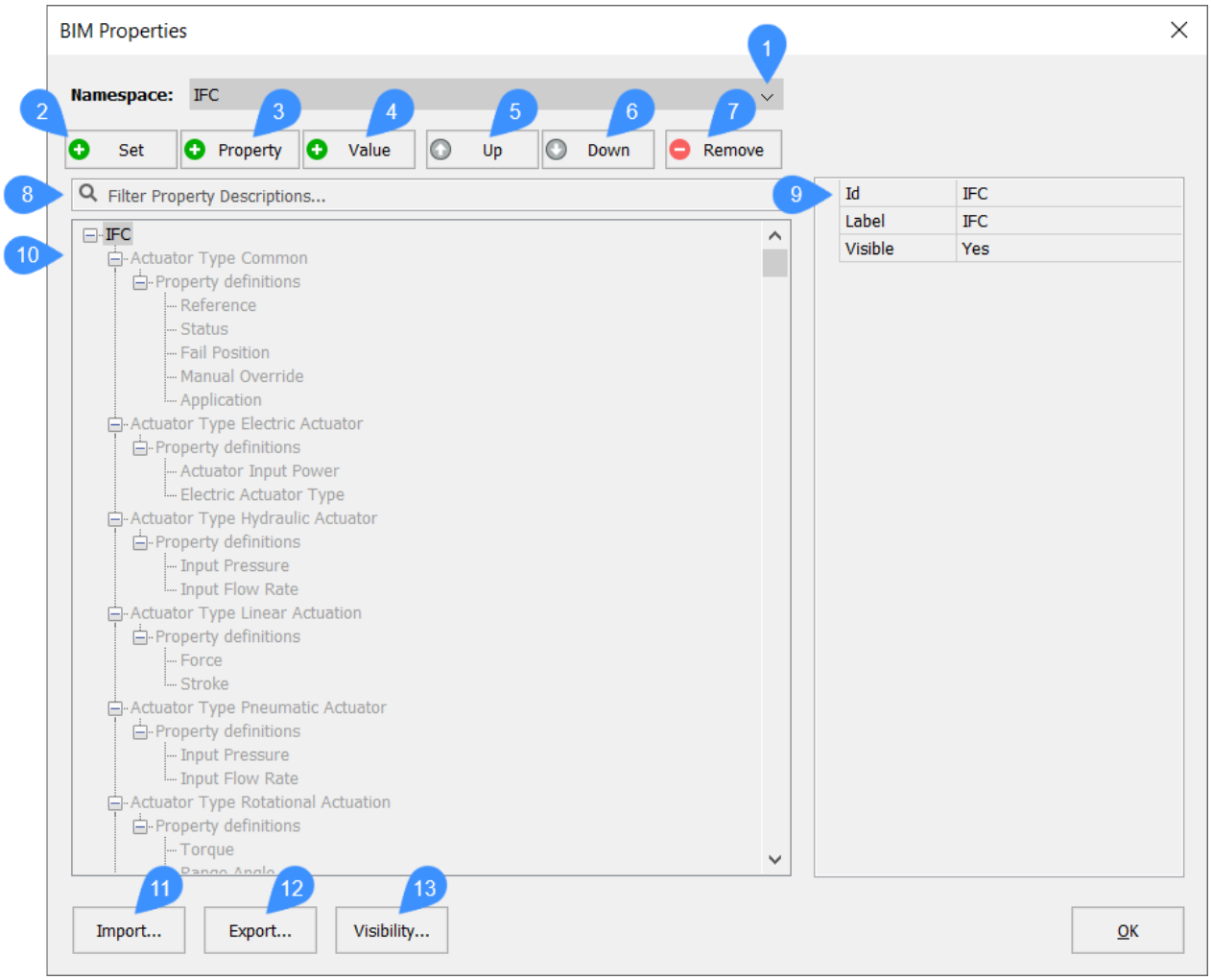
フィルターで使用するタグを確認します。



34.2.4 BIMプロパティ

BIMPROPERTIESを実行して開きます。

BIMプロパティダイアログボックスでは、プロパティの定義を作成・編集・削除したり、プロパティセットでプロパティを整理することができます。



1 名前空間

2 セットを追加

3 プロパティを追加

4 値を追加

5 上

6 下

7 削除

8 フィルター

9 プロパティ

10 プロパティツリー

11 読み込み

12 書き出し

13 可視性

34.2.4.1 名前空間

デフォルトでは、3つの名前空間が利用可能です：

- **ユーザー**：ユーザー定義によるプロパティを作成することができます。
- **IFC**：1つの名前空間に、IFC2x3とIFC4のプロパティをマージして表示します。

  注：

  - これらIFCスキーマの違いは、IFC読み込みまたは書き出し時にバックグラウンドで処理されます。
  - BIM名前空間の静的属性は、動的属性の代わりに使用しないよう非推奨と表示されます。
- **数量**：数量のプロパティを表示します。読み取り専用です。

読み込みボタンを使用して、名前空間を読み込むこともできます。

- **分類システム**：建設業界で使用される標準の分類コードを使用してBIMモデルを整理することができます。

34.2.4.2 セットを追加

新しいプロパティセットを作成します。

34.2.4.3 プロパティを追加

現在選択しているプロパティセットへプロパティを追加することができます。

34.2.4.4 値を追加

新しい値の定義を作成します。

34.2.4.5 上

選択したプロパティや値を上方向に移動します。

34.2.4.6 下

選択したプロパティや値を下方向に移動します。

34.2.4.7 削除

選択したプロパティセット、プロパティ定義、値定義、名前空間を削除します。

注：名前空間を削除する場合は、警告メッセージが表示されます。

34.2.4.8 フィルター

入力した検索文字列がIDとラベルに含まれているプロパティのみを表示します。入力していくと、プロパティツリーの結果が絞り込まれます。

34.2.4.9 プロパティ

選択したプロパティセット、プロパティ定義、値定義を表示します。

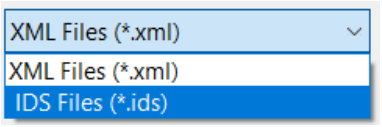
注：プロパティ定義に表示ルールを適用することができます。プロパティまたはプロパティセットの表示を、別のプロパティの値に依存させることができます。

34.2.4.10 プロパティツリー

選択したプロパティセット、プロパティ定義、値定義を表示します。

34.2.4.11 読み込み

XMLまたはIDS-XMLスキーマ定義に基づいてプロパティ定義を読み込みます。**読み込むXMLファイルを選択**ダイアログボックスが開き、読み込むファイル(XMLまたはIDS)を選択することができます。



BIMプロパティのXMLファイルを生成するためのXSD(XML Schema Definition)ファイルを用意しました。?????ダウンロードしてください。

IDS-XMLプロパティ定義には、IFCプロパティ(buildingSMART®が定義)、カスタムプロパティ、IFC属性が含まれており、IDS名前空間を作成します。IFC PsetのプロパティにないプロパティがあIDSファイルに含まれていた場合、新規のプロパティ定義としてIDS名前空間に追加されます。

注:

- IDSファイルを読み込むと、SHOWIDSPROPERTIESONLYシステム変数が自動的にオンになります。また、**表示**ダイアログボックスの**IDSプロパティ**オプションがオンになります。
- SHOWIDSPROPERTIESONLYシステム変数がオンの場合、**プロパティ**パネルには、IDS名前空間に追加されたカスタムプロパティとIDSファイルに含まれるIFC名前空間のIFCプロパティのみが表示されます(読み込んだIDSファイルの中で指定されていないIFCプロパティはすべて非表示になります)。

34.2.4.12 書き出し

有効な名前空間(ドロップダウンメニューで選択)のみをXMLファイルに書き出し、そのプロパティセット(プロパティ/数量)をIFCEXPORTIDSPROPERTIESONLYシステム変数で指定します。

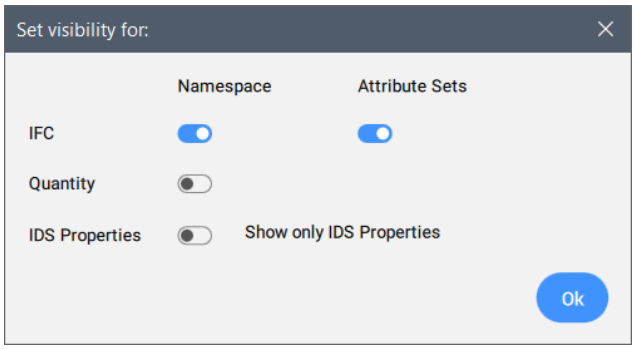
- 有効な名前空間のプロパティをすべて書き出します(オフ)。
- 読み込んだIDSファイルに記述されている有効な名前空間のIFCプロパティとカスタムプロパティのみを書き出します(オン)。

このファイルは、別の図面で読み込むことができます。

注:IFCEXPORTMULTIPLYELEMENTSASAGGREGATEDシステム変数がオンに設定されている場合、可視のPly-elementの値定義も書き出されます。

34.2.4.13 可視性

IFC**名前空間**と**属性セット**、**数量**と**IDSプロパティ**の表示のオンとオフを切り替えることができます。



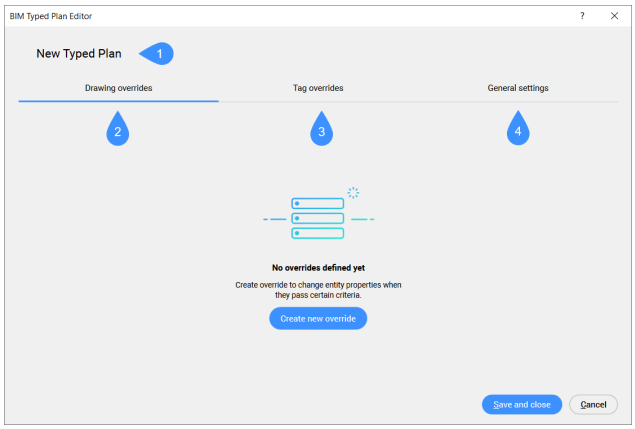
注：IDSプロパティを切り替えると、SHOWIDSPROPERTIESONLYシステム変数の値が変更されます。

34.2.5 BIMタイププラン編集

以下より開きます：

- **BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**ファイル**タブにリストされているタイププランをダブルクリックします。
- **BIMタイププラン**ダイアログボックスに一覧表示されているタイププランをクリックします。

BIMタイププラン編集ダイアログボックスでは、既存のタイププランを編集することができます。



1 タイププラン名

2 図面のオーバーライド

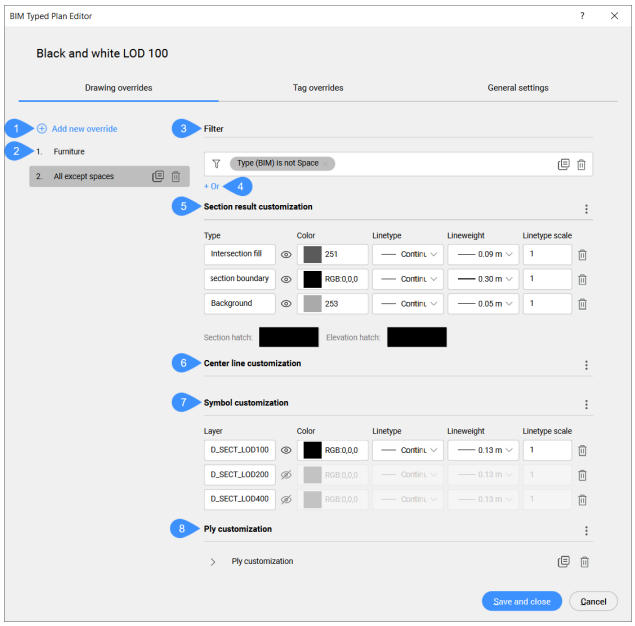
3 タグのオーバーライド

4 一般的な設定

34.2.5.1 タイププラン名

編集するには、選択したタイププランの名前を指定します。選択したタイププラン名をクリックして名前を変更し、**Enter**を押します。

34.2.5.2 図面のオーバーライド



1 新規オーバーライド追加

2 図面のオーバーライドリスト

3 フィルター

4 新しいフィルターを追加

5 断面結果のカスタマイズ

6 中心線のカスタマイズ

7 シンボルのカスタマイズ

8 プライのカスタマイズ

新規オーバーライド追加

トップダウンの図形フィルターとして機能する新しいオーバーライド要素をリストに追加します。図形がリスト内の基準に適合すると、残りのオーバーライドはチェックされなくなります。

注：リストの順序は重要であるため、最も具体的なフィルター行から始めて、より広範なフィルター行を追加することをお勧めします。たとえば、最後のフィルター行を、フィルター式を指定しないことで、他のすべての要素を包含するように汎用的なままにすることもできます。

図面のオーバーライドリスト

図面オーバーライドの階層的に整理されたリストを表示します。リスト内のオーバーライドの位置を並べ替えるには、目的の位置までドラッグアンドドロップします。

フィルター

選択した図形に、ドロップダウンリストから1つまたは複数のパラメータフィルターを追加して、フィルタリングできます。フィルター行を追加して、複数のパラメータの組み合わせでフィルター処理できます。これらの行は、論理「OR」演算を使用して区切られます。行は、コピー記号をクリックしてコピーすることも、削除記号をクリックして削除することもできます。

注：BIMプロジェクトで、外部ファイルBSYSLIBとして保存したプロジェクトデータベースを使用している場合のみ、タイププランでユーザー定義プロパティをフィルターとして使用することができます。プロジェクトデータベースとセントラルデータベースの詳細については、**BIMデータ構造**と**BIMプロジェクト情報**の記事を参照してください。

新しいフィルター行を追加
+またはボタンをクリックして、新しいフィルター行を追加します。

断面結果のカスタマイズ
断面結果のカスタマイズでは、断面生成アルゴリズムによって処理されている各要素の行がどのようになるかをカスタマイズできます。
コンテキストメニューボタンをクリックして、メニューオプションを開きます：

カスタマイズを追加
カスタマイズを追加の横の矢印をクリックして、カスタマイズタイプ(**背景**、**交差境界**、**交差塗りつぶし**、**立面塗りつぶし**、**隠線**、**ジオメトリの切り取り**)のドロップダウンリストを開きます。任意のタイプをクリックして**断面結果のカスタマイズ**に追加すると、線の表示、色、線種、線の太さ、尺度をカスタマイズすることができます。

ハッチングをオーバーライド
図形のハッチングの外観(断面図と立面図)を指定できるため、**物理的マテリアル**ライブラリ内ですでに定義されている既定のハッチングパターンは使用できません。選択すると、**断面結果のカスタマイズ**に**断面ハッチング**と**立面ハッチング**のオプションが表示されます。ここでハッチングパターンをクリックすると、**マテリアルパターンを編集**ダイアログが開き、さらにハッチングを編集できます。

注：**タイププラン**テンプレートの一部として、**プロジェクト内**カテゴリに新しい**物理的マテリアル**の項目を作成すると、希望する設定が図面プロジェクトとは別に、代わりにテンプレートに保存されます。このテンプレートは、後で他のプロジェクトのモデルにも自由に適用できます。

プライへの適用
さらに、**プライへの適用**にチェックを入れると、適切な場合には、カスタマイズが図形複合材内のプライに適用できます。

中心線のカスタマイズ
中心のカスタマイズは、平面図形または線形図形の中心の外観を決定します。結果として得られる中心線(たとえば平面図で壁の中心面を切断した場合)は、カスタマイズが可能です。

注：これらの中心要素の可視性を調整するデフォルトの設定はなく、通常、断面結果には表示されません。

シンボルのカスタマイズ
コンテキストメニューボタンをクリックして、メニューオプションを開きます：

外部ファイルを選択...
外部シンボルソースをセットダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、DWGファイル形式の外部シンボル図面を選択できます。これにより、保存したシンボルのカスタマイズを外部シンボルソース内の特定の画層に適用できます。

新しい外部ファイルを作成...
新しい外部シンボルソースダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、外部シンボル図面をDWGファイル形式で保存できます。これにより、デフォルトのシンボルテンプレートに新しいシンボルを作成できます。

カスタマイズを追加
新しいシンボルのカスタマイズ線を追加します。これにより、シンボルを含む画層の名前をフィルタリングし、それらの画層の線分の外観を編集できます。

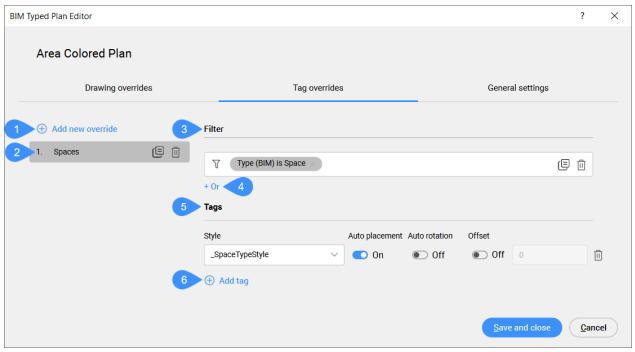
プライのカスタマイズ
プランビューで特定のタイプのプライのみを表示するために使用できます。簡単な例は、構造平面図内の構造プライのみの表示させることです。コンテキストメニューボタンをクリックして、メニューオプションを開きます。

プライのカスタマイズを追加
選択した図形に、ドロップダウンリストから1つまたは複数のパラメータフィルターを追加して、フィルタリングできます。プライのカスタマイズには、「構造機能あり」と「構造機能なし」という主な分類があらかじめ定義されています。フィルター行を追加して、複数のパラメータの組み合わせでフィルター処理できます。
フィルターの組み合わせごとに、プライのカスタマイズを定義できます。

34.2.5.3 タグのオーバーライド

タグのオーバーライドを使用すると、特定のタグを含む図形の表示を定義できます。**タグのオーバーライド**タブでは、設定を指定できます。

注：タイププラン内のオブジェクトにタグが定義されていない場合、_TagTypeToStyle.xmlで設定されたルールがフォールバックルールとして使用されます。



1 新規オーバーライド追加

2 タグのオーバーライドリスト

3 フィルター

4 新しいフィルター行を追加

5 タグ

6 タグを追加

新規オーバーライド追加

リストに新しいタグオーバーライド要素を作成します。デフォルトのテンプレート名は**新規オーバーライド**で、ハイライト表示されています。カスタム名を入力して**Enter**を押して保存します。

注：作成されたオーバーライドは、コピーアイコンをクリックしてコピーするか、削除アイコンをクリックして削除できます。オーバーライドの名前を変更するには、その名前をダブルクリックします。

タグのオーバーライドリスト

タグオーバーライドの階層的に整理されたリストを表示します。リスト内のオーバーライドの位置を並べ替えるには、目的の位置までドラッグアンドドロップします。

フィルター

タグオーバーライドのフィルタールールを編集できます。前述の図形オーバーライドのフィルタールールの変更と同様です。

注：BIMプロジェクトで、外部ファイルBSYSLIBとして保存したプロジェクトデータベースを使用している場合のみ、タイププランでユーザー定義プロパティをフィルターとして使用することができます。プロジェクトデータベースとセントラルデータベースの詳細については、**BIMデータ構造**と**BIMプロジェクト情報**の記事を参照してください。

新しいフィルター行を追加

+またはボタンをクリックして、新しいフィルター行を追加します。

タグ

タグのカスタマイズを追加および編集できます。タグのカスタマイズを削除することもできます。さまざまな図形タイプのカスタマイズを追加することで、いくつかの特性を含むカスタマイズされたスタイルを定義できます。

スタイル
タグスタイルを指定できます。

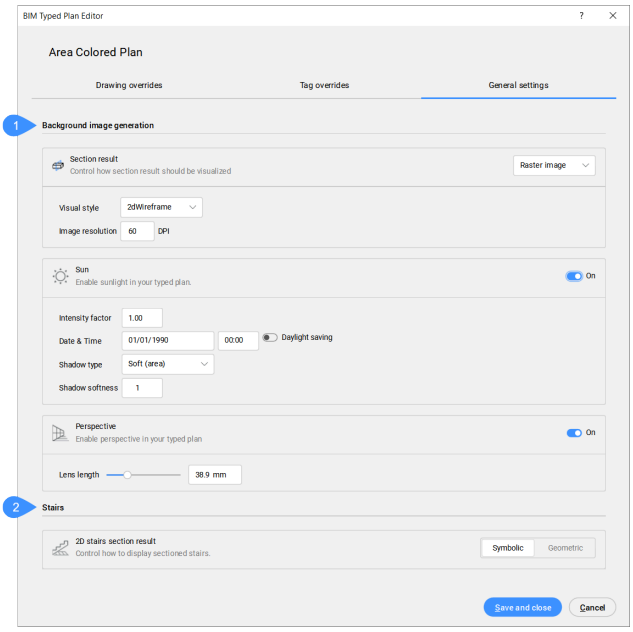
自動配置
タグの配置を自動的に定義するかどうかを指定します。

自動回転
タグの回転を自動的に定義するかどうかを指定します。

オフセット
タグをオフセット付きまたはオフセットなし、およびオフセット値とともに配置するかどうかを指定します。

タグを追加
タグのカスタマイズを追加および編集できます。

34.2.5.4 一般的な設定



1 背景イメージの生成

2 階段

背景イメージの生成

断面結果
ドロップダウンメニューから1つのオプションを選択して、断面結果の視覚化方法をコントロールできます：

- **線画**：断面結果を線画で表示します。
- **線画+ラスターイメージ**：断面結果を、線画の背景にラスターイメージを追加して表示します。
- **ラスターイメージ**：断面結果をラスターイメージで表示します。

表示スタイル
ドロップダウンメニューから表示スタイルを選択できます。

画像解像度
生成するイメージのDPI解像度を設定します。

注：**表示スタイル**と**画像解像度**は、断面結果の表示タイプが**線画 + ラスタイメージ**と**ラスターイメージ**の場合のみ設定することができます。

太陽

背景画像の太陽の設定は、**オン**と**オフ**を切り替えることができます。**オン**にすると、以下の設定が使用できます：

- **強度係数**：太陽の明るさを設定します。数値が高いほど光は明るくなります。
- **日時**：日付を編集して一年のうちの異なる時期の太陽を表示します。時間を編集して一日のうちの異なる時間帯の太陽を表示します。夏時間の効果の**オン/オフ**を切り替えることもできます。
- **影の種類**：ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
  - **ソフト(領域)**：拡散した光源によるやわらかい輪郭のリアルな影を、**ぼかし**を指定して表示します。
  - **シャープ**：シャープな輪郭の影を表示します。
- **影ぼかし**：影のサンプリングサイズを指定します。数値が大きいと精緻な影になりますが、レンダリングに時間がかかります。

パース

背景画像の遠近表示モードを有効にできます。

- **焦点距離**：レンズの焦点距離を設定します。

階段

2D階段の断面結果

断面生成中のBIM階段図形の2D表現の生成をコントロールできます。

- **シンボリック**：BIM階段の断面生成にシンボリック2D表現が使用されます。
- **ジオメトリック**：BIM階段の断面生成にジオメトリック2D表現が使用されます。

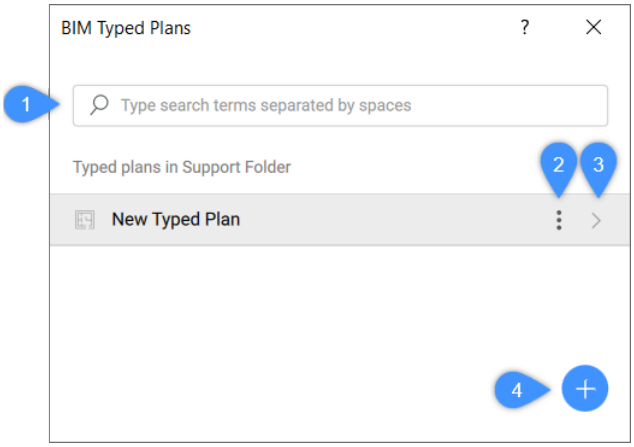
注：この設定は、AUTOMATICSTAIRSECTIONBEHAVIORシステム変数よりも優先されます。

詳細については、コマンドリファレンスの**BIMGENERATE2DSTAIR**コマンドの記事を参照してください。

34.2.6 BIMタイププラン

TYPEDPLANSコマンドを実行して開きます。

BIMタイププランダイアログボックスには、サポートフォルダー内のすべてのタイププランが一覧表示されます。



1 検索

2 コンテキストメニュー

3　タイププランの編集

4　タイププランを追加

34.2.6.1　検索

検索ボックスに入力した単語に一致するすべてのタイププランを検索します。

34.2.6.2　コンテキストメニュー

クローン
選択したタイププランのコピーを作成します。

削除
選択したタイププランを削除します。

名前変更
選択したタイププランの名前を編集します。Enterを押して変更を保存します。

34.2.6.3　タイププランの編集

選択したタイププランを編集する**BIMタイププラン編集**ダイアログボックスを開きます。

注：また、リストでタイププランの名前をクリックして、**BIMタイププラン編集**を開くこともできます。

34.2.6.4　タイププランを追加

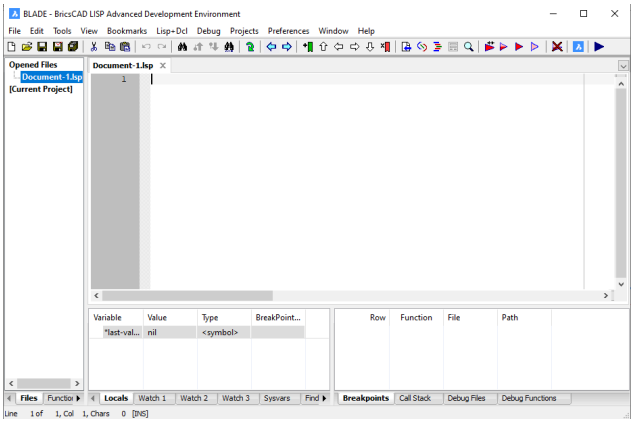
新しいタイププランを作成します。

ボタンをクリックし新規作成します。デフォルトでは、タイププラン名は**新規タイププラン**と表示され、文字がハイライトされます。タイププランに関連する名前に変更し、**Enter**を押して変更を保存しします。追加したタイププランはアルファベット順にソートされます。スクロールボタンを使用すると、リスト内を移動することができます。

34.2.7　BLADE - BricsCAD LISP advanced development environment

BLADEコマンドを実行して開きます。

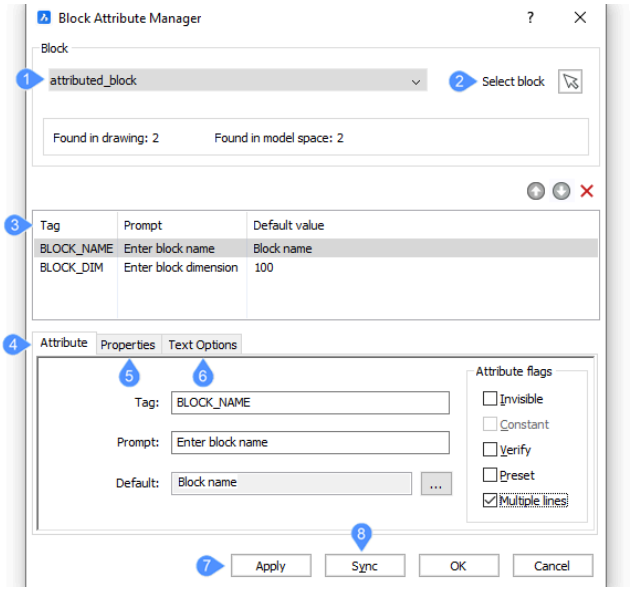
BLADE(BricsCAD LISP Advanced Development Environment)ダイアログボックスでは、LISPアプリケーションの編集やデバッグを行うことができます。



34.2.8 ブロック属性管理

BATTMANコマンドを実行して開きます。

ブロック属性管理ダイアログボックスでは、ブロック定義の属性のすべてのアスペクトを編集し、オプションで図面内の同名のすべてのブロックに変更を適用することができます。



1 ブロック名

2 ブロックを選択

3 属性リスト

4 属性タブ

5 プロパティタブ

6 文字オプションタブ

7 適用

8 同期

34.2.8.1 ブロック名

編集したい属性のブロックを図面から選択します。

ドロップダウンリストからブロックを選択することができます。

34.2.8.2 ブロックを選択

図面上からもブロックを選択することができます。

34.2.8.3 属性リスト

リストから属性を選択します。タグ、プロンプト、デフォルト値が含まれます。

：属性をリストの上に移動させます。

：属性をリストの下に移動します。

×：ブロックの上の属性を削除します。

34.2.8.4　属性タブ

選択した属性の定義を編集することができます。

属性フラグは5種類あります：

- **非表示**：属性は見えなくなり、表示も印刷もされません。ただし、非表示属性は ATTDISPコマンドで再表示することができます。
- **定数**：ユーザーが変更できないデフォルト値を指定します。
- **確認**：ユーザーに2度、値を入力させることで、値が正しく入力されているかどうかを確認します。
- **プリセット**：ユーザーに促されることなく属性を挿入します。属性はATTEDITコマンドで後から変更できます。
- **マルチテキスト**：チェックすると、複数行のテキストの使用が可能になります。

34.2.8.5　プロパティタブ

プロパティタブでは、選択した属性のプロパティを編集することができます。

34.2.8.6　文字オプションタブ

文字オプションタブでは、選択した属性の文字プロパティを編集することができます。

34.2.8.7　適用

変更内容をブロック定義に適用し、ダイアログボックスを開いたまま、属性を編集したい別のブロックを選択します。

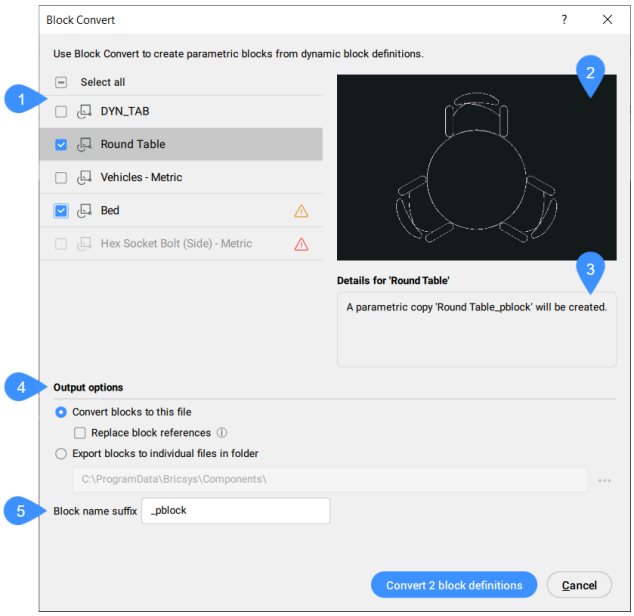
34.2.8.8　同期

図面上の同じブロックのすべてのインスタンスに変更を適用します。

34.2.9　外部参照にするブロック

BLOCKCONVERTコマンドを実行して開きます。

ブロック変換ダイアログボックスでは、カレント図面でAutoCAD®のダイナミックブロックを選択して、BricsCADのパラメトリックブロックに変換することができます。



1 ブロックのリスト

2 プレビュー

3 詳細

4 出力オプション

5 ブロック名のサフィックス

ブロックのリスト

カレント図面に存在するすべてのAutoCAD®ダイナミックブロックが一覧表示されます。BricsCADパラメトリックブロックに変換するブロックを個別にチェックするか、**すべて選択**オプションにチェックを入れてすべてのブロックを選択します。

注：変換できないブロック、または部分的に変換できるブロックには、それぞれ赤または黄色の警告記号が付けられます。

プレビュー

リストで現在選択されているブロックのプレビューを表示します。

詳細

選択したブロックを変換できるかどうかに関する情報を表示します。ブロックを変換できない場合は、サポートされていないフィーチャがリストされます。

ブロックによっては、変換時に情報の一部が失われます。この場合、警告メッセージが詳細セクションに表示されます。

出力オプション

ブロックをこのファイルに変換

ダイナミックブロックをカレントファイル内のパラメトリックブロックに変換します。

ブロック参照を置換

チェックボックスをオンにすると、選択したダイナミックブロックに対するすべての参照がパラメトリックブロックに対する参照に置き換えられます。すべてのパラメータ値が保持されます。

注：このオプションは、**フォルダー内の個々のファイルにブロックを書き出す**オプションがオフの場合にのみ使用できます。

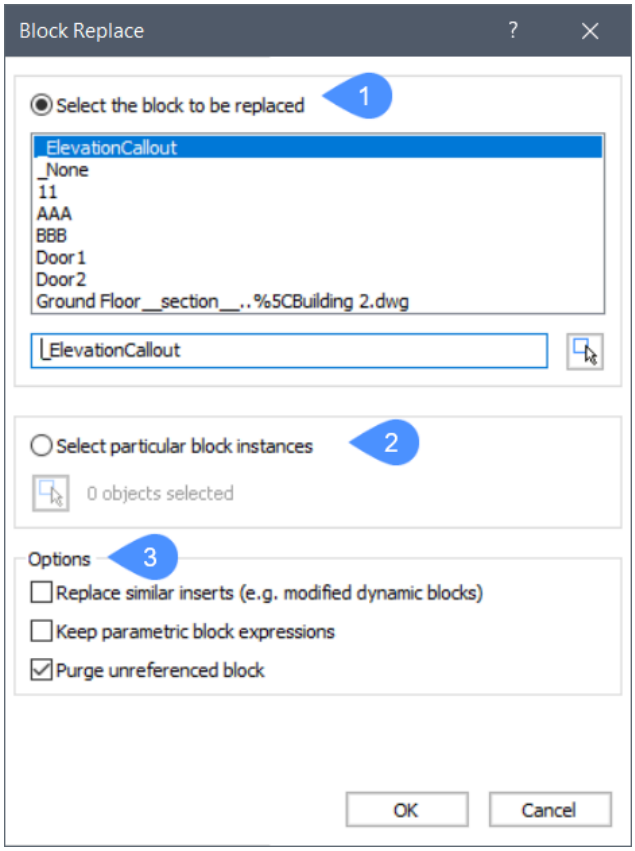
フォルダー内の個々のファイルにブロックを書き出す
このチェックボックスにチェックを入れると、変換したブロックが指定したフォルダーに書き出されます。ブロックをデフォルトのC:¥ProgramData¥Bricsys¥Componentsフォルダーに書き出すと、**ライブラリ**パネルからブロックにアクセスできるようになります。**ブラウズ...**ボタンをクリックすると、**書き出したブロックを保存するフォルダーを選択**が開き、別のフォルダーを指定できます。

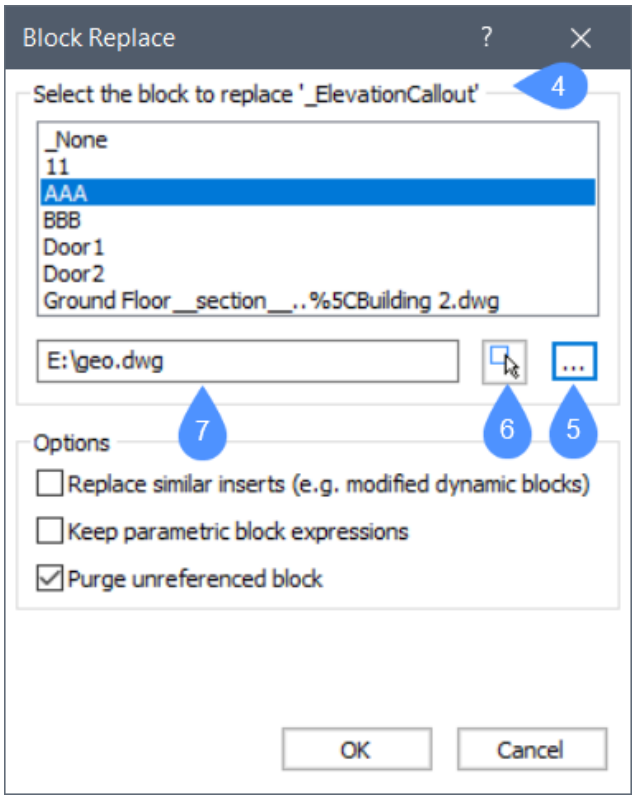
ブロック名のサフィックス
デフォルトのブロック名接尾辞を変更できます。接尾辞として最後に使用された名前が記憶されます。

34.2.10　ブロックを置換

BLOCKREPLACEコマンドを実行して開きます。

ブロックを置換ダイアログボックスでは、特定のブロックインスタンスを他のブロックに置換することができます。





1 外部参照に置換するブロックを選択

2 特定のブロックインスタンスを選択

3 オプション

4 選択したブロックインスタンスを置換するブロックを選択

5 ブロック名の代わりに.dwgもしくは.dxfファイルを選択

6 ブロックをクリックして選択

7 ブロック名

34.2.10.1 外部参照に置換するブロックを選択

置換するブロックを名前で選択します。

注：ダイナミックブロックのモディファイド(匿名)インスタンスは、名前で選択することはできません。

34.2.10.2 特定のブロックインスタンスを選択

置換対象となる変更された(匿名)ダイナミックブロックインスタンスを含む、任意のブロックインスタンスを選択します。

34.2.10.3 オプション

類似ブロックを置換
ダイナミックブロックのすべての変更された(匿名の)インスタンスと変更されていないインスタンス、および選択された非ダイナミックブロックのすべてのインスタンスを置換します。

パラメトリックブロック式を保持
置換元ブロックと置換先ブロックが同じ名前のパラメータを持つ場合、古いブロックの式を維持することができます。

参照していないブロックの名前を削除する
参照されていないブロックインスタンスを削除します。

選択したブロックインスタンスを置換するブロックを選択

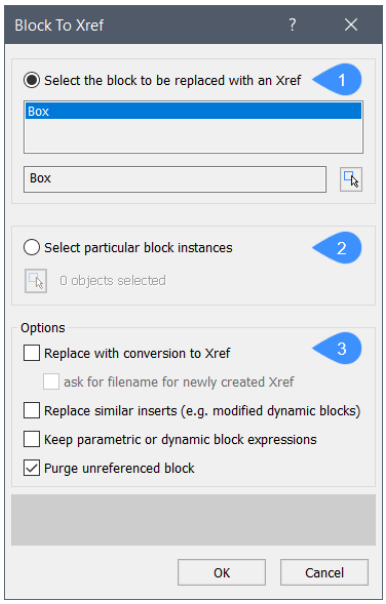
- リストからブロック名を選択します；
- (5).dwgまたは.dxfファイルを参照します。(ファイル名はブロック名になります)
- (6)ブロックをクリックして選択します。
- (7)新しいブロック名として使用される外部.dwgまたは.dxfのファイル名(例：fileName.dwg)を入力するか、新しいブロック名がファイル名と異なる場合は「blockName=fileName.dwg」と入力してください。
- **注**：fileName.dwgは、カレント図面と同様に同じ名前のブロックを持つことができます。この場合、ファイルからのブロックは、カレントの図面に既に存在する同じ名前のブロックを再定義することはありません。

  注：fileName.dwgファイルがサポートファイルの検索パスに存在しない場合、そのファイルのフルパスを示す必要があります。

34.2.11 外部参照にするブロック

BLOCKTOXREFコマンドを実行して開きます。

外部参照にするブロックダイアログボックスでは、特定のブロックインスタンスを他の外部参照ブロックに置換することができます。



1 外部参照に置換するブロックを選択

2 特定のブロックインスタンスを選択

3 オプション

34.2.11.1 外部参照に置換するブロックを選択

置換するすべてのブロックインスタンスを選択します。

34.2.11.2　特定のブロックインスタンスを選択

置換する特定のブロックインスタンスを図面から選択します。

34.2.11.3　オプション

外部参照への変換に置換
オン：まずブロックを保存し、その後ブロックを新しく作成した外部参照に置き換えます。
オフ：ブロックを外部参照に置換します。

作成した外部参照ファイルに名前を付ける
オン：**ブロックを保存**ダイアログボックスが表示され、外部参照に置換する前にブロックを保存します。

注：選択したブロック名がダイナミックブロック名で、**類似ブロックを置換する**オプションがオンの場合、変更されているすべてのダイナミックブロックが1つの外部参照に置換されます。選択したブロックが、変更されているダイナミックブロックのインスタンスで、**外部参照へ変換して置換する**オプションがオンの場合、新しく作成された外部参照には、デフォルトの(変更されていない)ダイナミックブロック定義が格納されます(WBLOCKコマンドで、名前のないブロック定義が保存されないのと同様です)。

オフ：元の図面の横にブロック名と同じ名前の新しい図面が作成されます。

類似ブロックを置換(例：変更されたダイナミックブロック)

注：このオプションはBLOCKREPLACEコマンドと同様に動作します。

オン：ブロックのすべてのインスタンスと、変更されたダイナミックブロックをすべて置換します。

注：

- **特定のブロックインスタンスを選択**がオンで、非ダイナミックブロックが選択されている場合、同じブロック名を持つすべてのインスタンスが外部参照に置換されます。
- **特定のブロックインスタンスを選択**を選択して**外部参照へ変換して置換する**オプションもオンの場合、1つのブロックに対して複数の外部参照ファイルとブロック定義が作成される可能性があるため、このオプションは変更できません。

オフ：匿名の(変更された)ダイナミックブロックを外部参照で置換することはできません。

注：**特定のブロックインスタンスを選択**を選択すると、選択したインスタンスのみが外部参照に置換されます。

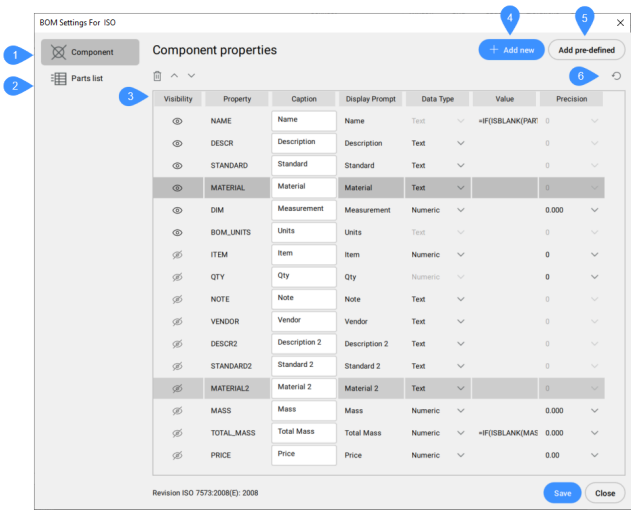
パラメトリックブロックまたはダイナミックブロックの式を保持する
置換後のブロックが同名のパラメータを持つ場合、置換後のブロックの式を保持します。

参照していないブロックの名前を削除する
参照されていないブロックインスタンスを削除します。

34.2.12　部品表設定

AMBOMSETTINGSコマンドを実行して開きます。

パーツ参照(パーツ参照)プロパティを設定し、パーツ一覧のデフォルトプロパティと部品表のデータキャプチャを設定します。



1 コンポーネント

2 パーツ一覧

3 プロパティのリスト

4 新規追加

5 定義済みを追加

6 デフォルトに戻す

34.2.12.1 コンポーネント

パーツ参照に表示されるコンポーネントのプロパティのリストが含まれています。Ctrl / Shiftを押すと、さらに多くのプロパティを選択できます。

このリストの上には、削除、上へ移動、下へ移動の各アイコンがあり、行が選択されている場合、または選択された行を上下に移動できる場合にのみ使用できます。

34.2.12.2 パーツ一覧

パーツ一覧に表示される**パーツ一覧**プロパティのリストを表示します。

34.2.12.3 プロパティのリスト

可視性
パーツ参照ダイアログボックスと**パーツ一覧**ダイアログボックスのプロパティの表示を切り替えます。

プロパティ
コンポーネントプロパティのデフォルト名を表示します。部品表の列に一意の名前を付けることにより、式で参照されます。

キャプション
デフォルト表示されているプロパティ名を上書きして、パーツ一覧の各列のヘッダーを設定します。編集可能で、**パーツ参照**ダイアログボックスと**パーツ一覧**ダイアログボックスでコンポーネントプロパティの名前として表示されます。

注：変更は図面に保存されます。変更を後で使用したい場合、図面をテンプレート(DWT)ファイルとして保存しておいて新規図面で使用します。

プロンプトを表示
部品表またはパーツ一覧でこのプロパティに表示される、選択した列ヘッダーを表示します。

データタイプ
プロパティのデータタイプ(数値またはテキスト)を定義します

値
プロパティのデフォルト値を定義します。また、式を使用してプロパティを定義することもできます。

精度
プロパティの精度を定義します。

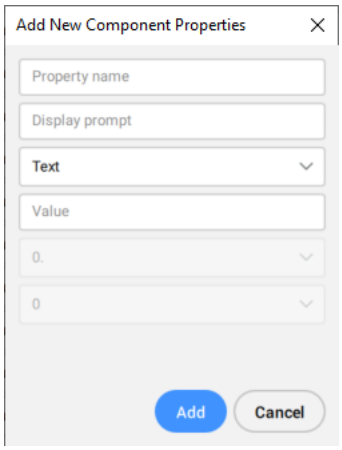
キャプション位置合わせ
セル内の列ヘッダー位置を定義します。

値位置合わせ
セル内の値の位置を定義します。

幅
セルの幅を定義します。

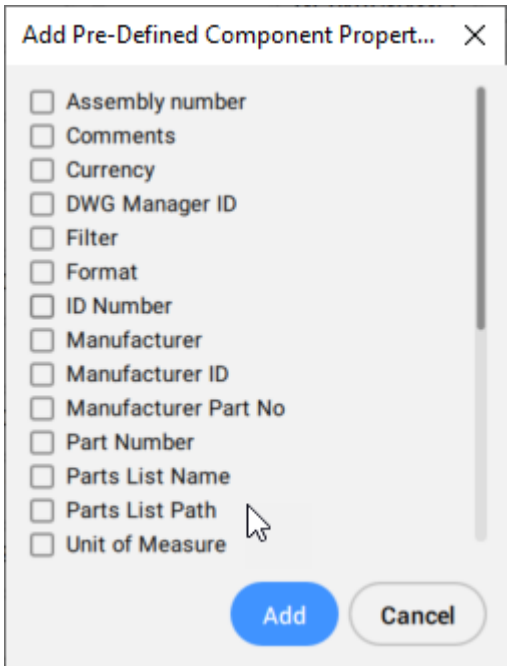
34.2.12.4 新規追加

新しいコンポーネントプロパティを列として部品表に追加します。**新しいコンポーネントプロパティを追加**ダイアログボックスが開きます。



34.2.12.5 定義済みを追加

新しい定義済みコンポーネントプロパティを列として部品表に追加します。**定義済みコンポーネントプロパティを追加**ダイアログボックスが開きます。



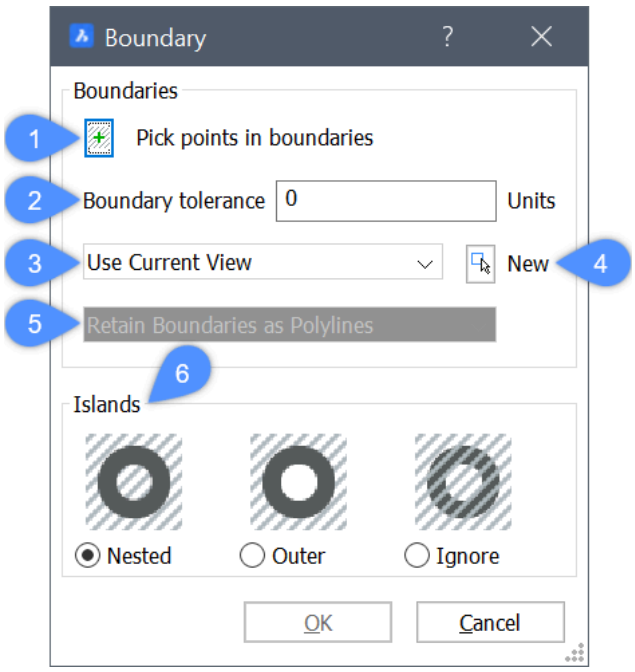
34.2.12.6 デフォルトに戻す

すべての設定をカレントの製図規格のデフォルト値にリセットします。

34.2.13 境界

BOUNDARYコマンドを実行して開きます。

境界ダイアログボックスでは、周囲の図形によって定義される閉じたポリラインを作成できます。



1 境界内の点をピック

2 境界許容差

3 境界セット

4 ファイルを追加

5 ポリラインとして境界を保持

6 島

境界内の点をピック
境界を作成したい、閉じた領域の中を指示します。**境界**ダイアログボックスは一時的に非表示になります。

境界許容差
BricsCADが閉じた領域とみなす、境界内の最大ギャップを指定します。

注：境界許容差が0の場合、ギャップは存在しません。

境界セット
BricsCADが境界を構成する図形を検索する場所を指定します。

- **カレントビューを使用**；カレントのビューポート内のすべての図形を検索します。
- **境界セットを使用**カレントの選択セットのみを対象に、可能な境界を検索します。

ファイルを追加
境界を構成する新しい図形の選択セットを作成します。**境界**ダイアログボックスは一時的に非表示になります。

ポリラインとして境界を保持
境界をどのように保持するかを示します。このオプションは読み取り専用です。

島
島の検出方法を指定します。島とは境界の内側にある閉じた領域のことです。

入れ子
すべての島を境界として扱います。

外側のみ
一番外側の図形のみの境界を作成します。

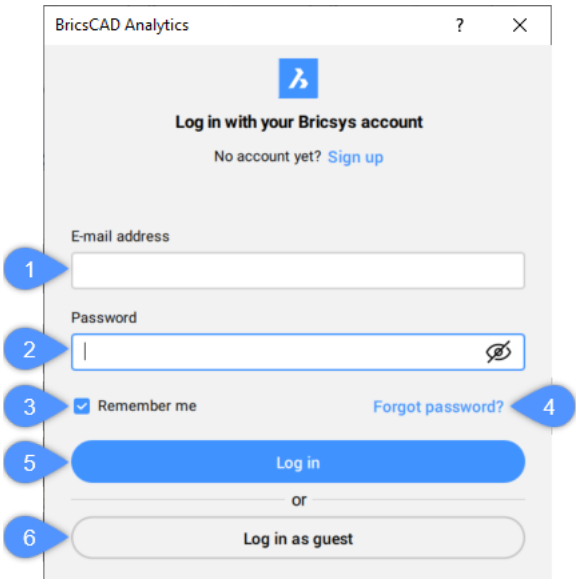
無視
最も内側の領域を無視します。境界は最も外側の領域と島の間に作成されます。

34.2.14 BricsCAD Analytics

以下より開きます：

- -LOGIN [ログイン]
- -LOGINUSAGEDATAPROGRAM [ログインダイアログを開く]

BricsCAD Analyticsダイアログボックスでは、Bricsysの個人アカウントでBricsCADにログインできます。



1 メールアドレス

2 パスワード

3 記憶します

4 パスワードをお忘れですか？

5 ログイン

6 ゲストとしてログイン

34.2.14.1 メールアドレス

お客様がBricsysアカウントに登録しているメールアドレスを入力します。

34.2.14.2 パスワード

パスワードを入力します。

34.2.14.3 記憶します

このボックスにチェックを入れると、常にログイン状態になります。

34.2.14.4 パスワードをお忘れですか？

新しいパスワードを設定する場合に、インターネットブラウザにリダイレクトします。

34.2.14.5 ログイン

個人のBricsysアカウントでログインします。

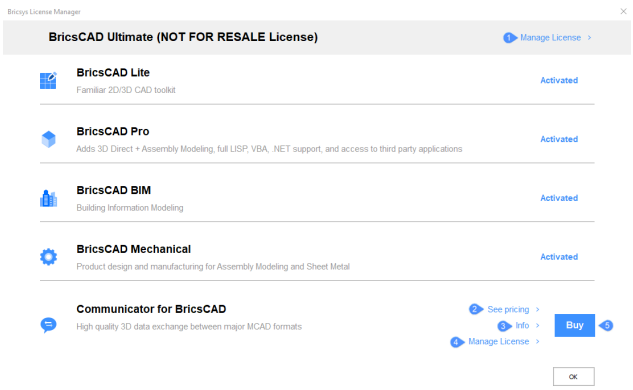
34.2.14.6 ゲストとしてログイン

ゲストとしてログインできます。

34.2.15 Bricsysライセンス管理

LICENSEMANAGERコマンドを実行して開きます。

Bricsysライセンス管理ダイアログボックスでは、BricsCADおよびCommunicator for BricsCAD®のソフトウェアライセンスをアクティベート/アクティベート解除できます。



1 ライセンス管理

2 価格を見る

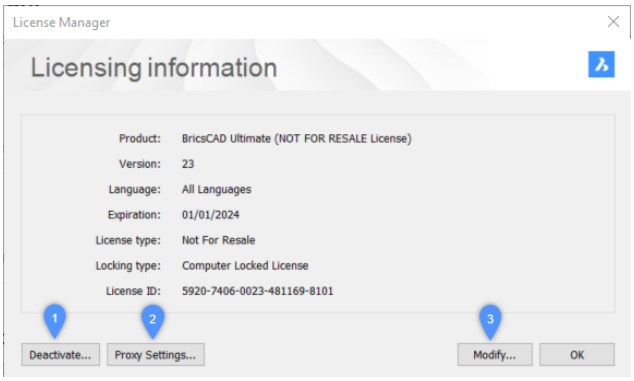
3 情報

4 選択した製品のライセンスを管理します。

5 購入

34.2.15.1 ライセンス管理

ライセンス管理ダイアログボックスが開きます。



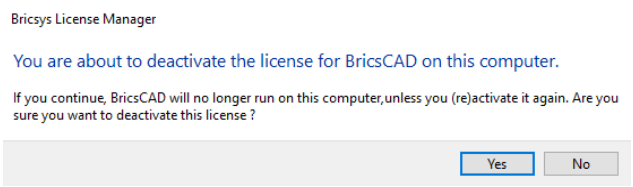
1 アクティベート解除

2 プロキシ設定...

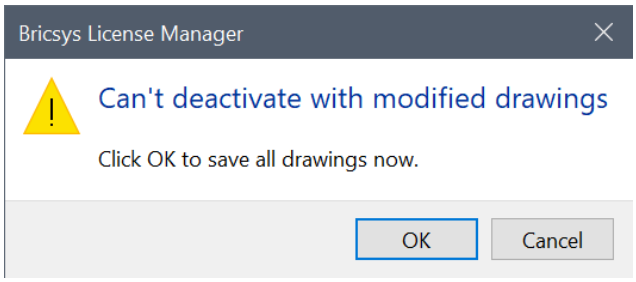
3 変更...

アクティベート解除

Bricsysライセンス管理ダイアログボックスが開き、アクティベート解除の確認が行えます。

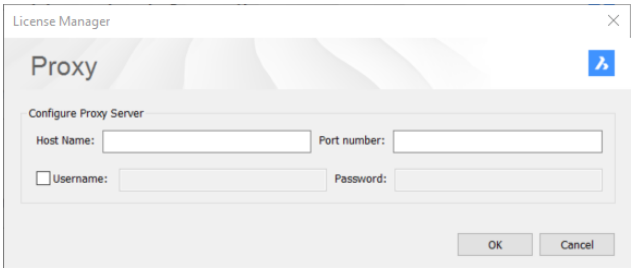


注：未保存の図面がある場合は、警告メッセージが表示されます。ライセンスをアクティベート解除する前に、すべての図面を保存する必要があります。

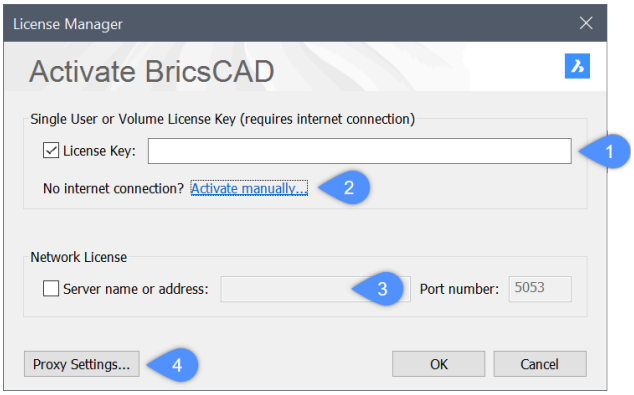


重要：BricsCADライセンスをアクティベート解除すると、セッションが閉じます。

プロキシ設定...
ライセンス管理ダイアログボックスを開き、プロキシサーバーの設定を行います。



変更...
Bricsysライセンス管理ダイアログボックスを開き、BricsCADをアクティベートするライセンスキーやネットワークライセンスを挿入したり、手動でアクティベートすることができます。



1 ライセンスキー

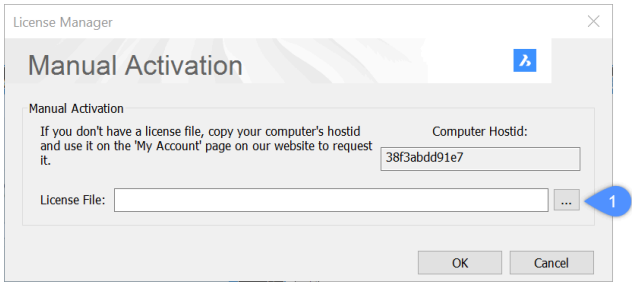
2 手動でアクティベート...

3 ネットワークライセンス

4 プロキシ設定...

ライセンスキー
インターネットに接続されている場合は、この入力欄にシングルユーザーライセンスキーまたはボリュームライセンスキーを入力できます。

手動でアクティベート...
手動アクティベート用のBricsys**ライセンス管理**ダイアログボックスを開き、ライセンスファイルを選択します。LICファイルは以下のパスにあります：C:¥ProgramData¥Bricsys¥BricsCADV25.lic



1　ライセンスファイルを選択

ライセンスファイルを選択
ライセンスファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

ネットワークライセンス
ネットワークライセンスを使用している場合は、ネットワークライセンスサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

プロキシ設定...
Bricsysライセンス管理ダイアログボックスが開くので、プロキシサーバーを設定します。

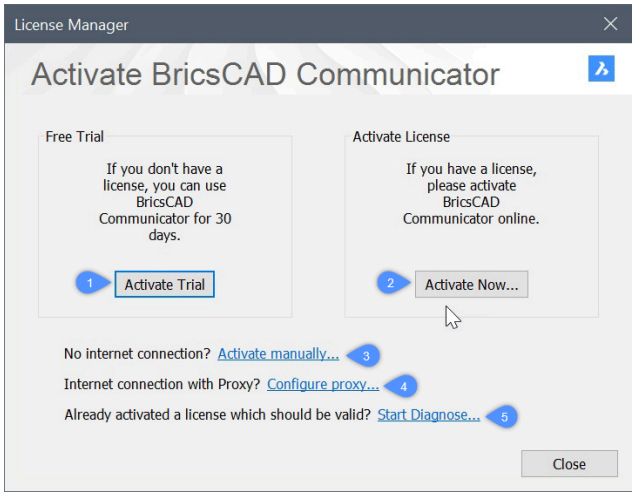
34.2.15.2　価格を見る

Bricsysの公式Webサイト(Bricsys)が開き、Communicator for BricsCAD®の価格、1年または3年のBricsCADサブスクリプションの価格を確認することができます。

34.2.15.3　情報

Communicator情報ダイアログボックスが開きます。詳細は、**コミュニケーター情報ダイアログボックス**の記事を参照してください。

34.2.15.4　選択した製品のライセンスを管理します。



1　体験版としてアクティベート

2 今すぐアクティベート

3 手動でアクティベート...

4 プロキシ設定...

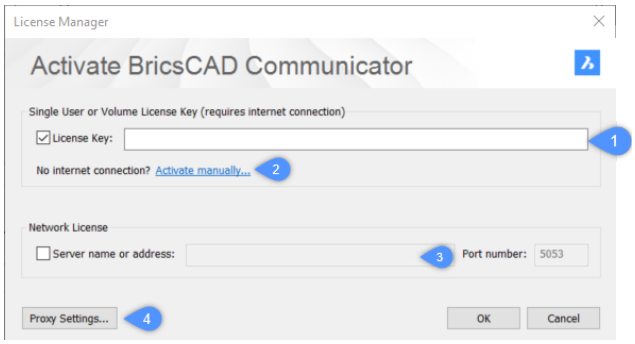
5 診断を開始...

体験版としてアクティベート

Communicator for BricsCAD®の30日間無料体験版をアクティベートします。

今すぐアクティベート

BricsCAD Communicatorをアクティベートする**ライセンス管理**ダイアログボックスが開きます。



1 ライセンスキー

2 手動でアクティベート...

3 ネットワークライセンス

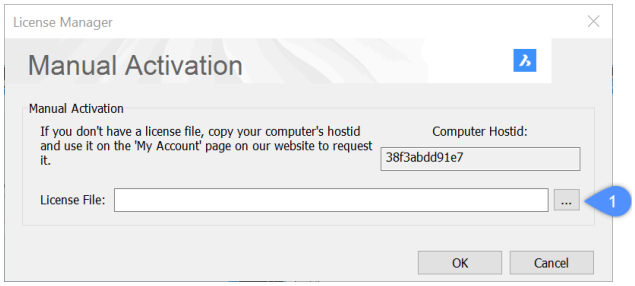
4 プロキシ設定

ライセンスキー

インターネットに接続されている場合は、この入力欄にシングルユーザーライセンスキーまたはボリュームライセンスキーを入力できます。

手動でアクティベート...

手動アクティベート用のBricsys**ライセンス管理**ダイアログボックスを開き、ライセンスファイルを選択します。LICファイルは以下のパスにあります：C:¥ProgramData¥Bricsys¥BricsCADV25.lic



1 ライセンスファイルを選択

ライセンスファイルを選択

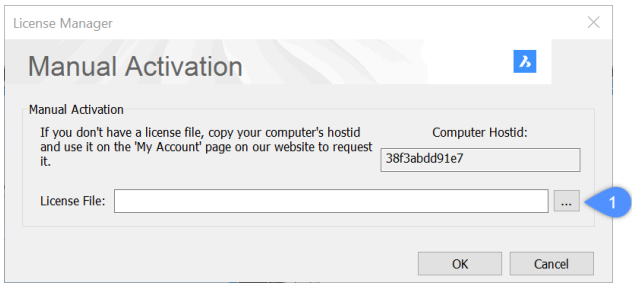
ライセンスファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

ネットワークライセンス

ネットワークライセンスを使用している場合は、ネットワークライセンスサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

プロキシ設定...
プロキシサーバーを設定するために**ライセンス管理**ダイアログボックスを開きます。

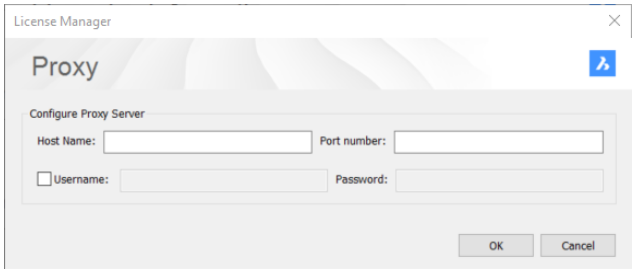
手動でアクティベート...
ライセンス管理ダイアログボックスが開くので、Communicator for BricsCAD®をアクティベートしてください。



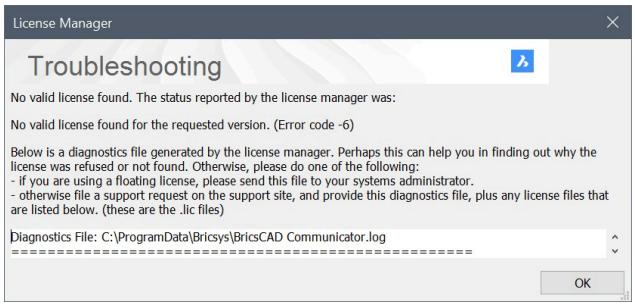
1 ライセンスファイルを選択

ライセンスファイルを選択
ライセンスファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

プロキシ設定...
ライセンス管理ダイアログボックスを開き、プロキシサーバーの設定を行います。



診断を開始...
トラブルシューティングを行う**ライセンス管理**ダイアログボックスが開きます。



34.2.15.5 購入

Bricsysの公式Webサイト(Bricsys)が開き、BricsCADの購入またはサブスクリプションができます。

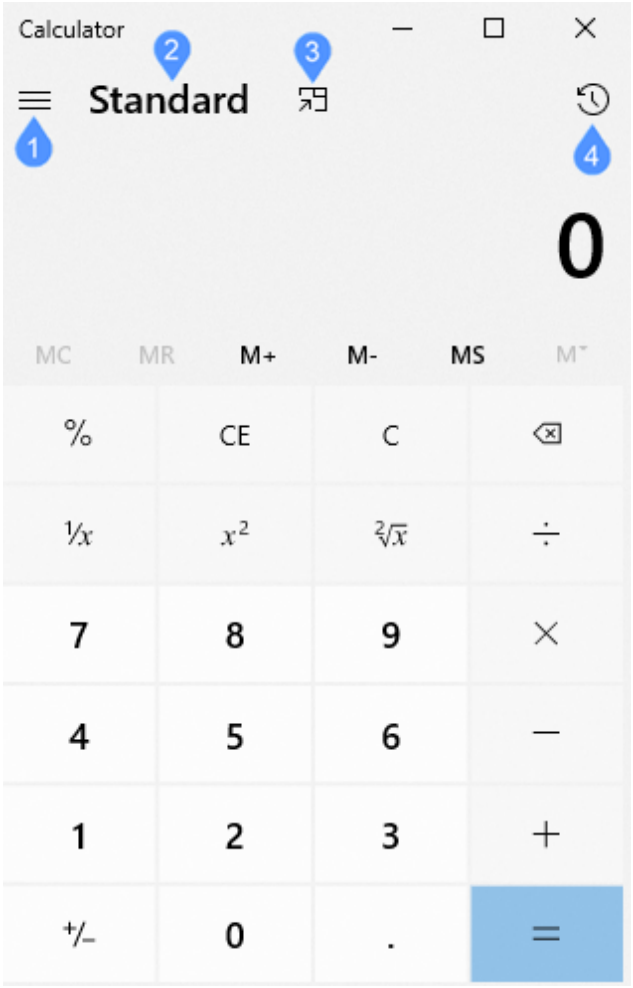
34.3 C

34.3.1 電卓

CALコマンドを実行して開きます。

電卓ダイアログボックスは、OSのソフトウェア電卓を表示します。

標準表示の場合、4つのエリアがあります。



1 ビュー

2 ビュー名

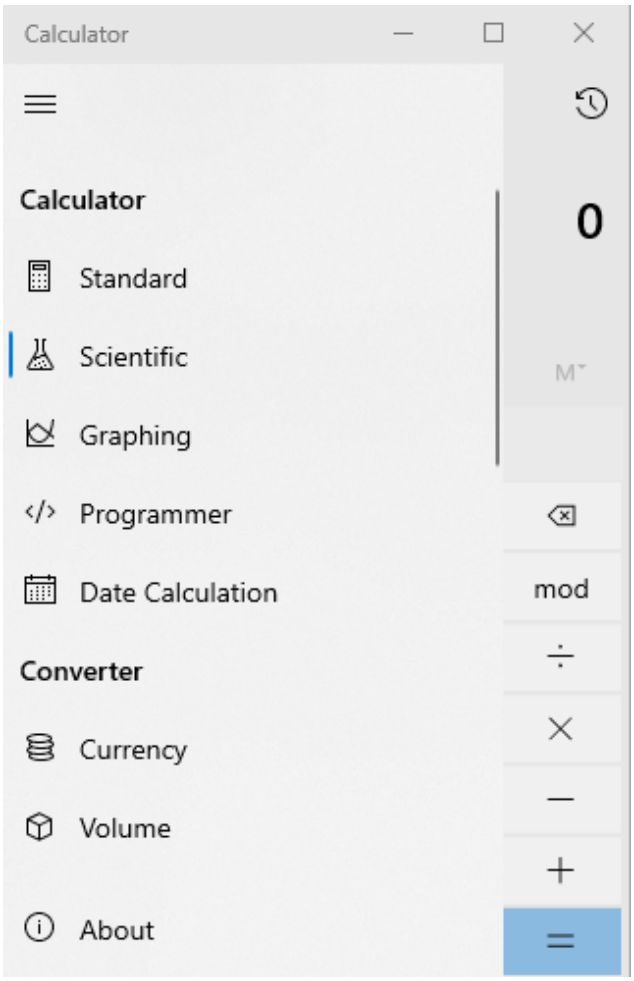
3 常に手前に表示

4 履歴

34.3.1.1 ビュー

選択可能なビューが表示されます。

2つのカテゴリから選択できます。**電卓**(標準、関数電卓、グラフ計算、プログラマー、日付の計算)および**コンバーター**(通貨、ボリューム、長さ、重量と質量、温度、エネルギー、面積、速度、時間、電力、データ、圧力、角度)があります。



34.3.1.2 ビュー名

カレントのビュー名を表示します。

34.3.1.3 常に手前に表示

キーボードショートカットの「ALT + Up」でもこの機能を利用できます。

なお、この機能はスタンダードビューでのみ利用可能です。

34.3.1.4 履歴

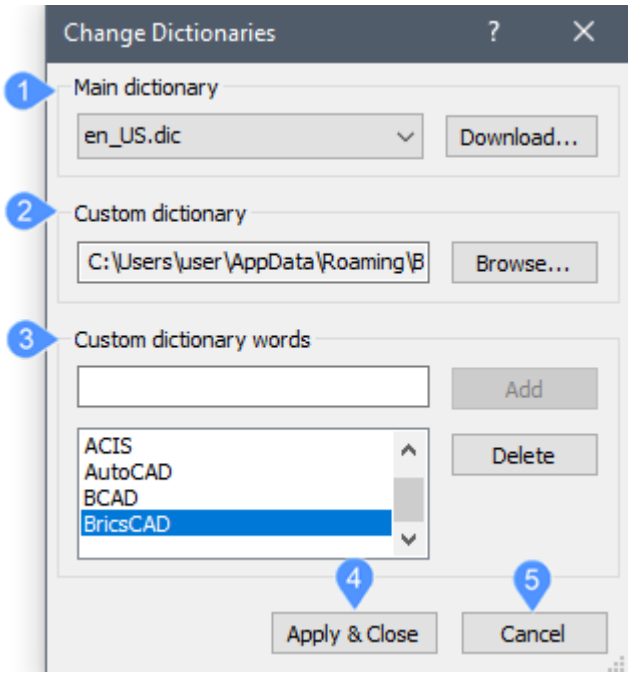
カレントのセッションで行った計算の履歴を表示します。

注 : この機能は、標準と関数電卓でのみ使用できます。

34.3.2 辞書を変更

スペルチェックダイアログボックスから開きます。

辞書を変更ダイアログボックスでは、辞書の変更ができます。



1 主辞書

2 カスタム辞書

3 カスタム辞書の単語

4 適用して閉じる

5 キャンセル

34.3.2.1 ヘルプ

SPELLコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.3.2.2 主辞書

スペルチェックに使用するメインの辞書を指定します。

ファイル名
メインの辞書として使用する辞書ファイルを指定します。利用可能なファイルがドロップダウンリストに表示されます。

ダウンロード
OpenOffice.orgから追加の辞書をダウンロードします。Webブラウザを開きます：https://extensions.openoffice.org/dictionaries

34.3.2.3 カスタム辞書

スペルチェックに使用するカスタムの辞書を指定します。カスタム辞書は、医学や機械など分野別の専門語に使用されます。

場所
メイン辞書に加えて使用するカスタム辞書のファイル名と場所を指定します。

ブラウズ
カスタム辞書を選択ダイアログボックスを開き、カスタム辞書ファイルを選択します。

34.3.2.4　カスタム辞書の単語

カスタム辞書に収録する単語を指定します。

単語欄
カスタム辞書に登録する単語を入力することができます。

追加
単語欄に入力した単語をカスタム辞書に追加します。

単語リスト
カスタム辞書に収録されているすべての単語を表示します。

削除
選択した単語をカスタム辞書から削除します。

34.3.2.5　適用して閉じる

変更を適用して、ダイアログボックスを閉じます。カスタム辞書ファイルは、「適用して閉じる」を選択した後にのみ、追加または削除された単語が更新されます。

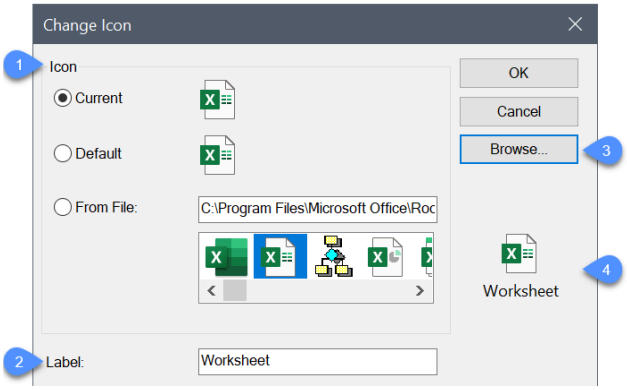
34.3.2.6　キャンセル

ファイルを開かずに、ダイアログボックスを閉じます。

34.3.3　アイコンを変更

オブジェクトの挿入ダイアログボックスから開きます。

アイコンを変更ダイアログボックスでは、OLE Frame図形を図面に挿入する前に、そのアイコンを変更することができます。アイコンは、ドキュメントタイプに関連付けられ、ソースアプリケーションで定義されます。



1　アイコン

2　タイトル

3　ボタン

4　プレビュー

34.3.3.1　アイコン

埋め込まれた、またはリンクされたドキュメントを表現するためのアイコンを指定します。

カレント
カレントのアイコンを表示します。

デフォルト
デフォルトのアイコンを表示します。

ファイルから
他のブロックを選択します。

34.3.3.2 タイトル

オプションでタイトルテキストを編集します。

34.3.3.3 ボタン

ボタンエリアには、OK、キャンセル、参照ボタンがあります。

OK
OKをクリックすると、変更内容が承諾され、前のダイアログボックス(オブジェクトの挿入)に戻ります。

キャンセル
キャンセルをクリックすると、変更内容が破棄され、前のダイアログボックス(オブジェクトの挿入)に戻ります。

ブラウズ
ファイルからアイコンを選択するための**参照**ダイアログボックス(標準的なファイル選択ダイアログボックス)が表示されます。

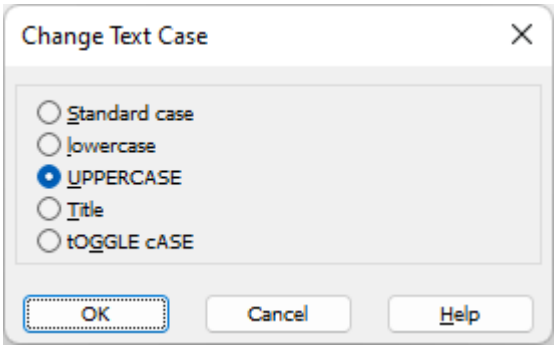
34.3.3.4 プレビュー

アイコンのプレビューを表示します。

34.3.4 大文字小文字切替

TCASEコマンドを実行して開きます。

大文字小文字切替ダイアログボックスでは、選択した文字の大文字と小文字を変更できます。**標準文字**、**小文字**、**大文字**、**タイトル**、**大文字・小文字を切替**から選択できます。



標準文字
最初の単語の最初の文字を大文字にします。

小文字
選択した文字のすべての文字を小文字に変更します。

大文字
選択したテキストのすべての文字を大文字にします。

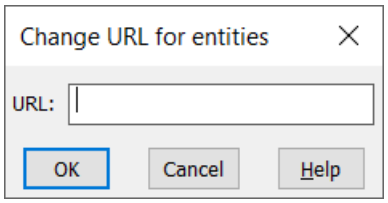
タイトル
各単語の最初の文字を大文字にします。

大文字・小文字を切替
各単語の最初の文字を小文字に変更し、残りの文字を大文字にします。

34.3.5 図形のURLを変更

CHURLSコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

図形のURLを変更ダイアログボックスでは、図形にアタッチされたURLを変更できます。

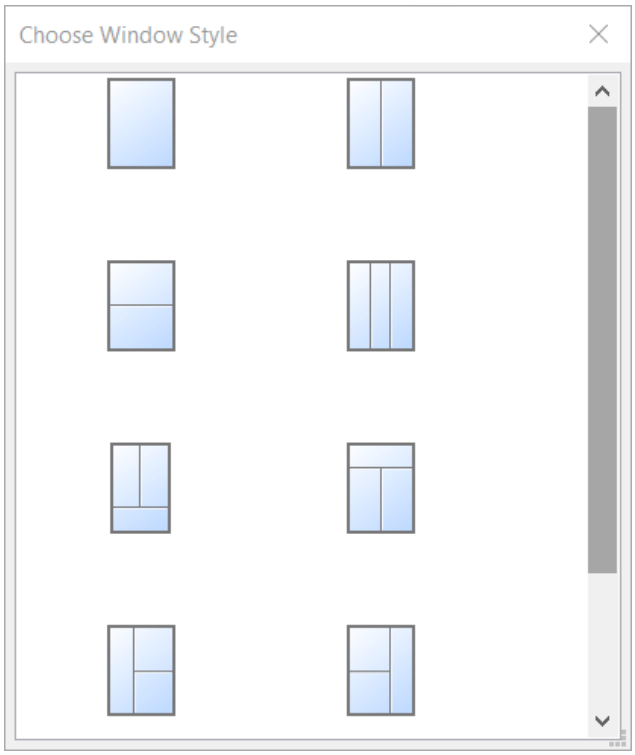


34.3.6 窓スタイルを選択

BIMWINDOWCREATEコマンドを実行して開きます。

窓スタイルを選択ダイアログボックスでは、窓のスタイルを指定することができます。

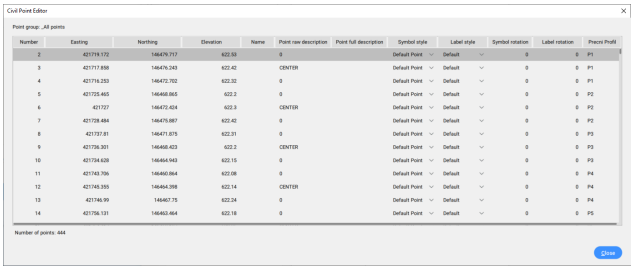
一連のパラメータが作成され、プロパティパネルのパラメータセクションで編集することができます。長方形の窓や開口部には、W(幅)とH(高さ)のパラメータがあります。



34.3.7 土木ポイントエディター

CIVILPOINTEDITコマンドを実行して開きます。

土木ポイントエディターダイアログボックスには、土木ポイントがプロパティと共に一覧表示されます。



注：

- セルをクリックして内容を編集します。
- 土木ポイントは、プロパティごとにソートすることができます。
- **土木ポイントエディター**ダイアログボックスはモードレスです。すなわち、**土木ポイントエディター**ダイアログボックスが表示された状態で作図作業が行えます。

選択したポイントを右クリックして、コンテキストメニューを開きます。

ズーム
選択した土木ポイントを拡大表示します。

画面移動先
図面内の選択した土木ポイントに画面移動します。

選択
土木ポイントを選択します。

クリップボードにコピー
土木ポイントをクリップボードにコピーします。

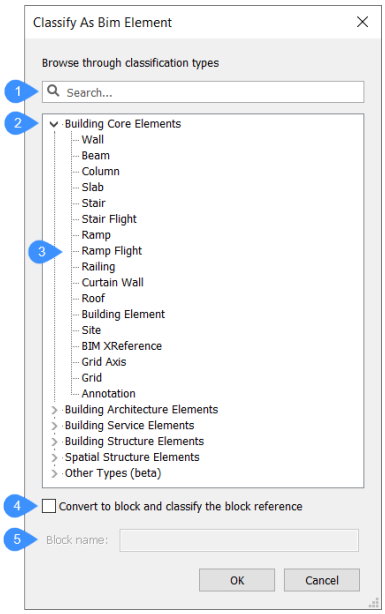
点を削除
土木ポイントを削除します。

注：ポイントを本当に削除してもよいか確認を求める警告ダイアログボックスが開きます。

34.3.8 BIM要素として分類

BIMCLASSIFYコマンドを実行して開きます。

BIM要素として分類ダイアログボックスでは、分類のタイプを指定するか、選択範囲をブロックに変換してブロック参照を分類します。



1 検索バー

2 BIM要素のカテゴリ

3 選択したカテゴリ要素

4 ブロックに変換してブロック参照を分類

5 ブロック名

検索バー
リストされているすべての要素カテゴリで要素を検索できます。

BIM要素のカテゴリ
使用可能なすべてのBIM要素カテゴリを表示します。

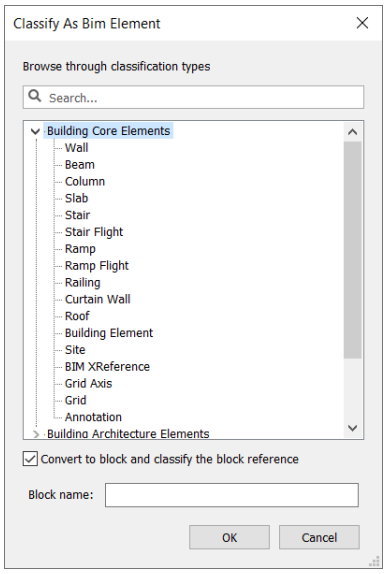
選択したカテゴリ要素
選択したカテゴリで使用可能なすべての要素を表示します。

ブロックに変換してブロック参照を分類
選択範囲をブロックに変換し、それをBIM要素として分類します。このオプションを選択すると、**ブロック名**フィールドが有効になります。

ブロック名
間もなく作成されるブロック参照の名前を入力できます。

注：すべてのBIMタイプはIFCに書き出したり、IFCから読み込んだりすることができ、データ抽出やフィルタリング(タイププランまたはグラフィックオーバーライド用)で使用することが可能です。

34.3.8.1 建物のコア要素



壁
スペースを細分化する垂直構造。
例：隔壁、耐力壁、内壁。

梁
通常、その長さに関係し、(ほぼ)水平方向に狭く、支持点間または超えて負荷を担持する構造体。
例：I型梁、L型梁、T型梁、ダブルT型梁。

列
細い形状の構造部材で、通常は垂直に配置され、主に圧縮された力をその基部に伝達します。
例：ドーリア式柱、イオニア式柱、コリント式柱。

スラブ
通常、スペースを垂直に囲む構造のコンポーネント。スラブは、建物内の任意のスペースに下部サポート(床)または上部構造(屋根スラブ)を提供可能。
例：床スラブ、屋根スラブ。

階段
徒歩で他のレベルに移動することを可能にする一連の水平ステージ(ステップまたは着陸)で構成される構造。
例：階段、エスカレーター、踊り場のあるらせん階段。

階段
踊り場を持たない階段で構成される建物コンポーネントのアセンブリ。このオブジェクトには、階段と階段梁が含まれています。
例：階段、エスカレーター、踊り場のないらせん階段。

傾斜路
異なるレベルの2つの表面をつなぐ傾斜した道または床。
例：踊り場のあるスロープ/傾斜路。

ランプ
通常、異なる高さの2つの踊り場、床、またはスラブ間に人間の循環するリンクを提供。
例：踊り場のないスロープ/傾斜路。

手すり
手すりは、人が行き交う空間に隣接するフレームアセンブリで、一部の空間の境界では、壁の代わりに、または壁を補完するために使用されます。人間を助けるために、任意の物理的なサポートとして、または落下による怪我を防ぐために設計されています。
例：手すり、グラブバー、ガードレール。

カーテンウォール
建築物の外壁で、床の上にあるのではなく、床や屋根の構造体の端から吊り下げられている、部品の集合体です。

屋根
上から建物を囲む建築物。
例：フラット屋根、切妻屋根、瓦屋根、寄棟造。

建物要素
建物要素とは、主に建物の構造を構成するすべての要素を指します。
例：壁、梁、ドアのような構造と空間の分離システム。

敷地
プロジェクトの建設を完了させるための、定義された土地のエリアで、水に覆われていることもあります。

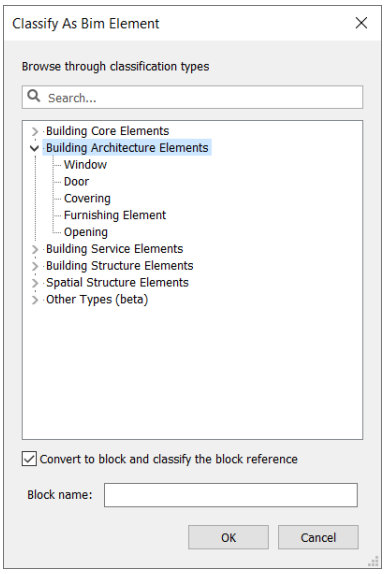
BIM外部参照
現在のモデルやプロジェクトのデータベースでは明示的に表現されていない情報を特定することです。そのような情報は、外部ソース内の分類、文書、またはライブラリに含まれている可能性があります。

グリッド軸
デザイングリッドの中で定義された個々の軸のことです。軸の定義は、次元2の曲線に基づいています。
例：X軸、Y軸、Z軸。

グリッド
3D空間で定義された平面的なデザイングリッドで、構造要素やデザイン要素を配置する際の補助となります。
例：矩形グリッド、放射グリッド、三角グリッド

注釈記入
プロジェクトのオブジェクトに注釈や意味を加える、プロジェクトの幾何学的コンテキスト内のグラフィック表現です。
例：追加の線分、文字、寸法、ハッチング、...。

34.3.8.2　建物の構築要素



窓

壁や屋根にある垂直に近い開口部を閉じて、光を取り入れ、新鮮な空気を取り入れることができるようにした構造物です。窓は、自然光と新鮮な空気を提供するために主に使用される建築要素です。窓は、裏地と1枚または数枚のパネルで構成されています。

例：天窓、ライトドーム、スイング、ピボット、スライド、回転パネル、固定パネルなど。

ドア

開口部を閉じるための構造物です。ドアは、主に人や物のための制御されたアクセスを提供するために使用される建築要素です。ドアは、裏地と1枚または数枚のパネルで構成されています。

例：ヒンジ式、ピボット式、スライド式、回転式、折り畳み式のドア。

カバーリング

カバーリングとは、他の要素のある部分を覆い、その他の要素に完全に依存している要素のことです。

例：壁装材、床材、吊り天井、仕上げ用トリム、ベースモールディング。

調度要素

すべての家具関連の一般的なオブジェクトです。

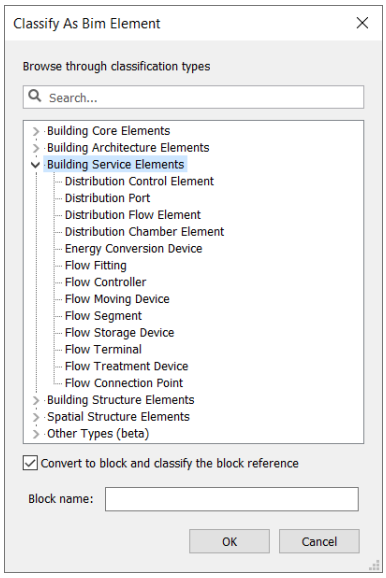
例：クローゼット、テーブル、椅子、ベッド。

開口部

物理的な表現を持つあらゆる要素の中空さを表します。

例：ドアの開口部、窓の開口部。

34.3.8.3　建物のサービス要素



分配コントロール要素
ビルディングオートメーション制御システムのうち、配電システムの要素を制御するために使用される発生要素のことです。要素を感知し、温度、湿度、圧力、流量などの制御変数の変化を測定します。
例：サーモスタット

分配ポート
ディストリビューションエレメントのコンテキスト内で使用するための専用ポートです。
例：ガス給湯器には3つのポートがあります。GAS、DOMESTICCOLDWATER、DOMESTICHOTWATER。ヒーターは2つのシステム(GASとDOMESTICCOLDWATER)であり、対応するポートで1つのシステム(DOMESTICHOTWATER)をホストしています。

分配フロー要素
空気、水、電力などのエネルギーや物質の流通を促進する流通システムの発生要素です。
例：ダクト、パイプ、ワイヤ、電線、継手

分配チャンバー要素
流通システムとその構成要素を検査することができる場所、または流通システムが通過することができる場所です。
例：サンプ、トレンチ

エネルギー変換装置
エネルギー変換または熱伝達を行うために使用される装置の発生で、通常は流れの分配システムに参加します。
例：ボイラー、チラー、冷却コイルなど

フローフィッティング
流れの分配システムにおける接合部分や移行部分です。
例：配電システムのエルボー、ティー、ジャンクションボックスなど

フローコントローラ
分配システムの要素のうち、分配システムの流れを調整するために使用されるものです。
例：ダンパー、弁、スイッチ、リレー

フロー移動装置
液体や気体などの流体を分配、循環、または搬送するために使用される装置の発生で、一般的には流れの分配システムに分類します。
例：ポンプ、ファン

フローセグメント
フローセグメントとは、一般的に2つのポートしか持たない分配システムの部分を指します。
例：部分ダクト、パイプ、導管、等

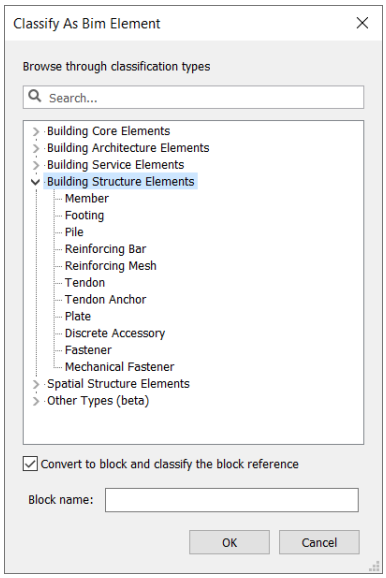
フロー記憶装置
液体や気体などの流体を一時的に保存するための装置で、誘導された電子の流れによって電位が誘起されます。
例：タンク、バッテリー

フロー器具
分配システムの終端または始点として機能する、恒久的に取り付けられた要素です。ターミナルとは、一般的にシステムが外部環境と接触するポイントのことです。
例：空気出口、ドレン水のクローゼット、シンク

フロー処理装置
媒体の物理的特性を変更するために使用されるデバイスで、フロー処理タイプ(またはインスタンス化可能なサブタイプ)は、すでに発生に割り当てられていなくても交換することができます。
例：空気、油又は水フィルター、ダクトサイレンサー

フロー接続ポイント
接続点は、2つのオブジェクトがある点で物理的に接続することを容易にする幾何学的な拘束を記述するために使用されます。

34.3.8.4　建物の構成要素



メンバー
支持点間または支持点を超えて荷重を運ぶように設計された構造部材です。耐荷重である必要はありません。メンバーの方向性(水平、垂直、傾斜)は、その定義には関係ありません。
例：トラス構造の対角要素

足場
構造物の基礎の一部で、荷重を広げて直接地面に伝える部分です。
例：壁足場、段差足場、傾斜足場、ラフト足場

パイル
細い木材、コンクリート、スチール製の構造要素で、荷重を支える目的で地面に端から打ち込まれたり、噴射されたり、その他の方法で埋め込まれています。パイルは、より深い地下層に荷重が伝達される深層基礎という特徴もあります。
例：杭基礎

補強バー
通常、表面に製造された変形がある鉄の棒で、コンクリートや石造建築で強度を増すために使用されます。
例：鉄筋コンクリート

補強メッシュ
様々なゲージの一連の縦方向および横方向のワイヤーまたはバーで、互いに直角に配置され、すべての交点で溶接されています。
例：鉄筋コンクリート床スラブ

テンドン
緊張状態にあるコンクリートにプレストレスを与えるために使用される鋼製の要素です。
例：ワイヤー、ケーブル、バー、ロッド、ストランド

テンドンアンカー
テンドンアンカーは、プレストレスまたはポストテンションをかけたコンクリートのテンドンの端の接続部です。

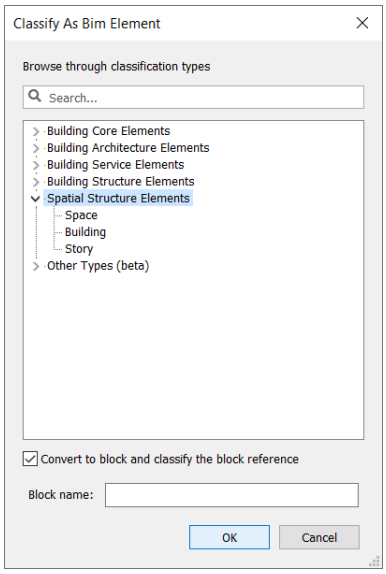
プレート
プレートとは、一定の厚みを持つ平面状の部品のことです。プレートは、支持点の間または支持点を超えて荷重を支える構造部品となり得ますが、荷重を支える必要はありません。プレートの方向性(水平、垂直、傾斜)は、その定義には関係ありません。

付属品
付属品とは、要素に含まれる、あるいは要素に追加されるさまざまな種類のアクセサリーを表現したものです。
例：ビジブルスチールコーベル(マスターエレメントから突出したスチール部品で作られたコーベルシステム)、コーナー固定プレート(要素のコーナーに取り付けられた固定プレート)、スチールプレート(接合部のアクセサリーとして使用されるスチールプレート)

ファスナー
要素と他の要素を接続または結合するために、ファスナーとして使用される固定部品の表現です。
例：目地モルタル、接着剤、溶接

メカニカルファスナー
建築物の部材を機械的に接続する留め具です。
例：ボルト、ネジ、釘、ナット、ワッシャー、リベット

34.3.8.5 空間の構成要素

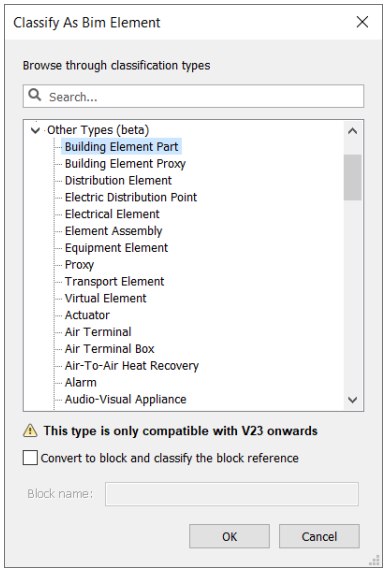


スペース
囲まれた境界からのBIM空間図形です。(3Dソリッドまたは線形2D図形)

建物
モデル内の建物。

階
建物/空間要素の階。

34.3.8.6　その他の種類(ベータ)



注：これらのBIMタイプは、古いBricsCADバージョンと下位互換性がないことに注意してください。プロジェクトの下位互換性を維持するために、新しいBIMタイプを使用せず、IFC2x3属性を使用するようにしてください。

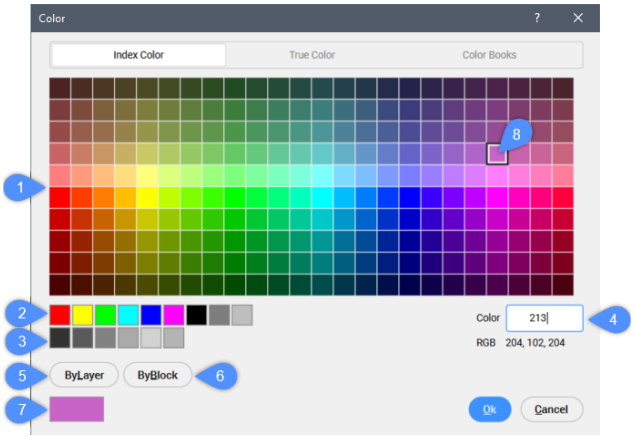
このカテゴリの各要素タイプに関する情報は、以下にアクセスして確認できます：https://standards.buildingsmart.org/IFC/RELEASE/IFC4/ADD2_TC1/HTML/annex/annex-b/en/alphabeticalorder_entities.htm

34.3.9 色

COLORコマンドを実行して開きます。

色ダイアログボックスで、画層、グリッド、寸法、背景などの色を選択できます。**インデックスカラー**、**トゥルーカラー**、**カラーブック**の3つのタブがあります。

34.3.9.1 色インデックスタブ



カラーパレット(1)
240色表示します。

基本色(2)
基本色を表示します。

グレーカラー(3)
グレーシェードを表示します。

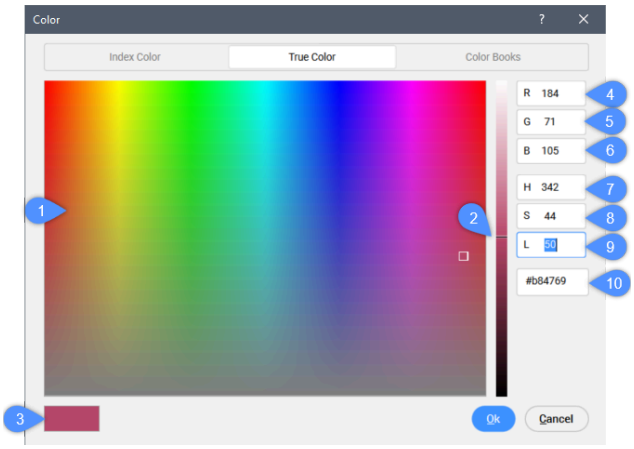
カラーインデックス(4)
選択した色のインデックスを表示します。インデックスを挿入し、フィールド番号(7)で色のプレビューを見ることができます。対応する色には□(8)がついています。

ByLayer(5)
ByLayerに色を設定すると、図形がその画層のプロパティで定義された色を取ります。

ByBlock(6)
ByBlockに色を設定すると、図形はそのブロックで定義された色を取ります。

カラーサンプル(7)
選択した色をプレビューします。

34.3.9.2 True Colorタブ



色(1)
色相(左右)と彩度(上下)を指定します。

光度バー(2)
色の明るさを指定します。

色サンプル(3)
選択した色をプレビューします。

赤(R)-(4)
色に含まれる赤の量を指定します。0(赤なし)～255(完全な赤)の範囲で設定できます。

緑(G) - (5)
色に含まれる緑の量を指定します。0(緑なし)～255(完全な緑)の範囲で設定します。

青(B) - (6)
色に含まれる青の量を指定します。0(青なし)～255(完全な青)の範囲で設定できます。

注：赤、緑、青を個別に調整すると同時に、色合い、鮮やかさ、明るさが調整されます。

色相(H) - (7)
カラーの色相を指定します。色相は、赤から緑、青からピンクの色を調節します。
0～359の範囲で設定できます。

色彩(S)(8)
色彩を指定します。0から100の範囲で設定します。鮮やかさは、色の照度を 0 =グレー から 240 =フルカラー の間で調節します。

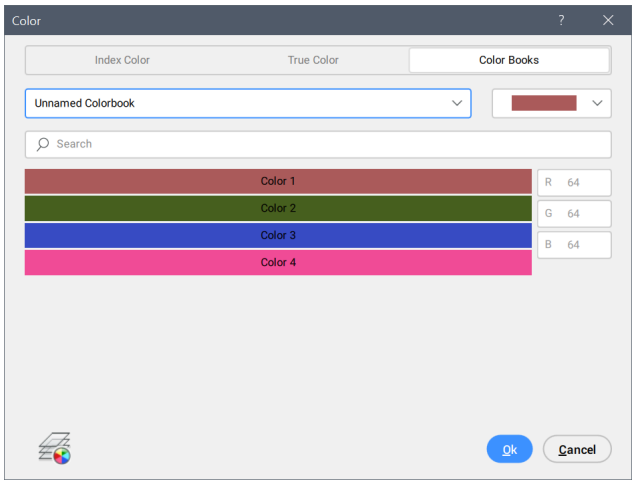
光度(L)(9)
色の明るさを指定します。0から100の範囲で設定します。光度とは、色の明暗のことで、0＝黒、100＝白となります。

注：現在の色が白(L=100)または黒(L=0)で、**色**ダイアログボックスでトゥルーカラーを選択した場合、光度は50に設定されます。また、選択したトゥルーカラーは光度と同期しません。

カラーコード(10)
選択したカラーコードを表示します。

34.3.9.3　カラーブックタブ

お使いのシステムに存在するカラーブックを選択してください。



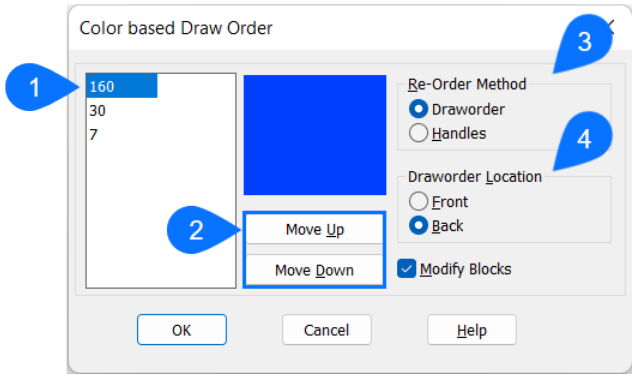
注：

- COLORBOOKPATHシステム変数は、BricsCADがカラーブックファイルを検索するフォルダーを指定します。
- 暗号化されたカラーブックがサポートされています。BricsCADには、暗号化されたカラーブックは含まれていません。

34.3.10　色に基づく表示順序

CDORDERコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

色に基づく表示順序ダイアログボックスでは、選択図形の表示順序をインデックスカラーに基づいて指定できます。

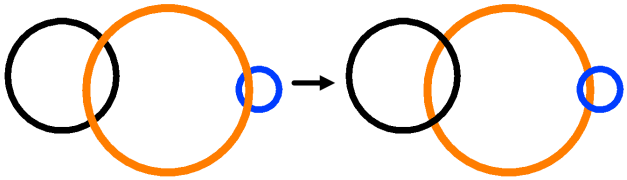


1　カラーリスト

2　上へ移動、下へ移動ボタン

3　並べ替え方法

4　表示順序の場所



34.3.10.1 カラーリスト

選択図形のインデックスカラーを一覧表示します。

注：最初の色は図形を前面に配置し、最後の色は図形を背面に配置します。

34.3.10.2 上へ移動、下へ移動ボタン

上へ移動
選択した色をリストの上に移動します。

下へ移動
選択した色をリストの下に移動します。

34.3.10.3 並べ替え方法

表示順序
選択図形の表示順序をDRAWORDERコマンドを使用して変更します。

ハンドル
図面データベース内の図形の順序を変更することにより、選択した図形の表示順序を変更します。

34.3.10.4 表示順序の場所

前
選択図形を、カラーリストで指定されていない図形の前に配置します。

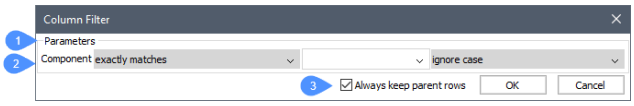
戻る
選択図形を、カラーリストで指定されていない図形の背後に配置します。

ブロックを変更
ブロック内の図形の表示順序を変更します。

34.3.11 列フィルター

部品表マネージャーパネルの**列フィルターを設定**オプションを選択して開きます。

列フィルターダイアログボックスでは、列フィルターの設定を行います。



1　パラメータ

2　列名

3　常に親行を保持

34.3.11.1 パラメータ

列フィルターで使用するパラメータを定義します。

34.3.11.2 列名

フィルターをかけた列の名前を表示します。この列に適用するフィルターの種類を選択し、設定します。

注：可能なフィルターのリストは、列のコンテンツタイプによって異なります。

注：すべての文字フィルターについて、大文字と小文字を区別するか、区別しないかを指定することもできます。

常に承諾
すべての列の値が受け入れられます。

等しい
値がターゲット値と等しいこと。

注：数字の列で表示されます。

等しくない
値がターゲット値と等しくないこと。

注：数字の列で表示されます。

未満
値がターゲット値未満でないこと。

注：数字の列で表示されます。

超過
値がターゲット値を超過していること。

注：数字の列で表示されます。

以下
値がターゲット値以下でないこと。

注：数字の列で表示されます。

間
値が指定された範囲内にあり、両端の値を含んでいること。

注：数字の列で表示されます。

範囲外
値が指定された範囲内にあり、両端の値を含んでいること。

注：数字の列で表示されます。

完全に一致する
列の内容はターゲットのものと完全に一致していること。

注：テキストを含む列で表示されます。

一致しない
列の内容はターゲットのものと完全に一致していないこと。

注：テキストを含む列で表示されます。

で始まる
列の内容は、指定されたテキストで始まること。

注：テキストを含む列で表示されます。

で始まらない
列の内容は、指定されたテキストで始まらないこと。

注：テキストを含む列で表示されます。

で終わる
列の内容は、指定されたテキストで終わること。

注：テキストを含む列で表示されます。

で終わらない
列の内容は、指定されたテキストで終わらないこと。

注：テキストを含む列で表示されます。

含む
列の内容は、指定されたテキストを含むこと。

注：テキストを含む列で表示されます。

含まない
列の内容は、指定されたテキストを含まないこと。

注：テキストを含む列で表示されます。

パターンに一致する
列の内容が、与えられたワイルドカードテンプレートに一致すること。

注：テキストを含む列で表示されます。

パターンに一致しない
列の内容は、与えられたワイルドカードテンプレートに一致しないこと。

注：テキストを含む列で表示されます。

含まれる
列の内容は、与えられた値のセットと一致すること。

注：文字列や数値列を含む列で表示されます。

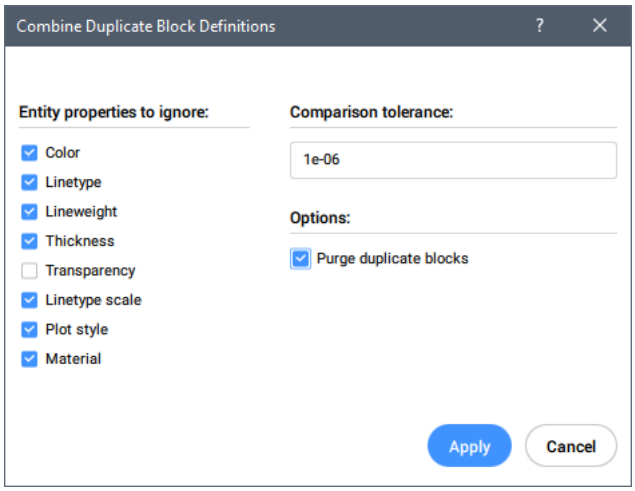
含まれない
列の内容は、与えられた値のセットと一致しないこと。

注：文字列や数値列を含む列で表示されます。

34.3.11.3　常に親行を保持
子行のみがフィルター条件に一致する場合に、親行も保持して表示するかどうかを決定します。親行が削除されると、その子行はそのレベルに昇格されます。

34.3.12　重複するブロック定義を結合
OVERKILLコマンドを実行して開きます。

重複するブロック定義を結合ダイアログボックスでは、図面上で重複しているブロック定義を検索し、そのようなブロックインスタンスをすべて最新の重複ブロックに置き換えることができます。関連記事**OVERKILLコマンド**も参照してください。



1 無視する図形プロパティ

2 比較誤差

3 オプション

34.3.12.1 無視する図形プロパティ

重複するブロック定義を検索する際に無視するブロックプロパティを指定します。

34.3.12.2 比較誤差

ブロックの重なりの許容範囲を設定します。0(ゼロ)を入力した場合、図形が完全に一致しないと、重複削除プロセスで評価されません。

34.3.12.3 オプション

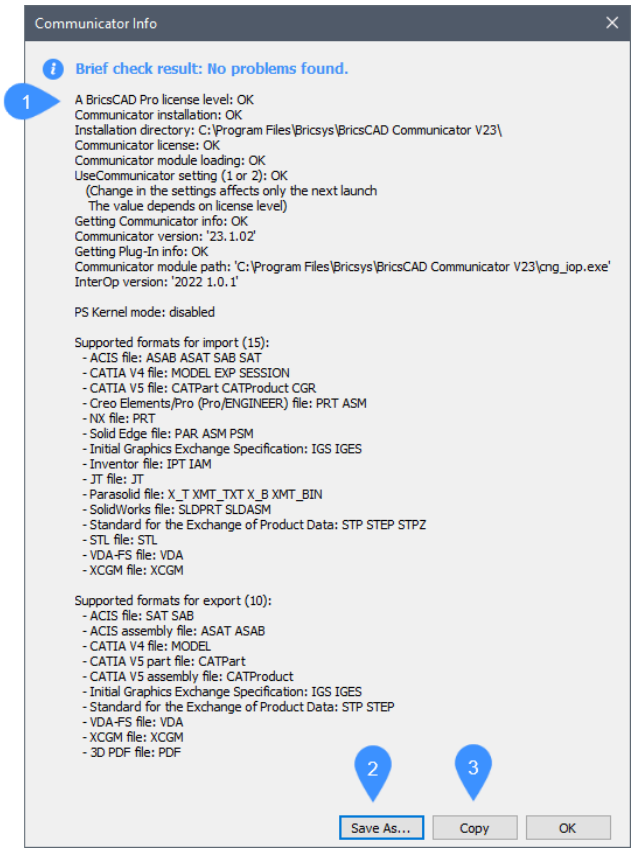
重複したブロックを名前削除
重複するブロック定義を削除します。

34.3.13 コミュニケーター情報

Bricsysライセンス管理ダイアログボックスから開きます。

コミュニケーター情報ダイアログボックスは、アドオンのCommunicator for BricsCAD®が正しくインストールされているかどうかを確認し、診断レポートを提供します。

注：このコマンドはWindowsでのみ使用可能です。



1 診断

2 名前を付けて保存...

3 複写

34.3.13.1 診断

Communicator for BricsCAD®のインストールに関する診断レポートを表示し、読み込みおよび書き出しに対応したフォーマットを表示します。

34.3.13.2 名前を付けて保存...

Communicator情報を保存ダイアログボックスが開きます。

34.3.13.3 複写

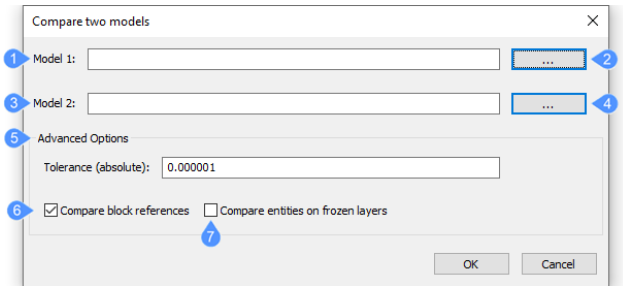
このダイアログボックスに表示されているテキストをクリップボードにコピーします。

34.3.14 二つのモデルを比較

3DCOMPAREコマンドを実行して開きます。

二つのモデルを比較ダイアログボックスでは、2つの図面ファイル間でソリッドとサーフェスの幾何学的な比較を行うことができます。

結果は新しい図面に表示され、**メカニカルブラウザ**パネルに報告されます。



1 モデル1

2 最初の図面を選択

3 モデル2

4 二番目の図面を選択

5 高度なオプション

6 ブロック参照を比較

7 フリーズ画層の図形を比較

34.3.14.1 モデル1

比較する最初の図面のファイル名を指定します。

34.3.14.2 最初の図面を選択

比較する1番目の図面を選択ダイアログボックスが開かれるので、目的の図面を選択します。

34.3.14.3 モデル2

比較する2枚目の図面のファイル名を指定します。

34.3.14.4 二番目の図面を選択

比較する2番目の図面を選択ダイアログボックスが開いたら、目的の図面を選択します。

34.3.14.5 高度なオプション

許容値(絶対値)は、形状比較のしきい値を表すもので、2つのモデルがどこまで近づけば変化がないと判断できるかを決定します。

34.3.14.6 ブロック参照を比較

ブロックの内容を比較するかどうかを決定します：

- **はい** - ブロックの中のソリッドとサーフェスを比較します。
- **いいえ** - ブロックの中のソリッドとサーフェスを無視します。

このコマンドは、ソリッドやサーフェスを含む、任意の深さの通常のブロックや挿入(ブロック構造を使用するアセンブリを含む)に対応します。

34.3.14.7 フリーズ画層の図形を比較

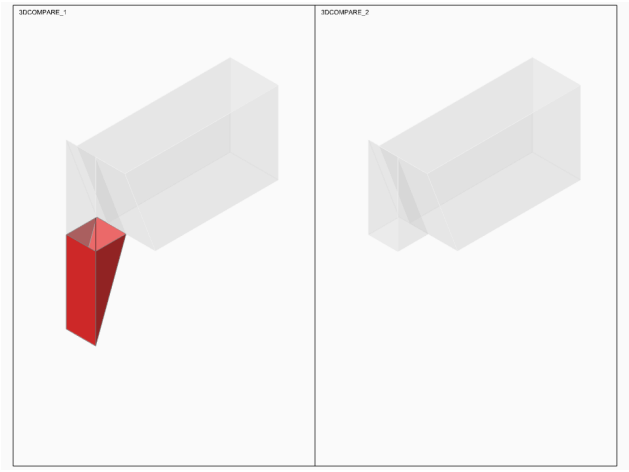
フリーズ画層の図形を比較するかどうかを決定します：

- **はい** - フリーズ画層のソリッドとサーフェスを比較します。
- **いいえ** - フリーズ画層のソリッドとサーフェスを無視します。

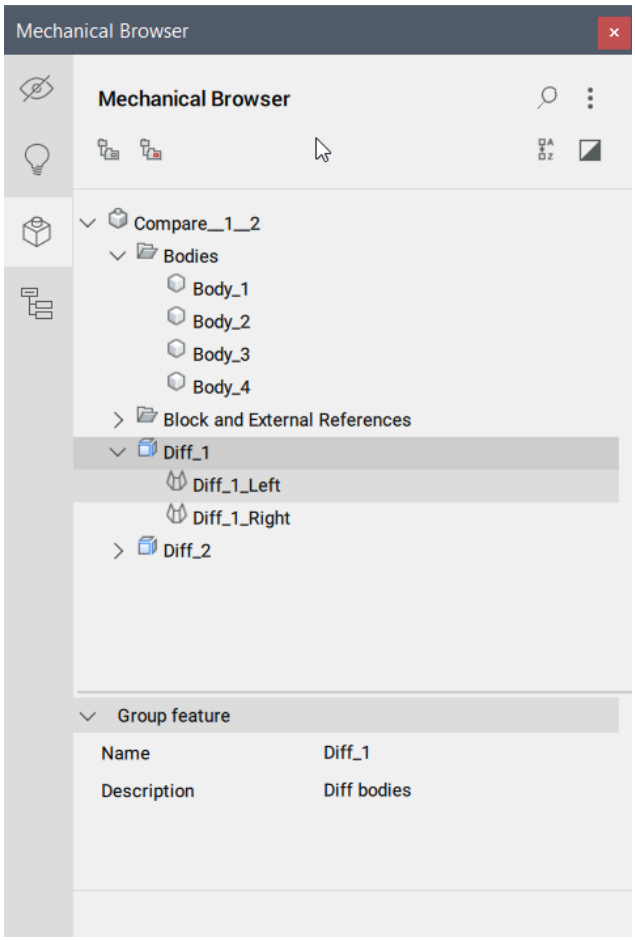
3DCOMPAREMODEシステム変数の値により、比較レイアウトのビューポートの表示が制御されます。**設定**ダイアログボックスで、「3dcomparemode」を検索します。

選択したファイルが、比較_<ファイル_1>_<ファイル_2>.dwgという名前の新しい図面にアタッチされます。

比較されたモデルは、この図面に外部参照として添付され、「比較」という名前の特別なレイアウトが自動的に作成され、それぞれの図面に1つずつ、2つのビューポートが設けられ、図面間の違いが色で示されます。



同時に、**メカニカルブラウザ**パネルが自動的に開き、2つの図面の違いが一覧表示されます。

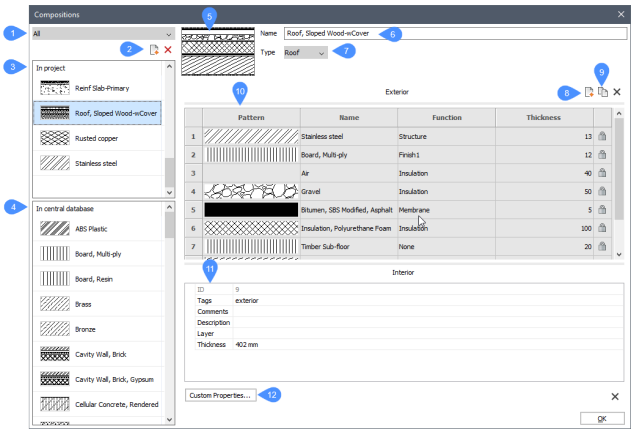


34.3.15　複合材

以下より開きます：

- BLCOMPOSITIONS [複合材]
- BIMBEAM [BIM梁]
- BIMCOLUMN [柱ソリッド作成]
- BIMROOF [屋根ソリッド作成]
- BIMSLAB [スラブソリッド作成]
- BIMWALL [壁作成]
- **BIM複合材**パネル

複合材ダイアログボックスでは、複合材の作成、修正、削除が行えます。



1 複合材カテゴリーの選択

2 新しい複合材

3 プロジェクト内

4 セントラルデータベース内

5 プレビューペイン

6 名前

7 種類

8 プライを追加

9 プライを複製

10 構造グリッド

11 プロファイルグリッド

12 カスタムプロパティ

34.3.15.1 複合材カテゴリーの選択

複合材のカテゴリは、複合材のリストをフィルタリングするために使用されます。

ドロップダウンボタンをクリックし、利用可能なカテゴリ(**すべて**、**一般**、**屋根**、**スラブ**、**壁**)のいずれかを選択します。

34.3.15.2 新しい複合材

このボタンをクリックすると、新しい複合材が作成されます。

34.3.15.3 プロジェクト内

プロジェクトデータベース内で選択したカテゴリの複合材を表示します。

複合材を右クリックすると、新規複合材の追加、複製、削除、データベース(ライブラリ)へのコピーが行えます。

注：プロジェクトで使用されている複合材は、プロジェクトのデータベースから削除することはできません。

34.3.15.4 セントラルデータベース内

選択されたカテゴリの複合材をライブラリデータベースに表示します。

複合材を右クリックすると、新規複合材の追加、複製、削除、プロジェクトへのコピーが行えます。

34.3.15.5 プレビューペイン

選択した複合材のプレビューを表示します。

34.3.15.6 名前

選択した複合材名を表示します。デフォルトの名前を変更することができます。

34.3.15.7 種類

選択した複合材のカテゴリを表示します。ドロップダウンボタンをクリックして、新しいカテゴリを選択することができます。用意されているカテゴリは、**一般**、**屋根**、**スラブ**、**壁**です。

34.3.15.8 プライを追加

物理的マテリアルダイアログボックスを開き、ライブラリまたはプロジェクトデータベースからマテリアルを選択することができます。

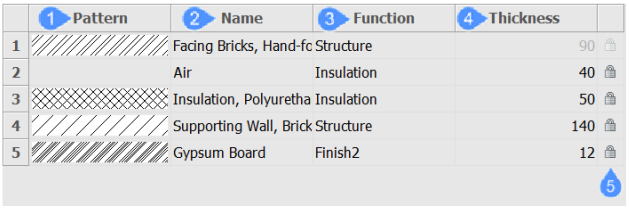
34.3.15.9 プライを複製

選択したプライのコピーを挿入します。

34.3.15.10 構造グリッド

複合材プライの材質と厚みを表示します。上(外装)のプライはソリッドの基準に適用されます。

複合材のプライは、エクステリア(上)からインテリア(下)の順に並んでいます。プライ番号を任意の位置にドラッグすると、プライの順番が変わります。



1 パターン

2 名前

3 関数

4 厚さ

5 厚さのロック/アンロック

パターン
プライのプレビューを表示します。**パターン**フィールドをダブルクリックすると、**物理的マテリアル**ダイアログボックスから外観を変更することができます。

名前
プライの名前を表示します。**名前**フィールドをダブルクリックすると、**物理的マテリアル**ダイアログボックスで名前を変更することができます。

関数
ドロップダウンリストから機能を選択することができます。選択できる機能は、**無し**、**構造**、**基材**、**断熱材**、**仕上げ材1**、**仕上げ材2**、**膜**です。

厚さ
厚さフィールドをクリックすると、プライの厚さを変更できます。BIMUPDATETHICKNESSコマンドを使用して、モデル内のソリッドの厚さを更新します。

注：プライの厚みは、**物理的マテリアル**ダイアログボックスの**可変厚さ**プロパティが**はい**に設定されている場合にのみ変更することができます。

厚さのロック/アンロック
ロック/ロック解除ボタンをクリックすると、その状態を変更することができます。

注：複合材の内1つのプライのみがロック解除された厚さを持つことができます。結果として、複合材の合計の厚さは次のようになります。

- **固定**：すべてのプライの厚さがロックされます。
- **最小**：少なくとも2つのプライから成り、そのうち1つのプライの厚さはロックされません。最小の厚さは、ロックされたプライ厚さの合計になります。
- **フリー**：ロックされていない厚さを持つプライを1つ含みます。

注：プライの厚みは、**物理的マテリアル**ダイアログボックスの**可変厚さ**プロパティが**はい**に設定されている場合にのみ変更することができます。

34.3.15.11 プロファイルグリッド

選択した複合材のプロパティ(タグ、コメント、説明、画層、厚さ、カスタム)を表示します。

タグ
タグフィールドを選択し、新しいタグをカンマで区切って入力します。タグは大文字と小文字を区別します。
タグフィールドの横にある**参照**ボタンをクリックして、**タグ**ダイアログボックスを開きます。

コメント
オプションで、選択した複合材にコメントを追加することができます。

説明
オプションで、選択した複合材に説明文を追加することができます。

画層
オプションとして、ドロップダウンリストから選択した複合材に画層を割り当てることができます。

厚さ
複合材の全体的な厚さは、複合材プライの厚さの合計に等しくなります。

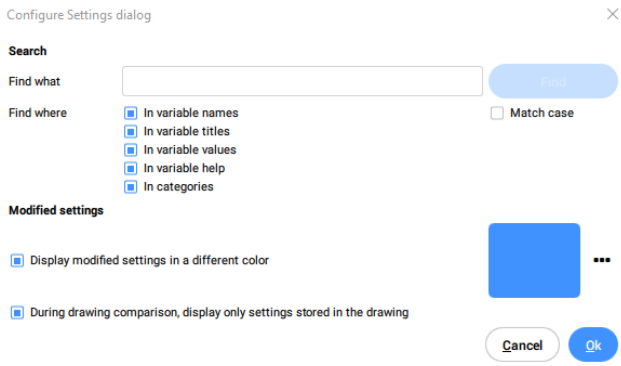
34.3.15.12 カスタムプロパティ

カスタムプロパティを選択/作成ダイアログボックスが開きます。複合材のカスタムプロパティを追加することができます。

34.3.16　設定ダイアログの構成

設定ダイアログボックスから開きます。

設定の構成ダイアログボックスでは、変数の検索方法や差異の処理方法を制御します。



1 対象を検索

2 検索

3 場所を検索

4 大小文字を区別

5 異なる色で変更された設定を表示

6 色を選択

7 図面の比較中に、図面内に保存されている設定のみを表示

34.3.16.1 対象を検索

検索する設定の名前を入力します。

34.3.16.2 検索

設定ダイアログボックスで、入力した単語を検索します。

34.3.16.3 場所を検索

設定ダイアログボックスのどの部分を検索するかを決定します。

変数名
変数名で検索する場合は、このチェックボックスにチェックを入れます。

変数タイトル
可変タイトルを検索する場合は、このチェックボックスにチェックを入れます。

様々な値
様々な値で検索する場合は、このチェックボックスにチェックを入れます。

変数のヘルプ
変数のヘルプで検索する場合は、このチェックボックスにチェックを入れます。

カテゴリ内
カテゴリ内で検索する場合は、このチェックボックスにチェックを入れます。

34.3.16.4 大小文字を区別

チェックボックスにチェックを入れると、大文字と小文字が一致する結果だけを**設定**ダイアログボックスに表示します。

34.3.16.5 異なる色で変更された設定を表示

このチェックボックスにチェックを入れると、変更した設定が別の色で表示されます。

34.3.16.6 色を選択

別の色を選択するには、このボタンをクリックします。

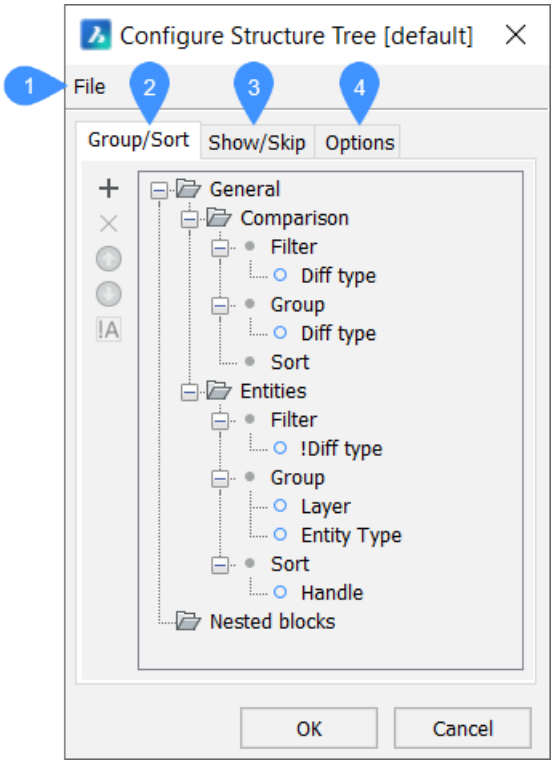
34.3.16.7 図面の比較中に、図面内に保存されている設定のみを表示

このチェックボックスにチェックを入れると、カレントの図面に保存されている設定と、DWGCOMPAREコマンドを実行して開いた別の図面の設定の違いが表示されます。

34.3.17 構造ツリー設定

構造パネルの**構造ツリーを設定**オプションを選択して開きます。

構造ツリー設定ダイアログボックスでは、**構造**パネルの**ツリー構造**を定義することができます。



1 ファイル

2 グループ/ソートタブ

3 表示/スキップタブ

4 オプションタブ

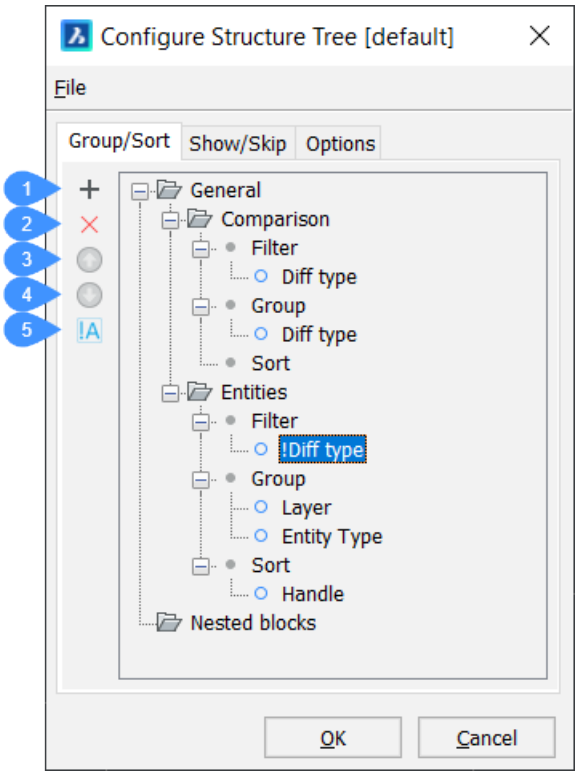
34.3.17.1 ファイル

ダイアログボックスの**ファイル**メニューをクリックしてオプションを選択します：

- **開く...**：**構造ツリーの設定ファイルを選択**ダイアログボックスが開き、他の *.cst設定ファイルを選択することができます。

- **保存**：現在の構成が保存されます。
- **名前を付けて保存...**：現在の構成に別の名前を付けて保存することができます。

34.3.17.2 グループ/ソート



1 ルールまたはプロパティを追加

2 ルールまたはプロパティを削除

3 プロパティを上に移動

4 プロパティを下に移動

5 否定切り替え(フィルタープロパティのみ)

ルールまたはプロパティを追加(+)
フィルター、**グループ**、**ソート**について、新しいルールやプロパティを追加できます。

注：ルール構造は階層になっているので、ルールとプロパティの位置は重要です。

- 既存のルールを選択し、**追加**アイコン(+)をクリックするか、、右クリックしてコンテキストメニューから**ルールをの追加**を選択します。

  新しいルールは、選択したルールの下(または、ルールが選択されていない場合はルール階層の最後)に追加されます。

  注：ルール名を変更するには、ルールを選択して名前をクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**名前変更**を選択します。

- ルールの**フィルター**ノードを選択し、**追加**アイコンをクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**フィルタープロパティを追加**を選択します。

- ルールの**グループ**ノードを選択し、**追加**アイコンをクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューの**グループ化プロパティを追加**を選択します。
- ルールの**ソート**ノードを選択し、**追加**アイコンをクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューの**ソート化プロパティを追加**を選択します。

プロパティを選択ダイアログボックスが表示され、フィルター、グループ、ソートのプロパティを選択できます。

- プロパティを選択し、ダブルクリックするか、**OK**をクリックします。

  注：BIMPROPERTIESコマンドで定義されたプロパティと値の定義を選択して、構造ツリーを構成できます。

- または、検索文字列を**検索**フィールドに入力し、**前を検索**(**Shift+F3**)( )または**次を検索**(**F3**)( )印ボタンをクリックして、検索文字列が含まれているプロパティを検索します。
- 前の手順を繰り返して、フィルター/グループ/ソートのプロパティを追加します。

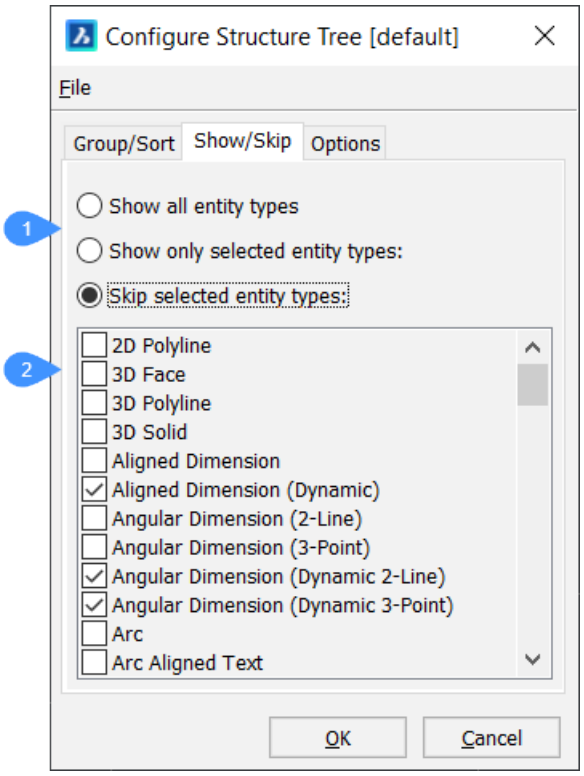
ルールまたはプロパティを削除(****)
選択したルールやプロパティを削除します。また、選択したルールやプロパティのコンテキストメニューから、**ルールを削除/プロパティを削除**を選択することもできます。

プロパティを上に移動(**)**
選択したルールやプロパティを上に移動します。

プロパティを下に移動(**)**
選択したルールやプロパティを下に移動します。

否定切り替え(フィルタープロパティのみ)
フィルタープロパティのみ否定の切り替えができます。

34.3.17.3 表示/スキップ



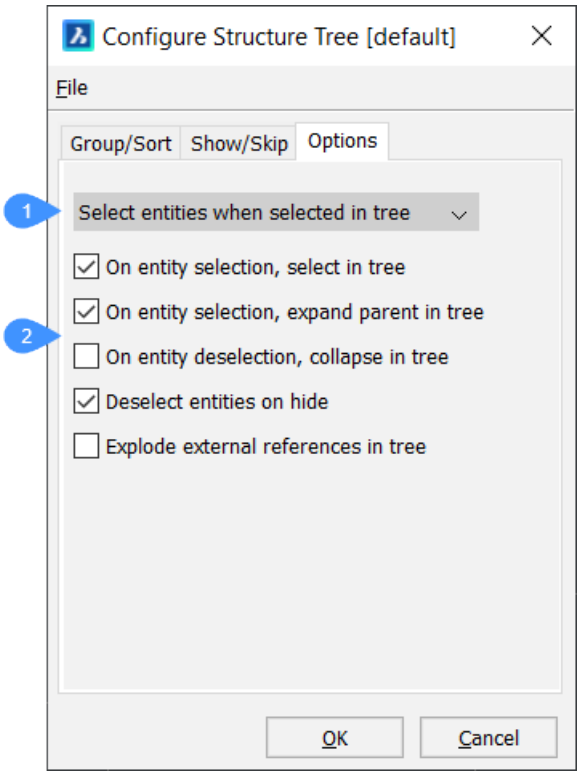
1 表示/スキップオプション

2 選択リスト

表示/スキップオプション
選択した図形を表示するかどうかを指定します。

選択リスト
表示または除外する図形タイプの選択を作成できます。

34.3.17.4 オプション



1 選択オプション

2 その他のオプション：

選択オプション
構造ツリーで図形を選択したときのモデルの動作を定義します。いくつかのオプションが利用できます。

- **ツリー選択を無視**：図面で図形が選択状態になりません。
- **ツリーでの選択でハイライト**：図面で図形がハイライトされますが、選択はされません。
- **ツリーで選択**：一致する図形が図面で選択状態になります。

その他のオプション：
モデルで図形を選択または選択を解除したときの構造ツリーの動作を定義します。

図形選択時はツリーを展開
オンにすると、図面内で一致する図形を選択したときに、構造ツリーで一致する図形が選択されます。

図形の選択で、ツリーの親を展開
オンにすると、図面で選択した図形に関連するノードが展開されます。

図形を選択しない時はツリーを折りたたむ
オンにすると、図面で選択した図形に関連するノードが折りたたまれます。

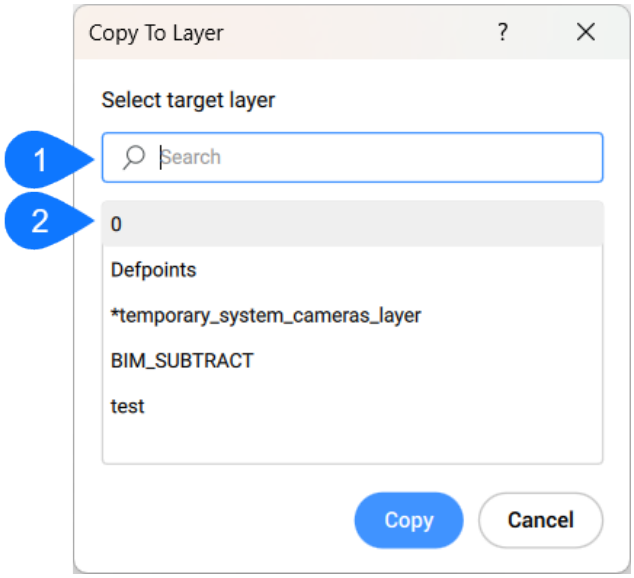
非表示の図形を選択解除
オンにすると、非表示の図形の選択が解除されます。

ツリーの外部参照を展開
オンにすると、構造ツリー内の外部参照図面の内容が一覧表示されます。

34.3.18　画層にコピー

COPYTOLAYERコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

画層にコピーダイアログボックスで、コピー先の画層を選択します。



1　検索バー

2　検索結果一覧

34.3.18.1　検索バー

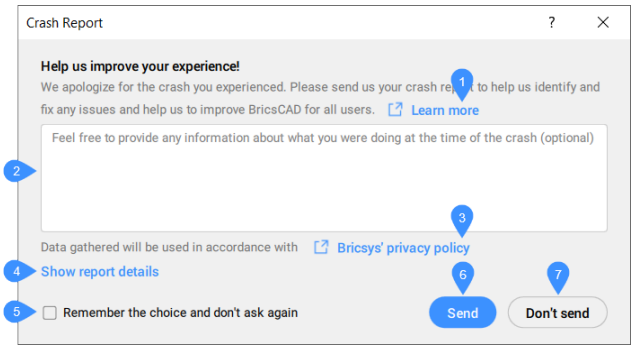
特定の画層名を検索できます。

34.3.18.2　検索結果一覧

入力した検索に一致するすべての画層名を一覧表示します。

34.3.19　クラッシュレポートダイアログボックス

クラッシュレポートダイアログボックスでは、クラッシュレポートを検査し、手動でレポートを提出でできます。(**Windowsのみ**)



1　詳細はこちら

2　クラッシュ情報フィールド

3　Bricsysのプライバシーポリシー

4 レポートの詳細を表示

5 選択を記憶し、再度の表示はしない

6 送信

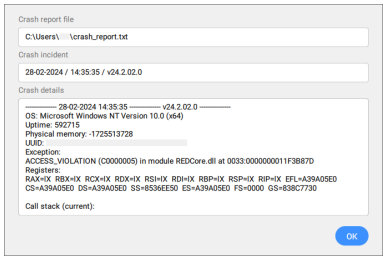
7 送信しない

詳細はこちら
ヘルプセンターの**クラッシュレポートを使用したクラッシュレポートの送信ダイアログボックス**ページを開きます。

クラッシュ情報フィールド
(オプション)クラッシュがどのように発生したかに関する追加情報を入力します。

Bricsysのプライバシーポリシー
Bricsysの **プライバシーステートメント** ページを開きます。

レポートの詳細を表示
自動生成された**crash_report.txt**ファイルに関する情報を含む新しいダイアログボックスを開きます。**OK**をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。



選択を記憶し、再度の表示はしない
クラッシュレポートダイアログボックスは表示されなくなります。

送信
レポートを送信します。

送信しない
レポートを送信しません。

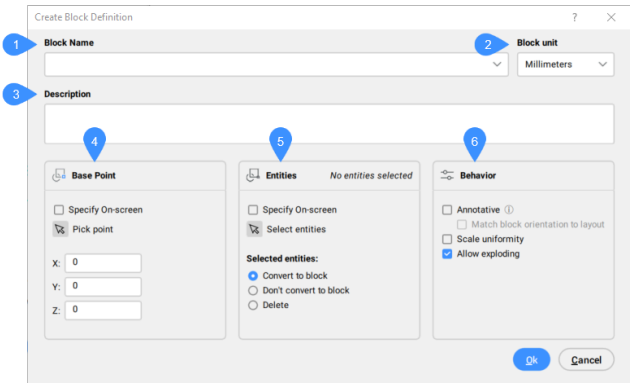
注：

- **クラッシュレポート**ダイアログボックスは、CRASHREPORTSENDINGシステム変数によって保存されます。デフォルト値は0で、ダイアログボックスは常に表示されます。**選択を記憶し、再度の表示はしない**チェックボックスにチェックを入れると、CRASHREPORTSENDINGシステム変数の値が1の場合は**送信**オプションが使用され、2の場合委には、**送信しない**オプションが使用されます。詳しくは、**クラッシュレポートを使用したクラッシュレポートの送信**を参照してください。
- CRASHREPORTSENDINGシステム変数の値は、コマンドラインに名前を入力して新しい値を設定するか、**設定**ダイアログボックスを使用して簡単に変更できます。

34.3.20 ブロック定義を作成ダイアログボックス

BLOCKコマンドを実行して開きます。

ブロック定義を作成ダイアログボックスでは、新しいブロック定義を作成できます。



1 ブロック名

2 ブロック単位

3 説明

4 基点

5 図形

6 動作

34.3.20.1 ブロック名

ブロック名を指定します。

34.3.20.2 ブロック単位

ブロックを作成した図面と単位が異なる図面にブロック定義が挿入されている場合、ブロックの尺度が正しく設定されるようになりました。具体的には、INSUNITS変数が異なるということです。

34.3.20.3 説明

ブロックの説明を記入します。(オプション)

34.3.20.4 基点

ブロック定義の基点のプロパティを変更します。この時点で、INSERTコマンドでブロックが挿入されます。

画面上を指示
ボックスにチェックを入れると、**OK**ボタンをクリックした後に、モデル空間で基点を定義できます。

基点を選択
ブロックの基点となる図面上の点を選ぶことができます。図面内でX,Y,Z座標を入力することもできます。

X/Y/Z
ブロックを挿入する座標を指定します。Z座標は通常オプションです。

34.3.20.5 図形

ブロックを作成する図形を選択します。

画面上を指示
ボックスにチェックを入れると、**OK**ボタンをクリックした後に、モデル空間で図形を選択できます。

注：必要に応じて、基準曲線を選択に含めることで、挿入時にブロックの位置を自動的に合わせることができます。

図形を選択
1つ以上の図形を選択します。

選択図形
図形をどのようブロックにするかを定義します。

ブロックへ変換
選択図形はブロックに変換されます。これはデフォルトのオプションです。

ブロックに変換しない
選択図形は図形として保持され、ブロック定義が図面内に作成されます。

削除
選択された図形は、ブロック定義が作成された後に削除されます。

注：**ブロックへ変換**が最も効率的なオプションです。

34.3.20.6 動作

異尺度対応
ブロックの異尺度対応プロパティを設定します。このようなブロックは、モデルやペーパー空間での異尺度が1:1の場合に作成する必要があります。異尺度対応を行うことで、ブロックはカレントの異尺度対応の尺度係数に応じて自動的に尺度調整されます。
ブロックに異尺度対応を適用するかどうかを選択します。

- **オン**：ブロックは、有効な異尺度対応に合わせて尺度調整されます。「均一尺度」オプションはグレーアウトされます(使用できません)。
- **オフ**：INSERTコマンドで指定した尺度係数がブロックに適用されます。

注：選択したブロック属性でサポートされている注釈尺度は、そのブロック参照が異尺度対応でない場合でも、**プロパティ**パネルで変更することができます。

レイアウトへのブロック適応
異尺度対応ブロックをレイアウトの向きと一致させるかどうかを決定します。

- **オン**：異尺度対応ブロックは、ビューポートの向きに関係なく縦に表示されます。
- **オフ**：異尺度対応ブロックは、ビューポートの方向に合わされます。

均一尺度
ブロックを均一尺度でなく拡大縮小できるかどうかを決定します。このオプションは、異尺度対応ブロックには使用できません。

- **オン**：ブロックのX、Y、Zの尺度係数は同じです。これにより、ブロックが歪むのを防ぐことができます。
- **オフ**：ブロックは、異なるX、Y、Zの尺度係数で挿入することができます。これは、寸法の違うテーブルトップのように、寸法が異なる可能性のあるオブジェクトに有効です。

分解可能
ブロックが挿入された後に、ユーザーがブロックを分解させることができるかどうかを決定します。ブロックが分解されると、ブロックの状態が失われ、個々の図形として編集できるようになります。

ヒント：ブロックを分解せずに図形を編集するには、BEDITコマンドを使用します。

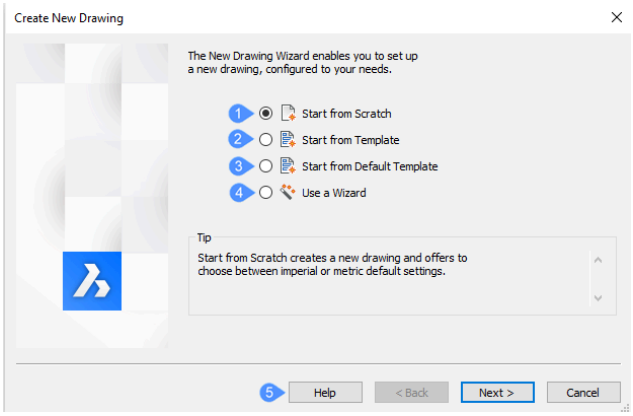
- **オン**：ブロックを挿入した後、EXPLODEコマンドを使い分解することができます。

- **オフ**：ブロックは分解できません。このプロパティはEXPBLOCKSコマンドのブロックセクションで変更できます。

34.3.21 新規図面を作成

NEWWIZコマンドを実行して開きます。

新規図面を作成ダイアログボックスでは、新規作成ウィザードを使っていくつかの方法で新しい図面を作成することができます。



1 一から開始

2 テンプレートから開始

3 デフォルトテンプレートから開始

4 新規作成ウィザードを使用

5 ヘルプ

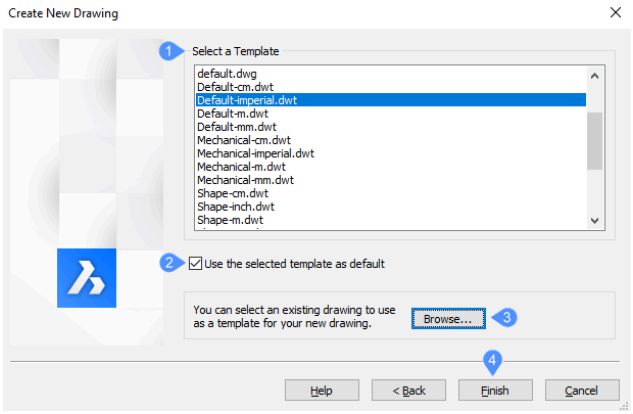
34.3.21.1 一から開始

BASEFILEシステム変数で指定されたデフォルトのテンプレートファイルを使用して、新規図面を開始します。**次へ**ボタンをクリックし、インチ系かミリ系かを選択します。

- **インチ系(フィートとインチ)** - 新しい図面はdefault-imperial.dwtファイルをベースにし、インチ法の測定値を使用します。
- **ミリ系** - 新しい図面はdefault-mm.dwtファイルをベースにし、メートル法を使用します。

終了ボタンをクリックすると、プログラムは、デフォルトのテンプレートファイルに依存する内容で新しい図面を開きます。

34.3.21.2 テンプレートから開始



1 テンプレートを選択

2 デフォルトテンプレートを使用

3 ブラウズ...

4 終了

テンプレートを選択
テンプレートファイルを選択します。テンプレートリストから、DWTファイル名を1つ選びます。これらのファイルは、TemplatePath変数で指定したフォルダーに格納されます。デフォルトの保存場所は、C:¥%username%¥AppData¥Local¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Templates¥です。

デフォルトテンプレートを使用
デフォルトとして選択テンプレートを使用 オプションをオンにすると、このファイルを今後もテンプレートとして使用することができます。チェックを入れた場合、プログラムはBaseFile変数の値を更新します。**終了**ボタンをクリックすると、プログラムは、デフォルトのテンプレートファイルに依存する内容で新しい図面を開きます。

ブラウズ...
テンプレートファイルを選択ダイアログボックスが開き、DWG(図面ファイル)、DWT(テンプレートファイル)、DXF(図面交換ファイル)などのテンプレートのファイルタイプを選択します。

終了
リストまたはダイアログボックスからテンプレートを選択したら、**終了**ボタンをクリックします。

34.3.21.3 デフォルトテンプレートから開始

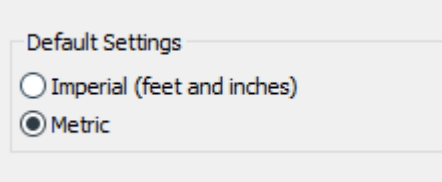
BASEFILEシステム変数で定義されるように、新規図面をデフォルトテンプレートから開始します。**終了**ボタンをクリックすると、プログラムは、デフォルトのテンプレートファイルに依存する内容で新しい図面を開きます。

34.3.21.4 新規作成ウィザードを使用

ウィザードに沿って操作し、新規図面を開始します：

1 **次へ**ボタンをクリックします。

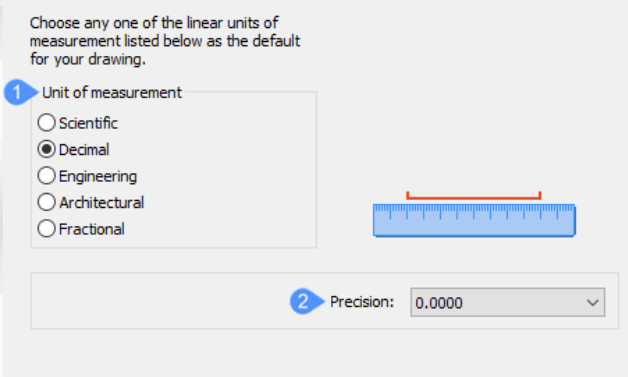
2 インチ系かミリ系かを選択します。



- インチ系(フィートとインチ)-新しい図面はdefault-imperial.dwtファイルをベースにし、インチ法の測定値を使用します。
- ミリ系 - 新しい図面はdefault-mm.dwtファイルをベースにし、メートル法を使用します。

3 **次へ**ボタンをクリックします。

4 長さの計測単位と表示精度を選択します。



- 計測単位
- 精度

計測単位
リストの中から一つ選択します。迷ったら「十進表記」を選択してください。単位は後からUNITSコマンドでいつでも変更できます。

ユニット名	計測単位	サンプル表示
建築図面表記	フィート、インチ、フラクショナルインチ	4'-6 1/16"
工業図面表記	フィート、インチ、10進数インチ	4'-6.0625"
分数表記	インチ、分数インチ	54 1/6"
十進表記	(デフォルト)単位、10進法	2128.4449
指数表記	単位、10進法の単位、指数	2.1284E+03

精度
ドロップダウンリストをクリックして、精度のレベルを選択します。迷ったらデフォルトを選択してください。精度は後からUNITSコマンドでいつでも変更できます。

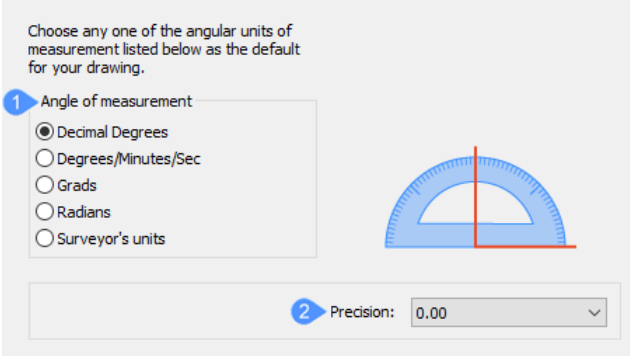
注 : これは表示精度で、プログラムは内部的に常に小数点以下8桁までの計算を行います。

注 :

1 **次へ**ボタンをクリックします。

2 計測角度の単位と表示精度を選択します。

3



- 計測角度
- 精度

計測角度

リストの中から一つ選択します。迷ったら「度(十進表記)」を選択してください。単位は後からUNITSコマンドでいつでも変更できます。

角度名	計測単位	例
十進表記	度数と小数点以下の数値	12.3456
度/分/秒	度数、分、秒、小数点以下の秒数	12d34'56"
グラディアン(G)	グラッドとデシマル	123.45g
ラジアン(R)	ラジアンとデシマル	1.23r
測量単位	緯度および経度	N12d34'56"E

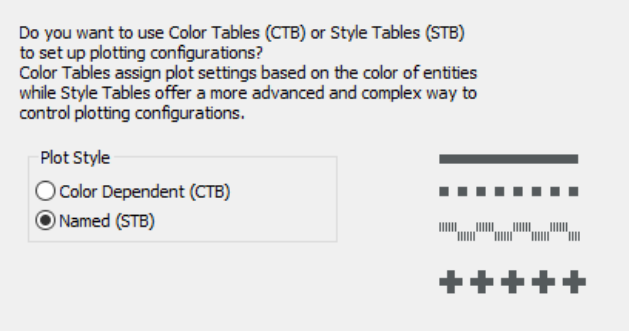
精度

ドロップダウンリストをクリックして、精度のレベルを選択します。迷ったらデフォルトを選択してください。精度は後からUNITSコマンドでいつでも変更できます。

1 **次へ**ボタンをクリックします。

2 図面にどのような印刷スタイルを適用するかを決定します：

3



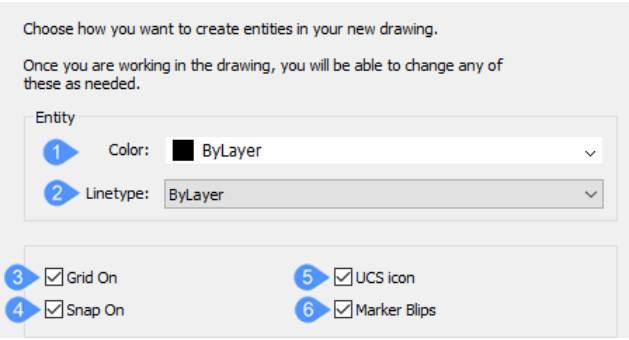
- **色従属(CTB)** - これらの印刷スタイルは、適用が簡単ですが、柔軟性に欠けます。
- **名前付き(STB)** - 印刷スタイルは、プロット時にすべての図形プロパティのあらゆる側面をコントロールするため、より柔軟ですが、その分複雑です。

迷ったら「色従属」を選択します。

4 **次へ**ボタンをクリックします。

5 デフォルトの作業色、線種、図面に表示させたい視覚補助を選択します：

6



a 色
b 線種
c グリッドオン
d スナップオン
e UCSアイコン
f マーカーブリップ

色
ドロップダウンリストから任意の色を選択できます。しかし、これはお勧めできません。[ByLayer]を選択すると、画層が図形の色をコントロールします。詳細はCOLORおよびLAYERコマンドを参照してください。

線種
ドロップダウンリストから任意の線種を選択することができますが、これもお勧めできません。同じ理由で、[ByLayer]を選択します。詳細はLINETYPEコマンドを参照してください。

グリッドオン
オンにすると、ドット(またはライン)のグリッドが表示され、単位の間隔や、1mごとなどの作図範囲を確認するのに役立ちます。詳細はGRIDコマンドを参照してください。オンにしておくことをお勧めします。

スナップオン
オンにすると、カーソルの移動量を0.5mごとなどに設定します。オンにしておくことをお勧めします。

UCSアイコン
オンにすると、X、Y、Z軸の方向を示すUCSアイコンが表示されます。詳細はUCSICONコマンドを参照してください。3D図面の場合はオン、2D図面の場合はオフにしておくことをお勧めします。

マーカーブリップ
オンにすると、図面内をクリックするたびに小さな＋が表示されます。詳細はBLIPMODEコマンドを参照してください。図面が汚くなってしまうことがあるので、これはオフにしておくことをお勧めします。
終了ボタンをクリックすると、プログラムは、デフォルトのテンプレートファイルに依存する内容で新しい図面を開きます。

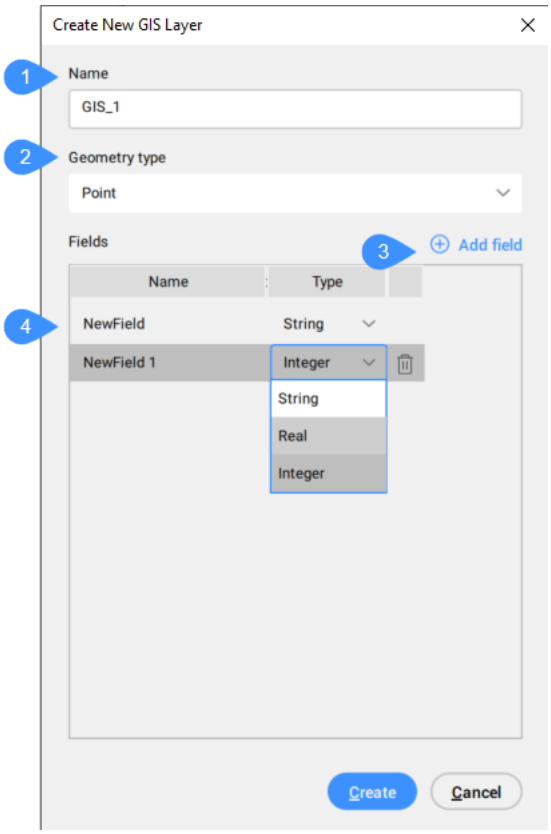
34.3.21.5 ヘルプ

NEWWIZコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.3.22 新しいGIS画層を作成

土木エクスプローラパネルから開きます。

新しいGIS画層を作成ダイアログボックスでは、新しいGIS画層を作成できます。



1 名前

2 ジオメトリタイプ

3 フィールドを追加

4 フィールド

34.3.22.1 名前

GIS画層に選択した名前を表示します。

34.3.22.2 ジオメトリタイプ

右側の矢印をクリックすると開く利用可能なジオメトリタイプのリストから選択したジオメトリタイプを表示します。

34.3.22.3 フィールドを追加

新しいGIS画層フィールドを追加します。

34.3.22.4 フィールド

追加されたすべてのGIS画層フィールドを一覧表示します。各フィールドには**名前**と**種類**があります。

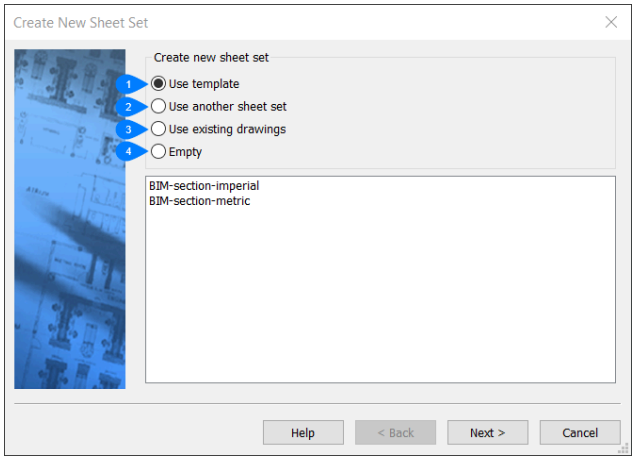
ゴミ箱アイコン をクリックして、GIS画層フィールドを削除します。

34.3.23 新規シートセットを作成

以下より開きます：

- NEWSHEETSETコマンド
- **シートセット**パネル

新規シートセットを作成ダイアログボックスには、新規シートセットを作成するための4つの方法が用意されています。



1 テンプレートを使用

2 他のシートセットを使用

3 既存図面を使用

4 空

34.3.23.1 テンプレートを使用

テンプレートを使用
テンプレートから新しいシートセットを作成します。

SheetSetTemplatePath環境設定で設定したフォルダーに、DSTファイルとしてシートセットテンプレートが保存されます。(デフォルトのパスはC:¥Users¥%username%¥AppData¥Local¥Bricsys¥BricsCAD ¥V[Version]¥ja_JP¥Templates¥)

1 ダイアログボックスに表示されるリストから、テンプレートシートセットを選択します。

1 **注**：すべてのメートル法のプロジェクトは、デフォルトでmm単位のシートセットテンプレートを使用し、SECTIONSHEETSETTEMPLATEMETRICシステム変数の設定（空でない場合）を尊重します。cmおよびm単位のシートセットおよびシートテンプレートファイルは、インストールには含まれなくなりました。

2 **次へ**をクリックします。

保存するシートセットファイル

1 シートセットファイルの名前を入力します。

2 **参照**をクリックして、シートセットを保存する保存先フォルダーを選択し、保存します。

注：デフォルトでは、カレント図面のロケーションフォルダーが開きます。

説明

1 (オプション)シートセットファイルの説明を入力します。

2 **次へ**をクリックします。

シートセットプレビュー

作成するシートセットの概要を確認したら、**終了**をクリックして新しいシートセットファイルを作成します。**シートセット管理**パネルが開き、新しいシートセットが表示されます。

34.3.23.2 他のシートセットを使用

既存のシートセットの設定を使用して新規シートセットを作成します。

コピーするシートセットを選択

1 **参照**をクリックし、**シートセットファイルを選択**ダイアログボックスから既存のシートセットファイルを選択します。

2 **次へ**をクリックします。

保存するシートセットファイル

1 シートセットファイルの名前を入力します。

2 **参照**をクリックして、シートセットの保存先フォルダーを選択し、保存します。

重要：新しいファイルを保存するフォルダーを選択するまでは、次へ進めません。

説明

1 (オプション)シートセットファイルの説明を入力します。

2 **次へ**をクリックします。

シートセットプレビュー

作成したシートセットの概要を確認したら、**終了**をクリックして新しいシートセットファイルを作成します。**シートセット**パネルが開き、新しいシートセットが表示されます。

34.3.23.3 既存図面を使用

既存の図面セットから新しいシートセットを作成します。

1 **既存の図面を使用**を選択します。

2 **次へ**をクリックします。

フォルダーを選択

1 **フォルダーを選択**ダイアログボックスから、新しいシートセットを保存するフォルダーを選択します。

注：ダイアログボックスには、図面の名前とそのレイアウトが表示されています。

2 オプションを選択します。(両方のオプションをオンにしておくことをお勧めします)

フォルダー構成からサブセットを作成

メインフォルダー内のフォルダーを使用して、シートセットの構造を決定します。

図面ファイル名に付けるシートタイトルの接頭文字

1 図面ファイルの名前をシート セット タイトルの先頭に追加します。これにより、ファイルのソースを追跡しやすくなります。

2 **次へ**をクリックします。

保存するシートセットファイル

1 シートセットファイルの名前を入力します。

2 **参照**をクリックして、シートセットの保存先フォルダーを選択し、保存します。

重要：フォルダーを選択するまでは次に進めません。

説明

(オプション)シートセットファイルの説明を入力します。

新規シートの既定の図面テンプレート

1 **図面テンプレートを選択**ダイアログボックスに表示されたリストから、テンプレートシートセットを選択します。

2 **次へ**をクリックします。

シートセットプレビュー

作成したシートセットの概要を確認したら、**終了**をクリックして新しいシートセットファイルを作成します。**シートセット**パネルが開き、新しいシートセットが表示されます。

34.3.23.4 空

新しいシートセットを一から作成します。

1 **空**を選択します。

2 **次へ**をクリックします。

保存するシートセットファイル

1 シートセットファイルの名前を入力します。

2 **参照**をクリックして、シートセットの保存先フォルダーを選択し、保存します。

重要：フォルダーを選択するまでは次に進めません。

説明

(オプション)シートセットファイルの説明を入力します。

新規シートの既定の図面テンプレート

1 図面テンプレートを選択ダイアログボックスから、テンプレートシートセットを選択します。

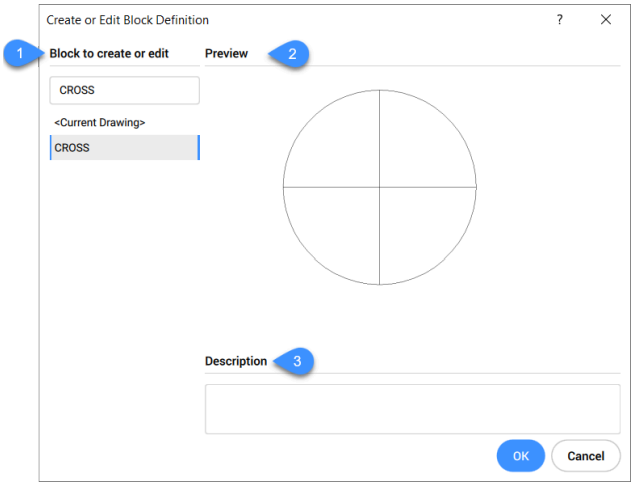
2 **次へ**をクリックします。

シートセットプレビュー
作成したシートセットの概要を確認したら、**終了**をクリックして新しいシートセットファイルを作成します。**シートセット**パネルが開き、新しいシートセットが表示されます。

34.3.24 ブロック定義の作成または編集

BEDITコマンドを実行して開きます。

ブロック定義の作成または編集ダイアログボックスでは、既存のブロック定義を選択して編集したり、新しい名前を入力して新しいブロック定義を作成したりすることができます。



1 作成/編集するブロック

2 プレビュー

3 説明

34.3.24.1 作成/編集するブロック

作成または編集するブロックの名前を指定します。ブロックを編集するには、図面で使用できるブロックを下のリストから選択します。

34.3.24.2 プレビュー

選択したブロックのプレビューを表示します。

34.3.24.3 説明

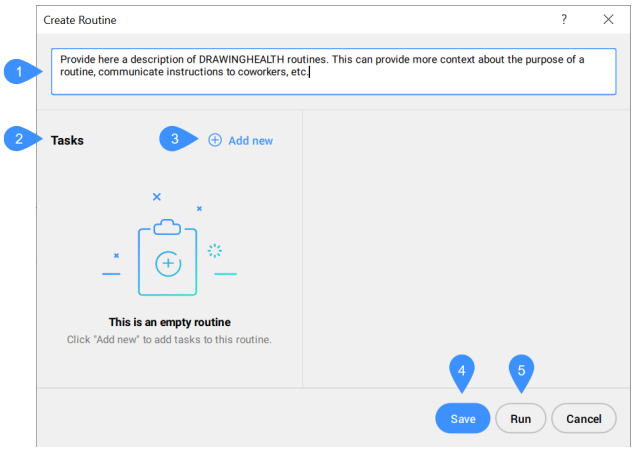
選択したブロックの説明を表示します。

OKをクリックして、**ブロック編集**を開きます。

34.3.25 ルーチンを作成

DWGHEALTHコマンドのコンテキストパネルから開きます。

ルーチンを作成ダイアログボックスでは、DWGHEALTHコマンドのルーチンで実行されるタスクを定義することができます。



1 説明

2 タスク

3 新規追加

4 保存

5 実行

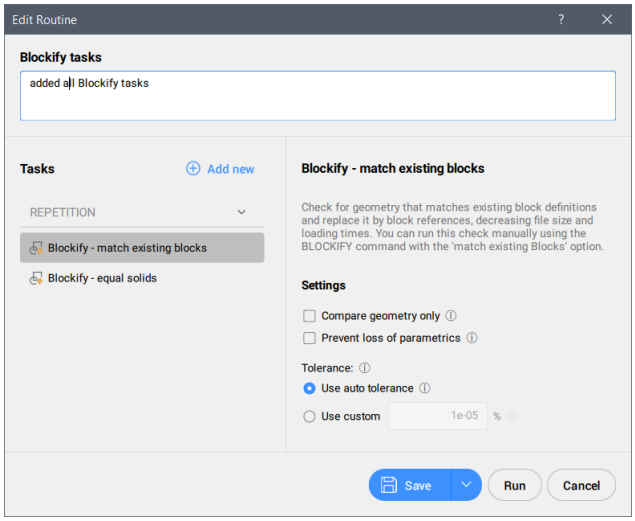
34.3.25.1 説明

DRAWINGHEALTHのルーチンに説明を加えることができます。ルーチンの目的について状況を補足したり、スタッフへ指示を与えたりすることなどができます。

34.3.25.2 タスク

DWGHEALTHコマンド時に実行するカレントルーチンに対して選択したタスクが一覧表示されます。

注：作業ルーチンには、少なくとも1つのタスクが必要です。



34.3.25.3 新規追加

使用可能なすべてのタスクを含むドロップダウンリストからカレントルーチンに新しいタスクを追加します。

使用可能なタスクは以下のようにグループ化されます。

BASIC

名前削除
下の図に示すように、さまざまな種類の未使用のオブジェクトをチェックして削除します。また、チェックに含めるオブジェクトタイプを決定することができます。このチェックは、PURGEコマンドを使用して手動で実行できます。

監査
カレント図面の整合性を分析し、エラーを修正します。このチェックは、AUDITコマンドを使用して手動で実行できます。

外れ図形を探す
有効な領域外の外れ図形を見つけて、それらを移動または削除します。ルーチンを高速モードで実行すると、検出された外れ図形はすべて削除されます。このチェックは、FINDOUTLIERSコマンドを使用して手動で実行できます。

2D形状

簡略化
ユーザー設定に従って、冗長な頂点を削除することにより、ポリライン、スプライン、ハッチングを簡素化または滑らかにします。このチェックは、SIMPLIFYコマンドを使用して手動で実行できます。

3D形状

3D監査
ユーザー設定に従って、3Dジオメトリの問題を分析し、自動的に修正します。このチェックは、DMAUDITコマンドを使用して手動で実行できます。

ソリッド化
メッシュをソリッドへ変換します。このチェックは、SOLIDIFYコマンドを使用して手動で実行できます。

3D簡略化
不要なエッジや頂点を削除したり、継ぎ目のエッジをマージしたり、ユーザが指定した許容範囲内で面やエッジのジオメトリを解析的なサーフェスと曲線に置換することで、3Dソリッドを簡略化します。このチェックは、DMSIMPLIFYコマンドやDMSIMPLIFYALLコマンドを使用して手動で実行できます。

繰り返し

重複削除 - 重複ジオメトリ
重複図形を削除します。オプションを使い、重複している図形を専用の画層に移動できます。このチェックは、OVERKILLコマンドの**重複するブロック定義を結合**オプションを使用して手動で実行できます。

重複削除 - 重複するブロック
同じ内容のブロック定義をチェックし、(オプションで)ユーザ設定に従って重複を削除します。このチェックは、OVERKILLコマンドで**重複するブロック定義を結合**オプションの**重複したブロックを削除**ボタンを選択して手動で実行できます。

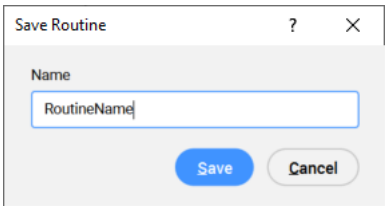
ブロック化 - 既存のブロックをマッチング
既存のブロック定義に一致するジオメトリをチェックし、それをブロック参照に置き換えて、ユーザ設定に従ってファイルサイズ縮小とロード時間の短縮を行います。このチェックは、BLOCKIFYコマンドで**一致する既存ブロック**オプションを選択して手動で実行できます。

ブロック化 - 等しいソリッド
等しいソリッドをブロック参照に置き換えて図面に構造を追加し、ユーザ設定に従って、ファイルサイズ縮小とロード時間の短縮を行います。このチェックは、BLOCKIFYコマンドで**等しいソリッド**オプションを選択して手動で実行できます。

配列検出
図面に構造を追加し、図形のセットを配列で置換してファイルサイズを縮小します。このチェックは、ARRAYDETECTコマンドを使用して手動で実行できます。

34.3.25.4 保存

ルーチンの保存ダイアログボックスを開き、作成したルーチンの名前を入力します。



34.3.25.5 実行

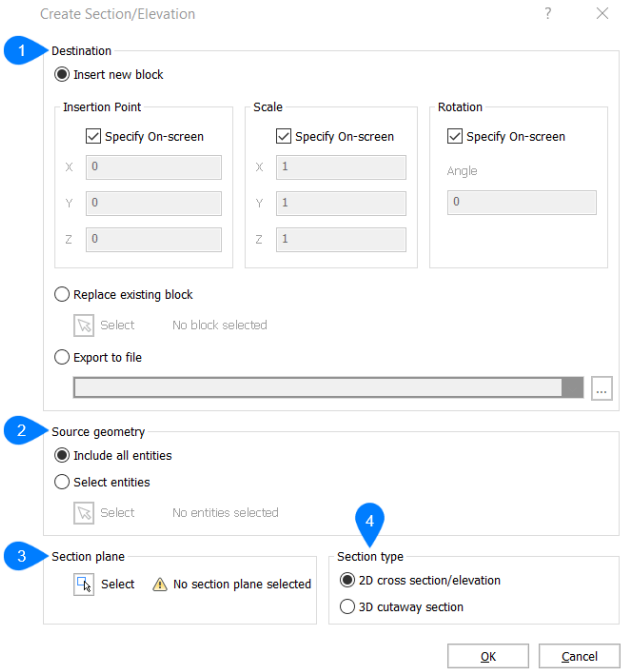
作成したルーチンを保存せずに、**新しいルーチン***という名前で実行することができます。

注：図面診断コマンドのコンテキストパネルから**ルーチンを作成**または**ルーチンを編集**ダイアログを開き、**実行**ボタンで未保存のルーチンを実行すると、**名前を付けて保存**ボタンが表示されます。これをクリックしてルーチンを保存ダイアログを開き、カスタムルーチンを任意の名前で保存します。**名前を付けて保存**ダイアログボックスを開き、カスタムルーチンに名前を付けて保存します。

34.3.26 断面/立面を作成

SECTIONPLANETOBLOCKコマンドを実行して開きます。

断面/立面を作成ダイアログボックスでは、断面図をカレント図面に挿入されたブロックとして保存したり、DWGファイルとしてディスクに保存したりすることができます。



1 対象先

2 元の幾何形状

3 断面

4 断面の種類

34.3.26.1 対象先

図面内のブロック配置先を定義します。

新規ブロックを挿入
作成した断面を図面上に新規ブロックとして挿入します。挿入基点、尺度、回転を指定することができます。

挿入位置
ボックスにチェックが入っている場合、OKボタンをクリックした後に、モデル空間で基点を定義できます。

X/Y/Z
ブロックを挿入する座標を定義します。「画面上で指定」ボタンがチェックオフされている場合にのみ使用できます。

尺度変更
ボックスにチェックが入っている場合、OKボタンをクリックした後に、モデル空間で基点を定義できます。

X/Y/Z
X、Y、Zの各方向の尺度係数を定義します。「画面上で指定する」ボタンがチェックオフされている場合にのみ使用できます。

回転
ボックスにチェックが入っている場合、OKボタンをクリックした後に、モデル空間で基点を定義できます。

角度
挿入された断面/立面の回転角度を定義します。

既存のブロックを置換
図面上の既存のブロックを置換します。このブロックは、作成された断面で置換されます。

選択
モデル空間内で置換するブロックを選択できます。

ファイルへ書き出し
書き出しファイルを選択ダイアログボックスを開きます。ここでは、作成した断面を書き出すためのファイルを選択できます。

34.3.26.2 元の幾何形状

図面から含まれる図形を指定します。

すべての図形を含む
図面上のすべての3Dジオメトリ(3Dソリッド、3Dサーフェス、ポリフェースメッシュ、3Dフェースを含む)を選択します。

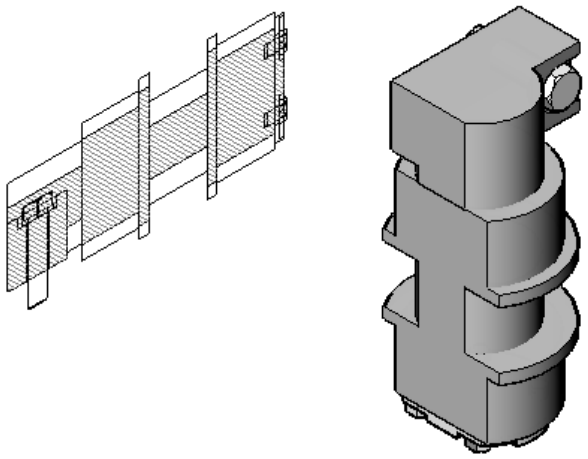
図形を選択
モデル空間に含まれる図形を選択できます。

34.3.26.3 断面

ブロックに変換する断面を選択します。

34.3.26.4 断面の種類

作成する断面ブロックの種類を決定します。



2D断面/立面
断面設定ダイアログボックスで定義された2D断面設定を使用して、ブロックを作成します。

3D切取り断面
断面設定ダイアログボックスで定義された3D断面設定を使用して、ブロックを作成します。

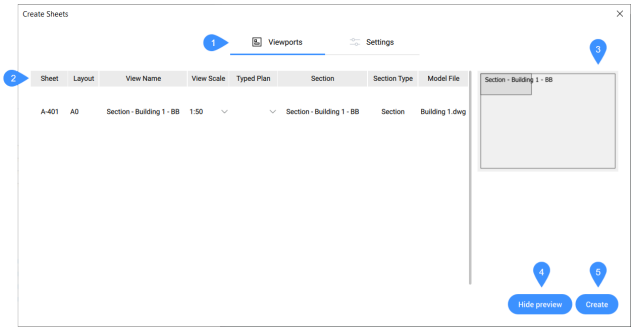
34.3.27　シートを作成

BIMプロジェクトブラウザパネルから開きます。

シートを作成ダイアログボックスでは、断面のシートを作成することができます。**BIMプロジェクトブラウザ**パネルから、事前に追加しておいた断面を右クリックし、**シートを作成**を選択するとダイアログボックスが表示されます。

注：複数の断面を選択してシートを作成することもできます。まだ結果を生成していない断面のサブセットが一覧表示されます。

注：選択した断面にシートがすでに作成されている場合は、ダイアログボックスが開き、**BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**シート**タブに移動して編集することができます。シートの編集は、シートを右クリックして、コンテキストメニューから**シートを編集**を選択しても行えます。



1　タブ

2　タブオプション

3　プレビュー

4　プレビューを隠す

5　作成

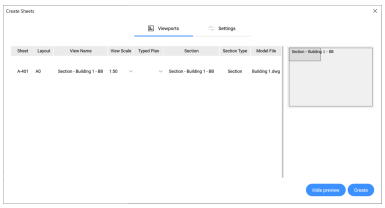
34.3.27.1 タブ

ビューポート
作成するビューポートのレイアウト、尺度、タイププランを設定できます。

設定
作成されるシート名の接頭辞と余白を変更できます。

34.3.27.2 タブオプション

ビューポートタブのオプション



シート
シート名を表示します。

注：シート名は**ビューポート**タブでは変更できません。**設定**タブで編集します。

レイアウト
ドロップダウンメニューが開き、シートテンプレートで使用できるレイアウトを選択できます。可能な限り多くのレイアウトが1つのシートに配置されます。シートごとに1つのレイアウトしか配置されきません。1つのシートに複数のビューポートがあり、それらのうちの1つのレイアウトが変更された場合、そのビューポートは自動的に別のシートに転送されます。

注：ビューポートがレイアウトより大きい場合、プレビューが赤色で表示されます。この場合、レイアウトに合わせてビュー尺度を調整できます。

ビュー名
ビューの名前を表示します。

注：ビュー名は**ビューポート**タブでは変更できません。名前を変更するには、シート作成後に**プロジェクトブラウザ**の**シート**タブで該当するビューを選択し、タブ下部の**詳細**パネルの**タイトル**欄に新しい名前を入力します。

ビュー尺度
ドロップダウンメニューから定義済みのビュー尺度を選択できます。または、**尺度一覧の編集...**を選択します。**尺度一覧の編集**ダイアログボックスが開き、任意の尺度を作成したり編集したりすることができます。

タイププラン
ドロップダウンメニューが開き、タイププランを選択したビューポートに割り当てることができます。

注：タイププランは、**BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**ファイル**タブで追加します。追加したタイププランは、ビューポートタブのドロップダウンメニューに表示されます。

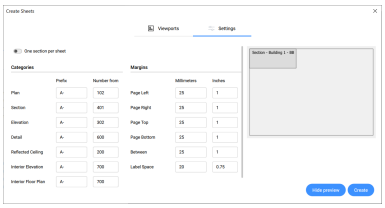
断面
断面名を表示します。

注：断面名は**ビューポート**タブでは変更できません。名前を変更するには、**断面とビュー**タブで対応する断面を右クリックし、**名前変更**オプションを選択します。**名前変更**ダイアログボックスが開き、名前が変更できます。

断面タイプ
断面タイプを表示します。

モデルファイル
断面が配置されているモデルファイル名を表示します。

設定タブのオプション



1シートにつき1断面
オフにすると、1シートに複数の断面が配置されます。**オン**にすると、1シートに1断面が配置されます。

カテゴリー
シート作成時にカテゴリの名前を定義します。作成されるシートの接頭辞と番号付けを変更できます。

余白
シートの余白を定義します。

34.3.27.3 プレビュー

シートのレイアウトのプレビューを表示します。

34.3.27.4 プレビューを隠す

シートのレイアウトのプレビューを非表示にします。プレビューを再度表示するには、**プレビューを表示**ボタンをクリックします。

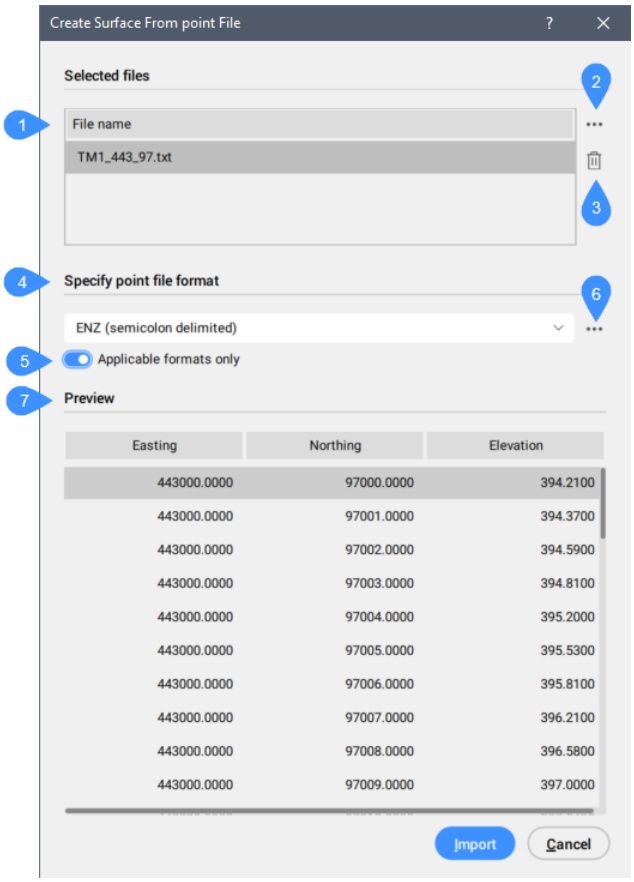
34.3.27.5 作成

作成をクリックすると、新しいシートが作成されます。

34.3.28 ポイントファイルからサーフェスを作成

TINコマンドの**ファイルから読み込み**オプションを選択して開きます。

ポイントファイルからサーフェスを作成作成ダイアログボックスでは、ポイントファイル(複数可)を選択してTINサーフェスを作成することができます。



1 選択したポイントファイルのリスト

2 ポイントファイルを選択

3 ポイントファイルを削除

4 ポイントファイル形式を指定

5 適用可能な形式のみ

6 サーフェスポイントファイル形式を管理

7 プレビュー

34.3.28.1 選択したポイントファイルのリスト

選択した入力ポイントファイルが表示され、TINサーフェスの作成ができます。

34.3.28.2 ポイントファイルを選択

ファイルを開くダイアログボックスが開き、ポイントファイルを選択できます。入力ポイントファイルとしては、ポイントの任意のASCIIファイルに対応できます。拡張子、列間の区切り文字、列内のデータの配置も任意です。複数のポイントファイルを選択できます。

34.3.28.3 ポイントファイルを削除

ポイントファイルをリストから削除します。

34.3.28.4 ポイントファイル形式を指定

ドロップダウンリストからポイントファイル形式を選択します。

34.3.28.5 適用可能な形式のみ

オンにすると、リスト内のすべてのファイルに適用可能な形式のみが表示されます。

34.3.28.6 サーフェスファイル形式を管理

サーフェスファイル形式を管理ダイアログボックスを開きます(関連記事**サーフェスファイル形式を管理ダイアログボックス**を参照)。

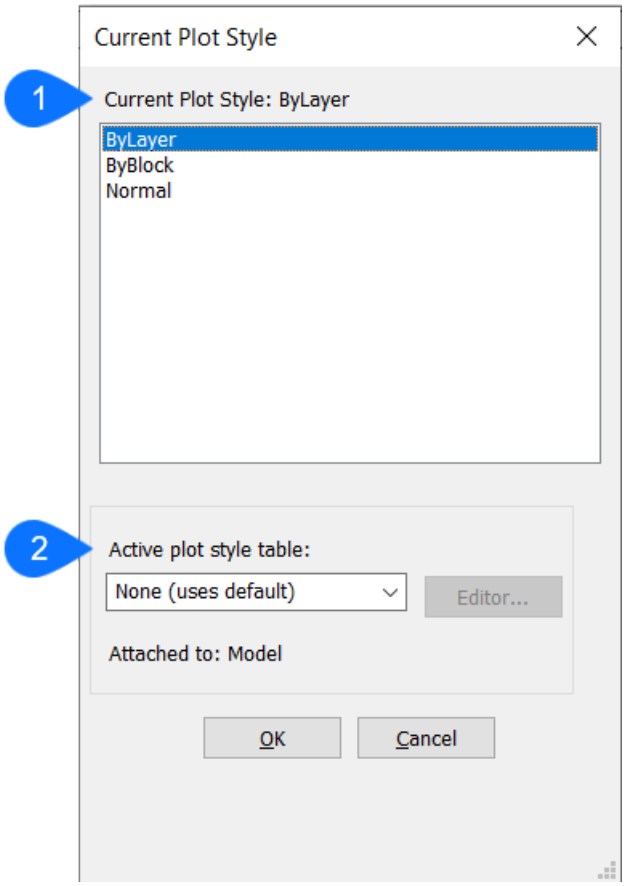
34.3.28.7 プレビュー

指定したポイントファイル形式に従って、すべてのポイントの座標が表示されます。

34.3.29 カレントの印刷スタイル

PLOTSTYLEコマンドを実行して開きます。

カレントの印刷スタイルダイアログボックスでは、現在の印刷スタイルを設定できます。



1 カレントの印刷スタイル

2 使用中の印刷スタイルテーブル

34.3.29.1 カレントの印刷スタイル

図面で使用するカレントの印刷スタイルを設定します。以下の中から選択できます。

- **ByLayer**：図形の画層の印刷スタイルを使用します。
- **ByBlock**：図形が割り当てられているブロックの印刷スタイルを使用します。
- **ノーマル**：通常の印刷スタイルを使用します。図形のデフォルトのプロパティが使用されます。

34.3.29.2 使用中の印刷スタイルテーブル

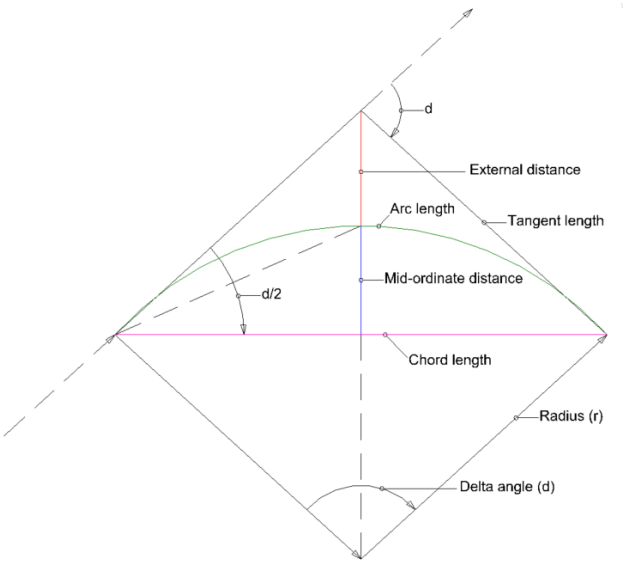
STBファイル(style tableの略)の名前を一覧表示します。選択した印刷スタイルテーブルを編集するには、「編集...」をクリックします。**印刷スタイルテーブルエディター**ダイアログが表示されます。

34.3.30 曲線計算

CURVECALCコマンドを実行して開きます。

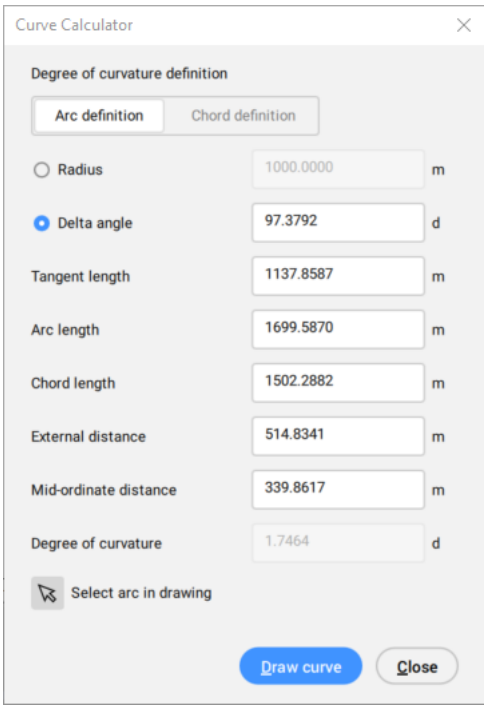
曲線計算ダイアログボックスでは、**円弧の定義**または**弦の定義**によって**円曲線の角度**を定義し、入力値から曲線のパラメータを計算することができます。

下図は、曲線の各パラメータを示しています。



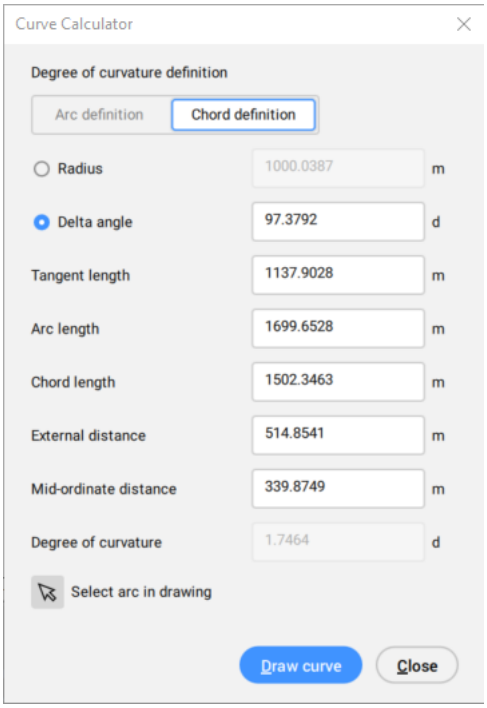
34.3.30.1 円弧の定義

円曲線の角度が**円弧の定義**によって定義されます。すなわち、円曲線の角度が円弧によって決まります。このオプションは、円曲線の角度が、100単位の円弧の角度に対応する道路曲線でよく使用されます。



34.3.30.2 弦の定義

円曲線の角度が**弦の定義**によって定義されます。すなわち、円曲線の角度が弦によって決まります。このオプションは、円曲線の角度が、100単位の弦に対応する鉄道曲線でよく使用されます。



半径または**中心角**に基づいて計算されます。

半径寸法
チェックを入れると、半径を固定して計算が開始されます。

中心角
チェックを入れると、中心角を固定して計算が開始されます。

接線長
曲線の接線の長さを設定します。

円弧長
曲線の円弧の長さを設定します。

弦長
曲線の弦の長さを設定します。

外部距離
曲線の外部距離の長さを設定します。

中間縦距離
曲線の中央縦長を設定します。

円曲線の角度
円曲線の角度を設定します。円曲線の角度は、**円弧の定義**による場合は円弧によって、**弦の定義**による場合は弦によって決まります。

図面の円弧を選択
図面から円弧を選択することができます。

曲線を作成
曲線計算ダイアログボックスが一時的に閉じて、計算された曲線が図面に作図されます。

34.3.31　カスタマイズグループ

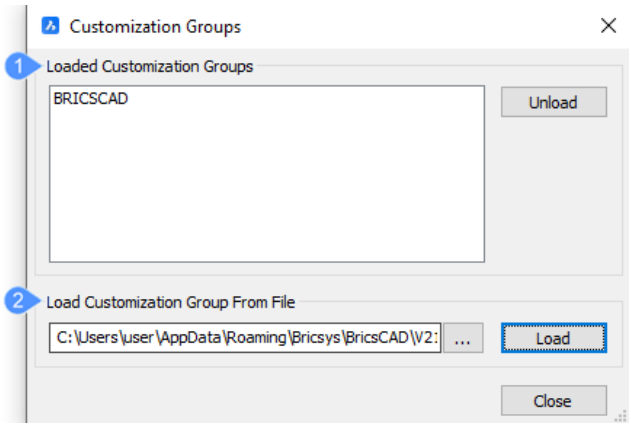
Shape Lite Pro Mechanical BIM

MENULOADコマンドを実行して開きます。

カスタマイズグループダイアログボックスでは、部分CUIファイルをロードまたはロード解除できます。

BricsCADをインストールすると、デフォルトのCUIファイルがローミング可能なルートフォルダーの**Support**フォルダーにコピーされます。(例：C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support).

BricsCADを初めて起動すると、classic-ribbon.cuiファイルが自動的にロードされます。



1　ロードしたカスタマイズグループ

2　ファイルからカスタマイズグループをロード

34.3.31.1　ロードしたカスタマイズグループ

すでに読み込まれているカスタマイズファイル名の一覧が表示されます。

CUIファイルのロードを解除するには、リストからファイルを選択して**ロード解除**をクリックします。

34.3.31.2　ファイルからカスタマイズグループをロード

ブラウズボタンをクリックして部分CUIファイルを選択し、**ロード**ボタンをクリックしてロードします。

注：3つの標準的なCUIファイルがデフォルトで用意されています：

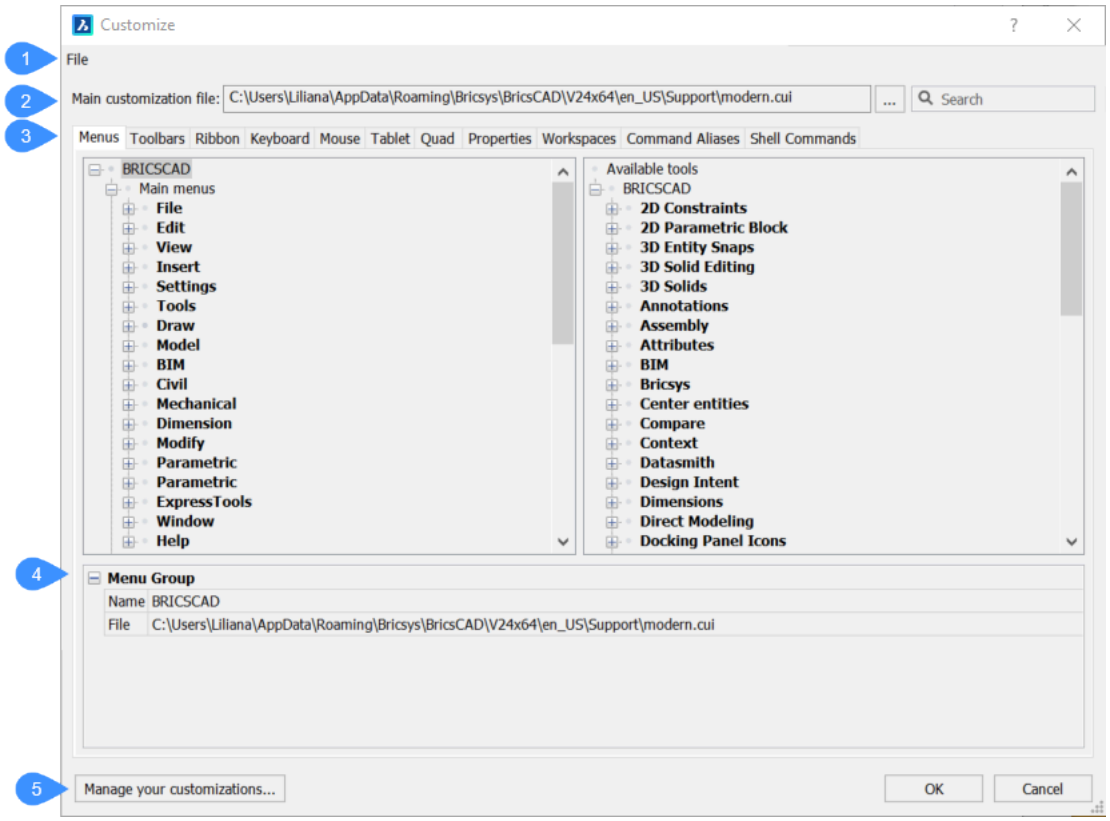
- モダン
- クラシック
- ツールバー

34.3.32　カスタマイズ

Shape Lite Pro Mechanical BIM

CUIコマンドを実行して開きます。

カスタマイズダイアログボックスでは、BricsCADのユーザインターフェースをカスタマイズできます。



1 ファイル

2 主カスタマイズファイル

3 タブオプション

4 メニューグループ

5 カスタマイズを管理する

34.3.32.1 ファイル

カスタマイズファイルの選択やワークスペースの読み込みのためのメニューが表示されます。

メインCUIファイルをロード...
メインCUIファイルを選択ダイアログボックスが開き、カスタマイズファイルを選択できます。CUILOADコマンドを参照してください。

メインCUIファイルを保存...
メインCUIファイルを保存ダイアログボックスが開き、カレントのメインCUIファイルを保存できます。

注：メインCUIファイルを別の名前で保存することで、適応したメインCUIファイルをコピーすることができます。

部分CUIファイルをロード...
カスタマイズファイルを選択ダイアログボックスが開き、部分CUIファイルを開くことができます。

注：部分CUIファイルについての詳しい説明は、**CUIファイルのロードとアンロード**の**部分CUIファイルのロード**の章を参照してください。

新規に部分CUIファイルを作成...
カスタマイズファイルを作成ダイアログボックスが開き、空のCUIファイルを作成できます。

ワークスペースを読み込み...
カスタマイズファイルを選択ダイアログボックスが開き、別のCUIファイルから1つまたは複数のワークスペースを読み込むことができます。

34.3.32.2 主カスタマイズファイル

メニューやツールバーなど、ユーザーインターフェースのカスタマイズを定義したCUIファイルを指定します。

注：エイリアスとシェルコマンドはPGPファイルで定義されます。

ブラウズ
メインCUIファイルを選択ダイアログボックスが開き、別のメインCUIファイルを読み込むことができます。

注：3つの標準的なCUIファイルがデフォルトで用意されています：

- モダン
- クラシック
- ツールバー

検索
利用可能なツールリストからコマンド名を検索します。

34.3.32.3 タブオプション

メニュー
メニュー項目の追加、編集、移動、削除を行います。
メニュータブのメニュー、メニュー項目、サブメニューを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細については、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**項目を追加**または**項目を挿入**を選択すると、**メニュー項目を追加**ダイアログボックスが表示されます。

メニューグループ/メニュー/メニューアイテム/サブメニュー
選択したメニュー、サブメニュー、またはメニュー項目のオプションを表示します。

タイトル
メニュー、メニューアイテム、サブメニューで表示される名前を指定します。

注：文字の前に「&」を付けると、Altのショートカットになります。例：&線分

ID
各メニュー項目に固有の識別子です(IDはBricsCADによって割り当てられます)。

エイリアス
メニューのエイリアスを定義します。参照アイコンをクリックすると、**エイリアスを編集**ダイアログボックスが開き、エイリアスの編集、作成、削除ができます。

ディーゼル
メニュー、メニュー項目、サブメニューに使用されるDieselコードを指定します。

ツールID
CUIファイル内の他の要素に対するメニュー項目またはサブメニューを特定します。(ツールIDはBricsCADによって割り当てられます)

ヘルプ
ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。

コマンド
コマンドまたはマクロを指定します。

イメージ
メニューやサブメニューに表示する画像を指定します。参照アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。

ツールバー
ツールバーの項目を追加、移動、削除します。
ツールバータブでツールバー、ツール、コントロール、フライアウト、セパレータを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**追加ツール**または**挿入ツール**を選択すると、**追加ツール**ダイアログボックスが表示されます。オプションについては、**メニュー項目の追加**ダイアログボックスを参照してください。

メニューグループ/ツールバー/ツールバーボタン
選択したツールバー、ツールバーボタン、ツールバーコントロール、またはツールバーレイアウトのオプションを表示します。

タイトル
ツールチップで表示される名前を指定します。

ID
各ツールバー項目に固有の識別子です(IDはBricsCADによって割り当てられます)。

エイリアス
選択されたアイテムのエイリアスを定義します。参照アイコンをクリックすると、**エイリアスを編集**ダイアログボックスが開き、エイリアスの編集、作成、削除ができます。

位置
選択したツールバーの位置を指定します。**フローティング**、**上**、**左**、**下**、**右**から選択できます。

デフォルト表示
選択したアイテムをワークスペースに追加するかどうかを決定します。

行
ドッキングされていないツールバーの行数を指定します。

X値 Y値
画面の左上からツールバーまでの距離をピクセル単位で指定します。ドッキングされていないツールバーにも適用されます。
この値は、**ワークスペース**タブで設定されたツールバーのXYオプションから取得されます。

ディーゼル
メニュー項目に使用するディーゼルコードを指定します。

ツールID
CUIファイル内の他の要素に対し、ツールバーアイテムを特定します(ツールIDはBricsCADによって割り当てられます)

ヘルプ
ツールバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。

コマンド
コマンドまたはマクロを指定します。

イメージ
ツールバーボタンに表示する画像を指定します。参照アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。
画像の選択方法は5つあります。

リボン
リボンを管理したり、リボンタブにパネルを追加したりすることができます。
リボンタブまたはリボンタブ内のパネルを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**ランチャを追加**、**切替ボタンを挿入**、または**コマンドボタンを挿入**を選択すると、**リボンダイアログランチャを追加**、**リボン切替ボタンを追加**、または**リボンコマンドボタンを追加**ダイアログボックスが表示されます。

- **利用可能なツールを選択**：新しい項目に既存のコマンドを割り当てます。このオプションを選択すると、**利用可能なツール**以外のオプションがグレーアウトされます。
- **新しいツールを作成**：新しい項目に新しいコマンド/マクロを割り当てます。このオプションを選択すると、**利用可能なツール**がグレーアウトされます。
- **ツールボックス**：新しいコマンドを追加するツールボックスを指定します。ドロップダウンリストでツールボックスを選ぶことができます。
- **タイトル**：新しいツールの名前を指定します。
- **ヘルプ**：ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。
- **コマンド**：コマンドまたはマクロを指定します。
- **イメージ**：新しいツールに表示する画像を指定します。**参照**アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。
- **使用可能なツール**：既存のツールを選択します。

メニューグループ/リボンタブ/リボンパネルリファレンス
選択した**リボンタブ**または**リボンパネル参照**のオプションを表示します。

ID
CUIファイル内の項目を特定します(IDはBricsCADによって割り当てられます)。

折りたたむ
パネルを自動的に折りたたむか、折りたたまないかを選択できます。

タイトル
選択した**リボンタブ**または**リボンパネル参照**によって表示される名前を指定します。

タイトル
選択した**リボンタブ**または**リボンパネル参照**の名前を指定します。

キーヒント

注：BricsCADでは、リボンのキーヒントは未実装です。

メニューグループ/リボンパネル/分割ボタン/リボン行パネル/コマンドボタン/トグルボタン
選択した**リボンパネル**、**分割ボタン**、**リボン行パネル**、**コマンドボタン**、**切替ボタン**のオプションが表示されます。

ID
CUIファイル内の項目を特定します(IDはBricsCADによって割り当てられます)。

タイトル
選択したリボン項目に表示される名前を指定します。

タイトル
選択した**リボンパネル**の名前を指定します。

ボタンスタイル
選択したボタンの表示モードを指定します。**文字付の小**、**文字無しの小**、**文字付の大(縦)**、**文字付の大(横)**、**文字無しの大**から選択できます。

注：小さいオプションのアイコンサイズは16×16ですピクセルですが、大きなオプションの場合は32×32ピクセルです。

動作
一番上のボタンをクリックしたときの動作を決定します。**ドロップダウン**、**最新をドロップダウン**、**分割**、**最新で分割**、**最新で分割(スタティック文字)**から選択できます。これらのオプションを選択することで、ボタンをクリックしたときにデフォルトのコマンド(ボタンのリストで最初のコマンド)を表示するか、または一番最近に使用したコマンドを表示するかを指定します。

注：分割ボタンを使用すると、上半分をクリックして最近使用したコマンドを実行したり、下半分をクリックしてドロップリスト(フライアウト)を表示することができます。

一覧スタイル

注：BricsCADでは、このオプションは未実装です。

グループ化

注：BricsCADでは、このオプションは未実装です。

イメージ
選択したリボン項目に対して表示する画像を指定します。

リサイズスタイル

注：BricsCADでは、このオプションは未実装です。

リサイズ優先

注：BricsCADでは、このオプションは未実装です。

平面化

注：BricsCADでは、このオプションは未実装です。

ツールID
CUIファイル内の他の要素に対してリボン項目を特定します。(ツールIDはBricsCADによって割り当てられます)

ヘルプ
リボンに表示されるヘルプ文字列を指定します。

コマンド
コマンドまたはマクロを指定します。

キーボード
コマンドごとに異なるキーボードショートカットを割り当てます。
キーボードタブでキーボードショートカットを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**ショートカットを追加**または**ショートカットを挿入**を選択すると、**キーボードショートカットを追加**ダイアログボックスが表示されます。

- **利用可能なツールを選択**：新しいキーボードショートカットに既存のコマンドを割り当てます。このオプションを選択すると、**利用可能なツール**以外のオプションがグレーアウトされます。

- **新規ツールを作成**：シートカットに新しいコマンド/マクロを割り当てます。このオプションを選択すると、**利用可能なツール**がグレーアウトされます。
- **ツールボックス**：新しいコマンドを追加するツールボックスを指定します。ドロップダウンリストでツールボックスを選ぶことができます。
- **タイトル**：新しいツールの名前を指定します。
- **ヘルプ**：ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。
- **コマンド**：コマンドまたはマクロを指定します。
- イメージ：新しいツールに表示する画像を指定します。**参照**アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。
- **使用可能なツール**：既存のツールを選択します。

メニューグループ/キーボードショートカット
選択したキーボードショートカットのオプションを表示します。

キー
キーボードショートカットを指定します。

ツールID
CUIファイル内の他の要素に対してキーボード項目を特定します。ツールIDはBricsCADによって割り当てられます。

ヘルプ
キーボードショートカットではヘルプ文字列が表示されない場合でも、ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。

コマンド
キーボードショートカットに該当するコマンドを記述します。

イメージ
キーボード・ショートカットではイメージは使用しませんが、コマンドに該当するイメージを指定します。

マウス
マウスボタンに関連するさまざまなアクションを変更します。
マウスタブでボタンまたはボタングループを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注： コンテキストメニューから**ボタンを追加**または**ボタンを挿入**を選択すると、**ボタン項目を追加**ダイアログボックスが表示されます。

エイリアス
選択されたアイテムのエイリアスを定義します。参照アイコンをクリックすると、**エイリアスを編集**ダイアログボックスが開き、エイリアスの編集、作成、削除ができます。

ボタン
使用するマウスボタンを指定します。

ツールID
CUIファイル内の他の要素に対してボタン項目を識別します。ツールIDはBricsCADによって割り当てられます。

タイトル
ボタン項目によって表示される名前を指定します。

ヘルプ
ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。

コマンド
コマンドまたはマクロを指定します。

イメージ
ボタン項目に対してい表示する画層を指定します。参照アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。

タブレット
タブレットのオプションをカスタマイズします。
タブレットタブでボタンまたはボタングループを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**ボタンを追加**または**ボタンを挿入**を選択すると、**ボタン項目を追加**ダイアログボックスが表示されます。

メニューグループ/ボタングループ
選択したボタングループのオプションを表示します。

エイリアス
選択されたアイテムのエイリアスを定義します。参照アイコンをクリックすると、**エイリアスを編集**ダイアログボックスが開き、エイリアスの編集、作成、削除ができます。

クワッド
クワッドタブにコマンドを追加したり、他のタブにコマンドを移動したりします。
クワッドタブまたはクワッドボタンを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**クワッドボタンを追加**または**挿入**を選択すると、**クワッドボタンを追加**ダイアログボックスが表示されます。

- **利用可能なツールを選択**：新しいクワッドボタンに既存のコマンドを割り当てます。このオプションを選択すると、**利用可能なツール**以外のオプションがグレーアウトされます。
- **新規ツールを作成**：新しいクワッドボタンに新しいコマンド/マクロを割り当てます。このオプションを選択すると、**利用可能なツール**がグレーアウトされます。
- **ツールボックス**：新しいコマンドを追加するツールボックスを指定します。ドロップダウンリストでツールボックスを選ぶことができます。
- **タイトル**：新しいツールの名前を指定します。
- **ヘルプ**：ステータスバーに表示されるヘルプ文字列を指定します。
- **コマンド**：コマンドまたはマクロを指定します。
- イメージ：新しいツールに表示する画像を指定します。**参照**アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。
- **使用可能なツール**：既存のツールを選択します。

ID
CUIファイル内のクワッド項目を特定します。IDはBricsCADによって割り当てられます。

タイトル
クワッドボタンで表示される名前を指定します。

ヘルプ
クワッドに表示されるヘルプ文字列を指定します。

コマンド
クワッドボタンに関連するコマンドやマクロを指定します。

イメージ
クアッドボタンに対して表示するイメージを指定します。参照アイコンをクリックすると、**ツールイメージ**ダイアログボックスが開きます。画像の選択方法は5つあります。

図形フィルター
図形の種類に応じて、クワッドに表示される項目を指定します。

プロパティ
図形の種類に応じて表示するプロパティを編集します。

注：これらのプロパティは、ROLLOVERTIPSシステム変数がONの場合にのみ表示されます。

ロールオーバー
どのプロパティを表示するかを指定します。

ワークスペース
ワークスペースごとに、どのメニュータブを表示するかをコントロールします。
ワークスペースタブで項目を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

名前
ステータスバーのワークスペースリストおよびワークスペースツールバーの近くにワークスペースの名前を表示します(WSCURRENTシステム変数によって報告されます)。

表示
ワークスペース名をステータスバーとツールバーのドロップリストの近くに表示するかどうかを決定します。

説明
ステータスバーに表示されるヘルプのような説明。

ID
CUIファイル内のワークスペース項目を識別します。IDはBricsCADによって割り当てられます。

メニューバー
メニューバーの表示状態を切り替えます。MENUBAR(EXCEPT OS X)システム変数も参照してください。

スクロールバー
ステータスバーの表示を切り替えます。WNDLSCRLシステム変数も参照してください。

デフォルト
BricsCADの開始時に、このワークスペースがデフォルトのワークスペースになるかどうかを切り替えます。

- **はい**：BricsCADの起動時に、このワークスペースを表示します。
- **なし**：このワークスペースを表示しません。

スタックタイプ
パネルの表示方法を決定します。STACKPANELTYPEシステム変数も参照してください。

パネルボタンのサイズ
パネル上のボタンの初期サイズを指定します。

クワッドボタンサイズ
クワッドのボタンの初期サイズを指定します。

リボンツールサイズ
リボン上のボタンの初期サイズを指定します。

ツールボタンのサイズ
ツールのボタンの初期サイズを指定します。

注：

- **小**：16×16個のアイコンを表示します。
- **大**：24×24個のアイコンを表示します。
- **特大**：32×32個のアイコンを表示します。

リボンパネルの余白
リボンパネル端の空白のサイズをピクセル単位で指定します。RIBBONPANELMARGINシステム変数も参照してください。

ツールバーの余白
各ツールバーの上下の余白をピクセル単位で指定します。TOOLBARMARGINシステム変数も参照してください。

ツールアイコンパディング
各ツールバーのアイコン間の余白をピクセル単位で指定します。

ツールを削除
SUBTRACTコマンドに続くツール図形の処理方法を指定します。DELETETOOLシステム変数も参照してください。

DMAUDIT詳細レベル
表示するメッセージを指定します。DMAUDITLEVELシステム変数も参照してください。

DMPUSHPULL減算
DMPUSHPULLコマンドで減算モードを有効にするかどうかを指定します。DMPUSHPULLSUBTRACTシステム変数も参照してください。

内側に押し出し
ExtrudeまたはRevolveコマンドの[自動]オプションが選択されている場合に、押し出し/回転された図形と交差する際の親図形の修正方法を決定します。EXTRUDEINSIDEシステム変数も参照してください。

外側に押し出し
EXTRUDEまたはREVOLVEコマンドの自動オプションが選択されている場合に、押し出し/回転された図形と接する際の親図形の修正方法を決定します。EXTRUDEOUTSIDEシステム変数も参照してください。

関連付け属性を生成
3D図形に関連付け属性を生成するかどうかを指定します。GENERATEASSOCATTRSシステム変数も参照してください。

関連図面を生成
3Dモデルと生成されたビュー(VIEWBASE)および計算された図面(BIMSECTIONUPDATE)の自動調整を指定します。GENERATEASSOCVIEWSシステム変数も参照してください。

交差した図形
EXTRUDEまたはREVOLVEコマンドの自動オプションが選択されている場合に、押し出し/回転された図形と交差する際の親図形の修正方法を決定します。INTERSECTEDENTITIESシステム変数も参照してください。

レポートパネルモード
レポートパネルのモードを指定します。対応しているコマンドにのみ適用されます。REPORTPANELMODEシステム変数も参照してください。

選択モード
図形選択中にハイライトするサブ図形を指定します。SELECTIONMODESシステム変数も参照してください。

シートセットマネージャーの自動オープン
シートセットから図面が開かれたときに、**シートセット**パネルを自動的に開くかどうかを切り替えます。

構造ツリー構成
使用するCST構造ツリー設定ファイルに名前を付けます。

サーフェスを結合
隣接する押し出し/回転されたサーフェスを結合する必要があるかどうかを決定します。UNITESURFACESも参照してください。

コンポーネント構成
使用するCCFコンポーネント設定ファイルに名前を付けます。

メニューグループ
使用可能なメニューグループから選択できます。

タイトル
メニューバーに表示されているメニューの名前が表示されます。

ディーゼル
メニュー選択時にDieselコードを実行します。

コマンドエイリアス
エイリアスをカスタマイズして、さまざまなコマンドに追加することができます。
コマンドエイリアスタブで項目を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**エイリアスを追加**または**エイリアスを編集**を選択すると、**エイリアスを追加**または**エイリアスを編集**ダイアログボックスが表示され、エイリアスを追加または編集できます。

エイリアス
コマンド名を省略したエイリアス名を定義します。

注：エイリアスをクリックすると、エイリアスとコマンドの一覧がエイリアスに従ってアルファベット順に並べられます。

コマンド
エイリアスが割り当てられるコマンドを指定します。

注：コマンドをクリックすると、エイリアスとコマンドの一覧がコマンドに従ってアルファベット順に並べられます。

追加
エイリアスを追加します。

編集
選択したエイリアスを編集します。

削除
選択したエイリアスを削除します。

コマンド
エイリアスを追加するために利用可能なすべてのコマンドを一覧表示します。

シェルコマンド
シェルコマンドを作成・編集します。シェルコマンドは、BricsCAD外部のプログラムを実行することができます。
シェルコマンドタブで項目を右クリックすると、コンテキストメニューが開きます。詳細は、**コンテキストメニュー内のオプション**の項を参照してください。

注：コンテキストメニューから**シェルコマンドを追加**または**シェルコマンドを編集**を選択すると、**シェルコマンドを追加**または**シェルコマンドを編集**ダイアログボックスが表示され、シェルコマンドを追加または編集することができます。

エイリアス
シェルコマンドの名前を指定します；' :プロンプトで入力するコマンドです。

シェルコマンド
実行するオペレーティングシステムコマンドまたは動作させるプログラムを指定します。
プログラムを動作させるには、Start Notepad.exeのようにStart接頭語を使用します。

プロンプト
コマンドラインに表示するプロンプトを指定します。例：**編集するファイルを入力:**

フラグ
シェルコマンドの動作を指定します:

- **すぐ**：BricsCADはアプリケーションの終了を待つことなく、直ちにコマンドプロンプトに返します。
- **最小**：アプリケーションを最小化して実行します。
- **非表示**：アプリケーションは画面に表示されません
- **引用符**：シェルコマンドでは、コマンド文字列にスペースが使われている場合、引用符が使用されます。例えば、C:¥cad programs¥file name.exeのようになります。

追加
ダイアログボックスでシェルコマンドを追加します。

編集
ダイアログボックスでシェルコマンドを編集します。

削除
シェルコマンドを削除します。選択した項目を削除するかどうかを確認できる警告を表示します。

コンテキストメニューのオプション
項目を右クリックすると、次のオプションが表示されます。

付加...
記載されている項目を最後の項目の下に追加します。

挿入...
記載されている項目を最後の項目の上に追加します。

追加...
記載されている項目をアルファベット順に追加します。

削除...
メニュー、サブメニュー、項目、セパレーターの選択項目を削除します。選択した項目を削除するかどうかを確認できる警告を表示します。

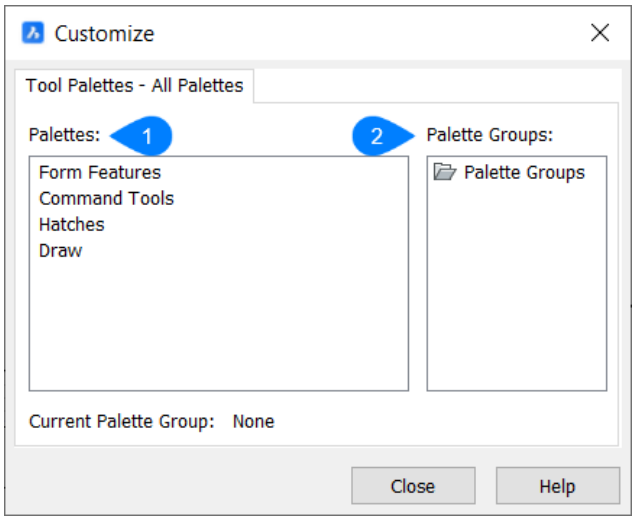
34.3.32.4 カスタマイズを管理する

カスタマイズを管理ダイアログボックスが表示され、ユーザーインターフェースに加えられた変更を確認したり元に戻すことができます。

34.3.33 カスタマイズ(ツールパレット)

ツールパレットパネルから開きます。

カスタマイズ(ツールパレット)ダイアログボックスでは、ツールパレットパネルで使用するタブやツールを自由にカスタマイズすることができます。



1 パレット

2 パレットグループ

34.3.33.1 パレット

ツールパレットパネルで使用できるすべてのパレットの一覧を表示します。パレットのいずれかを右クリックすると、コンテキストメニューにいくつかのオプションが表示されます。

名前変更
名前を入力してパレットの名前を変更します。

新規パレット
すぐに変更可能な一般的な名前で、新しいパレットをリストに追加します。

削除
選択したパレットを削除します。

書き出し
パレットを書き出しダイアログボックスで、パレットを書き出します。

読み込み
パレットを読み込みダイアログボックスで、パレットを読み込みます。

34.3.33.2 パレットグループ

読み込んだパレットグループを表示します。グループのいずれかを右クリックすると、コンテキストメニューにいくつかのオプションが表示されます。

新規グループ
すぐに変更可能な一般的な名前で、新しいパレットをリストに追加します。

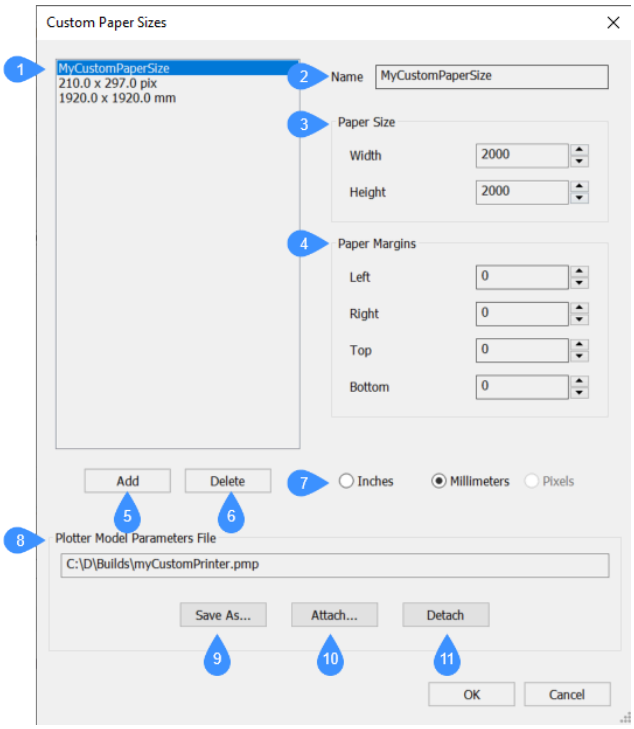
注：追加サブグループの場合、コンテキストメニューで利用できるオプションは、パレットの場合と同じです。

読み込み
パレットグループ読み込みダイアログボックスで、パレットを読み込みます。

34.3.34 カスタム用紙サイズ

印刷ダイアログボックスから開きます。

カスタム用紙サイズダイアログボックスでは、**プリンタ/プロッタの設定**リストで選択した非システムプロッタ(例：Print as PDF.pc3)用のカスタム用紙サイズを作成したり、標準用紙サイズを変更したりできます。



1 カスタム用紙サイズリスト

2 名前

3 用紙サイズ

4 用紙マージン

5 追加

6 削除

7 単位

8 プロッタモデルのパラメータファイル(PMPファイル)

9 名前を付けて保存

10 アタッチ

11 アタッチ解除

34.3.34.1 カスタム用紙サイズリスト

ユーザーが作成したすべてのカスタム用紙サイズの一覧を表示します。

34.3.34.2 名前

カスタム用紙サイズに名前を付けることができます。

34.3.34.3 用紙サイズ

ページの幅と高さを適切なフィールドに挿入することができます。

34.3.34.4 用紙マージン

各フィールドに必要な値を入力することで、用紙の余白を設定できます。正の値のみ使用可能です。

34.3.34.5 追加

新しいカスタム用紙サイズの作成を許可し、リストに追加します。

34.3.34.6 削除

カスタム用紙サイズをリストから選択し、削除することができます。一度に削除できるアイテムは1つです。

34.3.34.7 単位

カスタム用紙のサイズは、インチとミリのどちらを使用するかを選択できます。

34.3.34.8 プロッタモデルのパラメータファイル(PMPファイル)

PMPファイルが添付されている場合、ファイルのパスを表示します。

34.3.34.9 名前を付けて保存

選択したカスタム用紙サイズ設定をPMPファイルに保存しておき、あとで印刷に使用できます。

34.3.34.10 アタッチ

PMPファイルを印刷設定(PC3)ファイルにアタッチします。**キャリブレーションファイル**ダイアログボックスを開き、PMPファイルを選択します。ドロップダウンの用紙サイズリストからこのカスタム用紙サイズを選択できるようになります。

34.3.34.11 アタッチ解除

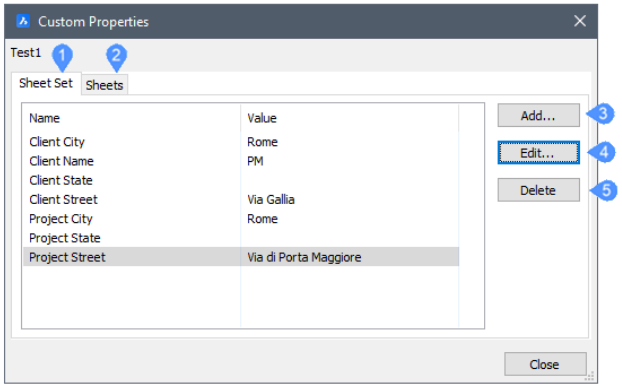
印刷設定(PC3)ファイルから PMPファイルをアタッチ解除します。

34.3.35 カスタムプロパティ

以下より開きます：

- **BIMプロジェクトブラウザ**パネル
- **シートセット**パネル

カスタムプロパティダイアログボックスでは、シートセットとシートのカスタムプロパティを追加できます。



1 シートセットタブ

2 シートタブ

3 追加

4 編集

5 削除

34.3.35.1 シートセットタブ

カスタムシートセットのプロパティを管理します。

34.3.35.2 シートタブ

カスタムシートのプロパティを管理します。

34.3.35.3 追加

カスタムプロパティを追加します。**カスタムプロパティを追加**ダイアログボックスが表示され、プロパティ名とその初期値を追加できます。

34.3.35.4 編集

選択したカスタムプロパティの値を編集することができます。プロパティの名前を編集する**カスタムシートプロパティ**または**カスタムシートセットプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

34.3.35.5 削除

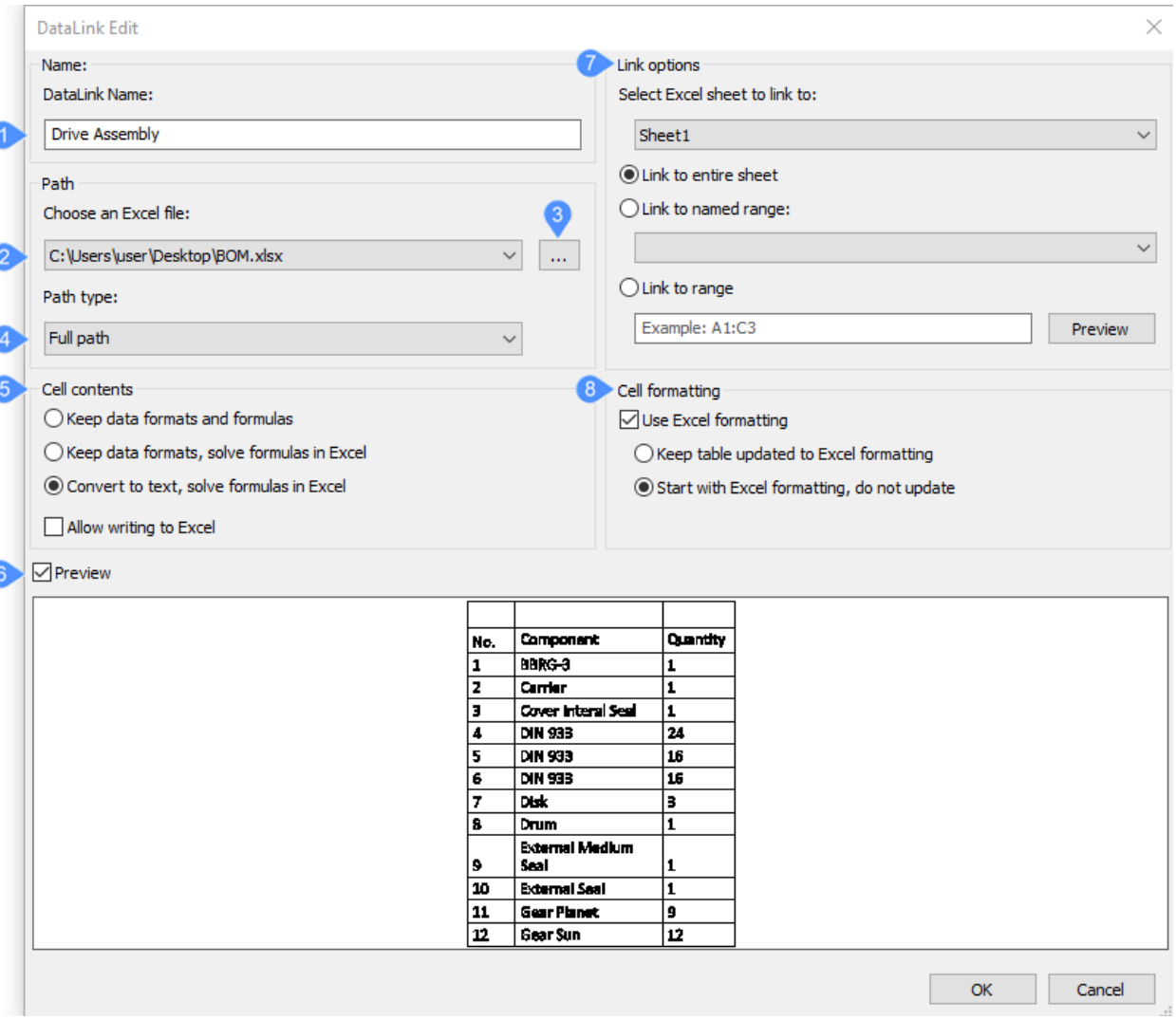
選択したカスタムプロパティを削除します。

34.4 D

34.4.1 データリンク編集

データリンクマネージャーダイアログボックスから開きます。

データリンク編集ダイアログボックスでは、Excelスプレッドシートのデータを図面表に直接リンクして、インタラクティブに更新できます。



1 名前

2 パス

3 ブラウズ

4 パスタイプ

5 セルの内容

6 プレビュー

7 リンクオプション

8 セルの書式設定

34.4.1.1 名前

データリンク名フィールドに名前を入力します。

34.4.1.2 パス

Excelファイルのパスが表示されます。

34.4.1.3 ブラウズ

データファイルの選択を行います。* .XLS、*.xlsx、*.csvファイルを選択できます。

34.4.1.4 パスタイプ

パスタイプのオプションを選択できます。

- **フルパス**：指定したフォルダーのデータファイルのみ検索します。
- **相対パス**：図面ファイルのフォルダーのサブフォルダーを検索します。
- **パス無し**：図面ファイルのフォルダーのみ検索します。

34.4.1.5 セルの内容

- **データ形式と数式を保持**：数式とサポートされているデータ形式でデータを読み込みます。
- **データ形式を保持し、Excelで数式を解決**：データ形式を読み込みます。データはExcelの数式から計算されます。
- **テキストに変換し、Excelで数式を解決**：Excelで数式を計算したデータをテキストとして読み込みます。
- **Excelへの書き込みを許可**：オンにすると、DATALINKUPDATEコマンドは図面内のリンクされたデータの変更を元の外部スプレッドシートにアップロードします。

34.4.1.6 プレビュー

このボタンを選択すると、データファイルのプレビューが表示されます。

34.4.1.7 リンクオプション

リンク先のExcelシートを選択できます。

- **シート全体へのリンク**：データを含むすべてのセルがリンクされます。
- **名づけられた範囲へのリンク**：名前のあるセルの範囲にリンクしています。ボタンをクリックして名づけられた範囲を選択します。
- **範囲へのリンク**：セルの範囲を指定します。**プレビュー**ボタンをクリックして、選択した範囲を表示します。

34.4.1.8 セルの書式設定

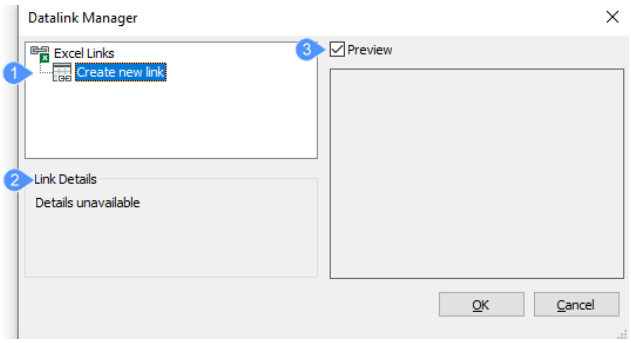
次のいずれかのオプションを選択できるようにするには、**Excel の書式設定を使用**オプションを選択する必要があります。

- **Excel形式に更新された表を保持**：DATALINKUPDATEコマンドを実行したときに、変更された書式を更新します。
- **Excelの書式設定から始める、更新しない**：元のデータファイルで指定された書式設定を読み込みます。DATALINKUPDATEコマンドは、セル書式の変更には影響しません。

34.4.2 データリンクマネージャー

DATALINKコマンドを実行して開きます。

データリンクマネージャーダイアログボックスでは、Excelスプレッドシートのデータを図面表に直接リンクして、インタラクティブに更新できます。



1 新しいリンクを作成

2 リンクの詳細

3 プレビュー

34.4.2.1 新しいリンクを作成

データリンク編集ダイアログボックスが開きます。関連記事**データリンク編集ダイアログボックス**を参照してください。

34.4.2.2 リンクの詳細

リンクの詳細を表示します。

34.4.2.3 プレビュー

データリンクのプレビューを表示します。

34.4.3 データムID

AMDATUMIDコマンドを実行して開きます。

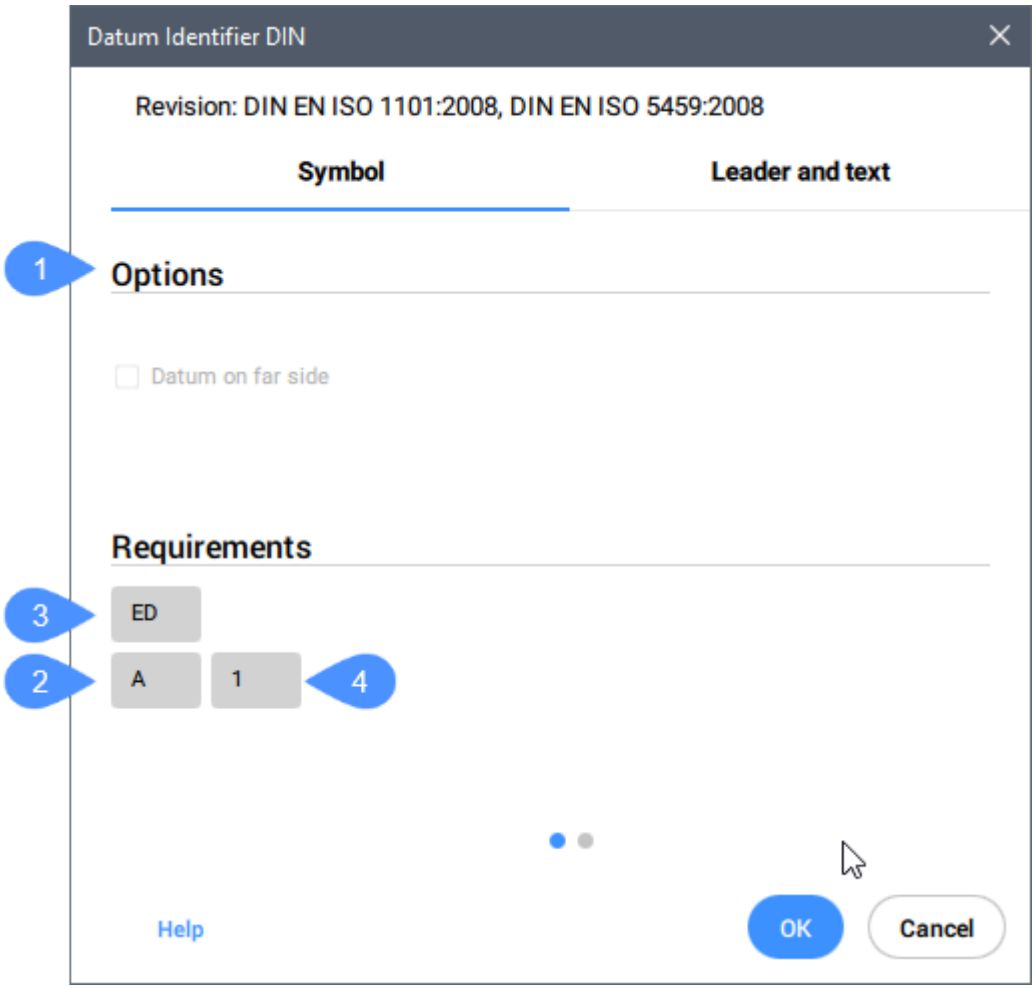
データムIDダイアログボックスでは、データムIDシンボルのすべてのパラメータを設定することができます。

データムIDシンボルに入力したパラメータは一時的に保存され、次回のデータムID設定でデフォルト値として使用されます。

このシンボルが準拠する規格の最新リビジョンが、ダイアログボックス上部に表示されます。

このダイアログボックスには、**シンボル**と**引出線と文字**の2つのメインタブがあります。

34.4.3.1 シンボル



1 オプション

2 識別子

3 スレッド注記

4 データム注記

オプション(1)
データムの種類を切り替えます。

識別子(2)
識別子を定義します。最大 2 文字の識別子がアルファベット順 (A、B、C...) に自動的に割り当てられます。Zまで達すると、引き続きAA、AB、AC...という具合に順番に割り当てられます。識別子を削除した場合、AMDATUMIDコマンドは削除によって生じた空白をアルファベット順リストの上位から埋めようとします。たとえば、識別子A、B、Cが使用されているときにBが削除された場合、次回識別子が必要になるとBを再び使用して空白を埋めます。

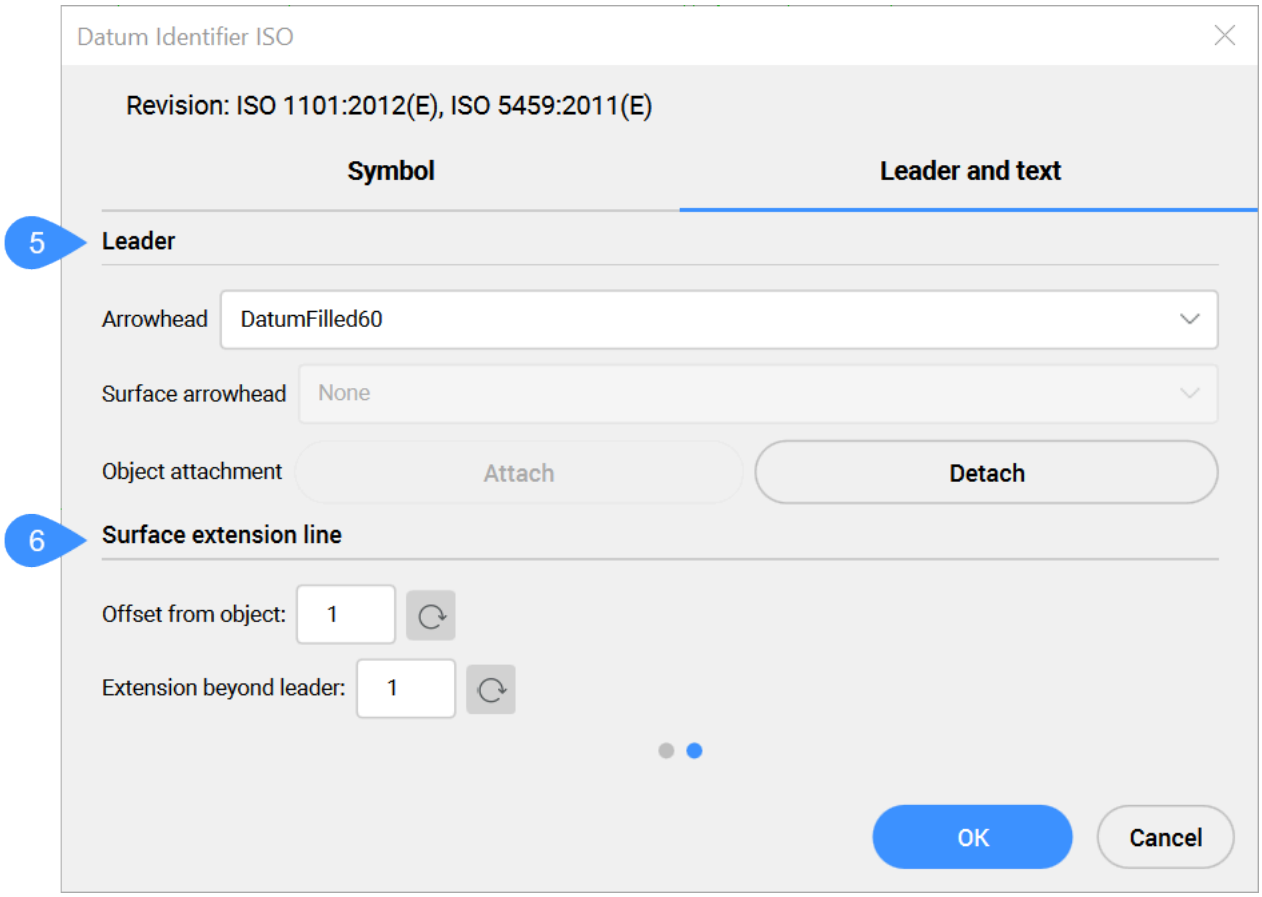
スレッド注記(3)
歯車またはねじ山にアタッチされた記号に配置されるねじ山注記を定義します。それによって、データムとして使用する直径を指定します。

データム注記(4)
サーフェス上の点に対応する参照データムターゲットを定義します。通常、カンマ(",")で区切られた一連のデータムターゲットが含まれます。

注：ねじ山注記とデータム注記は、すべての規格で使用できるわけではありません。

34.4.3.2 引出線と文字

引出線と文字の特性を指定します。



引出線(5)
引出線特性を設定します。

矢印
デフォルトの引出線矢印種類を設定します。

サーフェス矢印
サーフェス表示引出線の矢印を設定します。

注：このオプションは、サーフェスインジケーター引出線が使用可能な規格でのみ使用できます。

オブジェクトアタッチメント
シンボル引出線をオブジェクトにアタッチするか、アタッチ解除するかを定義します。

アタッチ
選択したオブジェクトにシンボルをアタッチします。

アタッチ解除
シンボルをオブジェクトからアタッチ解除します。

サーフェス延長線(6)
サーフェス延長線の特性を設定します。

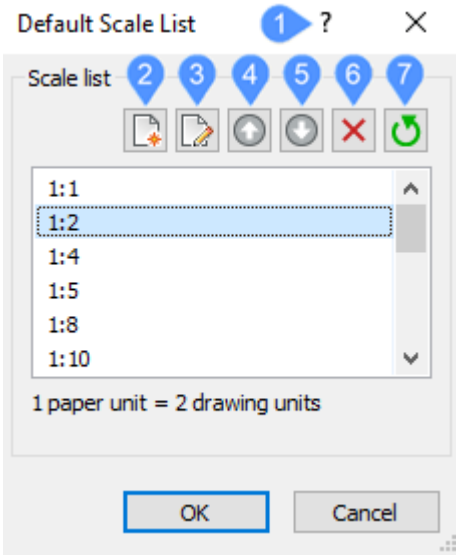
オブジェクトからのオフセット
オブジェクトからのオフセットを設定します。

補助線延長長さ
補助線延長長さを設定します。

34.4.4 デフォルトの尺度リスト

DEFAULTSCALELISTコマンドを実行して開きます。

デフォルトの尺度リストダイアログボックスでは、PRINTやPAGESETUPなどのコマンドや異尺度対応の尺度係数によって表示される尺度の一覧を編集できます。



1 コマンドリファレンス
2 新しい尺度を追加
3 尺度を変更
4 上へ移動
5 下へ移動
6 削除
7 リセット

34.4.4.1 コマンドリファレンス

DEFAULTSCALELISTコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.4.4.2 新しい尺度を追加

新しい尺度係数をリストに追加することができます。**尺度を追加**ダイアログボックスが開きます。

34.4.4.3 尺度を変更

既存の尺度係数を編集することができます。**尺度を編集**ダイアログボックスが開きます。

34.4.4.4 上へ移動

選択した尺度係数をリストの上に移動します。

34.4.4.5 下へ移動

選択した尺度係数をリストの下に移動します。

34.4.4.6 削除

選択した尺度係数を削除します。**Ctrl**を押すと、一度に複数の係数を選択、削除することができます。尺度 1:1 は削除できません。

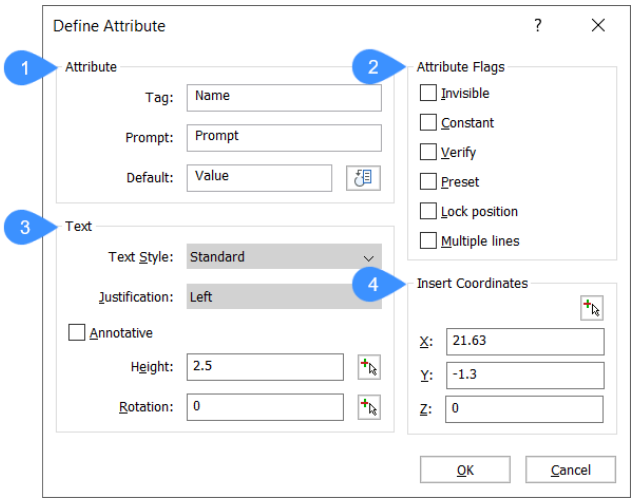
34.4.4.7 リセット

削除された係数を元に戻し、追加したものの使用されていない係数を削除して、リストを元の状態に戻します。

34.4.5 属性定義

ATTDEFコマンドを実行して開きます。

属性定義ダイアログボックスでは、属性値のオプションを定義します。



1 属性オプション

2 属性フラグオプション

3 文字オプション

4 座標を挿入オプション

34.4.5.1 属性オプション

- **タグ**

属性の名前を指定します。これは、BricsCADが属性を識別するための名前です。最大255字までの文字、数字、句読点を使用できます。

- **プロンプト**

  ユーザープロンプトを指定します。これは、後にその属性を図面に挿入する際に、コマンドプロンプトに表示されます。このフィールドは空欄のままでも構いません。BricsCADは、属性の挿入時にプロンプトとしてタグを使用します。

- **デフォルト**

  デフォルト値を指定します。これは、<360> のように山括弧で表示されます。**Enter**を押して値を受け入れます。

  挿入フィールドアイコンをクリックして、フィールドに属性値を適用します(FIELDコマンドをご参照ください)。

34.4.5.2 属性フラグオプション

- **非表示**

  属性を非表示にします。表示もされず、印刷もされません。ただし、非表示属性はATTDISPコマンドで表示できます。

- **定数**

  変更できないデフォルト値を指定します。

- **確認**

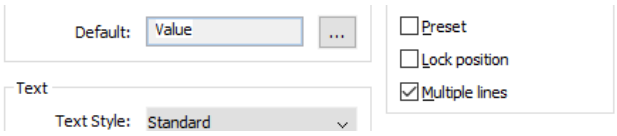
  値をもう一度入力するように強制します。これは、値が正しく入力されているかどうかの確認に役立ちます。

- **プリセット**

  プロンプト表示なしに属性が挿入されます。属性をは、後からATTEDITコマンドで変更できます。

- **位置を固定**
  - **オン**：ブロック参照内の属性の位置が固定されます。
  - **オフ**：固定されていない属性は、グリップ編集でブロックの他の部分と相対的に移動できます。
- **マルチテキスト**
  - **オン**：複数行の入力が可能になります。
  - **オフ**：入力は1行に制限されます。

  マルチラインボックスをオンにすると、淡色表示された**デフォルト**テキストフィールドの横にボタンアイコンが表示されます。



ボタンをクリックするとマルチライン文字を定義するために**属性定義**ダイアログボックスが一時的に非表示になります。MTEXTコマンドが起動します。属性のテキストを入力し、**文字フォーマッティング**ダイアログの**OK**ボタンをクリックして、**属性定義**ダイアログボックスに戻ります。

34.4.5.3 文字オプション

- **文字スタイル**

  属性文字の文字スタイルを指定します。図面に定義されているスタイルの中から選んでください。(STYLEコマンドで追加のテキストスタイルを作成することができます)。

- **位置合わせ**

中心や**フィット**など、属性文字の位置合わせを指定します。

- **高さ**

  文字スタイルでオーバーライドされない限りにおいて、属性テキストの高さを指定します。値を入力するか、ボタンをクリックして図面上の2点を指定することもできます。最後のオプションは、ダイアログボックスを一時的に解除します。

- **回転**

  文字を回転させる場合の回転角を指定します。値を入力するか、ボタンをクリックして図面上の2点を指定することもできます。最後のオプションは、ダイアログボックスを一時的に解除します。

- **異尺度対応**

  属性文字の**異尺度対応**プロパティを設定します。

  注：選択したブロック属性でサポートされている注釈尺度は、**プロパティ**パネルから変更できます。これは、所有するブロック参照が異尺度対応でない場合でも変更可能です。

34.4.5.4 座標を挿入オプション

- **挿入基点を選択**

  挿入位置をモデル上で直接指定します。

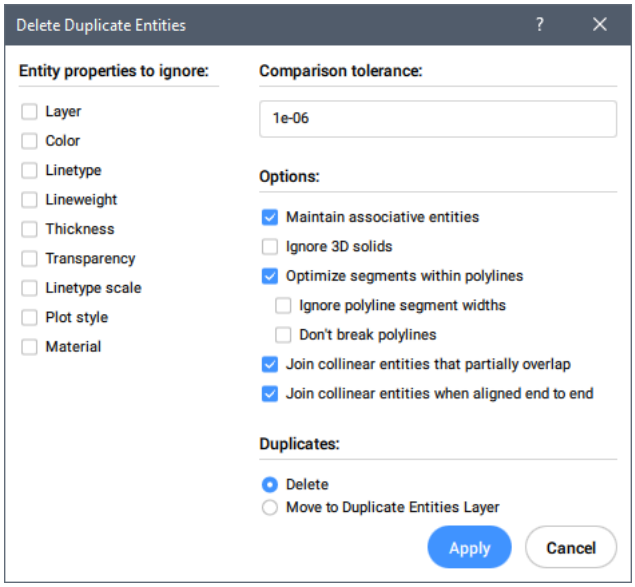
- **X/Y/Z**

  属性の挿入基点の座標を指定します。

34.4.6 重複図形を削除

OVERKILLコマンドを実行して開きます。

重複図形を削除ダイアログボックスでは、重複している図形や、重なっている線、円弧、ポリラインを削除したり、部分的に重なっているものや連続しているものを単一化したりすることができます。



1 無視する図形プロパティ

2 比較誤差

3　オプション

4　重複

34.4.6.1　無視する図形プロパティ

重複する図形を比較する時に、選択されたプロパティを無視します。

34.4.6.2　比較誤差

比較プロセスの許容差を設定します。0(ゼロ)を入力した場合、図形が完全に一致しないと、重複削除プロセスで評価されません。

34.4.6.3　オプション

特別なケースをどのように扱うかを決定します。

関連図形を維持
関連付けされた図形は処理されません。

3Dソリッドを無視
重複する3Dソリッドを無視するか、削除するかを決定します。

ポリライン内でセグメントを最適化
選択したポリラインのセグメントが個別に評価され、重複する頂点やセグメントは削除されます。

- **ポリラインのセグメント幅を無視**：ポリラインセグメントの幅プロパティを無視します。
- **ポリラインを分割しない**：ポリライン図形を元のまま保持します。

一部が重複している直線図形同士を結合
部分的にオーバーラップしている図形を単一の図形に統合します。

端と端が接続している直線図形同士を結合
直線的なものや同一終点を持つポリラインセグメントは 1 つの要素あるいはセグメントに統合されます。

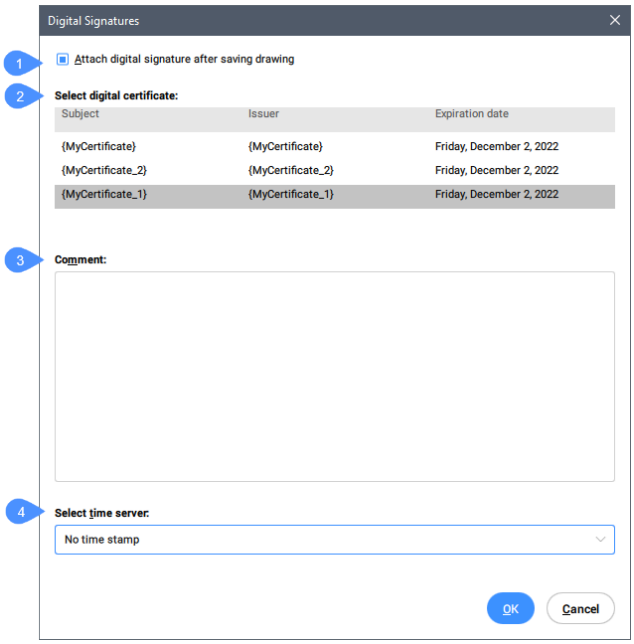
34.4.6.4　重複

重複図形ををどうするかを決定します：削除するか、重複図形画層に移動します。

34.4.7　デジタル署名

DIGITALSIGNコマンドを実行して開きます。

図面に電子署名を施します。

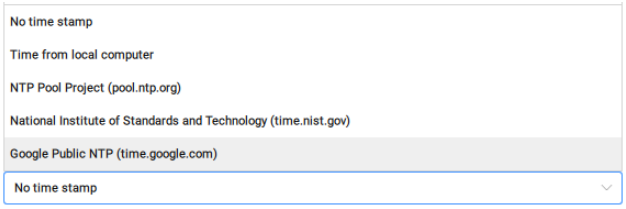


保存後にデジタル署名を添付
図面を保存した後に電子署名を添付する場合は、チェックを入れます。

デジタル証明書を選択
カレント図面に添付する電子証明書を選択します。

コメント
署名にコメントを追加します。

タイムサーバーを選択
ポップアップメニューからタイムサーバーを設定します。

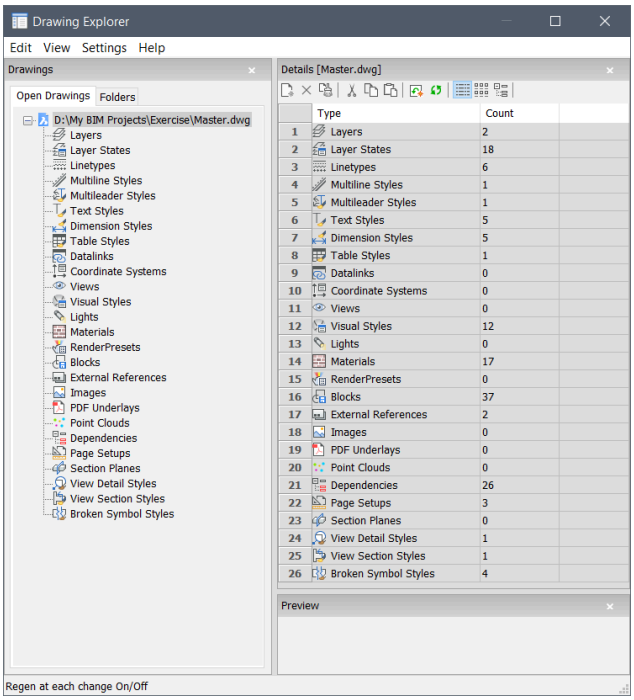


選択されたタイムサーバーは、図面署名の正確な時刻を取得するために使用されます。つまり、保存時に図面に署名が添付されると、選択したタイムサーバーの日時が、電子署名コンテンツの署名日時フィールドに挿入されます。SIGVALIDATEコマンドを参照してください。

34.4.8 図面エクスプローラ

34.4.8.1 図面エクスプローラダイアログボックスを開きます

- EXPLORERコマンドを起動します。
- EXLAYERSやEXPBLOCKSなどの定義カテゴリのコマンドを起動します。
- **図面エクスプローラ** > **ツール**メニューで定義カテゴリを選択します。
- クワッドの「選択無し」タブから**一般**タブの**図面エクスプローラ**を選択します。



カテゴリー	説明
画層	選択図面に定義されている画層の数を表示します。クリックすると画層が表示されます。詳細はEXPLAYERSコマンドを参照してください。
画層状態	選択図面に定義されている画層状態の数を表示します。クリックすると画層状態が表示されます。詳細はLAYERSTATEコマンドを参照してください。
線種	選択図面に読み込まれた線種の数を表示します。クリックすると線種が表示されます、詳細はLINETYPEコマンドを参照してください。
マルチラインスタイル設定	選択図面に定義されているマルチラインスタイルの数を表示します。クリックするとマルチラインスタイルが表示されます。詳細はMLSTYLEコマンドを参照してください。
マルチ引出線スタイル設定	選択図面に定義されているマルチ引出線スタイルの数を表示します。クリックするとマルチ引出線スタイルが表示されます。詳細はMLEADERSTYLEコマンドを参照してください。
文字スタイル設定	選択図面に定義されている文字スタイルの数を表示します。クリックすると文字スタイルが表示されます。詳細はSTYLEコマンドを参照してください。
寸法スタイル設定	選択図面に定義されている寸法スタイルの数を表示します。クリックすると寸法スタイルが表示されます。詳細はDIMSTYLEコマンドを参照してください。
表スタイル設定	選択図面に定義されているDIMSTYLEスタイルの数を表示します。クリックすると表スタイルが表示されます。詳細はTABLESTYLEコマンドを参照してください。

カテゴリー	説明
データリンク	外部の表計算ファイルにリンクされている図面のデータ数を報告します。クリックすると表スタイルが表示されます。詳細はDATALINKコマンドを参照してください。
座標設定	選択図面に定義されている名前付きユーザー座標系(UCS)の数を表示します。クリックすると座標設定が表示されます。詳細はEXPUCSコマンドを参照してください。
ビュー設定	選択図面に定義されている名前付きビューの数を表示します。クリックすると保存されたビューが表示されます。詳細はVIEWコマンドを参照してください。
表示スタイル設定	選択図面に定義されている表示スタイルの数を表示します。クリックすると表示スタイルが表示されます。詳細はVISUALSTYLESコマンドを参照してください。
光源	選択図面に配置されている光源の数を表示します。クリックすると光源が表示されます。詳細はLIGHTLISTコマンドを参照してください。
マテリアル	選択図面に定義されているマテリアルの数を表示します。クリックすると光源が表示されます。詳細はMATERIALSコマンドを参照してください。
レンダリング初期設定	選択図面に定義されているレンダリング初期設定の数を表示します。クリックするとレンダリング初期設定が表示されます。詳細はRENDERPRESETSコマンドを参照してください。
ブロック	選択図面に定義されているブロックの数を表示します。クリックするとブロックが表示されます。詳細はEXPBLOCKSコマンドを参照してください。
外部参照設定	選択図面にアタッチされている外部参照(xrefs)の数を表示します。クリックすると外部参照が表示されます。詳細はEXPXREFSコマンドを参照してください。
イメージ	選択図面にアタッチされているイメージの数を表示します。クリックするとイメージが表示されます。詳細はEXIMAGEコマンドを参照してください。
PDFアンダーレイ	選択図面にアタッチされているPDFアンダーレイの数を表示します。クリックするとPDFアンダーレイが表示されます。詳細はEXPPDFSコマンドを参照してください。
点群	選択図面にアタッチされている点群の数を表示します。クリックすると点群が表示されます。詳細はPOINTCLOUDコマンドを参照してください。
従属ファイル	選択図面に従属する外部ファイルの数を表示します。クリックするとコンポーネント従属ファイルが表示されます。詳細はETRANSMITコマンドを参照してください。
ページ設定管理	選択図面にアタッチされているページ設定の数を表示します。クリックするとページ設定が表示されます。詳細はPAGESETUPコマンドを参照してください。

カテゴリー	説明
断面設定	選択図面に定義されている断面の数を表示します。クリックすると断面が表示されます。詳細はSECTIONPLANESETTINGSコマンドを参照してください。
詳細ビュースタイル	選択図面に定義されている詳細ビュースタイルの数を表示します。クリックすると詳細ビュースタイルが表示されます。詳細はVIEWDETAILSTYLEコマンドを参照してください。
断面ビュースタイル	選択図面に定義されている断面ビュースタイルの数を表示します。クリックすると断面ビュースタイルが表示されます。詳細はVIEWSECTIONSTYLEコマンドを参照してください。
破損したシンボルのスタイル	VIEWBREAKコマンドで使用できるスタイルの数を表示します。クリックすると破損したシンボルのスタイルが表示されます。

34.4.8.2 図面エクスプローラのレイアウト

図面エクスプローラウィンドウはいくつかのサブウィンドウから構成されます。

表示メニューで表示したいサブウィンドウを開いたり閉じたりできます。BricsCADでは、各カテゴリの表示設定が記憶されます。

項目	説明
図面	**図面**ウィンドウを表示します。 • **開いている図面**：現在開いている図面が一覧表示されます。 • **フォルダー**： - **ローカルフォルダー**：お気に入りのローカル図面フォルダーです。 - **Bricsys 24/7**：Bricsys 24/7上の図面フォルダーです。
詳細	**詳細**ウィンドウを表示します。 選択図面の詳細または選択カテゴリーの詳細を表示します。
プレビュー	**プレビュー**ウィンドウを表示します。 選択図面、画層、ブロック、ビュー、寸法スタイル、テーブルスタイル、外部参照、イメージ、マテリアルのプレビューを表示します。
エディター	**エディター**ペインを表示します。 選択カテゴリーのプロパティを定義/編集することができます。
ステータスバー	**図面エクスプローラ**ダイアログの下部にステータスバーを表示します。

	詳細ペインの表示オプション
詳細	グリッド内の定義の詳細を表示します。

	詳細ペインの表示オプション
アイコン	定義をアイコンの配列で表示します。ブロックと外部参照にのみ適用されます。
ツリー	項目をツリー表示します。画層状態、寸法スタイル、外部参照、イメージ、PDFアンダーレイ、コンポーネント従属ファイルのみに適用されます。

再作図	ダイアログボックスで行った変更を反映させるには、図面表示を更新します。
変更ごとに再作図	変更のたびに表示を自動更新するかどうかを切り替えます。

外部参照シンボルを非表示	外部参照の定義を表示しません。

注：

- **詳細**ウィンドウを閉じたときに、**図面**ウィンドウで開いている図面の定義カテゴリをクリックすると、**詳細**ウィンドウが再度開き、選択したカテゴリの内容が表示されます。
- タイトルバーの閉じるボタン(X)をクリックしてサブウィンドウを閉じます。
- デフォルトのレイアウトに戻すには**設定**メニューの**既定のレイアウトへ戻す**を選択します。

34.4.8.3 設定メニュー

項目	説明
既定のレイアウトへ戻す	図面エクスプローラのレイアウトを、選択したカテゴリのデフォルトレイアウトに復元します。図面エクスプローラのレイアウトへの変更は記憶されます。このオプションは、変更した内容をすべてリセットします。
オプション	ブロックと外部参照にのみ適用されます。 ブロックを挿入する際のデフォルト設定を指定します。EXPBLOCKSコマンドをご参照ください。

34.4.8.4 詳細ツールバー

アイコン	名前	ショートカット	説明
	ファイルを追加	Ctrl + N	「新規画層1」や「新規スタイル1」などの一般的な名前で新しい定義を作成します。名前を変更ボタンで名前を変更します。
	削除	Ctrl + D	選択した定義を図面から消去します。図形のある画層など、アイテムが使用中の場合は、消去する画層内の図形を保持するオプションがあります。 0画層、グローバルマテリアル、表示スタイルの2Dワイヤーフレームなど、消せない項目があります。
	名前削除	Ctrl + P	未使用の定義を図面から名前削除します。0画層やテキストスタイルのStandardなど、消去できない定義もあります。詳細はPURGEコマンドをご参照ください。
	切り取り	Ctrl + X	選択した定義をクリップボードにコピーし、削除ツールと同じ手順で図面から削除します。
	複写	Ctrl + C	定義をクリップボードにコピーして、図面エクスプローラで他の場所に貼り付けることができます。
	ペースト	Ctrl + V	定義をクリップボードから図面エクスプローラに貼り付けます。図形のある画層など、クリップボードの内容が貼り付けられるアイテムが使用中の場合、以下のオプションがあります： • **コピーと置換** - 既存のアイテムを貼り付けたアイテムで置き換え • **コピーしない** - コピー操作をキャンセル • **コピーして両方とも維持** - クリップボードの内容をインクリメントした名前(通常は末尾に「1」)で貼り付け • **キャンセル** - 操作もキャンセル
	詳細ビュー		グリッド内の定義の詳細を表示します。
	アイコン表示		定義をアイコンの配列で表示します。ブロックと外部参照にのみ適用されます。
	ツリー表示		項目をツリー表示します。画層状態、寸法スタイル、外部参照、イメージ、PDFアンダーレイ、コンポーネント従属ファイルのみに適用されます。
	再作図		ダイアログボックスで行った変更を反映させるには、図面表示を更新します。
	変更毎の再作図		変更のたびに表示を自動更新するかどうかを切り替えます。

34.4.8.5 コンテキストメニュー

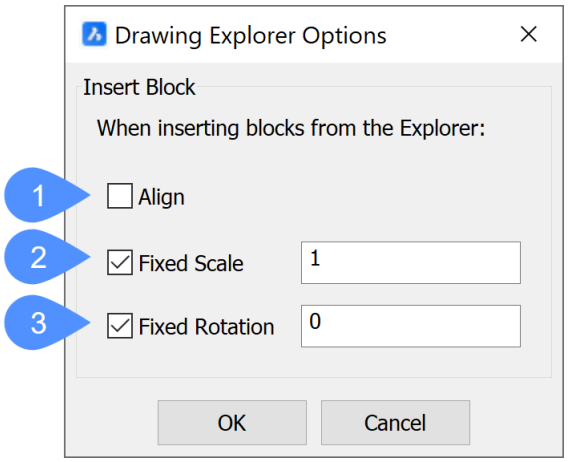
カテゴリの中の定義を選択し、右クリックします。

項目	ショートカット	説明
ファイルを追加	Ctrl + N	選択した定義のコピーとして新しい定義を作成します。
削除	Ctrl + D	選択した定義を削除します。使用中の定義を削除することはできません。
名前削除	Ctrl + P	カレントの選択範囲で未使用の定義を削除します。
切り取り	Ctrl + X	選択した定義をクリップボードに切り取ります。
複写	Ctrl + C	選択した定義をクリップボードにコピーします。
ペースト	Ctrl + V	クリップボードの定義を貼り付けます。
名前変更	F2	選択した定義の名前を変更します。代わりに、名前をゆっくりと2回クリックすると、名前が変更されます。
すべて選択	Ctrl + A	現在のカテゴリーのすべての定義を選択します。
選択を反転		選択した定義を反転させます。例：いくつかの画層を選択してこの機能を実行すると、残りのすべての画層が選択されます。
カレントに設定		選択した画層をカレントの(作業)画層にするなど、定義をカレントのものにします。
関連付け		選択した定義を図面に付与します。

34.4.9 図面エクスプローラオプション

図面エクスプローラダイアログボックスから開きます。

図面エクスプローラオプションダイアログボックスが表示され、挿入したブロックの位置合わせ、尺度、回転の設定ができます。



1 整列

2 固定尺度

3 固定回転角度

34.4.9.1 整列

チェックボックスをオンにすると、スナップされた図形にブロックが整列します。

34.4.9.2 固定尺度

チェックボックスにチェックを入れて、すべてのブロックの挿入に使用する尺度係数を指定します。

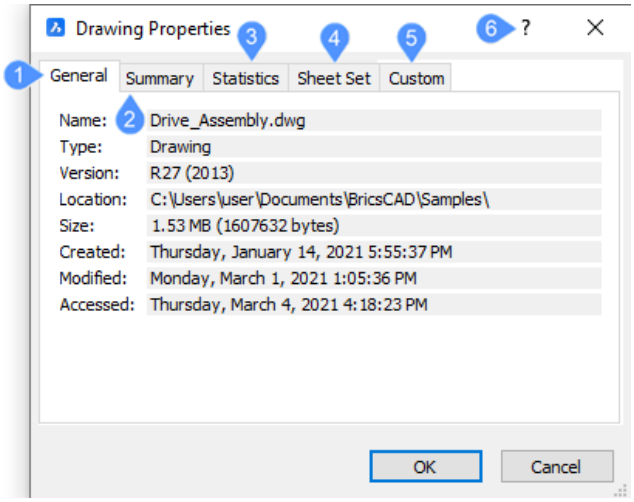
34.4.9.3 固定回転角度

チェックボックスにチェックを入れて、すべてのブロック挿入時に使用する回転角度を指定します。

34.4.10 図面プロパティ

DWGPROPSコマンドを実行して開きます。

図面プロパティダイアログボックスでは、図面およびユーザー定義プロパティに関する一般情報を表示できます。



1 一般

2 要約

3 統計

4 シートセット

5 カスタム

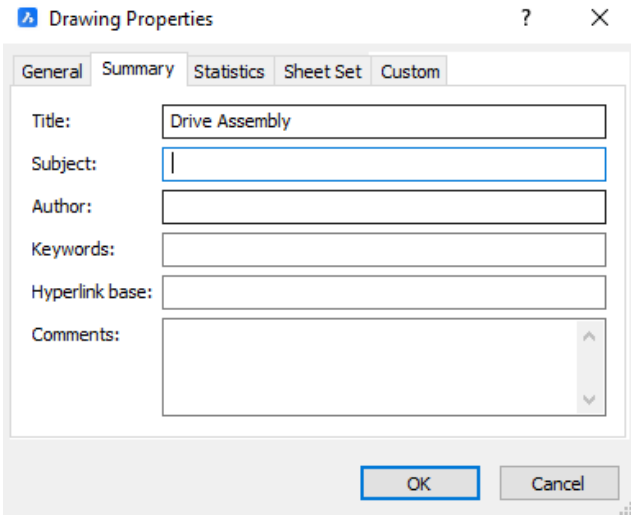
6 コマンドリファレンス

34.4.10.1 一般

作成日時の表示など、図面の一般的なプロパティが表示されます。

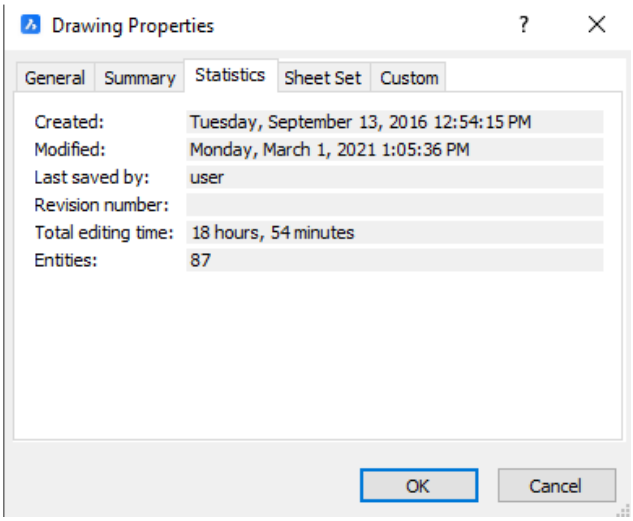
34.4.10.2 要約

件名やキーワードなど、図面の概要プロパティを定義することができます。このデータをEDMS(エンジニアリングデータ管理ソフトウェア)で検索すると、大量のコレクションの中から図面を見つけることができます。



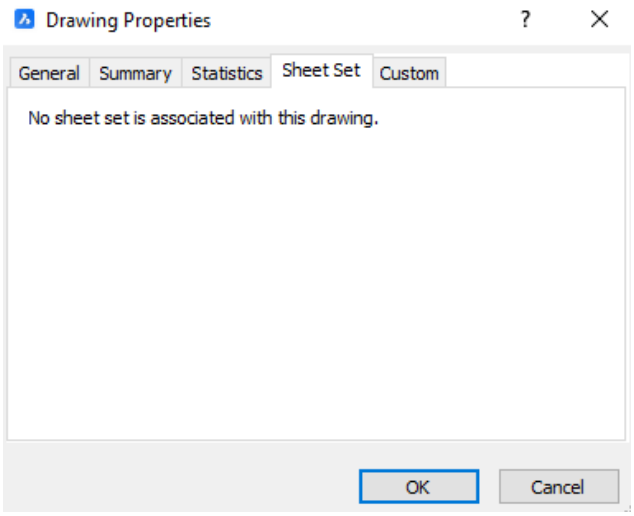
34.4.10.3 統計

図面の作成日、修正日などの統計情報を表示します。



34.4.10.4 シートセット

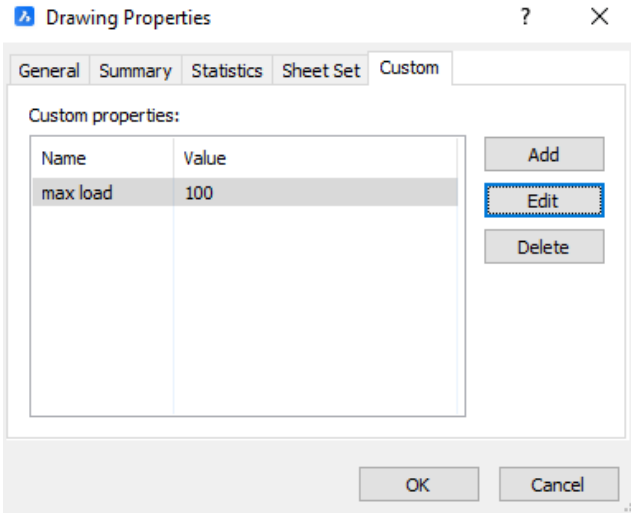
図面がシートセットに関連付けられている場合、シートセットデータを表示します。



34.4.10.5 カスタム

図面のカスタムプロパティを表示します。**追加**ボタンをクリックして新しいプロパティを追加したり、**編集**ボタンをクリックしてプロパティを編集したりすることができます。

追加ボタンと**編集**ボタンをクリックすると、**カスタムプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。



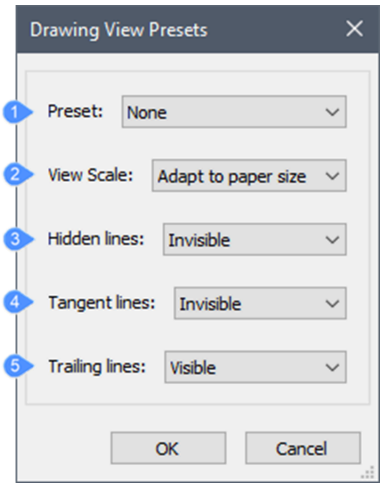
34.4.10.6 コマンドリファレンス

DWGPROPSコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.4.11 図面ビュープリセット

VIEWBASEコマンドの**プリセット**オプションを実行して開きます。

生成される図面の種類とレイアウト上の配置を指定します。



1 プリセット

2 ビュー尺度

3 隠線

4 正接線

5 トレース線

34.4.11.1 プリセット

プリセットビューの配置を選択します：

- **無し**： 生成されたビューに影響するプリセットはありません。
- **建築ビュー**： 以下を生成します：
  - 5つの標準ビュー：**正面図**、**右側面図**、**背面図**、**左側面図**(立面図に使用)、**平面図**
  - 3つの断面ビュー：2つの水平断面(平面図用)と1つの垂直断面。
- **メカニカルビュー**： 以下を生成します：
  - 3つの標準ビュー：**正面図**、**上面図**、**左側面図**(第一角法投影)または**右側面図**(第三角法投影)

メカニカルビューのレイアウトは、投影タイプ(第一角法投影または第三角法投影)によってコントロールされます。カレントの投影タイプはPROJECTIONTYPEシステム変数に保存されます。

34.4.11.2 ビュー尺度

図面ビューのデフォルトの尺度を設定します：尺度リストは、SCALELISTEDITコマンドを使用して編集できます。

34.4.11.3 隠線

図面ビューの隠線のデフォルト設定を設定します。

34.4.11.4 正接線

図面ビューのデフォルトの**正接線**を設定します。

34.4.11.5 トレース線

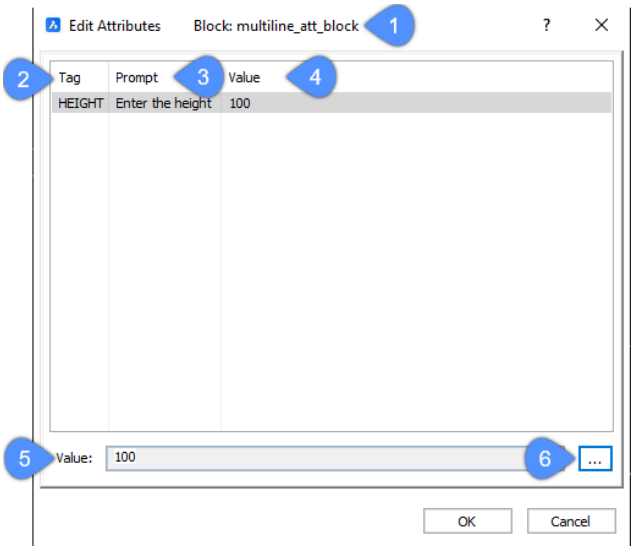
図面ビューの**トレース線**のデフォルトを設定します。

34.5 E

34.5.1 属性編集

DDATTEコマンドを実行して開きます。

属性編集ダイアログボックスでは、属性の値を編集することができます。



1 ブロック名

2 タグ

3 プロンプト

4 値

5 値

6 文字フォーマッティング

34.5.1.1 ブロック名

選択したブロックの名前を表示します。

34.5.1.2 タグ

属性の名前を指定します。

注：これは、BricsCADが属性を識別するための名前です。最大255字までの文字、数字、句読点を使用できます。

34.5.1.3 プロンプト

ユーザープロンプトを指定します。

注：これは、後にその属性を図面に挿入する際に、コマンドプロンプトに表示されます。このフィールドは空欄にしておいても構いません。BricsCADは属性挿入時にプロンプトとしてこのタグを使用します。

34.5.1.4 値

ある属性に属する値を表示します。

34.5.1.5 ...文字フォーマッティング

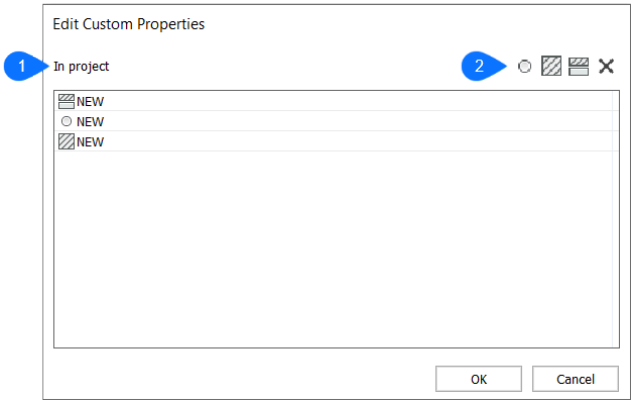
属性文字の値を変更します。

注：このオプションを使用するには、属性を定義する際に、**属性定義**ダイアログボックスでマルチテキスト属性フラグが選択されている必要があります。

34.5.2 カスタムプロパティを編集

BIMプロジェクト情報ダイアログボックスから開きます。

カスタムプロパティを編集ダイアログボックスでは、マテリアルや複合材にカスタムプロパティを追加することができます。



1 プロジェクト内

2 標準/マテリアル/複合材プロパティの追加/削除

34.5.2.1 プロジェクト内

プロジェクトで利用可能なカスタムプロパティを表示します。

34.5.2.2 プロパティの追加/削除

標準のカスタムプロパティを追加
プロジェクト内の建築要素に割り当てることができる、新しい標準カスタムプロパティを作成します。

マテリアルのカスタムプロパティを追加
プロジェクト内のマテリアルに割り当てることができる、新しいマテリアルのカスタムプロパティを作成します。

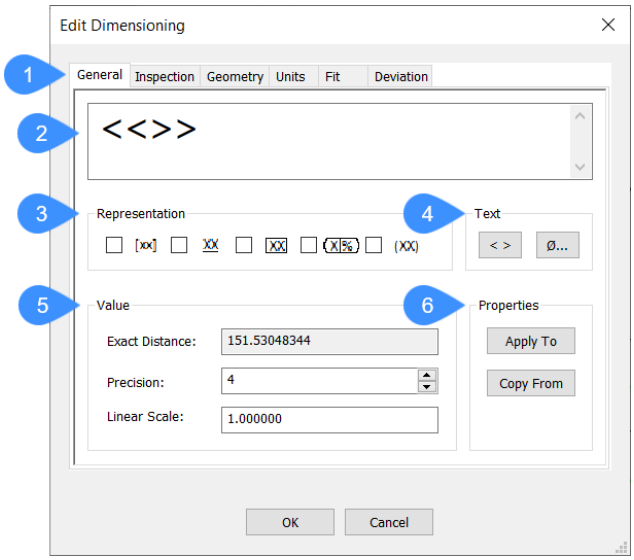
複合材のカスタムプロパティを追加
プロジェクト内の複合材に割り当てることができる、新しい複合材のカスタムプロパティを作成します。

削除
選択したプロパティを削除します。

34.5.3 パワーディメンジョン

AMPOWEREDITを実行して開きます。

パワーディメンジョンダイアログボックスでは、寸法のプロパティを編集できます。



1 編集タブ

2 グラフィカル表現

3 表示方法

4 文字

5 値

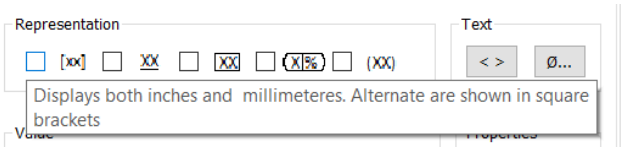
6 プロパティ

34.5.3.1 一般

グラフィカル表現
寸法文字の示し方を表します。

表示方法
寸法の表示方法を定義します。

注：オプションのチェックボックスにカーソルを合わせると、表現に関する説明のツールチップが表示されます。



文字
表示されている寸法文字に文字要素を追加します。左側の記号は、寸法値の表示と非表示を切り替えます。文字ボックスをクリックすると、**特殊文字**ダイアログボックスから**特殊文字**を選択できます。

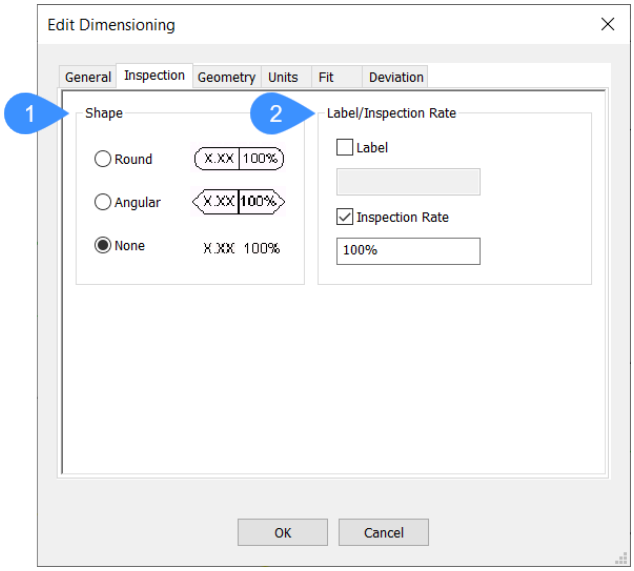
値
表示される値の設定を指定します。

- **正確な距離**：選択した寸法の正確な距離を表示します。
- **精度**：表示される小数点以下桁数を指定します。デフォルトでは、2に設定されています。
- **線形尺度**：寸法値の線形尺度を指定します。デフォルトでは、1に設定されています。

プロパティ

- **適用**：指定したプロパティを他の図形に適用できます。**適用**ボタンをクリックしてから、寸法設定を適用したい図形を選択します。**プロパティ**ダイアログボックスが開き、選択した図形に適用するプロパティを選択できます。
- **コピー元**：選択した図形のプロパティを、**パワーディメンジョン**ダイアログボックスにコピーできます。**コピー元**ボタンをクリックし、プロパティのコピー元の図形を選択します。**プロパティ**ダイアログボックスが開き、**パワーディメンジョン**ダイアログボックスにコピーするプロパティを選択できます。

34.5.3.2 検査



1 形状

2 ラベル/検査率

形状

寸法文字周囲のフレームの形状を定義します。オプションを切り替えることができます。

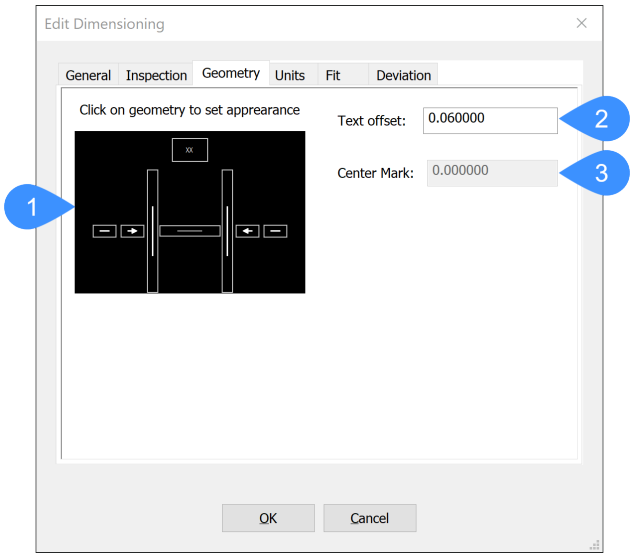
ラベル/検査率

検査寸法の設定を指定します。

- **ラベル**：個々の検査寸法を識別するラベルのオンとオフを切り替えます。ラベルボックスがオンになっている場合、ラベルボックスにラベルを入力できます。
- **検査率**：**検査率**の表示と非表示を切り替えます。検査率を入力することができます。これは部品が検査される頻度です。

  注：検査率はパーセンテージで表されます。

34.5.3.3 形状



1 形状

2 文字オフセット

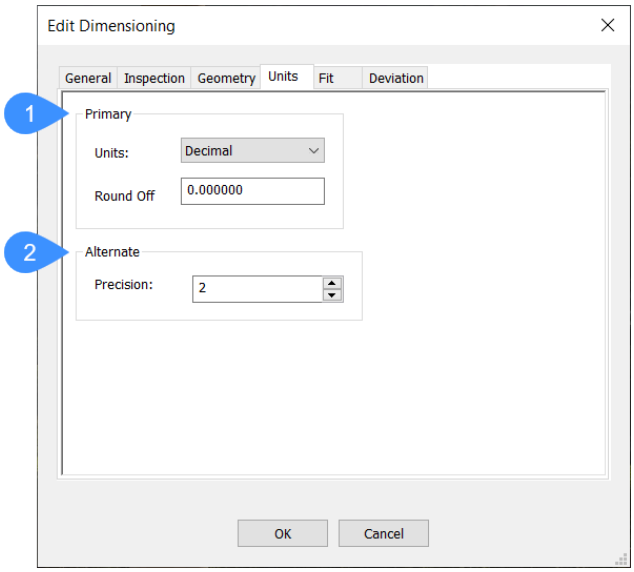
3 中心マーク

形状
寸法がどのように表示されるかを表示します。最初の寸法線、最初の延長線、2番目の延長線、2番目の寸法線、表示中心、力線の内側のオンとオフを切り替えることができます
寸法文字をクリックすると、ダイアログボックスが**一般**タブに切り替わり、寸法文字の表示方法を編集できます
矢印をクリックすると、**矢印ダイアログ**ダイアログボックスが開き、表示される矢印の種類を選択できます。

文字オフセット
寸法線からの文字オフセットを指定します。

中心マーク
中心マークのサイズを指定します。このオプションは、表示中心オプションがある場合に、半径または直径の寸法に対してのみ有効です。ジオメトリボックスでオンに切り替えます。

34.5.3.4 単位



1 基本単位

2 変換単位

基本単位

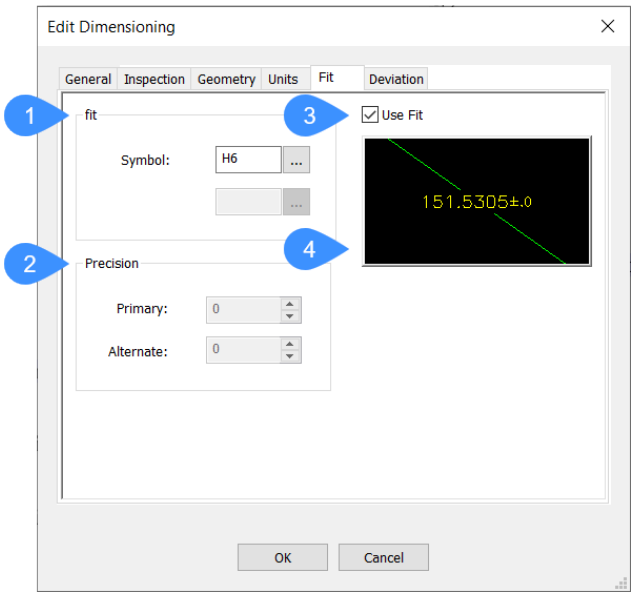
基本単位のプロパティを指定します。

- **単位**：ドロップダウンリストが開き、単位の種類を選択できます。デフォルトでは、10進数に設定されています。
- **丸め**：寸法値を四捨五入する小数点以下の桁数を指定します。

変換単位

代替単位のプロパティを指定します。精度は代替単位の小数点以下桁数を設定します。

34.5.3.5 フィット



1 フィット

2 精度

3 フィットを使用

4 プレビュー

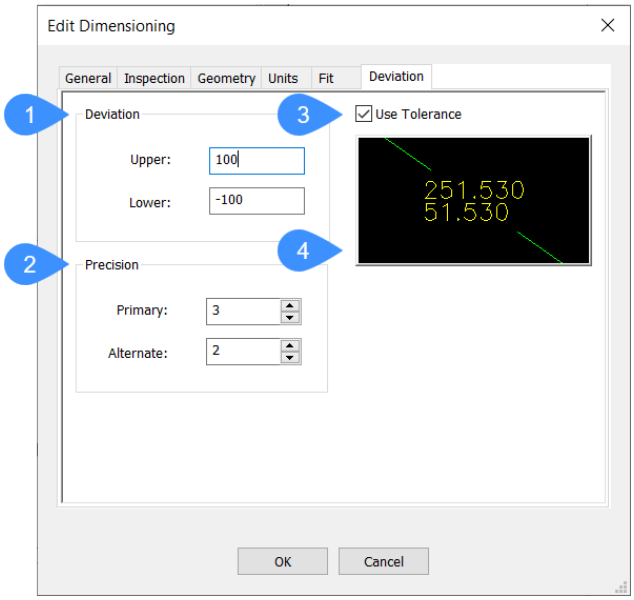
フィット
フィットを表示する記号を設定します。これは、**フィットを使用**オプションがオンになっている場合にのみ表示されます。3つのドットをクリックすると**フィット**ダイアログボックスが開き、寸法にフィットを追加できます。

精度
基本単位と代替単位の小数点以下の桁数を設定します。

フィットを使用
フィットを寸法文字に表示するかどうかのオンとオフを切り替えます。

プレビュー
寸法文字でのフィットの表示方法を示します。

34.5.3.6 偏差



1 偏差

2 精度

3 公差を使用

4 プレビュー

偏差
正常値と、表示される下限と下限の公差値との間の上限偏差と下限偏差を設定します。

精度
基本単位と代替単位の小数点以下の桁数を設定します。

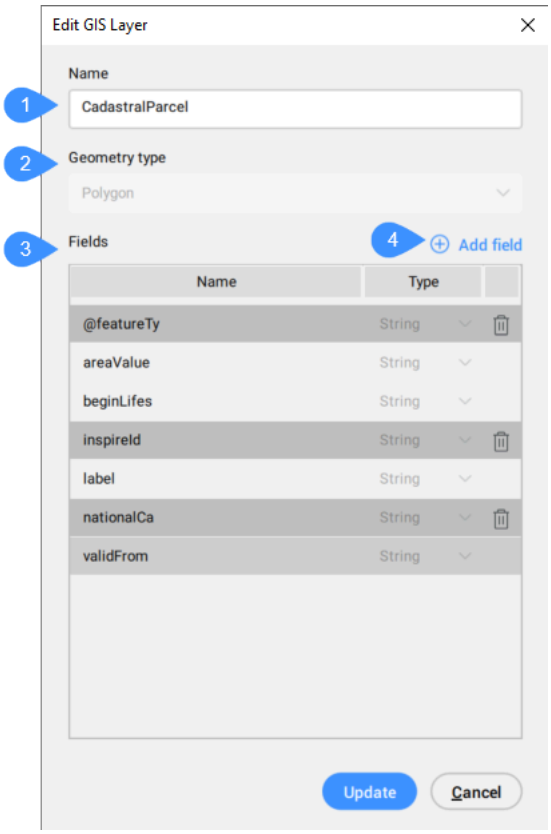
公差を使用
寸法文字が公差値として表示されるかどうかのオンとオフを切り替えます。

プレビュー
公差値が寸法文字としてどのように表示されるかを示します。

34.5.4 GIS画層を編集

土木エクスプローラパネルから開きます。

GIS画層を編集ダイアログボックスで、既存のGIS画層のフィールドの追加、編集、削除を行えます。



1 名前

2 ジオメトリタイプ

3 フィールド

4 フィールドを追加

名前
GIS画層の名前を変更できます。

ジオメトリタイプ
GIS画層のジオメトリタイプを変更できます。

フィールド
フィールドの名前とタイプを変更したり、削除したりできます。

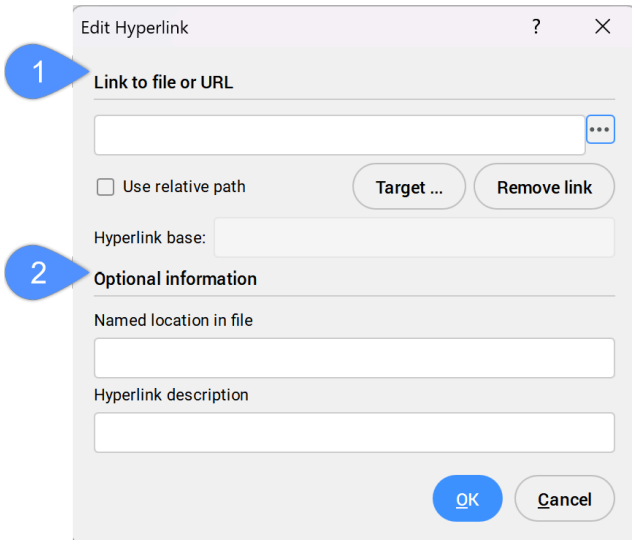
注：Shiftまたは**Ctrl**を使用した複数選択も可能です。

フィールドを追加
GIS画層にフィールドを追加できます。

34.5.5 ハイパーリンクの編集

HYPERLINKコマンドを実行して開きます。

ハイパーリンクの編集ダイアログボックスでは、ファイルやWebページへのハイパーリンクを追加または編集できます。



1　ファイル、または、URLへのリンク

2　追加情報

34.5.5.1　ファイル、または、URLへのリンク

ファイルへのリンクまたはWebページのURLを指定します。

- 参照ボタン(…)をクリックして、**ファイルを選択**ダイアログボックスを開きます。ファイルを選択し、**開く**をクリックしてリンクを**ファイル、または、URLへのリンク**フィールドに追加します。
- **ファイル、または、URLへのリンク**フィールドにWebページのURLを入力します。

注：アタッチされたハイパーリンクを削除するには、**リンクを削除**ボタンをクリックします。

相対パスを使用
ファイル、または、URLへのリンクフィールドに入力したファイルパスが絶対パスの場合、**相対パスを使用**オプションはグレー表示されます。
アタッチされたハイパーリンクのファイルパスを手動で短縮して、相対ハイパーリンクにすることができます。**相対パスを使用**オプションが利用可能になり、自動的にチェックが入ります。

ハイパーリンクの基点
図面内のすべての相対ハイパーリンクのファイルパスが表示されます。

注：基点パスは、**HYPERLINKBASE**システム変数によって設定されます。

34.5.5.2　追加情報

追加情報の指定をします。

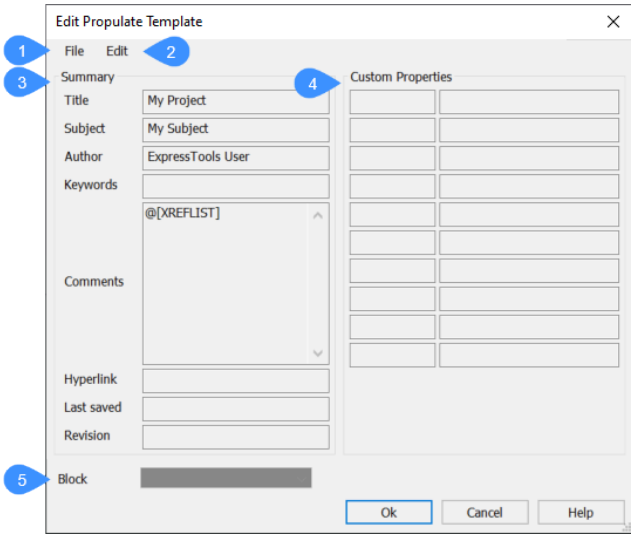
ファイル内の名前が付けられた位置
ブックマークの名前を指定します。「#」は、ファイルやWebページ内の位置(ブックマーク)を指定する文字です。

ハイパーリンクの説明
ハイパーリンクの説明を追加します。

34.5.6 図面プロパティデータテンプレート編集

PROPULATEコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

図面プロパティデータテンプレートを保存、ロード、編集できます。



1 ファイル

2 編集

3 要約

4 カスタムプロパティ

5 ブロック

34.5.6.1 ファイル

新しい図面プロパティデータテンプレートファイルを保存または開くためのメニューを表示します。

新規作成...
カレントの図面プロパティデータテンプレートのすべてのフィールドをクリアします。

開く...
プロパティデータテンプレートファイルを選択ダイアログボックスが開き、テンプレートファイルを開くことができます。

名前を付けて保存...
カレントの図面プロパティデータテンプレートを保存します。

名前を付けて保存...
プロパティデータテンプレートファイルを選択ダイアログボックスが開き、テンプレートファイルを保存できます。

34.5.6.2 編集

リストを挿入したり、テンプレートフィールドを調整したりするためのメニューを表示します。

外部参照リストの挿入
カーソルの位置に**@[XREFLIST]**構文を追加します。

フォントリストの挿入
カーソルの位置に**@[FONTLIST]**構文を追加します。

イメージを挿入
カーソルの位置に**@[IMAGELIST]**構文を追加します。

属性を挿入
カーソルの位置に**ブロック属性**セクションで選択した値を追加します。

テンプレートをアクティブに
現在編集中のテンプレートを既定のテンプレートとして設定します。

カレント図面から充当
編集したすべてのフィールドをクリアし、カレント図面の**図面プロパティ**値を入力します。

34.5.6.3 要約

図面プロパティデータテンプレートのすべての標準要素を一覧表示します。

タイトル
プロジェクトのタイトルを指定します。

主題
プロジェクトのサブジェクトを指定します。

作成者
プロジェクトの作成者を指定します。

キーワード
プロジェクトに関するキーワードを入力します。

コメント
プロジェクトにコメントを追加できます。

ハイパーリンク
ハイパーリンクを図面にリンクします。

最新に保存
プロジェクトを最後に保存した人または組織を指定します。

レビジョン
リビジョン番号を指定します。

34.5.6.4 カスタムプロパティ

名前と**値**を定義して、カスタムプロパティを追加できます。

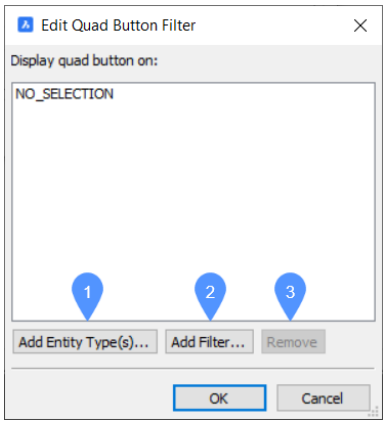
34.5.6.5 ブロック

カレント図面のブロック属性の値を一覧表示します。

34.5.7 クワッドボタンフィルター編集

カスタマイズダイアログボックスを開きます。

クワッドボタンフィルターを編集ダイアログボックスでは、クワッドボタンのフィルターを選択できます(**クワッドのカスタマイズ**の記事を参照)。



1　図形種類を追加

2　フィルターを追加

3　削除

34.5.7.1　図形種類を追加

図形エイリアスを追加ダイアログボックスを開きます。

34.5.7.2　フィルターを追加

クワッドのボタンフィルター追加ダイアログボックスを開きます。

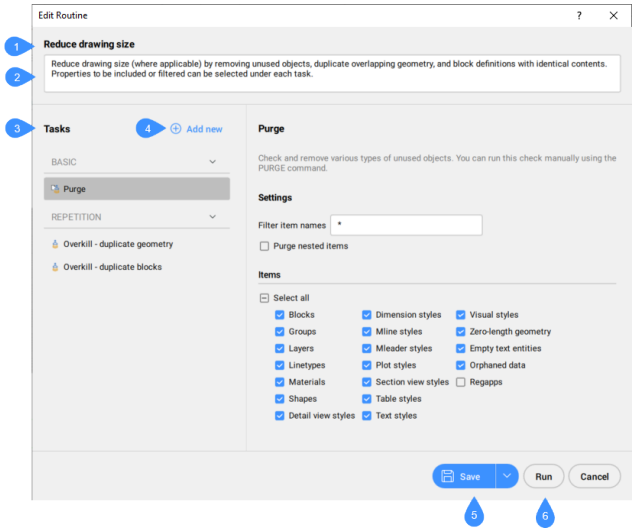
34.5.7.3　削除

リストでハイライトされているフィルターを削除します。

34.5.8　ルーチンを編集

DWGHEALTHコマンドのコンテキストパネルから開きます。

ルーチンを編集ダイアログボックスでは、DWGHEALTHコマンドのルーチンで実行されるタスクを編集することができます。



1　ルーチン名

2 ルーチンの説明

3 タスク

4 新規追加

5 保存

6 実行

34.5.8.1 ルーチン名

編集中のルーチンの名前を表示します。

34.5.8.2 ルーチンの説明

ルーチンに説明を加えることができます。ルーチンの目的について状況を補足したり、スタッフへ指示を与えたりすることなどができます。

34.5.8.3 タスク

DWGHEALTHコマンドの実行時に実行するルーチンに対して選択したタスクが一覧表示されます。

34.5.8.4 新規追加

ドロップダウンリストからタスクをルーチンに追加します。

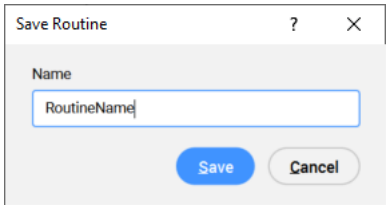
34.5.8.5 保存

ルーチンを保存します。

右の矢印を押すと、ドロップダウンリストが開き、以下の2つの保存オプションが表示されます。

保存：ルーチンを同じ名前で保存します。

名前を付けて保存：**ルーチンを保存**ダイアログボックスを開き、ルーチンを別の名前で保存します。



34.5.8.6 実行

作成したルーチンを保存せずに、**新しいルーチン***という名前で実行します。

注：**図面診断**コマンドのコンテキストパネルから**ルーチンを作成**または**ルーチンを編集**ダイアログを開き、**実行**ボタンで未保存のルーチンを実行すると、**名前を付けて保存**ボタンが表示されます。これをクリックしてルーチンを保存ダイアログを開き、カスタムルーチンを任意の名前で保存します。**名前を付けて保存**ダイアログボックスを開き、カスタムルーチンに名前を付けて保存します。

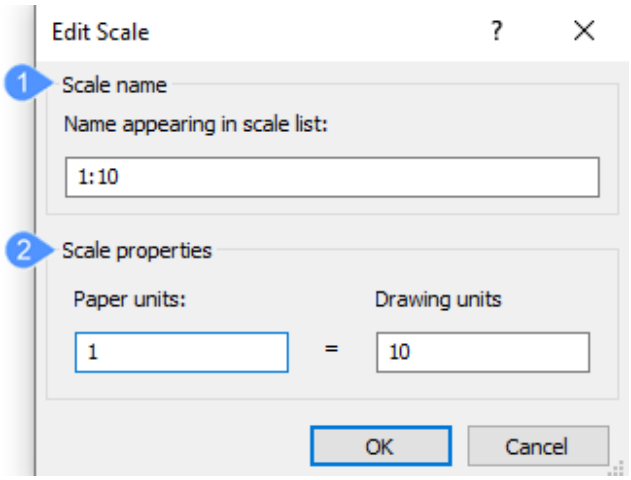
34.5.9 尺度を編集

以下より開きます：

- **デフォルトの尺度リスト**ダイアログボックス

- **尺度一覧の編集**ダイアログボックス

尺度を編集ダイアログボックスでは、尺度係数の名前と尺度プロパティを編集できます。



1 尺度名

2 尺度プロパティ

34.5.9.1 尺度名

新しい名前を入力して、名前を編集します。

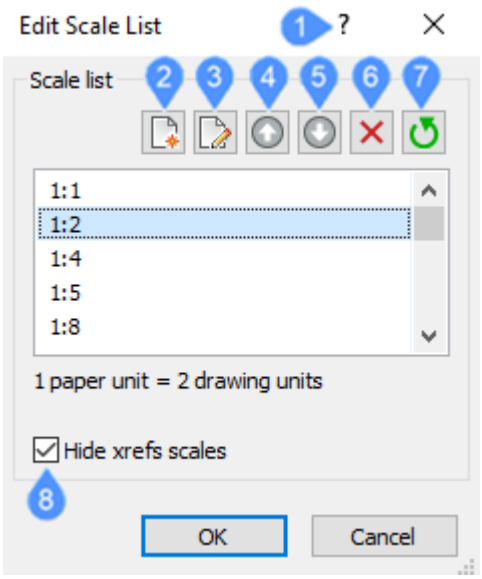
34.5.9.2 尺度プロパティ

紙面(プロット時のサイズ)や図面単位での拡大率を変更します。

34.5.10 尺度一覧の編集

SCALELISTEDITコマンドを実行して開きます。

尺度一覧の編集ダイアログボックスでは、尺度を追加、編集、削除できます。



1 コマンドリファレンス

2 新しい尺度を追加

3 尺度を変更

4 上へ移動

5 下へ移動

6 選択した尺度を削除

7 リセット

8 外部参照尺度を非表示

34.5.10.1 コマンドリファレンス

SCALELISTEDITコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.5.10.2 新しい尺度を追加

尺度を追加ダイアログボックスを開きます。

34.5.10.3 尺度を変更

尺度を編集ダイアログボックスを開きます。

34.5.10.4 上へ移動

選択した尺度係数をリストの上に移動します。

34.5.10.5 下へ移動

選択した尺度係数をリストの下に移動します。

34.5.10.6 選択した尺度を削除

選択した尺度を削除します。**Ctrl**を押すと、一度に複数の係数を選択、削除することができます。

なお、尺度1：1は削除できません。

34.5.10.7 リセット

削除された係数を元に戻し、追加したものの使用されていない係数を削除して、リストを元の状態に戻します。

34.5.10.8 外部参照尺度を非表示

外部参照の尺度係数をリストに表示するかどうかを決定します。

- **はい**：外部参照図面の縮尺係数は一覧に表示されません。
- **いいえ**：アタッチされている外部参照でカレント図面にない尺度が表示されます。

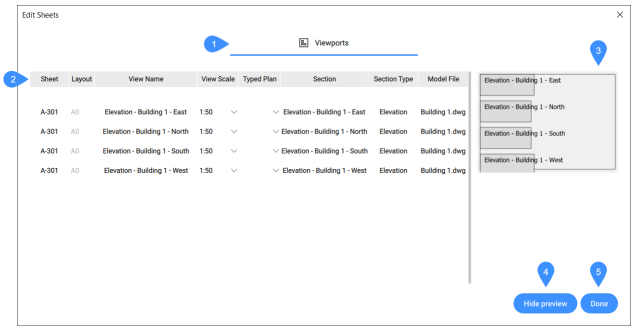
HIDEXREFSCALES変数を切り替えます。

34.5.11 シートを編集

BIMプロジェクトブラウザパネルのシートを右クリックし、**シートを編集**オプションを選択して開きます。

シートを編集ダイアログボックスでは、1つまたは複数のシートを編集できます。

注：シートがまだ作成されていない場合は、**BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**断面とビュー**タブに移動し、断面を右クリックして**シートを作成**を選択します。



1 タブ

2 ビューポートタブのオプション

3 プレビュー

4 プレビューを隠す

5 完了

34.5.11.1 タブ

ビューポート
ビューポートの尺度とタイププランを設定できます。

34.5.11.2 ビューポートタブのオプション

シート
シート名を表示します。

注：**ビューポート**タブで名前の変更はできません。名前の変更は、**BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**シート**タブの**プロパティ**セクションで行えます。

レイアウト
選択したシートに使用されるレイアウトを表示します。

ビュー名
ビューの名前を表示します。

注 : **ビューポート**タブで名前の変更はできません。名前の変更は、断面を右クリックして名前の変更を選択します。**名前選択**ダイアログボックスが開き、名前を変更することができます。

ビュー尺度
ドロップダウンメニューから定義済みのビュー尺度を選択できます。または、**尺度一覧の編集...**を選択します。**尺度一覧の編集**ダイアログボックスが開き、任意の尺度を作成したり編集したりすることができます。

タイププラン
ドロップダウンメニューが開き、タイププランを任意のビューポートに割り当てることができます。

注 : タイププランは、**BIMプロジェクトブラウザ**パネルの**ファイル**タブで追加します。追加したタイププランは、**ビューポート**タブのドロップダウンメニューに表示されます。

断面
断面名を表示します。**ビューポート**タブで名前の変更はできません。名前を変更するには、断面を右クリックして名前の変更を選択します。**名前を選択**ダイアログボックスが開き、名前の変更ができます。

断面タイプ
断面タイプを表示します。

モデルファイル
断面が配置されているモデルファイル名を表示します。

34.5.11.3 プレビュー

編集したシートのプレビューを表示します。

34.5.11.4 プレビューを隠す

編集したシートのプレビューを非表示にします。ボタンをクリックすると、ボタンが**プレビューを表示**に変わります(プレビューを表示するときに操作)。

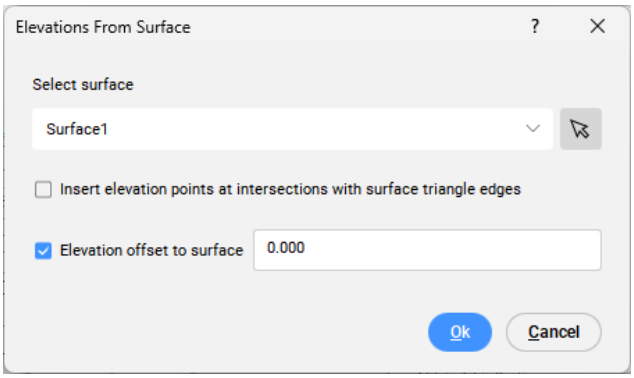
34.5.11.5 完了

シートを編集ダイアログボックスを閉じます。

34.5.12 サーフェスから標高を割り当て

STRINGELEVATIONFROMSURFACEコマンドを実行して開きます。

サーフェスからの標高ダイアログボックスでは、TINサーフェスからの計画線の標高を設定できます。



34.5.12.1 サーフェスを選択

選択したサーフェスが表示されます。ドロップダウンリストからサーフェスを選択するか、をクリックして作図領域からサーフェスを選択します。

34.5.12.2 サーフェスの三角形のエッジとの交点に標高ポイントを挿入する

チェックを入れると、土木計画線がTINサーフェスの三角形エッジと交わる各ポイントに標高ポイントが挿入されます。

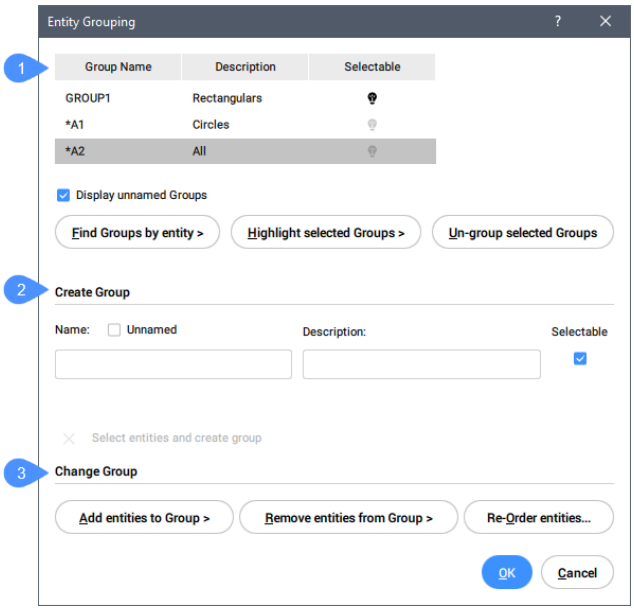
34.5.12.3 サーフェスとのオフセット

チェックを入れると、サーフェスと計画線の標高ポイントのオフセット値を指定することで、土木計画線をTINサーフェスの上または下のどちらに作成するか定義できます。

34.5.13 図形グループ

GROUPコマンドを実行して開きます。

図形グループダイアログボックスでは、カレント図面の図形に名前を付けてグループにして表示・作成・修正・削除することができます。



1 既存のグループ

2 グループを作成

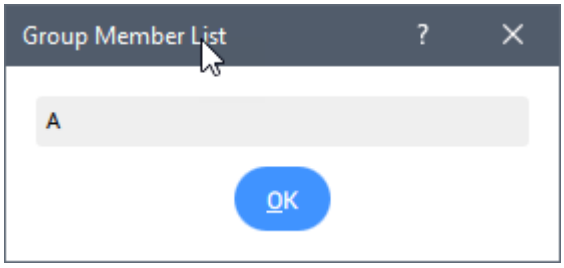
3 グループを変更

34.5.13.1 既存のグループ

既存のすべてのグループを、グループ名と簡単な説明とともに一覧表示します。

名前の無いグループを表示
名前の無いグループの表示/非表示を切り替えます。

図形でグループを検索
図面の中の図形を選択したときに、**グループ名一覧**ダイアログボックスにグループ名を表示します。



選択グループをハイライト
選択されたグループの図形をハイライト表示します。

選択したグループをグループ解除
選択した図形をグループ解除します。

34.5.13.2 グループを作成

名前
グループの名前を指定します。

名前無し
グループに特定の名前を付けるかどうかを切り替えます。

説明
グループのオプションを指定します。

選択可能
PICKSTYLEシステム変数が1または3に設定されているときに、どのようにグループを選択するかを決定します。

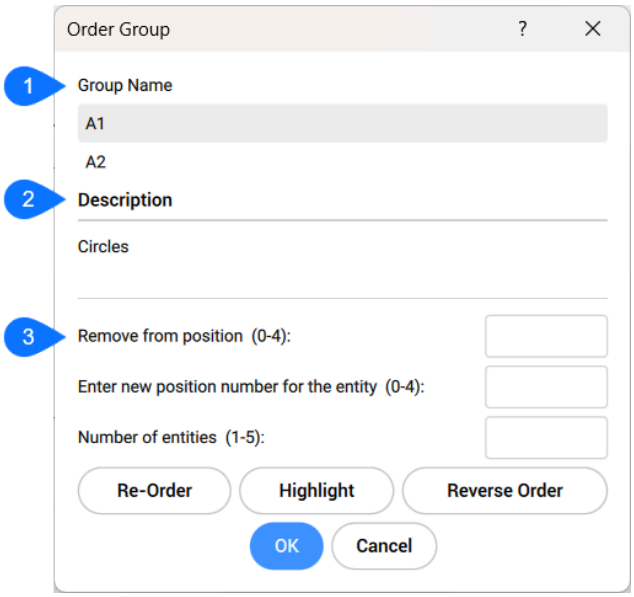
図形を選択してグループを作成
グループに含める図形をワークスペースから選択するには、右側の十字ボタンを押します。

34.5.13.3 グループを変更

グループへ図形を追加
選択したグループに図形を追加します。

グループから図形を削除
グループから図形を削除します。

図形の表示順序を変更
グループの図形を並べ替えます。**グループの順序**ダイアログボックスを表示します。



1 グループ名

2 説明

3 オプション

グループ名
名前付きグループ、名前の無いグループの名前を表示します。

説明
選択したグループの説明を表示します。

オプション
いくつかのオプションを指定します。

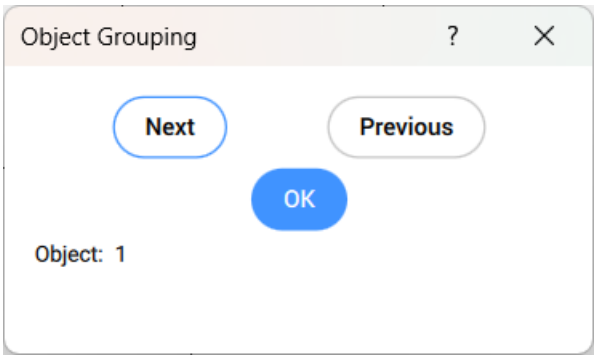
位置から削除
並べ替える図形の位置番号を指定します。

図形の新しい順序の数字を入力
グループの新しい位置番号を指定します。

図形数
並べ替える図形数を指定します。

並べ替え
3つの設定によって指定された位置番号を適用します。

ハイライト
オブジェクトグループダイアログボックスの**次へ**ボタンと**前へ**ボタンを使うとグループ内の図形を1つずつハイライト表示します。
OKボタンを押すと、**グループの順序**ダイアログボックスに戻ります。



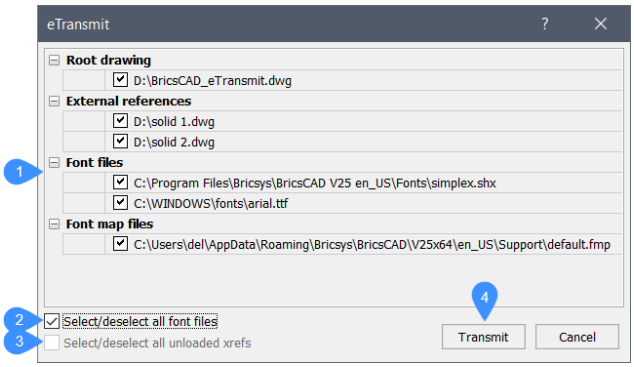
並び順を逆転
グループの図形の並べ替えを逆にします。

34.5.14 eトランスミット

以下より開きます：

- ETRANSMIT [eトランスミット]
- **シートセット**パネル

eトランスミットダイアログボックスでは、図面ファイルとその依存関係にあるすべてのファイル(外部参照、イメージ、フォントファイル、印刷構成ファイル、印刷スタイルテーブル、フォントマップファイルなど)からなるパッケージを作成します。



1 利用可能なファイル

2 すべてのフォントファイルを選択/選択除外

3 すべてのロードされていない外部参照を選択/選択除外

4 トランスミット

34.5.14.1 利用可能なファイル

eTransmitパッケージに含まれるファイルを選択します。(通常はすべてのファイル)

34.5.14.2 すべてのフォントファイルを選択/選択除外

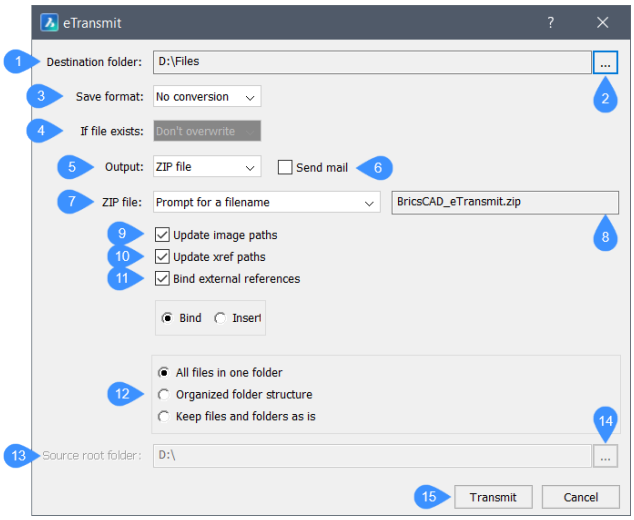
チェックボックスにチェックを入れると、すべてのフォントファイルが自動的に選択されます。

34.5.14.3 すべてのロードされていない外部参照を選択/選択除外

チェックボックスにチェックを入れると、すべての外部参照ファイルが自動的に選択されます。

34.5.14.4 トランスミット

以下のダイアログボックスが開きます：



1 対象先フォルダー

2 参照(保存先フォルダー)

3 保存形式

4 ファイルが存在している場合

5 出力

6 メールを送信

7 ZIPファイル

8 ZIPファイル名

9 イメージパスを更新

10 外部参照パスを更新

11 外部参照をバインド

12 パスオプション

13 元のルートフォルダー

14 参照(ルートフォルダー)

15 トランスミット

対象先フォルダー
eトランスミットのパッケージの出力フォルダーを指示します。転送先のフォルダーが存在しない時は、フォルダーを作成するプロンプトが表示されます。

参照(保存先フォルダー)
送信先フォルダーの選択ダイアログボックスが開き、送信したパッケージの送信先フォルダーを選択できます。

保存形式
eトランスミットパッケージの図面保存形式を指定します。

ファイルが存在している場合
出力先に同名のファイルがある場合の動作を指定します。
このオプションは、出力として**フォルダー**を選択した場合に利用できます。
オプションをドロップダウンリストから選択します：

- **上書き**：既存のファイルを新しいファイルに置換します。
- **上書きしない**：フォルダー内の既存のファイルと同じ名前のファイルを除き、すべてのファイルが転送されます。
- **中断**：保存先のフォルダーにすでに同名のファイルが存在する場合、操作は中止され、ファイルは保存されません。

出力
出力フォルダーへファイルをコピーするか、ZIPファイルを作成するかを指定します。

メールを送信
チェックボックスにチェックを入れると、zipに圧縮されたeTransmitパッケージが添付されたメールが、デフォルトのメールアプリケーションを使って送信されます。
このオプションは、出力として**ZIPファイル**を選択した場合に利用できます。

ZIPファイル
出力先に同名のZIPファイルがある場合の動作を指定します。
ドロップリストからオプションを1つ選択します：

- **ファイル名のプロンプト**：ダイアログボックスが開き、名前とパスを選択します。
- **必要であれば上書き**：同名のファイルがすでに存在する場合、既存のファイルを新しいファイルに置換します。
- **必要時は名前をインクリメント**：ファイル名に接尾辞を追加します。

ZIPファイル名
ZIPファイル名を編集できます。

イメージパスを更新
チェックボックスをオンにすると、送信されたファイルの新しい場所に応じて、画像ファイルの保存パスが更新されます。

外部参照をバインド
外部参照ファイルをブロック参照として図面に追加します。その後、外部参照図面は含めずに、図面自体のみが書き出されます。

関連付け
すべてのDWGファイルの外部参照を、最初にアタッチしたファイルにバインドします。外部参照図形のプロパティは保持されます。外部参照の図形定義は、接頭辞を付けて図面に追加されます。

挿入
すべてのDWGファイルの外部参照を、最初にアタッチしたファイルに挿入します。外部参照図形のプロパティは上書きされます。外部参照の図形定義は、接頭辞を追加せずに図面に結合されます。

外部参照パスを更新
チェックボックスをオンにすると、外部参照ファイルの保存パスが転送されたファイルの新しい位置に合わせて更新されます。

パスオプション
一つのフォルダーにすべてのファイル
eトランスミットパッケージのすべてのファイルは転送先のフォルダーへコピーされます。

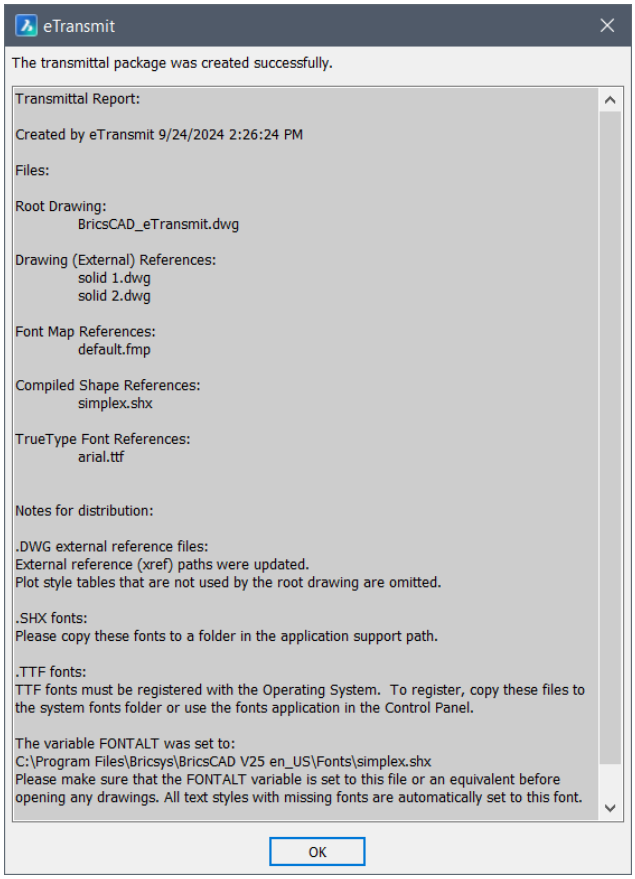
フォルダー構成の作成
すべての図面ファイルの依存関係のためのサブフォルダーを持つ階層的なフォルダーツリーを作成します。

ファイルとフォルダーをそのまま保持
すべてのファイルのフォルダー構造がeトランスミットパッケージで保たれます。この手順は、簡単にパッケージをソースシステムのフォルダー構造を使用しているもう一つのコンピュータ上にインストールできます。

元のルートフォルダー
図面に依存するファイル(例えば、外部参照やイメージファイル)の相対パスのルートフォルダーを指定します。
このオプションは、**フォルダー構成の作成**にチェックが入っている場合に使用できます。

参照(ルートフォルダー)
ソースルートフォルダーを選択ダイアログボックスが開き、ルートフォルダーを選択することができます。

トランスミット
選択されたオプションに従ってファイルを送信し、送信のレポートを表示します。レポートには、収録されたすべてのファイルの完全なリストと配布時の注意事項が記載されています。



34.5.15 テスト段階の機能

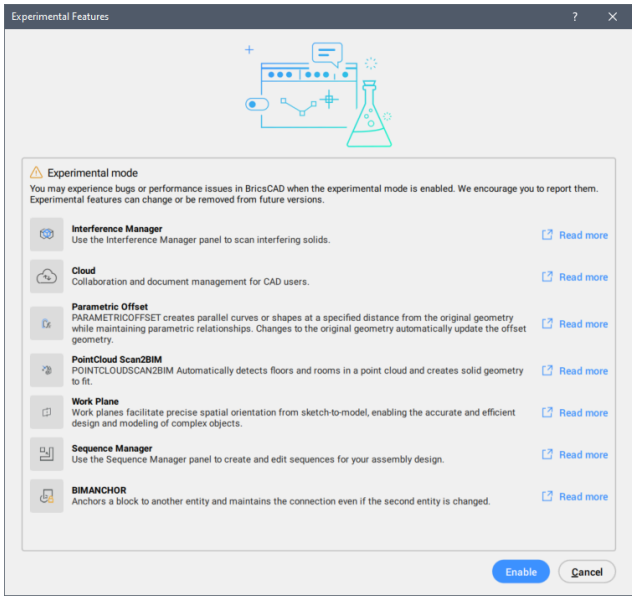
MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを実行して開きます。

テスト段階の機能ダイアログボックスでは、試験的に導入された新機能を有効または無効にできます。

注：

- **試験モード**はデフォルトでは無効に設定されています。このモードを有効にすると、テスト段階の機能を使用してみることができ、BricsCADチームがこれらの機能の方向性を見きわめる際に貴重な参考となるフィードバックをご提供いただけます。

- **試験モード**を有効または無効にするには、BricsCADを再起動する必要があります。



注：続きを読むボタンを押すと、関連するヘルプページが開きます。

重要：試験モードを有効にすると、BricsCADで不具合やパフォーマンスの低下が発生する恐れがあります。問題があれば報告していただければ幸いです。テスト段階の機能は、将来的に変更または削除される可能性があります。

現時点で利用可能なテスト段階の機能は以下のとおりです。

干渉管理
干渉管理パネルを使用して、干渉するソリッドをスキャンします。

クラウド
CADユーザのためのコラボレーションとドキュメント管理です。

パラメトリックオフセット
PARAMETRICOFFSETは、パラメトリックな関係を維持しながら、元のジオメトリから指定した距離に平行な曲線または形状を作成します。元のジオメトリを変更すると、オフセットしたジオメトリが自動的に更新されます。

点群スキャンからBIM
点群内のフロアと部屋を自動的に検出し、それに合わせてソリッド形状を作成します。

作業平面
作業平面は、スケッチからモデルを作成する上で空間的な方位が明確にわかるため、複雑なオブジェクトの設計やモデリングを正確で効率的に行うことができます。

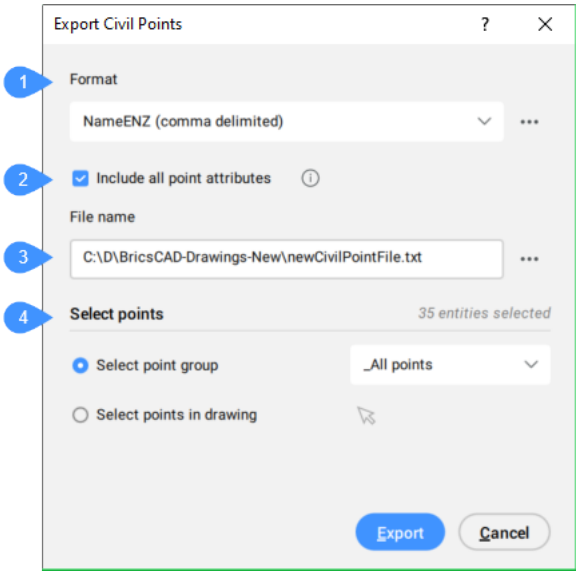
シーケンスマネージャ
シーケンスマネージャパネルでは、アセンブリ設計のシーケンスを作成および編集します。

BIMアンカー
ブロックを別の図形に固定した場合、2番目の図形が変更されても接続を維持します。

34.5.16　土木ポイント書き出し

CIVILPOINTEXPORTコマンドを実行して開きます。

土木ポイント書き出しダイアログボックスでは、土木ポイントを外部ファイルに書き出すことができます。



1 形式

2 すべてのポイント属性を含める

3 ファイル名

4 ポイントを選択

形式
ドロップダウンリストから、書き出すファイルの形式を選択します。

注：ダイアログ右側の参照ボタンを押すと**ポイントファイル形式を管理**ダイアログボックスを開くので、作成するいファイルの形式を定義します。

すべてのポイント属性を含める
チェックを入れると、選択した形式で定義されていない追加のポイント属性も書き出します。

ファイル名
パスとファイル名を定義します。

ポイントを選択
書き出す土木ポイントを選択することができます。

ポイントグループを選択
ドロップダウンリストからポイントグループを選択することができます。

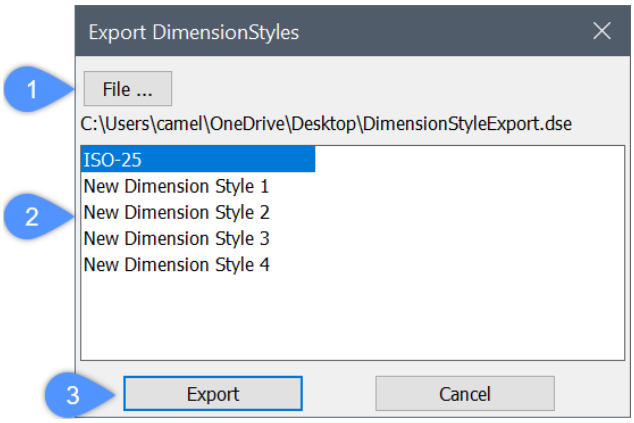
図面内のポイントを選択

選択ボタン()をクリックして、図面から書き出す土木ポイントを選択します。

34.5.17 寸法スタイルの書き出し

DIMEXコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

寸法スタイルの書き出しダイアログボックスでは、寸法スタイルとその設定を外部ファイルに書き出すことができます。



1　ファイル...

2　使用可能な寸法スタイル

3　書き出し

34.5.17.1　ファイル...

書き出しファイルを選択ダイアログボックスが開き、DSEファイルの場所を選択できます。

34.5.17.2　使用可能な寸法スタイル

使用可能な寸法スタイルが表示され、DSEファイルに書き込む寸法スタイルを選択できます。選択したスタイルは、**ファイル ...**ボタンの下に示されているファイルに書き込まれます。

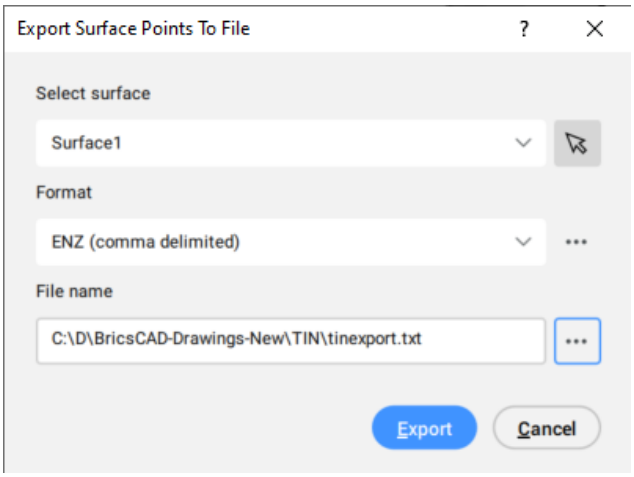
34.5.17.3　書き出し

選択した寸法スタイルを指定したDSEファイルに書き出します。

34.5.18　サーフェスポイント書き出し

TINEXPORTコマンドを実行して開きます。

サーフェスポイント書き出しダイアログボックスでは、サーフェスを選択して書き出すことができます。



34.5.18.1 サーフェスを選択

ドロップダウンリストからTINサーフェスを選択するか、図面でTINサーフェスを選択します。

34.5.18.2 形式

ドロップダウンリストからファイル形式を選択します。または、右側の参照ボタン押して**サーフェスファイル形式を管理**ダイアログボックスを開き、ファイル形式を設定します。

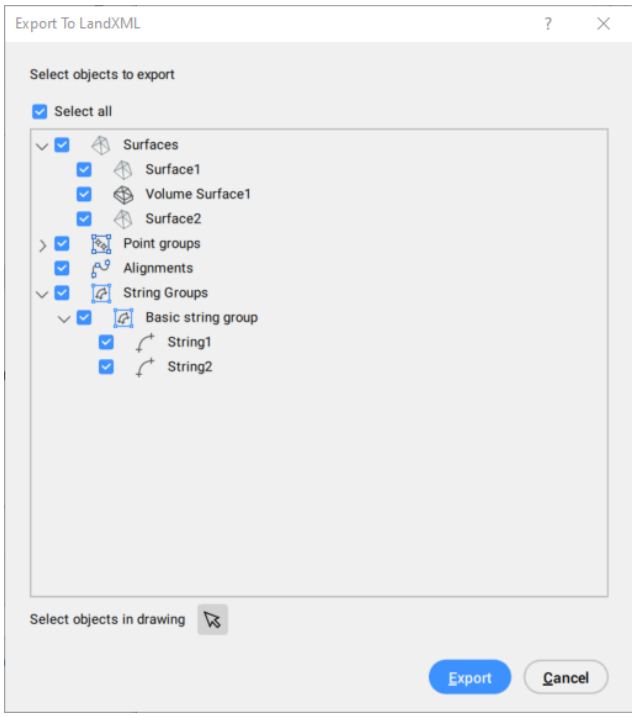
34.5.18.3 ファイル名

ファイル名と、TINサーフェスの書き出し先フォルダーを指定します。

34.5.19 LandXML書き出し

LANDXMLEXPORTを実行して開きます。

LandXMLへ書き出しダイアログボックスでは、図形を書き出すときに種別を選択したり、図面の中で選択する図形を指定したりすることができます。



34.5.19.1 すべて選択

チェックを入れると、図面内のすべての図形が書き出し対象として選択されます。

34.5.19.2 図面内のオブジェクトを選択

選択アイコン( )をクリックすると、**LandXML書き出し**ダイアログボックスが一時的に閉じ、図面内の図形を選択することができます。

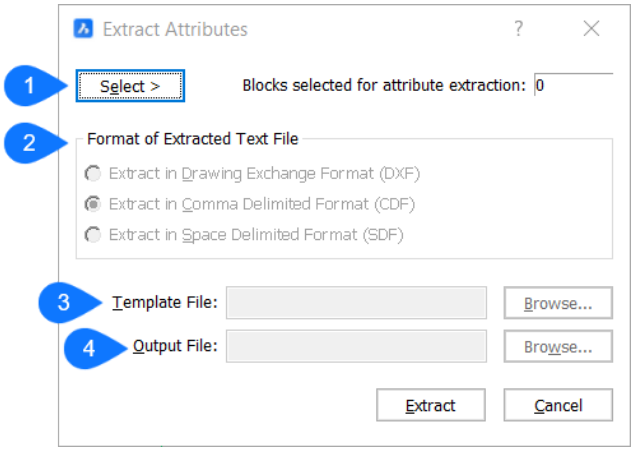
34.5.19.3 書き出し

LandXMLファイルを保存ダイアログボックスが開き、書き出し先のLandXMLファイルの場所と名前を指定できます。

34.5.20 属性書き出し

ATTEXTコマンドを実行して開きます。

属性書き出しダイアログボックスでは、ブロック属性からテキストファイルにデータを書き出すことができます。



1 選択

2 書き出すテキストファイルの形式

3 テンプレートファイル

4 出力ファイル

34.5.20.1 選択

データをコピーする属性を持つブロックのセットを指定します。

注：属性のないブロックが選択された場合、BricsCADはそれらを無視します。

34.5.20.2 書き出すテキストファイルの形式

抽出したテキストファイルの形式を指定します。いくつかのフォーマットが用意されています：

- DXF：図面交換形式
- CDF：カンマ区切り形式
- SDF：スペース区切り形式

34.5.20.3 テンプレートファイル

参照ボタンを押した後、パスを入力するか、拡張属性編集ダイアログボックスでテンプレートファイルの保存パスを指定します。

34.5.20.4 出力ファイル

出力ファイルの保存パスを、パスを入力するか、ブラウズボタンを押した後の**拡張属性編集**ダイアログボックスで指定します。

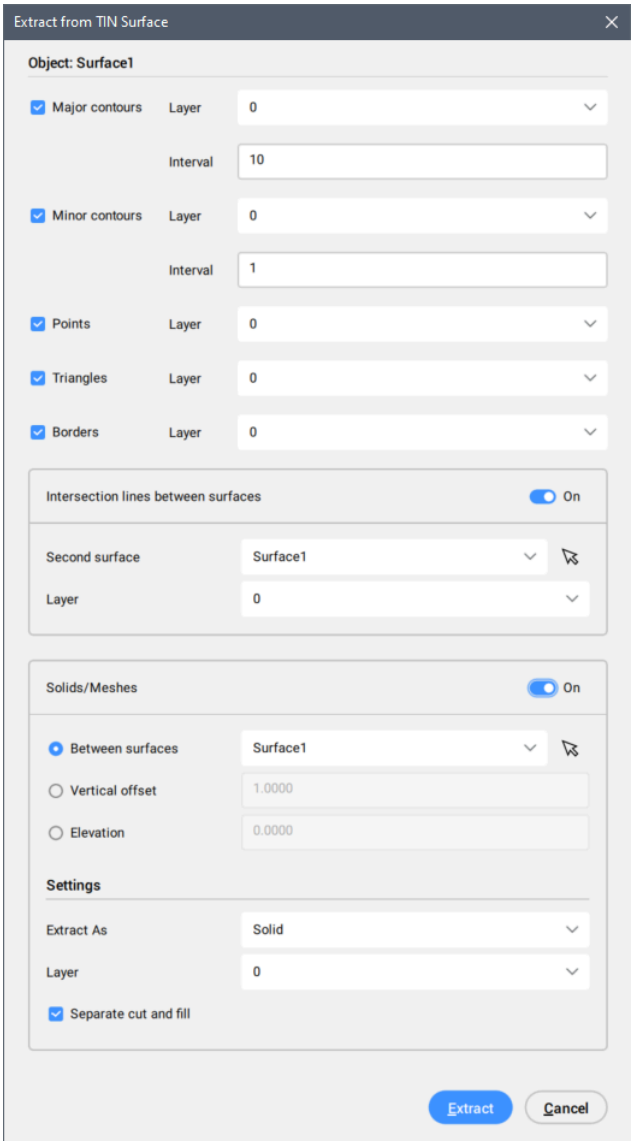
34.5.20.5 抽出

属性値が出力ファイルに書き出されます。

34.5.21　TINサーフェスから抽出

TINEXTRACTコマンドを実行して開きます。

選択した図形(TINサーフェス、グレーディング、またはTINボリュームサーフェス)に応じて、TINEXTRACTコマンドは**TINサーフェス/グレーディング/TINボリュームサーフェスから抽出**ダイアログボックスを開きます。



34.5.21.1　計曲線

設定した計曲線の間隔に従い、TINサーフェス、グレーディング、またはTINボリュームサーフェスの等高線を標高ごとに抽出します。

画層

計曲線を出力する画層を設定します。

間隔

計曲線の間隔を設定します。

34.5.21.2 主曲線

設定した主曲線の間隔に従い、TINサーフェス、グレーディング、またはTINボリュームサーフェスの等高線を標高ごとに抽出します。

画層
主曲線を出力する画層を設定します。

間隔
主曲線の間隔を設定します。

34.5.21.3 点

サーフェス上のすべてのポイントを抽出します。

画層
ポイントを出力する画層を設定します。

34.5.21.4 三角形

サーフェスのすべての三角形の面を抽出します。

画層
三角形を出力する画層を設定します。

34.5.21.5 境界線

サーフェスの外側の境界を抽出します。

画層
境界線を出力する画層を設定します。

34.5.21.6 サーフェス間の交差線

選択したサーフェス間の交差線を抽出します。

2番目のサーフェス
図面内の使用可能なサーフェスの 1 つをドロップダウンリストから選択できます。

注：作図領域からサーフェスを選択することもできます。

画層
交差線図形を出力する画層を設定します。

34.5.21.7 ソリッド/メッシュ

選択したサーフェス間のソリッドまたはメッシュを抽出します。

サーフェス間
図面内の使用可能なサーフェスの 1 つをドロップダウンリストから選択できます。

注：作図領域からサーフェスを選択することもできます。

垂直オフセット
垂直オフセット値を定義します。

高さ
標高値を定義します。

抽出形式
抽出された図形のタイプ(ソリッドまたはメッシュ)を設定します。

画層
ソリッドまたはメッシュを出力する画層を設定します。

切土と盛土を分けますか？
切土と盛土に別々のメッシュを作成するかどうかを切り替えます。

34.6 F

34.6.1 幾何公差記号

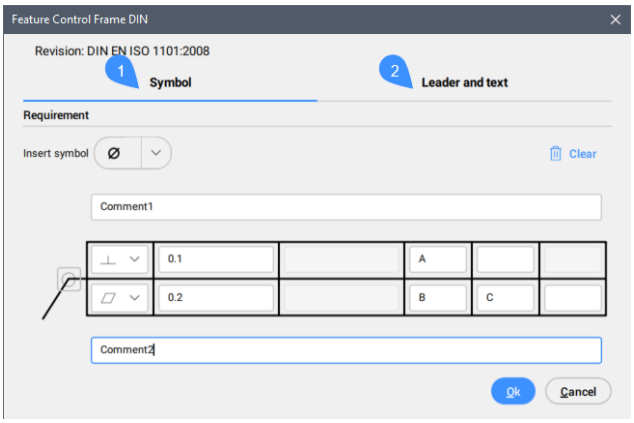
AMFCFRAMEコマンドを実行して開きます。

幾何公差記号ダイアログボックスでは、特性記号、公差値、および公差を指定する基準となるデータムを識別する文字を設定できます。また、注記を追加することも可能です。

幾何公差記号に入力したパラメータは一時的に保存され、次の幾何公差記号のデフォルト値として使用されます。

このシンボルが準拠する規格の最新リビジョンが、ダイアログボックス上部に表示されます。

このダイアログボックスには、**シンボル**と**引出線と文字**の2つのメインタブがあります。

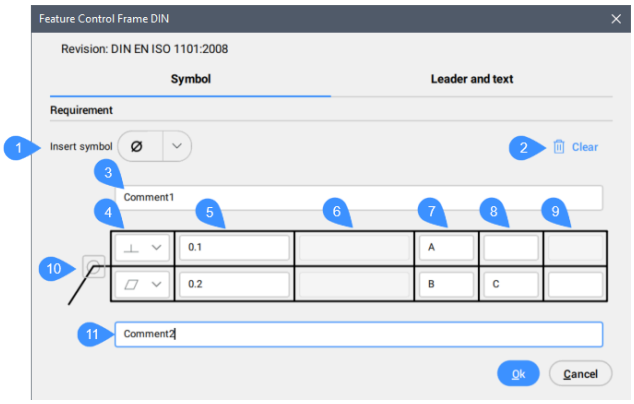


1 シンボル

2 引出線と文字

34.6.1.1 シンボル

幾何公差記号の要件を指定します。リビジョンフィールドには、製図規格、ISO、DIN、ANSI、JISのいずれかが記載されます。



1 シンボル挿入

2 クリア

3 トップ注記

4 幾何公差記号

5 公差1

6 公差2

7 データム1

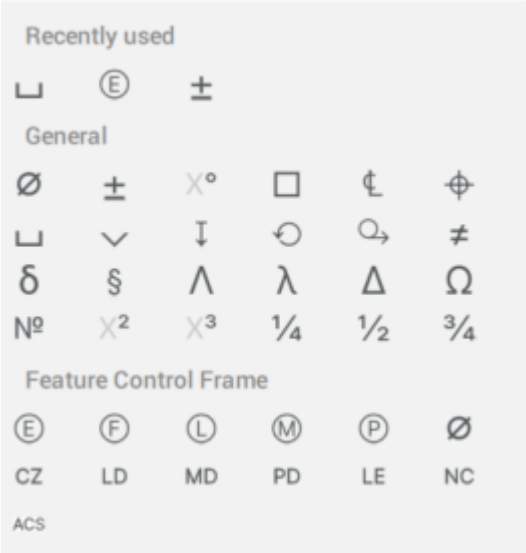
8 データム2

9 データム3

10 全周

11 ボトム注記

シンボル挿入
ドロップダウンリストから、選択したパラメータフィールドにシンボルを挿入します。



クリア
最後に挿入されたパラメータをクリアします。セルは空になります。

トップ注記
記号の上に追加する注記を挿入します。

幾何公差記号
ドロップダウンリストから幾何公差記号を選択できます。

公差1
幾何学的記号の横に表示する公差を入力できます。

公差2
幾何学的記号の横に表示する公差を入力できます。

データム 1/2/3
公差を指定する基準となるデータムを識別する文字を追加入力できます。

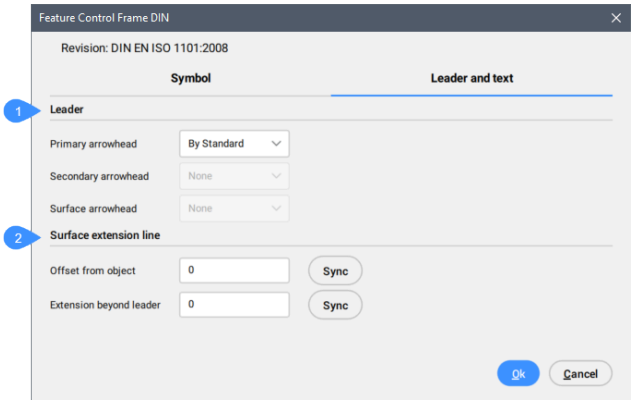
注：2番目と3番目のフィールドは、前のフィールドに入力すると書き込み可能になります。

全周
全周記号の表示/非表示を切り替えます。

ボトム注記
シンボルの下に追加する注記を挿入します。

34.6.1.2 引出線と文字

引出線と文字の特性を指定します。



1 引出線

2 サーフェス延長線

引出線
引出線特性を設定します。

第1矢印
デフォルトの引出線矢印の種類をドロップダウンリストから選択して定義します。

サーフェス延長線
サーフェス延長線の特性を設定します。

オブジェクトからのオフセット
延長線の始点からアタッチされたオブジェクトまでの距離を定義します。

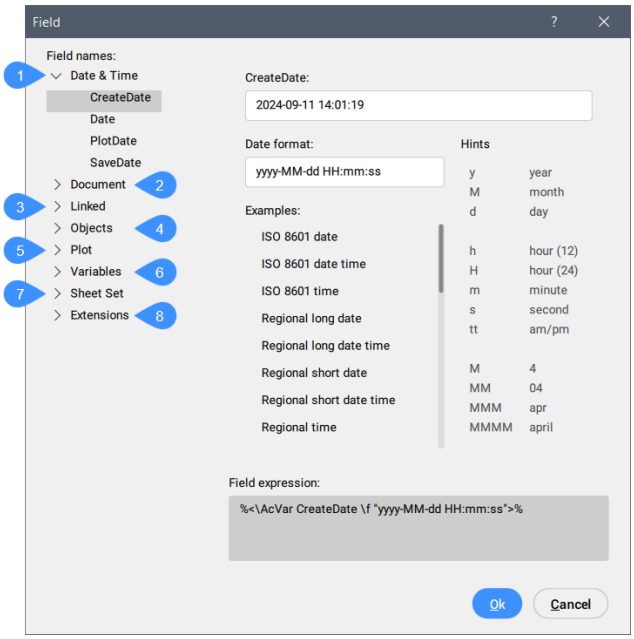
補助線延長長さ
仕上げ記号の始点からサーフェス延長線の終点までの距離を定義します。

34.6.2 フィールド

FIELDコマンドを実行して開きます。

フィールドダイアログボックスでは、1行以上のテキスト、表のセル、属性などにフィールドを挿入することができます。

注 : フィールドは、プログラムが自動的に更新するコーディングシステムを使用する可変テキストであり、データを図面プロパティ(ファイル名や保存日など)、図形プロパティ(長さ、面積、画層など)、ユーザー定義プロパティ、印刷設定、変数として表示します。フィールドに値がない場合、プログラムはハイフン(----)が表示されます。選択したプロパティによって参照される情報が有効でない場合、フィールドの値は####と表示されます。



注 : **フィールド名**でカテゴリを展開し、フィールド名を選択します。

1 日時
2 ドキュメント
3 リンク
4 オブジェクト
5 印刷
6 変数
7 シートセット
8 拡張
9 フィールド表記形式

34.6.2.1 日時

作成日付
図面の最終改訂日が表示されます。

日付
現在の日付を表示します。

印刷日付
図面が最後に印刷された日付を表示します。

保存日付
図面が最後に保存された日付を表示します。

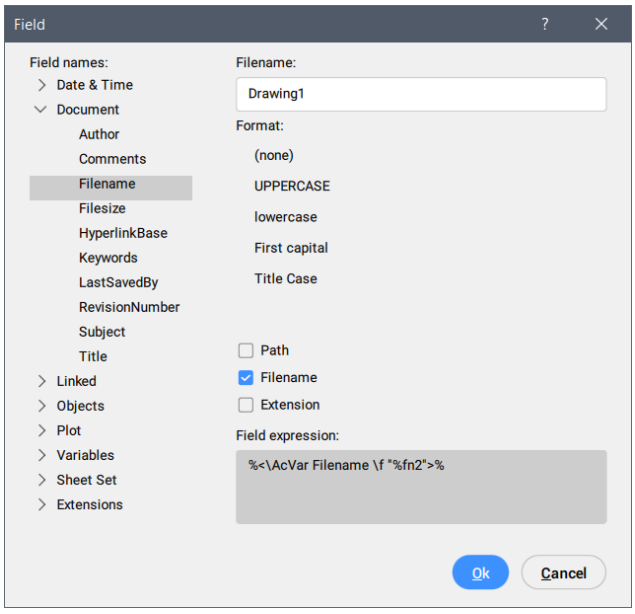
データ形式
一覧から日付形式を選択するか、このフィールドに形式を入力します。

例
日付フォーマットの例を表示します。

ヒント
デートフォーマットの略語/略称の定義で使われる数字の意味を説明します。

フィールド表記形式
選択した日付のフィールド式を表示します。式内のオペランドには、山括弧(<>)で囲まれたDisplayPropertyNameを使用できます。

34.6.2.2 ドキュメント



作成者
ドキュメントの作成者を表示します。

コメント
ドキュメントのコメントを表示します。

ファイル名
ファイル名が表示されます。ファイルのパスと拡張子を含めることができます。

ファイルサイズ
ファイルサイズをバイト、キロバイト、メガバイトで表示します。

ハイパーリンク基点
図面上の相対的なハイパーリンクのデフォルトパスを表示します。

キーワード
開いているファイルのキーワードを表示します。

最後の保存者
最後にファイルを保存した人の名前を表示します。

リビジョン番号
図面のリビジョン番号を表示します。

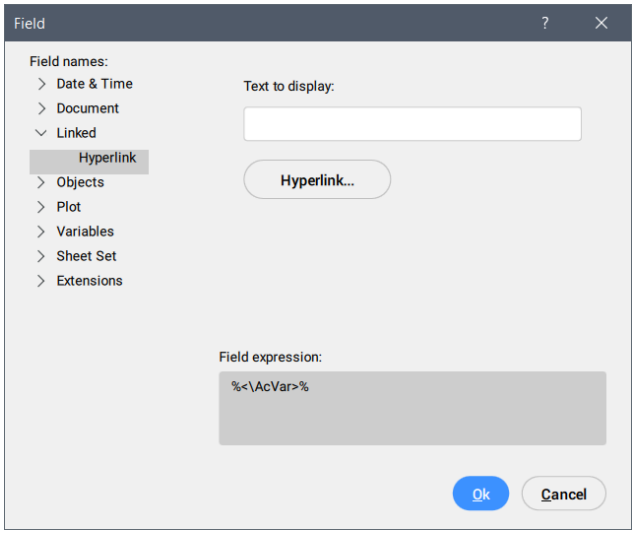
主題
図面の主題を表示します。

タイトル
図面のタイトルを表示します。

形式
選択したカテゴリーのフォーマットを表示します。

フィールド表記形式
選択した日付のフィールド式を表示します。式内のオペランドには、山括弧(<>)で囲まれたDisplayPropertyNameを使用できます。

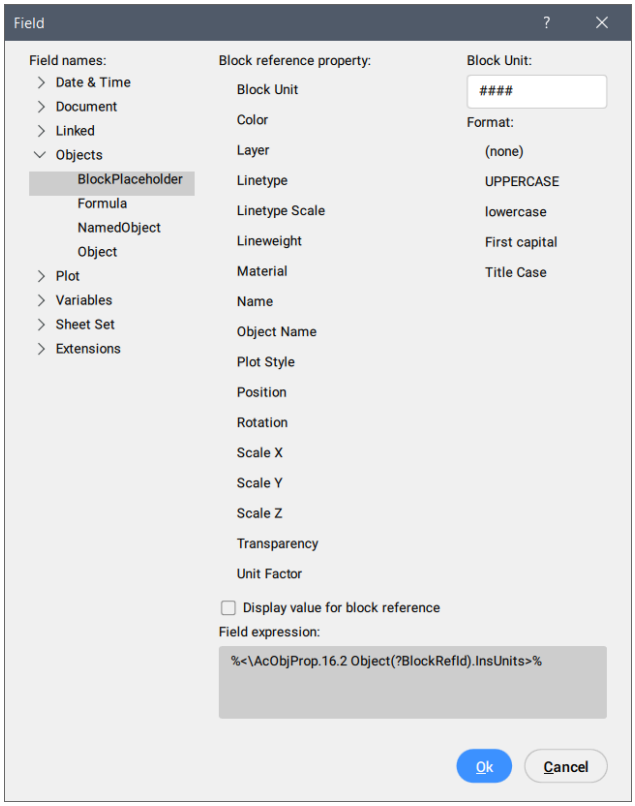
34.6.2.3 リンク



表示テキスト
このハイパーリンクに表示するテキストを入力します。

ハイパーリンク
ハイパーリンクの編集ダイアログボックスを開きます。

34.6.2.4 オブジェクト



ブロックのプレースホルダ
属性内にブロックプロパティフィールドを作成するには、ATTDEFコマンドを参照してください。このような属性がブロック定義に含まれている場合、フィールドにはブロックプロパティのカレントの値が表示されます。

ブロック参照プロパティ
ブロック参照プロパティを表示します。

ブロック名
プロパティの名前を表示します。

形式
プロパティを表示する形式を指定します。

式
計算式フィールドを作成します。計算式フィールドでは、表セルの値を使用できます。**平均**、**合計**、**カウント**、**セル**のボタンをクリックすると、**フィールド**ダイアログボックスが閉じ、図面内の表でセルを選択できるようになります。表のハンドルがわかっている場合など、計算式を手動で入力することもできます。

名前つきオブジェクト
名前付き図形のカレントの名前を表示するフィールドを作成します。

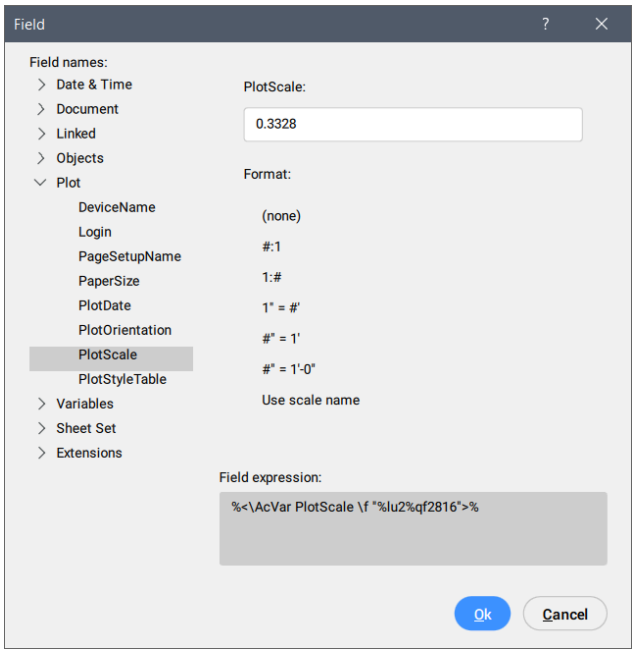
- **名前付きオブジェクトタイプ**フィールドをクリックし、リストからオブジェクトタイプを選択します。

  名前リストボックスには、選択したタイプの名前付きオブジェクトがすべて表示されます。
- リストから名前を選択します。
- 形式を選択します。
- **OK**ボタンをクリックして、フィールドを配置します。

オブジェクト
選択図形のプロパティを表示するフィールドを作成します。

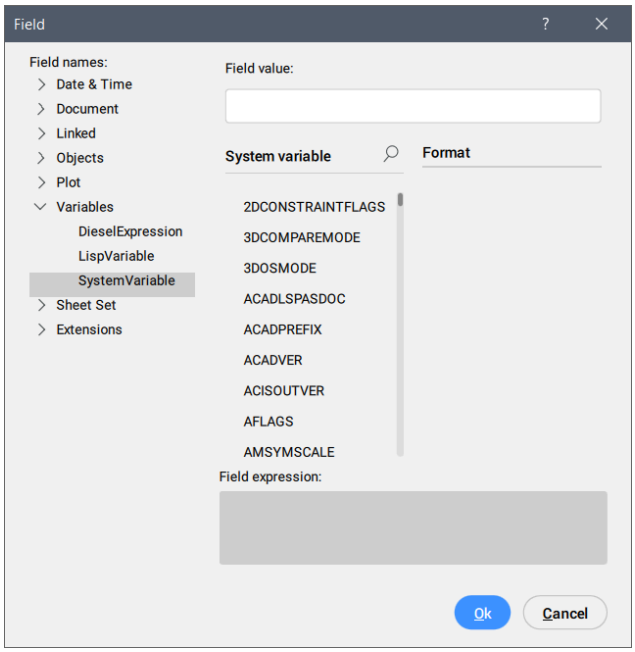
- **オブジェクトタイプ**フィールドの横にある選択ボタンをクリックします。
  フィールドダイアログボックスが一時的に閉じます。
- 図面内の図形を選択します。
- 選択図形のプロパティが**プロパティ**リストに表示されます。
- リストからプロパティを選択します。すべてのパラメータタイプのカスタムプロパティと、ダイナミックブロックおよびブロック参照の可視状態も使用できます。
- 形式を選択します。
- **OK**ボタンをクリックして、フィールドを配置します。
  注：REGENコマンドおよびUPDATEFIELDコマンドの後、フィールドのある属性は更新されます。

34.6.2.5 印刷



印刷フィールドは、ペーパー空間レイアウトに適用されます。
レイアウトのカレントの印刷設定を表示するフィールドを作成できます。

34.6.2.6 変数



ディーゼル式、**Lisp変数**、**システム変数**の現在の値を表示するフィールドを作成することができます。

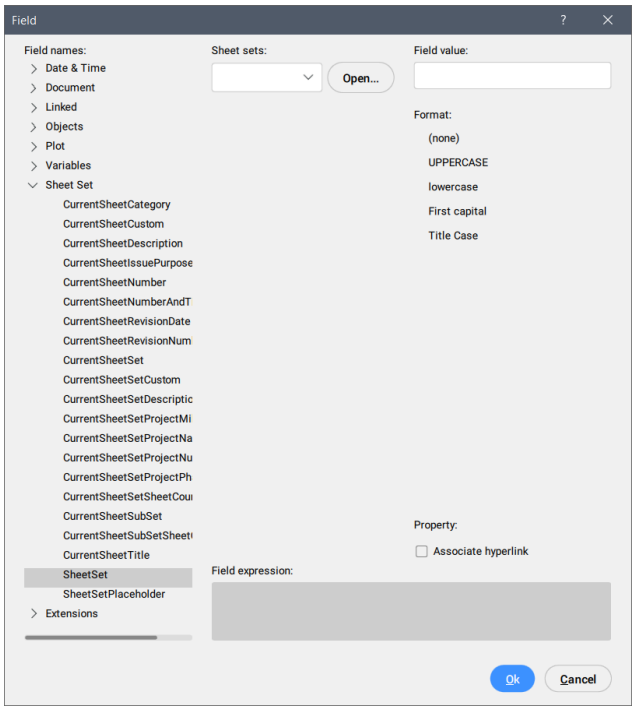
以下を使用して、**Lisp変数**リストおよび**システム変数**リストで特定の変数を検索することができます。

- **キーナビゲーション**：上向き矢印または下向き矢印を押してリスト内を移動します。
- **検索バー**：特定の変数を検索できます。リストが短くなり、入力した文字シーケンスを含む変数のみが表示されます。

  注：検索バーを有効にするには：

  - 🔍アイコンをクリックします。
  - **Crtl+F**を押します。フォーカスが変数リストにあることが必要です。Tabキーを使用してフォーカスを切り替えることができます。

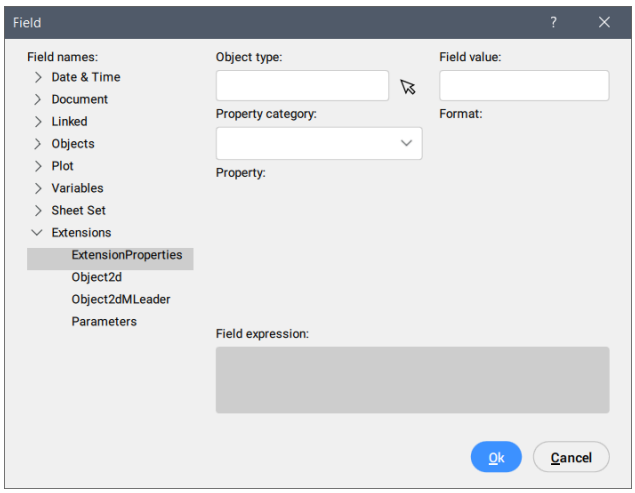
34.6.2.7　シートセット



デフォルトのシートセットプロパティとカスタムシートセットプロパティを表示するフィールドを作成できます。**シートセット**プロパティを使用すると、シートナビゲーションツリーが開きます。

注：シートセットフィールドは、UPDATEFIELDコマンドで更新されます。

34.6.2.8 拡張



BricsCADに固有の図形のプロパティ(BIMやメカニカル図形など)を表示するフィールドを作成し、AutoCAD®でキャッシュされた値を表示できます。

拡張プロパティ
選択されたBIM図形のプロパティを持つフィールドを作成できるようにします。

オブジェクト2D
BIM断面ブロック内で関連する2D図形を選択することにより、3D図形のプロパティを持つフィールドを作成することが可能です。

オブジェクト2Dマルチ引出線
マルチ引出線の矢印を使用してBIM断面ブロック内の関連する2D図形を選択することにより、3D図形のプロパティを持つフィールドをマルチ引出線内に作成することを可能にします。

パラメータ
図面内のパラメータを参照するフィールドを作成することができます。

注：

- ブロックのパラメータの場合、BEDITセッションでFIELDコマンドを使用します。
- パラメータ値を(**プロパティ**、**パラメータ管理**、**メカニカルブラウザ**パネルから)変更した後、REGEN、REGENALL、またはUPDATEFIELDコマンドを実行すると、作成したフィールドに表示されている値が更新されます。

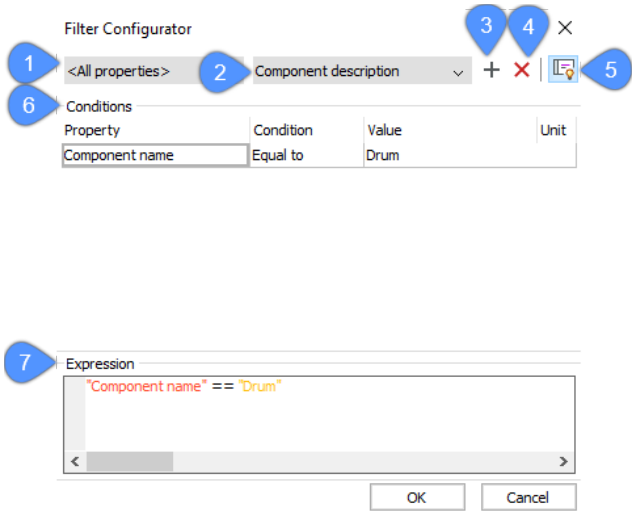
34.6.2.9 フィールド表記形式

フィールドの式を表示します。このコードを読むと、フィールドがどのように構成されているかを学ぶことができます。

34.6.3 フィルターコンフィギュレータ

部品表マネージャーパネルの**フィルターを設定**オプションを選択して開きます。

フィルターコンフィギュレーターダイアログボックスでは、部品表のコンポーネントをフィルタリングする条件を指定できます。



1 列設定

2 プロパティ

3 追加

4 削除

5 式

6 条件

7 式の編集

34.6.3.1 列設定

フィルターを適用する列を選択します。

34.6.3.2 プロパティ

フィルターの適用に使用できるプロパティを指定します。

注：上記のオプションを指定した場合、プラス記号を押すことで条件を追加することができます。

フィルター条件

追加された条件が表示されます。これにはプロパティ、プロパティ状態、値、単位などが含まれます。

34.6.3.3 追加

選択したプロパティの条件を追加します。

34.6.3.4 削除

選択した条件をフィルターから削除します。

34.6.3.5 式

式エディターを表示または非表示にします。

34.6.3.6 条件

部品表の内容をフィルタリングするために使用される、追加されたすべての条件を表示します。

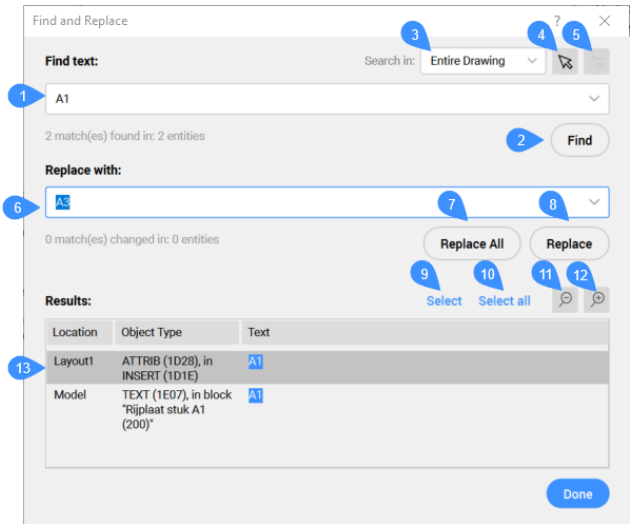
34.6.3.7 式の編集

フィルタリング式の設定とプレビューができる式の編集を表示します。

34.6.4 検索と置換

FINDコマンドを実行して開きます。

検索と置換ダイアログボックスを開き、カレント図面内のテキスト文字列を検索し、必要に応じて置換します。ブロック、属性、寸法、ハイパーリンク内のテキストを検索します。



1 文字列検索

2 検索

3 検索

4 図形を選択

5 オプション

6 置換文字列

7 すべて置換

8 置換

9 選択

10 すべて選択

11 図面を縮小

12 図面を拡大

13 検索結果一覧

34.6.4.1 文字列検索

検索するテキストを指定します。

34.6.4.2 検索

検索文字の次の箇所を検索します。

ショートカット：CTRL+F

34.6.4.3 検索

検索範囲を指定します。

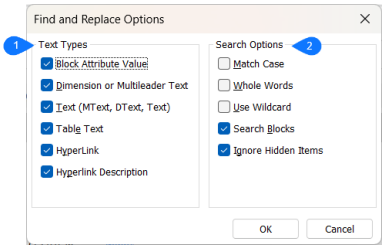
- **図面全体**：図面内のすべての文字列を検索します。
- **カレントのレイアウト**：カレントレイアウト内のみを検索します。
- **カレントの選択**：ボタンNo.5のオプションで設定した選択可能なカレント選択内のみを検索します。

34.6.4.4　図形を選択

ダイアログボックスが一旦閉じ、検索する図形を選択することができます。図形を1つまたは複数選択した後、Enterを押してダイアログボックスに戻ります。

34.6.4.5　オプション

検索と置換オプションダイアログボックスを表示し、検索文字の種類を指定します。



文字タイプ
検索に含めるテキストの種類を指定します。

- ブロック属性値
- 寸法またはマルチ引き出し線テキスト
- 文字
- 表テキスト
- ハイパーリンク
- ハイパーリンクの説明

検索オプション
検索オプションを指定します。

- **大文字と小文字を区別**：文字列が大文字の使用と一致する場合にのみ報告します。
- **すべての文字**：単語全体が入力されたテキスト文字列と一致する場合にのみ報告します。長い単語に入力された文字列が含まれている場合は、結果に報告されません。
- **ワイルドカードを使用**：ワイルドカード文字を比較条件として検索をフィルタリングします。
- **ブロックを検索**：検索にブロックを含めます。
- **非表示項目は無視**：検索に非表示のアイテムを含めません。

34.6.4.6　置換文字列

見つかったテキストを置き換えるテキストを指定します。テキスト検索のみの場合、このフィールドには記入しないでください。

34.6.4.7　すべて置換

すべての検索文字を置換文字に置換します。

ショートカット：CTRL+A

34.6.4.8　置換

検索した文字列を置換文字に置換します。

ショートカット：CTRL+R

34.6.4.9 選択

リスト内の選択図形から選択セットを作成し、ダイアログボックスを閉じます。

34.6.4.10 すべて選択

表示された検索文字をすべて選択します。

34.6.4.11 図面を縮小

表示されている図面の中心から、半分に縮小します。

34.6.4.12 図面を拡大

表示されている図面の中心から、2倍に拡大します。

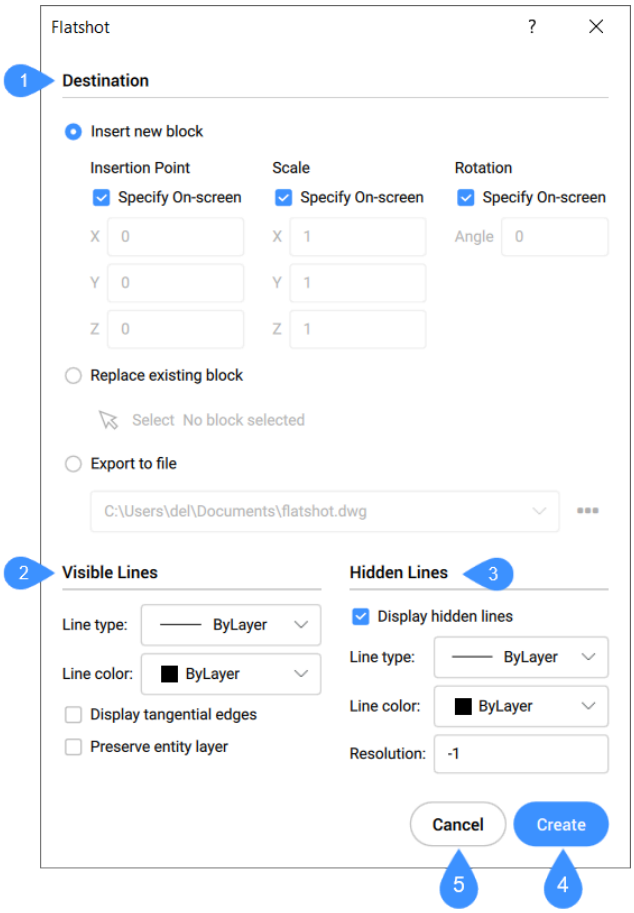
34.6.4.13 検索結果一覧

選択された図形で見つかった一致数だけでなく、置換後に変更された一致数と図形数も表示されます。検索結果は、各列でソートすることができます。

34.6.5 フラットショット

FLATSHOTコマンドを実行して開きます。

フラットショットダイアログボックスでは、3Dソリッドや3Dサーフェスをブロックまたは新規図面として、フラット化した隠線表現を作成することができます。



1 対象先

2 表示線

3 隠線

4 作成

5 キャンセル

34.6.5.1 対象先

ブロックの配置先を定義します。いくつかのフォーマットが用意されています。

新規ブロックを挿入
フラットショットブロックを、いくつかの特性を指定して、カレント図面に新しいブロックとして挿入します。

- 挿入位置
- 尺度変更
- 回転

既存のブロックを置換
図面に挿入済みのブロックを置換します。このオプションを選択することで、カレントの図面からさらにブロックを選択することができます。

ファイルへ書き出し
書き出すファイルを選択ダイアログボックスで、フラットショットブロックをDWGファイルとして保存します。

34.6.5.2 表示線

可視線の線種と色を設定します。線種と色をドロップリストから選択します。

注：新しい線種は、**線種をロード**ダイアログボックスで**ロード...**を選択して、図面に読み込むことができます。新しい線色は、**色**ダイアログボックスで**色を選択...**を選択して、選択することができます。

接線エッジを表示
接線エッジの表示を切り替えます。接線エッジとは、2つの接線面間の架空の移行線のことです。

図形の画層を保持
アクティブにすると、ブロック内図形の画層が維持されます。

34.6.5.3 隠線

隠線の表示を切り替えたり、プロパティを設定したりします。

隠線を表示
隠線の表示を切り替えます。

解像度
解像度は、隠線で表現される短い図形を指定します。負の値を入力すると、プログラムが自動的に判断します。0.01～0.0000000001の範囲で設定可能です。

34.6.5.4 作成

フラットショットを作成します。

注：このボタンに対応するキーボードショートカットは**ALT + R**です。

34.6.5.5 キャンセル

フラットショットの作成をキャンセルします。

注：このボタンに対応するキーボードショートカットは **ALT + C**です。

34.6.6 フォント置換

代替したビッグフォントを含むファイルを開くと、図面の右下に**フォントが見つかりません**の警告メッセージが表示されます。**フォント置換を指定**ボタンを押すと、**フォント置換**ダイアログボックスが開きます。

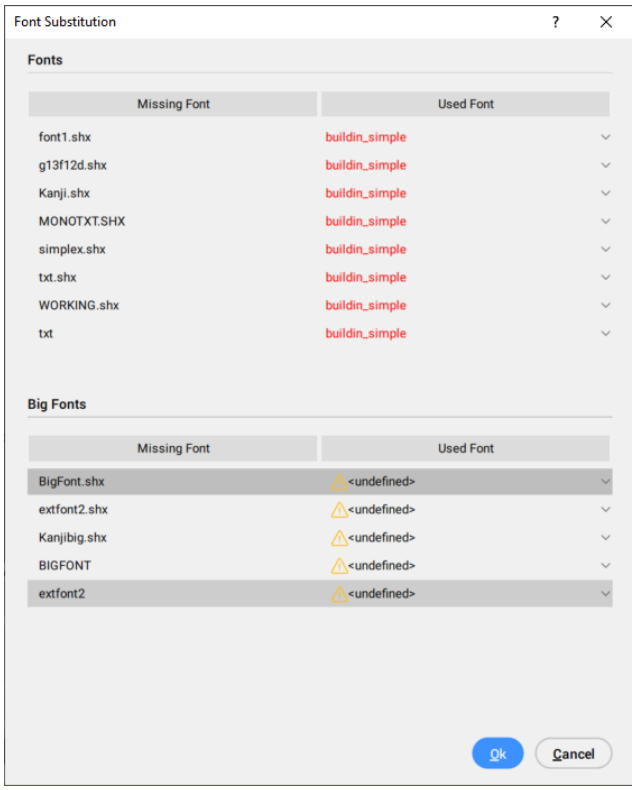
注：この警告メッセージは、**ステータスバー**の**トレイアイコン項目**ボタンが有効な場合(システム変数TRAYNOTIFYとTRAYICONSがオン)に表示されます。

フォント置換ダイアログボックスでは、不明なフォントや、フォントマッピングファイル(default.fmp)に代替フォントが定義されているフォントを自動的に置換することができます。default.fmpファイルの拡張機能としてフォントをマッピングすることができます。FONTMAPシステム変数を参照してください。

注：代替フォントは、そのセッションで開いているすべての図面に適用されるため、代替フォントを使用するすべての図面に影響を与えます。フォントの置換はフォントマッピングのdefault.fmpと同じ方法で行われるので、図面の文字スタイルは変更されません。

注：この自動フォントマッピング(置換)の機能は、ファイルを開いた後に、**図面エクスプローラ**の**文字スタイル**ダイアログボックスで確認できます。また、コンテキストメニューから**フォント置換...**オプションを選択すると、**フォント置換**ダイアログボックスが開

き、カレント図面で文字スタイルに関連付けられている置換可能なフォントがすべて表示されます(文字スタイルは変更しない)。



34.6.6.1 フォント

認識されないフォントやフォントマッピングファイル(default.fmp)で代替フォントが定義されているフォントが一覧表示されます。

34.6.6.2 ビッグフォント

認識されないビッグフォント(SHXビッグフォントファイル)が一覧表示されます。

34.6.6.3 欠落したフォント

認識されないフォントやフォントマッピングファイル(default.fmp)に代替フォントが定義されていないフォントが一覧で表示されます。

34.6.6.4 使用フォント

図面で実際に使用されているマッピングに従って、置換に使用されるフォント名が表示されます。文字スタイルで参照しているフォントとは異なる場合があります。

注：ドロップダウン矢印をクリックし、リストを下にスクロールして、デフォルトのフォントマッピングファイル(default.fmp)から使用可能なフォントを選択します。

注：既定のフォントの**Simplex.shx**は、BricsCADが図面内の元のフォントを認識できない場合に代替フォントとして使用されます。FONTALTシステム変数に関する記事を参照してください。

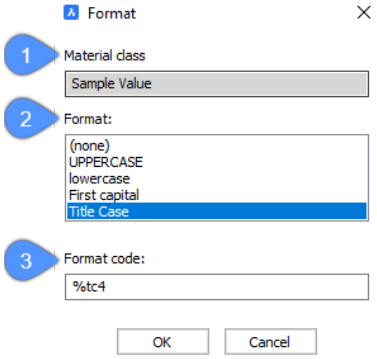
注：マルチテキストで文字スタイルを使用せずに直接フォントを使用している場合、そのフォントはインターフェースに表示されません。また、フォントがない場合も表示されません。

また、フォントがあっても、サポートされていない文字がマルチテキストで使用されている場合、プログラムは代替フォントを使おうとします。この代替フォントは、フォント置換 ダイアログボックスには表示されません。

34.6.7 形式

部品表マネージャーパネルの**形式**オプションを選択して開きます。

形式ダイアログボックスでは、部品表の指定した列のテキスト文字列の形式を指定できます。



1 項目名

2 形式

3 フォーマットコード

34.6.7.1 部品

コンポーネントを指定します。

34.6.7.2 形式

選択したコンポーネントのフォーマットをリストから指定します。

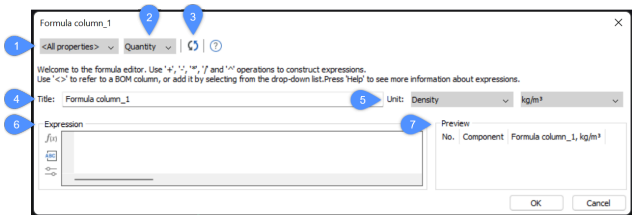
34.6.7.3 フォーマットコード

部品表のすべての材料について、選択したフォーマットタイプに応じて変化します。

34.6.8 数式列

部品表マネージャパネルから開きます。

数式列ダイアログボックスでは、計算式列のタイトル、単位、および式を設定できます。また、計算式の結果のプレビューも表示されます。



1 カテゴリー項目を選択

2 列参照

3 更新

4 タイトル

5 単位

6 式

7 プレビュー

34.6.8.1 カテゴリー項目を選択

列のすべてのカテゴリを一覧表示します。

34.6.8.2 列参照

使用可能な列を表示します。

34.6.8.3 再表示()

プレビューを更新します。

34.6.8.4 タイトル

新しい列の名前が表示されます。

34.6.8.5 単位

すべての測定値と単位を一覧表示します。

34.6.8.6 式

テンプレート式を表示します。

関数(fx)
選択した関数をカーソル位置に挿入します。

変数( )
選択した変数をカーソル位置に挿入します。

変数の設定()
選択した変数を設定できます。
変数が単位変換をサポートしている場合、数式で変数に目標単位を設定できるように構文が拡張されました。変数の初期単位を気にすることなく、単位依存の数式(密度計算など)を書くことができます。
計算式の単位がBricsCADに存在する場合、計算式の値に対して単位変換がサポートされます。
数式列のデフォルトの単位モードは、ユーザー単位に設定されています。

注 : 表記フィールドでは、オートコンプリートがサポートされています。

34.6.8.7 プレビュー

また、計算式の結果のプレビューも表示されます。

34.7 G

34.7.1 標準のファイルを開く

標準のファイルを開くダイアログボックスでは、ファイルを開いたり読み込むことができます。

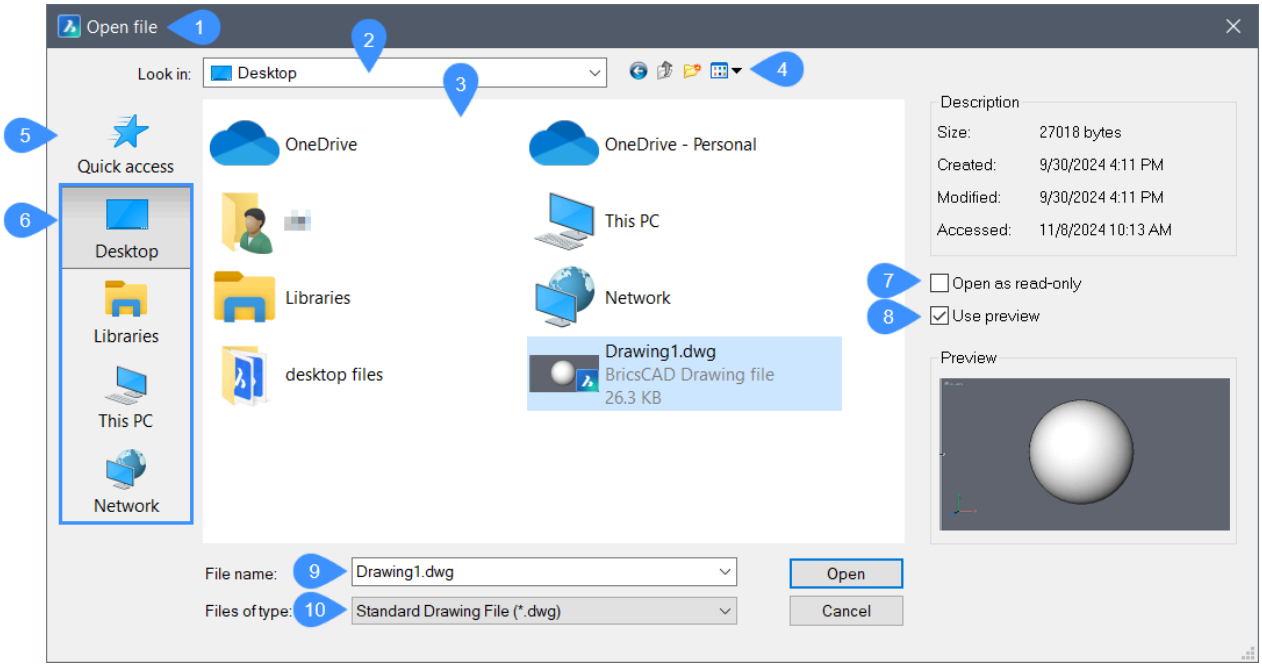
このダイアログボックスは、複数のコマンドから呼び出すことができ、各ケースが名前に反映されます。

このタイプのダイアログボックスは、USESTANDARDOPENFILEDIALOGシステム変数の値(既定値は0)によって表示が変わります。

- USESTANDARDOPENFILEDIALOG ==0：非標準
- USESTANDARDOPENFILEDIALOG ==1：標準

注：Windows 11の場合、ファイルエクスプローラの既定のホームページは、**クイックアクセス**ではなく、**ホーム**と呼ばれます。

34.7.1.1 標準のファイルを開く



1 ダイアログ名

2 ファイルの場所

3 フォルダーとファイルの一覧

4 表示メニュー

5 クイックアクセス

6 標準フォルダー

7 読み取り専用で開く

8 プレビューを使用

9 ファイル名

10 ファイルの種類

ダイアログ名
使用するコマンドに応じてダイアログ名を表示します。

ファイルの場所
ファイルの保存場所を指定することができます。別のディスクドライブやフォルダーに変更するには、矢印をクリックして、ドロップダウンリストから別のディスクドライブやフォルダーを選択します。
リストをスクロールするには、F4を押します。

フォルダーとファイルの一覧
現在のフォルダー内のフォルダーとファイルを一覧表示します。

表示メニュー
フォルダーとファイルをリストに表示する方法を設定します。

クイックアクセス
クイックアクセスには、最近使用したフォルダーだけでなく、常に使用できるようにしたいフォルダーを登録することができます。クイックアクセスで表示されるフォルダーは、Windowsエクスプローラで設定できます。
クイックアクセスフォルダーは、開くときも保存するときも利用できます。

標準フォルダー
保存場所バーの4つの標準フォルダーは、**デスクトップ**、**ライブラリ**、**このPC**、**ネットワーク**です。

注： **標準のファイルを開くダイアログボックス**の保存場所バーにあるフォルダーは、カスタマイズできません。高度なカスタマイズオプションについては、**非標準のファイルを開くダイアログボックス**(USESTANDARDOPENFILEDIALOG == 0)を使用します。

読み取り専用で開く
チェックボックスにチェックを入れると、ファイルを読み取り専用で開くことができます。そのため、新しい情報を書き込んだり、ファイル内のデータを編集する権限はありません。

プレビューを使用
チェックボックスにチェックを入れると、保存前にファイルの一部を見ることができます。

ファイル名
選択したファイルの名前を指定します。

ファイルの種類
有効なファイルタイプの一覧を表示します。ファイルの種類を選択すると、その種類に一致するファイルのみを表示するようにフィルタリングできます。

34.7.1.2 非標準のファイルを開くダイアログボックス

非標準のファイルを開くダイアログボックスでは、標準のダイアログボックスの機能に加えて追加の機能が提供されています。

- **フォルダー内を検索**：現在のフォルダー内のフォルダーとファイルを検索できます。文字列を入力して、結果を絞り込みます。
- **ナビゲーションウィンドウ**：コンピューターのフォルダー構造を表示したり、ファイルの移動やファイルへのアクセスを行えます。

  クイックアクセスリストには、最近使用したフォルダーだけでなく、特定のフォルダーを常に表示しておくことができます。目的のフォルダーを**クイックアクセス**リストにドラッグ＆ドロップしてください。

  クイックアクセスリストのカスタムフォルダーの順序を変更したい場合は、フォルダーを目的の位置にドラッグ＆ドロップします。

クイックアクセスのカスタムフォルダーは、ファイルを開く操作と保存する操作の両方で使用できます。

- **プレビューウィンドウ**：選択したファイルのプレビューを表示します。

34.7.2 標準の図面に名前を付けて保存

標準の「図面に名前を付けて保存」ダイアログボックスでは、ファイルの保存や書き出しを行えます。

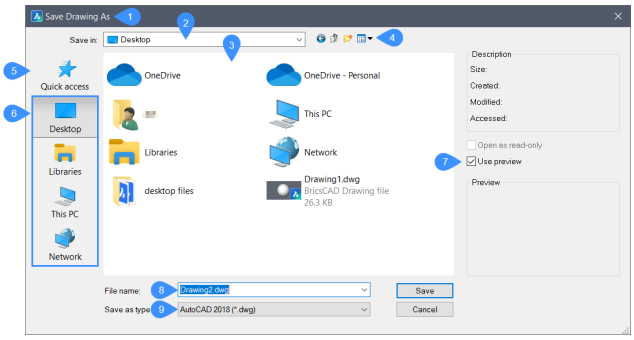
このダイアログボックスは、複数のコマンドから呼び出すことができ、各ケースが名前に反映されます。

このタイプのダイアログボックスは、USESTANDARDOPENFILEDIALOGシステム変数の値(既定値は0)によって表示が変わります。

- USESTANDARDOPENFILEDIALOG ==0：非標準
- USESTANDARDOPENFILEDIALOG ==1：標準

注：Windows 11の場合、ファイルエクスプローラの既定のホームページは、**クイックアクセス**ではなく、**ホーム**と呼ばれます。

34.7.2.1 図面に名前を付けて保存



1 ダイアログ名

2 保存する場所

3 フォルダーとファイルの一覧

4 表示メニュー

5 クイックアクセス

6 標準フォルダー

7 プレビューを使用

8 ファイル名

9 ファイルの種類

ダイアログ名
使用するコマンドに応じてダイアログ名を表示します。

保存する場所
ファイルの保存場所を指定することができます。別のディスクドライブやフォルダーに変更するには、矢印をクリックして、ドロップダウンリストから別のディスクドライブやフォルダーを選択します。
リストをスクロールするには、F4を押します。

フォルダーとファイルの一覧
現在のフォルダー内のフォルダーとファイルを一覧表示します。

表示メニュー
フォルダーとファイルをリストに表示する方法を設定します。

クイックアクセス
クイックアクセスには、最近使用したフォルダーだけでなく、常に使用できるようにしたいフォルダを登録することができます。クイックアクセスで表示されるフォルダーは、Windowsエクスプローラで設定できます。
クイックアクセスフォルダーは、開くときも保存するときも利用できます。

標準フォルダー
保存場所バーの4つの標準フォルダーは、**デスクトップ**、**ライブラリ**、**このPC**、**ネットワーク**です。

注： **標準のファイルを開くダイアログボックス**の保存場所バーにあるフォルダーは、カスタマイズできません。高度なカスタマイズオプションについては、**非標準のファイルを開くダイアログボックス**(USESTANDARDOPENFILEDIALOG == 0)を使用します。

プレビューを使用
チェックボックスにチェックを入れると、保存前にファイルの一部を見ることができます。

注：既存のファイルを選択して置換する際には、プレビューが表示されます。

ファイル名
ファイル名を指定します。定義済みの名前を受け入れるか、別の名前を指定することができます。

ファイルの種類
有効なファイルタイプの一覧を表示します。ファイルの種類を選択すると、その種類に一致するファイルのみを表示するようにフィルタリングできます。

34.7.2.2 非標準の図面に名前を付けて保存

非標準の図面に名前を付けて保存ダイアログボックスでは、標準のダイアログボックスの機能に加えて追加の機能が提供されています。

- **フォルダー内を検索**：現在のフォルダー内のフォルダーとファイルを検索できます。文字列を入力して、結果を絞り込みます。
- **ナビゲーションウィンドウ**：コンピューターのフォルダー構造を表示したり、ファイルの移動やファイルへのアクセスを行えます。

  クイックアクセスリストには、最近使用したフォルダーだけでなく、特定のフォルダーを常に表示しておくことができます。目的のフォルダーを**クイックアクセス**リストにドラッグ＆ドロップしてください。

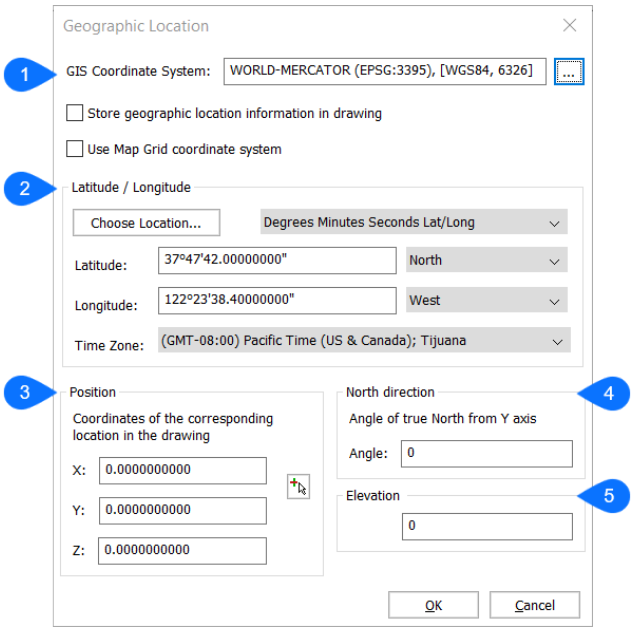
  クイックアクセスリストのカスタムフォルダーの順序を変更したい場合は、フォルダーを目的の位置にドラッグ＆ドロップします。

  クイックアクセスのカスタムフォルダーは、ファイルを開く操作と保存する操作の両方で使用できます。
- **プレビューウィンドウ**：選択したファイルのプレビューを表示します。

34.7.3 地理的位置

GEOGRAPHICLOCATIONコマンドを実行して開きます。

地理的位置ダイアログボックスでは、図面内の点に経度と緯度を適用して、図面の地理的位置を設定することができます。



1 GIS座標系

2 緯度 / 経度

3 位置

4 北方向

5 高さ

34.7.3.1 GIS座標系

図面で使用しているGISシステムをレポートします。

注 : 参照ボタン(…)をクリックして、GIS座標系を変更します。

図面内の地理的位置情報を保存
オンにすると、図面内の地理的位置ポイントの位置を示す地理マーカー(測量位置マーカー)が表示されます。

地図グリッド座標系を使用
有効にすると、図面は実世界の座標、つまりGIS座標系の位置情報に関連付けられます。

注 : 無効にすると、原点は、緯度と経度に対応する、X、Y、およびZに入力された値によって決まります。

34.7.3.2 緯度 / 経度

場所を選択
地理的位置を選択ダイアログボックスでグラフィックの位置を指定します。

度分秒 緯度/経度
位置情報を「度」「分」「秒」の形式で表示します。

十進数 緯度/経度
位置情報を10進数で表示します。

緯度
緯度を設定します。設定可能な値は、0～90までの値です。

経度
経度を設定します。設定可能な値は、0～180までの値です。

タイムゾーン
タイムゾーンドロップリストからタイムゾーンを指定します。

注：設定はTIMEZONEシステム変数に保存されます。

34.7.3.3　位置

座標値を入力して、図面上の地理的位置ポイントの位置を指定します。

注：また、ワークスペース内の特定のポイントを選択して位置を設定することもできます。

34.7.3.4　北方向

ワールド座標系のコンテキストで、北からの太陽の角度を指定します(真北とY軸の間の角度を時計回りに測定)。

注：設定はNORTHDIRECTIONシステム変数に保存されます。

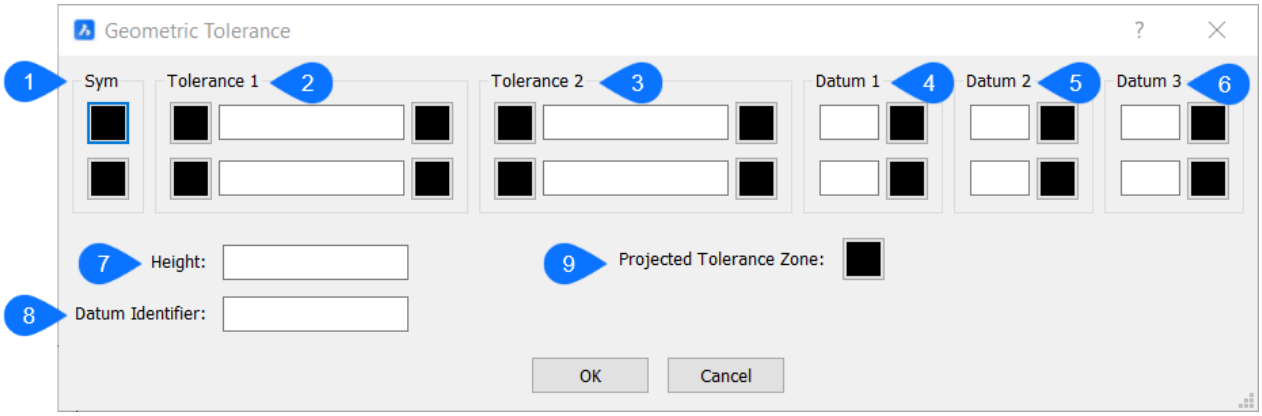
34.7.3.5　高さ

経度緯度地点の標高を指定します。設定可能な値は、正も負もできます。

34.7.4　幾何公差

TOLERANCEコマンドを実行して開きます。

幾何公差ダイアログボックスでは、図面に公差記号を配置することができます。TOLERANCEコマンドを実行してダイアログを開きます。



1　シンボル

2　公差1

3　公差2

4　データム1

5　データム2

6　データム3

34.7.4.1 シンボル

シンボルダイアログボックスで許容範囲の記号を指定します。

34.7.4.2 公差1&2

公差の仕様(直径、値、マテリアル条件)を指定します。

直径寸法
直径記号の表示を切り替えます。

値
公差値を指定します。

マテリアル条件
マテリアル条件ダイアログボックスでマテリアル条件を指定します。

34.7.4.3 データム1、2&3

データム参照(値とマテリアル条件)を指定します。

値
データム値を指定します。

マテリアル条件
マテリアル条件ダイアログボックスでマテリアル条件を指定します。

高さ
公差記号の高さを指定します。

データムID
Datum Aのようなデータム識別子を指定します。

投影公差域
突出公差域記号を切り換えます。

公差記号

シンボル	特徴	種類
	位置	位置
	同心性または同軸性	位置
	左右対称	位置
	平行	向き
	垂直	向き

シンボル	特徴	種類
	傾斜度	向き
	円筒度	フォーム
	平面度	フォーム
	真円度または円形度	フォーム
	直線度	フォーム
	サーフェスのプロファイル	プロファイル
	線のプロファイル	プロファイル
	円形ランアウト	ランアウト
	総ランアウト	ランアウト

マテリアル条件記号

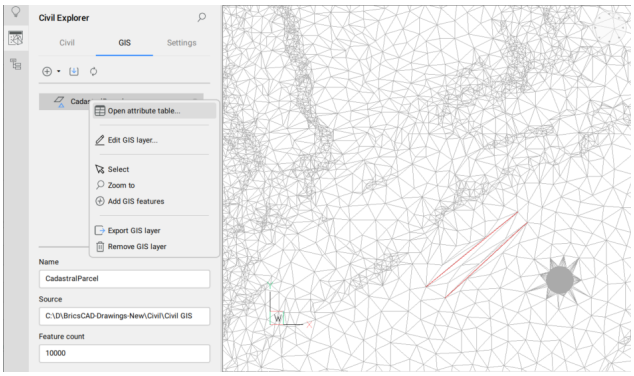
シンボル	定義
	最大の具体的な状態(MMC)で、特徴は範囲で述べられる材料の最大量を含みます。
	最も少なく具体的な状態(LMC)で、特徴は範囲で述べられる材料の最小限の量を含みます。
	「機能サイズを問わず(RFS)」とは、その機能が規定の範囲内ならばどんなサイズでも構わないことを意味しています。

34.7.5 GIS属性テーブル

土木エクスプローラパネルから開きます。

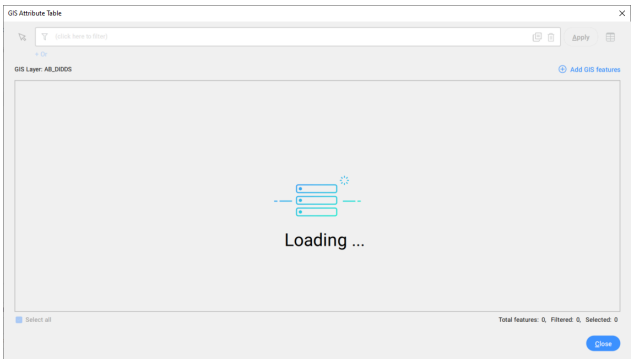
GIS属性テーブルは、テーブル内のGIS属性と図面内のGIS図形(ジオメトリ)を操作できるダイアログボックスです。

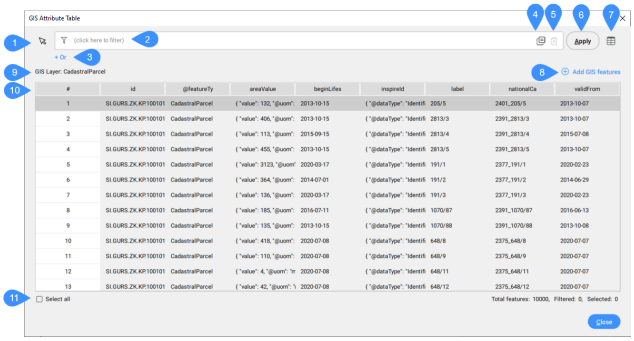
GIS画層を図面に読み込むと、**土木エクスプローラ**パネルの**GIS**タブにも表示されます。読み込んだGIS画層の属性は、**GIS属性テーブル**ダイアログボックスに一覧表示されます。



GIS属性テーブルダイアログボックスを開くには、**土木エクスプローラ**パネルで個々のGIS画層をダブルクリックするか、画層を右クリックしてコンテキストメニューから**属性テーブルを開く**オプションを選択します。

大きなGISデータセットをテーブルビューにロードしたり、データをフィルタリングしたりすると、ロード画面が表示されます。





1 図面内のGISデータを選択します

2 フィルターの属性

3 フィルターを追加

4 +Or

5 フィルターを削除

6 適用

7 列のレイアウトを変更

8 GISフィーチャーを追加

9 GIS画層名

10 GISデータ

11 すべて選択

34.7.5.1 図面内のGISデータを選択します

テーブルでハイライト表示する図面内のGISフィーチャーを選択します。

34.7.5.2 フィルターの属性

式を使い、行/フィーチャーを検索できます。指定したフィルタールールに適合するすべての行が表にリストされます。

フィルターには、AndとOrの2種類があります。

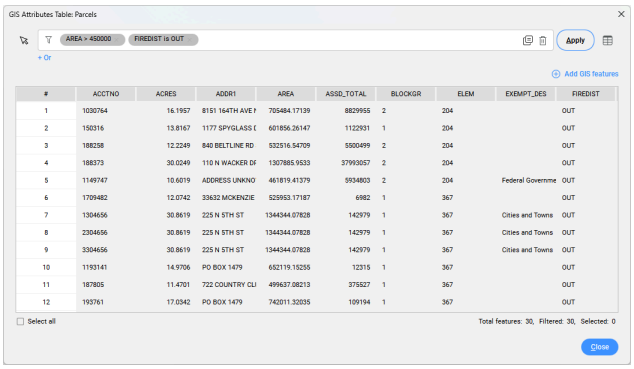
注 : フィルターが同じ行にある場合は、**And**演算子を検討してください。

34.7.5.3 フィルターを追加

条件式で指定されているすべての条件を満たすGIS属性を検索する条件式フィールドを1つ追加します。

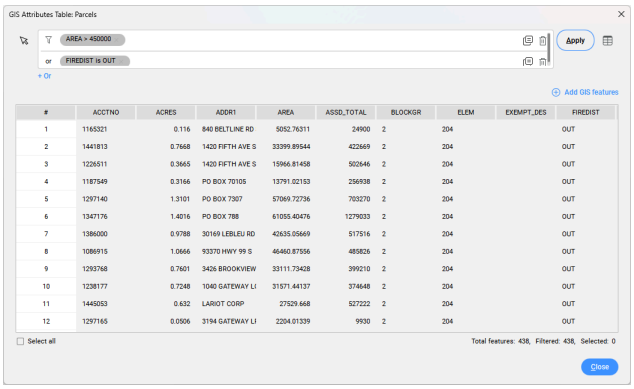
Andフィルターを使用するには、少なくとも1つまたは一連のフィルタールールを1つの式フィールドで指定します。これを行うには、フィルターフィールドをクリックして、ドロップダウンリストからGIS属性を選択します。次に、比較記号を選択して値を入力します。使用可能な比較記号は、データのタイプによって異なり、ドロップダウンリストから選択できます。

- 数値(整数、倍精度浮動小数点数):
  - = 等しい
  - ≠ 等しくない
  - > より大きい
  - < より小さい
  - ≥ 以上
  - ≤ 以下
- 単語(文字列):
  - です
  - ではありません
  - 含む
  - 含まれません



34.7.5.4 + Or

複数のフィルターフィールドで指定されている一連のフィルタールールの少なくとも1つの条件を満たすGIS属性を取得するには、Orフィルターを使用します。



34.7.5.5 フィルターを削除

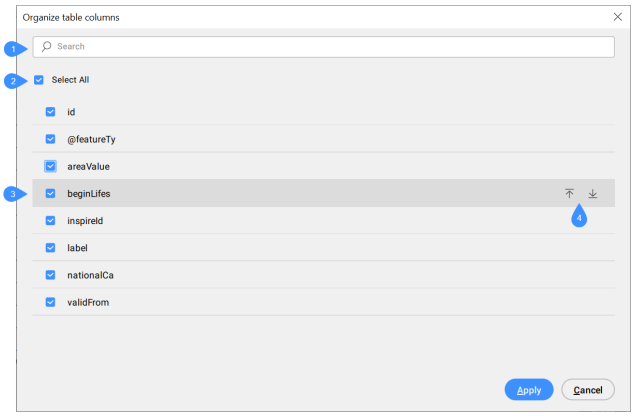
フィルターの式フィールドを削除します。

34.7.5.6 適用

フィルタリング結果を表示します。

34.7.5.7 列のレイアウトを変更

テーブル列を整理ダイアログボックスが開き、複数の列の動作を一度に変更したり、列を再表示したり、列の順序を変更したりすることができます。



1 検索

2 すべて選択

3 チェックボックス

4 上向き矢印と下向き矢印

検索
文字または単語から検索して、適切な属性を見つけることができます。

すべて選択
すべてのフィールドを一度に選択または選択解除できます。

チェックボックス
1つのフィールドを選択または選択解除できます。

上向き矢印と下向き矢印
リスト内でフィールドを上下に移動できます。

34.7.5.8 GISフィーチャを追加

図面のCAD要素をGIS画層へ追加することができます。関連付けられているGIS画層の属性がGISフィーチャーに割り当てられるため、**GIS属性テーブル**ダイアログボックスで値を編集することができます。

34.7.5.9 GIS画層名

GIS画層名を表示します。

34.7.5.10 GISデータ

GISデータの属性を表示します。

ダイアログの最初の列(#)は必須で、行番号が表示されます。最初の列のフィールドをクリックすると、行全体が選択されます。他の列のフィールドをクリックすると、このフィールドのみが選択され、その値を編集できます。列名をクリックすると、列の内容がアルファベット順に並べ替えられます。

複数の行を選択するには、最初のフィールドを選択し、**Shift**を押したまま最後のフィールドを選択します。

選択したフィールドを右クリックすると、コンテキストメニューが開きます。

ズーム
図面内の選択したフィーチャー/図形にズームします。

画面移動先
図面内の選択したフィーチャー/図形に画面移動します。

選択
図面内のフィーチャー/図形を選択します。

クリップボードにコピー
選択したコンテンツをクリップボードにコピーします。

フィーチャーを消去
選択した行/フィーチャーをテーブルから削除します。図面内の属性データまたはジオメトリのみを削除することもできます。

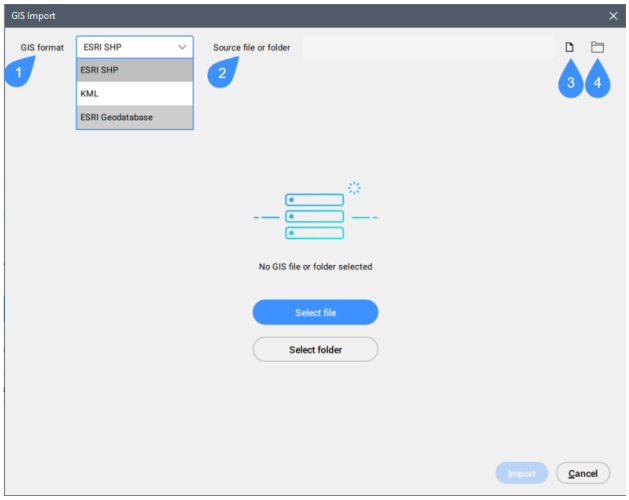
34.7.5.11 すべて選択

図面内のすべてのGISデータを選択します。

34.7.6 GIS読み込み

GISIMPORTコマンドを実行して開きます。

GIS読み込みダイアログボックスでは、形状と属性を持つさまざまなGISフィーチャー (画層) をSHP、KML/KMZ、ジオデータベースファイルからカレント図面に読み込むことができます。読み込んだフィーチャーごとにプロパティを指定することもできます。



1 GIS形式

2 元のファイルまたはフォルダー

3 元のファイルを選択

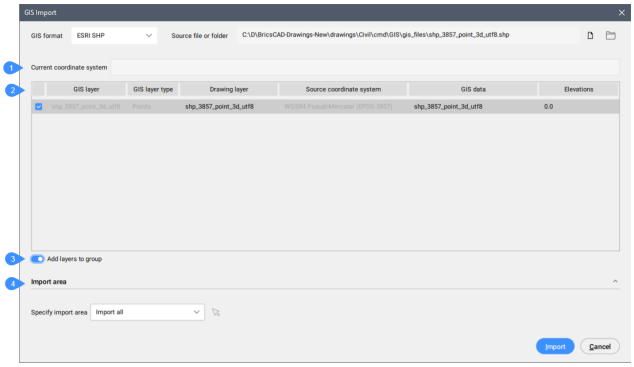
4 元のフォルダーを選択

GIS形式
GIS形式を定義します。

元のファイルまたはフォルダー
ファイルのソースパスを表示します。

元のファイルを選択
ファイルを開くダイアログボックスが開き、GISファイルを選択できます。

元のフォルダーを選択
入力フォルダーを選択ダイアログボックスが開き、GISファイルが含まれているフォルダーを選択できます。



1 カレントの座標系

2 読み込んだGIS画層の一覧表

3 画層をグループに追加

4 読み込み領域

5 読み込み

34.7.6.1 カレントの座標系

カレント図面で使用しているGISシステムをレポートします。

34.7.6.2 読み込んだGISフィーチャー表

読み込むGIS画層が一覧表示され、そのプロパティを定義できます。

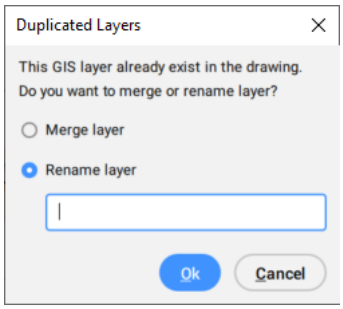
選択
読み込むGISフィーチャーを選択/選択解除できます。

注：読み込み対象が選択されていない場合は、警告メッセージが表示されます。

GIS画層
GIS画層の名前を指定します。

注：重複するGIS画層は、名前を変更するか、画層をマージして読み込むことができます。警告メッセージの表示に従ってください。

⚠**ボタンを押して、重複画層ダイアログボックスを開きます。**



GIS画層タイプ
画層タイプ(線分、ポリゴン、ポイントなど)を指定します。

図面画層
図形を作成する図面画層を指定します。
GISフィーチャーの**図面画層**欄をクリックして**図面画層**ダイアログボックスを開き、画層を設定します。

注：重複するGIS画層は、名前を変更するか、画層をマージして読み込むことができます。警告メッセージの表示に従ってください。

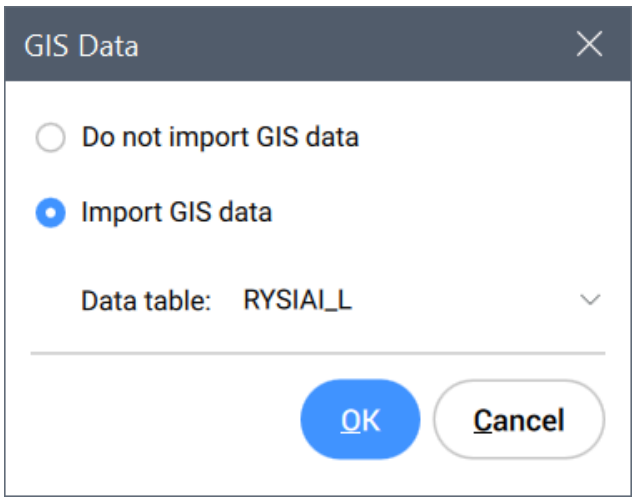
既存画層
カレント図面から既存の画層を選択できます。

新規画層
新しい画層を作成できます。

データフィールドからの画層
データフィールドから画層を選択できます。

ソース座標系
読み込んだGISファイルで使用されるソース座標系(読み取り専用)を指定します。

GISデータ
GISデータを指定します。
GISフィーチャーの**GISデータ**欄をクリックして**GISデータ**ダイアログボックスを開き、GISデータを読み込むかどうかを選択できます。



GISデータを読み込まない
選択すると、GISデータは読み込まれません。

GISデータを読み込み
選択すると、指定したデータ表からGISデータが読み込まれます。

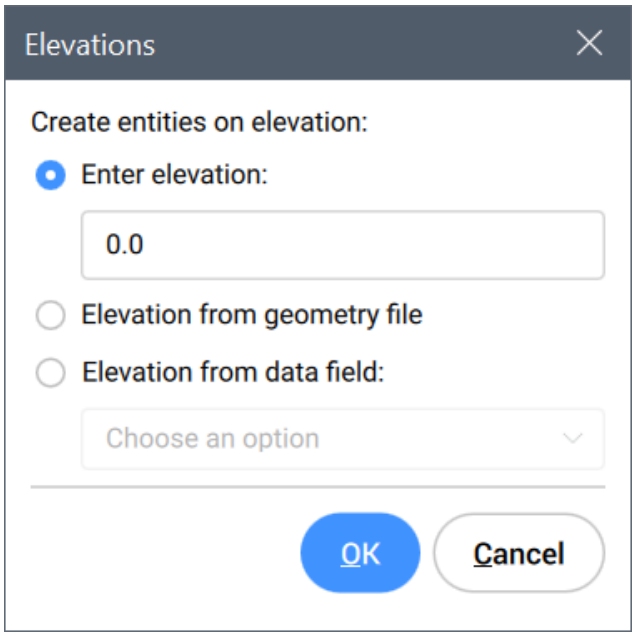
注：GISデータを持つ図形をコピーすると、GISデータも一緒に送られます。

図形に関連付けられているGISデータは、以下の場合には保持されます：

- GISデータを持つ図形をカレント図面内でコピーする。
- WBLOCKコマンドを実行して、ブロック定義を外部DWGファイルとして作成する。

- COPYコマンドとPASTEコマンドを実行して、GISデータを持つ図形を図面間で移動する。

標高
図形を作成する高さを指定します。
GISフィーチャーの**高さ**欄をクリックして**高さ**ダイアログボックスを開き、高さを設定します。



高さを入力
高さの値を入力できます。

ジオメトリファイルからの高さ
ジオメトリファイルの高さを使用します。

データフィールドからの高さ
指定したデータフィールドの高さを使用します。

34.7.6.3 画層をグループに追加

読み込んだGIS画層を新しいグループに追加します。これは、**土木エクスプローラ**パネルの**GIS**タブに表示されます。

34.7.6.4 読み込み領域

読み込み領域を指定できます。

読み込み領域を指定

すべて読み込み
図面全体を読み込み領域として使用します。

クリッピングポリゴンを選択

マウスアイコンをクリックして、読み込み領域を定義する図面内のポリゴンを選択します。

クリッピングポリゴンを作図

マウスアイコンをクリックして、図面内の読み込み領域を指定します。

34.7.6.5 読み込み

GISフィーチャーを図面に読み込み、**GIS読み込み**ダイアログボックスを閉じます。

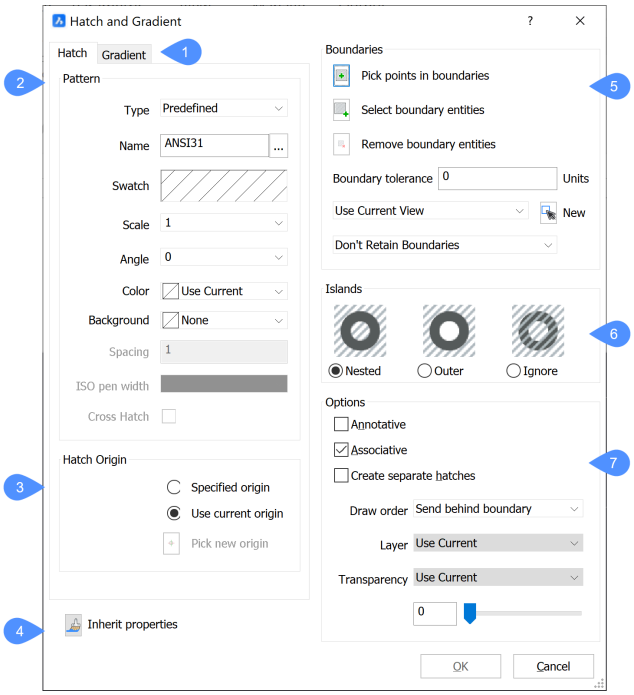
34.8 H

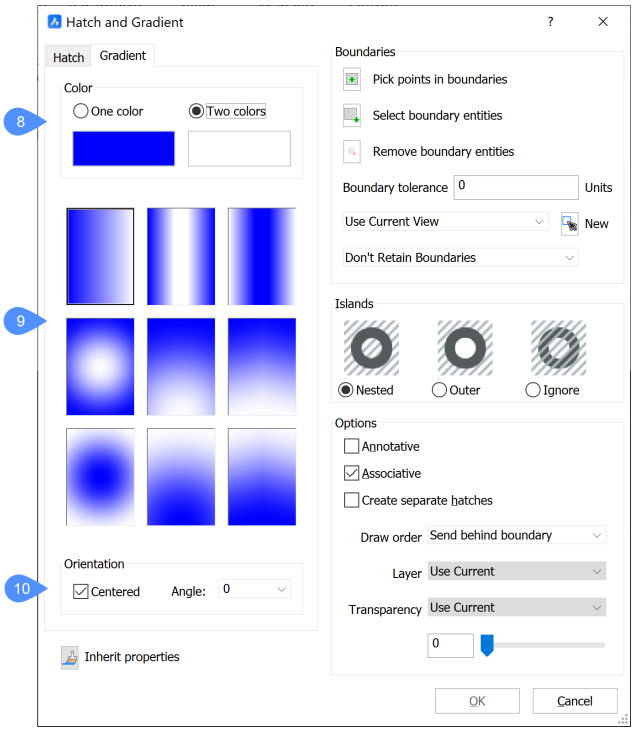
34.8.1 ハッチングとグラデーション

以下より開きます：

- GRADIENTコマンド
- HATCHコマンド

ハッチングとグラデーションダイアログボックスでは、閉じた2D領域を繰り返しのパターンやソリッドカラーで埋めることができます。





1 ハッチングとグラデーションタブ

2 ハッチングパターン

3 ハッチングの原点

4 プロパティを継承

5 境界

6 島

7 オプション

8 グラデーションの色

9 グラデーションのパターン

10 グラデーションの向き

34.8.1.1 パターン

ハッチングパターンのプロパティを指定します。

種類
ハッチングの種類を指定します。

ユーザー定義
ユーザーが設定した「角度」「間隔」「色」「背景」「クロスハッチング」のパラメータからパターンを構築します。

定義済み
プログラムに同梱されているiso.pat(メートル単位)またはdefault.pat(インチ単位)のパターン定義ファイルに定義されているパターンを使用します。

カスタム
ユーザーが作成した*.patファイル(1つのファイルに1つのパターン定義に限定)で定義されたパターンを使用します。プログラムは、SRCHPATHシステム変数で定義されているフォルダ内の*.patファイルを検索します。

名前
定義済みのハッチパターンの名前を以下のいずれかの方法で指定します。**ブラウズ**ボタンをクリックすると、**ハッチングパターンパレット**ダイアログボックスが表示され、パターンを選択することができます。

注 : このオプションは、ユーザー定義のパターンでは利用できません。

見本
ハッチングパターンパレットダイアログボックスを表示します。

注 : このオプションは、ユーザー定義のパターンでは利用できません。

尺度変更
パターンの尺度係数を設定します。ハッチングパターンを拡大して使用するには、1より大きな値を入力します。

注 : ハッチングパターン尺度は文字、線種の尺度と同じです。

角度
パターンの角度を設定します。

注 : この角度は現在のUCSのX軸に比例して測定されます。

色
ハッチングパターンの線の色を設定します。

注 : カレントを使用オプションでは、CECOLORシステム変数で指定されたカレントの色が使用されます。

背景
ハッチングの背景色を設定します。

間隔
ハッチングの線分間の距離を指定します。

注 : このオプションは、ユーザー定義のパターンにのみ有効です。

ISOペン幅
線の太さを指定します。

注 : このオプションは、ISOハッチパターンにのみ有効です。

クロスハッチング
パターンがクロスしているかどうかを判断します(元のパターンに対して90度の角度で繰り返されます)。

注 : このオプションは、ユーザー定義のパターンに対してのみ有効です。

34.8.1.2 ハッチングの原点

ハッチングの原点を指定します。現在の原点と新たな指定の原点のどちらかを選ぶことができます。

34.8.1.3 プロパティを継承

既存の別のハッチングパターンのプロパティをコピーして、このパターンで使用します。

34.8.1.4 境界

ハッチングの境界条件を指定します。

境界内の点をピック
パターンを配置する閉じた領域(境界)を指定します。

注：すでにハッチングパターンがあるエリアや、閉じていない(**境界許容差**で指定した値よりも隙間が大きい)領域は選択できません。

境界図形を選択
ハッチング境界を構成する図形を選択し、パターンの範囲を拘束します。

注：このオプションでは、すでにハッチングがあるものも含めて、閉じた領域をハッチングすることができます。隙間が**境界許容差**で指定した値よりも小さい領域をハッチングします。

境界図形を削除
検出された境界セットから図形を削除します。

境界許容差
ハッチングの境界が完全に閉じていないときに無視する最大ギャップを指定します。

- 0 - (デフォルト)：許容範囲は、現在のビューサイズに基づいて、アプリケーションによって設定されます。拡大すると、境界検出に失敗します。ズームアウトして輪郭が「閉じた」ように見えると、境界が検出されます。
- 0以外：作図単位で最大ギャップを定義します。

注：設定値はHPGAPTOLシステム変数に保存されます。

カレントビューを使用/新しい境界セットを使用
プログラムが境界を構成する図形を検索する場所を指定します。

ファイルを追加
パターンの境界を構成する図形の新しい選択セットを作成します。

注：次に**境界内の点をピック**ボタンをクリックし、ハッチング領域を選択します。

境界を保持
境界をどうするかを決定します。

境界を保持しない
ハッチングが作成された後に境界線を削除します。

ポリラインとして境界を保持
境界線を保持し、ポリラインに変換します。

リージョンとして境界を保持
境界線を保持してリージョンに変換します。(Pro以上の版のみ)

34.8.1.5 島

閉じたハッチングの境界内に他の境界が存在する場合に、BricsCADがどのように対応するかを指定します。

入れ子
閉じたハッチング境界が他の境界を含む時、BricsCADは最外部領域をハッチングします。

外側のみ
閉じたハッチング境界が他の境界を含む場合、BricsCADは一番外側の領域のみをハッチングします。

無視
閉じたハッチング境界が他の境界を含む場合、BricsCADはすべての内部領域を、あたかもそれらがないかのようにハッチングします。

34.8.1.6 オプション

異尺度対応
ハッチングの異尺度対応プロパティを切り替えます。オンにするとBricsCADはカレントの注釈尺度を適用します。

注：このオプションをオンにすると、**関連付け**オプションは使用できなくなります。

関連付け
ハッチングパターンの自動調整配列を切り替えます。境界線が変更されると、パターンが自動的に更新されます。

注：このオプションは、異尺度対応ハッチングには使用できません。

分割ハッチングを作成
複数のハッチングをどのように扱うかを切り替えます。オンにすると、BricsCADは選択セットの各境界に個別のハッチング図形を作成します。

表示順序
重なっている図形に対して、パターンをどこに配置するかを指定します。

画層
ハッチングを配置する画層を指定します。

透過性
ハッチングの透過性プロパティを設定できます。

注：**カレントを使用**オプションでは、CETRANSPARENCYシステム変数で定義された透過性の値が適用されます。

34.8.1.7 グラデーションの色

グラデーションの色を指定します。グラデーションに1色または2色を含めてソリッドの塗りつぶしを作ることができます。

34.8.1.8 グラデーションのパターン

グラデーションのパターンを指定します。

34.8.1.9 グラデーションの向き

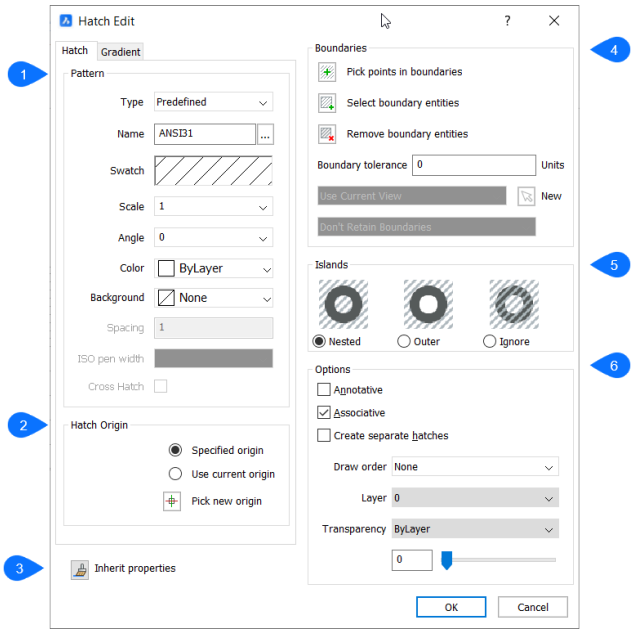
境界線上にどのように塗りつぶしを配置するかを指定します。

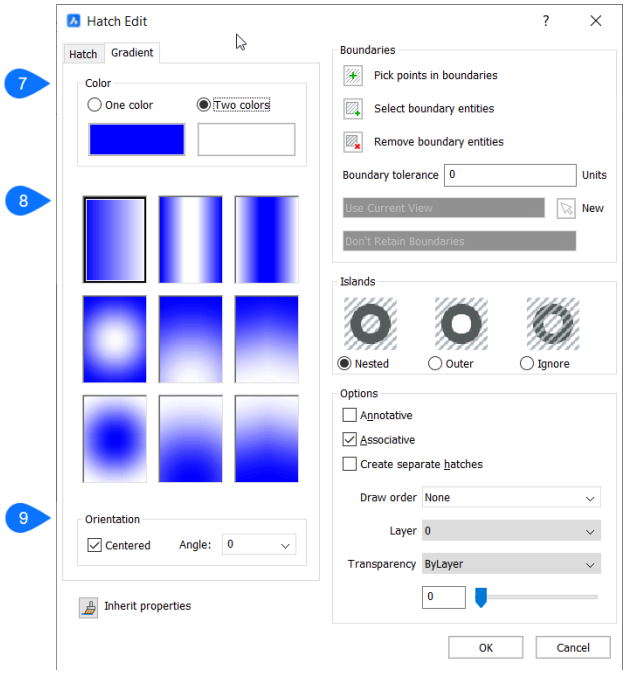
- 中心：グラデーションの塗りつぶしを、塗りつぶされる領域の中央に配置します。オフの場合は、境界線の左上から塗りつぶしを開始します。
- 角度：グラデーションの塗りつぶしの角度を、現在のUCSを基準にして選択し、15度刻みで指定します。

34.8.2 ハッチング編集

HATCHEDITコマンドを実行して開きます。

ハッチング編集ダイアログボックスでは、図面上に既に存在するハッチンを編集することができます。すべてのオプションは、**ハッチングとグラデーション**ダイアログボックスのオプションに似ています。





1 パターン

2 ハッチングの原点

3 プロパティを継承

4 境界

5 島

6 オプション

7 色

8 パターン

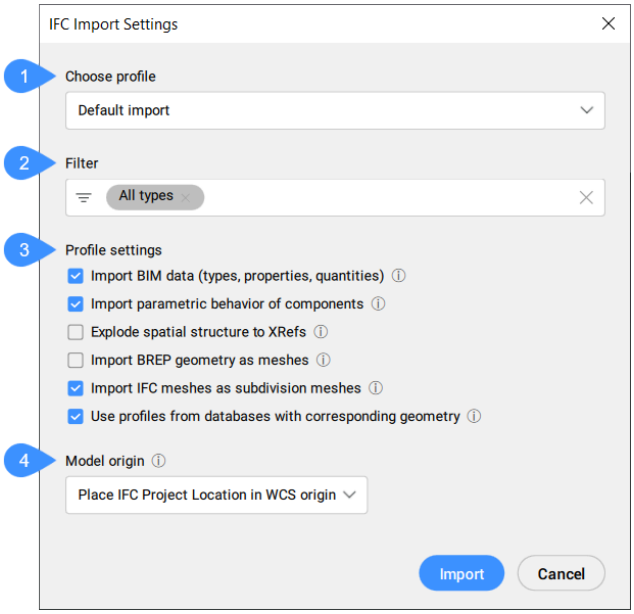
9 向き

34.9 I

34.9.1 IFC読み込み設定

IMPORTコマンドを実行して開きます。

IFC読み込み設定ダイアログボックスでは、IFCモデルの読み込み方法を制御できます (**IMPORTコマンド**の記事を参照)。



1 プロファイルを選択

2 フィルター

3 プロファイル設定

4 モデル原点

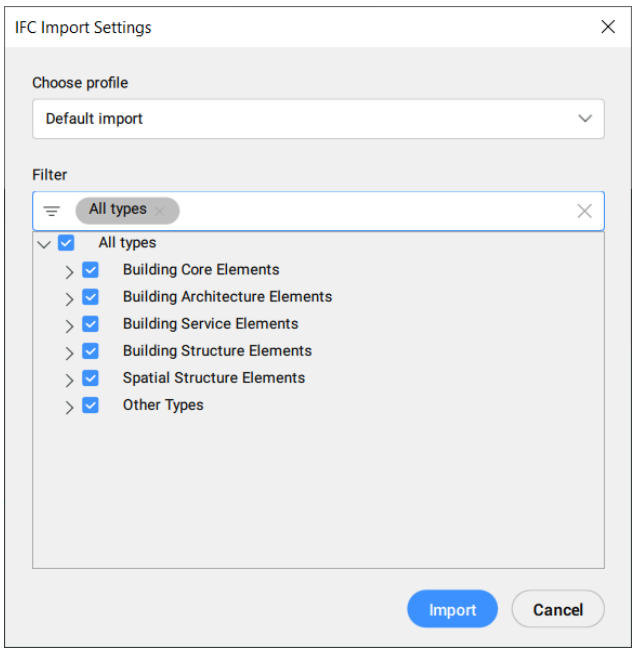
34.9.1.1 プロファイルを選択

IFCモデルを読み込むためのプロファイルを設定します。事前定義されたプロファイルは次のとおりです。

- **デフォルトの読み込み**
- **参照用に最適化(メッシュ優先、家具を除外)**：IFC 読み込み時にBREPジオメトリをメッシュとして読み込みます。
- **すべて読み込み**
- **ジオメトリのみ**
- **建築要素のみ**
- **構造要素のみ**
- **MEP要素のみ**

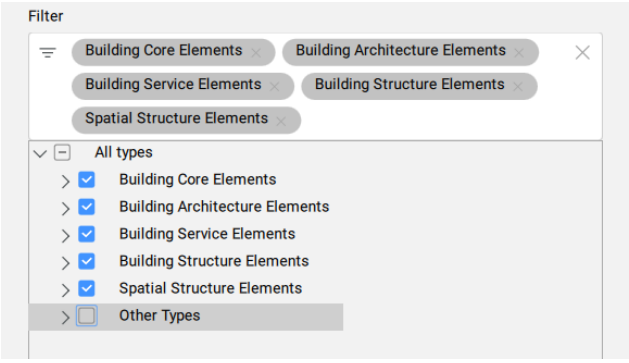
34.9.1.2 フィルター

要素タイプごとに読み込みフィルタを設定することができます。フィルターアイコンをクリックするごとに現在の**プロファイル設定**と**フィルター**条件を切り替えます。

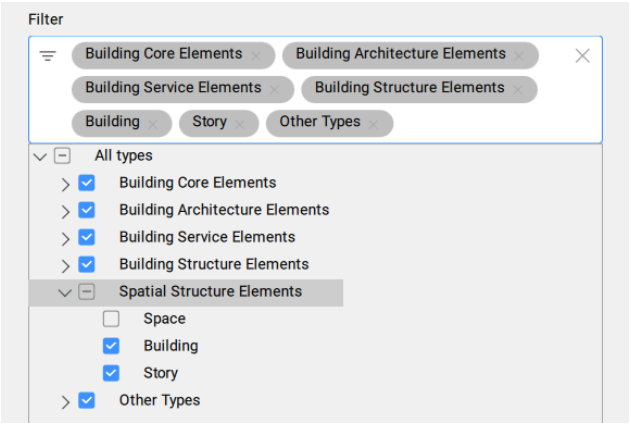


条件は、階層構造とタグで表示されます。デフォルトでは、すべての要素タイプが読み込み対象として選択されています。

ツリーで、要素タイプのカテゴリの選択を1つでも解除すると、**すべてのタイプ**タグが解除されていない残りのカテゴリタグに置き換えられます。



ツリーで、カテゴリの下の要素タイプの選択を1つでも解除すると、カテゴリタグは解除されていない残りの図形タイプタグに置き換えられます。



注：フィルター条件を変更すると、元のプロファイルと同じ名前の後に「**(変更済み)**」と表記された一時プロファイルに変更内容が保存されます。これは、事前定義された**プロファイル設定**を変更する場合も同様です。この一時プロファイルは、次回のIFC読み込みの際に**IFC読み込み設定**ダイアログボックスにロードされます。

34.9.1.3 プロファイル設定

プロファイル設定を定義します。

BIMデータ(タイプ、プロパティ、数量)のインポート
IFC読み込み時にBIMデータ(タイプ、プロパティ、数量)を読み込みます。

コンポーネントのパラメトリック動作をインポート
IFCファイルから、パラメトリック窓とパラメトリックドアをパラメトリックコンポーネントとしてBricsCADに読み込みます。

空間構造を外部参照に分解
各建物と階を個別の外部参照として読み込みます。

メッシュとしてBREPジオメトリを読み込み
IFC読み込み時にBREP(境界表現)ジオメトリをメッシュとして読み込みます。これにより、特定の複雑なBREP形状に対してより正確な結果が得られます。

IFCメッシュをサブディビジョンメッシュとして読み込み
IFC メッシュをサブディビジョンメッシュとして読み込みます。OFFの場合、ポリメッシュを使用してIFCファイルからメッシュを読み込みます。

注：

- ポリフェースメッシュは、32,767個の面または頂点の制限があります。
- サブディビジョンには制限がありません。

対応するジオメトリを持つデータベースのプロファイルを使用
IFC読み込み時に、プロファイルをプロジェクトおよび中央データベースのジオメトリに基づいて比較します。一致する場合は、読み込まれたパラメータの代わりに、プロジェクト/中央データベースで定義されたパラメータ(プロファイル名、サイズ、規格)が使用されます。

34.9.1.4 モデル原点

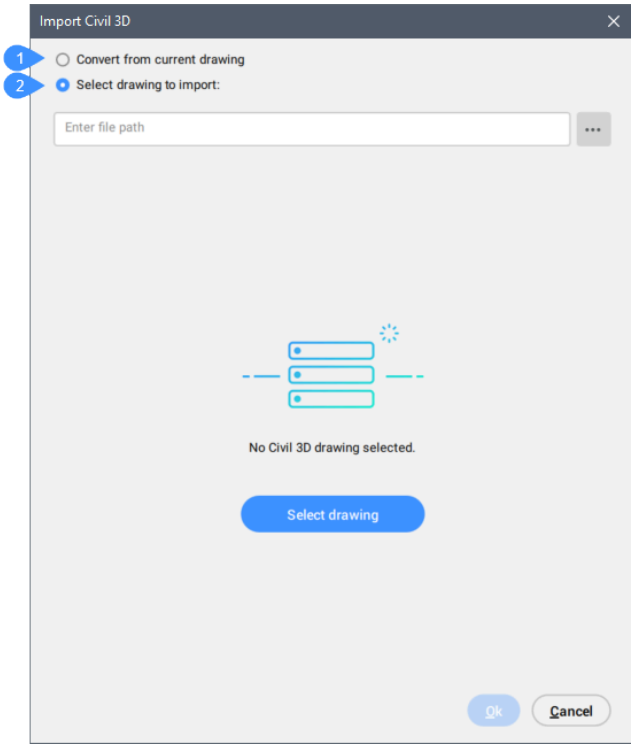
ワールド座標系(WCS)を基準にしてモデルを配置する場所を定義します。IFCグローバル座標系をWCSの原点に配置した場合、モデルが原点から離れてしまうことがあります。

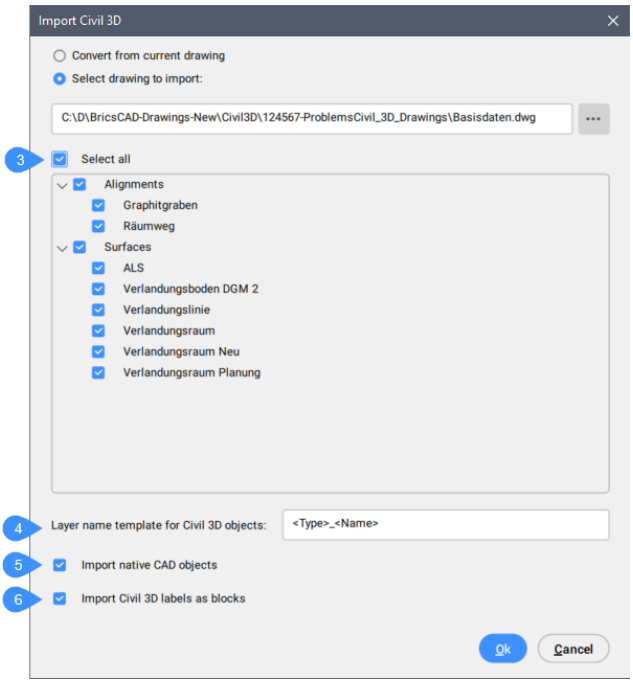
オプションは以下の通りです：

- **IFCグローバル座標系をWCS原点に配置**
- **IFCプロジェクト位置をWCS原点に配置**
- **IFCサイト位置をWCS原点に配置**

34.9.2 Civil 3D読み込み

Civil 3D読み込みダイアログボックスでは、AutoCAD® Civil 3Dの図面からBricsCADの土木図形を作成することができます。





1 カレント図面から変換

2 読み込むファイルを選択

3 すべて選択

4 Civil 3Dオブジェクトの画層名テンプレート

5 ネイティブCADオブジェクトを読み込み

6 ブロックとしてCivil 3Dラベルを読み込み

34.9.2.1 カレント図面から変換

カレント図面にあるAutoCAD® Civil 3Dオブジェクトを変換します。

34.9.2.2 読み込むファイルを選択

図面パスを入力するか、**図面を選択**ボタンをクリックして図面を手動で選択します。

注：DWGファイルを指定するか、**カレント図面から変換**オプションを選択すると、AutoCAD® Civil 3Dオブジェクトがオブジェクトタイプ別に整理されてツリービューに一覧表示されます。

34.9.2.3 すべて選択

選択した図面内のすべてのAutoCAD® Civil 3Dオブジェクトを選択します。

34.9.2.4 Civil 3Dオブジェクトの画層名テンプレート

読み込んだAutoCAD® Civil 3Dオブジェクトの画層名テンプレートを指定します。

画層名テンプレートを定義するために、以下の設定が可能です：

- **<種類>**：画層名にAutoCAD® Civil 3Dオブジェクトの種類を含めます。

- **<名前>**：画層名にAutoCAD® Civil 3Dオブジェクト名を含めます。
- **<ソース画層>**：土木図形は読み込み元のAutoCAD® Civil 3Dオブジェクトと同じ画層に作成されます。

BricsCAD 土木図形を特定の画層に作図したい場合、画層名は、元のCivil 3Dオブジェクトの種類、オブジェクト名、および元のAutoCAD® Civil 3Dオブジェクトの画層名の3つのセットで構成します。フィールドに以下のテキストを入力します：

```
<種類>_<名前>_<ソース画層>
```

34.9.2.5 ネイティブCADオブジェクトを読み込み

AutoCAD® Civil 3Dオブジェクトに加えて、選択した図面からネイティブCADオブジェクトを読み込みます。

34.9.2.6 ブロックとしてCivil 3Dラベルを読み込み

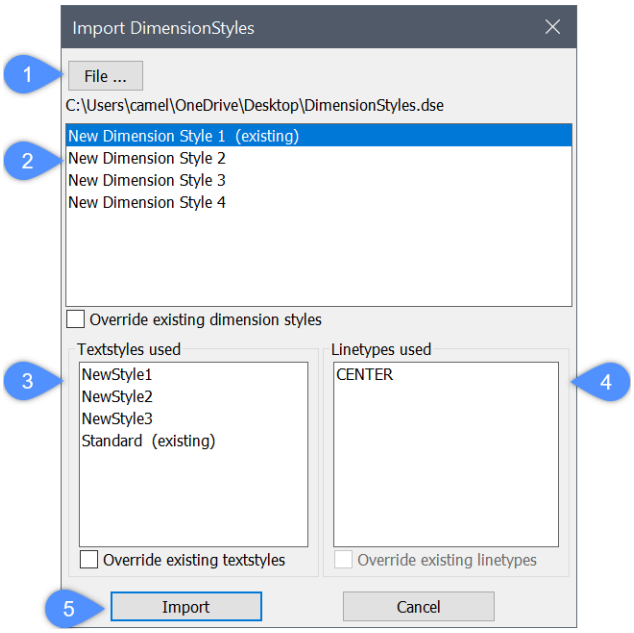
選択した図面からAutoCAD® Civil 3Dのラベルをブロックとして読み込みます。

注：AutoCAD® Civil 3DのCOGOポイントラベルは、BricsCADの土木ポイントのラベルに変換されます。

34.9.3 寸法スタイルの読み込み

DIMIMコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

寸法スタイルの読み込みダイアログボックスでは、寸法スタイルとその設定を外部ファイルから読み込むことができます。



1 ファイル...

2 使用する寸法スタイル

3 使用する文字スタイル

4 使用する線種

5 読み込み

34.9.3.1 ファイル...

読み込むファイルを選択ダイアログボックスが開き、読み込むDSEファイルを選択できます。選択したファイル内のすべての寸法スタイル(文字スタイルや線種を含む)がカレント図面に読み込まれます。

注 : DSEファイルは、DIMEXコマンドで生成されたものと同じ形式でなければなりません。

34.9.3.2 使用する寸法スタイル

DSEファイルの寸法スタイルが表示され、カレント図面に読み込む寸法スタイルを選択できます。

注 : 既存の寸法スタイルをオーバーライドオプションにチェックマークを入れると、カレント図面の寸法スタイルが上書きされ、DSEファイルの同様の名前の寸法スタイルが使用されます。

34.9.3.3 使用する文字スタイル

DSEファイルの文字スタイルを表示します。

注 : 既存の文字スタイルをオーバーライドオプションにチェックマークを入れると、カレント図面の文字スタイルが上書きされ、DSEファイルの同様の名前の文字スタイルが使用されます。

34.9.3.4 使用する線種

DSEファイルの線種を表示します。

注 : 既存の線種をオーバーライドオプションにチェックマークを入れると、カレント図面の線種が上書きされ、DSEファイルの同様の名前の線種が使用されます。

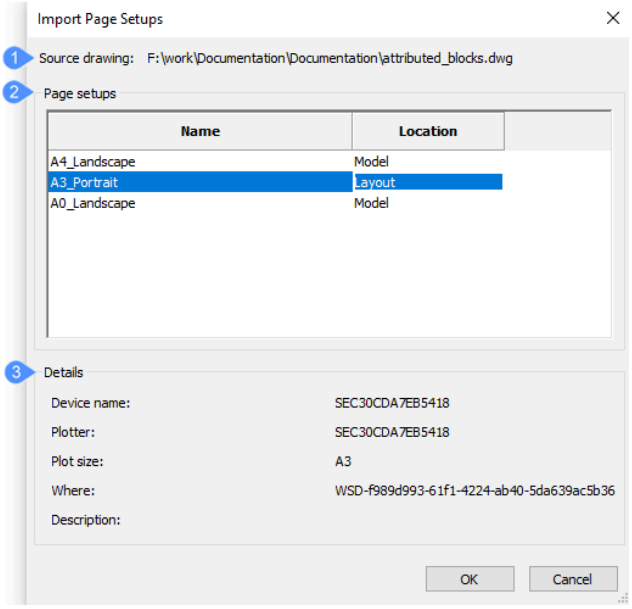
34.9.3.5 読み込み

選択した寸法スタイルをDSEファイルから読み込みます。

34.9.4 ページ設定を読み込み

PSETUPINコマンドを実行して開きます。

ページ設定を読み込みダイアログボックスでは、リストから 1 つまたは複数のページ設定を(**Ctrl**を使用して)選択し、カレント図面に読み込むことができます。



1 元図面

2 ページ設定

3 詳細

34.9.4.1 元図面

ページ設定の読み込みに使用した図面のソースを表示します。

34.9.4.2 ページ設定

リストから各ページ設定の名前と位置を指定します。

- **名前**：図面内のページ設定の名前を指定します。図面にページ設定がない場合は、ダイアログボックスは空白になります。
- **位置**：ページ設定のレイアウトやモデルの位置を指定します。

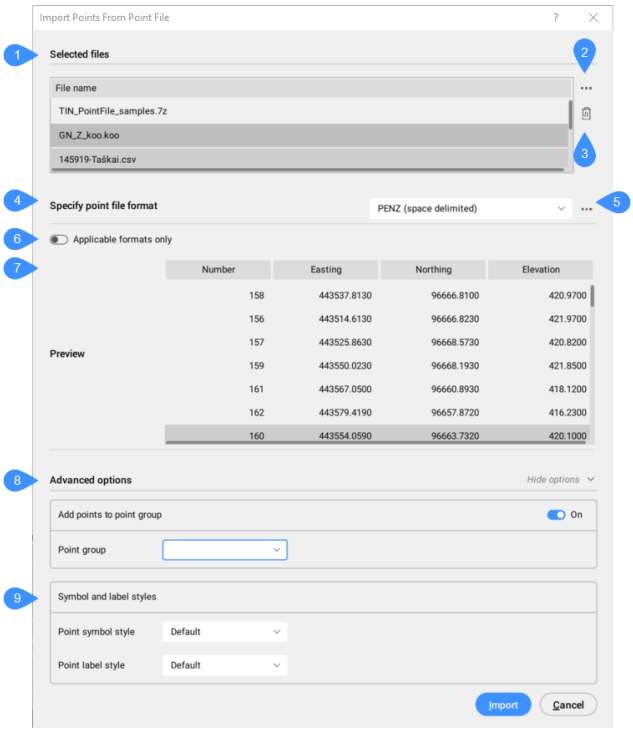
34.9.4.3 詳細

デバイス名、プロッタ、印刷サイズ、位置、説明欄などの情報を含みます。

34.9.5 ポイントファイルからポイントを読み込み

CIVILPOINTコマンドの**ファイルからポイントを読み込み**オプションを実行して開きます。

ポイントファイルからポイントを読み込みダイアログボックスでは、土木ポイントの作成に使用するポイントファイルを1 つまたは複数選択できます。



1 選択したポイントファイルのリスト

2 ポイントファイルを選択

3 ポイントファイルを削除

4 ポイントファイル形式を指定

5 ポイントファイル形式を管理

6 適用可能な形式のみ

7 プレビュー

8 高度なオプション

9 シンボルとラベルのスタイル

34.9.5.1 選択したポイントファイルのリスト

図面に読み込むために選択したポイントファイルが表示されます。

34.9.5.2 ポイントファイルを開く

ファイルを開くダイアログボックスが開き、ポイントファイルを選択できます。入力ポイントファイルとしては、ポイントの任意のASCIIファイルに対応できます。拡張子、列間の区切り文字、列内のデータの配置も任意です。複数のポイントファイルを選択できます。

34.9.5.3 ポイントファイルを削除

ポイントファイルをリストから削除します。

34.9.5.4 ポイントファイル形式を指定

ドロップダウンリストからポイントファイル形式を選択します。

34.9.5.5 ポイントファイル形式を管理

ポイントファイル形式を管理ダイアログボックスを開きます(関連記事**ポイントファイル形式を管理**を参照)。

34.9.5.6 適用可能な形式のみ

オンにすると、リスト内のすべてのファイルに適用可能な形式のみが表示されます。

34.9.5.7 プレビュー

すべてのポイントの座標と詳細(位置番号、詳細な説明、未処理の説明など)を表示します。

34.9.5.8 高度なオプション

ポイントをポイントグループに追加することができます。

ポイントをグループに追加
ポイントを新規または既存のポイントグループのどちらに追加するかを選択できます。

ポイントグループ
グループの名前を選択するか、新しいグループ名を入力できます。

34.9.5.9 シンボルとラベルのスタイル

読み込んだポイントのシンボルとラベルのスタイルを選択できます。

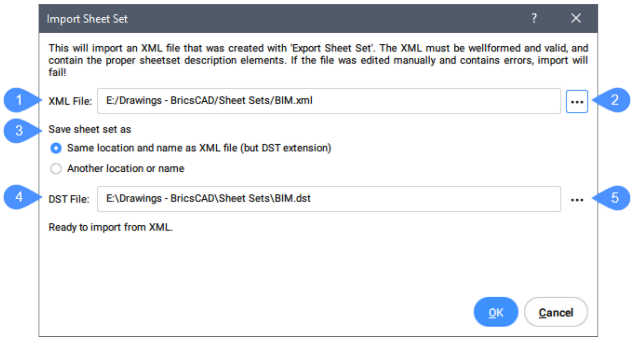
ポイントシンボルのスタイル
読み込んだポイントのポイントシンボルスタイルを選択できます。

ポイントラベルのスタイル
読み込んだポイントのラベルシンボルスタイルを選択できます。

34.9.6 シートセットを読み込み

シートセットパネルから開きます。

シートセットを読み込みダイアログボックスでは、**シートセットに名前を付けて書き出し**ダイアログボックスで作成したシートセットファイルを読み込むことができます。



1 XMLファイルパス

2 XMLファイルを選択

3 シートセットに名前を付けて保存

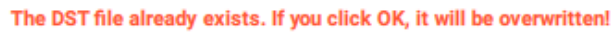
4 DSTファイルパス

5 シートセットに名前を付けて保存

34.9.6.1 XMLファイルパス

XMLファイルを選択ボタンを使用して*.xmlファイルを選択すると、ファイルのパスが表示されます。

注：シートセットにすでに存在するシートレイアウトを読み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。



34.9.6.2 XMLファイルを選択

XMLファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

34.9.6.3 シートセットに名前を付けて保存

読み込んだXMLファイルをDSTファイルとして保存する方法を次から選択してください：

- XMLファイルとして上書き保存(DST拡張子無し)
- 別の場所、または、別名で保存。このボタンをクリックすると、**シートセットに名前を付けて保存**ダイアログボックスが開きます。

34.9.6.4 DSTファイルパス

DSTファイルのパスと名前を表示します。

34.9.6.5 シートセットに名前を付けて保存

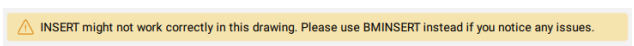
シートセットに名前を付けて保存ダイアログボックスが開きます。このボタンは、読み込み済みのXMLファイル以外の場所や名前でシートセットを保存する場合にのみアクティブになります。

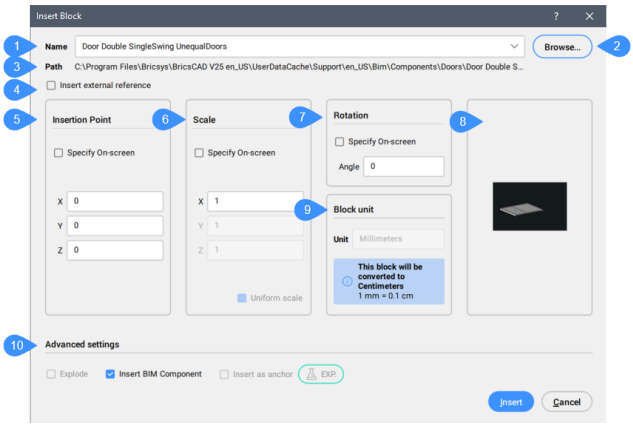
34.9.7 ブロック挿入

INSERTコマンドを実行して開きます。

ブロック挿入ダイアログボックスでは、ブロックをカレント図面に挿入することができます。

注：

- DWGファイルまたはDXFファイル全体をブロックとして図面に挿入することができます。
- パラメトリックブロックを挿入することができます。
- ブロックに属性が含まれている場合は、ATTDIAシステム変数の値に応じて、コマンドラインまたは**属性編集**ダイアログで属性の値を入力するように促されます。
- メカニカルコンポーネントを含む図面で作業する場合、代わりにBMINSERTコマンドを使用するよう勧める警告メッセージがダイアログボックスに表示されます。
- 



1 名前

2 ブラウズ

3 パス

4 外部参照を挿入

5 挿入位置

6 尺度変更

7 回転

8 ブロックのプレビュー

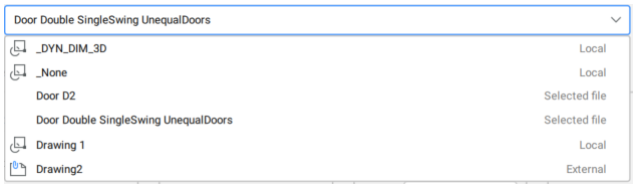
9 ブロック単位

10 高度な設定

34.9.7.1 名前

挿入するブロックの名前、図面に定義が存在するブロックの名前、ブロックとして挿入するファイルの名前を指定します。

注：ドロップダウンボタンをクリックして、使用可能なブロックを表示します。図面内のブロックと図面外のブロックタイプがアイコンで表示されます。



34.9.7.2 ブラウズ

図面ファイルを選択ダイアログボックスが開き、お使いのコンピューターやネットワークにあるDWG ファイルまたはDXFファイルを選択できます。

34.9.7.3 パス

ブロックとして挿入するファイルへのパスが表示されます。

34.9.7.4 外部参照を挿入

ブロックをローカルとして挿入するか、外部参照として挿入するかを切り替えます。

34.9.7.5 挿入位置

図面でブロックの挿入基点を指定します。

画面上を指示
カレント図面でのブロックの挿入点を動的に選択します。

34.9.7.6 尺度変更

ブロックの尺度を指定します。

画面上を指示
カレント図面でブロックの尺度を動的に変更します。

座標入力
ブロックの縮尺を定義します。

X
X軸方向の尺度係数を指定します。マイナス値を入れると、X軸に対してミラーになります。

Y
Y軸方向の尺度係数を指定します。マイナス値を入れると、Y軸に対してミラーになります。

Z
Z軸方向の尺度係数を指定します。

注 :

- 値が1より大きい場合ブロックは大きく作成されます。
- 1 実寸で挿入されます。
- 値が1より小さい場合ブロックは小さく作成されます。
- 0より小さい値は、ミラーリングのようにブロックを反転させます。

均一尺度
すべての軸に同じ尺度係数を使用するかどうかを切り替えます。

注 : このオプションは、**均一尺度**オプションを有効にして作成したブロックを挿入する場合に、デフォルトで有効になります (**BLOCKコマンド**の記事を参照)。

34.9.7.7 回転

X軸を0度とする、ブロックの挿入位置を中心とする回転角度を指定します。

注 : 正の角度はブロックを反時計回りに、負の角度はブロックを時計回りに回転させます。

画面上を指示
カレント図面でのブロックの挿入点を動的に選択します。

34.9.7.8 ブロックのプレビュー

ブロックのプレビューを表示します。

34.9.7.9　ブロック単位

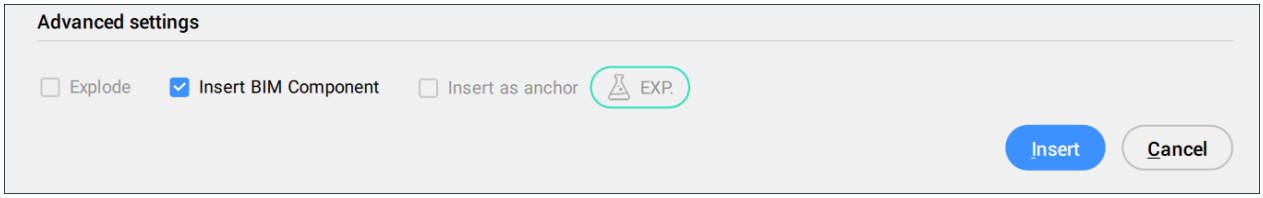
カレント図面のシステム変数INSUNITSとINSUNITSSCALINGを基準にして、ブロックの自動尺度を制御します。

34.9.7.10　高度な設定

挿入タイプに応じて、使用可能な詳細設定が表示されます。

分解
挿入するブロックを分解するかどうかを指定します。

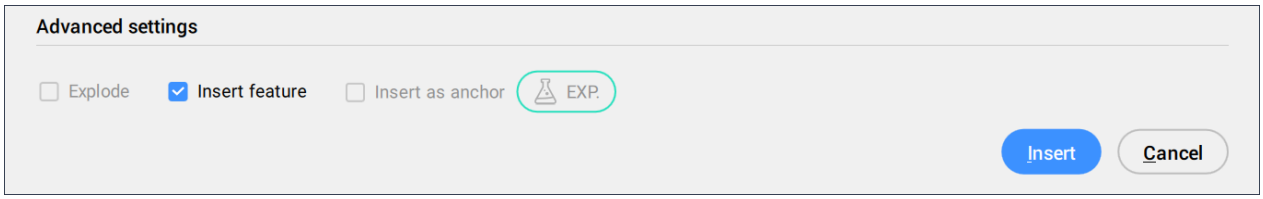
BIMコンポーネントを挿入
ブロックをBIMコンポーネントとして挿入するかどうかを指定します。



注：

- **BIMコンポーネントを挿入**オプションは、挿入する外部BIMコンポーネントブロックが選択されている場合にのみ選択できます。
- このオプションは、BricsCAD BIM ライセンスで使用できます。BricsCAD Pro ライセンスまたは BricsCAD Mechanical ライセンスを使用している場合、このオプションは**フィーチャーを挿入**になります。

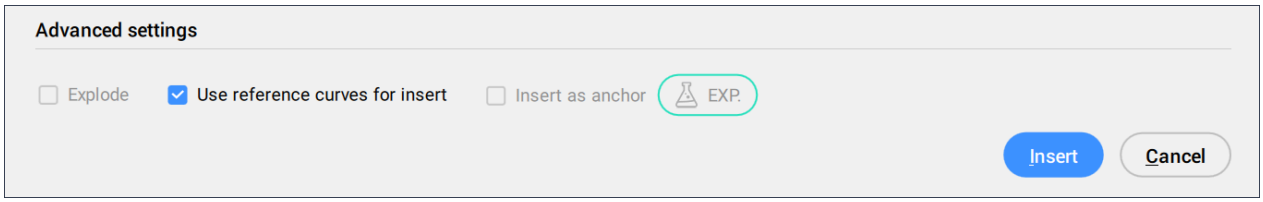
フィーチャーを挿入
ブロックをフィーチャーとして挿入するかどうか指定します。



注：

- **フィーチャーを挿入**オプションは、挿入時に外部のメカニカルコンポーネントブロックが選択されている場合に使用できます。
- 以下のオプションは、BricsCAD Pro以上で使用できます。

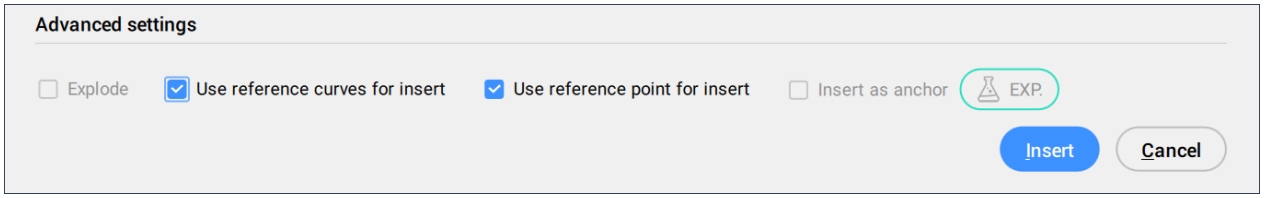
挿入時に参照カーブを使用
挿入時に参照カーブを使用するか切り替えます。



注：

- **挿入時に参照カーブを使用**オプションは、選択した図面に参照カーブが含まれている場合にのみ使用できます。**ガイド付きファジー挿入のワークフロー**の記事も参照してください。
- 以下のオプションは、BricsCAD Pro以上で使用できます。

挿入時に参照ポイントを使用
参照時に参照ポイントを使用するか指定します。



注：

- **挿入時に参照ポイントを使用**オプションは、選択したDWGファイルにガイドカーブの詳細が含まれている場合にのみ使用できます。ガイドカーブの詳細は、COPYGUIDEDコマンドとMOVEGUIDEDコマンドを実行して作成します。
- **挿入時に参照カーブを使用**オプションが有効な場合にのみ使用できます。それ以外の場合、このオプションはグレー表示されます。
- 以下のオプションは、BricsCAD Pro以上で使用できます。

板金フォームフィーチャーを挿入
板金フォームフィーチャーを挿入するかどうかを切り替えます。

注：

- **板金フォームフィーチャーを挿入**オプションは、挿入する板金フォームフィーチャーブロックが選択されており、モデル空間にSMフランジが含まれている場合にのみ選択できます。
- このオプションは、BricsCAD Pro以上のライセンスで使用できます。

アンカーとして挿入
ブロックをソリッドの面に固定します。このアンカーは、ブロックを面にリンクします。ブロックは、ホストソリッドを移動または編集しても面上に残ります。

注：BIMANCHORはテスト段階の機能です。MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを使用して、試験的な機能を有効または無効にしてください。

34.9.8 セルにブロックを挿入

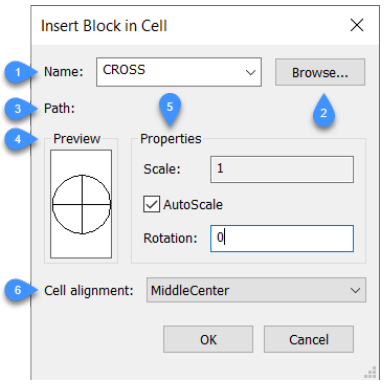
以下より開きます：

- TINSERTコマンド
- **表**ツールバー

セルにブロックを挿入ダイアログスボックスでは、カレント図面内のテーブルのセルにブロックを挿入できます。DWGファイルおよびDXFファイルをブロックとして挿入することもできます。

注：1つのセルに文字とブロックの両方を入れることができます。

注：ブロックに属性が含まれている場合は、ATTDIA(属性ダイアログ)変数の値に応じて、コマンドラインまたは**属性編集**ダイアログボックスで属性の値を入力するように促されます。



1 名前

2 ブラウズ

3 パス

4 プレビュー

5 プロパティ

6 セルを整列

34.9.8.1 名前

定義が図面に存在するブロックの名前を指定します。コンピュータやネットワーク上のDWGファイルやDFXファイルも指定できます。

34.9.8.2 ブラウズ

コンピューターまたはネットワークからDWGまたはDXFファイルを選択します。**図面ファイルを開く**ダイアログボックスが開きます。

注： 小さなセルに大きな図面を配置すると、プログラムが不安定になることがあります。

34.9.8.3 パス

ブロックがDWGまたはDXFファイルから開かれた場合、ブロックのパスを表示します。

34.9.8.4 プレビュー

選択したブロック定義のプレビューを表示します。

注： セルが小さい場合、ブロックや図面がほとんど見えないこともあります。ブロックが適切に表示されるように、行や列のサイズを大きくしてください。1つのセルには文字と1つまたは複数のブロックを入れることができます。3Dモデルをセルに貼り付けると、2D平面図が表示されます。

34.9.8.5 プロパティ

選択したブロックのその他のプロパティを定義します。

尺度変更
ブロックの尺度値を指定します。

- 値が1より大きい場合、ブロックが拡大されます。
- 1 実寸で挿入されます。
- 値が1より小さい場合ブロックは小さく作成されます。

- 0より小さい値は、ミラーリングのようにブロックを反転させます。

注：このオプションは、自動尺度変更がオンのときは使用できません。

自動尺度変更
ブロックのサイズをセルに合わせて変更します。

- **オン**：ブロックのサイズがセルに合わせて変更されます。
- **オフ**：ブロックに合わせてセルのサイズが変更されます。

回転
ブロックをその中心点(挿入基点ではない)の周りに回転させます。回転角度を入力します。角度を入力：

- 正の値にすると、ブロックは反時計回りに回転します。
- 0 - ブロックは回転しません。
- 負の値にすると、ブロックは時計回りに回転します

注：指定回転角度は、AUNITSシステム変数を使用します。

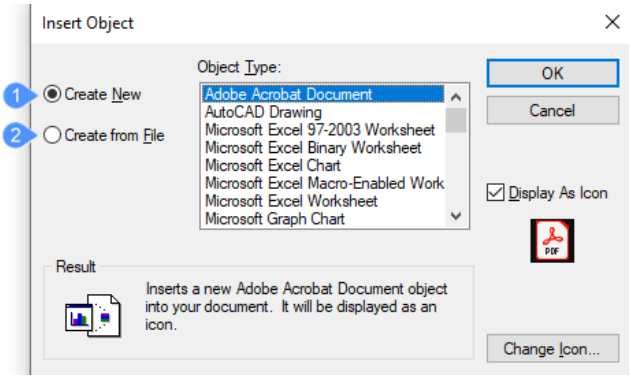
34.9.8.6 セルを整列

セル内でブロックを整列させます。

34.9.9 オブジェクトの挿入

INSERTOBJコマンドを実行して開きます。

オブジェクトの挿入ダイアログボックスでは、リンクされたドキュメントや埋め込まれたドキュメントを現在の図面に挿入することができます。

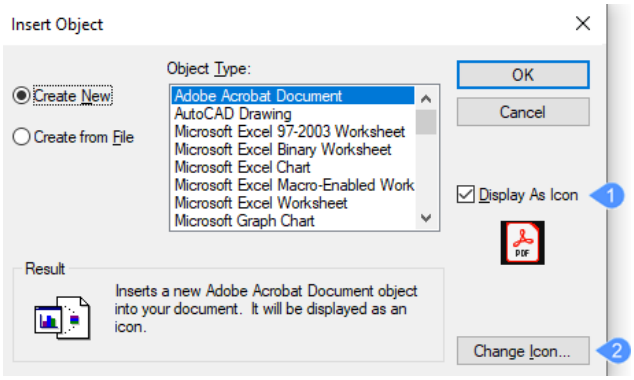


1 新規作成

2 ファイルから作成

注：お使いのパソコンにインストールされているソフトウェアによって、掲載されているオブジェクトの種類が異なります。

34.9.9.1 新規作成



1 アイコンで表示

2 アイコンの変更

アイコンで表示
オブジェクトをアイコンとして表示します。アイコンは、ドキュメントタイプに関連し、ソースアプリケーションによって定義されます。

アイコンの変更
アイコン変更ダイアログボックスが開きます。詳細については、**アイコン変更ダイアログボックス**の記事を参照してください。

34.9.9.2 ファイルから作成

リンク
ドキュメントのソースのリンクを切り替えます

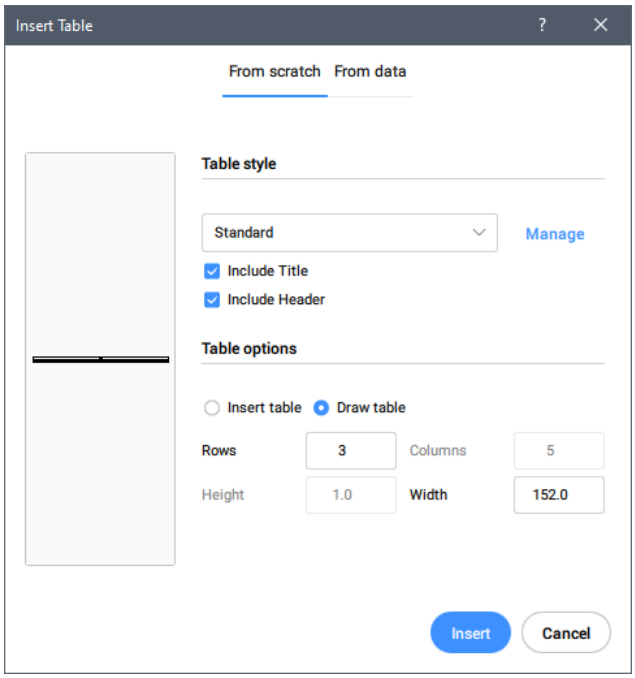
- **オン**：図面にオブジェクトのソースファイルをリンクします。また、ソースファイルが変更されるとき、リンクしているオブジェクトを変更します。
- **オフ**：オブジェクトにリンクしません。

34.9.10 表の挿入

TABLEコマンドを実行して開きます。

表の挿入ダイアログボックスでは、最初から、あるいは外部ファイルやデータリンクのデータから、図面内に表図形を作成することができます。

34.9.10.1 新規作成

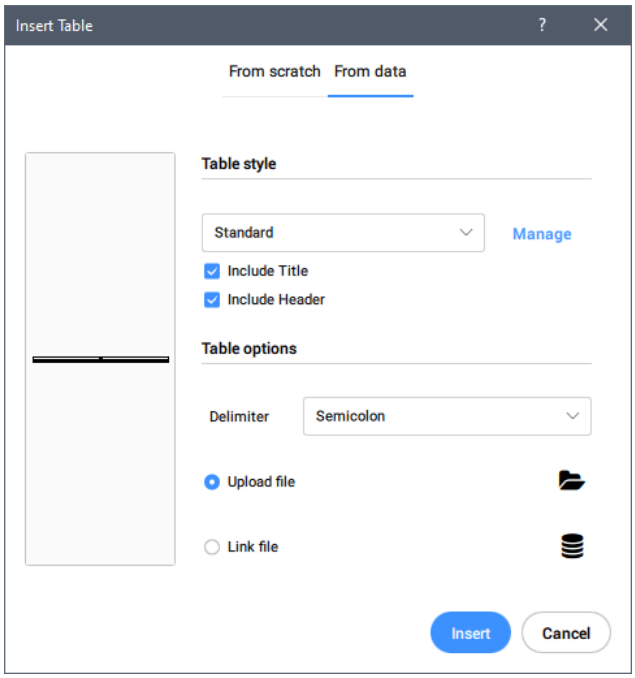


表スタイル
既存の表スタイルをドロップダウンリストから選択します。

注：管理ボタンをクリックすると、**図面エクスプローラ** > **表スタイル設定**が開きます。

表オプション
プロパティを定義して表を挿入するか、表を作図するかを選択します。

34.9.10.2 データから



表オプション

区切り文字
CSVデータファイルのフィールドを区切るための区切り文字を指定します。使用する区切り文字をドロップダウンリストから選択します。

注 : ファイルオプションでのみ有効です。

ファイルをアップロード
ソースファイルを選択ダイアログボックスが表示され、新しい表にファイルを選択できます。

ファイルをリンク
データリンクマネージャーダイアログボックスが開きます。関連記事**データリンクマネージャーダイアログボックス**を参照してください。

34.9.11 インターフェース設定

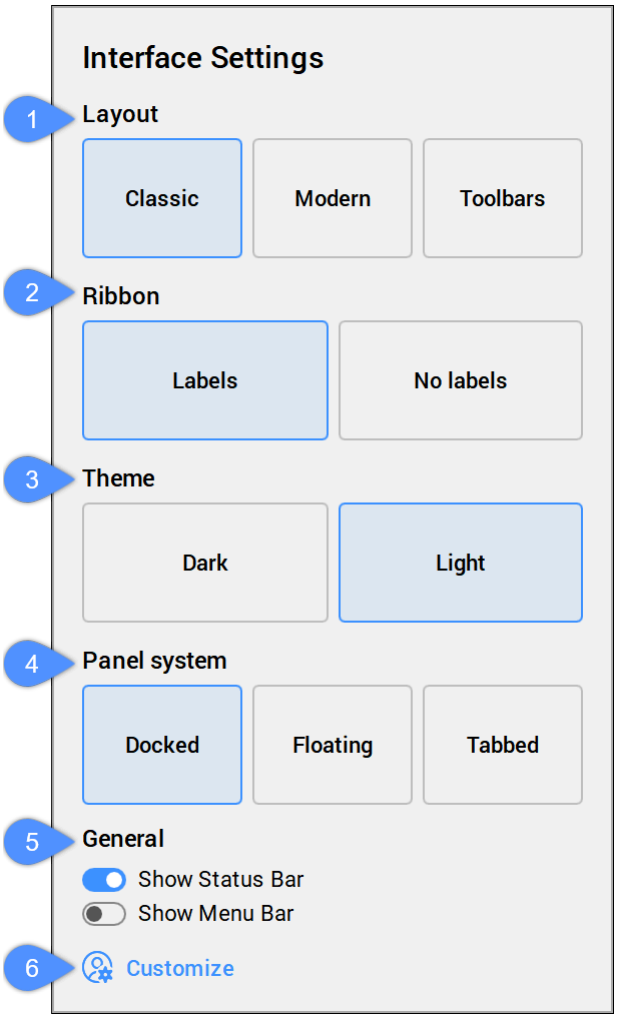
リボンパネルから開きます。

インターフェース設定ダイアログボックスでは、BricsCADワークスペースのインターフェース表示を管理できます。

インターフェース設定ボタンをクリックして、**インターフェース設定**ダイアログボックスを開きます。

レイアウトの**モダン**と**クラシック**の場合、**インターフェース設定**ボタンはリボンの右上にあります。RIBBONSETTINGSENABLEDシステム変数では、ボタンを表示するかどうかをコントロールします。

レイアウトの**ツールバー**では、**インターフェース設定**ボタンは**ワークスペース**ツールバーにあります。



1 レイアウト

2 リボン

3 テーマ

4 パネル表示

5 一般

6 カスタマイズ

34.9.11.1 レイアウト

インターフェースの一般的なレイアウトを定義します。

クラシック
インターフェースをクラシックレイアウトに設定します。

注：デフォルトのレイアウトは**クラシック**インターフェースです。

モダン
インターフェースをモダンレイアウトに設定します。

ツールバー
ツールバーのみを使用するレイアウトにインターフェースを設定します(リボンは閉じています)。

34.9.11.2　リボン

リボンの表示モードを定義します。

ラベル
リボンラベルを表示します。

ラベルなし
リボンラベルを非表示にします。

34.9.11.3　テーマ

インターフェースの配色テーマを定義します。

ダーク
インターフェースのテーマをダークに設定します。

ライト
インターフェースのテーマをライトに設定します。

34.9.11.4　パネル表示

パネルを開いたときのその表示方法を定義します。

ドッキング
パネルをドッキングして整理し、選択したパネルの幅に応じてモデル空間を縮小します。

フローティング
パネルをフローティングで整理します。パネルは上にフローティングしているため、モデル空間の幅は縮小されません。

タブ
画面の両側にタブ形式でパネルを整理します。

34.9.11.5　一般

次のインターフェースコンポーネントのオンとオフを切り替えることができます。

- **ステータスバーを表示**
- **メニューバーを表示**

34.9.11.6　カスタマイズ

カスタマイズダイアログボックスが表示され、より詳細な方法でインターフェースを独自の設定にカスタマイズできます。

34.10 J

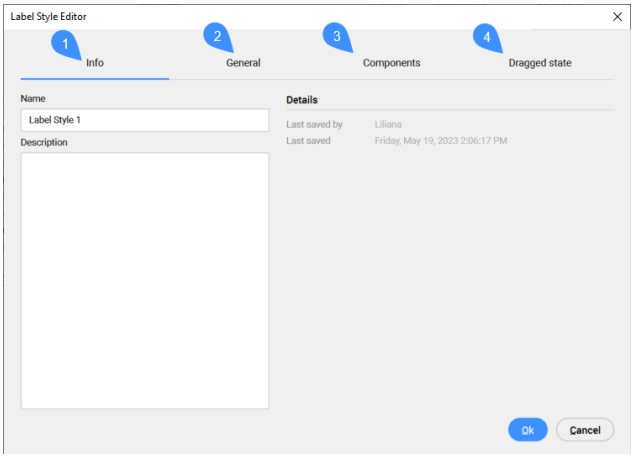
34.11 K

34.12 L

34.12.1 ラベルスタイル編集

土木エクスプローラパネルから開きます。

ラベルスタイル編集ダイアログボックスでは、スタイルにラベルを付けることができます。



1 情報タブ

2 一般タブ

3 コンポーネントタブ

4 ドラッグ状態

34.12.1.1 情報タブ

ラベルスタイルに関する情報を表示します。

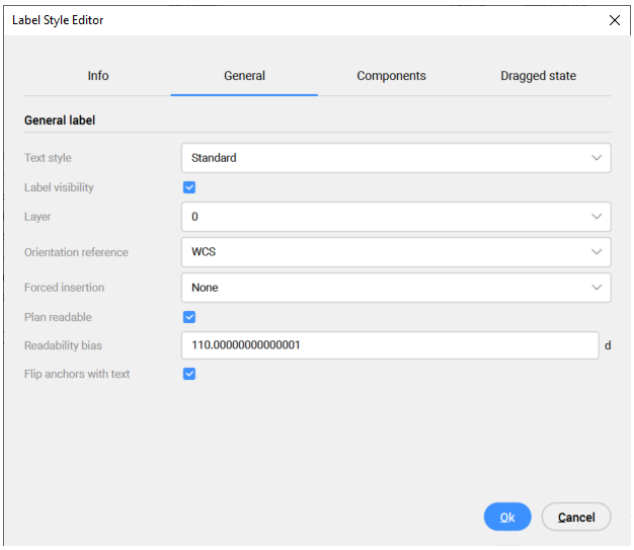
名前
ラベルスタイル名を設定して表示します。

説明
ラベルスタイルの説明を設定および表示します。

詳細
最終保存者と**最終更新日**を表示します。

34.12.1.2 一般タブ

一般的なラベル設定を定義します。



文字スタイル
ドロップダウンリストから文字スタイルを設定します。

注：図面エクスプローラを使用して、文字スタイルを管理します。

ラベルの可視性
図面内のラベルの表示/非表示を切り替えます。

画層
ドロップダウンリストからラベルの画層を設定します。

注：画層を管理するには、**画層**パネルを使用します。

方向参照
ドロップダウンリストから、関連付けられたオブジェクト、画面のビュー方向、またはワールド座標系(WCS)を基準にしてラベルの方向参照を設定します。

強制挿入
オブジェクトに対するラベルの位置を以下のように指定します。

- **無し**：オブジェクトに対するラベルの位置を維持します。
- **上**：ラベルの位置をオブジェクトの上に変更します。
- **下**：ラベルの位置をオブジェクトの下に変更します。

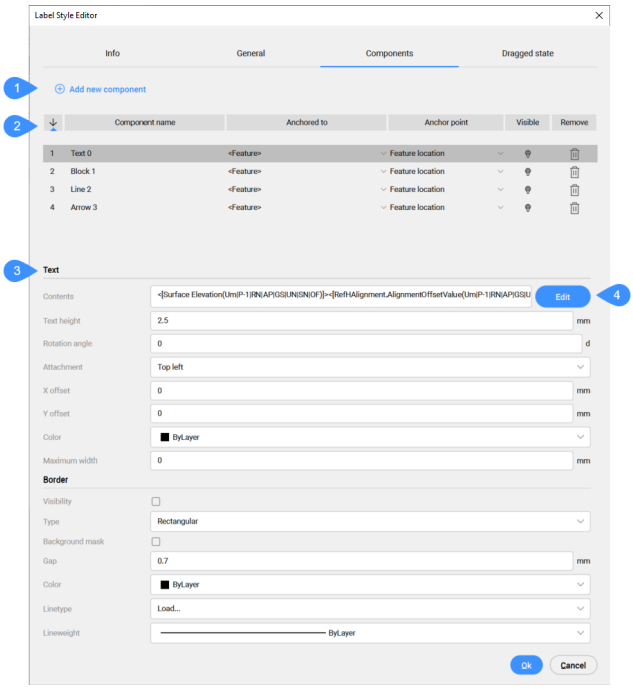
読み取り可能なプラン
可読性反転パラメータを切り替えます。

可読性偏向
ポイントラベルテキストを読み取り可能な角度に回転する角度を設定します。

テキスト付きアンカーを反転
ラベルのテキスト付きアンカーを反転します。

34.12.1.3　コンポーネントタブ

ラベルスタイルコンポーネントを追加および管理します。



1 新しいコンポーネントを追加

2 コンポーネントの一覧

3 コンポーネントのプロパティ

4 編集

新しいコンポーネントを追加
新しい**文字**、**ブロック**、**線分**、**矢印**などのコンポーネントを追加して、ラベルスタイルを定義します。

コンポーネントの一覧
指定したラベルスタイルコンポーネントを一覧表示します。

表示順序
表示順序でコンポーネントを表示します。表示順序は、コンポーネントの新しい位置番号を入力することで変更できます。

コンポーネント名
コンポーネント名を表示します。一覧はアルファベット順に並べ替えることができます。

アンカー固定先
ラベルスタイルコンポーネント間の依存関係を定義します。

アンカーポイント
依存コンポーネントのアンカーポイントをドロップダウンリストから選択して定義します。

可視
コンポーネントの表示/非表示を切り替えます。

削除
コンポーネントを削除します。

コンポーネントのプロパティ
編集可能なコンポーネントのプロパティを表示します。

データ/文字コンポーネントのプロパティ

文字

内容
ラベルスタイルの文字内容を表示します。ラベルに表示される属性を追加・編集・削除するには、編集を選択して**文字コンテンツ編集**ダイアログダイアログボックスを開きます。

注：図面内の選択した土木ポイントにユーザー定義による属性を表示する方法については、**土木ポイントのユーザー定義属性の作成**の記事を参照してください。また、別のオブジェクト(サーフェス、平面線形、縦断線形)のプロパティにも表示されます。

文字高さ
ラベルに表示されるデータ/文字コンポーネントの高さを設定します。

回転角度
ラベルに表示されるデータ/文字コンポーネントの回転角度を設定します。既定の回転角度は0です。

アタッチ
ポイントに対するデータ/文字コンポーネントの相対的位置を設定します。アタッチメントは、左上、中上、右上、左中、中中、右中、左下、中下、右下から選択して設定できます。

注：例えば、「左中」に設定すると、文字の左中央にシンボルが表示されるように文字が配置されます。

Xオフセット
シンボルからデータ/文字コンポーネントのX方向オフセットを指定します。

Yオフセット
シンボルからデータ/文字コンポーネントのY方向オフセットを指定します。

色
データ/文字コンポーネントの色を設定します。

最大幅
データ/文字コンポーネントの最大幅を定義します。最大幅によって境界の幅が定義され (間隔が0に設定されている場合)、背景マスクを適用すると表示されます。

境界

可視性
ラベルの境界の表示/非表示を切り替えます。

種類
ラベルの境界形状を定義します。境界タイプは、長方形、角丸長方形、円形から選択して設定できます。

背景マスク
白い背景を追加します。

ギャップ公差
文字と境界線の間隔を指定します。

色
境界線の色を定義します。

線種
境界線の線種を定義します。

線の太さ
境界線の太さを定義します。

ブロックコンポーネントのプロパティ

ブロック

ブロック名
図面で使用可能なブロックのリストからブロックを選択するオプションです。

ブロックの高さ
図面内のブロックコンポーネントの高さを設定します。

回転
ラベルに表示されるブロックコンポーネントの回転角度を設定します。既定の回転角度は0です。

アタッチ
ラベルにブロックコンポーネントをアタッチする位置を設定します。アタッチメントは、左上、中上、右上、左中、中中、右中、左下、中下、右下、挿入基点から選択して設定できます。

注：例えば、「左中」に設定すると、文字の左中央にシンボルが表示されるように文字が配置されます。

Xオフセット
挿入基点からブロックコンポーネントの X 方向オフセットを指定します。

Yオフセット
挿入基点からブロックコンポーネントの Y 方向オフセットを指定します。

色
ブロックコンポーネントの色を定義します。

線種
ブロックの線種を定義します。

線の太さ
ブロックの線の太さを定義します。

線分コンポーネントのプロパティ

線分

端点アンカーを使用
線分とアンカーポイント間の接続と非接続を切り替えます。

端点アンカーコンポーネント
終点アンカーを使用をオンにすると、終点アンカーコンポーネントを選択できます。
このアンカーコンポーネントに対して相対的に線分が配置されます。端点アンカーコンポーネントは、<フィーチャー>またはデータに設定できます。端点アンカーコンポーネントを<フィーチャー>に設定した場合、線分はラベルコンポーネントのアタッチポイントにアタッチされます。データに設定すると、ラベルコンポーネント上のいずれかの位置にアタッチされます(端点アンカーポイントで定義)。

端点アンカーポイント
端点アンカーポイントは、端点アンカーコンポーネントをデータに設定した場合にのみ定義できます。端点アンカーポイントは、左上、中上、右上、左中、中中、右中、左下、中下、右下から選択して設定できます。

長さタイプ
線分の長さタイプは、固定長(固定長で定義)またはパーセンテージ(パーセント長さで定義)に設定できます。

固定長
長さタイプを固定長に設定すると、線分の全長を定義できます。

パーセント長さ
長さタイプをパーセント長さに設定すると、線分の全長を定義できます。

回転角度
端点アンカーを使用をオフにすると、線分コンポーネントの回転角度を設定できます。既定の回転角度は0です。

Xオフセットの始点
線分の始点のX方向オフセットを指定します。

Yオフセットの始点
線分の始点のY方向オフセットを指定します。

Xオフセットの終点
端点アンカーを使用をオンにすると、線分の終点オフセットを定義できます。Xオフセットの終点は、線分の終点のX方向オフセットを指定します。

Yオフセットの終点
端点アンカーを使用をオンにすると、線分の終点オフセットを定義できます。Yオフセットの終点は、線分の終点のY方向オフセットを指定します。

色
線分コンポーネントの色を定義します。

線種
線分の線種を定義します。

線の太さ
線分の太さを定義します。

矢印コンポーネントのプロパティ

矢印

矢印スタイル
オプション一覧から矢印スタイルを指定します。

寸法矢印のサイズ
矢印の先端のサイズを定義します。

回転
ラベルに表示される矢印コンポーネントの回転角度を設定します。既定の回転角度は0です。

固定長
矢印の固定長を設定するオプションを切り替えます。

長さ
矢印の長さを定義します。

Xオフセット
シンボルから矢印中点のX方向オフセットを指定します。

Yオフセット
シンボルから矢印コンポーネントのY方向オフセットを指定します。

色
矢印コンポーネントの色を定義します。

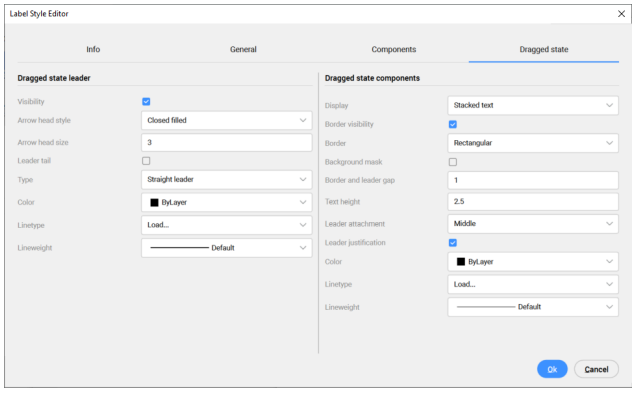
線種
矢印の線種を定義します。

線の太さ
矢印の線の太さを定義します。

編集
文字コンテンツ編集ダイアログボックスを開きます。

34.12.1.4　ドラッグ状態タブ

ドラッグ状態の引出線スタイルとコンポーネントスタイルを定義します。



ドラッグ状態の引出線
編集可能なドラッグ状態の引出線スタイルのプロパティを表示します。

可視性
図面内の引出線の表示/非表示を切り替えます。

矢印スタイル
矢印のスタイルをドロップダウンリストから選択して定義します。

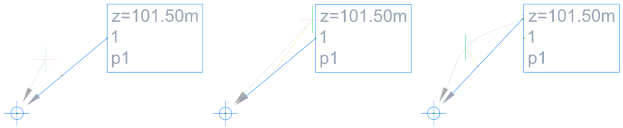
寸法矢印のサイズ
矢印の先端のサイズを定義します。

引出線尾部
図面内の引出線尾部のオン/オフを切り替えます。

注：引出線の尾部をオンにすると、矢印の先端と同じサイズの尾部が表示されます。

種類
引出線タイプを直線またはスプラインに設定します。スプライン曲線を編集するには、「+」記号を引出線の中央から目的の位置までドラッグします。

注：引出線の「+」セクションを選択してドラッグすると曲線が作成され、「-」を選択するとスプライン曲線のセクションが削除されます。



色
ドラッグ状態の引出線の色を指定します。

線種
ドラッグ状態の引出線の線種を定義します。

線の太さ
ドラッグ状態の引出線の太さを定義します。

ドラッグ状態のコンポーネント
編集可能なドラッグ状態のコンポーネントのプロパティスタイルを表示します。

表示
ドラッグ状態のコンポーネントを以下のように表示します。

- **文字装飾**：**ドラッグ状態**タブでスタイルを定義します。
- **構成通り**：**文字コンテンツ編集**ダイアログボックスの**コンポーネント**タブで定義されているものと同じスタイルです。

注：ドラッグ状態のラベルスタイルを異なるスタイルにする場合は、表示オプション文字装飾を選択して、残りのプロパティを定義します。

境界の表示/非表示
ドラッグ状態の境界の表示/非表示を切り替えます。

境界
ドラッグ状態の境界形状を長方形、角丸長方形、または円形として定義します。

背景マスク
ドラッグ状態のコンポーネントの背景マスクの表示を切り替えます。

境界と引出線のギャップ
ドラッグ状態の境界と引出線の間隔を定義します。

文字高さ
ドラッグ状態の文字の高さを定義します。

引出線のアタッチメント
引出線のアタッチポイントの位置をドロップダウンリストから選択して指定します。

引出線位置合わせ
引出線の位置合わせを切り替えます。引出線の動きに合わせて文字コンポーネントの位置合わせが変化します。

色
ドラッグ状態のコンポーネントの色を指定します。

線種
ドラッグ状態のコンポーネント境界線の線種を定義します。

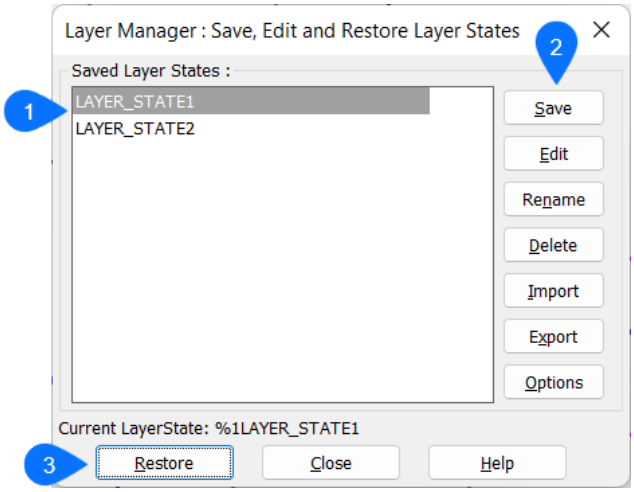
線の太さ
ドラッグ状態のコンポーネント境界線の太さを定義します。

注：行ったすべての変更は図面に動的に表示されます。

34.12.2　画層マネージャー：画層状態を保存、編集、復元

LMANコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

画層マネージャ：画層状態を保存、編集、復元ダイアログボックスを使い、画層状態の保存、編集、復元を行えます。



1　保存された画層状態

2　画層状態オプション

3　復元

34.12.2.1　保存された画層状態

保存されている画層状態の一覧を表示します。

34.12.2.2　画層状態オプション

保存
画層状態の新しい名前ダイアログボックスが開き、カレントの画層状態を保存できます。

編集
図面エクスプローラダイアログボックスを開き、画層状態を編集できます。**画層状態の新しい名前**ダイアログボックスが開き、変更を保存できます。

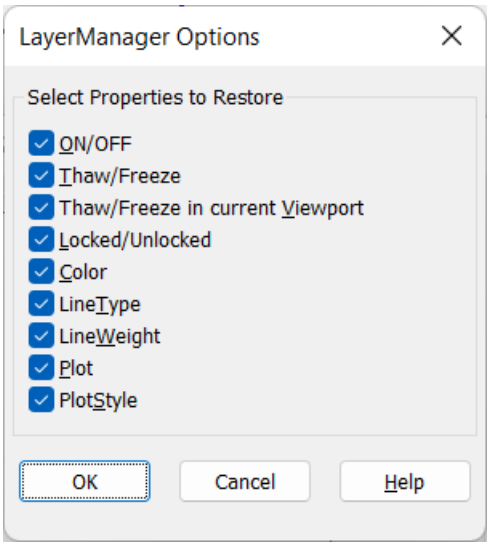
名前変更
画層状態の名前を変更ダイアログボックスが開き、保存した画層状態の名前を変更できます。

削除
選択した画層状態を削除します。確認のための**警告**ダイアログボックスが開きます。

読み込み
読み込みファイル名ダイアログボックスが開き、開く.layファイルを選択できます。

書き出し
書き出しファイル名ダイアログボックスが開き、選択した画層状態を.layファイル形式で書き出すことができます。

オプション
画層マネージャオプションダイアログボックスが開き、**復元**操作に使用するオプションを設定できます。



注：既定では、すべてのオプションがオンになっています。

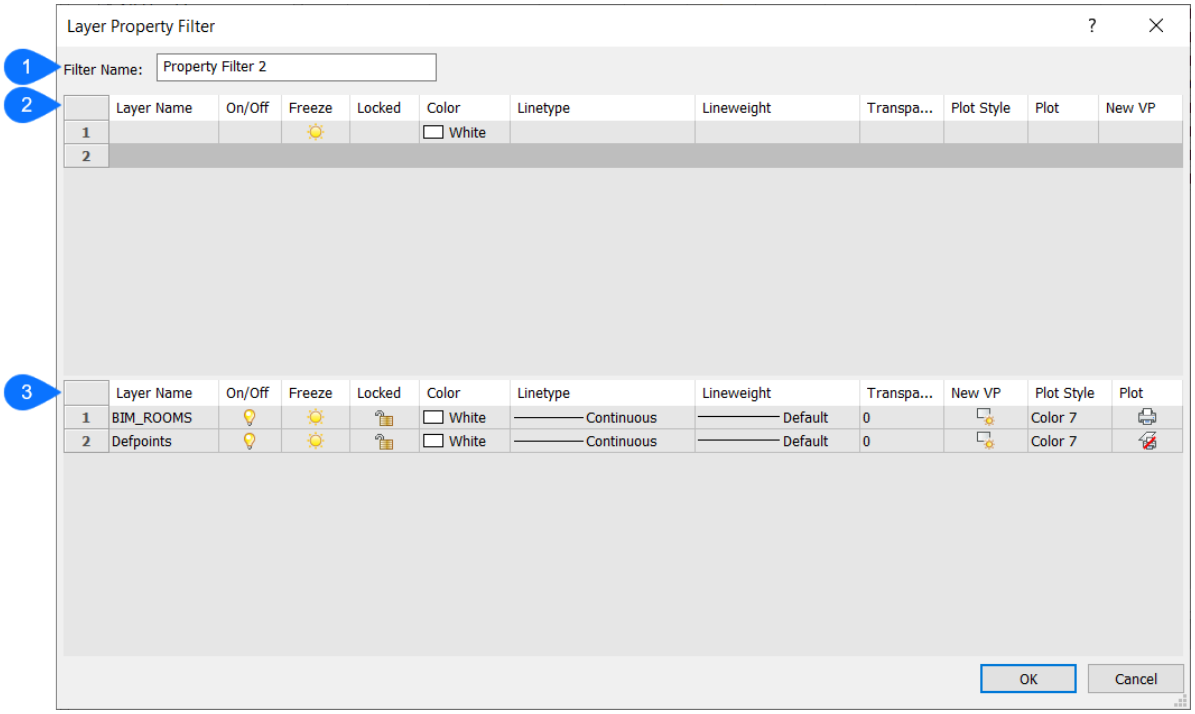
34.12.2.3 復元

選択した画層状態の画層設定を復元します。

34.12.3 画層プロパティフィルター

図面エクスプローラダイアログボックス(EXPLAYERSコマンド)から開きます。

画層プロパティフィルターダイアログボックスでは、画層のプロパティに基づいて、新しい画層フィルターの定義を作成することができます。



1 フィルター名

2 フィルタープロパティ

3 フィルター付き画層

34.12.3.1 フィルター名

フィルターの名前を設定します。

34.12.3.2 フィルタープロパティ

画層をフィルタリングするためのプロパティを設定します。表示されたプロパティをすべて満たす画層が画層フィルターに追加されます。

画層名
画層の名前に基づいてフィルタリングします。ワイルドカードを使って複数の画層を指定することができます。例えば、Doors-*でDoors-ExteriorとDoors-Interiorを指定します。

- # - 任意の数字にマッチします。例えば、##は12と34にはマッチしますが、5と123(ASCIIコード：35)にはマッチしません。
- @ - 数字や記号ではなく、任意のアルファベット文字にマッチします。@@@@@ は、すべての5文字の画層名とマッチします。(ASCII code: 64)
- .- 英数字以外の文字、つまり記号にマッチしますが、文字や数字にはマッチしません。例えば、.*は、すべての画層に非英数字から始まる名前と一致するものを見つけます：_SITEPLAN および +1_LEVEL(ASCII code: 46)。
- * - アルファベット、数字、文字を含むあらゆる文字列にマッチします。例えば、A*はA(ASCIIコード：42)で始まるすべての画層名にマッチします。
- ? - 任意の1文字にマッチします。例えば、?AB*は、L**AB**ORATORYとC**AB**ARETにはマッチしますが、ST**AB**LEにはマッチしません。これは、STABLEが2文字で始まり、?は1文字(ASCIIコード：63)を指定しているためです。
- ~ - 否定的なマッチで、パターン以外の任意の文字列が返されます。例えば、~*A*はA(ASCIIコード：42)で始まるすべての画層名にマッチします。
- [ ]- 角括弧で囲まれた文字のうち、いずれか1つにマッチします。例えば、LA[YB]は、LA**Y**とLA**B**(ASCIIコード：91 93)にマッチします。
- [~]- 角括弧で囲まれていない任意の文字を指定します。例えば， LA[~YB]は， L**AD**にはマッチしますが、L**AY**やL**AB**にはマッチしません。(ASCIIコード：91 126 93)となります。
- [-]- 画層名の1文字の範囲を指定します。たとえば、LAY-[A-E]は、LAY-A... など、LAY-と**A**から**E**の任意の組み合わせに一致します。しかしLAY-F(ASCII コード:91 45 93)にはマッチしません。
- ' - 次の文字列に正確にマッチして、ワイルドカード文字を含む画層名が逆引用符で前に置かれている場合に検索します。画層名に「?」や「~」などの文字が含まれている場合は、「`」で検索します。例えば、`〜LAY*は、〜LAY-1、〜LAYER-1、〜LAY-B(ASCIIコード：96)にマッチします。

注：* ASCIIコード： 文字がキーボードで利用可能でないならば、押すまたは、Altを持って、テンキーパッドの上でASCIIコードをタイプしてください。

プロパティ
フリーズやカラーなどのプロパティに応じて、どの画層を含めるかを指定します。

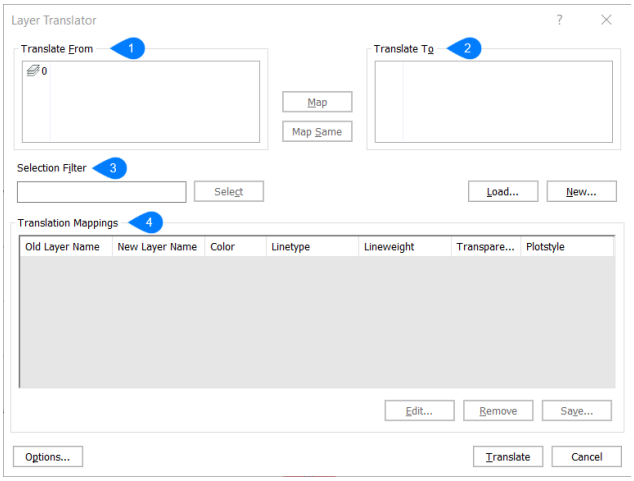
34.12.3.3 フィルター付き画層

フィルターの条件を満たす画層を表示します。

34.12.4 画層標準を適用

LAYTRANSコマンドを実行して開きます。

画層標準を適用ダイアログボックスでは、他の図面の画層名やプロパティをカレント図面に適用することができます。



1 変換元

2 変換先

3 選択フィルター

4 変換マッピング

34.12.4.1 変換元

カレント図面にあるすべての画層名を一覧表示します。

注：既存のDWG、DWS、またはDWTファイルから画層情報をロードして、マッピングする画層を指定できます。

注：また、新しい画層を作成することもできます。既存の画層とマッピングする画層名とプロパティを入力します。

34.12.4.2 変換先

選んだ画層をどの画層にマッピングするかを指定します。

注：カレント図面(左側のリスト)から1つまたは複数の画層を選択して、右側のリストの画層にマッピングすることができます。同じマップを選択すると、右側のリスト内の対応する名前を持つカレント図面の画層名に、左側のリストからプロパティが継承されます。

34.12.4.3 変換マッピング

どの画層とそのプロパティが他の画層に変換されているかの概要を表示します。

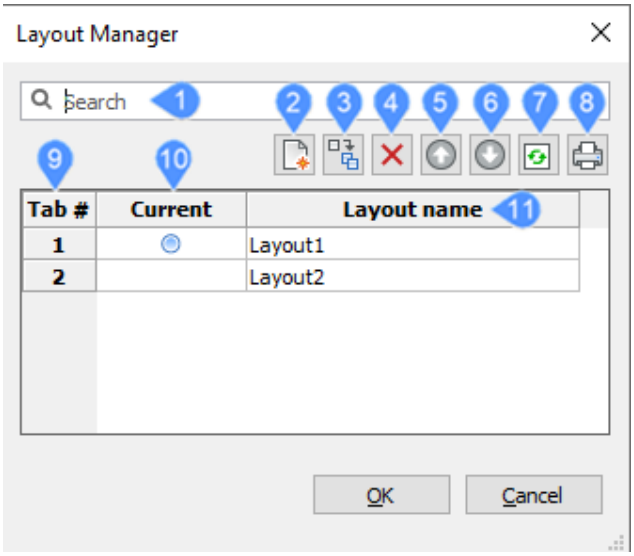
34.12.4.4 オプション

オプションダイアログには、画層マッピングに関する他のコントロールがあります。

34.12.5　レイアウト管理

LAYOUTMANAGERコマンドを実行して開きます。

レイアウト管理ダイアログボックスでは、レイアウトの作成、コピー、削除ができます。



1　検索

2　新しいレイアウトを追加

3　選択したレイアウトをコピー

4　削除

5　上へ移動

6　下へ移動

7　選択をクリア

8　パブリッシュ

9　タブ

10　カレント

11　レイアウト名

34.12.5.1　検索

レイアウト名を検索し、検索されたレイアウトのみを表示します。これは、図面に多くのレイアウトが含まれている場合に便利です。

34.12.5.2　新しいレイアウトを追加

新しいレイアウトを作成します。

34.12.5.3　選択したレイアウトをコピー

選択したレイアウトのコピーを作成し、リストの最後に追加します。

34.12.5.4 削除

選択したレイアウトを削除します。

34.12.5.5 上へ移動

リストの上部に、選択したレイアウトを移動します。

34.12.5.6 下へ移動

リストの下部に、選択したレイアウトを移動します。

34.12.5.7 選択をクリア

レイアウト名からハイライト表示を削除して、選択を解除します。

34.12.5.8 パブリッシュ

パブリッシュダイアログボックスが開きます。

34.12.5.9 タブ

レイアウトの数を表示します。

34.12.5.10 カレント

カレントの列をクリックすると、レイアウトをカレントにします。

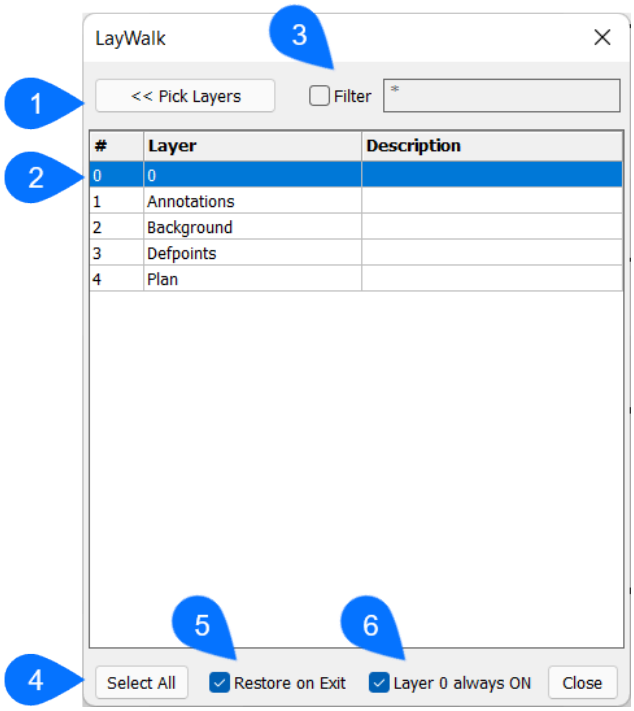
34.12.5.11 レイアウト名

レイアウトの名前を表示します。

34.12.6 画層閲覧

LAYWALKコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

画層閲覧ダイアログボックスが開き、図形を表示する画層を選択できます。



1 画層を選択

2 画層リスト

3 フィルター

4 すべて選択

5 終了時に復元

6 0画層は常にオン

34.12.6.1 画層を選択

画層閲覧ダイアログボックスを一時的に閉じ、図面内の図形とその画層を選択できるようにします。

34.12.6.2 画層リスト

使用可能な画層の一覧を表示します。図形を表示したい画層を選択します。

注：選択されていない画層はフリーズされます。

34.12.6.3 フィルター

アクティブなフィルターのオンとオフを切り替えます。

- チェックボックスをオンにすると、フィルターに一致する画層のみが表示されます。
- チェックボックスをオフにすると、画層の完全なリストが表示されます。

34.12.6.4 すべて選択

このボタンをクリックすると、すべての画層が選択されて表示されます。

34.12.6.5 終了時に復元

チェックボックスをオンにすると、ダイアログボックスを閉じるときにすべての画層が以前の状態に復元されます。

チェックボックスをオフにすると、行った変更が保存されます。

34.12.6.6 0画層は常にオン

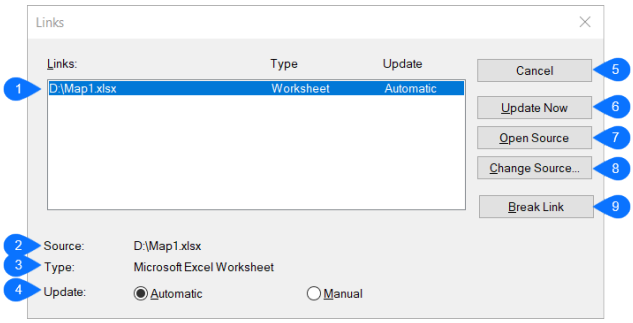
チェックボックスをオンにすると、0画層は常に表示されます。

チェックボックスをオフにすると、選択した画層のみが表示されます。

34.12.7 リンク

OLELINKSコマンドを実行して開きます。

リンクダイアログボックスでは、図面に埋め込まれたりリンクされたりしているOLE図形のリンクを編集することができます。



1 リンク

2 リンク元

3 種類

4 更新

5 キャンセル

6 今すぐ更新

7 リンク元を開く

8 リンク元の変更

9 リンクの切断

34.12.7.1 リンク

ファイルに読み込まれたすべてのリンクのリストを提供します。

34.12.7.2 リンク元

リンク元ファイル名とパスを報告します。

34.12.7.3 種類

ファイルタイプを報告します。

34.12.7.4 更新

リンク元の変更で、図面内のOLE形状がどのように更新されるかについて決定します。

34.12.7.5 キャンセル

貼り付け操作をキャンセルします。

34.12.7.6 今すぐ更新

リンクしたOLE形状を更新します。

34.12.7.7 リンク元を開く

ソースアプリケーションでソースファイルを開きます。ソースファイルを編集することができます。

34.12.7.8 リンク元の変更

リンクしたOLE形状のリンク元を変更します。

34.12.7.9 リンクの切断

リンク元とのリンクを解除します。

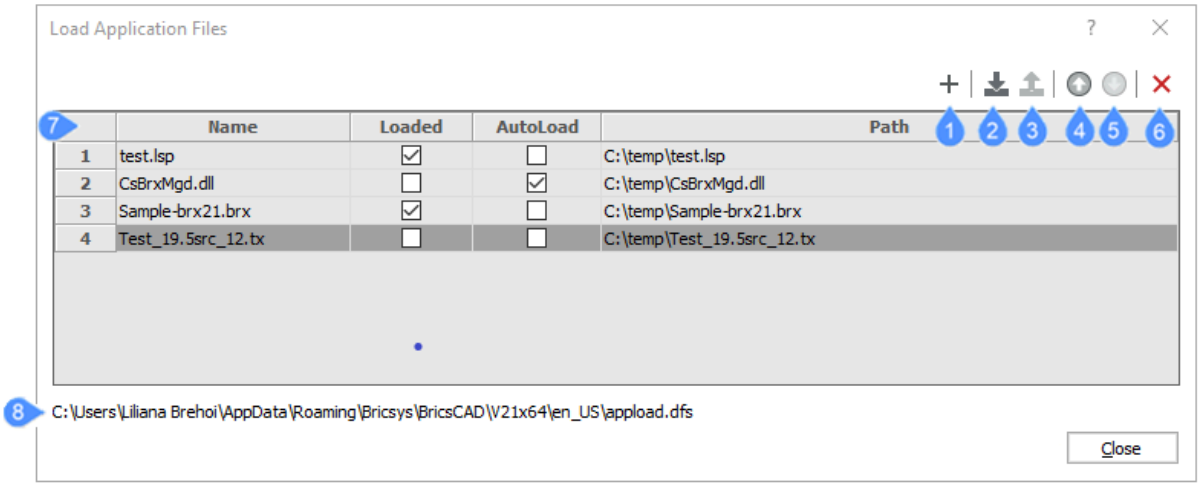
注：リンクを切断するとリンク元ファイルを変更しても、図面内のOLE図形は変わりません。

34.12.8 アプリケーションファイルをロード

APPLOADコマンドを実行して開きます。

アプリケーションファイルをロードダイアログボックスでは、BricsCAD内で実行する次のアプリケーションタイプをロードおよびロード解除できます。

- LSP - BricsCADやその他のCADプログラムからのLISPアプリケーション。
- DES - DES LISPアプリケーション。
- BRX - BricsCADランタイム拡張アプリケーション。
- TX - Open Design AllianceのTeigha拡張アプリケーション。
- ARX - オートデスク®が提供するAutoCAD®ランタイム拡張アプリケーション。
- DBX - DBXアプリケーション。
- DRX - 図面ランタイム拡張アプリケーション。
- DVB - Visual Basic アプリケーション。
- MNL - メニューファイルのLISP表現。



1 アプリケーションファイルを追加

2 選択したアプリケーションをロード

3 選択したアプリケーションをロード解除

4 アプリケーションを上へ移動

5 アプリケーションを下へ移動

6 選択したアプリケーションを削除

7 アプリケーションファイル一覧

8 アプリケーションファイルパス

34.12.8.1 アプリケーションファイルを追加

アプリケーションファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

34.12.8.2 選択したアプリケーションをロード

選択したアプリケーションをBricsCADに読み込みます。BricsCADと互換性のあるアプリケーションのみが読み込まれます。

34.12.8.3 選択したアプリケーションをロード解除

BricsCADからアプリケーションをロード解除します。現在のBricsCADセッションでロード解除するためには、LISPアプリケーションを削除する必要があります。

34.12.8.4 アプリケーションを上へ移動

一覧で選択したアプリケーションを上に移動します。

34.12.8.5 アプリケーションを下へ移動

一覧で選択したアプリケーションを下に移動します。

34.12.8.6 選択したアプリケーションを削除

一覧から選択したアプリケーションを削除します。

34.12.8.7 アプリケーションファイル一覧

ロード、ロード解除、上下移動、削除が可能なアプリケーションファイルの一覧を表示します。

- **名前**：リストの中からアプリケーションファイルの名前と拡張子を指定します。
- **ロード**：現在のBricsCADセッションでファイルをロードするかロード解除するかを指定します。
- **自動ロード**：次のBricsCADセッションでファイルを自動的に読み込むかどうかを指定します。
- **パス**：追加されたファイルの保存先フォルダーを表示します。

34.12.8.8 アプリケーションファイルパス

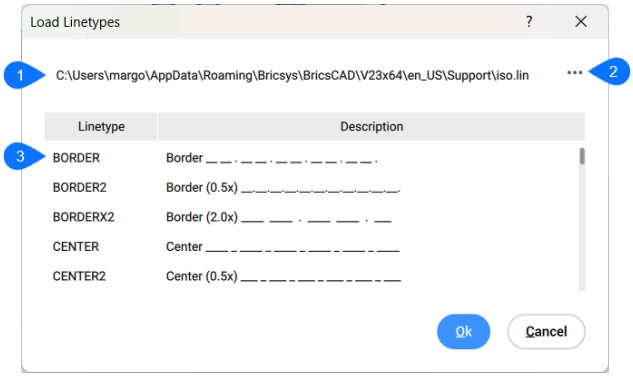
追加したすべてのアプリケーションを含むappload.dfsファイルは、**アプリケーションファイルの選択**ダイアログボックスを使って、格納フォルダーを表示することができます。このファイルはメモ帳で開くことができます。

appload.dfsに記載されているアプリケーションが起動時に読み込まれます。

34.12.9 線種をロード

図面エクスプローラダイアログボックス(LINETYPEコマンド)から開きます。

線種をロードダイアログボックスでは、追加の線種定義をロードできます。



1 ファイルパス

2 ファイルを参照

3 一覧

34.12.9.1 ファイルパス

選択された *.lin(linetype)ファイルのパスを表示します。

34.12.9.2 ファイルを参照

線種ファイルを選択ダイアログボックスが表示されます。

34.12.9.3 一覧

ロードできる線種を表示します。線種の2つの特性が表示されます。

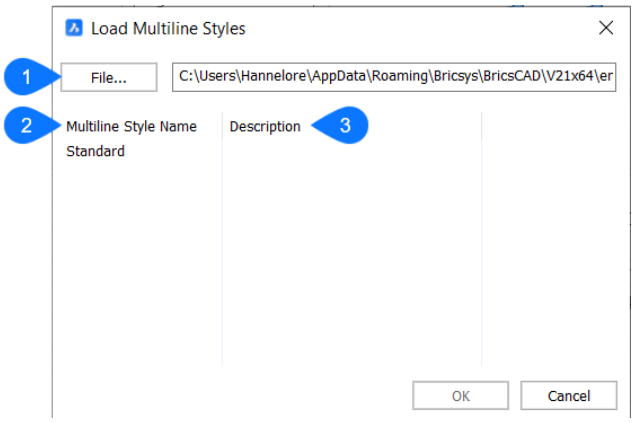
- **線種**
  使用可能な線種の名称を表示します。

- **説明**
  線種を視覚的に表示します。

34.12.10 マルチラインスタイルをロード

図面エクスプローラダイアログボックス(MLSTYLEコマンド)から開きます。

マルチラインスタイルをロードダイアログボックスでは、マルチライン(*mln)ファイルからマルチラインスタイルを読み込むことができます。



1 ファイル

2 マルチラインスタイル名

3 説明

34.12.10.1 ファイル

マルチラインスタイルファイルを選択ダイアログボックスが表示され、開きたいマルチラインスタイルファイルを選択できます。

34.12.10.2 マルチラインスタイル名

図面上で利用可能なマルチラインスタイルファイルの名前を表示します。このリストからマルチラインのスタイルファイルを選択することができます。

34.12.10.3 説明

マルチラインスタイルファイルがある場合は、その説明を表示します。

34.13 M

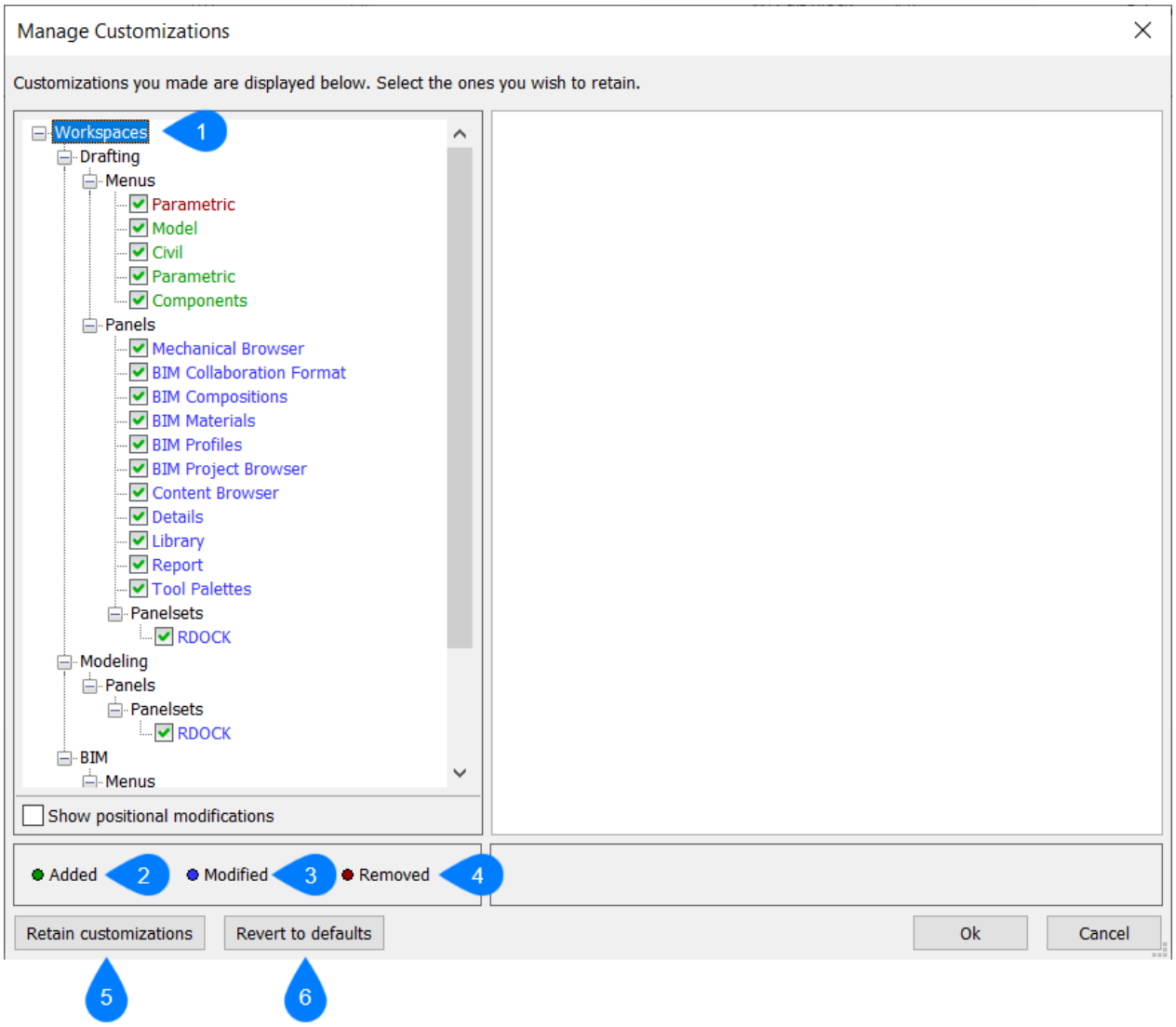
34.13.1 カスタマイズを管理

Shape Lite Pro Mechanical BIM

カスタマイズダイアログボックスを開きます。

カスタマイズを管理ダイアログボックスでは、ユーザーインターフェースに加えられた変更を確認したり元に戻したりするための、すべてのカスタマイズのリストが表示されます。

ダイアログボックスを開くには、まずCUSTOMIZEコマンドを実行します。これにより、**カスタマイズ**ダイアログが開きます。**カスタマイズを管理する...**をクリックして、**カスタマイズを管理**ダイアログボックスを開きます。



1 カスタマイズ

2 追加されました

3 変更されました

4 削除されました

5 カスタマイズを保持

6 デフォルトへ戻す

34.13.1.1 カスタマイズ

追加、変更、削除されたすべてのカスタマイズを一覧表示します。

注：カスタマイズにチェックを入れると、変更内容をCUIに保持することができます。

34.13.1.2 追加されました

作成したアイテムは緑色で表示されます。

34.13.1.3　変更されました

変更したアイテムは青色で表示されます。

34.13.1.4　削除されました

削除したアイテムは赤色で表示されます。

34.13.1.5　カスタマイズを保持

ローカルのデフォルトCUIをそのまま維持します。

34.13.1.6　デフォルトへ戻す

ローカルのCUIを、BricsCADでインストールしたデフォルトCUIに戻します。例えば、

C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥UserDataCache¥Support¥ja_JP¥classic-ribbon.cui

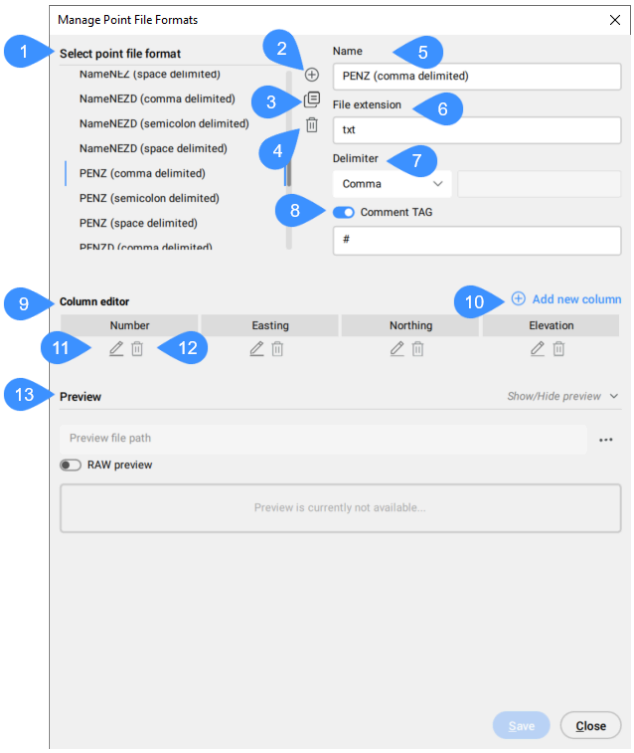
注：BricsCADには、定義済みのCUIファイルがデフォルトで3つ用意されています(classic-ribbon.cui、modern.cui、classic-toolbars.cui)。

34.13.2　ポイントファイル形式を管理

以下より開きます：

- **土木ポイント書き出し**ダイアログボックス
- **ポイントファイルからポイントを読み込み**ダイアログボックス

ポイントファイル形式を管理ダイアログボックスでは、新しいポイントファイル形式を追加したり、既存のポイントファイル形式を編集することができます。



1　ポイントファイル形式を選択

2 ポイントファイル形式を追加
3 ポイントファイル形式を複製
4 ポイントファイル形式を削除
5 名前
6 ファイル拡張子
7 区切り文字
8 コメントタグ
9 列エディター
10 新しい列を追加
11 列を編集
12 列を削除
13 ファイルパスをプレビュー
14 プレビュー

34.13.2.1 ポイントファイル形式を選択

一覧からポイントファイル形式を選択します。

34.13.2.2 ポイントファイル形式を追加

名前、ファイル拡張子、列区切り文字、コメントタグ、属性、列ごとの属性の配置(ポイントファイル内のどのポイント属性をどの列に含めるか)を指定して、新しいポイントファイル形式を定義します。

34.13.2.3 ポイントファイル形式を複製

選択したポイントファイル形式のコピーを作成します。

34.13.2.4 ポイントファイル形式を削除

ポイントファイル形式をリストから削除します。

34.13.2.5 名前

ポイントファイル形式名を指定できます。フィールドをクリックして編集します。

注：新しいポイントファイル形式の名前が入力されていない場合や、既存の名前がある場合は、警告メッセージが表示されます。

34.13.2.6 ファイル拡張子

ファイル拡張子を指定できます。フィールドをクリックして編集します。

34.13.2.7 区切り文字

ポイントファイルの列区切り文字をドロップダウンリストから指定できます。

34.13.2.8 コメントタグ

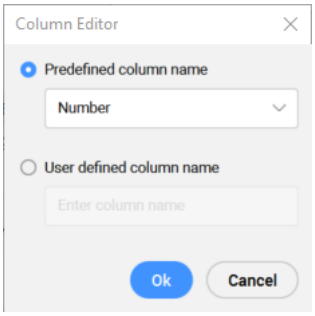
コメントタグを有効または無効にします。下のボックスにコメントタグを設定します。

34.13.2.9 列エディター

ポイントファイルに書き込まれている、ポイント属性の列配置を表示します。列の名前、順序、内容は、入力ポイントファイルと一致するようにユーザーが定義します。最も一般的なポイントファイル形式には、定義済みのものもあります。

34.13.2.10 新しい列を追加

列エディターダイアログボックスが開き、新しい列を追加できます。



定義済みの列名
定義済みのドロップダウンリストから列名を選択します。<skip>オプションを選択すると、ポイントファイル内の特定の列が無視されます。

ユーザー定義の列名
ユーザー定義の列名を指定できます。

34.13.2.11 列を編集

列エディターダイアログボックスを開き、列名を編集します。

34.13.2.12 列を削除

ファイル形式から列を削除します。

34.13.2.13 ファイルパスをプレビュー

プレビューを表示するポイントファイルを選択できます。

34.13.2.14 プレビュー

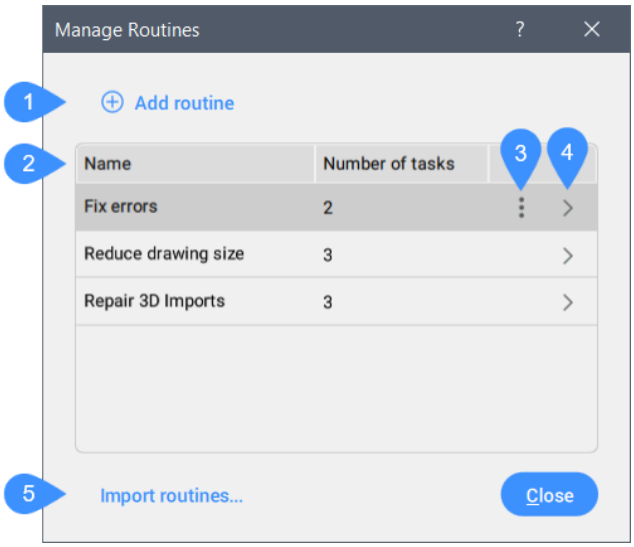
ダイアログで指定したパラメータに基づき、選択したポイントファイルのプレビューを有効にします。

注：保存ボタンをクリックして、変更内容を保存します。

34.13.3 ルーチンの管理

図面診断コマンドのコンテキストパネルから開きます。

ルーチンの管理ダイアログでは、ルーチンを管理することができます。



1 ルーチンの追加

2 ルーチンテーブル

3 ドロップダウンメニュー

4 ルーチンの編集

5 ルーチンを読み込み...

34.13.3.1 ルーチンの追加

新しい空のルーチンをデフォルト名(新しいルーチン_1)として追加します。名前は後で変更できます。

34.13.3.2 ルーチンテーブル

保存されているすべてのルーチンと、それぞれのタスクの数を一覧表示します。

テーブルヘッダーを右クリックするとコンテキストメニューが表示され、列を有効または無効にしたり、すべての列を表示したり、列位置を復元したりすることができます。

34.13.3.3 ドロップダウンメニュー

3つのドットのボタン(⋮)を押して、ドロップダウンメニューを開きます。

編集
ルーチンを編集ダイアログが開き、ルーチンを編集することができます。関連記事**ルーチンを編集ダイアログボックス**を参照してください。

名前変更
ルーチンの名前を変更します。

複製
ルーチンの複製を作成します。

書き出し
ルーチンを書き出しダイアログが開き、ルーチンをRTNファイルに書き出すことができます。

削除
ルーチンをリストから削除します。

34.13.3.4 ルーチンの編集

ルーチンを編集ダイアログが開き、ルーチンを編集することができます。関連記事**ルーチンを編集ダイアログボックス**を参照してください。

34.13.3.5 ルーチンを読み込み...

開くダイアログが開いてRTNファイルを読み込みます。

注：複数のルーチンを一度に複製、削除、書き出し、読み込みできます。

34.13.4 ルーチンの管理 (BMASSEMBLYINSPECT)

アセンブリ検査コマンドのコンテキストパネルから開きます。

ルーチンの管理ダイアログボックスでは、BMASSEMBLYINSPECTコマンドのルーチンを管理できます。

1 ルーチンの追加

2 ルーチンリスト

3 ドロップダウンメニュー

4 ルーチンの編集

5 ルーチンを読み込み...

34.13.4.1 ルーチンの追加

ルーチンエディターダイアログボックスが開き、新しいルーチンを設定できます。

BMASSEMBLYINSPECTコマンドの場合、デフォルトのルーチン名は Inspection_Routine です。

すべてのファスナー設定と各アセンブリ基準は、読み込み/書き出し可能なルーチンJSONファイルに保存されるので、ルーチンファイルをユーザ間で共有できます。

34.13.4.2 ルーチンリスト

保存されているすべてのルーチンと、それぞれに定義されている基準が一覧表示されます。

右クリックするとコンテキストメニューが表示され、列の有効化または無効化、すべての列の表示、列位置の復元を行えます。

34.13.4.3 ドロップダウンメニュー

3つのドットのボタン(⋮)を押して、ドロップダウンメニューを開きます。

編集
ルーチンエディターダイアログボックスが開き、ルーチンを編集できます。

複製
ルーチンの複製を作成します。

書き出し
ルーチンを書き出しダイアログボックスが開き、ルーチンをJSONファイルに書き出すことができます。

削除
ルーチンをリストから削除します。

34.13.4.4 ルーチンの編集

ルーチンエディターダイアログボックスが開き、ルーチンを編集できます。

34.13.4.5 ルーチンを読み込み...

ルーチンを読み込みダイアログボックスが開き、JSON ファイルを読み込むことができます。

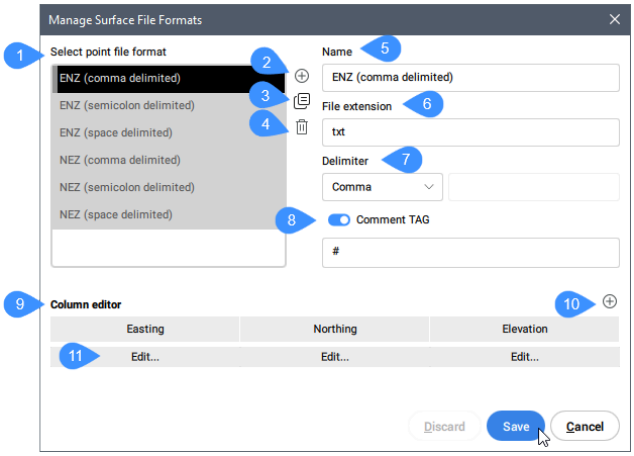
注：BMASSEMBLYINSPECTコマンドの場合、デフォルトのマスタールーチンファイル(Inspection_Routine_Default.json)がBricsCADインストーラの Supportフォルダーに含まれています。

注：複数のルーチンを一度に複製、削除、書き出し、読み込みできます。

34.13.5 サーフェスファイル形式を管理

ポイントファイルからサーフェスを作成ダイアログボックスから開きます。

サーフェスファイル形式を管理ダイアログボックスでは、新しいポイントファイル形式を追加したり、既存のポイントファイル形式を編集することができます。



1 ポイントファイル形式を選択

2 ポイントファイル形式を追加

3 ポイントファイル形式を複製

4 ポイントファイル形式を削除

5 名前

6 ファイル拡張子

7 区切り文字

8 コメントタグ

9 列エディター

10 列を追加

11 編集

34.13.5.1 ポイントファイル形式を選択

一覧からポイントファイル形式を選択します。定義済みのポイントファイル形式がいくつか用意されています。それらの名前は、座標(列)の順序と区切り文字を示します。たとえば、ENZ(comma delimited)は、東距座標、北距座標、高度座標、およびカンマ区切り文字を持つポイントファイル形式です。

34.13.5.2 ポイントファイル形式を追加

コメントタグを指定することによって新しいポイントファイル形式を定義し、列ごとにポイント属性(ポイントファイル内のどのポイント属性を含む列)を指定します。

注：新しく作成したポイントファイル形式は、**ポイントファイルからサーフェスを作成**ダイアログボックスで事前選択されます。

34.13.5.3 ポイントファイル形式を複製

選択したポイントファイル形式と同じ設定で新しいポイントファイル形式を作成します。

34.13.5.4 ポイントファイル形式を削除

ポイントファイル形式をリストから削除します。

34.13.5.5 名前

ポイントファイル形式名を表示します。フィールドをクリックして編集します。

34.13.5.6 ファイル拡張子

ファイル拡張子を表示します。フィールドをクリックして編集します。

34.13.5.7 区切り文字

ポイントファイルの列区切り文字の文字をドロップダウンリストから設定します。

34.13.5.8 コメントタグ

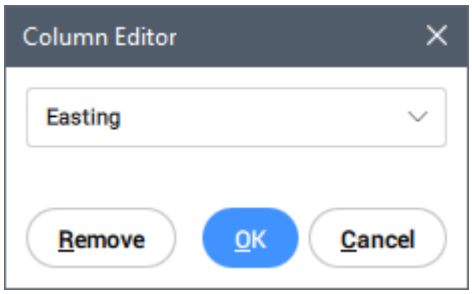
コメントタグを有効または無効にします。

34.13.5.9 列エディター

列を表示します。列の順序を変更できます。変更する列を新しい場所に移動してください。

34.13.5.10 列を追加

列エディターダイアログボックスを開き、列を追加または削除します。



ドロップダウンリストから列名を選択します。
<スキップ>列を追加するか、既存の列を<スキップ>として設定することにより、2つのポイントフォーマットファイル間の互換性を作成できます。

34.13.5.11 編集

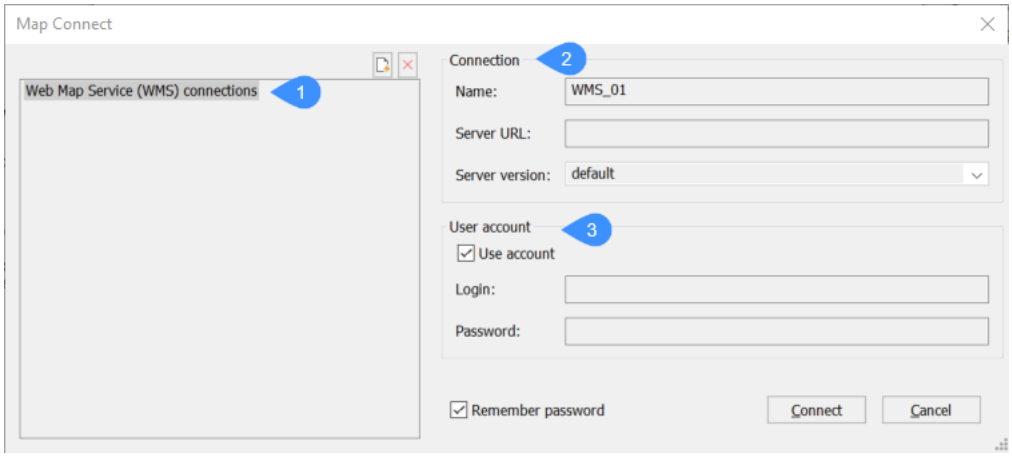
列エディターダイアログボックスを開き、列名を編集します。

34.13.6 マップ接続

MAPCONNECTコマンドを実行して開きます。

マップ接続ダイアログボックスでは、Webマップサービスとの接続を設定できます。

注：図面に地図データを追加する前に、GEOGRAPHICLOCATIONコマンドを実行して、図面の地理的位置を定義しておく必要があります。



1 WMS接続

2 接続

3 ユーザーアカウント

34.13.6.1 WMS接続

Webマップサービスの接続先一覧を表示します。

34.13.6.2 接続

Webマップサービス(WMS)の接続を行うことができます。

名前
新しい接続の名前を指定します。

サーバーURL
接続したいサーバーのURLを指定します。

サーバーバージョン
サーバーのバージョンを指定するか、ドロップダウンリストから選択します。

34.13.6.3 ユーザーアカウント

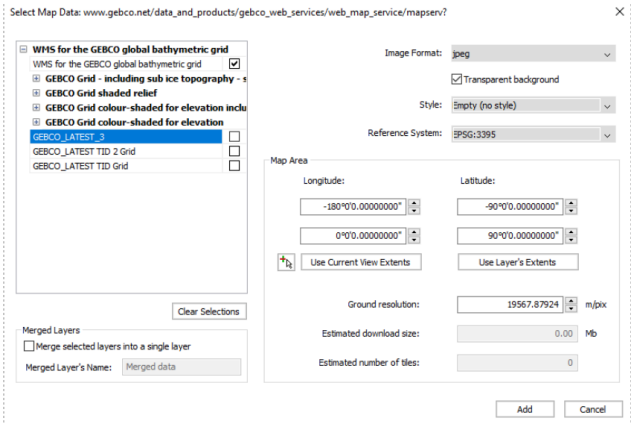
お客様のアカウントへのログインを可能にします。

アカウントを使用
接続時にログイン名やパスワードを使用するかどうかを切り替えます。

ログイン
ログイン情報を指定します。

パスワード
アカウントのパスワードを指定します。

パスワードを記憶
このボックスにチェックを入れると、常にログイン状態になります。オフに設定すると、プログラムはパスワードを記憶しないので、より安全です。
Webマップサービスに接続すると、以下のダイアログボックスが表示されます。



以下を実行します：

1 1つまたは複数の画層データを選択します。

2 希望の地上解像度とデータを分割する必要がありその中にタイルの数を指定します。

3 推定されるダウンロードサイズは推定ダウンロードサイズフィールドに表示します。

4 **追加**ボタンをクリックします。

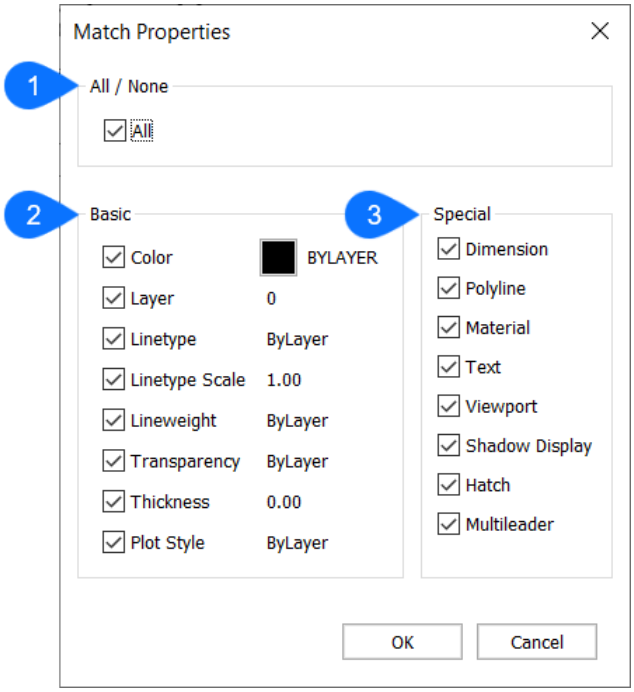
プログラムは、ダウンロードした地図タイルを通常の画像ファイルとして、図面が保存されているフォルダーに保存します。

サポートされる座標参照システム(CRS)の定義は、ROAMABLEROOTPREFIX変数で指定されるフォルダー内のgeodatabase.xmlファイルに保存されます。例：C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support
geodatabase.xmlファイルには、都市とそのWGS84地理座標の一覧が格納されており、**地理的位置**ダイアログボックスの**位置を選択**機能で使用します。

34.13.7　プロパティコピー

MATCHPROPコマンドを実行して開きます。

プロパティコピーダイアログボックスでは、ある図形から1つまたは複数の他の図形にコピーするプロパティを選択できます。



1　すべて/無し

2　基本

3　スペシャル

34.13.7.1　すべて/無し

チェックを入れると、すべてのプロパティが自動的に選択されます。チェックをオフすると、すべての図形が非選択になります。

34.13.7.2　基本

コピーする基本図形のプロパティを選択します。右側には、ソース図形の図形プロパティが表示されます。

色
チェックを入れると、ソース図形の色が選択した図形にコピーされます。右側にソース図形の色が表示されます。

画層
チェックを入れると、ソース図形の画層が選択された図形にコピーされます。右側にソース図形の画層が表示されます。

線種
チェックを入れると、ソース図形の線種が選択された図形にコピーされます。右側にソース図形の線種が表示されます。

線種尺度
チェックを入れると、ソース図形の線種尺度が選択された図形にコピーされます。右側にソース図形の線種尺度が表示されます。

線の太さ
チェックを入れると、ソース図形の線の太さが選択された図形にコピーされます。ソース図形の線の太さが右に表示されます。

透過性
チェックを入れると、ソース図形の透明度が選択した図形にコピーされます。ソース図形の透明度が右に表示されます。

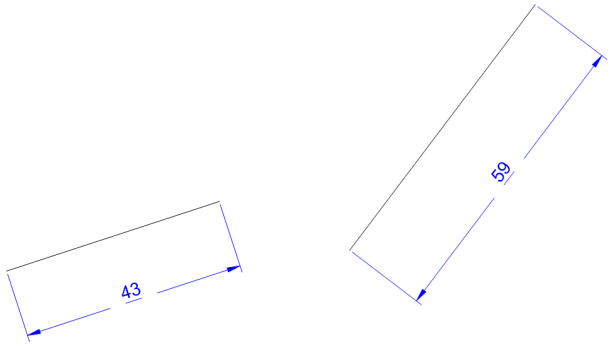
厚さ
チェックを入れると、ソース図形の厚さが選択した図形にコピーされます。右側にソース図形の厚さが表示されます。

印刷スタイル
チェックを入れると、ソース図形の印刷スタイルが選択された図形にコピーされます。右側にソース図形の印刷スタイルが表示されます。

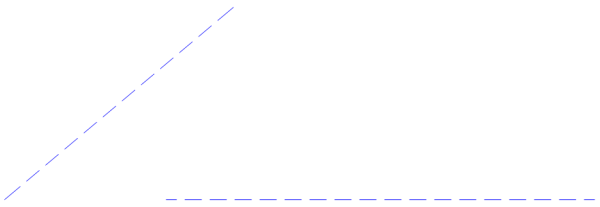
34.13.7.3 スペシャル

コピーした他の基本的でないプロパティを選択します。

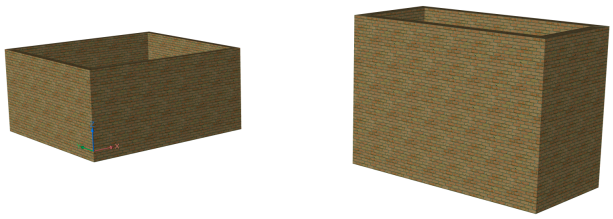
寸法
チェックを入れると、寸法、引出線、許容差の寸法スタイルと注釈プロパティがコピーされます。



ポリライン
チェックを入れると、幅や線種の生成設定がコピーされます。それ以外の設定(テーパーやスプラインなど)は無視されます。



マテリアル
チェックを入れると、マテリアルのプロパティがコピーされます。ソース図形にマテリアル定義があるかないかに応じて、マテリアルを追加または削除します。



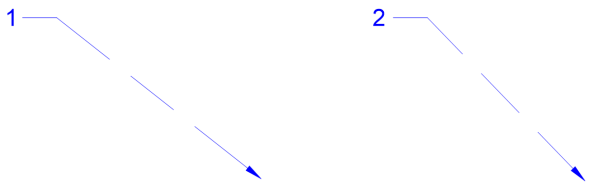
文字
チェックを入れると、文字とマルチテキストのテキストスタイルと注釈プロパティがコピーされます。色などの他のプロパティはコピーされません。

ビューポート
チェックを入れると、ビューポート固有のプロパティ(オン／オフ、スナップ／グリッドの状態、尺度係数など)がコピーされます。クリッピングやフリーズした画層の状態など、その他のプロパティはコピーされません。

影の表示
チェックを入れると、ソース図形の影がコピーされます。

ハッチング
チェックを入れると、すべてのハッチングのプロパティと注釈尺度がコピーされます。

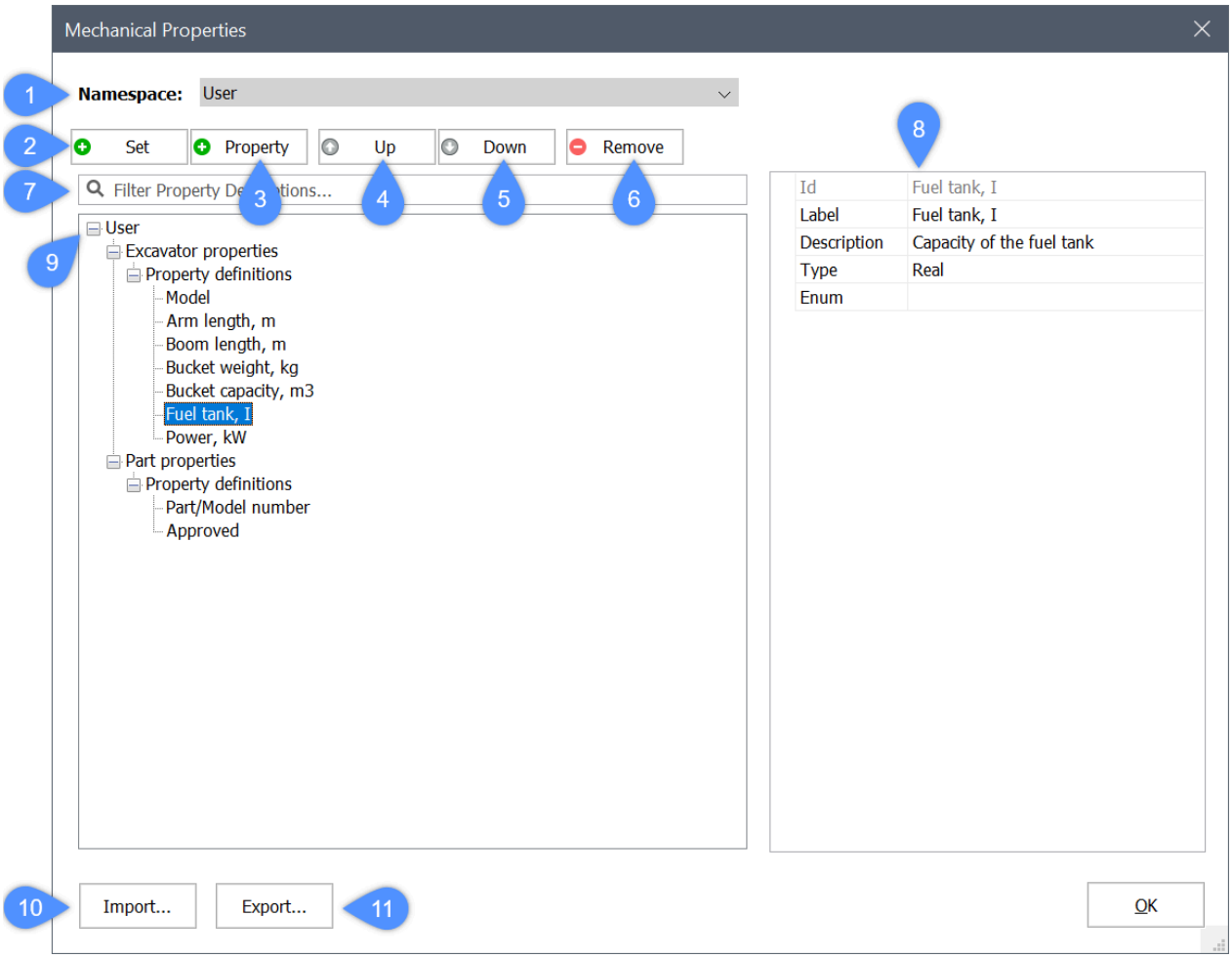
マルチ引出線
チェックを入れると、マルチ引出線スタイルと注釈尺度がコピーされます。



34.13.8　メカニカルプロパティ

BMPROPERTIESコマンドを実行して開きます。

メカニカルプロパティダイアログボックスでは、プロパティの定義を作成、編集、削除したり、プロパティセットでプロパティを整理することができます。



1 名前空間

2 セットを追加

3 プロパティを追加

4 上へ移動ボタン

5 下へ移動ボタン

6 削除

7 フィルター

8 プロパティ

9 プロパティツリー

10 読み込み

11 書き出し

34.13.8.1 名前空間

メカニカルコンポーネントでは、カレントの1つの名前空間が利用可能です。

ユーザー
ユーザー定義のプロパティを作成することができます。

34.13.8.2 セットを追加

現在の名前空間でプロパティセットを追加することができます。

34.13.8.3 プロパティを追加

現在選択しているプロパティセットへプロパティを追加することができます。

34.13.8.4 削除

選択した項目をすべて削除します。

34.13.8.5 上へ移動ボタン

選択したプロパティや値を上方向に移動します。

34.13.8.6 下へ移動ボタン

選択したプロパティや値を下方向に移動します。

34.13.8.7 フィルター

入力した検索文字列が**Id**と**ラベル**に含まれているプロパティのみを表示します。プロパティツリーは、入力中にフィルタリングされます。

34.13.8.8 プロパティ

選択したプロパティセット、プロパティ定義、値定義を表示します。

34.13.8.9 プロパティツリー

選択したプロパティセット、プロパティ定義、値定義を表示します。

34.13.8.10 読み込み

XMLファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

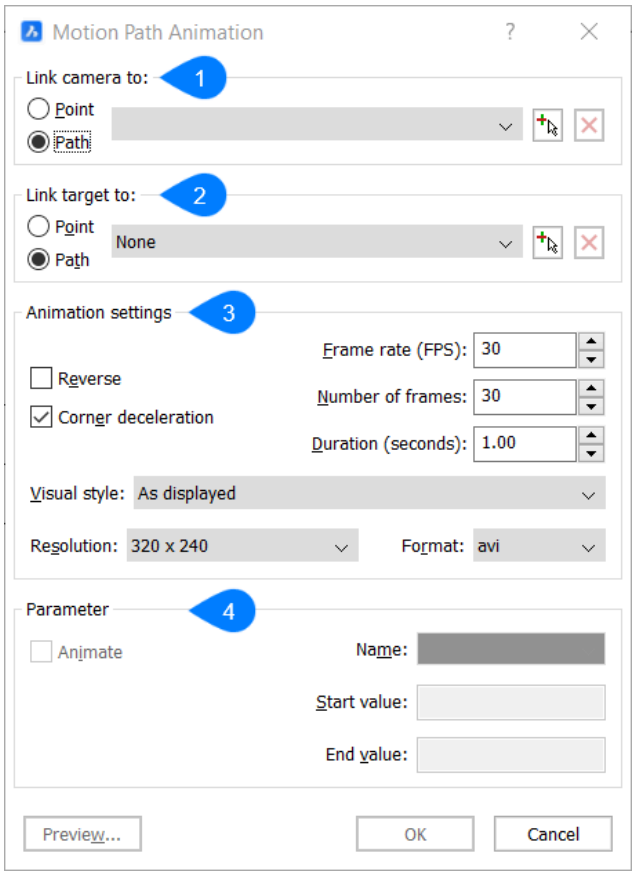
34.13.8.11 書き出し

保存するXMLファイルの場所を選択ダイアログボックスが開きます。

34.13.9 モーションパスアニメーション

ANIPATHコマンドを実行して開きます。

モーションパスアニメーションダイアログボックスでは、3Dモデル内でカメラがパスに沿って移動したり、パンしたりする様子をアニメーション化して、ムービーファイルに保存することができます。



1 カメラをリンク

2 対象をリンク

3 アニメーション設定

4 パラメータ

34.13.9.1 カメラをリンク

モデル空間内の点またはパスを選択して、カメラの位置を定義します。

注：点やパスを選択した後、図形に名前を付けるオプションがあります。

点
カメラを図面上の静止点にリンクさせます。

パス
カメラを図面の線図形にリンクします。

34.13.9.2 対象をリンク

モデル空間内の点またはパスを選択して、カメラの位置を定義します。

注：点やパスを選択した後、図形に名前を付けるオプションがあります。

注：カメラが点にリンクされている場合、ターゲットはパスにリンクされている必要があります。カメラがパスにリンクしている場合、ターゲットは点またはパスのいずれかにリンクする必要があります。

点
カメラを図面上の静止点にリンクさせます。

パス
対象を図面の線図形にリンクします。

34.13.9.3 アニメーション設定

ムービーファイルのアウトプットについて選択した項目のコントロールを許可します。

フレームレート
1秒あたりのフレーム数を定義します。フレームレートを変更すると、継続時間に応じてフレーム数が調整されます。

フレーム数
ムービーの総フレーム数を指定します。フレーム数を変更すると、それに応じて長さも変更されます。

長さ
動画の再生時間を秒単位で指定します。長さを変更すると、それに応じてフレーム数も変更されます。

反転
フレームのシーケンスを反転します。

コーナー減速
アニメーションパスのコーナーでカメラを減速します。

表示スタイル
ムービーの表示スタイルを定義します。ボタンをクリックして一覧から表示スタイルを選択します。カレント図面のすべての表示スタイルが利用可能です。

解像度
ムービーの 幅 x 高さ 解像度を設定します。ボタンを繰り句して解像度を選択します。
利用可能な解像度：
160x120、320x240、640x480、800x600、1024x768、1280x1024、1600x1024、1920x1080、1920x1200.

形式
ムービーのファイルの種類を指定します。利用可能なファイル種類：avi、mpg 、wmv

34.13.9.4 パラメータ

パラメータの変化をアニメーションで表現できます。

アニメイト
チェックを入れると、メカが動くリアルなムービーを作ることができます。

名前
パラメータの名前を指定します。

開始値
選択したパラメータの開始値を指定します。

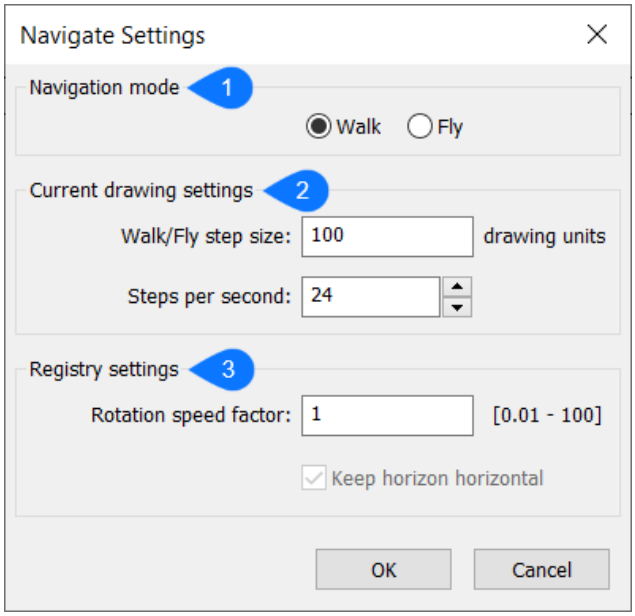
終了値
パラメータステップは、開始から終了のレンジをフレーム数で割った値になります。各フレームごとに、パラメータ値をステップで増加させる必要があります。

34.14 N

34.14.1 ナビゲート設定

NAVIGATEコマンドを実行して開きます。

ナビゲート設定ダイアログボックスでは、図面のナビゲーション設定を調整することができます。



1 ナビゲーションモード

2 カレント図面の設定

3 設定を登録

34.14.1.1 ナビゲーションモード

ウォークモードとフライモードを切り替えます：

- フライトモード：3次元での動きが可能です。
- ウォークモード：動きをXY平面内に限定します。

34.14.1.2 カレント図面の設定

カレント図面での設定なので、他の図面では異なります。

ステップサイズ
キーを押すごとにビューが移動する距離を指定します。距離は図面単位で計測しています。

ステップ数/秒
トラベルキーを押している間のビューの変化の速さを指定します。

34.14.1.3 設定を登録

レジストリに保存された設定は、他の図面でも同じように表示されます。

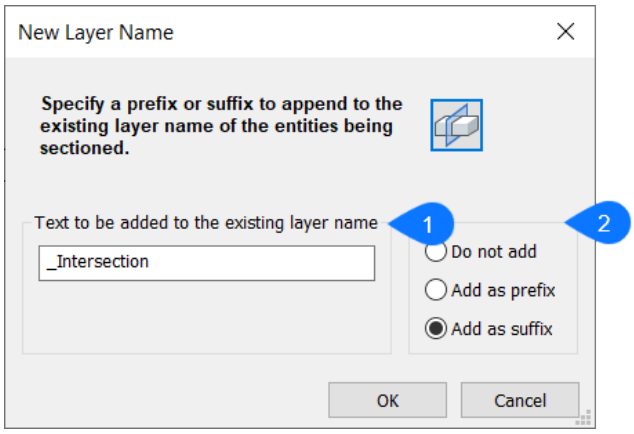
回転スピード比
ビューの回転速度を指定します。

地平線を水平に保つ
オンにすると、フライトレベルが保持されます。ウォークモードではこのオプションはグレーアウトしています。

34.14.2　新規画層名

図面エクスプローラダイアログボックス(SECTIONPLANESETTINGSコマンド)から開きます。

新規画層名ダイアログボックスでは、断面図用の既存の画層をコピーして新しい画層を作成する場合に、画層名に追加する文字を指定できます。



1　既存画層名に追加する文字

2　文字の入力方法

34.14.2.1　既存画層名に追加する文字

既存の画層名に付加されるテキストを指定します。

34.14.2.2　文字の入力方法

追加しない
コピー作成時に画層名にテキストが追加されることはありません。

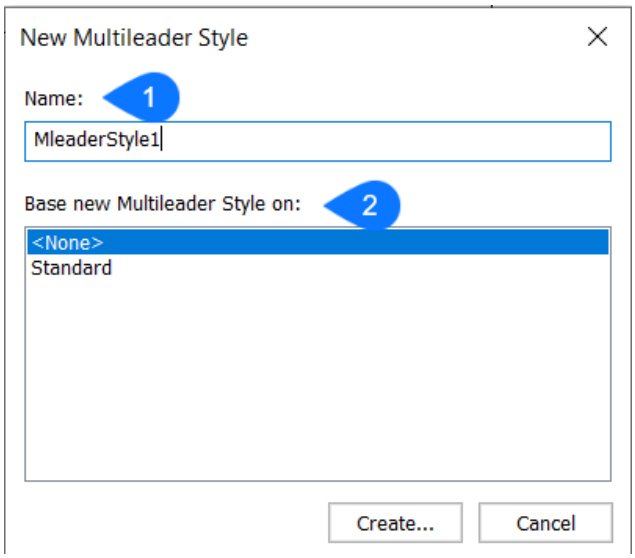
接頭文字として追加
指定されたテキストは、既存の名前の前に接頭辞として追加されます。

接尾文字として追加
指定されたテキストは、既存の名前の後に接尾辞として追加されます。

34.14.3　新しいマルチ引出線スタイル

図面エクスプローラダイアログボックス(MLSTYLEコマンド)から開きます。

新しいマルチ引出線スタイルダイアログボックスでは、新しいマルチ引出線スタイルを作成できます。



1 名前

2 新規マルチ引出線スタイル

34.14.3.1 名前

新しいマルチ引出線スタイルの名前を設定します。

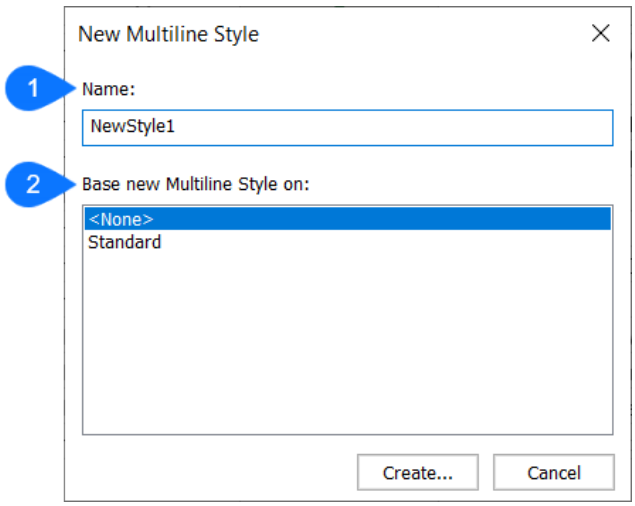
34.14.3.2 新規マルチ引出線スタイル

既存のスタイルを選択して、そのコピーとして新しいスタイルを作成します。最初から始める場合は、<無し> を選択します。

34.14.4 新規マルチラインスタイル

図面エクスプローラダイアログボックス(MLSTYLEコマンド)から開きます。

新規マルチラインスタイルダイアログボックスでは、新しいマルチラインスタイルの定義を作成できます。



1 名前

2 新規マルチラインスタイル

34.14.4.1 名前

新しいマルチラインスタイルの名前を設定します。

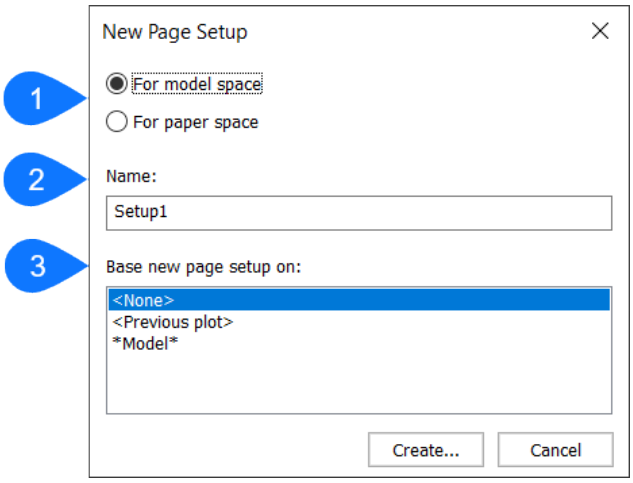
34.14.4.2 新規マルチラインスタイル

既存のスタイルを選択して、そのコピーとして新しいスタイルを作成します。最初から始める場合は、<無し> を選択します。

34.14.5 新規ページ設定

図面エクスプローラダイアログボックス(PAGESETUPコマンド)から開きます。

新規ページ設定ダイアログボックスでは、ペーパー空間またはモデル空間の新規ページ設定を行うことができます。



1 モデル空間またはペーパー空間

2 名前

3 新規ページ設定

34.14.5.1 モデル空間またはペーパー空間

新規ページ設定を行う空間を、モデル空間またはペーパー空間に設定します。

34.14.5.2 名前

新しいページ設定の名前を設定します。

34.14.5.3 新規ページ設定

既存のページ設定を選択して、選択したページ設定のコピーとして新しいページ設定を作成します。最初から始める場合は、<無し> を選択します。前の印刷を使用するには、<前の印刷> を選択します。

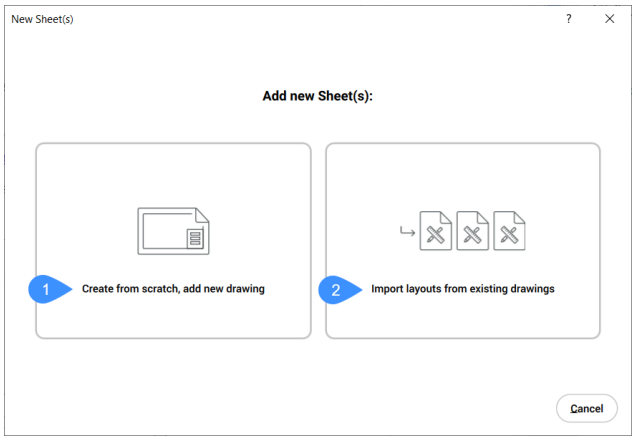
34.14.6 新規シート

以下より開きます：

- **シートセット**パネル
- **BIMプロジェクトブラウザ**パネル

新規シートダイアログボックスでは、既存のシートセットに新しいシートを作成することができます。このファイルを開くには、**シートセット管理**パネルでシートセット、サブセット、またはシートを右クリックし、コンテキストメニューから**新規シート...**を選択します。

新しいシートを追加するには、次の2つの方法があります。

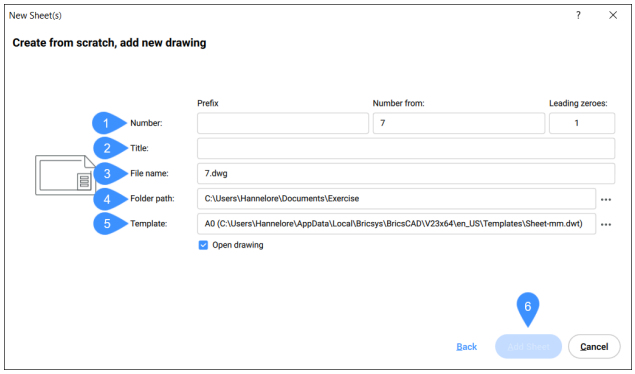


1 最初から作成して新規図面を追加

2 既存の図面からレイアウトを読み込み

34.14.6.1 最初から作成して新規図面を追加

新しいシートを一から作ることができます。



1 番号

2 タイトル

3 ファイル名

4 フォルダーパス

5 テンプレート

6 シートを追加

番号

作成するシートの番号を定義します。

- **接頭辞**：ファイル名の接頭辞を指定します。
- **開始番号**：ファイル名の番号付けの開始番号を指定します。

- **先頭のゼロの数**：シート番号の先頭にゼロを追加することで、新規シートの番号値のフォーマットを指定します。

タイトル
新しいシートのタイトルを定義します。

ファイル名
新しいシートを保存するファイルの名前を定義します。

フォルダーパス
ファイルの場所を定義します。

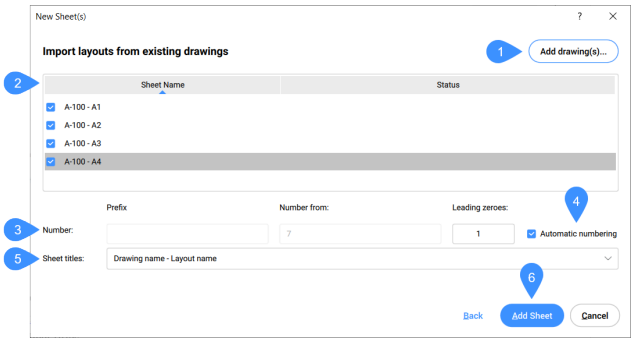
テンプレート
新しいシートのテンプレートを定義します。

シートを追加
新規シートを作成します。

注：このオプションは、タイトルが定義された後にのみ有効になります。

34.14.6.2 既存の図面からレイアウトを読み込み

既存の図面のレイアウトを読み込んで新しいシートを作成できます。



1 図面を追加...

2 読込済みのレイアウト

3 番号

4 自動付番

5 シートのタイトル

6 シートを追加

図面を追加...
レイアウトを読み込む図面を選択するには、**図面を選択**ダイアログボックスを使用します。

読込済みのレイアウト
選択図面から読み込まれるレイアウトを一覧表示します。読み込まないレイアウトのチェックを外します。

注：プロジェクトの一部ではない図面からレイアウトを読み込む場合、図面は最初にプロジェクトフォルダーにコピーされます。

番号
読むこむシートの番号を定義します。

- **接頭辞**：ファイル名の接頭辞を指定します。

- **開始番号**：ファイル名の番号付けの開始番号を指定します。
- **先頭のゼロの数**：シート番号の先頭にゼロを追加することで、新規シートの番号値のフォーマットを指定します。

自動付番
レイアウトに自動的に番号を付けます。

シートのタイトル
ドロップダウンリストのオプションのいずれかを選択して、選択した図面の一覧表示方法を指定します。

- **図面名**：選択した図面の図面名を表示します。
- **図面名 - レイアウト名**：選択した図面の図面名とレイアウト名を表示します。
- **レイアウト名**：選択した図面のレイアウト名を表示します。

シートを追加
新しいシートが作成されます。

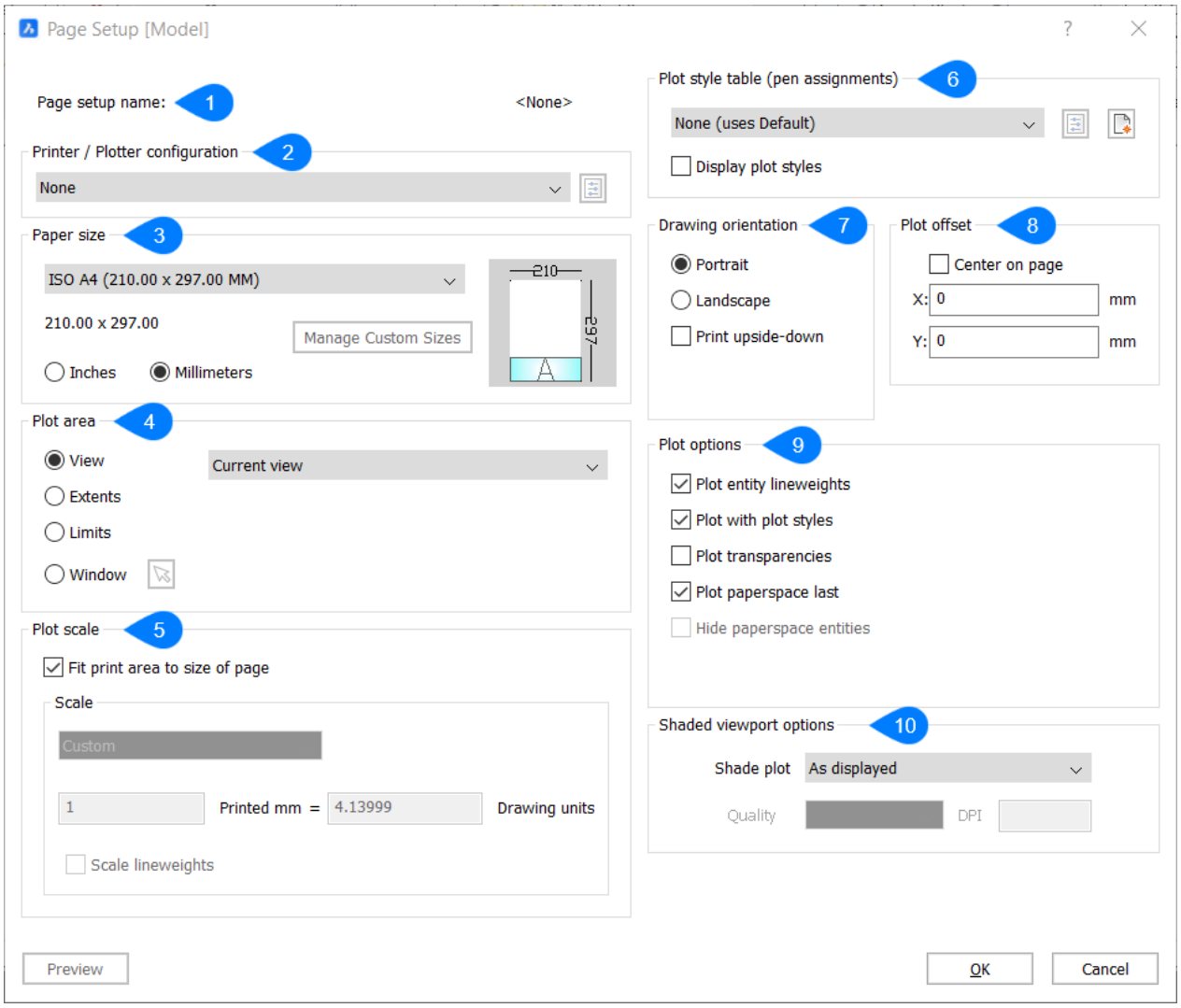
34.15 O

34.16 P

34.16.1 ページ設定

CPAGESETUPコマンドを実行して開きます。

ページ設定ダイアログボックスでは、現在のレイアウトやモデル空間のページ設定を編集します。



1 ページ設定名

2 プリンタ / プロッタの設定

3 用紙サイズ

4 印刷領域

5 印刷尺度

6 印刷スタイルテーブル

7 用紙の向き

8 印刷オフセット

9 印刷オプション

10 シェードビューポートオプション

34.16.1.1 ページ設定名

現在の設定が表示されます。

34.16.1.2　プリンタ / プロッタの設定

プリンタ/プロッタを選択します。

34.16.1.3　用紙サイズ

ドロップダウンリストから標準サイズを選択して、用紙のサイズを指定します。プリンターが対応しているサイズです。

注：サイズの表示は、インチとミリのどちらかにチェックを入れることで可能です。

34.16.1.4　印刷領域

図面の印刷領域を指定します。

ビュー
カレントのビューまたは名前の付いたビューを印刷します。ドロップリストから1つ選択します。

図形範囲
図面に表示されているすべての図形を範囲に含めて印刷します。

注：フリーズ画層の図形は図形範囲の対象外となります。

図面範囲
Limitsコマンドで指定した範囲に限定して図面を印刷します。

窓
矩形で指定した範囲の図面を印刷します。

34.16.1.5　印刷尺度

図面を用紙サイズに合うように尺度変更します。

印刷領域を用紙サイズにフィット
図面の印刷領域を考慮して、自動的に縮尺を計算します。

尺度変更
プロットに使用する尺度係数を指定します。

線の太さの尺度
このオプションがオンの場合、線の太さの尺度が印刷尺度に従い変更されます。

34.16.1.6　印刷スタイルテーブル

ペン、色と図形のプロパティを決める印刷スタイルテーブルを指定します。

34.16.1.7　用紙の向き

長方形の用紙上の図面の向きを指定します。

縦
図面やレイアウトのX軸が選択用紙サイズの短いほうの端に合わせられます。

横
図面やレイアウトのX軸が選択用紙サイズの長いほうの端に合わせられます。

上下を逆に印刷
図面を逆さまに印刷します。

34.16.1.8　印刷オフセット

印刷のオフセット距離を指定します。

注：印刷物をページの中央に配置するには、「ページの中心」にチェックを入れます。

ページの中心
余白を考慮して、印刷をページの中央に配置します。

34.16.1.9　印刷オプション

図形の線の太さを印刷
線の太さの使用/未使用を切り替えます。

印刷スタイルで印刷
印刷スタイルの使用/未使用を切り替えます。

印刷の透過性
透過性プロパティが割り当てられている図形を、図形ごとまたは画層ごとに印刷します。

ペーパー空間を最後に印刷
印刷順序を指定します。

注：このオプションは、レイアウトを印刷するときにのみ使用できます。

ペーパー空間図形を非表示
ペーパー空間の3D図形から隠線を消します。

注：モデル空間を印刷する場合、このオプションはオフになります。

34.16.1.10　シェードビューポートオプション

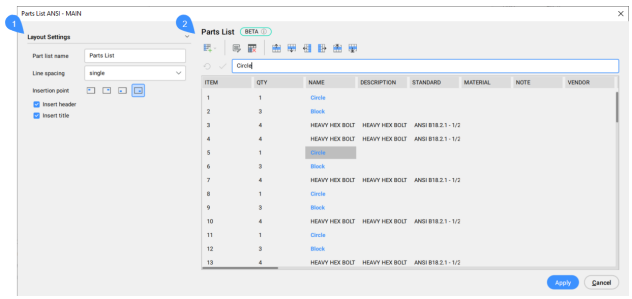
モデル空間の印刷時に、カレントのビューのビジュアルスタイルをオーバーライドします。

シェード印刷
シェードスタイルを選択して、図面を印刷します。

34.16.2　パーツ一覧

AMPARTLISTコマンドを実行して開きます。

パーツ一覧に表示されるパーツ参照情報とパーツ一覧のレイアウトを定義します。

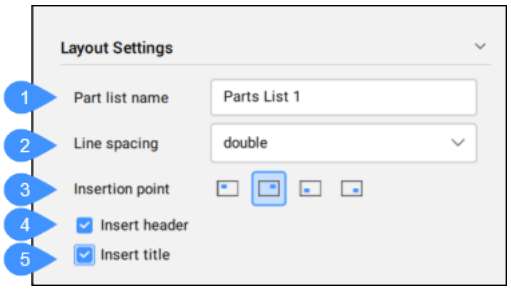


1　レイアウト設定

2　パーツ一覧

34.16.2.1 レイアウト設定

パーツ一覧のレイアウトを定義します。



1 パーツ一覧名

2 行間隔

3 挿入位置

4 ヘッダーの挿入

5 タイトルの挿入

パーツ一覧名
パーツ一覧名を定義して表示します。

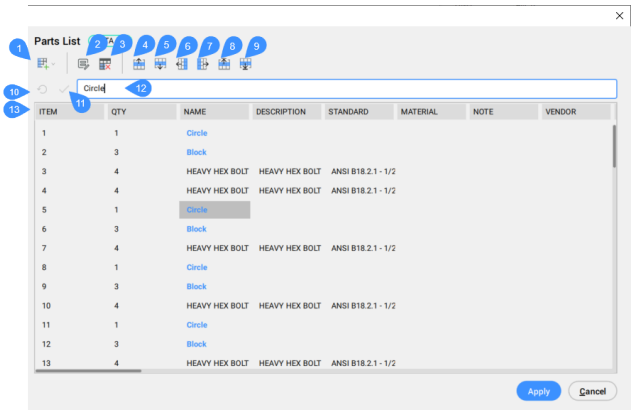
行間隔
ドロップダウンリストからオプションを1つ選択して、行間タイプを定義します。

挿入位置
挿入点の配置とパーツ一覧の垂直方向を定義します。挿入ポイントが下部にある場合、ヘッダーポイントとタイトルポイントの両方がパーツ一覧の下部にあり、パーツは下から上に一覧表示されます。同様に、挿入ポイントが上部にある場合は、ヘッダーとタイトルの両方がパーツ一覧の一番上に表示され、パーツは上から下に一覧表示されます。

ヘッダーの挿入
リストにヘッダーを含めるかどうかを定義します。

タイトルの挿入
リストにタイトルを付けるかどうかを定義します。

34.16.2.2 パーツ一覧



1 列を管理する

2 設定値

3 オーバーライドの削除

4 上へ移動

5 下へ移動

6 左に移動

7 右に移動

8 一番上へ移動

9 一番下に移動

10 数式バー

11 パーツ参照プロパティ

12 パーツ参照のリスト

列を管理する
列を管理します。ドロップダウンリストを開くと、次のオプションを使用できます。

列を左に挿入
選択した列を現在の列の左側に挿入します。**列を選択**ダイアログボックスが開きます。

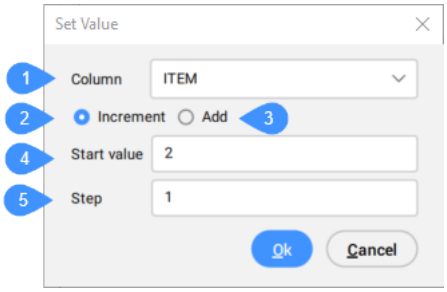
列を右に挿入
選択した列を現在の列の右側に挿入します。

列を削除
現在の列を削除します。

注：使用可能な列は、**部品表設定**ダイアログボックスで管理されます。

注：列を選択ダイアログボックスには、まだ挿入されていない列のみが表示されます。

設定値
選択したセルの数式によって生成された値を上書きできます。**設定値**ダイアログボックスが開きます。



1 列

2 インクリメントモード

3 追加モード

4 開始値

5 ステップ

列
ドロップダウンリストから列を選択できます。

インクリメントモード
開始値と**ステップ**を設定して、1つまたは複数のセルの値を上書きできます。

追加モード
既存のセルに追加する**値**を設定して、1つまたは複数のセルの値を上書きできます。

注：

- すべての列がオーバーライドされた値を受け入れるわけではありません。
- オーバーライドされた値は青色で強調表示されます。

開始値
セル値を上書きするためのインクリメンタルモードの開始値を定義します。

ステップ
セル値を上書きするためのインクリメンタルモードのステップ値を定義します。

値
セルの既存の値に加算する値を定義します。

オーバーライドの削除
現在の選択からオーバーライドを除去し、式で計算された既定値に戻します。

注：このボタンは、現在の選択範囲内にオーバーライドが存在する場合にのみ使用できます。

上へ移動
選択したセルの行をパーツ一覧の1つ上に移動します。複数の行を一度に移動することもできます。

下へ移動
選択したセルの行をパーツ一覧の1つ下に移動します。複数の行を一度に移動することもできます。

左に移動
選択したセルの列をパーツ一覧の1つ左に移動します。複数の列を一度に移動することもできます。

右に移動
選択したセルの列をパーツ一覧で1ステップ右に移動します。複数の列を一度に移動することもできます。

一番上へ移動
選択したセルの行をパーツ一覧の一番上に移動します。複数の行を一度に移動することもできます。

一番下に移動
選択したセルの行をパーツ一覧の一番上に移動します。複数の行を一度に移動することもできます。

数式バー
数式を導入または表示することができます。Enterを押すと、新しい値が保存されます。

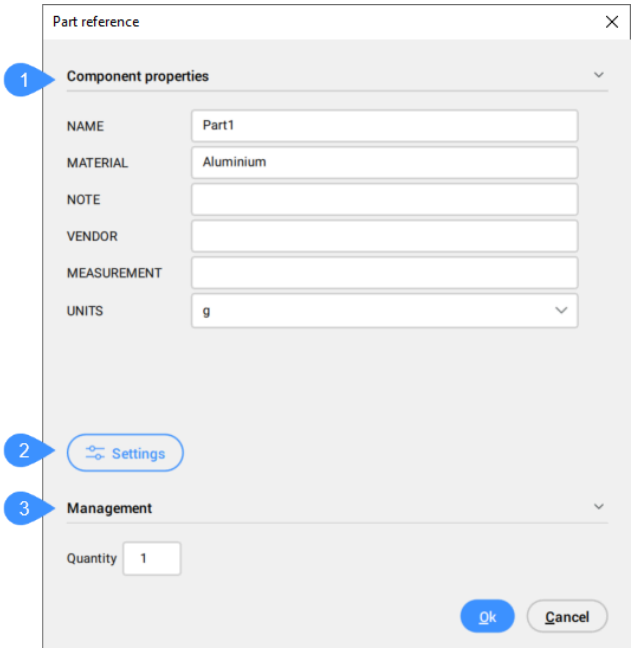
パーツ参照プロパティ
パーツ一覧設定ダイアログボックスで、パーツ一覧表のヘッダを定義します。表示と示された部品参照のプロパティ名が表示されます。これらのプロパティ名は、**BOM 設定**ダイアログボックスの**キャプション**フィールドで定義します。

パーツ参照のリスト
選択した部品表に含まれる部品参照が一覧表示されます。

34.16.3　パーツ参照

AMPARTREFコマンドを実行して開きます。

パーツ一覧に表示するパーツ参照情報を定義します。



1　コンポーネントのプロパティ

2　設定

3　管理

コンポーネントのプロパティ
パーツ参照の一部のプロパティを定義できます。これらのプロパティは、**プロパティ**パネルで編集することもできます。

設定
部品表設定ダイアログボックスが開き、**パーツ参照**ダイアログボックスに表示されるコンポーネントのプロパティを定義できます。

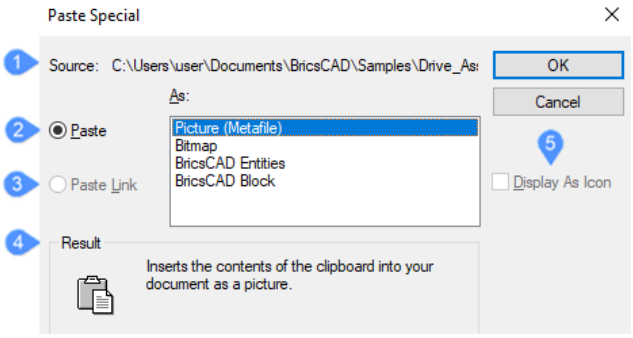
管理
パーツ一覧にどのようにパーツ参照を表示するかを定義します。

数量
パーツ参照の数量のデフォルト値を上書きできます。

34.16.4　形式を指定して貼り付け

PASTESPECコマンドを実行して開きます。

形式を選択して貼り付けダイアログボックスでは、クリップボードから図面に貼り付けるオブジェクトの種類を選択できます。このコマンドはWindowsでのみ使用可能です。ショートカット：CTRL+ALT+V



1 リンク元

2 貼り付け

3 リンク貼り付け

4 結果

5 アイコンで表示

34.16.4.1 リンク元

図面/図形/ブロックが存在するパスを表示します。

34.16.4.2 貼り付け

貼り付けるオブジェクトの形式を選択します。このリストはクリップボードの中身によって変わります。クリップボードにBricsCAD図面からコピーされたデータがある場合、以下のフォーマットが利用できます：

- **絵(メタファイル)**：図形をWMF(Windows Metafile)形式のイメージに変換し、OLE(Object Linking and Embedding)イメージとして貼り付けます。
- **ビットマップ**：図形をBMP形式の画像に変換し、OLE画像として貼り付けます。
- **BricsCAD図形**：個々の図形、または画層、線種などの表エントリとして貼り付けます。
- **BricsCADブロック**：クリップボードの内容をブロックとして文書に挿入します。

BricsCAD図形として貼り付け

CAD図形をBricsCAD図形として図面に貼り付けます。

挿入基点を選択、または[回転/尺度/鏡像]：- (オプションの入力)

1 **挿入基点を選択** – (図面上の点を指示、またはX・Y座標を入力)

2 **回転** -プロンプト表示:

回転角度を指定 – (図形を回転させる角度を入力)

3 **尺度** -プロンプト表示:

XYZ軸の尺度係数を指定 – (尺度係数を入力)

4 **鏡像** –プロンプト表示:

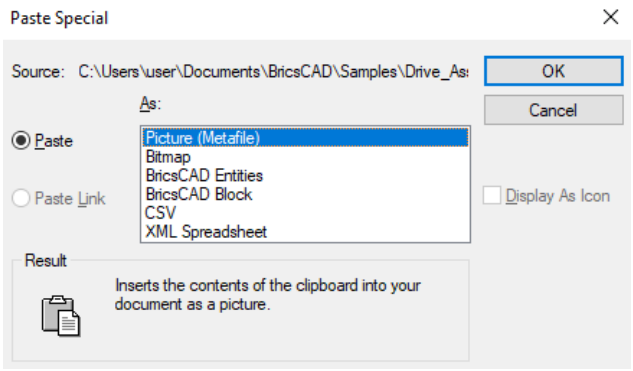
鏡像化のコントロールポイントを選択 – (鏡像線の第2点を選択

挿入ポイントは、ミラーラインの最初のポイントとなります。挿入ポイントに「0,0」を入力すると、図形は元の座標に貼り付けられます。

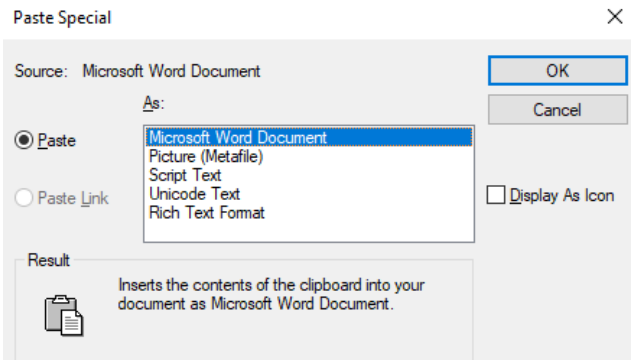
BricsCADブロックとして貼り付け

ブロック挿入ダイアログボックスが開きます。

これは同じダイアログボックスですが、図形がExcelのスプレッドシートからコピーされているため、いくつかの新しいオプションがあります。



BricsCADの外部からテキスト文字列をコピーした場合、下の図のようにいくつかの新しいオプションがあります。



34.16.4.3 リンク貼り付け

このオプションは、CAD図形には使用できません。図面内の図形をOLEオブジェクトとして貼り付け、元のアプリケーションへのリンクを作成します。

34.16.4.4 結果

使用したい選択オプションの簡単な説明を表示します。

34.16.4.5 アイコンで表示

このオプションは、CAD図形には使用できません。貼り付けた図形を、貼り付け元のアプリケーションを示すアイコンで表示します。

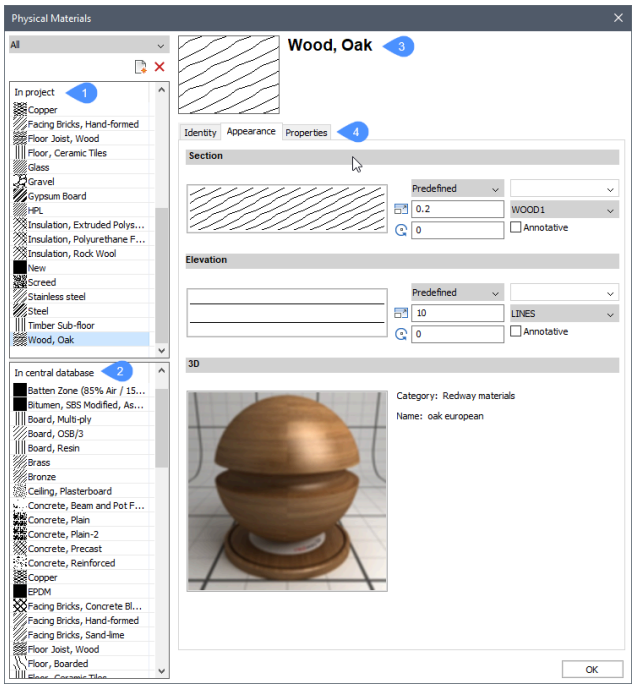
34.16.5 物理的マテリアル

以下より開きます：

- BLMATERIALSコマンド

- **BIM複合材**パネル

物理的マテリアルダイアログボックスでは、現在のプロジェクトの物理的マテリアルライブラリと、セントラルデータベースが表示されます。



1 プロジェクト内

2 セントラルデータベース内

3 マテリアル名

4 マテリアル仕様のタブ

34.16.5.1 プロジェクト内

現在、プロジェクトに読み込まれているすべてのマテリアルを表示します。

34.16.5.2 セントラルデータベース内

セントラルデータベースに読み込まれているすべてのマテリアルを表示します。

34.16.5.3 マテリアル名

選択したマテリアルの名称を表示します。

34.16.5.4 マテリアル仕様のタブ

マテリアル仕様のタブ
選択したマテリアルの幅広い仕様を3つのタブに分けて一覧表示します。

識別

- **名前**：マテリアルの名前を指定します。
- **クラス**：そのマテリアルが属するマテリアルクラスを指定します。
- **説明**：マテリアルの簡単な説明を表示します。

外観

- **断面**：断面ビューでマテリアルを表示する際のハッチングパターンを指定します。
- **高さ**：高さビューでマテリアルを表示する際のハッチングパターンを指定します。
- **3D**：すべての3Dビューで使用されるマテリアルの3次元テクスチャを表示します。

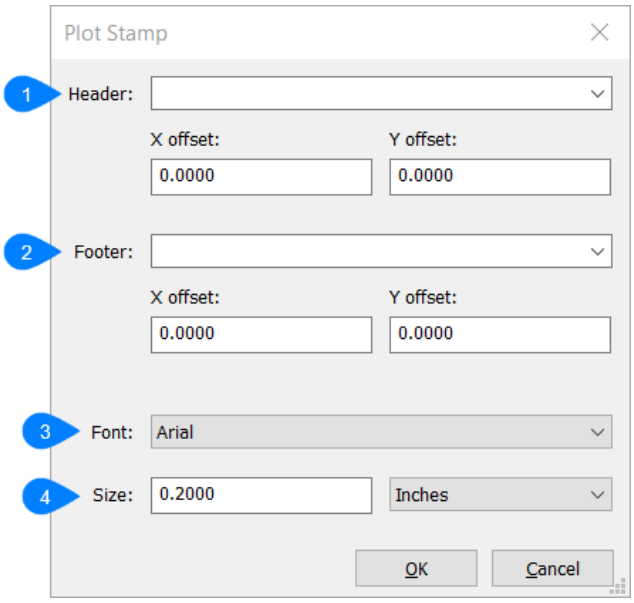
プロパティ

密度など、マテリアルの追加特性を指定します。

34.16.6　印刷スタンプ

PLOTSTAMPコマンドを実行して開きます。

印刷スタンプダイアログボックスでは、印刷された図面の端に図面やプリントに関する情報を追加することができます。



1　ヘッダー

2　フッター

3　フォント

4　サイズ

34.16.6.1　ヘッダー

ヘッダーは、印刷上部に表示されます。ドロップダウンリストをクリックして、ヘッダーのメタフレーズを選択できます。また、ヘッダーの X オフセットと Y オフセットを指定することができます。

34.16.6.2　フッター

フッターは、印刷下部に表示されます。ドロップダウンリストをクリックして、フッターのメタフレーズを選択できます。また、フッターの X オフセットと Y オフセットを指定することもできます。

34.16.6.3　フォント

印刷スタンプに使用するフォントを指定します。

34.16.6.4 サイズ

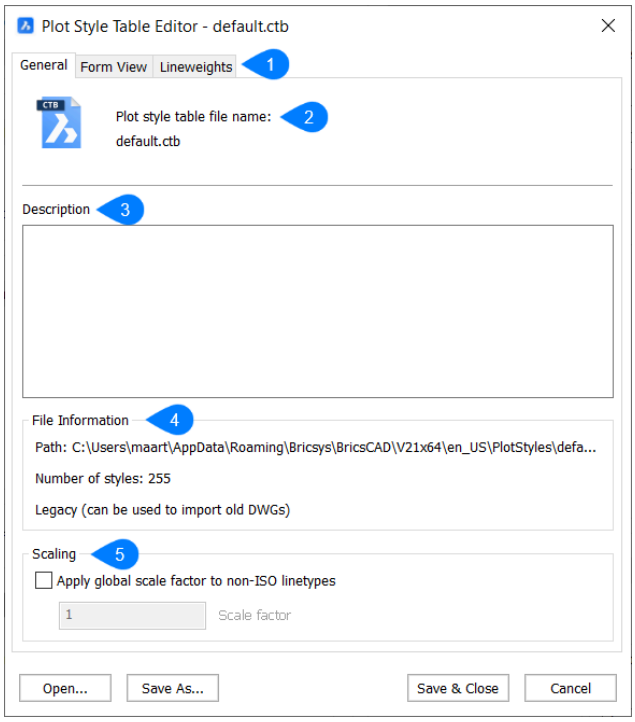
文字高さを指定します。

- インチ：テキストの高さをインチ単位で指定します。
- ミリメートル：テキストの高さをミリメートル単位で指定します。

34.16.7 印刷スタイルテーブルエディター

カレントの印刷スタイルダイアログボックスから開きます。

印刷スタイルテーブルエディターが開き、指定した印刷スタイルテーブル内の印刷スタイルを編集できます。



1 編集タブ

2 印刷スタイルテーブルファイル名

3 説明

4 ファイル情報

5 尺度調整

34.16.7.1 編集タブ

印刷スタイルテーブルエディターには、以下の3つのタブがあります。

一般タブ
標準タブには、印刷スタイルテーブルに関する基本情報が表示されます。

ビュー形式タブ
ビュー形式タブには、印刷スタイルテーブルに含まれる印刷スタイルと、その設定値が表示されます。印刷スタイルは印刷中に発生する図面のスタイル優先設定です。

線の太さタブ
線の太さタブは、利用可能な線の太さを一覧表示します。

注：詳細については、**印刷スタイルテーブル**の記事を参照してください。

34.16.7.2　印刷スタイルテーブルファイル名

印刷スタイルテーブルのファイル名を表示します。

34.16.7.3　説明

印刷スタイルテーブルについて含めたい説明を表示します。

34.16.7.4　ファイル情報

印刷スタイルテーブルの保存先ディレクトリ、印刷スタイル数とレガシー情報を表示しています。

34.16.7.5　尺度調整

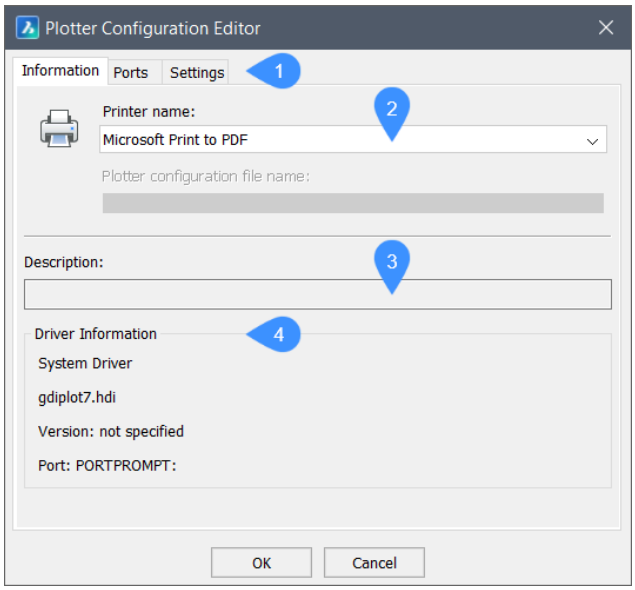
ISOでない線種にグローバル尺度を適用
印刷スタイルテーブルで制御される図形の印刷スタイルで、ISO以外の線種をすべて拡大するかどうかを指定します。

尺度係数
非ISO線種と塗り潰しパターンに適用する尺度の値を指定します。

34.16.8　印刷設定編集

印刷ダイアログボックスから開きます。

印刷設定編集ダイアログボックスでは、プリンタなどの出力機器用にカスタマイズしたパラメータPC3ファイルを作成/編集することができます。



1　編集タブ

2　プリンタ名

3　説明

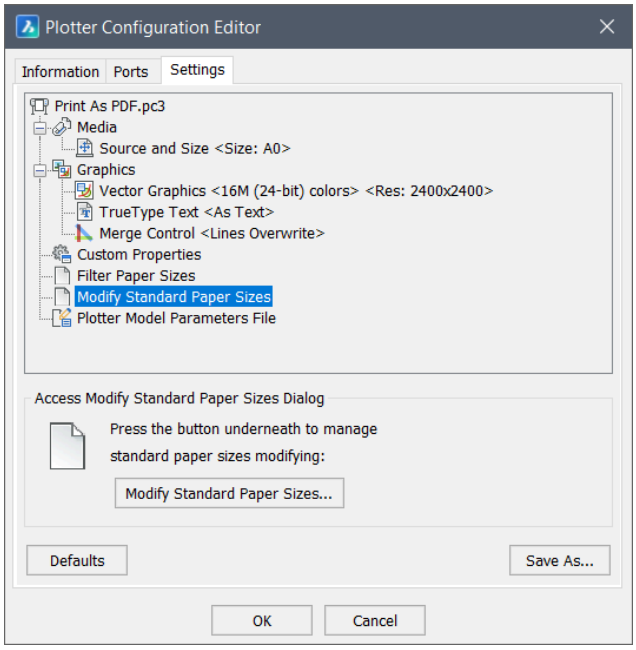
34.16.8.1　編集タブ

情報
プロッタの基本情報を表示します。

ポート
ファイルをどのように印刷するかのオプションを与えます。

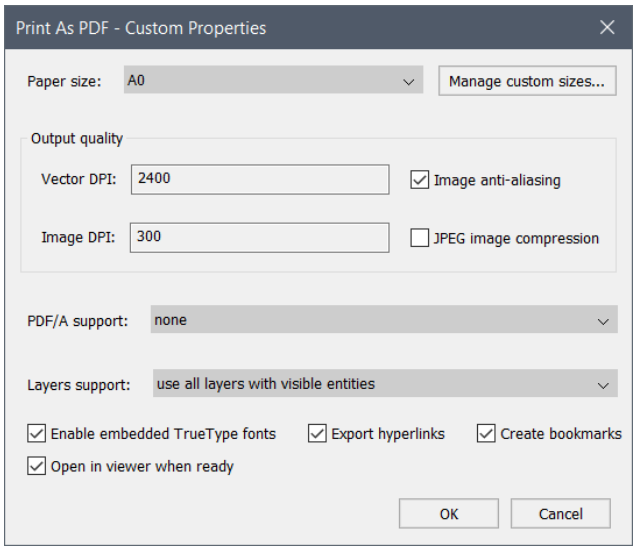
設定
選択したプリンタの機能に基づいて使用可能な設定を変更するための追加設定を提供します。

注：一部の印刷設定(PC3)ファイルでは、**標準用紙サイズを修正**することができます。



注：Print as PDF.pc3プリンタのカスタムプロパティを設定するには、**設定**タブで**カスタムプロパティ**オプションをクリックし、次に**カスタムプロパティ...**ボタンをクリックします。**PDFとして印刷 - カスタムプロパティ**ダイアログボックスが開き、以下の操作を行えます。

- **PDF/Aサポート**オプションを使い、PDF/Aバージョンを選択できます。**バージョン1b**、**バージョン2b**、**バージョン3b**から選択可能です。
- **ブックマークを作成**オプションを使用すると、PDFファイルで名前付きビューのブックマークが自動的に生成されます。
- **準備ができたらビューアで開く**オプションを使用すると、PDFへの出力結果が自動的にビューアに表示されます。



34.16.8.2 プリンタ名

オペレーティングシステムでサポートされているプリンタ名を一覧表示します。

34.16.8.3 説明

プロッタの設定について説明します。ツールチップで表示されます。

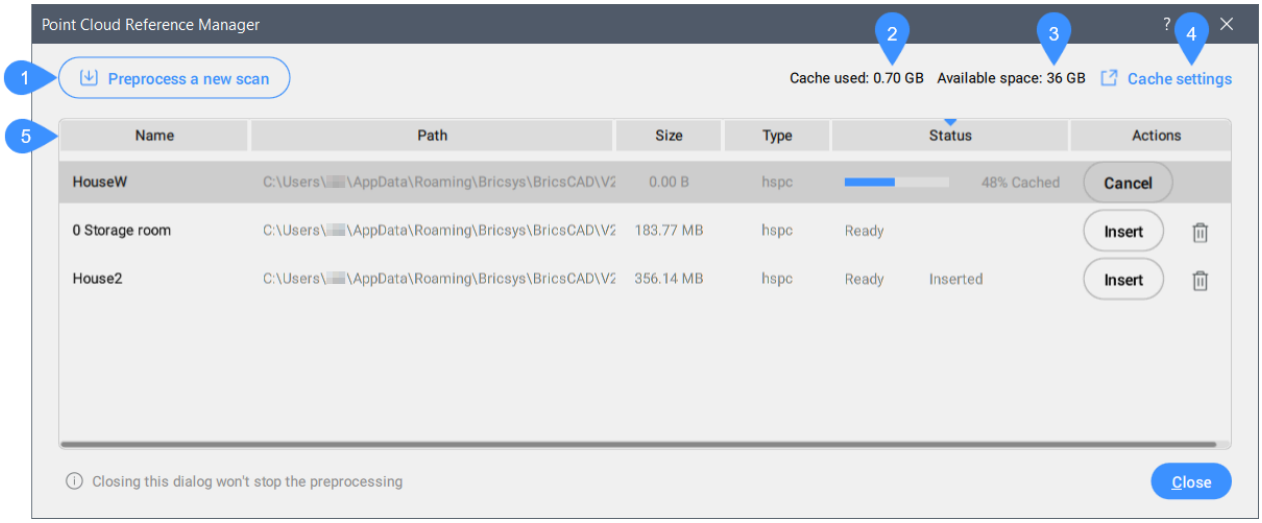
34.16.8.4 ドライバーの情報

ドライバーの基本情報を表示します。

34.16.9 点群参照マネージャー

POINTCLOUDREFERENCEを実行して開きます。

点群参照マネージャーダイアログボックスでは、処理が終わり、キャッシュに保存されている点群ファイルをカレント図面に挿入したり削除したりすることができます。



1 新規スキャンの前処理

2 使用キャッシュ

3 利用可能なスペース

4 キャッシュの設定

5 スキャン表

34.16.9.1 新規スキャンの前処理

前処理の対象とする新規の点群ファイル/フォルダーを選択すると、**点群をアタッチ**ダイアログボックスが開きます。処理中は、**点群参照マネージャー**ダイアログボックスの **ステータス**フィールドに**プログレスバー**が表示されます。 点群のキャッシュが終わると、通知バルーンが表示されます。

注：元データに地理情報が含まれている場合、その情報は点群の キャッシュ(点群がHSPC形式で前処理されている場合のみ)に格納されます。点群を選択したときに、**プロパティ**パネルの**その他**に 表示されます。DWGファイルの地理情報を点群の地理情報で上書きする場合 (点群のCRSがDWGのCRSと同じ場合にのみ可能) 、選択した点群の**ジオロケート**プロパティをオンにします。

34.16.9.2 使用キャッシュ

使用済みキャッシュの合計量を指定します。

34.16.9.3 利用可能なスペース

利用可能なキャッシュの合計量を指定します。

34.16.9.4 キャッシュフォルダー設定

設定ダイアログボックスが開き、点群キャッシュファイルを格納するフォルダーを指定するPOINTCLOUDCACHEFOLDERシステム変数を設定することができます。

34.16.9.5 スキャン表

使用可能な前処理された点群スキャンを一覧表示します。

列ヘッダーを右クリックすると、表のコンテキストメニューが表示されます。

- **列リスト**：リスト内の名前をクリックして、表の列を表示または非表示にします。
- **すべての列を表示**：表の列をすべて表示します。
- **列位置を復元**：表の列をすべてデフォルト位置に戻します。

表の列
列を表示または非表示にするには、列ヘッダーを右クリックし、コンテキストメニューで列の名前を選択します。

名前
点群ファイル名を表示します。

注：

- 点群キャッシュ名は、前処理された点群に対してユーザーが指定した名前です。これは、ユーザーが挿入する点群名を指定しない場合のデフォルトの点群名です。
- 全角文字も点群名として使用できます。

パス
点群ファイルの場所を表示します。

サイズ
点群ファイルサイズをMB単位で表示します。

状態
点群ファイルの状態を表示します：

- **プログレスバー**: ファイルの前処理を実行中です。
- **準備完了**：**挿入**または**削除**が可能です。
- **挿入済み**：カレント図面にファイルが挿入済みです。

アクション領域

キャンセル
ファイルの前処理を中断できます。点群ファイルが前処理され、使用できる状態になると、**キャンセル**ボタンが消えます。

挿入
点群をアタッチダイアログボックスが開き、カレント図面に点群ファイルをアタッチすることができます。

注：複数の挿入は、同じ点群名または異なる点群名を持つことができます。

削除
キャッシュから点群ファイルを削除します。

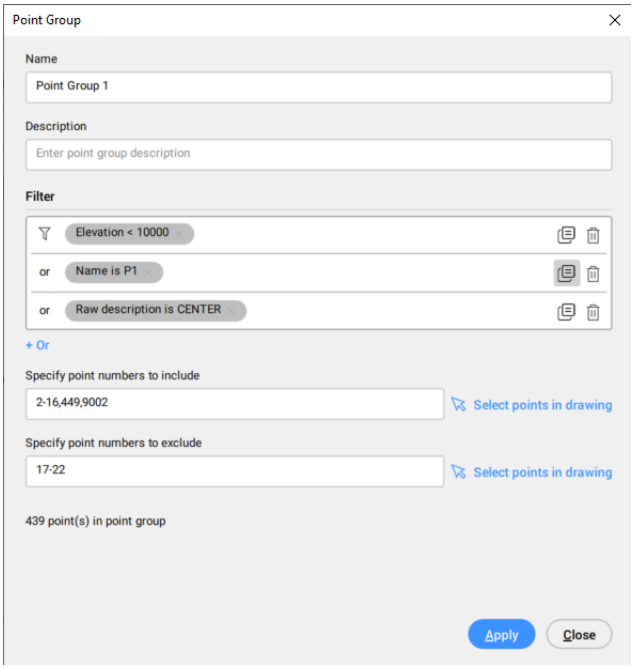
注：また、カレント図面内のその点群のすべての挿入(存在する場合)も削除されます。

種類
挿入されたファイルの前処理されたタイプが表示されます。POINTCLOUDHSPCシステム変数がオンの場合、ファイルはHSPCタイプとして挿入されます。

34.16.10 ポイントグループ

CIVILPOINTGROUPを実行して開きます。

ポイントグループダイアログボックスでは、土木ポイントグループの作成や編集を行えます。



注 : セルをクリックして内容を編集します。

名前
新しいフィルターを作成する新しいポイントグループの名前を入力することができ、また、既存のポイントグループの名前を表示できます。

注 : ポイントグループ名が定義されていない場合は、警告メッセージが表示されます。

説明
ポイントグループの説明を入力したり、既存のポイントグループの説明を表示することができます。

フィルター
選択したポイントグループにポイントを含める(または除外する)ための条件を指定するための新しいフィルターを作成したり、既存のフィルターを編集したりすることができます。

注 : フィルターを追加、複製、削除できます。

注 : 特定の図面に個別のフィルターを作成すると、その図面に後から挿入されるすべてのポイントにも影響を与えます。

フィルタリングに使用されるパラメータは以下の通りです。

- 高さ
- 名前
- 未処理注釈
- 完全な注釈
- 属性キーを入力
- ユーザー属性値

含めるポイント番号を指定
指定したフィルターに含まれるポイント番号を入力できます。

注 : フィールドの右側から矢印を押すと、図面からポイントを選択できます。

除外するポイント番号を指定
指定したフィルターから除外するポイント番号を入力できます。

注 : フィールドの右側から矢印を押すと、図面からポイントを選択できます。

注 :

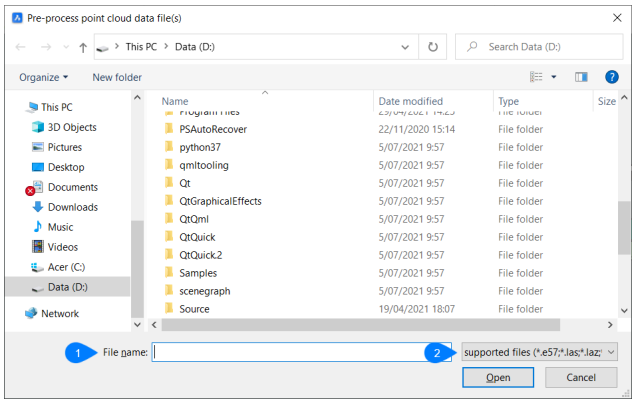
- フィルターが定義されていない場合は、警告メッセージが表示されます。
- 図面内に土木ポイントがない場合でも、ポイントグループを作成することが可能です。

34.16.11 点群データファイルの前処理

POINTCLOUDATTACHコマンドの**ファイル**オプションを実行して開きます。

34.16.11.1 概要

点群データファイルの前処理ダイアログボックスでは、点群ファイル(BricsCADのBPT形式に変換済みのもの)をカレント図面にアタッチすることができます。



1　ファイル名

2　サポートされているファイル

34.16.11.2 ファイル名

アタッチしたい点群データファイルの名前を指定します。

注：上のウィンドウで手動検索を行うことができます。

34.16.11.3 サポートされているファイル

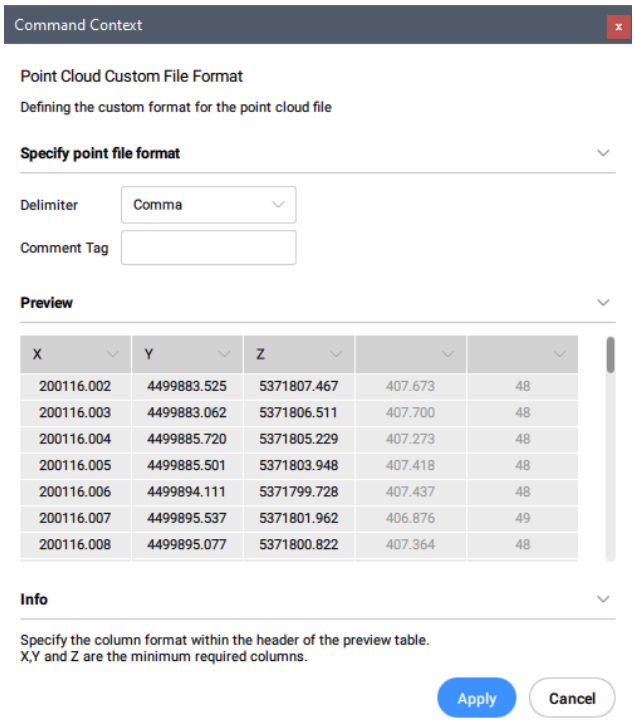
選択できるファイルタイプを指定します。

サポートされているファイル種類

は、*.e57、*.hspc、*.las、*.laz、.lgsx、*.pack、*.pts、*.ptx、*.rcp、*.rcs、*.rdbx、*.rsp、*.zfsです。

ドロップダウンリストで**すべてのファイル(*)**を選択した場合、前処理用のカスタムポイントファイル形式を選択できます。**点群カスタムファイル形式**のコマンドコンテキストが開き、カスタムファイル形式で使用するパラメータを定義できます。

カスタムポイントファイル形式を使用して、データ構造が標準ではない点群ファイルの解析ができます。ただし、データは表形式であることが必要です。区切り文字およびコメントタグ(省略可能)を指定することにより、データの最初の数行が読み取られ、ダイアログボックスにプレビュー表示されます。次に、列ヘッダーを指定できます。最低限X、Y、Zを指定する必要があります(R、G、B、Iは省略可能です)。プロセスを高速化するために、最初に区切り文字と列形式が推定されます(可能な場合)。commentタグを使用するとコメント行を無視できます(たとえば、コメント行が#記号で始まる場合は#)。



34.16.12 印刷

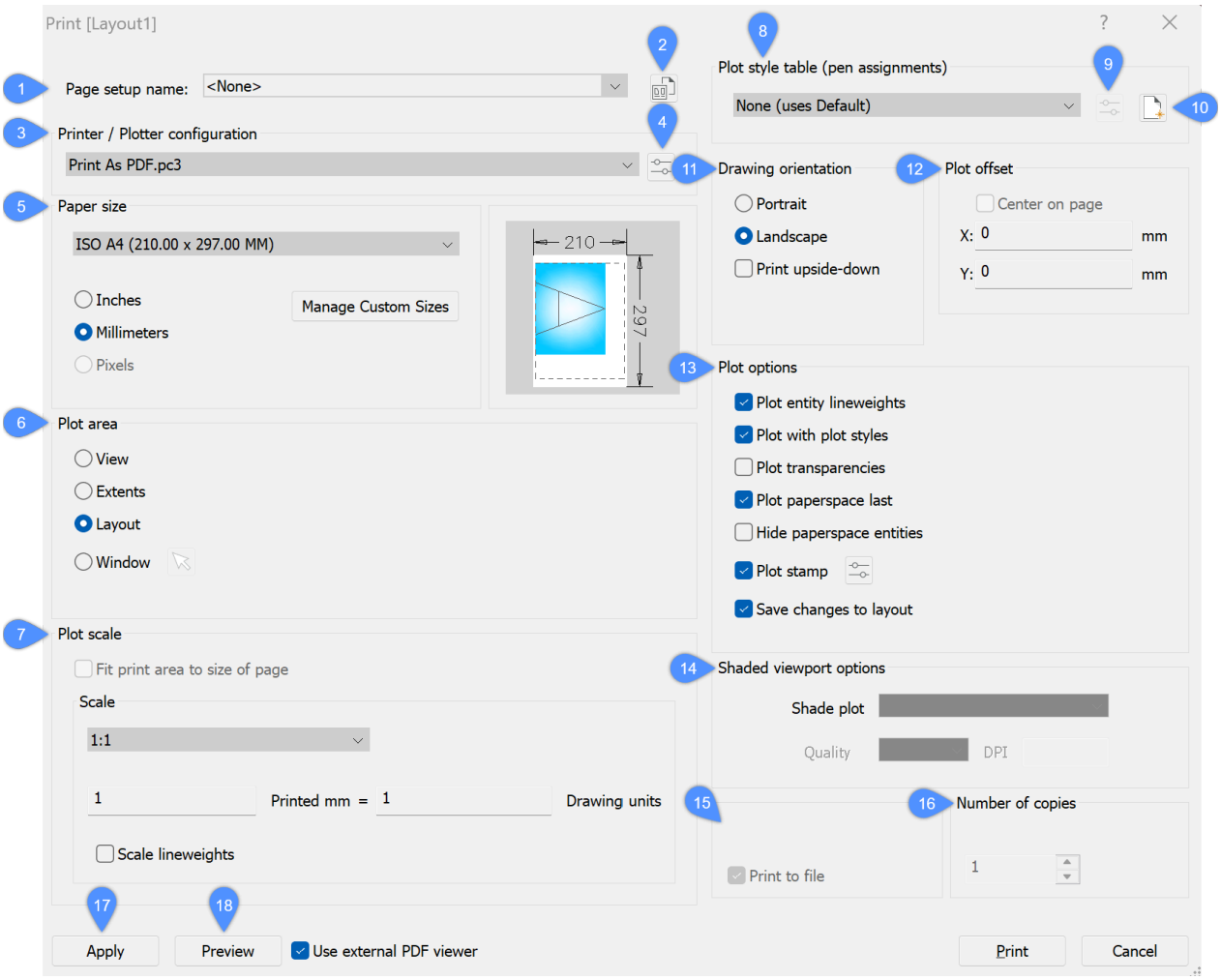
以下より開きます：

- PLOT [印刷]
- PRINT [印刷]

印刷ダイアログボックスでは、図面をプロッタやファイルに印刷したりプレビューすることができます。

要確認：

- macOSおよびLinuxでは、システムプリンターに印刷することはできません。**Print As PDF.pc3**プリンターにのみ印刷できます。したがって、PDFドキュメントが生成され、その後で、物理的な印刷のためにプリンタに送信する必要があります。
- macOSおよびLinuxでは、関連するPAGESETUPコマンドがあります。



1 ページ設定名
2 ページ設定を作成
3 プリンタ/プロッタの設定
4 印刷設定の編集
5 用紙サイズ
6 印刷領域
7 印刷尺度
8 印刷スタイルテーブル
9 印刷スタイルの編集
10 新規印刷スタイルを作成
11 用紙の向き
12 印刷オフセット
13 印刷オプション
14 シェードビューポートオプション

15 ファイルへ出力

16 コピー数

17 適用

18 プレビュー

34.16.12.1 ページ設定名

過去に使用したプリンタ/プロッタ設定をドロップダウンリストから選択することができます。

- **<なし>**：カレントのレイアウトまたはモデル空間に保存されたオプションを使用します。
- **<前回の印刷>**：前回印刷コマンドを使用したときの設定を使用します。
- 図面に保存されている他のページ設定の名前

34.16.12.2 ページ設定を作成

ページ設定を作成ダイアログボックスが開き、新しいページ設定を作成できます。PAGESETUPコマンドをご参照ください。

34.16.12.3 プリンタ/プロッタの設定

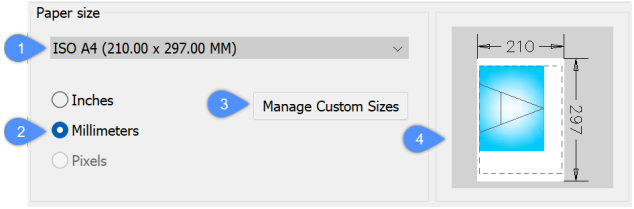
プリンタやプロッタをドロップダウンリストから選択できます。

このプログラムは、ネットワークプリンタ、ファイルへの出力、ファックス、PostScriptデバイスなど、システムにインストールされているあらゆる出力デバイスで動作します。また、PC3ファイルに保存される定義済みのプリンタパラメータも使用できます。

34.16.12.4 印刷設定の編集

プリンタのパラメータをカスタマイズし、PC3ファイルを作成するための**印刷設定編集**ダイアログボックスを開きます。PLOTTERMANAGERコマンドをご参照ください。

34.16.12.5 用紙サイズ



1 用紙サイズ一覧

2 単位

3 カスタムサイズを管理

4 プレビュー

用紙サイズ一覧

用紙のサイズを指定します。ドロップリストにあるスタンダードサイズやプリンターにサポートされているものから選択できます。多くの紙サイズが表示されますが、実際にプリンタがサポートしている用紙サイズを選択しましょう。

単位

- **インチ**：印刷に関する単位にインチ単位を使用します。
- **ミリメートル**：印刷に関する単位にメートル単位を使用します。

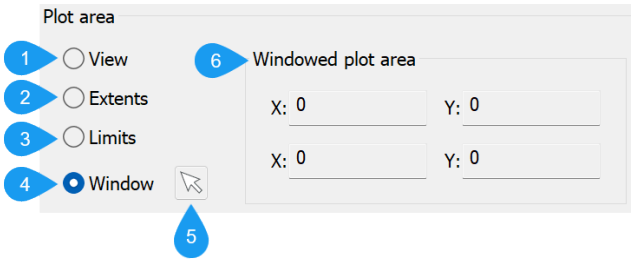
カスタムサイズを管理

注 : このオプションは、PDF、PNG、TIF、BMP、JPG出力で使用できます。

プリンタ/プロッタの設定リストで選択したPC3プリンタのカスタム用紙サイズを管理します。**カスタム用紙サイズ**ダイアログボックスが開き、独自の用紙サイズを作成できます。
定義済みのプロッタモデルパラメータ(PMP)ファイルを印刷設定(PC3)ファイルにアタッチできます。

プレビュー
イメージは、選択した用紙サイズ上の現在のプロットエリアのサイズ、位置、向きを示しています。

34.16.12.6 印刷領域



1 ビュー

2 図形範囲

3 レイアウト

4 窓

5 印刷領域を選択

6 窓の印刷領域

ビュー
カレントのビューまたは名前の付いたビューを印刷します。ドロップリストから1つ選択します。名前付きビューを作成するにはVIEWコマンドを使用します。

図形範囲
図面に表示されているすべての図形を範囲に含めて印刷します。フリーズ画層の図形は図形範囲の対象外となります。

レイアウト
カレントのレイアウトを印刷します。

窓
矩形で指定した範囲の図面を印刷します。

- 矩形領域を定義するには、X、Y座標を入力するか、**印刷領域を選択**ボタンをクリックします。
- 選択またはコマンドラインからの入力によって得られたX、Y座標は、**窓の印刷領域**ボックスに追加されます。便利な方法で値を編集することができます。

34.16.12.7 印刷尺度

図面を用紙サイズに合うように尺度変更します：

- **印刷領域を用紙のサイズにフィット**：尺度は、図面の印刷領域を考慮して、プログラムによって自動的に計算されます。このオプションをオンにしている場合、尺度係数を指定することはできません。
    - **印刷可能領域**は、用紙サイズから余白を除いた部分です。
    - **余白**は用紙の4辺の縁辺部分を指します。用紙の処理のためプリンタによって使用されます。
- **尺度**：プロットに使用する尺度係数を指定します。ドロップダウンリストから尺度係数を選択するか、**カスタム**オプションを選択すると、**ミリ/インチで印刷**と**作図単位**フィールドに独自の尺度係数を入力することができます。表示されている尺度係数は、SCALELISTEDITコマンドを使用して編集できます。
    - 例えば、尺度係数を1:5にすると、図面が縮小印刷されます。
    - また、尺度係数を5:1にすると、図面が拡大印刷されます。
- **線の太さの尺度**：このチェックボックスにチェックマークが付いている場合、線の太さは印刷尺度に対して尺度変更されます。

34.16.12.8 印刷スタイルテーブル

ペン、色と図形のプロパティを決める印刷スタイルテーブルを指定します。

- 図面で印刷スタイルを使用していない場合、CTB(color-based table)ファイルのみがリストされます。
- 図面で印刷スタイルを使用している場合、STB(style-based table)ファイルのみがリストされます。

印刷スタイルを**無し**から名前の付いたスタイルに切り替えると、BricsCADのプロンプトが表示されます。

すべてのレイアウトに印刷スタイルテーブルを適用しますか?

- **はい**：すべてのレイアウトにCTBまたはSTB印刷スタイルファイルを割り当てます。
- **いいえ**：印刷スタイルファイルをカレントのレイアウトにのみ割り当てます。

34.16.12.9 印刷スタイルの編集

印刷スタイルテーブルエディターダイアログボックスが表示されます。PLOTSTYLEコマンドをご参照ください。このボタンは、図面の印刷スタイルがSTBの場合のみ使用可能です。

34.16.12.1 新規印刷スタイルを作成

0

印刷スタイルテーブルを追加ダイアログボックスを開き、新しい印刷スタイルを作成します。STYLESMANAGERコマンドをご参照ください。

- 名前付き印刷スタイルを図面で使用していない場合、ウイザードは新しい色従属印刷テーブル(CTBファイル)を作成します。
- 名前付き印刷スタイルを図面で使用している場合、ウイザードは新しい名前の印刷スタイルテーブル(STBファイル)を作成します。

34.16.12.11用紙の向き

長方形の用紙上の図面の向きを指定します。

- **縦**：図面やレイアウトのX軸が選択用紙サイズの短いほうの端に合わせられます。

- **横**：図面やレイアウトのX軸が選択用紙サイズの長いほうの端に合わせられます。
- **上下を逆に印刷**：図面を逆さまに印刷します。これは、図面枠のある用紙をプリンタに逆向きに読み込む場合に便利です。

34.16.12.1 印刷オフセット
2

印刷のオフセット距離を指定します。

- **ページの中心**：余白を考慮して印刷をページの中央に配置します。印刷領域を用紙サイズにフィットで一致させます。このオプションは尺度が重要ではない印刷で効果を発揮します。
- **XおよびY**：正または負の距離を入力して、XまたはY距離で図面を移動します。
  - **正の値**：図面が上方向または右方向に移動します。
  - **負の値**：図面が下方向または左方向に移動します。

図面の左下コーナーが、指定した距離だけ移動します。タイトルブロックエリアなどが用紙よりはみ出しそうなとき、この機能が役立ちます。

34.16.12.1 印刷オプション
3

- **図形の線の太さを印刷**：線種の使用を切り替えます。
  - 図面に割り当てられた線の太さで印刷します。
  - オフ：線の太さを無視します。
- **印刷スタイルで印刷**：印刷スタイルの使用を切り替えます。
  - オン：印刷スタイルを使用して印刷図面の外観を決定し、線の太さの設定をオーバーライドします。
  - オフ：印刷スタイルを使用しません。
- **印刷の透過性**：透過性プロパティが割り当てられている図形を、図形ごとまたは画層ごとに印刷します。
- **ペーパー空間を最後に印刷**：印刷順序を指定します。
  - オン：モデル空間の図形を印刷してから、ペーパー空間の図形を印刷します。
  - オフ：ペーパー空間の図形を印刷してから、モデル空間の図形を印刷します。
- **ペーパー空間図形を非表示**：このチェックボックスにチェックマークが付いている場合、ペーパー空間の3D図形から隠線を削除します。モデル空間を印刷する場合、このオプションはオフになります。
- **印刷スタンプ**：印刷スタンプの使用を切り替えます。印刷スタンプデータを変更するには、**印刷スタンプを編集**ボタンをクリックします。PLOTSTAMPコマンドを参照してください。このオプションは、プリンター/プロッターの設定が**Print As PDF.pc3**に設定されている場合は利用できません。
  - オン：印刷スタンプデータを適用します。
  - オフ：印刷スタンプを適用しません。
- **レイアウトへ変更を保存**：このダイアログボックスで変更したオプションを保存するかどうかを指定します。このダイアログボックスを次回使用するときは、印刷設定を使用ドロップダウンリストからレイアウトを選択できます。
  - オン：このダイアログボックスに行った変更をレイアウトと共に保存します。
  - オフ：変更は保存されません。

34.16.12.1 シェードビューポートオプション

4

モデル空間の印刷時に、カレントのビューのビジュアルスタイルをオーバーライドします。

図面をプロットするシェードスタイルをドロップダウンリストから選択します。

ペーパー空間レイアウトを印刷する場合、このオプションはオフになります。ペーパー空間ビューポートの**シェード印刷**モードは、ビューポートの**シェード印刷**プロパティで定義されます。**レンダリング**オプションの品質はカレントのレンダリング初期設定で定義されます。RENDERPRESETSコマンドを参照ください。

34.16.12.1 ファイルへ出力

5

チェックを入れると、印刷出力を*.pltファイルにリダイレクトします。このファイルは、特定の種類のソフトウェアで処理できます。

34.16.12.1 コピー数

6

印刷部数を指定します。数字を入力するか、矢印ボタンをクリックして値を変更します。

34.16.12.1 適用

7

このダイアログボックスに加えた変更を適用します。次回このコマンドを使用するときに、変更内容が記憶されています。これは、PAGESETUPコマンドを使用する場合と同様です。

34.16.12.1 プレビュー

8

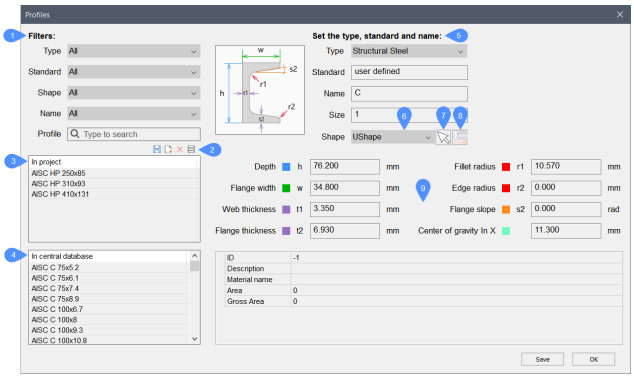
印刷プレビューを表示します。プレビューウインドウで**印刷設定**ボタンをクリックすると、このダイアログボックスに戻ります。PREVIEWコマンドをご参照ください。

34.16.13 プロファイル

以下より開きます：

- BIMPROFILES [BIMプロファイル]
- BIMAPPLYPROFILE [プロファイルを適用]
- BIMBEAM [BIM梁]
- BIMCOLUMN [柱ソリッド作成]
- BIMLINEARSOLID [線形ソリッド]

カレントのプロジェクトのプロファイルライブラリや参照ライブラリを開きます。



1 フィルター

2 ツール

3 プロジェクト内

4 セントラルデータベース内

5 カスタムフィールド

6 形状

7 モデルのプロファイルをピック

8 プロファイルオフセットを設定

9 プロファイルのプロパティ

34.16.13.1 フィルター

プロファイル一覧を種類、標準、形状、名前で絞り込むことができます。

- **種類**：**すべて**、**HVAC**、**配管**、**構造用鋼**のオプションがあります。これらの種類で新しいプロファイルを作成した場合、**電気**、**ジェネリック**、**構造用コンクリート**オプションをフィルターとして使うことができます。
- **標準**：**標準**オプションは各国と地域の標準規格です。**すべて**、**AISC**(米国鉄骨構造協会)、**AS**(オーストラリア鋼)、**BS**(英国鋼)、**CNS**(中国国家標準)、**EURO**(欧州標準鋼プロファイル)、**GOST**(ロシア鋼規格)、**HVAC**、**JIS**(日本工業規格)、**パイプ**、**SAISC**(南部アフリカ鋼構造協会)、および **STO ASChM** (ロシア鋼規格)から選択できます。新しいプロファイルを作成した場合、**ユーザ定義**オプションもフィルターとして使うことができます。
- **形状**：**すべて**、**円**、**円形の穴**、**カスタム形**、**I形**、**L形**、**矩形**、**矩形の穴**、**T形**、**U形**から選択できます。選択された規格によっては、一部の形状が選択できない場合があります。これらの形状で新しいプロファイルを作成した場合に、**非対象I形**、**クレーンレールA形**、**クレーンレールF形**、**長円**、**角丸長方形**、**台形**、**Z形**オプションをフィルターとして使うことができます。
- **名前**：選択した文字列でプロファイルを絞り込みます。
- **プロファイル**：文字列を選択します。選択した文字列が含まれているプロファイルのみが記載されています。

34.16.13.2 ツール

- **プロファイルを保存**：現在編集しているプロファイルを保存します。
- **新しいプロファイル**：新規のプロファイルを作成します。
- **プロファイルを削除**：選択したプロファイルを削除します。

- **プロジェクトとライブラリの情報**：**BIMプロジェクト情報**ダイアログボックスが開きます。**読み込み**ボタンを押して、プロジェクトデータベース(BSYSLIB)のXML/CSVファイルを含むプロファイルを読み込みます。

34.16.13.3 プロジェクト内

現在のプロジェクトで使用されている利用可能なプロファイルを、上記のフィルターを使って一覧表示します。

34.16.13.4 セントラルデータベース内

利用可能なプロファイルを、上記のフィルターを使って一覧表示します。

34.16.13.5 カスタムフィールド

選択したプロファイルの特性を一覧表示したり、新しいプロファイルを作成する場合には、その種類、規格、名前を設定します。

34.16.13.6 形状

ドロップダウンリストから形状を選択します。

34.16.13.7 モデルのプロファイルをピック

閉じた2D図形か、囲まれたエリアの境界図形を選択します。

34.16.13.8 プロファイルオフセットを設定

プロファイルオフセットを設定します。

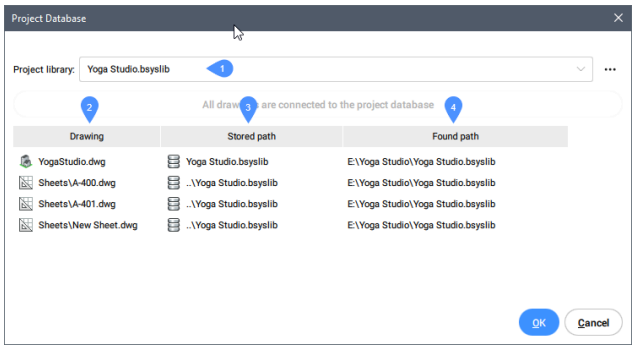
34.16.13.9 プロファイルのプロパティ

選択したプロファイルのプロパティを表示したり、新しいプロファイルのプロパティを設定したりします。

34.16.14 プロジェクトデータベース

BIMプロジェクトブラウザパネルから開きます。

プロジェクトのデータベースの場所を表示します。すべての図面がプロジェクトデータベースに接続されています



1 **プロジェクトライブラリ**：現在のプロジェクトフォルダーにある、見つかったすべてのbsyslibファイルをリストアップします。ドロップダウンリストから別のものを選択することで、bsyslibを変更することができます。参照ボタンを押すと、**プロジェクトライブラリ名**ダイアログボックスが開き、現在のライブラリファイルの名前を変更することができます。

2 **すべての図面がプロジェクトデータベースに接続されています**：すべての図面をワンクリックでプロジェクトライブラリにリンクさせることができます。(このライブラリを外部のbsyslibとして設定)

注 : このボタンは、現在のライブラリファイルにすべての図面が接続されていない場合にのみ有効です。

注 :まだプロジェクトデータベースに接続されていない図面には黄色い三角マークが表示され、右クリックで開くコンテキストメニューからオプションを選択することで、データベースに接続することができます。

3 **図面**：プロジェクトの図面を表示します。

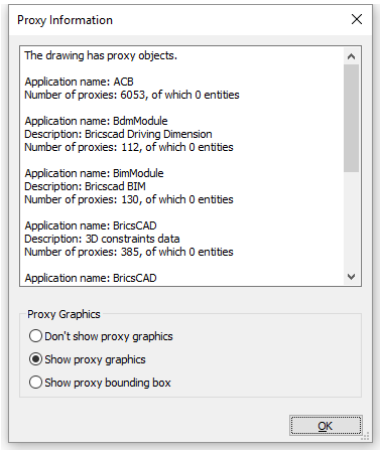
4 **保存されたパス**：各図面のパスを表示します。

5 **検索パス**：図面の見つかったパスを表示します。

34.16.15 プロキシ情報

PROXYINFOコマンドを実行して開きます。

プロキシ情報ダイアログボックスには、プロキシ図形に関する情報が表示され、現在の図面でのプロキシ図形の表示/非表示が切り替わります。



34.16.15.1 プロキシグラフィック

図面にプロキシグラフィックを表示するかどうかを設定します：

- **プロキシグラフィックを非表示**：プロキシグラフィックの表示をオフにします。
- **プロキシグラフィックを表示**：プロキシグラフィックの表示をオンにします。
- **プロキシ境界ボックスを表示**：プロキシの代わりに矩形または立方体を表示します。

34.16.16 パブリッシュ

PUBLISHコマンドを実行して開きます。

パブリッシュダイアログボックスでは、1つまたは複数の図面、レイアウト、シートをプリンタに送信したり、PDF形式で書き出したりすることができます。図面の一括印刷に便利です。

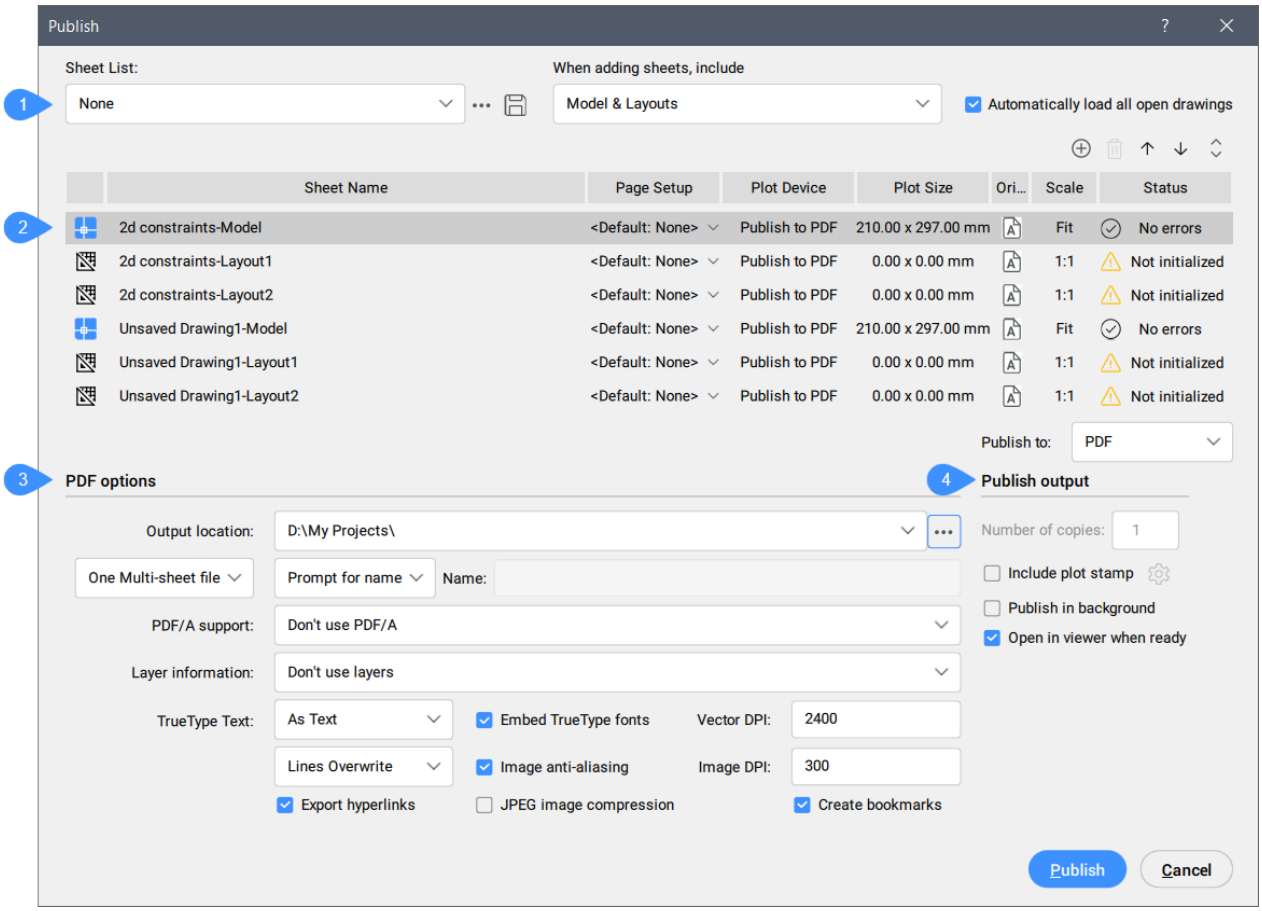
BricsCADの起動時に図面を一括して印刷するには、ターミナルで以下のコマンドを記述します。

```
bricscad.exe /pl <"the path of your *.dwg file"> <"the path of your *.dsd file">
```

例えば、

bricscad.exe /pl "C:\Users\user\Desktop\doc.dwg""C:\Users\user\Desktop\doc.dsd"

注：図面エクスプローラダイアログボックスの**ページ設定管理**セクションで、使用するプリンタを**デバイス名**フィールドに入力して設定します。



1 シート選択

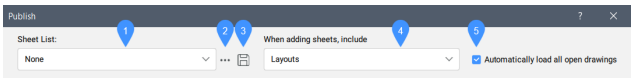
2 シート一覧のプレビュー

3 PDFオプション

4 パブリッシュ出力

34.16.16.1 シート選択

シートの一覧を表示します。*.dsdファイル(パブリッシュ用の図面シート)がある場合は、それを選択すると**シート一覧をロード**ダイアログボックスが表示されます。



シート一覧

選択したシート一覧を指定します。シート一覧はドロップダウンメニューで選択できます。

シートリストをロード
保存されたシート一覧をロードします。**シート一覧をロード**ダイアログボックスが開きます。現在のシート一覧をまだ保存していない場合は、保存を求められます。
既存の名前のファイルを読み込む場合、**シート一覧をロード**ダイアログボックスで**開く**ボタンを押すと、シートを一覧に置換するか追加するかを尋ねられます。

シート一覧を保存
現在のシート一覧を*.dsd(Drawing Set Description)ファイルに保存します。**シート一覧を保存**ダイアログボックスが開きます。

シートの追加時、以下を含む
シートの追加ボタンを使用して新しいシートをロードするときに、どのシートを含めるかを決定します。ドロップダウンボタンをクリックして、**モデル**、**レイアウト**、**モデルとレイアウト**から選択します。

- **モデル**：選択した図面のモデルタブのみ含みます。
- **レイアウト**：選択した図面のレイアウトタブのみ含みます。
- **モデルとレイアウト**：選択した図面のモデルタブとレイアウトタブの両方を含みます。

すべての開かれている図面を自動的にロード
特別なケースをどのように扱うかを決定します：

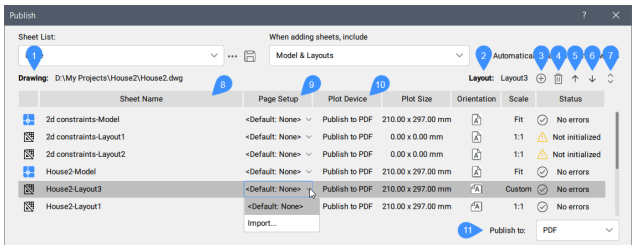
- **オン**(チェック)：すべてのモデル空間および/またはペーパー空間のレイアウトを、印刷するシートのリストに追加します。
- **オフ**(チェックなし)：カレント図面のモデル空間および/またはペーパー空間のレイアウトのみを追加します。

オプションはまた、PUBLISHALLSHEETSシステム変数の値を設定します。

注：PUBLISHCOLLATEシステム変数は、シートセットの印刷プロセスを他の印刷ジョブによって中断できるかどうかを決定します(複数シートの印刷または印刷オプションをサポートする印刷ドライバの場合)。

34.16.16.2 シート一覧のプレビュー

選択したすべてのシートの特性を表示します。



図面
一覧で選択した図面ファイルのパスを指定します。

図面範囲
一覧で選択した図面のレイアウトを指定します。

シートを追加
図面を選択ダイアログボックスを表示してシートをロードします。

シートを削除
選択したシートをシート一覧から削除します。

シートを上へ移動
選択したシートを一覧内で1ポジション上に移動します。

シートを下へ移動
選択したシートを一覧内で1ポジション下に移動します。

シートの順番を反転
シート一覧の順序を逆にします。

ページ設定
各シートのページ設定名を指定します。**ページ設定**フィールドをクリックし、下向き矢印をクリックして別のページ設定を選択するか、**読み込み...**を選択して他の図面のページ設定を読み込みます。**ページ設定を読み込み**ダイアログボックスが開きます。

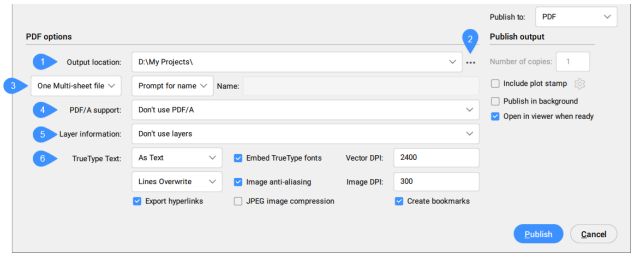
印刷デバイス
シートの**ページ設定**で定義されている印刷デバイスの名前です。

パブリッシュ：

PDF
PDFオプションセクションが表示されます。

ページ設定でのプリンタ名
印刷デバイスフィールドに表示されているプロッタにパブリッシュします(**ページ設定**ダイアログボックスで設定)。

34.16.16.3 PDFオプション



位置を出力
PDFが保存されるパスが表示されます。

参照ボタン
フォルダーを選択ダイアログボックスが開き、パスを変更できます。

出力ファイル
オプションを選択します。

個別ファイル
各レイアウトが別々のPDFファイルにパブリッシュされます。ファイル名は、<図面>_<レイアウト>.pdfになります。

名前のオプション
オプションを選択します。

- **シート名を使用**: PDFにシートファイルと同じ名前を付けます。
- **レイアウト名を使用**: PDFにレイアウトと同じ名前を付けます。
- **図面名を使用**: PDFにDWGファイルと同じ名前が付けられます。

一つのファイルにまとめる
レイアウトは 1 つのPDFファイルにパブリッシュされます。名前を指定できます。または、パブリッシュの開始時に名前の入力が求められるようにすることもできます。

名前のオプション
オプションを選択します。

- **名前のプロンプト**：**パブリッシュ**ボタンを押すと、**PDFファイル名を指定**ダイアログボックスでPDFの名前を挿入するように求められます。
- **名前を指定**: **名前**フィールドに入力できるようになります。PDF名を挿入します。
- **名前を生成**：PDFに図面と同じ名前が付けられます。

PDF/Aサポート
ドロップダウンリストからオプションを選択できます。**PDF/Aは使用しない**(デフォルトのオプション)、**PDF/A-1bバージョンを使用**、**PDF/A-2bバージョンを使用**、**PDF/A-3bバージョンを使用**から選択可能です。

画層情報

- **画層は使用しない**：画層を書き出しません。
- **表示図形のすべての画層を使用**：カレントがオンに設定され、フリーズが解除されている画層のみ書き出します。
- **オフやフリーズ画層を含む、図形の画層を使用**：図形が含まれているすべての画層を書き出します。

TrueTypeテキスト
オプションを選択します。

- **テキストとして**：PDF内のテキストが図面内と同じに見えるようにします。
- **ジオメトリとして**：図形に変換すると、ファイルサイズが大きくなり、高倍率で見るとピクセル化することがあります。

結合コントロール
重なり合っている線をマージするか、重ねるかを決めます。
オプションを選択します。

- **線分上書き**：上の線分が下の線分を上書きします。
- **線分結合**：交差線の色をブレンドした混合色で表示します。

ハイパーリンクを書き出し
チェックすると、*.pdfのハイパーリンクを書き出すことができます。

埋め込みTrueTypeフォント
フォントが埋め込まれていない場合は、PDFビューアで代替フォントが使用されることがあります。

注：ライセンスされたフォントを埋め込むことはできません。

イメージアンチエイリアシング
画像の解像度が低すぎて「画像DPI」の設定に合わない場合、アンチエイリアス(人工的に画素を生成)をかけて、ラスター画像をより滑らかに見せます。この設定を行わないと、解像度が低すぎる画像がそのまま埋め込まれます。

JPEGイメージ圧縮
この設定は、PDFに含まれるすべてのラスター画像(ラスター画像とレンダリングされたビューの両方)に適用されます。これらの画像にJPEG圧縮をかけて、PDFのファイルサイズを小さくします。オフにすると、画像は生のビットマップとして埋め込まれます。JPEG圧縮は、生のビットマップに比べて非可逆的であるため、小さな欠陥が生じます。

ベクトルDPI
ベクトルグラフィックおよびグラデーションの解像度をコントロールします。

イメージDPI
ラスター画像の場合、PDF内の仕上がり画像の解像度を定義します。この設定では、元のラスター画像の解像度を下げて、ギガバイト級のラスター画像をPDFに含めないようにすることができます。印刷の場合、解像度はプリンタの出力解像度に合わせる必要があります。画面表示には高解像度(2400dpi以上)が必要です。

ブックマークを作成
一つのファイルにまとめるオプションを選択すると、出力ファイル内のシートごとにブックマークが作成されます。

34.16.16.4 パブリッシュ出力

シートをパブリッシュするプロッタを指定します。

注：パブリッシュを**ページ設定でのプリンタ名**に設定すると、このダイアログボックスにPDFオプションが表示されなくなります。

コピー数
印刷する各シートの部数を設定します。

印刷スタンプを含む
このオプションをチェックすると、印刷スタンプが追加されます。

印刷スタンプの編集
印刷スタンプダイアログボックスが開きます。

バックグラウンドパブリッシュ
バックグラウンドでシートを公開するかどうかを決定します。

- **はい**：シートはバックグラウンドで発行されるため、プリントの作成に時間がかかりますが、プログラムで作業を続けることができます。
- **いいえ**：シートはフォアグラウンドで発行され、高速になりますが、印刷ジョブが完了するまでプログラムでの作業ができなくなります。

BACKGROUNDPLOTシステム変数は、ドキュメントをフォアグラウンドで公開するか、バックグラウンドで公開するかをコントロールします。

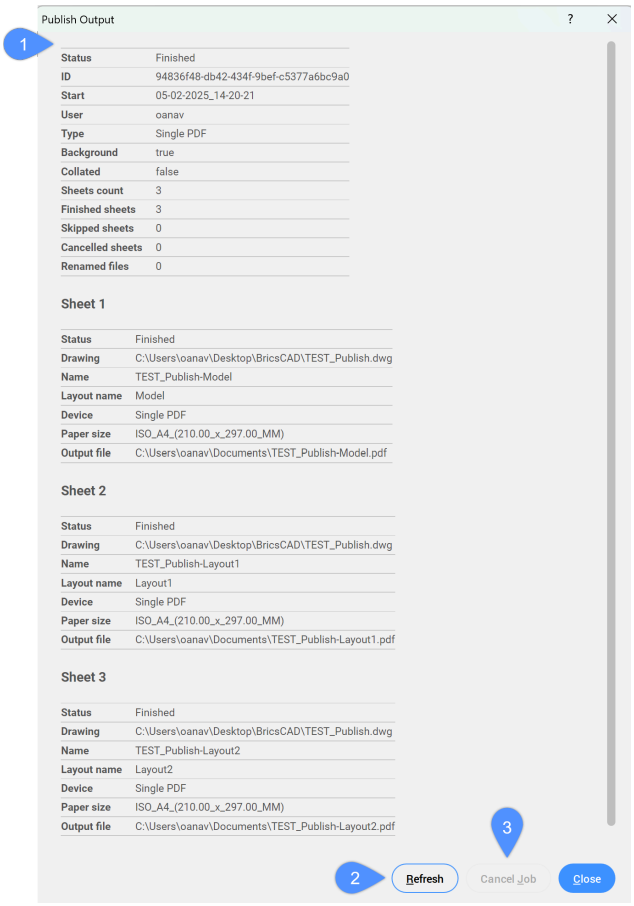
準備ができたらビューアで開く
シート一覧の準備が完了したときに、ビューアで開くかどうかを決定します。

注：このオプションは、**パブリッシュ**が**ページ設定でのプリンタ名**に設定されている場合は使用できません。**パブリッシュ**が**PDF**に設定されている場合のみ使用できます。

34.16.17 パブリッシュ出力

VIEWPLOTDETAILSコマンドを実行して開きます。

パブリッシュ出力ダイアログボックスは、パブリッシュジョブの詳細や発生したエラーを表示したり、進行中のパブリッシュジョブをキャンセルしたりします。



パブリッシュ出力詳細(1)
完了したパブリッシュジョブや発生したエラーに関する詳細情報が表示されます。また、進行中のパブリッシュジョブを監視することもできます。

注：シート数をチェックして、すべてのシートが適切に処理されたことを確認します。以下が表示されます：

- **シート数**：印刷を指定したシートの総数が表示されます。
- **作成したシート**：印刷したシートの数が表示されます。
- **スキップしたシート**：印刷できなかったシートの数が表示されます。
- **キャンセルしたシート**：キャンセルしたシートの数が表示されます。
- **名前が変更されたファイル**：名前が変更されたファイルの数が表示されます。シートは印刷されたものの、名前の競合や不正な文字を避けるために名前が変更されたファイルを意味します。

リフレッシュ(2)
パブリッシュジョブの一覧を更新して、処理が終わる前の進捗を表示します。

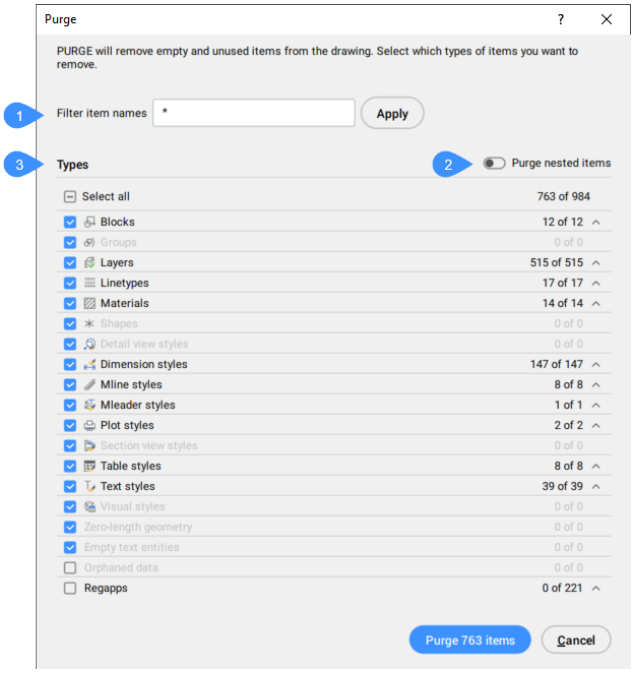
ジョブをキャンセル(3)
処理中のパブリッシュジョブを中止します。

注：パブリッシュ処理が進行中の場合のみ表示されます。処理が終わるかキャンセルした場合、ボタンはグレー表示されます。

34.16.18 名前削除

PURGEコマンドを実行して開きます。

名前削除ダイアログボックスでは、図面から削除する項目の種類および削除する項目を選択できます。



1 項目名をフィルタリング

2 入れ子のアイテムを削除

3 種類

34.16.18.1 項目名をフィルタリング

図面内の項目名にフィルターを適用します。

34.16.18.2 入れ子のアイテムを削除

有効にすると、入れ子状のアイテムがすべて削除されます。このため、名前削除を何回も実行せずに済みます。

34.16.18.3 種類

削除される項目のさまざまな種類のオン/オフを切り替えることができます。

ブロック
現在の図面から未使用のブロック定義を削除します。

詳細ビュースタイル
未使用の詳細ビュースタイルを削除します。

寸法スタイル
現在の図面から未使用の寸法スタイルを削除します。

グループ
現在の図面から未使用の名前付きグループを削除します。

画層
現在の図面から未使用の画層を削除します。

線種
現在の図面から未使用の線種を削除します。

マテリアル
現在の図面から未使用のマテリアルを削除します。

マルチラインスタイル
現在の図面から未使用のマルチラインスタイルを削除します。

マルチ引出線スタイル
現在の図面から未使用のマルチ引出線スタイルを削除します。

印刷スタイル
現在の図面から未使用の印刷スタイルを削除します。

登録アプリ
現在の図面から未使用のRegappを削除します。

注：Regapp(登録アプリ)キーは、サードパーティのアプリケーションによる図面内の図形に追加情報を添付するために使用します。

断面ビュースタイル
現在の図面から未使用の断面ビュースタイルを削除します。

シェイプ
LOADコマンドで図面にロードされた未使用の形状を削除します。

表スタイル
現在の図面から未使用の表スタイルを削除します。

文字スタイル
現在の図面から未使用の文字スタイルを削除します。

表示
現在の図面から未使用のユーザー定義の表示スタイルを削除します。

注：ユーザー定義の表示スタイルのみ名前削除が可能です。ハードコードされた表示スタイルは名前削除できません。

ゼロ長の形状
長さのないジオメトリを削除します。

空の文字図形
現在の図面から空の文字図形を削除します。

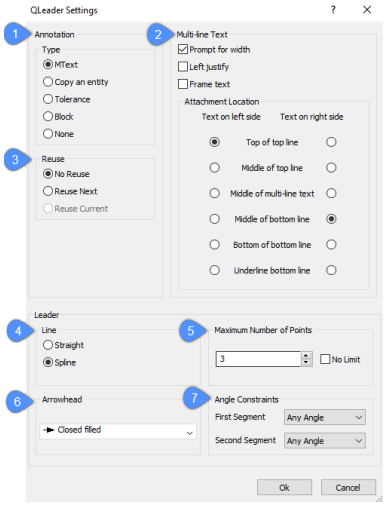
単独データ
図面スキャンを行い、未使用のDGN線種データを削除します。

34.17 Q

34.17.1 クイック引出線設定

QLEADERコマンドを実行して開きます。

クイック引出線設定ダイアログボックスでは、引出線のプロパティを指定できます。



1 注釈記入

2 マルチテキスト

3 再使用

4 引出し線

5 折り曲げ数の上限

6 矢印

7 角度拘束

34.17.1.1 注釈記入

注釈のタイプを指定します :

- **マルチテキスト**：引出線行の注釈としてテキストが配置されます。引出線は1行以上のテキストを持つことができます。

  注 : テキストを入力するときには(MLeaderコマンドと同様に)表示されませんが、注釈を編集するときには(テキストをダブルクリックして編集するときには)マルチテキストエディターが表示されます。
- **図形を複写**：図面内の任意の他の図形(リーダー自身以外)を注釈として使用します。
- **幾何公差**：**幾何公差**ダイアログボックスを表示し、注釈文字の代わりに公差表記を挿入します。TOLERANCEコマンドを参照してください。
- **ブロック設定**：図面上のブロックまたは外部ブロックを注釈として使用します。表示されるプロンプトは、-INSERTコマンドの場合と同じです。
- **無し**：注釈は使用しません。

34.17.1.2 マルチテキスト

注 : このオプションは、注釈タイプがマルチテキストの場合にのみ使用できます。

一部のマルチラインオプションを指定します :

- **プロンプトの幅**：文字幅を指定するかどうか設定します。
  - オン：テキストの幅を指定してくださいというプロンプトを表示するので、指定された幅に合わせてテキストを折り

返します。
    - オフ：プロンプトを無効にします。
- **左揃え**：文字揃えを決定します。
    - オン：テキストを常に左寄せにします。
    - オフ：着地点の向きに応じて、テキストが左寄せまたは右寄せになります。
- **文字をフレームで囲む**：文字枠の使用を設定します。
    - オン：テキストを囲むように長方形を配置します。
    - オフ：フレームはありません。
- **アタッチ位置**：マルチテキストが参照線に接続する相対位置を決定します。

34.17.1.3 再使用

注釈の再利用方法を指定します：

- **再使用不可**：コマンドを実行するごとに、新しいテキストを入力するよう求められます。
- **次回に再使用**：新しいテキストを入力するように求められますが、入力したテキストは次の引出線に再利用されます。
- **カレントで再使用**：現在のテキストがそのまま引出線に再利用され、新たにテキストを入力するよう求められません。

34.17.1.4 引出し線

引出線のスタイルを指定します：

- **直線**：直線で引出線を作図します。
- **スプライン**：なめらかな連続したスプラインで引出線を作図します。

34.17.1.5 折り曲げ数の上限

引出線が自動的に作図を停止するまでの、最大の頂点数を指定します。

- 数字を入力します。最小の数字は2です。
- **制限無し**：「次の点」のプロンプトでEnterを押すまで、引出線の作図を続けます。

34.17.1.6 矢印

引出線の先頭に表示される矢印の種類を指定します。

- 矢印のタイプを選択します。
- **無し**：矢印は作図しません。
- **矢印を選択**：現在の図面の中のブロックからブロックを選択します。**カスタム矢印ブロックを選択**ダイアログボックスが表示されます。関連記事「**カスタム矢印ブロックを選択**」**ダイアログボックス**を参照してください。

カスタム矢印を作成するには、好きな形を作図した後、BLOCKコマンドでブロックにします。

34.17.1.7 角度拘束

第1および第2のリーダーセグメントを拘束する角度を設定します。角度は増分で、たとえば「15」を選ぶと、0、15、30、45.....と角度を変えて引出線を描くことができます。

ドロップダウンリストをクリックして、オプションを選択します：

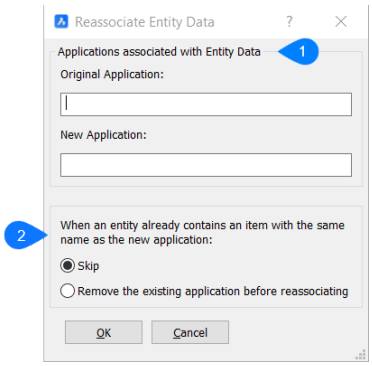
- **任意の角度**：拘束はなく、Shiftを押しながら作図すると引出線が90度になります。
- **水平**：強制的に引出線を90度のみで作図します。
- **90°**：90度刻みで引出線を作図します。
- **45°**：45度刻みで引出線を作図します。
- **30°**：30度刻みで引出線を作図します。
- **15°**：15度刻みで引出線を作図します。

34.18 R

34.18.1 拡張データの関連性を再作成

REASSOCAPPコマンドを実行して開きます。

拡張データの関連性を再作成ダイアログボックスでは、拡張された図形データを特定のアプリケーションに関連付けることができます。



1 拡張データと関連するアプリケーション

2 オプション

34.18.1.1 拡張データと関連するアプリケーション

元のアプリケーション
既存アプリケーション名を指定します。

新規アプリケーション
新規アプリケーション名を指定します。図形がアプリケーション名で再度関連付けされます。

34.18.1.2 オプション

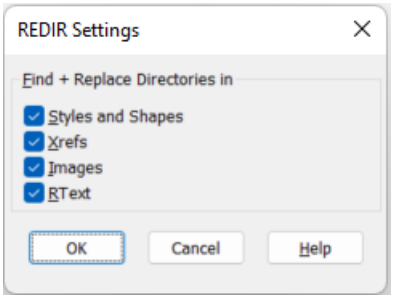
スキップ
新しいアプリケーションと同じ名前のアイテムがすでに含まれている図形をスキップします。

関連性を再作成する前に、既存のアプリケーションを除外
関連性を再作成する前に既存のアプリケーションを削除します。

34.18.2 パス再定義設定

REDIRコマンドを実行して開きます。

パス再定義設定ダイアログボックスで、REDIRコマンドに含める図形の種類を定義します。

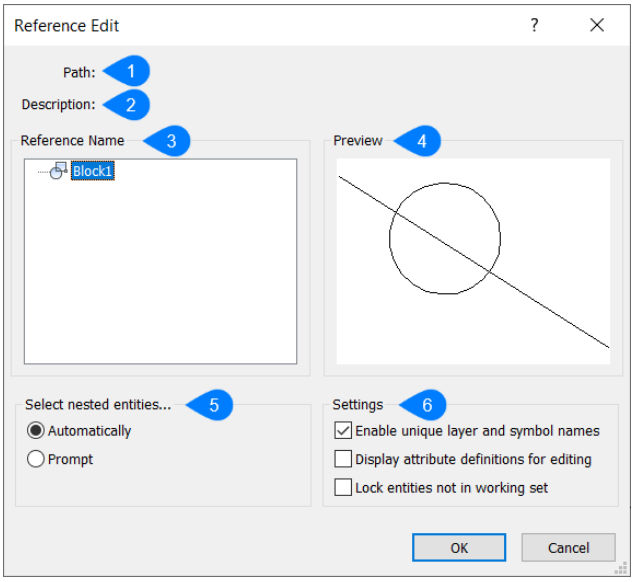


注：少なくとも1つのオプションを選択する必要があります。

34.18.3　外部参照編集

REFEDITコマンドを実行して開きます。

外部参照編集ダイアログボックスでは、ブロック参照や外部参照図面を編集することができます。



1　パス

2　説明

3　参照名

4　プレビュー

5　入れ子の図形を選択

6　設定

34.18.3.1　パス

パスの名前を表示します。

34.18.3.2 説明

パスの説明を表示します。

34.18.3.3 参照名

ブロックや入れ子の図形の名前をリスト表示します。

34.18.3.4 プレビュー

カレントの参照のプレビューを表示します。

34.18.3.5 入れ子の図形を選択

入れ子されたブロック/外部参照がどのように扱われるかを決定します。

自動
入れ子状のすべての図形を自動的に選択します。

プロンプト
OKを押してダイアログボックスを閉じた後に、入れ子状の図形を選択すると、その図形が含まれます。

34.18.3.6 設定

編集中に図形がどのように扱われるかを決定します。

単一画層とシンボル名を有効化
0 画層と他の画層名の使用を切り換えます。

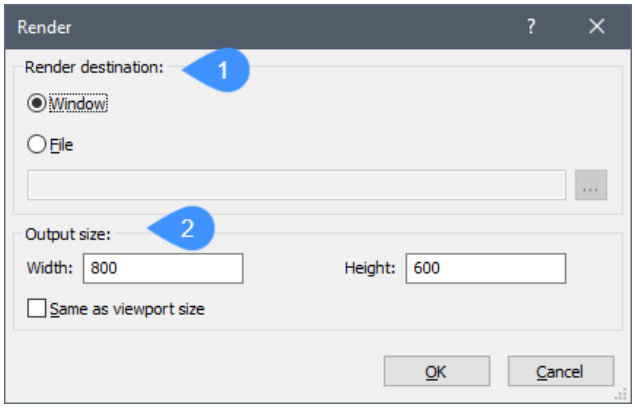
編集する属性定義を表示
属性定義を切り換えます。

作業セットにない図形をロックする
編集されていない図形のロックを切り換えます。

34.18.4 レンダリング

RENDERコマンドを実行して開きます。

レンダリングダイアログボックスでは、マテリアルやライトを使ってフォトリアリスティックなレンダリングを生成することができます。



1 レンダリングの対象

2 出力サイズ

34.18.4.1 レンダリングの対象

レンダリングが表示される場所を指定します。

窓
レンダリングを新しいウィンドウで生成します。

ファイル
レンダリングをファイルに保存します。**参照**ボタンを選択すると、**レンダリング出力ファイル**ダイアログボックスが開きます。

34.18.4.2 出力サイズ

グリップボックスのサイズをピクセル単位で指定します。サイズが大きくなると、より詳細な情報が得られますが、レンダリングに時間がかかります。

幅
レンダリングの幅をピクセル単位で指定します。

高さ
グリップボックスのサイズをピクセル単位で指定します。

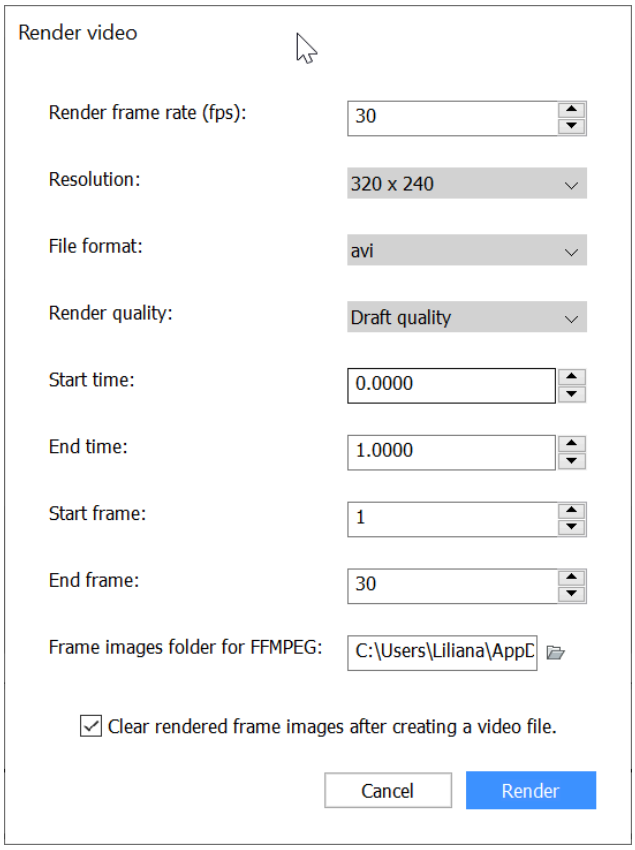
ビューポートサイズと同じ
出力サイズまたは出力ウィンドウのサイズを、現在のビューポートサイズに合わせます。

34.18.5 ビデオをレンダリング

以下より開きます：

- **アニメーション編集**パネル
- -ANIMATIONEDITORPLAYBACK [アニメーション再生]

ビデオをレンダリングダイアログボックスでは、アニメーションのレンダリングオプションを設定できます。



レンダリングフレームレート(fps)
ビデオのフレームレートを設定します。

解像度
映像の解像度を、対応する解像度のドロップダウンリストから選択して設定します。

ファイル形式
映像の出力形式を設定します。ドロップダウンリストからファイル形式を選択することができます。

- avi(AVIアニメーション)
- mpg(MPEGアニメーション)
- wmv(WMVアニメーション)

レンダリング品質
映像の出力形式を設定します。

- **ドラフト品質**: 高速レンダリング用。
- **フル品質**: 現在のレンダリングプリセットを使用し、RENDERコマンドと同じ結果が得られます。

開始時間
レンダリングを開始するアニメーションの時間位置を設定します。

終了時間
レンダリングを終了するアニメーションの時間位置を設定します。

開始フレーム
レンダリングを開始するアニメーションの時間位置を設定します。

終了フレーム
レンダリングを終了するアニメーションの時間位置を設定します。

FFMPEGのフレームイメージフォルダー
フレーム画像を保存するフォルダーを設定します。

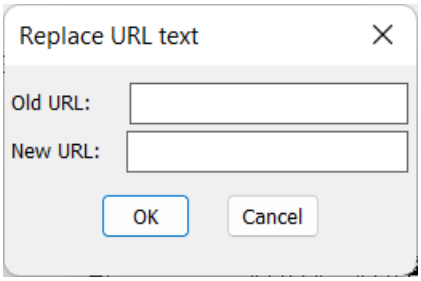
ビデオファイルの作成後にレンダリングされたフレームイメージをクリア
動画ファイル作成後のフレーム画像のリセットを切り替えます。有効にすると、このレンダリングセッションで作成したファイルのみが削除されます。

レンダリングボタンをクリックすると、**ビデオを保存**ダイアログボックスが開き、レンダリングされた映像を保存することができます。

34.18.6 URLの文字を置換

REPURLSコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

URLの文字を置換ダイアログボックスでは、選択した図形に添付されたハイパーリンクで使用されるURL内の指定されたテキスト文字列を置換できます。

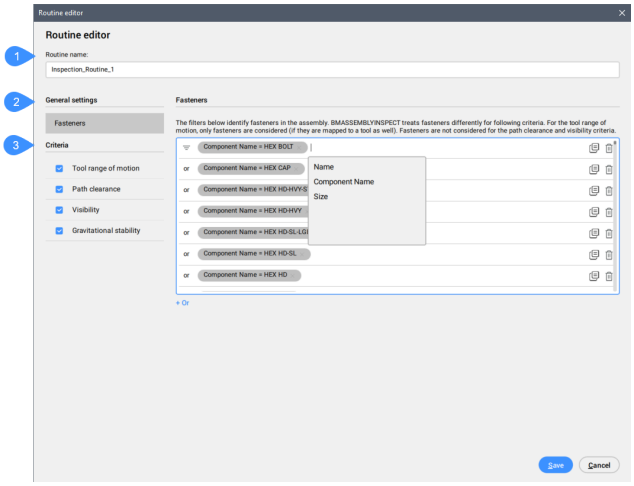


34.18.7 ルーチンエディター

ルーチンの管理(BMASSEMBLYINSPECT)ダイアログボックスから開きます。

ルーチンエディターダイアログボックスでは、**アセンブリ検査**ツールで考慮される基準を作成できます。

すべてのファスナー設定と各アセンブリ基準は、読み込み/書き出し可能なルーチンJSONファイルに保存されるので、ルーチンファイルをユーザ間で共有できます。



1 ルーチン名

2　一般的な設定

3　基準

34.18.7.1　ルーチン名

規則をグループ化するプロファイル名を指定します。

34.18.7.2　一般的な設定

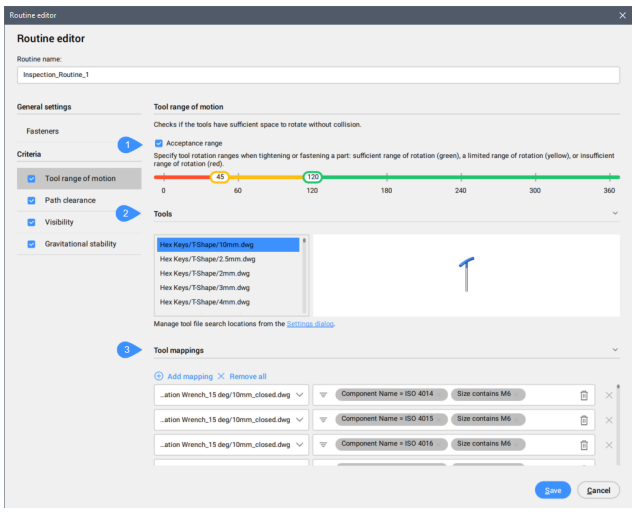
ファスナーの事前設定ツールを作成できます。

ファスナー
アセンブリ内のファスナーを識別するためのフィルターを定義します。以下の基準に応じて、BMASSEMBLYINSPECTコマンドによるファスナーの扱い方が異なります。ツールの動作範囲では、ファスナーのみが考慮されます(ツールにマップされている場合も)。ファスナーはパスクリアランス基準と可視性基準では考慮されません。

34.18.7.3　基準

アセンブリの検査で考慮される基準には4つのカテゴリーがあります。

ツールの動作範囲



1　許容範囲

2　ツール

3　ツールマッピング

ツールに十分な操縦性スペースがあるかどうかを評価します例えば、各ファスナーに特定のツールで取り扱うのに十分なスペースがあるかどうかなどです。

許容範囲
部品を締め付けたり固定したりするときのツールの回転範囲を指定します：十分な回転範囲(緑)、限られた回転範囲(黄)または不十分な回転範囲(赤)

ツール
インストールフォルダーC:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP¥UserDataCache¥Support¥ja_JP DesignLibrary¥Toolsに格納されている使用可能なツール(各種標準六角レンチと1つのドライバー)を一覧表示します。これらはツールとして自動的にロードされます。

注：これらのハンドツールは、**ライブラリ**パネルからもアクセスできます。

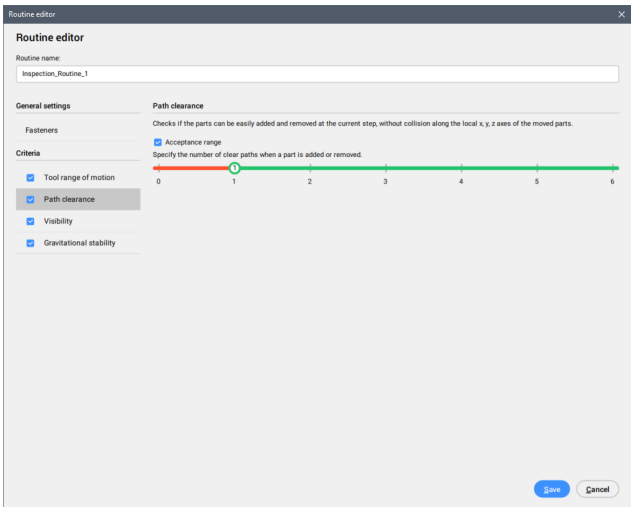
BMTOOLPATHシステム変数は、ツールファイルの検索に使用するファイルパスを示します。また、**設定ダイアログ**ボタンを押して、ツールファイルの検索場所を管理することもできます。

ツールマッピング
ファスナーごとに複数のツールを評価するために、ツールとファスナーのマッピングを複数定義できます。

マッピングを追加
マッピングを追加できます。

すべてを削除
すべてのマッピングを削除します。

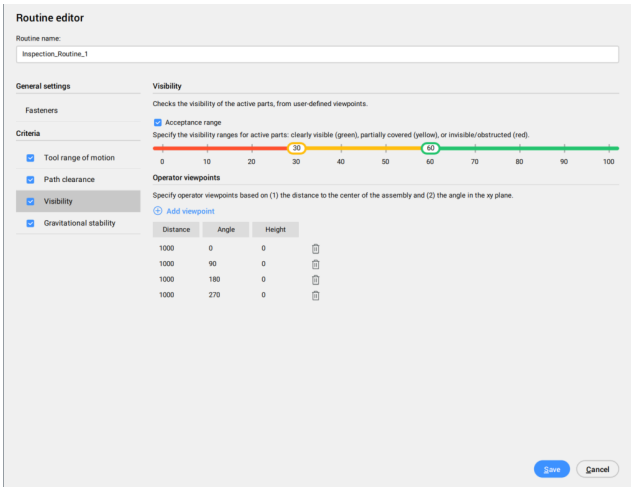
パスクリアランス



現在のステップで、各パーツまたはファスナーを、X、Y、Zの「ローカル軸」と呼ばれる6つのローカル座標軸の方向に沿って衝突することなく簡単に追加および削除できるかどうかを評価します。

許容範囲
部品が追加または削除されるときのクリアランス範囲をします:パスに障害物がない(緑)、パスが部分的に制限されている(黄)またはパスがブロックされている(赤)

可視性

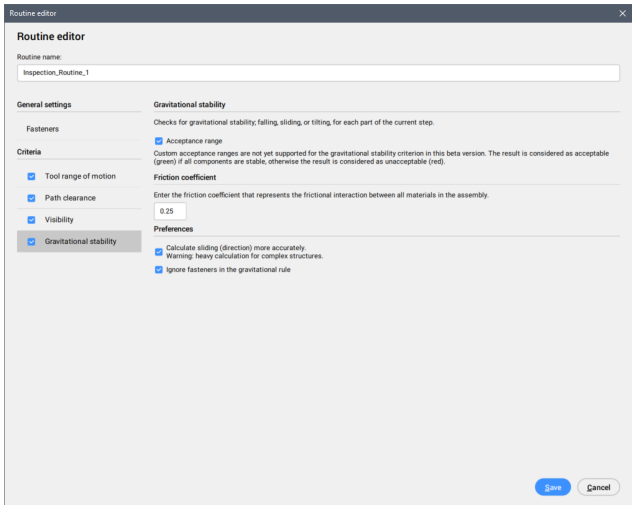


ユーザー定義の視点からアクティブな部品の表示/非表示をチェックします。アセンブリの中心までの距離とXY平面内の角度に基づいてオペレーターの視点を定義します。

許容範囲
アクティブなパーツの表示範囲を指定できます。はっきりと見える(緑)、部分的に覆われている(黄)、非表示/遮蔽されている(赤)から選択できます。

視点を追加
可視性チェック用のビューポイントを追加します。

重力的安定



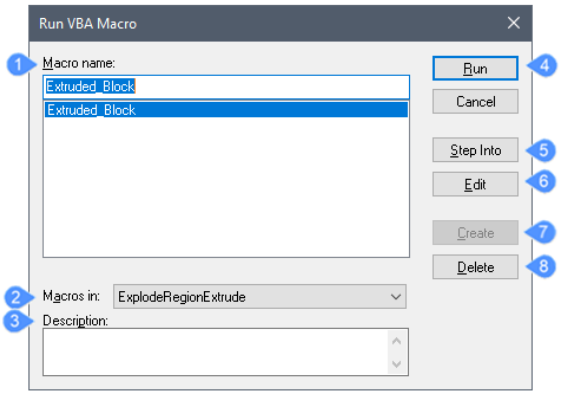
現在のステップの各部分の重力安定性を、落下、スライド、傾斜の3つの方法で評価します。部品が落下している場合、滑りや傾きは考慮されません。3つのチェックの部分的な結果と、モデル空間に一時的な矢印が表示されます。ステップのすべての部品は、計算と結果の表示の両方で個別に考慮されます。

34.18.8　VBAマクロを実行

以下より開きます：

- VBARUNコマンド
- **VBAマネージャー**ダイアログボックス

VBAマクロを実行ダイアログボックスでは、VBAマクロの実行・作成・編集・削除が行えます。



1　マクロ名

2 プロジェクト名

3 説明

4 実行

5 ステップイントゥ

6 編集

7 作成

8 削除

34.18.8.1 マクロ名

プロジェクトファイルに含まれるマクロの名前を一覧表示します。実行するものを選択します。

34.18.8.2 プロジェクト名

カレント図面にロードしたプロジェクトの名前を表示します。ドロップダウンリストから1つ選択します。

34.18.8.3 説明

マクロについて説明します。テキストを編集して**閉じる**ボタンを押して保存します。

34.18.8.4 実行

選択したマクロを実行します。

34.18.8.5 ステップイントゥ

統合開発環境のウィンドウを開きます。マクロはデバッグモードで、一度に1行のコードを実行します。

VBAIDEコマンドを起動します。

34.18.8.6 編集

開発環境を総合した画面にマクロを開きます。マクロは編集モードにあります、それはコードを変えることができます。

VBAIDEコマンドを起動します。

34.18.8.7 作成

新しいマクロを作成します；これらのステップに従います。

1 **マクロ名**フィールドに作成するマクロの名前を入力します。

2 **作成**をクリックします。

3 開発環境を総合したウィンドウに、VBAコードを入力します。VBAコードを入力します。

VBAIDEコマンドを起動します。

34.18.8.8 削除

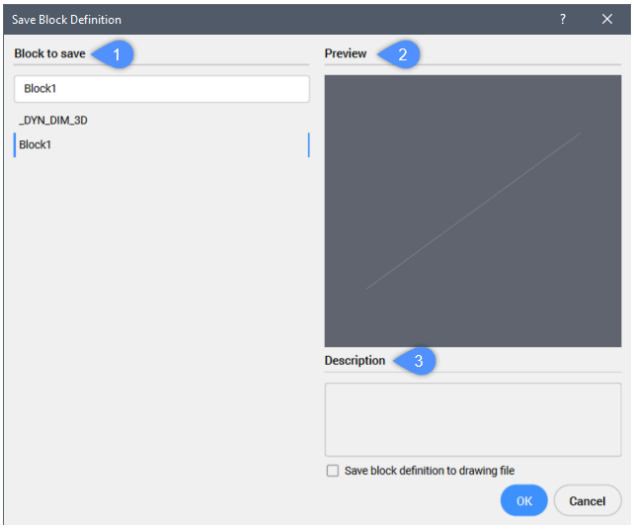
マクロを削除します。アクションの確認を求めるダイアログが表示されます。

34.19 S

34.19.1 ブロック定義を保存

BSAVEASコマンドを実行して開きます。

ブロック定義を保存ダイアログボックスでは、現在のブロック定義を新しい名前でコピーすることができます。BSAVEASコマンドを実行して開きます。



1 保存するブロック

2 プレビュー

3 説明

34.19.1.1 保存するブロック

選択したブロックのコピーを作成する新しい名前を指定します。

34.19.1.2 プレビュー

選択したブロックのプレビューを表示します。

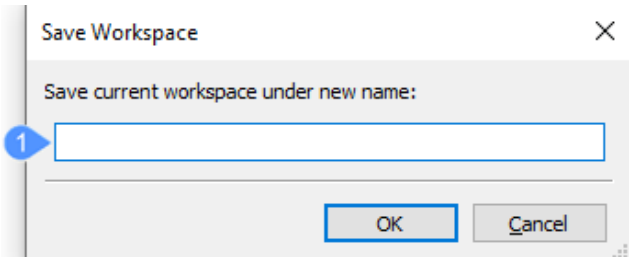
34.19.1.3 説明

選択したブロックに説明文がある場合は、その説明文を表示します。

34.19.2 ワークスペースを保存

WSSAVEコマンドを実行して開きます。

ワークスペースを保存ダイアログボックスでは、カレントのワークスペースを別の名前で保存して、新しいワークスペースを作成できます。



1　カレントのワークスペースを新規名として保存

34.19.2.1　カレントのワークスペースを新規名として保存

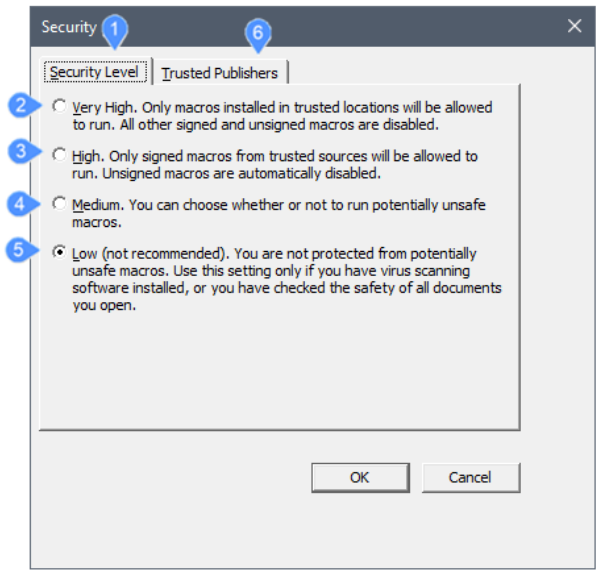
新しいワークスペースの名前を指定します。**OK**を押して変更を適用します。

後で**ワークスペース**ツールバーやステータスバーからアクセスすることができます。

34.19.3　セキュリティ

SECURITYコマンドでダイアログを開きます。

セキュリティダイアログボックスでは、セキュリティレベルを「低」、「中」、「高」、「非常に高い」のいずれかに設定し、VBAマクロの自動実行を許可するかどうかを決定します。



1　セキュリティレベル

2　非常に高い

3　高解像度

4　中

5　低解像度

6　信頼できるパブリッシャー

34.19.3.1 非常に高い

信頼できる場所にインストールされているVBAマクロのみ実行することができます。その他の署名済みまたは未署名のマクロは無効になります。

34.19.3.2 高解像度

信頼できるソースからの署名済みのマクロのみ実行することができます。未署名のマクロは自動的に無効になります。

34.19.3.3 中

VBAマクロの実行時に、BricsCADによってダイアログボックスが表示されます。

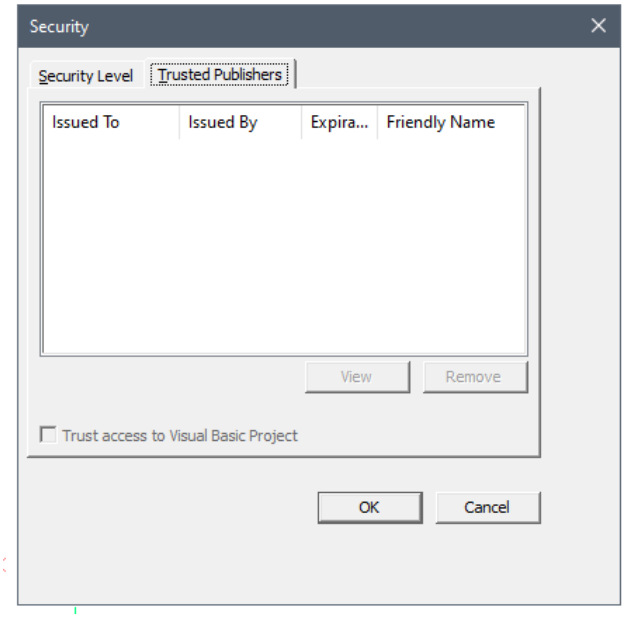
このダイアログボックスで、マクロを実行するかどうか選択できます。

34.19.3.4 低解像度

すべてのVBAマクロを実行します。

34.19.3.5 信頼できるパブリッシャー

信頼できるVBAマクロの名前を一覧表示します。これらのマクロは、セキュリティが「高」に設定されているときに実行される唯一のマクロです。



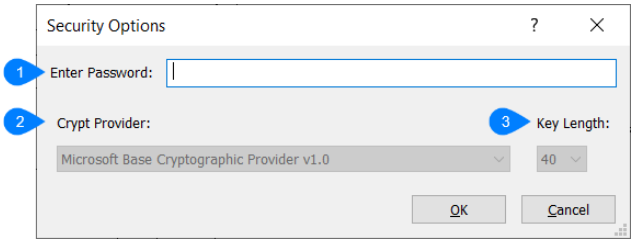
削除
選択したVBAマクロを一覧から削除します。

Visual Basicプロジェクトへのアクセスを信頼
VBAプロジェクトへのアクセスを許可します。

34.19.4 セキュリティオプション

SECURITYOPTIONSコマンドを実行して開きます。

セキュリティオプションダイアログボックスでは、不正なアクセスから図面を保護するためのパスワードを設定することができます。



1　パスワードを入力

2　暗号化の提供元

3　キー長さ

34.19.4.1　パスワードを入力

パスワードを1文字以上入力して指定します。

34.19.4.2　暗号化の提供元

図面プロパティ.の暗号化レベルを指定します。暗号プロバイダを選択してください。

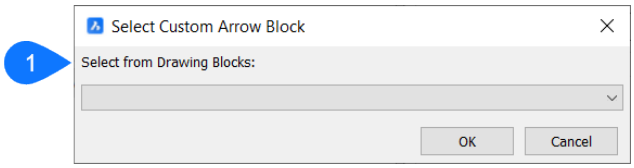
34.19.4.3　キー長さ

暗号化キーの長さを選択します。キーが長ければ長いほど、暗号化されたパスワードを解読するのに時間がかかるため、保護レベルが高くなります。

34.19.5　カスタム矢印ブロックを選択

クイック引出線設定ダイアログボックスの**矢印を選択...**オプションを選択して開きます。

カスタム矢印ブロックを選択ダイアログボックスでは、矢印形状を定義するブロックを選択することができます。



1　図面ブロックから選択

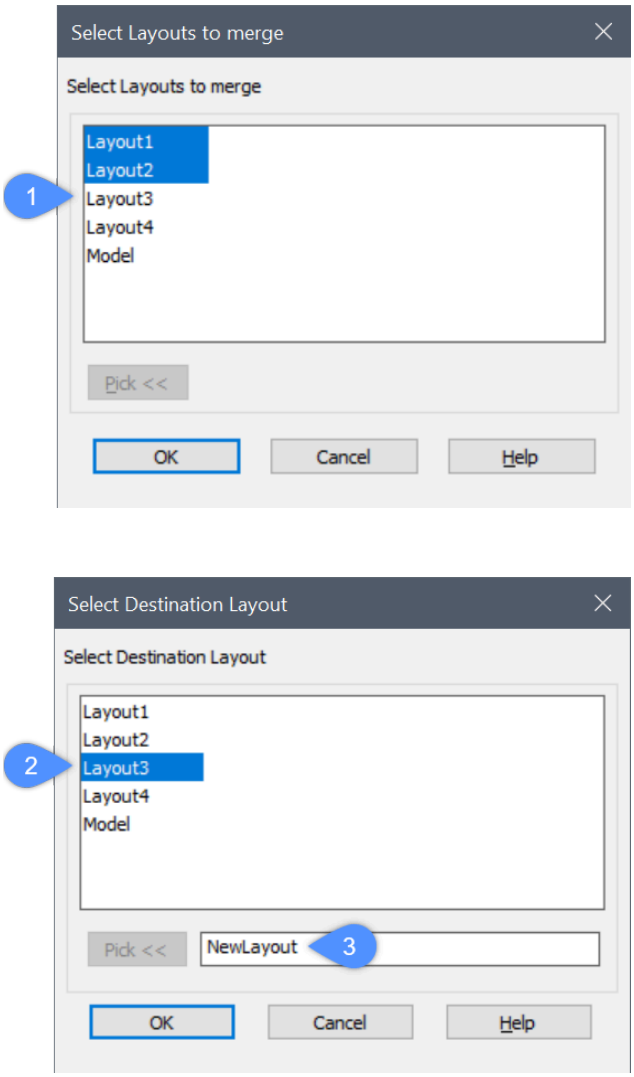
34.19.5.1　図面ブロックから選択

図面上のブロックのうち、矢じりとして使用するものを指定します。

34.19.6　結合するレイアウトを選択

LAYOUTMERGEコマンドを実行して開きます。

結合するレイアウトを選択ダイアログボックスを使い、指定したレイアウトの図形を別のレイアウトに合成することができます。



1 結合するレイアウト

2 対象先レイアウト

3 レイアウト名を入力

34.19.6.1 結合するレイアウト

合成する1つまたは複数のレイアウトを選択できます。

34.19.6.2 対象先レイアウト

リストから出力先レイアウトを選択できます。

34.19.6.3 レイアウト名を入力

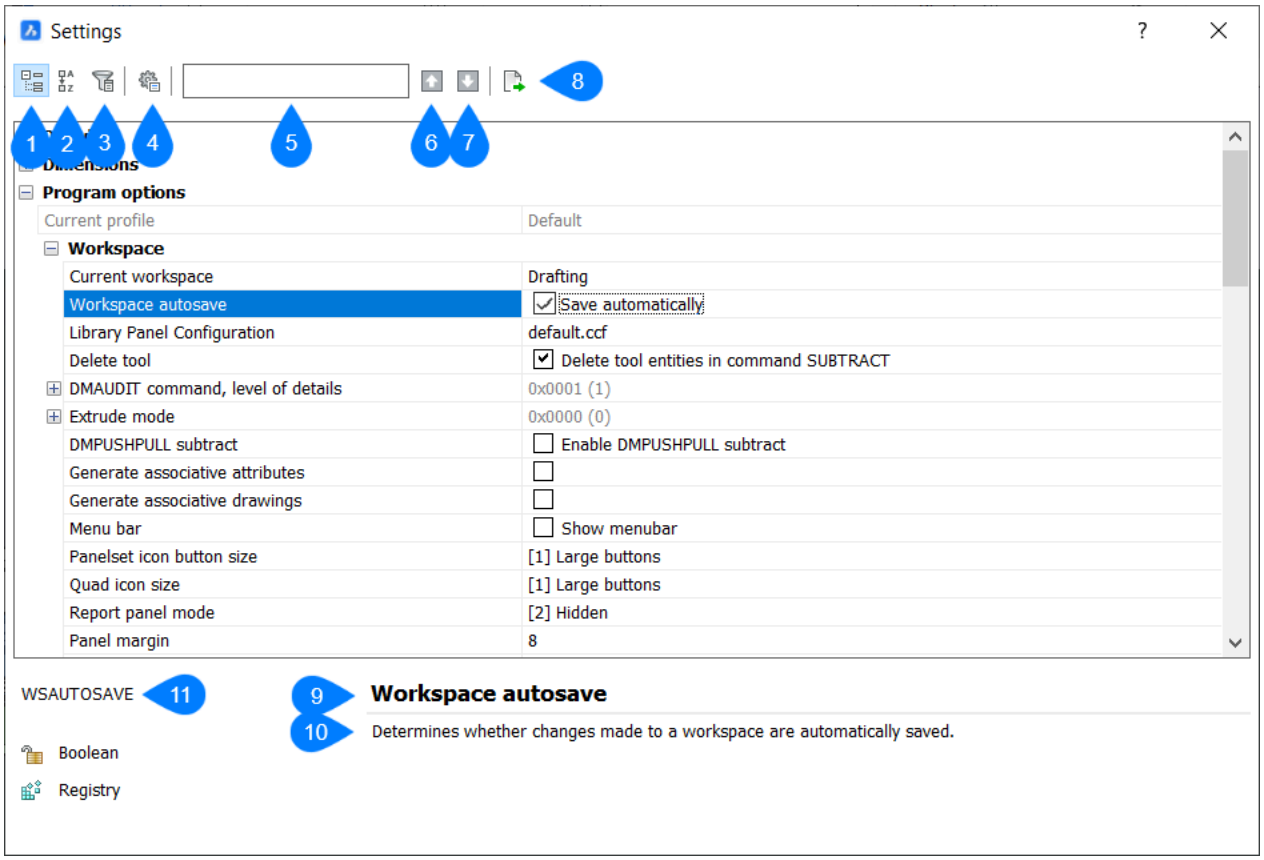
レイアウト名を入力します。レイアウトが存在しない場合は、**レイアウトを作成しますか？**ダイアログボックスが開き、レイアウトを作成するかどうかを尋ねられます。

34.19.7　設定

以下より開きます：

- SETTINGS [設定]
- SETTINGSSEARCH [検索設定]

設定ダイアログボックスでは、システム変数やユーザー設定の値を変更することができます。



1　カテゴリー化

2　アルファベット

3　デフォルトとの相違点のみを表示

4　設定ダイアログを開く

5　検索バー

6　前を検索

7　次を検索

8　書き出し

9　名前

10　説明

11　プロパティ

34.19.7.1 カテゴリー化

関連グループの変数を一覧表示します。

34.19.7.2 アルファベット

変数をアルファベット順に並べます。

34.19.7.3 デフォルトとの相違点のみを表示

初期値(デフォルト値)から値が変更された変数を一覧表示します。

34.19.7.4 設定ダイアログを開く

変数の検索、検索方法の設定、差分の処理方法を指定します。アイコンをクリックすると、**設定の構成**ダイアログボックスが開きます。

34.19.7.5 検索バー

変数の名前や説明の最初の数文字を入力すると、リアルタイムの検索フィールドで変数をリストアップします。

34.19.7.6 前を検索

検索語句に一致する前の候補にジャンプします。

34.19.7.7 次を検索

検索語句に一致する次の候補にジャンプします。

34.19.7.8 書き出し

すべての設定と値をCSVファイルに保存するための**設定を書き出し**ダイアログボックスを開きます。

34.19.7.9 名前

選択したシステム変数の名前を表示します。

34.19.7.10 説明

選択したシステム変数の簡単な説明を表示します。

34.19.7.11 プロパティ

選択されたシステム変数のいくつかの基本的なプロパティ/特性を一覧表示します。

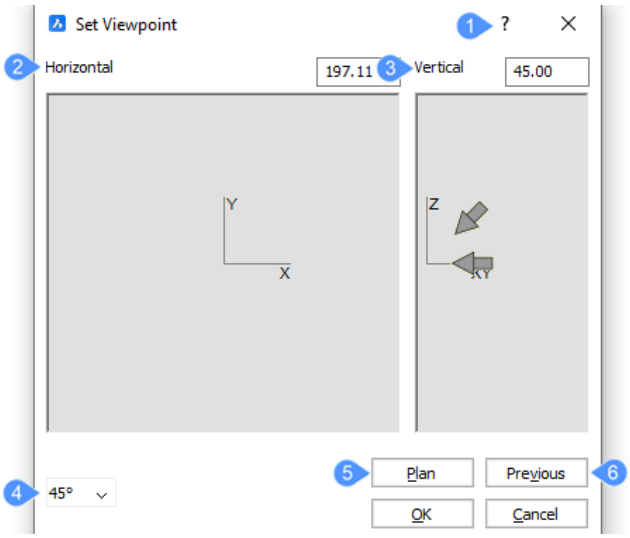
34.19.8 視点をセット

以下より開きます：

- DDVPOINT [視点をセット]
- VPOINT [3D視点]

視点をセットダイアログボックスでは、現在の3Dビューポートまたはプランビューを設定することができます。

注：パースモード(PERSPECTIVEコマンド参照)をオフにします。なぜなら、このコマンドはパースモードでは使用できないからです。



1 コマンドリファレンス

2 水平

3 垂直

4 角度プリセット

5 プラン

6 次を検索

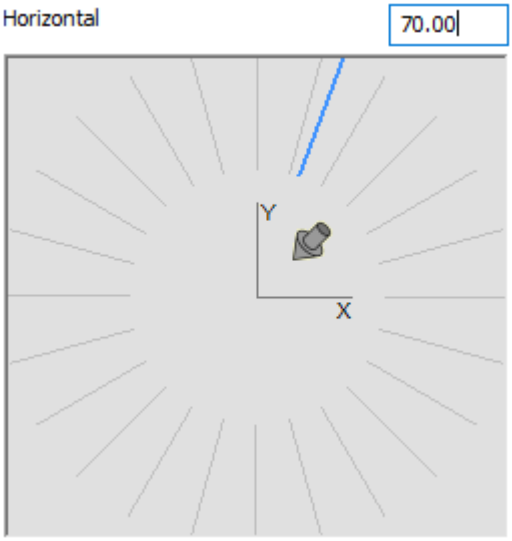
34.19.8.1 コマンドリファレンス

DDVPOINTコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.19.8.2 水平

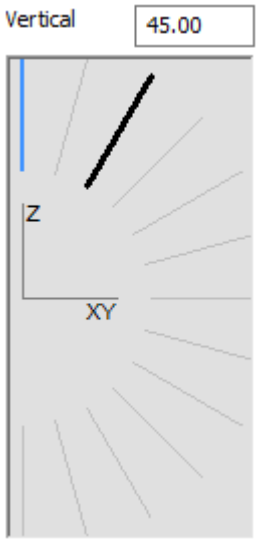
X軸からの水平角度を指定します。プリセット角度をクリックするか、**水平**フィールドに数値を入力します。

内側の半円で 0°、45°、90°、135°、180°、225°、270°または 315° をクリックします。矢印の形状は、ビューが水平( )か、角度がある( )かを表しています。

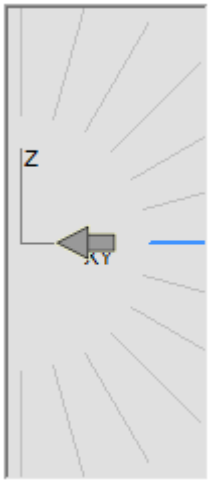


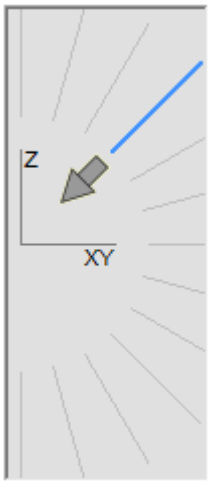
34.19.8.3 垂直

XY平面からの垂直角度を指定します。プリセット角度をクリックするか、垂直フィールドに数値を入力します。

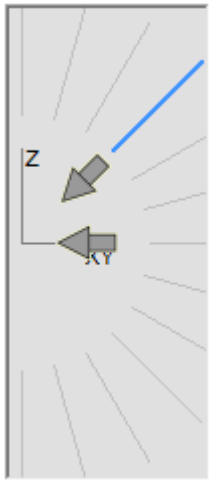


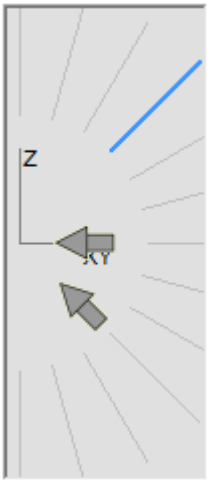
内側の半円でクリックします。視点方向は水平です。(2) 視線方向が下45°(PresetAngle = 45°の場合は使用できません)。

(1) 

(2) 

視点方向は45°下です。ただし、正投影ビュー(正面、背面、左、右)を生成する水平角度 0°、90°、180°、270°は除きます。(3)まず水平方向の矢印を選択してから、45°下向き矢印をクリック(4)します。

(3) 

(4) 

34.19.8.4 角度プリセット

5度、15度、45度でマーカーを設定します；デフォルト= 45.

34.19.8.5 プラン

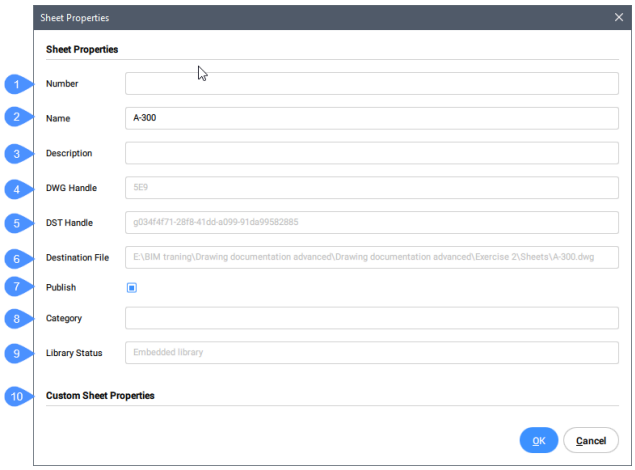
3D視点での表示を2D平面図へ変更します。

34.19.8.6 次を検索

前の視点に戻ります。

34.19.9 シートプロパティ

シートプロパティダイアログボックスでは、シートのプロパティを表示、編集することができます。



1 番号

2 名前

3 説明

4 DWGハンドル

5 DSTハンドル

6 対象先ファイル

7 パブリッシュ

8 カテゴリ

9 ライブラリの状態

10 カスタムシートプロパティ

34.19.9.1 番号

シートの番号を指定します。

34.19.9.2 名前

シートの名前を指定します。

34.19.9.3 説明

シートの簡単な説明を指定します。

34.19.9.4 DWGハンドル

シートに関連するレイアウトのDWGファイルハンドルを表示します。これは読み取り専用です。

34.19.9.5 DSTハンドル

シートの DST ファイルハンドルを表示します。これは読み取り専用です。

34.19.9.6 対象先ファイル

シートを保存するDWGファイルを指定します。

34.19.9.7 パブリッシュ

シートをパブリッシュするかどうかを切り替えます。

34.19.9.8 カテゴリ

シートのカテゴリを指定します。

34.19.9.9 ライブラリの状態

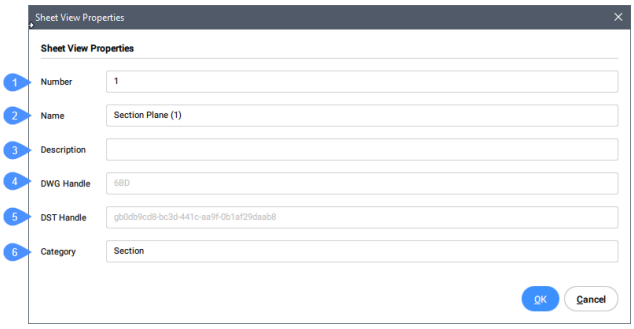
ライブラリの状態を指定します。

34.19.9.10 カスタムシートプロパティ

カスタムシートのプロパティを一覧表示し、編集できるようにします。

34.19.10 シートビュープロパティ

シートビュープロパティダイアログボックスでは、シートビューのプロパティが表示されます。



1 番号

2 名前

3 説明

4 DWGハンドル

5 DSTハンドル

6 カテゴリ

34.19.10.1 番号

シートビューの番号を指定します。

34.19.10.2 名前

シートビューの名前を指定します。

34.19.10.3 説明

シートビューの簡単な説明を指定します。

34.19.10.4 DWGハンドル

シートビューに関連付けられた名前付きビューのDWGファイルハンドルを表示します。これは読み取り専用です。

34.19.10.5 DSTハンドル

シートビューの DST ファイルハンドルを表示します。これは読み取り専用です。

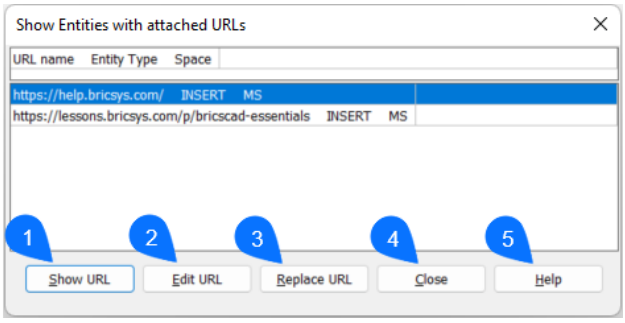
34.19.10.6 カテゴリ

シートビューのカテゴリを指定します。

34.19.11 URLがアタッチされた図形を表示

SHOWURLSコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

URLがアタッチされた図形を表示ダイアログボックスには、図面内のアタッチされたURLが表示されます。



1 URL一覧

2 URL編集

3 URL置換

4 閉じる

5 ヘルプ

34.19.11.1 URL一覧

ダイアログボックスを非表示にし、選択したURLにリンクされているオブジェクトをハイライト表示します。

34.19.11.2 編集

選択したURLを編集できます。

34.19.11.3 置換

置換する必要がある古いURLにプロンプトを表示し、新しいURLを要求することにより、URLを置換することができます。

34.19.11.4 閉じる

ダイアログボックスを閉じます。

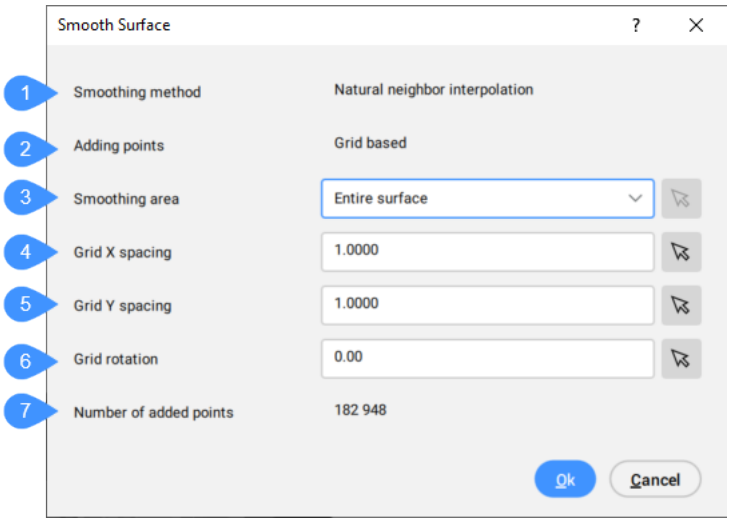
34.19.11.5 ヘルプ

BricsCADヘルプセンターにリダイレクトします。

34.19.12 サーフェスをスムージング

TINEDITコマンドを実行して開きます。

サーフェスをスムージングダイアログボックスでは、ポイントを追加してTINサーフェスをなめらかにします。



1 スムージング方法

2 ポイントの追加

3 スムージング領域

4 グリッドのX間隔

5 グリッドのY間隔

6 グリッドの回転角度

7 追加されたポイント数

スムージング方法
TINサーフェスのスムージング方法を表示します。
自然近隣補間のアルゴリズムにより、クエリーポイントに最も近い入力サンプルのサブセットを検出し、比例領域に基づいて重みを適用して値を内挿します。

ポイントの追加
TINサーフェスにポイントを追加する方法を表示します。

スムージング領域
スムージングする領域を定義します。スムージングの対象を**サーフェス全体**とするか、**選択した領域**とするかを選択できます。領域を選択するには、右側にある矢印をクリックして、モデル空間の領域を定義します。

グリッドのX間隔
グリッドのX間隔の値を設定します。モデル空間で距離をクリックして定義することもできます。

グリッドのY間隔
グリッドのY間隔の値を設定します。モデル空間で距離をクリックして定義することもできます。

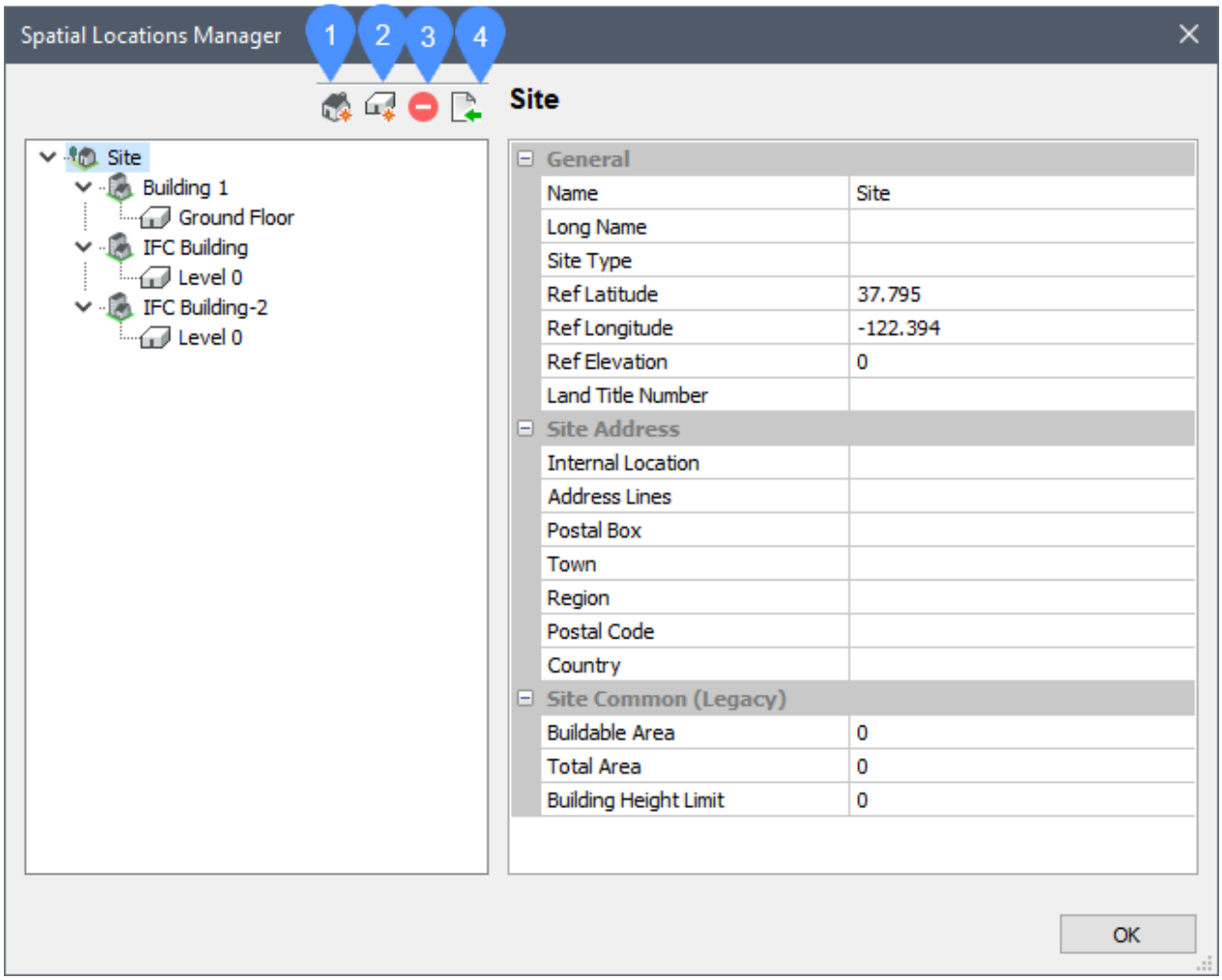
グリッドの回転角度
回転角度の値を設定します。モデル空間で目的の角度をクリックして定義することもできます。

追加されたポイント数
TINサーフェスに追加されるポイントの数を表示します。

34.19.13 空間的位置マネージャー

BIMSPATIALLOCATIONSコマンドを実行して開きます。

空間的位置マネージャーダイアログボックスでは、敷地、建物、階を作成/編集することができます。



1 新しい建物

2 新しい階

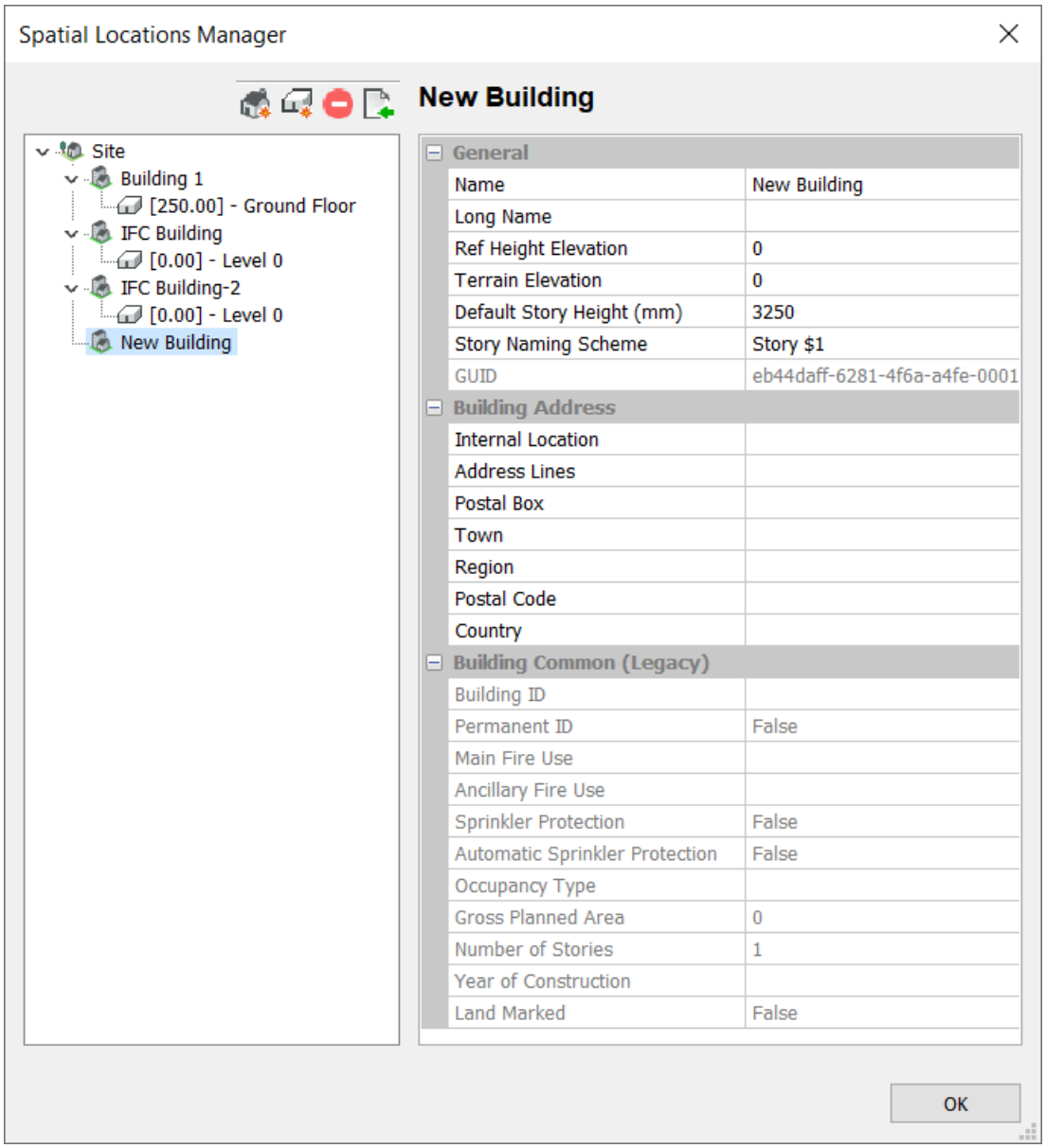
3 選択した建物または階を削除

4 空間的位置を読み込み

34.19.13.1 新しい建物

新しい建物をモデルに追加します。

プロパティグリッドに入力:



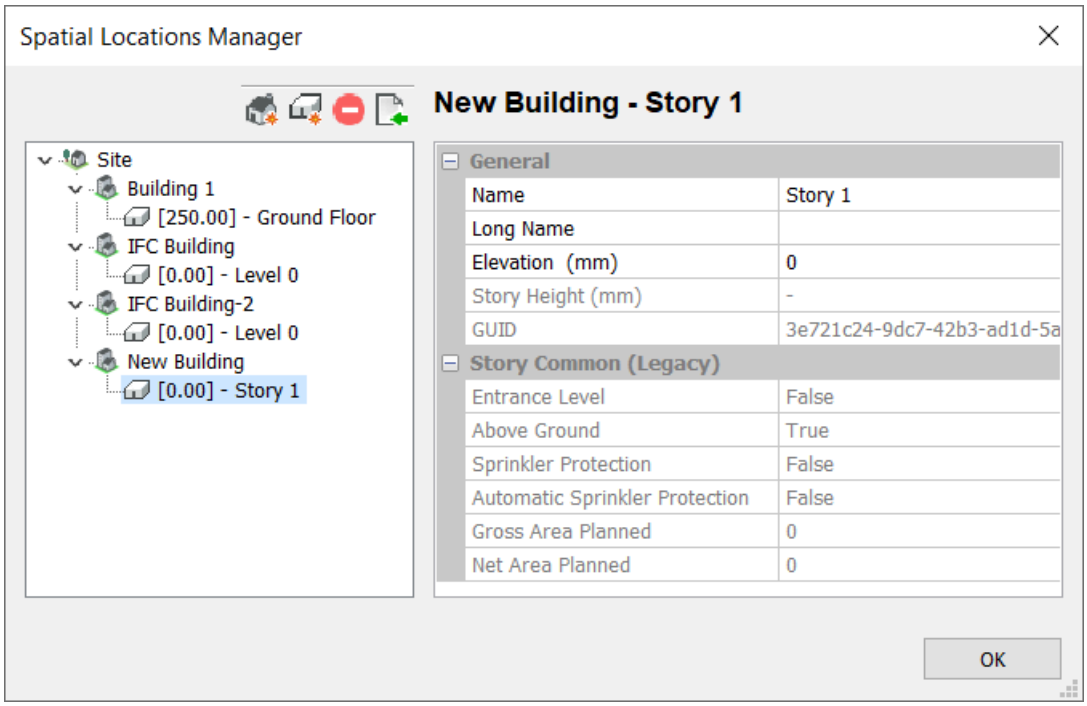
注：

- 新たに建物を作成する場合、空間要素の名前と番号はDEFAULTSTORYNAMINGSCHEMEシステム変数によって定義されます。この情報は、**空間的位置マネージャー**ダイアログボックスに表示されます。
- 既存の建物に新たに床を追加する場合、建物の**階の命名規則**プロパティが DEFAULTSTORYNAMINGSCHEMEシステム変数の値よりも優先されます。
- **階選択バー**が開いている状態で(STORYBARシステム変数が1または2)、**トップビューモード**で定義した床を簡単に切り替えて壁の作成を開始できます。

34.19.13.2 新しい階

選択した建物に新しい階を追加します。

プロパティグリッドの完成です。



34.19.13.3 選択した建物または階を削除

選択した建物や階を削除します。

34.19.13.4 空間的位置を読み込み

テキストファイル(.txt)から空間的位置情報を読み込みます。

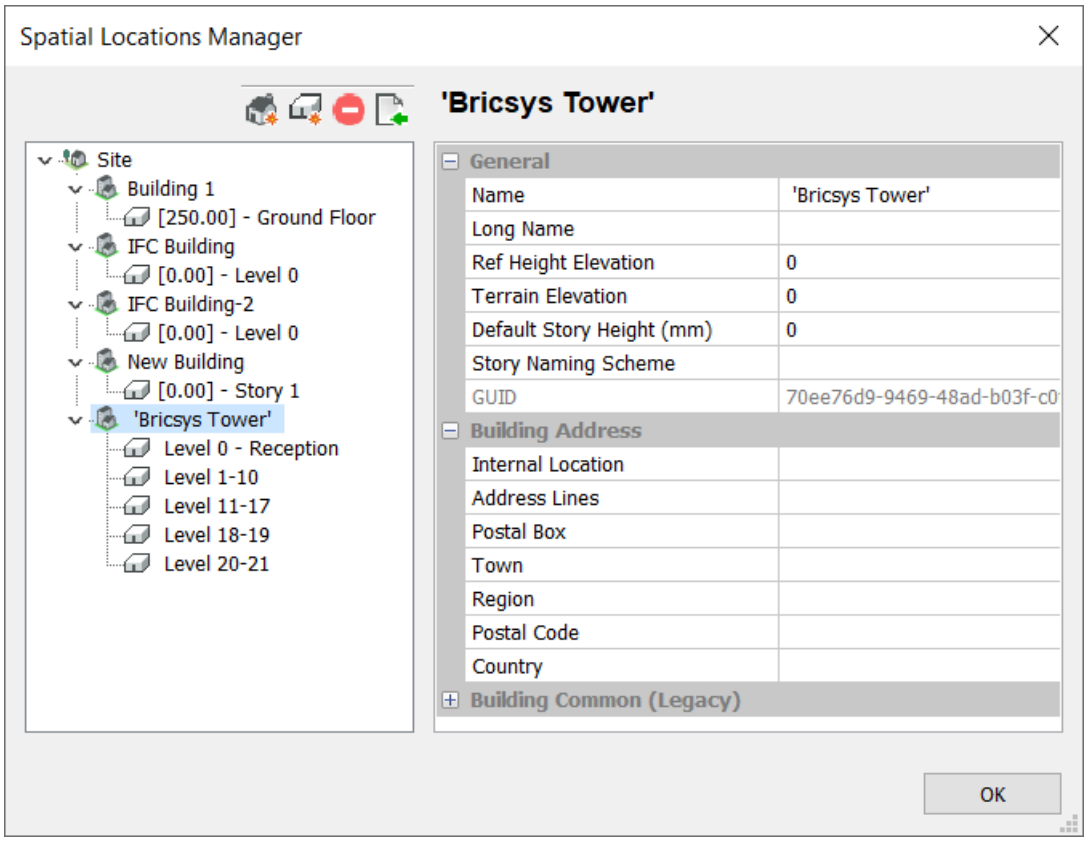
挿入するファイルを選択ダイアログボックスが表示され、そこから*.txtの空間位置ファイルが開かれます。

空間的位置情報ファイル(*.txt)の例：

```
Space:Name= 'Bricsys Tower' ,Area=15000 Space:Name= Level 0 - Reception ,Area=6%, ' Floor-to-Floor Height '=5000, Count=1 Space:Name= Level 1-10 ,Area=4%, ' Floor-to-Floor Height '=4000, Count=10 Space:Name= Level 11-17 ,Area=7%, ' Floor-to-Floor Height '=3000, Count=7 Space:Name= Level 18-19 ,Area=5%, ' Floor-to-Floor Height '=4000, Count=2 Space:Name= Level 20-21 ,Area=1.5%, ' Floor-to-Floor Height '=4000, Count=2
```

ファイルに記載されている面積と面積比は要件となります。

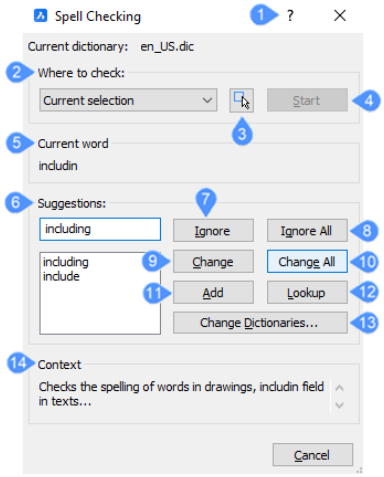
空間位置ファイルは、以下のように読み込まれます：



34.19.14 スペルチェック

SPELLコマンドを実行して開きます。

スペルチェックダイアログボックスでは、文字、マルチテキスト、引出線、マルチ引出線、表、ブロック属性などのフィールドを含む、図面内の単語のスペルをチェックできます。



1 コマンドリファレンス

2 チェックする場所

3 図形を選択

4 開始

5 カレントの単語

6 提案:

7 無視

8 すべて無視

9 変更

10 すべて変更

11 追加

12 参照

13 辞書を変更...

14 コンテキスト

34.19.14.1 コマンドリファレンス

SPELLコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.19.14.2 チェックする場所

テキストをチェックします。

- **図面全体**：図面内のすべての文字列を検索します。
- **図形を選択**：選択した図形の文字をチェックします。**図形を選択**ボタンをクリックしてテキストを選択します。

34.19.14.3 図形を選択

チェックしたいテキストを選択します。1つまたは複数のテキストを選択し、Enterを押すとダイアログボックスに戻ります。

34.19.14.4 開始

単語のスペルチェックを開始します。

34.19.14.5 カレントの単語

スペルミスしている単語を表示します。

34.19.14.6 提案:

スペルミスのある単語の置換候補をリストアップします。置換する単語を選択して、**変更**または**すべて変更**をクリックします。

34.19.14.7 無視

現在の語句をスキップします。

34.19.14.8 すべて無視

現在の語句と同じ語句をすべてスキップします。

34.19.14.9 変更

現在の語句を**提案**リストから選択した語句に置き換えます。

34.19.14.1 すべて変更

0

すべての語句を**提案**リストから選択した語句に置き換えます。

34.19.14.11追加

現在の語句を単語リストに追加します。

34.19.14.1 参照

2

提案リストで選択した語句について、追加の代替スペルを示します。

34.19.14.1 辞書を変更...

3

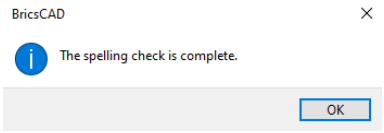
スペルチェックに使用するメインの辞書を指定します。**辞書を変更**ダイアログボックスが表示されます。詳細については、「**辞書を変更**」**ダイアログボックス**の記事を参照してください。

34.19.14.1 コンテキスト

4

スペルミスしている単語が出てくる文脈を表示します。

スペルチェックが完了すると、以下のメッセージボックスが表示されます：

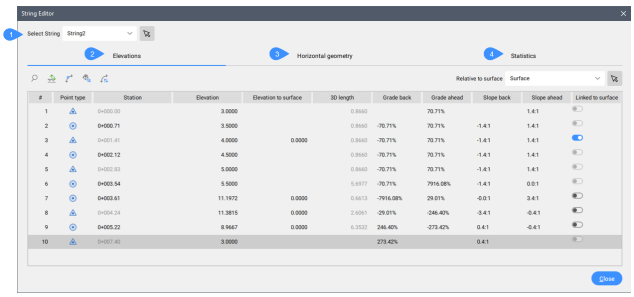


34.19.15 計画線編集

以下より開きます：

- STRINGEDITORコマンド
- **土木エクスプローラ**パネルの**計画線**(**定義**タブ)のコンテキストメニュー

計画線編集ダイアログボックスでは、土木計画線図形を編集できます。



1 計画線を選択

2 標高タブ

3 水平ジオメトリタブ

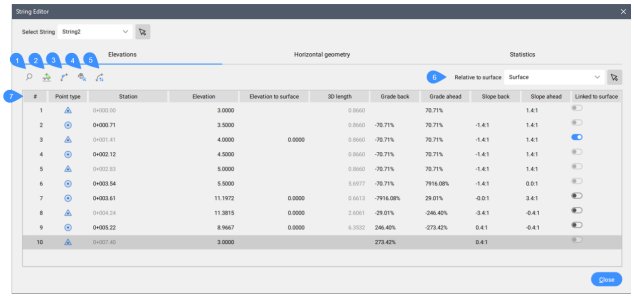
4 統計タブ

34.19.15.1 計画線を選択

編集する土木計画線を表示します。ドロップダウンリストから別の土木計画線を選択するか、をクリックして作図領域から計画線を選択できます。

34.19.15.2 標高タブ

編集する土木計画線のすべてのポイントのプロパティを一覧表示します。



1 ズーム

2 上げる/下げる

3 標高ポイントを追加

4 サーフェスから標高を取得する

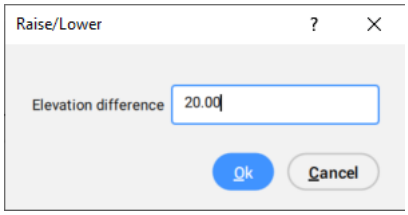
5 計画線を反転

6 サーフェスに比例

7 計画線ポイントのプロパティー覧

ズーム
図面内の選択した土木計画線にズームインします。

上げる/下げる
上げる/下げるダイアログが開き、標高差の値を設定できます。この値は標高に追加されます。負の値を指定すると、標高が下がります。



標高ポイントを追加
STRINGADDELEVATIONPOINTコマンドを起動します。土木計画線図形に標高ポイントを追加します。

サーフェスから標高を取得する
サーフェスからの標高ダイアログボックスを開きます。

計画線を反転
土木計画線の方向を変更します。

サーフェスに比例
土木計画線の標高が相対的になる、選択したTINサーフェスを表示します。ドロップダウンリストから別のTINサーフェスを選択するか、をクリックして作図領域からサーフェスを選択できます。

計画線ポイントのプロパティー覧
すべての計画線ポイントのプロパティを一覧表示します。

注：計画線ポイントのプロパティ行を右クリックすると、コンテキストメニューが開き、**ズーム**、**画面移動**、**クリップボードにコピー**、およびポイントタイプに応じて**IP点を削除** () または**標高ポイントを削除** () オプションが表示されます。

番号
計画線内のポイントの位置番号を一覧表示します。

ポイントタイプ
さまざまなアイコンで表されるポイントのタイプを表示します。

- 交点(PI)
- 交点(PI) - 読取り専用
- 交点(PI) - 共有
- 標高ポイント

測点
ポイントの測点値を表示します。

注：交点 (PI) の測点値は読み取り専用です。

高さ
ポイントの標高値を表示します。

サーフェスへの標高
サーフェスと計画線ポイントの標高差を表示します。

3D長さ
現在のポイントから次のポイントまでのセグメントの3D長さが表示されます。

勾配後方
現在のセグメントの終点から始点までの勾配を表示します。

勾配前方
現在のセグメントの順方向の終端高さを定義します。

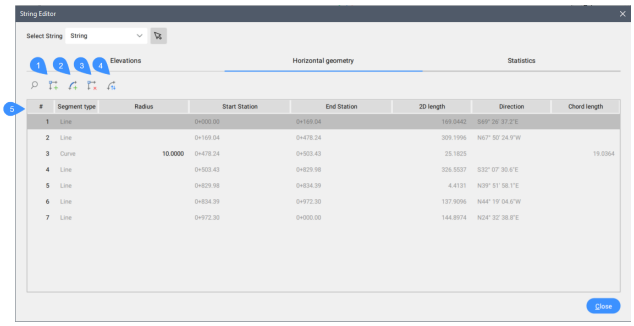
傾き後方
現在のセグメントの終点から始点までの傾きを表示します。

傾き前方
現在のセグメントの順方向の終端高さを定義します。

サーフェスにリンク
チェックを入れると、計画線がTINサーフェスにリンクされます。TINサーフェスの標高が変化するに従い、土木計画線の標高が動的に変化します。

34.19.15.3 水平ジオメトリタブ

編集する土木計画線のすべてのセグメントのプロパティを一覧表示します。



1 PI点を追加

2 曲線を追加

3 PI点を削除

4 計画線を反転

5 計画線セグメントのプロパティ

PI点を追加
STRINGADDPIコマンドを起動します。

曲線を追加
STRINGADDCURVEコマンドを起動します。

PI点を削除
STRINGDELETEPIコマンドを起動します。

計画線を反転
土木計画線の方向を変更します。

計画線セグメントのプロパティ
すべての計画線セグメントのプロパティを一覧表示します。

番号
計画線内のセグメントの位置番号を一覧表示します。

セグメントタイプ
セグメントの種類を表示します。

半径寸法
半径の値を表示します。

開始測点
セグメントの開始測点を表示します。

終了測点
セグメントの終了測点を表示します。

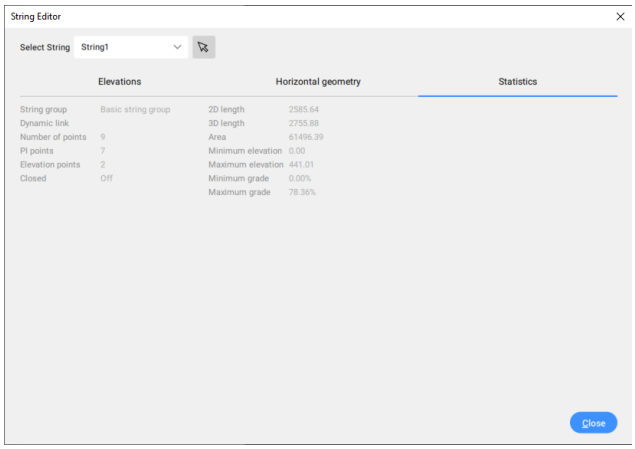
2D長さ
セグメントの2D長さを表示します。

方向
セグメントの方向を表示します。

弦長
弦長を表示します。

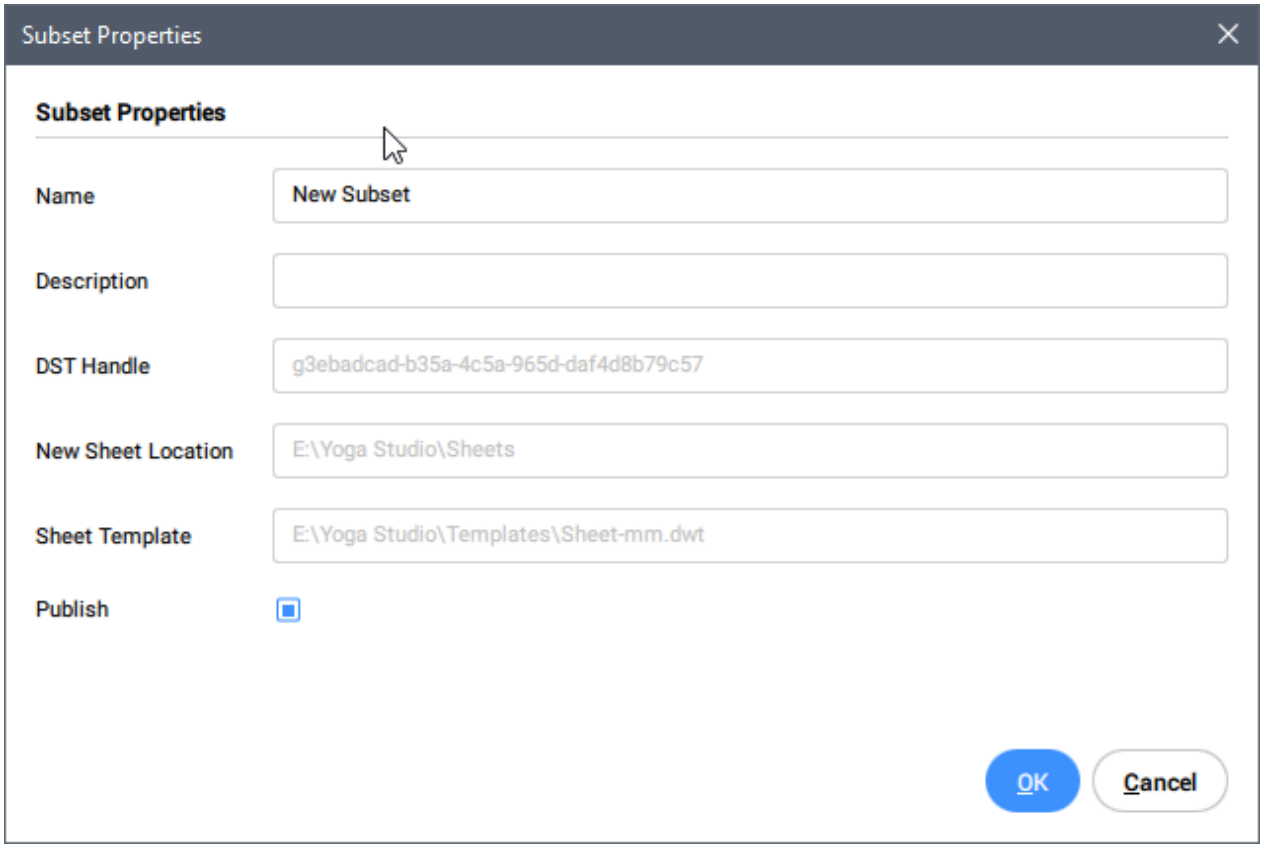
34.19.15.4 統計タブ

土木計画線の一般的なプロパティを一覧表示します。



34.19.16 サブセットプロパティ

サブセットのプロパティを編集できます。



名前：サブセットに名前を付けます。

説明：サブセットの説明を記入します。

DSTハンドル：サブセットのDSTファイルハンドルを表示します。これは読み取り専用です。

新しいシートロケーション：シートの場所を設定します。(右側の3点をクリックすると、**標準ファイル**ダイアログボックスが表示され、シートの場所を選択できます)

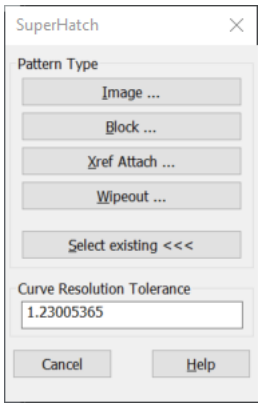
シートテンプレート：シートテンプレートを設定します。(右側の3点をクリックすると、**標準ファイル**ダイアログボックスが表示され、シートテンプレートを選択できます)

パブリッシュ：サブセットをパブリッシュするかを切り替えます。

34.19.17 スーパーハッチング

SUPERHATCHコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

スーパーハッチングダイアログボックスから、選択したイメージ、ブロック、外部参照、ワイプアウト図形を使用して図形をハッチングできます。



1 イメージ

2 ブロック

3 外部参照アタッチ

4 ワイプアウト

5 既存のオブジェクトを選択

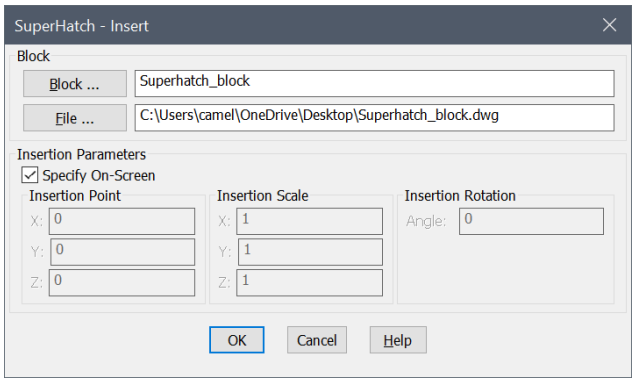
6 曲線解像度の公差

34.19.17.1 イメージ

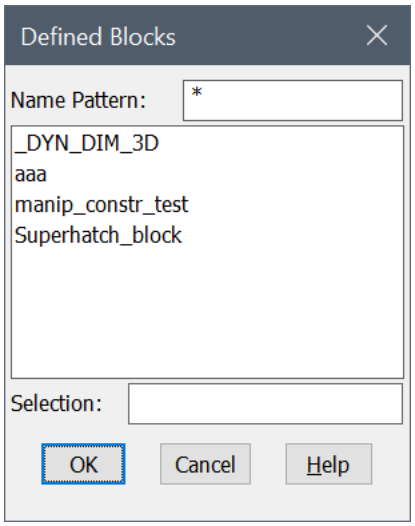
イメージファイルを選択ダイアログボックスが開き、イメージをスーパーハッチングパターンとして指定できます。

34.19.17.2 ブロック

スーパーハッチング - 挿入ダイアログボックスが開き、ブロック参照をスーパーハッチングパターンとして選択できます。



ブロック...
定義されたブロックダイアログボックスが開き、現在の図面に挿入されているすべてのブロックが一覧表示されます。



ファイル...
図面ファイルを選択ダイアログボックスが開き、新しいブロック参照を挿入できます。

34.19.17.3 外部参照アタッチ

参照ファイルを選択ダイアログボックスが開き、外部参照ファイルをスーパーハッチングパターンとして指定できます。

34.19.17.4 ワイプアウト

スーパーハッチングパターン内にワイプアウトを作成します。

34.19.17.5 既存のオブジェクトを選択

既存のイメージ、ブロック、外部参照、ワイプアウト図形をスーパーハッチングパターンとして選択できます。

34.19.17.6 曲線解像度の公差

曲線境界の場合に使用し、曲線スーパーハッチング境界ベクトル近似の解像度公差 (特定のハッチングセグメントの中点から曲線境界までの最大距離) を指定できます。

34.19.18 仕上げ記号ダイアログボックス

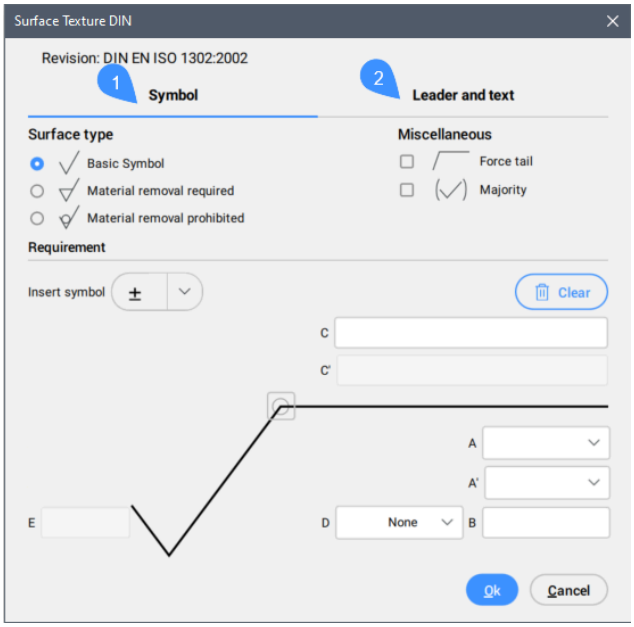
AMSURFSYMコマンドを実行して開きます。

仕上げ記号ダイアログボックスでは、現在の製図規格にデフォルトの仕上げ記号を設定できます。

仕上げ記号に入力されたパラメータは一時的に保存され、次の仕上げ記号設定のデフォルト値として使用されます。

このシンボルが準拠する規格の最新リビジョンが、ダイアログボックス上部に表示されます。

このダイアログボックスには、**シンボル**と**引出線と文字**の2つのメインタブがあります。

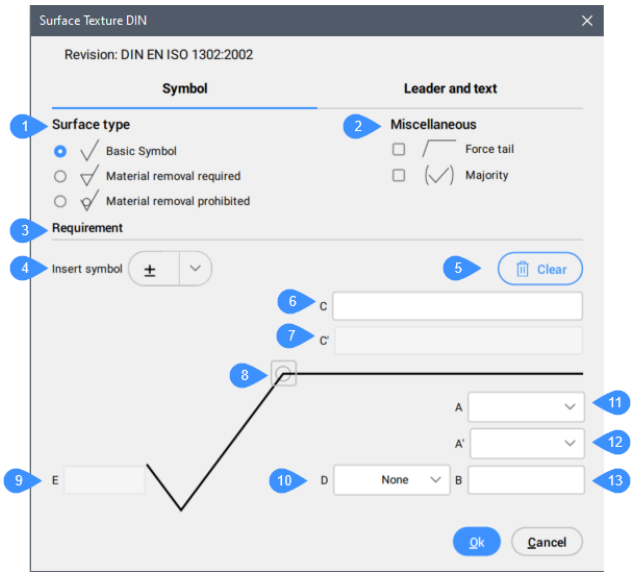


1 シンボル

2 引出線と文字

34.19.18.1 シンボル

仕上げ記号の特性を指定します。使用可能な特性は、ISO、DIN、ANSI、JISなど、選択した製図規格によって異なります。



1 サーフェスタイプ

2 その他

3 要件

サーフェスタイプ
サーフェスタイプとして、**基本記号**、**除去加工あり**、**除去加工なし**のいずれかを選択できます。

その他
使用できる仕上げ記号を示します。

- **フォーステイル**：集合表示の右側に、図面内の他の仕上げ記号の状態を括弧内に表示します。
- **大部分同一**：集合表示を表示します(すべての仕上げ記号に共通のシンボルです)。このオプションは、ANSI製図規格では使用できません。

要件
仕上げ記号のパラメータを定義します。

4. シンボル挿入
ドロップダウンリストから、選択したパラメータフィールドにシンボルを挿入します。

5. クリア
最後に挿入されたパラメータをクリアします。セルは空になります。

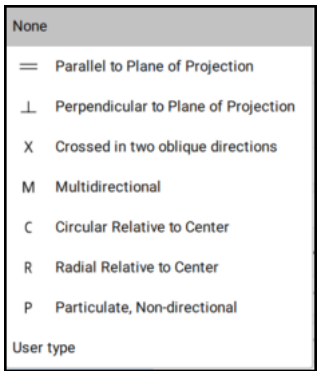
6. プロセス注記1
仕上げ記号のプロセスの注記を定義します。

7. プロセス注記2
仕上げ記号のプロセスの注記を定義します。このオプションは、製図規格JISおよびANSIでは使用できません。

8. 全周
全周記号の表示/非表示を切り替えます。

9. 仕上げ代
仕上げ記号の仕上げ代を指定します。

10. 筋目方向
仕上げ記号の筋目方向を設定します。

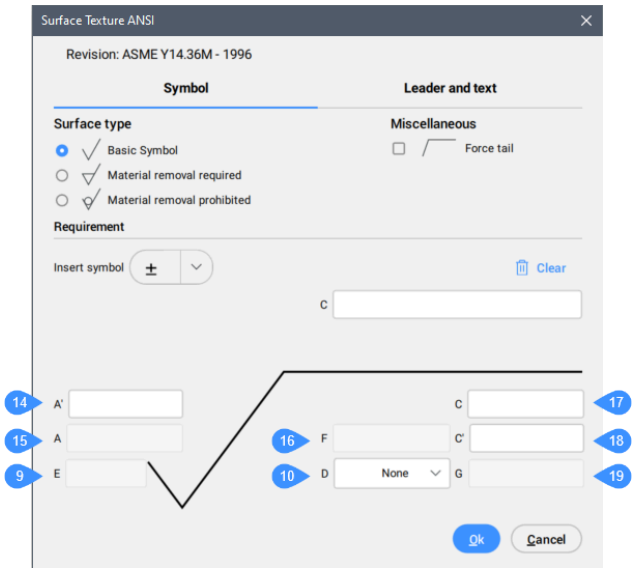


11. 第1要件
仕上げ記号の第1要件を定義します。

12. 第2要件
仕上げ記号の第2要件を定義します。

13. 第3要件
仕上げ記号の第2要件を定義します。

その他の要件は、ANSI製図規格でのみ使用できます。



追加要件:

14. 表面粗さ平均最大値
表面粗さ平均最大値を定義します。

15. 表面粗さ平均最小値
表面粗さ平均最小値を定義します。

16. カットオフ
仕上げ記号のカットオフ値を定義します。

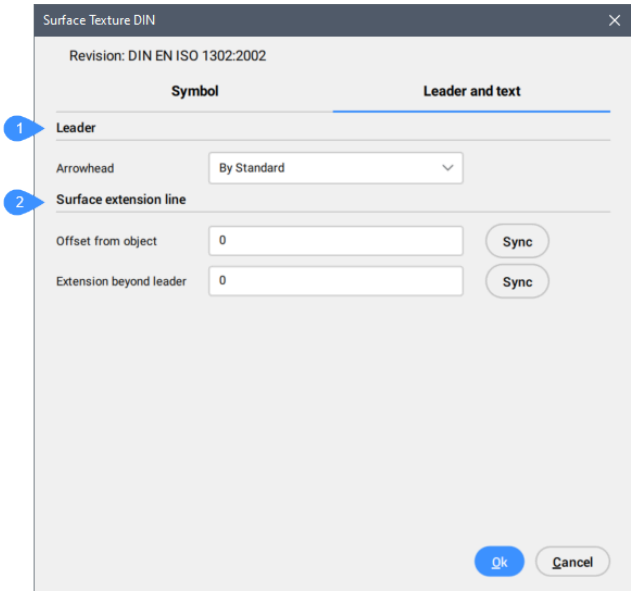
17. サンプリング長
仕上げ記号に必要なサンプリング長を定義します。

18.その他粗さ最大値
仕上げ記号のその他粗さ最大値を定義します。

19. その他粗さ最小値
仕上げ記号のその他粗さ最小値を定義します。

34.19.18.2 引出線と文字

引出線と文字の特性を指定します。



1　引出線

2　サーフェス延長線

引出線
引出線特性を設定します。

矢印
デフォルトの引出線矢印の種類をドロップダウンリストから選択して定義します。

サーフェス延長線
サーフェス延長線の特性を設定します。

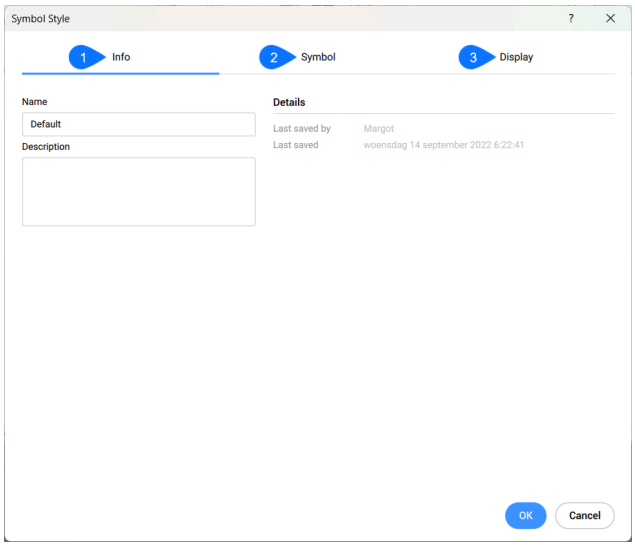
オブジェクトからのオフセット
延長線の始点からアタッチされたオブジェクトまでの距離を定義します。

補助線延長長さ
仕上げ記号の始点からサーフェス延長線の終点までの距離を定義します。

34.19.19　シンボルスタイル

土木エクスプローラパネルの**設定**タブから開きます。

シンボルスタイルダイアログボックスでは、新しいシンボルスタイルを定義できます。



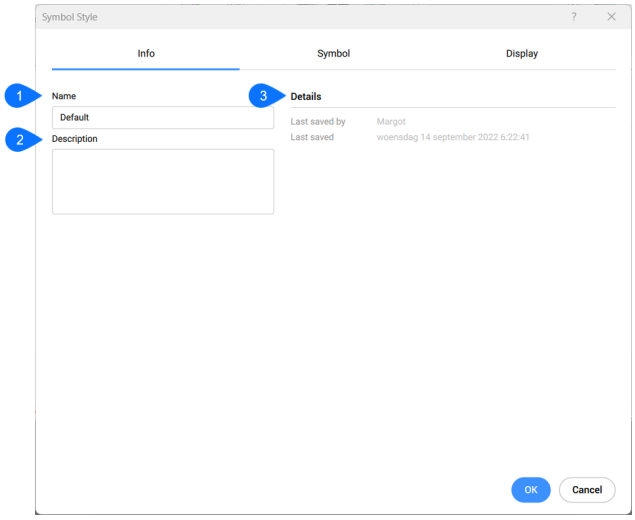
1 情報

2 シンボル

3 表示

34.19.19.1 情報

選択したシンボルスタイルの一般情報を指定します。



1 名前

2 説明

3 詳細

名前

シンボルスタイルの名前を設定および表示します。

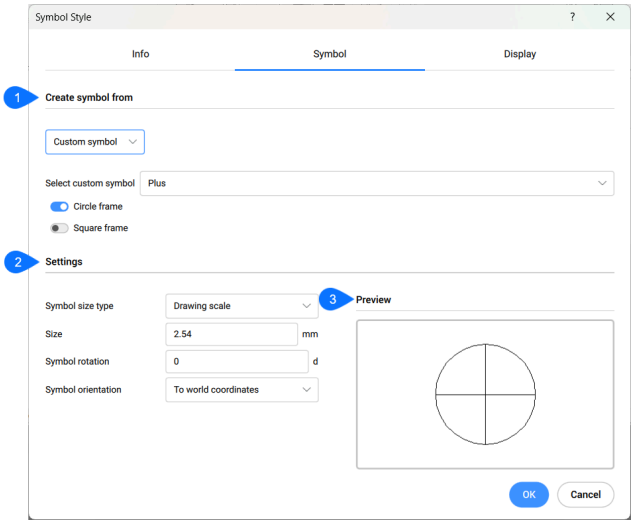
説明

シンボルスタイルの説明を設定および表示します。

詳細
最終保存者と最終保存日を表示します。

34.19.19.2 シンボル

シンボルタブでは、シンボルスタイルを設定できます。



1 シンボルの作成元

2 設定

3 プレビュー

シンボルの作成元
シンボルスタイルの作成に使用するシンボルタイプを指定します。ドロップダウンメニューからいくつかのオプションを選択できます。

- **点オブジェクト**
  ポイントオブジェクトをシンボルスタイルの基準として使用します。
- **カスタムシンボル**
  以下のいずれかのカスタムシンボルからシンボルスタイルを作成できます。
  - 無し
  - 黒丸
  - プラスシンボル
  - Xマーク
  - 線分

  次の2つの追加オプションをオンまたはオフに切り替えることができます。

  サークルフレーム
  シンボルスタイルに円枠を追加します。

  正方形フレーム
  シンボルスタイルに正方形の枠を追加します。
- **ブロック**
  図面内のブロックからシンボルスタイルを作成できます。

設定
選択したシンボルタイプに応じて、特性を指定できます。
カスタムシンボル設定

シンボルサイズタイプ
シンボルのサイズ種類を定義します。サイズを以下の通りに設定できます。

- **図面尺度**
- **固定尺度**
- **絶対単位**
- **画面に対して相対的**

選択したシンボルサイズ種類に応じて、サイズ、縮尺 (X、Y、Z 方向)、回転、方向を決定するための追加設定があります。

サイズ
シンボルのサイズを定義します。

最大サイズ
シンボルの最大サイズをコントロールします。

尺度X
X 方向の固定尺度を定義します。実際のシンボルサイズに尺度Xの値を乗算した値。

尺度Y
Y 方向の固定尺度を定義します。実際のシンボルサイズに尺度Yの値を乗算した値。

尺度Z
Z 方向の固定尺度を定義します。実際のシンボルサイズに尺度Zの値を乗算した値。

シンボルの回転
シンボルの最大サイズをコントロールします。

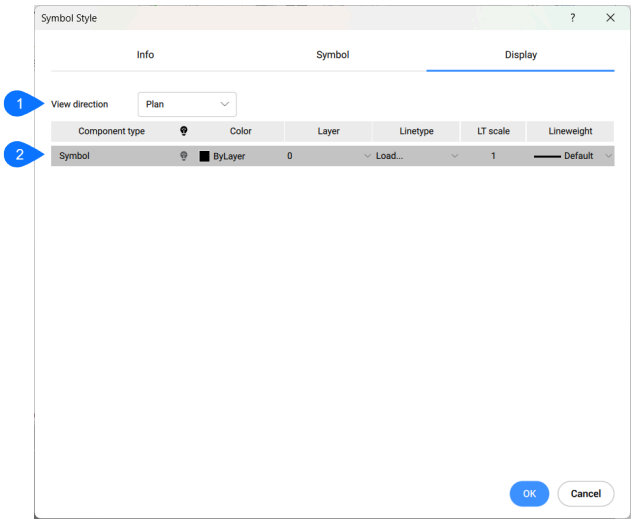
シンボルの向き
ユーザ定義の座標系(オブジェクト、ビュー、またはワールド座標)に基づきシンボルの方向をコントロールします。

注 : シンボルサイズタイプオプションと**サイズ**オプションは、ポイントオブジェクトから開始する場合は使用できません。

プレビュー
指定したシンボルスタイルのプレビューを表示します。

34.19.19.3 表示タブ

すべてのシンボルコンポーネントの表示を指定できます。



1 ビュー方向

2 構成品目タイプの特性

ビュー方向
表示特性を変更するビュー方向を指定します。次の2つのオプションを使用できます。

- プラン
- モデル

構成品目タイプの特性
シンボルコンポーネントの表示特性を指定します。

色
シンボルコンポーネントの色を指定します。

画層
シンボルコンポーネントの画層を指定します。

線種
シンボルコンポーネントの線種を指定します。

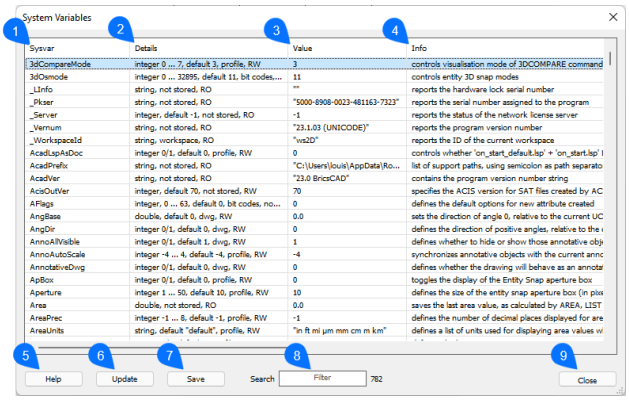
線種尺度
シンボルコンポーネントの線種尺度を指定します。

線の太さ
シンボルコンポーネントの線の太さを指定します。

34.19.20 システム変数

SYSVDLGコマンド(Express Tools)を選択して開きます。

システム変数ダイアログボックスでは、システム変数の設定を表示、復元、編集、および保存できます。



1 システム変数

2 詳細

3 値

4 情報

5 ヘルプ

6 更新

7 保存

8 検索

9 閉じる

34.19.20.1 システム変数

システム変数を一覧表示します。

34.19.20.2 詳細

システム変数の詳細を一覧表示します。これには以下が含まれます：変数種類、最小値と最大値、デフォルト値...

34.19.20.3 値

カレントの値が表示されます。この値をダブルクリックすると、正しいダイアログボックスにリダイレクトされ、値が変更されます。
システム変数の詳細を一覧表示します。

34.19.20.4 情報

システム変数に関する追加情報を一覧表示します。

34.19.20.5 ヘルプ

BricsCADのヘルプデスクにリダイレクトされます。

34.19.20.6 更新

ダイアログボックスを更新します。

34.19.20.7 保存

システム変数の設定を.txtファイルに保存します。

34.19.20.8 検索

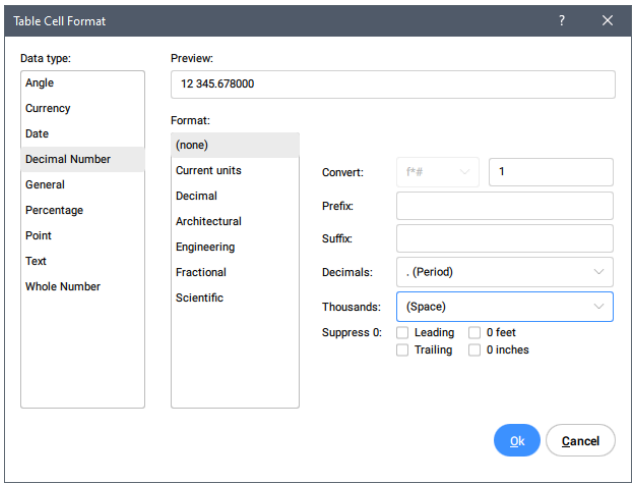
システム変数を検索/フィルタリングできます。

34.20　T

34.20.1　表セルのフォーマット

TABLEMODコマンドの %.. ボタンをクリックして開きます。

選択したセルのフォーマットを設定します。



データタイプ

以下のセルのデータタイプを設定します：

1　角度

2　通貨

3　日付

4　十進表記

5　一般

6　パーセント

7　点

8　文字

9　整数

プレビュー

選択したオプションに従ってセルのプレビューを表示します。

形式

角度、数値、点の単位やテキストフォーマットを設定します。

変換
変換のための値を設定します。セル内の表示値は、このフィールドと掛け合わされます。

接頭
接頭

接尾
接尾辞として追加します。

10進
小数点の区切り符号を設定します。

千
千の単位の区切り文字を設定します。

0を省略
先頭と末尾の0を省略する動作を設定します。

34.20.1.1 通貨

シンボル
通貨記号を定義します。

シンボルの追加
シンボル表示を、接頭辞か接尾辞かで切り替えます。

負の数
負の数の表示方法を定義します。

精度
通貨の精度を設定します。

34.20.1.2 日付

日付
日付または時刻のプレビューを表示します。

データ形式
日付または時刻の表現を設定します。

例
いくつかの定義済みデータおよび時間フォーマットをリストアップします。これらの形式のいずれかを選択できます。

34.20.1.3 点

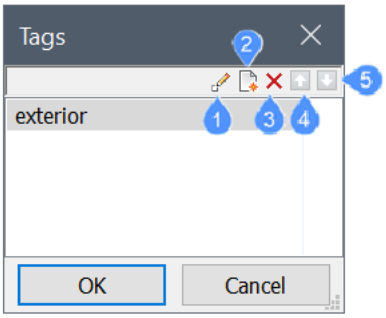
点
座標セパレータを設定します。

X / Y / Z
各座標の表示を切り替えます。

34.20.2 タグ

複合材ダイアログボックスから開きます。

タグダイアログボックスでは、複合材や物理的マテリアルのタグを追加/編集することができます。



1 編集

2 ファイルを追加

3 削除

4 上へ移動

5 下へ移動

34.20.2.1 編集

選択したタグの名前を編集します。

34.20.2.2 ファイルを追加

リストの一番下に新しいタグを追加します。

34.20.2.3 削除

選択したタグを削除します。

34.20.2.4 上へ移動

選択したタグを上に移動します。

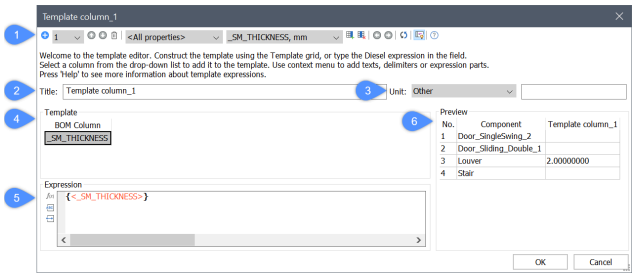
34.20.2.5 下へ移動

選択したタグを下に移動します。

34.20.3 テンプレート列

部品表マネージャパネルから開きます。

テンプレート列ダイアログボックスでは、テンプレート列のタイトル、式、および必要に応じて単位を設定できます。また、結果のプレビューも表示されます。



1 テンプレート列ツール

2 タイトル

3 単位

4 テンプレート

5 式

6 プレビュー

34.20.3.1 テンプレート列ツール

テンプレートを追加( )
新しい子テンプレートを追加します

選択
編集する子テンプレートの選択を可能にします

上に移動( )
カレントの子テンプレートを1つ上に移動します。

下に移動( )
カレントの子テンプレートを1つ下に移動します。

削除( )
カレントの子テンプレートを削除します。

カテゴリー選択(<All properties>)
列のすべてのカテゴリを一覧表示します。

列参照
使用可能な列を表示します。

列を追加( )
選択した列を式に追加します

列を追加
列参照を追加します。

注：これは、最後に選択した列の後に自動的に追加されます。列が選択されていない場合は、最後の列の後に追加されます。必要に応じて、**区切り文字**が**列**参照の前に自動的に追加されます。

区切り文字を追加
区切り文字列を追加します。

テキストを追加
カスタム**文字**列を追加します。

式を追加
式列を追加します。

列を削除()
選択した列を式から削除します。

左に移動()
選択した列を左に移動します。

右に移動()
選択した列を右に移動します。

再表示()
プレビューを更新します。

切り替え()
テンプレートグリッドを切り替えます。

34.20.3.2 タイトル

新しい列の名前が表示されます。

34.20.3.3 単位

すべての測定値と単位を一覧表示します。

34.20.3.4 テンプレート

プロパティを、区切り文字やカスタムテキストと同じように、簡単に挿入、移動、削除できます。

右クリックすると、追加のオプションを含むコンテキストメニューが表示されます。

カスタム書式を設定...
形式ダイアログボックスが開き、指定した列のテキスト文字列の形式を指定できます。

元の形式を使用
元の形式に戻します。

デフォルト値を設定...
デフォルト値を入力ダイアログボックスが開き、既定値を設定できます。

対象ユニット
変数が単位変換をサポートしている場合は、変数のターゲット単位を設定できます。
変数の初期単位を気にすることなく、単位依存の数式(密度計算など)を書くことができます。

34.20.3.5 式

関数(fx)
選択した関数をカーソル位置に挿入します。

変数( )
選択した変数をカーソル位置に挿入します。

区切り文字( )
選択した区切り文字をカーソル位置に挿入します。

注 : 表記フィールドでは、オートコンプリートがサポートされています。

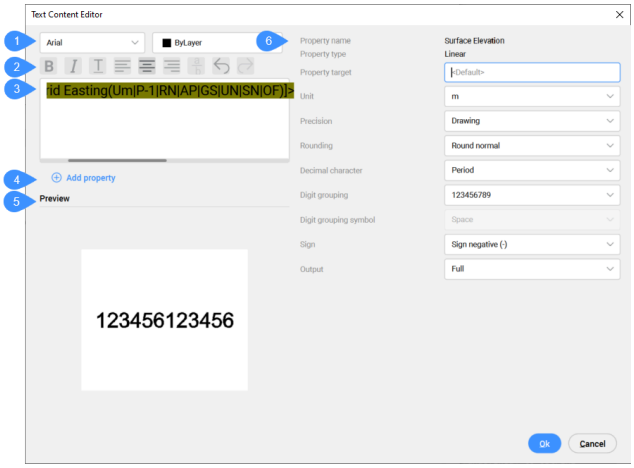
34.20.3.6 プレビュー

計算式の結果のプレビューも表示されます。

34.20.4 文字コンテンツ編集

ラベルスタイル編集ダイアログボックスから開きます。

文字コンテンツ編集ダイアログボックスでは、ラベルスタイルに表示される文字コンポーネントの追加、編集、削除を行えます。



1 フォントと色を選択

2 書式設定を選択

3 テキストエディターフィールド

4 プロパティを追加

5 プレビュー

6 文字コンポーネントのプロパティ

34.20.4.1 フォントと色を選択

文字コンポーネントのフォントと色を選択します。テキストエディターフィールドで、編集するコンポーネントを選択し、フォントと色を割り当てます。

34.20.4.2 書式設定を選択

テキストのスタイル(太字、斜体、下線)、書式設定(左揃え、中央揃え、右揃え)、分数表記を定義します。各プロパティに異なるフォント、色、スタイルを設定できます。指定したテキスト位置がテキストボックス全体に適用されます。右端には「元に戻す」ボタンと「やり直し」ボタンがあります。

注：数値を分数形式で記述するには、区切り文字として「/」を使用します。例えば、「3/4」と入力し、マークして $\frac{a}{b}$ ボタンを選択します。

34.20.4.3 テキストエディターフィールド

ラベルスタイルに表示されるプロパティを一覧表示します。コンポーネントに接頭辞と接尾辞を追加したり、テキストを挿入したりできます。コンポーネントは、切り取り(Ctrl + X)と貼り付け(Ctl + Vを使用して再配置したり、コンポーネントを選択してキーボードの削除ボタンを押すことで削除したりできます。

属性のプロパティを編集する場合は、**文字コンテンツ編集**ダイアログボックスの右側で編集するか、角括弧内の略語を編集します。属性設定で行った変更は、テキストエディターで自動的に更新され、その逆も同様です。詳細については、**土木ポイントシンボルとラベルの理解**の記事をご参照ください。

34.20.4.4 プロパティを追加

ラベルスタイルに表示する新しいプロパティを追加できます。**プロパティを追加**ダイアログボックスでは、土木ポイントのプロパティを選択できますが、別のオブジェクト(サーフェス、水平アライメント、垂直アライメント)のプロパティを使用することもできます。

34.20.4.5 プレビュー

ラベルに表示されるコンポーネントや追加のテキスト(接頭辞と接尾辞など)を指示通りのスタイルでプレビュー表示します。

34.20.4.6 文字コンポーネントのプロパティ

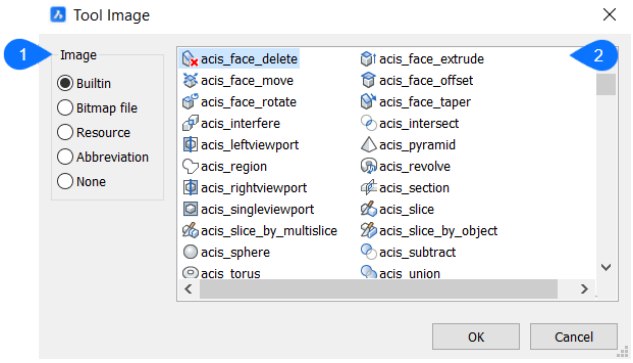
テキストエディターフィールドで個々のプロパティをクリックすると、ダイアログボックスの右側でそのプロパティの追加設定を指定できます。

注：OKボタンをクリックして変更内容を保存します。

34.20.5 ツールイメージ

カスタマイズダイアログボックスから開きます。

ツールイメージダイアログボックスでは、ツールのイメージを指定することができます。



1　イメージ

2　ツールイメージリスト

34.20.5.1　イメージ

ツールイメージの設定方法を指定します。

規定
内蔵されているツールイメージの中から、リストにあるものを指定します。

ビットマップファイル
ツールイメージをビットマップファイルから指定します。

リソース
ツールイメージのリソースを指定します。

略語
画像ではなく、ツールの略語を指定します。

無し
ツールにはイメージや略語は使われていません。

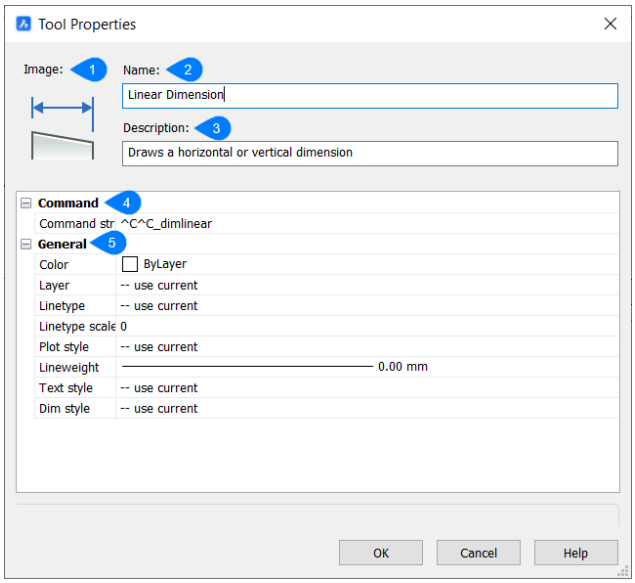
34.20.5.2　ツール一覧

ビルトインオプションを選択すると、組み込みツールのイメージのリストが表示されます。

34.20.6　ツールプロパティ

ツールパレットパネルから開きます。

ツールプロパティダイアログボックスでは、ツールのプロパティが変更できます。



1 イメージ

2 名前

3 説明

4 コマンド文字列

5 一般

34.20.6.1 イメージ

選択したツールの画像を表示します。

34.20.6.2 名前

新しいツールの名前を指定します。

34.20.6.3 説明

選択したツールの説明を指定します。

34.20.6.4 コマンド文字列

アイコンをクリックしたときに実行するマクロを指定します。メニューやツールバーのボタンに使われているマクロ文字を使用できます。

34.20.6.5 一般

図形のプロパティを指定します。プロパティの内容はツールによって異なります。

34.21 U

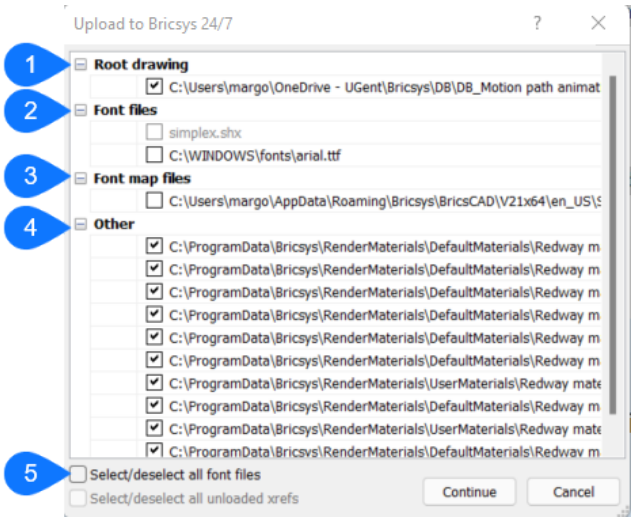
34.21.1 Bricsys 24/7 へアップロード

図面エクスプローラダイアログボックス(ETRANSMITコマンド)から開きます。

Bricsys 24/7へアップロードダイアログボックスでは、図面ファイルとその従属関係のパッケージをBricsys 24/7にアップロードすることができます。

report.txtファイルが作成され、Bricsys 24/7サーバーへアップロードされます。このレポートには、収録されたすべてのファイルの完全なリストと配布時の注意事項が記載されています。

注：プロジェクトは、Bricsys 24/7にアップロードする前に保存する必要があります。



1 ルート図面

2 フォントファイル

3 フォントマップファイル

4 Other

5 すべてのフォントファイルを選択/選択除外

34.21.1.1 ルート図面

カレント図面ファイルの一覧を表示します。

34.21.1.2 フォントファイル

現在使用しているフォントファイルの一覧を表示します。

34.21.1.3 フォントマップファイル

現在使用しているフォントマップファイルの一覧を表示します。

34.21.1.4 Other

レンダリングマテリアルの画像など、その他の使用ファイルの一覧を表示します。

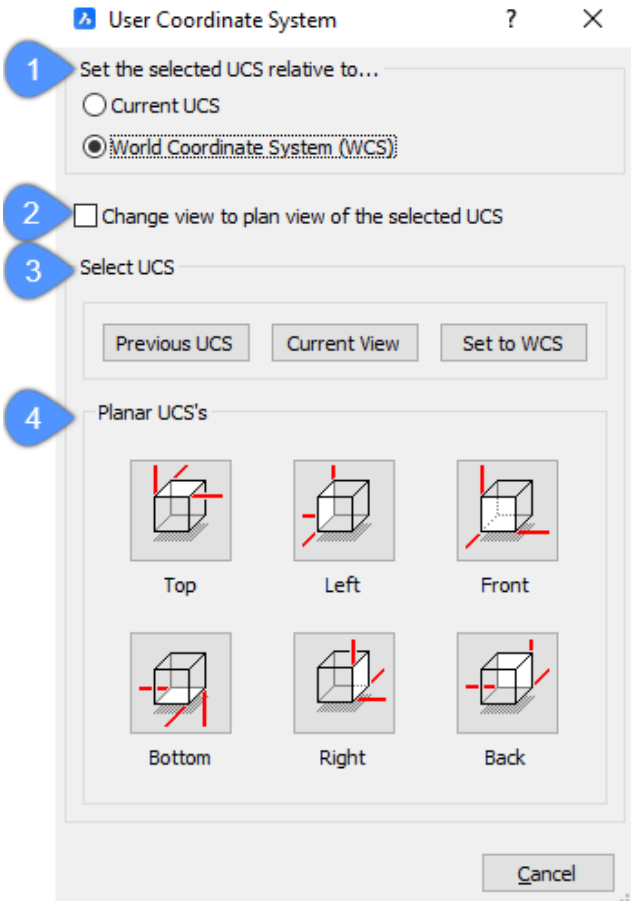
34.21.1.5 すべてのフォントファイルを選択/選択除外

チェックを入れると、すべてのフォントファイルとフォントマップファイルがチェックされます(以前はチェックされませんでした)。チェックを入れない場合、以前チェックしていたものがあれば、すべてのフォントファイルのチェックが解除されます。**続行**ボタンを押すと、アップロード処理を開始するためにBricsys 24/7にサインインするよう求められます。

34.21.2　ユーザー座標設定

SETUCSコマンドを実行して開きます。

ユーザー座標設定ダイアログボックスでは、UCSを指定した視点に設定できます。



1　選択UCSに関連するものをセット...

2　選択UCSのビューを平面ビューに変更

3　UCSを選択

4　平面UCSの

34.21.2.1　選択UCSに関連するものをセット...

新しいUCSがどのように設定されるかについて指定します。

- **カレントUCS**：現在のUCSを基準としてUCSを設定しなおします。
- **ワールド座標系(WCS)**：WCSを基準としてUCSを設定しなおします。ワールド座標系は、UCSが設定されていない場合のデフォルトの座標系で、変更することはできません。

34.21.2.2　選択UCSのビューを平面ビューに変更

UCSをスイッチする時、平面ビューが表示されるかどうかを切り替えます。

- **はい**：新しいUCSの平面ビューが表示されます。

- **いいえ**：ビューポイントは変更されません。

34.21.2.3　UCSを選択

UCSを以下のいずれかの座標系に設定します。これらのボタンをクリックすると、UCSが設定され、すぐにダイアログボックスは終了します。

- **前のUCS**：直前のUCSに戻します。
- **カレントビュー**：現在のビューに合わせてUCSを変更します。
- **WCSに設定**：WCSに合わせてUCSを変更します。

34.21.2.4　平面UCSの

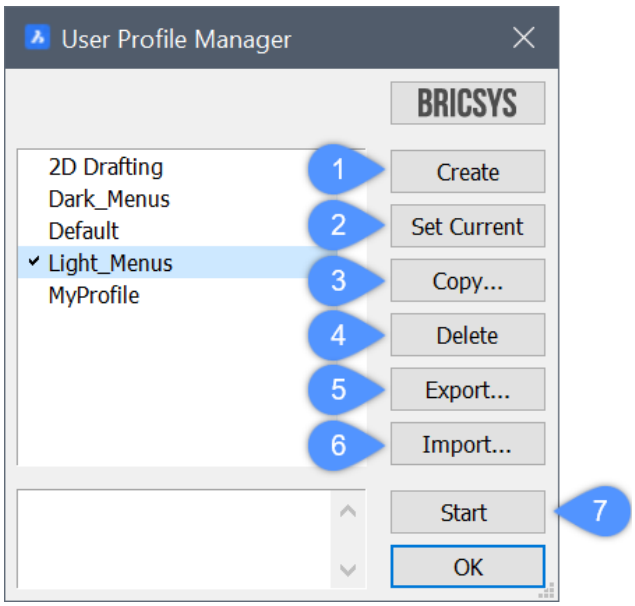
UCSを以下の標準的な直交ビューのいずれかに設定します。いずれかのオプションをクリックすると、プログラムはUCSを設定し、ダイアログボックスを終了します。

- **上**：上から見たビューに合わせてUCSを変更します。
- **左**：左から見たビューに合わせてUCSを変更します。
- **正面**：正面から見たビューに合わせてUCSを変更します。
- **下**：下から見たビューに合わせてUCSを変更します。
- **右**：右から見たビューに合わせてUCSを変更します。
- **背面**：背面から見たビューに合わせてUCSを変更します。

34.21.3　ユーザープロファイル管理

PROFILEMANAGERを実行して開きます。

ユーザープロファイル管理ダイアログボックスでは、現在のユーザープロファイルの設定、プロファイルの作成、コピー、削除、読み込み、書き出しを行うことができます。



1　作成

2 カレントにセット

3 コピー...

4 削除

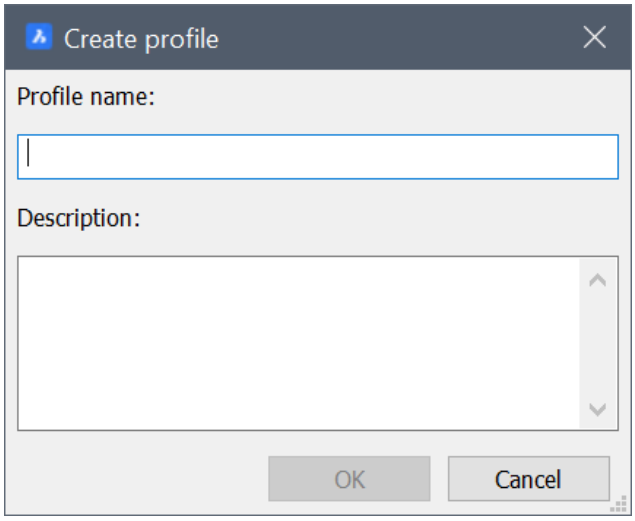
5 書き出し...

6 読み込み...

7 開始

34.21.3.1 作成

デフォルトの設定を使用して、新しいプロファイルを作成することができます。**プロファイルを作成**ダイアログボックスが表示されます。



プロファイル名
新しいプロファイルの名前を入力できます。

説明
(オプション)新しいプロファイルの説明を入力できます。

34.21.3.2 カレントにセット

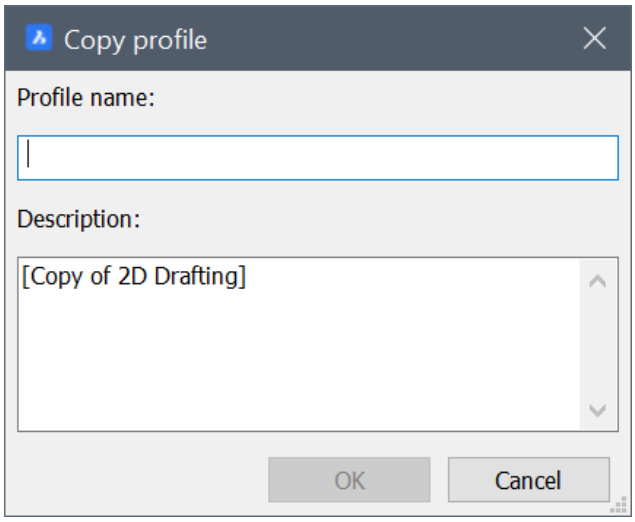
選択したプロファイルをカレントプロファイルに設定します。

注：

- また、プロファイルをダブルクリックすることで、カレントプロファイルに設定することができます。
- リストで選択しているプロファイルに、チェックマークが付きます。

34.21.3.3 複写

既存のプロファイルのコピーとして新しいプロファイルを作成します。**プロファイルをコピー**ダイアログボックスが表示されます。



34.21.3.4 削除

選択したプロファイルを削除します。

注：カレントのプロファイルは削除できません。これを行うことで、ダイアログボックスの表示、すべての設定を工場出荷時のデフォルトにリセットできます。

34.21.3.5 書き出し...

選択したプロファイルを.arg(プロファイルファイル)または.reg(レジストリファイル)として指定したフォルダーに書き出します。

注：プロファイルの書き出し/読込みを行うと、あるコンピュータから別のコンピュータにユーザー設定を移行することができます。

34.21.3.6 読み込み...

保存したプロファイルを読み込みます。

34.21.3.7 開始

選択されたプロファイルを使用して別のBricsCADセッションを開始します。

注：

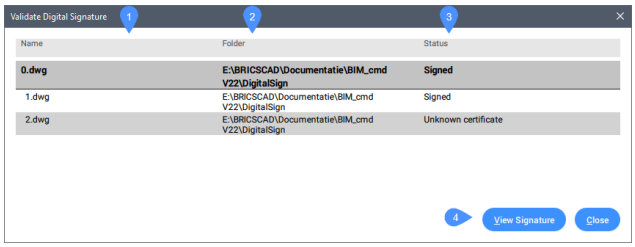
- このオプションは、コマンドがBricsCADのインストールフォルダー**profilemanager_app.exe**から起動した時のみ有効です。デフォルトでは、以下のパスが設定されています：C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 ja_JP
- SINGLETONMODE環境変数がオンに設定されている場合、複数のBricsCADセッションを同時に開くことはできません。

34.22 V

34.22.1 デジタル署名を検証

SIGVALIDATEコマンドを実行して開きます。

図面とその外部参照に対するすべてのデジタル署名の状態を表示します。



注：太く大きなフォントで書かれたリストの最初の図面は、ホストの図面です。

名前
図面ファイル名を表示します。

フォルダー
図面フォルダーを表示します。

状態
図面が有効なデジタル署名で署名されているかどうかを表示します。

署名あり
図面には有効なデジタル署名が使われています。

署名なし
図面にデジタル署名がされていないか、電子署名を再度適用せずに図面の修正を保存した場合です。

不明な証明書
デジタル証明書が適切な場所に配置されていないか、デジタル証明書が認証局によって失効されていることを示しています。

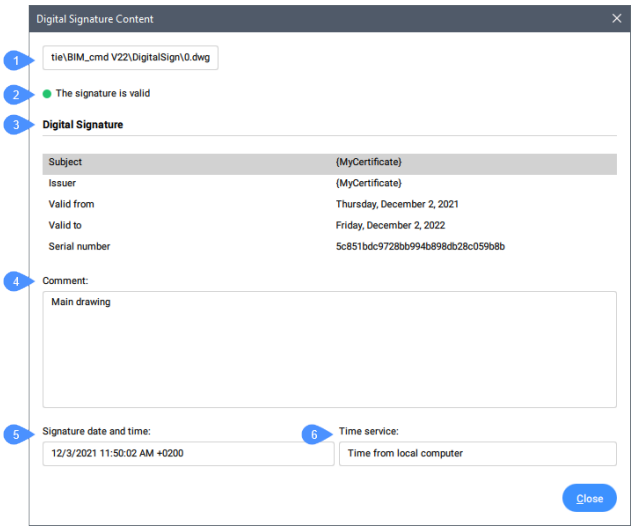
見つかりませんでした
図面の初期位置が不明です。

無効な署名
署名された図面は、デジタル署名をサポートしていない古いBricsCADバージョン(V21)で修正されたものです。

ロード解除
参照ファイルが読み込まれていません。

エラー
署名の検証中にエラーが発生しました。

署名を表示
デジタル署名の内容ダイアログボックスを開きます。



図面識別
図面ファイルのパスを表示します。

署名の状態

- 有効な署名の場合、緑色のマークが表示されます。
- 無効な署名の場合、赤色のマークが表示されます。

デジタル署名
主題：証明書の名前を表示します。
発行者：署名者の名前を表示します。
有効期間の開始日：証明書の有効期限開始日が表示されます。
有効期限日：証明書が有効な期間の日付を表示します。
製造番号：証明書の製造番号を表示します。

コメント
署名コメントを表示します。

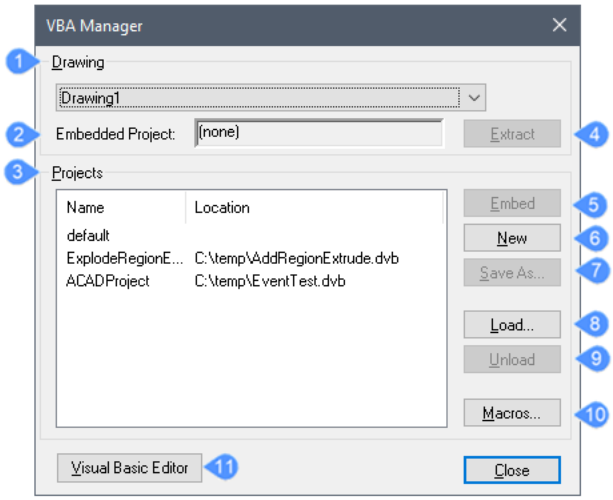
署名の日付と時間
図面に署名された日時を表示します。

タイムサービス
選択したタイムサーバーを表示します。

34.22.2 VBAマネージャー

VBAMANコマンドを実行して開きます。

VBAマネージャダイアログボックスでは、VBAプロジェクトの管理ができます。



1 図面

2 埋め込みプロジェクト

3 プロジェクト

4 抽出

5 埋め込む

6 ファイルを追加

7 名前を付けて保存

8 ロード

9 ロード解除

10 マクロ

11 VBエディター

34.22.2.1 図面

現在開かれている図面名をリストアップします。

埋め込まれたプロジェクトが、もしあればEmbedded Projectボックスにリスト表示されるので、ドロップリストから図面名を選んでください。

34.22.2.2 埋め込みプロジェクト

もし埋め込まれたプロジェクトがあればプロジェクト名をリスト表示します。

34.22.2.3 プロジェクト

名前

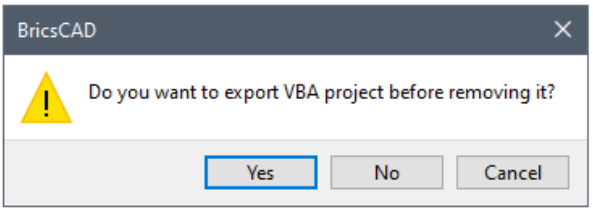
ロードされているプロジェクト名をリストアップします。

位置

DVBおよびVBIファイルのドライブとフォルダー名を列挙します。

34.22.2.4 抽出

カレント図面からプロジェクトを削除し、ダイアログボックスを表示します。



はい：**名前を付けて保存**ダイアログボックスを表示します。

プロジェクトに名前を付け、**保存**をクリックします。

いいえ：DVBファイルとして保存せずに、図面からプロジェクトを削除します。

キャンセル：コマンドがキャンセルされ、プロジェクトは図面に残ります。

34.22.2.5 埋め込む

カレント図面にプロジェクトを埋め込みます。プロジェクトが新規で、まだ保存されていない場合、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

各図面は1つの埋め込まれたプロジェクトだけを含むことができます；　1つのプロジェクトが埋められたあと、Embed ボタンが利用できなくなります埋め込まれたプロジェクトを変えるために、現在のプロジェクトを削除するに、抽出 オプションを使用します。

34.22.2.6 ファイルを追加

新しいVBAプロジェクトを作成し、VbaProjectという一般名を付けます。名前を付けて保存オプションを使って、DVBまたはVBIプロジェクトファイルの名前を変更して保存します。

34.22.2.7 名前を付けて保存

選択したプロジェクトを別の名前で保存します。名前を付けて保存ダイアログボックスを表示します。

34.22.2.8 ロード

DVBおよびVBIプロジェクトファイルを読み込み、開くダイアログボックスを表示します。

34.22.2.9 ロード解除

警告なしで選択されたプロジェクトをロード解除します。

34.22.2.10 マクロ

BricsCAD VBAマクロを実行ダイアログボックスを表示します(関連記事**BricsCAD VBAマクロを実行ダイアログボックス**を参照)。

34.22.2.11 VBエディター

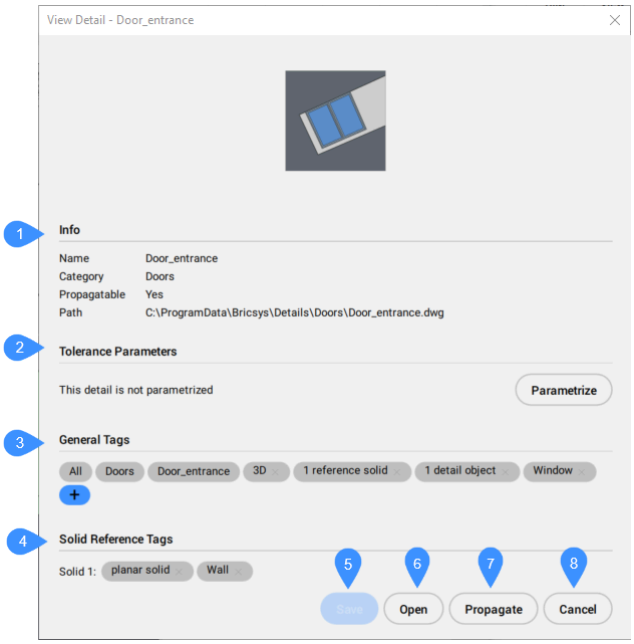
開発環境を総合したVBAを開きます。

34.22.3 詳細を表示

詳細パネルから開きます。

詳細を表示ダイアログボックスには、選択したBIM詳細に関する情報が表示されます。

高度な(プロパゲート可能な)詳細の詳細を表示:



1 情報

2 公差パラメータ

3 一般タグ

4 ソリッド参照タグ

5 保存

6 開く

7 プロパゲート

8 キャンセル

34.22.3.1 情報

詳細に関する一般情報を表示します。

名前
詳細の名前を表示します。

カテゴリ
詳細のカテゴリ名を表示します。

プロパゲート可能
詳細がプロパゲート可能かどうかを指定します。

パス
詳細ファイルのパスを表示します。

34.22.3.2 公差パラメータ

詳細のパラメータ、または詳細をパラメータ化するオプションを表示します。

パラメトリック化
DWG詳細ファイルを開き、BIMPARAMETRIZEDETAILコマンドを実行します。

注：詳細がすでにパラメータ化されている場合、このオプションはオフになり、パラメータが表示されます。

34.22.3.3 一般タグ

詳細を一般的に識別するタグを表示します。

- 十字をクリックするとタグを削除できます。
- プラスボタンをクリックしてタグを追加します。新しく追加されたタグはオレンジ色のボックスに表示されます。

34.22.3.4 ソリッド参照タグ

詳細から個々のソリッド参照を識別するタグを表示します。参照用のソリッドタグを追加することはできず、既存のタグを削除することしかできません。

注：これらはライブラリで特定の詳細を検索するために使用されます。

注：詳細のタグは、BIMCREATEDETAILコマンドの実行中に自動的に生成されます。

34.22.3.5 保存

変更を保存して、**詳細を表示**ダイアログボックスを閉じます。

34.22.3.6 開く

詳細のDWGファイルを開きます。

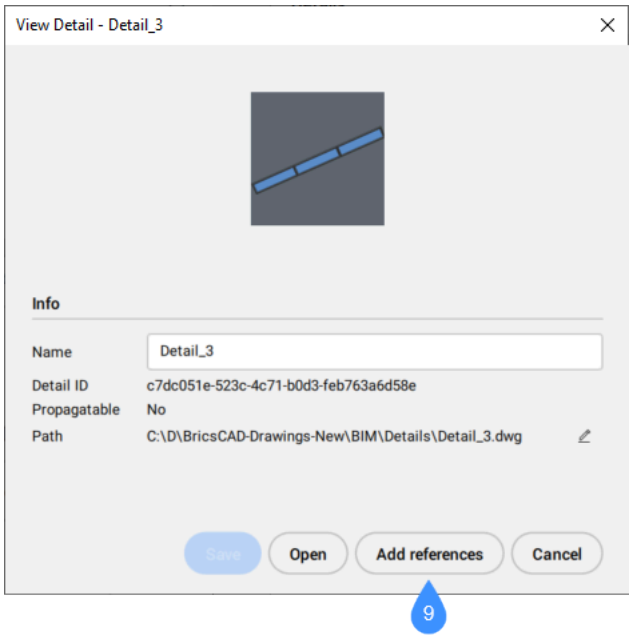
34.22.3.7 プロパゲート

詳細をプロパゲートします。BIMPROPAGATEコマンドをご参照ください。

34.22.3.8 キャンセル

保存せずに、**詳細を表示**ダイアログボックスを閉じます。

基本詳細の場合に表示される詳細を表示



9.参照を追加します

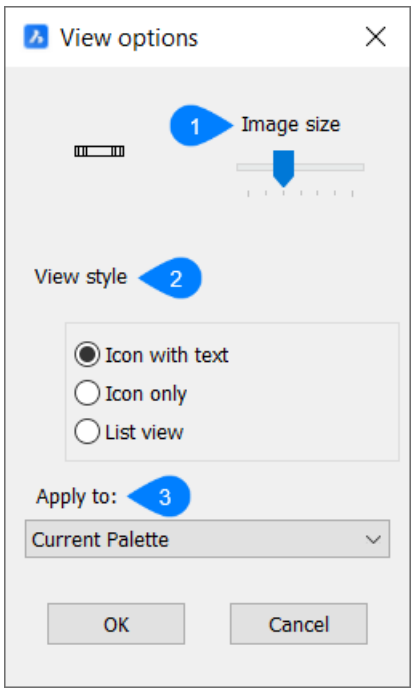
34.22.3.9 参照を追加

BIMADDDETAILREFSコマンドを起動します。

34.22.4 ビューオプション

ツールパレットパネルから開きます。

ビューオプションダイアログボックスでは、ツールパレットパネルのツールの表示方法をカスタマイズすることができます。



1 イメージサイズ

2　ビュースタイル

3　適用

34.22.4.1　イメージサイズ

表示矢印をスライドさせて、表示されるアイコンの大きさを設定します。

34.22.4.2　ビュースタイル

パレットに表示されるツールの表示方法を指定します。

文字付きアイコン
ツールのアイコンと名前がグリッドビューで表示されます。

アイコンのみ
ツールをアイコンのみでグリッド表示します。

リストビュー
ツールをリストビューで表示し、その横にアイコンと名前が表示されます。

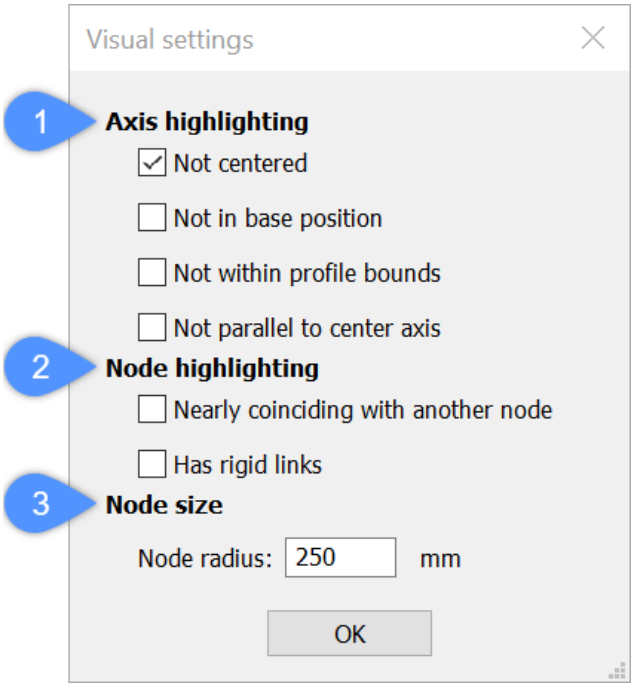
34.22.4.3　適用

変更内容は、現在のパレットのみに適用することも、すべてのパレットに適用することもできます。

34.22.5　ビジュアル設定

BIMANALYTICALMODELコマンドを実行して開きます。

ビジュアル設定ダイアログボックスでは、軸やノードのさまざまな機能にチェックを入れたり外したりすることで、その機能に合致する軸やノードをハイライト(黄色)表示することができます。また、ノードを表すディスクのサイズも変更することができます。



1　軸のハイライト表示

2　ノードのハイライト表示

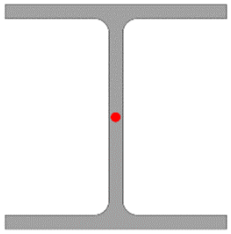
3 ノードサイズ

34.22.5.1 軸のハイライト表示

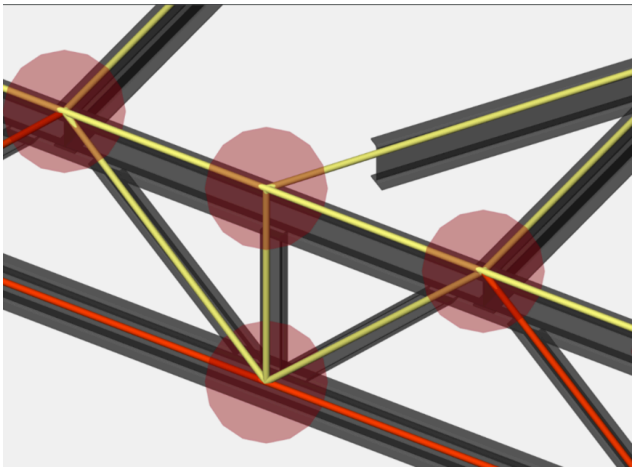
軸をハイライト表示するタイミングと方法を指定します。

中心でない
線形ソリッドの中心でない軸をハイライト表示します。

- 赤い点はプロファイルの中心を表しています：

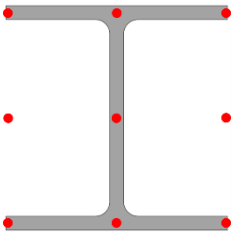


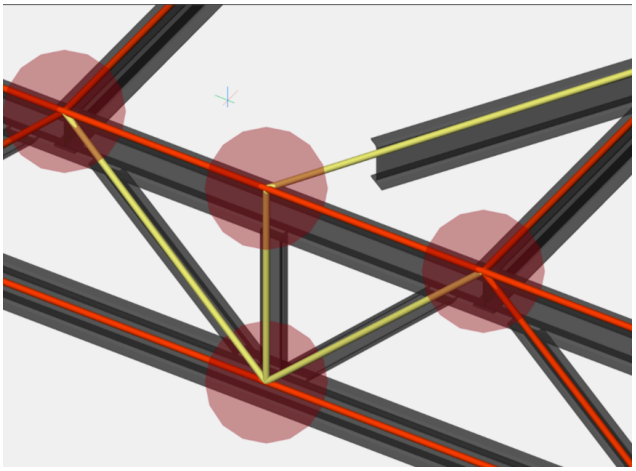
- 梁の軸が黄色でハイライト表示されているのは、上部の梁の軸が梁の中心ではなく、上部にあるためです。



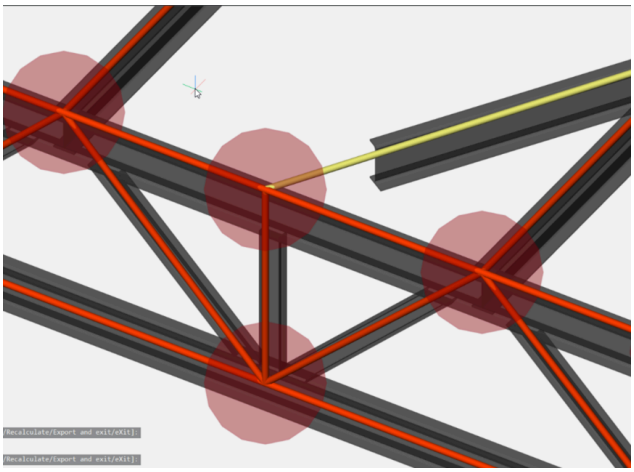
基準位置でない
線形ソリッドの基準位置のいずれかにない軸をハイライト表示します。

- 赤い点はプロファイルの基準位置を示しています。

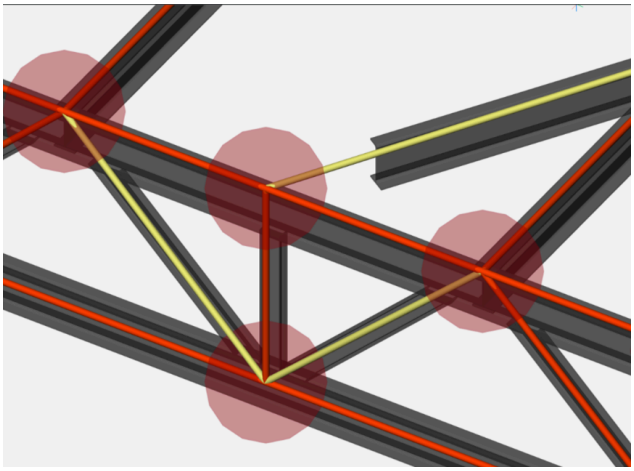




プロファイルの境界内にない
プロファイル境界の外側にある軸をハイライト表示します。



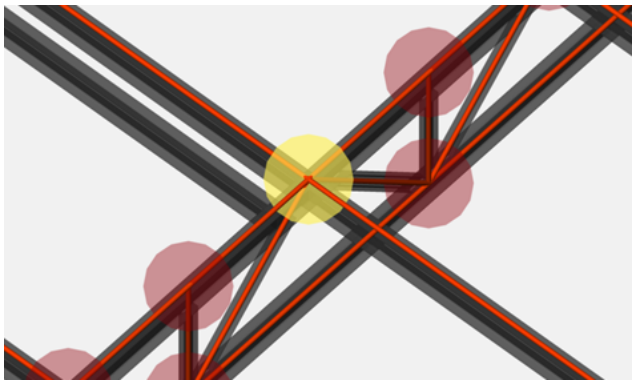
中心軸に平行でない
中心軸と平行でない軸をハイライト表示します。



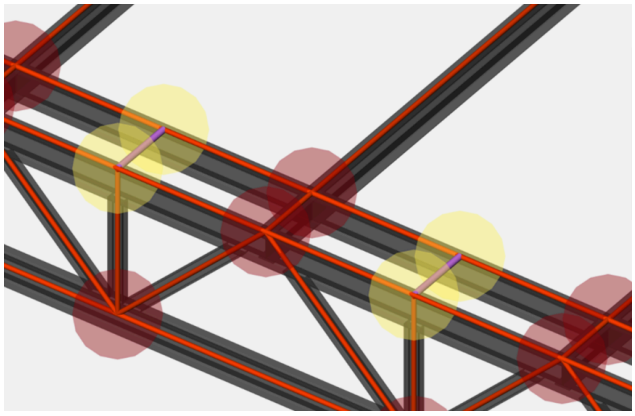
34.22.5.2 ノードのハイライト表示

ノードがハイライトされるタイミングと方法を指定します。

別のノードとほぼ一致
他のノードとほぼ重なっているノードをハイライト表示します。



剛体リンクあり
剛体リンクを持つノードをハイライト表示します。画像内の紫色のリンクをご覧ください：

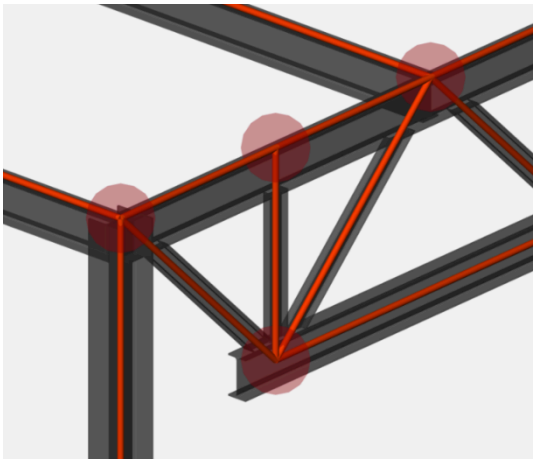


34.22.5.3 ノードサイズ

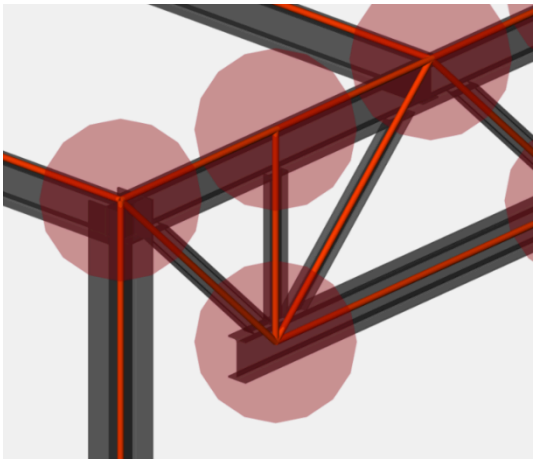
ノードのサイズ特性を指定します。

ノード半径
解析モデルのノードは、塗りつぶされた円でハイライト表示されています。ノードの半径を入力して、ノードの大きさを指定します。

- ノード半径：150mm



- ノード半径：350mm



34.23 W

34.23.1 溶接記号

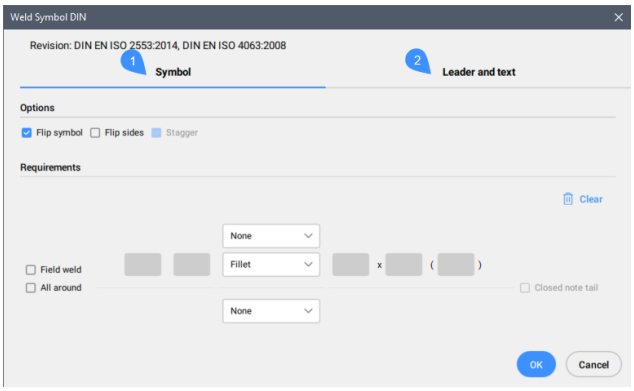
AMWELDSYMコマンドを実行して開きます。

溶接記号ダイアログボックスでは、現在の製図規格にデフォルトの溶接記号を設定できます。

溶接記号に入力したパラメータは一時的に保存され、次の溶接記号設定のデフォルト値として使用されます。

このシンボルが準拠する規格の最新リビジョンが、ダイアログボックス上部に表示されます。

このダイアログボックスには、**シンボル**と**引出線と文字**の2つのメインタブがあります。

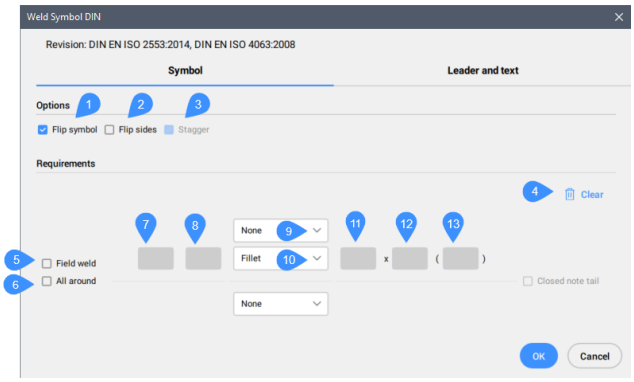


1 シンボル

2 引出線と文字

34.23.1.1 シンボル

溶接記号の特性を指定します。



1 記号を反転

2 反転側

3 千鳥溶接

4 クリア

5 現場溶接

6 全周

7 深さ

8 サイズ

9 溶接記号タイプ

10 輪郭

11 番号

12 長さ

13 間隔

14 閉じた注記尾部

オプション

記号を反転(1)
シンボルを右揃えにするか左揃えにするかを指定します。

- **チェックマークなし**：右揃え。
- **チェックマークあり**：左揃え。

反転側(2)
矢印側の記号とそのパラメータを反対側の記号と入れ替えます。

注：**反転側**の設定は、次回に溶接記号を適用するときに考慮されます。

千鳥溶接(3)
溶接が千鳥の断続的な溶接かどうかを指定します。

要求事項

クリア(4)
最後に挿入されたパラメータをクリアします。セルは空になります。

現場溶接(5)
溶接記号の中の現場溶接記号の表示/非表示を切り替えます。

全周(6)
溶接記号の中の全周記号の表示/非表示を切り替えます。

深さ(7)
開先溶接の溝の深さを定義します。

サイズ(8)
溶接の大きさを定義します。

溶接記号タイプ(9)
溶接記号の種類を以下のオプションから選択します：

- フィレット
- プラグイン円形穴
- 融着スポット(システムBの投影溶接)
- 抵抗スポット(システムAの投影溶接)
- 融着継ぎ目
- 抵抗継ぎ目
- バッキングラン;バックまたはバッキング溶接 / アメリカ
- フランジ付きバット/コーナー
- スクエアバット
- Vバット
- ベベルバット
- Uバット
- Jバット
- エッジ

- フォールドジョイント
- 傾斜ジョイント
- サーフェスジョイント
- 急な側面のVバット
- 急な側面のベベルバット
- 広い根元の顔を持つVバット
- 広い根元の顔を持つベベルバット

注：溶接タイプごとに関連するアイコンがあります。

輪郭(10)
以下のリストから溶接の形状を定義します。

- 凸形表面形状
- 凹形表面形状
- 平面/フラッシュ輪郭
- フラッシュ仕上げ輪郭
- 先端はスムーズにブレンドされます
- 無し

番号(11)
溶接の数を定義します。

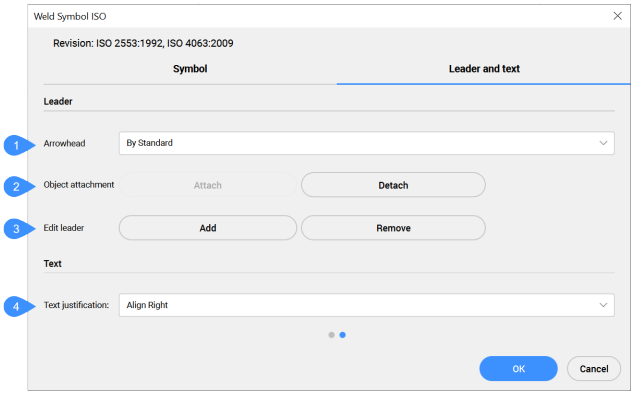
長さ(12)
溶接の長さを定義します。

間隔(13)
溶接間の距離を定義します。

閉じた注記尾部(14)
注記尾部の閉じた状態を表示します。

34.23.1.2 引出線と文字

引出線と文字の特性を指定します。



1 矢印

2　オブジェクトアタッチメント

3　引出線を編集

4　文字位置合わせ

引出線

矢印(1)
溶接記号のデフォルトの矢印の種類を定義します。

オブジェクトアタッチメント(2)
シンボル引出線をオブジェクトにアタッチするか、アタッチ解除するかを定義します。

アタッチ
選択したオブジェクトにシンボルをアタッチします。

アタッチ解除
シンボルをオブジェクトからアタッチ解除します。

引出線を編集(3)
引出線セグメントを編集します。

追加
新しい引出線セグメントまたは引出線ノードを追加します。

削除
引出線セグメントまたは引出線ノードを削除します。

文字

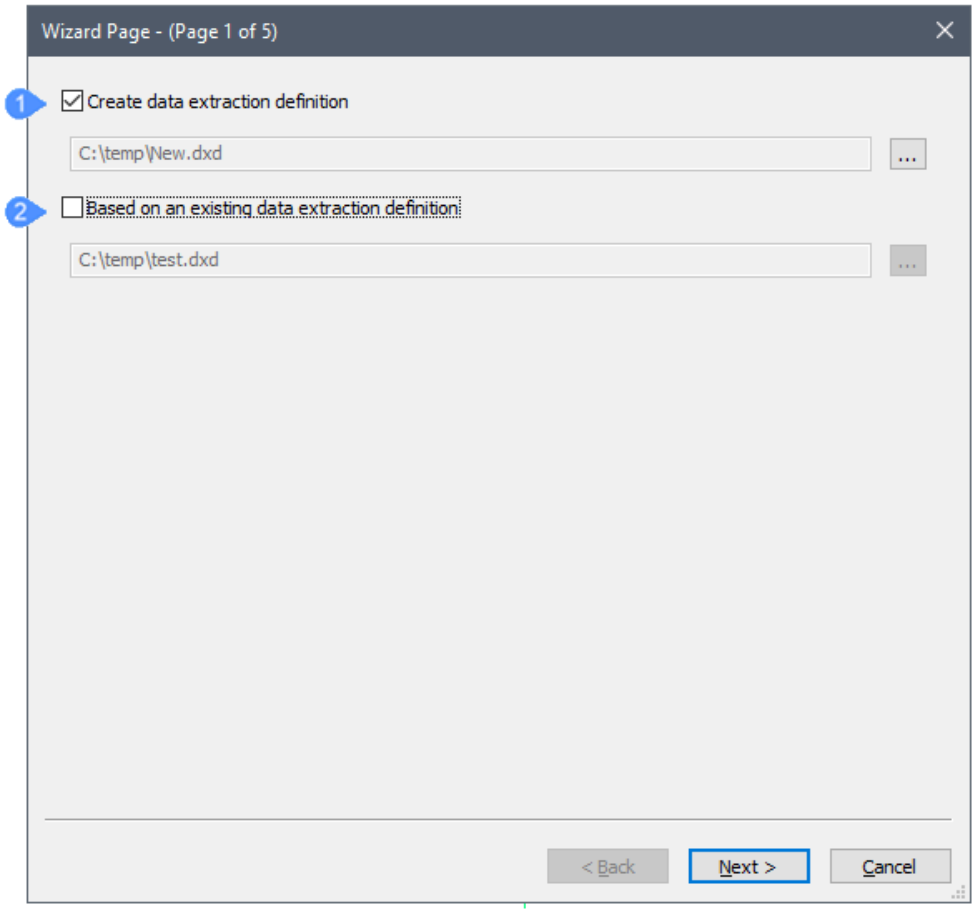
文字位置合わせ(4)
記号文字を右揃え、中央揃え、左揃えのいずれにするかを指定します。

34.23.2　ウィザードページ

DATAEXTRACTIONコマンドを実行して開きます。

ウィザードページダイアログボックスでは、図形のプロパティ、ブロックの属性、図面情報を表や外部データファイルに書き出す方法を説明しています。

34.23.2.1　ウィザードページ 1 ダイアログボックス



1 データ抽出設定を作成

2 既存のデータ抽出設定を使用

データ抽出設定を作成

新規に.dxd(作成データ抽出設定)ファイルを作成します。

1 チェックボックスにチェックを入れます。

2 **参照**をクリックします。

3 **データ抽出ファイルを保存**ダイアログボックスで、フォルダーを選択します。

4 **ファイル名**欄に名前を入力します。

5 **保存**をクリックします。

既存のデータ抽出設定を使用

既存の .dxd を使用します。ファイルを新規ファイルのテンプレートとして使用し、同じ種類の抽出を別の図面で実行したり、データ抽出定義を編集したりします。

1 チェックボックスにチェックを入れます。

2 **参照**をクリックします。

3 **データ抽出設定ファイルを開く**ダイアログボックスで、.dxdファイルを選択します。

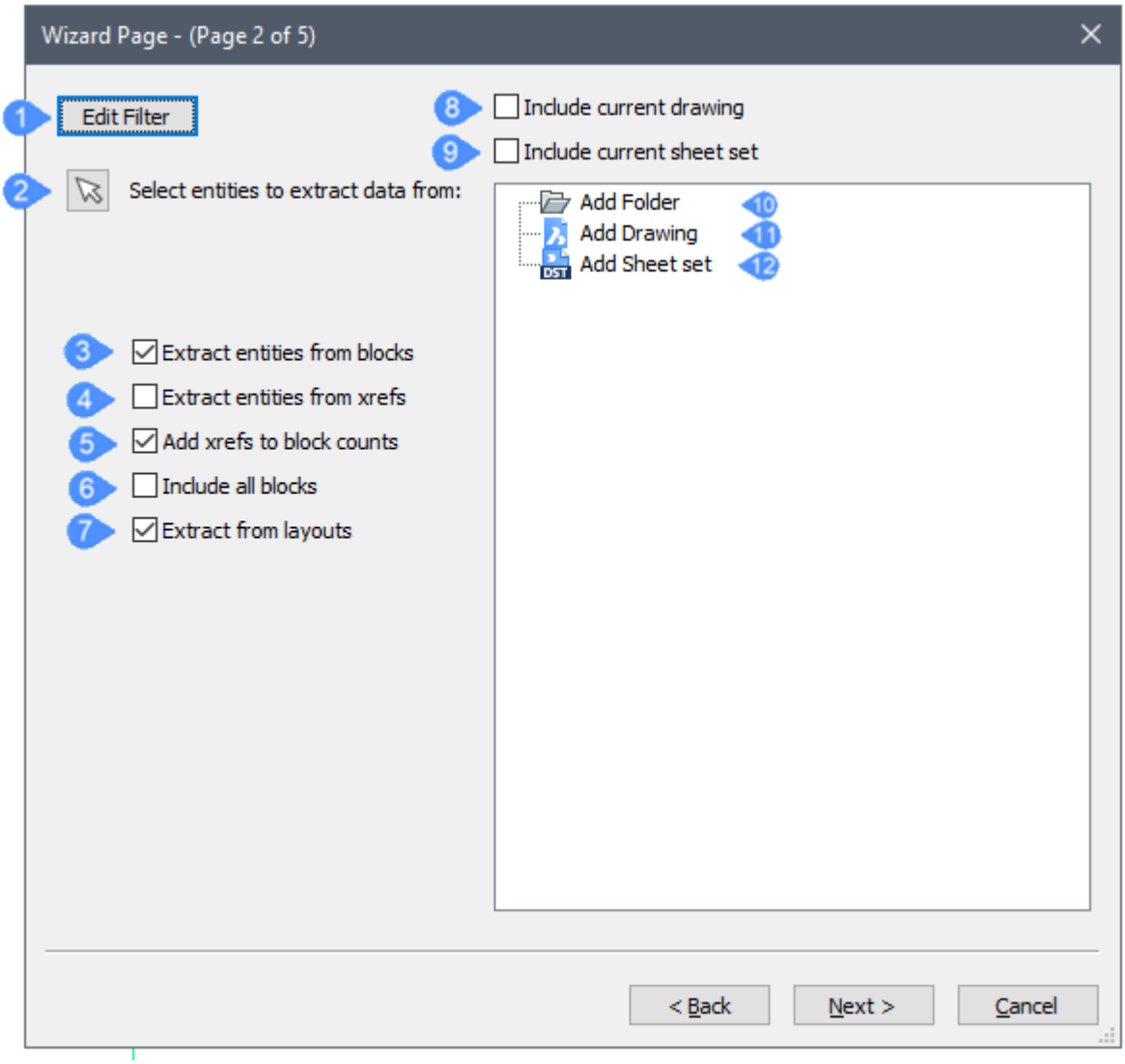
4 **開く**をクリックします。

新規に作成したカスタム*.dxdファイルは、プロジェクトブラウザで建具表を作成する際に使用できます。

.dxdファイルは、MS Notepadなどのテキストエディターで編集できます。

次のページに行くには**次へ**をクリックします。

34.23.2.2 ウィザードページ 2 ダイアログボックス



1 フィルターを編集

2 抽出対象の図形を選択

3 ブロック図形も抽出

4 外部参照図形も抽出

5 ブロック数に外部参照も追加

6 すべてのブロックを含める

7 レイアウトから抽出

8 現在の図面を含める

9 カレントのシートセットを含める

10 フォルダーを追加

11 図面を追加

12 シートセットを追加

ガイドでは、データ抽出の対象となる図形を選択し、抽出前にフィルターを適用することで、後でソートする情報を少なくすることができます。

DXEVALシステム変数は、変更が抽出されたデータに影響を与える図面において、いつ更新通知が発生するかを制御します。

フィルターを編集
フィルターの作成/編集を行います。

抽出対象の図形を選択
ダイアログボックスを一時的に閉じて、図面内の図形を選択できるようにします。**Ctrl+A**を押すと、図面内のすべての図形を選択できます。図形の選択を終了する場合は、**Enter**を押すか右クリックします。

ブロック図形も抽出
選択したブロックの図形が含まれます。

外部参照図形も抽出
外部参照された図面(外部参照ファイル)図形を含みます。

ブロック数に外部参照も追加
選択した外部参照をブロックとしてカウントします。

すべてのブロックを含める
すべてのブロック図形を含みます。

レイアウトから抽出
図面ビュー内のモデル空間すべての図形が含まれます。

現在の図面を含める
データを抽出するためにカレントの図面を追加します。

カレントのシートセットを含める
データを抽出するためにカレントのシートセットを追加します。

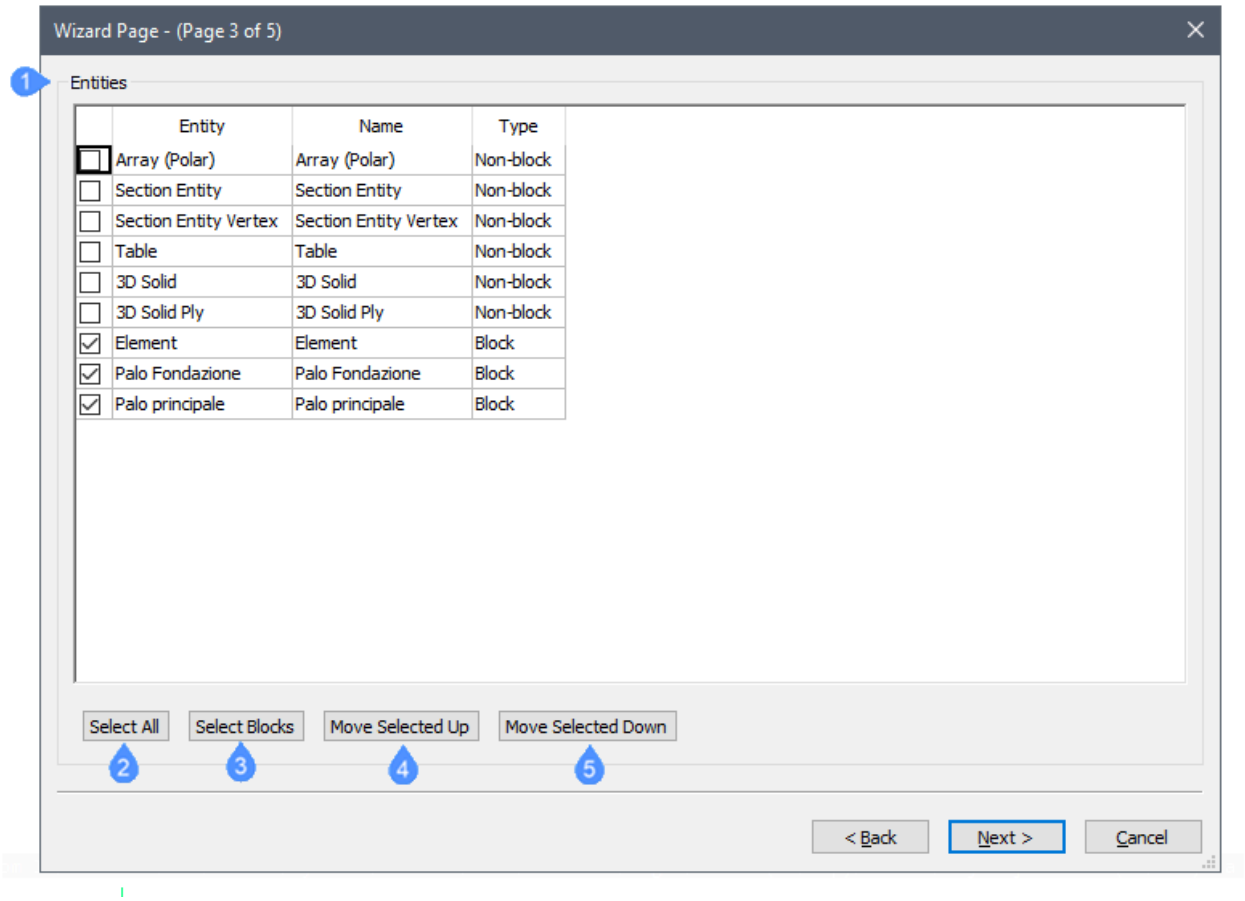
フォルダーを追加
データを抽出するための元の図面を含むフォルダーを追加します。
ダブルクリックすると、フォルダーオプションダイアログボックスが開きます。

- **フォルダー**：**参照**をクリックして、フォルダーを選択ダイアログボックスでフォルダーを選択します。
- **オプション**
  - **サブフォルダーを含める**：サブフォルダーを含める場合は、チェックボックスをオンにします。
  - **ワイルドカードを使って対象となる図面を絞り込む**：チェックボックスにチェックを入れ、フィルターフィールドに文字列を入力します。例えば、House*.dwgには、「House」で始まるすべてのファイルが含まれます。

図面を追加
ダブルクリックでデータを抽出するための図面を追加します。

シートセットを追加
ダブルクリックでデータを抽出するシートセットを追加します。
次のページに行くには**次へ**をクリックします。

34.23.2.3 ウィザードページ 3 ダイアログボックス



1 図形

2 すべて選択

3 ブロックを選択

4 選択して上へ

5 選択して下へ

データ抽出手順にどの図形タイプを含めるか、含めないかをコントロールします。

複数のアイテムを選択します。

- 複数のアイテムを続けて選択するには、最初のアイテムを選択し、**Shift**キーを押しながら他の項目をクリックします。
- 複数のアイテムを選択するには、**Ctrl**キーを押しながら複数の図形を選択します。
- アイテムの選択を解除するには、**Ctrl**キーを押しながらアイテムをもう一度クリックします。

リストを並べ替えるには、列の見出しでタイトルをクリックします。逆順に並べ替えるには、もう一度クリックします。

図形

- **図形**：データ抽出ダイアログボックスで設定したオプションに従って、選択範囲内の図形タイプとブロックをリストアップします。
- **名前**：図形の名前。デフォルトの名前を受け入れるか、カスタマイズした名前を入力します。図形タイプ名は、データ抽出書き出しのデフォルトの**名前**フィールドに表示されます。
- **タイプ**：選択した図形のタイプ(非ブロック、ブロック、属性付きブロック)を報告します。

すべて選択
データ抽出のためにすべての項目を選択します。

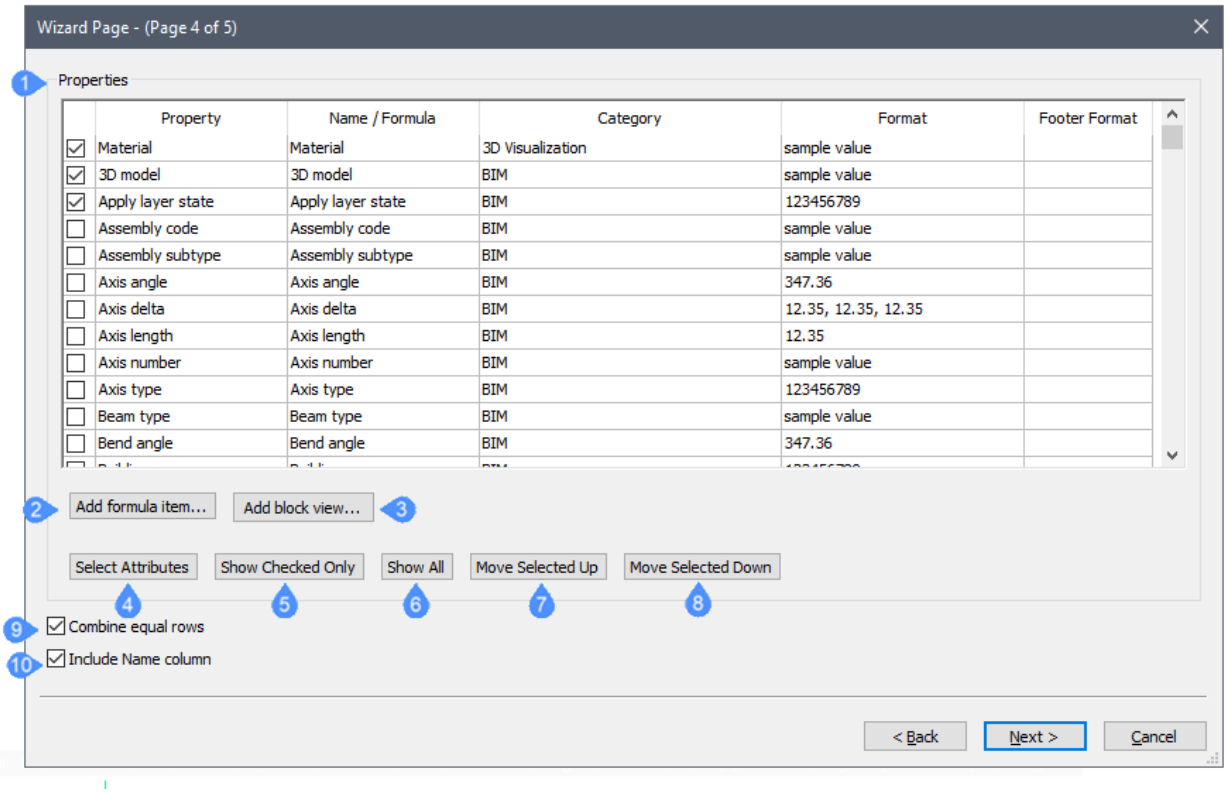
ブロックを選択
通常、ブロックには属性が含まれているため、リスト内のブロックのみを選択します。

選択して上へ
一覧で選択したアプリケーションを上に移動します。

選択して下へ
一覧で選択したアプリケーションを下に移動します。

次のページに行くには**次へ**をクリックします。

34.23.2.4 ウィザードページ 4 ダイアログボックス



1 プロパティ

2 数式アイテムを追加

3 ブロックビューを追加

4 属性を選択

5 チェック済みのみ表示

6 すべてを表示

7 選択して上へ

8 選択して下へ

9 同じデータの行は結合

10 列名を含める

データ抽出ファイルに含めるプロパティの選択：チェックボックスにチェックを入れて、プロパティをチェック/チェックしないを切り替えます。複数のアイテムを選択するには、**ウィザードページ 3**ダイアログボックスと同様の手法で行います。

リストを並べ替えるには、列の見出しでタイトルをクリックします。逆順に並べ替えるには、もう一度クリックします。

プロパティ

- **プロパティ**：選択した図形のすべてのプロパティを一覧表示します。
- **名前/式**：選択した図形の名前または式を一覧表示します。デフォルトの名前を受け入れるか、カスタマイズした名前を入力します。プロパティ名は、データ抽出書き出しの列見出しに表示されます。
- **カテゴリ**：選択した図形のカテゴリを報告します。
- **形式**：書き出しファイル内のアイテムをフォーマットします。クリックすると、ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスのレイアウトは、**フィールド**ダイアログボックスの形式セクションと同様に、選択されたアイテムに応じて異なります。
- **フッター形式**：マウスを右クリックして、ドロップダウンリストからフッターの設定を選択します。

数式アイテムを追加
数式アイテムを追加します。

ブロックビューを追加
ブロックビューのカテゴリとしてブロックビュープロパティを追加しました。

属性を選択
属性を含むアイテムのみを選択します。

チェック済みのみ表示
選択された項目のみを表示し、選択されていない項目は非表示にします。

すべてを表示
すべての項目を表示します。

選択して上へ
一覧で選択したアプリケーションを上に移動します。

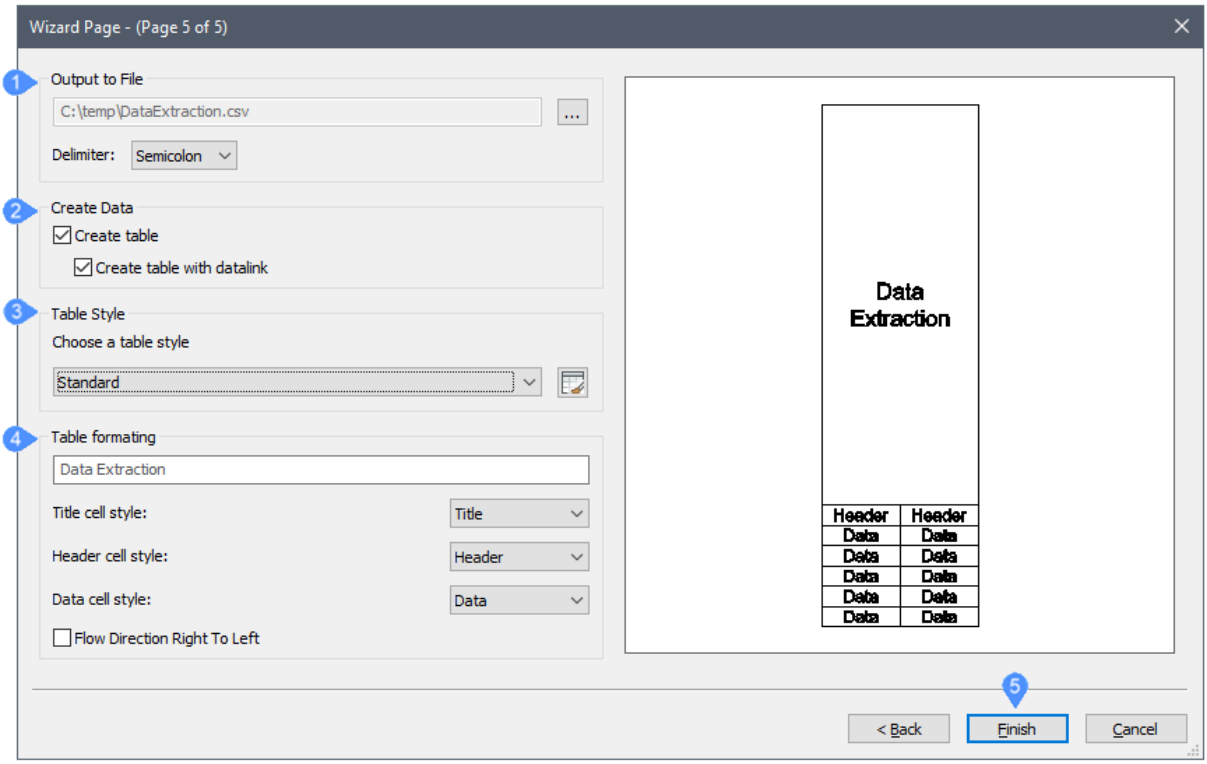
選択して下へ
一覧で選択したアプリケーションを下に移動します。

同じデータの行は結合
同じ図形を含む行を結合します。

列名を含める
書き出されたデータの**名前**列の表示を切り替えます。

次のページに行くには**次へ**をクリックします。

34.23.2.5 ウィザードページ 5 ダイアログボックス



1 ファイルに出力

2 データを作成する

3 表スタイル

4 表のフォーマット

5 終了

ファイルに出力
区切り文字で区切られた形式(.csv)でデータを出力します。
参照をクリックし、データファイルの名前を入力して、**保存**をクリックします。既存の.csvファイルを選択した場合は、上書きするように求められます。
区切り文字：データのフィールド間のセパレータを指定します。

- セミコロン
- カンマ

  注：複数の複合材の名前にはカンマが含まれているため、複数の複合材を処理する場合は、区切り文字としてカンマを選択しないでください。
- スペース
- タブ

データを作成する
データを表で出力します：

- 表を作成：静的なテーブルを作成します。

- データリンク付き表を作成：ダイナミックな表を作成します。DataLinkUpdateコマンドを実行すると、表のデータがモデルと同期します。まずモデルを保存します。テーブルを含む*.dxd定義ファイルを保存するように促されます。

表スタイル
ドロップダウンリストから表スタイルを選択します。
表スタイルアイコンをクリックし、既存の表スタイルを編集するか、新しい表スタイルを作成します。

表のフォーマット
タイトル欄に名前を入力します。

- タイトルセルのスタイル：タイトルセルのスタイルを設定します。
- ヘッダーセルのスタイル：ヘッダーセルのスタイルを設定します。
- データセルのスタイル：データセルのスタイルを設定します。
- 流れ方向を右から左：流れの方向を右から左に示します。

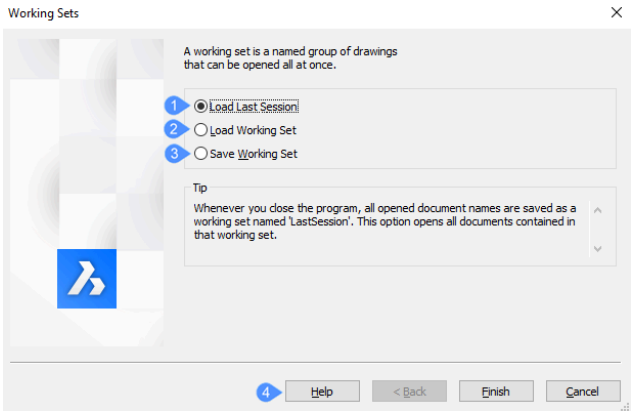
終了
選択された出力に応じます。

- データを抽出し、.csvファイルに保存します。このファイルは、表計算ソフトやデータベースプログラムで開くことができます。
- 表の挿入基点を指定する画面が表示されます。

34.23.3 ワークセット

WORKSETSコマンドを実行して開きます。

ワークセットダイアログボックスでは、図面ファイルのセットを作成およびロードできるため、図面のグループ全体を一度にロードするのに便利です。



1 最後のセッションをロード

2 ワークセットをロード

3 ワークセットを保存

4 ヘルプ

34.23.3.1 最後のセッションをロード

BricsCADセッションを前回閉じたときに開いていたすべての図面を開きます。

終了ボタンをクリックすると、前回プログラムを閉じた時に開いていたすべての図面がBricsCADで開きます。

34.23.3.2 ワークセットをロード

次へボタンをクリックし、**ワークセットを選択**リストからワークセットの名前を選択します。**終了**ボタンをクリックします。ワークセットの一部であるすべての図面が開かれます。

34.23.3.3 ワークセットを保存

現在開いている図面を名前を付けて作業セットとして保存します。**次へ**ボタンをクリックします。

保存ボタンをクリックすると、**ワークセットを保存**ダイアログボックスが開きます。**終了**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

注：ワークセットはレジストリに保存されます。各ユーザープロファイルに異なって定義されています。ユーザープロファイルの詳細については、**PROFILEMANAGERコマンド**の記事を参照してください。

注：名前の付いた作業セットを削除します。既存の名前付きのワーキングセットを再定義(上書き)します。

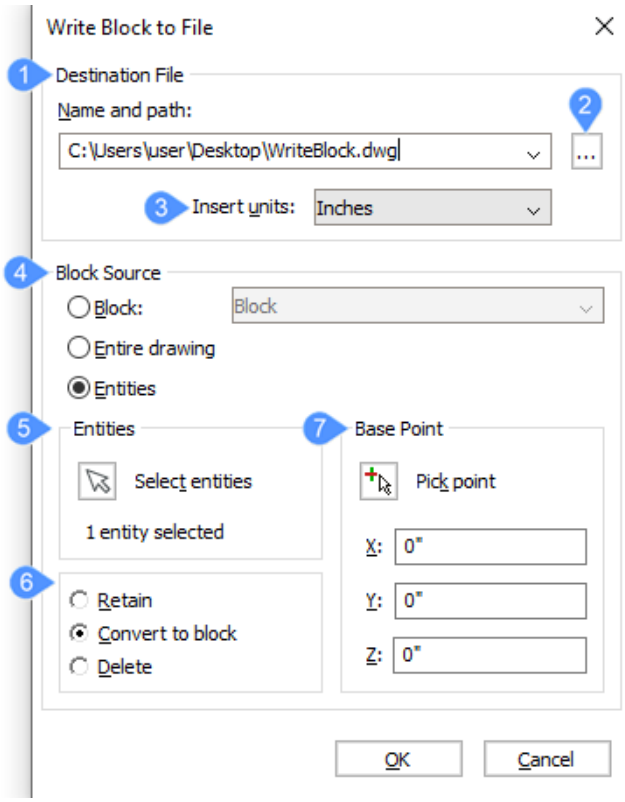
34.23.3.4 ヘルプ

WORKSETSコマンドに関するBricsysのヘルプ記事を開きます。

34.23.4 ブロックをファイルへ書き出し

WBLOCKコマンドを実行して開きます。

ブロックをファイルへ書き出しダイアログボックスでは、ブロックやその他の図面パーツを別の図面ファイルに書き込むことができます。



1 対象先ファイル

2 ブロックを保存

3 挿入単位

4 ブロック元

5 図形

6 オプション

7 基点

34.23.4.1 対象先ファイル

ファイルの名前と保存先を指定します。

- **名前とパス**：デフォルトのパスとファイル名(new block.dwg)を指定します。

34.23.4.2 ブロックを保存

パスとファイル名を変更します。**ブロックを保存**ダイアログボックスが開きます。

34.23.4.3 挿入単位

書き出された図形が後に他の図面に挿入される際に使用される単位を指定します。

ドロップダウンリストから任意の単位を選択できます。

単位はINSUNITS変数に保存されています。

34.23.4.4 ブロック元

新しいブロックに保存する図面の部分を選択します。

- **ブロック**：作図中のブロックを保存します。このオプションは、図面にブロックが存在しない場合には利用できません。このオプションを選択すると、他のオプションは使用できなくなります。保存したいブロックの名前をドロップダウンリストから選ぶことができます。
- **図面全体**：図面全体をファイルに保存します。このオプションを選択すると、他のすべてのオプションが利用できなくなります。
- **図形**：選択した図形をファイルに保存します。

34.23.4.5 図形

ブロック元を**図形**に設定すると、コマンドラインに1つまたは複数の図形を選択するよう求めるプロンプトが表示されます。

34.23.4.6 オプション

OKをクリックしてダイアログボックスを閉じた後、選択した図形の処理方法を指定します。

- **保持**：選択図形をそのまま維持します。これは選択範囲を新しい図面にコピーするようなものです。
- **ブロックへ変換**：カレント図面の中で選択した図形をブロックとして変換します。
- **削除**：図面上で選択していた図形を削除します。これは、選択範囲を新しい図面に移動するようなものです。

  注：削除オプションが設定されている場合、OOPSコマンドは消去されたブロック図形を戻します。

34.23.4.7 基点

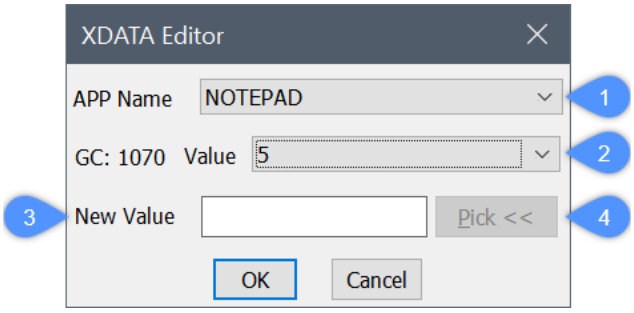
新しいファイルに保存される図形の原点を指定します。図面の中で挿入基点を指定するか、もしくはX、Y、Z座標を入力します。

34.24 X

34.24.1 拡張データ編集

XDEDITコマンド(Express Tools)を実行して開きます。

拡張データ編集ダイアログボックスでは、図形に関連付けられた拡張図形データ(xdata)を編集できます。



1 アプリ名

2 DXF Code

3 DXF Value

4 選択<<

34.24.1.1 アプリ名

リストからアプリケーション名を選択できます。

34.24.1.2 DXF Code

Allows you to change the XData DXF key code.

34.24.1.3 DXF Value

Allows you to specify a new DXF value.

34.24.1.4 Pick<<

拡張データ編集ダイアログボックスを一時的に無効にし、新しい値を選択できるようにします。

34.25 Y

34.26 Z

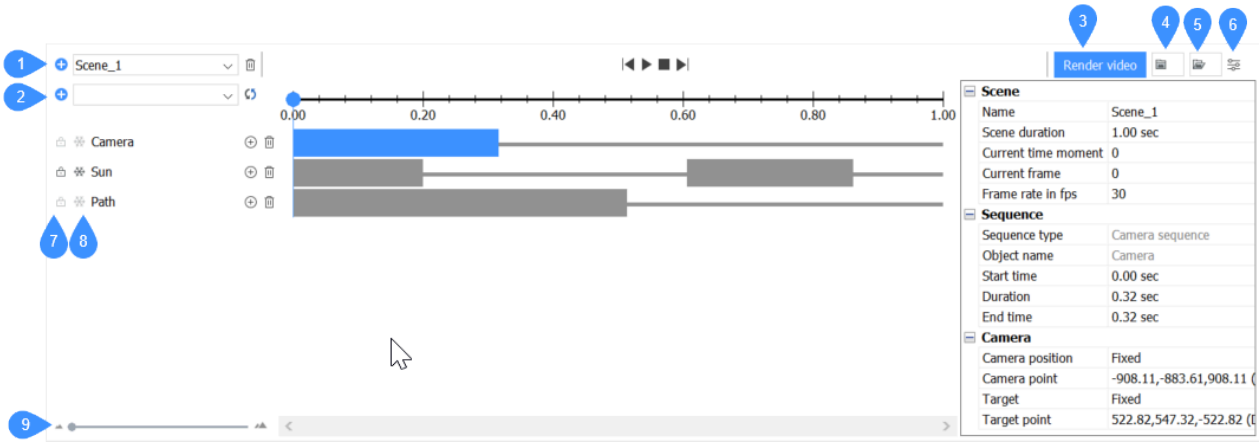
35. パネル

35.1 アニメーション編集パネル

アニメーション編集パネルを開くには、ANIMATIONEDITOROPEN コマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**アニメーション編集**を選択します。

アニメーション編集を使用して、複雑なカメラの動きを持つマルチパラメトリックアニメーションのタイムスケジュールを作成し、2Dビデオとしてレンダリングします。

注：macOSおよびLinuxでは、**アニメーション編集**パネルは無効になっています。



1 シーンの追加

2 タイムラインを追加

3 ビデオをレンダリング

4 現在のシーンのグラフィックを記録

5 アニメーショングラフィックのロード

6 コンフィギュレータ

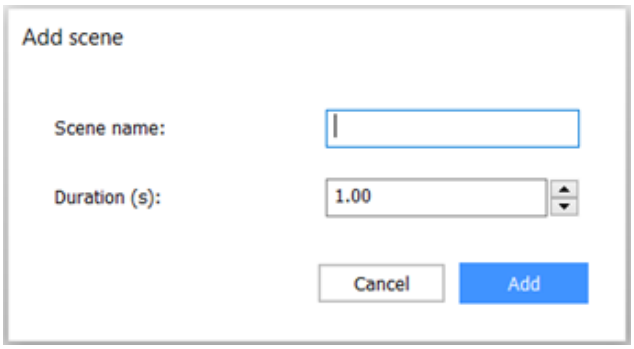
7 タイムラインのロック/アンロックボタン

8 タイムライン効果の無効化/有効化ボタン

9 スライダー

35.1.1 シーンの追加

シーンを追加ダイアログボックスが開き、シーン名とその動作時間(秒)を指定できます。



35.1.2 タイムラインを追加

選択したパラメータをタイムラインに追加します。

追加できるパラメータの1つは、太陽効果です。太陽のアニメーションシーケンスがタイムラインに追加されると、**アニメーション編集**パネルのプロパティコンフィギュレーターでいくつかのプロパティを使用できるようになります。

Frame rate in fps	30
Sequence	
Sequence type	Sun sequence
Object name	Sun
Start time	0.16 sec
Duration	0.51 sec
End time	0.67 sec
Sun	
Start time	06:00
End time	18:00
Azimuth	238.36
Copy azimuth value to	
Altitude	34.8428
Copy altitude value to	

シーケンスのプロパティ
タイムライン上の太陽シーケンスのプロパティを定義します。

太陽プロパティ
太陽の位置とタイミングに関する太陽自体のプロパティを定義します。

35.1.3 ビデオをレンダリング

ビデオをレンダリングダイアログボックスが開き、レンダリングオプションを指定できます。

35.1.4 現在のシーンのグラフィックを記録

アニメーショングラフィックを録画し、zipアーカイブまたはフォルダーに保存します。

35.1.5 アニメーショングラフィックのロード

zipアーカイブからアニメーショングラフィックスデータをロードし、このグラフィックスを再生するための特別なモードを開きます。

35.1.6 コンフィギュレータ

設定パネルを切り替えます。

35.1.7 タイムラインのロック/アンロックボタン

タイムラインの変更をロックするか、逆に変更を可能にするかを切り替えます。

35.1.8 タイムライン効果の無効化/有効化ボタン

タイムラインエフェクトの有効/無効を切り替えます。無効化されたタイムラインエフェクトは、アニメーションから除外されます。

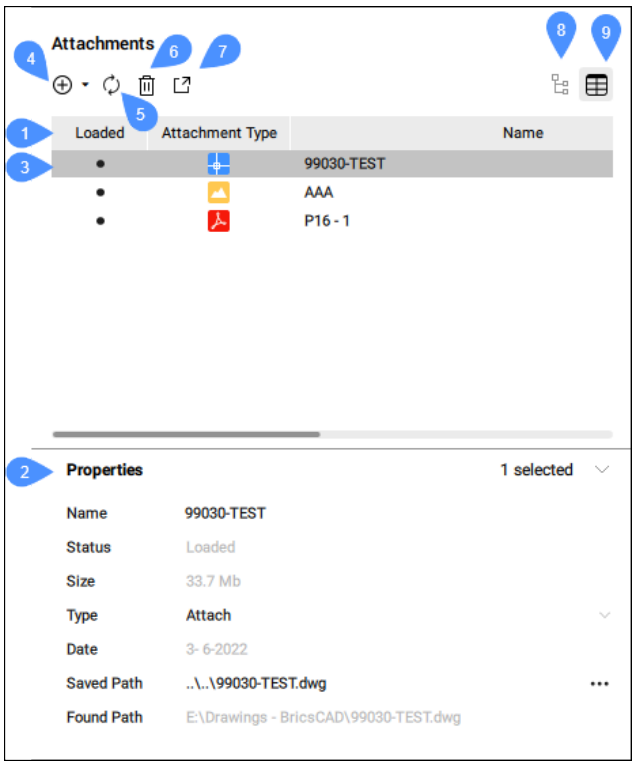
35.1.9 スライダー

スライダーを動かして、タイムラインをズームします。

35.2 アタッチメントパネル

アタッチメントパネルを開くには、ATTACHMENTSPANELOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**アタッチメント**を選択します。

アタッチメントパネルでは、添付された図面、画像、PDFファイル、点群などを一元的に表示・管理することができます。



1 添付ファイルのプロパティリストのヘッダー

2 プロパティ

3 添付ファイルリスト

4 ファイルを添付

5 更新

6 アタッチ解除

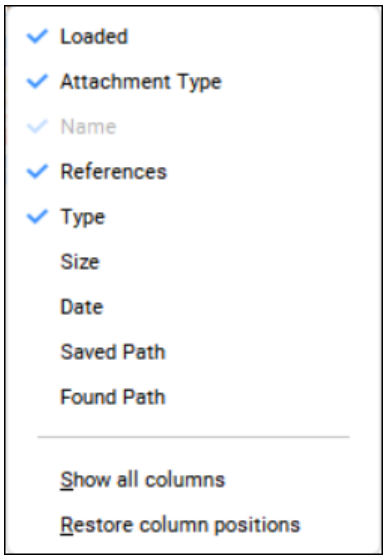
7 開く

8 ツリー表示

35.2.1　添付ファイルのプロパティリストのヘッダー

列ヘッダーには、各アタッチメントのプロパティが記載されています。列ヘッダーを1回または2回クリックすることで、いずれかのプロパティについて、添付ファイルリストを順に並べ替えたり、逆に並べ替えたりすることができます。列ヘッダーには右クリックメニューがあり、カスタマイズが可能です。

注：一部の列はデフォルトで非表示になっています。



ロード
添付ファイルの読み込み状態を指定します。

- **ロード**：添付ファイルがロードされ、図面エディターに表示されます。
- **ロード解除**：添付ファイルはロードされず、図面エディターにも表示されませんが、尺度や位置などの添付ファイル情報は維持されます。
- **見つかりませんでした**：パスが見つかりませんでした。アタッチメントを付け直さなければならなりません。

アタッチ種類
添付ファイルの種類(DWG、PDF、イメージ、点群)が表示されます。

名前
アタッチメント名を指定します。デフォルトでは、添付ファイル名はファイル名と同じになります。添付ファイルの名前を変更するには、名前をダブルクリックして、新しい名前を入力します。添付ファイルの名前を変更しても、ファイル名は変更されません。

参照
カレント図面で添付ファイルを何回参照するかを指定します。

注：入れ子のすべてのレベルで表示されているブロック参照挿入のみがカウントされます。

種類
添付ファイルの種類を指定します。添付ファイルの種類をクリックすると、**アタッチ**と**オーバーレイ**が切り替わります。

日付
添付ファイルが最後に保存された日付を指定します。

保存パス
添付ファイルの場所とファイル名を含むパスを指定します。保存したパスを変更するには、パスをクリックして新しいパスを入力するか、**参照**ボタンを選択して**参照ファイルの選択**ダイアログボックスを表示します。**参照**ボタンは、保存したパスをクリックした後にのみ表示されます。

パスを検索
添付ファイルの場所とファイル名を含むパスを指定します。見つかったパスは、保存されたパスと同じである場合もあれば、そうでない場合もあります。

35.2.2 プロパティ

選択した添付ファイルのプロパティを行形式で表示します。これらのプロパティは、添付ファイルリストに列形式で表示されるものと同じです。

35.2.3 ドキュメント名

アクティブなドキュメントの名前が表示されます。

35.2.4 添付ファイルリスト

添付ファイルの一覧とそのプロパティを表示します。

注：作図領域で外部参照を選択すると、**アタッチメント**パネルでハイライト表示され、その逆も同様です。

35.2.5 アタッチメントボタン

DWGをアタッチ
XATTACHコマンドと同様に、**参照ファイルを選択**ダイアログボックスを表示します。

PDFをアタッチ
PDFATTACHコマンドと同様に、**PDFアンダーレイファイルを選択**ダイアログボックスを表示します。

イメージをアタッチ
IMAGEATTACHコマンドと同様に、**画像ファイルの選択**ダイアログボックスを表示します。

点群をアタッチ
POINTCLOUDREFERENCEコマンドと同様に、**点群参照マネージャー**ダイアログボックスを表示します。

35.2.6 更新

グリッド表示またはツリー表示を更新します。

35.2.7 アタッチ解除

図面から選択されたアタッチメントをアタッチ解除します。

35.2.8 開く

選択した添付ファイルを開きます。

35.2.9 ツリー表示

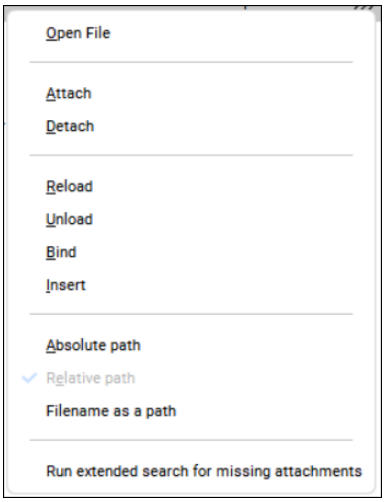
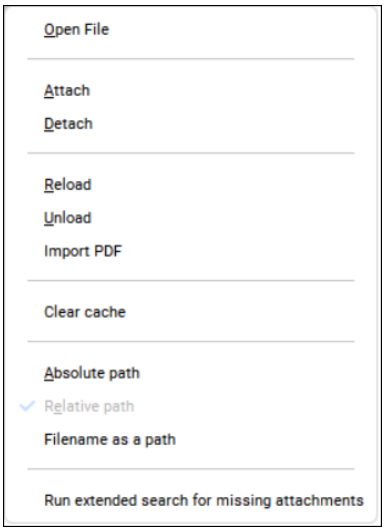
添付ファイルを構造化されたツリービューで表示します。

35.2.10　グリッド表示

添付ファイルを詳細なグリッドビューで表示します。

35.2.11　コンテキストメニュー

選択した添付ファイルの右クリックメニューには、ファイルの種類に応じた追加のメニューオプションが用意されています。

DWGファイル	PDFファイル
	

ポイントファイルを開く
DWGのアタッチファイルを開きます。

アタッチ
アタッチメントファイルの新しい参照をアタッチします。

アタッチ解除
アタッチメントのすべての参照をアタッチ解除します。

再ロード
アタッチメントのすべての参照を再ロードすると、パラメトリックなインサートを含むすべてのインサートが再構築されます。

ロード解除
アタッチメントのすべての参照をアンロードします。

関連付け
BINDTYPEシステム変数の値に従い、添付図面の内容をブロック参照(-XREF:_Bコマンド)としてカレント図面に複写します。
パラメトリック外部参照は、ローカルパラメトリックブロックに変換されます。

挿入
添付ファイルのすべてのインスタンスをブロック参照として図面に挿入します。(-XREF：_Iコマンド)
パラメトリック外部参照は、ローカルパラメトリックブロックに変換されます。

不足している添付ファイルの拡張検索を実行
SRCHPATHシステム変数に上位のフォルダーが追加されている場合、そのフォルダー内の添付ファイルを検索します。

PDF読み込み
添付ファイルを読み込むために-PDFIMPORTコマンドを起動します。

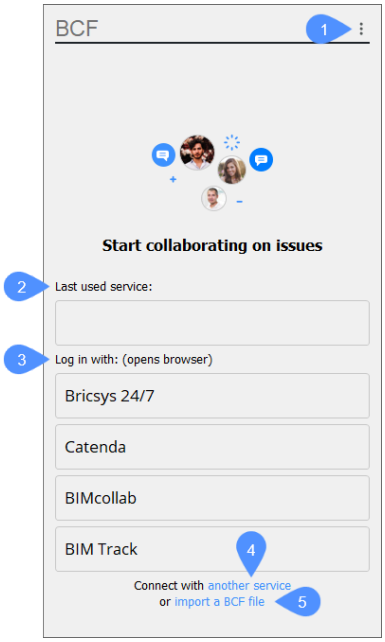
キャッシュをクリア
関連するディスクキャッシュのフォルダーからファイルを削除します。

35.3 BIM BCFパネル

BIM BCFパネルを開くには、リボンパネル/ツールバーを右クリックし、**パネル**リストから**BIM BCF**を選択します。

BIMBCFパネルでは、コメント、スクリーンショット、関係するオブジェクトのリスト、カメラのビューポートなどの情報をリンクさせることができます。

35.3.1 ログインタブ



1 メニュー

2 最後に使用されたサービス

3 ログイン

4 別のサービスに接続

5 BCFファイルを読み込みます

メニュー
BIM BCFパネルのメインメニューを開きます。

BCFファイルを読み込み
BIMコラボレーションフォーマットファイル(*.bcf,*.bcfzip)の読み込みが可能です。

カスタムサービスログイン
クラウドサービスに接続して、図面上で課題の共同作業を開始できるようにします。

更新
クラウド上で作業をしている場合、最新のアップデートを確認できます。

ソースをクリア
オンラインの場合はクラウドサービスとの接続を解除し、読み込んだBCFファイルで作業している場合はBCFファイルを閉じます。

最後に使用されたサービス
BCFSOURCEURLシステム変数によってアドレスが格納されている、最後に使用したコラボレーションサービスが表示されます。

ログイン
Bricsys 247サービスと、最も人気のある3つのコラボレーションサービスが表示されます。目的のボタンをクリックすると、ダイレクトにそのサービスに接続できます。

注：

- **Bricsys 247**ボタンを使用すると、CLOUDSERVERシステム変数(デフォルトでは、https://my.bricsys247.com)によってアドレスが格納されているサービスに接続します。
- *BIMcollabのSource URLには、購入した空間の名前が含まれています。無料のアカウントを使用している場合は、代わりにjoin.bimcollab.comを使用してください。

別のサービスに接続
カスタムログインダイアログボックスを開きます(**BIM BCF パネル - カスタムログインダイアログボックス**の記事を参照)。

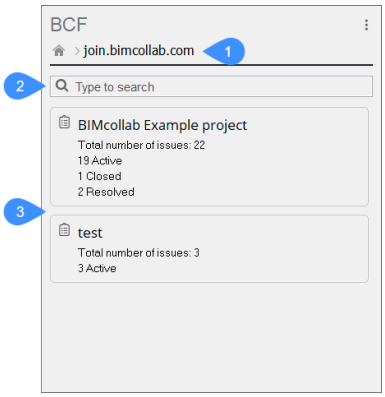
BCFファイルを読み込みます
読み込むBIMコラボレーションフォーマットファイルを選択ダイアログボックスを表示します。

注：このオプションでは、読み込んだBCFファイルの読み取りのみが許可されます。編集内容は保存できません。

35.3.2 クラウドサービス

目的のサービスを入力すると、選択したクラウドサービスに接続されます。接続するメールアドレスとパスワードの入力を求められます。

ログイン後にブラウザを閉じて、BricsCADで課題のコラボレーションを開始します。



1 ソースURL

2 検索

3 プロジェクトリスト

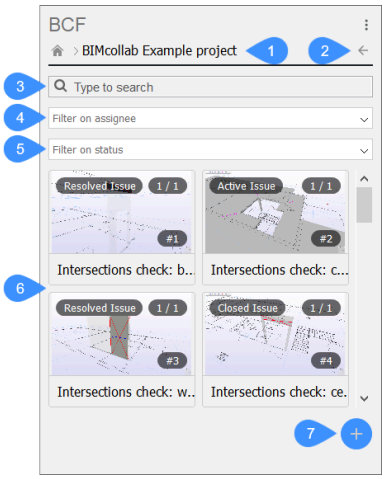
ソースURL
BCFコラボレーションサービスのソースURLが表示されます。

検索
検索バーに入力した単語でフィルタリングされたプロジェクトのみを表示します。

プロジェクトリスト
自分が参加しているプロジェクトの一覧を表示します。

35.3.3 課題概要タブ

選択したプロジェクトで使用可能な課題が表示されます。



1 プロジェクト名

2 プロジェクトリスト

3 検索

4 担当者でフィルタリング

5 ステータスでフィルタリング

6 検索結果一覧

7 課題の追加

プロジェクト名
開いているプロジェクトの名前が表示されます。

プロジェクトリスト
プロジェクトリストに戻ります。

検索
課題リストで検索を指定できます。

担当者でフィルタリング
課題の担当者をフィルタリングできます。プロジェクト内のすべての担当者は、ドロップダウンメニューで一覧表示されます。

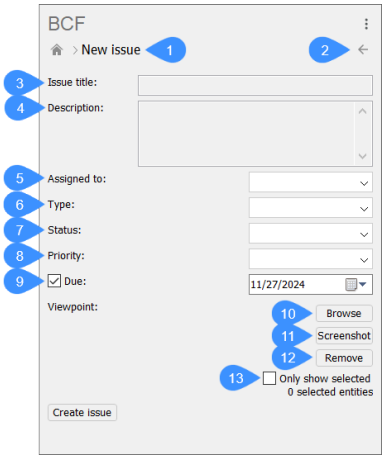
ステータスでフィルタリング
課題のステータスをフィルタリングできます。さまざまなステータスには、ドロップダウンメニューからアクセスできます。

検索結果一覧
入力した検索条件に準拠しているすべての課題を一覧表示します。

課題の追加
新しい課題を追加し、定義できます。

注 : このオプションは、BIMコラボレーションクラウドサービスでログインした場合に有効です。

35.3.4 新しい課題タブ



1 課題名

2 課題リスト

3 課題タイトル

4 説明

5 アサイン

6 種類

7 状態

8 優先順位

9 期限

10 参照

11 スクリーンショット

12 削除

13 選択した項目のみを表示

課題名
新しい課題の名前を表示します。

課題リスト
プロジェクトの課題リストに戻ります。

課題タイトル
追加する課題のタイトルを定義します。

説明
課題の具体的な説明を定義します。

アサイン
課題の担当者を定義します。

種類
課題の種類を定義します。いくつかのオプションは、ドロップダウンメニューからアクセスできます。

状態
課題のステータスを定義します。いくつかのオプションは、ドロップダウンメニューからアクセスできます。

優先順位
課題の重要度を定義します。いくつかのオプションは、ドロップダウンメニューからアクセスできます。

期限
この課題に解決期限があるかどうかを定義します。オンにすると、日付が指定されます。

参照
このコメントの視点を選択 ダイアログボックスを開き、視点としてPNGファイルを追加します。

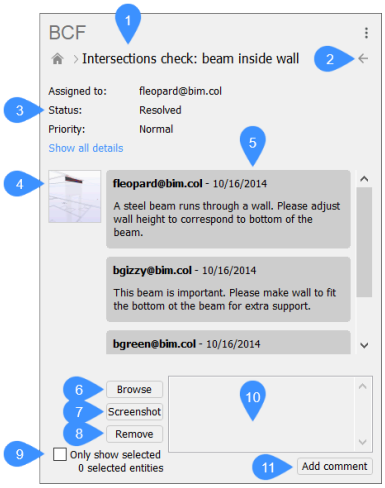
スクリーンショット
モデル空間からスクリーンショットを視点として挿入します。スクリーンショット画像は、モデル空間の現在の表示に基づきます。このオプションでは、カメラの位置と有効な断面も考慮されます。これらは視点が有効になると再適用されます。

削除
追加した視点を削除します。

選択した項目のみを表示
オフにすると、スクリーンショット作成時に選択した図形が、視点を有効にしたときにハイライト表示されます。
オンにすると、選択した図形のみが課題コメントのビューポイントに表示されるように設定され、ビューポイントをアクティブにするときに選択した図形を分離できます。

35.3.5 課題情報

課題をクリックすると、課題情報が表示されます。



1 課題名

2 課題概要

3 詳細

4 サムネイル画像

5 コメント

6 参照

7 スクリーンショット

8 削除

9 選択した項目のみを表示

10 コメント

11 コメントを追加

課題名
開いた課題の名前を表示します。

課題概要
課題の概要に戻ります。

詳細
ステータス、作成者、作成日など、課題の詳細情報を表示します。

サムネイル画像
コメントにカメラ位置が関連付けられている場合は、サムネイル画像をクリックすると、カレント図面のカメラがその位置に移動します。

コメント
ドキュメントのコメントを表示します。

参照
このコメントの視点を選択 ダイアログボックスを開き、視点としてPNGファイルを追加します。

スクリーンショット
モデル空間からスクリーンショットを視点として挿入します。スクリーンショット画像は、モデル空間の現在の表示に基づきます。このオプションでは、カメラの位置と有効な断面も考慮されます。これらは視点が有効になると再適用されます。

削除
追加した視点を削除します。

選択した項目のみを表示
オフにすると、スクリーンショット作成時に選択した図形が、視点を有効にしたときにハイライト表示されます。
オンにすると、選択した図形のみが課題コメントのビューポイントに表示されるように設定され、ビューポイントをアクティブにするときに選択した図形を分離できます。

コメント
選択した課題に対してコメントを挿入することができます。

コメントを追加
選択した課題に挿入したコメント(および視点)を追加します。

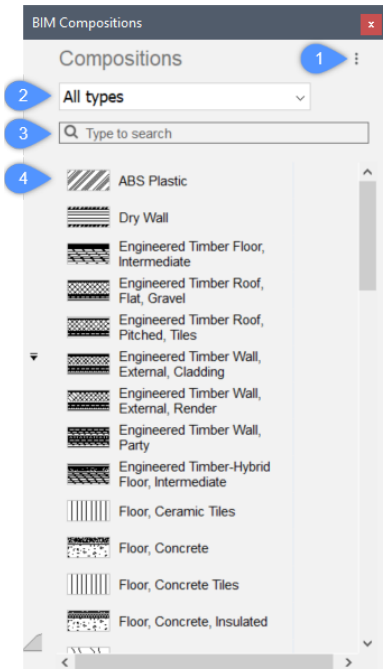
注：

- コメントは、BCFクラウドサービスが選択された場合にのみ追加できます。このオプションはBCFファイルを読み取ることができるようになるためため、BCFファイルに保存することはできません。
- BCF APIを介してBCFサービスに接続する場合、BCF 2.1とBCF 3.0がサポートされます。BCFファイルを読み込むときには、BCF 2.1のみがサポートされます。

35.4 BIM複合材パネル

BIM複合材パネルを開くには、リボンパネル/ツールバーを右クリックし、**パネル**リストから**BIMコンポジション**を選択します。

BIM複合材パネルでは、BIMモデルの任意のソリッドに複合材を割り当てることができます。



1 メニュー

2 複合材の種類リスト

3 検索

4 利用可能な複合材

35.4.1 メニュー

マテリアルダイアログを開く...
物理的マテリアルダイアログボックスを開き、物理的マテリアルの作成、修正、削除を行います。

複合材ダイアログを開く...
複合材ダイアログボックスを開き、複合材の作成、修正、削除を行います。

プロジェクトダイアログを開く...
BIMプロジェクト情報ダイアログボックスを開き、プロジェクトデータベースとライブラリデータベースの位置、プロパティ、コンテンツをコントロールできます。

プロジェクトの複合材のみを表示...
プロジェクトで使用されている複合材のみを表示します。

35.4.2 複合材の種類リスト

選択されたカテゴリ(全種類、一版、屋根、壁、スラブ...)の複合材をライブラリデータベースに表示します。

35.4.3 検索

入力した複合材のリストをフィルタリングします。カレントの検索語を含む複合材のみが表示されます。

35.4.4 利用可能な複合材

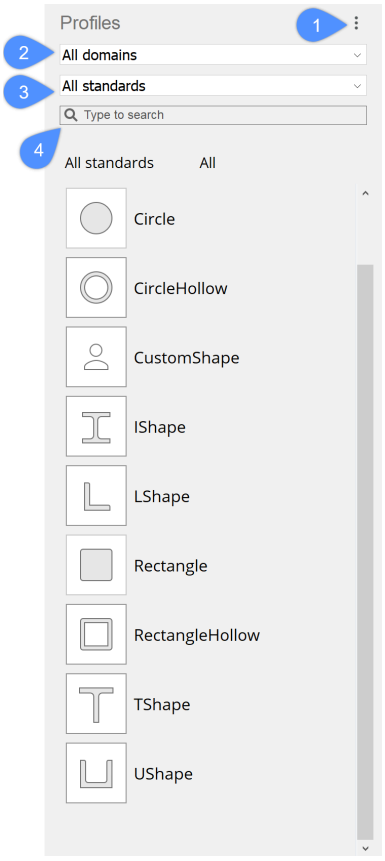
利用可能なすべての複合材を表示します。

複合材をダブルクリックすると、**複合材**ダイアログボックスが開きます。

35.5 BIMプロファイルパネル

BIMプロファイルパネルを開くには、リボンパネル/ツールバーを右クリックし、**パネル**リストから**BIMプロファイル**を選択します。

BIMプロファイルパネルでは、標準およびカスタムのプロファイルにアクセスすることができます。



1 メニュー

2 ドメイン

3 規格

4 検索バー

35.5.1 メニュー

マテリアルダイアログを開く...
物理的マテリアルダイアログボックスを開き、物理的マテリアルの作成、修正、削除を行います。

プロファイルダイアログを開く...
プロファイルダイアログボックスを開き、プロファイルの作成、修正、削除を行います。

プロジェクトダイアログを開く...
BIMプロジェクト情報ダイアログボックスを開き、プロジェクトデータベースのXML/CSVファイルによるプロファイルの読み込み、プロジェクトデータベースとセントラルデータベースの場所、プロパティ、内容のコントロールを行うことができます。

プロジェクトのプロファイルのみを表示...
プロジェクトで使用されているプロファイルのみを表示します。

35.5.2 ドメイン

ドメインに基づいてプロファイルをフィルタリングします。

35.5.3 規格

規格に基づいてプロファイルをフィルタリングします。

注：どの規格を表示させるかは、設定の**BIMプロファイル**パネルで設定することができます(プロファイルの規格)。デフォルトでは、すべての規格が表示されます。

35.5.4 検索バー

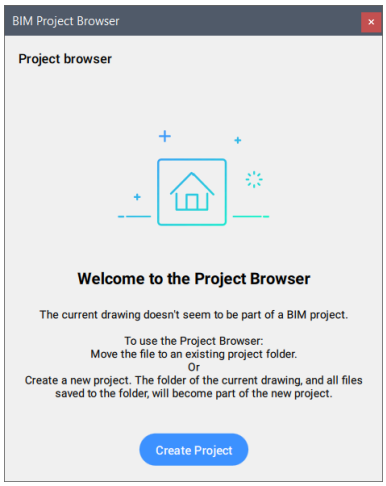
検索バーで特定のプロファイルを検索します。

35.6 BIMプロジェクトブラウザパネル

BIMプロジェクトブラウザパネルを開くには、リボンパネル/ツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**BIMプロジェクトブラウザ**を選択します。

BIMプロジェクトブラウザパネルは、BIMプロジェクトを一元的に管理することができます。

新しい図面を保存したら、**プロジェクトの作成**ボタンを押すことができます。



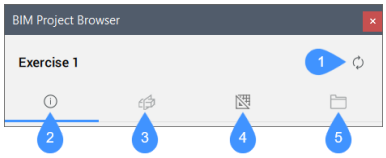
注：BricsCAD BIMを開始するときに、**開始**ページから**新規プロジェクト**ボタンを押して新しいプロジェクトを作成することもできます。

新しい図面を既存のプロジェクトフォルダーに保存すると、**BIMプロジェクトブラウザ**に**プロジェクトに追加**ボタンが表示されます。それをクリックすると、図面および、まだ存在しない必要なすべてのファイルがプロジェクトフォルダーに追加されます。

プロジェクトの作成時には、シートセットファイル(.dst)、データベースファイル(.bsyslib)、シートテンプレート用の新しいサブフォルダー、デフォルトシートテンプレート(.dwt)などのファイルがプロジェクトフォルダーに自動的に生成されます。シートテンプレート用の新しいサブフォルダーも生成されます。その他のファイルは、手動でプロジェクトフォルダーに追加することも、後から生成することもできます。

注：アクティブな図面が保存されているフォルダーが、プロジェクトフォルダーになります。このフォルダーの他のファイルやサブフォルダーは、すべてこのプロジェクトの一部とみなされます。

BIMプロジェクトブラウザパネルは、4つのタブと更新ボタンで構成されています。



1　プロジェクトを更新

2　情報タブ

3　断面およびビュータブ

4　シートタブ

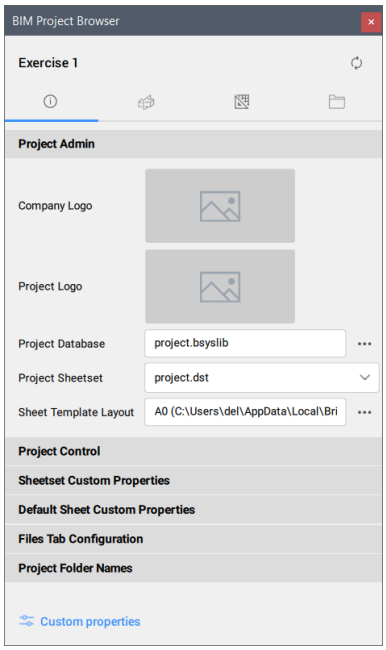
5　ファイルタブ

35.6.1　プロジェクトを更新

すべてのBIMプロジェクトの変更に合わせて、**BIMプロジェクトブラウザ**パネルを更新します(例：マスター図面、シート、手動で追加されたファイルの外部参照)。

35.6.2　情報タブ

現在のプロジェクトの概要を表示します。



プロジェクト管理者
以下の表示および設定をします：

- **会社ロゴ**：サムネイルをクリックしてPNGファイルを選択します。プロジェクトにコピーが作成され、「プロジェクト.png」に名前変更されます。例えば、タイトルブロックに使用することができます。

  注：開いているシート図面を保存した後、現在開いているシート図面のシートビューで会社のロゴが自動的に更新されます。

- **プロジェクトロゴ**：サムネイルをクリックして、PNGファイルを選択します。プロジェクトにコピーが作成され、「プロジェクト.png」に名前変更されます。例えば、タイトルブロックに使用することができます。
- **プロジェクトデータベース**：参照ボタン(…)をクリックすると、**プロジェクトデータベース**ダイアログボックスが開き、プロジェクトの図面とその保存・検索されたデータベースのパスの全体像を表示します。このダイアログボックスでは、別のプロジェクトデータベースの選択や、現在のデータベースの名前を変更することができます。また、リストアップされた図面をプロジェクトのデータベースに接続することもサポートしています。
- **プロジェクトシートセット**：カレントのシートセットを表示します。ドロップダウンリストをクリックして、リストから使用可能なシートセットを選択します。
- **シートテンプレートレイアウト**：参照ボタン(…)をクリックすると、**レイアウトを選択**ダイアログボックスが開き、テンプレート図面ファイルのパスとテンプレートファイルにあるレイアウトを選択できます。

プロジェクトコントロール
シートセットプロパティを設定・表示します：

- **プロジェクト名**
- **プロジェクト番号**
- **プロジェクトフェーズ**
- **プロジェクトマイルストーン**

シートセットのカスタムプロパティ
ユーザーが定義したシートセットのプロパティを設定・表示します(例. **お客様名**、**お客様所在地1**、**お客様所在地2**、**お客様所在地3**、**プロジェクト所在地1**、**プロジェクト所在地2**、**プロジェクト所在地3**など)。

デフォルトのシートカスタムプロパティ
ユーザーが定義したシートのプロパティを設定・表示します(例. **検図者**、**設計者**など)。

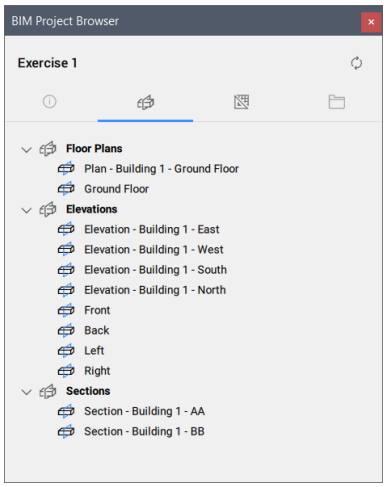
ファイルタブ構成
無視するフォルダーと拡張子を定義します。**ファイル**タブで、プロジェクトのどの部分を表示するかを指定できます。

プロジェクトフォルダー名
コンポーネント、詳細、画像、建具表に関するプロジェクトフォルダーの名前を設定します。

カスタムプロパティ
シートセットやシートのカスタムプロパティを追加・編集・削除できる**カスタムプロパティ**ダイアログボックスを開きます。

35.6.3 断面およびビュータブ

プロジェクト断面をタイプ別にまとめたリストを表示します。断面を見るには、断面名を展開します。



断面を右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **断面図形を選択**：プロジェクトモデル図面内の断面図形を選択します。

  注：これは、断面図形をダブルクリックすることでも行えます。

- **名前変更**：断面図形の名前を変更します。
- **断面結果を表示**：対応するシートの断面を表示し、ビューポートを拡大表示します。図面が開かれていない場合は開きます。
- **シートを作成**：**シートを作成**ダイアログボックスが開き、新しいシートのビューポートおよびシートの設定ができます。

  注：

  - 選択した断面のシートがすでに作成されている場合は、シートの名前を示す通知ポップアップが表示されます。このシートは、パネルの**シート**タブで編集できます。シートをダブルクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**シートを編集**オプションを選択します。
  - BIMプロジェクトデータは、ユーザーが編集できる.xmlファイルで初期化されるようになりました。

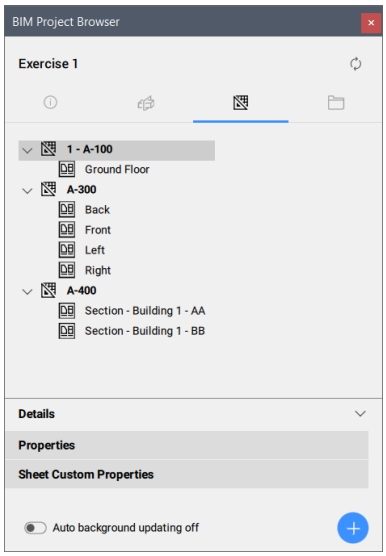
- **今すぐ更新**：断面の結果を再生成します。
- **バックグラウンドで更新**：ユーザのワークフローを中断することなく、バックグラウンドで断面結果を再作図します。

注：アクティブなシートのペーパー空間に断面(単一/複数項目の選択)または3Dビュー(単一項目の選択)を配置できます。そうするには、**断面とビュー**タブツリーから項目をドラッグし、そのシートのペーパー空間にドロップします。

- 単一項目を選択する場合は、挿入点を指定します。3Dビューを配置する場合は、挿入点を指定する前に右クリックしてコンテキストメニューを表示します。そこから、ビューポート尺度を選択できます。
- 複数の項目を選択する場合は、最初に挿入ポイントを指定し、次に項目の配置方法(行/列数)を定義する長方形の2番目の点を指定します。

35.6.4 シートタブ

プロジェクトのシートセットの内容を表示します。シート名を展開すると、そのシートビューが表示されます。



注：

- シートをダブルクリックすると、シート図面が開きます。
- あるシートから別のシートにシートビューを移動するには、シート名にシートをドラッグアンドドロップします。**Ctrl**を押したままドラッグすると、そのシートビューをコピーできます。

詳細
断面名をクリックして展開します。この断面には、タブで選択したアイテムに関連するプロパティが表示されます。グレー表示されていない場合は、これらのプロパティを編集できます。

自動バックグラウンド更新
ワークフローを中断することなく、断面の結果を自動的に更新します。実際には、ENABLEBIMBKUPDATEシステム変数を切り替えます。

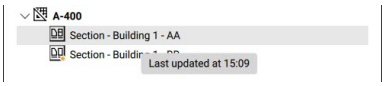
追加ボタン
追加ボタンを押して、以下のオプションを使用できます：

- **新しいシート**：**新しいシート**ダイアログボックスが開き、**シート**タブまたは現在選択されているサブセット(存在する場合)に新しいシートを追加します。
- **新規サブセット**：新しいサブセットを**シート**タブまたは現在選択されているサブセット(ある場合)に追加します。

シートビューのステータス：

- ：シートビューは更新されています。

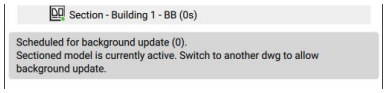
  注：シートビューにカーソルを合わせると、ツールチップが表示され、ステータス、および断面が最後に更新された時刻が示されます。



- ：シートビューはバックグラウンドで更新されています。

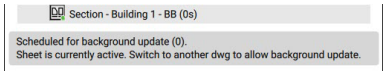
  注：シートビューにカーソルを合わせると、ステータスを説明するツールチップが表示されます。

- 3Dモデルがアクティブなとき：

  - 

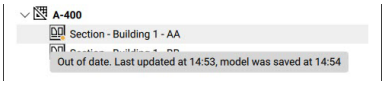
    注：**(n)**はバックグラウンド更新の動作順を示しています。(キュー内のビューのインデックス)

- シートがアクティブなとき：

  - 

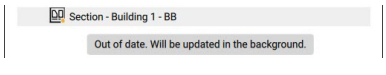
- ：シートビューが期間外です。

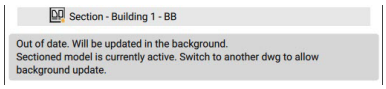
  注：シート ビューにカーソルを合わせると、ステータスを説明するツールチップが表示されます。また、断面結果ブロックが最後に更新された時刻と、モデルが保存された時刻も示されます。このようにして、モデルの保存時刻がシートビューの更新時刻よりも新しいかどうかを確認できます。

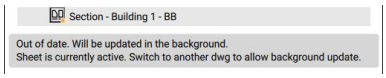
  バックグラウンド更新がオンの場合：

- 3Dモデルがアクティブなとき：

  - 

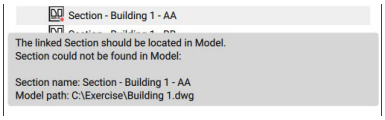
    

- シートがアクティブなとき：

  - 

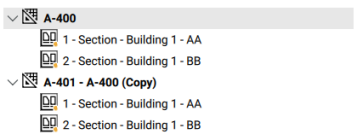
- ：シートビューにエラーがあります。

  注：シートビューにカーソルを合わせると、ステータスを説明するツールチップが表示されます。

シートを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **新規シート...**：**新規シート**ダイアログボックスが開き、**シート**タブに新しいシートを追加できます。
- **シートを開く**：シートを開きます。シートをダブルクリックすることで、シートを開くこともできます。
- **シートをコピー**：dwgシートとシートエントリのコピーをシートセット(同じサブセット下)に作成します。すべてのブロック、ビューポート、ネームビュー、シートビューもコピーされます。コピーしたシートの名前付けや番号付けは自動的に行われます。



- **シートを編集**：**シートを編集**ダイアログボックスが開き、選択したビューポートのプロパティを編集できます。

  注：ダイアログボックスでは常にシート全体が開かれています。1つのシートビューを選択すると、そのシートのすべてのビューポートが一覧表示され、サブセットを選択すると、サブセット内のすべてのシートが表示されます。

- **シートを削除**：シートを削除します。
- **詳細を収集**：選択したシートからタグ付けされたすべての詳細を収集し、これらの詳細のレイアウトをカレントのシートに挿入します
- **今すぐ更新**：現在実行中のシート更新キューをキャンセルし、選択したシートのセットを新しいキューとしてスケジュールします。このキューの更新が完了すると、バックグラウンド更新が続行されます。
- **バックグラウンドで更新**：バックグランドでシートビューを更新します。

シートビューを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **ビューを表示**：ビューポートに、対応する結果を拡大して表示します。
- **シートを編集**：**シートを編集**ダイアログボックスが開き、選択したビューポートのプロパティを編集できます。
- **ビュー/結果を削除**：シートビューと対応する結果(ビューポート、ビューラベル、シートビュー、結果ブロック：ただし、他のビューポートで表示されていない場合)を削除します。
- **今すぐ更新**：シートビューを更新します。
- **バックグラウンドで更新**：バックグランドでシートビューを更新します。
- **ビューラベルを配置**：現在のシートにビューラベルを挿入し、ビューラベルとビューポートの間のリンクを確立します。ビューラベルがすでに存在する場合は、新しいビューラベルに古いビューラベルが置換されます。

  注：この操作は、カレントdwgタブがシートドキュメントであり、開いているる場合にのみ実行できます。

シートビューを別のアクティブなシートのペーパー空間に簡単に配置できます。そうするには、それらを**シート**タブからドラッグしてペーパー空間にドロップします。

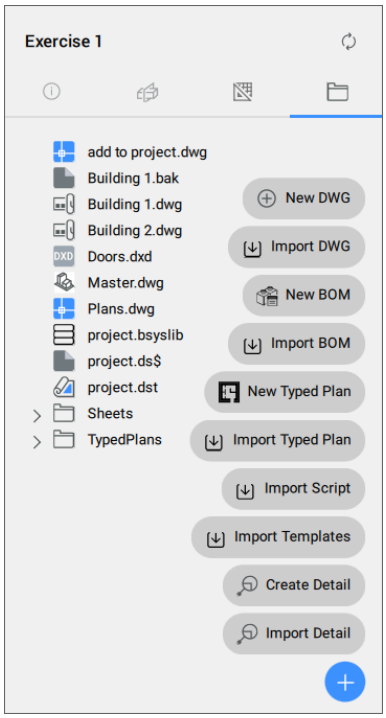
サブセットを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **サブセットを削除**：サブセットを削除します(シート/サブセットが含まれていない場合のみ可能)。

35.6.5 ファイルタブ

プロジェクトフォルダーの内容が表示され、サポートされているすべてのファイルをアクティブな図面に(ドラッグアンドドロップで)配置できます。

- 図面(モデル、シート、...)
- 建具表、スクリプト、...
- 画像：
  - 会社のロゴ、グーグルマップ画像、サイトの写真など
  - 名前付きのビューをもとにスクリプトで作成されたPNGファイル
  - BricsCAD、Enscape、またはTwinmotionで作成されたレンダリング



注：読み込みがサポートされているファイルによっては、アクティブな図面のペーパー空間にしか配置できないものがあります。

追加ボタン(+)オプション：

新しいDWG
名前を選択ダイアログボックスを開き、新しいDWG図面をファイルに追加します。

DWGを読み込み
読み込むDWGを選択ダイアログボックスを開き、既存のDWGをファイルに読み込みます。

新規部品表
ファイルをどこに作成する必要がありますか?ダイアログボックスが開き、新しい部品表テンプレートを作成します。

部品表を読み込み
読み込む部品表を選択ダイアログボックスが開き、部品表を読み込むことができます。

新規タイププラン
図面のカスタマイズを作成するための**BIMタイププラン編集**ダイアログボックスが開きます。

タイププランの読み込み
読み込むタイププランを選択ダイアログボックスが開き、すでに定義されている図面カスタマイズを読み込みます。

スクリプトの読み込み
読み込むスクリプトを選択ダイアログボックスが開き、Python、Lisp、Grasshopperスクリプトを読み込むことができます。

テンプレートの読み込み
読み込むテンプレートを選択ダイアログボックスが開き、読み込むテンプレートを選択することができます。

詳細を作成
BIMCREATEDETAILコマンドを起動します。

詳細を読み込み
詳細として読み込むdwgを選択ダイアログボックスが開き、詳細として読み込む図面を選択することができます。

詳細を右クリックすると、以下のコンテキストメニューを表示します：

- **詳細を確認**：BIMCHECKDETAILSコマンドを起動します。
- **開く**：詳細ファイルを開きます。
- **詳細を表示**：**詳細を表示** ダイアログボックスを開きます。
- **名前変更**：詳細ファイルの名前を変更できます。
- **詳細としてマークを解除**：詳細としてマークしたファイルを解除します。
- **参照を追加**：BIMADDDETAILREFSコマンドを起動して、マスターモデルと詳細ファイルの間にリンクを作成します(基本オプション)。
- **プロパゲート**：-BIMPROPAGATEFROMFILEコマンドを起動します (高度なオプション)。
- **複製**：詳細ファイルの複製を作成します。
- **削除**：詳細ファイルを削除します。
- **名前変更**：詳細ファイルの名前を変更します。

シートを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **複製**：シートの複製を作成します。
- **削除**：選択したシートを削除します。
- **ファイル名を変更**：**シートの名前変更**ダイアログボックス開き、シートの名前を変更できます。

  注：リンクされたシートにファイルの名前が含まれている場合は、リンクされたシートの番号とタイトルの名前も自動的に変更されます。ダイアログボックスを閉じる前に、名前の自動変更をオーバーライドできます。

DWGを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **マスターモデルとしてマーク**：図面をマスター図面に設定します。図面に定義した断面や3Dビューや外部参照が、**断面とビュー**タブに一覧表示されます。

  注：複数のマスター図面を持つことができます。
- **複製**：図面の複製を作成します。
- **削除**：ファイルエクスプローラから図面を削除します。
- **ファイル名を変更**：**図面名を変更**ダイアログボックスが開き、図面の新しい名前を入力できます。

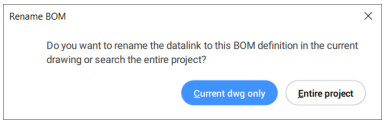
注：DWGファイルやDXFファイルは**ファイル**タブからカレント図面にドラッグアンドドロップし、挿入方法(ファイルの内容をコピー、またはブロックや外部参照として挿入)を選択します。

マスターモデルを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **マスターモデルとしてマークを外す**：選択したモデルはマスターモデルではなくなります。
- **複製**：マスターモデルの複製を作成します。
- **削除**：選択したマスターモデルを削除します。
- **ファイル名を変更**：**図面名を変更**ダイアログボックスが開き、マスターモデルの名前を変更できます。関連するすべての名前も自動的に変更されます。

建具表フォルダーの**部品表ファイル**を右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **ファイルを開く**：Scheduleファイルがコンピュータの部品表リーダーで開き、ファイルの編集および保存ができます。
- **csvの生成**：部品表ファイルからCSVファイルを生成します。CSVファイルは、元の部品表ファイルと同じ建具表フォルダーにあります。
- **xlsxの生成**：部品表ファイルからXLSXファイルを生成します。XLSXファイルは、元の部品表ファイルと同じ建具表フォルダーにあります。
- **複製**：部品表ファイルの複製を作成します。
- **削除**：部品表ファイルを削除します。
- **ファイル名を変更**：**部品表ファイル名を変更**ダイアログボックスが開き、ファイルの新しい名前を入力します。**名前変更**をクリックすると、**部品表の名前変更**ダイアログボックスが開きます。**カレント図面のみ**または**図面全体**を選択してファイル名を変更します。



注：プロジェクト全体の部品表定義へのデータリンクの名前変更は、現在の図面での名前変更よりも時間がかかる場合があります。

注：**BIMプロジェクトブラウザ**パネルは、従来の建具表ワークフローをサポートしています。DXDファイルを**Schedules**フォルダーに手動で追加することができます。DXDファイルが**Schedules**フォルダーにある場合、部品表ファイルと同様のオプションがコンテキストメニューに表示されます。

- CSVまたはXLSXファイルを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：
  - **表を作成**：データリンクを使用して、現在のシートに表を挿入します。
  - **複製**：CSVまたはXLSXファイルの複製を作成します。
  - **削除**：選択したCSVまたはXLSXファイルを削除します。

    注：.csvファイルまたは.xlsxファイルをダブルクリックすると、システムによってアプリケーションセット内でファイルが開きます。

  - **ファイル名を変更**：**ファイル名を変更**ダイアログボックスが開き、CSVまたはXLSXファイルの新しい名前を入力できます。

注：現在開いているシートのペーパー空間に部品建具表を配置することができます。**ファイル**タブツリーの**Schedules**フォルダーから部品表ファイルをドラッグして、シートのペーパー空間にドロップします。こうすることで、部品表ファイルへのデータリンクを持つ表が生成されます。DATALINKUPDATEコマンドを使い、後で部品建具表を更新することができます。

外部参照ファイルを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **複製**：選択した外部参照ファイルのコピーをプロジェクトフォルダーに作成します。
- **削除**：プロジェクトフォルダーから外部参照ファイルを削除します。

スクリプトファイルを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **Pythonファイル**：
  - **スクリプト実行**：pythonスクリプトを実行します。
  - **デフォルトプログラムで開く**：デフォルトのプログラムでpythonファイルを開きます。
  - **複製**：部品表ファイルの複製を作成します。

  - **削除**：pythonファイルを削除します。
  - **ファイル名を変更**：**ファイル名を変更**ダイアログボックスが開き、新しいファイル名を入力します。
- **LISPファイル**：
  - **スクリプトをロード**：Lispスクリプトをロードして実行します。
  - **複製**：LISPファイルの複製を作成します。
  - **削除**：Lispファイルを削除します。
  - **ファイル名を変更**：**ファイル名を変更**ダイアログボックスが開き、新しいLISPファイル名を入力します。
- **その他のファイルタイプ**：ダブルクリックすると、システムが設定したアプリケーションでファイルが開きます。

タイププランファイルを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが表示されます：

- **フォルダーを開く**：コンピューター上でタイププランが配置されているフォルダーを開きます。
- **複製**：タイププランの複製を作成します。
- **削除**：タイププランファイルを削除します。

  注：タイププランをダブルクリックすると、**BIMタイププラン編集**ダイアログボックスが開き、編集が可能になります。
- **ファイル名を変更**：**タイププラン名を変更**ダイアログボックスが開き、新しいファイル名を入力します。

35.7 部品表マネージャーパネル

部品表マネージャーパネルを開くには、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**部品表マネージャー**を選択します。

部品表マネージャーを使用して、カレントの図面の部品表を参照、作成、編集することができます。

部品表の設定は、テンプレートファイルとして保存でき、後から他の図面で再利用することができます。

部品表マネージャーを使用して、以下のことができます：

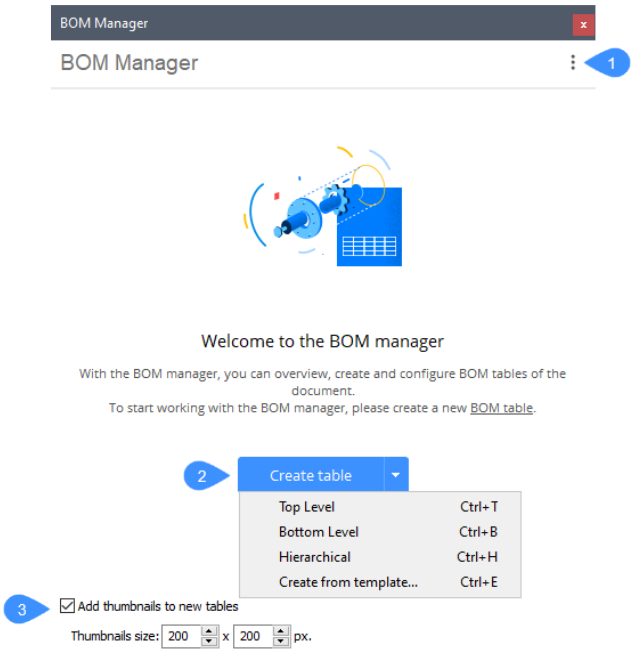
- 図面内の既存の部品表を参照します。
- 標準タイプ(トップレベル、ボトムレベル、階層型など)または既存の部品表テンプレートを使用して、新しい部品表を作成します。
- 部品表を編集します。
- 列を追加または削除します。(数式の列を含みます)
- 新しい位置に選択した列を移動します。
- 列の名前を変更します。
- 部品表のソート方法を設定します。
- 個別の列のフッター値を設定します。
- 単位、列ごとの表示を設定します。
- 列のプロパティを持つ各列の幅を設定します。
- 列ごとの可視性を設定します。
- フィルター式でコンポーネントをフィルタリングします。
- タイトル行とフッター行の両方のタイトルを変更します。
- 表内のコンポーネントを検索します。

- コンポーネントインスタンスをハイライト表示し、選択します。
- テンプレートファイルとして部品表の設定を保存します。
- テンプレートファイルから部品表の設定をロードします。
- 図面内に部品表を配置します。
- 部品表を削除します。
- 部品表フィルタリングモードで部品表に存在するオブジェクトの種類を設定します。
- 部品表には、他のドキュメントの部品を選択セットに含めることができます。
- 部品表では、カレントドキュメントを選択セットに除外できます。
- **注：** BIMプロジェクトの一部であるファイルに部品表を作成すると、モデルにメカニカルな部品がある場合でも、フィルター設定、グループ化モード、およびプロパティセットが自動的に拡張され、非メカニカルなオブジェクトが含まれます。また、カレントプロジェクトが部品表に含まれ、カレントドキュメントは除外されます(BIMプロジェクトの一部として追加されるため)。

部品表を作成したり変更したりするには、BricsCAD MechanicalまたはBricsCAD Ultimateのライセンスが必要です。

一方、ユーザーはBMBOMTEMPLATEEDITコマンドを使用して**部品表マネージャー**ダイアログを起動できますが、これにはBIM、Mechanical、またはUltimateのライセンスが必要です。

注：部品表マネージャーを使用すると、部品表テーブルを任意のドキュメントに作成できます。メカニカルアセンブリやBIMモデルを含む必要はありません。その場合、フィルター設定は自動的に調整され、すべてのブロック参照、外部参照、およびソリッドがモデル内に含まれます。



1 メニュー

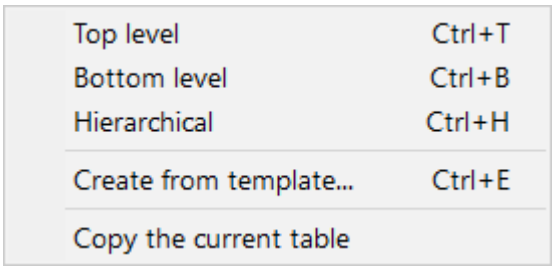
2 表を作成

3 サムネイルを新規テーブルに追加

35.7.1 メニュー

メインメニューを開きます。

新規部品表
サブメニューを開きます。



注：BOMTEMPLATEシステム変数は、新しい部品表を作成するために使用されるデフォルトの部品表テンプレートを持つファイルへのパスを定義します。

注：BOMTEMPLATEシステム変数が空の場合、またはパスが有効でない場合、以下のデフォルト部品表コンフィギュレーションが使用されます。

- **トップレベル**：新しいトップレベルコンポーネントのみの部品表を作成します。
- **ボトムレベル**：新しいボトムレベルコンポーネントのみの部品表を作成します。
- **階層**：新しい階層型部品表を作成し、すべてのコンポーネントとその直下にリストされたサブコンポーネントを含む部品表を作成します。
- **テンプレートから作成**：ダイアログボックスを開き、部品表構成テンプレートファイルを選択します。
- **カレントの表をコピー**：カレントの表のテンプレートを使用して、新しい部品表を追加します。

ドキュメントの部品表
サブメニューを開きます。

- **最初の表に移動**：ドキュメント内の最初の部品表に切り替えます。
- **前の表に移動**：ドキュメント内の一つ前の部品表に切り替えます。
- **次の表に移動**：ドキュメント内の次の部品表に切り替えます。
- **最後の表に移動**：ドキュメント内の最後の部品表に切り替えます。
- **<部品表名>**：ドキュメント内の対応する部品表に切り替えます。

部品表配置
図面上に表を配置します。部品表は、ドキュメントに複数挿入することができます。

CSVに書き出し
カレント部品表の内容をCSVファイルに保存します。

Excelに書き出し
カレント部品表の内容をXLSXファイルに保存します。

テンプレートから置換...
カレントの部品表設定を、選択したテンプレートに置換します。

テンプレートとして保存...
部品表テンプレートファイルの名前と場所を指定します。

デフォルトテンプレートとして保存...
BOMTEMPLATEシステム変数に格納されているデフォルトの部品表テンプレートファイルの場所を指定します。

カレントの部品表を削除
ドキュメントからカレントの部品表を削除します。

すべての部品表を削除
すべての部品表を削除します。

フィルターを設定
フィルターの構成を指定する**フィルターコンフィギュレータ**ダイアログボックスが開きます。詳細については、関連記事**フィルターコンフィギュレータダイアログボックス**を参照してください。

選択セット
サブメニューを開きます。

- **モデル全体**：モデル全体に対して部品表が作成されます。
- **サブアセンブリ**：部品表は、サブアセンブリの選択されたインスタンスに対して作成されます。
- **図面ビュー**：部品表は、ビューポートでの可視性にかかわらず、対応する図面ビューで選択された部品に対して作成されます。
- **レイアウトビューポート**：部品表は、選択されたレイアウトビューポートに対して作成されます。
- **カスタム選択**：選択された部品に対してのみ部品表が作成されます。
- **カレントドキュメントを除外**：部品表にカレントドキュメントのオブジェクトを含めません。
- **選択を表示**：部品表のカレントの選択内容を表示します。
- **追加ドキュメント**：部品表に他のドキュメントの部品を含めます。
    - **図面またはシートセットを追加**：部品表には、選択した図面またはシートセットのオブジェクトが含まれます。
    - **フォルダーを追加**：フォルダー内に存在する図面またはシートセットからオブジェクトを部品表に含めます。

      注：ユーザーは、指定したワイルドカード、BIMプロジェクト全体、またはシートセット全体に一致するドキュメントのみを含めることができます。
- **編集**：選択範囲の編集を許可します。

更新
カレントの部品表と図面内のすべての部品表のリストを更新します。

すべてを更新
すべての部品表を更新します。

後に列を挿入
選択した列の後ろに**列セレクタ**から列を挿入します。

前に列を挿入
選択されている列の前に **列セレクタ**から列を挿入します。

注：列が選択されていない場合、新しい列は表の最後の列の後に追加されます。

数式列を挿入
数式エディタが開き、数式列を設定できます(記事**数式列ダイアログボックス**を参照)。

テンプレート列を挿入
テンプレートエディタが開き、テンプレート列を設定できます(記事**テンプレート列ダイアログボックス**を参照)。

ユーザーが入力可能な列の挿入
数式列とテンプレート列で使用できるユーザーが入力可能な列を挿入します。

注：ユーザーが入力できる列、数量列、または **数値**、**サムネイル**、および **コンポーネント**列を除くその他の列の任意のセルをダブルクリックして、単位のない値(数値またはテキスト)を挿入したり編集したりできます。オーバーライドされた値は、**部品表マネージャー**で異なるフォント(イタリックフォントとブランドブルー色)で表示され、部品表列のタイトルの前にペン記号が表示されます。

評価列を編集
選択した数式またはテンプレート列を編集するためのダイアログが開きます。

サムネイル列を挿入
列が選択されている場合：テーブル内の選択された列の後に、デフォルトのパラメータを持つサムネイル列を挿入します。
列が選択されていない場合：表の最後の列の後ろに新しいサムネイル列が追加されます。

未使用のサムネイルを消去
使われなくなったサムネイル画像付きのブロックや添付ファイルを削除します。

ファイル付きの未使用のサムネイルを消去
使われなくなったブロック、添付ファイル、サムネイル画像付きファイルを削除します。

列を削除
表から選択した列を削除します。

列を左に移動
選択した列を1列左に移動します。

列を右に移動
選択した列を1列右に移動します。

列を表示
図面内の関連表で選択した列を表示します。

列を非表示
選択した列を関連表から削除します。非表示の列は、部品表マネージャーでは表示されたままですが、バックグラウンドでは斜めのハッチングパターンでマークされます。

関連表

関連するテーブルを同期させる(Alt+Ctrl+R)
関連するテーブルを同期させる。
テーブル名にカーソルを合わせると、サブメニューが表示されます。

- **コーナーを固定する**：固定コーナーテーブルを左上、右上、右下、左下のいずれかに設定します。
- **ズーム**：表にズームします。必要に応じて、カレントの表と同じようにレイアウトを設定します。
- **選択**：表を選択します。必要に応じて、カレントの表と同じようにレイアウトを設定します。
- **削除**：ドキュメントから表を削除します。
- **アタッチ解除**：表をデタッチします。部品表が変更されても、図面内の表は更新されません。
- **行の高さに合わせる**：テキストにフィットする行の高さを設定します。

フッター
選択された各列のサブメニューを開きます。

- **フッターなし**：フッター機能を削除します。

- **合計**：フッターに合計を表示します。
- **平均値**：フッターに平均値を表示します。
- **最小値**：フッターに最小値を表示します。
- **最大値**：フッターに最大値を表示します。

注：ユーザーが入力できる列と、フッターが定義された数量列のみがユーザー値を受け入れます。

注：また、数式やテンプレートの列にもフッターを追加することが可能です。

ソート
サブメニューを開きます。

- **自然順**：ドキュメント内のコンポーネントインスタンスの自然順序によって表をソートします。
- **並び順序**：表を自動的にソートします。
- **カスタムオーダー**：選択した列をユーザーが定義した手動での順序でソートします。部品を手動で配置すると、その番号が自動的に再生成されます。子部品の数はそれに応じて更新されます。
- **固定オーダー**：部品表内の部品の位置は記憶され、部品の追加や削除に関係なく、更新後も番号は変わりません。

  注：並べ替えモードを**自動** 、**ナチュラル**または**カスタム**に戻すと、数値が自動的に再生成されます。

集計関数
サブメニューを開きます。

- **関数なし**：集計関数を削除します。
- **合計**：グループ内のすべての値の合計を表示します。
- **平均値**：グループ内のすべての値の平均を表示します。
- **最小値**：グループ内のすべての値の最小値を表示します。
- **最大値**：グループ内のすべての値の最大値を表示します。
- **合計カウント**：グループ間で同じ値を検出した回数の合計を示します。
- **平均カウント**：グループ間で同じ値を検出した回数の平均を示します。
- **最小カウント**：グループ間で同じ値を検出した回数の最小数を示します。
- **最大カウント**：グループ間で同じ値を検出した回数の最大数を示します。
- **最低頻度の値**：対応するカウントが最も小さい値を表示します。最小カウントの値が複数ある場合は、それらの値がすべて表示されます。
- **最多頻度の値**：対応するカウントが最も大きい値を表示します。最大カウントの値が複数ある場合は、それらの値がすべて表示されます。
- **連結**：グループ内のすべての値の連結を、指定された区切り文字(デフォルトでは ';')で区切って昇順で表示します。
- **カウントとの連結**：グループ内のすべての値と、対応する検出数を昇順で連結して表示します。値とカウントのペアは、指定された区切り文字で区切られます。

サムネイルを新規テーブルに追加
新しい部品表にサムネイル列を追加する設定をコントロールします。

警告を表示
部品表の作成または更新時の警告メッセージの表示をコントロールします。

デフォルトテンプレートの設定
部品表のデフォルトテンプレートファイルを設定します。

35.7.2 表を作成

注：BOMTEMPLATEシステム変数は、新しい部品表を作成するために使用されるデフォルトの部品表テンプレートを持つファイルへのパスを定義します。

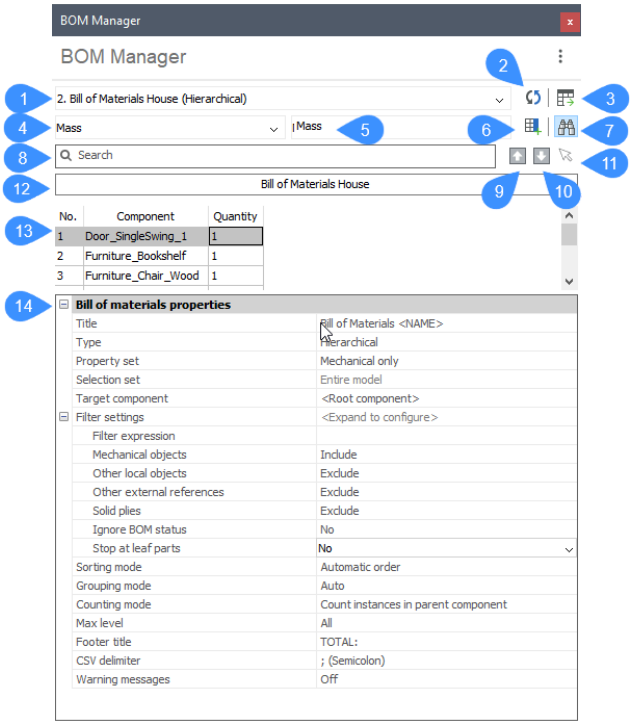
注：BOMTEMPLATEシステム変数が空の場合、またはパスが有効でない場合、以下のデフォルト部品表コンフィギュレーションが使用されます。

トップレベル
最上位コンポーネントのみの部品表を新規作成します。

ボトムレベル
最下位コンポーネントのみの部品表を新規作成します。

階層的
新しい階層型部品表を作成します。これには、すべてのコンポーネントが含まれており、その直下にサブコンポーネントが一覧表示されています。

テンプレートから作成...
ダイアログボックスを開き、部品表テンプレート(*.BOM)ファイルを選択することができます。



1 部品表選択

2 更新

3 部品表配置

4 カテゴリー選択

5 列選択

6 後に列を挿入

7 検索

8 検索

9 前を検索

10 次を検索

11 見つかったすべての項目を選択

12 部品表タイトル

13 部品表

14 部品表のプロパティ

部品表選択
カレントの部品表を選択します。選択内容は、図面に保存されています。図面を閉じて再び開くと、選択された部品表はマネージャーで復元されます。選択すると、表は、図面のカレントの状態に更新されます。

更新
カレントの部品表と図面内のすべての部品表のリストを更新します。

部品表配置
図面上に表を配置します。部品表は、ドキュメントに複数挿入することができます。

カテゴリー選択
6番の列選択に表示されるプロパティのカテゴリを選択します。7番のボタンを押すと、カレントの部品表にカテゴリーを追加することができます。

列選択
現在の部品表に追加する列を選択します。
ここでは、数式フィールドの数式を入力することができます。数式を追加するには、「=」で始まる式を入力します。テンプレート式を追加するには「$」を入力し、列を参照するには、<> を使用します。例えば、「マス」の列を参照する場合は、次のように入力します："=<マス>"
数式フィールドを追加して7番のボタンを押すと、計算式列_1ダイアログボックスが表示されます。

後に列を挿入
列が選択されている場合、表の選択された列の後ろに6番の列選択から列を挿入します。
列が選択されていない場合、新しい列は表の最後の列の後に追加されます。

検索
検索欄のオンとオフを切り替えます。このボタンをオンにすると、ボタンNo.11、12、13、14が表示されます。
部品表マネージャーパネルをクリックすると、**CTRL+F** を使用して検索欄を切り替えることができます。

検索
検索したい文字列を入力してEnterを押すと、ワイルドカードに対応します。

前を検索
部品表の前の一致を検索します。
Shift+F3を使用することもできます。

次を検索
部品表の次の一致を検索します。

F3を使用することもできます。

見つかったすべての項目を選択
検索フィールドで検索されたすべての項目を選択します。

部品表タイトル
部品表のタイトルを表示します。<NAME> の代わりに任意の名前を入力することができます。Enterを押して、変更を適用します。

部品表
部品表のタイトルを表示します。
列ラベルを右クリックすると、追加のツールが表示されます。

- **選択からテンプレート列を選択**：テンプレートエディターを開き、新しいテンプレート列を設定します。選択した列は、テンプレート式に自動的に追加されます。
- **削除**：列を削除します。
- **フッター**：サブメニューを開きます。
  - **フッターなし**：フッター機能を削除します。
  - **合計**：フッターに合計を表示します。
  - **平均値**：フッターに平均値を表示します。
  - **最小値**：フッターに最小値を表示します。
  - **最大値**：フッターに最大値を表示します。
- **ソート**：サブメニューを開きます。
  - **並び順序**：表を自動的にソートします。
  - **自然順**：ドキュメント内のコンポーネントインスタンスの自然順序によって表をソートします。
  - **昇順**：選択した列を昇順でソートします。
  - **降順**：選択した列を降順でソートします。
- **集計関数**：サブメニューを開きます。
  - **関数なし**：集計関数を削除します。
  - **合計**：グループ内のすべての値の合計を表示します。
  - **平均値**：グループ内のすべての値の平均を表示します。
  - **最小値**：グループ内のすべての値の最小値を表示します。
  - **最大値**：グループ内のすべての値の最大値を表示します。
  - **連結**：グループ内のすべての値の連結を、指定された区切り文字(デフォルトでは ';')で区切って昇順で表示します。
  - **カウントとの連結**：グループ内のすべての値と、対応する検出数を昇順で連結して表示します。値とカウントのペアは、指定された区切り文字で区切られます。
- **列の役割**：サブメニューを開きます。
  - **数値**：列は、BMBALLOONコマンドによって数値のソースとして使用されます。
  - **名前**：列は、BMBALLOONコマンドによって名前のソースとして使用されます。
  - **数量**：列は、BMBALLOONコマンドによって数量のソースとして使用されます。

- **標準**：列は、特定の役割を持ちません。

- **書式**：**書式**ダイアログボックスが開き、選択した列のフォーマットを指定できます。詳細については、関連記事**書式ダイアログボックス**を参照してください。
- **列フィルターを設定**：**列フィルター**ダイアログボックスが開き、列フィルターを構成できます。詳細については、関連記事**列フィルターダイアログボックス**を参照してください。
- **列を表示**：図面内の関連表で選択した列を表示します。
- **列を非表示**：選択した列を関連表から削除します。非表示の列は、部品表マネージャーでは表示されたままですが、バックグラウンドでは斜めのハッチングパターンでマークされます。
- **列をフィット**：選択した列の幅をその内容に合わせます。
- **すべての列をフィット**：選択したすべて列の幅をその内容に合わせます。

注：列の幅は手動で変更されていない限り、コンテンツに自動的にフィットするように収まります。

セルを右クリックすると、追加のツールが表示されます。

- **ズーム**：モデル内の選択した部品にズームします。
- **選択**：パーツを選択します。既存の選択を置き換えます。
- **選択を追加**：部品を選択に追加します。
- **選択から削除**：選択から部品を削除します。
- **ハイライトを削除**：ハイライトを削除します。

部品表のプロパティ

部品表と列のプロパティを表示します。列のプロパティは、部品表に列を挿入すると表示されます。

注：タイトルやヘッダー行を削除するには、部品表のタイトルまたはすべての列ヘッダーが空である必要があります。また、コマンドラインから入力されたタイトルは、先頭または末尾のスペースをすべて削除してトリミングされます。

35.7.3 サムネイルを新規テーブルに追加

新しい部品表にサムネイル列を追加する設定をコントロールします。

サムネイルの幅と高さは、**サムネイルサイズ**の項目で設定することができます。

35.8 Bricsys 24/7パネル

Bricsys 24/7パネルを開くには、リボンパネル/ツールバーを右クリックし、**パネル**リストから**Bricsys 24/7**を選択します。

Bricsys 24/7パネルでは、チームメンバー同士で図面を検索/共有ができます。

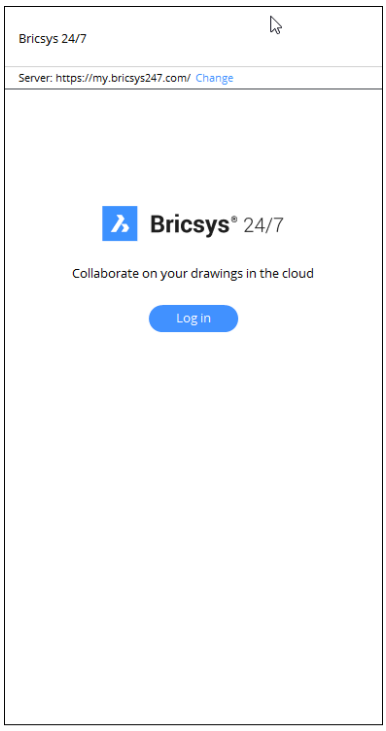
BricsCAD 24/7は、プロジェクト管理、プロジェクトチーム間のコラボレーション、クラウドコンピューティングセキュリティ、タスクの自動化を可能にします。このクラウド型サービスの大きなメリットは、BricsCADが**Bricsys 24/7**パネルでダイレクトに連動していることです。

一部の環境では、**Bricsys 24/7**パネルはシングルサインオン(SSO)に対応しています。

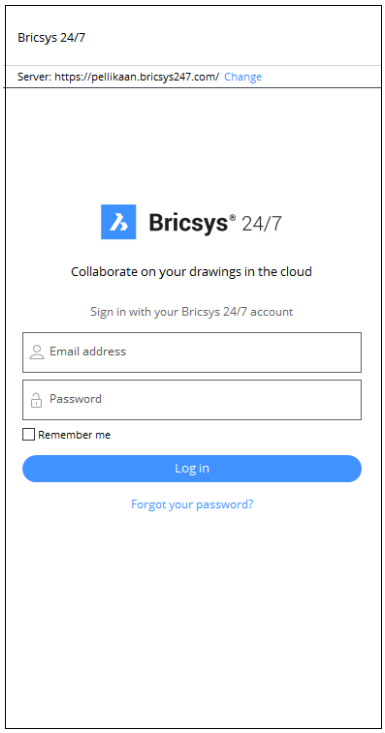
CLOUDSSOCLIENTIDシステム変数は、SSOサービスに接続する際に使用されるclient_idを格納します。

CLOUDSSOSCOPEシステム変数には、SSOサービスに接続する際に使用されるスコープまたはパーミッションを格納します。これは、既定のBricsys 24/7サービスの認証サーバーに依存(クライアントの設定または許容されている作業範囲)します。例えば、Azure ADでは、**<client id>/access_as_user openid**のように、スコープパラメータに明示的なクライアントIDを指定する必要があります。

https:/my.bricsys247.com/のようなサーバーで、デフォルトのスコープ設定の場合、以下のようにログインが表示されます。



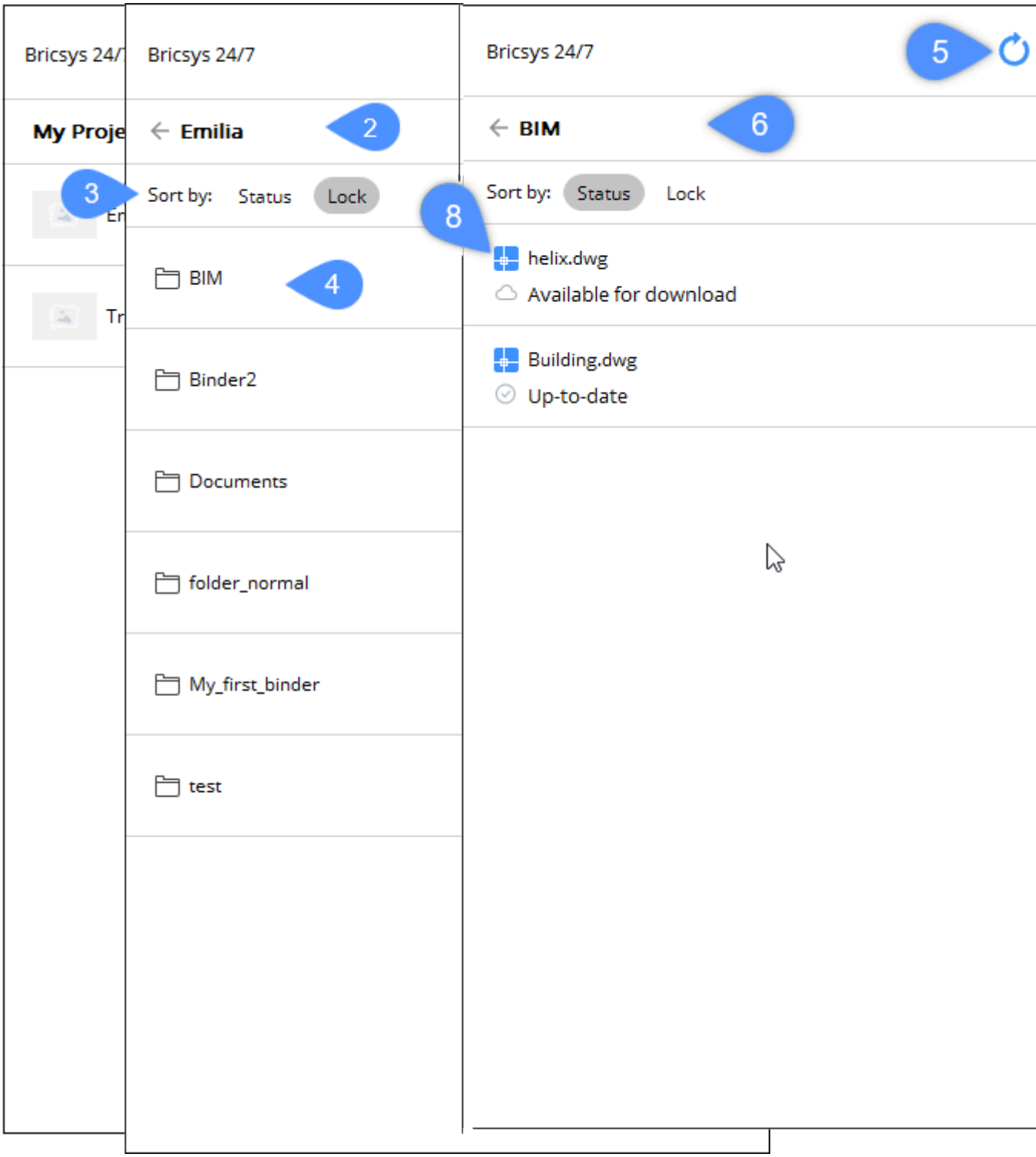
変更をクリックすると、CLOUDSERVERシステム変数で**設定**ダイアログボックスが開き、Bricsys 24/7サーバーの別のアドレスを指定します。https://pellikaan.bricsys247.com/のように、現時点でSSOをサポートしていない特定の環境では、ログインは次のように表示されます。

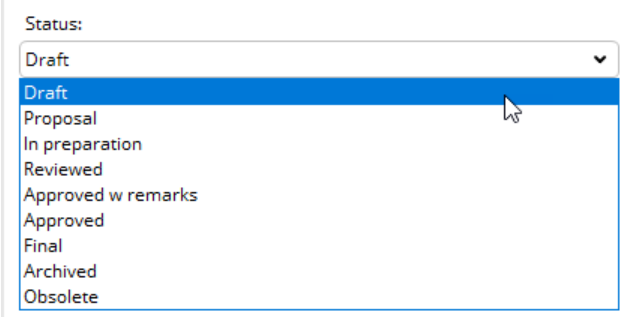


1 メールアドレスとパスワードを入力し、**ログイン**ボタンをクリックしてください。

2 (オプション)**ログイン情報を記憶する**のチェックボックスにチェックを入れて、ユーザー名とパスワードを保存します。

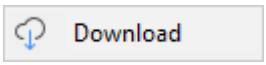
3 ログインすると、**クラウド上**のプロジェクト、フォルダー、ドキュメントの概要が表示されます。



(1)	**マイプロジェクト**	ログインすると、**Bricsys 24 / 7**パネルに最初に表示されるのは、自分がアサインされているすべてのプロジェクトです。
(2)	**プロジェクト名**	パネルの上部には、あなたのプロジェクト名が表示されます。プロジェクト名をクリックすると、プロジェクトの概要に戻ることができます。
(3)	**ソート**	フォルダー/ドキュメントを、ファイルの状態やロック属性でソートして表示します。
(4)	**フォルダー**	プロジェクトを開くと、フォルダー一覧が表示されます。
(5)	**更新**	**Bricsys 24/7**パネルを手動で更新します。 パネルは、フォルダーを切り替えると自動的に更新されます。
(6)	**フォルダー名**	パネルの上部は、あなたが見ているフォルダーが表示されます。プロジェクトをクリックすると、プロジェクトの概要に戻ることができます。
(7)	**新しいファイルを追加**	**新しいドキュメントを追加**ダイアログボックスを開き、フォルダーに新規ファイルを追加します。 ドロップダウンリストからファイルの状態を選択し、説明を入力します。  **注**：ファイルをアップロードしたフォルダーにメタデータが含まれている場合は、フォームが表示され、入力することができます。

(8)	**ドキュメント**	フォルダー内のドキュメントを表示します。ドキュメントの詳細の一部がアイコンで表示されます： ：プロフィール写真やドキュメントの作成者のイニシャルなどです。 Available for download ：クラウド上にあるドキュメントがダウンロード可能です。 Up-to-date ：ドキュメントは最新です。 Locally modified ：ドキュメントはローカルで修正されました。 Newer version available ：新しいバージョンのドキュメントがクラウド上で公開されています。 File is open/read-only ：現在、誰かがドキュメントの作業をしています。 Document is locked ：変更しようとしたドキュメントは、他のユーザーによってロックされています。 Conflicted ：読み取り専用のファイルに変更を保存しようとしたとき、または古いバージョンのファイルに変更を保存しようとしたときに表示されます。 Document already exists ：すでに存在するファイルをアップロードしようとしたときに表示されます。 Uploading... ：ドキュメントは現在アップロード中です。 Downloading... ：ドキュメントは現在ダウンロード中です。 ：ドキュメントは誰かによってロックされており、他の人は変更できません。 **ヒント**：ドキュメントの上にカーソルを置くと、ツールチップが表示され、Bricsys 24/7サーバーにアップロードされた最新バージョンを確認できます。

Bricsys 24/7のプロジェクトからBIMモデルをローカルフォルダーにダウンロードすることができます。ダウンロードするローカルフォルダーは、CLOUDDOWNLOADPATHシステム変数で定義します。



4 ドキュメントの上で右クリックすると、ドキュメントで可能なメニューが表示されます：

5

(9)	ドキュメントをロックして、変更できないようにします。
(10)	ドキュメントのロックを解除して、変更できるようにします。
(11)	クラウドから最新リビジョンをダウンロードします。
(12)	元の図面の改訂版として図面をBricsys 24/7にアップロードします。 CLOUDUPLOADDEPENDENCIESシステム変数のオプションを参照してください。

35.8.1 外部参照を使用した図面のアップロードとダウンロード

外部参照を使用した図面のアップロード

外部参照を含む図面を追加する場合は、参照ファイルもBricsys 24/7サーバーに追加してください。
以下の操作を行ってください：

1 **Bricsys 24/7**パネルを使用してファイルを1つずつアップロードします。

2 **図面エクスプローラ** > **従属ファイル**ダイアログボックスの**Bricsys 24/7へアップロード**オプションを使用して、ルート図面と外部参照が含まれていることを確認してください。

注：**report.txt**ファイルもアップロードされます。このレポートには、収録されたすべてのファイルの完全なリストと配布時の注意事項が記載されています。

外部参照を使用した図面のダウンロード

外部参照を含む図面をダウンロードすると、参照ファイルも自動的にダウンロードされます。

35.9 電卓パネル

電卓パネルを開くには、QUICKCALCコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**電卓**を選択します。

電卓パネルには、BricsCAD内で計算を実行する方法が用意されています。幾何関数、単位変換、変数、および関数電卓の基本機能を備えています。

1 座標を取得

2 2点間の距離

3 2点によって定義される線の角度

4 4点によって定義される2本の線分の交点

5 履歴をクリア

6 履歴パネル

7 入力エリア

8 コマンドラインに値を貼り付け

9 指数表記

10 単位変換

11 変数

35.9.1 座標を取得

選択した点の座標を取得します。

35.9.2 2点間の距離

選択した2点間の距離を取得します。

35.9.3 2点によって定義される線の角度

選択した2点によって定義される線分の角度を取得します。

35.9.4 4点によって定義される2本の線分の交点

選択した4点によって定義される2本の線分の交点の座標を取得します。

35.9.5 履歴をクリア

履歴パネルをクリアします。

35.9.6 履歴パネル

すべての計算を表示します。

35.9.7 入力エリア

計算入力と取得した幾何関数を表示します。

35.9.8 コマンドラインに値を貼り付け

入力領域から値をコピーし、コマンドラインに貼り付けます。

35.9.9 指数表記

関数電卓の機能を表示します。

35.9.10 単位変換

単位変換を実行します。ドロップダウンリストからパラメータを選択できます。

1 入力エリアに変換を返す

入力エリアに変換を返す
変換された値をコピーして、入力エリアに貼り付けます。

35.9.11 変数

定数(座標/ベクトル、実数、整数)または関数のいずれかの変数をサポートします。

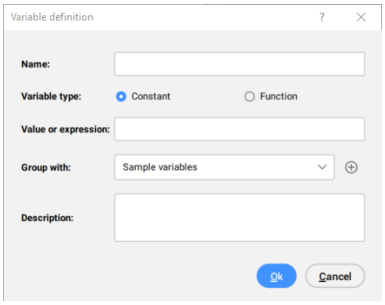
1 新しい変数...

2 変数を編集

3 削除

4　入力エリアに変数を返す

新しい変数...
変数定義ダイアログボックスが開き、新しい変数を定義できます。



注：ユーザ変数は、calvar.xmlファイルに保存されます。このファイルのデフォルトフォルダーは C:¥ Users ¥ username% ¥ AppData ¥ Roaming ¥ Bricsys ¥ BricsCAD ¥ V25 x64 ¥ ja_JP¥ Support です。

変数を編集...
選択した変数を編集します。

削除
選択した変数を削除します。

入力エリアに変数を返す
値をコピーして、入力エリアに貼り付けます。

注：変数をダブルクリックすると、入力エリアに戻ります。

変数またはカテゴリを右クリックすると、追加オプションを含むコンテキストメニューが表示されます。

新しいカテゴリー...
カテゴリー定義ダイアログボックスが開き、新しいカテゴリーを定義できます。

35.9.12　電卓の式で使用できるカスタム関数

cur
カーソルで点を取得します。**cur**関数は、LASTPOINTシステム変数の値を設定します。
サンプル:

- `cur()`
- `cur+2*[3,4]`

end、mid、cen、nod、qua、ins、per、nea
これらのスナップモードは、算術式の一部として使用されます。BricsCADは、図形を選択するように求め、適切なスナップ点の座標を返します。スナップモードは、LASTPOINTシステム変数の値を設定します。
サンプル:

- `(end+mid)/2`

dist
2点間の距離を求めます。
サンプル:

- `dist(cur,end)`

vec
2点からベクトルを求めます。
サンプル:

- vec(end,mid)

vec1
2点から単位ベクトルを求めます。
サンプル:

- vec1(cen,end)

dee
2点間の距離を求めます。「dist(end,end)」のショートカットです。
サンプル:

- dee
- dee()

ill
4つの端点によって定義される2本の線分の交点を求めます。
サンプル:

- ill(end,end,cen,mid

ille
「ill(ene,end,ene,end)」のショートカットです。
サンプル:

- ille
- ille()

mee
2つの端点間の中点を求めます。「(end+end)/2」のショートカットです。
サンプル:

- mee
- mee()

rad
選択した円、円弧、またはポリライン円弧の半径を求めます。
サンプル:

- rad
- rad()

nor - 引数なし
UCSで選択したオブジェクトの単位法線ベクトルを求めます。円、円弧、またはポリラインのみが受け入れられます。
サンプル:

- nor
- nor()

nor - 引数1個
2Dベクトルに対する単位法線を求めます。引数は2Dベクトルとして扱われます。
サンプル:

- nor(cur)

- nor([1,1])

nor - 引数なし
2つの2D端点に対する単位法線ベクトルを求めます。2点のZ座標は単に無視されます。
サンプル:

- nor(cur,cur)

nor - 引数3個
3つの3D点により単位法線ベクトルを求めます。
サンプル:

- nor(cur,cur,cur)

nee
「nor(end,end)」のショートカットです。

vee
「vec(end,end)」のショートカットです。

vee1
「vec1(end,end)」のショートカットです。

getvar
BricsCADシステム変数の値を返します。実数、整数またはシステム変数のみが受け入れられます。
サンプル:

- getvar(UCSXDIR)
- getvar(textsize)

35.10 土木エクスプローラパネル

土木エクスプローラパネルを開くには、CIVILEXPLOREROPENコマンドを実行するか、リボンパネル/ツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**土木エクスプローラ**を選択します。

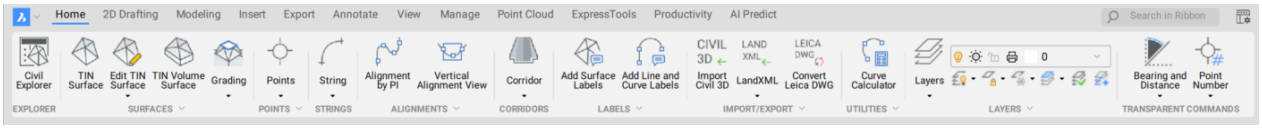
土木エクスプローラは、土木図形の管理およびアクセスを行うためのメインパネルです。図形はツリー表示で配置され、図形タイプ別にグループ化されます。

このパネルから、土木図形の設定とプロパティにアクセスでき、既存の図形とそのコンポーネントを編集したり、新しい図形とそのコンポーネントを追加したりできます。

パネルは2つの部分に分かれています。ツリービュー内の図形のリストを含む上部と、ツリービューでの選択に応じて、追加のプロパティを含む下部。

土木エクスプローラパネルは、土木設計のコアパネルです。土木ワークスペースで、リボンの**ホーム**タブの下にある**土木エクスプローラ**アイコンをクリックして、パネルのオン/オフを切り替えます。

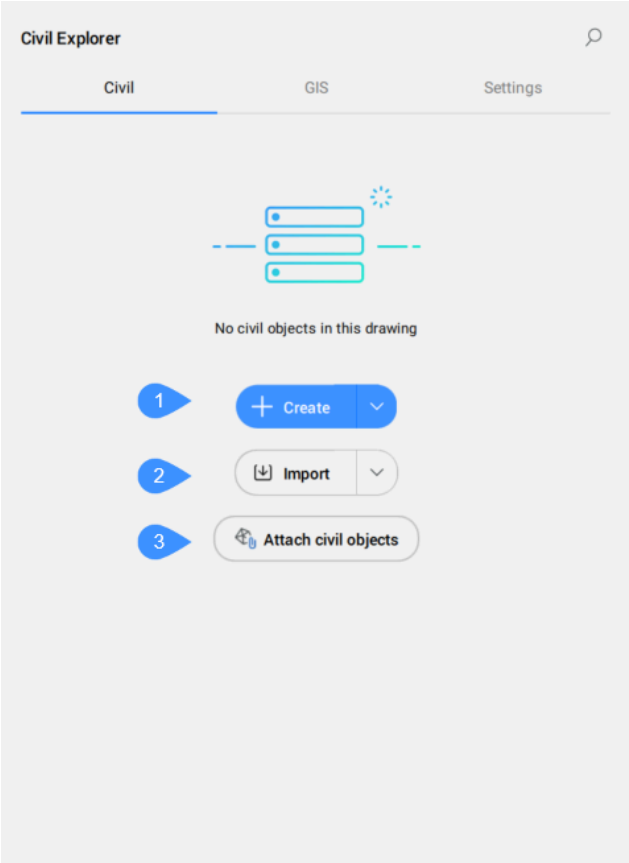
注：個々の土木ポイントの代わりに、ポイントグループのみが**土木エクスプローラ**に表示されます。グレーディング要素はツリービューに一覧表示されますが、**土木エクスプローラ**を使用してそのプロパティを編集することはできません。



土木エクスプローラパネルには、**土木**、**GIS**、**設定**の3つのタブがあります。

35.10.1 土木タブ

図面に土木オブジェクトがない場合は、**土木**タブには3つのボタンが表示されます。

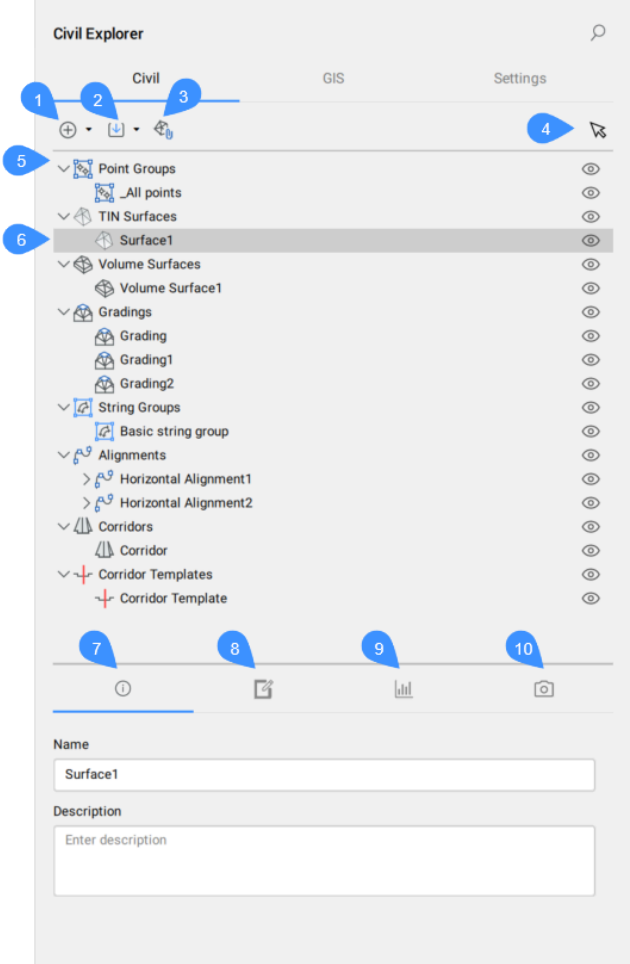


1 作成

2 読み込み

3 土木オブジェクトをアタッチ

土木タブでは、カレント図面内の土木図形を管理およびアクセスできます。



1 作成

2 読み込み

3 土木オブジェクトをアタッチ

4 土木オブジェクトを選択する

5 土木オブジェクトのタイプ

6 選択した土木オブジェクト

7 情報

8 定義

9 統計

10 表示スタイル設定

作成
すべてのタイプの土木オブジェクトを作成します。ドロップダウンリストから、作成する土木オブジェクトのタイプを選択してください。

TINサーフェス
TINコマンドを起動します。

ボリュームサーフェス
TINVOLUMEコマンドを起動します。

グレーディング
GRADINGコマンドを起動します。

土木ポイント
CIVILPOINTコマンドを起動します。

ポイントグループ
CIVILPOINTGROUPコマンドを起動します。

計画線
STRINGコマンドを起動します。

線形
ALIGNMENTコマンドを起動します。

コリドー
コリドーを作成します。

コリドー
CORRIDORコマンドを起動します。

コリドーテンプレート
CORRIDORTEMPLATEコマンドを起動します。

テンプレート要素
CORRIDORTEMPLATEELEMENTコマンドを起動します。

読み込み
土木図面ファイルを読み込みます。

Civil 3D読み込み...
CIVIL3DIMPORTコマンドを起動します。

LandXML読み込み...
LANDXMLIMPORTコマンドを起動します。

Leica DWG変換
LEICACONVERTコマンドを起動します。

土木オブジェクトをアタッチ
ATTACHCIVILOBJECTコマンドを起動します。

土木オブジェクトを選択する
図面内の土木オブジェクトを指示すると、**土木エクスプローラ**パネルの項目がハイライト表示されます。

土木オブジェクトのタイプ
土木オブジェクトはツリービューに配置されます。ツリー構造の上部には、すべてのタイプのオブジェクトが一覧表示されます。
下位レベルには、各タイプのオブジェクトの下に、すでに図面に存在するオブジェクトが表示されます。
土木オブジェクトタイプを右クリックすると、コンテキストメニューが開き、**作成**オプションが表示され、選択したCivilオブジェクトを作成するための特定のコマンドが起動されます。
右クリックメニューには、土木オブジェクトのタイプごとに表示を切り替えられる**非表示**オプションも含まれています。

選択した土木オブジェクト
選択した土木オブジェクトをツリービューでハイライト表示します。
図形を右クリックすると、その図形特有の**編集**オプションのほかに、**ズーム**。**選択**、**削除**、**画面移動先**、**非表示**など、すべての図形に共通するオプションを含むコンテキストメニューが開きます。
使用可能な編集オプションは、図形タイプによって異なります。

点
既存のポイントは、**土木エクスプローラ**の土木タブには表示されません。新たに土木ポイントを作成するには、リボンのホームタブの下にあるポイントアイコンをクリックします。

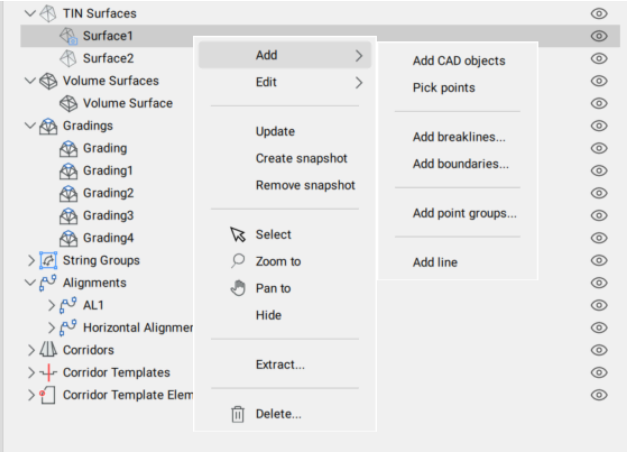
ポイントグループ
コンテキストメニューから**作成**オプションを選択して、**ポイントグループ** ダイアログボックスを開きます。
定義済みのポイントグループのコンテキストメニューには、**土木ポイントエディター...**、**ポイントグループを編集**、**スタイルを設定**、**ポイント書き出し**、**ズーム**、**選択**、**画面移動先**、**削除**、**非表示**などのオプションが表示されます。

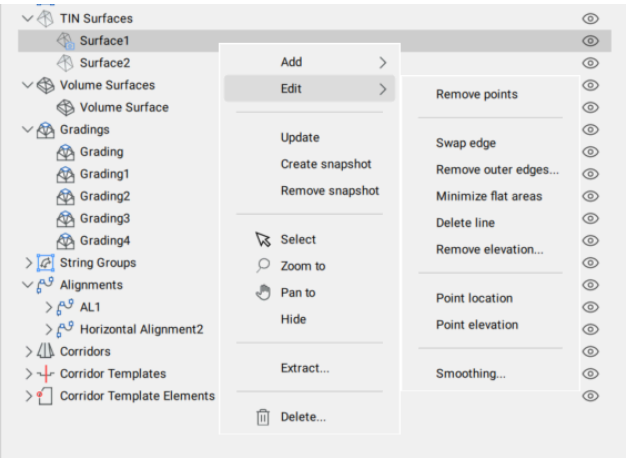
注：

- **ポイントグループ**ノードをダブルクリックすると、**土木ポイントエディター**ダイアログボックスが開きます。
- **ポイントグループを編集...**オプションを選択すると、**ポイントグループ**ダイアログボックスが開きます。
- **スタイルを設定...**オプションを選択すると、ポイントグループのシンボルやラベルのスタイルを設定する**スタイル設定**ダイアログボックスが開きます。
- **ポイント書き出し...** オプションを選択すると、**土木ポイント書き出し**ダイアログボックスが開きます。

TINサーフェス
土木エクスプローラを使用すると、既存のTINサーフェスを**編集**したり、新しい要素を**追加**することができます。

注：コンテキストメニューの**追加**および**編集**の下にあるオプションは、すべてTINコマンドやTINEDITコマンドでも使用されます。





これらのオプションに加えて、**更新**、**スナップショットを作成**、**スナップショットを削除**、**抽出**を行うことができます。

注：抽出...オプションを選択すると、**抽出**ダイアログボックスが開きます。

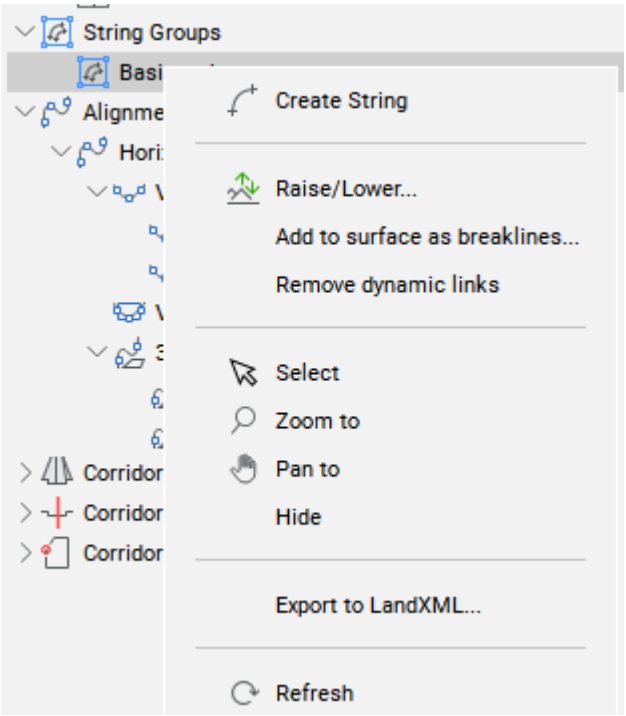
土木エクスプローラパネルの**設定**タブでは、サーフェスのラベルスタイルを編集します。
また、ATTACHCIVILOBJECTコマンドで図面にアタッチしたTINサーフェスが一覧表示されます。

ボリュームサーフェス
ボリュームサーフェスには、**更新**、**選択**、**ズーム**、**画面移動先**、**非表示**、**抽出**、**削除**などのオプションを使用できます。

グレーディング
一般的なオプションに加えて、**分割**と**結合**があります。

注：この編集オプションは、GRADINGEDITコマンドでも使用できます。

計画線グループ
作成した計画線グループを一覧表示します。コンテキストメニューには、**計画線グループを作成**オプションが含まれます。
一般的なオプションに加えて、計画線グループのコンテキストメニューには次のオプションがあります：



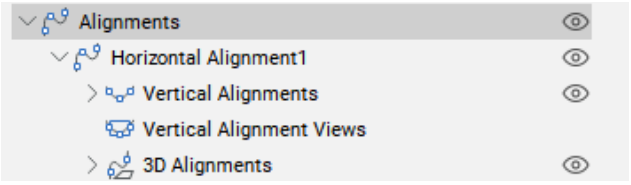
計画線を作成
STRINGコマンドを起動します。

上げる/下げる
選択した計画線グループの計画線の標高を上げたり下げたりできます。

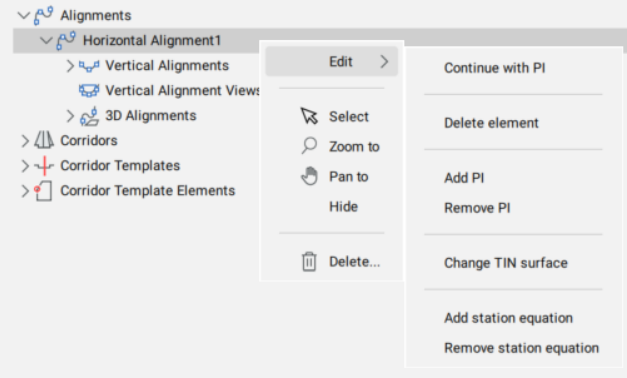
ブレークラインとしてサーフェスに追加...
ドロップダウンメニューからサーフェスを選択し、**ブレークラインを追加**ダイアログボックスを開きます。

LandXML書き出し
計画線をLandXMLファイルに書き出します。

線形
線形タイプには、既存の平面線形に関連する縦断線形や3D線形や縦断線形ビューをまとめて表示します。



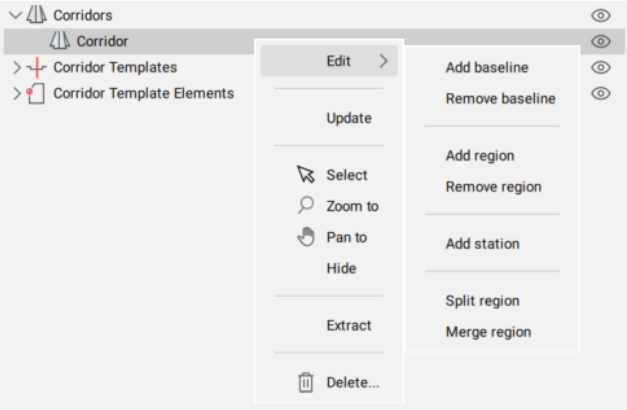
平面線形を右クリックすると、ALIGNMENTEDITコマンドで使用できるすべての**編集**オプションが表示されます。



縦断線形、縦断線形ビュー、3D線形には、**選択**、**ズーム**、**画面移動先**、**非表示**、**削除**などのオプションがあります。

コリドー

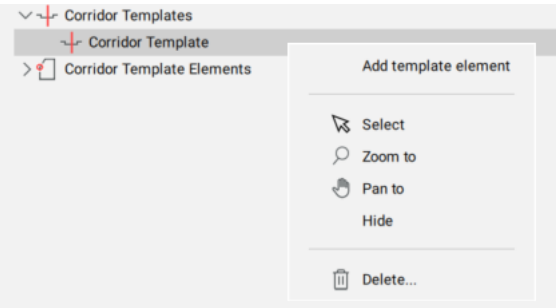
既存のコリドーを右クリックすると、CORRIDOREDITコマンドで使用できるすべての**編集**オプションが表示されます。**編集**オプションの他に、**更新**、**選択**、**ズーム**、**画面移動先**、**非表示**、**抽出**、**削除**などのオプションも使用できます。



コリドーテンプレート

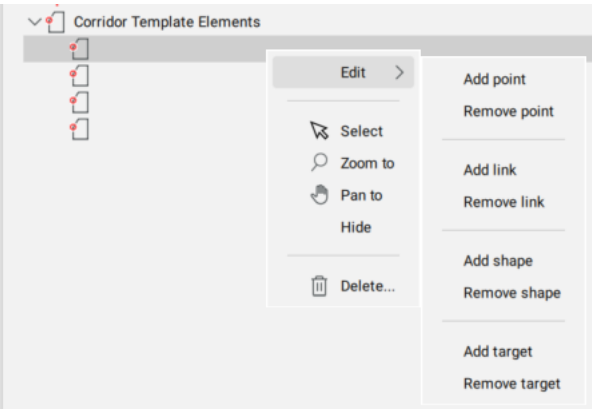
テンプレート要素を追加、**選択**、**ズーム**、**画面移動先**、**非表示**、**削除**などのオプションが選択できます。

注：この **編集**オプションは、GRADINGEDITコマンドでも使用できます。



コリドーテンプレート要素

「コリドーテンプレート要素」を右クリックすると、CORRIDORTEMPLATEELEMENTEDITコマンドで使用できるすべての編集オプションが表示されます。**編集**オプションに加えて、**選択**、**ズーム**、**画面移動先**、**非表示**、**削除**などの一般的なオプションも使用できます。



情報

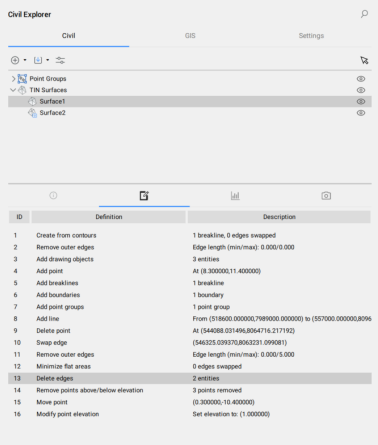
選択した土木オブジェクトに関する情報(名前と説明)が表示されます。どちらも編集できます。

注：計画線グループの場合、「グループの他の計画線に作用する」オプションが選択できます。

定義

TINサーフェスの作成元コンポーネント(ソースデータ)、編集操作の履歴、追加した定義を時系列順に表示します。

TINサーフェスのサーフェス構築プロセスは増分です。サーフェスにデータを追加したり、サーフェスを編集したりすると、サーフェスが更新されます。データが削除されると、サーフェスが再構築されます。定義一覧は増分ビルドプロセスをサポートし、カレント状態でサーフェスで実行されたすべての操作を順番に表示します。

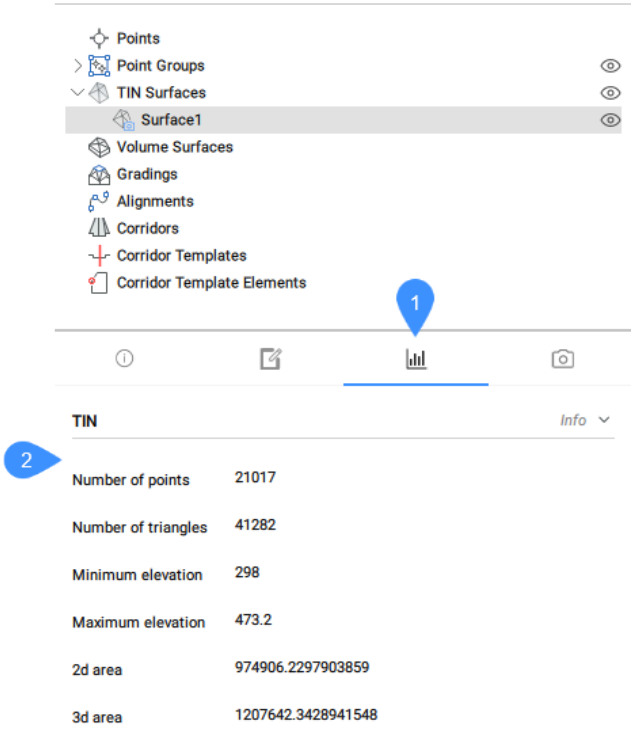


IDフィールドは、TINサーフェスに各コンポーネントを追加したステップを示します。

コンテキストメニューでは、定義の順序を変更したり、定義を**削除**したり、**無効**にしたりすることができます。さらに、ほとんどのTINサーフェス定義には、**選択**および**ズーム**のオプションがあり、図面内できわめて簡単に見つけることができます。定義をダブルクリックするか コンテキストメニューから**編集**オプションを押すと、**サーフェス: サーフェスx、定義ステップID: y**ダイアログボックスが開き、選択した定義のすべての詳細が表示されます。定義パラメータを編集できます。

統計

統計タブには、選択したTINサーフェスの統計(ポイントと三角形の数、最低高度と最高高度、2Dおよび3D領域)が表示されます。



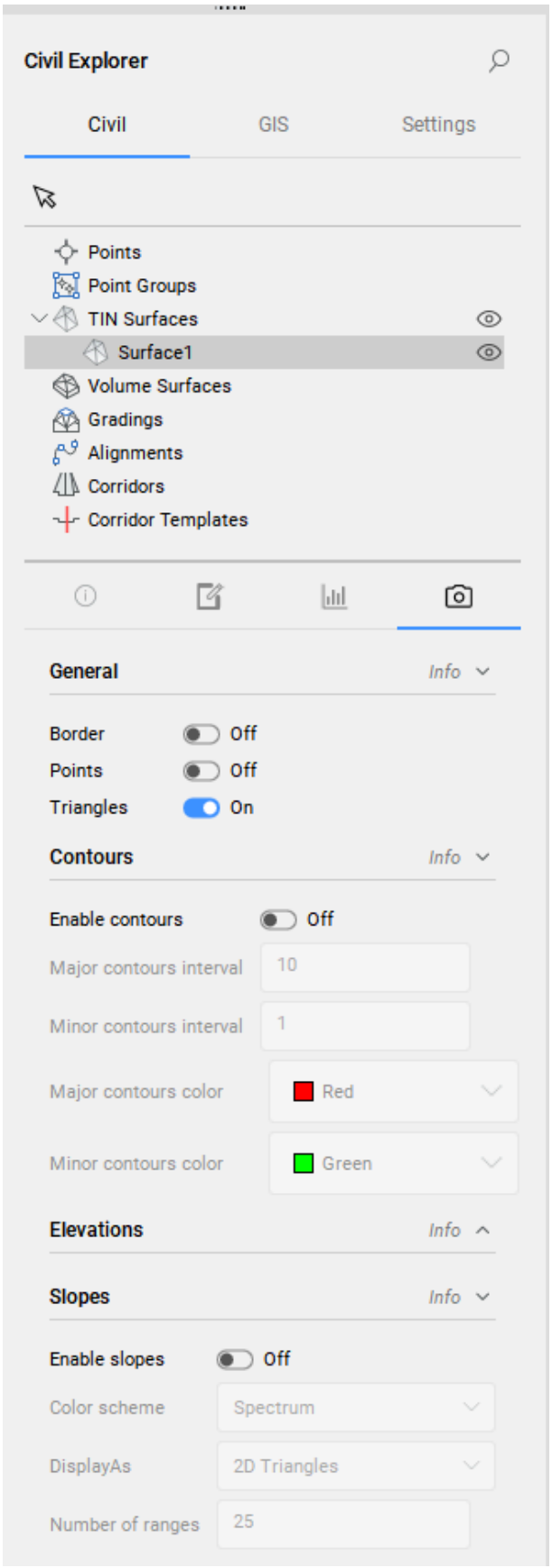
1 統計タブ

2 統計データ

表示

表示スタイルタブでは、TINサーフェスの表示スタイルを設定できます。

- 一般的な表示スタイル – 表示するTINサーフェスのコンポーネント(境界線、ポイント、三角形)を選択
- 等高線の表示スタイル
- 標高解析の表示スタイル
- 傾斜角解析の表示スタイル


Civil Explorer
Civil
GIS
Settings
Points
Point Groups
TIN Surfaces
Surface1
Volume Surfaces
Gradings
Alignments
Corridors
Corridor Templates
General
Info
Border
Off
Points
Off
Triangles
On
Contours
Info
Enable contours
Off
Major contours interval
10
Minor contours interval
1
Major contours color
Red
Minor contours color
Green
Elevations
Info
Slopes
Info
Enable slopes
Off
Color scheme
Spectrum
DisplayAs
2D Triangles
Number of ranges
25

一般
特定のTINサーフェスコンポーネントの表示を有効/無効にします。

境界
TINサーフェスの境界線の表示を切り替えます。

点
TINサーフェスのポイントの表示を切り替えます。

三角形
TINサーフェスの三角形の表示を切り替えます。

等高線
TINサーフェスに輪郭を表示するためのパラメータを指定します。

等高線の有効化
TINサーフェスの輪郭の表示を切り替えます。輪郭の表示スタイルを調整できます。

計曲線の間隔
計曲線の間隔を入力します。

主曲線の間隔
主曲線の間隔を入力します。

計曲線の色
計曲線の色を入力します。

主曲線の色
主曲線の色を入力します。

標高
TIN標高を解析するためのパラメータを指定します。

高さの有効化
TINサーフェスの高さの表示を切り替えます。高さの表示スタイルを調整できます。

範囲の作成方法
標高解析の作成方法を選択します。
- 範囲数
- 範囲間隔
- データムによる範囲間隔

カラースキーム
標高解析の配色を選択します。
使用可能なオプションから選択します。
- **スペクトラム**
- **地表**
- **水理**
- **グレー**
- **レッド**
- **グリーン**
- **ブルー**

データカラースキーム上側
上側のデータムの配色を選択できます。

データカラースキーム下側
下側のデータムの配色を選択します。

表示形態
標高解析の作成に使用するTINサーフェス要素を選択します。
使用可能なオプションから選択します。

- **三角形**
- **等高線**
- **点**
- **2D三角形**
- **2D等高線**

範囲間隔
標高解析の範囲間隔を指定します。

範囲数
標高解析の範囲数を指定します。

データム
データム標高を指定します。

勾配
TIN傾斜角を解析するためのパラメータを指定します。

傾斜角を有効にする
TINサーフェスの傾斜角の表示を切り替えます。傾斜角の表示スタイルを調整します。

カラースキーム
傾斜角解析の配色を選択できます。
使用可能なオプションから選択します。

- **スペクトラム**
- **地表**
- **水理**
- **グレー**
- **レッド**
- **グリーン**

表示形態
傾斜角解析の作成に使用するTINサーフェス要素を選択します。
使用可能なオプションから選択します。

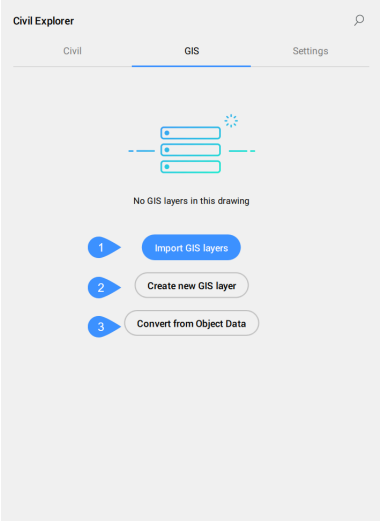
- **三角形**
- **2D三角形**

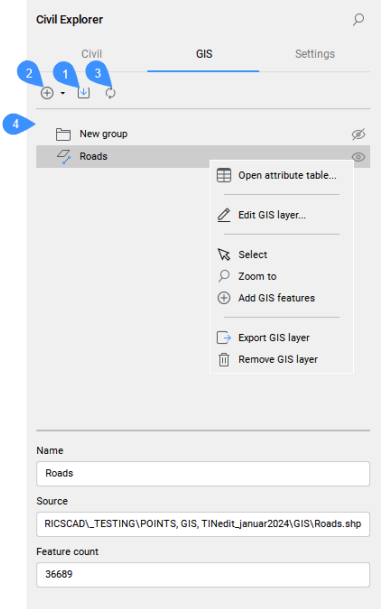
35.10.2 GISタブ

GISタブでは、図面内のすべてのGIS画層が一覧で表示され、画層の表示設定を管理することができます。

図面にGIS画層がない場合、GISタブには次の3つのオプションがあります。

- GIS画層の読み込み
- GIS画層を作成
- オブジェクトデータから変換





1 GIS画層を読み込み

2 グループを作成とGIS画層を作成

3 オブジェクトデータから変換

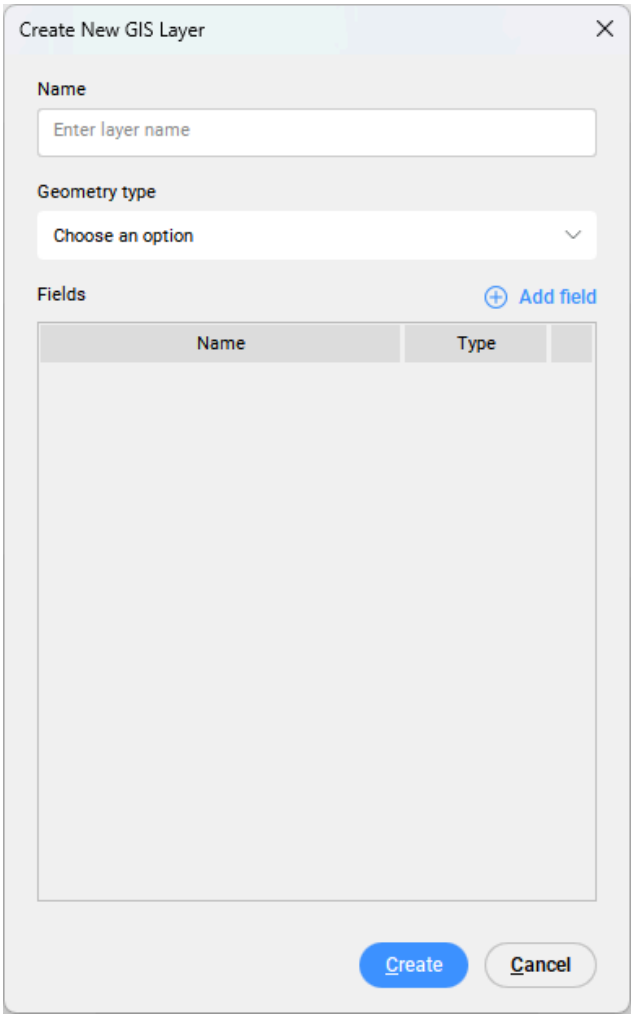
4 GISツリー表示

GIS画層を読み込み

ESRI SHPやESRIジオデータベースファイルを読み込みます。GISIMPORTコマンドで、**GIS読み込み**ダイアログボックスの詳細な説明を確認してください。

GIS画層を作成

新しいGIS画層を作成できます。**新規GIS画層**ダイアログは、コマンドの起動時に開きます。



名前

新しい画層名を入力できます。

ジオメトリタイプ

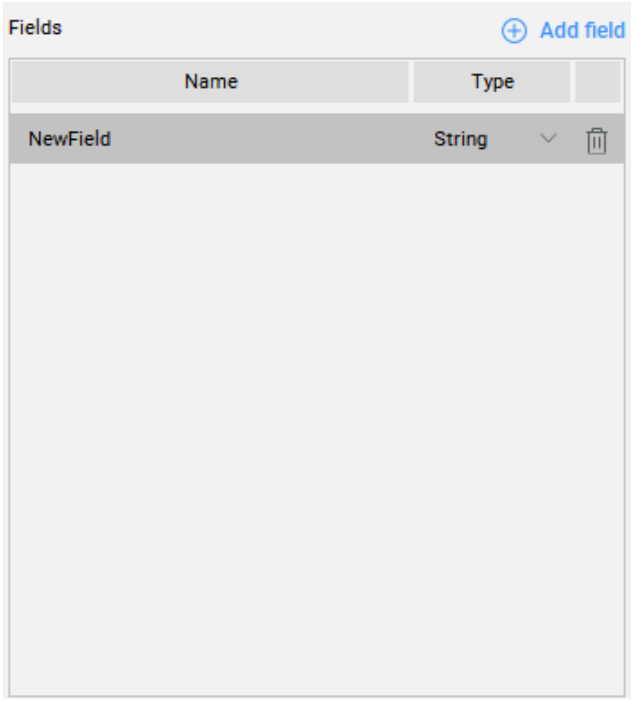
次のジオメトリタイプから選択できます。

- **点**
- **線分**
- **ポリゴン**

フィールドの追加

新しいフィールドを追加します。

フィールドの追加ボタンをクリックすると、新しいフィールドがフィールドリストに追加され、既定の名前は **NewField**、既定の種類**文字列**になります。**名前**フィールドと**種類**フィールドが編集できます。

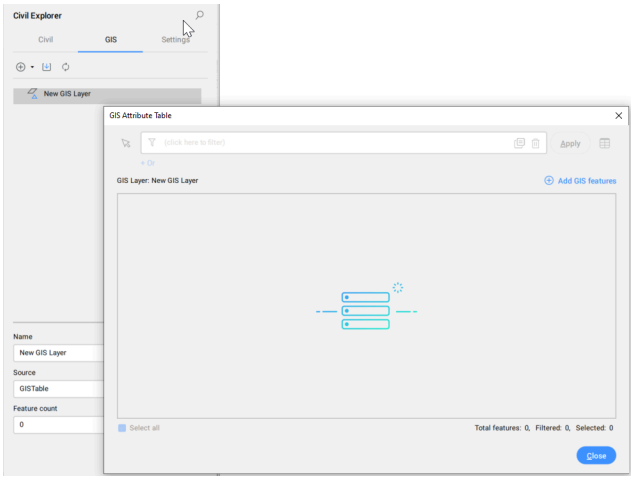


次のフィールドタイプを使用できます。

- **計画線**
- **実数**
- **整数**

テーブル内のごみ箱アイコンをクリックして、フィールドを削除します。

新しく作成したGIS画層のテーブルを最初に開いたとき、テーブルは空です。GISフィーチャーをGIS画層に追加するには、**GISフィーチャーを追加**ボタンをクリックします。図面で直線図形を選択し、Enterキーを押します。**GIS属性テーブル**ダイアログボックスには、選択したGISフィーチャーと適切な GISデータが表示されます。



オブジェクトデータから変換

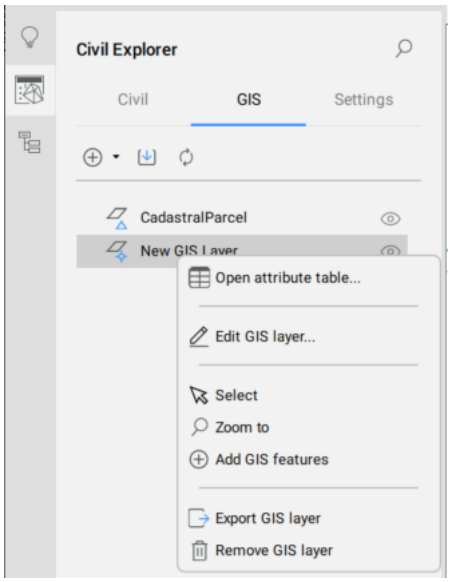
AutoCAD® Map 3DおよびオートデスクⓇ Civil 3DのGISフィーチャーを、カレント図面からBricsCAD GISのデータに変換します。

注 : AutoCAD® Map 3DおよびオートデスクⓇ Civil 3Dのオブジェクトデータは、**プロパティ**パネルで直接表示および編集できます。

GISツリー表示
すべてのGIS画層とグループを一覧表示します。

注 : ドラッグアンドドロップを使用することでグループとGIS画層を再配置できます。

次のコンテキストメニューは、GIS画層を右クリックすると開きます：



属性テーブルを開く...
GIS属性テーブルダイアログボックスを開きます。

GIS画層を編集
GIS画層を編集ダイアログボックスを開きます。

選択
GIS画層を選択します。

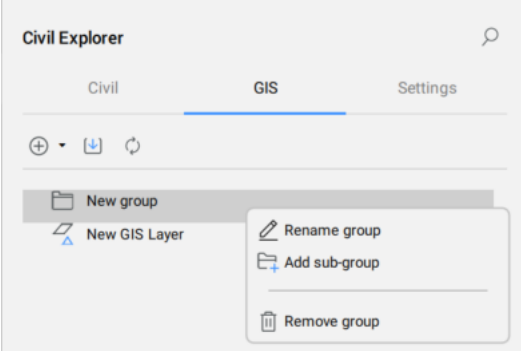
ズーム
GIS画層にズームします。

GISフィーチャを追加
図形をGIS画層に追加します。図面内の直線図形を選択するためのコマンドプロンプトが表示されます。**GIS属性テーブル**ダイアログボックスが開き、新しいGISフィーチャーがテーブルの最後に追加されます。

GIS画層を書き出し
GIS画層を書き出します。

GIS画層を削除
GIS画層を削除します。

グループを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが開きます。



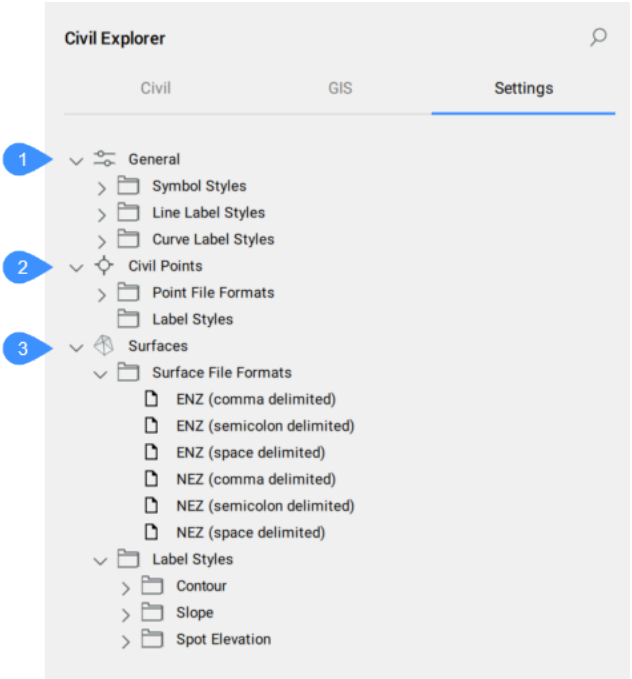
グループの名前を変更
グループの名前を変更します。

サブグループを追加
サブグループを追加します。

グループを削除
グループを削除します。

35.10.3 設定タブ

設定タブでは、土木図形のスタイルと形式を管理します。



1 一般

2 土木ポイント

3 サーフェス

一般
土木図形の一般的なシンボルスタイルを定義します。

シンボルスタイル
定義済みのシンボルのスタイルとカスタム作成したシンボルのスタイルを一覧表示します。シンボルスタイルの**作成**、**編集**、**コピー**、**削除**が行えます。コンテキストメニューから該当するオプションをクリックすると、**シンボルスタイル**ダイアログボックスが開きます。

線分のラベルスタイル
定義済みの直線のラベルスタイルとカスタム作成した直線のラベルスタイルを一覧表示します。

曲線のラベルスタイル
定義済みの曲線のラベルスタイルとカスタム作成した曲線のラベルスタイルを一覧表示します。
コンテキストメニューには、**作成**、**編集**、**コピー**、**削除**のオプションが表示されます。対応するオプションをクリックすると、**ラベルスタイル編集**ダイアログボックスが開きます。

土木ポイント
土木ポイントファイル形式と土木ポイントのラベルスタイルを定義します。

ポイントファイル形式
定義済みのポイントファイル形式とカスタム作成のポイントファイル形式が一覧表示されます。リストを管理するには、ショートカットメニューから**編集**オプションをダブルクリックするか押して、**ポイントファイル形式を管理**ダイアログボックスを開きます。
定義済みのポイントファイル形式:

- NameENZ(コンマ区切り)
- NameENZ(セミコロン区切り)
- NameENZ(スペース区切り)
- NameENZD(コンマ区切り)
- NameENZD(セミコロン区切り)
- NameENZD(スペース区切り)
- NameNEZ(コンマ区切り)
- NameNEZ(セミコロン区切り)
- NameNEZ(スペース区切り)(
- NameNEZD(コンマ区切り)
- NameNEZD(セミコロン区切り)
- NameNEZD(スペース区切り)
- PENZ(コンマ区切り)
- PENZ(セミコロン区切り)
- PENZ(スペース区切り)
- PENZ(コンマ区切り)
- PENZ(セミコロン区切り)
- PENZD(スペース区切り)
- PNEZ(コンマ区切り)
- PNEZ(セミコロン区切り)
- PNEZ(スペース区切り)
- PNEZD(コンマ区切り)
- PNEZD(セミコロン区切り)

- PNEZD(スペース区切り)

ただし、

- Pはポイント番号です
- Eは東座標です
- Nは北です
- Zは標高です。
- Dは生の説明です。
- Nameは、ポイント番号に英数字の値を含むポイントです。また、ポイント名に英数字の値がサポートされています。

ラベルスタイル
土木ポイントの利用可能なラベルスタイルを一覧表示します。コンテキストメニューでは、ラベルスタイルの**作成**、**編集**、**コピー**、**削除**が行えます。**作成**、**編集**、**コピー**オプションを選択すると、**ラベルスタイル編集**ダイアログボックスが開き、新たにラベルスタイルを定義できます。

サーフェス
輪郭、勾配、指定点高さのサーフェスファイル形式とラベルスタイルを定義します。

サーフェスファイル形式
定義済みのサーフェスファイルの形式とカスタム作成したサーフェスファイルの形式が一覧表示されます。一覧を管理するには、ダブルクリックするか、コンテキストメニューから**編集**オプションを選択して、**ポイントファイル形式を管理**ダイアログボックスを開きます。

ラベルスタイル
等高線、勾配、端点標高の定義済みスタイルとカスタム作成したスタイルを一覧表示します。コンテキストメニューから、ラベルスタイルの**編集**、**コピー**、**削除**が行えます。**編集**または**コピー**オプションを選択すると、**ラベルスタイル編集**ダイアログボックスが開き、新たにラベルスタイルを定義できます。

35.11 クラウドパネル(試験的)

35.11.1 免責事項

EXP.

クラウドパネルは試験的な機能です。まだ安定していないため、将来削除される可能性があります。MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを使用して、試験的な機能を有効または無効にしてください。

試験モードはデフォルトで無効になっています。**試験モード**を有効または無効にするには、BricsCADを再起動する必要があります。

35.11.2 説明

試験モードを有効にすると、**スタート**ページで**クラウド**パネルと**クラウド**タブがアクティブになります。

クラウドパネルを開くには、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**クラウド**を選択します。

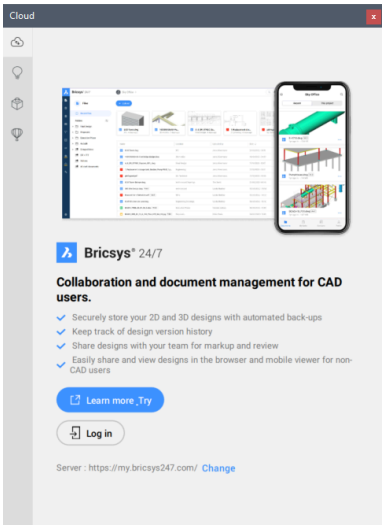
クラウドパネルでは、チームメンバー同士で図面を検索/共有することができます。

クラウドパネルから、プロジェクト管理、プロジェクトチーム間のコラボレーション、クラウドコンピューティングセキュリティを行えます。このクラウド型サービスの大きなメリットは、**クラウド**パネルによってBricsCADがダイレクトに連動していることです。

CLOUDDOWNLOADPATHシステム変数は、Bricsys24/7サーバーからファイルを作成、読み込み、ダウンロードするためのローカルクラウドキャッシュフォルダーを格納します。

クラウドパネルからアクセスして作成、読み込み、編集する図面は、最初にローカルキャッシュフォルダーに同期されます。その後、Bricsys 24/7サーバーにアップロードし直すことができます。

35.11.3 ログイン



CLOUDSSOCLIENTIDシステム変数は、SSOサービスに接続する際に使用されるclient_idを格納します。

CLOUDSSOSCOPEシステム変数には、SSOサービスに接続する際に使用されるスコープまたはパーミッションを格納します。これは、既定のBricsys 24/7サービスの認証サーバーに依存(クライアントの設定または許容されている作業範囲)します。例えば、Azure ADでは、**<client id>/access_as_user openid**のように、スコープパラメータに明示的なクライアントIDを指定する必要があります。

デフォルトの使用サーバーは**https:/my.bricsys247.com/**ですが、Bricsys 24/7サーバーに別のアドレスを指定することもできます。これを行うには、**変更**ボタンをクリックして、CLOUDSERVERシステム変数の**設定**ダイアログボックスを開きます。

現時点でSSOをサポートしていない他の特定の環境(https://pellikaan.bricsys247.com/など)では、ログインダイアログボックスが異なる場合があります。

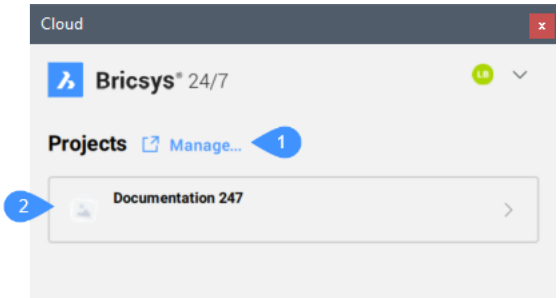
ログインを行うには、以下の手順に従います。

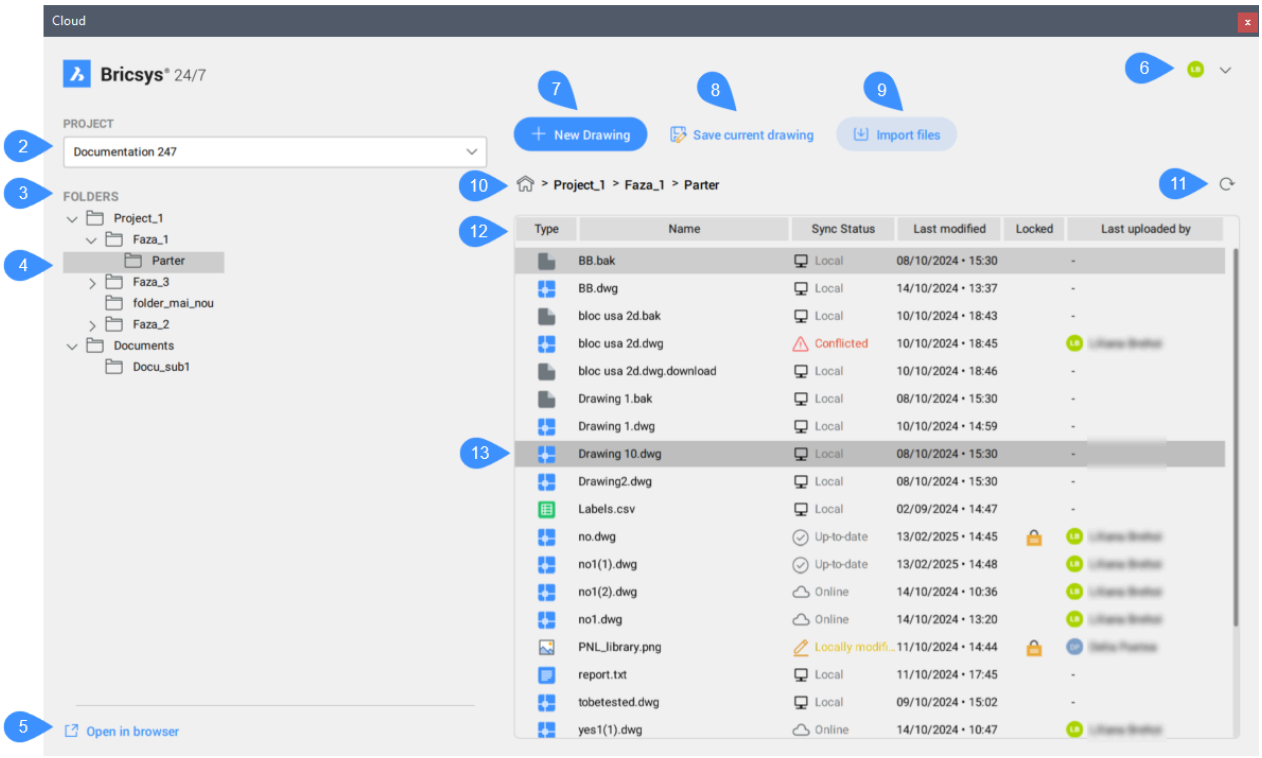
1 メールアドレスとパスワードを入力し、**ログイン**ボタンをクリックしてください。

2 (オプション)**ログイン情報を記憶する**のチェックボックスにチェックを入れて、ユーザー名とパスワードを保存します。

3 ログインすると、**クラウド上**のプロジェクト、フォルダー、ドキュメントの概要が表示されます。

35.11.4 クラウドパネルのコンテンツ





1 管理

2 プロジェクト名

3 プロジェクトのツリー構造

4 アクティブなフォルダー

5 ブラウザで開くボタン

6 ポップアップメニュー

7 図面作成ボタン

8 カレント図面保存ボタン

9 ファイルを読み込みボタン

10 ホームボタン

11 リフレッシュボタン

12 ファイルの特徴

13 ファイルリスト

管理
ブラウザhttps://my.bricsys247.com/app/でBricsys 24/7アプリケーションを開きます。

マイプロジェクト
ログインすると、割り当てられているすべてのプロジェクトが**クラウド**パネルに表示されます。プロジェクトを選択し、右側の矢印を押して開きます。

プロジェクトのツリー構造
プロジェクト内のすべてのフォルダーを一覧表示します。

アクティブなフォルダー
アクティブなフォルダーの名前をマークします。パネルの右側には、このフォルダーに含まれるすべてのファイルがあります。

ブラウザで開くボタン
ブラウザhttps://my.bricsys247.com/app/でBricsys 24/7アプリケーションを開きます。

ポップアップメニュー
ユーザー名とメールアドレスの情報が表示され、Bricsys 24/7ブラウザ、Bricsysヘルプセンター、ログアウトにアクセスするためのボタンが用意されています。

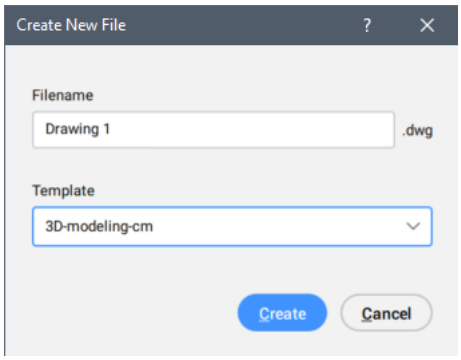
ユーザー名
ログインに使用したユーザー名とメールアドレスが表示されます。

Bricsys 24/7 Webアプリ
アクティブなプロジェクトとフォルダーのブラウザで Bricsys 24/7アプリケーションを開きますhttps://my.bricsys247.com/app/。

オンラインヘルプ
Briscysヘルプセンターのブラウザでヘルプ記事を開きます。

ログアウト
アプリケーションからログアウトします。

図面作成ボタン
新規ファイルを作成ダイアログボックスが開き、新しいファイルがローカルキャッシュクラウドフォルダーに作成されます。作成されたファイルを1回のクリックで正しいプロジェクトとフォルダーにアップロードできます。



ファイル名
新しい図面のファイル名を定義します。

テンプレート
新しい図面のテンプレートを選択できます。

カレント図面保存ボタン
現在の有効な図面をローカルのBricsys247フォルダに保存します。

注：

- このボタンは、最上位のフォルダーが有効な場合は表示されません。
- このボタンは、有効な図面がある場合にのみ表示されます。

ファイルを読み込みボタン
ファイルを現在のフォルダーにコピーするダイアログボックスが開き、読み込むファイルを選択できます。選択したフォルダーがローカルキャッシュクラウドフォルダーにコピーされます。

作成されたファイルを1回のクリックで正しいプロジェクトとフォルダーにアップロードできます。

ホームボタン
メインのプロジェクトフォルダーに戻ります。

リフレッシュボタン
クラウドパネルを手動で更新できます。
パネルは、フォルダーを切り替えると自動的に更新されます。

ファイルの特徴
ファイルの特徴が表示されます。
各フィールドの上矢印または下矢印を押すと、ファイルのリストを昇順または降順に並べ替えることができます。

種類
ファイルの種類が表示されます。

名前
ファイルの名前が表示されます。

同期ステータス
ファイルの同期ステータスが表示されます。

- Local：ファイルはクラウドではなく、ローカルコンピューターに保存されます。
- Online：ファイルはクラウドに保存されます。
- Up-to-date：ローカルファイルとオンラインファイルは同じバージョンです。
- Locally modified：ファイルはオンラインで入手できますが、ローカルコンピューター上のローカルバージョンの保存日が最新です。

最新の変更
ファイルが最後に変更された日時が表示されます。

ロック

ユーザーによってファイルがロックされている( )か、ロック解除されているかが表示されます。Bricsys 24/7にログインしているユーザーによってファイルがロックされている場合、他のユーザーは新しいバージョンをBricsys 24/7にアップロードできません。

最終更新者
ファイルを最後に更新したユーザの名前が表示されます。

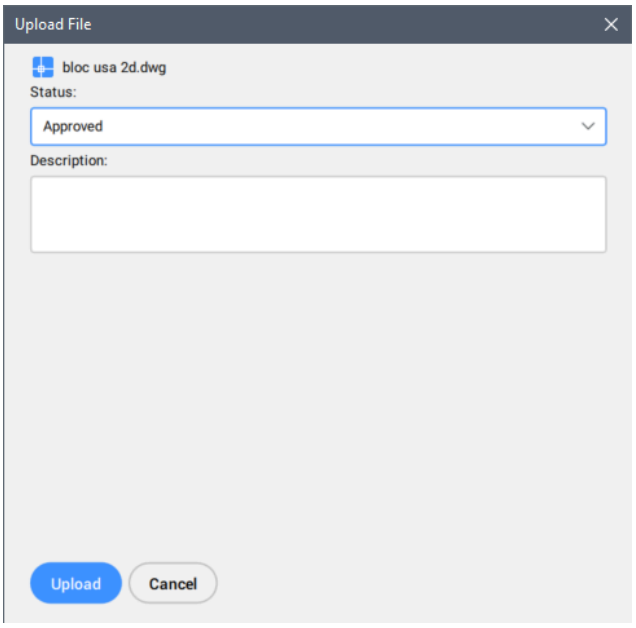
ファイルリスト
フォルダー内のすべてのファイルを一覧表示します。
選択したファイルの**同期ステータス**に応じて、コンテキストメニューに以下のオプションが含まれます。

- **開く**：図面(DWG)ファイルをBricsCADで開きます。

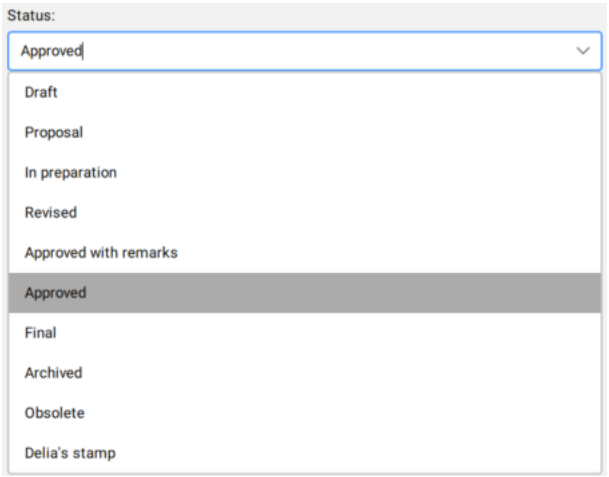
  注：DWG以外のファイルの場合、開くことができないという警告メッセージが表示されます。

- **リビジョンとしてアップロード**：**ファイルをアップロード**ダイアログボックスが開き、元のファイルのリビジョンとしてファイルをアップロードできます。

  図面ファイルについては、CLOUDUPLOADDEPENDENCIESシステム変数のオプションを参照してください。



a **ステータス**：ドロップダウンリストと説明から新しいファイルのステータスを選択できます。



b **説明**：リビジョンの説明を書き込むことができます。

c **アップロード**：ファイルをアップロードします。

- **ファイルエクスプローラで表示**：ファイルエクスプローラを開いてファイルの場所を表示します。
- **ブラウザで表示**：Bricsys 24/7ブラウザを開いて、ファイルの場所を表示します。
- **ダウンロード**：クラウドからファイルの最新リビジョンをダウンロードします。ファイルのローカルバージョンが変更されている場合、ローカルの変更を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

  注：ダウンロードするローカルフォルダーは、CLOUDDOWNLOADPATHシステム変数で定義します。

- **ダウンロードして開く**：ファイルをダウンロードして開きます。

  注：DWG以外のファイルの場合、開くことができないという警告メッセージが表示されます。

- **ロック**：ドキュメントをロックして、変更きないようにします。
- **ロック解除**：ドキュメントのロックを解除して、変更できるようにします。

35.11.5 外部参照を使用した図面のアップロードとダウンロード

外部参照を使用した図面のアップロード

外部参照を含む図面を追加する場合は、参照ファイルもBricsys 24/7サーバーに追加してください。
以下の操作を行ってください：

1 **クラウド**パネルを使用してファイルを1つずつアップロードします。

2 **図面エクスプローラ** > **従属ファイル**ダイアログボックスの**Bricsys 24/7へアップロード**オプションを使用して、ルート図面と外部参照が含まれていることを確認してください。

注：**report.txt**ファイルもアップロードされます。このレポートには、収録されたすべてのファイルの完全なリストと配布時の注意事項が記載されています。

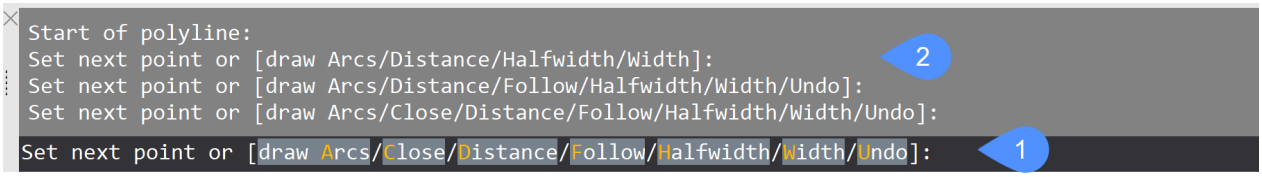
外部参照を使用した図面のダウンロード

外部参照を含む図面をダウンロードすると、参照ファイルも自動的にダウンロードされます。

35.12 コマンドラインパネル

コマンドラインパネルを開くには、COMMANDLINEコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして**パネル**リストから**コマンドライン**を選択します。または、キーボードショートカット**Ctrl+9**を使用します。

コマンドラインパネルでは、コマンド名や変数名を入力することで、コマンドの起動やシステム変数の変更を行うことができます。



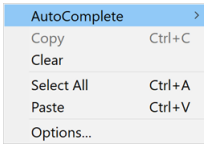
1 コマンドライン

2 コマンド履歴

35.12.1 コマンドライン

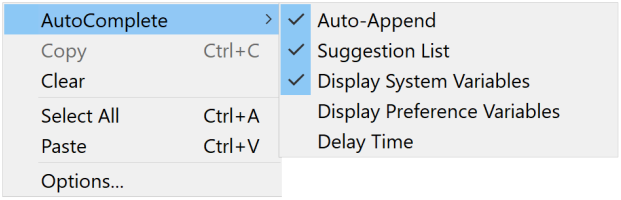
カレントのコマンドプロンプトを表示します。アクティブなコマンドがない場合は、コマンドを入力するように促されます。コマンドがアクティブな場合は、カレントのコマンドに関連するプロンプトやオプションが表示されます。プロンプトのショートカットがハイライト表示されます。ショートカット文字は、コマンドラインに入力するか、マウスの左ボタンでクリックします。

右クリックメニューには、関連するツールが用意されています。



オートコンプリート

オートコンプリートオプションにカーソルを合わせます。コンテキストメニューが表示されます：



- **自動追加**がオンの場合、実行可能なコマンドが残り1つになった場合に入力を自動的に完了します。
- **コマンド候補リスト**がオンの場合、コマンドバーに入力すると、使用可能なコマンドが一覧表示されます。
- **システム変数を表示**がオンの場合、システム変数がコマンド候補リストに含まれます。
- **遅延時間**オプションは、自動キーボード機能が表示されるまでの時間(秒)を設定します。

複写
選択したテキストをクリップボードにコピーします。

クリア
このオプションは、すべてのプロンプト履歴を消去します。

すべて選択
プロンプト履歴のすべての内容を選択します。

ペースト
このオプションは、クリップボードのテキストをコマンドラインに貼り付けます。

オプション
このオプションは、コマンドラインセクションに**設定**ダイアログボックスを表示します。

35.12.2 コマンド履歴

カレントの BricsCAD セッションのコマンドライン入力履歴を表示します。

35.12.3 入力履歴を表示する

コマンドプロンプトまたは入力プロンプトで上矢印キーと下矢印キーを使い、最近のコマンド入力の履歴を表示してコマンドを再実行できます。

注：直近の入力ポイントの位置がマーカーで作図領域に表示されます。マーカーの表示は、システム変数のSNAPMARKERSIZE、SNAPMARKERCOLOR、およびSNAPMARKERTHICKNESSで制御できます。

要確認：入力履歴には、現在のコマンドから遡って12項目(現在と前回の実行から)と、他に前回のコマンド実行から遡って12項目を含みます。

35.13 コマンドパネル

コマンドパネルは、コマンドを実行する際の中間的なユーザーインタラクションを提供します。ダイアログボックスと比べた場合、パネルの利点は図面の内容が部分的にブロックされたりせず、表示されたままであることです。

以下のコマンドでは、フローティングコマンドパネルを使用します：

- BIMDIMENSION
- BMBOMTEMPLATEEDITを実行すると、**部品表(BOM)マネージャー**パネルが開きます
- FITARC

- FITLINE

以下のコマンドは、ドッキング可能な**コマンドコンテキスト**パネルを使用します。閉じたり折りたたんだりする前と同じサイズと位置にパネルが表示されます。他のドッキング可能なパネルと同様、**コマンドコンテキスト**パネルもフローティング、ドッキング、またはスタックできます。

- ARRANGE
- BIMIFY
- BIMINVERTSPACES
- BIMQUICKBUILDING
- BIMQUICKDRAW
- BIMTAG
- BLOCKIFY(コレクションを探すオプション)
- CAEANALYZE2D [2D解析]
- DMAUDIT
- DMSIMPLIFY
- DMSIMPLIFYALL
- DWGHEALTH
- FINDOUTLIERS
- NUMBER
- OPTIMIZE
- POINTCLOUDCOLORMAP
- POINTCLOUDDEVIATION
- POINTCLOUDFITPLANAR
- POINTCLOUDPROJECTSECTION
- SIMPLIFY

コマンドパネルに表示される内容は、アクティブなコマンドによって異なります。それは3つの領域に分類されます：

1 必要な手順の例：

1
- 図形の選択
- 基点選択
- 名前付け
- 選択肢の選択

2 設定例：

3
- オン/オフオプション
- デフォルト値
- 公差

4 コマンド進行状況の例：

5
- 処理した要素数と処理する要素の総数の比較

- 進行状況メーター

コマンドパネルは、コマンド開始時に開き、コマンド終了時に閉じます。

35.13.1 コマンドコンテクストパネルアイコン

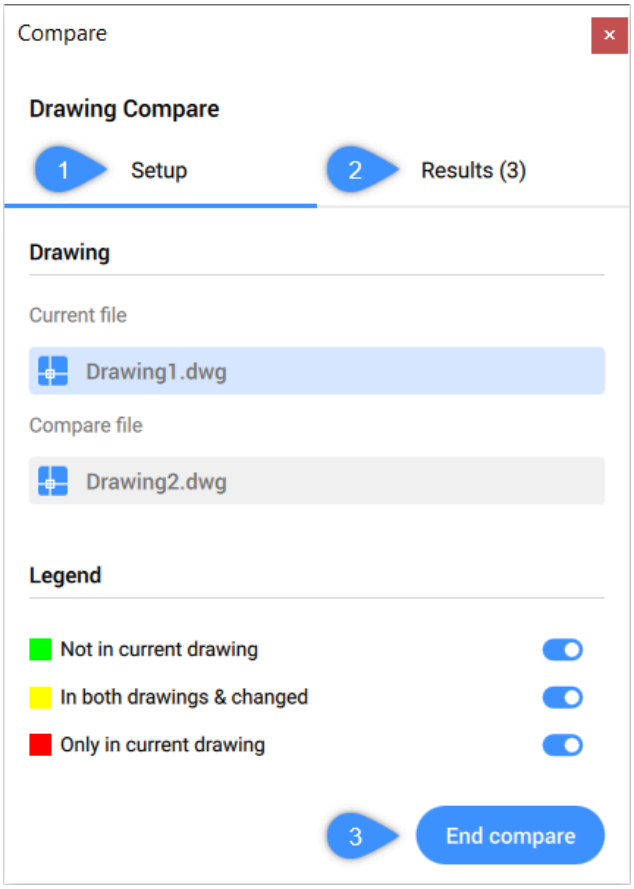
アイコン	コマンド

アイコン	コマンド

35.14 比較パネル

比較パネルを開くには、DWGCOMPAREOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**比較**を選択します。

比較パネルでは、カレント図面と選択した図面の比較ができます。

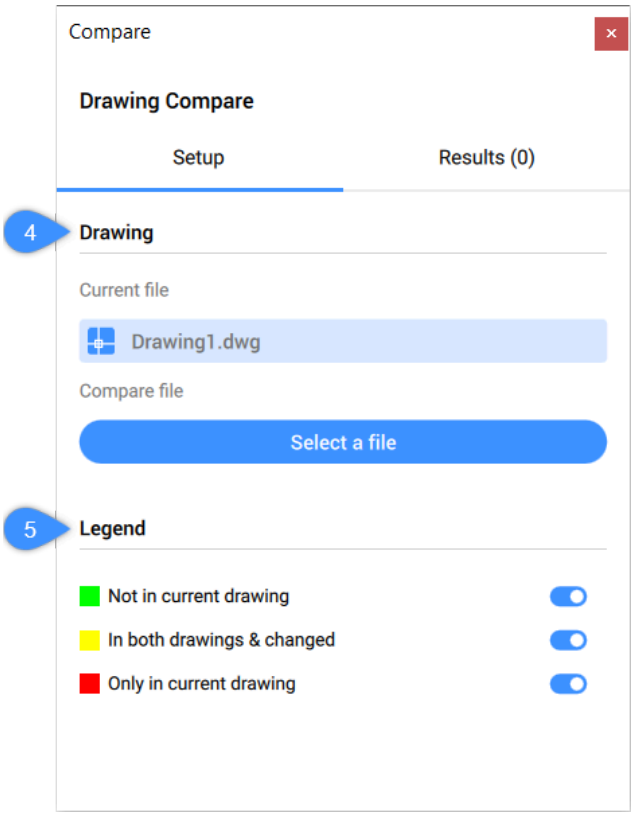


1 セットアップ

2 結果

3 比較を終了

35.14.1 セットアップ



4. 図面

5. 凡例

図面

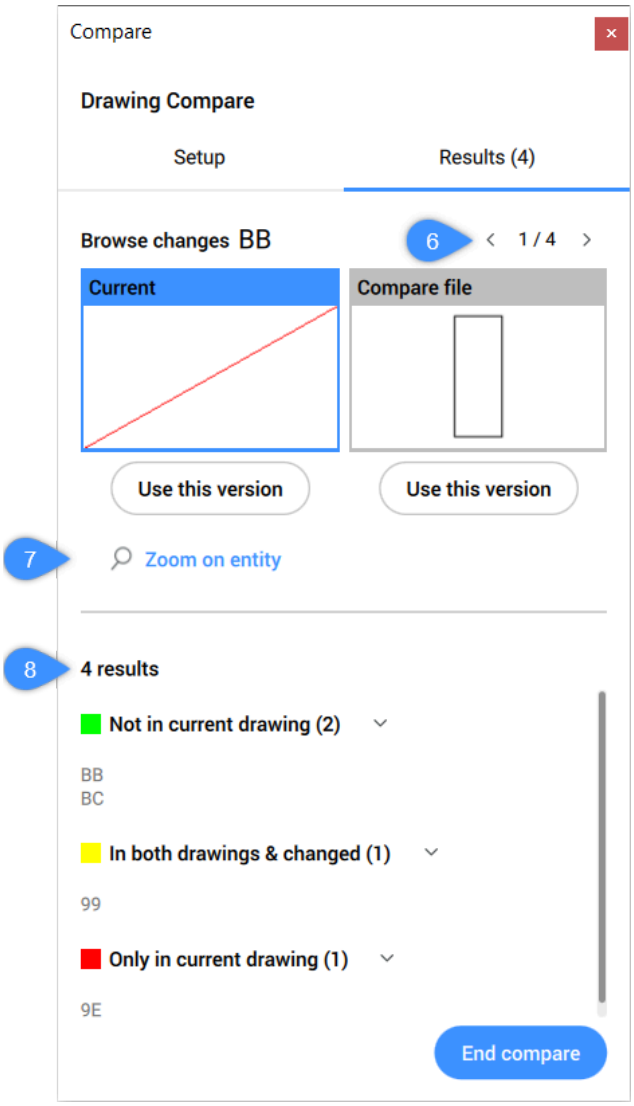
カレントファイルの名前と、カレントファイルの比較対象として選択したファイルが表示されます。比較ファイルがまだ選択されていない場合は、**ファイルを選択**ボタンをクリックします。**比較対象のファイルを選択**してください。ダイアログボックスが開き、ファイルを選択できます。

凡例

プログラムが相違点を検出したときに図形が表示される色を表示します。さまざまなカテゴリのオンとオフを切り替えて、対応する図形表示するかどうかを決定できます。

注：色をクリックすると、**色**ダイアログボックスが開き、選択したカテゴリに別の色を選択できます。

35.14.2 結果



6. 変更を参照
7. 図形をズーム
8. 結果リスト

変更を参照
2つの図面間で見つかった変更を参照できます。図形のプレビューが表示されます。

- 矢印をクリックして、変更を参照します。
- **このバージョンを使用**をクリックして、図形を保持する図面を選択します。

図形をズーム
プレビューに表示されている図形にズームします。

結果
比較図面とは異なる図形のハンドルを表示します。

- カレントの図面内になし：図形が比較図面にのみ存在します。
- 両方の図面内で変更あり：図形は両方の図面に存在しますが、変更されています。

- カレント図面内のみ：図形はカレント図面にのみ存在します。

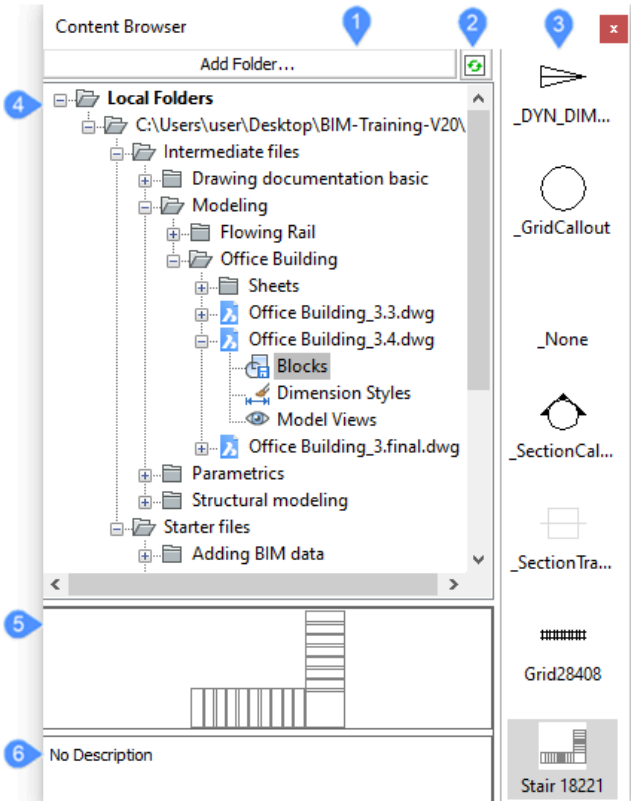
35.14.3　比較を終了

比較を終了し、比較ファイルをアンロードします。

35.15　コンテンツブラウザパネル

コンテンツブラウザパネルを開くには、CONTENTBROWSEROPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**コンテンツブラウザ**を選択します。

コンテンツブラウザパネルでは、図面を開いたり、ブロックライブラリの管理、寸法スタイルのコピー、DWGファイル全体のビュー配置などを行うための便利な方法が用意されています。



1　フォルダーを追加...

2　更新

3　選択された図面の定義

4　ローカルフォルダーツリー

5　プレビューの定義

6　説明

35.15.1　フォルダーを追加...

フォルダーを選択ダイアログボックスが開きます。

35.15.2 更新

図面を選択して更新ボタンを押すと、その内容(ブロック、寸法スタイル、モデルビュー)が展開されます。

35.15.3 選択された図面の定義

ブロック/寸法スタイル/モデルビューを選択すると、図面内で使用されている定義が表示されます。

ブロックをカレント図面にドラッグ&ドロップすると、**ブロック挿入**ダイアログボックスが表示されます。

寸法スタイルをカレント図面にドラッグ&ドロップできます。同じ名前の寸法スタイルがすでに存在する場合は、**コピー/貼り付け**ダイアログボックスが表示されます。

モデルビューをカレント図面にドラッグ&ドロップできます。このオプションはペーパー空間でのみ使用できます。

35.15.4 ローカルフォルダーツリー

図面/プロジェクトの内容を表示します。右クリックメニューでは、フォルダーツリー内でのフォルダーの追加や削除が可能です。

35.15.5 プレビューの定義

図面/ブロック/寸法のスタイルのプレビューを表示します。

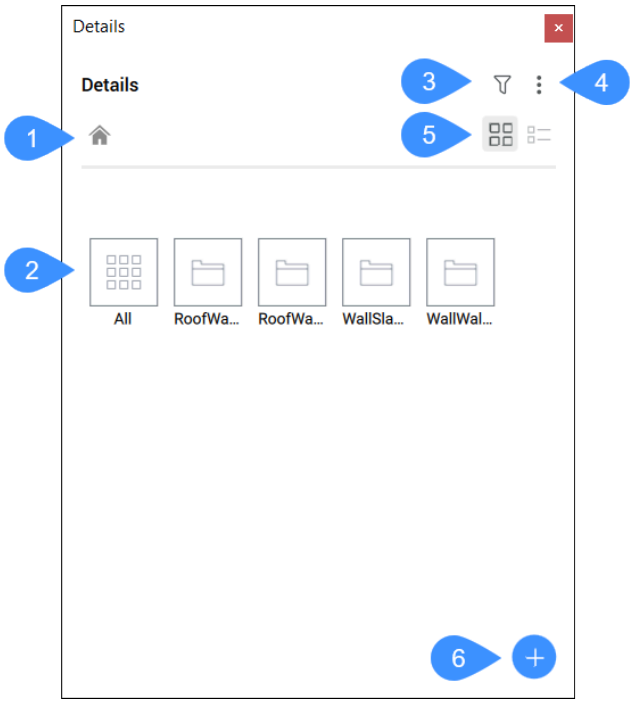
35.15.6 説明

選択した定義の説明を表示します。

35.16 詳細パネル

詳細パネルを開くには、DETAILSPANELOPEN コマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして**パネル**リストから**詳細**を選択します。

詳細パネルでは、詳細の表示、詳細へのタグの追加、詳細のプロパゲートおよび調整ができます。



1 ホーム

2 詳細ライブラリ

3 フィルター

4 メニュー

5 リスト表示/グリッド表示

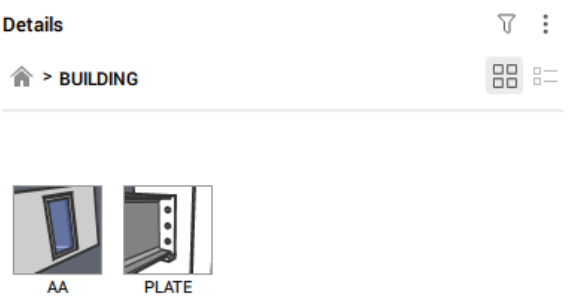
6 詳細を作成

35.16.1 ホーム

このボタンをクリックすると、詳細ライブラリの概要に戻ります。

35.16.2 詳細ライブラリ

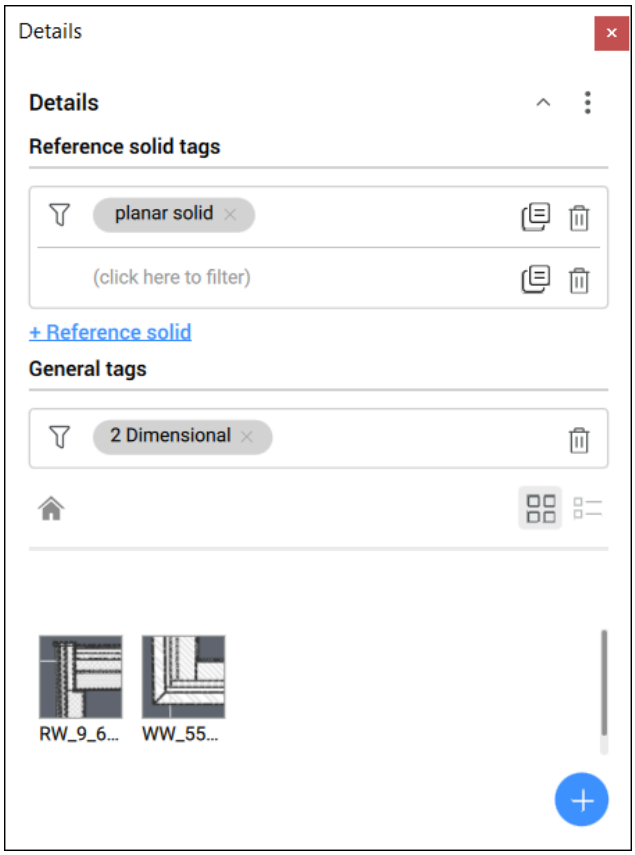
閲覧したい詳細情報のカテゴリーをクリックすると、その内容が表示されます。そのカテゴリーに割り当てられた詳細が表示されます。



詳細をクリックすると、**詳細を表示**ダイアログボックスが表示されます(**詳細を表示ダイアログボックス**を参照)。

35.16.3 フィルター

フィルターアイコンをクリックして、フィルターオプションを開きます。ここでは、タグを使ってライブラリーの詳細を検索することができます。



参照ソリッドタグ
参照ソリッドタグに基づいて詳細をフィルタリングします。+ **参照ソリッド**をクリックしてフィルターを追加し、ドロップダウンリストからフィルターを選択します。フィルターをコピーまたは削除するには、右側の記号をクリックします。

一般タグ
一般タグに基づいて詳細をフィルタリングします。**(ここをクリックしてフィルター処理)**をクリックしてフィルターを追加します。ドロップダウンリストからタグを選択します。フィルターの横にある十字をクリックしてフィルターを削除するか、左側の削除アイコンをクリックして、追加されたすべてのフィルターを一度に削除します。

35.16.4　メニュー

サムネイルを生成
新しい詳細情報を**ライブラリ**パネルに読み込みます。

ライブラリを管理
設定ダイアログボックスを開き、詳細ディレクトリのパスを変更します。

35.16.5　リスト表示/グリッド表示

詳細のリスト表示とグリッド表示を切り替えるには、アイコンをクリックします。

35.16.6　詳細を作成

BIMCREATEDETAILコマンドを起動します。

35.17 図面リカバリーマネージャーパネル

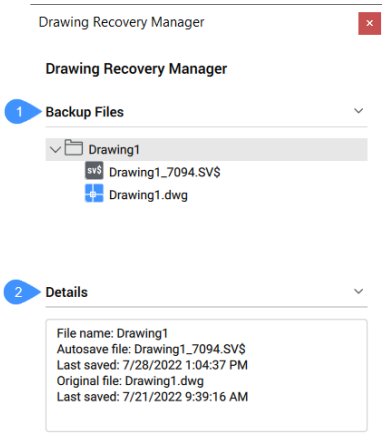
図面リカバリーマネージャーパネルを開くには、DRAWINGRECOVERYコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**図面リカバリーマネージャー**を選択します。

図面リカバリーマネージャーパネルには、プログラムまたはシステムの障害後に修復できる図面ファイルのリストが表示されます。

プログラムまたはシステムに障害が発生すると、必要に応じて**図面リカバリーマネージャー**パネルが自動的に表示され、DWG、DWT、DWS ファイルなど、開いていたすべての図面ファイルが一覧表示されます。新しい図面の編集中に対応する自動保存ファイル(.sv$)が作成された場合、新しい未保存の図面が**図面リカバリーマネージャー**パネルに表示されます。

注：バルーン通知の表示を無効にするには、TRAYICONSシステム変数とTRAYNOTIFYシステム変数のいずれかをオフにします。この場合、代わりに図面リカバリーメッセージダイアログボックスがスタートページに表示されます。

注：DRAWINGRECOVERYコマンドおよびDRAWINGRECOVERYHIDEコマンドを使用して、このパネルの表示/非表示を設定できます。



1 バックアップファイル

2 詳細

35.17.1 バックアップファイル

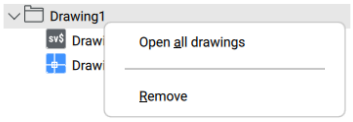
リカバリー可能な図面ファイルを含むフォルダーが一覧表示されます。図面ごとに、次のファイル形式から選択してください(存在する場合)：

- DrawingFileName_recover.dwg
- DrawingFileName_a_b_nnnn.sv$
- DrawingFileName.dwg
- DrawingFileName.bak

修復された図面は、**最近使用したファイル**リストに追加され、次回のプログラム起動時に**図面リカバリーマネージャー**パネルから削除されます。

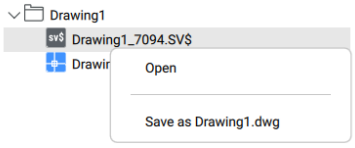
任意の項目を右クリックすると、コンテキストメニューが表示され、選択した項目に応じてさまざまなアクションにアクセスできます。

フォルダー:



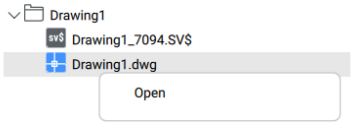
- **すべての図面を開く**：フォルダー内のすべてのファイルを開きます。
- **削除**：ファイルを修復せずにパネルからフォルダーを削除します。

Sv$ ファイル:



- **開く**：ファイルを開きます。
- **.dwgとして保存**:ファイルをdwgファイルとして保存します。

Dwgファイル:



- **開く**：dwgファイルを開きます。

35.17.2　詳細

ファイルの名前、場所、サイズ、最後に保存された時刻など、選択したファイルの詳細が表示されます。

35.18　干渉管理パネル(テスト段階)

35.18.1　免責事項

EXP.

干渉管理は試験的な機能です。まだ安定していないため、将来削除される可能性があります。MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを使用して、試験的な機能を有効または無効にしてください。

試験モードはデフォルトで無効になっています。**試験モード**を有効または無効にするには、BricsCADを再起動する必要があります。

35.18.2　説明

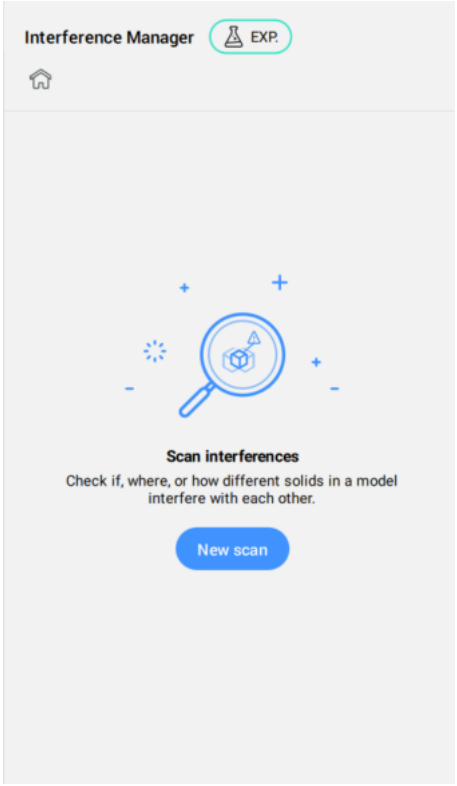
干渉管理パネルでは、複雑な3Dモデルの3Dソリッドやブロック参照の干渉の特定および管理をします。

試験モードを有効にすると、**干渉管理**パネルを使用できるようになります。

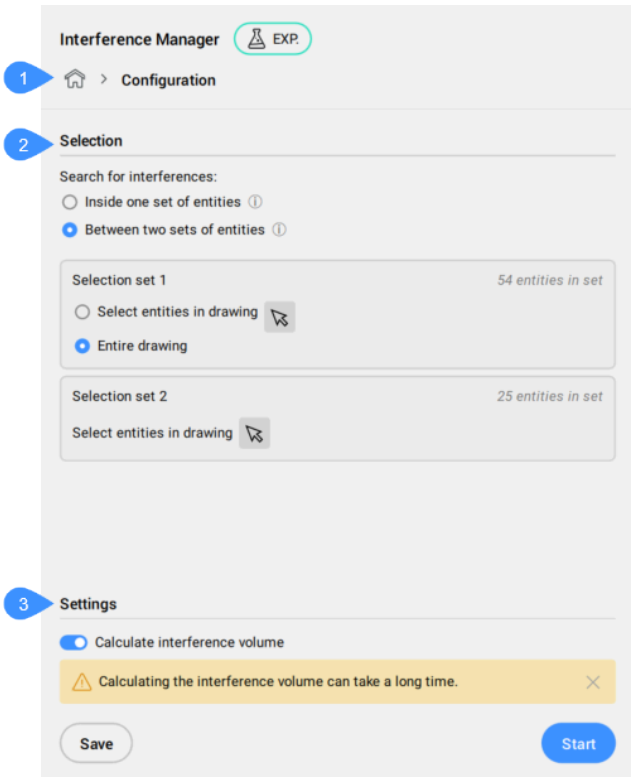
干渉管理パネルを開く方法は以下のとおりです：

- INTERFERENCEMANAGERPANELOPENコマンドを起動します。
- リボンパネルまたはツールバーを右クリックし、**パネル**リストから**干渉管理**を選択します。
- SCANINTERFERENCESコマンドを起動します。

干渉管理パネルを閉じるときは、INTERFERENCEMANAGERPANELCLOSEコマンドを起動します。



新しいスキャンボタンをクリックすると**設定**画面が開き、スキャンを開始できます。



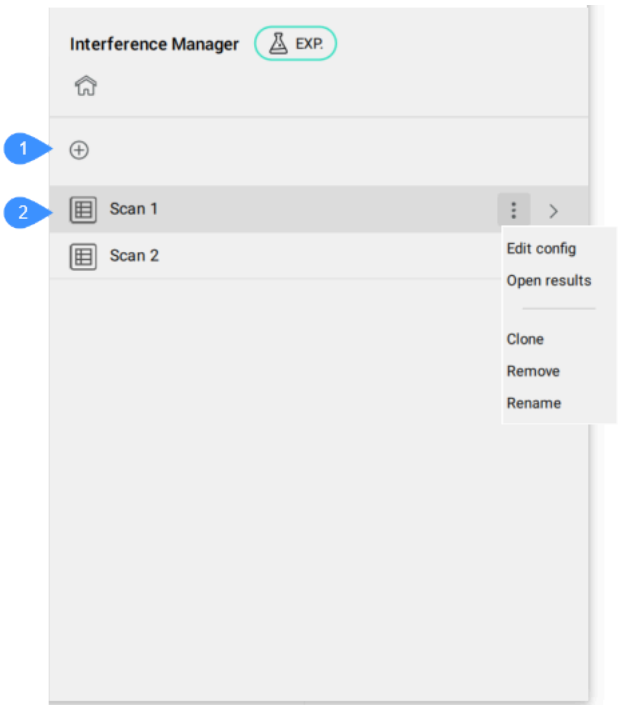
1 ホーム

2 選択

3 設定

35.18.3 ホーム

干渉スキャンを再度行うか、**ホーム**画面を開いて保存済みのスキャン結果を表示します。



1　新しいスキャン

2　保存したスキャンのリスト

新しいスキャン
設定画面を開き、新規にスキャンを開始します。

保存したスキャンのリスト
これまでに保存したスキャン結果のリストを表示します。
保存したスキャン結果を右クリックすると、コンテキストメニューが開き、以下のオプションが表示されまされます。

設定を編集
設定画面を開き、設定を編集します。

結果を開く
スキャンの**結果**画面を開きます。

クローン
スキャン結果のクローンを作成します。

削除
リストからスキャン結果を削除します。

名前変更
スキャン結果の名前を変更します。

35.18.4　選択

干渉箇所を検索する図形を設定します。

図形セット内
選択した図形セット内の干渉を検索します。

2つの図形セット間
2つの異なる図形セット間の干渉を検索します。

選択セット
図形の選択セットを設定します。

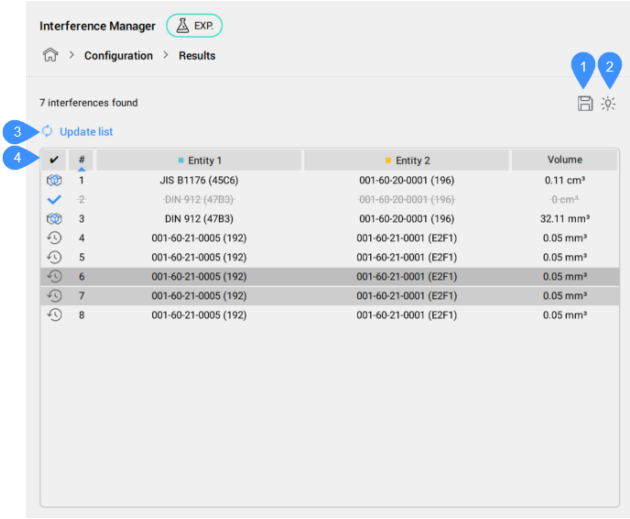
図面内の図形を選択
作図領域から直接図形を選択します。

図面全体
カレント図面の全ての図形を選択します。

35.18.5　設定

干渉量を計算
干渉箇所の体積を計算するオプションを設定します。

35.18.6　結果



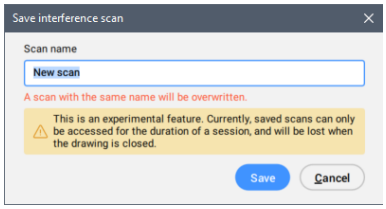
1　保存

2　干渉する図形をハイライト表示

3　リストを更新

4　干渉している図形のリスト

保存
スキャンの設定と結果を保存します。**干渉スキャンを保存**ダイアログボックスが開きます。



注：保存したスキャン結果は、現在のセッション中にのみ表示され、図面を閉じると失われます。

干渉する図形をハイライト表示
互いに干渉している図形や干渉箇所を別々の色で表示し、モデルの残りの部分透明に表示するよう切り替えます。干渉している図形はシアンと黄色で表され、干渉箇所は赤色で示されます。

リストを更新
干渉結果のリストの中の過去の干渉ペアを再評価します。

干渉している図形のリスト
図形間で検出されたすべての干渉ペアをリストし、干渉箇所を表示します。
リストは、任意の列でソートできます。上下キーを使用すると、干渉ペア間を簡単に移動できます。複数行を選択すると、モデルの複数の干渉箇所を同時に表示することができます。
確認用に**結果**画面を開いたままで、DMPUSHPULLやMANIPULATEなどのコマンドを実行して干渉を解消することができます。

状態
干渉している図形の状態を表示します。

干渉あり
図形が干渉しています。

古い図形
干渉している図形の1つが変更されている可能性があります。

解消済み
図形間の干渉は解消されています。

未検出
干渉している図形の1つが見つかりません。削除またはアンロードされた可能性があります。

位置
干渉している図形ペアの位置番号を表示します。

図形1
干渉している図形ペアの最初の図形を表示します。モデルの色はシアンで表示されます。

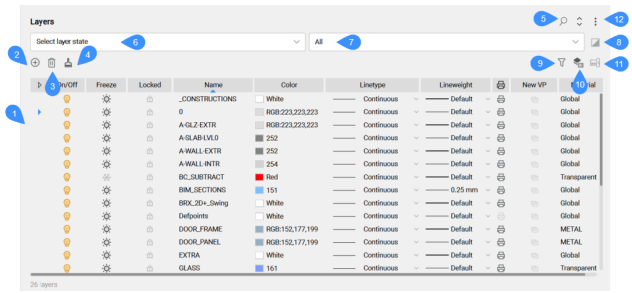
図形2
干渉している図形ペアの2番目の図形を表示します。モデルの色は黄色で表示されます。

体積
干渉箇所の体積を表示します。モデルの色は赤色で表示されます。

35.19 画層パネル

画層パネルを開くには、LAYERSPANELOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**画層**を選択します。

画層パネルでは、カレント図面の画層名やプロパティを編集したり、画層の状態、画層フィルターの作成、削除、編集、適用を行うことができます。



1 画層リスト

2 画層を追加

3 削除

4 名前削除

5 検索

6 画層状態コントロール

7 フィルター使用

8 反転フィルター

9 画層エクスプローラ

10 画層状態

11 外部参照シンボルを隠す オン/オフ

12 メニュー

35.19.1 画層リスト

画層の一覧とそのプロパティを表示します。このリストには、カレント図面に含まれるすべての画層が含まれる場合と、選択された画層の状態やフィルターに基づいて、それらの画層のサブセットが含まれる場合があります。列ヘッダーには、各アタッチメントのプロパティが記載されています。列のヘッダーを1回または2回クリックすることで、いずれかのプロパティについて、添付ファイルリストを順に並べ替えたり、逆に並べ替えたりすることができます。

画層名の上で右クリックメニューを実行すると、コンテキストメニューが表示されます。

ファイルを追加
新規画層1という名称の新規画層を作成します。作成された新規画層には、現在選択されている画層のプロパティがコピーされます。

カレントにセット
カレントの作業画層を指定します。

名前変更
選択した画層の名前を変更します。

削除
選択した画層を削除します。

名前削除
現在の図面から画層の名前を削除します。次の画層は削除できません：

- 0 画層

- カレント画層
- 図形のある画層

統合
選択画層をターゲットの画層へ統合します。

注：結合された画層は図面から名前削除されます。

関連付け
外部参照から選択した画層を図面にバインドします。

すべて選択
使用可能なすべての画層を選択します。また、キーボードショートカットのCtrl+Aも使用できます。

すべてクリア
選択されているすべての画層を非選択にします。

カレント以外のすべてを選択
現在の画層を除く、利用可能なすべての画層を選択します。

選択を反転
選択した画層を反転します。

ビューポートのオーバーライドを削除
ビューポートに対して異なって設定されたプロパティのオーバーライドを削除します。

- **選択画層から**：選択された画層からオーバーライドを削除します。
- **全ての画層から**：すべての画層からオーバーライドを削除します。
- **カレントのビューポート**：現在のビューポートからオーバーライドを削除します。
- **すべてのビューポート**：図面上のすべてのビューポートのオーバーライドを削除します。

画層選択表示
選択した画層を表示します。それ以外の画層はロックされているか、オフになっています。

使用中の画層を表示
オプションが有効な場合、**カレント**の欄にチェックマークが表示されます。

- **使用中**：図面で画層が使用されています。
- **未使用**：図面で画層が使用されていません。

列のヘッダーには右クリックメニューがあり、カスタマイズが可能です。列の有効化/無効化、列の位置の復元が可能です。

インデックス
画層インデックスを指定します。

カレント

カレントの作業画層を指定します。カレント画層にチェックマーク( )が表示されます。

注：カレントのスタイルは、1つしか指定できません。

オン/オフ

画層状態のオン/オフを指定します。画層がオフになっている図形は、図面上に表示されません。しかし、図面の再作図を必要とする操作では処理されます。画層をオン/オフしても、図面を再生成する必要はありません。したがって、この切り替えは、図面を編集している間だけ、画層上の図形を非表示にしたい場合に最も有効です。ステータスを変更するには、1つまた

は複数の画層を選択して、選択した画層の1つの電球アイコンをクリックします。この状態は、選択したすべての画層に適用されます。

- **オン**( )：その画層にある図形を表示します。
- **オフ**( )：その画層にある図形を非表示にします。

フリーズ

画層のフリーズ解除/フリーズの状態を指定します。フリーズ画層上の図形は、図面上では表示されず、図面の再作成を必要とする操作では処理されません。これにより、画層に多くの図形が含まれる場合、処理時間を短縮することができます。しかし、画層のフリーズ/フリーズ解除する過程で、図面を再生する必要があります。したがって、この切り替えは、図面を編集している間、画層上の図形を長時間非表示にしておきたい場合に最も有効です。状態を変更するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層のいずれかのフリーズアイコンをクリックします。この状態は、選択したすべての画層に適用されます。

- **フリーズ解除**( )：その画層にある図形を表示します。
- **フリーズ**( )：その画層にある図形を非表示にします。

注：画層のフリーズとフリーズ解除は、画層のオンとオフを切り替える操作と似ています。画層が多数ある図面で作業する場合、不要な画層をフリーズしておくと、表示と再作図を高速化できます。フリーズ画層の図形は、図形描画範囲へのズームの対象外となります。

ロック

画層のロック状態を指定します。ロックされた画層の図形は編集できません。表示はされます。視認性は保たれますが、LAYLOCKFADECTLシステム変数に基づいて暗く見えます。ステータスを変更するには、1つまたは複数の画層を選択して、選択した画層の1つの鍵アイコンをクリックします。この状態は、選択したすべての画層に適用されます。

- **ロック解除**( )：その画層の図形の編集を許可します。
- **ロック**( )：その画層の図形が編集できないようにします。

名前

画層の名前を指定します。画層の名前を変更するには、画層名をダブルクリックするか、右クリックメニューから**名前の変更**を選択します。

説明

(オプション)画層の内容や目的を指定します。説明を作成または編集するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つの説明フィールドをダブルクリックします。入力したテキストは、選択したすべての画層に適用されます。

色

画層の色を指定します。色を変更するには、1つまたは複数の画層を選択してから、選択した画層の中から1つの画層の現在の色をクリックします。**色を選択**ダイアログボックスが表示されます。そこで選択した色は、選択したすべての画層に適用されます。

線種

画層の線種を変更します。線種を変更するには、1つまたは複数の画層を選択してから、選択した画層の線種をダブルクリックします。目的の線種がドロップダウンリストに表示されていない場合は、**ロード**を選択して、**線種をロード**ダイアログボックスを表示します。選択した線種は、選択したすべての画層に適用されます。

線種

画層の線の太さを変更します。線の太さを変更するには、1つまたは複数の画層を選択してから、選択した画層の線の太さをダブルクリックします。選択した線の太さは、選択したすべての画層に適用されます。

透過性

画層の透過性を指定します。透過性の量を変更するには、1つまたは複数の画層を選択してから、選択した画層の1つの透過性をダブルクリックします。0(完全に不透明)から90(ほぼ完全に透明)の間で値を入力するか、ドロップダウンリストから定義済みの値を選択できます。指定した値は、選択したすべての画層に適用されます。

注：透過性を体験するには、TRANSPARENCYDISPLAYシステム変数をONにする必要があります。

印刷スタイル

画層の印刷スタイルを指定します。カレント図面の印刷スタイルモード(PSTYLEMODEシステム変数)がカラー依存のプロットスタイルに設定されている場合、画層のプロットスタイルは画層の色を使用し、読み取り専用となります。カレント図面の印刷スタイルモードが名前付き印刷スタイルに設定されている場合、印刷スタイルを変更することができます。別の名前の印刷スタイルを指定するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つの現在の印刷スタイルをクリックします。**印刷スタイルを選択**ダイアログボックスが表示されます。選択した印刷スタイルは、選択したすべての画層に適用されます。

印刷

画層の印刷状態を指定します。**印刷不可画層**の図形は、図面上では表示されたままですが、印刷されません。状態を変更するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つのプリンタアイコンをクリックします。この状態は、選択したすべての画層に適用されます。

- **印刷**(プリンタアイコンがハイライト表示されます)：画層を印刷します。
- **非印刷**(プリンタアイコンはハイライト表示されません)：画層を印刷しません。

Defointなど、BricsCADで作成された一部の画層は、デフォルトで**印刷なし**に設定されており、変更することはできません。

新規VP

新しいレイアウトビューポートの画層のデフォルトのフリーズ解除/フリーズ状態を指定します。状態を変更するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つのVPアイコンをクリックします。この状態は、選択したすべての画層に適用されます。

- **フリーズ解除**(VPアイコンはハイライト表示されません)：新しいビューポートが作成されたときに、その画層上にある図形を表示します。
- **フリーズ**(VPアイコンがハイライト表示されます)：新しいビューポートが作成されたときに、その画層にある図形を非表示にします。

マテリアル

画層のマテリアルを指定します。マテリアルを変更するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つのマテリアルをダブルクリックします。選択したマテリアルは、選択したすべてのレイアウトに適用されます。目的のマテリアルがドロップダウンリストに表示されていない場合は、MATERIALSコマンドを使ってカレント図面に追加することができます。

VPのフリーズ

現在のレイアウトタブまたはビューポートの画層のフリーズ解除/フリーズ状態を指定します。このプロパティはモデルタブからは利用できず、モデル空間のフリーズ解除/フリーズの状態を上書きします。状態を変更するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つのVPフリーズアイコンをクリックします。この状態は、選択したすべての画層に適用されます。

- **フリーズ解除**()：カレントのレイアウトまたはビューポートでその画層にある図形を表示します。
- **フリーズ**()：カレントのレイアウトまたはビューポートでその画層にある図形を非表示にします。

VPの色

現在のレイアウトタブまたはビューポートの画層の色を指定します。このプロパティはモデルタブからは利用できず、モデル空間の色を上書きします。

色を変更するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つの現在のVPの色をクリックします。**色を選択**ダイアログボックスが表示されます。そこで選択した色は、選択したすべての画層に適用されます。

VPの線種

カレントのレイアウトタブまたはビューポートの画層の線種を指定します。このプロパティはモデルタブからは利用できず、モデル空間の線種を上書きします。
線種を変更するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つのVP線種をダブルクリックします。目的の線種がドロップダウンリストに表示されていない場合は、「ロード」を選択して、**線種をロード**ダイアログボックスを表示します。選択した線種は、選択したすべての画層に適用されます。

VPの線の太さ

カレントのレイアウトタブまたはビューポートの画層の線の太さを指定します。このプロパティはモデルタブからは利用できず、モデル空間の線の太さをオーバーライドします。
線の太さを変更するには、1つまたは複数の画層を選択してから、選択した画層の1つのVPの線の太さをダブルクリックします。選択した線の太さは、選択したすべての画層に適用されます。

VP透過性

カレントのレイアウトタブまたはビューポートの画層の透明度を指定します。このプロパティはモデルタブからは利用できず、モデル空間の透明度を上書きします。
透過性の量を変更するには、1つまたは複数の画層を選択してから、選択した画層の1つの透過性をダブルクリックします。0(完全に不透明)から90(ほぼ完全に透明)の間で値を入力するか、ドロップダウンリストから定義済みの値を選択できます。指定した値は、選択したすべての画層に適用されます。

注：透過性を体験するには、TRANSPARENCYDISPLAYシステム変数をONにする必要があります。

VPの印刷スタイル

カレントのレイアウトタブまたはビューポートの画層の印刷スタイルを指定します。このプロパティはモデルタブからは利用できず、モデル空間の印刷スタイルを上書きします。カレント図面の印刷スタイルモード(PSTYLEMODEシステム変数)がカラー依存のプロットスタイルに設定されている場合、画層のプロットスタイルは画層の色を使用し、読み取り専用となります。
カレント図面の印刷スタイルモードが名前付き印刷スタイルに設定されている場合、印刷スタイルを変更することができます。別の名前の印刷スタイルを指定するには、1つまたは複数の画層を選択し、選択した画層の1つの現在の印刷スタイルをクリックします。**印刷スタイルを選択**ダイアログボックスが表示されます。選択した印刷スタイルは、選択したすべての画層に適用されます。

35.19.2 画層を追加

新規画層1という名称の新規画層を作成します。作成された新規画層には、現在選択されている画層のプロパティがコピーされます。

35.19.3 削除

名前が**0**の画層と、削除できない図形を持つ画層を除いて、画層を削除します。

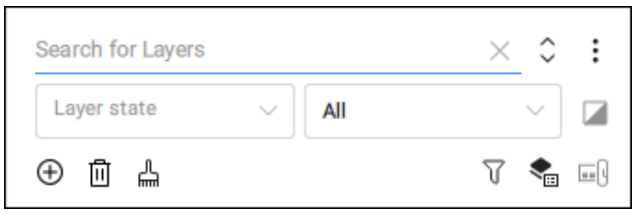
35.19.4 名前削除

カレント図面から未使用の画層を削除します。以下の画層は削除することができません：

- 0 画層
- カレント画層
- 図形のある画層

35.19.5 検索

特定の画層名を検索することができます。リストは、入力された一連の文字を含む画層のみを表示するように短縮され、画層名のどこに位置するかに関わらず表示されます。



注：検索ボックスの右側にある閉じるボタンを押すと、アクティブなフィルターを削除することができます。

35.19.6 画層状態コントロール

図面上に画層が定義されている場合、カレント画層の状態を表示します。下矢印ボタンをクリックすると、異なる画層の状態を選択できます。

35.19.7 フィルター使用

図面上に画層が定義されている場合、カレント画層の状態を表示します。下矢印ボタンをクリックすると、異なる画層の状態を選択できます。一部のフィルターはBricsCADで自動的に作成されます(すべて、すべての使用画層)。

35.19.8 反転フィルター

カレントのフィルターの内容を反転させ、フィルターに含まれていないすべての画層をダイアログボックスに表示します。

35.19.9 画層エクスプローラ

画層管理カテゴリが選択された状態で、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスが表示されます。

35.19.10 画層状態エクスプローラ

画層状態カテゴリが選択された状態で、**図面エクスプローラ**ダイアログボックスが表示されます。

35.19.11 外部参照シンボルを隠す オン/オフ

外部参照画層の表示/非表示を切り替えます。

35.19.12 メニュー

外部参照画層を非表示
オンにすると、外部参照された図面から作成された画層を非表示にします。

画層ツールバーへ画層フィルターを適用
オンにすると、フィルターの条件に応じて、表示される画層のリストが短くなります。オフにすると、すべての画層名を表示します。

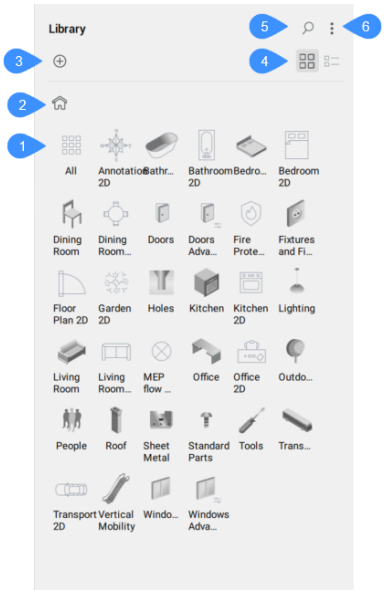
使用中の画層
オンにすると、**カレント**列に、その画層に図形が割り当てられているかどうかを示すアイコンが表示されます。未使用の画層は名前削除できます。

テーブルビューの行の高さを変更するには、**コンパクトビュー**、**デフォルトビュー**、**快適なビュー**を切り替えることで可能です。

35.20 ライブラリパネル

ライブラリパネルを開くには、LIBRARYPANELOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**ライブラリ**を選択します。

ライブラリパネルから、2Dおよび3Dのブロックライブラリにアクセスすることができます。



1 ブロックライブラリ

2 ホーム

3 ブロックをライブラリに追加

4 ビュー

5 検索

6 メニュー

35.20.1 ブロックライブラリ

ブロックライブラリはカテゴリ別に構成されています。カテゴリを選択すると、そのブロックが表示されます。カテゴリとブロックは、ユーザーが定義したものでも、BricsCADで事前に定義したものでも構いません。マウスのホイールやスクロールバーを使って、カテゴリやブロックをスクロールすることができます。定義済みブロックが利用可能かどうかは、ライセンスレベルによって異なります。

35.20.2 ホーム

ブロックライブラリをホーム画面に戻します。

35.20.3 ブロックをライブラリに追加

ブロックをライブラリに追加ダイアログボックスを開きます。

注：ライブラリパネルの使用方法については、**ライブラリパネルの使用**の記事を参照してください。

35.20.4　ビュー

ブロックコンテンツの表示方法をグリッド表示とリスト表示に切り替えます。

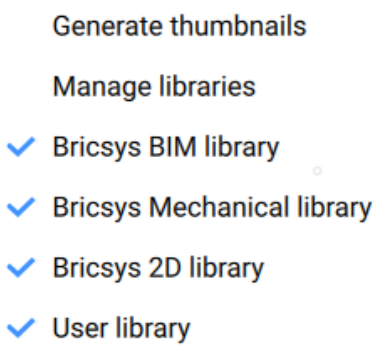
35.20.5　検索

検索ボックスに入力した語句をライブラリ内で検索します。入力された文字列を含むコンポーネントのみを表示します。

注：検索ボックスの右側にある閉じるボタンを押すと、アクティブなフィルターを削除することができます。

35.20.6　メニュー

ライブラリパネルのメニューでは、ブロックライブラリに表示する内容をコントロールすることができます。



サムネイルを生成
すべてのブロックのサムネイルイメージを生成または更新します。

ライブラリを管理
設定ダイアログボックスが開き、ライブラリのディレクトリパスを変更できます。

Bricsys BIMライブラリ
チェックを入れると、パネルにBIMコンポーネントが表示されます。BIMコンポーネントのデフォルトのパスは、C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 en_US¥UserDataCache¥Support¥en_US¥Bim¥Componentsです。

注：Windows Advancedフォルダーと**Doors Advanced**フォルダーのパラメトリックコンポーネントを使い、より高度なカスタマイズが可能になります。2Dシートに表示するヒンジマーカーも含まれています。

Bricsysメカニカルライブラリ
チェックを入れると、パネルにメカニカルコンポーネントが表示されます。メカニカルコンポーネントのデフォルトのパスは、C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 en_US¥UserDataCache¥Support¥en_US¥DesignLibraryです。

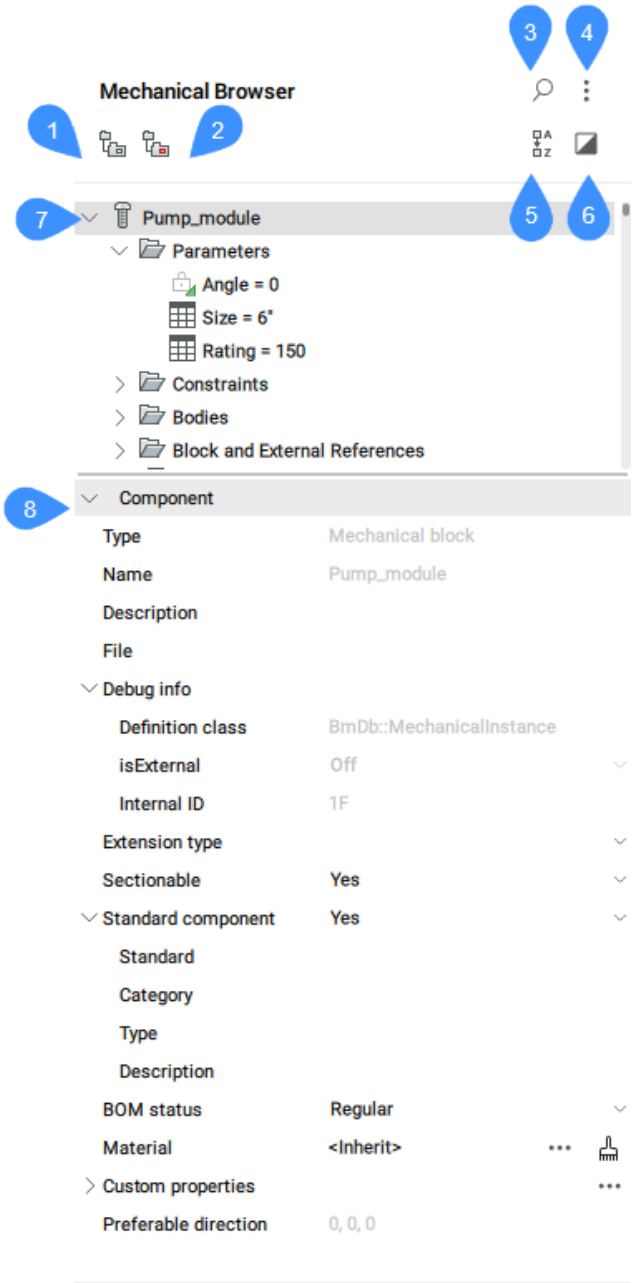
Bricsys 2Dライブラリ
チェックを入れると、パネルに2Dライブラリの内容が表示されます。2Dライブラリのデフォルトのパスは、C:¥Program Files¥Bricsys¥BricsCAD V25 en_US¥UserDataCache¥Support¥en_US¥Blocks2Dです。

ユーザーライブラリ
チェックすると、パネルにユーザ定義コンポーネントが表示されます。ユーザライブラリのパスは、COMPONENTSPATHシステム変数によって定義されます(デフォルトではC:¥ProgramData¥Bricsys¥Components¥)。
設定ダイアログボックスのCOMPONENTSPATHシステム変数を編集して、さらにパスを追加します。ユーザライブラリフォルダーは、**ライブラリ**パネルのメニューに追加され、**ライブラリ**パネルでの利用可否をコントロールすることができます。パスリストが空の場合、デフォルトのパスが自動的に追加されます。

35.21 メカニカルブラウザパネル

メカニカルブラウザパネルを開くには、MECHANICALBROWSEROPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**メカニカルブラウザ**を選択します。

メカニカルブラウザパネルでは、メカニカルパーツやアセンブリのパラメトリックなプロパティを表示、変更することができます。



1 図形によるグループ

2 種類によるグループ

3 検索表示

4 設定

5 アルファベット順でソート

6 選択を表示

7 メカニカル図形

8 プロパティ

35.21.1 図形によるグループ

3D拘束が図形別に分類されています。図形を展開すると、関連する拘束条件が表示されます。

35.21.2 種類によるグループ

3D拘束が種類別に分類されています。拘束を展開して、適用される3Dフィーチャーを確認します。

35.21.3 検索表示

検索フィールドと関連ツールを開きます。

検索欄
入力された文字列でメカニカルブラウザを検索します。検索はフィルターとして機能するため、ブラウザには名前またはコンポーネント名 (または名前/コンポーネント名の一部) が文字列と一致するすべてのコンポーネントが表示されます。検索フィールドの右側にある**X**を押すと、フィールドが閉じます。

35.21.4 設定

拘束式
数値または割り当てられたパラメータ名のどちらを表示するかをコントロールします。

コンポーネントパラメータ
サブコンポーネントパラメータの表示/非表示をコントロールします。

コンポーネントパラメータ式
サブコンポーネントパラメータの可視表現(数値または割り当てられたパラメータ名)をコントロールします。

標準部品のサブコンポーネント
メカニカルアセンブリである標準部品のサブコンポーネントの表示/非表示をコントロールします。

図形の配列
ブラウザツリーにある配列ノード(コンポーネント配列を含む)の表示を切り替えます。

ブロックと外部参照
ブラウザツリーのブロックノードと外部参照ノードの表示を切り替えます。また、ブロック図形の**Bodies**フォルダー内のノード構築を切り替えます。

選択を常に同期
メカニカルブラウザの選択ノードと、モデル空間内の対応するオブジェクトの選択との同期を切り替えます。オブジェクトが選択から削除されると、選択に残っているオブジェクトに対応するノードのみが選択されたままになります。オブジェクトが選択されていない場合は、ルートノードが選択されます(ドキュメントが開いている場合と同様)。

値リストの順序を保持
ドロップダウンリスト内のパラメータの値リストのソートを切り替えます。

ハイライト選択
図面内の選択した図形のハイライト表示を切り替えます。

非同期プロパティのロード
メカニカルブラウザツリーで複数のノードが選択されている場合、**メカニカルブラウザ**がプロパティを非同期的に収集するかどうかをコントロールします。

すべてのソリッドを公開
メカニカルブロックのソリッドの表示と**Bodies**フォルダーの下の拘束に関連しないソリッド表示を切り替えます。

注 : メカニカルブラウザ設定は、MECHANICALBROWSERSETTINGSシステム変数によってもコントロールされます。

35.21.5 アルファベット順でソート

メカニカルコンポーネントと3D拘束をアルファベット順にリスト化します。それ以外の場合は、アセンブリに追加された順に表示されます。

35.21.6 選択を表示

有効にすると、選択したオブジェクトまたはその親に対応するノードのみが表示されます。

有効にしてオブジェクトが選択されていない場合、または選択が解除されている場合は、完全なモデルがブラウザに表示されます。

選択を表示モードの状態は、セッション間で記憶され、開いているすべてのドキュメントで同じです。

35.21.7 メカニカル図形

ユーザーパラメータ、拘束、部品、配列、フィーチャーなどのメカニカル図形の階層ツリーリストを表示します。最上位ノードはサブノードを持つ場合があります。例えば、制約ノードには引数のサブノードがあります。配列ノードには、引数などのサブノードがあります。

ノードをダブルクリックすると展開または折りたたみができます。ノードをクリック(クリックポーズクリック)するとそのラベルの編集ができます(該当する場合)。すべてのノード名を編集できるわけではありません。

リスト内の各ノードには、コンテキストメニューが関連付けられています。ノードを右クリックするとメニューが呼び出されます。メニューの内容は、ノードの種類ごとに異なる場合があります。ノードのグループを選択して、それらのコンテキストメニューを呼び出すこともできます。メニューには、選択した各ノードに適用可能な要素のみが含まれます。

ルートコンポーネントのコンテキストメニューには、次の項目が含まれています。

更新
下位コンポーネントの参照図面ファイルを修正すると、カレント図面のメカニカルコンポーネントの階層も最新のものに更新されます。

表示スタイル > すべてビューポート
アセンブリ内のすべてのコンポーネントにカレントの表示スタイルを適用します。

すべてをローカルに切替
モデル内の外部コンポーネントをすべてローカルコンポーネントに変換します。

すべてを外部に切替
すべての内部コンポーネントを外部コンポーネントに切り替えます。

新しいパラメータを追加
アセンブリに新しいパラメータを作成します。

カスタムプロパティ
メカニカルプロパティダイアログボックスを開き、図面のカスタムプロパティを定義します。

すべて選択
同じ定義を持つすべてのコンポーネントを選択します。

同じものを選択
同じ名前および同じパラメータ値を持つすべてのコンポーネントを選択します。

すべてハイライト
同じ定義を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

同じものをハイライト
同じ名前とパラメータ値を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

シーケンスを作成
現在のアセンブリの分解表示でブロックを作成します。

子ノードを再付番
すべての子ノードをその型に従って再付番します。

子ノードを連続的に再付番
該当する場合、すべての子ノードを連続的な番号付けによって再付番します。

すべて折りたたむ
メインコンポーネントとすべてのコンポーネント、およびサブコンポーネントを折りたたみます。

すべて展開
メインコンポーネントとすべてのコンポーネント、およびサブコンポーネントを展開します。

子(非ルート)コンポーネントのコンテキストメニュー内部または外部、以下も提供します。

開く
参照図面を開きます(BMOPENコマンドを参照)。

コピーを開く
コンポーネント挿入のコピーを新規図面として開きます(BMOPENCOPYコマンドを参照)。

更新
すべての参照コンポーネントを外部ファイルからリロードして部品表を更新します(BMUPDATEコマンドを参照)。

置換
コンポーネント挿入を置き換えます(BMREPLACEコマンドを参照)。

注：ローカルの挿入部品が外部の挿入部品に置換されます。

すべての挿入を置換...
同じソースを参照するすべての挿入を置き換えます(BMREPLACEコマンドを参照)。

ローカルへ切替
外部コンポーネントを内部コンポーネントに切り替えます(BMLOCALIZEコマンドを参照)。

外部へ切替
内部コンポーネントを外部コンポーネントに切り替えます(BMEXTERNALIZEコマンドを参照)。

解体
選択されたフィーチャーは部品から削除されますが、そのジオメトリは維持されます。ただし、解体されたフィーチャーのジオメトリに関連付けられた設計意図(フィーチャーの面間の空間的およびパラメータ的な関係)は削除されます。

カスタムプロパティ
メカニカルプロパティダイアログボックスを開き、図面のカスタムプロパティを定義します。

インスタンスのカスタムプロパティをリセット
インスタンスのカスタムプロパティを対応するブロックから継承されたデフォルトにリセットします。

非表示/表示
コンポーネントを表示と非表示を切り替えます。

表示スタイル
コンポーネントの表示スタイルを設定します。

ズーム
選択セットを拡大表示します。

選択
コンポーネントを選択します。

すべて選択
同じ定義を持つすべてのコンポーネントを選択します。

同じものを選択
同じ定義と同じパラメータ値を持つコンポーネントをすべて選択します。

すべてハイライト
同じ定義を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

同じものをハイライト
同じ定義と同じパラメータ値を持つコンポーネントすべてをハイライト表示します。

削除
SMDELETEコマンドに類似。この場合、フィーチャーはブラウザから削除され、フィーチャーのタイプに応じてジオメトリが変更されます。

コンポーネントにマテリアルを設定
物理的マテリアルダイアログボックスが開き、コンポーネントに物理的マテリアルを割り当てることができます。

コンポーネントからマテリアルを削除
ローカルコンポーネントから物理マテリアル定義を削除します。

コンポーネントの標準化/コンポーネントの非標準化
コンポーネントの種類を変更します。

すべての挿入図形を断面に含む
類似するすべての挿入図形の**断面可能性**プロパティを**はい**に設定します。挿入図形がVIEWSECTIONコマンドの影響を受けるかどうかを定義します。

断面へのすべての挿入図形を除外する
類似するすべての挿入図形の**断面可能性**プロパティを**いいえ**に設定します。挿入図形がVIEWSECTIONコマンドの影響を受けるかどうかを定義します。

類似ノードで再付番
同じタイプで同じレベルのすべてのノードを再付番します。

コンポーネントの部品表ステータス
部品表でのコンポーネントの外観をコントロールします。

パラメータのコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

ジオメトリ駆動
チェックすると、パラメータをジオメトリ駆動にします。

注：パラメータがジオメトリ駆動の3D拘束に割り当てられている場合、拘束されたジオメトリを移動する際にその境界が考慮されます。

デザインテーブルを作成
パラメトリックブロックのパラメータを駆動させるデザインテーブルを作成します。

アニメイト
パラメータを使ってモデルをアニメーションにさせることができます。

コンポーネントパラメータのコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

パラメータにリンク
サブコンポーネントのパラメータからメインレベルのパラメータへリンクします。

拘束のコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

有効
拘束の有効化を切り替えます。

反転側
拘束のサイドを反転させます(固定拘束には使用できません)。

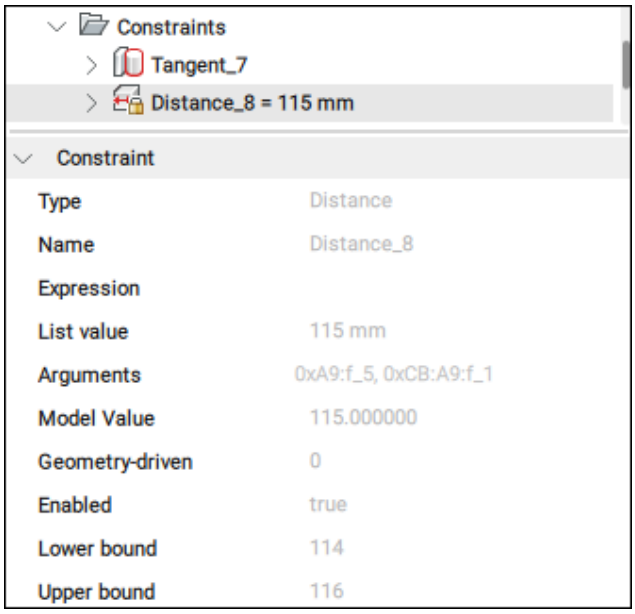
形状を選択
拘束に関係する図形を選択します。

寸法拘束のコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

ジオメトリ駆動
チェックすると、拘束がジオメトリ駆動になります。

注：パラメータがジオメトリ駆動の3D拘束に割り当てられている場合、拘束されたジオメトリを移動する際にその境界が考慮されます。

注：上限値と下限値は、**メカニカルブラウザ**パネルで設定できます。これらはDMMOVEやROTATE3Dなどの動的操作で考慮されます。



デザインテーブルを作成
パラメトリックブロックのパラメータを駆動させるデザインテーブルを作成します(**パラメータマネージャー**パネルを参照)。

拘束引数のコンテキストメニューには、追加のツールが含まれています。

反転
方向を反転します。

置換...
現在の引数を別の引数に置換します(DMCONSTRAINT3Dコマンドを参照)。

除外
カレントの引数を除外します。

35.21.8 プロパティ

選択した項目のプロパティを表示します。ツリーで複数のノードが選択されている場合、プロパティセクションには、選択したすべてのノードのプロパティが表示されます。プロパティを変更すると、選択したすべてのノードが変更されます。

プロパティを変更するには、数値フィールドをクリックしてその値を編集するか、フィールドの右側から下矢印を押すと表示されるドロップダウンリストから別のオプションを選択します。

メカニカルブロックの最も重要な特性は以下のとおりです：

- **拡張タイプ**：メカニカルブロックの拡張タイプを定義します。
- **断面可能性**：メカニカルブロックが断面可能かどうかを定義します。
- **標準コンポーネント**：メカニカルブロックが標準コンポーネントであるかどうかを定義します。
- **部品表ステータス**：部品表ステータスを定義します。
- **マテリアル**：マテリアルを定義します。

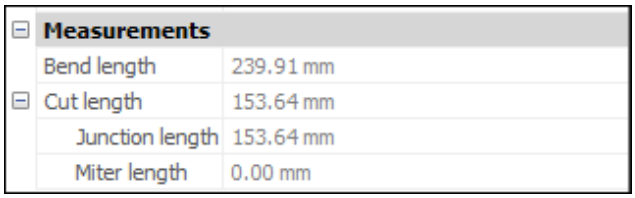
  注：参照ボタン(…)をクリックして、**物理的マテリアル**ダイアログボックスを開きます。
- **カスタムプロパティ**：挿入物のカスタムプロパティを表示します。

注：

- 参照ボタン(...)をクリックして、**メカニカルプロパティ**ダイアログボックスを開きます。
- **マテリアルをクリア**ボタンをクリックして、マテリアルを削除します。

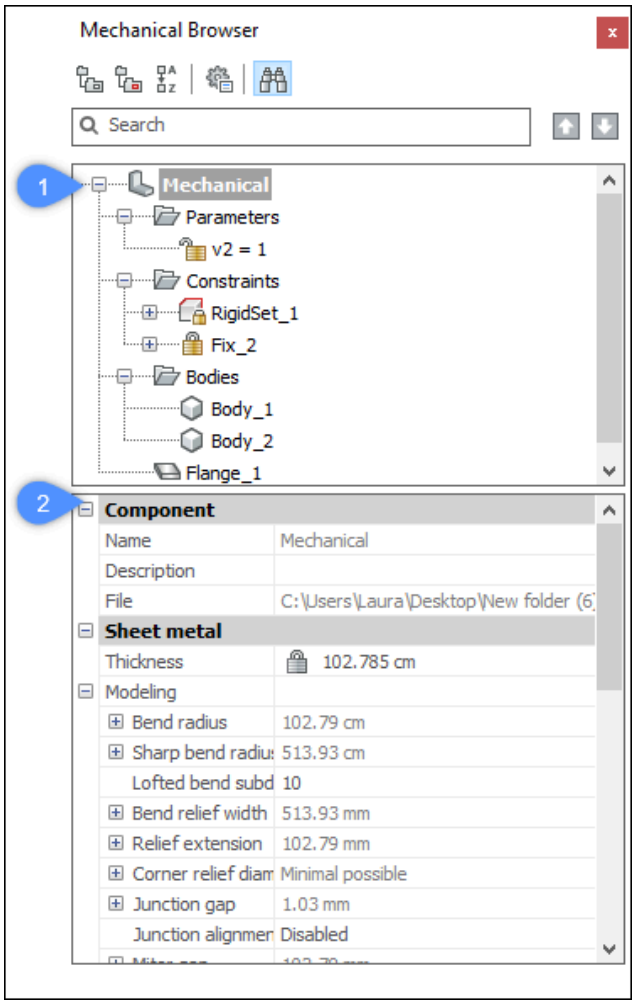
- **適した方向**：分解ビューの方向を示します。これは、BMEXPLODECONFIGコマンドで設定します。

注：板金ボディを選択すると、**メカニカルブラウザ**に**計測値**プロパティが表示されます。



35.22 メカニカルブラウザパネル(レガシー)

メカニカルブラウザパネル(レガシー)では、メカニカルパーツやアセンブリのパラメトリックなプロパティを表示、変更することができます。



1 パラメータリスト

2 プロパティ

35.22.1 パラメータリスト

図面上のすべてのパラメータと拘束条件の一覧を表示します。これらは、ユーザーパラメータ、2D拘束、3D拘束、3D幾何学拘束、ブロックパラメータ、配列パラメータなどの拡張可能なカテゴリで構成されています。

メインコンポーネント名を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

更新
下位コンポーネントの参照図面ファイルを修正すると、カレント図面のメカニカルコンポーネントの階層も最新のものに更新されます。

表示スタイル > すべてビューポート
アセンブリ内のすべてのコンポーネントにカレントの表示スタイルを適用します。

すべてをローカルに切替
モデル内の外部コンポーネントをすべてローカルコンポーネントに変換します。

すべてを外部に切替
すべての内部コンポーネントを外部コンポーネントに切り替えます。

すべて選択
同じ定義を持つすべてのコンポーネントを選択します。

同じものを選択
同じ名前および同じパラメータ値を持つすべてのコンポーネントを選択します。

すべてハイライト
同じ定義を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

同じものをハイライト
同じ名前とパラメータ値を持つすべてのコンポーネントをハイライト表示します。

分解ビューの作成
現在のアセンブリの分解表示でブロックを作成します。

解体
選択されたフィーチャーは部品から削除されますが、そのジオメトリは維持されます。ただし、分解したフィーチャーのジオメトリに関連する設計意図(フィーチャーの面間の空間的およびパラメトリックな関係)は削除されます。

削除
これは、SMDELETEコマンドと似た操作になります。この場合、フィーチャーはブラウザから削除され、フィーチャーのタイプに応じてジオメトリが変更されます。

無効
そのフィーチャーは**メカニカルブラウザ**に残りますが、部品はそのフィーチャーが削除されたように動作します。分解とは対照的に、このフィーチャーはジオメトリの変更時に更新され、必要なときにオンにすることができるので、再作成やSMCONVERTによる認識を回避することができます。

右クリックメニューには、コンポーネント用の追加ツールが用意されています。

開く
参照図面を開きます。

コピーを開く
挿入されているコンポーネントのコピーを新規図面として開きます。

更新
外部ファイルからすべての参照コンポーネントをリロードし部品表を更新します。

置換
コンポーネントの挿入を置換します。

注：ローカルの挿入部品が外部の挿入部品に置換されます。

コンポーネントにマテリアルを設定
物理的マテリアルダイアログボックスが開き、コンポーネントに物理的マテリアルを割り当てることができます。

部品表ステータス
部品表でのコンポーネントの外観をコントロールします。

右クリックメニューには、パラメータ用の追加ツールが用意されています。

ジオメトリ駆動
チェックすると、パラメータをジオメトリ駆動にします。

デザインテーブルを作成
パラメトリックブロックのパラメータを駆動させるデザインテーブルを作成します。

アニメイト
パラメータを使ってモデルをアニメーションにさせることができます。

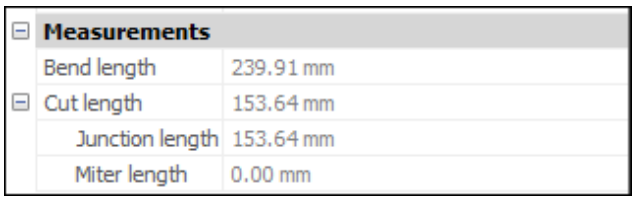
パラメータにリンク
サブコンポーネントのパラメータからメインレベルのパラメータへリンクします。

注：3D拘束の引数を右クリックし、置換オプションを選択すると、現在の引数が別の引数に置き換えられます。

35.22.2 プロパティ

選択した属性のプロパティを指定します。

注：板金ボディを選択すると、**メカニカルブラウザ**パネルに**計測**プロパティが表示されます。



35.22.3 図形によるグループ

3D拘束が図形別に分類されています。図形を展開すると、関連する拘束条件が表示されます。

35.22.4 種類によるグループ

3D拘束が種類別に分類されています。拘束を展開して、適用される3Dフィーチャーを確認します。

35.22.5 アルファベット順でソート

メカニカルコンポーネントと3D拘束をアルファベット順にリスト化します。それ以外の場合は、アセンブリに追加された順に表示されます。

35.22.6 設定

拘束式
数値または割り当てられたパラメータ名のどちらを表示するかをコントロールします。

コンポーネントパラメータ
サブコンポーネントの式は、サブコンポーネントパラメータ(数値または割り当てられたパラメータ名)の可視表現をコントロールします。

コンポーネントパラメータ式
サブコンポーネントのパラメータは、サブコンポーネントのパラメータの可視性をコントロールします。

標準部品のサブコンポーネント
プロパティのパラメータによって、選択したインスタンスのパラメータセクションがメカニカルブラウザプロパティに追加されます。

35.22.7 検索表示

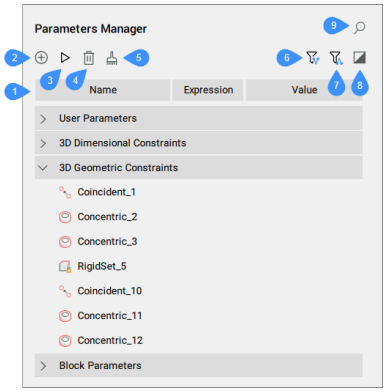
検索フィールドと関連ツールの表示/非表示を切り替えます。また、Ctrl+Fを押すと、検索を切り替えることができます。

検索欄
入力された文字列でパラメータリストを検索します。検索フィールドの右側にある矢印ツールを使って、検索文字列の該当箇所箇所に飛ぶことができます。

35.23 パラメータマネージャーパネル

パラメータマネージャーパネルを開くには、PARAMETERSPANELOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**パラメータマネージャー**を選択します。

パラメータマネージャーパネルでは、カレント図面のパラメータと拘束を表示/修正することができます。



1 パラメータリスト

2 新しいパラメータ

3 アニメイト

4 削除

5 未使用の変数を消去する

6 依存パラメータを表示

7 定義パラメータを表示

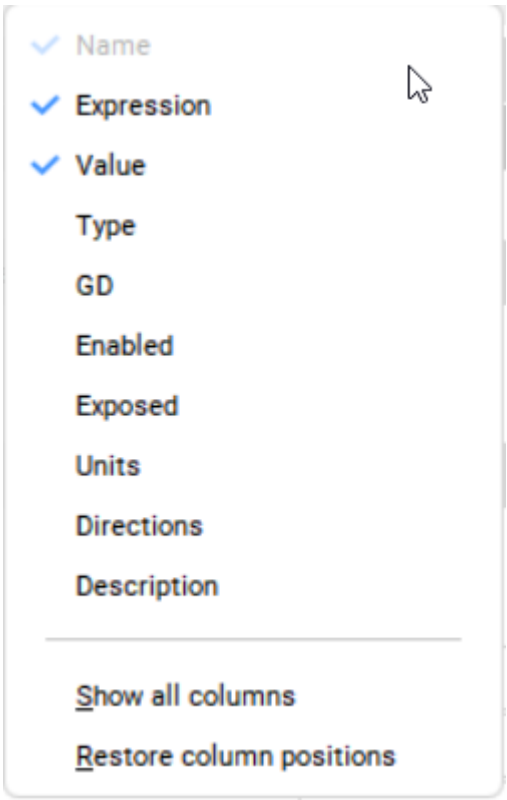
8 選択を表示

9 検索

35.23.1 パラメータリスト

図面上のすべてのパラメータと拘束条件の一覧を表示します。パラメータは、ユーザパラメータ(デザイン テーブルとリンクしているものを含む)、2D拘束、3D拘束、参照パラメータ、2D幾何拘束、3D幾何拘束、ブロック(コンポーネント)パラメータ、配列パラメータなど、展開可能なカテゴリに整理されています。

パラメータリストのヘッダーには、パラメータのプロパティを表す列があります。列の位置を移動したり、サイズを変更したり、非表示にしたりすることができます。特定の列の頭を押すことで、パラメータを昇順・降順に並べることができます。パラメータリストのヘッダーには、デフォルトでは**名前**、**式**、**値**の3つの列があります。さらに列を追加するには、列のヘッダーを右クリックし、リストから必要な列を選択します。



注：プロパティには読み取り専用のものと(例：**タイプ**)、ユーザが変更可能なものがあります(例：**名前**)。

名前
パラメータの名前を指定します。

注：名前は編集できます。項目の名前を変更すると、図面と**パラメータマネージャー**のパラメータリストで、その項目のすべてのインスタンスが更新されます。

式
パラメータの数式を指定します。セルをクリックすると、式を編集することができます。

値
パラメータの式から得られる値を指定します。この値は、パラメータがデザインテーブルとリンクしていない限り、読み取り専用の実数値です。この場合、パラメータはコンボボックスとして表現される可能性のある値のリストを持っています。ユーザーは、リストから新しい値を選ぶことで、パラメータの値を変更することができます。コンボボックスは、値の部分文字列を入力することで、素早く検索することが可能です。これは、大きな値のリストに対して便利です。

種類
パラメータの種類を表示します：

- 拘束の種類(距離、同心円など)
- ユーザーおよびブロックパラメータの種類(実数、文字列)
- 配列したパラメータの種類(実数、ブーリアン演算、列挙)

GD(ジオメトリ駆動)
オンの場合、パラメータをジオメトリ駆動にします。

下限値
パラメータの下限値を定義します。

上限値
パラメータの上限値を定義します。

注：上限値と下限値は、DMMOVEやROTATE3Dなどの動的操作で考慮されます。

有効
幾何拘束パラメータを考慮するかどうかを定義します。

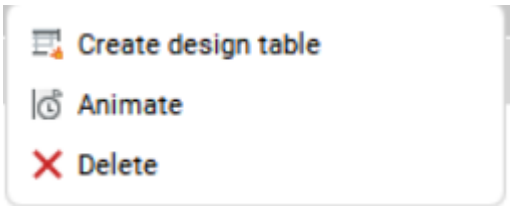
公開
コンポーネントがアセンブリに挿入されたときに、パラメータが表示され、変更できるかどうかを定義します。

単位
パラメータの寸法を設定します。選択対象：なし、線形、正方形(mm^2)、立方体(mm^3)。

方向
幾何拘束パラメータの方向を定義します(任意、同じ、反対、リセット)。

説明
ユーザーパラメータの説明を入力することができます。

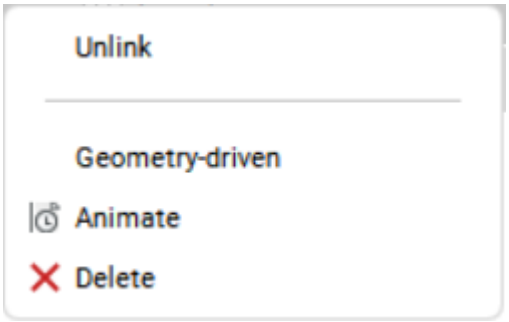
選択したパラメータを右クリックすると、それらオプションのみを含む特定のコンテキストメニューが開き、その項目に適用されます。これらのオプションは、**メカニカルブラウザ**パネルの同じ項目のコンテキストメニューにもあります。



デザインテーブルを作成
パラメトリックブロックのパラメータを駆動させるデザインテーブルを作成します。

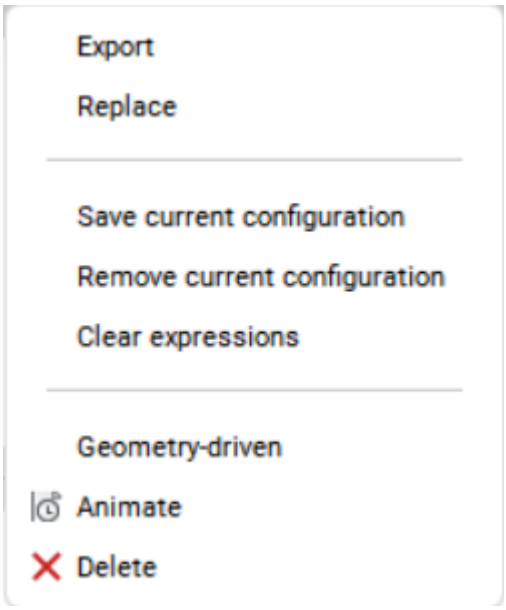
アニメイト
いくつかの範囲内のパラメータ値をアニメーション化します。

パラメータにリンク
サブコンポーネントのパラメータからメインレベルのパラメータへリンクします。



リンク解除
サブコンポーネントのパラメータからメインレベルのパラメータへリンクします。

ジオメトリ駆動
チェックすると、パラメータをジオメトリ駆動にします。



注：パラメータがジオメトリ駆動の3D拘束に割り当てられている場合、拘束されたジオメトリを移動する際にその境界が考慮されます。

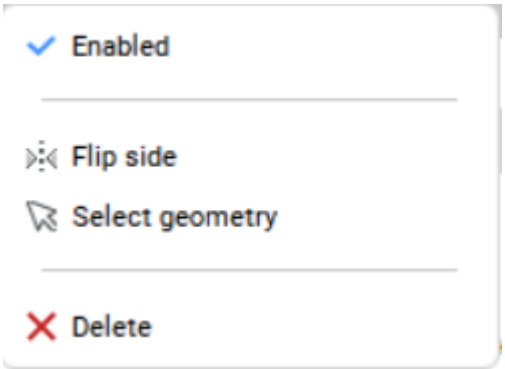
書き出し
デザインテーブルファイルを選択ダイアログボックスが開き、デザインテーブルを保存できます。

置換
デザインテーブルファイルを選択ダイアログボックスが開き、既存のデザインテーブルを置き換えるデザインテーブルを選択できます。

現在の設定を保存
現在のデザインテーブルの構成を保存します。

現在の設定を削除
現在のデザインテーブルの構成を削除します。

式をクリア
数式を削除します。



有効
拘束の有効状態を表示/切替します。

反転側
拘束のサイドを反転させます。

形状を選択
モデル空間において、選択された拘束に関係する図形を選択します。

35.23.2 新しいパラメータ

式と**値**にデフォルト値を設定した新しいユーザパラメータを挿入します。

35.23.3 アニメイト

いくつかの範囲内のパラメータ値をアニメーション化します。

35.23.4 削除

選択したパラメータと拘束を図面から削除します。

35.23.5 未使用の変数を消去する

未使用の変数を消去します。

35.23.6 依存パラメータを表示

有効にすると、選択されたパラメータに応じて、パネルにパラメータと拘束が表示されます。

35.23.7 定義パラメータを表示

有効にすると、選択されたパラメータを定義するパラメータがパネルに表示されます。

35.23.8 選択を表示

有効にすると、モデル空間で現在選択されているオブジェクトのパラメータと拘束がパネルに表示され、何も選択されていない場合はすべてのオブジェクトが表示されます。

35.23.9 検索

検索ボックスに入力した文字列と一致するパラメータ名のみを表示するように、パラメータリストをフィルタリングします。

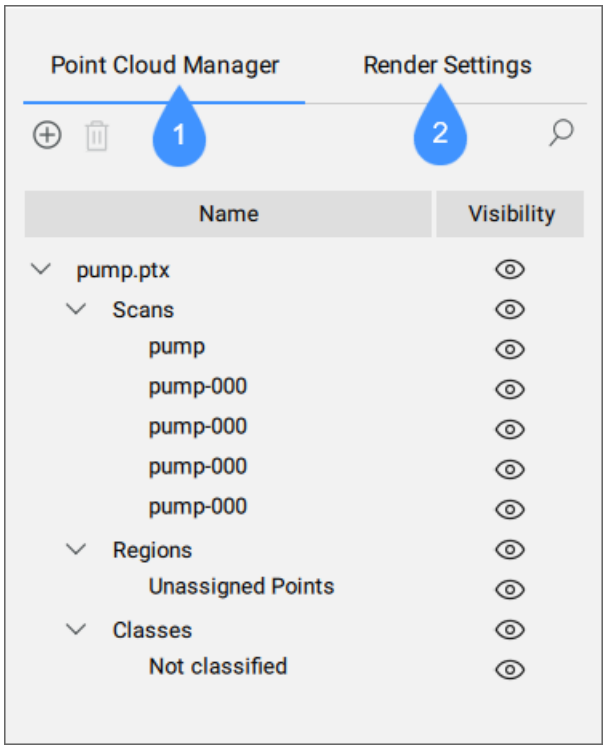
注：検索ボックスの右側にある「×」ボタンを押すと、アクティブなフィルターを削除することができます。

35.24 点群マネージャーパネル

点群マネージャーパネルを開くには、POINTCLOUDMANAGERPANELOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**点群マネージャー**を選択します。

点群マネージャーパネルは、点群内のリージョンを作成および管理し、スキャン/ウェイポイント、分類、リージョンに基づいて点群の表示を制御します。

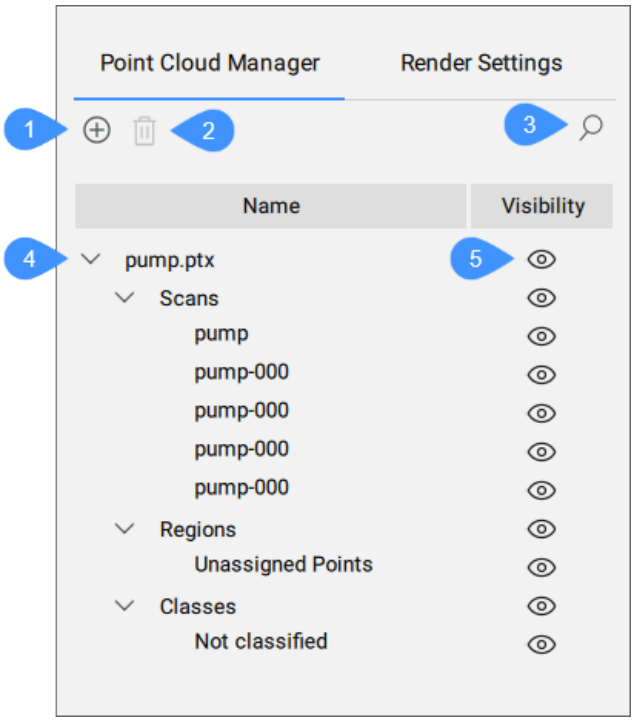
注：スキャン情報は、点群がHSPC形式で前処理されている場合にのみ使用できます。構造化された点群にのみスキャン情報が含まれます。分類情報は、点群データソースに分類情報(一部の*.LAS/*.LAZファイル)で前処理され、HSPCで前処理されている場合、または点群が六角点群分類器(POINTCLOUDCLASSIFY)を使用して分類されている場合。



1 点群マネージャータブ

2 レンダリング設定タブ

35.24.1 点群マネージャータブ



1 新しいリージョン

2 リージョンを削除

3 検索

4 点群とそのスキャン、領域、クラス、および建物情報のリスト

5 可視性

新しいリージョン
POINTCLOUDREGIONコマンドを実行することによりリージョンを作成できます。

リージョンを作図
POINTCLOUDREGIONコマンドの**作図**オプションを実行します。

クロップソリッドをリージョンに変換
POINTCLOUDREGIONコマンドの**変換**オプションを実行します。

リージョンを削除
選択したリージョンを削除します。

注：割り当てられていない**ポイント**リージョンの削除はできません。

検索
特定のスキャン、クラス、またはリージョン名を検索できます。リストは短縮され、項目名のどこにあるかに関係なく、入力した文字シーケンスを含む項目のみが表示されます。

点群とそのスキャン、領域、クラス、および建物情報のリスト
点群とそのスキャン、リージョン、クラスを表示します。建物情報(建物/フロア/部屋)は、POINTCLOUDDETECTFLOORSコマンドおよびPOINTCLOUDDETECTROOMSコマンド(BricsCAD BIMのみ)を使用した後にも表示されます。
コンテキストメニューを開くには、項目を右クリックします：

注：

- 各アイテムのコンテキストメニューにある**表示の切り替え**オプションを使用すると、選択したアイテムの表示のオン/オフを切り替えることができます。
- **削除**オプションが使用可能な場合は、選択したアイテムがリストから削除され、対応するポイントの分類が削除されます。

注：点群マネージャパネルから**建物**カテゴリを削除すると、このカテゴリにリストされているアイテムの建物関連情報 (建物、フロア、部屋) がすべて削除されます。

スキャン

名前変更
新しい名前を入力できます。

注：項目をダブルクリックすると、名前変更モードがアクティブになります。

バブルビューアでスキャンを開く
選択したスキャンを表示する**バブルビューア**を開きます。
近くのスキャンは、赤色のバブルでビューアに示されます。バブルにカーソルを合わせると、スキャン名が表示されます。バブルをダブルクリックすると、スキャンがビューアで開きます。

注：スキャン項目にカーソルを合わせると、スキャンのプレビューが表示されます。

リージョン

名前変更
新しい名前を入力できます。

注：項目をダブルクリックすると、名前変更モードがアクティブになります。

クラス

新しいクラスを追加
定義済みのリスト(**ライダー**、**屋内**、**建設**)からクラスを選択して**クラス**リストに新しいクラスを追加するか、**カスタム...**オプションを使用してカスタムクラスを追加できます。

注：POINTCLOUDCLASSIFYコマンドを使用して、ポイントを自動的に分類します。

点を追加する
POINTCLOUDMODIFYCLASSコマンドを実行します。
点群内の点を選択することで、選択したクラスに属する点を手動で分類できます。**矩形**と**ポリゴン**の 2 つの選択方法を使用できます。

選択
選択セットにポイントを追加できます。

終了
選択プロセスを終了してポイントを分類します。

注：POINTCLOUDCOLORMAPコマンドを使用して、**カラースタイル化**に**分類**を選択すると、ポイントの分類方法がわかりやすくなります。

建物

建物を追加
POINTCLOUDMODIFYBUILDINGコマンドの**追加**オプションを実行します。
新しい建物に分類する点群の領域を指定します。

建物
建物を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

修正
POINTCLOUDMODIFYBUILDINGコマンドの**編集**オプションを実行します。
一時的にソリッドの面を移動して、建物の体積(点群の割り当て)を修正します。

フロアを追加
POINTCLOUDMODIFYFLOORコマンドの**追加**オプションを実行します。
新しいフロアの標高と高さを指定できます。

建物フロア
コンテキストメニューを表示するには右クリックをします：

修正
POINTCLOUDMODIFYFLOORコマンドの**編集**オプションを実行します。
一時的にソリッドの面を移動して、床の体積(点群の割り当て)を修正します。

部屋を検出
選択したフロアの部屋を自動的に検出します(POINTCLOUDDETECTROOMSコマンドを参照)。

部屋を追加
点群領域を選択することで、新しい部屋を手動で追加できます。
上面ビューを有効にし、閉じたポリラインを定義できます。

建物部屋
コンテキストメニューを表示するには右クリックをします：

編集
選択した部屋の壁を編集できます。
上面ビューを有効にし、閉じたポリラインの頂点を再配置できます。
編集モードを終了するには、部屋の名前をもう一度右クリックし、**承諾**または**拒否**を選択します。

名前変更
新しい部屋名を入力できます。

注：

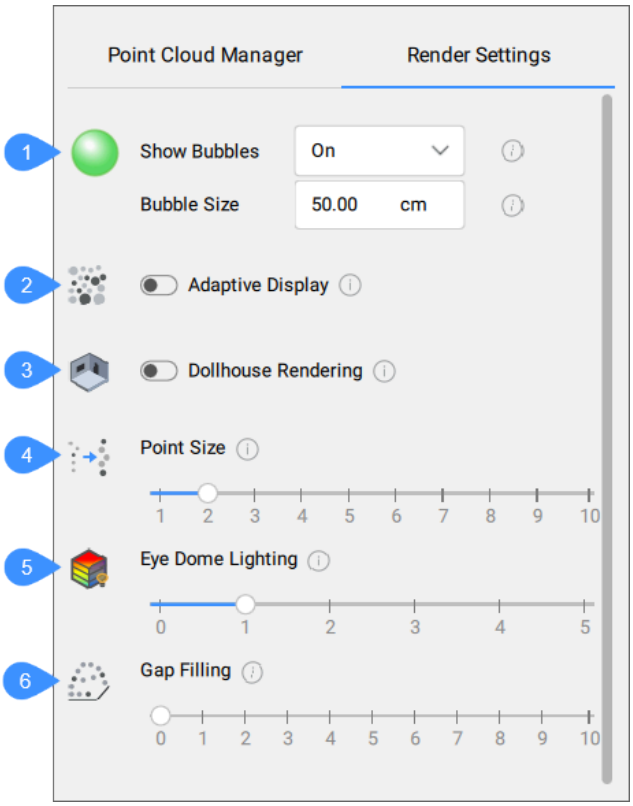
- このオプションは、選択した部屋の名前をダブルクリックしてアクセスすることもできます。
- 部屋は、検出プロセス中に割り当てられた番号を保持します。

複数の建物の部屋
複数の部屋アイテムを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。

部屋を結合
選択した部屋に対応するポイントは、1つの部屋に分類されます。

可視性
リストされたアイテムの現在の表示状態を表示します。アイコンをクリックして、選択したアイテムの表示のオン/オフを切り替えます。

35.24.2　レンダリング設定タブ



1 バブル設定

2 アダプティブ表示

3 ドールハウスレンダリング

4 点サイズ

5 アイドームライティング

6 ギャップフィル

バブル設定

バブルを表示( )
モデル空間と**バブルビューア**でのスキャンバブルの表示を設定できます。
オフ：点群内のすべてのバブルを非表示にします。
オン：点群内のすべてのバブルを表示します。
表示のみ：トリミングされていないバブルのみを表示します。

注：この設定は、図面に挿入されたすべての点群に適用されます。

バブルサイズ
モデル空間でのスキャンバブルのサイズを設定できます。

アダプティブ表示( )
点サイズのアダプティブ表示を切り替えます。

注：

- WindowsとLinuxで使用できますが、構造化された点群にのみ使用できます。

- POINTCLOUDADAPTIVEDISPLAYシステム変数の値を設定します。

有効にすると、ローカルの点密度とカメラからスキャンされた点位置までの距離に応じて点サイズが調整されます。

ドールハウスレンダリング()
ビュー方向の法線が表示される点表示に切り替えます。
有効にすると、法線がカメラから離れる方向を向いている点は表示されません。

注：この機能は、法線が使用可能な場合にのみ使用できます。

点サイズ()
表示される点サイズを設定します。

アイドームライティング()
非写実的なシェーディングを設定して、奥行き感覚を向上させることができます。

ギャップフィル()
サーフェス上の点と点にある間隙を埋めます。

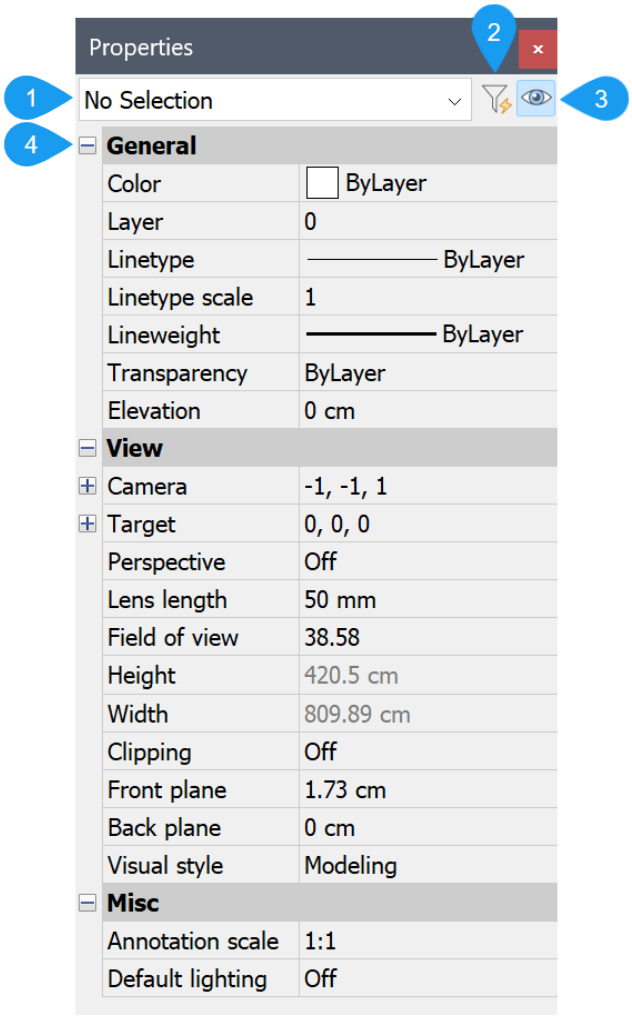
注：この機能は、パースビューでのみ使用できます。直交ビューでは使用できません。

35.25 プロパティパネル

プロパティパネルを開くには、PROPERTIESコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**プロパティ**を選択します。

プロパティパネルでは、図面、ビューポート、および図形のプロパティにアクセスできます。

プロパティモードまたは**クイック選択**モードで使用できます。



1 図形リスト

2 プロパティ/クイック選択の切り替え

3 プロパティプレビューの切り替え

4 プロパティリスト

図形リスト
選択した図形の種類と数を表示します。

注：PROPOBJLIMITシステム変数を使い、**プロパティ**パネルに表示される図形の上限数を定義してパフォーマンスを向上させます。選択した図形の数が制限値を超えると、警告メッセージが表示され、**制限を無視**または**制限を変更**のいずれかのオプションを選択できます。

プロパティ/クイック選択の切り替え
プロパティモードと**クイック選択**モードを切り替えます。

プロパティプレビューの切り替え
PROPERTYPREVIEWのオン/オフを設定します。

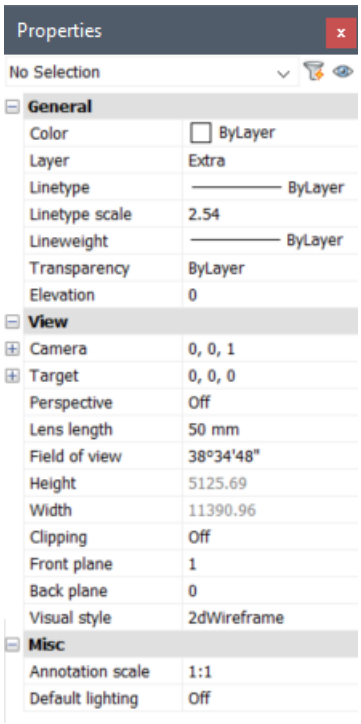
プロパティリスト
カレントのモードと選択セットに基づいて、関連するプロパティカテゴリーを表示します。カテゴリーを展開するには + アイコンをクリックし、折りたたむには – アイコンをクリックします。

35.25.1 プロパティモード

プロパティモードでは、**プロパティ**パネルで図面、ビューポート、図形のプロパティを表示、変更することができます。カレントの選択セットが空の場合、図面とビューポートのプロパティにアクセスできます。図形プロパティは、カレントの選択セットに少なくとも1つの図形がある場合にアクセスできます。

図形リスト
プロパティモードで図形が選択されていない場合、図形リストには「選択なし」と表示され、プロパティリストには図面とビューポートのプロパティが表示されます。
プロパティモードで図形を選択すると、図形リストに選択セットの図形の種類と数が表示されます。ドロップダウンリストから図形の種類を選択することで、選択セットをフィルタリングできます。選択セットの図形の種類によって、どのプロパティにアクセスできるかが決まります。

プロパティリスト(選択セットなし)
図形が選択されていないときに表示される図面とビューポートのプロパティリストには、**一般**、**ビュー**、**その他**のプロパティが表示されます。



一般
図形が選択されていない**プロパティ**モードでは、**一般**プロパティにカレント図形設定が記述されます。カレント図形設定を表示して変更し、新しい図形の作成時に適用するプロパティを指定します。プロパティリストでカレントの図形設定を変更すると、関連するシステム変数を変更するのと同じ効果があります。

色
カレントのカラー(CECOLORシステム変数)を記述します。ドロップダウンリストから色を選択できます。または、色を選択をクリックして**色**ダイアログボックスからさまざまな色を選択できます。

画層
カレント画層(CLAYERシステム変数)を記述します。ドロップダウンリストから新規画層を選択することができます。

線種
カレントの線種(CELTYPEシステム変数)を記述します。ドロップダウンリストから新しい線種を指定するか、線種をロードを選択して**線種をロード**ダイアログボックスから追加の線種にアクセスできます。

線種尺度
カレントの線種尺度(CELTSCALEシステム変数)を記述します。新しい線種尺度を入力することができます。

線の太さ
カレントの線の太さ(CELWEIGHTシステム変数)を記述します。ドロップダウンリストから線の太さを選択することができます。

透過性
カレントの透過性(CETRANSPARENCYシステム変数)を記述します。新しい透過性をドロップダウンリストから指定するか、値を入力することができます。

高さ
カレントのUCSに関連する高さ(ELEVATIONシステム変数)を記述します。新しい高さを入力することができます。

ビュー
図形が選択されていない場合、**ビュー**のプロパティにはカレントのビューと関連するビュー設定が記述されます。

カメラ
カレントのUCSにおけるカメラの絶対座標を、直交座標系(X,Y,Z)に基づいて記述します。これらの値は、軌道修正やその他の方法で視点を変更すると、自動的に更新されます。

ターゲット
カレントのUCSにおけるカメラの絶対座標を、直交座標系(X,Y,Z)に基づいて記述します。これらの値は、軌道修正やその他の方法で視点を変更すると、自動的に更新されます。

パース
カレントのパース設定(PERSPECTIVEシステム変数)を記述します。ドロップダウンリストからパースのオン/オフができます。

レンズの長さ
カレントのレンズの長さ(LENSLENGTHシステム変数)を記述します。新しいレンズの長さを入力することができます。

ビューのフィールド
ビューのフィールドのカレントの角度を記述します。ビューのフィールドの角度を新たに入力することができます。

高さ(読み取り専用)
カレントのビューの高さを記述します。

幅(読み取り専用)
カレントのビューの幅を記述します。

クリッピング
カレントのビューのクリッピングモードを記述します。ドロップダウンリストからクリッピングモードを選択することができます。クリッピングがオンになっていると、正面のクリッピング面の前や背面のクリッピング面の後ろにあるビューの一部が隠されます。このプロパティはレイアウトでは読み取り専用です。

正面
正面クリッピング面の位置を記述します。このプロパティは、**クリッピング**プロパティがオンになっている場合のみ有効です。このプロパティはレイアウトでは読み取り専用です。

背面
背面クリッピング面の位置を記述します。このプロパティは、**クリッピング**プロパティがオンになっている場合のみ有効です。このプロパティはレイアウトでは読み取り専用です。

表示スタイル
図面のカレントの表示スタイルを説明します。ドロップダウンリストから表示スタイルを選択することができます。このプロパティはレイアウトでは読み取り専用です。

その他
図形が選択されていない場合、**その他**プロパティにはカレントの注釈尺度とデフォルトの照明が表示されます。

注釈尺度
カレントの注釈尺度を適用します。(CANNOSCALEシステム変数をご参照ください)ドロップダウンリストから新規注釈尺度を選択することができます。

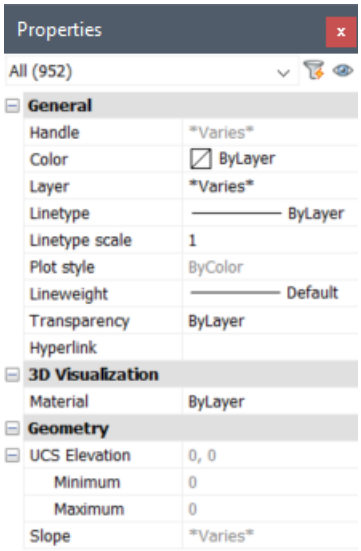
デフォルトの照明
デフォルトの照明状態(DEFAULTLIGHTINGシステム変数)を記述します。ドロップダウンリストから**デフォルトの照明**のオン/オフができます。

プロパティリスト(カレントの選択セット)
プロパティリストには、選択またはフィルタリングされたすべての図形に有効なプロパティのみが表示されます。選択した図形の種類が多いほど、プロパティリストに表示されるプロパティの数は少なくなります。図形リストをフィルタリングすることで、同じタイプの複数の図形のプロパティを最小限の手間で表示/変更することができます。2つ以上の図形が選択されている場合、プロパティには共通の値が表示されます。選択された図形間で異なるプロパティは、*varies*と表示されます。

注：

- 面積計算に 3 秒以上かかる場合、一時的に黄色がかったノードに "Computing..." というラベルが**プロパティ**パネルに挿入されます。**プロパティ**パネルでEscを押して計算を中断しても、図形はハイライト表示されたままになり、ユーザーはそのプロパティを使用できます。
- 3Dソリッドと3Dサーフェスの質量特性は、複数の図形を選択している場合、**プロパティ**パネルに表示されます。

すべての図形には、**一般**、**3D画像**(モデル空間のみ)、**ジオメトリ**のプロパティが表示されます。図形の種類によっては、追加のプロパティが表示される場合があります。



標準プロパティ
プロパティモードでは、図形が選択されている場合、**一般**プロパティには、選択された図形に適用されるプロパティが記述されており、ほぼすべてのタイプの図形に有効です。図形が選択されていないときに使用できるプロパティの他に、以下のものがあります。

ハンドル(読み取り専用)
選択された図形がDWGデータベースで識別される一意の16進法の値を記述します。

印刷スタイル
選択した図形の印刷スタイルを記述します。ドロップダウンリストから新規印刷スタイルを選択することができます。なお、このプロパティは、印刷スタイルが有効な場合にのみ利用可能です。PLOTSTYLEコマンドも参照してください。

ハイパーリンク
選択した図形のURLを記述します。新しいURLを入力するか、参照ボタンを選択すると、**ハイパーリンクの編集**ダイアログボックスが表示されます。

履歴
選択した図形の編集操作を取り消すことができます。履歴ドロップダウンリストを開いて、以降実行された他のすべてのコマンドや表示操作を元に戻すことなく、図形を以前の手順のいずれかに戻します。**履歴**プロパティは、1つの図形を選択した場合にのみ表示されます。

厚さ
選択した図形の厚さを記述します。新しい厚さを指定するには、値を入力するか、ピッカーアイコンを選択して図面上の2点をピックします。

3D画像プロパティ
選択した図形に割り当てられたマテリアルについて設定します。

マテリアル
選択した図形のカレントのマテリアルを記述します。ドロップダウンリストから新規マテリアルを選択することができます。

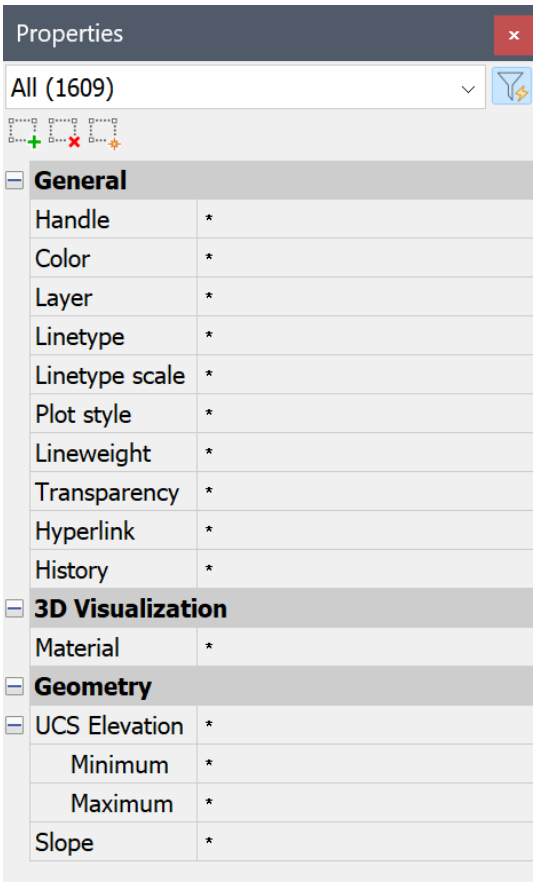
形状プロパティ
選択した図形の形状特性について説明します。これらのプロパティは、図形の種類によって異なります。

注：数値フィールドをクリックすると、**電卓**パネルを開くボタンが右側に表示されます。

電卓パネルの 適用ボタンをクリックして、計算値をプロパティパネルの数値フィールドに貼り付けます。

35.25.2　クイック選択モード

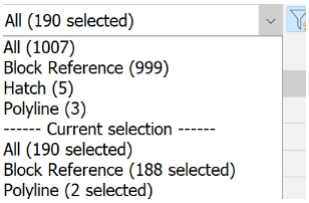
クイック選択モードでは、**プロパティ**パネルで、図形のプロパティに基づいて選択セットを作成することができます。選択ツールや演算子を使うこともできます。



ツールを選択
図形プロパティに基づいて選択セットを作成します。

現在の選択セットに追加
現在の選択セットに、図形リストやプロパティリストで指定した図形を追加します。

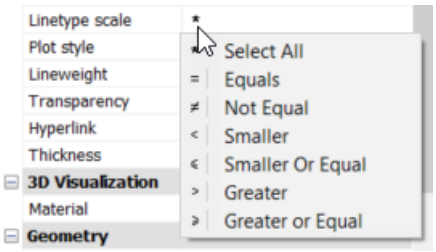
注：図形リストのドロップダウンボタンをクリックして、現在の選択内容を表示します。



現在の選択セットから削除
現在の選択セットから、図形リストやプロパティリストで指定した図形を削除します。

現在の選択をクリアして新規選択を作成
図形とプロパティのリストで指定した図形タイプとプロパティ値に基づいて、カレントの選択セットに図形を追加します。

演算子
演算子リストを使って、プロパティ値で絞りこむことができます。現在の演算子をクリックするとリストが表示され、別の演算子に変更できます。



すべて選択
プロパティに基づいて図形リストをフィルタリングしません。

等しい
プロパティが指定された値と等しい図形のみを含むように、図形リストをフィルタリングします。

≠(ノットイコール)
プロパティが指定された値と一致しない図形のみを含むように、図形リストをフィルタリングします。

より小さい
プロパティが指定された値よりも小さい図形のみを含むように、図形リストをフィルタリングします。

より小さいか、等しい
プロパティが指定された値以下である図形のみを含むように、図形リストをフィルタリングします。

より大きい
プロパティが指定された値よりも大きい図形のみを含むように、図形リストをフィルタリングします。

より大きいか等しい
プロパティが指定された値以上である図形のみを含むように、図形リストをフィルタリングします。

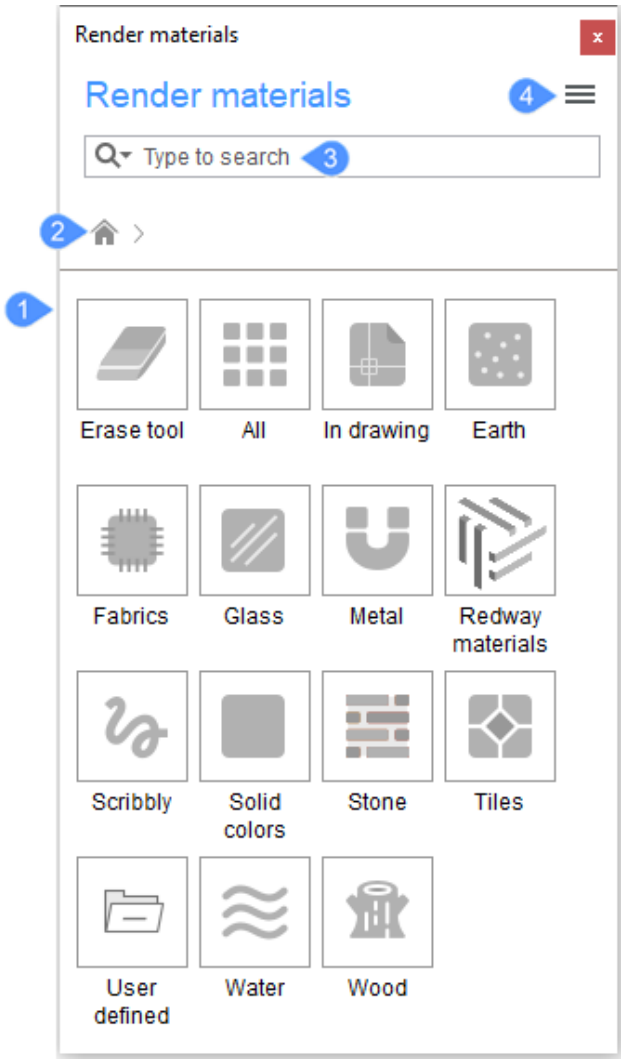
プロパティリスト
プロパティリストには、フィルタリング可能な図形プロパティが表示されます。利用可能なプロパティは、図面内の図形の種類や、カレントの選択セットに**適用**するというオプションが有効になっているかどうかによって異なります。**一般**、**3D画像**(モデル空間のみ)、**ジオメトリ**の各プロパティは、すべての図形で利用可能です。図形の種類によっては、追加のプロパティが表示される場合があります。

35.26 レンダリングマテリアルパネル

レンダリングマテリアルパネルを開くには、MATBROWSEROPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**レンダリングマテリアル**を選択します。

レンダリングマテリアルパネルでは、レンダリングに使用するマテリアルにアクセスできます。

マテリアル定義は図面に保存されます。各図面には、**グローバル**マテリアルが含まれています。**グローバル**マテリアルを削除したり名前を変更することはできません。ただし、グローバルマテリアルのプロパティを編集することは可能です。



1 マテリアルライブラリ

2 ホーム

3 検索

4 メニュー

35.26.1 マテリアルライブラリ

ブロックライブラリはカテゴリー別に構成されています。カテゴリーからマテリアルを選択し、画面上に表示されるブラシを使って図形に適用することができます。マウスのホイールやスクロールバーを使って、カテゴリやブロックをスクロールすることができます。

注：マテリアルを右クリックして、ライブラリに追加したり、図面から削除したり、図面に追加したりします。

35.26.2 ホーム

ブロックライブラリをホーム画面に戻します。

35.26.3　検索

検索ボックスに入力した語句をライブラリ内で検索します。

35.26.4　メニュー

グリッド表示
詳細をグリッドビューで表示します。

リスト表示
詳細をグリッドビューで表示します。

ライブラリを管理
設定ダイアログボックスを開き、レンダリングマテリアルのパスを変更します。

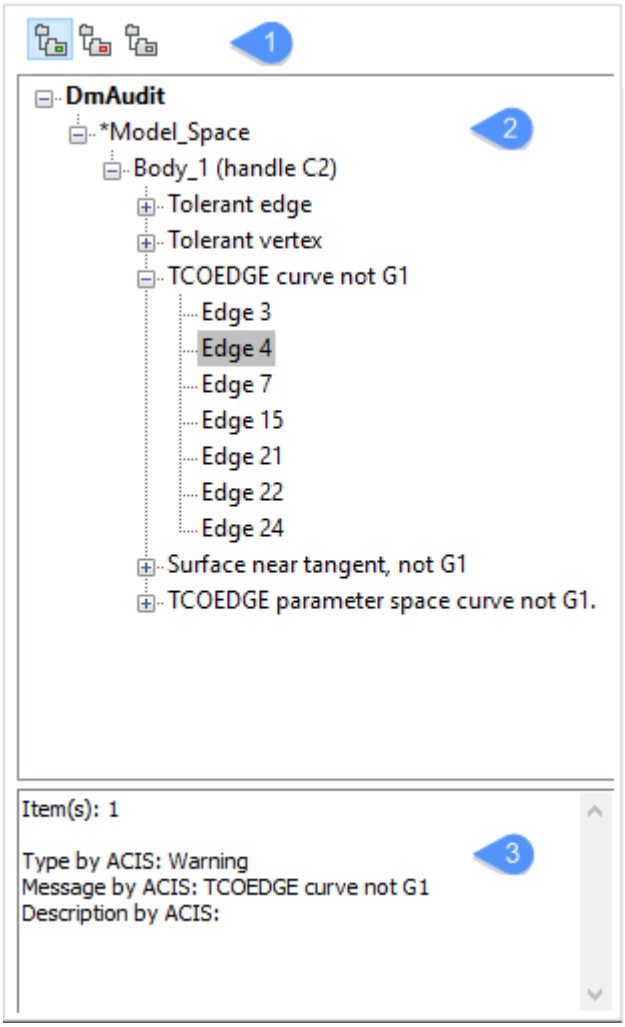
更にマテリアルを入手
レッドウェイマテリアルライブラリの追加ドキュメントをブラウザで開き、**レッドウェイマテリアルライブラリ**一式をダウンロードできます。

35.27　レポートパネル

レポートパネルを開くには、REPORTPANELOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**レポート**を選択します。

レポートパネルには、DMAUDIT、DMSIMPLIFYIFY、DMSIMPLIFYALL、DMSTITCH、すべての板金(SM*)コマンドなど、関連するコマンドのフィードバックが表示されます。

レポートパネルの外観は、REPORTPANELMODEシステム変数で決まります。



1 表示グループ

2 レポート出力

3 詳細項目の出力

35.27.1 表示グループ

レポートのために情報をグループ化する方法を指定します。

- 構造/メッセージ/サブ図形で並べ替え
- メッセージ/構造/サブ図形によるグループ化
- 構造/サブ図形/メッセージによるグループ化

35.27.2 レポート出力

コマンド出力を表示します。

35.27.3 詳細項目の出力

選択した項目の詳細なコマンド出力をレポート出力に表示します。

35.28 シーケンスマネージャーパネル

35.28.1 免責事項

EXP.

シーケンスマネージャーは試験的な機能です。まだ安定していないため、将来削除される可能性があります。MANAGEEXPERIMENTALFEATURESコマンドを使用して、試験的な機能を有効または無効にしてください。

試験モードはデフォルトで無効になっています。**試験モード**を有効または無効にするには、BricsCADを再起動する必要があります。

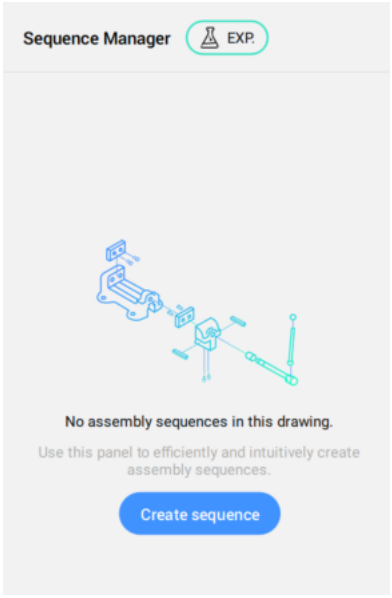
35.28.2 概要

BMSEQUENCE コマンドを起動して、シーケンスが格納されているブロックのブロック編集モードで**シーケンスマネージャー**パネルを開きます。

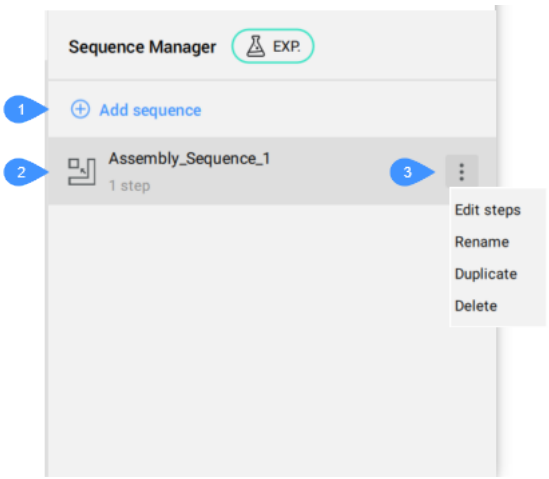
シーケンスマネージャーパネルを開くには、BMSEQUENCEPANELOPEN を実行します。パネルを閉じるには、BMSEQUENCEPANELCLOSE コマンドを実行します。

シーケンスマネージャーパネルでは、メカニカルアセンブリのシーケンスと分解ビューを管理できます。

図面にアセンブリシーケンスがない場合、パネルには**シーケンスを作成**オプションのみが表示されます。



図面の最初のシーケンスを作成するには、**シーケンスを作成**ボタンを押します。デフォルトのシーケンス名は**Assembly_Sequence_1** す。



1 シーケンスを追加

2 作成したアセンブリシーケンス

3 オプションボタン

シーケンスを追加
リストにアセンブリシーケンスを追加します。

作成したアセンブリシーケンス
作成したアセンブリシーケンスを表示します。

オプションボタン
アセンブリシーケンスの編集オプションを含むリストを表示します。

ステップ編集
アセンブリシーケンスが格納されているブロックのブロック編集モードで**シーケンスマネージャー**パネルを開きます。

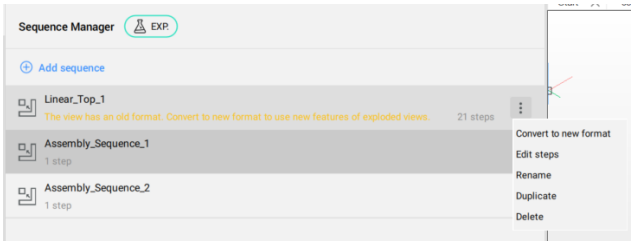
注：また、アセンブリシーケンスをダブルクリックすると、ブロック編集モードで**シーケンスマネージャー**パネルが開きます。

名前変更
シーケンスの名前を変更ダイアログボックスが表示され、アセンブリシーケンスに新しい名前を付けることができます。

複製
アセンブリシーケンスの複製を作成します。

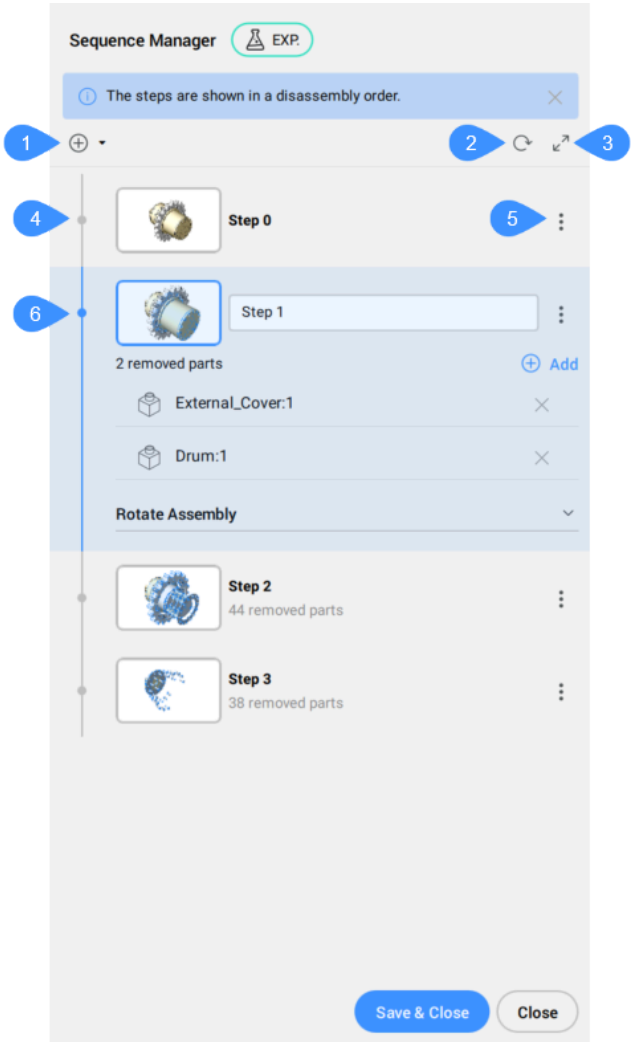
削除
アセンブリシーケンスを削除します。

古い形式の分解ビューは、**オプション**ボタンから**新しい形式に変換**オプションを選択することで、新しい形式に変換できます。



シーケンスが保存されているブロックのブロック編集モードで**シーケンスマネージャー**パネルを開くと、シーケンスステップを管理できます。

このモードの**シーケンスマネージャー**パネルには、シーケンス内のステップのリストが分解順に表示され、各ステップのサムネイルとそのステップ内のすべてのパーツのリストが表示されます。



1 新しいステップを追加

2 サムネイルを更新

3 大きなサムネイルに切り替える

4 ステップのリスト

5 オプションボタン

6 現在の(アクティブな)ステップ

新しいステップを追加

最後のステップの後に新しいステップを追加します。

ステップを追加するためのオプションがドロップダウンリストに表示されます。

最後のステップの後
最後のステップの後にステップを追加します。

現在のステップの後
現在のステップの後にステップを追加します。

現在のステップの前
現在のステップの前にステップを追加します。

最初のステップの前
最初のステップの前にステップを追加します。

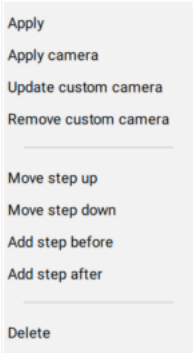
サムネイルを更新
ステップの編集後にサムネイルを更新します。

大きなサムネイルに切り替える
大きなサムネイルの表示を有効にします。

ステップのリスト
シーケンスのステップを表示します。

注：目的のステップのサムネイルをクリックすると、現在のステップとして設定されます。

オプション
ステップに適用可能なオプションが一覧表示されます。



適用
ステップをカレントとして設定します。

カメラを適用
ステップのカメラ位置を適用します。

カスタムカメラを更新
カスタムカメラ位置を更新します。

カスタムカメラを削除
カスタムカメラ位置を削除します。

ステップアップ
ステップを上に移動します。

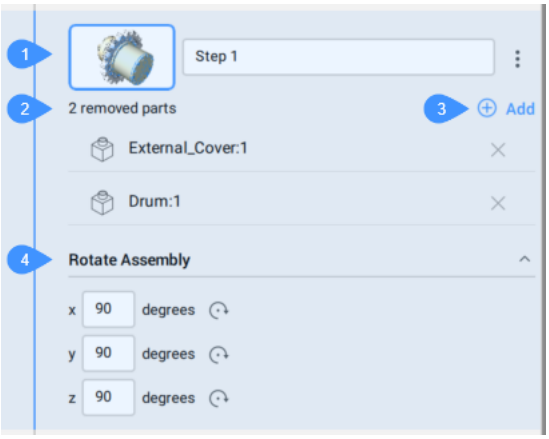
ステップダウン
ステップを下に移動します。

ステップを前へ追加
このステップの前にステップを追加します。

ステップを後へ追加
このステップの後にステップを追加します。

削除
ステップを削除します。

現在の(アクティブな)ステップ
現在のステップを編集できます。



1 サムネイル

2 削除したパーツリスト

3 削除したパーツを追加

4 アセンブリを回転

サムネイル
ステップのサムネイルを表示します。

注：サムネイルをクリックすると、**カメラを適用**オプションが起動し、カスタムカメラを適用することができます。

削除したパーツリスト
このステップで分解した図形(メカニカルコンポーネント)を一覧表示します。

注：コンポーネントの表示を管理するため、リストが大きい場合には**さらに表示**ボタンと**表示を減らす**ボタンが表示されます。

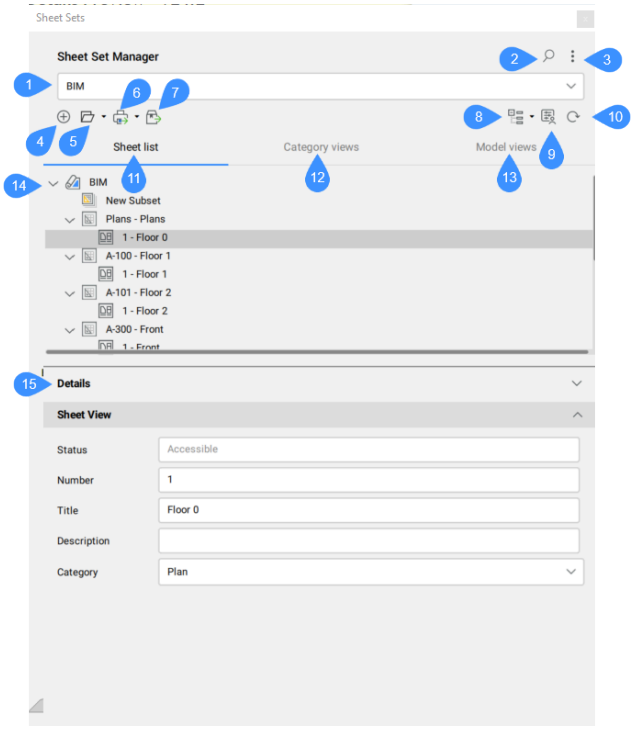
削除したパーツを追加
このステップに 1 つ以上のメカニカルコンポーネントを追加します。

アセンブリを回転
アセンブリを X、Y、または Z 軸を中心に回転させます。サムネイルをクリックすると、カメラの位置を保持できます(**カメラを適用**)。

35.29 シートセットパネル

シートセットパネルを開くには、SHEETSETコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**シートセット**を選択します。

シートセットパネルでは、シートセットの作成と管理を行うことができます。



1 カレントのシートセット名

2 検索

3 メニュー

4 シートセットを作成

5 シートセットを開く

6 パブリッシュ

7 eトランスミット

8 シート選択セット

9 カスタムプロパティ

10 更新

11 シート一覧

12 カテゴリービュー

13 モデルビュー

14 シートセットリスト

15 詳細

35.29.1 カレントのシートセット名

カレントのシートセットの名前を表示します。ドロップダウンリストから、カレントのシートセットを変更できます。

35.29.2 検索

特定のシートセット、サブセット、またはシート名を検索できる検索フィールドを開きます。

35.29.3 メニュー

シートセットパネルの状態に応じていくつかのオプションを含むメニューを開きます。

XMLから読み込み
BricsCAD で**XMLへ書き出し...**を使用して作成されたXMLファイルを読み込むことができます。**シートセットを読み込み**ダイアログボックスが開きます。

XMLに書き出し
XMLフォーマットでシートセットを書き出します。**シートセットに名前を付けて書き出し**ダイアログボックスが開きます。

シートセットオプション
設定ダイアログボックスの**シートコントロール**オプションが開きます。

カスタムプロパティ
シートセットとシートのカスタムプロパティを追加することができます。**カスタムプロパティ**ダイアログボックスが開きます。

35.29.4 シートセットを作成

新規シートセットを作成ダイアログボックスが開きます。

35.29.5 シートセットを開く

シートセットファイルを選択ダイアログボックスが開き、ロードする.dstファイルを選択できます。右側の矢印をクリックすると、ドロップダウンメニューが開き、最近開いた.dstファイルの一覧が表示されます。これらのファイルのいずれかをクリックして、シートセットをパネルにロードします。

開く
選択したDSTファイルを**シートセットファイルを選択**ダイアログボックスから開きます。

35.29.6 パブリッシュ

選択中のシートセット、サブセット、シートを、**パブリッシュ**を使ってパブリッシュします。右矢印をクリックして、ドロップダウンメニューを開きます。

パブリッシュ
選択中のシートセット、サブセット、シートを、**パブリッシュ**を使ってパブリッシュします。

PDFへパブリッシュ
選択中のシートセット、サブセット、シートを、最後に使用したプリセットを使ってPDFにパブリッシュします。

プロッタへパブリッシュ
選択中のシートセット、サブセット、シートを、最後に使用したプリセットに基づくプロッタを使用してパブリッシュします。

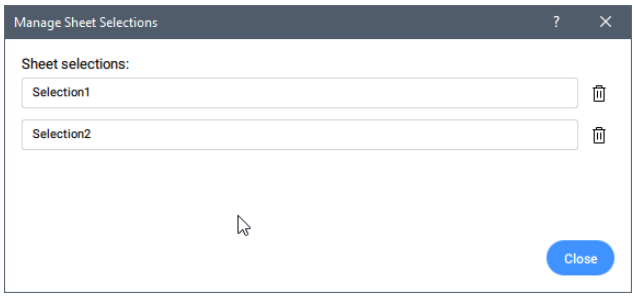
35.29.7 eトランスミット

ETRANSMITコマンドを起動します。選択中のシートセット、サブセット、シートがeトランスミットプロシージャに含まれます。**eトランスミット**ダイアログボックスが開きます。

35.29.8 シート選択セット

シート選択を管理ダイアログボックスを開きます。右矢印をクリックして、ドロップダウンメニューを開きます。

管理...
シート選択を管理ダイアログボックスが開き、シート選択の名前変更や削除ができます。



作成
シート選択を指定した名前で保存します。

既存のシート選択セットの一覧
パネル内のアクティブな(選択済み)シートセットの現行のシート選択セットを一覧表示します。これらの項目のいずれかをクリックすると、選択セットがアクティブになります。

35.29.9 カスタムプロパティ

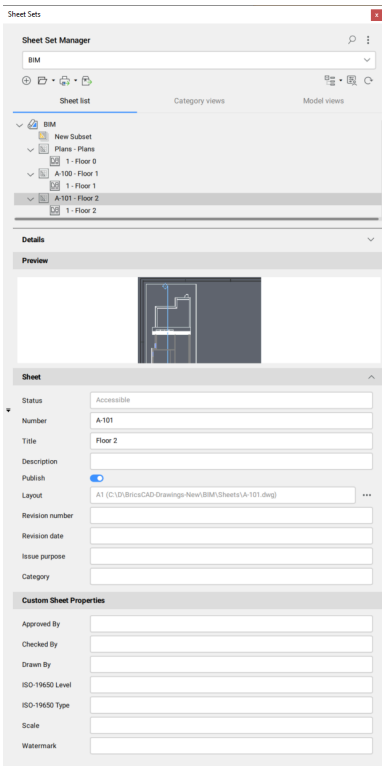
シートセットとシートのカスタムプロパティを追加することができます。**カスタムプロパティ**ダイアログボックスが開きます。

35.29.10 更新

シートセットデータ(DST)ファイルに保存されているすべての情報を更新し、すべてのリソースの場所にあるすべてのフォルダーで新規または削除された図面ファイルをチェックし、展開されたすべての図面ファイルで新規または削除されたモデル空間ビューをチェックします。

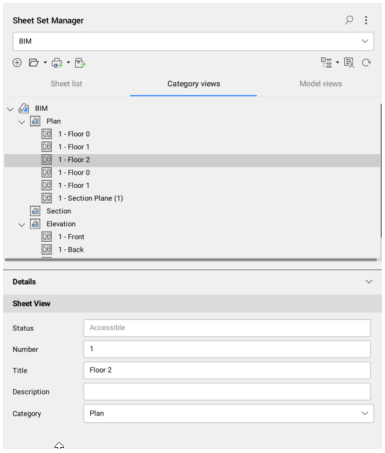
35.29.11 シート一覧

シートセットを**シート一覧**モードで表示します。

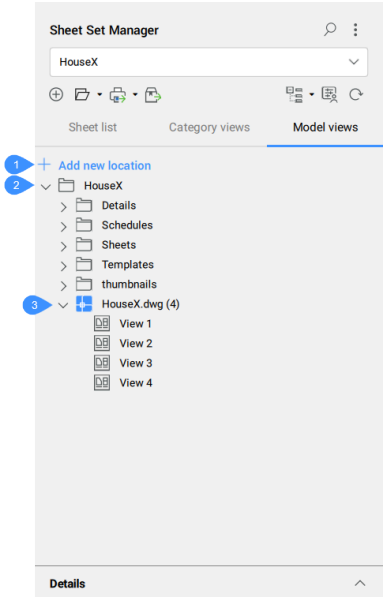


35.29.12 カテゴリービュー

カテゴリー別にグループ化されたシートセットを表示します。



35.29.13 モデルビュー



1 新しい位置を追加

2 フォルダー

3 モデルビュー

新しい位置を追加
フォルダーを参照ダイアログボックスを開き、追加するフォルダーを選択します。ユニークなフォルダーのみを追加できます。

フォルダー
図面とそれらのモデルビューを含む、追加されたすべてのフォルダーを一覧表示します。**モデルビュー**機能により、外部図面からモデルビュー(VIEWコマンドで作成)をブラウズして選択し、元のファイルを開くことなく、現在開いている図面のペーパー空間レイアウトに挿入することができます。

注：フォルダーを右クリックして開いたコンテキストメニューには、**モデルビュー**タブからフォルダーを**削除**するオプションが表示されます。

モデルビュー
外部図面からの(VIEWコマンドで作成した)モデルビューは、カレント図面のペーパー空間レイアウトにドラッグアンドドロップできます。

注：**[モデル ビュー]**タブで図面/図面モデル ビューをダブルクリックして、モデル空間で開きます。右クリックのコンテキストメニューから[**開く**]/[**読み取り専用で開く**]オプションにアクセスします。

35.29.14 シートセットリスト

カレントのシートセットを表示します。

BIMプロジェクトブラウザパネルでプロジェクト名を変更すると、それに応じてシートセット名も更新されます。

シートセットには、シート、サブセット、およびシートビューを含めることができます。

セルを右クリックすると、追加のツールが表示されます：

シートセット

シートセットを閉じる
シートセットをパネルから削除します。

XMLとして書き出し
シートセットに名前を付けて書き出しダイアログボックスが開きます。

すべてのシートを再保存
すべてのシートを保存します。

新規シート
カレントのシートセットに新しいシートを追加するための**新規シート**ダイアログボックスを表示します。

新しいサブセット
カレントのシートセットに新しいサブセットを追加します。

選択セット
シート選択を管理ダイアログボックスを開きます。

カスタムプロパティ
カスタムプロパティダイアログボックスが開きます。

再付番
シートセットの番号変更ダイアログボックスが開き、シートセット内のすべてのシートの番号を変更することができます。

印刷
現在選択中のシートセット、サブセットあるいはシートを印刷します。

パブリッシュ
パブリッシュダイアログボックスが開きます。

パッケージを書き出し(eトランスミット)
eトランスミットダイアログボックスが開きます。

シート一覧表を挿入
シートリスト表をカレント図面に挿入します。

シート

開く
選択されたシートのレイアウトと一緒に図面を開きます。

読み取り専用で開く
選択したシートのレイアウトを保護するために、読み取り専用モードで図面を開きます。

シートを削除
選択したシートを削除します。

シート一覧表を挿入
シートリスト表を作図領域に挿入します。

サブセット

サブセットの名前を変更
選択したサブセットの名前を変更することができます。

サブセットを削除
選択したサブセットを削除します。

シートビュー

ビューを表示
選択したシートビューに関連する図面ファイルを開きます。

吹き出しブロックを配置 > バブル番号
対応するシートビューの吹き出しブロックを配置します。

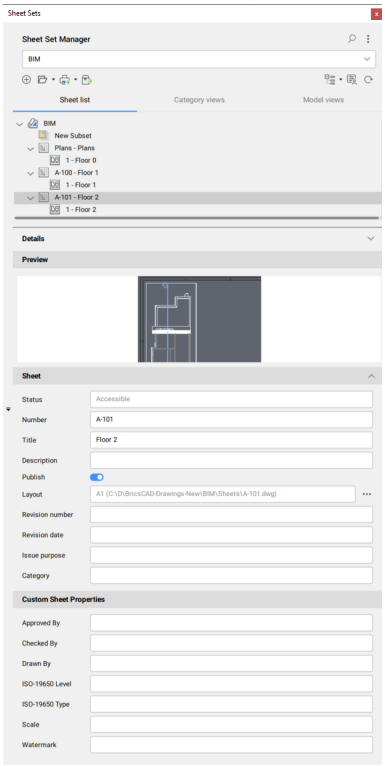
ビューラベルブロックを配置
対応するシートビューのラベルブロックを配置します。

注：

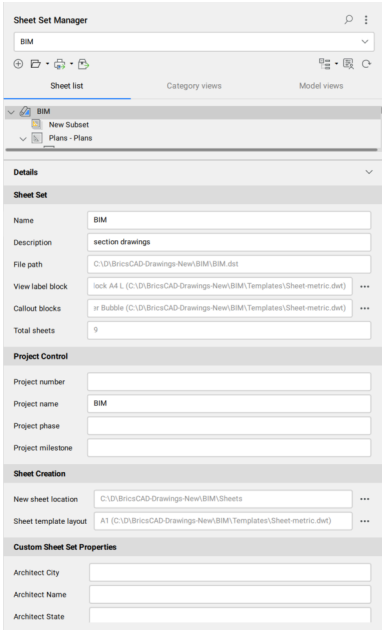
- シートセットまたはサブセットをダブルクリックすると、展開/折りたたみができます。シートまたはシートビューをダブルクリックして開きます。
- シートセットツリーノードは、ドラッグ＆ドロップを使用して並べ替えることができます。
- 選択したシートセット、サブセット、シート、またはシートビューのプロパティと変数が、**詳細**セクションに表示されます。

35.29.15 詳細

選択したシート セット、サブセット、シート、またはシート ビューの詳細が表示されます。選択したシートまたはサブセットのプレビューを表示または非表示にすることができます。



詳細 > **シートセット**では、**ファイルパス**、**ビューラベルブロック**、**吹き出しブロック**および**トータルシート数**オプションは読み取り専用ですが、選択可能です。

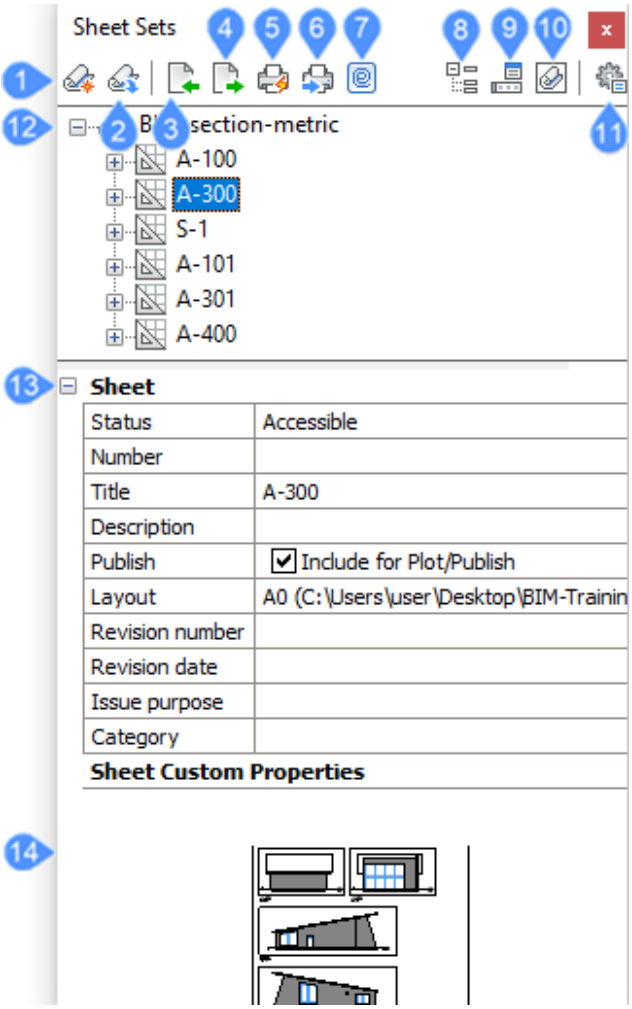


注：

- **ビューラベルブロック**オプションの横にある**ブラウズ**ボタン(…)をクリックして、**ブロックを選択**ダイアログボックスを開きます。
- **吹き出しブロック**オプションの横にある**ブラウズ**ボタン(…)をクリックして、**ブロックリスト**ダイアログボックスを開きます。

35.30 シートセット(レガシー)

シートセット(レガシー)パネルでは、シートセットの作成と管理を一元的に行えます。



1 新規シートセット...

2 シートセットを開く...

3 XMLから読み込み...

4 XMLに書き出し

5 印刷

6 パブリッシュ...

7 eトランスミット...

8 シート選択セット...

9 カスタムプロパティ...

10 カテゴリー表示

11 シートセットオプション...

12 シート

13 シートのプロパティ

14 シートセットプレビュー

35.30.1 新規シートセット...

新規シートセットを作成ダイアログボックスが開きます。

35.30.2 シートセットを開く...

シートセットファイルを選択ダイアログボックスが開きます。

35.30.3 XMLから読み込み...

BricsCAD で**XMLへ書き出し...**を使用して作成されたXMLファイルを読み込むことができます。**シートセットを読み込み**ダイアログボックスが開きます。

35.30.4 XMLに書き出し

XMLフォーマットでシートセットを書き出します。**シートセットに名前を付けて書き出し**ダイアログボックスが開きます。

35.30.5 印刷

現在選択中のシートセット、サブセットあるいはシートを印刷します。

35.30.6 パブリッシュ...

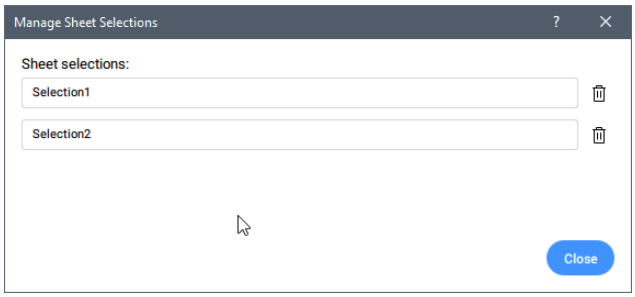
現在選択中のシートセット、サブセットあるいはシートをパブリッシュします。**パブリッシュ**ダイアログボックスが開きます。

35.30.7 eトランスミット...

eトランスミットダイアログボックスが開きます。選択中のシートセット、サブセット、シートがeトランスミットプロシージャに含まれます。

35.30.8 シート選択セット...

シート選択を管理ダイアログボックスが開き、シート選択の名前変更や削除ができます。



35.30.9 カスタムプロパティ...

シートセットとシートのカスタムプロパティを追加することができます。**カスタムプロパティ**ダイアログボックスが開きます。

35.30.10 カテゴリー表示

シートセットをシートリストまたはカテゴリビューとして表示します。

35.30.11 シートセットオプション...

設定ダイアログボックスの**シートセット**オプションが開きます。

35.30.12 シート

開いているシートセットと作成したシートセットを表示します。

セルを右クリックすると、追加のツールが表示されます：

再付番...
シートセットの番号変更ダイアログボックスが開き、シートセット内のすべてのシートの番号を変更することができます。

新しいシート...
カレントのシートセットに新しいシートを追加するための**新規シート**ダイアログボックスを表示します。

新しいサブセット
カレントのシートセットに新しいサブセットを追加します。

シート一覧表を挿入
シートリスト表をカレント図面に挿入します。

開く
選択されたシートのレイアウトと一緒に図面を開きます。

読み取り専用で開く
選択したシートのレイアウトを保護するために、読み取り専用モードで図面を開きます。

注：シートセットやサブセットをダブルクリックすると、展開/折りたたみができます。シートをダブルクリックして開きます。

35.30.13 シートのプロパティ

選択したシートセット、サブセット、シートのプロパティや変数を表示します。

35.30.14 シートセットプレビュー

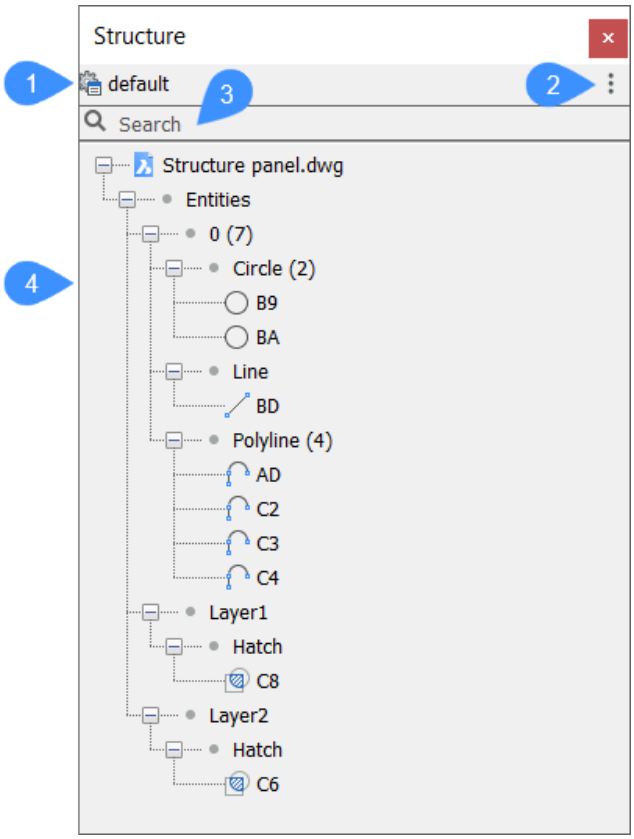
現在選択されているシートセットを開かずに、そのサムネイルを表示します。

35.31 構造パネル

構造パネルを開くには、STRUCTUREPANELコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**構造**を選択します。

構造パネルでは、以下の操作を行えます：

- あらかじめ定義されたルールにしたがって、図面のコンテンツすべてをツリー形状で表示させることができます。
- 構造ツリーの表示を設定するには、**構造ツリー設定**を選択するか、**構造ツリー設定**ダイアログボックスで新規に設定を作成します。
- 構造ツリーで特定の項目を選択することで、モデル空間の図形を選別したり(あるいは、選別しないようにしたり)、図形のプロパティを修正したりすることができます。
- **注**：BricsCADは、**構造**パネルを使用したブロックのサブ図形の変更はサポートしていません。



1 構造ツリーの設定

2 設定メニュー

3 検索バー

4 構造ツリー

35.31.1 構造ツリーの設定

構造ツリーで使用できる設定名が表示されます。既存の設定を編集したり、新たに設定を作成するには、設定名をクリックして**構造ツリー設定**ダイアログボックスを開きます。図形のプロパティを選択して、フィルター・グループ化・ソートのルールを作成することができます(**構造ツリー設定ダイアログボックス**の記事を参照してください)。

35.31.2 設定メニュー

ドロップダウンメニューには、**Support**フォルダーに保存されている設定(CST)ファイルが一覧表示されます。選択した設定が構造ツリーに適用されます。

default
図形を画層ベース構造でソート、グループ化して表示します。

mechanical
図形をベース構造でソート、グループ化して表示します。

BIM
BIM図形をベース構造でソート、グループ化して表示します。

bim - Composition
BIM図形をコンポジションごとにソート、グループ化して表示します。例えば、全階のコンクリート壁を一度に表示/選択したり、どのコンポジションが使われているかを一目で確認することができます。

bim - Profiles
BIM図形をプロファイルごとにソート、グループ化して表示します。

bim - Type
BIM図形をBIMタイプ別にソート、グループ化して表示します。例えば、全階のすべての壁を一度に表示/選択できます。

構造ツリーを設定
構造ツリー設定ダイアログボックスが開き、既存の設定を編集したり、独自の構造ツリーの設定を追加したりできます(以下の**構造ツリー設定ダイアログボックス**の項目を参照してください)。

構成を選択...
構造ツリー設定ファイル(*.cst)をロードします。

注：既存のCSTファイルが保存されているフォルダーへのデフォルトパスは次のとおりです：C:¥Program Files¥Bricsys¥V25x64¥UserDataCache¥Support¥ja_JP

35.31.3　検索欄

文字列を入力して、入力した内容に一致する文字列を構造ツリーから検索します。構造ツリーには結果のみ表示されます。

注：検索フィールドでは、大文字と小文字を区別するクエリ言語が使用できます。たとえば、$EntityType=Line and (Length>400 and Length<1000)と入力すると、長さが400から1000単位の線分を検索することができます。

35.31.4　構造ツリー

構造パネルには、図面コンテンツの構造化されたツリービューが表示されます。構造ツリーの構成は、.CSTファイルで定義され、STRUCTURETREECONFIGシステム変数で指定されます。CSTファイルの場所は、SRCHPATHシステムで指変数定されます。必要に応じて、カスタムCSTファイルを作成することができます。

一般的な使用情報

ハンバーガーメニュー(⋮)をクリックして、定義を選択します。
構造パネルでは、以下の操作を行えます。

- ノードを展開するには、展開(+)アイコンをクリックします。
- ノードを折り畳むには、折り畳み(-)アイコンをクリックします。
- **構造**パネルでノードまたは図形をクリックすると、図面内で選択されます。

  注： パネル上の動作は**構造ツリー**の設定によって異なります。構造ツリーを設定するには、で右クリックし、**構造パネル** > **設定** > **オプション**を選択します。

  選択セットを作成するには、**Ctrl**を押したままにします。

注：図面名を選択します。次に、右クリックして、コンテキストメニューから**表示**を選択して図面全体を表示するか、選択無しクワッドの**一般**タブで**図形を表示**を選択します。

ツリーノードや図形の右クリックメニューから、関連するツールを利用することができます。

全表示
選択範囲を非表示にしていた場合、選択範囲を表示します。

非表示
選択セットを非表示にし、その他の作図図形を表示したままにします。

選択表示
選択セットを除く、図面内の他のすべての図形を非表示にします。

ズーム
選択された図形の範囲にビューをズームします。

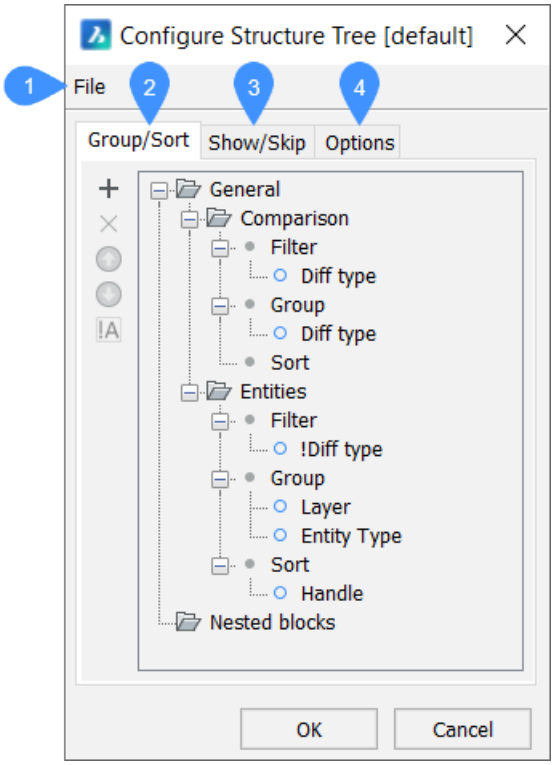
すべてを展開
構造ツリーのすべてのノードを展開します。
図面名を選択し、このオプションを実行すると、ツリー全体のすべてのノードが展開します。

すべて折りたたむ
構造ツリーのすべてのノードを折りたたみます。
図面名を選択し、このオプションを実行すると、ツリー全体が折りたたまれます。

設定...
構造ツリー設定ダイアログボックスが開き、既存の設定を編集したり、独自の構造ツリー設定を追加したりできます。

35.31.5 構造ツリー設定

構造ツリー設定ダイアログボックスでは、**構造**パネルの**ツリー構造**を定義することができます。



1 ファイル

2 グループ/ソートタブ

3 表示/スキップタブ

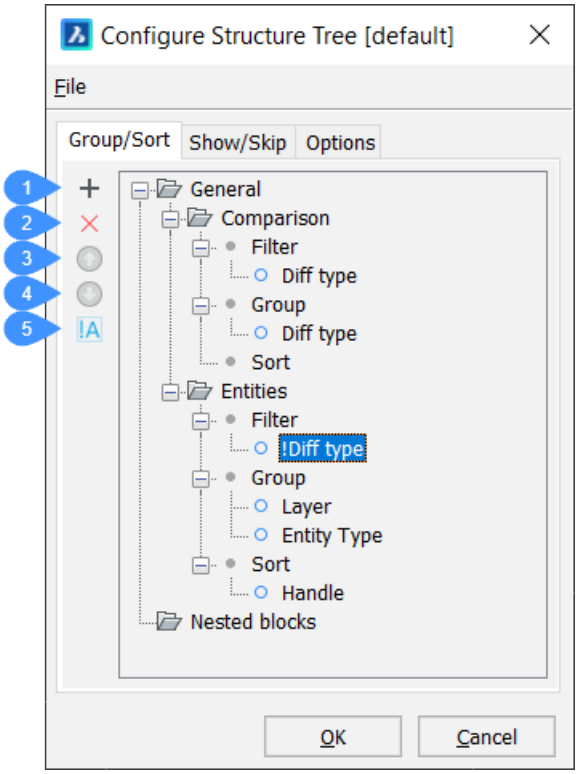
4 オプションタブ

35.31.6　ファイル

ダイアログボックスの**ファイル**メニューをクリックしてオプションを選択します：

- **開く...**：**構造ツリーの設定ファイルを選択**ダイアログボックスが開き、他の *.cst設定ファイルを選択することができます。
- **保存**：現在の構成が保存されます。
- **名前を付けて保存...**：現在の構成に別の名前を付けて保存することができます。

35.31.7　グループ/ソート



1　ルールまたはプロパティを追加

2　ルールまたはプロパティを削除

3　プロパティを上に移動

4　プロパティを下に移動

5　否定切り替え(フィルタープロパティのみ)

ルールまたはプロパティを追加(+)
フィルター、**グループ**、**ソート**について、新しいルールやプロパティを追加できます。

注：ルール構造は階層になっているので、ルールとプロパティの位置は重要です。

- 既存のルールを選択し、**追加**アイコン(+)をクリックするか、、右クリックしてコンテキストメニューから**ルールをの追加**を選択します。

  新しいルールは、選択したルールの下(または、ルールが選択されていない場合はルール階層の最後)に追加されます。

注：ルール名を変更するには、ルールを選択して名前をクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**名前変更**を選択します。

- ルールの**フィルター**ノードを選択し、**追加**アイコンをクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**フィルタープロパティを追加**を選択します。
- ルールの**グループ**ノードを選択し、**追加**アイコンをクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューの**グループ化プロパティを追加**を選択します。
- ルールの**ソート**ノードを選択し、**追加**アイコンをクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューの**ソート化プロパティを追加**を選択します。

プロパティを選択ダイアログボックスが表示され、フィルター、グループ、ソートのプロパティを選択できます。

- プロパティを選択し、ダブルクリックするか、**OK**をクリックします。

  注：BIMPROPERTIESコマンドで定義されたプロパティと値の定義を選択して、構造ツリーを構成できます。

- または、検索文字列を**検索**フィールドに入力し、**前を検索**(**Shift+F3**)( )または**次を検索**(**F3**)( )印ボタンをクリックして、検索文字列が含まれているプロパティを検索します。
- 前の手順を繰り返して、フィルター/グループ/ソートのプロパティを追加します。

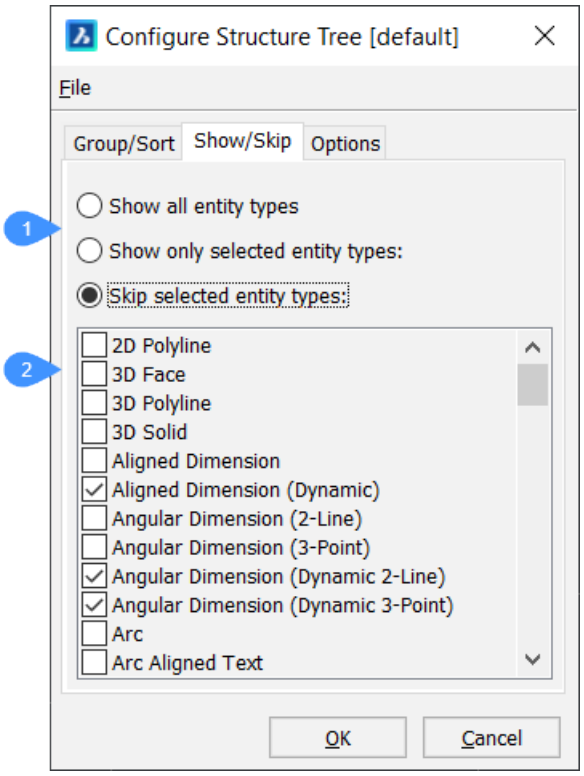
ルールまたはプロパティを削除(****)
選択したルールやプロパティを削除します。また、選択したルールやプロパティのコンテキストメニューから、**ルールを削除/プロパティを削除**を選択することもできます。

プロパティを上に移動(**)**
選択したルールやプロパティを上に移動します。

プロパティを下に移動(**)**
選択したルールやプロパティを下に移動します。

否定切り替え(フィルタープロパティのみ)
フィルタープロパティのみ否定の切り替えができます。

35.31.8 表示/スキップ



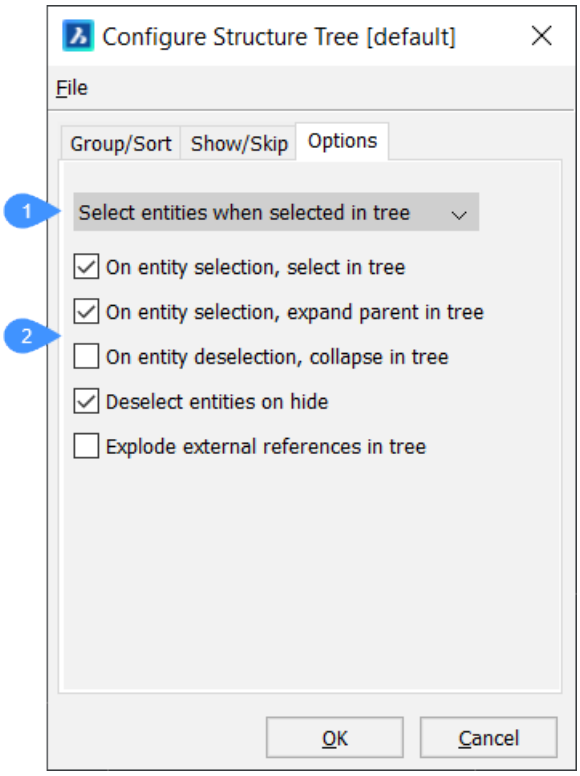
1 表示/スキップオプション

2 選択リスト

表示/スキップオプション
選択した図形を表示するかどうかを指定します。

選択リスト
表示または除外する図形タイプの選択を作成できます。

35.31.9 オプション



1 選択オプション

2 その他のオプション：

選択オプション
構造ツリーで図形を選択したときのモデルの動作を定義します。いくつかのオプションが利用できます。

- **ツリー選択を無視**：図面で図形が選択状態になりません。
- **ツリーでの選択でハイライト**：図面で図形がハイライトされますが、選択はされません。
- **ツリーで選択**：一致する図形が図面で選択状態になります。

その他のオプション：
モデルで図形を選択または選択を解除したときの構造ツリーの動作を定義します。

図形選択時はツリーを展開
オンにすると、図面内で一致する図形を選択したときに、構造ツリーで一致する図形が選択されます。

図形の選択で、ツリーの親を展開
オンにすると、図面で選択した図形に関連するノードが展開されます。

図形を選択しない時はツリーを折りたたむ
オンにすると、図面で選択した図形に関連するノードが折りたたまれます。

非表示の図形を選択解除
オンにすると、非表示の図形の選択が解除されます。

ツリーの外部参照を展開
オンにすると、構造ツリー内の外部参照図面の内容が一覧表示されます。

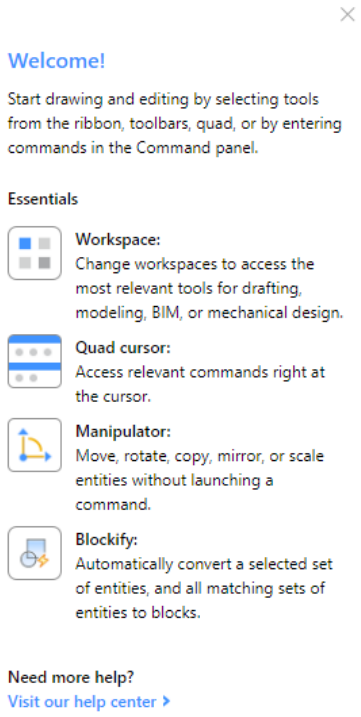
関連情報にリンクされている**構造パネルの使用**も参照してください。**構造**パネルの使用方法についてステップバイステップで例を記載しています。

35.32　ヒントパネル

ヒントパネルを開くには、リボンパネルまたはツールバーを右クリックし、**パネル**リストから**ヒント**を選択します。

ヒントパネルでは、作業中の状況に応じて適切なアドバイスを提供します。

注：ヒントパネルのコンテンツはオンラインで提供されます。インターネットへの接続をご確認ください。

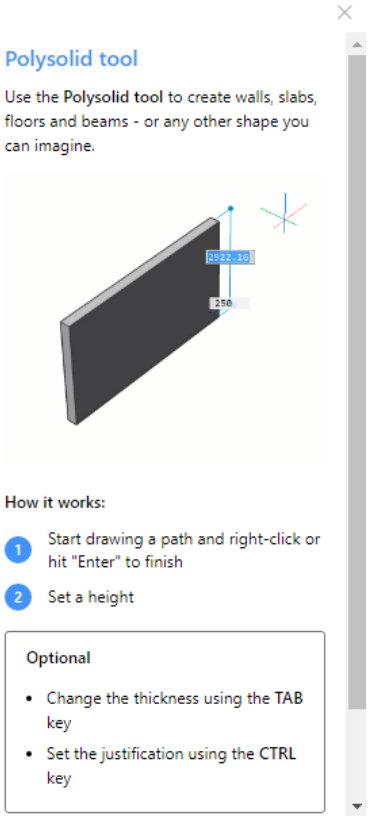


ヘルプセンターを見る

Bricsys????????Web???を開きます。

注：右上の十字ボタンを押すと、パネルが閉じます。

特定のコマンドを起動すると、パネルに短いアニメーションとコマンドの使用に関する追加情報が表示されます。

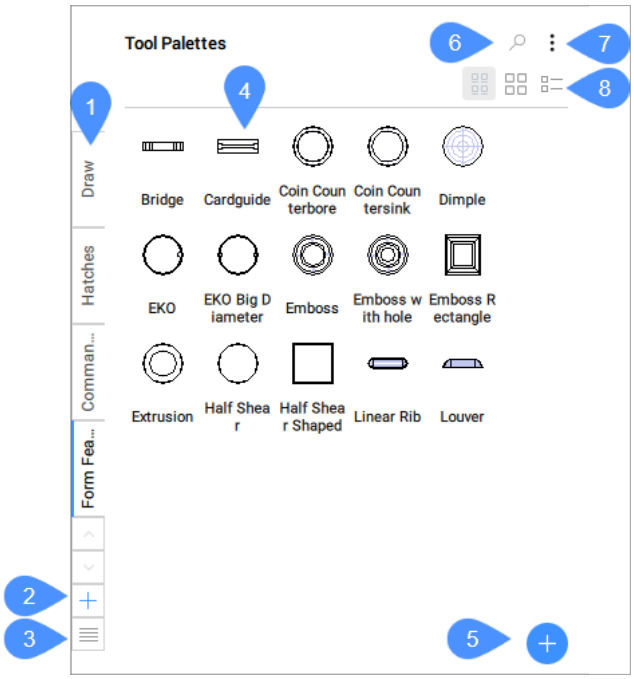


35.33 ツールパレットパネル

ツールパレットパネルを開くには、TOOLPALETTES コマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**ツールパレット**を選択します。

ツールパレットパネルには、ブロック、ハッチング、コマンドツールなどが集約されています。

サンプルツールを備えたデフォルトのタブが含まれています。右クリックメニューを使って、独自のタブやツールを簡単に作成、カスタマイズすることができます。



1 パレットタブ

2 ツールパレットの追加ボタン

3 ツールパレットリストボタン

4 ツール

5 ボタン追加

6 検索

7 ツールパレットのコンテキストメニュー

8 ビューモード

35.33.1 パレットタブ

使用可能なパレットの一覧を表示します。

注：カレントのパレットは青い線でハイライト表示されています。

注：タブ項目の高さは固定されているため、名前が判読できるとは限りません。タブにカーソルを合わせると、パレットの名前全体が表示されます。パレットの名前は、ダブルクリックするか、パネルタブを右クリックして表示されるコンテキストメニューから変更できます。

注：上下の矢印ボタンを使用すると、ユーザーは非表示のタブを表示できます。

- タブラベルは「省略」する必要があります

注：タブバーの位置は、**ツールパレット**パネルのドッキングに応じて変わります。

35.33.2 ツールパレットの追加ボタン

新しいツールパレットを追加します。

35.33.3　ツールパレットリストボタン

使用可能なすべてのツールパレットを一覧表示します。ユーザーは現在のパレットを選択できます。

35.33.4　ツール

カレントのパレットで使用可能なツールの一覧を表示します。

右クリックメニューは、ツールの追加機能を提供します。

注：複数のツールを選択する場合は矩形選択を使用できます。

切り取り
選択したツールをパレットから削除します。

複写
選択したツールをクリップボードに複写します。

削除
選択したツールをパレットから削除します。

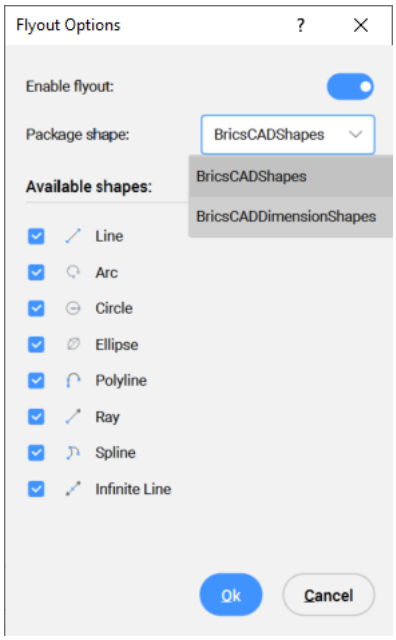
名前変更
ツールの名前を変更します。

イメージを指定...
ツール用に別の画像を指定することができます。

注：ツールイメージを元に戻すには、ツールを右クリックしてコンテキストメニューから**イメージを削除...**を選択します。

ポップアップオプションの管理...
フライアウトオプションダイアログボックスが開き、ツールのフライアウトを有効にできます。

注：XTP読み込みによるツールのフライアウトをサポートしています。



定義済みのフライアウトパッケージ図形は、C:¥Users¥%username%¥AppData¥Roaming¥Bricsys¥BricsCAD¥V25x64¥ja_JP¥Support¥shapes.btcファイルで使用できます。

プロパティ...
ツールプロパティダイアログボックスが開き、ツールを編集できます(**ツールプロパティダイアログボックス**の記事を参照)。

35.33.5 ボタン追加

新しい**ツール**、**文字**、**セパレータ**を追加できます。

注 :

- 文字とセパレータは、コンテキストメニューから切り取り、複写、ペーストが可能です。
- 文字やセパレータはドラッグ&ドロップできます。

35.33.6 検索

カレントのパレットにある特定のツールを検索できるようにします。リストは、入力された一連の文字を含む画層のみを表示するように短縮され、画層名のどこに位置するかに関わらず表示されます。

35.33.7 ツールパレットのコンテキストメニュー

ツールパレットのコンテキストメニューを開きます。

ビューオプション...
表示オプションダイアログボックスが開き、ツールアイコンの表示を変更できます(**表示オプションダイアログボックス**の記事を参照)。

テキストを追加
現在のパレットにテキストを追加します。

セパレータを追加
現在のパレットに区切り記号を追加します。

パレットを更新
パレットを更新します。

新規パレット
新しいパレットを追加できます。

パレットを削除
カレントのパレットが削除できます。

パレットの名前を変更
カレントのパレット名を変更できます。

パレットをカスタマイズ... :
(ツールパレットを)**カスタマイズ**ダイアログボックスが開き、パレットをカスタマイズできます。パレットの読み込み/書出しや、パレットグループの作成、読み込み/書出しが可能です。

ツールを追加...
(ツールパレットを)**カスタマイズ**ダイアログボックスが開き、新しいツールを追加できます((**ツールパレットを)カスタマイズダイアログボックス**の記事を参照)。

35.33.8 ビューモード

文字付きアイコン
アイコンモードとテキストモードで、ツールをグリッド表示します。

アイコンのみ
アイコンモードのみグリッドビューでツールを表示します。

リストビュー
カレントのパレットにあるツールをリストビューで表示します。

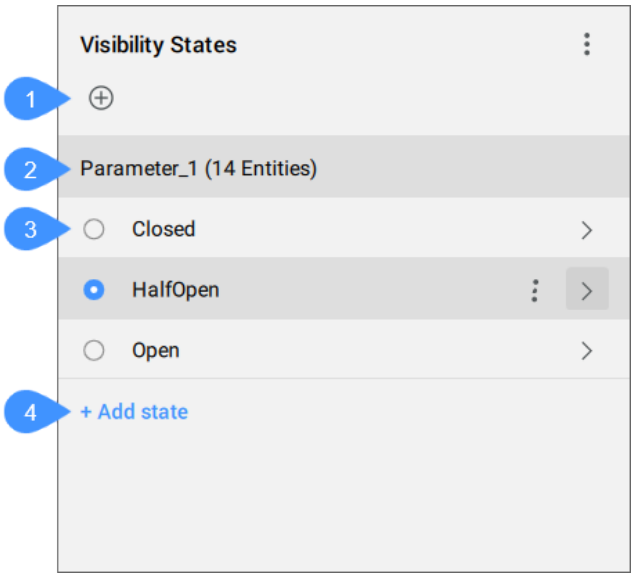
35.34 可視状態パネル

可視状態パネルを開くには、VISIBILITYSTATESPANELOPENコマンドを実行するか、リボンパネルまたはツールバーを右クリックして、**パネル**リストから**可視状態**を選択します。

可視状態では、1つまたは複数のパラメータを選択するだけで、ブロック内のさまざまな図形を表示または非表示にして、ブロックの外観を変更するブロックを作成できます。各可視状態パラメータは、1つまたは複数の状態を持つことができます。

注：可視状態を使用するために**ブロックエディター**を使用する必要はありません。

可視状態パネルには、図面の可視パラメータと、それぞれに対応する可視状態が表示されます。



1 パラメータを追加

2 パラメータの名前

3 パラメータの可視状態のリスト

4 状態を追加

パラメータを追加
ブロックに新しいパラメータを追加します。

注：新しく作成されたパラメータは、**プロパティ**パネルの**パラメータ**に表示されます。

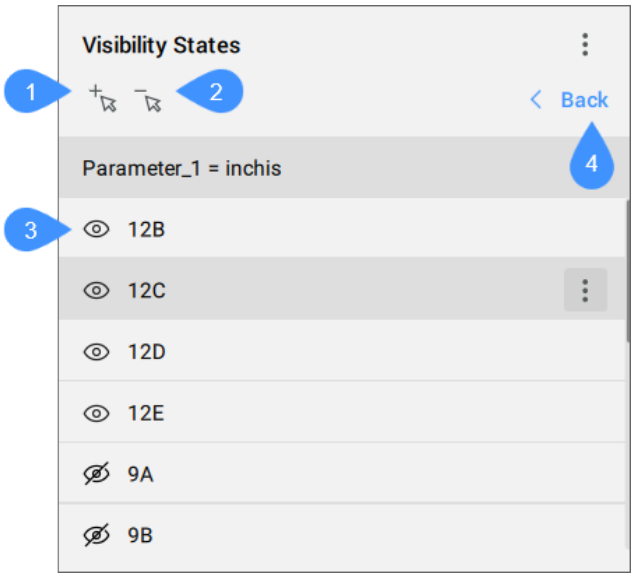
パラメータの名前
ダブルクリックしてパラメータの名前を編集します。

パラメータの可視状態のリスト
パラメータのすべての可視状態を一覧表示します。状態名をダブルクリックするか、右側の矢印をクリックして、その図形にアクセスします。

状態を追加
カレントのパラメータの新しい状態を追加します。パラメータにすでに図形が割り当てられた状態がある場合、デフォルトではこれらの図形はすべて新しい状態では見えなくなります。

35.34.1 図形状態

表示状態を選択すると、その状態に割り当てられた図形のリストがパネルに表示されます。



1 図形を追加

2 図形を削除

3 図形のリスト

4 戻るボタン

図形を追加
図面内の図形を選択し、このパラメータに追加できます。
パラメータに含まれていない図形が追加され、選択された状態でのみ表示され、その他の状態では非表示となります。すでにパラメータに登録されている図形は影響を受けないように作られています。

図形を削除
図面内の図形を選択し、このパラメータとそのすべての状態から図形を削除できます。

注：図形を追加または削除する前図形が既に選択されている場合、アクションは既に選択されている図形に適用されます。

図形のリスト
選択した表示状態に属するすべての図形と、これらの各図形の表示を示すアイコンが一覧表示されます。

注：1つの図形に複数のパラメータを同時に割り当てることができます。この場合、図形は、両方のパラメータのカレントの状態に対して表示するように設定されている場合にのみ表示されます。

1つまたは複数の図形を選択した後、ある図形の「目」アイコンをクリックすると、その図形の可視性が切り替わります。(可視から不可視、またはその逆)この新しい可視性は、選択された他のすべての図形にも適用されます。

注：複数の図形が選択されている状態で、現在非表示になっている1つの図形の目のアイコンをクリックした場合、選択されているすべての図形が表示されます。

パラメータのすべての状態で表示/非表示される図形がある場合、パネルの下部にメッセージラベルが表示され、2つのリンクボタンが表示されます。**表示**を選択すると、これらの図形が赤でハイライト表示され、非表示になっている場合は半透明で表示されます。**パラメータから削除**を選択すると、これらの図形が該当するパラメータから削除され、表示はされますが、パラメータとのリンクはなくなります。
パネルからの図形選択、図面から選択を変更し、その逆もまた同様です。これにより、カレントの状態でどの図形が表示されているか、または非表示になっているかを簡単に確認することができます。

戻るボタン
パネルのメインビューに戻ります。

35.34.2 コンテキストメニューのオプション

非表示を表示
このオプションは、オン/オフを切り替えることができます。オンにすると、現在選択されている状態で非表示になっている図形が青くハイライトされ、半透明になります。

注：これにより、表示されている図形と表示されていない図形を同時に選択する必要があるアクション(移動、整列、パラメータからの削除)を実行することができます。

注：このオプションは、パネルが閉じられるか、新しいドキュメントに切り替わるか、ブロック編集モードになるまで有効です。

パラメータオプション

削除
カレントのパラメータとその状態を削除します。このパラメータで非表示になっていた図形は、再び表示されるようになります。

名前変更
既存の名前を置換する名前を入力します。

注：パラメータや拘束条件と同様に、パラメータで使用できる文字には制限があります。

図形をパラメータから削除
選択した図形をパラメータから削除します。

状態オプション

クローン
状態のコピーを作成します。

削除
パラメータから状態を削除します。

注：このオプションは、パラメータの他の状態には影響しません。

名前変更
既存の名前を置換する名前を入力します。

注：使用可能な文字に制限はありません。

図形を表示...
選択した図形を表示します。

注：パラメータに含まれていない図形が追加され、選択された状態でのみ表示されます。すでにパラメータに含まれている図形は、他の状態に影響を与えることなく、選択された状態で可視化されます。

図形を非表示...
選択した図形を非表示にします。

注：パラメータに入っていない図形が追加され、選択された状態でのみ非表示になり、他の状態では表示になります。すでにパラメータに含まれている図形は、他の状態に影響を与えることなく、選択された状態に対して不可視化されます。